

授 業 計 画

令和2年度

東京家政学院大学

Contents

領域	科目NO.	授業科目名	担当教員	ページ
共通教育科目	G501010	日本の文学	井上 眞弓	1
共通教育科目	G501020	日本の言語と文化	内田 宗一	4
共通教育科目	G501030	文章表現法	内田 宗一	8
共通教育科目	G501040	外国の言語と文化	西川 純子	12
共通教育科目	G501050	異文化コミュニケーション	畝部 典子	16
共通教育科目	G501070	音楽	吉永 早苗	19
共通教育科目	G501080	美学・美術史	久々湊 直子	22
共通教育科目	G501090	色彩論	滝沢 真美	26
共通教育科目	G501110	民俗学	石垣 悟	30
共通教育科目	G501120	考古学	千本 真生	33
共通教育科目	G502010	基礎数学 a	新海 公昭	37
共通教育科目	G502020	基礎数学 b	新海 公昭	40
共通教育科目	G502030	数学トピックス	新海 公昭	43
共通教育科目	G502040	基礎統計学 a	新海 公昭	46
共通教育科目	G502050	基礎統計学 b	新海 公昭	49
共通教育科目	G502060	情報論	田中 康裕	52
共通教育科目	G502070	コンピュータ概論	田中 康裕	55
共通教育科目	G502080	コンピュータ演習 a	千葉 一博	59
共通教育科目	G502080	コンピュータ演習 a	田中 康裕	62
共通教育科目	G502080	コンピュータ演習 a	小野 由美子	65
共通教育科目	G502080	コンピュータ演習 a	原田 一義	68
共通教育科目	G502090	コンピュータ演習 b	千葉 一博	71
共通教育科目	G502090	コンピュータ演習 b	田中 康裕	74
共通教育科目	G502090	コンピュータ演習 b	小野 由美子	77
共通教育科目	G502090	コンピュータ演習 b	原田 一義	80
共通教育科目	G503010	人間の体	金子 和正	83
共通教育科目	G503020	ダイエットとフィットネス	金子 和正	86
共通教育科目	G503050	レクリエーション概論	大嶋 徹	89
共通教育科目	G503060	健康スポーツ演習 a	大嶋 徹	92
共通教育科目	G503060	健康スポーツ演習 a	外川 重信	95
共通教育科目	G503060	健康スポーツ演習 a	宮崎 晃子	98
共通教育科目	G503060	健康スポーツ演習 a	江川 賢一	101
共通教育科目	G503060	健康スポーツ演習 a	金指 みの利	104
共通教育科目	G503070	健康スポーツ演習 b	金子 和正	107
共通教育科目	G503070	健康スポーツ演習 b	外川 重信	110
共通教育科目	G503070	健康スポーツ演習 b	大嶋 徹	113
共通教育科目	G503070	健康スポーツ演習 b	宮崎 晃子	116
共通教育科目	G503070	健康スポーツ演習 b	江川 賢一	119
共通教育科目	G503070	健康スポーツ演習 b	金指 みの利	122
共通教育科目	G503080	健康スポーツ演習 c	金子 和正	125
共通教育科目	G503080	健康スポーツ演習 c	大嶋 徹	129
共通教育科目	G503090	健康スポーツ演習 d	金子 和正	132
共通教育科目	G503090	健康スポーツ演習 d	江川 賢一	136
共通教育科目	G503100	体育講義	金子 和正	140
共通教育科目	G503110	体育実技	金子 和正	143
共通教育科目	G504020	教養の化学	三島 綾子	146
共通教育科目	G504030	化学入門	三島 綾子	150
共通教育科目	G504040	教養の生物学	岩見 哲夫	154
共通教育科目	G504040	教養の生物学	沼波 秀樹	157
共通教育科目	G504050	生物学入門	岩見 哲夫	160
共通教育科目	G504050	生物学入門	沼波 秀樹	163
共通教育科目	G504060	環境と資源	岩見 哲夫	166
共通教育科目	G504060	環境と資源	沼波 秀樹	169

共通教育科目	G504070	地球の科学	渡邊 茜	172
共通教育科目	G504080	教養の物理学	小谷 太郎	175
共通教育科目	G504110	自然史	岩見 哲夫	178
共通教育科目	G505010	法学入門（日本国憲法）	佐藤 哲	181
共通教育科目	G505010	法学入門（日本国憲法）	江川 剛	184
共通教育科目	G505020	市民と法	渡邊 友美	187
共通教育科目	G505030	社会学入門	野坂 真	190
共通教育科目	G505060	経済学入門	大野 裕之	194
共通教育科目	G505070	経営学入門	金森 敏	197
共通教育科目	G505080	日本の歴史	小沢 詠美子	200
共通教育科目	G505090	世界の歴史	吉村 貴之	204
共通教育科目	G505100	世界の地理	横地 留奈子	207
共通教育科目	G505110	国際関係論	吉村 貴之	211
共通教育科目	G506010	哲学入門	梅田 孝太	214
共通教育科目	G506040	生命倫理	田中 丹史	218
共通教育科目	G506050	心理学a	加地 雄一	221
共通教育科目	G506050	心理学a	木村 文香	224
共通教育科目	G506060	心理学b	加地 雄一	227
共通教育科目	G506060	心理学b	木村 文香	230
共通教育科目	G506070	ジェンダー論	大野 恵理	233
共通教育科目	G506070	ジェンダー論	鈴木 亜矢子	236
共通教育科目	G506080	東京家政学院を学ぶ	富田 弘美 他	239
共通教育科目	G506080	東京家政学院を学ぶ	佐藤 広美 他	242
共通教育科目	G507010	リテラシー演習	千葉 一博 他	245
共通教育科目	G507010	リテラシー演習	井上 眞弓 他	248
共通教育科目	G507030	海外研修（英語研修）	畷部 典子	251
共通教育科目	G507040	英会話集中講座	マーク ルイス	254
共通教育科目	G507050	地域貢献活動	大嶋 徹 他	257
共通教育科目	G508010	Basic English 1	大和田 寛	259
共通教育科目	G508010	Basic English 1	畷部 典子	262
共通教育科目	G508010	Basic English 1	大穀 郁子	265
共通教育科目	G508010	Basic English 1	田中 愛	268
共通教育科目	G508010	Basic English 1	大和田 寛	272
共通教育科目	G508010	Basic English 1	大穀 郁子	275
共通教育科目	G508020	Basic English 2	大和田 寛	278
共通教育科目	G508020	Basic English 2	畷部 典子	281
共通教育科目	G508020	Basic English 2	大穀 郁子	284
共通教育科目	G508020	Basic English 2	田中 愛	287
共通教育科目	G508020	Basic English 2	大和田 寛	291
共通教育科目	G508020	Basic English 2	大穀 郁子	294
共通教育科目	G508030	Listening & Speaking 1	大穀 郁子	297
共通教育科目	G508030	Listening & Speaking 1	大和田 寛	301
共通教育科目	G508030	Listening & Speaking 1	畷部 典子	304
共通教育科目	G508030	Listening & Speaking 1	橋本 文子	307
共通教育科目	G508030	Listening & Speaking 1	田中 愛	310
共通教育科目	G508040	Listening & Speaking 2	大穀 郁子	313
共通教育科目	G508040	Listening & Speaking 2	大和田 寛	317
共通教育科目	G508040	Listening & Speaking 2	畷部 典子	320
共通教育科目	G508040	Listening & Speaking 2	橋本 文子	323
共通教育科目	G508040	Listening & Speaking 2	田中 愛	326
共通教育科目	G508050	Reading & Writing 1	大和田 寛	329
共通教育科目	G508050	Reading & Writing 1	橋本 文子	332
共通教育科目	G508060	Reading & Writing 2	大和田 寛	335
共通教育科目	G508060	Reading & Writing 2	橋本 文子	338
共通教育科目	G508070	Communication English 1	マーク ルイス	341
共通教育科目	G508080	Communication English 2	マーク ルイス	344

共通教育科目	G508090	英語検定対策講座	大穀 郁子	347
共通教育科目	G508090	英語検定対策講座	田中 愛	350
共通教育科目	G508100	フランス語入門1	綾部 素幸	354
共通教育科目	G508100	フランス語入門1	アニー フランス	358
共通教育科目	G508110	フランス語入門2	綾部 素幸	361
共通教育科目	G508110	フランス語入門2	アニー フランス	365
共通教育科目	G508120	フランス語初級1	綾部 素幸	368
共通教育科目	G508130	フランス語初級2	綾部 素幸	372
共通教育科目	G508140	ドイツ語入門1	高次 裕	376
共通教育科目	G508140	ドイツ語入門1	織田 晶子	379
共通教育科目	G508150	ドイツ語入門2	高次 裕	383
共通教育科目	G508150	ドイツ語入門2	織田 晶子	386
共通教育科目	G508160	ドイツ語初級1	高次 裕	391
共通教育科目	G508170	ドイツ語初級2	高次 裕	394
共通教育科目	G508180	中国語入門1	尹 青青	397
共通教育科目	G508180	中国語入門1	澁井 君也	400
共通教育科目	G508190	中国語入門2	尹 青青	402
共通教育科目	G508190	中国語入門2	澁井 君也	405
共通教育科目	G508200	中国語初級1	澁井 君也	407
共通教育科目	G508210	中国語初級2	澁井 君也	410
共通教育科目	G508220	韓国語入門1	徐 旻廷	412
共通教育科目	G508230	韓国語入門2	徐 旻廷	415
共通教育科目	G508240	韓国語初級1	徐 旻廷	418
共通教育科目	G508250	韓国語初級2	徐 旻廷	421
共通教育科目	G509010	アカデミック・ジャパニーズ1	森 朋子	424
共通教育科目	G509020	アカデミック・ジャパニーズ2	森 朋子	427
共通教育科目	G509050	日本語ラボa	森 朋子	430
共通教育科目	G509060	日本語ラボb	森 朋子	433
共通教育科目	G509070	日本語ラボc	森 朋子	436
共通教育科目	G509080	日本語ラボd	森 朋子	439
共通教育科目	G509090	社会人としての日本語	内田 宗一	442
共通教育科目	G509310	日本の歴史と文化	内田 宗一	447
共通教育科目	G510010	キャリアデザイン概論	金森 敏	451
共通教育科目	G510020	キャリアデザインa	金森 敏	454
共通教育科目	G510030	キャリアデザインb	金森 敏	457

<現代家政学科>

専門科目	G000030	インターンシップ	金森 敏	460
専門科目	G010010	現代生活論（現代家政学科）	現代家政学科 教員	464
専門科目	G010020	家政学原論	上村 協子 他	466
専門科目	G010040	女性史	佐藤 広美	469
専門科目	G010050	美と健康	山村 明子	472
専門科目	G010060	情報処理演習Ⅰ	小野 由美子	475
専門科目	G010070	情報処理演習Ⅱ	小野 由美子	478
専門科目	G010080	卒業研究A	井澤 尚子	481
専門科目	G010080	卒業研究A	井上 眞弓	484
専門科目	G010080	卒業研究A	上村 協子	488
専門科目	G010080	卒業研究A	大橋 竜太	492
専門科目	G010080	卒業研究A	大嶋 徹	496
専門科目	G010080	卒業研究A	小野 由美子	499
専門科目	G010080	卒業研究A	金森 敏	502
専門科目	G010080	卒業研究A	佐藤 広美	505
専門科目	G010080	卒業研究A	青柳 由佳	509
専門科目	G010080	卒業研究A	竹中 真紀子	512
専門科目	G010080	卒業研究A	木村 文香	515
専門科目	G010080	卒業研究A	三宅 紀子	518

専門科目	G010080	卒業研究A	内田 宗一	522
専門科目	G010080	卒業研究A	太田 茜	525
専門科目	G010080	卒業研究A	沼波 秀樹	528
専門科目	G010080	卒業研究A	山村 明子	531
専門科目	G010080	卒業研究A	椛田 考一	534
専門科目	G010080	卒業研究A	伊藤 有紀	537
専門科目	G010080	卒業研究A	石垣 悟	540
専門科目	G010090	卒業研究B	井澤 尚子	543
専門科目	G010090	卒業研究B	井上 眞弓	546
専門科目	G010090	卒業研究B	上村 協子	549
専門科目	G010090	卒業研究B	大橋 竜太	552
専門科目	G010090	卒業研究B	大嶋 徹	555
専門科目	G010090	卒業研究B	小野 由美子	558
専門科目	G010090	卒業研究B	金森 敏	561
専門科目	G010090	卒業研究B	佐藤 広美	564
専門科目	G010090	卒業研究B	青柳 由佳	567
専門科目	G010090	卒業研究B	竹中 真紀子	570
専門科目	G010090	卒業研究B	木村 文香	573
専門科目	G010090	卒業研究B	三宅 紀子	576
専門科目	G010090	卒業研究B	内田 宗一	579
専門科目	G010090	卒業研究B	太田 茜	582
専門科目	G010090	卒業研究B	沼波 秀樹	585
専門科目	G010090	卒業研究B	山村 明子	588
専門科目	G010090	卒業研究B	椛田 考一	591
専門科目	G010090	卒業研究B	伊藤 有紀	594
専門科目	G010090	卒業研究B	石垣 悟	597
専門科目	G010100	家族論	林 葉子	600
専門科目	G010110	家族の文化	井上 眞弓	604
専門科目	G010120	子どもと遊び	大嶋 徹	607
専門科目	G010160	家族支援論	西口 守	610
専門科目	G010170	家族と法	山里 盛文	613
専門科目	G010180	家庭経済学	上村 協子	616
専門科目	G010190	消費者教育	早野 木之美	619
専門科目	G010220	消費者政策と法	小野 由美子	623
専門科目	G010250	消費者教育演習	小野 由美子	626
専門科目	G010260	プロシューマー実習	上村 協子 他	629
専門科目	G010270	生活設計論	上村 協子	632
専門科目	G010290	エコロジー	沼波 秀樹	636
専門科目	G010300	環境保護論	沼波 秀樹	639
専門科目	G010340	都市計画	長野 博一	642
専門科目	G010430	ツーリズム（地域と文化）	岡田 美奈子	645
専門科目	G010480	コミュニティ論	信田 理奈	649
専門科目	G010510	ファッション造形学	山村 明子	652
専門科目	G010520	ファッション造形実習B	太田 茜	655
専門科目	G010530	ハンドクラフト演習	太田 茜	658
専門科目	G010540	現代衣生活論	山村 明子	661
専門科目	G010550	世界の服飾	山村 明子	664
専門科目	G010560	日本の服飾	井上 眞弓	667
専門科目	G010570	西洋服飾文化史	山村 明子	670
専門科目	G010580	ファッション販売論	井澤 尚子	673
専門科目	G010600	ファッションカラー演習	井澤 尚子	676
専門科目	G010610	ファッションコーディネート	山村 明子	679
専門科目	G010620	衣と社会	井澤 尚子	682
専門科目	G010660	インテリア設計論	柳沢 伸也 他	685
専門科目	G010670	インテリア計画	大橋 智子 他	688
専門科目	G010700	江戸東京の文化	内田 宗一	691

専門科目	GO10730	日本語コミュニケーション	内田 宗一	696
専門科目	GO10740	ことばと生活	内田 宗一	701
専門科目	GO10760	生活文化論	石垣 悟	705
専門科目	GO10800	伝統文化の継承と発信	井上 眞弓	708
専門科目	GO10810	生活文化演習	井上 眞弓	711
専門科目	GO10820	食品学実験	竹中 真紀子	714
専門科目	GO10830	食品衛生学	竹中 真紀子	717
専門科目	GO10840	レシピの比較文化史	伊藤 有紀	720
専門科目	GO10850	食文化論	伊藤 有紀	723
専門科目	GO10880	フードコーディネート論	伊藤 有紀	726
専門科目	GO10890	設計製図演習A	小林 直弘 他	729
専門科目	GO10900	設計製図演習B	小林 直弘 他	732
専門科目	GO10910	設計製図演習C	大橋 智子 他	735
専門科目	GO10920	設計製図演習D	柳沢 伸也 他	738
専門科目	GO10930	現代家政演習	現代家政学科 教員	741
専門科目	GO10950	社会調査法	小野 由美子	745
専門科目	GO10960	食物学概論	三宅 紀子	748
専門科目	GO10970	食と社会	竹中 真紀子	751
専門科目	GO10980	食生活演習	竹中 真紀子 他	754
専門科目	GO11000	インテリアCAD演習	青柳 由佳	757
専門科目	GO11010	建築調査	大橋 竜太	760
専門科目	GO11100	基礎ゼミ	現代家政学科 教員	763
専門科目	GO11103	ファイナンシャルプランニング入門	古徳 佳枝	766
専門科目	GO11104	情報伝達と表現	小林 直弘	769
専門科目	GO11105	家庭電気・機械・情報処理	佐藤 智明	772
専門科目	GO11106	企業と会計	古徳 佳枝	775
専門科目	GO11107	家庭経営学概論	井上 眞弓	778
専門科目	GO11108	家政学概論	竹中 真紀子 他	781
専門科目	GO11109	家族関係論	林 葉子	784
専門科目	GO11110	家庭看護	石井 紀子	788
専門科目	GO11111	消費者情報論	小野 由美子	792
専門科目	GO11112	消費経済論	金森 敏	795
専門科目	GO11113	児童学概論	坪井 瞳	798
専門科目	GO11114	保育学	坪井 瞳	801
専門科目	GO11115	衣生活学概論	井澤 尚子 他	804
専門科目	GO11116	ファッション造形実習A	井澤 尚子	807
専門科目	GO11117	食品学概論	竹中 真紀子	811
専門科目	GO11118	フードスペシャリスト論	竹中 真紀子	814
専門科目	GO11119	栄養学概論	竹中 真紀子	817
専門科目	GO11120	食品学	飯島 久美子	820
専門科目	GO11121	調理学	飯島 久美子	823
専門科目	GO11122	栄養学	竹中 真紀子	826
専門科目	GO11123	食生活論	伊藤 有紀	829
専門科目	GO11124	調理学実習	三宅 紀子 他	832
専門科目	GO11125	健康・食発達心理学	青木 洋子	835
専門科目	GO11127	食料経済	二瓶 徹	838
専門科目	GO11129	食品の官能評価・鑑別演習	三宅 紀子	841
専門科目	GO11130	住居学概論	小池 孝子	844
専門科目	GO11131	建築史A	大橋 竜太	847
専門科目	GO11132	建築史B	大橋 竜太	850
専門科目	GO11133	住生活論	大橋 竜太	853
専門科目	GO11134	住居設備	椛田 考一	856
専門科目	GO11135	構造力学A	白井 篤	859
専門科目	GO11136	構造計画A	永井 佑季	862
専門科目	GO11137	インテリア材料	白井 篤	865
専門科目	GO11138	住宅施工	白井 篤	868

専門科目	GO11139	建築法規	塚田 豊	871
専門科目	GO11140	建築環境学A	椛田 考一	874
専門科目	GO11141	住居計画	小池 孝子	877
専門科目	GO11142	福祉住環境	小池 孝子	880
専門科目	GO11143	社会福祉概論	西口 守	883
専門科目	GO11145	ライフステージとレクリエーション	大嶋 徹	886
専門科目	GO11146	食文化演習	伊藤 有紀	889
専門科目	GO11147	現代家政ゼミA	現代家政学科 教員	892
専門科目	GO11150	生活福祉論	小野 由美子	895
専門科目	GO11151	食と環境	沼波 秀樹	898
専門科目	GO11153	グローバルコミュニケーション	マーク ルイス	901
専門科目	GO11154	家族の心理学	木村 文香	903
専門科目	GO11155	コミュニケーションの心理学	木村 文香	906
専門科目	GO11157	高齢者福祉論	西口 守	910
専門科目	GO11158	障がい者福祉論	中田 光彦	913
専門科目	GO11159	地域福祉論	嶋田 芳男	916
専門科目	GO11160	ソーシャルワーク論	嶋田 芳男	919
専門科目	GO11162	若者ファッション論	山村 明子	922
専門科目	GO11163	日本の服飾演習	太田 茜	925
専門科目	GO11164	設計製図演習E	戸田 啓太 他	928
専門科目	GO11165	設計製図演習F	戸田 啓太 他	931
専門科目	GO11166	現代家政ゼミB	現代家政学科 教員	934

<健康栄養学科>

専門科目	GO20100	スポーツ栄養学	加藤 理津子 他	937
専門科目	GO20440	カウンセリング論	小金井 希容子	940
専門科目	GO20450	食情報表現演習	呉 起東	943
専門科目	GO20520	栄養治療学	金澤 良枝	946
専門科目	GO20560	地域栄養活動演習	田中 弘之 他	949
専門科目	GO20570	国際栄養活動論	松田 正己 他	952
専門科目	GO20590	福祉栄養ケアマネジメント演習 (児童)	酒井 治子 他	955
専門科目	GO20590	福祉栄養ケアマネジメント演習 (高齢者)	吉野 知子 他	958
専門科目	GO20670	臨床栄養Ⅰ 臨地実習	金澤 良枝 他	961
専門科目	GO20680	臨床栄養Ⅱ 臨地実習	金澤 良枝 他	964
専門科目	GO20690	公衆栄養臨地実習	田中 弘之 他	967
専門科目	GO20700	実践健康栄養プロデュース実習	海野 知紀	973
専門科目	GO20700	実践健康栄養プロデュース実習	金澤 良枝	976
専門科目	GO20700	実践健康栄養プロデュース実習	辻 雅子	979
専門科目	GO20700	実践健康栄養プロデュース実習	酒井 治子	982
専門科目	GO20700	実践健康栄養プロデュース実習	田中 弘之	985
専門科目	GO20700	実践健康栄養プロデュース実習	橋本 文子	989
専門科目	GO20700	実践健康栄養プロデュース実習	馬場 修	992
専門科目	GO20700	実践健康栄養プロデュース実習	林 一也	994
専門科目	GO20700	実践健康栄養プロデュース実習	松田 正己	998
専門科目	GO20700	実践健康栄養プロデュース実習	吉野 知子	1000
専門科目	GO20700	実践健康栄養プロデュース実習	原 光彦	1003
専門科目	GO20700	実践健康栄養プロデュース実習	加藤 理津子	1006
専門科目	GO20700	実践健康栄養プロデュース実習	大富 あき子	1009
専門科目	GO20700	実践健康栄養プロデュース実習	江川 賢一	1012
専門科目	GO20700	実践健康栄養プロデュース実習	斎藤 恵美子	1015
専門科目	GO20700	実践健康栄養プロデュース実習	城田 直子	1018
専門科目	GO20720	総合演習Ⅱ	金澤 良枝 他	1022
専門科目	GO20760	食物・栄養演習B	辻 雅子 他	1025
専門科目	GO20770	食物・栄養演習C	辻 雅子 他	1028
専門科目	GO20780	食物・栄養演習D	辻 雅子 他	1031
専門科目	GO20790	食物・栄養演習E	辻 雅子 他	1034

専門科目	G021003	フードサービスビジネス論	吉野 知子	1037
------	---------	--------------	-------	------

<生活デザイン学科>

専門科目	G030010	生活デザイン演習A	生活デザイン学科 教員	1040
専門科目	G030020	現代生活論（生活デザイン学科）	生活デザイン学科 教員	1043
専門科目	G030030	卒業研究A	岩見 哲夫	1046
専門科目	G030030	卒業研究A	小口 悦子	1049
専門科目	G030030	卒業研究A	白井 篤	1052
専門科目	G030030	卒業研究A	原口 秀昭	1054
専門科目	G030030	卒業研究A	呉 起東	1057
専門科目	G030030	卒業研究A	澤田 雅彦	1060
専門科目	G030030	卒業研究A	黒田 久夫	1063
専門科目	G030030	卒業研究A	山崎 薫	1066
専門科目	G030030	卒業研究A	富田 弘美	1069
専門科目	G030030	卒業研究A	深石 圭子	1072
専門科目	G030030	卒業研究A	佐々木 麻紀子	1076
専門科目	G030030	卒業研究A	花田 朋美	1079
専門科目	G030030	卒業研究A	小池 孝子	1082
専門科目	G030030	卒業研究A	河田 敦子	1085
専門科目	G030030	卒業研究A	齋藤 史夫	1088
専門科目	G030030	卒業研究A	石網 史子	1091
専門科目	G030030	卒業研究A	森 朋子	1094
専門科目	G030040	卒業研究B	岩見 哲夫	1097
専門科目	G030040	卒業研究B	小口 悦子	1100
専門科目	G030040	卒業研究B	白井 篤	1103
専門科目	G030040	卒業研究B	原口 秀昭	1105
専門科目	G030040	卒業研究B	呉 起東	1108
専門科目	G030040	卒業研究B	澤田 雅彦	1111
専門科目	G030040	卒業研究B	黒田 久夫	1114
専門科目	G030040	卒業研究B	山崎 薫	1118
専門科目	G030040	卒業研究B	富田 弘美	1121
専門科目	G030040	卒業研究B	深石 圭子	1124
専門科目	G030040	卒業研究B	佐々木 麻紀子	1127
専門科目	G030040	卒業研究B	花田 朋美	1130
専門科目	G030040	卒業研究B	小池 孝子	1133
専門科目	G030040	卒業研究B	河田 敦子	1136
専門科目	G030040	卒業研究B	齋藤 史夫	1139
専門科目	G030040	卒業研究B	石網 史子	1142
専門科目	G030040	卒業研究B	森 朋子	1145
専門科目	G030050	テキスタイル材料学	花田 朋美	1148
専門科目	G030070	衣繊維学	花田 朋美	1151
専門科目	G030120	被服整理学	團野 哲也	1154
専門科目	G030140	染色加工学	花田 朋美	1157
専門科目	G030150	染色加工学実験	花田 朋美	1160
専門科目	G030180	アパレル設計論	富田 弘美	1163
専門科目	G030250	ウィーピングデザイン演習A	馬場 美和子	1166
専門科目	G030280	衣環境衛生学	丸田 直美	1169
専門科目	G030320	食品衛生学	山崎 薫	1172
専門科目	G030350	調理と素材	小口 悦子	1175
専門科目	G030360	調理と文化	小口 悦子	1179
専門科目	G030370	食文化論	小林 毅	1182
専門科目	G030490	住居デザイン演習A	小池 孝子 他	1185
専門科目	G030500	住居デザイン演習B	小池 孝子 他	1188
専門科目	G030510	住居デザイン演習C	原口 秀昭 他	1191
専門科目	G030520	住居デザイン演習D	原口 秀昭 他	1194
専門科目	G030530	建築デザイン演習A	原口 秀昭 他	1197

専門科目	G030540	建築デザイン演習B	原口 秀昭 他	1200
専門科目	G030550	住居CAD演習	足立 幸寿	1203
専門科目	G030560	建築CAD演習	足立 幸寿	1206
専門科目	G030570	建築総合演習	柏木 穂波	1209
専門科目	G030580	建築計画	小池 孝子	1212
専門科目	G030590	建築環境学B	椛田 考一	1215
専門科目	G030600	建築環境システム	椛田 考一	1218
専門科目	G030620	構造力学B	西村 彰敏 他	1221
専門科目	G030640	住宅設計論	原口 秀昭	1224
専門科目	G030670	建築材料学	白井 篤	1227
専門科目	G030680	建築施工	白井 篤	1231
専門科目	G030760	マルチメディア演習	呉 起東	1234
専門科目	G030770	デジタルフォト論	呉 起東	1237
専門科目	G030820	インテリアデザイン論	原口 秀昭	1240
専門科目	G030830	生活美学	澤田 雅彦	1243
専門科目	G030870	生活デザイン演習D	石綱 史子	1246
専門科目	G030870	生活デザイン演習D	河田 敦子	1249
専門科目	G030870	生活デザイン演習D	齋藤 史夫	1252
専門科目	G030870	生活デザイン演習D	佐々木 麻紀子	1255
専門科目	G030870	生活デザイン演習D	富田 弘美	1258
専門科目	G030870	生活デザイン演習D	花田 朋美	1261
専門科目	G030870	生活デザイン演習D	花田 朋美	1264
専門科目	G030870	生活デザイン演習D	富田 弘美	1267
専門科目	G030870	生活デザイン演習D	富田 弘美	1270
専門科目	G030880	高分子材料学実験	花田 朋美	1273
専門科目	G030890	繊維学実験	花田 朋美	1276
専門科目	G030900	アパレルデザイン論	富田 弘美	1279
専門科目	G030910	アパレルデザイン表現実習	手島 由記子	1282
専門科目	G030920	服飾造形実習A	富田 弘美	1285
専門科目	G031000	生活デザイン演習B	生活デザイン学科 教員	1288
専門科目	G031004	情報デザイン論	呉 起東	1291
専門科目	G031005	家庭電気・機械・情報処理	山際 基	1294
専門科目	G031006	デザイン概論	澤田 雅彦	1297
専門科目	G031008	家庭経営学概論	河田 敦子 他	1300
専門科目	G031010	家庭看護	遠藤 由美子	1303
専門科目	G031011	消費者調査法	小野 由美子	1306
専門科目	G031012	消費生活論	黒澤 佳子	1309
専門科目	G031014	保育学	新開 よしみ	1312
専門科目	G031015	被服学概論	富田 弘美 他	1315
専門科目	G031016	和服構成学実習	富田 弘美	1318
専門科目	G031019	食科学概論	山崎 薫	1321
専門科目	G031026	フードビジネス論	山岡 義卓	1324
専門科目	G031030	住居学概論	小池 孝子	1327
専門科目	G031031	建築史A	大橋 竜太	1330
専門科目	G031032	建築史B	大橋 竜太	1333
専門科目	G031033	住生活論	小池 孝子 他	1336
専門科目	G031034	住居設備	椛田 考一	1339
専門科目	G031035	構造力学A	西村 彰敏 他	1342
専門科目	G031036	構造計画	西村 彰敏 他	1345
専門科目	G031037	インテリア材料	白井 篤	1348
専門科目	G031039	建築法規	原口 秀昭	1351
専門科目	G031040	建築環境学A	椛田 考一	1354
専門科目	G031041	住居計画	小池 孝子	1357
専門科目	G031042	福祉住環境	小池 孝子	1360
専門科目	G031043	生活デザイン演習C	石綱 史子	1363
専門科目	G031043	生活デザイン演習C	齋藤 史夫	1366

専門科目	G031043	生活デザイン演習C	佐々木 麻紀子	1369
専門科目	G031043	生活デザイン演習C	富田 弘美	1372
専門科目	G031043	生活デザイン演習C	花田 朋美	1375
専門科目	G031043	生活デザイン演習C	富田 弘美	1378
専門科目	G031047	服飾造形実習B	富田 弘美	1381
専門科目	G031052	ゼミナルA	石綱 史子	1384
専門科目	G031052	ゼミナルA	呉 起東	1387
専門科目	G031052	ゼミナルA	河田 敦子	1390
専門科目	G031052	ゼミナルA	小池 孝子	1393
専門科目	G031052	ゼミナルA	齋藤 史夫	1396
専門科目	G031052	ゼミナルA	佐々木 麻紀子	1399
専門科目	G031052	ゼミナルA	澤田 雅彦	1402
専門科目	G031052	ゼミナルA	白井 篤	1405
専門科目	G031052	ゼミナルA	千葉 一博	1408
専門科目	G031052	ゼミナルA	富田 弘美	1411
専門科目	G031052	ゼミナルA	花田 朋美	1414
専門科目	G031052	ゼミナルA	深石 圭子	1417
専門科目	G031052	ゼミナルA	森 朋子	1420
専門科目	G031053	ゼミナルB	石綱 史子	1422
専門科目	G031053	ゼミナルB	呉 起東	1425
専門科目	G031053	ゼミナルB	河田 敦子	1427
専門科目	G031053	ゼミナルB	小池 孝子	1430
専門科目	G031053	ゼミナルB	齋藤 史夫	1433
専門科目	G031053	ゼミナルB	佐々木 麻紀子	1436
専門科目	G031053	ゼミナルB	澤田 雅彦	1438
専門科目	G031053	ゼミナルB	白井 篤	1441
専門科目	G031053	ゼミナルB	千葉 一博	1444
専門科目	G031053	ゼミナルB	富田 弘美	1447
専門科目	G031053	ゼミナルB	花田 朋美	1450
専門科目	G031053	ゼミナルB	深石 圭子	1453
専門科目	G031053	ゼミナルB	森 朋子	1456
専門科目	G031055	アパレル生産実習	富田 弘美	1458
専門科目	G031058	室内園芸	濱田 恵理子	1461
専門科目	G031061	CGデザイン演習	呉 起東	1464
専門科目	G031063	ガーデニング概論	石綱 史子	1467
専門科目	G031064	言語学概論	森 朋子	1470
専門科目	G031065	ウェブデザイン	呉 起東	1473
専門科目	G031067	ファッションビジネス論	手島 由記子	1476
専門科目	G031068	基礎調理学実習	小野 かおり	1479
専門科目	G031069	ものづくり演習A	澤田 雅彦	1483
専門科目	G031070	ものづくり演習B	澤田 雅彦	1486
専門科目	G031071	スタディツアー	生活デザイン学科 教員	1489
専門科目	G031072	テキスタイル加工演習	花田 朋美	1492
専門科目	G031073	テキスタイルデザイン論	顧 真源	1495
専門科目	G031075	プリンティングデザイン演習	顧 真源	1498
専門科目	G031076	日本文化論	内藤 久義	1501
専門科目	G031077	Practical English A	森 朋子	1504
専門科目	G031078	Practical English B	森 朋子	1508
専門科目	G031079	言語コミュニケーション	森 朋子	1512
専門科目	G031080	情報倫理	千葉 一博	1515
専門科目	G031081	ウェブデザイン演習A	高嶋 章雄	1518
専門科目	G031082	コミュニティデザイン論	齋藤 史夫	1521
専門科目	G031083	園芸論	石綱 史子	1524
専門科目	G031084	ガーデニング実習 I	石綱 史子	1527
専門科目	G031085	観賞植物素材論	石綱 史子	1530
専門科目	G031086	インターネットビジネス論	前田 邦宏	1533

専門科目	G031087	マーケティング論	神田 正樹	1536
専門科目	G031088	被服整理学実験	佐々木 麻紀子	1539
専門科目	G031089	アパレル企画実習	手島 由記子	1542
専門科目	G031090	ウィーピングデザイン演習B	馬場 美和子	1545
専門科目	G031091	ファッション・インテリアファブリックデザイン演習	馬場 美和子	1548
専門科目	G031092	ハンドクラフト演習A	顧 真源	1551
専門科目	G031093	Practical English C	フィッシャー 麗子	1554
専門科目	G031094	Practical English D	フィッシャー 麗子	1558
専門科目	G031095	日本語教育法	森 朋子	1562
専門科目	G031096	比較文化論	柳下 実	1565
専門科目	G031097	多文化共生	高橋 誠一	1568
専門科目	G031098	ウェブデザイン演習B	高嶋 章雄	1571
専門科目	G031099	地域政策論	横手 典子	1574
専門科目	G031100	社会園芸	土橋 豊	1577
専門科目	G031101	生活と環境	土橋 豊	1580
専門科目	G031102	ガーデニング実習Ⅱ	石網 史子	1583
専門科目	G031103	園芸装飾実習	澤田 佳与子	1586
専門科目	G031104	マーチャンダイジング	手島 由記子	1589
専門科目	G031105	グローバルビジネス論	増永 真	1592
専門科目	G032056	アパレルCAD実習	富田 弘美	1595
専門科目	G032059	エクステリア演習	石網 史子	1598

<児童学科>

専門科目	G040010	児童学研究法	畝部 典子	1601
専門科目	G040020	発達心理学	丹羽 さがの	1604
専門科目	G040030	教育心理学	木村 文香	1608
専門科目	G040040	教育原理	河田 敦子	1611
専門科目	G040070	教師・保育者論	齋藤 義雄 他	1614
専門科目	G040080	児童文化	未定	1617
専門科目	G040090	子どもの保健	未定	1620
専門科目	G040100	卒業研究A	畝部 典子	1623
専門科目	G040100	卒業研究A	金子 和正	1626
専門科目	G040100	卒業研究A	中田 範子	1629
専門科目	G040100	卒業研究A	新開 よしみ	1632
専門科目	G040100	卒業研究A	柳瀬 洋美	1635
専門科目	G040100	卒業研究A	新海 公昭	1638
専門科目	G040100	卒業研究A	齋藤 義雄	1641
専門科目	G040100	卒業研究A	杉野 学	1645
専門科目	G040100	卒業研究A	立川 泰史	1648
専門科目	G040100	卒業研究A	丹羽 さがの	1651
専門科目	G040100	卒業研究A	和田 美香	1654
専門科目	G040100	卒業研究A	阿尾 有朋	1657
専門科目	G040100	卒業研究A	吉永 早苗	1660
専門科目	G040110	卒業研究B	畝部 典子	1663
専門科目	G040110	卒業研究B	金子 和正	1666
専門科目	G040110	卒業研究B	中田 範子	1669
専門科目	G040110	卒業研究B	新開 よしみ	1672
専門科目	G040110	卒業研究B	柳瀬 洋美	1675
専門科目	G040110	卒業研究B	新海 公昭	1678
専門科目	G040110	卒業研究B	齋藤 義雄	1681
専門科目	G040110	卒業研究B	杉野 学	1685
専門科目	G040110	卒業研究B	立川 泰史	1688
専門科目	G040110	卒業研究B	丹羽 さがの	1691
専門科目	G040110	卒業研究B	和田 美香	1694
専門科目	G040110	卒業研究B	阿尾 有朋	1697

専門科目	G040110	卒業研究B	吉永 早苗	1700
専門科目	G040130	発達臨床心理学	柳瀬 洋美	1703
専門科目	G040140	対人関係の発達	丹羽 さがの	1706
専門科目	G040150	発達障害の理解と支援	杉野 学 他	1709
専門科目	G040180	児童とカウンセリング	柳瀬 洋美	1712
専門科目	G040190	心理検査法実習	加地 雄一 他	1715
専門科目	G040220	社会福祉	嶋田 芳男	1717
専門科目	G040230	社会的養護 I	塩谷 隼平	1720
専門科目	G040240	社会的養護 II	杉野 学 他	1723
専門科目	G040280	幼児理解	新開 よしみ	1726
専門科目	G040290	保育内容総論A	中田 範子	1729
専門科目	G040330	保育内容演習言葉A	和田 美香	1732
専門科目	G040350	保育内容演習人間関係A	丹羽 さがの	1735
専門科目	G040370	保育内容演習環境A	中田 範子	1739
専門科目	G040390	保育内容演習表現A	新開 よしみ 他	1742
専門科目	G040410	保育方法論	末松 加奈	1745
専門科目	G040430	保育実践演習	児童学科 教員	1748
専門科目	G040440	算数科教育	新海 公昭	1753
専門科目	G040450	生活科教育	中田 範子	1756
専門科目	G040460	音楽科教育	吉永 早苗	1759
専門科目	G040470	図画工作科教育	立川 泰史	1762
専門科目	G040480	国語科教育（書写を含む）	深瀬 須美子	1765
専門科目	G040490	体育科教育	金子 和正	1768
専門科目	G040500	社会科教育	未定	1771
専門科目	G040510	理科教育	沼波 秀樹	1774
専門科目	G040520	国語科教育法（書写を含む）	深瀬 須美子	1777
専門科目	G040530	社会科教育法	佐藤 広美	1780
専門科目	G040540	算数科教育法	新海 公昭	1783
専門科目	G040550	理科教育法	猿渡 厚史	1787
専門科目	G040560	生活科教育法	池田 仁人	1789
専門科目	G040570	音楽科教育法	吉永 早苗	1792
専門科目	G040590	家庭科教育法	金田 佳子	1795
専門科目	G040600	体育科教育法	金子 和正	1798
専門科目	G040620	小児保健II	松井 知子	1801
専門科目	G040630	小児保健演習	田中 和香菜	1804
専門科目	G040640	子どもの食と栄養	太田 百合子	1807
専門科目	G040650	児童体育演習	金子 和正	1811
専門科目	G040670	野外活動論（児童と野外環境）	金子 和正	1814
専門科目	G040680	児童とことば	和田 美香	1817
専門科目	G040700	音楽実技B	吉永 早苗 他	1820
専門科目	G040710	児童と身体表現	荒金 幸子	1823
専門科目	G040720	子どもと造形	立川 泰史	1826
専門科目	G040730	保育表現技術	桜井 郁子	1829
専門科目	G040740	英語アクティビティ	畝部 典子	1832
専門科目	G040750	児童と外国語A	畝部 典子	1835
専門科目	G040760	児童と外国語B	畝部 典子	1838
専門科目	G040770	児童と文学	原 善	1841
専門科目	G040790	カリキュラム論	中田 範子	1844
専門科目	G040800	相談援助	西口 守 他	1846
専門科目	G040810	保育相談支援	柳瀬 洋美	1849
専門科目	G040820	家庭支援論	新開 よしみ 他	1852
専門科目	G040840	家庭科教育	金田 佳子	1855
専門科目	G041002	青年心理学	合澤 典子	1858
専門科目	G041003	人格心理学	早野 富美	1861
専門科目	G041006	家庭教育論	柳瀬 洋美	1864
専門科目	G041008	児童学概論	児童学科 教員	1867

専門科目	G041010	児童福祉論	市川 和男 他	1870
専門科目	G041015	自然体験活動演習Ⅰ	金子 和正	1874
専門科目	G041016	自然体験活動演習Ⅱ	金子 和正	1877
専門科目	G041017	自然体験活動実習	金子 和正	1880
専門科目	G041018	初等教育演習A	齋藤 義雄 他	1883
専門科目	G041019	初等教育演習B	齋藤 義雄 他	1886
専門科目	G041020	初等教育演習C	齋藤 義雄 他	1889
専門科目	G041021	初等教育演習D	齋藤 義雄 他	1892
専門科目	G041024	児童臨床実習BⅠ	末松 加奈 他	1895
専門科目	G041025	児童臨床実習BⅡ	末松 加奈 他	1898
専門科目	G041026	児童臨床実習CⅠ	柳瀬 洋美	1901
専門科目	G041027	児童臨床実習CⅡ	柳瀬 洋美	1904
専門科目	G041028	障害の基礎的理解	阿尾 有朋	1907
専門科目	G041029	特別支援学校教育課程論	杉野 学	1910
専門科目	G041030	特別支援教育総論	杉野 学	1913
専門科目	G041031	知的障害者の教育	杉野 学 他	1916
専門科目	G041032	肢体不自由者の教育	阿尾 有朋	1919
専門科目	G041033	病弱者の教育	阿尾 有朋	1922
専門科目	G041034	知的障害者の心理・生理・病理	原田 晋吾 他	1925
専門科目	G041035	肢体不自由者の心理・生理・病理	岡澤 慎一	1928
専門科目	G041036	病弱者の心理・生理・病理	市川 和男 他	1931
専門科目	G041037	視覚障害の理解と支援	阿尾 有朋	1935
専門科目	G041038	聴覚障害の理解と支援	信方 壽幸	1937
専門科目	G041039	重複障害の理解と支援	阿尾 有朋	1939
専門科目	G041040	保育原理	和田 美香	1942
専門科目	G041041	子どもの理解と援助	丹羽 さがの	1945
専門科目	G041042	乳児保育Ⅰ	柳瀬 洋美 他	1948
専門科目	G041043	乳児保育Ⅱ	柳瀬 洋美 他	1951
専門科目	G041044	外国語科教育	畝部 典子	1954
専門科目	G041045	インターンシップ	齋藤 義雄	1957
専門科目	G041046	子どもと音楽	吉永 早苗	1961
専門科目	G041047	音楽実技A	吉永 早苗 他	1964
専門科目	G041048	造形表現基礎	立川 泰史	1967
専門科目	G041050	子どもと健康	金子 和正	1970
専門科目	G041051	子どもと言葉	和田 美香	1973
専門科目	G041052	子どもと人間関係	丹羽 さがの	1976
専門科目	G041053	子どもと環境	中田 範子	1979
専門科目	G041054	子どもと表現	新開 よしみ 他	1982
専門科目	G041055	児童学研究ゼミA	児童学科 教員	1985
専門科目	G041056	児童学研究ゼミB	児童学科 教員	1988
専門科目	G041057	障がい児保育A	中野 佐世子	1991
専門科目	G041058	障がい児保育B	上出 香波	1994
専門科目	G041059	健康の指導法	金子 和正	1997
専門科目	G041060	言葉の指導法	和田 美香	2000
専門科目	G041061	人間関係の指導法	丹羽 さがの 他	2003
専門科目	G041062	環境の指導法	中田 範子	2007
専門科目	G041063	表現の指導法	新開 よしみ 他	2010
専門科目	G041064	保育内容総論B	中田 範子	2013

<人間福祉学科>

専門科目	G050200	卒業研究A	西口 守	2016
専門科目	G050200	卒業研究A	嶋田 芳男	2019
専門科目	G050200	卒業研究A	加地 雄一	2022
専門科目	G050210	卒業研究B	西口 守	2024
専門科目	G050210	卒業研究B	嶋田 芳男	2026
専門科目	G050210	卒業研究B	加地 雄一	2029

専門科目	G050320	就労支援	木本 明	2031
専門科目	G050330	更生保護制度	木本 明	2034
専門科目	G050710	スクールソーシャルワーク実習	芦田 正博	2036
専門科目	G050770	実践英会話Ⅰ	マーク ルイス	2039
専門科目	G051051	実践英会話Ⅱ	マーク ルイス	2042
専門科目	G051052	ソーシャルビジネス論	西口 守	2045
専門科目	G051053	地域包括ケアマネジメント	嶋田 芳男 他	2048
専門科目	G051058	社会調査実習	福嶋 美佐子	2051
専門科目	G051690	スクールソーシャルワーク論	芦田 正博	2054
専門科目	G051700	スクールソーシャルワーク演習・実習指導	芦田 正博	2057
専門科目	G051720	ソーシャルワーク実習	西口 守	2060

<食物学科>

専門科目	G060010	食生産体験演習A	高尾 純宏	2063
専門科目	G060020	食生産体験演習B	高尾 純宏	2066
専門科目	G060030	栄養士論	山田 正子	2069
専門科目	G060040	地球環境と食	山岡 義卓	2072
専門科目	G060050	フードビジネス概論	山岡 義卓	2076
専門科目	G060060	コミュニケーション・プレゼン演習	黒田 久夫	2080
専門科目	G060070	有機化学	三島 綾子	2084
専門科目	G060080	分子生物学	岩見 哲夫	2088
専門科目	G060090	統計学演習	黒田 久夫	2091
専門科目	G060100	基礎サイエンス実験	岩見 哲夫 他	2094
専門科目	G060110	食と語学A	大和田 寛	2098
専門科目	G060120	食と語学B	大和田 寛	2101
専門科目	G060130	社会福祉学概論	西口 守	2104
専門科目	G060210	公衆衛生学Ⅰ(総論)	佐々木 溪円	2107
専門科目	G060220	公衆衛生学Ⅱ(各論)	佐々木 溪円	2110
専門科目	G060230	解剖生理学Ⅰ(解剖学)	未定	2113
専門科目	G060240	解剖生理学Ⅱ(生理学)	野元 謙作	2115
専門科目	G060250	解剖生理学実習	岩本 直樹	2118
専門科目	G060260	生化学(総論)	三島 綾子	2121
専門科目	G060270	代謝栄養学(生化学各論)	三島 綾子	2124
専門科目	G060280	栄養学・生化学実験	岩本 直樹 他	2127
専門科目	G060290	食品学総論	山崎 薫	2130
専門科目	G060310	食品学各論	山崎 薫	2133
専門科目	G060320	食品学実験	山崎 薫	2136
専門科目	G060330	食品衛生学	山崎 薫	2140
専門科目	G060340	食品衛生学実験	山崎 薫	2143
専門科目	G060350	基礎栄養学	岩本 直樹	2147
専門科目	G060360	応用栄養学	岩本 直樹	2150
専門科目	G060370	栄養学各論実習	岩本 直樹	2153
専門科目	G060380	臨床栄養学総論	岩本 直樹	2156
専門科目	G060390	臨床栄養学各論	岩本 直樹	2159
専門科目	G060400	臨床栄養学実習	吉川 絵梨	2162
専門科目	G060410	栄養学実習	岩本 直樹	2165
専門科目	G060420	栄養指導論	三澤 朱実	2168
専門科目	G060430	栄養指導実習	三澤 朱実	2171
専門科目	G060440	栄養カウンセリング論	三澤 朱実	2174
専門科目	G060450	栄養カウンセリング実習	三澤 朱実	2177
専門科目	G060460	公衆栄養学	三澤 朱実	2180
専門科目	G060470	公衆栄養学実習	三澤 朱実	2183
専門科目	G060480	給食管理学	山田 正子	2186
専門科目	G060490	校内給食管理実習	山田 正子	2189
専門科目	G060500	校外給食管理実習	山田 正子	2192
専門科目	G060510	基礎調理学実習	小口 悦子	2195

専門科目	G060520	調理学	小野 かお里	2199
専門科目	G060530	調理科学実験	小口 悦子	2202
専門科目	G060610	微生物学	鈴木 武人	2206
専門科目	G060630	食品機能学	黒田 久夫	2209
専門科目	G060640	食品加工学	山崎 薫	2213
専門科目	G060650	食品加工学実習	山崎 薫	2216
専門科目	G060660	応用調理学実習	小口 悦子	2219
専門科目	G060670	製品・食品鑑別演習	新原 恵子	2222
専門科目	G060680	食空間コーディネート論	山田 正子 他	2226
専門科目	G060690	比較食文化・食生活論	小林 毅	2229
専門科目	G060710	栄養士総合演習	山田 正子	2232
専門科目	G060720	食物総合演習A	岩見 哲夫	2235
専門科目	G060720	食物総合演習A	河田 敦子	2238
専門科目	G060720	食物総合演習A	三澤 朱実	2241
専門科目	G060720	食物総合演習A	山田 正子	2244
専門科目	G060720	食物総合演習A	岩本 直樹	2247
専門科目	G060720	食物総合演習A	大和田 寛	2250
専門科目	G060720	食物総合演習A	黒田 久夫	2253
専門科目	G060720	食物総合演習A	高尾 純宏	2257
専門科目	G060720	食物総合演習A	山崎 薫	2260
専門科目	G060730	食物総合演習B	岩見 哲夫	2263
専門科目	G060730	食物総合演習B	河田 敦子	2266
専門科目	G060730	食物総合演習B	三澤 朱実	2269
専門科目	G060730	食物総合演習B	山田 正子	2272
専門科目	G060730	食物総合演習B	岩本 直樹	2275
専門科目	G060730	食物総合演習B	大和田 寛	2278
専門科目	G060730	食物総合演習B	黒田 久夫	2281
専門科目	G060730	食物総合演習B	高尾 純宏	2285
専門科目	G060730	食物総合演習B	山崎 薫	2288
専門科目	G060760	フードスペシャリスト論	山田 正子	2291
専門科目	G060770	フードコーディネート論	山田 正子	2294
専門科目	G060780	食品流通経済	黒田 久夫	2297
専門科目	G060790	バイオサイエンス演習	岩見 哲夫	2301
専門科目	G060810	食企画・開発演習Ⅰ	黒田 久夫	2304
専門科目	G060820	食企画・開発演習Ⅱ	黒田 久夫	2308
専門科目	G060830	食企画・開発演習Ⅲ	黒田 久夫	2312
専門科目	G060840	病態生理学	岩本 直樹	2316
専門科目	G060850	子供の食とアレルギー	岩本 直樹	2319
専門科目	G060860	調理と素材	小口 悦子	2322
専門科目	G060870	食事計画論	未定	2326
専門科目	G060910	被服学概論	富田 弘美 他	2329
専門科目	G060920	服飾造形実習A	富田 弘美	2332
専門科目	G060930	住居学概論（製図を含む）	小池 孝子	2335
専門科目	G060940	家庭経営学概論	河田 敦子 他	2338
専門科目	G060950	家庭電気・機械・情報処理	山際 基	2341
専門科目	G060960	保育学	新開 よしみ	2344
専門科目	G060970	食科学概論	山崎 薫	2347
専門科目	G060980	家庭看護(学校安全・救急看護法)	遠藤 由美子	2350

<人間栄養学科>

専門科目	H020010	人間栄養学原論	加藤 理津子 他	2353
専門科目	H020020	管理栄養士基礎演習	城田 直子	2355
専門科目	H020030	有機化学	崎濱 由梨	2358
専門科目	H020040	基礎サイエンス実験	沼波 秀樹 他	2361
専門科目	H020050	栄養情報統計演習	田中 弘之 他	2364
専門科目	H020060	健康・食発達心理学	青木 洋子	2367

専門科目	H020070	社会福祉学概論	西口 守	2370
専門科目	H020110	公衆衛生学Ⅰ	松田 正己	2373
専門科目	H020120	公衆衛生学Ⅱ	松田 正己	2376
専門科目	H020130	公衆衛生学実習	松田 正己	2379
専門科目	H020140	疫学・社会調査法	細川 まゆ子	2382
専門科目	H020150	解剖生理学Ⅰ	原 光彦	2385
専門科目	H020160	解剖生理学Ⅱ	原 光彦	2388
専門科目	H020170	解剖生理学実習	原 光彦	2391
専門科目	H020180	運動生理学	江川 賢一	2394
専門科目	H020190	微生物学	津山 淳	2397
専門科目	H020200	臨床病態栄養学	斉藤 恵美子	2400
専門科目	H020210	分子栄養学	海野 知紀	2403
専門科目	H020220	生化学	馬場 修	2406
専門科目	H020230	生化学実験	馬場 修	2409
専門科目	H020240	基礎食品学	海野 知紀	2411
専門科目	H020250	基礎食品学実験	海野 知紀	2414
専門科目	H020260	応用食品学	林 一也	2417
専門科目	H020270	応用食品学実験（食品の鑑別を含む）	林 一也	2421
専門科目	H020280	調理学	大富 あき子	2424
専門科目	H020290	調理学実験（官能評価を含む）	大富 あき子	2427
専門科目	H020300	基礎調理学実習	大富 あき子 他	2430
専門科目	H020310	応用調理学実習	大富 あき子	2433
専門科目	H020320	食事計画論実習	加藤 理津子	2436
専門科目	H020330	食品衛生学	林 一也	2439
専門科目	H020340	食品衛生学実験	林 一也	2442
専門科目	H020350	基礎栄養学Ⅰ	海野 知紀	2445
専門科目	H020360	基礎栄養学Ⅱ	海野 知紀	2448
専門科目	H020230	基礎栄養学実験	馬場 修	2452
専門科目	H020380	食事摂取基準論	斉藤 恵美子	2454
専門科目	H020390	ライフステージ別栄養学Ⅰ	原 光彦	2457
専門科目	H020400	ライフステージ別栄養学Ⅱ	斉藤 恵美子	2460
専門科目	H020410	応用栄養学実習	酒井 治子 他	2463
専門科目	H020420	栄養教育総論	辻 雅子	2466
専門科目	H020430	栄養教育方法論	辻 雅子	2469
専門科目	H020440	実践栄養教育論	酒井 治子	2472
専門科目	H020450	栄養教育実習Ⅰ	辻 雅子	2475
専門科目	H020460	栄養教育実習Ⅱ	酒井 治子	2478
専門科目	H020470	臨床栄養学基礎	斉藤 恵美子	2481
専門科目	H020480	臨床栄養学応用	榎本 真理	2484
専門科目	H020490	臨床栄養アセスメント論	金澤 良枝	2486
専門科目	H020500	臨床栄養ケアマネジメント論	金澤 良枝	2489
専門科目	H020510	臨床栄養アセスメント実習	金澤 良枝	2492
専門科目	H020520	臨床栄養ケアマネジメント実習	金澤 良枝	2495
専門科目	H020530	公衆栄養学	田中 弘之	2498
専門科目	H020540	地域栄養活動論	田中 弘之	2501
専門科目	H020550	公衆栄養学実習	田中 弘之	2504
専門科目	H020560	給食経営管理論	吉野 知子	2508
専門科目	H020570	給食経営管理実習	吉野 知子 他	2511
専門科目	H020580	健康フードマネジメント論	吉野 知子	2512
専門科目	H020590	健康フードマネジメント実習	吉野 知子 他	2515
専門科目	H020600	総合演習Ⅰ	吉野 知子 他	2518
専門科目	H020620	給食運営臨地実習	吉野 知子 他	2519
専門科目	H020740	スポーツ選手の栄養学	加藤 理津子 他	2521
専門科目	H020770	江戸・東京の食と文化	綿貫 仁美	2524
専門科目	H020790	フードシステム論	二瓶 徹	2527
専門科目	H020800	食・空間プロデュース論	大野 治美	2530

専門科目	H020810	栄養プロデュース実習	綿貴 仁美 他	2533
専門科目	H020820	実践栄養プロデュース実習	大富 あき子 他	2536
専門科目	H020830	栄養・医学英語	橋本 文子	2538
専門科目	H020840	実践栄養英会話	マーク ルイス	2541
専門科目	H020850	食物・栄養演習A	辻 雅子 他	2544
専門科目	H021010	海外専門研修（栄養学）	田中 弘之 他	2547
専門科目	H021020	キャリアデザイン活動	酒井 治子 他	2550

<資格科目>

資格科目	6100010	教師論（町田・千代田）	佐藤 広美	2553
資格科目	6100020	教育原理（町田）	河田 敦子	2556
資格科目	6100020	教育原理（千代田）	佐藤 広美	2559
資格科目	6100030	教育心理学（町田・千代田）	木村 文香	2562
資格科目	6100040	教育制度論（中・高・栄）（町田）	河田 敦子	2565
資格科目	6100040	教育制度論（幼・小）（町田）	中田 範子 他	2568
資格科目	6100040	教育制度論（千代田）	佐藤 広美	2571
資格科目	6100050	教育課程論（町田・千代田）	齋藤 義雄	2574
資格科目	6100060	家庭科教育法A（町田）	和田 早苗	2577
資格科目	6100060	家庭科教育法A（千代田）	花形 美緒 他	2580
資格科目	6100070	家庭科教育法B（町田）	和田 早苗	2583
資格科目	6100070	家庭科教育法B（千代田）	上村 協子 他	2586
資格科目	6100080	家庭科教育法C（町田）	花形 美緒	2589
資格科目	6100080	家庭科教育法C（千代田）	檜府 暢子 他	2592
資格科目	6100090	家庭科教育法D（町田）	花形 美緒	2596
資格科目	6100090	家庭科教育法D（千代田）	檜府 暢子 他	2599
資格科目	6100220	道德教育論（小）	河田 敦子	2602
資格科目	6100220	道德教育論（中・栄）（町田）	河田 敦子	2605
資格科目	6100220	道德教育論（千代田）	河田 敦子	2608
資格科目	6100230	特別活動論（町田・千代田）	齋藤 史夫	2611
資格科目	6100230	特別活動論（小）	齋藤 史夫	2614
資格科目	6100300	教育方法・技術論（幼・小）	齋藤 義雄 他	2617
資格科目	6100300	教育方法・技術論（町田・千代田）	齋藤 義雄	2620
資格科目	6100310	生徒指導論（小）	齋藤 史夫	2623
資格科目	6100310	生徒指導論（町田）	齋藤 史夫	2626
資格科目	6100310	生徒指導論（千代田）	齋藤 史夫	2629
資格科目	6100320	教育相談論（幼・小）	木村 文香	2632
資格科目	6100320	教育相談論（町田・千代田）	木村 文香	2636
資格科目	6100350	教育実習指導（町田）	齋藤 史夫 他	2640
資格科目	6100350	教育実習指導（千代田）	佐藤 広美 他	2643
資格科目	6100360	教育実習A（町田）	河田 敦子 他	2646
資格科目	6100360	教育実習A（千代田）	佐藤 広美	2649
資格科目	6100370	教育実習B（町田）	河田 敦子 他	2651
資格科目	6100370	教育実習B（千代田）	佐藤 広美	2654
資格科目	6100380	栄養教育実習指導	辻 雅子	2656
資格科目	6100390	栄養教育実習	辻 雅子 他	2659
資格科目	6100400	初等教育実習指導（小）	立川 泰史 他	2662
資格科目	6100410	初等教育実習C	立川 泰史	2665
資格科目	6100420	初等教育実習指導（幼）	吉永 早苗 他	2670
資格科目	6100430	初等教育実習A	吉永 早苗 他	2673
資格科目	6100440	初等教育実習B	吉永 早苗 他	2677
資格科目	6100450	教職実践演習（中等）	齋藤 史夫 他	2688
資格科目	6100450	教職実践演習（中等）	佐藤 広美 他	2691
資格科目	6100460	教職実践演習（栄養）	辻 雅子 他	2694
資格科目	6100470	教職実践演習（幼小）	立川 泰史 他	2697
資格科目	6100480	特別支援教育実習・実習指導	阿尾 有朋 他	2700
資格科目	6100500	特別支援教育論（中・高・栄）	杉野 学 他	2704

資格科目	6100500	特別支援教育論（幼・小）	杉野 学 他	2707
資格科目	6100510	教育・保育制度論	中田 範子 他	2710
資格科目	6200010	学校栄養教育論Ⅰ	酒井 治子 他	2713
資格科目	6200020	学校栄養教育論Ⅱ	辻 雅子 他	2716
資格科目	6200030	学校栄養教育論	塩塚 宏治	2720
資格科目	6300010	博物館概論（町田・千代田）	石垣 悟	2723
資格科目	6300020	博物館資料論（町田・千代田）	石垣 悟	2726
資格科目	6300030	博物館経営論（町田・千代田）	田尾 誠敏	2729
資格科目	6300060	生涯学習概論（町田・千代田）	宮崎 敦子	2733
資格科目	6300080	博物館実習（町田・千代田）	石垣 悟	2736
資格科目	6300090	博物館資料保存論（町田・千代田）	田尾 誠敏	2739
資格科目	6300100	博物館展示論（町田）	石垣 悟	2742
資格科目	6300100	博物館展示論（千代田）	田尾 誠敏	2745
資格科目	6300110	博物館教育論（町田）	高木 幸枝	2749
資格科目	6300110	博物館教育論（千代田）	佐藤 広美	2752
資格科目	6300120	博物館情報・メディア論（町田・千代田）	木村 涼	2755
資格科目	6400060	保育実習指導Ⅰ	丹羽 さかの 他	2758
資格科目	6400070	保育実習ⅠB	丹羽 さかの 他	2762
資格科目	6400080	保育実習ⅠC	和田 美香	2765
資格科目	6400090	保育実習Ⅱ	新開 よしみ 他	2768
資格科目	6400100	保育実習Ⅲ	柳瀬 洋美 他	2771
資格科目	6400130	保育実習指導Ⅱ	和田 美香 他	2774
資格科目	6400130	保育実習指導Ⅲ	柳瀬 洋美 他	2777

共通教育科目

シラバス参照

講義名	日本の文学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 眞弓	指定なし

ナンバリング	X13000C21
授業概要(教育目的)	文学は、社会や時代に縁取られた人間存在を多角的に表現するものである。したがって、本講義では文学作品の読解を通して、その表現の深奥にある他者の声に耳を傾け、自己との対話を通して見えてくる人間たるものへの理解を深めることが目標となる。具体的には、人間の生の多様性と普遍性・固有性について、日本の古典文学を辿るなかで考究する。
履修条件	特になし。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	文学作品を読む上で求められる作品の持つ時代性や社会のコードを理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	文学作品を読むことを通して、自分の感性・考えを探ることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	人間と社会との関係に注意しながら、意欲的に読書することができる。
技術・表現の観点 (A)	読解の結果得られた自分の意見・考えを、他者に向けて論理的に表現することができる。

学習計画

日本の文学

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	現代の女性と平安文学	『源氏物語』と「エヴァンゲリオン」の相同・相違を探ることの中から、人間という存在に着眼できる視点を持つ。	予習としてシラバスを読み、教科書のはしがきを読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180
第2回	違和感を生きたる	『堤中納言物語』に入集されている「虫めづる姫君」および『狭衣物語』『海月姫』の読解を通して少女という存在を把握し、その有り様から現代女性の持つ生きづらさを理解する。	予習として教科書の第14講P71を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180
第3回	つながらない気持ち	理不尽な力によって居場所を追われた者が残した和歌を通して、悲哀という感情を表出する韻文の特性を理解する。合わせて日本文学の底流にある「他者理解」を捉え、現代のme-too運動について受講生と考える場を持つ。	予習として教科書の第11講P56-57を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180

第4回	交響する和漢のことはば(1)	男の人との会話術(1)と題して、『枕草子』と『ナナ』に見る男女のコミュニケーション方法の違いを把握する。	予習として教科書の第8講P42を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180
第5回	交響する和漢のことはば(2)	男の人との会話術(2)と題して、『和漢朗詠集』に見える漢詩や和歌の朗詠がもたらす文学空間の中で人がどのようなことばでどのように変容を遂げていくかを辿り、それらの表現が持つ背景について知る。	予習として教科書の第8講P45を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180
第6回	やまとことの葉を拾う(1)	当該時代の文化事業であった『古今和歌集』の制作理念を理解する。	予習として教科書の第2講P11を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180
第7回	やまとことの葉を拾う(2)	『古今和歌集』に入集されている和歌を解釈し、和歌を詠むという行為の根底にあるものを探る。	予習として教科書の第2講P14を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180
第8回	言葉で恋する女たち	小野小町の詠んだ和歌を読解するとともに、その歌をモチーフとして制作された『君の名は。』の構造について概説し、文学の持つ引用の精神を知る。	予習として教科書の第3講P15-16を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180
第9回	異郷のものと生きる	『うつほ物語』の俊蔭奄流譚を読んで「異界」「異郷」について理解し、併せて映画『シンゴジラ』に通底する精神を知る。	予習として教科書の第4講P19を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180
第10回	「ひかり」の転生	『竹取物語』に見える話型を理解し、物語の本質にある鎮魂という考えに触れる。併せて「セーラームーン」との共通項を理解する。	予習として教科書の第5講P25を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180
第11回	歴史を書き付ける(1)	『源氏物語』における長編化の仕掛けを知り、世界文学と称される所以を把握する。	予習として教科書の第6講P30を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180
第12回	歴史を書き付ける(2)	『源氏物語』における恋の場面を分析することの中から、人間存在への理解を深める。	予習として教科書の第5講P29と第6講P33を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180
第13回	浮舟にあこがれて	『更級日記』の読解を通して平安時代に生きた女性の心情に触れ、現代女性の生き方との相同・相違について考える。	予習として教科書の第12講P60を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180
第14回	「唐」への二つのまなざし	『浜松中納言物語』と「私は利休」を比較分析し、異国への怖れと憧れという相反した心情と転生についての理解を深める。	予習として教科書の第13講P64を読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180
第15回	振り返り	振り返りシートへの記入を通して客観的に自己の学びを捉え直し、これからの読書活動への展望を持てるようにする。	これまでの授業を振り返るとともに、課題に対するレポートを制作する。	180

学生へのフィードバック方法	レスポンスシートに記入された質問や意見について、毎週受講者と問題を共有する。
評価方法	レスポンスシートにおいて関心・意欲・態度とともに基本的な授業内容の把握に関して問う。振り返りシートは15回目で実施し、レポートは、本授業を通して得られた知見を自らのものとして消化し問題意識を持って作成しているかという観点や客観的に事実を把握したうえで他者へ向けて発信しているかという観点から評価する。ネット上の情報を写したものは点数化しない。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レスポンスシート	○		○	
レポート	○	○	○	○
振り返りシート		○	○	○
課題	○	○		○

評価割合	平常点30%(授業内課題含む)、振り返りシート10%、課題・レポート(前半・期末の2回)60%
------	---

使用教科書名(ISBN番号)	井上・鈴木・深沢編『平安文学十五講』翰林書房 定価980円+税
----------------	---------------------------------

参考図書	授業時に示す。
------	---------

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会的・文化的背景を持つ人間存在について、文学を通して深く理解することができる。 【思考・判断】文学を通して得られた課題について、自身の思考を深めることができる。 【関心・意欲・態度】多様な他者理解の方法と自分の感性や思考の錬磨に関心をもつ。 【技能・表現】読書行為によって得られた知見や感得した思考を、他者に向けて自分の言葉で表現できる。
---------------	--

オフィスアワー	金曜日3限、千代田三番町キャンパス1807室	
学生へのメッセージ	本を読むことは、人生を深く豊かにするアクティブなものと捉えられてきました。みなさんにも読書の楽しさを味わっていただきたいと願っています。古文が苦手な方も歓迎します。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	受講者の学修にグループ討議場面を導入し、意欲的な参加を促す。
情報リテラシー教育	○	図書館の利活用法について習熟するとともに、レポート作成時の著作権使用に関する注意を喚起
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	日本の言語と文化		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 内田 宗一	指定なし

ナンバリング	X13010M21
授業概要(教育目的)	言語には、それを使って生活する人々の文化や思考の枠組みが反映していると捉えられる面がある一方で、反対に、使用する言語が人の認識やものの見方に影響を与えるという側面も認められる。この授業では、そのように密接に結びついている言語と文化との関係の問題について、日本語を対象として考察を行っていく。日本語の構造やしぐみ、歴史、表現などについて分析を行い、そこから見出される日本の文化の特質を読み解くことを通じて、日本語や日本文化に対する理解および興味・関心を深めさせることをめざす。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	日本の言語文化に関する基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	授業内活動(ワークシート作業とその報告・分析、資料講読、質疑応答など)に積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	日本語の音声・音韻 1 発音のしぐみ	音声を発するしぐみについて理解する。	大学入学以前の経験も含め、これまでの日本語に関する学習を振り返り、必要に応じて復習および知識の再確認をしておくこと。	180
第2回	日本語の音声・音韻 2 母音と子音	母音と子音の特徴の違いや、それらの分類基準について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までとそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自	180

			主的に学習し、知識を定着させておくこと。	
第3回	日本語の音声・音韻 3 音素と異音	音韻論の基本、ならびに、音韻論上の最小単位である音素の概念について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第4回	日本語の音声・音韻 4 音素設定の原則	音素を設定するための作業原則について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第5回	日本語の文字・表記 文字の分類、日本語表記の特色	言語学における文字の分類の枠組みについて理解する。日本語の文字・表記の特色について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第6回	日本語の語彙1 語彙とは何か	語彙という概念ならびに日本語の語種について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第7回	日本語の語彙2 語種から見た日本語語彙の特色	日本語の語彙を、語種という観点から分析した場合の種々の特色について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第8回	日本語の文法1 文法とは何か	文法概念ならびに文法論の分野について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第9回	日本語の文法2 日本語のテンス	時間を表す文法カテゴリーのひとつであるテンスについて、その概念ならびに日本語におけるテンスの枠組みを理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解	180

			の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	
第10回	日本語と文化1 ことばと文化の関係性	語構成論の基本を理解する。言語と文化の関わりについて理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第11回	日本語と文化2 サピア・ウォーフの仮説	サピア・ウォーフの仮説について理解する。日本語の語彙と文化との関係について、ワークシートを用いた作業を通じて学ぶ。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第12回	日本語と文化3 日本の文化と方言	方言、標準語、共通語の各概念について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第13回	日本語と文化4 方言 周圏論	柳田国男の提唱した方言周圏論について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第14回	日本語と文化5 方言 分布のさまざま	方言分布の種々のパターンと、それらの分布パターンから読み解ける事象について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第15回	まとめ・期末試験	日本語および言語と文化のつながりについて、理解を深める。	授業のノートや配付されたプリント資料を繰り返し読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	毎回の授業において質問・意見・感想等を出席票に記入してもらい、次回授業の冒頭でそれらに対するフィードバックのコメントを行う。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験は100点満点で出題する。記述式問題を中心に選択肢式・穴埋め式等を適宜併用する。授業で扱った内容を十分に理解し、知識として定着しているかを確認することを目的とする。ノート、プリント、参考書等の持ち込みは不可とする。 ・平常点は、授業内活動（ワークシート作業、資料講読、質疑応答など）への取り組み等によって評価する。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	定期試験	○			
	平常点			○	
評価割合	定期試験70%、平常点30%				
使用教科書名 (ISBN番号)	なし。必要に応じてプリント資料を配付する。				
参考図書	なし。必要に応じて授業時に随時紹介する。				
ディプロマポリシーとの関連	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・理解】日本の言語文化に関する豊かな知識を有している。 【関心・意欲・態度】高い徳性をもって主体的に学ぶ姿勢を身につけている。 				
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> 【千代田三番町キャンパス】 火曜3限 1703ゼミ室 【町田キャンパス】 相談がある場合は事前にメールでアポイントを取ること（町田キャンパスへの出校日は水曜日） 0405研究室 				
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・出欠は、出席票を利用して毎回確認する。なお、30分以上の遅刻は欠席扱いとするので、注意すること。 ・受講に際しては、他の受講生の迷惑となる行為（私語、スマートフォンの使用など）は慎むこと。受講態度に問題がある場合は退席を求めることもある。 ・その他、授業の運営に関する詳細は、初回授業時にガイダンスプリントを配布して説明する。 				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング	○	一部の授業回において、ワークシートを用いた作業と、その作業結果にもとづく報告・分析を行う。			
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	文章表現法		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 内田 宗一	指定なし

ナンバリング	X13020M21
授業概要(教育目的)	ことばを用いて自分の考えや感情を表現し、相手に伝えるという技術は、人間が社会の中で他者と関わりながら生活していく中で欠くことのできない必須のものである。この授業では、文章表現に関する理論的な面からの考察と、実際に文章を書く課題への取り組みとをあわせ行うことを通じて、日本語による表現力を向上させることをめざす。表現活動のさまざまな具体的な場に応じた、効果的な文章表現のありようを理解するとともに、その知識を自らの文章表現の上に応用し、実践できる力を養う。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	自分の考えや感情をことばで相手に正確に分かりやすく伝える技術について理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	場面に応じた適切な日本語表現の使い分けを判断することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	授業内課題やペアワーク、グループワークなどに積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	表現活動のさまざまな具体的な場に応じた、効果的な文章表現を実践することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業運営に関するガイダンス、文章表現技術の必要性	相手や場面を意識して、必要な情報をわかりやすく伝えることの重要性を理解する。	「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。	180
第2回	上手な意見交換の方法を学ぶ	感情的な対立を引き起こさずに、上手に意見交換を行う技術・ポイントについて理解する。	教科書第5章「上手な意見交換の方法を学ぶ」(pp.17-19)を読んでおくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180

第3回	文章を読解する（アカデミックリーディング）	文章の読み方の種類とその特徴について理解する。精読の方法について理解する。	教科書第6章「文章を読解する」（pp. 20-22）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第4回	文章を要約する（パラグラフの分析）	文章を要約する方法・手順を理解する。	教科書第7章「文章を要約する」（pp. 23-25）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第5回	データをまとめて解釈する	データの収集や解釈にあたって、注意すべき点を理解する。	教科書第8章「データをまとめて解釈する」（pp. 26-28）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第6回	プレゼンテーションを行う ¹ 発表資料の作成	プレゼンテーションの準備に必要な情報収集の大切さを理解する。レジュメの作成方法や、プレゼンテーションの構成の基本について理解する。	教科書第13章「プレゼンテーションを行う」（pp. 41-43）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第7回	プレゼンテーションを行う ² 発表の実践	プレゼンテーションの実践と、その後のグループ内での討議を通じて、自身のプレゼンテーションの優れている点ならびに改善すべきポイントについて理解する。	教科書第13章「プレゼンテーションを行う」（pp. 41-43）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第8回	ディベートの技法を学ぶ	ディベートに関する基本的事項ならびに論理的に議論する技術について理解する。	教科書第15章「ディベートの技法を学ぶ」（pp. 47-49）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第9回	口頭表現の基礎を押さえる	相手にとって聞き取りやすく、好印象を与える話し方がどのようなものであるかを理解する。	教科書第17章「口頭表現の基礎を押さえる」（pp. 53-55）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第10回	エントリーシートを作成する ¹ エントリーシートの基本	エントリーシートの書き方の基本について理解する。	教科書第27章「エントリーシートを作成する」（pp. 83-85）を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点が	180

			あった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	
第11回	エントリーシートを作成する2 自己分析の基本	エントリーシートにおいて要点をわかりやすくまとめる技術について理解する。	教科書第27章「エントリーシートを作成する」(pp. 83-85)を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第12回	面接のコツを学ぶ	面接の目的を踏まえた上で、具体的なエピソードを交えながら話すことの大切さを理解する。	教科書第28章「面接のコツを学ぶ」(pp. 86-88)を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第13回	手紙を書く1 書式の基本	手紙の書式の基本的な枠組みについて理解する。	教科書第24章「手紙を書く1」(pp. 74-76)を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第14回	手紙を書く2 依頼の手紙の基本	目上の面識のない相手に対する依頼という、重みのある内容の手紙を書く作業を通じて、依頼の趣旨・熱意を伝えるための技術を理解する。	教科書第25章「手紙を書く2」(pp. 77-79)を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第15回	手紙を書く3 手紙文作成の実践	目上の面識のない相手に対する依頼という、重みのある内容の手紙を書く作業を通じて、書式・内容・表現のいずれにおいても礼儀にかなった手紙の書き方を理解する。	教科書第25章「手紙を書く2」(pp. 77-79)を読んでおくこと。返却された課題の添削内容を点検し、復習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業において質問・意見・感想等を出席票に記入してもらい、次回授業の冒頭でそれらに対するフィードバックのコメントを行う。 ・毎回の授業内で行う課題については、添削を施した上で次回授業の冒頭で返却し、解説を行う。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内課題は、以下のような観点から評価を行う。 <ol style="list-style-type: none"> ①課題の意図を適切に理解できている。 ②解答の内容に、十分な妥当性が認められる。 ③自分の意見や感情をわかりやすく正確に表現することができている。 ④設定された場面に応じた適切な日本語表現の使い分けができている。 ・平常点は、授業内に行う練習問題等への取り組み、ペアワーク、グループワーク作業への参加状況等によって評価する。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業内課題	○	○		○
平常点			○	

評価割合	授業内課題（トレーニングシート）70%、平常点30%			
使用教科書名（ISBN番号）	福嶋健伸・橋本修・安部朋世編著（2009）『大学生のための日本語表現トレーニング 実践編』三省堂 978-4-385-36326-4			
参考図書	なし。必要に応じて授業時に随時紹介する。			
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】日本語の文章表現に関する豊かな知識を有している。</p> <p>【思考・判断】場面に応じた日本語表現を的確に判断することができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】高い徳性をもって主体的に学ぶ姿勢を身につけている。</p> <p>【技術・表現】学修で得た技術をもって、自分の考えや感情をわかりやすく表現し、他者に伝えることができる。</p>			
オフィスアワー	<p>【千代田三番町キャンパス】 金曜3限 1703ゼミ室</p> <p>【町田キャンパス】 相談がある場合は事前にメールでアポイントを取ること（町田キャンパスへの出校日は水曜日） 0405研究室</p>			
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・受講生自身が作業を行って実践的に学ぶ形式を取るため、教育効果を考慮して1クラスの受講定員を40名とする。受講者の抽選を行う可能性があるため初回授業には必ず出席すること。 ・出欠は、出席票を利用して毎回確認する。なお、30分以上の遅刻は欠席扱いとするので、注意すること。 ・受講に際しては、他の受講生の迷惑となる行為（私語、スマートフォンの使用など）は慎むこと。受講態度に問題がある場合は退席を求めることもある。 ・毎回の授業で作業の課題を課すので、その点を了解した上で受講すること。 ・その他、授業の運営に関する詳細は、初回授業時にガイダンスプリントを配布して説明する。 			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング	○	ペアワーク、グループワーク、スピーチ発表等の教育内容を含む。		
情報リテラシー教育	○	文章表現技法、プレゼンテーション技法等の教育内容を含む。		
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	外国の言語と文化		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 西川 純子	指定なし

ナンバリング	X13030M21
授業概要(教育目的)	<p>「外国の文化と言語」という講義名を持つ本講座では、一つの地域を選び、その文化と言語について学びます。「外国語科目」の講座ではないので、主として文化について講義します。本年度はフランスを中心としたヨーロッパの文化を学びます。</p> <p>本講座では、他国を知ることによって自国を俯瞰的に見る視点を身につけることを目指します。受講生各自がフランスを中心としたヨーロッパの国々について幅広い知識と、学習したことについてレポートで発表する表現力を習得することを目的とします。</p>
履修条件	<p>ヨーロッパについてフランスを中心に学びますが、フランス語を学習している必要はありません。様々な知識を吸収して視野を広げたいという意欲を受講生には求めます。</p> <p>本講座では多くの参考文献を挙げています。全てを読む必要はありませんが、できるだけ多くの参考文献にあたることを推奨します。</p>

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	テレビや新聞の国際関係のニュースの理解が深まるように、ヨーロッパやフランスに関する幅広い知識を獲得する。
思考・判断の観点 (K)	与えられたテーマについて自らの考察を加えてレポートを作成できるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分の意見を述べ、他の受講者の意見も真摯に聞くことができるようになる。
技術・表現の観点 (A)	レポートを形式にのっとって作成できるようになる。

学習計画

多民族・多文化国家フランスの容貌

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	授業の説明。現在のフランスを中心としたヨーロッパの状況(移民問題、デモ、テロなど)の状況を解説して、	授業の最後に20分ほどの時間をつかって、簡単なレポートを書	60分

		問題提起を行う。	いてもらう。内容は、1. 授業の前にフランスおよびヨーロッパのどこに興味があるか。2. 授業で取り上げたテーマについての感想。1)について、事前に考えてきてほしい。参考図書で興味があるものを読んでくことと、テレビ、ネットなどでヨーロッパやフランスのニュースに特に気を付けて欲しい。	
第2回	ヨーロッパの中のフランス 1: フランス王国の成立	現在のフランス共和国の原型であるフランス王国の成立過程を学習することで、ヨーロッパにおける国民国家形成の過程を理解する。	参考文献を読んでくこと	120分
第3回	ヨーロッパの中のフランス 2: 外国から嫁いできた王妃たち 1	フランス王国では、多くの王妃が外国出身であった。彼女たちが果たした政治的および文化的役割について学習して、ヨーロッパ文化圏の形成過程を理解する。今回はメディチ家出身の王妃を中心に学習する。	参考文献に挙げたメディチ家に関する本を読んでくこと	120分
第4回	ヨーロッパの中のフランス 3: 外国から嫁いできた王妃たち 2	ヨーロッパの地勢図と王朝の関係とヨーロッパの王朝の特色について説明する。今回はハプスブルク家出身の王妃たちを中心に学習する。	参考文献に挙げたハプスブルク家からマリー・アントワネットに関する本を読んでくこと	120分
第5回	ヨーロッパの中のフランス 4: フランス革命の伝播	フランス革命が周辺ヨーロッパ各国に及ぼした影響を学習する。授業中に第一回小テストを行う。	高等学校の世界史の教科書の「フランス革命」の部分を読み返しておくこと。小テストの勉強をしてくこと。	120分
第6回	ヨーロッパの中のフランス 5: 第一次世界大戦	ヨーロッパにおける第一次世界大戦について学習する。	高等学校の世界史の教科書の「第一次世界大戦」の項目を読み返しておくこと。	120分
第7回	ヨーロッパの中のフランス革命 6: 第二次世界大戦	ヨーロッパにおける第二次世界大戦について学習する。私たちが知っている太平洋戦争としての第二次世界大戦とは異なる戦争の様子を理解する。	高等学校の世界史の教科書の「第二次世界大戦」の項目を読み返しておくこと	120分
第8回	ヨーロッパの中のフランス 7: ヨーロッパ連合	ヨーロッパ連合の成立、歴史、そして現状について学習する。	参考文献を読んでくこと	120分
第9回	多民族国家 フランス 1: 海外領土	海外領土という、私たちにあって耳慣れないフランスのヨーロッパ以外に位置する領土について学習する。授業中に第二回小テストを行う。	参考文献を読んでくこと。小テストの勉強をしてくこと。	120分
第10回	多民族国家 フランス 2: ユダヤ人 1	ヨーロッパ諸国で自国民でありながら区別または差別されてきたユダヤ人と呼ばれる人々について学習する。まず、どのような人々がユダヤ人とみなされてきたかを学習する。	参考文献を読んでくこと。また、ヨーロッパにおけるユダヤ人の状況を知るために、例えば『アンネの日記』などを読んでくこと（映画でも構わないですが、第二次世界大戦中のユダヤ人に関する映画はショッキングな内容を含むものが少なからずあるので心の準備をして見てください）	120分
第11回	多民族国家 フランス 3: ユダヤ人 2	ヨーロッパにおけるユダヤ人の歴史と現状を解説する。	参考文献を読んでくこと。また、ヨーロッパにおけるユダヤ人の状況を知るために、例えば『アンネの日記』などを読んでくこと（映画でも構わないですが、第二次世界大戦中のユダヤ人に関する映画はショッキングな内容を含むものが少なからずあるので心の準備をして見てください）	120分
第12回	多民族国家 フランス	フランスにおけるユダヤ人の歴史と現状	参考文献を読んでくこと。また、ヨーロッパにおけるユダヤ	120分

	ス 4: ユダヤ人 3		人の状況を知るために、例えば『アンネの日記』などを読んでくこと（映画でも構わないですが、第二次世界大戦中のユダヤ人に関する映画はショッキングな内容を含むものが少なからずあるので心の準備をして見てください）	
第13回	多民族国家 フランス 5: 移民	移民とは何か。その定義と内実を学習する。	参考文献を読んでくこと	120分
第14回	多民族国家 フランス 6: 多様性と軋轢 1	フランスに移民がもたらした正と負の側面について学習する。授業中に第三回小テストを行う。	参考文献を読んでくこと。小テストの勉強をしてくこと。	180分
第15回	多民族国家 フランス 6: 多様性と軋轢 2	フランスに移民がもたらした正と負の側面について学習する。	参考文献を読んでくこと	120分。

学習計画注記 受講者数や授業の進み具合によって変更になることがあります。その際は受講者には改めて学習計画表を配布します。

学生へのフィードバック方法 小テストは実施した週の翌週には返却して、解説を行います。授業の際に書いてもらうリアクションペーパーの提出やディスカッションを通じて、受講者の興味・関心を把握し、次回以降の授業内容に随時反映させていく予定です。

評価方法

- ・小テストは直前の3~4回の授業に係る学習範囲から出題し、授業内に計3回実施します。1回あたりの問題数は10問です。なお、学外実習等の合理的な理由がない限り、小テストの再試験は行わないので注意すること。
- ・小テストは、知識を確実に身につけてもらうために実施します。問題作成にあたって、就職採用試験の一般教養問題を参考にします。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○		○	
レポート	○	○	○	○

評価割合 平常点20%（授業への積極的な参加や貢献度、リアクションペーパーへの真摯な回答）、小テスト（30%）、レポートまたはプレゼンテーション（発表）50%によって評価します。

使用教科書名 (ISBN番号) 教科書は特に指定しません。適宜プリントを配布します。必要に応じて、参考文献も紹介します。

参考図書

ジャック・レヴィ（編）『地図で見るフランスハンドブック 現代編』土居佳代子訳、原書房
 佐藤賢一『カペー朝』、講談社現代新書
 佐藤賢一『英仏百年戦争』、集英社新書
 江村洋『ハプスブルク家』、講談社現代新書
 森田義之『メディチ家』、講談社現代新書
 中野京子『ヴァレンヌ逃亡 マリー・アントワネット運命の24時間』、朝日新聞出版社
 シュテファン・ツヴァイク『マリー・アントワネット』中野京子訳、角川文庫
 ジャン・オリユー『カトリヌ・ド・メディシスールネサンスと宗教戦争』（田中梓訳）（上）（下）、河出書房新社
 安藤正勝『物語 フランス革命』、中公新書
 佐藤賢一『フランス革命の肖像』、集英社新書
 益田実、山本健編著『欧州統合史：二つの世界大戦からブレグジットまで』、ミネルヴァ書房
 アンネ・フランク『アンネの日記』、文春文庫
 増田ユリヤ『揺れる移民大国』、ポプラ新書

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】外国文化を学ぶことを通じて、人間社会の多様性を豊かな知識をもって理解することができる。
 【思考・判断】幅広い視野を形成することで、正確な情報を自ら主体的に集めて適切な判断をすることができる。

オフィスアワー 授業の前、30分を質問等を受け付ける時間にあてます。非常勤講師室にいます。

学生へのメッセージ 本講義で扱うのは、主にフランスについての事柄ですが、フランス語を学習している必要はありません。幅広いテーマを対象に知見を高めてもらうことが目的の本講義は、KVA精神のとくに「知識をたかめる」と「徳性（人間性）を養う」に関連しています。講義の中から各自が関心を持ったものを、自分なりに深めるよう努めてください。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	異文化コミュニケーション		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 畝部 典子	指定なし

ナンバリング	X13040M21
授業概要(教育目的)	「文化」「コミュニケーションの種類」「異文化トレーニングの方法」などについて学び、「文化の違いを調整するテクニック」を身につけることを目指す。異文化接触における具体的な場面を想定して、どのような行動をとることがベストであるか考える。授業ではワークシートに基づき自分の考えを時間内にまとめ、発表することが求められる。
履修条件	なし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	人間社会の多様性を異文化を通じて理解し、自文化絶対主義に陥らずに他者を尊重できる。
思考・判断の観点 (K)	異文化の人々の考え方や発想を理解し、異文化の相手に対して配慮できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的に異文化について理解しようとし、異文化の人々に対して公平な見方ができる。
技術・表現の観点 (A)	異文化間のトラブルに遭遇してもそれを適切に調整でき、異文化の人々に対しても自分の考えを述べるができる。

学習計画

異文化コミュニケーション

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	文化とは何か	文化とは何か考える。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	120分
第2回	コミュニケーション／異文化コミュニケーションの定義	コミュニケーションとは何か、異文化コミュニケーションとは何か、定義を試みる。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	120分
第3回	コミュニケーションのメカニズムと特性	言語コミュニケーションはどのようなメカニズムで成立するか、また、どのような特性があるか考える。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	120分
第4回	コミュニケ	言語コミュニケーションによる言葉の意味はどのように	ノートを整理し、授業で学んだ	120分

	ーションの内容面と関係面	解釈されるか考える。	内容を復習しておく。	
第5回	言語コミュニケーションのスタイル	言語コミュニケーションにはどのような方法やスタイルがあるか理解する。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	120分
第6回	言語コミュニケーションの文化による違い	文化が異なると理解されにくい言語コミュニケーションにはどのようなものがあるか理解する。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	120分
第7回	中間試験	この授業の前半で学んだ内容について中間試験を行う。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	120分
第8回	文化ギャップ：映像演習	映像を通じて文化ギャップについて考える。前半で学んだ内容を復習する。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	120分
第9回	非言語コミュニケーション (1)	非言語コミュニケーションの種類とその内容について学習する。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	120分
第10回	非言語コミュニケーション (2)	非言語コミュニケーションの種類とその内容について学習する。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	120分
第11回	エンパシーとシンパシー、コンフリクト・マネジメント	異文化間においてどのような考え方に基づいて行動することが適切か学習する。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	120分
第12回	異文化トレーニング：D. I. E. メソッド	D. I. E. メソッドとはどのようなメソッドか学習する。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	120分
第13回	異文化トレーニング：アサーティブ・コミュニケーション	アサーティブ・コミュニケーションとはどのようなことが学習する。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	120分
第14回	異文化学習サイクル、異文化適応とカルチャーショック	異文化において新しく出会うさまざまな出来事を私たちはどのように学習し、どのように異文化適応すべきか考える。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	120分
第15回	復習と期末試験	この授業の後半で学んだ内容について復習し、期末試験を行う。	ノートを整理し、授業で学んだ内容を復習しておく。	120分

学習計画注記 履修者数、授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法 中間試験は採点基準を明らかにして学生に返却する。期末試験は次学期に希望者に返却する。

評価方法 中間試験40%、期末試験40%、平常点20%（授業中の実績、授業参加態度）により判定する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間試験	○	○		○
期末試験	○	○		○
平常点	○	○	○	○

評価割合 中間試験40%、期末試験40%、平常点20%で評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) なし（プリント配付）

参考図書 授業中に指示する。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】 【思考・判断】 人間社会の多様性を異文化を通じて理解し、状況を的確に判断して提案できる。

	【関心・意欲・態度】積極的に異文化の人々とコミュニケーションを図り、社会の構成員として徳性を持って人々のために働くことができる。 【技能・表現】学修で得た異文化に関するさまざまな知識を踏まえて自分の考えを自信を持って表現し、他者との共感を創り出すことができる。															
オフィスアワー	木曜2時限 1630研究室															
学生へのメッセージ	授業には積極的に参加し、他人の意見に耳を傾けるとともに自分の意見を自信を持って述べて下さい。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>授業は学生が自分で考え、それを表現し、能動的に授業に参加することで進められる。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング	○	授業は学生が自分で考え、それを表現し、能動的に授業に参加することで進められる。	情報リテラシー教育			ICT活用		
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業																
アクティブ・ラーニング	○	授業は学生が自分で考え、それを表現し、能動的に授業に参加することで進められる。														
情報リテラシー教育																
ICT活用																

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	音楽		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 吉永 早苗	指定なし

ナンバリング	X13070M21
授業概要(教育目的)	<p>音楽鑑賞の基本である「よく聴くこと」のために、サウンド・エデュケーションを行います。その一環として、サウンドウォークの実践や音日記を紹介し、その実践に取り組んでいただきます。講義では、人と音楽の関係、西洋音楽の歴史、民族と音楽、ジャズとクラシック、日本の音楽など、多様な音楽を視聴と解説を行います。音楽鑑賞に集中できるよう、クイズを導入した講義も行います。</p> <p>なお、講義時に次回のテーマをお話しますので、関連文献や音楽作品の視聴を積極的に行ってください。</p>

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	音楽の歴史と音楽様式の変遷をたどりながら、さまざまな表現力を持つ音楽を鑑賞し、人を癒し励ましてきた音楽の魅力を探る。
思考・判断の観点 (K)	さまざまな表現力を持つ音楽を鑑賞し、その発信するものを感じ、言い表そうとするものを探求する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	音楽を愛する心情を養う。 異なった時代や社会における音楽を通して、人間理解や共感を深める。
技術・表現の観点 (A)	サウンド・エデュケーションの体験を通して、「音」・「音楽」への聴き方をとらえ直す。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション：聴くことの再考①	サウンドエデュケーション：よく聞くことへの教育	サウンドスケープ、サウンドエデュケーションについて調べておく。	150分
第2回	聴くことの再考②	サウンドウォーク、音日記の演習	1週間の音日記を作成する。	240分
第3回	聴くことの再考③	五感で感受する音・音楽：『タッチ・ザ・サウンド』の視聴	感想レポート「五感で音楽を感受するということについて」	150分
第4回	人間と音楽①	音楽の起源・音楽の機能について	関連する音楽を聴いたり文献を読んだりして、感想レポートにまとめる。	150分
第5回	人間と音楽②	音楽を聴取し、音の表情や音楽に込められた情景・感情を感受する。	関連する音楽を聴いたり文献を読んだりして、感想レポートに	150分

			まとめる。	
第6回	西洋音楽の鑑賞①	ルネサンスからバロックの音楽	関連する音楽を聴いたり文献を読んだりして、感想レポートにまとめる。	150分
第7回	西洋音楽の鑑賞②	古典派の音楽	関連する音楽を聴いたり文献を読んだりして、感想レポートにまとめる。	150分
第8回	西洋音楽の鑑賞③	ロマン派の音楽	関連する音楽を聴いたり文献を読んだりして、感想レポートにまとめる。	150分
第9回	西洋音楽の鑑賞④	印象派の音楽から現代音楽	関連する音楽を聴いたり文献を読んだりして、感想レポートにまとめる。	150分
第10回	音楽と人間と社会	『魂の教育 エル・システム』の鑑賞とディスカッション	音楽が人の心に及ぼす影響、音楽の教育力について考えておく。	240分
第11回	民族と音楽①	民族の音階と音楽（実演を聴く）	関連する音楽を聴いたり文献を読んだりして、感想レポートにまとめる。	150分
第12回	民族と音楽②	民族音楽の楽器や歌唱について発表する。	グループごとに担当地域を決めて、民族楽器や歌唱の特徴を調べておく。	240分
第13回	ジャズとクラシック	ジャズとクラシックについての聴き比べ。	関連する音楽を聴いたり文献を読んだりして、感想レポートにまとめる。	150分
第14回	日本の音楽	日本の伝統音楽	グループごとに担当地域を決めて、民謡やお祭りの音楽について調べておく。	240分
第15回	日本の音楽②	近代から現代の音楽。童謡・唱歌等の歌唱を含む。	歌唱曲の譜読みをしておく。	240分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールを変更する場合があります。

学生へのフィードバック方法 リフレクションシートには、講義テーマに関する予習内容、講義の中での気づき、講義内容についてさらに調べたこと（復習）を記載し、翌週の講義で提出していただきます。提出されたリフレクションシートやレポートは、採点して返却します。質問等がある場合は、その中に付記していただくと、講義の中でお答えします。

評価方法 課題評価の観点には次の通りです。
 ・音や音楽を体の諸感覚で感受し、分析的に聴こうとしているか。
 ・様々な表現力を持つ音楽が発信するものを感受し、言い表そうとする内容を探求しようとしているか。
 ・それぞれの時代の音楽の社会・文化との繋がりに関する理解。
 ・他者の感受した内容に共感することを通し、自身の音楽鑑賞を深めているか。
 ・音楽の時代様式や演奏形態、作曲家や演奏家、あるいは民族による音楽の違いに関する理解。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
音日記		○	○	○
リフレクションシート	○	○	○	
グループ討議・発表とそのまとめ	○	○	○	○

評価割合 音日記 (20%)、リフレクションシート：講義内容の感想および予習・復習を含む (60%)、期末レポート (20%) で評価します。

使用教科書名 (ISBN番号) なし (プリント配布)

参考図書 片桐 功他著「はじめての音楽史」(音楽之友社)
 岡田 暁生著「音楽の聴き方」(中公新書)
 伊福部 昭著「音楽入門」(角川ソフィア文庫)
 青島 広志著「これだけ！西洋音楽史」(KING RECORDS) CD

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】【思考・判断】
 音楽の時代様式や演奏形態、作曲家や演奏家、あるいは民族による音楽の違いに関する知識を広げ、文化的に豊かな社会に向けての提案をすることができる。
 【関心・意欲・態度】
 様々な表現力を持つ音楽が発信するものを体の諸感覚で感受し、豊かな感性を育む。

	【技術・表現】 音楽を分析に聴いたり、他者の感じたことに共感して自己の鑑賞を深めたりすることを通し、論理性や共感性を育む。															
オフィスアワー	前期・後期： 月曜日 3限 1601															
学生へのメッセージ	ぜひ様々な音楽に興味を持ち、積極的な態度で授業に臨んでください。質問等は随時受け付けています。イヤフォンを外し、身のまわりの音・人の声に耳を澄ませてみよう。。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>プロの演奏家の特別講義を実施し、生演奏に触れる。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>ペアトークやグループ・ディスカッションを適宜導入する。単に受動的に音楽を聞くのではなく、課題意識を持ち、感じたことの裏付けとなる音楽的特徴を考えるなどして、能動的な音楽鑑賞を行う。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td>○</td> <td>レポート作成や発表のプレゼンテーションに際し、情報モラルに関する教育、情報を得るための方法、情報のアウトプットに関する内容を取り扱う。</td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	プロの演奏家の特別講義を実施し、生演奏に触れる。	アクティブ・ラーニング	○	ペアトークやグループ・ディスカッションを適宜導入する。単に受動的に音楽を聞くのではなく、課題意識を持ち、感じたことの裏付けとなる音楽的特徴を考えるなどして、能動的な音楽鑑賞を行う。	情報リテラシー教育	○	レポート作成や発表のプレゼンテーションに際し、情報モラルに関する教育、情報を得るための方法、情報のアウトプットに関する内容を取り扱う。	ICT活用		
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業	○	プロの演奏家の特別講義を実施し、生演奏に触れる。														
アクティブ・ラーニング	○	ペアトークやグループ・ディスカッションを適宜導入する。単に受動的に音楽を聞くのではなく、課題意識を持ち、感じたことの裏付けとなる音楽的特徴を考えるなどして、能動的な音楽鑑賞を行う。														
情報リテラシー教育	○	レポート作成や発表のプレゼンテーションに際し、情報モラルに関する教育、情報を得るための方法、情報のアウトプットに関する内容を取り扱う。														
ICT活用																

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	美学・美術史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 久々湊 直子	指定なし

ナンバリング	X13080M21
授業概要(教育目的)	当授業は先史・古代からの美術の流れを概説する講義です。現在われわれが「美術館の中に安置された《美しいもの》」と考えがちな美術作品たちが、いかに多様な機能を持っていたか（そして今も持っているか）を知ってもらい、美術作品が生々しく、多弁で、多面的であるかということをとらえ分ち合うことを目的にしています。形式は講義ですが、参加者には授業中の発問応答や毎回取り組んでもらうワークシートを中心に積極的に授業に参加していただきます。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	多くの作例に触れて視覚的知識を蓄えてもらい、その中で、西洋美術の大きな流れや時代ごとの様式の違いを識別できる様になること、シンボル・象徴・アトリビュートといった視覚文化特有の「決まりごと」を知ること、頻りに視覚化されてきたキリスト教主題、ギリシア・ローマ主題の内容と典拠についての知識を身につけてもらいます。
思考・判断の観点 (K)	制作背景・時代背景、社会との結びつきなど、作品周辺の事情とともに作品を観察し、分析・考察し、それを言葉で表現する訓練もワークシートを通じて授業内で繰り返し行ってもらいます。
関心・意欲・態度の観点 (V)	授業内の発問応答やワークシートを通して、単なる受動的な講義授業でなく、手と目と頭を動かして美術について豊かに接し学んで意欲を示していただきます。授業外でも展覧会見学の課題が課せられ、フィールドワークにも取り組んでいただきます。
技術・表現の観点 (A)	ワークシートによる表現の訓練はもちろん、特にフィールドワークの課題となる「展覧会見学カード」では、紙面での画像選択プレゼンテーションや表現工夫の独創的なアイデア創作に取り組んでいただきます。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	第1回 ガイダンス(履修と講義内容の説明/参考文献の紹介)	毎回発問対応とワークシートに取り組んでいただきます。時にはペアワーク、グループワークなどの取り組みもあります。	毎回配布される翌週の予習レジュメを基にテーマ、キーワードの検索作業を行っていただきます。また、返却されるワークシートは復習用のツールとして活用していただきます。またフィールドワークとして展覧会見学と「展覧会見学カード」のワークに取り組んでいただきます。 (予習復習毎週1時間計15時間)「展覧会見学カード」は事前課題・現地課題・事後課題が	計30時間

			用意され、それぞれ観察・検証・考察・紙面プレゼンテーションの力を発揮していただくワークとなっています。(フィールドワークに伴う学習計15時間)	
第2回	第2回 先史とエジプトの造形 ～人が形を象ること～	以下同様	以下同様	以下同様
第3回	第3回 古代ギリシア・ローマの発想 ～外界を写すこと、理想の形を求めること～	以下同様	以下同様	以下同様
第4回	第4回 キリスト教美術の始まり～形態の抽象化とシンボルの世界～	以下同様	以下同様	以下同様
第5回	第5回 ロマネスク・ゴシックの美術 ～教会という権力・メディア～	以下同様	以下同様	以下同様
第6回	第6回 ルネサンス ～古代を学び復興するという発想～	以下同様	以下同様	以下同様
第7回	第7回 初期ルネサンスと北方ルネサンス：古代を復興する夢／細部に神の宿る絵画	以下同様	以下同様	以下同様
第8回	第8回 盛期ルネサンス：ローマと法皇たちの攻防とヴェネツィア	以下同様	以下同様	以下同様
第9回	第9回 バロック・ロココ ～教会・宮廷の権力と芸術の役割～	以下同様	以下同様	以下同様
第10回	第10回 新古典主義とロマン主義 ～権威となった様式、対抗する様式～	以下同様	以下同様	以下同様
第11回	第11回 写実主義から印象派へ～広がる芸術の裾野～	以下同様	以下同様	以下同様
第12回	第12回 印象派と後期印象派～	以下同様	以下同様	以下同様

	展覧会と美術の制作～			
第13回	第13回 世紀末美術と象徴主義～美術と工芸・デザインの融合～	以下同様	以下同様	以下同様
第14回	第14回 フォーヴィスム・キュビスム～20世紀美術～前衛という発想～	以下同様	以下同様	以下同様
第15回	第15回 テクニカルチームのまとめ	以下同様	以下同様	以下同様

学習計画注記	<p>毎回取り組んでもらうワークシートは、授業内容の理解促進と定着を図るものであると同時に、前回授業の復習や次回授業の予習が含まれています。授業内でノート代わりに使用すると同時に、返却後は予復習のツールとして授業外学習に活用し、豊かな学習時間を積極的に自ら作ることに努めてほしいと思います。さらに、毎回の授業では、次回用のレジュメが配布されます。授業の最後に、次回の授業内容のキーワード、時代、作家などを知らせるので、それを書物や検索機能で調べ、予習用に配布したレジュメに目を通して臨み、自ら授業をより充実した学習時間にしてほしいと思います。</p> <p>授業とは別に、展覧会見学(自費)の課題が大切な学習時間の可能性を開いてくれます。「展覧会見学シート」(A3両面)は提出物として評価されるものでもありますが、そこには事前課題、現地課題、事後課題の3種類のタイプの学習が用意されています。そのための調査、考察、プレゼンテーション、創案の努力は、学生本人の熱意しだいで質の高い経験学習の機会となり得ます。特に事前課題は展覧会だけでなく、授業内で身に付けてほしい知識の定着を図るものでもあるので、授業と連動した学習として取り組んでほしいものです。</p>
--------	---

学生へのフィードバック方法	<p>学習計画で示しているように、授業内の発問応答によるフィードバックはもちろんですが、ワークシートや展覧会見学シートは、全てコメントもしくは口頭講評を添えて返却されます。</p> <p>また、毎回授業の初頭15～20分ほどは前回授業の復習になり、強調や誤解修正の機会として講評コメントがされる時間です。返却された自分のワークシートを参照しながらフィードバックを受け取る時間として用意されています。</p>
---------------	---

評価方法	<p>授業態度(ワークシート)、提出物(展覧会見学シート)、試験をもとに総合的に評価します。</p> <p>試験は多少の知識問題と記述問題(課題は事前発表)を含みます。</p> <p>提出物のうち、展覧会見学シートは単位取得必須条件です。</p> <p>(提出後の返却物は評価確定まで必ず保管してください。)</p>
------	--

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
ワークシート(提出物)	○	○	○	○
展覧会見学シート(提出物)	○	○	○	○
試験	○	○	○	○

評価割合	ワークシート(3割)、展覧会見学シート(3割)、試験(4割)を大まかな目安としています。
使用教科書名 (ISBN番号)	教科書は特に指定しません。その代わりに展覧会見学(自費)と「展覧会見学シート」が単位必須条件となります。
参考図書	参考図書類は授業内で適宜紹介します。初回の授業のガイダンスはとくに重要なので、受講希望者は初回授業に参加してください。
ディプロマポリシーとの関連	質問や指摘等は授業時(前後休み時間)に受け付けます。
学生へのメッセージ	視覚文化に対して熱意のある学生諸氏に向けた授業です。知識を持った人よりもやる気や積極性を持った人に向いています。また、いわゆる「美術」だけでなく、マンガ、アニメ、ゲーム、映画、舞台など、現代の視覚文化に興味を持つ人の参加も望んでいます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング	○	発問応答、授業内ワークシート、フィールドワーク、プレゼンテーション(紙面)といったアクティブラーニングの諸要素を含み、能動的な参加を求める講義となっています。
情報リテラシー教育	○	とくに西洋視覚文化独特の読み解きや意味・象徴のリテラシー(発信)の教育に意識的なプログラムとなっています。異文化理解や自文化との差異、比較文化の情報リテラシーを学びたい人にも適しています。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	色彩論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 滝沢 真美	指定なし

ナンバリング	X13090M21
授業概要(教育目的)	色彩学は物理学、光学、工学、生理学、心理学など広範囲な複合領域である。この授業では、幅広い色彩の分野を総合的に知り、基礎知識を習得することを目標にしている。その中で、感覚的に捉えられがちな色彩をマンセル体系に基づいたHUE&TONEシステムを通して、論理的に捉えられるようにする。配色実習を通して、日常生活の中で色彩を使いこなせるよう、配色の基本ルールとカラーイメージ表現の基礎を習得する。グローバル社会の中で文化としての日本の色について学び、高齢者や色弱者に対応するカラーユニバーサルデザインについて学ぶことで、色彩を通して社会を見つめる目を養う。
履修条件	基本的な日本語能力があること（講義内容の日本語が理解できる、日本語の質問に日本語で答えられる、日本語で書かれた試験問題を正しく理解し回答できる）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1. 業界的に広がる色彩の果たす役割を知り、リベラルアーツとしての色彩の基礎知識を身につける。
思考・判断の観点 (K)	1. 好き、嫌いではなく、よい色の使い方、悪い色の使い方を、理論的に説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. グローバルな視点で「日本の色とは何か」を説明できる。 2. 「カラーユニバーサルデザイン」を学ぶことで、万人に伝わる色彩情報の伝え方を理解する。 3. 1と2の2つの観点から、色彩を通して現代社会を考える。
技術・表現の観点 (A)	1. 学問としての座学の色彩学に加え、自分の生活で応用できる実践的な配色テクニックやセンスアップの方法を学び、自己表現できるようになるとともに、配色によって美しい環境をつくる方法を理解する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	色とは何かを知り、色彩の果たす役割を理解する。色彩検定、カラーコーディネーター検定、色彩業界の今について紹介する。15回の授業の全体像を理解する。センスレベルチェックを行う。	センスレベルチェックの結果を基に、改善すべき方向性を確認する。	30分
第2回	色とは何か、照明と色	色を見るための光について理解する。自然光と人工光を含めた照明について理解する。	授業時に配布したプリントを熟読し、2回目のテーマ「色とは何か、照明と色」について復習する。	90分
第3回	色が見える仕組み、色	目の構造を学び、網膜の中の錐体細胞、桿体細胞の役割を理解する。色弱がなぜ起きるか、その仕組みを理解する。	授業時に配布したプリントを熟読し、3回目のテーマ「色が見	90分

	覚説	る。代表的な色覚説についてを理解する。	える仕組みと色覚説」を復習する。	
第4回	色の混色	加法混色、減法混色の原理、三原色、応用分野を理解する。加法混色的一种である中間混色について理解する。特に、加法混色と減法混色に関しては、色紙を貼付しながらビジュアルで理解を深める。	授業時に配布したプリントを熟読し、4回目のテーマ「色の混色」について復習する。テレビ画面、印刷画面をルーペで拡大し、実際のもので確認しておく。 6回目以降の授業で使うHUE&TONEシステムの一覧表に、色紙を貼付しておく。方法については授業時に説明する。	120分
第5回	色の伝達方法 1色名 2様々なカラーシステムの紹介	色を伝える方法として、まず色名について理解する。そのために、自分の知っている色名を各自が書き出し、授業の中で発表してもらおう。その結果を基に、色名の分類方法について学ぶ。特に慣用色名の中で知っておきたい色名を紹介する。次に、色を伝える方法として代表的なカラーシステムを紹介する。	知らなかった色名について復習する。授業時に配布したプリントを熟読し、色名の分類について理解をする。教科書1章1節表色系の分類 (P9) を読み、カラーシステムの大分類を復習する。代表的なカラーシステムのうち、この授業で触れないカラーシステムについては、参考文献を使って確認をしておく。色彩検定またはカラーコーディネーター検定受験希望者は、復習時間を長めにとること。	90分～120分
第6回	マンセル表色系	マンセル表色系の色の三属性について理解する。特に、色相について、色紙を使いながら理解を深める。	授業前には、教科書1章2節のマンセル表色系 (P10～13) の部分を予習しておく。修了後には、理解できていない部分を中心に復習をする。	120分
第7回	HUE&TONEシステム トーンの仕組み	マンセル表色系を基にしたHUE&TONEシステムについて理解する。特に、教科書1章3節HUE&TONEシステム (P14～23) を使って、明度と彩度を一緒にしたトーン概念を理解する。トーンに関しても色紙を使って、ビジュアルで確認しながら理解する。	4回目の教室外学習で作成したHUE&TONE表を準備しておくこと。 授業前には、教科書1章3節HUE&TONEシステム (P14～23) を読み予習しておく。授業後には、特にトーンの2分割、4分割について理解できているか復習する。	120分
第8回	マンセル表色系とHUE&TONEシステムのまとめ	2つのシステムの表記方法の違いと、メリット、デメリットを理解し、使い分けができるようになる。色相の果たす役割、トーンの果たす役割を理解する。HUE&TONEシステムを使った応用として、色紙を使って嗜好色診断を行い、自分のカラーボックスを確認する。カラーデータの収集方法や分析方法についても、教科書第2章1節インテリア慣用色を事例に説明する。	教科書1章全体を熟読し、マンセル表色系とHUE&TONEシステムについて復習する。嗜好色診断の結果を基に、自分のクローゼットの中の洋服の色や身の回りにある色について観察する。自分の好きな色、嫌いな色について、具体的にカラーシステムの中で理解しておく。	120分
第9回	補色残像、対比、同化、色の心理的効果	色紙を使って補色残像の実験を行い、人間の色の見え方の中で生理的現象について確認する。色は単独では存在せず、置かれる場所や組み合わせによって違って見えることを、対比と同化の2つの観点から、色紙を使って自分の目で確認しながら理解する。色の心理的効果を理解する。	対比、同化に関しては、授業で紹介した事例を自分の生活の中で確認しておく。色の心理的効果に関しては、授業時に配布するプリントを熟読し復習する。また、授業時に紹介した絵画の例は、実際の美術館に向いたり、それが難しい場合は書籍で確認しておくことが望ましい。	120分
第10回	2つの色の関係 配色実習1 まとまりときわだち	配色の基本としての2つの色の関係について、色相での考え方とその効果、トーンでの考え方とその効果を理解する。まとまり (同系色、トーンのコントラスト弱) ときわだち (反対色、トーンのコントラスト強) の配色テクニックを、教科書3章1節 (P41～43) で理解した上で、実際に自分のオリジナルで作成する。	教科書3章1節 (P41～47) を通読し、特にまとまり、きわだちのテクニックの部分がきちんと理解できているかどうか確認する。授業中に配色実習1が修了しない場合は、その続きを行い、次の授業時までには終わらせておくこと。	120分
第11回	配色実習2 トーン配色と色相配色 配色実習3 グラデーションとセパレーション	教科書3章1節 (P44～45) を読み、トーン配色 (同系色で濃淡をつけた配色) と色相配色 (多色相を使ったカラフルな配色) の2つの違いを理解し、実際の色紙を使ってオリジナルで配色する。次に教科書3章1節 (P46～47) を読み、グラデーション (漸変) とセパレーション (分離) の2つの違いを理解し、実際の色紙を使ってオリジナルで配色する。	教科書3章1節 (P41～47) を通読し、トーン配色と色相配色、グラデーションとセパレーションについて理解ができているかどうか、確認する。授業中に配色実習1が修了しない場合は、その続きを行い、次の授業時までには終わらせておくこと。第13回の配色トレーニング実習に向けて、課題に合った配色が	120分

			作成できるかどうか、全体的に確認しておく。	
第12回	配色センスアップの方法、カラーユニバーサルデザイン	教科書3章2節 (P48~58) と配布資料を併用しながら、配色センスアップの具体的な方法を理解する。カラーユニバーサルデザインに関しては、教科書3章2節 (P58~59) とCUDO (カラーユニバーサルデザイン機構) のサイトや書籍を紹介するので、その考え方や対策について理解する。	教科書3章2節 (P48~59) を熟読し、12回の2つのテーマについて復習する。視認性の高い配色について、第3回の網膜の中の細胞の役割から説明できるかどうか、確認する。できない場合は、第3回の教室外学習を再度行うこと。	120分
第13回	配色トレーニングシート作成実習	配色トレーニングシートの課題に沿って、実際の色紙を使って配色を作成する。この課題シートの提出によって、配色実習の評価を行う。	授業中に終わらない場合は、教室外で作成し、期日までに提出すること。	90分~150分
第14回	色彩心理、カラーイメージ、生活の中の色	教科書4章 (P62~87) を使って、主要な色のカラーイメージを確認する。その色が生活の中で具体的にどのように使われているかを確認し、カラーイメージを正しく伝える方法を理解する。教科書2章2節と4節 (P29~32 & P38) を使って、生活の中で重要な7つの基本色について、その役割と使い方についても理解する。	教科書4章 (P62~87) を熟読し、主要なカラーイメージとその応用方法について理解する。授業の中で簡単に紹介するイメージスケールについても、教科書5章1節 (P117~121) を通読しておくこと。	120分
第15回	色と文化、日本の色全体のまとめ	日本の色だと思える単色を選びとその理由を自ら考える。その上で、前回までの受講生が考えた日本の色のデータと比較し、自分の考えとの違いを確認し、日本の色の特徴を説明できるようにする。配布資料を使って、日本の色彩文化として知っておきたいキーワードの五行思想、冠位十二階、襲色目、四十八茶百鼠について理解する。最後に15回の授業内容の全体を振り返る。	日本の色の特徴や、色名を伝えられるようにしておく。期末試験に向けて、第10回~第13回を除く全全ての総復習を行う。	180分

学生へのフィードバック方法	<p>配色実習1、2、3の課題は、授業中にできた状態で順次確認し、間違いがあれば指摘して修正をしてもらう。この時点で理解できていないと、第13回の配色トレーニングシートが作成できないので、注意すること。配色トレーニングシートは全員返却するが、課題に対して不適当な箇所のみ添削する。</p> <p>検定対策の授業ではないが、授業の中で検定で出題される部分に関しては、その旨アナウンスする。また、その箇所に関して質問がある場合は、質問を受け付け、授業にて解説する。</p>
---------------	--

評価方法	<p>定期試験、配色トレーニングシート、平常点 (出席状況や授業態度を総合的に判断する) の3つにより総合的に判断する。15回のうち、3分の2以上の出席のないものと、配色トレーニングシート未提出者は、定期試験の受験資格はないため不合格となる。</p> <p>定期試験はキーワードの穴埋め形式で、60点以上で合格とする。</p>
------	---

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○	○	
配色トレーニングシート	○	○		○
平常点				

評価割合	<p>定期試験80%</p> <p>配色トレーニング実習シート15%</p> <p>平常点 (出席状況や授業態度) 5%</p>
------	--

使用教科書名 (ISBN番号)	<p>住宅インテリアのための実践カラーテクニック 滝沢真美 (トソー出版)</p> <p>978-4-904403-21-1</p> <p>新デザイントーン130 色紙 (B8) (日本カラーデザイン研究所)</p>
-----------------	--

参考図書	<p>カラーコーディネーター入門色彩 改訂増補版 大井義雄・川崎秀明著 (日本色研事業)</p> <p>カラーコーディネーター検定試験®スタンダードクラス公式テキスト (東京商工会議所)</p> <p>生活の色彩学 ―快適な暮らしを求めて― 橋本令子・石原久代 編著 (朝倉書店)</p> <p>カラーユニバーサルデザイン カラーユニバーサルデザイン機構 (ハート出版)</p>
------	---

参考URL	http://www2.cudo.jp/wp/
-------	---

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 【思考・判断】 日常生活に欠かせない色彩を幅広い角度から総合的に理解する。</p> <p>【関心・意欲・態度】 カラーユニバーサルデザイン、日本の色を通して、現代社会の一員として、自らのあり方を考える。</p> <p>【技術・表現】 配色テクニックを身につけることで、美しい環境作りの方向性を理解する。</p>
---------------	--

学生へのメッセージ	<p>1. 日頃から生活の中に広がる色を観察して欲しい。また、美術館に行くなど、美的なものに触れる機会を意識して増やしてほしい。</p> <p>2. 授業では、ワークシートの貼付や配色実習で色紙を使用する。そのための事前準備は適宜指示するので、準備</p>
-----------	--

- を済ませてから授業に臨むこと。
 3. 教科書、教材、のり、はさみは毎回持参すること（のりは口紅タイプかテープ状）
 4. 配布したプリントや色紙の紛失には十分注意すること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	第6回～第14回は、日本カラーデザイン研究所の色彩基礎セミナーで企業向けに行っている内容を、学生向けに噛み砕いて講義を行う。結果として、生活の中で実践的に使えるカラーテクニックが学べるようになっている。
アクティブ・ラーニング	○	実際の色紙を切る、貼るという作業や、具体的な配色を作成するなど、演習的な要素を盛り込んだ授業となっている。また、色名、カラーイメージ、日本の色などを考えさせ、発表させることで、参加型の授業となっている。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	民俗学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石垣 悟	指定なし

ナンバリング	X13050M21
授業概要(教育目的)	民俗学は、衣食住をはじめ、信仰儀礼、伝説、妖怪、生業、社会構造などに関する有形、無形の資料を利用して、過去の暮らしを考えると同時に、これからの暮らしの行く末を見定め、また実践していく学問である。西洋からの受け売りではない、日本の学問である民俗学の成り立ちを多くの事例を用いつつ丁寧にみていくことで、単なるオカルト趣味ではない民俗学の思想・理念を学ぶ。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	学習目標(到達目標)
知識・理解の観点 (K)	民俗学の成り立ちと現状を知ること、民俗学が(特に現代)社会の中でもつ役割を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	民俗学の成果が日常生活のなかでどのような意義もつのか、またその限界や課題についても思考・判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	民俗学の方法・視座や成果について、自らの興味関心と関連づけながら捉えてみるができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

民俗学

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	民俗学のあけぼの～柳田國男の足跡(1): 文学から農政学、そして民俗学へ	柳田國男が民俗学を立ち上げるに至った経緯を、彼の生い立ち、江戸から明治への時代背景などを手がかりに考察します。	教科書に適宜目を通してください。また時間があれば、『遠野物語』など柳田國男に関する著作にも目を通してみてください。	180分
第2回	民俗学のあけぼの～柳田國男の足跡(2): 「山人」と「天狗」をめぐって	初期(柳田國男)の民俗学は、大きく3つの画期に分けられる。その第一期、山人(先住民)論について、天狗などの妖怪をめぐる民俗、狩猟習俗などを手がかりに解説します。	教科書に適宜目を通してください。また時間があれば、『遠野物語』『妖怪談義』など柳田國男に関する著作にも目を通してみてください。	180分

第3回	民俗学のあけぼの～柳田國男の足跡(3)：周囲論と民俗語彙の可能性	初期(柳田國男)の民俗学は、大きく3つの画期に分けられる。その第二期、田舎に古い文化の見られる事実、そこでの言葉の持つ文化力について、方言や年中行事(正月やお盆など)をめぐる民俗を手がかりに解説します。	教科書に適宜目を通しておいてください。また時間があれば、『遠野物語』『妖怪談義』など柳田國男に関する著作にも目を通してみてください。	180分
第4回	民俗学のあけぼの～柳田國男の足跡(4)：「稲作」と「沖繩」からのぞく社会	初期(柳田國男)の民俗学は、大きく3つの画期に分けられる。その第三期、稲作をめぐる固有信仰と、日本列島にみる沖繩(南島)の文化的重要性について、柳田晩年の著作をみながら解説します。	教科書に適宜目を通しておいてください。また時間があれば、『先祖の話』『海上の道』など柳田國男に関する著作にも目を通してみてください。	180分
第5回	もう一つの民俗学～渋沢敬三の足跡(1)：民具・「モノ」への視角	柳田に遅れて起ち上げられた、もう一つの民俗学、すなわち「モノ」を対象とした人々の伝承的生活へのアプローチを紹介し、その可能性について考えます。	教科書に適宜目を通しておいてください。また時間があれば、民俗学(民具)に関する博物館図録などにも目を通してみてください。	180分
第6回	もう一つの民俗学～渋沢敬三の足跡(2)：アチックミュージアムと文化財保護	「モノ」を対象とした民俗学と博物館および文化財保護との関わりについて、いくつかの具体的事例をもとに考えます。	教科書に適宜目を通しておいてください。また時間があれば、民俗学(民具)に関する博物館図録などにも目を通してみてください。	180分
第7回	伝承文学と芸能から～折口信夫の民俗学(1)：依り代論と祭祀	柳田の後を追うように起ち上げられた折口信夫の民俗学、特になどの神社などでの祭祀と神霊を迎える依り代(よりしろ)との関係性とその変遷について、いくつかの事例をみながら解説します。	教科書に適宜目を通しておいてください。また時間があれば、折口信夫の著作にも目を通してみてください。	180分
第8回	伝承文学と芸能から～折口信夫の民俗学(2)：マレビト論と常世	柳田の後を追うように起ち上げられた折口信夫の民俗学、特に常世なる異世界から定期的に訪れるマレビトをめぐる民俗について、いくつかの事例をみながら解説します。	教科書に適宜目を通しておいてください。また時間があれば、折口信夫の著作にも目を通してみてください。	180分
第9回	民俗学と歴史学～柳田・渋沢・折口以後	柳田・渋沢・折口以後の民俗学が何を受け継ぎ、どこをどう発展・展開させたのかを、特に和歌森太郎の民俗学への発言を手がかりとして考察していきます。	教科書に適宜目を通しておいてください。	180分
第10回	民俗学の展開～重出立証法と個別分析法	民俗学にとって学的方法とは何か、柳田理論を批判・否定しつつ議論された伝承母体論を紹介し、地方史・地域史と民俗学との関わり、あるいは地域社会の中での民俗学の立ち位置について考えます。	教科書に適宜目を通しておいてください。	180分
第11回	民俗学と地域社会～崩壊する地域と民俗	民俗学は地域をどう捉えられるのか、そしていかに救えるか、について、「郷土」、「伝統」などをキーワードを用い、いくつかの現場での事例を交えて考えてみます。	教科書に適宜目を通しておいてください。	180分
第12回	民俗学と都市～経済成長後の社会を捉える	二次・三次産業へのウエイトが高い都市ね民俗学の視座・方法はどのように対応できるか、について江戸時代の町場から明治以降の近代都市までを幅広く見ながら考察します。	教科書に適宜目を通しておいてください。	180分
第13回	民俗学と国際社会～グローバル化のなかの民俗学	国際化する社会に民俗学はどう向き合えるのか。グローバルというキーワードをもって国際化に民俗学的な視座と方法で向き合う可能性を考えます。また、東アジアの諸国をフィールドとする比較民俗学の動きにも言及します。	教科書に適宜目を通しておいてください。	180分
第14回	民俗学と現代社会(1)～民俗の「再生」	現代社会を民俗学はいかに捉えられるか、特にフォークロリズム(民俗っぼさ)という切り口から、具体的事例を交えて考えてみます。	教科書に適宜目を通しておいてください。	180分
第15回	民俗学と現代社会	現代社会を民俗学はいかに捉えられるか、特に文化・観光資源という切り口から、具体的事例を交えて考えてみ	教科書に適宜目を通しておいてください。	180分

	(2)～民俗の「活用」	ます。																											
学習計画注記	※履修者の人数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。																												
学生へのフィードバック方法	下記リアクションペーパーでは、感想・意見とともに疑問等も受け付けます。提出された疑問等については、次回以降の講義等で可能な範囲で適宜補足説明をしていきます。																												
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、講義の最後（5～10分程度）にリアクションペーパーを実施します。基本的には講義の感想・意見等を記載してもらいますが、自身に引きつけての主体的な言葉での記載を望みます。 ・定期試験は、講義全体の中でとりあげたいいくつかテーマのうちから、適当なものを選択して自身の見解等も交えて論じてもらいます。 																												
評価基準	<p>評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定期試験</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	定期試験	○	○	○																
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																									
定期試験	○	○	○																										
評価割合	定期試験（100%）で評価します。																												
使用教科書名 (ISBN番号)	『はじめて学ぶ民俗学』【ミネルヴァ書房・2015年】 ISBN-10: 4623071251 ISBN-13: 978-4623071258																												
参考図書	講義の際、必要に応じて資料を配布します。																												
ディプロマポリシーとの関連	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・理解】民俗学が社会の中でもつ役割を理解できる 【思考・判断】民俗学の視座・方法と成果の何が日常生活を考えるうえで有益であるか判断できる 【関心・意欲・態度】民俗学の視座・方法と成果を自らの興味関心と関連づけて捉えることができる 																												
オフィスアワー	毎週水曜日昼休み（12：30～12：50）に1624研究室にて相談を受けます。																												
学生へのメッセージ	受講するにあたっては、教科書のほか授業内で触れた著作に目を通すなどして予習・復習してください。また、普段から身のまわりの民俗文化と考えられる事象を観察してみてください。私たちの周りには、何気なく展開している民俗文化が数多くあります。どのような民俗文化を持つ社会に生まれ、過ごしてきたかは、その人の属性に関わる重要な問題です。それらを考えることにより、自分とはどのような存在なのかを改めて確認できるはずで、それは各自が今後の人生を歩む上での指針の一つともなりえるものです。																												
教育等の取組み状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>担当教員は、文化財保護の現場での民俗担当として、自ら調査研究の経験を有するとともに、長年地方自治帯の関係者に視座や方法の指導にあたってきた経験を有しています。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	担当教員は、文化財保護の現場での民俗担当として、自ら調査研究の経験を有するとともに、長年地方自治帯の関係者に視座や方法の指導にあたってきた経験を有しています。	アクティブ・ラーニング			情報リテラシー教育			ICT活用												
	該当有無	概要																											
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、文化財保護の現場での民俗担当として、自ら調査研究の経験を有するとともに、長年地方自治帯の関係者に視座や方法の指導にあたってきた経験を有しています。																											
アクティブ・ラーニング																													
情報リテラシー教育																													
ICT活用																													

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	考古学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 千本 真生	指定なし

ナンバリング	X13060M21
授業概要(教育目的)	考古学は、過去の人類が残した遺跡や遺構、遺物などを研究することによって、当時の生活や文化を明らかにする。そのために本講義では、何をどのように研究するのか、考古学研究の理論と実践の基礎を体系的に学ぶ。通史的な概説をおこなうとともに、考古学だけではなく、自然科学など学際的な研究成果も紹介しながら授業をすすめる。この授業を履修することによって、考古学研究に必要な基礎的な知識を修得し、同時に埋蔵文化財に対する理解を高める。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	考古学研究の基礎的な知識を身につけ、その特徴を説明できるようにする。 考古学の視点から、歴史の再構築の方法について理解できるようにする。
思考・判断の観点 (K)	埋蔵文化財に対する理解を深めるとともに、その保護に関する意識を高める。 人類史を俯瞰する視野を獲得し、世界のなかで自らのアイデンティティーの理解を深める。
関心・意欲・態度の観点 (V)	身近な歴史文化財にひろく目を向け、また博物館・資料館における考古学展示に対する関心を高める。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

考古学

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	考古学とは何か	本講義の概要を説明し、評価方法についてガイダンスをおこなう。その後、考古学の定義と歴史について学び、次回からの講義の導入とする。	1. 毎回、次週の講義内容に関する課題を与え、授業中の議論に反映させる。 2. 毎回、授業の最後に講義内容の要点を学習カードに記載して提出する。	60分
第2回	考古学の資料	・考古学でとりあつかう資料の種類(遺跡、遺構、遺物)とその特徴について理解する。	1. 毎回、次週の講義内容に関する課題を与え、授業中の議論に反映させる。 2. 毎回、授業の最後に講義内	60分

			容の要点を学習カードに記載して提出する。	
第3回	考古資料の調査方法	・考古資料を体系的に得るために実施する野外での調査方法と、資料の分析方法について理解する。	1. 毎回、次週の講義内容に関する課題を与え、授業中の議論に反映させる。 2. 毎回、授業の最後に講義内容の要点を学習カードに記載して提出する。	60分
第4回	考古資料の機能と道具	・考古資料が過去にどのように使われていたのかを、実験考古学や文化人類学などの研究成果を紹介しながら理解する。	1. 毎回、次週の講義内容に関する課題を与え、授業中の議論に反映させる。 2. 毎回、授業の最後に講義内容の要点を学習カードに記載して提出する。	60分
第5回	考古資料の年代 (1)	・考古資料の年代を決めるために用いられている層位学および型式学的手法について理解する。	1. 毎回、次週の講義内容に関する課題を与え、授業中の議論に反映させる。 2. 毎回、授業の最後に講義内容の要点を学習カードに記載して提出する。	60分
第6回	考古資料の年代 (2)	・自然科学的な年代測定法とその原理を学び、より精度の高い編年体系を構築する方法について理解する。	1. 毎回、次週の講義内容に関する課題を与え、授業中の議論に反映させる。 2. 毎回、授業の最後に講義内容の要点を学習カードに記載して提出する。	90分
第7回	考古資料の分布	・考古資料が占める空間的な位置 (分布) およびその位置関係が意味する背景を理解する方法について、地理学的な分析手法を用いた研究事例も紹介しながら学ぶ。	1. 毎回、次週の講義内容に関する課題を与え、授業中の議論に反映させる。 2. 毎回、授業の最後に講義内容の要点を学習カードに記載して提出する。 3. 小テスト (1) : 授業のはじめに、これまでの講義内容について小テストを行うので、復習をしておくこと。	60分
第8回	集落と住まいの考古学	・人類がこれまでどのような集落を営んで社会生活を送ってきたのかについて、国内外の事例を紹介しながら理解する。	1. 毎回、次週の講義内容に関する課題を与え、授業中の議論に反映させる。 2. 毎回、授業の最後に講義内容の要点を学習カードに記載して提出する。	60分
第9回	食べ物と生業の考古学	・生命を維持するために欠かせない食事の内容や食糧の獲得方法を、考古学がどのようにして明らかにしてきたのか理解する。	1. 毎回、次週の講義内容に関する課題を与え、授業中の議論に反映させる。 2. 毎回、授業の最後に講義内容の要点を学習カードに記載して提出する。	60分
第10回	衣服と身体 の考古学	・人びとが身にまとっていた衣服の直接的な資料や、土偶や壁画などに表現されている間接的な資料を紹介しながら、衣服と身体表現方法の歴史について理解する。	1. 毎回、次週の講義内容に関する課題を与え、授業中の議論に反映させる。 2. 毎回、授業の最後に講義内容の要点を学習カードに記載して提出する。	60分
第11回	世界の考古学 (1) : 人類の起源から農耕牧畜の始まりにかけて	・アフリカとユーラシアを中心に人類の起源から初期農耕社会の成立までの歴史を通時的に理解する。	1. 毎回、次週の講義内容に関する課題を与え、授業中の議論に反映させる。 2. 毎回、授業の最後に講義内容の要点を学習カードに記載して提出する。	60分
第12回	世界の考古学 (2) : 古代の都市と文明	・西アジアを中心に初期農耕社会の成立以降から古代都市国家の出現にいたるまでの歴史を通時的に理解する。	1. 毎回、次週の講義内容に関する課題を与え、授業中の議論に反映させる。 2. 毎回、授業の最後に講義内容の要点を学習カードに記載して提出する。	60分
第13回	日本の考古学 (1) : 旧石器～縄文時代	・日本列島の旧石器時代と縄文時代に関する研究成果を紹介して、狩猟採集社会のあり方について理解する。	1. 毎回、次週の講義内容に関する課題を与え、授業中の議論に反映させる。 2. 毎回、授業の最後に講義内容の要点を学習カードに記載して提出する。	60分

第14回	日本の考古学（2）：弥生～古墳時代	・日本列島の弥生時代と古墳時代に関する研究成果を紹介して、農耕社会の誕生から王権の成立にかけての歴史について理解する。	1. 毎回、次週の講義内容に関する課題を与え、授業中の議論に反映させる。 2. 毎回、授業の最後に講義内容の要点を学習カードに記載して提出する。	90分
第15回	考古学と現代社会	・現代社会における考古学の意義を、文化財、博物館、パブリック・アーケオロジーなどの観点から理解する。	1. 毎回、次週の講義内容に関する課題を与え、授業中の議論に反映させる。 2. 毎回、授業の最後に講義内容の要点を学習カードに記載して提出する。 3. 小テスト（2）：授業のはじめに、これまでの講義内容について小テストを行うので、復習をしておくこと。	60分

学生へのフィードバック方法	2回の小テストによって学習到達度をはかる。小テストのあとに解説をおこない、疑問点やあいまいな点を解決する。また学習カードに講義内容に関する質問や疑問点がある場合には回答、解説をおこなう。
---------------	---

評価方法	評価は、「小テスト（1）」、「小テスト（2）」、「学習カード」、「レポート」によっておこなう。 1. 小テストは、講義内容の学習到達度をはかることを目的として、2回実施する。 2. 学習カードは、毎回の講義内容を簡潔にまとめて提出し、次回に返却する。 3. レポートは、講義で学んだことを博物館等の展示資料で確認し報告する。 以上、評価は以上の4点によっておこなうため、期末試験は実施しない。
------	--

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト（1）	○			
小テスト（2）	○			
学習カード	○	○		
レポート	○	○	○	

評価割合	小テスト（1）（20%）、小テスト（2）（20%）、学習カード（20%）、レポート（40%）で評価する。
------	--

使用教科書名 (ISBN番号)	授業中に配布するプリントを使用する。
-----------------	--------------------

参考図書	1. 『考古学—理論・方法・実践』コリン・レンフルー、ポール・バーン（著）池田裕他（監訳）東洋書林 2007年 2. 『考古学入門』鈴木公雄 東京大学出版 1988年 3. 『新訂考古学（放送大学教材）』早乙女雅博他（編）放送大学教育振興会 2018年
------	--

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】・【思考・判断】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる。 【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働くことができる。
---------------	--

学生へのメッセージ	考古学は恐竜や化石について研究する学問ではありませんので、科目登録にはご注意ください。考古学は人類が残した遺跡や遺構、遺物などを研究することによって、過去の人類史を再構築し叙述する学問です。多くの実物資料を実際に見ることが理解につながりますので、博物館や資料館に積極的に見学するようにしましょう。
-----------	--

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	遺跡の分布調査、発掘調査、遺物の整理、復元など実務経験にもとづいた講義をおこなう。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	基礎数学 a		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	4 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 新海 公昭	指定なし

ナンバリング	X13100M21
授業概要(教育目的)	高校までの数学は、どの分野も生きる上で役に立つ重要なものばかりである。授業では、まず、高校までに学習した数学Ⅰ・数学A・数学Ⅱ・数学B・数学Ⅲの中から特に重要な項目を選び出して復習し発展させることで、知識・技術・思考が確実なものになるように解説する。次に、それらを自然科学や社会科学のみならず日常の様々な事象に応用することでみえる数学の大切さについて、事例を通して紹介する。基礎数学aと基礎数学bを履修することで、公務員試験やSPI試験で出題されるテーマを大まかにフォローする。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	公務員試験やSPI試験で出題されるレベルの問題を解くことができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	学習で得た知識・技術・思考力を日常生活等の中でみえる課題に活かすことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	文章題1 (料金の割引)	タイムセール、まとめて商品を購入するとき、団体でサービスを利用するときなど、何らかの割引があることが一般的である。割引の条件を読み取り、料金を考える問題を扱う。	予習：教科書Ⅰ部1. 料金の割引のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書Ⅰ部1. 料金の割引の演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第2回	文章題2 (代金の精算)	支払総額を、全員が「割り勘」している状態にもっていく問題を扱う。	予習：教科書Ⅰ部2. 代金の精算のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書Ⅰ部2. 代金の精算の演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第3回	文章題3 (分割払い、仕事算)	分割払い、および仕事算を扱う。いずれも分数計算が必要である。	予習：教科書Ⅰ部3. 分割払いのPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書Ⅰ部3. 分割払い	予習60分、復習120分

			と配布プリントの演習問題に取り組むこと	
第4回	文章題4 (損益算)	「原価」「定価」「売価」「利益」などの用語の関係を把握し、それらを使いこなす損益算を扱う。小数と分数、百分率と歩合の関係もおさえておく必要がある。	予習：教科書I部4. 損益算のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書I部4. 損益算の演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第5回	文章題5 (速度、通過算、流水算)	人、自動車、電車そして船の移動する速度を扱う通過算、流水算を扱う。移動した道のり、所要時間、速度の関係を理解することが大事である。単位の変換も必須となる。	予習：教科書I部5. 速さのPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書I部5. 速さの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第6回	四則演算、多項式の計算、指数計算、割合と比	四則混合計算の順序、根号を含む計算、多項式の計算、指数法則、割合と比を扱う。	予習：教科書II部1. 間違えやすい計算問題のPOINTおよび教科書II部2. 割合と比のPOINTに目を通しておくこと 復習：教科書II部1. 間違えやすい計算問題および教科書II部2. 割合と比の演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第7回	方程式と不等式(1次方程式・不等式、連立方程式・不等式)、いろいろな問題[1]	1次方程式・不等式、連立方程式・不等式、整数問題を扱う。	予習：教科書II部3. 1次方程式・不等式と連立方程式のPOINTおよび教科書II部6. いろいろな問題[1]のPOINTに目を通しておくこと 復習：教科書II部3. 1次方程式・不等式と連立方程式の演習問題および教科書II部6. いろいろな問題[1]の演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第8回	因数分解と2次方程式、中間テスト	因数分解と2次方程式の解を扱う。中間テストも行う。	予習：教科書II部4. 因数分解と2次方程式のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書II部4. 因数分解と2次方程式の演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第9回	ブラックボックス	数値を一定のルールで変換する装置を複数つないで回路をつくり、入出力される数値の関係を明らかにする所謂ブラックボックスの問題を扱う。	予習：教科書I部12. ブラックボックスのPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書I部12. ブラックボックスの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第10回	関数1(1次関数、頂点が原点にある2次関数)	1次関数と頂点が原点にある2次関数のグラフ描画および平面幾何への融合問題を扱う。	予習：教科書II部5. 1次関数と2次関数のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書II部5. 1次関数と2次関数の演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第11回	関数2(頂点が原点にない2次関数)	2次関数を平方完成して、グラフを描画する。また、描画グラフを利用して2次不等式の解を考える問題を扱う。	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第12回	関数3(2次関数の応用)	2次関数の応用として、経済学への応用問題等を扱う。	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第13回	関数4(指数関数と対数関数)	自然現象や社会現象に焦点をあてながら指数関数や対数関数を扱う。	予習：教科書III部2. 関数のはなしに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第14回	不等式の表す領域	不等式の表す領域を考える問題を扱う。	予習：教科書I部11. グラフと領域のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書I部11. 配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第15回	線形計画問題 定期テスト	線形な等式および不等式の制約条件のもとで、線形な目的関数の最大値あるいは最小値を考える、所謂線形計画問題を扱う。	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：教科書I部11. グラフ	予習60分、復習120分

学生へのフィードバック方法 復習で扱う演習問題(課題)について、毎回回収してチェックをして返却する。質問等がある場合は遠慮せず1625研究室(emailも可)まで訪問すること。

評価方法 1. 中間テストおよび定期テスト(期末テスト)
中間テストや定期テスト(期末テスト)は、各回で学習した内容の類題を出題する。中間テストで出題した内容は定期テストには出題しない。テスト中の教科書や参考書の持ち込みは不可とする。
2. 課題
毎回の復習で取り組む演習問題(課題)への取り組みを評価する。
* 中間テスト, 定期テスト, 課題は, 下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間テスト	○			
定期テスト(期末テスト)	○			
課題	○			○

評価割合 中間テスト(30%), 期末テスト(30%), 課題(40%)

使用教科書名(ISBN番号) 文系女子大学生の数学演習 (ISBN:978-4-416-91632-2)

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】人間社会と自然の多様性を、数学的な知識をもって理解し、あるべき姿を的確に判断することができる。
【技能・表現】学修で得た数学的知識・技術をもって人間社会や自然の中に見える課題を発見し、その課題を論理的に分析・統合・表現することで、他者との共感を創り出すことができる。

オフィスアワー 前期:水曜日12:30~14:00
後期:水曜日12:30~14:00

学生へのメッセージ 数学は、授業のみでは理解した気になるだけで身につかない。予習と復習を通して、自らの頭と手を動かして思考することが大事である。
授業は丁寧に説明したいと思うが、理解できない部分は、遠慮せずに気楽に1625研究室(emailも可)まで訪問すること。主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	基礎数学 b		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	5 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 新海 公昭	指定なし

ナンバリング	X13110M21
授業概要(教育目的)	高校までの数学は、どの分野も生きる上で役に立つ重要なものばかりである。授業では、まず、基礎数学aで扱ったテーマ以外で、高校までに学習した数学Ⅰ・数学A・数学Ⅱ・数学B・数学Ⅲの中から特に重要な項目を選び出して復習し発展させることで、知識・技術・思考が確実なものになるように解説する。次に、それらを自然科学や社会科学のみならず日常の様々な事象に応用することでみえる数学の大切さについて、事例を通して紹介する。基礎数学aと基礎数学bを履修することで、公務員試験やSPI試験で出題されるテーマを大まかにフォローする。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	学習目標(到達目標)
知識・理解の観点 (K)	公務員試験やSPI試験で出題されるレベルの問題を解くことができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	学習で得た知識・技術・思考力を日常生活等の中でみえる課題に活かすことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	平面図形	図形の平行移動・回転移動・対称移動、図形の内角と外角、平行線と線分の比、四角形概念集合、平行線と面積を扱う。	予習：教科書Ⅱ部7. 平面図形の割引のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書Ⅱ部7. 平面図形の演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第2回	作図	線分の垂直二等分線と三角形の外心、角の二等分線と三角形の内心、垂線と垂心、重心、傍心、円の接線、正多面体を扱う。	予習：教科書Ⅱ部8. 作図のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書Ⅱ部8. 作図の演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第3回	合同と相似	三角形の合同条件、三角形の相似条件、相似な図形の面積比や体積比を扱う。	予習：教科書Ⅱ部9. 合同と相似のPOINTおよび例題に目を通しておくこと	予習60分、復習120分

			復習：教科書Ⅱ部9. 合同と相似の演習問題に取り組むこと	
第4回	円の性質	円の面積，扇形の弧と面積，円周角および中心角の定理，円に内接する四角形の性質，接弦定理，円の外から2接線を引いたときの接点までの長さに関する性質などを扱う。	予習：教科書Ⅱ部10. 円の性質のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書Ⅱ部10. 円の性質の演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第5回	空間図形	柱体や錐体の体積，球の体積と表面積を扱う。	予習：教科書Ⅱ部11. 空間図形のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書Ⅱ部11. 空間図形の演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第6回	三平方の定理と余弦定理・正弦定理	三平方の定理およびその拡張ととらえられる余弦定理，さらに正弦定理を扱う。	予習：教科書Ⅱ部12. 三平方の定理のPOINTおよび例題，さらに配布プリントに目を通しておくこと 復習：教科書Ⅱ部12. 三平方の定理の演習問題，さらに配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第7回	流れと比率	人やモノの流れを式で表す問題を扱う。	予習：教科書Ⅰ部13. 流れと比率のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書Ⅰ部13. 流れと比率の演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第8回	集合，中間テスト	条件を満たす集合の要素の個数を求める問題を扱う。中間テストも行ふ。	予習：教科書Ⅰ部6. 集合のPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書Ⅰ部6. 集合の演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第9回	順列・組合せ	場合の数のテーマのうち，並べる問題「順列」と選ぶ問題「組合せ」を扱う。	予習：教科書Ⅰ部7. 順列・組合せのPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書Ⅰ部7. 順列・組合せの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第10回	確率	確率および条件付確率の問題（ベイズの定理を含む）を扱う。	予習：教科書Ⅰ部8. 確率のPOINTおよび例題，さらに配布プリントに目を通しておくこと 復習：教科書Ⅰ部8. 確率の演習問題，さらに配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第11回	数列	等差数列，等比数列，階差数列，フィボナッチ数列，群数列の問題を扱う。	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第12回	資料の読み取り	図や表や文章から必要な情報を読み取る問題を扱う。	予習：教科書Ⅰ部10. 資料の読み取りのPOINTおよび例題に目を通しておくこと 復習：教科書Ⅰ部10. 資料の読み取りの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第13回	推論1（論理式，ベン図）	論理式やベン図を用いた推論の問題を扱う。	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第14回	推論2（発言の正誤を推論する問題，対応関係）	所謂うつつき問題と，対応関係の推論の問題を扱う。	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分
第15回	推論3（リーグ戦，トーナメント戦）	リーグ戦とトーナメント戦の推論の問題を扱う。	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分，復習120分

学生へのフィードバック方法	復習で扱う演習問題(課題)について，毎回回収してチェックをして返却する。質問等がある場合は遠慮せず1625研究室(emailも可)まで訪問すること。
評価方法	1. 中間テストおよび定期テスト(期末テスト) 中間テストや定期テスト(期末テスト)は，各回で学習した内容の類題を出題する。中間テストで出題した内容は定期テストには出題しない。テスト中の教科書や参考書の持ち込みは不可とする。

2. 課題
毎回の復習で取り組む演習問題（課題）への取り組みを評価する。

* 中間テスト、定期テスト、課題は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間テスト	○			
定期テスト（期末テスト）	○			
課題	○			○

評価割合

中間テスト(30%)， 期末テスト(30%)， 課題点(40%)

使用教科書名 (ISBN番号)

文系女子大学生の数学演習 (ISBN:978-4-416-91632-2)

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間社会と自然の多様性を、数学的な知識をもって理解し、あるべき姿を的確に判断することができる。

【技能・表現】学修で得た数学的知識・技術をもって人間社会や自然の中にみえる課題を発見し、その課題を論理的に分析・統合・表現することで、他者との共感を創り出すことができる。

オフィスアワー

前期：水曜日 12：30～14：00
後期：水曜日 12：30～14：00

学生へのメッセージ

数学は、授業のみでは理解した気になるだけで身につかない。予習と復習を通して、自らの頭と手を動かして思考することが大事である。
授業は丁寧に説明したいと思うが、理解できない部分は、遠慮せずに気楽に1625研究室 (emailも可) まで訪問すること。主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	数学トピックス		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 新海 公昭	指定なし

ナンバリング	X13120M21
授業概要(教育目的)	身の回りにはたくさんの「不思議」がある。A4サイズの紙の縦と横の長さの関係は？ゲームの背景に数学が存在するものがあるって本当？複利の借金ってなぜ怖い？GPSはなぜ現在の位置情報を把握できるのか？いくつかの神社に数学の問題と解答が奉納されているけどあれって何？ などである。高校までで学んだ数学を、有機的に結合させることで「身の回りの不思議」のいくつかを解決することができる。トピック的に取り上げて「先人たちのアイデアや知恵」について解説する。 *毎回の授業では、はさみ、のり、定規、コンパスを持参すること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	身の回りにあるたくさんの「不思議」に関して、数学的な視点で解決しようと試みることができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	鳩の巣原理、カプレカ数、黄金比、白銀比(数のおもしろさ)	鳩の巣原理を応用した事例を紹介する。おもしろい性質をもつカプレカ数を紹介する。黄金比、白銀比を紹介する。	復習：鳩の巣原理を利用した問題を作成する。黄金比、白銀比がどこにあるか3例ずつ紹介する(図も描く)。	180分
第2回	六角将棋1(論理のおもしろさ)	ヘックスを楽しむ。六角将棋の盤とコマを作成する。	復習：六角将棋を完成させ、ルールを確認し、周りの人と対戦する。	180分
第3回	六角将棋2(論理のおもしろさ)	六角将棋の大会をする。	復習：勝敗およびその要因を詳細にレポートする。	180分
第4回	空間図形の展開図1	ニンジンやジャガイモから定型図形に限らない立体図形(多面体および可展面に限る)を切り出し、その展開図	復習：切り出した立体図形の写真を撮る。展開図を完成させ	180分

	(図形のおもしろさ)	を作成する。	る。	
第5回	空間図形の展開図2 (図形のおもしろさ)	完成した展開図を基に、ペーパークラフトを作成する。まずは、展開図のコピーをとり、切り出した辺と辺がしっかり合わさるかななどをチェックし調整する。	復習：展開図のコピーからにニンジンやジャガイモの立体図形が再現できるようにする。展開図を調整する。	180分
第6回	空間図形の展開図3 (図形のおもしろさ)	ペーパークラフトを完成させる。	復習：完成したペーパークラフトからもう一度立体図形を作成し、その写真を撮る。そして、以前に撮ったニンジンやジャガイモから切り出した立体図形の写真とあわせて提出する。	180分
第7回	n進数を利用したゲーム1 (情報理論)	n進数を理解する。	復習：n進数の理解を深める課題に取り組む。	180分
第8回	n進数を利用したゲーム2 (情報理論)	n進数を利用したゲームを作成する。	復習：n進数を利用したゲームを完成させる。	180分
第9回	一弦ギター1 (算数と音楽)	音楽と数学の歴史について学ぶ。純正音階律や平均音階律について学ぶ。	復習：純正音階律を作成する。ドの弦の長さを基準に、レから一オクターブ高いドまでの弦の長さを調べる。	180分
第10回	一弦ギター2 (算数と音楽)	一弦ギターの作成を始める。角材の上部と下部にナットとブリッジを割り箸で作る。角材の下部にドリル等で穴をあける。糸を、あけた穴に通し、角材上部にあるペグに巻く。弦を押しえながら、ドの音を探します。その弦の長さを基準に、レミファソラシ(一オクターブ高い)ドの弦の長さを求めて、印をつける。実際に印をつけた個所を押さえて弦をはじいたとき、対応する音が出るか確かめる。大丈夫であれば、印の個所にフレットを作る。最後にボディをつくる。	復習：一弦ギターを完成させる。(ボディは未完成でよい)	240分
第11回	一弦ギター3 (算数と音楽)	一弦ギターのボディを作成する。全員で演奏会を行う。	復習：一弦ギターのボディを2次元のものにした場合と、3次元のものにした場合の音の響きの違いを調べる。	120分
第12回	複利計算 (社会生活と数学)	複利計算について学ぶ。借金の場合の複利の怖さ、投資の場合の複利のメリットについて知る。	復習：複利計算に関する理解を深める課題に取り組む。	180分
第13回	GPSのしくみ (図形の科学)	GPSのしくみを学ぶ。	予習：GPSのしくみに関する理解を深める課題に取り組む。	180分
第14回	第13週 ファジィ集合 (複雑系)	ファジィ集合とクリスプ集合を学び、あいまいさの定量化の方法について学ぶ。	復習：ファジィ集合の理解を深める課題に取り組む。	180分
第15回	和算 (数学の歴史) 定期試験	和算の問題のいくつかに取り組む。	復習：授業では扱わなかった和算の問題のいくつかを課題として取り組む。	180分

学生へのフィードバック方法 授業内外で取り組んだこと(平常課題)に関して、毎回チェックしコメントする。

評価方法

1. 平常課題
毎回の授業内外で取り組む作業や課題を平常課題とする。取り組みを評価する。

2. 定期試験
定期試験では、授業で取り組んだ内容の中で、特に印象に残っているものについて、概要や新たに得られた視点等について記述することで、授業への関心・意欲等を評価する。

* 平常課題や定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常課題			○	

定期試験			○	

評価割合	平常課題（80%），定期試験（20%）
使用教科書名（ISBN番号）	なし。プリントを配布して説明する。
参考図書	なし。
ディプロマポリシーとの関連	【関心・意欲・態度】身の回りにあるたくさんの「不思議」に関して，数学的な視点で解決しようと試みることができ，社会を構成するひとりとして，高い徳性をもって人々に貢献することができる。
オフィスアワー	前期：水曜日 12：30～14：00 後期：水曜日 12：30～14：00
学生へのメッセージ	授業では各回に行うことを丁寧に説明したいと思うが，理解できない部分は気楽に質問したり，研究室（1625）を訪ねて質問してほしい。好奇心に裏打ちされた自発的な学びを期待する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	基礎統計学 a		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	5 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 新海 公昭	指定なし

ナンバリング	X13140M21
授業概要(教育目的)	<p>授業では、統計の基礎を学び、データを適切に処理でき、かつ得られた結果を正しく理解・解釈するために必要な知識・技術について説明する。</p> <p>まずは、記述統計学としての1変量の標本データの要約ができるように平均値、分散、標準偏差に代表される基本統計量を扱う。次に、2変量のデータ解析の基本として相関分析、回帰分析を扱う。最後に、離散型確率分布や連続型確率分布などにおける確率計算および中心極限定理を扱い、推定および検定の考え方につながる推測統計学の基本的考え方を解説する。毎回の講義では、事例を複数提示し、様々な事象への応用に触れる。</p>

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	統計検定3級レベルの問題を解くことができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	学習で得た知識・技術・思考力を日常生活等の中でみえる課題に活かすことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	基本統計量(平均値, 中央値, 最頻値)	データ全体を代表させる数値である平均値, 中央値, 最頻値を学ぶ。	予習: 教科書34ページから37ページに目を通しておくこと 復習: 配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分, 復習120分
第2回	箱ひげ図, 分散, 標準偏差	散らばりを持つデータの大まかな比較をするのに便利な箱ひげ図, 全データを対象にした散らばりを説明する分散, 標準偏差を学ぶ。	予習: 教科書29ページ, 38ページから41ページに目を通しておくこと 復習: 配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分, 復習120分
第3回	散布図, 共分散	2変量の相関関係を視覚的に表す散布図と, 数値で示す共分散を学ぶ。	予習: 教科書26ページから27ページ, 46ページに目を通しておくこと 復習: 配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分, 復習120分

第4回	相関係数	相関の強弱をも見ることができる相関係数を学ぶ。	予習：教科書47ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第5回	回帰方程式	1変量を、他の変量で表現する単回帰分析や重回帰分析における回帰方程式を学ぶ。	予習：教科書110ページから113ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第6回	標本調査と確率、離散型確率変数と確率分布、中間テスト	全数調査と標本調査、無作為抽出、統計的確率と大数法則の説明から始め、離散型確率変数と確率分布を学ぶ。中間テストも行う。	予習：教科書50ページから60ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第7回	離散型確率変数の期待値と分散	離散型確率変数の期待値および分散を学ぶ。	予習：教科書60ページから61ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第8回	確率変数と変数変換、確率変数の標準化	確率変数の変数変換、そして確率変数の標準化を学ぶ。	予習：教科書42ページから43ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第9回	連続型確率変数と確率密度関数、連続型確率変数の期待値と分散	連続型確率変数と確率と似て非なる確率密度関数について学び、その後、連続型確率変数の期待値と分散についても学ぶ。	予習：教科書62ページから63ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第10回	正規分布と標準正規分布	連続型確率変数の中で最も有名な確率分布である正規分布を学ぶ。正規分布の公式、正規分布の例、正規分布の性質とパーセント点を学ぶ。そして、標準正規分布も学ぶ。	予習：教科書66ページから67ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第11回	正規分布表を用いた確率計算 1	確率変数が標準正規分布に従うテーマの確率計算を学ぶ。	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第12回	正規分布表を用いた確率計算 2	確率変数が正規分布に従うテーマの確率計算を学ぶ。	予習：配布プリントに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第13回	中心極限定理と大数の法則	母集団の平均値と標本の平均値、中心極限定理と大数の法則を学ぶ。	予習：教科書70ページから73ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第14回	統計的推定（区間推定）	統計的推定（区間推定）の考え方を学ぶ	予習：教科書74ページから75ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第15回	統計的仮説検定 定期テスト	統計的仮説検定の考え方を学ぶ。	予習：教科書76ページから77ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分

学生へのフィードバック方法 復習で扱う演習問題（課題）について、毎回回収してチェックをして返却する。質問等がある場合は遠慮せず1625研究室（emailも可）まで訪問すること。

評価方法

1. 中間テストおよび定期テスト（期末テスト）
中間テストや定期テスト（期末テスト）は、各回で学習した内容の類題を出題する。中間テストで出題した内容は定期テストには出題しない。テスト中の教科書や参考書の持ち込みは不可とする。

2. 課題
毎回の復習で取り組む演習問題（課題）への取り組みを評価する。

* 中間テスト、定期テスト、課題は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間テスト	○			

定期テスト（期末テスト）	○			
課題	○			○
評価割合	中間テスト(30%)、期末テスト(30%)、課題(40点)			
使用教科書名 (ISBN番号)	統計学の図鑑 (ISBN:978-4-7741-7331-3)			
参考図書	なし			
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】人間社会と自然の多様性を、統計学的な知識をもって理解し、あるべき姿を的確に判断することができる。</p> <p>【技能・表現】学修で得た統計学的知識・技術をもって人間社会や自然の中にみえる課題を発見し、その課題を論理的に分析・統合・表現することで、他者との共感を創り出すことができる。</p>			
オフィスアワー	前期：水曜日 12：30～14：00 後期：水曜日 12：30～14：00			
学生へのメッセージ	統計学は、授業のみでは理解した気になるだけで身につかない。予習と復習を通して、自らの頭で理解したら、自らの手を動かしてデータを実際に処理することが大事である。授業は丁寧に説明したいと思うが、理解できない部分は、遠慮せずに気楽に1625研究室（emailも可）まで訪問すること。主体的に学んでほしい。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育	○	統計を学修するということは、情報リテラシーを向上させることにつながる。		
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	基礎統計学 b		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	5 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 新海 公昭	指定なし

ナンバリング	X13150M21
授業概要 (教育目的)	最初に基礎統計学aで学習した項目のうち、確率分布と確率計算、標本分布、中心極限定理を中心に概説する。その後、推測統計学の中で実際のデータ処理・分析で必要となる可能性が高い「統計的推定」および「統計的仮説検定」の基本的考え方について説明する。具体的には、点推定、区間推定、母平均の差の検定、母分散の検定、適合度の検定などである。関連して、統計ソフトを用いたデータ処理（調査の企画設計、調査の実施、統計を用いた評価）も積極的に扱う。

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	統計検定2級レベルの問題を解くことができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	学習で得た知識・技術・思考力を日常生活等の中でみえる課題に活かすことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	母集団の平均値と標本の平均値、中心極限定理と大数の法則	母集団の平均値と標本の平均値を確認した後、中心極限定理と大数の法則をシミュレーションを通して確認する。	予習：教科書70ページから73ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分
第2回	統計的推定1 (大きな標本における母平均の推定の考え方)	標本から母集団の性質を類推する統計的推定において、大きな標本における母平均の区間推定を学ぶ。	予習：教科書74ページから75ページに目を通しておくこと 復習：配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分、復習120分

第3回	母集団分布と母数(母平均, 母分散など), 標本分布と統計量(標本平均, 不偏分散など), 自由度	母数(母平均, 母分散), 統計量(標本平均, 標本の分散), 推定量, 検定統計量を確認し, さらに不偏分散と自由度を学ぶ。	予習: 教科書88ページから93ページに目を通しておくこと 復習: 配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分, 復習120分
第4回	統計的推定2(小さな標本における母平均の推定の考え方)	標本から母集団の性質を類推する統計的推定において, 小さな標本における母平均の区間推定を学ぶ。	予習: 教科書94ページから95ページに目を通しておくこと 復習: 配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分, 復習120分
第5回	統計的仮説検定1(帰無仮説と対立仮説, 有意水準)	統計的仮説検定の考え方を, 有意水準, 帰無仮説, 対立仮説等の用語の説明の後, 具体的な事例を通して学ぶ。	予習: 教科書76ページから77ページに目を通しておくこと 復習: 配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分, 復習120分
第6回	統計的仮説検定2(両側検定と片側検定, p値, 第一種の過誤と第二種の過誤)	具体的な事例を通して, 両側検定および片側検定を学ぶ。その際, 検定統計量が棄却域に入ることとp値が有意水準より小さいことが同値であることを, p値の定義から説明する。第一種の過誤と第二種の過誤についても説明する。	予習: 教科書78ページから85ページに目を通しておくこと 復習: 配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分, 復習120分
第7回	統計的仮説検定3(大きな標本および小さな標本における母平均の検定)	1つの母集団の母数に関する仮説検定の方法について, まずは母平均の検定を学ぶ。	予習: 教科書98ページから99ページに目を通しておくこと 復習: 配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分, 復習120分
第8回	統計的仮説検定4(大きな標本および小さな標本における母比率の検定)	1つの母集団の母数に関する仮説検定の方法について, 次は母比率の検定を学ぶ。	予習: 教科書100ページから101ページに目を通しておくこと 復習: 配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分, 復習120分
第9回	統計的仮説検定5(母分散の検定)	1つの母集団の母数に関する仮説検定の方法について, 最後に母分散の検定(母平均既知, 未知の場合)を学ぶ。	予習: 配布プリントに目を通しておくこと 復習: 配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分, 復習120分
第10回	統計的推定と統計的仮説検定を使ったデータ分析, 中間テスト	今まで行ってきた1つの母集団の母数に関する統計的推定および統計的仮説検定を活用した種々のデータ分析を行い, 結果を記述する。中間テストも行う。	予習: 第1回から第8回までに扱った事項および問題に取り組むこと	予習60分, 復習120分
第11回	統計的仮説検定6(母平均の差の検定)	2つの母集団の母数に関する仮説検定の方法について, まずは母平均の差の検定(分散既知, 分散未知であるが等分散, 分散未知で分散が等しいとは限らない場合)を学ぶ。	予習: 配布プリントに目を通しておくこと 復習: 配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分, 復習120分
第12回	統計的仮説検定7(母分散の比の検定)	2つの母集団の母数に関する仮説検定の方法について, 次に母分散の比の検定を学ぶ。	予習: 配布プリントに目を通しておくこと 復習: 配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分, 復習120分
第13回	統計的仮説検定8(母比率の差の検定)	2つの母集団の母数に関する仮説検定の方法について, 最後に母比率の差の検定を学ぶ。	予習: 配布プリントに目を通しておくこと 復習: 配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分, 復習120分
第14回	統計的仮説検定9(一元配置分散分析)	3つ以上の母集団の母数に関する仮説検定の方法について, 母平均の差の検定である一元配置分散分析を学ぶ。	予習: 教科書102ページから103ページに目を通しておくこと 復習: 配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分, 復習120分

第15回	統計的仮説検定10 (適合度検定, 独立性の検定)	適合度検定と独立性の検定を学ぶ。	予習: 配布プリントに目を通しておくこと 復習: 配布プリントの演習問題に取り組むこと	予習60分, 復習120分	
学生へのフィードバック方法		復習で扱う演習問題(課題)について, 毎回回収してチェックをして返却する。質問等がある場合は遠慮せず1625研究室(emailも可)まで訪問すること。			
評価方法		<p>1. 中間テストおよび定期テスト(期末テスト) 中間テストや定期テスト(期末テスト)は, 各回で学習した内容の類題を出題する。中間テストで出題した内容は定期テストには出題しない。テスト中の教科書や参考書の持ち込みは不可とする。</p> <p>2. 課題 毎回の復習で取り組む演習問題(課題)への取り組みを評価する。</p> <p>* 中間テスト, 定期テスト, 課題は, 下表に示す力を養うことを目的に実施している。</p>			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	中間テスト	○			
	定期テスト(期末テスト)	○			
	課題	○			○
評価割合		中間テスト(30%)、期末テスト(30%)、課題点(40%)			
使用教科書名(ISBN番号)		統計学の図鑑 (ISBN:978-4-7741-7331-3)			
参考図書		なし			
ディプロマポリシーとの関連		<p>【知識・理解】人間社会と自然の多様性を, 統計学的な知識をもって理解し, あるべき姿を的確に判断することができる。</p> <p>【技能・表現】学修で得た統計学的知識・技術をもって人間社会や自然の中に見える課題を発見し, その課題を論理的に分析・統合・表現することで, 他者との共感を創り出すことができる。</p>			
オフィスアワー		前期: 水曜日 12:30~14:00 後期: 水曜日 12:30~14:00			
学生へのメッセージ		統計学は, 授業のみでは理解した気になるだけで身につかない。予習と復習を通して, 自らの頭で理解したら, 自らの手を動かしてデータを実際に処理することが大事である。 授業は丁寧に説明したいと思うが, 理解できない部分は, 遠慮せずに気楽に1625研究室(emailも可)まで訪問すること。主体的に学んでほしい。			
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング					
情報リテラシー教育	○	統計を学修するということは, 情報リテラシーを向上させることにつながる。			
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	情報論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田中 康裕	指定なし

ナンバリング	X13160C21
授業概要(教育目的)	情報を処理する機械としてのコンピュータを対象にして、情報に関する基礎的なことを学ぶ。そして、情報の表現方法や問題を解決するためのモデル化について考える。また、コンピュータで情報を処理する上での考え方を学び、情報を処理する方法の基礎を理解する。それは明確な手続きであるアルゴリズムを理解することにつながり、アルゴリズムを評価することによって情報を処理する効率について考えることができる。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	コンピュータの観点から情報の基本的特性を十分説明することができるようになること
思考・判断の観点 (K)	数理的な観点から論理的に問題を解決する方法を考えることができるようになること
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

情報論

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	情報とは (ガイダンスを含む)	情報科学の概念から『情報とは何か?』を学ぶ。また、講義ガイダンスとして、Google Classroomを利用した講義資料の配付方法を説明する。	Google classroomの利用方法等を説明するので、スマートフォンなどを学内WIFIに接続可能なように設定しておくことが望ましい。	60
第2回	情報の定義	コンピュータでは、文字や画像、動画、音声など様々な情報を扱うことができる。この情報の定義と、コンピュータ上で様々な情報を取り扱うために必要となる2進数について学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。また、講義内で行った課題を中心に10進数と2進数の変換などの解き方を復習すること。	60
第3回	文字と画像の表現	文字や色をコンピュータで取り扱うための文字コードや色コードを例にして、コンピュータで情報を扱うためのコード化(デジタル化)について学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。また、講義内で行った課題を中心に	60

			に文字コードの割り当方法などを復習すること。	
第4回	グラフによるモデル化	数学的に現実世界の様々な問題を解決するための第一歩は、問題を単純化するモデル化である。モデル化の理論の1つであるグラフ理論について学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。また、講義内で行った課題を中心にグラフ理論によるモデル化の方法を復習すること。	60
第5回	数学的解決①：線形計画法と待ち行列	現実世界の問題を数学的に解決するために、様々な論理・技法が考え出されている。現実世界の問題を数式を使って解決する線形計画法と待ち行列について学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。講義内で行った課題を中心に線形計画法の連立方程式や待ち行列の計算式の解き方を復習すること。	60
第6回	数学的解決②：ゲーム理論と日程計画問題	現実世界の問題を数学的に解決するために、様々な論理・技法が考え出されている。現実世界の問題をグラフや図を使って解決するゲーム理論と日程計画問題について学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。また、講義内で行った課題を中心にゲーム理論の考え方や日程計画法の図の作り方を復習すること。	60
第7回	データの処理	データに処理を行うことにより、様々な意味づけや解釈を行うことができるようになる。このようなデータの処理や意味解釈の方法論を代表値や簡単な統計解析の事例を基に学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料で分からない用語を確認し予習をすること。また、講義内で行った課題を代表値の意味や相関分析の解釈の仕方などを復習すること。	60
第8回	オブジェクト指向によるシステムのモデル化	現実世界にある業務や遊び全体など、システムをモデリングするための手法を学ぶ	事前にGoogle classroomで配布した資料で分からない用語を確認し予習をすること。また、講義内で行った課題を中心に講義内で取り扱ったモデリング技法の特徴を復習すること。	60
第9回	アルゴリズム	コンピュータが問題を解決するための手順やプロセスをまとめた者がアルゴリズムである。アルゴリズムとは何かを学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料を確認し、アルゴリズムとは何かを予習しておくこと。また、講義内で行った課題を中心にアルゴリズムとは何かを復習すること。	60
第10回	アルゴリズムの評価	現実世界の問題を解くためのアルゴリズムは、1つだけではなく、考え方や解き方によって複数存在する。このようなアルゴリズムの評価の方法について学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。また、講義内で行った課題を中心にアルゴリズムの評価方法を復習すること。	60
第11回	アルゴリズムの基礎	問題を解決するためのアルゴリズムを作成するためには、基礎となるいくつかの技法・理論がある。この基礎となる理論・技法について学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。また、講義内で行った課題を中心にアルゴリズムの基礎理論とその理論に基づくアルゴリズムの特徴を復習すること。	60
第12回	基本ソフトウェアと応用ソフトウェア	コンピュータを動作させる基礎となる基本ソフトウェア（OS）や様々な役割を果たす応用ソフトウェア（アプリケーションソフト）について、学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。また、講義内で行った課題を中心に基本ソフト・応用ソフトの特徴や役割を復習すること。	60
第13回	情報伝達の仕組み	現代社会では、ネットワークを通じて、様々な情報のやり取りを行う。このネットワークを通じて情報をやり取りするための仕組みを、OSI基本参照モデルを通じて学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。また、講義内で行った課題を中心にOSI基本参照モデルの各階層の特徴や役割を復習すること。	60
第14回	情報処理の歴史	情報処理の歴史について、コンピュータの開発から発展にかけて学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。また、コンピュータ開発の歴史から発展の経緯について復習すること。	60
第15回	言語の定義と解釈、学習到達度のテスト	コンピュータが人間の言語を理解するために必要な、言語を定義する方法と言語を解釈するコンピュータの仕組みを学ぶ。またこの言語の定義と言語解釈の仕組みを基にして作られた様々なプログラミング言語についても講義したうえで、学習到達度を確認するための試験を行う。	事前にGoogle classroomで配布した資料で分からない用語を確認し予習をすること。また、講義で行った課題を中心にコンピュータが言語を解釈する仕組みやプログラミング言語の特徴を復習すること。授業全体の内容について復習すること。	60

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。講義資料をGoogle classroomを使って配布する。Google classroom及び学内WiFiを利用できるように環境を整えておくこと。																												
学生へのフィードバック方法	授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。																												
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・各回講義において、講義内容の理解度や知識の定着をはかるための課題を実施する。 ・定期試験は30点満点で出題し、講義で説明した知識の理解度、また、理論・手法に基づいて問題を解く思考力を測る。 ・定期試験は成績評価への割合は30%であるが、定期試験の成績が著しく不良の場合には、不可とする場合がある。 ・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。 																												
評価基準	<p>評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受講状況・学習態度</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>課題</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	受講状況・学習態度			○		課題	○	○			定期試験	○	○							
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																									
受講状況・学習態度			○																										
課題	○	○																											
定期試験	○	○																											
評価割合	受講状況・学習態度 (10%)、課題 (60%)、定期試験 (30%)などを総合的に評価する。																												
使用教科書名 (ISBN番号)	教科書は指定しない。Google classroomを使って、事前に講義資料を配付する。																												
参考図書	矢沢 久雄：情報はなぜビットなのか——知っておきたいコンピュータと情報処理の基礎知識，日経 BP 社 (2006)																												
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】情報科学に関する基礎的な概念や専門的知識を身につけている</p> <p>【思考・判断】情報科学の基本的な概念や論理に基づいて論理的判断・思考力を身につけている。</p> <p>【関心・意欲・態度】自ら取り組む学習態度を身につけている。</p>																												
オフィスアワー	非常勤のため、出校は水曜日1～3限のみ。これ以外の時間はメール (y.tanaka@kasei-gakuin.ac.jp) で質問等を受け付ける。																												
学生へのメッセージ	情報学の基本は論理性と手順にあります。一見難しく思えるかもしれませんが、じっくりと取り組んで下さい。また、「コンピュータ概論」の履修を希望する場合には、本講義を履修することが望まれる。																												
教育等の取組み状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>情報科学の観点から情報の基本的特性を十分説明することができ、かつ数理的な観点から論理的に問題を解決する方法を考えることができる能力を養う</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td>○</td> <td>情報学の基礎的な知識を基に、単にICT機器を使いこなすだけでなく、様々なメディアを利活用するための能力を養う</td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td>○</td> <td>情報科学に関する専門的な知識を基にICT機器を活用する能力を養う</td> </tr> </tbody> </table>					該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング	○	情報科学の観点から情報の基本的特性を十分説明することができ、かつ数理的な観点から論理的に問題を解決する方法を考えることができる能力を養う	情報リテラシー教育	○	情報学の基礎的な知識を基に、単にICT機器を使いこなすだけでなく、様々なメディアを利活用するための能力を養う	ICT活用	○	情報科学に関する専門的な知識を基にICT機器を活用する能力を養う										
	該当有無	概要																											
実務経験を活かした授業																													
アクティブ・ラーニング	○	情報科学の観点から情報の基本的特性を十分説明することができ、かつ数理的な観点から論理的に問題を解決する方法を考えることができる能力を養う																											
情報リテラシー教育	○	情報学の基礎的な知識を基に、単にICT機器を使いこなすだけでなく、様々なメディアを利活用するための能力を養う																											
ICT活用	○	情報科学に関する専門的な知識を基にICT機器を活用する能力を養う																											

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	コンピュータ概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田中 康裕	指定なし

ナンバリング	X13180M21
授業概要(教育目的)	コンピュータについてハードウェアの構成を学び、コンピュータの特徴を理解する。そして、その構成と特徴に基づいてコンピュータが計算する仕組みを考えていく。また、コンピュータを動かす基本的なソフトウェアであるオペレーティングシステムについても学ぶ。オペレーティングシステムが、ハードウェアを有効に使って複数の処理を行い、情報をファイルとして管理していることを理解する。
履修条件	パソコン室のコンピュータを利用できること。また、@kasei-gakuin.ac.jp Gmail など、大学が用意しているネットワークサービスを利用できること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	コンピュータや情報システムに関する基礎的な概念を十分に理解すること コンピュータの計算に関する基礎的な知識と考え方を理解すること
思考・判断の観点 (K)	数理的な思考に基づいて論理的に判断する能力を養うこと
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

コンピュータ概論

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	講義内容・講義の進め方等について説明を行う。また、Google classroomを利用した講義資料の配付方法等について説明を行う。	Google classroomの利用方法等を説明するので、スマートフォンなどを学内WiFiに接続可能なように設定しておくことが望ましい。	40
第2回	情報システムのイメージ	講義全体を通してテーマとなる『情報システム』とは何か?、また、情報システムが取り扱う『情報』とはどのような概念なのか、その概念や定義、目的などについて学習する	事前にGoogle classroomで配布した資料で情報の概念を予習をすること。また、講義内で行った課題を中心に情報や情報システムの概念を復習し理解すること。	60

第3回	情報を処理する仕組みとその改善	情報システムが実際にどのように情報を処理していくのか、システムの成り立ちから、情報処理の仕組み、システムの改善について学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料を確認しアーキテクチャやアルゴリズムなど専門用語を予習すること。また、講義内で行った課題を中心に情報処理の仕組みを復習し理解すること。	60
第4回	コンピュータシステムの機能と性能	情報システムを構成するコンピュータについて、コンピュータを構成する主要部品について、機能や役割を理解し、その性能指標を学ぶ。また、この知識に基づいて目的に適したコンピュータなどを選定できる知識を習得する。	事前にGoogle classroomで配布した資料を確認し、わからない専門用語を予習すること。また、講義内で行った課題を中心にコンピュータを構成する主要部品の役割を復習し理解すること。	60
第5回	コンピュータの導入とアーキテクチャ	情報システムを構成するために必要な機器を選定するために必要な知識や選定の手順を学ぶ。また、選定の基準となる機能や性能と密接に関わるアーキテクチャについて学ぶ	事前にGoogle classroomで配布した資料を確認し、アーキテクチャについて予習すること。また、講義内で行った課題を中心にコンピュータの機能とアーキテクチャの関係を復習し理解すること。	60
第6回	コンピュータの構成	人間が行う命令や指示をコンピュータが理解するためには、『機械語』と呼ばれる2進数で表現されるコンピュータ言語が必要になる。この機械語とは何か、また機械語の命令をコンピュータにどのように処理するのかをKUE-CHIP2を例に学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料を確認し、機械語の前提となる2進数について予習をすること。また、講義内で行った課題を中心に機械語によるコンピュータへの命令文の内容を復習し理解すること。	60
第7回	プログラムの内蔵方式	コンピュータは、データを記録する装置である「メモリ」にあらかじめプログラムを記録しておき、その記録されたプログラムを実行することで命令を処理することができる。このコンピュータにあらかじめ内蔵されたプログラムの実行手順を学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した第6回の講義資料を確認し、機械語の命令文の原則や処理手順を復習すること。また、講義内で行った課題を中心にジャンプ命令の内容を復習し理解すること。	60
第8回	実行順序を変える命令	コンピュータがより複雑な機械語の命令文を処理する手順を、実行順を変える命令文（ジャンプ命令）を例に学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した第6・7回の講義資料を確認し、機械語の命令文の原則や処理手順を復習すること。また、講義内で行った課題を中心にジャンプ命令の内容を復習し理解すること。	60
第9回	ループ処理	コンピュータがより複雑な機械語の命令文を処理する手順を、命令を繰り返す処理（ループ命令）を例に学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した第8回の講義資料を確認し、ループ命令について復習し理解しておくこと。また、講義内で行った課題を中心にループ命令の処理手順を復習し理解すること。	60
第10回	条件によって分岐先を変えるプログラム	ループ命令は延々と命令を繰り返し、終了することがない。そこで、ループ命令を終了させるために、条件を設定して、その条件によって命令を繰り返すか、終了するか分岐する方法が考案された。この条件によって分岐先を変えるプログラムについて学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した第8回の講義資料を確認し、ループ命令について復習し理解しておくこと。また、講義内で行った課題を中心にZero Flagを組み込んだジャンプ命令の処理手順を復習し理解すること。	60
第11回	オペレーティングシステムとプログラム	コンピュータを機能させるためには、オペレーティングシステム（OS）が必要となる。このOSの役割を理解し、現在のコンピュータがより複雑で膨大なプログラムをどのように処理しているのかを学ぶ。	事前にGoogle classroomで配布した資料を確認し、OSとは何かについて予習し、分からない専門用語などを調べておくこと。また、講義内で行った課題を中心にOSの役割を整理し理解すること。	60
第12回	メモリ管理とファイル管理	オペレーティングシステムの重要な役割であるメモリ管理とファイル管理について学ぶ	事前にGoogle classroomで配布した資料を確認し、OSの役割について予習し、分からない専門用語などを調べておくこと。また、講義内で行った課題を中心にメモリの断片化の発生メカニズムやファイル管理システムを復習し理解すること。	60
第13回	情報ネットワークの環	現代社会では、ネットワークを通じて、様々な情報のやり取りを行う。このネットワークを通じて情報をやり取	事前にGoogle classroomで配布した資料で予習をすること。ま	60

	境	りするための仕組みを、OSI基本参照モデルを通じて学ぶ。	た、講義内で行った課題を中心にOIS基本参照モデルの各階層の特徴や役割を復習すること。	
第14回	情報セキュリティ	情報システムを運用する上で情報セキュリティが大きな課題となっている。近年多発する情報の漏えいや情報システムのトラブル事例などを通して情報セキュリティの役割や重要性を学ぶ	事前にGoogle classroomで配布した資料を確認し、情報漏えいやシステムトラブルの事例を調べておくこと。また、講義内で行った課題を中心に情報システムのトラブルと対応策について復習すること。	60
第15回	コンピュータの歴史	コンピュータの発展の歴史について学ぶ	事前にGoogle classroomで配布した資料を確認し、分からない専門用語などについて事前に調べて予習をすること。また、講義内で行った課題を中心にコンピュータの発展の経緯を復習すること。	60

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。講義資料をGoogle classroomを使って配布する。Google classroom及び学内WiFiを利用できるように環境を整えておくこと。
--------	--

学生へのフィードバック方法	授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。
---------------	------------------------

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・各回講義において、講義内容の理解度や知識の定着をはかるための課題を実施する。 ・定期試験は 30点満点で出題し、講義で説明した知識の理解度、また、理論・手法に基づいて問題を解く思考力を測る。 ・定期試験は成績評価への割合は30%であるが、定期試験の成績が著しく不良の場合には、不可とする場合がある。 ・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
------	--

評価基準	
------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
受講状況・学習態度			○	
課題	○	○		
定期試験	○	○		

評価割合	受講状況・学習態度 (10%) , 課題 (60%) , 試験 (30%) などを総合的に評価する。
------	--

使用教科書名 (ISBN番号)	教科書は指定しない。Google classroomを使って、事前に講義資料を配付する。
-----------------	--

参考図書	神沼 靖子, 和田 勉, 富澤 眞樹 著, 神沼 靖子 監修: 情報システムのためのコンピュータと基本システム, 共立出版 (2005)
------	--

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 コンピュータや情報システムに関する基礎的な概念や専門的知識を身につけている。</p> <p>【思考・判断】 数理的思考に基づいて論理的判断・思考が身につけている。</p> <p>【関心・意欲・態度】 自ら取り組む学習態度を身につけている。</p>
---------------	--

オフィスアワー	非常勤のため、出校は火曜日1限のみ。これ以外の時間はメール (y.tanaka@kasei-gakuin.ac.jp) で質問等を受け付ける。
---------	---

学生へのメッセージ	コンピュータの基礎は計算にある。 なお、この講義では復習しないと理解が定着しない。
-----------	--

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	コンピュータの観点から情報の基本的特性を十分説明することができ、かつ数理的な観点から論理的に問題を解決する方法を考えることができるようにする
情報リテラシー教育	○	利用者の視点からだけでなく、開発者や運用者の視点から情報セキュリティについて理解し、自らメディアを利活用するだけでなく、他者に啓蒙できる能力を養う
ICT活用	○	コンピュータの構成する要素に関する基礎的な概念や役割を理解することで、より専門的にICTを利活用できる能力を養う

シラバス参照

講義名	コンピュータ演習 a (D)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 千葉 一博	指定なし

ナンバリング	X10050M12
授業概要(教育目的)	コンピュータにおける情報の取り扱いや身近な情報環境である学内ネットワークの利用から学び始める。そして、インターネットでの情報検索やコミュニケーションの基礎を学ぶ。また、コンピュータを利用して文書やスライドを作成する演習を通して、大学での学習や研究に活かせる情報リテラシーを育成することを目的とする。これらの基礎的な学びやリテラシーは現代の情報化社会では必須であり、コンピュータを利用した演習は社会への適応力を養うことにつながる。
履修条件	大学が発行する各種システムを利用するためのアカウントを持っていること
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、簡単な文書やプレゼンテーションを正確に作成できる。

学習計画

コンピュータ演習 a

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	情報処理センター利用ガイダンスを受け、パソコン室の利用方法を理解する。授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。	USB メモリを用意すること	45
第2回	タイピング入門	学修者が能動的にタイピングを練習する。演習結果を提出する。	タイピングを練習すること	45
第3回	メールの送受信・文章入力練習	学修者が能動的にメールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を練習する。演習結果を提出する。	メールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を復習すること	45
第4回	簡単な文書の作成	学修者が能動的に簡単な文書を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。	文書の作成について復習すること	45
第5回	ページと編	学修者がページに関することを理解し、能動的に文書の	ページや文書の編集について復	45

集	編集技術を身につける。演習結果を提出する。	習すること	
第6回	文書の作成練習	学修者が能動的に文書の作成練習をする。演習結果を提出する。	文書の作成について練習すること 45
第7回	文字飾り	学修者が能動的に文字飾りに関する技術を身につける。演習結果を提出する。	文字飾りについて復習すること 45
第8回	オブジェクトの挿入	学修者が能動的にオブジェクトの挿入に関する技術を身につける。演習結果を提出する。	オブジェクトについて復習すること 45
第9回	図形入力	学修者が能動的に図形入力に関する技術を身につける。演習結果を提出する。	図形について復習すること 45
第10回	表の作成	学修者が能動的に表を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。	表について練習すること 45
第11回	高度な表の作成・罫線処理	学修者が能動的に高度な表の作成技術や罫線処理の技術を身につける。演習結果を提出する。	表や罫線について復習すること 45
第12回	プレゼンテーション作成入門	学修者が能動的にプレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を練習する。演習結果を提出する。	プレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を復習すること 45
第13回	プレゼンテーションの編集	学修者が能動的にプレゼンテーションを編集する技術を身につける。演習結果を提出する。	プレゼンテーションの編集について復習すること 45
第14回	プレゼンテーションの作成練習	指定する事柄に関するプレゼンテーションの作成練習を学修者が能動的に行う。演習結果を提出する。	指定する事柄に関するプレゼンテーションの構成を考慮しておくこと 45
第15回	ファイル操作の確認と学習到達度のテスト	ファイル操作を確認したうえで、学習到達度を確認するための試験を行う。	授業全体の内容について復習すること 45
第16回			

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。
評価方法	・定期試験は 15 点満点で出題し、実技に基づく。また、文書の作成を主として正確な技術力を確認する。 ・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合	受講状況・学習態度 (5%)、提出物 (80%)、定期試験 (15%) などを総合的に評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【関心・意欲・態度】自ら取り組む学習態度を身につけている。 【技術・表現】文書やプレゼンテーションを正確に作成する技術力を身につけている。
オフィスアワー	金曜3限 1411研究室
学生へのメッセージ	文書やプレゼンテーションの作成に関する基礎を習得する。この授業では、聴くのみならず、手を動かす必要がある。内容の理解を深めるために演習を行う。パソコン室は、授業で使われていない時間に学習のために利用することができる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活か		

した授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、文書やプレゼンテーションの作成能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報のアウトプットに関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	コンピュータ演習 a		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田中 康裕	指定なし

ナンバリング	X10051C12
授業概要(教育目的)	コンピュータにおける情報の取り扱いや身近な情報環境である学内ネットワークの利用から学び始める。そして、インターネットでの情報検索やコミュニケーションの基礎を学ぶ。また、コンピュータを利用して文書やスライドを作成する演習を通して、大学での学習や研究に活かせる情報リテラシーを育成することを目的とする。これらの基礎的な学びやリテラシーは現代の情報化社会では必須であり、コンピュータを利用した演習は社会への適応力を養うことにつながる。
履修条件	大学が発行する各種システムを利用するためのアカウントを持っていること
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、簡単な文書やプレゼンテーションを正確に作成できる。

学習計画

コンピュータ演習a

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	情報処理センター利用ガイダンスを受け、パソコン室の利用方法を理解する。授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。	USB メモリを用意すること	45
第2回	タイピング入門	学修者が能動的にタイピングを練習する。演習結果を提出する。	タイピングを練習すること	45
第3回	メールの送受信・文章入力練習	学修者が能動的にメールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を練習する。演習結果を提出する。	メールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を復習すること	45
第4回	簡単な文書の作成	学修者が能動的に簡単な文書を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。	文書の作成について復習すること	45
第5回	ページと編	学修者がページに関することを理解し、能動的に文書の	ページや文書の編集について復	45

集	編集技術を身につける。演習結果を提出する。	習すること	
第6回	文書の作成練習	学修者が能動的に文書の作成練習をする。演習結果を提出する。	文書の作成について練習すること
第7回	文字飾り	学修者が能動的に文字飾りに関する技術を身につける。演習結果を提出する。	文字飾りについて復習すること
第8回	オブジェクトの挿入	学修者が能動的にオブジェクトの挿入に関する技術を身につける。演習結果を提出する。	オブジェクトについて復習すること
第9回	図形入力	学修者が能動的に図形入力に関する技術を身につける。演習結果を提出する。	図形について復習すること
第10回	表の作成	学修者が能動的に表を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。	表について練習すること
第11回	高度な表の作成・罫線処理	学修者が能動的に高度な表の作成技術や罫線処理の技術を身につける。演習結果を提出する。	表や罫線について復習すること
第12回	プレゼンテーション作成入門	学修者が能動的にプレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を練習する。演習結果を提出する。	プレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を復習すること
第13回	プレゼンテーションの編集	学修者が能動的にプレゼンテーションを編集する技術を身につける。演習結果を提出する。	プレゼンテーションの編集について復習すること
第14回	プレゼンテーションの作成練習	指定する事柄に関するプレゼンテーションの作成練習を学修者が能動的に行う。演習結果を提出する。	指定する事柄に関するプレゼンテーションの構成を考慮しておくこと
第15回	ファイル操作の確認と学習到達度のテスト	ファイル操作を確認したうえで、学習到達度を確認するための試験を行う。	授業全体の内容について復習すること

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。
--------	------------------------------------

学生へのフィードバック方法	授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。
---------------	------------------------

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験は 15 点満点で出題し、実技に基づく。また、文書の作成を主として正確な技術力を確認する。 受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
------	--

評価基準	
------	--

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合	受講状況・学習態度 (5%)、提出物 (80%)、定期試験 (15%) などを総合的に評価する。
------	--

使用教科書名 (ISBN番号)	特に教科書は使用しない。講義内で適宜プリントを配布。
-----------------	----------------------------

ディプロマポリシーとの関連	<ul style="list-style-type: none"> 【関心・意欲・態度】自ら取り組む学習態度を身につけている。 【技術・表現】文書やプレゼンテーションを正確に作成する技術力を身につけている。
---------------	--

オフィスアワー	非常勤のため、出校は水曜日1~3限のみ。これ以外の時間はメール (y. tanaka@kasei-gakuin. ac. jp) で質問等を受け付ける。
---------	--

学生へのメッセージ	文書やプレゼンテーションの作成に関する基礎を習得する。この授業では、講義を聴くのみならず、手を動かす必要がある。講義内容の理解を深めるために演習を行う。パソコン室は、授業で使われていない時間に学習のために利用することができるので各自空いた時間を利用して自学することが望まれる。
-----------	--

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラ	○	学修者が能動的に演習することによって、文書やプレゼンテーションの作成能力の育成を図る。

ーニング		
情報リテラシー教育	○	情報のアウトプットに関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	コンピュータ演習 a		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小野 由美子	指定なし

ナンバリング	X10050C12
授業概要(教育目的)	コンピュータにおける情報の取り扱いや身近な情報環境である学内ネットワークの利用から学び始める。そして、インターネットでの情報検索やコミュニケーションの基礎を学ぶ。また、コンピュータを利用して文書やスライドを作成する演習を通して、大学での学習や研究に活かせる情報リテラシーを育成することを目的とする。これらの基礎的な学びやリテラシーは現代の情報化社会では必須であり、コンピュータを利用した演習は社会への適応力を養うことにつながる。
履修条件	大学が発行する各種システムを利用するためのアカウントを持っていること。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、簡単な文書やプレゼンテーションを正確に作成できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	情報処理センター利用ガイダンスを受け、パソコン室の利用方法を理解する。授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。	USBメモリを用意すること。	45
第2回	タイピング入門	学修者が能動的にタイピングを練習する。演習結果を提出する。	タイピングを練習すること。	45
第3回	メールの送受信・文章入力練習	学修者が能動的にメールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を練習する。演習結果を提出する。	メールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を復習すること。	45
第4回	簡単な文書の作成	学修者が能動的に簡単な文書を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。	文書の作成について復習すること。	45
第5回	ページと編集	学修者がページに関することを理解し、能動的に文書の編集技術を身につける。演習結果を提出する。	ページや文書の編集について復習すること。	45

第6回	文書の作成練習	学修者が能動的に文書の作成練習をする。演習結果を提出する。	文書の作成について練習すること。	45
第7回	文字飾り	学修者が能動的に文字飾りに関する技術を身につける。演習結果を提出する。	文字飾りについて復習すること。	45
第8回	オブジェクトの挿入	学修者が能動的にオブジェクトの挿入に関する技術を身につける。演習結果を提出する。	オブジェクトについて復習すること。	45
第9回	図形入力	学修者が能動的に図形入力に関する技術を身につける。演習結果を提出する。	図形について復習すること。	45
第10回	表の作成	学修者が能動的に表を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。	表について練習すること。	45
第11回	高度な表の作成・罫線処理	学修者が能動的に高度な表の作成技術や罫線処理の技術を身につける。演習結果を提出する。	表や罫線について復習すること。	45
第12回	プレゼンテーション作成入門	学修者が能動的にプレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を練習する。演習結果を提出する。	プレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を復習すること。	45
第13回	プレゼンテーションの編集	学修者が能動的にプレゼンテーションを編集する技術を身につける。演習結果を提出する。	プレゼンテーションの編集について復習すること。	45
第14回	プレゼンテーションの作成練習	指定する事柄に関するプレゼンテーションの作成練習を学修者が能動的に行う。演習結果を提出する。	指定する事柄に関するプレゼンテーションの構成を考慮しておくこと。	45
第15回	ファイル操作の確認と学習到達度のテスト	ファイル操作を確認したうえで、学習到達度を確認するための試験を行う。	授業全体の内容について復習すること。	45

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。
--------	------------------------------------

学生へのフィードバック方法	授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。
---------------	------------------------

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験は15点満点で出題し、実技に基づく。また、文書の作成を主として正確な技術力を確認する。 受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
------	--

評価基準	
------	--

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合	受講状況・学習態度 (5%)、提出物 (80%)、定期試験 (15%)などを総合的に評価する。
------	---

使用教科書名 (ISBN番号)	なし
-----------------	----

参考図書	なし
------	----

ディプロマポリシーとの関連	<p>【関心・意欲・態度】自ら取り組む学習態度を身につけている。</p> <p>【技術・表現】文書やプレゼンテーションを正確に作成する技術力を身につけている。</p>
---------------	---

オフィスアワー	【前期】水曜日 1701ゼミ室 12:30~14:30
---------	-----------------------------

学生へのメッセージ	コンピュータを活用すると、生活の様々な場面で可能性が広がります。ぜひ、主体的な学習を心がけてください。
-----------	---

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、文書やプレゼンテーションの作成能力の育成を図る。

情報リテラシー教育	○	情報のアウトプットに関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	コンピュータ演習 a		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 原田 一義	指定なし

ナンバリング	X10052C12
授業概要(教育目的)	コンピュータにおける情報の取り扱いや身近な情報環境である学内ネットワークの利用から学び始める。そして、インターネットでの情報検索やコミュニケーションの基礎を学ぶ。また、コンピュータを利用して文書やスライドを作成する演習を通して、大学での学習や研究に活かせる情報リテラシーを育成することを目的とする。これらの基礎的な学びやリテラシーは現代の情報化社会では必須であり、コンピュータを利用した演習は社会への適応力を養うことにつながる。
履修条件	大学が発行する各種システムを利用するためのアカウントを持っていること
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、簡単な文書やプレゼンテーションを正確に作成できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	情報処理センター利用ガイダンスを受け、パソコン室の利用方法を理解する。授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。	USB メモリを用意すること	45
第2回	タイピング入門	学修者が能動的にタイピングを練習する。演習結果を提出する。	タイピングを練習すること	45
第3回	メールの送受信・文章入力練習	学修者が能動的にメールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を練習する。演習結果を提出する。	メールの送受信や文書作成ソフトウェアでの文章入力を復習すること	45
第4回	簡単な文書の作成	学修者が能動的に簡単な文書を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。	文書の作成について復習すること	45
第5回	ページと編集	学修者がページに関することを理解し、能動的に文書の編集技術を身につける。演習結果を提出する。	ページや文書の編集について復習すること	45

第6回	文書の作成練習	学修者が能動的に文書の作成練習をする。演習結果を提出する。	文書の作成について練習すること	45
第7回	文字飾り	学修者が能動的に文字飾りに関する技術を身につける。演習結果を提出する。	文字飾りについて復習すること	45
第8回	オブジェクトの挿入	学修者が能動的にオブジェクトの挿入に関する技術を身につける。演習結果を提出する。	オブジェクトについて復習すること	45
第9回	図形入力	学修者が能動的に図形入力に関する技術を身につける。演習結果を提出する。	図形について復習すること	45
第10回	表の作成	学修者が能動的に表を作成する技術を身につける。演習結果を提出する。	表について練習すること	45
第11回	高度な表の作成・罫線処理	学修者が能動的に高度な表の作成技術や罫線処理の技術を身につける。演習結果を提出する。	表や罫線について復習すること	45
第12回	プレゼンテーション作成入門	学修者が能動的にプレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を練習する。演習結果を提出する。	プレゼンテーション作成ソフトウェアでのスライド作成を復習すること	45
第13回	プレゼンテーションの編集	学修者が能動的にプレゼンテーションを編集する技術を身につける。演習結果を提出する。	プレゼンテーションの編集について復習すること	45
第14回	プレゼンテーションの作成練習	指定する事柄に関するプレゼンテーションの作成練習を学修者が能動的に行う。演習結果を提出する。	指定する事柄に関するプレゼンテーションの構成を考慮しておくこと	45
第15回	ファイル操作の確認と学習到達度のテスト	ファイル操作を確認したうえで、学習到達度を確認するための試験を行う。	授業全体の内容について復習すること	45

学習計画注記 ※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法 授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

- ・定期試験は 15 点満点で出題し、実技に基づく。また、文書の作成を主として正確な技術力を確認する。
- ・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合 受講状況・学習態度 (5%)、提出物 (80%)、定期試験 (15%) などを総合的に評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連 【関心・意欲・態度】自ら取り組む学習態度を身につけている。
【技術・表現】文書やプレゼンテーションを正確に作成する技術力を身につけている。

オフィスアワー 担当教員 (原田) は非常勤講師で、大学に在るのは授業のとき (前期: 金曜3~5限、後期: 金曜2~5限) だけなので、授業時間外の質問等にはメールで対応する。

学生へのメッセージ 文書やプレゼンテーションの作成に関する基礎を習得する。この授業では、聴くのみならず、手を動かす必要がある。内容の理解を深めるために演習を行う。パソコン室は、授業で使われていない時間に学習のために利用することができる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラ	○	学修者が能動的に演習することによって、文書やプレゼンテーションの作成能力の育成を図る。

ーニング		
情報リテラシー教育	○	情報のアウトプットに関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	コンピュータ演習 b (D)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	3 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 千葉 一博	指定なし

ナンバリング	X10060M12
授業概要(教育目的)	コンピュータを利用した表計算の演習を通して、情報リテラシーの中でも特に情報処理能力を育成することを目的とする。また、多様な図表やグラフの特性を理解し、情報やその処理結果を適切に視覚化できる技法の基礎を学ぶ。そして、コンピュータが計算する道具であることや情報を表現する道具であることの深い理解を促す。コンピュータ演習 a で身につけたリテラシーとあわせて、総合的な情報リテラシーを向上させる。
履修条件	大学が発行する各種システムのアカウントを使うことができること
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、表計算による情報処理が正確にできる。

学習計画

コンピュータ演習 b

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	データ入力の基本操作	授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。学修者が能動的に表計算ソフトウェアでのデータ入力の基本操作を練習する。演習結果を提出する。	表計算ソフトウェアでのデータ入力を復習すること	45
第2回	数式入力・関数挿入の基本操作	学修者が能動的に数式入力や関数挿入の基本操作を練習する。演習結果を提出する。	数式について復習すること	45
第3回	数学関数の説明・練習	学修者が数学関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	数学関数について復習すること	45
第4回	論理関数の説明・練習	学修者が論理関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	論理関数について復習すること	45
第5回	統計関数の	統計関数を理解する。学修者が能動的に演習した結果を	統計関数について復習すること	45

	説明	提出する。		
第6回	統計関数の練習	統計関数を計算に用いる技術を学習者が能動的に身につける。演習結果を提出する。	統計関数について練習すること	45
第7回	条件判断	学修者が条件判断について理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	条件判断について復習すること	45
第8回	グラフ作成の説明	グラフの作成方法を理解する。学修者が能動的に演習した結果を提出する。	グラフについて復習すること	45
第9回	グラフ作成の練習	グラフを作成する技術を学修者が能動的に身につける。演習結果を提出する。	グラフについて練習すること	45
第10回	データ操作（整列）の説明・練習	学修者が能動的にデータを整列する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。	整列について復習すること	45
第11回	データ操作（抽出）の説明・練習	学修者が能動的にデータを抽出する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。	抽出について復習すること	45
第12回	検索関数の説明・練習	学修者が検索関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	検索関数について復習すること	45
第13回	文字列関数の説明・練習	学修者が文字列関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	文字列関数について復習すること	45
第14回	文書への表の貼り付け	学修者が能動的に表計算ソフトウェアで表を作成し、それを文書に貼り付ける練習をする。演習結果を提出する。	表の貼り付けについて復習すること	45
第15回	文書へのグラフの貼り付け	学修者が能動的に表計算ソフトウェアでグラフを作成し、それを文書に貼り付ける練習をする。演習結果を提出する。	グラフの貼り付けについて復習すること	45
第16回				

学習計画注記 ※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法 授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法 ・定期試験は15点満点で出題し、実技に基づく。また、表計算を主として正確な技術力を確認する。
・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合 受講状況・学習態度 (5%)、提出物 (80%)、定期試験 (15%) などを総合的に評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連 【関心・意欲・態度】自ら取り組む学習態度を身につけている。
【技術・表現】表計算による情報処理が正確にできる技術力を身につけている。

オフィスアワー 金曜3限 1411研究室

学生へのメッセージ 表計算の基礎を習得する。この授業では、聴くのみならず、手を動かす必要がある。内容の理解を深めるために演習を行う。パソコン室は、授業で使われていない時間に学習のために利用することができる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、表計算能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報の分析に関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	コンピュータ演習 b		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	2 限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田中 康裕	指定なし

ナンバリング	X10061C12
授業概要(教育目的)	コンピュータを利用した表計算の演習を通して、情報リテラシーの中でも特に情報処理能力を育成することを目的とする。また、多様な図表やグラフの特性を理解し、情報やその処理結果を適切に視覚化できる技法の基礎を学ぶ。そして、コンピュータが計算する道具であることや情報を表現する道具であることの深い理解を促す。コンピュータ演習 a で身につけたリテラシーとあわせて、総合的な情報リテラシーを向上させる。
履修条件	大学が発行する各種システムのアカウントを使うことができること
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、表計算による情報処理が正確にできる。

学習計画

コンピュータ演習b

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	データ入力の基本操作	授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。学修者が能動的に表計算ソフトウェアでのデータ入力の基本操作を練習する。演習結果を提出する。	表計算ソフトウェアでのデータ入力を復習すること	45
第2回	2. 数式入力・関数挿入の基本操作	学修者が能動的に数式入力や関数挿入の基本操作を練習する。演習結果を提出する。	数式について復習すること	45
第3回	数学関数の説明・練習	学修者が数学関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	数学関数について復習すること	45
第4回	論理関数の説明・練習	学修者が論理関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	論理関数について復習すること	45

第5回	統計関数の説明	統計関数を理解する。学習者が能動的に演習した結果を提出する。	統計関数について復習すること	45
第6回	統計関数の練習	統計関数を計算に用いる技術を学習者が能動的に身につける。演習結果を提出する。	統計関数について練習すること	45
第7回	条件判断	学修者が条件判断について理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	条件判断について復習すること	45
第8回	グラフ作成の説明	グラフの作成方法を理解する。学修者が能動的に演習した結果を提出する。	グラフについて復習すること	45
第9回	グラフ作成の練習	グラフを作成する技術を学修者が能動的に身につける。演習結果を提出する。	グラフについて練習すること	45
第10回	データ操作（整列）の説明・練習	学修者が能動的にデータを整列する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。	整列について復習すること	45
第11回	データ操作（抽出）の説明・練習	学修者が能動的にデータを抽出する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。	抽出について復習すること	45
第12回	検索関数の説明・練習	学修者が検索関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	検索関数について復習すること	45
第13回	文字列関数の説明・練習	学修者が文字列関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	文字列関数について復習すること	45
第14回	文書への表の貼り付け	学修者が能動的に表計算ソフトウェアで表を作成し、それを文書に貼り付ける練習をする。演習結果を提出する。	表の貼り付けについて復習すること	45
第15回	文書へのグラフの貼り付け	学修者が能動的に表計算ソフトウェアでグラフを作成し、それを文書に貼り付ける練習をする。演習結果を提出する。	グラフの貼り付けについて復習すること	45

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法 授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法 ・定期試験は15点満点で出題し、実技に基づく。また、表計算を主として正確な技術力を確認する。
・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合 受講状況・学習態度 (5%)、提出物 (80%)、定期試験 (15%) などを総合的に評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) 特に指定しない。適宜講義内でプリントを配布する。

ディプロマポリシーとの関連 【関心・意欲・態度】自ら取り組む学習態度を身につけている。
【技術・表現】表計算による情報処理が正確にできる技術力を身につけている。

オフィスアワー 非常勤のため、出校は水曜日1~3限のみ。これ以外の時間はメール (y.tanaka@kasei-gakuin.ac.jp) で質問等を受け付ける。

学生へのメッセージ 表計算の基礎を習得する。この授業では、講義を聴くのみならず、手を動かす必要がある。講義内容の理解を深めるために演習を行う。パソコン室は、授業で使われていない時間に学習のために利用することができるので自学することが望まれる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラ	○	学修者が能動的に演習することによって、表計算能力の育成を図る。

ーニング		
情報リテラシー教育		情報の分析に関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	コンピュータ演習 b		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	4 限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小野 由美子	指定なし

ナンバリング	X10060C12
授業概要(教育目的)	コンピュータを利用した表計算の演習を通して、情報リテラシーの中でも特に情報処理能力を育成することを目的とする。また、多様な図表やグラフの特性を理解し、情報やその処理結果を適切に視覚化できる技法の基礎を学ぶ。そして、コンピュータが計算する道具であることや情報を表現する道具であることの深い理解を促す。コンピュータ演習 a で身につけたリテラシーとあわせて、総合的な情報リテラシーを向上させる。
履修条件	大学が発行する各種システムのアカウントを使うことができること。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、表計算による情報処理が正確にできる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	データ入力の基本操作	授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。学修者が能動的に表計算ソフトウェアでのデータ入力の基本操作を練習する。演習結果を提出する。	表計算ソフトウェアでのデータ入力を復習すること。	45
第2回	数式入力・関数挿入の基本操作	学修者が能動的に数式入力や関数挿入の基本操作を練習する。演習結果を提出する。	数式について復習すること。	45
第3回	数学関数の説明・練習	学修者が数学関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	数学関数について復習すること。	45
第4回	統計関数の説明	統計関数を理解する。学習者が能動的に演習した結果を提出する。	統計関数について復習すること。	45
第5回	統計関数の練習	統計関数を計算に用いる技術を学習者が能動的に身につける。演習結果を提出する。	統計関数について練習すること。	45

第6回	条件判断	学修者が条件判断について理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	条件判断について復習すること。	45
第7回	条件判断	学修者が条件判断について理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	条件判断について復習すること。	45
第8回	グラフ作成の説明	グラフの作成方法を理解する。学修者が能動的に演習した結果を提出する。	グラフについて復習すること。	45
第9回	グラフ作成の練習	グラフを作成する技術を学修者が能動的に身につける。演習結果を提出する。	グラフについて練習すること。	45
第10回	データ操作（整列）の説明・練習	学修者が能動的にデータを整列する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。	整列について復習すること。	45
第11回	データ操作（抽出）の説明・練習	学修者が能動的にデータを抽出する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。	抽出について復習すること。	45
第12回	検索関数の説明・練習	学修者が検索関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	検索関数について復習すること。	45
第13回	文字列関数の説明・練習	学修者が文字列関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	文字列関数について復習すること。	45
第14回	文書への表の貼り付け	学修者が能動的に表計算ソフトウェアで表を作成し、それを文書に貼り付ける練習をする。演習結果を提出する。	表の貼り付けについて復習すること。	45
第15回	文書へのグラフの貼り付け	学修者が能動的に表計算ソフトウェアでグラフを作成し、それを文書に貼り付ける練習をする。演習結果を提出する。	グラフの貼り付けについて復習すること。	45

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法 授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法 ・定期試験は15点満点で出題し、実技に基づく。また、表計算を主として正確な技術力を確認する。
・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合 受講状況・学習態度 (5%)、提出物 (80%)、定期試験 (15%) などを総合的に評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連 【関心・意欲・態度】自ら取り組む学習態度を身につけている。
【技術・表現】表計算による情報処理が正確にできる技術力を身につけている。

オフィスアワー 【後期】水曜日 1701ゼミ室 10:40~12:50

学生へのメッセージ コンピュータを活用すると、生活の様々な場面で可能性が広がります。ぜひ、主体的な学習を心がけてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、表計算能力の育成を図る。
情報リテラシー	○	情報の分析に関する利活用能力を養成する。

教育	
ICT活用	

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	コンピュータ演習 b		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	4 限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 原田 一義	指定なし

ナンバリング	X10062C12
授業概要(教育目的)	コンピュータを利用した表計算の演習を通して、情報リテラシーの中でも特に情報処理能力を育成することを目的とする。また、多様な図表やグラフの特性を理解し、情報やその処理結果を適切に視覚化できる技法の基礎を学ぶ。そして、コンピュータが計算する道具であることや情報を表現する道具であることの深い理解を促す。コンピュータ演習 a で身につけたリテラシーとあわせて、総合的な情報リテラシーを向上させる。
履修条件	大学が発行する各種システムのアカウントを使うことができること
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、表計算による情報処理が正確にできる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	データ入力の基本操作	授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。学修者が能動的に表計算ソフトウェアでのデータ入力の基本操作を練習する。演習結果を提出する。	表計算ソフトウェアでのデータ入力を復習すること	45
第2回	数式入力・関数挿入の基本操作	学修者が能動的に数式入力や関数挿入の基本操作を練習する。演習結果を提出する。	数式について復習すること	45
第3回	数学関数の説明・練習	学修者が数学関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	数学関数について復習すること	45
第4回	論理関数の説明・練習	学修者が論理関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	論理関数について復習すること	45
第5回	統計関数の説明	統計関数を理解する。学習者が能動的に演習した結果を提出する。	統計関数について復習すること	45

第6回	統計関数の練習	統計関数を計算に用いる技術を学習者が能動的に身につける。演習結果を提出する。	統計関数について練習すること	45
第7回	条件判断	学修者が条件判断について理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	条件判断について復習すること	45
第8回	グラフ作成の説明	グラフの作成方法を理解する。学修者が能動的に演習した結果を提出する。	グラフについて復習すること	45
第9回	グラフ作成の練習	グラフを作成する技術を学修者が能動的に身につける。演習結果を提出する。	グラフについて練習すること	45
第10回	データ操作（整列）の説明・練習	学修者が能動的にデータを整列する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。	整列について復習すること	45
第11回	データ操作（抽出）の説明・練習	学修者が能動的にデータを抽出する操作を理解して練習する。演習結果を提出する。	抽出について復習すること	45
第12回	検索関数の説明・練習	学修者が検索関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	検索関数について復習すること	45
第13回	文字列関数の説明・練習	学修者が文字列関数を理解し、それを計算に用いる技術を能動的に身につける。演習結果を提出する。	文字列関数について復習すること	45
第14回	文書への表の貼り付け	学修者が能動的に表計算ソフトウェアで表を作成し、それを文書に貼り付ける練習をする。演習結果を提出する。	表の貼り付けについて復習すること	45
第15回	文書へのグラフの貼り付け	学修者が能動的に表計算ソフトウェアでグラフを作成し、それを文書に貼り付ける練習をする。演習結果を提出する。	グラフの貼り付けについて復習すること	45

学習計画注記 ※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法 授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

- ・定期試験は 15 点満点で出題し、実技に基づく。また、表計算を主として正確な技術力を確認する。
- ・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合 受講状況・学習態度 (5%)、提出物 (80%)、定期試験 (15%) などを総合的に評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】自ら取り組む学習態度を身につけている。
【技術・表現】表計算による情報処理が正確にできる技術力を身につけている。

オフィスアワー 担当教員（原田）は非常勤講師で、大学にいるのは授業のとき（前期：金曜3～5限、後期：金曜2～5限）だけなので、授業時間外の質問等にはメールで対応する。

学生へのメッセージ 表計算の基礎を習得する。この授業では、聴くのみならず、手を動かす必要がある。内容の理解を深めるために演習を行う。パソコン室は、授業で使われていない時間に学習のために利用することができる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、表計算能力の育成を図る。

情報リテラシー教育	○	情報の分析に関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	人間の体		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金子 和正	指定なし

ナンバリング	X13200M21
授業概要(教育目的)	メディアによる体の情報は溢れる毎日である。正しい情報を得るためにも、自身の体についてしっかりと知識をもっている必要がある。人の体の基本的なことから、運動や環境に左右される人の生理学的値についても修得していく。人の体を形態、機能、食事(栄養)、運動、加齢といったキーワードから考えていく。視覚教材を十分に利用し体の理解を深める事に重点を置く。自身の体に関心を持つ事によって疾病への予防、対策について考えられるようにしていく。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	人間の体について構造や機能について理解している。体の名称について理解している。
思考・判断の観点 (K)	簡単な救急処置ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	体について運動や栄養の観点から考えられる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	なぜ人の体について学ぶことは重要か	体について関心を持つことは、食事内容や健康、運動についても知識を得ることになる。健康な体作りの実践をしていくための基本となる正しい知識を理解する。	体について関心を持ち、健康や疾病について考える習慣を身につける大切さについて理解しておく。	120分
第2回	形態と機能	人間の体について表面から見た形態と、体の中の様々な骨や筋肉、神経、血管、臓器の働きについて理解する。	年齢に伴って体の形態や機能は変化していく。表面から見た体、体の中の働きについて理解しておく。	120分
第3回	動きを決定する脳	脳は人体の機能や生命活動をつかさどるだけでなく、精神活動も行っていることを理解する。	人間の生活に欠かせない器官である脳について理解しておく。	120分
第4回	骨格と神経系	体を構成する骨と筋肉について運動と関連付けて理解する。	筋肉と関節、骨と筋肉について運動とどのように関連しているのか、筋肉の収縮の種類についても理解しておくこと。	120分

第5回	運動と筋肉、神経（反射）	無意識に手や脚を動かす運動と、考えて動いていく運動について初心者と熟練者の観点から理解していく。	反射的な運動と、随意的な運動は何によって決められてくるのか理解しておくこと。	120分
第6回	病気と健康の間	病気でない時は健康なのか、病気と健康について平均寿命や健康寿命の観点から理解する。	スポーツ選手の健康観、病気をしている人の健康観、年齢に伴う健康観等、様々な側面から病気と健康について理解しておくこと。	120分
第7回	栄養と運動とダイエット	適切なエネルギーの摂取と消費について、運動と栄養から理解する。体重が健康管理の指標となることを理解する。	エネルギーの摂取は消費と較べて時間的に容易である。運動に加えて栄養の正しい摂取はダイエットの効果を高めることを理解しておく。	120分
第8回	呼吸・循環器系	心臓の働きと心筋について理解する。肺循環と体循環について心拍数や拍出量と一緒に理解する。	心臓を動かす筋肉、心臓を動かす血管について理解しておく。心拍数が体の指標となることを理解しておく。	120分
第9回	運動と呼吸・循環系の変化	運動を始めると呼吸が苦しくなり、20～30分経過すると少しずつ楽になってくる。必要な酸素と呼吸で取り入れられる酸素の量が調整できた証拠である。呼吸・循環機能が運動により発達していく過程について理解する。	運動は呼吸・循環機能を高める最も良い方法であることを理解しておく。	120分
第10回	人の側性	人によって利側は異なってくる。自転車の乗る側から腕組み、脚組み、ボールを蹴る脚と様々な利側がある。スポーツゲームとの関連から側性（利側）について理解する。	側性を無視することは難しい。助走の第一歩や最初の回転方向は、その後の運動成果に影響してくる。利側と人間の体の形態・機能との関係を理解しておく。	120分
第11回	人の体の数値とその変化	人間の体の数値は体重、身長、血圧や心拍、呼吸数・体温など容易に計測できるものから血中内のヘモグロビン量、白血球数など一般には計測できない数値がある。容易に計れる数値から体の何が分かってくるのか理解する。	体の状態を表している数値にはどのようなものがあるのか、それは何の指標となっているのか理解しておく。	120分
第12回	運動による人の体の変化	運動を続けて3ヶ月程すると外見的（形態的）に変化が見られる。機能的にも心拍数が低くなったり、筋量も増し脂肪量が減ってくる。体の変化はどのような過程をたどるのかについて、筋肉や肺のトレーニング効果から理解していく。	運動の効果は数ヶ月を経てから現れてくる。体の中でどのような変化が起きてくるのか理解しておく。	120分
第13回	加齢による人の体の変化	加齢により体には様々な変化が起きてくる。病気や怪我も加齢に伴い多く生じてくる。体の中の変化を中心に加齢と病気について理解する。	加齢による形態的变化と体の中の変化について、筋肉や骨、神経系、心臓、肺の	120分
第14回	体の数値の変化（疾病と予防）	加齢に伴い体の持つ数値は変化してくる。数値の変化から体はどのような方向に向かうのかを理解する。	運動による数値の変化、加齢による数値の変化、疾病による数値の変化等、体の持つ数値は人の健康の指標として重要であることを理解しておく。	120分
第15回	健康な体を維持するために	寿命が長く健康でいられることは誰もが望むことである。長生きイコール健康寿命も長いとは限らない。健康で長生きをするための体について理解する。	平均寿命が長くなっていく中で、他者に頼って身の回りの世話をしてもらおう老人も増えている。健康で長生きをしていくためのヒントについて理解しておく。	120分

学習計画注記 授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 授業毎の小テストの回答を示すので、自分の解答と比べる。体の部位や代表的な筋肉、骨、内臓器官の名称は小テストで数回解答を求めると覚えた名称を確認できる。

評価方法

- ・ 毎回、授業の終了時に小テストを実施する。2回の課題の提出をする。
- ・ 小テストは5点満点とし5点×15回で75点、課題は15点満点×2回30点とし、この2つの総合評価とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○		○	
課題	○	○	○	

評価割合	小テスト5点×15回で75点、課題15点満点×2回で30点。この2つの総合評価とする。
使用教科書名 (ISBN番号)	授業時に適宜指示する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】体の器官や形態的名称を理解している。 【思考・判断】簡単な救急処置ができる。体の変化について、様々な角度から検討できる。 【関心・意欲・態度】体について関心を持っている。
オフィスアワー	火曜日4限目
学生へのメッセージ	日常生活の中で、体について関心を持って下さい。様々にあふれる情報の中で何が正しい情報なのかを判断できるように、いろいろな角度から体の情報を調べる習慣を身につけて欲しい。子供から老人までの体の成長、老化そして死というものについて科学的な知識をもって考える機会をもって欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	複雑な人体について段階的に名称や働きを理解していく。解剖図を観ながら積極的に知識を得ていく。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	DVD、インターネットを活用し体の最新の画像や動画を視覚的に理解する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ダイエットとフィットネス		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金子 和正	指定なし

ナンバリング	X13210M21
授業概要(教育目的)	ダイエットは女子大生にとって関心の事柄の一つです。ダイエットをしてはリバウンドをしてという繰り返しもあるでしょう。正しいダイエットというものはありませんが、体に無理なダイエットはいつしか体の疲弊を招く恐ろしい現象につながっていきます。食事療法と運動療法はダイエットの両輪ですが、運動療法を中心に、具体的なダイエットの理論と実践のための知識を学びます。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	ダイエットの方法について正しい知識を理解している。
思考・判断の観点 (K)	様々なダイエットについての効果や科学的論拠について説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	ダイエットに積極的に取り組もうとする。
技術・表現の観点 (A)	他者にダイエットの方法と効果を伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ダイエットとフィットネスの関係	食事のコントロールに偏りがちなダイエットについて、運動との関連から理解する。	ダイエットは、運動と食事コントロールと休息の3つの基本から成ることを理解しておく。	120分
第2回	肥満	肥満の定義について、いくつかの計算方法から理解する。肥満を続けることによる体への影響について理解する。	肥満の考え方について、男女の差、スポーツ種目による差、年齢による差といった色々な側面から理解しておくこと。	120分
第3回	食欲	食欲の生理学について食事内容の変化、食品の変化、生活スタイルの変化等の観点から理解する。	体のエネルギー消費と食欲、食量について理解しておくこと。	120分
第4回	エネルギーと食事	摂取エネルギーと消費エネルギーの関係から食事について理解する。	余剰エネルギーが脂肪として体に貯蓄され、やがて肥満へと繋がって行くことを理解しておくこと。	120分

第5回	生活習慣病	食事量の取り過ぎ、運動不足の繰り返しの日常生活から生活習慣病にいたる体の変化、数値の変化について理解する。年齢に伴う生活スタイルの変化についても理解する	運動が日常生活から少なくなっていく一方で、食事内容が豊になっていく現象を理解しておく。運動時間の確保が何故難しいのかについて理解しておく。	120分
第6回	運動とエネルギー代謝	激しい運動をすることがエネルギーを多く使うことでは無いことを理解する。運動の様々な種類とエネルギー消費量について理解する。	運動時間や強度・頻度について、エネルギー消費量との関係から理解しておくこと。	120分
第7回	食事療法と運動療法	ダイエットは食事療法と運動療法の2つの側面から実施することが望ましいことを理解する。極端な食事療法、疲労が取れない運動処方だけでは病気に繋がることを理解する。	運動、食事、休息を取り入れたダイエットの方法を理解しておく。	120分
第8回	有酸素運動とエネルギー消費	短時間の強度の高い無酸素運動は、長い時間（30分以上）をかける有酸素運動に比べダイエットの効果は少ないことを理解する。有酸素運動の指標について理解する。	有酸素運動を習慣化し、エネルギーの消費に伴った食事を取ることがダイエットへの近道であることを理解しておくこと。	120分
第9回	運動の原則	ダイエットのための運動を始める前に、運動の基本的な原則を理解する。年齢に対応した運動の種類、運動量、運動時間について理解する。	ダイエット効果を急ぐために無理な運動を行うことは避けなくてはならない。運動の基本や原則に基づいて運動療法を実施することを理解しておく。	120分
第10回	運動と栄養と休息	適切な運動、食事、休息について理解する。ダイエットには相応の時間がかかること、生活の中に運動と食事、休息のバランスを組み入れることを理解する。	短い時間でのダイエットはリバウンドや、体への負担をとともなうこと、生活習慣を規則正しくすることを理解しておく。	120分
第11回	疲労について	運動と疲労の関係について理解する。慢性疲労と急性疲労について理解し、適切な疲労を生じる運動を考える。	疲労の種類を理解し、慢性疲労の恐ろしさや過度の運動による病気や怪我について理解しておく。	120分
第12回	正しいダイエットの方法	様々なダイエット法について概観し、体に影響の少ない適正なダイエットについて理解する。	メディアに溢れているダイエット法の多くが継続しない理由や、極端なダイエット法の影響について理解しておく。	120分
第13回	体の評価	年齢とともに変化する人間の形態的な数値、機能的な数値について学び、運動や食事による数値のコントロールについて理解する。	エネルギーの摂取と消費によって変わる人間の機能的数値、形態的な数値について理解しておく。	120分
第14回	ダイエット計画	ダイエット計画を立てる時の期間、方法、目標の設定について、年齢や性別、職業といった観点から理解する。	運動量や食事量は年齢、性別、職業によって変わることを理解しておく。	120分
第15回	ダイエットの評価	ダイエットの評価は体重のみでなく、体の生理学的な指標も測定する事を理解する。	体重の変化だけを測定すると、食事を軽んじる傾向が現れる。運動前と後の血圧の測定、心拍数の測定はダイエットの効果を科学的に捉える数値であることを理解しておく。	120分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	毎日の体重測定や食事内容、運動量の記載によって体重の変化を確認できる。記録された表から生活習慣を確認できる。
評価方法	毎回、授業の終了時に小テストを実施する。2回の課題の提出をする。小テストは5点満点とし5点×15回で75点、課題は15点満点×2回30点とし、この2つの総合評価とする。
評価基準	
評価基準	
評価割合	小テスト5点×15回で75点、課題15点満点×2回で30点。この2つの総合評価とする。
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】ダイエットについて正しい知識を理解している。 【思考・判断】食事に関して、ダイエットや運動との関連から、正しい食事メニューを計画できる。 【関心・意欲・態度】溢れる食品群から健康作りのための食品を選び、正しい食事内容を実践できる。	
オフィスアワー	火曜日4時限目	
学生へのメッセージ	ダイエットのちまたに溢れる情報に左右されることなく、正しい知識と実践力を身につけ、それを実際に経験してほしい。運動と食事がダイエットの基本である事を十分に理解してほしい。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	理解したダイエット法を自ら実践し、正しいダイエットを経験していく。
情報リテラシー教育	○	多くのダイエット法から正しいダイエット法について、科学的根拠を持って説明出来る。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	レクリエーション概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大嶋 徹	指定なし

ナンバリング	X13220M21
授業概要(教育目的)	日本のレクリエーション活動小史を把握し日本人の「レクリエーション」観を振り返る。また、現行のレクリエーション活動援助や組織、その他の関連領域を把握すること。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	日本のレクリエーションについてその歴史を振り返り現状を把握すること。
思考・判断の観点 (K)	レクリエーションの実践について振り返り自分の活動の価値を認めること。
関心・意欲・態度の観点 (V)	在住最寄りのレクリエーション協会を調査することによって自身の生活圏を確認すること。
技術・表現の観点 (A)	レクリエーションの実践で培われたものを自覚し発表すること。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	遊びとレクリエーション	グリム童話第1集「豚の屠殺ごっこ」遊びについて紹介し、遊びとレクリエーションの違いを学ぶこと。	ごっこ遊びについて調査すること。	45
第2回	厚生思想(保養と厚生)の理念	レクリエーションはわが国においてははじめは「保養」や「厚生」と翻訳されたこと。わが国のレクリエーションの規定を振り返ること。	レクリエーションについてネット検索しまとめること。	45
第3回	色々な場面のレクリエーション1(2004年屈斜路湖カヌー転覆事故について)	2004年屈斜路湖カヌー転覆事故についてその原因や「低体温症」の怖さを学ぶこと。	レクリエーションの事故例を調査すること。	45
第4回	いろいろな場面のレクリエーション2(福岡大学ワンダ)	福岡大学ワンダーフォーゲル部熊襲撃事件について動画を見て感想を述べること。	福岡大学ワンダーフォーゲル部熊襲撃事件を調査すること。	45

	一フォーゲル部襲撃事件)			
第5回	これからのレクリエーション運動（三世代のレクリエーション）	1. レジャーのこと 2. チェクセントミハイのフロー理論 3. ライフスタイルマネジメント（クリストファー・R・エジントン）	レジャーとは何かを調査すること。	45
第6回	レクリエーション支援の理論1（福祉施設の現状・静岡・八王子・相模原3都市の比較）	2005年の3都市の調査について、レクリエーションの動向を把握すること。	福祉施設でどのようなレクリエーションが行われているか調査すること。	45
第7回	レクリエーション支援の理論2（地域の現状）	日本レクリエーション協会について解説し、各個人在住の最寄りのレクリエーション協会をレポートすること。	最寄りのレクリエーション協会を調査しレポートすること。	45
第8回	レクリエーション支援の目標と理念（生きがいとレクリエーション）	神谷恵美子の生きがい論からレクリエーションにおける生きがいをとらえ直すこと。	神谷恵美子について調査すること。	45
第9回	レクリエーション支援者の役割	自立支援の基本を学び、さまざまなレクリエーション支援の現場を紹介すること。	レクリエーション支援の現場をひとつあげ調査すること。	45
第10回	レクリエーションクラブを育て運営する	レクリエーションクラブの組織と運営についてその実際を紹介する。	レクリエーションクラブについてひとつあげ調査すること。	45
第11回	市町村レクリエーション協会の役割と運営（横浜市レクリエーションの事例）	横浜市レクリエーションの事例を紹介する。	在住の最寄りのレクリエーション協会のレポートを確認すること。	45
第12回	レクリエーションを支える理念と人権宣言	ジュネーブ子ども宣言や世界人権宣言を紹介する。	ジュネーブ子ども宣言について調査すること。	45
第13回	趣味としてのレクリエーション（貝原益軒の楽の思想）	貝原益軒「養生訓」における「楽」の思想を確認し、現代のわれわれの考え方を問い直すこと。	貝原益軒について調査すること。	45
第14回	レクリエーション事業を評価する	評価はなぜ必要か。その評価方法について解説する。	表方法について調査すること。	45
第15回	レクリエーション事業と安全・保険について	レクリエーションの事故判例をもとに責任体制を確認すること。	レクリエーションの事故判例をひとつあげ調査すること。	45
第16回	テスト	1～15回の授業の要点を整理し獲得した知識を確認すること。	授業内容を振り返りまとめること。	180

学習計画注記	これまでに経験のあるレクリエーション活動を振り返りメモしておくこと。
学生へのフィードバック方法	授業中の質疑応答
評価方法	平常点50%、テスト50%で判定する。 （平常点はプログラムの課題達成状況・レポート提出・質問の受け答え・討論への参加・学習意欲等で判断する。）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
定期試験	○			

評価割合	平常点50%、テスト50%で判定する。 (平常点はプログラムの課題達成状況・レポート提出・質問の受け答え・討論への参加・学習意欲等で判断する。)
使用教科書名 (ISBN番号)	授業中に配布するプリントを参照すること。
参考図書	授業中に配布するプリントを参照すること。
ディプロマポリシーとの関連	生活のなかのレクリエーションを見直すこと。
オフィスアワー	金曜4限
学生へのメッセージ	これまでに経験した遊びやレクリエーション活動、またはその援助活動、指導経験、習い事などについてまとめておくこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		これまでのレクリエーション活動の実践
アクティブ・ラーニング	○	自分のレクリエーションの体験を発表すること。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習 a		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大嶋 徹	指定なし

ナンバリング	X13231M12
授業概要(教育目的)	レクリエーションやスポーツ活動を通して健康についてメンバーに示唆を与え、お互いに情報を交換することで技能も伸ばしていくことをねらいとする。後半ではフライフィッシングのキャスト技術について学ぶ。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	身体運動の知識を得ることができる。
思考・判断の観点 (K)	運動を実施するときには、タイミングや速度を状況に応じて判断し決定しなければならない。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分か関心が高いスポーツ種目に出会えば意欲も高まる。
技術・表現の観点 (A)	さまざまなスポーツ種目を体験できること。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	施設の案内・評価方法を説明し演習・実技ができる準備をすること。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第2回	室内レクリエーション (PA系ゲーム)	仲間づくりゲームでコミュニケーションが取りやすい状況で運動できる準備をすること。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第3回	室内レクリエーション (PA系ゲーム)	競争ではなく、仲間づくりを目的とした軽い運動でさらにコミュニケーションの充実をはかること。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第4回	室内レクリエーション (PA系ゲーム)	グループワークでリーダーを決め、参加者を指導してゲームを進めること。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第5回	バレーボール・バスケットボール	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択して順次各種目を実施していく。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分

	ル・卓球・バドミントン・ホッケーから選択			
第6回	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択して順次各種目を実施していく。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第7回	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択して順次各種目を実施していく。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第8回	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択して順次各種目を実施していく。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第9回	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択して順次各種目を実施していく。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第10回	フライキャスティング1グリップからベーシックキャストを経て、ショートレンジでのキャスティングができるようにすること。	フライキャスティングをグリップからベーシックキャスト・ショートレンジでのキャスティングができるようにすること。	ネット上の動画などを参考にイメージをつかむこと。	45分
第11回	フライキャスティング2ロングディスタンス・トリックキャスト	長い距離でラインを出してみる。次にトリックキャストができるようにする。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第12回	フライキャスティングアキュラシー能力のアピール	目的の場所にいかに近づけてマーカーを落とすことができるかをアピールする。	ネット上の動画などからイメージをつかむこと。	45分
第13回	自分の得意種目をアピール	高校までに実施してきた自分の得意な運動種目をアピールすること。種目は応談により決定すること。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第14回	自分の得意種目のアピール	高校までに実施してきた自分の得意な運動種目をアピールすること。種目は応談により決定すること。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第15回	自分の得意種目のアピール	高校までに実施してきた自分の得意な運動種目をアピールすること。種目は応談により決定すること。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第16回	自分の得意種目のアピール	高校までに実施してきた自分の得意な運動種目をアピールすること。種目は応談により決定すること。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
学習計画注記	授業は主に室内であるが、関連種目の導入により授業の入れ替わりや統合・分離がある。また、履修学生が10名以下の場合には集中授業を実施することがある。			
学生へのフィードバック方法	授業時間内での学生とのコミュニケーションによる。また、評価テストによる。			

評価方法	平常点50%、テスト50%で判定する。 (平常点はプログラムの達成状況・質問の受け答え・討論への参加・学習意欲等で総合的に判断する。)				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点	○	○	○	○
	定期試験	○			
評価割合	平常点50%、テスト50%で判定する。 (平常点はプログラムの達成状況・質問の受け答え・討論への参加・学習意欲等で総合的に判断する。)				
ディプロマポリシーとの関連	ゲームやレクリエーションは身体運動を伴い、仲間とのコミュニケーションや生活を支える基本的手段となる。生活者にとって必須の要素である。また運動欲求が高い大学の年齢期では、それを充足させることで生活のバランスを保つことができる。				
オフィスアワー	金曜4限				
学生へのメッセージ	体育会系施設は卒業までに充分活用していただきたい。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	担当の大嶋は複数のフライフィッシングクラブに所属し20年以上活動を続けてきた。2018年世界大会では日本代表になった。その経験を学生に還元する授業である。			
アクティブ・ラーニング		相手との距離をとって的確に運動し仲間とのコミュニケーションが要求されること。			
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習 a		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 外川 重信	指定なし

ナンバリング	X13230M12
授業概要(教育目的)	レクリエーション・スポーツの中から、主にポピュラーな球技を中心に運動を行う。ゲームを中心として、ルール・マナーを守りながらスポーツを楽しむことができるようにする。またスポーツ運動の科学的理論について実際に実技体験を通して理解していく。
履修条件	スポーツのルール・マナーをしっかり守っておこなう。そのために服装や体育館シューズなどはき、きちんとした挨拶や相手を尊重するなどの学習態度でおこなうことができる。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	ポピュラーなスポーツの歴史や理論が説明できるようになる
思考・判断の観点 (K)	安全な配慮の中で楽しむことができるようになる
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分から進んでリーダーシップやフォロアースhipをとりながら、マナー・ルールを守ってスポーツができるようになる
技術・表現の観点 (A)	相手にルールの説明ができ、指導もできるようになる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス及びコミュニケーションゲーム	・授業を行うにあたっての留意事項 ・コミュニケーション作り(アイスブレイクゲーム、トラストゲーム、インシアティブゲーム)	履修要項をよく読んでおくこと。ゲームの種類をよく調べておくこと。授業後はゲームの復習をしておくこと	120分
第2回	2 バレーボール(トスとサーブ)	・バレーボールの理論 ・トス練習 ・サーブ練習 ・チーム練習	バレーボールの歴史と現状を調べておくこと。サーブとトスの方法を調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第3回	3 バレーボール(レシーブとアタック)	・レシーブ練習 ・アタック練習 ・チーム練習	レシーブとアタックの方法を調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第4回	4 バレーボール(ミニコート)	・バレーボールのルール ・ミニコートでの練習	バレーボールのルールを調べておくこと。授業後は技術の復習	120分

	ニゲーム)	・柔らかいボールでの練習	をしておくこと。	
第5回	5 バレーボール (ゲーム)	・チーム対校ゲーム	記録の方法を調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第6回	6 テニス又はソフトボール (基本技術)	・テニス又はソフトボールの知識 ・テニス又はソフトボールのルール	・テニス又はソフトボールの知識とルールを調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第7回	7 バasketボール (基本技術)	・Basketボールの知識 ・ドリブル練習 ・シュート練習	Basketボールの歴史と現状を調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第8回	8 Basketボール (マンツーマンデフェンス)	・Basketボールのルール ・マンツーマンデフェンスによるゲーム	Basketボールのルール、マンツーマンデフェンスの方法を調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第9回	9 Basketボール (ゾーンデフェンス)	・ゾーンデフェンスによるゲーム ・ゲーム	Basketボールのルール、ゾーンデフェンスの方法を調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第10回	10 バドミントン (基本技術)	・バドミントンの知識 ・フォアの打ち方 ・バックの打ち方 ・サーブ練習	バドミントンの歴史と現状を調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第11回	11 バドミントン (ゲーム)	・バドミントンのルール ・ゲーム	バドミントンのルールを知っておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第12回	12 卓球 (ゲーム)	・卓球の理論 ・卓球のルール ・ゲーム	卓球の歴史と現状、ルールを調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第13回	13 フットサル (基本技術)	・フットサルの理論 ・フットサルのルール ・ゲーム	フットサルの歴史と現状、ルールを調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第14回	13 フットサル (ゲーム)	・フットサルのルール ・ゲーム	フットサルのルールを調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第15回	15 レクリエーションスポーツとまとめ	・ユニホッケーのルール ・まとめ	ホッケーの歴史と現状、ルールを調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分

評価方法	授業内評価とし、平常点 (50%)、運動能力 (30%)、ルールなどのスポーツの理解度 (20%) を総合して評価する。平常点は、授業への参加状況、学習意欲などで総合的に判断する。
------	--

評価基準	
------	--

評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点	○	○	○	
	運動能力				○
	スポーツの理解度	○	○	○	○

評価割合	授業内評価とし、平常点 (50%)、運動能力 (30%)、ルールなどのスポーツの理解度 (20%) を総合して評価する。平常点は、授業への参加状況、学習意欲などで総合的に判断する。
------	--

使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない
-----------------	---------

参考図書	授業の中で随時紹介する。
------	--------------

ディプロマポリシーとの関連	【関心・意欲・態度】チームワークやルールを守る観点から、社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力を高めることができる。
---------------	--

学生へのメッセージ	授業実施科目のルール、歴史などを事前に学習しておくこと。また授業後は技術の復習をしておくこと。
-----------	---

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	ゲームをおこなう時は、自ら進んでチームのリーダー又はフォロワーになること。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習 a		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 宮崎 晃子	指定なし

ナンバリング	X13232M12
授業概要(教育目的)	<p>①身体の調和 呼吸、ポーズ（アーサナ）を通して、自己の身体の特徴を理解し、筋力、バランス力、体力、柔軟性を高める。</p> <p>②心身の調和 身体と精神を呼吸でつなぎ、いま、ここにいる自分を実感する。</p> <p>③社会との調和 ヨガの哲学に触れ、自己を見つめ、どう生きるべきかを問う。</p>
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自己の身体の特徴、ヨガの概要、ヨガの哲学（ラージャ・ヨーガの八支則）を理解している。
思考・判断の観点 (K)	ヨガの哲学（ラージャ・ヨーガの八支則）に基づき、自己を見つめ、他者と関わることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	継続的で地道な練習を積み、ねばり強さを身につけている。
技術・表現の観点 (A)	基本的なポーズの連続による「太陽礼拝」を、呼吸にのせて、自分らしく行えるようになる。

学習計画

健康スポーツ演習 a（ヨガ）

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業の概要、学習目標（到達目標）、評価方法などの説明。	シラバスを精読	5分
第2回	身体を知る	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第3回	呼吸を深める	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分

第4回	部位の意識を高める	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第5回	逆転のポーズ	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第6回	ねじりのポーズ	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第7回	バランスのポーズ	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第8回	ヨガについて①	講義：ヨガの歴史、ヨガの哲学（ラージャ・ヨーガの八支則）、課題（提出物）の提示。	課題の実践、記録	700分
第9回	ヨガについて②	課題の振り返り。自律神経、交感神経と副交感神経。実技：座位、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第10回	後屈、前屈のポーズ	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第11回	さまざまなポーズ	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第12回	テスト課題の練習①（背骨の意識を高める）	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第13回	テスト課題の練習②（呼吸とのつながりを深める）	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第14回	テスト課題の練習③（流れるように、のびのびと）	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第15回	テスト課題の練習④（総まとめ）	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第16回	快適で安定した自分へ	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分

学習計画注記 ※履修者数や進み具合によって、スケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 毎回の授業で回収したコメント票は、次週、返却。質問等、内容によっては、授業で解説する。

評価方法 平常点（40%）、課題（提出物）（20%）、実技テスト（40%）。
（平常点は、授業態度、服装、髪型、コメント票の内容等で、総合的に評価する）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
課題（提出物）	○	○		
実技テスト				○

評価割合 平常点（40%）、課題（提出物）（20%）、実技テスト（40%）。
（平常点は、授業への参加状況、授業態度、服装、髪型、コメント票の内容等で、総合的に評価する）

使用教科書名 (ISBN番号) 特に指定しない

参考図書 「ヨーガバイブル ～決定版 ヨーガのポーズ集～」 クリスティーナ・ブラウン 産調出版 2004

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】 身体やヨガの基礎知識をとおして、人間の生き方についての理解を深めている。
【思考・判断】 社会を構成する一員として、他者と協働する思考をもって、行動することができる。

	<p>【関心・意欲・態度】自己の心身と向き合い、慈しみ、鍛え、何事にも積極的に取り組む姿勢をもつ。 【技術・表現】しなやかさと強さを兼ね備えた身体を、有している。</p>
学生へのメッセージ	<p>体つきや身体能力、柔軟性、筋力は、人それぞれです。 ヨガをとおして、現在の自己を知り、 心身が変化していく過程を体感しましょう。</p> <p>段階を追って進めますので、 初心者、運動が苦手な方も、安心して履修できます。</p> <p>安全確保、および衛生上の観点から、運動に適したウェアを用意すること。 裸足で行うため、運動靴は不要です。</p>

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、ヨガ専門スタジオのインストラクターとしても活動しており、実務経験を生かした学習内容を提供する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習 a		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 江川 賢一	指定なし

ナンバリング	X13230C12
授業概要(教育目的)	生涯を通じたスポーツを実施し、スポーツによる健康づくりの実践方法を理解する。屋内で実施できるバドミントン、バスケットボール、バレーボール、卓球の特性、ルールを理解する。ゲームに必要な基礎体力の獲得と運動スキルの向上を図り、楽しく実施できる能力を習得する。
履修条件	教場が限られているため、確実に履修できる学生を優先する。履修希望者は4/15(月)12時30分にサブアリーナに集合すること。定員を超えた場合は抽選とする。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	バドミントン、バスケットボール、バレーボール、卓球の特性、ルールを説明できる。
思考・判断の観点(K)	バドミントン、バスケットボール、バレーボール、卓球のゲーム特性を説明できる。
関心・意欲・態度の観点(V)	自らの運動習慣を見直し、演習を通じて健康管理に意欲的に取り組む。
技術・表現の観点(A)	バドミントン、バスケットボール、バレーボール、卓球の基礎的技能を習得する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	演習の進め方や運動の注意事項を理解する。 運動施設(サブアリーナ)、用具に慣れる。	新体カテストの実施要領を調べる。	90分
第2回	新体カテスト	ウォーミングアップの方法を理解する。 新体カテストを実施し、自己の体力を把握する。 クールダウンの方法を理解する。	テスト結果を同世代と比較し、 基礎的なプログラムを作成する。	90分
第3回	バドミントン(基礎)	ラケットの感覚に慣れる。 サーブの方法を理解する。 フォアハンドストローク、バックハンドストロークを行う。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第4回	バドミントン(応用)	ハイクリアーの方法を理解する。 ネットリプライの方法を理解する。 スマッシュを行う。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第5回	バドミントン(実践)	シングルスゲームを体験する。 ダブルスゲームを体験する。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作	90分

			を予習する。	
第6回	バスケットボール（基礎）	ボール、リング、コートに慣れる。 ドリブルの方法を理解する。 パスとシュートの方法を理解する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第7回	バスケットボール（応用）	オフェンスの方法を理解する。 ディフェンスの方法を理解する。 3対3のミニゲームを行う。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第8回	バスケットボール（実践）	3対3のミニゲームを楽しむ。 5対5のミニゲームを行う。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第9回	バレーボール（基礎）	ボール、ネット、コートに慣れる。 オーバーハンドパスを行う。 アンダーハンドパスを行う。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第10回	バレーボール（応用）	サーブを行う。 スパイクを行う。 ミニゲームによりルールを理解する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第11回	バレーボール（実践）	ミニゲームを楽しむ。 6人制のゲームを行う。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第12回	卓球（基礎）	ラケットの感覚に慣れる。 サーブの方法を理解する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第13回	卓球（応用）	フォアハンドストローク、バックハンドストロークを行う。 ラリーを楽しむ。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第14回	卓球（実践）	シングルのゲームを体験する。 ダブルスのゲームを体験する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第15回	まとめ	ウォーミングアップ、クールダウンを習得する。 新体力テストを実施し、体力の変化を把握する。	テスト結果を受講前と比較し、 基礎的なプログラムを評価する。 演習の成果をレポートにまとめる。	90分

学習計画注記 ※履修者数や演習の進捗により種目やスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法 授業中およびオフィスアワーで対応する。

評価方法 各種目についてルールの理解、安全で効果的な運営への貢献度とともにゲーム実践の達成度を評価する。体力テストの結果のレポートを評価する。欠席は評価しない。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
ゲーム実践			○	○
レポート	○	○		

評価割合 ゲーム実践の達成度50%、レポート50%

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 新体力テスト実施要領 (URL参照)

参考URL http://www.mext.go.jp/component/a_menu/sports/detail/_icsFiles/afieldfile/2010/07/30/1295079_03.pdf

ディプロマポリシーとの関連
 【知識・理解・思考・判断】 運動とスポーツに関する知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる
 【関心・意欲・態度】 社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって健康的に働く能力を身につけている
 【技術・表現】 学修で得た専門的技能をもって自己表現することで共感を創り出す能力を身につけている

オフィスアワー 木曜日 12:30~14:30

学生へのメッセージ 演習前日は十分な睡眠をとり、当日はバランスのよい食事をとること。運動不足の人は自宅でストレッチすること。生涯にわたり健康を維持増進するための体力基盤を作るとともに、学部や学年を超えて他者とのかかわりを楽しんでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は民間企業の研究機関における健康運動指導に従事した経験を踏まえて、個人及び集団特性に応じた運動実践の専門的知識と技能を教授する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomにより教室外学習を実施し、課題（レポート）を提出する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習 a		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	1 限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 金指 みの利	指定なし

ナンバリング	X13232C12
授業概要(教育目的)	<p>種目：フィットネス この授業では、ストレッチ、筋力トレーニング、エアロビクスダンスを三大柱として扱う。 これまでの学校体育で経験してきた球技や集団スポーツとは違い、自分に合った方法、ペースで自分の体に向き合う時間にしていく。 ストレッチ、筋力トレーニングでは日常生活を快適に過ごすために自分の体のどこが硬いのか、筋力が足りないのかを知る。その為に自分の体の癖を知り、姿勢や体のバランスを意識して動く事を学ぶ。 エアロビクスダンスでは、有酸素運動をすることによって体力増進を図り、音楽に合わせて動く事で、ストレス発散も目的とする。</p> <p>これらの運動の実践によって、知的・身体的能力を育成することはもちろん、運動の楽しさや重要性を体感し、健康の保持・増進を図る。また、生涯に渡り、スポーツをライフサイクルの中に取り入れる基盤を築く事を主なねらいとする。併せて、クラスメイトと相互交流していく中で、社会性や協調性、コミュニケーション能力を身につける事も目的とする。</p>
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体と運動に興味を持ち、定期的に運動をすることの意義を考えることができる。 ストレッチ、筋力トレーニングをする意義と重要性を知ることができる。
思考・判断の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体と向かい合い、体の状態（不調なのか、好調なのかなど）を知ることが出来るようになる。 自分の体の状況に合った、運動量や強度の調整が出来るようになる。 協力的・協調的な態度で臨み、マナー・エチケット等の社会的行動様式をクラスメイトと共に構築することが出来る。
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻や欠席がなく、授業にいっききと参加することが出来る。 与えられた運動（課題）に積極的に取り組み、最善を尽くすことが出来る。
技術・表現の観点 (A)	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体の状況を言葉で表すことが出来る。 授業を重ねるにあたって増えていく、エアロビクスダンスの動きが出来るようになる。
学習計画	

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業(フィットネス)の内容、進め方、注意事項などを中心に紹介をする。 【授業の流れ】 ストレッチ→筋力トレーニング又は身体作りの運動→有酸素運動(エアロビクスダンス)→クールダウン 以上の流れを毎時間、基本とします。	現在の運動状況を考えて、まとめておくこと。	60分
第2回	ストレッチ①	自分の体と向き合い、現在の体の状況を知りながらストレッチの有効性を探る。	体のどこが硬いと感じるか、柔らかいと感じるかを考えておく。	60分
第3回	ストレッチ②	呼吸の方法を学ぶ。呼吸を使っでのストレッチを実践する。	前回のストレッチの復習ができるとよい。	60分
第4回	ストレッチ③	今まで行ってきたストレッチに加え、立ち方を中心に体の重心を考えてみる。	前回のストレッチの復習ができるとよい。	60分
第5回	体幹トレーニング	体幹を考える。体幹とは何かを知識として確認し、トレーニングを実践する。	前回のストレッチの復習ができるとよい。	60分
第6回	バランスボール①	バランスボールを使った体幹トレーニング。バランスボールに慣れる。座ったトレーニングを中心に行う。	できそうな体幹トレーニングを自宅でも実践すること。	60分
第7回	バランスボール②	バランスボールを使った体幹トレーニング。上半身を中心にトレーニングを行う。	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、その他運動の実施。	60分
第8回	バランスボール③	バランスボールを使ったトレーニングのまとめ。今まで行ったトレーニングをテンポよく行い、トレーニングの数をこなす。	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、その他運動の実施。	60分
第9回	セルフマッサージ①	一人でやるマッサージを学び、セルフケアの方法を知る。特に下肢の緊張の取り方、むくみの仕組み除去の仕方を学ぶ。	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、その他運動の実施。	60分
第10回	セルフマッサージ②	二人組みで行うマッサージ。ストレッチ以外の全身の緊張を取る方法、相手の体を用いてリラックスの方法を学ぶ。	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、その他運動の実施。	60分
第11回	エアロビクスダンス①	有酸素運動とは何かを知識として学ぶ。その知識を踏まえて実践をする。	エアロビクスダンスを頭の中でも構わないので復習すること。	60分
第12回	エアロビクスダンス②	心拍数と有酸素運動の関係について学ぶ。また、心拍数を計りながらエアロビクスダンスを実践していく。	エアロビクスダンスを頭の中でも構わないので復習すること。	60分
第13回	エアロビクスダンス③	今まで行ってきた動きを中心に更に複雑にした動きに挑戦する。	エアロビクスダンスを頭の中でも構わないので復習すること。	60分
第14回	エアロビクスダンス④	今まで行ってきた動きを中心に、ハイインパクト(跳躍系の動き)に挑戦する。	エアロビクスダンスを頭の中でも構わないので復習すること。	60分
第15回	エアロビクスダンス⑤	今まで行ってきたエアロビクスダンスを繋げて行う。授業のまとめとして、自分の体の変化を考えてみる。	授業初回と現在の体の状況の変化を考えてくること。	60分

学習計画注記	<p>体育館の地下のスタジオにて実技を行う。 更衣必須。ジーンズなどの私服での参加は認めない。 ストッキングおよびタイツは不可。裸足になれるようにすること。第11回目からのエアロビクスダンスの時には内履きのスポーツシューズが必要。</p> <p>*初回はガイダンスの為、更衣、シューズの必要はない。</p>
--------	---

学生へのフィードバック方法	授業内で扱う、個人カードでのやり取りを基本とする。 質問は授業前後で受け付ける。
---------------	---

評価方法	<p>特に試験は課さないで、以下事項で評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点 ・授業態度・取り組み：授業への取り組みの積極性や努力過程を教員の観察によって評価する。 ・授業時の提出物：筆記の課題を授業内で提出。 <p>なお、下記表に振り分けられた目的も含め評価を行う。</p>
------	--

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	
授業態度・取り組み		○	○	○

授業時の提出物	○	○	○

評価割合	平常点50%、授業態度・取り組み30%、授業時の提出物20%の総合評価。
使用教科書名 (ISBN番号)	なし 資料は授業内で配布する。
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解/思考・判断】身体の基本知識や運動の実践を通して、健康に自分らしく生きる事についての理解を深め、それに対する積極的な取り組みを判断できる力を身につけている。
オフィスアワー	基本的に授業内および授業前後に限る。緊急の場合、事務局に相談すること。
学生へのメッセージ	日頃の運動習慣や柔軟性、持久力などの現在の運動能力、運動によつての体調変化、運動を行わない時の体調など、少しでもいので、自分の体について考える時間を作ってください。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	ダンススタジオ、スポーツクラブ、ヨガスタジオ、学校教育現場で教授の経験がある。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習 b		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金子 和正	指定なし

ナンバリング	X13240M12
授業概要(教育目的)	卓球は気軽に始められるスポーツですが、自己の技術の進歩とともに運動量は大きなものとなっていきます。反動的な動きが求められるとともに、いろいろと作戦を考えながら試合運びをしていく楽しさもあります。ダブルスゲームを中心にしながらチームワークとコンビネーションの大切さを学んでください。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	卓球のルールとシングルスゲーム、ダブルスゲームの試合運びを理解している。
思考・判断の観点 (K)	相手の動きを予測して、ボールを打つことを学んでいる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	生涯スポーツとして積極的に運動に臨む態度を身につけている。
技術・表現の観点 (A)	ラケットティングからスマッシュまで理解している。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ラケットの選択	個人によってラケットの持ち方は様々であるが、ペン grips とシェイクハンドグリップのどちらが適しているか理解する。	バドミントンやテニスのグリップと卓球のグリップは違ってくる。グリップの持ち方が、その後の打法に影響を及ぼしてきていることを理解しておく。	90分
第2回	ラケットティング	ラケットでボールを打ち続け、卓球のボールを打つ力加減を理解する。相手とボレーの連続を行いボールの質量を感じる。	卓球のボールは初心者にとって非常に軽く感じ、力の加減が分かりづらい事を理解しておく。	90分
第3回	フォアハンドラリー	初めてのラリーであるフォアハンドラリーで、ボールを相手のコートに打って入れることを学ぶ。相手が打ちやすいボールはどのようなコースかについて理解する。	相手を動かし回らないで、常に同じ所にボールを返すためにはどのような打ち方なのかについて理解する。	90分
第4回	バックハンドラリー	バックハンドラリーの習得は、初心者では時間がかかる。多くのボールを打つことが必要であることを学ぶ。	フォアハンドに対して、バックハンドは自分の身体の反対側にボールが来た時に使う。ペン grips では手首をひねりラケットの面はフォアハンドと同じ面	90分

			を使う。シェイクハンドではラケットの反対側を使う。グリップの選択がここで現れてくることを理解しておくこと。	
第5回	サーブとレシーブ	ゲームへの第一歩はサーブである。相手のコートに着実に入るサーブの仕方を理解する。	台の上から、手のひらを開いて、16cm以上あげて基本的なルールを守ってサーブすることを理解しておく。	90分
第6回	変化を持たせたサーブ	ラケットがボールに接する時のラケットの動かし方によって、ボールが変化することを理解する。	ボールが軽い卓球では、ラケットの持ち方、動かし方でいろいろな変化球が生じることを理解しておく。	90分
第7回	クロス打ち	相手のテーブルいっぱいの長い距離を打つには、お互いに対角線上に立ち相手のコーナーを狙って打つことを学ぶ。	クロスでラリーを続けるためには、フットワークを動かし常に同じフォームで打つことを理解しておく。	90分
第8回	ダブルスゲームのルール	卓球のダブルスゲームは、チームの2人が交互に打たなくてはならない。そのための2人のポジショニングやレシーブの構えも必然と決められてくることを理解する。	ダブルスゲームでは、2人が常に動き回りながらゲームを戦わなくてはならないことを理解しておく。	90分
第9回	ダブルスのゲーム	ダブルゲームでは、常に2人が動いてレシーブとショットに対応しなければならことを学習する。馴れてきたら2人で作戦を立てていくことを理解する。	相手チームのスタイルを考えながら作戦を立てて戦うことを理解しておく。	90分
第10回	シングルスゲームのルール	シングルスゲームは、相手の動きを予測しサーブ・レシーブ・スマッシュの連続で試合を運ぶことを理解する。	シングルスゲームは、相手のサーブ・スマッシュを予測し対応していくことを理解しておく。	90分
第11回	シングルスゲーム	サーブでポイントを獲得するのかスマッシュで点数をとるのか戦略を立てる。相手の戦い方を予測し対応していくことを理解する。	ペングリップやシェイクハンドの相手に対応した、戦略を立てることを理解しておく。	90分
第12回	団体戦	シングルスゲーム、ダブルスゲームのどちらに参加することが、自分はチームに貢献できるか理解する。	シングルスゲームとダブルスゲームでは、得意なゲームはどちらなのかを理解しておくこと。	90分
第13回	スマッシュの練習	強打することは得点を取ることに繋がる。相手のコートに正確に強いボールを打てるようになることを学ぶ。慣れてきたらバックハンドでも打てるようになることを学ぶ。	スマッシュで強打するためには、何回も練習しなくてはならない。段階を踏んで少しずつ正確な強いボールを相手のコートに入れられるようになることを理解しておく。	90分
第14回	変化球の打ち方	ボールがラケットに当たる瞬間にラケットを色々な方向に運ぶことで、ボールに回転が加わり相手コートに運ばれていくことを理解する。	ボールに色々な回転を加えることで、相手のコートにボールが変化球として運ばれていく。これによりボールの動きが予測できないものとなることを理解しておく。	90分
第15回	まとめ	これまでの技術を使ってシングルスゲームやダブルスゲームを行い実践力をつけていくことを学ぶ。多くのゲームを通して相手の動きの予測や、試合運びを理解していく。	多くのゲームを通して相手の動きやボールの予測をしていくことが、卓球の上達に繋がることを理解しておく。	90分

学習計画注記 授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 数回の授業後からは、毎回短時間のゲーム（ダブルスゲーム）を行うことによって技術の習得の度合いが確認できる。

評価方法 授業への積極的な参加態度、技術の習得、他の授業学生との協調性の3つの観点からの総合評価とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業への積極的な態度	○	○	○	○
技術の習得	○	○	○	○
学生との協働	○	○	○	○

評価割合 授業への積極的な態度（35%）他の学生との協働（35%）、技術の習得（30%）の総合評価とする。

使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 ルールや試合展開中のポジション 【思考・判断】 練習や試合中における相手の動きとボールの予測 【関心・意欲・態度の観点】 上達したいという意欲 【技術・表現の観点】 習得した技術を使用するゲーム	
オフィスアワー	火曜4時限 G302研究室	
学生へのメッセージ	時間があつたら体を動かす運動習慣を身につけて欲しい。一週間一ヶ月一年といった中で運動をする時間をつくり、生活の中に運動を取り入れ、スポーツをすることの重要性和素晴らしさを身につけて行って欲しい。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	ラケットティングからダブルスゲームまでを学び、理論を理解している。
情報リテラシー教育	○	卓球のルールや試合運びを理解している。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習 b		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 外川 重信	指定なし

ナンバリング	X13242M12
授業概要(教育目的)	レクリエーション・スポーツの中から、主にポピュラーな球技を中心に運動を行う。ゲームを中心として、ルール・マナーを守りながらスポーツを楽しむことができるようにする。またスポーツ運動の科学的理論について実際に実技体験を通して理解していく。
履修条件	スポーツのルール・マナーをしっかり守っておこなう。そのために服装や体育館シューズなどはき、きちんとした挨拶や相手を尊重するなどの学習態度でおこなうことができる。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	ポピュラーなスポーツの歴史や理論が説明できるようになる
思考・判断の観点 (K)	安全な配慮の中で楽しむことができるようになる
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分から進んでリーダーシップやフォロアースhipをとりながら、マナー・ルールを守ってスポーツができるようになる
技術・表現の観点 (A)	相手にルールの説明ができ、指導もできるようになる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス及びコミュニケーションゲーム	・授業を行うにあたっての留意事項 ・コミュニケーション作り(アイスブレイクゲーム、トラストゲーム、インシアティブゲーム)	履修要項をよく読んでおくこと。ゲームの種類をよく調べておくこと。授業後はゲームの復習をしておくこと	120分
第2回	2 バレーボール(トスとサーブ)	・バレーボールの理論 ・トス練習 ・サーブ練習 ・チーム練習	バレーボールの歴史と現状を調べておくこと。サーブとトスの方法を調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第3回	3 バレーボール(レシーブとアタック)	・レシーブ練習 ・アタック練習 ・チーム練習	レシーブとアタックの方法を調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第4回	4 バレーボール(ミニコート)	・バレーボールのルール ・ミニコートでの練習	バレーボールのルールを調べておくこと。授業後は技術の復習	120分

	ニゲーム)	・柔らかいボールでの練習	をしておくこと。	
第5回	5 バレーボール (ゲーム)	・チーム対校ゲーム	記録の方法を調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第6回	6 テニス又はソフトボール (基本技術)	・テニス又はソフトボールの知識 ・テニス又はソフトボールのルール	・テニス又はソフトボールの知識とルールを調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第7回	7 バasketボール (基本技術)	・Basketボールの知識 ・ドリブル練習 ・シュート練習	Basketボールの歴史と現状を調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第8回	8 Basketボール (マンツーマンデフェンス)	・Basketボールのルール ・マンツーマンデフェンスによるゲーム	Basketボールのルール、マンツーマンデフェンスの方法を調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第9回	9 Basketボール (ゾーンデフェンス)	・ゾーンデフェンスによるゲーム ・ゲーム	Basketボールのルール、ゾーンデフェンスの方法を調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第10回	10 バドミントン (基本技術)	・バドミントンの知識 ・フォアの打ち方 ・バックの打ち方 ・サーブ練習	バドミントンの歴史と現状を調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第11回	11 バドミントン (ゲーム)	・バドミントンのルール ・ゲーム	バドミントンのルールを知っておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第12回	12 卓球 (ゲーム)	・卓球の理論 ・卓球のルール ・ゲーム	卓球の歴史と現状、ルールを調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第13回	13 フットサル (基本技術)	・フットサルの理論 ・フットサルのルール ・ゲーム	フットサルの歴史と現状、ルールを調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第14回	13 フットサル (ゲーム)	・フットサルのルール ・ゲーム	フットサルのルールを調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分
第15回	15 レクリエーションスポーツとまとめ	・ユニホッケーのルール ・まとめ	ホッケーの歴史と現状、ルールを調べておくこと。授業後は技術の復習をしておくこと。	120分

評価方法 授業内評価とし、平常点 (50%)、運動能力 (30%)、ルールなどのスポーツの理解度 (20%) を総合して評価する。平常点は、授業への参加状況、学習意欲などで総合的に判断する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	
運動能力				○
スポーツの理解度	○	○	○	○

評価割合 授業内評価とし、平常点 (50%)、運動能力 (30%)、ルールなどのスポーツの理解度 (20%) を総合して評価する。平常点は、授業への参加状況、学習意欲などで総合的に判断する。

使用教科書名 (ISBN番号) 特に指定しない

参考図書 授業の中で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連 【関心・意欲・態度】チームワークやルールを守る観点から、社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力を高めることができる。

学生へのメッセージ 授業実施科目のルール、歴史などを事前に学習しておくこと。また授業後は技術の復習をしておくこと。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	ゲームをおこなう時は、自ら進んでチームのリーダー又はフォロワーになること。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習 b		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	1 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大嶋 徹	指定なし

ナンバリング	X13241M12
授業概要(教育目的)	レクリエーションやスポーツ活動を通して健康についてメンバーに示唆を与え、お互いに情報を交換することで技能も伸ばしていくことをねらいとする。後半ではフライフィッシングのキャスト技術について学ぶ。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	身体運動の知識を得ることができる。
思考・判断の観点 (K)	運動を実施するときには、タイミングや速度を状況に応じて判断し決定しなければならない。
関心・意欲・態度の観点 (V)	関心が高いスポーツ種目に出会えば意欲も高まる。
技術・表現の観点 (A)	さまざまなスポーツ種目を実施することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	施設の案内・評価方法を説明し演習ができるよう準備すること。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分
第2回	室内レクリエーション (PA系ゲーム)	仲間づくりゲームを実施し、コミュニケーションが取りやすい状態で運動ができること。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第3回	室内レクリエーション (PA系ゲーム)	競争ではなく仲間づくりを目的とした軽い運動でコミュニケーションの充実をはかる。	週3回程度の軽い運動を実施すること。	45分
第4回	室内レクリエーション (PA系ゲーム)	グループでリーダーを決め参加者を指導してゲームを進めることができる。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分
第5回	バレーボール・バスケットボール	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択し順次実施していく。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分

	ル・卓球・バドミントン・ホッケーから選択			
第6回	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択し順次実施していく。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分
第7回	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択し順次実施していく。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分
第8回	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択し順序実施していく。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分
第9回	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択	バレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・ホッケーから選択し順次実施していく。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分
第10回	フライキャスティング1グリップからベーシックキャスト・ショートレンジ	フライキャスティング1グリップからベーシックキャスト・ショートレンジでのキャスティングができるようにする。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分
第11回	フライキャスティング2ロングディスタンス・トリックキャスト	長い距離でラインを出す。次にトリックキャストができるようにする。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分
第12回	フライキャスティングアキュラシー能力のアピール	目的の場所にいかに近づけてキャストできるかをアピールする。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分
第13回	自分の得意種目のアピール	自分の得意種目をアピールすること。種目は相談の上決定する。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分
第14回	自分の得意種目によるアピール	自分の得意種目をアピールすること。種目は相談の上決定する。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分
第15回	自分の得意種目によるアピール	自分の得意種目をアピールすること。種目は相談の上決定する。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分
第16回	自分の得意種目によるアピール	自分の得意種目をアピールすること。種目は相談の上決定する。	週3回程度の軽い運動をすること。	45分

学習計画注記	授業は主に室内であるが、関連種目の導入により授業順番の入れ替えや統合・分離がある。また、履修学生が10名以下の場合には集中授業を実施することがある。
学生へのフィードバック方法	授業時間内での学生とのコミュニケーションによる。または評価テストによる。
評価方法	平常点50%、テスト50%で総合的に判定する。 (平常点はプログラムの達成状況・質問の受け答え・討論への参加・学習意欲等で総合的に判断する。)
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
定期試験	○		○	

評価割合	平常点50%、テスト50%で総合的に判定する。 (平常点はプログラムの達成状況・質問の受け答え・討論への参加・学習意欲等で総合的に判断する。)
ディプロマポリシーとの関連	ゲームやレクリエーションは身体運動を伴い、仲間とのコミュニケーションや生活を支える基本的手段となる。生活者にとって必須の要素である。また運動欲求が高い大学の年齢期では、それを充足させることで生活のバランスを保つことができる。
オフィスアワー	金曜4限
学生へのメッセージ	体育会系施設・用具は卒業までに充分活用していただきたい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当の大嶋は複数のフライフィッシングクラブに所属し20年以上活動を続けてきた。2018年世界大会では日本代表になった。その経験を学生に還元する授業である。
アクティブ・ラーニング	○	相手との距離をとって的確に運動し仲間とのコミュニケーションが要求されること。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習 b		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 宮崎 晃子	指定なし

ナンバリング	X13243M12
授業概要(教育目的)	<p>①身体の調和 呼吸、ポーズ（アーサナ）を通して、自己の身体の特徴を理解し、筋力、バランス力、体力、柔軟性を高める。</p> <p>②心身の調和 身体と精神を呼吸でつなぎ、いま、ここにいる自分を実感する。</p> <p>③社会との調和 ヨガの哲学に触れ、自己を見つめ、どう生きるべきかを問う。</p>
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

観点	到達目標
知識・理解の観点 (K)	自己の身体の特徴、ヨガの概要、ヨガの哲学（ラージャ・ヨーガの八支則）を理解している。
思考・判断の観点 (K)	ヨガの哲学（ラージャ・ヨーガの八支則）に基づき、自己を見つめ、他者と関わることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	継続的に地道な練習を積み、ねばり強さを身につけている。
技術・表現の観点 (A)	基本的なポーズの連続による「太陽礼拝」を、呼吸にのせて、自分らしく行うことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業の概要、学習目標（到達目標）、評価方法などの説明。	シラバスを精読	5分
第2回	身体を知る	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第3回	呼吸を深める	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第4回	部位の意識	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分

	を高める			
第5回	逆転のポーズ	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第6回	ねじりのポーズ	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第7回	バランスのポーズ	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第8回	ヨガについて①	講義：ヨガの歴史、ヨガの哲学（ラージャ・ヨーガの八支則）、課題（提出物）の提示。	課題の実践、記録	700分
第9回	ヨガについて②	課題の振り返り。自律神経、交感神経と副交感神経。実技：座位、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第10回	後屈、前屈のポーズ	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第11回	さまざまなポーズ	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第12回	テスト課題の練習① (背骨の意識を高める)	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第13回	テスト課題の練習② (呼吸とのつながりを深める)	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第14回	テスト課題の練習③ (流れるように、のびのびと)	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第15回	テスト課題の練習④ (総まとめ)	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分
第16回	快適で安定した自分へ	実技：立位、座位、うつぶせ、あおむけのポーズ。	呼吸法、各ポーズの復習	15分

学習計画注記 ※履修者数や進み具合によって、スケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 毎回の授業で回収したコメント票は、次週、返却。質問等、内容によっては、授業で解説する。

評価方法 平常点（40%）、課題（提出物）（20%）、実技テスト（40%）。
（平常点は、授業態度、服装、髪型、コメント票の内容等で、総合的に評価する）

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
課題（提出物）	○	○		
実技テスト				○

評価割合 平常点（40%）、課題（提出物）（20%）、実技テスト（40%）。
（平常点は、授業への参加状況、授業態度、服装、髪型、コメント票の内容等で、総合的に評価する）

使用教科書名 (ISBN番号) 特に指定しない

参考図書 「ヨーガバイブル ～決定版 ヨーガのポーズ集～」クリスティーナ・ブラウン 産調出版 2004

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】身体やヨガの基礎知識をとおして、人間の生き方についての理解を深めている。
【思考・判断】社会を構成する一員として、他者と協働する思考をもって、行動することができる。
【関心・意欲・態度】自己の心身と向き合い、慈しみ、鍛え、何事にも積極的に取り組む姿勢をもつ。
【技術・表現】しなやかさと強さを兼ね備えた身体を、有している。

<p>学生へのメッセージ</p>	<p>体つきや身体能力、柔軟性、筋力は、人それぞれです。 ヨガをとおして、現在の自己を知り、 心身が変化していく過程を体感しましょう。</p> <p>段階を追って進めますので、 初心者、運動が苦手な方も、安心して履修できます。</p> <p>安全確保、および衛生上の観点から、運動に適したウェアを用意すること。 裸足で行うため、運動靴は不要です。</p>
------------------	---

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、ヨガ専門スタジオのインストラクターとしても活動しており、実務経験を生かした学習内容を提供する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習 b		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	4 限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 江川 賢一	指定なし

ナンバリング	X13240C12
授業概要(教育目的)	生涯を通じたスポーツを実施し、スポーツによる健康づくりの実践方法を理解する。屋内で実施できるバドミントン、バスケットボール、バレーボール、卓球の特性、ルールを理解する。ゲームに必要な基礎体力の獲得と運動スキルの向上を図り、楽しく実施できる能力を習得する。
履修条件	教場が限られているため、確実に履修できる学生を優先する。履修希望者は4/15(月)12時30分にサブアリーナに集合すること。定員を超えた場合は抽選とする。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	バドミントン、バスケットボール、バレーボール、卓球の特性、ルールを説明できる。
思考・判断の観点(K)	バドミントン、バスケットボール、バレーボール、卓球のゲーム特性を説明できる。
関心・意欲・態度の観点(V)	自らの運動習慣を見直し、演習を通じて健康管理に意欲的に取り組む。
技術・表現の観点(A)	バドミントン、バスケットボール、バレーボール、卓球の基礎的技能を習得する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	演習の進め方や運動の注意事項を理解する。 運動施設(サブアリーナ)、用具に慣れる。	新体カテストの実施要領を調べる。	90分
第2回	新体カテスト	ウォーミングアップの方法を理解する。 新体カテストを実施し、自己の体力を把握する。 クールダウンの方法を理解する。	テスト結果を同世代と比較し、 基礎的なプログラムを作成する。	90分
第3回	バドミントン(基礎)	ラケットの感覚に慣れる。 サーブの方法を理解する。 フォアハンドストローク、バックハンドストロークを行う。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第4回	バドミントン(応用)	ハイクリアーの方法を理解する。 ネットリプライの方法を理解する。 スマッシュを行う。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第5回	バドミントン(実践)	シングルスゲームを体験する。 ダブルスゲームを体験する。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作	90分

			を予習する。	
第6回	バスケットボール（基礎）	ボール、リング、コートに慣れる。 ドリブルの方法を理解する。 パスとシュートの方法を理解する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第7回	バスケットボール（応用）	オフェンスの方法を理解する。 ディフェンスの方法を理解する。 3対3のミニゲームを行う。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第8回	バスケットボール（実践）	3対3のミニゲームを楽しむ。 5対5のミニゲームを行う。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第9回	バレーボール（基礎）	ボール、ネット、コートに慣れる。 オーバーハンドパスを行う。 アンダーハンドパスを行う。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第10回	バレーボール（応用）	サーブを行う。 スパイクを行う。 ミニゲームによりルールを理解する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第11回	バレーボール（実践）	ミニゲームを楽しむ。 6人制のゲームを行う。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第12回	卓球（基礎）	ラケットの感覚に慣れる。 サーブの方法を理解する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第13回	卓球（応用）	フォアハンドストローク、バックハンドストロークを行う。 ラリーを楽しむ。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第14回	卓球（実践）	シングルのゲームを体験する。 ダブルスのゲームを体験する。	前回までの実技の復習をする。 競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第15回	まとめ	ウォーミングアップ、クールダウンを習得する。 新体力テストを実施し、体力の変化を把握する。	テスト結果を受講前と比較し、 基礎的なプログラムを評価する。 演習の成果をレポートにまとめる。	90分

学習計画注記 ※履修者数や演習の進捗により種目やスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法 授業中およびオフィスアワーで対応する。

評価方法 各種目についてルールの理解、安全で効果的な運営への貢献度とともにゲーム実践の達成度を評価する。体力テストの結果のレポートを評価する。欠席は評価しない。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
ゲーム実践			○	○
レポート	○	○		

評価割合 ゲーム実践の達成度50%、レポート50%

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 新体力テスト実施要領 (URL参照)

参考URL http://www.mext.go.jp/component/a_menu/sports/detail/_icsFiles/afieldfile/2010/07/30/1295079_03.pdf

ディプロマポリシーとの関連
 【知識・理解・思考・判断】 運動とスポーツに関する知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる
 【関心・意欲・態度】 社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって健康的に働く能力を身につけている
 【技術・表現】 学修で得た専門的技能をもって自己表現することで共感を創り出す能力を身につけている

オフィスアワー 木曜日 12:30~14:30

学生へのメッセージ 演習前日は十分な睡眠をとり、当日はバランスのよい食事をとること。運動不足の人は自宅でストレッチすること。生涯にわたり健康を維持増進するための体力基盤を作るとともに、学部や学年を超えて他者とのかかわりを楽しんでほしい。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は民間企業の研究機関における健康運動指導に従事した経験を踏まえて、個人及び集団特性に応じた運動実践の専門的知識と技能を教授する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomにより教室外学習を実施し、課題（レポート）を提出する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習 b		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	1 限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 金指 みの利	指定なし

ナンバリング	X13242C12								
授業概要 (教育目的)	<p>種目：フィットネス この授業では、ストレッチ、筋力トレーニング、エアロビクスダンスを三大柱として扱う。 これまでの学校体育で経験してきた球技や集団スポーツとは違い、自分に合った方法、ペースで自分の体に向き合う時間にしていく。 ストレッチ、筋力トレーニングでは日常生活を快適に過ごすために自分の体のどこが硬いのか、筋力が足りないのかを知る。その為に自分の体の癖を知り、姿勢や体のバランスを意識して動く事を学ぶ。 エアロビクスダンスでは、有酸素運動をすることによって体力増進を図り、音楽に合わせて動く事で、ストレス発散も目的とする。</p> <p>これらの運動の実践によって、知的・身体的能力を育成することはもちろん、運動の楽しさや重要性を体感し、健康の保持・増進を図る。また、生涯に渡り、スポーツをライフサイクルの中に取り入れる基盤を築く事を主なねらいとする。併せて、クラスメイトと相互交流していく中で、社会性や協調性、コミュニケーション能力を身につける事も目的とする。</p>								
履修条件	特になし								
学習目標 (到達目標)	<p>学習目標 (到達目標)</p> <table border="1"> <tr> <td>知識・理解の観点 (K)</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 自分の体と運動に興味を持ち、定期的に運動をすることの意義を考えることができる。 ストレッチ、筋力トレーニングをする意義と重要性を知ることができる。 </td> </tr> <tr> <td>思考・判断の観点 (K)</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 自分の体と向かい合い、体の状態（不調なのか、好調なのかなど）を知ることが出来るようになる。 自分の体の状況に合った、運動量や強度の調整が出来るようになる。 協力的・協調的な態度で臨み、マナー・エチケット等の社会的行動様式をクラスメイトと共に構築することが出来る。 </td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度の観点 (V)</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻や欠席がなく、授業にいっききと参加することができる。 与えられた運動（課題）に積極的に取り組み、最善を尽くすことができる。 </td> </tr> <tr> <td>技術・表現の観点 (A)</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 自分の体の状況を言葉で表すことができる。 授業を重ねるにあたって増えていく、エアロビクスダンスの動きが出来るようになる。 </td> </tr> </table>	知識・理解の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体と運動に興味を持ち、定期的に運動をすることの意義を考えることができる。 ストレッチ、筋力トレーニングをする意義と重要性を知ることができる。 	思考・判断の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体と向かい合い、体の状態（不調なのか、好調なのかなど）を知ることが出来るようになる。 自分の体の状況に合った、運動量や強度の調整が出来るようになる。 協力的・協調的な態度で臨み、マナー・エチケット等の社会的行動様式をクラスメイトと共に構築することが出来る。 	関心・意欲・態度の観点 (V)	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻や欠席がなく、授業にいっききと参加することができる。 与えられた運動（課題）に積極的に取り組み、最善を尽くすことができる。 	技術・表現の観点 (A)	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体の状況を言葉で表すことができる。 授業を重ねるにあたって増えていく、エアロビクスダンスの動きが出来るようになる。
知識・理解の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体と運動に興味を持ち、定期的に運動をすることの意義を考えることができる。 ストレッチ、筋力トレーニングをする意義と重要性を知ることができる。 								
思考・判断の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体と向かい合い、体の状態（不調なのか、好調なのかなど）を知ることが出来るようになる。 自分の体の状況に合った、運動量や強度の調整が出来るようになる。 協力的・協調的な態度で臨み、マナー・エチケット等の社会的行動様式をクラスメイトと共に構築することが出来る。 								
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻や欠席がなく、授業にいっききと参加することができる。 与えられた運動（課題）に積極的に取り組み、最善を尽くすことができる。 								
技術・表現の観点 (A)	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体の状況を言葉で表すことができる。 授業を重ねるにあたって増えていく、エアロビクスダンスの動きが出来るようになる。 								
学習計画									

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業(フィットネス)の内容、進め方、注意事項などを中心に紹介をする。 【授業の流れ】 ストレッチ→筋力トレーニング又は身体作りの運動→有酸素運動(エアロビクスダンス)→クールダウン 以上の流れを毎時間、基本とします。	現在の運動状況を考えて、まとめておくこと。	60分
第2回	ストレッチ①	自分の体と向き合い、現在の体の状況を知りながらストレッチの有効性を探る。	体のどこが硬いと感じるか、柔らかいと感じるかを考えておく。	60分
第3回	ストレッチ②	呼吸の方法を学ぶ。呼吸を使ってのストレッチを実践する。	前回のストレッチの復習ができるとうい。	60分
第4回	ストレッチ③	今まで行ってきたストレッチに加え、立ち方を中心に体の重心を考えてみる。	前回のストレッチの復習ができるとうい。	60分
第5回	体幹トレーニング	体幹を考える。体幹とは何かを知識として確認し、トレーニングを実践する。	前回のストレッチの復習ができるとうい。	60分
第6回	バランスボール①	バランスボールを使った体幹トレーニング。バランスボールに慣れる。座ったトレーニングを中心に行う。	できそうな体幹トレーニングを自宅でも実践すること。	60分
第7回	バランスボール②	バランスボールを使った体幹トレーニング。上半身を中心にトレーニングを行う。	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、その他運動の実施。	60分
第8回	バランスボール③	バランスボールを使ったトレーニングのまとめ。今まで行ったトレーニングをテンポよく行い、トレーニングの数をこなす。	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、その他運動の実施。	60分
第9回	セルフマッサージ①	一人でやるマッサージを学び、セルフケアの方法を知る。特に下肢の緊張の取り方、むくみの仕組み除去の仕方を学ぶ。	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、その他運動の実施。	60分
第10回	セルフマッサージ②	二人組みで行うマッサージ。ストレッチ以外の全身の緊張を取る方法、相手の体を用いてリラックスの方法を学ぶ。	自宅でのストレッチ、体幹トレーニング、その他運動の実施。	60分
第11回	エアロビクスダンス①	有酸素運動とは何かを知識として学ぶ。その知識を踏まえて実践をする。	エアロビクスダンスを頭の中でも構わないので復習すること。	60分
第12回	エアロビクスダンス②	心拍数と有酸素運動の関係について学ぶ。また、心拍数を計りながらエアロビクスダンスを実践していく。	エアロビクスダンスを頭の中でも構わないので復習すること。	60分
第13回	エアロビクスダンス③	今まで行ってきた動きを中心に更に複雑にした動きに挑戦する。	エアロビクスダンスを頭の中でも構わないので復習すること。	60分
第14回	エアロビクスダンス④	今まで行ってきた動きを中心に、ハイインパクト(跳躍系の動き)に挑戦する。	エアロビクスダンスを頭の中でも構わないので復習すること。	60分
第15回	エアロビクスダンス⑤	今まで行ってきたエアロビクスダンスを繋げて行う。授業のまとめとして、自分の体の変化を考えてみる。	授業初回と現在の体の状況の変化を考えてくること。	60分

学習計画注記	<p>体育館の地下のスタジオにて実技を行う。 更衣必須。ジーンズなどの私服での参加は認めない。 ストッキングおよびタイツは不可。裸足になれるようにすること。第11回目からのエアロビクスダンスの時には内履きのスポーツシューズが必要。</p> <p>*初回はガイダンスの為、更衣、シューズの必要はない。</p>
--------	---

学生へのフィードバック方法	授業内で扱う、個人カードでのやり取りを基本とする。 質問は授業前後で受け付ける。
---------------	---

評価方法	<p>特に試験は課さないで、以下事項で評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点 ・授業態度・取り組み：授業への取り組みの積極性や努力過程を教員の観察によって評価する。 ・授業時の提出物：筆記の課題を授業内で提出。 <p>なお、下記表に振り分けられた目的も含め評価を行う。</p>
------	--

評価基準	
------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	
授業態度・取り組み		○	○	○

授業時の提出物	○	○	○

評価割合	平常点50%、授業態度・取り組み30%、授業時の提出物20%の総合評価。
使用教科書名 (ISBN番号)	なし 資料は授業内で配布する。
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解/思考・判断】身体の基本知識や運動の実践を通して、健康に自分らしく生きる事についての理解を深め、それに対する積極的な取り組みを判断できる力を身につけている。
オフィスアワー	基本的に授業内および授業前後に限る。緊急の場合、事務局に相談すること。
学生へのメッセージ	日頃の運動習慣や柔軟性、持久力などの現在の運動能力、運動によつての体調変化、運動を行わない時の体調など、少しでもいので、自分の体について考える時間を作ってください。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	ダンススタジオ、スポーツクラブ、ヨガスタジオ、学校教育現場で教授の経験がある。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習 c		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金子 和正	指定なし

ナンバリング	X13250M22
授業概要(教育目的)	長野県にある独立行政法人国立信州高遠少年自然の家のキャンプ場を使用しての、本格的アウトドアキャンププログラムを展開する。プログラム内容は環境教育、冒険教育を中心に4泊5日の期間で自然環境と人間の関わりについて様々な観点から学んでいく。また大自然の中での生活の知識や技術の実践を通して、個人がたくましく生きる力を身につけることを目的としている。実習終了後、希望者は(社)日本キャンプ協会公認「キャンプ・インストラクター」の資格を取得することができる。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	キャンプの知識について理解している。
思考・判断の観点 (K)	キャンプでの緊急時に対応できる判断力を持っている。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自然保護や環境についての関心を持ち、態度や行動を示している。
技術・表現の観点 (A)	教育キャンプや組織キャンプの義勇を持っている。キャンプを企画し指導できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	キャンプの歴史	日本におけるキャンプの歴史について、体育的な側面から理解する。	キャンプはアメリカのキャンプの歴史から学ぶことが多いことを理解しておく。	90分
第2回	キャンプの意義・目的	キャンプは短期間でも、参加者に大きな効果をもたらすことを理解する。	年齢に対応したキャンプ・プログラムについて理解しておくこと。	90分
第3回	キャンプと自己肯定感	キャンプの成果で大きく取り上げられるものの一つに自己肯定感が上げられる。生きる力が自然の中での活動を通して育まれることを理解する。	キャンプは自己概念の変容になぜ影響を与えるのかについて、理解しておく。	90分
第4回	キャンプ・プログラム	キャンプは期間や対象、場所によって様々なプログラムから成り立ち、プログラムによって参加者に大きな影響をもたらすことを理解する。	プログラムは参加する対象を考慮して、展開されることが重要であることを理解しておく。	90分
第5回	フィールドの条件	自然の中で活動するためにはフィールドが重要である。海や山、川や森といったようにフィールドと展開するプ	キャンプを行うフィールドを何処にするかで、参加者に何を求	90分

		ログラムは深く関わっていることを理解する。	めるかが異なってくることを理解しておく。	
第6回	キャンプのスタッフ	キャンプを組織していくスタッフの重要性について理解する。	キャンプのスタッフはどのような知識、技術を持っているべきかについて理解しておくこと。	90分
第7回	事故防止とリスクマネジメント	野外で行われる活動での事故や、リスクマネジメントについて理解する。	事故の防止のために事前や活動中にどのような配慮が必要か、リスクマネジメントについて理解しておく。	90分
第8回	いろいろなキャンプ	参加対象者、フィールド条件、期間、季節など様々な条件によって、いろいろなキャンプが企画できることを理解する。	キャンプを企画する際に、何を重要視していくのかについて理解しておくこと。	90分
第9回	冒険教育	キャンプでは、参加者の精神的、身体的限界に近い状態を引き起こすことも可能であることを理解する。	参加者が限界に近い状況を乗り越えた時に、自己肯定感や有能感が高められることを理解しておく。	90分
第10回	キャンプとカウンセリング	自然の中での活動中の他者からの助言は、大きな影響力を持つことを理解する。	カウンセリングは、キャンプ活動中においては重要な教育効果をもたらすことを理解しておく。	90分
第11回	キャンプ用具	キャンプ用具には様々な種類があり、キャンプの目的や種類に合わせて用具を選ぶことを理解する。	キャンプの用具を何で運ぶかによって、持って行く物はことになってくる。車での移動ではテントは大きく重い物を持参することも可能である。移動手段、目的によって用具も変わることを理解しておく。	90分
第12回	野外炊事	自然の中での炊事は、ボタンを押すだけでは食事はできない。多くの準備が必要であり段取りをしっかり立てることの必要性を理解する。	山の中での薪拾いから始めて、火を絶やさないと先を読みながら行動しなくてはならないことを理解しておく。	90分
第13回	クラフト制作	自然物を利用しての様々なクラフト制作は、想像力を膨らませることを理解する。	ナイフや彫刻刀を用いて木を削り、モノを創り出すプログラムは、制作過程を通して想像する力を引き出すことを理解しておく。	90分
第14回	パッキング	荷物をリュックに詰める時の要領や、リュックを背負っての歩き方等について理解する。	リュックに荷物を詰める時は、使用頻度や利便性を考えてパッキングすることが大切であることを理解しておく。	90分
第15回	テントの設営と撤収	キャンプの宿泊のスタイルの多くはテント泊になる。宿泊数が長くなればなるほどテントをしっかり立てることが重要であることを理解する。テントの片付けも、たみ方やメンテナンスが大切であることを理解する。	テントは、正しく設営・撤収をすることによって長く使用できること、メンテナンスを行うことによって	90分
第16回	キャンプと健康	キャンプ中でも日常と同じ衛生習慣や、健康に関する習慣を厳守する事が大切なことを理解する、	自然の中での生活は時間にとらわれない生活をするだけでなく、規則正しい生活習慣はキャンプでも実施しなくてはならないことを理解しておく。	90分
第17回	自然と気象	気象の変化によって、キャンプ中に健康をそこねない様に生活する方法を理解する。	自然の中での気象の急変にどのように対応するのか、身体のリスクマネジメントについて理解しておく。	90分
第18回	自然環境と順応	キャンプの初心者でも自然の中での生活が続くと、様々な事柄になれてくる。期間をかけてゆっくりと自然環境に馴れる事が大切であることを理解する。	暑さ・寒さに順応していくと、自然の中での生活も楽しくなっていくことを理解しておく。	90分
第19回	サバイバル技術	簡易なテントの作り方、保温の方法、飲料水の確保などサバイバル技術を理解する。	キャンプのサバイバル技術は、日常生活の緊急時にも十分利用できるものであることを理解しておく。	90分
第20回	ロープワーク	ロープを使ったいろいろな結び方について理解する。	ロープワークの習得は、日常生活の中で頻繁に使用される結び方の習得でもあり、生活の中にある紐の正しい結びの方法について理解しておく。	90分
第21回	キャンプと自然保護	自然環境の保護は、自然の中に入って自然環境について学ぶことが重要であることを理解する。	自然環境の保護について考え、実行するためには、自然の中で	90分

			生活することからスタートする必要性を理解しておく。	
第22回	キャンプの企画	期間やスタッフ、目的や場所といった要素を総合的にとらえプログラムの企画を立てることを理解する。	組織キャンプは1人で実施することは難しい。キャンプの企画を考える方法を理解する理解しておく。	90分
第23回	キャンプカウンセリング	教育キャンプでは、キャンパーに的確な指示やアドバイスを与えることによって効果が異なってくる。指導者の発言や行動が参加者に与える影響について理解する。	指導者は参加者の気持ちを十分に理解し、プログラム遂行中に的確なアドバイスを与える事が重要であることを理解しておく。	90分
第24回	障害者キャンプ	障害を持った人が、自然の中でキャンプ生活を楽しむためには何が必要なのか理解する。	健常者と障害を持った人が一緒にフィールドでキャンプ生活を送るためには、どのような準備から始めるのかについて理解しておく。	90分
第25回	キャンプの評価	企画したキャンプや参加したキャンプについて、様々な角度から評価する方法を理解する。	教育キャンプや組織キャンプは、終了した後に必ず評価を行い次回のための資料を得なくてはならない。評価のための方法について理解しておく。	90分

学習計画注記	気候等の自然条件によってスケジュールが変更になる場合もあります。
--------	----------------------------------

学生へのフィードバック方法	4泊5日間テント生活であり、内1泊は湖の畔で野営をする本格的キャンプである。期間中の12食は全て野外炊事であり、シラバスの内容は全て体験する事になる。キャンプ生活に馴れていくことで、生活プログラムは時間的に早くなっていくことがフィードバックされる。
---------------	--

評価方法	4泊5日間のキャンプ生活を通して、守らなければならない自然の中でのルールについて確認する。キャンプ生活中の態度、基本的なルールの厳守、協調性の3点からの総合評価とする。
------	--

評価基準	
------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
オリエンテーション	○		○	
実習	○	○	○	○

評価割合	実習のオリエンテーション及び実習への参加（生活態度、自然の中でのルール、協調性）をもって単位の認定をする。
------	---

参考図書	野外活動-その理論と実際-、日本野外教育研究会編、杏林書院、2002 キャンプテキスト、日本野外教育研究会編、杏林書院、1995
------	---

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】自然の中で生活するための方法について、知識と技術の側面から理解し具体的に経験している。環境保護や自然保護の知識を身につけている。 【思考・判断】緊急時の対応に関する知識と実践能力を身につけている。
---------------	--

学生へのメッセージ	アウトドアの楽しさを経験をもって理解するとともに、様々なリスクマネジメントとクライシスマネジメントも修得して欲しい。創造して生きていく力を授業で経験して欲しい。日常生活の豊かさに感謝する気持ちを学習し、また環境保護についても考える姿勢を形成し実行してもらいたい。
-----------	---

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	本格的なキャンプ生活を通して知識と技術を身につける授業である。自然の中での緊急時の対応の方法を習得し、日常生活にも応用できる能力を身につけられる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習 c		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大嶋 徹	指定なし

ナンバリング	X13251022
授業概要(教育目的)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 東京都あきる野市にある養沢川の自然環境に親しむ 2. 水生の動植物を知る (K) 3. 溪流魚(ヤマメ・イワナ・ニジマス)の特性を知る (K) 4. フライ(毛鉤)や道具のことを知り、技能を身につける (K・A) 5. フライフィッシングを通して自然環境と如何にマッチしていくべきかを学ぶ (V) 6. フライフィッシングをARTにまで高める基礎をつくる (A)
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	水生昆虫や魚の習性を知ること。河川の状況を知ること。自然環境の大切さを知ること。
思考・判断の観点 (K)	魚との距離をどれくらい取るべきか判断し、立ち位置を決定すること。
関心・意欲・態度の観点 (V)	魚を釣りたい。魚を食べたいという意欲と欲求が釣りの技術を進歩させる原動力となること。
技術・表現の観点 (A)	釣りのさまざまな道具には歴史的発展があること。釣りの服装は自分を表現する重要なアイテムである。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	用具の確認	第1日目: 10:30~12:00 道具配布・装備確認(実践1)	フライフィッシングとはどのようなものか。ネットなどで調査すること。	45分
第2回	自然観察	第1日目: 12:30~14:00 宿泊先養沢センター周辺の河川観察(実践2)	養沢川の地理的特徴を調査すること。	45分
第3回	オリエンテーション	第1日目: 14:00~15:30 開校式・釣具セッティング(実践3)	時間厳守のこと。フライトは何かを調査すること。	45分
第4回	第1日目: 15:40~17:10 キャスティング発達史(講義1)	文献上16世紀にはじめていたフライフィッシングについて学ぶこと。	ジュリアナ・パーナースについて調査すること。	45分

第5回	第1日目：19:00～20:30日本の漁業法（講義2）	日本の漁業法について概説する。	行行法の所轄はどこか調査すること。	45分
第6回	第2日目：9:00～10:30キャストイング・精度を高める（実践4）	キャストイング（ショートレンジ）をマスターする。	ネットなどでキャストイング動画をチェックしておくこと。	45分
第7回	第2日目：10:40～12:10キャストイング理論（講義3）	フライはなぜ飛ぶか。ロッドの機能とフライを飛ばす原理を説明すること。	フライロッドについて調査すること。	45分
第8回	第2日目：14:00～15:30養沢川の観察・魚のいる場所を確認する（実践5）	河原に降りて魚と周囲を観察すること。	渓流について調査すること。	45分
第9回	第2日目：15:40～17:10フライタイイング・フライを作る（実践6）	実際にフライを巻いてみること。	フライを巻く道具と材料について調査すること。（フェザンとテール・カディスなど）	45分
第10回	第2日目：20:00～21:30キャストイングのポイント（講義4）	魚はどこにいて、何を食べているか。流れを読むこと。	ネットの動画などでヒットシーンを確認すること。	45分
第11回	フライでマスを釣る（実践7）	第3日目：6:00～7:30フライでマスを釣る試み（実践7）	魚がいる流れを察知することができるか。挑戦する。	45分
第12回	自然観察・河川の観察	第3日目：9:00～11:30河川の観察・動植物の観察（実践8）	養沢の植物について調査する。	45分
第13回	フライタイイング	第3日目：14:00～15:30フライタイイング・フライを作る（実践9）ニフ・カディスをつくり保管する。	ニフとは何かを調査する。	45分
第14回	魚を釣る試み	第3日目：16:00～18:30フライでマスを釣る（実践10）	魚は何を食べているか確認すること。	45分
第15回	水生昆虫	第3日目：20:00～21:30水生昆虫について（講義5）養沢にいる水生昆虫を紹介する。	カゲロウとトビゲラについて調査する。	45分
第16回	マスを釣る試み	第4日目：6:00～7:30フライでマスを釣る（実践11）	自分が持っているフライを確認すること。	45分
第17回	郷土館見学	第4日目：9:00～11:30武蔵五日市市郷土館・古民家見学（実践12）	武蔵五日市市について調査する。	45分
第18回	ニフをつくる	第4日目：14:00～15:30フライタイイング・フライを作る（実践13）	再度ニフとは何かを確認すること。	45分
第19回	釣魚の試み	第4日目：16:00～18:30フライでマスを釣る（実践14）	ポイントの情報交換をする。	45分
第20回	魚を釣った人の事例を参考にすること。	第4日目：20:00～21:30 個別指導・説明会（講義6）	魚のいる場所を確認すること。	45分
第21回	マスを釣る試み	第5日目：6:00～7:30フライでマスを釣る（実践15）	実績のある場所を選んでそこに行く準備をする。	45分
第22回	名人紹介	第5日目：9:00～10:30日本のフライフィッシングの名士たち（講義7）	フライフィッシングの達人をひとりあげ調査すること。	45分
第23回	世界のフライフィッシング	第5日目：10:40～12:10世界のフライフィッシングの名士たち（講義8）	フライフィッシング世界大会について調査すること。	45分

	ング																		
学習計画注記	悪天候により外出・実習できないことがあり、プログラムの大幅な変更を余儀なくされることがある。																		
学生へのフィードバック方法	魚が釣れるか。釣れないか。それが課題でありひとつの結果である。しかし、実習生同士協力して成果を上げることも重要である。																		
評価方法	平常点50%、演習・釣果判定等50%で総合的に判定する。 (平常点はプログラムの課題達成状況・質問の受け答え・討論への参加・学習意欲等で総合的に判断する。)																		
評価基準	評価基準																		
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)															
	平常点	○	○	○															
	釣果判定	○	○	○															
評価割合	平常点50%、演習・釣果判定等50%で総合的に判定する。 (平常点はプログラムの達成状況・質問の受け答え・討論への参加・学習意欲等で総合的に判断する。)																		
使用教科書名 (ISBN番号)	適宜																		
参考URL	http://yozawa.jp/																		
ディプロマポリシーとの関連	日常生活から離れて自然環境の中で自分と向き合う時間はさまざまに意味を持つことがある。その時間の中で生活のことを考え、仲間のことを思うかもしれない。日常から離れて、また日常へ帰るとき生活者としての自分に気がつくものである。																		
オフィスアワー	金曜4限																		
学生へのメッセージ	自作のフライでニジマスを釣って胃袋におさめる。わたしたちはそのとき何を思うだろう？																		
教育等の取組み状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td>担当の大嶋は複数のフライフィッシングクラブに所属し20年以上活動を続けてきた。また、2018年イタリア、2019年タスマニアでの世界大会に日本代表として2回参加した。それらの経験を学生に還元するための集中授業である。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>自然環境を理解し、魚との距離をとって的確にキャストすることが求められ、自然と釣りの双方の学習が必要であること。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					該当有無	概要	実務経験を活かした授業		担当の大嶋は複数のフライフィッシングクラブに所属し20年以上活動を続けてきた。また、2018年イタリア、2019年タスマニアでの世界大会に日本代表として2回参加した。それらの経験を学生に還元するための集中授業である。	アクティブ・ラーニング	○	自然環境を理解し、魚との距離をとって的確にキャストすることが求められ、自然と釣りの双方の学習が必要であること。	情報リテラシー教育			ICT活用		
	該当有無	概要																	
実務経験を活かした授業		担当の大嶋は複数のフライフィッシングクラブに所属し20年以上活動を続けてきた。また、2018年イタリア、2019年タスマニアでの世界大会に日本代表として2回参加した。それらの経験を学生に還元するための集中授業である。																	
アクティブ・ラーニング	○	自然環境を理解し、魚との距離をとって的確にキャストすることが求められ、自然と釣りの双方の学習が必要であること。																	
情報リテラシー教育																			
ICT活用																			

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習 d		
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金子 和正	指定なし

ナンバリング	X13260M22
授業概要(教育目的)	スキー、スノーボードの技術と理論を学ぶと共に、運動文化としてのスノースポーツの重要性について考える。また、滑走技術としてのスキーやスノーボードの捉え方から、移手段としてのスキーやスノーボードの歴史的背景について学習する。さらに雪を媒介としての環境教育プログラムの考え方についても造詣を深める。スキー、スノーボードの講習は、それぞれ専門の大学教員が担当する。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 日常で用いない新しい技術をどのように学ぶか理解している。 2. 知識と同時に実践を通して学ぶ事は、効率的な事であることを理解している。 3. 他者に教えられることは、新しい知識と技術を習得した証であることを理解している。
思考・判断の観点 (K)	1. 斜面に対応する滑りの技術を理解している。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 初級者や初心者指導に対応できる態度を持っている。 2. 他者に対する言葉かけや、指導の方法を理解している。
技術・表現の観点 (A)	1. 自身の力でゲレンデを滑走する技術を身につけている。 2. 初心者や初級者を教えられるスキー、ボードの技能を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	冬季スポーツの歴史(スキー・スノーボードの歴史)	冬季スポーツが世界でどのような歴史を経て来たのかを理解する。日本のスキーとスノーボードの歴史を理解する。	スキーやスノーボードが高校や大学で普及してきた年代について考えおく。	60分
第2回	冬季スポーツの魅力	冬季スポーツの魅力について、地域性や年齢段階、スポーツ活動の場から理解する。	スノーボードが特に若者に指示される理由について考えておくこと。	60分
第3回	スキー・スノーボードの用具の発展	スキーやスノーボードには、板やストック、靴と一緒に締め具といった特殊な用具が使用される。これらの歴史的発展やその使い方を理解する。用具の発展は、技術の発展と大きく結びついていることを理解する。	用具について、調べておくこと。	60分
第4回	スキー・ス	スキー・スノーボードには多くの技術があり、技術は滑	技術は簡単なものから複雑なもの	60分

	ノーボードの技術について	降する斜面と関係していることを理解する。	の、低速から高速、荒削りのものから洗練されたもの、というように体系化されていくことを考えておくこと。	
第5回	冬季スポーツと事故や怪我の防止	スポーツの実施にともなう事故や怪我の発生について理解する。ハインリッヒの法則を中心に怪我の予防について理解する。簡単な救急処置について理解する。	スキー場での怪我は、なぜ生じるのか考えておくこと。	60分
第6回	初心者・初級者の技術(実技)	スキーやボードで雪面をずらして滑ることを学ぶ。安定した姿勢で雪面をゆっくりと真下に滑ることを学ぶ。	初心者や初級者が雪の上を滑る時の気持ちを考えておくこと。	60分
第7回	初級者の特徴	スキーやボードの初級者の陥りやすい姿勢、スキー・ボード板の操作の特徴について理解する。斜面に対応する重心の位置や構えの姿勢について理解する。	斜面を下に滑降していくということは、どのような事なのか考えておくこと。	60分
第8回	初級者から中級者へ	斜度が変わる度に、姿勢を変えることを理解する。いろいろな斜面を滑るために股関節や脚の角度を変えることを理解する。	斜面の凹凸を通過する時の重心の位置を考えておくこと。	60分
第9回	スキー・ボードの操作	板のエッジを切り替えることによって、ターンが生じることを理解する。荷重の切り替え、スキー板やボードの脚による操作について理解する。	スキーやボードの動画を見て、上級者がどのように板を操作しているか事前に調べておくこと。	60分
第10回	滑走感覚を習得する	長い距離を滑ることによって、習得した技術をさらに高めることを学ぶ。長い時間を滑ることによって、スキーやボードで使用する体の使い方を理解していく。	長い距離や長い時間、スキーやボードをすために必要な体の使いかたについて調べておくこと。	60分
第11回	滑りのバリエーション	なめらかなゲレンデや整地されていないゲレンデ、凹凸のある斜面、一定の斜度があるところといったような、様々な条件下を滑ることができる技術を習得する。	長い距離、色々な斜面、を滑りきれられるためにはどのような滑りが望ましいのか考えておくこと。	60分
第12回	リスクマネジメントと応急処置	ゲレンデ内での事故防止のために、何が必要なのかについて理解する。事故に遭遇したり当事者となった時の対処方法について理解する。	スキー場の安全管理やスノースポーツの保険について調べておくこと。	60分
第13回	スピードとコントロール	スキーやボードの滑走スピードは、常に止まれるスピードで滑走しなくてはならないことを理解する。オーバースピードは事故につながることを理解する。ゲレンデ内の標識や注意事項を理解し滑走することを学ぶ。	ゲレンデでは滑走ルールを厳守することが重要であるとともに、相手の滑走方向を常に予測しながら自身が滑走していく必要があることを考えておくこと。	60分
第14回	スキー・ボードの用語	スキーやスノーボードで用いる様々な用語について理解する。それぞれの種目の技術用語と指導用語について理解する。	ヨーロッパや欧米から伝わったスポーツで用いられる用語は、指導場面で多く用いられることを学習しておくこと。	60分
第15回	総合的な滑走	スキーやスノーボードを操作して、様々な条件下を自身のコントロール下で自由に安全に楽しく滑る楽しさを理解する。	事故や怪我を生じさせないで自由に楽しく安全に滑るために、準備運動から始まり適切な服装の用意、指導者の意見、斜面の選定など様々な条件を学習することの必要性について理解しておくこと。	60分
第16回	用具になれる	靴や板を履いて、重さに慣れ日常生活の中の用具と違う感覚を理解する。	部屋で足の運びを実際に行っておくこと。	90分
第17回	歩行と方向変換	板をつけて歩行したり、斜面を登っていく方法を理解する。長い装具である板を履いての方向変換を理解する。	方向変換の方法を調べて足の運びを理解しておくこと。	90分
第18回	斜面を真下に滑り停止する	面を真下にまっすぐに滑って行く時の、荷重の方法とエッジのコントロールを理解する。	上体の構えや、重心の位置、股関節の角度の変化を理解しておくこと。	90分
第19回	方向を変えて停止する	脚を曲げて停止する方法から、山回りによってエッジの角付けを強めて停止することを理解する。	エッジを強めるためにはどのようにするのか、学習しておくこと。	90分
第20回	エッジを切り替える	エッジを切り替えることによってスキーやボードは回転を生じることを理解する。	エッジの切り替えのコントロールによってターンが早くなったり、大きくなったりすることを学習しておくこと。	90分
第21回	ターン(山回から谷回り)	真下に向かうフォールラインを板が2回通過すると山回りから谷回りとなりターンが生じること、体の重心の切り替えが生じることを理解する。	ターンを行うために、からだの重心はどのような軌跡をたどるのかを理解しておくこと。	90分
第22回	ターンを連続する	滑らかな斜面でターンの連続を行うことを学ぶ。積極的な上体の構えがターンの連続を可能にすることを理解する	上体の構えがターンをリードしていくことを理解しておく。	90分

		る。		
第23回	エッジを切り替える	エッジを切り替えるための荷重の方法や、上体の立ち上がりの方法を理解する。	スキーやスノーボードでは、脚以外の部位に緊張があるとスムーズな回転が難しいことを理解しておく。	90分
第24回	回転弧を替えて滑る	大きなターンや小さいターン、早いターンやゆっくりしたターンといった変化のあるターンを、体でコントロールして滑ることを理解する。	脚や股関節、上体の積極的な立ち上がりを行うことで回転を滑らかにできることを理解しておく。	90分
第25回	いろいろな斜面を滑る	自然の中では、全く同じ条件で全く同じ滑りをするということは不可能である。気象条件や雪質の変化に対応しながら滑ることを理解する。	90分	
第26回	スピードのコントロール	常に停止できるスピードで滑る。そのためには脚や股関節の自由度を大きく保ち、いつでも停止できる状態で滑ることが重要であることを理解する。	安全なスピードで滑走することが、スキーやボードにとって大切な要件であることを理解しておくこと。	90分
第27回	長い距離を滑る	様々な変化した斜面を長く滑ることが上達に繋がることを理解する。	長い距離を滑ることによって、滑走感覚を身につけることが重要であることを理解しておく。	90分
第28回	フォーメーションで滑る	他者の滑走リズムに合わせて自分の滑走スピードやリズムをコントロールすることが大切であり、上達するための方法でもあることを理解する。	他人のスピードやリズムに合わせてられることは、スピードコントロールが常にできていることを理解しておく。	90分
第29回	指導をする	初心者に教えられることは、様々な事柄を理解し滑走技術も習得できた証であることを理解する。	初心者に教えるために必要な事柄を整理し、どのような方法を用いるのが最適な方法かを準備しておくこと。	90分
第30回	応用技術を習得する	これまでに学習した技能を用いて、さらにいろいろな斜面や斜度に対応した技術を理解する。	応用的な技術は、どのような場面で求められるのかについて理解しておくこと。	90分

学習計画注記 授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

- ・講習中は常に教員がアドバイスを的確に行います。
- ・実力に応じた班編成で、1班10名程度で講習を行います。
- ・メディアを用いた指導法で、滑りを還元していきます。

評価方法

- ・事前指導が5日間あります。実習中は夕食後に講義を実施します。事前指導、実習中の講義については毎回ノートの提出を求めます。
- ・4泊5日の最終日にそれぞれの班ごとに、実技テストを実施します。
- ・講義中のノートの提出状況と実技テストの総合判定とします。
- ・実技テストとノートの割合は、50%づつとします。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
講習ノート	○		○	
実技テスト	○	○	○	○

評価割合 講義ノート (50%)、実技テスト (50%) を総合して評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) 特に指定しない。

ディプロマポリシーとの関連

- 【知識・理解】 スキー・ボードの知識をもつ。
- 【思考・判断】 様々な条件に応じた滑りを判断し、実行できる。
- 【関心・意欲・態度の観点】 積極的に滑ろうとする意欲を持つ。
- 初心者や初級者に教えられる態度を持つ。
- 【技術・表現の観点】 斜度や斜面、自然条件に応じた滑走技術を有する。

オフィスアワー 月曜4時限 G302教室

学生へのメッセージ スノーボードやスキーは冬の代表的なスポーツです。雪のなかで体を動かす楽しさや素晴らしさを経験して下さい。また、雪国で生活する人々の暮らしについて考える機会を持って欲しい。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	健康スポーツ演習 d		
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 江川 賢一	指定なし

ナンバリング	X13261022
授業概要(教育目的)	生涯を通じたスポーツを実施し、スポーツによる健康づくりの実践方法を理解する。テニスのルール、楽しさ、運動強度を知り、将来生活の中にスポーツを定着させる基礎を形成する。グラウンドストローク、ボレー、スマッシュ、サーブなどの基本的技術を身につけて、経験、技能によらずゲームを楽しく行う。
履修条件	夏季集中で開講するため、確実に履修できる学生を優先する。8/12(月)～8/16(金)に蓼科山の家で実施。実習費22,000円(税込予定、交通費別)。千代田三番町キャンパスで実施する新体カテストに参加すること。履修希望者は以下のいずれかのオリエンテーションに参加すること。定員を超えた場合は抽選とする。 ・4/15(月)12時30分 千代田三番町キャンパスサブアリーナ ・4/17(水)12時30分 町田キャンパス体育館

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	テニスの特性、ルールを説明できる。
思考・判断の観点 (K)	テニスのゲーム特性を説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自らの運動習慣を見直し、演習を通じて健康管理に意欲的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	テニスの基礎的技能を習得する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション (千代田三番町、町田)	本授業の目的と概要を理解する。 演習に必要な服装・用具を準備する。	新体カテストの実施要領を調べる。	90分
第2回	新体カテスト (千代田三番町)	ウォーミングアップの方法を理解する。 新体カテストを実施し、自己の体力を把握する。 クールダウンの方法を理解する。	テスト結果を同世代と比較し、基礎的なプログラムを作成する。	90分
第3回	グラウンドストローク	ラケットの感覚に慣れる。 グリップの握り方を説明する。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分

	(フォアハンド)			
第4回	グランドストローク (フォアハンド)	フォアハンドについてポジションの取り方を説明する。 右利きの場合、体の正面から見て、右側に来るボールをフォアフンドで対応する。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第5回	グランドストローク (バックハンド)	ラケットの感覚に慣れる。 グリップの握り方を説明する。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第6回	グランドストローク (バックハンド)	バックハンドについてポジションの取り方を説明する。 右利きの場合、体の正面から見て、左側に来るボールをバックフンドで対応する。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第7回	グランドストロークの練習1	フォアハンドからバックハンドを組み合わせて練習する。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第8回	グランドストロークの練習2	バックハンドからフォアハンドを組み合わせて練習する。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第9回	グランドストローク (クロス)	テニスコートを2等分して、それぞれのコースに打ち分ける。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第10回	グランドストローク (ストレート)	テニスコートを2等分して、それぞれのコースに打ち分ける。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第11回	グランドストローク (逆クロス)	テニスコートを2等分して、それぞれのコースに打ち分ける。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第12回	ボレー	ボレーの方法を理解する。 ネット付近での、ラケットワークを説明する。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第13回	スマッシュの練習1	スマッシュの方法を理解する。 ボールの落下点を予測し、正確に打ち返す方法を説明する。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第14回	スマッシュの練習2	スマッシュの方法を理解する。 ボールの落下点を予測し、ポイントにつながる方法を説明する。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第15回	サービスの練習1	サービスの種類と方法を説明する。 ファーストサービスの技術を習得する。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第16回	サービスの練習2	サービスの種類と方法を説明する。 セカンドサービスの技術を習得する。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第17回	サービス・レシーブの練習1	サービスされたボールを確実に打ち返す方法を説明する。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第18回	サービス・レシーブの練習2	サービスされたボールを打ち返し、得点する方法を説明する。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第19回	試合の進め方・審判の方法	ルールを理解し判定をできるようになる。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第20回	試合の進め方・審判の方法	正しく、コールできるようになる。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第21回	ミニゲームでの試合・審判の方法	ミニゲームの方法を説明する。 本来より短い試合の進め方を学習する。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第22回	ミニゲームでの試合・審判の方法	本来より短い試合でのセルフジャッジに慣れる。	前回までの実技の復習をする。 競技(ゲーム)に関連する動作を予習する。	90分
第23回	ミニゲーム	シングルの試合の進め方を習熟する。誤審がない審判	前回までの実技の復習をする。	90分

	での試合・審判の方法	法を身に着ける。	競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	
第24回	ミニゲームでの試合・審判の方法	ダブルスの試合の進め方を習熟する。誤審がない審判法を身に着ける。	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第25回	ゲーム形式での練習	ミニゲームを発展させた試合を実施する。	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第26回	ゲーム形式での練習	シングルのミニゲームを楽しむ。	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第27回	ゲーム形式での練習	ダブルスのミニゲームを楽しむ。	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第28回	5ゲームでの試合	5ゲームのシングルの試合を実施する。	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第29回	5ゲームでの試合	5ゲームのダブルスの試合を実施する。	前回までの実技の復習をする。競技（ゲーム）に関連する動作を予習する。	90分
第30回	5ゲームでの試合（まとめ）	テニスの基礎技術、プレーマナー、チームワーク、スポーツをする、観る、支える知識、態度、行動について説明する。 新体カテストを実施し、体力の変化を把握する。	テスト結果を受講前と比較し、基礎的なプログラムを評価する。 演習の成果をレポートにまとめる。	90分

学習計画注記 ※天候、履修者の技能レベル、人数によりスケジュールや内容が変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法 授業中およびオフィスアワーで対応する。

評価方法 種目についてルールの理解、安全で効果的な運営への貢献度とともにゲーム実践の達成度を評価する。体カテストの結果のレポートを評価する。欠席は評価しない。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
ゲーム実践			○	○
レポート	○	○		

評価割合 ゲーム実践の達成度50%、レポート50%

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 全米テニス協会評価プログラム (NTRP) ガイドライン (URL参照)

参考URL <https://assets.usta.com/assets/639/15/National%20tennis%20Rating%20Program.pdf>

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解・思考・判断】 運動とスポーツに関する知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる
【関心・意欲・態度】 社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって健康的に働く能力を身につけている
【技術・表現】 学修で得た専門的技能をもって自己表現することで共感を創り出す能力を身につけている

オフィスアワー 木曜日 12:30~14:30

学生へのメッセージ 初心者向けに蓼科山の家で実施する（夏季集中）。NTRP3.0~4.5を主な対象とする。演習前日は十分な睡眠をとり、当日はバランスのよい食事をとること。運動不足の人は自宅ストレッチすること。生涯にわたり健康を維持増進するための体力基盤を作るとともに、学部や学年を超えて他者とのかわりを楽しんでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は民間企業の研究機関における健康運動指導に従事した経験を踏まえて、個人及び集団特性に応じた運動実践の専門的知識と技能を教授する。
アクティブ・ラ		

ーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomにより教室外学習を実施し、課題（レポート）を提出する。

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	体育講義		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金子 和正	指定なし

ナンバリング	X13280M11
授業概要(教育目的)	子どもの身体と運動能力について理解していく上での基礎的な知識を学ぶ。子どもの発育発達にともなう、遊びからルールをともなったスポーツへの参加がどのように身体的・精神的に影響を及ぼしていくのかについて考えていく。また、諸外国の多くの事例を見ながら運動やスポーツの効果について考える。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 子どもの成長と運動の関係について理解している。 2. 運動が子どもにとって大切な事項であることを説明出来る。 3. 年齢段階に応じた運動について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 幼児の成長において重要な運動を分類できるとともに、その内容も理解している。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	1. 幼児の運動を分類でき、それぞれの運動について説明と指導ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	体の発育と発達	発育と発達の相関について学ぶ。スキヤモンの発育・発達曲線を中心に理解する。	自身の母子手帳を見て、発育・発達について関心を高めておく。	60分
第2回	発育・発達に及ぼす栄養と運動	子どもの成長は運動と栄養、休息が3つの大きな基本となっていることを理解する。栄養、運動、休息のそれぞれが関連を持たなくなった時、どのような影響が現れるかについて理解する。	怪我や病気について、その誘因や主因から考えを深めておく。	60分
第3回	運動やスポーツの科学的成果(生理学的側面から)	運動やスポーツの効果について、科学的に検証された成果について理解する。筋肉や骨、神経の成長を促すための運動やスポーツについて理解する。	園や小学校で実施されている運動やスポーツについて、年齢や学年に応じた分類を考えておく。	60分
第4回	運動・スポ	運動やスポーツの効果について、科学的に検証された成	技術を習得するために、どのよ	60分

	一つの科学的成果（運動学的側面から）	果について理解する。技術の習得や技の巧みさについて理解する。	うな方法をとっているか、大人と子どもの習得方法の違いはあるのかについて考えておく。技術の習得の順番について考えておく。	
第5回	運動・スポーツの科学的成果（心理学的側面から）	運動をコントロールするのは、筋肉よりも神経系である。「あきらめない」こと「頑張る」こととは何なのか。運動を継続する事によって何が高まっていくのかについて理解する。	心肺機能に影響をもたらす運動と、技巧性に影響する運動やスポーツに調べておくこと。子どもにとってどのような運動が望ましいかについて学習しておくこと。	60分
第6回	運動・スポーツを取り巻く環境	子どもを取り巻く運動やスポーツ環境について理解する。子どもの親の子ども時代と現在の子ども達との遊び環境の違いについて理解する。	文部科学省のHPから、それぞれの時代の子どもの体力や遊びについて調べておくこと。	60分
第7回	運動・スポーツを取り巻く現状	子どもの運動・スポーツを取り巻く現状について理解する。スポーツの英才教育や競技スポーツの若年層化について理解する。スポーツの2極化現象について、原因や課題を理解する。	スポーツ人口の構成やスポーツ教育の若年層化について調べておく。スポーツの2極化現象に及ぼすマスメディアの存在について考えておく。	60分
第8回	オリンピック・パラリンピックの課題	2020年に開催されるオリンピック・パラリンピックの学校や社会への波及について理解する。大きな国際大会がその国に及ぼす影響について実施前・実施中・実施後の観点から理解する。	オリンピックやパラリンピックの社会的側面、経済的側面から様々な記事を読んでおくこと。オリンピック後の施設の在り方について考えておくこと。	60分
第9回	運動環境（施設・用具・価格）	園や学校以外の運動環境について理解する。日本の運動環境は諸外国と比較してどのようなレベルなのか理解する。子ども達が好んで実施しているスポーツ環境について、施設面から理解をしていく。	運動環境が整っていると言うことは、どのようなことなのか調べておくこと。	60分
第10回	学校体育の役割	子どもの成長に合わせた学校体育について理解する。小学校体育と競技スポーツの関係について理解する。	競技スポーツは、必ずしも小学校体育で取り挙げていない。子どもの発育・発達から競技スポーツの特色を考えておくこと。	60分
第11回	社会体育の役割	学校以外の運動やスポーツ環境について理解する。スポーツ環境が整っていると言うことはどのようなことなのかについて理解する。	自身の家を中心とした環境の中で、スポーツや運動施設を振り返って見て、スポーツ施設の充実度について考えておくこと。	60分
第12回	生涯スポーツ、障害者スポーツ	長い期間続けられる運動やスポーツこそ、人の健康に大きく寄与していくことを理解する。年齢段階によって大きな筋肉運動から小さな運動へと移行していくことや有酸素運動の大切さを理解する。障害者スポーツが益々発展していくための環境作りについて理解する。	年齢を重ねる度に競技スポーツから生涯スポーツへと移行していくことを考えておくこと。障害者が誰でもスポーツや運動を楽しめる環境作りについて考えておくこと。	60分
第13回	スポーツによる地域興し	スポーツを用いての地域の活性化について理解する。スポーツや運動の大会の企画や実施は、大きな要因となって周囲を活気づけていくことを理解する。	自分の周囲で、このような行事があるか調べておくこと。	60分
第14回	これからの運動・スポーツ	健康を維持・増進する運動から競技的なスポーツ、生涯を通して実施していくスポーツや運動、年齢や環境に合ったスポーツについて色々な方向から理解する。	家族のスポーツの実施状況や、運動の嗜好について調べておくこと。	60分
第15回	まとめ	運動やスポーツの経験が今後の自分にどのような影響を及ぼしてくるのか、身体的精神的側面から理解する。生涯にわたってスポーツや運動続けて行くことの意義について理解する。	自分のこれまで経験してきた運動やスポーツを通して、何を学んできたかをまとめておくこと。	60分

学習計画注記	授業の進み具合によってスクジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	実施した小テストは、採点して返却する。小テストの模範解答はgoogle ドライブ上に提示する。質問等については授業終了後もしくは研究室G302へ訪問すること。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業時の終わりに、5分間の小テストを実施する。小テストは授業時の講義の内容に沿ったものとする。 ・小テストは5点満点とし、総計は5点×14回で70点とする。 ・授業期間中2回の課題レポートを出し、それぞれ15点満点とし15点×2回で30点とする。課題はすべて講義で話した内容を基に提出することとなるので十分注意すること。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○		
課題	○	○	○	

評価割合	小テスト（70%）課題・レポート（30%）を総合して評価する。			
使用教科書名（ISBN番号）	特に指定しない。			
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】運動やスポーツを、発育・発達に応じて与えられる知識をもつ。生涯を通じてどのようなスポーツと関わって行くことが望ましいのかについて知識をもつ。スポーツが健常者のみのものでなく、障害者とともに楽しむことであるという知識をもつ。</p> <p>【思考・判断】今後、自分がスポーツや運動とどのように関わっていくのかという判断ができる力を身につけている。</p>			
オフィスアワー	火曜4時限 G302研究室			
学生へのメッセージ	運動やスポーツについて関心をもつ習慣を身につけることは大切です。自身で体を動かし積極的に自分のからだの変化を感じましょう。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	体育実技		
講義開講時期	後期	講義区分	実技
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限後半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金子 和正	指定なし

ナンバリング

X13290M13

授業概要(教育目的)

運動やスポーツの実践を通して、身体を動かすことによる効果を実体験していく。勝敗を決定すること以上に、運動やスポーツがコミュニケーションの形成や自己効力の向上に大きな効果を持っていることを学んでいく。これらが子どもの発育・発達においていかに重要な要素となっているかについて学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	運動技術の修得のための指導用語を理解する。
思考・判断の観点 (K)	運動のコツを修得する。技のタイミングを得ようとする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	スポーツを楽しむためにゲームのルールを理解する。
技術・表現の観点 (A)	模範演技のための表現能力を高める。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	アイスブレイクゲーム	初めてのメンバーと出会った時に緊張をほぐすゲームは、非常に効果があることを理解する。	ゲームを通して体を触れあったり、一つの目的を達成するために全員が協力することは、お互いの心を開くための最善の方法であることを理解しておく。	90分
第2回	イニシアティブゲーム	集団の凝集性と意識を高めるための方法として、イニシアティブゲームの有効性について理解する。	集団に一定の課題を与え、これを解決ることによってまとまりのある集団へと成長していくことを理解しておく。課題解決のためのいろいろなゲームについて理解しておく。	90分
第3回	アウトドアゲーム	アウトドアゲームを通して環境保護や環境教育の必要性を理解する。	アウトドアゲームは、自然についての意識を高めることを理解しておく。	90分
第4回	基本的な運動(投げ)	基本的運動能力である走・跳・投について、現在の自分の数値を計測し、運動能力の推移について理解する。	運動能力の経年的推移について理解しておく。	90分

	る、跳ぶ、走る)			
第5回	基本的な運動から応用へ（ボール運動、なわ運動、マット運動）	メデシングボール等を用いた補助運動、基本的な縄跳び運動、マット運動の前転・後転を中心に、体の柔軟性や運動能力について理解する。	運動能力に影響をおぼしている柔軟性や筋力・神経反射について理解しておく。	90分
第6回	ゲームスポーツ（バレーボール）	バレーボールを通して、チームワークの必要性、作戦の大切さを理解する。	バレーボールは個人スポーツではないこと、6人が協力するとはどういうことなのかを理解しておく。	90分
第7回	ゲームスポーツ（バスケットボール）	シュートの成功の確率が勝敗に大きく影響しているバスケットボールについて、確率の高いシュートを打つための方法を理解する。	シュート練習の重要性について理解しておく。	90分
第8回	ゲームスポーツソフトボール	基本のキャッチボールからバッティングまでを行い、ソフトボールの楽しさを理解する。	ソフトボールの基本はキャッチボールであることを理解しておく。	90分
第9回	いろいろなスポーツを楽しむ（インドアカ）	運動量が大きなバレーボールとは異なり、ニュースポーツとしてのインドアカの楽しさを理解する。	インドアカのルールを知り、インドアカの楽しさを理解しておくこと。	90分
第10回	いろいろなスポーツを楽しむ（サッカー）	シュート時の感覚やパスが通った時の感覚を体験し、サッカーの楽しさを理解する。	チームが一つになって、相手のゴールにボールを運ぶ時の感覚を理解しておく。	90分
第11回	いろいろなスポーツを楽しむ（フライングディスク）	ディスクを投げたり、キャッチングする楽しさに触れ、ディスクゴルフとアルテミットを理解する。	ディスクを用いてのゲームの楽しさについて理解しておくこと。他の投げるスポーツと異なりバックからの投げ方は独特である。目標に向かって正確に投げる方法を理解しておく。	90分
第12回	運動会の企画と準備	子どもたちにとって、ワクワク・ドキドキする運動会を企画する。いろいろな種目を自ら体験し楽しい運動会にすることを学ぶ。	競技のみの種目でなく、全員で協力して行う種目や、勝ち負けのない種目を理解しておくこと。	90分
第13回	運動会	様々な種目が組み入れられた運動会を経験し、種目の配置や時間を理解する。	運動会を企画・経験し種目の配列、時間、集団での動きの理解をしておく。勝敗のない運動種目を理解しておく。	90分
第14回	球技大会	ルールに変化を加えたりしながら、プレイが長い時間継続する方法を理解する。	参加者全員が競技を楽しむためには、どのような工夫が必要か、ルールや時間、人数等について変化をもたせることを理解しておく。	90分
第15回	運動をつくる	グループごとに子どもが楽しめる体操やゲームを創り、発表する。子どもたちはどのような運動を楽しむのかについて理解する。	楽しい運動、ゲームについて子どもの気持ちになって考えておく。	90分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	毎回の実技授業を通して、自身の得意な領域を見つけさらに興味を深めていくようにする。苦手な運動に対しては段階を追って練習をするようにアドバイスをしていく。
評価方法	授業に対する積極的態、授業時に実施する基本運動の習得テスト、授業の最終回である「運動をつくる」の3つの評価の総合評価とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業に対する積極的態	○		○	○
基本運動の習得	○	○	○	○

評価割合	授業に対する積極的態度（30%）、基本運動の習得（35%）、運動をつくる（35%）の総合評価。	
使用教科書名（ISBN番号）	特になし	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 様々なスポーツのルールを理解する。スポーツの戦術やトレーニングの方法を理解している。 【思考・判断】 ゲームを通して相手の動きの予測や判断ができる。 【関心・意欲・態度】 様々なスポーツゲームに積極的に取り組む、チームのために努力を惜しまない。 【技術・表現】 新しい運動を考え、他者に見せるための表現をしている。	
オフィスアワー	火曜4時限目	
学生へのメッセージ	様々な運動をゲームの楽しさから入り、徐々にルールのあるスポーツへと展開していくことを経験をもって学んでいきます。特に子どもへのスポーツや運動指導のヒントを得て欲しい。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	運動体験をフィードバックしながら、新しい技術や技に取り組んでる。
情報リテラシー教育	○	新しいゲームや運動を創作するために、年齢に応じた興味や関心について調べる。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	教養の化学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 三島 綾子	指定なし

ナンバリング	X13310M21
授業概要(教育目的)	生活の中で出会う現象をとりあげ、現象の背景にある化学の基本的な原理を学ぶとともに、現代生活を支える様々な材料について理解を深める。また、地球環境と人間活動の関わり、直面している地球環境問題について学ぶ。授業終了時、本講義が、科学、科学技術に目を向け、地球環境問題を身近に捉えるきっかけとなることを願う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1、生活の中で出会う化学的な現象の基本的な原理を理解する。 2、現代生活を支える様々な材料について理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	1、暮らしに密着した化学の内容を健康や暮らしと結び付けながら学習する。 2、身近な現象の化学を学ぶことにより、身の回りの現象や物質、食物などについて、化学的な視点から捉えられるようになることを目的とする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1、特に関心を持った分野について、より知識を深めるための課題に取り組む
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	暮らしと化学、測定	スモッグはどうやってできるのか?オゾン層はなぜ壊れるのか?釘はどうしてさびるのか?アスピリンはなぜ頭痛にきくのか?暮らしに密着した謎ときの一部を簡単に紹介する。 化学の測定も暮らしに深く関係する。測定と単位、数値の扱い方、物質の密度などを勉強する。健康、環境問題を読み解くにも測定の理解が欠かせない。	教科書第1章「暮らしと化学」、第2章「測定」(1~22ページ)を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	180分
第2回	物質とエネルギー	物質の分類、物質の三態と性質を学ぶ。 摂氏、華氏、絶対温度の三種類の温度と換算方法を学ぶ。 運動エネルギー、位置エネルギー、食品のエネルギーの単位や計算方法を学ぶ	教科書第3章「物質とエネルギー」(24~37ページ)を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	180分

第3回	元素と原子	万物は元素からできている。元素や元素記号、周期表を学び、身の回りにある元素を身近なものに感じてもらう。アルミ箔はアルミニウム、指輪は金や銀、白金などの元素、体の中だと骨や歯にはカルシウム、リン、赤血球には鉄、甲状腺の機能に関わるヨウ素が欠かせない。	教科書第4章「元素と原子」(40~52ページ)を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	180
第4回	電子配置と周期性	ブリズムや水滴を通った太陽の光は、いくつかの色に分かれて見える。虹も同じようにして生まれるし、高温できれいな色を出す元素は花火に使う。原子がもつ電子の性質は光の色や研究から分かった。第4回では原子内で電子がどのような状態にあるのかを調べ、元素の性質と周期表上の位置との関係について学ぶ。	教科書第5章「電子配置と周期性」(54~70ページ)を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	180分
第5回	無機化合物と有機化合物	自然界では、ほとんどの原子が別の原子と結合している。二種類以上の元素の原子が一定の割合で結合し合った純物質を化合物という。食塩(NaCl)や重曹(NaHCO ₃)などのイオン化合物、プロパンC ₃ H ₈ やエタノールC ₂ H ₅ OHなどの有機化合物について、結合様式や特徴について学ぶ。	教科書第6章「無機化合物と有機化合物」(72~87ページ)を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	180分
第6回	物質の量	物質の化学式から、ある元素の質量や原子の個数がわかり、逆に元素の組成比から物質の化学式がわかる。第6回では化学の本質となる粒子の数をどんな単位で測るのか、化学式と元素組成との関係などを学ぶ。アスピリンなどの薬を飲むときには、ラベル表示を見て服用量を決める。また、食品の栄養表示は、炭水化物や脂肪、ナトリウム、鉄、亜鉛などの量を教える。	教科書第7章「物質の量」(89~97ページ)を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	180分
第7回	反応の表記と分類	化学反応式の書き方、反応式の係数の合わせ方、化学反応の分類について学ぶ。有機化合物の官能基、有機化合物の反応について学ぶ。どんな反応も安定な状態を目指して起こり、反応物が結合を組み替えて生成物になる。化学反応式から光化学スモッグやオゾン層についても考える。	教科書第8章「反応の表記と分類」(101~115ページ)を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	180分
第8回	量でみる化学反応	正しい反応式は、反応物と生成物のモル関係を教える。物質のモル質量を使うと、反応物と生成物の質量がわかる。反応には熱の出入り(エネルギー変化)が伴い、熱を出しながら進む反応と吸収しながら進む反応がある。生物はエネルギーを使い、小さい分子から巨大なタンパク質やグリコーゲンの分子を作る。発熱反応で出るエネルギーは、特別な化合物がもつ結合に備える。第8回では、反応物のモル、質量の関係からエネルギーまでを学ぶ。	教科書第9章「量でみる化学反応」(117~126ページ)を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	180分
第9回	分子やイオンの形と引き合い	イオン化合物と共有結合化合物については第5回で簡単に学ぶが、第9回では少し複雑な結合も扱い、まずは原子のつながり方と分子や多原子イオンの形との関係を調べる。原子のつながり方も化合物の共鳴構造もルイス構造を描くとわかりやすい。分子の引き合いについて学び、固体、液体、気体の状態変化がなぜ起こるのかを考える。	教科書第10章「分子やイオンの形と引き合い」(128~144ページ)を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	180分
第10回	気体	私たちは大気という気体の底で生きている。大気の約21%は動植物の生存に欠かせない酸素が占める。成層圏で紫外線を吸収した酸素からできるオゾンは、生物にとって危険な紫外線を弱めてくれる。環境や健康のことを正しく考えるためにも、気体の性質をつかみ、気体の法則を知っておきたい。気体の圧力と体積の関係(ボイルの法則)、温度と体積の関係(シャルルの法則)、温度と圧力の関係(ゲーリュサックの法則)、気体の量と体積(アボガドロの法則)、気体の分圧(ドルトンの法則)などについて学ぶ。	教科書第11章「気体」(148~162ページ)を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	180分
第11回	溶液	何かが何かに溶けるといふことはどういうことかを考える。電解質と非電解質との違いについて学ぶ。溶解度、パーセント濃度、モル濃度などの計算を学ぶ。融点や沸点などの溶液の性質が、溶質が溶けるとどのように変化するのかを考える。	教科書第12章「溶液」(164~181ページ)を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	180分
第12回	化学平衡	化学反応が起こるとき、反応は一方方向だけに進むわけではなく、たいいていの場合、生成物の粒子がぶつかり合っって結合を組み換え、反応物に戻る逆反応も進む。正反応と逆反応の速度が釣り合えば、見かけ上、反応物と生成物の量は変わらない。それを化学平衡の状態という。第12回では、化学平衡について学ぶ。生成物がごくわずかできて平衡になる反応もあり、反応物のほぼ全部が生成物になって平衡になる反応もある。	教科書第13章「化学平衡」(183~198ページ)を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	180分
第13回	酸と塩基	酸と塩基は暮らしや産業、環境に深く関わる。レモンやオレンジの酸味は、クエン酸やアスコルビン酸(ビタミンC)など。食塩は、塩化ナトリウム。胃酸は、塩化水素。アミノ酸は、アミノ基とカルボキシル基を持つ有機化合物。第13回では、酸と塩基の性質について学ぶ。	教科書第14章「酸と塩基」(200~219ページ)を読み、例	180分

		ンC)などの有機酸が出す。胃液の塩酸は食物の保存と消化を助け、胃酸過多の人は制酸剤(酸化マグネシウムなど)を飲んで酸を中和する。酸と塩基は産業にも欠かせない。合成物質の王座を占める硫酸は、肥料やプラスチック、洗剤の原料や鉛蓄電池の電解質にも使う。水酸化ナトリウムNaOHは、バルブ、紙、石鹸、繊維産業やガラスの製造に多用する。自然界では、雨や河川水、土の酸性化が問題になる。酸性の強い雨は大理石を溶かし、金属製品を腐食させる。このように現代の暮らしに深く関わる酸、塩基の性質と中和反応などについて学ぶ。	題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	
第14回	酸化と還元	酸化、還元と暮らしの関係は広くて深い。鉄釘のさびも銀食器の黒ずみも、金属の腐食も酸化反応が生む。車のライトを光らす電気エネルギーは、蓄電池のなかで進む酸化還元反応から出る。寒い日に暖炉で気を燃やせば有機物が酸化されてCO ₂ とH ₂ Oになるとき熱がでる。食品のでんぷんは分解されてグルコース(ブドウ糖)になり、そのグルコースが酸化されるときに出るエネルギーが私たちの体温を保ち、さまざまな活動を支える。このような身の回りの酸化、還元反応について、電子のやりとり注目して学ぶ。	教科書第15章「酸化と還元」(223~237ページ)を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	180分
第15回	放射能の化学	初の人工元素(リン-30)をキュリー夫妻が作って3年後の1937年、カリフォルニア大学バークレー校が、放射性同位体を白血病の治療に使った。1946年には、放射性ヨウ素を使う甲状腺の診断と甲状腺がんの治療に成功し、放射線医学が大きく前に進んだ。現代ではいろいろな放射性物質を使い、たいいていの臓器の形状と機能を探れる放射線医学は疾患の早期発見と治療に役立っている。第15回では放射線の反応や半減期について学び、放射線の生体影響や放射線医療との関係などについて考える。	教科書第16章「放射能の化学」(239~254ページ)を読み、例題を解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	180分

学生へのフィードバック方法 授業の理解度を確認するため、出席用紙提出の際に毎回小テストを行う。小テストの解説は翌週行うので、質問等がある場合には授業終了後に質問にくること。

評価方法

- ・小テスト、および授業での発言を重視する。小テストについては、間違い直しを行って提出すること。
- ・授業中に特に興味を持った分野について、さらに感心、知識を深めるために課題提出を実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○		
授業中の発言	○	○	○	
課題提出	○	○	○	○

評価割合 小テスト、平常点(60%)と課題提出(40%)により評価する。平常点は授業への参加状況、授業中の小テスト等で総合的に判断する。

使用教科書名(ISBN番号) ティンバーレイク教養の化学 (東京化学同人) (978-4-8079-0822-6)

学生へのメッセージ 教科書を必ず入手し、授業の前後によく目を通すこと。例題、解説をよく読み、どこまで理解できているかを確認してから授業に出席すること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	化学入門		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 三島 綾子	指定なし

ナンバリング	X13320M21
授業概要(教育目的)	化学は物質の性質、物質の変化を扱う学問である。物質をつくる原子の構造および結合、結合と物質の関係を学び物質の性質について理解を深める。また、化学変化と熱の関係、代表的な化学反応(酸塩基反応、酸化還元反応)、物質の変化、有機化合物の構造と性質など、化学の基礎について講義する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1、化学の基本である「化学式」、「粒子間の結合」、「物質量」、「化学反応式」の4項目を十分に理解する。 2、「酸化・還元」、「有機化学の基礎」など専門課程の化学を学ぶ上で必要な基礎的な知識を身に付ける。
思考・判断の観点 (K)	1、化学式、化学反応式を書ける。 2、物質量について理解し、物質量を用いた計算ができる。 3、基本的な有機化合物の命名ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1、積極的に予習を行い、理解できていない範囲、苦手な範囲を自身で確認し、授業中に克服する。化学の基本をしっかりと学び、基礎力を定着させる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	元素と物質、単位と数値	化学の内容に踏み込む前に、化学を学ぶ際の基本事項を学ぶ。元素記号、指数、対数、物理量と単位、有効数字などの復習、確認を行う。	教科書0章「元素記号は化学のアルファベット」(1~3ページ)、及び付録の化学を学ぶ際の基本事項(95~99ページ)を読むこと。	120分
第2回	原子の内部構造	化学の基礎となる原子の構造について学ぶ。原子は、原子核と電子から構成され、さらに原子核は、陽子と中性子という二種類の粒子から構成されている。原子の構造を理解するため、二つの重要な数である原子番号と質量数について学ぶ。これらの数と陽子、中性子、電子の数	教科書1章「原子の内部構造」(5~12ページ)を読み、例題をすべて解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	120分

		との関係を理解し、同位体やイオンについても学習する。		
第3回	原子の電子配置と共有結合	原子の中心には原子核があり、その周りにはいくつかの原子核がある。それぞれの原子核の電子がどのように収容されるかを示したのが電子配置である。電子配置に関する知識は、原子の化学的性質や共有結合を理解するために不可欠である。第3回では、電子配置を理解するために、電子核、副核、原子の電子式、などについて学ぶ。	教科書2章「原子の電子配置と共有結合」(13~26ページ)を読み、例題をすべて解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	120分
第4回	イオン性物質とイオン結合	陽イオンと陰イオンが結合して生じるのがイオン性物質である。また、そのときにイオンとイオンを結び付けているのがイオン結合である。本講義では、イオンの種類、名称、イオン結合のでき方、さらにはイオン性物質の組成式の作り方や名称について学ぶ。	教科書3章「イオン性物質とイオン結合」(29~35ページ)を読み、例題をすべて解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	120分
第5回	粒子間の結合	物質を構成する原子は、単独に存在することはまれで、通常は粒子同士が結びついて存在している。分子は、原子どうしが共有結合という強い結合で結びついた物質である。この分子も、通常は単独では存在せず、分子と分子はファンデルワールス結合や水素結合という分子間結合でゆるやかに結びついている。第5回ではこれら粒子間の結合について学ぶ	教科書第4章「粒子間の結合」(37~45ページ)を読み、例題をすべて解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	120分
第6回	第1回から第5回確認テスト 物質とその単位mol	授業のはじめに、第1回から第5回の確認テストを行う。物質とその単位molは化学の基本であり、物質なしでは化学は語れない。第6回では物質及びその基礎となる原子量、分子量、式量について学ぶ。	教科書第5章「化学の基本である物質とその単位mol」(47~53ページ)を読み、例題をすべて解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。授業のはじめに、1~5回の授業内容に関わる確認テストを実施するので、復習しておく。	240分
第7回	物質と他の物理量との関係	授業のはじめに、確認テストの解説を行う。化学の基本である物質量は、他の物理量である粒子の数、質量、体積と相互に交換できる。第7回では、これらの関係を学び、相互変換する方法を学ぶ。これは、溶液や化学変化の量的関係を学ぶ基礎となる内容である。	教科書第6章「物質量と他の物理量との関係」(55~64ページ)を読み、例題をすべて解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。授業のはじめに行った確認テストの解説を参考に、間違えた問題についてレポートにまとめる。	240分
第8回	溶液と濃度	化学では、溶液が関与する反応が非常に多い。金属と塩酸との反応、塩酸と水酸化ナトリウム水溶液の中和反応、ダニエル電池、塩化銅水溶液の電気分解など。それゆえ、化学を学ぶ際に、溶液及び溶液中の各成分の割合である濃度に関する知識は不可欠である。第8回では、溶液の構成要素や種々の濃度について学習する。	教科書第7章「溶液と濃度」(67~76ページ)を読み、例題をすべて解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	120分
第9回	化学変化と化学反応式	化学変化が生じれば、ある物質がまったく別の物質に変化し、それに伴い物質を構成する原子の組み換えが起こる。これを化学式で表現した式が化学反応式である。化学反応式は、化学変化の中身と、これに伴う量的な関係を理解するのに不可欠な式である。第9回では、化学変化やそれを表す化学反応式の作り方について学習する。	教科書第8章「化学変化と化学反応式」(77~84ページ)を読み、例題をすべて解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	120分
第10回	化学変化に伴う物理量の量的な関係	化学反応式を見れば、どのような化学変化が起こるのかを理解できるだけでなく、量的な関係もわかる。ここでいう量とは、物質量、粒子の数、体積、質量をさす。これらの量はすべて物質量に換算すると考えやすい。第10回では、化学反応式の係数を表す意味について述べ、続いて具体的な化学変化に伴う量的な関係について学習する。	教科書第9章「化学変化に伴う物質量の量的な関係」(85~93ページ)を読み、例題をすべて解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	120分
第11回	第6回から第10回確認テスト、 酸と塩基	授業のはじめに、第6回から第10回確認テストを行う。アレニウスの酸・塩基、ブレンステッドの酸・塩基、について学ぶ。さらに、酸と塩基の強さ、解離定数や水の自己解離、pHの考え方について学ぶ。	「酸と塩基」のプリントをよく読み、課題に出された例題を解くこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。授業のはじめに、6~10回の授業内容に関わる確認テストを実施するので、復習しておく。	240分
第12回	酸化、還元	授業のはじめに、確認テストの解説を行う。酸化・還元とは、どのような変化をいうのか、原子の何	「酸化・還元」のプリントをよく読み、課題に出された例題を	240分

		がどう変わるのかを学ぶ。さらに、電気エネルギーを生む反応についても学習する。	解いておくこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。授業のはじめに行った確認テストの解説を参考に、間違えた問題についてレポートにまとめる。	
第13回	有機化合物①	有機化合物の特徴と構造について学ぶ。官能基による有機化合物の分類、脂肪族炭化水素の命名法の基本を学習する。	「有機化学①」のプリントをよく読み、課題に出された例題を解くこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	120分
第14回	有機化合物②	酸素を含む脂肪族炭化水素、芳香族化合物の基礎を学ぶ。有機化学の学習へ繋がる基本的な事項を身に付ける。	「有機化学②」のプリントをよく読み、課題に出された例題を解くこと。正解を導きだせなかった場合には、考え方を十分に読み、分からない部分を確認しておく。	120分
第15回	第11回から第14回の確認テスト	授業のはじめに、第11回から第14回の確認テストを行う。確認テストの解説と共に、全範囲の総復習を行う。	授業のはじめに、11～14回の授業内容に関わる確認テストを実施するので、復習しておく。テスト終了後に解説を行う。間違えた問題についてレポートにまとめる。これまでの授業を総復習しておくこと。	420分

学生へのフィードバック方法 実施した小テスト、確認テストは、採点して返却する。解説は、次回授業のはじめに行う。質問等がある場合には、授業終了後に質問に来ること。

評価方法

- ・毎回の授業の終わりに、小テストを実施する。
- ・全15回を3回に分けた範囲で確認テストを3回行う。
- ・予習・復習、授業の理解度の確認の為に課題をレポートにまとめて提出する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○	○	
確認テスト	○	○		
課題提出	○	○	○	

評価割合 小テスト (20%) と確認テスト (40%) 課題提出 (40%) により評価する。平常点は授業への参加状況、授業中の確認テスト、課題提出等で総合的に判断する。

使用教科書名 (ISBN番号) 「化学の基礎」中川徹夫著 (化学同人) 978-4-7598-1437-8

参考図書

学生へのメッセージ 教科書は、独習できる内容の物を選びました。授業の前に、教科書、もしくは配布した資料を十分に読み、例題を解いてから授業に出席してください。授業中にも演習を行いますので、復習するようにして下さい。高校化学の教科書を持っている方は、授業内容に相当する章を読み返して下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	教養の生物学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 岩見 哲夫	指定なし

ナンバリング	X13340M21
授業概要(教育目的)	生物の形や色・模様などから、生物が環境に適応し進化してきた過程を解説する。「進化」、「生物多様性」、「生態系と環境」などの分野を横断的に扱い、自ら生物の特徴を評価して進化過程を推察したり、系統樹を構築したりしながら体験的に学ぶ。生命の誕生や生物の進化から生物と環境の関わり合いまで、マクロスケールでの生物学的な現象について学ぶことで、生物に関する興味・理解を高め、生きものに関する教養を深めることを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	生物の形態や模様を正しく記述できる 系統関係推定法の原理が理解できる 生物の行動パターンと適応度との関係を説明できる ウイルスやプリオンなどの特徴を説明できる
思考・判断の観点 (K)	生物の形態・模様・行動等から生物進化の駆動要因を推定することができる 形質分布表から系統関係の推定ができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	身の回りの生物への理解を深め、環境と生物の関わりについて関心をもつ
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	生物種とは	生物分類の基本単位である種の定義を説明し、どのようにして種が形成されていくのか解説する。	予習として、高等学校での授業内容で生物の多様性に関する知識を再確認しておく。 授業後は種とは何か説明できるようにしておくこと。	240分
第2回	生物の形	生物の形を表記する基準を説明し、さまざまな生物についてその形をどう表記するのか解説する。	生物の形の基準を理解し、身の回りの生物について形を表記できるように復習しておく。	120分
第3回	形と進化	生物の形をその生息環境や生態と関連付けて説明する。形と生態の密接な関係を解説する。	生物の形をその生息環境や生態と関連付けて理解できるよう復	120分

			習しておく。	
第4回	生物の模様	生物の模様の定義を説明し、その模様の生態的・進化的な意義について解説する。	生物の模様を、その生物の生態などと関連させて理解できるよう復習しておくこと。	120分
第5回	擬態	擬態の定義を説明し、さまざまなタイプの擬態について、その生態的な意義と併せて解説する。	身の回りで観察される擬態の例について、との特徴を調べておくこと。 代表的な擬態のタイプやその生態的意義を理解し、説明できるよう復習しておくこと。	240分
第6回	系統関係を推定する	最新の分子生物学的手法も含め、生物の系統を推定するいくつかの方法を説明する。また、特に分岐分類学的手法を取り上げ、その手法で系統関係の推定ができるよう基本的な考え方・原理・用語等を解説する。	分岐分類学的手法で系統関係が推定できるよう、必要な用語を憶え、その考え方・原理を復習し理解しておく。	120分
第7回	分岐分類学	ある仮想的な生物群の形質表を例に、分岐分類学的手法で系統関係の推定を行う。また、課題として具体的な生物の形質表を提示し、その系統関係の推定を行ってもらう。	分岐分類学的手法によって形質分布表が与えられ具体的な生物群のその系統関係を推定する(課題)。	360分
第8回	恐竜は絶滅した?	恐竜は本当に絶滅したと表現して良いのか。分岐分類学的手法によって推定された四肢動物の系統関係を説明し、現在の鳥類が恐竜類の直系の子孫であることを解説する。	分岐分類学の考え方で、現在の鳥類を含む四肢動物、魚類の系統関係が提示できるよう復習しておくこと。	120分
第9回	「こども」だけ「おとな」	幼生の形態的特徴を残して成熟するペドモルフォシス(幼形進化)の例をあげて、生物進化において飛躍的な変化を起こす原動力として認識されている異時性について解説する。	異時性の分類方法を理解し、身近な幼形進化の例が説明できるよう復習しておくこと。	120分
第10回	「おとこ」だけ「おんな」	動物の世界でしばしば認められる性転換についていくつかの例をあげ、その形式・進化的意義について解説する。	性転換という繁殖形式が自然界で定着した理由について説明できるよう復習しておくこと。	120分
第11回	なぜ親は子を守るのか?	動物の親に普通に見られる子の保護行動。血縁関係がない利他的行動も含め、これらの行動が成立する進化的意義について解説する。	子の保護も含め、ヒト以外で観察される利他的行動の例について調べておくこと。 子を守ることが親にとってどのような意味があるのか、血縁関係のない個体が利益を得るような行動にどのような意味があるのか説明できるよう復習しておくこと。	240分
第12回	なぜ縄張りを作るのか?	縄張りを作ることはこの個体(群)にとって利益となることばかりではない。動物が縄張り行動を示す条件から、その進化的意義について解説する。	動物の縄張り行動について、その条件と利益・不利益を説明できるよう復習しておくこと。	120分
第13回	なぜ生物は病気になるのか?	病気という要因のみならず、生物は通常、必ず個体レベルでは死を迎える。個体の死はその種の手段にとってどのような意味があるのか、その進化的意義について解説する。	種という集団が連続性をもって存在すること、個体の死という現象との関係が説明できるよう復習しておくこと。	120分
第14回	ウイルスの脅威	厳密には生物とは言えないウイルスについて、その特徴や増殖方法、ウイルスが原因の病気の例などをあげて解説する。	ウイルスの特徴や、代表的なウイルスが関係した病気の例について説明できるよう復習しておくこと。	120分
第15回	謎の微小病原体/今までの振り返り	細菌でもウイルスでもない微小病原体プリオンについて、その特徴や病例を解説する。また、今まで授業で扱ってきた内容について振り返りを行う。	プリオンとは何か、また細菌やウイルスと何が違うのか説明できるよう復習しておくこと。また、これまでの授業内容を総復習しておくこと。	420分

学習計画注記	授業で分かりにくかった点をそのままにせず、担当教員のオフィスアワー等を利用して理解しておくこと。
学生へのフィードバック方法	授業の理解度を確認するため、毎授業理解度アンケートを実施する。そのアンケートで理解度が不十分と判断される内容については、次の授業の冒頭に改めて説明する。また、課題についてはコメントを付けて返却し、授業にて解説する。
評価方法	授業に積極的に参加し、自身の理解度を客観的に捉えようとしているか。生物の形態や行動、進化について基本的な知識を得ているか。また、生物の特徴や行動を適応度の概念で理解しているかを、下記の基準で評価する。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
アンケート	○		○	

課題	○	○	○	
定期試験	○	○		○

評価割合	毎回実施するアンケートへの回答状況10%，課題10%，定期試験80%。
使用教科書名 (ISBN番号)	必要に応じて事前にハンドアウト (資料) を配付する。
参考図書	特に専門書は必要としないが，高等学校で使用した「生物基礎」の生物の特徴，生物の多様性と生態系，および「生物」の生物の系統と進化等の単元が参考となる。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】自然の多様性を考えるのに必要な知識と考え方が身につきます。 【思考・判断】人間社会と自然の関係の中で浮かび上がる問題について，分析する力が身につきます。
オフィスアワー	後期 木曜日昼休み・3限 (12:30～14:30) 生物学研究室 (2205) 相談を希望する学生は，可能な限りGmailを用いて予約をしてください。
学生へのメッセージ	皆さんは身の回りで見られる生物について，どうしてそのような形や色彩をしているか考えたことがありますか。生物の形や色彩などは長い進化の歴史の中で，何らかの理由で獲得された結果と考えられています。この授業の中で，その形や色彩・もようなどの特徴が行動や生態とどのような関連があるのか，またどうして現在そこに生息するのかなどを考え，生物の生き様について関心を持つようして下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業の一部では，アンケートへの回答結果や課題の提出内容をもとに，意見を出し合って考えを深めます。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	教養の生物学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 沼波 秀樹	指定なし

ナンバリング	X13340C21
授業概要(教育目的)	太古の海は生命誕生の場であり、今日においても地球上で最も多様な生物群を育む環境である。また、我々人類にとって海洋に生息する生物は水産資源として重要である。本講義では、海洋における生物の進化をたどりながら、多様な海洋環境とその環境における生物の「生きざま」を紹介。生物の行動・生態と環境、人類と海洋の関わりについて理解を深める。
履修条件	特に無し。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	海洋生物の生き様を通して、基礎的な生物現象(生命現象や生態系など)が理解できる。
思考・判断の観点 (K)	海洋生物の生き様を通して、生活と生物が密接に関わっていることを考えられる思考を持てる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	海洋生物の生き様を通して、生物の生態に興味を持ち、環境問題に関心を持てるようになる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション ー海洋と私たちの暮らしー	授業概要について説明後、「暮らし」と「海洋環境」や「海洋生物」がどのように関係しているかについて紹介する。	授業内容の確認。	180分
第2回	地球誕生から海洋の形成まで	太陽系の形成から地球誕生までを解説。特に海洋の形成と生命誕生について説明する。	予習：高校地学基礎教科書の「太陽と惑星」「生命の変遷」、高校生物教科書の「生命の起源と生物の変遷」について復習する。復習：授業内容の確認。	180分
第3回	生物界の構成と海洋生物	生物界の階層性を生物の分類を通して説明する。海洋生物を題材にして生物の名称についても説明する。	予習：高校生物教科書の「生物の系統」に関連する部分について復習する。復習：授業内容の確認。	180分

第4回	海洋環境概説1 -なぜ海は青いか？-	海洋生物の生息場所である海洋環境の基礎的知識を得る。海洋環境概説の1回目として、光環境について生物への作用も含めて解説する。	予習：テキスト・プリントを読む。復習：授業内容の確認。	180分
第5回	海洋環境概説2 -広大な海は一つではない-	海洋生物の生息場所である海洋環境の基礎的知識を得る。海洋環境概説の2回目として、水温・塩分濃度とこれらの組み合わせで発生する水塊について生物への作用も含めてVTR映像も用いて解説する。これらを通して、海洋が一つの大きな水の塊で無いことを認識し、多様な環境に多様な生物が適応していること知る足がかりとする。	予習：テキスト・プリントを読む。復習：授業内容の確認。	180分
第6回	海洋環境概説3 -エルニーニョが起こると豆腐が高くなる？-	海洋生物の生息場所である海洋環境の基礎的知識を得る。海洋環境概説の3回目として、地球の風系、海流についてVTR映像も用いて解説する。さらに海洋での食物連鎖の原点である栄養塩類について説明する。そして、海洋環境と人の暮らしとの関わりをエルニーニョ現象を例にして紹介する。	予習：「栄養塩類」「海洋深層水」「エルニーニョ現象」についてインターネットを用いて調べる。復習：授業内容の確認。	180分
第7回	海洋生物の生活様式1 -海洋生物のライフスタイル-	これまで解説した海洋環境概説を念頭に置いて、水柱環境を主な生息場所とするプランクトン(浮遊生物)とネクトン(遊泳動物)について適応、生態などについてVTR映像を用いて解説する。	予習：海洋環境概説(第4回～第6回)の授業内容の確認。復習：授業内容の確認。	180分
第8回	海洋生物の生活様式2 -海洋生物のライフスタイル-	海洋中で最も多様な生息環境である基質(海底)に生息するベントス(底生生物)の適応、生態などについて解説する。また、一つの生物種でも、生活史において生活様式(ライフスタイル)を変化させて、適応していることを理解する。	予習：海洋環境概説(第4回～第6回)の授業内容の確認。復習：授業内容の確認。	180分
第9回	海洋生物とくらし	これまで(第7回・第8回)に学んだプランクトン・ネクトン・ベントスの内、食糧資源として重要なネクトンについて、魚類の鮮度、イカ類の体の構造などを実物を用いて説明し、食と海洋生物との関係を実感を伴って理解する。	予習：海洋生物の生活様式(第7回・第8回)の授業内容の復習。復習：授業内容の確認。	180分
第10回	海洋の食物連鎖 -イワシが安くて、マグロが高い理由-	なぜ、「イワシは安くて、マグロが高いか？」その理由を海洋での食物連鎖から解説する。また、魚類の増養殖についても触れる。	予習：高校生物基礎教科書の「生態系の成り立ち」に関連する部分を復習する。復習：授業内容の確認。	180分
第11回	浅海の生物群集 -生物が豊富な海域-	生物量が豊富な沿岸域、特に潮間帯に生きる生物の適応について解説する。また、漁業対象種の稚魚を含む多くの生物の生息場所となっているが、近年減少している藻場について取り上げ、環境破壊と海洋生物の関連を説明する。	予習：第8回海洋生物の生活様式2について復習する。復習：授業内容の確認。	180分
第12回	外洋の生物群集 -きれいな海には生物は多いか？-	外洋での海洋環境と生物の適応について解説する。	予習：第8回海洋生物の生活様式のプランクトン・ネクトンの特徴について復習する。復習：授業内容の確認。	180分
第13回	深海の生物群集 -なぜ深海には生物が少ないか？-	海洋中の90%以上を占める深海域の特徴について解説し、そこに生息する深海生物の適応について説明する。	予習：第10回海洋の食物連鎖について復習する。復習：授業内容の確認。	180分
第14回	深海の生物群集 -地球を“食べる”生物たち-	1970年代後半に深海で発見され、20世紀最大の発見の一つである「化学合成生物生態系」について解説し、我々人類を含む多くの生物が依存している「光合成生態系」との関係を理解する。	予習：「化学合成生態系」「光合成生態系」の特徴をインターネットで調べる。復習：授業内容の確認。	180分
第15回	海洋生物と人類の関係 -海洋汚染と乱獲-	一連の授業の最後として、海洋生物と人類との関係を海洋汚染と乱獲と言う視点で、解説する。乱獲による海洋生物の減少について説明し、持続可能な生物資源の活用について考える。また、近年問題かしている「マイクロプラスチック汚染」についても触れる。	予習：「マイクロプラスチック汚染」についてインターネットを用いて調べる。復習：定期試験に向けての授業内容の総復習。	240分

学習計画注記	海洋生物に関する展示を行っている社会教育施設(水族館、自然・科学博物館など)に行き、所定の項目についてレポートを作成する。
学生へのフィードバック方法	授業内容については、適宜質問を受ける。
評価方法	定期試験および平常点・レポートによる総合評価(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する)。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○	○	
平常点	○		○	
レポート	○	○	○	○

評価割合	定期試験 (80%) および、レポート・平常点 (20%) による総合評価。
使用教科書名 (ISBN番号)	適宜、資料を配付する。
参考図書	必要に応じて紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解できる。 【思考・判断】 人間社会と自然の多様性のあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を持つことができる。
オフィスアワー	水曜日1時間目 1702室
学生へのメッセージ	海洋に関する書籍などを読んだり、映像資料 (テレビ番組やDVDなど) を見たりしておくとう理解しやすい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	生物学入門		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 岩見 哲夫	指定なし

ナンバリング	X13350M21
授業概要(教育目的)	私たちは日々、呼吸し食事をして生命を維持し成長を続けており、これらの生命現象の基本を理解することは、健康の維持を図る上で不可欠となっている。そこで、この講義では、生物の特徴を理解し、生物の基本単位である細胞の構造や働き、細胞内・生体内での反応や免疫システムなど、生命現象に関する基礎的な内容についてヒトを例に理解を深める。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	生物の基本的な特徴について説明できる 人体の基本的な構造や機能について説明できる 免疫の成り立ちについて説明できる 遺伝の基本的な仕組みについて説明できる
思考・判断の観点 (K)	細胞・組織・器官について、構造と機能の関係を類推することができる。 健康の維持・管理について、生物学的な側面から評価することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分自身でもある人体について、正しく理解し関心をもつ。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	生物の特徴	生物とは何か、生きているとはどういうことかについて説明し、生物と非生物の違いを認識してもらう。	高等学校で学んだ生物の特徴に関する知識を再確認しておく。 授業で解説した高等学校での授業内容との関連を復習しておく。	240分
第2回	細胞の基本構造	動物・植物細胞の基本構造を学び、細胞内で特定の働きを担っている細胞小器官の働きやその起源について解説する。	高等学校で学んだ細胞に関する知識を再確認しておく。また、授業で扱った細胞内の構造について、その機能を理解しておく。	240分
第3回	組織と器官	ヒトを例に、細胞・組織・器官の関係を説明し、代表的	さまざまな組織について、その	120分

		な組織についてその形態・機能を解説する。	特徴と機能との関係を復習しておく。	
第4回	代謝一生きるための活動	生命維持の根幹である代謝について、特にエネルギー代謝に焦点を絞ってATPの役割を解説する。	高等学校で学んだ細胞とエネルギーに関する知識を再確認しておく。新たに学んだ内容について、ノートで確認しておく。	240分
第5回	酵素のはたらき	生体内でのさまざまな反応を制御する酵素について学ぶ。	酵素反応の特徴について具体的に述べられるよう復習しておく。	120分
第6回	呼吸と光合成	呼吸と光合成の反応の類似点を説明し、エネルギーの移動という視点で解説する。また、実際に酵素反応による実験を見てもらい、その結果を考察する。	授業中に行った酵素実験の結果をもとに、呼吸の意味や酵素のはたらき・性質に関する課題に取り組む。	360分
第7回	人体の基本構造	生命維持に関わるさまざまな現象・反応を、ヒトを例に解説する。そのための、人体の基本を説明する。	これからの授業で人体に関わる内容を扱うので、基本的な部位やその名称等について復習しておくこと。	120分
第8回	骨格の構造と機能	ヒトの体には成人で200個余りの骨がある。その成長過程、形態・機能について解説する。	骨格の機能およびその成長過程について説明できるよう復習しておくこと。	120分
第9回	筋肉の機能と収縮のメカニズム	筋肉の種類と特徴について説明し、筋収縮のメカニズムを分子レベルで解説する。	3種類の筋肉それぞれについて特徴や機能が述べられるように復習する。また、筋収縮のメカニズムについて説明できるようにしておくこと。	120分
第10回	神経系の構成単位と神経系の機能	神経系の基本単位であるニューロンの構造から神経の伝達について解説する。また、運動神経系・自律神経系の機能を学び、人体制御における役割について理解を深める。	神経伝達の機構や人体の生理学的反応について神経系がどのように関わっているのか、説明できるように復習しておくこと。	120分
第11回	食物の消化と吸収	食物が人体内でどのように処理されていくのかを学び、ヒトの消化器系とそれを構成するそれぞれの器官の役割について理解を深める。	食物中の物質がどの器官でどのように消化・吸収されるのか説明できるように、成分毎にまとめておくこと。	120分
第12回	血液の循環	血液の組成から血管系の概要、腎臓や肝臓の働きについて学ぶ。心臓の構造と血液循環のシステムについても理解を深める。	肺循環・体循環と腎臓や肝臓の位置、心臓の構造と循環における役割について、復習しておくこと。	120分
第13回	生体防御	健康を守る免疫システムについて、その役割を担う細胞・組織、発現機構を学ぶ。	体液性免疫・細胞性免疫における免疫細胞の役割に理解し、自然免疫やアレルギーについても説明できるように復習しておくこと。	120分
第14回	細胞の増殖	細胞分裂の様式や機構について解説する。特に生殖細胞を生み出す減数分裂について詳しく述べる。	減数分裂における染色体の挙動について、細胞の核相とあわせ理解できるように復習しておくこと。	120分
第15回	遺伝の基本／定期試験	生命の連続性の根幹を担っている遺伝現象について解説する。また、今まで授業で扱ってきた内容について振り返りを行う。	基本的な遺伝現象について、その原理を説明できるよう復習しておくこと。また、これまでの授業内容を総復習しておくこと。	420分

学習計画注記	授業で分かりにくかった点をそのままにせず、担当教員のオフィスアワー等を利用して理解しておくこと。
学生へのフィードバック方法	ハンドアウトや映像資料等を用いて講義形式で授業を進める。授業の理解度を確認するため、毎授業理解度アンケートを実施する。そのアンケートで理解度が不十分と判断される内容については、次の授業の冒頭に改めて説明する。また、課題についてはコメントを付けて返却し、授業にて解説する。
評価方法	授業に積極的に参加し、自身の理解度を客観的に捉えようとしているか。生物の持つ生命維持に関わる基本的な反応に関する知識を十分に得ているかを、下記の基準で評価する。

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
アンケート	○		○	
課題	○	○	○	

定期試験	○	○	○

評価割合	毎回実施するアンケートへの回答状況10%，課題10%，定期試験80%。
使用教科書名 (ISBN番号)	必要に応じて事前にハンドアウト (資料) を配付する。
参考図書	特に専門書は必要としないが，高等学校で使用した「生物基礎」の細胞とエネルギーについて，生物の体内環境の維持，および「生物」の生命現象と物質，生殖と発生等の単元が参考となる。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】自然の多様性を理解する知識が身につきます。また，そこから生命に関する基礎知識が身につきます。 【思考・判断】人間社会と自然の中にある課題を理論的に分析する力が身につきます。
オフィスアワー	前期 火曜日2限・昼休み・3限 (10:40~12:30) 生物学研究室 (2205) 相談を希望する学生は，可能な限りGmailを用いて予約をしてください。
学生へのメッセージ	日々の食事がどのようにして私たちの生命を支えているのか考えてみたことがありますか。なぜ，食事や睡眠をとらないと生きていけないのでしょうか。これら，生物の基本的な生命現象の原理や機構を学ぶことは，毎日の生活の質を考えることにも繋がりますので，自分のことだという意識を持って受講して下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業の一部では，アンケートへの回答結果をもとに意見を出し合ってより考えを深めます。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	生物学入門		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 沼波 秀樹	指定なし

ナンバリング	X13350C21
授業概要(教育目的)	生物の基本単位である細胞の構造から最も身近な生物であるヒトの体の構造と機能から個体維持のしくみまでマクロ・ミクロ的視点で生物学の基礎について学びます。特に栄養士を志す学生や食科学を学ぶ学生に必要な基礎的な生物現象の理解に力点を置いて講義を進め、生化学や栄養学など専門科目を学ぶ上での基礎力を養います。
履修条件	特に無し。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	基礎的な生物現象、特にヒトに関わる生物現象の理解。
思考・判断の観点 (K)	細胞の構造・機能、組織と器官・器官系、遺伝子の構造・機能、環境問題などの基礎知識を修得し、一部をこれから学ぶ生化学や栄養学等の学修に役立てることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	生命とは何か?について考える。	「生命」の持つ特徴を説明し、生命とは何かを考える。また、なぜ食べなくてはならないかについても考える。	予習: 高校「生物基礎」を履修した学生は、「生命活動とエネルギー」・「遺伝子」・「生態系」を復習。高校「生物」を履修した学生は、「細胞と分子」・「代謝」・「遺伝現象の発現」・「生態系」を復習。復習: 授業内容の確認。	180分
第2回	細胞の構造とはたらき 1	原核細胞・真核細胞の特徴、細胞の基本構造と各細胞内の器官の機能を説明する。	予習: 教科書第3章1~2を読んでおく。高校教科書「細胞の多様性」「細胞の共通性」を復習する。復習: 授業内容の確認。	180分
第3回	細胞の構造とはたらき 2	生物の基本単位である細胞の機能について説明する。特に細胞膜の機能と細胞同士の連結等について理解する。	予習: 教科書第3章3を読んでおく。復習: 授業内容の確認。	180分

第4回	生物を構成する細胞	多様な細胞の種類と特徴、ウイルスの構造と特徴について説明する。またトピックとして食と密接に関係する伝染性のタンパク質についても解説する。	予習：教科書第3章4、第7章 p.157コラムを読んでおく。復習：授業内容の確認。	180分
第5回	生物体の構造 1 組織の種類と特徴 1	上皮組織と結合組織について、その構造と機能について説明する。	予習：教科書第1章1を読んでおく。復習：授業内容の確認。特に組織の分類について確認する。	180分
第6回	生物体の構造 2 組織の種類と特徴 2	筋組織と神経組織について、その構造と機能について説明する。	予習：教科書第1章1を読んでおく。復習：授業内容の確認。特に組織の分類について確認する。	180分
第7回	生物としてのヒトを知る	「ヒトはなぜ食べなくてはならないか？」を生物学的に解説し、食物から体をつくり・維持する仕組みについて考える。	予習：教科書第1章2を読んでおく。復習：授業内容の確認。	180分
第8回	生物体の構造 3 主な器官・器官系	ヒトを例として、個体を構成する主要器官・器官系について解説する。	予習：教科書第1章3を読んでおく。復習：授業内容の確認。	180分
第9回	代謝のしくみ 1 酵素・代謝	代謝と代謝に深く関係する酵素の特徴について解説する。	予習：教科書第4章1～4を読んでおく。高校教科書「細胞とエネルギー」を復習する。復習：授業内容の確認。	180分
第10回	代謝のしくみ 2 消化・吸収	消化・吸収に関連する器官・器官系の特徴について説明する。特に胃・小腸のはたらきをVTR映像も利用して解説する。	予習：教科書第4章1～4を読んでおく。復習：授業内容の確認。	180分
第11回	第11回 代謝のしくみ 3 呼吸	生命維持の為に重要な現象である呼吸について説明する。	予習：教科書第4章5を読んでおく。高校教科書「呼吸」を復習する。復習：授業内容の確認。	180分
第12回	遺伝のしくみ 1 遺伝とは何か？	生命の根源である遺伝子について説明する。DNAと遺伝の関係・DNAの構造について解説する。	予習：教科書第5章1、2を読んでおく。高校教科書「遺伝現象と遺伝子」を復習する。復習：授業内容の確認。	180分
第13回	第13回 遺伝のしくみ 2 DNAの機能	DNAに機能（遺伝情報の複製・タンパク質合成）について説明する。	予習：教科書第5章3を読んでおく。高校教科書「遺伝情報の複製と分配」「遺伝情報とタンパク質合成」を復習する。復習：授業内容の確認。	180分
第14回	遺伝のしくみ 3 遺伝子と体質	遺伝子解析が人類にもたらす影響について、医療における応用を例としてVTR映像を用いて解説する。	予習：第12回・第13回の授業内容を確認する。復習：授業内容の確認。	180分
第15回	環境と人間（定期試験を含む）	食を通して身近な環境問題について考える。定期試験によって第1回～第15回の授業の復習し、理解度を確認する。	予習：教科書第7章3～5を読んでおく。高校教科書「生態系と保全」を復習する。第1回から第15回までの授業内容を教科書、ノート、配布プリントを用いて復習し、定期試験に備える。	180分

学習計画注記 教科書、配布プリント、講義内容に関連した映像資料などを使用した講義形式で行う。また、映像資料の内容の確認や感想などを200字程度にまとめて提出させる場合もある。

評価方法 平常点と定期試験の総合評価。（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）定期試験では、15回の授業で学んだ基本的な生物学的現象について問う。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○		○	
定期試験	○	○	○	

評価割合 平常点20%、定期試験80%の総合評価。（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）

使用教科書名 (ISBN番号) 川崎・古庄編著(2009), 生物学—ヒトと環境の生命科学—, 建帛社.

参考図書	適宜、授業中に紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解できる。 【思考・判断】人間社会と自然の多様性のあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を持つことができる。
オフィスアワー	木曜1限 1702室
学生へのメッセージ	高校「生物基礎」を履修した学生は、「生物基礎」の「生命活動とエネルギー」・「遺伝子」・「生態系」を復習すると理解しやすい。 高校「生物」を履修した学生は、「細胞と分子」・「代謝」・「遺伝現象の発現」・「生態系」を復習すると理解しやすい。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	環境と資源		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 岩見 哲夫	指定なし

ナンバリング	X13380M21
授業概要(教育目的)	毎日のように新聞記事やニュースで環境や生態系に関する話題が取り上げられているが、地球環境や資源に関する問題を正しく理解するためには生態学の基礎知識が不可欠である。そこで、この授業では、生態学の基本的内容を学習し、地球環境とそこに生活する生物の関係、生物間の相互関係、人類を含む生物が環境に与える影響、資源の利用と保全の実態や問題点等について理解を深めることを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	生物と環境、生物と生物の関わりについて説明できる 生態系の構成や内部での物質の移動について説明できる 環境問題について背景となる事実を説明できる
思考・判断の観点 (K)	生態系の保全・保護についてその必要性が理解できる 環境条件の変化から生態系の変化について推察できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	地球環境の現状や未来について関心を持つ
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	環境とは何か?	「環境」ということばはさまざまな分野においてさまざまな意味で用いられている。ここでは共通の認識を持つように、生物学分野で用いられる「環境」の意味について説明する。	高等学校での授業内容で生態系に関する知識を再確認しておく。 環境という用語について、共通の認識が持てるよう復習しておく。	240分
第2回	生態系の構成	生態系は生物群集と無機的環境とで構成されることを説明し、その規模にはさまざまなレベルがあることを解説する。	身近な生態系について、その構成要素を列挙できるよう復習しておく。	120分
第3回	生物と環境とのかかわり	生物群集と無機的環境の間には作用・環境形成作用・相互作用などが認められる。実例をあげて、これらの関係について解説する。	作用・環境形成作用・相互作用について、実例をあげて説明できるよう復習しておくこと。	120分

第4回	生物と生物の関わりー同じ種類の間	同種間の関係としていくつかの例をあげ説明する。また、個体間の関係と環境の安定性ととの関係について解説し、その関連を示す。	個体間の関係と環境の安定性ととの関係について、グラフを読み取ったり、説明したりできるよう復習しておくこと。	120分
第5回	生物と生物の関わりー異なる種類の間	ニッチの概念とガウゼの競争排他について解説する。	ニッチの概念とそこから導き出せるガウゼの競争排他則について理解できるよう復習しておくこと。	120分
第6回	生物間の関係ー競争	種間競争の例について説明し、安定した生態系は結果として種間競争が低減される環境であることを解説する。	競争とニッチの重複を避けることとの関係を理解し、多様性を維持している生態系の特徴が説明できるよう復習しておくこと。	120分
第7回	生物間の関係ー捕食者の効果	捕食者の存在が生態系の安定性に寄与することや生物の行動に影響を与えることを説明し、捕食者の存在意義について解説する。また、捕食者を利用した生物農薬の映像資料を視聴しその問題点について考える。	捕食者の存在意義について、例をあげて説明できるよう復習しておくこと。また、生物農薬の映像資料を視聴し、その利点と問題点について考えるという課題に取り組む。	360分
第8回	個体群の成長	個体群の成長に影響する要因をあげ、個体群の成長曲線がどう影響されるかロジスティック方程式を用いて説明する。	ロジスティック方程式の各要素の変動と成長曲線の変化との関係が説明できるよう復習しておくこと。	120分
第9回	食物連鎖と生態系内の物質・エネルギーの移動	生態系における生物群集の構成を説明し、無機的環境との関係も踏まえ、生産者から高次消費者への物質・エネルギーの移動について解説する。	生態系における各栄養段階の物質収支、エネルギーの移動が説明できるよう復習しておくこと。	120分
第10回	生物資源の変動とその機構	生物資源の特徴と食物連鎖を念頭にその変動パターンと変動のメカニズムについて解説する。	生物資源が無機資源と異なる点、また生物資源の量的変動パターン（ボトムアップコントロールやトップダウンコントロール）について説明できるよう復習しておくこと。	120分
第11回	資源保護・資源管理	水産資源を例に、密度独立型・密度依存型資源の特徴とその管理方式について解説する。また、保護と管理の問題についても言及する。	資源の特徴を把握し、その管理方式について説明できるよう復習しておくこと。	120分
第12回	生物多様性	生物多様性とは何か、どのようにして測定されるのか説明し、生物多様性の保全の必要性とその意義を解説する。	生物多様性に関する国際的な取り組みについて予習しておく。また、生物多様性保存の必要性について説明できるよう復習しておく。	120分
第13回	生物多様性保全への取り組み	国際的な生物多様性保全の取り組みを紹介するとともに、その問題点についても解説する。	生物多様性保全の取り組みにおいて指摘されている問題点について、内容と理由が説明できるよう復習しておく。	120分
第14回	気候変動と地球温暖化	地球環境の変化を地球史の時間スケールとここ数十年の時間スケールで比較し、その原因と問題点を解説する。また、映像資料を視聴して、地球温暖化の現状について考える（課題）。	地球温暖化の原因とその影響について説明できるよう復習しておく。また、地球温暖化を扱った映像資料を視聴し、今まで環境について学修してきたことを踏まえて意見を述べる（課題）。	360分
第15回	これからの地球環境	今までの観測や調査を通じて得られた知見から、これからの地球環境についていくつかの予想を説明し、地球環境の未来について解説する。また、前回提示された課題について出されたいくつかの意見を材料に、環境問題について考える。	これまでの授業内容を総復習しておくこと。特に、環境問題について意見が述べられるようにしておくこと。	420分

学習計画注記	授業で分かりにくかった点をそのままにせず、担当教員のオフィスアワー等を利用して理解しておくこと。
学生へのフィードバック方法	授業の理解度を確認するため、毎授業理解度アンケートを実施する。そのアンケートで理解度が不十分と判断される内容については、次の授業の冒頭に改めて説明する。また、課題についてはコメントを付けて返却し、授業にて解説する。
評価方法	授業に積極的に参加し、自身の理解度を客観的に捉えようとしているか。生態系や環境、資源等の問題について十分な知識を得て判断できるようになっているかを、下記の基準で評価する。
評価基準	
評価基準	

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
アンケート	○		○	
課題	○	○	○	
定期試験	○	○		○

評価割合	毎回実施するアンケートへの回答状況10%，課題10%，定期試験80%。
使用教科書名 (ISBN番号)	必要に応じて事前にハンドアウト (資料) を配付する。
参考図書	特に専門書は必要としないが、高等学校で使用した「生物基礎」の生物の多様性と生態系、および「生物」の生物の環境応答、生態と環境等の単元が参考となる。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間社会と自然の多様性を考えるのに必要な知識と考え方が身に付きます。 【思考・判断】人間社会と自然の関係の中で浮かび上がる課題について、分析する力が身に付きます。
オフィスアワー	後期 木曜日昼休み・3限 (12:30～14:30) 生物学研究室 (2205) 相談を希望する学生は、可能な限りGmailを用いて予約をしてください。
学生へのメッセージ	地球温暖化や化学物質汚染、さらには放射能汚染など、私たちの生活に直結する環境問題は、その理由や対策について、正しく理解し冷静に判断することが重要です。知らないことは、無関心という最悪の状況に繋がります。環境問題に関心を持つためにも本講義を受講して、その本質について理解を深めて下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	南極地域観測隊隊員として2度、南極の生物の調査をした経験を活かし、地球環境の問題について「現場」の問題として講義します。
アクティブ・ラーニング	○	授業の一部では、アンケートへの回答結果や課題の提出内容をもとに、意見を出し合って考えを深めます。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	環境と資源		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 沼波 秀樹	指定なし

ナンバリング	X13380C21
授業概要(教育目的)	毎日のように、新聞やニュースで環境や生態系に関する話題が取り上げられています。近年、地球温暖化や人工化学物質による汚染など環境問題がクローズアップされていますが、環境に関する現象を理解するには生態学の基礎的な知識が必要です。この授業では、生態学の基礎的な知識を踏まえ、地球環境とそこに生活する生物の関係、人類を含む生物が環境に与える影響などについて解説し、環境・資源の利用・保全の実態と問題点について理解を深めます。
履修条件	特に無し。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	生態学の基礎的な現象を学び、環境に関する現象を理解する力を持つ。 環境問題とくらしの関わり合いについて理解している。
思考・判断の観点 (K)	環境問題とくらしの関わり合いについて理解した上で、人類も生態系の一部であるという思考を持つことが出来る。
関心・意欲・態度の観点 (V)	持続可能な社会と環境の関係について関心を持てるようになる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション	授業の学習目標・内容について説明する。	復習：授業内容の確認。	90分
第2回	「環境」とは何か?	地球の成り立ちを含めて、人類を含む生物が生息できる地球環境について解説する。特に宇宙空間における地球環境の特殊性について、現在話題になっている惑星移住も触れ、理解する。	予習：高校生物基礎の教科書中の「生態系の成り立ち」に関係する部分を読む。復習：授業内容の確認。	180分
第3回	生態系の構成要素	環境を構成する大気・水・温度などの無機的環境と生物群集(有機的環境)について解説する。これらの環境要因が影響し合って、生態系が形成されていることを理解する。	予習：高校生物基礎の教科書中の「生態系のバランス」に関連する部分を読む。復習：授業内容の確認。	180分
第4回	生物と環境	環境が生息する生物にもたらす影響(作用)、生物の活	予習：高校生物基礎教科書中の	180分

	との関わり	動が環境に及ぼす影響（反作用）について、生物の適応進化も交えて解説する。	「バイオームの形成」に関連する部分を読む。復習：授業内容の確認。	
第5回	生物と生物との関わり 1（種・個体・個体群・群集）	生物の基本単位である「種」とは何か？個体から個体群、群集そして生態系までのまとまりの系列について解説し、生物多様性について理解する。	予習：「生物多様性」について、どのような多様性があるのかをインターネットを使って調べる。復習：授業内容の確認。	180分
第6回	生物と生物との関わり 2（個体群の成長、競争）	個体群の成長、成長時に生じる相互作用について説明する。また、競争回避や個体群の成長戦略についても解説する。	予習：高校生物基礎教科書中の「バイオームの形成」に関連する部分を読む。復習：授業内容の確認。	180分
第7回	生活資材（資源）と人口問題—ヒトも生物—	前回、解説した個体群の成長をヒトに当てはめて、人口問題などについて解説する。	予習：国立社会保障・人口問題研究所のHP (http://www.ipss.go.jp/) で、日本の人口ピラミッドの推移を確認し、各年代の特徴をまとめる。復習：授業内容の確認。	180分
第8回	生態系の構成と食物連鎖（なぜマグロは高いのか？）	最も基本的な種間関係である「食物連鎖」について海洋の食物連鎖を例にあげて解説する。特に生態系内の物質収支について理解する。	予習：高校生物基礎教科書中の「食物連鎖」に関連する部分を読む。復習：授業内容の確認。	180分
第9回	生態系内のエネルギーの流れと物質の循環1—エネルギーの流れと炭素循環—	生態系内でのエネルギーの流れと物質循環の特徴について理解する。物質循環に関しては炭素の循環と地球温暖化現象についても解説する。	予習：高校生物基礎教科書中の「生態系内の物質とエネルギーの流れ」に関連している部分を読む。復習：授業内容の確認。	180分
第10回	生態系内の物質の循環2—炭素循環と地球温暖化—	炭素循環と地球温暖化現象の関連性について解説する。地球温暖化がもたらす環境変化と人類への影響を映像資料を用いて説明することにより理解を深める。	予習：高校生物基礎教科書中の「人間活動による生態系への影響」に関連する部分を読む。復習：授業内容の確認。	180分
第11回	環境保全への取り組み—地球温暖化防止—	地球温暖化防止（抑制）の取り組みについて、国際条約の変遷も含めて映像資料を用いながら解説する。特に人間活動と環境保全の関係について理解し、今後求められていくQOL（生活の質の向上）とはどのようなものか、について考える機会とする。	予習：全国地球温暖化防止活動推進センター（JCCCA）のHP (http://www.jccca.org/) で地球温暖化と生活（家庭）での対策について、予備知識を得る。復習：授業内容の確認。	180分
第12回	人間活動の環境への影響—地球温暖化とホッキョクグマ（レポート課題）—	人間活動の環境への負荷について、地球温暖化が人類以外の生物にあたえる影響を題材として考える。この時間はNHKが製作した「北極大変動」を視聴した後に課題（レポート）を提出する（図書館等非営利上映用DVDを視聴）。	予習：第9回～第11回の授業内容の確認。復習：レポートの作成。	180分
第13回	生態系内の物質の循環3—窒素循環とリン循環—	窒素とリンの循環を説明し、その特徴について理解する。また、窒素やリンの循環が及ぼす環境への影響についても説明する。	予習：高校生物基礎教科書中の窒素循環とリン循環に関連する部分を読む。窒素とリンの循環が環境に及ぼす影響についても知識を得る。復習：授業内容の確認。第12回のレポートの作成。	180分
第14回	生態系内の物質の循環4—人工化学物質と生物濃縮—	DDTやPCBなどの人工化学物質や有機水銀による環境汚染とヒトを含む生物への影響について映像資料を用いて解説する。特に「生物濃縮」による影響について理解する。	予習：「水俣病」をキーワードとして、日本における水質汚濁が原因の公害病について、原因を調べる。復習：授業内容の確認。	180分
第15回	生態系からもたらされる利益—生態系サービス—	国連が実施したミレニアム生態系評価が示した「生態系サービス」について解説し、生態系と私たちの生活の関係を理解する。また、これまでの14回の授業を振り返り、人間活動の生態系への影響について再考する。	予習：ノート、配布プリントなどから、これまでの授業を振り返る。復習：定期試験への準備。	240分

学生へのフィードバック方法	授業内容については、適宜質問を受ける。
評価方法	定期試験および平常点・レポートによる総合評価（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○	○	
平常点	○		○	
レポート	○	○	○	○

評価割合	定期試験 (80%) および平常点・レポート (20%) による総合評価。
使用教科書名 (ISBN番号)	授業中に資料を配付する。
参考図書	適宜, 紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解できる。 【思考・判断】 人間社会と自然の多様性のあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を持つことができる。
オフィスアワー	水曜日1時間目 1702室
学生へのメッセージ	高校生物基礎教科書中の「生態系とその保全」「生物の多様性と共通性」を復習しておくこと、理解しやすい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	地球の科学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 渡邊 茜	指定なし

ナンバリング	X13390M21
授業概要(教育目的)	地球科学は、地球の内部構造や地震、火山活動から、大気・水循環、物質循環、地形や化石、資源形成等の地球表層、そして地球をとりまく宇宙にいたるまでの幅広い自然現象を、包括的に扱う学問である。この授業では、地球科学と私たちの暮らしとの関わりを取り上げながら地球のシステムの基礎を学び、地球規模の現象を考えるための広い視野と、科学的な態度を育成することを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	授業で扱った基礎的な地球科学の現象のメカニズムを理解し、説明できる。
思考・判断の観点 (K)	特に災害・資源・地球環境に関わる事象に対して、適切な判断をできる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	身近な自然や地球科学の話題に関心を持ち、生活との関わりを考えることができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

地球の科学

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス 地球科学とは何か?	地球科学がどのような学問なのかを知り、学ぶ意義を理解する。地球の姿と特徴、地球の成り立ちについて学ぶ。	予習：身近に存在する地球科学にはどんなものがあるか、事前にインターネット等で調べる。 復習：自分で調べた身近に存在する地球科学が私たちの生活にどのように関わっているかを考え、調べる。	予習：90分 復習：90分
第2回	地球の活動	地球の内部構造とプレート運動の仕組みを理解し、地震、火山活動との繋がりを知る。	予習：事前に配布する資料を読み、空欄の穴埋めをしてくる。 復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について、講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	予習：90分 復習：90分
第3回	地震	地震の種類とメカニズムを理解する。地震災害に対して	予習：事前に配布する資料を読	予習：90分

		どのように備えるべきか学ぶ。	み、空欄の穴埋めをしてくる。 復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について、講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	復習：90分
第4回	火山と噴火	マグマの発生と火山噴火のメカニズムを理解する。火山災害に対してどのように備えるべきか考える。火山活動が私たちの生活にもたらす恩恵を知る。	予習：事前に配布する資料を読み、空欄の穴埋めをしてくる。 復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について、講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	予習：90分 復習：90分
第5回	地層と資源形成	地層と、化石や資源の形成過程を理解する。化石燃料の利用に伴う問題の背景を学ぶ。	予習：事前に配布する資料を読み、空欄の穴埋めをしてくる。 復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について、講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	予習：90分 復習：90分
第6回	岩石と鉱物	岩石の種類と形成過程を知る。岩石と鉱物の利用例を学ぶ。	予習：事前に配布する資料を読み、空欄の穴埋めをしてくる。 復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について、講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	予習：90分 復習：90分
第7回	地球の歴史	地球ができてからこれまでの環境変化と、生命の誕生、変遷を学ぶ。過去の地球環境の推定がどのように行われているかを知る。	予習：事前に配布する資料を読み、空欄の穴埋めをしてくる。 復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について、講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	予習：90分 復習：90分
第8回	地表の変化	地形の種類と形成過程を学び、地球の風景がどのように形作られているかを理解する。	予習：事前に配布する資料を読み、空欄の穴埋めをしてくる。 復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について、講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	予習：90分 復習：90分
第9回	大気の流れ	大気の流れ、地球の熱収支と大気の大循環について理解する。	予習：事前に配布する資料を読み、空欄の穴埋めをしてくる。 復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について、講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	予習：90分 復習：90分
第10回	海洋の流れ	海洋の流れと海洋循環を理解する。エル・ニーニョ現象など、大気と海洋の相互作用を学び、それらが生活にもたらす影響を知る。	予習：事前に配布する資料を読み、空欄の穴埋めをしてくる。 復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について、講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	予習：90分 復習：90分
第11回	気象と気象災害	身近な気象現象のメカニズムを学ぶ。台風、集中豪雨など気象災害に対してどのように備えるべきか学ぶ。	予習：事前に配布する資料を読み、空欄の穴埋めをしてくる。 復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について、講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	予習：90分 復習：90分
第12回	雪氷・極域科学	地球温暖化に伴い氷河や氷床などの雪氷圏で近年起きている変化について学ぶ。雪氷と生活のつながりを理解する。	予習：事前に配布する資料を読み、空欄の穴埋めをしてくる。 復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について、講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	予習：90分 復習：90分
第13回	環境問題	気候変動に伴う諸問題やエネルギー問題、環境汚染など、私たちが直面している環境問題の現状を学ぶ。	予習：事前に配布する資料を読み、空欄の穴埋めをしてくる。 復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について、講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	予習：90分 復習：90分
第14回	宇宙の中の地球	宇宙の歴史を知る。生命存在可能性の観点から、地球と他の太陽系天体との違いを理解する。	予習：事前に配布する資料を読み、空欄の穴埋めをしてくる。 復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について、講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	予習：90分 復習：90分
第15回	まとめと解	1-14回までの講義で扱った内容のまとめを行い、幅広い	予習：事前に配布する資料を讀	予習：90分

	説	地球科学の知識の定着をはかる。	み、空欄の穴埋めをしてくる。 復習：予習時の穴埋めでわからなかった部分について、講義内で推薦している図書またはインターネット等を用いて調べる。	復習：90分	
学習計画注記		履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。			
学生へのフィードバック方法		予習で行う空欄の穴埋めについて、授業にて解説を行う。質問等がある場合、授業の前後の時間や、非常勤講師室、メールにて質問を受けつける。			
評価方法		毎回の授業内でコメントシートを書いてもらい、その理解度や授業態度・意欲を平常点として評価する。定期試験では配布プリントの中から選択式・記述式の問題を出題する。また意見を問う記述問題によって応用的な思考力や判断力を確認する。コメントシートとテストの実施は、以下に示す力を養うことを目的としている。			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	コメントシート	○		○	
	試験	○	○		
評価割合		平常点20%、試験80%で総点を決め評価する。平常の授業における熱意・意欲を考慮することがある。			
使用教科書名 (ISBN番号)		教科書は使用せず、プリントを使用する。			
参考図書		<ul style="list-style-type: none"> ・数研出版編集部『改訂版 視覚でとらえるフォトサイエンス 地学図録』, 数研出版, 2018年 ・酒井治孝『地球学入門 第2版 惑星地球と大気・海洋のシステム』, 東海大学出版部, 2016年 			
ディプロマポリシーとの関連		【知識・理解】、【思考・判断】：自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力			
学生へのメッセージ		地球科学は身近な自然を扱う学問であり、私たちの生活に密接に関わっています。テレビや新聞などで地球科学に関連するニュースが取り上げられることも多いので、ぜひそれらの情報にも積極的に接して学んでもらいたいです。			
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング					
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	教養の物理学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 小谷 太郎	指定なし

ナンバリング	X13300M21
授業概要(教育目的)	物理学はいつどのように成立したのか、「元素」や「原子」、「単位」といった概念は誰がいつ発見したのか、そこにいたるまでの物語とともに講義する。 数式はあまり使わず、物理学の思考方法（論理の展開）を追うことを重視する。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	物理学の基礎を理解する。 物理学は、この世界は何からできているのか、どのような法則にしたがっているのかを明らかにする学問である。物理学の基本と、それが発見されるまでの歴史を知る。
思考・判断の観点 (K)	物理学の思考方法（論理的な思考）を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガリレオ～最初の近代科学者 1	近代科学の成立について学習する。	ガリレオ・ガリレイについて予習・復習する。	120分
第2回	ガリレオ～最初の近代科学者 2	近代科学の成立について学習する。	ガリレオ・ガリレイについて予習・復習する。	120分
第3回	ニュートン～ニュートンカ学を一人で建設 1	ニュートンカ学について学習する。	アイザック・ニュートンについて予習・復習する。	120分
第4回	ニュートン	ニュートンカ学について学習する。	アイザック・ニュートンについて予習・復習する。	120分

	～ ニュー トンカ学を 一人で建設 2		て予習・復習する。	
第5回	メンデレー エフ～ 元 素には周期 がある	周期表について学習する。	ドミトリ・メンデレーエフにつ いて予習・復習する。	120分
第6回	ドルトン～ 原子論の再 発見	原子論について学習する。	ジョン・ドルトンについて予 習・復習する。	120分
第7回	ドルトン～ 原子論の再 発見	原子論について学習する。	ジョン・ドルトンについて予 習・復習する。	120分
第8回	国際単位系 の建設	国際単位系について学習する。	国際単位系について予習・復習 する。	120分
第9回	国際単位系 の建設	国際単位系について学習する。	国際単位系について予習・復習 する。	120分
第10回	国際単位系 の建設	国際単位系について学習する。	国際単位系について予習・復習 する。	120分
第11回	キュリー～ 不滅のはず の原子が壊 れた	原子核物理について学習する。	マリー・キュリーについて予 習・復習する。	120分
第12回	キュリー～ 不滅のはず の原子が壊 れた	原子核物理について学習する。	マリー・キュリーについて予 習・復習する。	120分
第13回	フェルミ～ 最初の原子 炉と原子爆 弾	原子力について学習する。	エンリコ・フェルミについて予 習・復習する。	120分
第14回	元素はどこ で作られ た～元素合 成	宇宙の元素合成について学習する。	ビッグ・バンについて予習・復 習する。	120分
第15回	元素はどこ で作られ た～元素合 成	人工元素について学習する。	エミリオ・セグレについて予 習・復習する。	120分

学習計画注記 スケジュールが変更になることがあります。

学生へのフィードバック方法 講義を中心とする。

評価方法 成績評価は平常点と定期試験による。
平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
定期試験	○	○		

評価割合 平常点 (40%)、定期試験 (60%)。

使用教科書名 (ISBN番号) 特に指定なし。

参考図書 小谷太郎『科学者たちはなにを考えたか』(ナツメ社)。
ほか、適宜指示。

ディプロマポリシーとの関連 人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を身につけます。

	社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる力と、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる力を育てます。	
オフィスアワー	なし。	
学生へのメッセージ	数式はあまり用いません。 これまでの物理学・数学の履修経験は必要ありません。 必ず授業の復習をすること。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	自然史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 岩見 哲夫	指定なし

ナンバリング	X13370M21
授業概要(教育目的)	自然史とは、「時々刻々と変わっていく自然現象を、自然の歴史という観点でとらえ、観察し、記録しながら、自然観を養うことを目的とする」分野で、要約すると「自然の姿と生い立ちを探求する」分野と表現できる。その対象は、大きさでは宇宙から原子まで、時間軸では宇宙誕生から瞬間的な生命現象までの広い範囲を扱うことになるが、この授業では、約6億年前の生物大発展以降の生命の発展に重点を置き、時間の流れに沿う形でさまざまな自然現象を解説し、私たちヒトに連なる生命発展の経緯について理解を深める。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	宇宙138億年の歴史の中で主要な地質学的イベントを列挙できる 生物進化の流れについて、概要を述べることができる
思考・判断の観点 (K)	地震や環境変動などがどのような過程によって生ずるのか、論理的に述べることができる 生物進化はどのような要因で進み、結果として方向付けられるのか、地球表層環境の変化と関連付けて説明できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分が住んでいる地球について、長い時間軸に沿って考えることができ、生命や環境に関心をもつ
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	時空の進化	自然史という学問が時間という指標で地質学上・進化学上のできごと(イベント)を扱う分野であることを説明し、宇宙誕生から現在までの時間軸を概観する。	宇宙誕生から現在までの138億年の流れを時間軸に沿って復習し、「大きな」時間の理解に努める。	120分
第2回	宇宙の創生から太陽系の誕生まで	今から約138億年前に誕生したとされる宇宙の構造を学び、その宇宙の中に私たちの太陽系が誕生するまでの課程を解説する。	天の川とは何か、どのような構造をしているのかについて事前に調べておく。 「何もない」宇宙空間で星ができるメカニズムについて再確認し、太陽系8個の惑星の特徴を復習しておく。	240分

第3回	地球誕生／地球内部の構造	今から約46億年前に誕生したとされる地球創成の課程を説明し、時間を追って大きな変化をとげた地球内部の構造を解説する。「生きている」地球の動きと地震・気候等との関係についても述べる。	地球内部の構造と身近な問題である地震との関係について調べておく。 46億年の間、地球内部がどのように変化してきたのか、そしてそれが地球の環境にどのような影響を与えてきたのかを理解しておく。	120分
第4回	地球史を概観する	主に表層環境の変化に着目して、地球46年の歴史を概観する。	地球内部の変化や宇宙からの影響が地球表層環境にどのように影響したか理解しておく。	120分
第5回	地球カレンダーを作る	地球史46億年を1年365日に換算し、地球史上重要なイベントの時期を実感しやすい時間軸で説明する。	地球カレンダーの考え方、計算方法について復習し理解する。また、地球カレンダー作成の課題に取り組むこと。	360分
第6回	生命誕生	著しい変化を遂げる地球表層環境の中で生命がどのようにして誕生したのか、いくつかの代表的な説を例に解説する。	生命（生物）とは何であるか、生命体と無機物とは何か違うのかを考えておく。生命誕生の諸説を比較し、その長所・短所を説明できるよう復習する。	240分
第7回	全球凍結と生物多様性の創出	原世代の一大イベントである全球凍結の原因そして生命進化に及ぼした影響について解説し、その結果発展した生物群の特徴について説明する。	予め、地球カレンダーで全球凍結を含む前後のイベントの時間的な位置づけについて理解を深めておく。 エディアカラ生物群の特徴・独自性について復習する。	240分
第8回	古生代の世界	顕生代最初の時代である古生代全体を概観し、主として地球表層環境の推移と生物の応答について解説する。	地球表層環境の変化が生物進化にどのような影響を及ぼすのか、復習すること。	120分
第9回	古生代における生物発展—脊椎動物の進化	古生代を通じて生物がどのように進化していったのか、魚類誕生から四肢類の出現までの課程を解説する。	脊椎動物の進化について、地球表層環境の変化に対応させて理解できるよう復習すること。	120分
第10回	古生代末の生物大絶滅と恐竜の誕生	古生代末期に起こった地球史上最大の生物大量絶滅を解説し、その原因と結果が、以後長期の繁栄を誇ることになる恐竜類の出現に繋がった点を説明する。	恐竜類の出現に関わる地球環境変動について理解できるよう復習する。	120分
第11回	中生代の世界	大量絶滅からの復活と現代型生物の進化について概観する。	地球史の中で中生代がどのような位置付けとなるのか、地球カレンダーによる解釈も踏まえ理解できるよう復習する。	120分
第12回	中生代末の生物大絶滅と恐竜の絶滅	小惑星の落下等の原因によって訪れた中生代の終焉を、地球環境変動と恐竜類や中生代の代表的な生物の絶滅という観点から説明する。	中生代の生物の多くが絶滅した理由について、環境変動という観点から理解できるよう復習する。	120分
第13回	新生代の世界	中生代が終わり新生代に入り、生物がどのように進化・発展していったか、哺乳類の発展に焦点を当てて解説する。	新生代に入り哺乳類が発展した理由について述べられるように復習する。	120分
第14回	人類の進化	今から約700万年前に出現した人類。その発展の過程と現在のように全世界に分布する特異な生物種へと進化した経緯について解説する。	人類とは何か、また人類進化の歴史について説明できるよう復習すること。	120分
第15回	未来の地球／今までの振り返り／定期試験	惑星としての地球のこれからを解説する。また、再度、地球カレンダーに基づき、地球46億年の歴史を通覧する。	地球の未来について、現在の環境や科学技術の発展などの状況から考えられる範囲でまとめて授業に臨むこと。 これまでの授業内容を総復習しておくこと。	420分

学習計画注記	授業で分かりにくかった点をそのままにせず、担当教員のオフィスアワー等を利用して理解しておくこと。
学生へのフィードバック方法	ハンドアウトや映像資料、模型や化石標本等を用いて、講義形式で授業を進める。授業の理解度を確認するため、毎授業理解度アンケートを実施する。そのアンケートで理解度が不十分と判断される内容については、次の授業の冒頭に改めて説明する。また、課題についてはコメントを付けて返却し、授業にて解説する。
評価方法	授業に積極的に参加し、自身の理解度を客観的に捉えようとしているか。地球の歴史と生物の進化を中心とした知識を十分に得ているかを、下記の基準で評価する。
評価基準	
評価基準	

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
アンケート	○		○	
課題	○	○	○	
定期試験	○	○		○

評価割合	毎回実施するアンケートへの回答状況10%，課題10%，定期試験80%。
使用教科書名 (ISBN番号)	必要に応じて事前にハンドアウト (資料) を配付する。
参考図書	特に専門書は必要としないが，高等学校で使用した「生物基礎」の生物の共通性と多様性，および「生物」の生物の進化と系統の単元が参考となる。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】地球の歴史，生物の進化を学ぶことで，自然の多様性について理解することができます。 【思考・判断】地球環境の成立を知ることから，そのあるべき姿について判断する基礎を身につけることができる。
オフィスアワー	前期 火曜日2限・昼休み・3限 (10:40~12:30) 生物学研究室 (2205) 相談を希望する学生は，可能な限りGmailを用いて予約をしてください。
学生へのメッセージ	今から約46億年前に地球は誕生しました。それからの地球環境の変化は，想像を絶するものが有り，その中で生命が誕生し進化して，今の私たちに繋がっています。その，遠大で変化に富む生命の変遷を理解し，私たち人類という種族の誕生と発展について考えてもらいたいと思います。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業の一部では，実物の化石を用いてその特徴と進化の過程を考え，議論してもらう時間を作ります。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	法学入門（日本国憲法）		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 佐藤 哲	指定なし

ナンバリング	X13400M21
授業概要(教育目的)	はじめに、法の基礎を概観し、私たちの生活の中で法をどのように活用すればよいのか、法の作用や役割を考えてみる。次に、日本国憲法の理念から現実の憲法政治の問題状況を分析する。とりわけ、国民主権のもとにおける国会の機能、行政の肥大化現象と地方行政、裁判所の人権保障機関としての役割などについて考察する。後半は、憲法訴訟における人権の憲法判例のリーディング・ケースを考察し、今日の基本権をめぐる問題状況を明らかにする。
履修条件	教育職員免許状希望者は必ず履修すること。
学習目標(到達目標)	
学習目標（到達目標）	
知識・理解の観点 (K)	憲法の各規定やさまざまな制度について、その規範内容や運用実態を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	実社会において、憲法が遵守され、基本的人権が保障されているか否かを考察できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	人権や憲法の問題について、より積極的に関心をもつようになる。
技術・表現の観点 (A)	講義や自らの知見によって得た内容や情報を整理し、一定の考え方とともに表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	I 憲法総論 (1) 憲法の意義	社会規範としての法の位置づけ、法と道徳の相違、法の特質等について学ぶことから始め、次に憲法の意義や立憲主義等について理解する。	教科書の第1章の「憲法の意味」「憲法の分類」「憲法規範の特性」(3~11ページ)を読んでもらうこと 講義で学んだ内容・情報を整理し、理解を深めること	180分
第2回	(2) 憲法の基本原理とその歴史	日本国憲法の基本原理である国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の概要や基本原理の相互の関係等を理解する。また日本国憲法の成立過程を学び、大日本帝国憲法と日本国憲法の規範内容の比較検討をおこなうことにより、憲法の意義について理解を深める。	教科書第3章の「人権理念と歴史」「基本権の類型」「基本権の享有主体」(23~32ページ)を読んでもらうこと 講義で学んだ内容・情報を整理し、理解を深めること	180分
第3回	II 憲法(人権) (1)	人権観念とその歴史を学ぶことから始め、日本国憲法第13条に関連して、幸福追求権、新しい人権(プライバシー)	教科書第3章の「人権理念と歴史」「基本権の類型」「基本権	180分

	包括的基本権	一権、自己決定権など)について、また日本国憲法第14条に関連して、国家から差別されない権利や平等に扱われる権利(平等権)、国家が個人を差別しないという原則(平等原則)等、法の下での平等について理解する。	の享有主体」(23~32ページ)「私人間効力」(34~35ページ)第4章の「幸福追求権」「法の下での平等」(38~50ページ)を読んでおくこと 講義で学んだ内容・情報を整理し、理解を深めること	
第4回	(2) 精神的自由①	思想・良心の自由と信教の自由等、内心の自由について理解する。(日本国憲法第19条・第20条)	教科書第5章の「思想・良心の自由」「信教の自由」(51~61ページ)を読んでおくこと 講義で学んだ内容・情報を整理し、理解を深めること	180分
第5回	(3) 精神的自由②	学問の自由、表現の自由とその限界等について理解する。(日本国憲法第23条・第21条)	教科書第6章の「学問の自由」「表現の自由」(62~82ページ)を読んでおくこと 講義で学んだ内容・情報を整理し、理解を深めること	180分
第6回	(4) 経済的自由	経済的自由の内容、経済的自由に対する規制、財産権の保障について理解する。(日本国憲法第22条・第29条)	教科書第7章の「職業選択の自由」「居住・移転の自由」(83~93ページ)を読んでおくこと 講義で学んだ内容・情報を整理し、理解を深めること	180分
第7回	(5) 人身の自由	奴隷的拘束からの自由、人身の自由が制限される場合の手続き等について理解する。(日本国憲法第18条・第31条~)	教科書第8章の「奴隷的拘束からの自由」「適正手続」「被疑者の権利」「被告人の権利」(94~106ページ)を読んでおくこと 講義で学んだ内容・情報を整理し、理解を深めること	180分
第8回	(6) 社会権(生存権的基本権)	社会権の基本的考え方、生存権、教育を受ける権利、労働基本権について理解する。(日本国憲法25条~第28条)	教科書第9章の「社会権の形成」「生存権」「教育を受ける権利」「勤労の権利」「労働基本権」(107~118ページ)を読んでおくこと 講義で学んだ内容・情報を整理し、理解を深めること	180分
第9回	(7) 参政権・国務請求権	国民が政治に参加する権利(参政権)、損害の救済、公務員の罷免、法律の改正などを国の機関に請願できる権利(請願権)、国に対し権利侵害の救済を求める権利(請求権)について理解する。(日本国憲法第15条・第16条・第17条・第32条・第40条)	教科書第10章の「参政権」「請願権」「国家賠償請求権」「刑事補償請求権」「裁判を受ける権利」(119~128ページ)を読んでおくこと 講義で学んだ内容・情報を整理し、理解を深めること	180分
第10回	Ⅲ憲法(統治)(1) 国会の役割と権能	国の統治を担う三権のうち、立法権を担う国会の役割と権能、衆議院と参議院の二院制の意義について理解する。(日本国憲法第41条~第64条)	教科書第14章の「国会の地位」「国会の組織と活動」「国会と議院の権能」(158~169ページ)を読んでおくこと 講義で学んだ内容・情報を整理し、理解を深めること	180分
第11回	(2) 内閣の役割と権能	国の統治を担う三権のうち、行政権を担う内閣の役割と権能、議院内閣制について理解する。(日本国憲法第65条~第75条)	教科書第15章の「内閣の地位」「内閣の組織と権能」「議院内閣制」(170~180ページ)を読んでおくこと 講義で学んだ内容・情報を整理し、理解を深めること	180分
第12回	(3) 裁判所の役割と権能	国の統治を担う三権のうち、司法権を担う裁判所の役割と権能、法令審査権等について理解する。(日本国憲法第76条~第82条)	教科書第16章の「司法権」「司法権の独立」「裁判所の組織と権能」「法令審査権」(181~197ページ)を読んでおくこと 講義で学んだ内容・情報を整理し、理解を深めること	180分
第13回	(4) 財政	財政の基本原則である財政民主主義の理念のもとにある租税法律主義、国費支出議決主義、公金の支出制限、予算について理解する。(日本国憲法第83条~第91条)	教科書第17章の「財政民主主義」「租税法律主義」「国費の支出」「公金の支出」「財政監督の方式」(198~205ページ)を読んでおくこと 講義で学んだ内容・情報を整理し、理解を深めること	180分
第14回	(5) 地方自治	「地方自治の本旨」の意味、地方公共団体の種類・組織、地方公共団体の権能、地方特別法について理解する。(日本国憲法第92~95条)	教科書第18章の「地方自治の本旨」「地方公共団体」(206~214ページ)を読んでおくこと 講義で学んだ内容・情報を整理し、理解を深めること	180分

第15回	(6) 憲法改正	憲法改正の意義とその限界、憲法改正手続について理解する。(日本国憲法第96条)	教科書第19章の「憲法改正の意味」「憲法改正手続」「憲法改正の限界」(215~220ページ)を読んでおくこと 講義で学んだ内容・情報を整理し、理解を深めること	180分
------	----------	---	--	------

学習計画注記	受講者の講義内容の理解度により多少のスケジュール変更の場合もある。
--------	-----------------------------------

学生へのフィードバック方法	講義に関する質問・意見等は随時受け付ける。メールも可。
---------------	-----------------------------

評価方法	定期試験(筆記試験)および課題レポートにより総合評価する。
------	-------------------------------

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題レポート	○	○	○	
定期試験	○	○		○

評価割合	定期試験(70%)、課題レポート(30%)にて総合評価する。
------	--------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	尾崎利生・鈴木晃『憲法入門講義 第2版』(法律文化社、2016年) 978-4-589-03750-3 佐伯仁志他編『ポケット六法 2020年版』(有斐閣、2019年) 978-4-641-00920-2
-----------------	---

ディプロマポリシーとの関連	憲法や人権に関する基礎的な知識を学び、社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力を身につける。
---------------	---

学生へのメッセージ	教職免許状希望者はもちろん、法や政治、国内社会・国際社会の諸問題(人権、平和、環境、貧困等)に関心のある学生の参加を歓迎します。
-----------	--

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	法学入門（日本国憲法）		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 江川 剛	指定なし

ナンバリング

X13400C21

授業概要(教育目的)

はじめに、法および法律学の基礎を概観し、私たちの生活の中で、法律や憲法をどのように活用すればよいのか、法律の作用や憲法の役割を考えてみる。次に、日本国憲法が保障する基本的人権について、憲法訴訟におけるリーディング・ケースを考察し、今日の基本的人権をめぐる問題状況を明らかにする。後半は、日本国憲法の理念から現実の憲法政治の問題状況を分析する。とりわけ、国民主権のもとにおける国会の役割と権能、行政の肥大化現象と地方行政改革、裁判所の人権保障機関としての役割、また、憲法改正の意味などについて考察する。

履修条件

教育職員免許状希望者は必修。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	憲法を頂点とした国内法の構造を理解し、憲法保障（例えば、裁判所の法令審査権）について説明できるようになる。
思考・判断の観点 (K)	人権に関する判例を考察し、裁判所の判断が憲法の解釈に適合したものかどうかを指摘できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	弱者（子ども、高齢者、女性、障がい者など）の人権に関心をもち、配慮できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	I 憲法総論 (1) 法律学と憲法学	権利・義務関係の内容・手続を定めた法令を分類しながら法令の解釈・適用を学ぶのが法律学。憲法は国家権力を制限する国の基本法であって、公権を定めた高次の法(最高法規)を学問対象とするのが憲法学であることを理解する。	教科書の第1章の「憲法の意味」「憲法の分類」「憲法規範の特性」(3~11ページ)を読んでおくこと	180分
第2回	(2) 憲法の歴史と憲法の基本原理	ヨーロッパの近代市民革命を経て、権力が一人の人間(君主)や一つの機関に集中しない工夫として権力分立制が生み出され、国家が人びとの権利を侵害してはならないとしたのが、人権保障規定(権利章典)であったことを理解する。	教科書第3章の「人権理念と歴史」「基本権の類型」「基本権の享有主体」(23~32ページ)教科書第12章の「国民主権と象徴天皇制」(135~146ページ)を読んでおくこと	180分
第3回	II 憲法(人	憲法13条(幸福追求権)と同14条(法の下での平等)の規	教科書第3章の「基本権保障の	180分

	権) (1) 包括的基本権	定は、すべての人権規定の基礎となる総則的権利である。プライバシー権は憲法13条を根拠に導かれた新しい人権の一つである。人権の私人間効力についても理解できるようにする。	効力」「基本的人権と公共の福祉」(32~37ページ)教科書第4章の「幸福追求権」「法の下での平等」(38~50ページ)を読んでおくこと	
第4回	(2) 精神的自由①	憲法19条思想・良心の自由、同20条信教の自由と政教分離原則を中心に、内心の自由を理解する。「君が代ピアノ伴奏」事件、「愛媛玉串料」事件、「エホバの証人剣道授業拒否」事件を検討する。	教科書第5章の「思想・良心の自由」「信教の自由」(51~61ページ)を読んでおくこと	180分
第5回	(3) 精神的自由②	憲法21条表現の自由、同23条学問の自由。とりわけ、表現、言論の自由は、民主政の大前提となる優越的権利であることを統治システム(議会制民主主義)との関係で理解する。「北方ジャーナル」事件を取り上げる。	教科書第6章の「学問の自由」「表現の自由」(62~82ページ)を読んでおくこと	180分
第6回	(4) 経済的自由	憲法22条、同29条は、職業選択の自由、財産権の保障を規定しているが、「公共の福祉」(人権相互の調整原理)の観点から、精神的自由を制約する場合は厳格な基準が必要であるのに対して、憲法22条、29条については、憲法自身が合理的基準による制約を予定している権利であることを理解する。	教科書第7章の「職業選択の自由」「居住・移転の自由」「財産権の保障」(83~93ページ)を読んでおくこと	180分
第7回	(5) 人身の自由	Due process of law(法の適正手続)を中心に、拷問の禁止、令状主義など、人の身体に関する自由は、日本国憲法第三章の条文の中で条文数がかつても多い特色を理解する。「第三者所有物没収」事件、「高田」事件を取り上げる。	教科書第8章の「奴隷的拘束からの自由」「適正手続」「被疑者の権利」「被告人の権利」(94~106ページ)を読んでおくこと	180分
第8回	(6) 社会権(生存権的基本権)	自由権が国家の介入を排除する性質をもっていた(国家からの自由)のに対して、社会権は国家が配慮しなければ、十全に保障されない性質(国家による自由)をもった権利であることを理解する。朝日訴訟、堀木訴訟を取り上げる。	教科書第9章の「社会権の形成」「生存権」「教育を受ける権利」「勤労の権利」「労働基本権」(107~118ページ)教科書第11章の「国民の義務」(129~132ページ)を読んでおくこと	180分
第9回	(7) 参政権・国務請求権	参政権には選挙権、被選挙権、国民投票権があり、公務の性質によっては公務就任権も参政権の一部を構成する。また、請願権はその主体に未成年者、外国人、法人等も含まれる。これは議会制民主主義を補完する機能と捉えられることを理解する。	教科書第10章の「参政権」「請願権」「国家賠償請求権」「刑事補償請求権」「裁判を受ける権利」(119~128ページ)を読んでおくこと	180分
第10回	Ⅲ憲法(統治)(1)国会の役割と権能	国会は、国権の最高機関であり、国の唯一の立法機関(憲法41条)であって、国政について最高の責任を負う地位にある。また、議院の権能として、国政調査権(同62条)は他の権力を侵害しない範囲で独自の調査が認められることを理解する。	教科書第14章の「国会の地位」「国会の組織と活動」「国会と議院の権能」(158~169ページ)を読んでおくこと	180分
第11回	(2) 内閣の役割と権能	行政権は、内閣に属する(憲法65条)とは、各行政機関によって行政が行われ、内閣がそれを指揮監督(同72条後段)し、統括している。日本の内閣は、議会の信任に基づき、議会に対して責任を負う議院内閣制を採用していることを理解する。	教科書第15章の「内閣の地位」「内閣の組織と権能」「議院内閣制」(170~180ページ)を読んでおくこと	180分
第12回	(3) 裁判所の役割と権能	司法とは、具体的な争訟について法を解釈し適用することによって、紛争を解決する国家作用であり、この作用を行う権限を司法権という。また、すべての裁判所は、法令等が憲法に適合するか否かを判断する法令審査権を有していることを理解する。	教科書第16章の「司法権」「司法権の独立」「裁判所の組織と権能」「法令審査権」(181~197ページ)を読んでおくこと	180分
第13回	(4) 財政	国の財政を処理する権限は、国会の議決に基づいて行使されなければならない(憲法83条)とされ、「財政民主主義」の理念が含まれる。新たに租税を課したり、現行の租税を変更する場合は、法律に基づく租税法律主義を規定していることを理解する。	教科書第17章の「財政民主主義」「租税法律主義」「国費の支出」「公金の支出」「財政監督の方式」(198~205ページ)を読んでおくこと	180分
第14回	(5) 地方自治の制度と地方自治法	地方自治における団体自治とは、国家から独立した法人格をもち、自立権をもってその地方の事務を処理することをいい、住民自治とは、住民の意思に基づいて地方の事務が行われることを意味している。議会は、条例制定権をもつことを理解する。	教科書第18章の「地方自治の本旨」「地方公共団体」(206~214ページ)を読んでおくこと	180分
第15回	(6) 憲法改正	憲法改正とは、成典憲法中の条項の修正・削除および追加をなし、あるいは別に条項を設けて増補することをいう。憲法改正の限界については、成典憲法が掲げて立つ基本原理を否定するような改正を行うことは法的に不可能であることを理解する。	教科書第19章の「憲法改正の意味」「憲法改正手続」「憲法改正の限界」(215~220ページ)教科書第13章の「平和主義」(147~157ページ)を読んでおくこと	180分

学生へのフィードバック方法

実施した小テストは、採点して、次週の授業にて返却する。

評価方法

小テスト、課題レポート(その他、毎回授業内容についてのチェック問題を出す)、これは自己採点して、授業理解に役立つようにする。これらを平常点として、評価の30%とする。定期試験は70点満点で出題する。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○			
課題レポート		○		
評価割合	定期試験 (70%)、平常点 (小テスト15%、課題レポート15%) で総合評価する。			
使用教科書名 (ISBN番号)	尾崎利生・鈴木晃『憲法入門講義 第2版』 (法律文化社、2016年) 978-4-589-03750-3			
参考図書	高橋和之編『新・判例ハンドブック【憲法】第2版』 (日本評論社、2018年) 978-4-535-00830-4 君塚正臣編『高校から大学への憲法 [第2版]』 (法律文化社、2016年) 978-4-589-03741-1 初宿正典他編『目で見える憲法【第5版】』 (有斐閣、2018年) 978-4-641-22735-4 佐伯仁志・大村敦志他編『ポケット六法 令和2年版』 (有斐閣、2019年) 978-4-641-00920-2 大石真編『デイリー六法 令和2年版』 (三省堂、2019年) 978-4-385-15963-8 三省堂編修所編『デイリー法学用語辞典【第2版】』 (三省堂、2019年) 978-4-385-13727-8			
ディプロマポリシーとの関連	国の基本法としての憲法を頂点とした法秩序を学び、高い関心と徳性をもって人びとのために働く能力を身につける。			
学生へのメッセージ	テキスト、資料にあらかじめ目を通して、何が分かって、何が分からなかったのかを明らかにして、授業に参加できること。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	講師の弁護士実務経験を活かし、日本国憲法が裁判実務や実社会においてどのように扱われ、どのような影響を及ぼしているのかについて、理解を深められる授業。		
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	市民と法		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 渡邊 友美	指定なし

ナンバリング	X13420M21
授業概要(教育目的)	現代社会における法の意義と機能を明らかにし、法的なものの見方・考え方（legal mind）が身につけられるよう努める。日常生活に法律があふれていることを知ってもらい法律を身近に感じてもらうとともに、具体的な事例を解決できるようにすることを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	身近な問題を法的観点から考えることができる。
思考・判断の観点 (K)	様々な場面で用いられる法律の適用を理解し、他者へ説明することができる。身近な問題について、法的観点から結論を導き出すことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

市民と法

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	契約が成立するってどういうこと？	社会生活を営む上で実は多くの契約を結んでいることを知り、法律を身近に感じられるようにする。契約が成立するために必要な要件について理解する。	予習：シラバスをよく読んでおくこと。 復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら配布資料を読み、理解を深める。	120分
第2回	契約がうまく成立しないとは？	様々な原因により、契約がうまく成立しない場合があることを理解する。	予習：予習資料を読み、読み方がわからない言葉や意味がわからない言葉を調べておく。 復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら配布資料を読み、理解を深める。	120分
第3回	債務不履行って？	債務不履行というのがどのような場合なのかを理解する。民法の改正点を知る。	予習：予習資料を読み、読み方がわからない言葉や意味がわからない言葉を調べておく。	120分

			復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら配布資料を読み、理解を深める。	
第4回	様々な契約	売買契約や消費貸借契約等、様々な契約の特徴を知る。	予習：予習資料を読み、読み方がわからない言葉や意味がわからない言葉を調べておく。 復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら配布資料を読み、理解を深める。	120分
第5回	物に対する権利？	物権とは何かを知り、再建との違いを理解する。	予習：予習資料を読み、読み方がわからない言葉や意味がわからない言葉を調べておく。 復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら配布資料を読み、理解を深める。	120分
第6回	「保証」って何？	保証契約の基礎知識を獲得するとともに、連帯保証人と保証人との違いなどについて理解できるようにする。	予習：予習資料を読み、読み方がわからない言葉や意味がわからない言葉を調べておく。 復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら配布資料を読み、理解を深める。	120分
第7回	アクシデント発生！！	交通事故や医療事故など、契約以外によって発生する権利関係について理解する。私法と公法の違いについて知り、説明できるようにする。	予習：予習資料を読み、読み方がわからない言葉や意味がわからない言葉を調べておく。 復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら再度配布資料を読み、理解を深める。	120分
第8回	社会人として働いていくこと	会社に採用されるまでから退職するまでのルールについて学ぶ。労働者の権利について理解する。	予習：予習資料を読み、読み方がわからない言葉や意味がわからない言葉を調べておく。 復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら配布資料を読み、理解を深める。	120分
第9回	アルバイトは労働者？	正規社員と非正規社員の違い、非正規社員を保護する法律について学ぶ。男女雇用機会均等法について理解する。	予習：予習資料を読み、読み方がわからない言葉や意味がわからない言葉を調べておく。 復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら再度配布資料を読み、理解を深める。	120分
第10回	家族になる！	婚約から婚姻までの流れや婚姻によって発生する効果について知る。事実婚や同性婚など、過渡期にある家族についても理解する。	予習：予習資料を読み、読み方がわからない言葉や意味がわからない言葉を調べておく。 復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら再度配布資料を読み、理解を深める。	120分
第11回	こんな結婚生活もう嫌だ…	離婚する手続きについて知る。離婚に伴って発生する清算関係（親権や財産分与など）について理解する。離婚後の家族関係について学ぶ。	予習：予習資料を読み、読み方がわからない言葉や意味がわからない言葉を調べておく。 復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら再度配布資料を読み、理解を深める。	120分
第12回	親子の関係	親子関係について理解する。実子や養子、離婚後の親子関係について理解する。	予習：予習資料を読み、読み方がわからない言葉や意味がわからない言葉を調べておく。 復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら再度配布資料を読み、理解を深める。	120分
第13回	家族が死んでしまったら	相続についての基礎知識を獲得する。自分が高齢になったときの備え（遺言状の作成など）について理解する。	予習：予習資料を読み、読み方がわからない言葉や意味がわからない言葉を調べておく。 復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら再度配布資料を読み、理解を深める。自分の家族が亡くなった場合の相続関係を図式してみる。	120分
第14回	具体的な相続	具体的相続分、遺留分侵害等について理解する。	予習：予習資料を読み、読み方がわからない言葉や意味がわからない言葉を調べておく。 復習：授業中に挙げた法律・条文を手元で見ながら再度配布資料を読み、理解を深める。	120分
第15回	これまでの	これまでの授業を振り返り、知識の定着をはかるととも	予習：これまでの配布資料を讀	120分、（総復習420分）

	授業のまとめ	に、その知識を使えるようにする。	み、理解する。 復習：これまでの配布資料を読み、不明な点は授業中に挙げた参考書等で自ら調べてみる。
第16回			

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法 毎回、授業の最後に10分程度の簡単な確認テストを行い、次の授業の冒頭で簡単な解説を行う。

評価方法

- ・確認テストは、その日の授業で行った内容について確認する問題を3問程度出す。5～10分程度で書き終わる内容のものとする。そこでの理解度に応じて点数（各回0～2点、30点満点）をつける。
- ・定期試験は、70点満点で出題し、説明問題、穴埋め問題、選択問題などを出題する。出題の傾向や問題数などについては、最後の授業で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○		
定期試験	○	○		

評価割合 定期試験（70%）、平常点（30%）で評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) 教科書は使用しない。

参考図書 池田真朗ほか著『法の世界へ〔第8版〕』（有斐閣、2020年）
（ISBN:978-4-641-22088-1）
ポケット六法などの小型六法や、e-Gov法令検索 (https://elaws.e-gov.go.jp/search/elawsSearch/elaws_search/lsg0100/) など、法律を確認できるもの。
また、適宜参考になる書籍を紹介する。

参考URL https://elaws.e-gov.go.jp/search/elawsSearch/elaws_search/lsg0100/

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】【思考・判断】社会の仕組み・身近な問題を法的観点から見つめ、様々な法律の特徴を理解するとともに、多様な価値観を身に着けている。

学生へのメッセージ 授業中は私語厳禁。あまりにも私語がひどい場合は退出してもらいます。
録音・録画・撮影は厳禁。以前の資料も持参するので、欠席時には申告するように。
社会で生きていく以上、法律とともに生活することになるので、自分や家族を守る武器を身につけられるように、積極的に学んで欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	社会学入門		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 野坂 真	指定なし

ナンバリング	X13430M21
授業概要(教育目的)	<p>電車内での迷惑行為、外国人との共生、地方創生、災害の多発など、実際に現代社会で生じている事象や課題を取り上げながら、人間社会の中で生じてきたできごとや変動を分析するさまざまな社会学の視点や方法を紹介する。</p> <p>本授業は講義の形式を取るが、受講生の皆さんには、社会学の視点や方法を学びながら、現代社会の事象や課題をどのように理解しそれに向き合っていけば良いかを、自分の問題として考えて欲しい。質疑応答の時間なども設けるので、積極的に授業へ参加することを期待したい。</p>

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 社会学の基本姿勢を理解し、説明できる。 社会で生じている様々な事象や社会問題について、その実態とメカニズムを理解し説明できる。
思考・判断の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 社会で生じている様々な事象や社会問題について、その実態とメカニズムを理解した上で、問題の核心を指摘できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ul style="list-style-type: none"> 多様な価値観を持つ社会の人々とコミュニケーションを取りつつ、自分の価値観を相対化することで、社会参加できる。 授業内でのディスカッションに参加し、議論の発展に寄与できる。
技術・表現の観点 (A)	<ul style="list-style-type: none"> レポートやコメントシートの中で、自分の主張とその根拠を、より多くの読み手にとって理解できる形で表現できる。

学習計画

現代の社会的事象や社会問題に、社会学の研究はどのように切り込んでいるか？

回	授業テーマ	学習内容(7keyラーニング・情報リテ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	本授業のねらいと進め方、受講上の注意点を説明する。	予習：シラバスをよく読み、授業の進み方のイメージを持って授業に臨むこと。 復習：配布資料をよく読み返しつつ、参考書の序章部分をよく読んでおくこと。	予習：2時間 復習：2時間
第2回	社会学の視点と方法—そもそも社会学とは？	社会学の成り立ちや基本姿勢、人間「社会」とはそもそも何か、社会学が人間「社会」を研究対象とする意義を学ぶ。	予習：人間社会と動物の群れの共通点と相違点を考えてみる。 復習：配布資料をよく読み返しつつ、授業内で行った問題提起	予習：2時間 復習：2時間

			への自分なりの回答をなぜそう思ったのか思考を深めておくこと。	
第3回	社会学の重要テーマ (1) 近代化、個人と社会	「近代化」と「個人と社会」というテーマを社会学がどのように扱っているか、なぜこれら2つのテーマが社会学にとって重要なのかを学ぶ。	予習：近代化（産業化、都市化など）によってどのような正の面と負の面がそれぞれ生じるかを考えておくこと。 復習：配布資料をよく読み返しつつ、授業内で行った問題提起への自分なりの回答をなぜそう思ったのか思考を深めておくこと。	予習：2時間 復習：2時間
第4回	社会学の重要テーマ (2) 価値観の多様化、国際化・都市化、リスク社会化、そして他者理解	本授業の重要テーマと、それぞれのテーマがどのようにつながっているかを説明する。また、これらの重要テーマが社会学の重要テーマとどのようにつながっているかを説明する。	予習：これまでの授業内容、特に「近代化」と「個人と社会」の意味を理解できるよう学び直しておくこと。 復習：配布資料をよく読み返しつつ、授業内で行った問題提起への自分なりの回答をなぜそう思ったのか思考を深めておくこと	予習：2時間 復習：2時間
第5回	現代社会をみる(1) 私的な場と公共の場の変容	多様な価値観を持つ人々が関わり合っている公共の場について、なぜそうした場が成り立つのかを考察する。また、私的な場との違いを考察する。統計資料やディスカッションも用いながら学ぶ。	予習：参考書の第1章をよく読み、公共の場で生じる「迷惑行為」にはどのようなものがあり、なぜ迷惑と感じられるのかを考えておくこと。 復習：配布資料をよく読み返しつつ、授業内で行った問題提起への自分なりの回答をなぜそう思ったのか思考を深めておくこと。	予習：2時間 復習：2時間
第6回	現代社会をみる(2) 家族、ジェンダーと性の多様性	現代日本社会において、家族・人生のあり方や性のあり方が多様化している様相を、映像資料や統計資料、ディスカッションも用いながら学ぶ。	予習：参考書の第12章をよく読み、男女で差を設けている例とそれが差別だと感じられるかどうかを考えておくこと。 復習：配布資料をよく読み返しつつ、授業内で行った問題提起への自分なりの回答をなぜそう思ったのか思考を深めておくこと。	予習：2時間 復習：2時間
第7回	まとめと補足(1) 価値観の多様化と他者理解	直近2回分の内容を振り返り、本授業の重要テーマの1つ「価値観の多様化と他者理解」について理解を深める。	予習：直近2回分の配布資料をよく読み返し、自分が授業内で理解できていなかった部分を整理しておく。また、「価値観の多様化」がいかに現代社会で進んでいるか、またそうした状況下で他者理解がなぜ重要なのかをよく考えておくこと。 復習：配布資料をよく読み返しつつ、授業内で行った問題提起への自分なりの回答をなぜそう思ったのか思考を深めておくこと。	予習：2時間 復習：2時間
第8回	現代社会をみる(3) 国際化、エスニシティと境界	現代日本社会において、国際化が多様化している様相を、特に居住者の多国籍化に焦点をあてながら、映像資料や統計資料、ディスカッションも用いながら学ぶ。	予習：参考書の第13章をよく読み、外国人労働者の生活状況と社会への包摂のされ方について考えておくこと。 復習：配布資料をよく読み返しつつ、授業内で行った問題提起への自分なりの回答をなぜそう思ったのか思考を深めておくこと。	予習：2時間 復習：2時間
第9回	現代社会をみる(4) 都市化と都市問題	現代日本社会において、都市化にともない様々な都市問題が生じている様相を、映像資料や統計資料、ディスカッションも用いながら学ぶ。	予習：参考書の第7章をよく読み、都市化の正の面と負の面を考えておくこと。 復習：配布資料をよく読み返しつつ、授業内で行った問題提起への自分なりの回答をなぜそう思ったのか思考を深めておくこと。	予習：2時間 復習：2時間
第10回	第10週 現代社会をみる(5) 過疎化と地方の時代	現代日本社会において、大都市での都市化と同時に並行で地方では過疎化が進んでいる様相と、地方で生じている過疎問題について、映像資料や統計資料、ディスカッションも用いながら学ぶ。	予習：参考書の第7章をよく読み、地方が存続する意義があるかどうか、意義があるのであればどのように過疎問題に対応すべきかを自分なりに考えておく	予習：2時間 復習：2時間

			こと。 復習：配布資料をよく読み返しつつ、授業内で行った問題提起への自分なりの回答をなぜそう思ったのか思考を深めておくこと。	
第11回	まとめと補足（2）都市化・国際化と他者理解	直近3回分の内容を振り返り、本授業の重要テーマの1つ「国際化・都市化と他者理解」について理解を深める。	予習：直近3回分の配布資料をよく読み返し、自分が授業内で理解できていなかった部分を整理しておく。また、「国際化・都市化」がいかに現代社会で進んでいるか、またそうした状況下で他者理解がなぜ重要なのかをよく考えておくこと。 復習：配布資料をよく読み返しつつ、授業内で行った問題提起への自分なりの回答をなぜそう思ったのか思考を深めておくこと。	予習：2時間 復習：2時間
第12回	現代社会をみる（6）社会のリスクと災害	現代社会は、リスクが遍在するリスク社会である。第12回では特に、非日常の状況下で顕在化するリスクについて考察する。具体的には、これまでに日本で起こった自然災害を事例に、映像資料や事例分析、ディスカッションを通じ、考察していく。	予習：新聞記事などをよく読み、東日本大震災で被災地域がどのようなメカニズムで被災し、どのような復興上の課題を抱えているかを考えておくこと。 復習：配布資料をよく読み返しつつ、授業内で行った問題提起への自分なりの回答をなぜそう思ったのか思考を深めておくこと。	予習：2時間 復習：2時間
第13回	現代社会をみる（7）格差・不平等と貧困	現代社会は、リスクが遍在するリスク社会である。第13回では特に、日常に潜むリスクについて考察する。具体的には、格差、不平等、貧困に焦点を当て、音読資料やディスカッションを通じ、考察していく。	予習：参考書の第14章をよく読み、現代社会にどのような格差や不平等があるか、自分がどのようなことをきっかけにして貧困状態に陥る可能性があるのかを考えておくこと。 復習：配布資料をよく読み返しつつ、授業内で行った問題提起への自分なりの回答をなぜそう思ったのか思考を深めておくこと。	予習：2時間 復習：2時間
第14回	まとめと補足（3）リスク社会化と他者理解	直近2回分の内容を振り返り、本授業の重要テーマの1つ「リスク社会化と他者理解」について理解を深める。	予習：直近2回分の配布資料をよく読み返し、自分が授業内で理解できていなかった部分を整理しておく。また、「リスク社会化」がいかに現代社会で進んでいるか、またそうした状況下で他者理解がなぜ重要なのかをよく考えておくこと。 復習：配布資料をよく読み返しつつ、授業内で行った問題提起への自分なりの回答をなぜそう思ったのか思考を深めておくこと。	予習：2時間 復習：2時間
第15回	本授業のまとめと受講生へのメッセージ	これまでの授業内容の総まとめを行うとともに、そこから導き出される知見を整理する。	予習：これまでに授業で配布した資料をよく読み返し、自分が授業内で理解できていなかった部分を整理しておく。 復習：配布資料をよく読み返しつつ、授業内で行った問題提起への自分なりの回答をなぜそう思ったのか思考を深めておくこと。	予習：2時間 復習：2時間

学習計画注記	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の授業の進捗状況によって、各回の内容を変更することがある。 ・学習到達度チェックテストをレポートに変える場合がある。
学生へのフィードバック方法	<p>毎回、コメントシートに記入してもらい回収する。特にコメントが必要と講師が感じたコメントシートについて、匿名化した上で次回の授業でコメントをつけて全体に共有する。</p> <p>また、提出してもらったレポートや授業内の学習到達度チェックテストは、優良な回答をいくつか選定し、匿名化した上で最終回の授業でコメントをつけて全体に共有する。</p>
評価方法	<p>以下を総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業参加への意欲や積極性など平常点 ・コメントシートの内容 ・レポートや学習到達度チェックテストの内容 <p>※コメントシート、レポートや学習到達度チェックテストでは、授業で学んだ知識を正確に理解しているかどうか</p>

か、自分自身の考え方を他人にもわかりやすく表現できているかどうか、レポートを書く上での最低限のマナーを守れているか（自分の言葉で書く、参考文献を使ったなら書誌情報を書くなど）を重視する。
 ※授業に2/3以上出席しなかった者、レポートや学習到達度チェックテストを提出しなかった者は、単位取得できない（レポートや学習到達度チェックテストが複数ある場合は半分以上提出しないと、単位取得できない）。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
コメントシートの内容	○	○	○	○
レポートやテストの内容	○	○	○	○

評価割合 平常点（20%）、授業内で毎回書くコメントシートの内容（30%）、レポートやテストの内容（50%）を合わせて評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) 使用しない。必要に応じて資料を配布したり参考書を紹介したりする。

参考図書 長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志著『社会学』有斐閣、2007年

ディプロマポリシーとの関連

- ・毎回のコメントシートと、レポートや学習到達度チェックテストによって、豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力が身についているかを確認する。
- ・社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力を養うために、多様な価値観を持つ受講生が集う授業への積極的な参加を促す。
- ・学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を養うために、毎回のコメントシートと、レポートや学習到達度チェックテストにおいて自分の思考結果を表現できているかどうかを確認する。

オフィスアワー 授業前後に相談を受け付ける。

学生へのメッセージ

<事前準備>
 1) 参考文献等
 社会的な事象（人間同士の関わりから生じるできごと）に関して、新聞・雑誌記事、書籍、テレビ・インターネットの番組などを積極的に見ておく。必ずしも事前に読んでおかなくても良いが、下記を参考書として読んでおけば授業への理解が深まるだろう。
 長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志著『社会学』有斐閣、2007年

2) 情報環境の確認
 授業に関わるコミュニケーションやレポート課題の提出等で、google classroomも活用する場合がある。学生の皆さんも大学のメールアドレスで使えるようになっているはずなので、ログインの仕方や使い方を確認しておいて欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	コメントシートやレポートの内容を受講生全体に共有し、グループ・ディスカッションを行う場合がある。
情報リテラシー教育	○	レポートでは、レポートを書く上での最低限のマナーを守れているか（自分の言葉で書く、参考文献を使ったなら書誌情報を書くなど）を重視する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	経済学入門		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 大野 裕之	指定なし

ナンバリング	X13440M21
授業概要(教育目的)	<p>経済学を初めて学ぶ学生に、経済の基本的な仕組み意と最近の重要な経済問題を理解させ、私たちへの生活へのかかわりや経済問題の重要性を理解させることを目標にする。そして、それらに対する自分自身の意見を形成し、それを自分のことばで他人に伝えられるだけの知識を習得することも、併せて目標にずえる。</p> <p>授業内試験1の前までは、経済の基本的な仕組みの解説に充てる。その中で、経済学の中のいくつかの考え方の違いも詳述する。後半は、新聞やニュースで取り上げられる、昨今の重要な経済問題について解説することを中心に進める。</p>
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	経済学の基本的な概念を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	市場や政府の役割など、経済の基本的な仕組みを理解できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス、高校数学の復習(テスト)	この授業の全体像を理解する。経済学に必要な最低限度の数学の知識を確認する。	高等学校で習った数学の復習。	120分
第2回	経済学とはなにか。	経済学とはどういう学問かを大まかに把握するとともに、特に重要ないくつかの概念を理解する。	教科書(上)第1章を読んでおくこと。	120分
第3回	貨幣の仕組み	貨幣の発展の歴史を学ぶことにより、貨幣とはそもそも何か、その基本的機能を理解する。	教科書(上)第2章を読んでおくこと。	120分
第4回	経済学の歴史(1): アダム・ス	経済学の変遷を理解する。今回はアダム・スミスとカールマルクスを取り上げる。	教科書(上)第3章を読んでおくこと。	120分

	ミスとカールマルクス			
第5回	経済学の歴史(2):ケインズとフリードマン	経済学の変遷を理解する。今回はケインズとフリードマンを取り上げる。	教科書(上)第3章を読むこと。	120分
第6回	自由貿易	自由貿易を推奨する比較優位説と、現実の制度・政策を解説する。	教科書(上)第4章を読むこと。	120分
第7回	インフレとデフレ	インフレ、デフレの意味と発生のメカニズム、過去の歴史を解説する。	教科書(上)第5章を読むこと。	120分
第8回	第1~7回までの復習・やり残し、第1回レポート出題	第1回~第7回までの授業における学習到達度を確認し、不足点を見つける。	理解度が不十分であった回の、教科書該当章やノートを復習する。	120分
第9回	バブル経済	1980年代末に発生し、1990年初頭に崩壊したバブル経済とは何か、そしてその背後のメカニズムを解説する。	教科書(下)第1章を読むこと。	120分
第10回	為替レートの変動	円高・円安の意味と決定要因、その実体経済への影響を解説する。	教科書(下)第2章を読むこと。	120分
第11回	公的年金	社会保険とその一つである公的年金の基本的な仕組みと問題点について解説する。	教科書(下)第3章を読むこと。	120分
第12回	リーマンショック	2008年秋に世界を襲ったリーマンショックとは何であったのか、その背後のメカニズムと実体経済への影響を解説する。	教科書(下)第4章を読むこと。	120分
第13回	戦後日本の経済成長	戦後、我が国は高度経済成長を経て豊かになった原因を解説する。	教科書(下)第5章を読むこと。	120分
第14回	第8回~13回までの復習・やり残し。第2回レポート出題。	第8回~第13回までの授業における学習到達度を確認し、不足点を見つける。	理解度が不十分であった回の、教科書該当章やノートを復習する。	120分
第15回	学習到達度確認テストとその解説	第1回~第14回までの授業における学習到達度を確認し、不足点を見つける。	教科書該当部分とノートをよく読む。	120分

学習計画注記 学習計画は実際の進捗による。レポートは1週間程度を期限とする。尚、同一もしくはほとんど同一のものを見つけた場合は、全て0点とするので、注意ありたい。

学生へのフィードバック方法 2回のレポートにコメントを付して返却する。

評価方法 授業内容の理解度を吟味する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート1	○	○		○
レポート2	○	○		○
学習到達度確認テスト	○	○		

評価割合 2回のレポートが各25%、学習到達度確認テストが50%の割合で評価する。詳細は初回授業で説明する。

使用教科書名 (ISBN番号) 池上彰著『池上彰のマンガでわかる経済学』1, 2巻、日本経済新報社、2018年

参考図書 随時紹介する

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】経済の重要概念に関する基本的な知識を有している。
【思考・判断】市場メカニズムの基本的な機能を理解し、その優位性と限界を知り、さまざまな現代的な課題に関する思考・判断能力を身に付けている。

学生へのメッセージ 教科書に沿ってすすめるので、次回の内容を予習して出席のこと。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	経営学入門		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 金森 敏	指定なし

ナンバリング	X13450M21
授業概要(教育目的)	現代社会は、営利組織である企業、非営利組織である官庁・学校・病院など、「組織」を通じてその運営がなされている。経営学は、この組織の構造や行動、組織で働いている人のやる気や管理などの問題を扱うものである。本講義では、主に企業活動における企業の行動や企業の中で働く人の管理に焦点を当て、企業に関する理解を深めてもらう。なお本授業では、グループワークを中心に授業を行うので、受講生の上限を設ける。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	多様な企業活動を知ることができる。
思考・判断の観点 (K)	企業活動について、「自分の言葉」で記述することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	組織と個人 の関係を考 える	個人の役割が大事だとわかっているも、組織を巨大なものとして思いがちなのはなぜかを考える。	組織と個人の関係、誘因と貢献 の関係について復習しておく こと。	180分
第2回	企業イメ ージと3C分 析	企業イメージを知り、3C分析について考える。	3C分析について復習をして おくこと。	180分
第3回	会社とは	会社は何のためにあるのか、何のために働くのかについて考える。	何のために働くのかを復習し ておくこと。(1回目の課題あ り)	180分
第4回	株式会 社について 知る	株式発行について知る、株式会社の3会について知る。	興味のある株式会社を調べて おくこと(2回目の課題あり)	180分
第5回	課題の解説	課題について解説を行う	課題についての復習を行うこ と。	180分
第6回	会社は誰 のものか	会社は誰のものか(企業ガバナンス)を考える。	会社は誰のものか考える。(3 回目の課題あり)	180分

第7回	CSRについて	CSRについて知る。CSRについて考える。	CSRの点から株式会社を調べる。(4回目の課題あり)	180分
第8回	中間振り返り	第1回～第7回までの授業内容を振り返る。	レポート作成について各自調べてくること(5回目の課題)	180分
第9回	レポート作成について	課題のレポート作成について解説を行う。	レポート作成について復習しておくこと。	180分
第10回	組織構造について①	「組織(構造)は戦略に従う」について知る。	組織構造について復習しておくこと。	180分
第11回	組織構造について②	組織構造における人の役割について考える。	社内ベンチャーについて調べおくこと。	180分
第12回	マックとモスの競争戦略について	競争戦略を知る。競争戦略について考える。	競争戦略について復習しておくこと。	180分
第13回	国際化について	企業はなぜ国境を越えた活動をするのか?	グローバリゼーションとは何か復習しておくこと。	180分
第14回	キャリアについて	キャリアデザインはいつするのか。	自身のキャリアについて復習しておくこと。	180分
第15回	総まとめ	これまで取り上げた授業内容を中心に復習を行う。	これまで取り上げた授業内容を予習しておくこと。	180分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールや授業内容が変更される場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業にて解説します。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題は4回～5回出題します。内容はA4で1枚～2枚程度です。 ・レポートは4000字程度、A4で3枚～4枚程度です。レポートとして、レポートの形になっているか、引用文献、参考文献、文章表現などができているかが大事です。授業において、レポートの書き方、また、質問などを受け付けます。 ・課題、レポートは下表に示す力を養うことを目的に実施します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題	○			
レポート	○	○		

評価割合	レポート(60%) 課題4～5回(40%)
使用教科書名(ISBN番号)	なし。必要な資料はプリントで配布します。
参考図書	加護野忠男・吉村典久、『1からの経営学』、碩学会、2012。
ディプロマポリシーとの関連	知識・理解：人間社会において豊かな知識と深い思考をもって理解する。
オフィスアワー	前期火曜日4限、後期金曜日3限。 ただし、事前にアポをとってこること。
学生へのメッセージ	課題が多いので覚悟をもって受講すること。また、受講者には75m×75mのポストイット(1束100円程度)を購入してもらう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	レポートの書き方等の教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	日本の歴史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 小沢 詠美子	指定なし

ナンバリング	X13450M21
授業概要(教育目的)	グローバル化・多様化の求められる現代において、必要なのは、それぞれの立場を尊重しつつ、自分の立場も自覚し、その上で理解し合うことです。そのためにはまず、自分はどのような背景を背負っているのかを認識しなければなりません。この授業では、日本の歴史を学ぶことによりその背景を理解し、さらにそこから自分の頭で考えることの重要性を認識する、いわば人格形成を最終的な目的とします。
履修条件	日本史に興味と学習意欲があり、自宅学習時間の取れることが条件となります。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	授業で取り上げた内容を正確に理解した上で、全体の歴史的な流れを把握、日本史の知識のない他者に、簡潔に説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	歴史的事実を踏まえた上で、一般の固定観念や偏見にとらわれることなく、現代日本の抱える諸問題を解決するための自分なりの考えを持つことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	レポートや試験はプレゼンテーションの一形態でもあるので、自分の理解している知識を的確に他者に伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	日本人の起源	旧石器時代から縄文、弥生、古墳、奈良時代までの社会の様相を理解する。	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。	予習120分、復習60分
第2回	天皇と貴族	律令制度や摂関政治など、朝廷で行われていた政治体制について理解する。	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも	予習120分、復習60分

			理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。	
第3回	武家政権の誕生	鎌倉幕府の執権政治、得宗体制、室町幕府の守護の台頭などについて理解する。	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。	予習120分、復習60分
第4回	戦乱から統一へ	応仁・天文の乱から室町幕府の滅亡、秀吉による「惣無事令」の発布にいたる流れを理解する。	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。	予習120分、復習60分
第5回	江戸幕府の成立	幕府の行った大名統制、外交政策と、その転換を機に巻き起こる討幕運動について理解する。	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。	予習120分、復習60分
第6回	明治政府の登場	天皇中心の中央集権体制のもと、帝国主義国家へと変貌する過程を理解する。	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。	予習120分、復習60分
第7回	日清・日露戦争	日本政府の朝鮮半島進出政策と、朝鮮をめぐる勃発した日清・日露戦争の意味について理解する。	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。	予習120分、復習60分
第8回	社会運動と言論統制	憲法制定と国会開設、治安維持法と普通選挙法といった、明治以降の言論統制の実態を理解する。	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。	予習120分、復習60分
第9回	軍部の台頭	対華二十一か条の要求、満州建国など大陸進出を進める反面、日本が国際社会から孤立していく過程を理解する。	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。	予習120分、復習60分
第10回	日中戦争の勃発	盧溝橋事件に端を発する日中戦争の戦況と、ますます深まる国際的な孤立について理解する。	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み	予習120分、復習60分

			直し、知識や自分の考えを固定化させる。	
第11回	アジア・太平洋戦争へ	日中戦争により米英との対立が深まった結果、勃発したアジア・太平洋戦争の戦況と、この戦争の目的について理解する。	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。	予習120分、復習60分
第12回	原爆と終戦	戦争によって苦難を強いられる国民生活や沖縄戦の実態、原爆投下から無条件降伏に至る過程を理解する。	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。	予習120分、復習60分
第13回	新憲法の制定	GHQにより実施された民主化政策の実態と、新憲法制定までの経緯について理解する。	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。	予習120分、復習60分
第14回	朝鮮戦争と日米安保条約	朝鮮戦争を契機に進む再軍備の実態と、日米安保条約の意味について理解する。	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。	予習120分、復習60分
第15回	混乱する政局	55年体制の成立から崩壊にいたる過程と、その間発生した数々の疑獄事件、現代社会の問題点について理解する。	あらかじめテキストの該当箇所を読み、理解できない部分を明確にしておくこと。授業中はその部分に注意を払い、それでも理解できなかった部分を授業後教員に質問し、すべて解決した上で、テキストとノートを読み直し、知識や自分の考えを固定化させる。	予習120分、復習60分

学習計画注記 授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 授業終了後、教室でお声がけください。なお、顔の见えないメールでの対応はいたしません。

評価方法

- ・第1回から第7回分までをレポートにまとめ、提出していただきます。レポートが未提出の場合、評価ができなくなりますので、ご注意ください。
- ・期末試験は、第8回以降が範囲となりますが、正しく理解できていることはもちろん、文章に矛盾はないか、主語は明確か、読み手に書き手の意図が伝わるか、という点も評価の対象となります。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート	○	○		○
期末試験	○	○		○

評価割合 レポートと期末試験の平均点で評価します。

使用教科書名 (ISBN番号) 竹内誠 他編『教養の日本史』 (東京大学出版会、ISBN : 4-13-022014-4)

参考図書 大石学 他編『地図・年表・図解でみる 日本の歴史 上・下』 (小学館、ISBN : 9784096260876/9784096260883)

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 日本の歴史や地域について基本的知識を持ち、その流れや因果関係を把握し、その意義を説明できる。</p> <p>【思考・判断】 正確な情報を収集して、一般的な思い込みや偏見を排除し、現代社会の抱える諸問題への対処法を判断できる力、未来を見据える力を身につけている。</p> <p>【技術・表現】 正しい文章表現により、自分持つ知識や考えを正確に他者に伝えることができる。</p>
学生へのメッセージ	<p>この授業を履修するにあたり、歴史の専門知識は必要ありません。一回一回の授業に集中して受けてください。そして、歴史から自分は何を学び取れるのだろうか、ということを、常に意識して受講してください。なお、授業を欠席した場合には、その部分は必ず自分で学習し、わからないところがあれば放置せず、遠慮なく質問に来てください。</p>

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	世界の歴史		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 吉村 貴之	指定なし

ナンバリング	X13470M21
授業概要(教育目的)	今後社会人として人生を歩んでいく際に必要となる近現代の世界に目を向ける。特に、中東やロシアを始めとするユーラシア世界で起きている現代的な問題(民族問題や宗教紛争、政治体制の転換など)を歴史の観点から理解し、考察できるようになることを目指す。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	人間社会、特にユーラシア世界の多様性に関する豊かな知識を持ち、その多民族共存、多文化接触のありようを深い思考で理解する。
思考・判断の観点 (K)	ユーラシア中央部、つまり中東やロシアの多様性に由来する諸問題をありのままの姿でとらえ、その解決策を的確に判断できるようにする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	これからの日本にとって、外国人の日本訪問、労働滞在に伴う多文化共生の問題は不可避の課題で、中東やロシアの歴史的経験は、大きな教訓となる。将来の社会人として、目の前にある課題に意欲的に取り組み、社会問題を解決する能力を高める。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

多民族共存の歴史

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	導入	講座の進め方や参考書についての説明。多民族共存の歴史、世界帝国とは何かについて解説。	予習は不要。復習に力を入れて欲しい。	120
第2回	イスラーム教の起こりと拡大	イスラーム教についての解説と、イスラーム帝国が、西アジアから北アフリカ・中央アジアに拡大するまでを説明。	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のイスラーム史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	240
第3回	イスラーム世界の形成	イスラーム世界に北方の遊牧民が侵入し、イスラーム国家が変質する過程を説明。	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のイスラーム史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	240

第4回	オスマン国家の発生と拡大	代表的な遊牧国家だったオスマン国家が、西アジア、北アフリカ、ヨーロッパにまたがる世界帝国に成長する過程を説明。	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のイスラーム史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	240
第5回	オスマン帝国と西洋の衝撃	19世紀に入り、オスマン帝国が西洋列強の侵略を受け、近代化を試みると同時にどの問題点が露になる過程を解説。	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のイスラーム史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	240
第6回	オスマン帝国の解体	19世紀末のキリスト教徒の民族運動と第一次世界大戦でオスマン帝国が解体する過程を解説。	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のイスラーム史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	240
第7回	トルコ共和国の成立と発展	オスマン帝国が解体し、西欧を模範にしたトルコ人の国民国家が成立する過程とその周辺地域の情勢を解説。	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のイスラーム史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	240
第8回	戦争の時代とイスラーム復興運動	第二次世界大戦から冷戦に移り変わっていく時代のトルコ社会の変化と、現在のトルコ共和国の抱える宗教復興と少数民族の問題を解説。	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のイスラーム史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	240
第9回	ロシア帝国の成立と発展	諸民族が行き交うロシアの地にキリスト教国家が成立し国力を増大させ、特に18世紀に西欧諸国を模範とした国政改革を行い、領土を急拡大させながら、世界帝国に飛躍する過程を解説。	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のロシア・東欧史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	240
第10回	社会主義の流入と革命	19世紀のロシア帝国は、西欧から新しい文化が流入する一方で、アジア地域に支配を拡げ、社会矛盾が増大し、20世紀に入って革命を迎えるまでを解説。	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のロシア・東欧史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	240
第11回	ソ連邦と民族問題	社会主義を掲げるソヴィエト政府は、平等を重んじる一方で、少数民族の取り込みを図るうえで、その独自性も重視するという難しいかじ取りを迫られた点を解説。	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のロシア・東欧史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	240
第12回	社会主義の発展と国家主義	1920年代にソヴィエト政府が重視した少数民族の優遇策は、30年代に入ると内外の情勢の変化で破綻を迎える過程を解説。	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のロシア・東欧史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	240
第13回	ソ連邦の崩壊と独立国家共同体	第二次世界大戦を勝ち抜いた社会主義体制が、1970年代以降凋落し、新たな改革を目指すとともに少数民族の問題が再燃し、1991年にはソ連邦そのものが崩壊する過程を解説。	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のロシア・東欧史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	240
第14回	ロシアの体制転換	現在のロシア連邦が社会主義体制から市場経済に転換する過程で発生した様々な問題や旧ソ連諸国の動向を解説。	講義が少し難しいと思ったら、高校世界史のロシア・東欧史の箇所を読んで講義に臨むこと。復習は参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	240
第15回	まとめ	講義のまとめと期末課題を実施。	参考書などを活用して理解を深めて欲しい。	360

学習計画注記	履修者数や出席者の関心度によって、講義の進度が変更になる場合がある。
学生へのフィードバック方法	リアクションペーパーなどで重要な疑問点や感想が提出された場合は、次週以降の講義に反映する。
評価方法	平常点と期末課題で総合的に評価する。詳細は初回講義で説明する。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
日常課題	○	○	○	

期末課題	○	○	○	
評価割合	平常点30%と期末課題70%で総合的に評価する。			
使用教科書名 (ISBN番号)	特に使用しない。			
参考図書	講義で推薦図書リストを配布する。			
ディプロマポリシーとの関連	人間社会、特にユーラシア社会の多様性に関する豊かな知識を持ち、それを深い思考で理解する。さらに、これに由来する諸問題をありのままの姿でとらえ、その解決策を的確に判断できるようにする。それを基に、将来の社会人として、目の前にある課題に意欲的に取り組み、成果を効果的に人前で発表する能力を高める。			
学生へのメッセージ	基本事項は出来るだけ丁寧に説明するが、高校世界史の教科書程度の知識を前提としているので、不安を感じる受講希望者は、履修するまでに高校世界史の教科書などでイスラーム史と東欧史の箇所を復習しておくこと。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング	○	学生との対話を重視した講義。		
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	世界の地理		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 横地 留奈子	指定なし

ナンバリング	X13480C21
授業概要(教育目的)	地球上では、その位置により、大気の動きと太陽との角度により、様々な気候が生じています。気候の影響は土壌にも影響を与えます。各地域の農業、さらに食文化は、気候と土壌の影響でさまざまな発展をしてきました。本講義では、地球上の食文化を中心に、それをもたらしてきた農業、気候と土壌、先住民の生活について解説します。また、現代の各地域でもたらされている諸問題についても解説します。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	気候による食文化の違いが理解できる
思考・判断の観点 (K)	気候による違いの要因を考えられる
関心・意欲・態度の観点 (V)	ニュースや新聞などの報道と関連付けて考えられる
技術・表現の観点 (A)	将来自分と異なる文化背景を持つ人々と接したときに、配慮できるようになる

学習計画

世界の地理

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	講義概要	今後の講義を理解するための、用語の解説や講義の進め方など、全体的な説明を行う	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	5分
第2回	熱帯雨林気候	熱帯雨林気候での、気候や土壌、植生の特徴を確認し、そのような環境の中で人々がどんな生活を営んできたかを理解する	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	5分
第3回	サバナ気候	サバナ気候での、気候や土壌、植生の特徴を確認し、そ	小、中、高校の、社会や地理で	5分

		のような環境の中で人々がどんな生活を営んできたかを理解する	学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	
第4回	砂漠気候	砂漠気候での、気候や土壌、植生の特徴を確認し、そのような環境の中で人々がどんな生活を営んできたかを理解する	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	5分
第5回	ステップ気候	ステップ気候での、気候や土壌、植生の特徴を確認し、そのような環境の中で人々がどんな生活を営んできたかを理解する	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	5分
第6回	地中海性気候	地中海性気候での、気候や土壌、植生の特徴を確認し、そのような環境の中で人々がどんな生活を営んできたかを理解する	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	5分
第7回	西岸海洋性気候	西岸海洋性気候での、気候や土壌、植生の特徴を確認し、そのような環境の中で人々がどんな生活を営んできたかを理解する	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	5分
第8回	温帯〔温暖〕湿潤気候	温帯〔温暖〕湿潤気候での、気候や土壌、植生の特徴を確認し、そのような環境の中で人々がどんな生活を営んできたかを理解する	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	5分
第9回	冷帯〔亜寒帯〕気候	冷帯〔亜寒帯〕気候での、気候や土壌、植生の特徴を確認し、そのような環境の中で人々がどんな生活を営んできたかを理解する	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	5分
第10回	ツンドラ気候・氷雪気候	ツンドラ気候・氷雪気候での、気候や土壌、植生の特徴を確認し、そのような環境の中で人々がどんな生活を営んできたかを理解する	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	5分
第11回	日本の気候	温暖湿潤気候のうち、日本を細かく考える。日本の中で気候が異なることを確認し、その変化の要因を理解する。	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	5分
第12回	日本の気候と植生	日本の地域により異なる気候の中で、植生がどのように異なっているのかを理解する	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	5分
第13回	日本の気候と作物	日本の地域によって異なる気候の中で、作られてきた作物の違いについて理解する	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースや	5分

			ドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	
第14回	日本の気候と生活	日本の地域によって異なる気候の中で、人々がどのような生活を営んできたかを理解する	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	5分
第15回	まとめ	今までの講義の内容を振り返る	小、中、高校の、社会や地理で学んだ気候の内容をあらかじめ思い出しておく 新聞やテレビなどのニュースやドキュメンタリーなどを見聞きしたときに、その背景を考える	5分

学生へのフィードバック方法 出席表に書かれた内容の中で、疑問・質問があった場合は解説する。

評価方法 定期試験の得点（70%）、平常点（30%）。その他、受講時の参加状況や取り組み方を加味します。
※平常点は、講義への参加状況・態度などを参考に判断します。
※毎回、出席カードを配布します。これに感想・質問・要望などを自由に書いて提出してください。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
出席票の記述	○	○	○	○
筆記試験	○	○	○	○

評価割合 定期試験の得点（70%）、平常点（30%）

使用教科書名 (ISBN番号) 特に指定はしませんが、中学・高校時に使用した地図帳があれば持参してください。毎回、プリントを配布します。これをもとに講義を進めます。

参考図書 高橋伸夫ほか編『世界地図を読む 図説世界地理』大明堂、1993年。
漆原和子ほか編『世界の地域問題』ナカニシヤ出版、2007年。
※このほかにも、講義中に紹介していきます。

ディプロマポリシーとの関連 質問・欠席の申請書類（公欠など）などは、講義の前後に受け付けます。

オフィスアワー 講義のある木曜日12：00～15：00ごろ 非常勤講師室にいます。

学生へのメッセージ 日頃より、ニュースなどの国際情勢について注意してください。講義の中で自分なりに気づく点があり、より深く理解できるはずですが、講義でとりあげる地域・主要な都市・地形を地図帳で確認してみましょう。また、講義の際に「疑問に思ったこと」や「興味をもったこと」について書籍などで積極的に調べてみてください。さらに「興味を持ったこと」（たとえば文化や産業など）について「他の地域」・「他の時代」と比較し、どの点が似ているのか、異なっているのかについても考えてみましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	参考図書を案内する。その際、公共図書館等の使用方法を案内する場合がある。
ICT活用	○	講義で使用したパワーポイントのURLを紹介し、家庭学習に役立てられるようにする。

シラバス参照

講義名	国際関係論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 吉村 貴之	指定なし

ナンバリング	X13470M21
授業概要(教育目的)	「国際関係論」は、単純な国家間の外交史だけを意味するのではなく、人や物を含めた世界規模の交流のあり方を総体的に理解する学問である。我々の生活は国際関係に影響を受けると同時に、我々の生き方が国際関係に影響を及ぼすこともある。講義では、国際関係論の重要なテーマを解説しながら、現代の我々の生活との関係に目を向けていきたい。
履修条件	特になし。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	国際関係に関する豊かな知識を持ち、その歩みを深い思考で理解する。
思考・判断の観点 (K)	現代の国際関係に由来する「グローバル化」の問題を複眼的にとらえ、その対応策を的確に判断できるようにする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日本も「グローバル化」とは無縁ではない。今後の人生に向けて、目の前にある課題に意欲的に取り組み、国際化社会の中で働く能力を高める。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

国際関係の歩み

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	導入	講義の進め方や国際関係論についての説明。	予習は不要。復習は、参考書などを使って理解を深めること。	120
第2回	主権国家とは何か	近代の国際関係の基本単位となった主権国家と成立について解説。	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで西洋近代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。	240
第3回	勢力均衡外交と国民国家の起こり	欧米の国家が、市民革命を通じて王朝から国民国家へ変化する過程を解説。	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで西洋近代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。	240

第4回	帝国主義と植民地問題	市場経済の発展とともに、ヨーロッパの強国が帝国主義となり、アジア・アフリカに植民地を築く過程を解説。	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで西洋近代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。	240
第5回	第一次世界大戦後の国際関係	勢力均衡外交が破綻し、第一次世界大戦を経験した欧米が、新たな国際関係を模索する様を解説。	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで西洋近代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。	240
第6回	大恐慌から戦争の時代へ	1929年にアメリカ合衆国で発生した大恐慌は世界に伝播し、その対応を巡って発生した「持てる国」と「持たざる国」の対立、社会主義によってその影響を食い止めようとしたソ連邦など、その後の国際関係を大きく左右することになった経緯を解説。	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで現代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。	240
第7回	第二次世界大戦	第一次世界大戦からわずか20年余りで世界の主要国を巻き込んだ第二次世界大戦がなぜ発生したのか、そしてどういう結果をもたらしたのかについて解説。	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで現代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。	240
第8回	冷戦の時代	第二次世界大戦で超大国に躍り出たアメリカ合衆国とソ連邦の対立が、その後の国際関係を大きく左右する構造となる様を解説。	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで現代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。	240
第9回	国際連合の仕組み	第二次世界大戦後の新たな国際秩序を支えることになった国際機関の組織と役割について解説。	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで現代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。	240
第10回	冷戦の展開と南北問題	19世紀末に発生した帝国主義の問題は、形を変えながら、第二次世界大戦後の経済構造にも残存したばかりか、グローバル化の進展という新たな段階に移行する過程を解説。	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで現代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。	240
第11回	欧州統合の歩み	第二次世界大戦の破壊と冷戦の勃発によって地盤沈下した西欧諸国が、地域統合によって新たな国際関係を築く過程を解説。	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで西洋近代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。	240
第12回	ソ連邦の消滅と冷戦後の世界	社会主義圏の消滅とともに経済のグローバル化が世界中に浸透した。その一方で、イスラーム問題など反グローバルイズムが高まってきている状況を解説。	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで現代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。	240
第13回	欧州統合の変質	西欧諸国の経済統合を目指した欧州諸共同体から、東欧諸国も取り込んだ欧州連合に拡大する経緯と、政治統合を目指すことによって生じた問題について解説。	講義が少し難しいと感じたら、高校世界史の教科書などで西洋近代史の箇所を読み直しておくこと。復習は、参考書などを使って理解を深めること。	240
第14回	環境問題とは何か	現代の人類に喫緊の課題とされる環境問題は、まさに国際関係を象徴する。この問題の発生と現状を解説する。	予習よりは復習に力を入れ、参考書などを使って理解を深めること。	240
第15回	まとめと期末課題	安全保障、グローバル化、外国人労働者、環境問題など地球規模の問題に我々がどう関わるべきかを考えたうえで、期末課題を実施。	講義で扱ってきたテーマを、参考書などを使ってよく理解しておくこと。	360

学習計画注記	履修者数や出席者の関心度によって、講義の進度が変更になる場合がある。
学生へのフィードバック方法	リアクションペーパーなどで重要な疑問点や感想が提出された場合は、次週以降の講義に反映する。
評価方法	平常点と期末課題で総合的に評価する。詳細は初回の講義で説明する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
日常課題	○	○	○	
期末課題	○	○	○	

評価割合	平常点30%と期末課題70%で総合的に評価する。			
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。			
参考図書	講義で推薦図書リストを配布する。			
ディプロマポリシーとの関連	国際関係論に関する豊かな知識を持ち、それを深い思考で理解する。さらに、現代の国際関係に由来する諸問題をありのままの姿でとらえ、その解決策を的確に判断できるようにする。それを基に、将来の社会人として、目の前にある課題に意欲的に取り組み、成果を効果的に人前で発表する能力を高める。			
学生へのメッセージ	普段から、新聞、テレビ、インターネットニュースなどを通して、国際ニュースに関心を持っておくこと。また、基本事項は出来るだけ丁寧に説明するが、特に外交史は、高校世界史の教科書程度の知識を前提としているので、不安を感じる受講希望者は、履修するまでに高校世界史の教科書などで西洋史の箇所を復習しておくこと。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング	○	学生との対話を重視した講義。		
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	哲学入門		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 梅田 孝太	指定なし

ナンバリング	X13500M21
授業概要(教育目的)	この授業では、(1) 哲学思想史の講義と、(2) 哲学的な問いをめぐってのグループワークを交互に実施する。講義の週にはソクラテスやカント、ニーチェといった哲学者たちの思想を概括的に学び、哲学思想史の流れをたどる。グループワークの週には、簡潔に思想史上の議論を紹介したあとで、グループに分かれて哲学対話の実践を行う。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 西洋哲学思想史の流れを概括的に説明できるようになる。 ことがらの本質をめぐっての対話実践の意義と実践方法を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> ことがらの本質をめぐっての対話実践を通じて他者の意見を聴くことによって自らの思い込みを反省的に理解できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ul style="list-style-type: none"> ことがらの本質をめぐっての対話実践の円滑な実施に寄与できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

哲学入門 (G50601001)

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション／哲学対話の方法と実践について	哲学史の概括的な流れについて思想史的観点から学ぶ。哲学対話の意義およびその方法と実践の多様性について理解する。	授業の復習を行うこと。配布資料①(梶谷真司『考えるとはどういうことか』より抜粋)を読み、哲学対話の意義とその方法について理解を深めること。	120分
第2回	西洋哲学の端緒(ソクラテス)	西洋哲学の端緒と古代ギリシア神話について思想的観点から学ぶ。	授業の復習を行うこと。配布資料②(荻野弘之著『哲学の原風景』より抜粋)を読み、西洋哲学の端緒について理解を深めること。	120分
第3回	「幸福」／グループワ	ソクラテスの刑死について学び、「よく生きる」とはどういうことかを反省的に考える。「幸福」について哲学	授業の復習を行うこと。ワークシート①の語句説明問題および	240分

	ーク①	対話のグループワークを実施する。	配布資料①と②についての問題に回答し、グループワークの成果をまとめ、また授業内容を振り返りつつ「幸福」について自らの問題意識に沿って論述すること。	
第4回	中世キリスト教思想（アウグスティヌス）	アウグスティヌスの思想を例として取り上げつつ、西洋哲学思想の根幹にあるキリスト教思想について概括的に学ぶ。	授業の復習を行うこと。配布資料③（梶谷真司『考えるとはどういうことか』より抜粋）を読み、哲学対話について理解を深めること。	120分
第5回	「悪」／グループワーク②	弁神論について学び、「なぜこの世に悪が存在するのか」を反省的に考える。「悪」について哲学対話のグループワークを実施する。	授業の復習を行うこと。ワークシート②の語句説明問題および配布資料③についての問題に回答し、グループワークの成果をまとめ、また授業内容を振り返りつつ「悪」について自らの問題意識に沿って論述すること。	240分
第6回	近代フランス哲学（デカルト）	近代西洋哲学における二元論について、またデカルトの懐疑論について学ぶ。	授業の復習を行うこと。配布資料④（谷川多佳子『デカルト『方法序説』を読む』より抜粋）を読み、デカルト哲学について理解を深めること。	120分
第7回	「夢」／グループワーク③	「夢」についての思想史を学び、「目覚めているときどうして自分が夢を見ていないとわかるのか」について反省的に考える。「夢」について哲学対話のグループワークを実施する。	授業の復習を行うこと。ワークシート③の語句説明問題および配布資料④についての問題に回答し、グループワークの成果をまとめ、また授業内容を振り返りつつ「夢」について自らの問題意識に沿って論述すること。	240分
第8回	近代ドイツ哲学（カント）	西洋倫理思想について概括的に理解するために、カントの義務論を功利主義や徳倫理学との対比で学ぶ。	授業の復習を行うこと。配布資料⑤（佐藤岳詩『メタ倫理学入門』より抜粋）を読み、メタ倫理学について理解を深めること。	120分
第9回	「道徳的な正しさ」／グループワーク④	西洋哲学における規範倫理学の分類について思想史的観点から学ぶ。「道徳的に正しい行為とは何か」について反省的に考える。「道徳的な正しさ」をめぐる哲学対話のグループワークを実施する。	授業の復習を行うこと。ワークシート④の語句説明問題および配布資料⑤についての問題に回答し、グループワークの成果をまとめ、また配布資料の内容と授業内容を振り返りつつ「道徳的な正しさ」について自らの問題意識に沿って論述すること。	240分
第10回	19世紀の思想①（ショーペンハウアー）	ショーペンハウアーの共苦論と形而上学について学ぶ。	授業の復習を行うこと。配布資料⑥（リップマンほか『子どものための哲学授業』より抜粋）を読み、哲学対話について理解を深めること。	120分
第11回	「芸術」／グループワーク⑤	ショーペンハウアーの芸術論、また美学・芸術学の諸問題について思想史的観点から学ぶ。「芸術の本質とは何か」をめぐる哲学対話のグループワークを実施する。	授業の復習を行うこと。ワークシート⑤の語句説明問題および配布資料⑥についての問題に回答し、グループワークの成果をまとめ、また授業内容を振り返りつつ「芸術の本質とは何か」について自らの問題意識に沿って論述すること。	240分
第12回	19世紀の思想②（ニーチェ）	ニーチェの道徳批判と現代的問題としてのニヒリズムについて学ぶ。	授業の復習を行うこと。配布資料⑦（『ヨーロッパ現代哲学への招待』より抜粋）を読み、ニーチェ哲学について理解を深めること。	120分
第13回	「正義」／グループワーク⑥	西洋哲学史における「正義」について思想史的観点から学ぶ。「正義」をめぐる哲学対話のグループワークを実施する。	授業の復習を行うこと。ワークシート⑥の語句説明問題および配布資料⑦についての問題に回答し、グループワークの成果をまとめ、また授業内容を振り返りつつ「正義」について自らの問題意識に沿って論述すること。	240分
第14回	現代哲学の諸問題（ハイデガー）	西洋哲学における存在論について、20世紀ドイツの思想家ハイデガーの思想を手引きに学ぶ。	授業の復習を行うこと。配布資料⑧（古東哲明『ハイデガー＝存在神秘的哲学』より抜粋）を	120分

			読み、ハイデガーの存在論について理解を深めること。	
第15回	「存在」／グループワーク⑦	西洋哲学史における「存在」の問題について思想史的観点から学ぶ。テーマをグループごとに自由に設定して哲学対話のグループワークを実施する。	これまでの授業内容を総復習しておくこと。ワークシート⑦の語句説明問題および配布資料⑧についての問題に回答し、グループワークの成果をまとめ、また授業内容を振り返りつつ、自ら設定したテーマについて自らの問題意識に沿って論述すること。	300分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合がある。
--------	------------------------------------

学生へのフィードバック方法	ワークシートは採点して翌々週までに返却する。その際、優れた問題意識を示した回答内容を共有する。
---------------	---

評価方法	・ワークシート（7回提出）は、語句説明問題と資料内容を問う問題（穴埋め方式）、グループワーク報告および小論（記述方式）を出題する。その評価には平常点（グループワークへの取り組み姿勢）を含める。 ・定期試験は100点満点で出題し、ワークシートで扱った内容を含める。出題傾向については第15回の授業で説明する。
------	--

評価基準	
------	--

評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	ワークシート	○	○	○	○
	定期試験	○			

評価割合	ワークシート（70%）と定期試験（30%）で評価する。
------	-----------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	なし。随時コピーを配布。
-----------------	--------------

参考図書	梶谷真司『考えるとはどういうことか——0歳から100歳までの哲学入門』幻冬舎新書、2018年。（ISBN: 4344985141） 河野哲也『じぶんで考えじぶんで話せる こどもを育てる哲学レッスン』、河出書房新社、2018年。（ISBN: 4309248691） 中岡成文監修、堀江剛『ソクラテック・ダイアローグ——対話の哲学に向けて』（シリーズ臨床哲学4）大阪大学出版会、2017年。（ISBN: 4872596048） マシュー・リップマンほか、河野哲也・清水将吾訳『子どものための哲学授業』、河出書房新社、2015年。（ISBN: 4309247016） マシュー・リップマン、河野哲也・土屋陽介・村瀬智之監訳『探求の共同体——考えるための教室』玉川大学出版部、2014年。（ISBN: 4472404885） 荻野弘之『哲学の原風景 古代ギリシアの知恵とことば』、NHKライブラリー、1999年。（ISBN: 4140841060） 荻野弘之『哲学の饗宴——ソクラテス・プラトン・アリストテレス』、NHKライブラリー、2003年。（ISBN: 4140841583） 服部英次郎『西洋古代中世哲学史』、ミネルヴァ書房、1976年。（ISBN: 4623010600） 谷川多佳子『デカルト『方法序説』を読む』、岩波書店、二〇一四年。（ISBN: 4006003137） 石川文康『カント入門』、ちくま新書、1995年。（ISBN: 4480056297） 佐藤岳詩『メタ倫理学入門』、勁草書房、2017年。（ISBN: 4326102624） アラステア・V・キャンベル『生命倫理学とは何か——入門から最先端へ』、勁草書房、2016年。（ISBN: 4326102551） 齋藤智志ほか『ヨーロッパ現代哲学への招待』、粹出版社、2009年。（ISBN: 4872620221） 古東哲明『ハイデガー＝存在神秘の哲学』、ちくま学芸文庫、2002年。（ISBN: 406149600X）
------	--

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】現代の人間社会の礎のひとつである西洋哲学思想の基本的な流れを理解している。また人間社会の特徴である多様性について、ことがらの本質をめぐって対話することを通じて自らの考えと他者の考えとのちがいを実体験として理解する。 【思考・判断】ことがらの本質をめぐって対話することを通じて、立場のちがいはあっても共有している価値について提案しあう思考の柔軟性を身につける。 【関心・意欲・態度】高い徳性をもって人間社会をよりよいものにしていくために、個々の立場を越えてことがらの本質をめぐって対話することを通じて、他者を理解し尊重する場づくりに積極的に貢献できるようになる。 【技術・表現】ことがらの本質をめぐって対話する能力によって、他者と共に課題を発見し、「わたしたち」を主語とする探究に向かうことができる。
---------------	---

学生へのメッセージ	哲学思想についての事前知識は必要ありません。哲学対話のグループワークを通じて、他者と共に考える自由な場の楽しさと大切さを学んでください。授業外学習については、プリント課題（ワークシート）を渡しますので、これをもとに各自行ってください。
-----------	---

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	哲学対話のグループワーク（哲学プラクティス）を実施する。1グループ4名程度（毎回ランダムでメンバー選出）、ことがらの本質をめぐっての対話を実践する。対話実践のルールは指示するが、ファシリテーション（司会進行）はグループごとに学生1名が行う。対話のプロセスについて学生はワークシートにまとめ、反省点や独自の見解について報告する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	生命倫理		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田中 丹史	指定なし

ナンバリング	X13520M21
授業概要(教育目的)	20世紀後半以降の生命科学の飛躍的な発展に伴い、いのちをめぐる倫理としての生命倫理が問われるようになって久しい。本講義は生命倫理の基本的な知識の習得を企図し、生殖や死、再生医療、環境といった当該分野で一般的に問われるテーマを各問題の歴史的な経緯を踏まえながら考察する。その作業の中で、現在の生命倫理の中心的なアプローチの一つとなっている原則主義アプローチの妥当性を合わせて検討していきたい。こうした医療・環境をめぐる倫理問題の検討を通じ、科学技術がいかに社会と密接に関わり、また社会に対して大きな影響力を有しているのかを理解することを目標とする。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	学習目標(到達目標)
知識・理解の観点(K)	1. 医療倫理及び環境倫理の基本問題について知識を獲得する。
思考・判断の観点(K)	1. 授業で獲得した知識を使って、主体的に自分で生命倫理に関する思考ができるようになる。
関心・意欲・態度の観点(V)	
技術・表現の観点(A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	バイオエシックス・生命倫理がどのような意味なのかを検討する。	シラバスの熟読、ノートの準備	120分
第2回	アメリカにおける生命倫理の登場(1)	アメリカにおける人体実験の事件がどのようにしてバイオエシックス(生命倫理)の登場の契機になったのかを考察する。	アメリカでどのような人体実験の事件があったのかを調べる。	120分
第3回	アメリカにおける生命倫理の登場(2)	アメリカにおいて原則主義という考え方がどのように出てきたのかを検討する。	原則主義とはどのようなものを調べる。	120分
第4回	安楽死・尊厳死(アメ)	アメリカにおける安楽死・尊厳死に関する裁判例を検討する。	アメリカでどのような安楽死・尊厳死に関する事件があったのか	120分

	リカの議論)		かを調べる。	
第5回	安楽死・尊厳死（日本の議論）	日本において安楽死・尊厳死に関してどのような事件があったのかを検討する。	日本における安楽死・尊厳死に関する事件について調べる。	120分
第6回	臓器移植（臓器移植法の成立）	臓器移植法の成立までの議論の過程について検討する。	旧臓器移植法の特徴について調べる	120分
第7回	臓器移植（臓器移植法の改正）	臓器移植法の改正までの過程でどのような議論があったのかを検討する。	改正臓器移植法の特徴について調べる。	120分
第8回	生殖技術（産まないための技術）	避妊と人工妊娠中絶の倫理問題について検討する。	母体保護法について調べる。	120分
第9回	生殖技術（産むための技術）	現在における生殖補助医療に関する議論を考察する。	生殖補助医療にどのような技術があるのかを調べる。	120分
第10回	生殖技術（診断技術）	出生前診断をめぐる倫理問題を検討する。	出生前診断にどのような技術があるかを調べる。	120分
第11回	再生医療（クローン）	生殖クローニングと治療目的クローニングをめぐる議論について考察する。	ヒトに関するクローン技術等の規制に関する法律について調べる。	120分
第12回	再生医療（iPS細胞）	iPS細胞をめぐる倫理問題を検討する。	iPS細胞がどのようなものかを調べる。	120分
第13回	環境倫理（環境倫理学概論）	環境倫理学の基本的な視点を検討する。	世代間倫理とはどのような考え方かを調べる。	120分
第14回	環境倫理（水俣病）	水俣病の歴史的な過程について考察する。	胎児性水俣病について調べる。	120分
第15回	まとめ	これまでの授業内容のまとめを行い、倫理委員会についても検討する。	倫理委員会とは何かについて調べる。	120分

学習計画注記	特になし
--------	------

学生へのフィードバック方法	授業は板書を中心に行う。質問は教室あるいは講師控室で受け付ける。
---------------	----------------------------------

評価方法	期末試験によって授業内容の理解度、思考力を見る。
------	--------------------------

評価基準	
------	--

評価基準	
------	--

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
期末試験	○	○		

評価割合	期末試験(100%)で評価する。
------	------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	なし
-----------------	----

参考図書	適宜授業中に指示します。
------	--------------

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 医療問題や環境問題を通して、社会に多様な見解があることを理解している。 【思考・判断】 授業で獲得した知識に基づき、論理的に思考する力を身に付けている。
---------------	---

学生へのメッセージ	自ら主体的に考えるという姿勢を持つこと。また他の受講生に配慮した受講態度を取ること。
-----------	--

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	心理学 a		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 加地 雄一	指定なし

ナンバリング	X13540M21
授業概要(教育目的)	心理学とは、心と行動の関係を明らかにする学問であり、科学的な方法を用いて研究されてきた学問である。本授業では、心理学の基礎的な領域を幅広く学習する。心理学の歴史、研究方法から心の在りか、心の働き、心の発達、そして最後に自己について学ぶ。 本授業では、心理学の基礎的知見を、新聞、小説、映画等、様々な資料を通して具体的に学んでいく。授業内で人の心と行動をとらえる方法を知る際には、簡単な実験・実習に取り組む。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	心理学の基礎知識を説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	心理学的な視点から日常で観察される人間の行動や心理について仮説を立てることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	人間の心理に興味を持ち、心理に関する課題に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	自分が経験したことや見聞きしたことを心理学的に解釈することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	心理学とは何か?	心理学というと一般の人にはカウンセリングや心理テストが思い浮かぶが、学問としての心理学はそれだけではないということを学ぶ。	予習：心理学について自分がどんなイメージを持っているか考える。 復習：授業を通して心理学についてのイメージがどのように変わったか確認する。	60分
第2回	心理学の歴史	心理学の歴史について学ぶ。	予習：ギリシャ哲学を思い出す。 復習：キーワード(タブララサなど)の確認。	60分
第3回	心理学の研究手法	心理学の主な研究方法について学ぶ。	予習：自分だったらどうやって心理を研究するか考えてくる。 復習：キーワード(質問紙法など)の確認。	60分
第4回	心の在りか	脳と心の関係について学ぶ。	予習：脳について知っているこ	60分

	①脳と心		とを書き出す。 復習：キーワード（前頭葉など）の確認。	
第5回	心の在りか ②からだ と心	からだと心の関係について学ぶ。	予習：からだと心の関係について自覚していることを書いてくる。 復習：キーワード（交感神経など）の確認。	60分
第6回	心の働き① 学習	レスポナント条件づけとオペラント条件づけについて学ぶ。	予習：パブロフの条件づけについて調べる。 復習：キーワード（条件づけなど）の確認。	60分
第7回	心の働き② 記憶	短期記憶，長期記憶や記憶の仕組み（記銘，保持，検索）について学ぶ。	予習：10円玉の大きさと模様をを実物を見ずに書いてくる。 復習：キーワード（長期記憶など）の確認。	60分
第8回	心の働き③ 思考と言語	思考と言語について，具体的な問題を取り上げる。	予習：流行語を書いてくる。 復習：キーワード（4枚カード問題など）の確認。	60分
第9回	心の働き④ 動機づけ	内発的動機づけ，外発的動機づけについて学ぶ。	予習：どのような時にやる気が出るか考えてくる。 復習：キーワード（内発的どうきづけなど）の確認。	60分
第10回	心の働き⑤ 性格①	類型論，特性論について学ぶ。	予習：自分の性格についてどのように他者に説明できるか考えてくる。 復習：キーワード（類型論など）の確認。	60分
第11回	心の働き⑥ 性格②	性格検査について学ぶ。	予習：不要。 復習：検査結果のまとめ。キーワード（投影法など）の確認。	60分
第12回	心の発達① 児童期までの発達	ピアジェの認知発達論などを学ぶ。	予習：子供の頃に持っていた素朴な考えを思い出す。 復習：キーワード（前操作期など）の確認。	60分
第13回	心の発達② 青年期の心	青年期に特有の心の問題（アイデンティティ，恋愛心理など）について学ぶ。	予習：「私は」ではじまる文章を10文書いてくる。 復習：キーワード（アイデンティティなど）の確認。	60分
第14回	心の発達③ 成人期以降の発達	成人期以降の発達（中年期危機など）について学ぶ。	予習：成人した後，どのような心の変化があるか，想像する。 復習：キーワード（中年期危機など）の確認。	60分
第15回	まとめ	これまで学んだことを確認する。	予習：これまで学んだことを確認する。 復習：これまで学んだことを確認する。	60分

評価方法 平常点（30%），定期試験（70%）で評価する。（平常点は授業への参加状況，課題への取り組み状況等で総合的に判断する）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
定期試験	○	○	○	○

評価割合 平常点（30%），定期試験（70%）で評価する。（平常点は授業への参加状況，課題への取り組み状況等で総合的に判断する）

使用教科書名 (ISBN番号) 特に指定しない。毎回の授業開始時にレジメを配布する。

参考図書 参考文献については授業内で適宜伝える。

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力</p> <p>【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力</p> <p>【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力</p>															
オフィスアワー	月曜昼休み、火曜3限															
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・わからないことや興味のあることは、調べてみてください。 ・課題があるときは課題に取り組んでください。 															
教育等の取組み状況																
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="137 412 323 479"></th> <th data-bbox="323 412 400 479">該当有無</th> <th data-bbox="400 412 1493 479">概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="137 479 323 557">実務経験を活かした授業</td> <td data-bbox="323 479 400 557"></td> <td data-bbox="400 479 1493 557"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="137 557 323 636">アクティブ・ラーニング</td> <td data-bbox="323 557 400 636"></td> <td data-bbox="400 557 1493 636"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="137 636 323 714">情報リテラシー教育</td> <td data-bbox="323 636 400 714"></td> <td data-bbox="400 636 1493 714"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="137 714 323 748">ICT活用</td> <td data-bbox="323 714 400 748"></td> <td data-bbox="400 714 1493 748"></td> </tr> </tbody> </table>			該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング			情報リテラシー教育			ICT活用		
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業																
アクティブ・ラーニング																
情報リテラシー教育																
ICT活用																

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	心理学 a		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	5 限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 木村 文香	指定なし

ナンバリング	X13540C21
授業概要(教育目的)	心理学とは、心と行動の関係を明らかにする学問であり、科学的な方法を用いて研究されてきた学問である。本授業では、心理学の基礎的な領域を幅広く学習する。心理学の歴史、心理学の基礎、人の発達について学ぶ。本授業では、心理学の基礎的知見を、新聞、小説、映画等、様々な資料を通して具体的に学んでいく。授業内で人の心と行動をとらえる方法を知る際には、簡単な実験・実習に取り組む。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 心理学とはいかなる歴史を持ち、どのようなことを明らかにできる学問なのかを説明することができる。 2. 基礎心理学、特に認知や行動に関する心の仕組みについて説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1. 物事を考え、理解する方法の手段の一つとして、学んだ内容を生かそうとすることができる。 2. 自身の疑問を心理学の知識を用いて解決しようとするすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日常生活にある「何気ない」事象から、心理学的なテーマを見つけることができる。
技術・表現の観点 (A)	自身や身近な人の行動に関して、心理学aで学んだ知識に基づいて説明するなど、心理学と生活のつながりを発信することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション—心理学とは—	ガイダンスとして、授業の進め方、心理学の位置づけに基づいたスケジュールなど、受講にあたっての基本を理解する。 この授業ではgoogle classroomを使用するため、その使い方についても簡単に説明する。	心理学を学ぶ上で、自分が興味のある内容を考え、授業の該当回がいつなのかを見つける。また、授業に臨むにあたって、自分なりの目標を定める。	180分
第2回	心理学の歴史 (1)	心理学の歴史について学ぶ。心理学が生まれた背景、関連する学問領域を理解すると共に、心理学で扱うことができる範囲を知る。	心理学に関して自分が持っていたイメージとの相違点を整理し、自分が関心のある分野と心理学のつながりを考える。	180分
第3回	心理学の歴史 (2)	心理学の歴史について学ぶ。心理学が生まれた背景、関連する学問領域を理解すると共に、心理学で扱うことができる範囲を知る。	心理学に関して自分が持っていたイメージとの相違点を整理	180分

		授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	し、自分が関心のある分野と心理学のつながりを考える。	
第4回	感覚と知覚の心理学	感覚と知覚と認知の違いを理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第5回	知覚の応用	日常生活において、知覚の心理学が使われている場面を知り、心理学と生活とのつながりのうち、1つの側面を理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。また自分の身近なところで、知覚の心理学の考え方で説明できる事象を見つける。	180分
第6回	記憶と忘却	記憶と忘却の仕組みを理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 自分の記憶と忘却の「癖」について考える。	180分
第7回	人間と動物との違い (1) 社会的隔離児、野生児	社会的隔離児と野生児についての「物語」を知り、そのような「物語」の存在が心理学や現在のくらしに意味することを理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第8回	人間と動物との違い (2) 行動が形成されるための要因	人間と人間以外の動物の双方の行動について、その背景にある要因を理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 普段何気なく取っている行動について、その要因を考えてみる。	180分
第9回	人間と動物との違い (3) 人間の行動様式の特徴	人間の行動様式のうち、特に他の動物と異なる行動の仕組みについて理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第10回	人の行動はなぜ生じるのか～脳と行動 (1) 脳と心と身体の関係、大脳の発達と進化	人の行動が生じる背景を、脳の機能の観点から理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第11回	人の行動はなぜ生じるのか～脳と行動 (2) 欲求と行動	人の行動が生じる背景を、欲求の理論全般から理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第12回	人の行動はなぜ生じるのか～脳と行動 (3) 欲求の発達	人の行動が生じる背景を、欲求の発達の観点から理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第13回	人の行動はなぜ生じるのか～行動と情動 (1) 喜怒哀楽、情動による行動の支配	感情と情動のそれぞれの意味を理解し、人の行動と喜怒哀楽の関係を理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第14回	人の行動はなぜ生じるのか～行動と情動 (2) 状況の認知と行動	主観的な経験と生理的変化と行動のつながりについて理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第15回	人の行動はなぜ生じるのか～学習	行動の背景にある学習理論について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分

学習計画注記

講義を中心に展開する予定であるが、質疑応答・討論も大切にしたい。
その展開によって生きた流れを優先するため、上記スケジュールを変更することもある。

学生へのフィードバック方法	1. 授業時に実施する自己チェックについては、その都度、教員との間で結果を共有する。 2. コメント欄付きの出席カードについては、毎回配布、回収し、最終的に教員が出席状況と記入内容をチェックした後、返却する。				
評価方法	最終試験をもとに総合評価を行う。授業への意欲、態度も加味する。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	自己チェック	○		○	
	出席カード		○	○	○
	最終試験	○	○		
評価割合	最終試験70%、授業への意欲・態度（自己チェック、出席カードなど）30%				
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。毎回の授業開始時にレジユメを配布する。				
参考図書	授業の中で紹介する。				
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】人間の行動を相対化することで、「自然界における人間」を理解する心理学に関する知識を得る。</p> <p>【思考・判断】心理学に関する思考をもって人間を理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を得る。</p> <p>【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力を、心理学への知識に基づく関心によって得る。</p> <p>【技能・表現】学修で得た専門的技術（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、心理学的な思考や心理学の理論を用いて、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を得る。</p>				
オフィスアワー	会議のない木曜日、金曜日の3限（千代田三番町キャンパス1805室）				
学生へのメッセージ	<p>教室外学習は欠かさず行ってください。また、自分自身をも含めた「人」への関心を高めてください。講義、それに基づく質疑応答・討論を中心に展開します。その展開によって生きた流れを優先するため、上記内容を変更することもあります。</p> <p>質問等は下記メールアドレスまで。 fumicak★kasei-gakuin.ac.jp メール送信の際には★を@に変更してください。</p>				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング					
情報リテラシー教育					
ICT活用	○	google classroomを、自己チェック、配布資料のアーカイブなどで活用する。			

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	心理学 b		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 加地 雄一	指定なし

ナンバリング	X13550M21
授業概要(教育目的)	心理学は「こころ」について理解し、支援するための学問です。心理学は大きく分けて、基礎領域と応用領域があります。「心理学b」では主に応用領域(社会、臨床など)をとりあげます。そして、心理学の基本的な考え方と知識を身につけ、日常生活とのつながりを考えます。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	心理学の基礎知識を説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	心理学的な視点から日常で観察される人間の行動や心理について仮説を立てることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	人間の心理に興味を持ち、心理に関する課題に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	自分が経験したことや見聞きしたことを心理学的に解釈することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業の予定や受講にあたっての注意事項等について説明を受ける。	予習：なし。 復習：受講にあたっての注意事項等について確認する。	60分
第2回	社会①：社会的認知	印象形成やスキーマについて学ぶ。	予習：人の印象が何で決まるか考えてくる。 復習：キーワード(印象形成など)について確認する。	60分
第3回	社会②：自己過程	自己開示と自己呈示の違いについて学ぶ。	予習：素の自分とSNSでの自分の違いについて考えてくる。 復習：キーワード(自己開示など)について確認する。	60分
第4回	社会③：態度と説得	態度変容と説得技法について学ぶ。	予習：どのような時に自分の態度が変わるか(説得されるか)考えてくる。 復習：キーワード(説得技法など)について確認する。	60分

第5回	社会④：社会的影響	アッシュの実験などについて学ぶ。	予習：どのような時に「空気を読む」か考えてくる。 復習：キーワード（アッシュの実験など）について確認する。	60分
第6回	社会⑤：対人関係	対人魅力に与える要因について学ぶ。	予習：自分が魅力的だと思う人（同性異性問わない）の特徴を挙げる。 復習：キーワード（吊橋実験など）について確認する。	60分
第7回	臨床①：精神分析	精神分析と精神分析的な心理療法の違いについて学ぶ。	予習：自分が好きな芸術作品について深く掘り下げて魅力を説明する。 復習：キーワード（転移など）について確認する。	60分
第8回	臨床②：認知行動療法	認知行動療法について学ぶ。	予習：人に話しても差し支えない程度のストレスイベントを書いてくる。 復習：キーワード（コラム法など）について確認する。	60分
第9回	臨床③：クライアント中心療法	クライアント中心療法について学ぶ。	予習：どんな人がカウンセラーに向いているか考えてくる。 復習：キーワード（自己一致など）について確認する。	60分
第10回	臨床④：心理検査	心理検査を受けて自分で所見を書いてみる。	予習：なし。 復習：所見を書き上げる。キーワード（ラポールなど）について確認する。	60分
第11回	応用①：行動経済学	行動経済学について学ぶ。	予習：ものを買いたくなる時の状況を振り返る。 復習：キーワード（身体化された認知など）について確認する。	60分
第12回	応用②：ポジティブ心理学	ポジティブ心理学について学ぶ。	予習：自分が夢中になれるものや夢中になっている時の特徴について書いてくる。 復習：キーワード（フロー理論など）について確認する。	60分
第13回	応用③：恋愛	恋愛について心理学で研究されていることについて学ぶ。	予習：好きな人（俳優でもよい）について思い浮かべる。 復習：キーワード（返報性など）について確認する。	60分
第14回	応用④：犯罪	犯罪について心理学で研究されていることについて学ぶ。	予習：最近起きた事件について、犯行の動機を推測する。 復習：キーワード（プロファイリングなど）について確認する。	60分
第15回	まとめ	これまで学んだことを確認する。	予習：これまで学んだことを確認する。 復習：これまで学んだことを確認する。	60分

学生へのフィードバック方法 授業にて解説。

評価方法 平常点30%、レポート30%、試験40%
(平常点はコメント等の授業への参加度から評価します)

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○
試験	○	○	○	○

評価割合 平常点30%、レポート30%、試験40%
(平常点はコメント等の授業への参加度から評価します)

使用教科書名 (ISBN番号)	特に使用しません。
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力</p> <p>【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力</p> <p>【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力</p>
オフィスアワー	月曜昼休み、火曜3限
学生へのメッセージ	心理学は日常生活とつながりが深い学問です。 身近に感じたこと興味を持ったことについて予習・復習をして下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	心理学 b		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	5 限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 木村 文香	指定なし

ナンバリング	X13550C21
授業概要(教育目的)	心理学とは、心と行動の関係を明らかにする学問であり、科学的な方法を用いて研究されてきた学問である。本授業では、これまで蓄積されてきた心理学の基礎的知見が、どのように現代社会において応用されているのか、心理学の応用的側面を学ぶ。応用場面として、コミュニケーション、家族、受講者自身を含む青年期、教育場面、心の支援方法、発達上の危機を取り上げる。その上で、問題に直面した際に解決方法として「自ら使える心理学」を修得することを目指す。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1. 社会心理学等の応用心理学では、どのようなことを明らかにできるのかを説明することができる。 2. 応用心理学、特に対人関係に関する心の仕組みについて説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1. 物事を考え、理解する方法の手段の一つとして、学んだ内容を生かそうとすることができる。 2. 自身の疑問を心理学の知識を用いて解決しようとするすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日常生活にある「何気ない」事象から、心理学的なテーマを見つけることができる。
技術・表現の観点 (A)	自身や身近な人の行動に関して、心理学bで学んだ知識に基づいて説明するなど、心理学と生活のつながりを発信することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクションー応用心理学とは	ガイダンスとして、授業の進め方、心理学の中でも授業で取り扱う応用心理学について学び、受講にあたっての基本を理解する。 この授業ではgoogle classroomを使用するため、その使い方についても簡単に説明する。	心理学を学ぶ上で、自分が興味のある内容を考え、授業の該当回がいつなのかを見つける。また、授業に臨むにあたって、自分なりの目標を定める。	180分
第2回	コミュニケーションの心理学 (1) コミュニケーションの仕組み	コミュニケーションの仕組みについて学ぶ。コミュニケーションを心理学でどのように理論化しているか、その背景や関連する学問領域を併せて知る。	コミュニケーションに関して自分が持っていたイメージとの相違点を整理し、自分のコミュニケーションについて考える。	180分

第3回	コミュニケーションの心理学 (2) 認知的不協和	コミュニケーションの心理学のうち、認知的不協和理論について学び、理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。復習として、認知的不協和理論で説明できる日常生活の事象を考える。	180分
第4回	コミュニケーションの心理学 (3) 意思決定	意思決定の仕組みに関する理論を学び、理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。復習として、日頃、自身が行っている意思決定について考える。	180分
第5回	コミュニケーションの心理学 (4) 説得	説得の仕組みについて学び、理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。復習として、日頃、自身が行っている、もしくは今後用いていきたい説得の手法について考える。	180分
第6回	個人と社会 (1) 「フツ ー・・・」 ——ステレオタイプ	ステレオタイプとは何かについて理解し、人間の行動や、そこから派生する対人関係の問題を知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。 自身の日常生活上の疑問や問題を解決する方法を考える。	180分
第7回	個人と社会 (2) 自分 ってなに？ ——自己意識	自己意識について定義や理論を学び、理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第8回	国際社会の問題と心理学	1. UNHCRによる難民に関する映画を視聴し、国際的な問題について理解する。 2. 国際社会における問題を理解するのに、心理学はどのように使うことができるのかを考える。	予習として、事前に配布された資料をよく読み、難民問題について情報を得る。加えて、疑問点を明確にし、事前に与えられた課題を解決するための情報を映画から得られるように準備する。 復習として、映画で明らかになった問題について、これまでの回で得た知識を基に、心理学的な観点から自分の考えや解決策をまとめる。	180分
第9回	個人と社会 (3) 「みんな違う」 はパーソナリティ	パーソナリティの理論について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、第7回目の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第10回	個人と社会 (4) 「あの人、ステキ」の心 ——対人魅力	対人魅力の理論について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第11回	個人と社会 (5) 人を 助ける心理学——援助行動	援助行動について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第12回	個人と社会 (6) いじわる?? ——非援助の行動と攻撃行動	日援助の行動と攻撃行動について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第13回	個人と社会 (7) 「みんな」って誰? 何? ——グループダイナミクス	集団の定義やグループダイナミクスについて理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第14回	個人と社会 (8) 「みんな」って誰? 何?	リーダーシップ理論について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分

	——リーダー —シップ		
第15回	豊かなくらしと心理学	これまでの内容を概観し、日常生活の中の問題を、どのように心理学の知見が説明、解決することができるのかを知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	これまでに配布された資料や自己チェックの結果をふりかえり、興味をもった点、疑問に感じた点を明らかにしておく。

学習計画注記	講義を中心に展開する予定であるが、質疑応答・討論も大切にしたい。 その展開によって生きた流れを優先するため、上記スケジュールを変更することもある。
学生へのフィードバック方法	1. 授業時に実施する自己チェックについては、その都度、教員との間で結果を共有する。 2. コメント欄付きの出席カードについては、毎回配布、回収し、最終的に教員が出席状況と記入内容をチェックした後、返却する。
評価方法	最終試験をもとに総合評価を行う。授業への意欲、態度も加味する。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
自己チェック	○		○	
出席カード		○	○	○
最終試験	○	○		

評価割合	最終試験70%、授業への意欲・態度（自己チェック、出席カードなど）30%
------	--------------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。毎回の授業開始時にレジュメを配布する。
-----------------	-----------------------------

参考図書	授業の中で紹介する。
------	------------

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間社会について、特に対人行動に関する知識をもって理解する。 【思考・判断】心理学に関する思考をもって人間を理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を得る。 【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力を、心理学への知識に基づく関心によって得る。 【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、心理学的な思考や心理学の理論を用いて、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を得る。
---------------	---

オフィスアワー	会議のない木曜日、金曜日の3、4限（千代田三番町キャンパス1805室）
---------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	教室外学習は欠かさず行ってください。また、自分自身をも含めた「人」への関心を高めてください。講義、それに基づく質疑応答・討論を中心に展開します。その展開によって生きた流れを優先するため、上記内容を変更することもあります。
-----------	--

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	google classroomを、自己チェック、配布資料のアーカイブなどで活用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ジェンダー論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 大野 恵理	指定なし

ナンバリング	X13560M21
授業概要(教育目的)	本講義ではジェンダーとセクシュアリティに関する基本的概念について学び、「あたりまえ」と思われてきた／思われている様々な「性」に関するあり方を問い直す姿勢を育成する。また様々なジェンダー課題を知り、社会的及び構造的に構築されたものと認識し、同時に自らの身近な問題としてとらえること、そしてジェンダー視点から批判的に考察することを到達目標とする。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	ジェンダー論の基礎を学び、様々な社会的課題に対しジェンダー視点から理解できるようになる。
思考・判断の観点 (K)	現在の社会のあり方をジェンダー視点から問い直し、批判的に思考できるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日々の暮らしの中で、主体的にジェンダーに関するニュースや出来事に関心を持ち、触れるようになる。
技術・表現の観点 (A)	ジェンダー的視点から問題意識を言語化できるようになる。

学習計画

ジェンダー論				
回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	本講義の構成、内容、課題や評価方法などガイダンスを行います。	シラバスで挙げた参考図書を事前に読んでおくこと	60
第2回	ジェンダーとはなにか	ジェンダー概念について基本的な内容を学ぶ。	参考図書の該当部分を事前に予習しておくこと。	90分
第3回	セクシュアリティとジェンダー・アイデンティティ (1) 異性愛主義	セクシュアリティとは何かをとらえつつ、社会における異性愛主義について考察する。	参考図書の該当箇所を事前に読んで予習しておくこと。また前回の授業の内容を復習しておくこと。	120分
第4回	セクシュアリティとジ	多様な性のあり方をとらえる。	参考図書の該当箇所を事前に読んで予習しておくこと。また前	120分

	エンダー・アイデンティティ (2) 性の多様性		回の授業の内容を復習しておくこと。	
第5回	フェミニズム思想	規範的な性のあり方を問い直してきたフェミニズムについて、歴史とともに現代の動向（主に日本において）を学ぶ。	参考図書の該当箇所を事前に読んで予習しておくこと。また前回の授業の内容を復習しておくこと。	120分
第6回	近代家族とジェンダー (1) 近代家族	現在の家族を規定している近代家族モデルと、性別役割分業について学ぶ。	参考図書の該当箇所を事前に読んで予習しておくこと。また前回の授業の内容を復習しておくこと。	120分
第7回	近代家族とジェンダー (2) ロマンティック・ラブ・イデオロギー	近代家族を支えるロマンティック・ラブ・イデオロギー（恋愛、結婚）について考える。	参考図書の該当箇所を事前に読んで予習しておくこと。また前回の授業の内容を復習しておくこと。	120分
第8回	身体とジェンダー (1) 性暴力（DV、セクシャルハラスメント）	性暴力について様々な場面と事例から理解し、日本における取り組みについて学ぶ。	参考図書の該当箇所を事前に読んで予習しておくこと。また前回の授業の内容を復習しておくこと。	120分
第9回	身体とジェンダー (2) リプロダクティブ・ヘルス／ライツ	性と生殖に関する自己決定権について、フェミニズムの運動を学び、現代的課題を考える。	参考図書の該当箇所を事前に読んで予習しておくこと。また前回の授業の内容を復習しておくこと。	120分
第10回	労働とジェンダー (1) 賃金格差	労働におけるジェンダーの問題と性差を具体的な事例を通して学ぶ。	参考図書の該当箇所を事前に読んで予習しておくこと。また前回の授業の内容を復習しておくこと。	120分
第11回	労働とジェンダー (2) 仕事と家庭、ケアワーク	公私領域における無償労働とケアワークについて学ぶ。	参考図書の該当箇所を事前に読んで予習しておくこと。また前回の授業の内容を復習しておくこと。	120分
第12回	グローバリゼーションとジェンダー (1) ファストファッション	世界経済の変動の中で、ファッションの生産と消費がどのように行われているかを、ジェンダー視点から学ぶ。	参考図書の該当箇所を事前に読んで予習しておくこと。また前回の授業の内容を復習しておくこと。	120分
第13回	グローバリゼーションとジェンダー (2) 「食」の生産と調理、流通	グローバリゼーションとサステナビリティについて、「食」を通してジェンダー視点から考察する。	参考図書の該当箇所を事前に読んで予習しておくこと。また前回の授業の内容を復習しておくこと。	120分
第14回	災害とジェンダー	災害時に起こる様々な形の性暴力被害の事例を通し、ジェンダー視点から「防災」や「減災」について学ぶ。	参考図書の該当箇所を事前に読んで予習しておくこと。また前回の授業の内容を復習しておくこと。	120分
第15回	まとめと学習到達度の確認テスト	これまでの授業を振り返る。理解の確認のためのテストを行う。	これまでの授業内容全体を復習しておくこと。	240分

学習計画注記	積極的な参加姿勢を求めます。授業の中で質問を投げかけた際は、受け身ではなく、積極的に発言してください。
学生へのフィードバック方法	毎回授業の最後にレスポンスシートを提出してもらい、次回の授業でフィードバックします。また授業外で質問を受け付けます。
評価方法	平常点（レスポンスシート及び授業態度）で40%、定期試験で60%
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
期末試験	○	○		○

評価割合	定期試験 60%、授業への参加度・理解度 (40%) 毎回、授業の最後にレスポンスカードを提出してもらいます。
使用教科書名 (ISBN番号)	なし
参考図書	加藤秀一『はじめてのジェンダー論』（有斐閣ストゥディア、2017） 千田有紀、中西祐子、青山薫『ジェンダー論をつかむ』（有斐閣、2013年）ほか
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】人間社会の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、現状の問題を的確に判断できる能力を身につけている。 【関心・意欲・態度】社会を構成するひとりとして、高い徳性をもって人々に寄り添う能力を身につけている。 【技能・表現】授業で学んだ知識と情報によって社会を分析し、的確に表現できる能力を身につけている。
学生へのメッセージ	各回の授業に出席する前に、指定された資料を読み、疑問点や質問などを確認してください。また個人の関心に合わせ、ジェンダーに関する時事問題に触れ、授業内でのディスカッションに生かしてほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ジェンダー論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 鈴木 亜矢子	指定なし

ナンバリング	X13560C21
授業概要(教育目的)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ジェンダー論の基礎を習得する 2. 社会現象をジェンダー視点から批判的に捉えることができるようになる 3. 問題が生まれる社会的・構造的背景を理解し、問題解決の方策を考えることができる 4. 反対説を踏まえ、自説を説得的に文章、口頭で論じることができるようになる
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	ジェンダー論・ジェンダー法学に関する基礎知識を身に付け、それらについて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	様々な社会問題をジェンダー視点に基づき分析・批判することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	問題意識を持ち、自分の考えを積極的に発言することができる。
技術・表現の観点 (A)	自らの考えを論理的に口頭および文章で説明することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	今後の授業のスケジュールと内容について		90分
第2回	ジェンダーとは①—性別を捉え直す	「性別」は男/女だけなのか。この振り分けはどのように行われているのか、検討する。	教科書第1章Unit 1、2を読むしておくこと。	90分
第3回	ジェンダーとは②—性別役割・セクシュアリティ	性別役割の妥当性、セクシュアリティの多様性について学ぶ。	教科書第1章Unit 3を読むしておくこと。	90分
第4回	ジェンダーとは③—女子	女子教育はどのように進展し、教育における男女平等がどの程度進んでいるのか、検討する。	教科書第4章Unit 1 1、1 2を読むしておくこと。	90分

	子教育の歴史と現状			
第5回	フェミニズムとジェンダー	ジェンダーという概念が生まれたフェミニズム運動の歴史を概観する。	教科書第8章を読んでおくこと。	90分
第6回	恋愛とジェンダー—ロマンチック・ラブ・イデオロギー／近代家族／主婦	ロマンチック・ラブ・イデオロギーとは何か、近代家族の変遷と問題点について学ぶ。	教科書第2章を読んでおくこと。	90分
第7回	結婚とジェンダー—結婚制度／戸籍／夫婦別姓	日本の結婚制度について、諸外国との比較、ジェンダー視点をを用いて分析する。	教科書第2章を読んでおくこと。	90分
第8回	家族とジェンダー—性別役割分業／法律婚・事実婚／婚外子	日本の家族制度の歴史と現状について、諸外国と比較し、ジェンダー視点をを用いて分析する。	教科書第2章を読んでおくこと。	90分
第9回	労働とジェンダー①—女性労働裁判の歴史と男女雇用機会均等法	女性労働裁判の歴史を概観し、男女雇用機会均等法がどのような経緯で成立したのかを学ぶ。	教科書第3章Unit 7, 8 を読んでおくこと。	90分
第10回	労働とジェンダー②—<男社会>と女子のキャリア	男女雇用機会均等法以後、現在の女性のキャリア形成における問題点を学ぶ。	教科書第3章Unit 9, 10 を読んでおくこと。	90分
第11回	法教育①—昔話法廷	ジェンダー法学の基礎を学ぶため、昔話法廷を教材とし、法学の基礎と論理的思考力を養う。	事前に配布する予習資料を熟読すること。	90分
第12回	法教育②—離婚調停	ジェンダー法学の基礎を学ぶ一環として、離婚調停を疑似体験することで、離婚制度について理解を深める。	事前に配布する予習資料を熟読すること。	90分
第13回	国家とジェンダー①—ジェンダー主流化と男女共同参画	ジェンダー主流化の変遷と、男女共同参画社会／基本法について学ぶ。	教科書第6章Unit 18, 19 を読んでおくこと。	90分
第14回	国家とジェンダー②—女性の人権と女性差別撤廃条約	国際的に女性の人権がどのように保護されてきたのか、その歴史と現状について学ぶ。	教科書第6章Unit 16, 17 を読んでおくこと。	90分
第15回	授業総括	15回の授業を通して学んだことを総括し、質疑応答を通して、本授業で学んだことの理解の定着を図る。	これまで学んだことを復習し、疑問点をまとめ、授業に臨むこと。	90分

学習計画注記	※履修者数、授業の進度や学生の理解の程度により、授業内容やスケジュールが変更になる可能性がある。その都度授業時間内又はgoogle classroom等で通知する。
学生へのフィードバック方法	授業後に回収するコメントペーパーについて、次回講義内でフィードバックする。質問がある場合は、授業の前夜又はコメントペーパーに記入すること。
評価方法	受講者数により、レポート課題、または小テストを2～4回実施する。試験範囲や詳細については、授業にて告知する。定期試験は100点満点で出題し、15回の授業で学んだことを総合的に問う内容とする。選択式／記述式問題を出題し、表現力、論理的思考力、知識の定着を評価する。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート課題	○	○		○
定期試験	○	○		○

リアクションペーパー	○	○	○	○
------------	---	---	---	---

評価割合	レポート又は定期試験（70%）、コメントペーパー・出席（30%）
参考図書	千田有紀・中西祐子・青山薫 『ジェンダー論をつかむ』 有斐閣
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】ジェンダーの基礎理論を理解し、人に説明できるだけの知識を有している。 【思考・判断】様々な社会現象をジェンダー視点によりその問題点を判断し、論理的に説明できる能力を身に着けている。
学生へのメッセージ	ジェンダー理論を通して、性の多様性、社会における女性の立場を理解し、これからの皆さんの人生、キャリア形成に役立ててください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	東京家政学院を学ぶ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田 弘美	指定なし
教授	廣江 彰	指定なし
准教授	澤田 雅彦	指定なし

ナンバリング	X13580M21
授業概要(教育目的)	「東京家政学院を学ぶ」は、受講生が本学の理念を、創設者である大江スミの想いと行動に即してその時で理解することを主眼とする。また、現代における本学理念の再評価を受講生一人ひとりが行い、講義を自分の生き方と重ね合わせるために必要な情報と動機とを体得する機会にする。さらに、大江スミがイキ学から帰国後、日本で本格的に実践した家政学とは何かを知り、家政学を構成する個々の専門領域を受講中に学ぶ意義を理解する。(キーワード: 大江スミ、家政学、被服・ファッション)

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	本学の理念や創設者大江スミの女子教育(家政学)について理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	大江スミの想いと行動およびその当時の時代背景から、自分の生き方と重ね合わせて本学で学ぶ意義を考えるとができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

東京家政学院を学ぶ

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間
第1回	大江家政学と「衣」の世界(1)ードレスの形態と女性の社会的立場ー	大江スミがイギリスに留学した頃に装着していたイヴニングドレスやパリ・ロンドンで流行っていたファッションの移り変わりを把握し、女性の社会的立場・社会進出とドレスの関連を学ぶ。富田弘美(本学生活デザイン学科准教授)	創設者大江スミ 学校法人東京家政学院 東京家政学院大学のホームページから大江スミについて読んでおくこと。 https://www.kasei-gakuin.ac.jp/houjin/houjin/founder/	180分
第2回	東京家政学院大学学びの特徴ー家政学をどのように学ぶかー	「家政学」について、現代もしくは将来にかけて学ぶ価値を考える。「暮らすこと」、「食べること」、「育てること」の各領域と「家政学」との関連について、「いのちをつなぐ」勉強をみなさんが大学で行う、という視点から検討してみたい。廣江彰(本学学長)	A、課題の1、2はまずは200字程度でまとめたメモを作成し、手元に置いておきなさい。イ、提出方法は第2回目の私の講義で伝えます。	180分
第3回	大江家政学と「衣」の世界(2)ー家政研究所開設以降の衣服ー	約100年前(1923年)に大江スミは家政研究所を開設した。その頃に装着していた衣服、およびその時代のファッションを通して大江スミが女子教育で学生たちに教え伝えたかったことを考える。また、四年制大学が設立された頃に制服が存在していたことにも触れる。富田弘美(本学生活デザイン学科准教授)	「ひとひらの雪としてー大江スミ先生の生涯ー」の第1章とげのある身(pp.1~15)を読んでおくこと。また、授業の中で課題を伝える。	180分
第4回	大江家政学が伝えようとしたこと	本学の創設者大江スミが、文部省(現在の文部科学省)の国費留学生としてイギリスに留学したのが1902年。同じ年にみなさんも読んだことがある「ビターラビツ	1900年代末のイギリス、とくに世はビクトリア朝(～1901年)からエドワード朝に移り変わる時代。その時代の特	180分

		ト」が出版されました。その時代はイギリスの大きな変革期。そこで学んだ大江が創り上げた「家政学」は私たちに何を伝えるのか？それを読み解きます。	徴を示すことがらを、ひとつだけで良いので調べておきなさい。
第5回	家政学と女性 (1) 女子教育と家政学	家政学が歴史的にどのように出発し、女子教育の変遷とともにその内容がいかに変化してきたかを、東京家政学院大学の沿革にも触れながら理解を深める。その際、家政学の発展を支え、担い手となった女性たちの活動、社会的立場づけに着目することで歴史的視野を広げ、自分自身の現在・将来のあり方を考える手がかりとなることを期待したい。受講者自身が自らの人生にとって「家政学とは何か」を説明できることを到達目標とする。特別講師 石渡尊子氏 (桜美林大学教授)	配布した課題を作成し、持参すること。
第6回	家政学とデザイン	家政学とデザインの共通点を探しながら、「デザインとは何か?」「家政がくとは何か?」という問題について考える。澤田雅彦 (本学生活デザイン学科准教授)	「家政学」と「デザイン」の意味を、複数の辞書・事典で調べておくこと。
第7回	家政学と女性 (2) 東京家政学院から見る家政学	家政学が歴史的にどのように出発し、女子教育の変遷とともにその内容がいかに変化してきたかを、東京家政学院大学の沿革にも触れながら理解を深める。その際、家政学の発展を支え、担い手となった女性たちの活動、社会的立場づけに着目することで歴史的視野を広げ、自分自身の現在・将来のあり方を考える手がかりとなることを期待したい。受講者自身が自らの人生にとって「家政学とは何か」を説明できることを到達目標とする。特別講師 石渡尊子氏 (桜美林大学教授)	前回の課題および「ひとひらの雪として」を持参すること。
第8回	トピック：博物館は面白い	博物館と実物資料～大江先生の想いに学ぶ。石垣 悟 (本学現代家政学科准教授)	東京家政学院大学生活博物館のホームページから博物館の概略を調べること。 https://www.kasei-gakuin.ac.jp/action/museum.html
第9回	女性のキャリア	特別講師 野村浩子氏 (「日経WOMAN」「日経EW」元編集長)	
第10回	大江家政学の「住」の世界	大江スミ先生が重要視されていた公衆衛生と住教育のつながり、その教育を受けた卒業生である建築家中原暢子先生の活躍、そして現在取得できる資格や教育内容の変遷について学ぶ。深石圭子 (本学生活デザイン学科准教授)	「ひとひらの雪として～大江スミ先生の生涯～」の第2章とげのある身 (pp. 16～29) を読んでおくこと。
第11回	大江家政学と「音楽」の世界	音楽は、私たちの生活に欠かせない。講義では、1948年に千代田区三番町の家政学院大学に開設された「子どものための音楽教室」の歴史にふれながら、家政学としての子どもと音楽について学ぶ。吉永早苗 (本学児童学科教授)	「ひとひらの雪として～大江スミ先生の生涯～」の第3章出会いの時 (pp. 30～45) を読んでおくこと。
第12回	海外に出よ	特別講師 宮田 崇氏「地球の歩き方」編集長	
第13回		(調整中)	
第14回		(調整中)	
第15回		(調整中)	

学生へのフィードバック方法	リアクションペーパーのコメント
評価方法	平常点80%、リアクション・ペーパー20%

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
リアクションペーパー	○	○		
平常点			○	

評価割合	平常点80%、リアクションペーパー20%とする。
使用教科書名 (ISBN番号)	適宜プリント配付
参考図書	「ひとひらの雪として～大江スミ先生の生涯～」 (入学時に配布)
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】人間社会の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき確に判断して提案できる能力
オフィスアワー	木曜日12:30～14:00 (富田 1405研究室) 水曜日13:00～14:30 (澤田 1503研究室)

学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 必ず授業の予習・復習をしてください。 本学教員の講義終了後に課題がありますので提出してください。(この課題は、講師の狙いを学生が受けているか、更なる学習意欲が喚起されたかなどを簡潔に確認するものです。) 特別講師のため、授業内容に関する質問は授業中および終了後の対応になりますが、授業内容以外の質は、担当教員までお問い合わせください。 講義テーマが変更する場合がありますがご了承ください。
-----------	---

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	東京家政学院を学ぶ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 佐藤 広美	指定なし
教授	上村 協子	指定なし
教授	井上 眞弓	指定なし

ナンバリング	X13580C21
授業概要(教育目的)	東京家政学院の沿革、創立者大江スミの信念・理想、大江家政学の特徴、建学の精神である「KVA精神」、教育史および家政学史上における本学院の意義などを学ぶことを通じて、本学院を深く理解するとともに、そこに学ぶ学生としての自信と誇りを持ち、学び豊かな充実した学生生活を送るための基盤を形成する。あわせて、建学の精神を継承し、それを具現化していくことによって、よりよい生活を創り上げていこうとする姿勢を養うことをめざす。
履修条件	特になし。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	本学院の沿革と創立者の生涯について、社会の状況に照らして理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	他者から聴取した内容や学院に関する資料を読み込み、それについて自分の意見・考えを持つことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	本学院の学生としての尊厳と徳性を持って学んでゆくことができる。
技術・表現の観点 (A)	自分の意見・考えを他者に向けて論理的に表現することができる。

学習計画

東京家政学院を学ぶ

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション「学び」をめぐって	授業担当者より授業に向けての授業をする上での方針を理解し、「学ぶ」ということの本質について考える。	大濱徹也著『ひとひらの雪として』発刊のことば・執筆によせてを読む。	180分
第2回	家政学と現代生活学	本学院の歴史、設立のKVAスピリットが、個人の生活の質を人間の尊厳を重視する総合的実践科学「家政学・現代生活学」へつなげた経緯を理解する。	大濱徹也著『ひとひらの雪として』1章・2章を読む。	180分
第3回	本学創立者大江スミの	本学院理事長による創立者大江スミの生涯についての講話。	大濱徹也著『ひとひらの雪として』1章・2章を読む。	180分

	生涯			
第4回	東京家政学院の創生と創業の地三番町	本学院理事長による学院設立の経緯と創業の地三番町についての講話。	大濱徹也著『ひとひらの雪として』8章を読む。	180分
第5回	東京家政学院大学の理念	本学での学びの理念について、学長による講義。	講義後に講義要旨をまとめる。	180分
第6回	東京家政学院大学の学びの特長	本学の学びの特長について、学長による講義。	講義後に講義要旨をまとめる。	180分
第7回	大江スミ先生の英国留学	大江スミ先生の英国留学について、その背景と意義を光塩会会長永山スミ先生が講義する。	講義後に講義要旨をまとめる。	180分
第8回	進路を考える(1)	東京家政学院大学を卒業した卒業生が、在学時よりどのような学びを経て現在に至ったか、在学時の学びが卒業後の生活とどのように結びつくのか、講義する。	講義後に講義要旨をまとめる。	180分
第9回	進路を考える(2)	東京家政学院大学を卒業した卒業生が、在学時よりどのような学びを経て現在に至ったか、在学時の学びが卒業後の生活とどのように結びつくのか、講義する。	講義後に講義要旨をまとめる。	180分
第10回	女性史の中の東京家政学院(1)	江戸末期から明治期における女性の生き方(教養と文化)を通して東京家政学院の設立の意義を語る。	大濱徹也著『ひとひらの雪として』第5章を読む。	180分
第11回	女性史の中の東京家政学院(2)	大正期から昭和前期の女性の生き方(教養と文化)を通して、東京家政学院の果たした役割を探る。	大濱徹也著『ひとひらの雪として』第5章を読む。	180分
第12回	東京家政学院の文化資源を活かす	東京家政学院大学附属図書館に架蔵されている、江戸期から昭和期までの衣食住・教育・風俗文化に関する資料である大江文庫を、学びにどのように活かすことが出来るか、講義する。	大濱徹也著『ひとひらの雪として』第7章を読む。	180分
第13回	生活文化博物館活動	東京家政学院に設置されている生活文化博物館における収蔵品の、所蔵にかかわる経緯・背景を知ることにより、学びを広げる方法を知る。	講義後に講義要旨をまとめる。	180分
第14回	東京家政学院と家政学	本学院で実践的総合科学である家政学・現代生活学を学ぶことで、暮らしを重視する生活者としての自分自身の成長可能性を発見していくか道筋を構想する。	大濱徹也著『ひとひらの雪として』第6章を読む。	180分
第15回	まとめー今後の生き方を考える	本学院に関することを学ぶなかで、自分がどのような学びの道筋を描くことが出来たか、また、卒業後の進路選択において何を重視していくのか、自分の言葉で表すことによって、本授業を振り返る。	レスポンスシートをまとめ、教場レポート作成の準備をする。	180分

学習計画注記 校内特別授業講師の都合により、日程が変更となる場合があります。

学生へのフィードバック方法 専任教員の授業時に、学生が提出した既修のレスポンスシートを紹介し、振り返りを行う。

評価方法 授業時には基本的にはレスポンスシートを配布し、それを回収する。これにより関心・意欲・態度とともに基本的な授業内容の把握に関して問う。教場レポートは、本授業を自らの体験として客観的に把握しているかという観点から評価する。自分の意見・考えを説得力ある表現で記載できる能力を培う。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レスポンスシート	○		○	
教場レポート		○		○

評価割合 平常点(授業時におけるレスポンスシートの提出を含む)30%、教場レポート70%

使用教科書名(ISBN番号) 入学時に配布された東京家政学院光塩会編 大濱徹也著『ひとひらの雪としてー大江スミ先生の生涯』光塩会編集 (入学時に全員へ配布済み)

参考図書 授業内で指示する。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】本学院の沿革と創立者の生涯について、社会の状況に照らして理解することができる。
【思考・判断】他者から聴取した内容や学院に関する資料を読み込み、それについて自分の意見・考えを持つこ

	とができる。 【関心・意欲・態度】本学院の学生としての尊厳と徳性を持って学んでゆくことができる。 【技能・表現】自分の意見・考えを他者に向けて論理的に表現することができる。															
オフィスアワー	井上真弓（水曜日2限）1807室・上村協子（火曜日4限）1805室・佐藤広美（水曜日3限）1804室															
学生へのメッセージ	社会制度や歴史の流れのなかで、大江スミ先生の提唱した家事学・家政学はどのようなものだったのかを理解し、自身の学びの方向について考える機会をもちましょう。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>理事長（学院経営という立場から）・小濱由紀氏（「モンプレジール」料理教室主宰）・小谷野茂美氏（元家庭科教員・東京都内校長経験者）による実務体験を活かした授業内容を設定している。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	理事長（学院経営という立場から）・小濱由紀氏（「モンプレジール」料理教室主宰）・小谷野茂美氏（元家庭科教員・東京都内校長経験者）による実務体験を活かした授業内容を設定している。	アクティブ・ラーニング			情報リテラシー教育			ICT活用		
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業	○	理事長（学院経営という立場から）・小濱由紀氏（「モンプレジール」料理教室主宰）・小谷野茂美氏（元家庭科教員・東京都内校長経験者）による実務体験を活かした授業内容を設定している。														
アクティブ・ラーニング																
情報リテラシー教育																
ICT活用																

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	リテラシー演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 千葉 一博	指定なし

ナンバリング	X10000M12
授業概要(教育目的)	レポート・論文を作成する技術の習得を通して、大学教育に対応できる基礎力を育成することをめざす。演習形式で具体的な作業を経験しながら実践的に学ぶことを通じて、主体的な学びの姿勢を身につけさせるとともに、高校までとは質の異なる大学での教育へとスムーズに移行させる橋渡しの役目を担うこともはかる。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	レポートの書き方を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	主体的に学ぶ姿勢を身につけている。
技術・表現の観点 (A)	レポート・論文を作成する技術の習得を通して、大学教育に対応できる基礎力を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	A 書くということ	「書く」ということについて考え、目上の人へメールを書く際の注意点を学ぶ。	テキスト配付済みの場合は「A 書くということ」を、未配付の場合はオリエンテーション時の資料を読んでおくこと。	45
第2回	B 報告書とは何か	客観的な報告書の書き方を学ぶ。また、報告書としての形式やルールにそった書式に整えることも練習する。	「B 報告書とは何か」を読んでおくこと。	45
第3回	C レポートとは何か	レポートとは何かということについて考え、その条件をまとめてみる。また、レポート作成のためのステップを学ぶ。	「C レポートとは何か」を読んでおくこと。	45
第4回	D 報告書・レポートの表現	報告書・レポートに使われる表現について見ていく。	「D 報告書・レポートの表現」を読んでおくこと。	45
第5回	E レポートの構成	レポートにおける文章の構成を考え、どのような順序で並べるのかを見ていく。	テキスト配付済みの場合は「E レポートの構成」を、未配付の	45

			場合はオリエンテーション時の資料を読んでおくこと。	
第6回	F 本論の書き方	レポートの中心となる「本論」の書き方について詳しく学び、どのように論拠を作り上げていけばいいのか考えていく。	「F 本論の書き方」を読んでおくこと。	45
第7回	G テーマの設定	レポートのテーマを設定するポイントを確認し、大まかな設計図として「思考マップ」「構想マップ」を作る方法を学ぶ。	「G テーマの設定」を読んでおくこと。	45
第8回	H アウトラインの作り方	「構想マップ」をもとに、レポートの詳細な組み立てとなるアウトラインを作り上げていく手順について学ぶ。	「H アウトラインの作り方」を読んでおくこと。	45
第9回	I 文献の収集	レポートや卒業論文で使う文献の探し方、収集した文献の整理の仕方について学ぶ。	「I 文献の収集」を読んでおくこと。	45
第10回	J 引用のしかた	レポートや卒業論文における引用のしかたを理解し、どのように自分の主張を完成させていったらよいか学ぶ。	「J 引用のしかた」を読んでおくこと。	45
第11回	K 参考文献目録の書き方	基本的な参考文献目録の書き方のルールを学ぶ。	「K 参考文献目録の書き方」を読んでおくこと。	45
第12回	L 表・図の作成	表・図の効果的な使い方について学ぶ。	「L 表・図の作成」を読んでおくこと。	45
第13回	M 表・図からの読み取り	表・図からの読み取り、説明文の書き方について学ぶ。	「M 表・図からの読み取り」を読んでおくこと。	45
第14回	N 表・図を使った説明	表・図から読み取れる事項を分析し、自分のことばで説明する練習をする。	「N 表・図を使った説明」を読んでおくこと。	45
第15回	再確認と学習到達度の確認テスト	テキストにおける最初の部分を再確認したうえで、学習到達度を確認するための試験を行う。	テキストのA～N課と各練習問題の内容について復習すること。	45

学習計画注記 ※スケジュールは指定される教室により異なる。初回に大学生として身につけるべきことを確認する。

学生へのフィードバック方法 課題は予定していない。

評価方法

- ・平常点は、授業への参加、練習問題への取り組み状況等で総合的に評価する。
- ・遅刻は30分までは「遅刻扱い」とし、30分以上すぎた場合は入室は認めても「欠席扱い」とする。また、3回遅刻で1回欠席扱いとする。
- ・定期試験は、授業に係る学習範囲から出題し、レポート・論文の作成に関する基礎的なことを確認する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
定期試験	○			○

評価割合 平常点 (50%)、定期試験 (50%) で評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) 東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編 (2020) 『令和2年度 東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』東京家政学院大学 ※1回目の授業時に無料で配付する。

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連

- 【知識・理解】 レポートの書き方に関する豊かな知識を有している。
- 【関心・意欲・態度】 高い徳性をもって主体的に学ぶ姿勢を身につけている。
- 【技術・表現】 演習形式の具体的な作業で得た技術をもって大学教育に対応できる能力を身につけている。

オフィスアワー 金曜3限 1411研究室

学生へのメッセージ 準備学習として、各回の学習内容に対応するテキストの該当範囲を事前に読んだ上で授業に臨むことが望ましい。

教育等の取組み状況

該当有無	概要

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、大学教育に対応していくための基礎力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	レポートや論文の作成方法に関する教育を行う。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	リテラシー演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 真弓	指定なし

ナンバリング	X10000C12
授業概要(教育目的)	レポート・論文を作成する技術の習得を通して、大学教育に対応できる基礎力を育成することをめざす。演習形式で具体的な作業を経験しながら実践的に学ぶことを通じて、主体的な学びの姿勢を身につけさせるとともに、高校までとは質の異なる大学での教育へとスムーズに移行させる橋渡しの役目を担うこともはかる。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	レポートの書き方を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	主体的に学ぶ姿勢を身につけている。
技術・表現の観点 (A)	レポート・論文を作成する技術を習得し、大学教育に対応していくための基礎力を身につけている。

学習計画

リテラシー演習

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	A 書くということ	「書く」ということについて考え、目上の人へメールを書く際の注意点を学ぶ。	テキスト配付済みの場合は「A 書くということ」を、未配付の場合はオリエンテーション時の資料を読んでおくこと。	45
第2回	B 報告書とは何か	客観的な報告書の書き方を学ぶ。また、報告書としての形式やルールにそった書式に整えることも練習する。	「B 報告書とは何か」を読んでおくこと。	45
第3回	C レポートとは何か	レポートとは何かということについて考え、その条件をまとめてみる。また、レポート作成のためのステップを学ぶ。	「C レポートとは何か」を読んでおくこと。	45
第4回	D 報告書・レポートの表現	報告書・レポートに使われる表現について見ていく。	「D 報告書・レポートの表現」を読んでおくこと。	45
第5回	E レポート	レポートにおける文章の構成を考え、どういう情報をど	テキスト配付済みの場合は「E	45

	の構成	のような順序で並べるのかを見ていく。	レポートの構成」を、未配付の場合はオリエンテーション時の資料を読んでおくこと。	
第6回	F 本論の書き方	レポートの中心となる「本論」の書き方について詳しく学び、どのように論拠を作り上げていけばいいのか考えていく。	「F 本論の書き方」を読んでおくこと。	45
第7回	G テーマの設定	レポートのテーマを設定するポイントを確認し、大まかな設計図として「思考マップ」「構想マップ」を作る方法を学ぶ。	「G テーマの設定」を読んでおくこと。	45
第8回	H アウトラインの作り方	「構想マップ」をもとに、レポートの詳細な組み立てとなるアウトラインを作り上げていく手順について学ぶ。	「H アウトラインの作り方」を読んでおくこと。	45
第9回	I 文献の収集	レポートや卒業論文で使う文献の探し方、収集した文献の整理の仕方について学ぶ。	「I 文献の収集」を読んでおくこと。	45
第10回	J 引用のしかた	レポートや卒業論文における引用のしかたを理解し、どのように自分の主張を完成させていったらよいか学ぶ。	「J 引用のしかた」を読んでおくこと。	45
第11回	K 参考文献目録の書き方	基本的な参考文献目録の書き方のルールを学ぶ。	「K 参考文献目録の書き方」を読んでおくこと。	45
第12回	L 表・図の作成	表・図の効果的な使い方について学ぶ。	「L 表・図の作成」を読んでおくこと。	45
第13回	M 表・図からの読み取り	表・図からの読み取り、説明文の書き方について学ぶ。	「M 表・図からの読み取り」を読んでおくこと。	45
第14回	N 表・図を使った説明	表・図から読み取れる事項を分析し、自分のことばで説明する練習をする。	「N 表・図を使った説明」を読んでおくこと。	45
第15回	再確認と学習到達度の確認テスト	テキストにおける最初の部分を再確認したうえで、学習到達度を確認するための試験を行う。	テキストのA～N課と各練習問題の内容について復習すること。	45

学習計画注記	※スケジュールは指定される教室により異なる。初回に大学生として身につけるべきことを確認する。また、複数の教員によるオムニバス形式の授業となる。
--------	---

学生へのフィードバック方法	課題は予定していない。
---------------	-------------

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点は、授業への参加、練習問題への取り組み状況等で総合的に評価する。 ・遅刻は30分までは「遅刻扱い」とし、30分以上すぎた場合は入室は認めても「欠席扱い」とする。また、3回遅刻で1回欠席扱いとする。 ・定期試験は、授業に係る学習範囲から出題し、レポート・論文の作成に関する基礎的なことを確認する。
------	---

評価基準	
------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
定期試験	○			○

評価割合	平常点 (50%)、定期試験 (50%) で評価する。
------	-----------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編 (2020) 『令和2年度 東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』東京家政学院大学 ※1回目の授業時に無料で配付する。
-----------------	--

参考図書	なし
------	----

ディプロマポリシーとの関連	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・理解】 レポートの書き方に関する豊かな知識を有している。 【関心・意欲・態度】 高い徳性をもって主体的に学ぶ姿勢を身につけている。 【技術・表現】 演習形式の具体的な作業で得た技術をもって大学教育に対応できる能力を身につけている。
---------------	---

オフィスアワー	井上 眞弓 (千代田三番町キャンパス1807ゼミ室) 前期金曜日3限
---------	------------------------------------

学生へのメッセージ	この科目を受講することにより大学における授業の特長を理解し、社会人にとっても必須である文章作成能力や情報収集能力を高めてみましょう。
-----------	--

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、大学教育に対応していくための基礎力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	レポートや論文の作成方法に関する教育を行う。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	海外研修（英語研修）		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 畝部 典子	指定なし

ナンバリング	X13800M23
授業概要(教育目的)	令和2年度の海外研修（英語研修）では、8月24日出国、9月7日帰国の予定でカナダブリティッシュ・コロンビア州の州都ビクトリアにあるロイヤルローズ大学で2週間の英語研修を行う。宿泊はホームステイとする。研修前には事前授業が行われ、サバイバル・イングリッシュや日常役に立つ英語の練習の他、研修地の文化などを学ぶ。研修後（帰国後）はレポート提出が課せられる。
履修条件	なし
学習目標(到達目標)	
学習目標（到達目標）	
知識・理解の観点 (K)	英語及び異文化について知識や情報を収集し、英語及び異文化について理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	異文化の生活や異文化の人々の考え方を理解し、自分はどのように行動すべきかの確に判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的に英語及び異文化について理解し、文化相対主義の考え方を身につけることができる。
技術・表現の観点 (A)	異文化の習慣や考え方を尊重し、異文化において適切に行動できる。

学習計画

海外研修（英語研修）

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	事前授業	カナダでの英語研修に関する事前授業を4時限行う。	文献やインターネット等でカナダ及びホームステイに必要な日常英会話について学習しておく。	60分
第2回	事前ガイダンス	カナダでの英語研修に関する事前ガイダンスを2時限行う。	研修に必要な情報を確認する。	60分
第3回	研修1日目	ビクトリア空港に到着、ロイヤルローズ大学でオリエンテーションを行う。	カナダ及びホームステイに必要な日常英会話について復習しておく。	60分
第4回	研修2日目	ロイヤルローズ大学でESLレッスン、キャンパスツアー	学習した内容を復習する。	60分
第5回	研修3日目	ロイヤルローズ大学でESLレッスン、ビクトリア市内見学	学習した内容を復習する。	60分

第6回	研修4日目	ロイヤルローズ大学でESLレッスン、カナディアンパティ与交流	学習した内容を復習する。	60分
第7回	研修5日目	ロイヤルローズ大学でESLレッスン、ブッチャートガーデン見学	学習した内容を復習する。	60分
第8回	研修6日目	ホストファミリーとの交流	学習した内容を復習する。	60分
第9回	研修7日目	ホストファミリーとの交流	学習した内容を復習する。	60分
第10回	研修8日目	ロイヤルローズ大学でESLレッスン、RBC博物館及び州議事堂見学	学習した内容を復習する。	60分
第11回	研修9日目	ロイヤルローズ大学でESLレッスン、福祉施設等訪問	学習した内容を復習する。	60分
第12回	研修10日目	ロイヤルローズ大学でESLレッスン、福祉施設等見学	学習した内容を復習する。	60分
第13回	研修11日目	ロイヤルローズ大学でESLレッスン、クレイダーロック城及びガバメントハウス見学	学習した内容を復習する。	60分
第14回	研修12日目	ロイヤルローズ大学でESLレッスン、オーラルプレゼンテーション	学習した内容を復習する。	60分
第15回	研修13日目	ホストファミリーとの交流	学習した内容を復習する。	60分
第16回	研修14日目	バンクーバー経由で帰国	学習した内容を復習する。	60分

学生へのフィードバック方法 ロイヤルローズ大学での研修、ホームステイにより体験的にフィードバックできる。

評価方法 事前授業・事前ガイダンスへの出席、研修における主体的参加とロイヤルローズ大学からの成績、帰国後のレポート提出により総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
事前授業・事前ガイダンス	○	○	○	○
海外研修への主体的参加	○	○	○	○
ロイヤルローズ大学からの評価	○	○	○	○
レポートの提出	○	○	○	○

評価割合 事前授業・事前ガイダンスへの出席20%、研修における主体的参加とロイヤルローズ大学からの成績40%、帰国後のレポート提出40%により総合的に評価する。

ディプロマポリシーとの関連
【知識・理解】 【思考・判断】 異文化、英語について学び、人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる。
【関心・意欲・態度】 異文化理解を通じて社会を構成する一員として、高い徳性をもって人々のために働くことができる。
【技能・表現】 異文化の人々と意見を交換するための言語運用技能をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・統合し、表現することで他者との共感を創り出すことができる。

学生へのメッセージ 異文化を理解することで自分の所属する文化の本質がわかることがあります。海外研修というチャンスを、自分自身を客観的に考えるきっかけにしましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	異文化における研修、異文化の人々との交流を通じて日本文化と異文化を体験的に理解する。
情報リテラシー教育	○	情報蒐集、情報整理、情報発信の方法を学ぶ。
ICT活用		

シラバス参照

講義名	英会話集中講座		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ マーク ルイス	指定なし

ナンバリング	X13840M12
授業概要 (教育目的)	This three day intensive English course allows students to practice conversational English to gain confidence and ability. The goal of this class is to improve student fluency of English through practical situation role-playing, memorization, language games, and writing activities.
履修条件	None

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	Students will gain knowledge of basic English Conversation patterns.
思考・判断の観点 (K)	Students will develop critical thinking skills to describe their feelings and to understand the perspective of others.
関心・意欲・態度の観点 (V)	Students will become active learners of English and will desire to learn more.
技術・表現の観点 (A)	Students will learn techniques to express their feelings more easily in English, and will become more at ease when speaking with others.

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	Introduction	Meet the teacher and make name cards and meet first speaking partner with handout #1.	Students should prepare by reading handout #1: introduction, family members, work: Do you like music? Can you play an instrument?	60
第2回	Names and greetings; How to do a song presentation	Nice to meet you games and activities, such as Wink First, and Remember Names Circle. Group 1 song presentation.		
第3回	Movie	Watch a movie in English after dinner and bath. Titles to choose from include: Fantastic Beasts and Where to Find them; Remember Me, and other popular movies.		
第4回	Family	Handout #2 with new partner. Group 2 song presentation.	Students should prepare by reading handout #2: What's your favorite family restaurant? How come? How often do you watch movies?	60
第5回	Interesting Questions and class survey	Students conduct a class survey and find out what is particularly interesting about a randomly chosen classmate.		

第6回	Eye Contact	This activity shows students how to give a presentation in a professional way, concentrating on making eye contact with everyone in the audience.		
第7回	Haiku Competition	Students create a haiku based on seasons, activities, and feelings. Most liked haiku (by votes) gets a prize.		
第8回	Talk about your character	Handout #3 with new partner. Group 3 song presentation.	Students should prepare by reading handout #3: Are you quiet or talkative? Shy or outgoing? Messy or neat? Do you like to play sports?	60
第9回	Listen up!	Double dictation and disappearing dialog games.		
第10回	Food	Handout #4 with a new partner. Group 4 song presentation.	Students should prepare by reading handout #4: What kind of food do you like? What's your favorite restaurant? Do you like to eat out?	60
第11回	Money Talks	This fun activity helps students practice numbers, big and small in a fun race to finish activity.		
第12回	Your star sign	Handout #5 with a new partner. Group 5 song presentation. Dinner then bath, movie.	Students should prepare by reading handout #5: What kind of work do you want to do in the future? Where do you want to work?	60
第13回	Steven meets a bully. What should he do?	Create a consistent narrative in English based upon a list of scrambled sentences and phrases.		
第14回	Fun final activities	How romantic are you game; Group 6 song presentation.		
第15回	Final Interview/Conversation	Students conduct a short interview with their partner to see how comfortable they are using English. Interview topics may cover the five conversations from the five camp handouts.	Review all five camp handouts to compose a natural English conversation interview with a partner.	60

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	Students receive feedback from in-class activities such as presentations and games, and final speaking interview.				
評価方法	Students must participate for all hours that the camp is held in order to receive credit. Students must also take part actively in all speaking activities and games, and all writing activities, be prepared to share their thoughts and ideas in English with others.				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	Participation	○	○	○	○
	Writing	○	○	○	○
	Final interview	○	○	○	○
評価割合	Participation 60%; Writing activities 20%; Final Interview 20%				
使用教科書名 (ISBN番号)	none				
参考図書	A Japanese -English dictionary				
ディプロマポリシーとの関連	Ability to use English in a fluent and confident manner.				
オフィスアワー	Chiyoda Campus: Thursday, 13:00-14:00; Machida Campus: Wednesday, 9-10.				
学生へのメッセージ	Please relax and enjoy English music, movies, games, and activities as much as possible				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング	○	Students talk to each other			

情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	地域貢献活動		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大嶋 徹	指定なし

ナンバリング	X13870M12
授業概要(教育目的)	国内外を問わず、学内の授業以外で行われたボランティア活動を通じて、当該地域に貢献した活動から自分を見直すこと。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	社会福祉協議会や社会福祉法人などの情報をよく理解する必要がある。
思考・判断の観点 (K)	いつからどれくらいの期間でボランティア活動を実施できるか決定し計画しておく必要がある。
関心・意欲・態度の観点 (V)	どのような人々を援助したいのか。自分の気持ちを整理してボランティア先を決定すること。
技術・表現の観点 (A)	自分ができるボランティアは何か。自分が貢献できるスキルを自覚していること。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	調査票、実習証明書用紙配布と実習の心構え、安全対策、保険加入などについて説明する。	自分にはどのようなボランティアが適しているか調査すること。	45
第2回	事前指導	ボランティアの内容、場所等について相談すること。	いつどこでボランティアを実施するのか。あらかじめ計画しておくこと。	45
第3回	実習先の選定	社会福祉協議会や社団法人について関連する団体を紹介する。	どのようなボランティアがあるか調査すること。	45
第4回	実習先の決定	期間・期日をマッチさせボランティア先を決定し計画を立てること。	ボランティア先が決定したら滞在期間、交通、自分の生活基盤を確認すること。	45
第5回	ボランティア保険加入	依頼状が必要かどうか実習先に確認する。ボランティア保険に加入する。	ボランティア保険について調査すること。	45
第6回	ボランティアの実施	ボランティア先と連絡調整の上ボランティア活動に参加する。	ボランティア先と自分の居住地の交通を確認すること。	45
第7回	記録する	ボランティア活動に参加して何を自覚したか記録・メモすること。	メモ用紙、筆記用具を準備し携帯する。	45

第8回	「地域貢献活動」記録カード	活動終了時まで「地域貢献活動」記録カードへ実習担当者に捺印してもらう。	ボランティア先の代表者にあらかじめ書類にサイン・または捺印してもらうことを依頼しておくこと。	45
第9回	「地域貢献活動」レポート	活動中にメモしたことがらをもとに「地域貢献活動」レポートとして作成する。	レポート作成の手順を確認しておくこと。	45
第10回	終了報告	「地域貢献活動」記録カードとレポートをもとに大嶋に報告すること。	ネットや電話を利用してボランティア活動のはじめと終了を大嶋まで報告すること。	45
第11回	事後指導	ボランティア活動の報告に基づいてアドバイスする。	報告内容を簡潔にまとめておくこと。	45
第12回	書類の提出	「地域貢献活動」記録カードとレポートを後期試験期間中に提出する。	提出場所と提出期限を確認すること。	45

学習計画注記 ボランティア活動を経験してもらいたい。

学生へのフィードバック方法 事前指導・事後指導による。

評価方法 オリエンテーション・説明会などの出席20%、実習後のレポート提出30%、実習証明書の提出30%、事前指導・事後指導の連絡調整能力20%で総合的に判定する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
レポート			○	

評価割合 オリエンテーション・説明会などの態度20%、実習後のレポート提出30%、実習証明書の提出30%、事前指導・事後指導の連絡調整能力20%で総合的に判定する。

ディプロマポリシーとの関連 社会参加として、学生が社会と接する重要な手段としてボランティア活動を考えるとき、学生には予想以上の収穫がある。自分はどう見られているのか。自分にできることは何かを現場で直接求められるからである。学生にとって重要な社会貢献である。

オフィスアワー 金曜4限

学生へのメッセージ ボランティアセンターや地域のことにもふれてみよう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		これまでの地域貢献活動実践。
アクティブ・ラーニング	○	ボランティア先の現場でさまざまな経験ができること。協力者とともにネットワークをつくることもできる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	Basic English 1(月2)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大和田 寛	指定なし

ナンバリング	X13610M12
授業概要(教育目的)	発信型英語能力獲得のため高校までに学んだ英語の復習と定着をはかり、大学で幅広く専門知識を獲得するために必要な英語基礎力を身に付けることを目標とする。文法、語彙、発音、語法などの理解と習得を軸として、語の四技能(読む、書く、話す、聞く)の言語活動を有機的に連携させる。授業では平易な英語からはじめ、に対する心理的抵抗を取り除いた上で英文内容把握のテクニックと基礎的な英語表現力を学習する。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点(K)	TOEIC受験対策教材を使用して、日常生活で出会う英語の様々なことを知る。
思考・判断の観点(K)	日常生活で使われる英語が正しいものであるかが判断し易くなる。
関心・意欲・態度の観点(V)	TOEIC受験に向けてその意欲を高める。
技術・表現の観点(A)	TOEICでの高得点獲得を目指すと同時に、日常生活で英語をスムーズに使えるようにする。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	Chapter 1 Shopping	1. ショッピング関連の語彙学習(本章の内容の予備学習) 2. ショッピング関連のリスニング演習(写真描写問題、会話問題)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第2回	1. Chapter 1 Shopping(続) 2. Chapter 2 At a Restaurant	1. ショッピング関連のリスニング学習(ショートトーク問題) 2. レストラン関連の語彙学習(本章の予備学習) 3. レストラン関連の文法学習(名詞の修飾) 3. レストラン関連のリーディング学習(客からの苦情の手紙、それへの対応の返事)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第3回	Chapter 3 Transportaion	1. 交通手段関連の語彙学習(本章の内容の予備学習) 2. 交通手段関連のリスニング演習(写真描写問題、会話問題)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第4回	1. Chapter 3 Transportaion(続) 2. Chapter 4 Entertainment	1. 交通手段関連のリスニング演習(ショートトーク問題) 2. 娯楽関連の語彙学習(本章の予備学習) 3. 娯楽関連の文法学習(知覚動詞、使役動詞)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第5回	Chapter 4 Entertainment(続)	娯楽関連のリーディング学習(カードマジックについて、社内旅行企画への問い合わせ)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分

			こと。	
第6回	Chapter 5 Accomodation	1. ホテル関連の語彙学習（本章の内容の予備学習） 2. ホテル関連のリスニング演習（写真描写問題、会話問題）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第7回	1. Chapter 5 Accomodation（続） 2. Chapter 6 Employment	1. ホテル関連のリスニング演習（ショートトーク） 2. 就職活動関連の語彙学習（本章の内容の予備学習） 3. 就職活動関連の文法学習（助動詞）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第8回	Chapter 6 Employment（続）	就職活動関連のリーディング学習（企業が求める人材について、求人広告）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第9回	Chapter 7 Communication	1. コミュニケーション関連の語彙学習（本章の予備学習） 2. コミュニケーション関連のリスニング演習（写真説明問題、会話問題）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第10回	1. Chapter 7 Communication（続） 2. Chapter 8 Negotiating	1. コミュニケーション関連のリスニング演習（ショートトーク問題） 2. 商業交渉関連の語彙学習（本章の予備学習） 3. 商業交渉関連の文法学習（完了、受動態）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第11回	Chapter 8 Negotiating（続）	商業交渉関連のリーディング学習（契約について、商業広告）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第12回	Chapter 9 Giving a Presentation	1. プレゼン関連の語彙学習（本章の予備学習） 2. プレゼン関連のリスニング演習（写真説明問題、会話問題）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第13回	1. Chapter 9 Giving a Presentation（続） 2. Chapter 10 Appointments	1. プレゼン関連のリスニング演習（ショートトーク問題） 2. 面会の約束関連の語彙学習（本章の予備学習） 3. 面会の約束関連の文法学習	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第14回	Chapter 10 Appointments（続）	面会の約束関連のリーディング学習（約束を取る、約束を代わってもらう）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第15回	Chapter 11 Public Facilities	1. 公共施設関連の語彙学習（本章の予備学習） 2. 公共施設関連の文法学習（仮定法）	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第16回				

学生へのフィードバック方法	授業毎回の小テストは採点してその次回の授業で返却する。
評価方法	毎回の小テストは、前回の授業で重要として指摘されたことの中から当日5問を選んで出題する（5点満点）。15回目の授業分の小テストはその時間中に行う。欠席、遅刻で受験できなかった場合は学生の申し出により追テストを行う。申し出がなければその分は0点として合算する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○		○
定期試験	○	○		○

評価割合	小テストの合計100%
使用教科書名 (ISBN番号)	Beat Your Best Score on the ToEIC L & R Test (松柏社、2019) 978-4-88198-745-2
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】国際人として活躍できるような英語力を養う。 【関心・意欲・態度】どの国の人相手でも分け隔てなく関わることができるような心構えを養う。 【技能・表現】実際に英語で読む、聞く、話す、書く力を養う。
オフィスアワー	月昼休み、水2時間目、4時間目
学生へのメッセージ	ToEIC受験に役立つだけでなく、実用英語全般の勉強になります。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	Basic English 1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 畝部 典子	指定なし

ナンバリング	X13612M12
授業概要(教育目的)	本授業では、英語四技能のうち「読む、書く、聞く」について重点的に学び、日常生活で求められる英語力を身につける。英語の基本を身につけ、英語で自分の考えを発信できるようになることを目指す。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	発信に必要な基本的な英語力を習得する。
思考・判断の観点 (K)	日本語と英語の文法や文章の作り方の違いを理解する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語を使って積極的に自分の考えを発信できる。
技術・表現の観点 (A)	基本的な英語文法を利用して自分の考えを表現できる。

学習計画

Basic English 1

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション：日本語と英語の違い	日本語と英語の違いを語族、文法構造、音韻などの観点から理解する。	授業中に配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第2回	英語の品詞と文の主要素	英語の品詞と文の主要素について学習する。	授業で学んだこと、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第3回	英語の動詞の使い方(1)	英語の動詞の使い方について学習する。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。教科書Unit 1、2を学習する。	120分
第4回	英語の動詞の使い方(2)	英語の動詞の使い方について学習する。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。教科書Unit 3、4を学習する。	120分

第5回	英語の代名詞と数詞 (1)	英語の代名詞と数詞について学習する。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。教科書Unit5、6を学習する。	120分
第6回	英語の代名詞と数詞 (2)と前半のまとめ	英語の代名詞と数詞について学習する。前期前半に学習した内容を復習する。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。教科書Unit7、8を学習する。	120分
第7回	中間試験と解説	前期前半に学んだ内容について中間試験を行い、学習内容を復習する。	前期前半の授業で学んだことを復習する。	120分
第8回	英語の前置詞と接続詞 (1)	英語の前置詞と接続詞について学習する。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。教科書Unit9を学習する。	120分
第9回	英語の前置詞と接続詞 (2)	英語の前置詞と接続詞について学習する。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。教科書Unit10を学習する。	120分
第10回	英語の助動詞と完了形 (1)	英語の助動詞および完了形について学習する。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。教科書Unit 11を学習する。	120分
第11回	英語の助動詞と完了形 (2)	英語の助動詞と完了形について学習する。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。教科書Unit 12を学習する。	120分
第12回	英語の関係代名詞と命令文 (1)	英語の関係代名詞と命令文について学習する。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。教科書Unit 13を学習する。	120分
第13回	英語の関係代名詞と命令文 (2)	英語の関係代名詞と命令文について学習する。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。教科書Unit 14を学習する。	120分
第14回	英語の関係副詞、前期後半のまとめ	英語の関係副詞について学習する。前期後半に学習した内容の復習をする。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。教科書Unit 15、16を学習する。	120分
第15回	復習と期末試験	前期後半に学んだ内容について復習し、期末試験を行う。	前期後半の授業で学んだことを復習する。	120分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法 中間試験は採点基準を明らかにして学生に返却する。期末試験は後期Basic English 2初回に採点基準を明らかにして返却する。

評価方法

- ・評価は、中間試験40%、期末試験40%、平常点20%（授業中の実績、小テストの結果を含む）により判定する。
- ・随時小テストを実施し、授業中の実績の一部とする。
- ・授業中の取り組み、思考、発表などを総合して授業中の実績とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間試験	○	○		○
期末試験	○	○		○
平常点	○	○	○	○

評価割合 中間試験40%、期末試験40%、平常点20%で評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) English Here and There 読解と基本文法で極める総合英語 Terry O'Brien 他 (南雲堂) 978-4-523-17907-8

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】 【思考・判断】 人間社会の多様性を外国語の知識と深い思考によって理解し、状況を的確に判断

	して提案できる。 【関心・意欲・態度】積極的に外国語でコミュニケーションを図り、社会の構成員として徳性をもって人々のために働くことができる。 【技能・表現】学修で得た英語技能をもって自分の考えを表現し、他者との共感を創り出すことができる。	
オフィスアワー	木曜2時限 1630研究室	
学生へのメッセージ	学んだ表現や知識は、ことばとして「使う」ことが大切です。まずは自分の考えを相手に伝える努力をしましょう。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業は学生が自分で考え、それを表現し、能動的に授業に参加することで進められる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	Basic English 1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 大穀 郁子	指定なし

ナンバリング	X13611M12
授業概要(教育目的)	①イギリスの観光名所を巡って旅をするという設定のもとに書かれたテキストを使用しながら、基礎的で実用的な英語を習得することを目的とする。 ②英語圏の文化に関する視聴覚資料（主としてイギリスの児童文学関連）や原文に触れながら、欧米文化についての知識を深めてほしい。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	英語圏の文化一般に特有の価値観についての理解を深めることができる。
思考・判断の観点 (K)	英語圏の歴史的・文化的背景や価値観を知ることによって複眼的に思考し判断する態度を養う。
関心・意欲・態度の観点 (V)	異なる他者を尊重し複眼的に理解する態度を養う。
技術・表現の観点 (A)	異なる他者を受容しつつ発信する英語コミュニケーション能力を涵養する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション テキスト第1課 ロンドン: 国会議事堂	議事堂のビッグベンはロンドンのシンボル。	初回は授業の進め方について説明しながらその場で問題を解くので、予習の必要はありません。	0分
第2回	第1課 ロンドン	ビッグベンの歴史、ダウニング街10番地、イギリスの首相たち、他。 <文法>原級比較、他。 ・アニメ「ピーターラビットのお話」	テキストp6-7を読解して問題に解答すること。 (以降、毎回同様に準備すること)	60分
第3回	第2課 ロンドン: 騎馬衛兵	小鳥やリスがいる公園、そして馬もいっぱい！ バッキンガム宮殿の近衛兵、緑いっぱいのハイドパーク、他。 <文法>so~that構文、他。 ・アニメ「ピーターラビットのお話」	テキストp8-9	60分

第4回	第3課 ロンドン：ペーカー街	探偵依頼はシャーロックホームズまで。 ロンドン名所のホームズ博物館、作者コナン・ドイル、ハリー・ポッターを乗せたホグワーツ特急はキングズクロス駅から出発する。 ＜文法＞分数の読み方、他。 ・ピーターラビットの生みの親ビアトリクス・ポターの伝記映画「ミス・ポター」	p10-11	60分
第5回	第4課 ロンドン：ビクトリア&アルバート	深い愛情で結ばれたビクトリア女王夫妻。イギリスが繁栄を極めたビクトリア朝、ロイヤルアルバートホール。現女王エリザベス2世一家の話。 ＜文法＞前置詞 as のさまざまな用法 ・映画「ミス・ポター」 ・ピーターラビット原文読解	p12-13+ピーターラビット原文プリント（読解しておくこと）	80分
第6回	第5課 宮殿	衛兵交代はバッキンガム宮殿やウインザー城で。 ＜文法＞過去分詞の形容詞用法 ・映画「ミス・ポター」 ・ピーターラビット原文読解	p14-15+プリント	80分
第7回	第6課 ブライトン	海のリゾート地でのんびり休暇を！ ブライトンの歴史、イギリスの郵便局、他。 ＜文法＞同格表現、先行詞と関係詞が離れている場合について。 ・映画「ミス・ポター」 ・ピーターラビット原文読解 中間テスト前のまとめ	p16-17+プリント	80分
第8回	中間テスト	中間テスト ・映画「ミス・ポター」 ・「作者ポターとビクトリア朝社会」	第1課-第6課+ピーターラビット原文読解プリントを範囲として、中間テストを実施するので復習しておくこと。	240分
第9回	第7課 ストーンヘンジ	ミステリアスな人気スポット。ストーンヘンジはいつ、だれが、何のために作ったのか？ イギリスの新聞の販売方法、他。 ＜文法＞some~, others..., 他。 ・映画「ブラダを着た悪魔」	p18-19	60分
第10回	第8課 オックスブリッジ	2つの大学は長年のライバル。ヨーロッパの大学の歴史、他。 ＜文法＞ A such as B、他。 ・映画「ブラダを着た悪魔」	p20-21	60分
第11回	第9課 ストラットフォード・アポン・エイヴォン	シェイクスピアの生まれ故郷、でも他にも見どころはいっぱい。 ＜文法＞ 先行詞を含む関係副詞、不定詞の形容詞用法、must have+過去分詞、他。 ・映画「ブラダを着た悪魔」	p22-23	60分
第12回	第10課 ロビン・フッド	イギリス最古の森シャーウッドに住むロビン・フッドは今でも大人気。 ＜文法＞仮目的語、他。 ・映画「ブラダを着た悪魔」	p24-25	60分
第13回	第10課 ロビン・フッド	ロビンとゆかいな仲間たち、イギリスのゴミ箱事情。 ＜文法＞「～してもらう」のhave、他。 ・映画「ブラダを着た悪魔」	p24-25	60分
第14回	第11課 リンカーン	大聖堂と城、美しい街の光と闇。夜の古城に出没する幽霊たち？！ ＜文法＞受動態の構文、他。 ・映画の脚本を読んでみよう！	p26-27 「ブラダを着た悪魔」の脚本のプリント（読解しておくこと）	80分
第15回	第11課 リンカーン	リンカーン大聖堂の歴史。 ・「ブラダを着た悪魔」と20世紀欧米ファッション史 ・定期試験前のまとめ	p26-27	60分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。詳細は教室で指示します。
学生へのフィードバック方法	実施した中間テストは、採点して、次週の授業にて返却します。模範解答も配布するので、よく復習してください。中間テストは復習テストであると同時に定期試験対策という側面もあるので、勉強法や勉強量などの反省点を定期試験対策に生かしてください。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・中間テストは前期前半の学習範囲から出題する。問題数は40問で40点満点。 ・定期試験は前期後半の学習範囲から出題する。問題数は50問で50点満点。 ・中間テストと定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。 ・平常点の取り扱いについては初回の授業で説明します。
評価基準	
評価基準	

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間テスト	○			○
定期試験	○			○

評価割合	中間試験 40%、定期試験 50%、平常点 10% で評価します。
使用教科書名 (ISBN番号)	Looking Around England <Revised Edition> 「写真で見るイギリス・リスニングの旅<改訂新版>」 Terry O'Brien 他 著 南雲堂
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】異なる文化圏の歴史、文化、社会、生活習慣に関する知識をもって、より広い視野から物事を考える基礎を培う。 【技術・表現】学修で得たグローバルな知識や情報にもとづいて発信する英語コミュニケーション能力の基礎を培う。
学生へのメッセージ	世界の中にある日本、世界とともに歩む日本、そのようなことを常に意識しながら共に英語を学んでいきましょう。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	Basic English 1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田中 愛	指定なし

ナンバリング	X13612C12
授業概要(教育目的)	この授業では、コミュニケーション能力を高めるため、その土台となる英文法、構文を基礎から学び直す。基本的な仕組みを理解し、得た知識で英文理解や英作文の応用へとつなげることを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	基礎的な英文法を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語に対する苦手意識を解消し、英語学習に前向きに取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	前期授業ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価、テキスト、授業の進め方 予習、復習について説明 品詞について説明 	第1回授業の予習 ・特になし 第1回授業の復習 ・品詞について見直すこと	60分
第2回	Unit1 Who Is Pepper? 「現在形」	<ul style="list-style-type: none"> Grammar Basicsの解説 Grammar Practice Tune-Up Reading & Grammar Hunt! 	第2回授業の予習 ・Words to Picturesを解く 第2回授業の復習 ・Grammar Basicsの見直し ・配布プリント(復習問題)を解く →次週の授業時に答え合わせ	120分
第3回	Unit1 Who Is Pepper? 「現在形」	<ul style="list-style-type: none"> 宿題の答え合わせ&解説 Enjoy Readingの和訳および要約 Word Collector 	第3回授業の予習 ・Prepare to Readを解く 第3回授業の復習	120分

			・配布プリント（復習問題）を解く 一次週の授業時に答え合わせ	
第4回	Unit2 What's It Like to Be a Self-Sufficient Family? 「代名詞」	・宿題の答え合わせ ・Unit1のReview Quiz ・Grammar Basicsの解説 ・Tune-Up Reading & Grammar Hunt! ・Word Collector	第4回授業の予習 ・Words to Picturesを解く 第4回授業の復習 ・Prepare to Readを解く ・Enjoy Reading	120分
第5回	Unit2 & Unit3 Why Did Starbucks Become a Hit in Japan? 「過去形」	・宿題の答え合わせ ・Unit2のReview Quiz ・Unit3 Grammar Basicsの解説 過去形（規則変化、不規則変化の復習） ・Tune-Up Reading & Grammar Hunt! ・Grammar Practice	第5回授業の予習 ・Words to Picturesを解く 第5回授業の復習 ・Grammar Basicsの見直し ・配布プリント（復習問題）を解く 一次週の授業時に答え合わせ	120分
第6回	Unit3 Why Did Starbucks Become a Hit in Japan? 「過去形」	・宿題の答え合わせ&解説 ・Enjoy Readingの和訳および要約 ・Word Collector ・Unit3のReview Quiz	第6回授業の予習 ・Prepare to Readを解く 第6回授業の復習 ・配布プリント（復習問題）を解く 一次週の授業時に答え合わせ	120分
第7回	Unit4 How Do Americans Celebrate Halloween? 「可算名詞・不可算名詞」	・宿題の答え合わせ ・Grammar Basicsの解説 ・Tune-Up Reading & Grammar Hunt! ・Grammar Practice	第7回授業の予習 ・Words to Picturesを解く 第7回授業の復習 ・配布プリント（復習問題）を解く 一次週の授業時に答え合わせ	120分
第8回	Unit4 How Do Americans Celebrate Halloween? 「可算名詞・不可算名詞」	・宿題の答え合わせ ・Enjoy Readingおよび要約 ・Word Collector ・Unit4のReview Quiz	第8回授業の予習 ・Prepare to Readを解く 第8回授業の復習 ・配布プリント（復習問題）を解く 一次週の授業時に答え合わせ	120分
第9回	Unit5 Do You Want to Travel Back in Time to a Roman Thermae? 「時と場所を表わす前置詞」	・宿題の答え合わせ ・Grammar Basicsの解説 ・Tune-Up Reading & Grammar Hunt! ・Grammar Practice	第9回授業の予習 ・Words to Picturesを解く 第9回授業の復習 ・配布プリント（復習問題）を解く 一次週の授業時に答え合わせ	120分
第10回	Unit5 Do You Want to Travel Back in Time to a Roman Thermae? 「時と場所を表わす前置詞」	・宿題の答え合わせ ・Enjoy Readingおよび要約 ・Word Collector ・Unit5のReview Quiz	第10回授業の予習 ・Prepare to Readを解く 第10回授業の復習 ・配布プリント（復習問題）を解く 一次週の授業時に答え合わせ	120分
第11回	Unit6 Are You Going Cashless? 「進行形」	・Grammar Basicsの解説 ・Tune-Up Reading & Grammar Hunt! ・Grammar Practice ・Word Collector	第11回授業の予習 ・Words to Picturesを解く 第11回授業の復習 ・Prepare to Read & Enjoy Readingを解く	120分
第12回	DVD鑑賞	・セリフの書き取りなど	第12回授業の予習 ・授業時に指示 第12回授業の復習 ・Prepare to Read & Enjoy Readingの見直し	120分
第13回	Unit7 Why	・宿題の答え合わせ	第13回授業の予習	180分

	Are Marathons 42.195 Kilometers Long? 「疑問詞」	<ul style="list-style-type: none"> Unit6のReview Quiz Grammar Basicsの解説 Tune-Up Reading & Grammar Hunt! Grammar Practice 	<ul style="list-style-type: none"> Words to Picturesを解く 	
第14回	Unit7 Why Are Marathons 42.195 Kilometers Long? 「疑問詞」	<ul style="list-style-type: none"> 宿題の答え合わせ Enjoy Readingおよび要約 Word Collector Unit7のReview Quiz 	<ul style="list-style-type: none"> 第13回授業の復習 配布プリント（復習問題）を解く 一次週の授業時に答え合わせ 	240分
第15回	まとめと学習到達度の確認テスト	これまでの授業についてのまとめを行い、授業内で学修の到達度を確認するためのテストを実施	<ul style="list-style-type: none"> 第14回授業の予習 Prepare to Readを解く 	180分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールに変更が生じることもある。

学生へのフィードバック方法 実施した小テストは、基本的にその場で答え合わせ及び解説を行い、回収。次週の授業時に返却。

評価方法

- 小テストは授業内容の復習と位置づけ、実施する。（小テストに関する追再試験は行わない）
- 定期試験は、前期授業内容を中心として出題する。
- 小テスト及び定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト・定期試験	○	○		
平常点			○	
その他	○		○	

評価割合 小テスト・試験 65%
平常点（学習意欲、履修態度など） 20%
その他（任意課題などの提出状況など） 15%

使用教科書名 (ISBN番号) Reading Link 基本文法で学ぶ大学英語リーディング（金星堂）¥2,000（税抜）
ISBN 978-4-7647-4100-3

参考図書 必要に応じて授業時に紹介します。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】英語の基本的な運用能力（読む、話す、書く、聞く）がある。
【技術・表現】平易な英文で、身近な話題を表現する能力がある。

学生へのメッセージ 授業の進行状況によりますが、リスニング強化の一環として、海外ドラマの鑑賞を行うこともあります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	テキスト外の資料を用いて、英文解釈のためにグループ・ワークを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	Basic English 1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大和田 寛	指定なし

ナンバリング	X13610C12
授業概要(教育目的)	発信型英語能力獲得のため高校までに学んだ英語の復習と定着をはかり、大学で幅広く専門知識を獲得するために必要な英語基礎力を身に付けることを目標とする。文法、語彙、発音、語法などの理解と習得を軸として英語の四技能(読む、書く、話す、聞く)の言語活動を有機的に連携させる。授業では平易な英語からはじめ、語に対する心理的抵抗を取り除いた上で英文内容把握のテクニックと基礎的な英語表現力を学習する。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	TOEIC受験対策教材を使用して、日常生活で出会う英語の様々を知る。
思考・判断の観点 (K)	日常生活の場面場面での英語が正しいものであるかが判断し易くなる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	TOEIC受験に向けてその意欲と自信を高める。
技術・表現の観点 (A)	TOEICでの高得点を目指すだけでなく、日常生活で英語をスムーズに使えるようにする。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	1. Mission 1 Shopping	1. ショッピング関連の語彙学習(本章で学ぶ内容の予備学習) 2. ショッピング関連のリスニング演習(写真描写問題、会話問題)	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に付けておくこと。	60分
第2回	2. Mission 1 Shopping(続) Mission 2 At a Restaurant	1. ショッピング関連のリスニング演習(ショートトーク問題) 2. レストラン関連の語彙学習(本章の内容の予備学習) 3. レストラン関連の文法学習(名詞の修飾)	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に付けておくこと。	60分
第3回	3. Mission 2 At a Restaurant(続)	レストラン関連のリーディング学習(ファストフードの抱える問題点、チップの適正額)	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に付けておくこと。	60分
第4回	4. Mission 3 At an Airport	1. 飛行場関連の語彙学習(本章の予備学習) 2. 飛行場関連のリスニング演習(写真説明問題、会話問題)	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に付けておくこと。	60分
第5回	5. Mission 3 At an Airport(続) Mission 4 Entertainment	1. 飛行場関連のリスニング演習(ショートトーク問題) 2. 娯楽関連の語彙学習(本章の予備学習) 3. 娯楽関連の文法学習(動詞の変化)	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に付けておくこと。	60分
第6回	6. Mission 4	娯楽関連のリーディング学習(自宅でのディナーパーティー)	授業中で重要として指摘された	60分

	Entertainment (続)	イーで考慮すること、パーティーへの招待状、パーティーに参加した後の礼状)	ことは復習して身に付けておくこと。	
第7回	7. Mission 5 At a Hotel	1. ホテル関連の語彙学習 (本章の予備学習) 2. ホテル関連のリスニング演習 (写真描写問題、会話問題)	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に付けておくこと。	60分
第8回	8. Mission 5 At a Hotel (続) Mission 6 Job Hunting	1. ホテル関連のリスニング演習 (ショートトーク問題) 2. 就職活動関連の語彙学習 (本章の予備学習) 3. 就職活動関連の文法学習 (助動詞)	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に付けておくこと。	60分
第9回	9. Mission 6 就職活動 (続)	就職活動関連のリーディング学習 (就職状況、面接試験受験のために知っておくこと)	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に付けておくこと。	60分
第10回	10. Mission 7 Telephoning	1. 電話関連の語彙学習 (本章の内容の予備学習) 2. 電話関連のリスニング演習 (写真説明問題、会話問題)	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に付けておくこと。	60分
第11回	11. Mission 7 Telephoning (続) Mission 8 Negotiating	1. 電話関連のリスニング演習 (ショートトーク問題) 2. 商業交渉関連の語彙学習 (本章の予備学習)	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に付けておくこと。	60分
第12回	12. Mission 8 Negotiating (続)	1. 商業交渉関連の文法学習 2. 商業交渉関連のリーディング学習 (代金の交渉、電気器具の仕様書)	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に付けておくこと。	60分
第13回	13. Mission 9 Giving a Presentation	1. プレゼン関連の語彙学習 (本章の予備学習) 2. プレゼン関連のリスニング演習 (写真説明問題、会話問題)	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に付けておくこと。	60分
第14回	14. Mission 9 Giving a Presentation (続) Mission 10 Appointments	1. プレゼン関連のリスニング演習 (ショートトーク問題) 2. 商用での面会関連の語彙学習 (本章の予備学習)	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に付けておくこと。	60分
第15回	15. Mission 10 Appointments (続)	1. 商用での面会関連の文法学習 2. 商用での面会関連のリーディング学習 (面会の約束を取る、待ち合わせの場所と時間の連絡)	授業中で重要として指摘されたことは復習して身に付けておくこと。	60分

学生へのフィードバック方法	授業毎回の小テストは採点して次回の授業で返却する。
評価方法	授業毎回で前回の授業中で重要として指摘されたことの中から5問を選んで小テストをする。(5点満点)遅延・欠席で小テストを受験できなかった場合は学生の申し出により随時追テストを行う。申し出がなければその0点として合算する。最終回の授業分の小テストはその授業中に行う。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○		○
定期試験	○	○		○

評価割合	毎回の小テストの合計100%
------	----------------

使用教科書名 (ISBN番号)	Raise Your Score 150 Plus on the ToEIC Test (松柏社、2016) 9784881987162
-----------------	--

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】国際人として活躍できるような英語力を養う。 【関心・意欲・態度】どの国の相手でも分け隔てなく関わることができるような心構えを養う。 【技能・表現】実際に英語で読む、聞く、話す、書く力を養う。
---------------	---

オフィスアワー	月昼休み、水2時限、昼休み、4時限
---------	-------------------

学生へのメッセージ	TOEIC受験を考えていない場合でも、TOEICの性格上日常生活と直結した英語が勉強できます。受験英語と異な点はそこで、実用的です。
-----------	--

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		

シラバス参照

講義名	Basic English 1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 大穀 郁子	指定なし

ナンバリング	X13611C12
授業概要(教育目的)	①イギリスの観光名所を巡って旅をするという設定のもとに書かれたテキストを使用しながら、基礎的で実用的な英語を習得することを目的とする。 ②英語圏の文化に関する視聴覚資料（主としてイギリスの児童文学関連）や原文に触れながら、欧米文化についての知識を深めてほしい。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	英語圏の文化一般に特有の価値観についての理解を深めることができる。
思考・判断の観点 (K)	英語圏の歴史的・文化的背景や価値観を知ることによって複眼的に思考し判断する態度を養う。
関心・意欲・態度の観点 (V)	異なる他者を尊重し複眼的に理解する態度を養う。
技術・表現の観点 (A)	異なる他者を受容しつつ発信する英語コミュニケーション能力を涵養する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション テキスト第1課 ロンドン：国会議事堂	議事堂のビッグベンはロンドンのシンボル。	初回は授業の進め方について説明しながらその場で問題を解くので、予習の必要はありません。	0分
第2回	第1課 ロンドン	ビッグベンの歴史、ダウニング街10番地、イギリスの首相たち、他。 <文法>原級比較、他。 ・アニメ「ピーターラビットのお話」	テキストp6-7を読解して問題に解答すること。 (以降、毎回同様に準備すること)	60分
第3回	第2課 ロンドン：騎馬衛兵	小鳥やリスがいる公園、そして馬もいっぱい！ バッキンガム宮殿の近衛兵、緑いっぱいのハイドパーク、他。 <文法>so~that構文、他。 ・アニメ「ピーターラビットのお話」	テキストp8-9	60分

第4回	第3課 ロンドン：ペーカー街	探偵依頼はシャーロックホームズまで。 ロンドン名所のホームズ博物館、作者コナン・ドイル、ハリー・ポッターを乗せたホグワーツ特急はキングズクロス駅から出発する。 ＜文法＞分数の読み方、他。 ・ピーターラビットの生みの親ビアトリクス・ポターの伝記映画「ミス・ポター」	p10-11	60分
第5回	第4課 ロンドン：ビクトリア&アルバート	深い愛情で結ばれたビクトリア女王夫妻。イギリスが繁栄を極めたビクトリア朝、ロイヤルアルバートホール。現女王エリザベス2世一家の話。 ＜文法＞前置詞 as のさまざまな用法 ・映画「ミス・ポター」 ・ピーターラビット原文読解	p12-13+ピーターラビット原文プリント（読解しておくこと）	80分
第6回	第5課 宮殿	衛兵交代はバッキンガム宮殿やウインザー城で。 ＜文法＞過去分詞の形容詞用法 ・映画「ミス・ポター」 ・ピーターラビット原文読解	p14-15+プリント	80分
第7回	第6課 ブライトン	海のリゾート地でのんびり休暇を！ ブライトンの歴史、イギリスの郵便局、他。 ＜文法＞同格表現、先行詞と関係詞が離れている場合について。 ・映画「ミス・ポター」 ・ピーターラビット原文読解 中間テスト前のまとめ	p16-17+プリント	80分
第8回	中間テスト	中間テスト ・映画「ミス・ポター」 ・「作者ポターとビクトリア朝社会」	第1課-第6課+ピーターラビット原文読解プリントを範囲として、中間テストを実施するので復習しておくこと。	240分
第9回	第7課 ストーンヘンジ	ミステリアスな人気スポット。ストーンヘンジはいつ、だれが、何のために作ったのか？ イギリスの新聞の販売方法、他。 ＜文法＞some~, others..., 他。 ・映画「ブラダを着た悪魔」	p18-19	60分
第10回	第8課 オックスブリッジ	2つの大学は長年のライバル。ヨーロッパの大学の歴史、他。 ＜文法＞ A such as B、他。 ・映画「ブラダを着た悪魔」	p20-21	60分
第11回	第9課 ストラットフォード・アポン・エイヴオン	シェイクスピアの生まれ故郷、でも他にも見どころはいっぱい。 ＜文法＞ 先行詞を含む関係副詞、不定詞の形容詞用法、must have+過去分詞、他。 ・映画「ブラダを着た悪魔」	p22-23	60分
第12回	第10課 ロビン・フッド	イギリス最古の森シャーウッドに住むロビン・フッドは今でも大人気。 ＜文法＞仮目的語、他。 ・映画「ブラダを着た悪魔」	p24-25	60分
第13回	第10課 ロビン・フッド	ロビンとゆかいな仲間たち、イギリスのゴミ箱事情。 ＜文法＞「～してもらう」のhave、他。 ・映画「ブラダを着た悪魔」	p24-25	60分
第14回	第11課 リンカーン	大聖堂と城、美しい街の光と闇。夜の古城に出没する幽霊たち？！ ＜文法＞受動態の構文、他。 ・映画の脚本を読んでみよう！	p26-27 「ブラダを着た悪魔」の脚本のプリント（読解しておくこと）	80分
第15回	第11課 リンカーン	リンカーン大聖堂の歴史。 ・「ブラダを着た悪魔」と20世紀欧米ファッション史 ・定期試験前のまとめ	p26-27	60分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。詳細は教室で指示します。
学生へのフィードバック方法	実施した中間テストは、採点して、次週の授業にて返却します。模範解答も配布するので、よく復習してください。中間テストは復習テストであると同時に定期試験対策という側面もあるので、勉強法や勉強量などの反省点を定期試験対策に生かしてください。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・中間テストは前期前半の学習範囲から出題する。問題数は40問で40点満点。 ・定期試験は前期後半の学習範囲から出題する。問題数は50問で50点満点。 ・中間テストと定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。 ・平常点の取り扱いについては初回の授業で説明します。
評価基準	
評価基準	

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間テスト	○			○
定期試験	○			○

評価割合	中間試験 40%、定期試験 50%、平常点 10% で評価します。
使用教科書名 (ISBN番号)	Looking Around England <Revised Edition> 「写真で見るイギリス・リスニングの旅<改訂新版>」 Terry O'Brien 他 著 南雲堂
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 【思考・判断】 異なる文化圏の歴史、文化、社会、生活習慣に関する知識をもって、より広い視野から物事を考える基礎を培う。 【技術・表現】 学修で得たグローバルな知識や情報にもとづいて発信する英語コミュニケーション能力の基礎を培う。
学生へのメッセージ	世界の中にある日本、世界とともに歩む日本、そのようなことを常に意識しながら共に英語を学んでいきましょう。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	Basic English 2(月2)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大和田 寛	指定なし

ナンバリング	X13620M12
授業概要(教育目的)	発信型英語能力獲得のため高校までに学んだ英語の復習と定着をはかり、大学で幅広く専門知識を獲得するために必要な英語基礎力を身に付けることを目標とする。文法、語彙、発音、語法などの理解と習得を軸として、語の四技能（読む、書く、話す、聞く）の言語活動を有機的に連携させる。授業では平易な英語からはじめ英に対する心理的抵抗を取り除いた上で英文内容把握のテクニックと基礎的な英語表現力を学習する。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	TOEIC受験対策教材を使用して、日常生活で出会う英語の様々を知る。
思考・判断の観点 (K)	日常生活で使われる英語が正しいものであるのかの判断がしやすくなる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	TOEIC受験に向けてその意欲を高める。
技術・表現の観点 (A)	TOEICでの高得点獲得を目指すだけでなく、日常生活で英語をスムーズに使えるようにする。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	Chapter 11 Public Facilities (続)	公共施設関連のリーディング学習(公園、公立図書館)	授業の内容を復習して理解して把握しておくこと。	60分
第2回	Chapter 12 On the Street	1. 道路上でのこと関連の語彙学習(本章の予備学習) 2. 道路上でのこと関連のリスニング演習(写真説明問題、会話問題)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第3回	Chapter 12 On the Street (続)	道路上でのこと関連のリスニング演習(ショートトーク問題)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第4回	Chapter 13 Vacation	1. 休暇関連の語彙学習(本章の予備学習) 2. 休暇関連の文法学習(受動態) 3. 休暇関連のリーディング学習(有給休暇について)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第5回	Chapter 13 Vacation (続)	休暇関連のリーディング学習(続)(旅行先についての相談)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第6回	Chapter 14 Environment	1. 環境問題関連の語彙学習(本章の予備学習) 2. 環境問題関連のリスニング演習(写真説明問題、会話問題)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分

第7回	1. Chapter 14 Environment (続) 2. Chapter 15 Housing	1. 環境問題関連のリスニング演習 (ショートトーク問題) 2. 住居関連の語彙学習 (本章の予備学習) 3. 住居関連の文法学習 (関係代名詞)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第8回	Chapter 15 Housing (続々)	住居関連のリーディング学習 (エアコンの修理依頼)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第9回	Chapter 15 Housing (続続々)	住居関連のリーディング学習 (アパートのルームメイト募集の記事と希望者よりの返事、及びそれへの回答)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第10回	Chapter 16 Meetings	1. 会議関連の語彙学習 (本章の予備学習) 2. 会議関連のリスニング演習 (写真説明問題、会話問題)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第11回	1. Chapter 16 Meetings (続) 2. Chapter 17 Business Performance	1. 会議関連のリスニング演習 (ショートトーク問題) 2. 営業成績関連の語彙学習 (本章の予備学習) 3. 営業成績関連の文法学習 (比較)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第12回	Chapter 17 Business Performance (続)	営業成績関連のリーディング学習 (営業成績報告、顧客アンケート)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第13回	Chapter 18 Handling Customer Complaints	1. 客からの苦情関連の語彙学習 (本章の予備学習) 2. 客からの苦情関連のリスニング演習 (写真説明問題、会話問題、ショートトーク問題)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第14回	Chapter 19 Advertising	1. 宣伝広告関連の語彙学習 (本章の予備学習) 2. 宣伝広告関連の文法学習 3. 宣伝広告関連のリーディング学習 (広告媒体について、求人広告)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第15回	Chapter 20 At a Factory	1. 工場関連の語彙学習 (本章の予備学習) 2. 工場関連のリスニング演習 (写真説明問題、会話問題、ショートトーク問題)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分

学生へのフィードバック方法

授業毎回の小テストは採点してその次回の授業で返却する。

評価方法

毎回の小テストは、その前回の授業で重要として指摘されたことの中から当日5問を選んで出題する (5点満点)。欠席、遅刻で小テストを受験できなかった場合は学生の申し出により随時追テストを行う。申し出がなければその分は0点として合算する。定期試験では最終回の授業分の小テストを行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○		○
定期試験	○	○		○

評価割合

小テストの合計100%

使用教科書名 (ISBN番号)

Beat Your Best Score on the Toeic L & R Test (松柏社、2019) 9784881987452

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】 【思考・判断】 国際人として活躍できるような英語力を養う。
【関心・意欲・態度】 どの国の相手でも分け隔てなく関わることができるような心構えを養う。
【技能・表現】 実際に英語で読む、聞く、話す、書く力を養う。

オフィスアワー

月休み、水2時間目、昼休み、4時間目

学生へのメッセージ

TOEIC受験対策が鮮明な教科書ですが、日常英語の勉強になりそうな語彙学習の面も含まれています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	Basic English 2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 畝部 典子	指定なし

ナンバリング	X13622M12
授業概要(教育目的)	本授業では、英語四技能のうち「読む、書く、聞く」について重点的に学び、日常生活で求められる英語力を身につける。英語の基本を身につけ、英語で自分の考えを発信できるようになることを目指す。
履修条件	今年度前期月曜3限のBasic English 1（畝部担当）を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	発信に必要な基本的な英語力を習得する。
思考・判断の観点 (K)	日本語と英語の文法や文章の作り方の違いを理解する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語を使って積極的に自分の考えを発信できる。
技術・表現の観点 (A)	基本的な英作文法を利用して自分の考えを表現できる。

学習計画

Basic English 2

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	前期の復習	前期期末試験を、採点基準を明らかにして返却する。前期学習内容を復習する。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。教科書Unit 1～16を復習しておく。	120分
第2回	英語の不定詞と動名詞(1)	英語の不定詞と動名詞について学習する。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。教科書Unit 17、18を学習する。	120分
第3回	英語の不定詞と動名詞(2)	英語の不定詞と動名詞について学習する。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。教科書Unit 17、18を学習する。	120分
第4回	英語の形容詞と副詞(1)	英語の形容詞と副詞について学習する。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内	120分

			容を学習する。教科書Unit19、20を学習する。	
第5回	英語の形容詞と副詞(2)	英語の形容詞と副詞について学習する。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。教科書Unit19、20を学習する。	120分
第6回	英語の疑問詞と未来形(1)	英語の疑問詞と未来形について学習する。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。教科書Unit21、22を学習する。	120分
第7回	英語の疑問詞と未来形(2)、後期前半のまとめ	英語の疑問詞と未来形について学習する。後期前半に学習した内容を復習する。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。教科書Unit21、22を学習する。	120分
第8回	中間試験と解説	後期前半に学んだ内容について中間試験を行い、学習内容を復習する。	後期前半の授業で学んだことを復習する。	120分
第9回	英語の可算名詞と不可算名詞(1)	英語の可算名詞と不可算名詞について学習する。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。教科書Unit23、24を学習する。	120分
第10回	英語の可算名詞と不可算名詞(2)	英語の可算名詞と不可算名詞について学習する。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。教科書Unit23、24を学習する。	120分
第11回	英語のthere構文と使役動詞(1)	英語のthere構文と使役動詞について学習する。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。教科書Unit25、26を学習する。	120分
第12回	英語のthere構文と使役動詞(2)	英語のthere構文と使役動詞について学習する。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。教科書Unit25、26を学習する。	120分
第13回	英語の進行形と現在分詞	英語の進行形と現在分詞について学習する。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。教科書Unit27、28を学習する。	120分
第14回	英語の受動態と仮定法(1)	英語の受動態と仮定法について学習する。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。教科書Unit29、30を学習する。	120分
第15回	英語の受動態と仮定法(2)	英語の受動態と仮定法について学習する。	授業で学んだことを理解し、授業中に配付されるプリントの内容を学習する。教科書Unit29、30を学習する。	120分
第16回	復習と期末試験	後期後半に学んだ内容について復習し、期末試験を行う。	後期後半の授業で学んだことを復習する。	120分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法 中間試験は採点基準を明らかにして学生に返却する。期末試験は次年度4月以降に希望者に返却する。

評価方法

- ・評価は、中間試験40%、期末試験40%、平常点20%（授業中の実績、小テストの結果を含む）により判定する。
- ・随時小テストを実施し、授業中の実績の一部とする。
- ・授業中の取り組み、思考、発表などを総合して授業中の実績とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間試験	○	○		○
期末試験	○	○		○
平常点	○	○	○	○

評価割合	中間試験40%、期末試験40%、平常点20%で評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	English Here and There 読解と基本文法で極める総合英語 Terry O'Brien 他 (南雲堂) 978-4-523-17907-8
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】人間社会の多様性を外国語の知識と深い思考によって理解し、状況を的確に判断して提案できる。 【関心・意欲・態度】積極的に外国語でコミュニケーションを図り、社会の構成員として徳性をもって人々のために働くことができる。 【技能・表現】学修で得た英語技能をもって自分の考えを表現し、他者との共感を創り出すことができる。
オフィスアワー	木曜2限 1630研究室
学生へのメッセージ	学んだ表現や知識は、言葉として「使う」ことが大切です。まずは自分の考えを相手に伝える努力をしましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業は学生が自分で考え、それを表現し、能動的に授業に参加することで進められる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	Basic English 2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 大穀 郁子	指定なし

ナンバリング	X13621M12								
授業概要(教育目的)	①イギリスの観光名所を巡って旅をするという設定のもとに書かれたテキストを使用しながら、基礎的で実用的な英語を習得することを目的とする。 ②英語圏の文化に関する視聴覚資料（主としてイギリスの児童文学関連）や原文に触れながら、欧米文化についての知識を深めてほしい。								
履修条件	特になし								
学習目標(到達目標)	学習目標（到達目標） <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>知識・理解の観点 (K)</td> <td>英語圏の文化一般に特有の価値観についての理解を深めることができる。</td> </tr> <tr> <td>思考・判断の観点 (K)</td> <td>英語圏の歴史的・文化的背景や価値観を知ることによって複眼的に思考し判断する態度を養う。</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度の観点 (V)</td> <td>異なる他者を尊重し複眼的に理解する態度を養う。</td> </tr> <tr> <td>技術・表現の観点 (A)</td> <td>異なる他者を受容しつつ発信する英語コミュニケーション能力を涵養する。</td> </tr> </table>	知識・理解の観点 (K)	英語圏の文化一般に特有の価値観についての理解を深めることができる。	思考・判断の観点 (K)	英語圏の歴史的・文化的背景や価値観を知ることによって複眼的に思考し判断する態度を養う。	関心・意欲・態度の観点 (V)	異なる他者を尊重し複眼的に理解する態度を養う。	技術・表現の観点 (A)	異なる他者を受容しつつ発信する英語コミュニケーション能力を涵養する。
知識・理解の観点 (K)	英語圏の文化一般に特有の価値観についての理解を深めることができる。								
思考・判断の観点 (K)	英語圏の歴史的・文化的背景や価値観を知ることによって複眼的に思考し判断する態度を養う。								
関心・意欲・態度の観点 (V)	異なる他者を尊重し複眼的に理解する態度を養う。								
技術・表現の観点 (A)	異なる他者を受容しつつ発信する英語コミュニケーション能力を涵養する。								

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション テキスト第12課 ヨーク	スタンドグラスが美しいヨーク大聖堂。 <文法>不定詞の形容詞用法、他。	p28を読解して問題に解答すること。(以降、毎回同様に準備すること)	30分
第2回	第12課 ヨーク	中世最大の教会ヨーク・ミンスター、典型的な要塞都市であるヨークの教会と城。日本の新幹線も展示されている国立鉄道博物館。 <文法>仮主語と真主語、他。 ・映画「ハリー・ポッターと賢者の石」①	p 28-29	40分
第3回	第13課 ヨークシャー：ハワース村	ブロンテ姉妹のふるさと。『ジェーン・エア』や『嵐が丘』などの名作は風吹きすさぶこの荒野から生まれた。 <文法>倒置表現、他。 ・映画②	p30-31	60分

第4回	第14課 湖水地方	ワーズワースの詩のふるさとでピーターラビットのお里。日本人観光客の多さにビックリ！ ＜文法＞現在完了進行形、他。 ・映画③	p32-33	60分
第5回	第15課 リヴァプール	ビートルズの活躍で一躍有名になった港湾都市、そこはコスモポリタンで文化の薫り高い街でもある。 ＜文法＞使役動詞、他。 ・ハロウィーンの由来 ・アニメ「スヌーピーたちのハロウィーン」一部視聴。	p34-35	60分
第6回	第16課 ピークディストリクト・パーク	イギリス独特の荒野が広がる公園内。荒野散策は夏でも厚着で。美しい村々も点在します。 ＜文法＞不定詞の形容詞用法 ・映画④	p36-37	60分
第7回	第17課 結婚式	教会での結婚式の様子。教会とは一生のお付き合い。 ＜文法＞接続詞 that、他。 ・映画⑤ ・中間テスト前のまとめ	p38-39	60分
第8回	中間テスト	中間テスト ・映画⑥	第12課-第17課を範囲として、中間テストを実施するので復習しておくこと。	240分
第9回	第18課 ドーヴァー	珍しい白亜の崖がシンボル。ウィリアム征服王とヘイスティングズの戦い。 ＜文法＞述語動詞が複数ある英文、他。 ・「ハリー・ポッターと賢者の石」にみるイギリスの歴史と文化	p40-41	60分
第10回	第19課 コッツウォルズ	はちみつ色のかわいい家が人気の村。クリームティーとスコーン。 ＜文法＞注意すべき受動態、他。 ・「ハリー・ポッターと賢者の石」原文読解① ・ディズニー映画「くまのプーさん」	p42-43 +「ハリー・ポッターと賢者の石」原文プリント（読解しておくこと）	90分
第11回	第21課 ロンドン：ロンドン塔	今は賑やかな観光名所、しかし昔は処刑場でもあった場所。権力闘争、陰謀渦巻く宮廷の中。 ＜文法＞関係詞の非制限的用法、他。 ・「ハリー・ポッターと賢者の石」原文読解② ・ディズニー映画②	p46-47 +「ハリー・ポッターと賢者の石」原文プリント（読解しておくこと）	90分
第12回	第22課 ロンドン：ウエストミンスター寺院	世界遺産の寺院の内部、床と壁に塗り込められた秘密とは？！ ＜文法＞主語と述語動詞が離れている場合、他。 ・「ハリー・ポッターと賢者の石」原文読解③ ・クリスマスの由来、イギリスのクリスマス ・ディズニー映画③	p48、+「ハリー・ポッターと賢者の石」原文プリント（読解しておくこと）	90分
第13回	第23課 ロンドン：グロブ座	16世紀から続くシェイクスピアの劇場。ロンドンっ子は今も昔も大の芝居好き！そばにはヨーロッパの大観覧車ロンドン・アイも。 ＜文法＞Some...other...の訳し方、他。 ・「くまのプーさん」原文読解① ・ディズニー映画④	p50-51 +「くまのプーさん」原文プリント（読解しておくこと）	80分
第14回	第24課 ロンドン：コヴェントガーデン	昔の青果市場は今や若者が集う場所。しかし大昔は修道院だった？！ ＜文法＞接続詞 as を用いて現在と過去を比較する、他。 ・「くまのプーさん」原文読解②	p52 +「くまのプーさん」原文プリント（読解しておくこと）	80分
第15回	第25課 ロンドン：ミレニアム橋	斬新なデザインの橋が、テート・モダン美術館とセントポール大聖堂をつなぐ。 ＜文法＞不定詞の副詞用法、関係詞の非制限用法、比較級を同時に用いた英文、他。 ・「くまのプーさん」原文読解③ ・定期試験前のまとめ	p54-55 +「くまのプーさん」原文プリント（読解しておくこと）	80分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。詳細は教室で指示します。
学生へのフィードバック方法	実施した中間テストは、採点して、翌週の授業で返却します。模範解答も配布するので、よく復習してください。中間テストは復習テストであると同時に定期試験のリハーサルという側面もあるので、勉強量や勉強法などについての反省点を定期試験対策に生かしてください。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・中間テストは後期前半の学習範囲から出題する。問題数は40問で40点満点。 ・定期試験は後期後半の学習範囲から出題する。問題数は50問で50点満点。 ・平常点の取り扱いについては初回の授業で説明します。 ・中間テストと定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間テスト	○			○
定期試験	○			○

評価割合	中間試験 40%、定期試験 50%、平常点 10% で評価します。
使用教科書名 (ISBN番号)	Looking Around England <Revised Edition> 「写真で見るイギリス・リスニングの旅<改訂新版>」 Terry O'Brien 他 著 南雲堂
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 【思考・判断】 異なる文化圏の歴史、文化、社会、生活習慣に関する知識をもって、より広い視野から物事を考える基礎を培う。 【技術・表現】 学修で得たグローバルな知識や情報にもとづいて発信する英語コミュニケーション能力の基礎を培う。
学生へのメッセージ	・十分に予習したうえで授業に臨んでください。 ・世界の中にある日本、世界とともに歩む日本、そのようなことを常に意識しながら共に英語を学んでいきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	Basic English 2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田中 愛	指定なし

ナンバリング	X13622C12
授業概要(教育目的)	この授業では、コミュニケーション能力を高めるため、その土台となる英文法、構文を基礎から学び直す。基本的な仕組みを理解し、得た知識で英文理解や英作文の応用へとつなげることを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	基礎的な英文法を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語に対する苦手意識を解消し、英語学習に前向きに取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	後期授業ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価、テキスト、授業の進め方 予習、復習について説明 品詞について説明 5文型について説明 	第1回授業の予習 ・特になし 第1回授業の復習 ・品詞について見直すこと	60分
第2回	Unit8 Would You Like to Be a Pioneer Like Coco Chanel? 「動名詞・不定詞」	<ul style="list-style-type: none"> Grammar Basicsの解説 Grammar Practice Tune-Up Reading & Grammar Hunt! 	第2回授業の予習 ・Words to Picturesを解く 第2回授業の復習 ・Grammar Basicsの見直し ・配布プリント(復習問題)を解く →次週の授業時に答え合わせ	60分
第3回	Unit8 Would You Like to Be a Pioneer	<ul style="list-style-type: none"> 宿題の答え合わせ&解説 Enjoy Readingの和訳および要約 Word Collector Unit8のReview Quiz 	第3回授業の予習 ・Prepare to Readを解く 第3回授業の復習	120分

	Like Coco Chanel? 「動名詞・不定詞」		・配布プリント（復習問題）を解く 一次週の授業時に答え合わせ	
第4回	Unit9 What Will Space Travel Be Like in the Future? 「未来形」	・ Grammar Basicsの解説 ・ Grammar Practice ・ Tune-Up Reading & Grammar Hunt! ・ Enjoy Readingおよび要約	第4回授業の予習 ・ Words to Picturesを解く ・ Prepare to Read 第4回授業の復習 ・ Grammar Basicsの見直し ・ Word Collector	120分
第5回	Unit10 What makes the Amazon One of the Most Amazing Places? 「比較級・最上級」	・ Unit9のReview Quiz ・ Grammar Basicsの解説 ・ Grammar Practice ・ Tune-Up Reading & Grammar Hunt! ・ Enjoy Readingおよび要約	第5回授業の予習 ・ Words to Picturesを解く ・ Prepare to Read 第5回授業の復習 ・ Grammar Basicsの見直し ・ Word Collector	120分
第6回	Unit11 Who Can Be a YouTuber? 「助動詞」	・ Unit10のReview Quiz ・ Grammar Basicsの解説 ・ Grammar Practice ・ Tune-Up Reading & Grammar Hunt! ・ Enjoy Readingおよび要約	第6回授業の予習 ・ Words to Picturesを解く ・ Prepare to Read 第6回授業の復習 ・ Grammar Basicsの見直し ・ Word Collector	120分
第7回	Unit12 What Have Plastics Done to Our Oceans? 「現在完了形」	・ Grammar Basicsの解説 ・ Grammar Practice ・ Tune-Up Reading & Grammar Hunt!	第7回授業の予習 ・ Words to Picturesを解く 第7回授業の復習 ・ Grammar Basicsの見直し ・ 配布プリント（復習問題）を解く 一次週の授業時に答え合わせ	120分
第8回	Unit12 What Have Plastics Done to Our Oceans? 「現在完了形」	・ 宿題の答え合わせ&解説 ・ Enjoy Readingの和訳および要約 ・ Word Collector ・ Unit11のReview Quiz	第8回授業の予習 ・ Prepare to Readを解く 第8回授業の復習 ・ 配布プリント（復習問題）を解く 一次週の授業時に答え合わせ	120分
第9回	Unit13 What Would We If We Didn't Have Dogs? 「従属接続詞」	・ Unit12のReview Quiz ・ Grammar Basicsの解説 ・ Grammar Practice ・ Tune-Up Reading & Grammar Hunt! ・ Enjoy Readingおよび要約	第9回授業の予習 ・ Words to Picturesを解く ・ Prepare to Read 第9回授業の復習 ・ Grammar Basicsの見直し ・ Word Collector	120分
第10回	DVD鑑賞	セリフの書き取りなどを行う	第10回授業の予習 ・ 授業時に指示 第10回授業の復習 ・ Prepare to Read & Enjoy Readingの見直し	120分
第11回	Unit14 How Was Conveyor Belt Sushi Born? 「受動態」	・ Unit13のReview Quiz ・ Grammar Basicsの解説 ・ Grammar Practice ・ Tune-Up Reading & Grammar Hunt!	第11回授業の予習 ・ Words to Picturesを解く 第11回授業の復習 ・ Grammar Basicsの見直し ・ 配布プリント（復習問題）を解く 一次週の授業時に答え合わせ	120分
第12回	Unit14 How Was Conveyor Belt Sushi Born? 「受動態」	・ 宿題の答え合わせ&解説 ・ Enjoy Readingの和訳および要約 ・ Word Collector ・ Unit14のReview Quiz	第12回授業の予習 ・ Prepare to Readを解く 第12回授業の復習 ・ 配布プリント（復習問題）を解く 一次週の授業時に答え合わせ	120分
第13回	Unit15 How about Jeans that	・ Grammar Basicsの解説 ・ Grammar Practice ・ Tune-Up Reading & Grammar Hunt!	第13回授業の予習 ・ Words to Picturesを解く	120分

	Have a History? 「関係詞」		第13回授業の復習 ・ Grammar Basicsの見直し ・ 配布プリント（復習問題）を解く →次週の授業時に答え合わせ	
第14回	Unit15 How about Jeans that Have a History? 「関係詞」	・ 宿題の答え合わせ&解説 ・ Enjoy Readingの和訳および要約 ・ Word Collector ・ Unit15のReview Quiz	第14回授業の予習 ・ Prepare to Readを解く 第14回授業の復習 ・ 配布プリント（復習問題）を解く →次週の授業時に答え合わせ	120分
第15回	Review	・ 後期試験範囲の総復習	・ 試験に向けて、既習事項の復習を行う	240分
第16回	定期試験	・ 学習到達度の確認試験	・ 試験に向けて、既習事項の復習を行う	180分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールに変更が生じることもある。
学生へのフィードバック方法	実施した小テストは、基本的にその場で答え合わせ及び解説を行い、回収。次週の授業時に返却。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小テストは授業内容の復習と位置づけ、実施する。（小テストに関する追再試験は行わない） ・ 定期試験は、後期授業内容を中心として出題する。 ・ 小テスト及び定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。

評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	小テスト・定期試験	○	○		
	平常点			○	
	その他	○		○	

評価割合	小テスト・試験 65% 平常点（学習意欲、履修態度など） 20% その他（任意課題などの提出状況など） 15%
使用教科書名 (ISBN番号)	Reading Link 基本文法で学ぶ大学英語リーディング（金星堂）¥2,000（税抜） ISBN 978-4-7647-4100-3
参考図書	必要に応じて授業時に紹介します。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】英語の基本的な運用能力（読む、話す、書く、聞く）がある。 【技術・表現】平易な英文で、身近な話題を表現する能力がある。
学生へのメッセージ	授業の進行状況によりますが、リスニング強化の一環として、海外ドラマの鑑賞を行うこともあります。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	テキスト外の資料を用いて、英文解釈のためにグループ・ワークを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	Basic English 2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	1 限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大和田 寛	指定なし

ナンバリング	X13620C12
授業概要(教育目的)	発信型英語能力獲得のため高校までに学んだ英語の復習と定着をはかり、大学で幅広く専門知識を獲得するために必要な英語基礎力を身に付けることを目標とする。文法、語彙、発音、語法などの理解と習得を軸として、語の四技能（読む、書く、話す、聞く）の言語活動を有機的に連携させる。授業では平易な英語からはじめめに対する心理的抵抗を取り除いた上で英文内容把握のテクニックと基礎的な英語表現力を学習する。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	TOEIC受験対策教材を使用して、日常生活で出会う英語の様々を知る。
思考・判断の観点 (K)	日常生活の場面場面での英語が正しいものであるかが判断し易くなる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	TOEIC受験に向けてその意欲と自信を高める。
技術・表現の観点 (A)	TOEICでの高得点を目指すだけでなく、日常生活で英語をスムーズに使えるようにする。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	1. Mission 11 At a Bank	1. 銀行関連の語彙学習(本章の予備学習) 2. 銀行関連の文法学習(仮定法)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第2回	2. Mission 11 At a Bank(続)	銀行関連のリーディング学習(銀行の歴史、オンラインバンキング)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第3回	3. Mission 12 On the Street	1. 路上でのこと関連の語彙学習(本章の予備学習) 2. 路上でのこと関連のリスニング演習(写真説明問題、会話問題)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第4回	4. Mission 12 On the Street(続) Mission 13 Taking a Trip	1. 路上でのこと関連のリスニング演習(ショートトーク問題) 2. 旅行関連の語彙学習(本章の予備学習)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第5回	5. Mission 13 Taking a Trip(続)	旅行関連のリーディング学習(時差ぼけを防ぐには、パリ4日間ツアー)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第6回	6. Mission 14 Dealing with	1. トラブル応対関連の語彙学習(本章の予備学習) 2. トラブル応対関連のリスニング演習(写真説明問題、	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分

	Troubles	会話問題)	こと。	
第7回	7. Mission 14 Dealing with Troubles (続) Mission 15 Renting an Apartment	1. トラブル対応関連のリスニング演習 (ショートトーク問題) 2. アパート賃貸関連の語彙学習 (本章の予備学習) 3. アパート賃貸関連の文法学習 (関係代名詞)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第8回	8. Renting an Apartment (続)	アパート賃貸関連のリーディング学習 (アパートを借りる時に知っておくべきこと、住宅広告)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第9回	9. Mission 16 Meetings	1. 会議関連の語彙学習 (本章の予備学習) 2. 会議関連のリスニング演習 (写真説明問題、会話問題)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第10回	10. Mission 16 Meetings (続) Mission 17 Business Performance	1. 会議関連のリスニング演習 (ショートトーク問題) 2. 売り上げ実績関連の語彙学習 (本章の予備学習) 3. 売り上げ実績関連の文法学習 (比較)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第11回	11. Mission 17 Business Performance (続)	売り上げ実績関連のリーディング学習 (商品の売り上げ数、最優秀社員賞授与について)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第12回	12. Mission 18 Handling Customer Complaints	1. 客の苦情関連の語彙学習 (本章の予備学習) 2. 客の苦情関連のリスニング演習 (写真説明問題、会話問題)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第13回	13. Mission 18 Dealing Customer Complaints (続) Mission 19 Advertising	1. 客の苦情関連のリスニング演習 (ショートトーク問題) 2. 広告関連の語彙学習 (本章の予備学習) 3. 広告関連の文法学習 (不可算名詞)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第14回	14. Mission 19 Advertising (続)	広告関連のリーディング学習 (広告媒体の様々な、商品広告)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第15回	15. Mission 20 Parties	1. パーティー関連の語彙学習 (本章の予備学習) 2. パーティー関連のリスニング演習 (写真説明問題、会話問題、ショートトーク問題)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分

学生へのフィードバック方法	授業毎回の小テストは採点して次回の授業で返却する。
評価方法	授業毎回で前回の授業中で重要として指摘されたことの中から5問を選んで小テストをする (5点満点)。遅刻欠席で受験できなかった場合は学生の申し出により随時追テストを行う。申し出がなければその分は0点とし合算する。最終回の授業分の小テストは定期試験として実施する。

評価基準

評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	小テスト	○	○		○
	定期試験	○	○		○

評価割合	毎回の小テストの合計100%
------	----------------

使用教科書名 (ISBN番号)	Raise Your Score 150 Plus on the ToEIC Test (松柏社、2016) ISBN978-4-88198-716-2
-----------------	--

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】国際人として活躍できるような英語力を養う。 【関心・意欲・態度】どの国の相手でも分け隔てなく関わることができるような心構えを養う。 【技能・表現】実際に英語で読む、聞く、話す、書く力を養う。
---------------	---

オフィスアワー	月休休み、水2時限、昼休み、4時限
---------	-------------------

学生へのメッセージ	TOEIC受験を考えていない場合でも、TOEICの性格上日常生活と直結した英語が勉強できます。受験英語と異なる点はそこで、実用的です。
-----------	---

教育等の取組み状況

	該当有 無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		

グ		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	Basic English 2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 大穀 郁子	指定なし

ナンバリング	X13621C12
授業概要(教育目的)	①イギリスの観光名所を巡って旅をするという設定のもとに書かれたテキストを使用しながら、基礎的で実用的な英語を習得することを目的とする。 ②英語圏の文化に関する視聴覚資料（主としてイギリスの児童文学関連）や原文に触れながら、欧米文化についての知識を深めてほしい。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	英語圏の文化一般に特有の価値観についての理解を深めることができる。
思考・判断の観点 (K)	英語圏の歴史的・文化的背景や価値観を知ることによって複眼的に思考し判断する態度を養う。
関心・意欲・態度の観点 (V)	異なる他者を尊重し複眼的に理解する態度を養う。
技術・表現の観点 (A)	異なる他者を受容しつつ発信する英語コミュニケーション能力を涵養する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション テキスト第12課 ヨーク	スタンドグラスが美しいヨーク大聖堂。 <文法>不定詞の形容詞用法、他。	p28を読解して問題に解答すること。(以降、毎回同様に準備すること)	30分
第2回	第12課 ヨーク	中世最大の教会ヨーク・ミンスター、典型的な要塞都市であるヨークの教会と城。日本の新幹線も展示されている国立鉄道博物館。 <文法>仮主語と真主語、他。 ・映画「ハリー・ポッターと賢者の石」①	p 28-29	40分
第3回	第13課 ヨークシャー：ハワース村	ブロンテ姉妹のふるさと。『ジェーン・エア』や『嵐が丘』などの名作は風吹きすさぶこの荒野から生まれた。 <文法>倒置表現、他。 ・映画②	p30-31	60分

第4回	第14課 湖水地方	ワーズワースの詩のふるさとでピーターラビットのお里。日本人観光客の多さにビックリ！ ＜文法＞現在完了進行形、他。 ・映画③	p32-33	60分
第5回	第15課 リヴァプール	ビートルズの活躍で一躍有名になった港湾都市、そこはコスモポリタンで文化の薫り高い街でもある。 ＜文法＞使役動詞、他。 ・ハロウィーンの由来 ・アニメ「スヌーピーたちのハロウィーン」一部視聴。	p34-35	60分
第6回	第16課 ピークディストリクト・パーク	イギリス独特の荒野が広がる公園内。荒野散策は夏でも厚着で。美しい村々も点在します。 ＜文法＞不定詞の形容詞用法 ・映画④	p36-37	60分
第7回	第17課 結婚式	教会での結婚式の様子。教会とは一生のお付き合い。 ＜文法＞接続詞 that、他。 ・映画⑤ ・中間テスト前のまとめ	p38-39	60分
第8回	中間テスト	中間テスト ・映画⑥	第12課-第17課を範囲として、中間テストを実施するので復習しておくこと。	240分
第9回	第18課 ドーヴァー	珍しい白亜の崖がシンボル。ウィリアム征服王とヘイスティングズの戦い。 ＜文法＞述語動詞が複数ある英文、他。 ・「ハリー・ポッターと賢者の石」にみるイギリスの歴史と文化	p40-41	60分
第10回	第19課 コッツウォルズ	はちみつ色のかわいい家が人気の村。クリームティーとスコーン。 ＜文法＞注意すべき受動態、他。 ・「ハリー・ポッターと賢者の石」原文読解① ・ディズニー映画「くまのプーさん」	p42-43 +「ハリー・ポッターと賢者の石」原文プリント（読解しておくこと）	90分
第11回	第21課 ロンドン：ロンドン塔	今は賑やかな観光名所、しかし昔は処刑場でもあった場所。権力闘争、陰謀渦巻く宮廷の中。 ＜文法＞関係詞の非制限的用法、他。 ・「ハリー・ポッターと賢者の石」原文読解② ・ディズニー映画②	p46-47 +「ハリー・ポッターと賢者の石」原文プリント（読解しておくこと）	90分
第12回	第22課 ロンドン：ウエストミンスター寺院	世界遺産の寺院の内部、床と壁に塗り込められた秘密とは？！ ＜文法＞主語と述語動詞が離れている場合、他。 ・「ハリー・ポッターと賢者の石」原文読解③ ・クリスマスの由来、イギリスのクリスマス ・ディズニー映画③	p48、+「ハリー・ポッターと賢者の石」原文プリント（読解しておくこと）	90分
第13回	第23課 ロンドン：グロブ座	16世紀から続くシェイクスピアの劇場。ロンドンっ子は今も昔も大の芝居好き！そばにはヨーロッパの大観覧車ロンドン・アイも。 ＜文法＞Some...other...の訳し方、他。 ・「くまのプーさん」原文読解① ・ディズニー映画④	p50-51 +「くまのプーさん」原文プリント（読解しておくこと）	80分
第14回	第24課 ロンドン：コヴェントガーデン	昔の青果市場は今や若者が集う場所。しかし大昔は修道院だった？！ ＜文法＞接続詞 as を用いて現在と過去を比較する、他。 ・「くまのプーさん」原文読解②	p52 +「くまのプーさん」原文プリント（読解しておくこと）	80分
第15回	第25課 ロンドン：ミレニアム橋	斬新なデザインの橋が、テート・モダン美術館とセントポール大聖堂をつなぐ。 ＜文法＞不定詞の副詞用法、関係詞の非制限用法、比較級を同時に用いた英文、他。 ・「くまのプーさん」原文読解③ ・定期試験前のまとめ	p54-55 +「くまのプーさん」原文プリント（読解しておくこと）	80分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。詳細は教室で指示します。
学生へのフィードバック方法	実施した中間テストは、採点して、翌週の授業で返却します。模範解答も配布するので、よく復習してください。中間テストは復習テストであると同時に定期試験のリハーサルという側面もあるので、勉強量や勉強法などについての反省点を定期試験対策に生かしてください。
評価方法	・中間テストは後期前半の学習範囲から出題する。問題数は40問で40点満点。 ・定期試験は後期後半の学習範囲から出題する。問題数は50問で50点満点。 ・平常点の取り扱いについては初回の授業で説明します。 ・中間テストと定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間テスト	○			○
定期試験	○			○

評価割合	中間試験 40%、定期試験 50%、平常点 10% で評価します。
使用教科書名 (ISBN番号)	Looking Around England <Revised Edition> 「写真で見るイギリス・リスニングの旅<改訂新版>」 Terry O'Brien 他 著 南雲堂
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 【思考・判断】 異なる文化圏の歴史、文化、社会、生活習慣に関する知識をもって、より広い視野から物事を考える基礎を培う。 【技術・表現】 学修で得たグローバルな知識や情報にもとづいて発信する英語コミュニケーション能力の基礎を培う。
学生へのメッセージ	・十分に予習したうえで授業に臨んでください。 ・世界の中にある日本、世界とともに歩む日本、そのようなことを常に意識しながら共に英語を学んでいきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	Listening & Speaking 1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 大穀 郁子	指定なし

ナンバリング	X13632M12								
授業概要(教育目的)	<p>英語学習を通して異文化に対する視野を広げよう！この講座の狙いは、基本的な英会話の習得とともに国際人としての感覚を身に着けることにあります。</p> <p>①TOEIC Bridgeのテキストを使用して日常英会話を学びます。それぞれの場面で最低限必要な英語表現を学習し、実際に発話できるように訓練します。合わせて、海外旅行の際に必要な書類の書き方なども学び、国際常識を身に着けることをも狙いとします。</p> <p>②英語圏の文化、特にアメリカ現代文化への知識を深めていきます。</p>								
履修条件	特になし								
学習目標(到達目標)	<p>学習目標（到達目標）</p> <table border="1"> <tr> <td>知識・理解の観点 (K)</td> <td>英語圏の文化一般に特有の価値観についての理解を深めることができる。</td> </tr> <tr> <td>思考・判断の観点 (K)</td> <td>英語圏の歴史的・文化的背景や価値観を知ることによって複眼的に思考し判断する態度を養う。</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度の観点 (V)</td> <td>自らとは異なる他者を尊重し複眼的に理解する態度を養う。</td> </tr> <tr> <td>技術・表現の観点 (A)</td> <td>自らとは異なる他者を受容しつつ発信する英語コミュニケーション能力を涵養する。</td> </tr> </table>	知識・理解の観点 (K)	英語圏の文化一般に特有の価値観についての理解を深めることができる。	思考・判断の観点 (K)	英語圏の歴史的・文化的背景や価値観を知ることによって複眼的に思考し判断する態度を養う。	関心・意欲・態度の観点 (V)	自らとは異なる他者を尊重し複眼的に理解する態度を養う。	技術・表現の観点 (A)	自らとは異なる他者を受容しつつ発信する英語コミュニケーション能力を涵養する。
知識・理解の観点 (K)	英語圏の文化一般に特有の価値観についての理解を深めることができる。								
思考・判断の観点 (K)	英語圏の歴史的・文化的背景や価値観を知ることによって複眼的に思考し判断する態度を養う。								
関心・意欲・態度の観点 (V)	自らとは異なる他者を尊重し複眼的に理解する態度を養う。								
技術・表現の観点 (A)	自らとは異なる他者を受容しつつ発信する英語コミュニケーション能力を涵養する。								

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 授業の進め方 TOEIC Bridgeについて サンプル問題 	必要なし	0分
第2回	第1課リスニング・セクション Part I、リーディング・セクション	<ul style="list-style-type: none"> リスニング・セクション：人物ひとりの動作や状態 リーディング・セクション：代名詞 チャレンジTOEIC!：人物と背景の描写 アメリカ合衆国の成り立ち—映画「パイレーツ・オブ・カリビアン：呪われた海賊たち」① 	テキストp13-17（テキストの指示に従って読解し、問題に解答しておくこと。以降、毎回同様に準備すること）	50分

第3回	第2課リスニング・セクション Part II、リーディング・セクション Part V	<ul style="list-style-type: none"> ・リスニング・セクション：Yes/No疑問文 ・リーディング・セクション：広告文 ・映画② 	p18-20	50分
第4回	第2課リーディング・セクション Part V 第3課リスニング・セクション Part III	<ul style="list-style-type: none"> ・リーディング・セクション：広告文 ・リスニング・セクション：話している人について ・映画③ 	p21-22, 24, 26	50分
第5回	第3課リーディング・セクション：Part IV 場面別英会話①	<ul style="list-style-type: none"> ・リーディング・セクション：動詞の変化形 ・場面別英会話：ファストフード店で ・映画④ 	p27-29	50分
第6回	第4課リスニング・セクション Part I、リーディング・セクション Part V 場面別英会話②	<ul style="list-style-type: none"> ・リスニング・セクション：2人以上の動作や状態 ・リーディング・セクション：請求書・領収書 ・場面別英会話：レストランで ・映画⑤ 	p31-33（リーディング・セクションは解答するだけではなく、よく読解しておくこと）	50分
第7回	第4課リーディング・セクション Part V	<ul style="list-style-type: none"> ・リーディング・セクション：請求書・領収書 ・中間テスト前のまとめ ・映画⑥ 	p33-34（よく読解しておくこと）	50分
第8回	中間テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・中間テスト ・映画⑦ 	第1課～第4課について中間テストを実施するので、よく復習しておくこと。	240分
第9回	第5課リスニング・セクション Part II、リーディング・セクション Part IV	<ul style="list-style-type: none"> ・リスニング・セクション：疑問視を使う疑問文 ・リーディング・セクション：同じ単語の変化形 ・「パイレーツ・オブ・カリビアン」とその時代背景など 	p36-39	50分
第10回	第5課リーディング・セクション Part IV 第6課リスニング・セクション Part III	<ul style="list-style-type: none"> ・リーディング・セクション：同じ単語の変化形 ・リスニング・セクション：話題を問う ・アメリカン・ポップカルチャー① 	p40-44	50分
第11回	第6課リーディング・セクション Part V 場面別英会話③	<ul style="list-style-type: none"> ・リーディング・セクション：図表・一覧表 ・場面別英会話：空港で ・アメリカン・ポップカルチャー② 	p45-46	50分
第12回	第7課リスニング・セクション Part I、リーディング・セクション Part IV	<ul style="list-style-type: none"> ・リスニング・セクション：物の位置と名前 ・リーディング・セクション：前置詞の基本 ・出入国書類の記入例の作成 ・アメリカン・ポップカルチャー③ 	p49-51 「出入国書類の記入例」のプリント（まずは自力で作成しておくこと）	60分
第13回	第7課リーディング・セクション Part I V、チャレンジ TOEIC! 第8課リスニング・セ	<ul style="list-style-type: none"> ・リーディング・セクション：前置詞の基本 ・チャレンジ TOEIC!：トークの種類 ・リスニング・セクション：勧誘・依頼などの表現 ・アメリカン・ポップカルチャー④ 	p52-55	50分

	クシヨ Part II			
第14回	第8課リー ディング・ セクシヨ ン Part V	・リーディング・セクシヨ ン：お知らせ文 ・アメリカン・ポップカルチャー⑤	p56-57（よく読解しておくこ と）	60分
第15回	第8課リー ディング・ セクシヨ ン Part V、 Look at Realia	・リーディング・セクシヨ ン：お知らせ文 ・Look at Realia:近所の掲示物 ・場面別英会話 ・定期試験前のまとめ	p58-59（よく読解しておくこ と）	50分

学習計画注記 授業の実施状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。詳細は教室で指示します。

学生へのフィードバック方法 実施した中間テストは、採点して、翌週の授業で返却します。模範解答は配布するのでよく復習してください。中間テストは復習テストであると同時に定期試験のリハーサルという側面もあるので、勉強法や勉強量などについての反省点を定期試験対策に生かしてください。

評価方法

- ・中間テストは前期前半の学習範囲から出題する。問題数は40問で40点満点。
- ・定期試験は前期後半の学習範囲から出題する。50点満点。
- ・平常点は、授業への参加状況（受講態度、提出物などを含む）で総合的に判断する。（平常点の取り扱いについては初回の授業で説明します）
- ・中間テスト、定期試験では、下表に示す力を養うことを目的とする。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間テスト	○			○
定期試験	○			○

評価割合 平常点10%、中間試験40%、定期試験50%により評価します。

使用教科書名 (ISBN番号) TOEIC Bridgeから学ぶ実用英語の基礎
和田ゆり 他 著
南雲堂
1900円（税別）

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】 【思考・判断】 異なる文化圏の歴史、文化、社会、生活習慣に関する知識をもって、より広い視野から物事を考える力を培う。
【技術・表現】 学修で得たグローバルな知識や情報にもとづいて発信する英語コミュニケーション能力の基礎を培う。

学生へのメッセージ 世界の中にある日本、世界と共に歩む日本、そのようなことを常に意識しながら共に英語を学んでいきましょう。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	Listening & Speaking 1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大和田 寛	指定なし

ナンバリング	X13631M12
授業概要(教育目的)	国際社会における円滑なコミュニケーション活動を可能にするために必要な英語基礎力を身に付けることを目標とする。英語を使って異文化の人々と接触することが増えている現代の日常生活において、様々な場面・状況・話題に適切に対応できるような英語聴解力と英語表現法について重点的に学習する。主として音声英語を通して授業を進行するが、文字英語によるコミュニケーション活動も含まれる。
履修条件	特になし。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	国内、国外で、日常生活で使われる話し言葉の英語を知り、理解する。
思考・判断の観点 (K)	使われる英語が正しいのかが判断し易くなる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	外国人と積極的に英語で話してみようとする態度を養う。
技術・表現の観点 (A)	英語で接客や海外旅行ができるようにする。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	1. 基本応対 2. レジ応対	1. 「いらっしゃいませ」等、接客の最も基本となる英語 2. 「おつりは1,200円です」等、レジでの英語	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第2回	1. 電話応対 2. トラブル応対	1. 「担当者におつなぎいたします」等。 2. 「お待ちさせて大変申し訳ございません」等	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第3回	1. コンビニ、スーパー 2. 土産物店、雑貨店	1. 「お弁当は温めますか」等 2. 「扇子をお勧めします」等	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第4回	1. アパレル	1. 「とてもお似合いですよ」等	授業中で重要として指摘された	60分

	ル 2. 家電量 販店	2. 「これは最新モデルの掃除機です」等	ことを復習して身に付けておく こと。	
第5回	1. 電車 2. 新幹線 3. バス	1. 「浅草駅で銀座線に乗り換えてください」等 2. 「新幹線に乗る時には、乗車券と特急券が必要です」 等 3. 「バスは均一料金で210円です」等	授業中で重要として指摘された ことを復習して身に付けておく こと。	60分
第6回	1. タクシ ー 2. レスト ラン	1. 「料金が少し高いように思います」等 2. 「何名様ですか」等	授業中で重要として指摘された ことを復習して身に付けておく こと。	60分
第7回	1. 居酒屋 2. 寿司屋 3. ラーメ ン屋、そば 屋	1. 「40種類の日本酒を取り揃えております」等 2. 「食べ物のアレルギーはありますか」等 3. 「すみませんが、他のお客様と相席してございませ んか」等	授業中で重要として指摘された ことを復習して身に付けておく こと。	60分
第8回	1. ファス トフード 2. カフェ	1. 「こちらでお召し上がりですか、それともお持ち返り ですか」等 2. 「ランチにはライス、またはパンのどちらかがつきま す」等	授業中で重要として指摘された ことを復習して身に付けておく こと。	60分
第9回	1. アイ ス、ケーキ 屋 2. お好み 焼き、B級 グルメ店	1. 「こちらに保冷剤はご入用ですか」等 2. 「裏返してください」等	授業中で重要として指摘された ことを復習して身に付けておく こと。	60分
第10回	1. ホテル の予約受付 2. チェッ クイン 3. 館内、 客室	1. 「料金はサービス料込みで12,000円です」等 2. 「宿泊カードにご記入をお願いします」等 3. 「有料で冷蔵庫の中のお飲み物をご利用いただけま す」等	授業中で重要として指摘された ことを復習して身に付けておく こと。	60分
第11回	1. 風呂 2. 観光案 内所 3. 寺社参 拝	1. 「貴重品はどこで保管すればよろしいでしょうか」等 2. 「この地域には郷土料理を食べられるレストランがた くさんあります」等 3. 「この寺は1999年に世界遺産に登録されました」等	授業中で重要として指摘された ことを復習して身に付けておく こと。	60分
第12回	1. 和文化 体験 2. アミュ ーズメント 3. 道案内	1. 「着物を着て浅草を散策するツアーです」等 2. 「入場料は大人2,200円、子供1,000円です」等 3. 「次の信号を右に曲がってください」等	授業中で重要として指摘された ことを復習して身に付けておく こと。	60分
第13回	1. 急病人 2. 落とし 物、忘れ 物、迷子	1. 「どうなさいましたか」等 2. 「遺失物取扱所に確認してください」等	授業中で重要として指摘された ことを復習して身に付けておく こと。	60分
第14回	1. 地震、 火事 2. エレベ ーターに関 する表現	1. 「スタッフの指示にしたがってください」等 2. 「エレベーターに乗って7階に行ってください」等	授業中で重要として指摘された ことを復習して身に付けておく こと。	60分
第15回	街中で使え る表現	「スマホで調べてみます」、「日本は初めてですか」等	授業中で重要として指摘された ことを復習して身に付けておく こと。	60分

学生へのフィードバック方法	授業毎回の小テストは採点して次回の授業で返却する。				
評価方法	各授業で指摘した重要なところの中からその次回に5問を選んで小テストとする（5点満点）。第15回目の授業分の小テストはその時間中に行う。欠席、遅刻で小テストを受験できなかった場合は学生の申し出により随時追テストを行う。申し出がなければその分は0点として合算する。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	小テスト	○	○		○
	定期試験	○	○		○

評価割合	小テスト100%	
使用教科書名(ISBN番号)	接客英語：基本の『き』（南雲堂、2017）9784523265603	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【思考・判断】国際人として相応しい英語の知識と正確かどうかの判断力を養う。 【関心・意欲・態度】外国人相手の接客や海外旅行において積極的に英語で話してみようとする態度を養う。 【技能・表現】適切な英語で外国人と会話ができるようにする。	
オフィスアワー	月昼休み、水2時間目、4時間目	
学生へのメッセージ	接客英語は、訪日外国人が急増している今日、知っておくと働くのに有利になると思います。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	クラスメートとの会話練習
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	Listening & Speaking 1(月4)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	4 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 畝部 典子	指定なし

ナンバリング	X13630M12
授業概要(教育目的)	本授業では、アメリカの学生向けニュース番組CNN10を編集したテキストを利用して、英語聴解力を養成する。随時英語聴解力アセスメントを実施し、英語聴解力の向上を目指す。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	英語の聞き取り方、英語の理解の仕方を習得する。
思考・判断の観点 (K)	英語の音声パターン、文章構成を理解する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語の受信・発信能力を高める。
技術・表現の観点 (A)	英語のニュース番組を聞き取ることでできる英語聴解力を習得する。

学習計画

Listening & Speaking 1 (Monday 4th Period)

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション、英語聴解力アセスメント	CNN10の動画を視聴しながら授業の進め方について解説する。実用英検準2級程度の英語聴解力判定テストを行う。	ストリーミング配信(無料)を利用し、教科書Unit 1の音声を確認しておく。	120分
第2回	Unit 1 Largest Model Train (1)	動画を視聴し、Unit 1の設問等に取り組む。	Unit 1の動画を繰り返し視聴する。	120分
第3回	Unit 1 Largest Model Train (2)	動画を視聴し、Unit 1の設問等に取り組む。	Unit 1の動画を繰り返し視聴する。	120分
第4回	Unit 2 No Phones in	動画を視聴し、Unit 2の設問等に取り組む。	Unit 2の動画を繰り返し視聴する。	120分

	French Schools (1)			
第5回	Unit 2 No Phones in French Schools (2)	動画を視聴し、Unit 2の設問等に取り組む。	Unit 2の動画を繰り返し視聴する。	120分
第6回	Unit 3 Food on Instagram (1)、これまでのまとめ	動画を視聴し、Unit 3の設問等に取り組む。これまでに学習した内容を復習する。	Unit 1～3の動画を繰り返し視聴する。	120分
第7回	中間試験、英語聴解力アセスメント	Unit 1～3で学習した内容について中間試験を実施する。続いて英語聴解力アセスメントを実施する。	教科書に関しては動画を繰り返し視聴する。	120分
第8回	英語聴解力アセスメントの解説、Unit 3 Food on Instagram (2)	英語聴解力アセスメントの解説を行ってから動画を視聴し、Unit 3の設問等に取り組む。	Unit 3の動画を繰り返し視聴する。	120分
第9回	Unit 4 Adventure Healing (1)	動画を視聴し、Unit 4の設問等に取り組む。	Unit 4の動画を繰り返し視聴する。	120分
第10回	Unit 4 Adventure Healing (2)	動画を視聴し、Unit 4の設問等に取り組む。	Unit 4の動画を繰り返し視聴する。	120分
第11回	Unit 5 Knocker-Uppers (1)	動画を視聴し、Unit 5の設問等に取り組む。	Unit 5の動画を繰り返し視聴する。	120分
第12回	Unit 5 Knocker-Uppers (2)	動画を視聴し、Unit 5の設問等に取り組む。	Unit 5の動画を繰り返し視聴する。	120分
第13回	Unit 6 A Hungarian Cake (1)	動画を視聴し、Unit 6の設問等に取り組む。	Unit 6の動画を繰り返し視聴する。	120分
第14回	Unit 6 A Hungarian Cake (2)、前期のまとめ	動画を視聴し、Unit 6の設問等に取り組む。これまでに学習した内容を復習する。	Unit 1～6の動画を繰り返し視聴する。	120分
第15回	復習と期末試験、聴解力アセスメント	前期に学習した内容について復習し、期末試験を実施する。続いて聴解力アセスメントを実施する。	教科書に関しては動画を繰り返し視聴する。	120分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法 中間試験は採点基準を明らかにして学生に返却する。英語聴解力アセスメントは得点を学生に知らせる。期末試験は後期Listening & Speaking 2初回に採点基準を明らかにして返却する。

評価方法

- ・評価は、中間試験40%、期末試験40%、平常点20%（授業中の実績と英語聴解力アセスメントおよび小テストの結果）により判定する。
- ・随時小テストを実施する。
- ・授業中の取り組み、思考、発表などを総合して授業中の実績とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間試験	○	○		○
期末試験	○	○		○

平常点	○	○	○	○
評価割合	中間試験40%、期末試験40%、平常点20%で評価する。			
使用教科書名 (ISBN番号)	CNN 10 Student News Vol. 8 (朝日出版社) 978-4-255-15646-0			
参考図書	なし			
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 【思考・判断】 人間社会の多様性を外国語の知識と深い思考によって理解し、状況を的確に判断できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】 積極的に外国語を理解しようと努め、コミュニケーション能力を高めることにより社会の構成員として徳性をもって人々のために働くことができる。</p> <p>【技能・表現】 学修で得た英語技能をもって他者の意図を的確に理解し、他者との共感を創り出すことができる。</p>			
オフィスアワー	木曜2時限 1630研究室			
学生へのメッセージ	英語を通じて相手を理解しようとする意欲が英語聴解力、英語読解力を向上させます。授業を活用して確実に英語技能を身につける努力をしましょう。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング	○	授業は学生が自分で考え、それを表現し、能動的に授業に参加することで進められる。		
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	Listening & Speaking 1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 橋本 文子	指定なし

ナンバリング	X13630C12
授業概要(教育目的)	国際社会における円滑な英語コミュニケーション活動を可能にするために必要な英語基礎力を身につけることを目標とする。英語を使って異文化の人々と接触することが増えている現代の日常生活において、様々な場面・状況・話題に適切に対応できるような英語聴解力と英語表現法について重点的に学習する。主として音声英語を通して授業を進行するが、文字英語によるコミュニケーション活動も含まれる。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	英語のlisteningとspeakingを向上させるために必要な知識について理解を深めることができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語に関心を持ち、学習意欲を向上させることができる。
技術・表現の観点 (A)	英語で自分のことについて表現できるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	Introduction	授業の進め方の説明を行う。	Unit 1の1. Introductory Readingを訳してこること。	60分
第2回	Unit:1 1. Introductory Readingの読解	Unit:1 Introducing YourselfのIntroductory Readingの内容について読解と解説を行う。	Introductory Readingの復習と2. Grammar Reviewの予習を行うこと。	60分
第3回	Unit:1 3. Listeningの音声を聞く	2. Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 listeningの音声を聞きながらdictationを行う。	授業で行ったlisteningの部分のdictationの確認と復習をすること。	60分
第4回	Unit:1 3. Listeningの音声を聞く	listeningの音声を聞きながらdictationを行う。	授業で行ったlisteningの部分のdictationの確認と復習をすること。 3. と4. の問題を解いてこること。 5. Useful Vocabulary and Expressionを調べてこること。	60分
第5回	Unit:1 3. Listeningの	3. と4. の答え合わせと確認を行う。5. について練習を行う。	Unit 1で学んだことを基にActivity6で自分のことについて	60分

	内容の確認		て答える。	
第6回	自分のことについて表現する	Activity6の練習と発表を行う。 Activity7をまとめる。	Activity7について暗記する。 Unit:2 1 Introductory Readingを訳してくること。	60分
第7回	自分のことについて発表する Unit:2 Introductory Readingの読解	Activity7の内容について発表する。 Unit:2 My Best FriendのIntroductory Readingの内容について読解と解説を行う。	Introductory Readingの復習と 2. Grammar Reviewの予習を行うこと。	60分
第8回	Unit:2 3. Listeningの音声を聞く	2. Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 listeningの音声を聞きながらdictationを行う。	授業で行ったlisteningの部分のdictationの確認と復習をすること。 3.と4.の問題を解いてくること。 5. Useful Vocabulary and Expressionを調べてくること。 Activity6で自分のことについて答える。	60分
第9回	Unit:2 3. Listeningの内容の確認	3.と4.の答え合わせと確認を行う。5.について練習を行う。 Activity6の練習を行う。	Activity7についてまとめ、暗記すること。	60分
第10回	自分のことについて発表する Unit:3 Introductory Readingの読解	Activity7の内容について発表する。 Unit:3 My Typical DayのIntroductory Readingの内容について読解と解説を行う。	Introductory Readingの復習と 2. Grammar Reviewの予習を行うこと。	60分
第11回	Unit:3 3. Listeningの音声を聞く	2. Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 listeningの音声を聞きながらdictationを行う。	授業で行ったlisteningの部分のdictationの確認と復習をすること。 3.と4.の問題を解いてくること。 5. Useful Vocabulary and Expressionを調べてくること。 Activity6で自分のことについて答える。	60分
第12回	Unit:3 3. Listeningの内容の確認	3.と4.の答え合わせと確認を行う。5.について練習を行う。 Activity6の練習を行う。	Activity7についてまとめ、暗記すること。	60分
第13回	自分のことについて発表する Unit:4 Introductory Readingの読解	Activity7の内容について発表する。 Unit:4 Shopping HabitsのIntroductory Readingの内容について読解と解説を行う。	Introductory Readingの復習と 2. Grammar Reviewの予習を行うこと。	60分
第14回	Unit:4 3. Listeningの音声を聞く	2. Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 listeningの音声を聞きながらdictationを行う。	授業で行ったlisteningの部分のdictationの確認と復習をすること。 3.と4.の問題を解いてくること。 5. Useful Vocabulary and Expressionを調べてくること。 Activity6で自分のことについて答える。	60分
第15回	Unit:4 3. Listeningの内容の確認	3.と4.の答え合わせと確認を行う。5.について練習を行う。 Activity6の練習を行う。	Activity7についてまとめること。 これまでの授業内容について総復習して確認すること。	480分

学習計画注記	* 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	授業の始めに前の週の授業内容の確認と復習を行います。
評価方法	・各Unitの課題の発表ができていのかどうか確認する。 ・定期試験はIntroductory Reading、Grammar Review、Vocabulary and Expressions、Activity6から出題する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題発表	○		○	○
定期試験	○			

評価割合	定期試験70%、授業への積極的な参加と課題の発表30%で総合的に評価します。	
使用教科書名 (ISBN番号)	Have a Nice Day! / Masayuki Aoki / 南雲堂	
参考図書	なし	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】英語の読解力を向上させることで、管理栄養士として必要な情報や知識を英語の文献からも得ることができる。 【技能・表現】英語で自分のことを表現することができる。	
オフィスアワー	水曜日4時限 1610研究室	
学生へのメッセージ	授業で学んだことをしっかりと復習し、次回の授業内容についてもあらかじめ予習をしてきて下さい。授業に積極的に参加することを期待します。	
教育等の取組み状況		
	該当有 無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	Listening & Speaking 1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田中 愛	指定なし

ナンバリング	X13631C12
授業概要(教育目的)	この授業では、各ユニットのPracticeから様々な会話表現を学ぶ。有用な表現を理解した上で自身の立場に置きかえ、自然に使える英語を身に付け、outputすることを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	まとまった量の英文を聞き、主旨や大意をある程度、理解できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	身近な話題を平易な英文である程度、表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	前期授業ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価、テキスト、授業の進め方 予習、復習について Classroom English 	第1回授業の予習 ・特になし 第1回授業の復習 ・Classroom Englishを暗記する	60分
第2回	Unit1 Meeting People	<ul style="list-style-type: none"> Grammarの確認 Dialog1-3(対話練習) Practice1-3 Practice4 	第2回授業の予習 ・Dialog1-3のわからない単語を調べる 第2回授業の復習 ・指示された宿題を行う	120分
第3回	Unit1 Meeting People	<ul style="list-style-type: none"> 宿題の答え合わせ Practice4 Practice5 Practice7 	第3回授業の予習 ・Practice7(わからない単語を調べる)	120分

			第3回授業の復習 ・指示された宿題を行う	
第4回	Unit2 Talking about the Kitchen[1]	・宿題の答え合わせ ・Grammarの確認 ・Dialog1-3 (対話練習)	第4回授業の予習 ・Key Words 1-24を解く 第4回授業の復習 ・指示された宿題を行う	120分
第5回	Unit2 & Unit3 Talking about the Kitchen[2]	・宿題の答え合わせ ・Practice1-3 ・Unit3 Dialog ・Practice1-2	第5回授業の予習 ・Key Wordsを調べる 第5回授業の復習 ・指示された宿題を行う	120分
第6回	Unit3 Talking about the Kitchen[2]	・宿題の答え合わせ ・Practice3 ・Practice4	第6回授業の予習 ・Practice3のわからない単語 を調べる 第6回授業の復習 ・指示された宿題を行う	120分
第7回	Unit4 Likes and Dislikes	・宿題の答え合わせ ・Grammarの確認 ・Dialog1-3 (対話練習) ・Practice1-2	第7回授業の予習 ・Key Wordsの確認 第7回授業の復習 ・指示された宿題を行う	120分
第8回	Unit4 & Unit5 Ordering Food: What Do We Need?	・宿題の答え合わせ ・Practice3-7 ・Unit5 Grammar1 ・Dialog1-3 (対話練習)	第8回授業の予習 ・名詞をcountable nounsと uncountable nounsに分類する 第8回授業の復習 ・指示された宿題を行う	120分
第9回	Unit5 Ordering Food: What Do We Need?	・宿題の答え合わせ ・Grammar2-3 ・Practice2-7	第9回授業の予習 ・名詞をcountable nounsと uncountable nounsに分類する 第9回授業の復習 ・指示された宿題を行う	120分
第10回	Unit6 At a Restaurant	・宿題の答え合わせ ・Grammarの確認 ・Dialog1-3 (対話練習) ・Practice1-2	第10回授業の予習 ・Key Wordsを解く 第10回授業の復習 ・指示された宿題を行う	120分
第11回	Unit6 At a Restaurant	・宿題の答え合わせ ・Practice2-6 ・Dialog1-3 (対話練習) ・Practice1-2	第11回授業の予習 ・Garden Cafe Dinner Menuを 完成させる 第11回授業の復習 ・指示された宿題を行う	120分
第12回	DVD鑑賞	・セリフの書き取りなどを行う	第12回授業の予習 ・授業時に指示 第12回授業の復習 ・授業時に指示	120分
第13回	Unit7 Cooking	・宿題の答え合わせ ・Grammarの確認 ・Dialog1-3 (対話練習) ・Practice1-2	第13回授業の予習 ・Key Wordsの単語を調べる 第13回授業の復習 ・テストに向け、既習事項の復 習を行う	180分
第14回	Unit7 Cooking	・Practice3-5 ・テスト範囲の復習	第14回授業の予習 ・Practice3を解く 第14回授業の復習 ・テストに向け、既習事項の復 習を行う	180分
第15回	まとめと学 習到達度の 確認テスト	これまでの授業についてのまとめを行い、 授業内で学修の到達度を確認するためのテストを実施す る。	・テストに向け、既習事項の復 習を行う	180分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合により、重要表現のSpeaking Testを行うこともある。
学生へのフィードバック方法	実施した小テストは、基本的にその場で答え合わせ及び解説を行い、回収。 次週の授業時に返却。

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストは授業内容の復習と位置づけ、実施する。 (小テストに関する追再試験は行わない) ・定期試験は、前期授業内容を中心として出題する。 ・小テスト及び定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	小テスト・定期試験	○	○		
	平常点	○		○	
	その他			○	
評価割合	小テスト・試験 65% 平常点 (学習意欲、履修態度など) 25% その他 (任意課題などの提出状況など) 10%				
使用教科書名 (ISBN番号)	Speaking of Nutrition 食と栄養のコミュニケーション (南雲堂) ¥2,300 (税抜) ISBN 978-4-523-17827-9				
参考図書	必要に応じて、授業時に紹介します。				
ディプロマポリシーとの関連	【意欲・態度】自身の考えを発信し、他者と積極的に意思疎通を行う能力がある。 【技能・表現】身近な話題について、平易な英語で意思疎通をする能力がある。				
学生へのメッセージ	Don't be afraid of making mistakes!				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング	○	ランダムにペアもしくはグループを作り、テキスト内の基本となる対話の練習を行う。また、Dialogueを用いたロールプレイングも行う。			
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	Listening&Speaking 2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 大穀 郁子	指定なし

ナンバリング	X13642M12								
授業概要(教育目的)	<p>英語学習を通して異文化に対する視野を広げよう！この講座の狙いは、基本的な英会話の習得とともに国際人としての感覚を身に着けることにあります。</p> <p>①TOEIC Bridgeのテキストを使用して日常英会話を学びます。それぞれの場面で最低限必要な英語表現を学習し、実際に発話できるように訓練します。合わせて、英文レター類の書き方なども学び、国際常識を身に着けることをも狙いとします。</p> <p>②英語圏の文化、特にアメリカ現代文化への知識を深めていきます。</p>								
履修条件	特になし								
学習目標(到達目標)	<p>学習目標（到達目標）</p> <table border="1"> <tr> <td>知識・理解の観点 (K)</td> <td>英語圏の文化一般に特有の価値観についての理解を深めることができる。</td> </tr> <tr> <td>思考・判断の観点 (K)</td> <td>英語圏の歴史的・文化的背景や価値観を知ることによって複眼的に思考し判断する態度を養う。</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度の観点 (V)</td> <td>自らとは異なる他者を尊重し複眼的に理解する態度を養う。</td> </tr> <tr> <td>技術・表現の観点 (A)</td> <td>自らとは異なる他者を受容しつつ発信する英語コミュニケーション能力を涵養する。</td> </tr> </table>	知識・理解の観点 (K)	英語圏の文化一般に特有の価値観についての理解を深めることができる。	思考・判断の観点 (K)	英語圏の歴史的・文化的背景や価値観を知ることによって複眼的に思考し判断する態度を養う。	関心・意欲・態度の観点 (V)	自らとは異なる他者を尊重し複眼的に理解する態度を養う。	技術・表現の観点 (A)	自らとは異なる他者を受容しつつ発信する英語コミュニケーション能力を涵養する。
知識・理解の観点 (K)	英語圏の文化一般に特有の価値観についての理解を深めることができる。								
思考・判断の観点 (K)	英語圏の歴史的・文化的背景や価値観を知ることによって複眼的に思考し判断する態度を養う。								
関心・意欲・態度の観点 (V)	自らとは異なる他者を尊重し複眼的に理解する態度を養う。								
技術・表現の観点 (A)	自らとは異なる他者を受容しつつ発信する英語コミュニケーション能力を涵養する。								

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション 第9課リスニング・セクション PartⅢ	<ul style="list-style-type: none"> 授業の進め方について リスニング・セクション：場所を問う 	p60-62 (テキストの指示に従って問題に解答する。リスニング・セクションについては理解できるまで何度もCDを聞き、リーディング・セクションについては十分に読解しておくこと。以降、毎回同様に準備すること)	50分
第2回	第9課リスニング・セクション PartⅢ、リーディング・セクション	<ul style="list-style-type: none"> リスニング・セクション：場所を問う リーディング・セクション：接続詞 中級リスニング：アナウンス アメリカ現代史：1950年代の状況—映画「バック・トゥ・ザ・フューチャー」 	p61-63	50分

	<p>オンPartIV 中級リスニングにチャレンジ!</p>			
第3回	<p>第9課リーディング・セクション PartIV 第10課リスニング・セクション Part I 場面別英会話①</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リーディング・セクション：接続詞 ・リスニング・セクション：物や建物の状態 ・場面別英会話：ショッピング ・映画② 	p 64, 67-68	50分
第4回	<p>第10課リーディング・セクション Part V</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リーディング・セクション：商品の説明書 ・映画③ 	p69-71（よく読解しておくこと）	60分
第5回	<p>第11課リスニング・セクション Part II</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リスニング・セクション：How～の疑問文 ・映画④ 	p72-74	40分
第6回	<p>第11課リーディング・セクション PartIV ハロウィーンについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リーディング・セクション：関係詞 ・ハロウィーンの由来 ・アニメ「スヌーピーたちのハロウィーン」一部視聴 	p75-76	50分
第7回	<p>第11課リーディング・セクション PartIV 中間テスト前のまとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リーディング・セクション：関係詞② ・中間テスト前のまとめ ・映画⑤ 	p76	40分
第8回	中間テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・中間テスト ・現代を生きる女性たちへのエール—映画「ブラダを着た悪魔」 	第9課～第11課について中間テストを実施するので、よく復習しておくこと。	240分
第9回	<p>第12課リスニング・セクション PartIII 中級リスニングにチャレンジ!</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リスニング・セクション：具体的な事柄を問う ・中級リスニング②：アナウンス ・映画② 	p79-80	40分
第10回	<p>第12課リーディング・セクション PartV、 Look at Realia</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リーディング・セクション：Eメールの形式 ・Look at Realia:いろいろなカード ・映画③ 	p81-83（よく読解しておくこと）	60分
第11回	<p>第13課リスニング・セクション Part I、 リーディング・セクション PartIV</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リスニング・セクション：ふぞろいな描写 ・リーディング・セクション比較・最上級の形と意味 ・映画④ 	p84-87	60分
第12回	<p>第13課リーディング・セクション PartIV 映画の登場人物になりきって英会話してみよう!</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リーディング・セクション：比較・最上級の形と意味 ・「ブラダを着た悪魔」の脚本による英会話 	p87-88 「Devil Wears Prada」の英会話のプリント（読解しておくこと）	80分
第13回	<p>第14課リスニング・セクション Part II クリスマスカードを書こう!</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リスニング・セクション：さまざまな問いかけ ・英会話の中に表れる比較・最上級の表現 ・クリスマスカードの作成 ・アメリカ現代文化総まとめ①—「ブラダを着た悪魔」と20世紀欧米ファッション史 	p90-92 ・「英会話の中に表れる比較・最上級の表現」のプリント（問題に解答しておくこと） ・「英文クリスマスメッセージ講座」のプリント（熟読し、ク	90分

	現代アメリカ文化総まとめ①		リスマスカードに書く内容を下書きしておくこと)	
第14回	第14課リーディング・セクション Part V 現代アメリカ文化総まとめ②	・リーディング・セクション：ビジネスレターの基本 ・現代アメリカ文化総まとめ②ーアメリカ現代史とロック・ポップスの歴史	p93-94（よく読解しておくこと）	60分
第15回	アメリカ現代文化総まとめ③ー名演説にみるアメリカの社会と文化 定期試験前のまとめ	・リスニング＋リーディング：名演説にみるアメリカの社会と文化ーオバマ前大統領とキング牧師の演説 ・定期試験前のまとめ	「オバマ前大統領とキング牧師の演説」のプリントを熟読しておくこと。	90分

学習計画注記 授業の実施状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。詳細は教室で指示します。

学生へのフィードバック方法 実施した中間テストは、採点して、翌週の授業で返却します。模範解答は配布するのでよく復習してください。中間テストは復習テストであると同時に定期試験のリハーサルという側面もあるので、勉強法や勉強量などについての反省点を定期試験対策に生かしてください。

評価方法

- ・中間テストは後期前半の学習範囲から出題する。問題数は40問で40点満点。
- ・定期試験は後期後半の学習範囲から出題する。50点満点。
- ・平常点は、授業への参加状況（受講態度、提出物などを含む）で総合的に判断する。（平常点の取り扱いについては初回の授業で説明します）
- ・中間テスト、定期試験では、下表に示す力を養うことを目的とする。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間テスト	○			○
定期試験	○			○

評価割合 平常点10%、中間試験40%、定期試験50%により評価します。

使用教科書名 (ISBN番号) TOEIC Bridgeから学ぶ実用英語の基礎
和田ゆり 他 著
南雲堂
1900円（税別）

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】【思考・判断】異なる文化圏の歴史、文化、社会、生活習慣に関する知識をもって、より広い視野から物事を考える力を培う。
【技術・表現】学修で得たグローバルな知識や情報にもとづいて発信する英語コミュニケーション能力の基礎を培う。

学生へのメッセージ 世界の中にある日本、世界と共に歩む日本、そのようなことを常に意識しながら共に英語を学んでいきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	Listening & Speaking 2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大和田 寛	指定なし

ナンバリング	X13641M12
授業概要(教育目的)	国際社会における円滑なコミュニケーション活動を可能にするために必要な英語基礎力を身に付けることを目標とする。英語を使って異文化の人々と接触することが増えている現代の日常生活において、様々な場面・状況・話題に適切に対応できるような英語聴解力と英語表現法について重点的に学習する。主として音声英語を通して授業を進行するが、文字英語によるコミュニケーション活動も含まれる。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	国内、国外で、日常生活で使われる話し言葉の英語を知り、理解する。
思考・判断の観点 (K)	使われる英語が正しいのかが判断し易くなる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	外国人と積極的に英語で話してみようとする態度を養う。
技術・表現の観点 (A)	基本的な海外旅行英語と日常生活英語を使えるようにする。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	Introduction Unit	「どうぞ」、「もう一度言っていただけますか」、「ではまた」、「ちょっと待ってください」、「見ているだけです」等	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第2回	Unit 1 On the Plane	「チキンをお願いします」、「税関申告書をお願いします」、「荷物預かり証」等	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第3回	Unit 2 At the Currency Exchange	「円をドルに換えていただけますか」、「小銭も混ぜていただけますか」、「為替レート」等	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第4回	Unit 3 At the Hotel 1	「貴重品を預かって頂きたいのですが」、「タクシーを呼んでいただけますか」、「モーニングコールをお願いします」等	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第5回	Unit 4 At the Hotel 2	「このホテルには自動販売機はありますか」、「コインランドリーはありますか」、「近くに土産物店はありま	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておく	60分

		すか」等	こと。	
第6回	Unit 5 On the Train/Bus	「このバスはショッピングモールに行きますか」、「はい、3番目の停留所です」、「～線に乗ってください」等	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第7回	Unit 6 Sightseeing 1	「特別展はどちらですか」、「お手洗いはどちらですか」等	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第8回	Review 1	授業7回目までの復習	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第9回	Unit 7 Shopping 1	「これを試着できますか」、「ショーウィンドウにある時計を見せていただけますか」、「クレジットカードでお支払いができますか」等	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第10回	Unit 8 Shopping 2	「レジを探しているのですが」、「洗剤を探しているのですが」、「この商品を返品したいのですが」等	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第11回	Unit 9 At the Post Office	「この小包みを日本に送るのにいくらかかりますか」、「のりはありますか」、「郵便番号」等	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第12回	Unit 10 Sightseeing 2	「今日のショーのチケットはありますか」、「学生割引はありますか」、「日本語のパンフレットはありますか」等	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第13回	Unit 11 At the Restaurant	「日替わり定食をいただけますか」、「お勘定をお願いします」、「持ち帰りはできますか」等	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第14回	Unit 12 At the Hospital/Pharmacy	「頭痛がします」、「アレルギーがあります」、「活字体でご記入ください」等	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第15回	Review 2	授業9回目～14回目までの復習	授業中に重要として指摘されたことをよく身につけておくこと。	

学生へのフィードバック方法 授業毎回の小テストは採点してその次の授業で返却する。

評価方法 小テストは、各回の授業で重要として指摘されたことの中から5問を選んで、その次の授業で行う（5点満点）。欠席、遅刻で小テストを受験できなかった場合は学生の申し出により随時追テストを行う。申し出がなければその分は0点として合算する。定期試験では最終回の授業分の小テストを行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○		○
定期試験	○	○		○

評価割合 小テストの合計100%

使用教科書名 (ISBN番号) My First Trip (Cengage Learning, 2014) 9784863122420

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】、【思考・判断】国際人として相応しい英語の知識と使う英語が正しいかどうかの判断力を養う。
【関心・意欲・態度】海外旅行、日常生活で積極的に英語を使おうとする態度を養う。
【技能・表現】適切な英語で外国人と話せるようにする。

オフィスアワー 月昼休み、水2時間目、昼休み、4時間目

学生へのメッセージ 海外旅行英会話の入門編です。英語のことだけでなく、海外旅行で知っておくと便利な事柄まで勉強できます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング	○	クラスメートとの会話練習
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	Listening & Speaking 2(月4)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	4 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 畝部 典子	指定なし

ナンバリング	X13640M12
授業概要(教育目的)	本授業では、アメリカの学生向けニュース番組CNN10を編集したテキストを利用して、英語聴解力を養成する。随時英語聴解力アセスメントを実施し、英語聴解力の向上を目指す。
履修条件	今年度前期月曜4限のListening & Speaking 1(畝部担当)を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	英語の聞き取り方、英語の読み方を習得する。
思考・判断の観点 (K)	英語の音声パターン、文章構成を理解する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語の受信・発信能力を高める。
技術・表現の観点 (A)	英語のニュース番組を聞き取ることのできる英語聴解力を習得する。

学習計画

Listening & Speaking 2 (Monday 4th Period)

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	前期の復習、英語聴解力アセスメント	実用英検準2級程度の英語聴解力アセスメントを実施する。採点基準を明らかにして前期期末試験を返却する。CNN10の動画を視聴してUnit 1~6の内容を復習する。	ストリーミング配信(無料)を利用し、教科書Unit 1~6の動画を確認しておく。Unit 7の動画を繰り返し視聴する。	120分
第2回	Unit 7 New TVs	動画を視聴し、Unit 7の設問等に取り組む。	Unit 7の動画を繰り返し視聴する。	120分
第3回	Unit 8 Teaching English as a Second Language	動画を視聴し、Unit 8の設問等に取り組む。	Unit 8の動画を繰り返し視聴する。	120分
第4回	Unit 9 Burgers and Antibiotics	動画を視聴し、Unit 9の設問等に取り組む。	Unit 9の動画を繰り返し視聴する。	120分

第5回	Unit 10 Ikigai	動画を視聴し、Unit 10の設問等に取り組む。	Unit 10の動画を繰り返し視聴する。	120分
第6回	Unit 11 Workers in South Korea	動画を視聴し、Unit 11の設問等に取り組む。	Unit 11の動画を繰り返し視聴する。	120分
第7回	これまでの まとめ	Unit 7~11の動画を視聴し、学習内容を復習する。	Unit 7~11の動画を繰り返し視聴する。	120分
第8回	中間試験と 英語聴解力 アセスメント	Unit 7~11で学習した内容について中間試験を実施する。続いて英語聴解力判定テストを実施する。	教科書に関しては動画を繰り返し視聴する。	120分
第9回	英語聴解力 アセスメントの解説、 Unit 12 Smart Park in Dubai	英語聴解力アセスメントの解説を行ってから、Unit 12の動画を視聴し、設問等に取り組む。	Unit 12の動画を繰り返し視聴する。	120分
第10回	Unit 13 Ice Palaces	動画を視聴し、Unit 13の設問等に取り組む。	Unit 13の動画を繰り返し視聴する。	120分
第11回	Unit 14 A New Way of Farming	動画を視聴し、Unit 14の設問等に取り組む。	Unit 14の動画を繰り返し視聴する。	120分
第12回	Unit 15 Student Profile	動画を視聴し、Unit 15の設問等に取り組む。	Unit 15の動画を繰り返し視聴する。	120分
第13回	Try this, one more time!	最新のCNN 10を視聴し設問に取り組む。	音声・映像ストリーミング（無料）で動画を視聴する。	120分
第14回	Try this, one more time!	最新のCNN 10を視聴し設問に取り組む。	音声・映像ストリーミング（無料）で動画を視聴する。	120分
第15回	Try this, one more time!、これ までのまとめ	最新のCNN 10を視聴し設問に取り組む。これまで学習した内容を復習する。	音声・映像ストリーミング（無料）でCNN10の新しい動画を視聴する。教科書に関しては動画を繰り返し視聴する。	120分
第16回	期末試験と 英語聴解力 アセスメント	後期に学習した内容について期末試験を実施する。続いて英語聴解力アセスメントを実施する。	教科書に関しては学習した動画を繰り返し視聴する。	120分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合もある。				
学生へのフィードバック方法	中間試験は採点基準を明らかにして学生に返却する。英語聴解力アセスメントは得点を学生に知らせる。期末試験は次年度4月以降に希望者に返却する。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価は、中間試験40%、期末試験40%、平常点20%（授業中の実績と英語聴解力アセスメントおよび小テストの結果）により判定する。 ・随時小テストを実施する。 ・授業中の取り組み、思考、発表などを総合して授業中の実績とする。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	中間試験	○	○		○
	期末試験	○	○		○
	平常点	○	○	○	○
評価割合	中間試験40%、期末試験40%、平常点20%で評価する。				
使用教科書名 (ISBN番号)	CNN 10 Student News Vol. 8 (朝日出版社) 978-4-255-15646-0				
参考図書	なし				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 【思考・判断】 人間社会の多様性を外国語の知識と深い思考によって理解し、状況を的確に判断				

	<p>できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】積極的に外国語を理解しようと努め、コミュニケーション能力を高めることにより社会の構成員として徳性をもって人々のために働くことができる。</p> <p>【技能・表現】学修で得た英語技能をもって他者の意図を的確に理解し、他者との共感を創り出すことができる。</p>
オフィスアワー	木曜2時限 1630研究室
学生へのメッセージ	英語を通じて相手を理解しようとする意欲が英語聴解力、英語読解力を向上させます。授業を活用して確実に英語技能を身につける努力をしましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業は学生が自分で考え、それを表現し、能動的に授業に参加することで進められる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	Listening & Speaking 2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	2 限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 橋本 文子	指定なし

ナンバリング	X13640C12
授業概要(教育目的)	国際社会における円滑な英語コミュニケーション活動を可能にするために必要な英語基礎力を身につけることを目標とする。英語を使って異文化の人々と接触することが増えている現代の日常生活において、様々な場面・状況・話題に適切に対応できるような英語聴解力と英語表現法について重点的に学習する。主として音声英語を通して授業を進行するが、文字英語によるコミュニケーション活動も含まれる。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	英語のlisteningとspeakingを向上させるために必要な知識について理解を深めることができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語に関心を持ち、学習意欲を向上させることができる。
技術・表現の観点 (A)	英語で自分のことについて表現できるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	前期の学習内容の復習と確認	前期の学習内容について復習する	Unit:5 1 Introductory Readingを訳してこよう。	60分
第2回	Unit:5 1. Introductory Readingの読解	Unit:5 My Favorite CountryのIntroductory Readingの内容について読解と解説を行う。	Introductory Readingの復習と2. Grammar Reviewの予習を行うこと。	60分
第3回	Unit:5 3. Listening の音声を聞く	2. Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。listeningの音声を聞きながらdictationを行う。	授業で行ったlisteningの部分のdictationの確認と復習をすること。3.と4.の問題を解いてこよう。5. Useful Vocabulary and Expressionを調べてこよう。Activity6で自分のことについて答える。	60分
第4回	Unit:5 3. Listeningの内容の確認	3.と4.の答え合わせと確認を行う。5.について練習を行う。	Unit:5で学んだことを基にActivity6で自分のことについて答える。	60分

第5回	自分のことについて表現する	Activity6の練習と発表を行う。 Activity7をまとめる。	Activity7について暗記する。 Unit:6 1. Introductory Readingを訳してくること。	60分
第6回	自分のことについて発表する Unit:6 1. Introductory Readingの読解	Activity7の内容について発表する。 Unit:6 On CampusのIntroductory Readingの内容について読解と解説を行う。	Introductory Readingの復習と 2. Grammar Reviewの予習を行うこと。	60分
第7回	Unit:6 3. Listeningの音声を聞く	2. Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 listeningの音声を聞きながらdictationを行う。	授業で行ったlisteningの部分のdictationの確認と復習をすること。 3.と4.の問題を解いてくること。 5. Useful Vocabulary and Expressionを調べてくること。 Activity6で自分のことについて答える。	60分
第8回	Unit:6 3. Listeningの内容の確認	3.と4.の答え合わせと確認を行う。5.について練習を行う。 Activity6の練習を行う。	Activity7についてまとめ、暗記すること。 Unit:7の1. Introductory Readingを訳してくること。	60分
第9回	自分のことについて発表する Unit:7 1. Introductory Readingの読解	Activity7の内容について発表する。 Unit:7 My Favorite DishのIntroductory Readingの内容について読解と解説を行う。	Introductory Readingの復習と 2. Grammar Reviewの予習を行うこと。	60分
第10回	Unit:7 3. Listeningの音声を聞く	2. Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 listeningの音声を聞きながらdictationを行う。	授業で行ったlisteningの部分のdictationの確認と復習をすること。 3.と4.の問題を解いてくること。 5. Useful Vocabulary and Expressionを調べてくること。 Activity6で自分のことについて答える。	60分
第11回	Unit:7 3. Listeningの内容の確認	3.と4.の答え合わせと確認を行う。5.について練習を行う。 Activity6の練習を行う。	Activity7についてまとめ、暗記すること。 Unit:8の1. Introductory Readingを訳してくること。	60分
第12回	自分のことについて発表する Unit:8 1. Introductory Readingの読解	Activity7の内容について発表する。 Unit:8 My First Foreign Languageの1. Introductory Readingの内容について読解と解説を行う。	Introductory Readingの復習と 2. Grammar Reviewの予習を行うこと。	60分
第13回	Unit:8 3. Listeningの音声を聞く	2. Grammar Reviewの答え合わせと説明を行う。 listeningの音声を聞きながらdictationを行う。	授業で行ったlisteningの部分のdictationの確認と復習をすること。 3.と4.の問題を解いてくること。 5. Useful Vocabulary and Expressionを調べてくること。 Activity6で自分のことについて答える。	60分
第14回	Unit:8 3. Listeningの内容の確認	3.と4.の答え合わせと確認を行う。5.について練習を行う。 Activity6の練習を行う。	Activity7についてまとめ、暗記すること。	60分
第15回	自分のことについて発表する これまでのまとめ	Activity7の内容について発表する。 これまでの総復習と確認をする。	これまでの授業内容について総復習をして確認すること。	480分

学習計画注記	* 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	授業の始めに前の週の授業内容の確認と復習を行います。
評価方法	・各Unitの課題の発表ができているかどうか確認する。 ・定期試験はIntroductory Reading、Grammar Review、Vocabulary and Expressions、Activity6から出題する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題発表	○		○	○

定期試験	○		
評価割合	定期試験70%、授業への積極的な参加と課題の発表30%で総合的に評価します。		
使用教科書名 (ISBN番号)	Have a Nice Day! / Masayuki Aoki / 南雲堂		
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】英語の読解力を向上させることで、管理栄養士として必要な情報や知識を英語の文献からも得ることができる。 【技能・表現】英語で自分のことを表現することができる。		
オフィスアワー	水曜日3時限 1610研究室		
学生へのメッセージ	授業で学んだことをしっかりと復習し、次回の授業内容についてもあらかじめ予習をしてきて下さい。授業に積極的に参加することを期待します。		
教育等の取組み状況			
	該当有 無	概要	
実務経験を活かした授業			
アクティブ・ラーニング			
情報リテラシー教育			
ICT活用			

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	Listening & Speaking 2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田中 愛	指定なし

ナンバリング	X13641C12
授業概要(教育目的)	この授業では、各ユニットのPracticeから様々な会話表現を学ぶ。有用な表現を理解した上で自身の立場に置きかえ、自然に使える英語を身に付け、outputすることを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	まとまった量の英文を聞き、主旨や大意をある程度、理解できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	身近な話題を平易な英文である程度、表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	後期授業ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価、テキスト、授業の進め方 予習、復習について Classroom English 時間表現 	第1回授業の予習 ・特になし 第1回授業の復習 ・Classroom Englishを暗記する	60分
第2回	Unit8 Recipes	<ul style="list-style-type: none"> Grammar Key Wordsの確認 Listening 	第2回授業の予習 ・Key Wordsを調べる 第2回授業の復習 ・Grammar Exerciseを解く	120分
第3回	Unit8 Recipes	<ul style="list-style-type: none"> 宿題の答え合わせ Practice1-4 	第3回授業の予習 ・Key Wordsを調べる 第3回授業の復習 ・Practice1を暗記する	120分
第4回	Unit9	<ul style="list-style-type: none"> Grammar 	第4回授業の予習	120分

	Giving Dietary Advice	・ Dialog1-3 (対話練習)	・ Matchingを解く 第4回授業の復習 ・ Practice1を解く	
第5回	Unit9 Giving Dietary Advice	・ 宿題の答え合わせ ・ Practice2-7	第5回授業の予習 ・ Practice4の単語を調べる 第5回授業の復習 ・ Practice6を暗記する	120分
第6回	Unit10 Talking about Diets[1]	・ 宿題の答え合わせ ・ Grammar ・ Dialog1-3 (対話練習)	第6回授業の予習 ・ Adverbs of Frequency (2) を調べる 第6回授業の復習 ・ 指示された宿題を行う	120分
第7回	Unit10 & Unit11 Researching Diet Information	・ 宿題の答え合わせ ・ Practice2-6 ・ Unit11 Dialog1-3 (対話練習) ・ Grammar1	第7回授業の予習 ・ 授業時に指示 第7回授業の復習 ・ Grammar Exerciseを完成させる	120分
第8回	Unit11 Researching Diet Information	・ Grammar2 ・ Practice1-7	第8回授業の予習 ・ Practice3の表を解読する 第8回授業の復習 ・ 指示された宿題を行う	120分
第9回	Unit12 Life as a Dietitian	・ 宿題の答え合わせ ・ Dialog1-2 (対話練習) ・ Grammar ・ Practice2-6	第9回授業の予習 ・ Practice1を解く 第9回授業の復習 ・ 指示された宿題を行う	120分
第10回	Unit13 Talking about Diets[2]	・ 宿題の答え合わせ ・ Dialog1-3 (対話練習) ・ Grammar ・ Practice1	第10回授業の予習 ・ Grammarの単語を調べる 第10回授業の復習 Glen's Partyを和訳する	120分
第11回	Unit13 & Unit14 People with Special Dietary Needs	・ 宿題の答え合わせ ・ Practice3-7 ・ Unit14 Dialog1-3 (対話練習) ・ Grammar	第11回授業の予習 ・ Key Wordsを調べる 第11回授業の復習 ・ Grammar exercise1-3を解く (第13回授業で確認)	120分
第12回	DVD鑑賞	・ セリフの書き取りなどを行う	第12回授業の予習 ・ 授業時に指示 第12回授業の復習 ・ 授業時に指示	120分
第13回	Unit14 People with Special Dietary Needs	・ 宿題の答え合わせ ・ Practice1-6	第13回授業の予習 ・ Key Phraseを調べる 第13回授業の復習 後期試験に向け総復習を行う	120分
第14回	Unit15 Talking about Experiences	・ Dialog1-3 (対話練習) ・ Grammar ・ Practice1	第14回授業の予習 ・ Grammar内のVerbsを調べる 第14回授業の復習 ・ Practice2	120分
第15回	Unit15 & Review	・ 宿題の答え合わせ ・ Practice3-5 ・ 後期試験範囲の総復習	・ 定期試験に向けた総復習	180分
第16回	定期試験	・ 学習到達度の確認試験	・ 定期試験に向けた総復習	180分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合により、重要表現のSpeaking Testを行うこともある。
学生へのフィードバック方法	実施した小テストは、基本的にその場で答え合わせ及び解説を行い、回収。 次週の授業時にて返却。
評価方法	・ 小テストは授業内容の復習と位置づけ、実施する。 (小テストに関する追再試験は行わない) ・ 定期試験は、前期授業内容を中心として出題する。 ・ 小テスト及び定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト・定期試験	○	○		
平常点			○	
その他	○		○	

評価割合	小テスト・試験 65% 平常点 (学習意欲、履修態度など) 25% その他 (任意課題などの提出状況など) 10%
使用教科書名 (ISBN番号)	Speaking of Nutrition 食と栄養のコミュニケーション (南雲堂) ¥2,300 (税抜) ISBN 978-4-523-17827-9
参考図書	必要に応じて、授業時に紹介します。
ディプロマポリシーとの関連	【意欲・態度】自身の考えを発信し、他者と積極的に意思疎通を行う能力がある。 【技能・表現】身近な話題について、平易な英語で意思疎通をする能力がある。
学生へのメッセージ	Don't be afraid of making mistakes!

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	ランダムにペアもしくはグループを作り、テキスト内の基本となる対話の練習を行う。また、Dialogueを用いたロールプレイングも行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	Reading & Writing 1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大和田 寛	指定なし

ナンバリング	X13650M12
授業概要(教育目的)	Reading & Writing 1, 2 は、基本的な英語読解力と英語表現力の養成に重点を置き授業を行う。英語による文学作品、論説文、随筆、ノンフィクションなど様々な読解資料を通じて書き手の思想や意図などを正しく読み取る読解力だけでなく、事実を描写し自分の意見や考えを論理的かつ的確に表現できるような英語表現力を身に着ける。この科目を土台として、英語による専門分野の文献読解や英語論文作成につなげていく。
履修条件	特になし。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	英語を使うには語彙力と文法の知識がまず必要になる。この授業ではそのうちの文法を学習する。
思考・判断の観点 (K)	自分の使う英語が正しいものなのかの判断がしやすくなる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的に、かつ注意をしつつ、英語を使おうとする態度を養う。
技術・表現の観点 (A)	文法的に正しい英語を使えるようにする。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	1 文の種類	§1 肯定文と否定文 §2 平叙文と疑問文 §3 命令文と感嘆文 §4 付加疑問文 §5 否定疑問文と答え方 §6 疑問詞を持つ疑問文	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第2回	2. 文型(1)	§7 <S+V[+副詞]> (第1文型) §8 <S+V+C> (第2文型) §9 <S+V+O> (第3文型) §10 <S+V+O+O> (第4文型) §11 <S+V+O+C> (第5文型) §12 <S+V+C> (第2文型 その2) §13 <S+V+O> (第3文型 その2) §14 <S+V+IO+DO> (第4文型 その2) §15 <S+V+to[for, of]~> (第3文型 その2)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第3回	3. 基本時制	§16 現在時制 §17 過去時制 §18 未来時制 §19 現在時制で未来を表す場合 §20 If節中にwillを用いる場合 §21 shallが使われる場合	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第4回	4. 進行	§22 現在進行形 §23 過去進行形 §24 未来進行	授業中で重要として指摘された	60分

	形	形 § 25 be going to § 26 進行形で予定を表す場合 § 27 進行形で反復動作を表す場合 § 28 進行形にしない動詞	ことを復習して身に着けておくこと。	
第5回	5. 完了形	§ 29 現在完了の表す意味 § 30 have gone to と have been to § 31 現在完了形と副詞 § 32 現在完了進行形	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第6回	6. 完了形 (II)	§ 33 過去完了形 § 34 未来完了形 § 35 過去完了進行形、未来完了進行形 § 36 現在完了の未来完了代用	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第7回	7. 助動詞	§ 37 can § 38 may § 39 must § 40 should § 41 would like to § 42 強い推量を表す can § 43 was[were] able to の用法 § 44 would や used to の用法 § 45 had better § 46 ought to § 47 need, dare § 48 感情や判断の根拠を表す that 節中の should § 49 命令、決定、提案、主張を表す that 節中の should § 50 ていねいさを表す could, should, would, might § 51 should (may, must) have + 過去分詞	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第8回	8. 態	§ 52 受け身の作り方 § 53 受け身の使われる場合 § 54 群動詞の受け身 § 55 (S+V+IO+DO) の受け身 § 56 受け身文が by ~ 以外になる場合 § 57 (get (become) + 過去分詞) になる場合 § 58 People say [that] ~ の受け身	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第9回	9. 不定詞	§ 59 名詞的用法 § 60 形容詞的用法 § 61 副詞的用法 § 62 慣用表現 § 63 (It is ~ [for...] to ~) の構文 § 64 副詞的用法 (その2) § 65 (1) (感覚動詞+to+toなし不定詞)、(2) (使役動詞+to+toなし不定詞) § 66 完了形不定詞 § 67 慣用的表現	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第10回	10, 11 分詞	§ 68 分詞の限定用法 § 69 (S+V+C (分詞)) § 70 (S+V+O+C (分詞)) § 71 (have+O+過去分詞) § 72 分詞構文の基本 § 73 分詞構文の作り方 § 74 「譲歩」「条件」を表す分詞構文 § 75 主節と従節の主語が異なる場合 § 76 主節と従節の時制が異なる場合 § 77 being の省略 § 78 分詞構文の慣用表現	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第11回	11 動名詞	§ 79 主語としての動名詞 § 80 目的語としての動名詞 § 81 補語としての動名詞 § 82 動名詞の意味上の主語 § 83 完了形の動名詞 § 84 動名詞を目的語としてとる動詞 § 85 動名詞と不定詞では意味が異なる場合 § 86 動名詞を用いた複合語 § 87 慣用表現	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第12回	12 比較	§ 88 比較級、最上級の作り方 § 89 同等比較を表す文 § 90 比較級を用いた文 § 91 最上級を用いた文 § 92 倍数表現 § 93 比較級、最上級の強め方 § 94 注意すべき比較級、最上級 § 95 慣用表現 § 96 原級+比較級+最上級	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第13回	13. 関係代名詞	§ 97 関係代名詞の種類と格 § 98 who—whose—whom の用法 § 99 which—of which, that の用法 § 100 前置詞+関係代名詞；関係代名詞~前置詞 § 101 that が好まれる場合 § 102 関係代名詞 what § 103 慣用的表現 § 104 複合関係代名詞 whoever, whomever, whatever § 105 継続用法 who, which		
第14回	14. 関係副詞	§ 106 関係副詞の種類 § 107 when § 108 where § 109 why § 110 how または the way § 111 先行詞を省略することがある § 112 複合関係副詞 whenever, wherever § 113 関係副詞の継続用法		
第15回	15. 接続詞、前置詞	§ 114 等位接続詞— and, but, or [nor] § 115 従位接続詞 § 116 その他の等位接続詞 § 117 命令文+and, 命令文+or~ § 118 not only A but (also) B § 119 その他の従位接続詞 § 120 前置詞の働き § 121 「時」「位置」を表す前置詞 § 122 その他の前置詞 § 123 「時」を表す注意すべき用法 § 124 「位置」を表す注意すべき用法 § 125 「原因・理由」を表す前置詞 § 126 材料を表す前置詞 § 127 その他の注意すべき用法		

学生へのフィードバック方法	毎回の授業での小テストは採点してその次回の授業で返却する。
評価方法	小テストは、その前回の授業で重要として指摘されたことの中から当日5問を選んで出題する(5点満点)。第15回目の授業分の小テストはその時間中に行う。欠席、遅刻で受験できなかった場合は学生の申し出により随時追テストを行う。申し出がなければその分は0点として合算する。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○		○
定期試験	○	○		○

評価割合	小テストの合計100%
使用教科書名 (ISBN番号)	Groundwork for Grammar (南雲堂、2004) 9784523174332
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 【思考・判断】 国際人として活躍するにふさわしい英語力を養う。 【関心・意欲・態度】 どの国の人相手でも分け隔てなく積極的に英語で関わろうとする態度を養う。 【技能・表現】 文法的に正しい英語を使えるようにする。
オフィスアワー	月昼休み、水2時間目、昼休み、4時間目
学生へのメッセージ	暗記よりも理解を促すようところがけます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	Reading & Writing 1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 橋本 文子	指定なし

ナンバリング	X13650C12
授業概要(教育目的)	英語に限らず外国語を習得するためには、発音や語彙の学習はもちろん、十分な文法学習が必要です。この授業では、高校までに学んだ英文法の事項をしっかりと復習し、語彙を増やすための練習問題と合わせて、文法事項を確認するための基礎的な英作文と応用英作文を行い、さらに興味深い内容からなる英文の読解へと進んでいきます。英文法をしっかりと学習することで、英語のreadingとwritingの向上を目指します。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	英語のreadingとwritingに必要な文法知識について理解を深めることができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語に関心を持ち、学習意欲を向上させることができる。
技術・表現の観点 (A)	英語で自分のことについて表現できるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	Introduction	授業の進め方の説明を行う。	Chapter 1 Grammar Check、Exercises、Vocabulary、Rearrangingの予習を行うこと。	60分
第2回	Chapter 1 5つの基本文型 Grammarと Composition	Chapter 1 Grammar Check、Exercises、Vocabulary、Rearranging	Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの予習を行うこと。	60分
第3回	Chapter 1 5つの基本文型 Composition とReading	Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの答え合わせと解説を行う。	Reading Comprehension II、Chapter 2のGrammar Check、Exercises、Vocabularyの予習を行うこと。	60分
第4回	Chapter 2 動詞	Reading Comprehension II、Chapter 2のGrammar Check、Exercises、Vocabularyの答え合わせと解説を行う。	Rearranging、Basic Composition、Applied Composition、Reading	60分

	GrammarとComposition		Comprehension Iの予習を行うこと。	
第5回	Chapter 2 動詞CompositionとReading	Rearranging、Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの答え合わせと解説を行う。	Reading Comprehension II、Chapter 2のGrammar Check、Exercises、Vocabularyの予習を行うこと。	60分
第6回	Chapter 3 進行形・未来形・助動詞GrammarとComposition	Reading Comprehension II、Chapter 2のGrammar Check、Exercises、Vocabularyの答え合わせと解説を行う。	Rearranging、Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの予習を行うこと。	60分
第7回	Chapter 3 進行形・未来形・助動詞CompositionとReading	Rearranging、Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの答え合わせと解説を行う。	Reading Comprehension II、Chapter 4のGrammar Check、Exercises、Vocabulary、Rearrangingの予習をすること。	60分
第8回	Chapter 4 名詞・冠詞・代名詞GrammarとComposition	Reading Comprehension II、Chapter 4のGrammar Check、Exercises、Vocabulary、Rearrangingの答え合わせと解説を行う。	Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの予習を行うこと。	60分
第9回	Chapter 4 名詞・冠詞・代名詞CompositionとReading	Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの答え合わせと解説を行う。	Reading Comprehension II、Chapter 5のGrammar Check、Exercises、Vocabulary、Rearrangingの予習をすること。	60分
第10回	Chapter 5 前置詞・接続詞(I)GrammarとComposition	Reading Comprehension II、Chapter 5のGrammar Check、Exercises、Vocabulary、Rearrangingの答え合わせと解説を行う。	Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの予習を行うこと。	60分
第11回	Chapter 5 前置詞・接続詞(I)CompositionとReading	Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの答え合わせと解説を行う。	Reading Comprehension II、Chapter 6のGrammar Check、Exercises、Vocabulary、Rearrangingの予習をすること。	60分
第12回	Chapter 6 形容詞・副詞と比較級GrammarとComposition	Reading Comprehension II、Chapter 6のGrammar Check、Exercises、Vocabulary、Rearrangingの答え合わせと解説を行う。	Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの予習を行うこと。	60分
第13回	Chapter 6 形容詞・副詞と比較級CompositionとReading	Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの答え合わせと解説を行う。	Reading Comprehension II、Chapter 7のGrammar Check、Exercises、Vocabulary、Rearrangingの予習をすること。	60分
第14回	Chapter 7 命令文・感嘆文Grammar CheckとComposition	Reading Comprehension II、Chapter 7のGrammar Check、Exercises、Vocabulary、Rearrangingの答え合わせと解説を行う。	Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの予習を行うこと。	60分
第15回	Chapter 7 命令文・感嘆文CompositionとReading	Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの答え合わせと解説を行う。	これまでの授業内容の総復習をすること。	予習・復習 840分

学習計画注記	* 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	Grammar Checkでこれまでの学習内容の確認をします。
評価方法	・教科書の課題ができていどうか確認します。 ・定期試験はGrammar Check、Exercises、Composition、Reading Comprehensionから出題します。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
教科書の課題	○		○	○
定期試験	○			

評価割合	定期試験70%、課題と授業への積極的な参加30%で総合的に評価します。
使用教科書名 (ISBN番号)	Elementary English Reading & Writing / Tetsuzo Sato, Maki Ito / 南雲堂
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】英文法をしっかりと理解することで、英語の読解力と英作力を向上させ、英語の文献からも必要な情報や知識を得ることができる。 【技能・表現】英語で自分のことを表現できる。
学生へのメッセージ	授業で学んだことをしっかりと復習し、また次回の授業内容についてもあらかじめ予習してきて下さい。授業に積極的に参加することを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有 無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	Reading & Writing 2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大和田 寛	指定なし

ナンバリング	X13660M12
授業概要(教育目的)	Reading & Writing 1, 2 は、基本的な英語読解力と英語表現力の養成に重点を置き授業を行う。英語による文学作品、論説文、随筆、ノンフィクションなど様々な読解資料を通じて書き手の思想や意図などを正しく読み取る読解力だけでなく、事実を描写し自分の意見や考えを論理的かつ的確に表現できるような英語表現力を身に着ける。この科目を土台として、英語による専門分野の文献読解や英語論文作成につなげていく。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	英語を使うには語彙力と文法の知識がまず必要になる。この授業ではそのうちの文法を学習する。
思考・判断の観点 (K)	自分の使う英語が正しいものなのかが判断し易くなる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的に、かつ注意をしつつ英語を使おうとする態度を養う。
技術・表現の観点 (A)	文法的に正しい英語を使えるようにする。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	1. 仮定法	§ 128 仮定法過去 § 129 仮定法過去完了 § 130 If ~should § 131 I wish S + 仮定法 § 132 as if [though] S + 仮定法 § 133 If it were not for ~ ; If it had not been for ~ § 134 If節を用いずに仮定を表す場合 § 135 Ifの省略 § 136 丁寧さを表す should, would, could, might § 137 It is time S + 仮定法過去	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第2回	2. 話法	§ 138 時制の一致 § 139 平叙文の話法 § 140 疑問文の話法 § 141 命令文の話法 § 142 感嘆文の話法 § 143 話法と副詞 § 144 混合文の話法 § 145 時制の一致に従わない場合	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第3回	3. 強調、否定	§ 146 S + V + O § 147 S+V+IO+DO § 148 S+V+O+C § 149 強調文 § 150 否定文	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分

第4回	4. 名詞	§ 151 数えられる名詞 § 152 数えられない名詞 § 153 名詞の所有格	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第5回	5. 冠詞、代名詞	§ 154 不定冠詞の基本用法 § 155 定冠詞の基本的用法 § 156 不定冠詞の発展的用法 § 157 定冠詞の発展的用法 § 158 冠詞の省略 § 159 冠詞の位置 § 160 人称代名詞 § 161 指示代名詞 § 162 疑問代名詞 § 163 不定代名詞	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第6回	6. 形容詞	§ 164 限定用法 § 165 限定用法にのみに用いられる形容詞 § 166 叙実用法 § 167 叙実用法にのみに用いられる形容詞 § 168 数量形容詞 § 169 限定用法と叙実用法で意味の異なる場合 § 170 注意すべき形容詞	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第7回	7. 副詞、その他の構文・表現	§ 171 語の修飾 § 172 文の修飾 § 173 形容詞と同形の副詞 § 174 注意すべき副詞 § 175 他品詞の副詞代用 § 176 頻度を表す副詞の位置 § 177 名詞化表現 § 178 無生物主語	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第8回	8. ワークブック演習①	1. 文の種類 2. 文型 (1) 3. 基本時制 4. 進行形	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第9回	9. ワークブック演習②	5. 完了形 (1) 6. 完了形 (2) 7. 助動詞 8. 態 (1)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第10回	10. ワークブック演習③	9. 態 (2) 10. 不定詞 11. 分詞 (1) 12. 分詞 (2)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第11回	11. ワークブック演習④	13. 動名詞 14. 比較 15. 関係代名詞 16. 関係副詞	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第12回	12. ワークブック演習⑤	17. 接続詞 18. 前置詞 19. 仮定法	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第13回	13. ワークブック演習⑥	20. 語法 (1) 21. 文型 (2) 22. その他の構文・表現	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第14回	14. ワークブック演習⑦	23. 名詞 24. 冠詞 25. 代名詞	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第15回	15. ワークブック演習⑧	26. 形容詞 (2) 27. 副詞 28. その他の構文・表現	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分

学生へのフィードバック方法 授業毎回での小テストは採点してその次回の授業で返却する。

評価方法 小テストは、その前回の授業で重要として指摘されたことの中から当日5問を選んで出題する (5点満点)。欠席、遅刻で受験できなかった場合は学生の申し出により随時追テストを行う。申し出がなければその分は0点として合算する。定期試験では最終回の授業分の小テストを行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○		○
定期試験	○	○		○

評価割合 小テスト100%

使用教科書名 (ISBN番号) Groundwork for Grammar (南雲堂、2004) 9784523174332
Groundwork for Grammar: Workbook (南雲堂、2004) 9784523174349

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】 【思考・判断】 国際人として活躍するにふさわしい英語力を養う。
【関心・意欲・態度】 どの国の人相手でも分け隔てなく英語で関わろうとする態度を養う。
【技能・表現】 文法的に正しい英語を使えるようにする。

オフィスアワー 月昼休み、水2時間目、昼休み、4時間目

学生へのメッセージ

暗記よりも理解を促すようところがけます。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	Reading & Writing 2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 橋本 文子	指定なし

ナンバリング	X13660C12
授業概要(教育目的)	英語に限らず外国語を習得するためには、発音や語彙の学習はもちろん、十分な文法学習が必要です。この授業では、高校までに学んだ英文法の事項をしっかりと復習し、語彙を増やすための練習問題と合わせて、文法事項を確認するための基礎的な英作文と応用英作文を行い、さらに興味深い内容からなる英文の読解へと進んでいきます。英文法をしっかりと学習することで、英語のreadingとwritingの向上を目指します。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	英語のreadingとwritingに必要な文法知識について理解を深めることができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語に関心を持ち、学習意欲を向上させることができる。
技術・表現の観点 (A)	英語で自分のことについて表現できるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	前期の学習内容の復習	前期の学習内容の復習をする。	Chapter 7 Reading Comprehension II, Chapter 8 のGrammar Check Exercisesの予習を行うこと。	60分
第2回	Chapter 8 不定冠詞 GrammarとComposition	Chapter 7 Reading Comprehension II, Chapter 8のGrammar Check、Exercisesの答え合わせと解説を行う。	Vocabulary、Rearranging、Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iを予習すること。	60分
第3回	Chapter 8 不定冠詞 CompositionとReading	Vocabulary、Rearranging、Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iを予習すること。	Reading Comprehension II、Chapter 9 動名詞と分詞のGrammar Check、Exercises、Vocabulary、Rearrangingを予習すること。	60分
第4回	Chapter 9 動名詞と分詞	Reading Comprehension II、Chapter 9 動名詞と分詞のGrammar Check、Exercises、Vocabularyの答え合わせと	Rearranging、Basic Composition、Applied	60分

	GrammarとComposition	解説を行う。	Composition、Reading Comprehension Iの予習を行うこと。	
第5回	Chapter 9 動名詞と分詞CompositionとReading	Rearranging、Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの答え合わせと解説を行う。	Reading Comprehension II、Chapter 10 各種疑問文・Itの特別用法のGrammar Check、Exercises、Vocabularyを予習すること。	60分
第6回	Chapter 10 各種疑問文・Itの特別用法GrammarとComposition	Reading Comprehension II、Chapter 10 各種疑問文・Itの特別用法のGrammar Check、Exercises、Vocabularyの答え合わせと解説を行う。	Rearranging、Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの予習を行うこと。	60分
第7回	Chapter 10 各種疑問文・Itの特別用法CompositionとComprehension	Rearranging、Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの答え合わせと解説を行う。	Reading Comprehension II、Chapter 11 受動態のGrammar Check、Exercises、Vocabularyを予習すること。	60分
第8回	Chapter 11 受動態GrammarとComposition	Reading Comprehension II、Chapter 11 受動態のGrammar Check、Exercises、Vocabularyの答え合わせと解説を行う。	Rearranging、Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの予習を行うこと。	60分
第9回	Chapter 11 受動態CompositionとComprehension	Rearranging、Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの答え合わせと解説を行う。	Reading Comprehension II、Chapter 12 完了形のGrammar Check、Exercises、Vocabularyを予習すること。	60分
第10回	Chapter 12 完了形GrammarとComposition	Reading Comprehension II、Chapter 12 完了形のGrammar Check、Exercises、Vocabularyの答え合わせと解説を行う。	Rearranging、Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの予習を行うこと。	60分
第11回	Chapter 12 完了形CompositionとComprehension	Rearranging、Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの答え合わせと解説を行う。	Reading Comprehension II、Chapter 12 完了形のGrammar Check、Exercises、Vocabularyを予習すること。	60分
第12回	Chapter 13 接続詞GrammarとComposition	Reading Comprehension II、Chapter 12 完了形のGrammar Check、Exercises、Vocabularyを予習すること。	Rearranging、Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの予習を行うこと。	60分
第13回	Chapter 13 接続詞CompositionとComprehension	Rearranging、Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの答え合わせと解説を行う。	Reading Comprehension II、Chapter 12 完了形のGrammar Check、Exercises、Vocabularyを予習すること。	60分
第14回	Chapter 14 仮定法GrammarとComposition	Reading Comprehension II、Chapter 12 完了形のGrammar Check、Exercises、Vocabularyの答え合わせと解説を行う。	Rearranging、Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの予習を行うこと。	60分
第15回	Chapter 14 仮定法CompositionとComprehension	Rearranging、Basic Composition、Applied Composition、Reading Comprehension Iの答え合わせと解説を行う。	これまでの授業内容の総復習をしておくこと。	予習・復習 840分

学習計画注記	* 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	Grammar Checkでこれまでの学習の確認をします。
評価方法	・教科書の課題ができているかどうか確認します。 ・定期試験はGrammar Check、Exercises、Composition、Reading Comprehensionから出題します。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
教科書の課題	○		○	○
定期試験	○			

評価割合	定期試験70%、課題と授業への積極的な参加30%で総合的に評価します。
使用教科書名 (ISBN番号)	Elementary English Reading & Writing / Tetsuzo Sato, Maki Ito / 南雲堂
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】英文法をしっかりと理解することで、英語の読解力と英作力を向上させ、英語の文献からも必要な情報や知識を得ることができる。 【技能・表現】英語で自分のことを表現できる。
学生へのメッセージ	授業で学んだことをしっかりと復習し、また次回の授業内容についてもあらかじめ予習してきて下さい。授業に積極的に参加することを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有 無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	Communication English 1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ マーク ルイス	指定なし

ナンバリング	X13670M12
授業概要(教育目的)	To help students have confidence and the ability to use English in daily life
履修条件	No prerequisite

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	Students will gain knowledge of basic English conversation patterns.
思考・判断の観点 (K)	Students will develop critical thinking skills to describe their feelings and to understand the perspectives of others.
関心・意欲・態度の観点 (V)	Students will become active learners of English and desire to learn more.
技術・表現の観点 (A)	Students will learn techniques to express themselves easily in English and will become more at ease when speaking with others.

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	Introductions / About you	Introduce yourself and tell where you are from.	Prepare by reading p. 2-3; and p. 34-35.	60
第2回	Coming to school / lifestyle	Talk about where you live / Are you happy these days?	Prepare by reading p. 4-5; 36-37.	60
第3回	Family life	Talk about your family / Are you looking forward to Golden Week?	Prepare by reading p. 6-7; 38-39	60
第4回	Work / Club activities	Talk about a part-time job / How was your Golden Week?	Prepare by reading p. 8-9; 40-41	60
第5回	Seasons	Talk about the weather / What kind of music do you like?	Prepare by reading p. 10-11; 42-43	60
第6回	University Life	Do you like this university? / Did you have breakfast this morning?	p. 12-13; 44-45	60
第7回	Colors	What are your favorite colors? / What kind of ramen	p. 14-15; 46-47	60

		noodles do you like?		
第8回	Free time	What do you like to do in your free time? / How many hours per day do you watch TV?	p. 16-17; 48-49	60
第9回	Sports	What sports do you play? / Have you ever gone sightseeing in Kamakura?	p. 18-19; 50-51	60
第10回	Pets	Do you have a pet? / Do you like MosBurger? Do you like Starbucks Coffee?	p. 20-21; 52-53	60
第11回	Traveling	Where have you traveled? / Do you like the rainy season?	p. 22-23; 54-55	60
第12回	Types of people	What's your blood type? / Do you like doing the laundry?	p. 24-25; 56-57	60
第13回	Technology	Do you like your smartphone? / How often do you cook?	p. 30-31; 58-59	60
第14回	Practice Speaking Test	Use class time to prepare with a partner for the speaking test. Students can choose topics to use from the book.	p. 2-59	120
第15回	Speaking Test	Five minute speaking test with a partner. A natural English conversation without notes or books.	p. 2-59	120

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	Students receive weekly quiz scores; feedback on weekly in-class writing topics; and aural feedback on class participation.
評価方法	Quizzes are worth 5 points each week. Questions are from the previous week's lesson and the current lesson. If you read the assigned homework pages, you'll do well on the weekly quizzes. The final test lets you know how comfortable and fluent you've become speaking English.

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
Quizzes	○	○	○	○
Speaking Test	○	○	○	○
Participation	○	○	○	○
Writing	○	○	○	○

評価割合	Participation 60%; Quizzes 20%; Writing 10%; Final Speaking Test 10%
使用教科書名 (ISBN番号)	Say What You Like 1 (ISBN 978-4-990-6347-0-4)
参考図書	A Japanese - English dictionary
参考URL	http://www.hotcocoa.jp/
ディプロマポリシーとの関連	Ability to speak and understand English at a basic level.
オフィスアワー	Chiyoda Campus: Thursday, 13:00-14:00; Machida Campus: Wednesday, 9-10.
学生へのメッセージ	Relax and enjoy speaking English.

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	Students talk to each other.
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	Communication English 2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ マーク ルイス	指定なし

ナンバリング	X13680M12
授業概要(教育目的)	To help students have confidence and the ability to use English in everyday life.
履修条件	None

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	Students will gain knowledge of basic English conversation patterns.
思考・判断の観点 (K)	Students will develop critical thinking skills to describe their feelings and to understand the perspective of others.
関心・意欲・態度の観点 (V)	Students will become active learners of English and will desire to learn more.
技術・表現の観点 (A)	Students will learn techniques to express their feelings more easily in English, and will become more at ease when speaking with others.

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	Introductions	How to talk about where you live / your summer vacation	Prepare by reading p. 2-3; and p. 34-35.	60
第2回	Work and play	Your circles and clubs / your shopping habits	p. 4-5; 36-37	60
第3回	Seasons / Colors	Favorite seasons and why / Your favorite autumn food	p. 6-7; 38-39	60
第4回	Yesterday / This evening	What did you do last weekend? / How do you get the news?	p. 8-9; 40-41	60
第5回	Movies / music	What kind of (movies /music) do you like? / Are you (happy / healthy?)	p. 10-11; 42-43	60
第6回	University life	What will you do after you graduate? / How about eating out with friends?	p. 12-13; 44-45	60
第7回	Free time	Do you like to play sports? Watch sports? / Are you shy or outgoing?	p. 14-15; 46-47	60

第8回	Meals	Your recent breakfast and dinner / Famous people you know	p. 16-17; 48-49	60
第9回	Coffee / ramen	Which coffee shops and ramen shops do you like? / Let's talk about this class!	p. 18-19; 50-51	60
第10回	Technology	Watching TV/ Smartphones / What did you do in November?	p. 20-21; 52-53	60
第11回	Animals	Visiting the zoo / Do you have any end of the year plans?	p. 22-23; 54-55	60
第12回	Sightseeing	Visiting Kyoto and Disneyland / How was this year?	p. 24-25; 56-57	60
第13回	More technology	Your smartphone and web-browsing / How was your New Year break?	p. 28-29; 60-61	60
第14回	Practice Speaking Test	Use class time to prepare for the final speaking test with a partner. Students can choose the topics from the book they want to talk about. No notes or books during the speaking test.	p. 2- 61	120
第15回	Speaking Test	Five minute speaking test with a partner in natural English.	p. 2 -61	120

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	Students receive weekly quiz scores; feedback from weekly in-class writing; and aural feedback from the teacher.
評価方法	Weekly quizzes are worth 5 points. Questions are from the previous week's lesson and the current lesson. If you read the assigned homework pages, you'll do well on the quizzes. The final test lets you know how comfortable and fluent you've become speaking English.

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
Quizzes	○	○	○	○
Speaking Test	○	○	○	○
Participation	○	○	○	○
Writing	○	○	○	○

評価割合	Participation 60%; Quizzes 20%; Writing 10%; Final Speaking Test 10%
使用教科書名 (ISBN番号)	Say What You Like 2 (ISBN 978-4-9906347-2-8)
参考図書	A Japanese - English dictionary
ディプロマポリシーとの関連	Ability to speak and understand basic English conversation.
オフィスアワー	Chiyoda Campus: Thursday 1300- 14:00; Machida Campus: Wednesday, 9- 10.
学生へのメッセージ	Relax and enjoy speaking English.

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	Students talk to each other
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	英語検定対策講座		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 大穀 郁子	指定なし

ナンバリング	X13690M12
授業概要(教育目的)	本講座は、初めてTOEIC受検対策に臨む方を対象としています。まずは日常的なコミュニケーションができるレベルを目標に据えて勉強していきましょう。ただ、TOEICには日本の高校までの学校英語では対応できないような問題も出題されます。授業では、そのための勉強法も伝授します。高校までの英語を復習しながら、TOEICテストへの取り組み方を学び、解法のコツや戦略を身につけましょう。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	平易なビジネス文書を読解し、必要な情報を取捨選択できる。
思考・判断の観点(K)	
関心・意欲・態度の観点(V)	
技術・表現の観点(A)	一定の限度内では、日常生活のニーズを充足し、業務上のコミュニケーションを図れるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション 第1課 外食	・授業の進め方について ・TOEICテストについて ・リスニング・セクション	初回は授業の進め方について説明しながらその場で問題を解くので、予習の必要はありません。	0分
第2回	第1課 外食	リスニング・セクション リーディング・セクション 文法：動詞	テキストp3-8(リスニング・セクションはわかるまで何度もCDを聞き、リーディング・セクションは十分に読解したうえで解答すること。以降、同様に予習すること。)	90分
第3回	第2課 旅行	リスニング・セクション リーディング・セクション 文法：動詞の時制(1)	p9-14	90分
第4回	第2課 旅	リスニング・セクション	p21、23-28	90分

	行 第3課 娛 楽	リーディング・セクション 文法：動詞の時制（2）		
第5回	第3課 娛 楽 第4課 会 合	リスニング・セクション リーディング・セクション 文法：代名詞	p29、31-35	90分
第6回	第4課 会 合 第5課 人 事	リスニング・セクション リーディング・セクション 文法：不定詞	p36、39-40、43-44	90分
第7回	第5課 人 事 第6課 買 い物	リスニング・セクション リーディング・セクション 中間テスト前のまとめ	p36、39-40、43-44	90分
第8回	中間テスト 第6課 買 い物	中間テスト 第6課 リーディング・セクション 文法：動名詞	前回までの内容（第1課～第6課、p1-44）について中間テストを実施するので、よく復習しておくこと。 p45	270分
第9回	第7課 広 告	リスニング・セクション リーディング・セクション 文法：冠詞・名詞（1）	p47-49、52-53、55	90分
第10回	第8課 日 常生活	リスニング・セクション リーディング・セクション 文法：冠詞・名詞（2）	p57、60-61、63-64	90分
第11回	第9課 オ フィス・ワ ーク	リスニング・セクション リーディング・セクション 文法：仮定法	p65、68-69、仮定法のプリント（読んで設問に解答しておくこと）	90分
第12回	第9課 オ フィス・ワ ーク 第10課 ビ ジネス	リスニング・セクション リーディング・セクション 文法：仮定法、分詞	p71-73、75-78	90分
第13回	第10課 ビ ジネス 第11課 交 通	リスニング・セクション リーディング・セクション 文法：関係詞	p80-83、86-88	90分
第14回	第12課 金 融と銀行	リスニング・セクション リーディング・セクション 文法：接続詞	p93、96-97、99-100	90分
第15回	第13課 メ ディア	リスニング・セクション リーディング・セクション 文法：前置詞 定期試験前のまとめ	p101、104-105、107	90分

学習計画注記	あくまでも予定です。状況によってスケジュールや進捗が変更になる場合もあります。詳細は教室で指示します。
学生へのフィードバック方法	実施した中間テストは、採点して、翌週の授業で返却します。模範解答を配布するのでよく復習してください。中間テストは復習テストであるとともに定期試験のリハーサルという側面も持っています。勉強法や勉強量などについての反省点を、定期試験対策として生かしてください。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・第8回に中間テストを実施する。出題数は40問で40点満点。欠席した場合は、課題で評価する。 ・定期試験は50点満点で出題する。 ・中間テストと定期試験は下表に示す力を養うことを目的に実施している。 ・平常点の取り扱いについては、初回の授業で説明します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間テスト	○			○
定期試験	○			○

評価割合	平常点10%、中間試験40%、定期試験50%により評価する。	
使用教科書名 (ISBN番号)	いま始めようTOEICテスト 北尾靖幸、他、著 朝日出版社	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】【技能・表現】 学修で得た英語技能をもって、国際的なビジネスの現場でコミュニケーションを図る能力。	
学生へのメッセージ	十分な予習をしたうえで授業に臨んでください。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	英語検定対策講座		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田中 愛	指定なし

ナンバリング	X13690C12
授業概要(教育目的)	この授業では、TOEICの問題集を教材として、リスニングとリーディングの実践的な練習問題に取り組み、試験で得点を伸ばすと同時に社会のニーズに応えられるような英語運用能力を養成することを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	(検定試験において) 培った知識により、正しい選択肢を選ぶことができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	目標スコアを設定し、自信をもって積極的に受験できる。
技術・表現の観点 (A)	長文の速読に慣れ、必要な情報を的確に選択できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業ガイダンス、Unit13基礎力確認テスト(プリント配布)	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価、テキスト、授業の進め方 予習、復習について Unit13(40分間) TOEICの練習問題を解く。 解説、講評 	第1回授業の予習 ・特になし 第1回授業の復習 ・Unit13の見直し	60分
第2回	Unit1 品詞 Part1 & Part6中心	<ul style="list-style-type: none"> Word Checkの答え合わせ 「例題」の答え合わせ Part5 & Part1 & Part6を解く(解説) 	第2回授業の予習 ・Word Check ・Grammar Sectionを熟読する 第2回授業の復習 ・Part5を解き直し、答えの根拠を探すこと。 (初回の授業時に説明済み) 一回回の授業時に確認	120分
第3回	Unit2 時制 Part2	<ul style="list-style-type: none"> Word Checkの答え合わせ 「例題」の答え合わせ 	第3回授業の予習 ・Word Check	120分

	& Part7中心	・Part5 & Part2 & Part7を解く（解説）	・ Grammar Sectionを熟読する 第3回授業の復習 ・ Part5を解き直し、答えの根拠を探すこと。 （初回の授業時に説明済み） →次回の授業時に確認	
第4回	Unit3 受動態 Part3 & Part6中心	・ Word Checkの答え合わせ ・ 「例題」の答え合わせ ・ Part5 & Part3 & Part6を解く（解説）	第4回授業の予習 ・ Word Check ・ Grammar Sectionを熟読する 第4回授業の復習 ・ Part5を解き直し、答えの根拠を探すこと。 （初回の授業時に説明済み） →次回の授業時に確認	120分
第5回	Unit4 不定詞・動名詞 Part4 & Part7中心	・ Word Checkの答え合わせ ・ 「例題」の答え合わせ ・ Part5 & Part4 & Part7を解く（解説）	第5回授業の予習 ・ Word Check ・ Grammar Sectionを熟読する 第5回授業の復習 ・ Part5を解き直し、答えの根拠を探すこと。 （初回の授業時に説明済み） →次回の授業時に確認	120分
第6回	Unit5 分詞 Part1 & Part6中心	・ Word Checkの答え合わせ ・ 「例題」の答え合わせ ・ Part5 & Part1 & Part6を解く（解説）	第6回授業の予習 ・ Word Check ・ Grammar Sectionを熟読する 第6回授業の復習 ・ Part5を解き直し、答えの根拠を探すこと。 （初回の授業時に説明済み） →次回の授業時に確認	120分
第7回	Unit6 前置詞・接続詞 Part2 & Part7中心	・ Word Checkの答え合わせ ・ 「例題」の答え合わせ ・ Part5 & Part2 & Part7を解く（解説）	第7回授業の予習 ・ Word Check ・ Grammar Sectionを熟読する 第7回授業の復習 ・ Part5を解き直し、答えの根拠を探すこと。 （初回の授業時に説明済み） →次回の授業時に確認	120分
第8回	Unit7 関係詞 Part3 & Part6中心	・ Word Checkの答え合わせ ・ 「例題」の答え合わせ ・ Part5 & Part3 & Part6を解く（解説）	第8回授業の予習 ・ Word Check ・ Grammar Sectionを熟読する 第8回授業の復習 ・ Part5を解き直し、答えの根拠を探すこと。 （初回の授業時に説明済み） →次回の授業時に確認	120分
第9回	Unit8 仮定法 Part4 & Part7中心	・ Word Checkの答え合わせ ・ 「例題」の答え合わせ ・ Part5 & Part4 & Part7を解く（解説）	第9回授業の予習 ・ Word Check ・ Grammar Sectionを熟読する 第9回授業の復習 ・ Part5を解き直し、答えの根拠を探すこと。 （初回の授業時に説明済み） →次回の授業時に確認	120分
第10回	Unit9 語彙問題1 形容詞・副詞 Part1 & Part6中心	・ Word Checkの答え合わせ ・ 「例題」の答え合わせ ・ Part5 & Part1 & Part6を解く（解説）	第10回授業の予習 ・ Word Check ・ Grammar Sectionを熟読する 第10回授業の復習 ・ Part5を解き直し、答えの根拠を探すこと。 （初回の授業時に説明済み） →次回の授業時に確認	120分
第11回	Unit10 イディオム問題1 Part2 & Part7中心	・ Word Checkの答え合わせ ・ 「例題」の答え合わせ ・ Part5 & Part2 & Part7を解く（解説）	第11回授業の予習 ・ Word Check ・ Grammar Sectionを熟読する 第11回授業の復習 ・ Part5を解き直し、答えの根	120分

			拠を探すこと。 (初回の授業時に説明済み) →次回の授業時に確認	
第12回	Unit11 語彙問題2 動詞・名詞 Part3 & Part6中心	・ Word Checkの答え合わせ ・ 「例題」の答え合わせ ・ Part5 & Part3 & Part6を解く (解説)	第12回授業の予習 ・ Word Check ・ Grammar Sectionを熟読する 第12回授業の復習 ・ Part5 & Part3 & Part6の解き直し ・ 指示された宿題を行う	120分
第13回	DVD鑑賞	セリフの書き取りなどを行う	第13回授業の予習 ・ 授業時に指示 第13回授業の復習 ・ 授業時に指示	120分
第14回	Unit12 イディオム問題2 Part4 & Part7中心 & Unit15 Listening Section	・ Word Checkの答え合わせ ・ 「例題」の答え合わせ ・ Part5 & Part4 & Part7 & Listening Sectionを解く (解説)	第14回授業の予習 ・ Word Check ・ Grammar Sectionを熟読する 第14回授業の復習 ・ Part5を解き直し、答えの根拠を探すこと。 (初回の授業時に説明済み) →次回の授業時に確認	120分
第15回	Unit14 実力テスト & Unit15 解説	・ 実力テストを解く (解説) ・ Unit15 補強問題Reading Sectionの解説	第15回授業の予習 ・ Unit15 Reading Sectionを解く 第15回授業の復習 ・ 指示された宿題を行う	120分
第16回	定期試験	・ 学習到達度の確認 (筆記)、リスニング問題を含む	・ 定期試験に向け、復習を行う	180分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールに変更が生じることもある。

学生へのフィードバック方法 実施した小テストは、基本的にその場で答え合わせ及び解説を行い、回収。次週の授業時に返却。

評価方法

- ・ 小テストは授業内容の復習と位置づけ、実施する。(小テストに関する追再試験は行わない)
- ・ 定期試験は、授業内容を中心として出題する。
- ・ 小テスト及び定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト・定期試験	○	○	○	○
平常点	○		○	
その他	○		○	

評価割合 小テスト・試験 65%
平常点 (学習意欲、履修態度など) 20%
その他 (任意課題などの提出状況など) 15%

使用教科書名 (ISBN番号) TOEIC L&Rテスト文法項目別トレーニング DEVELOP GRAMMATICAL COMPETENCE FOR THE TOEIC L&R TEST (松柏社) ¥1,900 (税抜)

参考図書 必要に応じて、授業時に紹介します。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】ビジネス一般で通用する基本的な能力がある。

学生へのメッセージ 授業の進行状況によりますが、リスニング強化の一環として、海外ドラマの鑑賞を行うこともあります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活か		

した授業		
アクティブ・ラーニング	○	単なる解法テクニック教授の授業にならないよう、「その解答を導いたプロセス」について、履修者に積極的な発言を求める。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	フランス語入門1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 綾部 素幸	指定なし

ナンバリング	X13710M12
授業概要(教育目的)	フランス語を初めて学習する人を対象に、発音、入門的な文法、基礎的な会話文などを学びます。アルファベ、それに発音と綴り字の読み方という、フランス語学習の最初歩から授業を始めます。早い時期に綴り字の読み方の習得に成功すると、その後の学習効果が格段に上がりますので頑張ってください。原則的に教科書に沿って授業を進めますが、時間を見つけて、種々の映像を見たり、音楽を聴いたりして、フランス文化にも親しんでもらいたいと思います。
履修条件	特にありません。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. フランス語の音、綴り字に親しみ、そして慣れる。 2. 挨拶表現、簡単な日常的な表現なら、そう困難無く使うことができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. ことばの学習を通じて、日本とは異なる文化をもつ国や人々に、さらなる興味・関心を向けるようになる。 2. フランス語圏の文化一般に、さらなる興味・関心を向けるようになる。
技術・表現の観点 (A)	1. 他の受講生とともにフランス語を身につける学習過程で、他者に対して、より深い共感を持って接することができるようになる。 2. フランス語話者と、過度に臆すことなく、簡単なコミュニケーションが取れるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(7ヶ月ラーニング・情報リソース教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	Bonjour. Je m'appelle Kana. 「こんにちは、私はカナといます」 (1) アルファベット綴り字記号 出会いのあいさ	英語のアルファベットの読みとの違いに注意しながら、フランス語のアルファベを学びます。「こんにちは」「私は、カナといます」「元気？」といった基本のあいさつ言葉を学びます。また、例えばtrainのような英語と同じ綴りの語であっても、フランス語では発音がかなり違うことを学びます。	教科書6~7ページに出ている単語を発音し、発音と綴り字の関係に留意して、つづりを正確に覚えるようにしましょう。授業後は、授業で扱った内容を確実に身に付けるべく復習してください。毎回の復習時には、付属のCDを用いて、何度も発音の練習をしてください。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています(「学生へのメッセージ」参照のこと)。	120分

	つ 英語とフランス語			
第2回	Bonjour. Je m'appelle Kana. 「こんにちは、私はカナといいます」 (2) フランス語の音 つづり字と発音	フランス語の音（母音・鼻母音・半母音・子音）を理解し、発音の仕方を学びます。フランス語のつづり字の読みと発音を学びます。	アルファベットの読みと発音を正確に覚えます。教科書に出てきたフランス語の単語を何度も発音して、フランス語のつづり字と音との関係をつかみましょう。	120分
第3回	第1課 Une baguette, s'il vous plaît. 「バゲットを一本ください」 (1)	数詞0～10を学びます。「バゲットを一本とクロワッサンを2つ、ください」といった注文や依頼がフランス語でできるようになります。madame, monsieur, mademoiselleを用いて、ていねいな呼びかけができるようになります。	SKETCHの文は、できることなら、覚えてしまいましょう。	120分
第4回	第1課 Une baguette, s'il vous plaît. 「バゲットを一本ください」 (2)	フランス語の名詞には男性名詞と女性名詞があること、単数形と複数形があることを理解します。不定冠詞の種類を理解し、使い分けができるようになります。	教科書10～12ページを、巻末のページも参照しながら、復習してください。	120分
第5回	第1課 Une baguette, s'il vous plaît. 「バゲットを一本ください」 (3)	教科書のEXERCICESのページを完成させます。補足の問題プリントを用いて演習します。	次週の授業の最初に、第1課の小テストを実施しますので、第1課の範囲全体を、指示されている文法ページも含めて、くまなく復習してください。フランス語が口について出てくるまで、正確に書けるまで。	120分
第6回	第1課の小テスト、第2課 Qu'est-ce que c'est, ce fruit ? 「何ですか、この果物は？」 (1)	(冒頭で、第1課の小テストを実施) 「これは誰ですか？」 「それはイザベルです」というように「誰か」を尋ねたり、言ったりできるようになります。「これは何ですか？」 「それはアーティチョークです」というように「何か」を尋ねたり、言ったりできるようになります。また、「これはおいくらですか？」 「3ユーロ20です」というように「いくらか」を尋ねたり、言ったりできるようになります。数詞11～20を学びます。	SKETCHの文は、できることなら、覚えてしまいましょう。	120分
第7回	第2課 Qu'est-ce que c'est, ce fruit ? 「何ですか、この果物は？」 (2)	第1課の小テストの返却、解答・解説、及び講評をします。定冠詞、指示形容詞、指示代名詞を学びます。「これが人生だ！」「この友人」「これらはカシスです」といったことが言えるようになります。	教科書14～16ページを、巻末のページも参照しながら、復習してください。	120分
第8回	第2課 Qu'est-ce que c'est, ce fruit ? 「何ですか、この果物は？」 (3)	教科書のEXERCICESのページを完成させます。補足の問題プリントを用いて演習します。	次週の授業の最初に、第2課の小テストを実施しますので、第2課の範囲全体を、指示されている文法ページも含めて、くまなく復習してください。フランス語が口について出てくるまで、正確に書けるまで。	120分
第9回	第2課の小テスト、第3課 Est-ce que vous êtes étudiante ? 「あなたは学生さん	(冒頭で、第2課の小テストを実施) 「あなたは学生さんですか？」 「はい、学生です」といった職業や身分を尋ねたり、言ったりできるようになります。受付や窓口で用件を伝える表現を学びます。「はい、これが私の学生証です」というような提示の表現を学びます。数詞21～30を学びます。	SKETCHの文は、できることなら、覚えてしまいましょう。	120分

	ですか？」 (1)			
第10回	第3課 Est-ce que vous êtes étudiante ? 「あなたは学生さんですか？」 (2)	第2課の小テストの返却、解答・解説、及び講評をします。主語人称代名詞、動詞êtreの直説法現在の活用、否定文の作り方、所有形容詞、oui/nonを尋ねる疑問文の作り方を学びます。	教科書18～20ページを、巻末のページも参照しながら、復習してください。	120分
第11回	第3課 Est-ce que vous êtes étudiante ? 「あなたは学生さんですか？」 (3)	教科書のEXERCICESのページを完成させます。補足の問題プリントを用いて演習します。	次週の授業の最初に、第3課の小テストを実施しますので、第3課の範囲全体を、指示されている文法ページも含めて、くまなく復習してください。フランス語が口をついて出てくるまで、正確に書けるまで。	120分
第12回	第3課の小テスト、第4課 Vous aimez le vin ? 「ワインは、お好きですか？」 (1)	(冒頭で、第3課の小テストを実施) 「ワインは、お好きですか？」 「はい、好きです」のように好き嫌いを尋ねたり、言ったりすることができるようになります。「どこに？」 「いくつの～？」といった表現を使えるようになります。話せる言語を言うことができるようになります。数詞31～69を学びます。	SKETCHの文は、できることなら、覚えてしまいましょう。	120分
第13回	第4課 Vous aimez le vin ? 「ワインは、お好きですか？」 (2)	第3課の小テストの返却、解答・解説、及び講評をします。-er動詞(第1群規則動詞)の直説法現在の活用に精通します。人称代名詞強勢形を使えるようになります。「黒い」「大きい」のような品質形容詞の性・数一致の仕組みや名詞との位置関係の決まりを理解します。	教科書22～24ページを、巻末のページも参照しながら、復習してください。	120分
第14回	第4課 Vous aimez le vin ? 「ワインは、お好きですか？」 (3)	教科書のEXERCICESのページを完成させます。補足の問題プリントを用いて演習します。	次週の授業の最初に、第4課の小テストを実施しますので、第4課の範囲全体を、指示されている文法ページも含めて、くまなく復習してください。フランス語が口をついて出てくるまで、正確に書けるまで。	120分
第15回	第4課の小テスト、前期授業の総復習、練習問題演習	(冒頭で、第4課の小テストを実施) 回収した第4課の小テストの解答・解説を行います。その後は、前期の授業内容の総復習、練習問題演習をします。	前期の授業内容の総復習をしてください。これまでの小テストの見直しも忘れずに。	120分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によって、スケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 実施した小テストは、採点、必要な場合は添削を施し、翌週に返却します。その際に解答・解説、及び講評をします。

評価方法 例年各学期、15回の授業の後の16回目に定期試験日が設けられていましたが、2020年度の前期は例年とは違い、定期試験日が設けられていません。そこで、シラバスを執筆している現時点では、平常点(即ち、普段の授業への参加状況や参加姿勢、それに随時行う小テストの結果)で評価を出そうと考えています。しかし、授業を進めていく中で、例えば第4課が終わらなかった場合には、第15回目の授業日の中で、第3課までの総合的な試験、いわゆる期末試験に相当する試験を行うことがあるかもしれません。(私語、携帯電話やスマートフォン弄り、机に突っ伏しての睡眠といった他の受講生の勉強意欲をそぐ迷惑行為を続ける人は高評価は得られません。そこは是非非、公正に評価します)

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点 (小テストを含む)	○	○	○	○

評価割合	原則、平常点（即ち、普段の授業への参加状況や参加姿勢、それに随時行う小テストの結果）で評価します。詳しくは評価方法の項を参照してください。	
使用教科書名 (ISBN番号)	『プティ・シュマン (改訂版)』 大塚 陽子 著 白水社刊 定価 (本体2300円+税) 978-4-560-06124-4	
参考図書	仏和辞典、参考書などについては、授業の中で紹介します。	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解／思考・判断】「人間社会の多様性」を、人間社会の営みが拠り所とすることばの視点から考察し、理解できるようになる。</p> <p>【関心・意欲・態度】「社会を構成する大切なひとりとして」、他者にも関心を向け、そうすることで、人々のために尽くしたいという意欲・態度を身につけるようになる。</p> <p>【技能・表現】「学習で得た専門的技能（技術）をもって」他者と関わることで、「他者との共感を創り出す能力」を身につけるようになる。</p>	
学生へのメッセージ	皆さんと共に楽しい授業にしたいです。教育効果の観点から座席を指定する場合があります。予習・復習等については復習の方を徹底してください。学習した範囲のフランス語の文章は、文法と意味を十分に理解した上で、音源に合わせてすらすら口に出して言えるようになるまで、そして、正しく綴ることができるまで何度も何度も繰り返し練習してください。声を出すことが決定的に大事です。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	フランス語入門1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ アニー フランス	指定なし

ナンバリング	X13710C12
授業概要(教育目的)	授業を通して、フランス人の生活ぶりを覗いたり、フランスを旅行する時やフランス人に会おうときに役立つ話を学び、フランスに親しみを持てるようになりましょう。 フランス語会話(入門)の授業です。やさしいことばを使った、短い会話を繰り返しながらフランス語を練習します。相手がゆっくり、はっきりとして話してくれれば、簡単なやり取りをすることができますようになります。主題はフランス料理といった食文化から学びます。また、フランスの現代文化に影響を与えたとされる漫画や一ムも学ぶことで、両者の文化の関係性を知ることができるようになります。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	異文化(フランス)への理解を高め、知識を深める。
思考・判断の観点 (K)	異文化(フランス)を通じた文化比較判断の視点を持つ。
関心・意欲・態度の観点 (V)	フランス人及びフランス文化に対して意欲的でより豊かな表現で接するようになる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(7ティブ'ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	Introduction : La France フランスの紹介とフランスの有名な言葉	教科書《La France》(2ページと3ページ)とプリント	早めに教科書を手に入れる	120分
第2回	Saluer 挨拶する	教科書レッスン1(4-5ページと書き方の練習8ページ)	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第3回	Épeler 名前の綴り	教科書レッスン2(6-7ページと9ページ)	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第4回	Compter 0から55の数	教科書レッスン2プリントとBINGO ゲーム	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第5回	Se présenter 自己紹介	教科書レッスン3(10-11ページと書き方の練習14ページ)	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第6回	Les nationalités 国籍	教科書レッスン4(12-13ページと書き方の練習15ページ)	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第7回	Demander le prix 値段を尋ねる	教科書レッスン4(16-17ページ)	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分

第8回	Les goûts - les différences 好み	教科書レッスン5 (18-19ページと書き方の練習22ページ)	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第9回	Mon passe-temps 趣味	教科書レッスン6 (20-21ページ書き方の練習23ページ)	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第10回	Les chansons françaises フランスのシャンソン	プリント	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第11回	Parler des autres 人の紹介する	教科書レッスン7 (24-25ページ書き方の練習28ページ)	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第12回	Caractéristiques 人と動物の特徴	教科書レッスン8 ((26-27ページ書き方の練習29ページ)	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第13回	Les dessins animés français フランスと日本のアニメ	ビデオとプリント	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第14回	Révisions 復習	教科書28-29ページ	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第15回	Présentation プレゼンテーション: 家族の紹介	プレゼンテーション	前のレッスンの復習とプレゼンテーションの準備	240分

学生へのフィードバック方法

授業中で口頭による評価

評価方法

授業態度・小テストを総合的に評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業態度	○	○	○	○
小テスト	○			

評価割合

授業態度: 50% 小テスト: 50%

使用教科書名 (ISBN番号)

“Patachou 1 - Conversation” 朝日出版社 ISBN : 978-4-255-35205-3

参考図書

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】簡単なフランス語で自己や他者の紹介をすることができる。
【思考・判断】フランス文化がどういったものか理解している。
【関心・意欲・態度】フランスに対する関心意欲が向上し、自発的に学習する力を身につけている。

学生へのメッセージ

短い会話を覚える。(小テストがあります)
必ず教科書を忘れないようにする。
学校に教科書を忘れた際は、必ず授業前にレッスンのページを他学生にコピーをさせてもらう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウィンドウを閉じる

シラバス参照

講義名	フランス語入門2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 綾部 素幸	指定なし

ナンバリング	X13720M12
授業概要(教育目的)	前期と同様です。原則的に教科書に沿って授業を進めますが、時間を見つけて、種々の映像を見たり、音楽を聴いたりして、フランス文化にも親しんでもらいたいと思います。
履修条件	特にありません。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. フランス語の音、綴りに親しみ、そして慣れる。 2. 挨拶表現、簡単な日常的な表現なら、そう困難無く使うことができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. ことばの学習を通じて、日本とは異なる文化をもつ国や人々に、さらなる興味・関心を向けるようになる。 2. フランス語圏の文化一般に、さらなる興味・関心を向けるようになる。
技術・表現の観点 (A)	1. 他の受講生とともにフランス語を身につける学習過程で、他者に対して、より深い共感を持って接することができるようになる。 2. フランス語話者と、過度に臆すことなく、簡単なコミュニケーションが取れるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	後期授業への導入、方向付け 前期の学習内容の復習	前期の学習内容の復習です。練習問題のプリントも配布して、文法の復習をします。	教科書、ノート、配布した補足の練習問題のプリントを使って、前期の授業で学んだことを予め復習してきてください。授業後は、授業で扱った内容を確実に身に付けるべく復習してください。毎回の復習時には、付属のCDを用いて、何度も発音の練習をしてください。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています(「学生へのメッセージ」参照のこと)。	120分
第2回	第5課 J'ai des biscuits et du	持っているものやあるものを言ったり、「どうしたのですか?」「寒いです」というように身体の調子を尋ねたり言ったりできるようになります。また、「よかった	SKETCHの文は、できることなら、覚えてしまいましょう。	120分

	chocolat. 「ビスケットとチョコレートを持っているよ」(1)	ら、地下鉄路線図持っていますよ」というように人に勧めることができるようになります。数詞70~100を学びます。		
第3回	第5課 J'ai des biscuits et du chocolat「ビスケットとチョコレートを持っているよ」(2)	動詞avoirの直説法現在の活用、部分冠詞、否定のde、そして第4課に引き続き、形容詞について学びます。「彼は、お金を持っています」「水は、ありません」「カナは日本人です」といったことが言えるようになります。	教科書26~28ページを、巻末のページも参照しながら、復習してください。	120分
第4回	第5課 J'ai des biscuits et du chocolat「ビスケットとチョコレートを持っているよ」(3)	教科書のEXERCICESのページを完成させます。補足の問題プリントを用いて演習します。	次週の授業の最初に、第5課の小テストを実施しますので、第5課の範囲全体を、指示されている文法ページも含めて、くまなく復習してください。フランス語が口をついて出てくるまで、正確に書けるまで。	120分
第5回	第5課の小テスト、第6課 Je vais au supermarché。「私はスーパーマーケットに行く」(1)	(冒頭で、第5課の小テストを実施)「どこに行くのですか?」「スーパーマーケットに行きます」というように行き先を尋ねたり、言ったりできるようになります。「~に、~から、~の中に、~の家に、~と一緒に、~のために」といった基本的な前置詞を学びます。数詞101~999を学びます。文法では、第1群規則動詞[-er型動詞]とよばれる、重要な動詞の直説法現在の活用を学びます。	SKETCHの文は、できることなら、覚えてしまいましょう。	120分
第6回	第6課 Je vais au supermarché。「私はスーパーマーケットに行く」(2)	第5課の小テストの返却、解答・解説、及び講評をします。動詞aller/venir/sortir/partirの直説法現在の活用を学びます。動詞faireの直説法現在の活用を学びます。前置詞à/deと定冠詞の縮約という決まりを学びます。「何を」「誰を」を尋ねる疑問代名詞を学びますので、「何をしていますか?」や「誰を探しているの?」などが言えるようになります。	教科書30~32ページを、巻末のページも参照しながら、復習してください。	120分
第7回	第6課 Je vais au supermarché。「私はスーパーマーケットに行く」(3)	教科書のEXERCICESのページを完成させます。補足の問題プリントを用いて演習します。	次週の授業の最初に、第6課の小テストを実施しますので、第6課の範囲全体を、指示されている文法ページも含めて、くまなく復習してください。フランス語が口をついて出てくるまで、正確に書けるまで。	120分
第8回	第6課の小テスト、第7課 Prends plutôt l'avion。「それよりも飛行機を使いなよ」(1)	(冒頭で、第6課の小テストを実施)「いつ休暇を取るの?」といった表現の疑問副詞「いつ」を学びます。月・曜日や「今日」「一週間後」「来年」などの語・語句を学びます。「それよりもむしろ飛行機を使いなよ」と「彼は列車旅行の方が好きです」といった表現のように、優先したり、比較する言い方を学びます。また、「今日は何日ですか?」「今日は2020年〇月〇日です」や「今日は月曜日です」というように、日付を尋ねたり、言ったりできるようになります。	SKETCHの文は、できることなら、覚えてしまいましょう。	120分
第9回	第7課 Prends plutôt l'avion。「それよりも飛行機を使いなよ」(2)	第6課の小テストの返却、解答・解説、及び講評をします。英語のtakeに相当する、重要な動詞prendreの直説法現在の活用を学びます。国名と前置詞、命令法、非人称構文il fautを用いた表現を学びます。	教科書34~36ページを、巻末のページも参照しながら、復習してください。	120分
第10回	第7課 Prends plutôt l'avion。「それよりも飛行機を使いなよ」(3)	教科書のEXERCICESのページを完成させます。補足の問題プリントを用いて演習します。	次週の授業の最初に、第7課の小テストを実施しますので、第7課の範囲全体を、指示されている文法ページも含めて、くまなく復習してください。フランス語が口をついて出てくるまで、正確に書けるまで。	120分
第11回	第7課の小テスト、第8課 Si, je veux bien mais...「いや、そうしたいんだけど...」(1)	(冒頭で、第7課の小テストを実施)「~は欲しい?」「~は、いかがですか?」「~は、できない」「~は、したくない」といった、相手の意思を尋ねたり、相手に何かを勧めたり、相手を何かに誘ったりや、あるいはそうした提案に応じたり、それを断ったりすることができるようになります。また、「いい天気だ」「雨が降っています」というような天気に関する表現も学びます。	SKETCHの文は、できることなら、覚えてしまいましょう。	120分

第12回	第8課 Si, je veux bien mais ... 「いや、そうしたいんだけど…」(2)	第7課の小テストの返却、解答・解説、及び講評をします。動詞vouloir/pouvoir/devoir/savoirの直説法現在の活用を学びます。否定疑問文とその答え方を学びます。「たくさんのお金」「数個のリンゴ」といった数量の表現を学びます。	教科書38～40ページを、巻末のページも参照しながら、復習してください。	120分
第13回	第8課 Si, je veux bien mais ... 「いや、そうしたいんだけど…」(3)	教科書のEXERCICESのページを完成させます。補足の問題プリントを用いて演習します。	次週の授業の最初に、第8課の小テストを実施しますので、第8課の範囲全体を、指示されている文法ページも含めて、くまなく復習してください。フランス語が口をついて出てくるまで、正確に書けるまで。	120分
第14回	第8課の小テスト、時刻を尋ねる／言う・年齢を言う・比較級を学ぶ	(冒頭で、第8課の小テストを実施)第9課以降に配当されているけれども、当授業でぜひ学んでおきたい表現を取り上げます。「授業は何時に終わるの?」「今、何時ですか?—4時15分前です」「カナは23歳です」「カナはアランよりもよく勉強する」など。	次々週が定期試験ですから、前期の授業内容の総復習をしてください。これまでの小テストの見直しも忘れずに。	120分
第15回	後期授業の総復習、練習問題演習	第8課の小テストの返却、解答・解説、及び講評をします。後期の授業内容の総復習、練習問題演習をします。	次週が定期試験ですから、前期の授業内容の総復習をしてください。これまでの小テストの見直しも忘れずに。	240分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によって、スケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	実施した小テストは、採点、必要な場合は添削を施し、翌週に返却します。その際に解答・解説、及び講評をします。
評価方法	評価の基準は、期末の定期試験の結果が60%に平常点(即ち、普段の授業への参加状況や参加姿勢、それに随時行う小テストの結果)が40%です。(私語、携帯電話やスマートフォン弄り、机に突っ伏しての睡眠といった他の受講生の勉学意欲をそぐ迷惑行為を続ける人は高評価は得られません。そこは是非是非、公正に評価します)

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点 (小テストを含む)	○	○	○	○
定期試験	○			

評価割合	評価の基準は、期末の定期試験の結果が60%に平常点(即ち、普段の授業への参加状況や参加姿勢、それに随時行う小テストの結果)が40%です。
------	--

使用教科書名 (ISBN番号)	前期の入門1で使用した同じ教科書を継続して使用します。 『ブティ・シュマン (改訂版)』 大塚 陽子 著 白水社刊 定価 (本体2300円+税) 978-4-560-06124-4
-----------------	---

参考図書	仏和辞典、参考書などについては、授業の中で紹介します。
------	-----------------------------

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解／思考・判断】「人間社会の多様性」を、人間社会の営みが拠り所とすることばの視点から考察し、理解できるようになる。 【関心・意欲・態度】「社会を構成する大切なひとりとして」、他者にも関心を向け、そうすることで、人々のために尽くしたいという意欲・態度を身につけるようになる。 【技能・表現】「学習で得た専門的技術(技術)をもって」他者と関わることで、「他者との共感を創り出す能力」を身につけるようになる。
---------------	--

学生へのメッセージ	皆さんと共に楽しい授業にしたいです。教育効果の観点から座席を指定する場合があります。予習・復習等については復習の方を徹底してください。学習した範囲のフランス語の文章は、文法と意味を十分に理解した上で、音源に合わせてすらすら口に出して言えるようになるまで、そして、正しく綴ることができるまで何度も何度も繰り返し練習してください。声を出すことが決定的に大事です。
-----------	---

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かし た授業		
アクティブ・ラー ニング		

情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	フランス語入門2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ アニー フランス	指定なし

ナンバリング	X13720C12
授業概要(教育目的)	授業を通して、フランス人の生活ぶりを覗いたり、フランスを旅行する時やフランス人に会おうときに役立つ会話を学び、フランスに親しみを持てるようになりましょう。 フランス語会話(入門)の授業です。やさしいことばを使った、短い会話を繰り返しながらフランス語を練習します。相手がゆっくり、はっきりとして話してくれば、簡単なやり取りをすることができるようになります。主題はフランス料理といった食文化から学びます。また、フランスの現代文化に影響を与えたとされる漫画やゲームも学ぶことで、両者の文化の関係性を知ることができるようになります。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	異文化(フランス)への理解を高め、知識を深める。
思考・判断の観点 (K)	異文化(フランス)を通じた文化比較判断の視点を持つ。
関心・意欲・態度の観点 (V)	フランス人及びフランス文化に対して意欲的でより豊かな表現で接するようになる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	Les vacances 夏休みの過ごし方	プリント	前期の復習	120分
第2回	Personnages de BD マンガの人物の紹介	教科書レッスン(32-33ページ)	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第3回	La possession 持ち物	教科書レッスン9(34-35ページと書き方の練習38ページ)	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第4回	les vêtements et les	教科書レッスン10(36-37ページと書き方の練習39ページ)	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分

	couleurs 洋服と色ー			
第5回	Magazines de mode フ ァッション マガジン	(プリント)	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第6回	l' âge et la majorité 年齢と成人 期	教科書レッスン11 (40-41ページと書き方の練習44ページ)	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第7回	Demander le prix 値段を 尋ねる	教科書レッスン12 (42-43ページと書き方の練習45ページ)	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第8回	Jeu de 7 familles カ ードゲーム	(プリント)	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第9回	Les lois en France (alcool - tabac) タバ コとアルコ ールに対す るフランス の法律	教科書 (46-47ページ)	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第10回	Exprimer une intention 意思表示	教科書レッスン13 (48-49ページと書き方の練習52ページ)	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第11回	Chez le médecin 病 院に行く	教科書レッスン14 (50-51ページと書き方の練習53ページ)	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第12回	Dire et demander l' heure 時 間の言い方	教科書レッスン15 (54-55ページ書き方の練習58ページ)	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第13回	Noël et Epiphanie en France フランスの クリスマス ／ガレット (1月のケ ーキ)のレ シピ	ビデオとプリント	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第14回	Parler de ses projets 予定につい て話す	教科書レッスン16 (56-57ページと書き方の練習59ページ)	前のレッスンの復習と短い会話を暗記する	120分
第15回	Ecrire une lettre à une famille d' accueil ホストファ ミリに手紙 を書く	手紙	前のレッスンの復習と手紙の準備	240分

学生へのフィードバック方法 授業中で口頭による評価

評価方法 授業態度・小テストを総合的に評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業態度	○	○	○	
小テスト	○			

評価割合	授業態度：50% 小テスト：50%
使用教科書名 (ISBN番号)	“Patachou 1 - Conversation” 朝日出版社 ISBN：978-4-255-35205-3
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】簡単なフランス語で買い物や意思表示することができる。 【思考・判断】フランス文化がどういったものか理解している。 【関心・意欲・態度】フランスに対する関心意欲が向上し、自発的に学習する力を身につけている。
学生へのメッセージ	短い会話を覚える。(小テストがあります) 必ず教科書を忘れないようにする。 学校に教科書を忘れた際は、必ず授業前にレッスンのページを他学生にコピーをさせてもらう。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	フランス語初級1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 綾部 素幸	指定なし

ナンバリング	X15710C12
授業概要(教育目的)	フランス語について入門程度の知識はすでに修めている人を対象に、発音、文法、語彙、表現などを学習します。とは言ってもアルファベ、それに発音と綴り字の読み方から復習しながら進めますので、とにかくフランス語やフランス文化に興味を持っているのであれば履修してみたいかでしょうか。たとえ全くの初学者であっても、本人に学ぼうとする強い意欲があるなら大丈夫だと思います。時間を見つけて、種々の映像を見たり、音楽を聴いたりして、フランス文化にも親しんでもらいたいと思います。
履修条件	特にありません。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 入門程度の知識をさらに確実にする。 2. 使えるフランス語の表現、読めるフランス語の文章をさらに増やす。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. ことばの学習を通じて、日本とは異なる文化をもつ国や人々に、さらなる興味・関心を向けるようになる。 2. フランス語圏の文化一般に、さらなる興味・関心を向けるようになる。
技術・表現の観点 (A)	1. 他の受講生とともにフランス語を身につける学習過程で、他者に対して、より深い共感を持って接することができるようになる。 2. フランス語話者と、過度に臆すことなく、簡単なコミュニケーションが取れるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(7keyブランキング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業への導入、方向付け	集まった皆さんのフランス語学習歴やフランス語の知識を、まず問います。初学者ばかりのときも、あるいはまた、すでにフランス語の勉強を始めている人が多いときもありました。皆さんの様子を見定めてから、授業を始めます。私としては、どのようにも対応できるように準備しておきます。	自宅での学習(復習)としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください(学生へのメッセージ、参照)。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第2回	「私は名前を〜といい	挨拶や自己紹介の仕方を学びます。	自宅での学習(復習)としては、音声をダウンロードして聞	120分

	ます。／日本人です」		きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	
第3回	「あなたはフランスのかたですか？」	国籍を表す形容詞を学びます。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第4回	「これは何ですか？／ほらそこに教会があります」	物を指し示して、それが何であるか尋ねたり、その問いに答えることができるようになります。その他、提示の表現も学びます。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第5回	「兄弟姉妹はいますか？／私は21歳です」	動詞avoirを用いる表現を、さまざま学びます。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第6回	「フランスの歌は好きですか？」	好き嫌いを言えるようになります。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第7回	「きみはワインを飲むの？ーいや、買わないよ」	疑問文や否定文について学びます。英語にはない部分冠詞や否定の冠詞deも学びます。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第8回	「私はテレビを見たい。／ワインはいかがですか？」	動詞vouloirを用いる表現を、さまざま学びます。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第9回	「どんな花が好きですか？」	疑問形容詞を学びます。「どんな」「どの」「何」を尋ねることができるようになります。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での	120分

			の復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	
第10回	「このホテルは快適です／これはきれいな花です」	品質形容詞を学びます。性・数一致や置かれる位置など。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第11回	「ルーブル美術館へ行きます。／どこから来ましたか？」	「～へ行く」「～から来る」、動詞で言えば、英語のgoとcomeに相当する、allerとvenirを使う表現を学びます。関連して、定冠詞の縮約や「どこに」「どこから」などの疑問副詞も学びます。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第12回	「大学へはどうやって来ますか？／なぜフランス語を学びますか？」	前回到引き続き、疑問副詞を学びます。今回は、理由の尋ね方「なぜ」「どうして」、そして答え方「なぜなら」です。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第13回	「今何時ですか？－4時15分前です」	時刻の尋ね方、時刻の言い方を学びます。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第14回	「いつフランスにもどりますか／おいくらですか？」	疑問副詞「いつ」「いくら」「いくつ」を用いる表現を学びます。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第15回	前期の授業の総復習	前期の授業の総復習をします。	自宅での学習（復習）としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください（学生へのメッセージ、参照）。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によって、スケジュールが変更になる場合もあります。なお、一週間にひとコマずつ進める通常の授業とは異なり、一日に3コマ進める集中授業です。そのため、「教室外学習の時間」の欄に何と書くとよいのか迷いましたが、とりあえずは標準的な時間（120分）を挙げておきました。
学生へのフィードバック方法	実施した小テストは、採点、必要な場合は添削を施し、速やかに返却します。その際に解答・解説、及び講評をします。
評価方法	平常点に期末の定期試験と、大きく2つ評価対象があるとして、総合評価ではありますが、皆さんひとりひとりの力や意欲をより細かく具体的に・立体的に把握しやすい少人数のクラスとなるでしょうから、平常点の占める割合が大きいです。ここでいう平常点とは、普段の授業への参加状況や参加姿勢、それに随時行う小テストの結果のことです。知識を学び取ろうとする勉学意欲を大きく評価します。詳しくは初回の授業で話します。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点 (小テストを含む)	○	○	○	○
定期試験	○			

評価割合	評価の基準は、平常点が70%に、定期試験の結果が30%です。
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しません。受講する皆さんの希望に沿った教材プリント等をこちらで用意します。
参考図書	仏和辞典、参考書などについては、授業の中で紹介します。
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解／思考・判断】「人間社会の多様性」を、人間社会の営みが拠り所とすることばの視点から考察し、理解できるようになる。</p> <p>【関心・意欲・態度】「社会を構成する大切なひとりとして」、他者にも関心を向け、そうすることで、人々のために尽くしたいという意欲・態度を身につけるようになる。</p> <p>【技能・表現】「学習で得た専門的技能 (技術) をもって」他者と関わることで、「他者との共感を創り出す能力」を身につけるようになる。</p>
学生へのメッセージ	皆さんと共に楽しい授業にしたいです。教育効果の観点から座席を指定する場合があります。予習・復習等については復習の方を徹底してください。学習した範囲のフランス語の文章は、文法と意味を十分に理解した上で、音源に合わせてすらすら口に出して言えるようになるまで、そして、正しく綴ることができるまで何度も何度も繰り返し練習してください。声を出すことが決定的に大事です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	フランス語初級2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 綾部 素幸	指定なし

ナンバリング	X15720C12
授業概要(教育目的)	前期と同じく、フランス語について入門程度の知識はすでに修めている人を対象に、発音、文法、語彙、表現などを学習します。とは言ってもアルファベ、それに発音と綴り字の読み方から復習しながら進めますので、とにかくフランス語やフランス文化に興味を持っているのであれば履修してみたいかたがでしょうか。たとえ全くの初習者であっても、勉強意欲さえあれば大丈夫です。時間を見つけて、種々の映像を見たり、音楽を聴いたりして、フランス文化にも親しんでもらいたいと思います。
履修条件	特にありません。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 入門程度の知識をさらに確実にする。 2. 使えるフランス語の表現、読めるフランス語の文章をさらに増やす。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. ことばの学習を通じて、日本とは異なる文化をもつ国や人々に、さらなる興味・関心を向けるようになる。 2. フランス語圏の文化一般に、さらなる興味・関心を向けるようになる。
技術・表現の観点 (A)	1. 他の受講生とともにフランス語を身につける学習過程で、他者に対して、より深い共感を持って接することができるようになる。 2. フランス語話者と、過度に臆すことなく、簡単なコミュニケーションが取れるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業への導入、方向付け	集まった皆さんのフランス語学習歴やフランス語の知識を、まず問います。初学者ばかりのときも、あるいはまた、すでにフランス語の勉強を始めている人が多いときもありました。後期からの人もいるのでしょうか。皆さんの様子を見定めてから、授業を始めます。私としては、どのようにも対応できるように準備しておきます。	自宅での学習(復習)としては、音声ダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください(学生へのメッセージ、参照)。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第2回	前期の復習 1 重要な	être, avoir, -er動詞、prendre, vouloir, pouvoir, aller, venir, faireなどといった重要な動詞の直説法現	自宅での学習(復習)としては、音声ダウンロードして聞	120分

	動詞の活用、	在の活用を確認します。	きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください(学生へのメッセージ、参照)。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	
第3回	前期の復習 2 否定文、疑問文、応答文、命令文	否定文、疑問文、応答文、命令文について、知識を確かなものにします。	自宅での学習(復習)としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください(学生へのメッセージ、参照)。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第4回	前期の復習 3 形容詞と副詞	形容詞と副詞について、知識を確かなものにします。	自宅での学習(復習)としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください(学生へのメッセージ、参照)。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第5回	複合過去形 1 助動詞 être	日常生活で使う過去時制として重要な直説法複合過去を学びます。今回は、助動詞にêtreを用いる動詞について学びます。「私は昨日、映画を見に行った」「私は何年何月何日に生まれました」などが言えるようになります。	自宅での学習(復習)としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください(学生へのメッセージ、参照)。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第6回	複合過去形 2 助動詞 avoir	日常生活で使う過去時制として重要な直説法複合過去を学びます。今回は、助動詞にavoirを用いる動詞について学びます。「私は昨日腕時計を買いました」「私は財布を失くした」などが言えるようになります。	自宅での学習(復習)としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください(学生へのメッセージ、参照)。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第7回	代名詞の広がり1 直接目的語を人称代名詞に	connaître ~ 「~を知っている」、voir ~ 「~に会う、~が見える」、attendre ~ 「~を待つ」、visiter ~ 「~を訪れる」といった動詞を使って、練習問題をします。	自宅での学習(復習)としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください(学生へのメッセージ、参照)。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第8回	代名詞の広がり2 間接目的語を人称代名詞に	téléphoner à ~ 「~に電話する」、donner ~ à ~ 「~を~にあげる」、montrer ~ à ~ 「~を~に見せる」といった動詞を使って、練習問題をします。	自宅での学習(復習)としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください(学生へのメッセージ、参照)。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第9回	代名詞の広がり3 強勢形代名詞、代名動詞	強勢形代名詞、代名動詞を学びます。「私は日本人です。であなたは?」「これはきみへのプレゼントだよ」などの表現が使えるようになります。	自宅での学習(復習)としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください(学生へのメッセージ、参照)。教室での語学授業においては、家での	120分

			の復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	
第10回	代名詞の広がり4 中性代名詞	中性代名詞en, y、それにleを学びます。「あなたはパンを食べますか?」「あなたには兄弟がいますか?」などの問いに答えるときに必要となる代名詞です。	自宅での学習(復習)としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください(学生へのメッセージ、参照)。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第11回	表現の幅を広げよう1 もうひとつの過去時制	直説法複合過去と同じく重要な過去時制に、直説法半過去があります。たとえば、「彼女は若かったころパリに住んでいた」「私がテレビを見てると彼が家にやってきた」などと言うときに必要となる時制です。この時制を学びます。	自宅での学習(復習)としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください(学生へのメッセージ、参照)。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第12回	表現の幅を広げよう2 天候や時間を言う(非人称表現)	非人称主語のilを主語に立てて文を作ります。「どんな天気ですか?」「いい天気です」「雨が降っています」「今何時ですか?」「昼の12時半です」などといったことが言えるようになります。	自宅での学習(復習)としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください(学生へのメッセージ、参照)。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第13回	表現の幅を広げよう3 関係代名詞を使う	関係代名詞を学びます。重要な関係代名詞には、qui、que、où、dontがあります。それぞれの用法を理解します。	自宅での学習(復習)としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください(学生へのメッセージ、参照)。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第14回	表現の幅を広げよう4 意思を伝える	動詞vouloirの直説法現在、すでに学びましたが、今回は条件法現在に活用した形を学びます。条件法現在に活用すると、「～したいのですが」「～がいただきたいのですが」と語調が緩和されます。	自宅での学習(復習)としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください(学生へのメッセージ、参照)。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分
第15回	後期の授業の総復習	後期の授業の総復習をします。	自宅での学習(復習)としては、音声をダウンロードして聞きつつ、学習した日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返し口に出して練習してください(学生へのメッセージ、参照)。教室での語学授業においては、家での復習が、予習よりも大切だと私は考えています。	120分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によって、スケジュールが変更になる場合もあります。なお、一週間にひとコマずつ進める通常の授業とは異なり、一日に3コマ進める集中授業です。そのため、「教室外学習の時間」の欄に何と書くとよいのか迷いましたが、とりあえずは標準的な時間(120分)を挙げておきました。
学生へのフィードバック方法	実施した小テストは、採点、必要な場合は添削を施し、速やかに返却します。その際に解答・解説、及び講評をします。
評価方法	平常点に期末の定期試験と、大きく2つ評価対象があるとして、総合評価ではありませんが、皆さんひとりひとりの力や意欲をより細かく具体的・立体的に把握しやすい少人数のクラスとなるでしょうから、平常点の占める割合が大きいでしょう。ここでいう平常点とは、普段の授業への参加状況や参加姿勢、それに随時行う小テストの結果のことです。知識を学び取ろうとする勉学意欲を大きく評価します。詳しくは初回の授業で話します。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点 (小テストを含む)	○	○	○	○
定期試験	○			

評価割合	評価の基準は、平常点が70%に、定期試験の結果が30%です。
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しません。皆さんの意向を聞いたうえで私の方で教材を用意します。
参考図書	仏和辞典、参考書などについては、授業の中で紹介します。
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解／思考・判断】「人間社会の多様性」を、人間社会の営みが拠り所とすることばの視点から考察し、理解できるようになる。</p> <p>【関心・意欲・態度】「社会を構成する大切なひとりとして」、他者にも関心を向け、そうすることで、人々のために尽くしたいという意欲・態度を身につけるようになる。</p> <p>【技能・表現】「学習で得た専門的技術 (技術) をもって」他者と関わることで、「他者との共感を創り出す能力」を身につけるようになる。</p>
学生へのメッセージ	皆さんと共に楽しい授業にしたいです。教育効果の観点から座席を指定する場合があります。予習・復習等については復習の方を徹底してください。学習した範囲のフランス語の文章は、文法と意味を十分に理解した上で、音源に合わせてすらすら口に出して言えるようになるまで、そして、正しく綴ることができるまで何度も何度も繰り返し練習してください。声を出すことが決定的に大事です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ドイツ語入門1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 高次 裕	指定なし

ナンバリング	X13730M12
--------	-----------

授業概要(教育目的)	<p>ドイツ語を初めて学ぶ学習者を対象としたこの授業では、ドイツ語の発音、基礎的な文法と会話表現を学びます。</p> <p>ドイツ語文法の基礎を理解しドイツ語という言語の仕組み・特徴を知ること、基礎的なコミュニケーション能力を身につけること、ドイツ語学習を通してドイツ語圏の文化（生活、社会、芸術、哲学・思想）についての知見を得ることを目的とします。</p> <p>ドイツ語の読む・書く・話す・聞く能力をバランスよく伸ばし、ドイツ語技能検定試験5級相当に到達することを目標とします。</p>
------------	---

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> ドイツ語の単語や文章を正確に書きとることができる 授業で扱うドイツ語の仕組み・文法を理解する 授業で扱う語彙を理解する
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ul style="list-style-type: none"> ドイツ語圏の文化について関心を持ち、知見を得る
技術・表現の観点 (A)	<ul style="list-style-type: none"> ドイツ語の標準的な発音を聞き取り、発音することができる ドイツ語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける

学習計画

ドイツ語入門 1

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	導入, ドイツ語のアルファベットと発音	導入, ドイツ語のアルファベットと発音	導入で学んだ単語, アルファベットとその発音を定着させる	60分
第2回	ドイツ語で使われる文字と発音, 挨拶	ドイツ語で使われる文字と発音, 挨拶の表現	単語レベルでのドイツ語特有の読み方と挨拶の表現を定着させる	60分
第3回	第1課 主	主語になる人称代名詞, 動詞の現在人称変化(1)	主語になる人称代名詞と動詞の	60分

	語になる人 称代名詞, 動詞の現在 人称変化 (1)		現在人称変化の基本形を定着さ せる	
第4回	sein, habenの現 在人称変 化, 語順	sein, habenの現在人称変化, 語順	sein, habenの現在人称変化を 定着させ, ドイツ語における語 順について理解を定着させる	60分
第5回	自己紹介の 表現, 国名	基礎的な自己紹介の表現, ドイツ語での国名	基礎的な自己紹介の表現, 国名 を覚え, 単語を定着させる	60分
第6回	前回までの 学習内容の 復習, 練習	前回までの学習内容を復習し, 練習問題を解く	この回までの学習内容を復習 し, 定着させる	60分
第7回	第2課 名 詞の性・冠 詞, 名詞の 格変化	名詞の性・冠詞, 名詞の格変化	名詞の性・冠詞, 名詞の格変化 を覚え, 定着させる	60分
第8回	疑問代名詞 wer, was, 並列の接続 詞	疑問代名詞wer, was, 並列の接続詞	疑問代名詞wer, was, 並列の接 続詞について理解を定着させる	60分
第9回	前回まで (主に7 回, 8回) の学習内容 について復 習, 練習	前回まで(主に7回, 8回)の学習内容について復習し, 練習問題を解く	この回までの学習内容を復習 し, 定着させる	60分
第10回	ドイツはど んな国?	ドイツ語語圏の国, 文化	ドイツ語語圏の国, 文化につい て学んだことや興味を持ったこ とについて調べる	60分
第11回	第3課 動 詞の現在人 称変化 (2), 命 令形	動詞の現在人称変化(不規則動詞), 命令形	動詞の現在人称変化(不規則動 詞)と命令形を覚え, 定着させ る,	60分
第12回	人称代名詞 の3格と4 格, 非人称 のes	人称代名詞の3格と4格, 非人称のes	人称代名詞の3格と4格を覚え, 非人称のesの用法を理解, 定着 させる	60分
第13回	趣味は何?	趣味についての表現, 単語	趣味についての表現, 単語を定 着させる	60分
第14回	ドイツ語読 解	短いドイツ語のテキストを読む	文章の構造理解を確認し, 出て きた単語, 用法を定着させる	60分
第15回	前期の学習 内容の復 習, 練習	前期の学習内容を復習し, 練習問題を解く	前期の学習内容を復習し, 定着 させる	60分

学生へのフィードバック方法 採点して返却, 授業中に解説

評価方法 平常点, 小テスト, 試験
(平常点は授業への意欲的な参加度で総合的に判断します)

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	○
小テスト	○			
試験	○			○

評価割合 平常点30%、小テスト20%、試験50%

使用教科書名 (ISBN番号) 小野寿美子／中川明博『Deutsch A-Z (アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語)』朝日出版社, 2019年, 978-4-

オフィスアワー

授業時間外で特別に質問がある場合は授業後に受け付けます。
メールアドレスはy_takatsugi[at]hotmail.co.jp（[at]を@に置き換えてください）。

学生へのメッセージ

ドイツ語はドイツ、オーストリア、スイス、ルクセンブルクやリヒテンシュタインで公用語とされ、母語話者人口はEU圏内で一番多く、インターネット上のウェブサイト数は英語に次いで2番目に多い言語です。また世界で刊行される出版物で使用されている言語の割合ではドイツ語は第5位です。特に学問や音楽の分野においてドイツ語は今も重要な地位を占めています。また、イギリスのEU離脱問題によりEU圏内でのドイツの重要度はますます上がっているとみることができます。
ドイツ語を学ぶことで視野が広がったり、新しいものの見方に気付いたりすることでしょう。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ドイツ語入門1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 織田 晶子	指定なし

ナンバリング	X13730C12
授業概要(教育目的)	ドイツ語の基本を学びます。学んだ文法の知識を活かしながら、聞く・話す・読む練習を重ねて、コミュニケーション能力を身につけます。クラスメートとの会話練習にも挑戦します。ドイツ語で何かを伝えたり読んだりする楽しさを味わってください。また今回はベルリンを中心に、ドイツ語圏の社会や文化についても学びます。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	発音や文字の読み方から始めて、ドイツ語の基本を身につけます。自力でドイツ語で情報を得たり、簡単な日常表現を学んで、挨拶を交わしたり簡単な受け答えができるようになります。短い文を書いたり、辞書さえあれば自力で平易な文章を読めるようになります。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	学生にとっておそらくは未知の言語であるドイツ語やドイツ語圏の情報に触れることで、異なる文化に対する理解や関心を深め、新しい言葉にも臆さずどんどん取り組んでいききっかけとしてほしいと思います。
技術・表現の観点 (A)	しっかり伝わる発音を身につけます。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ドイツ語の基本	アルファベット、発音	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。特に最初は基本中の基本を学びますので、これをしっかり身につけておくことによって、後の学習がずっと楽になります。教科書にはDVDが付いていますので、聞き取りや発音など、自宅でもさまざまな練習ができます。教科書に記載されたホームページから音声をダウンロードすることもできます。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこ	60分

			ともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	
第2回	Lektion 1: 動詞の基本 (1)	Das Brandenburger Tor ブランデンブルク門 人称、動詞、ドイツ語の語順 ドイツ事情：ベルリン	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。教科書にはCDが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	90分
第3回	Lektion 1: 動詞の基本 (2)	Das Brandenburger Tor ブランデンブルク門 ドイツ語の人称、動詞、語順 ドイツ事情：ベルリン	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。教科書にはCDが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	90分
第4回	Lektion 2: 名詞の基本 (1)	Der Bundestag 連邦議会 名詞の性と数、格変化 ドイツ事情：ドイツ語圏	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。教科書にはCDが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	90分
第5回	Lektion 2: 名詞の基本 (2)	Der Bundestag 連邦議会 名詞の性と数、格変化 ドイツ事情：ドイツ語圏	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。教科書にはCDが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	90分
第6回	Lektion 3: 複数形 (1)	Die Spree シュプレー川 複数形と格変化 ドイツ事情：ドイツの朝食	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。教科書にはCDが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	90分
第7回	Lektion 3: 複数形 (2)	Die Spree シュプレー川 複数形と格変化 ドイツ事情：ドイツの朝食	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。教科書にはCDが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	90分
第8回	Lektion 4: ちょっと不規則な動詞 (1)	Die Humboldt-Uni フンボルト大学 ちょっと不規則な強変化動詞、命令形、人称代名詞の格変化 ドイツ事情：読書	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。教科書にはCDが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	90分
第9回	Lektion 4: ちょっと不規則な動詞 (2)	Die Humboldt-Uni フンボルト大学 ちょっと不規則な強変化動詞、命令形、人称代名詞の格変化 ドイツ事情：読書	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。教科書にはCDが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	90分
第10回	Lektion 5:	Der Potsdamer Platz ポツダム広場	学んだ事柄は、毎回復習してお	90分

	前置詞 (1)	前置詞いろいろ ドイツ事情：パーティー	きましょう。これが次回の土台になります。教科書にはCDが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	
第11回	Lektion 5: 前置詞 (2)	Der Potsdamer Platz ポツダム広場 前置詞いろいろ ドイツ事情：パーティー	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。教科書にはCDが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	90分
第12回	Lektion 6: 冠詞いろいろ (1)	Die Currywurst 名物カレーソーセージ 冠詞類、否定する語nichtとkein ドイツ事情：ビール	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。教科書にはCDが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	90分
第13回	Lektion 6: 冠詞いろいろ (2)	Die Currywurst 名物カレーソーセージ 冠詞類、否定する語nichtとkein ドイツ事情：ビール	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。教科書にはCDが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	90分
第14回	Lektion 6: 冠詞いろいろ (3)	Die Currywurst 名物カレーソーセージ 冠詞類、否定する語nichtとkein ドイツ事情：ビール	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。教科書にはCDが付いています。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	90分
第15回	前期のまとめ	前期のまとめ	前期に学んだこと、練習したことを整理しておきましょう。後期にさらに上達するための、大切な土台になります。	120分

学習計画注記	※履修者数や習熟度、関心などによって、進度や内容は多少前後したり、変更したりすることがあります。				
学生へのフィードバック方法	小テストを実施する場合は、その内容により授業内で解説するか、採点して次週の授業で返却します。				
評価方法	数回の小テストや課題、平常点、および期末試験などによって総合的に評価します。				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
評価割合	小テスト10%、平常点30%、期末試験60%				
使用教科書名 (ISBN番号)	『Ich liebe Berlin ベルリンに夢中』ベアーテ・ヴォンデ他著、同学社 ISBN:978-4-8102-0740-8				
参考図書	独和辞書も用意してください。初回の授業で説明します。				
ディプロマポリシーとの関連	【思考・判断】ドイツ語を学ぶことによりコミュニケーションの可能性を広げ、アクセスできる情報を増やすとともに、ドイツ語圏諸国の言語や文化への理解を深めます。初めて学ぶ言語や文化、自分とは異なる背景を持つ他者を知ること、新たな価値基準、新たな視点を獲得し、人間や社会に対する理解を深めます。				
学生へのメッセージ	文字の読み方や発音から始めて、ドイツ語の基礎を学びます。皆さんにとっておそらくは未知の言語であるドイ				

ツ語を学ぶことが、ドイツ語圏の国々の文化や歴史、社会などへの関心を深めることにつながればと思います。まずはドイツやドイツ語を楽しんで、面白そうなものをどんどん見つけてください。学んだ表現を使って、クラスメートとの簡単な会話にも挑戦します。ドイツ語は英語の近い親戚にあたるので似ている点も多く、第二外国語としては比較的学びやすい言語です。(もちろん英語が苦手でも全く問題ありません)

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	教員やクラスメートと、ドイツ語でのやりとりも練習します。また、身につけたドイツ語を使ってドイツ語の情報にアクセスします。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ドイツ語入門2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 高次 裕	指定なし

ナンバリング	X13740M12
授業概要(教育目的)	<p>ドイツ語を初めて学ぶ学習者を対象としたこの授業では、ドイツ語の発音、基礎的な文法と会話表現を学びます。</p> <p>ドイツ語文法の基礎を理解しドイツ語という言語の仕組み・特徴を知ること、基礎的なコミュニケーション能力を身につけること、ドイツ語学習を通してドイツ語圏の文化（生活、社会、芸術、哲学・思想）についての知見を得ることを目的とします。</p> <p>ドイツ語の読む・書く・話す・聞く能力をバランスよく伸ばし、ドイツ語技能検定試験5級相当に到達することを目標とします。</p>
履修条件	「ドイツ語入門1」を履修していること、もしくはそれと同等の学習歴があること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> ドイツ語の単語や文章を正確に書きとることができる 授業で扱うドイツ語の仕組み・文法を理解する 授業で扱う語彙を理解する
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ul style="list-style-type: none"> ドイツ語圏の文化について関心を持ち、知見を得る
技術・表現の観点 (A)	<ul style="list-style-type: none"> ドイツ語の標準的な発音を聞き取り、発音することができる ドイツ語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける

学習計画

ドイツ語入門2

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	前期の学習内容のまとめ、復習	前期の学習内容のまとめ、復習	前期の学習内容を確認する	60分
第2回	第4課 名詞の複数形、冠詞類	名詞の複数形、冠詞類	名詞の複数形のパターンと冠詞類を覚える	60分
第3回	keinとnichtの使	keinとnichtの使い方、否定疑問文の答え方	keinとnichtの使い方と否定疑問文の答え方を理解し覚える	60分

	い方、否定疑問文の答え方			
第4回	パン屋で買い物	欲しい物を伝える、値段について質問する、数字	買い物の際に使う基礎表現と数字を覚える	60分
第5回	前回までの学習内容の復習、練習	前回までの学習内容を復習し、練習問題を解く	この回までの学習内容を復習し、定着させる	60分
第6回	ユーロ	ユーロ（通貨）、EU、ヨーロッパについて	ヨーロッパについて学んだこと、関心を持ったことについて調べる	60分
第7回	第5課 前置詞の格支配、前置詞と定冠詞の融合形	前置詞の格支配、前置詞と定冠詞の融合形	前置詞およびその格支配、前置詞と定冠詞の融合形を覚え、定着させる	60分
第8回	前回（前置詞）の内容について復習、練習	前回（前置詞）の内容について復習し、練習問題を解く	前置詞について復習し定着させる	60分
第9回	会話表現 どう行けばいいですか？	行き方を尋ねる基本表現	行き方を尋ねる基本表現と単語を覚える	60分
第10回	前回の会話表現の復習、練習	前回までの学習内容の復習、練習	この回までの学習内容を復習し、定着させる	60分
第11回	第6課 話法の助動詞の現在人称変化、未来形	話法の助動詞の現在人称変化、未来形	話法の助動詞の現在人称変化、未来形を定着させる	60分
第12回	第12週 従属の接続詞と副文、時刻の表現、不定代名詞man	従属の接続詞と副文、時刻の表現、不定代名詞man	従属の接続詞と副文、時刻の表現、不定代名詞manの用法を理解、定着させる	60分
第13回	ドイツ語圏のユネスコ世界遺産	ドイツ語圏のユネスコ世界遺産	ドイツ語圏のユネスコ世界遺産について知った内容からさらに興味を持ったことについて調べる	60分
第14回	ドイツ語読解	短いドイツ語のテキストを読む	文章の構造理解を確認し、出てきた単語、用法を定着させる	60分
第15回	後期の学習内容の復習、練習	後期の学習内容の復習し、練習問題を解く	後期の学習内容を復習し、定着させる	60分

学生へのフィードバック方法 採点して返却、授業中に解説

評価方法 平常点、小テスト、試験
(平常点は授業への意欲的な参加度で総合的に判断します)

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	○
小テスト	○			
試験	○			○

評価割合 平常点30%、小テスト20%、試験50%

使用教科書名 (ISBN番号) 小野寿美子／中川明博『Deutsch A-Z (アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語)』朝日出版社、2019年、978-4-

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力</p> <p>【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力</p> <p>【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力</p>
オフィスアワー	<p>授業時間外で特別に質問がある場合は授業後に受け付けます。</p> <p>メールアドレスはy_takatsugi[at]hotmail.co.jp（[at]を@に置き換えてください）。</p>
学生へのメッセージ	<p>ドイツ語はドイツ、オーストリア、スイス、ルクセンブルクやリヒテンシュタインで公用語とされ、母語話者人口はEU圏内で一番多く、インターネット上のウェブサイト数は英語に次いで2番目に多い言語です。また世界で刊行される出版物で使用されている言語の割合ではドイツ語は第5位です。特に学問や音楽の分野においてドイツ語は今も重要な地位を占めています。また、イギリスのEU離脱問題によりEU圏内でのドイツの重要度はますます上がっているとみることができます。</p> <p>ドイツ語を学ぶことで視野が広がったり、新しいものの見方に気付いたりすることでしょう。</p>

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ドイツ語入門2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 織田 晶子	指定なし

ナンバリング	X13740C12
授業概要(教育目的)	入門1に引き続き、ドイツ語の基本を学びます。学んだ文法の知識を活かしながら、聞く・話す・読む練習を重ねて、コミュニケーション能力を身につけます。クラスメートとの会話練習にも挑戦します。ドイツ語で何かを伝えたり読んだりする楽しさを味わってください。また今回はベルリンを中心に、ドイツ語圏の社会や文化についても学びます。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	発音や文字の読み方から始めて、ドイツ語の基本を身につけます。自力でドイツ語で情報を得たり、簡単な日常表現を学んで、挨拶を交わしたり簡単な受け答えができるようになります。短い文を書いたり、辞書さえあれば自力で平易な文章を読めるようになります。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	学生にとっておそらくは未知の言語であるドイツ語やドイツ語圏の情報に触れることで、異なる文化に対する理解や関心を深め、新しい言葉にも臆さずどんどん取り組んでいききっかけとしてほしいと思います。
技術・表現の観点 (A)	しっかり伝わる発音を身につけます。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	前期のおさらい	私の夏休み	前期に学んだことが、後期の土台になります。ひととおり見直して、記憶を新たにしておきましょう。ここでしっかり復習しておくこと、後期の学習を効果的にすすめることができます。	120分
第2回	Lektion 7: 分離動詞、非分離動詞、接続詞 (1)	Die Berliner Philharmonie ベルリン・フィルハーモニー 複合動詞、分離動詞、非分離動詞、接続詞 ドイツ事情: デザート	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。特に最初は基本中の基本を学びますので、これをしっかり身につけておくことによって、後の学習がずっと楽になります。教科書にはDVDが付いていますので、聞き取りや発	60分

			音など、自宅でもさまざまな練習ができます。教科書に記載されたホームページから音声をダウンロードすることもできます。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	
第3回	Lektion 7: 分離動詞、 非分離動 詞、接続詞 (2)	Die Berliner Philharmonie ベルリン・フィルハーモニー 複合動詞、分離動詞、非分離動詞、接続詞 ドイツ事情：デザート	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。特に最初は基本中の基本を学びますので、これをしっかり身につけておくことによって、後の学習がずっと楽になります。教科書にはDVDが付いていますので、聞き取りや発音など、自宅でもさまざまな練習ができます。教科書に記載されたホームページから音声をダウンロードすることもできます。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	60分
第4回	Lektion 8: 助動詞 (1)	Tempelhof テンペルホーフ空港 (元) 話法の助動詞、助動詞文の作りかた ドイツ事情：スポーツクラブ	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。特に最初は基本中の基本を学びますので、これをしっかり身につけておくことによって、後の学習がずっと楽になります。教科書にはDVDが付いていますので、聞き取りや発音など、自宅でもさまざまな練習ができます。教科書に記載されたホームページから音声をダウンロードすることもできます。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	60分
第5回	Lektion 8: 助動詞 (2)	Tempelhof テンペルホーフ空港 (元) 話法の助動詞、助動詞文の作りかた ドイツ事情：スポーツクラブ	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。特に最初は基本中の基本を学びますので、これをしっかり身につけておくことによって、後の学習がずっと楽になります。教科書にはDVDが付いていますので、聞き取りや発音など、自宅でもさまざまな練習ができます。教科書に記載されたホームページから音声をダウンロードすることもできます。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	60分
第6回	Lektion 9: 動詞の三基 本形 (1)	Die Berliner Mauer ベルリンの壁 動詞の3基本形、動詞の過去人称変化 ドイツ事情：離婚	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。特に最初は基本中の基本を学びますので、これをしっかり身につけておくことによって、後の学習がずっと楽になります。教科書にはDVDが付いていますので、聞き取りや発音など、自宅でもさまざまな練習ができます。教科書に記載されたホームページから音声をダウンロードすることもできます。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	60分
第7回	Lektion 9: 動詞の三基	Die Berliner Mauer ベルリンの壁 動詞の3基本形、動詞の過去人称変化	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台	60分

	本形（２）	ドイツ事情：離婚	になります。特に最初は基本中の基本を学びますので、これをしっかり身につけておくことによって、後の学習がずっと楽になります。教科書にはDVDが付いていますので、聞き取りや発音など、自宅でもさまざまな練習ができます。教科書に記載されたホームページから音声をダウンロードすることもできます。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	
第8回	Lektion 10: 現在完了（１）	Die MUseumsinsel 博物館島 現在完了、habenかseinか ドイツ事情：自動車	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。特に最初は基本中の基本を学びますので、これをしっかり身につけておくことによって、後の学習がずっと楽になります。教科書にはDVDが付いていますので、聞き取りや発音など、自宅でもさまざまな練習ができます。教科書に記載されたホームページから音声をダウンロードすることもできます。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	60分
第9回	Lektion 10: 現在完了（２）	Die MUseumsinsel 博物館島 現在完了、habenかseinか ドイツ事情：自動車	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。特に最初は基本中の基本を学びますので、これをしっかり身につけておくことによって、後の学習がずっと楽になります。教科書にはDVDが付いていますので、聞き取りや発音など、自宅でもさまざまな練習ができます。教科書に記載されたホームページから音声をダウンロードすることもできます。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	60分
第10回	Lektion 11: 形容詞のいろいろ（１）	DasnHolocaust-Mahnmal ホロコースト記念碑 形容詞の格変化、比較の表現 ドイツ事情：洗濯	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。特に最初は基本中の基本を学びますので、これをしっかり身につけておくことによって、後の学習がずっと楽になります。教科書にはDVDが付いていますので、聞き取りや発音など、自宅でもさまざまな練習ができます。教科書に記載されたホームページから音声をダウンロードすることもできます。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	60分
第11回	Lektion 11: 形容詞のいろいろ（２）	DasnHolocaust-Mahnmal ホロコースト記念碑 形容詞の格変化、比較の表現 ドイツ事情：洗濯	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。特に最初は基本中の基本を学びますので、これをしっかり身につけておくことによって、後の学習がずっと楽になります。教科書にはDVDが付いていますので、聞き取りや発音など、自宅でもさまざまな練習ができます。教科書に記載されたホームページから音声をダウンロードすることもできます。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	60分

			ツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	
第12回	Lektion 12: 「～られる」受け身の表現、再帰動詞 (1)	Der Gendarmenmarkt ジャンダルメンマルクト 受動態、再帰動詞 ドイツ事情: クリスマス	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。特に最初は基本中の基本を学びますので、これをしっかり身につけておくことによって、後の学習がずっと楽になります。教科書にはDVDが付いていますので、聞き取りや発音など、自宅でもさまざまな練習ができます。教科書に記載されたホームページから音声をダウンロードすることもできます。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	60分
第13回	Lektion 12: 「～られる」受け身の表現、再帰動詞 (2)	Der Gendarmenmarkt ジャンダルメンマルクト 受動態、再帰動詞 ドイツ事情: クリスマス	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。特に最初は基本中の基本を学びますので、これをしっかり身につけておくことによって、後の学習がずっと楽になります。教科書にはDVDが付いていますので、聞き取りや発音など、自宅でもさまざまな練習ができます。教科書に記載されたホームページから音声をダウンロードすることもできます。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	60分
第14回	Lektion 12: 「～られる」受け身の表現、再帰動詞 (3)	Der Gendarmenmarkt ジャンダルメンマルクト 受動態、再帰動詞 ドイツ事情: クリスマス	学んだ事柄は、毎回復習しておきましょう。これが次回の土台になります。特に最初は基本中の基本を学びますので、これをしっかり身につけておくことによって、後の学習がずっと楽になります。教科書にはDVDが付いていますので、聞き取りや発音など、自宅でもさまざまな練習ができます。教科書に記載されたホームページから音声をダウンロードすることもできます。日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。また指定されたドイツ語テキストの予習が必要なこともあります。課題は必要に応じて具体的に指示します。	60分
第15回	後期のまとめ	後期のまとめ	後期に学んだこと、練習したことを整理しておきましょう。今後、自力で学び続けたり、ドイツ語を使って様々なことにチャレンジするための足掛かりになります。	180分

学生へのフィードバック方法	小テストを実施する場合は、その内容により授業内で解説するか、採点して次週の授業で返却します。				
評価方法	数回の小テストや課題、平常点、および期末試験などによって総合的に評価します。				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
評価割合	小テスト10%、平常点30%、期末試験60%				

使用教科書名 (ISBN番号)	『Ich liebe Berlin ベルリンに夢中』ベアーテ・ヴォンデ他著、同学社 ISBN:978-4-8102-0740-8 (前期と同じです)
参考図書	独和辞書
ディプロマポリシーとの関連	【思考・判断】ドイツ語を学ぶことによりコミュニケーションの可能性を広げ、アクセスできる情報を増やすとともに、ドイツ語圏諸国の言語や文化への理解を深めます。初めて学ぶ言語や文化、自分とは異なる背景を持つ他者を知ること、新たな価値基準、新たな視点を獲得し、人間や社会に対する理解を深めます。
学生へのメッセージ	ドイツ語の基本を身につけます。後期の入門2で基礎をひとつおりに身につけて、今後も学び続けたり、ドイツ語を使って様々なことにチャレンジするための足掛かりを作ってください。皆さんにとっておそらくは未知の言語であるドイツ語を学ぶことが、ドイツ語圏の国々の文化や歴史、社会などへの関心を深めることにつながればと思います。まずはドイツやドイツ語を楽しんで、面白そうなものをどんどん見つけてください。学んだ表現を使って、クラスメートとの簡単な会話にも挑戦します。ドイツ語は英語の近い親戚にあたるので似ている点も多く、第二外国語としては比較的学びやすい言語です。(もちろん英語が苦手でも全く問題ありません)

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	教員やクラスメートと、ドイツ語でのやりとりも練習します。また、身につけたドイツ語を使ってドイツ語の情報にアクセスします。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ドイツ語初級1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 高次 裕	指定なし

ナンバリング	X15730M12
授業概要(教育目的)	ドイツ語を初めて学ぶ学習者を対象としたこの授業では、ドイツ語の発音、基礎的な文法と会話表現を学びます。 ドイツ語文法の基礎を理解しドイツ語という言葉の仕組み・特徴を知ること、基礎的なコミュニケーション能力を身につけること、ドイツ語学習を通してドイツ語圏の文化（生活、社会、芸術、哲学・思想）についての知見を得ることを目的とします。 ドイツ語の読む・書く・話す・聞く能力をバランスよく伸ばし、ドイツ語技能検定試験4級相当に到達することを目標とします。
履修条件	「ドイツ語入門1」、「ドイツ語入門2」を履修している、もしくはそれと同等の学習歴があること。 集中講義日程2019年9月2日（月）～9月6日（金）に出席できること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> ドイツ語の単語や文章を正確に書きとることができる 授業で扱うドイツ語の仕組み・文法を理解する 授業で扱う語彙を理解する
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ul style="list-style-type: none"> ドイツ語圏の文化について関心を持ち、知見を得る
技術・表現の観点 (A)	<ul style="list-style-type: none"> ドイツ語の標準的な発音を聞き取り、発音することができる ドイツ語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける

学習計画

ドイツ語初級 1

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	導入、第1課 人称代名詞と動詞の現在人称変化(1)、語順、ja、	導入、第1課 人称代名詞と動詞の現在人称変化(1)、語順、ja、neinの使い方	練習問題	60分

	neinの使い方			
第2回	第1課 単語・表現：国名・～人・言語・専攻名・職業名	単語・表現：国名・～人・言語・専攻名・職業名	練習問題	60分
第3回	第1課 会話表現、読解、【都市の紹介】ミュンヘン	会話表現、読解、【都市の紹介】ミュンヘン	練習問題	60分
第4回	第2課 名刺の性・冠詞・格、名詞の複数形、人称代名詞	名刺の性・冠詞・格、名詞の複数形、人称代名詞	練習問題	60分
第5回	第2課 単語・表現：身のまわりの物	単語・表現：身のまわりの物	練習問題	60分
第6回	会話表現、読解、【都市の紹介】ザルツブルク	会話表現、読解、【都市の紹介】ザルツブルク	練習問題	60分
第7回	動詞の人称変化（2）、命令形、非人称のes、時刻の表現	動詞の人称変化（不規則動詞）、命令形、非人称のes、時刻の表現	練習問題	60分
第8回	第3課 単語・表現：乗り物・果物・野菜	単語・表現：乗り物・果物・野菜	練習問題	60分
第9回	会話表現、読解、聴き取り、【都市の紹介】ウィーン	会話表現、読解、聴き取り、【都市の紹介】ウィーン	練習問題	60分
第10回	第4課 定冠詞・不定冠詞、人称代名詞3格と4格	定冠詞・不定冠詞、人称代名詞3格と4格	練習問題	60分
第11回	第4課 単語・表現：身につけるもの・家族	単語・表現：身につけるもの・家族	練習問題	60分
第12回	第4課 会話表現、読解、【都市の紹介】ハンブルクとブレーメン	会話表現、読解、【都市の紹介】ハンブルクとブレーメン	練習問題	60分
第13回	第5課 前置詞の格支配、前置詞と定冠詞の融合形、疑問代名詞werとwas	前置詞の格支配、前置詞と定冠詞の融合形、疑問代名詞werとwas	練習問題	60分
第14回	第5課 単語・表現：街	第5課 単語・表現：街	練習問題	60分
第15回	第5課 会話表現、読	第5課 会話表現、読解、【都市の紹介】パーゼル	練習問題	60分

学習計画注記	集中講義日程：2019年9月2日（月）～9月6日（金）		
学生へのフィードバック方法	採点して返却，授業中に解説		
評価方法	平常点，小テスト，試験 （平常点は授業への意欲的な参加度で総合的に判断します）		
評価基準			
評価基準			
評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）
平常点			○
小テスト	○		
試験	○		○
評価割合	平常点30%、小テスト20%、試験50%		
使用教科書名（ISBN番号）	小野寿美子／中川明博／西巻文児『ブーメラン・エルエー』朝日出版社、2015年、978-4-255-25380-0		
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力 【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力 【技能・表現】学修で得た専門的技術（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力		
オフィスアワー	授業時間外で特別に質問がある場合は授業後に受け付けます。 メールアドレスはy_takatsugi[at]hotmail.co.jp（[at]を@に置き換えてください）。		
学生へのメッセージ	ドイツ語はドイツ、オーストリア、スイス、ルクセンブルクやリヒテンシュタインで公用語とされ、母語話者人口はEU圏内で一番多く、インターネット上のウェブサイト数は英語に次いで2番目に多い言語です。また世界で刊行される出版物で使用されている言語の割合ではドイツ語は第5位です。特に学問や音楽の分野においてドイツ語は今も重要な地位を占めています。また、イギリスのEU離脱問題によりEU圏内でのドイツの重要度はますます上がっているとみることができます。 ドイツ語を学ぶことで視野が広がったり、新しいものの見方に気付いたりすることでしょう。		
教育等の取組み状況			
	該当有無	概要	
実務経験を活かした授業			
アクティブ・ラーニング			
情報リテラシー教育			
ICT活用			

シラバス参照

講義名	ドイツ語初級2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 高次 裕	指定なし

ナンバリング	X15740M12			
授業概要(教育目的)	ドイツ語を初めて学ぶ学習者を対象としたこの授業では、ドイツ語の発音、基礎的な文法と会話表現を学びます。 ドイツ語文法の基礎を理解しドイツ語という言葉の仕組み・特徴を知ること、基礎的なコミュニケーション能力を身につけること、ドイツ語学習を通してドイツ語圏の文化（生活、社会、芸術、哲学・思想）についての知見を得ることを目的とします。 ドイツ語の読む・書く・話す・聞く能力をバランスよく伸ばし、ドイツ語技能検定試験4級相当に到達することを目標とします。			
履修条件	「ドイツ語入門1」、「ドイツ語入門2」を履修している、もしくはそれと同等の学習歴があること。 集中講義日程：2019年10月26日（土）、11月30日（土）、2020年2月5日（水）、7日（金）、8日（土）に出席できること。			
学習目標(到達目標)	学習目標（到達目標）			
知識・理解の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> ドイツ語の単語や文章を正確に書きとることができる 授業で扱うドイツ語の仕組み・文法を理解する 授業で扱う語彙を理解する 			
思考・判断の観点 (K)				
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ul style="list-style-type: none"> ドイツ語圏の文化について関心を持ち、知見を得る 			
技術・表現の観点 (A)	<ul style="list-style-type: none"> ドイツ語の標準的な発音を聞き取り、発音することができる ドイツ語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける 			
学習計画	ドイツ語初級2			
回	授業テーマ	学習内容(7key'sラーニング・情報リソース教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	第6課 話法の助動詞、未来形、従属接続詞と副文、分離動詞	話法の助動詞、未来形、従属接続詞と副文、分離動詞と非分離動詞	練習問題	60分

	詞と非分離動詞			
第2回	第6課 単語・表現：催し物	単語・表現：催し物	練習問題	60分
第3回	第6課 会話表現、読解、【都市の紹介】ベルリン	会話表現、読解、【都市の紹介】ベルリン	練習問題	60分
第4回	第7課 形容詞の格語尾変化、形容詞・副詞の比較	形容詞の格語尾変化、形容詞・副詞の比較	練習問題	60分
第5回	第7課 単語・表現：食事・色	単語・表現：食事・色	練習問題	60分
第6回	第7課 会話表現、読解、【都市の紹介】エッセン	会話表現、読解、【都市の紹介】エッセン	練習問題	60分
第7回	第8課 動詞の3基本形、現在完了形	動詞の3基本形、現在完了形	練習問題	60分
第8回	第8課 単語・表現：過去の表現	単語・表現：過去の表現	練習問題	60分
第9回	第8課 会話表現、読解、【都市の紹介】アイゼナハ	会話表現、読解、【都市の紹介】アイゼナハ	練習問題	60分
第10回	第9課 過去形、再帰代名詞と再帰動詞	過去形、再帰代名詞と再帰動詞	練習問題	60分
第11回	第9課 単語・表現：童話	単語・表現：童話	練習問題	60分
第12回	第9課 会話表現、読解、【都市の紹介】ヴァイマル	会話表現、読解、【都市の紹介】ヴァイマル	練習問題	60分
第13回	第10課 zu不定詞（句）、関係代名詞	zu不定詞（句）、関係代名詞	練習問題	60分
第14回	第10課 単語・表現：祝祭	単語・表現：祝祭	練習問題	60分
第15回	第10課 会話表現、読解、【都市の紹介】ケルン	第10課 会話表現、読解、【都市の紹介】ケルン	練習問題	60分

学習計画注記	集中講義日程：2019年10月26日（土），11月30日（土），2020年2月5日（水），7日（金），8日（土）
学生へのフィードバック方法	採点して返却，授業中に解説
評価方法	平常点，小テスト，試験 （平常点は授業への意欲的な参加度で総合的に判断します）
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	○
小テスト	○			
試験	○			○

評価割合	平常点30%、小テスト20%、試験50%
使用教科書名 (ISBN番号)	小野寿美子／中川明博／西巻文児『ブーメラン・エルエー』朝日出版社、2015年、978-4-255-25380-0
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力</p> <p>【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力</p> <p>【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力</p>
オフィスアワー	授業時間外で特別に質問がある場合は授業後に受け付けます。 メールアドレスはy_takatsugi[at]hotmail.co.jp（[at]を@に置き換えてください）。
学生へのメッセージ	ドイツ語はドイツ、オーストリア、スイス、ルクセンブルクやリヒテンシュタインで公用語とされ、母語話者人口はEU圏内で一番多く、インターネット上のウェブサイト数は英語に次いで2番目に多い言語です。また世界で刊行される出版物で使用されている言語の割合ではドイツ語は第5位です。特に学問や音楽の分野においてドイツ語は今も重要な地位を占めています。また、イギリスのEU離脱問題によりEU圏内でのドイツの重要度はますます上がっているとみることができます。 ドイツ語を学ぶことで視野が広がったり、新しいものの見方に気付いたりすることでしょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	中国語入門1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 尹 青青	指定なし

ナンバリング	X13750M12
授業概要(教育目的)	本授業は、中国語を初めて学習する人を対象とし、現代中国語の標準語（普通話）を入門から学ぶ。入門段階において、特に発音の学習を重点的に行い、最も重要な中国語のリズムと正しい発音を身体で記憶し、正しく発音できるようになることを目標とする。
履修条件	初めて中国語を勉強する人を対象とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	現代中国語を正しく発音する・基礎的な文法を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	現代中国語を運用した簡単な会話ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業ガイダンス、 発音練習： 声調・単母音とそり舌母音・複合母音・子音・n/ng付母音・r化・轻声	授業の説明を行い、現代中国語の声調・単母音とそり舌母音・複合母音・子音・n/ng付母音・r化・轻声を理解する。	教科書の6～8ページを読んでおくこと。	60分
第2回	発音練習： 第3声の変調・「一」と「不」の変調・声調の組み合わせ	第3声の変調・「一」と「不」の変調・声調の組み合わせを理解し、発音のウォーミングアップを行う。	教科書の9ページを読んでおき、10～11頁のウォーミングアップに備えること。	60分

第3回	第1課 何を食べるの？ ——母とふたりで喫茶店	人称代詞・動詞述語文・疑問詞疑問文・省略疑問文を理解する。	教科書の13～14ページを読んでおくこと。	60分
第4回	第1課 何を食べるの？ ——母とふたりで喫茶店	トレーニングと総合練習を行う。	教科書の15～16ページを読んでおくこと。	60分
第5回	第2課 それって中国語の新聞？ ——図書館での出会い	指示代詞・名詞の前の修飾詞・動詞「是」の文・YES/NOで答える疑問文を理解する。	教科書の17～18ページを読んでおくこと。	60分
第6回	第2課 それって中国語の新聞？ ——図書館での出会い	トレーニングと総合練習を行う。	教科書の19～20ページを読んでおくこと。	60分
第7回	第3課 かわいい！——散歩中の偶然	形容詞述語文・主述述語文・「～(するの)が好きだ」・選択疑問文を理解する。	教科書の21～22ページを読んでおくこと。	60分
第8回	第3課 かわいい！——散歩中の偶然	トレーニングと総合練習を行う。	教科書の23～24ページを読んでおくこと。	60分
第9回	第4課 何人家族？——いろいろ話してみよう	数量の教え方・動詞「有」の文・「いくつ」の尋ね方・助動詞「想」を理解する。	教科書の25～26ページを読んでおくこと。	60分
第10回	第4課 何人家族？——いろいろ話してみよう	トレーニングと総合練習を行う。	教科書の27～28ページを読んでおくこと。	60分
第11回	第5課 家はどこ？——もっと知りたい	方位詞・動詞「在」の文・介詞「在」・介詞「离」を理解する。	教科書の29～30ページを読んでおくこと。	60分
第12回	第5課 家はどこ？——もっと知りたい	トレーニングと総合練習を行う。	教科書の31～32ページを読んでおくこと。	60分
第13回	第6課 ごはん食べた？——その頃の山本家	連動文・介詞「跟」・助動詞「要」・文末の「了」を理解する。	教科書の33～34ページを読んでおくこと。	60分
第14回	第6課 ごはん食べた？——その頃の山本家	トレーニングと総合練習を行う。	教科書の35～36ページを読んでおくこと。	60分
第15回	前期まとめ	第1課～第6課の授業内容を復習する。	前期の授業内容を復習すること。	60分

学習計画注記 上記のスケジュールは、おおよその目安である。実際の進捗状況によって、変更することもある。

学生へのフィードバック方法 授業にて説明する。

評価方法 平常点は授業への参加状況、授業態度等で総合的に判断する。定期試験は授業内容から70点満点で出題する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○			○
定期試験	○			

評価割合	平常点30%、定期試験70%。
使用教科書名 (ISBN番号)	しっかり初級中国語 石田友美・桑野弘美・島田亜実・鈴木ひろみ (978-4-560-06936-3、白水社)
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を身につけている。</p> <p>【技術・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を身につけている。</p>
学生へのメッセージ	<p>週1回という限られた時間内では、中国語学習の全領域をカバーすることは不可能である。従って授業を受ける学生には、授業での学習以外にも次のことを必ず行ってもらいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業前には、予習として教科書の本文と文法の説明を読む。 ・授業後には、復習として教科書にある文法練習とリスニングの文を発音する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	中国語入門1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 澁井 君也	指定なし

ナンバリング	X13750C12
授業概要(教育目的)	「中国語入門1」の履修を希望する皆さんを心から歓迎する。本授業は、中国語母語話者の教員により授業は行われ、中国語の簡単な会話を繰り返し練習していく。教科書に沿って、中国語独特の発音と四声のポイントをマスターできるようにし、中国語の文章を読み日常会話を学びつつ、文法の基礎も身につけるようにする。また、中国とはどのような国なのかを紹介し、中国とそこに住む人たちの生活や文化等についても学習する。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	中国語の発音(ピンイン)と基礎的な文法ができるようになる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	中国語や中国の事情について関心や興味をもつことになる。
技術・表現の観点 (A)	中国語の簡単な文章が読め、簡単な会話ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション&発音1	授業の進め方、教科書、中国語の概況や声調について等	発音の音声を聞いて予習すること	60分
第2回	発音2	単母音、複母音、鼻母音	発音の音声を聞いて予習すること	60分
第3回	発音3	子音、有気音、無気音	発音の音声を聞いて予習すること	60分
第4回	発音4	変調やピンインの表記ルールなど	発音の音声を聞いて予習すること	60分
第5回	第1課	新出単語やポイント(名前の聞き方など5項目)の説明	単語と文法を予習すること	60分
第6回	第1課	「你好」本文の解説と練習問題	会話の本文を予習すること	60分
第7回	第2課	新出単語やポイント(動詞述語文など5項目)の説明	単語と文法を予習すること	60分
第8回	第2課	「借書」本文の解説と練習問題	会話の本文を予習すること	60分

第9回	第3課	新出単語やポイント（量詞など5項目）の説明	単語と文法を予習すること	60分
第10回	第3課	「买衣服」本文の解説と練習問題	会話の本文を予習すること	60分
第11回	第4課	新出単語やポイント（動詞「有」など5項目）の説明	単語と文法を予習すること	60分
第12回	第4課	「下午見」本文の解説と練習問題	会話の本文を予習すること	60分
第13回	第5課	新出単語やポイント（過去の経験「过」など5項目）の説明	単語と文法を予習すること	60分
第14回	第5課	「女朋友」本文の解説や練習問題	会話の本文を予習すること	60分
第15回	総復習	前期の内容のまとめ	第1課～第5課まで学習した単語と文法を復習すること	60分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法 実施した小テストは、採点して、次週の授業に返却する。

評価方法 平常点、期末試験
（平常点は授業態度や小テスト等で総合的に判断する）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
小テスト	○			○
定期試験	○			○

評価割合 平常点50%、期末試験50%

使用教科書名 (ISBN番号) 山下輝彦、黄漢清『行ってみよう！中国語への旅 世界遺産へようこそ』朝日出版社

参考図書 特になし。

ディプロマポリシーとの関連
 【知識・理解】中国語の基礎的な発音と文法事項を覚えて理解する。
 【関心・意欲・態度】中国語や中国事情などについて関心をもつ。
 【技術・表現】初級で学んだ知識で簡単な会話や交流ができる。

学生へのメッセージ 授業中に、課題文の朗読や発音練習等を随時行う。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	中国語入門2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 尹 青青	指定なし

ナンバリング	X13760M12
授業概要(教育目的)	後期では、前期と同じく中国語の基本的な会話を練習するほか、より複雑な文法内容についても学習する。
履修条件	前期と連動した内容であるため、受講者は前期の授業を必ず受けていること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	現代中国語を正しく発音する・基礎的な文法を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	現代中国語を運用した簡単な会話ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	第7課 1枚 あげるよ ——映画の 約束	動詞の後の「了」と文末の「了」・目的語を一度に2つ取れる動詞・「～点…分」・介詞「从」を理解する。	教科書の37～38ページを読んでおくこと。	60分
第2回	第7課 1枚 あげるよ ——映画の 約束	トレーニングと総合練習を行う。	教科書の39～40ページを読んでおくこと。	60分
第3回	第8課 ちよ っと見せて ——いっし よに買い物	動詞の重ね型と動作量「一下」・介詞「给」・助動詞「可以」・100以上の数を理解する。	教科書の41～42ページを読んでおくこと。	60分
第4回	第8課 ちよ っと見せて ——いっし よに買い物	トレーニングと総合練習を行う。	教科書の43～44ページを読んでおくこと。	60分
第5回	第9課 中国	過去の経験を表す助詞「过」・持続を表す助詞「着」・	教科書の45～46ページを読んで	60分

	語話せるよ ——妹のチ ャイナドレ ス	助動詞「能」・助動詞「会」を理解する。	おくこと。	
第6回	第9課 中国 語話せるよ ——妹のチ ャイナドレ ス	トレーニングと総合練習を行う。	教科書の47～48ページを読んで おくこと。	60分
第7回	第10課 ま だ食事中？ ——母から の電話	時間を表す語句・様態補語・進行の表現・「快～了； 要～了；就要～了」を理解する。	教科書の49～50ページを読んで おくこと。	60分
第8回	第10課 ま だ食事中？ ——母から の電話	トレーニングと総合練習を行う。	教科書の51～52ページを読んで おくこと。	60分
第9回	第11課 心 配しないで ——娘の成 績	回数を表す語句・結果補語・比較の言い方・副詞「不 要、別」を理解する。	教科書の53～54ページを読んで おくこと。	60分
第10回	第11課 心 配しないで ——娘の成 績	トレーニングと総合練習を行う。	教科書の55～56ページを読んで おくこと。	60分
第11回	第12課 両 親が帰って くるように って——旧 正月の予定	方向補語・使役の言い方・「（是）～的」構文・「有点 儿」と「一点儿」を理解する。	教科書の57～58ページを読んで おくこと。	60分
第12回	第12課 両 親が帰って くるように って——旧 正月の予定	トレーニングと総合練習を行う。	教科書の59～60ページを読んで おくこと。	60分
第13回	ステップア ップ！ どう やって解け たらいい？ ——数学の 宿題	助動詞「该、应该」・介詞「把」・「有」を使った補 足・強調構文を理解する。	教科書の65～66ページを読んで おくこと。	60分
第14回	ステップア ップ！ どう やって解け たらいい？ ——数学の 宿題	トレーニングと総合練習を行う。	教科書の67～68ページを読んで おくこと。	60分
第15回	後期まとめ	第7課～第12課の授業内容を復習する。	後期の授業内容を復習するこ と。	60分

学習計画注記

上記のスケジュールは、おおよその目安である。実際の進捗状況によって、変更することもある。

学生へのフィードバック方法

授業にて説明する。

評価方法

平常点は授業への参加状況、授業態度等で総合的に判断する。定期試験は授業内容から70点満点で出題する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○			○
定期試験	○			

評価割合

平常点30%、定期試験70%。

使用教科書名 (ISBN番号)

しっかり初級中国語 石田友美・桑野弘美・島田亜実・鈴木ひろみ

	(978-4-560-06936-3、白水社)															
参考図書	なし															
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を身につけている。</p> <p>【技術・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を身につけている。</p>															
学生へのメッセージ	<p>週1回という限られた時間内では、中国語学習の全領域をカバーすることは不可能である。従って授業を受ける学生には、授業での学習以外にも次のことを必ず行ってほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業前には、予習として教科書の本文と文法の説明を読む。 ・授業後には、復習として教科書にある文法練習とリスニングの文を発音する。 															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング			情報リテラシー教育			ICT活用		
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業																
アクティブ・ラーニング																
情報リテラシー教育																
ICT活用																

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	中国語入門2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 澁井 君也	指定なし

ナンバリング	X13760C12
授業概要(教育目的)	「中国語入門2」の履修を希望する皆さんを心から歓迎する。この授業は、前期の「中国語入門1」の続きで、前期で学んだ基礎文法のおさらいをし、中国語の簡単な会話を繰り返し練習していく。教科書に沿って、中国語独特の発音と四声のポイントをマスターできるようにし、中国語の文章を読み日常会話を学びつつ、文法の基礎も身につけるようにする。また、中国とはどのような国なのかを紹介し、中国とそこに住む人たちの生活や文化等についても学習する。中国語資格試験のHSK(漢語水平考試)1級相当に到達することを目標とする。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点(K)	中国語の発音(ピンイン)と基礎的な文法ができるようになる。
思考・判断の観点(K)	
関心・意欲・態度の観点(V)	中国語や中国の事情について関心や興味をもつことになる。
技術・表現の観点(A)	中国語の簡単な文章が読め、簡単な会話ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	第6課	新出単語やポイント(「了」の用法など5項目)の説明	単語と文法を予習すること	60分
第2回	第6課	「你去哪儿了」本文の解説と練習問題	会話の本文を予習すること	60分
第3回	第7課	新出単語やポイント(進行形など5項目)の説明	単語と文法を予習すること	60分
第4回	第7課	「画画儿」本文の解説と練習問題	会話の本文を予習すること	60分
第5回	第8課	新出単語やポイント(前置詞など5項目)の説明	単語と文法を予習すること	60分
第6回	第8課	「她来了」本文の解説と練習問題	会話の本文を予習すること	60分
第7回	第9課	新出単語やポイント(結果補語など5項目)の説明	単語と文法を予習すること	60分
第8回	第9課	「别说话了」本文の解説と練習問題	会話の本文を予習すること	60分
第9回	第10課	新出単語やポイント(受け身など5項目)の説明	単語と文法を予習すること	60分
第10回	第10課	「迟到」本文の解説と練習問題	会話の本文を予習すること	60分

第11回	第11課	新出単語やポイント（主述述語文など5項目）の説明	単語と文法を予習すること	60分	
第12回	第11課	「打八折」本文の解説と練習問題	会話の本文を予習すること	60分	
第13回	第12課	新出単語やポイント（処置文など5項目）の説明	単語と文法を予習すること	60分	
第14回	第12課	「我也一样」本文の解説と練習問題	会話の本文を予習すること	60分	
第15回	総復習	後期の内容のまとめ	第6課～第12課まで学習した単語と文法を復習すること	60分	
学習計画注記		履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。			
学生へのフィードバック方法		実施した小テストは、採点して、次週の授業にて返却する。			
評価方法		平常点、期末試験 (平常点は授業態度や小テスト等で総合的に判断する)			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点			○	
	小テスト	○			○
	定期試験	○			○
評価割合		平常点50%、期末試験50%			
使用教科書名 (ISBN番号)		山下輝彦、黄漢清『行ってみよう！中国語への旅 世界遺産へようこそ』朝日出版社			
参考図書		特になし。			
ディプロマポリシーとの関連		【知識・理解】中国語の基礎な発音と文法事項を覚えて理解する。 【関心・意欲・態度】中国語や中国事情などについて関心をもつ。 【技術・表現】初級で学んだ知識で簡単な会話や交流ができる。			
学生へのメッセージ		授業中に、課題文の朗読や発音練習等を随時行う。			
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング					
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	中国語初級1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 澁井 君也	指定なし

ナンバリング	X15750C12
授業概要(教育目的)	本授業は、中国語入門を一通り学習した者を対象とし、中国語母語話者の教員により授業は行われ、一年次で学んだ基礎文法のおさらいをし、読み書き以外にも、発音や会話の能力を総合的に高め、さらに上のレベルに進む。また、中国とはどのような国なのかを紹介し、中国とそこに住む人たちの生活や文化等についても学習する。中国語検定試験(中検)準4級や漢語水平考試(HSK)2級相当に到達することを目標とする。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	中国語の発音と基礎的な文法ができ、簡単な文章が読めるようになる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	中国語や中国の事情について関心や興味をもつことになる。
技術・表現の観点 (A)	中国人と買い物、旅行などの簡単な会話ができるようになる。 中国人同士間の簡単な会話や交流などが聞き取れる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション&一年次の内容の復習	自己紹介、授業の進め方、教科書について等 基本動詞・形容詞と基本文型の復習	一年次で学んだ単語と文法を復習すること	60分
第2回	第1課	新出単語とポイント1(助動詞「可以」「要」、主述述語文、目的語が主述句のとき)	第1課の単語と文法を予習すること	60分
第3回	第1課	「中国に行こう!」の本文とトレーニング1	第1課の本文を予習すること	60分
第4回	第2課	新出単語とポイント2(「的」の用法、原因・理由を表す「因为」、文末の助詞「吧」「呢」)	第2課の単語とポイントを予習すること	60分
第5回	第2課	「ジャスミン茶を飲もう!」の本文とトレーニング2	第2課の本文を予習すること	60分
第6回	第3課	新出単語とポイント3(連動文、「是…的」の文、疑問詞「怎么」)	第3課の単語とポイントを予習すること	60分

第7回	第3課	「友達をつくろう！」の本文とトレーニング3	第3課の本文を予習すること	60分
第8回	復習	第1課～第3課までの授業内容の復習	第1課～第3課まで学習した単語と文法を復習すること	60分
第9回	第4課	新出単語とポイント4（「了」の三つの用法、副詞「就」）	第4課の単語とポイントを予習すること	60分
第10回	第4課	「長城に登ろう！」とトレーニング4	第4課の本文を予習すること	60分
第11回	第5課	新出単語とポイント5（様態補語、可能性の予測を表す「会」、「假定を表す「要是」）	第5課の単語とポイントを予習すること	60分
第12回	第5課	「卓球を楽しもう！」の本文とトレーニング5	第5課の本文を予習すること	60分
第13回	第6課	新出単語とポイント6（結果補語（1）、副詞「有点儿」）	第6課の単語とポイントを予習すること	60分
第14回	第6課	「漢字を覚えよう！」の本文とトレーニング6	第6課の本文を予習すること	60分
第15回	総復習	前期の授業内容のまとめ	第1課～第6課まで学習した単語と文法を復習すること	60分

学習計画注記	集中講義の開講日程： 4月18日（土）、6月13日（土）、6月27日（土） 7月4日（土）、7月11日（土）
--------	--

評価方法	平常点、期末試験 （平常点は授業態度や小テスト等で総合的に判断する）
------	---------------------------------------

評価基準	
------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
小テスト	○			○
定期試験	○			○

評価割合	平常点50%、期末試験50%
------	----------------

使用教科書名 (ISBN番号)	尹景春・竹島毅『新版 中国語つぎへの一步』白水社
-----------------	--------------------------

参考図書	特になし。
------	-------

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】中国語の基礎な発音と文法事項を覚えて理解する。 【関心・意欲・態度】中国語や中国事情などについて関心をもつ。 【技術・表現】初級で学んだ知識で簡単な会話や交流ができる。
---------------	---

学生へのメッセージ	授業中に、課題文の朗読や発音練習を随時行う。
-----------	------------------------

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	中国語初級2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 澁井 君也	指定なし

ナンバリング	X15760C12
授業概要(教育目的)	本授業は、中国語入門を一通り学習した者を対象としている。前期で学んだ基礎文法のおさらいをし、読み書き以外にも、発音や会話の能力を総合的に高め、さらに上のレベルに進む。また、中国とはどのような国なのかを紹介し、中国とそこに住む人たちの生活や文化等についても学習する。中国語検定試験(中検)4級や漢語水平考試(HSK)3級相当に到達することを目標とする。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点(K)	中国語の発音と基礎的な文法ができ、簡単な文章が読めるようになる。
思考・判断の観点(K)	
関心・意欲・態度の観点(V)	中国語や中国の事情について関心や興味をもつことになる。
技術・表現の観点(A)	1-中国語でメールを送り、中国人と日常的な会話ができるようになる。 2-中国語の平易な物語や一般的な新聞や雑誌の記事が読める。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	第7課	新出単語とポイント7(存現文、主語がフレーズのと き、「～了～了」の用法)	第7課の単語とポイントを予習 すること	60分
第2回	第7課	「街を歩こう!」の本文とトレーニング7	第7課の本文を予習すること	60分
第3回	第8課	新出単語とポイント8(状態の持続を表す「着」、副詞 「再」、疑問詞の不定用法)	第8課の単語とポイントを予習 すること	60分
第4回	第8課	「中国映画を見よう!」の本文とトレーニング8	第8課の本文を予習すること	60分
第5回	第9課	新出単語とポイント9(方向補語、使役を表す「让」)	第9課の単語とポイントを予習 すること	60分
第6回	第9課	「チャイナドレスを買おう!」の本文とトレーニング9	第9課の本文を予習すること	60分
第7回	復習	第7課～第9課までの授業内容の復習	第7課～第9課まで学習した単 語と文法を復習すること	60分
第8回	第10課	新出単語とポイント10(可能補語、強調表現)	第10課の単語とポイントを予	60分

			習すること	
第9回	第10課	「中華を食べよう！」の本文とトレーニング10	第10課の本文を予習すること	60分
第10回	第11課	新出単語とポイント11（結果補語（2）、受身を表す「被」）	第11課の単語とポイントを予習すること	60分
第11回	第11課	「西遊記を読もう！」の本文とトレーニング11	第11課の本文を予習すること	60分
第12回	第12課	新出単語とポイント12（「快～了」の用法、「把」の構文）	第12課の単語とポイントを予習すること	60分
第13回	第12課	「春節を祝おう！」の本文とトレーニング12	第12課の本文を予習すること	60分
第14回	メールをだそう！	中国語でメールを書く	「メールを出そう！」の単語と本文を予習すること	60分
第15回	総復習	後期の授業内容のまとめ	第7課～第12課まで学習した単語と文法ポイントを復習すること	60分

学習計画注記	集中講義の開講日程： 10月17日（土）、10月24日（土）、10月31日（土） 2月4日（木）、2月5日（金）
--------	--

評価方法	平常点、期末試験 （平常点は授業態度や小テスト等で総合的に判断する）
------	---------------------------------------

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
小テスト	○			○
定期試験	○			○

評価割合	平常点50%、期末試験50%
------	----------------

使用教科書名 (ISBN番号)	尹景春・竹島毅『新版 中国語つぎへの一步』白水社
-----------------	--------------------------

参考図書	特になし。
------	-------

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】中国語の基礎な発音と文法事項を覚えて理解する。 【関心・意欲・態度】中国語や中国事情などについて関心をもつ。 【技術・表現】初級で学んだ知識で簡単な会話や交流ができる。
---------------	---

学生へのメッセージ	授業中に、課題文の朗読や発音練習を随時行う。
-----------	------------------------

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	韓国語入門1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 徐 旻廷	指定なし

ナンバリング	X13770M12
授業概要(教育目的)	韓国語を初めて学習する人を対象とし、韓国語を習得するための基礎作りをします。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1. 韓国、韓国語に関する知識を獲得し、韓国に関する理解を深める。 2. 英語以外の外国語の学習を通し、他文化、他言語に対する知見を広める。
思考・判断の観点 (K)	自ら考え、韓国語の文を作成できるようにする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的な態度で授業に挑むことが望ましい。とりわけ毎回発音の練習を行うため、練習の成果を発表できるようにする。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション、ハングル文字の成り立ち、子音と母音	ハングル文字の成り立ちについて理解し、子音と母音について学ぶ。	プリントを読み、ハングル文字の仕組みについて理解すること。	60分
第2回	10個の基本母音	韓国語の基本母音10個を学ぶ。	復習として10個の基本母音の発音を練習すること。	60分
第3回	二重母音	韓国語の二重母音について学ぶ。	復習として二重母音の発音を練習すること。	60分
第4回	母音の復習	これまで学んだ母音全体の復習。	復習として韓国語の母音の発音を練習すること。	60分
第5回	19個の基本子音(1)	韓国語の子音について学ぶ。	復習として子音の発音を練習すること。	60分
第6回	19個の基本	韓国語の子音について学ぶ。	復習として韓国語の子音の発音	60分

	子音(2)		を練習すること。	
第7回	19個の基本子音(3)	韓国語の子音について学ぶ。	復習として韓国語の子音の発音を練習すること。	60分
第8回	子音の復習	これまで学んだ子音全体の復習。	復習として母音と子音を組み合わせさせて発音を練習すること。	60分
第9回	パッチム(1)	韓国語のパッチムについて学ぶ。	復習としてパッチムの発音を練習すること。	60分
第10回	パッチム(2)	韓国語のパッチムについて学ぶ。	復習としてパッチムの発音を練習すること。	60分
第11回	文字と発音の復習	これまで学んだ文字の書き方、発音のし方を復習する。	復習として母音、子音、パッチムを組み合わせ書いてみて、発音の練習をすること。	60分
第12回	基本文法 I 「○○は○○です」	韓国語の助詞「～は」、「～です」に当たる表現を学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第13回	基本文法 II 「韓国語のコ、ソ、ア」	韓国語の「コ、ソ、ア」について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第14回	基礎文法 III 「○○は○○ではありません」	「～ではありません」に当たる韓国語の表現を学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第15回	全体の復習	これまで学んだ文法、語彙を復習する。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第16回	定期試験	特になし	特になし	特になし

学習計画注記	特になし。
学生へのフィードバック方法	前期の主な学習の内容は、ハングル文字と発音の修得であるため、毎回の授業で発音の練習と発表を行う。受講生の1人ずつに発音を発表してもらい、修正するフィードバックの過程を繰り返す。必ず前回学習した発音を練習することが望ましい。
評価方法	平常点(出席、授業への参加態度)と定期試験の結果で総合的に評価する。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点(出席、授業への参加態)	○	○	○	
定期試験	○	○	○	

評価割合	平常点：50% 定期試験：50% 平常点は出席率、授業への参加態度等で総合的に判断する。
使用教科書名 (ISBN番号)	プリント配布
学生へのメッセージ	韓国と日本はお互い最も違い国で、交流も頻繁に行われています。 お互いをよりよく知るためには、まず、お互いの言葉を分かる必要があります。 隣国の言葉を勉強することによって興味を持ち、少しでも韓国について分かるようになってほしいです。 楽しく勉強して下さい！

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		

シラバス参照

講義名	韓国語入門2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 徐 旻廷	指定なし

ナンバリング	X13780M12
授業概要(教育目的)	韓国語の基礎的な語彙、文法、表現を勉強し、簡単な韓国語で会話ができるようにすることを目標とする。
履修条件	韓国語入門1の受講、あるいはハングルを読めることが履修条件である。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1. 韓国、韓国語に関する知識を獲得し、韓国に関する理解を深める。 2. 英語以外の外国語の学習を通し、他文化、他言語に対する知見を広める。
思考・判断の観点 (K)	自ら考え、韓国語の文を作成するようにする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的な態度で授業に挑むことが望ましい。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

韓国語入門Ⅱ

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	前期の復習	前期学んだ文法の復習。	前期学んだハングル文字の書き方・読み方及び基礎文法を予習しておくこと。	60分
第2回	存在の表現1	韓国語の存在表現について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作成すること。	60分
第3回	存在の表現2	韓国語の存在表現について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作成すること。	60分
第4回	位置に関する表現1	韓国語の位置に関する語彙、表現について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作成すること。	60分
第5回	位置に関する表現2	韓国語の位置に関する語彙、表現について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作成すること。	60分
第6回	位置に関する表現3	韓国語の位置に関する語彙、表現について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作成すること。	60分

第7回	数字に関する表現1	韓国語の数字を学び、数字と関連のある表現を学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作成すること。	60分
第8回	数字に関する表現2	韓国語の数字を学び、数字と関連のある表現を学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作成すること。	60分
第9回	数字に関する表現3	韓国語の数字を学び、数字と関連のある表現を学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作成すること。	60分
第10回	用言の活用1	韓国語の用言(動詞、形容詞、存在詞、指定詞)と、用言の活用について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作成すること。	60分
第11回	用言の活用2	韓国語の用言(動詞、形容詞、存在詞、指定詞)と、用言の活用について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作成すること。	60分
第12回	用言の活用3	韓国語の用言(動詞、形容詞、存在詞、指定詞)と、用言の活用について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作成すること。	60分
第13回	否定文1	韓国語の否定文の作り方について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作成すること。	60分
第14回	否定文2	韓国語の否定文の作り方について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作成すること。	60分
第15回	全体の復習	これまで学んだ文法、語彙の復習	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作成すること。	60分
第16回	定期試験	特になし	特になし	特になし
第17回				

学習計画注記	特になし。
--------	-------

学生へのフィードバック方法	学習事項を学習した後、復習として課題を出す。必ず自ら考えて課題をこなすこと。提出してもらった課題は添削して返し、フィードバックを行う。
---------------	---

評価方法	平常点(出席、授業への参加態度)、定期試験の結果を総合的に判断し評価する。
------	---------------------------------------

評価基準	
------	--

評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点(出席、授業への参加態度)	○	○	○	
	定期試験	○	○	○	

評価割合	平常点：40% 定期試験：60% 平常点は出席率、授業への参加態度等で総合的に判断する。
------	--

使用教科書名 (ISBN番号)	プリント配布
-----------------	--------

学生へのメッセージ	韓国と日本はお互い最も違い国で、交流も頻繁に行われています。 お互いをよりよく知るためには、まず、お互いの言葉を分かることが大事です。 隣国の言葉を勉強することによって興味を持ち、少しでも韓国について分かるようになってほしいです。 楽しく勉強して下さい！
-----------	--

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	韓国語初級1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 徐 旻廷	指定なし

ナンバリング	X15770M12
授業概要(教育目的)	入門クラスに引き続き、基礎韓国語を学び、韓国語での韓国語でのコミュニケーション能力を高めるとともに韓国社会、文化に関する理解を深める。
履修条件	韓国語入門2を受講する、あるいは韓国語学習歴があることを履修条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 韓国、韓国語に関する知識を獲得し、韓国に関する理解を深める。 2. 英語以外の外国語の学習を通し、他文化、他言語に対する知見を広める。
思考・判断の観点 (K)	自ら考え、韓国語の文を作成し、適切な表現をお使う。
関心・意欲・態度の観点 (V)	学習対象である韓国語に関心を持ち、積極的な態度で授業に挑む。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

韓国語初級1

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	尊敬の表現1	韓国語の尊敬表現について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第2回	尊敬の表現2	韓国語の尊敬表現について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第3回	過去形1	韓国語の過去形について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第4回	過去形2	韓国語の過去形について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第5回	意志の表現	韓国語の意志を表す表現について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第6回	可能・不可	韓国語の可能、不可能、希望を表す表現について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自	60分

	能・希望		ら考えて文を作ること。	
第7回	まとめ	これまで学んだ文法、語彙を復習する。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第8回	連体形1	韓国語の連体形について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第9回	連体形2	韓国語の連体形について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第10回	連体形3	韓国語の連体形について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第11回	変則用言1	韓国語の変則用言について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第12回	変則用言2	韓国語の変則用言について	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第13回	変則用言3	韓国語の変則用言について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第14回	変則用言4	韓国語の変則用言について学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第15回	まとめ	これまで学んだ文法、語彙を学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第16回	定期試験	特になし	特になし	特になし

学習計画注記	特になし
学生へのフィードバック方法	各学習項目の学習の後、復習として課題を出す。提出してもらった課題は添削し返し、フィードバックを行う
評価方法	平常点(授業への参加態度、出席など)で総合的に判断し、評価する

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	

評価割合	平常点：100%
使用教科書名 (ISBN番号)	プリント
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力 【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力
学生へのメッセージ	韓国と日本はお互い最も違い国で、交流も頻繁に行われています。 お互いをよりよく知るためには、まず、お互いの言葉を分かることが大事です。 隣国の言葉を勉強することによって興味を持ち、少しでも韓国について分かるようになってほしいです。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	韓国語初級2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 徐 旻廷	指定なし

ナンバリング	X15780M12
授業概要(教育目的)	入門クラスに引き続き、基礎韓国語を学び、韓国語での韓国語でのコミュニケーション能力を高めるとともに韓国社会、文化に関する理解を深める。
履修条件	韓国語初級1を受講する、あるいは韓国語学習歴があることを履修条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 韓国、韓国語に関する知識を獲得し、韓国に関する理解を深める。 2. 英語以外の外国語の学習を通し、他文化、他言語に対する知見を広める。
思考・判断の観点 (K)	自ら考え、韓国語の文を作成し、適切な表現をお使う。
関心・意欲・態度の観点 (V)	学習対象である韓国語に関心を持ち、積極的な態度で授業に挑む。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

韓国語初級2

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	初級1の復習	初級1で学んだ文法、語彙などを復習する。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第2回	意志、経験の表現	韓国語の意志、経験を表す表現を学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第3回	逆接、依頼の表現	韓国語の逆接、以来を表す表現を学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第4回	推測の表現	韓国の推測を表す表現を学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第5回	仮定、許可の表現	韓国語の仮定、許可を表す表現を学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第6回	まとめ	これまで学んだ文法、語彙を復習する。	復習として課題を出す。必ず自	60分

			ら考えて文を作ること。	
第7回	評価の表現、名詞化	韓国語の評価を表す表現、名詞化を学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第8回	時間の流れの表現	時間の流れを表す表現を学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第9回	義務、確認の表現	義務、確認を表す表現を学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第10回	成り行き、結果の表現	韓国語の成り行き、結果を表す表現を学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第11回	禁止、お願いの表現	韓国語の禁止、お願いを表す表現を学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第12回	後悔の表現	韓国語の後悔を表す表現を学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第13回	理由、接続の表現	韓国の理由、接続を表す表現を学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第14回	変化の表現	韓国語の変化を表す表現を学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第15回	まとめ	これまで学んだ文法、語彙を学ぶ。	復習として課題を出す。必ず自ら考えて文を作ること。	60分
第16回	定期試験	特になし	特になし	特になし
第17回				

学習計画注記	特になし
--------	------

学生へのフィードバック方法	各学習項目を学習した後、復習として課題を出す。提出してもらった課題は添削して返し、フィードバックを行う。
---------------	--

評価方法	平常点(授業への参加態度、出席など)で総合的に判断し、評価する
------	---------------------------------

評価基準	
------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	

評価割合	平常点：100%
------	----------

使用教科書名 (ISBN番号)	プリント
-----------------	------

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力 【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力
---------------	--

学生へのメッセージ	韓国と日本はお互い最も違い国で、交流も頻繁に行われています。 お互いをよりよく知るためには、まず、お互いの言葉を分かることが大切です。 隣国の言葉を勉強することによって興味を持ち、少しでも韓国について分かるようになってほしいです。
-----------	---

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	アカデミック・ジャパニーズ1		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	留学生・1年次		
必修・選択の別	1年次留学生必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森 朋子	指定なし

ナンバリング	X13910M22
授業概要(教育目的)	留学生が大学での勉強を全うするために必要な日本語能力は、日常生活で体験的に身につくものではない。「アカデミック・ジャパニーズ」では、「ノートを取る」「文献を調べる」「文献を読む」「レポートを作成する」「口頭発表をする」等のスキルを総合的に学ぶ過程において、日本語能力および思考力を高めていく。
履修条件	学則第54条に定める外国人留学生であること。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	テーマについての理解を深め、レポート作成、口頭発表のための知識を修得する。
思考・判断の観点 (K)	レポートおよび口頭発表のテーマについて考えを深める。
関心・意欲・態度の観点 (V)	テーマに関心を持ち、意欲的ならびに積極的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	学んだ知識を活かして、的確な表現および形式でレポート作成および口頭発表ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業内容を理解し、大学で求められるレポートや口頭発表にはどのような特徴があるかを考える。	レポートや口頭発表の特徴を復習し、同じ特徴を持つもの(出版物等)を挙げる。	45
第2回	論理性を考える1	論理性とは何かについてアイデアを出し合う。その上で、与えられた情報を論理的な構成で整理することを目的とした練習を行う。練習はグループワークで実施し、発表およびクラスディスカッションを行う。	次回授業で話し合う練習問題をやる。	45
第3回	論理性を考える2	与えられた文章を読み、論理が破綻しているところを発見する練習を行う。練習はグループワークで実施し、発表およびクラスディスカッションを行う。	次回授業で話し合う練習問題をやる。	45
第4回	論理性を考える3	与えられた絵から、読み取れる情報をグループで話し合う。その後、その情報が論理的であるかどうかについてクラス全体でディスカッションする。	対照したい物質を2つ挙げ、違いをまとめる。	45
第5回	論理性を考	対照したい2つの物質の違いが論理的であるかをグループ	好きな絵もしくは写真を1枚取	45

	える4	内で検証し修正をする。対照文の表現を学んだ上で、実際に自分が選んだ2つの物質についての対象文を書く。	り上げ、何が描かれているかを挙げる。	
第6回	論理性を考える5	自分が選んだ絵もしくは写真から得られる情報を書き出し、その情報が論理的かどうかをグループ内で検証する。描写文の書き方を学び、実際に自分が選んだ絵もしくは写真の描写文を書く。	東京家政学院大学の好きなところ、魅力的だと思う点を挙げる。	45
第7回	東京家政学院大学を紹介する1	東京家政学院大学の好きなところ、魅力的だと思うところを一言で表すテーマを考える。テーマを具体的に表す内容を挙げ、論理性があるかどうかを検証した上でワークシートをまとめる。	ワークシートを検証し、修正する。	45
第8回	東京家政学院大学を紹介する2	東京家政学院大学を紹介する上で効果的な視覚情報の計画を立て、キャンパスに撮影に行く。段落の構成を学ぶ。	自分のテーマと具体的な要素を段落の構成に当てはめる。	45
第9回	東京家政学院大学を紹介する3	段落の書き方について具体例から分析する。自分のテーマで段落を書き、修正のために必要な点をワークシートを使って自己分析する。	自分のテーマの段落を修正する。	45
第10回	東京家政学院大学を紹介する4	レジュメの書き方を学ぶ。自分のテーマの段落から、内容を箇条書きにする。	レジュメを書く。	45
第11回	東京家政学院大学を紹介する5	質疑応答の仕方を学ぶ。各自レジュメを使って発表する。発表後、質疑応答を行う。	自分の学科について紹介したいことをまとめる。	45
第12回	東京家政学院大学を紹介する6	自分の学科について紹介したいことの情報源（パンフレット、ホームページ、人等）を探し、段落構成の計画を立てる。	情報源から情報を収集し整理する。	45
第13回	東京家政学院大学を紹介する7	引用の仕方を学び、引用を使って自分の学科を紹介する段落を書く。	自分の学科紹介をレジュメにまとめる。	45
第14回	東京家政学院大学を紹介する8	レジュメを使って、自分の学科紹介について発表する。発表後、質疑応答を行う。	自分が健康について注意していることをまとめる。	45
第15回	健康について考える1	健康に必要な要素をブレインストーミングし、最も重要なものを3つ選ぶ。その要素について、なぜそれが重要なのか、健康を保つためには何をすれば良いのかを考える。	健康に関する語彙や表現をワークシートを使って学ぶ。	45
第16回	健康について考える2	効果的な読み方と要点をノートに取る方法を学び、練習問題を行う。	新しい練習問題をやる。	45
第17回	健康について考える2	健康についての文献を読み、使用したいものを選びノートを取る。	引き続きノートを取る。	45
第18回	健康について考える4	アウトラインについて学ぶ。アウトラインの練習問題を行った後、健康についての自分のアウトラインを書く。	アウトラインを見直し修正する。	45
第19回	健康について考える5	序論と本論の構成について学び、序論を書く。引用についても学ぶ。	引用についての練習問題をやる。	45
第20回	健康について考える6	引用を使って本論を書くことを学ぶ。	本論を書く。	45
第21回	健康について考える7	グラフ、図、表の用い方を学び、練習問題を行う。結論の構成について学ぶ。	結論を書く。	45
第22回	健康について考える8	引用文献一覧の書き方を学ぶ。自分のレポートの引用文献一覧を書く。	レポートを序論から引用文献一覧までつなげて見直し修正する。	45
第23回	日本人学生にききたいこと1	日本人学生にアンケートできいてみたいことをリストアップし、テーマを決定する。	アウトラインを書く。	45
第24回	日本人学生にきいてみたいこと2	アンケートの作成方法を学び、自分のアンケートを作る。	アンケートを見直し修正する。	45
第25回	日本人学生にききたいこと3	アンケートの集計方法、統計処理の方法を学ぶ。	アンケートを実施する。	45
第26回	日本人学生にききたいこと4	グラフ、図、表の作り方を学び、作成する。	作成したブラフ、図、表を見直し修正する。	45
第27回	日本人学生	効果的なパワーポイントの作り方を学び、実際に作成す	パワーポイントを見直し修正す	45

	にききたいこと5	る。	る。	
第28回	日本人学生にききたいこと6	口述原稿の作り方を学び、実際に作成する。	口述原稿を見直し修正する。	45
第29回	日本人にききたいこと7	質疑応答の方法を学び、練習する。	自分の発表の練習をする。	45
第30回	日本人学生にききたいこと8	パワーポイントを用いた口頭発表をする。発表後、質疑応答を行う。	授業全体を振り返り、研究の方法を復習する。	45

学生へのフィードバック方法	口頭および書面でのコメント
評価方法	課題（課題の完成度により評価する） レポート（内容、構成、表現、形式の観点から評価する） 口頭発表（内容、構成、表現、形式、プレゼンテーションの観点から評価する） 平常点（発言、取り組みの姿勢により評価する）

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題	○	○		
レポート	○	○	○	○
口頭発表	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合	課題10% レポート35% 口頭発表35% 平常点20%
------	------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	なし
-----------------	----

参考図書	なし
------	----

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解の観点】テーマについての理解を深め、レポート作成、口頭発表のための知識を修得する。 【思考・判断の観点】レポートおよび口頭発表のテーマについて考えを深める。 【関心・意欲・態度の観点】テーマに関心を持ち、意欲的ならびに積極的に取り組む。 【技術・表現の観点】学んだ知識を活かして、的確な表現および形式でレポート作成および口頭発表ができる。
---------------	--

オフィスアワー	月曜日5限、水曜日4限（前期）
---------	-----------------

学生へのメッセージ	アカデミック・ジャパニーズでは、「日本語を勉強する」のではなく、「大学生として必要な技能を日本語で勉強する」ことになる。これまでの日本語習得のための学習とは異なることに注意し、課題を丁寧にこなしていくことを心がけて欲しい。
-----------	---

教育等の取り組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題を達成するために自主的に取り組む。ペアおよびグループでディスカッションを行う。
情報リテラシー教育	○	情報収集の方法を学び、実践する。
ICT活用	○	IT機器を駆使し、情報収集や情報発信を行う。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	アカデミック・ジャパニーズ2		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	留学生・1年次		
必修・選択の別	1年次留学生必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森 朋子	指定なし

ナンバリング	X13920M22
授業概要(教育目的)	留学生が大学での勉強を全うするために必要な日本語能力は、日常生活で体験的に身につくものではない。「アカデミック・ジャパニーズ」では、「ノートを取る」「文献を調べる」「文献を読む」「レポートを作成する」「口頭発表をする」等のスキルを総合的に学ぶ過程において、日本語能力および思考力を高めていく。
履修条件	学則第54条に定める外国人留学生であること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	テーマについての理解を深め、レポート作成、口頭発表のための知識を修得する。
思考・判断の観点 (K)	レポートおよび口頭発表のテーマについて考えを深める。
関心・意欲・態度の観点 (V)	テーマに関心を持ち、意欲的ならびに積極的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	学んだ知識を活かして、的確な表現および形式でレポート作成および口頭発表ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業内容を理解し、大学で求められるレポートや口頭発表にはどのような特徴があるのかを考える。	世界的な視点で女性の権利が侵害されている例を考えてくる。	45
第2回	女性の生き方と権利について考える1	女性の権利が侵害されている例を挙げ、なぜそのようなことが起こるのかディスカッションする。映像でひとつの例を観た後に、問題点を整理する。	女性の権利に関わる語や表現をワークシートで学ぶ。	45
第3回	女性の生き方と権利について考える2	女性の生き方と権利についての文章を読み、問題点をまとめディスカッションする。	前回の授業で観た映像の問題点との共通点をまとめる。	45
第4回	女性の生き方と権利について考える3	図書館の使い方、インターネットでの文献検索の方法を学び、女性の生き方と権利についての情報を集める。情報収集はグループ単位で行う。	集めた情報から、問題点を整理する。	45
第5回	女性の生き	女性の生き方と権利について、グループごとに、原因を	アウトラインにそって、レポー	45

	方と権利について考える4	分析した上で、解決策および自分たちにできることを話し合う。	トの下書きを書く。	
第6回	女性の生き方と権利について考える5	グループでの話し合いの結果をポスターにまとめる。説明の役割分担を決め、説明文を考える。	口頭で説明をする練習をする。	45
第7回	女性の生き方と権利について考える6	グループごとにポスター発表をする。質疑応答も行う。	他グループの発表で参考になった点をまとめる。	45
第8回	地球の問題を考える1	与えられたテーマの選択肢の中から、自分が取り組みたいものを選び、グループを構成する。グループ内で、テーマに関してブレインストーミングし、何を取り上げていくかを整理する。	テーマについて、インターネットを使って情報収集する。	45
第9回	地球の問題を考える2	情報収集の分担を決め、図書館で情報収集する。	収集した情報を読んでノートにまとめる。	45
第10回	地球の問題を考える3	グループで話し合いながら、アウトラインを作成する。パワーポイントの作り方を学ぶ。	パワーポイントの原案を考える。	45
第11回	地球の問題を考える4	持ち寄ったパワーポイントの原案をグループ内で検討し、発表用のパワーポイントを作成する。説明の役割分担を決める。	自分が説明する部分の説明文を書く。	45
第12回	地球の問題を考える5	説明文を持ち寄り、グループで修正をする。ディスカッションの方法を学び、ディスカッションのポイントを作成する。	発表とディスカッションの練習をする。	45
第13回	地球の問題を考える6	グループごとにパワーポイントを使って発表をする。発表後、発表したグループが主導となり、テーマについてディスカッションをする。	自分が調べてみたいことをいくつか考える。	45
第14回	個人研究1	テーマの決め方を学び、各自個人研究のテーマを決める。	アウトラインを書く。	45
第15回	個人研究2	アウトラインをペアで検証し、相互に改善のためのアドバイスをする。	アウトラインを修正する。	45
第16回	個人研究3	図書館で情報収集する。	収集した情報を読む。	45
第17回	個人研究4	図書館での情報収集を続ける。その過程で、アウトラインを修正していく。	収集した情報を読む。	45
第18回	個人研究5	アウトラインの論理性をグループ内で検証し、相互に改善のためのアドバイスをする。アウトラインを修正する。	収集した情報をアウトライン中どこで使用するかを考える。	45
第19回	個人研究6	レポートの構成について学び、練習問題を通して理解を深める。	授業とは別の練習問題をやる。	45
第20回	個人研究7	序論の書き方について学び、練習を通して理解を深める。	個人研究の序論を書く。	45
第21回	個人研究8	本論の書き方を学び、練習問題を通して理解を深める。	個人研究の本論を書く。	45
第22回	個人研究9	引用の意味、方法を学び、練習問題を通して理解を深める。	個人研究の本論に引用を加えて調整する。	45
第23回	個人研究10	結論の書き方を学び、練習問題を通して理解を深める。	個人研究の結論を書く。	45
第24回	個人研究11	レポートと口頭発表の表現方法の違いについてディスカッションし、口頭発表で留意すべき点を明らかにする。	個人研究を口頭発表する場合の留意点をまとめる。	45
第25回	個人研究12	レジュメの書き方を学び、練習問題を通して理解を深める。	個人研究のレジュメを作る。	45
第26回	個人研究13	レジュメをペアで検証し、相互に改善点をアドバイスする。レジュメの修正を行う。	レジュメの修正を完了する。	45
第27回	個人研究14	口述原稿の書き方を学び、練習問題を通して理解を深める。	個人研究の口述原稿を書く。	45
第28回	個人研究15	質疑応答について学び、練習問題を通して理解を深める。	質疑応答に必要な語彙、表現を学ぶ。	45
第29回	個人研究16	各自、レジュメを使って個人研究を発表する。発表後は質疑応答を行う。	発表した者は、発表について振り返る。次週発表の者は、練習をする。	45

第30回	個人研究 17	各自、レジュメを使って個人研究を発表する。発表後は質疑応答を行う。一学期間の自分の成長を振り返り、今後の課題をまとめる。	一学期間の自分の成長を振り返り、今後の課題をまとめる。	45	
学生へのフィードバック方法		口頭および書面でのコメント			
評価方法		課題（課題の完成度により評価する） グループ発表（内容、構成、表現、形式、プレゼンテーション、協働の姿勢により評価する） 個人研究（レポートおよび発表の内容、構成、表現、形式、プレゼンテーションにより評価する） 平常点（発言、取り組みの姿勢により評価する）			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	課題	○	○		○
	グループ発表	○	○		○
	個人研究	○	○	○	○
	平常点			○	
評価割合		課題10% グループ発表（2回）30% 個人研究40% 平常点20%			
使用教科書名 (ISBN番号)		なし			
参考図書		なし			
ディプロマポリシーとの関連		【知識・理解の観点】 テーマについての理解を深め、レポート作成、口頭発表のための知識を修得する。 【思考・判断の観点】 レポートおよび口頭発表のテーマについて考えを深める。 【関心・意欲・態度の観点】 テーマに関心を持ち、意欲的ならびに積極的に取り組む。 【技術・表現の観点】 学んだ知識を活かして、的確な表現および形式でレポート作成および口頭発表ができる。			
オフィスアワー		月曜日3限、水曜日2限			
学生へのメッセージ		課題を達成するために必要な日本語に自分で気づき、調べ、身につけていってほしい。			
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング	○	課題を達成するために自主的に取り組む。ペアおよびグループでディスカッションを行う。			
情報リテラシー教育	○	情報収集の方法を学び、実践する。			
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	日本語ラボa		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	留学生・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森 朋子	指定なし

ナンバリング	X13940M12
授業概要(教育目的)	コミュニケーションに支障なく外国語を使えるレベルに達すると、それ以上の上達が困難になる「化石化」が起こるが、大学入学後の留学生はまさにその時期に当たる。日本語ラボでは、「真のコミュニケーションで日本語を使う」という体験を重ねることで、「化石化」を打破し、より高度でより自然な日本語の習得を目指していく。
履修条件	学則第54条に定める外国人留学生であること。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	コミュニケーションで日本語を的確に使うための知識を修得する。
思考・判断の観点 (K)	コミュニケーションの際に何を伝えるか、どのように伝えるかを考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日本語によるコミュニケーションに関心・意欲を持って、積極的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	自分が伝えたいことを相手に分かりやすい表現および方法で伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	アンケートおよびテストを通して、現在の自分の日本語能力のレベルおよび必要とする日本語能力を知る。	日本語で苦手な音、アクセント、言いにくい言葉をまとめる。	45
第2回	日本語の音声	日本語の音声の体系および母語別の難しい音について知り、実際に声に出して練習をする。	課題文を声に出して読む練習する。	45
第3回	日本語のアクセント	日本語のアクセントの体系を知り、実際に声に出して練習をする。	課題文を声に出して読む練習する。	45
第4回	分かりやすい伝え方1	分かりやすい文とはどのようなものかを実例を使った練習を通して学ぶ。練習はグループで行う。	分かりやすい文とはどのようなものかを文章にまとめる。	45
第5回	分かりやすい伝え方2	分かりやすい資料とはどのようなものかを実例を使った練習を通して学ぶ。練習はグループで行う。	分かりやすい資料とはどのようなものかを文章にまとめる。	45
第6回	ふるさと紹介1	ふるさと紹介のテーマを決定し、テーマを説明するための要素を考える。ふるさとについての情報を集める。	ふるさとについての情報を引き続き集める。	45

第7回	ふるさと紹介2	ふるさと紹介の全体の流れを考える。また、使用する画像を決定し、説明文を書く。説明文を書く上で、学ばなければならない語彙、文法および表現を確認する。	ふるさと紹介の説明文を修正する。	45
第8回	ふるさと紹介3	各自ふるさと紹介のパワーポイントを作成し、予行練習をする。予行練習はペアで行い、相互に改善点をアドバイスする。	発表の予行練習をする。	45
第9回	ふるさとの紹介発表	各自パワーポイントを用いてふるさと紹介をする。発表の後は、質疑応答を行う。	日本人に紹介したい自国料理をリストにする。	45
第10回	調理交流1	日本人と調理交流することを前提に、日本語で調理法、食材、調理器具等の名称、表現を学ぶ。	調理法、食材、調理器具等の名称を復習する。	45
第11回	調理交流2	日本人に紹介したい自国のメニューをディスカッションで決定する。その後、レシピを作成する。	レシピを修正し、写真を探す。	45
第12回	調理交流3	クラス全体でレシピを確認し、修正する。「教える人」「習う人」に分かれて、口頭で説明する練習をする。	口頭で説明する練習を続ける。	45
第13回	調理交流4	クラス全体で、調理交流の模擬授業を実施する。「教える人」「習う人」は、レシピごとに交代する。	調理交流のシミュレーションをする。日本語表現を特に復習する。	45
第14回	調理交流5	レジュメの書き方を学び、調理交流の成果をレジュメにまとめる。その後、口述原稿を作成する。	成果報告の発表の準備をする。	45
第15回	調理交流成果報告	各自レジュメを用いて調理交流の成果報告をする。	一学期の学びを通して、自分の成長、今後の課題をまとめる。	45

学生へのフィードバック方法	口頭および書面によるコメント
評価方法	発表2回（内容、構成、表現、形式により評価） 課題（課題の達成度により評価） ポートフォリオ（課題設定、練習の記録、整理・分類により評価） 平常点（発言、協働作業時の調整力、取り組みの姿勢により評価）

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
発表	○	○	○	○
課題	○			
ポートフォリオ			○	○
平常点	○	○	○	

評価割合	発表（2回）50% 課題10% ポートフォリオ20% 平常点20%
------	-----------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	なし
-----------------	----

参考図書	なし
------	----

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解の観点】コミュニケーションで日本語を的確に使うための知識を修得する。 【思考・判断の観点】コミュニケーションの際に何を伝えるか、どのように伝えるかを考える。 【関心・意欲・態度の観点】日本語によるコミュニケーションに関心・意欲を持って、積極的に取り組む。 【技術・表現の観点】自分が伝えたいことを相手に分かりやすい表現および方法で伝えることができる。
---------------	--

オフィスアワー	月曜日5限、水曜日4限（前期）
---------	-----------------

学生へのメッセージ	日本語を真のコミュニケーションで使う経験を重ねていきましょう。
-----------	---------------------------------

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自主的な課題設定。ディスカッション。実技をともなう交流。
情報リテラシー教育	○	情報収集や図書館の利用。

シラバス参照

講義名	日本語ラボ		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	留学生・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森 朋子	指定なし

ナンバリング	X13950M12
授業概要(教育目的)	コミュニケーションに支障なく外国語を使えるレベルに達すると、それ以上の上達が困難になる「化石化」が起こるが、大学入学後の留学生はまさにその時期に当たる。日本語ラボでは、「真のコミュニケーションで日本語を使う」という体験を重ねることで、「化石化」を打破し、より高度でより自然な日本語の習得を目指していく。
履修条件	学則第54条に定める外国人留学生であること。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	コミュニケーションで日本語を的確に使うための知識を修得する。
思考・判断の観点 (K)	コミュニケーションの際に何を伝えるか、どのように伝えるかを考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日本語によるコミュニケーションに関心・意欲を持って、積極的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	自分が伝えたいことを相手に分かりやすい表現および方法で伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	アンケートおよびテストを通して、現在の自分の日本語能力のレベルおよび必要とする日本語能力を知る。	近隣住民の方にインタビューするためのテーマをいくつか考える。	45
第2回	インタビュー1	近隣住民の方にインタビューをするためのテーマを決定する。さらに目上の方とコミュニケーションする際の注意点について話し合う。	アウトラインを立てる。	45
第3回	インタビュー2	アウトラインにしたがって、質問を考える。グループ内で、意見交換をし、相互に改善点をアドバイスする。	実際にインタビューを行う。	45
第4回	インタビュー3	インタビューの結果をパワーポイントにまとめ、説明文を考える。	報告会の練習をする。	45
第5回	インタビュー報告会	各自インタビューの結果を報告する。質疑応答も行う。	スピーチのテーマをいくつか考える。	45
第6回	スピーチ1	コミュニケーションの手段としてのスピーチの特徴や方	スピーチのアウトラインを立て	45

		法を学び、各自スピーチのテーマを決定する。	る。	
第7回	スピーチ2	アウトラインにしたがって、原稿を執筆する。執筆後は、ワークシートにしたがって、修正を行う。	スピーチの練習をする。	45
第8回	スピーチ3	スピーチのプレゼンテーションを学び、自分が注意すべき点を整理し、練習を開始する。	スピーチの練習をする。	45
第9回	スピーチ3	スピーチのプレゼンテーションを学び、自分が注意すべき点を整理し、練習を開始する。	スピーチの練習をする。	45
第10回	スピーチ発表会	各自スピーチを発表する。スピーチ後には質疑応答も行う。	小学生に紹介したい自国の文化、習慣などを考える。	45
第11回	自国の紹介1	小学生に自国を紹介するという前提で、テーマのアイデアを出す。クラス全体で協議してテーマを決定する。また、小学生と日本語でコミュニケーションする際に注意すべき点を話し合う。	テーマについて、何を紹介したいかをまとめる。	45
第12回	自国の紹介2	テーマごとにグループ分けし、協議しながら紹介の内容を計画書にまとめる。	紹介に必要な画像を集める。説明を練習する。	45
第13回	自国の紹介3	紹介の資料および説明文をグループごとに作成する。その際に必要な語彙、文法、表現を確認する。	資料を見直し修正する。	45
第14回	自国の紹介4	最初から最後まででのリハーサルを行う。リハーサル後、相互に改善点をアドバイスし、修正を行う。	資料を用いた紹介の練習をする。	45
第15回	自国の紹介5	リハーサルを行い、最終的な修正を行う。	資料を用いた紹介の練習をする。	45

学生へのフィードバック方法	口頭および書面によるコメント
評価方法	報告・発表（各1回）（内容、構成、表現、形式により評価） 課題（課題の達成度により評価） ポートフォリオ（課題設定、練習の記録、整理・分類により評価） 平常点（発言、協働作業時の調整力、取り組みの姿勢により評価）

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
報告・発表	○	○	○	○
課題	○			
ポートフォリオ			○	○
平常点	○	○	○	

評価割合	報告・発表（各1回）50% 課題10% ポートフォリオ20% 平常点20%
------	---------------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	なし
-----------------	----

参考図書	なし
------	----

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解の観点】コミュニケーションで日本語を的確に使うための知識を修得する。 【思考・判断の観点】コミュニケーションの際に何を伝えるか、どのように伝えるかを考える。 【関心・意欲・態度の観点】日本語によるコミュニケーションに関心・意欲を持って、積極的に取り組む。 【技術・表現の観点】自分が伝えたいことを相手に分かりやすい表現および方法で伝えることができる。
---------------	--

オフィスアワー	月曜日3限、水曜日2限（後期）
---------	-----------------

学生へのメッセージ	真のコミュニケーションで日本語を使う体験を積み重ねていきましょう。
-----------	-----------------------------------

教育等の取り組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自主的な課題設定。ディスカッション。実技をともなう交流。
情報リテラシー教育	○	情報収集や図書館の利用。

シラバス参照

講義名	日本語ラボc		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	留学生・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森 朋子	指定なし

ナンバリング	X13960M12
授業概要(教育目的)	コミュニケーションに支障なく外国語を使えるレベルに達すると、それ以上の上達が困難になる「化石化」が起こるが、大学入学後の留学生はまさにその時期に当たる。日本語ラボでは、「真のコミュニケーションで日本語を使う」という体験を重ねることで、「化石化」を打破し、より高度でより自然な日本語の習得を目指していく。
履修条件	学則第54条に定める外国人留学生であること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	コミュニケーションで日本語を的確に使うための知識を修得する。
思考・判断の観点 (K)	コミュニケーションの際に何を伝えるか、どのように伝えるかを考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日本語によるコミュニケーションに関心・意欲を持って、積極的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	自分が伝えたいことを相手に分かりやすい表現および方法で伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	アンケートおよびテストを通して、現在の自分の日本語能力のレベルおよび必要とする日本語能力を知る。	日本語で苦手な音、アクセント、言いにくい言葉をまとめる。	45
第2回	日本語の音声	日本語の音声の体系および母語別の難しい音について知り、実際に声に出して練習をする。	課題文を声に出して読む練習する。	45
第3回	日本語のアクセント	日本語のアクセントの体系を知り、実際に声に出して練習をする。	課題文を声に出して読む練習する。	45
第4回	分かりやすい伝え方1	分かりやすい文とはどのようなものかを実例を使った練習を通して学ぶ。練習はグループで行う。	分かりやすい文とはどのようなものかを文章にまとめる。	45
第5回	分かりやすい伝え方2	分かりやすい資料とはどのようなものかを実例を使った練習を通して学ぶ。練習はグループで行う。	分かりやすい資料とはどのようなものかを文章にまとめる。	45
第6回	ふるさと紹介1	ふるさと紹介のテーマを決定し、テーマを説明するための要素を考える。ふるさとについての情報を集める。	ふるさとについての情報を引き続き集める。	45

第7回	ふるさと紹介2	ふるさと紹介の全体の流れを考える。また、使用する画像を決定し、説明文を書く。説明文を書く上で、学ばなければならない語彙、文法および表現を確認する。	ふるさと紹介の説明文を修正する。	45
第8回	ふるさと紹介3	各自ふるさと紹介のパワーポイントを作成し、予行練習をする。予行練習はペアで行い、相互に改善点をアドバイスする。	発表の予行練習をする。	45
第9回	ふるさとの紹介発表	各自パワーポイントを用いてふるさと紹介をする。発表の後は、質疑応答を行う。	日本人に紹介したい自国料理をリストにする。	45
第10回	調理交流1	日本人と調理交流することを前提に、日本語で調理法、食材、調理器具等の名称、表現を学ぶ。	調理法、食材、調理器具等の名称を復習する。	45
第11回	調理交流2	日本人に紹介したい自国のメニューをディスカッションで決定する。その後、レシピを作成する。	レシピを修正し、写真を探す。	45
第12回	調理交流3	クラス全体でレシピを確認し、修正する。「教える人」「習う人」に分かれて、口頭で説明する練習をする。	口頭で説明する練習を続ける。	45
第13回	調理交流4	クラス全体で、調理交流の模擬授業を実施する。「教える人」「習う人」は、レシピごとに交代する。	調理交流のシミュレーションをする。日本語表現を特に復習する。	45
第14回	調理交流5	レジュメの書き方を学び、調理交流の成果をレジュメにまとめる。その後、口述原稿を作成する。	成果報告の発表の準備をする。	45
第15回	調理交流成果報告	各自レジュメを用いて調理交流の成果報告をする。	一学期の学びを通して、自分の成長、今後の課題をまとめる。	45

学生へのフィードバック方法	口頭および書面によるコメント
評価方法	発表2回（内容、構成、表現、形式により評価） 課題（課題の達成度により評価） ポートフォリオ（課題設定、練習の記録、整理・分類により評価） 平常点（発言、協働作業時の調整力、取り組みの姿勢により評価）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
発表	○	○	○	○
課題	○			
ポートフォリオ			○	○
平常点	○	○	○	

評価割合	発表（2回）50% 課題10% ポートフォリオ20% 平常点20%
使用教科書名 (ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解の観点】コミュニケーションで日本語を的確に使うための知識を修得する。 【思考・判断の観点】コミュニケーションの際に何を伝えるか、どのように伝えるかを考える。 【関心・意欲・態度の観点】日本語によるコミュニケーションに関心・意欲を持って、積極的に取り組む。 【技術・表現の観点】自分が伝えたいことを相手に分かりやすい表現および方法で伝えることができる。
オフィスアワー	月曜日5限、水曜日4限（前期）
学生へのメッセージ	日本語を真のコミュニケーションで使う経験を重ねていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自主的な課題設定。ディスカッション。実技をともなう交流。
情報リテラシー教育	○	情報収集や図書館の利用。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	日本語ラボd		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	留学生・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森 朋子	指定なし

ナンバリング	X13970M12
授業概要(教育目的)	コミュニケーションに支障なく外国語を使えるレベルに達すると、それ以上の上達が困難になる「化石化」が起こるが、大学入学後の留学生はまさにその時期に当たる。日本語ラボでは、「真のコミュニケーションで日本語を使う」という体験を重ねることで、「化石化」を打破し、より高度でより自然な日本語の習得を目指していく。
履修条件	学則第54条に定める外国人留学生であること。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	コミュニケーションで日本語を的確に使うための知識を修得する。
思考・判断の観点(K)	コミュニケーションの際に何を伝えるか、どのように伝えるかを考える。
関心・意欲・態度の観点(V)	日本語によるコミュニケーションに関心・意欲を持って、積極的に取り組む。
技術・表現の観点(A)	自分が伝えたいことを相手に分かりやすい表現および方法で伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	アンケートおよびテストを通して、現在の自分の日本語能力のレベルおよび必要とする日本語能力を知る。	近隣住民の方にインタビューするためのテーマをいくつか考える。	45
第2回	インタビュー1	近隣住民の方にインタビューをするためのテーマを決定する。さらに目上の方とコミュニケーションする際の注意点について話し合う。	アウトラインを立てる。	45
第3回	インタビュー2	アウトラインにしたがって、質問を考える。グループ内で、意見交換をし、相互に改善点をアドバイスする。	実際にインタビューを行う。	45
第4回	インタビュー3	インタビューの結果をパワーポイントにまとめ、説明文を考える。	報告会の練習をする。	45
第5回	インタビュー報告会	各自インタビューの結果を報告する。質疑応答も行う。	スピーチのテーマをいくつか考える。	45
第6回	スピーチ1	コミュニケーションの手段としてのスピーチの特徴や方	スピーチのアウトラインを立て	45

		法を学び、各自スピーチのテーマを決定する。	る。	
第7回	スピーチ2	アウトラインにしたがって、原稿を執筆する。執筆後は、ワークシートにしたがって、修正を行う。	スピーチの練習をする。	45
第8回	スピーチ3	スピーチのプレゼンテーションを学び、自分が注意すべき点を整理し、練習を開始する。	スピーチの練習をする。	45
第9回	スピーチ3	スピーチのプレゼンテーションを学び、自分が注意すべき点を整理し、練習を開始する。	スピーチの練習をする。	45
第10回	スピーチ発表会	各自スピーチを発表する。スピーチ後には質疑応答も行う。	小学生に紹介したい自国の文化、習慣などを考える。	45
第11回	自国の紹介1	小学生に自国を紹介するという前提で、テーマのアイデアを出す。クラス全体で協議してテーマを決定する。また、小学生と日本語でコミュニケーションする際に注意すべき点を話し合う。	テーマについて、何を紹介したいかをまとめる。	45
第12回	自国の紹介2	テーマごとにグループ分けし、協議しながら紹介の内容を計画書にまとめる。	紹介に必要な画像を集める。説明を練習する。	45
第13回	自国の紹介3	紹介の資料および説明文をグループごとに作成する。その際に必要な語彙、文法、表現を確認する。	資料を見直し修正する。	45
第14回	自国の紹介4	最初から最後まででのリハーサルを行う。リハーサル後、相互に改善点をアドバイスし、修正を行う。	資料を用いた紹介の練習をする。	45
第15回	自国の紹介5	リハーサルを行い、最終的な修正を行う。	資料を用いた紹介の練習をする。	45

学生へのフィードバック方法	口頭および書面によるコメント
評価方法	報告・発表（各1回）（内容、構成、表現、形式により評価） 課題（課題の達成度により評価） ポートフォリオ（課題設定、練習の記録、整理・分類により評価） 平常点（発言、協働作業時の調整力、取り組みの姿勢により評価）

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
報告・発表	○	○	○	○
課題	○			
ポートフォリオ			○	○
平常点	○	○	○	

評価割合	報告・発表（各1回）50% 課題10% ポートフォリオ20% 平常点20%
------	---------------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	なし
-----------------	----

参考図書	なし
------	----

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解の観点】コミュニケーションで日本語を的確に使うための知識を修得する。 【思考・判断の観点】コミュニケーションの際に何を伝えるか、どのように伝えるかを考える。 【関心・意欲・態度の観点】日本語によるコミュニケーションに関心・意欲を持って、積極的に取り組む。 【技術・表現の観点】自分が伝えたいことを相手に分かりやすい表現および方法で伝えることができる。
---------------	--

オフィスアワー	月曜日3限、水曜日2限（後期）
---------	-----------------

学生へのメッセージ	真のコミュニケーションで日本語を使う体験を積み重ねていきましょう。
-----------	-----------------------------------

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自主的な課題設定。ディスカッション。実技をともなう交流。
情報リテラシー教育	○	情報収集や図書館の利用。

シラバス参照

講義名	社会人としての日本語		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 内田 宗一	指定なし

ナンバリング	X13980M12
授業概要(教育目的)	留学生の中には、卒業後日本での就職や進学、母国での日本関連企業等への就職を希望する者が多い。本科目は、卒業後、日本と海外との架け橋として活躍する可能性のある学生に対し、社会人として求められる日本語力を養成することを目的としている。授業では、敬語の文型および用法を理解させた上で、実践を意識した練習を多く取り入れていく。また、日本語の言語表現を通して、日本人の思考形式への理解を深めさせ、日本社会における円滑なコミュニケーションの方法を身につけさせることをめざす。
履修条件	学則第54条に定める外国人留学生のみ履修可能。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	自分の考えや感情を日本語で適切に表現する技術について理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	場面に応じた適切な日本語表現の使い分けを判断することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	授業内活動(課題、音読、発表、ロールプレイング、質疑応答など)に積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	表現活動のさまざまな具体的な場に応じて適切な日本語表現を選択し、相手とコミュニケーションを取ることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	敬語のしくみ	敬語の概念ならびに日本語の敬語のしくみについて理解する。	大学入学以前の経験も含め、これまでの日本語に関する学習を振り返り、必要に応じて復習および知識の再確認をしておくこと。	45
第2回	日本語の敬語の分類	敬語の分類にはさまざまな立場があることを知るとともに、その中でもっとも広く普及している三分法の考え方について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までとそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料、返却された課題プリントの添削内容を読み返して要点を再確認	45

			し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	
第3回	日本語の敬語の実践的練習	特に間違えやすい敬語表現の具体的な形式について、練習問題を通じて理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料、返却された課題プリントの添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第4回	電話対応の基本	社会人として仕事の場で受ける電話の対応について、注意すべき基本事項を理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料、返却された課題プリントの添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第5回	電話対応のマナー	社会人として仕事の場で受ける電話の対応について、望ましい伝言の方法やメモの作り方を理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料、返却された課題プリントの添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第6回	電話対応の実践的練習	社会人として仕事の場で受ける電話の対応について、練習問題やロールプレイングを通じて基本的な技術を習得する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料、返却された課題プリントの添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第7回	手紙の形式	手紙の書式の基本的な枠組みについて理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料、返却された課題プリントの添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第8回	手紙に特有の日本語表現	頭語、結語、時候の挨拶などの、手紙に特有の日本語表現について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料、返却された課題プリントの添削内容を読み返して要点を再確認	45

			し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	
第9回	手紙の書き方の実践的練習	社会人としての手紙の書き方について、練習問題を通じて基本的な技術を習得する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料、返却された課題プリントの添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第10回	履歴書の書き方の基本	就職活動の際に作成する履歴書の書き方について、注意すべき基本事項を理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料、返却された課題プリントの添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第11回	効果的な文章表現の工夫	履歴書の自己紹介部分について、読み手にアピールする上で効果的な文章表現の技術を理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料、返却された課題プリントの添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第12回	履歴書の書き方の実践的練習	履歴書の書き方について、練習問題を通じて基本的な技術を習得する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料、返却された課題プリントの添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第13回	面接の受け方の基本	就職活動の際の面接の受け方について、注意すべき基本事項を理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料、返却された課題プリントの添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45
第14回	効果的な口頭表現の工夫	面接に際して、面接官にアピールする上で効果的な口頭表現の技術を理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料、返却された課題プリントの添削内容を読み返して要点を再確認	45

			し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	
第15回	面接の受け方の実践的練習	面接の受け方について、練習問題やロールプレイングを通じて基本的な技術を習得する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料、返却された課題プリントの添削内容を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	45

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 ・毎回の授業において質問・意見・感想等を出席票に記入してもらい、次回授業の冒頭でそれらに対するフィードバックのコメントを行う。
・提出された課題は添削して返却する。

評価方法 ・授業内課題は、以下のような観点から評価を行う。
①課題の意図を適切に理解できている。
②解答の内容に、十分な妥当性が認められる。
③自分の意見や感情をわかりやすく正確に表現することができている。
④設定された場面に応じた適切な日本語表現の使い分けができている。
・定期試験は50点満点で出題する。記述式問題を中心に選択肢式・穴埋め式等を適宜併用する。授業で扱った内容を十分に理解し、知識として定着しているか、また、その知識にもとづいて適切な日本語表現を判断し表現することができているかを確認することを目的とする。ノート、プリント、参考書等の持ち込みは不可とする。
・平常点は、授業内活動（課題、音読、発表、ロールプレイング、質疑応答など）への取り組み等によって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業内課題	○	○		○
定期試験	○	○		○
平常点			○	

評価割合 授業内課題40%、定期試験40%、平常点20%

使用教科書名 (ISBN番号) なし。必要に応じてプリント資料を配付する。

参考図書 なし。必要に応じて授業時に随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】日本語表現に関する豊かな知識を有している。
【思考・判断】場面に応じた日本語表現を的確に判断することができる。
【関心・意欲・態度】高い徳性をもって主体的に学ぶ姿勢を身につけている。
【技術・表現】学修で得た技術をもって、自分の考えや感情をわかりやすく日本語で表現し、他者に伝えることができる。

オフィスアワー 【千代田三番町キャンパス】
金曜3限 1703ゼミ室
【町田キャンパス】
相談がある場合は事前にメールでアポイントを取ること（町田キャンパスへの出校日は水曜日） 0405研究室

学生へのメッセージ ・出欠は、出席票を利用して毎回確認する。なお、30分以上の遅刻は欠席扱いとするので、注意すること。
・受講に際しては、他の受講生の迷惑となる行為（私語、スマートフォンの使用など）は慎むこと。受講態度に問題がある場合は退席を求めることもある。
・その他、授業の運営に関する詳細は、初回授業時にガイダンスプリントを配布して説明する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラ	○	ロールプレイング、課題発表等の教育内容を含む。

ーニング		
情報リテラシー教育	○	文章表現技法、プレゼンテーション技法等の教育内容を含む。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	日本の歴史と文化		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	留学生・1年次		
必修・選択の別	1年次留学生必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 内田 宗一	指定なし

ナンバリング	X13930M21
授業概要(教育目的)	日本の歴史や文化についての知識は、大学における様々な勉強を理解するための背景として必要であり、また留学生自身の日本社会への適応にも重要な要素となる。しかし日本文化に育った者が大学入学時までに身につけているこれらの知識を、留学生は意識的に学ぶことで蓄積していかなければならない。「日本の歴史と文化」では、日本の歴史を学ぶことで、日本の政治的、文化的変遷を学び、更にそこから読み取れる日本文化の特徴および日本人の思考形式について理解を深めさせていく。
履修条件	学則第54条に定める外国人留学生のみ履修可能。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	日本の歴史の概略や、日本文化の歴史的な展開について理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	授業内活動(音読、質疑応答など)に積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	日本の姿 日本の地理	日本の地理に関する基本を理解する。	大学入学以前の経験も含め、これまでの日本の歴史や文化に関する学習を振り返り、必要に応じて復習および知識の再確認をしておくこと。教科書第1章「いま、どこにすんでいますか」(pp. 8-9)～第3章「日本には、どんな島がありますか」(pp. 12-13)を読んでおくこと。	180
第2回	日本の姿 人口・気候・行政区	日本の人口・気候・行政区に関する基本を理解する。日本史の時代区分を理解する。	教科書第4章「日本は、どんな国ですか」(pp. 14-15)～第6章「いつの時代ですか」(pp. 20-22)を読んでおくこと。授業のノートやプリント資	180

			料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	
第3回	日本の歴史 石器から土器へ	旧石器時代、縄文時代の文化を理解する。	教科書第7章「歴史をまなぶ」(pp. 24-26)～第8章「ひとがすむ」(pp. 27-33)を読んでおくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第4回	日本の歴史 農耕と金属器の時代	弥生時代の政治と文化を理解する。	教科書第9章「米をつくる」(pp. 34-38)を読んでおくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第5回	日本の歴史 統一政権の誕生	古墳時代の政治と文化を理解する。	教科書第10章「統一政権の誕生」(pp. 39-45)を読んでおくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第6回	日本の歴史 聖徳太子と飛鳥文化	飛鳥時代の文化を理解する。	教科書第11章「古代国家の形成」前半部 (pp. 46-50) を読んでおくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第7回	日本の歴史 中央集権国家の形成	飛鳥時代の政治を理解する。	教科書第11章「古代国家の形成」前半部 (pp. 46-50) を読んでおくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第8回	まとめ・中間試験	日本の地理ならび歴史（旧石器時代～飛鳥時代）についての理解を深める。	教科書第1章「いま、どこにすんでいますか」(pp. 8-9)～第11章「古代国家の形成」前半部 (pp. 46-50) を再度読み返しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第9回	日本の歴史 奈良時代の文化	奈良時代の政治と文化を理解する。	教科書第11章「古代国家の形成」後半部 (pp. 50-53) を読んでおくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第10回	日本の歴史 律令国家の変容	平安時代の政治と文化を理解する。	教科書第12章「律令国家の変容」(pp. 54-60) を読んでおくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第11回	日本の歴史 武士政権の登場	鎌倉時代の政治を理解する。	教科書第13章「武士政権の登場」前半部 (pp. 61-65) を読んでおくこと。授業のノートやプ	180

			プリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	
第12回	日本の歴史 鎌倉時代の文化	鎌倉時代の文化を理解する。	教科書第13章「武士政権の登場」後半部 (pp. 66-67) を読んでおくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第13回	日本の歴史 武士社会の展開	南北朝時代、室町時代の政治を理解する。	教科書第14章「武士社会の展開」前半部 (pp. 68-72) を読んでおくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第14回	日本の歴史 戦国大名の政治	戦国時代の政治を理解する。	教科書第14章「武士社会の展開」中間部 (pp. 72-74) を読んでおくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第15回	まとめ・期末試験	日本の歴史 (奈良時代～戦国時代) についての理解を深める。	教科書第11章「古代国家の形成」後半部 (pp. 50-53) ～教科書第14章「武士社会の展開」中間部 (pp. 72-74) を再度読み返しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 ・毎回の授業において質問・意見・感想等を出席票に記入してもらい、次回授業の冒頭でそれらに対するフィードバックのコメントを行う。

評価方法 ・中間試験ならびに期末試験は100点満点で出題する。記述式問題を中心に選択肢式・穴埋め式等を適宜併用する。授業で扱った内容を十分に理解し、知識として定着しているかを確認することを目的とする。ノート、プリント、参考書等の持ち込みは不可とする。
・平常点は、授業内活動 (音読、質疑応答など) への取り組み等によって評価する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間試験	○			
期末試験	○			
平常点			○	

評価割合 中間試験40%、期末試験40%、平常点20%

使用教科書名 (ISBN番号) 東京外国語大学編 (1990) 『留学生のための日本史』 山川出版社 978-4-634-07010-3

参考図書 なし。必要に応じて授業時に随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】日本の歴史や文化に関する豊かな知識を有している。
【関心・意欲・態度】高い徳性をもって主体的に学ぶ姿勢を身につけている。

オフィスアワー 【千代田三番町キャンパス】
火曜3限 1703ゼミ室
【町田キャンパス】
相談がある場合は事前にメールでアポイントを取ること (町田キャンパスへの出校日は水曜日) 0405研究室

<p>学生へのメッセージ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学則第54条に定める外国人留学生は必修（ただし、編入学、学士入学は「選択」）。 ・出欠は、出席票を利用して毎回確認する。なお、30分以上の遅刻は欠席扱いとするので、注意すること。 ・受講に際しては、他の受講生の迷惑となる行為（私語、スマートフォンの使用など）は慎むこと。受講態度に問題がある場合は退席を求めることもある。 ・その他、授業の運営に関する詳細は、初回授業時にガイダンスプリントを配布して説明する。
------------------	--

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	キャリアデザイン概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 金森 敏	指定なし

ナンバリング	X17000M21
授業概要(教育目的)	キャリアは就職という言葉と結びつきがちであるが、この講義の目的は、広い意味での働き方、幸せな職業人生について考えるものである。したがって、就職活動や資格取得に直接役立つ授業ではない。就職活動や資格取得に興味がある人はその類のセミナーの受講を勧める。なお就職活動に役立つ力を「入社する力」と呼び、生き方や働き方を「働き続ける力」と呼び、両者を区別する。そして本授業では後者の「働き続ける力」に力点がある。具体的には、人生100年時代といわれる中であって、キャリアや働くことについて深く考える。なお、本授業では、グループワークを中心に授業を行うので、受講者数の上限と下限を設ける。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	自分がどのような時代や社会に生きているのかを認識し説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	他者とのコミュニケーションを通して、自己を見つめなおし自分の考えを他者に説明することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分の生き方や働き方を自分の言葉で記述することができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	キャリア教育とは何か	キャリア教育とは何かを考える。	復習としてキャリアについて考えてくること。	180分
第2回	働くとは ①(会社について)	働くとは何かを考える。	復習として、働くとは何か整理しておくこと。	180分
第3回	働くとは ②(100年時代の働きかた)	過去と現在の働き方について考える。	復習として今後100年間における働き方について考えておくこと。	180分
第4回	100年ライフについて	100年時代の働き方について知る。	予習として、序章を読んでおくこと。	180分
第5回	長寿という贈り物につ	長寿時代における働き方について考える。	予習として、1章を読んでおくこと。	180分

	いて			
第6回	過去の資金計画について	これまでの教育・仕事・引退モデルの崩壊について考える。	予習として、2章を読んでおくこと。	180分
第7回	機械化・AI後の働き方について	雇用の未来として機械化・AI後の働き方について考える。	予習として、3章を読んでおくこと。	180分
第8回	お金に換算できないものについて	お金ではなく見えない資産について考える。	予習として、4章を読んでおくこと。	180分
第9回	今後の働き方①(新しいシナリオ)	今後の自身の可能性を広げることにについて考える。	予習として、5章を読んでおくこと。	180分
第10回	今後の働き方②(新しいステージ)	今後の自身の選択肢の多様化について考える。	予習として、6章を読んでおくこと。	180分
第11回	今後の働き方③(新しいお金の考え方)	必要な資金をどう得るかにについて考える。	予習として、7章を読んでおくこと。	180分
第12回	今後の働き方④(新しい時間の使い方)	自身のリ・クリエーションについて考える。	予習として、8章を読んでおくこと。	180分
第13回	未来の人間関係について	今後の私生活の変化について考える。	予習として、9章を読んでおくこと。	180分
第14回	変革への課題について	人生100年時代において、どのような変革の課題があるのかを考える。	予習として、終章を読んでおくこと。	180分
第15回	総復習	これまでの内容を復習する。	これまでの内容を復習しておくこと。	180分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールや授業内容が変更される場合もあります。なお、上記のうち、2回を就職懇談会に振り替える予定である。
--------	--

学生へのフィードバック方法	授業において解説します。
---------------	--------------

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題として、毎週テキストの各章の要約をA4で1枚提出してもらいます。 ・レポートは3000字程度、A4で2枚～3枚程度です。レポートとして、レポートの形になっているか、引用文献、参考文献、文章表現などができているかが大事です。授業において、レポートの書き方、また、質問などを受け付けます。 ・課題、レポートは下表に示す力を養うことを目的に実施します。
------	--

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題	○	○		
レポート	○	○		

評価割合	レポート (60%) 課題 (40%)
------	------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	リンダ グラットン(著)、池村 千秋 (翻訳)、『LIFE SHIFT(ライフ・シフト)』、東洋経済新報社、2016年。
-----------------	--

参考図書	星井博文(著)、リンダ・グラットン(著)、『まんがでわかる LIFE SHIFT』、東洋経済新報社、2018年。
------	--

ディプロマポリシーとの関連	社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力
---------------	-------------------------------------

オフィスアワー	前期火曜日4限、後期金曜日3限。ただし、事前にアポをとってこること
---------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	課題が多いので、覚悟をもって授業に参加すること。
-----------	--------------------------

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	レポートの書き方等の教育内容を含む。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	キャリアデザイン a		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 金森 敏	指定なし

ナンバリング	X27050M12
授業概要(教育目的)	キャリアは就職という言葉と結びつきがちであるが、この講義の目的は、広い意味での働き方、幸せな職業人生について考えるものである。したがって、就職活動や資格取得に直接役立つ授業ではない。就職活動や資格取得に興味がある人はその類のセミナーの受講を勧める。本授業では、単に職業や働き方を知るのではなく、「大学での学びとキャリア」がどのようにつながっているのかなどを含めて、多様な働き方について考えてもらう。なお本授業では、グループワークを中心に授業を行うので、受講者数の上限を設ける。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

観点	到達目標
知識・理解の観点 (K)	多様な働き方があることを知り、多様な考え方があることを知ることができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	興味を持てる働き方と大学での学びがどう関係しているのかを「自分の言葉」で記述できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業概要	大学での学びの意義について考える。	大学生活での出会いについて復習しておくこと。	45分
第2回	キャリア教育とは	キャリア教育(就職、資格、就業)とは何かについて説明を行う。	多様な働き方を調べてくる(課題①)	45分
第3回	課題の解説	多様な働き方について解説を行う。	多様な働き方があることを復習しておくこと。	45分
第4回	学びと社会のつながり	「社会にでる」ってどういうことかを考える。	復習として、社会に出る意義を考えておくこと。	45分
第5回	社会を知る①(職種、業界偏)	職種、業界について知る。	職種、業界について復習しておくこと。	45分
第6回	社会を知る②(会社を知る)	会社について知る。	興味のある会社を知らべてくること(課題②)	45分

第7回	課題の解説	会社についての解説を行う。	会社について復習しておくこと。	45分
第8回	学びと社会のつながり	自分たちの学びがどのように社会とつながっているかを知る。	多様な働き方を調べてくる（課題③）	45分
第9回	課題の解説	多様な働き方について解説を行う。	レポート作成について調べてくること（課題④）	45分
第10回	レポート作成について	レポート作成について解説する。	レポート作成について復習しておくこと。	45分
第11回	失敗とは	失敗からの学びは何か考える。	大学での学びと社会の関係について調べてくること（課題⑤）	45分
第12回	課題の解説	大学での学びと社会の関係についての解説を行う。	大学での学びと社会の関係について復習しておくこと。	45分
第13回	組織に求められる能力とは	探求力、思考力、コミュニケーション力、遂行力について考える。	復習としてコミュニケーションについて考えてくること。	45分
第14回	仕事人生における壁について	仕事人生40年における壁について考える。	仕事人生40年における壁の復習をしておくこと。	45分
第15回	総復習	これまでの内容を総復習する。	予習としてこれまでの内容を整理しておくこと。	45分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールや授業内容が変更される場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業にて解説します。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題は4回～5回出題します。内容はA4で1枚～2枚程度です。 ・レポートは4000字程度、A4で3枚～4枚程度です。レポートとして、レポートの形になっているか、引用文献、参考文献、文章表現などができているかが大事です。授業において、レポートの書き方、また、質問などを受け付けます。 ・課題、レポートは下表に示す力を養うことを目的に実施します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題	○			
レポート	○	○		

評価割合	レポート(60%) 課題4～5回(40%)
使用教科書名 (ISBN番号)	なし。必要な資料はプリントで配布します。
参考図書	児美川孝一郎、『キャリア教育のウソ』、筑摩書房、2013年。
ディプロマポリシーとの関連	社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力
オフィスアワー	前期火曜日4限、後期金曜日3限。 ただし、事前にアポをとってこること
学生へのメッセージ	課題が多いので覚悟をもって受講すること。また、受講者には75m×75mのポストイット（1束100円程度）を購入してもらう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	レポートの書き方等の教育内容を含む。

シラバス参照

講義名	キャリアデザインb		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	共通教育		
実務経験の有無			
開設学科・年次	全学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 金森 敏	指定なし

ナンバリング	X27060M12
授業概要(教育目的)	キャリアは就職という言葉と結びつきがちであるが、この講義の目的は、広い意味での働き方、幸せな職業人生について考えるものである。したがって、就職活動や資格取得に直接役立つ授業ではない。就職活動や資格取得に興味がある人はその類のセミナーの受講を勧める。なお就職活動に役立つ力を「入社する力」と呼び、生き方や働き方を「働き続ける力」と呼び、両者を区別する。そして本授業では後者の「働き続ける力」に力点がある。キャリアというどうしても個人の考え方から始まりがちだが、まずは、現代社会に対する理解を深める必要がある。なお、本授業では、グループワークを中心に授業を行うので、受講者数の上限と下限を設ける。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	自分がどのような時代や社会に生きているのかを認識し説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	他者とのコミュニケーションを通して、自己を見つめなおし自分の考えを他者に説明することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分の生き方や働き方を自分の言葉で記述することができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	キャリア教育とは何か	キャリア教育とは何かを考える。	復習としてキャリアについて考えてくること	45分
第2回	働くとは ①(会社について)	働くとは何かを考える。	身近な人の仕事上の苦勞について調べてくること(課題①)	45分
第3回	働くとは ②(100年時代の働きかた)	過去と現在の働き方について考える。	復習として今後100年間における働き方について考えておくこと。	45分
第4回	フリーターについて。	フリーターという働き方について考える。	復習として、フリーターという働き方について考えておくこと。	45分
第5回	社会と会社	社会と会社について知っていること、知らないことを整	社会と会社について分かっていること	45分

	について。	理する。	ないことを調べておくこと（課題②）	
第6回	6課題についての解説	課題についての解説を行う。	復習として、社会と会社について分かっていないことを整理しておくこと。	45分
第7回	業界・職種について	業界・職種について知る。	興味のある業界と職種を調べておくこと（課題③）	45分
第8回	8会社について	会社について知る。	興味のある会社について調べておくこと（課題④）	45分
第9回	課題についての解説	業界と会社についての解説を行う。	レポート作成を調べておくこと（課題⑤）	45分
第10回	レポート作成	レポート作成について知る。	良い会社とは何か調べておくこと（課題⑥）	45分
第11回	良い会社とは	どのような会社が良い会社なのかを考える。	復習として、良い会社について整理しておくこと。	45分
第12回	就職懇談会 振り替え ①（一般企業）	就職懇談会への振り替えとして、就職懇談会にできるだけ参加すること。	復習として、就職懇談会で得た情報を整理しておくこと。	45分
第13回	就職懇談会 振り替え ②（教職）	就職懇談会への振り替えとして、就職懇談会にできるだけ参加すること。	復習として、就職懇談会で得た情報を整理しておくこと。	45分
第14回	自己の成長について	成長するための準備を知る。	復習として、成長について考えておくこと。	45分
第15回	総復習	これまでの内容を復習する。	予習として、これまでの内容を整理しておくこと。	45分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールや授業内容が変更される場合もあります。なお、上記のうち、2回を就職懇談会に振り替える予定である。

学生へのフィードバック方法 授業にて解説します

評価方法

- ・課題は5回～6回出題します。内容はA4で1枚～2枚程度です。
- ・レポートは4000字程度、A4で3枚～4枚程度です。レポートとして、レポートの形になっているか、引用文献、参考文献、文章表現などができているかが大事です。授業において、レポートの書き方、また、質問などを受け付けます。
- ・課題、レポートは下表に示す力を養うことを目的に実施します。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題	○			
レポート	○	○		

評価割合 レポート (60%)
課題4～5回 (40%)

使用教科書名 (ISBN番号) なし。必要な資料はプリントで配布します。

参考図書 児美川孝一郎、『キャリア教育のウソ』、筑摩書房、2013年。

ディプロマポリシーとの関連 社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力

オフィスアワー 前期火曜日4限、後期金曜日3限。
ただし、事前にアポをとってこること

学生へのメッセージ 課題が多いので覚悟をもって受講すること。また、受講者には75m×75mのポストイット（1束100円程度）を購入してもらう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活か		

した授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	レポートの書き方等の教育内容を含む。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

專 門 科 目

シラバス参照

講義名	インターンシップ		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次			
必修・選択の別			

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 金森 敏	指定なし

ナンバリング	G32301023
授業概要(教育目的)	企業や行政等の現場における実践的な体験を通して、組織で働くことの意味を考えてもらう。仕事を外見だけで判断するのではなく、隠れている部分を含めて総合的に理解し、仕事を担う重さと充実感(働き甲斐)を感じてもらいたい。なお研修先の面接で許可が得られれば、研修生として受け入れてもらえる。従って、受講生の希望に沿う研修先がない場合、あるいは、面接で断られた場合は研修が受けられないケースもでてくる。また、本授業はインターン実習後1~2回ほど振り返りを行う。本講義の受講者は全員参加を義務づける。これら2点を予め理解しておくこと。
履修条件	履修の条件ではありませんが、インターンシップの研修先を決める際には、教員による面談を行う。面談後、研修先が決定しても、授業中の態度に問題があれば、研修先を取り消すことがある。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分の適性をチェックすることができる。 積極的かつ主体的に取り組む姿勢を確立できる。 業界・職種・会社についての知識を身に付けることができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(7ヶ月のラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	インターンシップ概要説明	夏季休暇において、インターンシップ研修先で学ぶ際の注意点や履修の注意を説明する。	シラバスをきちんとよんでおくこと。	90分
第2回	インターンシップ概要説明(1回目と同じ内容。履修の関係で1回目参加できなかった学生のため)	インターンシップ研修先で学ぶ際の注意点や履修の注意を説明する。	シラバスをきちんとよんでおくこと。	90分

第3回	インターンシップとは	インターンシップに参加して得られるメリットやデメリットについて知る。	復習として、インターンシップに参加する意義を考えておくこと。	90分
第4回	ESの書き方について	履歴書の書き方について説明を行う。	ESの書き方について復習しておくこと。	90分
第5回	成果報告書から知るインターンシップ	インターンシップ成果報告書からインターンシップのイメージを知る。	復習として、インターンシップのイメージを抱いておくこと。	90分
第6回	先輩から聞くインターンシップ	インターンシップに参加した先輩の話を聞き、インターンシップのイメージを知る。	復習として、先輩の話からインターンシップのイメージをより明確にしておくこと。	90分
第7回	面談(5月末までの面談者)	ES、面談を踏まえて、インターンシップ研修先を考えること。	復習として、ESや面談を踏まえて、インターンシップや研修先について再考すること。	90分
第8回	面談(6月上旬から中旬までの面談者)	ES、面談を踏まえて、インターンシップ研修先を考えること。	復習として、ESや面談を踏まえて、インターンシップや研修先について再考すること。	90分
第9回	面談(6月中旬から下旬までの面談者)	ES、面談を踏まえて、インターンシップ研修先を考えること。	復習として、ESや面談を踏まえて、インターンシップや研修先について再考すること。	90分
第10回	ES復習と成果報告書作成の注意点	成果報告書作成における注意点を説明する。	成果報告書の作成を復習しておくこと。	90分
第11回	面談(7月以降の面談者)	ES、面談を踏まえて、インターンシップ研修先を考えること。	復習として、ESや面談を踏まえて、インターンシップや研修先について再考すること。	90分
第12回	夏季休暇中：インターンシップ実習	インターンシップ実習(8時間×5日=40時間以上)	インターンシップ実習での準備や1日の振り返りを行うこと。	90分
第13回	後期1回目：インターンシップの振り返り(1)	インターンシップ研修先の情報を共有し、他者が参加したインターンシップを知る。	復習として他社のインターンシップについて整理しておくこと。	90分
第14回	後期2回目：インターンシップの振り返り(2)	インターンシップ研修先を踏まえて、興味のある業界などを報告する。	予習として興味のある業界について調べてくること。	90分
第15回	後期3回目：インターンシップの振り返り(3)	インターンシップを踏まえて、就職活動などに関する情報を提供する。	予習として就職活動などについて調べてくること。	90分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールや授業内容が変更される場合もあります。後期の授業は参加者全員が成果報告書を提出した後に、開講する。参加者の提出が遅れば遅れるだけ、開講時期も遅くなる。
--------	---

学生へのフィードバック方法	授業にて解説します。
---------------	------------

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価として、研修の2/3以上参加しないと成績対象外となります。 ・その上で、研修後に提出する成果報告書で評価します。報告書は、A4で2枚です。文章表現などが適切であるか、誤字脱字などはないか、また、期限までに提出しているか、教員の赤ペンがどれくらい入ったかで評価します。 ・成果報告書は下表に示す力を養うことを目的に実施します。
------	---

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
成果報告書			○	
平常点			○	

評価割合	成果報告書95% 平常点5%			
使用教科書名 (ISBN番号)	なし。必要な資料はプリントで配布します。			
参考図書	東京家政学院大学インターンシップ成果報告書 (平成30年度)			
ディプロマポリシーとの関連	社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力			
オフィスアワー	前期火曜日4限、後期金曜日3限。 ただし、事前にアポをとってこるこ。			
学生へのメッセージ	インターンシップ研修の前に、各自で実習受け入れ先に対する業界・企業研究を行うこ。 インターンシップ研修中は、毎日、研修終了後に「実習日誌」を記述し、自分の研修成果を振り返り、翌日の課題を把握するこ。 インターン終了後は、成果報告書の作成を行うこ。 なお、学生自身が大学のインターンシップ制度に協力してくれる研修先を見つけてくる気概をもって参加するこ。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、ディスカッション等の教育内容を含む。		
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	現代生活論（現代家政学科）		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山村 明子	指定なし
教授	三宅 紀子	指定なし
教授	現代家政学科 教員	指定なし

ナンバリング

G21003C21

授業概要(教育目的)

21世紀を迎え、人間生活とその環境の変化は著しく、かつ、危機的な様相を深めている。地球環境、巨南北問題、格差・貧困、人種問題、あるいは国際紛争、国内に眼を転じれば、住宅問題、過労死・自殺介護、いじめ、虐待、食糧危機、食品安全、医療ミス、ニート・フリーター問題、引きこもり、などに起きている生活の問題や日本社会に起きている問題について、その複雑な回路を学問的につなぐ努力問題を深め、希望を語れる素養を身につけることをめざす。

履修条件

特に無し。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	現代の生活に生起する諸問題を、具体的に考え理解できる。
思考・判断の観点 (K)	他の人々との意見の違いなど発見し、問題の複雑さを実感できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	課題について、積極的にかわり、調べたことを整理し、皆と協力的に意見交換ができる。
技術・表現の観点 (A)	テーマに沿って、相手に伝える工夫ができ、自分自身の意見が述べられる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間
第1回	現代生活論の授業概要と授業の進度予定 担当：三宅紀子・山村明子	現代生活論では、人間生活の環境の変化の中で、日常生活に起こる様々な問題を考え解決していく力を養うために、学科の専門分野の先生方が教授する、ヒントをとらえ、各自自身がそれらに向かって、個々で解決できる力を身につけること希望し、進めていく予定である。	シラバス等を読んで、内容を把握しておくこと。	180
第2回	生活者視点で考えるカラーユニバーサルデザイン 担当：井澤尚子	われわれの色の見え方は一律でないことを理解するために、色覚にはいくつかのタイプがあることを解説する。特に、日常生活におけるカラーユニバーサルデザインの具体例をあげ、カラーユニバーサルデザインの考え方や必要性について理解を深める。	色彩論を履修した学生は、「色の見える仕組み」を教科書で復習しておくこと。履修していない学生は、書籍、インターネットを用いて予習すること。併せて「カラーユニバーサルデザイン」の意味を調べとめる。	180
第3回	買い物の変化について考える 担当：太田茜	私たちの購買行動は時代によって大きく変化していません。現代の買い物の仕方の基礎になった百貨店の歴史を知り、これから消費者としてどのような姿勢で物を選び、手に入れていったらよいかを考えましょう。	予習として、9月から10月に買ったもの（単価1000円以上のもの）をリストにし、何を基準にそれを選んだか記録をしておくこと。	180
第4回	伝統文化を現代に活かす 担当：井上真弓	現代を生きている私たちは、ともすれば身近なものにさしたる関心を寄せずに過ごしがちですが、物事にはしかるべき「背景」があります。それを学ぶことを通して、文化継承の問題を考えます。未来の暮らし方について皆で考えてみましょう。	予習として、「文化」について書かれた資料より知見を得ておく。復習として、現代にも継承されている伝統文化を街中より探してみる。	180

第5回	笠をかぶる、「変身」する～笠のもつ機能と象徴性～ 担当：石垣 悟	今日「かさ」といえば、雨風や日差しを避ける雨傘や日傘を思い浮かべる。しかし、昔はかぶる「かさ」／笠もあり、このほうが歴史的に古く、暮らしにも深く関わっていた。日本の笠の歴史や地域性を学び、さらにかぶるという行為に象徴的意味のあることも知ることで、生活文化への理解を深める。	「かぶる」ものといえば、どんなアイテムがあるか、書籍やインターネットで広く調べておく。そのうえで、「かぶる」という身体的行為のもつ特徴や定義を自分なりに考えておく。	180
第6回	働くとは？ 就職活動とは？ 担当：金森敏	本授業では就職活動に触れつつ、働くこと、フリーター等について考えます。	予習として、就活ルールなどについて調べておくこと。	180
第7回	人間の感覚と環境評価指標 担当：柘田考一	人間は、目(視覚)、耳(聴覚、平衡感覚)、鼻(嗅覚)、舌(味覚)、皮膚(触覚、温覚、圧覚)で環境からの刺激を受け、その感覚によって自身の置かれた環境を認識している。熱環境、空気環境、視環境、音環境について、刺激と感覚の関係を示す種々の環境評価指標を紹介する。	配布資料を参考に興味ある事項について、さらに知識を深めること。	180
第8回	深海から暮らしを考える 担当：沼波秀樹	衣・食・住は人類に不可欠であるが、それらに必要な生活資源(食料、建材、繊維など)の多くは自然界(生態系)から得ている。特に高度な文明社会を支えているエネルギーや生きるために必要な食料と深海との関連性を解説し、地球環境について理解を深める。	配布資料を参考に興味ある事項について、さらに知識を深めること。	180
第9回	森林資源と住まい 担当：青柳由佳	日本は温暖で雨が多いため森林資源に恵まれ、それらを利用して住まいをつくってきた。しかし、近年これらの森林資源が住まいにうまく利用されないまま荒廃し始めている。このような背景を理解した上で、これからの住まいについて考察する。	日本の木造住宅につかわれる材種及び材種の地域差についてインターネット等を利用して調べる。	180
第10回	祭りと遊び 担当：大嶋徹	世界の祭りの一部を紹介する。自分の在住地域の祭りを調べ地域と祭りの結びつきを考える。その祭りに遊びの要素はあるか。世界の祭りにも遊びの要素はあるのか。祭りと遊びの共通点や相違点を考察する。	祭りの要素は何か。遊びの要素は何かを抽出する。さまざまな遊びや祭りでもそれらの要素は妥当するか検証する準備をすること。	180
第11回	現代社会における余暇 担当：木村文香	余暇(leisure)の言葉の概念について理解する。また余暇のもつ、生活の豊かさや、メンタルヘルスの向上など、生活に必要なスキルを習得させる側面を解説し、現代社会の問題解決の方法を余暇の側面から考える。	受講前の事前学習として、現状の自分の生活リズムや余暇活動について、把握しておく。受講後の事後学習として、自らの余暇生活について見直すと共に、社会の問題について、余暇の側面からその解決方法を分析する。	180
第12回	消費者の視点から「奨学金」を考える 担当：小野由美子	奨学金について教育サービスの消費者としての立場から考えます。日本学生支援機構の奨学金制度の現状を知り、卒業後に起こりうる課題(不払いや延滞、民間の債権回収専門会社への業務委託等)や社会的対応のあり方を検討します。	奨学金に関する新聞記事を読むなどして情報収集に努める。奨学金の利用者は卒業後の返済計画を確認する。利用していない人は奨学金の利用者や、現在、返済している人に将来の返済についての考えを尋ねる。	180
第13回	Looking Outward to Communicate with Different Cultures 担当：マーク・ルイス	How customs and manners differ between cultures. How our particular values differ and influence	Students should read handout provided by the teacher before the day of class.	180
第14回	料理の盛り付け 担当：伊藤有紀	同じ食べ物でも盛り付け方が違くと食べる人の感じ方は違います。また盛り付けにはその料理の持つ食文化が投影されています。和食を中心に、盛り付けを通して人々の食べ物に対する価値観や食文化を考えます。	予習として、農林水産省のホームページを見るなどして、和食の特徴について予備知識を得ておくこと。復習として、講義の中で興味を持った事柄についてさらに調べること。	180
第15回	調理と食品成分の変化 担当：竹中真紀子	食品の調理によって成分や物性の様々な変化が起こり、それらの中にはリスクを持つ微量成分もあります。食生活においては、リスクの有無ではなく、トータルとして身体への悪影響がないことが重要であることを学びます。	農林水産省のホームページの「消費・安全局」の「政策」にある「食品の安全確保」、「健康な食生活」などのサイトを見て、食品の調理や加工によって生じる有害物質やこれに関する予備知識を得ておくこと。	180

学生へのフィードバック方法	適宜、各担当教員が質問を受ける。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点(授業への参加状況や課題が提示される場合は取り組みの等)及び定期試験(レポート形式)合評価。 ・各回で担当する教員から課題等が出される。 ・定期試験は記述式で、領域が重ならないように2つの授業を選んで回答する。
評価基準	
評価基準	
評価割合	平常点(50%)および定期試験(50%)の総合評価とする。
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない。

参考図書	複数の担当教員から、必要に応じて、それぞれ参考文献などが提示される。	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。</p> <p>【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し、分析する。</p> <p>【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。</p> <p>【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。</p>	
オフィスアワー	第1回の授業で教員別のオフィスアワーの一覧表を配布する。授業全体に関する質問は、三宅・山村がす。	
学生へのメッセージ	準備学習は、広く、現代人の生活全般に関心を持つようにしてほしい。現代人とは、子ども、乳幼児、人、あるいは、高齢者や弱者、病気を抱える人びと、さまざまな困難を抱える人びと、差別を受ける人びとなどである。イメージを豊かに広げられるようにしてほしい。そうした人びとが抱える生活上の基本問題（課題）は何か、つねに、関心を示せるようにしてほしい。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	家政学原論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 上村 協子	指定なし
非常勤講師	花形 美緒	指定なし

ナンバリング	G32205021
授業概要(教育目的)	家政学原論とは家政学とは何か、家政学をまなぶことで人はどのように変化できるかを考える授業である。総合家政の特色をもつ本学の現代家政学の意義と可能性を3つの柱から概説する。第一は、現代日本において当面する生活の諸課題を生活者の視点、家政学・現代生活学の研究方法から明らかにする。第二は、女性の生き方と家政学の関係を整理する。家政学がどのように生成発展してきたか、ジェンダーや老年学の視点から理解する。第三は、国際的視点や地球環境との関わりから持続可能な社会形成に向けて現代家政学の可能性を考え、家政学を学んだ学生の生涯設計と社会的役割について考える。

履修条件	特になし
------	------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
思考・判断の観点(K)	生活社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
関心・意欲・態度の観点(V)	
技術・表現の観点(A)	

学習計画

家政学原論				
回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	家政学原論とは	家政学原論とはどのような研究分野・授業科目かを理解し、半期の授業予定にそった学びの計画をたてる。	テキストp1~p9を読み演習問題に取り組む。	180分
第2回	日本の「家政学原論」研究の歴史	「家政学原論」の誕生の経緯と誕生時「家政学原論」に期待された役割について理解する。	テキストp1~p9を読み演習問題に取り組む。	180分
第3回	家政学とは何か	「家政学」の定義について理解し、「家政学」の独自性について考え、「家政学」にはどのような専門分野があるのか、その全体を把握する。	テキストp10~p18を読み演習問題に取り組む。	180分
第4回	世界の家政	世界の家政学に影響を及ぼす要求について理解し、アメ	テキストp19~p38を読み演習	180分

	学 ヒューマンエコロジ思想と家政学	リカの家政学の歴史とヒューマンエコロジ思想を理解する。	問題に取り組む。	
第5回	生活主体としての人間発達	家政学が（家庭を中心とした）人間の「生活」の学びであることを理解し、生活の主体者は個人・家族・コミュニティの一員として、生涯にわたって発達・変化し続けることを理解する。	テキストp57～p65を読み演習問題に取り組む。	180分
第6回	家政学と家族	家政学を学ぶ上で、家族をどのようにとらえるべきかを考え、家政学が「生活主体としての人間発達」をどのように支援できるのかを考える。	テキストp66～p73を読み演習問題に取り組む。	180分
第7回	家庭生活論	家政学の研究対象である家庭生活の特徴と現在の家庭生活の課題について考え、「家族・家庭・世帯」の概念の違い、世帯の動向、家族・家庭の機能について理解する。	テキストp74～p82を読み演習問題に取り組む。	180分
第8回	家政学は生活をどのように捉えてきたか	家庭生活はどのような要素で校正されているかを考える。「生活文化」の意味内容や性質について具体的に理解し、家政学における「生活文化」のとらえ方や課題について考える。	テキストp83～p107を読み演習問題に取り組む。	180分
第9回	家政学と教育	家庭科教育や消費者教育が家政学の本質とどのように関連するのかを考える。	テキストp108～p120を読み演習問題に取り組む。	180分
第10回	現代社会の生活者と家政学	天野正子の現代生活者論や現代生活学をもとに、食品ロス、SDGにに関心をもち自分自身が社会の中でいかに生きていくかを考える。生活者とは誰からサステナブル（持続可能）な社会の創造を考える	テキストp121～p129を読み演習問題に取り組む。	180分
第11回	日本における家政学と大江スミ	日本における家政学の展開過程について、社会的背景とおもに把握し、科学（学問）として家政学が成立するために、大江スミが果たした役割を考える。	テキストp39～p43を読み演習問題に取り組む。	180分
第12回	戦後の家政学の展開	戦後における「家政学原論」研究史の概略を把握し、東京家政学院大学の家政学部の位置づけを知る。	テキストp43～p49を読み演習問題に取り組む。	180分
第13回	持続可能な社会と家政学	「持続可能な社会を創る」という観点から家政学の社会貢献を考える。	テキストp143～p203を読み演習問題に取り組む。	180分
第14回	家政学の未来	国際家政学会の活動や、世界の国々の家政学の現状を、社会・経済状況との関連も踏まえて理解し、家政学の未来を考える。	テキストp19～p56を読み演習問題に取り組む。	180分
第15回	まとめ	家政学という学問についての理解、関心を高めることを目指す。生きにくい今だからこそ生活を総合的に見つめる家政学的視点が求められている。国際家政学会の2008 ミッションステイトメントや世界の家政学や家庭科教育に動向に目をむけて、また日本の家庭科教育の役割にも注目して、持続可能な社会の実現に自分が関わられるかを自分に問いかけてほしい。	復習として、テキスト全体を読み返し、自分のなぜ家政学を学ぶのかという原点に立ち戻って考える。	180分

学習計画注記	講師の都合により、日程が変更となる場合があります。				
学生へのフィードバック方法	調査・考察などに関するレポート・発表、提出された課題等に対して、講評や助言、添削等を行い評価する。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の内容は、以下のような観点から行う。 ①調査の目的や意義が明確である。 ②先行文献を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 <p>・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。</p>				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	授業ごとに提出するレポート	○	○	○	
	期末試験・最終レポート	○	○	○	○
評価割合	授業ごとに提出するレポート (50%)				

	期末試験・最終レポート (50%)	
使用教科書名 (ISBN番号)	やさしい家政学原論/日本家政学会 家政学原論部会 編/建帛社 (978-4-7679-1449-7)	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。</p> <p>【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。</p> <p>【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。</p> <p>【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。</p>	
オフィスアワー	<p>前期： 水曜日 4限</p> <p>後期： 火曜日 4限</p> <p>アポイントを取り時間調整を行うこと。</p>	
学生へのメッセージ	<p>家政学とは何か、なぜ必要であり、家政学を学んだ人は何ができたのか。家政学原論研究に取り組んだ女性たち、家政学を社会に生かして活躍する卒業生などの事例から、家政学の社会における意義と貢献内容を気が付く授業にしたいと思います。世界共通のレベルで家政学が生活者の視点で社会を変革できることを自覚し、自分自身が社会の中でいかに生きていくかを考えましょう。</p>	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学术论文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	女性史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 佐藤 広美	指定なし

ナンバリング	G22216C21
授業概要(教育目的)	女性の生き方を歴史に学びます。明治のはじめ、封建的な女性像（『女大学』など）はいかに批判されたのか。福沢諭吉は、その代表的な人物でした。彼の近代的な女性像を明らかにします。自由民権運動は女性の解放をどのように考えたのか。女性の参政権など、について語ります。明治後半から大正期にかけて女性の職業的自立や恋愛の自由が論じられます。平塚らいてうは、女性として恋愛の自由を主張します。女性は愛される対象ではなく、愛する主体なのだと言います。そして戦争の時代、女性たちはどのような生き方を選んだのか。戦争と女性の関わり方を考えます。
履修条件	本科目は近隣大学との単位互換対象科目となっており、他大学の学生（男子学生を含む）が同時に履修する可能性があります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	女性の生き方や考え方は、歴史によって規定されていることを理解する。日本の女性たちはどんな思想を形成してきたのかを理解する。
思考・判断の観点 (K)	女性が自由にものを考え、生き方を選択できるのかは、歴史に学ぶ必要があることを理解する。その思想と判断力を歴史に学び、現実に生かせる、そうした思想と判断形成力を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

女性史

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	女性の生き方と歴史	講義で配布したテキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第2回	女大学について	江戸中期の女大学とは何か	講義で配布したテキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第3回	女大学とは何か	女大学の思想と意義、問題点	講義で配布したテキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第4回	福沢諭吉の女性観	福沢の女大学批判	講義で配布したテキストを読み直し、KGノートを作成する	180分

第5回	福沢諭吉の女性観	福沢の女性観、アジア認識との関連など	講義で配布したテキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第6回	植木枝盛の女性観	自由民権運動の女性観	講義で配布したテキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第7回	自由民権運動の女性観	民権運動をになった女性たち	講義で配布したテキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第8回	明六社の女性観	森有礼の女性観など、	講義で配布したテキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第9回	明治憲法と女性	民法典論争と女性	講義で配布したテキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第10回	教育勅語の女性観	教育勅語の女性観、「夫婦相和シ」とは何か	講義で配布したテキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第11回	高等女学校の教育	良妻賢母主義教育とは何か	講義で配布したテキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第12回	北村透谷の恋愛観	恋愛と女性	講義で配布したテキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第13回	平塚らいてう	平塚らいてうの結婚観	講義で配布したテキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第14回	平塚らいてう	平塚らいてうの子育て観	講義で配布したテキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第15回	近代女性の生き方	近代女性の教養と労働、まとめ、	講義で配布したテキストを読み直し、KGノートを作成する	180分

学生へのフィードバック方法	講義形式。プリントをたくさん配ります。歴史的な文書を読みながら、その時代状況を想像し、自らその時代の中に生きていたならどのような考え方をもちだそうか、を想像しながら、講義を受けてください。時々、意見を求めます。また、講義ノートの他に、KGノート（家庭学習ノート）の作成を求めます。時々点検します。
---------------	--

評価方法	定期試験とKGノートの点検による総合評価。
------	-----------------------

評価基準	
------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		
KGノート	○		○	

評価割合	KGノート10%、試験90%、の総合評価(100%)。
------	-----------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	特に決めません。プリントをたくさん用意しますので、大切に保管してください。試験に使います。
-----------------	---

参考図書	講義に中で、紹介します。
------	--------------

ディプロマポリシーとの関連	知識・思考、総合的な家政学の見地にとって、諸問題を理解できる 関心・表現、生活者の視点で、関心を持ち続ける、心豊かな視点で、提案できる
---------------	--

オフィスアワー	水曜4限
---------	------

学生へのメッセージ	女性の歴史を学び、自らの生き方を考えてほしいと思います。過去を学ぶことは、現在と無関係ではなく、現在と未来を生きていくために、過去を学ぶのです。また、自分と無関係に学ぶのではなく、自分の生き方に引きつけて、女性の過去を学んでほしいと思います。 準備学習として、「日本の近現代史」をきっちりとおさらいしておくこと。 特に、江戸末期から明治期、第一次、第二次世界大戦期の、政治・経済・社会状況の基本事項を調べておくこと。
-----------	--

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー 教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	美と健康		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山村 明子	指定なし

ナンバリング	G35105C21
授業概要(教育目的)	心身が健やかで、疾病等のトラブルがなく日常生活をおくることが「健康」な状態である。一方、「美しい」という概念は一通りの型にはまったものではない。それは歴史的にみても時代や社会によっても望ましい概念は異なってきた。また、多様性を認める今日の社会においては多種多様な「美」を見出すことが望まれる。本講では「美」と「健康」とのバランスを学び、衣服や装飾行動と身体メカニズムとの関連を理解し、美しく過ごすことの意義を考える。
履修条件	特に定めず

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	美と健康に対する歴史的事象と現代社会の問題点を理解する
思考・判断の観点 (K)	美と健康とはどのような関わりをもつものなのか考え、私たちが求めるべき美と健康について適切な判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	美と健康とはどのような関わりをもつものなのか考え、私たちが求めるべき美と健康について適切な判断ができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	多様な美、唯一の健康	歴史的な事象として、時代により社会が求める美・美意識は異なっていることを学び、美とは多様であることを理解する。	シラバスを読み、授業概要について理解する。	180分
第2回	美のはじまり 清潔	近代にいたるまでの日本、西洋の清潔に対する概念を学び、明治以降の近代西洋医学の導入とともに清潔が美的要因となったことを理解し、現代社会における清潔に関する課題を学ぶ。	予習として授業内で配布する資料を読む。復習として関連する企業活動の情報を公式HP等より収集する。	180分
第3回	においと香り	近代にいたるまでの日本、西洋の香りに対する概念を学び、清潔の指標でもあるにおいの存在及び香りが心身にもたらす効用、現代社会における香りに関する課題を学ぶ。	予習として授業内で配布する資料を読む。復習として関連する企業活動の情報を公式HP等より収集する。	180分
第4回	皮膚 小麦	日本人の肌の色に対する志向を江戸時代から今日までの	予習として授業内で配布する資	180分

	色の肌と美白	変遷で学ぶ。また、皮膚の組織と紫外線からの影響等を学び、健康な肌とは何かを理解する。	料を読む。復習として関連する企業活動の情報を公式HP等より収集する。	
第5回	美肌をつくる(1)	校内特別授業として美容の専門家である外部講師から、潤いと肌理の整った素肌をつくるための手入れについて学ぶ。	授業で指示する課題を自宅で実践する。	180分
第6回	化粧 歴史的な展開	日本人の化粧に対する志向を江戸時代から今日までの変遷で学ぶ。また、現代の化粧でのトラブルの一つとしてアイメイクに関する問題点を理解する。	予習として授業内で配布する資料を読む。復習として関連する企業活動の情報を公式HP等より収集する。	180分
第7回	美肌をつくる(2)	校内特別授業で課された課題提出を踏まえ、その内容に関する振り返りとアドバイスをを行う。	実践した自宅課題の内容をレポートにまとめる。	180分
第8回	毛髪 黒髪と茶髪	日本人の毛髪に対する志向を平安時代から今日までの変遷で学ぶ。	予習として授業内で配布する資料を読む。復習として関連する企業活動の情報を公式HP等より収集する。	180分
第9回	毛髪 染毛料と人権	今日のヘアスタイルに欠かせない染毛料について学び、そのトラブル等について理解する。また、毛髪と人権の問題について事例を基に考える。	予習として授業内で配布する資料を読む。復習として関連する企業活動の情報を公式HP等より収集する。	180分
第10回	からだつき 肥満と痩身	体格は健康の指標であると同時に、体型は美的要因でもある。第二次大戦以降の日本の体型への志向を学び、美と健康を両立させる体型とは何かについて考える。	予習として授業内で配布する資料を読む。復習として関連する企業活動の情報を公式HP等より収集する。	180分
第11回	足と靴	第二次大戦以降の靴の流行を学び、靴のデザインと正しい歩行や足の健康との関わりについて理解する。	予習として授業内で配布する資料を読む。復習として関連する企業活動の情報を公式HP等より収集する。	180分
第12回	美容医療(美容整形)	美容医療が発展してきた背景を学び、現代の美容医療のトラブルの事例を理解する。	予習として授業内で配布する資料を読む。復習として関連する企業活動の情報を公式HP等より収集する。	180分
第13回	企業見学	美と健康に関連する事業を行っている企業(花王株式会社すみだ事業場)の見学を行い、企業理念、製品の特長、清潔と美との関わりについて学ぶ。	予習として花王株式会社公式HPを閲覧し、見学内容について理解する。見学後には、見学内容をまとめるレポートを作成する。	180分
第14回	おしゃれと心の健康	QOLを高めるために美容行為が着目されている現状に着目し、美容行為が精神面に働きかける効果について理解する。	予習として授業内で配布する資料を読む。復習として関連する企業活動の情報を公式HP等より収集する。	180分
第15回	まとめ	これまでの講義内容を振り返り、美とはどのような概念か、また美と健康とはどのような関わりを持っているのか考える。	授業全体の振り返りを踏まえ、期末試験に向けて復習をする。	180分

学習計画注記	第5回:美肌をつくるは外部講師の都合により、開催時期を変更する可能性がある。 第13回:企業見学は見学先の状況により、開催時期を変更する可能性がある。
学生へのフィードバック方法	授業時の小課題:実施後に要点を解説する。要点を再確認することで授業内容に対する理解を深める。 校内特別授業のレポート課題は採点、返却時に内容や質問に対する解説、回答を行う。
評価方法	授業時の小課題:授業内では前回の授業の確認の小課題を行う。 課題は美容に関する自宅での実践課題と見学のまとめ課題である。 試験では授業内容全体の理解と自身の意見を論述する課題を問う。知識の記憶だけではなく、授業内容を踏まえた自身の見解を持つことが重要である。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業時の小課題	○	○		
課題	○	○	○	○
期末試験	○	○		

評価割合	授業の小課題:15% 課題(2回):20% 期末試験:65%
------	--------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない (プリント配布等)	
参考図書	なし	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】美と健康に関する歴史的背景と現代の課題を学び、美と健康が関与する「質の高い生活」とは何かを理解する。</p> <p>【思考・判断】美と健康に関する現代の課題を学び、適切な行為を選択することができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】美と健康に関する今日の問題について関心をもち、情報を収集する。</p>	
オフィスアワー	月曜日2限 1703ゼミ室	
学生へのメッセージ	授業で扱うテーマおよび関連テーマについて、現状把握・分析および考察などを、日常的・自発的に行ってほしい。健康的かつ美しく生きるための、生活者としての自分の姿勢を構築していくことが望まれる。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	美容業界に長年携わっている外部講師による実践的な指導を行う。
アクティブ・ラーニング	○	企業 (花王株式会社) 見学による、体感的な学びを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	課題作成における情報収集とPCの活用

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	情報処理演習 I		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	1 限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小野 由美子	指定なし

ナンバリング	G22308C12
授業概要(教育目的)	多様な統計を読み解く力をつけるとともに、表計算ソフトを使い、集計表の作成、関数を使用した処理、グラフの作成などの応用操作を学習する。家計調査などの政府統計も活用しながら、情報処理の基本的な知識を理解し、演習を通して技術を身に付ける。コンピュータ演習bに引き続き授業である。
履修条件	大学が発行する各種システムのアカウントを使うことができること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、表計算による情報処理が正確にできる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	データ入力の基本操作	授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。表計算ソフトウェアでのデータ入力の基本操作を練習する。演習結果を提出する。	表計算ソフトウェアでのデータ入力を復習すること。	45分
第2回	数式入力・関数挿入の基本操作①	データ・計算式・関数入力、罫線、表作成、印刷などの基本操作の復習。演習結果を提出する。	計算式や関数の入力について復習すること。	45分
第3回	数式入力・関数挿入の基本操作②	データ・計算式・関数入力、罫線、表作成、印刷などの基本操作の復習。演習結果を提出する。	計算式や関数の入力について復習すること。	45分
第4回	数式入力・関数挿入の応用操作①	データ・計算式・関数入力などの応用操作の練習。演習結果を提出する。	計算式や関数の応用操作について復習すること。	45分
第5回	数式入力・関数挿入の応用操作②	データ・計算式・関数入力などの応用操作の復習。演習結果を提出する。	計算式や関数の応用操作について復習すること。	45分

第6回	統計調査を用いた演習①	政府統計である国勢調査や家計調査を理解する。家計調査を用いた課題の説明。	公表されている家計調査のデータについて調べること。	45分
第7回	統計調査を用いた演習②	家計調査を用いた課題の作成。演習結果を提出する。	家計調査に関する課題を完成させること。	45分
第8回	統計調査を用いた演習③	事業者が実施した調査について学ぶ。質問紙調査を用いた課題の説明。	既存の質問紙調査について調べること。	45分
第9回	統計調査を用いた演習④	質問紙調査の入力と集計の説明・練習。演習結果を提出する。	質問紙調査の集計に関わる課題を準備すること。	45分
第10回	統計調査を用いた演習⑤	質問紙調査の集計と分析の説明・練習。演習結果を提出する。	質問紙調査の集計に関わる課題を完成させること。	45分
第11回	統計処理①	単純集計・度数分布、統計処理（平均・分散、標準偏差）の説明と練習。演習結果を提出する。	平均値などの代表値が関数を用いて算出できるよう復習すること。	45分
第12回	統計処理②	統計処理（クロス集計）の説明と練習。演習結果を提出する。	クロス集計表が作成できるよう復習すること。	45分
第13回	統計処理③	高度なグラフを作成する。散布図と相関係数を説明・練習。演習結果を提出する。	散布図を作成し、相関係数を求めることができるよう復習すること。	45分
第14回	数式入力・関数挿入の応用操作③	データ・計算式・関数入力などの応用操作の復習。演習結果を提出する。	計算式や関数の応用操作について復習すること。	45分
第15回	学習到達度を確認するための試験	学習到達度を確認するための試験を行う。	授業全体の内容について復習すること。	45分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。
評価方法	・定期試験は15点満点で出題し、実技に基づく。また、表計算を主として正確な技術力を確認する。 ・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合	受講状況・学習態度 (5%)、提出物 (80%)、定期試験 (15%) などを総合的に評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。 【技術・表現】心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。
オフィスアワー	【前期】水曜日 1701ゼミ室 12:30~14:30
学生へのメッセージ	主体的な学習を心がけて、情報処理に必要な知識と技術を身に付けましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、消費生活の研究に関する実務経験を有しており、社会調査の実査に関わり習得すべき一連の情報処理について教授している。

アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、表計算能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報の分析に関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	情報処理演習 II		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小野 由美子	指定なし

ナンバリング	G22309C12
授業概要(教育目的)	世の中の膨大な量の情報から有用な情報を探し出し役立てるためには、情報を収集し、必要なものを効率よく検索して見やすい形式で出力する必要がある。そのためのツールであるデータベースについて、表計算ソフトとデータベース・ソフトの両方を用いながら、基本的な考え方を学ぶとともに、操作に関する能力を高める。情報処理演習 I に引き続き授業である。
履修条件	大学が発行する各種システムのアカウントを使うことができること。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	コンピュータを自ら利用できる。
技術・表現の観点 (A)	コンピュータを利用して、表計算とデータベースによる情報処理が正確にできる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	データ入力の基本操作	授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。表計算ソフトウェアでのデータ入力の基本操作を確認する。演習結果を提出する。	表計算ソフトウェアでのデータ入力などの操作を復習すること。	45
第2回	データベース管理システムの機能	データベースの役割や概要を学ぶ。演習結果を提出する。	データベースの基本的な知識を整理すること。	45
第3回	表計算ソフトによる基本的なデータベース操作①	特定の条件を満たすレコードを対象にして集計するDSUM関数の技術を習得する。演習結果を提出する。	DSUM関数の操作について復習すること。	45
第4回	表計算ソフトによる基本的なデー	平均を求めるDAVERAGE関数、最大値・最小値を求めるDMAX関数、DMIN関数の技術を習得する。演習結果を提出する。	DAVERAGE関数、DMAX関数、DMIN関数の操作について復習すること。	45

	データベース操作②			
第5回	表計算ソフトによる基本的なデータベース操作③	個数・数値データを求めるDCOUNT関数の技術を習得する。演習結果を提出する。	DCOUNT関数の操作について復習すること。	45
第6回	表計算ソフトによる高度なデータベース操作①	様々なデータベース関数を使用する処理条件の練習。演習問題を提出する。	データベース関数による複雑な処理条件について復習する。	45
第7回	表計算ソフトによる高度なデータベース操作②	様々なデータベース関数を使用する処理条件の練習。演習問題を提出する。	データベース関数による複雑な処理条件について復習する。	45
第8回	表計算ソフトによる高度なデータベース操作③	様々なデータベース関数を使用する処理条件の練習。演習問題を提出する。	データベース関数による複雑な処理条件について復習する。	45
第9回	表計算ソフトによる高度なデータベース操作④	様々なデータベース関数を使用する処理条件の練習。演習問題を提出する。	データベース関数による複雑な処理条件について復習する。	45
第10回	表計算ソフトによる高度なデータベース操作⑤	様々なデータベース関数を使用する処理条件の練習。演習問題を提出する。	データベース関数による複雑な処理条件について復習する。	45
第11回	データベースソフトを使った操作①	データベースソフトの概要を説明。データベースの設計と作成について学ぶ。	データベースソフトの概要を整理する。	45
第12回	データベースソフトを使った操作②	テーブル・クエリの作成。演習結果を提出する。	テーブルとクエリが作成できるよう復習する。	45
第13回	データベースソフトを使った操作③	テーブル・クエリ・レポートの作成。演習結果を提出する。	テーブル・クエリ・レポートの一連の操作ができるよう復習する。	45
第14回	データベースソフトを使った操作④	テーブル・クエリ・レポートの作成。演習結果を提出する。	テーブル・クエリ・レポートの一連の操作ができるよう復習する。	45
第15回	データベースソフトを使った操作⑤	テーブル・クエリ・レポートの作成。演習結果を提出する。	テーブル・クエリ・レポートの一連の操作ができるよう復習する。	45

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

- ・定期試験は15点満点で出題し、実技に基づく。また、表計算を主として正確な技術力を確認する。
- ・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
受講状況・学習態度			○	
提出物				○
定期試験				○

評価割合	受講状況・学習態度（5%）、提出物（80%）、定期試験（15%）などを総合的に評価する。	
使用教科書名（ISBN番号）	なし	
参考図書	なし	
ディプロマポリシーとの関連	【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。 【技術・表現】心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。	
オフィスアワー	【後期】水曜日 1701ゼミ室 10：40～12：50	
学生へのメッセージ	主体的な学習を心がけて、情報処理に必要な知識と技術を身に付けましょう。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、表計算とデータベース能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報の分析に関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究A（井澤）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井澤 尚子	指定なし

ナンバリング	G41006C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	1 ガイダンス	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。	90分
第2回	2 問題の分析と課題の設定(1)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テ	90分

			一マ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	
第3回	3 問題の分析と課題の設定(2)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	90分
第4回	4 先行研究・参考文献の調査(1)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第5回	5 先行研究・参考文献の調査(2)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第6回	6 先行研究・参考文献の調査(3)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第7回	7 研究方法の決定(1)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第8回	8 研究方法の決定(2)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第9回	9 研究方法の決定(3)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第10回	10 調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作、分析、執筆など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第11回	11 調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第12回	12 調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第13回	13 調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第14回	14 調査・実験・製作	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りま	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実	90分

	(分析・まとめを含む) (5)	とめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	
第15回	15 調査・実験・製作(分析・まとめを含む) (6)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分

学習計画注記 ※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

- 卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
 - ①研究の目的や意義が明確である。
 - ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。
 - ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
 - ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
 - ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。
- 平常点は、授業内活動(報告・発表・ディスカッションなど)への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合 卒業研究の内容80%、平常点20%

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』その他、授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

- 【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
- 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
- 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
- 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー 水曜日3,4時限

学生へのメッセージ 授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

シラバス参照

講義名	卒業研究A（井上）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 眞弓	指定なし

ナンバリング	G41006C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

卒業研究A

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。	90
第2回	問題の分析と課題の設定(1)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上	90

			の情報をを用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	
第3回	問題の分析と課題の設定(2)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。	90
第4回	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	90
第5回	先行研究・参考文献の調査(2)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第6回	先行研究・参考文献の調査(3)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第7回	研究方法の決定(1)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90
第8回	研究方法の決定(2)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90
第9回	研究方法の決定(3)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90
第10回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作、分析、執筆など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第11回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第12回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第13回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90

	とめを含む) (4)			
第14回	調査・実験・製作 (分析・まとめを含む) (5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動 (文献収集、調査、実験、製作など) を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第15回	調査・実験・製作 (分析・まとめを含む) (6)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動 (文献収集、調査、実験、製作など) を自ら計画的に継続して行うこと。	90

学習計画注記 ※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 調査・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

- 卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
 - ①研究の目的や意義が明確である。
 - ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。
 - ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
 - ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
 - ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。
- 平常点は、授業内活動 (報告・発表・ディスカッションなど) への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合 卒業研究の内容80%、平常点20% 必ず中間発表を行うことが義務となります。

使用教科書名 (ISBN番号) 特に指定しませんが、必要に応じて適宜印刷物を配布します。

参考図書 東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』その他、授業内で各自の研究内容に応じて適宜開示します。

ディプロマポリシーとの関連

- 【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
- 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
- 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
- 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー 井上 (金曜日3限) 1807室

学生へのメッセージ 卒業研究は、教室内の学びだけではなく、自主的に街中でかけて見聞を広める活動が求められます。体験によって得られた知識をどのように客観化できるか、得られた知見をどのように他者へ伝えることができるか、その方法を学んでみましょう。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合があります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

シラバス参照

講義名	卒業研究A（上村）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 上村 協子	指定なし

ナンバリング	G41006C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

卒業研究A

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。	90分
第2回	問題の分析と課題の設定(1)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上	90分

			の情報をを用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	
第3回	問題の分析と課題の設定(2)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報をを用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	90分
第4回	先行研究・参考文献の調査(1)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第5回	先行研究・参考文献の調査(2)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第6回	先行研究・参考文献の調査(3)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第7回	研究方法の決定(1)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第8回	研究方法の決定(2)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第9回	研究方法の決定(3)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第10回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作、分析、執筆など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第11回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第12回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第13回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分

第14回	調査・実験・製作 (分析・まとめを含む) (5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第15回	調査・実験・製作 (分析・まとめを含む) (6)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分

学習計画注記 ※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

- 卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
 - ①研究の目的や意義が明確である。
 - ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。
 - ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
 - ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
 - ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。
- 平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
卒業研究の内容		○		○
平常点			○	

評価割合 卒業研究の内容80%
平常点20%

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』その他、授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

- 【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
- 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
- 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
- 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー 未定

学生へのメッセージ 授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

シラバス参照

講義名	卒業研究A (大橋)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 大橋 竜太	指定なし

ナンバリング	G41006C22
授業概要 (教育目的)	<p>現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。</p> <p>本研究室では、建築史の論文を書きます。まずは、個別に相談しながら、研究テーマを設定します。その後、各自が設定したテーマに沿って、文献の収集の方法、調査の方法、分析の方法等、論文を書くために必要な技術を学びます。授業はゼミ形式で実施します。各自が作成したレジュメをもとに、1週間の研究成果を発表します。これに対し、教員ならびに研究室の構成員がコメントを述べます。</p>
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ol style="list-style-type: none"> 1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	<ol style="list-style-type: none"> 1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	ガイダンス	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。	90分

第2回	問題の分析と課題の設定(1)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	90分
第3回	問題の分析と課題の設定(2)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	90分
第4回	先行研究・参考文献の調査(1)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第5回	先行研究・参考文献の調査(2)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第6回	先行研究・参考文献の調査(3)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第7回	研究方法の決定(1)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第8回	研究方法の決定(2)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第9回	研究方法の決定(3)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第10回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第11回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第12回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第13回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りま	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実	90分

	とめを含む) (4)	とめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	
第14回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む) (5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第15回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む) (6)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分

学習計画注記 ※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

- 卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
 - ①研究の目的や意義が明確である。
 - ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。
 - ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
 - ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
 - ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。
- 平常点は、授業内活動(報告・発表・ディスカッションなど)への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合 卒業研究の内容80%、平常点20%

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』その他、授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

- 【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
- 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
- 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
- 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー 火曜3限 1702室

学生へのメッセージ 授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。本研究室では、建築史および建築保存の論文指導を行うので、建築史Aおよび建築史Bの履修が望まれる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

シラバス参照

講義名	卒業研究A (大嶋)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大嶋 徹	指定なし

ナンバリング	G41006C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見(創造)できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動(文献収集、調査、実験、製作など)に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。	90
第2回	問題の分析と課題の設定(1)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テ	90

			一マ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	
第3回	問題の分析と課題の設定(2)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	90
第4回	先行研究・参考文献の調査(1)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第5回	先行研究・参考文献の調査(2)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第6回	先行研究・参考文献の調査(3)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第7回	研究方法の決定(1)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90
第8回	研究方法の決定(2)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90
第9回	研究方法の決定(3)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90
第10回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作、分析、執筆など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第11回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第12回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第13回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第14回	調査・実験・製作	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りま	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実	90

	(分析・まとめを含む) (5)	とめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	
第15回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む) (6)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。
評価方法	卒業研究の内容80%、平常点20%

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%
使用教科書名 (ISBN番号)	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』その他、授業内で随時紹介する。
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』その他、授業内で随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	金曜4限
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		学会発表や講習会での講師実践活動。
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究A (小野)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小野 由美子	指定なし

ナンバリング	G41006C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見(創造)できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動(文献収集、調査、実験、製作など)に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。	90
第2回	問題の分析と課題の設定(1)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テ	90

			一マ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	
第3回	問題の分析と課題の設定(2)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	90
第4回	先行研究・参考文献の調査(1)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第5回	先行研究・参考文献の調査(2)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第6回	先行研究・参考文献の調査(3)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第7回	研究方法の決定(1)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90
第8回	研究方法の決定(2)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90
第9回	研究方法の決定(3)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90
第10回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作、分析、執筆など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第11回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第12回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第13回	13 調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第14回	調査・実験・製作	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りま	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実	90

	(分析・まとめを含む) (5)	とめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	
第15回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む) (6)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

- ・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
 - ①研究の目的や意義が明確である。
 - ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。
 - ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
 - ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
 - ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。
- ・平常点は、授業内活動(報告・発表・ディスカッションなど)への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合 卒業研究の内容80%、平常点20%

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』その他、授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

- 【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
- 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
- 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。

オフィスアワー 【前期】水曜日 1701ゼミ室 12:30~14:30

学生へのメッセージ 授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

シラバス参照

講義名	卒業研究A（金森）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 金森 敏	指定なし

ナンバリング	G41006C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。	90分
第2回	問題の分析と課題の設定(1)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テ	90分

			一マ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	
第3回	問題の分析と課題の設定(2)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	90分
第4回	先行研究・参考文献の調査(1)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第5回	先行研究・参考文献の調査(2)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第6回	先行研究・参考文献の調査(3)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第7回	研究方法の決定(1)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第8回	研究方法の決定(2)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第9回	研究方法の決定(3)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第10回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作、分析、執筆など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第11回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第12回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第13回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第14回	調査・実験・製作	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りま	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実	90分

	(分析・まとめを含む) (5)	とめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	
第15回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む) (6)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分

学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。
---------------	---

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 <ol style="list-style-type: none"> ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 平常点は、授業内活動(報告・発表・ディスカッションなど)への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。
------	--

評価基準

評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	卒業研究の内容	○	○		
	平常点			○	○

評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%
------	-------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	なし
-----------------	----

参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』その他、授業内で随時紹介する。
------	--

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。</p> <p>【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。</p> <p>【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。</p> <p>【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。</p>
---------------	--

オフィスアワー	前期火曜日4限、後期金曜日3限。 ただし、事前にアポをとってこること。
---------	--

学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。
-----------	---

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究A (佐藤)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 佐藤 広美	指定なし

ナンバリング	G41006C22
授業概要(教育目的)	まずは、じっくりあなたの問題関心をうかがいます。つまり、興味関心を語れることが重要です。そして、いったい、自分は何に関心をもっているのか、本当のところ何を考えようとしているのか、それを発見することが大事です。つぎに、そのために、どんな資料があるのか実際に調べてみることに、あるいは、聞き取り調査おこなうことなど、勉強を進めることです。きちっとノートをとりましょう。ノットは、次第にあつまり、勉強しなのだ、という気持ちになります。最後に、集めた資料を分析し、整理し、構造化し、結論をだします。自分なりの意見を、すこしでも表明できれば、その論文は成功です。
履修条件	単位修得80単位以上
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	テーマが、現代家政学の総合的知見によって、説明されることのできるという自覚を得ること
思考・判断の観点 (K)	研究成果が、社会貢献につながる、という高い倫理性の獲得へと結びつくこと
関心・意欲・態度の観点 (V)	課題解決へと粘り強く追究する関心の形成を行うこと
技術・表現の観点 (A)	課題の提示が明確にできるよう表現の工夫ができること

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	問題意識のついて	テーマの発見に関する資料集、自分自身の被教育体験の振り返りが重要、メモ化、書籍、論文、インターネット上の情報、聞き取り調査、など、あらゆる資料収集の方法の駆使。オリジナリティの獲得の意義に自覚化。	90分
第2回	問題関心とは何か、問題の発見	問題意識について、問題はどのようにして発見されるのか、自分自身の一身上の問題という観点	テーマの発見に関する資料集、自分自身の被教育体験の振り返りが重要、メモ化、書籍、論文、インターネット上の情報、聞き取り調査、など、あらゆる資料収集の方法の駆使。オリジ	90分

			ナリティの獲得の意義に自覚化。	
第3回	問題関心とは何か、問題の発見	問題意識について、問題はどのようにして発見されるのか、自分自身の一身上の問題という観点	テーマの発見に関する資料集、自分自身の被教育体験の振り返りが重要、メモ化、書籍、論文、インターネット上の情報、聞き取り調査、など、あらゆる資料収集の方法の駆使。オリジナルナリティの獲得の意義に自覚化。	90分
第4回	問題関心とは何か、問題の発見	問題意識について、問題はどのようにして発見されるのか、自分自身の一身上の問題という観点	テーマの発見に関する資料集、自分自身の被教育体験の振り返りが重要、メモ化、書籍、論文、インターネット上の情報、聞き取り調査、など、あらゆる資料収集の方法の駆使。オリジナルナリティの獲得の意義に自覚化。	90分
第5回	問題関心とは何か、問題の発見	問題意識について、問題はどのようにして発見されるのか、自分自身の一身上の問題という観点	テーマの発見に関する資料集、自分自身の被教育体験の振り返りが重要、メモ化、書籍、論文、インターネット上の情報、聞き取り調査、など、あらゆる資料収集の方法の駆使。オリジナルナリティの獲得の意義に自覚化。	90分
第6回	問題関心とは何か、問題の発見	問題意識について、問題はどのようにして発見されるのか、自分自身の一身上の問題という観点	テーマの発見に関する資料集、自分自身の被教育体験の振り返りが重要、メモ化、書籍、論文、インターネット上の情報、聞き取り調査、など、あらゆる資料収集の方法の駆使。オリジナルナリティの獲得の意義に自覚化。	90分
第7回	問題関心とは何か、問題の発見	問題意識について、問題はどのようにして発見されるのか、自分自身の一身上の問題という観点	テーマの発見に関する資料集、自分自身の被教育体験の振り返りが重要、メモ化、書籍、論文、インターネット上の情報、聞き取り調査、など、あらゆる資料収集の方法の駆使。オリジナルナリティの獲得の意義に自覚化。	90分
第8回	問題関心とは何か、問題の発見	問題意識について、問題はどのようにして発見されるのか、自分自身の一身上の問題という観点	テーマの発見に関する資料集、自分自身の被教育体験の振り返りが重要、メモ化、書籍、論文、インターネット上の情報、聞き取り調査、など、あらゆる資料収集の方法の駆使。オリジナルナリティの獲得の意義に自覚化。	90分
第9回	問題関心とは何か、問題の発見	問題意識について、問題はどのようにして発見されるのか、自分自身の一身上の問題という観点	テーマの発見に関する資料集、自分自身の被教育体験の振り返りが重要、メモ化、書籍、論文、インターネット上の情報、聞き取り調査、など、あらゆる資料収集の方法の駆使。オリジナルナリティの獲得の意義に自覚化。	90分
第10回	問題関心とは何か、問題の発見	問題意識について、問題はどのようにして発見されるのか、自分自身の一身上の問題という観点	テーマの発見に関する資料集、自分自身の被教育体験の振り返りが重要、メモ化、書籍、論文、インターネット上の情報、聞き取り調査、など、あらゆる資料収集の方法の駆使。オリジナルナリティの獲得の意義に自覚化。	90分
第11回	論文の構成、	問題意識のついて、論文の構成、章立てはどのようにして立てられるのか、真理の証明の手順	テーマの発見に関する資料集、自分自身の被教育体験の振り返りが重要、メモ化、書籍、論文、インターネット上の情報、聞き取り調査、など、あらゆる資料収集の方法の駆使。オリジナルナリティの獲得の意義に自覚化。	90分

第12回	論文の構成、	問題意識のついて、論文の構成、章立てはどのようにして立てられるのか、真理の証明の手順	テーマの発見に関する資料集、自分自身の被教育体験の振り返りが重要、メモ化、書籍、論文、インターネット上の情報、聞き取り調査、など、あらゆる資料収集の方法の駆使。オリジナリティの獲得の意義に自覚化。	90分
第13回	論文の構成、	問題意識のついて、論文の構成、章立てはどのようにして立てられるのか、真理の証明の手順	テーマの発見に関する資料集、自分自身の被教育体験の振り返りが重要、メモ化、書籍、論文、インターネット上の情報、聞き取り調査、など、あらゆる資料収集の方法の駆使。オリジナリティの獲得の意義に自覚化。	90分
第14回	論文の構成、	問題意識のついて、論文の構成、章立てはどのようにして立てられるのか、真理の証明の手順	テーマの発見に関する資料集、自分自身の被教育体験の振り返りが重要、メモ化、書籍、論文、インターネット上の情報、聞き取り調査、など、あらゆる資料収集の方法の駆使。オリジナリティの獲得の意義に自覚化。	90分
第15回	論文の構成、	問題意識のついて、論文の構成、章立てはどのようにして立てられるのか、真理の証明の手順	テーマの発見に関する資料集、自分自身の被教育体験の振り返りが重要、メモ化、書籍、論文、インターネット上の情報、聞き取り調査、など、あらゆる資料収集の方法の駆使。オリジナリティの獲得の意義に自覚化。	90分

学習計画注記 卒研生の人数によって、計画は変更される、ゼミ形式の討論による変更など、

学生へのフィードバック方法 毎回のゼミで、講評、助言、添削など、その都度、行う。

評価方法 卒研の内容と平常点の総合評価

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
卒研	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合 卒研9割、平常点1割

使用教科書名 (ISBN番号) なし。

ディプロマポリシーとの関連 知識・理解、総合的な家政学の立場の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。思考・判断力、生活・社会の諸問題を自ら発見し、分析し、問題解決に導くことができること。関心・意欲、生活の諸問題に関心を持ち続けること。表現、問題解決について提案と発信ができること

オフィスアワー 水曜4限

学生へのメッセージ 問題関心を重視します。研究の動機、その強さ、ということを考えてみてください。なぜ、その問題を研究しようとするのか、自分なりに、きちっと説明できること。何よりそれが最も大切です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー		

教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究A（青柳）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 青柳 由佳	指定なし

ナンバリング	G41006C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した住生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行い、制作や研究論文の形にまとめていただく。いずれも自分なりの問題意識に立ち、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論、設計の出し方、発表、プレゼンテーションの方法など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。 本研究室は建築構法に基づいた研究テーマに沿って、論文及び制作を行います。具体的なテーマの設定については、個別に相談を行い決定します。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。 インテリアCAD演習の単位取得済みであることが望ましい。 建築士指定科目をなるべく多く履修していることが望ましい。 制作を選択する場合は設計製図演習の単位取得済みであること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	現在の社会的な問題について理解し説明ができる。
思考・判断の観点 (K)	現在の社会的な問題と自身の関心とに向き合い、研究テーマの設定ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自ら進んで研究テーマに取り組みことができる。
技術・表現の観点 (A)	研究テーマに沿った調査ができその資料をもとに考察ができそれを論文として執筆できる。研究テーマに沿った調査ができその資料をもとに建築設計を行い作品として表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業の進め方、テーマの設定について説明します。	テーマを設定するために、現代の社会的な問題について図書館、インターネット等を用いて調査してください。	90分
第2回	問題の分析と課題の設定(1)	現代の社会的な問題について整理する。そこからテーマ案について考えます。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テ	90分

			一マ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	
第3回	問題の分析と課題の設定(2)	研究テーマ案についてさらに検討を行い、研究テーマを設定する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	90分
第4回	参考文献、既往研究の収集(1)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第5回	参考文献、既往研究の収集(2)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第6回	参考文献、既往研究の収集(3)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第7回	研究方法の決定(1)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査、制作のスケジュールを立案する。	自らの研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第8回	研究方法の決定(2)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査、制作のスケジュールを立案する。	自らの研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第9回	研究方法の決定(3)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査、制作のスケジュールを立案する。	自らの研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第10回	調査、制作(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、制作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第11回	調査、制作(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、制作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第12回	調査、制作(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、制作など)を自ら計画的に継続して行うこと。模型製作は自宅で行うこと。	90分
第13回	調査、制作(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、制作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第14回	調査、制作(5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、制作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分

第15回	調査、制作 (6)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、制作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分	
学習計画注記		設計制作の場合は卒業設計展等の見学（校外学習）、個々のテーマに応じてフィールドワークを行う場合がある。			
学生へのフィードバック方法		論文、制作共に毎回のゼミで指導、講評を行う。			
評価方法		<p>論文及び制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的背景を理解してテーマを設定できる。 ・テーマに適した研究方法を選択できる。 ・研究方法に沿って資料を収集できる。 ・収集した資料に基づいて考察、結果へと導くことができる。 ・研究、制作に独自性がある。 <p>平常点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業へ積極的に参加し、自らの研究について、他者の研究について意見を述べるができる。 ・自ら進んでテーマと向き合うことができる。 			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	論文または制作	○	○		○
	平常点			○	
評価割合		卒業研究、制作：80% 平常点：20%			
使用教科書名 (ISBN番号)		なし			
参考図書		渡邊研司著：論文はデザインだ！（彰国社）			
ディプロマポリシーとの関連		<p>【知識・理解】「質の高い生活」とは何かを理解し、現代生活の諸問題を理解できる。</p> <p>【思考・判断】生活の諸問題を自ら発見し、問題解決に導く考察をすることができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、社会の問題に関心を持ち、建築、空間を通してそれを解決しようとする意欲を持つことができる。</p> <p>【技術・表現】次世代に繋がる健やかで心豊かな生活を送る為の問題解決と提案ができる。</p>			
オフィスアワー		水曜日 4 時限目			
学生へのメッセージ		常に自身のテーマを頭に留め、情報収集、資料収集に努めてください。また自ら進んでテーマに取り組んでください。興味がある場所、建築には自ら進んで出向き、自らの目で、耳で得た情報を蓄積してください。論文を選択した人は得た情報に基づき、考察を行い結果を導く努力をしてください。制作を行う人は得た情報に基づき、積極的に手を動かして自らの考えを他者へ伝える努力をしてください。			
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	建築設計の実務経験に基づき、論文、制作の指導を行う。			
アクティブ・ラーニング	○	調査研究（フィールドワーク）及びゼミ時間内でのディスカッションを行う。			
情報リテラシー教育	○	文献検索の方法、資料収集及び分析方法、論文の執筆方法、プレゼンテーション法について指導を行う。			
ICT活用					

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究A（竹中）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 竹中 真紀子	指定なし

ナンバリング	G41006C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

卒業研究A

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。	90分
第2回	問題の分析と課題の設定(1)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上	90分

			の情報をを用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	
第3回	問題の分析と課題の設定(2)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報をを用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	90分
第4回	先行研究・参考文献の調査(1)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第5回	先行研究・参考文献の調査(2)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第6回	先行研究・参考文献の調査(3)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第7回	研究方法の決定(1)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第8回	研究方法の決定(2)	研究方法の決定(2)	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第9回	研究方法の決定(3)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第10回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作、分析、執筆など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第11回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第12回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第13回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分

第14回	調査・実験・製作 (分析・まとめを含む) (5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第15回	調査・実験・製作 (分析・まとめを含む) (6)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分

学習計画注記 ※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

- ・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
 - ①研究の目的や意義が明確である。
 - ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。
 - ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
 - ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
 - ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。
- ・平常点は、授業内活動(報告・発表・ディスカッションなど)への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合 卒業研究の内容80%、平常点20%

使用教科書名 (ISBN番号) 東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』その他、授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

- 【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
- 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
- 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
- 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー 前期月曜日昼休み時間～3限目

学生へのメッセージ 授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究A (木村)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 木村 文香	指定なし

ナンバリング	G41006C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見(創造)できることをめざす。 なお木村ゼミ(教育心理学研究室)では、問題解決の方法として、心理学的な手法を用い、心理学的な論文の作成を目指す。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	研究のための活動(文献収集、調査、実験など)に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	自身が行った研究の内容を、学術的な文章によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。	90分
第2回	問題の分析と課題の設定(1)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上	90分

			の情報をを用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	
第3回	問題の分析と課題の設定(2)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報をを用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	90分
第4回	先行研究・参考文献の調査(1)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第5回	先行研究・参考文献の調査(2)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第6回	先行研究・参考文献の調査(3)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第7回	研究方法の決定(1)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第8回	研究方法の決定(2)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第9回	研究方法の決定(3)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第10回	調査・実験(分析・まとめを含む)(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、分析、執筆など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第11回	調査・実験(分析・まとめを含む)(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、分析、執筆など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第12回	調査・実験(分析・まとめを含む)(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、分析、執筆など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第13回	調査・実験(分析・まとめを含む)(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、分析、執筆など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第14回	調査・実験(分析・まとめを含む)(5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、分析、執筆など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分

第15回	調査・実験 (分析・まとめを含む) (6)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、分析、執筆など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分																									
学習計画注記	履修者の状況や各自の研究の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。																												
学生へのフィードバック方法	調査・実験などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。																												
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動(報告・発表・ディスカッションなど)への参加状況、報告、発表、ディスカッションの際の表現の技術、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。 																												
評価基準	<p>評価基準</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">評価方法</th> <th style="width: 20%;">知識・理解 (K)</th> <th style="width: 20%;">思考・判断 (K)</th> <th style="width: 20%;">関心・意欲・態度 (V)</th> <th style="width: 20%;">技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>卒業研究の内容</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>平常点</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	卒業研究の内容	○	○		○	平常点			○	○										
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																									
卒業研究の内容	○	○		○																									
平常点			○	○																									
評価割合	卒業研究の内容50%、平常点50%																												
使用教科書名 (ISBN番号)	なし																												
参考図書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』 2. 松井豊 (著)『改訂新版 心理学論文の書き方—卒業論文や修士論文を書くために』河出書房新社 ¥1,836 3. 浦上昌則・脇田貴文 (著)『心理学・社会科学研究のための 調査系論文の読み方』東京図書 ¥3,024 4. 平井明代 (編著)『教育・心理系研究のためのデータ分析入門 第2版』東京図書 ¥3,024 その他、授業内で随時紹介する。																												
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。</p> <p>【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。</p> <p>【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。</p> <p>【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。</p>																												
オフィスアワー	水曜日4限、5限は卒業研究A受講生を優先するオフィスアワーとして設定します。 会議のない日の木曜日、金曜日3限 (千代田三番町キャンパス 1805室)																												
学生へのメッセージ	自らがやらなければ、研究は先に進みません。卒業研究に費やす時間を十分に確保してください。「早め早め」の気持ちを持ちましょう。卒業研究についての相談には、時間の許す限り応じます。																												
教育等の取組み状況	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;"></th> <th style="width: 10%;">該当有無</th> <th style="width: 75%;">概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。</td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>電子黒板を用いたプレゼンテーションや、パソコンを用いた情報収集やデータ分析、わかりやすい図表の表現方法の習得を行う。</td> </tr> </tbody> </table>					該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。	情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。	ICT活用	○	電子黒板を用いたプレゼンテーションや、パソコンを用いた情報収集やデータ分析、わかりやすい図表の表現方法の習得を行う。										
	該当有無	概要																											
実務経験を活かした授業																													
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。																											
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。																											
ICT活用	○	電子黒板を用いたプレゼンテーションや、パソコンを用いた情報収集やデータ分析、わかりやすい図表の表現方法の習得を行う。																											

シラバス参照

講義名	卒業研究A（三宅）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 三宅 紀子	指定なし

ナンバリング	G41006C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

卒業研究A

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。	90分
第2回	問題の分析と課題の設定(1)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上	90分

			の情報をを用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	
第3回	問題の分析と課題の設定(2)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報をを用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	90分
第4回	先行研究・参考文献の調査(1)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第5回	先行研究・参考文献の調査(2)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第6回	先行研究・参考文献の調査(3)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第7回	研究方法の決定(1)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第8回	研究方法の決定(2)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第9回	研究方法の決定(3)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第10回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	90分
第11回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第12回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第13回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分

第14回	調査・実験・製作 (分析・まとめを含む) (5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第15回	調査・実験・製作 (分析・まとめを含む) (6)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分

学生へのフィードバック方法 調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

- ・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
 - ①研究の目的や意義が明確である。
 - ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。
 - ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
 - ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
 - ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。
- ・平常点は、授業内活動(報告・発表・ディスカッションなど)への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合 卒業研究の内容80%、平常点20%

使用教科書名 (ISBN番号) 特に指定しない

参考図書 東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』その他、授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

- 【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
- 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
- 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
- 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができています。

オフィスアワー 金曜・2時限および昼休み 1609研究室

学生へのメッセージ 食品学、調理学、栄養学およびその実験・実習・演習などの食分野の科目を履修してきてください。授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

シラバス参照

講義名	卒業研究A (内田)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 内田 宗一	指定なし

ナンバリング	G41006C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見(創造)できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動(文献収集、調査、実験、製作など)に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。	90
第2回	問題の分析と課題の設定(1)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テ	90

			一マ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	
第3回	問題の分析と課題の設定(2)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	90
第4回	先行研究・参考文献の調査(1)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第5回	先行研究・参考文献の調査(2)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第6回	先行研究・参考文献の調査(3)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第7回	研究方法の決定(1)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90
第8回	研究方法の決定(2)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90
第9回	研究方法の決定(3)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90
第10回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作、分析、執筆など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第11回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第12回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第13回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第14回	調査・実験・製作	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りま	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実	90

	(分析・まとめを含む) (5)	とめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	
第15回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む) (6)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90

学習計画注記 ※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

- 卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
 - ①研究の目的や意義が明確である。
 - ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。
 - ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
 - ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
 - ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。
- 平常点は、授業内活動(報告・発表・ディスカッションなど)への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合 卒業研究の内容80%、平常点20%

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』その他、授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

- 【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
- 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
- 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
- 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー 火曜3限 1703ゼミ室 (千代田三番町キャンパス、前期)

学生へのメッセージ 授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

シラバス参照

講義名	卒業研究A (太田)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 太田 茜	指定なし

ナンバリング	G41006C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見(創造)できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動(文献収集、調査、実験、制作など)に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、制作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。	90分
第2回	問題の分析と課題の設定(1)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テ	90分

			一マ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	
第3回	問題の分析と課題の設定(2)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	90分
第4回	先行研究・参考文献の調査(1)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第5回	先行研究・参考文献の調査(2)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第6回	先行研究・参考文献の調査(3)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第7回	研究方法の決定(1)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・制作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第8回	研究方法の決定(2)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・制作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第9回	研究方法の決定(3)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・制作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第10回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、制作、分析、執筆など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第11回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、制作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第12回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、制作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第13回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第14回	調査・実験・製作	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りま	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実	90分

	(分析・まとめを含む) (5)	とめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	
第15回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む) (6)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 調査・実験・制作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

- 卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
 - ①研究の目的や意義が明確である。
 - ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。
 - ③研究テーマに適した方法で調査・分析・制作を行うことができている。
 - ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
 - ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、制作した作品で十分に表現することができている。
- 平常点は、授業内活動(報告・発表・ディスカッションなど)への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合 卒業研究の取組姿勢80%、平常点20%

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』その他、授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

- 【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
- 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
- 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
- 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができています。

オフィスアワー 1808ゼミ室 月曜昼休み～3限

学生へのメッセージ 授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・制作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

シラバス参照

講義名	卒業研究A（沼波）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 沼波 秀樹	指定なし

ナンバリング	G41006C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。	90
第2回	問題の分析と課題の設定(1)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テ	90

			一マ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	
第3回	問題の分析と課題の設定(2)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	90
第4回	先行研究・参考文献の調査(1)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第5回	先行研究・参考文献の調査(2)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第6回	先行研究・参考文献の調査(3)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第7回	研究方法の決定(1)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90
第8回	研究方法の決定(2)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90
第9回	研究方法の決定(3)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90
第10回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第11回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第12回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第13回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第14回	調査・実験・製作	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りま	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実	90

	(分析・まとめを含む) (5)	とめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	
第15回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む) (6)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90

学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。
---------------	---

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 <ol style="list-style-type: none"> ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 平常点は、授業内活動(報告・発表・ディスカッションなど)への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。
------	--

評価基準

評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	卒業研究の内容	○	○		○
	平常点			○	

評価割合	研究の達成状況
------	---------

使用教科書名 (ISBN番号)	なし
-----------------	----

参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』その他、授業内で随時紹介する。
------	--

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。</p> <p>【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。</p> <p>【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。</p> <p>【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。</p>
---------------	--

オフィスアワー	木曜日1時間目 1702室
---------	---------------

学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。
-----------	---

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究A（山村）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山村 明子	指定なし

ナンバリング	G41006C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。	90分
第2回	2 問題の分析と課題の設定(1)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テ	90分

			一マ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	
第3回	問題の分析と課題の設定(2)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	90分
第4回	先行研究・参考文献の調査(1)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第5回	先行研究・参考文献の調査(2)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第6回	先行研究・参考文献の調査(3)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第7回	研究方法の決定(1)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第8回	研究方法の決定(2)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第9回	研究方法の決定(3)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第10回	調査(分析・まとめを含む)(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、分析、執筆など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第11回	調査(分析・まとめを含む)(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、分析、執筆など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第12回	調査(分析・まとめを含む)(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第13回	調査(分析・まとめを含む)(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第14回	調査(分析・まとめを含む)(5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第15回	調査(分	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調	自らの研究テーマに応じ、必要	90分

	析・まとめを含む) (6)	査、など)を自ら計画的に継続して行うこと。	な活動(文献収集、調査、な ど)を自ら計画的に継続して行 うこと。																										
学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。																												
学生へのフィードバック方法	調査などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。																												
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 ・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動(報告・発表・ディスカッションなど)への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。 																												
評価基準	<p>評価基準</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">評価方法</th> <th style="width: 20%;">知識・理解 (K)</th> <th style="width: 20%;">思考・判断 (K)</th> <th style="width: 20%;">関心・意欲・態度 (V)</th> <th style="width: 20%;">技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>卒業研究の内容</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>平常点</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	卒業研究の内容	○	○		○	平常点			○											
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																									
卒業研究の内容	○	○		○																									
平常点			○																										
評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%																												
使用教科書名 (ISBN番号)	なし																												
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』その他、授業内で随時紹介する。																												
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。</p>																												
オフィスアワー	月曜日2限 1703ゼミ室																												
学生へのメッセージ	服飾研究の切り口は様々です。自分自身が関心を持つテーマは何かを探るために、ファッション情報なども積極的に収集してください。																												
教育等の取組み状況	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;"></th> <th style="width: 10%;">該当有無</th> <th style="width: 75%;">概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。</td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。	情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。	ICT活用												
	該当有無	概要																											
実務経験を活かした授業																													
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。																											
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。																											
ICT活用																													

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究A (栳田)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 栳田 考一	指定なし

ナンバリング	G41006C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見(創造)できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動(文献収集、調査、実験、製作など)に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。	90
第2回	問題の分析と課題の設定(1)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テ	90

			一マ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	
第3回	問題の分析と課題の設定(2)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	90
第4回	先行研究・参考文献の調査(1)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第5回	先行研究・参考文献の調査(2)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第6回	先行研究・参考文献の調査(3)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第7回	研究方法の決定(1)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90
第8回	研究方法の決定(2)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90
第9回	研究方法の決定(3)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90
第10回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作、分析、執筆など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第11回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第12回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第13回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第14回	調査・実験・製作	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りま	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実	90

	(分析・まとめを含む) (5)	とめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	
第15回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む) (6)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90

学習計画注記 ※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります

学生へのフィードバック方法 調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

- 卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
 - ①研究の目的や意義が明確である。
 - ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。
 - ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
 - ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
 - ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。
- 平常点は、授業内活動(報告・発表・ディスカッションなど)への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合 卒業研究の内容80%、平常点20%

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』その他、授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

- 【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
- 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
- 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができています。
- 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができています。

オフィスアワー 火曜5限

学生へのメッセージ 授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究A（伊藤）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 伊藤 有紀	指定なし

ナンバリング	G41006C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。	90分
第2回	問題の分析と課題の設定(1)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テ	90分

			一マ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	
第3回	問題の分析と課題の設定(2)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	90分
第4回	先行研究・参考文献の調査(1)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第5回	先行研究・参考文献の調査(2)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第6回	先行研究・参考文献の調査(3)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90分
第7回	研究方法の決定(1)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第8回	研究方法の決定(2)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第9回	研究方法の決定(3)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第10回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作、分析、執筆など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第11回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第12回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第13回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第14回	調査・実験・製作	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りま	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実	90分

	(分析・まとめを含む) (5)	とめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	
第15回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む) (6)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分

学習計画注記 ※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

- 卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
 - ①研究の目的や意義が明確である。
 - ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。
 - ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
 - ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
 - ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。
- 平常点は、授業内活動(報告・発表・ディスカッションなど)への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合 卒業研究の内容80%、平常点20%

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』その他、授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

- 【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
- 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
- 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
- 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー 月曜4,5限

学生へのメッセージ 授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

シラバス参照

講義名	卒業研究A (石垣)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石垣 悟	指定なし

ナンバリング	G41006C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見(創造)できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動(文献収集、調査、実験、製作など)に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。	「卒業研究の手引き」をよく読み、卒業研究の概要を確認しておくこと。卒業研究のテーマ案を考えて、これまでに受講した、テーマ案に関連する授業科目の内容を復習しておくこと。「リテラシー演習」の内容を復習しておくこと。	90
第2回	問題の分析と課題の設定(1)	教室外学習の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、その内容を検討することを通じて、問題意識を明確化する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テ	90

			一マ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	
第3回	問題の分析と課題の設定(2)	前回までの授業内容ならびに教室外学習の成果にもとづき、研究テーマ案についてさらに検討を行い、最終的な研究テーマを設定する。	卒業研究のテーマ案に関連する事柄について、書籍・雑誌・新聞等の資料やインターネット上の情報を用いて調べておくこと。それらの作業を通じて、テーマ案に関する基礎知識を身につけるとともに、自らの問題意識を深めておくこと。	90
第4回	先行研究・参考文献の調査(1)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第5回	先行研究・参考文献の調査(2)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第6回	先行研究・参考文献の調査(3)	図書館の利用法、文献探索の方法を理解する。自身が設定した研究テーマに沿った先行研究・参考文献を実際に探索して収集し、それらを読んで内容を理解する。	各自の研究テーマに沿った先行研究・参考文献の探索・収集・精読を進めておくこと。重要な先行研究・参考文献については、内容の整理・要約を行い、研究テーマに関わる基本問題や概念について理解しておくこと。	90
第7回	研究方法の決定(1)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90
第8回	研究方法の決定(2)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90
第9回	研究方法の決定(3)	自身が設定した研究テーマに沿った適切な研究方法を考案し、調査・実験・製作のスケジュールを立案する。	自身の研究テーマと関連する各種先行研究においては、どのような研究方法がとられているかを調べ、情報を整理しておくこと。	90
第10回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第11回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第12回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第13回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第14回	調査・実験・製作	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りま	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実	90

	(分析・まとめを含む) (5)	とめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	
第15回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む) (6)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90

学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。
---------------	---

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 <ol style="list-style-type: none"> ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 平常点は、授業内活動(報告・発表・ディスカッションなど)への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。
------	--

評価基準

評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	卒業研究の内容	○	○		○
	平常点			○	

評価割合	研究の達成状況
------	---------

使用教科書名 (ISBN番号)	なし
-----------------	----

参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』その他、授業内で随時紹介する。
------	--

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。</p> <p>【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。</p> <p>【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。</p> <p>【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。</p>
---------------	--

オフィスアワー	毎週木曜日昼休み (12時10分~12時50分) 1702室
---------	--------------------------------

学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。
-----------	---

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究B（井澤）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井澤 尚子	指定なし

ナンバリング	G41007C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	1 調査・実験・製作(まとめ・考察を含む)(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第2回	2 調査・実験・製作(まとめ・考察を含む)(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第3回	3 調査・実験・製作	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りま	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実	90分

	(まとめ・考察を含む) (3)	とめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	
第4回	4 調査・実験・製作(まとめ・考察を含む) (4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第5回	5 調査・実験・製作(まとめ・考察を含む) (5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第6回	6 論文作成(1)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第7回	7 論文作成(2)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第8回	8 論文作成(3)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第9回	9 論文作成(4)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第10回	10 論文作成(5)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第11回	11 論文作成(6)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第12回	12 卒業研究要旨の作成(1)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。	90分
第13回	13 卒業研究要旨の作成(2)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。	90分
第14回	14 卒業研究発表の準備(1)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成しておくこと。	90分
第15回	15 卒業研究発表の準備(2)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。	90分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	卒業研究の内容	○	○		○
	平常点			○	
評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%				
使用教科書名 (ISBN番号)	なし				
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』その他、授業内で随時紹介する。				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。				
オフィスアワー	月曜日1時限				
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。			
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。			
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B（井上）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 眞弓	指定なし

ナンバリング	G41007C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

卒業研究B

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	調査・実験・製作(まとめ・考察を含む)(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果をとりまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第2回	調査・実験・製作(まとめ・考察を含む)(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果をとりまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第3回	調査・実	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、	自らの研究テーマに応じ、必要	90

	験・製作 (まとめ・ 考察を含 む) (3)	調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りま とめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行 う。	な活動(文献収集、調査、実 験、製作など)を自ら計画的に 継続して行うこと。	
第4回	調査・実 験・製作 (まとめ・ 考察を含 む) (4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、 調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りま とめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行 う。	自らの研究テーマに応じ、必要 な活動(文献収集、調査、実 験、製作など)を自ら計画的に 継続して行うこと。	90
第5回	調査・実 験・製作 (まとめ・ 考察を含 む) (5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、 調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りま とめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行 う。	自らの研究テーマに応じ、必要 な活動(文献収集、調査、実 験、製作など)を自ら計画的に 継続して行うこと。	90
第6回	論文作成 (1)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成 果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した 下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッショ ンなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、 授業時の指導にもとづく下書き の修正を行っておくこと。学術 論文の書き方で不明な点がある 場合は、『リテラシー演習テキ スト』等の参考文献を用いて調 べておくこと。	90
第7回	論文作成 (2)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成 果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した 下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッショ ンなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、 授業時の指導にもとづく下書き の修正を行っておくこと。学術 論文の書き方で不明な点がある 場合は、『リテラシー演習テキ スト』等の参考文献を用いて調 べておくこと。	90
第8回	論文作成 (3)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成 果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した 下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッショ ンなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、 授業時の指導にもとづく下書き の修正を行っておくこと。学術 論文の書き方で不明な点がある 場合は、『リテラシー演習テキ スト』等の参考文献を用いて調 べておくこと。	90
第9回	論文作成 (4)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成 果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した 下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッショ ンなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、 授業時の指導にもとづく下書き の修正を行っておくこと。学術 論文の書き方で不明な点がある 場合は、『リテラシー演習テキ スト』等の参考文献を用いて調 べておくこと。	90
第10回	論文作成 (5)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成 果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した 下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッショ ンなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、 授業時の指導にもとづく下書き の修正を行っておくこと。学術 論文の書き方で不明な点がある 場合は、『リテラシー演習テキ スト』等の参考文献を用いて調 べておくこと。	90
第11回	論文作成 (6)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成 果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した 下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッショ ンなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、 授業時の指導にもとづく下書き の修正を行っておくこと。学術 論文の書き方で不明な点がある 場合は、『リテラシー演習テキ スト』等の参考文献を用いて調 べておくこと。	90
第12回	卒業研究要 旨の作成 (1)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研 究要旨を執筆する。	事前に配布されている執筆要項 を読み、卒業研究要旨の形式等 を確認しておくこと。自身の研 究の要点を事前に整理してまと めておくこと。	90
第13回	卒業研究要 旨の作成 (2)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研 究要旨を執筆する。	前回授業時の指導にもとづき、 卒業研究要旨下書きの修正を行 っておくこと。	90
第14回	卒業研究発 表の準備 (1)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント 資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行 う。作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	パワーポイント資料、発表原稿 の下書きを作成しておくこと。	90
第15回	卒業研究発 表の準備 (2)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント 資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行 う。作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	前回授業時の指導にもとづき、 パワーポイント資料、発表原稿 下書きの修正を行っておくこ と。発表原稿を読み上げる練習 をしておくこと。	90

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	文献調査・実地踏査・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	卒業研究の内容	○	○		○
	平常点			○	
評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%ただし、卒業研究発表会での発表を行わない場合は、評価できない。				
使用教科書名 (ISBN番号)	なし				
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』その他、授業内で各自の必要に応じて適宜指示します。				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。				
オフィスアワー	井上眞弓（水曜日2限）1807室				
学生へのメッセージ	卒業研究の完成に至る過程には、さまざまな学びがあるはずです。そのことを自覚し、自主的に友人の研究についても目を向けましょう。研究室内で議論し合える空間を共有したいものです。なお授業時間以外でも研究を行うことや学習計画には個人差があることを理解して下さい。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。			
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。			
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B（上村）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 上村 協子	指定なし

ナンバリング	G41007C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

卒業研究B

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	調査・実験・製作 (まとめ・考察を含む)(1)	学生各自が設定した研究方法およびスケジュールでテーマ、調査するそれらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第2回	調査・実験・製作 (まとめ・考察を含む)(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第3回	調査・実	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、	自らの研究テーマに応じ、必要	90分

	<p>験・製作（まとめ・考察を含む）(3)</p>	<p>調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。</p>	<p>な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。</p>	
第4回	<p>調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(4)</p>	<p>自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。</p>	<p>自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。</p>	90分
第5回	<p>調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(5)</p>	<p>自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。</p>	<p>自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。</p>	90分
第6回	<p>論文作成(1)</p>	<p>自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。</p>	<p>論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。</p>	90分
第7回	<p>論文作成(2)</p>	<p>自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。</p>	<p>論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。</p>	90分
第8回	<p>論文作成(3)</p>	<p>自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。</p>	<p>論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。</p>	90分
第9回	<p>論文作成(4)</p>	<p>自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。</p>	<p>論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。</p>	90分
第10回	<p>論文作成(5)</p>	<p>自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。</p>	<p>論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。</p>	90分
第11回	<p>論文作成(6)</p>	<p>自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。</p>	<p>論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。</p>	90分
第12回	<p>卒業研究要旨の作成(1)</p>	<p>自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。</p>	<p>事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。</p>	90分
第13回	<p>卒業研究要旨の作成(2)</p>	<p>自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。</p>	<p>前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。</p>	90分
第14回	<p>卒業研究発表の準備(1)</p>	<p>自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。作成した資料にもとづき、発表練習を行う。</p>	<p>パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成しておくこと。</p>	90分
第15回	<p>卒業研究発表の準備(2)</p>	<p>自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。作成した資料にもとづき、発表練習を行う。</p>	<p>前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。</p>	90分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	卒業研究の内容	○	○		○
	平常点			○	
評価割合	卒業研究の内容80% 平常点20%				
使用教科書名 (ISBN番号)	なし				
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』その他、授業内で随時紹介する。				
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。</p> <p>【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。</p> <p>【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。</p> <p>【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができています。</p>				
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。			
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。			
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B（大橋）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 大橋 竜太	指定なし

ナンバリング	G41007C22
授業概要(教育目的)	<p>現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。</p> <p>本研究室では、建築史の論文を書きます。まずは、個別に相談しながら、研究テーマを設定します。その後、各自が設定したテーマに沿って、文献の収集の方法、調査の方法、分析の方法等、論文を書くために必要な技術を学びます。授業はゼミ形式で実施します。各自が作成したレジュメをもとに、1週間の研究成果を発表します。これに対し、教員ならびに研究室の構成員がコメントを述べます。</p>
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	調査・実験・製作(分析・まとめを含む)(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第2回	調査・実験・製作(分析・ま	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りま	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実	90分

	とめを含む) (2)	とめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	験、製作など)を自ら計画的に 継続して行うこと。	
第3回	調査・実験・製作 (分析・まとめを含む) (3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、 調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りま とめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行 う。	自らの研究テーマに応じ、必要 な活動(文献収集、調査、実 験、製作など)を自ら計画的に 継続して行うこと。	90分
第4回	調査・実験・製作 (分析・まとめを含む) (4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、 調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りま とめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行 う。	自らの研究テーマに応じ、必要 な活動(文献収集、調査、実 験、製作など)を自ら計画的に 継続して行うこと。	90分
第5回	調査・実験・製作 (分析・まとめを含む) (5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、 調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りま とめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行 う。	自らの研究テーマに応じ、必要 な活動(文献収集、調査、実 験、製作など)を自ら計画的に 継続して行うこと。	90分
第6回	論文作成 (1)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成 果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下 書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッション などを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、 授業時の指導にもとづく下書き の修正を行っておくこと。学術 論文の書き方で不明な点がある 場合は、『リテラシー演習テキ スト』等の参考文献を用いて調 べておくこと。	90分
第7回	論文作成 (2)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成 果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下 書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッション などを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、 授業時の指導にもとづく下書き の修正を行っておくこと。学術 論文の書き方で不明な点がある 場合は、『リテラシー演習テキ スト』等の参考文献を用いて調 べておくこと。	90分
第8回	論文作成 (3)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成 果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下 書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッション などを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、 授業時の指導にもとづく下書き の修正を行っておくこと。学術 論文の書き方で不明な点がある 場合は、『リテラシー演習テキ スト』等の参考文献を用いて調 べておくこと。	90分
第9回	論文作成 (4)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成 果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下 書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッション などを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、 授業時の指導にもとづく下書き の修正を行っておくこと。学術 論文の書き方で不明な点がある 場合は、『リテラシー演習テキ スト』等の参考文献を用いて調 べておくこと。	90分
第10回	論文作成 (5)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成 果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下 書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッション などを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、 授業時の指導にもとづく下書き の修正を行っておくこと。学術 論文の書き方で不明な点がある 場合は、『リテラシー演習テキ スト』等の参考文献を用いて調 べておくこと。	90分
第11回	論文作成 (6)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成 果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下 書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッション などを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、 授業時の指導にもとづく下書き の修正を行っておくこと。学術 論文の書き方で不明な点がある 場合は、『リテラシー演習テキ スト』等の参考文献を用いて調 べておくこと。	90分
第12回	卒業研究要 旨の作成 (1)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研 究要旨を執筆する。	事前に配布されている執筆要項 を読み、卒業研究要旨の形式等 を確認しておくこと。自身の研 究の要点を事前に整理してまと めておくこと。	90分
第13回	卒業研究要 旨の作成 (2)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研 究要旨を執筆する。	前回授業時の指導にもとづき、 卒業研究要旨下書きの修正を行 っておくこと。	90分
第14回	卒業研究発 表の準備 (1)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイン ト資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行 う。作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	パワーポイント資料、発表原稿 の下書きを作成しておくこと。	90分
第15回	卒業研究発	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイン	前回授業時の指導にもとづき、	90分

	表の準備 (2)	ト資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。																									
学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。																											
学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。																											
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができる。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。 																											
評価基準	<p>評価基準</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">評価方法</th> <th style="width: 25%;">知識・理解 (K)</th> <th style="width: 25%;">思考・判断 (K)</th> <th style="width: 25%;">関心・意欲・態度 (V)</th> <th style="width: 25%;">技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>卒業研究の内容</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>平常点</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	卒業研究の内容	○	○		○	平常点			○											
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																								
卒業研究の内容	○	○		○																								
平常点			○																									
評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%																											
使用教科書名 (ISBN番号)	なし																											
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』その他、授業内で随時紹介する。																											
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。</p> <p>【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。</p> <p>【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。</p>																											
オフィスアワー	月曜2限 1702室																											
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。本研究室では、建築史および建築保存の論文指導を行うので、建築史Aおよび建築史Bの履修が望まれる。																											
教育等の取組み状況	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;"></th> <th style="width: 10%;">該当有無</th> <th style="width: 70%;">概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。</td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。	情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。	ICT活用												
	該当有無	概要																										
実務経験を活かした授業																												
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。																										
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。																										
ICT活用																												

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B（大嶋）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大嶋 徹	指定なし

ナンバリング	G41007C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	調査・実験・製作(まとめ・考察を含む)(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第2回	調査・実験・製作(まとめ・考察を含む)(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第3回	調査・実験・製作	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りま	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実	90

	(まとめ・考察を含む) (3)	とめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	
第4回	調査・実験・製作(まとめ・考察を含む) (4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第5回	調査・実験・製作(まとめ・考察を含む) (5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第6回	論文作成(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第7回	論文作成(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第8回	論文作成(3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第9回	論文作成(4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第10回	論文作成(5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第11回	論文作成(6)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。	90
第12回	卒業研究要旨の作成(1)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。	90
第13回	卒業研究要旨の作成(2)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成しておくこと。	90
第14回	卒業研究発表の準備(1)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第15回	卒業研究発表の準備(2)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。	90

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。				
評価方法	卒業研究の内容80%、平常点20%				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	卒業研究の内容	○	○		○
	平常点			○	
評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%				
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』その他、授業内で随時紹介する。				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。				
オフィスアワー	金曜4限				
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業		学会発表や講師実践活動。			
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。			
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。			
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B (小野)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小野 由美子	指定なし

ナンバリング	G41007C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見(創造)できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動(文献収集、調査、実験、製作など)に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	調査・実験・製作(まとめ・考察を含む)(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第2回	調査・実験・製作(まとめ・考察を含む)(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第3回	調査・実験・製作	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りま	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実	90

	(まとめ・考察を含む) (3)	とめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	
第4回	調査・実験・製作(まとめ・考察を含む) (4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第5回	調査・実験・製作(まとめ・考察を含む) (5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第6回	論文作成(1)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第7回	論文作成(2)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第8回	論文作成(3)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第9回	論文作成(4)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第10回	論文作成(5)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第11回	論文作成(6)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第12回	卒業研究要旨の作成(1)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。	90
第13回	卒業研究要旨の作成(2)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。	90
第14回	卒業研究発表の準備(1)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成しておくこと。	90
第15回	卒業研究発表の準備(2)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。	90

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります				
学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。				
評価方法	<p>・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。</p> <p>①研究の目的や意義が明確である。</p> <p>②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。</p> <p>③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。</p> <p>④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。</p> <p>⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。</p> <p>・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。</p>				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	卒業研究の内容	○	○		○
	平常点			○	
評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%				
使用教科書名 (ISBN番号)	なし				
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』その他、授業内で随時紹介する。				
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。</p> <p>【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。</p> <p>【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。</p> <p>【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。</p>				
オフィスアワー	【後期】水曜日 1701ゼミ室 10:40~12:50				
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。			
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。			
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B（金森）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 金森 敏	指定なし

ナンバリング	G41007C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	調査・実験・製作 (まとめ・考察を含む)(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第2回	調査・実験・製作 (まとめ・考察を含む)(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第3回	調査・実験・製作	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りま	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実	90分

	(まとめ・考察を含む) (3)	とめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	
第4回	調査・実験・製作(まとめ・考察を含む) (4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第5回	調査・実験・製作(まとめ・考察を含む) (5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第6回	論文作成(1)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第7回	論文作成(2)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第8回	論文作成(3)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第9回	論文作成(4)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第10回	論文作成(5)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第11回	論文作成(6)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第12回	卒業研究要旨の作成(1)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。	90分
第13回	卒業研究要旨の作成(2)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。	90分
第14回	卒業研究発表の準備(1)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成しておくこと。	90分
第15回	卒業研究発表の準備(2)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。	90分

学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。 			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
卒業研究の内容	○	○		
平常点			○	○
評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%			
使用教科書名 (ISBN番号)	なし			
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』その他、授業内で随時紹介する。			
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。</p> <p>【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。</p> <p>【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。</p> <p>【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。</p>			
オフィスアワー	前期火曜日4限、後期金曜日3限。 ただし、事前にアポをとってこること。			
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。		
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。		
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B（佐藤）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 佐藤 広美	指定なし

ナンバリング

G41007C22

授業概要(教育目的)

自らが見出した生活に関する課題を研究テーマに仕上げ手、表現し、発信する意義を論じる。そのテーマの自分独自性を発見し、探求する心地よさを体験すること。学生に問題関心を良く聴き、そのために追求すべき学問的方法を伝えること。自分の生き方と社会の課題を結びあわせる、そうした学問的方法を身につけること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	テーマに関する基本問題や概念について理解し、理論的体系的に説明できる
思考・判断の観点 (K)	問題関心を明確にし、テーマを設定できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	文献調査、資料収集、実験などみずから積極的に継続してとり組む
技術・表現の観点 (A)	自分が行った研究の内容を、学術的な文章や適切な表現で、発表できる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	問題意識の再整理、	問題意識の深化のために必要な資料収集をねばり強く行うこと。書籍、雑誌論文、聞き取り、インターネット上の情報収集、などを通して、こまめにノート・カード化をすすめること。適宜、自分自身のコメントを添付すること	90分
第2回	テーマの発見と論文の構成	問題意識の再整理、	問題意識の深化のために必要な資料収集をねばり強く行うこと。書籍、雑誌論文、聞き取り、インターネット上の情報収集、などを通して、こまめにノート・カード化をすすめること。適宜、自分自身のコメントを添付すること	90分
第3回	テーマの発見と論文の	問題意識の再整理、	問題意識の深化のために必要な資料収集をねばり強く行うこ	90分

	構成		と。書籍、雑誌論文、聞き取り、インターネット上の情報収集、などを通して、こまめにノート・カード化をすすめること。適宜、自分自身のコメントを添付すること	
第4回	テーマの発見と論文の構成	問題意識の再整理、	問題意識の深化のために必要な資料収集をねばり強く行うこと。書籍、雑誌論文、聞き取り、インターネット上の情報収集、などを通して、こまめにノート・カード化をすすめること。適宜、自分自身のコメントを添付すること	90分
第5回	テーマの発見と論文の構成	問題意識の再整理、章立ての工夫、結論の明確、	問題意識の深化のために必要な資料収集をねばり強く行うこと。書籍、雑誌論文、聞き取り、インターネット上の情報収集、などを通して、こまめにノート・カード化をすすめること。適宜、自分自身のコメントを添付すること	90分
第6回	テーマの発見と論文の構成	問題意識の再整理、章立ての工夫、結論の明確、	問題意識の深化のために必要な資料収集をねばり強く行うこと。書籍、雑誌論文、聞き取り、インターネット上の情報収集、などを通して、こまめにノート・カード化をすすめること。適宜、自分自身のコメントを添付すること	90分
第7回	テーマの発見と論文の構成	問題意識の再整理、章立ての工夫、結論の明確、	問題意識の深化のために必要な資料収集をねばり強く行うこと。書籍、雑誌論文、聞き取り、インターネット上の情報収集、などを通して、こまめにノート・カード化をすすめること。適宜、自分自身のコメントを添付すること	90分
第8回	テーマの発見と論文の構成	問題意識の再整理、章立ての工夫、結論の明確、	問題意識の深化のために必要な資料収集をねばり強く行うこと。書籍、雑誌論文、聞き取り、インターネット上の情報収集、などを通して、こまめにノート・カード化をすすめること。適宜、自分自身のコメントを添付すること	90分
第9回	テーマの発見と論文の構成	問題意識の再整理、章立ての工夫、結論の明確、	問題意識の深化のために必要な資料収集をねばり強く行うこと。書籍、雑誌論文、聞き取り、インターネット上の情報収集、などを通して、こまめにノート・カード化をすすめること。適宜、自分自身のコメントを添付すること	90分
第10回	テーマの発見と論文の構成	問題意識の再整理、章立ての工夫、結論の明確、	問題意識の深化のために必要な資料収集をねばり強く行うこと。書籍、雑誌論文、聞き取り、インターネット上の情報収集、などを通して、こまめにノート・カード化をすすめること。適宜、自分自身のコメントを添付すること	90分
第11回	テーマの発見と論文の構成	問題意識の再整理、章立ての工夫、結論の明確、	問題意識の深化のために必要な資料収集をねばり強く行うこと。書籍、雑誌論文、聞き取り、インターネット上の情報収集、などを通して、こまめにノート・カード化をすすめること。適宜、自分自身のコメントを添付すること	90分
第12回	論文の構成、オリジナリティの追求、	序章と終章、本章の独自性、結論の明確化	テーマと論文の構成、オリジナリティの追求に関する理論化の作業、ノートとカードを利用した文章化	90分

第13回	論文の構成、オリジナリティの追求、	序章と終章、本章の独自性、結論の明確化	テーマと論文の構成、オリジナリティの追求に関する理論化の作業、ノートとカードを利用した文章化	90分
第14回	論文の構成、オリジナリティの追求、	序章と終章、本章の独自性、結論の明確化	テーマと論文の構成、オリジナリティの追求に関する理論化の作業、ノートとカードを利用した文章化	90分
第15回	論文の構成、オリジナリティの追求、	序章と終章、本章の独自性、結論の明確化	テーマと論文の構成、オリジナリティの追求に関する理論化の作業、ノートとカードを利用した文章化	90分

学生へのフィードバック方法 随時、学生から発表された研究成果に対し、講評、助言、添削など、行う。

評価方法 卒研の内容と平常点の総合評価

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
卒研の内容	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合 卒研本体9割、平常点1割

使用教科書名 (ISBN番号) なし、

参考図書 講義で、随時、紹介する。

ディプロマポリシーとの関連 知識・理解、総合的な家政学の立場に立ち、現代生活の諸問題を理解できる
思考・判断、生活・社会の諸問題を自ら発見し、問題解決に向け考察することができる
関心意欲態度、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる
技能・表現、心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信できる

オフィスアワー 水曜4限

学生へのメッセージ 卒研AIに記した。そちらを参照。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B（青柳）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 青柳 由佳	指定なし

ナンバリング	G41007C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した住生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行い、製作や研究論文の形にまとめていただく。いずれも自分なりの問題意識に立ち、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論、設計の出し方、発表、プレゼンテーションの方法など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。 本研究室は建築構法に基づいた研究テーマに沿って、論文及び制作を行います。具体的なテーマの設定については、個別に相談を行い決定します。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。 インテリアCAD演習を単位取得済みであることが望ましい。 建築士指定科目をなるべく多く履修していることが望ましい。 制作を選択する場合は設計製図演習を単位取得済みであること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	現在の社会的な問題について理解し説明ができる。
思考・判断の観点 (K)	現在の社会的な問題と自身の関心とに向き合い、研究テーマの設定ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自ら進んで研究テーマに取り組みことができる。
技術・表現の観点 (A)	研究テーマに沿った調査ができその資料をもとに考察ができそれを論文として執筆できる。研究テーマに沿った調査ができその資料をもとに建築設計を行い作品して表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	論文の執筆、作品の制作(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第2回	論文の執筆、作品の制作(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分

第3回	論文の執筆、作品の制作 (3)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果をとりまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第4回	論文の執筆、作品の制作 (4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果をとりまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第5回	論文の執筆、作品の制作 (5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果をとりまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第6回	論文の執筆、作品の制作 (6)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果をとりまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第7回	論文の執筆、作品の制作 (7)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果をとりまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第8回	論文の執筆、作品の制作 (8)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果をとりまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第9回	論文の執筆、作品の制作 (9)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果をとりまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第10回	論文の執筆、作品の制作 (10)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果をとりまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第11回	論文の執筆、作品の制作 (11)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果をとりまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。本論の提出をする。（データおよびプリントアウトしたもの）	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第12回	論文、作品要旨の作成 (1)	論文、作品要旨の作成をする。	要旨の執筆要項を確認して、自らの研究に沿って簡潔にまとめられるように整理しておく。	90分
第13回	論文、作品要旨の作成 (2)	論文、作品要旨の提出をし、確認後に受領する。（データおよびプリントアウトしたもの）	前回の授業の指導に基づき、要旨を完成させる。	90分
第14回	卒業研究発表会の準備 (1)	口頭発表用のパワーポイントおよび原稿を作成する。	教室外においても口頭発表用のパワーポイントを作成を進める。	90分
第15回	卒業研究発表会の準備 (2)	口頭発表用のパワーポイントおよび原稿の検討を行い、発表練習を行う。	教室外においても発表原稿を作成、推考し、発表練習を行う。	90分

学習計画注記 それぞれのテーマによってスケジュールが変更になる場合がありますが、本論、要旨、口頭発表の提出期限は統一されており、これを厳守すること。

学生へのフィードバック方法 調査・制作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

論文及び制作

- ・社会的背景を理解してテーマを設定できる。
- ・テーマに適した研究方法を選択できる。
- ・研究方法に沿って資料を収集できる。
- ・収集した資料に基づいて考察、結果へと導くことができる。
- ・研究、制作に独自性がある。

平常点

- ・授業へ積極的に参加し、自らの研究について、他者の研究について意見を述べるができる。
- ・自ら進んでテーマと向き合うことができる。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
------	-----------	-----------	--------------	-----------

論文・制作	○	○	○
平常点			○

評価割合	論文、制作：80% 平常点：20%
使用教科書名 (ISBN番号)	なし
参考図書	論文 渡邊研司著：論文はデザインだ！（彰国社）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「質の高い生活」とは何かを理解し、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活の諸問題を自ら発見し、問題解決に導く考察をすることができる。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、社会の問題に関心を持ち、建築、空間を通してそれを解決しようとする意欲を持つことができる。 【技術・表現】次世代に繋がる健やかで心豊かな生活を送る為の問題解決と提案ができる。
オフィスアワー	水曜日 3 時限目
学生へのメッセージ	常に自身のテーマを頭に留め、情報収集、資料収集に努めてください。また自ら進んでテーマに取り組んでください。興味がある場所、建築には自ら進んで出向き、自らの目で、耳で得た情報を蓄積してください。論文を選択した人は得た情報に基づき、考察を行い結果を導く努力をしてください。制作を行う人は得た情報に基づき、積極的に手を動かして自らの考えを他者へ伝える努力をしてください。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	建築設計の実務経験に基づき、論文、制作の指導を行う。
アクティブ・ラーニング	○	調査研究（フィールドワーク）及びゼミ時間内でのディスカッションを行う。
情報リテラシー教育	○	文献検索の方法、資料収集及び分析方法、論文の執筆方法、プレゼンテーション法について指導を行う。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B（竹中）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 竹中 真紀子	指定なし

ナンバリング	G41007C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

卒業研究B

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	調査・実験・製作(まとめ・考察を含む)(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第2回	調査・実験・製作(まとめ・考察を含む)(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第3回	調査・実	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、	自らの研究テーマに応じ、必要	90分

	<p>験・製作（まとめ・考察を含む）(3)</p>	<p>調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。</p>	<p>な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。</p>	
第4回	<p>調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(4)</p>	<p>自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。</p>	<p>自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。</p>	90分
第5回	<p>調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(5)</p>	<p>自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。</p>	<p>自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。</p>	90分
第6回	<p>論文作成(1)</p>	<p>自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。</p>	<p>論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。</p>	90分
第7回	<p>論文作成(2)</p>	<p>自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。</p>	<p>論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。</p>	90分
第8回	<p>論文作成(3)</p>	<p>自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。</p>	<p>論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。</p>	90分
第9回	<p>論文作成(4)</p>	<p>自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。</p>	<p>論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。</p>	90分
第10回	<p>論文作成(5)</p>	<p>自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。</p>	<p>論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。</p>	90分
第11回	<p>論文作成(6)</p>	<p>自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。</p>	<p>論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。</p>	90分
第12回	<p>卒業研究要旨の作成(1)</p>	<p>自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。</p>	<p>事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。</p>	90分
第13回	<p>卒業研究要旨の作成(2)</p>	<p>自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。</p>	<p>前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。</p>	90分
第14回	<p>卒業研究発表の準備(1)</p>	<p>自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。作成した資料にもとづき、発表練習を行う。</p>	<p>パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成しておくこと。</p>	90分
第15回	<p>卒業研究発表の準備(2)</p>	<p>自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。作成した資料にもとづき、発表練習を行う。</p>	<p>前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。</p>	90分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	卒業研究の内容	○	○		○
	平常点			○	
評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%				
使用教科書名 (ISBN番号)	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』その他、授業内で随時紹介する。				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。				
オフィスアワー	後期：火曜日3-4時限目				
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。			
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。			
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B (木村)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 木村 文香	指定なし

ナンバリング	G41007C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見(創造)できることをめざす。 なお木村ゼミ(教育心理学研究室)では、問題解決の方法として、心理学的な手法を用い、心理学的な論文の作成を目指す。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	研究のための活動(文献収集、調査、実験など)に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	自身が行った研究の内容を、学術的な文章によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	調査・実験(まとめ・考察を含む)(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、分析、執筆など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第2回	調査・実験(まとめ・考察を含む)(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、分析、執筆など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第3回	調査・実験(まとめ・)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実	90分

	考察を含む) (3)	随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	験、分析、執筆など)を自ら計画的に継続して行うこと。	
第4回	調査・実験 (まとめ・ 考察を含む) (4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、分析、執筆など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第5回	調査・実験 (まとめ・ 考察を含む) (5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、分析、執筆など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第6回	論文作成 (1)	自身の行ってきた研究について、調査・実験の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第7回	論文作成 (2)	自身の行ってきた研究について、調査・実験の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第8回	論文作成 (3)	自身の行ってきた研究について、調査・実験の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第9回	論文作成 (4)	自身の行ってきた研究について、調査・実験の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第10回	論文作成 (5)	自身の行ってきた研究について、調査・実験の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第11回	論文作成 (6)	自身の行ってきた研究について、調査・実験の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第12回	卒業研究要 旨の作成 (1)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。	90分
第13回	卒業研究要 旨の作成 (2)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。	90分
第14回	卒業研究発 表の準備 (1)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成しておくこと。	90分
第15回	卒業研究発 表の準備 (1)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げ、所定の時間内にわかりやすく伝える練習をしておくこと。	90分

学習計画注記

履修者の状況や各自の研究の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法	調査・実験などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。																												
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、報告、発表、ディスカッションの際の表現の技術、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。																												
評価基準	評価基準 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">評価方法</th> <th style="width: 25%;">知識・理解 (K)</th> <th style="width: 25%;">思考・判断 (K)</th> <th style="width: 25%;">関心・意欲・態度 (V)</th> <th style="width: 10%;">技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>卒業研究の内容</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>平常点</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	卒業研究の内容	○	○		○	平常点			○	○										
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																									
卒業研究の内容	○	○		○																									
平常点			○	○																									
評価割合	卒業研究の内容50%、平常点50%																												
使用教科書名 (ISBN番号)	なし																												
参考図書	1. 東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』 2. 松井豊 (著)『改訂新版 心理学論文の書き方—卒業論文や修士論文を書くために』河出書房新社 ¥1,836 3. 浦上昌則・脇田貴文 (著)『心理学・社会科学研究のための 調査系論文の読み方』東京図書 ¥3,024 4. 平井明代 (編著)『教育・心理系研究のためのデータ分析入門 第2版』東京図書 ¥3,024 その他、授業内で随時紹介する。																												
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。																												
オフィスアワー	水曜日4限、5限、金曜日の3限は卒業研究A受講生を優先するオフィスアワーとして設定します。 会議のない日の木曜日 (千代田三番町キャンパス 1805室)																												
学生へのメッセージ	自らがやらなければ、研究は先に進みません。卒業研究に費やす時間を十分に確保してください。「早め早め」の気持ちを持ちましょう。卒業研究についての相談には、時間の許す限り応じます。																												
教育等の取り組み状況	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;"></th> <th style="width: 10%;">該当有無</th> <th style="width: 75%;">概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。</td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>電子黒板を用いたプレゼンテーションや、パソコンを用いた情報収集やデータ分析、わかりやすい図表の表現方法の習得を行う。</td> </tr> </tbody> </table>					該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。	情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。	ICT活用	○	電子黒板を用いたプレゼンテーションや、パソコンを用いた情報収集やデータ分析、わかりやすい図表の表現方法の習得を行う。										
	該当有無	概要																											
実務経験を活かした授業																													
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。																											
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。																											
ICT活用	○	電子黒板を用いたプレゼンテーションや、パソコンを用いた情報収集やデータ分析、わかりやすい図表の表現方法の習得を行う。																											

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B（三宅）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 三宅 紀子	指定なし

ナンバリング	G41007C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

卒業研究B

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	調査・実験・製作(まとめ・考察を含む)(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果をとりまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第2回	調査・実験・製作(まとめ・考察を含む)(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果をとりまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第3回	調査・実	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、	自らの研究テーマに応じ、必要	90分

	<p>験・製作（まとめ・考察を含む）(3)</p>	<p>調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。</p>	<p>な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。</p>	
第4回	<p>調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(4)</p>	<p>自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。</p>	<p>自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。</p>	90分
第5回	<p>調査・実験・製作（まとめ・考察を含む）(5)</p>	<p>自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。</p>	<p>自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。</p>	90分
第6回	<p>論文作成(1)</p>	<p>自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。</p>	<p>論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。</p>	90分
第7回	<p>論文作成(2)</p>	<p>自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。</p>	<p>論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。</p>	90分
第8回	<p>論文作成(3)</p>	<p>自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。</p>	<p>論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。</p>	90分
第9回	<p>論文作成(4)</p>	<p>自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。</p>	<p>論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。</p>	90分
第10回	<p>論文作成(5)</p>	<p>自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。</p>	<p>論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。</p>	90分
第11回	<p>論文作成(6)</p>	<p>自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。</p>	<p>論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。</p>	90分
第12回	<p>卒業研究要旨の作成(1)</p>	<p>自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。</p>	<p>事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。</p>	90分
第13回	<p>卒業研究要旨の作成(2)</p>	<p>自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。</p>	<p>前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。</p>	90分
第14回	<p>卒業研究発表の準備(1)</p>	<p>自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。作成した資料にもとづき、発表練習を行う。</p>	<p>パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成しておくこと。</p>	90分
第15回	<p>卒業研究発表の準備(2)</p>	<p>自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。作成した資料にもとづき、発表練習を行う。</p>	<p>前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。</p>	90分

学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。 			
評価基準	評価基準			
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)
	卒業研究の内容	○	○	○
	平常点			○
評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%			
使用教科書名 (ISBN番号)	なし			
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』その他、授業内で随時紹介する。			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。			
オフィスアワー	金曜・1, 2時限 1609研究室			
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。		
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。		
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B（内田）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 内田 宗一	指定なし

ナンバリング	G41007C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	調査・実験・製作(まとめ・考察を含む)(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第2回	調査・実験・製作(まとめ・考察を含む)(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第3回	調査・実験・製作	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りま	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実	90

	(まとめ・考察を含む) (3)	とめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	
第4回	調査・実験・製作(まとめ・考察を含む) (4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第5回	調査・実験・製作(まとめ・考察を含む) (5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第6回	論文作成(1)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第7回	論文作成(2)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第8回	論文作成(3)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第9回	論文作成(4)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第10回	論文作成(5)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第11回	論文作成(6)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第12回	卒業研究要旨の作成(1)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。	90
第13回	卒業研究要旨の作成(2)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。	90
第14回	卒業研究発表の準備(1)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成しておくこと。	90
第15回	卒業研究発表の準備(2)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。	90

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	卒業研究の内容	○		○	○
	平常点		○		
評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%				
使用教科書名 (ISBN番号)	なし				
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』その他、授業内で随時紹介する。				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。				
オフィスアワー	金曜3限 1703ゼミ室（千代田三番町キャンパス、後期）				
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。			
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。			
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B (太田)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 太田 茜	指定なし

ナンバリング	G41007C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見(創造)できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動(文献収集、調査、実験、制作など)に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、制作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	調査・実験・制作(まとめ・考察を含む)(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、制作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第2回	調査・実験・制作(まとめ・考察を含む)(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、制作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第3回	調査・実験・制作	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りま	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実	90分

	(まとめ・考察を含む) (3)	とめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	験、制作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	
第4回	調査・実験・制作(まとめ・考察を含む) (4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、制作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第5回	調査・実験・制作(まとめ・考察を含む) (5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、制作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第6回	論文作成(1)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・制作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第7回	論文作成(2)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・制作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第8回	論文作成(3)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・制作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第9回	論文作成(4)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・制作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第10回	論文作成(5)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・制作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第11回	論文作成(6)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・制作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第12回	卒業研究要旨の作成(1)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。	90分
第13回	卒業研究要旨の作成(2)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。	90分
第14回	卒業研究発表の準備(1)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成して決められた時間内に収めるよう準備すること。	90分
第15回	卒業研究発表の準備(2)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けたプレゼンテーションの準備を行う。作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。	90分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	調査・実験・制作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・制作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、制作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	卒業研究の内容	○	○		○
	平常点			○	
評価割合	卒業研究への内容80%、平常点20%				
使用教科書名 (ISBN番号)	なし				
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』その他、授業内で随時紹介する。				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。				
オフィスアワー	1808ゼミ室 月曜日昼休み～3限				
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・制作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。			
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。			
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B（沼波）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 沼波 秀樹	指定なし

ナンバリング	G41007C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	調査・実験・製作(まとめ・考察を含む)(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第2回	調査・実験・製作(まとめ・考察を含む)(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第3回	調査・実験・製作	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りま	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実	90

	(まとめ・考察を含む) (3)	とめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	
第4回	調査・実験・製作(まとめ・考察を含む) (4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第5回	調査・実験・製作(まとめ・考察を含む) (5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第6回	論文作成(1)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第7回	論文作成(2)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第8回	論文作成(3)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第9回	論文作成(4)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第10回	論文作成(5)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第11回	論文作成(6)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第12回	卒業研究要旨の作成(1)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。	90
第13回	卒業研究要旨の作成(1)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。	90
第14回	卒業研究発表の準備(1)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成しておくこと。	90
第15回	卒業研究発表の準備(2)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。	90

学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。 			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	
評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%			
使用教科書名 (ISBN番号)	なし			
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』その他、授業内で随時紹介する。			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。			
オフィスアワー	木曜日1時間目 1702室			
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。		
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。		
ICT活用				

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究B（山村）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山村 明子	指定なし

ナンバリング	G41007C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	調査(まとめ・考察を含む)(1)	自身が設定した研究方法及びスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	研究テーマに応じ、必要な文献収集、調査などを計画的に継続して行う。	90分
第2回	調査(まとめ・考察を含む)(2)	自身が設定した研究方法及びスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	研究テーマに応じ、必要な文献収集、調査などを計画的に継続して行う。	90分
第3回	調査(まとめ・考察を含む)(3)	自身が設定した研究方法及びスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	研究テーマに応じ、必要な文献収集、調査などを計画的に継続して行う。	90分
第4回	調査(まとめ・考察を含む)(4)	自身が設定した研究方法及びスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	研究テーマに応じ、必要な文献収集、調査などを計画的に継続して行う。	90分

	含む) (4)	告・発表・ディスカッションなどを行う。	して行う。	
第5回	調査(まとめ・考察を含む) (5)	自身が設定した研究方法及びスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	研究テーマに応じ、必要な文献収集、調査などを計画的に継続して行う。	90分
第6回	論文作成 (1)	自身が設定した研究方法及びスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導に基づく下書きの修正を行っていくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第7回	論文作成 (2)	自身が設定した研究方法及びスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導に基づく下書きの修正を行っていくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第8回	論文作成 (3)	自身が設定した研究方法及びスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導に基づく下書きの修正を行っていくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第9回	論文作成 (4)	自身が設定した研究方法及びスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導に基づく下書きの修正を行っていくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第10回	論文作成 (5)	自身が設定した研究方法及びスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導に基づく下書きの修正を行っていくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第11回	論文作成 (6)	自身が設定した研究方法及びスケジュールに従って、調査を行う。それらの作業結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導に基づく下書きの修正を行っていくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第12回	卒業研究要旨の作成 (1)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	執筆要項を読み卒業研究要旨の形式などを確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。	90分
第13回	卒業研究要旨の作成 (2)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	前回授業時の指導に基づき、卒業研究要旨の下書きの修正をする。	90分
第14回	卒業研究発表の準備 (1)	研究の内容に基づき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。作成した資料に基づき、発表練習を行う。	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成する。	90分
第15回	卒業研究発表の準備 (2)	研究の内容に基づき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。作成した資料に基づき、発表練習を行う。	前回授業時の指導に基づき、パワーポイント資料、発表原稿の下書きの修正を行っていくこと。発表の練習をしておくこと。	90分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

調査などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。

評価方法

- ・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。
 - ①研究の目的や意義が明確である。
 - ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。
 - ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。
 - ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。
 - ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができる。

・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	

評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』 その他、授業内で随時紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。
オフィスアワー	月曜日2限 1703ゼミ室
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。卒業論文は自身の考えを自分の言葉で文章としてまとめるなければいけません。文章力を高めるためには、意識して日常的に多くの文章を読むようにしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学术论文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B (栞田)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 栞田 考一	指定なし

ナンバリング	G41007C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見(創造)できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動(文献収集、調査、実験、製作など)に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	調査・実験・製作(まとめ・考察を含む)(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第2回	調査・実験・製作(まとめ・考察を含む)(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第3回	調査・実験・製作	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りま	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実	90

	(まとめ・考察を含む) (3)	とめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	
第4回	調査・実験・製作(まとめ・考察を含む) (4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第5回	調査・実験・製作(まとめ・考察を含む) (5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第6回	論文作成(1)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第7回	論文作成(2)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第8回	論文作成(3)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第9回	論文作成(4)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第10回	論文作成(5)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第11回	論文作成(6)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第12回	卒業研究要旨の作成(1)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。	90
第13回	卒業研究要旨の作成(2)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。	90
第14回	卒業研究発表の準備(1)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成しておくこと。	90
第15回	卒業研究発表の準備(2)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。	90

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	卒業研究の内容	○	○		○
	平常点			○	
評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%				
使用教科書名 (ISBN番号)	なし				
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』その他、授業内で随時紹介する。				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。				
オフィスアワー	火曜5限				
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。			
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。			
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B（伊藤）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 伊藤 有紀	指定なし

ナンバリング	G41007C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	調査・実験・製作(まとめ・考察を含む)(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第2回	調査・実験・製作(まとめ・考察を含む)(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第3回	調査・実験・製作	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りま	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実	90分

	(まとめ・考察を含む) (3)	とめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	
第4回	調査・実験・製作(まとめ・考察を含む) (4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第5回	調査・実験・製作(まとめ・考察を含む) (5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90分
第6回	論文作成(1)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第7回	論文作成(2)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第8回	論文作成(3)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第9回	論文作成(4)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第10回	論文作成(5)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第11回	論文作成(6)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90分
第12回	卒業研究要旨の作成(1)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。	90分
第13回	卒業研究要旨の作成(2)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。	90分
第14回	卒業研究発表の準備(1)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成しておくこと。	90分
第15回	卒業研究発表の準備(2)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。	90分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合がある。				
学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	卒業研究の内容	○	○		○
	平常点			○	
評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%				
使用教科書名 (ISBN番号)	なし				
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』その他、授業内で随時紹介する。				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。				
オフィスアワー	金曜1, 2限				
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。			
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。			
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B（石垣）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石垣 悟	指定なし

ナンバリング	G41007C22
授業概要(教育目的)	現代家政学科における4年間の学習の集大成として、自らが見出した、生活に関わる課題を研究テーマとして設定し、調査や分析を行う。自分なりの問題意識に立ち、なぜ、そのような問題が重要であるのか、深く考究していく。学生は、そのテーマにふさわしい教員を選び、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、調査、実験、結論の出し方、発表の仕方など、適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見（創造）できることをめざす。
履修条件	卒業要件単位を80単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 研究テーマに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる 2 研究テーマに関わる先行研究の内容を理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1 自身の問題意識を明確化して、自ら研究のテーマを設定することができる。 2 自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1 研究のための活動（文献収集、調査、実験、製作など）に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1 自身が行った研究の内容を、学術的な文章や、製作した作品によって、適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	調査・実験・製作(まとめ・考察を含む)(1)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第2回	調査・実験・製作(まとめ・考察を含む)(2)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実験、製作など）を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第3回	調査・実験・製作	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りま	自らの研究テーマに応じ、必要な活動（文献収集、調査、実	90

	(まとめ・考察を含む) (3)	とめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	
第4回	調査・実験・製作(まとめ・考察を含む) (4)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第5回	調査・実験・製作(まとめ・考察を含む) (5)	自身が設定した研究方法およびスケジュールに従って、調査・実験・製作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	自らの研究テーマに応じ、必要な活動(文献収集、調査、実験、製作など)を自ら計画的に継続して行うこと。	90
第6回	論文作成(1)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第7回	論文作成(2)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第8回	論文作成(3)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第9回	論文作成(4)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第10回	論文作成(5)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第11回	論文作成(6)	自身の行ってきた研究について、調査・実験・製作の成果を学術的な文章としてまとめあげていく。執筆した下書きにもとづき、随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	論文下書きの執筆、ならびに、授業時の指導にもとづく下書きの修正を行っておくこと。学術論文の書き方で不明な点がある場合は、『リテラシー演習テキスト』等の参考文献を用いて調べておくこと。	90
第12回	卒業研究要旨の作成(1)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	事前に配布されている執筆要項を読み、卒業研究要旨の形式等を確認しておくこと。自身の研究の要点を事前に整理してまとめておくこと。	90
第13回	卒業研究要旨の作成(1)	自身の行ってきた研究の要点を整理してまとめ、卒業研究要旨を執筆する。	前回授業時の指導にもとづき、卒業研究要旨下書きの修正を行っておくこと。	90
第14回	卒業研究発表の準備(1)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	パワーポイント資料、発表原稿の下書きを作成しておくこと。	90
第15回	卒業研究発表の準備(2)	自身の行ってきた研究の内容にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿を作成し、口頭発表に向けた準備を行う。作成した資料にもとづき、発表練習を行う。	前回授業時の指導にもとづき、パワーポイント資料、発表原稿下書きの修正を行っておくこと。発表原稿を読み上げる練習をしておくこと。	90

学生へのフィードバック方法	調査・実験・製作などに関する報告・発表、提出された課題等に対しては、講評や助言、添削等をそのつど行う。			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究の内容は、以下のような観点から評価を行う。 ①研究の目的や意義が明確である。 ②先行研究を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③研究テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。 			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	
評価割合	卒業研究の内容80%、平常点20%			
使用教科書名 (ISBN番号)	なし			
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』その他、授業内で随時紹介する。			
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。</p> <p>【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。</p> <p>【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。</p> <p>【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。</p>			
オフィスアワー	毎週木曜日昼休み（12時10分～12時50分）1702室			
学生へのメッセージ	授業時間内のみならず、授業時間外にも自主的に調査・実験・製作などの作業を行うこと。なお、学習計画については、受講生各自の研究テーマの内容や作業の進み具合に応じて、スケジュールが変更になる場合もある。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。		
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献探索の方法、学術論文の書き方、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む。		
ICT活用				

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	家族論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 林 葉子	指定なし

ナンバリング	G22208C21
授業概要(教育目的)	「家族」のあゆみと現状を家族社会学の知見に基づいて理解したうえで、近未来の「家族」と「家族」を取り囲む社会や制度の在り方について意見や展望をもてることを目指している。「問い」形式で家族社会学の知識が展開される教科書を用いて、論理的思考力や、分析力（総計データや資料などを読み解く力）を身につけられることを目的としている。ひいては、社会に出た時に、社会の単位である家族の視点を持って、統計データを分析し、社会で的確に活動していくことができるような内容を目指す。
履修条件	前年度までに家族関係論を履修していたことが望ましい

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代家族までの家族の変遷を理解し、説明できる。 2. 現代家族の問題点を指摘することができ、それに対する自分自身の意見を述べるができる。 3. 様々な公的な統計資料を用いて、現代社会を分析することができる。
思考・判断の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計データを用いて、そこに現れる現状や様相を読み解くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ニュースなどで取り上げられた「家族」の特徴を思考する力が身につく。 2. 新聞などに掲載された統計調査の結果を理解することができる。 3. 学生が主体的に問題に取り組む姿勢を持つようになる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(7keyブランキング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション: 授業の進め方の説明、 回答レポートの書き方、 期末レポートの書き方を説明	授業の進め方を説明する。(教科書の間にそって進めていくこと。問に関する説明を教科書やその他の資料一必要なときに配布またはパワーポイントで提示を用いること)回答レポートの書き方、期末レポートの書き方を説明する	・教科書を初回の授業までに購入しておき、ざっと目を通しておく。	60分程度
第2回	「家族」を読み解くた	現代家族の在り方、変化や多様化の現状を学び、その問題点、政策、論点を把握する。教科書の執筆者たちの家族社会学に対する姿勢を理解し、教科書の概要を知る。	予習:教科書1.『「家族」を読み解くために』(p.2~p.22)を読んでくること	120分

	めの基本的知識と視点		復習：教科書p. 2に提示されているQUESTION 1、2の回答レポート（A4 1枚以上：1200字程度）を作成し、次週にすること。	
第3回	家族は、いつも時代にも変わらないか？	現代家族を理解するために、家族と歴史的变化に対する様々な論説、家族の地域的・多様性を実証的な研究や統計データによって説明する。	予習：教科書 第2章『「近代家族」の成り立ち』1～3 家族の地域的・多様性と歴史的变化（p. 24～p. 38）を読んでおくこと 復習：教科書 p. 24に提示されているQUESTION 1に対する回答レポート（A4 1枚以上：1200字程度）を作成し、次週に提出すること。	120分
第4回	家族をめぐる社会状況は近代化によってどのように変化したか？	現代家族を理解するために、近代家族の歴史、成り立ちの歴史的背景、家族制度の変遷について学ぶ	予習：教科書 第2章 4 家族をめぐる社会状況の近代化、5 近代家族と近代化（p. 38～p. 48）を読んでおくこと 復習：教科書 p. 24に提示されているQUESTION 2に対する回答レポート（A4 1枚以上：1200字程度）を作成し、次週に提出すること。	120分
第5回	家族形態によって貧困のリスクは異なるか？	「貧困」の概念、貧困問題に対する視点を理解したうえで、貧困状態にあるのはどのような家族形態の人々なのかを、いくつかのデータを検討しながら把握する。	予習：教科書 第3章『家族・貧困・福祉』1～3 家族と貧困（p. 50～p. 60）を読んでおくこと 復習：教科書 p. 50に提示されているQUESTION 1に対する回答レポート（A4 1枚以上：1200字程度）を作成し、次週に提出すること。	120分
第6回	個人や家族を支える生活保障システムの日本の特徴は何か？	経済とケアの両面で家族を支える福祉制度のタイプと生活保障システムを学び、それをもとに、日本の家族に期待されている役割を把握する。さらに、諸外国と比較検討する。	予習：教科書 第3章 4 福祉レジーム類型と家族～6 社会的包摂に向けて（p. 60～p. 75）を読んでおくこと 復習：教科書 p. 50に提示されているQUESTION 2に対する回答レポート（A4 1枚以上：1200字程度）を作成し、次週に提出すること。	150分
第7回	結婚とは何か？	結婚が近代化によってどのように変化したかを把握し、結婚を機能と法・制度の側面から理解する。	予習：教科書 第4章『結婚』1、2 結婚とは何か（p. 78～p. 91）を読んでおくこと 復習：教科書 p. 78に提示されているQUESTION 1に対する回答レポート（A4 1枚以上：1200字程度）を作成し、次週に提出すること。	120分
第8回	未婚化や離婚の増加は、結婚の衰退ということか、あるいは現代社会に適応するための変化か？	結婚を取り巻く変化を概観したうえで、近年の結婚の変化である未婚化、離婚の増加の背景、要因をデータを用いて理解し、その社会的対応を学ぶ。	予習：教科書 第4章 3 未婚化という変化～5 パートナリプの多様化（p. 91～p. 107）を読んでおくこと 復習：教科書 p. 78に提示されているQUESTION 2に対する回答レポート（A4 1枚：1200字程度）を作成し、次週に提出すること。	120分
第9回	日本の働き方の特徴は、性別によってどのように異なるか？	女性の活躍する社会（就業システム）、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の実現に向けて、我が国の男女の働き方の特徴と変化をデータを用いたり、国際比較をしながら理解する。	予習：教科書 第5章『就業と家族』1～3 男女格差の温存と女性労働者の二極化（p. 110～p. 122）を読んでおくこと 復習：教科書 p. 110に提示されているQUESTION 1に対する回答レポート（A4 1枚：1200字程度）を作成し、次週に提出すること。	120分
第10回	若い女性の間でキャリア志向と専業主婦志向のどちらが支持されているのか？	私的領域における性別役割分業の実態をデータによって把握し、家事分担の規定要因を検討する。また、多様な家族の「ワーク・ライフ・バランス」実現の困難や課題を明らかにし、労働の意義や「ワーク・ライフ・バランス」の実現に向けた課題を理解する。	予習：教科書 第5章 4 私的領域における性別役割分業の実態～5 新たな家族モデル・社会保障の構築にむけて（p. 123～p. 135）を読んでおくこと 復習：教科書 p. 110に提示されているQUESTION 2に対する回答レポート（A4 1枚：1200	120分

			字程度)を作成し、次週に提出すること。	
第11回	日本はなぜ少子化しているのか？	「家族」を持つとはどういうことかを理解した上で、戦後日本の少子化の要因と課題について国際比較も含めて把握する。	予習：教科書 第6章『妊娠・出産・子育て』の1、2少子化と戦後日本の家族 (p.138～p.147) を読んでくること 復習：教科書 p.138に提示されているQUESTION 1に対する回答レポート (A4 1枚：1200字程度) を作成し、次週に提出すること。	120分
第12回	日本で子育てをするとき、どのような問題があるか？	現代日本で子どもをもつということの意味を理解し、子育てを支える社会とはどのような社会であるのかを検討する。	予習：教科書 第6章3現代日本で子どもをもつということなぜ子どもをもつのか (p.147～p.153) を読んでくること 復習：教科書 p.138に提示されているQUESTION 2に対する回答レポート (A4 1枚：1200字程度) を作成し、次週に提出すること	120分
第13回	親とは誰か、子とは誰か？	生殖補助技術に関する知識を学び、生殖補助技術と親子関係を理解する。また、その他の親子関係(養子、里子)の実態を把握しその問題点を理解したうえで、望ましい子育て、支援政策を検討する。	予習：教科書 第6章4 (p.153～p.164) を読んでくること 復習：生殖補助技術、養子、里子を含めて子どもを持つこと、また子どもを持つことの意味に対する自分の考えを、800字程度にまとめ、次週に提出する。	90分
第14回	親一人子関係は近年、どのように変化しているか？	親子関係の時期的関係性の変遷を学び、親と成人子とは何かに関して、理論的枠組み、社会的背景、歴史、制度から理解する。	予習：教科書 第7章『親一人子関係のゆくえ』 (p.165～p.195) を読んでくること 復習：教科書 p.166に提示されているQUESTION に対する回答レポート (A4 1枚：1200字程度) を作成し、次週に提出すること	120分
第15回	家族の多様なあり方を国家や社会が差別せずに認め、支援するために必要なことは何か？	グローバルな視野で家族を考えたときに、欧米諸国の「公共圏一親密圏」という概念と我が国との関係、グローバル化する家族(多民族、多国籍家族)、セクシュアル・マイノリティ(LGBT)の実態と課題を理解した上で、多様な家族を差別せずに支援するために必要なことは何かを考える。	予習：教科書 第8章『個人・家族・親密性のゆくえ』 (p.197～p.215) を読んでくること	60分

学習計画注記 *履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 質問・要望・意見があった場合にはメールで受け付ける

評価方法

- ・リアクションペーパーの課題に回答する。リアクションペーパーは授業当日の提出のみ評価するので、注意すること。後日の提出は受け付けない。
- ・各授業終了後、授業内容の問への回答レポート (A4 2枚：1500字程度) を次回までに作成し、提出する。
- ・期末レポートは、教科書のEXERCISE課題 (p.21-3, p.46-1, p.71-1, p.106-1, p.106-2, p.132-2, p.132-3, p.161-1, p.193-2, p.213-1, p.213-2) から2つ課題を取り上げ、それぞれ2000字以上のレポートを作成する。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
リアクションペーパー	○		○	
回答レポート	○	○		
期末レポート	○	○	○	

評価割合

リアクションペーパー： 20%
回答レポート： 30%
期末レポート： 50%

使用教科書名 (ISBN番号) 岩間暁子、大和礼子、田間泰子、2015年 『問からはじめる家族社会学—多様化する家族の包摂に向けて』 有斐閣ストウディア

参考図書 野々山久也編、2009年 『論点ハンドブック 家族社会学』世界思想社

神原文子、杉井潤子、竹田美知編、2009年、『よくわかる現代家族』ミネルヴァ書房

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」「家族」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる</p> <p>【思考・判断】生活・家族・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる</p> <p>【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の家族・諸問題について関心を持ち続けることができる</p> <p>【技術・表現】生活者の問題に寄り添えるコミュニケーションができる・次世代につながる健やかで心豊かな家族・生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる</p>
オフィスアワー	<p>なし</p> <p>但：メールでの質問、要望、意見はいつでも受け付ける</p>
学生へのメッセージ	<p>知識だけではなく、「考える」方法や、考えを「伝える」方法も学べるような授業にしていきたいと思います。授業では教科書を用いながら、説明が足りない部分を補って、家族に関する様々な現象を考えたり、調べたりして、主体的に学ぶことのおもしろさを経験していただけたらと思っています。未来の家族を考えた時に、誰にとってもよりよい家族のあり方が可能になるよう、一緒に考えていきたいと思っています。</p>

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	産業カウンセラー、保育士の仕事を通して、現代の家族問題を把握し、その観点から「現代家族」について教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	ネットでの検索方法、キーワードの同定の仕方などを、報告書作成の経験を生かして説明し、IDTを活用して資料やデータを会得する機会を提供している。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	家族の文化		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 眞弓	指定なし

ナンバリング	G32212C21
授業概要(教育目的)	家族という私たちに馴染みの深い言葉は、実は近代以降になって登場した新しい概念である「近代家族」を指す用語として普及したものである。本講義ではこのことを前提としつつ、形を変えながら実態として機能してきた古代の氏族・家族と現代の家族について、文学・映像作品を用いて比較考察する。制度や法令、歴史資料などからはうかがい知ることが出来ない、夫婦、親子、兄弟姉妹間の関係における事例研究を行い、それを踏まえて様々な問題に直面している現代の家族の状況について、受講生とともに考えていきたい。
履修条件	特になし。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	当該事例に対する歴史的社会的背景と問題の所在を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	先行研究を踏まえて、家族論的見地による自分の意見を持つことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	文学における人間存在の探究を理解し、知的好奇心を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	家族が抱える問題について論理的に説明できるとともに、自分の考え・意見を文章に表すことができる。

学習計画

家族の文化

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	モノと住まいと家族関係	「住まう」という見地から、家族を取り巻く物質的なファクターの存在を理解する。	予習としてシラバスを読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180分
第2回	母の束縛を生きる娘の問題(1)	グリム童話の「ラプンツェル」を家族論として読解し、登場人物の存在意義を把握する。	予習として、グリム童話についての概要を調べる。復習として、配布プリントを読んで内容を理解する。	180分
第3回	母の束縛を生きる娘の問題(2)	「ラプンツェル」の映像を通して、家族論的観点より解析を行い、親子をめぐる心理について理解する。	予習として、ディズニー公式HPの「塔の上のラプンツェル」を検索し、映画制作の意図を理解する。復習として、授業課題について調査を行う。	180分

第4回	母の束縛を生きる娘の問題 (3)	引き続き、「ラプンツェル」の映像を通して、家族論的観点より解析を行い、コミュニケーションを図る幾多の方法について理解する。	予習として、授業課題を文章の形にする。復習として、授業で行った映像解析の方法をまとめ、理解する。	180分
第5回	母の束縛を生きる娘の問題 (4)	引き続き、「ラプンツェル」の映像を通して、家族論的観点より解析を行い、ジェンダー表現について理解する。	指定した課題図書を読む。	180分
第6回	母の束縛を生きる娘の問題 (5)	前回までの映像分析を踏まえて、『源氏物語』宇治十帖に登場する浮舟と母中将君の母娘関係を分析し、母娘に関する問題を理解する。	指定した課題図書を読む。	180分
第7回	母の4類型を考える	鷲田清一著書に出てくる「母の4類型」を用いて、母子問題に関するワークショップを行う。	課題提出のため、図書館にて家族にかかわる書籍を検索する。	180分
第8回	リモデルできない娘	『夜の寝覚』の姉妹を取りあげ、娘の側から母娘および父娘問題を考察する。	課題提出のため、図書館にて家族にかかわる書籍を読む。	180分
第9回	違和感を生きる娘たち	「虫めづる姫君」と『狭衣』の今姫君を対象として、違和感を抱えながら親子関係を生きる娘の有り様を把握し、現代の社会課題との接続を試みる。	課題提出のため、図書館にて家族にかかわる書籍を読む。	180分
第10回	ぼくのおとうさんは誰ですか	『狭衣』に見える息子と父・母の関係を把握し、近代家族との相同／相違について理解を深める。	文献調査の結果をまとめ、レポートを作成する。	180分
第11回	校内特別授業「地域で支える子どものくらし」	多摩市学校支援地域本部の方をお招きし、学校・地域・家庭という子供を取り巻く環境の中で、子どもと保護者はどのような共育ちをしていくことができるか、その可能性と方策を考究する。	課題の文章を推敲し、レポートを完成させる。	180分
第12回	家族をつくる (1)	西加奈子『円卓』に登場する少女と自身の小学校3年次の有り様を比較し、子どもの特性について理解する。	指定された課題図書を読む。	180分
第13回	家族をつくる (2)	桜庭一樹『ファミリーポートレイト』・安田夏菜『むこう岸』の読解を通して、家族と地域の存在について理解する。	指定された課題図書を読む。	180分
第14回	家族をつくる (3)	朝井リョウ『世界地図の下書き』を読んで、子ども自身が持つ力について理解し、これからの家族のあり方について、考究する。	指定された課題図書を読む。復習として、配布プリントを見直し、内容を理解する。	180分
第15回	振り返りのためのワークショップ	子どもを見守る活動4事例を列挙し、班ごとにワークショップを行う。	期末試験準備として、授業中に配布されたプリント類をすべて見直し、ノートの整理を行う。	180分

学習計画注記	※講師の都合により、校内特別授業の日程変更があります。				
学生へのフィードバック方法	レスポンスシートにより前週の振り返りを行う。また、提出を義務づけている課題（レポート）については、教員の推薦図書とともに最終週に全員分を公表し、関連書籍の読書を促す。				
評価方法	授業ではレスポンスシートを配布し、それを回収する。提出しなかった者の出席は認めない。関心・意欲・態度とともに基本的な授業内容の把握に関して問う。課題は、本学図書館に架蔵されている書籍の中から受講生に読書を勧めたいものを選ぶという観点に適合しているか、他者にわかりやすく紹介を行っているかという観点で評価する。期末試験は、授業で扱った内容に関して記述式の問題とし、理解度と表現における論理性を評価する。				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	レスポンスシート	○		○	
	期末試験	○	○		○
	課題（レポート）	○	○	○	○
評価割合	出席レポート（平常点）50%、試験50%で評価。 （平常点は、各回に実施する小レポートによって評価する。）				
使用教科書名 (ISBN番号)	なし。				
参考図書	井上・下島・鈴木編『平安後期物語』翰林書房 2012年 978-4-87737-328-3 その他、授業時に指示する。				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間生活、特に親子をめぐる諸問題に関する知見を身につける。 【思考・判断】社会課題の在処を発見し、問題解決に導く考察をすることができる。				

【関心・意欲・態度】読書による人間理解の方法を体得し、さらに持続して読書行為を行うことができる。
 【技能・表現】他者の意見や考えと向き合い、そのうえで自分の意見を論理的に表明することができる。

オフィスアワー	水曜日2限、千代田三番町キャンパス1807室
学生へのメッセージ	授業で扱う家族事例に対して、研究を行うという意味で客観化できる姿勢が求められますが、同時にすべてを他人事とせず、当該課題にどのような形でかかわれるのか、考えてみましょう。また、ワークショップを実施します。授業への積極的な参加を期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	多摩市学校支援地域本部事務局の方をお招きして、地域と学校が連携しどのような形で子どもを見守っているか具体的な活動について講演していただき、講師と学生間で対話する機会を持つ。
アクティブ・ラーニング	○	2回のワークショップにおいての意見交換や班での意見とりまとめの活動により、主体的な学習場面を設ける。
情報リテラシー教育	○	図書館の利活用法について習熟し、著作権使用に関する注意を喚起する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	子どもと遊び		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大嶋 徹	指定なし

ナンバリング

G12214C21

授業概要(教育目的)

子どもの成長、発達にとって「遊び」の体験は重要であるが、その歴史的な変遷をたどってみると、そのプレイは必ずしも子どもたちだけのものではなかった。そうした歴史的な背景を認識した上で、子どもの遊びをめぐる現状とその問題点を把握し、そこで大人の果たすべき役割について考える。絵本、童話、童謡、遊戯、玩具、ごっこ遊びと子どもの空想・夢などを取りあげて、遊びの中で、子どもに何が育っていくのかを明らかにしていきたい。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	子どもの遊びと発達を理解すること。
思考・判断の観点 (K)	子ども時代を振り返り、遊びの重要性を確認すること。
関心・意欲・態度の観点 (V)	大人になっても創造力豊に生活する方法は遊びを理解し実践することであることを身につける。
技術・表現の観点 (A)	遊びそのものが技術や表現であることを理解すること。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	子どもの遊びの特徴	子どもは自分の身体をおもちゃにして遊ぶ。大人のように気晴らしのためのものではない。小宇宙「玩具の小さな世界」をつくり、やがて大宇宙「他の人々と共有する世界である」へ、そして物や人を支配する新しい段階へ前進する。エリクソンによれば子どもの遊びは「現実を支配する幼児的表現形式」である。	エリクソンについて調査すること。	30
第2回	マザーグースのなかの遊び	英語版子守唄マザーグースには不思議な世界がある。数え歌や泥棒の唄、男の子の唄女の子の唄、何を伝えようとしているのか。	マザーグースについて調査すること。	30
第3回	日本の童話のなかの遊び	浦島太郎のお話は「日本書紀」(478年)に登場する。そして現代にまで語り継がれている。それだけではない。日光の東照宮の一番奥にある家康・家光のお墓の昇り口には皇嘉門(龍宮の門)がある。日本の国歌「君が代」も浦島伝説に登場する。	浦島太郎のお話と歌を確認すること。	30
第4回	現代の遊び	今の子どもたちで、積極的に遊べない子がいる。そうい	親と子の関係に注目して善悪の	60

	の環境	子どもたちの原因の一つとして、親に丸ごと受け入れられてなくて育てられていることがあげられる。	判断を子どもにいつ伝えるべきか調査する。	
第5回	ごっこ遊び1	八木紘一郎の「ごっこ遊び」について解説する。	八木紘一郎について調査すること。	30
第6回	ごっこ遊び2	久保田浩の「ごっこ遊び」を解説し、八木紘一郎の「ごっこ遊び」と比べてみる。	久保田浩を調査すること。	30
第7回	遊びと子どもの発達	子どもから大人へ、大人とは何か。河合隼雄の解説を参考にまとめる。	河合隼雄を調査する。	30
第8回	公園レポート発表・提出	近所にある公園、もしくは児童公園や子ども広場などを一つ選び、そこで1時間に何人の子供がどんな遊びをしていたか実態調査し、調査結果をレポートで報告すること。報告をもとにグループディスカッションする。	公園内の子ども調査を実施すること。	
第9回	いろいろなおもちゃ	紀元前3000年前後と推定される、メソポタミア文明・ウル第一王朝の遺跡からサイコロと遊戯盤が出土しているが、現時点では、この盤ゲームがおそらく最古のおもちゃと考えられている。	おもちゃの起源について調査すること。	30
第10回	子どもは玩具で舞台を創る	遊戯についての学問は、「劇場」の語を借りてテアトリカと呼ばれていた。劇場には遊戯のために人々が集まるのが習わしであったが、それは劇場のみが遊戯のできる場所だったからではなく、ただ、ほかの場所よりも評判が高かったからである。	遊戯と劇場は深い関連があったが、その事例を調査すること。	60
第11回	玩具と舞台でめざめるもの	自由な発想・夢を追い求め続けることが人間の本性であり権利である。子ども大人も玩具と舞台で夢を追い求めている。	舞台の意味を調査すること。	30
第12回	イメージの拡大と大きな現実	夢と現実を取りちがえることは、通常の人間ならない。しかし遊びの世界では夢と現実と同じステージ（舞台）にあっても許される。むしろ遊びの世界だからこそ自由気ままなのである。	人間の自由について調査すること。	30
第13回	遊びの原風景	子どもどころ遊んだことが絵のように浮かんでくることがある。それを遊びの原風景として、自分の原風景を思い出してみたい。それぞれの原風景についてグループディスカッションしてまとめ、発表してみよう。	遊びの原風景についてまとめておくこと。	30
第14回	今、ここでの自分にとっての遊びとは何か？	大学の教室の中で、今、そこにいる自分にとって「遊び」とは何かを参考資料をもとにグループディスカッションすること。	「今、ここ」という時制の重要性について調査すること。	30
第15回	遊び、仕事、成長（ライフステージという考え）	遊びの楽しみは人それぞれである。遊びは楽しみを追求する活動である。自分の中でも高校生の時に楽しいと思ったことが、大学生になったいまでも楽しいとは限らない。楽しかったことを思い出すことがある。それはいつだったか。	楽しかったことをいくつかあげてみよう。	30
第16回	自己確認	1～15回の授業の要点をまとめ獲得した知識を確認する。	それぞれの授業の要点をまとめること。	180

学習計画注記 関連事項導入のため、各授業の順番が入れ替わることがある。また、授業を統合・分離したりすることがある。

学生へのフィードバック方法 授業中の質疑応答、視聴覚教材などで学生の授業への参加意欲を高めたい。

評価方法 課題レポート、授業中の質疑応答、プログラム課題達成度で20%、テスト80%の割合で評価する。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
定期試験	○			

評価割合 課題レポート、授業中の質疑応答、プログラム課題達成度で20%、テスト80%の割合で評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) 基本的にプリントを使用。その他必要に応じて指示する。

参考図書 授業の中で必要に応じて指示する。

ディプロマポリシーとの関連 子どもの遊びを知ることは子どもの生活を知ることである。子どもを知ることは、次世代を知ることにつながり、大人の責任についても反省させられる。次世代につながる豊かな生活を創造するためには「子どもと遊び」

	は見逃すことができないことである。
オフィスアワー	金曜4限
学生へのメッセージ	現在は子どもの遊びは、早期「教育」に飲み込まれてしまった観がある。しかし、歴史を振り返ってみれば、遊びはおとなのものであったり、人々の社会化の過程できわめて重要な役割を果たしてきた。遊びは文明の重要な要素のひとつであり、人間性の発達には欠かすことのできない重要なキーであり、文化の源であることをこの講義を通して学び、遊びのよき導き手としての力をつけてもらいたい。したがって「遊び心」を失わない大人であってほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		担当の大嶋は学生時代より幼少年キャンプの経験がある。自分の息子を幼少年キャンプに6年間参加させ、また3～6歳までは育児の経験があり、子どもの発達に直接かかわってきた。
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッションや発表がある。
情報リテラシー教育	○	遊びの分類をデータ化し蓄積すること。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	家族支援論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 西口 守	指定なし

ナンバリング	G22209C21
授業概要(教育目的)	本授業では、家族のおかれた社会的な諸問題を学び、またその定義を理解し、様々な家族が直面する課題を包括的に理解し特に高齢期における家族の問題と家族を理解し、その中で支援制度としての介護保険について制度の全体像、財政、利用手続き、サービス内容について講義する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	家族の定義が理解でき、また家族の多様性(性的マイノリティへの理解も含め)が理解できる
思考・判断の観点 (K)	家族の多様な理解を深め、それを実際の場(職業や家庭生活そして地域生活)の中で生かすことができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	家族の派生的課題についても理解しようとする意欲や態度を持つことができる
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	私の家族	自らの家族の歴史を自伝してみる	家族の歴史を書いてみる	120分
第2回	私の家族を 発表する	グループの中で自らの家族の歴史をシェアする	家族の定義を理解する	240分
第3回	家族とは何か	家族の定義について学ぶ	現代家族の諸問題を配布資料から整理する	120分
第4回	現代と家族 ①	結婚の課題	結婚に関する諸課題を整理する	240分
第5回	現代と家族 ②	青年期の家族の課題をデータに基づいて学ぶ	青年期の課題を学ぶこと	240分
第6回	現代と家族 ③	青年期の家族の課題をデータに基づいて学ぶ		240分
第7回	高齢期と家族 ①	高齢期と家族の諸問題を学ぶ	高齢期の課題を学ぶこと	240分

第8回	高齢期と家族①	高齢期と家族の諸問題を学ぶ	高齢期の課題を学ぶこと	240分
第9回	高齢期と家族①	高齢期と家族の諸問題を学ぶ 介護保険①	高齢期の課題を学ぶこと	240分
第10回	高齢期と家族①	高齢期と家族の諸問題を学ぶ 介護保険②	高齢期の課題を学ぶこと	240分
第11回	現場で学ぶ①	高齢者福祉施設での学び	高齢者福祉施設の種別を覚える	240分
第12回	現場で学ぶ①	高齢者福祉施設での学び	高齢者福祉施設の種別を覚える	240分
第13回	現場で学ぶ②	高齢者福祉施設での学び	高齢者福祉施設の中で得られたことを纏めておく	240分
第14回	実務かから学ぶ	実務家から現場の状況をうかがう	いくつかの視点で質問を考える ①高齢期における家族の役割 ②在宅生活と施設生活の良し悪し ③追い込まれる家族 ④虐待の状況 ⑤公的施策への期待	240分
第15回	まとめの授業	映画では家族をどのようにとらえているか？「ながらえ ば」の鑑賞	授業全体をまとめておく そのうえで 私にとっての家族とは「誰か」を考える	240分

学習計画注記 状況によって授業計画以上の外部講師の話やや外部見学を実施します

学生へのフィードバック方法 講義方式が基本ですが、参加型の授業も取り入れます。レポートの報告など受講生には授業への参加を求めます。校外授業も実施します。

評価方法 ①中間レポート
②学期末レポート
③平常点

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間レポート	○	○	○	
学期末レポート	○	○	○	
平常点			○	

評価割合 平常点 (30%)、レポート (20%)、学期末試験 (50%) による総合評価を行います。
(平常点は授業への参加状況、受講への意欲、討論への参加等で総合的に判断)

使用教科書名 (ISBN番号) 別途紹介

参考図書 授業中に紹介します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
社会の基礎・基盤的組織である家族のあり様の理解を通じて現代社会の諸問題を理解することができる。

【思考・判断】
家族の社会的な課題や問題を事実 (認知症ケア、虐待や殺人など) に基づいて発見しそれに対する解決のプロセスが理解できる

【関心・意欲・態度】
私の中にある「家族」への”こだわり”に関心をもって、それを友人とまた家族と対話しようとする態度を持つことができる。

オフィスアワー 適宜 メールして下さい。町田校舎にて相談を受け付けています。また授業前後の相談も予約をして受けつけます。

学生へのメッセージ 家族間のつながり、家族と地域とのつながりなどを自分のことをとおして考えてみましょう。授業では、主体的な参加を求めますのでよろしくお願いいたします。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業	○	担当教員は、高齢者福祉施設での勤務経験があり、そこで出会ったいくつかの家族を整理して取り上げ、現代における家族の問題の実際を理解できるようにする
アクティブ・ラーニング	○	映像リソースを提供し、小さなグループの語りをし、多様な意見の発見ができる
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	家族と法		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 山里 盛文	指定なし

ナンバリング	G32211021
授業概要(教育目的)	この授業では、家族というもっとも身近な存在について、法的視点を通して考えます。夫婦、親子、扶養、相続などの現実の家族問題を解決するための法律に関わる知識がいかに手助けとなるかを概説し、法律を切り口に個人と家族、家族と社会の関係について歴史的・社会的な背景を踏まえて考えます。また、近時の様々な家族関係（パートナー関係・生殖補助医療）も扱います。家族法は、私たちの家族関係を規律し方向づける指針であり、当事者の間の自由な意思決定によって市民社会を形成する基盤でもあります。現行家族法についてよく理解し、家庭生活に関する紛争を防ぎ、問題点を掘り起こし変動する社会への法的対応ができるようになることを目的とします。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1. 家族について、法的視点を通して説明できる。 2. 家族に関する現代的な問題について、法律に関係づけることができる。
思考・判断の観点 (K)	1. 家族に関する法的問題について、論理的に指摘することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

家族と法

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス 家族法の基礎	この授業の概要を説明し、この授業で扱う家族法の概要について学び、家族法とはどのような法律かについて理解します。	教科書1~14頁(ページ)を読んでもください。 Google Classroomにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。	120分
第2回	婚姻(結婚)の成立	どのようにして婚姻(結婚)が成立するかを学び、どのような要素により婚姻(結婚)が成立し、どのような要素により婚姻(結婚)が成立しないのかについて理解します。	教科書15~53頁(ページ)を読んでもください。 Google Classroomにアップしてあるレジュメ・パワーポイ	120分

			ントを見て予習・復習してください。	
第3回	婚姻（結婚）の効力	婚姻（結婚）が成立した場合の効力について学び、婚姻（結婚）が成立した場合の夫婦間財産関係や財産関係以外の効力について理解します。	教科書54～87頁（ページ）を読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。	120分
第4回	婚姻（結婚）の解消	どのようにして婚姻は解消するのかを学び、離婚の成立とその後の効果について理解します。	教科書88～134頁（ページ）を読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。	120分
第5回	パートナー関係	婚姻（結婚）関係以外の関係について学び、婚姻（結婚）関係以外のバリエーションや同成婚などの現代的問題について理解します。	教科書135～157頁（ページ）を読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。	120分
第6回	実親子関係	法律における親子関係について学び、実親子関係における基本的なルールについて理解します。	教科書158～187頁（ページ）を読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。	120分
第7回	嫡出推定制度	親子関係が明らかではないとき、どのような制度が用意されているのかについて学び、親子関係の確定方法について理解します。	教科書188～213頁（ページ）を読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。	120分
第8回	生殖補助医療	生殖補助医療について学び、その問題点について理解します。	教科書214～233頁（ページ）を読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。	120分
第9回	養子制度	民法が用意する養子制度について学び、養子成立・効果などについて理解します。	教科書234～286頁（ページ）を読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。	120分
第10回	親権	親と子に関する法律関係について学び、親権の意義・内容などについて理解します。	教科書287～333頁（ページ）を読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。	120分
第11回	相続制度	人が死んだ場合の財産の移転について学び、相続の概要、だれが相続するのかについて理解します。	教科書349～362、374～404頁（ページ）を読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。	120分
第12回	相続分	人が死んだ場合の財産の移転の割合について学び、相続人がどれだけ相続するのか、どのように相続する割合を決めるのかについて理解します。	教科書405～446頁（ページ）を読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。	120分
第13回	遺言	人の意思による死後の財産移転の方法について学び、遺言の種類などについて理解します。	教科書447～498頁（ページ）を読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。	120分
第14回	遺産分割配偶者に関する特則	遺産の分割について学び、遺産分割方法やその効力について理解します。	教科書499～556頁（ページ）を読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。	120分

			ントを見て予習・復習してください。	
第15回	相続人の権利を守る仕組み	相続人の権利を守るための仕組み・方法について学び、その方法である相続回復請求権・遺留分制度について理解します。	教科書557～579頁（ページ）を読んでください。 グーグルクラスルームにアップしてあるレジュメ・パワーポイントを見て予習・復習してください。	120分

学生へのフィードバック方法	コメントシートによる質問については、コメントして返却し、また、的確な質問については、授業にて解説します。
---------------	--

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートは、現代における家族に関する法的問題点について、理解し、論理的に思考できているか確認します。 ・定期試験は、70点満点で出題し、授業内容を振り返り、穴埋め問題などで、家族法に関する知識および理解度を図り、論述問題により、応用的な思考力や判断力を確認します。 ・レポートおよび定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施しています。
------	---

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート	○	○		
定期試験	○	○		

評価割合	レポート：30% 定期試験：70%
------	----------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	窪田充見『家族法—民法を学ぶ (第4版)』 (有斐閣・2019年) ISBN：978-4-641-13818-6
-----------------	---

参考図書	なし
------	----

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 家族に関する法制度についての知識を習得し理解することにより、現代生活の諸問題を理解する力を身につけます。</p> <p>【思考・判断】 家族に関する法制度を学ぶことを通して、生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察する力を身につけます。</p>
---------------	---

学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・私語、その他、他の受講生の迷惑となる行為は禁止します。 ・家族法は、私たちの生活に密接に関係しています。ニュースなどで取り上げられることも多くありますので、報道などについてもチェックしておいてください。
-----------	---

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	家庭経済学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 上村 協子	指定なし

ナンバリング	G32203C21
授業概要(教育目的)	日常生活に関わる経済生活情報を、積極的に収集し、信頼できる自分オリジナルのデータをもとに、生活設計・家計管理を行う基礎的な能力を養う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	家庭経済学に関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる
思考・判断の観点 (K)	家庭経済に関する自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	研究のための活動(文献収集、調査など)に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	自身が行った研究の内容を、学術的な文章により、適切に表現することができる。

学習計画

家庭経済学

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	家庭経済学の学びかた エンパワメント セルフエンパワメント	家庭経済の現状について生活者・ジェンダーの視点から自分なりの課題を設定し家計調査をもちいて分析する基本的な方法を知る。	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。テキスト第1章 生活から金融を考える(pp.1~10)を読み、要点をまとめる。	180分
第2回	家計からみる家族 家計調査年報を用いてお金と経済	家計に関する基本概念と、家計調査・家計調査年報を用いて、家計分析を行う方法を習得する。	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。テキスト第2章 お金と経済 p11~p24を読み要点をまとめる。	180分
第3回	人生とお金 生涯に必要なお金 ライフ	家計をとりまく経済社会の状況と相互作用しながら生活がどのように変化してきたのかを、ジェンダー研究や統計調査により説明する。	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。テキスト第3章人生と	180分

	サイクルと家計 生活資源 生活の保障		お金 p 25～p 34を読み要点をまとめる。	
第4回	稼ぐ・使う	収入を得る 税金・社会保険料を支払う 自由裁量で支出する 家計を管理する	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。テキスト第4章 稼ぐ・使う p 35～p 46を読み要点をまとめる	180分
第5回	生活設計論 基礎編	生活設計の枠組み 時間の捉え方 生活リスクとリスクマネジメント	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。テキスト第5章生活を設計する① p 47～p 61を読み要点をまとめる。	180分
第6回	消費社会と家計問題・生活と金融	消費者信用をキーワードにキャッシュレス社会の経済について学ぶ。	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。テキスト第6章生活を設計する② p 62～p 73を読み概要をまとめる。	180分
第7回	妻と夫の経済関係にみるジェンダー	妻と夫は共同して生活を営むことが多く、経済についても一体化して考えられることが多い。家計の管理形態、家計への貢献などから夫婦間の経済関係について検討する。	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。テキスト第7章 貯める・遣す p 77～p 88を読み概要をまとめる。	180分
第8回	親と子の経済関係	親による子の教育・養育期と親の高齢期に焦点をあて、親子間の経済関係について、実態や意識を概観し、課題を検討する。	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。テキスト第8章 お金を借りる p 89～p 102を読み概要をまとめる。	180分
第9回	高齢期の生活と経済保障	長寿化により高齢期が長期化している。高齢期の経済生活は、生活設計上の最重要課題の一つとなっている。高齢期の経済生活の実態を概観し、外国との比較により、高齢者の生活実態・意識と制度の関わりについて検討する。	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。テキスト第9章 生活者のリスクについて考える① p 103～p 113を読み概要をまとめる。	180分
第10回	NPOと家計	生活の中でNPOにより提供されるサービスやものを利用したり、NPOの活動に関わることも少なくない。家計とNPOの関わりの実態を概観するとともに、今後の課題について考える。	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。テキスト第10章生活者のリスクについて考える② p 114～p 126を読み概要をまとめる	180分
第11回	生活経済と環境	環境問題を人々の生活、経済活動との関わりから検討する。日常生活に関わる環境政策・制度を概観するとともに、持続可能な生活のあり様について考える。	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。テキスト第11章お金をふやす① p 127～p 136を読み概要をまとめる。	180分
第12回	生活経済の教育	近年、金融教育・金融経済教育・消費者教育など、生活と経済の関わりを取り上げる教育の必要性が指摘されている。この背景と具体的内容について考える。	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。テキスト第12章 お金をふやす② p 137～p 149を読み概要をまとめる。	180分
第13回	ワークショップ1 家計調査年報にみる食の消費行動	家計調査年報の最新版を活用し、品目分類から食を中心に分析し、地域別、月別などで家計の消費行動を発表する	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。テキスト第13章 お金について相談する p 150～p 165を読み概要をまとめる。	180分
第14回	ワークショップ2 家計調査年報に見る食の消費行動	家計調査年報の最新版を活用し、品目分類から食を中心に分析し、地域別、月別などで家計の消費行動を発表する。	家庭経済に関わる新聞記事について切抜スクラップブックを作成する。テキスト第14章 持続可能な社会を創る p 166～p 174を読み概要をまとめる。	180分
第15回	振り返り 現代生活の家庭経済	現代の家計管理 生活者の平成30年史などを参照しつつ現代家計の特徴をまとめる	テキスト全体を振り返る。テキストさらなる学習のために p 175～p 178を読みテキスト全体を振り返って、自分の考えるところをまとめる。	180分

学習計画注記	ワークショップの準備状況で開催回数を変更することがある。
学生へのフィードバック方法	ワークショップ1、2の家計調査・考察などに関するレポート・発表、提出されたスクラップブックなどの課題等に対して、講評や助言、添削等を行い評価する。

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の内容は、以下のような観点から行う。 ①調査の目的や意義が明確である。 ②先行文献を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 <p>・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。</p>
------	---

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
家計調査分析	○		○	
家計調査発表		○		○
スクラップブック	○		○	
期末試験	○	○	○	
5				

評価割合	スクラップブック（授業記録・自宅学習の記録と毎週の新聞記事）50点 家計調査分析レポート作成および発表 30点 最終試験 20点
使用教科書名 (ISBN番号)	生活者の金融リテラシー —ライフプランとマネーマネジメント— (ISBN 978-4-254-50031-8 C3033)
参考URL	https://www.shiruporuto.jp/
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。</p> <p>【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。</p> <p>【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。</p> <p>【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。</p>
オフィスアワー	前期： 水曜日 4限 後期： 火曜日 4限 アポイントを取り時間調整を行うこと。
学生へのメッセージ	家計調査や国勢調査など官公庁が出している調査結果を自分でグラフ化してコメントをつけてレポートとして授業中にプレゼンテーションをします。生活設計論や家庭科教育法などとも関わりが強いです。エクセル・ワード、パワーポイントなどを使って、消費者・生産者・納税者として何を考えて行動すればいいのか、家計にあらわれた数字から一緒に考えていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	家計調査・分析、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	消費者教育		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 早野 木の美	指定なし

ナンバリング	G12302C21
授業概要(教育目的)	消費者教育では、消費者が主体的に消費者市民社会の形成に参画することの重要性について理解及び関心を深めるための教育を目指している。消費者問題の歴史を検証し、個々の消費者の特性や消費生活の多様性を様々な消費者問題の事例を引用しながら解説する。消費生活に関する行動が、将来にわたって内外の社会経済情勢及び地球環境に影響を及ぼしていることを理解させるための消費者教育教材として、DVDや資料を紹介する。「消費生活相談員資格試験」の合格者には国家資格が付与された。在学中に国家資格を取得できるように、国家資格試験の紹介をする。また、繊維製品品質管理士、環境カウンセラー、世界遺産検定などの情報も提供する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	学習目標(到達目標)
知識・理解の観点 (K)	1. 豊かで安全・安心な暮らしとはどのようなものかについて説明できる。 2. 消費者問題の解決にはどのような消費者教育が必要であるか説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 消費者問題の歴史を検証し、衣食住金融等生活全般に渡り、各世代に応じた各種の消費者教育にはどのようなものがあるかを理解する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 毎回、授業の終了後にふりかえりシートを提出してもらう。講義の内容に応じて、ミニテストや論述、発表など変化を与えながらモチベーションを高めていくこととする。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	シラバスに基づく科目の概要、成績評価方法、履修する上での注意事項についての説明。消費者教育の概要について。	科目の概要、成績評価方法、履修する上での注意事項などシラバスの内容を理解することができる。消費者教育の概要について説明することができる。	消費者教育に関し、知っていることや体験したことをノートに書き出す。消費者教育に関する記事を読み、そしてノートに要約する。	180分
第2回	インターネット	IT関連の消費者被害から、SNSの落とし穴、個人情報を守	クレジットカード、スマホ代や	180分

	ット関連の消費者トラブルと消費者教育のあり方。	るための方策、ワンクリック請求、電子マネーの種類と仕組みなどを理解する。	通信料の滞納から起きる消費者問題など、若者を中心とした消費者被害の実態を学び、被害の未然防止対策を考える。	
第3回	テキスト 「人生とお金の知恵」 第1章 人生のデザインとお金	コラム記載の以下の内容を理解すること。①奨学金 ②ヒトは夢を描く ③人生には、大きな支出だけでも億レベルのお金がかかる ④「時間」という資源の使い方 ⑤人生という「時間」の使い方	以下の項目を読んでおくこと。 ①これまでにかかったお金 ②人生のデザインを描く ③ライフプラン ④人生とお金 ⑤働くこととお金について学ぶ	180分
第4回	テキスト 「人生とお金の知恵」 第2章 お金の知恵	テキストでは以下の演習が掲載してある。実践できるようにする。①支出の把握 ②支出の見直し ③住宅購入のプランを作ってみる。	テキストの以下の項目を読んでおくこと。①お金の特徴 ②収入を把握する ③支出を把握する ④お金の使い方 ⑤お金を貯める ⑥お金を運用する ⑦お金を借りる ⑧損失に備える	180分
第5回	テキスト 「人生とお金の知恵」 第3章 不確実な人生に船出する	テキスト項目 ①人生の不確実性に向き合う ②不確実性の下で意思決定する ③セーフティネットを理解する ④お金に関するトラブルを避けるについて学ぶ	テキストコラム 大学生と国民年金、学生納付特例制度 「大学生が悪質商法の被害者になったり、犯罪に利用されるケース」を確認しておくこと。	180分
第6回	アクティブラーニング グ学生が複数のグループとなり、グループワークを実施	ライフサイクルゲーム（人生ゲームのようなもの）を使用して、人生のリスクについて考える。	テキストの以下のコラムを読んでおくこと。貯蓄と保険を使い分ける。生命保険が最も必要になるのはいつか。車やバイクの運転と自賠責保険 任意の自動車保険、火災保険の保険金額、高額療養制度	180分
第7回	テーマ「衣生活」繊維製品の品質向上、社員の能力開発など、アパレル企業に貢献するスペシャリスト資格として繊維製品品質管理士（TES）の試験があるので、その内容を紹介する。	リクルートスーツの選び方を繊維の基礎知識を学習しながら学ぶ。併せてTES試験関連の繊維一般、製造・品質・流通・消費などについて学習する。	国家資格である消費生活相談員や消費生活アドバイザー資格試験に出た問題を紹介しながら、現代人に求められる繊維知識を学ぶ。	180分
第8回	テーマ「食生活」近年、食品表示に係る相次ぐ事故が起り、消費者の食品表示に対する関心が高まっている。正しい食品表示に関する知識を身に付ける。	食品表示の新ルール、健康食品の機能性表示、食物アレルギー、食事摂取基準等を理解する。	消費者教育における食の教育には、難しい内容をわかりやすく伝える手法を学ぶことも必要である。話題の栄養素キャラクター図鑑等を紹介する。また、消費生活相談に寄せられる食品関連の苦情事例等も消費者庁のHPで参照してもらいたい。	180分
第9回	テーマ「住生活」一人住まいの家選びと防犯。賃貸住宅を契約・退去するとき。	住宅契約書の読み方。原状回復義務、敷金精算等について国土交通省が公表している原状回復ガイドラインの考え方を理解する。	どんな部屋でひとり暮らしをしたいか。自分の住要求を明らかにする。様々な賃貸物件情報をしっかり読みとり、比較検討し、自分の要求に合う物件を選択する。住居や契約に関する用語・記号を理解し、契約までの経過や重要事項説明での内容確認の大切さを知る。	180分
第10回	テーマ「地球環境問題・エネルギー需給」	①エネルギー利用の歴史とエネルギー需給の現状 ②廃棄物処理とリサイクル問題、化学物質の環境問題 ③地球温暖化問題への対応と省エネルギーの現状と対策	環境問題を身近なところから理解するために、家庭での電気、ガス、水道料金の使用量のお知らせを確認しておくこと。地球	180分

			温暖化が進んでいる様子を理解してもらうために、講師が撮影してきたスイスや北欧の氷河の映像等を紹介する。	
第11回	アクティブラーニング 東京都消費生活総合センターの見学	東京都消費生活総合センターの見学。当施設には消費生活相談業務、商品テスト、展示室、図書室、研修施設がある。消費者教育に活用できる資料が沢山あるので大いに活用してもらいたい。	展示室では商品テストが行われた実物展示があり、また、幼児のヒヤリ・ハットを再現したジオラマも設置してある。講義だけではわかりにくい消費者問題を用意された映像、展示物を通じて、理解する。	180分
第12回	テーマ「契約」契約の成立時期、契約の解消、(取り消しと解約の違い)、消滅時効、クーリング・オフ	消費者関連法規を理解した上で、クーリング・オフができる取引、クーリング・オフのチェックポイント、クーリング・オフの手続き方法を理解する。	事前に消費者関連トラブルを中心に書いた資料を配布するので読んでおくこと。	180分
第13回	テーマ「契約トラブル事例」最近起きている消費者問題からどのように被害を未然に防ぐかを学習する。	最近の悪質商法の事例を知る。①遠隔操作によるプロバイダー変更トラブル②キャッシュレス決済を悪用するトラブル③個人情報の削除を持ちかける詐欺など	上記の消費者問題に対し、消費者は今後どのような対策を講じるべきか、消費者教育の観点から考えてみること。	180分
第14回	法テラスと裁判所で行う民事調停・家事調停について。	消費者教育で重要なのは様々なトラブルに巻き込まれた時にどのような解決方法があるかを知っておくことである。法テラスや裁判所の調停の手続き方法を学ぶ。	消費者問題の解決には、国民生活センターや東京都の用意した行政型のADRや各種金融機関が持つADR、裁判所の調停などがある。第11回の東京都消費生活総合センターの見学では展示室に沢山のADR機関が発行した資料が用意されているので各自入手するとよい。	180分
第15回	テーマ「旅行」旅行のプランを立てる。取引条件説明書の記載内容の読み方、キャンセル料の考え方、旅程保証制度、特別補償制度、損害保険などについて考える。	旅行のパンフレットを配布するので、上記内容を確認する。講師が訪れた世界各国の映像を紹介する。	自分自身が行ってみたい国があれば、関連のパンフレットを授業中に持参し、講義を受けても構わない。	180分

学生へのフィードバック方法 講義では黒板の前に置いたレジュメと出欠用紙を受け取ってください。毎回、課題を出しますので、それを出欠用紙に書いて提出してください。その内容に関する採点はレポートに加点します。

評価方法 毎回、講義終了後にその日に解説した内容について感想を求めますので、各回ごとの記述内容と期末のレポートで評価をします。レポートの課題は冬季休暇前に発表します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
各回のペーパー	○	○		
レポート	○	○	○	

評価割合 平常点 (60%)、レポート (40%)

平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する。

使用教科書名 (ISBN番号)	くらしの豆知識 2020 編集・発行 国民生活センター 販売：全国官報販売協同組合
ディプロマポリシーとの関連	毎回、講義の最後に出席カードと質問用紙を配布するので疑問点等があれば、書いてください。翌週の講義で説明します。授業中に全員に回答すべき内容であるか、個別に説明をした方がよいのかは、質問の内容や質問者の意向に沿って対処します。
学生へのメッセージ	消費者教育には、金融教育、食育、環境教育、法教育など、様々な要素が含まれていますので、授業では広範囲な知識を得ることになります。消費生活アドバイザーや消費生活相談員試験に関する内容も講義の中で紹介していきますので、資格を取りたい方は是非履修してください。教科書として暮らしの豆知識を使用しますが、日銀の発行した各種金融教育のテキストや様々が公的機関の発行する資料も提供します。また、理解を深めるためにDVDの視聴や東京都消費生活総合センターの見学会なども実施します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は行政で消費生活相談を受ける実務家である。国家資格の消費生活相談員、消費生活アドバイザー資格の他に、金融広報アドバイザー、東京都消費者啓発員、環境カウンセラー、繊維製品品質管理士等の資格を有している。裁判所の民事調停委員で、法的観点からの消費者問題を論じながら授業を行っている。
アクティブ・ラーニング	○	東京都消費生活総合センターの見学会を実施する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	消費者政策と法		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小野 由美子	指定なし

ナンバリング	G32306C21
授業概要(教育目的)	消費者にとって安全で安心できる商品とサービスを選択し、環境に優しい生活スタイルをつくり上げるための政策や法が求められている。消費者問題について考え、その背後にある市場メカニズムや消費者施策の必要性を理解する。消費者の生活に関わる政策と法律の動向を取り上げながら、私たち消費者が自立して考え、行動するための能力を養う。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	消費生活のために必要な知識や態度を習得し、消費者の権利と役割を自覚することができる。
思考・判断の観点 (K)	消費生活を送る上で求められる批判的思考力と意思決定をする力を付けることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	消費者市民社会の構成員として自己実現していく能力を開発することができる。
技術・表現の観点 (A)	安全で安心な生活を送るための問題解決と提案・発信ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	消費者問題とは何か	消費者問題の発生や歴史、解決に向けた取り組みについて学ぶ。	教科書第3章を読み、関連事項について調べること。	120分
第2回	消費者問題と消費者政策	消費者問題を振り返り、消費者政策の展開や消費者被害の拡大防止と被害救済に関する新しい制度を学ぶ。	教科書第4章を読み、関連事項について調べること。	120分
第3回	消費者法とは何か	消費者と契約について検討し、特定商取引法や消費者契約法などの消費者法について学ぶ。	教科書第7章を読み、関連事項について調べること。	120分
第4回	生命・身体や財産にかかわる消費者被害	消費生活製品の安全性を検討し、安全性を確保し、被害を救済するための法制度を学ぶ。	教科書第6章を読み、関連事項について調べること。	120分
第5回	消費者の安全に関わる	食品の安全が求められる背景と、関連する法律と行政の取組について学ぶ。	教科書第3章を読み、関連事項について調べること。	120分

	政策と法律 ①			
第6回	消費者の安全に関わる政策と法律 ②	商品の安全性について検討する。安全性を確保し、被害を救済するための法制度を学ぶ。	教科書第6章を読み、関連事項について調べること。	120分
第7回	消費者の安全に関わる政策と法律 ③	消費生活の相談や事故に関する情報を理解する。全国の消費生活相談のデータベースであるPIO-NETや、事故情報データベースシステムについて学習する。	教科書第5章を読み、関連事項について調べること。	120分
第8回	消費者行政の実際	消費者行政の展開、現状と課題について理解する。	教科書第4章を読み、関連事項について調べること。	120分
第9回	消費者被害と法律①	契約と消費者トラブルについて理解する。悪質商法とそれを未然に防ぎ、早期解決に導くための法規制を学習する。	教科書第7章を読み、関連事項について調べること。	120分
第10回	消費者被害と法律②	社会的に弱い立場にある「脆弱な消費者」に関わる消費者トラブルとその対応について理解する。	教科書第7章を読み、関連事項について調べること。	120分
第11回	消費者団体の役割	消費者団体や消費者運動の歴史を振り返り、適格消費者団体の動向など、消費者を取り巻く現状と消費者団体の役割について学習する。	教科書第3章を読み、関連事項について調べること。	120分
第12回	企業の消費者対応	企業の消費者対応についての変遷や、消費者被害の拡大防止と被害救済に関わる諸制度を学習する。	教科書第4章を読み、関連事項について調べること。	120分
第13回	各ライフステージにおける消費者教育	幼児期・小学生期・中学生期・高校生期・成人期の各ライフステージにおける消費者教育のあり方について学習する。	教科書第12章から第14章を読み、関連事項について調べること。	120分
第14回	生活設計・消費者信用	生活設計に関わり、金銭管理と消費者信用について理解する。金融商品と消費者信用の仕組みを知り、トラブルの未然防止と早期解決へ導く方策を学習する。	教科書第8章及び第9章を読み、関連事項について調べること。	120分
第15回	まとめ：消費者市民社会の構築	消費者市民の概念を理解し、消費者の権利と責任について考える。消費者も利害関係者として責任ある生活スタイルを取るための重要性を検討する。	教科書第11章と15章を読むとともに、これまで学習した内容を整理すること。	120分

学習計画注記 授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法 授業の最初に前回の授業内容についてふりかえりをする。

評価方法 ・定期試験は70点満点で出題し、テキストや授業で配布した資料から出題する。
・定期試験・提出物は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
提出物			○	○
定期試験	○	○		

評価割合 定期試験（70%）及び提出物（30%）などを総合的に判断する。

使用教科書名 (ISBN番号) 神山久美他編『新しい消費者教育 第2版: これからの消費生活を考える』慶應義塾大学出版会、2019年 (4766426339)

参考図書 国民生活センター編『くらしの豆知識 (2020年版)』2019年

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。
【技術・表現】心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。

オフィスアワー 【前期】水曜日 1701ゼミ室 12:30~14:30

学生へのメッセージ 関連するweb教材やDVDなどを講義で紹介しますので、各自でも適宜、検索・活用してください。

教育等の取組み状況

	該当	概要
--	----	----

	有無	
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、消費生活の研究に関する実務経験を有しており、関連する法律と行政における運用のあり方については消費者と行政の双方の立場から現状と課題について検討する機会を提供している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	消費者教育演習		
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小野 由美子	指定なし

ナンバリング	G22304C22			
授業概要(教育目的)	消費者市民社会における消費者教育をテーマに、学生をめぐる消費生活上の課題を中心にした質問紙調査やインタビュー調査を実施する。関連する研究や啓発資料、手法についての情報を収集・分析しながら消費者教育の素材を作成する。その成果は研究報告書にまとめ、連携先等に公開して地域社会に還元することを目指す。			
履修条件	特になし			
学習目標(到達目標)	学習目標(到達目標)			
	知識・理解の観点(K)	消費者教育に関わる専門的知識を持つことができる。		
	思考・判断の観点(K)	消費者教育について多面的に考える姿勢を身に付けられる。		
	関心・意欲・態度の観点(V)	自ら取り組む学習態度を身に付けられる。		
	技術・表現の観点(A)	自らの考えをまとめ、人に伝える技術力を身に付けられる。		
学習計画	学習計画			
回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。	消費者教育についてどのようなものがあるか調べる。	240
第2回	消費者教育に関わる先行研究や取り組みの情報収集	行政や企業が実施している消費者教育について学習する。	行政が作成している消費者教育の啓発資料について調べる。	240
第3回	行政への消費者教育に関するイン	行政の担当者を対象にした消費者教育の施策について聞き取りをする。	聞き取った内容を整理する。	240

	タビユー調査			
第4回	調査の企画と設計、調査仮説を検討。質問紙調査の調査票作成	学生を対象にした啓発講座を実施するため、ニーズ調査の計画を立てる。	関連する先行調査を調べる。	240
第5回	質問紙調査とインタビュー調査の実施	どのような啓発講座が望まれているかを調べるための質問紙調査とインタビュー調査の項目を準備する。	関連する先行調査を調べる。	240
第6回	学生を対象にした調査票の配布・回収・分析	確定した質問項目に沿った調査を実施する。結果をとりまとめ、その内容を分析する。	集めたデータを整理する。	240
第7回	調査結果を踏まえた啓発イベントの準備①	これまでに実施したニーズ調査にもとづき、啓発講座を企画する。	これまでの講座の実践例などを調べる。	240
第8回	調査結果を踏まえた啓発イベントの準備②	啓発講座の準備を進める。	効果的な学習内容などを検討する。	240
第9回	啓発イベントの実施・振り返り	啓発講座の振り返りをする中で見えてきた課題を整理する。	振り返りの内容に関するデータ整理をはじめめる。	240
第10回	啓発イベントの結果とりまとめ①	啓発講座の量的データをまとめる。	まとめた内容は電子データにして発表できるようにする。	240
第11回	啓発イベントの結果とりまとめ②	啓発講座の質的データをまとめる。	まとめた内容は電子データにして発表できるようにする。	240
第12回	見本市調査の準備	消費生活用品を取り扱う企業について情報収集をする。	出展内容をインターネットであらかじめ調べる。	240
第13回	見本市調査実施	消費生活用品を取り扱う企業の見本市に出かけて調査をする。	出展内容の情報を整理する。	240
第14回	見本市調査振り返り	見本市調査の情報を共有する。	他の学修者とも情報交換をする。	240
第15回	最終報告会	啓発講座調査と見本市調査を通して考えた消費者教育のあり方について発表する。	他の学修者の学びを整理する。	240

学習計画注記	本授業科目は演習2単位につき、90分×30回分の授業を実施する。毎週の授業（90分×15回）のほかに、90分×15回分の授業を別に実施する予定。土曜日・日曜日などを利用することも計画しているので、第1回の授業に出席をしてスケジュールをあらかじめ了解しておくこと。
--------	---

学生へのフィードバック方法	授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。
---------------	------------------------

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験は30点満点で出題し、課題レポートを課す。 ・受講状況・学習態度、啓発講座調査、見本市調査、定期試験は下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。
------	--

評価基準	
------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
受講状況・学習態度			○	○
啓発講座調査	○	○		
見本市調査	○	○		
定期試験	○	○		

評価割合	受講状況・学習態度（10%）、啓発講座調査（30%）、見本市調査（30%）、定期試験（30%）などを総合的に評価する。
------	---

使用教科書名 (ISBN番号)	なし
-----------------	----

参考図書	なし	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。</p> <p>【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。</p> <p>【技術・表現】心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。</p>	
オフィスアワー	【前期】水曜日 1701ゼミ室 12:30~14:30	
学生へのメッセージ	消費者教育について行政や事業者との連携を通して、経験しながら学びましょう。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	啓発講座のニーズ調査やとりまとめなどにあたっては、グループ・ディスカッションをはじめとするアクティブ・ラーニングの手法を複数取り入れた授業進行となる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	プロシューマー実習		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 上村 協子	指定なし
非常勤講師	宮川 有希	指定なし

ナンバリング	G32307C23
授業概要(教育目的)	食品ロス削減は、世界的課題である。グローバル経済のなか、食と農が分離し、大量生産・大量消費・大量廃棄消費者・事業者・行政は家庭で地域で生産の現場で、何が出来るのか。が食の分野にも及んでいる。どのような消費者の選択・消費行動が食品ロス削減につながるのか。地域のフードバンク・フードドライブの活動、消費生活協同組合とどのように関わっているか。フードチェーン全体を見通して、大学生にアンケート調査などの調査を実施し、実際に活動することを目指す。
履修条件	社会調査士を目指す人は必修となる科目なので、調査法を履修済みであることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	食品ロス削減は世界的課題であることを理解し、グローバル経済のなか、食と農が分離し、大量生産・大量消費・大量廃棄が食の分野に及んでいる現況に関する知識を身に付け説明できる。
思考・判断の観点 (K)	消費者・事業者・行政は家庭で地域で生産の現場で、何が出来るのかを思考し、フィールド調査並びにアンケート調査に基づいて自身の生活を見直し課題を発見し、食品ロス削減の方法を提案し削減に向けた計画を適切にたて判断・行動・実践につなぐことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	どのような消費者の選択・消費行動が食品ロス削減につながるのか。地域のフードバンク・フードドライブの活動に関心を持ち主体的にフードチェーン全体を見直し持続可能な社会の構築に向けて家庭や地域の生活を創造しようとする態度を養い、積極的に地域社会の活動に参画することができる。
技術・表現の観点 (A)	生産者と消費者が連携して持続可能な消費生活を実現し消費者市民社会をつくるには何か必要か、食品ロスとエシカル消費をテーマに食品ロスに取り組むフードバンクと連携する学生や家庭科教員を目指す学生を事例にアンケート調査・ヒアリング調査・家計調査・フィールド調査なども活用しつつ、自分たちが出来るプロジェクトを企画して実行する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス(授業予定と調査倫理について)	授業目的、概要、後期スケジュール、協力団体について等。食品ロスの現状と課題(現代生活学セミナー昨年の報告書参照)。千代田区の消費生活展について授業の目的・計画・予定。社会調査士資格取得との関係。食品ロスに関して感じたことなどを受講生同士伝え合う。	授業後、SDGsに関して調べ、食品ロス削減がどのように位置づけられているかをレポートする。	360
第2回	食品ロスに関する基礎調査	天野正子にみる消費者と生産消費者。エシカル消費、SDGs。シェアリングエコノミー。	基礎調査のテーマにそってレポート作成の枠組み。内容を決定	360

	の説明。基礎調査の分担。	生活者とは。基礎調査の説明、分担。定量調査、定性調査、二次分析の説明。二次分析は家計調査を用いる。	する。	
第3回	プロジェクトの進め方と昨年度までの調査結果検討。消費生活展の出展内容の検討。	基礎調査進捗状況の確認。2016~2018プロシューマー実習、食品ロス意識調査報告書の分析・検討。グループにわかれて、消費生活展の出展内容を決定し役割分担。	基礎調査のテーマにそってレポート作成。資料収集。文献検索。消費生活展の出展準備、資料収集。	360
第4回	基礎調査レポート報告 (1) 行政・消費者団体の取組みに関する報告。シェアリングエコノミー。	行政・消費者団体の取組みに関するレポートの報告をもとに、意見交換をする。	基礎調査のテーマにそってレポート作成。資料収集。文献検索。消費生活展の出展準備、資料収集。	360
第5回	基礎調査レポート報告 (2) 「製造・流通・販売」「地域特性」消費に関わる近年の動向に関するレポートの報告をもとに、意見交換をする。	「製造・流通・販売」「地域特性」消費に関わる近年の動向に関するレポートの報告をもとに、意見交換をする。	消費生活展の出展準備、資料収集。	360
第6回	消費生活展準備及び出展	消費生活展の出展準備、展示物の確認。	基礎調査の振り返りと本調査のテーマを検討。	360
第7回	本調査テーマ・企画・役割分担等の決定。アンケート調査票の作成。	本調査テーマ決定と調査スケジュールの作成。調査依頼・仮説構成等。アンケート調査票の作成。	本調査のテーマにそってグループごとにレポート作成。資料収集。文献検索。アンケート調査を実施。	360
第8回	本調査実施 (1) アンケート・インタビュー・文献調査。	アンケート調査結果を入力。インタビュー調査等の実施。	本調査のテーマにそってグループごとに報告書を作成。資料収集。文献検索。アンケート調査結果の入力・集計。	360
第9回	本調査実施 (2) アンケート・インタビュー・文献調査。進捗状況の報告。	アンケート調査の単純集計報告。SPSSの説明。調査報告。消費生活展の出展準備。	本調査のテーマにそってグループごとにレポート作成。資料収集。文献検索。アンケート調査結果をSPSSを使用し分析。	360
第10回	本調査中間報告。	本調査の中間報告。	アンケート調査結果をSPSSを使用し分析。インタビュー調査のまとめなど。報告書の作成。	360
第11回	本調査実施 (3) アンケート・インタビュー・文献調査。	授業の目的・計画・予定。社会調査士資格取得との関係。地域に活動・協力企業等を説明。食品ロスに関する事前学習を通して感じたことなどを受講生同士伝え合う。	アンケート調査結果をSPSSを使用し分析。インタビュー調査のまとめなど。報告書の作成。	360
第12回	内部での報告会。報告書作成準備。	結果概要報告	アンケート調査結果をSPSSを使用し分析。インタビュー調査のまとめなど。報告書の作成。報告会予行練習の準備。プレゼン資料の作成。	360
第13回	フィールド調査実施	楠公レストハウスにて意見交換。食品ロスや江戸エコ、エンカル消費など。	アンケート調査結果をSPSSを使用し分析。インタビュー調査のまとめなど。報告書の作成。報告会予行練習の準備。プレゼン資料の作成。	360
第14回	報告会予行練習。プレゼン資料の作成。	パワーポイントを使用し、成果発表会の予行演習、意見交換を行う。	予行演習のフィードバックを踏まえてプレゼンテーション資料の修正を行う。	360
第15回	報告会の実施・振り返り	報告書をもとに成果発表を行う。協力企業や学外の関係者を招いて報告会を行う。	報告会・振り返りで出た意見を反映し最終報告書の作成。	360

学習計画注記 連携先の都合により、日程が変更となる場合があります。

学生へのフィードバック方法 調査・考察などに関するレポート・発表、提出された課題等に対して、講評や助言、添削等を行い評価する。

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の内容は、以下のような観点から行う。 ①調査の目的や意義が明確である。 ②先行文献を十分に参照し、その内容を理解できている。 ③テーマに適した方法で調査・分析・製作を行うことができている。 ④結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ⑤研究の内容を、学術論文に適した文章や、製作した作品で十分に表現することができている。 <ul style="list-style-type: none"> ・平常点は、授業内活動（報告・発表・ディスカッションなど）への参加状況、指示された学習活動への取り組みの姿勢、課題の提出状況、などによって評価する。
------	--

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
調査レポート報告	○	○	○	○
プロジェクトへの参加		○	○	
成果発表	○		○	○

評価割合

調査レポート報告まで 30点
 プロジェクトへの参加 40点
 成果発表会での発表内容 30点

使用教科書名 (ISBN番号)

時々に表示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】食品ロス問題について総合的な家政学・生活者の視点から諸課題を理解できている。
 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー

上村
 前期：水曜日 4限 1805ゼミ室
 後期：火曜日 4限
 アポイントを取り時間調整を行うこと。

学生へのメッセージ

自分たちができることを、アンケート調査や、ヒアリング調査、家計調査から分析するアクティブラーニングです。新しいライフスタイルにつながるどのようなアイデアが飛び出するか、楽しみにしています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自分たちができることを、アンケート調査や、ヒアリング調査、家計調査から分析するアクティブラーニングです。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	生活設計論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 上村 協子	指定なし

ナンバリング	G32206C21
授業概要(教育目的)	消費者教育、金融経済教育、キャリア教育など、さまざまな領域で求められている生涯を見通した生活設計力とは冷たい貨幣で動くさらに、女性と財産をテーマに、家計調査などデータを収集し分析して、経済環境・社会政策に対応して経済と金融に関する理論と実践の基本を理解し、自分の10年後20年後の目標を意識し、目標実現に向けて計画をたて、資源を主体的に選択する方法と、リスクマネジメントを視野に目標が達成できなかった場合にフィードバックする方法を考える。生活者を支援する専門的能力を育成する。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	生活設計・金融リテラシーに関わる基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる
思考・判断の観点 (K)	生活設計・金融リテラシーに関する自身の研究テーマに適した調査や分析の方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	研究のための活動(文献収集、調査など)に、自ら積極的に継続して取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	自身が行った研究の内容を、学術的な文章により、適切に表現することができる。

学習計画

貨幣新時代の生活設計

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	導入— 人生100年時代の生活設計	人生100年時代の生活設計：経済と金融に関する理論と実践の基本や、世代による人生の違いを理解し自分の10年後20年後の目標を意識し、目標実現に向けて計画をたて、資源を主体的に選択する方法と、リスクマネジメントを視野に目標が達成できなかった場合にフィードバックする方法を考える。	家庭経営学概論で用いた「これであなたもひとり立ち」の教材や、家庭経済学で作成中のスクラップブックなどの生活設計関係資料をまとめて、復習しておく。	180分
第2回	人生100年時代のライフプランを描く ①変わる家族：家計管	デジタル化・キャッシュレス化が進む時代の家計管理・生活設計：経済と金融に関する理論と実践の基本を理解し、自分の10年後20年後の目標を意識し、目標実現に向けて計画をたて、資源を主体的に選択する方法と、リスクマネジメントを視野に目標が達成できなかった場合にフィードバックする方法を考える。	家庭経営学概論で用いた「これであなたもひとり立ち」の教材や、家庭経済学で作成中のスクラップブックなどの生活設計関係資料をまとめて、復習しておく。	180分

	理は誰がする			
第3回	ライフプランを描く ②冷たい貨幣を温かいお金にする 若者の金融リテラシー	シェアリングエコノミーやクラウドファンディングなど持続可能な社会に向けた家計管理・生活設計がすすんでいる。経済と金融に関する理論と実践の基本を理解し、自分の10年後20年後の目標を意識し、目標実現にむけて計画をたて、資源を主体的に選択する方法と、リスクマネジメントを視野に目標が達成できなかった場合にフィードバックする方法を考える。	家庭経営学概論で用いた「これであなたもひとり立ち」の教材や、家庭経済学で作成中のスクラップブックなどの生活設計関係資料をまとめて、復習しておく。	180分
第4回	地域・モデル事業を探す(グループ活動開始) 大学生が魅力を感じる農泊とは; 奥津軽を事例に	大学生が魅力を感じる農泊とは; 奥津軽を事例に地域・モデル事業を探す グループ活動を開始する。国内外の農業とジェンダー問題を理解し分析する力をもとに今日の課題を解決するため女性農業者が活躍する農業経営体のWAP100ダイバシティマネジメントについて考え・実践する力をつける。	家庭経営学概論で用いた「これであなたもひとり立ち」の教材や、家庭経済学で作成中のスクラップブックなどの生活設計関係資料をまとめて、復習しておく。	180分
第5回	なぜ今金融リテラシーなのか<金融庁>	金融リテラシー出張授業を担当して <金融庁> 金融庁と金融広報中央委員会が連携した金融経済教育の取組「大学における金融リテラシー向上に役立つ講座」として「最低限身に付けるべき金融リテラシー(4分野15項目)」の習得を基本に実施する。自立した社会人として必要な金融リテラシーを身に付けると共に、各業界団体(銀行、証券、保険等)の講師に接することで、今後のキャリアプランを考える。	家庭経営学概論で用いた「これであなたもひとり立ち」の教材や、家庭経済学で作成中のスクラップブックなどの生活設計関係資料をまとめて、復習しておく。	180分
第6回	お金とは: お金を稼ぐ お金を貯める <金融広報中央委員会> 金融教育の意義と歴史 世界の金融教育	お金とは: お金を稼ぐ お金を貯める <金融広報中央委員会> 金融庁と金融広報中央委員会が連携した金融経済教育の取組「大学における金融リテラシー向上に役立つ講座」として「最低限身に付けるべき金融リテラシー(4分野15項目)」の習得を基本に実施する。自立した社会人として必要な金融リテラシーを身に付けると共に、各業界団体(銀行、証券、保険等)の講師に接することで、今後のキャリアプランを考える。	家庭経営学概論で用いた「これであなたもひとり立ち」の教材や、家庭経済学で作成中のスクラップブックなどの生活設計関係資料をまとめて、復習しておく。	180分
第7回	キャッシュレス社会の家計管理・生活設計<全国銀行協会>	お金をかりる <全国銀行協会> (クレジットカードの利用 住宅ローン) は金融庁と金融広報中央委員会が連携した金融経済教育の取組「大学における金融リテラシー向上に役立つ講座」として「最低限身に付けるべき金融リテラシー(4分野15項目)」の習得を基本に実施する。自立した社会人として必要な金融リテラシーを身に付けると共に、各業界団体(銀行、証券、保険等)の講師に接することで、今後のキャリアプランを考える。	家庭経営学概論で用いた「これであなたもひとり立ち」の教材や、家庭経済学で作成中のスクラップブックなどの生活設計関係資料をまとめて、復習しておく。	180分
第8回	投資の意義<日本証券業協会> お金をふやす、	お金をふやす、リスクとリターンとの関係、長期投資の重要性など<日本証券業協会>は、金融庁と金融広報中央委員会が連携した金融経済教育の取組「大学における金融リテラシー向上に役立つ講座」として「最低限身に付けるべき金融リテラシー(4分野15項目)」の習得を目的とする授業である。自立した社会人として必要な金融リテラシーを身に付けると共に証券業界団体の講師に接することで、今後のキャリアプランを考える。	家庭経営学概論で用いた「これであなたもひとり立ち」の教材や、家庭経済学で作成中のスクラップブックなどの生活設計関係資料をまとめて、復習しておく。	180分
第9回	お金を遺す 遺言・相続・事業承継にみる家族と地域 <信託協会>	お金をふやす、遺言・相続・事業承継にみる家族と地域 <信託協会>は、金融庁と金融広報中央委員会が連携した金融経済教育の取組「大学における金融リテラシー向上に役立つ講座」として「最低限身に付けるべき金融リテラシー(4分野15項目)」の習得を目的とする授業である。自立した社会人として必要な金融リテラシーを身に付けると共に信託業界団体の講師に接することで、今後のキャリアプランを考える。	家庭経営学概論で用いた「これであなたもひとり立ち」の教材や、家庭経済学で作成中のスクラップブックなどの生活設計関係資料をまとめて、復習しておく。	180分
第10回	さまざまな経済設計 <日本FP協会> モデル格差社会でFPの果たす役割	さまざまな経済設計 <日本FP協会> モデル格差社会でFPの果たす役割は、金融庁と金融広報中央委員会が連携した金融経済教育の取組「大学における金融リテラシー向上に役立つ講座」として「最低限身に付けるべき金融リテラシー(4分野15項目)」の習得を目的とする授業である。自立した社会人として必要な金融リテラシーを身に付けると共に日本FP協会の講師に接することで、今後のキャリアプランを考える。	家庭経営学概論で用いた「これであなたもひとり立ち」の教材や、家庭経済学で作成中のスクラップブックなどの生活設計関係資料をまとめて、復習しておく。	180分
第11回	ライフプランを描く③ 持続可能な社会と地域コミュニティ 【寄付や社	持続可能な社会と地域コミュニティは金融庁と金融広報中央委員会が連携した金融経済教育の取組「大学における金融リテラシー向上に役立つ講座」として「最低限身に付けるべき金融リテラシー(4分野15項目)」の習得を目的とする授業である。各業界団体の講師に接して今後のキャリアプランをどのように描いたかをふりかえる。	『生活者の平成30年史 データで読む価値観の変化』 日本経済新聞を読み そこに示されている【イマ・ココ・ワタシ】という価値観の変化は身近に起きている傾向なのかを考えてみる。	180分

	会貢献投資の意義・仕組み、身近な社会貢献事例など】			
第12回	人生100年時代のエンパワーメントと生活資源	女性農業者が活躍する農業経営体のWAP100ダイバシティマネジメントについて考え・実践する力をつける。女性農業者と農家民泊を例に生活設計の生産資源・活力資源・変身資源についてグループで研究調査を進行する。	「大学における金融リテラシー向上に役立つ講座」で提出したリアクションペーパーをふりかえり各業界団体の講師に接して今後のキャリアプランをどのように描いたかをまとめる。女性農業者が活躍する農業経営体のWAP100ダイバシティマネジメントについて考え・実践する力をつける。女性農業者と農家民泊を例に生活設計の生産資源・活力資源・変身資源についてグループで研究調査を進行する。	180分
第13回	発表会プレゼンテーション準備	女性農業者が活躍する農業経営体のWAP100ダイバシティマネジメントについて考え・実践する力をつける。女性農業者と農家民泊を例に生活設計の生産資源・活力資源・変身資源についてグループで研究調査を進行する。	「大学における金融リテラシー向上に役立つ講座」で提出したリアクションペーパーをふりかえり各業界団体の講師に接して今後のキャリアプランをどのように描いたかをまとめる。女性農業者が活躍する農業経営体のWAP100ダイバシティマネジメントについて考え・実践する力をつける。女性農業者と農家民泊を例に生活設計の生産資源・活力資源・変身資源についてグループで研究調査を進行する。	180分
第14回	発表会	女性農業者が活躍する農業経営体のWAP100ダイバシティマネジメントについて考え・実践する力をつけ、女性農業者と農家民泊を例に個人をセルフエンパワメントする生活設計・金融リテラシー事例を報告する。	報告会準備・パワーポイント作成・読み原稿作成・予行演習	180分
第15回	振り返り	家計管理・生活設計を中心にした大学生の金融リテラシーを学んで、エンパワメントしたと思う内容を、将来もっと学ばべきと思ったことを整理する。	「大学における金融リテラシー向上に役立つ講座」で提出したリアクションペーパーをふりかえり各業界団体の講師に接して今後のキャリアプランをどのように描いたかをまとめる。女性農業者が活躍する農業経営体のWAP100ダイバシティマネジメントについて考え・実践する力をつける。女性農業者と農家民泊を例に生活設計の生産資源・活力資源・変身資源についてグループで研究調査を進行する。	180分

学習計画注記 遠隔授業となり、外部講師の都合や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 提出された課題や最終発表に対して、専門家の講師及び教員が助言、添削等を行う。

評価方法 授業時にはリアクションペーパーを配布し、それを回収する。提出しなかった者の出席は認めない。レポートに関しては、関心・意欲・態度とともに基本的な授業内容の把握に関して問う。自分の意見・考えを説得力ある表現で記載できる能力を培う。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業ごとのリアクションペーパー	○		○	
レポート発表・提出資料	○			○
最終試験	○	○	○	○

評価割合 授業ごとのリアクションペーパー 60点
レポート他 提出資料 20点
最終試験 20点

使用教科書名 (ISBN番号)	生活者の金融リテラシー ―ライフプランとマネーマネジメント― A5/192ページ/2019年11月01日 ISBN978-4-254-50031-8 C3033 吉野直行 監修/上村協子・藤野次雄・重川純子 編 朝倉書店	
参考図書	大学生のためのFP資格ガイドブック 学生生活マネー&キャリア お役立ちハンドブック! FP3級程度の知識をつけるテキストを適宜。 日本FP協会 フィナンシャル・プランニング入門など 生活設計にかかわる講師の団体が提供する資料を教材として使用予定である。	
参考URL	https://www.shiruporuto.jp/public/data/lecture/daigaku_kogi/	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。	
オフィスアワー	上村 1805ゼミ室 前期：水曜日 4限 後期：火曜日 4限 アポイントを取り時間調整を行うこと。	
学生へのメッセージ	自分の求めるライフデザイン実現には、金融知識・金融リテラシーが必要です。家庭経営学概論（1年）家庭経営学（3年）の知識をもとに授業をすすめます。生活の経済など他科目とも関連付け社会で求められるフィナンシャルリテラシーを身につけます。各授業ごとに、事前に学んでおく内容、振り返りの内容を指示します。授業時間外に自習して、就職活動にもつながる経済基礎力を培ってFP資格取得にもチャレンジしてください。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	金融庁・日本銀行・全国銀行協会・FP協会などの専門家が取り組んでいる金融教育を知り、実社会に必須となる金融リテラシーを身に付ける
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	プレゼンテーションの作成やグループワークにおいては、パソコンや写真、動画を活用し、内面的なふりかえりにとどめず、客観的な姿を見ることで、生活設計に関する深い気づきを促す

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	エコロジー		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 沼波 秀樹	指定なし

ナンバリング	G24501C22
授業概要(教育目的)	<p>「エコロジー」とは、狭義には生物学の生態学のことを指しますが、広義には生態学的な知見を反映しようとする文化的・社会的・経済的な思想や活動を指しています。このように「エコロジー」は様々な意味を持っていますが、この授業では、主に「くらし」に関係した様々な環境要因や環境問題について解説し、人類と環境との共存について学びます。くらしと都市における環境問題の関係について理解するために、簡単な汚水の分析や上下水道関連施設の見学する。また、生物に支えられている「くらし」を理解するために台所にある器具を使つてのDNA抽出や「ちれいめんじゃこ」に入っている混獲生物を調べ、生物多様性と人類の関わりを知る。さらに、環境保護教育・活動を実践的に学ぶために都市に自然環境を残すビオトープなどを見学する予定で、見学を通して「くらしと環境の共存」について考えます。見学や実験などを通して、くらしと環境問題の関係について実感を伴って理解します。</p>
履修条件	1年次に開講される共通科目「環境と資源」を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	環境問題の歴史の変遷を学び、現在の環境問題と生活(くらし)との関係について理解する。
思考・判断の観点 (K)	環境問題とくらしとの関係を理解した上で、日々の生活が環境に及ぼす影響について考え、改善する思考・判断が出来るようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	生活から環境問題を解決する意欲を持つようになる。
技術・表現の観点 (A)	簡単な実験による環境測定法の習得。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション	「エコロジー」の持つ意味・意義について解説する。今後の演習内容と見学の意義について説明する。	予習：高校生物基礎の教科書中の「生物の多様性と生態系」編中の「生態系のバランスと保全」を読み、環境問題について予備知識を得る。復習：授業内容の確認。	90分
第2回	地球環境と生態系	「エコロジー」の基本概念である「環境」と「生態系」について解説する。	予習：高校生物基礎教科書中の「生物の多様性と生態系」編中の「植生の多様性と分布」「気候とバイオーム」の章を読み、	90分

			生態系の成立要因について、まとめる。復習：授業内容の確認。	
第3回	生態系とくらし（生態系サービス）	人類が生態系からもたらされる様々な利益（生態系サービス）について解説し、生態系と人類の関係について理解する。	予習：高校生物基礎教科書中の生態系と生活の関連している部分を読む。復習：授業内容の確認。	90分
第4回	環境問題の歴史と実態1（公害の歴史と現在の生活の関係）	日本の高度成長期に発生した公害問題を紹介し、現在の安全・安心な生活がどのようにつくられてきたのかを考える。特に世界的な環境問題として現在でも取り上げられている「水俣病」についてVTR資料を使って紹介し、現在の生活が過去の多くの犠牲の上に成り立っていることを理解する。また、他の水質汚濁による環境問題についてインターネットを利用して調べる。	予習：公害病についてインターネットを使って調べる。復習：授業内容の確認。	90分
第5回	環境問題の歴史と実態2（水質）	生活に不可欠で身近な飲料でもある「水」が都市においてどのようにして確保されているのか、また生活排水を含む「下水」はどのように処理されているのかを解説する。その後、次の見学先である東京都虹の下水道館・水の科学館をHPで見学する展示を確認する。	予習：「上水」「下水」の処理方法について調べる。復習：授業内容の確認。	90分
第6回	環境問題の歴史と実態3（水質検査実験）	都内数カ所からサンプリングした河川・壕の水と擬似的に作成した生活排水のCOD（化学的酸素要求量）や濁度などを簡易分析キットや濁度計を用いて測定し、生活排水が環境に及ぼす影響について実感を伴って理解する。簡単な実験を行う。	予習：高校生物基礎教科書中の「生態系とその保全」を読む。復習：実験レポートの作成。	90分
第7回	環境問題の歴史と実態4（虹の下水道館・水の科学館見学）	東京都虹の下水道館・水の科学館では、生命維持や生態系維持に必要な不可欠な「水」の供給・処理の実態について理解することを目的として見学する。上水の水質維持には森林や河川と言った環境の重要性、下水の処理については多くの微生物が関わっていることを理解し、くらしに不可欠な「水」と環境との関連性について考える。特に虹の下水道館では下水設備の見学することによって、下水と環境問題について認識する。	予習：見学内容の確認。復習：虹の下水道館・水の科学館の見学レポートの作成。	90分
第8回	環境問題の歴史と実態5（自然に与える影響・生物多様性）	生物多様性の基本について解説した後、生物多様性と生活の関連性について「自然浄化」「品種」などをキーワードにVTR資料を使って理解を深める。遺伝的多様性から生まれる「品種」に関して、どのような生物が、どのように使われているのかを調べる。	予習：高校生物基礎教科書中の生物多様性に関連している部分を読む。復習：授業内容の確認。	90分
第9回	生物多様性とくらし1（種多様性とくらし：DNAを見ている）	生物多様性の内、遺伝的多様性は生活に多くの利益をもたらしている。遺伝的多様性の基本であるDNAを台所にある器具を使い、取り出し、その実態について理解を深める。簡単な実験を行う。	予習：高校生物基礎教科書中の遺伝子に関連している部分を読む。復習：実験レポートの作成。	90分
第10回	生物多様性とくらし2（ちりめんじゃこから環境問題を考える1）	食品として一般的な「ちりめんじゃこ」に含まれる混獲された生物を探し出すことにより、食料と生物多様性や生態系の関連性について理解する。1回目では「ちりめんじゃこ」に関連する漁業、製造方法などを解説した後、無選別の「ちりめんじゃこ」の中から混獲された生物を探し出し、簡単な生物図鑑を製作する。	予習：事前に配布したテキストを読み、実習内容の確認をする。復習：生物図鑑の作成。	90分
第11回	生物多様性とくらし3（ちりめんじゃこから環境問題を考える2）	食品として一般的な「ちりめんじゃこ」に含まれる混獲された生物を探し出すことにより、食料と生物多様性や生態系の関連性について理解する。2回目では無選別の「ちりめんじゃこ」から選別した混獲生物を定量化し、食品としての「ちりめんじゃこ」を作り出す為にどのくらいの量の生物が混獲されているのかを知る。2回の実習を通して、食料と生物多様性・生態系との関連性を実感を伴って理解する。	予習：事前に配布したテキストを読み、実習内容の確認をする。復習：実習内容の確認。	90分
第12回	環境とくらしの共生を考える（ビオトープを例として）	都市環境下で自然環境を再現する「ビオトープ」について解説し、自然環境とくらしと共生の共存を考える。ビオトープの特徴を理解した上で、インターネットを用いて自宅周辺のビオトープを探し、特徴をまとめる。	予習：ビオトープに対する予備知識を得る。復習：授業内容の確認。	90分
第13回	くらしと身近な環境問題（まちづくりと環境；ヒートアイランドを測る）	都市化に伴う環境問題をヒートアイランド現象を例として解説する。その後、校舎屋上のクーリングタワー周辺、大学周辺の歩道や公園で気温測定を行い、都市の高温化と緑地の意義について実感を伴って理解する。	予習：測定場所の選定。測定方法の確認。復習：授業内容の確認。	90分
第14回	環境保護教育・活動	国立科学博物館附属自然教育園では、大都市東京の中心地である目黒地区のビオトープを見学し、人口過密地域	予習：国立科学博物館附属自然教育園についてインターネット	90分

	(見学) 1 (自然教育園見学)	での環境問題・環境保護等について理解を深め、人と自然との共存について考える。また、気温測定を自然教育園内と近隣の公園で行い、ヒートアイランド現象に対する緑地の意義について理解する。	を使って調べる。復習：見学レポートの作成。	
第15回	環境保護教育・活動 (見学) 2 (北の丸公園見学)	北の丸公園を見学し、前回に見学したビオトープである国立科学博物館附属自然教育園と整備された緑地である北の丸公園を比較し、都市における環境保全について理解する。	予習：北の丸公園など、都心における緑地の特徴についてインターネットを使って調べる。復習：見学レポートの作成。	90分

学習計画注記	見学があるので、時間帯や曜日が不規則になる場合があります。原則として開講時間以外に見学をする場合は、通常の授業に振り替えて実施します。また、見学ための入園・入館料、交通費がかかります。見学する予定の国立科学博物館附属（JR目黒駅、東京メトロ南北線・都営三田線白金台駅）の入園料300円、虹の下水道館・水の科学館（JR埼京線・東京臨海高速鉄道りんかい線国際展示場駅、ゆりかもめお台場海浜公園駅）の入館料は無料。
--------	--

学生へのフィードバック方法	講義と見学、簡単な実験。
---------------	--------------

評価方法	授業中に課した提出物や授業への取り組みと見学レポートの総合評価。1/3以上欠席すると定期試験の受験資格を失います。特に演習科目なので、欠席については厳格に評価します。
------	---

評価基準	
------	--

評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	提出物・授業への取り組み	○	○	○	○
	見学レポート	○	○		○

評価割合	授業中に課した提出物や授業への取り組み（60%）、見学レポート（40%）の総合評価。
------	--

使用教科書名 (ISBN番号)	特に定めない。
-----------------	---------

参考図書	授業中に適宜、紹介する。
------	--------------

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。</p> <p>【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。</p> <p>【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を想像するための問題解決と提案・発信ができる。</p>
---------------	--

オフィスアワー	木曜1限 1702室
---------	------------

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	環境保護論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 沼波 秀樹	指定なし

ナンバリング	G24502C21
授業概要(教育目的)	様々な環境問題がとりざたされている現在、人類と自然との共存が模索されている。私たちの社会システムも環境との調和に根ざしたものに変わろうとしている。この授業では、環境問題の過去と現在の状況を把握した上で、身近な暮らしを見直すことから環境に関する研究や政策までミクロ・マクロ的な視点で環境と共存するための方法について学び、自然保護や保全とは何かについて考える。また、国立科学博物館、国立極地研究所の見学を予定しており、見学を通して自然観や保全方策などを理解する。
履修条件	専門科目「エコロジー」（2年次前期）と基礎科目「環境と資源」を履修していることが望ましい。本科目は千代田区コンソーシアムの単位互換科目となっており、他大学の学生（男子学生を含む）が同時に履修する可能性があります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	環境問題の過去と現在の状況を把握した上で、身近な暮らしを見直すことから環境に関する研究や政策までミクロ・マクロ的な視点で環境と共存するための知識を得て、自然保護や保全とは何かについて理解できる能力を持つ。
思考・判断の観点 (K)	常に暮らしと環境の関連性を考える思考と、持続可能な社会におけるQOL（生活の質の向上）と環境の関係について適切な判断が出来る。
関心・意欲・態度の観点 (V)	環境保護について関心を持てるようになる。
技術・表現の観点 (A)	レポートにより、多くの人々に環境保護の重要性を訴える表現力が身についている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション (授業の概要)	授業の概要と進め方、見学先についての紹介などをする。	予習：高校生物基礎の教科書中の「生物の多様性と生態系」編中の「生態系のバランスと保全」を読み、環境問題について予備知識を得る。復習：授業内容の確認。	180分
第2回	環境とは何か？	環境の基礎知識について解説する。	予習：高校生物基礎教科書中の「生物の多様性と生態系」編中の「生態系内の物質・エネルギーの循環」の章を読み、生態系	180分

			の成立要因について、まとめる。復習：授業内容の確認。	
第3回	環境問題の過去・現在・未来1	大気汚染を取り上げ、日本の環境問題（公害）について振り返り、現在の安心安全なくらしの立脚点について考える。	予習：日本における大気汚染について過去と現状を調べる。復習：授業内容の確認。	180分
第4回	環境問題の過去・現在・未来2	水質汚濁を取り上げ、日本の環境問題（公害）について振り返り、現在の安心安全なくらしの立脚点について考える。特に水俣病について解説し、社会と環境問題について考える。	予習：「日本の四大公害事件」「水俣病」についてインターネットで調べる。復習：授業内容の確認。	180分
第5回	生物と環境の関わり合いについて1（生物多様性）	生物多様性（種多様性・遺伝的多様性・生態系多様性）について解説し、環境保護の基本的な知識を身につける。また、今後に見学する国立科学博物館の生物多様性について展示に関しても説明する。	予習：高校生物基礎教科書中の「生物の多様性と生態系」編中の「植生の多様性と分布」「気候とバイオーム」の章を読み、生態系の成立要因について、まとめる。復習：授業内容の確認。	180分
第6回	生物と環境の関わり合いについて2（生物多様性と人類）	生物多様性と人類との関係を「品種改良」と「外来種問題」の側面からVTR映像も利用して解説する。	予習：身近な「品種」と「外来種」について調べる。復習：授業内容の確認。	180分
第7回	生物と環境の関わり合いについて3-1（国立科学博物館見学）	生物は環境に影響を受け進化・絶滅を繰り返しながら、生物多様性を作り上げている。国立科学博物館が所蔵している過去から現在の生物標本を見学し、環境と生物の関係について理解を深める。（第7回・第8回授業を見学にあてる）	予習：第5回・第6回授業内容（生物多様性）の確認。国立科学博物館のHPで展示について下調べをする。復習：国立科学博物館の見学レポートの作成。	180分
第8回	生物と環境の関わり合いについて3-2（国立科学博物館見学）	第7回・第8回授業を見学にあてる。	予習：国立科学博物館のHPで展示について下調べをする。復習：国立科学博物館の見学レポートの作成。	180分
第9回	環境を保護する方法1（生活と環境問題）	生活と環境問題の関連性について、輸入食料について総合的にとらえる目安として考えられた「フードマイレージ」について解説し、日本の食糧事情について考える。幕の内弁当におけるフードマイレージについて調査する。	予習：フードマイレージについてインターネットで調べる。復習：授業内容の確認。国立科学博物館の見学レポート作成。	180分
第10回	環境を保護する方法2（回転寿司から環境を考える1）	仮想で回転寿司のメニューから寿司を注文し。注文した寿司のフードマイレージを計算し、輸入食材と日本の食糧事情を実感を伴って理解する。	予習：回転寿司チェーンのメニューと原産地を調べる。復習：授業内容の確認。	180分
第11回	環境を保護する方法3（回転寿司から環境を考える2）	前回、算出したフードマイレージについて、原産地を国産にして再算出して比較することにより、日本の食糧事情と地球温暖化をはじめとする環境問題の関係について理解する。比較データについて、全体で発表する。	予習：国産の産地と単価を調べる。復習：提出物の作成。	180分
第12回	生物と環境の関わり合いについて3（地球環境と人類の活動1）	研究と環境保護の関連性について理解する為に、人類の活動から遠く離れた南極・北極で行われている研究について解説する。次回見学する国立極地研究所の概要についても説明する。	国立極地研究所のパンフレット類を配布し、研究者への質問を考える。見学する南極北極科学館の展示について調べる。	180分
第13回	生物と環境の関わり合いについて5（国立極地研究所でのレクチャーと見学）	地球上には様々な環境が存在し、人類の生活に影響を及ぼしている。極地は、人類の活動域とは離れているが、地球環境の安定化などに重要な役割を果たしている。また、人類の活動域から離れていることは、すなわち地球上で最も人類の影響が少ない場所の一つであり、地球環境の変化を研究・観測する上で適している「地球環境の窓」とも言われている。南極・北極を研究している研究所を見学することにより、グローバルな人類と地球環境の関わり合いについて理解を深める。なお、見学とレクチャーで3時間を予定しているため、第13回と第14回の授業を合わせて実施する。	国立極地研究所見学レポートの作成。	180分
第14回	生物と環境の関わり合いについて（国立極地研究所での	第13回と第14回の授業を合わせて、レクチャーと見学を実施する。	国立極地研究所見学レポートの作成。	180分

	レクチャーと見学)		
第15回	環境保護論まとめ	環境保護についてこれまでの授業内容・見学・レクチャーも含めて解説する。	第1回～第14回までの授業・見学・レクチャーについて復習し、自分なりに「環境保護」について考えてまとめる。 180分

学習計画注記	見学があるので、時間帯や曜日が不規則になる場合があります。原則として開講時間以外に見学をする場合は、通常の授業に振り替えて実施します。また、見学ための入園・入館料、交通費がかかります。見学する予定の国立科学博物館（JR上野駅、東京メトロ上野駅）の入園料660円、国立極地研究所（多摩モノレール高松駅）の南極北極科学館の入館料は無料。
--------	--

学生へのフィードバック方法	見学レポート・提出物についてはコメントを出す予定。
---------------	---------------------------

評価方法	定期試験、平常点・レポートの総合評価。見学に参加しないとレポートを書きません。平常点は授業中の課題等で評価します。
------	---

評価基準	
------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		
レポート	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合	定期試験（40%）、平常点・レポート（60%）の総合評価。
------	-------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	プリントを配布する予定。
-----------------	--------------

参考図書	講義中に適宜紹介する。
------	-------------

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。</p> <p>【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。</p> <p>【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を想像するための問題解決と提案・発信ができる。</p>
---------------	--

オフィスアワー	水曜日1時間目 1702室
---------	---------------

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	都市計画		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 長野 博一	指定なし

ナンバリング	G24308C21
授業概要(教育目的)	都市計画は、人間が生活する場・空間・建築物をもたらす、都市の環境と施設を科学的方法によって計画的に実現する手段である。現在起きている都市問題・建築環境問題の解決のためには、都市計画が果たす役割は極めて大きなものがあるとともに、市民が参加する「まちづくり」を広く意識しながら、都市・地域計画を実行することが求められる。 本講では都市計画の基本的な仕組みを理解するとともに、具体的事例を通して実践的な知識を身につけることをねらいとする。
履修条件	特に定めはないが、土木・建築などの計画・設計等の仕事に興味があり、または地域づくりやまちづくりについて関心があることを受講の条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	都市計画の基本的考え方を説明できる
思考・判断の観点 (K)	都市計画は建築やデザインに加えて、市民の生活を支える役割を担っている点を具体的に説明できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	将来、プランナー(都市計画行政や計画コンサルタント)、建築等に携わる者として必須となる基礎知識・専門知識、および専門的な計画能力を身につける
技術・表現の観点 (A)	与えられた課題に対して、レポートして取りまとめ、リサーチ内容を適切に表現できる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	都市計画とまちづくり(都市計画の意味・意義、まちづくりとの違い)	特になし	0分
第2回	都市計画の歴史①	近代・現代都市計画の思潮:E.ハワード、ル・コルブジエ、C.A.ペリーの思想	参考書①の該当ページ、及びweb検索により事前に調べてくこと	120分
第3回	都市計画の歴史②	我が国の都市の歴史と現在までの軌跡:歴史と建築から感じ取る	参考書②の該当ページ、及びweb検索により事前に調べてくこと	120分
第4回	都市計画法①	都市計画法と都市計画マスタープラン、都市を構成する要素	自分が住んでいる区市町村の都市計画マスタープランを事前に	180分

			見てくること、そして疑問点を見つける事	
第5回	都市計画法②	用途地域、市街化区域・市街化調整区域、建築基準法	参考書①の該当ページ、及びweb検索により事前に調べてくこと	120分
第6回	市街地の整備①	土地区画整理事業、市街地再開発事業 事例考察	国土交通省のホームページにアクセスし、内容と事例を良く調べること	120分
第7回	市街地の整備②	密集市街地整備、地区計画の策定、複合的な計画、公園・緑地の計画と設計	国土交通省のホームページにアクセスし、内容と事例を良く調べること	120分
第8回	交通のプランニング①	道路、公共交通の基本的考え方・理論	参考書②の該当ページ、及びweb検索により事前に調べてくこと	120分
第9回	交通のプランニング②	交通マスタープランの役割、駐車場・集客施設の計画と設計	国土交通省のホームページにアクセスし、内容と事例を良く調べること	120分
第10回	海外都市の事例	アメリカ・ドイツ・フランスの都市事例など	特になし	0分
第11回	演習	前半から中盤までのまとめを踏まえ、グループ討議等の演習を行なう。ただし、テーマについては受講生の興味により決める	特になし	0分
第12回	現代都市が抱える諸問題①	バリアフリー、ユニバーサルデザインによるまちづくりの課題と展望	日本福祉のまちづくり学会が発行している学会誌や書籍をweb検索し、用語の意味などを理解しておくこと	180分
第13回	現代都市が抱える諸問題②	人口減少、少子高齢化時代の計画理論～コンパクトシティ・空き家	国土交通省のホームページにアクセスし、内容と事例を良く調べること	120分
第14回	現代都市が抱える諸問題③	住民参加・まちづくり、現代的アーバンイズム/事例考察	参考書①の該当ページ、及びweb検索により事前に調べてくこと	120分
第15回	まとめ/講義全体のふりかえり	小テストの実施	これまでのスライドやメモを基に、おさらいしておくこと	60分

学習計画注記	<ul style="list-style-type: none"> ・参考図書をよく読み、事前に学習することを求める ・様々な情報媒体があるため、自分の住んでいる区市町村のホームページで都市計画について調べることを勧める
--------	---

学生へのフィードバック方法	<p>①講義スライドは、講義前日までに教員のwebサイトへ掲載する、各自事前にダウンロードし、事前学習すること</p> <p>②リアクションペーパーを配布・回収する、質問などもペーパーを通じて出してもらって構わない</p>
---------------	---

評価方法	<p>最終レポート（40%）、演習・小テスト（30%）、平常点（30%）による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終レポートは、提出までに2週間の時間を設ける、内容は、問題提起・構成・考察・まとめを総合して評価する ・演習は、グループワークを通じて議論への参加状況の評価する。 ・小テストは、最終回に行なう確認テストとして、いくつかの設問に回答してもらう ・平常点は、出席とリアクションペーパーを各15回分、必ず配付回収を行ない、点数としてつける
------	---

評価基準	
------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
最終レポート		○	○	○
演習		○	○	
小テスト	○			
リアクションペーパー	○			○

評価割合	最終レポート（40%）、演習・小テスト（30%）、平常点（30%）による評価
------	--

使用教科書名 (ISBN番号)	使用しないが、参考図書は時折利用することがある
-----------------	-------------------------

参考図書	<p>参考書①：「都市計画とまちづくりがわかる本」（彰国社） 定価（本体 2,400円＋税）2011年11月発刊</p> <p>参考書②：「入門 都市計画-都市の機能とまちづくりの考え方（谷口守 著）」（森北出版） 定価（本体 2,</p>
------	--

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】都市・建物・土地に関する知識を深め、「質の高い生活」を意識できるようになる</p> <p>【思考・判断】【関心・意欲・態度】最終レポートや演習でのグループワークを通じて、生活者や社会の視点に立った考え方を身に付け、諸問題の解決につなげる思考力を身に付けている</p> <p>【技術・表現】レポートやアクションペーパーを通じて、自分の考えを表現する野力を身に付けている</p>
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ・講義終了後に受け付ける ・メールにて相談を受けつける
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・講義形式にてスライドを用いて行う ・毎回15回分の講義メモを配布する、メモをとりしっかり復習すること ・学術、実務の両面から詳しく講義するので、質問をどんどんしてくるよう（講義終了後に受け付けます）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、都市計画業務を10年以上公的機関にて実践しており、国土交通大学校等での教授歴も有している
アクティブ・ラーニング	○	毎回リアクションペーパーを求めると共に、グループワークも実施する
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	講義はスライドにて行ない、スライド資料は事前に教員webサイトからダウンロードする仕組みである

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ツーリズム（地域と文化）		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 岡田 美奈子	指定なし

ナンバリング	G22313C21
授業概要(教育目的)	19世紀に産声をあげたツーリズム(観光)は、20世紀後半に大きく発展し、現在では、地球規模での観光交流で、経済、社会、文化など様々な分野に影響を及ぼしている。この講義では、こうした観光の歴史の変遷を考察し、国際観光の意義と役割や国際観光の発展のための課題について論じる。また、観光による地域開発と地方の活性化について、学生自らが、一つの観光地を事例として、「持続可能な観光」の視点から、観光開発や観光振興の方法を検討し、その対策案をまとめていく。そして、講義全体として、これからの世界と日本の観光の在り方を論じて、学生自ら、観光開発や観光振興の課題を発見し、その対応策を提案できるようにしていきたい。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本と世界の観光の現状を理解する。 2. 国際観光の役割、意義について理解する。 3. 観光の発展とその発展要因を理解する。 4. マスツーリズムの発展による影響を理解する。
思考・判断の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 観光開発・観光振興策の立案方法を理解する。 2. 観光による地域開発・活性化案を立案できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本と世界の観光の現状を考察し、課題を把握できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	世界の観光の現状と課題	世界の観光の現状と動向についての講義を受け、世界の観光統計を分析し、世界の観光の課題と展望について議論する。 世界共通の課題となっている「持続可能な観光」について理解する。また、観光とSDGsとの関係も学ぶ。	復習：世界の観光の現状と課題をレポートの纏める。 予習：配付される日本の観光についての資料を読み、日本の観光の課題を見つけておく。	120分
第2回	日本の観光の現状と課題	日本の観光の現状と動向についての講義を受け、日本の観光統計を分析し、日本の観光の課題と展望について議論する。	復習：日本の観光の主な課題について、レポートに纏める。 予習：文献やインターネットから、ツーリズムの定義を調べておく。	120分

第3回	観光とツーリズムの定義と概念	観光とは何か、を課題に講義をする。学問としての定義、産業としての定義、統計での定義を論じる。また欧州で始まったツーリズムの概念を論じ、日本語の「観光」の概念との違いを理解する。そして現在の観光業界で適用するツーリズム概念を考察する。授業では、学生の考えている観光についての概念を議論する。	復習：国際機関や日本政府の観光の定義をレポートに纏める。 予習：配付された観光の歴史の資料を読んでおく。	120分
第4回	ツーリズムの歴史1：旅から観光へ	世界の観光の歴史の変遷を論じる。この回では、古代、中世と近世までの旅行の歴史を考察する。また近代でのツーリズムの誕生から発展の歴史を論じる。授業中に、「文明の発展における旅の重要性」について議論する。	復習：世界の観光の歴史、古代、中世、近世、近代のたびと観光の歴史をレポートに纏める。 予習：文献やインターネットにて、20世紀の観光の発展の歴史を調べておく。	120分
第5回	ツーリズムの歴史2：国際観光時代の到来	20世紀の世界のツーリズムの発展の歴史を考察し、21世紀の世界のツーリズムの動向を論じる。またアジア太平洋地域の台頭、観光分野でのテクノロジーの革新、グローバル化の進展などによる観光業界の変化を考察する。	復習：世界の観光の現状と動向について、レポートに纏める。 予習：文献やインターネットで、「マストツーリズム」について、調べておく。	120分
第6回	マストツーリズムの発展とその影響	第2次大戦後、ツーリズムは、大きく発展し、先進国では、ツーリズムが大衆化し、マストツーリズムと呼ばれるようになった。そこで、マストツーリズムの経済的、社会的な影響を検証し、自然への影響を考察し、これからのツーリズムの在り方を論じる。	復習：マストツーリズムの問題と解決策をレポートに纏める。 予習：文献やインターネットで、「持続可能な観光」について調べておく。	120分
第7回	持続可能な観光	マストツーリズムの代わる新たなツーリズムのあり方を検証する。自然生態との共存できるツーリズムは可能か、現地住民に利益をもたらす、地域を活性化することはできるのか、持続可能なツーリズムは何か、などを論じる。	復習：持続可能な観光の実践方法をレポートに纏める。 予習：文献やインターネットで、観光による地域開発の成功事例を調べておく。	120分
第8回	観光と地域開発	観光による地域活性化の成功事例を考察し、地域開発の取り組みについて論じる。 学生は、事前に調べた「観光による地域開発の成功事例」を発表する。	復習：授業中に紹介された観光開発の成功事例の一つをレポートに纏める。 予習：文献やインターネットで、日本の観光庁の役割について調べておく。	120分
第9回	観光行政と観光政策	観光における政府機関の組織とその役割を論じる。事例として、日本の観光庁の組織と役割を考察する。また、観光政策の実施組織としての政府観光局の役割と実践事項について、論じる。	復習：日本の観光行政と観光政策について、レポートに纏める。 予習：文献やインターネットにて、最近の日本政府の観光政策を調べておく。	120分
第10回	日本の観光政策	戦後の日本の観光政策、2003年からのビジット・ジャパン・キャンペーン、安倍政権での観光立国推進計画などを考察する。 授業中に、「日本の観光振興」のあり方について議論する。	復習：日本のインバウンド観光の課題について、レポートに纏める。 予習：文献やインターネットにて、興味ある国や都市の観光マーケティング戦略を調べておく。	120分
第11回	観光開発戦略、観光振興戦略1	観光開発と観光振興の戦略の立て方、実施計画の作成方法を学ぶ。 具体的には、戦略立案のための調査、調査の分析、戦略の立案と実施計画の作成までを授業中に学び、グループ研究を進めていく。	復習：戦略計画、実施計画の作成方法をレポートに纏める。 予習：興味ある観光地の現状と課題を調べておく。	120分
第12回	観光開発・観光振興戦略2	観光開発・観光振興戦略の策定方法を、グループ研究にて習得する。学生は、課題研究として、興味ある観光地を対象に、その観光地の動向を分析し、課題を把握する。そして、その観光地の発展のための観光開発・観光振興策を検討し、提案する。	復習：観光開発・観光振興戦略の策定方法をレポートに纏める。 予習：グループ研究にて、興味ある観光地の観光開発・観光振興戦略を策定し、PPTに纏める。	120分
第13回	観光開発・観光振興戦略のグループ研究発表	グループ研究での纏めた観光開発・観光振興策案の発表を行う。また学生は、各グループの研究発表の評価し、コメントを述べる。	復習：各グループの研究発表の内容とその評価を簡潔にレポートに纏める。 予習：文献やインターネットにて、興味ある日本の観光地の動向、課題を調べておく。	120分
第14回	世界各国の観光振興戦略	世界の観光先進国の観光振興戦略を紹介し、日本の観光の課題とその対応策を論じる。	復習：日本の観光の課題とその対応策について、レポートにまとめる。 予習：1回～14回までの授業内容を復習する。特に、今後の観光の課題や問題点の対応について、自分の意見を纏めておく。	240分

第15回	これからの観光の課題と展望 授業のまとめと小テストの実施	これまでの授業を振り返り、重要なポイントとキーワードを説明し、これからの観光の課題と展望について論じる。 その後、授業全体の理解度を確認する小テストを実施する。	復習：これからの日本の観光の課題と展望について、レポートに纏める。	60分
------	---------------------------------	---	-----------------------------------	-----

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によって、授業スケジュールが変更となる場合がある。
--------	---------------------------------------

学生へのフィードバック方法	1. 授業中の小テスト：実施した小テストは、採点して、次週の授業にて返却する。間違いの多かった設問については、解答の説明を行う。 2. レポートは、採点后コメントをつけて返却する。
---------------	---

評価方法	1. 授業中の小テスト：記述式の設問で、理解度と論理性で評価する。 2. 課題レポート：「理解度、論理性、独創性」に基づき、3段階評価（A, B, C）で評価しする。 3. 最終回の小テスト：100点満点の出題する。小テストの振り返りや、授業中で説明した重要なキーワードなどの問題を含む。
------	--

評価基準	
------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
最終回の小テスト	○	○		
授業中の小テスト	○	○	○	
課題研究レポート	○	○	○	

評価割合	最終回の小テスト 40% 授業中の小テスト 20% 課題研究レポート 20% 平常点 20%
------	---

使用教科書名 (ISBN番号)	観光学基礎 発行/著者 株式会社JTB総合研究所、2019
-----------------	-------------------------------

参考図書	塩田 正志、長谷川 政弘、観光学、同文社、1994 岡本 伸之、観光学入門、2001 藤稿 亜矢子、サステナブルツーリズム—地球の持続可能性の視点から、2018
------	--

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる 【思考・判断】生活社会の諸問題を自ら発見し分析、問題解決に導く考察をすることができる。 【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる
---------------	--

オフィスアワー	火曜日 4 時限 非常勤講師室
---------	-----------------

学生へのメッセージ	下記のURLは、世界の国際観光の動向について、国際観光機関（UNWTO）からの2019年に発行されたレポート（暫定版）です。 第1回の授業に出席する前に、下記のURLをダウンロードして、読んでおいてください。 https://unwto-ap.org/wp-content/uploads/2019/01/0e50dff78710f1419d78289ddbada5f86.pdf 世界中で、5人に一人が海外旅行をする時代になりました。日本でも2017年には、2869万人の外国人旅行者が訪れ、まさに国際観光時代になりました。ツーリズムを学び、チャンスがあれば旅に出て、世界の人々文化を知り、国際的な視野を養ってください。
-----------	--

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	旅行業界ならびに観光分野でのコンサルティングを通じた多様な実務経験を活かし、観光の歴史、マストツーリズムの影響、21世紀の観光の動向、観光開発・観光振興戦略の策定などで、具体的な経験や実施事例を紹介し、理解を深める。特に、「持続可能な観光」ベースに、国際的なならびに地域目線での観光地域づくりについての理解や関心を高める。
アクティブ・ラーニング	○	各授業での主要なテーマでのグループでの議論を行い、その結論の発表を行う。 また、11回の授業からは、持続可能な観光やSDGsの視点からの観光開発・観光振興戦略の策定方法を学ぶ。あわせて、グループ研究にて、国内外の観光地の観光開発・観光振興戦略、観光計画を作成し、13回の授業で発表する。
情報リテラシー		

教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	コミュニティ論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 信田 理奈	指定なし

ナンバリング	G12102C21
授業概要(教育目的)	グローバル化や情報化、少子高齢化により社会が大きく変動するなか、コミュニティの在り方が問われている。高度経済成長期を境にコミュニティの衰退が叫ばれたが、近年、コミュニティ再生の動きが活発になってきた。地域防災、まちづくり、子育て、社会教育、地域福祉、男女共同参画、多文化共生などにおいて、市民による新たなコミュニティづくりが求められている。この授業ではコミュニティの原理的考察に加え、いくつかの活動事例を踏まえながら、生活者の視点よりコミュニティの現状と課題について検討する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1. コミュニティの基礎理論と重要語句について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 生活者の視点から地域社会が抱える多様な問題を理解できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. コミュニティの未来と自己の将来とを結びつけて地域の市民活動に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業の目的と内容、スケジュール、授業の進め方、評価方法、受講上のポイント等について理解する。	シラバスを読み、授業の趣旨や目的を把握する。コミュニティ論を学ぶ理由についてノートにまとめる。	120分
第2回	コミュニティとは何か (1) 社会とつながること	集団・組織、群れ、ネットワークを通して、社会とつながることの意味を理解する。	社会とのつながりを感じる場面やこれまでの体験をノートにまとめる。	120分
第3回	コミュニティとは何か (2) 近代化とコミュ	近代化と生成・拘束する社会、コミュニティの概念、コミュニティ・コミュニケーションについて理解する。	例えば、ゲマインシャフトとゲゼルシャフトなど、集団やコミュニティに関する主な定義について調べる。	120分

	ニティの概念			
第4回	コミュニティとは何か (3) 近代化と共同性の衰退	近代化はコミュニティを衰退させ、地域の変容をもたらした。地域が抱える多様な課題を包括的に理解する。	戦後日本の高度経済成長が地域にもたらした変化と問題点について調べる。	120分
第5回	コミュニティとは何か (4) 地域に対するイメージと帰属意識	住みやすいコミュニティのイメージと条件、コミュニティに対する帰属意識の形成要因について理解する。	住みたい街のイメージと条件についてノートにまとめる。	120分
第6回	市民活動とコミュニティ (1) NPOによる公共空間の創生	「市民」の意味、市民活動の生成と発展、市民社会、市民組織としてのNPOと私たちの生活との関わりについて理解する。	ボランティアなどの活動を通して学んだことをノートにまとめる。授業内で小テスト(第1～5回までの範囲)を実施するので復習しておくこと。	240分
第7回	市民活動とコミュニティ (2) 地域福祉の増進	介護をめぐる地域のネットワーク、ユニバーサルデザインの社会づくりとNPOの関わりについて理解する。	ユニバーサルデザインとバリアフリーの相違について調べる。	120分
第8回	市民活動とコミュニティ (3) 子どもの居場所づくり	子どもの居場所として注目されている「子ども食堂」の取り組みと「居場所づくり」の意義について理解する。	居場所とは何か、居場所はなぜ必要かについて、自分の意見をノートにまとめる。	120分
第9回	市民活動とコミュニティ (4) 子どもの健全育成	異年齢の子どもから構成される集団に「子ども会」がある。地域に根ざした子ども会とコミュニティとの関係について理解する。	子ども会やその他の組織(例:ガールスカウトなど)での活動経験をノートにまとめる。	120分
第10回	市民活動とコミュニティ (5) 多文化共生	外国人やLGBT(セクシュアル・マイノリティ)など多様な属性をもつ人々との交流を通して共生をめざすNPOの取り組みを理解する。	ダイバーシティ(diversity)の意味と重視されてきた背景について調べる。	120分
第11回	市民活動とコミュニティ (6) 男女共同参画	すべての市民が性別に関係なく、自分らしく生きられる社会をめざすNPOの取り組みについて理解する。	男女共同参画が求められる理由と市民レベルの取り組みについて調べる。	120分
第12回	市民活動とコミュニティ (7) 地域振興、復興支援	震災後の復興支援に大きな役割を果たすNPO、地域振興の拠点「道の駅」について理解する。	避難所生活の問題点とは何か。また「道の駅」についてのイメージや利用した感想をノートにまとめる。	120分
第13回	情報コミュニティ (1) 情報コミュニティと地域コミュニティ	メディア的社会化の諸相、情報コミュニティと地域コミュニティの特質について理解する。	「媒介された経験」「メディアはメッセージ」という2つの言葉の意味について調べる。授業内で小テスト(第6～12回までの範囲)を実施するので復習しておくこと。	240分
第14回	情報コミュニティ (2) バーチャル・コミュニティの可能性と限界	ICT、バーチャル・コミュニティの可能性と限界、災害情報のコミュニケーションについて理解する。	ネット・コミュニティとしての「SNSにおけるつながり」について、意見・考えをノートにまとめる。	120分
第15回	まとめ	全体を振り返り、市民の視点からコミュニティの未来について展望する。	AI技術が進みIoTが日常生活に浸透するなか、市民同士のつながりは今後どうあるべきかをノートにまとめる。	120分

学習計画注記	履修者数や授業の進捗状況により、スケジュールが若干変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	小テストは採点終了後に授業内で返却し、解説する。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 平常点は出席以外に、授業への積極的かつ協調的な姿勢であり、予復習や課題への取り組み、グループ・ワークやディスカッションへの参加、発言等が含まれる。 小テストは授業内で計2回実施し、主として基礎的知識を問うものとする。実施日、出題範囲・形式等について

ては授業内で告知する。
 ・定期試験は小テストでの知識や理解を問う内容に加え、授業で取り上げた資料に関する思考力や判断力、意欲や関心度を測る内容とする。実施日、出題範囲・形式等については授業内で告知する。

※下表参照。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	
小テスト	○			
定期試験	○	○	○	

評価割合 平常点 (20%)、小テスト (30%)、定期試験 (50%) により総合評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) 教科書は使用せず、プリントを配布する。

参考図書 『現代コミュニティとは何か (初版)』 船津衛・浅川達人、恒星社厚生閣 (2014) 978-4-7699-1473-0
 『コミュニティを再考する』 齊藤純一、吉原直樹ほか、平凡社新書 (2013) 978-4-582-85689-7
 ※その他は授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】 総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解することができる。
 【思考・判断】 生活社会の諸問題を自ら発見・分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
 【関心・意欲・態度】 生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。

学生へのメッセージ なぜ人々はコミュニティをつくるのか、コミュニティはどうあるべきか、そもそもコミュニティとは何か、など、素朴な疑問や問題意識をもって授業に臨んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	講義形式を原則とするが、履修者の主体的な学びと授業内容の深化を図るため、グループ・ワークとディスカッションを適宜取り入れながら進める。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ファッション造形学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山村 明子	指定なし

ナンバリング	G15301021
授業概要(教育目的)	現代の服飾文化でスタンダードとされている洋服の構造を理解し、その設計方法と表現上の特徴について学ぶ。具体的には、先ず人体の形状を把握する。次に平面的な布帛を、人体を包み込む被服として構成するための技法について検討する。あわせて、その時に生じる立体的な造形上の表現の多様さに着目する。さらに、それらの表現が着用者または第三者にはどのような心象を与えるかを検討する。服飾が持つ造形物としての機能性及び表現性の可能性を考える。
履修条件	特に定めず
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	ファッション制作に必要な人体の構造その他の基本的な情報を理解する
思考・判断の観点 (K)	適切な衣服設計とは何かを判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	服飾デザインの多様性について積極的に学ぶ。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	衣服の形態の特徴	衣服の形態上の特徴を3種類に分類し、その形態と表現上の特徴、着装上の特徴のかかわりについて理解する。	シラバスを読み、授業の概要について理解する。	180分
第2回	人体の構造	衣服の着衣基体となる人体の構造を学び、体型にどのように関与しているか理解する。	復習として、人体の基本的な骨格、筋について学ぶ。	180分
第3回	人体の計測	衣服制作に必要なとなる人体の計測項目および計測方法について学ぶ。	復習として、人体の計測項目について授業で指示をする自宅課題を行う。	180分
第4回	体型と体格	服飾デザインのイメージ形成にも影響する体型と体格について学び、頭身指数について理解する。		180分
第5回	体型変化：成長と性差	成長に伴う体形変化と、男女の性差の特徴について理解する。	授業で指示をする頭身指数についての課題を行い、レポートを作成する。	180分

第6回	衣料品のサイズ	JIS規格の衣料品のサイズ設定について理解する。	復習として授業で指示をする自宅課題を行う。	180分
第7回	動作と体型変化	人体は姿勢の変化や動作によって、体表面の形状や寸法が変化することを理解する。	JIS規格の衣料品のサイズ設定について理解する。	180分
第8回	平面製図と立体構成	衣服の制作方法である平面製図と立体構成の手法の違いを理解する。	復習として授業で指示をする自宅課題を行う。	180分
第9回	身頃原型	衣服制作における原型について理解し、平面製図法の文化式身頃原型の設計方法を学ぶ。	復習として授業で指示をする自宅課題を行う。	180分
第10回	布帛の立体化の技法	平面である布帛を立体的な衣服形状に表現する技法の種類とそのデザイン効果について理解する。	復習として授業で指示をする自宅課題を行う。	180分
第11回	デザインの理論:点と線	形状の構成要素である、点と線について理解し、服飾デザインの中でどのような効果を持つか学ぶ。	復習として授業で指示をする自宅課題を行う。	180分
第12回	デザインの理論:錯視	錯視の原理を理解し、服飾デザインの中での活用例について学ぶ。	復習として授業で指示をする自宅課題を行う。	180分
第13回	デザインの原理とドレスデザイン	デザインの原理を理解し、服飾デザインの中での活用例について学ぶ。	復習として授業で指示をする自宅課題を行う。	180分
第14回	まとめと試験	ファッション造形にかかわる内容を確認する	復習として授業で指示をする自宅課題を行う。	180分
第15回	服飾デザインに触れる	文化服飾博物館でのドレス展示を見学し、多様な服飾デザインに触れる。	予習として、文化服飾博物館公式HPを閲覧し、概要を理解する。復習として見学に関するレポート課題を制作する。	180分
第16回				

学習計画注記 博物館の見学は受講生の人数によって、日程等を調整する可能性がある。

学生へのフィードバック方法 授業の理解度を確認するために、前回授業内容についての「振り返りテスト」を行う。穴埋め方式で出題し、時間内に正解の解説をする。第9回目の授業では中間試験の解説を行う。採点した課題はコメントを付けて期末試験前に返却する。

評価方法 見学課題においては服飾デザインの多様性について、積極的に視野を広げているかについて、体型に関する課題では、授業内容を理解し、作業を行っているかを評価する。中間試験、及び期末試験では授業内容の理解を評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題	○	○	○	○
中間試験	○	○		
期末試験	○	○		
授業時の小テスト	○			

評価割合 授業時の小テスト：15% 課題2回：20% 中間試験：30% 期末試験：35%

使用教科書名 (ISBN番号) なし、プリントを配布

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】適切な衣服設計とは何かを理解する。
【思考・判断】人体にとっての快適な衣生活とは何か判断できる。
【関心・意欲・態度】衣服設計と服飾デザインの問題について関心をもつ。

オフィスアワー 月曜日2限 1703ゼミ室

学生へのメッセージ 教職のための選択科目です。被服構成のための基礎的な知識を習得することを目的としています。日常的に身近な衣服の構造やデザインをよく観察するとよいと思います。1年次後期開講のファッション造形実習Aの内容に関連する科目です。

教育等の取組み状況

	該当	概要
--	----	----

	有無	
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	文化服飾博物館のドレスの展覧会を見学することで、実物に触れる体験的な学習を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ファッション造形実習B		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 太田 茜	指定なし

ナンバリング

G25303C23

授業概要(教育目的)

本講では浴衣制作を課題とし、材料に関する特徴である染色方法から、基礎的な和服の構成と縫製技術実践的に体験し習得する。さらに各自の身体を計測して制作した作品が適合しているかを、着装して共に着付けの方法も体験し着装発表を行なう。また、和の縫製技術と様々な体型の人々に可能な着装後の管理等についても合わせて理解する。最終的に日本の伝統文化である和服を継承していくことのできる。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	日本の民族衣装としての和服の役割を正しく理解し、伝えていくことへの認知ができ自分の情報として得る。
思考・判断の観点 (K)	全体像の予測ができ、各箇所に適した工程を正しく理解し、考えての作業選択ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	特殊な技術方法などに積極的なアプローチを示し、再現してみる努力を行うことができる。
技術・表現の観点 (A)	あらゆる手法・着装方法について重ねて技術を磨くことや、相手に作品の特徴などについて伝える力が得る。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間
第1回	ガイダンス、和服について計測・材料・見積り	この授業についての進め方と概略について説明し、和服についてその呼び方・仕立て方の種類と浴衣の位置づけについて解説する。続いて材料の説明と、各自の身体に合わせた制作のため、身体計測の説明を加えて計測を行い、算出をする。基本的には手縫いで製作を行うが、作業進度によってはミシンも使用することを伝える。また、次の授業までに反物を用意するため反物の選び方についても説明する。	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をして、準備するものを調べておく。材料の調達と柄合わせの方法などを確認しておく。	60分
第2回	裁断と柄合わせ	和服用反物の柄の解説をし、浴衣をつくる場合の裁断について説明する。前回採寸した寸法から各自の身頃・衿・袖の裁断を行う。実際の裁断は点検を受けた後に行う。	柄合わせの種類を確認し、衿と袖の柄を確認する。	40分
第3回	袖のしるしつけ・縫製と運針	袖の柄合わせの確認をしてから、しるしつけの解説をし、実際に板書で説明しながら学生もしるしつけを同時に進めていく。次に縫製手順と手法を説明し、デモを加え説明をおこない、各自縫製を進める。	袖の柄合わせの確認としるしつけの方法と基本の運針の技法を確認し練習する。	60分
第4回	袖の縫製と身頃のしるしつけ・縫製	袖の縫製の続きとして、三つ折りぐけの手法を基礎縫いとして体験させ、本番に活用する。次に身頃のしるしつけをするための布重ね方と方法を解説する。しるしつけを行い、背縫いをし、きせをかけて伏せる。身頃のくりこしあげを縫う。	基礎縫いの三つ折りぐけの練習と身頃のしるしつけの確認。袖の三つ折りぐけの片方宿題。	70分
第5回	衿と衿の裁断・肩当てつけ	衿と衿の裁断のためどこに付く部分かを見本で確認後、衿と衿に切り分ける。次に肩当ての意味と効果について	肩当てがっていない場合はつける。衿と衿の切り分けを確認しておく。	40分

		解説し、実際につける準備を行い、付け方をデモで説明し、実際に実習する。	
第6回	衽のしるしつけ・衽つけと始末	肩当てつけの確認を行う。次に衽のしるしつけを解説し、それぞれしるしつけをする。衽付けの説明をデモで行い、きせの分量についての違いを解説に加え、各自実習する。基礎縫いとして耳くけの技法を練習し習得する。	衽付けの確認と耳くけの練習。 30分
第7回	脇縫い・衽の始末	衽つけと始末（耳くけ）の確認をする。次に脇縫いの位置を確認し、脇縫いと脇縫いの始末の方法を説明する。次回の裾縫いの準備を行う。	片方の脇縫いと脇の始末。 部分縫いの準備の確認。 60分
第8回	袖つけ縫い代の始末・裾の始末	裾角の始末の方法（縫い代の折り方と針の出し方）を説明し、裾の始末を行う。また、袖付けについて解説し、デモを加えて説明する。袖をつける。	裾の三つ折りぐけの確認と袖付けと始末の確認。 40分
第9回	脇の始末・裾くけ	脇縫い始末（縫い代折り方）の確認と点検。8・9週の授業の総確認をして、進捗を整える時間とする。	この時点で、完成していないところの確認をする。 30分
第10回	共衽の柄合せ・衽のしるしつけ・衽つけ	共衽の寸法と柄合わせについて解説し、本衽の衽のしるしつけの準備としるしつけについて説明し、各自実習する。個々に柄合わせ点検を行う。衽先の部分縫いの準備の説明をする。次に衽付けの説明を行う。	部分縫いの準備の確認と衽のしるしつけ確認。終わっていない箇所は各自で自習を行う。 40分
第11回	衽つけ・衽先部分縫い	衽付けの（待ち針の打つ順序と縫い方）デモを行い、衽の付け方を再確認する。衽先の留めの部分縫いを説明し、習得させる。衽付け待ち針を行い点検をし、衽をつける。	衽先の留めの確認と衽つけの確認。 40分
第12回	三つ衽芯入れ・衽くけ	本衽のきせのかけ方を確認し、三つ衽芯を入れる意味を解説し、手法を説明する。さらに衽の本ぐけとして、基礎縫いで確認し習得してから本番に入る。	三つ衽芯入れと本衽の本ぐけの確認。 40分
第13回	衽くけ・脇の始末	本衽の本ぐけ確認と脇の始末、の確認。最後の着付けに必要な道具について解説しする。	本日まで総確認を行い、不足の箇所を完全なものに整える。着付けの道具について、有り無しの確認を行う。 40分
第14回	袖つけと始末・仕上げ・たたみ方・ミニテスト	袖つけの方法と始末についてパワポで解説し、デモを加えて実習に移る。仕上げの方法と、たたみ方と、来週の着付けに必要な道具の解説をパワポで行う。最後に名称のミニテストを行う。	袖のつけ始末の確認をする。ミニテストの各部の名称を確認し習得しておく。着付けの道具を用意しておく。 60分
第15回	着付	着付けの方法を動画などを用いて説明し、人台を使用して同時進行で着付けを行う。ペアで前後確認しながら帯は文庫結びで着装する。最後に何人かで写真撮影を行う。作品提出とレポートを添えて提出する。	着付けにつて、復習して一人で着られるようになるよう努力する。

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	毎回の授業での机間指導で、正しく理解しての作業ができていないかを確認し、その都度指導する。部分提出物と最後の作品提出のレポートに、浴衣の構造や手順を理解できているかをコメントし、再度確認
評価方法	平常点は、授業への参加状況と作品等の取り組みの状況を総合的に評価する。作品課題評価は、全体のりと、最初の段階よりどれだけ上達し技術を習得できたかを評価する。着身体験では、構造の理解とポイントと作法及び技法を理解し再現できるかについてと相互協力して着装が完成できるかを判断する。其の利点を感じ取れるかをレポートの回答を見る。これらを下記の表に示す力を育むことを目的とする。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題制作	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○
着装	○	○	○	○

評価割合	作品課題 (50%) 着装課題 (20%) 課題レポート (15%)、平常点 (15%) の割合で総合的に判断する
使用教科書名 (ISBN番号)	教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。
参考図書	小田 美代子『きものの仕立て方 職人に学ぶ、一つ身じんべえ、浴衣から、ひとえ長着まで』文化出版 野村辰雄『新訂版 上手に縫える 着物の仕立て方』有紀書房(1996)
ディプロマポリシーとの関連	日本の伝統衣装である和服の浴衣制作を行うが、実習作業を進めていくことも、すべて人間教育が欠か 考える。作品完成結果のみで判断せず、そのステップ一つ一つを大事に知識・技術体得に加え、総合的 ことを重視する。
オフィスアワー	1808ゼミ室 月曜昼休み～3限
学生へのメッセージ	・1回目の授業より必須内容に入るため、必ず出席を希望する。 ・授業外で行う作業も出てくる事は覚悟して履修して欲しい。 ・浴衣の反物が必要になるため初回の授業で説明する（質問のある人は事前に相談に来て欲しい）
教育等の取り組み状況	

該当有無	概要
------	----

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ハンドクラフト演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 太田 茜	指定なし

ナンバリング	G35306C22
授業概要(教育目的)	ものづくりは様々な道具を使用するが、それらを活用していく「手」の重要性を再認識する。演習内容では複数の手芸技法の基礎を学び、サンプラー制作を行う。学んだ手芸技法を組み合わせ自由課題として最終的な作品を自分でデザインして制作し、サンプラーを含めたポートフォリオにまとめてプレゼンテーションを行う。具体的な手法としては組紐、タティングレース、刺繍などを学ぶ。 一連の流れを通して自己の作品コンセプトを人に伝える技術も含めて、作品作りの組み立て方を学ぶ。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	装飾のさまざまな種類の歴史と技術を理解し、立体的に構造を把握し、実際に技法を再現できる。
思考・判断の観点 (K)	図解を正しく認識し、デザインにあった表現方法を選択できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	テーマについて、情報収集を適切にでき、自ら積極的にかかわることができる。
技術・表現の観点 (A)	デザインに適した手法の選択と材料の選定ができ、完成度の高い創作表現ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス、手芸とは何かについて	手芸について様々な技法があることを理解し、またその役割を確認する。手芸の基本的な技法は編む、組む、結ぶ、刺すなどがあるが、この授業では主に組む(組紐)、結ぶ(タティングレース)、刺す(刺繍)を行うためその概要を解説し、授業の予定等を確認する。	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。身近な手芸作品について調べ、気になる技法の参考になる資料を探しておく。	50分
第2回	組む・1 組紐ディスクを使った習作	組紐の基本的な技法であるZスパイラルを習作として組む。作り方の説明を読み解き、デモを行って解説を行う。組みひもディスクに練習用の糸をセットして実習を行い、一本の紐に組み上げた後、作品に仕立てる。	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。また、3回目で取り組む課題の色合わせ等を考える。	40分
第3回	組む・2 組紐ディスクを使った応用作品の制作(1)	前回の手法を確認し、新しい技法をデモで解説する。各自のイメージにあわせて作品の材料を揃え、制作を行う。作品はプレスレットやストラップを想定しているが、教員と相談の上で他のものにしてもよい。	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。不足している材料がある場合は調達しておく。	60分

第4回	組む・3 組みひもデ ィスクを使 った応用作 品の制作 (2)	各自でデザインした課題にとりくみ、制作を行う。作業工程を記録しておき、レポートに役立てるとともに自分の作業スピードを把握できるよう試みる。仕上げに必要な素材を確認しておく。	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。必要な素材が足りない場合は調達しておく。	40分
第5回	組む・4 組みひもデ ィスクを使 った応用作 品の提出	作品を完成させる。作業手順を課題レポートとしてつけ、提出をする。	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。	60分
第6回	結ぶ・1 タティング レースの基 本技法の習 得	レースをつくる技法は編む、刺す、結ぶ等々あるが、今回は結んで作るタティングレースの技法を習得し、作品に生かせるようにする。まずシャトルの糸の巻き方、使い方を解説し、実習を行う。基礎的な技法を練習し、サンプルとして花モチーフをつくる。また、次回から制作するアクセサリーのデザインをし、必要な材料をリストアップしておく。	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。次回から制作するアクセサリーに必要な資材を探しておく。	40分
第7回	結ぶ・2 タティング レースのア クセサリー づくり	前回習得したタティングレースの基本技法を再確認し、それぞれのデザインにあわせて設計図をかき、制作を行う。次回とあわせて作品としてアクセサリー（イヤリング、チョーカー等）に仕上げるため、必要な資材の確認をしておく。	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。足りない資材がある場合は用意しておく。	40分
第8回	結ぶ・3 タティング レースのア クセサリー づくりと提 出	前回に引き続き制作を行う。また、糸の始末をし、金具等を取りつけて作品に仕上げる。作業手順を課題レポートとしてつけ、提出をする。	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく	60分
第9回	刺す・1 ビーズ刺繍 の基本技法 の習得	刺繍の技法は数多くあるが、今回はビーズを使って模様を描くビーズ刺繍を習得する。図案の写し方、糸の準備、刺し方などを解説し、基本の図案に従ってサンプルを制作する。次回からつくる作品の図案を決め、必要な材料をリストアップする。	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。次回から制作するアクセサリーに必要な資材を探しておく。	40分
第10回	刺す・2 ビーズ刺繍 の作品づく り	前回習得した基本技法を再確認し、それぞれがデザインした図案で実習を行う。作品はポーチ等に仕立てるため、必要な資材を確認し、足りないものは用意しておく。	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。	
第11回	刺す・3 ビーズの刺 繍の作品づく り	前回に引き続き制作を行う。また、糸の始末をし、金具等を取りつけて作品に仕上げる。作業手順を課題レポートとしてつけ、提出をする。最終課題として制作を行う自由課題のデザインを考える。	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。必要に応じて図書館等で自由課題のヒントを探す。	60分
第12回	自由課題・ 1 デザイン 決め	今までに習得した組む、結ぶ、刺すの技法の少なくとも一つ以上を使い、最終的な作品として制作するものを決定し、デザインを行う。制作するのは服飾小物とし、大きさや技法はある程度自由にしよう。何をやるかは相談をし、点検を受けてから材料を揃えるようにする。	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。必要な資材を用意する。	60分
第13回	自由課題・ 制作(1)	前回デザインを決定した自由課題を制作する。必要な技法を確認し、適宜デモなどを行って解説をする。	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。	40分
第14回	自由課題・ 3 制作 (2)	前回に引き続き制作を行い、完成させる。次回の授業で作品コンセプト、技法の解説などのプレゼンテーションを行うため、各自でプレゼンの準備をする。	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。	60分
第15回	自由課題の プレゼン、 提出	自由課題のプレゼンを各自行い、お互いに講評を行う。作業手順をレポートにし、課題と共に提出する。	シラバス内容を確認し、授業内容について理解をしておく。	60分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。			
学生へのフィードバック方法	提出作品とレポートを返却し、それぞれの作品についての構成・手法・完成度についてコメントし、自由課題への検討課題とする。自由課題はレポートともにコメントをつける他に、学生同士で講評を行う。			
評価方法	作品については、デザイン力と色彩力に加えて、技術を総合的に判断するが、技術力については、最初よりどれだけ進歩したかを個々に判断して評価を決定する。プレゼンテーションについては、自分の作品をどれだけ正しく理解し、適切な表現方法で相手に伝えることが出来るかで評価する。最後に各作品のレポートにより装飾についての考えを見る。これらを下記の表に示す力を育むことを目的として実施する。平常点は、授業への参加状況と作品等の取り組みの状況を総合的に評価する。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)

作品制作	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○
プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合	作品制作（60%）、レポート（15%）、プレゼンテーション（15%）、平常点（10%）
使用教科書名 (ISBN番号)	教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。
ディプロマポリシーとの関連	総合家政の各領域で専門知識を習得する中で、ファッションに関連する服飾小物や衣服を装飾する技法を習得し、ファッションの一部としてのハンドクラフトの重要性を学び豊かな心を育み総合的に成長することを目的としている。
オフィスアワー	1808ゼミ室 月曜昼休み～3限
学生へのメッセージ	日頃から装飾に関心を持って、美術館や映画等々を見て作品のインスピレーションを得るようにしてください。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	現代衣生活論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山村 明子	指定なし

ナンバリング	G25102C21
授業概要(教育目的)	現代社会の中で、ファッション領域における特徴のある事象を取り上げる。ファッション産業の構造と現状の課題、生産現場の人権と商品の価値、企業が取り組むべきCSR活動、エネルギー消費の問題や地球環境に配慮をするサステナビリティなファッション商品とは何か。また少子化、超高齢化が進む中、子ども服やシニアファッション商品の開発についてなど多方面にわたる衣生活の問題について考えていく。
履修条件	特に定めず
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	現代のアパレル産業と消費者の課題について理解する
思考・判断の観点(K)	豊かな衣生活とは何かについて理解し、適切な消費行動をとれる
関心・意欲・態度の観点(V)	消費者として現代のアパレル産業の課題に積極的に関心をもてる
技術・表現の観点(A)	消費者として現代のアパレル産業の課題に積極的に関心をもてる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	アパレル産業の構造と課題	従来のアパレル産業の構造を学び、そこに生じる問題点を理解する。	シラバスを読み、授業概要について理解する。	180分
第2回	日本のアパレル産業の現状	日本のアパレル産業の長所と弱点を学び、今後の展開について考える。	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。	180分
第3回	ファストファッション	今日のアパレル産業を大きく動かしているファストファッションの現状を学び、その問題点を理解する。	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。	180分
第4回	現代のファッションと	グローバル社会におけるアパレル産業の動向を学び、ファッションのグローバル化の持つ課題を考える。	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として	180分

	グローバルゼーション		関連する企業の公式HP等を閲覧する。	
第5回	アパレル産業とCSR	アパレル産業のCSRについて学び、それらに対する消費者としての姿勢について考える。	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。	180分
第6回	ファッション商品の生産現場の問題点	映画「女工哀史」から、ファッション商品の生産現場が持つ問題点について学ぶ。	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。	180分
第7回	ファッション商品の価値	前回の映画の内容を振り返り、フェアトレードやエシカルファッションの動向を学び、ファッション商品の価値とは何かを考える。	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。	180分
第8回	消費と廃棄	ファッション商品の消費と廃棄の現状を学び、消費者としての行動を考える。	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。	180分
第9回	3Rとファッションデザイン	今後の活用が期待されるケミカルリサイクルについて理解し、ファッション商品に対する消費者としての行動を考える。	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。	180分
第10回	ファッション商品の生産と消費の問題点	映画「トウルー・コスト」から、ファッション商品の生産現場と消費行動が持つ問題点について学ぶ。	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。	180分
第11回	持続可能な衣生活	前回の映画の内容を振り返り、持続可能な衣生活を創り出すための消費者としての行動を考える。	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。	180分
第12回	シニアファッション	高齢者の身体的特徴、運動・生理的機能の変化を学び、高齢者の衣生活に生じる課題を理解し、今後のシニアファッションについて考える。	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。	180分
第13回	ユニバーサルファッション	身体の機能不全などで生じる衣生活の課題を理解し、それに対応できるファッションの提案を企業の活動から学ぶ。	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。	180分
第14回	子ども服と安全	乳幼児期の身体的特徴、運動・生理機能の特徴を学び、乳幼児の衣生活、特に子どもの健康や安全に留意する点を理解する。	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。復習として関連する企業の公式HP等を閲覧する。	180分
第15回	服育	子ども服産業の現状を学び、ファッションを楽しむことを通し子どもの学びについて考える。	予習として授業内で指示・配布をする資料を読む。授業全体を振り返り、試験に備えて指示した内容をまとめる。	180分

学習計画注記	受講生の理解度等により授業の進度を調整することがある。
学生へのフィードバック方法	授業の理解度を確認するために、前回授業内容についての「振り返りテスト」を行う。穴埋め方式で出題し、時間内に正解の解説をする。
評価方法	授業時の小課題：前回の授業の振り返り小テスト等を行う。 期末試験：試験の内容については事前に指示をする。授業で提示した内容だけでなく、積極的に情報を収集する態度と、これからの衣生活のあり方と消費者としての行動を考え回答することを求める。

評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	授業時の小課題	○	○	○	
	期末試験	○	○	○	

評価割合	授業時の小課題15%、期末試験85%
------	--------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	なし。授業時にプリント配布
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「質の高い生活」の一要素である衣生活に関する課題を理解する。 【思考・判断】現代の衣生活における消費者と企業の課題の解決や適切な行動について志向する。 【関心・意欲・態度】現代の衣生活の問題について関心をもち、積極的に情報を収集する。
オフィスアワー	月曜日2限 1703ゼミ室
学生へのメッセージ	ファッションは個人的な楽しみでもあり、社会における問題を提示することもあります。この授業では衣生活における問題意識を持つことを目標にしていますので、新聞記事などにも積極的に目を通す習慣を身につけていただきたいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	世界の服飾		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山村 明子	指定なし

ナンバリング	G15201021
授業概要(教育目的)	世界各地には様々な民族服が存在する。それは歴史的背景の中で成立してきたものであるが、グローバル社会の中で服飾文化は西洋化されてしまった。今日ではその着用者は限定的となり、儀式やイベントなどに着用されることで、民族を意識させる象徴的な存在でもある。民族服の構成、色彩、装飾の特徴、現代社会における民族服飾の役割や、変わりゆく服飾文化を踏まえ、服飾文化から国家と民族との関係を見つめなおすことが目標である。
履修条件	特に定めず

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	民族服飾に関する歴史的事象と現代社会との関わりを理解する
思考・判断の観点 (K)	民族服飾は民族にとってどのような意味を持つものなのか考え、判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	民族服飾に関する情報を積極的に収集する。
技術・表現の観点 (A)	制作課題においてイメージマップの効果的な表現ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	民族服飾の定義	民族と民俗、民族服飾の定義を学び、日本にとっての民族服飾とは何かを考える。	シラバスを読み、授業概要について理解する。	180分
第2回	自然をまとう オセアニア	民族服飾の成立の要因を学び、オセアニアの服飾例から服飾デザインと素材との関わりを理解する。	復習として授業内容の振り返りを行う。	180分
第3回	巻衣 アジア地域(インドなど)	服飾の基本形態の一つである巻衣の民族服飾における例を学び、その形態の特徴、機能、表現要素等を理解する。	復習として授業内容の振り返りを行う。	180分
第4回	貫頭衣 南米地域(アンデスなど)	服飾の基本形態の一つである貫頭衣の民族服飾における例を学び、その形態の特徴、機能、表現要素等を理解する。	復習として授業内容の振り返りを行う。	180分
第5回	寛衣 中東	服飾の基本形態の一つである寛衣の民族服飾における例	復習として授業内容の振り返り	180分

	地域	を学び、その形態の特徴、機能、表現要素等を理解する。	を行う。	
第6回	脚衣 中東地域（トルコなど）	服飾の基本形態の一つである脚衣の民族服飾における例を学び、その形態の特徴、機能、表現要素等を理解する。	復習として授業内容の振り返りを行う。	180分
第7回	ヨーロッパ地域 ギリシャの衛兵	ギリシャの衛兵の服装に残されているデザインの特徴を学び、ヨーロッパ服飾文化の変遷との関わりを理解する。	復習として授業内容の振り返りを行う。	180分
第8回	ヨーロッパ地域（中欧の女性）	中東欧地域の女性民族服飾の特徴と、ヨーロッパ服飾文化の変遷との関わりを学び、民族服の持つ意味を理解する。	復習として授業内容の振り返りを行う。	180分
第9回	ヨーロッパ地域 スコットランド	スコットランドのタータンチェックの概要について学び、民族に固有のデザインが現代に活かされる事例について理解する。	復習として授業内容の振り返りを行う。	180分
第10回	民族服飾が作りだされる背景 ハワイ	ハワイにおけるアロハシャツの成立の背景を学び、民族服飾とグローバリゼーションとの関わりについて理解する。	復習として授業内容の振り返りを行う。	180分
第11回	変わっていく民族服飾 西洋文化の影響	中国（満州族）におけるチーパオ、ベトナムにおけるオアザイ、シンガポールにおけるサロン・ケバヤの西洋文化からの影響を学び、民族服飾の変容について理解する。	復習として授業内容の振り返りを行う。	180分
第12回	文化服飾博物館見学	文化服飾博物館で開催される「世界の藍」を見学し、民族服飾のデザインについて理解する。	予習として博物館公式HPを閲覧し、復習として事前に指示した課題を踏まえて見学内容に関するレポートを制作する。	180分
第13回	課題作成	多様な民族服飾のデザイン例の中から、現代の衣生活とのコラボレーションを考え、イメージマップを作成する。	課題に沿ったテーマ設定の情報収集を行う。	180分
第14回	変わっていく民族服飾 チマチヨゴリ	韓国の服飾文化の変容を概観したうえで、チマチヨゴリの表象性について理解する。	復習として、授業内容の振り返りを行う。	180分
第15回	まとめ	これまでの講義内容を振り返り、民族と民族服飾とはどのような関わりを持っているのかを考える。各自が制作した課題を発表する。	授業全体の振り返りを踏まえ、期末試験に向けて復習をする。	180分

学習計画注記 博物館の見学は、受講生の人数により日程等を調整する可能性がある。

学生へのフィードバック方法 授業の理解度を確認するために、前回授業内容についての「振り返りテスト」を行う。穴埋め方式で出題し、時間内に正解の解説をする。

評価方法 授業時の小課題：授業内では前回の授業の確認の小課題を行う。
博物館の見学課題では積極的に服飾デザインを観察し、デザインの持つ意味を理解しているかを問う。
制作課題では民族服飾の情報収集とイメージマップ制作における表現の工夫を問う。試験では授業内容全体の理解を問う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業時の小課題	○			
課題	○	○		○
期末試験	○	○	○	

評価割合 授業の小課題：15% 課題（2回）：20% 期末試験：65%

使用教科書名 (ISBN番号) 使用しない。必要に応じてプリント資料を配付する。

参考図書 授業時に随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】世界の服飾文化を学び、各地の風土や歴史的背景と服飾文化とのかかわりについて理解する。
【思考・判断】服飾文化の多様性を次世代の衣生活に生かす方策を志向する。
【関心・意欲・態度】服飾文化と民族の問題について関心をもつ。

オフィスアワー 月曜日2限 1703ゼミ室

学生へのメッセージ 服飾を通してその国の文化や地域の特徴を知り、異文化理解に役立ててほしい。受講に際しては、積極的に授業に参加するとともに、授業で取り上げる内容以外にも諸外国の文化、服飾について関心を持ってほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	文化服飾博物館の展示を見学し、体感的な学びを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	日本の服飾		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 真弓	指定なし

ナンバリング	G25202C21
授業概要(教育目的)	これまで他国から伝播した諸文化は、国内での伝承過程で形態変化を遂げながらも現代まで残ってきた。何が愛でられ、どのようにそれらの文化が融合もしくは変転しつつ伝承されてきたのか、平安王朝期と江戸期を中心に服飾の文化的・社会的背景の考察を行う。また、本学の所蔵コレクションを文化資源として用いながら、服飾と文学の関係も合わせてみていきたい。本講義を通して、次世代に受け継ぐべき服飾に関する知見と感性を持てるようになることをめざす。
履修条件	特になし。学芸員課程の選択科目となっている。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	伝統的な服飾文化の受容について、それらが持つ歴史的社会的背景を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	現代日本において伝統的な服飾文化をどのように活用することが出来るか、考察できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会的な観点から意欲的に自らの課題を発見し、それに対する調査を行うことができる。
技術・表現の観点 (A)	学びの結果得られた自分の意見・考えを他者に向けて論理的に表現することができる。

学習計画

日本の服飾

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション-世界へと突き抜ける日本の服飾	日本の服飾を扱うにあたり、その前提となるべき観点・背景の説明として、京都西陣織とラオス織を取りあげ、両者の関係について現代的意義を理解する。	予習としてシラバスを読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180
第2回	日本の風土と服飾の関係について	「二四節気」や「七二候」という言葉に表される暦に関する基本的な知識と、衣生活と季節の関わりを文化的側面から学ぶ。	配布プリントを読んで理解する。	180
第3回	古代布の周辺	日本各地で細々と営まれている絹製品・木綿製品以外の布に焦点をあて、その背景を把握し、改めて布とはなにかについて、自身の見識を持てるようにする。	課題図書を読む。	180
第4回	王朝の服飾	平安時代の正装である衣冠束帯・女房装束、その他男性	課題図書を読む。	180

	(1)	の着装である直衣について、基本的な知識を習得し、文学に表れたそれらの服飾の文化史的背景について学ぶ。		
第5回	王朝の服飾(2)	平安時代の貴族女性が着装した女房装束が持つ美意識について理解し、併せて現代の皇室儀式での着装を例として、これらの装束が持つ意味を解明する。	課題図書を読む。	180
第6回	王朝の色彩表現	日本の伝統色のうち、平安時代に新たに生み出された色の文化的背景を知る。文学に表れた服飾文化を色や美意識の側面から分析する手法を習得する。	レポート作成のための予備調査を行う。	180
第7回	江戸の色彩表現	日本の伝統色のうち、江戸時代に新たに生み出された色の文化的背景を知る。服飾や色彩をめぐる社会的な規制の中で、江戸期の人々がどのような暮らしを営んでいたか、理解する。	中間テストのためにこれまで作成したノートの見直しを行う。	180
第8回	中間テストと日本の文様(1)	日本古代の文様の種類を把握し、文様の持つ意味を理解する。	レポート作成のためのテーマを設定する。	180
第9回	日本の文様(2)	江戸時代に流行した文様の特徴について把握し、その文様を持つ意味を理解する。	レポート作成のための文献検索を行う。	180
第10回	日本が発信する服飾シーン(1)	東京オリンピック開催に向けて、エンブレムやそれに付随するさまざまなグッズが制作された。そこに用いられている伝統色や伝統文様について理解を深め、色・文様の背景を確認する。	レポート作成のための文献を読む。	180
第11回	日本が発信する服飾シーン(2)	消費文化の中に見いだせる日本の伝統色や伝統文様についての事例をあげ、これらについて分析する中から、それらを現代に活かす方策をさぐる。また、本学生活文化博物館資料に触れることで、文化資産の考え方を学ぶ。	調査結果をまとめ、レポートを完成させる。	180
第12回	バイオミメティクスと服飾文化	生物模倣という技術と日本文化との関係性について把握し、現代社会における伝統文化のスタンスについて考察を行う。	情報検索をしてバイオミメティクスについて理解を深める。	180
第13回	エシカルファッションとアップサイクル	日本の伝統的な暮らし方との比較により、現代の文化を環境の側面から考察する。	配布プリントを読んで理解する。	180
第14回	老舗の生き残り戦略	450年続く京友禅の老舗「千總」に見る異業種とのコラボレーションや著作権フリーの取り組みを通して、伝統文化を現代に定着させ、かつ継承させていくための戦略について学ぶ。	関連書籍や情報検索により千總の取り組みを深く理解する。	180
第15回	振り返り・まとめ	作成されたレポートの内容を発表し、学生の行った調査や作業を振り返る。さらに、効果的なレポートの書き方について教授する。	期末試験準備として、これまで作成したノートを見直す。	180

学生へのフィードバック方法 レスponsシートにおける質問は、次週に回答する。また、レポートは最終週に返却するが、今後よりよい成果が得られるよう、レポートの効果的な書き方についてアドバイスをを行う。

評価方法 授業ではレスponsシートを配布し、それを回収する。提出しなかった者の出席は認めない。関心・意欲・態度とともに基本的な授業内容の把握に関して問う。中間テストは8回目の授業時にこれまでの授業内容理解について、記述式にて問う。レポートは、本授業を通して得られた知見を元に他者にわかりやすく伝えるという工夫がなされているか、正確な情報に基づいて作成されているかという観点から評価する。期末試験は、授業で扱った内容に関して記述式の問題とし、理解度と表現における論理性を評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レスponsシート	○		○	
中間テスト	○			
期末試験	○			○
レポート	○	○	○	○

評価割合 平常点20% (授業内課題含む)、中間テスト10%、レポート30%、期末試験40%

使用教科書名 (ISBN番号) 特に指定しない。

参考図書 鶴見和子編『日本の名随筆 着物』作品社 1800円、吉岡幸雄『源氏物語の色辞典』紅紫社 2008年、その他、授業中に指示する。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】日本の服飾を巡る社会課題を発見できる知識を持つことができる。

	<p>【思考・判断】社会課題を調査分析し、その結果、自分で考察することができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】持続して課題を追究する意欲を持つことができる。</p> <p>【技能・表現】次世代に残したい文化を他者に向けて発信できる表現力を持つことができる。</p>															
オフィスアワー	水曜日2限、千代田三番町キャンパス1807室															
学生へのメッセージ	世界と通じている日本の服飾文化について知ることは、その地に生きる人びとの暮らし方を知ることでもあります。広い視野で物事を見ることができるよう努めましょう。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>受講者が能動的に学修できるようにグループワークを取り入れる。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td>○</td> <td>図書館の利活用法について習熟し、著作権使用に関する注意を喚起する。</td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング	○	受講者が能動的に学修できるようにグループワークを取り入れる。	情報リテラシー教育	○	図書館の利活用法について習熟し、著作権使用に関する注意を喚起する。	ICT活用		
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業																
アクティブ・ラーニング	○	受講者が能動的に学修できるようにグループワークを取り入れる。														
情報リテラシー教育	○	図書館の利活用法について習熟し、著作権使用に関する注意を喚起する。														
ICT活用																

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	西洋服飾文化史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山村 明子	指定なし

ナンバリング	G35204C21
授業概要(教育目的)	現代の服飾文化のスタンダードである西洋式服飾文化の歴史的な背景を概観し、今日の服飾意識がどのように形成されてきたかを考える。特に、近世以降のヨーロッパでの社会的変動と服飾デザインの変化を関連付けて理解することで、服飾文化と社会的価値観との相互作用に着目する。服飾は社会における人々の在り方を表象する装置であり、服飾への造詣を深めると同時に、服飾を切り口とした社会や人々へのアプローチについても考えていく。
履修条件	特に定めず
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	西洋の服飾文化の歴史を理解する
思考・判断の観点 (K)	西洋の服飾文化がどのような社会の中で作りだされてきたのか考える
関心・意欲・態度の観点 (V)	異文化を理解する姿勢を身につける
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	古代から中世までの西洋服飾	当該授業では16世紀以降のヨーロッパの服飾について学ぶが、その導入として古代エジプト以降中世ゴシック期までの服飾の変遷を概観する。また、歴史を見る眼として重要な現代の価値観で判断しないことを理解する。	シラバスを読み、授業概要について理解する。	180分
第2回	16世紀とスペインモード	イタリアルネサンス様式における服飾文化の変容を確認する。16世紀の宮廷文化と服飾との関わりについて理解する。	予習として教科書pp. 44-52を読む。	180分
第3回	エリザベス I 世	イギリスのエリザベス I 世の服飾を中心に、当時の戯曲などを資料にしてスペインと敵対したイギリスの位置づけと服飾の特徴について理解する。	予習として教科書pp. 53-58を読む。	180分
第4回	17世紀とオランダモード	スペインから独立を果たし市民の経済活動が活発だったオランダ市民の服飾に注目し、服飾においてもバロック	予習として教科書pp. 59-62を読む。	180分

		様式の造詣的な特徴への変容がみられることを理解する。		
第5回	17世紀後半のフランスバロック	ヨーロッパの政治の中心となったフランス宮廷における服飾に注目し、当時の戯曲などを資料にしてその特徴について理解する。	予習として教科書pp. 62-76を読む。	180分
第6回	18世紀のフランスロココ	フランス宮廷のロココ様式の特徴を踏まえて、男性のアビ・ア・ラ・フランセーズ、女性のローブ・ア・ラ・フランセーズについて理解する。	予習として教科書pp. 77-88を読む。	180分
第7回	18世紀のマリー・アントワネット	マリー・アントワネットの衣裳に注目して、フランス宮廷モードと私的な服装の差異について、また王妃の衣裳費の記録から、宮廷文化について理解する。	予習として教科書pp. 88-94を読む。	180分
第8回	フランス革命と19世紀	フランス革命に伴う社会と服飾の変化との関わりをサン・キュロット及びエンパイアスタイルの事例から理解する。	予習として教科書pp. 94-100を読む。	180分
第9回	19世紀の男性服飾	今日の男性服飾の基本形となったイギリスの紳士服スタイルについて、ダンディの美意識とともに理解する。	予習として教科書pp. 101-109を読む。	180分
第10回	19世紀の女性服飾	ロマンティックスタイル、クリノリンスタイルといった有閑階級の服飾について、社会と女性の在り方という視点から理解する。	予習として教科書pp. 109-113を読む。	180分
第11回	19世紀のウェディングドレス	19世紀中ごろのイギリスのヴィクトリア女王のウェディングドレスから広がった白いドレススタイルを取り上げ、19世紀後半の女性の位置づけについて理解する。	予習として教科書pp. 113-120を読む。	180分
第12回	19世紀の女性とスポーツ服	19世紀後半に女性たちに拡大したレジャースポーツとその服飾に着目し、現代的な価値観の誕生について理解する。	予習として教科書pp. 124-129を読む。	180分
第13回	19世紀末から20世紀にかけて	アールヌーヴォーから、アールデコへの様式の変化を服飾の特徴から理解する。	予習として教科書pp136-142 (9章 20世紀) を読む。	180分
第14回	まとめ・試験	第一次大戦、第二次大戦を経て、ヨーロッパモードは今日のグローバルスタンダードな服飾となったことを理解し、社会と服飾との関わりについて再考し、試験する。	授業内容を振り返り、試験に向けて復習をする。	180分
第15回	アクセサリーミュージアムの見学	19世紀末から20世紀までの国内外のコスチュームジュエリーについて、ミュージアムの見学を通して理解する。	予習としてアクセサリーミュージアム公式HPを閲覧し、見学内容について理解する。	180分

学習計画注記	見学の日程は受講生の他の授業の履修状況を踏まえて、参加できやすい日程に調整する。
学生へのフィードバック方法	授業の理解度を確認するために、前回授業内容についての「振り返りテスト」を行う。穴埋め方式で出題し、時間内に正解の解説をする。
評価方法	授業時の小課題：授業内では前回の授業の確認の小課題を行う。 試験では服飾について社会との関わりからの観点から理解しているかを問う。授業時の板書だけでなく、教科書の内容も自発的にまとめてノートを作成する工夫が必要である。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業時の小課題	○			
試験	○	○		○

評価割合	授業時の小課題：15% 課題：85%
使用教科書名 (ISBN番号)	ファッションの歴史—西洋服飾史— (朝倉書店) 佐々井啓編著 ISBN-10: 4254605986 ISBN-13: 978-4254605983
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 西洋の服飾文化の変容を学び、服飾文化が創り出す生活の質について理解する。 【思考・判断】 服飾と社会の動向や人々の志向のかかわりから、服飾文化とは何かを考える。 【関心・意欲・態度】 服飾文化の学びから異文化に関心をもつ。
オフィスアワー	月曜2限 1703ゼミ室
学生へのメッセージ	服飾文化は社会のあり方、人々の生き方への志向を表しています。服飾史を通して異文化への視点を広げてほし

」 と思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	これまでアクセサリーメーカーを経営したのちに、自らミュージアムを開館、運営しているアクセサリーミュージアム館長より、見学に際して展示物の説明に加えて、自身の経験等の講話をいただく。
アクティブ・ラーニング	○	ミュージアム見学による体感的な学び。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ファッション販売論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井澤 尚子	指定なし

ナンバリング	G25103C21
授業概要(教育目的)	ファッション商品を販売する現場は、消費者が商品の検討を経て購買を決心する場であると同時に、生産者側には消費者のニーズを商品企画等へつなげるための貴重な実態情報収集の場でもあり、消費者・生産者の両者にとって極めて重要である。本授業では、ファッション販売の基本およびファッション商品知識を身につけ、販売の現場で、消費者個々のニーズをつかみ適切に商品の専門的知識・技術・情報を提供できる人材を育成する事を目指す。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	ファッション販売の基本およびファッション商品知識を理解する。
思考・判断の観点 (K)	ファッション販売現場において消費者個々のニーズを適切に判断できる能力を培う。
関心・意欲・態度の観点 (V)	ファッション小売店に関する情報を積極的に収集する。希望者は、ファッション販売能力検定試験2・3級を受験することで資格取得を目指す。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス、ファッション販売とは	本授業の概略を説明する。ファッションとは何かを中心に解説する。ファッションの意味を理解する。	シラバス内容、授業内容を確認しておく。	120分
第2回	販売知識(1)ファッション商品の流れ	ファッションビジネスとファッション商品、ファッション商品とコーディネート、ファッション商品の流れ、アパレル産業の概観を理解する。	予習として配布資料を読んでおく。	120分
第3回	販売知識(2)消費者は何をもとめているか	お客様の個性、お客様と顧客についてを学び、お客様＝消費者について理解を深める。	予習復習として教科書の8P～15Pを読んでおく。	120分
第4回	ファッション	お客様にとっての店とは、店が提供するサービスについて	予習として教科書の15P～17Pを	120分

	ン販売技術 (1)サービスとは何か	て理解を深める。	読んでおく。	
第5回	ファッション販売技術 (2)購買心理	お客様の購買心理について解説する。各自の購買心理も考えることで、理解を深める。	予習として教科書の32P～40Pを読んでおく。	120分
第6回	ファッション・マーケティング知識	マーケティングの基礎知識を学び、マーケティングの本来の目的を考える。	予習として教科書の174P～197Pを読んでおく。	120分
第7回	タウンウォッチングについて	これまでの授業内容についての「振り返りテスト」を行う。レポート課題の「タウンウォッチング」についての解説をする。	「振り返りテスト」のための復習をする。	120分
第8回	外部講師による特別授業	大手アパレル企業に勤務する外部講師を招いて、マーケティングを中心に、実際の企業活動についてお話をうかがう。	対象企業について、インターネットで調べ、事前学習しておく。	120分
第9回	店舗演出 (1)	店舗の環境づくりについて解説する。購買心理と店舗の陳列などの関連性を理解する。	予習として教科書の152P～160Pを読んでおく。	120分
第10回	店舗演出 (2)	マーチャンダイズプレゼンテーションについて理解を深める	予習として教科書の160P～173Pを読んでおく。	120分
第11回	ファッション商品知識 (1)アイテムの知識	販売スタッフに求められる知識としてファッションアイテムについて学ぶ。	予習として教科書の46P～93Pを読んでおく。	120分
第12回	ファッション商品知識 (2)素材の種類と加工	販売スタッフに求められる知識として衣服の素材と加工、シルエット、衣服の構成とディテールについて学ぶ。これまでの授業内容についての「振り返りテスト」を行う。	予習として教科書の94P～123Pを読んでおく。「振り返りテスト」のための復習をする。	120分
第13回	ファッション商品知識 (3)商品の品質管理	販売スタッフに求められる知識として、衣服のサイズ表示、繊維製品の品質管理について学び、理解を深める。	予習として教科書の136P～145Pを読んでおく。	120分
第14回	ファッション商品知識 (4)商品苦情	販売スタッフに求められる知識として、商品苦情と対応について考える。	商品苦情について、インターネットなどで調べておく。	120分
第15回	まとめと試験	お客様が心地よく時間を過ごせる店舗環境づくりのための、販売スタッフの業務について理解を深め、本授業の内容について総括をする。定期試験を行う（60分）。	予習として教科書の198P～213Pを読んでおく。定期試験のための振り返りをする。	120分

学習計画注記 ※履修者数や授業進度によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 授業の理解度を確認するために、2回程度「振り返りテスト」を行う。選択方式で出題し、時間内に正解の解説をする。必要に応じて、ファッション販売に関連する「基礎用語」の解説をする。

評価方法 振り返りテストを踏まえた定期試験で授業内容の理解を評価する。レポートでは対象店舗のコンセプト、店舗演出などが適確にレポートされているかを総合的に評価する。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○	○	
レポート	○		○	

評価割合 平常点（15%）、定期試験（70%）、課題レポート（15%）

使用教科書名 (ISBN番号) 『ファッション販売3』 ファッション販売能力検定試験3級公式テキスト （一財）日本ファッション教育振興協会

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】 ファッション販売の基本およびファッション商品知識を理解することで、質の高い衣生活を構築する知識を有することができる。
【思考・判断】 ファッション販売における消費者のニーズが理解で

	<p>きることで、衣生活における諸問題を多角的に考えることができる。 【関心・意欲・態度】消費者・生産者両方の立場を理解することで、情報の収集が広範囲になり、社会への関心も深まる。</p>	
オフィスアワー	金曜日3、4時限	
学生へのメッセージ	<p>1年次の「衣生活概論」で学んだ、衣服の材料・管理・サイズ等の知識の定着を目指す。ファッション系授業の関連性も考えながら、学びにつなげてほしい。また、日常生活の中でも、タウンウォッチングなどで観察する目を養ってもらいたい。</p>	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	タウンウォッチングにおける店頭調査などの調査学習の内容を含む。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ファッションカラー演習		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井澤 尚子	指定なし

ナンバリング	G25304C12
授業概要(教育目的)	ファッションデザインの基礎、色彩論等をベースに、ファッションコーディネートにおける色彩表現を学ぶ。授業後半は企業連携を予定しており、実際店舗におけるテキスタイルのトータルデザインとして、クッション等のオーナメントの企画・設計・制作を行う。衣生活の多様性を考え、実践に即したコーディネート感覚を磨く。特別授業では、外部講師による「パーソナルカラーの実践」を予定している
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	市場調査や店舗調査の方法を体験することで、日常生活と社会の関連性を理解することができる。
思考・判断の観点(K)	作業工程を理解し、作業時間と作業の段取りを把握することができる。
関心・意欲・態度の観点(V)	修得した内容や技法を、さまざまな材料を用いたデザイン制作に活用することができる。
技術・表現の観点(A)	配色技法、ミシンの縫製技術、手縫い技法を学ぶことで、さまざまな作品制作での応用技法を体得できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンスおよび企業連携授業の課題説明	本授業の概略を説明する。松崎照明客員教授より、企業連携授業の目的、対象企業・店舗について、対象商品についてなどのレクチャーをしていただく。	シラバス内容、授業内容を確認しておく。インターネット等で企業連携とは何かを調べておく。	45分
第2回	色の体系とカラーコーディネート	色とは何か、色の三属性、カラーオーダーシステム、トーンの概念について解説する。カラーコーディネートに関係する色彩の基礎的内容を学ぶ。	学習内容に出てくるキーワードについて、書籍、インターネット等で調べまとめておく。	45分
第3回	色の分類と整理：色相環のカラーージュ(1)	色を体系的に捉え分類・整理するために、マンセルの色相環を題材にカラーージュを制作する。この課題では、色紙は使わずに雑誌などから色を探し、切り抜き色相環を作ることで、色の体系と分類を理解する。	マンセル表色系、色相環について、書籍、インターネット等で調べてまとめる。カラーージュの素材用の雑誌を数冊準備する。	45分
第4回	色の分類と整理：色相環	色を体系的に捉え分類・整理するために、マンセルの色相環を題材にカラーージュを制作する。この課題では、色紙は使わずに、雑誌などから色を探し、切り抜き色相環	色相環のカラーージュを完成させる。	45分

	環のカラー ジュ (2)	をすることで、色の体系と分類を理解する。色相環の提出。		
第5回	ファッション イメージ とファッ ションカ ラー	ファッションと配色を理解するために、ファッションスタイルとファッションイメージについて解説する。さらに、ファッション配色の事例を紹介し、配色の基本的な考え方を学ぶ。	ファッションスタイルとファッションイメージに関する配布資料を読んでおく。	45分
第6回	配色技法 について	色彩調和の観点から、さまざまな配色技法を具体的に解説する。ファッション配色との関連を理解する。	色相環、トーン概念について、もう一度復習をし、配色技法についての配布資料を読んでおく。	45分
第7回	特別授業： パーソ ナルカ ラーの 実践	カラーコーディネーターの外部講師から、パーソナルカラーについてのレクチャーをしていただく。グループに分かれ、実際にパーソナルカラーの体験をする。	書籍、インターネット等で、パーソナルカラーについて調べておく。事前に配布した資料を読んでおく。	45分
第8回	企画と設計 計画 (1) 本社見学 および 対象店 舗見学	本社見学および対象店舗の見学を行う。 ・対象企業の見学を行い、概要を知る。 ・対象店舗の街の雰囲気、店舗の外観と内装、商品などの市場調査を実施する。 ・店舗の概要を知る。	インターネットで対象企業、対象店舗について調べておく。	60分
第9回	企画と設計 計画 (2) デザイ ン画の 作成	店舗イメージ、商品イメージ、街の雰囲気などを考慮に入れ、作品をデザインする。色鉛筆を使いデザイン画を描く。	作品の材料を準備する。デザイン画を完成させておく。	45分
第10回	企画と設計 計画 (3) 中間発 表	デザイン画を提示し、制作予定の作品についての発表を行う。作品計画についてアドバイスをもらう。	アドバイスを参考に、デザイン画を修正しておく。	45分
第11回	素材の説 明およ び材料 の購入 につ いて	作品制作に使用する材料、素材について説明をする。使用する素材や、購入店舗等の相談に応じる。作品に適した素材の選択を学ぶ。	作品制作に使用する材料を準備する。	120分
第12回	作品の制 作 (1)	作品のパターンを作成し、布地や材料の裁断をする。しるしをつけ、縫製を進める。	予定通りに行かない部分を終わらせる。必要な材料を追加準備する。	45分
第13回	作品の制 作 (2)	各自の作品制作を進める。	予定通りに行かない部分を終わらせる。	45分
第14回	作品の仕 上げ、 プレゼ ンテー ション の準備	各自の作品の仕上げをする。プレゼンテーションの準備とレポート作成の準備をする。	作品を完成させる。	120分
第15回	作品の プレゼ ンテー ション および 講評	制作した作品のデザインコンセプト、配色計画などを中心にプレゼンテーションを行い、企業の方から講評をいただく。作品とレポートの提出。	作品への講評を参考に、レポートを完成させ、最終提出日まで提出する。	45分

学習計画注記	※履修者数や授業進度によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	作品課題等に対しては、企画・制作・完成の各段階において助言等をそのつど行う。				
評価方法	平常点は、授業参加状況と授業時の作品制作への取り組みを総合的に評価する。課題評価では、色相環は色相の配分が正しくなされているか、色の選択が正しいか等を総合的に評価する。企業連携作品は、企業調査や市場調査の結果が作品に反映されているか、素材の特徴が作品に活かされているか等も含めて総合的に評価する。プレゼンテーションでは、プレゼンテーションマナー、作品のアピール等が適確になされているかを総合的に評価する。				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常の授業参加	○		○	○
	課題 (色相環、企業連携作品)	○	○	○	○
	プレゼンテーション			○	
評価割合	平常点 (30%)、作品課題 (60%)、プレゼンテーション (10%)				
使用教科書名 (ISBN番号)	使用しない。必要に応じてプリントを配布する。				

参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】生活と社会の関連性の理解を有する。 【思考・判断】生活者として「質の高い衣生活」とは何であるかを多角的に考える力を養うことができる。 【技術・表現】日常生活やファッション表現のための配色技法と裁縫技法を体得することができる。
オフィスアワー	水曜日1、2時限
学生へのメッセージ	担当教員以外に、企業のデザイナーの方からも直接アドバイスを伺うことのできる授業です。積極的な授業参加を期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	外部講師による実践的な特別授業を行う。
アクティブ・ラーニング	○	企業見学、店舗調査などの調査学習の内容を含む。作品の成果を講評会で発表する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ファッションコーディネート		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山村 明子	指定なし

ナンバリング	G25305C12
授業概要(教育目的)	服飾デザインのデザインイメージを理解し、ファッションイメージマップの作成を通してファッションスタイリング提案することを目的とする。まず着用者の生活用途とオケーションの分析、ライフスタイル分析。次にファッションデザインイメージの分類とデザインの要素との関連。ファッション商品のシーズン特性。ファッション雑誌の分析。さらにファッションイメージと個人の資質を学び、総合的にファッション提案を行うことができる能力を身につけることを目的とする。
履修条件	特に定めず
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	ファッションイメージを形成する要素を理解する
思考・判断の観点 (K)	各要素に応じたファッションコーディネートを選択する判断ができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	ファッションコーディネートを楽しむ姿勢を身につける
技術・表現の観点 (A)	他者に効果的に伝達できるファッションイメージマップを制作できる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ファッションイメージマップ	ファッションビジネスの現場でも活用されるファッションイメージマップについて理解する。	シラバスを読み、授業概要について理解する。	45分
第2回	生活用途とオケーションの分析	ファッションスタイルを決定する要因となる生活シーンの違いと適切な服装について理解するとともに、日本フォーマルウェア協会が提唱しているフォーマルウェアの基本について学ぶ。	復習として授業で指示するフォーマルウェアについての資料を読む。	45分
第3回	ライフスタイルの分析	ファッションは着用者のライフスタイルへの志向を反映するものであることを理解し、基本属性(性別、年齢、身分・職業)、消費行動、趣味、衣食住の志向の側面から分析する。	復習として授業内容を踏まえ、受講生自身のライフスタイル分析を行う。	45分
第4回	ファッションイメージ	PCを利用したファッションイメージマップ制作の手法を理解し、20代及び50代女性の生活用途に応じたイメージ	授業時間内で仕上げられなかった課題を制作する。	45分

	マップの制作 (1)	マップを作成する。		
第5回	ファッションイメージマップの制作 (2)	受講者自身 (または身近な人物を設定) のライフスタイル分析をもとにファッションイメージマップを制作する。	授業時間内で仕上げられなかった課題を制作する。	45分
第6回	ファッション感性とコーディネート分析	ファッションデザインを構成する要素 (色彩、形態、素材、模様、装飾等) を踏まえ、基本的なファッションイメージを理解する。	ファッションデザインを構成する要素 (色彩、形態、素材、模様、装飾等) を踏まえ、基本的なファッションイメージを理解する。	45分
第7回	シーズンサイクル	日本のファッションビジネスにおけるシーズンサイクルについて理解する。また、提出したファッションイメージマップについて全体発表をし、各自の感性を相互に学ぶ。	復習として授業で指示をするシーズンサイクルの一覧表を作成する。	45分
第8回	毛皮製品の理解	日本毛皮協会の派遣講師による校内特別授業。各種の毛皮素材を実際に手に取り、それぞれの特性を理解する。	授業で配布する毛皮協会作成のパンフレットを読み、個々の毛皮の違いについて理解を深める。	45分
第9回	ファッションイメージマップの制作 (3)	毛皮製品の個々の違いを理解したうえで、ファーアイテムを取り入れた2種類の異なるファッション感性のファッションイメージマップを制作する。	授業時間内で仕上げられなかった課題を制作する。	45分
第10回	ファッションイメージマップの制作 (4)	毛皮製品の個々の違いを理解したうえで、ファーアイテムを取り入れた2種類の異なるファッション感性のファッションイメージマップを制作する。	授業時間内で仕上げられなかった課題を制作する。	45分
第11回	ファッション雑誌の分析	ファッション雑誌における、写真レイアウト・文字及び言葉遣い・テーマ設定の違いなどから、各雑誌が提案するファッション感性の違いを理解する。	予習として授業で指示をするファッション雑誌を読む。	45分
第12回	ファッションイメージと個人の資質	ファッションコーディネイトを考える上で、洋服そのものだけでなく、着用者の肌・体型・髪・声といった個人の資質との関わりを理解する。	復習として各自の個人の資質を項目ごとに書きまとめる。	45分
第13回	ファッションイメージマップの制作 (5)	各自の個人の資質を踏まえて、シーズンを設定し、1週間の生活用途別ファッションイメージマップを制作する。	授業時間内で仕上げられなかった課題を制作する。	45分
第14回	ファッションイメージマップの制作 (6)	各自の個人の資質を踏まえて、シーズンを設定し、1週間の生活用途別ファッションイメージマップを制作する。	授業時間内で仕上げられなかった課題を制作する。	45分
第15回	ファッションイメージマップの制作 (7)	各自の個人の資質を踏まえて、シーズンを設定し、1週間の生活用途別ファッションイメージマップを制作する。	授業時間内で仕上げられなかった課題を制作する。	45分

学習計画注記 日本毛皮協会による校内特別授業は担当者の都合により、日程を調整することがある。

学生へのフィードバック方法 課題に対する評価、改善点等を口頭で指示をする

評価方法 授業への参加状況：授業内では内容に関して受講生に質問をするので、積極的に発言することが望ましい。また、適宜小課題を課す。
イメージマップ課題：3回の制作課題を通して、授業内容の理解、課題制作への意欲、制作内容に関する表現の工夫等を評価する。特に3回の課題について提出ごとに注意点を指摘するので、前回までの注意事項等を踏まえて制作内容を工夫しているかを重視する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
イメージマップ課題	○	○	○	○
授業時の小課題	○	○	○	

評価割合 授業時の小課題 (15%) イメージマップ課題 (85%)

使用教科書名 (ISBN番号)	使用しない。必要に応じてプリント資料を配付する。
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「質の高い生活」の一要素である、ファッション感性について理解する。 【思考・判断】ファッション感性を豊かにし、適切なファッションの選択ができる。 【関心・意欲・態度】ファッション感性に関する今日の情報に関心をもつ。
オフィスアワー	月曜日2限 1703ゼミ室
学生へのメッセージ	ファッションデザインへの視点を広げる授業です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	校内特別授業の講師は国内で毛皮製品製造に携わるとともに、日本毛皮協会理事を務めている。毛皮製品に実際に触れてその特性を学ぶとともに、今日の毛皮製品の市場動向及び消費者の志向等の現状を理解する。
アクティブ・ラーニング	○	制作した課題を口頭発表し、感性の相互理解を深める。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	課題（ファッションイメージマップ）の制作のための情報を収集や選択し、PPTでイメージマップを表現するために活用する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	衣と社会		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井澤 尚子	指定なし

ナンバリング	G35104C21
授業概要(教育目的)	多くの人々が既製服を着用しそれぞれが好きなコーディネートを楽しんでいる現在、ファッション商品には流行、社会規範、年齢、消費者のライフスタイル、経済状態や社会状況、個々人の嗜好など多くの要素を満足させるような企画がなされている。それらを踏まえこの授業では、消費の二極化や情報の発信・受信、還元型社会など、衣服と社会のつながりから見える衣生活の課題を多角的に捉え、具体的に課題の検討を試みる。さらに、様々な要素を考慮しつつ、実際にTシャツのデザインを課題に商品企画を行い製品を制作することで、社会生活に繋がる商品企画の取り組みを実践する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	衣生活に必要な知識を理解する。
思考・判断の観点(K)	衣生活に必要な事柄を適確に判断する。
関心・意欲・態度の観点(V)	ファッションと社会との関連を考えるうえで必要な情報を、広範囲に積極的に収集できる。
技術・表現の観点(A)	実際に社会に繋がる商品企画を行い、制作までを体験し、そのプロセスを習得する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス、ファッションビジネスとは	授業の概略を説明する。現代の衣生活を考えるために、まずファッションビジネスの変遷について説明する。	シラバスを読み、授業概要について理解する。	120分
第2回	ファッション商品の分類	私たちの衣生活に必要な知識として、アパレルの分類について解説し、ファッションアイテムについての理解を深める。	配布した、アパレルの分類についての資料を読んでおく。	120分
第3回	婦人服原型製図(1)	婦人服パターンの基本となる婦人服原型の説明をする。採寸をし、各自の原型を作成する。実際に作成することで、原型についての理解を深める。	原型作成のプリントを読んでおく。	120分
第4回	婦人服原型製図(2)	婦人服原型を完成させる。実際に作成することで、原型についての理解を深める。	原型作成のプリントを読んでおく。製図が完成していない場合	120分

			は、終わらせて提出する。	
第5回	婦人服原型製図(3)デザインへの応用	ダーツとは何か。ダーツを移動することで、さまざまなデザイン展開ができることを学ぶ。1/5原型を用いて、デザイン展開の演習を行う。完成したデザイン展開を提出。	デザイン展開が完成していない場合は、終わらせて提出する。	120分
第6回	アパレル素材について	私たちが着用している衣服の素材について、実物資料を見せながら解説する。	配布した、アパレル素材についての資料を読んでおく。	120分
第7回	ファッショントレンドとライフスタイル	現代の衣生活を考えるうえで大切な要因に挙げられる、流行とライフスタイルについて言及する。	配布した、授業関連資料を読んでおく。	120分
第8回	江戸銀細工体験	ライフスタイルを考える一助として、伝統工芸の「東京銀器」について講義を聞き、アクセサリーを制作体験する。	インターネットを使い、東京の伝統工芸について調べておく。	120分
第9回	消費の二極化とは	現在の消費傾向を指して二極化現象と言われている。この二極化現象について、衣生活の立場で言及し、考えていく。	配布した消費の二極化についての資料を読み、自身の考えをまとめておく。	120分
第10回	ファッション用語について	現在の衣生活で多用されるファッション用語について解説する。	配布した、ファッション用語に関する資料を読んでおく。	120分
第11回	ファスニング講座(YKK)	アパレルに用いられる身近な副資材のファスナーについて講義を聞き、現在の衣生活や産業面での用いられ方について考える。	インターネットを使い、ファスナーの歴史や種類、企業について調べておく。	120分
第12回	Tシャツデザインの検討、工程、見積もり、企画の決定	Tシャツを題材に、各自で商品企画を行う。社会生活に繋がるテーマを課題に、デザインを検討し完成させる。	テーマに沿ったデザインを考え、データ化する。	120分
第13回	制作(1)ガーメントプリンターについて、作業工程の説明	Tシャツの印刷に用いるガーメントプリンターの説明をする。作業工程を確認し、Tシャツの印刷・仕上げを進める。レポート作成の準備をする。	Tシャツのデザインを完成させ、データ化して提出する。	120分
第14回	制作(2)仕上げ、Tシャツの提出	Tシャツの印刷・仕上げを進める。Tシャツとレポートを提出。	レポートが終わらない場合は、最終提出日までに完成させ提出する。	120分
第15回	まとめ	本授業のまとめとして、衣生活における還元型社会について概観し、現代の衣生活の課題を考える。	定期試験の準備のため、授業の振り返りを行う。	120分

学習計画注記 ※履修者数や授業進度によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 講義に演習も取り入れて授業を進める。作品課題に対しては、企画・制作の各段階において助言等をそのつど行う。

評価方法 定期試験では、講義内容の理解を問う。平常点は、授業参加状況と授業時の課題への取り組みを総合的に評価する。提出課題では、原型については作図の正確性を問い、Tシャツのデザイン企画については、テーマとデザインコンセプトの整合性、デザインの独創性等を総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○	○	
平常の授業参加	○		○	○
提出課題 (Tシャツ、原型)	○		○	○

評価割合 定期試験70%、平常点（授業への取り組み）15%、提出課題15%

使用教科書名 (ISBN番号) 使用しない。必要に応じてプリント資料を配布する。

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】生活と社会の関連性の理解を有する。
【思考・判断】「質の高い衣生活」とは何であるかを、生活と社会の関連性を理解したうえで、生活者の立場か

	ら考えることができる。 【技術・表現】衣生活における諸問題の解決策を生活者の視点で提案することができる。															
オフィスアワー	水曜日1、2時限															
学生へのメッセージ	これまで学んだファッション系授業の内容も関連付けて考えて欲しい。日ごろから生活、ファッションを扱った新聞記事などにも目を配ることが大切です。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>伝統工芸士（江戸銀細工体験）による実践的な授業内容を含む。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>企業の方による講義（ファスニング講座）での事前調査を含む。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td>○</td> <td>Tシャツのデザインにはパソコン作業を取り入れるとともに、ガーメントプリンターの使い方を体験する。</td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	伝統工芸士（江戸銀細工体験）による実践的な授業内容を含む。	アクティブ・ラーニング	○	企業の方による講義（ファスニング講座）での事前調査を含む。	情報リテラシー教育			ICT活用	○	Tシャツのデザインにはパソコン作業を取り入れるとともに、ガーメントプリンターの使い方を体験する。
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業	○	伝統工芸士（江戸銀細工体験）による実践的な授業内容を含む。														
アクティブ・ラーニング	○	企業の方による講義（ファスニング講座）での事前調査を含む。														
情報リテラシー教育																
ICT活用	○	Tシャツのデザインにはパソコン作業を取り入れるとともに、ガーメントプリンターの使い方を体験する。														

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	インテリア設計論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 柳沢 伸也	指定なし
助教	青柳 由佳	指定なし

ナンバリング	G24305C21
授業概要(教育目的)	インテリアの設計手法を学ぶ。構造・構法といった安全で堅固な構造体を担保するための技術や建築設備・材料などの快適な空間を確保するための建築学の基礎を学習するとともに、使いやすい室内空間を達成するための建築計画を考える。また、住宅と商業施設に分け、具体的事例を検討しながら、インテリアを設計する際に必要な知識を習得する。
履修条件	なし。ただし、設計製図演習Dの履修者は必ず履修すること。(座席指定なし)

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	住宅や商業のインテリアを計画する際に必要な基礎的な寸法や仕上げ材料、配置計画、動線計画などを習得する。また、インテリアをコーディネートする際に必要な建物の構造や設備などの基礎的知識を習得する。
思考・判断の観点 (K)	バリアフリーやユニバーサルデザインなどの知識を持ち、快適で安全な空間を提供することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自らが手を動かすことによって、インテリアを構成するエレメントの寸法、素材、機能やその成り立ちについて説明できる。
技術・表現の観点 (A)	自らデザインしたインテリア空間を様々なビジュアル的手法で表現し、相手にわかりやすく説明できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	‘スケッチ’のすすめ	自ら手を動かすことにより、インテリアの寸法や素材、成り立ちを理解する。	スケッチ1枚を宿題	90分
第2回	様々な住宅とその構造・構法を考える (Vol.1)	組積造や木造など歴史的な住宅の構造・構法とインテリアについて理解する。	事例の収集(1件)	180分
第3回	様々な住宅とその構造・構法を	鉄骨造や鉄筋コンクリート造など近代的住宅の構造・構法とインテリアについて理解する。	事例の収集(1件)	180分

	考える (Vol.2)			
第4回	商業建築のインテリア～主にカフェを中心として～	現代の商業建築のインテリア事例を取り上げ、商業のインテリア空間を学習する。	事例の収集 (1件)	180分
第5回	トイレの設計手法	様々なトイレ事例を紹介し、住宅や商業などのトイレ空間の設計方法を学習する。	実現したいトイレ (ミニレポート)	180分
第6回	キッチンの設計手法	調理室の寸法や設備機能を理解し、快適で機能的なキッチンを学習する。	実現したい自分のキッチン (ミニレポート)	180分
第7回	階段の設計手法	様々な階段事例を紹介し、機能的で快適な階段を学習する。実務上必要な法的知識を学び、デザインと構造についても理解する。	私の好きな階段 (ミニレポート)	180分
第8回	玄関・アプローチ空間の設計手法	様々な玄関やアプローチ空間の事例を紹介し、自ら設計できるように学習する。同時に、室内の動線計画やゾーニングについても学習する。	事例収集 (1件)	180分
第9回	光のコントロール	冬の日差しはできるだけ取り込み、夏は室内に侵入しようとする日射をいかに防ぐか、採光と日射対策について、窓の位置や庇、屋根形状などを学習します。	事例収集 (1件)	180分
第10回	気流のコントロール	冬の日差しはできるだけ取り込み、夏は室内に侵入しようとする日射をいかに防ぐか、採光と日射対策について、窓の位置や庇、屋根形状などを学習します。	事例収集 (1件)	180分
第11回	住宅の冷暖房設備の設計手法	住宅の冷暖房設備の種類と機能を理解し、人と空間に適した冷暖房設計ができるよう学習する。	事例収集 (1件)	180分
第12回	駐車場、外構の設計手法	住宅の駐車場や駐輪場について、寸法や動線計画を学習する。また、住宅の外部空間における植栽や舗装計画について、基礎的な知識を学習する。	ミニレポート	180分
第13回	シーケンスを大事にした設計手法 その1	名作住宅や名建築の事例を取り上げ、その建物に潜んだシーケンス (移動することで変化していく景色) を配慮した計画手法について学習する。	ミニレポート	180分
第14回	シーケンスを大事にした設計手法 その2	名作住宅や名建築の事例を取り上げ、その建物に潜んだシーケンス (移動することで変化していく景色) を配慮した計画手法について学習する。	ミニレポート	180分
第15回	次世代につながる新たな住宅・商業空間	国内外における近年の住宅や商業事例を取り上げ、次世代につながる住宅とこれからの商業空間について考える。	レポート	180分

学習計画注記 それぞれの項目の学習量に違いがあり、1回で区切らず調整することがある。

学生へのフィードバック方法 個々のレポートに対するフィードバック：授業にて解説する。

評価方法 レポート80%、平常点20%、テスト無し

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート	○	○		
平常点			○	

評価割合 レポート80%、平常点20%、テスト無し

使用教科書名 (ISBN番号) 教科書の使用予定無し。

ディプロマポリシーとの関連
【知識・理解】 インテリアを通して「質の高い生活」とは何かを理解し、現代生活の諸問題を理解できる。
【思考・判断】 インテリアを通して生活の諸問題を自ら発見し、問題解決に導く考察をすることができる。
【関心・意欲・態度】 生活者の視点に立ち、インテリアを理解することができる。
【技術・表現】 次世代に繋がる健やかで豊かな生活を送る為の空間作りができるようになる。

学生へのメッセージ 快適で気持ちの良い住宅や商業空間のインテリアには、その背景に設計者の細やかな心配りやデザイン力と、そ

の空間環境を実現するための設備や構造技術が隠されています。本授業では、そうしたインテリアを計画する際に必要な基礎知識を学習し、将来、皆さんがインテリア設計に関連した仕事に関わったときに役立つ知識を習得します。積極的に取り組めば取り組むほど広がっていくインテリア設計の世界について、興味深いその一端を紹介できればと考えています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	日本で約20年、海外（イタリア）で約3年間、住宅から大規模商業施設までさまざまな建築物を数多く設計してきた経験を生かし、質の高い空間、時空を超えて価値ある空間デザインについて指導していこうと考えています。また、約15年間にわたる非常勤講師（他大学）の経験から、学生の理解度に合わせたきめ細かい指導を心がけようと考えています。
アクティブ・ラーニング	○	授業は、教員からの一方的な講義に限らず、学生の積極的な参加を促すよう、グループディスカッションやレポート作成などを交えて授業を行っていきたいと考えています。
情報リテラシー教育	○	コンペやプロポーザルなど、実務で実践している一線級のプレゼンテーション技法等を紹介し、これからの学生に必要な情報リテラシーの向上に努めていきたいと考えています。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	インテリア計画		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 大橋 智子	指定なし
助教	青柳 由佳	指定なし

ナンバリング	G24304C21
授業概要(教育目的)	インテリア計画の基礎について広く学ぶ。人間の生活を支える室内空間が、どのように成り立っているかを理解し、それを計画するために必要な知識等を習得する。具体的には、インテリアの仕事、図面の種類、空間のつくり方、歴史・様式、人体寸法、各室の機能、エレメント、部位、家具、色彩、照明等について学習する。
履修条件	なし。ただし、設計製図演習Cの履修者は必ず履修すること（座席指定なし）
学習目標(到達目標)	
学習目標（到達目標）	
知識・理解の観点 (K)	インテリアをデザインするために必要とされる技術についてその概要を学び、そののちに続くインテリア設計論、設計製図演習を通して専門知識と技術を修得する。
思考・判断の観点 (K)	快適な生活を維持するためのインテリア空間をデザインすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	計画者だけでなく消費者の立場としてインテリア空間をデザインすることができる。
技術・表現の観点 (A)	人間とモノとの関係の中で生じるさまざまな課題を理解し、総合的にまとめ表現する技術が修得できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	インテリアデザインとは何か	インテリアデザインが活かされる仕事と資格について説明し、これから何を目標として学ぶのかを考える。	1年次に住居に関して学んだことをレポートする。	90分
第2回	人体寸法とモジュール	身体の寸法と基準について学び、スケール感覚を養う。	1年次、2年次の住居に関する選択科目のアンケートを取り、これから何を学びたいかの希望を書いて提出する。	180分
第3回	行動のためのスペース-1	便所、浴室、洗面所などのサニタリースペース、厨房などの調理スペースの考え方と必要なスペースを知る。	自宅のトイレと洗面所の寸法を測ってみる。	180分
第4回	行動のためのスペース-2	居間、食堂、寝室、個室など、くつろぐ、休む、作業を行うスペースについて」学ぶ。	自宅の各室について調べる。	180分

第5回	住宅の種類とその構造	戸建て住宅、集合住宅などの違いと構造について学ぶ。	戸建て住宅と集合住宅の違いについて事前に調査する。	180分
第6回	住宅の要素-1	床、巾木、壁、天井各部の役割と構法について学ぶ。和室の構成と真壁大壁についても学ぶ。	和室について事前に調査する。	180分
第7回	住宅の要素-2	階段の種類と図面表現について学ぶ。	自宅の階段について調べる。	180分
第8回	住宅の要素-3	窓の種類と素材、形状を知り、スケールによる表現方法の違いを学ぶ。	自宅に使用されている窓の種類と材質を調べる。	180分
第9回	住宅の要素-4	内外扉の種類と素材、形状を知り、スケールによる表現方法の違いを学ぶ。	自宅の玄関扉を調査して、平面、姿図のスケッチをフリーハンドで描く。	180分
第10回	家具-1	移動できる家具の種類や材質を知り、名作家具についても学ぶ。	自宅の家具や名作家具について調査する。	180分
第11回	家具-2	収納家具の種類、サイズについて学び、第2回で学んだことの確認を行う。	自宅の家具について調査する。	180分
第12回	色彩と照明の効果	照明の方法とその効果、器具について学ぶ。	自宅の照明器具の種類について調査する。	180分
第13回	日本のインテリアデザインの歴史-1	日本における住宅の変遷とデザイン-1	日本における名作住宅を調査する。	180分
第14回	日本のインテリアデザインの歴史-2	日本における住宅の変遷とデザイン-2	日本における名作住宅を調査する。	180分
第15回	定期試験とノートの提出	試験(持ち込み可) まとめ	前期で学んだことを振り返り復習する。	180分

学習計画注記	それぞれの項目の学習量に違いがあり、1回で区切らずに調整することがある。
学生へのフィードバック方法	個々の課題に対する課題：授業にて解説して返却する。
評価方法	ノート作り30%、期末試験30%、レポート5回30%、平常点10%

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
ノート作り	○	○	○	○
期末テスト	○	○		○
レポート	○	○		○
平常点			○	

評価割合	ノート作り30%、期末試験30%、レポート5回30%、平常点10%
使用教科書名 (ISBN番号)	特になし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】インテリア計画の習得により「質の高い生活」とは何かを理解し、現代生活の諸問題を理解することができる。 【思考・判断】インテリア計画の習得により生活の諸問題を自ら発見し、問題解決に導く考察をすることができる。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、インテリア計画を理解することができる。 【技術・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を送るための空間づくりができるようになる。
学生へのメッセージ	これから住宅の設計を学ぼうとする者にとって、空間として建物をとらえようとする、インテリアデザインはとて大切です。建物の外観デザインがインテリアに現れ、インテリアデザインが外観を決めることもあります。本講座では、インテリアデザインを構成する要素や空間の作り方を学び、インテリアデザインの基礎的な知識を身につけます。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要

実務経験を活かした授業	○	小規模なアトリエ事務所で大学や企業の施設建築の設計と同時に、個人住宅や別荘、学校や企業の保養所など住宅系の設計監理に携わったのちに独立。主に住宅を中心に設計活動を行ってまいりました。それらの実務経験を活かし、当校においては、設計演習の指導を行ってきました。その経験から、演習と講座の教育的相乗効果を目指してカリキュラムの構成を考えました。
アクティブ・ラーニング	○	より具体的な指導により、学生が身の回りの空間に自ずと興味が湧くようになります。毎回の指導をノートにまとめることで、各自設計のための資料作りとなります。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	江戸東京の文化		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 内田 宗一	指定なし

ナンバリング	G32106C21
授業概要(教育目的)	江戸は徳川幕府の首府として栄え、明治時代以降は東京と名を変え、日本の首都として機能してきた都市である。本科目は、江戸および東京について、江戸時代から明治時代までを主たる対象として、その文化をさまざまな角度から分析することを通じて、文化的な特色や都市としての性格を理解することをめざすものである。文化的資料の読解や見学を通じて、江戸および東京の文化を理解し、さらにその上でそれを現代の私たちの暮らしにどのように生かすことができるのかを考える姿勢を養うことをめざす。
履修条件	なし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	江戸・東京の歴史や文化に関する基本的事項について理解し、説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	江戸・東京の歴史や文化から何を学び取って、これからの我々の暮らしに生かしていくべきかを考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	授業内活動(作業、資料講読、質疑応答など)に積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	自分の意見を、適切な日本語表現でわかりやすく伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	文学資料から読み解く江戸東京の文化(1)出版	江戸の出版文化の特徴や、印刷技法の種類について理解する。近世の袋綴じの和本を例に、和本の構造について、現物資料に触れながら理解する。	大学入学以前の経験も含め、日本史学(近世史、近代史)や日本文学(近世文学、近代文学)などの、江戸・東京に関する学習を振り返り、必要に応じて復習および知識の再確認をしておくこと。	180
第2回	文学資料から読み解く江戸東京の文化(2)本屋	近世における出版プロセスを題材にした草双紙作品を講読し、江戸の本づくりの工程について理解する。江戸の出版文化の特徴や、印刷技法の種類について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までとそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を	180

			読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	
第3回	文学資料から読み解く江戸東京の文化(3)食	近世における食文化の東西差を題材にした草双紙作品を講読し、江戸の食文化の特徴について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時まではそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第4回	文学資料から読み解く江戸東京の文化(4)蕎麦・うどん	近世における蕎麦ならびにうどんの種類や食され方について、文献資料や視聴覚教材を通じて学び、理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時まではそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第5回	文学資料から読み解く江戸東京の文化(5)水	近世の江戸における飲料水確保をめぐる諸問題について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時まではそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第6回	文学資料から読み解く江戸東京の文化(6)水道	近世の文芸作品における水道の描かれ方の検討を通じて、当時の人々が抱いていた水道に対する意識・イメージを理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時まではそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第7回	文学資料から読み解く江戸東京の文化(7)学校	明治期における高等教育機関の設立の経緯と、そこに学ぶ学生(書生)の文化について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時まではそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第8回	文学資料から読み解く江戸東京の文化(8)書生	明治期の書生を描いた文学作品の講読を通じて、書生ことばの特徴を理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時まではそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180

第9回	江戸東京の言語文化 (1) 江戸語の形成	近世後期江戸語の形成プロセスについて理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第10回	江戸東京の言語文化 (2) 江戸語の特色	近世後期江戸語の特色について、その概略を理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第11回	江戸東京の言語文化 (3) 江戸語の発音	近世後期江戸語について、音韻面を中心にその特徴を理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第12回	江戸東京の言語文化 (4) 江戸語から東京語へ	明治時代の日本語の特色について、近世後期江戸語との対比を中心に理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第13回	江戸東京の言語文化 (5) 標準語の成立	明治時代以降における標準語の成立過程を理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第14回	校外授業 東京都水道歴史館	東京都水道歴史館を見学し、江戸・東京の水道の歴史や生活文化について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第15回	まとめ・期末試験	江戸および東京の文化や言語のありようについて、理解を深める。	授業のノートや配付されたプリント資料を繰り返し読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習	180

			し、知識を定着させておくこと。		
学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	毎回の授業において質問・意見・感想等をレスポンスシートに記入してもらい、次回授業の冒頭でそれらに対するフィードバックのコメントを行う。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内課題としては、毎回の授業内容の要点を整理してレスポンスシートとして記述することを予定している。以下のような観点から評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ①課題の意図を適切に理解できている。 ②記述内容に、十分な妥当性が認められる。 ③自分の意見や感情をわかりやすく正確に表現することができている。 ・見学レポートは、以下のような観点から評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ①課題の意図を適切に理解できている。 ②適切な方法で調査を行うことができている。 ③結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ④結果や考察の内容を、学術論文に適した文章で表現することができている。 ・定期試験は100点満点で出題する。記述式問題を中心に選択肢式・穴埋め式等を適宜併用する。授業で扱った内容を十分に理解し、知識として定着しているかを確認することを目的とする。ノート、プリント、参考書等の持ち込みは不可とする。 ・平常点は、授業内活動（作業、資料講読、質疑応答など）への取り組み等によって評価する。 				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	授業内課題	○	○		○
	見学レポート	○	○		○
	定期試験	○			
	平常点			○	
評価割合	授業内課題20%、定期試験50%、見学レポート20%、平常点10%				
使用教科書名 (ISBN番号)	なし。必要に応じてプリント資料を配付する。				
参考図書	なし。必要に応じて授業時に随時紹介する。				
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、生活文化および言語文化の側面から、現代生活の諸問題を理解することができる。</p> <p>【思考・判断】生活・社会の諸問題のうち、生活文化および言語文化に関わる課題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題のうち、生活文化および言語文化に関わる課題について関心を持ち続けることができている。</p> <p>【技能・表現】生活文化および言語文化の側面から、次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。</p>				
オフィスアワー	火曜3限 1703ゼミ室（前期、千代田三番町キャンパス）				
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・出欠は、出席票を利用して毎回確認する。なお、30分以上の遅刻は欠席扱いとするので、注意すること。 ・受講に際しては、他の受講生の迷惑となる行為（私語、スマートフォンの使用など）は慎むこと。受講態度に問題がある場合は退席を求めることもある。 ・校外授業の詳細（日時・集合場所など）については、見学先との調整等を行った上で、授業内で連絡を行う。校外授業には土曜日・日曜日などをあてる可能性もあるので、あらかじめ了解しておくこと。校外授業に際しては、見学先施設や一般来館者の方々に迷惑がかからないような態度で臨むこと。 ・その他、授業の運営に関する詳細は、初回授業時にガイダンスプリントを配布して説明する。 				
教育等の取組み状況	教育等の取組み状況				
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング	○	体験学習等の教育内容を含む。			
情報リテラシー教育					
ICT活用					

シラバス参照

講義名	日本語コミュニケーション		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 内田 宗一	指定なし

ナンバリング	G22108C21
授業概要(教育目的)	コミュニケーションは、人が他者と関わりながら生きてゆく上で必須のものであり、社会や文化を形作ってゆく基盤となるものである。コミュニケーションには様々な形があり、ことばを媒体とする言語コミュニケーションと、しぐさや表情、外見などといった要素による非言語コミュニケーションとに、大きく分けて捉えることができる。この授業では、このうちの言語コミュニケーションを主たる対象として、日本語によるコミュニケーションをめぐる諸問題を考えてゆく。また、それを通じて受講生各自のコミュニケーション能力を向上させることもめざす。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	日本語によるコミュニケーションに関する基本問題や概念について理解し、理論的・体系的に説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	場面に応じた適切なコミュニケーションの取り方を判断することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	授業内活動(作業、練習問題、資料講読、質疑応答など)に積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	表現活動のさまざまな具体的な場に応じて適切な日本語表現を選択し、相手とコミュニケーションを取ることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	コミュニケーションとは	コミュニケーションの概念の基本について理解する。	大学入学以前の経験も含め、これまでの日本語に関する学習を振り返り、必要に応じて復習および知識の再確認をしておくこと。	180
第2回	言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション	コミュニケーションの種類と、それぞれの特徴について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までとそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を	180

			読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	
第3回	コミュニケーションと文化	コミュニケーションと文化の関係について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第4回	敬語のしくみ	敬語の概念ならびに日本語の敬語のしくみについて理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第5回	敬語の種類	敬語の分類にはさまざまな立場があることを知るとともに、その中でもっとも広く普及している三分法の考え方について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第6回	誤りやすい敬語	間違えやすい敬語表現の具体的な形式について、各種調査の結果を参照しつつ、練習問題を通じて理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第7回	敬語使用の実態と意識	文化庁による「国語に関する世論調査」の分析を通じて、敬語使用の実態と意識のありようを理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第8回	敬語の変化	文化庁による「国語に関する世論調査」の結果から読み解ける、敬語使用の経年変化の傾向について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180

第9回	敬語をめぐる新たな動向	近年勢力を拡大しつつある敬語表現の形式について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第10回	断り表現のしくみ	日本語の断り表現のしくみについて理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第11回	断り表現の種類	先行研究を参照しつつ、断り表現の型をどのように分類できるかを考え、理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第12回	断り表現の使い分け	断り表現の型は一般的にどのように使い分けられているのかを、話し手と聞き手との関係性に着目して考え、理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第13回	感謝表現のしくみ	日本語の感謝表現のしくみや、他言語と比較した場合の特徴について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第14回	感謝表現の使い分け	日本語の感謝表現において、「ありがとう」と「すみません」はどのように使い分けられているのかを理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第15回	感謝と謝罪の関係性	日本語において「すみません」が謝罪表現にも感謝表現にも使用されることの背景の要因について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。	180

授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。																												
学生へのフィードバック方法	毎回の授業において質問・意見・感想等を出席票に記入してもらい、次回授業の冒頭でそれらに対するフィードバックのコメントを行う。																												
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験は50点満点で出題する。記述式問題を中心に選択肢式・穴埋め式等を適宜併用する。授業で扱った内容を十分に理解し、知識として定着しているか、また、その知識にもとづいて適切な日本語表現を判断し表現することができるかを確認することを目的とする。ノート、プリント、参考書等の持ち込みは不可とする。 ・レポートは、小規模な言語調査の実践を課題として課す。レポートの内容は、以下のような観点から評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ①課題の意図を適切に理解できている。 ②適切な方法で調査を行うことができている。 ③結果や考察の内容に、十分な信頼性が認められる。 ④結果や考察の内容を、学術論文に適した文章で表現することができる。 ・平常点は、授業内活動（作業、練習問題、資料講読、質疑応答など）への取り組み等によって評価する。 																												
評価基準	<p>評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定期試験</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>平常点</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	定期試験	○	○		○	レポート	○	○		○	平常点			○						
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																									
定期試験	○	○		○																									
レポート	○	○		○																									
平常点			○																										
評価割合	定期試験50%、レポート30%、平常点20%																												
使用教科書名 (ISBN番号)	なし。必要に応じてプリント資料を配付する。																												
参考図書	なし。必要に応じて授業時に随時紹介する。																												
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、言語文化の側面から、現代生活の諸問題を理解することができる。</p> <p>【思考・判断】生活・社会の諸問題のうち、言語文化に関わる課題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題のうち、言語文化に関わる課題について関心を持ち続けることができる。</p> <p>【技能・表現】日本語を適切に用いて、生活者の問題に寄り添えるコミュニケーションができる。</p>																												
オフィスアワー	金曜3限（千代田三番町キャンパス1703ゼミ室）																												
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・出欠は、出席票を利用して毎回確認する。なお、30分以上の遅刻は欠席扱いとするので、注意すること。 ・受講に際しては、他の受講生の迷惑となる行為（私語、スマートフォンの使用など）は慎むこと。受講態度に問題がある場合は退席を求めることもある。 ・その他、授業の運営に関する詳細は、初回授業時にガイダンスプリントを配布して説明する。 																												
教育等の取組み状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>調査学習等の教育内容を含む。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td>○</td> <td>レポート・論文の書き方に関する教育内容を含む。</td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング	○	調査学習等の教育内容を含む。	情報リテラシー教育	○	レポート・論文の書き方に関する教育内容を含む。	ICT活用												
	該当有無	概要																											
実務経験を活かした授業																													
アクティブ・ラーニング	○	調査学習等の教育内容を含む。																											
情報リテラシー教育	○	レポート・論文の書き方に関する教育内容を含む。																											
ICT活用																													

シラバス参照

講義名	ことばと生活		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 内田 宗一	指定なし

ナンバリング	G22107C21
授業概要(教育目的)	言語は、それを使う人々の生活とともにある。言語を使うことなしに生活することは困難であるという点において、言語は生活の基盤のひとつであると言える。その一方で、生活の中のさまざまな要素が言語に影響を与え、個々の表現や言語行動の上に反映されているような事例もさまざま見出される。この授業では、日本語を主たる対象として、ことばと生活の相互のつながりについて考えていく。言語を切り口として生活文化を考える視点を身につけさせるとともに、受講生自身の言語表現力を高めさせることもめざしたい。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

観点	到達目標
知識・理解の観点 (K)	ことばと生活の相互のつながりについて理解し、理論的・体系的に説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	授業内活動(作業、練習問題、資料講読、質疑応答など)に積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	若者ことばとは	若者ことばの定義、捉え方に関わる諸問題について理解する。	大学入学以前の経験も含め、これまでの日本語に関する学習を振り返り、必要に応じて復習および知識の再確認をしておくこと。	180
第2回	若者ことばの特色	若者ことばの特色について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自	180

			主的に学習し、知識を定着させておくこと。	
第3回	さ入れことばとは	若い世代を中心に使用が広がりつつあるさ入れことばに注目し、その基本について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第4回	さ入れことばの分析	さ入れことばの使用が広がる背景の要因について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第5回	さ入れことば使用の意識と実態	さ入れことばに対する意識と使用実態に関する諸問題について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第6回	ぼかし表現とは	若者ことばの特色のひとつとされるぼかし表現に注目し、その基本について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第7回	ぼかし表現の使い分け	若者ことばとして使用されるぼかし表現と、従来から日本語に存在していたぼかし表現との違いについて理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第8回	ぼかし表現使用の背景	若者がぼかし表現を好んで使用する背景の要因について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第9回	日本語と性差	男性語、女性語と呼ばれる、性別による日本語表現の特色の違いについて理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までそのつどあらかじめ読み、理解	180

			の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	
第10回	女性語の歴史	日本における女性語の歴史的な展開について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第11回	現代の女性語	現代日本における女性語の変化の動向について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第12回	日本語と生活文化1	生活文化の変化が日本語に影響を与えることがあるという点について、具体的な事例を通じて理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第13回	日本語と生活文化2	日本語表現の歴史的変化について分析することを通じて、日本語と生活文化の関連について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第14回	日本語と生活文化3	日本語の各方言における表現について分析することを通じて、日本語と生活文化の関連について理解する。	各回の授業内で配付されるプリント資料を、次回授業時までにそのつどあらかじめ読み、理解の難しい術語や語句があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習しておくこと。授業のノートやプリント資料を読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180
第15回	まとめ・期末試験	日本語と生活文化のつながりやその歴史・背景について、理解を深める。	授業のノートや配付されたプリント資料を繰り返し読み返して要点を再確認し、理解が不十分な点があった場合は附属図書館を用いるなどして自主的に学習し、知識を定着させておくこと。	180

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	毎回の授業において質問・意見・感想等を出席票に記入してもらい、次回授業の冒頭でそれらに対するフィードバックのコメントを行う。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験は100点満点で出題する。記述式問題を中心に選択肢式・穴埋め式等を適宜併用する。授業で扱った内容を十分に理解し、知識として定着しているかを確認することを目的とする。ノート、プリント、参考書等の持ち込みは不可とする。 ・平常点は、授業内活動（作業、資料講読、質疑応答など）への取り組み等によって評価する。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	定期試験	○			
	平常点			○	
評価割合	定期試験70%平常点30%				
使用教科書名 (ISBN番号)	なし。必要に応じてプリント資料を配付する。				
参考図書	なし。必要に応じて授業時に随時紹介する。				
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、言語文化の側面から、現代生活の諸問題を理解することができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題のうち、言語文化に関わる課題について関心を持ち続けることができる。</p>				
オフィスアワー	火曜3限 1703ゼミ室（千代田三番町キャンパス、前期）				
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・出欠は、出席票を利用して毎回確認する。なお、30分以上の遅刻は欠席扱いとするので、注意すること。 ・受講に際しては、他の受講生の迷惑となる行為（私語、スマートフォンの使用など）は慎むこと。受講態度に問題がある場合は退席を求めることもある。 ・その他、授業の運営に関する詳細は、初回授業時にガイダンスプリントを配布して説明する。 				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング					
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	生活文化論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石垣 悟	指定なし

ナンバリング	G12103021
授業概要(教育目的)	毎日の暮らしは、歴史性や地域性をもった、さまざまな生活規範と慣習等によって支えられ、そのどれひとつを欠いても社会的な機能は円滑に働かない。そうした多様な生活考えるには、様々な視点や切り口が必要であり、そこに日々の暮らしをより豊かにできる可能性もある。本講義では多様な生活規範や慣習等の上に人間社会が成り立っていることを、歴史学、民俗学、社会学、地理学などから多面的に学んでいく。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	伝承的な生活規範や慣習を知るとともに、それが今の我々の生活の基盤となっていることを理解できる。
思考・判断の観点 (K)	伝承的な生活規範や慣習を私たちの今の日常生活のなかでどのように活かせるか、その可能性と課題について思考できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	伝承的な生活規範や慣習について、自らの興味関心と関連づけながら捉えてみる事ができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

民俗学

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	衣生活の歴史と民俗	衣生活をめぐる歴史や各地の民俗事例を紹介し、生活文化の地域的多様性や特色について考察します。	配布資料に適宜目を通しておいください。	180分
第2回	食生活の歴史と民俗	食生活をめぐる歴史や各地の民俗事例を紹介し、生活文化の地域的多様性や特色について考察します。	配布資料に適宜目を通しておいください。	180分
第3回	住生活の歴史と民俗	住生活をめぐる歴史や各地の民俗事例を紹介し、生活文化の地域的多様性や特色について考察します。	配布資料に適宜目を通しておいください。	180分
第4回	生業(稲作と畑作)の歴史と民俗	稲作と畑作をめぐる歴史や各地の民俗事例を紹介し、生活文化の地域的多様性や特色について考察します。	配布資料に適宜目を通しておいください。	180分
第5回	生業(漁撈と狩猟)の歴史と民俗	漁撈や狩猟をめぐる歴史や各地の民俗事例を紹介し、生活文化の地域的多様性や特色について考察します。	配布資料に適宜目を通しておいください。	180分

	歴史と民俗		
第6回	生業（諸職）の歴史と民俗	諸職（職人の技術）をめぐる歴史や各地の民俗事例を紹介し、生活文化の地域的多様性や特色について考察します。	配布資料に適宜目を通しておい てください。
第7回	年中行事（暦）の歴史と民俗	暦（こよみ）をめぐる歴史や各地の民俗事例を紹介し、生活文化の地域的多様性や特色について考察します。	配布資料に適宜目を通しておい てください。
第8回	年中行事（正月と盆）の歴史と民俗	正月とお盆をめぐる歴史や各地の民俗事例を紹介し、生活文化の地域的多様性や特色について考察します。	配布資料に適宜目を通しておい てください。
第9回	年中行事（節供）の歴史と民俗	雛祭り（桃の節供）、子供の日（端午の節供）などの節供行事をめぐる歴史や各地の民俗事例を紹介し、生活文化の地域的多様性や特色について考察します。	配布資料に適宜目を通しておい てください。
第10回	人生儀礼（誕生）の歴史と民俗	人の誕生をめぐる歴史や各地の民俗事例を紹介し、生活文化の地域的多様性や特色について考察します。	配布資料に適宜目を通しておい てください。
第11回	人生儀礼（成人と婚姻）の歴史と民俗	成人儀礼や婚姻をめぐる歴史や各地の民俗事例を紹介し、生活文化の地域的多様性や特色について考察します。	配布資料に適宜目を通しておい てください。
第12回	人生儀礼（葬送と墓制）の歴史と民俗	葬送儀礼やお墓をめぐる歴史や各地の民俗事例を紹介し、生活文化の地域的多様性や特色について考察します。	配布資料に適宜目を通しておい てください。
第13回	民間信仰（祭礼）の歴史と民俗	祭礼行事をめぐる歴史や各地の民俗事例を紹介し、生活文化の地域的多様性や特色について考察します。	配布資料に適宜目を通しておい てください。
第14回	民間信仰（仏教と神道）の歴史と民俗	民間における仏教と神道をめぐる歴史や各地の民俗事例を紹介し、生活文化の地域的多様性や特色について考察します。	配布資料に適宜目を通しておい てください。
第15回	民間信仰（妖怪と幽霊）の歴史と民俗	妖怪や幽霊に関する言い伝えや行事をめぐる歴史や各地の民俗事例を紹介し、生活文化の地域的多様性や特色について考察します。	配布資料に適宜目を通しておい てください。

学習計画注記	※履修者の人数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。																												
学生へのフィードバック方法	下記リアクションペーパーでは、感想・意見とともに疑問等も受け付けます。提出された疑問等については、次回以降の講義等で可能な範囲で適宜補足説明をしていきます。																												
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、講義の最後（5～10分程度）にリアクションペーパーを実施します。基本的には講義の感想・意見等を記載してもらいますが、自身に引きつけたの主体的な言葉での記載を望みます。 ・定期試験は、講義全体の中でとりあげたいいくつかテーマのうちから、適当なものを選択して自身の見解等も交えて論じてもらいます。 																												
評価基準	<p>評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定期試験</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	定期試験	○	○	○																
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																									
定期試験	○	○	○																										
評価割合	定期試験（100%）で評価します。																												
使用教科書名 (ISBN番号)	講義の際、必要に応じて資料を配布します。																												
参考図書	講義の際、必要に応じて資料を配布します。																												
ディプロマポリシーとの関連	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・理解】 伝承的な生活規範や慣習が生活の基盤となっていることを理解できる。 【思考・判断】 伝承的な生活規範や慣習を生活でどう活かせるか、その可能性と課題を思考できる。 【関心・意欲・態度】 伝承的な生活規範や慣習を自らの興味関心と関連づけて捉えることができる。 																												
オフィスアワー	毎週木曜日昼休み（12：30～12：50）に1701ゼミ室にて相談を受けます。																												
学生へのメッセージ	受講にあたっては、教科書のほか授業内で触れた著作に目を通すなどして予習・復習してください。また、普段から身のまわりの伝承的な生活規範・慣習と考えられる事象を観察してみてください。私たちの周りには、何気な																												

く展開している生活規範・慣習が数多くあります。何気ない事象について立ち止まって考えてみることは、各自の人生を豊かに彩る重要な行為です。自身の目で見て、耳で聞いて、主体的に考えてみる楽しみを身につけてほしいです。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	伝統文化の継承と発信		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 眞弓	指定なし

ナンバリング	G32105C21
授業概要(教育目的)	この授業では、伝統的生活文化に支えられて残存する文化遺産がいかなるものかその価値を理解し、それを未来に向けてどう伝え、また、どのように活用することができるのかについて考究する。前半は、東京上野の地を定点として伝統的文化の現代における状況調査と継承の方法について考察し、後半は、幅広く日本全土を視野に、伝統文化を現代に活かしている事例を探索することより、未来に向けた新しい文化創造の可能性について講義する。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	伝統的な文化がどのように受け継がれてきたか、その受容の歴史的背景を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	他者から聴取した内容や文化に関する資料をを踏まえつつ、受講者自らが文化的資産の現代における新しい意義を見出すことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会的な観点から意欲的に課題を取り押さえ、かつそれを横断的に他分野と結びつけることができる。
技術・表現の観点 (A)	学びの結果得られた自分の意見・考えを他者に向けて論理的に表現することができる。

学習計画

文化の継承と発信

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	「文化」と「継承」に関するオリエンテーション	「文化」の定義と「継承」の意義を理解し、「街角ミュージアム」に関する関心を持つ。	予習としてシラバスを読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	180分
第2回	文化遺産とともに生きる街(1)	文化の継承と発信事例研究1として、上野の街を取りあげ、その歴史的経緯を踏まえた上で現況の特異性を検証する。	課題のページを参考にして「上野の歴史」を各自調査のうえ、上野に関する資料を読んでみる。	180分
第3回	文化遺産とともに生きる街(2)	「街角ミュージアム」の視点で、上野の街に関するpptを見る。街の実態を理解した上で、街が抱えている今後の課題について考える。	授業で用意された資料を読み、「街角ミュージアム」についての理解を深める。各の住む場所	180分

			について、どのような視点で情報を発信できるか考えてみる。	
第4回	街角ミュージアム実践のために	街角ミュージアムの実践例を掲げる。そこで得られた知見を元に、各自のテーマを決定する。	授業課題に取り組む。6月末日提出。	180分
第5回	各自の街角ミュージアム実践	街角ミュージアムの実践として授業課題を解く。巷間に流布している現象も対象となるので、「アマビエ」の調査でも可。また、インターネットや文献のみの調査で良い。	各自必要な文献・インターネット調査を行い、レポートを仕上げる。6月末日までの提出。	180分
第6回	伝統文化を文化学として見る	伝統文化の意義をはじめ、継承法や伝統文化教育について、理解する。	配布された資料を元に、他の文献を読む	180分
第7回	コミュニティデザインとしての伝統文化継承	伝統文化が街作りとかかわる事例を取り上げ、その可能性について考える。	配布された資料を読み、他の文献を読む。	180分
第8回	日本の伝統文化を知る (1)	伝統文化に触れることが子どもにとってどのような意義を持つのか、また子どものために伝統文化はどのようなことができるのか、両面から把握する。	日本の伝統文化について書かれた書籍のうち「子ども」に関する資料を読み、理解を深める。	180分
第9回	日本の伝統文化を知る (2)	前回に引き続き、「子ども」とかわる伝統文化継承の事例を扱う。当該回では特に社会への発信方法について学ぶ。	予習として、子どもの遊びや子どもを対象としたものについて理解を深める。復習として、課題に対して情報収集を行う。	180分
第10回	日本の伝統文化を知る (3)	季節の行事について、伝統文化継承の視点から捉える。その結果として、現代社会の課題とかかわる「環境」について考察し、持続可能な社会構築のための方策について考える。	自らが探し出した書籍や資料を読み込み、理解しておく。	180分
第11回	日本の伝統文化を考える (1)	伝統文化としての弁当と世界に発信されたbento文化について現状を理解し、未来への展望を拓く。	このテーマにおいて興味関心のある事柄について調査し、レポート執筆への準備をおこなう。	180分
第12回	日本の伝統文化を考える (2)	福祉の視点から伝統文化を取り上げ、未来の暮らしについて考えてみる。	このテーマにおける興味関心を抱くものひとつを選んで調査し、レポート執筆の準備をする。	180分
第13回	日本の伝統文化を考える (3)	日本の伝統を取り入れて展開している様々な企業の事例を取り上げてその取り組み方法について分析し、未来への継承について展望を得る。	自らの興味関心に従ってレポートのテーマを決定し、それについての文献調査等を開始する。	180分
第14回	文化継承に関するワークショップ (1)	日本の伝統文化が現代に息づいている事例を学生自らが調査し、その結果を発表し合う。	発表内容を精査するとともに、発表方法についても工夫する。	180分
第15回	文化継承に関するワークショップ (2)	日本の伝統文化が現代に息づいている事例を学生自らが調査し、その結果を発表し合う。	発表内容を精査するとともに、発表方法についても工夫する。	180分

学生へのフィードバック方法 レスポンスシートに記入された質問や意見について、受講者と問題を共有する。また、口頭発表については、講評を行う。

評価方法 レスポンスシートにおいて関心・意欲・態度とともに基本的な授業内容の把握に関して問う。発表は、他者を意識してわかりやすく工夫しているか、テーマに添った調査内容となっているかという観点から評価する。レポートは、本授業を通して得られた知見を自らのものとして消化し問題意識を持って作成しているかという観点や客観的に事実を把握したうえで他者へ向けて発信しているかという観点から評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レスポンスシート	○		○	
発表	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○

評価割合	平常点40%(授業内課題含む)、課題・レポート(前半・期末の2回)60%
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない。
参考図書	授業時に適宜示す。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】日本の伝統文化及び伝統文化を活かす「質の高い生活」とは何かを理解する。 【思考・判断】伝統文化を次世代の生活に活かす方策を志向する。 【関心・意欲・態度】伝統文化の保全に対する今日の問題について関心をもつ。 【技能・表現】日本の伝統文化について他者にむけてアピールする提案・発信ができる。
オフィスアワー	井上 前期金曜日3限(千代田三番町キャンパス1807室)
学生へのメッセージ	社会課題を発見し、それについての考察をします。この授業を通して、レポートを書くことに慣れてみましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	発表形式の授業において、他者の意見・考えを聞くことにより自身の問題発見となるよう、示唆を行う。
情報リテラシー教育	○	図書館の利活用法について習熟するとともに、発表形式の授業においては著作権使用に関する注意を喚起する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	生活文化演習		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 真弓	指定なし

ナンバリング	G22104C12
授業概要(教育目的)	生活文化はくらししている土地との結びつきのなかでどのように位置づけられるのか、実際に街を歩いてその実態を調査し、その調査結果の分析を行う。2011.3.11以降の日本が直面するコミュニティの問題を含めて生活文化の時間軸・空間軸での変容を辿りつつ、次世代に何をつないでいくか、何を伝えていくか、受講生とともに考究していきたい。具体的には、人とモノとくらしの関係を考察し、東京の過去・現在・未来を考える活動である「街角ミュージアム」の実践となる。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	生活文化から見た取り組むべき社会の問題・課題について、その内実を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	文献調査や街角ミュージアムの活動を通して、生活文化提案を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	次世代に継承したい生活文化に向き合い、さまざまな事象について知的好奇心を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	問題について論理的に説明できるとともに、自分の考え・意見を表明することができる。

学習計画

生活文化演習

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	生活文化をどのように学ぶか	生活文化に関する問題意識の持ち方について、理解する。	予習としてシラバスを読んでおく。復習として授業で提起された課題を解く。	90
第2回	街を見る(1)	BIDの観点から街と人の関係について理解し、街角ミュージアムという方法を知る	予習として、授業課題を文章化しておく。復習として、配布プリントを読んで理解する。	90
第3回	街を見る(2)	街角ミュージアムの実践を行うにあたり、広告と社会および広告と生活文化の関係について、受講者間で問題を共有する。	予習として、アドミュージアムの公式HPを視聴し、当該博物館のミッションについて理解する。復習として、授業課題を解く。	90

第4回	街に行く (1)	街角ミュージアムの実践として、シオサイトにおける街と人の関係構築の状況を調査するとともに、アドミュージアムにおいて広告の歴史・社会との関わり事例を習得する。	予習として、シオサイトに関わるものを事前調査し、本調査に備える。復習として、調査内容をまとめる。	90
第5回	街に行く (2)	街角ミュージアムの実践として、恩賜浜離宮庭園における伝統文化の継承例を調査し、あわせて伝統文化の体験から得られた知見をまとめる。	予習として、浜離宮庭園に関わることを事前調査し、本調査に備える。復習として、調査内容をまとめる。	90
第6回	街を考える (1)	近代都市のなかで伝統文化を残している意義について討論を行う。	授業で出た課題について、自分の意見・考えをまとめる。	90
第7回	街を考える (2)	街中で見える生活文化の諸相について、討論を行う。	発言できるように、予めメモを用意しておく。また、口頭発表の準備として、調査内容についてさらに図書館等を利用して深める。	90
第8回	街角ミュージアムの発表 (1)	街角ミュージアムの実践について、口頭発表を行う。	口頭発表の準備として、原稿をまとめる。	90
第9回	街角ミュージアムの発表 (2)	街角ミュージアムの実践について、口頭発表を行う。	口頭発表の準備として、原稿をまとめる。発表後は、気づいた点をまとめておく。	90
第10回	生活文化と社会事例研究	社会課題に対する文化学からの提案事例の数々を知り、理解を深める。	授業内容と合致した事例について、情報検索を行う。	90
第11回	社会とかかわる生活文化ワークショップ (1)	グループ毎に課題を見つけ、教室に設置したPCから得られた資料および図書館架蔵の書籍によって、文献調査を行う。	課題に即した文献調査を行い、その結果を授業に持ちよる。	90
第12回	社会とかかわる生活文化ワークショップ (2)	各自調査したものを元にグループ内で討議を行う。	討議内容を精査し、グループの提案としてのパワーポイントか制作物を準備する。	90
第13回	社会とかかわる生活文化ワークショップ (3)	グループ内での討議によりグループでの提案をパワーポイントや制作物としてまとめ、プレゼンテーションの準備をする。	プレゼンテーションのために必要な作業を行う。	90
第14回	社会へ発信する生活文化発表 (1)	ワークショップでの討議・作業で得られたものを口頭発表する。	予習として、口頭発表の原稿を作成し、プレゼンテーションの練習をする。復習として、課題レポートの作成にあたる。	90
第15回	社会へ発信する生活文化発表 (2)と振り返り	授業前半でワークショップで得られたもののプレゼンテーションを行う。後半では、授業の総まとめを行う。	課題レポートの作成にあたる。	90

学習計画注記	※見学日程の設定によって、学習計画に変更が生じる可能性があります。
学生へのフィードバック方法	レスポンスシートを使用して、前週の振り返りとする。また、ワークショップの一環として、学生による口頭発表を行い、各々の発表に対し、講評する。
評価方法	授業ではレスポンスシートを配布し、それを回収する。提出しなかった者の出席は認めない。関心・意欲・態度とともに基本的な授業内容の把握に関して問う。口頭発表や討議では、調査の結果を的確に表現しているか、他者に伝わりやすい工夫を試みているかを問う。課題レポートは、取り組みの意欲とともに表現における論理性や他の受講者との共同作業によって得られた知見をどのように自分のものとして消化しているかを評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レスポンスシート	○		○	
口頭発表	○	○		○
課題 (レポート)	○	○	○	○

評価割合	平常点（授業内課題等含む）20%、口頭発表40%、課題レポート40%	
使用教科書名（ISBN番号）	特に指定しない。	
参考図書	授業時に随時紹介する。	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「よりよい生活」とは何かについて、自身の考えや意見を持つことができる。 【思考・判断】社会課題を発見し、その解決に向けた提案を考えることができる。 【関心・意欲・態度】物事に対する知的好奇心を持つことができる。【技能・表現】次世代につながる持続的で心豊かな生活を創造するために効果的なプレゼンテーションをすることができる。	
オフィスアワー	水曜日 2 限、千代田三番町キャンパス1807室	
学生へのメッセージ	口頭発表では、様々な角度から練られた提案を求めます。自分の観察眼や批評精神を鍛えましょう。また、受講生同士が積極的に意見を出し合って授業を展開してゆく場面がありますから、積極的な態度で臨んで下さい。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		2回のワークショップにおける意見交換や班での意見とりまとめの活動により、主体的な学習場面を設ける。
情報リテラシー教育		図書館の利活用法について習熟するとともに、効果的なプレゼンテーションができるようになる。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食品学実験		
講義開講時期	前期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 竹中 真紀子	指定なし

ナンバリング	G23104C13
授業概要(教育目的)	本科目では食品の性質をより詳しく知るために、食品の加工における成分や物性の変化について実験を通して理解を深めることを目的とする。具体的には、牛乳の加工品であるバターやカッテージチーズ、砂糖の結晶化を利用した砂糖衣(菓子)などを実際に作ることによって、それぞれの製造原理や食品成分の反応についての知識や加工・調理の技術を習得することを目指す。また、それぞれの加工・調理による歩留まりの計算、計測データの扱い方やレポートの書き方についても解説する。
履修条件	「食品学概論」の単位を修得していることが望ましい。 実験材料費として、1000円を徴収する。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	授業で扱う各種食品の加工における製造原理、加工操作、適切な歩留まりを説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	グループごとの実験において、当日のテーマを理解した上で他のメンバーと協力して積極的に作業できる。
技術・表現の観点 (A)	実験で実施したことを、当日のポイントを踏まえ科学レポートの書き方に沿って適切にまとめることができる。

学習計画

食品学実験

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業全体の概要を把握し、レポート作成に関する基本事項について学ぶ。		
第2回	果実の加工(いちごジャムの瓶詰)	いちごジャムの製造原理(ペクチンのゼリー化)、いちごジャムの加工と瓶詰めの手順、糖度計による糖度の測定方法、いちごジャムの適切な歩留まり、瓶詰めによる殺菌の意義について理解する。	授業内容を復習する。	120分
第3回	野菜の加工(スイートピクルス)	スイートピクルスの製造原理(野菜の原形質分離による食感や風味の変化)、加工手順について理解する。また、計量器具の種類や精度についても学ぶ。スイートピクルスの加工を各自実践する。	授業後に、本時の実験についてレポートを作成する。	120分
第4回	レポートの	提出されたレポートの実例についての解説を聴講し、レ	授業内容を復習する。	120分

	書き方	ポートの書き方について学ぶ。		
第5回	魚肉・畜肉の加工	かまぼこ、ソーセージの加工原理を中心に学ぶ。	授業内容を復習する。	120分
第6回	大豆の加工	豆腐、大豆の水煮缶詰の製造原理を中心に学ぶ。	授業内容を復習する。	120分
第7回	牛乳の加工(1)	ヨーグルト、チーズの加工を中心に学ぶ。	授業内容を復習する。	120分
第8回	牛乳の加工(2)	バターとカッテージチーズの加工原理を学び、実践する。	授業後に、本時の実験についてレポートを作成する。	120分
第9回	小麦粉生地の実験(集中講義1日目-1)	小麦粉の種類(薄力粉、中力粉、強力粉)について学び、薄力粉および強力粉から生地を作製し、その粘弾性や伸展性の変化を観察するとともにその原理を理解する。	授業後に、本時の実験についてレポートを作成する。	120分
第10回	うどんの加工(集中講義1日目-2)	前時の学習を踏まえて、中力粉を用いてうどんを作製する。製造段階における生地の粘弾性や伸展性の変化を観察し、それらがうどんにどのように活かされているか考察する。	授業後に、本時の実験についてレポートを作成する。	120分
第11回	砂糖の調理(集中講義2日目-1)	砂糖溶液を180℃まで加熱し、その過程での色や物性の変化を観察する。また、砂糖を使った食品としてタフィー、ピーナッツの砂糖衣、フォンダンを作製し、砂糖の加熱温度による状態の変化について理解する。	授業後に、本時の実験についてレポートを作成する。	120分
第12回	米の加工(集中講義2日目-2)	甘酒の仕込みを行い、その製造原理(でんぷんの糖化)、甘酒の原料である麹という食品について理解する。(出来上がりの観察や試飲は次時に行う。)	授業後に、本時の実験についてレポートを作成する。	120分
第13回	甘酒の試飲 期末試験	前時に仕込んだ甘酒を試飲し、評価する。 期末試験に取り組む。	試験に向けて準備しておく。	120分

学生へのフィードバック方法	実験時に気付いたことはその場でお伝えします。また毎回レポートを提出していただき、適宜コメント等を書き込んで次の授業で返すとともに、全体に向けて改善を要する点などをお伝えします。
---------------	--

評価方法	平常点、レポート、定期試験により評価します。レポート内容が基準に達していない場合は再提出となります。
------	--

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
実験への参加態度			○	
レポート	○			○
定期試験	○			

評価割合	平常点 (30%)、レポート (40%)、定期試験 (30%)
------	---------------------------------

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。 【技術・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。
---------------	--

オフィスアワー	前期：月曜日昼休み時間～3限目
---------	-----------------

学生へのメッセージ	「食品学概論」や「食品学」の知識が生きてきます。また、食品を扱うので必ず指定の衛生的な身支度をして、欠席せずに積極的に実習・実験に参加してください。毎回のレポートをまとめる際、自分で疑問点や関連する事項について調べるなど、自主的に学ぶ姿勢を大切にしてください。
-----------	--

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品関係の研究所において食品の調理・加工や分析に関わる研究を行ってきた。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	食品衛生学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 竹中 真紀子	指定なし

ナンバリング	G23105021
授業概要(教育目的)	本科目では、我が国で施行されている「食品安全基本法」に基づき、健全な食環境整備・食品の表示・食品の衛生管理という3つの視点から、食品の安全管理について概説する。また、昨今食に関する事件が多く報道されるようになったことを受けて、事件の背景にある日本における食の安全システムや行政の問題について検討する。生産者・加工業者・流通業者・消費者とさまざまな食に携わる立場を考慮しつつ、消費者としてそれら食のリスクにどう立ち向かうかについても考えていく。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	食生活におけるリスクとそれを低減するために生産者や消費者がとるべき行動、また食の安全を確保するための法律や制度について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

食品衛生学

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	食品の安全性	過去20年ほどの間にBSEの発症や食品表示偽装事件の多発などにより食品の安全性についての信頼性が揺らいだ背景を理解し、日本における安全行政の仕組みについて学ぶ。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第2回	食品の劣化に関わる微生物	食品の劣化に関わる腐敗性微生物について学ぶ。その基礎知識として、自然界における微生物の種類と分布、微生物の増殖に必要な諸条件や簡易な細菌検査法について理解する。	授業前に教科書第2章-1を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第3回	食品の腐敗・変敗とその防止	微生物による食品の腐敗・変敗の定義とこれらに関わる微生物の種類、腐敗・変敗の判定法、腐敗・変敗の防止方法について学ぶ。	授業前に教科書第2章-2を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分

第4回	食中毒	食中毒の種類とその特徴、原因微生物およびウイルスの性質、それぞれの微生物・ウイルスと原因食品との関係を理解する。	授業前に教科書第3章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第5回	食品の安全性の確保	食品の種類（食肉製品、生鮮魚介類、水産加工食品、牛乳・乳製品、鶏卵、冷凍食品、惣菜製品）ごとに、原料、製造工程、流通過程での安全性確保のポイントを理解する。	授業前に教科書第4章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第6回	家庭における食品の安全保持	家庭において食品を衛生的に取り扱うために必要な調理器具の洗浄法、洗剤・漂白剤の効果や使用方法、冷凍庫・冷蔵庫の適切な使い方について学ぶ。	授業前に教科書第5章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第7回	環境汚染と食品	人々の生活において健康への影響が問題となっている環境中の有害物質や放射性物質による食品汚染などについて学ぶ。	授業前に教科書第6章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第8回	器具および容器包装の衛生	食品と直接接触する器具や包装容器について、食品を汚染する可能性のある物質の種類や、これらの規制を中心に学ぶ。	授業前に教科書第7章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第9回	水の衛生	飲用、また食品の製造や食品の洗浄に用いられる水の安全性確保のための水の浄化・殺菌方法やその規制について学ぶ。	授業前に教科書第8章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第10回	食品の安全流通と表示（1）	食品の安全流通のための、食品の表示に関する法律、食品添加物の種類や使用の実際、輸入食品の安全確保対策について学ぶ。	授業前に教科書第9章-1, 2, 3を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第11回	食品の安全流通と表示（2）	食品の安全流通のための、遺伝子組換え食品の概要、食物アレルギーへの対策、食品に含まれる発がん物質の概要とその規制について学ぶ。	授業前に教科書第9章-4, 5, 6を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第12回	食品の安全管理（1）	食品の安全行政の在り方について、リスクアナリシスを基本とし、リスク管理、リスク評価、リスクコミュニケーションの3つの要素が関わり合っていることを学ぶ。	授業前に教科書第10章-1を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第13回	食品の安全管理（2）	食品の安全管理のために、食品関連事業者の間で普及しつつあるHACCPやそれらを効果的に運用するためのマネジメントシステムと組み合わせた「食品安全マネジメントシステム」について理解する。	授業前に教科書第10章-2, 3を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第14回	まとめ	これまでの内容について、練習問題への取り組みを通して理解を深める。	試験に向けて準備する。	180分
第15回	定期試験	試験に取り組む。	授業前にこれまでの授業内容を復習し、定期試験に向けて十分に準備すること。	180分

学習計画注記	授業の進み具合により、変更になる場合があります。				
学生へのフィードバック方法	授業の終わりに、設定したテーマについてコメントシートに記入していただき、次時にフィードバックすることを数回実施する予定です。質問等がある場合は、オフィスアワー等に研究室をおたずねください。				
評価方法	定期試験100%				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	定期試験	○			
評価割合	定期試験（100%）				
使用教科書名 (ISBN番号)	三訂 食品の安全性 (978-4-7679-0574-7)				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。				
オフィスアワー	前期：月曜日昼休み時間～3限目				
学生へのメッセージ	微生物や化学物質に関する学びが中心となりますので、生物や化学の基礎知識が必要です。				
教育等の取組み状況					

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	レシピの比較文化史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 伊藤 有紀	指定なし

ナンバリング	G23203C21
授業概要(教育目的)	本科目では、料理のレシピに関する事柄を空間軸と時間軸で比較する。前半はコメ、ムギ、大豆などの代表的な食材の調理、加工法を中心に地域比較をする。後半は、日本人が摂取してきた食材や料理、献立様式に焦点を当て、歴史的変遷を概観する。併せて自然環境や食のタブー、食事作法などの背景も学ぶ。これらを通して民族、地域、時代、宗教などにより異なる食文化の多様性を理解し、レシピに違いが生じる要因を考える。
履修条件	なし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	世界および日本の様々なレシピに関する事柄の比較を通して、食文化の共通性と多様性を知る。
思考・判断の観点 (K)	どのような変遷をたどり現代の我々の食事に至っているかを把握し、将来の食生活について考える力を養う。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	レシピ文化の考え方	授業概要の説明。レシピ文化の考え方を学ぶ。	配信された資料をみて、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	200分
第2回	コメのレシピ比較	世界のコメの生産から食べ方までを学ぶ。	配信された資料をみて、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。授業内で課すテーマについて情報収集をする。	200分
第3回	ムギのレシピ比較	世界のムギの生産から食べ方までを学ぶ。	配信された資料をみて、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。授業内で課すテーマについて情報収集をする。	200分
第4回	食事作法と食のタブー	世界における多様な食事作法と食のタブーについて学ぶ。	配信された資料をみて、授業内でポイントとした部分を中心に	200分

			まとめる。授業内で課すテーマについて情報収集をする。	
第5回	だしのレシピ比較	世界における多様なだしについて学ぶ。	配信された資料をみて、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。授業内で課すテーマについて情報収集をする。	200分
第6回	豆、豆製品のレシピ比較	大豆を中心に、世界における豆や豆製品の生産から食べ方を学ぶ。	配信された資料をみて、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。授業内で課すテーマについて情報収集をする。	200分
第7回	日本の時代変遷によるレシピ比較①	縄文時代、弥生時代の食生活について学ぶ。	配信された資料をみて、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。授業内で課すテーマについて情報収集をする。	200分
第8回	日本の時代変遷によるレシピ比較②	古墳時代、平安時代の食生活について学ぶ。	配信された資料をみて、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。授業内で課すテーマについて情報収集をする。	200分
第9回	日本の時代変遷によるレシピ比較③	鎌倉時代、室町時代、安土桃山時代の食生活について学ぶ。	配信された資料をみて、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。授業内で課すテーマについて情報収集をする。レポート課題に取り組む。	240分
第10回	日本の時代変遷によるレシピ比較④	江戸時代の食生活について学ぶ。	配信された資料をみて、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。授業内で課すテーマについて情報収集をする。レポート課題に取り組む。	240分
第11回	日本の時代変遷によるレシピ比較⑤	明治時代～平成時代の食生活について学ぶ。	配信された資料をみて、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。授業内で課すテーマについて情報収集をする。レポート課題に取り組む。	240分
第12回	まとめ	これまでの内容の補足や授業全体の総括を行う。	これまでの授業内容を総復習しておく。	180分
第13回	レポートによる評価	レポートによる評価を行う。	これまでの総復習をしておく。	200分

学習計画注記 授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法 提出物に対してはGoogle Classroomを通して返信する。質問がある場合も原則Google Classroomを使うこと。

評価方法 コメントシートとレポートで評価する。コメントシートは、事前に指示した事柄について調べたことや授業内容およびそれに対する考察や意見、感想などを授業内で記入、提出するものとする。レポートは授業の後半に課題を出す。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
コメントシート	○	○		
レポート	○	○		

評価割合 コメントシート (60%) レポート (40%)

使用教科書名 (ISBN番号) なし。資料を配信する。

参考図書 授業内で紹介する。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】人々の食の多様性を食生活の地域性や時代の変遷を通して学び、現代生活の諸問題に対する理解につなげることができる。【思考・判断】食生活史の理解にもとづき、将来の食生活についての考察や問題解決につながる考察をすることができる。

オフィスアワー 火曜3, 4限

学生へのメッセージ 食に関する日々のニュースをウェブサイトや新聞、雑誌などから意識的に収集して、視野を広げていって下さい。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食文化論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 伊藤 有紀	指定なし

ナンバリング	G33201021
授業概要(教育目的)	日本の食文化において重要ないくつかのテーマに焦点を当て、身近な話題を手がかりに現代の状況を把握する。同時に、その食文化がどのように形成され発展してきたかを遡り、自然環境、社会環境などの面から概観する。これらの学習を通して、私達を取り巻く食文化の現在、未来について考え、食生活上の問題点や課題の発見につながる思考態度を養う。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	自身の関心が高いテーマについて、食文化的な面からみた現在の日本における概況とそこに至る歴史的変遷を簡単に説明できる。
思考・判断の観点 (K)	上記の知識・理解にもとづき将来の方向性やあり方について意見を述べることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	食文化とは	食文化の定義、食文化を学ぶ意義を考える。	配信した資料をみて、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	200分
第2回	日本の食文化	日本の食文化の全体的な特徴を学ぶ	配信した資料をみて、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	200分
第3回	飯を中心とした食事1	現在の食事における飯の位置づけや飯が主食とされるようになるまでの歴史的変遷などを学ぶ。	配信した資料をみて、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	200分
第4回	飯を中心とした食事2	現在の食事における飯の位置づけや飯が主食とされるようになるまでの歴史的変遷などを学ぶ。	配信した資料をみて、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	200分
第5回	パン食1	パン食が日本で定着していった過程や現在の状況などを	配信した資料をみて、授業内で	200分

		学ぶ。	ポイントとした部分を中心にまとめる。	
第6回	パン食 2	パン食が日本で定着していった過程や現在の状況などを学ぶ。	配信した資料をみて、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	200分
第7回	魚食 1	日本では魚食がどのように展開されてきたかを学ぶ。	配信した資料をみて、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	200分
第8回	魚食 2	日本では魚食がどのように展開されてきたかを学ぶ。	配信した資料をみて、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	200分
第9回	肉食	日本では肉食がどのように展開されてきたかを学ぶ	配信した資料をみて、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。レポート課題に取り組む。	240分
第10回	調味料	塩、砂糖、醤油を中心に調味料がどのように利用されてきたかを学ぶ。	配信した資料をみて、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。レポート課題に取り組む。	240分
第11回	外食	日本における外食文化の起こりと発展について学ぶ。	配信した資料をみて、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。レポート課題に取り組む。	240分
第12回	まとめ	これまでの内容の補足とまとめを行う。	これまでの総復習をしておく。	180分
第13回	レポートによる評価	レポートによる評価を行う。	これまでの内容の総復習をしておく。	200分

学習計画注記 授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法 提出物に対してはGoogle Classroomを通して返信する。質問がある場合も原則Google Classroomを使うこと。

評価方法 コメントシートとレポートで評価を行う。コメントシートは、授業内容のまとめや考察、意見を授業内で記入、提出するものとする。レポートは、行事食、郷土食に関して課す。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
コメントシート	○	○		
レポート	○	○		

評価割合 コメントシート (50%) レポート (50%)

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 江原絢子, 石川尚子編著 『日本の食文化 「和食」の継承と食育』 (2016) , アイ・ケイコーポレーション

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】食文化的な視点から「質の高い生活」を把握し、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】食生活史の理解にもとづき、食生活、社会の諸問題を発見し、問題解決の行動につながる考察をすることができる。

オフィスアワー 火3, 4限

学生へのメッセージ 食に関する日々のニュースをウェブサイトや新聞、雑誌などから意識的に収集し、問題や現象の背景にある人々の生活にも目を向けて欲しいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー		

教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	フードコーディネート論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 伊藤 有紀	指定なし

ナンバリング	G33204C21
授業概要(教育目的)	食材に関する科学的知識、栄養と食品、食の安全性、調理科学などについて学んだことを基礎として、食生活におけるそれらの応用について具体的な事項を中心に学ぶ。食に関する文化と歴史、テーブルウェア、メニュープランニング、食事に関するマナーとサービス、テーブルコーディネートなどについて学習する。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	食事の文化、食卓のコーディネート、サービスとマナー、メニュープランニング、食空間のコーディネート、フードサービスマネジメントの基本事項を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	フードコーディネートとは	フードコーディネートの基本理念を学ぶ	教科書第1章の「フードコーディネートの基本理念」を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	150分
第2回	食に関する文化と歴史	食のタブーや日本の食事の歴史などを学ぶ。	教科書第2章の「食事の文化」を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	150分
第3回	食卓のコーディネート①	テーブルコーディネートの要点を学ぶ。	教科書第3章の「食卓のコーディネート」1を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	150分

第4回	食卓のコーディネート②	日本料理、中国料理、西洋料理の食卓のコーディネートを学ぶ。	教科書第3章の「食卓のコーディネート」2~4を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	150分
第5回	食卓のサービスとマナー①	サービスとマナーの基本、日本料理のサービスとマナーを学ぶ。	教科書第4章の「食卓のサービスとマナー」1,2を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	150分
第6回	食卓のサービスとマナー②	中国料理、西洋料理のサービスとマナー、パーティ、プロトコルについて学ぶ。	教科書第4章の「食卓のサービスとマナー」2~6を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	150分
第7回	メニュープランニング①	メニュープランニングの要件を学ぶ。	教科書第5章の「メニュープランニング」1を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	150分
第8回	メニュープランニング②	料理様式とメニュー開発の基礎を学ぶ。	教科書第5章の「メニュープランニング」2を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	150分
第9回	食空間のコーディネート	食空間（食事空間、キッチン）のコーディネートについて学ぶ。	教科書第6章の「食空間のコーディネート」を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	150分
第10回	フードサービスマネジメント	フードサービスマネジメントの動向と特性、マネジメントの基本を学ぶ。	教科書第7章の「フードサービスマネジメント」1,2を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	150分
第11回	フードサービスの起業	フードサービス（レストラン）の起業について学ぶ。	教科書第7章の「フードサービスマネジメント」3を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	150分
第12回	投資計画、収支計画	投資計画、収支計画の作成、損益分岐点売上げ高について学ぶ。	教科書第7章の「フードサービスマネジメント」4~6を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	150分
第13回	食企画の実践コーディネート	食企画の流れ、必要なスキルについて学ぶ。	教科書第8章の「食企画の実践コーディネート」1,2を読んでおく。配布したプリントを読み、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	150分
第14回	食企画の実践現場	外部講師による特別授業。現場で活躍するフードコーディネーターから実際の仕事や仕事に臨む心構えを学ぶ。	講義内容をまとめる。講師が指定した内容についてレポートを書く。	300分
第15回	まとめと試験	全体の総括と試験を行う。	これまでの授業内容を総復習しておく。	450分

学習計画注記	「食企画の実践現場」は、外部講師のスケジュールにより、異なる回目になることがある。
学生へのフィードバック方法	小テストは授業内で解説を行う。質問がある場合は、1808研究室まで訪問すること。
評価方法	授業内容の理解度を確認する小テスト、感想や意見を記述するコメントシート、定期試験で評価を行う。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト・コメントシート	○			
定期試験	○			

評価割合	小テスト・コメントシート（20%）、筆記試験（80%）	
使用教科書名（ISBN番号）	（公社）日本フードスペシャリスト協会編 『三訂 フードコーディネート論』，建帛社（978-4-7679-0440-5）	
参考図書	授業内で紹介する。	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】フードコーディネートによる物的、心的な満足が「質の高い生活」をもたらすことを理解できる。	
オフィスアワー	火曜2限 1808研究室	
学生へのメッセージ	これまでに学んだ食品、栄養、調理などに関する知識を実際の食生活に生かしていくにあたり、食卓を楽しく豊かにするために必要な事柄を学んでいきます。調理学実習を履修した人は、実習で学んだ献立構成、盛り付け、配膳なども結びつけて理解してください。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	設計製図演習A		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 小林 直弘	指定なし
助教	青柳 由佳	指定なし

ナンバリング	G14201C22
授業概要(教育目的)	建築設計やインテリア設計など各種設計を行う基礎を学ぶことを目的としている。建築設計では図面による表現及び読み解きが必須な技術であるが、本授業では、図面を作成する技術を修得するために、線表現、図面間の関連性、基礎図(平面図、立面図、断面図、配置図)の作成を2種類(木造、鉄筋コンクリート造)の構造種別で出題する。また図面表現のみならず鉄筋コンクリート造では模型を作成し、理解を深めさせる。
履修条件	なし。なお、本演習の履修には、指定の製図道具が必要になります(学内で申し込み販売します)。また模型制作などで材料等の実費負担、1回の校外学習で交通費負担が必要になります。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	建築製図におけるルールを身に着けることができる。製図によって建築物そのものの構造が理解できる。
思考・判断の観点 (K)	建築図面は建築物そのものの縮小ではなく記号の集積であること、他者に合理的に伝える方法であることが理解できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自ら魅力的な建築や空間について主張することが出来るようになり、図を描いて説明することができるようになる。
技術・表現の観点 (A)	建築設計を進める上で基礎的技術である製図の技法を修得する。構造別の住宅を対象として図面の表現方法を修得する。各種図面、模型などの制作を通して、建築計画のプレゼンテーション手法を修得する。

学習計画

回数・授業テーマ

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンスと製図基礎	建築製図の概要、授業の進め方の説明、必要な製図道具の説明を行います。	ガイダンスを受けて、履修について検討してください。	30分
第2回	課題1:線の練習/レタリング・文字の練習	基礎的な線の描画方法を身に着けます。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第3回	課題2:製図基礎/建	基本的な建築図面の表示記号について身につけます。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分

	築図面の表示記号			
第4回	課題3：木造住宅／配置図・平面図の表現方法（台東区 旧平櫛田中邸）	旧平櫛田中邸を題材に木造住宅を理解し、配置図・平面図の表現方法を身に着けます。（前半）	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第5回	課題3：木造住宅／配置図・平面図の表現方法（台東区 旧平櫛田中邸）	旧平櫛田中邸を題材に木造住宅を理解し、配置図・平面図の表現方法を身に着けます。（後半）	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第6回	課題4：木造住宅／断面図・立面図の表現方法（台東区 旧平櫛田中邸）	旧平櫛田中邸を題材に木造住宅を理解し、断面図・立面図の表現方法を身に着けます。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第7回	課題5：木造住宅／展開図の表現方法（台東区 旧平櫛田中邸）	旧平櫛田中邸を題材に木造住宅を理解し、展開図の表現方法を身に着けます。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第8回	校外学習 旧平櫛田中邸	作図した図面を持って、その実体との関係を旧平櫛田中邸の内覧によって確認します。	旧平櫛田中邸の内部（部分）で気に入ったところをレポートしてください。	90分
第9回	課題6：鉄筋コンクリート造住宅／配置図・平面図の表現方法（大阪市 住吉の長屋）	住吉の長屋を題材に鉄筋コンクリート造住宅を理解し、配置図・平面図の表現方法を身に着けます。（前半）	安藤忠雄設計「住吉の長屋」について、図書館、インターネット等で下調べをしてきてください。 必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第10回	課題6：鉄筋コンクリート造住宅／配置図・平面図の表現方法（大阪市 住吉の長屋）	住吉の長屋を題材に鉄筋コンクリート造住宅を理解し、配置図・平面図の表現方法を身に着けます。（後半）	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第11回	課題7：鉄筋コンクリート造住宅／断面図・立面図の表現方法（大阪市 住吉の長屋）	住吉の長屋を題材に鉄筋コンクリート造住宅を理解し、断面図・立面図の表現方法を身に着けます。（前半）	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第12回	課題7：鉄筋コンクリート造住宅／断面図・立面図の表現方法（大阪市 住吉の長屋）	住吉の長屋を題材に鉄筋コンクリート造住宅を理解し、断面図・立面図の表現方法を身に着けます。（後半）	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第13回	課題8：鉄筋コンクリート造住宅／展開図の表現方法（大阪市 住吉の長屋）	住吉の長屋を題材に鉄筋コンクリート造住宅を理解し、展開図の表現方法を身に着けます。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第14回	鉄筋コンク	作成した図面を基に、立体的に確認するため、ステレン	必要な技術は授業時間内で修得	90分

	リート造住宅／模型の作製 課題9	ボードを使用し模型を作成する。	しますが、教室外でも練習をしてください。	
第15回	鉄筋コンクリート造住宅／模型の作製 課題9	作成した図面を基に、立体的に確認するため、ステレンボードを使用し模型を作成する。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。（最終期限は1週間後）	90分
第16回				

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合がある。
--------	------------------------------------

学生へのフィードバック方法	演習中に作業の講評を実施する。
---------------	-----------------

評価方法	講義は演習形式のため、講義中に課題を実施します。課題ごとに表記の通り評価します。厳密には図面の正確性、完成度をみます。
------	---

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
各課題	○		○	○
レポート		○	○	

評価割合	各課題を10点として評価し演習は正確性5点、完成度5点、レポートは思考判断5点、関心意欲態度5点とします。
------	---

使用教科書名 (ISBN番号)	瀬川康秀『初学者の建築講座 建築製図』市ヶ谷出版社
-----------------	---------------------------

参考図書	住宅雑誌など建築系雑誌 (雑誌の名称は授業内で提示します。)
------	--------------------------------

ディプロマポリシーとの関連	二級建築士受験資格に必要な選択演習であり、製図は必須科目である。また図面を読み解く能力は建築士もしくはインテリアコーディネーターや宅建など建築等に関わるさい必須の能力である。
---------------	---

オフィスアワー	授業終了後30分程度 (小林) 水曜日4時限目 (青柳)
---------	---------------------------------

学生へのメッセージ	手描きによる製図は建築設計の基本となる重要な技術です。住宅建築のトレースを通して、建築の基礎をしっかりと勉強してください。図面を読み解くことで様々な建物を見る楽しみを学びましょう。 事前準備として、現在住んでいる家もしくは自分の部屋の間取りを描いてみましょう。また、気になる建物、気になる家具、好きな場所、好きな店を見つけてみてください。
-----------	--

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	指導教員はいずれも建築製図について実務経験が豊富であり、実践的な指導が出来る。
アクティブ・ラーニング	○	演習形式
情報リテラシー教育	○	建築図面は他者との共有情報のため正確性の重要さ認識
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	設計製図演習B		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 小林 直弘	指定なし
助教	青柳 由佳	指定なし

ナンバリング	G14202C22
授業概要(教育目的)	本授業は、建物を立体的に把握する事を目的とします。立体表現の基礎を学び、部屋ごと寸法や納まりを確認し、パースを作成します。また設計を自由な発想で行うことが重要であるため、間取りや空間の理解、図面による表現、透視図の作成方法、設計に対するプレゼンテーション手法を学ぶ。
履修条件	本演習の履修は設計製図演習Aの単位取得済であることを条件とします。また模型制作などで材料等の実費負担、1回の校外学習で交通費、入場料負担が必要になります。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	木造住宅の設計製図手法を修得できる。立体表現図法を修得できる。部屋ごとの細部の納まりや寸法を確認し建築を立体的に把握できる。設計手法の進め方を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	部屋ごとの細部の納まりや寸法を確認し建築を立体的に把握できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	与えられた課題を理解し、的確に提出し、遊び心を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	<ul style="list-style-type: none"> 立体表現図法を修得することができる。 建築計画のプレゼンテーションができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス、パースの基礎/アクソメとアイソメ 課題1	講義の目的と流れを理解し、立体表現の基礎を習得する。平行透視図法の基礎(アクソメとアイソメ)について解説し、製図していただきます。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第2回	和室の知識とパース 課題2	学内の茶室を見学し、解説を行い、各自がコンベックスを使って野帳を採ります。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第3回	和室のパースと着色	木造住宅を中心として本学茶室を利用し、立体視した図面を作成する。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をし	90分

	課題2		てください。	
第4回	和室のパスと着彩 課題2	木造住宅を中心として本学茶室を利用し、立体視した図面を作成する。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第5回	校外学習 (江戸東京たてもの園：前川國男など)課題3・課題4	建築の歴史を理解し、住宅の展開を実物を通して見学する。また空間は実体験にしか理解できないので体験を通して、空間理解を促す。	予習：訪問する江戸東京たてもの園を調べどのような建物があるか確認しましょう。	90分
第6回	一点透視図法の仕組み 課題5	木造住宅（前川國男邸）一点透視図法を描き始めます。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも作業を進めてください。	90分
第7回	一点透視図法の作図1 課題5	木造住宅（前川國男邸）一点透視図法の作図を行います。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも作業を進めてください。	90分
第8回	一点透視図法の作図2 課題5	木造住宅（前川國男邸）一点透視図法の作図を行います。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも作業を進めてください。	90分
第9回	一点透視図法の着彩 課題5	木造住宅（前川國男邸）一点透視図法の着彩を行います。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも作業を進めてください。	90分
第10回	建築細部の知識と設計（類例の調査とコンセプトの検討） 課題6	建築の基礎となる小住宅（2人暮らしの小さな住まい）の設計を演習形式で実施する。住宅の多様性を理解するため、類例から設計手法を読み解き、各自の設計コンセプトを作成する。。	予習：類例となる建築作品を建築系雑誌から任意に選定し、その設計意図を読み解く。 必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第11回	建築細部の知識と設計（コンセプトの検討とエスキース） 課題6	各自で作成したコンセプトを基にした設計図を、講師に説明し、エスキースを実施する。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第12回	建築細部の知識と設計（図面の作成） 課題6	エスキースを基に住宅の設計を確定し、図面表現を行う。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第13回	建築細部の知識と設計（透視図法の基礎） 課題6	設計した住宅を自己評価し、コンセプトに沿う魅力ある個所を透視図法を用いて作図する。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。 復習：通学若しくは生活県内にある建築に目を向けてみましょう。	90分
第14回	建築細部の知識と設計（プレゼンテーション資料の作成） 課題6	設計した住宅を他者へ理解を促すためのプレゼンテーション資料を作成する。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分
第15回	建築細部の知識と設計（プレゼンテーション） 課題6	設計した住宅を他者へ説明し、魅力をよりよく伝えることに努める、また聴取する学生は他学生の設計を図面から批判的に評価する。	必要な技術は授業時間内で修得しますが、教室外でも練習をしてください。	90分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	演習中の作業及びプレゼンテーションに対する講評を実施する。
評価方法	講義は演習形式のため、講義中に課題を実施します。課題ごとに表記の通り評価します。厳密には図面の正確性、完成度をみます。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題 1～7	○	○		○
レポート		○	○	
課題 8	○	○	○	○

評価割合	課題 1～4を10点とし演習は正確性5点、完成度5点、レポートは思考判断5点、関心意欲態度5点とします。課題 5は30点で正確性15点、完成度15点、課題6は (K) 10点 (v) 10点、(A) 10点とする。
使用教科書名 (ISBN番号)	瀬川康秀、「初学者の建築講座 建築製図」. 市谷出版社. 2004 ※適宜、参考資料プリントを配布する。
参考図書	住宅雑誌など建築系雑誌 (雑誌の名称は授業内で提示します。)
ディプロマポリシーとの関連	二級建築士受験資格に必要な選択演習であり、製図は必須科目である。また図面を読み解く能力は建築士もしくはインテリアコーディネーターや宅建など建築等に関わる際に必須の能力である。
オフィスアワー	授業終了後 30分程度 (小林) 水曜日 3時限目 (青柳)
学生へのメッセージ	立体表現の基礎となる一点透視図法や二点透視図法は、その建物の良さをプレゼンテーションする方法として有用です。建築設計やインテリア設計など様々な場で必要となる技術ですので、頑張って勉強しましょう。前期では、建築を見る基礎を学んでもらいました。気になる建物を見つけ、なぜ気になるのか考えてみてください。また、前期の復習はしっかりと行って下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員はいずれも建築製図における実務経験が豊富である。従って実践的な指導が可能である。
アクティブ・ラーニング	○	演習形式
情報リテラシー教育	○	建築図面は他者との共有情報のため正確性の重要さ認識
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	設計製図演習C		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 大橋 智子	指定なし
非常勤講師	戸田 啓太	指定なし
助教	青柳 由佳	指定なし

ナンバリング	G24203C22
授業概要(教育目的)	<p>設計製図演習AおよびBで学んだ基礎知識と手法を活かし、小規模な住宅の設計2課題に取り組みます。身近な生活を想定し、図面に表現することで、ものを作り上げる喜びを感じながら、技術の上達も目指します。</p> <p>第一課題「コンクリート壁式構造の小住宅」 決まったブロックの組み合わせにより、住宅を設計する手法を学ぶ。</p> <p>第二課題「ある家族の家」 第1課題と同じ区画内に与えられた敷地に自由な発想で一戸建て住宅の設計を行う。</p>
履修条件	<p>本演習の履修は設計製図演習Bの単位取得済を条件とします。 「インテリア計画」を同時に履修すること。 また、1回の校外授業と模型製作などで交通費、材料等の実費負担が必要になります。</p>

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	独立住宅の設計に必要な空間概念および機能について説明できる。またプロの住宅作品からデザイン手法を抽出できる。
思考・判断の観点 (K)	独立住宅についての設計方法、居住する家族とそこに求められる機能、敷地周辺環境との調和について理解した上で、自らの考えを住宅を通して提案できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	現代の最先端の住宅デザインに関心を持ち、資料収集ができる。
技術・表現の観点 (A)	建築の基本図面の作成、模型が制作でき、それに基づいて自らの考えを他者に説明できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス 第1課題 小住宅設計課題の説明	まず授業の方針を説明します。そして第1課題「コンクリート壁式構造の小住宅」の説明を行います。また次週の校外学習について説明します。	第1課題をよく読んで理解してきてください。3m×4m×3mの1/100ブロック模型をスチレンボードで4つ作成し3回目の授業に持参する。	90分

第2回	第1課題、第2課題敷地見学、周辺調査	実際に敷地に建ち、近隣の状況、まちなみまで含めた環境を観察し、野帳を取り、記録します。	野帳で得た情報を清書してください。また、図書館を利用し実例研究をしてください。	90分
第3回	エスキース	ブロックの構成ゾーニング	教室外でもエスキースを進めてください。	90分
第4回	基本図作成	平面図、断面図、立面図のエスキースを行います。	教室外においてもエスキースを進めてください。	90分
第5回	基本図面の製図	平面図、断面図、立面図の製図を行います。	授業時間内で間に合わなかった部分は完成させてください。	90分
第6回	模型制作	ブロック模型の制作、プレゼンテーションのまとめを行います。	授業時間に間に合わなかった部分は完成させて来てください。	90分
第7回	第1課題図面提出、第2課題説明	図面を提出していただきます。また第2課題「ある家族の家」の説明を行います。	教室外においてもエスキースを進めてください。	90分
第8回	エスキース	平面図、断面図、立面図のエスキースを行います。	専門誌からプロの実例の情報を入れながらエスキースを進めて下さい。	90分
第9回	基本図面の製図1	平面図、断面図、立面図の製図を行います。	教室外においても製図を進めてください。	90分
第10回	基本図面の製図2	平面図、断面図、立面図の製図を行います。	教室外においても製図を進めてください。	90分
第11回	基本図面の製図3	平面図、断面図、立面図の製図を行います。	授業時間内に間に合わなかった場合は完成させて来てください。	90分
第12回	模型制作	模型の制作を行います。	授業時間内に間に合わなかった場合は教室外においても作業を進めてください。	90分
第13回	模型の提出	模型を完成させ提出します。ブラッシュアップを求める場合があります。	指導に従って模型をブラッシュアップしてきてください。	90分
第14回	図面の提出	図面を完成させ提出していただきます。場合によりブラッシュアップを求めます。	指導があった場合はブラッシュアップしてきてください。	90分
第15回	ポスターセッション(作品発表会)	指導教員や他の学生の前で、図面と模型を展示し口頭でプレゼンテーションをしていただきます。	口頭発表で何を伝えるかを整理してきてください。ポスターセッションは試験に準じますので十分な準備をしてきてください。	90分

学生へのフィードバック方法 演習方式で行い、住宅設計の課題が2件出される。敷地見学、エスキース、作図、模型製作、写真撮影の手順で課題を完成させ、課題提出後にポスターセッション形式で採点および講評が行われる。

評価方法 講評会では担当教員や他の学生へ向け、図面と模型を提示して、口頭で設計内容を説明していただく。担当教員は発表の内容と提出された模型及び図面を採点する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
模型	○	○	○	○
図面	○	○	○	○
口頭発表(プレゼン)	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合 平常点20%、課題(提出期限、ポスターセッションを含む)80%とする。

参考図書 新建築(月刊誌)、新建築住宅特集(月刊誌)、住宅建築

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】「質の高い生活」を実現させるための社会の基盤の一部となる、生活空間の知識を得ること、理解することができる。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し、住宅設計の中で解決する。
【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を想像するための問題を住宅の形で解決する。

オフィスアワー	金曜日 5 時限目（青柳）	
学生へのメッセージ	デザイン力を上達するには実例を学ぶことが重要になります。東京都心は世界的に見ても屈指の建築・インテリアデザインの最先端地域になります。様々なデザインを実際に見て、学んでください。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は建築設計の実務経験を有しており、実践的な指導が可能である。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	設計製図演習D		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 柳沢 伸也	指定なし
非常勤講師	戸田 啓太	指定なし
助教	青柳 由佳	指定なし

ナンバリング	G24204C22
授業概要(教育目的)	<p>第1課題「ペットと共生する住まい」 対象敷地：公園に面した住宅地域、敷地面積約320㎡を想定。郊外住宅を想定。 構造規模：木造1～3階建て、必要に応じ地下も可。延べ面積約150-250㎡、駐車場1台 家族構成：車椅子利用者とその家族及びペット（犬、ネコなど自由）</p> <p>第2課題「カフェを併設する2世帯住宅」 対象敷地：公園に面した住商混合地域。敷地約200㎡を想定。都心の住宅を想定。 構造規模：RC造3階建て地下なし、延べ面積約200-300㎡ 家族構成：親夫婦+子夫婦+子ども1人</p>
履修条件	本演習の履修は設計製図演習Cの単位取得済を条件とします。 「インテリア設計論」を同時に履修すること。 また、模型材料、道具等の実費負担が必要になります。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	木造、鉄筋コンクリート造とした構法別の住宅の設計に必要な知識について理解できる。またプロの住宅作品からデザイン手法を抽出できる。
思考・判断の観点 (K)	動物や親(子)の家族との共生について、発生する問題を抽出でき、それを解決できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	現代の最先端の住宅デザインに関心を持ち、資料収集ができる。
技術・表現の観点 (A)	建築のプレゼンテーションに必要な図面、模型を作成でき、それに基づいて自らの考えを他者に説明できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	第1課題敷地の提示・設計諸元説明	第1課題「ペットと共生する住まい」(木造住宅)について説明します。設計条件について考察し、構想を始めます。	図書館等を利用し、実例資料を集めて来てください。	90分

第2回	エスキース1	構想に沿って、平面図、断面図のエスキースを進めます。	教室外でもエスキースを進めて下さい。	90分
第3回	エスキース2・模型制作	立面図までのエスキースを完成させ、模型制作に入ります。	エスキースを完成させてください。	90分
第4回	模型制作	指導に従って模型制作を続けます。	次週までに模型を完成させてください。	90分
第5回	模型提出、図面清書	授業初めに完成模型を提出していただきます。必要があればブラッシュアップの指導を行います。同時に図面の清書を始めます。	次週までに図面を完成させてください。	180分
第6回	レイアウト図面提出	授業時間内にA2レイアウト図面を提出していただきます。ブラッシュアップの指導を受けて下さい。	次週までにA2レイアウト図面をコピー仕上げにし、着彩して模型写真を貼付、プレゼンテーションの準備をしてきてください。	180分
第7回	第1課題プレゼンテーション図面の提出 (A2着彩・模型写真貼付)	第1課題プレゼンテーション図面の提出 (A2着彩・模型写真貼付) をしていただきます。1次採点を行い、ブラッシュアップの指導を行います。	授業内で指導を受けた部分は修正して次週の講評会に臨んでください。	90分
第8回	第1課題ポスターセッション (作品講評会)	指導教員や他の履修学生の前で、図面と模型を展示し口頭でプレゼンテーションをしていただきます。講評会は試験に準じます。	設計の意図を伝えられるよう準備してきてください。	30分
第9回	第2課題敷地の提示・設計諸元説明	第2課題「カフェを併設する2世帯住宅」(鉄筋コンクリート造) について説明します。設計条件について考察し、構想を始めます。	図書館等を利用し、実例資料を集めて来てください。	90分
第10回	エスキース1	構想に沿って、平面図、断面図のエスキースを進めます。	教室外でもエスキースを進めて下さい。	90分
第11回	エスキース2・模型制作	立面図までのエスキースを完成させ、模型制作に入ります。	エスキースを完成させてください。	90分
第12回	模型制作	指導に従って模型制作を続けます。	次週までに模型を完成させてください。	90分
第13回	模型提出、図面清書	授業初めに完成模型を提出していただきます。必要があればブラッシュアップの指導を行います。同時に図面の清書を始めます。	次週までに図面を完成させてください。	180分
第14回	レイアウト図面提出	授業時間内にA2レイアウト図面を提出していただきます。ブラッシュアップの指導を受けて下さい。	次週までにA2レイアウト図面をコピー仕上げにし、着彩して模型写真を貼付、プレゼンテーションの準備をしてきてください。	180分
第15回	第2課題プレゼンテーション図面の提出 (A2着彩・模型写真貼付)	第2課題プレゼンテーション図面の提出 (A2着彩・模型写真貼付) をしていただきます。1次採点を行い、ブラッシュアップの指導を行います。	授業内で指導を受けた部分は修正して次週の講評会に臨んでください。	90分
第16回	第2課題ポスターセッション (作品講評会)	指導教員や他の履修学生の前で、図面と模型を展示し口頭でプレゼンテーションをしていただきます。講評会は試験に準じます。	設計の意図を伝えられるよう準備してきてください。	30分

学生へのフィードバック方法	演習方式で行い、前後半で住宅設計の課題が2件出される。それぞれ敷地見学、エスキース、作図、コピー製版、着採、模型製作、写真撮影の手順で課題を完成させ、課題提出後にポスターセッション形式で採点および講評が行われる。 なお本演習は、二級建築士及びインテリアプランナー受験資格取得の指定科目である。
評価方法	講評会では担当教員や他の学生へ向け、図面と模型を提示して、口頭で設計内容を説明していただく。担当教員は発表の内容と提出された模型及び図面を採点する。
評価基準	
評価基準	

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
図面	○	○	○	○
模型	○	○	○	○
口頭発表 (プレゼン)	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合	平常点 20%、課題 (提出期限、ポスターセッションを含む) 80%とする。
参考図書	新建築 (月刊誌)、新建築住宅特集 (月刊誌)、住宅建築
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】「質の高い生活」を実現させるための社会の基盤の一部となる、生活空間の知識を得ること、理解することができる。</p> <p>【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し、住宅設計の中で解決する。</p> <p>【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を想像するための問題を住宅の形で解決する。</p>
オフィスアワー	金曜日 5 時限目 (青柳)
学生へのメッセージ	実際の建築の設計は様々な要素を検討しながら「新しい空間を創造してゆく」こととなります。授業では、実際の敷地を想定して、より具体的な「設計演習」を実施します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は建築設計の実務経験を有しており、実践的な指導が可能である。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	現代家政演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 上村 協子	指定なし
教授	椛田 考一	指定なし
教授	現代家政学科 教員	指定なし
准教授	石垣 悟	指定なし

ナンバリング	G11001C12
授業概要(教育目的)	現代家政学科は、学生の興味や進むべき進路を見据えて、「食生活」「ハウジング」「ファッション」「総合家政」の各領域を横断的に学べることを特徴としている。この授業では、各領域での学びへの理解、教員や他の学生との対話、演習などを通して、現代家政領域における問題の新たな発見や興味・関心の学問的深まりを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	現代家政学科の「食生活」「ハウジング」「ファッション」「総合家政」の4領域における学びの特徴を理解し、今後4年間を通して学ぶ為の基本的な知識を得る。
思考・判断の観点 (K)	現代の生活は「食生活」「ハウジング」「ファッション」「総合家政」の各領域が有機的に関連して成立しているという思考を持つことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	現代家政の領域における問題の新たな発見や興味・関心を持てる。
技術・表現の観点 (A)	現代家政学科で学ぶ目標を考え、指示された形式でレポートを作成することができる。現代家政学科4領域の学びの中から、最も関心を持った事象についてポスター形式で発表することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	大学での学びを考えよう1	現代家政学科の「食生活」「ハウジング」「ファッション」「総合家政」の4領域における学びの紹介とカリキュラムの説明を聞き、現代の生活は各領域が有機的に関連して成立していることを知る。	学生便覧、シラバスによる授業概要を確認する。資格科目についての履修条件などを確認する。自分の将来の目標を書き留める。	90分
第2回	大学での学びを考えよう2	現代家政学科で4年間学ぶ目標を考えるために、「自分の過去を振り返り、大学で何を学び、どのような将来を希望するか」についてのレポートを作成する。レポート	自分の将来の希望を再確認し、その実現のために現代家政学科の4領域でどのように学ぶのか	90分

		の提出にはGoogleClassroomを使用するので、その使用方法についても理解する。	を考えてまとめる。レポートは、指示された形式や手順を守って作成し提出する。	
第3回	大学を知ろう1	「図書館利用ガイダンス」を行う。本学の図書館とその資料について、基本的な利用方法などのガイダンスを受ける。	図書館の利用について復習すること。	90分
第4回	領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組み1(食生活領域)	「食生活」領域の学びの特徴を説明する。食生活の中で食品の嗜好性の重要性について理解する(三宅)。近年注目されている食品の機能性と調理・加工との関係や食品の機能性に関する法律などを切り口として食生活領域の学びについて理解する(竹中)。調理と文化の関連性や学ぶ意義を理解する(伊藤)。	配布資料等を参考にしながら内容をまとめ、食生活領域の学びについて理解を深める。	90分
第5回	領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組み2(ファッション領域)	「ファッション」領域の学びの特徴と家政学、現代生活との関連を説明する。トレンドのつくられ方を学ぶために、まず流行色について概説し、ファッション情報の流れを理解する(井澤)。身近な話題として入学式でも着用する人が多いリクルートスーツを例に、社会の動向とファッションの関りについて学ぶ(山村)。身近な和服である浴衣と振袖を例にして和装のコーディネートの方と目的別の着こなしについて学ぶ(太田)。	講義内容に関連するファッションキーワードについて書籍、インターネットを用いて調べる。	90分
第6回	領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組み3(ハウジング領域)	「ハウジング」領域全体の学びの特徴と現代生活との関連性を説明する。歴史的な建築物の保存を例として、建築物と生活や文化との関連性について理解する(大橋)。また、建物が建つ仕組みを実際の建物を見ながら学ぶ(青柳)。さらにフードマイレージを例として、本学科で学ぶ「ハウジング」を「住空間」とだけでなく地球全体も含む「環境」としてとらえることを理解する(沼波)。	「文化財建造物にはどのようなものがあるか」、「建物の構造にはどのようなものがあるか」、「生活に関わる環境問題にはどのようなものがあるか」をインターネットを用いて調べ、各々その内のひとつについて特徴をまとめる。	90分
第7回	領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組み4(ハウジング領域・総合家政領域)	住まいの基本的な性能である健康性について、評価ツールを使って解説する(栳田)。「総合家政」領域の学びの特徴と家政学、現代生活との関連を説明する。オーリーブオイルが人々の生活に深く関わっていたことを、日本人旅行者をつうじて疑似体験し、南イタリアの人々の生活に触れる(大嶋・ルイス)。	「あなたの住まいの不都合な点」を探し、その解決方法を文献等で調べる(栳田)。オーリーブオイルは現在の日本ではどのような価値を持っているか調査すること。また、自分はオーリーブオイルをどのように使ったことがあるかレポートすること。	90分
第8回	領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組み5(総合家政領域)	くらしの諸相を捉える方法を学び、日本の伝統文化について理解を深める(井上)。生活文化の変化が日本語に与えた影響を分析し、ことばと文化のつながりを理解する(内田)。消費生活の現状と課題を理解し、消費者教育のニーズを理解する(小野)。	次世代に何を継承したいか、考えてみる(井上)。明治時代から現代にかけ、日本人の衣服がどのように変化してきたかを調べ、考えておく(内田)。若者の消費者トラブルについて調べ、問題の未然防止に役立つ方法を考える(小野)。	90分
第9回	領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組み6(総合家政領域)	考えるとは何か?まず初めに、江戸時代におけるエコから「考える」とは何かを考える(上村)。その後、現在の生活、特に、大学生活において「考える」とは何かを考える(金森)。	知識として知っていることではなく、「考える」とは何かを自分なりに考えておくこと。	90分
第10回	領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組み7(総合家政領域)	生活と教育の結合の原則を考える(佐藤)。グループワークの基本を理解し、活用法を考える(木村)。生活を総合的に捉える視点として時間について考えてみる(石垣)。	生活と教育の結合の事例を調べる。生活教育論の類型をまとめる(佐藤)。事前学習として、自分が経験してきたグループワークを考える。事後学習として、グループワークの自分なりの活用法を考える(木村)。事前・事後ともに1日、1年、一生などの時間について、自身の生活に引き付けて考えてみる(石垣)。	90分
第11回	大学を知ろう2	学園祭での生活に関わる展示やイベントを見学することにより、大学での学びの発展性について考える。さらに多くの人々に伝える方法について学ぶ。見学した後に見学レポートを作成する。	これまでの領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組みを整理する。大学での学びや活動を多くの人々に伝える場としての視点で本学の学園祭(ローズ祭)の見学を行い、レポートを作成する。	90分
第12回	問題の発見や関心の深まりを考える	これまでの授業の振り返りを行う。授業内で課されたコメントシート等について解説する。	7回分の領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組みを整理し、今後学びたいこと、将来にむけて4年間の大学生活で何をするかをまとめる。	90分

第13回	学びの理解をまとめる1	現代家政学科4領域の中で最も興味を持った事象や問題の新たな発見、興味・関心を持てる事象についてまとめ、レポートを作成する。	1回目のレポートに対する教員からのコメントも参考にして、再度レポートを作成し提出する。2回目もGoogleClassroomを使用して提出する。	90分
第14回	学びの理解をまとめる2	発表用のパワーポイントを作成する。4領域の学びの中で最も関心を持った事象について、先に提出したレポート内容も踏まえ、ポスターを作成する。ポスターはパワーポイントで作成するので、その使用方法についても理解する。	2回目のレポートをまとめた内容のポスターを作成するので、要点をまとめておく。パワーポイントの使用法の不明点があれば質問し、解決すること。ポスター形式の発表の注意事項を確認し、作成する。	90分
第15回	学びの理解を発表する	ポスター形式での発表を行う。	相互にポスターを閲覧することで、ポスター作成の注意点や工夫などを理解し、口頭発表との違いについても理解する。	90分

学習計画注記	授業内容の一部や授業の順番は、担当教員の都合等によって変更になる場合がある。ローズ祭は6月21日（日）に実施されるので、予定しておくこと。
--------	---

学生へのフィードバック方法	領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組みでのコメントシート等については、振り返りの中で解説する。2回のレポート課題については、教員からのコメントをGoogleClassroomに個別に入力する。
---------------	--

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点は、領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組みの各担当教員が授業内にコメントシート等を課し、理解状況や指示された学習課題への取り組み姿勢等を総合的に評価する。 ・レポート課題は、指示された内容に沿って書かれているか、また、指示された形式や手順通りに作成・提出されているかを評価する。指示された形式や手順を守れていない場合や提出の遅れは減点の対象となるので注意すること。 ・ポスター形式の発表は、最も関心を持った事象について、自分の考えを端的にまとめられているか、それを多くの人に伝えるための工夫がされているかを評価する。
------	--

評価基準	
------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	
レポート課題	○	○	○	○
ポスター形式の発表	○	○	○	○

評価割合	平常点（領域別の学びの理解状況や課題への取り組み）60%、課題（レポート課題、ポスター発表）40%
------	---

使用教科書名 (ISBN番号)	プリント等を配布する予定。
-----------------	---------------

参考図書	適宜、紹介する。
------	----------

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。</p> <p>【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し、分析する。</p> <p>【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。</p>
---------------	---

オフィスアワー	第1回に配付する資料に教員別のオフィスアワーを掲載する。
---------	------------------------------

学生へのメッセージ	<p>受講前に「大学に入学した目的」「将来の目標や夢」などについて考えをまとめておくこと。また、1年前期に履修したい科目についても考えておくこと。</p> <p>「現代家政演習」に関する不明な点は、授業については各領域の教員、全般については1年次担任、もしくは正地先生（1802室）に問い合わせること。</p>
-----------	---

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	ポスター形式での発表を行う。
ICT活用	○	GoogleClassroomを使用してレポート課題提出とコメント返却を行う。

シラバス参照

講義名	社会調査法		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小野 由美子	指定なし

ナンバリング	G22310C21
授業概要(教育目的)	社会調査とは社会事象を観察して分析する過程であり、様々な目的や種類、方法がある。まずは、政府統計などを用いたデータの読み取り方を解説する。次に、量的・質的調査のプロセスである「構想・計画」「準備」「実査」「データ入力と点検」「分析」「報告」「データの管理」について学習する。なかでも、調査票を作成する際に求められる適切な質問や選択肢の設定、調査結果の記述やグラフ化について詳説する。この授業では社会調査に関わる企画、実施、結果報告といった一連の流れについて、その知識と技術を身につける。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	社会調査に関わる専門的知識を持つことができる。
思考・判断の観点 (K)	社会調査について多面的に考える姿勢を身に付けられる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自ら取り組む学習態度を身に付けられる。
技術・表現の観点 (A)	自らの考えをまとめ、人に伝える技術力を身に付けられる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス 社会調査とは何か	授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を知る。 社会調査の意義と目的を理解する。	総務省統計局の情報をインターネットで閲覧し、生活に関わる社会調査について考える。 テキスト第1章の内容をまとめる。	120分
第2回	社会調査の種類：量的調査と質的調査 社会調査のプロセス	社会調査の種類について、量的調査と質的調査それぞれの特徴を知る。 社会調査の全体像を把握して、各プロセスについて理解する。	テキスト第2章と第3章の内容をまとめる。	120分
第3回	社会調査のデザインと実査の方法	因果分析を念頭にした社会調査のデザインを検討する。 どのようなデータ取集法があるか理解する。	テキスト第4章と第5章の内容をまとめる。	120分

第4回	調査票の作成	質問の作成からレイアウトまで、その手順を学ぶ。	テキスト第6章の内容をまとめる。	120分
第5回	サンプリング	対象者をどのように選び方を学習する。	テキスト第7章の内容をまとめる。	120分
第6回	調査の実施	郵送法、個別面接法、インターネット調査などの調査実施について学習する。	テキスト第8章の内容をまとめる。	120分
第7回	データの電子ファイル化	データの構造化の流れ、コードの付け方などを理解する。	テキスト第9章の内容をまとめる。	120分
第8回	調査の実施	データの収集と分析方法について理解し、調査票を作成する。 完成した調査票を使用して、調査を実施する。	調査協力を想定しながら、調査票のレイアウト、ワーディングなどを工夫する。	120分
第9回	データの集計 調査報告とデータの管理	データの集計方法を知り、実施する。 調査結果のとりまとめをする。	テキスト第10章と第13章の内容をまとめる。	120分
第10回	内容分析 (1)	さまざまな内容分析の種類と手法を理解する。 質的データ分析ソフトを使用して、分析方法を理解する。	分析の手順を確認する。	120分
第11回	内容分析 (2)	質的データ分析ソフトを使用した様々な分析方法を試行する。	分析した手順を確認する。	120分
第12回	統計的推測	理論的に推測するために、標本抽出分布、標準誤差などを理解する。	テキスト第11章の内容をまとめる。	120分
第13回	変数間の関連	変数の種類と分析方法を理解する。 散布図の作成と相関係数、クロス表を作成する。	テキスト第12章の内容をまとめる。	120分
第14回	社会調査の意義と今日的課題	社会調査に関わる現状や論点について理解する。	テキスト第14章の内容をまとめる。	120分
第15回	まとめと学習到達度の確認テスト	これまで学習した内容の振り返りを行い、学習到達度を確認するためのテストを実施する。	授業全体の振り返りをする。	120分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法 授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法 ・定期試験は30点満点で出題し、課題レポートを課す。
・受講状況・学習態度、提出物、定期試験は下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
受講状況・学習態度			○	
提出物	○	○		○
定期試験	○	○		

評価割合 受講状況・学習態度 (10%)、提出物 (60%)、定期試験 (30%) などを総合的に評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) 轟亮・杉野勇編『入門・社会調査法〔第3版〕：2ステップで基礎から学ぶ』法律文化社、2017年 (9784589038173)

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。
【技術・表現】心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。

オフィスアワー 【前期】水曜日 1701ゼミ室 12:30~14:30

学生へのメッセージ 関連する教材などを講義で紹介しますので、各自でも適宜、検索・活用してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、消費生活の研究に関する実務経験を有しており、社会調査の実査に関わり習得すべき一連の情報処理について教授している。
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって、社会調査の能力の育成を図る
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食物学概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 三宅 紀子	指定なし

ナンバリング	G13101021
授業概要(教育目的)	人が健康に生活するため、食生活は重要であるばかりでなく、社会的、文化的な面からも様々な機能を果たしている。中学校・高等学校の家庭科の教員として食物学分野の教育を担当するために必要な食生活に関する基本的な知識を習得し、よりよい食生活を実行できる力を養うことを目標とする。食と栄養、食品の機能、食品と調理・加工などを中心に、総合的に食物学について講義する。
履修条件	なし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1. 栄養素の生体内での働きを説明できる。 2. 各種食品に含まれる食品成分の機能性や調理・加工における変化を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. よりよい食生活を実践できるような食に関する総合力を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 現代の食生活における諸問題について関心を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

食物学概論

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	はじめに	食の主な機能を理解し、健康面からの「食べる」ことの意味(外部から物質を取り入れること)を理解する。現代の私たちの食生活における問題点を考える。	教科書第1章「食物とは」「人と食物」(1~3ページ、9~16ページ)第2章の「食と健康」(17~20ページ)を読んでおくこと。	120分
第2回	食と健康、栄養素の種類と消化吸収	生活習慣病と食生活との関わりを理解する。栄養素の種類と働きを理解し、食物を摂取した際の各栄養素の消化と吸収について理解する。	教科書第2章の「生活習慣病と食生活」「栄養素の種類と消化吸収」(20~27ページ)を読んでおくこと。	120分
第3回	栄養素の機能(炭水化物)	炭水化物(特に糖質)に関して、単糖、少糖、多糖類の化学構造、特徴、主な供給源を理解し、エネルギー代謝と血糖値維持について理解する。	教科書第2章の「炭水化物」(27~31ページ)を読んでおくこと。	120分

第4回	栄養素の機能 (脂質)	脂質(特に中性脂肪)に関して、その化学構造、脂肪酸の種類と特徴を理解する。さらに、脂質の働き、脂質摂取における量と質について理解する	教科書第2章の「脂質」(30～33ページ)を読んでおくこと。	120分
第5回	栄養素の機能 (タンパク質)	タンパク質に関して、その化学構造、働き、主な供給源を理解する。また、タンパク質の栄養的な質と食生活との関連について理解する。	教科書第2章の「タンパク質」(34～37ページ)を読んでおくこと。 三大栄養素(2から5回の授業内容)について復習しておくこと。	240分
第6回	栄養素の機能 (ビタミン、ミネラル)	微量栄養素であるビタミン、ミネラルの種類、働き、供給源を理解し、主なビタミンやミネラルの欠乏症、過剰症などの健康との関わりを理解する。	教科書第2章の「ビタミン」「ミネラル」(37～43ページ)を読んでおくこと。	120分
第7回	食品中のその他の成分の機能、食生活の設計	水分の生体内での働きと出納、水分摂取の重要性を理解する。栄養バランスのよい食生活を送ることができるように、日本人の食事摂取基準、食品成分表について理解する。	教科書第2章の「食品中のその他の成分(水)」「食生活の設計」(44～46ページ、51～57ページ)を読んでおくこと。	240分
第8回	植物性食品の調理・加工 (穀類)	主食となる、米、小麦に含まれる主な成分と、調理・加工における成分の変化について理解する。	教科書第3章の「植物性食品—米、小麦—」(64～75ページ)を読んでおくこと。	120分
第9回	植物性食品の調理・加工 (いも類、豆類)	いも類、豆類の種類と特徴を学び、いも類、豆類に含まれる主な成分、調理・加工における成分の変化、さらに加工食品について理解する。	教科書第3章の「植物性食品—いも類、豆—」(76～81ページ)を読んでおくこと。	120分
第10回	植物性食品の調理・加工 (野菜類)	野菜類の種類と特徴を学び、野菜類に含まれる主な成分、調理・加工における色素等成分の変化について理解する。	教科書第3章の「植物性食品—野菜—」(81～87ページ)を読んでおくこと。	120分
第11回	植物性食品の調理・加工 (海藻類、果物類、きのこ類)	海藻類、果実類、きのこ類の種類と特徴を学び、海藻類、果実類、きのこ類に含まれる主な成分、調理・加工における変化、それらの加工食品について理解する。	教科書第3章の「植物性食品—海藻、果物、きのこ—」(88～95ページ)を読んでおくこと。	240分
第12回	動物性食品の調理・加工 (肉類、魚介類)	肉類、魚介類の種類と特徴を学び、肉類、魚介類に含まれる主な成分、鮮度判定法、調理・加工における変化、それらの加工食品について理解する。	教科書第3章の「動物性食品—肉、魚—」(95～107ページ)を読んでおくこと。	120分
第13回	動物性食品の調理・加工 (卵、乳類)	卵類、乳類の特徴、主な成分、鮮度判定法について学び、調理・加工における変化、それらの加工食品について理解する。	教科書第3章の「動物性食品—卵、乳類—」(107～124ページ)を読んでおくこと。	120分
第14回	その他の食品の調理・加工 (甘味料、調味料、油脂等、ゲル化剤、嗜好飲料等)	甘味料、調味料、油脂類、ゲル化剤の種類と特徴、調理性について理解する。茶、コーヒーなどの嗜好飲料の特徴と製造法を理解する。	教科書第3章の「その他の食品」(125～144ページ)を読んでおくこと。	120分
第15回	まとめ、定期試験	これまでの授業の総まとめを行い、定期試験を実施する。	これまでの授業全体の総復習をしておくこと。	660分

学生へのフィードバック方法

授業中に行う課題については、翌週に解答をまとめて紹介し、補足解説を行う。

評価方法

- ・授業中に行う課題については、その回の授業内容に関連した事項について、理解を確実にするための練習問題や、与えられたテーマについての記述する問題である。
- ・定期試験は、授業内容全体から、穴埋め、記述等の形式で出題する。
- ・課題、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題	○	○	○	
定期試験	○	○		

評価割合	定期試験60% 課題40%	
使用教科書名 (ISBN番号)	食物学概論 第2版 / 藤原葉子 編著 / 光生館 (ISBN 978-4-332-04065-1)	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。	
オフィスアワー	金曜・2時限および昼休み 1609研究室 e-mail: miyake@san.kasei-gakuin.ac.jp	
学生へのメッセージ	食物学の科学的な領域を学んでいくためには、基礎に化学、生物学が必要となる。高校で学んだことをきちんと復習しておいてください。また、食に関するニュースや話題には関心をもつようにしてください。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食と社会		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 竹中 真紀子	指定なし

ナンバリング	G33305C21
授業概要(教育目的)	近・現代の食生活のあり方は変化し続けており、それに伴い食の安全や信頼などに関する様々な問題が次々に発生している。それらの問題の原因や背景を正しく理解し、食物の生産、流通、消費の各段階でそれぞれに関わる人たちがどのように問題に向き合っていかなければならないのか考えるとともに、それらの問題を正しくとらえ、解決できる力を習得することを目的としている。近代における食に関する様々な問題を具体的に取り上げながら、食と社会の関わりや消費者としてあるべき姿について解説する。
履修条件	特になし。 本科目は近隣大学との単位互換対象科目となっており、他大学の学生（男子学生を含む）が同時に履修する可能性があります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	近・現代において変化し続けている食生活のあり方と、それに伴い発生した様々な問題とその原因や解決策について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	食生活に関わる様々な問題を理解した上で、自身が消費者としてとるべき行動について適切に判断することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

食と社会

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業全体について把握する。また、現代社会における食生活のあり方を考えるきっかけとして1990年代以降に頻発した「食の不祥事」に注目し、代表的な事例における原因や対策について理解する。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見つけたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第2回	食生活の変遷	人類の歴史における食生活の変遷と、近・現代における食生活の大きな変化について学び、食に関する様々な問題の要因について理解する。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見つけたら、要約し、記録しておくこと。	180分

第3回	食品の生産から消費まで	現代における食品の生産から消費までの過程が非常に複雑化しているのと同時に縦割りの管理により互いの信頼関係が希薄になっている現状と、その改善策について学ぶ。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見つけたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第4回	栄養素とそれ以外の食品成分	消費者が食に期待するものとして、栄養素の供給と栄養素以外の生体調節成分の供給に大別し、それらの適切なとらえ方について理解する。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見つけたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第5回	豊かな食生活における食品添加物の位置付け	現代の食生活をつくるうえで欠かせない食品添加物について、日本食品添加物協会が発行している冊子を教材として、その位置付け、分類、表示、安全性の確保について学ぶ。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見つけたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第6回	食生活における健康志向（1）	現代において見られる健康志向がいつ頃から高まり始めたのか、またそれに伴う混乱と政府による法整備、「健康」や「機能性」を表示することが認可された食品のカテゴリーについて理解する。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見つけたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第7回	食生活における健康志向（2）	健康志向の高まりを受けて制度が整えられた「保健機能食品」と、これに相対する「いわゆる健康食品」の関係について学ぶ。一方で健康を意識した個別の食品を摂ることに注力するのではなく、「バランスのとれた食生活」を送ることも重要であることについて理解する。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見つけたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第8回	食育と社会の関わり（1）	日本において、第二次世界大戦後の食生活が大きく変化した中で食育の必要性が認識された背景と、食育基本法の概要、食育推進基本計画の策定や食育の取り組み、それらをまとめて公表している食育白書について学ぶ。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見つけたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第9回	食育と社会の関わり（2）	特別授業として、食育について様々な研究や実践に取り組んだ経験を持つ講師による講義を聴講し、食育と社会の関わりについて考える。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見つけたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第10回	食の安全（1）	現代における食の安全への関心の高まりと、その背景にある食の安全を脅かす事件・事故、それを受けて整備された安全行政体制と安全行政の仕組みについて理解する。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見つけたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第11回	食の安全（2）	前時の学習を踏まえ、食の安全は必要不可欠であるが、安全＝ゼロリスクではないこと、食生活においては様々なリスクが存在するがその影響が十分に小さければ問題はないことを理解する。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見つけたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第12回	くらしの中の食情報（1）	情報化社会の現代において、特に人々の関心を引きやすい食情報の影響の大きさ、その極端な例としてのフードファディズム、確かな食情報の選択と日常生活における活用について学ぶ。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見つけたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第13回	くらしの中の食情報（2）	前時の学習を踏まえ、現代における様々な食情報の実例について分析し、消費者としての適切な判断と態度について学ぶ。前時と本時の内容に関する課題を課す。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。課された課題に取り組むこと。	180分
第14回	食品の表示と宣伝広告	食品表示法や保健機能食品の制度がある一方で、いわゆる健康食品などは、これらの法や規定に触れない方法で巧みな宣伝広告をしていることを理解し、消費者としての適切な判断について学ぶ。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などでこの授業の内容に関連するものを見つけたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第15回	まとめ	これまでの授業内容を振り返る練習問題等に取り組む、知識を定着させる。	授業前にこれまでの授業内容を復習しておくこと。授業後には定期試験に向けて十分に準備すること。	180分

学習計画注記	授業の進行具合により、変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	授業の終わりに設定したテーマについてコメントシートに記入していただき、次時にフィードバックすることを数回実施する予定です。質問等がある場合は、オフィスアワー等に研究室をおたずねください。
評価方法	平常点および課題、定期試験により評価します。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題	○	○		
定期試験	○			

評価割合	平常点および課題20%、定期試験80%
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
オフィスアワー	後期：火曜日3-4時限目
学生へのメッセージ	食品学や栄養学の基礎知識が役に立ちます。また、日ごろから新聞等で食関係の確かな情報に目を向けておくことをおすすめします。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食生活演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 竹中 真紀子	指定なし
助教	伊藤 有紀	指定なし

ナンバリング	G33302C12
授業概要(教育目的)	本科目は、現代社会における食生活の乱れ、食文化の衰退などの様々な問題について自ら調べたり、健康、時短などのコンセプトに沿った企業の製品開発に触れたりしながら、具体的にその解決法を考えグループごとに発表することを通して、問題を正しくとらえ解決する力、問題の原因から結果までをまとめて示す力を養うことを目的とする。また、受講者同士がそれぞれの発表に対して意見を出し、内容の改善を図りながら学習を進める。
履修条件	栄養学や食品学など、食生活領域の専門科目を履修していることが望ましい。令和2年度において、本科目は遠隔授業と集中講義により進めることを予定している。 遠隔授業期間に各自2回の調理(材料は自身で調達)、集中講義期間に2回の調理実習を予定しており、調理実習のための実習費を1000円/人徴収する。 本科目は、グループ作業、グループごとの実習、グループ間の評価、発表が不可欠であるため、1グループ3人以上、2グループ以上が形成できない場合、すなわち履修希望者が5人以下であった場合は開講しない。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

観点	説明
知識・理解の観点 (K)	人々の食生活をより豊かなものにするために必要な基本事項について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	献立作成や産学連携の取り組みに積極的に参加することができる。
技術・表現の観点 (A)	食生活に関して養った実践力を今後の食生活に活かすことができる。

学習計画

食生活演習

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業スケジュールを確認する。自身の食生活を振り返り、現代の食生活における諸問題を理解する。		0分
第2回	現代の食生活と栄養バランス	食事における栄養バランスについて、献立作成の基本、食事バランスガイドや栄養価計算などを用いた考え方を修得する。また、次時からのテーマ「健全な食生活のための献立作成と調理」に関する理解を深める。	授業後に、宿題として課された課題に取り組みこと。	90分
第3回	健全な食生活	提出された課題について教員からのコメントを受けて	授業内で不足した準備を補って	45分

	活のための献立作成と調理 (1) 計画、実習準備	ラッシュアップする。次時の調理のために必要な食材の品目と量をとりとめる。	おくこと。	
第4回	健全な食生活のための献立作成と調理 (2) 調理、評価	自分が作成した献立について、自宅で調理を行う。実際の調理と試食を通して、自分たちが作成した献立を評価する。	授業内で不足した準備を補っておくこと。	45分
第5回	健全な食生活のための献立作成と調理 (3) 発表	個人で作成した献立について、発表する。	発表にむけた資料の準備と発表練習を行う。	90分
第6回	玉ねぎを使ったメニュー開発と実践 (1)	2~5回目までの取り組みについて、教員からのコメントを聞いて考察する。 6~13回目の授業での取り組みについて説明を聞き、理解を深める。課題として玉ねぎを使った料理を1品考える。次時の調理のために必要な食材の品目と量をとりとめ、準備する。	授業後に、メニュー開発に関して課された課題に取り組むこと。	90分
第7回	玉ねぎを使ったメニュー開発と実践 (2) 試作1	自分が作成したレシピについて、調理実習を行う自宅で調理する。実際の調理と試食を通してレシピを評価し、改善点を見出す。	授業内で不足した準備を補っておくこと。	45分
第8回	玉ねぎを使ったメニュー開発と実践 (3) これまでのまとめと実習準備 (対面授業)	これまでの取り組みを振り返り、考察する。個人が作成したレシピをグループごとに突き合わせ、グループで1つレシピを決定し、次時の実習に向けた準備を行う。	授業内で不足した作業等を補っておくこと。	45分
第9回	玉ねぎを使ったメニュー開発と実践 (4) 試作2、試作2の見直し、レシピ点検 (集中講義、2コマ分)	グループごとに作成したレシピについて、調理実習を行う。実際の調理と試食を通して、レシピや盛り付け計画を完成させる。必要があればレシピを修正する。他のグループが作成したレシピを点検し、不明な部分や不足した情報があれば指摘する。各グループにおいては点検結果を受けて、レシピを修正する。各グループにおいては点検結果を受けて、レシピを修正する。	授業内で不足した作業等を補っておくこと。	90分
第10回	玉ねぎを使ったメニュー開発と実践 (5) 発表準備、調理実習、試食、発表 (集中講義、3コマ分)	試作を重ねて完成したレシピについて、そのコンセプトやアピール点についてグループごとにまとめ、次時に発表するための資料を作成する。グループごとに完成したレシピの本番調理を行い、他のグループの試食を行う。コンセプトやアピール点について発表し、他のグループの発表を聞いてコメントを述べたり質問したりして理解を深める。	事前準備を十分に行っておくこと。	90分

学生へのフィードバック方法 グループ作業に関しては、その都度教員からコメント・アドバイスをを行います。

評価方法 グループ作業（課題に対するディスカッション、実習等）への参加態度を評価します。個人で取り組む課題を3回程度、グループで取り組む課題を2回程度課します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
グループ作業における参加態度			○	
提出された課題の内容	○			
発表	○			○

評価割合	平常点（40%）、課題（30%）、発表（30%）	
使用教科書名（ISBN番号）	なし	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。 【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。	
オフィスアワー	前期：月曜日昼休み時間～3限目（竹中）、水曜日5限目（伊藤）	
学生へのメッセージ	グループでの作業（課題に対するディスカッション、実習等）を多く取り入れた授業です。食生活について自ら考え、実践する意欲をもって取り組んでください。実習の食材費として、2000円程度徴収する予定です。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	インテリアCAD演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 青柳 由佳	指定なし

ナンバリング	G34207C22
授業概要(教育目的)	建築設計においてCADの基本操作を身に付けることを目的とし、建築製図法の基本を確認していただく。ソフトウェアはVectorWorksを使用し、基礎的操作から2次元図面作成、さらに3次元モデリングや写真を貼りこんだレイアウトなど、プレゼンテーション図面を適切に表現するための必要な知識と技法を教示し、それらを演習によって修得する。
履修条件	基礎的な建築製図力、立体把握力を必要とするため、設計製図演習A～Dについて単位取得済であることを履修条件とする。ソフトウェアのライセンス数やパソコンの台数に限りがあるため、履修人数の制限と調整を行う場合がある。 遠隔授業実施に際し、各自にてパソコンの用意が必要である。その詳細については第1回目の授業で示す。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	建築の図法および平面図、立面図、断面図の関連が説明できる。
思考・判断の観点 (K)	立面(断面)図と平面図の相互関係を読み取り立体にすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	操作を多くこなし、作業スピードの高速化が達成できる。
技術・表現の観点 (A)	他人を惹きつけるプレゼンテーションができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション・CADソフトの取り扱い	建築インテリア業界で使われているCADのソフトの現状や、授業で使用するソフト「VectorWorks」について概要を説明します。	設計製図演習CまたはDでそれぞれが作成した課題をCAD描画するので、そのときの図面を準備してください。	45分
第2回	2次元(平面)CAD基本描画(1)線	最初に2次元(平面)CADの基本描画(操作画面の説明、線の引き方、座標の見方)を行います。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間に繰り返しの操作練習を行ってください。	90分
第3回	2次元CAD基本描画	2次元(平面)CADの基本描画(図形の描画)を行います。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結し	90分

	(2) 図形		ですが、授業時間外はパソコン室の空き時間に繰り返しの操作練習を行ってください。	
第4回	2次元CAD基本描画 (3) 住宅の平面図	2次元(平面)CADの基本描画(住宅の平面図)を行います。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間に繰り返しの操作練習を行ってください。	90分
第5回	2次元CAD基本描画 (4) 住宅の断面図	2次元(平面)CADの基本描画(住宅の断面図)を行います。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間に繰り返しの操作練習を行ってください。	90分
第6回	2次元CAD基本描画 (5) 住宅の展開図	2次元(平面)CADの基本描画(住宅の展開図)を行います。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間に繰り返しの操作練習を行ってください。	90分
第7回	画像ファイルの取り込み・レイアウト	CAD図面内に写真(JPEG)データを貼り込む方法、レイアウトをする方法を身に着けます。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間に繰り返しの操作練習を行ってください。	90分
第8回	CADデータの扱い方 (1)	CADで作成したデータについて出力方法(プリントアウト、PDF化)を身につけます。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間に繰り返しの操作練習を行ってください。	90分
第9回	3次元(立体)CAD基本描画 (1) 住宅の立体作成	3次元(立体)CADの基本描画(住宅の立体作成) 1回目を行います。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間に繰り返しの操作練習を行ってください。	90分
第10回	3次元(立体)CAD基本描画 (2) 住宅の立体作成	3次元(立体)CADの基本描画(住宅の立体作成) 2回目を行います。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間に繰り返しの操作練習を行ってください。	90分
第11回	3次元(立体)CAD基本描画 (3) 住宅の立体作成	3次元(立体)CADの基本描画(住宅の立体作成) 3回目を行います。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間に繰り返しの操作練習を行ってください。	90分
第12回	3次元(立体)CAD基本描画 (4) 住宅のパース描画	3次元(立体)CADの基本描画(住宅のパース描画)を行います。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間に繰り返しの操作練習を行ってください。	90分
第13回	CADデータの扱い方 (2)	CADで作成した立体データについて出力方法(イメージファイル化)を身につけます。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間に繰り返しの操作練習を行ってください。	90分
第14回	最終提出課題作成 (1)	身に着けた技術を使って2次元及び3次元の最終提出課題を作成します。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間に繰り返しの操作練習を行ってください。	180分
第15回	最終提出課題作成 (2)	身に着けた技術を使って2次元及び3次元の最終提出課題を作成し、最後にデータとプリントアウトしたものを提出します。	配布資料を読み込んでください。技術指導は授業内で完結しますが、授業時間外はパソコン室の空き時間に繰り返しの操作練習を行ってください。	45分
第16回				

学習計画注記	担当教員が履修生全員の作業を見ながら演習を進めるため、履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合がある。
学生へのフィードバック方法	学内のパソコン室を利用する。テキストは無く、その場で全体または個別に指導を行い、技術を修得していく。

評価方法	毎回の課題進行状況（平常点）および提出課題によって、作図力、理解度、空間把握力などを総合的に評価する。				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解（K）	思考・判断（K）	関心・意欲・態度（V）	技術・表現（A）
	提出図面（プリントアウト）	○	○		○
	提出図面（データ）	○	○		○
	平常点			○	
評価割合	基本図面：30% 3D図面：30% 最終プレゼンテーション図：30% 平常点：10%				
使用教科書名（ISBN番号）	なし、必要なマニュアルは配布します。				
参考URL	http://www.aanda.co.jp/OASIS/index.html				
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】「質の高い生活」を実現させるための社会の基盤の一部となる、生活空間の知識を得ること、理解することができる。</p> <p>【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し自主的に作業を進めることができる。</p> <p>【技能・表現】履修で得た専門的スキルをもって課題を論理的に分析し表現することで他者の理解を得る表現を身につけることができる。</p>				
オフィスアワー	水曜日4時限目				
学生へのメッセージ	<p>現代社会においてパソコンのスキルは必修になっています。これを機会に可能ならノートパソコン等を用意し、パソコンのスキルアップに努めてください。</p> <p>なお、授業で使用するVectorWorksは高価なソフトですが、インテリアCAD演習履修者に限り年間約10,800円でライセンスを使用できる制度があり、自宅でも使用できます。</p> <p>テキストは無く、その場の指導で操作を覚えていく方式のため、遅刻や欠席への対応は難しいと考えてください。</p>				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	建築設計の実務経験を有しており、実践的な指導が可能である。			
アクティブ・ラーニング	○	基本的な操作については伝えるが、自らの計画がよりわかりやすくビジュアルに他者に伝わるような工夫を積極的に行えるように指導を行う。			
情報リテラシー教育	○	プレゼンテーション技法についても指導を行う。			
ICT活用	○	CAD自体がICTの一部となっているが、さらにインターネット上から造形素材をダウンロードして使用するなど、ICTを積極的に活用した授業となる。			

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	建築調査		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 大橋 竜太	指定なし

ナンバリング	G34307C22
授業概要(教育目的)	都市の歴史環境や伝統的な景観を保存・活用したまちづくりについて考える。健全な都市環境の形成にとって、その都市の景観や歩んできた歴史の尊重はきわめて重要である。わが国は、諸外国と比べ、遅れをとっていたが、昨今、これらを意識したまちづくりが各地で行われるようになった。こういったまちづくりに携わることができるように、それを実践するための制度等に関して学ぶとともに、先進的な事例を調査・検討しながら、明日のまちづくりを追求する。
履修条件	特に定めない
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	建築保存とまちづくりの実態を知る
思考・判断の観点 (K)	建築保存とまちづくりの実態を知る制度を知る
関心・意欲・態度の観点 (V)	理想のまちづくりを考える能力を身につける
技術・表現の観点 (A)	自分の考えを他者に伝える(プレゼンテーション)能力を身につける

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション	建築・都市の個性とは何か？ まちづくりの現状を知る	自分の住んでいる町の都市計画についてインターネット等を利用して調べる	90分
第2回	建築・町並みの調べ方	文献調査、実測調査、聞き取り調査、その他の調査方法、文化財建造物の調査の方法(DVD)	インターネットで門司(福岡県)の現状を調べる	90分
第3回	東京の歴史的建造物	東京の文化財建造物の特徴、谷中のまちづくり(DVD)	見学会に向けて、見学先の興味がある建物の下調べをする	90分
第4回	見学会1	東京駅周辺の歴史的建造物を実際に見る 東京駅、旧東京中央郵便局、三菱一号館、明治生命館、日本工業倶楽部、等	調査結果をまとめる	90分
第5回	プレゼンテーション1	見学会1で見学した歴史的建造物からひとつ選び、レポート(A4レポート用紙3枚)を作成するとともに【課題	プレゼンテーションで指摘された点を修正し、レポートを完成させる	90分

		1】、その内容を5分程度で発表する。また、同級生の発表に質疑を行う		
第6回	諸外国の建築保存と歴史を活かしたまちづくり	建築保存の歴史、各国の文化財保護関連法、各国の都市計画関連法	わが国と諸外国の町の景観の違いを整理する	90分
第7回	わが国の建築保存とまちづくり	わが国の建築保存の歴史、文化財保護法、景観法、歴史町づくり法	重要伝統的建造物群保存地区からひとつ選び、その特徴をまとめる	90分
第8回	文化財建造物の保存	国宝・重要文化財、登録有形文化財、伝統的建造物群保存地区、文化的景観 上野清水堂の保存・修復 (DVD)	江戸の都市計画についてまとめる	90分
第9回	文化財建造物の修復	保存修復の手順、保存修復の現場 大崎八幡神社の修復 (DVD)	大崎八幡の修復のDVDを見た感想文をまとめる	90分
第10回	さまざまな建築保存	わが国の建築保存の実例、山形県庁舎の保存 (DVD) 建築保存に携わる職人、薬師寺金堂 (DVD)	宮大工について調べる	90分
第11回	復原を考える 歴史的建造物の防災	復原に関する議論、オーセンティシティと復原 三菱一号館の復原、朱雀門の復原 (DVD) 文化財防災の法制度	インターネットで三菱一号館の復原のけいについて調べる	90分
第12回	銀座・日本橋の歴史的建造物	銀座・日本橋の歴史的建造物の特徴	インターネットを用いて各建造物の来歴、特徴等について調べる	90分
第13回	見学会2	銀座、日本橋の歴史的建造物を実際に見る 日本橋、日本銀行本店、三井本館、三越本館、高島屋、明治屋、等	調査結果をまとめる	90分
第14回	プレゼンテーションの手法を学ぶ	PPTの作成の方法を学ぶ。ソフトの使い方から、有効なスライドの作成方法を、課題2を通して学ぶ	課題2のPPTを作成する	90分
第15回	プレゼンテーション2	見学会2で見学した歴史的建造物をひとつ選び、それぞれの建築についてPPTで10分程度のプレゼンテーションを行う【課題2】	プレゼンテーションで指摘された点を修正し、PPTを完成させる	90分

学生へのフィードバック方法	採点したレスポンスシートを返却する。また、受講者のそれぞれのプレゼンテーションに対し、詳細にコメントする
---------------	--

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業の最後に10分程度で授業の概要をまとめ (レスポンスシート)、提出する。これにより、授業内容の把握状況を判断する。また、受講生の多くが十分に理解していないと判断した場合には、次回の授業の最初に、復習を行う ふたつの課題に対しては、プレゼンテーション、課題、他の受講者への質問内容の3点を評価する
------	---

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業態度	○	○	○	
課題	○	○		○

評価割合	授業態度 (レスポンスシートで評価する) 30%と課題 (第一課題30%、第二課題40%) で評価する
------	---

使用教科書名 (ISBN番号)	特に定めない
-----------------	--------

参考図書	なし
------	----

ディプロマポリシーとの関連	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる 【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる
---------------	---

オフィスアワー	月曜2限 1702室
---------	------------

学生へのメッセージ	この授業は「まちづくり」に関する授業です。画一的なまちづくりが否定される現在、地域らしさを出すために、建築保存が脚光を浴びるようになってきました。また、こういった問題は、しばしばマスコミによって取り上げられます。日頃から、新聞記事などのチェックが重要となります。
-----------	---

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、歴史的建造物の修理工事等の委員会の委員を務めるなど、歴史的建造物の保存業務に関わる仕事を兼務しており、その経験をいかして授業を行っている
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、ディスカッション等の教育内容を含む
情報リテラシー教育	○	図書館の利用、インターネットを利用した情報収集、プレゼンテーションの方法等に関する教育内容を含む
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	基礎ゼミ		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 上村 協子	指定なし
教授	椛田 考一	指定なし
准教授	石垣 悟	指定なし

ナンバリング

G11002C12

授業概要(教育目的)

「生活の質の向上」を考えることは、現代家政学科の学びの中核をなしている。この授業では、企業活動と生活、各領域の研究と生活、社会見学を通して、現代家政学科の学びと実社会との関わりについて実感を伴った理解を促す。そして、各自が現代家政演習で見つけた学習課題をより具体化することを目的とする。主に教室での講義と校外施設等の見学を行う。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	現代家政学科での学びと実社会の関わりについて理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	現代家政学科4領域の学びを、実社会にどのように活かせるかを考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	現代家政演習で各自が見つけた学習課題について、興味・関心を持ち続ける。
技術・表現の観点 (A)	社会見学で得た知識や発見した諸問題について、自分の意見をレポートにまとめ、さらに口頭での発表を行うことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス (各領域ゼミの事前説明、後期時間割の確認)	基礎ゼミでは、全体での授業のほか、少人数でのゼミ形式の授業や学外での社会見学を行うので、それぞれの授業内容や学科での学びとの関わりについて理解する。各領域ゼミと社会見学は、各自の希望にそって所属を決めるため、希望調査を行う。	学生便覧、シラバスの授業概要を確認しておく。前期の「現代家政演習」で見つけた学習課題を再検討する。各領域ゼミの希望調査を行うので、配布資料をよく読み、配属希望を考える。	90分
第2回	各領域の研究と学科での学びとの関わり1	配属された各領域ゼミで授業を受ける。第1回目。担当教員から各時間の課題やコメントシートが課される。	各領域ゼミの担当教員の指示に従う。	90分

	(各領域ゼミ)			
第3回	現代家政学科の学びと実社会との関わり① (外部講師による講演)	【校内特別授業】 NTTドコモのCSR部長の講演を聞く。現代家政学科の4領域が有機的に関連して人々の「くらし」が成り立っていることを理解し、専門性にとらわれず「生活に関するすべてを学ぶ」という本学科の教育姿勢を実感するために実施する企業による講演の1回目。講演終了後、コメントシートを記入する。	講演を行う企業等について、ホームページ等で基本情報を調べておくこと。講演を聞いた後に改めて確認し、現代家政学科の学びとの関連を考察する。	90分
第4回	各領域の研究と学科での学びとの関わり2 (各領域ゼミ)	配属された各領域ゼミで授業を受ける。第2回目。担当教員から各時間の課題やコメントシートが課される。	各領域ゼミの担当教員の指示に従う。	90分
第5回	社会見学の事前説明1 (見学先紹介)	後期後半に実施する社会見学について説明する。各領域に関連した施設や展示会等の見学を行うので、見学先と学科での学びとの関わりについて理解する。4領域のうち2領域(学生1人が2回)の見学に参加するので、希望調査を行う。見学終了後は見学レポートを提出する。なお、1ヶ所については口頭発表を行う。	これまでの各領域ゼミでの学びについて整理する。社会見学の希望調査を行うので、配布資料をよく読んで、見学先の希望を考える。	90分
第6回	各領域の研究と学科での学びとの関わり3 (各領域ゼミ)	配属された各領域ゼミで授業を受ける。第3回目。担当教員から各時間の課題やコメントシートが課される。	各領域ゼミの担当教員の指示に従う。	90分
第7回	各領域の研究と学科での学びとの関わり4 (各領域ゼミ)	配属された各領域ゼミで授業を受ける。第4回目。担当教員から各時間の課題やコメントシートが課される。	各領域ゼミの担当教員の指示に従う。	90分
第8回	社会見学の事前説明2 (見学先決定)、社会見学発表会の事前説明	各自が参加する見学先を把握する。社会見学に参加する際の注意事項、見学レポートの書き方、社会見学の口頭発表についての説明を聞き、見学に備える。	決定した見学先について、事前の配布資料を確認し、ホームページ等で基本情報を調べておく。見学レポートの書き方にそって、どのような観点で見学に参加するかを考える。	90分
第9回	特別公開講座への出席	本学では毎年、大学の教育内容に関連した著名人等を招いて、特別公開講座を実施しているため、それに出席し、講演を聞く。 (特別公開講座の出席を基礎ゼミの出席回数に含む。)当日配布されるコメントシートを記入する。	講演者について、事前にホームページや関連書籍等で情報収集しておく。講演後、今後の学びやくらしにどのように活かせるかについて考察する。	90分
第10回	社会見学1	【校外授業】 決定した社会見学に参加する。(1と2で1回分) 見学後にレポートを提出する。	見学を引率する教員の指示に従う。見学レポートの作成。	90分
第11回	社会見学2	【校外授業】 決定した社会見学に参加する。(1と2で1回分)	見学を引率する教員の指示に従う。見学レポートの作成。	90分
第12回	社会見学3	【校外授業】 決定した社会見学に参加する。(3と4で1回分) 見学後にレポートを提出する。	見学を引率する教員の指示に従う。見学レポートの作成。	90分
第13回	社会見学4	【校外授業】 決定した社会見学に参加する。(3と4で1回分)	見学を引率する教員の指示に従う。見学レポートの作成。	90分
第14回	現代家政学科の学びと実社会との関わり② (外部講師による講演)	【校内特別授業】 食品ロス削減や環境問題に取り組んでいる大手コーヒーチェーンの方の講演を聞く。企業による講演の2回目。講演終了後、コメントシートを記入する。	講演を行う企業等について、ホームページ等で基本情報を調べておくこと。講演を聞いた後に改めて確認し、現代家政学科の学びとの関連を考察する。	90分
第15回	学びの振り返りとまとめ	これまでの授業の振り返りとまとめを行う。社会見学1ヶ所について、パワーポイントを使用して3分間の口頭発表を行うので、パワーポイントの使用方法や今回の発表の形式について理解する。パワーポイントのデータはGoogleClassroomで提出する。なお、定期試験期間中に発表会を行う。	これまでの授業を振り返り、まとめておくこと。発表する見学先について要点を絞り、どのようにパワーポイントにするか考えておく。パワーポイントの使用方法の不明点は解決すること。作成したデータはGoogleClassroomで提出す	90分

る。口頭発表3分間の原稿も作成し、練習を行うこと。

学習計画注記	授業内容の一部や授業の順番は、担当教員や外部講師の都合等によって変更になる場合がある。社会見学は、時間割以外の日時に行う場合もある。社会見学は、2回分の時間を予定している。
学生へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> 各領域ゼミでの課題やコメントシートについては、各授業にて解説する。 社会見学レポート、校内特別授業のコメントシートについては、振り返りの中で解説する。 パワーポイントを使用した口頭発表については、発表会終了時に全体に向けた教員からのコメントを伝える。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 平常点は、校内特別授業、各領域ゼミおよび社会見学での授業内活動への参加状況、指示された学習課題への取り組み姿勢等を総合的に評価する。 各領域ゼミでの課題等と社会見学レポートは、指示された内容に沿って作成されているかを見学担当教員が評価する。 パワーポイントを使用した口頭発表は、指定された内容に沿ってパワーポイントが作成され、3分間の口頭発表が出来ているか等を担当教員が評価する。 <p>※レポートと口頭発表は、指示された形式や締切期日を提出されたか等も評価に含める。なお、指示された形式を守れていない場合や提出の遅れは減点の対象となるので注意すること。</p>

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
課題・レポート	○	○	○	○
口頭発表	○	○	○	○

評価割合	平常点（授業への参加状況・課題への取り組みの総合評価）60%、課題（各領域ゼミの課題・社会見学レポート・口頭発表）40%
使用教科書名 (ISBN番号)	プリント等を配布する予定。
参考図書	適宜、紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。</p> <p>【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し、分析する。</p> <p>【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。</p> <p>【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。</p>
オフィスアワー	第1回目の授業で配布する資料に教員別のオフィスアワーを掲載する。
学生へのメッセージ	前期「現代家政演習」の内容を振り返り、将来の希望を考えておく。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	(第3回) NTTドコモのCSR担当部長 (CSR: 企業の社会的責任) による講演。NTTドコモの「新しいコミュニケーション文化の世界の創造」活動やケータイ安全教室、災害時の対応、さらに最新の活動内容について伺う。 (第14回) 大手コーヒーチェーンの方の講演。大手コーヒーチェーンでの食品ロス削減に対する取り組みや現在の世界的な環境問題に関する活動等を伺う。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	パワーポイントを使用した口頭での発表を行う。
ICT活用	○	GoogleClassroomを使用してパワーポイントデータの提出を行う。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ファイナンシャルプランニング入門		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 古徳 佳枝	指定なし

ナンバリング	G22311021
授業概要(教育目的)	実生活において必要となる経済関連の知識として、FP（ファイナンシャル・プランナー）資格初級レベルの知識獲得を目的とする。具体的には、「A. ライフプランニングと資金計画」「B. リスク管理」「C. 金融資産運用」「D. タックスプランニング」「E. 不動産」「F. 相続・事業承継」の6分野を対象とし、そのうち特に「年金（ライフ）」「金融」「タックス」に重点を置く。単なる知識取得を目的とするのではなく、自身の実生活に応用可能な実践的学びの場としていくため、疑問を持ったら積極的に質問してほしい。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	税制や社会保険制度について理解する。 経済の基本的仕組みを理解する。
思考・判断の観点 (K)	自分の目標に向かうためのプランニングができる。 複数の選択肢から合理的選択ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分自身の将来に向けて、キャリアプラン、ライフプランを構築する意欲を持つ。
技術・表現の観点 (A)	基本的な収入支出貯蓄額、税額、金利などの算出ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス：パーソナルファイナンスの全体像	パーソナルファイナンスとは何か。個人のライフプランの全体像を俯瞰し、収入・支出・貯蓄・ローンなど社会人として自己責任で選択すべきことの全体の流れを理解する。	予習：教科書の序章・第1編(2～22ページ)を読んでおくこと 復習：授業内容についてのプリントをよく理解しておくこと	120分
第2回	ライフプランニングと資金計画	人生の3大資金といわれる「住宅」「教育」「老後」資金について、具体的な貯蓄方法とローンの考え方を理解する。	予習：教科書第2編(24～36ページ)を読んでおくこと 復習：授業内容についてのプリントを十分理解しておくこと	120分
第3回	キャッシュフロー表の作成	自身の収入・支出・貯蓄残高について、長期的に予測するために、キャッシュフロー表の作成方法について理解し、実践する。	予習：教科書第8編(273～280ページ)を読んでおくこと 復習：キャッシュフロー表の構	180分

			造や作成方法を十分理解し、自分自身で作成できるようにしておくこと	
第4回	社会保険制度と年金制度	日本において加入が義務づけられている社会保険制度を理解し、給付と負担の関係、特に負担の重さを認識する。	予習：教科書第2編（37～63ページ）を読んでおくこと 復習：授業内容についてのプリントを十分理解しておくこと	120分
第5回	タックスプランニング（1）日本の税制と所得税	日本の財政、特に歳入の柱である税収について認識し、税制の全体像と所得税の基本的仕組みを理解する。	予習：教科書第3編（66～72ページ）を読んでおくこと 復習：授業内容についてのプリントを十分理解しておくこと	120分
第6回	タックスプランニング（2）各種所得の計算	所得税は個人の所得を10種類に分けて計算する。それぞれの所得の内容と計算方法について理解する。	予習：教科書第3編（73～84ページ）を読んでおくこと 復習：授業内容についてのプリントを十分理解しておくこと。 また、第2回から第6回までの内容について復習しておくこと	240分
第7回	タックスプランニング（3）所得税算出の流れ	10種類の所得から所得税を算出する過程として、14種類の所得控除および主要な税額控除について理解し、具体的なケースを用いて税額計算を実際に行う。授業の最後に、第1回ミニテストを実施する。	予習：教科書第3編（85～104ページ）を読んでおくこと 復習：授業内容についてのプリントを十分理解しておくこと	120分
第8回	リスクマネジメント	生命保険と損害保険について、予測できない損失に備える制度であることを理解し、自身や家族にとって必要な保障は何かを考える。	予習：教科書第4編（114～149ページ）を読んでおくこと 復習：授業内容についてのプリントを十分理解しておくこと。 また返却されたミニテストで間違えた箇所について、見直しておくこと	240分
第9回	金融資産運用（1）経済・景気と金利	経済状況を示す指標として、GDP、景気動向指数などを学ぶ。資産運用を行う上での基盤となる「金利」とは何かを知り、その変動要因や利息計算方法を理解する。	予習：教科書第5編（152～161ページ）を読んでおくこと 復習：授業内容についてのプリントを十分理解しておくこと	120分
第10回	金融資産運用（2）預貯金・債券・株式	資産管理・運用において、個人が利用できる金融商品について理解する。具体的には元本確保型である預貯金と、資産を増やすためリスクを負って運用する投資性商品である、債券と株式について学ぶ。	予習：教科書第5編（162～175ページ）を読んでおくこと 復習：授業内容についてのプリントを十分理解しておくこと。 また、第8回から第10回までの内容について復習しておくこと	240分
第11回	金融資産運用（3）投資信託・外貨建て商品	資産管理・運用において、個人が利用できる金融商品として、投資信託と外貨建て商品について学ぶ。授業の最後に、第2回ミニテストを実施する。	予習：教科書第5編（176～193ページ）を読んでおくこと。 復習：授業内容についてのプリントを十分理解しておくこと	120分
第12回	不動産運用設計	個人が自宅や投資用として、不動産を購入・所有したり、また他者と賃貸契約を結んだりする際の法制度や税金について理解する。	予習：教科書第6編（196～223ページ）を読んでおくこと 復習：授業内容についてのプリントを十分理解しておくこと。 また、返却されたミニテストについて間違えた箇所を見直しておくこと。	240分
第13回	相続・贈与の基礎（1）相続税	近年、高齢者から若年層への資産移転が重要となっている。民法における親族の考え方や相続税の基礎知識を学ぶ。	予習：教科書第7編（226～242ページ）を読んでおくこと 復習：授業内容についてのプリントを十分理解しておくこと。 また、第12回と第13回の内容について復習しておくこと。	240分
第14回	相続・贈与の基礎（2）贈与税	相続を補完する概念である贈与について理解すると共に、時限的に実施されている教育資金や結婚・子育て資金の非課税贈与と制度について学ぶ。授業の最後に、第3回ミニテストを実施する。	予習：教科書第7編（243～257ページ）を読んでおくこと。 復習：授業内容についてのプリントを十分理解しておくこと。 また、これまでの授業内容を総復習しておくこと。	240分
第15回	まとめと学習到達度の総合確認テスト	ファイナンシャルプランニングの全体像について包括的まとめを行う。FP技能士試験の概要を理解し資格取得を検討する。最後に学習内容全般について、総合確認テスト60分を実施する。	予習：これまでの授業内容を総復習しておくこと 復習：総合確認テストの問題用紙を持ち帰り、理解不足だった項目の見直しを行うこと	240分

学生へのフィードバック方法

第3回のキャッシュフロー表は、内容を確認して次週の授業にて返却する。
ミニテストは採点して、次週の授業にて返却し、解説する。

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回の授業でキャッシュフロー表の作成を行い、提出。 ・ミニテストは直前2分野の学習内容について授業内に3回実施。1回あたりの問題数は10問で、正誤問題8問、三択問題2問。 ・第15回で実施する総合確認テストは、FP技能士3級レベルの問題80問。正誤問題50問、三択問題30問。 ・キャッシュフロー表作成、ミニテスト、総合確認テストは、下表に示す力を養うことを目的に実施する。
------	--

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
キャッシュフロー表作成		○	○	○
ミニテスト	○			
総合確認テスト	○	○		

評価割合	第3回キャッシュフロー表の提出 (30%)、ミニテスト3回 (30%)、第15回総合確認テスト (40%) で評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	「ファイナンシャル・プランニング入門-for Students- [第5版]」日本ファイナンシャル・プランナーズ協会編、2019年発行
参考図書	「10代から学ぶパーソナル・ファイナンス」日本ファイナンシャル・プランナーズ協会編
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】社会の基盤として各種制度を理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。</p> <p>【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。</p>
オフィスアワー	木曜2時限 非常勤講師室
学生へのメッセージ	FP (ファイナンシャル・プランナー) の知識は、今後の就職活動、将来の仕事、消費行動に役立ちます。まじめに授業を受ければ、初級のFP資格取得レベルの知識が身に付きますので、授業後は積極的なFP資格試験への挑戦を期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	金融機関で20年以上の実務経験があり、ファイナンシャル・プランナー上級資格を持つ教員が、理論の説明にとどまらず、具体的な資産形成の手法や考え方について講義する。
アクティブ・ラーニング	○	キャッシュフロー表作成により、社会人になってから目標を実現するために行う、資産形成などについて具体的にイメージできるようにする。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	情報伝達と表現		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 小林 直弘	指定なし

ナンバリング	G22110C21
授業概要(教育目的)	現代社会で重要な能力の一つにコミュニケーション能力がある。情報を正しく理解し、伝えることがコミュニケーションの始まりである。そこで、本授業では、「情報の収集 → 分類 → 情報の再構築 → 情報の可視化」の流れのプロセスを理解し、如何に情報の表現を行うかを講義や事例を用いて説明を行う。また、グループワークを用いて、実際に情報を収集し、分類、情報の可視化を演習形式で行い、コミュニケーションを理解することを目的とする。
履修条件	上級生を優先する。また大学のPCの保有台数により定員は決定する。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	情報を収集する方法や画像加工の概念、情報リテラシーの理解力を説明できる
思考・判断の観点 (K)	蒐集した情報の整理と分類の能力を識別し、広告すべき対象の検討と表現方法を判断できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	与えられた課題を理解し、的確に提出し、遊び心を持てるように関与できる
技術・表現の観点 (A)	パソコン作業を通して、画像加工、DTP、美的表現、評価を体験できる

学習計画

回数・授業テーマ

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	講義のオリエンテーション 情報伝達と表現の概要	情報とは何か?表現とは何か?様々な情報及び表現にさらされる現状を再確認を行う。広義の流れを確認し第一課題「辞典の作成」、第2課題は「広告作成」を行うことを確認する。	予習:「GOOD DESIGN AWARD 2018」をホームページで受賞作品を確認して、各々が気になる作品を見つける。	180分
第2回	広告デザインとコミュニケーション	情報伝達を主たるものの広告を主題に、その表現方法を理解する。また、各種表現の方法論を読み解く。	予習:我が国には各種広告に対する賞が存在する。(TCC賞、ADC賞、広告電通賞など)日々目にする広告のよりよいといわれるものを見てみよう。また、各種媒体(テレビ、インターネット、屋外広告)の広告を見てみましょう。	180分

第3回	インフォメーションデザインと実例	情報伝達する媒体を確認し、媒体ごとの意味を考察する。そこで、多岐にわたる情報を収集し、整理し、最低限必要な情報を提示する作業を行う。	予習：朝起きてから大学に来るまでの間に多くの情報伝達媒体に遭遇する。(テレビコマーシャル、新聞広告、インターネット広告、雑誌)など気を付けてみて、素敵なものを探す。	180分
第4回	グラフィックデザインの要素(デザイン原理)	伝達手段としてグラフィックデザインを使用する。その際、必要な「色」について色彩学を基に原理と色における印象を考察する。	予習：日常生活のなかに様々な色に遭遇する。気分によりその受け取り方は変わるが、自分にとって好きな色を見つけ、携帯電話などで写真に収める。	180分
第5回	グラフィックデザインの要素(文字表現)	伝達手段としての文字の重要性を再確認し、書体、大きさ、色、文章表現による差異を確認する。また、5回から7回にかけて個人作業として情報を収集し、表現するDTP作業を行う。	予習：朝起きてから大学に来るまでの間に多くの情報伝達媒体に遭遇する。(テレビコマーシャル、新聞広告、インターネット広告、雑誌)など文字表現を見つける。	180分
第6回	グラフィックデザインの要素(画像加工)	表現すべき情報を伝達するために画像を利用することが多々ある。写真などの画像の原理を確認し、DTP作業を行い、方法を学ぶ	予習：スマートフォンやプリント倶楽部など各種写真加工ができるツールがある。写真加工による効果を考察する。 復習：各人の課題の情報を収集する。	180分
第7回	グラフィックデザインの要素(法的規制)	表現は自由であるべきであるが、我が国における法的規制が存在する。写真や制作物には著者保護のための著作権などである。伝達する際の注意点などを学ぶ	予習：著作権法、知的財産基本法、ベルヌ条約など各種著作権を保護する法律をホームページ上で検索し概要を確認する	180分
第8回	情報伝達と表現の実践(情報収集とターゲットの検討)	第1回から7回にかけて情報伝達と表現の基礎をPC作業を通して実施した。そこで、身近な対象(家政学院大学現代生活学科の広告)を伝達するための方法を検討する。そのためにグループワークとする。	予習：作成している課題を完成させ、印刷を行う。	180分
第9回	情報伝達と表現の実践(コンセプトの作成)	伝達するためにはコンセプトが必要となる。コンセプト作成のための情報の整理方法を学ぶ	予習：それぞれが日常で気になる広告を探しそのコンセプトを考察し、レポートを作成する。	90分
第10回	情報伝達と表現の実践(中間発表)	作成したコンセプトを基にグループごとに方向性を講師に発表し、エスキースを行う。	予習：コンセプトを整理して、企画書としてまとまる。	180分
第11回	情報伝達と表現の実践(キャッチコピーの作成)	方向性(コンセプト)を基に情報を再度収集し、必要な文字を検討しパソコン作業を学び、作成する。	予習：コンセプトにあう文字情報をグループ内で議論し、作成若しくは撮影を行う。	180分
第12回	情報伝達と表現の実践(画像加工)	方向性(コンセプト)を基に情報を再度収集し、必要な画像を検討し、表現方法を考察し、パソコン作業を学ぶ。	予習：コンセプトにあう画像をグループ内で議論し、作成若しくは撮影を行う。	180分
第13回	情報伝達と表現の実践(制作物の校了と校正)	方向性(コンセプト)を基に採取した情報をとりまとめ、適切な形で表現を行い完成を目指す。また完成した広告物が印刷され製品化するまでの流れを学ぶ。	復習：作成した作品を再確認し校正を行う。	180分
第14回	情報伝達と表現の実践(プレゼンテーション資料の作成)	作成した伝達物は、他者に説明し理解をしてもらう必要がある。そのため、説明資料の作成する方法論を学び、次の発表のための資料を作成する。	予習：我が国には各賞レースが存在する。その際使用されるプレゼンテーション用紙を検索し確認する。また2025年に開催予定の大阪万博誘致プレゼンテーションを検索し確認する。	180分
第15回	情報伝達と表現の実践(プレゼンテーション)	作成した伝達物や他グループの作成物を自己評価し、価値の所在を検討する。	予習：プレゼンテーション資料を作成し、印刷を行う。サイズはA3とする。	180分

学習計画注記	なし
学生へのフィードバック方法	課題1および2において提出もしくは発表後、講評を行う。
評価方法	・講義では、基礎から実践まで行うため、各種レポート、第一課題は知識・理解、思考・判断の基礎部分を行い、第2課題は総合力を見る

・但し4回以上の欠席、第2課題未提出もしくは欠席の場合は単位は修得できません

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
各種レポート	○			
課題1	○	○	○	○
課題2	○	○	○	○

評価割合

各種レポート10%、第一課題20%で基礎点として、第2課題は総合力として70%（内訳作成物40%、プレゼンテーション資料30%）とする。

使用教科書名 (ISBN番号)

なし。適宜レジュメを配布します。

参考図書

ヴィクター・パパネック著阿部公正翻訳『生きのびるためのデザイン』, 1974. 8. 1
各種デザイン大賞受賞作品掲載ホームページ（各自で興味ある分野で検索のこと）
各種デザイン大賞受賞作品

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
【思考・判断】生活社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。
【技能・表現】生活者の問題に寄り添えるコミュニケーションができる。次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。

オフィスアワー

授業終了後30分程度

学生へのメッセージ

現代社会には情報にあふれています。普段見ている書籍、新聞、雑誌、そしてCMなどの情報媒体がどのように表現して、何を伝えたいのか注意してみてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は建築分野で企画立案プレゼンテーションを業務で実施している。その中で使用するノウハウを提供する。
アクティブ・ラーニング	○	講義と共にパソコン作業を取り入れ、講義広義内で得た知識をその場で実践し、技術を獲得する。
情報リテラシー教育	○	情報を収集し使用する際の法的拘束や倫理観を講義し理解を促す
ICT活用	○	講義の性質上、インターネットを利用し情報を収集し、ネットワークの基礎を学び、作成物の提出などで利用する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	家庭電気・機械・情報処理		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 佐藤 智明	指定なし

ナンバリング	G32204C21
授業概要(教育目的)	私たちの生活は家電機器や給湯機器などのエネルギー消費をともなって成り立っている。機器の仕組みや使用方法などを知ることによって、環境負荷の小さな生活を営むことが可能になる。この授業では、家庭で 사용되는エネルギー（電気・ガス・石油・再生可能エネルギー・水）および情報の供給システムを教示するとともに、家電機器、ガス石油機器および情報機器の仕組み、望ましい使用方法、性能表示の見方を知り、その省エネルギー性能、環境負荷、経済性について適切に評価する手法を講義する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標（到達目標）	
知識・理解の観点 (K)	[教職家庭科]家庭で 사용되는エネルギーおよび情報の供給システムを説明できる。
思考・判断の観点 (K)	[教職家庭科]家庭で 사용되는エネルギーの視点から、その生活実態を評価できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

家庭電気・機械・情報処理

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	科学技術・エネルギーと生活について、本講義で扱う概要を理解する。身の回りにある様々な機械にあらためて目を向けてエネルギー中学校の理科や技術科で学んだ仕事とエネルギーについて復習する。ジュールとワットなどの用語も理解する。	Web等でエネルギーとは何かについて調べておく。	120
第2回	電気について考える	電流、電圧、抵抗とは何か。電子と電流、消費電力と熱の関係、電気的な損失や効率について理解する。ボルト、アンペア、ワット等の用語も理解する。	Web等でオームの法則について調べておく。	120
第3回	電気を利用した機器(1)	電球、蛍光灯およびLED、照明やインジケータに使用される機器の原理や性能を理解する。各照明機器の温度を調べる実習あるいは実演を含む。	Web等でジュール熱について調べておく。	120
第4回	電気を利用	扇風機、洗濯機、ドライヤー、電気自動車(EV)および	Web等でフレミングの左手の法	120

	した機器 (2)	発電機に使われる電気モーターの原理や性能について理解する。簡単なモーター作成実習あるいは実演を含む。	則について調べておく。	
第5回	電気を利用した機器 (3)	オーディオ機器に使われるスピーカー、マイクなど音を伝える機器の原理を理解する。スピーカーを使った弛んだ糸電話実演、紙コップを使った簡単なスピーカーの作成実習を含む。	Web等で音と振動について調べておく。	120
第6回	電気を利用した機器 (4)	電子レンジ、IHクッカーあるいはラジオ、テレビなど電波、電場および磁場を利用した機器の原理について理解する。電磁波とは何か、熱と電磁波の関係について理解する。IHクッカーの分解実演を含む。	Web等で電磁波について調べておく。	120
第7回	熱を利用した機械 (1)	自動車に使われるエンジンの原理について理解する。スターリングエンジン、ガソリンエンジン、ディーゼルエンジンなどレシプロエンジンの原理を通して熱と仕事の関係について理解する。熱力学の第一法則についても簡単に学び、熱エネルギーから仕事のエネルギーに変換できることを理解する。模型スターリングエンジンや圧縮発火の実演を含む。	Web等でボイルシャルルの法則について調べておく。	120
第8回	熱を利用した機械 (2)	発電所、家庭用発電機あるいは航空機で使われるエンジンの原理について理解する。蒸気タービンやガスタービンの原理について理解する。やかんと風ぐるまを使った蒸気タービンの実演を含む。	Web等で発電所の種類について調べておく。	120
第9回	熱を利用した機械 (3)	冷蔵庫やエアコンに使われる冷凍機、ヒートポンプの原理について理解する。熱力学第一法則より仕事から熱エネルギーへ変換できることを理解する。	Web等で部屋を暖めるときに、ヒーターによる加熱とエアコンによる加熱でどちらが効率が良いか調べておく。	120
第10回	情報を伝達する機器 (1)	情報とは何か、のろしやバルーン、旗振り通信からモジュール信号まで簡単な情報の記号化および符号化について理解する。デジタルとは何か、アナログ信号とデジタル信号の違いについて理解する。情報量という基本的な概念についても理解する。符号化を理解するために簡単な伝言ゲームを実践する。	Web等で古代の情報伝達について調べておく。	120
第11回	情報を伝達する機器 (2)	コンピュータとは何か、論理演算を含む情報処理の仕組みについて理解する。簡単な論理回路の実演を通して論理演算の基本について学ぶ。人工知能とは何か、論理計算手法の歴史を通して最新のAI技術や今後について理解する。さらに、近年、初等教育から幼児教育にまで広がっているプログラミング学習について理解する。LEGO マインドストームによる実演を含む。	Web等で人工知能について調べておく。	120
第12回	技術と環境・エネルギーについての総合的理解 (1)	環境破壊の様々な原因について理解する。熱の放出、CO2の増加およびオゾン層の破壊のメカニズム・原理を理解する。	Web等で環境破壊の種類について調べておく。	120
第13回	技術と環境・エネルギーについての総合的理解 (2)	ハイブリッドエンジン、コンバインド発電、コージェネレーションおよびスマートグリッド技術等について学び、環境に優しい省エネ技術について理解する。また、それらの開発コストについても理解する。	Web等で普通のガソリン自動車とハイブリッド自動車の燃費について調べておく。	120
第14回	技術と環境・エネルギーについての総合的理解 (3)	これまで学んできた技術と環境との関係について考えてどのようにすれば環境に優しい生活が営めるかについて考える。家電の消費電力と使用頻度について考え、グループ討論などで議論する。	自宅にある家電製品の消費電力を調べておく。	120
第15回	まとめ	第14回で議論したことについての発表および理解度の確認のためのまとめテストを実施する。	これまでに学習してきた内容についての知識を整理しておく。	120

学生へのフィードバック方法	課題について、採点の後、授業中に講評を行う。
評価方法	毎回課すミニットペーパーおよび期間内に数回課すレポート課題および授業内に行うまとめテストの結果から総合的に評価する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
ミニットペーパー	○		○	
課題	○	○		○
まとめテスト	○	○		○

評価割合	ミニットペーパー(25%)、課題(50%)、まとめテスト(25%)の総合評価			
使用教科書名(ISBN番号)	なし			
参考図書	中学校の技術科・家庭科教科書(授業内で紹介する)			
ディプロマポリシーとの関連	現代家政学科 [知識・理解] 社会の基盤として「質の高い生活」とは何かを理解できる。 [思考・判断] 生活の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。 生活デザイン学科 [知識・理解] 住分野について専門的知識を有して、専門的な職業の道へつなぐことができる。 [思考・判断] 社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。			
学生へのメッセージ	教職(家庭科) 高一種必修			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用	○	CGアニメーションなどを使ったわかりやすい原理説明などを行う。LEGOマインドストームによるプログラミング実演なども行う。		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	企業と会計		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 古徳 佳枝	指定なし

ナンバリング	G32312C21
授業概要(教育目的)	この授業では、企業の経済取引に関して利益その他を報告する「会計情報」について学び、実際に利用できるようになることを目指す。具体的には、会計の基礎となる複式簿記の初歩的なルールを学び、財務諸表の構造を理解すると共に、財務諸表の分析方法について学習する。学んだ内容を活かして学生自身が実際の企業の分析を行い、その内容を最終授業において発表する。企業分析を通じて、実社会における企業活動について具体的にイメージし、将来「就職先の選定」「自身の仕事における資金管理」「投資先選定」等に活かすことを目的とする。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	企業会計とは何かを理解する。簿記の基本ルールを理解し、記帳と財務諸表作成ができるようになる。
思考・判断の観点 (K)	財務諸表の数値を使って各社の安全性や収益性についての分析ができるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分自身や社会にとって、各企業がどのような役割を果たしているかについて関心を持ち、情報収集が行える。
技術・表現の観点 (A)	企業のホームページ等から会社概要、財務諸表データ等を取得することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	企業と会計	企業活動における会計の意義や企業の資金調達方法について学ぶ。自分が起業するとしたら、どのように資金調達するかを考える。	予習：教科書第1章「会計の意義」、第2章「株式会社」、第3章「資本市場」(1~40ページ)を読んでおくこと	30分
第2回	損益計算書の構造	企業の生み出した利益の額を計算する「損益計算書」の構造を理解する。実際の企業の損益計算書を取り上げ、記載されている数値や計算方法を実践的にエクセルで入力しながら理解を深める。	予習：教科書第4章「財務諸表①」(41~49ページ)を読んでおくこと	30分
第3回	貸借対照表の構造	企業のある時点での財産状況を示す「貸借対照表」の構造を理解する。実際の企業の貸借対照表を取り上げ、記載されている数値や計算方法を実践的にエクセルで入力しながら理解を深める。	予習：教科書第4章「財務諸表①」(49~58ページ)を読んでおくこと	30分
第4回	取引の仕訳	企業の日々の経済活動を記録するための「仕訳」について	予習：教科書第5章「簿記」	予習：30分

		て学ぶ。具体的な事例に基づいて、仕訳の練習を行い、最後に演習として各自がエクセルで行った仕訳データを提出する。	(63～66ページ)を読んでおくこと 復習：学んだ仕訳ができるようにしておくこと	復習：45分
第5回	総勘定元帳と試算表	初めに、「仕訳」の確認テストを行う。仕訳データから、総勘定元帳および試算表を作成する流れについて学ぶ。授業では具体的な事例に基づいて練習を行い、最後に演習として各自がエクセルで行った仕訳・転記・試算表作成データを提出する。	予習：教科書第5章「簿記」(63～66ページ)を読んでおくこと	30分
第6回	精算表と財務諸表作成	初めに、前回の確認テストを返却し、フィードバックを行う。精算表および貸借対照表と損益計算書の作成について学ぶ。具体的な事例に基づいて練習を行い、最後に演習データを提出する。	予習：教科書第5章「簿記」(67～69ページ)を読んでおくこと 復習：仕訳から精算表の作成までの一連の流れができるようにしておくこと	予習：30分 復習：45分
第7回	分析対象企業の選定	初めに、「精算表」の確認テストを行う。各自HPなどで情報収集を行い、自分が分析比較したい企業2社を選定し、選定理由などを記入したエクセルデータを提出する。	復習：分析対象企業について、HPなどで自分や社会にとってどのような役割を果たしているか調べておくこと	30分
第8回	貸倒引当金と減価償却	初めに、前回の確認テストを返却し、フィードバックを行う。決算整理における「貸倒引当金」「減価償却」の処理について学び、最後に演習データを提出する。	予習：教科書第5章「簿記」の補論(73～80ページ)を読んでおくこと 復習：減価償却費の計算ができるようにしておくこと	予習：30分 復習：45分
第9回	キャッシュフロー計算書	初めに、「減価償却費」の確認テストを行う。キャッシュフロー計算書の作成方法や分析の仕方を学び、最後に演習データを提出する。	予習：教科書第6章「財務諸表②」(81～87ページ)を読んでおくこと	30分
第10回	連結財務諸表	初めに、前回の確認テストを返却し、フィードバックを行う。親会社と子会社の決算内容を合算して作成する「連結財務諸表」の作成方法を学び、最後に演習データを提出する。	予習：教科書第6章「財務諸表②」(88～90ページ)を読んでおくこと	30分
第11回	財務諸表分析(1)	貸借対照表を使った安全性分析と損益計算書を使った収益性分析について学ぶ。具体的には、自己資本比率、流動比率、固定比率および売上高利益率についての算出方法を学び、最後に演習データを提出する。	予習：教科書第7章「財務諸表の分析①」(93～104ページ)を読んでおくこと	30分
第12回	財務諸表分析(2)	貸借対照表と損益計算書を使った総合的な企業分析について学ぶ。具体的には、自己資本利益率、総資本利益率およびレバレッジ分析の算出方法を学び、最後に演習データを提出する。	予習：教科書第8章「財務諸表の分析②」(105～112ページ)を読んでおくこと 復習：第11回と第12回で学んだ財務諸表分析の各指標について、計算できるようにしておくこと	予習：30分 復習：45分
第13回	企業分析演習(1)	初めに、「財務諸表分析」の確認テストを行う。学生が選定した個別企業について、HPで財務諸表データの取得を行う。	復習：分析対象企業について、情報収集を行っておくこと	30分
第14回	企業分析演習(2)	初めに、前回の確認テストを返却し、フィードバックを行う。次週の発表に向けて、2社比較や時系列比較による企業分析を行い、分析データをわかりやすく伝えるためのプレゼンテーション資料を作成する。	復習：分析対象企業について、最終的なプレゼンテーション資料を完成させておくこと	45分
第15回	企業分析発表	各自が行った企業分析について、5-10分のプレゼンテーションを行う。プレゼンごとに教員からフィードバックを行うと共に、他の学生からもコメントをもらう。学生は自分の発表だけでなく、他者のプレゼンテーションに耳を傾け、コメントを行う必要がある。	予習：他者に伝わるプレゼンとなるように、資料と原稿を準備する 復習：他者が行ったプレゼン内容を理解し、有効に活用する	予習：30分 復習：30分

学生へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回提出されるエクセルデータについて、次週の授業にてコメントする。 ・ 授業中に実施する4回の確認テストは、次週の授業の初めに返却の上、正解の解説とフィードバックを行う。 ・ 第15回の企業分析発表については、各プレゼンテーションの発表直後に、良い点、改善点についてのフィードバックを行う。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回提出されるエクセルデータについて、計算式が正しいか、最後まで入力できているかなどに応じて教員が評価する。 ・ 確認テストは、前回までの授業内容から出題し、授業内に計4回実施する。1回当たりの問題数は5問～10問で、計算問題が主体となる。 ・ 第15回の企業分析発表に対しては、「複数の分析指標を正しく用いているか」「2社比較や時系列比較ができているか」「説得力あるプレゼンとなっているか」の3つの観点から教員が総合評価する。
評価基準	
評価基準	

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
毎回のエクセルデータ	○			○
確認テスト4回	○			○
企業分析発表	○	○	○	○
評価割合	毎回のエクセルデータ (30%)、確認テスト4回 (40%)、企業分析発表 (30%) で評価する。			
使用教科書名 (ISBN番号)	「企業と会計の道しるべ」 水口剛・平井裕久・後藤晃範著 (中央経済社) 978-4502212710			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 社会における生産主体である「企業」について理解し、現代生活の諸問題を理解できる 【思考・判断】 企業を含めた社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる 【関心・意欲・態度】 生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる 【技能・表現】 次世代につながるより良い生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる			
学生へのメッセージ	会計という難しいイメージがありますが、この授業は初心者向けの内容となっていますので、苦手意識を持たず積極的に参加して下さい。エクセルでデータ入力しながら自然に数字に親しみ、簿記の基礎的な内容が身につきます。これから就職活動を始めようという人は検討先企業の分析にも役立ちます。社会に出る前の今こそ、企業や社会についてより深く理解するために、簿記や企業会計について一緒に学びましょう。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	運用会社での勤務経験を有し、証券アナリスト資格を持つ教員が、企業分析について具体的かつ実践的に指導する。		
アクティブ・ラーニング	○	学生がひとりひとりパソコンでの入力・検索・資料作成を行い、アクティブに学ぶ。最終授業では、各自作成した資料を用い、他者にわかりやすくプレゼンする。		
情報リテラシー教育	○	WEBサイトから必要な情報を入手し、その情報を用いて分析を行う。エクセルやパワーポイントを活用する。		
ICT活用	○	パソコン教室のシステムを用い、「教員から配布した資料に学生が入力して返信する」「教員からの質問に答える」など双方向型授業を行う。		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	家庭経営学概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 上村 協子	指定なし
教授	井上 眞弓	指定なし

ナンバリング	G12201C21
授業概要(教育目的)	人間が人間らしく生きる拠点が家庭であり、家庭生活を中心とした家族・コミュニティの営みが家政＝家庭経営である。現代社会における家庭経営の課題を、「家族」「消費者」をキーワードに、概説する。特に、親と子、夫と妻など家族を核とする人と人の関係や、仕事や消費といった日々の生活と生命の再生産の営みを中心に現代社会の危機的状況を生活者の視点から見直し、誰もが安心してくらせる、持続可能性のある消費者市民社会につくりかえる方法を、自分の生活設計と重ねながら考える。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	家庭生活が個人にとって、社会にとってどのような役割を持っているかを理解する。
思考・判断の観点 (K)	多様かつ急激な社会変動の中で、どのように家庭生活を営むかを自律的に構想できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分の現在の家族・家庭のあり方を見つめ、広い視野で将来設計に取り組める。
技術・表現の観点 (A)	人間の生き方や家族・家庭について豊かな感性と言葉で表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	現代社会における家庭経営の枠組み	家庭経営学の定義、家族・家政学の定義、家庭経営学で頻りに用いる概念や、SDGsの活動を理解し、持続可能な社会と家政学・家庭経営・家庭科教育について考える授業であることを概説する。	自分なりのエコからたを考えてみる。レジュメを良く復習しておくこと。	180分
第2回	生活経営～新しい価値・規範の創造へ～	コミュニティ エシカル消費と食品ロスなど現代社会・生活をとりまく状況を、主に統計資料を用いて考察する。グラフの読み取り方、その現象の持つ意味について学ぶ。	授業前に教科書pp. 7-15を良く読んでおくこと。	180分
第3回	家庭生活の経営とジェンダー	ジェンダーとは何か。女性が家庭生活の経営においてどのような役割を担ってきたのか。それはなぜか。男女共同参画社会はどのようにしたら実現可能なかを考察する。	小学校・中学校・高等学校で学んだ家庭科の授業を振りかえってくる。授業前に教科書	180分

			pp. 16-39を良く読んでおくこと。	
第4回	「住まう」という観点から家族写真を読む	定義することが難しい「家族」について、「住む」「くらす」という観点から把握することで、近代家族とは何かを問題意識として持つことが出来るようにする。	授業前に「家族」の定義を考えてくる。復習としてプリントを読んで理解する。	180分
第5回	変容する家族の形	社会システムの中で変容する家族の形を「三丁目の夕日」の映画表現を題材として理解する。	授業中に提起された課題を解く。	180分
第6回	家庭の文化を育む	家族はどのような過程を経て家族になるのか。家族構成員とコミュニティの関係に留意して考える。	授業内で提起された課題に対して調査し、その結果をまとめる。	180分
第7回	生活文化継承に見る家族とくらし	家族の文化はどのように伝承されてきたか。生活文化継承の観点から自身の家庭における生活文化継承の実態を把握し、未来に向けた生活文化継承の可能性について考察する。	授業内で提起された課題に対して調査し、その結果をまとめる。	180分
第8回	家庭生活の経済	日本の家庭経済の時代変化を産業構造や家族の変化と関連させながら概説する。具体例として女性農業者のエンパワメントにはどのような意義があるか。教科書pp・110～119を参考に検討する。	授業後、金融広報中央委員会「これであなたもひとり立ち」ワーク1～5のいずれかを使った家庭科授業のアイデアをレポートにする。	180分
第9回	経済生活設計と金融リテラシー	グローバル化・キャッシュレス化がすすみ経済格差が広がっている。18歳成年年齢引き下げのなか貧困の連鎖を防ぐ金融リテラシーを教科書pp67～74を参照し学びエンパワメントの方法を考える。	授業後、金融広報中央委員会「これであなたもひとり立ち」ワーク6～10のいずれかを使った家庭科授業のアイデアをレポートにする。	180分
第10回	地域と消費者市民社会	人生100年時代の自助・共助・公助を奥津軽の津軽鉄道を支える団体から学び、pp102～110を参照し1000年コミュニティをデザインによる公正で持続可能な消費者市民社会について考察する。	人生100年時代の自助・共助・公助を奥津軽の津軽鉄道を支える団体から学び、pp102～110を参照し1000年コミュニティをデザインによる公正で持続可能な消費者市民社会について考察する。	180分
第11回	家族・家庭と法律 婚姻・親権・相続等	相続や遺言に関する法律を知り、世代間の資産移転のみでなく、食と農をつなぎ、時代の文化をつなぐ活動をすすめる高齢者・女性農業者の事例を学ぶ。	自分のまわりにいる高齢者に話をきいて、もっとも印象にのこったことをレポートとして提出する。	180分
第12回	人生100年時代の家庭経営と生活設計	日本の各時代における家訓をもとに「決まり」「暗黙のルール」等は何のために作り出されたのか理解し、各自の家庭経営でどのようなルールがあるか調査を行う。	各自の家庭にある「決まり」「暗黙のルール」「年中行事」「人生儀礼」等について調査し、その内容を発表するためのプレゼンテーションを準備する。	180分
第13回	家訓報告	各自の家庭生活の家訓を確認し、今後家族経営協定を（親子・夫婦・疑似家族で）締結するならばどのような内容が適切か。発表し合い、意見交換するなかから、家庭経営に関する理解を深める。	各自が発表した内容・方法について吟味し、家族を巡る現状の把握と今後のくらし方について、自分の考えをまとめる。	180分
第14回	生活者の視点で100年コミュニティを考える	地域を選んで、少子高齢化が急速に進む日本社会で求められる100年コミュニティを考える。また家庭科教育と地域の関係を検討する。	自分にとっての少子高齢化社会における生き方を見つめる機会である。前回の授業と教科書で学んだことをもとにディスカッションをしてほしい。	180分
第15回	生活者と持続可能な社会	家族間の贈与共有と、経済社会での事業者消費者の関係性の違いを認識する。持続可能な開発や、生涯の人間発達とはどのような関係性のなかで可能になるかを考える。	第1回から第14回で提出した授業レポートを読み返し、最終レポートの構想をつくる。	180分

学習計画注記 講義形式を中心としますが、ワークショップも行います。

学生へのフィードバック方法 授業内で提出するレポート内容について、次週に受講者全員と情報を共有する。

評価方法 授業内レポートでは、授業の内容を理解し授業課題に対し関心を持って取り組んでいるかという観点を中心に評価する。期末試験では、知識・理解を確認する内容と、思考をまとめる最終レポートで構成される。期末試験で何を評価されるのか、理解し周到に準備しているかを評価する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業内レポート	○		○	

期末試験	○	○	○	○
評価割合	授業ごとに提出するレポート (50%) 期末試験・最終レポート (50%)			
使用教科書名 (ISBN番号)	『生活者の金融リテラシー』朝倉書店 2019年			
参考図書	現代社会の生活経営/御船美智子 上村協子 編著/光生館/2001 やさしい家政学原論/日本家政学会 家政学原論部会/建帛社/2018 新しい消費者教育/日本消費者教育学会関東支部 監修/慶応義塾大学出版会/2016 地域社会の創生と生活経済/生活経済学会 編/ミネルヴァ書房/2017 現代「生活者」論/天野正子/有志舎/2012			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。			
オフィスアワー	井上前期金曜日3限 (千代田三番町1807ゼミ室) 上村：前期：水曜日 4限 後期：火曜日 4限 アポイントを取り時間調整を行うこと。			
学生へのメッセージ	生活者としての視点から現代の家族問題や消費者の様相を相対化して考察できる基盤を培ってほしいと願います。 家庭科の教員になるための必修科目です。家庭科教育法をうける前に履修してください。消費者力検定やファイナンシャルプランナーの資格を取るなどチャレンジしていくための基礎的科目になります。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション等のワークショップを通して他者の考え・意見に触れ、自身の思考を錬磨する機会を持つ。		
情報リテラシー教育	○	口頭発表に際して効果的な資料作成を指導する。		
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	家政学概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 上村 協子	指定なし
准教授	竹中 真紀子	指定なし
助教	青柳 由佳	指定なし
助教	太田 茜	指定なし

ナンバリング	G12101021
授業概要(教育目的)	生きる力の基盤となる衣食住や家庭経済など、日常生活や地域の暮らしに必要な知識と技術を概説する。家族・消費生活、衣食住の生活改善の知識と技術を理解し、生活の質を高める方法を習得することを図る。家政の知と技が現代社会の中で、生活における人と人のかかわりあい、人と心のかかわりあい、人と物とのかかわりあい、人と事からのかかわりあいをどのように支えてきたのかを生活者の視点で詳説する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	安全で豊かな消費生活を送るための基本事項を、衣・食・住・消費経済・環境の各領域において修得する。
思考・判断の観点(K)	消費生活における様々な問題について適切に判断し、対処できる。
関心・意欲・態度の観点(V)	
技術・表現の観点(A)	

学習計画

家政学概論

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	全体の授業予定を確認し、各教員から担当授業の説明を行う。また、本授業と関連する「消費者力検定」の資格受験についても説明する。	教科書の目次構成等を見て、学びの概要をつかみ、興味を持った分野については中身を読んでおくこと。教科書が手元にない場合は、日本消費者協会のウェブサイトなどで消費者力検定について理解を深めておくこと。	180分
第2回	消費生活(1) 食	前年度の消費者力検定食生活分野の問題を中心に詳細な解説を行う。	前年度の消費者力検定食生活分野の問題に目を通しておくこ	180分

	生活		と。教科書の食生活分野の関連箇所をよく読んでおくこと。
第3回	消費生活 (2) 住生活	前年度の消費者力検定住生活分野の回答と解説を中心に詳細な解説を行う。	前年度の消費者力検定住生活分野の問題に目を通しておくこと。教科書の住生活分野の関連箇所をよく読んでおくこと。
第4回	消費生活 (3) 契約	前年度消費者力検定、契約分野の回答と解説を中心に、ワークブックを活用し詳細な解説を行う。	関連する新聞記事などを読み最新の動向を把握しておくこと。
第5回	消費生活 (4) サービス、生活設計	前年度消費者力検定、サービス・生活と家計管理の回答と解説を中心に、ワークブックを活用し詳細な解説を行う。	前年度の消費者力検定サービス・生活と家計管理分野の問題に目を通しておくこと。関連する新聞記事などを読み最新の動向を把握しておくこと。
第6回	6. 消費生活 (5) 衣生活	前年度の消費者力検定衣生活分野の問題、ワークブックの衣生活分野の問題を中心に詳細な解説を行う。	前年度の消費者力検定衣生活分野の問題に目を通しておくこと。教科書の衣生活分野の関連箇所をよく読んでおくこと。
第7回	7. 消費生活 (6) 環境	前年度の消費者力検定環境分野の回答と解説を中心に詳細な解説を行う。	前年度の消費者力検定環境分野の問題に目を通しておくこと。教科書の環境分野の関連箇所をよく読んでおくこと。
第8回	小テスト	1～7回目の授業に関わる小テストを行い、テスト後に各教員から解説を行う。	テストに向けて準備しておくこと。
第9回	家庭経済	家政学の体系を概説し、家族生活設計分野の問題から特に重要な人生100年時代の生活設計・相続・遺言を取り上げ、身近なケースから関連分野の学びを深める。	当年度の消費者力検定の問題に目を通し、少子高齢社会に関わる家庭経済分野の問題に目を通しておくこと。
第10回	住生活	当年度の消費者力検定の住生活分野の問題から特に重要なものを取り上げ、詳細な解説を行うとともに、関連分野の学びを深める。	教科書の住生活の分野をよく読んでおくこと。
第11回	食生活 (1)	当年度の消費者力検定の食生活分野の問題から特に重要なものを取り上げ、詳細な解説を行うとともに、関連分野の学びを深める。	教科書の食生活の分野をよく読んでおくこと。
第12回	食生活 (2)	現代の食生活と消費者について学ぶ。特に、食の安全にかかわる問題や、それに対する国の対策、消費者としてそれらの問題をどのようにとらえればよいのかについて学ぶ。	教科書の食生活の分野をよく読んでおくこと。
第13回	衣生活 (1)	現代の衣生活における衣服のライフストーリーを理解するとともに、衣生活の循環型社会について学び、関連する諸問題について考察を深める。	教科書の衣生活の分野をよく読んでおくこと。
第14回	衣生活 (2)	現代の衣生活における衣服のライフストーリーを理解するとともに、衣生活の循環型社会について学び、関連する諸問題について考察を深める。	教科書の衣生活の分野をよく読んでおくこと。
第15回	まとめ	各教員から、9～14回目までの授業の振り返りと試験に関する連絡を行う。	9～14回目までの内容をよく復習し、定期試験に向けて準備を行うこと。

学生へのフィードバック方法	小テストの結果は、当日自己採点により確認する予定です。 質問等がある場合は、担当教員のオフィスアワー等を確認してお尋ねください。
---------------	---

評価方法	小テストは、消費者力検定の過去問から出題する。 定期試験は、各教員からそれぞれの担当分野に関して出題する。定期試験に関する連絡は最終授業時に行う。
------	--

評価基準	
------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○			
定期試験	○	○		

評価割合	平常点（授業への参加状況、討論への参加等）：20%、小テスト・定期試験：80%
------	---

使用教科書名 (ISBN番号)	「～消費者力検定テキスト～ やさしく学べる消費生活」 一般財団法人日本消費者協会編 (978-4-930898-46-
-----------------	---

3)

参考図書	消費者力検定 ワークブック2018 (978-4-930898-45-6)
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
オフィスアワー	各教員のゼミ室（研究室）前の掲示を確認してください。
学生へのメッセージ	本授業は、「消費者力検定」や「消費生活アドバイザー」、「お客様対応専門員」などの資格と関わっています。これらの資格試験にも挑戦してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	家族関係論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 林 葉子	指定なし

ナンバリング	G12207C21
授業概要(教育目的)	家族関係はさまざまな人間関係の中でもっとも身近な人間関係であり、誰もがその経験から家族についてのイメージをいただいている。今日、家族はかつてない激しい社会変動の中でかたちも機能も多様化し、さまざまな問題をかかえている。家族関係の基礎理論や家族の心理を学び、諸問題への対応について考察する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分自身の家族について内省できる。 2. 自分とは違ったタイプの家族を理解することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族に関する問題について関心を持ち、家族に関するニュースや小説などを読む 2. 分からなかったことを質問する 3. レジュメ、レポートなどを期日を守って提出する
技術・表現の観点 (A)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書のレジュメを的確に作成することができる 2. 自分の意見を持ち、それを記述することができる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	家族関係論を学ぶ意義、レジュメの作成方法の説明	自分の家族について考え、なぜ、家族関係学を学ぶのかを内省する。レジュメの作成方法を理解する。	予習：教科書を授業開始までに購入する。自分にとって家族とは何かを考えてくる。	30分程度
第2回	家族とは何か	家族をどうとらえるかを、家族社会学的、文化的に理解する	予習：教科書 【1家族とは】 「1. 家族をどうとらえるか」(2～8ページ)を読んで、レジュメを作成すること。レジュメの最後に、1. に関する質問事項を少なくとも一つ記述すること。1に関する感想も10行以内でまとめること。	120分

第3回	家族の類型と分類	様々な社会調査や研究における家族に用いられる基本的な形とその分類を理解する	予習：教科書【I家族とは】「2. 家族分析の手がかりー類型と分類^」(9~18ページ)を読んで、レジュメをA42枚程度に作成すること。レジュメの最後に、2.に関する質問事項を少なくとも一つ記述すること。2.に関する感想も10行以内でまとめること。	120分
第4回	家族形態の変遷	家族は歴史的背景や社会環境によって変化する存在であることを近代家族までの歴史的背景や諸外国との比較から理解する	予習：教科書【VII 家族の変動】「15. 家族形態の変化」(158~168ページ)を読んで、レジュメをA42枚程度に作成すること。レジュメの最後に、15.に関する質問事項を少なくとも一つ記述すること。15.に関する感想を10行以内でまとめること。	120分
第5回	結婚への道	青年期の異性交際発達、機能や実態、配偶者を選択するメカニズムについて理解する	予習：教科書【II 結婚への道】「3. 青年期の異性交際」(19~30ページ)「4. 配偶者の選択」(31~42ページ)を読んで、それぞれA42枚程度のレジュメを作成すること。それぞれのレジュメの最後に、3. 4.に関する質問事項を一つ以上、感想を10行以内で記述すること。	120分
第6回	結婚と離婚	ある一つの家族の始まりである結婚とは何かを考え、その分類、機能、我が国の結婚の状況などを理解する。また、離婚とはどういうことなのか、離婚に対する社会の対応、日本における離婚の動向、社会的背景、離婚の要因、その後の再婚の状況を知ることで、家族を理解する	予習：教科書【III 結婚と離婚】「5. 結婚の意味と機能」(44~53ページ)「6. 離婚、その後」(54~64ページ)を読んで、それぞれA42枚程度のレジュメを作成すること。それぞれのレジュメの最後に、5. 6.に関する質問事項を一つ以上、感想を10行以内で記述すること。	120分
第7回	人の一生と家族の危機	家族を夫婦の結婚から時間的な展開のなかでとらえるライフサイクル、ライフコースの視点を理解し、ライフサイクルの変化、ライフコースとは何か、ライフコースの変化、ライフコースにおける家族の危機とは何か、家族危機に対する基本的な考え方、対処方法を理解する。	予習：教科書【IV 人の一生と家族の危機】「7. ライフサイクル」(65~77ページ)「8. 家族の危機」(78~88ページ)を読んで、それぞれA42枚程度のレジュメを作成すること。それぞれのレジュメの最後に、7. 8.に関する質問事項を一つ以上、感想を10行以内で記述すること。	120分
第8回	マタニティーハラスメント	マタニティーハラスメント(以下、マタハラ)に関するビデオ(NHK スペシャル)を視聴し、マタハラとは何か、マタハラが起こる要因、対策方法を理解する。	復習：リアクションペーパー(レポート)を完成させる。	120分
第9回	家族の内部構造	家族の役割構造、勢力構造に関する基本的知識を学び、役割構造や勢力構造の現代的变化を理解する。	予習：教科書【V 家族の内部構造】「9. 家族の役割構造」(89~100ページ)「10. 家族の勢力構造」(101~111ページ)を読んで、それぞれA42枚程度のレジュメを作成すること。それぞれのレジュメの最後に、9. 10.に関する質問事項を一つ以上、感想を10行以内で記述すること	120分
第10回	家族の情緒構造と家族機能とその変化	家族の情緒機能とは何かを学び、情緒機能を円滑に実行するために必要な事柄に関して理解する。	予習：教科書【V 家族の内部構造】「11. 家族の情緒構造」(112~122ページ)【VI. 家族機能と社会的支援】「12. 子どもの養育と社会化」(123~135ページ)を読んで、それぞれA42枚程度のレジュメを作成すること。それぞれのレジュメの最後に、11. 12.に関する質問事項を一つ以上、感想を10行以内で記述すること。	120分
第11回	老親扶養	高齢者を理解し、老親を扶養することに関する知識を学び、こうれ老年期の家族の動向や現状を理解する。	予習：教科書【VI. 家族機能と社会的支援】「13. 老親扶	90分

			養」(136~147ページ)を読んで、A42枚程度のレジュメを作成すること。レジュメの最後に、13.に関する質問事項を一つ以上、感想を10行以内で記述すること。	
第12回	親を介護すること	老親を介護する青少年に関するビデオ(NHK スペシャル)を視聴し、老親を介護する青年の実態、対策方法を理解する。	復習:リアクションペーパー(レポート)を完成させる。	90分
第13回	家族の社会的ネットワーク	社会的ネットワークとは何か、家族と社会機関との関係、ネットワークとしての家族の役割に関する知識を理解し、どこまでが家族の責任かについて考察する。そのうえで、家族の孤立に関するDVD(NHK クローズアップ現代)を視聴し、リアクションペーパーを作成する	予習:教科書【VI. 家族機能と社会的支援】「14. 老親扶養」(148~156ページ)を読んで、A42枚程度のレジュメを作成すること。レジュメの最後に、14.に関する質問事項を一つ以上、感想を10行以内で記述すること。 復習:リアクションペーパー(レポート)を完成させる。	120分
第14回	家族のゆくえ	過去における未来の家族に関する論調を学び、家族の未来はどのようになるか、その可能性を理解し、現代の家族を再考する。	予習:教科書【VII. 家族の変動】「17. 家族のゆくえ」(179~186ページ)を読んで、A42枚程度のレジュメを作成すること。レジュメの最後に、17.に関する質問事項を一つ以上、感想を10行以内で記述すること。	90分
第15回	まとめのテスト	第1回~14回までの学びを振り返り、理解度を確認する	予習:すべてのレジュメ(または教科書)、小テストがあることを確認し、読んでくこと教室外学習の時間(分)120分	120分

学習計画注記 *履修者集や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります

学生へのフィードバック方法 実施した小テストは、採点して、次週に模範解答を提示する。
質問があった場合にはメールで受け付ける。

評価方法

- ・毎回、教科書の指定された箇所を読み、レジュメを作成し提出する。レジュメは授業当日の授業前に提出したものを満点とし、授業後の提出(当日、後日も含む)は減点されるので注意すること。
- ・リアクションペーパーの課題に回答する。リアクションペーパーは授業当日の提出のみ評価するので注意すること。後日の提出は受け付けない。
- ・小テストは次週の授業の最初10分に毎時間実施する。小テストは再試験を行わないので注意すること。
- ・小テストは、教科書、レジュメ、メモ等の持ち込みは可とする。小テストは10回分を満点とする(毎回5問、点数の高い10回分を評価に使用・欠席者は理由の如何に関わらず0点とする)
- ・期末テストは教科書、小テスト、リアクションペーパーから出題する。穴埋め式、○×問題、記述問題によって理解度を確認する。
- ・期末テストは教科書、メモ、レジュメ、小テストの模範解答用紙の持ち込みは可とする。
- ・レジュメ作成、小テスト、リアクションペーパー、期末テストは、下記に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レジュメ作成			○	○
リアクションペーパー	○	○	○	
小テスト	○			
期末テスト	○			

評価割合

レジュメ作成: 20%
リアクションペーパー: 20%
小テスト: 10%
期末テスト: 50%

使用教科書名 (ISBN番号) 森岡清美、望月嵩共著『新しい家族社会学』培風館 最新版

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」「家族」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる
【思考・判断】生活・家族・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の家族・諸問題について関心を持ち続けることができる
【技術・表現】生活者の問題に寄り添えるコミュニケーションができる・次世代につながる健やかで心豊かな家

	族・生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる
オフィスパワー	なし 但：メールで質問、要望、意見を受け付ける
学生へのメッセージ	家族のことを勉強するという事は、自分自身の家族を見直すこととなります。自分のルーツを知ることにもなり、大人への第一歩にもなります。毎回の小論文の課題に答えることが、気恥ずかしかったり、嫌だったりすることもあるかもしれませんが、自分自身を見つめなおす機会にしてください。家族に関する小説や映画は、たくさんあります。いろいろな家族を知り、自分の家族とも話し合ってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員が体験してきた家族のことを含めて、見聞きしてきた実在する生活を例に挙げて説明することができ、産業カウンセラー、保育士の仕事を通して、現代の家族問題を把握し、その観点から「家族」について教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	ワードでの作成、ネットでの事項検索方法など、報告書、論文執筆の経験を生かして説明し、ICTを上手に活用できる準備の機会を提供している。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	家庭看護		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	1 限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 石井 紀子	指定なし

ナンバリング	G22202021
授業概要(教育目的)	家庭看護の対象は、人間とその生活全般である。したがって、生活体としての人間とかがわるためには、精神・身体・社会生活等広範囲な側面を基盤とした総合的な視点が必要である。本講義では、日常にかかりやすい病気や生活習慣病を取り上げ、家庭看護に必要な知識や技術を学習し実践するための基礎を学ぶと同時に、福祉的視点からの生活支援についても学ぶ。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

観点	目標
知識・理解の観点 (K)	1. 健康とは何かを、ライフサイクルをふまえて説明できるようになる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 健康増進方法や、日常生活における看護方法に興味を持ち、新たな発見ができるようになる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(7ティグラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション 健康の定義	授業をどのように進めていくのか、また、学習方法について理解する。 様々な健康の定義について確認し、健康とは何か自分の考えを明らかにする。 調べてきたことを、グループで情報交換する。	【予習】 ・教科書「はじめに」、第1章(2ページ～6ページ)を読む。 ・健康の定義を、2種類以上調べる。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	予習・復習 各90分
第2回	からだやこころのしくみを知る	自分のからだやこころのしくみを理解し、健康を保つためにできることを明確にする。 調べてきたことを、グループで情報交換する。	【予習】 ・人間の体の中(臓器など)が、どのように配置されているのか、また、それらの働きについて、調べる。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	予習・復習 各90分
第3回	女性の健康 母子保健と看護	女性のからだやこころのしくみを理解し、生活の中でどのような配慮を行う必要があるのか、明確にする。また、実践できることを知る。	【予習】 授業2回目で学んだことを基本とし、女性のからだやこころの	予習・復習 各90分

		調べてきたことを、グループで情報交換する。 調べてきたことを、グループで情報交換する。	特徴を調べる。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	
第4回	家庭看護の実際 ① 【家庭看護の技術】	正確な、バイタルサイン測定の実践を行う。 バイタルサインの正常値を理解し、正常値からはずれた場合の原因を検討する。	【予習】 ・教科書第2章①(8ページ~14ページ)を読み、バイタルサインの測定方法や正常値を確認する。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	予習・復習 各90分
第5回	家庭看護の実際 ② 【日常生活における看護】 ボディメカニクスと安楽な姿勢	ボディメカニクスとは何か、実践を通して理解する。 安楽な姿勢を保つための工夫を知る。	【予習】 ・教科書第2章②の(15ページ~16ページ)を読み、ボディメカニクスや姿勢(体位)について調べる。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	予習・復習 各90分
第6回	家庭看護の実際 ② 【日常生活における看護】 栄養と食事	健康を維持するための食事と、疾患を抱えた際の食事について、健康増進・看護の観点から理解する。	【予習】 ・教科書第2章②の(16ページ~19ページ)を読み、栄養素、病院食の内容について調べる。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	予習・復習 各90分
第7回	家庭看護の実際 ② 【日常生活における看護】 寝衣交換、清潔保持	衣服の交換や、清潔を保持する理由を理解する。 衣服の交換方法や、清潔を保持する支援方法を実践できる。	【予習】 ・教科書第2章②の(19ページ~23ページ)を読み、衣服を交換、清潔にする目的をまとめる。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	予習・復習 各90分
第8回	家庭看護の実際 ② 【日常生活における看護】 排泄や睡眠のしくみ	【小テスト実施】 排泄や睡眠のしくみを理解し、リズムが乱れた際の対処方法を考えることができる。	【予習】 ・教科書第2章②の(23ページ~26ページ)を読み、排泄や睡眠のしくみをまとめる。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	予習・復習 各90分
第9回	家庭看護の実際 ② 【日常生活における看護】 電法・消毒・服薬	【小テストの返却および解説】 電法・消毒・服薬準備を実践を通して、家庭で行える支援や、対処方法の判断ができる。	【予習】 ・教科書第2章②の(26ページ~32ページ)を読み、電法・消毒・服薬の種類と方法をまとめる。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	予習・復習 各90分
第10回	家族が不調を訴えたときの看護 ①体調の不良	体調不良に対して、原因や症状の判断や、対処方法の検討、医療機関への受診など適切な対応ができるよう、理解を深める。	【予習】 ・教科書第3章①(34ページ~55ページ)を読み、症状別の原因や対処方法をまとめる。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	予習・復習 各90分
第11回	家族が不調を訴えたときの看護 ②体調以外の不調	体調以外の不調に対して、ライフサイクルをふまえた原因や症状の判断、対処方法の検討、医療機関への受診など適切な対応ができるよう、理解を深める。	【予習】 ・教科書第3章②(56ページ~61ページ)を読み、症状別の原因や対処方法をまとめる。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	予習・復習 各90分
第12回	救急対応を要する症状と徴候、処置方法	包帯法や移送法など、実践を通して、対処方法の理解を深め、技術を習得する。	【予習】 ・教科書第4章(64ページ~105ページ)を読み、救急対応方法をまとめる。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	予習・復習 各90分
第13回	小児期に多い疾患	小児期の特徴をふまえて、それぞれの疾患や症状の対処方法を理解する。	【予習】 ・教科書第5章①(108ページ~120ページ)を読み、小児の特徴をふまえて、疾患や症状をまとめる。	予習・復習 各90分

			【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	
第14回	成人期に多い疾患	成人期の特徴をふまえて、それぞれの疾患や症状の対処方法を理解する。	【予習】 ・教科書第5章②(121ページ～132ページ)を読み、疾患や症状をまとめる。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	予習・復習 各90分
第15回	精神疾患、がん、看取り	【レポート提出】 様々な疾患や状況をふまえて、対処方法を理解する。	【予習】 ・教科書第5章③④⑤(133ページ～144ページ)を読み、それぞれの特徴をふまえて、疾患や症状をまとめる。 【復習】 ・授業目標に沿って、まとめる。	予習・復習 各90分

学生へのフィードバック方法	実施した小テストは、返却し解説を行う。 授業の始めに本日の学習目標を示し、復習と含めて、目標が達成できているか、確認しながら授業を進める。
---------------	--

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストは、授業内容の理解を確認するために行う。そのため数回おきに、3回実施する。(各10点×3回=30点)小テストの範囲については、授業内で、その都度説明を行う。各小テストの問題数は10問、選択肢式・埋め式・記述式で問う内容である。なお、小テスト実施時の授業を欠席した場合、再試験は行わないことを了承願いたい。(小テスト問題は、解説時に配布する。) ・定期試験は70点満点で出題し、小テストの振り返りや、授業内で自分の言葉で説明できるようにという部分は、記述できるようにすること。 詳細については、授業内で説明する。 ・小テストおよび定期試験は、下表に示す力を養うことを目的としている。
------	--

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○		○	
レポート	○		○	
定期試験	○		○	

評価割合	小テスト(15%)、レポート(15%)および定期試験(70%)で評価する。
------	---------------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	暮らしの看護 萱場一則 建帛社 (978-4-7679-1852-5)
-----------------	-------------------------------------

参考図書	なし
------	----

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる 【関心・意欲・態度】 生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる
---------------	--

オフィスアワー	授業の前後(質問などは、積極的に行ってください。)
---------	---------------------------

学生へのメッセージ	家庭でできることは多くあり、日々の生活を通して健康増進や体調不良時の対処方法など、自信を持って行えるようになることを期待しています。一緒に学びを深めていきましょう。
-----------	--

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	看護師としての実務経験を生かし、分かりやすく「からだやこころのしくみ」を説明します。また、一工夫でできる専門的な対処方法を伝授いたします。
アクティブ・ラーニング	○	予習を活用した、グループワークやディスカッションを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	消費者情報論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小野 由美子	指定なし

ナンバリング	G12303C21
授業概要(教育目的)	著しい変化をみせる社会において、一人の消費者・生活者として、自らの生活をどう守り、いかに創造していくかについて、消費者をめぐる情報の観点から検討する。消費生活に関する情報には表示や広告など、企業や行政、消費者団体などから提供・発信される情報がある。これらの消費者情報は消費者にもたらされるだけでなく、消費者から提供・発信することも重要である。具体的な消費者問題を取り上げながら、情報の収集と整理、内容の分析と評価、情報発信などを消費者の視点から学ぶ。
履修条件	特になし 本科目は千代田区コンソーシアムの単位互換科目となっており、他大学の学生（男子学生を含む）が同時に履修する可能性があります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	消費者情報に関わる専門的知識を持つことができる。
思考・判断の観点 (K)	消費者情報について多面的に考える姿勢を身に付けられる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自ら取り組む学習態度を身に付けられる。
技術・表現の観点 (A)	自らの考えをまとめ、人に伝える技術力を身に付けられる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。	消費者情報についてどのような素材・教材があるか調べる。	120分
第2回	消費者情報とは何か	企業、行政、消費者のそれぞれの立場からみた場合の消費者情報について理解する。	今日の消費者が企業と行政から提供される消費者情報の種類・方法を調べる。	120分
第3回	消費者教育をめぐる動向	学校教育と社会人教育における消費者教育を学習する。	学修者が受けてきた学校教育における消費者教育の実例について整理する。	120分
第4回	企業と消費者教育	企業が実施する消費者教育のメリットとデメリットについて理解する。	企業が提供している消費者教育の素材を調べる。	120分

第5回	企業における消費者情報	消費者信用に関わる情報の内容と、消費者と事業者双方のメリットとデメリットを理解する。	消費者信用情報機関について調べる。	120分
第6回	行政における消費者情報①	国や自治体が発行している消費者教育やその素材について現状と課題を理解する。	国や自治体が発行している消費者教育やその素材を調べる。	120分
第7回	行政における消費者情報②	消費生活相談情報のとりまとめや活用のされ方について理解する。	消費生活相談情報の公表内容を調べる。	120分
第8回	行政における消費者情報③	消費者庁などが公表している消費者事故情報を理解する。	公表されている消費者事故情報を調べる。	120分
第9回	メディアリテラシーとは何か	メディアリテラシーの重要性について理解する。	メディアリテラシーに関わる教材を調べる。	120分
第10回	生活と宣伝・広告、チラシ広告の検討	消費生活に関わる広告の種類や問題を理解する。	誇大広告など問題のある宣伝内容を調べる。	120分
第11回	消費者マーク	消費生活に関わる記号・絵表示・絵文字を理解する。	消費生活に関わる記号・絵表示・絵文字を理解する。	120分
第12回	消費者情報の収集と整理	新聞記事の活用方法について理解する。	1日分の新聞をページやレイアウトに着目して内容を確認する。	120分
第13回	消費者情報に関わる統計の分析と評価	消費者庁や総務庁の政府統計を手掛かりにして、私たちの生活の現状と課題を理解する。	総務庁統計局の家計調査を調べる。	120分
第14回	消費者情報をめぐる取り組み	消費者の様々なニーズを活用するための取り組みを理解する。	行政のパブリックコメント制度（意見公募手続制度）のしくみについて調べる。	120分
第15回	まとめ	消費者情報とは何かについて、授業を通して得られた知識や技術を整理する。	授業を通して消費行動の変容の有無や、その内容について学修者で話し合う。	120分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法 授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法

- ・定期試験は60点満点で出題し、テキストや授業で配布した資料から出題する。
- ・定期試験・提出物は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
提出物			○	○
定期試験	○	○		

評価割合 提出物（60%）、定期試験（40%）などを総合的に評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) 国民生活センター編『くらしの豆知識（2020年版）』2019年（9784906051946）

ディプロマポリシーとの関連

- 【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
- 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
- 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。
- 【技術・表現】心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。

オフィスアワー 【後期】水曜日 1701ゼミ室 10:40~12:50

学生へのメッセージ 関連するweb教材やDVDなどを講義で紹介しますので、各自でも適宜、検索・活用してください。

教育等の取り組み状況

	該当有無	概要
--	------	----

実務経験を活かした授業	○	担当教員は、消費生活の研究に関する実務経験を有しており、関連する法律と行政における運用のあり方については消費者と行政の双方の立場から現状と課題について検討する機会を提供している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	メディアリテラシーについて学ぶ機会を設け、情報モラルに関する知識と技術の向上に努めている。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	消費経済論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 金森 敏	指定なし

ナンバリング	G22305C21
授業概要(教育目的)	消費経済について、消費者の視点を中心に授業を行う。主に、①個人消費者へのマーケティング、②個人としての消費者、③社会的存在としての消費者の3点から消費経済を学ぶ。①個人消費者へのマーケティングでは企業経営、②個人としての消費者では人間の心理・認知行動、③社会的存在としての消費者では集団心理などが関係する。これら3点から消費経済をダイナミックに見ていく。なお本授業では、グループワークを中心に授業を行うので、受講者数の上限を設ける。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	消費経済としての、消費者行動の全体像を把握することができる。
思考・判断の観点 (K)	消費者としての自身の行動について、理論を用いて他者に説明することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	講義全体の概要	3つの消費者行動を知る。	シラバスによく目をとおしておくこと。	180分
第2回	説得的コミュニケーションとは	消費者に品物やサービスを買ってもらうためのコミュニケーションを知る。	5つの説得される消費者心理を復習しておくこと。	180分
第3回	セグメンテーション	なぜ人の好みは違うのかを考える。	セグメンテーションについて復習しておくこと。	180分
第4回	店頭マーケティング	売れるお店はどうやって作るのかを考える。	課題①食品スーパーなどの売り上げをあげるために、インスタア・マーチャンダイジングを考える。	180分
第5回	学習とは何か	学習とは、経験によって引き起こされる行動の永続的変化であり、購買の視点から学習を考える。	学習メカニズムについて復習しておくこと。	180分
第6回	記憶	購買の視点から学習を考える。	購買の記憶について復習しておくこと。	180分

			くこと。なお、2回目の課題あり。	
第7回	課題の解説	課題の解説を行う。	課題について復習をしておくこと。	180分
第8回	意思決定	「意思決定者としての消費者」の観点から、消費者がどのように消費について意思決定しているのかを考える。	日経MJを題材とした3回目の課題あり。	180分
第9回	中間振り返り	これまでのキーワードなどを授業において復習する。	レポート作成について4回目の課題あり。	180分
第10回	レポート作成について	レポート作成について解説を行う。	レポート作成について復習をしておくこと。	180分
第11回	消費で自己表現をしている	消費とは生きるために必要なものを得るだけではない。消費とは自己の存在と深くかかわっている。	消費から自己を考え復習しておくこと。	180分
第12回	文化について	消費としての文化を考える。消費は単なる買い物ではなく、その人らしさを表現するものでもある	消費と文化を復習しておくこと。日経MJを用いた5回目の課題あり。	180分
第13回	集団について（なぜ友人同士の服装は似てしまうのか？）	友人などの周囲の人々が消費者の好みに及ぼす影響（意識的・無意識的を含めて）を考える。	自身の消費について影響する人を考えておくこと。	180分
第14回	家族の買い物は誰が決めているのか	①家族の購買意思決定のあり方、②消費者としての子供の社会化について考える。	家族としての購買意思決定について復習しておくこと。	180分
第15回	総復習	これまで授業で取り扱ったキーワードを整理する。	予習として、これまで授業で取り扱ったキーワードを整理しておくこと。	180分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールや授業内容が変更される場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業にて解説を行います。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題は4回～5回出題します。A4で1枚～2枚程度です。 ・レポートは4000字程度、A4で3枚～4枚程度です。レポートとして、レポートの形になっているか、引用文献、参考文献、文章表現などができているかが大事です。授業において、レポートの書き方、また、質問などを受け付けます。 ・課題、レポートは下表に示す力を養うことを目的に実施します。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題	○			
レポート	○	○		

評価割合	レポート (60%) 宿題4～5回 (40%)
使用教科書名 (ISBN番号)	なし。必要な資料はプリントで配布します。
参考図書	松井剛・西川英彦、『1からの消費者行動』、碩学会、2016年。
ディプロマポリシーとの関連	生活・社会の諸問題を自ら発見し分析することができる。
オフィスアワー	前期火曜日4限、後期金曜日3限。 ただし、事前にアポをとってこること。
学生へのメッセージ	課題が多いので覚悟をもって受講すること。また、受講者には75m×75mのポストイット（1束100円程度）を購入してもらう。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、ディスカッション等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	レポートの書き方等の教育内容を含む。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	児童学概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 坪井 瞳	指定なし

ナンバリング	G12213021
授業概要(教育目的)	子どもを総合的に捉える視点として、関係する各領域(心理・保育・教育・保健・社会・文化・環境・福祉等)を概観しながら、子どもを取り巻く基礎的課題(子ども観、現代社会における子どもの問題、子どもの発達、子どもと環境、子どもと教育・保育等)に対する理解を進める。現実の生活や社会における子どもという存在、子ども問題へのアプローチについて実践的な視点からも検討していく。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	「子ども」という存在を歴史的・社会的・教育的など多角的な視点から捉えることができる。また、児童学における基礎的課題を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	上記の知識・理解の観点を踏まえた上で、子どもを取り巻く現代的課題について総合的に考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	授業内容を踏まえた上で、自らの経験、社会的状況など、子どもにかかわる情報を自ら関心を持って調べ、総合的な考察をする上での知見を獲得しようとするすることができる。
技術・表現の観点 (A)	獲得した知見を基に行った考察を適切にレポート等に表すことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	学問としての「子ども」：児童学とは	子どもを総合的に捉える視点として、関係する各領域(心理・保育・教育・保健・社会・文化・環境・福祉等)の連関性について学ぶ	【予習】シラバスを読み、今後の授業概要について確認しておくこと 【復習】配布資料を読み、授業内容の理解を深めておくこと	各90分
第2回	子どもとは何か：子ども観の歴史の変遷	・江戸時代～現代における、社会における子どもの位相について学ぶ ・子どもと「家庭」の関係性、その歴史の変遷と社会的背景について学ぶ ・「教育される子ども」の歴史の変遷と社会的背景について学ぶ	【予習】子ども関連法令における年齢区分の差異について調べておく 【復習】「愛される存在」としての子どもの歴史的位相についてまとめる	各90分
第3回	乳児期の発達の様相	・誕生から1歳までの発達の様相について学ぶ ・原始反射とその意義について学ぶ	【予習】発達に関する配布資料を読んでおくこと 【復習】原始反射の種類とその	各90分

			意義について復習をしておくこと	
第4回	愛着形成の意義	・愛着形成の発達の様相とその意義について学ぶ ・「母性」なるものの歴史の変遷について学ぶ	【予習】配布資料を読み、愛着形成の概要の基礎について確認をしておくこと 【復習】子どもにとっての養育者の意義、現代の多様な家庭環境における養育者の意義についてまとめておく	各90分
第5回	子どもの安全・保健	・乳幼児期に起きやすい事故、病気などの概要について学ぶ	【予習】乳幼児期の死因・事故種別の順位について調べておく 【復習】事故防止や関連する制度等について復習しておくこと	各90分
第6回	児童虐待の実態	・児童虐待の歴史の変遷・社会的背景について学ぶ ・児童虐待の種類について学ぶ ・具体的な事例から、そのメカニズムについて学ぶ	【予習】児童虐待に関連する報道等から、その実態について調べておく 【復習】虐待者の虐待に至る心理的・社会的背景についてまとめておく	各90分
第7回	児童虐待防止のための方策	・園・学校における児童虐待防止のための対策について、事例を通して検討する ・児童相談所の役割や意義について学ぶ ・発見～対応（学校内・他機関との連携・地域等）の具体的方法について学ぶ	【予習】「児童虐待の防止等に関する法律」における園・学校の役割について確認しておくこと 【復習】多機関との連携における各機関の主な役割・意義について確認をしておく	各90分
第8回	日本の保育制度	・日本の保育制度の歴史の変遷と現代の状況・課題について学ぶ ・保育所保育指針・幼稚園教育要領の意義について学ぶ	【予習】保育所・幼稚園・認定こども園の特徴について調べておく 【復習】保育制度の現代的課題についてまとめておく	各90分
第9回	幼児期の発達の様相	・幼児期の発達の姿について学ぶ ・保育所・幼稚園等の子ども集団の中で「関わり合って育つ」ことの意義について学ぶ	【予習】配布資料を読み、幼児期の発達の概要について確認をしておく 【復習】子どもにとっての子ども集団の意義についてまとめておく	各90分
第10回	子どもの育ちと「遊び」の意義	・「遊び」を通して学ぶ・育つことの意義について学ぶ ・子どもの主体的な「遊び」を保障するための環境・保育者の配慮について学ぶ	【予習】配布資料から「遊び」の意義について確認しておく 【復習】保育における計画・保育者の専門性の重要性についてまとめておく	各90分
第11回	子どもと社会的養護	・社会的養護が必要とされる社会的背景について学ぶ ・社会的養護の意義とその種類について学ぶ ・社会的養護を受ける子どもの実態について学ぶ	【予習】社会的養護についてインターネット等で調べておく 【復習】現代的な家族・子どもの問題と社会的養護との関連性についてまとめておく	各90分
第12回	特別支援教育	・特別支援教育の歴史とその意義について学ぶ ・特別支援教育の種類やその実態について学ぶ	【予習】特別支援教育の基礎的な内容について確認をしておく 【復習】「特別な支援とは何か」ということについて自らの意見をまとめておく	各90分
第13回	少年非行と保護	・少年非行の諸問題とそのメカニズムについて学ぶ ・保護の制度やその意義について学ぶ ・少年非行における児童相談所・家庭裁判所、保護司など関連する機関や役割について学ぶ	【予習】少年犯罪の件数の歴史の変遷について調べておくこと 【復習】保護・教育を行う機関や役割についてまとめておくこと	各90分
第14回	子育て・家庭支援	・生涯発達の視点を踏まえた上での、子どもと家庭の支援の在り方とその意義について学ぶ ・子どもと家庭支援のための具体的な制度や方法について学ぶ ・園・学校での子どもと家庭支援の方法について学ぶ	【予習】子育て・家庭支援が必要となる社会的背景について確認しておく 【復習】園・学校で必要とされる支援について具体的に説明ができるようまとめておく	各90分
第15回	すべての子どもの最善の利益： 「子どもの権利に関する条約」	・これまでの授業内容を概観し、現代の子どもの位相やその課題について改めて確認する ・「子どもの権利に関する条約」の概要について学ぶ ・子どもの最善の利益を保証するために、園・学校・地域が行うべきことについて学ぶ	【予習】「子どもの権利に関する条約」に目を通しておく 【復習】全15回の授業を振り返り、自らが関心を持ったテーマについてレポートを執筆すること	各90分

学生へのフィードバック方法 提出されコメントペーパーなどについては、翌週以降授業内にてフィードバックを行う

評価方法	課題レポートについては本授業で取り扱った内容の中から自身の課題設定を行い、論じること。詳細については、授業内で提示する。				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	提出物	○	○	○	○
	課題レポート	○	○	○	○
評価割合	平常点・提出物 (40%)、課題レポート (60%)				
使用教科書名 (ISBN番号)	講義時にレジメやプリントを随時配布する				
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる</p> <p>【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる</p> <p>【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる</p> <p>【技能・表現】生活者の問題に寄り添えるコミュニケーションができる・次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる</p>				
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・講義実施中の半期間、子どもや教育に関する関心のあるニュースについて、各自関心を高めておくこと ・講義の復習をしておくこと <p>期末レポート課題は、上記2点を掛け合わせた内容になる予定です</p>				
教育等の取組み状況	教育等の取組み状況				
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	幼稚園教諭、都内子ども家庭支援センターでの勤務経験、現在も継続的に行っている巡回保育相談での経験を生かし、事例紹介や保育の現場における実態について具体的に紹介する。			
アクティブ・ラーニング	○	各回においてディスカッションを取り入れ、受講生が主体的に参加できるような授業を行う。			
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	保育学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 坪井 瞳	指定なし

ナンバリング	G32215C21
授業概要(教育目的)	乳幼児期の保育や教育は、生涯にわたる人間形成の基礎を培う重要なものである。子どもとの信頼関係を築き、子どもが身近な環境に主体的に関わり、環境との関わり方や意味に気付き、これらを取り込もうとして試行錯誤したり、考えたりするようになることを大切にする乳幼児期の教育や保育における見方・考え方について学んでいく。 また、子どもを取り巻く社会（家庭、社会など）と乳幼児期の教育・保育との関連についても考察が深められるよう検討を行う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	乳幼児期の教育や保育の意義や重要性を理解し、説明することができる 乳幼児期の教育や保育の実践の実際を理解し、説明することができる
思考・判断の観点 (K)	上記知識・理解の観点を理解した上で、乳幼児期の教育や保育の今日的課題について考察を深めることができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	乳幼児期の教育や保育では、保育者自らが環境の構成者となる。そのため、グループワークや援助実践の場面などにおいて、主体的な参加・他者との協調を図ることができる。
技術・表現の観点 (A)	乳幼児期の教育や保育の実践の実際を理解した上で、具体的な場面において援助を実践することができる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	乳幼児期の教育や保育の制度とその意義	・生涯発達の中での乳幼児期の重要性について理解する ・日本の保育制度について理解する	【予習】教科書の「保育」、「幼稚園と保育所」「認定こども園」の箇所を読み、日本の保育制度について理解しておくこと 【復習】居住している自治体の保育所入所基準について調べ、その制度概要について理解しておくこと	各90分
第2回	保育所保育の基本：乳児保育	・保育所保育の基本原則について理解する ・乳児保育におけるねらい、3つの視点、具体的な配慮事項について学ぶ。	【予習】テキストp9(幼稚園と保育所)・14(幼稚園・保育所の職員)・18(年齢区分)の箇所を読み、理解をしておくこと 【復習】授業時に配布した資料を読み直し、復習を行うこと	各90分

第3回	保育所保育の基本：乳児保育の実践①	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児保育におけるねらいと内容の実際について学ぶ ・遊びを通じた支援においては、実際に廃物等を用いたおもちゃの作成やその活用について学ぶ。 	<p>【予習】乳児の発達の特性を理解した上でのおもちゃ作成の計画を立てる。作成に必要な材料や道具を整えておく</p> <p>【復習】作成したおもちゃを用いて、身近な乳児とかかわりの機会を持ち、子どもの様子を観察する</p>	各90分
第4回	保育所保育の基本：乳児保育の実践②	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児保育におけるねらいと内容の実際について学ぶ ・授乳期～離乳期～完全食までの食の発達について学ぶ ・調乳を実際に行い、その配慮事項について学ぶ 	<p>【予習】調乳時の配慮事項（衛生面等）についての事前配布資料を読み、準備を整えておくこと</p> <p>【復習】離乳食のレシピ（初期・中期・後期・完了期）を作成すること</p>	各90分
第5回	保育所保育の基本：1歳以上3歳未満児の保育	<ul style="list-style-type: none"> ・1歳以上3歳未満児の保育におけるねらいと内容の実際について学ぶ ・情緒面・言語面の発達について学ぶ 	<p>【予習】配布資料を読み、情緒面・言語面の発達に関する基礎的な事項を理解しておくこと</p> <p>【復習】発達に応じた絵本の選定を行い、実際に読み聞かせを行えるよう準備をしておくこと</p>	各90分
第6回	保育所保育の基本：1歳以上3歳未満児の保育の実際	<ul style="list-style-type: none"> ・1歳以上3歳未満児の保育におけるねらいと内容の実際について学ぶ ・集団生活における個に応じたかかわりを重視した生活の流れ・保育計画について学ぶ 	<p>【予習】教科書p32「保育所の一日」を読み、デイリープログラムについて理解をしておくこと</p> <p>【復習】授業内で指定された年齢（月齢）・時期に応じたデイリープログラムを作成すること</p>	各90分
第7回	母子保健の基本と実際①	<ul style="list-style-type: none"> ・母子保健の歴史の変遷・社会的背景・その必要性について学ぶ ・母子保健法の概要を学ぶ ・妊婦健康診査の概要について学ぶ ・母子手帳の歴史とその必要性、活用について学ぶ ・特定妊婦の実際について学ぶ 	<p>【予習】身近な子育て経験者に妊娠期の経験について話を聞いてみる</p> <p>【復習】特定妊婦の支援の必要性について考え、まとめておくこと</p>	各90分
第8回	母子保健の基本と実際②	<ul style="list-style-type: none"> ・出生率と新生児死亡率の歴史の変遷とその背景について学ぶ ・乳幼児健康診査（1歳6か月・3歳児検診）の歴史の変遷とその必要性について学ぶ ・予防接種の概要について学ぶ ・ハイリスク児の支援について学ぶ 	<p>【予習】自身の母子手帳があれば、その内容について見返し、どのような内容が記載されているか、その意義等について確認をしておく</p> <p>【復習】授業内での内容を総括し、母子保健の必要性についてまとめておくこと</p>	各90分
第9回	3歳以上児（幼児）の保育の基本①	3歳児の保育について実践DVDを視聴し、保育上の配慮についてディスカッションを通して学ぶ	<p>【予習】配布資料を読み、3歳児の発達の様相について確認をしておくこと</p> <p>【復習】3歳児の保育における配慮を含めた指導計画を作成すること</p>	各90分
第10回	3歳以上児（幼児）の保育の基本②	4歳児の保育について実践DVDを視聴し、保育上の配慮についてディスカッションを通して学ぶ	<p>【予習】配布資料を読み、3歳児の発達の様相について確認をしておくこと</p> <p>【復習】4歳児の保育における配慮を含めた指導計画を作成すること</p>	各90分
第11回	3歳以上児（幼児）の保育の基本③	5歳児の保育について実践DVDを視聴し、保育上の配慮についてディスカッションを通して学ぶ	<p>【予習】配布資料を読み、3歳児の発達の様相について確認をしておくこと</p> <p>【復習】5歳児の保育における配慮を含めた指導計画を作成すること</p>	各90分
第12回	保育における行事の必要性とその計画立案について	<ul style="list-style-type: none"> ・保育における行事の意義について理解する ・通常保育とは異なる機会において、どのような意図をもって計画を行うか理解する ・実際にある行事の計画立案を行う 	<p>【予習】教科書p44「行事・記念日」を読み、概要を理解しておく</p> <p>【復習】行事の由来なども含めた上で、指定された年齢に応じた行事の指導計画を作成する</p>	各90分
第13回	家庭支援・子育て支援①	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育・幼稚園教育を通じた家庭支援・子育て支援の意義を学ぶ ・保護者への支援での留意事項について学ぶ ・保育の専門性を生かした支援の方法やその実際について学ぶ 	<p>【予習】教科書p22「家族・家庭・保護者」、p42「延長保育・預かり保育」、p46「園だより・連絡帳」の箇所を読み、事前に基礎的な理解をしておくこと</p> <p>【復習】指定された設定の中</p>	各90分

			で、園だよりの文面を作成すること	
第14回	保育における表現・児童文化財の意義と活用	・保育の実践に生かす表現活動・児童文化財の意義について学ぶ ・実際に身体表現、描画活動、絵本、紙芝居などの活動を行い、その活用の具体的方法や配慮点について学ぶ	【予習】教科書p43「子どもと楽しむ保育実技」、p56「保育の表現技術」を事前に読み、概要を理解しておく 【復習】学習内容を振り返り、実際に1つ活動を取り上げ、実演の練習を行う	各90分
第15回	子どもと社会・子育てと社会	・これまでの学習内容を総括した上で、子どもを取り巻く社会（家庭、社会など）と乳幼児期の教育・保育との関連について考察を行う ・多様化する子育て環境・家庭環境を踏まえた上での子どもの最善の利益、その具体的方法について学ぶ（社会的養護、子育て支援の実際。子育て・保育関連の制度的な展望など）	【予習】これまでの学習内容について振り返りを行い、その関連性について考察を行う 【復習】課題レポートに備え、各自深めたいテーマを決定し、レポート執筆を行う	各90分

学生へのフィードバック方法 提出されたコメントペーパーなどについては、翌週以降授業内にてフィードバックを行う

評価方法 課題レポートについては本授業で取り扱った内容の中から自身の課題設定を行い、論じること。詳細については、授業内で提示する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
提出物	○	○	○	○
課題レポート	○	○	○	○

評価割合 平常点・課題レポート（40%）、課題レポート（60%）

使用教科書名 (ISBN番号) 講義時にレジュメやプリントを随時配布する。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる
【技能・表現】生活者の問題に寄り添えるコミュニケーションができる ・次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる

学生へのメッセージ ・講義実施中の半期間、幼児期の教育や保育に関したニュース、書籍などを読み、自身の問題関心を深めておくこと
・講義の復習をしておくこと
期末のレポート課題は、上記2点を掛け合わせた内容になる予定です

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	幼稚園教諭、都内子ども家庭支援センターでの勤務経験、現在も継続的に行っている巡回保育相談での経験を生かし、事例紹介や保育の現場における実態について具体的に紹介する。
アクティブ・ラーニング	○	調乳等の実践的な活動や、子どもにとってふさわしい環境の設定等についてディスカッションを行い、より具体的に実践的な授業を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	衣生活学概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井澤 尚子	指定なし
教授	山村 明子	指定なし

ナンバリング	G15101021
授業概要(教育目的)	衣服に求められる機能は、社会・心理的快適性に関わる機能と、身体・生理的快適性に関わる機能から成る。したがって、衣服について学ぶには、服飾美学、被服構成学、被服材料学、被服管理学、被服衛生学等、多角的に学ぶことが必要となる。本講では、学年進行に伴う衣服に関する発展的学習に備えること、また教育の現場で求められる知識・能力を身につけることを目的として、衣生活に関する基礎的事項を概括的に学ぶ。さらに、現代そして今後の衣服に求められる課題について考える。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	快適な衣生活を構築するために必要となる知識を理解する
思考・判断の観点 (K)	快適な衣生活を送るための適切な選択ができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	衣生活に関する情報を積極的に収集する。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	衣服とは何か	JISに規定されている衣服に関する用語について学び、そこから衣服とはどのようなものであるかを理解する。	シラバスを読み、授業概要について理解する。	180分
第2回	衣服の機能	世界各地の民族服飾の例から、衣服は多様な機能を持つことを理解する。	復習として授業内容を振り返るとともに、授業で指示をする課題を行う。	180分
第3回	日本の服飾の変遷	日本の服飾文化の変遷を現代から古代までさかのぼり、服飾文化と日本の社会状況とのかかわりを理解する。	復習として授業内容を振り返り、授業で指示をする課題を行う。	180分
第4回	衣服と身体環境	身体の生理的特徴と、衣服の機能の一つである温熱環境の維持について理解する。	予習として教科書「5章1節 暑さ・寒さから身を守り快適に着る」を読む。	180分

第5回	既製衣料品のサイズ表示	JISに規定されている衣料品のサイズ表示の基本情報と、世界で流通している衣料品のサイズ表示、サイズ表示に関する消費者問題について理解する。	予習として教科書「4章2節 衣服のサイズ表示」を読む。復習として授業内で指示をする課題を行う。	180分
第6回	中間試験および色彩とファッション(1)色彩のはたらき	第1階から5回までの授業内容について中間試験を行う(30分間)。後半は、色彩に関する基礎知識として、色とは何か、そして色の三属性について解説する。	中間試験に備えてこれまでの授業の振り返りを行う。	180分
第7回	色彩とファッション(2)デザインの表現と色彩	色彩を系統的に理解するために、マンセル表色系、PCCSを取り上げ、カラーオーダーシステムの説明をする。さらに、衣服のデザイン表現に関係の深い、色の心理効果について解説する。	教科書第3章の「衣服を構成する色彩とデザイン」を読んでおくこと。	180分
第8回	衣服の材料(1)繊維・糸の種類・特徴	布を構成する糸と、糸を構成する繊維について学ぶ。天然繊維と化学繊維、糸の種類、糸の太さ、糸の撚りなどについて理解する。	教科書第2章の「布を構成する糸」「糸を構成するいろいろな繊維」を読んでおくこと。	180分
第9回	衣服の材料(2)布地の種類・特徴	衣服を構成する布について学ぶ。織物と編物の違いを理解し、それぞれの特徴を活かした衣服への用いられ方と消費性能について考える。	教科書第2章の「衣服を構成する布」を読んでおくこと。	180分
第10回	衣服の材料(3)機能性繊維・加工	高性能衣服素材と加工の種類について理解を深める。衣生活のなかで身近にある高性能繊維素材について考える。	予習として教科書第8章を読んでおく。	180分
第11回	衣服の管理(1)衣服の汚れと洗たく	汚れの種類、着用による衣服の性能低下について考え、洗たくの必要性和洗たくの条件、洗浄作用について学ぶ。	教科書第6章の「着用による衣服の性能変化」から「洗たくに必要なもの」までを読んでおく。	180分
第12回	衣服の管理(2)家庭洗たくと商業洗たく	家庭洗たくと商業洗たくの違いを学び、商業洗たくを利用する際の正しい判断基準を身につける。	教科書第6章の「家庭洗たくと商業洗たく」を読んでおく。	180分
第13回	衣服の管理(3)衣服の管理	洗たく以外の衣服の手入れとして、しみ抜きや漂白について理解する。さらに、適切な衣服の保管について考える。	教科書第6章の「洗たく以外の衣服の手入れ」を読んでおく。	180分
第14回	既成衣料品の取扱い表示	「繊維製品の洗たく等取扱い絵表示」に代表される、既成衣料品の取扱い絵表示について、絵表示の意味を正しく理解する。	教科書第6章の「衣料取り扱い絵表示」を読んでおく。	180分
第15回	まとめと試験	本講でこれまで学んだ衣生活についての基礎的内容を踏まえ、現代生活における衣生活の課題として、環境に配慮した衣生活について考える。第6回から14回までの内容について期末試験を行う(60分間)。	予習として教科書第7章を読んでおく。これまでの授業のまとめをする。	180分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	授業の理解度を確認するために、前回授業内容についての「振り返りテスト」を行う。穴埋め方式で出題し、時間内に正解の解説をする。				
評価方法	平常点(小テスト)では要点の理解を確認する。中間・期末試験では授業内容全体の理解を問う。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	中間・期末試験	○	○	○	
	平常点(小テスト)	○		○	
評価割合	平常点(小テスト) : 15% 中間試験 : 30% 期末試験 : 55%				
使用教科書名 (ISBN番号)	『消費者の視点からの 衣生活概論』菅井清美・諸岡晴美 編著、井上書院 978-4-7530-2323-3				
参考図書	なし				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】快適な衣生活を構築する能力を有することで「質の高い生活」の本質が理解できる 【思考・判断】快適な衣生活を送るための適切な選択ができることで、生活における諸問題を解決するための考察が				

	できる 【関心・意欲・態度】衣生活を多角的に学ぶことで情報の収集が広範囲になり、社会への関心も深まる	
オフィスアワー	山村 月曜日2時限 井澤 金曜日3、4時限	
学生へのメッセージ	本授業で学ぶ内容は、1年後期以降のファッション系の授業の基礎となり、また、教員採用試験や各種検定試験につながる。よく復習をして、今後の授業に活かしてほしい。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ファッション造形実習A		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井澤 尚子	指定なし

ナンバリング	G15302C23
授業概要(教育目的)	衣服によるファッション表現の基礎となる衣服の基本的な構造および構成方法を学ぶ。人体の形状や動作性に適合する衣服の形態、ミシン縫製の基礎的な技術、及び被服材料の造形上の特性を修得する。中学・高校の家庭科教育の被服領域に対応。実習課題として、手縫いの基礎縫い（サンプルづくり）、ミシン縫製の基礎、手縫い作業の基礎、家庭科教材研究（ハーフパンツの製作）およびステップアップ課題（ブラウスの製作）を取り上げる。
履修条件	特になし。
学習目標(到達目標)	
学習目標（到達目標）	
知識・理解の観点 (K)	洋服の基本的な構造および構成方法を理解し、日常の衣生活に活用することができる。
思考・判断の観点 (K)	作業工程を理解し、作業時間と作業の段取りを把握することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	修得した内容や技法を、さまざまな被服材料を用いた衣服デザイン製作に活用しようとするすることができる。
技術・表現の観点 (A)	ミシン縫製の基礎技術、基礎手縫い技法を学ぶことで、衣服製作でのファッション表現の基礎技術を体得できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス、洋裁道具の説明、人体計測、ハーフパンツの製図、布地の説明	本授業の概略を説明する。ハーフパンツのデザイン、用途を解説し、製図に必要な身体計測の説明と実測を行う。製図について解説し、ハーフパンツの製図を描く。実習に必要な、裁縫道具とハーフパンツの材料の説明をする。実習の概要を理解する。	シラバス内容、授業内容を確認しておく。裁縫道具とハーフパンツの材料を準備する。次回の内容をプリントで確認しておく。	120分
第2回	ハーフパンツの裁断、しるしつけ	布地の特徴、裁断の準備のための地直し、アイロンの使い方方を説明する。その後、裁断の説明、チャコペーパーを使用するしるしつけの説明をする。必要に応じて柄合わせの説明をする。ここでは、裁断、しるしつけについて学ぶ。	しるしつけまでを終わらせる。ミシンの種類やミシンの付属品について確認しておく。	40分
第3回	直線ミシ	本縫いで使用する直線ミシン、ロックミシンの使い方の	脇縫い、ポケット作りまでを終	60分

	ン、ロックミシンの説明、ハーフパンツの脇縫い・縫い代の始末、ポケット作り	説明をする。その後、脇縫い、ロックミシンを使用した縫い代の始末、ポケット作りの説明をする。ここでは、ミシンで縫うためのまち針の打ち方を学び、用途に応じたミシンでの作業に慣れるようにする。	わからせる。次回の内容についてプリントで確認しておく。	
第4回	ポケットつけ、股下縫い・縫い代の始末、裾上げ	ポケットつけでは、ポケット口の縫い方の説明する。ポケットつけの点検をし、股下縫い・縫い代の始末、裾上げの説明をする。裾上げの方法として三つ折り縫いのやり方を理解する。	ポケットつけ、股下縫い、裾上げまでを終わらせる。次回の内容についてプリントで確認しておく。	60分
第5回	股上縫い・縫い代の始末、ウエストの始末・ゴム通し、ハーフパンツの仕上げの説明、ハーフパンツの提出、レポート提出	股上縫いでは、二度縫いの説明をする。ウエストの始末ではゴム通しの作り方、平ゴムの通し方を学ぶ。最後にハーフパンツの仕上げとして、アイロン仕上げの説明をする。完成した作品の仕上げ方を理解する。ハーフパンツの提出、レポート提出。	股上縫い、ウエストの始末・ゴム通し、仕上げまでを終わらせ、最終提出日までハーフパンツ、レポートを提出する。	60分
第6回	人体計測、ブラウスのデザイン説明、ブラウスの製図、布地の説明	新しい課題であるブラウスのデザイン、用途を解説し、製図に必要な身体計測の説明と実測を行う。製図について解説し、ブラウスの製図を描く。ブラウスの材料の説明をする。課題について理解する。	ブラウスの材料を準備する。次回の内容をプリントで確認しておく。	120分
第7回	ブラウスの裁断、しるしつけ	布地の特徴、裁断の準備のための地直し、アイロンの使い方を説明する。その後、裁断の説明、チャコペーパーを使用するしるしつけの説明をする。必要に応じて柄合わせの説明をする。	しるしつけまでを終わらせる。次回の内容をプリントで確認しておく。	40分
第8回	仮縫いの説明、ブラウスの仮縫い	仮縫いに用いるしつけ糸、縫い針について解説する。ブラウスの仮縫い（手縫い）の仕方を説明する。仮縫いで使用する手縫いの技法、仮縫い独特の後ろ明きの作り方、裾上げの仕方を学ぶ。試着点検時の服装について説明する。	仮縫いを終わらせる。試着点検、基礎縫いについてプリントで確認しておく。	90分
第9回	基礎縫いの説明、ブラウスの試着点検、補正の説明	基礎縫い（手縫い）の説明をする。ブラウスの縫製段階で使用する縫い方として、手縫いの技法を学ぶ。ブラウスの試着点検、補正の説明をする。仮縫いしたブラウスを試着点検することで、その必要性を理解する。	補正があった場合は、しるしを新たにつけておく。基礎縫いを提出日まで終わらせる。次回の内容をプリントで確認しておく。	40分
第10回	ブラウスの本縫い、肩縫い・縫い代の始末、見返しの裁断	先に脇、後ろ中心の縫い代にロックミシンをかけ、縫い代の始末をする。ブラウスの本縫いとして、しつけをかけミシンで縫うことを学ぶ。衿ぐりの始末、袖ぐりの始末に使用する見返しの裁断をする。	ブラウスの本縫い、肩縫い、見返しの裁断まで終わらせる。基礎縫いを提出日まで終わらせる。次回の内容をプリントで確認しておく。	60分
第11回	見返し作り、接着芯の説明・接着芯貼り、見返しのしるしつけ、見返し縫い、見返しつけ、基礎縫いの提出	接着芯の特徴について説明をする。見返しに接着芯を貼り、しるしをつけ、見返しを縫う。衿ぐり、袖ぐり部分の見返しつけの説明をする。見返しつけ独特のまち針の打ち方、しつけのかけ方、ミシンのかけ方を学び、なぜそうするのかを理解する。基礎縫いを提出する。	見返し作り、接着芯貼り、見返しのしるしつけ、見返し縫いまで終わらせる。次回の内容をプリントで確認しておく。	90分
第12回	見返しつけ、後ろ中心縫い	見返しつけを完成させるために、縫い代の始末、おさえミシンのかけ方の説明をする。見返しつけを完成させ、後ろ中心を縫う。見返しつけの点検をする。	見返しつけ、後ろ中心縫いまで終わらせる。ファスナーの種類について調べる。次回の内容をプリントで確認しておく。	90分
第13回	ファスナーつけ、ファスナーつけの始末	ファスナーつけに使用する、コンシールファスナーについて理解する。縫い代に貼る伸び止めテープの説明、コンシールファスナーのつけ方および押さえがねの説明をする。コンシールファスナーのつけ方を学ぶ。ファスナーつけの点検をする。	ファスナーつけを終わらせる。次回の内容をプリントで確認しておく。	90分
第14回	脇縫い、見返しの始末、裾の始末	脇縫いをし、見返しの下方部分にロックミシンをかける。見返しの始末、裾の始末の説明をする。見返しの始末には、基礎縫いで学んだ縦まつり、星止め、千鳥がけ	脇縫い、見返しの始末、裾の始末を終わらせる。ブラウスの仕上げについてプリントで確認し	90分

		を用いる。裾の始末にはロックミシンをかけた後、奥まつりを用いる。基礎縫いで学んだ技法を理解する。	ておく。レポートを作成しておく。
第15回	ブラウスの仕上げの説明、ブラウスの提出、レポート提出	ブラウスの仕上げとして、アイロン仕上げの説明をする。授業で製作した課題についての総括をする。ブラウスの提出、レポート提出。	ブラウスの仕上げをし、最終提出日までにブラウス、レポートを提出する。

学習計画注記	※履修者数や授業進度によってスケジュールが変更になる場合もあります。
--------	------------------------------------

学生へのフィードバック方法	毎回の授業で、作業内容が理解されているか、作業進度を確認している。作業のポイントといえる箇所です必ず点検を行い、間違いがあれば訂正を促す。提出した作品については、返却時にコメントを書き、学生各自に作品の総合的な完成度を再確認させる。
---------------	--

評価方法	平常点は、授業参加状況と授業時の作品製作への取り組みを総合的に評価する。課題（作品）評価は、授業時の説明を正しく理解しているか、さらに縫製技法を正しく習得しているかを評価する。レポート評価では、レポート課題の各項目について授業時の説明とも照らし合わせ、書かれている内容を総合的に評価する。これらを下表に示す力を養うことを目的に実施している。
------	--

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常の授業参加	○		○	
課題（ハーパンツ、ブラウス）	○	○	○	○
課題（レポート）	○		○	

評価割合	平常点（30%）、作品課題（60%）、レポート課題（10%）
------	--------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	使用しない。必要に応じてプリントを配布する。
-----------------	------------------------

参考図書	なし
------	----

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】衣服製作を学ぶことで、衣服製作の側面から家庭裁縫や被服教育の変遷を理解する機会を有する。</p> <p>【思考・判断】生活者として現代の衣生活を考え、「質の高い衣生活」とは何であるかを多角的に考える力を養うことができる。</p> <p>【技術・表現】日常の衣生活や、ファッション表現のための裁縫の基礎技法を体得することができる。</p>
---------------	--

オフィスアワー	水曜日1、2時限 1704ゼミ室（井澤）
---------	----------------------

学生へのメッセージ	第1回目の授業から実習を行うので、履修希望の学生は必ず出席してください。授業時間外の作業も多いので、実習内容は次回まで持ち越さないほうが良いと思います。わからないことがあったら、遠慮なく担当教員に質問に来てください。
-----------	--

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	材料購入のための店舗見学、材料調査などを各自で行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	食品学概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 竹中 真紀子	指定なし

ナンバリング	G13102C21
授業概要(教育目的)	本科目では食品の成分について広く理解することを目的とする。食品は多種多様であるが、食品の基本的な性質を決定する成分は水、炭水化物、たんぱく質、脂質などに限られており、またそれらは調理・加工・保存中に変化する。一方で、食品の嗜好性に深く関わる微量成分（呈味成分、香気成分、色素など）の存在も重要である。本科目では、これら食品中に含まれる成分の性質とその機能（栄養性、嗜好性、生理機能）について解説する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	各種食品成分の種類、構造、性質、所在を説明できる。食品における成分間反応による嗜好性や栄養性の変化について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

食品学概論

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	人と食べ物	人類の歴史における食の移り変わりや食をめぐる環境問題など、人と食べ物とのかかわりや、食生活の現状について学ぶ。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第2回	食品成分を理解する-有機化学の基礎-	教科書3章以降で食品成分や成分間反応について学ぶために、本時において有機化学の基礎を理解する。	授業前に教科書第2章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第3回	食品の成分(水)	食品中の水の状態(結合水、自由水)と物性や貯蔵性との関係について学ぶ。	授業前に教科書第3章-1を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第4回	食品の成分(炭水化)	炭水化物の定義を理解し、単糖、少糖、多糖の種類、構造、性質、所在ならびに食物繊維の構造や性質について	授業前に教科書第3章-2を読んでおくこと。授業後に、学習し	180分

	物)	学ぶ。	た内容を復習しておくこと。	
第5回	食品の成分 (脂質)	食品中の脂質の種類、構造、性質、所在について理解する。また、油脂の品質を知るために様々な物理化学的指標があることや油脂の酸化について学ぶ。	授業前に教科書第3章-3を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第6回	食品の成分 (たんぱく質)	食品中のアミノ酸、ペプチド、たんぱく質の種類、構造、性質、所在について理解する。またたんぱく質の変性と調理・加工との関係について学ぶ。	授業前に教科書第3章-4を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第7回	食品の成分 (ビタミン)	食品中のビタミンの種類、構造、性質、所在について学ぶ。	授業前に教科書第3章-5を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第8回	食品の成分 (ミネラル、核酸)	食品中のミネラルの種類、構造、性質、所在について学ぶ。	授業前に教科書第3章-6,7を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第9回	味の成分	食品に含まれる味にかかわる成分の種類、構造、利用について学ぶ。	授業前に教科書第4章-1を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第10回	香りの成分	食品に含まれる香りにかかわる成分の種類、構造、性質について学ぶ。また、食品の調理・加工において二次的に生成する香り成分について理解する。	授業前に教科書第4章-2を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第11回	色の成分	食品の色素成分の種類、構造、性質、所在、調理・加工との関係について学ぶ。	授業前に教科書第4章-3を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第12回	成分間の相互作用	食品の酵素的褐変と非酵素的褐変の概要と食品学的意義を理解する。	授業前に教科書第5章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第13回	食品の物性	食品におけるエマルション、サスペンション、ゾル・ゲルの関係について理解する。	授業前に教科書第6章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第14回	食品成分表	食品成分表の概要を知り、実際の食生活における食品成分表の利用について学ぶ。	授業前に教科書第9章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第15回	まとめ	これまでの授業内容を振り返る練習問題等に取り組み、知識を定着させる。	授業前にこれまでの授業内容を復習しておくこと。授業後には定期試験に向けて十分に準備すること。	180分

学習計画注記	授業の進み具合により、変更になる場合があります。				
学生へのフィードバック方法	授業の終わりに、設定したテーマについてコメントシートに記入していただき、次時にフィードバックすることを数回実施する予定です。質問等がある場合は、オフィスアワー等に研究室をおたずねください。				
評価方法	定期試験100%で評価します。				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	定期試験	○			
評価割合	定期試験の得点 (100%)				
使用教科書名 (ISBN番号)	食べ物と健康I 第2版 (978-4-7598-1818-5)				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。				
オフィスアワー	後期：火曜日3,4時限目				
学生へのメッセージ	私たちが毎日食べている食材に含まれる成分の特徴とその調理・加工における変化を中心に学んでいきます。高校や大学における化学や生物の知識が役立ちますので、復習しておくとう理解しやすいと思います。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	フードスペシャリスト論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 竹中 真紀子	指定なし

ナンバリング	G13303C21
授業概要(教育目的)	フードスペシャリストとはどのようなものか、その専門性や活躍分野について理解を深め、それを踏まえて、人類はどのようにして食物を獲得し、より嗜好性の高い食品を作ってきたのか、世界の食と日本の食の歴史と特徴、現代日本の食生活、食品産業の役割、食品の品質規格と表示、食情報と消費者保護などについての幅広い知識の習得を図る。フードスペシャリストの専門分野としての「食」について、食文化、食生活、食産業、食の安全行政、消費者保護などの各面から総合的に学び、基礎知識を身に付けることを目的とする。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	フードスペシャリストの概要と意義について理解し、フードスペシャリストが具備すべき基本知識を習得する。
思考・判断の観点 (K)	食の安全や環境、公正な取り引き、食料自給率などの様々な面を考慮し、食品の選択や管理に活かすことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

フードスペシャリスト論				
回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	フードスペシャリストとは	フードスペシャリストの概念、専門性および活躍の分野の概要について学ぶ。また、フードスペシャリストが社会的な規範や法令を遵守し、食育へも積極的に貢献する責務があることについて理解する。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けいたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第2回	人類の歩みと食物	人類の歴史において世界の各地で発達した伝統的な食品加工・保存技術をたどり、日本独自の食品加工・保存技術について理解する。	授業前に教科書第2章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見付けいたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第3回	食品加工・保存技術史	近代において発達した新しい食品加工・保存技術やイミテーションフーズについて学び、前時の内容と併せて、	授業前に教科書第2章を読んでおくこと。授業後に、学習した	180分

		人類の歴史において食に関する様々な知恵と技術が生命をつないできたことを理解する。	内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見つけたら、要約し、記録しておくこと。	
第4回	世界の食	世界の食作法や食事内容の多様性を学び、国際化している食の世界に対応できる視野を養う。地域の自然環境によって生産・生活様式が確立され、食材とともに料理や食文化が構築されていたことについて理解する。	授業前に教科書第3章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見つけたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第5回	日本の食	日本の歴史において、人々は何を食べてきたのか、食べ物のバリエーションはどのように増えてきたのか、また料理様式の発達や食生活の変遷について理解する。また、地域における伝統野菜や郷土料理の発達とそれらを維持することの重要性について学ぶ。	授業前に教科書第4章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見つけたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第6回	現代日本の食生活	戦後の食生活における食料経済や食環境の変化、食の外部化の進展、生活習慣病の増加、食品産業の構造や状況について学ぶ。	授業前に教科書第5章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見つけたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第7回	食料の供給と食料自給率	食料自給率の推移と課題、食品ロスやごみ問題などの改善策としての循環型社会の必要性などについて理解する。	授業前に教科書第5章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見つけたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第8回	食品製造業	食品産業の構造や特性について学ぶ。食品産業の一つである食品製造業の概要、全製造業における食品製造業の特色や近代における状況の変化について理解する。	授業前に教科書第6章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見つけたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第9回	食品流通業	食品産業の一つである食品流通業について、食品流通業を構成する食品卸売業と食品小売業の概要や特色、存在意義、近代における状況の変化について理解する。	授業前に教科書第6章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見つけたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第10回	外食産業	食品産業の一つである外食産業について、その概要や特色、近代における状況の変化について理解する。	授業前に教科書第6章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見つけたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第11回	食品の品質規格と表示	食品の公正な取り引きと消費のために制定された食品の品質規格と表示に関する法体系の概要を理解する。	授業前に教科書第7章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見つけたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第12回	JAS法と食品表示法による表示	食品の品質規格と表示に関する法律であるJAS法と食品表示法の概要について学び、これらが食品の公正な取り引きと消費に深く関わっていることを理解する。	授業前に教科書第7章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見つけたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第13回	健康や栄養に関する表示制度	食品の品質規格と表示に関する法律である健康増進法と食品衛生法の概要について学び、近年注目されている食品の機能性に関する表示制度を正しく理解し、自身の食生活において機能性をうたった食品を適切に利用する姿勢を養う。	授業前に教科書第7章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見つけたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第14回	食情報と消費者保護	食情報について学び、食品偽装、フードファディズム、風評被害、トレーサビリティシステムなど、食情報に関わる問題について考える。また、食品の安全におけるリスク分析や食品安全基本法、消費者問題など、消費者保護の在り方についての理解を深める。	授業前に教科書第8章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。新聞記事などで関連するものを見つけたら、要約し、記録しておくこと。	180分
第15回	まとめ	これまでの授業内容を振り返り、練習問題に取り組む。	授業前にこれまでの授業内容を復習し、授業後には定期試験に	180分

向けて十分に準備すること。

学習計画注記	授業の進み具合でスケジュールが変更になることがあります。
学生へのフィードバック方法	授業の終わりに設定したテーマについてコメントシートに記入していただき、次時にフィードバックすることを数回実施する予定です。質問等がある場合は、オフィスアワー等に研究室をおたずねください。
評価方法	定期試験の得点100%で評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		

評価割合	定期試験の得点 (100%)
使用教科書名 (ISBN番号)	四訂 フードスペシャリスト論 (第6版) (978-4-7679-0660-7)
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
オフィスアワー	後期：火曜日3-4時限目
学生へのメッセージ	「フードスペシャリスト論」は、フードスペシャリストを目指す学生のための最も基本的な科目の1つとなっています。新聞やニュースなどで報道される食に関する様々な問題についても普段から関心を持って見るようにしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	栄養学概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 竹中 真紀子	指定なし

ナンバリング	G23107C21
授業概要(教育目的)	本科目では栄養学について広く理解することを目的として、栄養学の歴史、各種栄養素の特性と消化・吸収、代謝機構について中心に解説する。また、食品に含まれる栄養素以外の重要な成分として水と食物繊維についても、これらの特性やそれらが私たちの身体に与える影響について解説する。また、食物が摂取された後、栄養素が体内で消化、吸収、代謝を経てエネルギーとして利用される際の変換効率や身体活動との関係についても考察し、これらの知識を実生活に活かす態度を養う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

学習目標	到達目標
知識・理解の観点 (K)	各栄養素の概要、消化と吸収やエネルギー消費との関係が説明できる。また、栄養素ではなくても食物繊維のように消化管内で有効に働く成分があることを説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

栄養学概論

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リソース教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス、栄養とは、栄養素の発見	栄養の本質を、「栄養」ということばの語源に立ち返って文化的な観点からとらえるとともに、「栄養素」と生物としてのヒトとのかかわりを科学的観点から理解する。また、栄養学の発展と栄養素の発見について学ぶ。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第2回	栄養素とそのはたらき (1) エネルギーになる栄養素＝糖質	炭水化物の定義を理解し、単糖、少糖、多糖の種類、構造、性質、所在ならびに食物繊維の構造や性質について学ぶ。	授業前に教科書第3章-1(1)を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第3回	栄養素とそのはたらき	食品中の脂質の種類、構造、性質、所在について理解する。また、油脂の品質を知るために様々な物理化学的指	授業前に教科書第3章-1(2)を読んでおくこと。授業後に、学	180分

	(2) エネルギーになる栄養素=脂質	標があることや油脂の酸化について学ぶ。	習した内容を復習しておくこと。	
第4回	栄養素とそのはたらき(3)からだをつくる栄養素-1=たんぱく質	食品中のアミノ酸、ペプチド、たんぱく質の種類、構造、性質、所在について理解する。またたんぱく質の変性と調理・加工との関係について学ぶ。	授業前に教科書第3章-1(3)を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第5回	栄養素とそのはたらき(4)からだをつくる栄養素-2=からだを構成する脂質とミネラル	身体を構成する栄養素で、たんぱく質以外のものとして、生体膜の成分であるリン脂質、血液の成分であるヘモグロビンの構成成分である鉄、骨の構成成分であるカルシウムについて学ぶ。	授業前に教科書第3章-2を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第6回	栄養素とそのはたらき(5)からだのはたらきを調節する栄養素-1=ビタミン	食品中のビタミンの種類、構造、性質、欠乏症と過剰症、所在について学ぶ。	授業前に教科書第3章-3(1)(2)(3)を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第7回	栄養素とそのはたらき(6)からだのはたらきを調節する栄養素-2=ミネラル	食品中のミネラルの種類、構造、性質、欠乏症と過剰症、所在について学ぶ。	授業前に教科書第3章-3(4)(5)を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第8回	水と食物繊維	栄養素以外の身体に必要な成分としての水について、身体における水分出納、水の役割を中心に学ぶ。また食物繊維について、その分類、性質、日常生活における適切な摂取のし方について学ぶ。	授業前に教科書第4章-1を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第9回	消化と吸収(1)消化の流れとパターン	消化と吸収の定義、消化を担う臓器である消化管と消化腺、消化のパターン(管腔内消化と膜消化)を中心に学ぶ。	授業前に教科書第5章1,2を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第10回	消化と吸収(2)消化のしくみ	口腔、胃、小腸、大腸における消化の概要と流れについて理解する。また、栄養素が小腸から吸収される際の、受動輸送、能動輸送の概要と、その後の輸送経路について理解する。	授業前に教科書第5章3,4を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第11回	エネルギー代謝	摂取エネルギーと消費エネルギーの関係、基礎代謝と活動時代謝、またエネルギー代謝を知るための身体の活動強度を示す指標や消費エネルギーの求め方について学ぶ。	授業前に教科書第6章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第12回	まとめ(1)	これまでの授業内容を振り返り、練習問題に取り組む。	これまでの授業内容を復習しておくこと。	180分
第13回	まとめ(2)	練習問題の解説を聞いてこれまでの学習内容を振り返り、知識を定着する。次の練習問題に取り組む。	これまでの授業内容を復習し、定期試験に向けて準備すること。	180分
第14回	まとめ(3)	前時の練習問題の解説を聞いて、理解を深める。	期末試験に向けて準備する。	180分
第15回	期末試験	期末試験に取り組む。	これまでの学習内容を復習し、試験に臨む。	180分

学習計画注記	授業の進み具合により、変更になることがあります。
学生へのフィードバック方法	授業の終わりに、設定したテーマについてコメントシートに記入していただき、次時にフィードバックすることを数回実施する予定です。質問等がある場合は、オフィスアワー等に研究室をおたずねください。
評価方法	定期試験の得点100%で評価します。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)

定期試験	○			
評価割合	定期試験の得点（100%）			
使用教科書名（ISBN番号）	はじめて学ぶ健康・栄養系教科書シリーズ 基礎栄養学 第2版（978-4-7598-1817-8）			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。			
オフィスアワー	前期：月曜日昼休み～3限目			
学生へのメッセージ	栄養学の基礎について学びます。物質としての栄養素、またこれらが体内で変化を受けてエネルギーになる流れを理解するには、化学や生物の知識が不可欠です。これらの知識が不足していると思う場合は、共通教育科目の化学や生物に関する授業を受けて知識を補強してください。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食品学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 飯島 久美子	指定なし

ナンバリング	G23103C21
授業概要(教育目的)	私たちの健康は適切な食物の摂取と規則正しい食生活によって維持される。食品には、生命を維持するための栄養機能（一次機能）、味や香りなどを感じさせる嗜好機能（二次機能）のほか、病気のリスクを低減する機能（三次機能）を有している。現在、食品の生産・加工などの技術革新や流通手段の発達により、私たちが入手できる食品はさらに多様化してきている。この講義では代表的な食品の性質、成分の特徴と調理・加工・貯蔵などにおける変化、機能、利用などについて解説する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	代表的な食品についての性質や成分の特徴、ならびに調理・加工・貯蔵における変化を理解することができるようになる。
思考・判断の観点 (K)	調理・加工・貯蔵した食品について正しい知識や新しい情報を理解することで、適切な食生活を維持するための情報の取捨選択ができるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	はじめに、植物性食品 穀類(米)	現在の私たちを取り巻く様々な食環境、食品の分類、および食品のもつ機能性について理解する。植物性食品の中の米について、その特性、含有成分、およびその加工品について理解する。	教科書第1章「食品の分類と食品成分表」(p.1-4)、第2章「植物性食品」「1. 穀類」(p.5-14)を読んでおくこと。	120分
第2回	植物性食品 穀類(小麦・大麦・とうもろこし・その他)	植物性食品の中の米以外の種々の穀類について、その特性、含有成分、およびその加工品について理解する。	教科書第2章「植物性食品」「1. 穀類」(p.14-19)を読んでおくこと。	120分
第3回	植物性食品 いも類	植物性食品の中のいも類について、その特性、含有成分、およびその加工品について理解する。	教科書第2章「植物性食品」「2. いも類」(p.19-26)を読んでおくこと。	120分

第4回	植物性食品 豆類・種実類	植物性食品の中の豆類，種実類について，その特性，含有成分，およびその加工品について理解する。	教科書第2章「植物性食品」 「3. 豆類」，「4. 種実類」 (p. 26-41) を読んでおくこと。授業の最初に，1-3回の授業内容に関わる小テストを実施するので，復習しておくこと。	240分
第5回	植物性食品 野菜類	植物性食品の中の野菜類について，その特性，含有成分，およびその加工品について理解する。	教科書第2章「植物性食品」 「5. 野菜類」 (p. 41-52) を読んでおくこと。	120分
第6回	植物性食品 果実類	植物性食品の中の果実類について，その特性，含有成分，およびその加工品について理解する。	教科書第2章「植物性食品」 「6. 果実類」 (p. 52-64) を読んでおくこと。	120分
第7回	植物性食品 きのこと類・藻類	植物性食品の中のきのこ類，藻類について，その特性，含有成分，およびその加工品について理解する。	教科書第2章「植物性食品」 「7. きのこと類」 (p. 64-67) ，「8. 藻類」 (p. 68-71) を読んでおくこと。	120分
第8回	動物性食品 肉類	動物性食品の中の肉類について，その特性，含有成分，およびその加工品について理解する。	教科書第3章「動物性食品」 「1. 肉類」 (p. 73-89) を読んでおくこと。授業の最初に，4-7回の授業内容に関わる小テストを実施するので，復習しておくこと。	240分
第9回	動物性食品 魚介類	動物性食品の中の魚介類について，その特性，含有成分，およびその加工品について理解する。	教科書第3章「動物性食品」 「2. 魚介類」 (p. 90-104) を読んでおくこと。	120分
第10回	動物性食品 乳製品	動物性食品の中の乳類について，その特性，含有成分，およびその加工品について理解する。	教科書第3章「動物性食品」 「3. 乳類」 (p. 105-115) を読んでおくこと。	120分
第11回	動物性食品 卵	動物性食品の中の卵について，その特性，含有成分，およびその加工品について理解する。	教科書第3章「動物性食品」 「4. 卵」 (p. 115-125) を読んでおくこと。	120分
第12回	その他の食品 油脂・香辛料	油脂について，その分類，精製方法，および特性と機能について理解する。	教科書第4章「油脂，甘味料，調味料，香辛料，嗜好飲料」 「1. 油脂」 (p. 125-133) を読んでおくこと。授業の最初に，8-11回の授業内容に関わる小テストを実施するので，復習しておくこと。	240分
第13回	その他の食品 甘味料，調味料，香辛料	甘味料，調味料および香辛料について，その分類，精製方法，および特性と機能について理解する。	教科書第4章「油脂，甘味料，調味料，香辛料，嗜好飲料」 「2. 甘味料」 「3. 調味料」 (p. 134-149) を読んでおくこと。	120分
第14回	その他の食品 嗜好飲料，微生物利用食品（アルコール飲料，発酵調味料）	嗜好飲料および微生物利用食品について，その種類，製造工程，およびその加工食品について理解する。	教科書第4章「油脂，甘味料，調味料，香辛料，嗜好飲料」 「5. 嗜好飲料」，教科書第5章「微生物利用食品」 (p. 149-163) を読んでおくこと。授業の最初に，12-15回の授業内容に関わる小テストを実施するので，復習しておくこと。	120分
第15回	微生物利用食品（その他の微生物利用食品）及びまとめ	その他の微生物利用食品について，その種類，製造工程，およびその加工食品について理解する。	教科書第5章「微生物利用食品」 (p. 163-168) を読んでおくこと。この内容の授業後に期末試験を行うので，これまでの授業内容を復習しておくこと。	予習：240分，復習：420分

学習計画注記	※履修者数や授業の進捗具合によってスケジュールが変更になる場合がある。
学生へのフィードバック方法	実施した小テストは採点した後，次週の授業にて返却し，解説する。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストでは3~4回分の授業に関係する学習範囲より選択式と穴埋め方式で出題する。小テストは授業内に全部で4回実施するが，再試験は行わないので注意すること。 ・期末試験は100点満点で出題し，小テストの振り返りやフードスペシャリストの出題形式に基づく選択式の問題を含む。出題傾向に関しては，授業にて説明する。 ・小テストおよび期末試験は下表に示す力を養うことを目的に実施する。 ・レスポンスペーパーは毎回の授業の重要な部分をまとめて記述し提出する。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○		
期末試験	○	○		
レスポンスペーパー	○	○		

評価割合	期末試験 (60%) , 小テスト (20%) , レスポンスペーパー (20%) で評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	食べ物と健康 改訂マスター食品学II, 小関正道 (編著) 他, 建帛社, 978-4-7679-0585-3
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「質の高い生活」とは何かを理解し, 総合的な家政学の見地に立ち, 現代社会の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し, 問題解決に導く考察ができるようになる。
学生へのメッセージ	食品学概論で食品成分の特性から食品をみてきましたが, それを基礎としてこの科目では実際の種々の食品の特徴について学んでいきます。日常の生活においてもいろいろな食品に関心を持ってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	調理学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 飯島 久美子	指定なし

ナンバリング	G23109C21
授業概要(教育目的)	調理とは食材を準備し、衛生的、栄養的に安心で、なおかつ嗜好的に優れた食べ物として調製し供するまでの一連の過程である。その過程で起こる諸現象について、食品材料の種類と調理特性、食品成分と調理変化、食味・食感への影響について調理操作や調理器具との関連から科学的な法則性について解説する。また、人間と食べ物、環境との関係を理解し、調理の技術やおいしさの向上、豊かな食生活の実践に繋がる理論を系統的に講義する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	調理とは何かを学び、食品材料の種類と調理特性、調理過程での成分変化や調理操作の特徴、嗜好性への影響などについて科学的、系統的に理解することができるようになる。
思考・判断の観点 (K)	食べ物と人間や社会、環境との関連を理解し、豊かな食生活に繋げる能力を身につけることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	はじめに、調理の目的	調理の目的、調理と調理科学について理解する。	教科書「1. 調理の目的・意義」(p. 1-3)を読んでおくこと。	120分
第2回	おいしさの科学	おいしさに関与する種々の要因について理解する。	教科書「2. 調理とおいしさの向上」(p. 4-16)を読んでおくこと。	120分
第3回	調理操作と調理器具① 非加熱調理	調理操作の分類、非加熱調理操作について理解する。	教科書「5. 調理操作、5-1. 調理操作、5-2. 非加熱操作」(p. 47-57)を読んでおくこと。	120分
第4回	調理操作と調理器具②	調理操作の分類、加熱調理操作および調理器具について理解する。	教科書「5. 調理操作、5-3. 加熱操作、5-4. 加熱調理器	240分

	加熱調理		具」(p.58-72)を読んでおくこと。授業の最初に、1-3回の授業内容に関わる小テストを実施するので、復習しておくこと。	
第5回	調理操作と調理器具③ 新調理システム、チルド	調理操作の分類、新調理システム、チルド食品について理解する。	教科書[5. 調理操作、5-5. 新調理システム、5-6. チルド食品](p.73-74)を読んでおくこと。	120分
第6回	植物性食品の調理性① 米	植物性食品の中の米について、その調理特性を理解する。	教科書[6. 食品の調理性、6-1. 米](p.75-80)を読んでおくこと。	120分
第7回	植物性食品の調理性② 小麦、その他	植物性食品の中の小麦やその他の食品について、その調理特性を理解する。	教科書[6. 食品の調理性、6-2. 小麦、6-3. 穀類](p.80-87)を読んでおくこと。	120分
第8回	植物性食品の調理性③ いも類、豆類	植物性食品の中のいも類および豆類について、その調理特性を理解する。	教科書「6. 食品の調理性、6-4. いも類、6-5. 豆類」(p.87-92)を読んでおくこと。授業の最初に、4-7回の授業内容に関わる小テストを実施するので、復習しておくこと。	240分
第9回	植物性食品の調理性④ 野菜類、その他	植物性食品の中の野菜類、果実類、種実類、およびきのこ類について、その調理特性を理解する。	教科書[6. 食品の調理性、6-6. 野菜類、6-7. 果実類、6-8. 種実類、6-9. 海藻類、6-10. きのこと類](p.93-102)を読んでおくこと。	120分
第10回	動物性食品の調理性① 肉類	動物性食品の中の肉類について、その調理特性を理解する。	教科書[6. 食品の調理性、6-11. 食肉類](p.103-109)を読んでおくこと。	120分
第11回	動物性食品の調理性② 魚介類	動物性食品の中の魚介類について、その調理特性を理解する。	教科書[6. 食品の調理性、6-12. 魚介類](p.110-111)を読んでおくこと。	120分
第12回	動物性食品の調理性③ 卵類、乳類	動物性食品の中の卵類および乳類について、その調理特性を理解する。	教科書「6. 食品の調理性、6-13. 卵類、6-14. 乳類」(p.111-117)を読んでおくこと。授業の最初に、8-11回の授業内容に関わる小テストを実施するので、復習しておくこと。	240分
第13回	その他の食品の調理性① でんぷん、甘味料、油脂類	でんぷん、甘味料および油脂類について、その調理特性を理解する。	教科書「6. 食品の調理性、6-15. でんぷん、6-16. 甘味料、6-17. 油脂類」(p.117-124)を読んでおくこと。	120分
第14回	その他の食品の調理性② ゲル化剤、調味料、香辛料、嗜好飲料	ゲル化剤、調味料、香辛料および嗜好飲料について、その調理特性を理解する。	教科書「6. 食品の調理性、6-18. ゲル化剤、6-19. 調味料、6-20. 香辛料、6-21. 嗜好飲料」(p.124-135)を読んでおくこと。	120分
第15回	献立作成(食事計画)	食事計画の必要性について学び、献立作成について理解する。	予習：教科書「7. 献立作成」(p.138-152)を読んでおくこと。授業の最初に、12-15回の授業内容に関わる小テストを実施するので、復習しておくこと。 復習：これまでの授業内容を復習しておくこと。	予習：240分、復習：420分

学習計画注記	※履修者数や授業の進捗具合によってスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	実施した小テスト、中間テストは採点した後、次週の授業にて返却し、解説します。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストでは3~4回分の授業に関係する学習範囲より選択式と穴埋め方式で出題する。小テストは授業内に全部で4回実施するが、再試験は行わないので注意すること。 ・期末試験は100点満点で出題し、小テストの振り返りやフードスペシャリストの出題形式に基づく選択式の問題を含む。出題傾向に関しては、授業にて説明する。 ・小テストおよび期末試験は下表に示す力を養うことを目的に実施する。 ・レスポンスペーパーは毎回の授業の重要な部分をまとめて記述し提出する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
期末試験	○	○		
小テスト	○	○		
レスポンスペーパー	○	○		

評価割合	期末試験 (60%)、小テスト (20%)、レスポンスペーパー (20%) で評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	食物と栄養学基礎シリーズ6 第三版 調理学 -生活の基盤を考える-, 吉田勉 (監修) 他, 学文社, 978-4-7620-2605-8
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代社会の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察ができるようになる。
学生へのメッセージ	調理は皆さんにとって身近でしょうか？調理を科学的に捉えて理論を理解することで、調理だけでなく食品製造や商品開発などの仕事にもつながる知識とそれを活かしていく力をつけることができます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	栄養学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 竹中 真紀子	指定なし

ナンバリング	G33108C21
授業概要(教育目的)	本科目では、私たちが健康を維持するための科学的根拠に基づいた正しい食生活について、栄養学の観点から探究していく。実際の食生活において、またそれぞれのライフステージにおいて、それぞれの栄養素をどのように摂取すればよいのかについて、「日本人の食事摂取基準」を踏まえて考察する。さらに、生活習慣病、食物アレルギー、ダイエット、健康づくりのための国の政策や指針など食生活に関わる様々な問題や取り組みについても解説する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	各栄養素の概要、栄養素から体の仕組みやエネルギー消費との関係が説明できる。健康づくりのための政策指針の内容やそれらが定められた背景が説明できる。
思考・判断の観点 (K)	健康に生きていくために必要な栄養素のバランスや食生活、それをどのように維持していくか説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

栄養学

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	健康と栄養	健康に生きていくということ、それらを支える適正な栄養素の摂取、適度な運動と休養、生体に備わるホメオスタシスについて理解する。	授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第2回	からだの仕組み	ヒトのからだの構成、生命を維持するための呼吸、消化、神経などのシステムについて学ぶ。	授業前に教科書第2章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第3回	食事と栄養(1)糖質	食品中の糖質に関して、単糖、少糖、多糖の種類、構造、性質、所在、消化と吸収について学ぶ。	授業前に教科書第3章-1, 2(1)を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第4回	食事と栄養	食品中の脂質の種類、構造、性質、所在、消化と吸収に	授業前に教科書第3章-2(2)を読	180分

	(2) 脂質	ついて学ぶ。	んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	
第5回	食事と栄養 (2) たんぱく質	食品中のアミノ酸、ペプチド、たんぱく質の種類、構造、性質、所在、消化と吸収について学ぶ。	授業前に教科書第3章-2(3)を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第6回	食事と栄養 (3) ミネラル、ビタミン、水分	食品中のミネラルとビタミンの種類、構造、性質、所在について学ぶ。	授業前に教科書第3章-3, 4, 5を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第7回	食事と健康 (1) 栄養状態の判定	栄養状態を総合的、客観的に評価・判定するために様々な方法があること、またそれぞれの方法の概要について理解する。	授業前に教科書第4章-1を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第8回	食事と健康 (2) 日本人の食事摂取基準	日本において栄養素の過不足は「日本人の食事摂取基準」を用いて評価すること、また健康の維持・増進や疾患の予防・改善には、栄養摂取だけでなく適正な身体活動も必要であることを理解する。	授業前に教科書第4章-2, 3を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第9回	我が国の食生活の変化と健康状況	日本の食生活は第二次世界大戦直後の食料難から徐々に改善したが、現代においては栄養過剰や栄養バランスの崩れにより生活習慣病などの様々な問題が生じていることを理解する。	授業前に教科書第5章-1を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第10回	健康増進のための指針	前時の学習内容を踏まえ、国民の健康増進のために様々な取り組みがなされてきたこと、またそれぞれの政策や指針の概要を理解する。	授業前に教科書第5章-2を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第11回	健康とダイエット	飽食、過食、貧食など食行動に様々な問題がみられる今日における、健康を維持する食事(ダイエット)の意義、また適正な体重維持における理論と実際について学ぶ。	授業前に教科書第6章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第12回	ライフステージと栄養	胎児期から高齢期までの各ライフステージにおける生理的特徴とそれに見合った栄養ケアについて学ぶ。	授業前に教科書第7章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第13回	生活習慣病と栄養	生活習慣病とはどのようなものであるか、また個々の疾病の概要と予防や食事療法について学ぶ。	授業前に教科書第8章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第14回	免疫と栄養	健康を維持するために重要な役割を果たす免疫反応の概要について学ぶ。また、この仕組みが時として食物アレルギーとして人に対してマイナスに作用する場合があることを知る。	授業前に教科書第9章を読んでおくこと。授業後に、学習した内容を復習しておくこと。	180分
第15回	まとめ	これまでの授業内容を振り返る練習問題等に取り組み、知識を定着させる。	授業前にこれまでの授業内容を復習しておくこと。授業後には定期試験に向けて十分に準備すること。	180分

学習計画注記 授業の進み具合でスケジュールが変更になることがあります。

学生へのフィードバック方法 授業の終わりに設定したテーマについてコメントシートに記入していただき、次時にフィードバックすることを数回実施する予定です。質問等がある場合は、オフィスアワー等に研究室をおたずねください。

評価方法 定期試験の得点100%で評価します。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		

評価割合 定期試験 (100%)

使用教科書名 (ISBN番号) 三訂 栄養と健康 (978-4-7679-0661-4)

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。

オフィスアワー 後期：火曜日3-4時限目

学生へのメッセージ 栄養学の基礎と、実際に健康に生きていく上で栄養という現象が他の生命維持機能にどのように関わっているか、またそれをどのように維持していかなければならないかについて学びます。化学や生物の基礎知識も必要で

す。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食生活論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 伊藤 有紀	指定なし

ナンバリング	G13301021
授業概要(教育目的)	ライフスタイルや人々の価値観の多様化に伴い、食をめぐる環境は急速な変化を続けている。このような中で健康的な食生活を営むには、自分自身や社会における食に関する問題点や課題を認識し、より良い方向に自らを導く必要がある。本科目では、「食生活」を生活に関わる食のすべてを含む広範囲なものと考え、現代の食生活における諸問題や文化的側面など広く学ぶ。戦後から現代にかけての食生活の変化、「日本型食生活」など、食の様々な面について触れ、質の高い食生活とは何かを考える基礎となる力を養う。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	自身のおかれた食生活をめぐる環境を理解できる。日本人の食生活は高度経済成長期以後から現在までどのような変化を遂げてきたか、社会背景を踏まえて大まかに説明できる。
思考・判断の観点 (K)	現代の日本の食生活をめぐる問題点のうち、自身と関連が深いと思う事柄について、解決のための方策を考察できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス、食生活の概念	授業概要の説明、生活における食の位置づけや食生活について学ぶ意義を考える。	配信した資料をみて、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	200分
第2回	食べることの意味①	食べることの生理的意義を学ぶ。	配信した資料をみて、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	200分
第3回	食べることの意味②	「食べ物がおいしい」とはどのようなことかを考える。	配信した資料をみて、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	200分
第4回	食べることの意味③	自身の食生活について振り返りながら、健康と食生活の関係について学ぶ。	配信した資料をみて、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	250分

			とめる。レポート課題に取り組む。	
第5回	食卓をめぐる環境の変化①	食事に対する価値観の変化や食の外部化について学ぶ。	配信した資料をみて、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。レポート課題に取り組む。	250分
第6回	食卓をめぐる環境の変化②	家族の食について学ぶ。	配信した資料をみて、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	200分
第7回	食卓をめぐる環境の変化③	調理することの意味について考える。	配信した資料をみて、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	200分
第8回	日本の食生活史①	おせち料理を中心に行事食の位置づけを考える。	配信した資料をみて、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	200分
第9回	日本の食生活史②	ファッションとしての食について学ぶ。	配信した資料をみて、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	200分
第10回	食生活の未来①	ライフスタイルと食生活について学ぶ。	配信した資料をみて、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。	200分
第11回	食生活の未来②	食と環境の問題について考える。	配信した資料をみて、授業内でポイントとした部分を中心にまとめる。レポート課題に取り組む。	250分
第12回	まとめ	これまでの補足やまとめを行う。	これまでの授業内容を振り返っておく。レポート課題に取り組む。	200分
第13回	レポートによる評価	これまでのまとめとしてレポートによる評価を行う。	総復習をしておく	150分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合がある。
学生へのフィードバック方法	提出物は、内容を確認してGoogle classroomを通して返信する。質問がある場合もGoogle classroomを使うこと。
評価方法	授業で扱った事柄や考察、意見、感想などを記述し、授業内で提出するもの（コメントシート）と、レポートで評価を行う。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
回答や感想、意見などの提出物	○	○		
レポート	○	○		

評価割合	質問に対する回答や感想、意見などの提出物 (50%) レポート課題 (50%)
使用教科書名 (ISBN番号)	なし。資料を配信する。
参考図書	授業内で紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】食生活の面から現代の諸問題を理解できる。 【思考・判断】自己を取り巻く食生活の諸問題を発見し、問題解決の行動につながる考察をすることができる。
オフィスアワー	月曜2、3限
学生へのメッセージ	自身の食生活に目を向けて、授業で学んだことと関連づけて考えてみて下さい。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	調理学実習		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 三宅 紀子	指定なし
助教	伊藤 有紀	指定なし

ナンバリング	G13110C23
授業概要(教育目的)	安全でおいしい食事を作るためには、確かな調理技術と調理科学の理論が必要である。ここでは、非加熱調理操作、加熱調理操作などの基礎的調理技術を習得し、日本料理と諸外国の調理法や食文化の特徴を学ぶために、日本料理・西洋料理・中国料理の調理の実習を行う。これにより、食品の衛生的な取り扱い方、食品の調理性、調理による食品成分の変化、栄養性・嗜好性を高める調理法、調理器具や食器などの取り扱い方、食卓の演出、食事作法など調理と食生活に関する基礎総合力を養うことを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 食事作りに必要な調理科学の理論、食品の性質、日本および諸外国の食文化等を理解する。
思考・判断の観点 (K)	1. 健康で心豊かな食生活を実践できるような食に関する総合力を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 健康で心豊かな食生活を実践できるような食に関する総合力を身につける。
技術・表現の観点 (A)	1. 安全でおいしい食事を作りするために必要な基礎的調理技術を身につける。

学習計画

調理学実習

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、実習ノートのまとめ方を理解する。切り方の基本(包丁及びまな板の扱いを含む)、計量を理解する。	切り方の基本、計量について復習する。	15分
第2回	日本料理の基礎(1)	三色丼、味噌汁、即席漬けの献立の実習。 炊飯の基本、煮干しだしのとり方、野菜の脱水を理解する。	実習内容のまとめに加えて、さらに、炊飯の基本などについても自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。	60分
第3回	日本料理の基礎(2)	さつまいもご飯、かきたま汁、ぶりの照り焼き、ほうれん草のごまあえの献立の実習。 塩味ご飯、混合だし汁のとり方、切り身魚の調理、青菜の茹で方、あえ物のポイントを理解する。	実習内容のまとめに加えて、さらに、混合だしのポイントなどについても自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。	60分

第4回	日本料理の基礎(3)	炊き込みご飯、吉野鶏の吸い物、厚焼き卵、ひじきの煮物の献立の実習。 しょうゆ味ご飯、吸い物、卵の焼き調理(1)、乾物の調理(戻し方)を理解する。	実習内容のまとめに加えて、さらに、吸い物のポイントなどについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。	60分
第5回	西洋料理の基礎(1)	チキンピラフ、コンソメジュリアン、生野菜のサラダ、紅茶のゼリーの献立の実習。 ピラフ、野菜の吸水、ドレッシング、ゼラチンの調理の特徴を理解する。	実習内容のまとめに加えて、さらに、ゼラチンゼリーのポイントなどについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる	60分
第6回	西洋料理の基礎(2)	ロールキャベツ、温野菜のサラダ、ブランマンジェの献立の実習。 ひき肉の調理のポイント、野菜の加熱調理、デンプンの調理性(ゲル化)を理解する。	実習内容のまとめに加えて、さらに、ひき肉調理のポイントなどについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。	60分
第7回	中国料理の基礎(1)	ピーマンと牛肉のせん切り炒め、三種のせん切りのあえ物、牛乳かんの献立の実習。 炒め物のポイント、あえ物、寒天の調理の特徴を理解する。	実習内容のまとめに加えて、さらに、小麦粉調理におけるグルテンの形成などについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。	60分
第8回	中国料理の基礎(2)	焼き餃子、水餃子、野菜の甘酢漬け、とうもろこしスープの献立の実習。 小麦粉の調理(グルテンの形成)、野菜の調理(甘酢漬け)、スープ(湯菜)を理解する。	実習内容のまとめに加えて、さらに、小麦粉調理におけるグルテンの形成などについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。	60分
第9回	中国料理の基礎(3)	焼くらの酢の物、肉団子のもち米蒸し、かにたま、アーモンドクッキーの献立。 もち米の調理、卵の焼き調理(2)、小麦粉の調理(膨化の種類 ベーキングパウダー)を理解する。	実習内容のまとめに加えて、さらに、小麦粉調理における膨化などについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。	60分
第10回	日本料理の基礎(4)	イワシのかば焼き、茶碗蒸し、けんちん汁、ご飯の献立の実習。 魚の扱い(イワシの手開き)、具たくさんの汁物、希釈卵の蒸し物を理解する。	実習内容のまとめに加えて、さらに、希釈卵液の蒸し物のポイントなどについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。	60分
第11回	60行事食(1) クリスマス料理	ローストチキン、コーンポタージュ、ブッシュ・ド・ノエル、紅茶の献立の実習。 骨付き鶏もも肉の扱い、肉のロースト、ポタージュスープ、スポンジケーキ(泡立て卵白による膨化)、紅茶(リーフティー)のいれ方を理解する。	実習内容のまとめに加えて、さらに、小麦粉調理における泡立て卵白による膨化などについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。	60分
第12回	行事食(2) 正月料理	伊達巻き、松かさいか、いり鶏、紅白なます、雑煮の献立の実習。 日本の行事食(特に正月料理)、イカの扱い(下処理と飾り切り)、煮物(炒め煮)を理解する。	実習内容のまとめに加えて、さらに、日本における行事食などについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。正月料理について、我が家の雑煮をテーマとして調べ、レポートにまとめる。	120分
第13回	西洋料理の基礎(3)	ピザ、ミネストローネ、チョコレートパバロアの献立の実習。 イースト発酵、ポタージュ、ゼラチンの調理(パバロア・ムス)のポイントを理解する。	実習内容のまとめに加えて、さらに、小麦粉調理におけるイーストによる膨化などについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。	60分
第14回	行事食(3) ひなまつりの献立	ちらしずし、はまぐりの潮汁、桜餅の献立の実習。 節句の行事食、すし飯のポイント、潮汁、あんを用いた和菓子(米粉を用いた和菓子)、緑茶のいれ方を理解する。	実習内容のまとめに加えて、さらに、和菓子の調理などについて自分で学習を深めた点についても実習ノートにまとめる。	60分
第15回	まとめ、実習テスト	実習テスト(野菜の切り方)、実習の振り返りを行う。	実習テストに向けての練習を行う。 授業内容全体について総復習を行う。	予習; 60分 復習; 120分
第16回				

学生へのフィードバック方法

受講者の実習中に、その都度調理法その他について必要に応じて、指導を行う。5から6回の実習が終了した時点で、実習ノートを提出してもらい、教室外学習がきちんと行われているかの確認も含めて、指定した事項が記載されているかどうかについて採点し、不十分な場合には、実習ノートの再提出を促して再度記載内容を確認する。

評価方法

- ・実習への取り組みでは、実習への積極的な参加を評価する。
- ・実習ノートでは、毎回の実習内容に関して指定された項目をきちんとまとめているかどうか、さらに授業内容に関して自分で学びを深める学習を教室外でも行っているかを評価する。レポートは指定されたテーマに関して、関心を持って取り組んだかを評価する。
- ・実習テストでは、調理の基本技術を身につけることができたかを評価する。

・定期試験では、調理理論、食文化など、調理に必要な基本的な知識に関する問題を、穴埋め、選択、記述などさまざまな形式で出題する。
 ・実習への取り組み、実習ノート・レポート、実習テスト、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
実習への取り組み	○		○	
実習ノート・レポート	○	○	○	○
実習テスト				○
定期試験	○	○		

評価割合

実習への取り組み40%、実習ノート・レポート提出20%、実習テスト10%、定期試験30%

使用教科書名 (ISBN番号)

特に指定しない。プリント配布

参考図書

なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち現代生活の諸問題を理解できる。
 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。
 【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。

オフィスアワー

金曜日1, 2限

学生へのメッセージ

食品衛生の観点から必ず指定の清潔な身支度をして実習に参加してください。食生活に関心を持ち、自宅でもできるだけ調理する機会を増やしてください。実習材料費として10000円程度を徴収する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	体験学習等の教育内容が含まれる
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	健康・食発達心理学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 青木 洋子	指定なし

ナンバリング	G23304C21
授業概要(教育目的)	前半は発達心理学の基本的な知識を学ぶ。後半は、乳幼児期の摂食行動の特徴を学習し、食事を取り巻く社会環境や育児観と関連付けながら健康な食生活とは何か考える。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	発達心理学の基本的な用語とその意味を説明できる。乳幼児期の口腔機能の発達を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	講義で学んだ心理学と食発達の知識を元に、ミルクや離乳食の与え方、健康に関する情報の問題点を分析・指摘できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション: 授業の進め方・授業で扱うテーマの説明	発達心理学の年齢区分と乳幼児期の口腔発達の概要を知る。	授業の後、発達心理学領域の文献やインターネットを使用し、自分が興味を持ったテーマや用語を調べておく。発達の年齢区分の復習する。	120分
第2回	乳児期の発達心理学	乳児期の感覚・知覚・認知・運動発達の特徴を理解する。	講義で学習した用語を復習する。不明な箇所は配布物、文献、インターネット等を使用して自分で調べる。	120分
第3回	幼児期の発達心理学	幼児期の認知・運動発達の特徴を理解する。	講義で学習した用語を復習する。不明な箇所は配布物、文献、インターネット等を使用して自分で調べる。	120分
第4回	児童期の発	児童期の認知発達や社会性の発達を理解する。	講義で学習した用語を復習す	120分

	達心理学		る。不明な箇所は配布物、文献、インターネット等を使用して自分で調べること。	
第5回	青年期の発達心理学	青年期を中心に自己同一性の発達を理解する。	講義で学習した用語を復習する。不明な箇所は配布物、文献、インターネット等を使用して自分で調べること。	120分
第6回	成人期・老年期の発達心理学	成人期と老年期に変化する心理的側面を理解する。	講義で学習した用語を復習する。不明な箇所は配布物、文献、インターネット等を使用して自分で調べること。	120分
第7回	文化と学習	日本とフランスでは、幼児期のスプーン操作の習得過程が異なることを示した論考を紹介する。同じ技能獲得でも、文化によって差があることを理解する。	日本以外の国の食事について文献やインターネット、映像資料等を用いてどのような点が異なるか調べる。	240分
第8回	大学生の食事調査	参考書『若者たちの食卓』の中から、大学生の食事の実態を紹介する。	日本の食事内容と流通の歴史的変遷について、文献やインターネットを使用して調べる。特に昭和と平成の期間を重点的に調べる。	240分
第9回	保育園での生活と家庭での食事	第10回～第13回の講義内容の理解を深めるために、保育園での生活の流れ、保育園の食事、家庭での食事を映像で確認する。	「授乳・離乳の支援ガイド」の内容を確認しておく。	180分
第10回	新生児期から1歳前後の咀嚼と嚥下の発達	新生児期から1歳前後（離乳後期）の口腔機能の特徴を理解する。	教科書第1章を読んでおく。乳幼児期の食事道具にはどのような種類があるのか文献、インターネット、育児雑誌、店頭等で調べる。	240分
第11回	幼児期の食とコミュニケーション	幼児期の食事道具操作の発達と、食事場面でのコミュニケーションの発達を理解する。	教科書第2章を読んでおく。	120分
第12回	うまく食べるための調理形態・子どもの身体・食事環境	子どもがうまく食べられない要因を、食べ物・子どもの運動発達・食事に用いる道具の観点から理解する。	教科書第3章を読んでおく。ベビー用の食品（ベビーフードや菓子等）にはどのような種類があるか、菓子にはどのような特徴があるか調べる。	240分
第13回	うまく食べるための改善方法・道具と食べやすさ	これまで学習した子どもの摂食行動の特徴を踏まえて、乳幼児の食事の介助のポイントを理解する。	教科書第4章を読んでおくこと。	120分
第14回	母乳育児と人工乳	「授乳・離乳の支援ガイド」の改定で、母乳にアレルギーの予防効果がないことや、母乳のみと混合栄養（母乳と粉ミルクの両方を与えること）を比較しても児の肥満に差がないことが付け加えられた。完全母乳（母乳のみを与えること）を支持する意見と対比させながら、母乳と粉ミルクそれぞれの利点・欠点を理解する。	完全母乳（完母）・混合栄養・粉ミルクのみの育児スタイルの違いを調べて区別できるようにする。液体ミルクの発売経緯を調べる。	240分
第15回	まとめ	前半の発達心理学と、後半の乳幼児期の口腔機能の発達を復習し、理解を深める。	配布物と教科書を読み返し、これまでの講義の内容を総復習する。	300分

学習計画注記	授業内容及びスケジュールに変更が生じる場合には、事前に授業で告知する。
学生へのフィードバック方法	他の履修者と考えを共有するために、小レポートの内容を講義で紹介する。
評価方法	(1) 講義の理解度を確認するため、定期試験（筆記試験）を実施する。15回目の講義で出題範囲を告知する。 (2) 講義中に小レポートを2回実施する。レポートの評価は得点化（1回あたり最大10点）し、定期試験の得点に加算する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			
小レポート		○		

評価割合	定期試験80%、小レポート20%で評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	山崎祥子 (2015) そしゃくと嚙下の発達がわかる本 芽ばえ社
参考図書	藤村宣之編著 (2009) 発達心理学一周りの世界とかかわりながら人はいかに育つかー ミネルヴァ書房 外山紀子・長谷川智子・佐藤康一郎編著 (2017) 若者たちの食卓 ナカニシヤ出版 その他、必要に応じて講義で紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】乳幼児期の摂食に関わる口腔機能の発達について専門的知識を身に付ける。 【思考・判断】食に関する情報を文化、社会構造、心理、栄養学等と関連付けて、正確な判断ができる思考を身に付ける。
学生へのメッセージ	「食」は文化、歴史、社会、栄養学等様々な価値観が反映された営みです。その価値観は、単純に善悪や正誤に分けられません。本講義が、自分にとって望ましい「食」はどのようなものかを考えるきっかけになると良いです。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食料経済		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 二瓶 徹	指定なし

ナンバリング	G33306C21
授業概要(教育目的)	本講義では、食に関する生産から消費までのフードシステムについて、各段階の役割と全体の流れを体系的に捉えることを目的とし、前半では食を巡る状況の変化について、消費者側と食産業側の両面から理解を促すとともに、フードシステムの概要および近年、発達が著しい中食と外食について理解を促す講義を行う。後半では個別食品の特性や種類、流通について説明し、それら食品の販路拡大手法であるフードマーケティングを学び、最後に時局的問題と今後の課題について考え、本講義の総括を行う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. フードシステム概念と食品産業および食品製造の機能と役割が説明できる。 2. フードシステムと消費者の生活様式および社会環境との関係性が説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 現代におけるフードシステムの利点と課題を整理することができる。 2. 現代および今後フードシステムが抱える課題の解決策を考えることができる。 3. グローバルな視点でのフードシステムの望ましい在り方を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 自分自身の食生活から、我が国のフードシステムを積極的に捉えた発言をする。 2. 自分自身および取り巻く環境を踏まえ、体系的にフードシステムの在り方を捉え、積極的に提言する。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	豊かな食生活を支える食市場	1. 食市場を支える食品産業を理解する。 2. 外食産業が登場した背景と食生活の変化を理解する。 3. 食の外部位をもちこたえた要因を理解する。 4. 少子高齢化が変える食市場を理解する。 5. 食品産業の技術発展内容を理解する。	教科書の第1章第1節を読んでおくこと。また、あらかじめ自分自身の食生活と国内のマクロ的な食生活を比較し、その違いを理解しておくこと。	240分
第2回	消費者の食品消費の変化	1. 品目別食品消費の変化を理解する。 2. 食品の価格決定と所得弾力性、価格段両区制を理解する。 3. 栄養バランスからみた食品消費の変化を理解する。 4. 加工食品がなぜ増加したかを理解する。	教科書の第1章第2節を読んでおくこと。	120分

第3回	食生活の多様化	1. 多様化をもたらした社会的要因を理解する。 2. 食における健康志向がなぜ高まっているかを理解する。 3. 現代における食情報が多様化した理由を理解する。	教科書の第1章第3節を読んでおくこと。また、あらかじめ自身の食生活のスタイルを振り返っておくこと。	240分
第4回	食品流通の役割と社会的使命	1. 食品流通の役割を理解する。 2. 卸売流通の役割を理解する。 3. 小売流通の役割を理解する。 4. 流通の社会的使命を理解する。	教科書の第2章第1節を読んでおくこと。	120分
第5回	卸売流通が必要な食品流通	1. 生鮮食品の卸売市場流通の仕組みを理解する。 2. 加工食品の問屋流通の仕組みを理解する。	教科書の第2章第2節を読んでおくこと。	120分
第6回	食品の小売流通	1. 販売形態の分類を理解する。 2. 食品流通を担う多様な小売り業態を理解する。 3. 家庭内食を支える食品小売業の機能を理解する。	教科書の第2章第3節を読んでおくこと。	120分
第7回	外食産業のマーチャングダイジング	1. 外食産業の業態を理解する。 2. 外食産業の食材流通を輸入食材および国産食材に分けて理解する。	教科書の第3章第1節を読んでおくこと。	120分
第8回	中食産業のマーチャングダイジング	1. 中食産業の業態を理解する。 2. 中食産業の販売形態を理解する。	教科書の第3章第2節を読んでおくこと。	120分
第9回	主要食品の分類	1. 商品特性による基本的分類を理解する。 2. 商品の制度的分類を理解する。	教科書の第4章第1節を読んでおくこと。	120分
第10回	主要食品の温度帯別流通	1. 食品の温度帯（常温から冷凍）を理解する。	教科書の第4章第2節を読んでおくこと。	120分
第11回	主要食品の流通	1. 生鮮食料品をはじめ、加工食品の個々の流通とその特徴を理解する。	教科書の第4章第3節を読んでおくこと。	120分
第12回	フードビジネスとフードマーケティング	1. フードビジネスの概要を理解する。 2. 6次産業化を理解する。 3. フードマーケティングの基礎知識を理解する。 4. フードマーケティングの機能を理解する。 5. フードマーケティングの担い手を理解する。	教科書の第5章を読んでおくこと。また、あらかじめマーケティングとフードマーケティングの違いを考えておくこと。	240分
第13回	食料消費と環境問題	1. 3Rを理解する。 2. 食品リサイクルと食品廃棄物を理解する。 3. 食品ロスを理解する。 4. 環境関連の用語とその意味を理解する。	教科書の第6章第1節を読んでおくこと。	120分
第14回	食品流通の安全確保	1. 食品の安全性を理解する。 2. 食の安全性を取り巻く用語とその意味を理解する。	教科書の第6章第2節を読んでおくこと。また、あらかじめ食品の安全性に関する情報収集しておくこと。	240分
第15回	食料消費を取り巻く課題、まとめおよび定期試験	1. 食を取り巻く諸問題と時局的な事柄を理解する。 2. 授業全体のおさらいをし、総合的に理解する。	教科書の第6章第3節を読んでおくこと。また、あらかじめ、新聞等で時局的な事項を調べておくこと。 なお、定期試験を行うため、授業全体の復習をしておくこと。	240分

学生へのフィードバック方法	毎回、提出を義務付けているリアクションペーパーに履修生と共有すべき課題や内容が盛り込まれている場合、翌週の講義時にフィードバックする。なお、個別で質問がある場合は、E-mail (nihei@tatj.jp) で受け付けるとともに、必要に応じて非常勤講師室にて対応する。
---------------	---

評価方法	1. 定期試験の得点（100％）で評価する。なお、定期試験はフードスペシャリストの出題形式に基づく選択式の問題のほか、記述式の問題を出題する。 2. 定期試験はノート及び配布資料など持ち込みは不可とする。 3. 詳細については、最後の授業にて説明する。
------	--

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		

評価割合	定期試験100％で評価する。
------	----------------

使用教科書名 (ISBN番号)	食品の消費と流通 (9784767905389)
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】フードシステムの基礎的知識を習得するとともに、その概要を理解することにより、現代のフードシステムの課題を見出すことができるようになる。</p> <p>【思考・判断】現代のフードシステムがどのように構築されたかを理解するとともに、現代のフードシステムの利点と課題を整理し、考察できるようになる。</p> <p>【関心・意欲・態度】現代のフードシステムの諸課題を整理・分析し、望ましいフードシステムの在り方を具体的に提言できるようになる。</p>
オフィスアワー	月曜日の授業終了後 非常勤講師室
学生へのメッセージ	本講義内容は、卒業後、食産業に従事する学生だけでなく、日々の食生活を送る上でも必要なものである。しかしながら、食関連の専門性を持ち合わせる人でも、フードシステムを体系的に理解している人や望ましい食生活を送るための知識を習得している人は、それほど多くはないため、本講義を履修し、フードシステムを体系的に捉え、バランスよく知識と考えを持ち合わせ、実社会で活用していけるようになることを願っている。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、フードシステムの生産と問屋、商社といった3つの機能を持ち合わせている会社を経営していることから、テキストの基礎知識を教えるだけでなく、実際のフードシステムにおける必要な知識や情報を学生に教授する。
アクティブ・ラーニング	○	自らの思考力を高めるべく、一定の課題に対する分析のワーク（環境分析など）に取り組んでもらい、その内容を発表してもらおうようにする。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食品の官能評価・鑑別演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 三宅 紀子	指定なし

ナンバリング	G33106C22
授業概要(教育目的)	豊かな食生活を営むためには、食品の特性を理解し、品質を見分ける能力を身につけることは重要である。適切な食品の選択を行う時に必要とされる食品の品質には、安全性、栄養性、嗜好性、生体調節機能などが関わる。食品の品質を評価する方法として、官能評価法、化学的評価法、物理的評価法について講義および演習により学ぶ。特に嗜好性を評価するうえで重要な官能評価法について、考え方、手法、具体的な実施方法などについて、演習を取り入れながら授業を行う。
履修条件	「食品学」「調理学」を履修していることが望ましい。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1. 食品の品質を評価する方法として、官能評価法、化学的評価法、物理的評価法について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 食品の品質評価から、食生活の問題点を発見し、その解決を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 食品の品質について関心を持ち、豊かな食生活につなげることができる。
技術・表現の観点 (A)	1. 官能評価や食品実験について、目的・結果・考察等をわかりやすく記述し、口頭発表することができる。

学習計画

製品・食品鑑別演習

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	はじめに 食品の品質とは	食品の特性と食品の品質のひとつである食品の嗜好性とおいしさに関わる要因について理解する。	教科書序章「食品の品質とは」(1-2ページ)を読むこと。	60分
第2回	食品の化学的評価法	食品の化学的性質とその評価法を理解する。	教科書第2章「化学的評価法」(31-58ページ)を読むこと。	60分
第3回	食品の物理的評価法(その1)	食品の物理的性質を理解する。	教科書第3章「物理的評価法」(39-69ページ)を読むこと。	60分
第4回	食品の物理的評価法	食品の物理的性質の評価方法を理解する。	教科書第3章「物理的評価法」(69-85ページ)を読むこと。	60分

	(その2)			
第5回	食品の鑑別評価(植物性食品)	植物性食品について理解する。	教科書教科書第4章「個別食品の鑑別 米など」(87-138ページ)を読んでくること。	60分
第6回	食品の鑑別評価(動物性食品)	動物性食品の鑑別について理解する。	教科書第4章「個別食品の鑑別 魚介類など」(139-221ページ)を読んでくること。	60分
第7回	食品の鑑別評価食品の鑑別評価(その他の食品)	その他の食品の鑑別について理解する。	教科書第4章「個別食品の鑑別 油脂など」(139-221ページ)を読んでくること。	60分
第8回	官能評価の概要、味覚と閾値、官能評価の注意点	食品の嗜好性を評価する重要な方法である官能評価について理解する。官能評価の概要、味の認識の機構と閾値について理解する。官能評価の結果に及ぼす要因とその対策、官能評価の評価環境、実施条件について理解する。	教科書第1章「官能評価」(3-12ページ)を読んでくること。	60分
第9回	官能評価の手法(比較法、順位法)	官能評価の手法として、比較法、順位法を理解する。	教科書第1章「官能評価」(12-22ページ)を読んでくること。	60分
第10回	官能評価の手法(評点法、記述法)	官能評価の手法として、評点法、記述法を理解する。	教科書第1章「官能評価」(22-30ページ)を読んでくること。	60分
第11回	官能評価の演習(比較法その1)	2点嗜好試験法、2点識別試験法、5味の識別テストの演習を通して、味覚と閾値、濃度識別について理解する。	官能評価の演習(2点嗜好試験法、2点識別試験法)についてのレポートを作成する。	120分
第12回	官能評価の演習(比較法その2、順位法その1)	3点識別試験法、1:2点識別試験法の演習を通じて、2種の試料の違いの識別を調べる官能評価法を理解する。順位法(スペアマンの順位相関係数等)の演習を通じて、3種以上の試料の違いの識別を調べる方法を理解する。	官能評価の演習(3点識別試験法、1:2点識別試験法、順位法)についてのレポートを作成する。	120分
第13回	官能評価の演習(順位法その2、評点法)	順位法(ケンドールの一致性の係数)、2種及び3種以上の試料を用いた評点法の演習を行い、平均値の差の検定などの統計処理方法について理解する。	官能評価の演習(順位法、評点法)についてのレポートを作成する。	120分
第14回	食品の鑑別演習	野菜の調理による色の変化の実験を行い、色の測定法や、野菜の色素の性質について理解する。卵の鮮度を調べる実験を行い、卵の鮮度判定について理解する。	野菜の色の変化について、卵の鮮度についての実験レポートを作成する。	120分
第15回	まとめ 定期試験 市販飲料の糖度測定	授業のふりかえりをし、定期試験を行う。市販飲料の糖度を測定し、日常摂取している糖分量について理解する。	授業全体について復習をしておくこと。	270分

学生へのフィードバック方法 レポートについては、毎回次週までに採点して、多くの受講生が適切に記述できていなかった箇所については、授業の初めに説明を行い、不十分なレポートについては再提出を促し、再度確認する。

評価方法

- ・課題・演習への取り組みでは、食への関心をもって、適切な手法で官能評価を実施すること、あるいは食品の実験を行い、演習に取り組んでいるかを評価する。
- ・レポートでは、官能評価あるいは実験の目的を理解し、方法および結果を科学的にまとめ、必要に応じて適切な統計処理を行い、適切な資料を用いて調査し、考察を行い、わかりやすい文章で記述しているかを評価する。
- ・定期試験では、演習も含めて授業内容全体について、穴埋め、選択、記述などさまざまな形式で出題する。
- ・演習への取り組み、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題・演習への取り組み	○	○	○	○
レポート	○	○		○
定期試験	○	○		

評価割合	課題・演習への取り組み30%、レポート提出20%、定期試験50%
使用教科書名 (ISBN番号)	三訂 食品の官能評価・鑑別演習／日本フードスペシャリスト協会 編／建帛社 (978-4-7679-0506-8)
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。 【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。
オフィスアワー	金曜日・2時限および昼休み 1609研究室 e-mail: miyake@san.kasei-gakuin.ac.jp
学生へのメッセージ	日常から、さまざまな食品に触れる機会を増やして、食品に対する関心を持ってほしい。「食品学」「調理学」などで学んだ食品の性質に関することを基礎にして、統計学の要素も加えた演習形式で行う。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査学習、問題解決学習、発表等の教育内容を含む。
情報リテラシー教育	○	課題解決のために必要な情報を探索（図書館利用法・文献探索等）や、情報のアウトプットに関するもの（レポートの書き方、プレゼンテーション技法等）の教育内容を含む。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	住居学概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小池 孝子	指定なし

ナンバリング	G14101021
授業概要(教育目的)	住居全般についての基礎的知識を習得することを目的に、個人・家族の生活の拠点である住居について、様々な角度から検討を行う。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	住居全般についての基礎的知識、住生活に関する諸問題を理解する。
思考・判断の観点 (K)	人間にとって住まいとは何かを考え、人間らしい生活を送るための空間としての住居のあり方について考察できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	個人・家族の生活の拠点である住居について、様々な角度からみた課題について検討を行うことができる。
技術・表現の観点 (A)	住生活に関する諸問題について解決案の提案ができる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス・住居の機能	住居の備えるべき機能、住生活を構成する要素、生活行為と住空間の関係について学ぶ。	(復習) 自宅を事例として、住居の備えるべき機能について考える。	150分
第2回	寸法と空間	住宅内での生活行為とスケールの関係、住空間の配置とゾーニング、動線について学ぶ。	(復習) 自宅を事例として、スケール、ゾーニング、動線について考える。	150分
第3回	日本の住まいの変遷 (1) 明治時代以前	日本の住まい、住まい方の変遷について、古代～江戸時代までについて学ぶ。	(復習) 住まい、住まい方の変化と時代背景について考える。	150分
第4回	日本の住まいの変遷 (2) 明治時代以後・生活様式と住居	日本の住まい、住まい方の変遷について、明治時代～昭和時代までについて学ぶ。	(復習) 住まい、住まい方の変化と時代背景について考える。	150分

第5回	現代の家族と住まい	少子化・高齢化など現代日本における家族の状況と、それに合わせて必要になる住まいについて学ぶ	(復習) 自分自身のライフサイクル、ライフコースと住居との関係について考える。	150分
第6回	日本の住宅政策	第二次世界大戦後の日本の住宅政策の展開について学ぶ。	(復習) 誘導居住面積水準、最低居住面積水準で示される面積について、自宅や住宅広告などを例に具体的な広さを体感する。	150分
第7回	住居の選択と管理	住居の選択に際して考慮に入れるべきこと、住居の管理と耐用年数との関係について学ぶ。	(復習) 自宅を事例として、住居の管理が適切に行われているか考える。	150分
第8回	住まいと環境	快適な住まいを実現するための温熱、光、音、空気、水などの住環境の調整方法について学ぶ。	(復習) 自宅での水道使用量について調べ、平均と比較しながら水の節約について考える。	150分
第9回	安心・安全な住まい	事故・災害、犯罪、健康被害などの建物の安全を脅かす事象とその防止法について学ぶ。	(復習) 自宅を事例に、災害への備えについて点検する。	150分
第10回	高齢者・障害者の住まい	高齢社会における住居について、ユニバーサルデザイン、バリアフリーの観点から学ぶ。	(復習) 自宅を事例に、バリアフリー化の状況について点検する。	150分
第11回	集まって住むということ	集合住宅に住む意義、集合住宅と街との関係性、集合住宅の供給形式について学ぶ。	(復習) 自分の住む町の大規模集合住宅と周辺との関係性について考える。	150分
第12回	空き家問題	日本の人口構造の変化に伴う空き家問題について理解する	(復習) 自分の住む地域の空き家の状況について考える (レポート1/3) 地域の居住環境に関するレポートに取り組む	150分 +レポート150分
第13回	福祉と住まい	国、地方自治体が実施している居住支援について学ぶ	(復習) 自分の住む自治体で実施されている居住支援策について調べる (レポート2/3) 地域の居住環境に関するレポートに取り組む	150分 +レポート150分
第14回	こどもと住まい	社会・家族のあり方の変化に伴う住まいの変容について、こどものための居住環境という視点から学ぶ	(復習) 自分の住む地域におけるこどもの居住環境について考える	150分 +レポート150分
第15回	まとめ・定期試験	授業内容全般に関し、択一問題、穴埋め問題、語句の説明問題、考えを問う問題を出題する	(予習) 今までの授業内容を振り返る	150分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	小課題については、授業時間内に全体講評をおこなう。 レポートは、採点後にコメントを付して返却する。				
評価方法	小課題は、授業時間内に実習課題として実施するものと、授業内に提示する資料をもとに授業内容を踏まえて自分の意見をまとめて記述するもの、合わせて10回程度の実施を予定している。授業内容の理解、意見の妥当性について評価する。 レポートは、授業で得られた知識をもとに情報収集をおこない、発見した課題について自分の意見をまとめて記述する。課題の発見・整理は十分か、課題解決案は適切か、結論に至る筋道に論理性があるかについて評価する。 定期試験は、授業で配付したプリントのみ持ち込み可能とし、択一問題、穴埋め問題、語句の説明問題、考えを問う問題を出題する。				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	小課題	○	○	○	
	レポート	○	○	○	○
	定期試験	○	○	○	
評価割合	小課題30%、レポート30%、定期試験40%により総合的に評価する。				
使用教科書名 (ISBN番号)	特にテキストは指定しない				
参考図書	定行まり子「生活と住居」光生館 小澤紀美子ほか「豊かな住生活を考えるー住居学」彰国社				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、現代				

	生活の諸問題を理解できる 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる 【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案ができる	
学生へのメッセージ	家政学の他分野等との関連・連携を念頭に置き、広い視野に立ち問題を考えるよう心がけてください。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	建築史A		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 大橋 竜太	指定なし

ナンバリング	G24301C21
授業概要(教育目的)	日本建築史の通史を学ぶ。主としてパワーポイントを用いながら、おのおの時代の建築を、タイプごとに、それらを代表する具体的な実例をいくつか取り上げながら、それぞれの建築の特徴を解説していく。また、意匠や技術的側面ばかりでなく、それぞれの建築のもつ社会的意義についても考察し、わが国の伝統文化を理解する。
履修条件	特に定めない

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	日本建築の構造、意匠の特徴を理解する
思考・判断の観点 (K)	既存の建築から建築の建てられた時代背景を考える力を習得する
関心・意欲・態度の観点 (V)	既存の歴史的建築物の存在意義について考える力を身に付ける
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション 日本建築の構造	建築史とは何か、建築史を学ぶ目的とは 木造軸組構造の基礎、部材の名称	授業で説明した用語を復習すること	120分
第2回	先史時代の建築	竪穴住居、高床住居	教科書第1部I「竪穴式住居と高床式建物」(pp.10-11)を読んでもらうこと	120分
第3回	神社建築の成立	住吉造、大社造、神明造	教科書第1部II「古代の神社建築」(pp.12-13)を読んでもらうこと	120分
第4回	仏教建築の伝来	飛鳥時代の仏教寺院の伽藍、法隆寺、奈良時代の寺院建築、組物の発達	教科書第1部III「仏教建築の伝来」(pp.14-15)を読んでもらうこと。また、授業で配布するプリント(組物について)の組物名称を覚えること	120分

第5回	古代の都市計画と寝殿造	条坊制、モヤ・ヒサン構造、寝殿造	教科書第1部IV「古代の都市計画と住宅」(pp.16-17)を読むこと	120分
第6回	平安時代の仏教建築	密教建築、浄土教の建築	教科書第1部V「浄土教の建築」(pp.18-19)を読むこと	120分
第7回	中世の神社建築	春日造、流造、拝殿や境内の整備	教科書第1部VII「中世の神社建築」(pp.24-25)を読むこと	120分
第8回	中世の仏教建築1	南都焼討と奈良の再建、大仏様、禅宗様	教科書第1部VI「中世の仏教建築」(pp.20-23)を読むこと	120分
第9回	中世の仏教建築2	和様、折衷様、構造技術の発達	教科書第1部VI「中世の仏教建築」(pp.20-23)を読むこと	120分
第10回	中世の住宅建築から書院造へ	寝殿造の簡略化、楼閣建築、座敷飾り、書院造	教科書第1部VIII「中世の住宅から書院造へ」(pp.26-27)を読むこと	120分
第11回	近世の都市と建築	城郭建築、茶室・数寄屋、近世社寺、新しい建築タイプの誕生	教科書第1部IX「城郭建築」(pp.28-29) IX「城郭建築」(pp.28-29) X「茶室と数寄屋」(pp.30-31) XI「近世の社寺建築」(pp.32-33)を読むこと	120分
第12回	民家建築	民家の種類、町屋、土蔵造	教科書第1部XII「民家」(pp.36-39)を読むこと	120分
第13回	西洋建築の移入	擬洋風建築、日本人建築家の誕生	教科書第2部I「西洋文化の移入」(pp.42-43) II「日本人建築家の誕生」(pp.44-46)を読むこと	120分
第14回	戦後の住宅建築と都市政策	同潤会アパート、公営住宅、住宅公団、ニュータウンの開発、nLDK住宅の誕生	教科書第2部IV「都市計画および構造技術の発達」(pp.48-49) VII「戦後の住宅政策とDK住宅の誕生」(pp.56-58)を読むこと	120分
第15回	わが国のモダニズム建築 / 定期試験	わが国の近代建築運動、耐震建築の発達、メタポリズム / 学習内容の復習	教科書第2部V「モダニズム建築の到来」(pp.50-53) VIII「日本建築界からの発信」(pp.59-61) IX「モダニズムの先を求めて」(pp.62-63)を読むこと / 定期試験のために、これまで学習した内容を復習しておくこと	120分

学生へのフィードバック方法 学期内に2度に分けて、採点したレスポンスシートを返却する

評価方法

- ・毎回の授業の最後に10分程度で授業の概要をまとめ(レスポンスシート)、提出する。これにより、授業内容の把握状況を判断する。また、受講生の多くが十分に理解していないと判断した場合には、次回の授業の最初に、復習を行う
- ・定期試験は、大問5題と小問10題を出題する。大問は記述方式で、建築様式や重要項目に関して、関連事項とともに説明することを要求する。小問では、用語の説明、著名建築の説明、等を出題する。特に、建築を理解したり説明したりするためには、部材名称を覚えることが必須となるため、部材名称が説明できるようにしておくことが望まれる

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レスポンスシート	○	○		
定期試験	○	○	○	

評価割合 授業態度(レスポンスシートで判断)50%および定期試験50%で評価する

使用教科書名 (ISBN番号) 「建築史」編纂委員会編著、『コンパクト版 建築史【日本・西洋】』、彰国社 (ISBN : 978-4-395-00876-6)

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる															
オフィスアワー	火曜3限 1702室															
学生へのメッセージ	建築を学ぶためには、建築を実際に見て、空間を体験することがもっともよい方法です。授業で知った建築を、チャンスがあったら見に行く とよいでしょう。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当 有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		該当 有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング			情報リテラシー教育			ICT活用		
	該当 有無	概要														
実務経験を活かした授業																
アクティブ・ラーニング																
情報リテラシー教育																
ICT活用																

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	建築史B		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 大橋 竜太	指定なし

ナンバリング	G34302C21
授業概要(教育目的)	西洋建築史の通史を学ぶ。主としてパワーポイントを用いながら、おのおのの時代の建築を、タイプごとに、それらを代表する具体的な実例をいくつか取り上げながら、それぞれの建築の特徴を解説していく。また、意匠や技術的側面ばかりでなく、それぞれの建築のもつ社会的意義についても学び、建築やそこで行われる生活を通して、各国の伝統文化の理解を深める。
履修条件	特に定めない
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	西洋建築の構造、意匠の特徴を理解する
思考・判断の観点 (K)	既存の建築から建築の建てられた時代背景を考える力を習得する
関心・意欲・態度の観点 (V)	既存の歴史的建築物の存在意義について考える力を身に付ける
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション 先史時代の建築	ラスコー洞窟、ストーンヘンジ、ルドルフスキー『建築家なしの建築』	図書館で西洋建築史の通史数冊の目次をみて、この授業で何を学ぶかを把握すること	120分
第2回	古代エジプトとオリエントの建築	マスタバ、ピラミッド、スフィンクス、オベリスク、エジプト神殿、ジグurat、宮殿建築、アーチ構造	教科書第3部I「エジプト建築」(pp.66-67)II「オリエント建築」(pp.68-69)を読んでおくこと	120分
第3回	ギリシア建築	クレタ島とミュケナイの建築、ギリシア神殿、アクロポリスとアゴラ、オーダーの誕生(ドリス式、イオニア式、コリント式)	教科書第3部III「ギリシア建築」(pp.70-75)を読んでおくこと	120分
第4回	ローマ建築	5つのオーダーの完成、ローマの神殿、フォルム、公共建築、世俗建築、アトリウム型住宅	教科書第3部IV「ローマ建築」(pp.76-79)を読んでおくこと	120分
第5回	初期キリス	旧サン・ピエトロ大聖堂、集中式教会堂と長堂式教会	教科書第3部V「初期キリスト	120分

	ト教建築 ビザンティン建築	堂、ドームの発達（スキンチ、トロンブ、ペンデンティヴ）、ハギア・ソフィア大聖堂	教建築」（pp.80-81）VI「ビザンティン建築」（pp.82-83）を読んでおくこと	
第6回	ロマネスク建築	修道院の建築、巡礼路教会、各国のロマネスク教会堂	教科書第3部VIII「ロマネスク建築」（pp.86-89）を読んでおくこと	120分
第7回	ゴシック建築	ゴシック建築の特徴、構造の発達、各国のゴシック建築	教科書第3部IX「ゴシック建築」（pp.90-94）を読んでおくこと	120分
第8回	中世の都市と世俗建築	中世都市の特徴、城郭建築、町屋、民家（ハーフ・ティンバー等）	教科書第3部X「中世の世俗建築」（pp.94-95）を読んでおくこと	120分
第9回	ルネサンス建築	ルネサンス建築の特徴（古典様式の復興、教会堂建築の課題）、パラッツォとヴィッラ、フィレンツェの建築、ローマの建築、マニエリスム建築、ルネサンス建築の派生、パラディオの建築	教科書第3部XI「ルネサンス建築」（pp.96-100）を読んでおくこと	120分
第10回	バロック建築	サン・ピエトロ大聖堂の建替、ベルニーニとポロツミーニ、バロック建築の特徴、絶対王政と王宮建築	教科書第3部XII「バロック建築」（pp.101-107）を読んでおくこと	120分
第11回	近代と建築界	建築界と近代、啓蒙主義と建築、リヴァイヴァル建築、新古典主義とゴシック・リヴァイヴァル	教科書第3部XIII「リヴァイヴァル建築」（pp.108-111）を読んでおくこと	120分
第12回	新材料を用いた建築	鉄・ガラス・コンクリートの建築、土木構築物、アイアン・ブリッジ、温室、クリスタル・パレス	教科書第4部I「新材料を用いた構築物」（pp.114-115）を読んでおくこと	120分
第13回	近代の都市・住宅問題	産業革命の弊害としての都市問題、慈善家による住宅建設、モデル住宅、企業都市、ユートピア思想、郊外住宅地、田園都市論、ニュータウン	教科書第4部II「都市問題・住宅問題」（pp.116-118）を読んでおくこと	120分
第14回	近代建築運動	アーツ・アンド・クラフツ運動、アール・ヌーヴォー、アール・デコ、セセッション、シカゴ派、ドイツ工作連盟、ドイツ表現主義、イタリア未来派、ロシア構成主義、ディ・ステイル、バウハウス	教科書第4部III「アーツ・アンド・クラフツ運動」、IV「アール・ヌーヴォー」、V「アメリカ建築の近代化」、VI「セセッション」（pp.118-127）ならびにVIII「ドイツ工作連盟」、IX「近代建築運動」（pp.130-133）、XI「アール・デコとスカイスクレイパー」（p.141）を読んでおくこと	120分
第15回	モダニズム建築の完成と流布 ／ 定期試験	モダニズム建築、CIAM、ル・コルビュジェ、ミース・ファン・デル・ローエ、ウォルター・グロピウス、フランク・ロイド・ライト、ポスト・モダニズム建築 / 学習内容の復習	教科書第4部X「モダニズム建築の完成と流布」（pp.134-140）XII「第二次世界大戦後の建築」（pp.142-143）XIII「ポスト・モダニズム建築」（pp.144-145）を読んでおくこと / 定期試験のために、これまで学習した内容を復習しておくこと	120分

学生へのフィードバック方法 学期内に2度に分けて、採点したレスポンスシートを返却する

評価方法

- ・毎回の授業の最後に10分程度で授業の概要をまとめ（レスポンスシート）、提出する。これにより、授業内容の把握状況を判断する。また、受講生の多くが十分に理解していないと判断した場合には、次回の授業の最初に、復習を行う
- ・定期試験は、大問5題と小問10題を出題する。大問は記述方式で、建築様式や重要項目に関して、関連事項とともに説明することを要求する。小問では、用語の説明、著名建築の説明、等を出題する。特に、建築を理解したり説明したりするためには、部材名称を覚えることが必須となるため、部材名称が説明できるようにしておくことが望まれる

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レスポンスシート	○	○		
定期試験	○	○	○	

評価割合 授業態度（レスポンスシートで判断）50%および定期試験50%で評価する

使用教科書名 (ISBN番号)	「建築史」 編纂委員会編著、『コンパクト版 建築史【日本・西洋】』、彰国社 (ISBN : 978-4-395-00876-6)
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる 【思考・判断】 生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる 【関心・意欲・態度】 生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる
オフィスアワー	火曜3限 1702室
学生へのメッセージ	建築を学ぶためには、建築を実際に見て、空間を体験することがもっともよい方法です。授業で知った建築を、チャンスがあったら見に行くといよいでしょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	住生活論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 大橋 竜太	指定なし

ナンバリング	G14102C21
授業概要(教育目的)	住生活の歴史をふまえ、家族と住まいのかかわりや住生活を取りまく諸問題について検討する。また、良好な住空間を計画するために、理想とされる住空間の構成のタイプ、設備、関連法規など、建築計画の基本的な事項を一通り概観するとともに、設計・製図の基本を学ぶ。
履修条件	特に定めない

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	わが国の住空間の特徴を習得する
思考・判断の観点 (K)	住空間を計画するにあたって何が重要かを理解できるようになる
関心・意欲・態度の観点 (V)	理想の住空間を計画することができるようになる
技術・表現の観点 (A)	住空間を1:50の建築図面(平面図)で表現できるようになる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション	住まいとは、住まいに求められるもの、どこに住むか、住まいの分類、空間を理解する、日本建築のモジュール	自分の部屋の簡単な間取りを描く	120分
第2回	さまざまな住まい	住まいの進化とアメニティの追求、住まいの地域性、住み手と住まい、住まいの種類	川崎市立日本民家園に移築保存されている民家をインターネットで調べ、現代住宅との違いを整理する	120分
第3回	住まいの伝統	寝殿造、舗設、書院造、座敷飾り、空間の上下	インターネットで書院造の実例を調べる	120分
第4回	住まいの近代化とnLDK住宅	ベランダ式住宅、洋館、中廊下型住居、台所改革、住まい方の研究、51C型住宅、DKの登場、プレファブ住宅	リビング(L)とダイニング(D)とキッチン(K)のつながり方を整理する	120分
第5回	住宅地開発と集合住宅	都市問題の発生、田園都市論、ニュータウン、モデル住宅、住宅政策、同潤会、日本住宅公団	集合住宅と戸建住宅について、それぞれの長所と短所をまとめる	120分

第6回	住まいの管理と地域コミュニティ	住まいの安全、家庭内事故の現状、防犯、防災、住まいのメンテナンス、地域コミュニティ、地域計画	自宅の安全対策を確認するとともに、火災や地震が起きた場合の対応を確認する	120分
第7回	住まいの構成	住まいの機能、パブリック・スペースとプライベート・スペース、多様なライフスタイルと住まい	住まいで行う行為を列挙し、空間との関係を図示する	120分
第8回	中間試験および同解説	第1回～7回までの講義内容に関する試験を実施 授業後半にて、解答解説を行う	不正解の問題を復習する	120分
第9回	住まいの計画	リビング、ダイニング、キッチンの計画	自分の部屋の寸法を計測する	120分
第10回	図面の表現方法	図面の縮尺 平面図、立面図、断面図、展開図の表現	1:500、1:200、1:100、1:50、1:20のスケールバーを作図する	120分
第11回	1Kの住宅の計画1	自分の部屋を1:50の平面図で表現する	図面を完成させる	120分
第12回	1Kの住宅の計画2	4.2×6mの空間に1Kの住宅を計画する	図面を完成させる	120分
第13回	1Kの住宅の計画3	1点透視図法で室内を表現する	図面を完成させる	120分
第14回	マンションのリフォーム計画1	1:50の建築図面（平面図）を理解する 線の意味、躯体と間仕切壁の違いを学ぶ	図面を完成させる	120分
第15回	マンションのリフォーム計画2	理想の住戸を計画する	図面を完成させる	120分

学生へのフィードバック方法 授業で中間試験の解説を行う

評価方法 ・ 中間試験は、大問2題と小問10題を出題する。大問は記述方式で、nLDK住宅の成立と集合住宅に関する問題を出題する。小問では、用語の説明を中心に出題する
・ 2つ課題に関しては、図法が理解できているか、家具のスケール感概が正しかどうかを中心に採点する

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間試験	○	○		
課題	○	○	○	○

評価割合 中間試験(50%)と2つの課題(第一課題30%、第二課題20%)で評価する

使用教科書名 (ISBN番号) 特に定めない

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる
【関心・意欲・態度】、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる
【技能・表現】・次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる

オフィスアワー 月曜2限 1702室

学生へのメッセージ 三次元の「空間」を理解するには、教室での授業だけでは十分ではありません。日頃から身の回りの空間に関心を持ち、たとえば、ドアの幅や机の幅・高さなどを測ってみて、使いやすい寸法はいくつぐらいなのかを考えてみてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	製図の描き方等に関する教育内容を含む
情報リテラシー		

教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	住居設備		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 梶田 考一	指定なし

ナンバリング	G14310C21
授業概要(教育目的)	私たちが生活する住まいは様々な設備システムを維持管理することによって成り立っている。その設備システムには、快適性、利便性、機能性、安全性、信頼性、経済性、省エネ・省資源、環境安全性、保守管理性が求められており、住居を供給する立場からも、生活者としても、それらを適切に評価できる能力を身につける必要がある。受講者が住居において使用する、給排水衛生設備、換気設備について講義する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	[建築士指定科目] 住まいの給排水衛生設備システムについて、その名称、働きを説明できる。
思考・判断の観点(K)	
関心・意欲・態度の観点(V)	
技術・表現の観点(A)	

学習計画

住居設備

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業計画 (配布資料) 建築設備の位置付けについて理解する。 戸建住宅の建築設備/住宅で 사용되는エネルギーの種類/建築士の仕事(映像資料)	建築設備の位置付けについて復習すること	60
第2回	住居設備の概要	設備システムから見た戸建住宅と集合住宅の違いについて理解する。 (配布資料) すまいの「水・お湯」のしくみ/すまいの「空気・熱」のしくみ/ビルの「給排水・衛生」のしくみ/ビルの「空調」のしくみ/インテリアコーディネーターの仕事(映像資料)	水、湯、熱の供給廃棄のしくみについて復習すること	60
第3回	建築と水環境(1)	水環境について理解する。 快適な水環境をつくるもの/水の流れ/都市設備と建築	教科書p.102-110(水環境・水の用途)について読んでおくこ	180

		設備／建築設備と自然環境／自然にやさしい再利用水	と	
第4回	建築と水環境 (2)	水の用途について理解する。 水と生活／生命維持のための水／水の用途と設備 給排水衛生設備 上水 雑用水／生活用水と使用水量	水の用途について復習すること	120
第5回	水に関する基礎知識 (1)	水質、給水圧力について理解する。 水質／上水、下水、再利用水／おいしい水、湯（定義、洗浄力）、浄水器 残留塩素 水に対する溶解度 水と圧力／圧力の単位／ベルヌーイの式	教科書p.111-120（水に関する基礎知識）について読んでおくこと	180
第6回	水に関する基礎知識 (2)	トラップの機能、破封現象、水使用の負荷について理解する。 トラップの機能／封水損失現象とその防止対策／誘導サイホン作用 自己サイホン作用 蒸発 水の使われ方と負荷／水使用パターンとピーク負荷／適正器具数	課題1（水基礎知識）による復習	120
第7回	給水設備 (1)	給水の汚染防止について理解する。 安全な水／飲料用給水の汚染と防止／クロスコネクション 逆サイホン作用 吐水口空間 バキュームブレイカー 逆止弁 受水槽の6面点検 器具の汚染と防止／間接排水 排水口空間	教科書p.121-125（給水設備）について読んでおくこと	180
第8回	給水設備 (2)	給水方式について理解する。 システムの種類／器具の必要給水圧力／直結直圧方式 直結増圧方式 高置水槽方式 圧力水槽方式 ポンプ直送方式 システムの構成／ポンプ 水槽 配管材料	課題2（給水設備）による復習	120
第9回	給湯設備 (1)	給湯熱源の仕組みについて理解する。 湯と水の違い／給湯エネルギー／住宅のエネルギー消費熱源とシステム機器／自然冷媒ヒートポンプ給湯器 潜熱回収型ガス瞬間湯沸器 ハイブリット型給湯器 太陽熱温水器	教科書p.126-129（給湯設備）について読んでおくこと	180
第10回	給湯設備 (2)	給湯方式について理解する。 システムの種類／住戸セントラル給湯方式 さや管ヘッダー配管方式 中央式給湯方式 システムの構成／湯沸器 貯湯槽 膨張水槽 逃し管 伸縮継手	課題3（給湯設備）による復習	120
第11回	排水通気設備 (1)	排水の仕組みについて理解する。 排水管内の流れ／圧力発生原理／特殊継手排水システム／排水の種類と排水方式	教科書p.130-136（排水通気設備）について読んでおくこと	180
第12回	排水通気設備 (2)	排水の円滑な流れについて理解する。 システムの部品構成／ベントキャップ／排水管・継手類／フロアドレン／阻集器／排水ます・排水槽	課題4（排水通気設備）による復習	120
第13回	衛生設備	衛生器具の種類について理解する。 衛生器具の種類／給水器具 水受け容器 排水器具 付属品 プレハブ ユニット化 水栓金具／大便器／洗面化粧台／浴槽／流し類／排水器具	教科書p.137-141（衛生設備）について読んでおくこと 課題5レポート「キッチン・洗面・浴室・トイレの製品特徴・選択理由・設置寸法を調べる」による復習	90 690
第14回	浄化設備・ガス設備	浄化槽、ガス設備について理解する。 浄化槽の役割／設置基準／処理方式／構造 ガス利用の歴史／都市ガスとLPG／ガスの性質／供給方式／設備設計／安全対策	教科書p.142-151（浄化設備・ガス設備）について読んでおくこと 配布資料（ガス設備の燃焼方式）について復習すること	90 60
第15回	換気設備	換気設備について理解する。 換気方式と換気量／シックハウス対策と24時間換気／換気の法的規制	教科書p.87-95（換気設備）について読んでおくこと 換気の方式について復習すること	90 60

学生へのフィードバック方法 すべての課題について、採点の後、授業中に解説を行う。

評価方法

- ・課題は、二級建築士試験に出題された過去問より抽出した文章について、正誤を問う形式である。
- ・レポートは、衛生器具設備（キッチン・洗面・浴室・トイレ）の製品特徴・選択理由・設置寸法についてショールームあるいはカタログで調べる課題である。
- ・定期試験は、課題の間を多肢択一で選ぶ設問がおおよそ60%、教科書・配布資料から作成した問を多肢択一で選ぶ設問がおおよそ40%である。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			

課題	○			
レポート	○			

評価割合	定期試験(70%)、レポート及び課題(30%)による総合評価
使用教科書名(ISBN番号)	「建築の設備」入門 新訂第二版/同編集委員会編/彰国社/2017年 978-4-395-32095-0
ディプロマポリシーとの関連	現代家政学科 [知識・理解] 社会の基盤として「質の高い生活」とは何かを理解できる。 生活デザイン学科 [知識・理解] 住分野について専門的知識を有して、専門的な職業の道へつなぐことができる。
オフィスアワー	千代田三番町C 火曜5限 1807室 / 町田C 金曜3限 3604室
学生へのメッセージ	建築士試験指定科目 ④建築設備 に認定。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	構造力学A		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 白井 篤	指定なし

ナンバリング

G14401021

授業概要(教育目的)	構造力学の入門編として、建築（住居）における力学への興味を喚起し、新しい空間構成を想像する能力の育成を目的としている。そのために、各種建築物のかたちと強さの関係について、平易に解説すると共に、実際にそれら建築物の構造模型を制作し、簡単な実験（一点で支える力の実験、梁の変形など）と計算を行うことにより、力学を含む数学的な知識の向上を図る。また、構造形式の異なる建築物（ラーメン構造、トラス構造、アーチ構造、膜構造、折板構造など）についても紹介する。
------------	--

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1. 構造物に作用する荷重とそれによって生ずる支持反力を理解し、説明できる。 2. 力の釣合い条件をもとに、トラスに生ずる部材応力の計算ができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業概要、授業の進め方、到達目標、必要とする教室外学習(予習・復習)、成績評価の方法・基準などについて理解すること。力学を学ぶ上で理解して欲しい用語(質量、重量、荷重[固定荷重、積載荷重、積雪荷重、地震荷重、風圧力など])についても説明できるようにすること。	【復習】授業で説明した用語(質量、重量、荷重)の意味について、書籍やネットなどで調べて理解すること。	60
第2回	力と形 (1) 1点で支える力の実験	1枚の紙に圧縮力がかかった時に、紙がどのような形だと大きな力を支えることができるかについて実験を通して理解すること。	【復習】授業で説明した用語(外力、反力及び応力)の意味について、書籍やネットなどで調べて理解すること。又、かたちと力の関係についても復習してくること	120
第3回	力と形	力と形に関する図心、重心、剛心、座屈などの用語を	【復習】授業で説明した用語	120

	(2) 1点 で支える力 の実験の解 説	用いながら、どんな形であれば大きな力を支えることができるかについて説明するので理解すること。又、応力度の計算ができること。	(図心、重心、剛心及び屈座)の意味について、書籍やネットなどで調べて理解すること。又、応力度の計算についても復習してくること。	
第4回	力と形 (3) 図心 の求め方 (制作)	図心について理解を深めるため、制作でT字形(床と壁を想定)の紙の図心を求めるので理解すること。又、建物の構造形式(剛構造[耐震構造]及び柔構造[免震構造・制震構造])についても説明できるようにすること。	【復習】授業で説明した用語(剛構造[耐震構造]及び柔構造[免震構造・制震構造])の意味について、書籍やネットなどで調べて理解すること。	120
第5回	力と形 (4) 図心 の求め方 (計算)	図心について理解を深めるため、計算でT字形(床と壁を想定)の紙の図心を断面一次モーメントを用いて求めるので理解すること。又、建物の構造形式(ラーメン構造、トラス構造、アーチ構造、膜構造、折板構造など)についても説明できるようにすること。	【復習】断面一次モーメントの計算について復習して理解すること。又、授業で説明した用語(ラーメン構造、トラス構造、アーチ構造、膜構造、折板構造など)についても書籍やネットなどで調べて理解すること。	120
第6回	形と変形	片持ち梁の変形について、部材断面の寸法や片持ちの長さを変えた実験を行いながら、形と変形の関係について説明するので理解すること。	【復習】形と変形の関係について、書籍やネットなどで調べて理解すること。	120
第7回	力の合成と 分解(1) (図式解 法)	力の合成と分解について作図を通して説明するので理解すること。又、荷重の種類(集中荷重、等分布荷重及び等変分布荷重)についても説明できるようにすること。	【復習】荷重の種類(集中荷重、等分布荷重及び等変分布荷重)について書籍やネットなどで調べて理解すること。	120
第8回	力の合成と 分解(2) (図式解 法及び計 算)	平行な力の合成について作図を通して説明するので理解すること。又、支点と節点についても説明できるようにすること。	【復習】返却した小テストについて、復習すると共に、支点と節点について書籍やネットなどで調べて理解すること。	180
第9回	力の合成と 分解(3) (支持反 力の算出)	単純梁に集中荷重が作用した時の支点に生じる反力を計算できること。	【復習】授業で行った練習問題について、復習して理解すること。	180
第10回	力の合成と 分解(4) (支持反 力の算出)	単純梁に等分布荷重及び等変分布荷重が作用した時の支点に生じる反力を計算できること。 【宿題あり】	【復習】授業で行った練習問題について、復習して理解すること。又、本当に理解しているか宿題を解いて確認すること。	240
第11回	力の合成と 分解(5) (支持反 力の算出)	片持ち梁に集中荷重が作用した時、及び静定ラーメンに集中荷重が作用した時の支点に生じる反力を計算できること。 【宿題あり】	【宿題】授業で行った練習問題について、復習して理解すること。又、本当に理解しているかについて宿題を解いて確認すること。	240
第12回	トラス (1) (節 点法による 部材応力 の算出)	トラスの解法の条件について説明し、実際に節点法を用いてトラスの部材応力の算出を行うので理解すること。 【宿題あり】	【復習】授業で行った練習問題について、復習して理解すること。又、本当に理解しているかについて宿題を解いて確認すること。	240
第13回	トラス (2) (節 点法による 部材応力 の算出)	節点法によるトラス部材の応力計算ができること。【宿題あり】	【復習】授業で行った練習問題について、復習して理解すること。又、本当に理解しているかについて宿題を解いて確認すること。	240
第14回	トラス (3) (切 断法による 部材応力 の算出)	切断法によるトラスの部材応力の算出を行うので理解できること。【宿題あり】	【復習】授業で行った練習問題について、復習して理解すること。又、本当に理解しているかについて宿題を解いて確認すること。	240
第15回	トラス (4) (切 断法による 部材応力 の算出)	切断法によるトラス部材の応力計算ができること。授業の最後に定期試験について説明するので理解すること。	【復習】第8回から第15回までの授業内容について復習して定期試験に備えること。	360

学生へのフィードバック方法	実施した小テスト、実験レポート及び宿題については、採点して次週の授業の初めに返却する。返却時に正答について解説を行う。
評価方法	平常点については、授業の最後に行う小テストもしくは授業中に実施する実験レポートで評価する。1回の授業の平常点は10点満点とし、小テストの正答率もしくは実験レポートの記載内容を3段階(A:10点、B:5点、C:0点)で評価する。授業は15回あるので150点満点となる。宿題については、5回出し、1回10点満点で正答率によって3段階(A:10点、B:5点、C:0点)で評価する。定期試験は50点満点で、静定梁の反力計算が2問、トラス応力の計算が1問とする。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト・実験レポート	○			
宿題	○			
定期試験	○			

評価割合	平常点（60％）、宿題（20％）、定期試験（20％）により、総合的に評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。
参考図書	和田彰ら／建築構造設計／実教出版、山田修／やさしい建築の構造力学／オーム社、小野里憲一・西村彰敏／力のつり合いを理解する構造力学／彰国社
ディプロマポリシーとの関連	質の高い生活をおくるための1つに安全・安心な家づくりがある。その家づくりの基礎となる構造的な知識を身につけている。
オフィスアワー	火曜日 4 時限 非常勤講師室
学生へのメッセージ	ガイダンス（第1回目の授業）で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について、事前に勉強した上で、授業に臨むこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	構造計画 A		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	2 限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 永井 佑季	指定なし

ナンバリング	G24402C21
--------	-----------

授業概要(教育目的)	<p>授業は、建築における構造デザインについて学ぶ内容とします。</p> <p>構造に関する歴史的変遷を通して構造デザインの基礎知識を学び、現代建築における構造デザインの実例を通して、鉄骨構造、木質構造、鉄筋コンクリート構造等の概略の知識を習得します。その他、スタジアムのような大空間やシェル構造等の空間構造、さらに、ガラスやアルミ等の建築に使われる材料にも着目して、幅広く構造について学んでいきます。</p> <p>また、「構造デザイン」がどういったものであるかの理解を深めるために、パスタブリッジのデザイン・制作・載荷実験を通して体得します。</p>
------------	---

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	建築における、意匠設計と構造設計の関係性について理解を深めながら、各種構造に関する基礎知識を習得することを、目標とします。
思考・判断の観点 (K)	将来、建築のデザイン関係の仕事(設計やインテリアデザイン等)をする際に、構造に対する基礎的な知識により、適切なデザイン判断が出来るようになることを目標とします。
関心・意欲・態度の観点 (V)	建築の構造という分野に興味を持ち、構造デザインという分野に関心を持てるようになることを目標とします。
技術・表現の観点 (A)	建築を専門としない学生でも、建築を専門とする学生とチームを組み、グループで課題に取り組むことにより、建築的な技術を体得することを目標とします。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション 「構造とデザインとは」	当該授業で扱う建築における構造の世界の概要について説明を行う。	構造デザインについて参考図書を参照しながら学ぶ。	180分
第2回	意匠設計と構造設計 / 構造デザインとはー1	意匠設計と構造設計との関係を紐解きながら、構図デザインについて学ぶ。	構造デザインについて参考図書を参照しながら学ぶ。	180分
第3回	模型実験で力の流れを	パスタブリッジのデザイン・制作・載荷実験を通して、「構造」と「デザイン」の関係性について学ぶ。その第1	構造デザインについて参考図書を参照しながら学ぶ。	180分

	理解する - 1	回目として、パスタブリッジ制作のためのガイダンス及び、制作を行うグループ分け、デザインを行う。		
第4回	鉄の構造 - 1	鉄骨構造の歴史について学ぶ。	第3回の授業で課題としているパスタブリッジのデザイン・制作を予習復習の時間を通して、参考図書等を参考にしながら行う。	180分
第5回	鉄の構造 - 2	前回に引き続き、現代の鉄骨構造のデザインについて学ぶ。	第3回の授業で課題としているパスタブリッジのデザイン・制作を予習復習の時間を通して、参考図書等を参考にしながら行う。	180分
第6回	模型実験で力の流れを理解する - 2	第3回のパスタブリッジの各グループのデザインについて中間発表を行い、互いのグループについて意見を述べたり質問をしたりすることで、製作に向けてデザインをブラッシュアップする。	第3回の授業で課題としているパスタブリッジのデザイン・制作を予習復習の時間を通して、参考図書等を参考にしながら行う。	180分
第7回	木の構造 - 1	木造の基本について学ぶとともに、木を使った建物の実例から木の構造デザインについて学ぶ。	第3回の授業で課題としているパスタブリッジのデザイン・制作を予習復習の時間を通して、参考図書等を参考にしながら行う。	180分
第8回	鉄筋コンクリートの構造 - 1	鉄筋コンクリート構造の基本について学ぶとともに、鉄筋コンクリートを使った特殊な建物のデザインについて学ぶ。	第3回の授業で課題としているパスタブリッジのデザイン・制作を予習復習の時間を通して、参考図書等を参考にしながら行う。	180分
第9回	鉄筋コンクリートの構造 - 2	鉄筋コンクリートを使った現代の建物のデザインについて学ぶ。	第3回の授業で課題としているパスタブリッジのデザイン・制作を予習復習の時間を通して、参考図書等を参考にしながら行う。	180分
第10回	模型実験で力の流れを理解する - 3	第3回のパスタブリッジの課題である、パスタブリッジの制作を行う。パスタの強度、接着剤の材料的強度等を制作をとおして感じ取り、実際の建物の設計における強度とデザインのバランスについて学ぶ。	第3回の授業で課題としているパスタブリッジのデザイン・制作を予習復習の時間を通して、参考図書等を参考にしながら行う。	180分
第11回	大きな空間の構造	ドームやスタジアム等の大きな空間を作る構造について学ぶ。	第3回の授業で課題としているパスタブリッジのデザイン・制作を予習復習の時間を通して、参考図書等を参考にしながら行う。	180分
第12回	模型実験で力の流れを理解する - 4	前回に続き第3回のパスタブリッジの課題である、パスタブリッジの制作を行う。パスタの強度、接着剤の材料的強度等を制作をとおして感じ取り、実際の建物の設計における強度とデザインのバランスについて学ぶ。	第3回の授業で課題としているパスタブリッジのデザイン・制作を予習復習の時間を通して、参考図書等を参考にしながら行う。	180分
第13回	模型実験で力の流れを理解する - 5	前回に続き第3回のパスタブリッジの課題である、パスタブリッジの制作を行う。パスタの強度、接着剤の材料的強度等を制作をとおして感じ取り、実際の建物の設計における強度とデザインのバランスについて学ぶ。	第3回の授業で課題としているパスタブリッジのデザイン・制作を予習復習の時間を通して、参考図書等を参考にしながら行う。	180分
第14回	模型実験で力の流れを理解する - 6	第3回から開始したパスタブリッジについて、最終的な成果物に重りを載荷し、自身が制作したブリッジの強度の確認を行い、構造とデザインについて学んだことを総括する。	参考図書等を参考に、自身が制作したパスタブリッジの強度について検証を行う。	180分
第15回	総括	構造デザインについて学んだ内容について総括を行う。具体的には、授業中のレポート課題により、学んだ内容を復習するような内容とする。	参考図書等を参考としながら、構造デザインについて総括を行う。	180分

学生へのフィードバック方法	パスタブリッジの制作を通して、授業中にコメント等を行う。			
評価方法	授業への出席はもとより、授業への積極的な参加等の平常点や、授業内に行うレポートの提出等により評価を行う。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)

平常点	○	○	○	
発表点	○		○	○

評価割合	出席及び平常点（授業への参加態度や授業中に小レポート等）（50%） バスタブリッジに関する発表点（20%） 学期末の授業内課題レポート（30%）
使用教科書名（ISBN番号）	特に指定しない
参考図書	「空間・構造・物語—ストラクチャル・デザインのゆくえ（斎藤公男著・彰国社）」 「建築構造のしくみ—力の流れとかたち（建築の絵本）（川口 衛, 松谷 宥彦, 川崎 一雄, 阿部 優 共著・彰国社）」
ディプロマポリシーとの関連	授業をとおして建築の構造デザインについて学ぶことをとおして建築における構造分野と向き合うことにより、生活・社会の諸問題を自らから分析し、問題解決に導く考察ができるようになると考えられる。
学生へのメッセージ	基本的に、スライドによる講義とします。適宜メモを取り、積極的な授業参加をしてください。講義内容を確認するため、さらに、より構造デザインに関する知識の幅を広げるために、参考図書による、予習・復習に役立てることをお勧めします。 なお、授業の途中では、バスタによるブリッジの制作により実際に手を動かしてもらい、建物に働く力の流れを体験してもらいます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	インテリア材料		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 白井 篤	指定なし

ナンバリング	G24403C21
授業概要(教育目的)	建築材料の中から、インテリアを中心とした仕上げ材（壁材、床材、天井材など）を取り上げて、それら部材に使われている材料（せっこうボード、繊維補強系ボード、軽量気泡コンクリート、タイル、れんが、石材、ガラス、塗料、断熱材、接着剤、プラスチックなど）の基本的事項を平易に解説する。また、インテリア材料は構造材料とは異なり、安全性や耐久性以外に、機能性、快適性、美観性などの性能も要求される。そこで、各部位に要求される性能条件と材料との関連性を理解させると共に、建築仕上げ材料選定にあたっての基礎的知識を養う。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	学習目標（到達目標）
知識・理解の観点 (K)	各種の建築仕上げ材料について、その基本的事項（種類、性質など）を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業概要、授業の進め方、到達目標、必要とする教室外学習、成績評価の方法・基準などについて理解すること。 【レポート課題(繊維板の種類とその特徴について)の説明】	【復習】ガイダンス(第1回の授業)で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すると共に、レポート課題に関する資料集めを行う。	60
第2回	屋根材料 (1) 粘土瓦	粘土瓦(釉薬瓦、無釉瓦、いぶし瓦など)の種類や特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、レポート課題を書き始める。	180
第3回	屋根材料	金属板(トタン、ブリキ、ガルファン、ガルバリウム鋼	【予習】授業予定表に記載した	300

	(2) 金属板	板など)の特徴について説明できるようにすること。	「キーワード」について調べて理解すると共に、レポート課題についてまとめる作業を行う。 【復習】返却した小テストについて復習する。	
第4回	屋根材料 (3) スレートなど	スレート、プレスセメント瓦などの特徴について説明できるようにすること。 【レポート課題の提出】	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すると共に、レポート課題についてルーブリックに示した観点に従って書いているか見直しを行い、提出できるようにする。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	420
第5回	内外装仕上げ材料 (1) 木質系材料	木質系材料(合板、集成材、繊維板、パーティクルボードなど)の種類や特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テスト及びレポート課題について見直すこと。	180
第6回	内外装仕上げ材料 (2) せっこうボード	せっこうボードの特徴や種類について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第7回	内外装仕上げ材料 (3) 繊維補強系ボード	繊維補強系ボードの種類やその特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第8回	内外装仕上げ材料 (4) 軽量気泡コンクリート	軽量気泡コンクリートの特徴、壁への熱の伝わり方(熱伝導、熱伝達、熱貫流)及び不燃、準不燃、難燃材料の違いについて説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること 【復習】返却した小テストについて復習すること	120
第9回	内外装仕上げ材料 (5) タイル	タイルの種類(素地による区分)やその特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第10回	内外装仕上げ材料 (6) れんが	れんがの種類とその特徴、及び目地の種類について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第11回	内外装仕上げ材料 (7) 石材	石材の種類とその特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第12回	内外装仕上げ材料 (8) 左官材料	左官材料の種類とその特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第13回	内外装仕上げ材料 (9) ガラス	ガラスの種類とその特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第14回	その他の材料 (1) 塗装材料	塗装材料(塗料)の種類とその特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、定期試験に備えて第1回から第14回までの授業内容について復習しておくこと。	480
第15回	その他の材料 (2) 断熱材料	断熱材料の種類とその特徴について説明できるようにすること。 第1回から第14回までの授業内容について理解していること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。	120

／ 定期試験	【復習】返却した小テストについて復習すること。																																	
学生へのフィードバック方法	実施した小テスト及びレポート課題については、採点して次週の授業の初めに返却する。返却時に、小テストについては正答の説明を、レポート課題については評価基準の解説を行う。																																	
評価方法	平常点については、授業の最後に行う小テストで評価する。小テストの問題は、○×問題もしくは択一問題である。問題の多くは、過去のインテリアコーディネーター及び二級建築士資格試験で出されたもので、授業時の内容8割、授業外学習の内容2割である。1回の授業の平常点は10点満点とし、小テストの正答率によって3段階（A:10点、B:5点、C:0点）で評価する。レポート課題については、「課題に対する記述」「表現方法」「文章を書くときの技術的な約束事」「参考文献の活用」「その他（提出期限、分量、体裁など）」の5つの観点で評価する。評価基準については、レポート課題出題時に説明する。レポート課題については、50点満点とし、10段階（S:50点、SA:45点、A:40点、AB:35点、B:30点、BC:25点、C:20点、CD:15点、D:10点、E:5点）で評価する。定期試験については、150点満点とし、全て記述式の問題とする。																																	
評価基準																																		
評価基準																																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="164 577 507 622">評価方法</th> <th data-bbox="507 577 730 622">知識・理解 (K)</th> <th data-bbox="730 577 959 622">思考・判断 (K)</th> <th data-bbox="959 577 1267 622">関心・意欲・態度 (V)</th> <th data-bbox="1267 577 1500 622">技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="164 622 507 667">小テスト</td> <td data-bbox="507 622 730 667">○</td> <td data-bbox="730 622 959 667"></td> <td data-bbox="959 622 1267 667"></td> <td data-bbox="1267 622 1500 667"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="164 667 507 712">レポート課題</td> <td data-bbox="507 667 730 712">○</td> <td data-bbox="730 667 959 712"></td> <td data-bbox="959 667 1267 712"></td> <td data-bbox="1267 667 1500 712"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="164 712 507 757">定期試験</td> <td data-bbox="507 712 730 757">○</td> <td data-bbox="730 712 959 757"></td> <td data-bbox="959 712 1267 757"></td> <td data-bbox="1267 712 1500 757"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="164 757 507 801"></td> <td data-bbox="507 757 730 801"></td> <td data-bbox="730 757 959 801"></td> <td data-bbox="959 757 1267 801"></td> <td data-bbox="1267 757 1500 801"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="164 801 507 813"></td> <td data-bbox="507 801 730 813"></td> <td data-bbox="730 801 959 813"></td> <td data-bbox="959 801 1267 813"></td> <td data-bbox="1267 801 1500 813"></td> </tr> </tbody> </table>	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	小テスト	○				レポート課題	○				定期試験	○																	
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																														
小テスト	○																																	
レポート課題	○																																	
定期試験	○																																	
評価割合	平常点(約43%)、レポート課題(約14%)及び定期試験(約43%)で評価する。																																	
使用教科書名 (ISBN番号)	適宜、資料を印刷・配付する。																																	
参考図書	コーディネーター受験のためのインテリア仕上げ材／砂川幸雄・江口征男／相模書房、初学者の建築講座 建築材料／橋高義典ら／市ヶ谷出版																																	
ディプロマポリシーとの関連	質の高い生活をおくるための1つに人や環境に優しい家づくりがある。その家づくりの基礎となる仕上げ材料についての専門的知識を有している。																																	
オフィスアワー	火曜日 4 時限 非常勤講師室																																	
学生へのメッセージ	ガイダンス（第1回目の授業）で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について、事前に勉強した上で、授業に臨むこと。																																	
教育等の取組み状況																																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="164 1272 331 1339"></th> <th data-bbox="331 1272 411 1339">該当有無</th> <th data-bbox="411 1272 1500 1339">概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="164 1350 331 1417">実務経験を活かした授業</td> <td data-bbox="331 1350 411 1417"></td> <td data-bbox="411 1350 1500 1417"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="164 1429 331 1496">アクティブ・ラーニング</td> <td data-bbox="331 1429 411 1496"></td> <td data-bbox="411 1429 1500 1496"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="164 1507 331 1574">情報リテラシー教育</td> <td data-bbox="331 1507 411 1574"></td> <td data-bbox="411 1507 1500 1574"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="164 1585 331 1608">ICT活用</td> <td data-bbox="331 1585 411 1608"></td> <td data-bbox="411 1585 1500 1608"></td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング			情報リテラシー教育			ICT活用																					
	該当有無	概要																																
実務経験を活かした授業																																		
アクティブ・ラーニング																																		
情報リテラシー教育																																		
ICT活用																																		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	住宅施工		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 白井 篤	指定なし

ナンバリング	G24404C21
授業概要(教育目的)	住宅生産の最終段階である施工について、住宅の主要構造形式である木構造を中心として、地業工事、主体工事、内外装仕上げ工事（タイル工事、左官工事、塗装・吹付け工事など）、床工事（カーペット敷き込み工事、畳敷き工事など）の順に施工方法を平易に解説する。また、住宅などの建築物を建設する際に必要となる敷地とその周辺並びに地盤の調査方法についても学ぶ。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	木造住宅の施工方法について、工事種別ごとに説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス 施工・管理計画(1)	授業概要、授業の進め方、到達目標、必要とする教室外学習、成績評価の方法・基準などについて理解すること。又、工事契約の概略についても説明できるようにすること。	【復習】ガイダンス(第1回の授業)で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。	60
第2回	施工・管理計画(2)	工程表の種類及び読み方について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第3回	施工・管理計画(3)	工事現場での材料管理、工事着手前に行う各種の届出などについて説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120

第4回	地業工事 (1)	住宅が建てられる地盤について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第5回	地業工事 (2)	住宅の地盤調査として用いられているSS式サウンディング試験について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第6回	基礎工事 (1)	住宅に用いられている基礎の種類について説明できるようにすること。 【レポート課題（タイル工事の種類とその特徴について）の説明】	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、レポート課題に関する資料集めを行う。	180
第7回	基礎工事 (2)	基礎工事について、水盛り・やり方工事、割栗・捨てコンクリート工事、フーチング基礎工事などに分けて説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、レポート課題を書き始める。	240
第8回	主体工事 (1)	土台から柱の建て方まで説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、レポート課題についてまとめる作業を行う。	300
第9回	主体工事 (2)	胴差、梁、桁などの横方向の部材の取付方法について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、レポート課題について、ルーブリックで示した観点に沿ってまとめられているか確認し、提出できるように準備する。	360
第10回	主体工事 (3)	小屋組及び屋根工事について説明できるようにすること。 【レポート課題の提出期限】	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第11回	内外装工事 (1)	タイル工事の中の湿式工法について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テスト及びレポート課題について見直すこと。	180
第12回	内外装工事 (2)	左官工事の中のセメントモルタル塗り及び石こうプラスター塗り工事について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第13回	床工事 (1)	床工事の中のビニルタイル張り及びビニルタイルシート張り工事について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第14回	床工事 (2)	床工事の中のカーペット工事及び畳敷きについて説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第15回	設備工事	設備工事の中の給排水工事について説明できるようにすること。 授業の最後に定期試験について説明する。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、定期試験に備えて第1回から第15回までの授業内容について復習しておくこと。	420

学生へのフィードバック方法	実施した小テスト及びレポート課題については、採点して次週の授業の初めに返却する。返却時に、小テストについては正答の説明を、レポート課題については評価基準の解説を行う。																																	
評価方法	平常点については、授業の最後に行う小テストで評価する。小テストの問題は、○×問題もしくは択一問題である。問題の多くは、過去の二級建築士及び木造建築士の資格試験で出されたもので、授業時の内容8割、授業外学習の内容2割である。1回の授業の平常点は10点満点とし、小テストの正答率によって3段階（A:10点、B:5点、C:0点）で評価する。レポート課題については、「課題に対する記述」「表現方法」「文章を書くときの技術的な約束事」「参考文献の活用」「その他（提出期限、分量、体裁など）」の5つの観点で評価する。評価基準については、レポート課題提出時に説明する。レポート課題については、50点満点とし、10段階（S:50点、SA:45点、A:40点、AB:35点、B:30点、BC:25点、C:20点、CD:15点、D:10点、E:5点）で評価する。定期試験については、150点満点とし、全て記述式の問題である。																																	
評価基準	<p>評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小テスト</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>レポート課題</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	小テスト	○				レポート課題	○				定期試験	○													
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																														
小テスト	○																																	
レポート課題	○																																	
定期試験	○																																	
評価割合	平常点（約43%）、レポート課題（約14%）及び定期試験（約43%）で評価する。																																	
使用教科書名 (ISBN番号)	適宜、資料を印刷・配付する。																																	
参考図書	最新構造入門／青木博文／実教出版、建築施工テキスト（改訂版）／兼歳昌直／井上書院、やさしい建築施工／松本進／学芸出版社																																	
ディプロマポリシーとの関連	質の高い生活をおくるための1つに安全・安心な家づくりがある。その家づくりの基本となる施工方法についての専門的知識を有している。																																	
オフィスアワー	火曜日 4 時限 非常勤講師室																																	
学生へのメッセージ	ガイダンス（第1回目の授業）で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について、事前に勉強した上で、授業に臨むこと。																																	
教育等の取組み状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング			情報リテラシー教育			ICT活用																	
	該当有無	概要																																
実務経験を活かした授業																																		
アクティブ・ラーニング																																		
情報リテラシー教育																																		
ICT活用																																		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	建築法規		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3,4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 塚田 豊	指定なし

ナンバリング

G34306C21

授業概要(教育目的)

建築基準法及び施行令を中心にその他の建築関係法令との関連も併せて、理解しにくい法令文や法令用語などを平易に解説しながら進め、建築関係法令の全体像を理解することで、社会活動上求められる法的知識やインテリア・住宅・建築関連の実務を行う上で必要と思われる法令及び資格取得の重要な項目である建築関係法令を理解出来るように説明する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	建築関連法の成立ちや概要を学ぶことで、法令の必要性を理解し、建築関連法令集の条文を理解できるようにする。
思考・判断の観点 (K)	建築に関する法令への理解を深めることで、法令順守の意識を持ち常に適切に判断できるようにする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	建築関連法は普通に生活をするだけでも自身の回りに関わっている事を発見し法令集を確認する
技術・表現の観点 (A)	社会活動をおこなう上で必要な基礎的知識及びインテリア・住宅・建築に係わる企画、設計、施工、維持管理等の実務に役立つ建築関係法令の基礎的知識を学び、法令集の有効活用を修得する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	建築基準法の必要性、建築基準法の概要とこれまでの流れ	建築関連法はいつどのように出来たのか、またこれまでの経緯を確認し、具体的にどの様に環境や人々とかかわっているかを認識する。	建築基準法第1章 第1条 及び関係法令のこれまでの流れを配布プリントで確認し復習すること。	60分
第2回	建築基準法及び関係法令の法体系と構成、建築基準法の用語の解説	基準法・施行令・告示・土法・業法及び都市計画法・消防法・他、等の役割の説明。新築・改築・改修・修繕・模様替え・増築、以上・以下・未満・超える・含む・かつ・または、などの法律用語を理解する。	配布プリントを復習し、関連法の概要と法令集の項目を再確認しておくこと。	120分
第3回	建築基準法	建物用途、各種面積の算定・各種高さの基準・階数の算	事前に建築基準法第2条各号を	120分

	の用語の定義	定・延焼の恐れのある部分・防火準耐火耐火構造,等の用語についての法令上の定義を理解する。	読んでおき、授業後に基準法第2条と施行令関係各条令との関連を復習しておくこと。	
第4回	敷地と道路、地域による建物の用途制限	道路の種類、敷地と道路幅員の関係、42条2項道路の扱い、道路内の建築制限の種類、建物の用途制限、特殊建築物の種類、都市計画との関連、等を理解する。	事前に建築基準法第42条から48条までを読んでおく、授業後に施行令各条令との関連を再確認、都市計画地図の読み方を再確認すること。	120分
第5回	地域による面積制限（容積率・建ぺい率）	建物の大きさを規制する、容積率及び建ぺい率制限の内容と限度（都市計画制限・道路幅員による規制）及び各要件ごとの緩和（特定道路、共同住宅、地下室、駐車場等）を理解する。	事前に建築基準法第52、53条を読んでおき、授業後に基準法第52、53条と施行令関係各条令との関連を復習しておくこと。	120分
第6回	地域毎による各種高さ制限・日影規制	建物の高さを規制する道路斜線・隣地斜線・北側斜線・高度斜線等の各斜線制限及び緩和規定を理解する。	事前に建築基準法第55、56、58条を読んでおき、授業後に基準法第55、56、58条と施行令関係各条令との関連を復習しておくこと。	120分
第7回	防火、準防火地域内の建築規制、その他の地域地区	防火地域、法22条区域の概要及び建築の構造制限。景観法、文化財保護法、地区計画、等の概要や制限を理解する。	事前に建築基準法第22条、61～68条を読んでおき、授業後に基準法第22条、61～68条と施行令関係各条令との関連を復習しておくこと。	120分
第8回	これまでに学んだ集団規定に関する総合演習問題及び設問の解説	集団規定に関する演習問題を通してこれまでの学習内容の確認と解らなかつたところを再度学習し理解すること。	事前にこれまで学んだ集団規定についてひと通り確認しておくこと、授業後に演習問題を、法令集及び施行令を確認しながら復習しておくこと。	180分
第9回	一般構造（居室、内装等の規定）	居室の採光、換気、室内の床・壁・天井の内装仕上材・下地材の材質制限、ホルムアルデヒド等のシックハウス対策等の関する制限の概要を理解する。	事前に建築基準法第28条を読んでおき、授業後に基準法第28条と施行令関係各条令との関連を復習しておくこと。	120分
第10回	一般構造（階段、廊下等の規定）	居室の天井の高さ、床の高さの制限、地下の居室の制限、廊下や階段の寸法制限、避難通路、避難階段の構造制限、等の概要の理解をする。	事前に建築基準法第28、29条、建築基準法施行令第21から32条、117から126条を読んでおき、授業後に基準法第28、29条、建築基準法施行令第21から32条、117から126条の各制限を復習しておくこと。	120分
第11回	建物の構造強度	木造を主に、鉄筋コンクリート、組積造などの基礎及び支持地盤、耐震性、耐風性、耐久性や地域によって異なる条件などの概要を理解する。	事前に建築基準法施行令第36から39条、83から88条を読んでおき、授業後に建築基準法施行令第36から39条、第83から88条、89、93、95条の各制限を復習しておくこと。	120分
第12回	建築設備、防火関連規定、関連法としての消防法	防火上の内装制限、界壁、間仕切り壁、隔壁、非常用照明器具、排煙設備、非常用出入口（代替出入口）、避雷針設備、消防法と建築基準法の関係性と制限等の概要を理解する。	事前に建築基準法第35条、建築基準法施行令第112から114条、126条を読んでおき、授業後に建築基準法施行令第112から114条、126条、129条、消防法の各制限を復習しておくこと。	120分
第13回	これまでに学んだ単体規定に関する総合演習問題及び設問の解説	単体規定に関する演習問題を通してこれまでの学習内容の確認と解らなかつたところを再度学習し理解すること。	事前にこれまで学んだ単体規定についてひと通り確認しておくこと、授業後に演習問題を、法令集及び施行令を確認しながら復習しておくこと。	180分
第14回	建築士法、建築関する各種申請、都市計画法の概要	建築士業務の視覚の種類及び業務の範囲、建築関連申請及び報告書等の流れ、建築基準法と都市計画法の関連及び位置付、耐震改修促進に関する法律等の概要を理解する。	配布資料た資料を再度読み込んで建築士法、都市計画法の法文を確認しておく。	60分
第15回	その他の建築関連法の概要	消費者保護の観点でできたバリアフリー新法、住宅性能評価と品質確保、長期優良住宅、省エネ法、特定住宅瑕疵担保責任の履行の確保。街造りの観点から出来た景観法。その他の他の関連法としての宅地建物取引業法、建物区分所有法、民法、に付いての概要を理解する。	その他の関連法は実生活におけるかわりが多く、受講者の社会活動に置き換えながら復習すること。	120分

学習計画注記	履修者の理解度によって、スケジュールが変更になる場合があります
学生へのフィードバック方法	建築関係法令集、適宜プリントの配布、によって例題を交えながら解説し進める、また授業の進行途中での演習問題により理解度の確認をおこなう、演習問題はその授業で問題の解答解説を行い受講者にも自己採点できるようにしている。履修者の理解不足部分の解説を再度行う。必要によって次回授業の最初に問題の解説を行う場合がある。
評価方法	演習問題を2回、及び定期試験を行い、問題はそれぞれ授業の内容から出題する、将来の建築士受験を考慮し出題形式は国家試験の建築士試験の出題形式に基づく選択式にしてあり法令集の持ち込みを可能としています。3回の解答内容に授業への参加状況や討論への参加状況も加えて評価の対象とします。尚演習問題の授業に欠席した場合、演習問題の再テストは行いません注意すること。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
演習問題2回	○	○		
定期試験	○	○		
授業内の討論への参加			○	

評価割合

平常点 (30%)、問題演習2回 (計20%)、定期試験 (50%) によって総合的に評価する。(平常点は授業への参加状況、討論への参加等で総合判断)

使用教科書名 (ISBN番号)

建築関係法令集 (株式会社総合資格発行)

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】 建築法令等が求めているものを正しく理解できる
 【思考・判断】 法令遵守を意識して問題解決に導く考察ができる
 【関心・意欲・態度】 建築やインテリアはもちろん周囲の問題についても法令との関連性を考えながら活動できる
 【技術・表現】 建築士資格受験はもちろん諸問題において建築法令集の有効活用がスムーズにできる

学生へのメッセージ

建築法規を受講する事で、これまでに学んできた建築や住宅及びインテリア関連の多くの授業内容の重要性や関連性が見えてきます、建築法規及び関連法律をしっかり学ぶ事でより明確に社会で求められている事柄が把握できると考えられ、2級建築士資格取得の必須科目でもあり、建築法規を理解することが自身の総合力のアップとなり、社会活動でのコンプライアンス (法令遵守) の意識が実務への近道となります。また将来家を建てたり土地を取得をする場合にはこの授業内容が活きてきます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は建築設計及び工事監理の実務を30年以上前から現在も行っており、現在進行形の建築設計及び建築法規の基礎知識を生かした授業を実務経験を織り交ぜながらおこなっている。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	建築環境学 A		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	4 限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 梶田 考一	指定なし

ナンバリング	G24309C21
授業概要(教育目的)	建築環境学は建築の内外空間の環境形成を計画・評価する分野であり、建築設計において建物性能を決める重要なポイントのひとつである。この授業では、建築環境を形成する物理的要素である「熱・空気」の基本的性質を説明するとともに、その環境を評価する我々の感覚の特性を示すことによって、建物・設備性能が居住者へ与える影響を教示する。また、それらの知識を踏まえて、居住者にとって望ましい建築環境を構築するための具体的な手法を講義する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	[建築士指定科目] 建築環境を構成する、熱・空気の基本的性質を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

建築環境学A				
回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	建築環境学の位置付けについて理解する。 (配布資料) 建築環境学の位置付け／自然環境と室内環境の関わり／建築環境学と建築設備の関わり／人間のための快適な環境形成とエネルギー消費	建築環境学の位置付けについて復習すること	60
第2回	建築に要求される性能	建築に要求される性能について理解する。 (配布資料) 安全・衛生(健康)と快適を提供する建物／脅かす要素／環境制御の目標と原理／建物と建築設備による制御	建築に要求される性能について復習すること	60
第3回	気候風土と建築	気候風土と建築について理解する。 (配布資料) 気候風土に適応した建築的工夫と建築の熱環境設計	気候風土と建築について復習すること	60

		寒い地方の建築的工夫／暑い地方の建築的工夫／これからの建築熱環境設計		
第4回	建築環境学の概要	「環境とは」、SI単位について理解する。 生活環境とは／人間と生活環境／感覚と環境／環境とストレス／日常感じる良い環境悪い環境 SI単位／接頭語／対数／三角関数	教科書p.10-18（環境とは・SI単位）について読んでおくこと 配布資料（SI単位・接頭語）について復習すること	90 60
第5回	熱環境 温熱感（1）	温熱感に影響する要因を理解する。 代謝量／人体の熱収支（熱伝導、熱対流、熱放射 蒸発）／温冷感に影響する要因（気温、湿度、放射、気流、着衣量、代謝量）／MRT	教科書p.71-78（温熱感）について読んでおくこと	180
第6回	温熱感（2）	温熱感の環境評価指標について理解する。 温熱環境指標（OT, SET*, PMV）／住宅の温熱環境	課題1（温熱感）による復習	120
第7回	外界条件	外界条件について理解する。 気温（デグレデー）／湿度（クリモグラフ, WBGT）／潜熱と顕熱 日射（紫外線, 可視光線, 赤外線）／直達日射, 天空日射, 全天日射／大気透過率／大気放射量と夜間（実効）放射量／放射冷却	教科書p.79-85（外界条件）について読んでおくこと 課題2（外界条件）による復習	90 60
第8回	日照環境（1）	日照について理解する。 太陽の動き／太陽位置の表し方（太陽方位角, 太陽高度）／時刻の表し方（真太陽時）／均時差／太陽位置図	教科書p.86-94（日照環境）について読んでおくこと	180
第9回	日照環境（2）	日影について理解する。 太陽位置と日影／日影曲線図／日影時間図／日影による中高層建築物の高さの制限／終日日影／永久日影／隣棟間隔／日射量	課題3（日照）による復習	120
第10回	建物の熱性能（1）	建物の伝熱について理解する。 熱貫流／熱伝導（断熱材）／対流熱伝達／放射による熱伝達／室内側・屋外側総合熱伝達率／熱貫流率	教科書p.95-107（建物の熱性能）について読んでおくこと	180
第11回	建物の熱性能（2）	建物の断熱・熱容量について理解する。 日射吸収率と長波長放射率／中空層の伝熱／壁の温度分布／平均熱貫流率／熱橋／建物の熱容量／内断熱と外断熱／充てん断熱／外張り断熱	課題4（伝熱）による復習	120
第12回	湿気環境（1）	結露現象の原理を理解する。 湿り空気線図／飽和水蒸気圧／相対湿度／絶対湿度／露点温度／比エンタルピー	教科書p.108-113（湿気環境）について読んでおくこと	180
第13回	湿気環境（2）	結露現象とその防止策について理解する。 表面結露／熱橋と表面結露／内部結露	課題5（湿気環境）による復習 レポート「日本の気候風土に適した住宅」	120 720
第14回	空気環境（1） 空気と人の健康	室内の空気質について理解する。 屋外の空気と室内の空気／室内空気汚染物質（二酸化炭素, 一酸化炭素, ホルムアルデヒド, VOC, 窒素酸化物, 硫酸酸化物, 臭気, 浮遊粒子状物質, PM2.5, アスベスト）／室内空気質／シックハウス症候群／シックハウス対策／室内空気環境基準	教科書p.47-69（空気環境）について読んでおくこと	180
第15回	空気環境（2） 室内の空気汚染対策 定期試験	換気方式・換気量について理解する。 室内の空気浄化の考え方／換気／必要換気量／換気回数／全般（希釈）換気／局所換気／置換換気／自然換気（風力, 室内外温度差）／機械換気	課題6（空気環境）による復習	120

学生へのフィードバック方法 すべての課題について、採点の後、授業中に解説を行う。

評価方法

- ・課題は、二級建築士試験に出題された過去問より抽出した文章について、正誤を問う形式である。
- ・レポートは、「日本の気候風土に適した住宅」の実例を調べる課題である。
- ・定期試験は、課題の間を多肢択一で選ぶ設問がおおよそ60%、教科書・配布資料から作成した問を多肢択一で選ぶ設問がおおよそ40%である。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			
課題	○			
レポート	○			

評価割合	定期試験(70%)、レポート及び課題(30%)による総合評価	
使用教科書名(ISBN番号)	生活環境学 [改訂版] / 岩田利枝 他 / 井上書院 / 2015 978-4-7530-1759-1	
参考図書	図説テキスト 建築環境工学 / 加藤信介 他 / 彰国社 / 2008	
ディプロマポリシーとの関連	現代家政学科 [知識・理解] 社会の基盤として「質の高い生活」とは何かを理解できる。 生活デザイン学科 [知識・理解] 住分野について専門的知識を有して、専門的な職業の道へつなぐことができる。	
オフィスアワー	千代田三番町C 火曜5限 1807室 / 町田C 金曜4限 3604室	
学生へのメッセージ	建築士試験指定科目 ③建築環境工学 に認定。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	住居計画		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小池 孝子	指定なし

ナンバリング	G24303C21
授業概要(教育目的)	家族の暮らしの場である住居について、現代的な課題を踏まえたうえで、それぞれの家族にとって快適な住宅、住宅地のあり方について検討をおこなう。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	住宅および住宅地を計画する際に必要となるさまざまなことから理解し、住居設計のための基礎知識を習得する
思考・判断の観点 (K)	家族の暮らしの場である住居に関する現代的な課題について、客観的に理解できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	住居に関する現代的な課題について、積極的に関心を持って考えることができる
技術・表現の観点 (A)	住居に関する現代的な課題に対応した快適な住宅、住宅地のあり方について提案ができる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス・現代の家族と住まい	家族のあり方の変化に伴う住まいの変容について学ぶ	(復習) 自分の家族を対象に、家族形態の移り変わりについて考える	120分
第2回	家族のかたちと住まいのかたち	家族認知、近代家族と住まいについて学ぶ	(復習) 自分の家族、自分の住む住宅について、授業で取り上げた内容と照らし合わせて考える	120分
第3回	家族の変化と新しい住まいのかたち	建築家の提案する新しい住まいのかたちについて学ぶ	(復習) 建築雑誌を読み、新しい住まいのかたちのバリエーションについて学ぶ	120分
第4回	居住歴と原風景	理想とする住まい・住環境に対して原風景が与える影響について学ぶ	(復習) 自分の住む地域を対象に、建築が生み出す原風景について考える	120分
第5回	住居の設計	住居の設計プロセスと建築家の責務、建築に関わる法規	(復習) 住居の設計プロセスと	120分

	プロセス	について学ぶ	建築に関わる法規について復習する (中間レポート1/4) 住宅計画に関する中間レポートに取り組む	+レポート120分
第6回	独立住宅の計画手法	独立住宅の計画における敷地と建物の関係、室の配置計画について学ぶ	(復習) 建築雑誌を読み、独立住宅の敷地と建物の関係、室の配置計画のバリエーションについて学ぶ (中間レポート2/4) 住宅計画に関する中間レポートに取り組む	120分 +レポート120分
第7回	生活行為と生活時間	住宅内の生活行為と生活空間、生活時間との関係性について学ぶ	(復習) 自分や家族の生活時間について考え、小課題を仕上げる	180分
第8回	生活行為と住空間	生活行為とスケール、住空間のゾーニング、動線計画について学ぶ	(復習) 自分や家族の生活を振り返り、起居様式の変化について考える (中間レポート3/4) 住宅計画に関する中間レポートに取り組む	120分 +レポート120分
第9回	独立住宅の構造・構法	独立住宅の構造、敷地と建物の関係、室の配置計画のバリエーションについて学ぶ	(復習) 建築雑誌を読み、独立住宅の敷地と建物の関係、室の配置計画のバリエーションについて学ぶ (中間レポート4/4) 住宅計画に関する中間レポートに取り組む	120分 +レポート120分
第10回	集合住宅の平面構成	集合住宅の平面構成の移り変わりについて学ぶ	(復習) 建築雑誌を読み、集合住宅の平面構成のバリエーションについて学ぶ	120分
第11回	生活の外部化と地域施設	生活の外部化の状況、生活圏と地域施設配置計画について学ぶ	(復習) 自分の生活を対象に生活の外部化について考える (期末レポート1/3) 地域施設計画に関する期末レポートに取り組む	120分 +レポート120分
第12回	住宅でまちをつくる	住宅地計画、ニュータウン計画について学ぶ	(復習) 多摩ニュータウン、港北ニュータウンを対象に、まちの構成について考える (期末レポート2/3) 地域施設計画に関する期末レポートに取り組む	120分 +レポート120分
第13回	集合住宅地の計画 1	集合住宅のアクセス形式、住棟配置計画について学ぶ	(復習) 自分の住む地域の街並みの美しさについて考える (期末レポート3/3) 地域施設計画に関する期末レポートに取り組む	120分 +レポート120分
第14回	集合住宅地の計画 2	集合住宅団地の容積率、戸数密度、住棟配置計画について学ぶ	(復習) 自分の家の周りについて、共有領域の形成状況について考える	120分
第15回	集合住宅団地の再生	日本における集合住宅の管理状況、マンション建て替え問題について学ぶ	(復習) 自分の家の近くに管理不全マンションがないか考えてみる	120分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 実施した小課題・小レポート・中間レポート・期末レポートについて、授業時間内に全体講評をおこなう。

評価方法 小課題は、授業時間内に実習課題として実施する。取り組み状況、完成度によって評価する。3回の実施を予定している。
小レポートは、授業内に提示する資料をもとに授業内容を踏まえて自分の意見をまとめて記述する。授業内容の理解、意見の妥当性について評価する。7回程度の実施を予定している。
レポートは、授業で得られた知識をもとに情報収集をおこない、発見した課題について自分の意見をまとめて記述する。情報収集・整理は十分か、課題解決は適切か、結論に至る筋道に論理性があるかについて評価する。中間と期末の2回実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小課題	○	○		

小レポート	○	○	○	
レポート	○	○	○	○

評価割合	小課題15%、小レポート15%、中間レポート40%、期末レポート30%により総合的に評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	特にテキストは指定しない。
参考図書	定行まり子「生活と住居」光生館 岡田光正ほか「住宅の計画学入門－住まい設計の基本を知る」鹿島出版会 小澤紀美子ほか「豊かな住生活を考える－住居学」彰国社
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、現代生活の諸問題を理解できる 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる 【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案ができる
学生へのメッセージ	住居の計画について、家族の生活という視点から考えること。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	福祉住環境		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小池 孝子	指定なし

ナンバリング	G24103C21
授業概要(教育目的)	超高齢社会を迎え、高齢者や障害者が在宅で自立した生活をおくるための住環境整備が求められている。本授業は、この福祉住環境整備分野の初歩的な知識を習得することを目的とし、高齢者や身体障害者を対象とした住環境整備についての基礎知識を学ぶとともに、在宅介護の現状と問題点、特徴、必要な視点等から、介護保険制度の対象となる住宅改修、福祉用具、特定疾病等、建築・福祉・医療などに関して体系的な幅広い知識を学ぶ。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	高齢者や身体障害者を対象とした住環境整備についての基礎知識とともに、在宅介護の現状と問題点、特徴、必要な視点等から介護保険制度の対象となる住宅改修、福祉用具、特定疾病等、建築・福祉・医療などに関して体系的な幅広い知識を習得する。
思考・判断の観点 (K)	住環境整備についての基礎知識をもとに、在宅介護の現状と問題点に関する今日的課題を発見し、解決策について考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	住環境整備に関する諸問題に積極的に関心を持ち、その解決策を立案できる。
技術・表現の観点 (A)	住環境整備に関する課題に対応した住宅改修の方法について提案ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス・福祉住環境の意義と役割	福祉住環境整備の意義と役割について、超高齢社会である日本の人口構成・世帯構成と合わせて学ぶ。	(復習) 日本の人口の動向について調べ、理解する。	150分
第2回	福祉・ノーマライゼーションの考え方	福祉・ノーマライゼーションの考え方と、介護保険制度との対応について学ぶ。	(復習) 配付プリント、WEBなどを参照し、介護保険制度について理解しておく。	150分
第3回	高齢者・障害者の住環境整備-1	高齢者・障害者の生活を支える福祉用具・共用品について学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、福祉用具・共用品について理解し、自分の身の回りにある生活用具について、共用品・福	150分

			祉用具にあたるものがないか考える。	
第4回	高齢者・障害者の住環境整備－2	生活行為別にみた福祉用具の活用による住環境整備について学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、自宅での生活と照らし合わせて、福祉用具の種類と使い方について理解しておく。	150分
第5回	高齢者・障害者の住環境整備－3	生活行為別にみた福祉用具の活用による住環境整備について学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、自宅での生活と照らし合わせて、福祉用具の種類と使い方について理解しておく。	150分
第6回	日本の住宅と住生活上の課題	日本の在来工法による住宅にみられる高齢者・障害者の日常生活上の課題について学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、自宅の構造と照らし合わせて、福祉住環境整備における日本の住宅の問題点について理解しておく。	150分
第7回	福祉住環境整備の技術－1	福祉住環境整備を目的に住宅改修をおこなう際の技術について、住宅の場所別に具体的に学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、自宅での生活・自宅の構造と照らし合わせて、住宅内で改修が必要となる場所と改修方法について理解しておく。	150分
第8回	福祉住環境整備の技術－2	福祉住環境整備を目的に住宅改修をおこなう際の技術について、住宅の場所別に具体的に学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、自宅での生活・自宅の構造と照らし合わせて、住宅内で改修が必要となる場所と改修方法について理解しておく。	150分
第9回	福祉住環境整備の技術－3	福祉住環境整備を目的に住宅改修をおこなう際の技術について、住宅の場所別に具体的に学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、自宅での生活・自宅の構造と照らし合わせて、住宅内で改修が必要となる場所と改修方法について理解しておく。 (レポート) 住宅改修に関するレポートに取り組む。	150分 +レポート150分
第10回	福祉住環境整備の技術－4	福祉住環境整備を目的に住宅改修をおこなう際の技術について、住宅の場所別に具体的に学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、自宅での生活・自宅の構造と照らし合わせて、住宅内で改修が必要となる場所と改修方法について理解しておく。 (レポート) 住宅改修に関するレポートに取り組む。	150分 +レポート150分
第11回	関連法規・高齢者の住環境整備	高齢者の住環境の実態について理解し、法令に基づく高齢者の住まいの選択肢について学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、高齢者の住まいの選択肢について理解しておく。 (レポート) 住宅改修に関するレポートに取り組む。	150分 +レポート150分
第12回	障害とは何か・障害者の住環境整備	障害についての考え方・障害者の住環境の実態について理解し、法令に基づく障害者の住まいの選択肢について学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、障害についての考え方・障害者の住まいの選択肢について理解しておく。	150分
第13回	高齢者の健康と自立	高齢者の健康と自立、栄養と運動、身体的特性について学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、高齢者のウェル・ビーイングのための条件について理解しておく。	150分
第14回	リハビリテーションの考え方	リハビリテーションの考え方と地域包括ケアシステムについて学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、リハビリテーションの考え方と地域包括ケアシステムについて理解し、自分の住む地域の地域包括ケアシステムについて確認する。	150分
第15回	介護保険制度の変遷とこれから	福祉住環境整備を支える介護保険制度について、制度創設以来の変遷を振り返る。	(復習) 社会情勢の変化を踏まえ、介護保険制度の今後について考える。	150分
第16回	定期試験	授業内容全般に関し、穴埋め問題、正誤問題を出題する		

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	第2回以降、毎回授業開始時に前回講義内容に関する確認テストを実施する。確認テストは評価に含めず、授業時間内に解説付きの答え合わせを行うことにより知識の定着を図る。 実施した小レポートについては、次回授業時に全体講評をおこなう。 レポートについては採点后にコメントを付けて返却する。
評価方法	小レポートは、授業内に提示する資料をもとに授業内容を踏まえて自分の意見をまとめて記述する。授業内容の

理解、意見の妥当性について評価する。
 期末レポートは、授業で得られた知識をもとに情報収集をおこない、発見した課題について自分の意見をまとめて記述する。課題の発見・整理は十分か、課題解決案は適切か、結論に至る筋道に論理性があるかについて評価する。
 定期試験は穴埋め問題、正誤問題を出題する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小レポート	○	○	○	
レポート	○	○	○	○
定期試験	○			

評価割合

小レポート20%、レポート40%、定期試験40%により総合的に評価する。

使用教科書名 (ISBN番号)

特にテキストは指定しない。

参考図書

「新版福祉住環境」浅沼由紀/市ヶ谷出版社/2008

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、現代生活の諸問題を理解できる
 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる
 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる
 【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案ができる

学生へのメッセージ

本授業は、福祉住環境コーディネーター検定試験2級程度の基礎知識を習得する。現在の高齢者問題などの状況を把握していること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	社会福祉概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 西口 守	指定なし

ナンバリング	G12315021
授業概要(教育目的)	社会福祉とは何かという根源的な課題を整理し、社会福祉の歴史てき変遷、ソーシャルワークの発展とその方法また社会福祉やソーシャルワークの現代の課題を理解する。特に現代社会の貧困問題、生活保護制度、高齢者の支援、介護保険制度、子どもへの虐待、児童福祉制度や虐待防止法について理解を深める。また社会保障や社会福祉の概念的な理解や具体的ないくつかの制度瀨策を理解することを目的とした授業を展開する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	社会福祉やソーシャルワークが理解できる また福祉6法の概略を理解できる
思考・判断の観点 (K)	社会福祉の制度と実践を理解し、ボランティア活動などで実践し、自らが評価できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会的弱者と当事者の視点に絶えず関心をもち、共生の思想と実践をしたいと思う意欲や態度を持つことができる
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	福祉を知る	新聞記事から福祉の問題を探す	それを整理する	120分
第2回	社会福祉が必要な社会の状況	前回の資料をまとめ、現代社会の中での社会福祉の意義を考える	一週間のテレビや新聞、ネットで扱われた福祉の問題を気にする	120
第3回	人は一人で生きられるか 人を他者の顔色を見つけて生きるのか	アッシュの実験 ローソン工場の実験を基にして「人と社会を考える」	◎一人は好き? 一人ぼっちは好き? ◎人と「共に」生きるの好き? こんなことを考えてみて?	120分
第4回	社会福祉の歴史 社会福祉の	中世から救貧法までを学ぶ なぜ「救貧法」が制定されたか。それに及ぼした「宗教改革」を学ぶ	世界史の教科書で中世の出来事をおさえておく 特に宗教改革におけるルターの役割。ルターの目指したものを理解する	120

	歴史① イギリスの発達史			
第5回	歴史②	英国の歴史②	救貧法から新救貧法そして慈善組織協会の流れを理解する	120
第6回	社会福祉の歴史③	ロンドンCOSからリッチモンドまでを学ぶ	リッチモンドを調べておく	120
第7回	ソーシャルワークを学ぶ①	グローバル定義を学ぶ	ソーシャルワークとは何かを調べる	120分
第8回	ソーシャルワークを学ぶ①	グローバル定義を学ぶ	ソーシャルワークとは何かを調べる	120分
第9回	ソーシャルワークを学ぶ②	方法の学び① ケースワーク グループワーク	バイスティックの原則を勉強しておく	120
第10回	ソーシャルワークを学ぶ②	方法の学び② ケースワーク グループワーク	バイスティックの原則を勉強しておく 特に統制された情緒関与と意図的な感情表出を理解する	120
第11回	児童福祉①	現代の課題 虐待問題を新聞記事から考える	児童虐待を新聞記事から学ぶ	120
第12回	児童福祉①	現代の課題 虐待問題を新聞記事から考える	児童虐待を新聞記事から学ぶ	120
第13回	貧困と生活保護	貧困の問題を学ぶまた生活保護制度を概観する	貧困問題をインターネットから学んでおく	120
第14回	介護保険を学ぶ①	介護保険の全体像を学ぶ	介護保険を知っておく	120
第15回	介護保険を知る②	介護保険の具体像を知る	申請手続きを学んでおく	120

学習計画注記	外部施設への見学もあり
学生へのフィードバック方法	提出物へのコメントを付しての返却とコミュニケーション
評価方法	①中間試験 ②実務家講演のコメント ③学期末試験 ④平常点

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間試験	○		○	
コメント			○	
学期末試験	○			
平常点			○	

評価割合	①中間試験 30% ②コメント 20% ③学期末試験 40% ④その他 平常点 10%
------	--

使用教科書名 (ISBN番号)	別途指示
-----------------	------

参考図書	別途指示
------	------

ディプロマポリシーとの関連	【知識・秘術】 質の高い社会生活を送るうえでその課題となる社会福祉（生活）問題を理解し、生活問題に直面する生活者の「困難」を理解できる 【思考・判断】 身近にある社会福祉（生活）問題を自らが発見し、その解決へのプロセスを理解できる 【関心・意欲・態度】 生活者である弱者や当事者の立場に絶えず立ちとうとする意思と意志を持ち、社会の公正と正義に自らの生きる場から関心を持つことができる
---------------	--

オフィスアワー	メールでお問い合わせください。対応いたします。
---------	-------------------------

学生へのメッセージ	身近な社会福祉の問題を考えてみましょう。実はあなたの周りにも社会福祉の課題がたくさんあるのです。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、高齢者福祉施設での勤務経験があり、できるだけ、現場の事例に即して現実的な思考と対応また現場が求めるミッションとは何かに配慮し授業展開する
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ライフステージとレクリエーション		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1 限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大嶋 徹	指定なし

授業概要(教育目的)

1. ライフステージとは何か。
2. ひとの発達段階をライフステージとして捉えレクリエーションの意義を典型的に明らかにすること。
3. 現在の自分のレクリエーションの意味を明らかにすること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	ライフステージ・ライフサイクルを理解すること。それぞれのステージに応じたレクリエーションの意義を理解すること。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分のレクリエーションの体験に照らし合わせてみること。
技術・表現の観点 (A)	グループディスカッションの技術や表現を通してレクリエーションの意義を確認すること。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	遊びとライフステージ論	1. 遊びとクリエイションの関連について 時代の善悪を超える遊びと善を目指すレクリエーション (事例) グリム童話一豚の屠殺ごっこ 2. ライフステージということ 乳幼児期、少年期、学童期、青年期、成人期、高齢期 (事例) 青年期はレクリエーション(遊び)が通過儀礼の役割を負わされる。 ・イベント化したバンジージャンプなど 3. アウトドアレクリエーションの事故事例 (事例1) 2003年6月4日北海道屈斜路湖カヌー転覆事故 (事例2) 1970年7月福岡大学ワンダーフォーゲル部一ヒグマ襲撃事件	ライフステージ、あるいはライフサイクルについて調査すること。	30
第2回	乳幼児期の特徴とレクリエーション	1. ローマ皇帝フリードリッヒ2世の育児実験から 2. 遊びと教育の違いについて 3. 遊びの効果 ①運動能力を高める。②興味や好奇心を高め、知的な発達を促進する。③イメージを広げ、表現力を豊かにする。 ④同年齢、あるいは異年齢の仲間関係を体験する。⑤さまざまな情緒的体験を持つ。⑥自発性、自主性を養うこ	言葉を用いない生活を送る人間の生後1年間の重要性について調査すること。	60

		とができる。 4. ごっこ遊びの大切さ		
第3回	少年(学童)期の特徴とレクリエーション	1. 少年期は自然環境や社会関係、人間関係などに関する感受性が高くなる。 2. 遊びを通して仲間・グループをつくり、そこで自主性・積極性・社会性などを身につけていく。 3. 幼児期から始まるごっこ遊びの高度化と重要性について	自分が学童期に楽しんだ遊びについて発表すること。	30
第4回	青年期の特徴とレクリエーション1	青年期は自分の心も身体も外に向かって拡大してゆこうとする力と、内に向かって求心的にはたらく力が共存している。その片方のみが強く意識される人もあるし、その強い葛藤状態にまきこまれてしまう人もある。レクリエーションによって、心身のリフレッシュを図り、交流関係を拡大する。	青年期の特徴をまとめること。	30
第5回	青年期の特徴とレクリエーション2	青年の遊びやレクリエーションで注目すべきことは、必ずしも「楽しい」からしているとは限らないことであるが、成人期への通過儀礼としての役割を負うことがある。	通過儀礼について調査すること。	30
第6回	成人期の特徴とレクリエーション1	現代社会ではイニシエーション的状况が何回か繰り返されて大人になっていく。通過儀礼としてのレクリエーションもまた繰り返されることになる。	大人とは何かについて調査すること。	30
第7回	成人期の特徴とレクリエーション2	成人後期には自分なりのイメージ(コスモロジー)確立のために、レクリエーション(自己実現のための再構成と気晴らしの活動)は必須である。	人生の後半について自分は何を考えているかを想像し発表すること。	60
第8回	前期高齢期の特徴とレクリエーション	老いによって科学の知と神話の知が入れかわる。その原動力としてレクリエーションが必要である。全てを対象化する科学の知からは、神話の知やファンタジーは生じない。自分自身を含めたファンタジーの世界はレクリエーションの世界がその課題を担うことになる。	科学の知と神話の知について調査すること。	60
第9回	後期高齢期の特徴とレクリエーション	自分を世界の中に位置づけ、世界と自分とのかかわりのなかでものを見るためには、我々は神話の知を必要とする。ファンタジーは多くの創造的思考の萌芽を包みこんでいる。ファンタジーとしてのレクリエーションの世界が必要である。	ファンタジーなぜ必要か調査すること。	
第10回	個人差の問題	貝原益軒はひとの楽しみは「天地の理」という。ひとが何を楽しいと思うかは生まれついでのことだという意味である。本当の楽しさを味わえる遊びやレクリエーションは、他から与えられるものではなく自分で見出すほかないのである。	今ここで、自分が楽しいと思うことについてまとめ報告すること。	30
第11回	世代間格差の問題	エドワード・グレイによる少年時代の釣りと熟年期の釣りをその楽しみ方の違いからとらえるとき、その楽しみを失う「もっともつらい瞬間」から立ち直る人間の有りようを比較する。	楽しみを求めて行った遊びやレクリエーションが一瞬にして「つらい体験」になった経験について報告・発表する準備をすること。	30
第12回	レクリエーショングループの概念化(設立・発展・衰退)	レクリエーションクラブ(JFF:ジャパンフライフィッシャーズ)の設立・発展・衰退を具体例から検証する。	グループ(集団)の設立・発展・衰退について、その原因を調査すること。	30
第13回	仮説と事実	ライフステージ・ライフサイクルという人間の発達に関する類型論的仮説にもとづいて、レクリエーションの世界がさまざまな意味をもとことが理解できる。「楽しい」というこの意味はわれわれにとって事実として機能することを学ぶ。	仮説と事実について調査すること。	30
第14回	現在の自分のレクリエーションの意味	今ここで、つまり現在の時点でのレクリエーションの意味についてグループディスカッションする。	現時点での自分にとってのレクリエーションの意味を明らかにしておくこと。	30
第15回	まとめ	現在の時点でのレクリエーションの意味についてグループディスカッションした結果をグループごとに発表し、他のグループと意見交換をする。	前回は行ったグループディスカッションの結果を事前にまとめておくこと。	30
第16回	自己確認	1~15回の授業の要点をまとめ獲得した知識を確認すること。	授業内容をを振り返りまとめること。	180

学生へのフィードバック方法 各時間ごとにプリントを配布する。質疑応答・報告・発表で自分の考えをまとめること。定期試験。

評価方法 授業プログラム課題の達成度、質疑応答、グループディスカッション等で50%、テスト50%で評価する。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
定期試験	○			
評価割合	授業プログラム課題の達成度、質疑応答、グループディスカッション等で50%、テスト50%で評価する。			
使用教科書名 (ISBN番号)	プリントを配布する。			
参考図書	レクリエーション活動援助法、高橋孝三郎、島田芳男監修、ミネルヴァ書房、介護福祉士合格ワークブック 2011、上巻、2010			
ディプロマポリシーとの関連	生活者としての自分の経験を踏まえてレクリエーションの意義を明らかにすること。			
オフィスアワー	金曜4限			
学生へのメッセージ	自分の体験から遊びやレクリエーションを考えてみよう。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション・発表・報告		
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食文化演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 伊藤 有紀	指定なし

ナンバリング	G33202C12
授業概要(教育目的)	江戸時代に編纂された代表的な料理書の中のいくつかの料理を実際に調理して再現することを軸とし、食文化の変遷とその延長上に現代の食卓があることを理解する。日本の伝統食品の試食を行い、食品がつけられた風土との関連を考察しながら理解を深める。また、日本各地の郷土料理にも目を向け、地域の食文化についても学ぶ。グループでの実習と発表を通して、知識の定着と調理技術やプレゼンテーション力の向上を目指す。
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度は、遠隔授業と夏期集中授業で行う予定である。遠隔授業期間に1回の各自家庭での調理（材料は自身で調達）、集中授業期間に3回の試食と2回の調理実習を予定している。集中授業期間の試食と調理実習の材料費として1人1000円を徴収する。 本科目は、グループでの試食、調理、ディスカッション、発表資料作り、グループ間の比較を主体とし、グループを編成することが不可欠である。そのため、1グループ3人以上で2グループ以上が形成できない場合、すなわち履修希望者が5人以下の場合は開講しない。 「調理学実習」を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	授業で扱ったテーマについて、食材の生産、加工法、調理法、地域での特有の食べ方の面から説明できる。
思考・判断の観点 (K)	授業で扱ったテーマについて食材の生産、加工法、調理法などの面から地域での違いを比較できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	実習やグループワークなどに自ら積極的に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	時代や地域ごとの食文化の共通点、相違点、考察した事柄などについてわかりやすくまとめて発表することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス、食生活年表を作る。	授業の進め方の説明。各自興味のあるテーマについて、オリジナルの年表を作成しながらテーマに関して通史を学ぶ。	指定した期日までに課題を完成させてくる。	60分
第2回	発酵食品の伝統1	発酵について、また醤油を中心に歴史や、製法や味の違い、調理での使い分けなどを学ぶ。	次回までに自宅で使用している発酵食品と発酵させたものを原	60分

			材料に含む商品について調べてくる。	
第3回	発酵食品の伝統2	日本各地の味噌について味噌づくりの歴史や、製法や味の違い、調理での使い分けなどを学ぶ。	次回までに各自の地元で広く食べられている和菓子について調べてくる。	60分
第4回	和菓子	和菓子の歴史や製法について学ぶ。	自宅で江戸時代のお菓子を1品づくり、そのレポートを作成する。	60分
第5回	漬け物	日本各地の漬物について学ぶ。	次回に向けて自宅でのだしの材料やだしのとり方などについて調べる。	60分
第6回	だし、かつおぶし	日本におけるだしの材料やその製造法などについて学ぶ。	次回に向けて、醤油と味噌について復習する。	60分
第7回	醤油と味噌の試食	面接授業の予定。日本各地で使われている醤油や味噌について試食しながら学ぶ。	試食した結果をレポートにまとめる。	60分
第8回	漬け物、だし・かつおぶしの試食、江戸時代の料理書にある料理の調理実習	夏期集中授業3コマでテーマにある試食、実習を行う。	漬け物、だし・かつおぶしについて復習をしておく。試食、実習した結果をレポートにまとめる。	180分
第9回	郷土料理の調理1	夏期集中授業の1コマで、グループごとに調理する郷土料理のレシピを決める。	実習でつくる料理に関する資料やレシピを収集しておく。	60分
第10回	郷土料理の調理2	夏期集中授業2コマで、郷土料理の調理を行い、グループ間で評価とプレゼンテーションを行う。	調理手順を確認し、材料を購入する。各グループで郷土料理の調理に関する発表の資料を作成する。	120分

学生へのフィードバック方法	提出物はコメントを加えて返信、返却する。プレゼンテーションは授業内で講評する。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物は、試食コメントやグループでのディスカッション結果のまとめなど提出するものすべてを含む。 ・プレゼンテーションは、グループの発表に対する評価を行う。 ・試食や調理への取り組み姿勢（平常点）、提出物、プレゼンテーションで評価する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
提出物	○	○		
プレゼンテーション	○	○		○

評価割合	平常点 (30%) 提出物 (40%) プレゼンテーション (30%)
使用教科書名 (ISBN番号)	なし。資料を配信、配布する。
参考図書	授業内で紹介する。
参考URL	http://www.location-research.co.jp/kyoudoryour100/
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】実習や試食を通して日本の食の独自性や多様性を知り、「質の高い生活」への理解を深められる。</p> <p>【思考・判断】時代や地域による食生活の違いの理解を基礎に、「質の高い生活」についての考察ができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】食文化に関わる諸相に関心を持ち続けることができる。</p> <p>【技能・表現】多様な食文化への理解や将来の食文化のあり方につながる発信ができる。</p>
オフィスアワー	水曜5、6限
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回課題があります。調べ物やグループでのディスカッション、発表を含む演習です。主体的に参加することを期待します。 ・試食や実習では調理実習室を利用するため、上履き、白衣、三角巾が必要です。

教育等の取組み状況					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	該当有無	概要		
該当有無	概要				

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	体験学習、グループ・ディスカッションを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	現代家政ゼミA		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小野 由美子	指定なし
教授	佐藤 広美	指定なし
教授	現代家政学科 教員	指定なし
准教授	井澤 尚子	指定なし

ナンバリング	G31004C12
授業概要(教育目的)	現代家政学科の最終学年を迎える直前の時点で、現代家政学科での学びの振り返りを行い、さらに今後の学び、卒業後のあり方を考え、展開していくための基盤を築くことを目的とする。また、4年次で「卒業研究A」「卒業研究B」を履修するための基本的習得事項（情報収集、課題の把握、調査・実験方法など）を定着させる。現代家政学科において生活に関わる分野を横断的に学んだことを生かして、本学の建学の精神である「KVA」の視点から、現代社会のニーズや生活課題に対して取り組んでいく姿勢を育成したい。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	現代家政学の学びと社会とのかかわりについて理解する。
思考・判断の観点 (K)	学びを生かして社会で活躍していくための方策について思考する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	現代家政学を社会で活かしていくために、積極的に情報を収集する。
技術・表現の観点 (A)	現代家政学の学びについて、発信することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業の進め方、卒研ゼミ決定までの流れとスケジュールなど、受講にあたっての基本を理解する。	卒研ゼミ紹介に関して、事前に配布された要旨を読んで理解する。	45分
第2回	卒業研究とは何か	卒業生などを例に、準備や発表会の様子、評価のあり方等を紹介しながら、卒業研究に向けた姿勢を育む。	卒研ゼミ紹介に関して、事前に配布された要旨を読んで理解する。	45分
第3回	卒研ゼミ紹介(1)	各ゼミでの卒業研究の内容をより正しく理解し、ゼミ希望調査での選択に役立つ情報を増やす。	卒研ゼミ紹介に関して、事前に配布された要旨のうち、該当す	45分

			るゼミの要旨を予習として読み、理解する。	
第4回	卒研ゼミ紹介(2)	各ゼミでの卒業研究の内容をより正しく理解し、ゼミ希望調査での選択に役立つ情報を増やす。	卒研ゼミ紹介に関して、事前に配布された要旨のうち、該当するゼミの要旨を予習として読み、理解する。	45分
第5回	卒研ゼミ紹介(3)	各ゼミでの卒業研究の内容をより正しく理解し、ゼミ希望調査での選択に役立つ情報を増やす。	卒研ゼミ紹介に関して、事前に配布された要旨のうち、該当するゼミの要旨を予習として読み、理解する。	45分
第6回	卒研ゼミ紹介(4)	各ゼミでの卒業研究の内容をより正しく理解し、ゼミ希望調査での選択に役立つ情報を増やす。	卒研ゼミ紹介に関して、事前に配布された要旨のうち、該当するゼミの要旨を予習として読み、理解する。	45分
第7回	卒研ゼミ紹介(5)	各ゼミでの卒業研究の内容をより正しく理解し、ゼミ希望調査での選択に役立つ情報を増やす。	卒研ゼミ紹介に関して、事前に配布された要旨のうち、該当するゼミの要旨を予習として読み、理解する。	45分
第8回	卒研ゼミ紹介(6)	各ゼミでの卒業研究の内容をより正しく理解し、ゼミ希望調査での選択に役立つ情報を増やす。	卒研ゼミ紹介に関して、事前に配布された要旨のうち、該当するゼミの要旨を予習として読み、理解する。	45分
第9回	卒研のための情報の収集方法(文献検索等)	文献検索、新聞情報の検索方法などを学ぶ。	自らが関心を持つ研究やそれに関連する文献、社会的な情報を考えておく。復習として、それらの情報に実際にアクセスし、理解する。	45分
第10回	ゼミマッチング(1)	興味のある教員のもとで研究テーマの具体的な相談などをする。領域別の特徴や研究方法を知ること、配属ゼミでの学びに備える。	自らが関心を持つ研究やそれに関連する文献や情報を集める。	45分
第11回	ゼミマッチング(2)	興味のある教員のもとで研究テーマの具体的な相談などをする。領域別の特徴や研究方法を知ること、配属ゼミでの学びに備える。	自らが関心を持つ研究やそれに関連する文献や情報を集める。	45分
第12回	学長による特別講義	学長による講義を聴き、現代社会の課題を考え、自分なりに解決する方法を模索する。	事前に予告された内容に基づき、示された課題を行い、自分の考えを表現する準備をする。	45分
第13回	働くこととKVA精神の関わり(外部講師による講演)	卒業生特別講師による、働くこととKVA精神のかかわりについての講演を聴き、自らの卒業後のあり方について考える。	事前に予告された内容に基づき、関連するウェブサイトや新聞等の情報を理解し、自分の考えを表現する準備をする。	45分
第14回	卒業後のキャリアプラン(外部講師による講演)	キャリアカウンセラーによる、卒業後のキャリアプランについての講演及びワークショップ。	事前に予告された内容に基づき、関連するウェブサイトや新聞等の情報を理解し、自分の考えを表現する準備をする。	45分
第15回	配属希望ゼミの個別面談	配属を希望するゼミの教員と、テーマや方法論などの実現可能性を個別に検討する。	自らが関心を持つ研究やそれに関連する文献、情報を整理しておく。復習として、それらの情報に実際にアクセスし、理解する。	45分

学習計画注記

外部講師の都合等により授業内容の入れ替えを行うこともある。

学生へのフィードバック方法

授業で提出した課題は採点后、返却する。

評価方法

授業時に指示する課題を毎回提出する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業時の課題	○	○	○	

評価割合	授業時の課題100%	
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。必要に応じてプリント資料を配付する。	
参考図書	なし。	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な見地で家政学を学び、現代生活の諸問題を理解する。 【思考・判断】生活の諸問題を分析し、問題解決を思考する。 【関心・意欲・態度】生活の諸問題について積極的に関心を持つ。 【技能・表現】生活の諸問題について他者と討議し、発信することができる。	
オフィスアワー	小野 水曜日12:30~14:30 1701ゼミ室	
学生へのメッセージ	日ごろから私たちの生活における課題に目を向け、課題解決に向けて考える姿勢をもってほしい。「卒業研究」のテーマや自分の将来について真剣に考えてください。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	外部講師2名(キャリアカウンセラー、社会保険労務士、飲食店経営者)によるワークショップと講義
アクティブ・ラーニング	○	第10~11回には「現代家政ゼミB」での演習につながる調査や討議を行う
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	生活福祉論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小野 由美子	指定なし

ナンバリング	G12314C21
授業概要(教育目的)	生活者・消費者の立場から地域社会における社会福祉のあり方を考察する。自立した生活を営むためには個人、家庭、地域、社会の単位で生活を総合的に理解する必要がある。あわせて、自助、互助、共助、公助について理解し、各段階に応じた支援について検討する。主な題材として子どもの貧困や障害のある消費者への社会的対応を取り上げ、家政学と関連させながら考察する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	生活福祉に関わる専門的知識を持つことができる。
思考・判断の観点 (K)	生活福祉について多面的に考える姿勢を身に付けられる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自ら取り組む学習態度を身に付けられる。
技術・表現の観点 (A)	自らの考えをまとめ、人に伝える技術力を身に付けられる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	生活福祉論とは何か	生活福祉論の概念について理解する。	授業で取り扱う先行研究について復習する。	120
第2回	私たちの生活と福祉	現代の社会保障および社会福祉の概要について理解する。	国民年金についてその仕組みと、近い将来取るべき手続きについて調べる。	120
第3回	福祉の対象者とは誰か	社会福祉の対象について整理し、社会的対応の現状と課題を理解する。	子どもを対象にした社会保障・社会福祉制度を調べる。	120
第4回	個人、家庭、地域、社会単位で生活を考える	主体的に生活を営むためにできることを個人、家庭、地域、社会の単位で総合的に理解する。	学修者自身の生活テーマを設けて、個人、家庭、地域、社会の単位で対応できることを考える。	120
第5回	地域における助け合い	自助とは何か。具体例を探りながら、現状と課題を検討する。	授業で検討した「自助」以外の例を調べる。	120

	①			
第6回	地域における助け合い②	互助とは何か。具体例を探りながら、現状と課題を検討する。	授業で検討した「互助」以外の例を調べる。	120
第7回	地域における助け合い③	共助とは何か。具体例を探りながら、現状と課題を検討する。	授業で検討した「共助」以外の例を調べる。	120
第8回	地域における助け合い④	公助とは何か。具体例をあげて自助、互助、共助、公助の違いについて理解し、各段階に応じた支援について検討する。	子どもを対象にした自助、互助、共助、公助のシステムを調べる。	120
第9回	子どもの貧困①	子どもの貧困を考えるために、子ども食堂の取組みと、学校給食費の未納問題を取り上げる。	関連する書籍について割り振られた章をまとめ、発表の準備をする。	120
第10回	子どもの貧困②	子ども食堂と学校給食に関わる書籍についてまとめた内容を発表し、グループディスカッションをする。	他の学修者の発表や意見も踏まえて、今回、調べたテーマについて整理する。	120
第11回	子どもの貧困③	フィールドワーク：子ども食堂の活動に参加する。	フィールドワークの内容を記録しまとめる。	120
第12回	子どもの貧困③	子ども食堂でのフィールドワークについて振り返りをして、家政学ならではの問題解決のアプローチを考える。	他の学修者の発表や意見も踏まえて、今回のフィールドワークについて整理する。	120
第13回	障害のある消費者への社会的対応①	脆弱（ぜいじゃく）な消費者である子どもや高齢者、障害者などについて学習する。	子どもや高齢者、障害者の消費者教育の素材を調べる。	120
第14回	障害のある消費者への社会的対応②	消費者庁『消費者白書』などを手掛かりにしながら、障害のある消費者の相談状況を理解する。	インターネットで『消費者白書』を手掛かりにして、障害のある消費者について記述されている箇所を調べる。	120
第15回	地域社会における生活福祉	生活者・消費者の立場から地域社会における生活福祉のあり方を考える。	家政学の学びを活かした地域社会で求められる支援について調べる。	120

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法 授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法 ・定期試験は40点満点で出題し、テキストや授業で配布した資料から出題する。
・定期試験・提出物は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
提出物			○	○
定期試験	○	○		

評価割合 提出物（60%）、定期試験（40%）などを総合的に評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。
【技術・表現】心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。

オフィスアワー 【後期】水曜日 1701ゼミ室 10:40~12:50

学生へのメッセージ 授業で取り扱うテーマである子どもの貧困や、障害のある消費者の問題に関する情報を収集し、その問題点や社会的な取り組みの事例を通して、家政学を学ぶ皆さんに何が出来るかを考えておきましょう。

教育等の取組み状況

	該当	概要
--	----	----

	有無	
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	フィールドワークとその後の振り返りでは、体験学習やグループ・ディスカッションなどのアクティブ・ラーニングの手法を複数取り入れた授業進行である。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食と環境		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 沼波 秀樹	指定なし

ナンバリング	G13307C21
授業概要(教育目的)	この講義は、「食」と「環境」という別々に考え論議される二分野の関連性を学ぶことを通して、環境問題をより日常的な関連性の中で捉え直し、地球環境に対する理解を深めることを目的とする。環境問題の切り口や講義は多様であるが、「食」の問題を切り口として環境問題について考え、「食」と「環境」がいかに繋がっているかを理解できるようにする。今後現代家政学科での学びを進めていき、環境、経済、社会の面から見て持続可能な生活・社会を実現するのに必要な考え方や価値観を持つ為の基礎的な知識の習得を目標とする。
履修条件	特に無し。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	「食」と「環境」との関連性を理解し、持続可能な生活・社会を実現するための基礎的な知識を習得出来ている。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション	今後の授業内容について説明する。	授業内容の確認。	90分
第2回	なぜ、食べるのかを考える	「食べる」ことの生物学的意義について解説する。	予習：高校生物基礎教科書中の「細胞とエネルギー」「生態系内の物質・エネルギーの流れ」に関する部分を復習する。復習：授業内容の確認。	180分
第3回	環境とは何か？	今後、授業の中心の一つになる「環境」について解説する。	予習：高校生物基礎教科書中の「生物の多様性と生態系」編中の「植生の多様性と分布」「気候とバイオーム」の章を読み、生態系の成立要因について、ま	180分

			とめる。復習：授業内容の確認。	
第4回	食生活と生物多様性	生物多様性について解説し、遺伝的多様性が人類にもたらす利益を「品種改良」を例にして理解する。	生物多様性の3つの構成要素についてインターネットを用いて調べる。	180分
第5回	資源としての生物	資源としての生物についてマグロ資源を例として解説し、その特徴や化石燃料などのエネルギー資源などとの違いについて理解する。	高校生物基礎教科書中の「食物連鎖」に関連する部分を予習する。	180分
第6回	バイオテクノロジーと食料1	遺伝子操作による品種改良の基本について解説する。	高校生物基礎教科書中の「細胞内での遺伝子の発現」に関する部分を復習する。	180分
第7回	バイオテクノロジーと食料2	バイオテクノロジーによる品種改良の変遷についてVTR映像などを用いて解説し、賛否について問う。	バイオテクノロジーによる賛否について、自分意見をまとめておく。	180分
第8回	フードシステムの環境負荷1 フードマイレージ	現在のフードシステム（食料品の生産から流通・消費の相互関係）が環境に及ぼす影響について理解する。その一環として輸入食料について、総合的にとらえる目安として考えられたフードマイレージについて解説する。。	フードマイレージについて調べる。	180分
第9回	フードシステムの環境負荷2 フードマイレージとエネルギー消費	身近なコンビニ弁当からフードマイレージを算出する。さらに、原材料を国産に置き換えた場合と比較して、輸入食材の問題点を考える。また、日本の食糧事情についての問題点も考える。	フードマイレージと環境問題の関連性について、考えをまとめる。	180分
第10回	フードシステムの環境負荷3 水問題	バーチャル・ウォーター（仮想水）と飲料水の輸入など水がもたらす環境負荷について解説する。	バーチャル・ウォーター、飲料水の輸入についてインターネットを使って調べる。	180分
第11回	フードシステムの環境負荷4 食品廃棄物	これまで解説した「フードマイレージ」「水問題」を踏まえて、日本の食糧事情と食品廃棄物問題について考える。	食品廃棄物と日本の食糧事情について、自分の考えをまとめる。	180分
第12回	食生活と経済と環境の関連性（エコロジカル・フットプリント）	人間活動が地球環境に与えている負荷を計る指標として考案された「エコロジカル・フットプリント」を用いて、これまで解説してきたフードシステムによる環境負荷を総合して考える。	先進国、新興国、発展途上国に分けて、エコロジカル・フットプリントを調べて、それぞれの傾向について考える。	180分
第13回	食を通して環境問題を考える（公害病を例として）	生物濃縮による食料からの人体に及ぼされる影響について、公害病を例に解説する。日本の公害の歴史を振り返り、現在の安全な食生活がどのようにつくられたかを理解する。	公害病の中で食品が原因のものを調べる。	180分
第14回	廃棄物による環境汚染 マイクロプラスチック汚染	これまで食料に関係する環境問題について授業を行ってきたが、現在、ペットボトルなどの食品の容器やレジ袋などプラスチック製品が砕けて微粒子状になるマイクロプラスチックによる環境汚染が問題視されている。マイクロプラスチック汚染について解説し、この問題について考える機会とする。	マイクロプラスチック問題について企業の対応を調べる。	180分
第15回	食と持続可能な社会	これまでの授業で解説して「食」と「環境」に関連性について振り返り、持続可能な社会と食生活について考える。	これまでの授業の復習と定期試験への準備。	240分

学生へのフィードバック方法 レポート・提出物については、コメントを返す予定。

評価方法 定期試験とレポート・提出物・平常点の総合評価（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		
レポート・提出物	○	○	○	○

評価割合	定期試験60% レポート・提出物・平常点40%の総合評価（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）
使用教科書名（ISBN番号）	特に指定しない
参考図書	適宜、紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。
オフィスアワー	水曜日1時間目 1702室

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	グローバルコミュニケーション		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ マーク ルイス	指定なし

ナンバリング	G22109C12
授業概要(教育目的)	The teacher will instruct students how to describe and explain areas of Japanese culture in English
履修条件	None. (English Communication 1 and 2 recommended.)

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	Students will gain knowledge of basic English conversation patterns.
思考・判断の観点 (K)	Students will develop critical thinking skills to describe their feelings and to understand the perspectives of others.
関心・意欲・態度の観点 (V)	Students will become active learners of English and will desire to learn more.
技術・表現の観点 (A)	Students will learn techniques to express their experiences in Japan, in English, and will become more at ease when speaking about Japan to others.

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	Introduction	Where you are from; and the places that you like in Tokyo.	Prepare for class by reading p. 2-3; and p. 34-35	60
第2回	Japan	Traditional Japanese things / Convenience stores	P. 4-5; 36-37	60
第3回	Transportation	Getting a driver's license / Cherry blossom viewing	P. 6-7; 38-39	60
第4回	Animals / Spring	What do you like to do in the spring season? / Takoyaki and okonomiyaki	P. 8-9; 40-41	60
第5回	Food	Monjayaki / Going to a preparatory school	P. 10-11; 42-43	60
第6回	More Food	Natto and miso soup / Game centers	P. 12-13; 44-45	60
第7回	Festivals	Finding a good restaurant / Festival activities	P. 14-15; 46-47	60
第8回	Fishing	Going fishing / Going to a hot spring	P. 16-17; 48-49	60
第9回	Fashion	Fashion magazines / Studio Ghibli movies	P. 18-19; 50-51	60
第10回	Comic Books	Favorite comic books / Green tea	P. 20-21; 52-53	60

第11回	More Food	Wagashi deserts / Japanese fast food	P. 22-23; 54-55	60
第12回	Cosmetics	Perfume, cologne / Varieties of rice	P. 24-25; 56-57	60
第13回	Spicy Food	Sushi and wasabi / Wearing a yukata	p. 26-27; 58-59	60
第14回	Practice Speaking Test	Practice speaking with a partner for final speaking test.	P. 2- 59	120
第15回	Speaking Test	Speak with a partner in a natural conversation about Japan. No notes or books.	P. 2-59	120

学習計画注記 ※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 Students receive weekly quiz scores; feedback on weekly in-class writing; and feedback from the teacher on class participation.

評価方法 Quizzes are worth 10 points each week. Quiz questions are from the previous week's lesson, and the current week's lesson. If you read the pages assigned as homework, you will do well on the weekly quizzes. The final speaking test lets you know how comfortable and fluent you've become speaking English by the end of the semester. In-class writing allows you to earn more points. Write a lot about what you like and your ideas.

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
Quizzes	○	○	○	○
Speaking Test	○	○	○	○
Participation	○	○	○	○
Writing	○	○	○	○

評価割合 Understanding and fluency 60%; Quizzes 20%; Writing 10%; Final Speaking Test 10%

使用教科書名 (ISBN番号) Say What You Like 2.5 (ISBN 978-4-9906347-5-9)

参考図書 A Japanese - English Dictionary

ディプロマポリシーとの関連
 【知識・理解】社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」とは何かを理解し、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。
 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。
 【技能・表現】生活者の問題に寄り添えるコミュニケーションができる。次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。

学生へのメッセージ Relax and enjoy speaking English.

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	Students talk to each other.
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	家族の心理学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 木村 文香	指定なし

ナンバリング	G22210C21
授業概要(教育目的)	現代の家族の現象について、広い視野からその詳細を知り、原因や背景を学ぶ。その際、隣接領域である家族社会学、文化人類学等で語られる家族にも言及し、家族システム理論をベースとした、家族理解の方法論について学ぶ。また、家族心理学に隣接する心理学は、生涯発達心理学、臨床心理学である。これに社会心理学的な視点を加えて、家族プロセス、家族関係、家族力動について科学的にとらえ、自分なりの考えをまとめる力を身につける。最終的には、家族を取り巻く現代の問題に気づき、心理学の視点からの解決方法を模索できる力を醸成することを目的とする。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	学習目標(到達目標)
知識・理解の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族心理学の歴史や関連する学問領域とそれらとの関係を知る。 2. 家族心理学の知識によって、どのような社会の問題を明らかにできるのかがわかる。
思考・判断の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 物事を考え、理解する方法の手段の一つとして、学んだ内容を生かそうとすることができる。 2. 自身の疑問を家族心理学の知識を用いて解決しようとするすることができる。 3. 社会的な問題を家族心理学の知識を用いて解決しようとするすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日常生活にある事象から、家族心理学的なテーマを見つけることができる。
技術・表現の観点 (A)	自身や身近な人の行動、及び社会現象に関して、家族心理学で得た知識に基づいて説明するなど、家族心理学と生活のつながりを発信することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション—家族心理学とは—	ガイダンスとして、授業の進め方、スケジュールなど、受講にあたっての基本を理解する。 この授業ではgoogle classroomを使用するため、その使い方についても簡単に説明する。	家族心理学を学ぶ上で、自分が興味のある内容を考え、授業の該当回がいつなのかを見つける。また、授業に臨むにあたって、自分なりの目標を定める。	180分
第2回	家族とは何か	「家族」の定義について学ぶ。家族心理学が生まれた背景、関連する学問領域を理解すると共に、心理学で家族を扱うことができる範囲を知る。	家族の心理学に関して自分が持っていたイメージとの相違点を整理し、自分が関心のある分野と家族心理学のつながりを考える。	180分

第3回	家族づくりの準備	人の発達の観点から、家族はどのように作られていくのかを理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第4回	夫婦の発達	夫婦はどのように関係性が変化（発達）していくのかを知る。また現代社会における家族のあり方を、夫婦を一つの単位として考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第5回	家族システム理論	家族にまつわるシステム理論について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。また自分の身近なところで、知覚の心理学の考え方で説明できる事象を見つける。	180分
第6回	現代社会の特徴からみた家族	現代社会の特徴からみた「家族」について心理学的側面から理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第7回	子どもが育つ場としての家族 (1) 子育ての普遍性	養育のためのシステムを理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第8回	子どもが育つ場としての家族 (2) 親と子の関係	親子関係の変容について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第9回	子どもが育つ場としての家族 (3) 現代社会の子育て	現代社会における子育てをめぐる問題について知り、その解決法を考える。授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第10回	家族の健康	家族の発達と変容について理解し、家族における「健康」とは何かを知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第11回	家族の危機 (1) 歴史的側面	家族に生じる危機とその対応について、過去はどのようなものがあったのかを知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第12回	家族の危機 (2) 発達の側面 家族内の要因	家族に生じる危機のうち、家族内の要因が背景にあるものと、その解決法を知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第13回	家族の危機 (3) 発達の側面 家族外の要因	家族に生じる危機のうち、家族外の要因が背景にあるものと、その解決法を知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第14回	家族の危機 (4) 解決の方法	家族の危機を解決する方法の一つとして、家族療法について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第15回	変化する社会の中の家族 ～家族をめぐる心理学の課題と展望～	家族の持つ普遍性と個別性の観点から、変化する社会の中での課題を考え、展望する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分

学習計画注記	講義を中心に展開する予定であるが、質疑応答・討論も大切にしたい。 その展開によって生きた流れを優先するため、上記スケジュールを変更することもある。
学生へのフィードバック方法	1. 授業時に実施する自己チェックについては、その都度、教員との間で結果を共有する。 2. コメント欄付きの出席カードについては、毎回配布、回収し、最終的に教員が出席状況と記入内容をチェックした後、返却する。
評価方法	最終試験をもとに総合評価を行う。授業への意欲、態度も加味する。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
自己チェック	○		○	
出席カード (コメント式)		○	○	○
最終試験	○	○		

評価割合	最終試験70%、授業への意欲・態度 (自己チェック、出席カードなど) 30%
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。授業時にレジュメを配布する。
参考図書	授業の中で紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】「家族」という社会システムの観点から人間を相対化することで、「自然界における人間」を理解する心理学的な知識を得る。</p> <p>【思考・判断】心理学に関する思考をもって「家族」を理解し、その現代社会においてあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を得る。</p> <p>【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力を、家族の心理学への知識に基づく関心によって得る。</p> <p>【技能・表現】学修で得た専門的技能 (技術) をもって人間社会の中に課題を発見し、家族心理学的な思考や家族心理学の理論を用いて、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を得る。</p>
オフィスアワー	会議のない木曜日、金曜日の3限 (千代田三番町キャンパス1805室)
学生へのメッセージ	<p>教室外学習は欠かさず行ってください。また、自分自身をも含めた「人」への関心を高めてください。</p> <p>質問等は下記メールアドレスまで。 fumicak★kasei-gakuin.ac.jp メール送信の際には★を@に変更してください。</p>

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	「現代社会の子育て」や「家族の危機の解決方法」を扱う部分については、臨床心理士としての実務経験をベースに授業を行う。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	google classroomを、自己チェック、配布資料のアーカイブなどで活用する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	コミュニケーションの心理学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 木村 文香	指定なし

ナンバリング	G32217C21
授業概要(教育目的)	コミュニケーションの基礎的な理論と、現代社会におけるコミュニケーションに関する現象を、社会心理学や臨床心理学をベースとして学ぶ。家族とのかかわりをスタートとして、現代の生活においては様々なコミュニケーションが求められる。また、ICTの普及により、コミュニケーションを取り巻く状況は近年目まぐるしく変化している。コミュニケーションで用いる媒体は言葉にとどまらないということとあわせて、発達障害をはじめとする、コミュニケーションに困難を抱える状態についても理解を深め、コミュニケーションを取り巻く現代の問題に気づき、心理学の視点からの解決方法を具体的に模索できる力を醸成することを目的とする。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	学習目標(到達目標)
知識・理解の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 心理学における「コミュニケーション」とは何かを理解する。 心理学の観点から、コミュニケーションの仕組みを説明することができる。 社会の基盤としてまた社会を発展させていく礎となる「質の高い生活」を理解した上で、コミュニケーションに関する現代生活の諸問題を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 物事を考え、理解する方法の手段の一つとして、学んだ内容を生かそうとすることができる。 自身の疑問をコミュニケーションの心理学の知識を用いて解決しようとするすることができる 生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日常生活にある「何気ない」事象、生活・社会の諸問題から、コミュニケーション心理学的なテーマを見つけることができる。
技術・表現の観点 (A)	<ol style="list-style-type: none"> 自身や身近な人の行動に関して、コミュニケーションの心理学で学んだ知識に基づいて説明するなど、心理学と生活のつながりを発信することができる。 コミュニケーション心理学の知識に基づいて、次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション—コミュニケーション心理学とは	ガイダンスとして、授業の進め方、コミュニケーション心理学について知り、受講にあたっての基本を理解する。 この授業ではgoogle classroomを使用するため、その使い方についても簡単に説明する。	コミュニケーション心理学を学ぶ上で、自分が興味のある内容を考えて、授業の該当回がいつなのかを見つける。また、授業に臨むにあたって、自分なりの目標を定める。	180分

第2回	コミュニケーションの理論 (1) コミュニケーションの仕組み	コミュニケーションの仕組みについて学ぶ。コミュニケーションを心理学でどのように理論化しているか、その背景や関連する学問領域を併せて知る。	コミュニケーションに関して自分が持っていたイメージとの相違点を整理し、自分のコミュニケーションについて考える。	180分
第3回	コミュニケーションの理論 (2) コミュニケーションの果たす社会的役割	表現の読み取り、意思決定、情動との関連、など授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。また授業の最後にも、google classroomを用いたふりかえりを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。復習として、学んだことで説明が可能な日常生活の事象を考える。	180分
第4回	集団のコミュニケーションに関するスキル	集団へのアプローチとしての、アイスブレイク、チームビルディング、対人関係ゲームを学ぶ。授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。また授業の最後にも、google classroomを用いたふりかえりを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。復習として、学んだことで説明が可能な日常生活の事象を考える。	180分
第5回	日常社会のコミュニケーション (1) モバイル、CMCでのコミュニケーション	スマートフォンやコンピュータを介したコミュニケーションの特性と、その理論的背景を学ぶ。授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。また授業の最後にも、google classroomを用いたふりかえりを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。復習として、学んだことで説明が可能な日常生活の事象を考える。	180分
第6回	日常社会のコミュニケーション (2) くちコミとメディア特性	くちコミと各メディアの特性について、その理論と背景を学ぶ。授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。また授業の最後にも、google classroomを用いたふりかえりを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。復習として、学んだことで説明が可能な日常生活の事象を考える。	180分
第7回	日常社会のコミュニケーション (3) 社会的認知	社会的認知について、その具体的な事象と理論を学ぶ。授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。また授業の最後にも、google classroomを用いたふりかえりを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。復習として、学んだことで説明が可能な日常生活の事象を考える。	180分
第8回	日常社会のコミュニケーション (4) 対パーソナルコミュニケーション	個人を対象としたコミュニケーションについて、その具体的な事象と理論を学ぶ。授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。また授業の最後にも、google classroomを用いたふりかえりを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。復習として、学んだことで説明が可能な日常生活の事象を考える。	180分
第9回	日常社会のコミュニケーション (5) パーソナルスペース	パーソナルスペースについて、具体例に基づいて理論を学ぶ。授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。また授業の最後にも、google classroomを用いたふりかえりを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。復習として、学んだことで説明が可能な日常生活の事象を考える。	180分
第10回	日常社会のコミュニケーション (6) アフォーダンス	アフォーダンスとは何か。また日常生活とどのようなつながりがあるのかを学ぶ。授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。また授業の最後にも、google classroomを用いたふりかえりを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。復習として、学んだことで説明が可能な日常生活の事象を考える。	180分
第11回	日常社会のコミュニケーション (7) 集団・集合行動	集団とは何か、集合行動とは何か、その特徴と理論を学ぶ。授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。また授業の最後にも、google classroomを用いたふりかえりを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。復習として、学んだことで説明が可能な日常生活の事象を考える。	180分
第12回	日常社会のコミュニケーション (8) 流行現象	流行現象について、具体的な事例を心理学的な理論に基づいて分析し、理解する。授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。また授業の最後にも、google classroomを用いたふりかえりを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。復習として、学んだことで説明が可能な日常生活の事象を考える。	180分
第13回	日常社会のコミュニケーション (9) 異文化	異文化コミュニケーションについて、具体的な事例を心理学的な理論に基づいて分析し、理解する。授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。復習として、学んだことで説明が可能な日常生活の事象を考える。	180分

	化コミュニケーション	また授業の最後にも、google classroomを用いたふりかえりを行う。	て、学んだことで説明が可能な日常生活の事象を考える。	
第14回	日常社会のコミュニケーション(10)新技術とコミュニケーション	AIをはじめとする新技術とコミュニケーションを取り上げ、未来のコミュニケーションについて考える。授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。また授業の最後にも、google classroomを用いたふりかえりを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。復習として、学んだことで説明が可能な日常生活の事象を考える。	180分
第15回	総括	まとめ 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。また授業の最後にも、google classroomを用いたふりかえりを行う。	配布された資料や自己チェックの結果をふりかえり、興味をもった点、疑問に感じた点を明らかにしておく。	180分

学習計画注記	講義を中心に展開する予定であるが、質疑応答・討論も大切にしたい。その展開によって生じた流れを優先するため、上記スケジュールを変更することもある。
--------	--

学生へのフィードバック方法	1. 授業時に実施する自己チェックについては、その都度、教員との間で結果を共有する。 2. 授業の最後に行う「ふりかえり」については、紙ベースとwebベースを活用して毎回配布、回収し、内容については授業中に適宜フィードバックを行う。紙ベースのものについては、最終的に教員が出席状況と記入内容をチェックした後、返却する。
---------------	--

評価方法	最終試験をもとに総合評価を行う。授業への意欲、態度も加味する。
------	---------------------------------

評価基準	
------	--

評価基準	
------	--

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
自己チェック	○		○	
ふりかえり (アウトカム評価)	○	○	○	○
最終試験	○	○		

評価割合	最終試験70%、授業への意欲・態度(自己チェック、ふりかえりなど)30%
------	--------------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。毎回の授業開始時にレジュメを配布する。
-----------------	-----------------------------

参考図書	1. 『ザ・ソーシャル・アニマル 人と世界を読み解く社会心理学への招待』E.アロンソン サイエンス社 2. 『増補改訂版 コミュニケーションと日常社会の心理 100のエピソードから読み解く』中島純一 金子書房 そのほか、授業の中で紹介する。
------	--

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間社会について、特に対人行動に関する知識をもって理解する。 【思考・判断】心理学に関する思考をもって人間を理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を得る。 【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力を、心理学への知識に基づく関心によって得る。 【技能・表現】学修で得た専門的スキル(技術)をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、心理学的な思考や心理学の理論を用いて、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を得る。
---------------	--

オフィスアワー	会議のない木曜日、金曜日の3、4限(千代田三番町キャンパス1805室)
---------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	教室外学習は欠かさず行ってください。また、コミュニケーションへの関心を高めてください。講義、それに基づく質疑応答・討論を中心に展開します。その展開によって生じた流れを優先するため、上記内容を変更することもあります。
-----------	---

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	適宜、コミュニケーションの具体的な側面について検討していただきます。毎回必ず、その回の授業に関連する「質問」を考え、ふりかえりの際にgoogle classroomに記入していただきます。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	google classroomを、ふりかえり、自己チェック、配布資料のアーカイブなどで活用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	高齢者福祉論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 西口 守	指定なし

ナンバリング	G22316C21
授業概要(教育目的)	この授業では、少子高齢社会である我が国の状況を具体的なデータから理解する。また高齢社会の歴史について学ぶ。高齢者を支える保健医療福祉のサービスを学び、特に介護保険制度を詳細に理解する。さらに高齢者への介護の方法を学ぶ 教員はこれらの目的を達せさせるために現場の事例を収集し、またメディアの情報を多様に分析し、授業を行っていく。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	高齢者への制度とサービスを理解する
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	介護を受ける側からの介護のあり方に関心を持つことができる
技術・表現の観点 (A)	介護保険の手続きが理解できる。いくつかの介護の方法を理解することができる またサービスの創造や提案ができる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	高齢社会とは何か	新聞記事から「高齢社会」問題について整理してみる	新聞記事を整理する	120分
第2回	高齢社会の歴史と課題	高齢社会の歴史を7% 14%という視点で考えてみる	7% 14%の意味することを探索する	240分
第3回	榎山節考は何を言いたいか	榎山節考を事前学習で読み、その課題を検討する	榎山節考を読んでおく	240分
第4回	認知症とそのケア	NHKスペシャル 「認知症の第一人者が認知症になった」を見て、認知症という「病」「状態」を考える	認知症の4の種類 ①アルツハイマー型 ②前頭側頭型 ③レビー小体型 ④脳血管型の概要を調べておく ◎あなたにとって「忘れる」と	240分

			いうことはどういうことかをま とめておく	
第5回	社会保障における高齢者	30兆円を超える高齢者関連費用。その内容を学び、何が問題で、何を問題としてはいけないかを考える	国家財政の仕組みを財務省のHPから学ぶ	240分
第6回	社会保障における高齢者	30兆円を超える高齢者関連費用。その内容を学び、何が問題で、何を問題としてはいけないかを考える	国家財政の仕組みを財務省のHPから学ぶ	120分
第7回	高齢者への虐待(暴力)を考える	虐待データを読み解いていく	厚労省のHPにアクセスし虐待状況をチェックする	240分
第8回	高齢者への虐待(暴力)を考える	虐待データを読み解いていく	厚労省のHPにアクセスし虐待状況をチェックする	240分
第9回	介護保険制度を考える	介護保険制度の内容、特に申請手続きとサービス内容を考える	厚労省のHPにアクセスし、介護保険制度の概略を理解する	240分
第10回	介護保険制度を考える	介護保険制度の内容、特に申請手続きとサービス内容を考える	厚労省のHPにアクセスし、介護保険制度の概略を理解する	240分
第11回	介護保険制度を考える	介護保険制度の内容、特に申請手続きとサービス内容を考える	厚労省のHPにアクセスし、介護保険制度の概略を理解する	240分
第12回	介護の方法を学ぶ ボディメカニズム 腰を低くできるだけ密着して 持ち上げない	簡単な介護の方法を学ぶ 介護者の立ち位置 車いすの仕組み 車いすの坂道での介護	介護の方法をインターネットから調べる	240分
第13回	介護の方法を学ぶ	簡単な介護の方法を学ぶ 認知症の介護 いくつかの想定される状況での対応を考える	介護の方法をインターネットから調べる 認知症の対応困難 ①朝ごはん食べてないへの対応 ②あなたが財布を盗んだへの対応 ③家から出て帰宅できない ④激しい抵抗	240分
第14回	現場に行く	現場でのケアを体験する	現場施設をHPで確認する	240分
第15回	まとめの授業として外部講師の話 試験	ケアマネジメント方法、クレームを言い続ける家族への対応、ターミナルケアについてソーシャルワーカーから学ぶ 試験の実施		120分

学習計画注記 状況に応じて視聴覚教材を取り入れる

学生へのフィードバック方法 リアクションペーパーへのコメント

評価方法 ①リアクションペーパー テーマを設定して意見や感想をもとめその内容を評価
②ミニレポート 外部講義の講義感想を肯定的に評価できる
③期末試験 客観的知識の評価(正誤問題)

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
リアクションペーパー			○	
ミニレポート	○			○
期末試験	○			

評価割合 リアクションペーパー：20% ミニレポート：30% 期末試験：50%

使用教科書名 (ISBN番号) 別途紹介

参考図書 内閣府 高齢社会白書

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】

現代社会の諸問題としての「少子高齢社会」の様々な課題や問題を理解できる
 【関心・意欲・態度】
 生活者としての介護される側の立場に立とうとし、その視点から課題や問題をとらえる関心意欲を持つことができる
 【技術・表現】
 生活者としての要介護者の課題に対してアセスメントし対話しながら課題の解決ができる。また課題解決のための制度やサービスの創造及び提案ができる

オフィスアワー 月曜日3時限 その他はメールで対応

学生へのメッセージ 高齢者福祉に関心がある方の登録を望みます

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、高齢者福祉施設での勤務経験があり、その実際に基づいて、事例を踏まえて学びを深める
アクティブ・ラーニング	○	新聞記事を使った社会問題としての高齢社会問題の探索を自らが行き、教室でshareする
情報リテラシー教育	○	インターネット上の様々なサイトにアクセスし、事前学習を深める
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	障がい者福祉論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 中田 光彦	指定なし

ナンバリング	G22317C21
授業概要(教育目的)	本科目では障がい者、その家族を含んだ障がい者を取り巻く環境の実態を理解することを目的とし講義する。また、ノーマライゼーション、自立生活、QOLといった障がい者理解に必要な基本理念を理解し、「共生」とは何かを共に考えるために講義する。障がい者のニーズの多様性を理解し、障がい者への支援の在り方を障がい者福祉施策と共に講義する。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 障がい者生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要について理解する。 2. 障がい者福祉の理念や制度の発展過程について理解する。 3. 障がい者の生活支援に関係する障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係るほかの法制度について理解する。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	障がい(障害)とは何か。障がい(障害)の定義を理解する。	法律にみる障がい(障害)の定義を理解する。 ICFによる障がい(障害)の捉え方を理解する。 「障害」と「障がい」の表現について理解する。	教科書第1章「障害とは」(4-14ページ)を読んでおくこと。	120分
第2回	障がい者福祉の基本理念	障がい者福祉の理念を理解する。ノーマライゼーション、リハビリテーションの理念について理解する。 自立生活運動の背景と意味について理解する。インテグレーション、インクルージョンの理念について理解する。	教科書第2章「障害者福祉の基本理念」(15-26)を読んでおくこと。	120分

第3回	障がい者福祉の歴史、あゆみ	戦前から戦後にかけての障がい者福祉を理解する。高度成長期以後の障がい者福祉を理解する。障がい者福祉の転換と国際的動向を理解する。	教科書代3章「障害者福祉のあゆみ」(27-38ページ)を読むこと。	120分
第4回	障がい者福祉に関する制度や法律	障害者基本法の成立と内容について理解する。各種障がいに関する法律について理解する。障がい者に関する制度(障害者手帳・年金手当等)について理解する。	教科書第4章「障害者福祉に関する制度や法律」(39-52ページ)を読むこと。	240分
第5回	障がい者の生活の実態とニーズ	障がい者の生活とニーズの理解する。障がい者の生活実態とニーズ理解と共に支援の在り方を理解する。	教科書第5章「障害者の生活の実態とニーズ」(53-65ページ)を読むこと。	120分
第6回	障害者総合支援法のとは	障害者総合支援法について理解する。成立の背景、目的及理念、対象を理解し、サービス体系の概要を理解する。障害者総合支援法の課題について理解する。	教科書第6章「障害者総合支援法の概要」(66-76ページ)を読むこと。	120分
第7回	障害者総合支援法におけるサービスの利用プロセスと相談支援	福祉サービスの利用プロセスを理解する。支給決定の流れ、介護給付、訓練等給付、利用者負担について理解する。利用プロセスにおける課題を理解する。相談支援について理解する。相談専門員の役割、相談支援の課題について理解する。	教科書代7章「障害福祉サービスの利用プロセス」(77-86ページ)及び第8章「相談支援」(87-95ページ)を読むこと。	120分
第8回	障がい者の就労支援と雇用	障がい者の就労支援施策の全体像、障害者総合支援法における就労支援と雇用促進、課題について理解する。障がい者の雇用の現状、障害者雇用促進法について理解する。	教科書第9章「就労支援」(96-105ページ)及び第10章「障害者の雇用」(108-119ページ)を読むこと。授業初めに1-7回の小テストを実施するので、復習をしておくこと。	240分
第9回	障がい者の生活環境	障がい者の住環境への配慮の在り方について理解する。福祉社会のまちづくりについて理解する。ユニバーサルデザインについて理解する。	教科書第11章「障害者の生活環境」(120-130ページ)を読むこと。	120分
第10回	障がい者の権利擁護	障害者虐待防止法の概要、虐待の類型と判断、対応について理解する。成年後見制度、日常生活自立支援事業について理解する。心神喪失者医療観察法、障害者差別解消法について理解する。	教科書第12章「障害者の権利擁護」(131-145ページ)を読むこと。	120分
第11回	身体障がい者支援の実態(事例検討)	中途視覚障がい者の特徴と自立支援の在り方について検討、理解する。自立と参加への支援について理解する。すべての人が共生、包摂される社会とは何か、理解する。	教科書第13章「身体障害者支援の事例」(146-152ページ)を読むこと。	120分
第12回	知的障がい者及び精神障がい者への支援(事例検討)	知的障がい当事者を主体とした生活支援の実際(エンパワメント)について理解する。日常生活への支援について理解する。当事者の可能性を引き出す支援(エンパワメント)について理解する。精神障がい者支援の実際について理解する。精神科病院退院への過程と課題について理解する。	教科書第14章「知的障害者支援の事例」(153-161ページ)及び第15章「精神障害者支援の事例」(162-170ページ)を読むこと。	240分
第13回	発達障がい者支援の実態と難病患者支援に実態(事例検討)	自閉症の特性を踏まえた支援について理解する。発達障がい者への支援の在り方について理解する。ALS患者の事例検討を通じ、難病患者支援と課題について理解する。難病法の理解と他制度との併用に在り方について理解する。	教科書第16章「発達障害者支援の事例」(171-178ページ)及び第17章「難病患者支援の事例」(179-186ページ)を読むこと。	120分
第14回	障がい者支援の実際	障がい者関連施設職員による講義。障がい者の支援の実際と制度等の運用の実際を理解する。障がい者支援専門職ならではの事例紹介を通じて障がい者福祉の実態を学ぶ。	これまでの、教科書、資料等を復習しておくこと。また、新聞等でよいので障がい者福祉関連の事例や動向を意識しておくこと。	120分
第15回	障がい者福祉の展望とまとめ	障がい者福祉を取り巻く国際的な動向を理解する。日本への障がい者福祉の国際的な動向の影響を理解する。まとめ。	教科書 エピローグ「これからの障害者福祉」(187-192ページ)を読むこと。8回-14回の小テストを授業初めに実施するので、復習をしておくこと。	予習240分・復習420分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	実施した小テストは採点して次週の授業にて返却する。小テストの模範解答は提示する。質問等は、授業の前後の時間か、asakura@kasei-gakuin.ac.jpまで。
評価方法	小テストは授業内に2回実施する。1回あたりの問題数は20問。穴埋めもしくは選択方式で出題する。原則小テストの再試験は行わない。定期試験は80点満点で出題する。教科書、配布資料を中心に出題し障がい者福祉の基本的理解を判断する。選択

式、穴埋め式、記述式を含む。定期試験の詳細については最後の授業で説明する。
小テスト及び定期試験は下表に示す力を養うことを目的に実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○			
定期試験	○			

評価割合	小テスト20%・定期試験80%で評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	新・はじめて学ぶ社会福祉 障害者福祉論 杉本敏夫・柿木志津江 ミネルヴァ書房 978-4-623-07496-9
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会の基盤としてまた社会の発展させていく礎となる「質の高い生活」について障がい者福祉を通じ理解する知識を有している。さらに共生とは何か、現代社会の諸課題を理解する力を有している。
オフィスアワー	講義前後の時間 講師室 (千代田三番町キャンパス) もしくは、火曜日 3限目 K411-1実習指導室 (町田キャンパス)
学生へのメッセージ	障がい者が生活しやすい社会はすべての人々が生活しやすい社会です。障がいを持つ人々を理解しより良い生活を送るための支援を学ぶことはすべての人々の共生に繋がります。共生社会の重要性についても本講義を通じて理解してほしいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	地域福祉論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 嶋田 芳男	指定なし

ナンバリング	G32318C21
授業概要(教育目的)	地域福祉推進の背景、地域社会の特性、地域福祉の理念と歴史的変遷について理解した上で、地域福祉を推進する組織・人・支援技術・財源・福祉教育の具体的な内容について講義する。
履修条件	社会福祉概論、生活福祉論、高齢者福祉論、障がい者福祉論を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 地域福祉推進の背景、地域社会の特性、地域福祉の理念と歴史的変遷について説明できる 2. 地域福祉を推進する組織・人・支援技術・財源・福祉教育の内容と現状を説明できる
思考・判断の観点 (K)	地域福祉を推進していく公的組織と民間組織、人々の活動や支援がイメージできる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	地域福祉の推進に必要な技術について理解できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	産業構造の変化からみた地域社会	産業発展による就業構造の変化や家族形態の変化が、地域社会に及ぼした影響について理解する	就業構造の変化や家族形態の変化について、文献、インターネットから調べておく。また、授業内容を復習しておく	180分
第2回	高齢化の進展からみた地域社会	高齢化率や高齢者世帯の現状、および支援を必要とする高齢者数から地域社会の現状を理解する	高齢化率や高齢者世帯の現状、および支援を必要とする高齢者数の状況について調べておく。また、授業内容を復習しておく	180分
第3回	地域社会の特性	地域共同体モデル、伝統型アノミーモデル、個我モデル、コミュニティモデルといわれる地域社会の特性を理解する	配布したプリントを基に、授業で学んだ内容を復習しておく	180分
第4回	地域福祉の概念と理念	地域福祉の概念と理念(ノーマライゼーション、住民主体、ソーシャルインクルージョン)について理解する	テキスト10~22ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に授業内容を復習しておく	180分
第5回	わが国にお	明治期から今日に至るまでの地域福祉実践と課題を理解	テキスト28~32ページを読んで	180分

	ける地域福祉の展開	する	おく。また、配布したプリントを基に授業内容を復習しておく	
第6回	地域福祉を支える組織(1)	公的組織(国・都道府県・市町村)の機能と役割について理解する	テキスト33~42ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に授業内容を復習しておく	180分
第7回	地域福祉を支える組織(2)	民間非営利法人(社会福祉法人、NPO法人)、営利法人(株式会社、有限会社)の機能と役割について理解する	テキスト41~51ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に授業内容を復習しておく	180分
第8回	地域福祉を支える人々(1)	コミュニティワーカー、民生委員、各種相談員の役割と現状を理解する	テキスト52~59ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に授業内容を復習しておく	180分
第9回	地域福祉を支える人々(2)	ボランティア、認知症サポーター、介護相談員、各種施設職員の機能と役割について理解する	配布したプリントを基に授業内容を復習しておく	180分
第10回	地域福祉を推進していくための支援技術(1)	コミュニティワークの成立過程とその展開過程について理解する	テキスト27~28、68~75ページを読んでおく。	180分
第11回	地域福祉を推進していくための支援技術(2)	ある地域で実践された事例を検証することで、コミュニティワークを習得する	テキスト60~66ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に授業内容を復習しておく	180分
第12回	地域福祉を支える財源(1)	公的な財源(補助金、地方交付税交付金、地域福祉基金)と民間財源(共同募金、ボランティア基金、助成金、地域通貨)について理解する	テキスト126~134ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に授業内容を復習しておく	180分
第13回	地域福祉を支える財源(2)	事例を基に新たな財源確保を考え、プレゼンする(グループ単位)	他のグループでプレゼンされた内容を振り返る	180分
第14回	地域福祉計画の概要	地域福祉計画の目的とその内容及び作成手順が理解できる	テキスト93~99ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に復習しておく	180分
第15回	福祉教育の必要性	福祉教育の歴史、現状及び課題について理解する	テキスト101~107ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に復習しておく	180分

学習計画注記 授業の進捗状況によって、スケジュールが変更になることがある

学生へのフィードバック方法 提出されたレポートは、採点したうえで返却する

評価方法

- ・平常点
グループ討議やプレゼンテーションへの参加度で評価する
- ・定期試験
地域福祉実践に必要な知識の習得が計れるような出題とする。詳細については、最終授業日に説明する

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	
定期試験	○			

評価割合 平常点20%、定期試験80%

使用教科書名 (ISBN番号) 井村圭他編『地域福祉の原理と方法 (第3版)』学文社 (ISBN978-4-7620-2874-8)
適宜、プリントを配布する

ディプロマポリシーとの関連

- 【知識・理解】
地域で派生している現代生活の諸問題(主に福祉問題)について考えることができる
- 【思考・判断】
諸問題を分析し、問題解決に導くことができる
- 【技術・表現】
地域で安定した生活ができるために、諸問題を解決するとともに、新たな提言・発信ができる

オフィスアワー 月曜・12:10 ~13:00

学生へのメッセージ	グループ討議やプレゼンテーション（準備含む）に対しては、自発的・主体的に参加してほしい	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	地域で福祉活動を展開している児童・高齢者施設のソーシャルワーカーとしての経験を有しており、地域福祉を推進していくために必要な知見を講義している
アクティブ・ラーニング	○	地域福祉を支える人々に関して、学生自らがその現状と課題を調べ、プレゼンテーションできるような授業を行っている
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ソーシャルワーク論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 嶋田 芳男	指定なし

ナンバリング	G32319C21
授業概要(教育目的)	社会福祉領域で駆使されているソーシャルワークの技法について理解するための講義を行う。また、使用される技法について理解を深めるために演習を行う
履修条件	社会福祉概論、高齢者福祉論、障がい者福祉論のいずれかを履修していることが望ましい

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	生活課題(福祉課題)の解決に必要なケースワーク、ケアマネジメント、グループワーク、コミュニティワークの内容が説明できる
思考・判断の観点 (K)	生活課題(福祉課題)を解決するための支援がイメージできる
関心・意欲・態度の観点 (V)	人間関係を構築していく際に必要な姿勢・態度が習得できる
技術・表現の観点 (A)	生活課題(福祉課題)の解決に必要なケースワーク、ケアマネジメント、グループワーク、コミュニティワークの技法が習得できる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ソーシャルワークの体系	ソーシャルワーク(ケースワーク、ケアマネジメント、グループワーク、コミュニティワーク)の体系を理解する	配布したプリントを基に復習する	180分
第2回	ケースワークの概要	ケースワークの成立と展開過程について理解する。また、支援者が留意しておく必要があるバイステックの7原則について理解を深める	配布したプリントを復習しておく	180分
第3回	ケースワーク実践の手法(1)演習	バイステックの7原則の視点からいくつかの事例を検討し、同原則の理解を深める	配布したプリントを基に復習しておく	180分
第4回	ケースワーク実践の手法(2)演習	面接技法(あいづち、繰り返し、質問、感情の反射、支持)について理解するとともに、体験する	配布したプリントを基に復習するとともに、体験を振り返る	180分

第5回	ケアマネジメントの内容	ケアマネジメントの成立と展開過程、及びその構成要素について理解する	配布したプリントを基に復習しておく	180分
第6回	ケアマネジメント実践手法	実践の場で駆使されているケアマネジメントを外部講師から講義してもらうことで、理解を深める。また、実践上の留意点についても理解する	配布したプリントを基に復習しておく。また、外部講師の講義内容を振り返る	180分
第7回	グループワークの内容	グループワークの成立と展開過程について理解する	配布したプリントを基に復習しておく	180分
第8回	グループワークの実践手法(演習)	グループワークの展開に必要な活動プログラムを作成する(グループごと)で、同技法の理解を理解を深める	グループ活動とプログラム内容を振り返る	180分
第9回	コミュニティワークの内容	コミュニティワークの成立と展開過程について理解する	配布したプリントを基に復習しておく	180分
第10回	コミュニティワークの実践手法1(演習)	グループごとに、事例におけるコミュニティワークの展開過程を検証し、プレゼンテーションすることで同技法の理解を深める	グループごとにプレゼンテーションされた内容を改めて検証する	180分
第11回	コミュニティワークの実践手法2(演習)	地域で派生している生活課題(福祉課題)を抽出し、グループでその生活課題を解決するためのシステムを検証するとともに、その内容をプレゼンテーションする	事前に地域で派生している生活課題を調べておく。また、他のグループからプレゼンテーションされた内容を改めて検証する	180分
第12回	ソーシャルネットワークの内容	ソーシャルネットワークの成立と成立過程について理解する	配布したプリントを基に復習しておく	180分
第13回	ソーシャルネットワークの実践技法	事例を基にソーシャルネットワークの展開過程を検証し(グループごと)、発表することで同技法の理解を深める	グループ活動を振り返る	180分
第14回	ソーシャルワーク総合演習1	これまで学んできたさまざまなソーシャルワーク技法を振り返る。また、今後の生活課題の解決にソーシャルワークが資する場面を各自で考える	各自で考えた場面をプレゼンテーションできるように準備する	180分
第15回	ソーシャルワーク総合演習2	今後の生活課題の解決にソーシャルワークが資する場面をプレゼンテーションする	プレゼンテーションされた内容を振り返る	180分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になることがある
--------	------------------------------

学生へのフィードバック方法	ソーシャルワーク総合演習で作成されたレポートは採点した上で返却する
---------------	-----------------------------------

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点 グループ討議への参加度やプレゼンテーション内容で評価する ・定期試験 ソーシャルワーク実践に必要な知識や技法が計れるような出題とする。詳細は授業最終日に説明する
------	--

評価基準	
------	--

評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点		○	○	○
	定期試験	○			○

評価割合	平常点40%、定期試験60%
------	----------------

使用教科書名 (ISBN番号)	適宜、プリントを配布する
-----------------	--------------

ディプロマポリシーとの関連	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・理解】 社会で派生している生活課題(福祉課題)について理解できる 【思考・判断】 生活課題(福祉課題)を抽出・分析し、課題解決に導く考え方ができる 【関心・意欲・態度】 社会で派生している生活課題(福祉課題)に対して関心を持つことができる 【技術・表現】 さまざまな関係者との人間関係を構築することができる
---------------	--

オフィスアワー	月曜・12:10~13:00
---------	----------------

学生へのメッセージ	授業ではグループ討議、プレゼンテーションが計画されているため、自発的・主体的に参加してほしい	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	ソーシャルワーカーの経験を有しているため、生活課題（福祉課題）の解決に必要となるケースワーク、ケアマネジメント、グループワーク、コミュニティワークの実践的知識や技法について講義している
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	若者ファッション論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山村 明子	指定なし

ナンバリング	G25203C21
授業概要(教育目的)	10代から20代にかけての若者層は、既存のルール・文化に抵抗し、あるいは迎合し、自らの価値観を示してきた。若者が発信する文化にはその時代と社会の新しい感性が潜んでいる。本講では主に第二次世界大戦以降平成にかけての日本のファッションの流行を取り上げ、そこに投影された若者の感覚について論じ、そこから時代ごとに作り出されてきた「若者」とは何かを論じる。
履修条件	特に定めず 本科目は千代田区コンソーシアムの単位互換科目となっており、他大学の学生（男子学生を含む）が同時に履修する可能性があります。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	若者のファッション文化の変遷を学び、ファッション文化と社会の動向の関わりについて理解する。
思考・判断の観点 (K)	若者とは何か、社会における若者の位置づけについて考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	現代のファッション文化に対して積極的に情報を収集することができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	若者とは何か	社会の中で論じられてきた若者論について取り上げ、若者について考える意義について学ぶ	シラバスを読み、授業概要について理解する。	180分
第2回	1950年代シネマファッション	1950年代のファッションは映画・テレビといった映像文化に影響を受けていたことを学び、社会におけるファッションの位置づけについて理解する。	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を補足する情報を記入する。	180分
第3回	1960年代ミニスカート	日本経済の成長と生活の進展を学び、ミニスカートがファッションの価値観の変容にかかわったことを理解する。	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を補足する情報を記入する。	180分
第4回	1960年代ヒッピーとサイケ	安保闘争などの社会的な動きから、若者と社会とのかかわりについて理解する。	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を補足する情報を記入する。	180分
第5回	1960年代	若者ファッションの代名詞となるジーンズと、フォーク	復習として授業内容の振り返	180分

	ジーンズとフォークソング	ソングの流行から今日のジェンダー観への移行を理解する。	り、ノート整理を行い、授業内容を補足する情報を記入する。	
第6回	1970年代ファッション雑誌	ファッション雑誌が提案した若者ファッションとライフスタイルについて学び、若者の消費行動の変化について理解する。	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を補足する情報を記入する。	180分
第7回	1980年代スポーツ天国と女子大生ブーム	大学進学率の向上などを背景とする、若者のライフスタイルとファッションの関りについて理解する。	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を補足する情報を記入する。	180分
第8回	1980年代ブランドの多様化	バブル経済の前後の事例を学び、ファッションブランドの多様化について理解する。	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を補足する情報を記入する。	180分
第9回	1990年代カジュアル志向	バブル崩壊後のファッションの中でのカジュアル志向を学び、価値観の変容を理解する。	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を補足する情報を記入する。	180分
第10回	1990年代カジュアル志向	女子高生を中心としたファッションムーブメントとしてのギャル文化を学び、社会における若者の位置づけの変化を理解する。	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を補足する情報を記入する。	180分
第11回	2000年代ローティーン	2000年代以降のローティーンファッションに着目し、市場動向を理解する。	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を補足する情報を記入する。	180分
第12回	カワイイとは何か	日本のポップカルチャーの一つとして世界にも認知される「カワイイ」文化について学び、カワイイとは何かを考える。	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を補足する情報を記入する。	180分
第13回	エイジレス志向	2000年代以降の女性のエイジレス志向を学び、そこから今日の若者とはどのような意味を持つのかを考える。	復習として授業内容の振り返り、ノート整理を行い、授業内容を補足する情報を記入する。 展覧会見学レポートを作成する。	180分
第14回	まとめ・試験 現代社会と若者	これまでの講義内容を振り返り、社会と若者ファッションとはどのような関わりを持っているのかを考える。	試験準備として、授業内で指示をした内容について情報収集をし、まとめる。	180分
第15回	展覧会見学	これまで学んだ若者ファッションについて、展覧会見学によって理解を深める	展覧会開催の公式HP等の確認をする。	180分

学習計画注記 受講生の理解度等により授業の進行を調整することがある。

学生へのフィードバック方法 授業の理解度を確認するために、前回授業内容についての「振り返りテスト」を行う。穴埋め方式で出題し、時間内に正解の解説をする。

評価方法 中間・期末試験では、ファッションと社会との関わりにおいてについて理解しているかを問う。毎回の授業内容をしっかりとノート整理することが必要である。
期末試験では授業内容に加えて、現代の若者の流行に関する問題を課すので、積極的に情報収集する態度を評価する。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業ごとの小テスト	○			
中間・期末試験	○	○	○	
展覧会見学課題	○	○	○	○

評価割合 授業ごとの小テスト15%、期末試験85% 状況によって展覧会見学課題を追加する

使用教科書名 (ISBN番号) なし。授業時に資料を配布する

参考図書 なし。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】 社会と若者のファッション文化について理解を深める。
【思考・判断】 ファッションを通して若者文化が包含する意味について思考することができる。
【関心・意欲・態度】 若者のファッション文化について意欲的に関心を持ち、情報を収集できる。

オフィスアワー 月曜日2限 1703ゼミ室

学生へのメッセージ 第二次大戦以降の日本の若者のファッションについて取り上げる、メディアの情報などを積極的に収集してくだ

さい。また、同時代を経験してきた身近な父母、祖父母などに質問するのもよいと思います。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	展示会を見学し、体感的な学びを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	日本の服飾演習		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 太田 茜	指定なし

ナンバリング	G35205C12
授業概要(教育目的)	日本の民族衣装である和服の起源と変遷を理解し、現在の基本的な知識としての決まりごとやTPOを学び、それぞれの特徴を理解する。さらに、若者の和服に関する意識の変化を調査し、各自の考えとの違いを分析し理解する。次に和服の着装の色あわせなどを学び、ファッションカラー演習の知識を活かし各自が配色の着装デザインを行う。最後には、実際に着付けと帯結びのスタイリングを行い、相互に様々な効果をプレゼンテーションにより評価する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	日本の服飾について多角的な視点に基づいて知り、現在の衣生活への影響を体系的に説明できる。
思考・判断の観点 (K)	和服についてどのように現在の形になったかを知り、その変化と受容について考察することで服飾における形の変化の原因とその影響について指摘できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	和服の着装について技術だけでなく、文化的な背景についての知識を持って伝統的な行事等に参加することができる
技術・表現の観点 (A)	和服の様々な着装方法について学び、自分なりに表現できるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	概要説明	イントロダクションとして日本の民族衣装である和服についてその起源を学ぶ。パワーポイントや動画等の画像資料を用い、現在の和服への変遷を知る。	シラバスの内容を確認しておく。	20分
第2回	小袖の成立・帯結びの変遷	現在の和服は袖口が小さく縫われた小袖であるが、小袖はもともとは袖口から下が縫われていない大袖の中に着るものであった。それがどのように表着として着られるようになったのかと、帯の変化について学び、現在の和服の着姿が成立する過程を知る。	シラバスの内容を確認しておく。	20分
第3回	和装の構成、着物の格と組み合わせ	現在の和服の柄の付け方、着物の格とよばれるものについて学ぶ。着物の格は素材や柄の付け方等によって決まるが、その見分け方を学ぶことで適切な服の選択ができるようになる。	シラバスの内容を確認しておく。自宅に和服がある場合はそれがどのような格のものなのか調べ、写真に撮っておく。	40分

第4回	着装実習 1 半幅帯 での着付け	実際に半幅帯を用いて帯結びを行う。まずパワーポイントや動画、デモで結び方（文庫結び、矢の字結び）を解説し、実際に行ってみることで着付けの際のコツや綺麗に結ぶコツを学ぶ。	シラバスの内容を確認しておく。	20分
第5回	場面ごとの 和装1 冠 婚葬祭の和 装	現在の衣生活において和服を着る機会が比較的多いのは冠婚葬祭の場面であり、特に結婚式では華やかな和装が多くみられる。第3回の授業で扱った着物の格について復讐するとともに結婚式・披露宴で用いられる婚礼衣装に焦点をあて、その成り立ちと変遷について学ぶ。	シラバスの内容を確認しておく。予習として改まった場面で着る服装について調べておく。	30分
第6回	場面ごとの 和装2 お 出かけの和 装	前回のような改まった場所でもなくとも和服を着て外出する機会はあることができ、その際に何を着たらよいのかというのは和装の知識の少ないものには難題となる。そこで浴衣をはじめとして気軽な外出着とされる和服について学び、どのように組み合わせをしたらよいかを考える。	シラバスの内容を確認しておく。また、和装で出かけたい場所についてリストアップし、その際にどのような装いをしたいか考えておく。	40分
第7回	場面ごとの 和装3 ラ イフイベント と和装	ライフイベントの服装としての和服を取り上げ、その意義と和服のはたす役割について学ぶ。特に七五三、成人式に焦点をあて、成人式の和装の変遷について調べる。	シラバスの内容を確認しておく。予習として自分や親族、友人の成人式の際の服装について（成人式に出席したかとその服装、出席していない場合でも記念写真を撮っていればその服装）まとめておく。	40分
第8回	着装実習 2 袴の着 装	女子学生の卒業式の服装としてよくみられる行灯袴の着装を行う。まず実物を使ったデモで付け方を解説し、実習を行う。実際に着てみて着流し（浴衣を着て帯を結んだだけの姿）と比較して審美性や機動性がどう異なるかを自分なりにまとめておく。	シラバスの内容を確認しておく。	30分
第9回	作品の中の 和装1 映 画・ドラマ	映画やドラマの中で見られる和装はキャラクターの表現の一環としてスタイリングされるため、時として史実に忠実でない場合がある。また、現存する歴史資料としての衣服と時代劇等の衣装は必ずしも一致しないことがあり、どのように衣装の設定をしているのかを考察する。	シラバスの内容を確認しておく。	40分
第10回	作品の中の 和装2 マ ンガ・アニ メ	前回の映画やドラマと違い、マンガやアニメ等の二次元の表現では特にキャラクターにあわせたデフォルメがされていたり、大胆にアレンジを加えている和装が多くみられる。また、実際の着姿を二次元に落とし込んだ場合イメージと異なることがおおいいため、何をもちて和装として描いているのかを考察する。	シラバスの内容を確認しておく。	40分
第11回	近現代の日本 の服飾・ 1 和洋折 衷の着こなし	現在は日本の民族服として考えられている和服だが、かつては日常着であったものが西洋から洋服が入ってきたために和服という名称が成立していった過程がある。そこで明治時代以降の服装から、洋服のアイテムを和装に取り入れる、もしくは逆の着こなしについて学び、現在の着こなしに活かせるかどうかを検討する。	シラバスの内容を確認しておく。	30分
第12回	近現代の日本 の服飾・ 2	現在の和装として特殊なものに舞台芸能の衣裳がある。ここでは現在の歌舞伎の衣裳をとりあげ、服装の時代背景や考察、キャラクター表現としてどのような効果があるかを学ぶ。	シラバスの内容を確認しておく。	30分
第13回	着装実習 3 自分な りのテーマ をもって着 てみる	今までに行った着装実習や講義、演習のまとめとして自分なりにスタイリングをし、着装を行う。どのような場所に着てゆくのかやコンセプトを明確にし、着装写真を撮り、プレゼンの資料とする。次の授業でスタイリングについてプレゼンを行うための準備をする。	シラバスの内容を確認しておく。着装に必要なアイテムを確認し、準備しておく。	60分
第14回	プレゼンテ ーション	前回行った着装実習の写真をもとに、自分のスタイリングのコンセプトと着こなしのポイントについてプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションにはパワーポイントかポートフォリオを用いて行い、互いに講評を行う。自分のプレゼンテーションへの講評はまとめておく。	シラバスの内容を確認しておく。	60分
第15回	まとめ、ミ ニテスト	まとめとして現在の日本の服飾についてどのような課題があるかを考え、ディスカッションを行う。また専門用語についてはミニテストを行い、知識が身につけているかを確認する。	シラバスの内容を確認しておく。また、授業内で出てきた用語についてはわからないものについては調べておく。	40分

学習計画注記	履修者数によってスケジュールや着装実習の内容が変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	着装実習の講評で正しく理解して着付けができてきているかを確認し、その都度指導する。またプレゼンテーションの講評を行い、またミニテストはコメントをつけて返却を行い、フィードバックを行う。
評価方法	着装実習は自分が着るだけでなく、人に着せたりお互いのチェックが行えているかを総合的に評価する。プレゼンテーションは自分のコンセプトを適切に表現し、説明できているかを評価する。ミニテストでは専門用語を正しく理解できているかを評価する。平常点は授業への参加状況と実習、プレゼンへの取り組み状況を総合的に評価する。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
着装実習	○		○	○
プレゼンテーション	○	○	○	○
ミニテスト	○	○	○	
評価割合	着装実習 (20%)、プレゼンテーション (30%)、ミニテスト (20%)、平常点 (30%)			
使用教科書名 (ISBN番号)	教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。			
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】衣生活について現代にいたる流れを知り、質の高い生活を送るための選択眼を養う</p> <p>【思考・判断】現在の日本の服飾についての状況を分析し、自分なりの課題をみつけて解決の方法を探る</p> <p>【関心・意欲・態度】和装の変遷や現在の形について理解することで、より日本文化や伝統行事に積極的に取り組む</p> <p>【技能・表現】和装の技術を習得し、自分のイメージにあった着付けや着こなしができる</p>			
オフィスアワー	1808ゼミ室 月曜昼休み～3限			
学生へのメッセージ	日本の服飾ときいて思い浮かべるものは人によって違ってきます。着る人の事情や社会にあわせてかわる服装という視点で日本の服飾を読み解くため、日常から服飾に興味を持ち、情報を収集してほしい。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング	○	知識を生かして着装を行い、自分なりのアレンジを加えた着付けを行えるようにする。また、グループで着装を行うため、同じ形の服を個人差のある体型に着付けることができるという和服の長所を実際に体感する。		
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	設計製図演習E		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 戸田 啓太	指定なし
助教	青柳 由佳	指定なし

ナンバリング	G34205022
授業概要(教育目的)	<p>設計製図演習A～Dならびに関連科目で学んだ知識や手法に基づき、集合住宅の設計とインテリア計画を行う。</p> <p>第1課題「〇〇の部屋」では言葉からイメージされるインテリア空間を基本図面、パース、模型等で表現することを目的とする。</p> <p>第2課題「都心で暮らす単身者向け集合住宅」では集合住宅の設計に取り組む。与えられた敷地から周辺環境を読み込み、法的条件の中でコンセプトを設定して設計する。さらに一住戸の設計及びインテリアの提案へとつなげる。プレゼンテーションを通して自らの考えを他者へ伝える手法を修得することを目的とする。</p>
履修条件	本演習の履修は、設計製図演習Dの単位取得済み条件を条件とします。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	与えられた課題(集合住宅、インテリア)に必要な空間、機能について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	敷地条件から周辺環境を読み解くことができ、設計条件から居住者のライフスタイル等を読み解き、それに基づいた建築、空間を提案できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	建築、住宅、インテリアに関心を持ち、自ら資料収集ができる。
技術・表現の観点 (A)	建築設計に必要な作図、模型制作ができ、それに基づきながら自らの考えを他者に説明できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	第1課題説明	第1課題「〇〇の部屋」課題説明をします。	図書館やインターネットを利用して、イメージする空間を表現する「単語」を抽出してください。	90分
第2回	エスキス1	「選んだ単語」の提出をします。その単語からイメージされる空間を2.5m×2.5m×2.5mで表現します。	教室外でもエスキスを進めてください。	90分
第3回	エスキス2	単語からイメージされるインテリア計画を内観パース、模型で表現します。	次週までに模型を完成させてください。	90分
第4回	模型提出	模型を提出し、模型の撮影手法について説明します。また図面レイアウトを検討します。	次週までに図面レイアウトを完成させてください。	90分

第5回	レイアウト 図面提出	レイアウト図面を提出した上で、図面の手直しについて指導を行います。	次週までにレイアウト図面をコピー仕上げにし、プレゼンテーションの準備をしてください。	90分
第6回	第1課題講 評会	第1課題の講評会を行います。また第2課題「都心で暮らす単身者向け集合住宅」について説明します。	第2課題：図書館等を利用して実例研究（2件）を行います。次週までに1件についてA3サイズ1枚にまとめてきてください。	90分
第7回	第2課題 実例研究	実例研究2件を発表します。	教室外でもエスキースを進めてください。	90分
第8回	エスキース 1	平面計画を行います。	教室外でもエスキースを進めてください。	90分
第9回	エスキース 2	立面・断面計画を行います。	教室外でもエスキースを進めてください。	90分
第10回	中間提出	中間提出を行います。またインテリア計画においてエスキースを行い、アクソメ図を作成します。	教室外においてもエスキースを進めてください。	90分
第11回	インテリア 計画エスキ ース2	インテリア計画においてアクソメ図の作成、模型の作成を行います。	教室外においてもエスキースを進めてください。	90分
第12回	図面作図	図面を作図し、インテリア仕上げを検討します。	次週までに模型を完成させてください。	90分
第13回	模型提出	模型を提出し、模型の撮影手法について説明します。また模型の手直しについても指導をします。	次週までにレイアウト図面を完成させてください。	90分
第14回	レイアウト 図面提出	レイアウト図面を提出した上で、図面の手直しについて説明します。	次週までにレイアウト図面をコピー仕上げにし、プレゼンテーションの準備をしてきてください。	90分
第15回	第2課題講 評会	第2課題の講評会を行います。	設計の意図を伝えられるように準備をしてきてください。	90分

学生へのフィードバック方法 演習形式で行い、2課題が出される。エスキース、作図、模型、写真撮影の手順で課題を完成させ、課題提出後にポスターセッション形式で採点及び講評が行われる。

評価方法 講評会では担当教員や他の学生に向け、図面と模型を提示して、口頭で設計内容を説明してもらう。担当教員は発表の内容と提出された図面及び模型を採点する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
図面	○	○	○	○
模型	○	○	○	○
口頭発表 (プレゼン)	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合 2課題×40%=80% 平常点=20%

参考図書 新建築（月刊誌）、新建築住宅特集（月刊誌）、住宅建築

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】「質の高い生活」を実現させるための社会の基盤の一部となる生活空間の知識を得ること、理解することができる。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し、建築設計、インテリア設計を通して解決する。
【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を建築、インテリアを通して提案できる。

オフィスアワー 金曜日5時限目（青柳）

学生へのメッセージ 実際の建築設計は様々な要素を検討しながら「新しい空間を想像する」ことです。授業では実際の敷地条件の中で具体的な設計演習を行います。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活か	○	担当教員は建築設計の実務経験を有しており、実践的な指導が可能です。

した授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	設計製図演習F		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 戸田 啓太	指定なし
助教	青柳 由佳	指定なし

ナンバリング	G34206C22
授業概要(教育目的)	設計製図演習A～Eならびに関連科目で学んだ知識や手法に基づき、カフェの設計とマンション住戸のリノベーションを行う。第1課題では公園内にカフェを設計する。周辺環境を読み込み、その場所、空間にふさわしい建築とインテリアを提案し、基本図面、パース、模型等で表現することを目的とする。第2課題では、家族構成やライフステージの変化を想定したファミリータイプマンションのリノベーションに取り組む。基本図面、模型、プレゼンテーション等を通して自らの考えを他者へ伝える手法を修得することを目的とする。
履修条件	本演習の履修は設計製図演習Eの単位取得を履修条件とします。材料等の実費負担が必要になります。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	与えられた課題(レストラン、カフェ、マンション)に必要な空間、機能について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	敷地条件から周辺環境を読み解くことができ、それに基づいた建築、空間を提案できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	建築、住宅、インテリアに関心を持ち、自ら資料収集ができる。
技術・表現の観点 (A)	建築設計に必要な作図、模型制作ができ、それに基づきながら自らの考えを他者に説明できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	第1課題 課題説明 コンセプト 設定	第1課題「公園のカフェ」課題説明をします。カフェのコンセプトを設定し設計条件等について構想します。	図書館等を利用し、実例資料を収集してください。	90分
第2回	実例研究発表	「公園のカフェ」の課題に対する実例研究(2件)を発表してもらいます。1件につきA3サイズ1枚にまとめます。	図書館等を利用して実例資料を収集し、A3サイズにまとめ発表できるように準備してください。	90分
第3回	エスキース 1	配置、平面計画を行います。	教室外でもエスキースを進めてください。	90分
第4回	エスキース 2	断面、立面計画を行います。	教室外でもエスキースを進めてください。	90分

第5回	エスキース3	インテリア計画（模型）を行います。	教室外でもエスキース、模型制作を進めてください。	90分
第6回	エスキース4	インテリア計画（模型）及びパースの作図を行います。	次週までに模型を完成させてください。	90分
第7回	模型提出 図面レイアウト	模型を提出し、模型の撮影手法を説明します。また図面のレイアウトを検討します。	次週までに図面を完成させてください。	90分
第8回	レイアウト 図面提出	レイアウト図面を提出し、図面の手直しについて指導します。	次週までにレイアウト図面をコピー仕上しプレゼンテーションの準備をしてきてください。	90分
第9回	講評会 第2課題	第1課題の講評会を行います。また第2課題「マンション1室のリノベーション」の説明を行います。	第1課題：設計の意図を伝えられるように準備してください。 第2課題：図書館等を利用して実例資料の収集をしてください。	90分
第10回	第2課題 実例研究発表	第2課題の実例を2件発表します。1件についてA3サイズ1枚にまとめてください。	図書館等を利用して実例資料を収集し、A3サイズにまとめ発表できるように準備してください。	90分
第11回	エスキース1	インテリア計画を行います。	授業外にもインテリア計画の構想、模型の制作を進めてください。	90分
第12回	エスキース2	インテリア計画（模型）を行います。	次週までに模型を完成させてください。	90分
第13回	模型提出	模型を提出し、模型撮影の手法について説明します。また模型の手直しの指導を行います。	模型の手直しをし、模型の完成度を上げてください。	90分
第14回	図面作図	インテリア計画について、アクソメ図を作図します。また図面のレイアウトを検討します。	次週までに図面を完成させてください。	90分
第15回	レイアウト 図面提出	レイアウト図面を提出し、図面の手直しについて指導します。	次週までにレイアウト図面をコピー仕上しプレゼンテーションの準備をしてきてください。	90分
第16回	講評会	第2課題の講評会を行います。	第2課題：設計の意図を伝えられるように準備してください。	90分

学生へのフィードバック方法 演習形式で行い、2課題が出される。エスキース、作図、模型、写真撮影の手順で課題を完成させ、課題提出後にポスターセッション形式で採点及び講評が行われる。

評価方法 講評会では担当教員や他の学生に向け、図面と模型を提示して、口頭で設計内容を説明してもらう。担当教員は発表の内容と提出された図面及び模型を採点する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
図面	○	○	○	○
模型	○	○	○	○
口頭発表（プレゼン）	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合 2課題×40%=80% 平常点=20%

参考図書 新建築（月刊誌）、新建築住宅特集（月刊誌）、住宅建築

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】「質の高い生活」を実現させるための社会の基盤の一部となる生活空間の知識を得ること、理解することができる。
【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し、建築設計、インテリア設計を通して解決する。
【技能・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を建築、インテリアを通して提案できる。

オフィスアワー 金曜日5限目（青柳）

学生へのメッセージ 実際の建築設計は様々な要素を検討しながら「新しい空間を想像する」ことです。授業では実際の敷地条件の中で具体的な設計演習を行います。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は建築設計の実務経験を有しており、実践的な指導が可能です。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	現代家政ゼミB		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	現代家政学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小野 由美子	指定なし
教授	佐藤 広美	指定なし
教授	現代家政学科 教員	指定なし
准教授	井澤 尚子	指定なし

ナンバリング	G31005C12
授業概要(教育目的)	4年次の卒業研究A・Bの履修に先立ち、生活の中から課題を発見し、それぞれの研究テーマを決定するために必要な情報収集、課題発見のための力を養い、研究の基礎について学ぶことを目指す。資料の講読や討議を通じて、資料の収集方法、調査方法、論文の構成や書き方等について理解を深めることを目的とする。学生が自主的および主体的に取り組むことが望まれる。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	生活の諸課題を現代家政学の学びと関係づけて説明する。
思考・判断の観点 (K)	研究テーマを決定するための方法を理解し、選ぶことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	現代家政学について主体的に学ぶ態度を身につける。
技術・表現の観点 (A)	情報を収集し、課題を発見し、効果的に発信することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	配属されるゼミを前に、学習の目的と主なテーマの理解を深める。	各配属ゼミに関連する情報を調べる。	45分
第2回	各配属ゼミでの演習：先行研究・参考文献の調査(1)	先行研究や参考文献について調査し、配属されるゼミで取り扱うテーマの概要を知る。	情報の検索を進め、その内容を記録していく。	45分
第3回	各配属ゼミ	先行研究や参考文献について調査し、配属されるゼミで	情報の検索を進め、その内容を	45分

	での演習： 先行研究・参考文献の調査(2)	取り扱うテーマの概要を知る。	記録していく。	
第4回	各配属ゼミでの演習： 先行研究・参考文献の調査(3)	先行研究や参考文献について調査し、配属されるゼミで取り扱うテーマの概要を知る。	情報の検索を進め、その内容を記録していく。	45分
第5回	各配属ゼミでの演習： 研究方法の検討(1)	配属されるゼミで実施される研究の方法について学習する。	研究方法を理解し、実際に試して慣れておく。	45分
第6回	各配属ゼミでの演習： 研究方法の検討(2)	配属されるゼミで実施される研究の方法について学習する。	研究方法を理解し、実際に試して慣れておく。	45分
第7回	各配属ゼミでの演習： 研究方法の検討(3)	配属されるゼミで実施される研究の方法について学習する。	研究方法を理解し、実際に試して慣れておく。	45分
第8回	講演（キャリアカウンセラー等）	キャリアカウンセラーによる、卒業後のキャリアプランについての講演及びワークショップ。	事前に予告された内容に基づき、関連するウェブサイトや新聞等の情報を理解し、自分の考えを表現する準備をする。	45分
第9回	特別公開講座に出席（振替）	毎年大学で実施される特別公開講座に出席する（特別公開講座の出席を現代家政ゼミBの出席回数に含める）。当日配布されるコメントシートを記入する。	講演者について、事前にホームページや関連書籍等で情報収集しておく。講演後、今後の学びやくらしにどのように活かせるかについて考察する。	45分
第10回	各配属ゼミでの演習： 調査・実験・製作(1)	ゼミで提示されるそれぞれの課題に取り組む。	配属されるゼミでさらに調査・実験・製作を進める。	45分
第11回	各配属ゼミでの演習： 調査・実験・製作(2)	配属されるゼミでさらに調査・実験・製作を進める。	ゼミで提示されるそれぞれの課題に取り組む。	45分
第12回	各配属ゼミでの演習： 報告・発表の準備	配属ゼミでの学びを振り返り、成果を取りまとめる。	必要な準備に取り組む。	45分
第13回	各配属ゼミでの演習： 報告・発表	配属ゼミにおける成果について報告・発表・ディスカッションなどを行う。	必要な準備に取り組む。	45分
第14回	卒研発表会に出席（振替）	卒業研究発表会に出席し、内容をよく聞き理解すると共に、1年後の自分の卒業研究の発表に向けて、自らの卒業研究について考える。	卒業論文要旨集を読み、理解し、発表会で知りたいことを考える。加えて、自分の卒業研究の進め方やテーマ設定などを考える。	45分
第15回	卒研発表会に出席（振替）	卒業研究発表会に出席し、内容をよく聞き理解すると共に、1年後の自分の卒業研究の発表に向けて、自らの卒業研究について考える。	卒業論文要旨集を読み、理解し、発表会で知りたいことを考える。加えて、自分の卒業研究の進め方やテーマ設定などを考える。	45分

学習計画注記	外部講師の都合等により授業内容の入れ替えを行うこともある。
学生へのフィードバック方法	配属ゼミでの演習形式は作業、発表、質疑応答、討議を中心に授業を進める。講演・講座形式で提出した課題は採点后、返却する。
評価方法	授業時に指示する課題を提出する。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)

授業時の課題	○	○	○	○
評価割合	授業時の課題100%			
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。必要に応じてプリント資料を配付する。			
参考図書	東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編『東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』 その他、授業内で随時紹介する。			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】総合的な見地で家政学を学び、現代生活の諸問題を理解する。 【思考・判断】生活の諸問題を分析し、問題解決を思考する。 【関心・意欲・態度】生活の諸問題について積極的に関心を持つ。 【技能・表現】生活の諸問題について他者と討議し、発信することができる。			
オフィスアワー	小野 水曜日10:40~12:50 1701ゼミ室			
学生へのメッセージ	日ごろから私たちの生活における課題に目を向け、課題解決に向けて考える姿勢をもってほしい。「卒業研究」のテーマや自分の将来について真剣に考えてください。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	キャリアカウンセラー等、外部講師2名による講義		
アクティブ・ラーニング	○	配属されるゼミで研究テーマに関わり報告や発表を実施する。		
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	スポーツ栄養学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 加藤 理津子	指定なし
教授	江川 賢一	指定なし

授業概要(教育目的)

運動生理学を中心として、栄養（飲食）に関わる事柄について講義形式で授業を進める。前半（運動生理学）では、運動を行ったときの一過性の生理応答、トレーニングを行ったときの慢性的な適応現象を説明する。後半ではスポーツ選手の栄養学的課題と栄養素の関わりと、よりよいスポーツ活動のための食事について、実例とともに説明する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1. 運動を行ったときに身体に起こる急性応答を理解する。 2. 運動を行ったときに身体に起こる慢性適応を理解する。 3. スポーツ選手の栄養学的課題を列挙できる。 4. スポーツ選手のよりよいスポーツ活動のための食事を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	健康のための運動、競技のための運動、リハビリのための運動の違いを判断できる。 スポーツ選手の栄養摂取と一般人の栄養摂取の違いを判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自ら健康増進や競技力向上の基礎的な実践を通じて、生涯にわたるスポーツ栄養の意義を説明できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	授業の概要、青年期女性の健康問題と対策を説明する。	スポーツ栄養にマネジメントに関する情報を収集する。	120分
第2回	スポーツと栄養の基礎	身体活動時の生理応答を説明する。	運動生理学で学習した呼吸循環系、運動系、免疫系の一過性応答および慢性適応を復習する。	120分
第3回	スポーツと栄養の応用	身体活動時の代謝を説明する。	基礎栄養学で学習した糖質・たんぱく質・ビタミン・ミネラルの代謝を復習する。	120分
第4回	スポーツと栄養の実践	スポーツに関わる体重管理、摂食障害、貧血、骨代謝、水分補給の問題を説明する。	応用栄養学で学習した食事摂取基準、ライフステージ別の栄養課題、支援方法を復習する。	120分

第5回	健康づくりを目的とした運動処方	運動処方の理論を説明し、健康づくりに応用する。	身体活動基準・指針、アクティ ブガイドの情報を収集する。	120分
第6回	健康づくりを目的としたサポート計画の作成	対象別の健康課題を整理し、健康づくりに必要なサポート計画を作成する。	身体活動基準・指針を復習し、 対象別にメッツ計算する。	120分
第7回	スポーツ栄養アセスメント	スポーツ栄養アセスメントの方法を説明する。	アセスメントの方法を復習する。	120分
第8回	スポーツ栄養サポートの実施1	アセスメントに基づくサポート計画を立案する。	対象者のニーズに合わせた計画 を作成する。	120分
第9回	スポーツ栄養サポートの実施2	料理教室を計画する。	栄養サポートを開始し、対象者の モニタリングを実施する。	120分
第10回	運動・栄養指導の実践①（モニタリング）	個別サポートにおける運動・栄養指導を実践する。	サポート対象の状況を把握し、 フィードバック方法を検討する。	120分
第11回	運動・栄養指導の実践②（料理教室）	料理教室を実施し、個別サポートにおける運動・栄養指導を考察する。	サポート対象の状況を把握し、 フィードバック方法を検討する。	120分
第12回	運動・栄養指導の実践③（モニタリング）	個別サポートにおける運動・栄養指導を実践する。	サポート対象の状況を把握し、 フィードバック方法を検討する。	120分
第13回	運動・栄養指導の評価	個別サポートで実施した運動・栄養指導を評価する。	サポート対象の状況を把握し、 フィードバック方法を検討する。	120分
第14回	運動・栄養指導の結果報告	個別サポートの成果をプレゼンテーションする。	サポート対象の状況を把握し、 フィードバック方法を検討する。	120分
第15回	まとめ	個別サポートの成果を総括する。	学修事項を整理し、サポート経 験を記録する。	120分

学習計画注記	※履修者数や講義の進度によりスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	授業の進行にしたがってワークシートに記入したものを、その都度確認し、返却する。
評価方法	中間試験：講義の内容を筆記形式で出題する。期間中に1回実施する。なお、臨地実習など単位取得にかかわる合理的な理由がない限り、追・再試験を実施しない。 課題提出：授業の進行に応じたワークシートおよびまとめのレポートを出題する。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間試験	○	○		
課題提出	○	○	○	○

評価割合	中間試験 (50%) , 課題提出 (50%)
------	-------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	「七訂食品成分表」 女子栄養大出版部 (978-4789510165) 「調理のためのベーシックデータ」 女子栄養大出版部 (978-4789503174) 「日本人の食事摂取基準[2020年版]」 第一出版 (978-4804113128)
-----------------	---

参考図書	特になし
------	------

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】運動を中心とした人間の栄養に関する専門的知識と、それらを応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている 【思考・判断】運動と栄養に関わる諸課題を探索し、その課題解決に向けて正確な情報を収集し、論理的批判的に思考できる
---------------	---

	【関心・意欲・態度】運動を中心とした人間の栄養に関心を持ち、管理栄養士として貢献する意欲と態度を身につけている
オフィスパワー	江川 G0101研究室：木曜日昼休み 加藤 1B05研究室：水曜日2時限
学生へのメッセージ	受講にあたり、以下の内容に取り組むことを期待する。 ○遅刻や欠席、私語、内職、居眠りを慎み、メモを取るなど主体的に取り組む。 ○計画的に予習、復習に取り組み、理解を深めるよう努める。 ○提出物は、手順や締め切りを守り、学習した内容を理論的に書くよう努める。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員（江川）は民間企業の研究機関における運動生理学的研究に従事した経験を踏まえて、健康増進を目的とした運動処方に関する専門的知識を教授する。 担当教員（加藤）はスポーツ栄養の現場経験をふまえ、スポーツを実施する人を対象とした栄養管理の理論や技術について専門的知識を教授する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	カウンセリング論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 小金井 希容子	指定なし

授業概要(教育目的)	この授業では、カウンセリングについての理解を深めるために、諸理論、心理アセスメントなど、カウンセリングについて総合的に学ぶ。また、社会に出てから実践で役に立つカウンセリングの基本的な知識・姿勢・技術を面接実習や演習を通して身につけ、カウンセリングマインドを養うとともに、管理栄養士として、栄養カウンセリングが実践できる能力を育成することを目的とする。
------------	---

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	栄養カウンセリングに必要な諸理論やアセスメントを説明できる。
思考・判断の観点 (K)	カウンセリング場面で扱う課題の背景にあることを思考し、課題解決や個人の成長のために必要な情報やアプローチを選択することができるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	栄養や健康における様々な課題に関心を持ち、それに対して主体的に関わる態度や他者と協働する姿勢を養う。
技術・表現の観点 (A)	カウンセラーとして思考したことを、相手にあわせて言葉で表現できるようになる。栄養カウンセリングで使用する資料を、言葉や表などを用いて適切に表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	栄養教育におけるカウンセリングの位置づけ、基本的技法 ①共感と受容	ロジャースの来談者中心技法およびカウンセリングマインドについて理解する。授業内でロールプレイを行うときのルール(自己開示と個人情報の扱い)について確認し、栄養カウンセリングにおける倫理について学習する。演習:自分が話しやすいと感じる人の特徴について話し合い、共感や受容について理解を深める。	教科書「実践栄養カウンセリング論」P.8~9	90分
第2回	基本的技法 ②傾聴	傾聴の特徴を学び、日常会話の「聞く」とカウンセリングにおける「聞く」の違いを理解する。演習:日常的な会話と傾聴をロールプレイして、その体験の相違について話し合う。	教科書「実践栄養カウンセリング論」P.26~40	90分
第3回	基本的技法 ③質問と気づき	オープン・クローズの質問について理解する。気づきを得ることにより、気持ちや行動が変わることを理解する。クライアントの気持ちに寄り添いながら仮説を立てていく。演習:ロールプレイによって、カウンセリングにおけるオープン・クローズの質問を練習する。	教科書「実践栄養カウンセリング論」p.19~25	90分

第4回	基本的技法 ④評価・アセスメント、見立て	相談されたときに、クライアントの抱えている状況や問題についてアセスメントし、見立てる必要があることを理解する。 授業内ワーク：bio-psycho-socialモデルを理解し、模擬ケースをアセスメントおよび見立てる練習を行う。	教科書「実践栄養カウンセリング論」p.69～77	90分
第5回	基本的技法 ⑤直視化、目標設定	評価・アセスメントの結果と見立てをクライアントと共有する難しさを体験し、注意点を整理する。さらに、目標設定を考えるときのカウンセリングが出来るようになる。演習：クライアントの気持ちを想像しながら伝える練習をロールプレイで行う。	教科書「実践栄養カウンセリング論」p.69～77	90分
第6回	健康心理学と生活習慣に関するカウンセリング	生活習慣（体重管理、睡眠、喫煙、飲酒、糖尿など）に関するカウンセリングを行うために、健康心理の主要概念について理解する。健康の維持や促進、およびセルフ・エフィカシー、バーンアウトなど、健康心理学的に重要な考え方を学び、生活習慣へのカウンセリングについて考える。演習：生活習慣の悩みをテーマに、ロールプレイを行う。	教科書「実践栄養カウンセリング論」p.10～18	90分
第7回	行動変容のための理論 ①認知療法、行動療法、認知行動療法	考え・行動・感情の連動に焦点を当てる心理療法であることを学習する。また、刺激・反応、オペラント条件付け、不合理な信念、モニタリングなどの基本的概念を理解する。演習：①生活習慣や食に関するテーマに沿って、ワークシートを使い、考え・行動・感情を書き出し、カウンセリングをロールプレイする。②リフレーミングや思考記録表により、捉え方や考え方について扱う。ロールプレイにより実践する。	教科書「実践栄養カウンセリング論」p.87～92	90分
第8回	行動変容のための理論 ②心と体について～ストレス、リラクゼーション、マインドフルネス～	ストレスと健康について理解を深める。ストレスに対し、カウンセリングで身体的な介入を適切に行えるようになる。演習：呼吸法や筋弛緩、マインドフルネスのワークを実施し、今ここの感覚との接触を体験する。	教科書「実践栄養カウンセリング論」p.93～97 授業内で使用する資料を基に復習し、授業中に学習したリラクゼーションを1週間体験してみる。	90分
第9回	行動変容のための理論 ③家族やコミュニティとの繋がり	食事をテーマとして、個人と家族・コミュニティとの繋がりについて考える。授業内ワーク：クライアントが家族との関係について話すときに使用できるアセスメントツールとして、ジェノグラムを学ぶ。	教科書「実践栄養カウンセリング論」P.97～100、114～123	90分
第10回	行動変容のための理論 ④様々なアプローチ	動機付けカウンセリングや心理教育的アプローチ、ソーシャル・サポートなどを理解する。継続面接を行うときに注意することを学習し、実践する。課題の説明（概要、情報の選択や扱い方についての注意点）	課題：生活習慣（体重管理、喫煙、飲酒、糖尿など）のカウンセリングで用いる心理教育的資料を作成する。作成にあたり出典は書籍のみ（インターネットは厚生労働省のホームページなど信頼性が明確なものに限る）とし、今後のカウンセリングに役立つものを作成する。	90分
第11回	集団カウンセリングについて	集団カウンセリングを行うときの注意点について学習する。	教科書「実践栄養カウンセリング論」p.101～112	90分
第12回	カウンセリングの終結	カウンセリングの終結時に検討すべきことを理解する。	授業内で使用した資料を復習する。	90分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	実施した課題は、採点して、次週の授業にて返却し解説する。
評価方法	○授業内容の理解促進のため、課題（100点満点）の提出が求められる。課題は2～4問であり、授業出席を兼ねる。空欄で提出されたものは、1問につき5点の減点とする。 ○課題では、栄養・健康に関するテーマを各自が選び、授業で扱った内容（アセスメント、行動変容のための理論、目標設定）を基にしたレポートを作成する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題・発表	○	○	○	○
レポート	○	○	○	

		○	○	○	
--	--	---	---	---	--

評価割合	課題60% レポート40%
使用教科書名 (ISBN番号)	久保克彦「実践栄養カウンセリング」メディカ出版
参考図書	堀越 勝・野村 俊明「精神療法の基本 支持から認知行動療法まで」医学書院 赤松利恵・永井成美「栄養カウンセリング論」化学同人
ディプロマポリシーとの関連	【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として他者と協働するための共感力を有している。 【技能・表現】専門的知識と共に、他職種とのコミュニケーション能力やプレゼンテーションなどの表現力を有している、
学生へのメッセージ	人に話を聞いてもらおうと、心が楽になるときもありますが、関わり方によってはそれにより傷つくこともありますね。相手の気持ちを想像しながらカウンセリングが行えるように、練習していきましょう。カウンセリングの力が求められる場面はたくさんありますので、現場で使えるスキルをぜひ身に付けてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	精神科や教育現場での実践を踏まえて、理論を实践と結び付けながら授業を進めて行く。特に、栄養・健康が相談テーマとなったケースを、個人情報に配慮しながら紹介していく。また、現場で実際に使えるアセスメントや心理教育的資料作成を授業内で行う。資格：臨床心理士、公認心理師、家族療法士（米国）
アクティブ・ラーニング	○	各講義の質問により、自己理解などの発見学習や体験学習を行う。
情報リテラシー教育	○	レポート作成において、情報に対する評価と選択についてガイダンスを行う。
ICT活用	○	

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食情報表現演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 呉 起東	指定なし

授業概要(教育目的)	現代社会において情報伝達能力はとても大切である。自分の考えをまとめて効率よく人に伝えて理解してもらうことは重要である。2次元グラフィックツールを用いて食に関する情報が表現できることを本授業の目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	分野別の管理栄養士の使命やそれぞれに求められる資質について理解している。
思考・判断の観点 (K)	課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。
関心・意欲・態度の観点 (V)	各分野に対して関心を持ち、意欲を持って学ぶ。報告会では積極的にディスカッションに参加し、理解を深めることができる。
技術・表現の観点 (A)	する専門的スキルと共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業のオリエンテーション、2次元CGの概要	授業の概要や内容、成績の評価の説明を行う。2次元CGについて概要と表現の可能性について説明を行う。	食に関する情報がどのように表現されているのかを調査し、その内容をレポートでまとめる。	90分
第2回	2次元CGの概要	2次元グラフィックツールの基本的なインターフェースとツールを理解する。	食に関する情報がどのように表現されているのかを調査し、その内容をレポートでまとめて提出する。	90分
第3回	2次元CGの概要	2次元グラフィックツールのプリミティブ図形を理解する。	2次元グラフィックツールの使い方を復習をし、理解を深める。	90分
第4回	2次元CGの概要	2次元グラフィックツールの図形の応用演習を行う。	2次元グラフィックツールの使い方を復習をし、理解を深める。	90分

第5回	2次元CGの概要	2次元グラフィックツールの曲線の生成方法を演習する。	2次元グラフィックツールの使い方を復習をし、理解を深める。	90分
第6回	2次元CGの概要	2次元グラフィックツールの色の付け方を演習する。	2次元グラフィックツールの使い方を復習をし、理解を深める。	90分
第7回	課題1（食をテーマとしたキャラクター）	今まで学んだ2次元グラフィックツールを駆使して食をテーマとしたキャラクターをデザインする。	食をテーマとしたキャラクターのアイディアスケッチを行う。	90分
第8回	課題1（食をテーマとしたキャラクター）	今まで学んだ2次元グラフィックツールを駆使して食をテーマとしたキャラクターをデザインする。	食をテーマとしたキャラクターの完成度を高めて提出する。	90分
第9回	課題2（食に関する研究を可視化する）	食に関する研究の情報を収集する。	収集した情報を整理する。	90分
第10回	課題2（食に関する研究を可視化する）	食に関する研究情報の処理を行う。データの特性・関連性を知る。	収集した情報をどのように表現できるかを考える。	90分
第11回	課題2（食に関する研究を可視化する）	収集した食に関する研究情報の分析。	研究情報の分析してレポートでまとめる。	90分
第12回	課題2（食に関する研究を可視化する）	まとめた情報を用いて可視化の作業（パネル制作）を行う。	可視化の作業（パネル制作）の完成度を高める。	90分
第13回	課題2（食に関する研究を可視化する）	まとめた情報を用いて可視化の作業（パネル制作）を行う。	可視化の作業（パネル制作）の完成度を高める。	90分
第14回	課題2（食に関する研究を可視化する）	まとめた情報を用いて可視化の作業（パネル制作）を行う。	可視化の作業（パネル制作）の完成度を高める。	90分
第15回	プレゼンテーション	制作した食情報のパネルについてプレゼンテーションを行う。	制作レポートを作成して提出する。	90分

学生へのフィードバック方法	課題、レポートは採点して、次週の授業にて返却をする。質問などがある場合はE-mailで連絡すること。			
評価方法	2回の課題は60点満点で課題の結果とプレゼンテーションで評価を行う。評価の基準は3つの基準は「課題の理解」「誠実さ」「デザイン性」で5段階評価を行う。 2回のレポートと最終報告書は20点満点で課題と同じく3つの基準を5段階評価で行う。 平常点は20点満点で15回を通して「背極的な授業の参加、態度」「背極的なディスカッション」を基準に加点及び減点を行います。			
評価基準	評価基準			
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○
平常点			○	
評価割合	課題（60%）、レポート（10%）最終報告書（10%）平常点（20%）で評価をする。			
使用教科書名 (ISBN番号)	なし			
参考図書	なし			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多面的なカリキュラムの履修により、総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士などの専			

門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。
 【思考・判断】食・栄養に関わる諸課題について探究し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的に思考し、戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。
 【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。
 【技術・表現】体系的学習を通じて、人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的スキルと共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション能力などの表現力を身につけている。”

オフィスアワー	月曜日 1限
学生へのメッセージ	情報の表現は沢山の方法があります。如何に効率よく正確にわかりやすく伝えるかが大切です。更に表現には美しくなる必要があります。どうすれば美しいデザインができるかを一緒に探してみたいです。この授業はパソコンを使います。パソコンの基本をわからないのであれば事前学習して下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題に関して、自ら調べ、発表する。
情報リテラシー教育	○	情報そのものと情報の伝達をするための情報の収集、分類、基本的な表現スキルを教育する。
ICT活用	○	情報収集、作品制作、発表のために、PCや通信機器を活用する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	栄養治療学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金澤 良枝	指定なし

授業概要(教育目的)	医療現場において医療の一翼を担える管理栄養士を目指す。各種疾患別の症例に基づき、栄養アセスメントを実施し疾病者の栄養状態を把握し栄養管理のあり方を習得する。栄養指導媒体の作成や模擬栄養指導など実践力が備わる様に学習する。医療の倫理、患者の権利の問題など、医療人としての在り方についても学ぶ。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	各種疾患の栄養評価、栄養管理について理解する。
思考・判断の観点 (K)	各種疾患の栄養管理について、個々の患者背景、病態を考え提案できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	各種疾患の栄養管理について、医療倫理を備えた管理栄養士として患者に接することが出来る。
技術・表現の観点 (A)	各種疾患の適切な栄養指導媒体の作成や提案が出来る。

学習計画

栄養治療学

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	肥満症症例の栄養評価と栄養指導	肥満症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導の実際について学ぶ	教科書「肥満症」を予習しておくこと	240分
第2回	糖尿病症例の栄養評価と栄養指導	糖尿病症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ。	教科書「糖尿病」を予習しておくこと、糖尿病治療のための食品交換表を予習しておくこと	120分
第3回	糖尿病+高血圧症例の栄養評価と栄養指導	糖尿病と高血圧を合併している症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ。	教科書「糖尿病」、「高血圧」を予習しておくこと	240分
第4回	脂質異常症症例の栄養評価と栄養指導	脂質異常症症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ。	教科書「脂質異常症」を予習しておくこと	120分
第5回	脂質異常症	脂質異常症に糖尿病、高血圧を合併した症例より、病	教科書「脂質異常症」「糖尿	240分

	+糖尿病+高血圧症例の栄養評価と栄養指導	病「高血圧」を予習しておくこと	
第6回	脂質異常症+糖尿病+高血圧症例の栄養評価と栄養指導の媒体作成	脂質異常症に糖尿病、高血圧を合併した症例の、栄養食事指導媒体を作成し実際の栄養指導のシミュレーションを行う。	教科書「脂質異常症」「糖尿病」「高血圧」を予習しておくこと 240分
第7回	慢性腎臓病(ステージ1~3)症例の栄養評価と栄養指導	慢性腎臓病(ステージ1~3)の症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ。	教科書「糸球体腎炎」を予習しておくこと 120分
第8回	慢性腎臓病(ステージ4~5)症例の栄養評価と栄養指導	慢性腎臓病(ステージ4~5)の症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ。	教科書「慢性腎不全」を予習しておくこと 120分
第9回	糖尿病性腎症症例の栄養評価と栄養指導	糖尿病性腎症症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ。	教科書「糖尿病性腎症」を予習しておくこと 240分
第10回	慢性腎不全低たんぱく食事療法の媒体作成	慢性腎不全低たんぱく食事療法の栄養食事指導媒体を作成し実際の栄養指導のシミュレーションを行う。	教科書「慢性腎不全」を予習しておくこと、腎臓病食品交換表を予習しておくこと 240分
第11回	炎症性腸疾患症例の栄養評価と栄養指導	炎症性腸疾患の症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ。	教科書「潰瘍性大腸炎」「クローン病」を予習しておくこと 120分
第12回	鉄欠乏性貧血症例の栄養評価と栄養指導	鉄欠乏性貧血症の症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ。	教科書「鉄欠乏性貧血」を予習しておくこと 120分
第13回	肝硬変症例の栄養評価と栄養指導	肝硬変症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ。	教科書「肝硬変」を予習しておくこと 120分
第14回	妊娠糖尿病症例の栄養評価と栄養指導	妊娠糖尿病症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ。	教科書「糖尿病」を予習しておくこと 180分
第15回	高齢者(サルコペニア・フレイル)症例の栄養評価と栄養指導	高齢者(サルコペニア・フレイル)症例より、病態、アセスメント、ケアプラン、栄養食事指導方法について学ぶ。	教科書「加齢にともなう機能低下への栄養ケア」を予習しておくこと 240分

学習計画注記 授業後とに症例を提示するので、疾患の栄養食事管理について理解を深める。

学生へのフィードバック方法 毎回の症例シートは内容を確認して、次週に返却する。質問がある場合は1504研究室に訪問すること。

評価方法

- ・症例シートより、臨床検査値の読み方や食事指導の方法を確認する。
- ・媒体作成より、患者によりわかりやすい内容であるか確認する。
- ・症例問題の定期試験より、医療スタッフとしての基礎知識が身についているか評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
症例シート	○			
栄養指導媒体作成	○		○	○
定期試験	○	○		○

評価割合	症例シート15点、媒体作成10点、定期試験75点	
使用教科書名 (ISBN番号)	新臨床栄養学・栄養ケアマネジメント (978-4-263-70664-0)	
参考図書	食品成分表 糖尿病食事療法のための食品交換表 腎臓病食品交換表	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 各種疾患の栄養アセスメント、栄養管理が理解でき食事指導への対応できる知識を有している。 【思考・判断】 患者に適合した栄養管理の対応が身についている。 【感心・意欲・態度】 患者教育への関心、意欲、栄養指導に対する態度が身についている。 【技能・表現】 食事指導媒体など、栄養指導を表現できる。	
オフィスアワー	木曜1, 2限	
学生へのメッセージ	各種疾患の栄養食事療法を理解し、それを患者に正しく伝える技術と人間性ある栄養指導が実施できるように、学生時代から努力して学んでほしい。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、総合病院勤務経験および内科クリニックでの栄養食事個別指導、集団栄養食事指導経験がある。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	地域栄養活動演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 田中 弘之	指定なし
准教授	嶋田 芳男	指定なし
助教	會退 友美	指定なし

授業概要(教育目的)	地域栄養活動をすすめるための理論や方法を基に、集団における栄養問題や、社会ニーズを把握するために社会調査法を用いて地域診断を行い、それに基づいて地域栄養計画策定のための方法論を学ぶ。また、市町村、保険者、事業者、学校等の健康の増進に関わる各主体が、健康づくりに活用できる社会的資源の状況を踏まえた健康課題に対応した、個人の自発的な意志に関わる生活習慣の改善を促すための計画を提案し、実践・評価するまでの実践力を養う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	地域栄養活動をすすめるための理論や方法を基に、集団における栄養問題や、社会ニーズを把握方法の実践が理解できる。
思考・判断の観点 (K)	地域や集団の健康・栄養状態および社会・生活環境を観察、状況判断しながら公衆栄養活動の実践ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	他職種との協調する態度と高齢者がかかえる課題解決への主体的な役割と意欲を学ぶ。
技術・表現の観点 (A)	地域や集団の健康・栄養状態および社会・生活環境を踏まえた、公衆栄養活動が確実に実施できる技術や対象への表現が実践できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーションと地域栄養活動計画の策定とは	栄養学の目標のうち、心身の健全な発育・発達、健康の保持・増進、疾病予防と治療に貢献を理解する	公衆栄養活動によるQOLの向上について、地域栄養活動論での内容を思いめぐらす。	180分
第2回	地域栄養活動計画の策定の方法と実際	地域計画策定・実施・評価に関わる上で必要とされる技能と調査設計	健康日本21と食育推進基本計画等の構成について、政府のHPや白書により知る。	180分
第3回	地域の特性	4つの地域モデル(地域共同体モデル、伝統型アノミーモ	配布したプリントを基に、授業	180分

		デル、個我モデル、コミュニティモデル)の特性を理解し、それぞれの地域モデルへのアプローチ法を理解する	内容を復習する	
第4回	地域栄養支援法(1)	地域への支援方法に位置づけられるコミュニティワークとコミュニティソーシャルワークの概要について理解する。また、それぞれの支援方法の違いを知る	配布したプリントを基に、授業内容を復習する	180分
第5回	地域栄養支援法(2)	コミュニティワークの展開過程について事例を用いながら学ぶ。また、コミュニティソーシャルワークの展開過程についても理解する	配布したプリントを基に、授業内容を復習する	180分
第6回	地域栄養支援法(3)	地域におけるネットワークを構築していくための2つのアプローチ法(既存の組織等を活用した方法と新たな組織を構築していく方法)について学ぶ。また、事例を用いながらネットワークを構築していく際の留意点について理解する	配布したプリントを基に、授業内容を復習する	180分
第7回	地域栄養支援法(4)	地域で栄養士として活動していく際に必要になってくる人や組織を知る。また、それぞれの役割や機能を把握することでスムーズな連携が図れることを理解する	配布したプリントを基に、授業内容を復習する	180分
第8回	地域栄養活動計画の策定	高齢者にとっての「食べること」の意義を考える。	地域包括ケアに関する政府のHPや今までの配布プリントにより、予習・復習する。	180分
第9回	高齢者の楽しみ、生きがいと社会参加の支援を考える。	高齢者の健康・栄養状態、社会・生活環境に思い巡らせる事ができる既存資料を活用して、実践できる計画を立てる。	高齢者の健康・栄養状態、社会・生活環境について、政府HP、白書および配付資料により予習・復習する。	180分
第10回	高齢者の身体機能・生活機能の維持向上のための買い物等の千代田区三番町近辺のマップ作成の方法を考える。	千代田区三番町近辺の高齢者の生活者としての実践の確認と改善をする。	政府HP、白書および配付資料により予習・復習する。	180分
第11回	計画と改善点の発表	各班の計画と実践について、評価する。	公衆栄養学実習で実践した評価方法について予習する。	180分
第12回	地域住民の栄養・食の営みを支援するための活動の枠組み	地域で暮らす対象者(今回は高校生)の栄養・食の営みを支援するための活動の展開例を学ぶ。そのための教材案を考える。	そのための教材に盛り込む食事を計画する。	180分
第13回	地域住民の栄養・食の営みを支援するための活動内容の決定	地域で暮らす対象者(今回は高校生)の栄養・食の営みを支援するための活動を立案する方法を学ぶ。	活動の目的、流れ、教材、そして、評価方法を考える。	180分
第14回	地域住民の栄養・食の営みを支援するための活動の実践	地域で暮らす対象者(今回は高校生)の栄養・食の営みを支援するための活動を実践する(東京家政学院高等学校の生徒を対象としたアクティブラーニング)。	活動の中での役割、教育の実践のための事前準備を行う。	180分
第15回	地域住民の栄養・食の営みを支援するための活動の枠組み	地域で暮らす対象者(今回は高校生)の栄養・食の営みを支援するための活動の評価を行い、その結果から活動の全体を振り返る。	活動の報告書を作成する。目的、教育の内容、プロセス、成果をまとめる。	180分

学生へのフィードバック方法 計画策定に係る公衆栄養学、地域栄養活動論修得している内容のアドバイス

評価方法 レポート作成と発表における積極性、意見調整・集約能力、まとめ・表現能力、説明能力、評価能力

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート	○	○	○	○

発表	○	○	○	○
評価割合	平常点は演習への参加状況・討論への参加等で総合判断する(20%)、レポート(80%)などから総合的に評価する			
使用教科書名(ISBN番号)	公衆栄養学 古野純典他編(南江堂 2018)			
参考図書	地域診断すすめ(医学書院)			
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】・管理栄養士等の専門職業人として、地域包括ケアにつながる教養を身につける。</p> <p>【思考・判断】・課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、高齢者にかかる健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。</p> <p>【関心・意欲・態度の観点】・他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につける。</p>			
オフィスアワー	田中;月曜日15:00~17:30、火曜日10:00~12:00 酒井;火曜日5限、木曜日2限			
学生へのメッセージ	わが国の高齢者の栄養にかかる主要な政策についての理解を得ること。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、厚生労働省、内閣府および地方公共団体において、栄養、健康増進、生活習慣病予防対策、疾病対策等における政策の策定や実践をしてきた。		
アクティブ・ラーニング	○	発表における意見聴取やまとめ		
情報リテラシー教育	○	政府刊行物や既存資料の活用		
ICT活用	○	政府統計やHPの活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	国際栄養活動論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 松田 正己	指定なし
非常勤講師	熱田 泉	指定なし
非常勤講師	西田 美佐	指定なし

授業概要(教育目的)

我が国の政治・経済は、国際的な環境の中で成立しており、日常生活もグローバル化の中で、国際的なことと切り離せない。国際的な場面における栄養士の活動を理解するため、幅広く、世界の保健協力の実情を理解し、将来の活動の場の広がりを考えていくことを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	国際的な保健活動、栄養活動について学ぶ。
思考・判断の観点 (K)	NCD(慢性非感染性疾患)、生活習慣病の予防対策は、世界の課題となりつつあることを理解し、栄養士の重要性を考える
関心・意欲・態度の観点 (V)	栄養士の果たす役割が大きくなりつつあることを実際に体感する。
技術・表現の観点 (A)	国際的な場面における、栄養活動について表現できる。

学習計画

国際栄養

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	国際保健とは	国際保健とは何かについて学ぶ。文献学習として「食の歴史」、及び「グローバル・ヘルス」の中から、担当を分け、グループを形成して、報告に向けた取り組みを考える。	教科書の該当部分	180分
第2回	国際保健とは、「食の歴史」「グローバル・ヘルス」	国際保健とは、「食の歴史」	教科書の該当部分	180分
第3回	国際保健とは、「食の歴史」「グローバル・ヘルス」	国際保健とは、「食の歴史」	教科書の該当部分	180分

第4回	国際保健とは、「食の歴史」「グローバル・ヘルス」	国際保健とは、「食の歴史」	教科書の該当部分	180分
第5回	熱田先生の講義	アフリカ等	教科書の該当部分	180分
第6回	熱田先生の講義	アジア等	教科書の該当部分	180分
第7回	熱田先生の講義	アジア等	教科書の該当部分	180分
第8回	熱田先生の講義	アフリカ等	教科書の該当部分	180分
第9回	熱田先生の講義	アジア等	教科書の該当部分	180分
第10回	西田先生の講義	国際栄養とは	教科書の該当部分	180分
第11回	西田先生の講義	国際栄養の実際	教科書の該当部分	180分
第12回	西田先生の講義	国際栄養の実際	教科書の該当部分	180分
第13回	西田先生の講義	国際栄養の実際	教科書の該当部分	180分
第14回	グループの報告	食の歴史、グローバル・ヘルスの報告	教科書の該当部分	180分
第15回	グループの報告	食の歴史、グローバル・ヘルスの報告	教科書の該当部分	180分

学習計画注記	講師の予定により、日程変更の可能性があります
学生へのフィードバック方法	質問等は、時間内に対応するので、分からないことは積極的に聞いて下さい。
評価方法	平常点 (35%)、報告・レポート(65%)

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点		○	○	
報告レポート	○	○	○	○

評価割合	平常点(35点)と報告レポート(65点)
------	----------------------

参考図書	食の歴史 / J-L・フランドラン, M・モンタナーリ編 ; 菊地祥子, 末吉雄二, 鶴田知佳子訳, 藤原書店, 2006 木原正博他訳, グローバル・ヘルス, メディカル・サイエンス, 2017 変わりゆく世界と21世紀の地域健康づくりやってみようプライマリ・ヘルス・ケア (第3版) 松田正己他編 やどかり出版, 2010
------	---

ディプロマポリシーとの関連	(知識・理解) 社会の基盤となる健康「生活の質」とは何かを理解し、総合的な公衆衛生学の視点から、現代生活の健康関連の諸問題を理解できる。 (思考・判断) 健康関連の生活社会の諸問題を自ら発見し分析、問題解決に導く考察ができる。 (関心・意欲・態度) 生活者の視点に立ち、社会の健康関連の諸問題について関心を持ち続けることができる。 (技能・表現) 他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。
---------------	--

オフィスアワー	月曜3限、メールで連絡の上、時間を調整すること。
---------	--------------------------

学生へのメッセージ	実際に国際協力を経験している人の話を中心に展開します。
-----------	-----------------------------

教育等の取組み状況

	該当	概要
--	----	----

	有無	
実務経験を活かした授業	○	国際保健の実務経験がある。
アクティブ・ラーニング	○	グループ・ワークを行う。
情報リテラシー教育	○	インターネットで関連資料の検索等を行う。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	福祉栄養ケアマネジメント演習（児童）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 坂崎 隆浩	指定なし
教授	酒井 治子	指定なし
助教	會退 友美	指定なし

授業概要(教育目的)	これまでの学修をもとに保育所における子どもの食の在り方について学び、自らの管理栄養士の役割を考えることができるようにすることを目的とする。
------------	---

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	保育所における子どもの食に関わる様々な法令や制度をもとに豊かな子どもの食について説明できる
思考・判断の観点 (K)	乳幼児期の子どもの豊かな子どもの食について自らの考えを思考することができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	保育所における子どもの豊かな食の経験について自ら考えようとし、管理栄養士としての役割を模索しようとする。
技術・表現の観点 (A)	保育所における子どもの豊かな食について自らの考えを表現し、食事提供や食育にいかすことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	保育所における目指す子どもの姿	保育所保育指針等を踏まえ、就学までに子どもが目指す姿について学ぶ。	保育所保育指針等の構成等、内容を復習する。	60分
第2回	保育所における目指す子どもの姿に向けた食経験とは？	保育所で目指す子どもの姿にむけた食経験を指針等から考え、学ぶ。	食育で目指す子どもの姿と生活での子どもの食行動との関連を整理する。	60分
第3回	保育所における食に関わる組織づくりと管理栄養士の役割	保育所における管理栄養士の専門性と保育所の職員連携について学ぶ。	保育所における管理栄養士としての役割を整理する。	60分
第4回	子どもの豊かな食経験	保育所保育指針等から考える子どもにとって豊かな食経験とは何かを学生同士の討議から考える。	子どもにとっての豊かな食経験について自らの考えをまとめ	60分

	とは？		る。	
第5回	保育所における食事提供のPDCA (1)	食事提供ガイドライン等を踏まえ、保育所における豊かな食経験を保障するための食事提供について学ぶ。	保育所における食事提供のPDCAを整理し、子どもにとっての豊かな食事の在り方を自分なりにまとめる。	60分
第6回	保育所における食事提供のPDCA (2)	自分が考える子どもにとって豊かな食事をまとめ、学生同士で討議する。	子どもにとっての豊かな食経験について自らの考えをまとめる。	60分
第7回	保育所における豊かな食経験を目指した食育とは？ (1)	保育所における豊かな食経験のためのPDCAについて計画書等の書式等の事例を踏まえて考える。	様々な食育に関連する書式等を見直し、自分なりに食育の在り方を考える。	60分
第8回	保育所における豊かな食経験を目指した食育とは？ (2)	豊かな食経験を目指した食育について、学生同士で討議する。	学生同士で討議した内容を整理する。	60分
第9回	保育所における食の個別対応	離乳食、アレルギー、障がい児等、個別の配慮が必要な子ども達の食について、その特徴と食事提供について考える。	それぞれの個別の配慮が必要な子どもの食事提供の特徴を整理する。 保護者が不安に思うこと、地域資源について考える。	60分
第10回	保育所における子育て支援、地域連携	保育所の子どもだけでなく、子どもを取り巻く人々を知り、管理栄養士としての役割を考える。	子育て支援、地域の組織、人等にまとめ、管理栄養士の役割を整理する。	60分
第11回	保育所の役割と保育の原理	子どもの最善の利益のためにある保育所の養護と教育について学ぶ。	保育所の役割と保育原理について配布プリント等から整理する。	60分
第12回	保育現場における食の現在とこれから	保育現場に今後求められる保育の在り方について学び、管理栄養士としての役割について考える。	今後の保育の在り方と求められる内容について、配布プリント等から整理する。	60分
第13回	食と保育の文化 (1)	レゾエミリア等、様々な保育の在り方を学び、考える。	伝統的な様々な保育の文化について配布プリント等から整理する。	60分
第14回	食と保育の文化 (2)	保育の文化と食の在り方を学び、考える。	保育における食の在り方をまとめる。	60分
第15回	子どもの豊かな食経験を考える (2)	これまでの授業を通し、改めて子どもにとっての豊かな食経験とは何かを学生同士の討議で考える。	学生同士で討議した内容を整理する。	60分

学生へのフィードバック方法 提出されたレポートについてコメントをつけた後に返却する。

評価方法 平常点 (20%)、レポート (80%) で評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点 (授業態度等)			○	
レポート	○	○	○	○

評価割合 平常点 (20%)、レポート (80%)

使用教科書名 (ISBN番号) 子どもの食生活、上田玲子、他 (ななみ書房)

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている
【思考・判断】現代の食・栄養に関わる書課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている

	【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている	
学生へのメッセージ	保育所における子どもの食事について、食事提供だけでなく、子どもを中心とした生活の中の食の在り方について考え、現場で求められる自分なりの管理栄養士の姿と一緒に模索しましょう。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	保育所の食育指針を作成した酒井より、保育所における子どもの目指す姿と食の在り方に関する考え方を講義する。現こども園の理事長を務める坂崎より、現在の保育の在り方について講義をする。保育所で栄養士を実務していた會退が保育所における食事提供等について事例を交えながら講義を行う。
アクティブ・ラーニング	○	学生同士によるグループディスカッションを行い、自らの考えを広げ、考える力を養う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	福祉栄養ケアマネジメント演習（高齢者）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 吉野 知子	指定なし
教授	田中 弘之	指定なし
非常勤講師	水野 敬生	指定なし

授業概要(教育目的)	高齢者福祉施設での実践事例を基に、それぞれの現場での中心となる制度や法律の基礎から、栄養ケアマネジメントの実践力までを養う。1～2週は全体の栄養ケアマネジメントの仕組み、3週目以降は高齢者福祉施設に入所するご利用者に提供する介護サービスの実際と、その目的や効果を具体的な事例を基に講義する。
学習目標(到達目標)	
学習目標（到達目標）	
知識・理解の観点 (K)	栄養ケアマネジメントの仕組みについて説明できる。 高齢者施設及び在宅における介護サービス、食事サービスについて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	介護保険制度における高齢者施設及び在宅の管理栄養士としての役割を理解し、課題や解決方法の取組について探求できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と主体的に学ぶ意欲を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	管理栄養士としての専門的スキルを生かし他職種と共働することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	栄養ケアマネジメントの仕組み1	介護保険制度についての基礎を学ぶ。	介護保険制度についての概要を予習しておく。	120分
第2回	栄養ケアマネジメントの仕組み2	栄養ケアマネジメントの基礎を学ぶ。	栄養ケアマネジメントについて概要を予習しておく。	120分
第3回	高齢者が陥りやすい症状1	高齢者の栄養ケアについて学ぶ。 脱水、低栄養の基礎を理解し、その実践について症例を基に学ぶ。	高齢者の脱水と低栄養の概要について予習しておく。	120分
第4回	高齢者が陥りやすい症状2	高齢者の栄養ケアについて学ぶ。 褥瘡、摂食・嚥下障害について基礎を理解しその実践について学ぶ。	褥瘡、摂食・嚥下障害について予習しておく。	120分
第5回	高齢者の栄	水分摂取方法、エネルギーアップの方法、たんぱく質付	高齢者の食事のポイントを復習	120分

	養ケアにおける食事のポイント	加価の方法、摂食・嚥下障害の評価方法を学ぶ。	し整理する。	
第6回	栄養補助食品の種類と活用1	栄養補助食品の種類と分類を理解し活用方法を学ぶ。	栄養補助食品について、事前に配付されたパンフレットで予習しておく。	120分
第7回	栄養補助食品の種類と活用2	様々な栄養補助食品を実際に試食し在宅への活用方法を検討する。	試食した栄養補助食品について自己評価し、在宅への活用方法としてのレシピを考案する（レポート作成）	240分
第8回	栄養ケアマネジメントの実践1（施設・在宅）	施設・在宅における栄養ケアマネジメントの実際を学ぶ。 協働する他職種役割を理解する。 症例検討を行いディスカッションする。	施設・在宅における栄養ケアマネジメントについて予習しておく。	120分
第9回	管理栄養士に求められるコミュニケーションについて	他職種におけるチームケアの基本となるコミュニケーションについて学ぶ。 利用者、家族に対するコミュニケーションについて学ぶ。	コミュニケーション能力の基本を予習しておく。	120分
第10回	品質管理	施設において実施する介護サービスの品質管理について学ぶ。	介護サービスの概要について予習しておく。	120分
第11回	リスクマネジメント	高齢者施設において安心安全なサービスを提供するためのリスクマネジメントの実際を学ぶ。	リスクマネジメントの概要を予習しておく。	120分
第12回	施設サービス計画書の作成	施設サービス計画書の作り方（栄養ケア計画書を含む）を学び、個人々人に対するアセスメントの計画書への反映の仕方を学ぶ。	施設サービス計画書の概要について予習しておく。	120分
第13回	高齢者施設における看取り介護	高齢者施設における終末期の看取り介護について学ぶ。 看取り介護における管理栄養士の役割を学ぶ。	看取り介護加算の概要について予習しておく。	120分
第14回	要介護高齢者に対する介護技術	食事介助をはじめ高齢者施設で実践している介護技術について学ぶ。	食事介助の基本を予習しておく。	120分
第15回	要介護高齢者の食事形態	要介護高齢者の高齢者施設で実践している摂食・嚥下機能に応じた食事形態について学ぶ。	摂食・嚥下機能の評価について予習しておく。 「変化の時代における専門職のコミュニケーションとは～役割と専門性を考える～」についてレポートする。	240分

学習計画注記 進行状況によってシラバス内容を前後させる場合がある。

学生へのフィードバック方法 講義や課題についての質問等は、研究室への訪問またはe-mailの問い合わせで対応する。

評価方法 平常点とレポートで評価する。
* 平常点は授業への参加態度、討論への参加等で総合的に判断する

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
レポート	○	○		

評価割合 平常点(40%)、レポート(60%)で評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) 在宅訪問栄養ハンドブック/ライフメディコム

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】 高齢者福祉における専門的知識と、それらを社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。

【思考・判断】 社会福祉及び高齢者の栄養ケアマネジメントに関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けた取り組みを判断できる力を身につけている。

【関心・意欲・態度】 管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。

【技術・表現】 高齢者の福祉栄養ケアマネジメントに関する専門技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー	田中：月曜日3時限 吉野：水曜日2,3時限 水野：火曜日18：00～19：30	
学生へのメッセージ	高齢者のケアを医療、介護、栄養等其々の観点から捉え、栄養ケアマネジメントを実施するうえで必要な視点を学びます。さらに施設や在宅では、具体的に多職種とどのように連携し協働しているのかを症例を通して実感しましょう。基本的な業界の専門用語について、事前に教科書、情報誌などで学習しておきましょう。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	行政機関（田中）、高齢者福祉施設（水野・吉野）等に従事した経験を踏まえ専門的知識を教授する。
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、グループディスカッション
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	臨床栄養 I 臨床実習		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金澤 良枝	指定なし
准教授	城田 直子	指定なし

授業概要(教育目的)	病院において、ベッドサイド訪問、個別指導や集団指導を通して、栄養アセスメントおよび栄養ケアプランの作成・実施・評価を学ぶ。学内における講義や実習では学ぶことのできない病院のシステム、医療スタッフとの関わり、ベッドサイドへの訪問、実際の個別栄養食事指導、集団栄養指導を通して、病態治療が臨床の場でどのように行われているのか、それらの実際を2週間の医療現場での実習を通して学び、実践力を養うことを目的とする。また、実習施設における事前集中講義、学内での特別講義や直前指導、事後の報告会なども行う。
------------	--

履修条件	臨床栄養アセスメント論、臨床栄養アセスメント実習のうち、1科目以上の単位を取得している。
------	--

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	栄養アセスメントおよび栄養ケアプランの作成・実施・評価を理解できる。病態治療が臨床の場でどのように行われているか説明できる。
思考・判断の観点 (K)	管理栄養士の役割を理解し、状況に沿った必要な知識や情報を判断し、活用できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	将来の進路について、医療現場の管理栄養士という選択肢の有無が明確になる。
技術・表現の観点 (A)	栄養アセスメントおよび栄養ケアプランの作成・実施・評価など、臨床の場における実践力が養える。また、プレゼンテーション技術を用いて課題をまとめることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	事前指導	学内において、実習時の基本事項・実習日誌作成・実習テーマ・体調管理・腸内細菌検査など、実習に向けての事前準備を指導する。	管理栄養士の学外実習の手引きの関連項目をよく読み、予習しておくこと。	60分
第2回	事前指導	学内において、実習時の基本事項・実習日誌作成・実習テーマ・体調管理・腸内細菌検査など、実習に向けての事前準備を指導する。	管理栄養士の学外実習の手引きの関連項目をよく読み、予習しておくこと。	60分
第3回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療(NST、褥瘡など)・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	120分
第4回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療(NST、褥瘡など)・個別栄養食事指導・集団指導などの	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	120分

		実際に学ぶ。		
第5回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療（NST、褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際に学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	120分
第6回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療（NST、褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際に学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	120分
第7回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療（NST、褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際に学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	120分
第8回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療（NST、褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際に学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	120分
第9回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療（NST、褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際に学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	120分
第10回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療（NST、褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際に学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	120分
第11回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療（NST、褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際に学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	120分
第12回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療（NST、褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際に学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	120分
第13回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療（NST、褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際に学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	120分
第14回	事後指導	学内において、お礼状、指定成果物・提出物などを完成させ、聴き取りおよび紙媒体にて実習報告を行う。	実習終了後は、速やかにお礼状下書き、指定成果物・提出物などを完成させること。	120分
第15回	事後指導	学内において、お礼状、指定成果物・提出物などを完成させ、聴き取りおよび紙媒体にて実習報告を行う。	実習終了後は、速やかにお礼状下書き、指定成果物・提出物などを完成させること。	120分

学生へのフィードバック方法 実習中は、毎日、実習日誌を提出し実習施設指導者の閲覧・添削後に返却され、実習課題の指導も行われる。実習終了後には、完成させた実習日誌を本学に提出後、担当教員が内容を確認し、返却する。

評価方法 評価は、単位取得を「合格」とする。その条件は以下の通りである。
 ・実習施設における事前集中講義をはじめ、既定の必要実習時間を欠席することなくすべてクリアすること。
 ・実習施設の指導者より、評価表にて評価を受けること。
 ・学内での事後指導の際に、指定成果物・提出物をすべて提出し終えること。
 ・実習日誌を作成し、期限までに提出すること。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
必要実習時間の履行	○	○	○	○
施設指導者の評価	○	○	○	○
指定成果物・提出物	○	○	○	○
実習日誌の作成	○	○	○	○

評価割合 単位取得条件（100%）で評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) 管理栄養士の学外実習の手引き

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】多面的なカリキュラムの履修により、総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士などの専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。
 【思考・判断】食・栄養に関わる諸課題について探究し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的に思考し、戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。
 【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。
 【技術・表現】体系的学習を通じて、人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養管理と

	栄養指導に関する専門的スキルと共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーションなどの表現力を身につけている。	
オフィスアワー	金澤（木曜日1、2時限）、城田（水曜日3、4時限）	
学生へのメッセージ	実際に病院管理栄養士の働く姿、業務内容、他職種との連携、患者との関わりなど幅広く学んでほしいと思います。実習受け入れ施設があつてこその実習です。決して受け身にならないよう、積極的に取り組みましょう。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、病院管理栄養士としての実務経験を有しており、臨床現場における管理栄養士の基礎的知識や使命などについて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション
情報リテラシー教育	○	栄養管理計画書
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	臨床栄養Ⅱ 臨地実習		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金澤 良枝	指定なし
准教授	城田 直子	指定なし

授業概要(教育目的)	給食運営臨地実習・臨床栄養Ⅰ臨地実習を終えた後に本実習を行う。栄養治療などの疾病に関わる医療行為を具体的に実施する現場での実習である。先の臨床栄養Ⅰ臨地実習と異なる点は、医療チームの一環として加わり、患者の栄養状態のアセスメントとその判定、それらに応じた栄養ケアプランの作成、治療の実施と評価に至るまでのプロセスの詳細を学ぶことにある。実習生として現場で具体的な課題を発見し、解決方法を検討する。
履修条件	臨床栄養アセスメント論、臨床栄養アセスメント実習のうち、1科目以上の単位を取得している（臨床栄養Ⅰ臨地実習に同じ）。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	患者の栄養状態のアセスメントとその判定、それらに応じた栄養ケアプラン作成、治療の実施と評価に至るまでのプロセスを理解できる。
思考・判断の観点 (K)	臨床現場で具体的な課題を発見できるよう、常に問題意識を持つことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	将来の進路について、医療現場の管理栄養士という選択肢の有無が明確になる。
技術・表現の観点 (A)	臨床現場で具体的な課題を自ら発見し、解決方法を検討できる。また、プレゼンテーション技術を用いて課題をまとめることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	事前指導	学内において、実習時の基本事項・実習日誌作成・実習テーマ・体調管理・腸内細菌検査など、実習に向けての事前準備を指導する。	管理栄養士の学外実習の手引きの関連項目をよく読み、予習しておくこと。	60分
第2回	事前指導	学内において、実習時の基本事項・実習日誌作成・実習テーマ・体調管理・腸内細菌検査など、実習に向けての事前準備を指導する。	管理栄養士の学外実習の手引きの関連項目をよく読み、予習しておくこと。	60分
第3回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療(NST、褥瘡など)・個別栄養食事指導・集団指導などの実際を学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	60分
第4回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療(NST、褥瘡など)・個別栄養食事指導・集団指導などの	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	60分

		実際に学ぶ。		
第5回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療（NST、褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際に学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	60分
第6回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療（NST、褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際に学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	60分
第7回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療（NST、褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際に学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	60分
第8回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療（NST、褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際に学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	60分
第9回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療（NST、褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際に学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	60分
第10回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療（NST、褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際に学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	60分
第11回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療（NST、褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際に学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	60分
第12回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療（NST、褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際に学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	60分
第13回	病院実習	実習施設において、給食管理、栄養管理・チーム医療（NST、褥瘡など）・個別栄養食事指導・集団指導などの実際に学ぶ。	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	60分
第14回	事後指導	学内において、お礼状、指定成果物・提出物などを完成させ、聴き取りおよび紙媒体にて実習報告を行う。	実習終了後は、速やかにお礼状下書き、指定成果物・提出物などを完成させること。	60分
第15回	事後指導	学内において、お礼状、指定成果物・提出物などを完成させ、聴き取りおよび紙媒体にて実習報告を行う。	実習終了後は、速やかにお礼状下書き、指定成果物・提出物などを完成させること。	60分

学生へのフィードバック方法 実習中は、毎日、実習日誌を提出し実習施設指導者の閲覧・添削後に返却され、実習課題の指導も行われる。実習終了後には、完成させた実習日誌を本学に提出後、担当教員が内容を確認し、返却する。

評価方法 評価は、単位取得を「合格」とする。その条件は以下の通りである（臨床栄養Ⅰに同じ）。

- ・実習施設における事前集中講義をはじめ、既定の必要実習時間を欠席することなくすべてクリアすること。
- ・実習施設の指導者より、評価表にて評価を受けること。
- ・学内での事後指導の際に、指定成果物・提出物をすべて提出し終えること。
- ・実習日誌を作成し、期限までに提出すること。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
必要実習時間の履行	○	○	○	○
施設指導者の評価	○	○	○	○
指定成果物・提出物	○	○	○	○
実習日誌の作成	○	○	○	○

評価割合 単位取得条件（100%）で評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) 管理栄養士の学外実習の手引き

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】多面的なカリキュラムの履修により、総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士などの専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。
【思考・判断】食・栄養に関わる諸課題について探究し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的に思考し、戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。
【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。
【技術・表現】体系的学習を通じて、人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養管理と

	栄養指導に関する専門的スキルと共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーションなどの表現力を身につけている。	
オフィスアワー	金澤（木曜日1.2時限）、城田（水曜日3.4時限）	
学生へのメッセージ	実際に病院管理栄養士の働く姿、業務内容、他職種との連携、患者との関わりなど幅広く学んでほしいと思います。実習受け入れ施設があつてこその実習です。決して受け身にならないよう、積極的に取り組みましょう。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、病院管理栄養士としての実務経験を有しており、臨床現場における管理栄養士の基礎的知識や使命などについて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション
情報リテラシー教育	○	栄養管理計画書
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	公衆栄養臨地実習		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・3年次		
必修・選択の別	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 田中 弘之	指定なし
教授	酒井 治子	指定なし
教授	江川 賢一	指定なし
准教授	大富 あき子	指定なし
助教	會退 友美	指定なし

授業概要(教育目的)	実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図り、管理栄養士として具備すべき知識及び技能を修得すること
------------	--

履修条件	公衆栄養学、公衆衛生学のうち、1科目以上の単位を取得している。
------	---------------------------------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	区市町村における地域診断の方法を理解するとともに、住民への身近なサービスである健康日本21、食育推進活動及び母子保健活動を通じた健康づくり対策を理解する。
思考・判断の観点 (K)	管理栄養士の役割を理解し、状況に沿った必要な知識や情報を判断し、活用できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	将来の進路について、行政の管理栄養士という選択肢の有無が明確になる。
技術・表現の観点 (A)	PDCAによる地域診断の方法を理解するとともに、保健・医療・福祉施策の場において実践力が養える。また、プレゼンテーション技術を用いて課題を明確にして、解決策をまとめることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	事前指導	都道府県・政令市・特別区保健所と市長村保健センターの役割	都道府県・政令市・特別区保健所と市長村保健センターの業務について、地域保健法、健康増進法、食品衛生法等における根拠を調べる。	120分
第2回	事前指導	都道府県・政令市・特別区保健所と市長村保健センターの役割	都道府県・政令市・特別区保健所と市長村保健センターの業務について、地域保健法、健康増進法、食品衛生法等における根拠を調べる。	120分

第3回	保健所及び保健センター実習	<p>保健センターの各業務 例：</p> <p>(1) 実態把握及び分析</p> <p>(2) 計画の策定及び事業の施策化</p> <p>(3) 評価</p> <p>(4) ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組</p> <p>(5) 健康なまちづくり</p> <p>(6) 人材及び住民組織の育成</p> <p>(7) 連携体制づくり</p> <p>(8) 健康危機管理</p> <p>(9) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等）</p> <p>2. 保健所</p> <p>(1) 実態把握及び分析</p> <p>(2) 計画の策定及び事業の施策化</p> <p>(3) 評価</p> <p>(4) 専門的な栄養指導、食生活支援</p> <p>(5) 特定給食施設等への指導</p> <p>(6) 食生活に関する正しい知識の普及</p> <p>(7) 充実した食環境の整備</p> <p>(8) 市町村に対する技術的な支援</p> <p>(9) 人材育成</p> <p>(10) 連携体制づくり</p> <p>(11) 健康危機管理</p> <p>(12) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等）</p>	<p>毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。</p>	120分
第4回	保健所及び保健センター実習	<p>保健センターの各業務 例：</p> <p>(1) 実態把握及び分析</p> <p>(2) 計画の策定及び事業の施策化</p> <p>(3) 評価</p> <p>(4) ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組</p> <p>(5) 健康なまちづくり</p> <p>(6) 人材及び住民組織の育成</p> <p>(7) 連携体制づくり</p> <p>(8) 健康危機管理</p> <p>(9) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等）</p> <p>2. 保健所</p> <p>(1) 実態把握及び分析</p> <p>(2) 計画の策定及び事業の施策化</p> <p>(3) 評価</p> <p>(4) 専門的な栄養指導、食生活支援</p> <p>(5) 特定給食施設等への指導</p> <p>(6) 食生活に関する正しい知識の普及</p> <p>(7) 充実した食環境の整備</p> <p>(8) 市町村に対する技術的な支援</p> <p>(9) 人材育成</p> <p>(10) 連携体制づくり</p> <p>(11) 健康危機管理</p> <p>(12) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等）</p>	<p>毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。</p>	120分
第5回	保健所及び保健センター実習	<p>保健センターの各業務 例：</p> <p>(1) 実態把握及び分析</p> <p>(2) 計画の策定及び事業の施策化</p> <p>(3) 評価</p> <p>(4) ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組</p> <p>(5) 健康なまちづくり</p> <p>(6) 人材及び住民組織の育成</p> <p>(7) 連携体制づくり</p> <p>(8) 健康危機管理</p> <p>(9) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等）</p> <p>2. 保健所</p> <p>(1) 実態把握及び分析</p> <p>(2) 計画の策定及び事業の施策化</p> <p>(3) 評価</p> <p>(4) 専門的な栄養指導、食生活支援</p> <p>(5) 特定給食施設等への指導</p> <p>(6) 食生活に関する正しい知識の普及</p> <p>(7) 充実した食環境の整備</p> <p>(8) 市町村に対する技術的な支援</p> <p>(9) 人材育成</p> <p>(10) 連携体制づくり</p> <p>(11) 健康危機管理</p> <p>(12) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等）</p>	<p>毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。</p>	120分
第6回	保健所及び保健センター実習	<p>保健センターの各業務 例：</p> <p>(1) 実態把握及び分析</p> <p>(2) 計画の策定及び事業の施策化</p>	<p>毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。</p>	120分

		<ul style="list-style-type: none"> (3) 評価 (4) ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組 (5) 健康なまちづくり (6) 人材及び住民組織の育成 (7) 連携体制づくり (8) 健康危機管理 (9) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等） <p>2. 保健所</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 実態把握及び分析 (2) 計画の策定及び事業の施策化 (3) 評価 (4) 専門的な栄養指導、食生活支援 (5) 特定給食施設等への指導 (6) 食生活に関する正しい知識の普及 (7) 充実した食環境の整備 (8) 市町村に対する技術的な支援 (9) 人材育成 (10) 連携体制づくり (11) 健康危機管理 (12) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等） 		
第7回	保健所及び保健センター実習	<p>保健センターの各業務 例：</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 実態把握及び分析 (2) 計画の策定及び事業の施策化 (3) 評価 (4) ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組 (5) 健康なまちづくり (6) 人材及び住民組織の育成 (7) 連携体制づくり (8) 健康危機管理 (9) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等） <p>2. 保健所</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 実態把握及び分析 (2) 計画の策定及び事業の施策化 (3) 評価 (4) 専門的な栄養指導、食生活支援 (5) 特定給食施設等への指導 (6) 食生活に関する正しい知識の普及 (7) 充実した食環境の整備 (8) 市町村に対する技術的な支援 (9) 人材育成 (10) 連携体制づくり (11) 健康危機管理 (12) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等） 	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	120分
第8回	保健所及び保健センター実習	<p>保健センターの各業務 例：</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 実態把握及び分析 (2) 計画の策定及び事業の施策化 (3) 評価 (4) ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組 (5) 健康なまちづくり (6) 人材及び住民組織の育成 (7) 連携体制づくり (8) 健康危機管理 (9) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等） <p>2. 保健所</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 実態把握及び分析 (2) 計画の策定及び事業の施策化 (3) 評価 (4) 専門的な栄養指導、食生活支援 (5) 特定給食施設等への指導 (6) 食生活に関する正しい知識の普及 (7) 充実した食環境の整備 (8) 市町村に対する技術的な支援 (9) 人材育成 (10) 連携体制づくり (11) 健康危機管理 (12) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等） 	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	120分
第9回	保健所及び保健センター実習	<p>保健センターの各業務 例：</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 実態把握及び分析 (2) 計画の策定及び事業の施策化 (3) 評価 (4) ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組 	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	120分

		<ul style="list-style-type: none"> (5) 健康なまちづくり (6) 人材及び住民組織の育成 (7) 連携体制づくり (8) 健康危機管理 (9) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等） <p>2. 保健所</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 実態把握及び分析 (2) 計画の策定及び事業の施策化 (3) 評価 (4) 専門的な栄養指導、食生活支援 (5) 特定給食施設等への指導 (6) 食生活に関する正しい知識の普及 (7) 充実した食環境の整備 (8) 市町村に対する技術的な支援 (9) 人材育成 (10) 連携体制づくり (11) 健康危機管理 (12) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等） 		
第10回	保健所及び保健センター実習	<p>保健センターの各業務 例：</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 実態把握及び分析 (2) 計画の策定及び事業の施策化 (3) 評価 (4) ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組 (5) 健康なまちづくり (6) 人材及び住民組織の育成 (7) 連携体制づくり (8) 健康危機管理 (9) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等） <p>2. 保健所</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 実態把握及び分析 (2) 計画の策定及び事業の施策化 (3) 評価 (4) 専門的な栄養指導、食生活支援 (5) 特定給食施設等への指導 (6) 食生活に関する正しい知識の普及 (7) 充実した食環境の整備 (8) 市町村に対する技術的な支援 (9) 人材育成 (10) 連携体制づくり (11) 健康危機管理 (12) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等） 	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	120分
第11回	保健所及び保健センター実習	<p>保健センターの各業務 例：</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 実態把握及び分析 (2) 計画の策定及び事業の施策化 (3) 評価 (4) ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組 (5) 健康なまちづくり (6) 人材及び住民組織の育成 (7) 連携体制づくり (8) 健康危機管理 (9) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等） <p>2. 保健所</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 実態把握及び分析 (2) 計画の策定及び事業の施策化 (3) 評価 (4) 専門的な栄養指導、食生活支援 (5) 特定給食施設等への指導 (6) 食生活に関する正しい知識の普及 (7) 充実した食環境の整備 (8) 市町村に対する技術的な支援 (9) 人材育成 (10) 連携体制づくり (11) 健康危機管理 (12) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等） 	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	120分
第12回	保健所及び保健センター実習	<p>保健センターの各業務 例：</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 実態把握及び分析 (2) 計画の策定及び事業の施策化 (3) 評価 (4) ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組 (5) 健康なまちづくり (6) 人材及び住民組織の育成 (7) 連携体制づくり 	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	120分

		(8) 健康危機管理 (9) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等） 2. 保健所 (1) 実態把握及び分析 (2) 計画の策定及び事業の施策化 (3) 評価 (4) 専門的な栄養指導、食生活支援 (5) 特定給食施設等への指導 (6) 食生活に関する正しい知識の普及 (7) 充実した食環境の整備 (8) 市町村に対する技術的な支援 (9) 人材育成 (10) 連携体制づくり (11) 健康危機管理 (12) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等）		
第13回	保健所及び保健センター実習	保健センターの各業務 例： (1) 実態把握及び分析 (2) 計画の策定及び事業の施策化 (3) 評価 (4) ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組 (5) 健康なまちづくり (6) 人材及び住民組織の育成 (7) 連携体制づくり (8) 健康危機管理 (9) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等） 2. 保健所 (1) 実態把握及び分析 (2) 計画の策定及び事業の施策化 (3) 評価 (4) 専門的な栄養指導、食生活支援 (5) 特定給食施設等への指導 (6) 食生活に関する正しい知識の普及 (7) 充実した食環境の整備 (8) 市町村に対する技術的な支援 (9) 人材育成 (10) 連携体制づくり (11) 健康危機管理 (12) その他業務に関連する法律（健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法食品衛生法等）	毎日の実習終了後に日誌を作成し、課題作業を進めること。	120分
第14回	事後指導	学内において、お礼状、成果物・提出物などを完成させ、聴き取りおよび紙媒体にて実習報告を行う。	実習終了後は、速やかにお礼状下書き、指定成果物・提出物などを完成させること。	120分
第15回	事後指導	学内において、お礼状、成果物・提出物などを完成させ、聴き取りおよび紙媒体にて実習報告を行う。	実習終了後は、速やかにお礼状下書き、指定成果物・提出物などを完成させること。	120分

学生へのフィードバック方法 実習中は、毎日、実習日誌を提出し実習施設指導者の閲覧・添削後に返却され、実習課題の指導も行われる。実習終了後には、完成させた実習日誌を本学に提出後、担当教員が内容を確認し、返却する。

評価方法 評価は、単位取得を「合格」とする。その条件は以下の通りである。
・実習施設における事前集中講義をはじめ、既定の必要実習時間を欠席することなくすべてクリアすること。
・実習施設の指導者より、評価表にて評価を受けること。
・学内での事後指導の際に、指定成果物・提出物をすべて提出し終えること。
・実習日誌を作成し、期限までに提出すること。
評価基準

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
必要実習時間の履行	○	○	○	○
施設指導者の評価	○	○	○	○
指定成果物・提出物	○	○	○	○
実習日誌の作成	○	○	○	○

評価割合 単位取得条件（100%）で評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) 管理栄養士の学外実習の手引き

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】多面的なカリキュラムの履修により、総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士などの専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。</p> <p>【思考・判断】食・栄養に関わる諸課題について探究し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的に思考し、戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。</p> <p>【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。</p> <p>【技術・表現】体系的学習を通じて、人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的スキルと共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。</p>
オフィスアワー	火曜日5限目
学生へのメッセージ	管理栄養士としての社会に適応する相応しい実習態度を期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、厚生労働省、内閣府および地方公共団体において、栄養、健康増進、生活習慣病予防対策、疾病対策等における政策の策定や実践をしてきた。
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション
情報リテラシー教育		保健所・保健センター業務報告書
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	実践健康栄養プロデュース実習		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 海野 知紀	指定なし

授業概要(教育目的)	特定の研究課題を設定し、課題を解決するための研究手法・技術の基礎を教授する。さらに、得られた研究成果は研究室や学科での発表会において討論（ディスカッション）し、質疑応答を通してプレゼンテーション力を高めていく。なお、研究テーマによっては、研究の一部を外部機関との協働で実施する場合がある。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	設定した研究課題について、その解決法を関係づけられる。 得られた研究成果について、統計学的な解釈の結果として説明できる。
思考・判断の観点 (K)	文献調査などにおいて、論理的・批判的な思考を基に、正確な情報を分類できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会に貢献するという意思を持ち、主体的に学ぶ意欲と態度を身につけている。
技術・表現の観点 (A)	研究室や学科での発表会を通して、得られた研究成果をわかりやすく表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	研究テーマを設定し、研究計画を立案する。	研究テーマに係る課題を明確化にして、関連する文献を調べる。	45分
第2回	実験・調査の実施(1)	研究テーマに沿った実験・調査を実施する。	実験・調査によって得られたデータをまとめる。	45分
第3回	実験・調査の実施(2)	研究テーマに沿った実験・調査を実施する。	実験・調査によって得られたデータをまとめる。	45分
第4回	実験・調査の実施(3)	研究テーマに沿った実験・調査を実施する。	実験・調査によって得られたデータをまとめる。	45分
第5回	実験・調査の実施(4)	研究テーマに沿った実験・調査を実施する。	実験・調査によって得られたデータをまとめる。	45分
第6回	実験・調査の実施(5)	研究テーマに沿った実験・調査を実施する。	実験・調査によって得られたデータをまとめる。	45分
第7回	実験・調査	研究テーマに沿った実験・調査を実施する。	実験・調査によって得られたデ	45分

	の実施 (6)		ータをまとめる。	
第8回	実験・調査の実施 (7)	研究テーマに沿った実験・調査を実施する。	実験・調査によって得られたデータをまとめる。	45分
第9回	実験・調査の実施 (8)	研究テーマに沿った実験・調査を実施する。	実験・調査によって得られたデータをまとめる。	45分
第10回	実験・調査の実施 (9)	研究テーマに沿った実験・調査を実施する。	実験・調査によって得られたデータをまとめる。	45分
第11回	実験・調査の実施 (10)	研究テーマに沿った実験・調査を実施する。	実験・調査によって得られたデータをまとめる。	45分
第12回	実験・調査の実施 (11)	研究テーマに沿った実験・調査を実施する。	実験・調査によって得られたデータをまとめる。	45分
第13回	実験・調査の実施 (12)	研究テーマに沿った実験・調査を実施する。	実験・調査によって得られたデータをまとめる。	45分
第14回	実験・調査の実施 (13)	研究テーマに沿った実験・調査を実施する。	実験・調査によって得られたデータをまとめる。	45分
第15回	実験・調査の実施 (14)	研究テーマに沿った実験・調査を実施する。	実験・調査によって得られたデータをまとめる。	45分
第16回	実験・調査の実施 (15)	研究テーマに沿った実験・調査を実施する。	実験・調査によって得られたデータをまとめる。	45分
第17回	実験・調査の実施 (16)	研究テーマに沿った実験・調査を実施する。	実験・調査によって得られたデータをまとめる。	45分
第18回	実験・調査の実施 (17)	研究テーマに沿った実験・調査を実施する。	実験・調査によって得られたデータをまとめる。	45分
第19回	実験・調査の実施 (18)	研究テーマに沿った実験・調査を実施する。	実験・調査によって得られたデータをまとめる。	45分
第20回	実験・調査の実施 (19)	研究テーマに沿った実験・調査を実施する。	実験・調査によって得られたデータをまとめる。	45分
第21回	実験・調査の実施 (20)	研究テーマに沿った実験・調査を実施する。	実験・調査によって得られたデータをまとめる。	45分
第22回	実験・調査の実施 (21)	研究テーマに沿った実験・調査を実施する。	実験・調査によって得られたデータをまとめる。	45分
第23回	発表要旨の作成	目的、方法、結果、考察からなる実践健康栄養プロデュース実習発表会の要旨を作成する。	実験・調査によって得られたデータをまとめる。	45分
第24回	発表要旨の作成	目的、方法、結果、考察からなる実践健康栄養プロデュース実習発表会の要旨を作成する。	実験・調査によって得られたデータをまとめる。	45分
第25回	発表原稿の作成	パワーポイントを用いて、発表原稿を作成する。	発表原稿を作成する。	45分
第26回	発表原稿の作成	パワーポイントを用いて、発表原稿を作成する。	発表原稿を作成する。	45分
第27回	発表原稿の作成	パワーポイントを用いて、発表原稿を作成する。	発表原稿を作成する。	45分
第28回	発表練習	実践健康栄養プロデュース実習発表会に向けて、研究室内での発表練習会を開催する。		45分
第29回	実践健康栄養プロデュース実習発表会	実践健康栄養プロデュース実習発表会における発表と質疑応答	発表練習	45分
第30回	実践健康栄養プロデュ	実践健康栄養プロデュース実習発表会における発表と質疑応答	発表練習	45分

	一ス実習発表会																																	
学生へのフィードバック方法	研究の進捗状況にあわせて、適宜指示する。																																	
評価方法	<p>【平常点】研究背景を理解し、計画的に課題の解決に向けた取り組みについて総合的に判断する（70%）。</p> <p>【要旨の作成】研究内容や研究成果について、必要な項目と内容を備えた要旨を作成することができる（10%）</p> <p>【研究発表会】研究成果について必要な内容と項目を備えて報告することができる（10%）。研究内容や研究成果に対する質問に答えることができる（10%）。</p>																																	
評価基準	<p>評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平常点</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>研究発表</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	平常点	○	○	○		研究発表				○															
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																														
平常点	○	○	○																															
研究発表				○																														
評価割合	平常点（70%）、研究発表会（要旨の作成も含む。30%）																																	
使用教科書名 (ISBN番号)	適宜指示する																																	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】人間、食物の相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識を身につけている。</p> <p>【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸問題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的・批判的に思考することができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。</p> <p>【技能・表現】多職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。</p>																																	
オフィスアワー	前期木曜1限目																																	
学生へのメッセージ	実践健康プロデュース実習での学修は、管理栄養士としての個々の専門性を確立するための第一歩である。本研究室は、実験的に研究課題を解決するための手段を学ぶことができる。研究倫理も培いながら、意欲を持って取り組んでほしい。																																	
教育等の取組み状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>担当教員は、食品企業において特定保健用食品等の開発研究に関する実務経験を有しており、食品成分の三次機能に着目した食品に関し、開発者として習得すべき「商品開発から販売までの流れ」、アドバイザースタッフとして習得すべき「利用上の注意点」を教授している。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>先行研究や文献等を利用して、実験・調査によって得られたデータを考察する。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td>○</td> <td>パワーポイントを使用して、発表原稿を作成する。 統計解析ソフトを使用して、推定と検定を行う。</td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品企業において特定保健用食品等の開発研究に関する実務経験を有しており、食品成分の三次機能に着目した食品に関し、開発者として習得すべき「商品開発から販売までの流れ」、アドバイザースタッフとして習得すべき「利用上の注意点」を教授している。	アクティブ・ラーニング	○	先行研究や文献等を利用して、実験・調査によって得られたデータを考察する。	情報リテラシー教育	○	パワーポイントを使用して、発表原稿を作成する。 統計解析ソフトを使用して、推定と検定を行う。	ICT活用																	
	該当有無	概要																																
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品企業において特定保健用食品等の開発研究に関する実務経験を有しており、食品成分の三次機能に着目した食品に関し、開発者として習得すべき「商品開発から販売までの流れ」、アドバイザースタッフとして習得すべき「利用上の注意点」を教授している。																																
アクティブ・ラーニング	○	先行研究や文献等を利用して、実験・調査によって得られたデータを考察する。																																
情報リテラシー教育	○	パワーポイントを使用して、発表原稿を作成する。 統計解析ソフトを使用して、推定と検定を行う。																																
ICT活用																																		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	実践健康栄養プロデュース実習		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金澤 良枝	指定なし

授業概要(教育目的)	内科クリニックにて、臨床、食事管理について患者症例を通して学ぶ。臨床検査値の見方、栄養指導の方法、栄養指導媒体作成など、臨床現場で学ぶ。医療での管理栄養士の在り方を身につけることを目標とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	疾患(糖尿病、腎臓病を中心とした)の病態、栄養評価、栄養管理について学ぶ。
思考・判断の観点 (K)	疾患に適合した栄養管理を考えられる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	医療倫理を備えた管理栄養士として患者に接することが出来る。
技術・表現の観点 (A)	疾患に適切な栄養指導を考え、提案できる。

学習計画

実践健康栄養プロデュース実習

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	臨床現場での管理栄養士の在り方	臨床栄養現場での医療スタッフとして管理栄養士の在り方について再度学習する。	教科書「医療と臨床栄養学」「全人的医療と臨床栄養学」を予習・復習する。	120分
第2回	糖尿病、腎臓病の栄養管理	糖尿病、腎臓病の栄養管理について、教科書、文献を読む。	糖尿病、腎臓病の病態、臨床検査値、栄養指導について予習・復習する。	60分
第3回	糖尿病、腎臓病の栄養管理	糖尿病、腎臓病の栄養管理について、教科書、文献を読む。	糖尿病、腎臓病の病態、臨床検査値、栄養指導について予習・復習する。	60分
第4回	栄養指導見学	クリニックにて糖尿病、腎臓病患者の栄養指導を見学する。	糖尿病、腎臓病の病態、臨床検査値、栄養指導について予習・復習する。	60分
第5回	栄養指導見学	クリニックにて糖尿病、腎臓病患者の栄養指導を見学する。	糖尿病、腎臓病の病態、臨床検査値、栄養指導について予習・復習する。	60分

第29回	症例発表・予演	研究成果を発表（予演）し、食事管理のありかた、医療現場での管理栄養士の役割を学ぶ。想定質問より質疑応答について学ぶ。	症例を理解し、食事管理のありかたについて予習する。	60分	
第30回	症例発表	研究成果を発表し、食事管理のありかた、医療現場での管理栄養士の役割を理解する。	医療現場の管理栄養士について理解を深める。	60分	
学習計画注記		臨床現場で通院している患者を対象として研究活動（実習）を実施する。			
学生へのフィードバック方法		クリニックで、患者の栄養評価、臨床データ、食事管理について症例を通して学びながら、研究をまとめていく。			
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> 患者症例より病態に即した栄養評価、栄養管理の知識があるか。 指導媒体が考えられるか。 症例の経過をまとめることができるか。 			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	症例検討	○	○	○	○
評価割合		疾患の理解、栄養指導方法の理解、まとめより総合的に評価する。100点			
使用教科書名 (ISBN番号)		臨床栄養学栄養ケアマネジメント (978-4-263-70664-0)			
参考図書		食品成分表 糖尿病治療のための食品交換表 腎臓病食品交換表			
ディプロマポリシーとの関連		【知識・理解】病態の理解、栄養評価、栄養管理が理解でき食事指導に対応できる知識を有している。【思考・判断】患者の病態に適合した栄養療法の対応ができる。【感心・意欲・態度】患者に正しい栄養指導ができる。【技能・表現】研究としてまとめ、プレゼンテーションができる。			
オフィスアワー		木曜1、2限			
学生へのメッセージ		自主的に研究に取り込み、患者の気持ちが分かる管理栄養士を目指す。			
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、総合病院勤務経験および内科クリニックでの栄養食事指導、集団栄養食事指導経験がある。			
アクティブ・ラーニング					
情報リテラシー教育					
ICT活用					

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	実践健康栄養プロデュース実習		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 辻 雅子	指定なし

授業概要(教育目的)	4年間の学びの集大成として、研究室で各自の研究を進めることで、自分の進路を見つけ出すことができるように、社会で求められているニーズを把握し、実践力を養うことで、社会に貢献出来るような力を身につけることを目的とする。
------------	---

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	人間・食物や地域との関わりなどの理解を深めることで、管理栄養士としての専門的知識と、社会で実践できる知識基盤について理解する。
思考・判断の観点 (K)	現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決にむけて正確な情報を収集したうえで論理的思考にもとづいて、戦略的な判断ができる力を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	管理栄養士として将来社会に貢献する意思と、他者と協働する力と、生涯にわたり主体的に学ぶ意欲と態度を身につける。
技術・表現の観点 (A)	得られた結果についてまとめる力と、それをプレゼンテーションする力を高め、表現力を身につける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	一年間の研究の流れについて理解する	自分自身の研究についてテーマを決めるために事前に情報を集める。	180分
第2回	研究課題について情報収集①	研究課題について情報を集め、研究の流れを考える。	研究課題について、情報を集める。	180分
第3回	研究課題について情報収集②	研究課題について情報を集め、研究の流れを考える。	研究課題について、情報を集める。	180分
第4回	研究課題について情報収集③	研究課題について情報を集め、研究の流れを考える。	研究課題について、情報を集める。	180分
第5回	研究の流れを構築する①	研究の流れについて指導教員と共に考える。	研究課題に基づいて研究の流れについて考える。	180分

第6回	研究の流れを構築する②	研究の流れについて指導教諭と共に考える。	研究課題に基づいて研究の流れについて考える。	180分
第7回	研究実施①	研究を実施するために理解を深め、指導教諭に相談しながら研究を進める。	研究について関心をもって実施するために、自分の行っている研究について知識を深める。	180分
第8回	研究実施②	研究を実施するために理解を深め、指導教諭に相談しながら研究を進める。	研究について関心をもって実施するために、自分の行っている研究について知識を深める。	180分
第9回	研究実施③	研究を実施するために理解を深め、指導教諭に相談しながら研究を進める。	研究について関心をもって実施するために、自分の行っている研究について知識を深める。	180分
第10回	研究実施④	研究を実施するために理解を深め、指導教諭に相談しながら研究を進める。	研究について関心をもって実施するために、自分の行っている研究について知識を深める。	180分
第11回	研究実施⑤	研究を実施するために理解を深め、指導教諭に相談しながら研究を進める。	研究について関心をもって実施するために、自分の行っている研究について知識を深める。	180分
第12回	研究実施⑥	研究を実施するために理解を深め、指導教諭に相談しながら研究を進める。	研究について関心をもって実施するために、自分の行っている研究について知識を深める。	180分
第13回	研究実施⑦	研究を実施するために理解を深め、指導教諭に相談しながら研究を進める。	研究について関心をもって実施するために、自分の行っている研究について知識を深める。	180分
第14回	研究結果まとめ①	研究結果についてデータまとめを実施する。	研究結果についてまとめを行いながら考察する。	180分
第15回	研究結果まとめ②	研究結果についてデータまとめを実施する。	研究結果についてまとめを行いながら考察する。	180分
第16回	研究結果まとめ③	研究結果についてデータまとめを実施する。	研究結果についてまとめを行いながら考察する。	180分
第17回	研究結果まとめ④	研究結果についてデータまとめを実施する。	研究結果についてまとめを行いながら考察する。	180分
第18回	研究結果まとめ⑤	研究結果についてデータまとめを実施する。	研究結果についてまとめを行いながら考察する。	180分
第19回	研究結果まとめ⑥	研究結果についてデータまとめを実施する。	研究結果についてまとめを行いながら考察する。	180分
第20回	研究結果まとめ⑦	研究結果についてデータまとめを実施する。	研究結果についてまとめを行いながら考察する。	180分
第21回	研究報告会準備①	研究結果についてデータまとめの結果について報告会用にまとめる。	研究結果についてデータまとめの結果について報告会用に要旨集（ワード）及びパワーポイントにまとめる。	180分
第22回	研究報告会準備②	研究結果についてデータまとめの結果について報告会用にまとめる。	研究結果についてデータまとめの結果について報告会用に要旨集（ワード）及びパワーポイントにまとめる。	180分
第23回	研究報告会準備③	研究結果についてデータまとめの結果について報告会用にまとめる。	研究結果についてデータまとめの結果について報告会用に要旨集（ワード）及びパワーポイントにまとめる。	180分
第24回	研究論文作成①	研究結果についてデータまとめの結果について論文としてまとめる。	研究結果についてデータまとめの結果について論文としてまとめる。	180分
第25回	研究論文作成②	研究結果についてデータまとめの結果について論文としてまとめる。	研究結果についてデータまとめの結果について論文としてまとめる。	180分
第26回	研究論文作成③	研究結果についてデータまとめの結果について論文としてまとめる。	研究結果についてデータまとめの結果について論文としてまとめる。	180分
第27回	研究論文作成④	研究結果についてデータまとめの結果について論文としてまとめる。	研究結果についてデータまとめの結果について論文としてまとめる。	180分
第28回	研究論文作成	研究結果についてデータまとめの結果について論文とし	研究結果についてデータまとめ	180分

	成⑤	てまとめる。	の結果について論文としてまとめる。	
第29回	研究論文作成⑥	研究結果についてデータまとめの結果について論文としてまとめる。	研究結果についてデータまとめの結果について論文としてまとめる。	180分
第30回	研究報告会	研究結果についてデータまとめの結果について研究報告会で発表する。	研究結果についてデータまとめの結果について研究報告会で発表するための準備をする。	180分

学習計画注記	研究内容の実施時期はテーマによって異なるため、各自積極的に意欲をもって研究に取り組むことが必要である。
学生へのフィードバック方法	演習形式およびグループワークを中心として実施する。 研究の進捗状況によって各自へ個別にフィードバックする。
評価方法	課題に取り組む姿勢や研究内容をまとめる力、研究論文作成、また研究報告会などのプレゼンテーション力など総合的に評価する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
研究報告会	○	○	○	○
研究論文	○	○	○	○

評価割合	研究報告会50%、研究論文30%、平常点20%（平常点は積極的な参加状況等から総合的に判断する）
------	--

使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない
-----------------	---------

参考図書	課題により参考文献は随時指示する。
------	-------------------

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】管理栄養士等の専門職業人として、人間・食物や地域との関わりなどの理解を深めることで、管理栄養士としての専門的知識と、社会で実践できる知識基盤について理解する事に該当。</p> <p>【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決にむけて正確な情報を収集したうえで論理的思考にもとづいて、戦略的な判断ができる力を身につける事に該当。</p> <p>【関心・意欲・態度】管理栄養士として将来社会に貢献する意思、他者と協働する力、生涯にわたり主体的に学ぶ意欲と態度を身につける事に該当。</p> <p>【技術・表現】得られた結果についてまとめる力と、それをプレゼンテーションする力を高め、表現力を身につける事に該当。</p>
---------------	---

オフィスアワー	月曜日 4 時間目 1605研究室
---------	-------------------

学生へのメッセージ	課題がきまったら、各自事前に課題の内容について調べておくことが望ましい。
-----------	--------------------------------------

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は国の研究所での実務経験を有しており、健康情報発信の在り方や情報の真偽について等、栄養教育マネジメントに関連する基礎的学びを中心に教授するものである。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークや研究報告会を通じて課題発見力・課題解決学習を学ぶ事ができる。
情報リテラシー教育	○	研究論文作成を通じて情報検索等における情報モラルについて学ぶ事ができる。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	実践健康栄養プロデュース実習		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 酒井 治子	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>管理栄養士としての自分の進路を見つけ出すことができるように、管理栄養士が広く活躍する場を踏まえた社会での実践体験を含む研究課題とする。具体的には、研究計画の立案から、研究遂行のための実践力、研究要旨をまとめ、口頭によるプレゼンテーション能力を養う。</p> <p>地域栄養教育研究室では、地域の保育所、学校、子育てひろば、保健センター、企業等との関わりを持ち、地域でのさまざまな栄養活動の実践を通して、その栄養教育の計画・実施・評価の具体的な展開についての実践力を高めることを目的とする。4年間の学業の集大成とし、進路を切り開くことができる「自ら考え実行する力」を身につける。</p>
------------	---

履修条件	特になし
------	------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	地域で暮らす人々の食の営みと、それを支援する情報と環境を統合したアプローチによる栄養教育(食育)に関する知識を高める。
思考・判断の観点 (K)	地域で暮らす人々の食の営みを構成する要素を抽出し、研究課題の優先順位づけを行い、その解決に向けた科学的な思考力と判断力を養う。
関心・意欲・態度の観点 (V)	学生が研究課題を理解し、社会で求められているニーズを把握し、実践力を養うことで、社会に貢献することに意欲を持ち、積極的な態度を培う。
技術・表現の観点 (A)	地域でのさまざまな栄養活動の実践を通して、栄養教育の実践力と、研究の計画、遂行、その結果を分かりやすく表現できる力を養う。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	研究テーマ、および研究計画の立案	過去の研究論文をよみ、全体像を把握する。	120分
第2回	研究の流れと研究倫理	研究を始めにあたって、先輩方の研究を基に、研究計画と実施、成果のまとめまでの全体像を把握する。	自らが関心のある研究テーマについて、先行研究までの成果と残された課題を整理する。	120分
第3回	地域栄養教育研究とは	地域栄養教育研究の概要、研究の進め方について理解する。	地域での栄養・食の課題、栄養教育に関する論文の構造を確認する。	120分
第4回	研究計画書の立案方法	研究計画書に必要な項目を理解する。	研究計画書の事例を収集し、熟読する。	120分

第5回	研究テーマに関する先行研究レビュー1	自分の研究テーマに関して、研究論文の情報検索の方法を理解する。	オンラインジャーナル、図書館等のハンドリサーチにより、レビューワークを実施する。	120分
第6回	研究テーマに関する先行研究レビュー2	研究レビューリストの作成方法を説明する。	収集した文献から必要な情報を抽出し、文献リストを作成する。	120分
第7回	研究テーマ別レビューワーク1	自らが設定した研究テーマに沿ったレビューワークを行い、研究デザインを理解する。	研究テーマ別に文献リストを作成する。	120分
第8回	研究テーマ別レビューワーク2	自らが設定した研究テーマに沿ったレビューワークを行い、研究デザインを理解する。	研究テーマ別に文献リストを作成する。	120分
第9回	研究テーマに関する先行研究のプレゼンテーション	研究テーマに関する先行研究をまとめ、プレゼンテーションを相互に行い、討論をする。	発表を受けて、さらに追加すべきレビューワークを行う。	120分
第10回	研究計画書の作成1	研究計画書の作成をすすめる。	研究計画書の作成をすすめる。	120分
第11回	研究計画書の作成2	研究計画書の作成をすすめる。	研究計画書の作成を通して、研究方法を吟味する。	120分
第12回	研究フィールドの選定と依頼1	研究計画書に沿って研究を実施する。研究フィールドの依頼方法を学ぶ。	研究フィールドと調査方法の確定を進めながら、教員に助言を得る。	120分
第13回	研究フィールドの選定と依頼2	研究計画書に沿って研究を実施する。研究フィールドの依頼方法を学ぶ。	研究フィールドと調査方法の確定を進めながら、教員に助言を得る。	120分
第14回	研究調査の実施1	研究計画書に沿って研究を実施する。	研究フィールドと調査方法の確定を進めながら、教員に助言を得る。	120分
第15回	研究調査の実施2	研究計画書に沿って研究を実施する。研究フィールドの依頼方法を学ぶ。	研究フィールドと調査方法の確定を進めながら、教員に助言を得る。	120分
第16回	研究調査の実施3	研究計画書に沿って研究を実施し、調査データを集積する。	研究の実施について、適宜、教員に助言を得る。	120分
第17回	研究調査の実施4	研究計画書に沿って研究を実施し、調査データを集積する。	研究の実施について、適宜、教員に助言を得る。	120分
第18回	研究調査の実施5	研究計画書に沿って研究を実施し、調査データを集積する。	研究の実施について、適宜、教員に助言を得る。	120分
第19回	研究調査の実施6	研究計画書に沿って研究を実施し、調査データを集積する。	研究フィールドと調査方法の確定を進めながら、教員に助言を得る。	120分
第20回	研究調査の実施7	研究計画書に沿って研究を実施し、データの解析をすすめる。	研究フィールドと調査方法の確定を進めながら、教員に助言を得る。	120分
第21回	研究調査の実施8	研究計画書に沿って研究を実施し、データの解析をすすめる。	研究フィールドと調査方法の確定を進めながら、教員に助言を得る。	120分
第22回	研究調査の実施9	研究計画書に沿って研究を実施し、データの解析をすすめる。	研究フィールドと調査方法の確定を進めながら、教員に助言を得る。	120分
第23回	研究調査の実施10	研究計画書に沿って研究を実施し、データの解析をすすめる。	研究フィールドと調査方法の確定を進めながら、教員に助言を得る。	120分
第24回	研究調査の実施11	研究計画書に沿って研究を実施し、データの解析をすすめる。	研究フィールドと調査方法の確定を進めながら、教員に助言を得る。	120分
第25回	研究調査の報告1	研究結果を報告するために、研究論文要旨をまとめる	研究の報告の方法について、教員に助言を得る。	120分
第26回	研究調査の報告2	研究結果を報告するために、研究論文要旨をまとめる	研究の報告の方法について、教員に助言を得る。	120分

第27回	研究調査の報告3	研究結果を報告するために、プレゼンテーションの発表用の媒体をまとめる。	研究の報告の方法について、教員に助言を得る。	120分
第28回	研究調査の報告4	研究結果を報告するために、プレゼンテーションの発表用の媒体をまとめる。	研究の報告の方法について、教員に助言を得る。	120分
第29回	総合討論による研究の質の評価1	研究結果を報告と討論により、研究の質を評価し、研究の限界と今後の課題を整理する。	研究の質を評価し、研究の限界と今後の課題について、教員に助言を得る。	120分
第30回	総合討論による研究の質の評価2	研究結果を報告と討論により、研究の質を評価し、研究の限界と今後の課題を整理する。	研究の質を評価し、研究の限界と今後の課題について、教員に助言を得る。	120分

学習計画注記 学習の進行状況によって、内容を前後させる場合がある。

学生へのフィードバック方法 研究のプロセスで、課題を出し、次回に確認をし、返却する。

評価方法 研究計画から遂行と、プレゼンテーション、総合討論の内容により評価する。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
研究計画から遂行	○		○	
プレゼンテーション	○			○
総合討論		○	○	

評価割合 研究計画から遂行40%、プレゼンテーション30%、総合討論30%

使用教科書名 (ISBN番号) 指定しない

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】 地域環境とのつながりを重視し、人間の栄養と食の営みに関する専門的知識と、それらを応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。
【思考・判断】 地域環境とのつながりを重視し、人間の栄養と食の営みに関する諸課題を探究し、その課題解決に向けて正確な情報を収集し、論理的批判的に思考できる。
【関心・意欲・態度】 地域環境とのつながりを重視し、人間の栄養と食の営みに関心を持ち、管理栄養士として貢献する意欲と態度を身につけている
【技術・表現】 リサーチクエスションを主体的に発見し、研究結果を発表する能力を身につけている

オフィスアワー 酒井 火曜日5限 地域栄養教育（酒井）研究室

学生へのメッセージ 個人の興味から自らテーマを絞っていくことを希望します。なお、他のメンバーの研究についてもできるだけ参加し、実践力を養ってもらいたいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は流通業での消費者対策（食品の衛生実験、商品表示等）、顧客対応（栄養指導）に関する実務経験、また、研究面での地域ベースでの栄養教育の実践と評価に関する研究の経験を活かした授業を展開している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	実践健康栄養プロデュース実習		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 田中 弘之	指定なし

授業概要(教育目的)	所属する研究室において、管理栄養士としての自分の進路を見つけ出すことができるように、管理栄養士が広く活躍する場を踏まえた社会での実践体験を含む研究課題とする。学生が研究課題を理解し、社会で求められているニーズを把握し、実践力を養うことで、社会に貢献することを学ぶ。
------------	--

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	人体の個体レベルで生物学的な問題として把握するだけでなく心理的要因や行動科学的要因、さらには社会的要因、経済的要因なども考慮して総括的に把握することができる。
思考・判断の観点 (K)	研究テーマに沿って先行研究を議論し、研究仮説を立案できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	成果・結果を健康につなぎQOLの向上が社会貢献となることが意識できる。
技術・表現の観点 (A)	研究結果をプレゼンテーションし、根拠に基づくディスカッションができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	既存の実習概要と進め方を説明する。	研究計画書のプレゼンテーション資料を作成する。	45分
第2回	栄養政策研究室の概要を説明する。	研究計画書と進め方を説明する。	研究計画書のプレゼンテーション資料を作成する。	45分
第3回	研究計画書の作成	研究計画書と進め方を説明する。	研究計画書のプレゼンテーション資料を作成する。	45分
第4回	研究テーマに沿った実習・調査を実施	研究テーマに沿った実習・記録または調査を実施	研究テーマに沿った実習・調査・記録のまとめ、次回の事前準備	45分
第5回	研究テーマに沿った実習・調査を実施	研究テーマに沿った実習・記録または調査を実施	研究テーマに沿った実習・調査・記録のまとめ、次回の事前準備	45分

第23回	研究テーマに沿ったまとめ	研究テーマに沿った実習・調査結果をまとめる	研究テーマに沿った実習・調査結果をまとめるのチェックをする。	45分
第24回	研究テーマに沿ったまとめ	研究テーマに沿った実習・調査結果をまとめる	研究テーマに沿った実習・調査結果をまとめるのチェックをする。	45分
第25回	研究テーマに沿ったまとめ	研究テーマに沿った実習・調査結果をまとめる	研究テーマに沿った実習・調査結果をまとめるのチェックをする。	45分
第26回	研究テーマに沿ったまとめ	研究テーマに沿った実習・調査結果をまとめる	研究テーマに沿った実習・調査結果をまとめるのチェックをする。	45分
第27回	研究テーマに沿ったまとめ	研究テーマに沿った実習・調査結果をまとめる	研究テーマに沿った実習・調査結果をまとめるのチェックをする。	45分
第28回	プレゼンテーションの作成	テーマに沿った実習・調査のプレゼンテーションの作成と発表の練習	プレゼンテーションの作成と発表の練習の補完	45分
第29回	プレゼンテーションの作成	テーマに沿った実習・調査のプレゼンテーションの作成と発表の練習	プレゼンテーションの作成と発表の練習の補完	45分
第30回	プレゼンテーションの作成	テーマに沿った実習・調査のプレゼンテーションの作成と発表の練習	プレゼンテーションの作成と発表の練習の補完	45分

学生へのフィードバック方法 研究の進捗状況にあわせて、適宜指示する。

評価方法
 【平常点】研究背景を理解し、計画的に課題の解決に向けた取り組みについて総合的に判断する（60%）。
 【要旨の作成】研究内容や研究成果について、必要な項目と内容を備えた要旨を作成することができる（10%）。
 【研究計画の進行】研究計画に沿った展開が適切に行えることができる（10%）。
 【研究発表会】研究成果について必要な内容と項目を備えて報告することができる（10%）。研究内容や研究成果に対する質問に答えることができる（10%）。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	
研究発表				○

評価割合 平常点（60%）、研究発表会（要旨の作成・研究計画進行、も含む。40%）

使用教科書名 (ISBN番号) 公衆栄養学、学会発表の統計学

ディプロマポリシーとの関連
 【知識・理解】人間、食物の相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識を身につけている。
 【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸問題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的・批判的に思考することができる。
 【関心・意欲・態度】主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。
 【技能・表現】多職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー
 前期：火曜日15:00～17:30
 後期：月曜日15:00～17:30、

学生へのメッセージ
 問題は何か、解決するためにどうするのかを常に意識すること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、厚生労働省、内閣府および地方公共団体において、栄養、健康増進、生活習慣病予防対策、疾病対策等における政策の策定や実践をしてきた。
アクティブ・ラーニング	○	先行研究や文献等を利用して、実習・記録・調査によって得られたデータを考察する。
情報リテラシー	○	パワーポイントを使用して、発表原稿を作成する。

教育		統計解析ソフトを使用して、検定を行う。
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	実践健康栄養プロデュース実習		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 橋本 文子	指定なし

授業概要(教育目的)	管理栄養士として役立つ様々な食や健康に関するテーマについて理解を深める。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	管理栄養士として必要な食や健康に関する話題について理解を深めることができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	自分の興味のあるテーマについて調べた内容を相手にわかりやすく伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	Introduction	授業の進め方についての説明	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第2回	食や健康に関する話題について	各自自分の興味がある話題について調べたものを発表する。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第3回	食や健康に関する話題について	食に関するDVDを見る。	DVDを見て感じたことや考えたことをレポートにまとめる。	120分
第4回	食や健康に関する話題について	DVDを見てわかったことを発表する。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第5回	食や健康に関する話題について	各自自分の興味がある話題について調べたものを発表する。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分
第6回	食や健康に関する話題について	各自自分の興味がある話題について調べたものを発表する。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べること。	120分

第7回	食や健康に関する話題について	各自自分の興味がある話題について調べたものを発表する。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べる。	120分
第8回	食や健康に関して学外施設を訪問する	JICAちきゅう広場を訪問し、施設見学とお話を伺う。	JICAちきゅう広場訪問で感じた事をレポートにまとめる。	120分
第9回	食や健康に関する話題について	JICA訪問で感じたことやわかったことについて発表する。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べる。	120分
第10回	食や健康に関する話題について	卒研発表会に向けてテーマを絞り込む。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べる。	120分
第11回	食や健康に関する話題について	卒研発表会のテーマを決め、調べていく。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べる。	120分
第12回	食や健康に関する話題について	卒研発表会に向けて準備を進める。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べる。	120分
第13回	食や健康に関する話題について	卒研発表会に向けて準備を進める。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べる。	120分
第14回	食や健康に関する話題について	卒研発表会に向けて準備を進める。	食や健康に関する話題について自分が興味があるものについて調べる。	120分
第15回	食や健康に関する話題について	卒研発表	これまでのことについてまとめる。	120分

学習計画注記 * 授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法 授業時に各自テーマについて調べたものを発表し、お互いに意見を交換する機会を持ちます。

評価方法
 ・各テーマについての調査と発表
 ・卒研発表会に向けての取り組み

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
各テーマについての発表	○		○	○
卒研発表	○		○	○

評価割合 各テーマの発表50%と卒研発表50%で総合的に評価します。

ディプロマポリシーとの関連
 【知識・理解】 管理栄養士に必要な食と健康についての様々な話題について深い知識と理解を身につけている。
 【思考・判断】 正しい情報を判断できる力を身につけている。
 【技能・表現】 専門的知識を相手にわかりやすく表現する力を身につけている。

オフィスアワー
 前期 水曜日4時限 1610研究室
 後期 水曜日3時限 1610研究室

教育等の取り組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	実践健康栄養プロデュース実習		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	健康栄養学科・3,4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 馬場 修	指定なし

授業概要(教育目的)

所属する研究室において、管理栄養士としての自分の進路を見つけ出すことができるように、管理栄養士が広く活躍する場を踏まえた社会での実践体験を含む研究課題とする。学生が研究課題を理解し、社会で求められているニーズを把握し、実践力を養うことで、社会に貢献することを学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	4年間の学業の集大成とし、進路を切り開くことができる「自ら考え実行する力」を身につける。
思考・判断の観点 (K)	4年間の学業の集大成とし、進路を切り開くことができる「自ら考え実行する力」を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	資料調査1	資料の調査によって課題を明らかにする。		240分
第2回	資料調査2	資料の調査によって課題を明らかにする。	資料の調査によって課題を明らかにする。	240分
第3回	調査・実験	テーマに対応する実験ならびに調査。	資料の調査によって課題を明らかにする。	240分
第4回	調査・実験	テーマに対応する実験ならびに調査。	資料の調査によって課題を明らかにする。	240分
第5回	調査・実験	テーマに対応する実験ならびに調査。	資料の調査によって課題を明らかにする。	240分
第6回	調査・実験	テーマに対応する実験ならびに調査。	資料の調査によって課題を明らかにする。	240分
第7回	調査・実験	テーマに対応する実験ならびに調査。	資料の調査によって課題を明らかにする。	240分
第8回	調査・実験	テーマに対応する実験ならびに調査。	資料の調査によって課題を明らかにする。	240分

第9回	調査・実験	テーマに対応する実験ならびに調査。	資料の調査によって課題を明らかにする。	240分
第10回	調査・実験	テーマに対応する実験ならびに調査。	資料の調査によって課題を明らかにする。	240分
第11回	調査・実験	テーマに対応する実験ならびに調査。	資料の調査によって課題を明らかにする。	240分
第12回	調査・実験	テーマに対応する実験ならびに調査。	資料の調査によって課題を明らかにする。	240分
第13回	調査・実験	テーマに対応する実験ならびに調査。	資料の調査によって課題を明らかにする。	240分
第14回	調査・実験	テーマに対応する実験ならびに調査。	資料の調査によって課題を明らかにする。	240分
第15回	調査・実験	テーマに対応する実験ならびに調査。	資料の調査によって課題を明らかにする。	240分

学生へのフィードバック方法 実習によって得られたものを論文として作成する過程のセミナーでフィードバックする。

評価方法 卒業論文の作成
プレゼンテーション
を含め総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
卒業論文	○	○	○	

評価割合 卒業研究に対する取り組み
卒業論文の作成
プレゼンテーション
を含め総合的に評価する。

ディプロマポリシーとの関連 管理栄養士として必要な、基礎専門知識を実験を通して身につける。得られた結果について論理的思考による判断が行える。

オフィスアワー 木 2・3限

学生へのメッセージ 研究テーマについての理解と、問題解決能力を涵養してほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	実践健康栄養プロデュース実習		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 林 一也	指定なし

授業概要(教育目的)	所属する研究室において、担当教員の指導のもとにテーマを決め研究を遂行し、研究計画、研究方法、実験、ディスカッションなど研究の進め方を修得する。また期末には発表、論文作成など研究内容のまとめ掲げるスキルを身につける。研究テーマは管理栄養士としての自分の進路を見つけ出すことができるように、管理栄養士が広く活躍する場を踏まえた社会での実践体験を含む研究課題とする。学生が研究課題を理解し、社会で求められているニーズを把握し、実践力を養うことで、社会に貢献することを学ぶ。
------------	---

履修条件	なし
------	----

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	研究テーマに関心を持って研究チームの一員として参画し、チームのメンバーと共同して自主的に研究することで、管理栄養士として社会に出たときに主体的に学ぶ意欲と態度、共感性、豊かな人間性を身につけることができる。
技術・表現の観点 (A)	研究テーマに関心を持って研究チームの一員として参画し、チームのメンバーと共同して自主的に研究し、最終的に研究内容をまとめ発表することで、管理栄養士として専門的技能とともに、コミュニケーション能力やマネジメント力、プレゼンテーション力などの表現力を身につけることができる。

学習計画

実践健康栄養プロデュース実習

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	研究テーマの説明	研究室のテーマの課題候補を提示し、研究発表、論文作成などの説明を行う。		
第2回	研究の進め方	選択した研究テーマに基づいて、研究をどのように進めていくかを検討し、研究スケジュールなどを作り上げる。		
第3回	卒業研究	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。	適宜必要に応じて行う。	特に設定しない。
第4回	卒業研究	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門	適宜必要に応じて行う。	特に設定していない。

		書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。		
第22回	卒業研究	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。	適宜必要に応じて行う。	特に設定していない。
第23回	卒業研究	研究計画に基づき、研究を進める。あわせて研究テーマに関する論文などの先行研究や関連する研究論文・専門書等を調査し、研究結果、内容に関して論議を行い、必要に応じて教員の指導を受ける。	適宜必要に応じて行う。	特に設定していない。
第24回	卒業研究のまとめ	データのまとめ、解析を行うとともに、卒業発表のプレゼンテーション資料、卒業研究報告の要旨および卒業論文の指導と作成を行う。	適宜必要に応じて行う。	特に設定していない。
第25回	卒業研究のまとめ	データのまとめ、解析を行うとともに、卒業発表のプレゼンテーション資料、卒業研究報告の要旨および卒業論文の指導と作成を行う。	適宜必要に応じて行う。	特に設定していない。
第26回	卒業研究のまとめ	データのまとめ、解析を行うとともに、卒業発表のプレゼンテーション資料、卒業研究報告の要旨および卒業論文の指導と作成を行う。	適宜必要に応じて行う。	特に設定していない。
第27回	卒業研究のまとめ	データのまとめ、解析を行うとともに、卒業発表のプレゼンテーション資料、卒業研究報告の要旨および卒業論文の指導と作成を行う。	適宜必要に応じて行う。	特に設定していない。
第28回	実践健康栄養プロデュース報告会	研究成果の発表（全研究室の発表報告の参加も含む）		
第29回	実践健康栄養プロデュース報告会	研究成果の発表（全研究室の発表報告の参加も含む）		
第30回	実践健康栄養プロデュース報告会	研究成果の発表（全研究室の発表報告の参加も含む）		

学生へのフィードバック方法 研究内容、進め方、結果の考察などは研究室内のデスカッションとして適宜行う。

評価方法 研究遂行能力、論文作成能力、研究報告会での発表能力などの研究能力を総合的に評価する。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
総合的な研究能力の評価			○	○

評価割合 総合的な研究能力(100%)

ディプロマポリシーとの関連
【関心・意欲・態度研究】テーマに関心を持って研究チームの一員として参画し、チームのメンバーと共同して自主的に研究することで、管理栄養士として社会に出たときに主体的に学ぶ意欲と態度、共感性、豊かな人間性を身につけることができる。
【技術・表現研究】テーマに関心を持って研究チームの一員として参画し、チームのメンバーと共同して自主的に研究し、最終的に研究内容をまとめ発表することで、管理栄養士として専門的技能とともに、コミュニケーション能力やマネジメント力、プレゼンテーション力などの表現力を身につけることができる。

オフィスアワー 月曜日3時限 1401研究室

学生へのメッセージ 研究は自主的に行うことが重要である。就職活動、国試対策など全ての確立を目指すための心構えが重要である。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、民間の食品企業で産官学との共同研究・共同食品開発に携わった内容を踏まえ、食品に関する研究を実践的・実学的に教授している。
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー 教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	実践健康栄養プロデュース実習		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 松田 正己	指定なし

授業概要(教育目的)	栄養・運動・休養と社会環境と健康について、深く考える楽しさを学びます。																		
学習目標(到達目標)	学習目標(到達目標)																		
	<table border="1"> <tr> <td>知識・理解の観点 (K)</td> <td>管理栄養士が広く活躍する場を踏まえた社会での実践体験を含む研究課題を理解する。</td> </tr> <tr> <td>思考・判断の観点 (K)</td> <td>社会で求められているニーズを把握し、実践力を養う。</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度の観点 (V)</td> <td>管理栄養士としての社会に貢献することを学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>技術・表現の観点 (A)</td> <td>ヘルス・リタラシーを向上させる方法を学ぶ。</td> </tr> </table>				知識・理解の観点 (K)	管理栄養士が広く活躍する場を踏まえた社会での実践体験を含む研究課題を理解する。	思考・判断の観点 (K)	社会で求められているニーズを把握し、実践力を養う。	関心・意欲・態度の観点 (V)	管理栄養士としての社会に貢献することを学ぶ。	技術・表現の観点 (A)	ヘルス・リタラシーを向上させる方法を学ぶ。							
知識・理解の観点 (K)	管理栄養士が広く活躍する場を踏まえた社会での実践体験を含む研究課題を理解する。																		
思考・判断の観点 (K)	社会で求められているニーズを把握し、実践力を養う。																		
関心・意欲・態度の観点 (V)	管理栄養士としての社会に貢献することを学ぶ。																		
技術・表現の観点 (A)	ヘルス・リタラシーを向上させる方法を学ぶ。																		
評価方法	平常点 (65%)、報告・レポート(35%)																		
評価基準	評価基準																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平常点</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>報告レポート</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>				評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	平常点		○	○	○	報告レポート	○	○	○	○
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)															
平常点		○	○	○															
報告レポート	○	○	○	○															
評価割合	発表 (35%) と平常点 (65%)																		
ディプロマポリシーとの関連	<p>(知識・理解) 社会の基盤となる健康「生活の質」とは何かを理解し、総合的な公衆衛生学の視点から、現代生活の健康関連の諸問題を理解できる。 (思考・判断) 健康関連の生活社会の諸問題を自ら発見し分析、問題解決に導く考察ができる。 (関心・意欲・態度) 生活者の視点に立ち、社会の健康関連の諸問題について関心を持ち続けることができる。 (技能・表現) 他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション能力などの表現力を身につけている。</p>																		
オフィスアワー	メールで連絡の上、時間を調整すること																		

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループ・ワークを行う。
情報リテラシー教育	○	インターネットで関連資料の検索等を行う
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	実践健康栄養プロデュース実習		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 吉野 知子	指定なし

授業概要(教育目的)

所属する研究室において、特定の研究課題・テーマを決定する。研究計画、研究手法の基礎を学び習得する。研究結果については、研究論文、研究発表によりその成果をまとめる。管理栄養士としての自分の進路を見つけ出すことができるように、管理栄養士が広く活躍する場を踏まえた社会での実践体験を含む研究課題とする。学生が研究課題を理解し、社会で求められているニーズを把握し、実践力を養うことで、社会に貢献することを学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	研究を通じて社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけることができる。
思考・判断の観点 (K)	研究テーマの課題解決に向けて正確な情報を収集して、的確な取り組みを判断できる力を身につけることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	研究テーマへ主体的に取り組み成果を得たことにより、社会に貢献しようとする意思と、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度を身につけることができる。
技術・表現の観点 (A)	研究内容に関する討論や、共同研究者との実験・調査を進め、最終的にその成果を発表する事により、他者とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	研究テーマの検討	研究テーマの候補について検討する。研究の進め方について(研究計画、研究方法、研究結果、考察、発表、論文まとめ)説明する。	研究テーマ候補について関連文献の検索・情報収集をする。	90分
第2回	研究テーマの検討	研究の方向性を明確にし最終的な研究テーマを決定する。研究の進め方を確認し研究計画を作成する。	研究テーマについての文献を収集する。	90分
第3回	研究の実施	研究計画に基づき実験・調査を実施する。研究経過や得られた結果について報告・討論し指導を受ける。	実験・調査の結果を整理する。	45分
第4回	研究の実施	研究計画に基づき実験・調査を実施する。研究経過や得られた結果について報告・討論し指導を受ける。	実験・調査の結果を整理する。	45分
第5回	研究の実施	研究計画に基づき実験・調査を実施する。研究経過や得られた結果について報告・討論し指導を受	実験・調査の結果を整理する。	45分

第27回	研究のまとめ	実験・調査によって得られたデータをまとめ、発表会の要旨、発表会プレゼンテーション資料を作成する。論文を作成する。	発表原稿を作成する。	45分
第28回	実践健康栄養プロデュース報告会準備	実践健康栄養プロデュース報告会に向けての準備、発表練習を行う。	発表練習をする。	45分
第29回	実践健康栄養プロデュース実習報告会	実践健康栄養プロデュース実習報告会にて研究成果の発表及び質疑応答を行う。		
第30回	実践健康栄養プロデュース実習報告会	実践健康栄養プロデュース実習報告会にて研究成果の発表及び質疑応答を行う。		

学生へのフィードバック方法 研究テーマについて定期的にディスカッションし研究の内容・方向性、結果、考察を進めていく。

評価方法 研究テーマへの取り組む姿勢、研究成果、発表能力などの研究能力を評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
研究能力 (取組・成果・発表)	○	○	○	○

評価割合 研究テーマに対する主体的な取り組み、研究成果、発表能力など研究能力を総合的に100%として評価する。

ディプロマポリシーとの関連
 【知識・理解】研究を通じて社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士としての専門職業人として自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。
 【思考・判断】研究テーマの課題解決に向けて正確な情報を収集して、戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。
 【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。
 【技術・表現】他者とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー 月曜日1限目

学生へのメッセージ 自分の興味・関心のある研究テーマについて主体的に追求し意欲を持って臨んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	高齢者施設、病院、給食受託会社の管理栄養士としての実務経験を有している教員が教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	実践健康栄養プロデュース実習		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 原 光彦	指定なし

授業概要(教育目的) 自らの興味のある領域の研究テーマを設定し、科学的な方法で研究を行い、研究結果を考察して、卒業論文を執筆する。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	研究倫理や主な研究方法、統計に関する知識を有している。
思考・判断の観点 (K)	科学的な方法で実験計画を立て、実行し、結果を解釈できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自ら関心がある研究テーマを設定することができる。
技術・表現の観点 (A)	研究内容を、パワーポイントや卒業論文としてまとめ、プレゼンテーションすることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	臨床研究の倫理と主な研究方法	臨床研究を行う上での心構え、特に個人情報管理について学習する。主な研究方法の種類や特徴について学習する。	厚生労働省のホームページの臨床研究法の部分や、臨床研究に関する記事を読んで予習しておくこと	150分
第2回	研究テーマや研究グループの設定。研究計画の立案	自らの興味と、研究室で実施可能な研究内容をマッチングして、研究テーマと研究グループを設定し、研究計画を立てる。	自らが行いたい研究内容についてあらかじめ考えておくこと	150分
第3回	データ入力上の注意事項と入力フォームの作成	研究内容に応じた、データ入力フォーマットを作成し、入力方法の共有化を図る。	教室で配布するデータ入力方法の資料を読んでおくこと。エクセルの使い方を復習しておくこと。	150分
第4回	統計ソフト(JMP)の使い方	強力な統計処理ソフトである、JMP日本語版の使い方を学習し、自ら統計処理が行えるようにする。	動脈硬化性疾患予防ガイドライン2017年版の該当ページおよび日本高血圧学会のHPを読んでおくこと。	150分
第5回	引用文献の	論文執筆に必要な、文献検索の方法を学び、実際に検索	動脈硬化性疾患予防ガイドライ	150分

	収集法とまとめ方	し、検索された文献を読解する。重要な引用論文については、論文リストを作成する。	ン2017年版の該当ページおよび日本糖尿病学会のHPを読んでおくこと。
第6回	データ入力	すでに作成したデータ入力フォーマットにデータを入力する。	データ入力における役割分担について考えておくこと。入力者、データを読み上げる者、入力誤りがないか監視する者で協力して行うと効率が良い。
第7回	データ入力	すでに作成したデータ入力フォーマットにデータを入力する。	データ入力における役割分担について考えておくこと。入力者、データを読み上げる者、入力誤りがないか監視する者で協力して行うと効率が良い。
第8回	データ入力	すでに作成したデータ入力フォーマットにデータを入力する。入力されたデータに誤りがないか確認する。	データ入力における役割分担について考えておくこと。入力者、データを読み上げる者、入力誤りがないか監視する者で協力して行うと効率が良い。
第9回	統計処理	確認済みのデータ入力シートをJMPに読み込ませて統計処理を行う。統計処理の前に、入力データの種類を統計処理に適したものに調整する。	JMP日本語版の解説書や解説記事を読んでおくこと
第10回	統計処理	統計ソフトを用いて、必要な解析を行い、自ら立てた仮説通りであるか否かを検証する。	JMP日本語版の解説書や解説記事を読んでおくこと
第11回	プレゼンテーション資料の作成	研究結果をもとに、パワーポイントでプレゼンテーション資料を作成する。	パワーポイントの使用法を理解しておくこと。プレゼンテーション資料の作り方を予習しておくこと。
第12回	プレゼンテーション資料の作成	研究結果をもとに、パワーポイントでプレゼンテーション資料を作成する。完成したパワーポイントは、プレゼンに適しているか、グループ内で検討する。	パワーポイントの使用法を理解しておくこと。プレゼンテーション資料の作り方を予習しておくこと。
第13回	卒業論文執筆	作成したプレゼンテーションデータや文献リストを基にして卒業論文を作成する。	論文執筆法に関する書籍や記事を読んで概略をつかんでおくこと。
第14回	卒業論文執筆	作成した卒業論文をグループ内で確認し、より完成度が高い内容に校正する。	論文執筆法に関する書籍や記事を読んで概略をつかんでおくこと。
第15回	卒業論文のプレゼンテーション予演会	実践健康プロデュース実習発表会に向けて、予演会を行う。	予演会では、批評的精神を持ちつつ、プレゼンテーションが成功するために建設的な意見を述べることを心がけること。

学生へのフィードバック方法 演習中に質問を受ける、作成されたプレゼンテーション資料や卒業論文は添削指導を行いフィードバックする。

評価方法 受講状況及び受講態度（50点）、卒業論文の内容（50点）で評価する。
15回の講義の内、正当な理由なく6回以上欠席した場合には、評価を受ける権利を失う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
卒業論文	○	○		
受講態度			○	

評価割合 受講状況及び受講態度（50点）、卒業論文内容（50点）で評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) 研究内容が学生によって異なるため、特定の教科書は設定しない。テーマに応じて適切な教科書を推薦する。

参考図書 JMP日本語版解説書

ディプロマポリシーとの関連 本演習は、管理栄養士過程で学んだ基礎的知識を基にして、問題点や不明な点を研究テーマとして、臨床研究を行う内容である。
研究テーマは自らが設定するため、積極性が求められる。
科学的に正しい方法で研究を行い、卒業論文を執筆するので、知識をまとめる力、表現力を身につける一助となる。

オフィスアワー 月曜日の16:00-17:00

学生へのメッセージ	自ら疑問に感じていることを、臨床研究で解明してゆきましょう。この演習では、正しい臨床研究の方法やまとめ方を学ぶことができます。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当職員は、現役の医師であり、実際に臨床研究に携わっているため、適切に指導を行うことができる。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	実践健康栄養プロデュース実習		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 加藤 理津子	指定なし

授業概要(教育目的)	研究課題への主体的な取り組みの中で、社会で求められているニーズに対応できる実践力を養うことを目的とする。具体的には、研究計画の立案から評価・改善までの一連の研究手法の実践、報告書の作成、ディスカッションや成果発表などを通し、研究遂行のための実践力、プレゼンテーション能力を養う。研究課題は、スポーツ栄養の現場での実践体験を含む課題とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	スポーツ(身体活動)と栄養の関係を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	課題を発見し、研究課題を解決へと結びつける科学的視点を持っている。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会に貢献するという意思を持ち、主体的に研究課題にかかわる意欲と態度を身につけている。
技術・表現の観点 (A)	①得られた研究成果を科学的に解析し、その結果をわかりやすく表現できる。 ②研究成果をもとに望ましい栄養管理を実践できる力を身につける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	研究テーマおよび研究計画の立案	研究計画案の作成 資料収集	60分
第2回	研究テーマと計画の確認	資料等の科学的根拠に基づき、研究計画を見直し、修正する。	調査準備 資料収集	60分
第3回	栄養アセスメント項目の確認	アンケートの作成および検討、計測の練習	資料等の科学的根拠に基づき、 調査内容の見直し、修正	60分
第4回	栄養アセスメントの準備	栄養アセスメントに必要な物品の準備	調査準備 資料収集	60分
第5回	栄養アセスメントの実施	栄養調査等のアセスメントの実施	データ入力および解析	60分

第6回	栄養アセスメントの実施	栄養調査等のアセスメントの実施	データ入力および解析	60分
第7回	栄養アセスメントの実施	栄養調査等のアセスメントの実施	データ入力および解析	60分
第8回	栄養アセスメントデータの解析	栄養アセスメントで得られた結果の解析	データの整理	60分
第9回	栄養アセスメントデータの解析	栄養アセスメントで得られた結果の解析	データの整理	60分
第10回	栄養アセスメントデータの解析	栄養アセスメントで得られた結果の解析	データの整理	60分
第11回	栄養アセスメントデータの解析	栄養アセスメントで得られた結果の解析	データの整理	60分
第12回	栄養アセスメントデータの解析	栄養アセスメントで得られた結果の解析	データの整理	60分
第13回	中間報告	データ解析結果の中間報告	報告内容の整理	60分
第14回	解析データの見直し	中間報告の結果に基づき見直し、修正	情報収集	60分
第15回	解析データの見直し	中間報告の結果に基づき見直し、修正	情報収集	60分
第16回	結果説明会の準備	結果説明会用のスライドおよび配布資料作成	情報収集	60分
第17回	結果説明会の準備	結果説明会用のスライドおよび配布資料作成	情報収集	60分
第18回	結果説明の予行練習	結果説明のプレゼンテーションの確認	台本の作成と暗記、当日の流れや配布資料の確認、修正点の整理	60分
第19回	結果説明内容の見直し	スライド、台本の見直し、修正	台本の作成と暗記、当日の流れや配布資料の確認、修正点の整理	60分
第20回	結果説明	結果説明の実施	アンケートの集計	60分
第21回	発表要旨の作成	解析結果の分析	作成内容の見直し	60分
第22回	発表要旨の作成	解析結果の分析	作成内容の見直し	60分
第23回	発表要旨の作成	解析結果の分析	作成内容の見直し	60分
第24回	発表用スライド作成	発表要旨にもとづき発表用スライドの作成	見直し	60分
第25回	発表用スライド作成	発表要旨にもとづき発表用スライドの作成	見直し	60分
第26回	発表予行練習	作成したスライドを使用した予行練習	修正点の確認	60分
第27回	発表内容の見直し	修正点を確認し、修正	発表練習	60分
第28回	発表の予行練習	修正したスライドを使用した予行練習	発表練習	60分
第29回	研究発表会	学内の研究報告会にて発表	修正点の確認	60分
第30回	まとめ	発表を終えての反省会実施	提出物をまとめる	60分

学習計画注記	進行状況によって内容を前後させる場合がある。
学生へのフィードバック方法	研究の進行にしたがって提出物等に記入したものを、その都度確認し、返却する。

評価方法	平常点60%、提出物30%、プレゼンテーション10%とし、総合的に評価する。 ※平常点：実習態度 ※提出物：理解度、正確性、丁寧さ ※プレゼンテーション：表現力				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点		○	○	○
	提出物	○	○		○
	プレゼンテーション			○	○
評価割合	平常点60%、提出物30%、プレゼンテーション10%とし、総合的に評価する。				
使用教科書名 (ISBN番号)	適宜紹介する。				
参考図書	適宜紹介する。				
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。</p> <p>【思考・判断】現代の食・栄養の課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。</p> <p>【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。</p> <p>【技能・表現】健康のための栄養管理に関する技能とともに、コミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。</p>				
オフィスアワー	火曜日5限 (1B05研究室)				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	担当教員はスポーツ栄養の現場経験をふまえ、スポーツを実施する人を対象とした栄養管理の理論や技術について専門的知識を教授する。			
アクティブ・ラーニング	○	研究計画の立案から評価・改善までの一連の研究手法の実践、報告書の作成、ディスカッションや成果発表などを通し、研究遂行のための実践力、プレゼンテーション能力を養う。			
情報リテラシー教育	○	収集したデータを統計解析する。得られた研究成果を報告書にまとめ、発表スライドを作成する。			
ICT活用	○	発表スライド用をパワーポイントで作成し、映写して発表する。			

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	実践健康栄養プロデュース実習		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大富 あき子	指定なし

授業概要(教育目的)	管理栄養士としての自分の進路を見つけ出すことができるように、管理栄養士が広く活躍する場を踏まえた社会での実践体験を含む研究課題とする。学生が研究課題を理解し、社会で求められているニーズを把握し、実践力を養うことで、社会に貢献することを学ぶ。
------------	--

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	自分の興味関心および能力に適合した研究課題を設定することが出来る。 設定した研究課題について文献等により幅広い知識を得て研究に応用することが出来る。
思考・判断の観点 (K)	設定した研究課題について正確な情報収集、論理的批判、戦略的な取り組みができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会に貢献しようとする意識を強く持ち、他者と協働しながら学ぼうとする意欲を持ち合わせている。
技術・表現の観点 (A)	得られた結果を適宜まとめ、プレゼン資料を作成して、発表会にて主体的に表現ができる。

学習計画

実践健康栄養プロデュース実習

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	研究テーマの設定。研究計画の立案。	研究計画書の作成	60分
第2回	研究テーマと計画の検討	各自の研究テーマおよび研究計画書についてゼミ内で発表して検討する。	得られたデータをまとめて次の調査内容を検討する。	60分
第3回	調査の実施	各自の研究テーマに沿った調査を実施する。	得られたデータをまとめて次の調査内容を検討する。	60分
第4回	調査の実施	各自の研究テーマに沿った調査を実施する。	得られたデータをまとめて次の調査内容を検討する。	60分
第5回	調査の実施	各自の研究テーマに沿った調査を実施する。	得られたデータをまとめて次の調査内容を検討する。	60分
第6回	調査の実施	各自の研究テーマに沿った調査を実施する。	得られたデータをまとめて次の調査内容を検討する。	60分
第7回	調査の実施	各自の研究テーマに沿った調査を実施する。	得られたデータをまとめて次の	60分

			調査内容を検討する。	
第8回	調査の実施	各自の研究テーマに沿った調査を実施する。	得られたデータをまとめて次の調査内容を検討する。	60分
第9回	調査の実施	各自の研究テーマに沿った調査を実施する。	得られたデータをまとめて次の調査内容を検討する。	60分
第10回	献立作成及び調理実習	自分で作成した献立内容を調理して、学部の特別非常勤講師の指導を受ける。	献立内容の事前確認、実施した調理内容の反省を生かして新たな献立を検討する。	60分
第11回	調査の実施	各自の研究テーマに沿った調査を実施する。	得られたデータをまとめて次の調査内容を検討する。	60分
第12回	調査の実施	各自の研究テーマに沿った調査を実施する。	得られたデータをまとめて次の調査内容を検討する。	60分
第13回	調査の実施	各自の研究テーマに沿った調査を実施する。	得られたデータをまとめて次の調査内容を検討する。	60分
第14回	調査の実施	各自の研究テーマに沿った調査を実施する。	次回の中間報告に向けての発表資料作成を行う	60分
第15回	中間報告会	各自の研究途中結果についてゼミ内で発表して検討する。	今日の検討内容を踏まえて次の調査内容を検討する。	60分
第16回	調査の実施	各自の研究テーマに沿った調査を実施する。	得られたデータをまとめて次の調査内容を検討する。	60分
第17回	調査の実施	各自の研究テーマに沿った調査を実施する。	得られたデータをまとめて次の調査内容を検討する。	60分
第18回	調査の実施	各自の研究テーマに沿った調査を実施する。	得られたデータをまとめて次の調査内容を検討する。	60分
第19回	調査の実施	各自の研究テーマに沿った調査を実施する。	得られたデータをまとめて次の調査内容を検討する。	60分
第20回	調査の実施	各自の研究テーマに沿った調査を実施する。	得られたデータをまとめて次の調査内容を検討する。	60分
第21回	調査の実施	各自の研究テーマに沿った調査を実施する。	得られたデータをまとめて次の調査内容を検討する。	60分
第22回	調査の実施	各自の研究テーマに沿った調査を実施する。	得られたデータをまとめて次の調査内容を検討する。	60分
第23回	発表要旨の作成	各自の研究テーマをまとめて発表会用の要旨を作成する。	時間内に終わらなかったまとめの続きを行う。	60分
第24回	発表要旨の作成	各自の研究テーマをまとめて発表会用の要旨を作成する。	時間内に終わらなかった資料作成の続きを行い完成させる。	60分
第25回	発表資料と原稿の作成	各自の研究結果をもとに、発表会用の資料と原稿を作成する。	時間内に終了しなかった作業を続けて実施する。	60分
第26回	発表資料と原稿の作成	各自の研究結果をもとに、発表会用の資料と原稿を作成する。	時間内に終了しなかった作業を続けて実施する。	60分
第27回	発表資料と原稿の作成	各自の研究結果をもとに、発表会用の資料と原稿を作成する。	時間内に終了しなかった作業を続けて実施する。	60分
第28回	発表練習	各自の発表会用の資料と原稿を用いてゼミ内で発表練習を行う。	今日の発表練習を受けて、訂正を完了させる。	60分
第29回	発表会	学内の研究報告会において発表を行う。	事前に発表の練習を行う。	60分
第30回	まとめ	発表会を終えての反省会の実施。	発表原稿、発表資料、研究過程の資料を最終的にまとめる。	60分

学生へのフィードバック方法 研究計画検討会、調査実施時、中間報告会、発表練習会、その他必要に応じて学生にフィードバックは適宜行う。

評価方法 平常点
提出物（要旨、発表資料、発表原稿）
プレゼンテーション

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
------	-----------	-----------	--------------	-----------

平常点	○	○	○	
提出物	○	○	○	○
プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合	平常点 70% 提出物（要旨、発表資料、発表原稿）15% プレゼンテーション 15%
使用教科書名（ISBN番号）	適宜紹介する
参考図書	適宜紹介する
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物の相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識を身につけている。 【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的・批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。 【関心・意欲・態度】他者と協働するための共感力、主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。 【技能・表現】他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。
オフィスアワー	月曜日5時限
学生へのメッセージ	各自の研究テーマに沿って、学生時代にしかできないことを大いに実施していきましょう。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品企業において調味料等の研究開発に関する実務経験を有しており、商品を開発をする上で食品の調理学的知識や官能評価法等を活用して研究に従事していたので、この科目ではそれらの経験を生かして理論と実践を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	調査を遂行し、結果と考察についてゼミ内でディスカッションして、それを次の調査に反映させる。
情報リテラシー教育	○	報告会用にプレゼンテーション資料を作成する。
ICT活用	○	報告会のプレゼンテーションはパワーポイントを映写して行う。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	実践健康栄養プロデュース実習		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 江川 賢一	指定なし

授業概要(教育目的)	運動に関する専門的スキルを習得し、人々の健康増進を運動から解決できることを教育目標として、スポーツ産業、民間企業、行政、学校、医療福祉施設、予防サービス、試験研究教育機関（大学院含む）等への業務に役立つ実践研究を実施する。
------------	---

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	健康のための栄養、競技のための栄養、リハビリのための栄養の違いを説明できる。運動と栄養の相互作用を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	研究テーマに沿って先行研究を議論し、研究仮説を立案できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	人間の生活に関する広範な研究テーマを探求できる。
技術・表現の観点 (A)	研究結果をプレゼンテーションし、根拠に基づくディスカッションができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	実習の概要と進め方を説明する。	研究計画書のプレゼンテーション資料を作成する。	120分
第2回	研究計画プレゼンテーション1	運動生態学研究の概要を説明する。	運動、栄養、健康に関する文献研究を行う。	120分
第3回	研究計画プレゼンテーション2	運動生態学研究の方法を説明する。	運動、栄養、健康に関する文献研究を行う。	120分
第4回	レビューワーク1	情報検索の方法を説明する。	オンラインジャーナル、書架および学会等の情報源からレビューワークを実施する。	120分
第5回	レビューワーク2	リストの作成方法を説明する。	収集した文献から必要な情報を抽出し、文献リストを作成する。	120分
第6回	研究テーマ別レビュー	個々に設定した研究テーマに沿ったレビューワークを説明する。	研究テーマ別に文献リストを作成する。	120分

	ワーク 1			
第7回	研究テーマ別レビューワーク2	個々に設定した研究テーマに沿ったレビューワークを実施する。	研究テーマ別に文献リストを作成する。	120分
第8回	研究デザイン1	研究テーマの立て方を説明する。	運動、栄養、健康に関するリサーチクエスチョンを立てるための文献研究を行う。	120分
第9回	研究デザイン2	研究テーマの精査を説明する。	リサーチクエスチョンのプレゼンテーション資料を作成する。	120分
第10回	研究計画プレゼンテーション3	研究テーマの発表およびディスカッションを説明する。	発表のフィードバックを受け、修正、追加、変更するためのレビューワークを実施する。	120分
第11回	研究倫理	人権擁護、情報保護などの倫理を学習する。	テーマに沿って臨床試験登録を検索する。	120分
第12回	研究の実施1	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。	120分
第13回	研究の実施2	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。	120分
第14回	研究の実施3	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。	120分
第15回	研究の実施4	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。	120分
第16回	研究の実施5	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。	120分
第17回	研究の実施6	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。	120分
第18回	中間プレゼンテーション	実施した研究概要を発表する。	受講者相互に文献研究を行う。	120分
第19回	研究の実施7	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。	120分
第20回	研究の実施8	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。	120分
第21回	研究の実施9	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。	120分
第22回	研究の実施10	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。	120分
第23回	研究の実施11	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。	120分
第24回	研究の実施12	担当教員の指導の下で、研究計画書に従って研究を実施する。	研究進捗を適宜報告し、必要に応じて担当教員の助言を得る。	120分
第25回	研究の評価	プレゼンテーションを準備し、研究の質を評価する方法を説明する。	口演原稿を準備し、パワーポイントで映写資料を作成する。	120分
第26回	総合討論1	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。	120分
第27回	総合討論2	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。	120分
第28回	総合討論3	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。	120分
第29回	総合討論4	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。	120分
第30回	総合討論5	研究計画の発表とディスカッションにより、研究の質を評価する。	リサーチクエスチョンを批判的に吟味する。	120分

学習計画注記	※履修者数や講義の進度によりスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	研究室で個別に対応する。
評価方法	研究計画プレゼンテーション、中間プレゼンテーションおよび総合討論の内容により評価する。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
プレゼンテーション	○			○
総合討論		○	○	

評価割合	プレゼンテーション60%、総合討論40%
使用教科書名 (ISBN番号)	指定しない。
参考図書	指定しない。
参考URL	http://www.equator-network.org/
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】運動を中心とした人間の栄養に関する専門的知識と、それらを応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている</p> <p>【思考・判断】運動と栄養に関わる諸課題を探究し、その課題解決に向けて正確な情報を収集し、論理的批判的に思考できる</p> <p>【関心・意欲・態度】運動を中心とした人間の栄養に関心を持ち、管理栄養士として貢献する意欲と態度を身につけている</p> <p>【技術・表現】リサーチクエスチョンを主体的に発見し、研究結果を発表する能力を身につけている</p>
オフィスアワー	木曜日昼休み
学生へのメッセージ	研究活動を主体的に実施すること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は民間企業の研究機関における研究に従事した経験を踏まえて、人間の健康・運動・栄養に関する研究方法を教授する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	実践健康栄養プロデュース実習		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 斉藤 恵美子	指定なし

授業概要(教育目的)	栄養・食に関わる諸問題について研究テーマを設定し、研究計画を立てる。データを収集し分析を行い、結果をまとめ、発表会でプレゼンテーションを行う。これらのプロセスを通して、健康・栄養課題を解決するために必要な研究手法を習得する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	研究テーマに関連した事項や手法を理解する。
思考・判断の観点 (K)	研究を遂行するために必要な論理的思考力を習得する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自らの関心事項に対して、主体的に解決手法を調べるができる。
技術・表現の観点 (A)	研究結果を発表し、根拠に基づいたディスカッションをすることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	この科目の概要、研究の取り組み方、進め方について理解する。	適宜必要に応じて行う。	60分
第2回	研究テーマの設定	自分の探求したい課題を決定する。	適宜必要に応じて行う。	60分
第3回	先行研究の探索	課題に関連した先行研究の文献・資料を収集・講読し、研究テーマを絞り込む。	適宜必要に応じて行う。	60分
第4回	先行研究の探索	課題に関連した先行研究の文献・資料を収集・講読し、研究テーマを絞り込む。	適宜必要に応じて行う。	60分
第5回	研究計画の作成	テーマの目的や方法、意義等の妥当性も考慮しながら、研究計画を作成する。	適宜必要に応じて行う。	60分
第6回	研究計画の作成	テーマの目的や方法、意義等の妥当性も考慮しながら、研究計画を作成する。	適宜必要に応じて行う。	60分
第7回	研究手法の検討	テーマに適した研究手法を検討し、データ収集の準備を行う。	適宜必要に応じて行う。	60分

第8回	研究手法の検討	テーマに適した研究手法を検討し、データ収集の準備を行う。	適宜必要に応じて行う。	60分
第9回	データ収集	調査・実験等を実施し、データを収集する。	適宜必要に応じて行う。	60分
第10回	データ収集	調査・実験等を実施し、データを収集する。	適宜必要に応じて行う。	60分
第11回	データ収集	調査・実験等を実施し、データを収集する。	適宜必要に応じて行う。	60分
第12回	データ収集	調査・実験等を実施し、データを収集する。	適宜必要に応じて行う。	60分
第13回	結果の分析	統計解析など、データに応じた方法を用いて分析する。	適宜必要に応じて行う。	60分
第14回	結果の分析	統計解析など、データに応じた方法を用いて分析する。	適宜必要に応じて行う。	60分
第15回	結果の分析	統計解析など、データに応じた方法を用いて分析する。	適宜必要に応じて行う。	60分
第16回	結果の分析	統計解析など、データに応じた方法を用いて分析する。	適宜必要に応じて行う。	60分
第17回	結果の分析・考察	結果の分析結果をまとめ、考察を加えていく。参考文献の収集・講読も並行して行う。	適宜必要に応じて行う。	60分
第18回	結果の分析・考察	結果の分析結果をまとめ、考察を加えていく。参考文献の収集・講読も並行して行う。	適宜必要に応じて行う。	60分
第19回	結果の分析・考察	結果の分析結果をまとめ、考察を加えていく。参考文献の収集・講読も並行して行う。	適宜必要に応じて行う。	60分
第20回	結果の分析・考察	結果の分析結果をまとめ、考察を加えていく。参考文献の収集・講読も並行して行う。	適宜必要に応じて行う。	60分
第21回	結果の分析・考察	結果の分析結果をまとめ、考察を加えていく。参考文献の収集・講読も並行して行う。	適宜必要に応じて行う。	60分
第22回	結果の分析・考察	結果の分析結果をまとめ、考察を加えていく。参考文献の収集・講読も並行して行う。	適宜必要に応じて行う。	60分
第23回	研究成果報告の準備	発表会の抄録を作成する。プレゼンテーションの準備を行う。	適宜必要に応じて行う。	60分
第24回	研究成果報告の準備	発表会の抄録を作成する。プレゼンテーションの準備を行う。	適宜必要に応じて行う。	60分
第25回	研究成果報告の準備	プレゼンテーションの準備を行う。	適宜必要に応じて行う。	60分
第26回	研究成果報告の準備	プレゼンテーションの準備を行う。	適宜必要に応じて行う。	60分
第27回	研究成果報告の準備	プレゼンテーションの準備を行う。	適宜必要に応じて行う。	60分
第28回	発表会	研究成果の発表を行う。全体発表会で他の研究室の発表を聴講し、議論に参加する。	発表内容のおさらい	60分
第29回	発表会	研究成果の発表を行う。全体発表会で他の研究室の発表を聴講し、議論に参加する。	発表内容のおさらい	60分
第30回	発表会	研究成果の発表を行う。全体発表会で他の研究室の発表を聴講し、議論に参加する。	発表内容のおさらい	60分

学習計画注記 研究テーマによっては、上記の内容・進行が変更になることがあります。

学生へのフィードバック方法 都度、研究の方向・内容について助言指導を行う。

評価方法 卒業研究への取り組み姿勢、教員らとのディスカッションの内容、発表内容の完成度等を総合的に評価する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
ディスカッション	○	○	○	
発表会				○

評価割合 取り組み姿勢・ディスカッション50%、発表会50%

使用教科書名 (ISBN番号) なし (研究テーマにより必要に応じて指示する)

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・技能】管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。</p> <p>【思考・判断】学際的な学習を通じて、現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。</p> <p>【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。</p> <p>【技能・表現】体型的学習を通じて、多職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。</p>
オフィスアワー	火曜4時限 1503研究室
学生へのメッセージ	自ら積極的に取り組むことを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、医療の実地臨床において、診療業務や臨床研究等の実務経験を有しており、臨床現場における現状や具体例も呈示しながら教授する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	実践健康栄養プロデュース実習		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・3,4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 城田 直子	指定なし

授業概要(教育目的)	管理栄養士として必要な知識・技術・姿勢などをもとに、社会ニーズの把握、実践力向上を目標に、学内外の実験や実習を通して研究レベルまで発展させる。各研究室への配属をもって、個々あるいはグループで実習テーマを設定し、実習成果に関する発表会を行う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	研究内容(目的, 方法, 結果, 考察など)を理解し, 研究成果について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	常に物事に対して問題意識を持ち, 様々な観点から物事を見ることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	研究に対して意欲を持ち, 積極的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	研究計画書を作成でき, 研究の手法を身につける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	研究および研究倫理とは	研究をはじめるにあたり、「研究とは何か」「研究倫理とは何か」を学ぶ。	各自, 研究および研究倫理について調べておくこと。	60分
第2回	研究テーマに関する先行研究の調査	自分の研究テーマに関して, 先行研究を調査する。そのうえで, 研究内容の構築を行う。	各自, 自分の研究テーマに関する先行研究について, 科学的根拠のある情報を取得し, 調査しておくこと。	240分
第3回	研究テーマに関する先行研究の調査	自分の研究テーマに関して, 先行研究を調査する。そのうえで, 研究内容の構築を行う。	各自, 自分の研究テーマに関する先行研究について, 科学的根拠のある情報を取得し, 調査しておくこと。	240分
第4回	研究計画書とは	研究計画書とはなにかを理解する。	各自, 研究計画書とはなにか調べておくこと。	240分
第5回	研究計画書の作成	先行研究調査結果をふまえて計画書を仕上げる。	研究計画書の例を参考に, 自分自身で計画書を作成してみることに。	120分

第6回	研究計画書の作成	先行研究調査結果をふまえて計画書を仕上げる。	必要に応じて、担当教員とディスカッションを行いながら完成させること。	120分
第7回	病院または本学での研究	病院または本学において、自分のテーマに沿った研究を実践する。	研究日までに、当日の研究作業内容について予習し理解したうえで臨むこと。その日の研究作業内容は速やかにまとめ、考察すること。	60分
第8回	病院または本学での研究	病院または本学において、自分のテーマに沿った研究を実践する。	研究日までに、当日の研究作業内容について予習し理解したうえで臨むこと。その日の研究作業内容は速やかにまとめ、考察すること。	60分
第9回	病院または本学での研究	病院または本学において、自分のテーマに沿った研究を実践する。	研究日までに、当日の研究作業内容について予習し理解したうえで臨むこと。その日の研究作業内容は速やかにまとめ、考察すること。	60分
第10回	ディスカッション	進捗状況および研究内容・結果に関して担当教員とディスカッションを行う。それらに基づき、今後の研究内容の方向付けや必要な作業について確認する。	ディスカッションができるよう、進捗状況や研究内容・結果、自分の考えなどをしっかりまとめておくこと。	120分
第11回	病院または本学での研究	病院または本学において、自分のテーマに沿った研究を実践する。	研究日までに、当日の研究作業内容について予習し理解したうえで臨むこと。その日の研究作業内容は速やかにまとめ、考察すること。	60分
第12回	病院または本学での研究	病院または本学において、自分のテーマに沿った研究を実践する。	研究日までに、当日の研究作業内容について予習し理解したうえで臨むこと。その日の研究作業内容は速やかにまとめ、考察すること。	60分
第13回	病院または本学での研究	病院または本学において、自分のテーマに沿った研究を実践する。	研究日までに、当日の研究作業内容について予習し理解したうえで臨むこと。その日の研究作業内容は速やかにまとめ、考察すること。	60分
第14回	ディスカッション	進捗状況および研究内容・結果に関して担当教員とディスカッションを行う。それらに基づき、今後の研究内容の方向付けや必要な作業について確認する。	ディスカッションができるよう、進捗状況や研究内容・結果、自分の考えなどをしっかりまとめておくこと。	120分
第15回	病院または本学での研究	病院または本学において、自分のテーマに沿った研究を実践する。	研究日までに、当日の研究作業内容について予習し理解したうえで臨むこと。その日の研究作業内容は速やかにまとめ、考察すること。	60分
第16回	病院または本学での研究	病院または本学において、自分のテーマに沿った研究を実践する。	研究日までに、当日の研究作業内容について予習し理解したうえで臨むこと。その日の研究作業内容は速やかにまとめ、考察すること。	60分
第17回	病院または本学での研究	病院または本学において、自分のテーマに沿った研究を実践する。	研究日までに、当日の研究作業内容について予習し理解したうえで臨むこと。その日の研究作業内容は速やかにまとめ、考察すること。	60分
第18回	ディスカッション	進捗状況および研究内容・結果に関して担当教員とディスカッションを行う。それらに基づき、今後の研究内容の方向付けや必要な作業について確認する。	ディスカッションができるよう、進捗状況や研究内容・結果、自分の考えなどをしっかりまとめておくこと。	120分
第19回	本学での研究	本学において、自分のテーマに沿った研究を実践する。	研究日までに、当日の研究作業内容について予習し理解したうえで臨むこと。その日の研究作業内容は速やかにまとめ、考察すること。	60分
第20回	本学での研究	本学において、自分のテーマに沿った研究を実践する。	研究日までに、当日の研究作業内容について予習し理解したうえで臨むこと。その日の研究作業内容は速やかにまとめ、考察すること。	60分

第21回	研究成果をまとめる	病院または本学での研究で得た成果をまとめる。	各自、締め切りまでに仕上げる こと。	240分
第22回	研究成果をまとめる	病院または本学での研究で得た成果をまとめる。	各自、締め切りまでに仕上げる こと。	240分
第23回	研究成果をまとめる	病院または本学での研究で得た成果をまとめる。	各自、締め切りまでに仕上げる こと。	240分
第24回	研究成果をまとめる	病院または本学での研究で得た成果をまとめる。	各自、締め切りまでに仕上げる こと。	240分
第25回	研究成果をまとめる	病院または本学での研究で得た成果をまとめる。	各自、締め切りまでに仕上げる こと。	240分
第26回	発表会に向けての媒体作成	要旨集原稿、発表会用Powerpoint、発表原稿などの発表 会用媒体を作成する。	各自、締め切りまでに仕上げる こと。	240分
第27回	発表会に向けての媒体作成	要旨集原稿、発表会用Powerpoint、発表原稿などの発表 会用媒体を作成する。	各自、締め切りまでに仕上げる こと。	240分
第28回	発表会に向けての媒体作成	要旨集原稿、発表会用Powerpoint、発表原稿などの発表 会用媒体を作成する。	各自、締め切りまでに仕上げる こと。	240分
第29回	発表会に向けての媒体作成	要旨集原稿、発表会用Powerpoint、発表原稿などの発表 会用媒体を作成する。	各自、締め切りまでに仕上げる こと。	240分
第30回	発表会	研究成果を発表する。	発表準備をしておくこと。	120分

学生へのフィードバック方法 研究計画書およびその他の提出物は、添削し返却する。必要に応じてグループワークやディスカッションを行い、理解度を深める適切な方法を取る。

評価方法 評価は、以下の通りに決定する。
・平常点は、参加状況・研究への取り組み・研究態度を総合的に評価する。
・成果物、提出物（研究計画書、研究進捗、研究成果、発表会の原稿など）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
成果物、提出物	○	○	○	○

評価割合 平常点 (50%) , 成果物・提出物 (50%)

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】多面的なカリキュラムの履修により、総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士などの専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。
【思考・判断】食・栄養に関わる諸課題について探究し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的に思考し、戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。
【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。
【技術・表現】体系的学習を通じて、人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的スキルと共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー 水曜日3、4時限

学生へのメッセージ 研究テーマに対して、常に様々な視点から物事を見たり考えたりと、興味を持ってしっかり取り組みましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、病院管理栄養士としての実務経験を有しており、病院給食における栄養管理、NSTIにおける管理栄養士の役割、栄養士活動や栄養ケアプランの作成方法、評価方法、治療食献立の作成や調理に至るまで、臨床現場における管理栄養士の使命について教授している。

アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション
情報リテラシー教育	○	研究計画書
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	総合演習Ⅱ（4年）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金澤 良枝	指定なし
教授	酒井 治子	指定なし
教授	田中 弘之	指定なし
准教授	吉野 知子	指定なし
准教授	城田 直子	指定なし
准教授	加藤 理津子	指定なし

授業概要(教育目的)	給食運営、公衆栄養、臨床栄養Ⅰ・Ⅱ臨地実習で体験した内容について情報交換を行い、テーマ別に学習する。管理栄養士の専門性については、臨地実習先の指導者による講義を通し、さらに理解を深める。本科目は臨地実習の総まとめであり、実習中に記録した実習日誌や実習体験を基に報告会を開催する。報告会の発表準備は、学生個人あるいはグループ毎に行う。この報告会を通して、実習先として選択しなかった施設についても総合的に学習できる。また、後輩学生には、臨地実習の予備知識として役立たせることができる。
履修条件	給食運営臨地実習、臨床栄養Ⅰ臨地実習、公衆栄養または臨床栄養Ⅱ臨地実習をいずれも履修済みであること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	分野別の管理栄養士の使命やそれぞれに求められる資質について理解している。
思考・判断の観点 (K)	臨地実習で選択しなかった分野についても、問題点などを見出し、課題解決に取り組む姿勢を持つことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	各分野に対して関心を持ち、意欲を持って学ぶ。報告会では積極的にディスカッションに参加し、理解を深めることができる。
技術・表現の観点 (A)	各分野における給食運営および栄養管理の技術を習得する。プレゼンテーションの効果を学び、それらの実践力を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	当科目についての説明	特になし	
第2回	外部講師講演(介護保険施設)	介護保険施設の管理栄養士による「臨地実習を通しての総括および介護保険施設の管理栄養士に求められる資質」の講義を受講する。講義後のディスカッションにより、さらに理解を深める。	介護保険施設の管理栄養士について予習しておくこと。3年次の給食運営臨地実習において介護保険施設で実習を行った学生	30分

			は、一通り復習をして講義に臨むこと。	
第3回	外部講師講演（事業所）	事業所の管理栄養士による「臨地実習を通しての総括および事業所の管理栄養士に求められる資質」の講義を受講する。講義後のディスカッションにより、さらに理解を深める。	事業所の管理栄養士について予習しておくこと。3年次の給食運営臨地実習において事業所で実習を行った学生は、一通り復習をして講義に臨むこと。	30分
第4回	外部講師講演（小学校）	小学校の管理栄養士による「臨地実習を通しての総括および小学校の管理栄養士に求められる資質」の講義を受講する。講義後のディスカッションにより、さらに理解を深める。	小学校の管理栄養士について予習しておくこと。3年次の給食運営臨地実習において小学校で実習を行った学生は、一通り復習をして講義に臨むこと。	30分
第5回	課題作成	介護保険施設、事業所、小学校の管理栄養士による講義を受講し、指定課題を作成する。	特になし	
第6回	外部講師講演（保育所）	保育所の管理栄養士による「臨地実習を通しての総括および保育所の管理栄養士に求められる資質」の講義を受講する。講義後のディスカッションにより、さらに理解を深める。	保育所の管理栄養士について予習しておくこと。3年次の給食運営臨地実習において保育所で実習を行った学生は、一通り復習をして講義に臨むこと。	30分
第7回	外部講師講演（保健所・保健センター）	保健所・保健センターの管理栄養士による「臨地実習を通しての総括および保健所・保健センターの管理栄養士に求められる資質」の講義を受講する。講義後のディスカッションにより、さらに理解を深める。	保健所・保健センターの管理栄養士について予習しておくこと。3年次の公衆栄養運営臨地実習において保健所・保健センターで実習を行った学生は、一通り復習をして講義に臨むこと。	30分
第8回	外部講師講演（障がい児・者施設）	障がい児・者施設の管理栄養士による「臨地実習を通しての総括および障がい児・者施設の管理栄養士に求められる資質」の講義を受講する。講義後のディスカッションにより、さらに理解を深める。	障がい児・者施設の管理栄養士について予習しておくこと。3年次の給食運営臨地実習において障がい児・者施設で実習を行った学生は、一通り復習をして講義に臨むこと。	30分
第9回	外部講師講演（病院または老人保健施設）	病院の管理栄養士による「臨地実習を通しての総括および病院の管理栄養士に求められる資質」の講義を受講する。講義後のディスカッションにより、さらに理解を深める。	3年次の臨床栄養臨地実習で学んだ内容については、一通り復習をして講義に臨むこと。	30分
第10回	外部講師講演（病院）	病院の管理栄養士による「臨地実習を通しての総括および病院の管理栄養士に求められる資質」の講義を受講する。講義後のディスカッションにより、さらに理解を深める。	3年次の臨床栄養臨地実習で学んだ内容については、一通り復習をして講義に臨むこと。	30分
第11回	課題作成	保育所、保健所・保健センター、障がい児・者施設、病院の管理栄養士による講義を受講し、指定課題を作成する。	特になし	
第12回	報告会	給食運営・公衆栄養・臨床栄養Ⅰ・Ⅱ臨地実習要旨集を2、3年次にも配布し、それらを参考に複数施設のプレゼンテーションを実施する。プレゼンテーション後のディスカッション、午後のグループワークにより、さらに理解を深める。	配布された各臨地実習要旨集については、事前に目を通しておくこと。報告会でディスカッションすることをふまえ、自分が実習を行った施設について準備しておくこと。	12～14回まで合わせて60分
第13回	報告会	給食運営・公衆栄養・臨床栄養Ⅰ・Ⅱ臨地実習要旨集を2、3年次にも配布し、それらを参考に複数施設のプレゼンテーションを実施する。プレゼンテーション後のディスカッション、午後のグループワークによりさらに理解を深める。	配布された各臨地実習要旨集については、事前に目を通しておくこと。報告会でディスカッションすることをふまえ、自分が実習を行った施設について準備しておくこと。	
第14回	報告会	給食運営・公衆栄養・臨床栄養Ⅰ・Ⅱ臨地実習要旨集を2、3年次にも配布し、それらを参考に複数施設のプレゼンテーションを実施する。プレゼンテーション後のディスカッション、午後のグループワークによりさらに理解を深める。	配布された各臨地実習要旨集については、事前に目を通しておくこと。	
第15回	まとめ・課題作成	報告会により他施設の理解を深め、それらをまとめとした課題を作成する。	特になし	

学習計画注記	※外部講師のご都合により、スケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	提出物は、適宜返却する。
評価方法	評価は合否とする。 ・平常点は、参加状況・授業への取り組み・授業態度を総合的に評価する。 ・提出物

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
提出物	○	○	○	○

評価割合 平常点 (50%) , 提出物 (50%) で評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) なし

ディプロマポリシーとの関連
 【知識・理解】 多面的なカリキュラムの履修により、総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士などの専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。
 【思考・判断】 食・栄養に関わる諸課題について探究し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的に思考し、戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。
 【関心・意欲・態度】 管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。
 【技術・表現】 体系的学習を通じて、人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的スキルと共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー
 金澤 (木曜日1, 2時限) , 田中 (水曜日1, 2時限) , 酒井 (火曜日1時限) , 加藤 (火曜日2時限) , 城田 (水曜日3, 4時限) , 吉野 (水曜日2, 3時限)

学生へのメッセージ
 現場で働く様々な分野の講師 (管理栄養士) を招き講義を開講する貴重な機会です。また、3年次で履修した臨地実習の報告会は、同学年だけではなく後輩も聴講します。臨地実習で選択しなかった分野を学ぶ貴重な機会なので、積極的な姿勢で臨みましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、管理栄養士としての各専門領域の実務経験を有しており、管理栄養士に関する幅広い知識や使命などについて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	プレゼンテーション, ディスカッション
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食物・栄養演習B		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 辻 雅子	指定なし
教授	健康栄養学科 教員	指定なし

授業概要(教育目的)

食物・栄養演習Bと食物・栄養演習Cは必ず連携で単位取得に臨むことが必要である。そのため管理栄養士国家試験科目である社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論について、過去問題等を利用してながら食物・栄養演習Bと食物・栄養演習Cで総合的に学んでもらうことを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	管理栄養士にとって必要な専門的知識について理解し説明できる。
思考・判断の観点 (K)	食・栄養に関わる諸課題解決に向けて、自ら問題点を見つけ、考え判断し説明することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	管理栄養士として社会の人々に貢献するために意欲関心をもった態度で積極的に講義に参加することができる
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	社会・環境と健康	社会・環境と健康について学ぶ(担当:松田(全6回))	社会・環境と健康について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第2回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち①	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて学ぶ(担当:斉藤(全8回))	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第3回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち②(生化学)	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち(生化学)について学ぶ(担当:馬場(全5回))	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち(生化学)について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第4回	食べ物と健康①(基礎食品)	食べ物と健康(基礎食品)について学ぶ(担当:海野(全2回))	食べ物と健康(基礎食品)について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第5回	食べ物と健康	食べ物と健康(調理)について学ぶ(担当:大富(全2回))	食べ物と健康(調理)について	各自が判断(各回最低30分)

	康②(調理)	回))	関連分野の学びの復習をおこなう	分)
第6回	食べ物と健康③(応用食品・食品衛生)	食べ物と健康(応用食品・食品衛生)について学ぶ(担当:林(全5回))	食べ物と健康(応用食品・食品衛生)について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第7回	基礎栄養学	基礎栄養学について学ぶ(担当:海野(全4回))	基礎栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第8回	応用栄養学	応用栄養学について学ぶ(担当:齊藤(全4回))	応用栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第9回	栄養教育論①	栄養教育論について学ぶ(担当:辻(全4回))	栄養教育論について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第10回	栄養教育論②	栄養教育論について学ぶ(担当:酒井(全2回))	栄養教育論について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第11回	臨床栄養学①	臨床栄養学について学ぶ(担当:齊藤(全2回))	臨床栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第12回	臨床栄養学②	臨床栄養学について学ぶ(担当:金澤(全5回))	臨床栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第13回	臨床栄養学③	臨床栄養学について学ぶ(担当:城田(全2回))	臨床栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第14回	公衆栄養学	公衆栄養学について学ぶ(担当:田中(全6回))	公衆栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第15回	給食経営管理論	給食経営管理論について学ぶ(担当:吉野(全7回))	給食経営管理論について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)

学習計画注記	本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、食物・栄養演習B・C併せて講義回数等が変則的になる。
--------	---

学生へのフィードバック方法	基本的に、質問は各担当教員のオフィスアワーの時間等を活用すること。その際に各学生にフィードバックする。全体に返す必要があるものは授業前後の時間を使用して全体へフィードバックする。
---------------	---

評価方法	食物・栄養演習B及びCの定期試験内容は、管理栄養士国家試験科目と同様で200点満点となり、国家試験と出題形式も同様で定期試験を実施する。午前・午後問題範囲で6割以上点数が取れなければBもCも不合格となる。B・Cの出席日数が合わせて3分の2以上なければ定期試験を受けることはできない。
------	---

評価基準	
------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解(K)	思考・判断(K)	関心・意欲・態度(V)	技術・表現(A)
定期試験	○	○		

評価割合	定期試験100%(授業内で行った管理栄養士国家試験出題範囲)
------	--------------------------------

使用教科書名(ISBN番号)	クエスチョン・バンク 管理栄養士 国家試験問題解説(メディックメディア)(978-4-89632-718-2)及びその他プリント
----------------	--

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】管理栄養士として「人間の栄養」につながる専門的知識について理解している。 【思考・判断】管理栄養士として食・栄養に関わる諸課題解決に向けて、自ら問題点を見つけ、考え判断できる。
---------------	--

オフィスアワー	本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、質問等がある場合は各担当教員のオフィスアワーを確認する事。
---------	--

学生へのメッセージ	管理栄養士国家試験出題範囲の各科目の基礎知識の習得はもちろん、科目間のつながりも重要である。国家試験の出題範囲は明確になっているので、出題傾向をきちんと把握するとともに、知識を確実なものにするために各科目のポイントをきちんと深く整理し、学習時間の確保に心掛け、定期試験までに適切な知識を復習し、習得する事が必要である。
-----------	---

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食物・栄養演習C		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限後半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 辻 雅子	指定なし
教授	健康栄養学科 教員	指定なし

授業概要(教育目的)

食物・栄養演習Bと食物・栄養演習Cは必ず連携で単位取得に臨むことが必要である。そのため管理栄養士国家試験科目である社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論について、過去問題等を利用してながら食物・栄養演習Bと食物・栄養演習Cで総合的に学んでもらうことを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	管理栄養士にとって必要な専門的知識について理解し説明できる。
思考・判断の観点 (K)	食・栄養に関わる諸課題解決に向けて、自ら問題点を見つけ、考え判断し説明することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	管理栄養士として社会の人々に貢献するために意欲関心をもった態度で積極的に講義に参加することができる
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	社会・環境と健康	社会・環境と健康について学ぶ(担当:松田(全6回))	社会・環境と健康について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第2回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち①	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて学ぶ(担当:斉藤(全8回))	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第3回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち②(生化学)	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち(生化学)について学ぶ(担当:馬場(全5回))	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち(生化学)について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第4回	食べ物と健康①(基礎食品)	食べ物と健康(基礎食品)について学ぶ(担当:海野(全2回))	食べ物と健康(基礎食品)について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第5回	食べ物と健康	食べ物と健康(調理)について学ぶ(担当:大富(全2回))	食べ物と健康(調理)について	各自が判断(各回最低30分)

	康②(調理)	回))	関連分野の学びの復習をおこなう	分)
第6回	食べ物と健康③(応用食品・食品衛生)	食べ物と健康(応用食品・食品衛生)について学ぶ(担当:林(全5回))	食べ物と健康(応用食品・食品衛生)について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第7回	基礎栄養学	基礎栄養学について学ぶ(担当:海野(全4回))	基礎栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第8回	応用栄養学	応用栄養学について学ぶ(担当:齊藤(全4回))	応用栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第9回	栄養教育①	栄養教育論について学ぶ(担当:辻(全4回))	栄養教育論について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第10回	栄養教育論②	栄養教育論について学ぶ(担当:酒井(全2回))	栄養教育論について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第11回	臨床栄養学①	臨床栄養学について学ぶ(担当:齊藤(全2回))	臨床栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第12回	臨床栄養学②	臨床栄養学について学ぶ(担当:金澤(全5回))	臨床栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第13回	臨床栄養学③	臨床栄養学について学ぶ(担当:城田(全2回))	臨床栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第14回	公衆栄養学	公衆栄養学について学ぶ(担当:田中(全6回))	公衆栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第15回	給食経営管理論	給食経営管理論について学ぶ(担当:吉野(全7回))	給食経営管理論について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)

学習計画注記 本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、食物・栄養演習B・C併せて講義回数等が変則的になる。

学生へのフィードバック方法 基本的に、質問は各担当教員のオフィスアワーの時間等を活用すること。その際に各学生にフィードバックする。全体に返す必要があるものは授業前後の時間を使用して全体へフィードバックする。

評価方法 食物・栄養演習B及びCの定期試験内容は、管理栄養士国家試験科目と同様で200点満点となり、国家試験と出題形式も同様で定期試験を実施する。午前・午後問題範囲で6割以上点数が取れなければBもCも不合格となる。B・Cの出席日数が合わせて3分の2以上なければ定期試験を受けることはできない。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		

評価割合 定期試験100% (授業内で行った管理栄養士国家試験出題範囲)

使用教科書名 (ISBN番号) クエスチョン・バンク 管理栄養士 国家試験問題解説 (メディックメディア) (978-4-89632-718-2) 及びその他プリント

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】管理栄養士として「人間の栄養」につながる専門的知識について理解している。
【思考・判断】管理栄養士として食・栄養に関わる諸課題解決に向けて、自ら問題点を見つけ、考え判断できる。

オフィスアワー 本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、質問等がある場合は各担当教員のオフィスアワーを確認する事。

学生へのメッセージ 管理栄養士国家試験出題範囲の各科目の基礎知識の習得はもちろん、科目間のつながりも重要である。国家試験の出題範囲は明確になっているので、出題傾向をきちんと把握するとともに、知識を確実なものにするために各科目のポイントをきちんと深く整理し、学習時間の確保に心掛け、定期試験までに適切な知識を復習し、習得する事が必要である。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食物・栄養演習D		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 辻 雅子	指定なし
教授	健康栄養学科 教員	指定なし

授業概要(教育目的)

食物・栄養演習Dと食物・栄養演習Eは必ず連携で単位取得に臨むことが必要である。そのため管理栄養士国家試験科目である社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論について、過去問題等を利用しながら食物・栄養演習Dと食物・栄養演習Eで、管理栄養士としての総まとめとしての学びを深めることを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	管理栄養士にとって必要な専門的知識について理解し説明できる。
思考・判断の観点 (K)	食・栄養に関わる諸課題解決に向けて、自ら問題点を見つけ、考え判断し説明することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	管理栄養士として社会の人々に貢献するために意欲関心をもった態度で積極的に講義に参加することができる
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	社会・環境と健康	社会・環境と健康について学ぶ(担当:松田(全4回))	社会・環境と健康について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第2回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち①	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて学ぶ(担当:斉藤(全6回))	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第3回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち②	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて学ぶ(担当:原(全6回))	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第4回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち③(生化学)	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち(生化学)について学ぶ(担当:馬場(全3回))	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち(生化学)について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)

第5回	食べ物と健康①（基礎食品）	食べ物と健康（基礎食品）について学ぶ（担当：海野(全2回)）	食べ物と健康（基礎食品）について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第6回	食べ物と健康②（調理）	食べ物と健康（調理）について学ぶ（担当：大富(全1回)）	食べ物と健康（調理）について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第7回	食べ物と健康③（応用食品・食品衛生）	食べ物と健康（応用食品・食品衛生）について学ぶ（担当：林(全5回)）	食べ物と健康（応用食品・食品衛生）について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第8回	基礎栄養学	基礎栄養学について学ぶ（担当：海野(全4回)）	基礎栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第9回	応用栄養学①	応用栄養学について学ぶ（担当：斉藤(全3回)）	応用栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第10回	応用栄養学②	応用栄養学について学ぶ（担当：原(全2回)）	応用栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第11回	栄養教育論①	栄養教育論について学ぶ（担当：辻(全3回)）	栄養教育論について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第12回	栄養教育論②	栄養教育論について学ぶ（担当：酒井(全2回)）	栄養教育論について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第13回	臨床栄養学①	臨床栄養学について学ぶ（担当：金澤(全4回)）	臨床栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第14回	臨床栄養学②	臨床栄養学について学ぶ（担当：城田(全2回)）	臨床栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第15回	公衆栄養学	公衆栄養学について学ぶ（担当：田中(全5回)）	公衆栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第16回	給食経営管理論	給食経営管理論について学ぶ（担当：吉野(全5回)）	給食経営管理論について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）

学習計画注記 本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、食物・栄養演習D・E併せて講義回数等が変則的になる。

学生へのフィードバック方法 基本的に、質問は各担当教員のオフィスアワーの時間等を活用すること。その際に各学生にフィードバックする。全体に返す必要があるものは授業前後の時間を使用して全体へフィードバックする。

評価方法 食物・栄養演習D及びEの定期試験内容は、管理栄養士国家試験科目と同様で200点満点となり、国家試験と出題形式も同様で定期試験を実施する。午前・午後問題範囲で6割以上点数が取れなければDもEも不合格となる。出席日数が3分の2以上なければ定期試験を受けることはできない。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		

評価割合 定期試験100%（授業内で行った管理栄養士国家試験出題範囲）

使用教科書名 (ISBN番号) クエスチョン・バンク 管理栄養士 国家試験問題解説（メディックメディア）（978-4-89632-718-2）及びその他プリント

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】管理栄養士として「人間の栄養」につながる専門的知識について理解している。
【思考・判断】管理栄養士として食・栄養に関わる諸課題解決に向けて、自ら問題点を見つけ、考え判断できる。

オフィスアワー 本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、質問等がある場合は各担当教員のオフィスアワーを確認する事。

学生へのメッセージ 管理栄養士国家試験出題範囲の各科目の基礎知識の習得はもちろん、科目間のつながりも重要である。国家試験の出題範囲は明確になっているので、出題傾向をきちんと把握するとともに、知識を確実なものにするために各科目のポイントをきちんと深く整理し、学習時間の確保に心掛け、定期試験までに適切な知識を復習し、習得する事が必要である。
管理栄養士の国家試験を受験するのであればきちんと授業を受講して単位を取得できることが望ましい。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食物・栄養演習E		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限後半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 辻 雅子	指定なし
教授	健康栄養学科 教員	指定なし

授業概要(教育目的)

食物・栄養演習Dと食物・栄養演習Eは必ず連携で単位取得に臨むことが必要である。そのため管理栄養士国家試験科目である社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論について、過去問題等を利用しながら食物・栄養演習Dと食物・栄養演習Eで、管理栄養士としての総まとめとしての学びを深めることを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	管理栄養士にとって必要な専門的知識について理解し説明できる。
思考・判断の観点 (K)	食・栄養に関わる諸課題解決に向けて、自ら問題点を見つけ、考え判断し説明することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	管理栄養士として社会の人々に貢献するために意欲関心をもった態度で積極的に講義に参加することができる
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	社会・環境と健康	社会・環境と健康について学ぶ(担当:松田(全4回))	社会・環境と健康について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第2回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち①	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて学ぶ(担当:斉藤(全6回))	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第3回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち②	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて学ぶ(担当:原(全6回))	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)
第4回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち③(生化学)	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち(生化学)について学ぶ(担当:馬場(全3回))	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち(生化学)について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断(各回最低30分)

第5回	食べ物と健康①（基礎食品）	食べ物と健康（基礎食品）について学ぶ（担当：海野(全2回)）	食べ物と健康（基礎食品）について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第6回	食べ物と健康②（調理）	食べ物と健康（調理）について学ぶ（担当：大富(全1回)）	食べ物と健康（調理）について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第7回	食べ物と健康③（応用食品・食品衛生）	食べ物と健康（応用食品・食品衛生）について学ぶ（担当：林(全5回)）	食べ物と健康（応用食品・食品衛生）について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第8回	基礎栄養学	基礎栄養学について学ぶ（担当：海野(全4回)）	基礎栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第9回	応用栄養学①	応用栄養学について学ぶ（担当：斉藤(全3回)）	応用栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第10回	応用栄養学②	応用栄養学について学ぶ（担当：原(全2回)）	応用栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第11回	栄養教育論①	栄養教育論について学ぶ（担当：辻(全3回)）	栄養教育論について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第12回	栄養教育論②	栄養教育論について学ぶ（担当：酒井(全2回)）	栄養教育論について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第13回	臨床栄養学①	臨床栄養学について学ぶ（担当：金澤(全4回)）	臨床栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第14回	臨床栄養学②	臨床栄養学について学ぶ（担当：城田(全2回)）	臨床栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第15回	公衆栄養学	公衆栄養学について学ぶ（担当：田中(全5回)）	公衆栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）
第16回	給食経営管理論	給食経営管理論について学ぶ（担当：吉野(全5回)）	給食経営管理論について関連分野の学びの復習をおこなう	各自が判断（各回最低30分）

学習計画注記 本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、食物・栄養演習D・E併せて講義回数等が変則的になる。

学生へのフィードバック方法 基本的に、質問は各担当教員のオフィスアワーの時間等を活用すること。その際に各学生にフィードバックする。全体に返す必要があるものは授業前後の時間を使用して全体へフィードバックする。

評価方法 食物・栄養演習D及びEの定期試験内容は、管理栄養士国家試験科目と同様で200点満点となり、国家試験と出題形式も同様で定期試験を実施する。午前・午後問題範囲で6割以上点数が取れなければDもEも不合格となる。出席日数が3分の2以上なければ定期試験を受けることはできない。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		

評価割合 定期試験100%（授業内で行った管理栄養士国家試験出題範囲）

使用教科書名 (ISBN番号) クエスチョン・バンク 管理栄養士 国家試験問題解説（メディックメディア）（978-4-89632-718-2）及びその他プリント

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】管理栄養士として「人間の栄養」につながる専門的知識について理解している。
【思考・判断】管理栄養士として食・栄養に関わる諸課題解決に向けて、自ら問題点を見つけ、考え判断できる。

オフィスアワー 本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、質問等がある場合は各担当教員のオフィスアワーを確認する事。

学生へのメッセージ 管理栄養士国家試験出題範囲の各科目の基礎知識の習得はもちろん、科目間のつながりも重要である。国家試験の出題範囲は明確になっているので、出題傾向をきちんと把握するとともに、知識を確実なものにするために各科目のポイントをきちんと深く整理し、学習時間の確保に心掛け、定期試験までに適切な知識を復習し、習得する事が必要である。
管理栄養士の国家試験を受験するのであればきちんと授業を受講して単位を取得できることが望ましい。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	フードサービスビジネス論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 吉野 知子	指定なし

授業概要(教育目的)	給食も含めた中食・外食の運営管理はフードサービスビジネスの1つである。国内外の中食・外食の動向や食のトレンドを学ぶ。また、食マーケットや市場が求めるメニューについての最新情報から商品開発の動向を知る。さらに、商品に付加価値をつけるサービスとホスピタリティーを理解して、総合的にフードサービスを考える。
------------	--

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	国内外の中食・外食の動向や食のトレンドを学び、食マーケットや市場が求めるメニューについての最新情報から商品開発の動向を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	商品に付加価値をつけるサービスとホスピタリティーを理解して総合的にフードサービスを考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	授業内容を理解し正確な情報を収集して課題に関心及び意欲を持って取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	課題の発表をすることによりプレゼンテーション能力の向上を図ることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	フードサービスビジネスの概念	フードサービスビジネスの概念を学ぶ。日本人の食生活における中食・外食の社会的動向とサービスの実態を理解する。		
第2回	サービスとホスピタリティー	サービスとホスピタリティーについての違いとフードサービスビジネスにおけるホスピタリティーの在り方を学ぶ。	課題1「自分の紹介したいお店」について取り組む。市場調査を実施する。	240分
第3回	食生活の領域と現状と課題	日本人の食生活の変遷(内食・中食・外食)を理解する。	課題1「自分の紹介したいお店」について取り組む。プレゼンテーション用PPTを作成する。	240分
第4回	データから読むフードサービスビジネス①	海外及び日本の食糧事情について比較を交え理解する。		
第5回	データから読むフード	海外および日本の食糧事情について比較を交え理解する。		

	サービスビジネス②			
第6回	商品・メニューのマーケティングと開発	商品開発におけるマーケティングの実際と商品化までの流れを学ぶ。	課題2「商品開発：2020年ヒットを狙え」の課題について検討する。	240分
第7回	食の最新トレンド情報	食の最新のトレンドを学びヒット商品の分析をする。	課題2「商品開発：2020年ヒットを狙え」に取り組む。プレゼンテーション用PPTを作成する。	240分
第8回	中食・外食産業	国内の中食・外食産業の最前線について学び今後の動向の予測と課題を探る。	課題3「商品（企業）比較：私はどっち派」に取り組む。情報収集をする。	240分
第9回	マーケティング	マーケティングに伴う調査方法を学ぶ（市場調査、情報収集等）。	課題3「商品（企業）比較：私はどっち派」に取り組む。プレゼンテーション用PPTを作成する。	240分
第10回	課題1店舗紹介：プレゼンテーション	課題1で取り組んだ内容について発表する。	課題1の発表内容についてレポートする。	120分
第11回	課題1店舗紹介：討論	課題1のプレゼンテーション発表内容について討論する。		
第12回	課題2新商品企画：プレゼンテーション	課題2で取り組んだ内容について発表する。	課題2の発表内容についてレポートする。	120分
第13回	課題2新商品企画：討論	課題2の発表内容について討論する。		
第14回	課題3商品（企業）比較：プレゼンテーション	課題3の取り組んだ内容について発表する。	課題3の発表内容についてレポートする。	120分
第15回	課題3企業（商品）比較：討論	課題3の発表内容について討論する。		

学生へのフィードバック方法 講義や課題についての質問等は、研究室への訪問またはe-mailの問い合わせで対応する。

評価方法 平常点とプレゼンテーションで総合的に評価する。
(平常点は授業への参加態度、討論への参加、レポートの提出等で総合的に判断する)

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	
プレゼンテーション		○	○	○

評価割合 平常点 (50%)、プレゼンテーション (50%) で評価する。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】多目的なカリキュラムの履修により、専門的知識と、それらを社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。
【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、正確な情報を収集して判断できる力を身につけている。
【関心・意欲・態度】社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。
【技術・表現】マネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー 水曜日1時限、木曜日1時限

学生へのメッセージ この科目では、市場調査や情報収集を通して、市場のトレンドやフードビジネス現状を捉えてみます。「人が豊かで健康になれるフードサービスとは何か」あなた自身の頭で考え、発信できる力をつけて下さい。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	給食施設（病院、高齢者施設）でのフードサービス、配食サービスの実施経験も症例として指導する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	生活デザイン演習 A		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	1 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 千葉 一博	指定なし
教授	生活デザイン学科 教員	指定なし
准教授	澤田 雅彦	指定なし
准教授	花田 朋美	指定なし
准教授	石綱 史子	指定なし

ナンバリング	D11203M12
授業概要(教育目的)	協働作業による地域活動への参加と、初歩的な情報の収集・整理と発信の方法を体験することにより、能動的かつ自律的な学習態度を身につけ、大学の学習の特徴を理解する。また協働作業を通じて相互理解を図り、大学と学科への所属意識を高める。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	社会の中の諸課題についての知識を得ることができる。
思考・判断の観点 (K)	社会の中の諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	さまざまな課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	必要な情報を収集・分析・整理し、他者に分かりやすく発信することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(7ヶ月のラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業ガイダンス(授業全体の日程と内容の説明)と、オリエンテーションミーティング準備(目的説明・諸注意・班分け等)	オリエンテーションミーティングの実施場所である川越市街の調査。	45分
第2回	オリエンテーションミーティングのまとめと発表の準備	各グループで川越でのオリエンテーションミーティングの内容を整理し発表の準備を行う。	発表会の準備作業。	45分
第3回	オリエンテ	オリエンテーションミーティングについての発表を、ポ	レポートの作成	45分

	一セッションミーティングの発表会	スターセッションの形式で行う。		
第4回	さがみはら環境まつり準備(1)	さがみはら環境まつりと、参加のための準備作業の手順と日程の説明と、学生のグループ分け。	自分が所属するグループの参加内容を確認して、グループ内で協働して準備を進める。	45分
第5回	さがみはら環境まつり準備(2)	各グループのパフォーマンスの内容を理解し、必要な材料等の準備・制作を開始する。	参加のために必要な準備を進める。	45分
第6回	さがみはら環境まつり準備(3)	各グループのパフォーマンスの練習と、材料等の準備・制作を継続する。	参加のために必要な準備を進める。	45分
第7回	さがみはら環境まつり準備(4)	各グループのパフォーマンスの練習と、材料等の準備・制作を継続する。	参加のために必要な準備を進める。	45分
第8回	さがみはら環境まつり準備(5)	各グループのパフォーマンスの練習と、材料等の準備・制作を継続する。	参加のために必要な準備を進める。	45分
第9回	さがみはら環境まつり準備(6)	資材をまとめて梱包作業を行い搬出の準備。	パフォーマンス内容及び自分の役割分担と、資材等の最終確認。	45分
第10回	さがみはら環境まつり参加	さがみはら環境まつりへの参加。開催日は6月13日(土)。場所は相模大野駅北口から徒歩4分の「相模女子大学グリーンホール」。	参加内容の記録の整理。	45分
第11回	さがみはら環境まつり発表準備(1)	各グループごとに、さがみはら環境まつりでの活動内容を整理し、発表の準備をする。	発表会のための資料、発表原稿等の制作。	45分
第12回	さがみはら環境まつり発表準備(2)	さがみはら環境まつりでの活動内容を発表するための準備作業を行う。	発表会のための資料、発表原稿等の制作。	45分
第13回	さがみはら環境まつり発表準備(3)	さがみはら環境まつりでの活動内容を発表するための準備作業を行う。	発表会のための資料、発表原稿等の制作。	45分
第14回	さがみはら環境まつり発表会	さがみはら環境まつりでの活動内容について、グループごとに発表を行う。	レポートのまとめ。	45分
第15回	町田キャンパス研究室・実習室探検	生活デザイン学科の各教員の研究室や演習室・実験室等を訪問し、学科の内容について理解する。	レポートのまとめ。	45分

学習計画注記 授業の進捗状況等の諸事情により学習計画が変わることがあります。

学生へのフィードバック方法 授業中の作業時に口頭でアドバイスと、発表会での講評、報告書へのコメントを行う。

評価方法

- 1) 発表会(発表の内容、構成、プレゼンテーションを5段階で評価)
- 2) レポート(レポートの内容を10段階で評価)
- 3) さがみはら環境まつり当日の取り組み(内容、対象者とのコミュニケーション、取り組みの姿勢を各5段階で評価)
- 4) 平常点(発言・質問・提案の内容と、協働作業の状況、課題への取り組みの姿勢を、各5段階で評価)

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
発表会	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○
さがみはら環境まつり当日取り組み	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合 発表と発表会25%、レポート30%、平常点25%、さがみはら環境まつり当日の参加状況20%

使用教科書名 (ISBN番号)	適宜、資料を印刷・配付する。
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 社会の中の諸課題についての知識を得ることができる。 【思考・判断】 社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。 【関心・意欲・態度】 さまざまな課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。 【技術・表現】 必要な情報を収集・分析・整理し、他者に分かりやすく発信することができる。
オフィスアワー	千葉：金曜3限・1411研究室／石綱：火曜4限・3609室／花田：火曜日12:30～14:00・2407研究室／澤田：水曜3限・1503研究室
学生へのメッセージ	生活デザイン学科に共通する学びのあり方を体験できる授業です。積極的に参加して下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題に関して、自ら調べ、グループで協同作業を行い実行する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	現代生活論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 生活デザイン学科 教員	指定なし

ナンバリング	D21201M21
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門分野に関わる問題について、共通のテーマに基づき、学科の教員が各々の専門分野の立場から講義を行う。様々な立場からの講義を通して、生活デザインに関する問題は、多角的・複合的な視点で考える必要があることを理解し、現代の生活における生活デザインの意義と役割を考える。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	生活デザイン学科の学習内容と方法の特徴を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	生活デザイン学科の各専門分野を関連づけて、さまざまな課題を考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会の中の諸課題に主体的かつ複眼的に関心を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション (澤田)	授業の進め方と学期末のレポート課題の説明	レポートの課題内容の確認。	180分
第2回	生活デザイン学科で学ぶこと① (花田)	「今なぜ『生活デザイン学科で学ぶこと』を考えるのか」という問いを起点として、私たちの日々の生活は世界と繋がっていることを解説する。自らの考えを発信し、行動することの重要性について理解する。	SDGsについて理解し、自分ができることは何かを考える。	180分
第3回	生活デザイン学科で学ぶこと② (小池)	大学で研究をおこなうために必要となる科学的思考力、論理的思考力の重要性について理解する。	新聞・雑誌記事などを読み、クリティカルシンキングを実践する。	180分
第4回	生活デザイン学科で学ぶこと③ (齋藤)	生活の中のデザインを科学し、身近にあるデザインで楽しいワークを構想し、教育改革のデザインにまで応用可能なことを学ぶ。(スティックのり・はさみ持参のこと)	授業で体験したことを、発展的に応用する。	180分

第5回	生活デザイン学科で学ぶこと④ (富田)	「発想」とはどういうことか。「発想力」を鍛える方法があるのだろうか。舞台衣装のデザイン発想の流れに沿って「発想」のプロセスを理解する。また、アイデア発想法を使って物事を違う方向から見て連想する。	授業で紹介した発想法を日常の物事でも試してください。	180分
第6回	生活デザイン学科で学ぶこと⑤ (白井)	「私の歩み」と題し、自分自身の大学から現在までの教育・研究活動と関連づけながら「私の考える生活デザイン」及び「大学での学び」について説明するので、それぞれが、「生活デザイン」及び「大学での学び」について説明できるようにする。授業は板書及び実物投影機を使用して行う。	【予習】前週の授業の最後に渡した資料「学びのティップス（大学で鍛える思考法）」を読んだ上で、授業に臨むこと。 【復習】返却したミニレポートへのコメントについて目を通しておくこと。	180分
第7回	生活デザイン学科で学ぶこと⑥ (澤田)	博物館や美術館のおもしろさを、近隣の博物館・美術館や開催されている展覧会を紹介しながら解説します。	博物館・美術館に行ってみましょう。	180分
第8回	生活デザイン学科で学ぶこと⑦ (呉)	目には見えない情報を可視化することで伝えることができる。そのための表現とは如何なることかを考える。事例を見せながら解説する。	現代社会は情報で溢れている。どうすればその情報社会で良い暮らしができるかを考える。またその情報はどのような表現になっているのかを考える。	180分
第9回	生活デザイン学科で学ぶこと⑧ (森)	言語はコミュニケーションの重要なツールである。授業では人間が言語をどのように習得するのかについて学びを深めていく。	授業内容から発展し、言語の役割について考えをまとめる。	180分
第10回	生活デザイン学科で学ぶこと⑨ (千葉)	ゲーム理論について知り、関わり合いを数理的に表現することを考える。何かのためになるとか、何かの役に立つとかは考えない。	ゲーム理論について復習すること。身の周りの関わり合いを数理的に考えてみるとなおい。	180分
第11回	生活デザイン学科で学ぶこと⑩ (佐々木)	快適な生活を営むためにはどのように考え行動するのがよいのかを考えるために、衣服の選択と洗濯を例に挙げて解説する。衣服の管理の方法について理解する。	レポートの課題内容の確認。衣生活を振り返る。	180分
第12回	生活デザイン学科で学ぶこと⑪ (深石)	デザインは、カタチのないもの（ソフト面）に求められることも多い。まちづくり活動を事例として、企画の立案・実施のプロセスを交えて解説する。デザインする際に重要なものが何かを理解する。	今後の学内外での活動についてどう向き合い、取り組むべきかを考える。	180分
第13回	生活デザイン学科で学ぶこと⑫ (石綱)	私たちの生活の中にある植物を使った空間デザインを実例を挙げて解説する。暮らしの中にある植物の特徴と役割を理解する。	レポートの課題内容の確認。身近にある植物を観察する。	180分
第14回	生活デザイン学科で学ぶこと⑬ (原口)	住宅の購入とリフォームについて、実例を写真で見せながら、住宅の買い方、価格、リフォームについて考察してもらい、今後の学びの重要性について理解を促す。	現在の自宅を買った、借りた経緯と面積、価格を調べる。リフォーム歴がある場合は、その内容やコストも調べる。	180分
第15回	まとめ（澤田）	全体のまとめとレポートの作成について	レポートの作成	180分

学習計画注記	授業計画は変更される可能性があります。
学生へのフィードバック方法	毎回の授業で提出してもらったミニレポートは、その授業を担当した教員が採点して、次の授業の最後に返却する。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業の最後にA5版のミニレポートを作成して提出する。（ミニレポートの用紙は毎回の授業の始めに配付。） ミニレポートについては、その日の授業の内容が的確に理解できているか、そして授業内容についての自分の考えが、整理されて分かりやすく説明されているか否かという観点で評価し、その評価結果を平常点とする。 学期末レポートは第1回授業で課題内容をくわしく説明する。最終回の授業終了後に、授業全体の総括として作成し提出すること。 学期末レポートは、14名の教員の講義のうち、複数の講義の内容を関連づけ、それをふまえて自分が生活デザイン学科で学びたいことが、分かりやすく説明されているか否かという観点で評価する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	
学期末レポート	○	○	○	

評価割合	平常点50%と学期末レポート50%で評価する。	
使用教科書名 (ISBN番号)	なし	
参考図書	なし	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】生活デザイン学科の各分野についての知識を得て、その特徴について深く理解する。 【思考・判断】多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持つこと。	
オフィスアワー	水曜日3時限目 1503研究室（澤田）	
学生へのメッセージ	この授業を通して、生活デザイン学科で学ぶ目的と意義を、改めて考え直してみてください。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	第13回の担当教員（石網）は、植物園および大学研究機関で庭や植物コレクションの栽培管理業務に従事した実務経験を有している。実務経験をもとに、植物と空間デザインと生活の関わりについて解説する。第14回の担当教員（原口）は、約20年間の建築設計監理経験を有しており、講義で述べる住宅の購入、リフォーム、運用については戸建て住宅10棟の実績がある。その実務経験から得られた知識を、教授する。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークで作業や分析を行う授業があります。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究A (岩見)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 岩見 哲夫	指定なし

ナンバリング	D41209M22
授業概要 (教育目的)	家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究成果のまとめは、論文とする。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究の方法の検討、論文のまとめ及びプレゼンテーションと一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とすることを目的とする。
履修条件	3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していること。

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	家政学及びそれに関連する分野のより進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる
思考・判断の観点 (K)	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、その解決に取り組むことができる
技術・表現の観点 (A)	習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形や文章として表現できる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	ガイダンス	卒業研究の進め方、実験室の利用方法、器具・薬品類の種類・利用方法を説明する。	自分の予定で自主的に利用できるようにしておく。	90分
第2回	基礎知識の修得	材料となる生物に関することからや実験方法の詳細等について、文献等を用いて解説する。	実験材料や実験方法に関する情報を整理し、考察の際に利用できるようにしておく。	90分
第3回	実験計画・実験作業	自分が設定した手順やスケジュールに従って、実験を計画・実行する。	実験を計画的に継続して行う。	90分
第4回	実験計画・実験作業	自分が設定した手順やスケジュールに従って、実験を計画・実行する。	実験を計画的に継続して行う。	90分
第5回	実験計画・実験作業	自分が設定した手順やスケジュールに従って、実験を計画・実行する。	実験を計画的に継続して行う。	90分
第6回	実験計画・実験作業	自分が設定した手順やスケジュールに従って、実験を計画・実行する。	実験を計画的に継続して行う。	90分

第7回	実験計画・実験作業	自分が設定した手順やスケジュールに従って、実験を計画・実行する。	実験を計画的に継続して行う。	90分
第8回	実験計画・実験作業	自分が設定した手順やスケジュールに従って、実験を計画・実行する。	実験を計画的に継続して行う。	90分
第9回	実験計画・実験作業	自分が設定した手順やスケジュールに従って、実験を計画・実行する。	実験を計画的に継続して行う。	90分
第10回	実験計画・実験作業	自分が設定した手順やスケジュールに従って、実験を計画・実行する。	実験を計画的に継続して行う。	90分
第11回	結果の解析・考察	実験によって得られた結果をまとめ、解析・考察する。	解析・考察を継続して行う。	90分
第12回	結果の解析・考察	実験によって得られた結果をまとめ、解析・考察する。	解析・考察を継続して行う。	90分
第13回	結果の解析・考察、卒業研究要旨作の作成	実験によって得られた結果をまとめ、解析・考察する。また、その検討結果等を要旨としてまとめる。	解析・考察を継続して行う。要旨の作成を進める。	90分
第14回	結果の解析・考察、卒業研究要旨作の作成	実験によって得られた結果をまとめ、解析・考察する。また、その検討結果等を要旨としてまとめる。	解析・考察を継続して行う。要旨の作成を進める。	90分
第15回	プレゼンテーションの準備	結果と考察をまとめ、発表資料として完成させる。口頭発表に向けた準備を進める。	発表の準備をしておく。	90分

学習計画注記 実験等の作業のスケジュールや内容については、履修者の状況や研究の進捗度合いによって適宜再検討し変更が必要となります。これらの事態に対応できるよう、卒業研究への優先度を上げて臨むこと。

学生へのフィードバック方法 実験計画・実験作業・結果の分析・考察等、必要に応じてその都度、助言・講評・添削を行う。

評価方法 研究に取り組む姿勢、スケジュール管理、プレゼンテーション・論文の内容等について、以下のような基準で評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
研究への姿勢		○	○	
プレゼンテーション	○	○	○	○
卒業研究論文	○	○	○	○

評価割合 研究要旨の合否判定
発表会におけるプレゼンテーションの合否判定
上記の2項目に対する評価を総合的に判断して100%の評価割合とする

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 必要に応じて文献を紹介する。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】 家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を得て、その理解を深めることができる。
【思考・判断】 社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察することができる。
【関心・意欲・態度】 社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
【技能・表現】 課題解決に必要な情報を収集・分析・整理することができる。成果を効果的にプレゼンテーションすることができる。

オフィスアワー 前期 火曜日2限・昼休み・3限 (10:40~12:30) 生物学研究室 (2205)
相談を希望する学生は、可能な限りGmailを用いて予約をしてください。

学生へのメッセージ 自ら考え、主体的に取り組むことが重要です。そのためには、指導教員とのコミュニケーションが必要となりますので、疑問に感じた点、判断に困ることなどは必ず相談して下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング	○	全てのプロセスにおいて、主体的に提案し意見を述べ、ディスカッションしながら進める。
情報リテラシー教育	○	全てのプロセスにおいて、得られた情報の信憑性や精度について検討を加えながら進める。また、情報発信の手法や研究上のコンプライアンスについても指導する。
ICT活用	○	適宜、情報の収集や分析、さらにはプレゼンテーション等にPCを利用する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究A (小口)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小口 悦子	指定なし

ナンバリング	D41209M22
授業概要(教育目的)	卒業研究の履修には、3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していることを条件とする。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。卒業研究の内容は、家政学及びそれに関連する分野とする。形式は、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも差し支えないが、教員の指導によるものとする。なお、共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。
履修条件	3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していることを条件とする。 また、食領域の教員を希望する場合は、食科学演習(3年次後期開講)を習得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	研究テーマについてその先行研究についてその内容を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	研究上で得られた様々な情報や経過・結果について分析・考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	研究のプロセスにおいて課題解決をするために自主的に学習を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	研究成果についてその目的、方法、結果、考察について理論的な報告ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	指導教員による個別指導(1)	研究テーマに関して、その方向性や具体的な手法についてその進捗にあわせたディスカッションを行う。 また研究テーマについて、実習、実験、調査を進める。	文献検索、先行研究等の調査を行うこと。研究テーマの研究計画に沿って実施した内容をまとめておくこと。	120分
第2回	指導教員による個別指導(2)	研究テーマに関して、その方向性や具体的な手法や経過、結果についてその進捗にあわせたディスカッションを行う。 また研究テーマについて、実習、実験、調査を進める。	文献検索、先行研究等の調査を行うこと。研究テーマの研究計画に沿って実施した内容をまとめておくこと。	120分
第3回	指導教員による個別指導(3)	研究テーマに関して、その方向性や具体的な手法や経過、結果についてその進捗にあわせたディスカッションを行う。 また研究テーマについて、実習、実験、調査を進める。	文献検索、先行研究等の調査を行うこと。研究テーマの研究計画に沿って実施した内容をまとめておくこと。	120分

第4回	指導教員による個別指導 (4)	研究テーマに関して、その方向性や具体的な手法や経過、結果についてその進捗にあわせたディスカッションを行う。 また研究テーマについて、実習、実験、調査を進める。	文献検索、先行研究等の調査を行うこと。研究テーマの研究計画に沿って実施した内容をまとめておくこと。	120分
第5回	指導教員による個別指導 (5)	研究テーマに関して、その方向性や具体的な手法や経過、結果についてその進捗にあわせたディスカッションを行う。 また研究テーマについて、実習、実験、調査を進める。	文献検索、先行研究等の調査を行うこと。研究テーマの研究計画に沿って実施した内容をまとめておくこと。	120分
第6回	指導教員による個別指導 (6)	研究テーマに関して、その方向性や具体的な手法や経過、結果についてその進捗にあわせたディスカッションを行う。 また研究テーマについて、実習、実験、調査を進める。	文献検索、先行研究等の調査を行うこと。研究テーマの研究計画に沿って実施した内容をまとめておくこと。	120分
第7回	指導教員による個別指導 (7)	研究テーマに関して、その方向性や具体的な手法や経過、結果についてその進捗にあわせたディスカッションを行う。 また研究テーマについて、実習、実験、調査を進める。	文献検索、先行研究等の調査を行うこと。研究テーマの研究計画に沿って実施した内容をまとめておくこと。	120分
第8回	指導教員による個別指導 (8)	研究テーマに関して、その方向性や具体的な手法や経過、結果についてその進捗にあわせたディスカッションを行う。 また研究テーマについて、実習、実験、調査を進める。	文献検索、先行研究等の調査を行うこと。研究テーマの研究計画に沿って実施した内容をまとめておくこと。	120分
第9回	指導教員による個別指導 (9)	研究テーマに関して、その方向性や具体的な手法や経過、結果についてその進捗にあわせたディスカッションを行う。 また研究テーマについて、実習、実験、調査を進める。	文献検索、先行研究等の調査を行うこと。研究テーマの研究計画に沿って実施した内容をまとめておくこと。	120分
第10回	指導教員による個別指導 (10)	研究テーマに関して、その方向性や具体的な手法や経過、結果についてその進捗にあわせたディスカッションを行う。 また研究テーマについて、実習、実験、調査を進める。	文献検索、先行研究等の調査を行うこと。研究テーマの研究計画に沿って実施した内容をまとめておくこと。	120分
第11回	指導教員による個別指導 (11)	研究テーマに関して、その方向性や具体的な手法や経過、結果についてその進捗にあわせたディスカッションを行う。 また研究テーマについて、実習、実験、調査を進める。	文献検索、先行研究等の調査を行うこと。研究テーマの研究計画に沿って実施した内容をまとめておくこと。	120分
第12回	指導教員による個別指導 (12)	研究テーマに関して、その方向性や具体的な手法や経過、結果についてその進捗にあわせたディスカッションを行う。 また研究テーマについて、実習、実験、調査を進める。	文献検索、先行研究等の調査を行うこと。研究テーマの研究計画に沿って実施した内容をまとめておくこと。	120分
第13回	発表要旨の作成	指定された要旨の書式に合わせて、目的、方法、結果、考察、今後の課題をまとめる。	添削された要旨の修正を行うこと。	120分
第14回	プレゼン資料の作成	作成された資料を基に口頭発表内容についての打ち合わせをこない、プレゼン資料を完成させる。	添削された資料を修正すること。	120分
第15回	分野別発表会	作成した資料を基に指定時間内で発表を行う。	作成した資料の確認、口頭発表の練習を行う。	120分

学習計画注記 進捗によっては、予定した時間外での指導を行うことがあります。

学生へのフィードバック方法 毎週の授業内で個別指導を行うとともに、必要な状況では、随時、個別指導を行います。

評価方法
 1) 研究要旨の合否判定
 2) 発表会におけるプレゼンテーションの合否判定
 1)、2) 全てに合格した場合、総合的(100%)に評価する

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
研究要旨	○	○	○	○
研究発表	○	○	○	○

評価割合
 1) 研究要旨の合否判定
 2) 発表会におけるプレゼンテーションの合否判定
 1)、2) 全てに合格した場合、総合的(100%)に評価する

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】グローバルな視点から知識を深めている。</p> <p>【思考・判断】社会中にある諸課題を自ら発見し、理論的に分析し考察できる。また、多様な情報を客観的に理解、判断して行動できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚をもって責任を果たすことができる。</p> <p>【技術・関心】家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている。</p>
オフィスアワー	水曜日12時10分～13時 2108研究室
学生へのメッセージ	指導教員による個別指導では、事前に十分な準備をして望むこと。また、研究は予定通り進まないこともあるため、時間の余裕をもって計画・実施することを心掛けること。 また、研究上の疑問や方向性に不安なことがある場合は、すぐに相談に来ること。2208室(または、email)を訪ねること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究A（白井）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 白井 篤	指定なし

ナンバリング	D41209M22
授業概要(教育目的)	家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究成果のまとめは、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも良いが、研究内容を考慮し、教員の指導に基づき形式を選択する。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究方法の検討、そして、論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とすることを目的とする。
履修条件	卒業研究の履修には、3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していることを条件とする。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。卒業研究の内容は、家政学及びそれに関連する分野とする。形式は、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも差し支えないが、教員の指導によるものとする。なお、共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	卒業論文を作成するために必要な専門的知識・技術を有している。
思考・判断の観点 (K)	社会の中にある住分野の課題について、論理的に分析し考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会の中にある住分野の諸問題について積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じて、その解決策を立案できる。
技術・表現の観点 (A)	課題解決に必要な情報を集めて分析・整理でき、その課題解決策を発信できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)
第1回	ガイダンス（卒業論文とは）	論文とレポートの違いを理解できる。
第2回	既往の研究の調査（1）	課題解決に必要な資料や情報などを収集する。
第3回	既往の研究の調査（2）	課題解決に必要な資料や情報などを収集する。
第4回	研究計画の立案（1）	課題解決に向けて、研究計画を立案する。
第5回	研究計画の立案（2）	課題解決に向けて、研究計画を立案する。
第6回	実験もしくは調査の実施（1）	課題解決に向けて、実験もしくは調査を実施する。
第7回	実験もしくは調査の実施（2）	課題解決に向けて、実験もしくは調査を実施する。

第8回	実験もしくは調査の実施（3）	課題解決に向けて、実験もしくは調査を実施する。
第9回	実験もしくは調査の実施（4）	課題解決に向けて、実験もしくは調査を実施する。
第10回	実験もしくは調査結果の取りまとめ（1）	実験もしくは調査結果について取りまとめる。
第11回	実験もしくは調査結果の取りまとめ（2）	実験もしくは調査結果について取りまとめると共に、分析や整理を行う。
第12回	実験もしくは調査結果の取りまとめ（3）	取りまとめ作業に基づいて、論文を作成する。
第13回	実験もしくは調査結果の取りまとめ（4）	論文を作成すると共に、要旨（梗概）作成の準備を行う。
第14回	卒業論文の要旨の作成	卒業論文の要旨を作成する。
第15回	卒業研究発表会の準備	卒業研究発表会に向けた準備（パワーポイントの作成）を行う。

学生へのフィードバック方法	成果物については、随時、アドバイスをし、レベルの高い卒業研究となるように指導する。
---------------	---

評価方法	成果物、要旨、発表会の3つで総合的に評価する。
------	-------------------------

評価基準	
------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
成果物	○	○		○
要旨	○	○		○
発表会	○	○	○	○

評価割合	成果物、要旨、発表会の3つの総合評価
------	--------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	特になし
-----------------	------

参考図書	特に、参考書はないが、研究のテーマにより、各自に必要な書籍や論文などを紹介する。
------	--

ディプロマポリシーとの関連	知識・理解の観点 (K) : 卒業論文を作成するために必要な専門的知識・技術を有している。 思考・判断の観点 (K) : 社会の中にある住分野の課題について、論理的に分析し考察することができる。 関心・意欲・態度 (V) : 社会の中にある住分野の諸問題について積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じて、その解決策を立案できる。 技術・表現の観点 (A) : 課題解決に必要な情報を集めて分析・整理でき、その課題解決策を発信できる。
---------------	---

学生へのメッセージ	指導教員による個別指導では、事前に十分な準備をして望むこと。
-----------	--------------------------------

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	主体的な体験学習を通して、課題発見能力・課題解決能力を養う。
情報リテラシー教育	○	課題を解決する上で、図書館の利用方法、文献探索方法などの情報活用能力を養う。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究A（原口）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 原口 秀昭	指定なし

ナンバリング	D41209M22
授業概要(教育目的)	社会の中からテーマを自ら探し出し、敷地条件、建物機能、面積、高さ等を自ら設定し、コンセプトワーク、建築の設計製図、A1用紙やパワーポイントでのプレゼンテーションを行う。社会の中から問題を抽出し、分析、考察し、問題解決の具体的解決策を建築物として表現する。その際、3年次までに蓄積した製図、パース、模型作成の技術、計画、環境、構造、施工等の知識を活用、応用し、技術、知識をより確かなものとする。
履修条件	卒業研究の履修には、3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していることを条件とする。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	建築物の計画、機能、面積配分、ゾーニング、基本寸法、基準寸法、RC造、S造の構造が分かる。
思考・判断の観点 (K)	建築物の設計案に対して、その設計、デザイン、機能の良否、可否を考え判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	建築物のデザイン、設計に関心を持ち、自らの設計、デザインに意欲的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	建築物における基本設計、平面図、立面図、断面図の作図、パース、模型の制作ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	卒業研究の進め方、評価などの説明をする。その後資料集め、コンセプトの考察。	設計したい建築物、設計したい敷地、挑戦してみたい設計競技などを考えておく。	120分
第2回	コンセプトワーク	コンセプトボードを使ってグループ内で発表し、教員の講評を受ける。コンセプトを考え、エスキースを始める。	卒業研究のコンセプトをまとめたコンセプトボード(A3)をつくる。	120分
第3回	コンセプトワークの修正	再度、コンセプトワークをまとめたコンセプトボードを発表、教員の講評を受ける。	講評を受けて、新たなコンセプトボードを作成する。	120分
第4回	エスキース	コンセプトボードを元にエスキースした成果を発表、教員から講評を受ける。	コンセプトボードを元にエスキースをする。エスキースにはスタディ模型も併用する。	240分

第5回	エスキースの修正	修正したエスキースを発表し、教員から講評を受ける。	前回の講評を受けて、エスキースを修正する。スタディ模型も併用する。	240分
第6回	エスキースの確定	再再度のエスキースを発表し、教員の講評を受けて確定する。	再再度のエスキースの手直しを行う。スタディ模型も併用する。	240分
第7回	平面図の作成	平面図を作成し、教員の講評を受ける。	平面図を作成する。	120分
第8回	平面図の修正	修正された平面図を提示し、教員の講評を受ける。	前回の講評を元に、平面図を修正する。	120分
第9回	断面図の作成	断面図を作成して、教員の講評を受ける。	平面図を見ながら断面図を作成する。	120分
第10回	断面図の修正	修正された断面図を提示し、教員の講評を受ける。	前回講評された断面図を修正する。	120分
第11回	立面図の作成	立面図を作成し、教員の講評を受ける。	平面図、断面図を見ながら、立面図を作成する。	120分
第12回	立面図の修正	修正した立面図を提示し、教員の講評を受ける。	前回講評された断面図を修正する。	120分
第13回	パースの作成	パースを作成し、教員の講評を受ける。	パースを作成する。	240分
第14回	模型の作成	模型を作成し、教員の講評を受ける。	平面図、断面図、立面図から模型を作成する。	240分
第15回	ポスターセッション (展示発表会)	自分の作品を展示発表し、全教員の講評を受ける。	模型の写真を撮り、図面、パースと共にレイアウトする。	480分

学生へのフィードバック方法 毎回、教員が学生のエスキース、図面、模型などを評価し、その都度、助言を与え、修正などの指示を与える。

評価方法 ポスターセッション（発表会）で作品を展示発表し、機能、デザイン、プレゼンテーションの3つの評価軸で採点する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
設計作品の展示、発表	○	○	○	○

評価割合 課題作品の評価と出席による。配点は課題評価80%。課題評価のうち、第1作品40%、第2作品40%。平常点20%。
1), 2) 全てに合格した場合、総合的(100%)に評価する

使用教科書名 (ISBN番号) 新しい建築の製図編集委員会編「新しい建築の製図」学芸出版 (4-7615-2375-1)

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】「住」の建築物についての専門的知識を有している。
【思考・判断】社会にある建築物の基本設計を理解して良否、可否を判断できる。
【関心・意欲・態度】社会にある建築物に関心を持ち、デザインに意欲を持つ。
【技術・表現】建築物の設計を立案でき、社会に対して洗練された表現力で提示できる。

オフィスアワー 金曜2限時 3602研究室

学生へのメッセージ 3年までの設計製図において、建築物の各部寸法や平面図、断面図、立面図（展開図）、パース、模型の作成の技術を習得しました。同時に計画、環境、構造、施工の知識も養いました。卒業研究ではその集大成としての設計製図です。デザインを楽しみながら演習に取り組むことで、さらなる技量の向上を目指してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、約20年の設計監理の実務経験がある。卒業研究の設計指導にあたり、実務で学んだ設計、デザインの知識を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	毎回小人数グループで、設計製図の指導を演習を通して行う。

情報リテラシー 教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究A（呉）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 呉 起東	指定なし

ナンバリング	D41209M22
授業概要(教育目的)	家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究成果のまとめは、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも良いが、研究内容を考慮し、教員の指導に基づき形式を選択する。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究方法の検討、そして、論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とすることを目的とする。
履修条件	卒業研究の履修には、3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していることを条件とする。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。卒業研究の内容は、家政学及びそれに関連する分野とする。形式は、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも差し支えないが、教員の指導によるものとする。なお、共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点 (K)	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

卒業研究A

回	授業テーマ	学習内容(7ヶティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業の進行方法の説明を行う。卒業研究又作品制作のテーマを考える。	自身の関心のあるテーマを整理しておくこと。	90分
第2回	卒業研究のテーマを検討	卒業研究のテーマを検討し、研究の背景、目的、方法を考える。	研究の計画やスケジュールを作成	90分
第3回	先行研究の調査1	先行研究の調査を行い発表及びディスカッションを行う	先行研究の調査を行いまとめる	90分
第4回	先行研究の調査2	先行研究の調査を行い発表及びディスカッションを行う	先行研究の調査を行いまとめる	90分

第5回	研究調査 1	研究計画に沿って研究資料を収集	調査を結果をまとめる	90分
第6回	研究調査 2	研究計画に沿って研究資料を収集	調査を結果をまとめる	90分
第7回	論文執筆又は作品制作 1	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う	論文執筆又は作品制作を行う	90分
第8回	論文執筆又は作品制作 2	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う	論文執筆又は作品制作を行う	90分
第9回	論文執筆又は作品制作 3	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う	論文執筆又は作品制作を行う	90分
第10回	論文執筆又は作品制作 4	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う	論文執筆又は作品制作を行う	90分
第11回	論文執筆又は作品制作 5	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う	論文執筆又は作品制作を行う	90分
第12回	論文執筆又は作品制作 6	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う	論文執筆又は作品制作を行う	90分
第13回	論文執筆又は作品制作 7	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う	論文執筆又は作品制作を行う	90分
第14回	発表の準備	発表の準備や卒業研究要旨を作成	研究要旨を完成する	90分
第15回	発表の準備	卒業研究要旨の修正及び完成と発表の練習	プレゼンテーション資料を完成する	90分

学生へのフィードバック方法 毎回授業の最後に感想や質問を提出させて、次回に感想や質問について解説を行う。別の質問などがある場合は研究室1307 (E-mailも可) まで訪問すること。

評価方法 論文又は作品は70点満点で課題の結果と研究発表会で評価を行う。評価の基準は3つの基準は「独創性」「論文又は作品の完成度」「デザイン性」で5段階評価を行う。平常点は30点満点で15回を通して「背極的な授業の参加、態度」「背極的なディスカッション」を基準に加点及び減点を行います。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
論文又は作品	○	○	○	○
平常点		○	○	

評価割合 論文又は作品は70%
平常点は30%

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】 家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。
【思考・判断】 社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。
【関心・意欲・態度】 社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
【技能・表現】 課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。

学生へのメッセージ 指導教員による個別指導では、事前に十分な準備をして望むこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	主体的な体験学習を通して、課題発見能力・課題解決能力を養う。
情報リテラシー教育	○	課題を解決する上で、図書館の利用方法、文献探索方法などの情報活用能力を養う。

シラバス参照

講義名	卒業研究A (澤田)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 澤田 雅彦	指定なし

ナンバリング	D41209M22
授業概要(教育目的)	家政学と、それに関連する研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究の成果は、その内容を考慮して、教員の指導に基づき、論文・計画設計図書・制作等の形式を選択してまとめる。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とする。
履修条件	卒業要件単位を90単位以上修得していること。
学習目標(到達目標)	
学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点 (K)	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	研究テーマの検討	研究のテーマと目的、作品制作の場合は制作の意図を考えるとともに、研究の意義と方向性を考える。	研究テーマ検討の継続。	90分
第2回	研究テーマと研究計画の検討(1)	研究のテーマと内容を具体的に考え、研究の進め方を検討する。	研究テーマ検討の継続と研究計画の作成。	90分
第3回	研究テーマと研究計画の検討(2)	研究のテーマと内容を具体的に考え、研究の進め方を決定する。	研究テーマ検討の継続と研究計画の作成。	90分
第4回	資料調査(1)	研究の方法と目的を明確にし、必要な資料を収集する。	資料収集とその内容の確認。	90分
第5回	資料調査	研究の方法と目的を明確にし、必要な資料を収集する。	資料収集とその内容の確認。試	90分

	(2)	研究内容が制作ならば、試作品の制作も併行して進める。	作品の制作。	
第6回	資料調査 (3)	研究の方法と目的を明確にし、必要な資料を収集する。研究内容が制作ならば、試作品の制作も併行して進める。	資料収集とその内容の確認。試作品の制作。	90分
第7回	調査結果のまとめと考察 (1)	調査結果を整理して、必要に応じて研究の方向を修正し、作品の制作や報告書の作成を進める。	資料収集とその内容の確認。作品の制作、調査内容のまとめ。	90分
第8回	調査結果のまとめと考察 (2)	作品制作、または報告書作成の継続。	作品の制作、調査内容のまとめ。	90分
第9回	調査結果のまとめと考察 (3)	作品制作・報告書作成の中間報告を研究室で行い、相互に検討する。	作品の制作、調査内容のまとめ。	90分
第10回	調査結果のまとめと考察 (4)	作品制作、または報告書作成の継続。	作品の制作、調査内容のまとめ。	90分
第11回	調査結果のまとめと考察 (5)	作品制作、または報告書作成の継続。	作品の制作、調査内容のまとめ。	90分
第12回	調査結果のまとめと考察 (6)	作品制作、または報告書作成の継続。	作品の制作、調査内容のまとめ。	90分
第13回	発表の準備 (1)	作品または報告書を完成させて、その内容を発表する際の要点を整理する。	作品の制作、調査内容のまとめ。	90分
第14回	発表の準備 (2)	卒業研究要旨の作成。	研究内容の整理と研究要旨の作成。	90分
第15回	発表の準備 (3)	発表原稿の作成と発表の練習。	パワーポイント資料の制作等、プレゼンテーションの準備。	90分

学習計画注記	研究計画は自分自身で常にチェックをし、進捗状況を確認するとともに臨機応変に研究・制作を進めること。
学生へのフィードバック方法	毎週実施するミーティングで研究の進捗状況を確認し、研究室のメンバーでも相互の批評・検討を行う。最後の発表会は、学科教員が出席して研究内容を確認する。
評価方法	作品等の成果物については、研究・制作の着眼点や目的、独自性、技術的な仕上がりの状況で評価する。報告書・発表の内容については、研究の意図や目的が分かりやすく示されているか、研究・制作の過程や考察の内容が、論理的に記述されているかといった点について評価する。平常点は、研究への取り組みの姿勢、ゼミへの参加状況について評価する。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
作品等の成果物		○		○
報告書・発表の内容	○	○		○
平常点		○	○	

評価割合	作品等の成果物30%、報告書と発表の内容30%、平常点40%
使用教科書名 (ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。 【思考・判断】 社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。 【関心・意欲・態度】 社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】 課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。
オフィスアワー	水曜日3時限 1503研究室

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究A（黒田）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 黒田 久夫	指定なし

ナンバリング	D41209M22
授業概要(教育目的)	<p>大学生生活の集大成として、4年間の学習で蓄積された学力を活かして研究を進める。家政・生活系に関する研究テーマを決めて、各々の担当指導教員のもとに、論文、設計、制作などの形式でまとめる。論文としてまとめる場合には、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、結論の出し方などについて適切な指導を行う。設計・制作としてまとめる場合には、その計画内容をよく聞いて、作品として表す意義、表し方など適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見(創造)できることを望む(以上、学生便覧より)</p> <p>各自が設定したテーマに対して多面的にアプローチし、高い新規性と進歩性を有した研究成果を研究論文として創出できるように尽力する。研究結果を中間発表としてまとめ、課題点を明らかにすることにより卒業研究Bにおいて取り組む内容を検討する。以上により、研究活動に必要な基礎を作る。(本研究室の卒業研究Aの目的と概要)</p>
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究の履修には、3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していることを条件とする。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。 加えて、食分野においては、食科学演習を単位修得していることが条件となる。 実験系のテーマを選ぶ場合は、実験の科目を履修していることが望ましい。 論文作成に必要な国語力を身につけていることが望ましい。 主体的に課題を見つけ、課題を解決する積極的な姿勢を望む。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	卒業研究にふさわしい高度な専門的知識と専門技術を習得する
思考・判断の観点 (K)	批判的思考(クリティカルシンキング)を身につける
関心・意欲・態度の観点 (V)	新規性・進歩性の高い研究成果を追い求める意欲と態度を養う
技術・表現の観点 (A)	<ul style="list-style-type: none"> 他者の多様性を理解し、同時に自身のビジョンを明確に持ち、合理的で建設的な対話ができる オリジナリティの高い研究論文が作成できる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	卒研ゼミ(1)	研究計画の立案と、研究計画書の作成	研究計画書を完成させる	120分
第2回	卒研ゼミ(2)	1週間の研究活動の報告を行う。活動が少なかった場合は、テーマに関連する調査結果を発表すること。一人15	発表に対して、課題点を指摘するので、次回までに回答するこ	120分

		分間以上プレゼンすること。	と。	
第3回	卒研ゼミ (3)	1週間の研究活動の報告を行う。活動が少なかった場合は、テーマに関連する調査結果を発表すること。一人15分間以上プレゼンすること。	発表に対して、課題点を指摘するので、次回までに回答すること。	120分
第4回	卒研ゼミ (4)	1週間の研究活動の報告を行う。活動が少なかった場合は、テーマに関連する調査結果を発表すること。一人15分間以上プレゼンすること。	発表に対して、課題点を指摘するので、次回までに回答すること。	120分
第5回	卒研ゼミ (5)	1週間の研究活動の報告を行う。活動が少なかった場合は、テーマに関連する調査結果を発表すること。一人15分間以上プレゼンすること。	発表に対して、課題点を指摘するので、次回までに回答すること。	120分
第6回	卒研ゼミ (6)	1週間の研究活動の報告を行う。活動が少なかった場合は、テーマに関連する調査結果を発表すること。一人15分間以上プレゼンすること。	発表に対して、課題点を指摘するので、次回までに回答すること。	120分
第7回	卒研ゼミ (7)	1週間の研究活動の報告を行う。活動が少なかった場合は、テーマに関連する調査結果を発表すること。一人15分間以上プレゼンすること。	発表に対して、課題点を指摘するので、次回までに回答すること。	120分
第8回	卒研ゼミ (8)	1週間の研究活動の報告を行う。活動が少なかった場合は、テーマに関連する調査結果を発表すること。一人15分間以上プレゼンすること。	発表に対して、課題点を指摘するので、次回までに回答すること。	120分
第9回	卒研ゼミ (9)	1週間の研究活動の報告を行う。活動が少なかった場合は、テーマに関連する調査結果を発表すること。一人15分間以上プレゼンすること。	発表に対して、課題点を指摘するので、次回までに回答すること。	120分
第10回	卒研ゼミ (10)	1週間の研究活動の報告を行う。活動が少なかった場合は、テーマに関連する調査結果を発表すること。一人15分間以上プレゼンすること。	発表に対して、課題点を指摘するので、次回までに回答すること。	120分
第11回	卒研ゼミ (11)	1週間の研究活動の報告を行う。活動が少なかった場合は、テーマに関連する調査結果を発表すること。一人15分間以上プレゼンすること。	発表に対して、課題点を指摘するので、次回までに回答すること。	120分
第12回	卒研ゼミ (12)	1週間の研究活動の報告を行う。活動が少なかった場合は、テーマに関連する調査結果を発表すること。一人15分間以上プレゼンすること。	発表に対して、課題点を指摘するので、次回までに回答すること。	120分
第13回	卒研ゼミ (13)	1週間の研究活動の報告を行う。活動が少なかった場合は、テーマに関連する調査結果を発表すること。一人15分間以上プレゼンすること。	次回までに、要旨とパワーポイントファイルを作成させること。	180分
第14回	卒研ゼミ (14)	1週間の研究活動の報告を行う。活動が少なかった場合は、テーマに関連する調査結果を発表すること。一人15分間以上プレゼンすること。	中間発表のプレゼンを練習し、Q&A集を作成すること。	60分
第15回	中間発表	卒業研究Aの研究成果を正確かつ効果的に発表する。	卒業研究Aの取り組みを自己評価してください (Google Form アンケートに回答すること)	30分

学生へのフィードバック方法	ゼミでの発表に対して、アドバイス・コメントする。
評価方法	ゼミの取り組みと中間発表について、ルーブリック評価します。ルーブリック表は、Google Classroomから入手すること (参考URLをクリックし、参考図書に記載したクラスコードを入力するとクラスルームにログインできます)

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
ゼミへの取り組み	○	○	○	○
研究成果及び中間発表	○	○	○	○

評価割合	ゼミへの取り組み (50点) 研究成果及び中間発表 (50点) 以上に加えて、食分野担当教員による①研究要旨の合否判定と②発表会におけるプレゼンテーションの合否判定にパスすることが必要です。
参考図書	Google Classroomのクラスコード: ttif6dz
ディプロマポリシーとの関連	社会や環境の課題を生活視点で発見解決できるKVAを養う。
オフィスアワー	水曜日 昼休みとゼミ後 フード・サイエンス&アーツ研究室 (2206)

面談の場合（5分以上）は、必ずGmailで予約を取ること

学生へのメッセージ

・卒業研究は、1年間の長期にわたる大きな作業になります。健康に十分に留意し、研究活動を進めること。就活、アルバイト、他の授業の単位修得とのバランスを上手く取り、計画的に作業を進めてください。
・卒業研究の最終的な目的は、研究論文を仕上げることですが、卒業研究の最も大事で意義のあることは、批判的思考を養い、他者との対話力を高めることだと考えています。卒業研究で培った論理思考力と対話力は、社会に出た時にとても大事であり、最も役に立つことだと実感することと思います。また、「よく生きる」（徳性 virtue）を実現するための大きな力になると信じています。ぜひ、実りある卒業研究にしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	食品企業での研究開発とマネジメントの実務（26年間）から得た経験を伝えます
アクティブ・ラーニング	○	ゼミでは、活発なディスカッションを行い、論理思考力と対話力を鍛えます
情報リテラシー教育	○	各種文献データベースの使用方法を説明します
ICT活用	○	統計ソフトウェアの使用方法を説明します

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究A（山崎）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 山崎 薫	指定なし

ナンバリング	D41209M22
授業概要(教育目的)	家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究成果のまとめは、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも良いが、研究内容を考慮し、教員の指導にもとづき形式を選択する。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究の方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とすることを目的とする。
履修条件	3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していること。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。食科学演習（3年次後期開講）を既修していること。研究テーマに関連する3年次後期までに開講している食分野科目を既修していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点 (K)	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	指導教員による個別指導①	各自の研究テーマに即した研究計画立案を行う。	卒業研究Aで遂行する研究テーマの絞り込みを行い、研究計画素案を立案する。	180分
第2回	指導教員による個別指導②	各自の研究テーマに必要な情報収集を行うツールを選択する。	先行研究等の情報集と精査を行う。	180分
第3回	指導教員による個別指導③	先行研究から得た情報を反映した卒業研究論文作成まで視野に入れた研究計画を発表し、試料・試薬調製計画、研究手法の概要を決定する。	研究に必要な試料と試薬の調達、調整等、研究実働を始める。	180分
第4回	指導教員による個別指導④	1. 前日までの研究進捗状況報告と今後の予定を発表し、研究内容検討を行う。 2. 卒業研究論文作成の流れを理解する。	研究計画に即し、研究実働する。	180分

第5回	指導教員による個別指導⑤	1. 前日までの研究進捗状況報告と今後の予定を発表し、研究内容検討を行う。 2. 卒業研究論文作成の流れを理解する。	研究計画に即し、研究実施する。	180分
第6回	指導教員による個別指導⑥	1. 前日までの研究進捗状況報告と今後の予定を発表し、研究内容検討を行う。 2. 卒業研究論文作成の流れを理解する。	研究計画に即し、研究実施する。	180分
第7回	指導教員による個別指導⑦	1. 前日までの研究進捗状況報告と今後の予定を発表し、研究内容検討を行う。 2. 卒業研究論文作成における専門用語について理解する。	研究計画に即し、研究実施する。	180分
第8回	指導教員による個別指導⑧	1. 前日までの研究進捗状況報告と今後の予定を発表し、研究内容検討を行う。 2. 卒業研究論文作成における専門用語について理解する。	研究計画に即し、研究実施する。	180分
第9回	指導教員による個別指導⑨	1. 前日までの研究進捗状況報告と今後の予定を発表し、研究内容検討を行う。 2. 卒業研究論文作成における参考・引用文献使用の注意事項を理解する。	研究計画に即し、研究実施する。	180分
第10回	指導教員による個別指導⑩	1. 前日までの研究進捗状況報告と今後の予定を発表し、研究内容検討を行う。 2. 各自の研究テーマに即した研究データの統計処理手法を理解する。	研究計画に即し、研究実施する。	180分
第11回	指導教員による個別指導⑪	1. 前日までの研究進捗状況報告と今後の予定を発表し、研究内容検討を行う。 2. 各自の研究テーマに即した研究データの統計処理手法を理解する。	研究計画に即し、研究実施する。	180分
第12回	指導教員による個別指導⑫	1. 食分野卒業研究A発表会に向けて、前日まで行った研究成果と今後予定について検討する。 2. 食分野卒業研究A発表会用要旨作成における内容の検討を行う。	研究実施と併せて、食分野卒業研究A発表会用の要旨を作成する。	180分
第13回	指導教員による個別指導⑬	食分野卒業研究A発表会準備①；食分野卒業研究A発表会用要旨内容の精査を行う。	研究実施と併せて、食分野卒業研究A発表会に必要なパワーポイントスライド、発表原稿を作成する。	180分
第14回	指導教員による個別指導⑭	食分野卒業研究A発表会準備②；事前作成した発表用パワーポイントスライド、発表原稿、質疑応答検討を行う。	研究実施と併せて、作成した発表用資料等に修正や補足を行う。	180分
第15回	指導教員による個別指導⑮	食分野卒業研究A発表と質疑応答結果検の振り返り	最終発表並びに卒業研究Bに向けた研究実施と併せて発表会における質疑応答内容検討等を行う。	180分

学習計画注記 研究指導内容に関しては、研究テーマ、研究試料特性、研究進捗状況により変更する場合があります。

学生へのフィードバック方法 研究指導時、履修生からの問い合わせ時に適宜、フィードバックを行います。

評価方法 生活デザイン学科並びに食分野による研究要旨、発表会におけるプレゼンテーションの合否判定、並びに研究に対する取り組み内容に対して総合評価を行います。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
研究要旨	○	○	○	○
卒業研究発表	○	○	○	○
研究姿勢	○	○	○	

評価割合 1) 研究要旨の合否判定、2) 発表会におけるプレゼンテーションの合否判定
1)、2)の全てに合格した場合、研究姿勢を加味し、総合的(100%)に評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 研究テーマに即し、適宜、紹介します。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】 家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。
【思考・判断】 社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。

	<p>【関心・意欲・態度】 社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。</p> <p>【技能・表現】 課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。</p>
オフィスアワー	水曜5限 2308研究室 メール等で事前に予約と時間の承諾を得てください。
学生へのメッセージ	<p>指導教員による個別指導では、事前に十分な準備をして望むこと。</p> <p>3年次後期までに研究テーマに関連する食分野科目を既修しておいて下さい。</p> <p>理化学的に実験手法を用いますので、生物、化学の専門的知識を活用します。</p> <p>研究テーマにより試料等の特性上、連日、研究を行う必要がある場合もありますし、研究内容変更が生じることもあります。</p> <p>よって、探求心ももって継続して研究をすることが必要となります。</p> <p>研究遂行においては、連絡、報告、相談をこまめに行ってください。</p>

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、研究テーマにより研究指導を行う。
アクティブ・ラーニング	○	研究打ち合わせ時にディスカッションを積極的に行う。
情報リテラシー教育	○	研究要旨作成、論文作成、発表会用資料作成や研究遂行時に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	研究要旨作成、論文作成、発表会用資料作成や研究遂行時に必要なツールを活用する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究A（富田）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田 弘美	指定なし

ナンバリング	D41209M22
授業概要(教育目的)	家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究成果のまとめは、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも良いが、研究内容を考慮し、教員の指導にもとづき形式を選択する。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究の方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とすることを目的とする。
履修条件	3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していること。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点 (K)	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

卒業研究A（富田）

回	授業テーマ	学習内容(アキティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	研究テーマ・目的の検討、日程と内容の計画	テーマと目的に対して社会的な意義および研究成果のまとめ方についてを学ぶ。	テーマと目的をまとめる。	90分
第2回	研究方法の検討1	・文献調査 ・調査の計画(対象者、パネラー数、時期、内容、項目数、調査日程、調査形式など)を考える。 ・作品制作の計画(デザイン、コンセプト、着用者の基本的サイズ、属性など)	・文献調査、調査内容、項目を考えてまとめる。 ・デザイン、着用者について考える。	90分
第3回	研究方法の検討2	・文献調査 ・調査の計画(対象者、パネラー数、時期、内容、項目数、調査日程、調査形式など)を考える。	・文献調査、調査内容、項目を考えてまとめる。	90分

		・作品制作の計画（デザイン、コンセプト、素材、着用者の基本的サイズ、属性など）	・デザイン、コンセプト、素材について考える。	
第4回	研究方法の検討3	・参考文献内容を理解する。 ・項目を作成し、調査用紙を作成する。調査対象者について学ぶ。 ・デザイン、コンセプト、素材、着用者のサイズ計測、方法、日程等について学ぶ。	・参考文献のまとめしておく。 ・項目を作成し、調査用紙を整理する。 ・デザイン、コンセプト、素材について考え、デザイン画を描く。	90分
第5回	調査・作品の検討1	・参考文献内容を理解する。 ・調査のプレテストを行い、統計分析について学ぶ。 ・デザイン、コンセプト、素材選択について学ぶ。	・参考文献のまとめしておく。 ・統計分析の方法を把握する。 ・デザイン、コンセプト、素材について考え、デザイン画を描く。	90分
第6回	調査・作品の検討2	・参考文献内容を理解する。 ・プレテストのデータ入力や解析ソフトの使い方を学ぶ。 ・デザイン、コンセプト、素材の選択を学ぶ。	・参考文献内容をまとめておく。 ・解析ソフトの使い方を理解する。 ・デザイン、コンセプト、素材を決定し、修正のデザイン画を描く。	90分
第7回	調査・作品の検討3	・参考文献内容を理解する。 ・プレテストのデータ入力や解析ソフトの使い方を理解し、本調査について学ぶ。 ・素材の使用量、製図を学ぶ。	・参考文献内容をまとめておく。 ・参考文献内容を理解する。 ・解析ソフトの使い方を理解する。 ・材料を調達準備する。 ・製図を完成させておく。	90分
第8回	調査・作品の検討4	・参考文献内容を理解する。 ・本調査の準備について学ぶ。（調査用紙） ・製図を学ぶ。	・参考文献内容をまとめておく。 ・解析ソフトの使い方を理解する。 ・製図を完成させておく。	90分
第9回	結果の整理1、発表準備1	・調査データの入力と解析を学ぶ。 ・パワーポイントによる発表準備を学ぶ。（写真、図、表、材料サンプル、製図）	・データ入力 ・パワーポイントの写真、図、表、材料サンプルを作成する。	90分
第10回	結果の整理2、発表準備2	・調査データの入力と解析について学ぶ。 ・要旨（目的、方法、結果、考察）の書き方を学ぶ。 ・パワーポイントによる発表準備を学ぶ。（写真、図、表、材料サンプル、製図）	・データ入力 ・写真、図、表、材料サンプルを作成する。 ・要旨の目的、方法を書くこと。	90分
第11回	考察・まとめ1、発表準備3	・要旨（目的、方法、結果、考察）の書き方を学ぶ。 ・パワーポイントによる発表準備を学ぶ。（写真、図、表、材料サンプル、製図）	要旨とパワーポイントの目的、方法、結果、考察をまとめる。	90分
第12回	考察・まとめ2、発表準備4	・統計分析の結果を考察を学ぶ。 ・パワーポイントによる発表準備を学ぶ。（写真、図、表、材料サンプル、製図）	要旨とパワーポイントの目的、方法、結果、考察をまとめる。	90分
第13回	考察・まとめ3、発表準備5	・統計分析の結果を考察することについて学ぶ。 ・パワーポイントによる発表準備を学ぶ。（写真、図、表、材料サンプル、製図）	要旨とパワーポイントの目的、方法、結果、考察について修正する。	90分
第14回	発表準備6、口頭発表1	・パワーポイントによる口頭発表の準備と練習について学ぶ。	・パワーポイントの修正と口頭発表の練習をする。 ・要旨を修正して完成させる。	90分
第15回	発表準備7、口頭発表2	・パワーポイントによる口頭発表の準備と練習について学ぶ。	・パワーポイントを修正、完成させ、口頭発表の練習をする。	90分

学生へのフィードバック方法 調査内容や作品に対してコメントする。

評価方法 平常点、調査、デザイン、作品

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点		○	○	
作品（デザイン、制作）	○	○	○	○
調査	○	○	○	○

評価割合	平常点（授業への参加状況を総合的に判断する）50% 調査等25%、作品（デザイン、制作）25%			
使用教科書名（ISBN番号）	なし			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。			
オフィスアワー	木曜日12:30～14:00			
学生へのメッセージ	必ず事前準備をし、作業日程の計画、自分の健康を管理するように努力してください。問題点、困りごと等が生じた時には相談しながら対処します。積極的に取り組んでください。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究A（深石）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 深石 圭子	指定なし

ナンバリング	D41209M22
授業概要(教育目的)	家政学とそれに関する研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究の成果は、その内容を考慮して、教員の指導に基づき、論文・計画設計図書・制作等の形式を選択してまとめる。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とする。
履修条件	3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していること。修得単位が90単位未満の場合には、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用することができる
思考・判断の観点 (K)	問題点を設定して理論的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	問題意識をもって課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる
技術・表現の観点 (A)	習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形や文章として表現できる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	今後のスケジュールと卒業研究の進め方	今後のスケジュールの確認、卒業研究の進め方を理解する。また、情報モラルや資料の収集方法等についての知識を得る(情報リテラシー教育)。 【設計の場合】施設内容の考案し、事例を調査する。計画敷地や周辺環境の下調べを行う。 【論文の場合】資料の収集方法や整理の方法を理解する。	各回の学習内容に応じたレジュメをゼミの人数分を作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。	90分
第2回	取り組むテーマの決定	卒業研究で取り組むテーマの決定する(アクティブ・ラーニング)。 【設計の場合】施設内容や建築用途、敷地の決定する。敷地等のデータを行う。 【論文の場合】既往研究の調査を行い、題目・目次案・研究の目的・方法・結論(仮)の策定を行う。	各回の学習内容に応じたレジュメをゼミの人数分を作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。	90分
第3回	コンセプト	コンセプトの決定とレイアウトの大枠を捉え、必要な資	各回の学習内容に応じたレジュ	90分

	の決定	料（図面）の確認を行う（アクティブ・ラーニング）。 【設計の場合】コンセプト案を複数提示し、コンセプトの方針を確定する。建物のゾーニングやボリュームを検討する。 【論文の場合】資料の収集と、目的・方法・結果（仮）を再考し、アプローチに問題がないか確認する。	メをゼミの人数分を作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。	
第4回	図面のエスキス（1） ／資料収集とデータ分析	図面のエスキスや資料収集とデータ分析を行う。（アクティブ・ラーニング） 【設計の場合】配置図・平面図のエスキスを行い、配置計画・平面計画を検討する。 【論文の場合】資料の収集とデータ分析を行う。	各回の学習内容に応じたレジュメをゼミの人数分を作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。	90分
第5回	図面のエスキス（2） ／データ分析と論文執筆	図面のエスキスとデータ分析等を行う（アクティブ・ラーニング）。 【設計の場合】断面図・立面図のエスキスを行い、断面計画・立面計画を検討する。 【論文の場合】データ分析と論文の執筆を行う。	各回の学習内容に応じたレジュメをゼミの人数分を作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。	90分
第6回	図面の作図（1） ／データ分析と論文執筆	図面のデータ化とデータ分析等を行う（アクティブ・ラーニング）。 【設計の場合】配置図・平面図・断面図・立面図をCADソフトを使い作図する。影や線の太さなど図面の効果的な作図ができる。 【論文の場合】データ分析と論文執筆を行う。	各回の学習内容に応じたレジュメをゼミの人数分を作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。	90分
第7回	図面の作図（2） ／データ分析と論文執筆	作図のデータ化とデータ分析を行う（アクティブ・ラーニング）。 【設計の場合】配置図・平面図・断面図・立面図をCADソフトを使い作図するとともに、図面相互の関係の最終確認を行う。 【論文の場合】データ分析と論文執筆を行う。	各回の学習内容に応じたレジュメをゼミの人数分を作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。	90分
第8回	透視図の作図 ／論文執筆	コンセプトを表した透視図のデータ化と論文の執筆を行う（アクティブ・ラーニング）。 【設計の場合】空間を効果的に表現できるアングルを決め、3Dソフトやレンダリングソフトを使い、透視図を作成する。 【論文の場合】論文執筆を行う。	各回の学習内容に応じたレジュメをゼミの人数分を作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。	90分
第9回	模型制作・写真撮影 ／論文執筆	模型製作や写真撮影の方法、写真の加工も行う（アクティブ・ラーニング）。 【設計の場合】模型を制作し、写真撮影を行い、解像度の調整、トリミングやスタンプ機能等の写真の加工し適切な表現ができる。 【論文の場合】図表の書き方を理解し、写真の加工ができるようになる。	各回の学習内容に応じたレジュメをゼミの人数分を作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。	90分
第10回	レイアウト ／論文執筆	レイアウトと論文執筆を行う（アクティブ・ラーニング）。 【設計の場合】効果的なレイアウト方法を理解し、実践する。 【論文の場合】論文構成の最終確認を行い、不足している部分の追加作業を行う。	各回の学習内容に応じたレジュメをゼミの人数分を作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。	90分
第11回	提出に向けた最終調整	提出に向けた最終調整を行う。 設計・論文とも、出力データの最終の調整を行う。	（予習）成果物の縮小版をカラーで出力し、持参すること。	90分
第12回	提出のための成果物の出力	成果物の出力を行い、提出のための体裁を整える。（情報リテラシー教育） 【設計の場合】出力データを印刷し、提出する体裁に整える。 【論文の場合】出力データを印刷、ファイリングをし、提出する体裁に整える。	（予習）成果物の縮小版をカラーで出力し、持参すること。 （復習）成果物出力時には、A3判カラー印刷で圧着貼りで提出の場合は、A1判ケント紙を枚数分を持参すること。	90分
第13回	要旨の作成	図表の修正や全体の構成の確認をした上で要旨の作成を行う。（情報リテラシー教育） 【設計の場合】図面やレイアウトの修正を行い、要旨を作成する。それに加えて、展示用模型の制作を始める。 【論文の場合】全体の構成やデータの修正を行い、要旨を作成する。	（予習）要旨のたたき台を作成し、持参すること。	90分
第14回	プレゼンデータ・発表原稿の作成	プレゼンソフトを使い、プレゼンデータ・原稿の作成、発表練習を行う。併せて要旨の最終確認も行う。 設計の場合は上記の他、展示用ポスターのレイアウト作成、展示用の模型製作と必要に応じ再度模型写真の撮影を行う。	（予習）修正した要旨のたたき台、プレゼンソフトのデータを出力したものを持参すること。 【設計の場合】最終成果品の縮小版を持参すること。 【論文の場合】成果物として提出する本論を持参すること。	90分
第15回	発表練習、要旨印刷	プレゼンデータを使って発表練習を行い、自分が伝えるべきことが伝わるよう組み立てられているか確認を行う。要旨の印刷を行いホチキス止めを行う。	（予習）完成させた要旨原稿を持参すること。成果物を修正したものを改めて出力、（論文の場合は、併せてファイリング）	90分

			<p>をしておくこと。 (復習) プレゼンソフトを併用し、発表時間内に内容がまとめられている発表ができるよう練習をしていくこと。設計の場合は、修正を終えたA1版ポスター5枚以上の再印刷を行う。</p>	
第16回	発表	プレゼンテーションソフトを用いて、発表を行う。	<p>(復習) プレゼンソフトデータや要旨の最終確認、掲示用A1版ポスター・模型の最終確認を行い、発表の練習を実施する。</p>	90分

学習計画注記 ※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 原則、授業時間内に個別に対応する。その他疑問点や相談は、オフィスアワーやアポイントを取った上日時を決めて、対応する。なお、授業に欠席した分については、必ず次回の授業までにオフィスアワー等を活用し、個別に指導を受けること。

評価方法 平常点（授業態度＋レジュメ提出や提出物）、成果物（設計図書または論文等）、要旨、発表の総合評価とする。
 レジュメは、授業回数第1～10回までは、毎回A4版縦使い1枚に予習の成果をまとめ、ゼミの人数分印刷して持参すること。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
思考・判断	○			○
関心・意欲・態度	○	○		○
技術・表現	○	○	○	○

評価割合 平常点30%、成果物50%、要旨10%、発表10%

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 必要であれば、随時指示する。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】 家政学及びそれに関連する分野の専門知識を有し、その理解を深めること。
 【思考・判断】 社会の中にある諸問題を自ら発見し、理論的に分析して考察すること。
 【関心・意欲・態度】 社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習活動を通じてその解決策を立案できる。
 【技能・表現】 課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。

オフィスアワー 金曜2時限 3512研究室

学生へのメッセージ 卒業研究は、これまで学んできたことの集大成として、重要な位置づけとなっています。自分の興味のあることに取り組み、それをどのように問題提起し、解決していくのかを他人に分かりやすく伝えることが必要とされます。事前に十分な準備をし、主体的な授業への参加を望みます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業は、ゼミ形式で進める。必ず、他の学生の研究内容も把握し、グループディスカッションを行いながら進める。
情報リテラシー教育	○	情報をアウトプットに関する論文の書き方、プレゼンテーション技法等についても、解説を行う。
ICT活用		

シラバス参照

講義名	卒業研究A（佐々木）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 佐々木 麻紀子	指定なし

ナンバリング	D41209M22
授業概要(教育目的)	家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究成果のまとめは、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも良いが、研究内容を考慮し、教員の指導にもとづき形式を選択する。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究の方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とすることを目的とする。
履修条件	卒業研究の履修には、3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していることを条件とする。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。「被服整理学」または「染色」関連科目を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	研究テーマに関わる概念や課題を理解し、理論的・体系的に説明することができる
思考・判断の観点 (K)	研究テーマを設定し、適した調査や分析方法を考案することができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	課題に主体的に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	研究内容を的確に形や文章として表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業の進め方、提出までのスケジュール、論文の書き方に関する基礎知識など、卒業研究を行うにあたっての基本を理解する。	卒業研究の手引きをよく読み、卒業研究の概要を理解しておくこと。卒業研究のテーマを案を考えて、テーマに関連した授業科目等の内容を復習しておくこと	90分
第2回	問題の分析と課題の設定1	教室外学修の成果を踏まえて研究テーマ案を整理し、関連する文献の検索方法について情報検索の方法を理解する。	卒業研究のテーマ案に関連する資料を収集整理しておくこと。テーマ案の基礎知識を身につけておくと共に自らの問題意識を深めておくこと	90分
第3回	問題の分析と課題の設定	前回までの内容を基に研究テーマについてさらに検討を行うため、学外施設の見学を行い、各自のテーマについ	卒業研究のテーマ案に関連する資料を収集整理しておくこと。	90分

	定2	ての情報を収集し、問題意識を明らかにする	テーマ案の基礎知識を身につけておくと共に自らの問題意識を深めておくこと	
第4回	先行研究・参考文献の調査1	各自のテーマに沿って先行研究調査を行い、その内容を理解する。	各自のテーマに沿った先行研究や参考文献などの資料を収集し、読んでおくこと。	90分
第5回	先行研究・参考文献の調査2	各自のテーマに沿って先行研究調査を行い、その内容を理解する。	各自のテーマに沿った先行研究や参考文献などの資料を収集し、読んでおくこと。	90分
第6回	先行研究・参考文献の調査3	各自のテーマに沿って先行研究調査を行い、その内容を理解する。	各自のテーマに沿った先行研究や参考文献などの資料を収集し、読んでおくこと。	90分
第7回	研究方法の決定	各自のテーマに沿って適切な研究方法を考案し、調査・実験・制作のスケジュールを立案する。	研究テーマに関連した先行研究はどのような研究方法で行われているのかを調べ、情報を整理しておくこと。	90分
第8回	調査・実験・制作1	各自の計画したスケジュールに従い、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時報告・発表・ディスカッションなどを行う。	各自のテーマに応じ必要な調査・実験・制作・分析などを計画的に行うこと	90分
第9回	調査・実験・制作2	各自の計画したスケジュールに従い、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時報告・発表・ディスカッションなどを行う。	各自のテーマに応じ必要な調査・実験・制作・分析などを計画的に行うこと	90分
第10回	調査・実験・制作3	各自の計画したスケジュールに従い、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時報告・発表・ディスカッションなどを行う。	各自のテーマに応じ必要な調査・実験・制作・分析などを計画的に行うこと	90分
第11回	調査・実験・制作4	各自の計画したスケジュールに従い、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時報告・発表・ディスカッションなどを行う。	各自のテーマに応じ必要な調査・実験・制作・分析などを計画的に行うこと	90分
第12回	調査・実験・制作5	各自の計画したスケジュールに従い、調査・実験・制作を行う。それらの作業の結果を取りまとめ、随時報告・発表・ディスカッションなどを行う。	各自のテーマに応じ必要な調査・実験・制作・分析などを計画的に行うこと	90分
第13回	研究のまとめ1	これまでの研究の要点を整理しまとめ、卒業研究要旨を作成する。	これまでの調査・実験・制作等の資料を整理し、卒業研究要旨の下書きを作成しておくこと	120分
第14回	研究のまとめ2	各自の研究内容を基にプレゼンテーション資料を作成し、発表に向けた準備を行う。	プレゼンテーション資料の下書きを作成しておくこと	120分
第15回	研究のまとめ3	各自の研究内容を基にプレゼンテーション資料を作成し、発表に向けた準備を行う。	プレゼンテーション資料の修正を作成しておくこと	120分

学習計画注記 各自のテーマ及び研究の進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります

学生へのフィードバック方法 調査・実験・制作などに関する報告・発表、提出された課題等については、講評や助言、添削指導を毎回行う。質問等がある場合は2406研究室まで訪問すること。

評価方法

- ・卒業研究の内容・要旨・プレゼンテーションは以下の観点で評価を行う。
 - 1) 研究の目的や意義が明確である。
 - 2) 先行研究を十分に参照し、その内容を理解している。
 - 3) 研究テーマに適した方法で調査・実験・制作等ができています。
 - 4) 結果の内容が十分な信頼性がある。
 - 5) 研究の内容に適した文章や制作物等で表現することができている。
- ・平常点は授業内活動（報告・発表・ディスカッション等）への参加状況、指示された学習活動への取り組み姿勢、課題の提出状況などを総合的に判断し評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
卒業研究の内容	○	○		○
平常点			○	
要旨とプレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合 卒業研究の内容20%、要旨10%、プレゼンテーション10%、平常点60%

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書	個々に指示する	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。 【思考・判断】 社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。 【関心・意欲・態度】 社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】 課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。	
オフィスアワー	月曜2限 2406研究室	
学生へのメッセージ	授業内のみならず、授業外にも自主的に調査・実験・制作などの作業を行うこと。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	各自の課題に対して、調査学習・問題解決学修・ディスカッション等を行う
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献検索方法、論文の書き方、プレゼンテーションの方法に関する内容を行う
ICT活用	○	情報収集や発表のために、PCや通信機器を活用する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究A（花田）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 花田 朋美	指定なし

ナンバリング	D41209M22
授業概要(教育目的)	家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究成果のまとめは、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも良いが、研究内容を考慮し、教員の指導にもとづき形式を選択する。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究の方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とすることを目的とする。
履修条件	3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していること。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点 (K)	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	グループワークを行う。研究の進め方、スケジュールの確認、卒研生として研究室での過ごし方を理解する。本研究室の先行研究を理解し、研究課題の検討を行う。	〔復〕各自の問題意識、興味に基づき、先行研究のレジュメを作成する。	90分
第2回	研究テーマの決定	グループワークを行う。先行研究の要約を報告し、研究の課題を確認して、テーマを決定する。	〔予〕先行研究のレジュメを作成し、人数分の資料を準備しておくこと。 〔復〕研究テーマに関連する参考文献を収集する。研究計画を立案する。	90分
第3回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を行う。	90分
第4回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッショ	〔予・復〕研究に必要な試料や	90分

		ンを行う。	器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	
第5回	研究報告会	グループディスカッションを行う。各自の進捗状況を整理し、レジュメに基づき報告する。	〔予〕研究の進捗状況をレジュメにまとめ、人数分の資料を準備しておくこと。 〔復〕ディスカッションに基づき、研究計画を再検討する。	90分
第6回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	90分
第7回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	90分
第8回	研究報告会	グループディスカッションを行う。各自の進捗状況を整理し、レジュメに基づき報告する。	〔予〕研究の進捗状況をレジュメにまとめ、人数分の資料を準備しておくこと。 〔復〕ディスカッションに基づき、研究計画を再検討する。	90分
第9回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	90分
第10回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	90分
第11回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	90分
第12回	研究報告会	グループディスカッションを行う。各自の進捗状況を整理し、レジュメに基づき報告する。卒研A発表会の要旨とプレゼンテーションの内容の検討を行う。	〔予〕研究の進捗状況をレジュメにまとめ、人数分の資料を準備しておくこと。 〔復〕報告会での検討内容に基づき要旨とプレゼンテーション資料を作成する。	90分
第13回	要旨とプレゼンテーション資料の検討	グループディスカッションを行う。プレゼンテーション資料に基づき発表し、プレゼンテーション資料の内容を検討する。要旨を提出する。	〔予〕提出用要旨を作成すること。 〔復〕検討結果に基づき、プレゼンテーション資料を修正する。	90分
第14回	プレゼンテーション練習	グループディスカッションを行う。修正した資料に基づき、プレゼンテーション発表練習をして、再度発表内容の検討を行う。	〔予〕修正した資料で発表練習をしておくこと。 〔復〕検討結果に基づき、プレゼンテーション資料を修正する。返却された要旨を修正する。	90分
第15回	プレゼンテーション練習	グループディスカッションを行う。修正した資料に基づき、プレゼンテーション発表練習をして、再度発表内容の検討を行う。	〔予〕完成要旨を作成すること。修正した資料で発表練習をしておくこと。 〔復〕検討結果に基づき、プレゼンテーション資料を修正する。発表練習を繰り返すこと。	90分

学習計画注記 研究の進捗状況によりスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 個別ディスカッション、グループディスカッションにおいて対応。質問や相談は、随時受付。

評価方法

- ①平常点（意欲、態度、研究遂行に対する行動力、調整力、理解力を評価）
- ②研究報告会での発表（理解力、意欲、思考力を評価）
- ③卒業研究発表会（理解力、構成力、表現力を評価）
- ④成果物（理解力、構成力、思考力、完成度 を評価）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
発表（報告会）	○	○	○	○
発表（卒研発表会）	○	○	○	○

成果物	○	○	○	○
-----	---	---	---	---

評価割合	1) 研究要旨の合否判定 2) 発表会におけるプレゼンテーションの合否判定 平常点30% 発表（報告会）20% 発表（卒研発表会）30% 成果物20% を総合的に評価
使用教科書名 (ISBN番号)	指定なし
参考図書	指定なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。 【思考・判断】 社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。 【関心・意欲・態度】 社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】 課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。
オフィスアワー	火曜日 12時30分～14時 2407被服材料学研究室
学生へのメッセージ	4年間の集大成として、積極的に取り組んでほしいと思います。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション
情報リテラシー教育	○	文献探索、プレゼンテーションの指導
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究A (小池)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小池 孝子	指定なし

ナンバリング	D41209M22
授業概要 (教育目的)	卒業研究の内容は、家政学及びそれに関連する分野とする。大学における学びの集大成として学生自らの持つ問題意識に基づいて研究課題を設定し、その解決策の提案に取り組む。形式は、論文 (レポート) とする。なお、共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。
履修条件	3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していることを条件とする。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より履修することができる。

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	「住」をはじめとする家政学の各分野 について専門的知識・技術を有している。 自ら設定した課題に対し、グローバルな視点に立ち、各分野の知識を深めて理解する。
思考・判断の観点 (K)	社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる。 収集した各種の多様な情報を客観的に理解し判断して結論へと導くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 自ら設定した課題に対し、社会人としての自覚を持って取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。 社会に対して洗練された表現力で自ら設定した課題の解決策を発信できる力を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	研究課題の検討	(アクティブラーニング: グループワーク) 各自の問題意識に基づき研究課題としたいテーマについて検討する	(予習) 興味のあるテーマを抽出し、レジュメにまとめる	90分
第2回	先行研究レビュー	(アクティブラーニング: グループワーク) 研究テーマに関する先行研究をレビューしまとめたものを持ち寄り、発表しディスカッションをおこなう	(予習) 先行研究を検索し、要約をレジュメにまとめる	90分
第3回	研究課題と研究方法の検討	(アクティブラーニング: グループワーク) 先行研究レビューの結果をもとに、各自の研究課題、研究方法について検討する。	(予習) 研究課題、研究方法についてレジュメにまとめる	90分
第4回	資料収集 1	(アクティブラーニング: グループワーク) 研究課題に関する資料を収集し、まとめたものを発表す	(予習) 収集した資料をレジュメにまとめる	90分

		る		
第5回	資料収集 2	(アクティブラーニング：グループワーク) 研究課題に関する資料を収集し、まとめたものを発表する	(予習) 前回のゼミでの指摘事項を踏まえて収集した資料をレジュメにまとめる	90分
第6回	調査の実施 1	(アクティブラーニング：グループワーク) 調査計画に沿って調査を実施し、進捗状況について発表、ディスカッションをおこなう	(予習) 調査結果・調査の進捗状況をレジュメにまとめる	90分
第7回	調査の実施 2	(アクティブラーニング：グループワーク) 調査計画に沿って調査を実施し、進捗状況について発表、ディスカッションをおこなう	(予習) 調査結果・調査の進捗状況をレジュメにまとめる	90分
第8回	調査の実施 3	(アクティブラーニング：グループワーク) 調査計画に沿って調査を実施し、進捗状況について発表、ディスカッションをおこなう	(予習) 調査結果・調査の進捗状況をレジュメにまとめる	90分
第9回	論文執筆 1	(アクティブラーニング：グループワーク) 調査を継続しながら論文を執筆し、進捗状況について発表する	(予習) 論文の目次を作成する	90分
第10回	論文執筆 2	(アクティブラーニング：グループワーク) 調査を継続しながら論文を執筆し、進捗状況について発表する	(予習) 論文の進捗状況が分かる資料を用意する	90分
第11回	論文執筆 3	(アクティブラーニング：グループワーク) 調査を継続しながら論文を執筆し、進捗状況について発表する	(予習) 論文の進捗状況が分かる資料を用意する	90分
第12回	論文執筆 4	(アクティブラーニング：グループワーク) 論文の内容について最終確認する	(予習) 論文を完成させる	90分
第13回	要旨の作成 1	(アクティブラーニング：グループワーク) 論文の内容をもとに要旨を作成する	(予習) 要旨に書きたい内容をA3用紙にレイアウトする	90分
第14回	要旨の作成 2・発表資料作成	(アクティブラーニング：グループワーク) 要旨の内容をもとに発表会のためのプレゼンテーション資料を作成する	(予習) 要旨を完成させる	90分
第15回	発表練習	(アクティブラーニング：グループワーク) 作成した発表会用プレゼンテーション資料を用いて発表練習をおこなう	(予習) 発表用プレゼンテーションを完成させる	90分
第16回	発表会	プレゼンテーションソフトを用いた発表を行う		

学習計画注記 別途配付するスケジュール・要領に従って、締切や執筆要領等に注意して進めること。

学生へのフィードバック方法 ゼミでは研究の進捗に関するレジュメを毎回用意して発表し教員の指導を受ける。全員でのグループディスカッションを実施するので、積極的に議論に参加すること。毎回のゼミに必ず出席すること。やむなく欠席する場合にはオフィスアワー等を利用して個別指導を受けること。

評価方法 論文（レポート）については、問題設定の着眼点・独自性、調査研究の精度、結論に至る論理構成について評価する。平常点については、授業（ゼミ）への参画状況、研究への取り組みの積極性、計画的な研究の遂行について評価する。プレゼンテーションについては、要旨を含むプレゼンテーション資料の完成度、質疑応答を含む発表内容について評価する。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
論文（レポート）	○	○	○	○
平常点	○	○	○	
プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合 論文（レポート）60%、平常点30%、プレゼンテーション10%

使用教科書名 (ISBN番号) 特に指定しない

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】「住」をはじめとする家政学の各分野 について、専門的知識・技術を有している
・グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる
【思考・判断】
・社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる。また各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる

	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる <p>【技能・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている ・社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている
--	--

オフィスアワー	金曜3時限 3508研究室
---------	---------------

学生へのメッセージ	身近な住生活課題の解決のために、論文・設計作品による提案を行うのが卒業研究です。これまで学んできたことをベースに、ゼミで互いに意見を出し合い、自分の考えをしっかりとめましょう。
-----------	--

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業はゼミ形式で実施する。研究の進捗について毎回発表、グループディスカッションを実施する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究A (河田)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田 敦子	指定なし

ナンバリング	D41209M22
授業概要(教育目的)	教育の歴史や教育に関わる事象(家庭科教育、いじめ、不登校、法制度等)や女性の生き方やライフストーリーに関する事例をテーマとして、独自の文献調査、インタビュー調査、アンケート調査等の方法をもとにした調査結果から論理を構築し、論文の書き方を学ぶことを目的とする。
履修条件	卒業研究の履修には、3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していることを条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	自分が設定してテーマの研究目的を結論に導くために必要な知識・理解が積み上げられている。
思考・判断の観点 (K)	自分が設定したテーマの研究目的を達成するための思考・判断を継続的に行うことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自らの関心を研究テーマとし、卒業研究に意欲的に自律的な態度で取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	自分の研究内容を他者に伝える技術・表現力を持っている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	卒論の書き方(1)テーマの設定と先行研究の調査収集	自分が何を研究テーマとするかを決め、そのテーマに関する先行研究を国会図書館や各種図書館の検索機能を用いて調査収集する。先行研究目録を作成し、一つ一つ所在を確かめ読みを進める。	国会図書館のOPACで、キーワード検索を行い、できるだけ多くの文献をピックアップし、その文献のコピーを取る。	120分
第2回	先行研究の検討	今回までに調べて入手した先行研究のリストと、一つでも良いので読んだ文献を授業中に紹介する。文献の説明の仕方学ぶ。	文献検索とそのリスト化、文献収集と読みを継続して行う。	120分
第3回	先行研究の検討	新たに見つけた先行研究の文献紹介を行う。できれば、前回紹介した文献との違いの比較検討の仕方を学ぶ。	先行研究の文献のリスト化、検索を続ける。	120分
第4回	卒研の書き方(2)研究方法	先行研究の検討を通して、何をどのように調べれば、先行研究に対して新たな知見となるのかを考える。調査には、インタビュー調査、アンケート調査、文献調査等いろいろある。何を選ぶことが自分の研究目的達成のために妥当な方法なのかを考える。	研究方法の選び方は、自分の性格や環境に合った方法を選ぶこと。できることとできないことの見極めが重要である。	120分

第5回	研究方法の選定	研究方法については指導教員とディスカッションしながら、決定する。文献講読を引き続き行う。	先行研究の収集、読みを継続して行う。常に自分の研究テーマに関連する事象について看取できるようにアンテナを張っておくこと。	120分
第6回	研究調査計画	調査方法、研究方法を決めたら、どのように実施するかの計画を立てる。インタビュー調査であれば、何月に何人位のインタビューを行うのか、対象者はどのように選定依頼するのか等、具体的な計画を立て、指導教員と相談する。	インタビュー対象者の選定や依頼、文献購入等は、指導教員に相談してから行うこと。	240分
第7回	調査の準備	調査計画のに基づき、第一回調査のための準備を行う。得られる調査結果の予想や仮説を立てながら、どのような情報、データを入力したいのかを書き出す。	調査結果の仮説や予想は、繰り返し繰り返し考察を重ねること。その内容は常に記録しておくこと。	240分
第8回	第1回調査の実施	準備が良くできたら、実際に調査を行ってみる。本調査のプレテストのような意味もある調査となる。実際に調査を行ってみて、驚いたこと、予想もしなかったことに遭遇することは、非常に大事であることを学ぶ。	インタビュー調査であれば、質問項目を事前に挙げておく。この質問項目は必ず指導教員と相談すること。	240分
第9回	調査の実施	引き続き調査を行う。試行錯誤の過程をきちんと記録しておくこと。仮説や予想が何故はずれたのか、予想が的中したのはなぜか、それを考えることが研究の更なる発展を促すことを学ぶ。	教室外で調査を実施する。	240分
第10回	調査経過報告	調査経過をまとめてゼミで報告する。報告内容には何が含まれていなければいけないかを学ぶ。報告の順序立て方も学ぶ。調査内容が豊富であればあるほど、データ整理は大変である。それを楽しめるようになることが研究を深めるコツである。	調査内容を整理し、報告できるようにすること。	240分
第11回	調査結果をまとめ、次の課題を見出す。	調査結果をまとめ、そこから言えることを考察する。より正確な結論や深まりのある研究にするためには次に何を調べる必要があるのかを考察する。	得られた調査結果に関連する文献を探す。	240分
第12回	第2回調査計画	第1回調査から本調査となる第2回調査計画を練る。第1回調査に何を加え、何を注意すればより有益な結果を得られるのかを考察する。夏休みに調査を実施するのが良いので、調査依頼状等、夏休みに間に合うように計画を立てる。	調査に必要な情報収集（統計、文献等）を積極的に行うこと。	240分
第13回	卒研中間発表会の準備	卒研発表会のためのPPTを作成する。決められた時間内に研究発表をどのように行うのかを学ぶ。	PPT資料と発表原稿を作成していただくこと。	240分
第14回	卒研中間発表会のリハーサル	作成し、1回指導を受けた発表内容を発表する。卒研中間発表要旨も作成する。	卒研中間発表要旨は、作成していただくこと。	240分
第15回	卒研の中間発表	卒研中間発表会	発表原稿は何度も読んでおくこと。	240分

学生へのフィードバック方法 卒研ゼミで個別に指導する。

評価方法 取り組み姿勢が重要である。教員とディスカッションを行い、指導に耳を傾ける態度。自律的に文献を検索収集し、文献を読み進める力、調査における行動力、論理的思考力の観点から評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
取り組み姿勢			○	
指導を受け入れる柔軟性		○	○	
文献講読力	○	○		
調査における行動力			○	○
論理的思考力	○	○		○

評価割合 取り組み姿勢 (30%)、柔軟性 (10%)、文献講読力 (20%)、調査能力 (20%)、論理的思考力 (20%)
1), 2) 全てに合格した場合、総合的 (100%) に評価する

使用教科書名 (ISBN番号)	特になし
参考図書	授業内で紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【思考・判断】 社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種のた王な情報を客観的に理解し判断して行動できる。 【技能・表現】 家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。
オフィスアワー	授業内 (1612室) で時間調整を行う。
学生へのメッセージ	自分を取り組みたいと思うテーマを思う存分極めるようにしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業内は常に対話形式である。プレゼンも頻繁に行う。
情報リテラシー教育	○	様々な図書館での文献検索の方法を身に付けられるようにする。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究A (齋藤史)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 齋藤 史夫	指定なし

ナンバリング	D41209M22
授業概要(教育目的)	衣・食・住・もの分野のうちの一つの分野について、1)より進んだ専門知識を持ち、活用する事ができ、問題点の設定と論理的な思考に基づき自らの見解を築くことができる。2)問題意識を持ち、主体的に取り組むとともに他人と協力し、その解決に取り組むことができる。3)習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形として表現できる。
履修条件	卒業研究の履修には、3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していることを条件とする。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。卒業研究の内容は、家政学及びそれに関連する分野とする。形式は、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも差し支えないが、教員の指導によるものとする。なお、共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	自らの問題意識を解決する専門領域の知識を得る。
思考・判断の観点 (K)	自ら掲げた課題を解決する方法を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会的課題を自分の課題として解決しようという意欲を持つ。
技術・表現の観点 (A)	自ら到達した解決の方法をまとめて、他者に伝えられるよう表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	指導教員による個別指導(1)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第2回	指導教員による個別指導(2)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第3回	指導教員による個別指導(3)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第4回	指導教員による個別指導	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分

	よる個別指導(4)		書の作成。	
第5回	指導教員による個別指導(5)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第6回	指導教員による個別指導(6)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第7回	指導教員による個別指導(7)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第8回	指導教員による個別指導(8)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第9回	指導教員による個別指導(9)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第10回	指導教員による個別指導(10)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第11回	指導教員による個別指導(11)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第12回	指導教員による個別指導(12)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第13回	発表要旨の作成	発表要旨の作成	発表要旨の作成	180分
第14回	プレゼン作品・資料の作成	プレゼン作品・資料の作成	プレゼン作品・資料の作成	180分
第15回	分野別発表会におけるプレゼン	分野別発表会におけるプレゼン	分野別発表会におけるプレゼン準備	180分

学生へのフィードバック方法 適宜ゼミにて研究の経過の報告を受け、集団的に論議する。

評価方法 研究がテーマに基づき、日々深められているかその経過を重視する。同時に、研究発表が、自分なりに整理され他者に伝えられるよう的確に整理・表現されているかを評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
研究の経過		○	○	
プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合 1) 研究要旨の合否判定
2) 発表会におけるプレゼンテーションの合否判定
1), 2) 全てに合格した場合、総合的(100%)に評価する

使用教科書名 (ISBN番号) 各自の問題意識による

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】 社会の諸課題を理解することで、将来の社会的貢献へつなぐことができる。
【思考・判断】 諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。
【関心・意欲・態度】 高い徳性をもって 人々のために働く能力を持つ。
【技能・表現】 専門的スキルをもってコミュニティの課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を持つ。

オフィスアワー 火曜日 3限1607研究室

学生へのメッセージ 指導教員による個別指導では、事前に十分な準備をして望むこと。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査対象への訪問調査。
情報リテラシー教育	○	ネット・図書による調査。
ICT活用	○	プレゼンテーション。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究A（石綱）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石綱 史子	指定なし

ナンバリング	D41209M22
授業概要(教育目的)	家政学と、それに関連する研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究の成果は、その内容を考慮して、教員の指導に基づき、論文・計画設計図書・制作等の形式を選択してまとめる。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とする。
履修条件	3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していること。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点 (K)	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション	本演習および卒業研究の進め方 各自の目標設定 研究テーマ検討	目標設定とテーマ決定	90分
第2回	テーマ決定	各自テーマ決定し成果物規定を説明する。各自で研究計画をたてる。	計画及び各自の成果物の確認	90分
第3回	研究遂行	個別ディスカッション	研究遂行	90分
第4回	研究遂行	個別ディスカッション	研究遂行 進捗報告の準備	90分
第5回	研究遂行	個別ディスカッション	研究遂行 進捗報告の準備	90分
第6回	研究遂行	進捗報告会	研究遂行	90分

第7回	研究遂行	個別ディスカッション	研究遂行	90分
第8回	研究遂行	個別ディスカッション	研究遂行	90分
第9回	研究遂行	個別ディスカッション	研究遂行および進捗報告の準備	90分
第10回	研究遂行	進捗報告会と今後の日程の確認	研究遂行	90分
第11回	研究遂行	個別ディスカッション	研究遂行	90分
第12回	研究遂行	個別ディスカッション	研究遂行	90分
第13回	発表会準備	個別ディスカッション	プレゼンテーションの準備	90分
第14回	発表会準備	プレゼンテーションの練習	プレゼンテーションの修正	90分
第15回	発表会準備	プレゼンテーションの練習 前期のまとめ	プレゼンテーションの修正 後期の準備	90分

学習計画注記 履修者数と研究の進捗状況によりスケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法 各自の研究計画に基づいて研究を遂行し、個別ディスカッションの中でフィードバックを行う。疑問・質問が生じた場合は、随時e-mailで連絡をするか、3609研究室を訪問すること。

評価方法 以下の点について評価する。
 平常点：研究に取り組む姿勢と態度。自ら計画を立て実行している。独自のアイデアを取り入れられた。
 成果物：研究または制作の目的と意義を理解している。新規性が示されている。適切な調査研究を実施できたか。的確に成果をまとめ、考察しているか。提出期限や規定を守る。
 発表：十分な準備。要点を抑えた明瞭な発表内容。態度と姿勢。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○		○	
成果物（要旨、論文または作品）	○	○		
発表会のプレゼンテーション			○	○

評価割合 平常点30%、成果物（論文または制作）40%、発表30%で総合的に評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) 該当なし。

参考図書 適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】 家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。
 【思考・判断】 社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。
 【関心・意欲・態度】 社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
 【技能・表現】 課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。

オフィスアワー 火曜日 4限 3609研究室

学生へのメッセージ 研究（または制作）の計画、実施、解釈、まとめ、発表等の一連のプロセスを通し主体的に学んで欲しい。個別ディスカッションには十分な準備をしてくること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	卒業研究A（森）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森 朋子	指定なし

ナンバリング	D41209M22
授業概要(教育目的)	家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。形式は、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも差し支えないが、教員の指導によるものとする。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究の方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の総まとめとすることを目的とする。
履修条件	3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していること。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点 (K)	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス 論文の論理構成1	論文の特徴を学んだ後、論理構成とは何かを練習を通して理解する。練習はグループワークで実施し、発表およびディスカッションを行う。	次回授業で話し合う練習問題をやる。	90分
第2回	論文の論理構成2	与えられた情報を論理的な構成で整理することを目的とした練習を行う。練習はグループワークで実施し、発表およびディスカッションを行う。	次回授業で話し合う練習問題をやる。	90分
第3回	論文の論理構成3	与えられた文章を読み、論理構成が破綻しているところを発見する練習を行う。練習はグループワークで実施し、発表およびディスカッションを行う。	卒業研究でやりたいテーマについて複数挙げる。	90分
第4回	テーマの決定	テーマの決定に必要な知識とスキルを学び、各自卒業研究のテーマを決定する。クラス全体で検証し、相互に改善点をアドバイスする。	テーマを見直し、具体的なイメージを膨らませる。	90分
第5回	アウトライ	アウトラインの構成を学び、アウトラインを修正する練習	アウトラインを見直し、自分が	90分

	ンの作成	習を行い、クラス全体で検証する。その上で、各自の卒業研究のアウトラインを作成する。	研究したいイメージに近づけて修正する。	
第6回	文献収集	文献の種類と収集の方法を学ぶ。実際に図書館で各自の卒業研究のテーマにそって文献収集を行う。	文献収集を続ける。	90分
第7回	文献の使用	収集した文献を自分の研究課題と関連させて読み、ノートを作成する。	ノート作成を続ける。	90分
第8回	テーマの修正	収集した文献と照らし合わせ、テーマを修正する。	修正したテーマで文献を検証し直す。	90分
第9回	アウトラインの修正	より詳細なアウトラインの構成について学び、自分の論文のアウトラインを修正する。	アウトラインを見直し、さらに修正する。	90分
第10回	論文の構成	論文の構成を学び、本論について詳細な計画を立てる。	本論の論拠の部分に使われる文献の箇所を探す。	90分
第11回	調査方法の種類と特徴	調査方法の種類と特徴を学び、自分の研究に適切な方法は何かを検討する。	調査の目的を考える。	90分
第12回	調査用紙の作成1	調査用紙の作り方を学び、自分の研究の調査用紙を作成する。	調査用紙の完成、修正をする。	90分
第13回	調査用紙の作成2	作成した調査用紙について、相互に意見を交換し、修正する。	授業での意見を受けて、調査用紙を修正する。	90分
第14回	予備調査	予備調査の結果を報告し、調査用紙について相互に改善点をアドバイスする。	予備調査を実施し、修正点をまとめる。	90分
第15回	調査用紙の修正	修正した調査用紙を発表し、調査用紙を完成する。また、集計方法について学ぶ。	集計を開始する。	90分

学生へのフィードバック方法 課題に対する口頭および書面によるコメント

評価方法 卒業研究の内容（研究課題の明確さ、構成の論理性、文献の的確さ、調査計画の的確さ） 課題（完成度）
平常点（ディスカッション、発表、取り組みの姿勢）

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
卒業研究の内容	○	○	○	○
課題	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合 卒業研究の内容70% 課題10% 平常点20%

使用教科書名 (ISBN番号) なし

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】 家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。
【思考・判断】 社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。
【関心・意欲・態度】 社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
【技能・表現】 課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。

オフィスアワー 月曜日5限、水曜日4限（前期）

学生へのメッセージ 自分が興味を持っているテーマを選び、思考を深めていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自ら設定した課題で研究を進める。
情報リテラシー教育	○	文献収集、調査・統計処理、論文作成および口頭発表を行う。
ICT活用		

シラバス参照

講義名	卒業研究B (岩見)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 岩見 哲夫	指定なし

ナンバリング	D41210M22
授業概要 (教育目的)	家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究成果のまとめは、論文とする。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究の方法の検討、論文のまとめ及びプレゼンテーションと一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とすることを目的とする。
履修条件	3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していること。

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	家政学及びそれに関連する分野のより進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる
思考・判断の観点 (K)	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、その解決に取り組むことができる
技術・表現の観点 (A)	習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形や文章として表現できる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	実験計画・ 実験作業・ 結果の解析	前期での結果を踏まえて実験を計画し、得られた結果をまとめ解析を進める。	実験・結果の解析を継続的に進める。	90分
第2回	実験計画・ 実験作業・ 結果の解析	前期での結果を踏まえて実験を計画し、得られた結果をまとめ解析を進める。	実験・結果の解析を継続的に進める。	90分
第3回	実験計画・ 実験作業・ 結果の解析	前期での結果を踏まえて実験を計画し、得られた結果をまとめ解析を進める。	実験・結果の解析を継続的に進める。	90分
第4回	実験計画・ 実験作業・ 結果の解析	前期での結果を踏まえて実験を計画し、得られた結果をまとめ解析を進める。	実験・結果の解析を継続的に進める。	90分
第5回	実験計画・ 実験作業・ 結果の解析	前期での結果を踏まえて実験を計画し、得られた結果をまとめ解析を進める。	実験・結果の解析を継続的に進める。	90分

第6回	実験計画・実験作業・結果の解析	前期での結果を踏まえて実験を計画し、得られた結果をまとめ解析を進める。	実験・結果の解析を継続的に進める。	90分
第7回	結果の解析・考察	実験作業に区切りを付け、得られた結果についてさらに解析を進める。また、その解析結果をもとに目的に沿った考察を進める。	解析・考察を継続して進める。	90分
第8回	結果の解析・考察	実験作業に区切りを付け、得られた結果についてさらに解析を進める。また、その解析結果をもとに目的に沿った考察を進める。	解析・考察を継続して進める。	90分
第9回	結果の解析・考察	実験作業に区切りを付け、得られた結果についてさらに解析を進める。また、その解析結果をもとに目的に沿った考察を進める。	解析・考察を継続して進める。	90分
第10回	結果の解析・考察	実験作業に区切りを付け、得られた結果についてさらに解析を進める。また、その解析結果をもとに目的に沿った考察を進める。	解析・考察を継続して進める。	90分
第11回	卒業研究論文の作成（要旨作成を含む）	結果と考察をまとめ、卒業研究論文（要旨を含む）としてまとめる。	卒業研究論文（要旨を含む）の執筆を進める。	90分
第12回	卒業研究論文の作成（要旨作成を含む）	結果と考察をまとめ、卒業研究論文（要旨を含む）としてまとめる。	卒業研究論文（要旨を含む）の執筆を進める。	90分
第13回	卒業研究論文の作成（要旨作成を含む）	結果と考察をまとめ、卒業研究論文（要旨を含む）としてまとめる。	卒業研究論文（要旨を含む）の執筆を進める。	90分
第14回	プレゼンテーションの準備	卒業研究論文をもとに発表資料を作成する。口頭発表に向けた準備を進める。	発表の準備をしておく。	90分
第15回	プレゼンテーションの準備	卒業研究論文をもとに発表資料を作成する。口頭発表に向けた準備を進める。	発表の準備をしておく。	90分

学習計画注記 実験等の作業のスケジュールや内容については、履修者の状況や研究の進捗具合によって適宜再検討し変更が必要となります。これらの事態に対応できるよう、卒業研究への優先度を上げて臨むこと。

学生へのフィードバック方法 実験計画・実験作業・結果の分析・考察等、必要に応じてその都度、助言・講評・添削を行う。

評価方法 研究に取り組む姿勢、スケジュール管理、プレゼンテーション・論文の内容等について、以下のような基準で評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
研究への姿勢		○	○	
プレゼンテーション	○	○	○	○
卒業研究論文	○	○	○	○

評価割合 研究要旨の合否判定
発表会におけるプレゼンテーションの合否判定
上記の2項目に対する評価を総合的に判断して100%の評価割合とする

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 必要に応じて文献を紹介する。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】 家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を得て、その理解を深めることができる。
【思考・判断】 社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察することができる。
【関心・意欲・態度】 社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
【技能・表現】 課題解決に必要な情報を収集・分析・整理することができる。成果を効果的にプレゼンテーションすることができる。

オフィスアワー 後期 火曜 2限・昼休み (10:40~12:30) 生物学研究室 (2205)

学生へのメッセージ 自ら考え、主体的に取り組むことが重要です。そのためには、指導教員とのコミュニケーションが必要となります。

すので、疑問に感じた点、判断に困ることなどは必ず相談して下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	全てのプロセスにおいて、主体的に提案し意見を述べ、ディスカッションしながら進める。
情報リテラシー教育	○	全てのプロセスにおいて、得られた情報の信憑性や精度について検討を加えながら進める。また、情報発信の手法や研究上のコンプライアンスについても指導する。
ICT活用	○	適宜、情報の収集や分析、さらにはプレゼンテーション等にPCを利用する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B（小口）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小口 悦子	指定なし

ナンバリング	D41210M22
授業概要(教育目的)	卒業研究の履修には、3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していることを条件とする。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。卒業研究の内容は、家政学及びそれに関連する分野とする。形式は、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも差し支えないが、教員の指導によるものとする。なお、共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。
履修条件	3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していることを条件とする。 また、食領域の教員を希望する場合は、食科学演習（3年次後期開講）を習得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	研究テーマについてその先行研究についてその内容を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	研究上で得られた様々な情報や経過・結果について分析・考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	研究のプロセスにおいて課題解決をするために自主的に学習を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	研究成果についてその目的、方法、結果、考察について理論的な報告ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	指導教員による個別指導(1)	研究テーマに関して、その方向性や具体的な手法についてその進捗にあわせたディスカッションを行う。 また研究テーマについて、実習、実験、調査を進める。	文献検索、先行研究等の調査を行うこと。研究テーマの研究計画に沿って実施した内容をまとめておくこと。	120分
第2回	指導教員による個別指導(2)	研究テーマに関して、その方向性や具体的な手法や経過、結果についてその進捗にあわせたディスカッションを行う。 また研究テーマについて、実習、実験、調査を進める。	文献検索、先行研究等の調査を行うこと。研究テーマの研究計画に沿って実施した内容をまとめておくこと。	120分
第3回	指導教員による個別指導(3)	研究テーマに関して、その方向性や具体的な手法や経過、結果についてその進捗にあわせたディスカッションを行う。 また研究テーマについて、実習、実験、調査を進める。	文献検索、先行研究等の調査を行うこと。研究テーマの研究計画に沿って実施した内容をまとめておくこと。	120分

第4回	指導教員による個別指導 (4)	研究テーマに関して、その方向性や具体的な手法や経過、結果についてその進捗にあわせたディスカッションを行う。 また研究テーマについて、実習、実験、調査を進める。	文献検索、先行研究等の調査を行うこと。研究テーマの研究計画に沿って実施した内容をまとめておくこと。	120分
第5回	指導教員による個別指導 (5)	研究テーマに関して、その方向性や具体的な手法や経過、結果についてその進捗にあわせたディスカッションを行う。 また研究テーマについて、実習、実験、調査を進める。	文献検索、先行研究等の調査を行うこと。研究テーマの研究計画に沿って実施した内容をまとめておくこと。	120分
第6回	指導教員による個別指導 (6)	研究テーマに関して、その方向性や具体的な手法や経過、結果についてその進捗にあわせたディスカッションを行う。 また研究テーマについて、実習、実験、調査を進める。	文献検索、先行研究等の調査を行うこと。研究テーマの研究計画に沿って実施した内容をまとめておくこと。	120分
第7回	指導教員による個別指導 (7)	研究テーマに関して、その方向性や具体的な手法や経過、結果についてその進捗にあわせたディスカッションを行う。 また研究テーマについて、実習、実験、調査を進める。	文献検索、先行研究等の調査を行うこと。研究テーマの研究計画に沿って実施した内容をまとめておくこと。	120分
第8回	指導教員による個別指導 (8)	研究テーマに関して、その方向性や具体的な手法や経過、結果についてその進捗にあわせたディスカッションを行う。 また研究テーマについて、実習、実験、調査を進める。	文献検索、先行研究等の調査を行うこと。研究テーマの研究計画に沿って実施した内容をまとめておくこと。	120分
第9回	指導教員による個別指導 (9)	研究テーマに関して、その方向性や具体的な手法や経過、結果についてその進捗にあわせたディスカッションを行う。 また研究テーマについて、実習、実験、調査を進める。	文献検索、先行研究等の調査を行うこと。研究テーマの研究計画に沿って実施した内容をまとめておくこと。	120分
第10回	指導教員による個別指導 (10)	研究テーマに関して、その方向性や具体的な手法や経過、結果についてその進捗にあわせたディスカッションを行う。 また研究テーマについて、実習、実験、調査を進める。	文献検索、先行研究等の調査を行うこと。研究テーマの研究計画に沿って実施した内容をまとめておくこと。	120分
第11回	指導教員による個別指導 (11)	研究テーマに関して、その方向性や具体的な手法や経過、結果についてその進捗にあわせたディスカッションを行う。 また研究テーマについて、実習、実験、調査を進める。	文献検索、先行研究等の調査を行うこと。研究テーマの研究計画に沿って実施した内容をまとめておくこと。	120分
第12回	指導教員による個別指導および論文作成指導 (12)	研究テーマに関して、その方向性や具体的な手法や経過、結果についてその進捗にあわせたディスカッションを行う。 また研究テーマについて、実習、実験、調査を進める。 また論文の作成を進める。	文献検索、先行研究等の調査を行うこと。研究テーマの研究計画に沿って実施した内容をまとめておくこと。 指定書式に合わせ論文の作成を行うこと。	120分
第13回	発表要旨と論文の作成	指定された要旨の書式に合わせて、目的、方法、結果、考察、今後の課題をまとめる。	添削された要旨・論文の修正を行うこと。	120分
第14回	プレゼン資料の作成	作成された資料を基に口頭発表内容についての打ち合わせをこない、プレゼン資料を完成させる。	添削された資料を修正すること。	120分
第15回	分野別発表会	作成した資料を基に指定時間内で発表を行う。	作成した資料の確認、口頭発表の練習を行う。	120分

学習計画注記 進捗によっては、予定した時間外での指導を行うことがあります。

学生へのフィードバック方法 毎週の授業内で個別指導を行うとともに、必要な状況では、随時、個別指導を行います。

評価方法

- 1) 研究要旨の合否判定
- 2) 発表会におけるプレゼンテーションの合否判定

1)、2) 全てに合格した場合、総合的(100%)に評価する

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
研究要旨	○	○	○	○
研究発表	○	○	○	○

評価割合

- 1) 研究要旨の合否判定
- 2) 発表会におけるプレゼンテーションの合否判定

1)、2) 全てに合格した場合、総合的(100%)に評価する

使用教科書名 (ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】グローバルな視点から知識を深めている。</p> <p>【思考・判断】社会中にある諸課題を自ら発見し、理論的に分析し考察できる。また、多様な情報を客観的に理解、判断して行動できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚をもって責任を果たすことができる。</p> <p>【技術・関心】家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている。</p>
オフィスアワー	水曜日12時10分～13時 2108室
学生へのメッセージ	指導教員による個別指導では、事前に十分な準備をして望むこと。また、研究は予定通り進まないこともあるため、時間の余裕をもって計画・実施することを心掛けること。 また、研究上の疑問や方向性に不安なことがある場合は、すぐに相談に来ること。2208室(または、email)を訪ねること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B（白井）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 白井 篤	指定なし

ナンバリング	D41210M22
授業概要(教育目的)	家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究成果のまとめは、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも良いが、研究内容を考慮し、教員の指導に基づき形式を選択する。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究方法の検討、そして、論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とすることを目的とする。
履修条件	卒業研究の履修には、3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していることを条件とする。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。卒業研究の内容は、家政学及びそれに関連する分野とする。形式は、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも差し支えないが、教員の指導によるものとする。なお、共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	卒業論文を作成するために必要な専門的知識・技術を有している。
思考・判断の観点 (K)	社会の中にある住分野の課題について、論理的に分析し考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会の中にある住分野の諸問題について積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じて、その解決策を立案できる。
技術・表現の観点 (A)	課題解決に必要な情報を集めて分析・整理でき、その課題解決策を発信できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)
第1回	既往の研究の再調査（1）	課題解決に必要な追加の資料や情報などを収集する。
第2回	既往の研究の再調査（2）	課題解決に必要な追加の資料や情報などを収集する。
第3回	研究計画の見直し（1）	課題解決に向けて、研究計画を再度、見直す。
第4回	研究計画の見直し（2）	課題解決に向けて、研究計画を再度、見直す。
第5回	実験もしくは調査の実施（1）	課題解決に向けて、追加の実験もしくは調査を実施する。
第6回	実験もしくは調査の実施（2）	課題解決に向けて、追加の実験もしくは調査を実施する。
第7回	実験もしくは調査の実施（3）	課題解決に向けて、追加の実験もしくは調査を実施する。

第8回	実験もしくは調査の実施（４）	課題解決に向けて、追加の実験もしくは調査を実施する。
第9回	実験もしくは調査結果の取りまとめ（１）	実験もしくは調査結果について取りまとめる。
第10回	実験もしくは調査結果の取りまとめ（２）	実験もしくは調査結果について取りまとめると共に、分析や整理を行う。
第11回	実験もしくは調査結果の取りまとめ（３）	取りまとめ作業に基づいて、論文を作成する。
第12回	卒業論文の作成（１）	卒業論文を作成する。
第13回	卒業論文の作成（２）	卒業論文を作成する。
第14回	卒業論文の要旨の作成	卒業論文の要旨を作成する。
第15回	卒業研究発表会の準備	卒業研究発表会に向けた準備を行う。

学生へのフィードバック方法	成果物については、随時、アドバイスをを行い、レベルの高い卒業研究となるように指導する。
---------------	---

評価方法	成果物、要旨、発表会の３つで総合的に評価する。
------	-------------------------

評価基準	
------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
成果物	○	○		○
要旨	○	○		○
発表会	○	○	○	○

評価割合	成果物、要旨、発表会の３つの総合評価
------	--------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	特になし
-----------------	------

参考図書	特に、参考書はないが、研究のテーマにより、各自に必要な書籍や論文などを紹介する。
------	--

ディプロマポリシーとの関連	<p>知識・理解の観点 (K) : 卒業論文を作成するために必要な専門的知識・技術を有している。</p> <p>思考・判断の観点 (K) : 社会の中にある住分野の課題について、論理的に分析し考察することができる。</p> <p>関心・意欲・態度 (V) : 社会の中にある住分野の諸問題について積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じて、その解決策を立案できる。</p> <p>技術・表現の観点 (A) : 課題解決に必要な情報を集めて分析・整理でき、その課題解決策を発信できる。</p>
---------------	--

学生へのメッセージ	指導教員による個別指導では、事前に十分な準備をして望むこと。
-----------	--------------------------------

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	主体的な体験学習を通して、課題発見能力・課題解決能力を養う。
情報リテラシー教育	○	課題を解決する上で、図書館の利用方法、文献探索方法などの情報活用能力を養う。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B（原口）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 原口 秀昭	指定なし

ナンバリング	D41210M22
授業概要(教育目的)	社会の中からテーマを自ら探し出し、敷地条件、建物機能、面積、高さ等を自ら設定し、コンセプトワーク、建築の設計製図、A1用紙やパワーポイントでのプレゼンテーションを行う。社会の中から問題を抽出し、分析、考察し、問題解決の具体的解決策を建築物として表現する。その際、3年次までに蓄積した製図、パース、模型作成の技術、計画、環境、構造、施工等の知識を活用、応用し、技術、知識をより確かなものとする。
履修条件	卒業研究の履修には、3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していることを条件とする。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	建築物の計画、機能、面積配分、ゾーニング、基本寸法、基準寸法、RC造、S造の構造が分かる。
思考・判断の観点 (K)	建築物の設計案に対して、その設計、デザイン、機能の良否、可否を考え判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	建築物のデザイン、設計に関心を持ち、自らの設計、デザインに意欲的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	建築物における基本設計、平面図、立面図、断面図の作図、パース、模型の制作ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	卒業研究の進め方、評価などの説明をする。その後資料集め、コンセプトの考察	設計したい建築物、設計したい敷地、挑戦してみたい設計競技などを考えておく。	120分
第2回	コンセプトワーク	コンセプトボードを使ってグループ内で発表し、教員の講評を受ける。コンセプトを考え、エスキースを始める。	卒業研究のコンセプトをまとめたコンセプトボード(A3)をつくる	120分
第3回	コンセプトワークの修正	再度、コンセプトワークをまとめたコンセプトボードを発表、教員の講評を受ける	講評を受けて、新たなコンセプトボードを作成する。	120分
第4回	エスキース	コンセプトボードを元にエスキースした成果を発表、教員から講評を受ける。	コンセプトボードを元にエスキースをする。エスキースにはスタディ模型も併用する。	240分

第5回	エスキースの修正	修正したエスキースを発表し、教員から講評を受ける。	前回の講評を受けて、エスキースを修正する。スタディ模型も併用する。	240分
第6回	エスキースの確定	再再度のエスキースを発表し、教員の講評を受けて確定する。	再再度のエスキースの手直しを行う。スタディ模型も併用する	240分
第7回	平面図の作成	平面図を作成し、教員の講評を受ける。	平面図を作成する。	120分
第8回	平面図の修正	修正された平面図を提示し、教員の講評を受ける。	前回の講評を元に、平面図を修正する。	120分
第9回	断面図の作成	断面図を作成して、教員の講評を受ける	平面図を見ながら断面図を作成する。	120分
第10回	断面図の修正	修正された断面図を提示し、教員の講評を受ける	前回講評された断面図を修正する。	120分
第11回	立面図の作成	立面図を作成し、教員の講評を受ける。	平面図、断面図を見ながら、立面図を作成する。	120分
第12回	立面図の修正	修正した立面図を提示し、教員の講評を受ける。	前回講評された断面図を修正する。	120分
第13回	パースの作成	パースを作成し、教員の講評を受ける。	パースを作成する。	240分
第14回	模型の作成	模型を作成し、教員の講評を受ける	平面図、断面図、立面図から模型を作成する。	240分
第15回	ポスターセッション (展示発表会)	自分の作品を展示発表し、全教員の講評を受ける	模型の写真を撮り、図面、パースと共にレイアウトする	480分

学生へのフィードバック方法 毎回、教員が学生のエスキース、図面、模型などを評価し、その都度、助言を与え、修正などの指示を与える。

評価方法 ポスターセッション（発表会）で作品を展示発表し、機能、デザイン、プレゼンテーションの3つの評価軸で採点する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
設計作品の展示、発表	○	○	○	○

評価割合 課題作品の評価と出席による。配点は課題評価80%。課題評価のうち、第1作品40%、第2作品40%。平常点20%。
1), 2) 全てに合格した場合、総合的(100%)に評価する

使用教科書名 (ISBN番号) 新しい建築の製図編集委員会編「新しい建築の製図」学芸出版 (4-7615-2375-1)

ディプロマポリシーとの関連
 【知識・理解】「住」の建築物についての専門的知識を有している。
 【思考・判断】社会にある建築物の基本設計を理解して良否、可否を判断できる。
 【関心・意欲・態度】社会にある建築物に関心を持ち、デザインに意欲を持つ。
 【技術・表現】建築物の設計を立案でき、社会に対して洗練された表現力で提示できる。

オフィスアワー 金曜2限時 3602研究室

学生へのメッセージ 3年までの設計製図、卒業研究Aにおいて、建築物の各部寸法や平面図、断面図、立面図（展開図）、パース、模型の作成の技術を習得しました。同時に計画、環境、構造、施工の知識も養いました。卒業研究Bではその集大成としての設計製図です。デザインを楽しみながら演習に取り組むことで、さらなる技量の向上を目指してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、約20年の設計監理の実務経験がある。卒業研究の設計指導にあたり、実務で学んだ設計、デザインの知識を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	毎回小人数グループで、設計製図の指導を演習を通して行う。

情報リテラシー 教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B（具）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 呉 起東	指定なし

ナンバリング	D41210M22
授業概要(教育目的)	社会の中からテーマを自ら探し出し、敷地条件、建物機能、面積、高さ等を自ら設定し、コンセプトワーク、建築の設計製図、A1用紙やパワーポイントでのプレゼンテーションを行う。社会の中から問題を抽出し、分析、考察し、問題解決の具体的解決策を建築物として表現する。その際、3年次までに蓄積した製図、パース、模型作成の技術、計画、環境、構造、施工等の知識を活用、応用し、技術、知識をより確かなものとする。
履修条件	卒業研究の履修には、3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していることを条件とする。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
思考・判断の観点 (K)	多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
技術・表現の観点 (A)	社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信

学習計画

卒業研究B

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	卒業研究の計画1	卒業研究Aの結果及び考察に基づいて論文執筆又は作品制作の計画を検討する	卒業研究Aの結果及び考察に基づいて研究の計画を作成する	90分
第2回	卒業研究の計画2	卒業研究Aの結果及び考察に基づいて論文執筆又は作品制作の計画を検討する	卒業研究Aの結果及び考察に基づいて研究の計画を作成する	90分
第3回	研究調査1	研究計画に沿って研究資料を収集	調査を結果をまとめる	90分
第4回	研究調査2	研究計画に沿って研究資料を収集	調査を結果をまとめる	90分
第5回	論文執筆又は作品制作1	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う	論文執筆又は作品制作を行う	90分

第6回	論文執筆又は作品制作2	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う	論文執筆又は作品制作を行う	90分
第7回	論文執筆又は作品制作3	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う	論文執筆又は作品制作を行う	90分
第8回	論文執筆又は作品制作4	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う	論文執筆又は作品制作を行う	90分
第9回	論文執筆又は作品制作5	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う	論文執筆又は作品制作を行う	90分
第10回	論文執筆又は作品制作6	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う	論文執筆又は作品制作を行う	90分
第11回	論文執筆又は作品制作7	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う	論文執筆又は作品制作を行う	90分
第12回	論文執筆又は作品制作8	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う	論文執筆又は作品制作を行う	90分
第13回	論文執筆又は作品制作9	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら論文執筆又は作品制作を行う	論文執筆又は作品制作を行う	90分
第14回	発表の準備	発表の準備や卒業研究要旨を作成	研究要旨を完成する	90分
第15回	発表の準備	卒業研究要旨の修正及び完成と発表の練習	プレゼンテーション資料を完成する	90分

学生へのフィードバック方法 毎回授業の最後に感想や質問を提出させて、次回に感想や質問について解説を行う。別の質問などがある場合は研究室1307（E-mailも可）まで訪問すること。

評価方法 論文又は作品は70点満点で課題の結果と研究発表会で評価を行う。評価の基準は3つの基準は「独創性」「論文又は作品の完成度」「デザイン性」で5段階評価を行う。平常点は30点満点で15回を通して「背極的な授業の参加、態度」「背極的なディスカッション」を基準に加点及び減点を行います。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
論文又は作品	○	○	○	○
平常点		○	○	

評価割合 論文又は作品は70%
平常点は30%

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】 家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。
【思考・判断】 社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。
【関心・意欲・態度】 社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
【技能・表現】 課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。

学生へのメッセージ 指導教員による個別指導では、事前に十分な準備をして望むこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	主体的な体験学習を通して、課題発見能力・課題解決能力を養う。
情報リテラシー教育	○	課題を解決する上で、図書館の利用方法、文献探索方法などの情報活用能力を養う。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究B (澤田)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 澤田 雅彦	指定なし

ナンバリング	D41210M22
授業概要(教育目的)	家政学と、それに関連する研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究の成果は、その内容を考慮して、教員の指導に基づき、論文・計画設計図書・制作等の形式を選択してまとめる。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とする。
履修条件	卒業要件単位を90単位以上修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点 (K)	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
技術・表現の観点 (A)	自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	研究計画の検討(1)	前期の研究をふまえて、後期の研究の方向と進め方・日程等を検討する。	研究計画の作成。	90分
第2回	研究計画の検討(2)	前期の研究をふまえて、後期の研究の方向と進め方・日程等を検討する。	研究計画の作成と資料調査。	90分
第3回	資料調査／試作品制作(1)	必要な資料を収集し、その内容について考察を進める。研究内容が制作ならば、試作品の制作も併行して進める。	資料の内容の分析と考察。作品の制作。	90分
第4回	資料調査／試作品制作(2)	必要な資料を収集し、その内容について考察を進める。研究内容が制作ならば、試作品の制作も併行して進める。	資料の内容の分析と考察。作品の制作。	90分
第5回	資料調査／試作品制作(3)	必要な資料を収集し、その内容について考察を進める。研究内容が制作ならば、試作品の制作も併行して進める。	資料の内容の分析と考察。作品の制作。	90分

第6回	中間のまとめ	研究の内容を整理し、論文のまとめ方の方針、最終作品の概要を確定する。	資料の内容の分析と考察。作品の制作。	90分
第7回	論文の作成／作品の制作(1)	研究全体をまとめて論文を作成する。制作の場合は最終作品を制作しながら論文をまとめる。	論文の作成と作品の制作作業。	90分
第8回	論文の作成／作品の制作(2)	研究全体をまとめて論文を作成する。制作の場合は最終作品を制作しながら論文をまとめる。	論文の作成と作品の制作作業。	90分
第9回	論文の作成／作品の制作(3)	研究全体をまとめて論文を作成する。制作の場合は最終作品を制作しながら論文をまとめる。	論文の作成と作品の制作作業。	90分
第10回	研究のまとめ(1)	論文と最終作品を完成させる。	論文の内容の再検討。	90分
第11回	研究のまとめ(2)	研究内容についてディスカッションを行い、必要に応じて、訂正や追加の執筆や制作を行う。	論文の訂正、作品の追加制作。	90分
第12回	研究のまとめ(3)	研究内容についてディスカッションを行い、必要に応じて、訂正や追加の執筆や作品の制作を行う。	論文の訂正、作品の追加制作。	90分
第13回	発表の準備(1)	卒業研究要旨集の原稿の作成。	作品の制作、研究内容のまとめ。	90分
第14回	発表の準備(2)	卒業研究要旨集の原稿の作成。	研究内容の整理と研究要旨の作成。	90分
第15回	発表の準備(3)	発表原稿の作成と発表の練習。	パワーポイント資料の制作等、プレゼンテーションの準備。	90分

学習計画注記	研究計画は自分自身で常にチェックをし、進捗状況を確認するとともに臨機応変に研究・制作を進めること。
学生へのフィードバック方法	毎週実施するミーティングで研究の進捗状況を確認し、研究室のメンバーでも相互の批評・検討を行う。最後の発表会は、学科教員が出席して研究内容を確認する。
評価方法	作品等の成果物については、研究・制作の着眼点や目的、独自性、技術的な仕上がりの状況で評価する。 論文(研究の要旨)・発表の内容については、研究の意図や目的が分かりやすく示されているか、研究・制作の過程や考察の内容が、論理的に記述されているかといった点について評価する。 平常点は、研究への取り組みの姿勢、ゼミへの参加状況について評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
作品等の成果物		○		○
論文・発表の内容	○	○		○
平常点		○	○	

評価割合	作品等の成果物30%、論文と発表の内容30%、平常点40%
使用教科書名 (ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。 【思考・判断】 社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。 【関心・意欲・態度】 社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】 課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。
オフィスアワー	木曜日2時限 1503研究室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー 教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B（黒田）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 黒田 久夫	指定なし

ナンバリング	D41210M22
授業概要(教育目的)	<p>大学生生活の集大成として、4年間の学習で蓄積された学力を活かして研究を進める。家政・生活系に関する研究テーマを決めて、各々の担当指導教員のもとに、論文、設計、制作などの形式でまとめる。論文としてまとめる場合には、教員は学生の問題意識をよく聞いて、そのテーマを追求するための方法、結論の出し方などについて適切な指導を行う。設計・制作としてまとめる場合には、その計画内容をよく聞いて、作品として表す意義、表し方など適切な指導を行う。卒業研究を通して、新たな自分が発見(創造)できることを望む(以上、学生便覧より)</p> <p>卒業研究Aの結果を十分フィードバックし、卒業研究Bで取り組む内容を決定し、計画を立案・実行してください。より高い新規性と進歩性を有した研究成果を創出するように尽力し、研究論文を完成させてください。(本研究室の卒業研究Bの目的と概要)</p>
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究の履修には、3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していることを条件とする。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。 加えて、食分野においては、食科学演習を単位修得していることが条件となる。 実験系のテーマを選ぶ場合は、実験の科目を履修していることが望ましい。 論文作成に必要な国語力を身につけていることが望ましい。 主体的に課題を見つけ、課題を解決する積極的な姿勢を望む。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	食品の品質と酵素、おいしさの化学感覚の分野から1分野を選んで高度な専門的知識を習得する
思考・判断の観点 (K)	批判的思考(クリティカルシンキング)を身につける
関心・意欲・態度の観点 (V)	新規性・進歩性の高い研究成果を追い求める意欲と態度を養う
技術・表現の観点 (A)	<ul style="list-style-type: none"> 他者の多様性を理解し、同時に自身のビジョンを明確に持ち、合理的で建設的な対話ができる オリジナリティの高い研究論文が作成できる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	卒研ゼミ(1)	研究計画の再検討と、研究計画書の作成	必要であれば、研究計画書を修正すること	120分
第2回	卒研ゼミ(2)	1週間の研究活動の報告を行う。活動が少なかった場合は、テーマに関連する調査結果を発表すること。一人15分以上プレゼンすること。	発表に対して、課題点を指摘するので、次回までに回答すること。	120分

第3回	卒研ゼミ (3)	1週間の研究活動の報告を行う。活動が少なかった場合は、テーマに関連する調査結果を発表すること。一人15分間以上プレゼンすること。	発表に対して、課題点を指摘するので、次回までに回答すること。	120分
第4回	卒研ゼミ (4)	1週間の研究活動の報告を行う。活動が少なかった場合は、テーマに関連する調査結果を発表すること。一人15分間以上プレゼンすること。	発表に対して、課題点を指摘するので、次回までに回答すること。	120分
第5回	卒研ゼミ (5)	1週間の研究活動の報告を行う。活動が少なかった場合は、テーマに関連する調査結果を発表すること。一人15分間以上プレゼンすること。	発表に対して、課題点を指摘するので、次回までに回答すること。	120分
第6回	卒研ゼミ (6)	1週間の研究活動の報告を行う。活動が少なかった場合は、テーマに関連する調査結果を発表すること。一人15分間以上プレゼンすること。	発表に対して、課題点を指摘するので、次回までに回答すること。	120分
第7回	卒研ゼミ (7)	1週間の研究活動の報告を行う。活動が少なかった場合は、テーマに関連する調査結果を発表すること。一人15分間以上プレゼンすること。	発表に対して、課題点を指摘するので、次回までに回答すること。	120分
第8回	卒研ゼミ (8) データ収集の終了とデータの図表化	データ収集を終了し、データを図表化する。	<ul style="list-style-type: none"> ・次回までに図・表・資料を完成させること。 ・図は、パワーポイント；表はエクセルを使用すること。資料は、写しで良い。 ・ファイルは、指定したGoogle Driveのフォルダに保存すること。pdf化したファイルも保存しておくこと（OSの種類とバージョンによって表示が異なる場合があります） ・図・表・資料、それぞれを印刷したものも、一部提出すること。 ・ファイル名は、以下のように必ず設定すること。 氏名_図_ver. MMdd（例：家政花子_図_ver. 911） 氏名_表_ver. MMdd 氏名_資料_ver. MMdd 	180分
第9回	卒研ゼミ (9) 結果と考察の検討	提出された図・表・資料をもとに結果と考察を作成する。	<p>結果と考察は、指定された本文の書式を使用すること。 ファイル名は、以下のように必ず設定すること 氏名_本文_ver. MMdd（例：家政花子_本文_ver. 1012） 指定されたフォルダにファイルを保存すること。</p>	180分
第10回	卒研ゼミ (10) 材料と方法、または調査方法の作成	結果と考察の記述を確認した後、材料と方法、または調査方法を記述する	<p>材料と方法、または調査方法を、結果と考察を作成したファイルに追記すること。 ファイル名は、ver. を更新すること 例：家政花子_本文_ver. 1012 → 家政花子_本文_ver. 1019 指定されたフォルダにファイルを保存すること。アーカイブのフォルダを作成し、古いファイルはアーカイブに移すこと。</p>	180分
第11回	卒研ゼミ (11) 序論の作成	結果と考察の記述を確認した後、必要な背景を整理して記述する。	<p>背景と目的を記述し、序論を完成させ、前回作成した本文のファイルに追記すること。 ファイル名は、ver. を更新すること 例：家政花子_本文_ver. 1012 → 家政花子_本文_ver. 1019 指定されたフォルダにファイルを保存すること。アーカイブのフォルダを作成し、古いファイルはアーカイブに移すこと。</p>	180分
第12回	卒研ゼミ (12) 卒業論文の完成	引用文献、目次、表紙を記述し、卒業論文を完成させる	<p>①引用文献を本文に追記すること。ファイル名は、ver. を更新すること。例：家政花子_本文_ver. 1012 → 家政花子_本文_ver. 1019 指定されたフォルダにファイルを保存すること。アーカイブのフォルダを作成し、古いファイルはアーカイブに移すこと。 ②目次と、表紙のファイルを作</p>	180分

			<p>成すること。 ファイル名は、以下のように必ず設定すること 氏名_表紙_ver. MMdd (例：家政花子_本文_ver. 1012) 氏名_目次_ver. MMdd (例：家政花子_本文_ver. 1012) 指定されたフォルダにファイルを保存すること。 ③ファイルを完成させたら、一度印刷して、複数で校正をかけること。 ④校正が終了したら、上質紙を用いて、提出用と本人用の2部を印刷すること。 教員が両方を製本化し、1部は学生用として配布し、もう1部は研究室用に保存する。</p>	
第13回	卒研ゼミ (13)	要旨を完成させる	書式を確認し、要旨を完成させること。ワードファイルとpdfファイルを所定のGoogle Driveに保存する。	180分
第14回	卒研ゼミ (14)	最終発表用のパワーポイントファイルを完成させる。	パワーポイントファイルを所定のフォルダに保存すること 最終発表のプレゼンを練習し、Q&A集を作成すること。	120分
第15回	卒研ゼミ (14) Q&A対策と振り返り	Q&Aを通して、もう一度研究の内容を深く掘り下げる	発表練習 Q&Aの確認	120分
第16回	発表	卒業研究AとBの研究内容を正確かつ効果的に発表する。	卒業研究AとBの取り組みを自己評価してください	30分

学生へのフィードバック方法	ゼミでの発表に対して、アドバイス・コメントする。 卒業論文の原稿を添削指導する 口頭発表について指導する
評価方法	ゼミの取り組みと最終発表について、ルーブリック評価します。ルーブリック表は、Google Classroomから入手すること（参考URLをクリックし、参考図書に記載したクラスコードを入力するとクラスルームにログインできます）

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
ゼミへの取り組み	○	○	○	○
研究成果及び中間発表	○	○	○	○

評価割合	①ゼミへの取り組み (25点) ②卒業論文 (50点) ③最終発表 (25点) ②と③は、食分野担当教員による合否判定にパスすることが必要です。
------	---

参考図書	Google Classroomのクラスコード：9lm3q35 トップジャーナルにアクセプトされる医学論文—執筆と投稿のキーポイント
------	---

参考URL	https://classroom.google.com/u/0/c/MTQ5NjQzMTE0MTVa
-------	---

ディプロマポリシーとの関連	社会や環境の課題を生活視点で発見解決できるKVAを養う。
---------------	------------------------------

オフィスアワー	水曜日 昼休みとゼミ後 フード・サイエンス&アーツ研究室 (2206) 面談の場合 (5分以上) は、必ずGmailで予約を取ること
---------	--

学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究は、1年間の長期にわたる大きな作業です。残り半分となりましたが、健康に十分に留意し、研究活動を継続してください。バランスを上手く取り、計画的に作業を進めてください。 卒業研究の最終目的である研究論文を仕上げてください。卒業論文を作成する過程で、改めて批判的思考を養い、より良い論文を完成させてください。この作業はとて大変ですが、大きな達成感も得られると思います。卒業後の大きな思い出にもなると思います。
-----------	--

教育等の取組み状況

--	--

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	食品企業での研究開発とマネジメントの実務経験（26年間）で培ったKVAを伝えます
アクティブ・ラーニング	○	ゼミでは、活発なディスカッションを行い、論理思考力と対話力を鍛えます
情報リテラシー教育	○	各種文献データベースの使用方法を説明します
ICT活用	○	統計ソフトウェアの使用方法を説明します

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B（山崎）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 山崎 薫	指定なし

ナンバリング	D41210M22
授業概要(教育目的)	家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究成果のまとめは、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも良いが、研究内容を考慮し、教員の指導にもとづき形式を選択する。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究の方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とすることを目的とする。
履修条件	3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していること。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。食科学演習（3年次後期開講）を既修していること。研究テーマに関連する3年次後期までに開講している食分野科目を既修していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点 (K)	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	指導教員による個別指導①	1. 卒業研究Aの結果等を受けての卒業研究Bの今後の研究計画と卒業研究論文内容の流れを報告する。 2. 研究進捗状況より研究内容検討を行う。	研究計画に即し、研究実働する。	180分
第2回	指導教員による個別指導②	1. 前日までの研究進捗状況報告と今後の予定を発表し、研究内容検討を行う。 2. 卒業研究論文作成上の注意事項を再度、確認する。	研究計画に即し、研究実働する。	180分
第3回	指導教員による個別指導③	1. 前日までの研究進捗状況報告と今後の予定を発表し、研究内容検討を行う。 2. 卒業研究論文作成上の注意事項を再度、確認する。	研究計画に即し、研究実働する。	180分
第4回	指導教員による個別指導④	1. 前日までの研究進捗状況報告と今後の予定を発表し、研究内容検討を行う。 2. 卒業研究論文作成上の注意事項を再度、確認する。	研究計画に即し、研究実働する。	180分

第5回	指導教員による個別指導⑤	1. 前日までの研究進捗状況報告と今後の予定を発表し、研究内容検討を行う。 2. 卒業研究論文作成上の注意事項を再度、確認する。	研究計画に即し、研究実働する。	180分
第6回	指導教員による個別指導⑥	1. 前日までの研究進捗状況報告と今後の予定を発表し、研究内容検討を行う。 2. 卒業研究論文作成上の注意事項を再度、確認する。	研究計画に即し、研究実働する。	180分
第7回	指導教員による個別指導⑦	前日までの研究進捗状況報告と今後の予定を発表し、研究内容の不足は無い最終確認を行う。	研究計画に即し、研究実働の最終調整を進める。	180分
第8回	指導教員による個別指導⑧	1. 前日までの研究進捗状況報告と今後の予定を発表し、研究結果の最終確認を行う。 2. 卒業研究論文作成上の注意事項を再度、確認する。	卒業研究論文作成を進める。	180分
第9回	指導教員による個別指導⑨	卒業研究論文作成の進捗状況を報告し、考察等に必要文献等の不足はないか、確認する。	卒業研究論文作成を進める。	180分
第10回	指導教員による個別指導⑩	卒業研究論文作成の進捗状況を報告し、論文完成へ向けた計画の調整を行う。	卒業研究論文作成を進める。	180分
第11回	指導教員による個別指導⑪	卒業研究論文作成の進捗状況を報告し、最終調整を行う。	卒業研究論文最終提出物を完成させる。	180分
第12回	指導教員による個別指導⑫	完成卒業研究論文より食分野卒業研究B発表会用要旨作成における内容の検討を行う。	食分野卒業研究B発表会用の要旨を作成する。	180分
第13回	指導教員による個別指導⑬	食分野卒業研究B発表会準備①；食分野卒業研究B発表会用要旨内容の精査を行う。	食分野卒業研究B発表会に必要なパワーポイントスライド、発表原稿を作成する。	180分
第14回	指導教員による個別指導⑭	食分野卒業研究B発表会準備②；発表用パワーポイントスライド、発表原稿、質疑応答検討を行う。	作成した発表用資料等に修正や補足を行う。	180分
第15回	指導教員による個別指導⑮	食分野卒業研究B発表会準備③；前回からの発表用パワーポイントスライド、発表原稿、質疑応答検討の最終調整を行う。	最終発表に向けて、発表練習等を行う。	180分

学習計画注記	研究指導内容に関しては、研究テーマ、研究試料特性、研究進捗状況により変更する場合があります。
学生へのフィードバック方法	研究指導時、履修生からの問い合わせ時に適宜、フィードバックを行います。
評価方法	生活デザイン学科並びに食分野による研究要旨、卒業研究論文、発表会におけるプレゼンテーションの合否判定並びに研究に対する取り組み内容に対して総合評価を行います。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
研究要旨	○	○	○	○
卒業研究論文	○	○	○	○
研究発表	○	○	○	○
研究姿勢	○	○	○	○

評価割合	1) 研究要旨の合否判定、2) 発表会におけるプレゼンテーションの合否判定、3) 卒業研究論文の合否判定 1)、2)、3)の全てに合格した場合、研究姿勢も加味し、総合的(100%)に評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	なし
参考図書	研究テーマに即し、適宜、紹介します。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。 【思考・判断】 社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。 【関心・意欲・態度】 社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】 課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。
オフィスアワー	月曜3限 2308研究室 メール等で事前に予約と時間の承諾を得てください。
学生へのメッセージ	指導教員による個別指導では、事前に十分な準備をして望むこと。 3年次後期までに研究テーマに関連する食分野科目を既修しておいて下さい。

理化学的に実験手法を用いますので、生物、化学の専門的知識を活用します。
 研究テーマにより試料等の特性上、連日、研究を行う必要がある場合もありますし、研究内容変更が生じることもあります。
 よって、探求心ももって継続して研究をすることが必要となります。
 研究遂行においては、連絡、報告、相談をこまめに行ってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、研究テーマにより研究指導を行う。
アクティブ・ラーニング	○	研究打ち合わせ時にディスカッションを積極的に行う。
情報リテラシー教育	○	研究要旨作成、論文作成、発表会用資料作成や研究遂行時に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	研究要旨作成、論文作成、発表会用資料作成や研究遂行時に必要なツールを活用する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B（富田）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田 弘美	指定なし

ナンバリング	D41210M22
授業概要(教育目的)	家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究成果のまとめは、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも良いが、研究内容を考慮し、教員の指導にもとづき形式を選択する。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究の方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とすることを目的とする。
履修条件	3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していること。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。制作の場合は服飾造形実習Cを履修していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点 (K)	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

卒業研究B（富田）

回	授業テーマ	学習内容(アティヴラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	作品制作のデザインコンセプト検討1	調査結果に基づいたデザインのコンセプトを考える。	コンセプトを整理してまとめる。	90分
第2回	作品制作のデザインコンセプト検討2	調査結果に基づいたデザインのコンセプトを考える。	コンセプトを整理してまとめる。	90分
第3回	作品制作のデザイン検討(素材・デザイン画) 1	デザインのシルエット、サイズ、素材、色彩を考え、デザイン画で表現する。	デザイン画仕上げ、素材の検討	90分

第4回	作品制作のデザイン検討(素材・デザイン画) 2	デザインのシルエット、サイズ、素材、色彩を考え、デザイン画で表現する。着用者のサイズを計測する。	デザイン画を仕上げ、素材を検討する。	90分
第5回	作品制作のデザイン決定	パターン設計、製図方法の検討、裁ち合せ図により生地の使用量を見積り(1/10)、材料調達する。	生地の見積もり、材料の整理・まとめ	90分
第6回	パターン設計、製図	参考書を基にして製図をして点検する。製図をトレースして型紙を作成する。	製図の修正、型紙の作成	90分
第7回	裁断・印付け・仮縫い	裁断・印付け・仮縫いの作業を行う。	仮縫いまとめを行う。	90分
第8回	仮縫い点検	補正箇所の印の付け直し、製図の修正をする。	本縫いの準備、しつけ糸をほどく。	90分
第9回	本縫い1、発表準備1	身頃のダーツ、脇、肩、袖の縫製。発表用の目的、方法をパワーポイントでまとめる。	説明を受けた作業まで進めること。	90分
第10回	本縫い2、発表準備2	衿、衿ぐり、袖口の始末。発表用として前期の内容をパワーポイントでまとめる。	説明を受けた作業まで進めること。	90分
第11回	本縫い3、発表準備3	下半身スカートまたはパンツの脇、股下等を縫う。ファフナーなど開き部分を仕上げる。発表用として前期の内容をパワーポイントでまとめる。	説明を受けた作業まで進めること。	90分
第12回	本縫い4、発表準備4	上半身と下半身をウエストで接ぐ。発表用としてデザイン・コンセプトをパワーポイントでまとめる。	説明を受けた作業まで進めること。	90分
第13回	本縫い5、発表準備5	生地に合わせた裾上げの方法を検討する。袖付け点検。発表用として作品のデザイン・素材をパワーポイントでまとめる。	説明を受けた作業まで進めること。	90分
第14回	本縫い6、発表準備6	点検後の修正、袖をつける。発表用として縫製方法をパワーポイントでまとめる。	説明を受けた作業まで進めること。口頭発表の練習。	90分
第15回	仕上げ、発表準備7	ボタンホール、ボタン付け、仕上げアイロン。口頭発表の練習をする。	説明を受けた作業まで進めること。	90分

学生へのフィードバック方法 調査内容、作品のコメント

評価方法 平常点、調査内容、作品

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
調査内容	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合 平常点(授業への参加状況を総合的に判断する)50%
調査内容25%、作品25%

使用教科書名(ISBN番号) なし

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。

オフィスアワー 木曜日12:30~14:00

学生へのメッセージ 必ず事前に準備をし、作業日程の計画、自分の健康を管理する力をつけるように努力してください。また、問題が生じて困った時には相談してください。

教育等の取組み状況

該当有無	概要
------	----

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B（深石）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 深石 圭子	指定なし

ナンバリング	D41210M22
授業概要(教育目的)	家政学とそれに関する研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究の成果は、その内容を考慮して、教員の指導に基づき、論文・計画設計図書・制作等の形式を選択してまとめる。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とする。
履修条件	3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していること。修得単位が90単位未満の場合には、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用することができる。
思考・判断の観点 (K)	問題点を設定して理論的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	問題意識をもって課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	今後のスケジュールと卒業研究の進め方	今後のスケジュールの確認、卒業研究の進め方を理解する。また、情報モラルや資料の収集方法等についての知識を得る(情報リテラシー教育)。 【設計の場合】施設内容の考案し、事例を調査する。計画敷地や周辺環境の下調べを行う。 【論文の場合】資料の収集方法や整理の方法を理解する。	各回の学習内容に応じたレジュメをゼミの人数分を作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。	90分
第2回	取り組むテーマの決定	卒業研究で取り組むテーマの決定する(アクティブ・ラーニング)。 【設計の場合】施設内容や建築用途、敷地の決定する。敷地等のデータを行う。 【論文の場合】既往研究の調査を行い、題目・目次案・研究の目的・方法・結論(仮)の策定を行う。	各回の学習内容に応じたレジュメをゼミの人数分を作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。	90分
第3回	コンセプト	コンセプトの決定とレイアウトの大枠を捉え、必要な資	各回の学習内容に応じたレジュ	90分

	の決定	料(図面)の確認を行う(アクティブ・ラーニング)。【設計の場合】コンセプト案を複数提示し、コンセプトの方針を確定する。建物のゾーニングやボリュームを検討する。【論文の場合】資料の収集と、目的・方法・結果(仮)を再考し、アプローチに問題がないか確認する。	メをゼミの人数分を作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。	
第4回	図面のエスキス(1) / 資料収集とデータ分析	図面のエスキスや資料収集とデータ分析を行う。(アクティブ・ラーニング)【設計の場合】配置図・平面図のエスキスを行い、配置計画・平面計画を検討する。【論文の場合】資料の収集とデータ分析を行う。	各回の学習内容に応じたレジュメをゼミの人数分を作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。	90分
第5回	図面のエスキス(2) / データ分析と論文執筆	図面のエスキスとデータ分析等を行う(アクティブ・ラーニング)。【設計の場合】断面図・立面図のエスキスを行い、断面計画・立面計画を検討する。【論文の場合】データ分析と論文の執筆を行う。	各回の学習内容に応じたレジュメをゼミの人数分を作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。	90分
第6回	図面の作図(1) / データ分析と論文執筆	図面のデータ化とデータ分析等を行う(アクティブ・ラーニング)。【設計の場合】配置図・平面図・断面図・立面図をCADソフトを使い作図する。影や線の太さなど図面の効果的な作図ができる。【論文の場合】データ分析と論文執筆を行う。	各回の学習内容に応じたレジュメをゼミの人数分を作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。	90分
第7回	図面の作図(2) / データ分析と論文執筆	作図のデータ化とデータ分析を行う(アクティブ・ラーニング)。【設計の場合】配置図・平面図・断面図・立面図をCADソフトを使い作図するとともに、図面相互の関係の最終確認を行う。【論文の場合】データ分析と論文執筆を行う。	各回の学習内容に応じたレジュメをゼミの人数分を作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。	90分
第8回	透視図の作図・模型制作・写真撮影 / 論文執筆	コンセプトを表した透視図の制作・模型制作や写真撮影の方法、写真の加工も行う(アクティブ・ラーニング)。【設計の場合】透視図・模型を制作し、写真撮影を行い、解像度の調整、トリミングやスタンプ機能等の写真の加工し適切な表現ができる。【論文の場合】論文執筆に加え、図表の書き方を理解し、写真の加工ができるようになる。	各回の学習内容に応じたレジュメをゼミの人数分を作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。	90分
第9回	レイアウト / 論文執筆提出に向けた最終調整	レイアウトと論文執筆を行う(アクティブ・ラーニング)。提出に向けた最終調整を行う。設計・論文とも、出力データの最終調整を行う。【設計の場合】効果的なレイアウト方法を理解し、実践する。【論文の場合】論文構成の最終確認を行い、不足している部分の追加作業を行う。	各回の学習内容に応じたレジュメをゼミの人数分を作成し、授業内で議論できる資料を揃えておくこと。成果物の縮小版をカラーで出力し、持参すること。	90分
第10回	提出のための成果物の出力	A1版ポスターの出力を行い、提出のための体裁を整える。(情報リテラシー教育)【設計の場合】出力データを印刷し、提出する体裁を整える。【論文の場合】出力データを印刷、ファイリングをし、提出する体裁を整える。	A1版ポスターの縮小版をカラーで出力し、持参すること。成果物出力時には、A3判カラー印刷で圧着貼りでの提出の場合は、A1判ケント紙を枚数分を持参すること。	90分
第11回	要旨の作成	図表の修正や全体の構成の確認をした上で要旨の作成を行う。(情報リテラシー教育)【設計の場合】図面やレイアウトの修正を行い、要旨を作成する。それに加えて、展示用模型の制作も始める。【論文の場合】データの修正を行い、要旨を作成する。	要旨のたたき台を持参すること。	90分
第12回	要旨の完成	要旨の最終確認をし、完成させる。(情報リテラシー教育)。設計の場合は、展示用模型の制作を引き続き行う。	要旨の修正を持参すること。	90分
第13回	成果物の修正と再レイアウト	展示用A1版ポスターの修正を行い、レイアウトについても再考する。設計の場合はそれに加え、展示用の模型制作も同時に行う。	展示用A1版ポスターの修正を完成させる。	90分
第14回	発表原稿の作成	原稿の作成、発表練習に加え、展示用模型写真の撮影および、修正した展示用ポスターのレイアウトを行う。	修正をした展示用A1版ポスター(縮小したものでも可)の出力したものを持参すること。	90分
第15回	発表練習、要旨印刷	伝えるべきことが伝わるよう組み立てられているか確認を行う。また、発表会での発表の方法についても最終確認を行う。	発表時間内に内容がまとめられている発表ができるよう練習をしてくること。展示用模型を完成させ、修正を終えた展示用A1版ポスター5枚以上の再印刷を行う。指定された場所に展示を行う。論文の場合、本論も持参する。	90分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	原則、授業時間内に個別に対応する。その他疑問点や相談は、オフィスアワーやアポイントを取った上日時を決めて、対応する。なお、授業に欠席した分については、必ず次回の授業までにオフィスアワー等を活用し、個別に指導を受けること。				
評価方法	平常点（授業態度＋レジュメ提出や提出物）、成果物（設計図書または論文等）、要旨、発表の総合評価とする。 レジュメは、授業回数第1～9回までは、毎回A4判縦使い1枚に予習の成果をまとめ、ゼミの人数分印刷して持参すること。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点（出席＋授業態度）			○	
	成果物	○			○
	要旨	○	○		○
	発表	○	○	○	○
評価割合	平常点30%、成果物50%、要旨10%、発表10%				
使用教科書名 (ISBN番号)	なし				
参考図書	必要であれば、随時指示する。				
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 家政学及びそれに関連する分野の専門知識を有し、その理解を深めること。</p> <p>【思考・判断】 社会の中にある諸問題を自ら発見し、理論的に分析して考察すること。</p> <p>【関心・意欲・態度】 社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習活動を通じてその解決策を立案できる。</p> <p>【技能・表現】 課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。</p>				
オフィスアワー	金曜 4 時限 3512 研究室				
学生へのメッセージ	卒業研究は、これまで学んできたことの集大成として、重要な位置づけとなっています。自分の興味のあることに取り組み、それをどのように問題提起し、解決していくのかを他人に分かりやすく伝えることが必要とされます。事前に十分な準備をし、主体的な授業への参加を望みます。主体的な授業への参加を望みます。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング	○	授業は、ゼミ形式で進める。必ず、他の学生の研究内容も把握し、グループディスカッションを行いながら進める。			
情報リテラシー教育	○	情報をアウトプットに関する論文の書き方、プレゼンテーション技法等についても、解説を行う。			
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B (佐々木)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 佐々木 麻紀子	指定なし

ナンバリング	D41210M22
授業概要(教育目的)	家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究成果のまとめは、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも良いが、研究内容を考慮し、教員の指導にもとづき形式を選択する。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究の方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とすることを目的とする。
履修条件	卒業研究の履修には、3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していることを条件とする。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	研究テーマに関わる概念や課題を理解し、理論的・体系的に説明することができる
思考・判断の観点 (K)	研究テーマを設定し、適した調査や分析方法を今あんすることができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	課題に主体的に取り組むことができる
技術・表現の観点 (A)	研究テーマについて自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	卒業研究の進め方、提出までのスケジュールを理解し、今後の研究計画を立てる	これまでの研究成果を整理し、研究計画の修正を行う	90分
第2回	調査・実験・制作1	各自の設定した研究計画に基づき、調査・実験・制作を行う。それらの作業結果をまとめ随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	各自の設定した研究計画に応じ、必要な資料の収集及び整理を行うこと。	90分
第3回	調査・実験・制作2	各自の設定した研究計画に基づき、調査・実験・制作を行う。それらの作業結果をまとめ随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	各自の設定した研究計画に応じ、必要な資料の収集及び整理を行うこと。	90分
第4回	調査・実験・制作3	各自の設定した研究計画に基づき、調査・実験・制作を行う。それらの作業結果をまとめ随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	各自の設定した研究計画に応じ、必要な資料の収集及び整理を行うこと。	90分
第5回	調査・実験・制作4	各自の設定した研究計画に基づき、調査・実験・制作を行う。それらの作業結果をまとめ随時、報告・発表・デ	各自の設定した研究計画に応じ、必要な資料の収集及び整理	90分

		ディスカッションなどを行う。	を行うこと。	
第6回	調査・実験・制作5	各自の設定した研究計画に基づき、調査・実験・制作を行う。それらの作業結果をまとめ随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	各自の設定した研究計画に応じ、必要な資料の収集及び整理を行うこと。	90分
第7回	調査・実験・制作6	各自の設定した研究計画に基づき、調査・実験・制作を行う。それらの作業結果をまとめ随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	各自の設定した研究計画に応じ、必要な資料の収集及び整理を行うこと。	90分
第8回	調査・実験・制作7	各自の設定した研究計画に基づき、調査・実験・制作を行う。それらの作業結果をまとめ随時、報告・発表・ディスカッションなどを行う。	各自の設定した研究計画に応じ、必要な資料の収集及び整理を行うこと。	90分
第9回	研究のまとめ1	各自の研究結果をまとめ、卒業論文の下書きを作成する。	各自の研究結果を整理して卒業論文の下書きを作成し、随時修正を行うこと。	90分
第10回	研究のまとめ2	各自の研究結果をまとめ、卒業論文の下書きを作成する。	各自の研究結果を整理して卒業論文の下書きを作成し、随時修正を行うこと。	90分
第11回	研究のまとめ3	各自の研究結果をまとめ、卒業論文の下書きを作成する。	各自の研究結果を整理して卒業論文の下書きを作成し、随時修正を行うこと。	90分
第12回	研究のまとめ4	これまでの研究の要点を整理しまとめ、卒業研究要旨を作成する。	これまでの調査・実験・制作等の資料を整理し、卒業研究要旨の下書きを作成しておくこと	90分
第13回	研究のまとめ5	これまでの研究の要点を整理しまとめ、卒業研究要旨を作成する。	卒業研究要旨の下書きを作成し、修正を行うこと。	120分
第14回	研究のまとめ6	各自の研究内容を基にプレゼンテーション資料を作成し、発表に向けた準備を行う。	プレゼンテーション資料の下書きを作成しておくこと	120分
第15回	研究のまとめ7	各自の研究内容を基にプレゼンテーション資料を作成し、発表に向けた準備・発表練習を行う。	プレゼンテーション資料の修正をしておくこと	120分

学習計画注記 ・研究の進捗状況によりスケジュールに変更が生じる場合があります。

学生へのフィードバック方法 調査・実験・制作等に関する報告や提出された課題については講評や助言、添削などを随時行う。

評価方法

- 1) 平常点は課題に対して授業内活動（報告・発表・ディスカッション等）への参加状況、指示された学習活動への取り組み姿勢、課題の提出状況などを総合的に判断し評価する。
- 2) 研究要旨は課題の内容を理解し文章として表現できていることを評価する。
- 3) プレゼンテーションは課題の内容を十分に理解し、わかりやすく説明できていることを評価する。
- 4) 卒業論文は課題に沿った十分な内容が記述されていること及び参考書やその他の資料からの記述を基に発展的な考察がされていることを評価する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点		○	○	
要旨	○	○		○
プレゼンテーション	○			○
卒業論文	○	○	○	○

評価割合 卒業研究の内容20%、要旨10%、プレゼンテーション10%、平常点60%

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 個々に指示する

ディプロマポリシーとの関連

- 【知識・理解】 家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。
- 【思考・判断】 社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。
- 【関心・意欲・態度】 社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
- 【技能・表現】 課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。

オフィスアワー 月曜2限 2406研究室

学生へのメッセージ 授業内だけでなく授業外にも自主的に調査・実験・制作などを行うこと

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	各自の課題に対して、調査学習・問題解決学修・ディスカッション等の内容を行う。
情報リテラシー教育	○	図書館の利用法、文献検索方法、論文の書き方、プレゼンテーションの方法に関する内容を行う。
ICT活用	○	情報収集やプレゼンテーションのためにPCや通信機器を活用する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B（花田）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 花田 朋美	指定なし

ナンバリング	D41210M22
授業概要(教育目的)	家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究成果のまとめは、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも良いが、研究内容を考慮し、教員の指導にもとづき形式を選択する。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究の方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とすることを目的とする。
履修条件	3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していること。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点 (K)	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	研究テーマの確認	グループワークを行う。卒業研究Aの成果を整理し、発表する。卒業研究Aでの課題に基づき、卒業研究Bの研究計画を立案する。	〔予〕卒業研究Aの成果をレジュメにまとめ人数分の資料を準備しておくこと。 〔復〕研究計画を立案する。	90分
第2回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	90分
第3回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	90分
第4回	研究報告会	グループディスカッションを行う。各自の進捗状況を整理し、レジュメに基づき報告する。	〔予〕研究の進捗状況をレジュメにまとめ、人数分の資料を準備しておくこと。	90分

			〔復〕 ディスカッションに基づき、研究計画を再検討する。	
第5回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕 研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	90分
第6回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕 研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	90分
第7回	研究報告会	グループディスカッションを行う。各自の進捗状況を整理し、レジュメに基づき報告する。	〔予〕 研究の進捗状況をレジュメにまとめ、人数分の資料を準備しておくこと。〔復〕 ディスカッションに基づき、研究計画を再検討する。	90分
第8回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕 研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	90分
第9回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕 研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	90分
第10回	研究報告会 一 要旨提出 許可判定一	グループディスカッションを行う。要旨提出許可判定審査として、研究テーマに対して取組んだこと全てに関するプレゼンテーション発表をにより報告する。	〔予〕 自分の研究全ての内容報告のためのプレゼンテーション資料を作成し、発表できるように準備しておくこと。 〔復〕 要旨提出許可判定結果に基づき、要旨を作成する。	90分
第11回	研究遂行と 論文作成	要旨提出許可判定の結果に基づき、不足の研究を進める。論文作成について、個別ディスカッションを行う。要旨を提出する。	〔予〕 提出要旨を作成しておくこと。 〔復〕 論文作成の準備を進める。	90分
第12回	要旨とプレ ゼンテーシ ョン資料の 検討	個別ディスカッションを行う。卒研B発表会の要旨とプレゼンテーションの内容、論文作成の検討を行う。	〔予〕 プレゼンテーション資料の内容を検討しておくこと。 〔復〕 検討内容に基づきプレゼンテーション資料を作成する。最終提出要旨を作成する。	90分
第13回	論文とプレ ゼンテーシ ョン資料の 検討	グループディスカッションを行う。プレゼンテーション資料に基づき発表し、プレゼンテーション資料の内容を検討する。論文作成の個別ディスカッションを行う。	〔予〕 プレゼンテーション資料を作成し、発表できるように準備しておくこと。 〔復〕 検討結果に基づき、プレゼンテーション資料を修正する。論文の作成を進める。	90分
第14回	プレゼンテ ーション練 習と論文の 検討	グループディスカッションを行う。修正した資料に基づき、プレゼンテーション発表練習をして、再度発表内容の検討を行う。論文作成の個別ディスカッションを行う。	〔予〕 修正した資料で発表練習をしておくこと。 〔復〕 検討結果に基づき、プレゼンテーション資料を修正する。論文の作成を進める。	90分
第15回	プレゼンテ ーション練 習と論文の 検討	グループディスカッションを行う。修正した資料に基づき、プレゼンテーション発表練習をして、再度発表内容の検討を行う。論文作成の個別ディスカッションを行う。	〔予〕 完成要旨を作成しておくこと。修正した資料で発表練習をしておくこと。 〔復〕 検討結果に基づき、プレゼンテーション資料を修正する。発表練習を繰り返し行うこと。論文の作成を進めること。	90分

学習計画注記 研究の進捗状況によりスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法 個別ディスカッション、グループディスカッションにおいて対応。質問や相談は、随時受付。

評価方法

- ①平常点（意欲、態度、研究遂行に対する行動力、調整力、理解力を評価）
- ②研究報告会での発表（理解力、意欲、思考力を評価）
- ③卒業研究発表会（理解力、構成力、表現力を評価）
- ④成果物（理解力、構成力、思考力、完成度 を評価）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
発表（報告会）	○	○	○	○

発表（卒研発表会）	○	○	○	○
成果物	○	○	○	○

評価割合	1) 研究要旨の合否判定 2) 発表会におけるプレゼンテーションの合否判定 平常点30% 発表（報告会）20% 発表（卒研発表会）30% 成果物20% を総合的に評価
使用教科書名（ISBN番号）	指定なし
参考図書	指定なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。 【思考・判断】 社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。 【関心・意欲・態度】 社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】 課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。
オフィスアワー	金曜日 11時～12時30分 2407被服材料学研究室
学生へのメッセージ	4年間の集大成として、積極的に取り組んでほしいと思います。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション
情報リテラシー教育	○	文献探索、プレゼンテーションの指導
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B (小池)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小池 孝子	指定なし

ナンバリング	D41210M22
授業概要 (教育目的)	卒業研究の内容は、家政学及びそれに関連する分野とする。大学における学びの集大成として学生自らの持つ問題意識に基づいて研究課題を設定し、その解決策の提案に取り組む。形式は、論文または計画設計図書（模型を含む）とする。なお、共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。
履修条件	3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していることを条件とする。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より履修することができる。

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	「住」をはじめとする家政学の各分野 について専門的知識・技術を有している。 自ら設定した課題に対し、グローバルな視点に立ち、各分野の知識を深めて理解する。
思考・判断の観点 (K)	社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる。 収集した各種の多様な情報を客観的に理解し判断して結論へと導くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 自ら設定した課題に対し、社会人としての自覚を持って取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。 社会に対して洗練された表現力で自ら設定した課題の解決策を発信できる力を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	【論文】調査計画の立案 【設計】敷地の決定・コンセプトの立案	(アクティブラーニング：グループワーク) 【論文】卒業研究Aで得られた結果をもとに論文の仮説を立て、検証のための調査計画を立案する 【設計】卒業研究Aで得られた結果をもとに敷地を決定し、設計コンセプトを立案する	(予習) 【論文】論文の仮説、調査計画案を作成する (予習) 【設計】コンセプトボードを作成する	90分
第2回	【論文】調査計画の検証 【設計】コンセプトの決定・プロ	(アクティブラーニング：グループワーク) 【論文】立案した調査計画について検証を行い、調査協力を依頼する 【設計】コンセプトを決定し、必要となる機能に対応する建築要素 (プログラム) を検討する	(予習) 【論文】前回のゼミでの指摘事項を踏まえて調査計画をレジュメにまとめる (予習) 【設計】前回のゼミでの指摘事項を踏まえてコンセプ	90分

	グラムの検討		ト案をまとめ、プログラム案を作成する	
第3回	【論文】調査の実施1 【設計】プログラムの決定・ボリュームの検討	(アクティブラーニング：グループワーク) 【論文】調査計画に沿って調査を実施し、進捗状況について発表、ディスカッションをおこなう 【設計】プログラムを決定し、それぞれのボリューム、全体ボリュームと敷地の関係について検討する	(予習) 【論文】調査結果・調査の進捗状況をレジュメにまとめる (予習) 【設計】ボリュームを反映したプログラム案を作成する	90分
第4回	【論文】調査の実施2 【設計】ボリュームの決定・ダイアグラムの検討	(アクティブラーニング：グループワーク) 【論文】調査計画に沿って調査を実施し、進捗状況について発表、ディスカッションをおこなう 【設計】プログラムの各要素・全体のボリュームについて決定し、各要素の位置関係をダイアグラムを作成し検討する	(予習) 【論文】調査結果・調査の進捗状況をレジュメにまとめる (予習) 【設計】ダイアグラム案を作成する	90分
第5回	【論文】調査の実施3 【設計】ダイアグラムの決定・外観デザインの検討	(アクティブラーニング：グループワーク) 【論文】調査計画に沿って調査を実施し、進捗状況について発表、ディスカッションをおこなう 【設計】ダイアグラムを決定し、外観のデザインを検討する	(予習) 【論文】調査結果・調査の進捗状況をレジュメにまとめる (予習) 【設計】ダイアグラムを建物の構成が分かるような形で作成する	90分
第6回	【論文】調査結果の分析と考察1 【設計】平面計画1	(アクティブラーニング：グループワーク) 【論文】調査結果を分析して考察をおこない、進捗状況について発表する 【設計】作成したダイアグラムをもとに、配置図・平面図を作成する	(予習) 【論文】分析した調査結果についてレジュメを作成する (予習) 【設計】配置図・平面図を作成する	90分
第7回	【論文】調査結果の分析と考察2 【設計】平面計画2	(アクティブラーニング：グループワーク) 【論文】調査結果を分析して考察をおこない、進捗状況について発表する 【設計】配置図・平面図を完成させる	(予習) 【論文】分析した調査結果についてレジュメを作成する (予習) 【設計】前回のゼミでの指摘事項を踏まえて配置図・平面図を修正する	90分
第8回	【論文】論文執筆1 【設計】断面・立面計画1	(アクティブラーニング：グループワーク) 【論文】分析・考察を継続しながら論文を執筆し、進捗状況について発表する 【設計】断面図・立面図を作成する	(予習) 【論文】論文の目次を作成する (予習) 【設計】断面図・立面図を作成する	90分
第9回	【論文】論文執筆2 【設計】断面・立面計画2	(アクティブラーニング：グループワーク) 【論文】分析・考察を継続しながら論文を執筆し、進捗状況について発表する 【設計】断面図・立面図を完成させる	(予習) 【論文】論文の進捗状況が分かる資料を用意する (予習) 【設計】前回のゼミでの指摘事項を踏まえて断面図・立面図を修正する	90分
第10回	【論文】論文執筆3 【設計】プレゼンテーション図面の作成1	(アクティブラーニング：グループワーク) 【論文】論文を執筆し、進捗状況について発表する 【設計】各種図面・模型・パースを作成し、レイアウトする	(予習) 【論文】論文の進捗状況が分かる資料を用意する (予習) 【設計】提出用図面のレイアウト案、模型・パースを作成する	90分
第11回	【論文】論文執筆4 【設計】プレゼンテーション図面の作成2	(アクティブラーニング：グループワーク) 【論文】論文の内容について最終確認する 【設計】各種図面・模型・パースを仕上げ、レイアウトする	(予習) 【論文】論文を完成させる (予習) 【設計】提出用図面を完成させる	90分
第12回	【論文・設計】要旨の作成1	(アクティブラーニング：グループワーク) 【論文・設計】論文の内容をもとに要旨を作成する	(予習) 【論文・設計】要旨に書きたい内容をA3用紙にレイアウトする	90分
第13回	【論文・設計】要旨の作成2	(アクティブラーニング：グループワーク) 【論文・設計】要旨の内容について最終確認する	(予習) 【論文・設計】要旨を完成させる	90分
第14回	【論文・設計】発表資料作成	(アクティブラーニング：グループワーク) 【論文・設計】発表会のためのプレゼンテーション資料(ポスター)を作成する	(予習) 【論文・設計】ポスターのレイアウト案を作成する	90分
第15回	【論文・設計】発表練習	(アクティブラーニング：グループワーク) 【論文・設計】作成した発表会用プレゼンテーション資料を用いて発表練習をおこなう	(予習) 【論文・設計】発表用ポスター、発表原稿を完成させる	90分

第16回	【論文・設計】発表会	【論文・設計】ポスターセッション方式で発表を行う。	
------	------------	---------------------------	--

学習計画注記	別途配付するスケジュール・要領に従って、締切や執筆要領等に注意して進めること。
学生へのフィードバック方法	ゼミでは研究の進捗に関するレジュメを毎回用意して発表し教員の指導を受ける。全員でのグループディスカッションを実施するので、積極的に議論に参加すること。毎回のゼミに必ず出席すること。やむなく欠席する場合にはオフィスアワー等を利用して個別指導を受けること。
評価方法	論文については、問題設定の着眼点・独自性、調査研究の精度、結論に至る論理構成について評価する。計画設計図書については、問題設定の着眼点・独自性、提案の妥当性、デザインについて評価する。平常点については、授業（ゼミ）への参画状況、研究への取り組みの積極性、計画的な研究の遂行について評価する。プレゼンテーションについては、要旨を含むプレゼンテーション資料の完成度、質疑応答を含む発表内容について評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
論文・計画設計図書	○	○	○	○
平常点	○	○	○	
プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合	論文・計画設計図書60%、平常点30%、プレゼンテーション10%
------	----------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない
-----------------	---------

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】「住」をはじめとする家政学の各分野 について、専門的知識・技術を有している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつながることができる <p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる。また各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる <p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる <p>【技能・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている ・社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている
---------------	--

オフィスアワー	金曜4時限 3508研究室
---------	---------------

学生へのメッセージ	身近な住生活課題の解決のために、論文・設計作品による提案を行うのが卒業研究です。これまで学んできたことをベースに、ゼミで互いに意見を出し合い、自分の考えをしっかりとまとめましょう。
-----------	--

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業はゼミ形式で実施する。研究の進捗について毎回発表、グループディスカッションを実施する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究B (河田)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田 敦子	指定なし

ナンバリング	D41210M22
授業概要(教育目的)	卒業研究Aで行った、先行研究の検討、研究方法の決定、調査計画に基づき、オリジナルデータ取得のための調査を実施する。その結果を分析し、卒業論文を作成、卒研発表会で発表を行う。
履修条件	卒業研究の履修には、3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していることを条件とする。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。卒業研究の内容は、家政学及びそれに関連する分野とする。形式は、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも差し支えないが、教員の指導によるものとする。なお、共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	卒行研究のために調べた事柄を整理し、論述する基本的な知識・理解がある。
思考・判断の観点 (K)	調査等から得られた内容を論理的に整理できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	この卒研から何かを得ようという積極的関心・意欲・態度がある。
技術・表現の観点 (A)	何をどのような目的と方法で研究しているかを他者にわかり易く表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	調査計画の確認	今後の調査計画の確認を行う。何を明らかにするために、何を調べるのか。そのためにはどのような準備と段取りが必要なのか、どの程度の期間が調査に必要なのかを、指導教員とディスカッションしながら確認する。	上記の学習内容に必要な情報は(文献、インタビュー対象者、調査地)等についてよく考えておくこと。	180分
第2回	調査の実施と報告	授業時間内には実施した調査内容を少しずつ報告する。調査時間に本授業を含める場合もある。	調査自体が教室外学習である。	240分
第3回	調査の実施と報告	授業内では、調査結果の報告を行う。調査時間が少ない場合は、本授業時間を調査時間に含める場合もある。	教室外で調査を行い、その結果を記録する。	240分
第4回	調査の実施と報告	調査内容の報告を受け、卒論の論旨を構築しながら、更に必要な資料・データについて指導教員とディスカッションして考察する。	更に必要な資料・データがある場合は、更に調査を計画する。	240分
第5回	調査結果の	調査で得られた資料・データを整理して、分析し易いよ	1回で整理はできないので、授	180分

	整理	うにする。授業時間を用いて整理を行うことも可。	業時間外にもデータ整理を行うこと。	
第6回	調査データの整理	引き続き調査で得られたデータ整理を行う。データ不足の場合は、再度調査を実施する。	教室外での調査がある場合もある。	120分
第7回	調査結果のまとめ	整理したデータから何が言えるのか、を考察する。	整理したデータに類似した内容の研究があれば、探しておくこと。	180分
第8回	調査結果のまとめ	得られたデータから何が言えるか、について指導教員とディスカッションを行う。言えることは常に箇条書きにして記録しておくこと。	得られたデータ、整理したデータから何が言えるか、自分が何を言いたいのかを、常に考えること。	120分
第9回	卒論の書き方	卒論の目次(章・節)の立て方を学ぶ。目次の立て方を学んだ後で、自分の論文の目次を作成する。	目次の作成は、非常に重要である。何度も組み換えをしながら、論旨を組み立てること。	180分
第10回	卒論の執筆(1)	目次に従い、自分が書き易い章から執筆していく。途中で指導教員の前でプレゼンし、文言の表現の仕方等を学ぶ。	とにかく、書き続けること。	180分
第11回	卒論執筆(2)	研究の目的、研究方法、先行研究の検討は、執筆終了。調査の概要に着手し、得られたデータから読み取れることを箇条書きにしておく。	得られたデータ・資料を何度も何度も読むこと。読んで気付いたことは必ず箇条書きに記録しておくこと。	180分
第12回	卒論執筆(3)	得られたデータについて気付いたことを箇条書きにした内容を吟味し、同じ項目で整理できるものを探して、幾つかの項目を作成する。	卒研を書き続ける。	240分
第13回	卒研要旨の作成	卒研発表会のための要旨を作成して、指導教員の指導を受け、要旨の書き方を学ぶ。	要旨の書き方、短い文章で論旨をまとめるまとめ方について考えること。	180分
第14回	卒研発表の準備	卒業論文をPPT資料にして、他者に分かり易く伝えられるようにする。研究内容を他者に分かり易く、アピールするようにプレゼンするにはどのようにすれば良いのかを学ぶ。	図や絵、写真がプレゼンには欠かせないので準備すること。	240分
第15回	卒研発表と卒論提出	卒研発表会で発表し、コメントをもらうことで、自分の卒研を振り返る。他の学生の発表を聴くことから、いろいろなことを学ぶ。	卒業論文を完成させる事。参考文献も整理すること。	240分

学習計画注記	特になし
--------	------

学生へのフィードバック方法	ゼミ形式、発表、個別指導
---------------	--------------

評価方法	<p>取り組み姿勢：多様な問題に直面した時に、助言を受けて自律的に解決方法を見つけて卒業研究をやり抜くことができる。</p> <p>卒業研究要旨・簡潔に卒研の要旨をまとめることができる。</p> <p>卒業論文：研究目的、研究動機、研究方法、調査結果、結論等がしっかり文章化されている。</p>
------	---

評価基準	
------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
取り組み姿勢			○	
卒業研究要旨作成	○	○		○
卒業論文	○	○	○	○

評価割合	<p>取り組み姿勢 (30%)</p> <p>卒業研究要旨・簡潔に要旨をまとめることができる。(30%)</p> <p>卒業論文 (40%)</p>
------	--

使用教科書名 (ISBN番号)	特になし
-----------------	------

参考図書	授業内に指示する。参考図書はできるだけ自分で探すこと。
------	-----------------------------

ディプロマポリシーとの関連	<p>【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。</p> <p>【技能・表現】家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。</p>
---------------	---

オフィスアワー	随時アポイントメントを取ること。火曜日15:00~16:30 (1612教室)
---------	---

学生へのメッセージ

指導教員による個別指導では、事前に十分な準備をして望むこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	ゼミでは、常にディスカッションを行う。
情報リテラシー教育	○	資料情報の収集・入手の方法は、随時指導する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B (齋藤史)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 齋藤 史夫	指定なし

ナンバリング	D41210M22
授業概要(教育目的)	衣・食・住・もの分野のうちの一つの分野について、1)より進んだ専門知識を持ち、活用する事ができ、問題点の設定と論理的な思考に基づき自らの見解を築くことができる。2)問題意識を持ち、主体的に取り組むとともに他人と協力し、その解決に取り組むことができる。3)習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形として表現できる。
履修条件	卒業研究の履修には、3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していることを条件とする。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。卒業研究の内容は、家政学及びそれに関連する分野とする。形式は、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも差し支えないが、教員の指導によるものとする。なお、共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	自らの問題意識を解決する専門領域の知識を得る。
思考・判断の観点 (K)	自ら掲げた課題を解決する方法を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会的課題を自分の課題として解決しようという意欲を持つ。
技術・表現の観点 (A)	自ら到達した解決の方法をまとめて、他者に伝えられるよう表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	指導教員による個別指導(1)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第2回	指導教員による個別指導(2)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第3回	指導教員による個別指導(3)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第4回	指導教員による個別指導	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分

	よる個別指導(4)		書の作成。	
第5回	指導教員による個別指導(5)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第6回	指導教員による個別指導(6)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第7回	指導教員による個別指導(7)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第8回	指導教員による個別指導(8)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第9回	指導教員による個別指導(9)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第10回	指導教員による個別指導(10)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第11回	指導教員による個別指導(11)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第12回	指導教員による個別指導(12)	指導教員による個別指導	研究内容の調査・考察・検討文書の作成。	180分
第13回	発表要旨の作成	発表要旨の作成	発表要旨の作成	180分
第14回	プレゼン作品・資料の作成	プレゼン作品・資料の作成	プレゼン作品・資料の作成	180分
第15回	分野別発表会におけるプレゼン	分野別発表会におけるプレゼン	分野別発表会におけるプレゼン準備	180分

学生へのフィードバック方法 適宜ゼミにて研究の経過の報告を受け、集団的に論議する。

評価方法 研究がテーマに基づき、日々深められているかその経過を重視する。同時に、研究発表が、自分なりに整理され他者に伝えられるよう的確に整理・表現されているかを評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
研究の経過		○	○	
プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合 1) 研究要旨の合否判定
2) 発表会におけるプレゼンテーションの合否判定
1), 2) 全てに合格した場合、総合的(100%)に評価する

使用教科書名 (ISBN番号) 各自の問題意識による

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】 社会の諸課題を理解することで、将来の社会的貢献へつなぐことができる。
【思考・判断】 諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。
【関心・意欲・態度】 高い徳性をもって 人々のために働く能力を持つ。
【技能・表現】 専門的スキルをもってコミュニティの課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を持つ。

オフィスアワー 火曜日 3限1607研究室

学生へのメッセージ 指導教員による個別指導では、事前に十分な準備をして望むこと。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査対象への訪問調査。
情報リテラシー教育	○	ネット・図書による調査。
ICT活用	○	プレゼンテーション。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B（石綱）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石綱 史子	指定なし

ナンバリング	D41210M22
授業概要(教育目的)	家政学と、それに関連する研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。研究の成果は、その内容を考慮して、教員の指導に基づき、論文・計画設計図書・制作等の形式を選択してまとめる。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の集大成とする。
履修条件	3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していること。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点 (K)	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション	本演習および後期の進め方 各自の研究について、これまでに行った内容を確認し後期の研究計画をたてる	後期の研究計画をたてる 各自必要な成果物の確認	90分
第2回	テーマ決定	個別ディスカッション	研究遂行	90分
第3回	研究遂行	個別ディスカッション	研究遂行	90分
第4回	研究遂行	個別ディスカッション	研究遂行 進捗報告の準備	90分
第5回	研究遂行	個別ディスカッション	研究遂行 進捗報告の準備	90分
第6回	研究遂行	進捗報告会	研究遂行	90分
第7回	研究遂行	個別ディスカッション	研究遂行	90分

第8回	研究遂行	個別ディスカッション	研究遂行	90分
第9回	研究遂行	個別ディスカッション	研究遂行 進捗報告の準備	90分
第10回	研究遂行	進捗報告会 今後の日程の確認	研究遂行	90分
第11回	研究遂行	個別ディスカッション 発表要旨の準備	研究遂行 発表要旨の準備	90分
第12回	研究遂行	個別ディスカッション 発表要旨の準備	研究遂行 発表要旨の準備	90分
第13回	発表会準備	個別ディスカッション 発表要旨の準備	プレゼンテーションの準備 発表要旨の準備	90分
第14回	発表会準備	プレゼンテーションの練習	プレゼンテーションの修正	90分
第15回	発表会準備	プレゼンテーションの練習 卒業研究のまとめ	プレゼンテーションの修正 卒業研究のまとめ データ引継ぎ	90分

学習計画注記	履修者数と研究の進捗状況によりスケジュールが変更になる場合がある。
学生へのフィードバック方法	各自の研究計画に基づいて研究を遂行し、個別ディスカッションの中でフィードバックを行う。疑問・質問が生じた場合は、随時e-mailで連絡をするか、3609研究室を訪問すること。
評価方法	以下の点について評価する。 平常点：研究に取り組む姿勢と態度。自ら計画を立て実行している。独自のアイデアを取り入れられた。 成果物：研究または制作の目的と意義を理解している。新規性が示されている。適切な調査研究を実施できたか。的確に成果をまとめ、考察しているか。提出期限や規定を守る。 発表：十分な準備。要点を抑えた明瞭な発表内容。態度と姿勢。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○		○	
成果物 (要旨、論文または作品)	○	○		
発表会のプレゼンテーション			○	○

評価割合	平常点30%、成果物（論文または制作）40%、発表30%で総合的に評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	該当なし。
参考図書	適宜紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。 【思考・判断】 社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。 【関心・意欲・態度】 社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】 課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。
オフィスアワー	月曜日2限 3609研究室
学生へのメッセージ	研究（または制作）の計画、実施、解釈、まとめ、発表等の一連のプロセスを通し主体的に学んで欲しい。個別ディスカッションには十分な準備をしてくること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	卒業研究B (森)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森 朋子	指定なし

ナンバリング	D41210M22
授業概要(教育目的)	家政学及びそれに関連する分野の研究テーマを設定し、指導教員のもとで研究を進める。形式は、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも差し支えないが、教員の指導によるものとする。研究テーマの設定、研究計画の策定、研究の方法の検討、そして論文や制作結果のまとめ及びプレゼンテーションと、一連の研究の手順を実践し、生活デザイン学科の学習の総まとめとすることを目的とする。
履修条件	3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していること。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	家政学及びそれに関連する分野の、より進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点 (K)	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス 統計処理の方法／グラフ・図・表の作成	統計処理の方法およびグラフ・図・表の作成方法を学ぶ。	自分の調査の統計処理をし、グラフ・図・表を作成する。	90
第2回	論文の表現 1	論文に適さない表現を学び、文中不適切な部分を修正する練習をする。結果を発表し、相互に意見を出し合ってより良い表現にしていく。	論文の表現についての練習問題をやる。	90
第3回	論文の表現 2	論文に適する表現を学び、まとまった文章をより論文にふさわしい文章に修正する練習をする。結果を発表し、相互に意見を出し合ってより良い表現にしていく。	論文の表現についての練習問題をやる。	90
第4回	論文の構成	論文の構成を学び、例示された論文をそれにあてはめて	自分の論文の構成(アウトライ	90

		分析する。分析はグループワークで行う。	ン)を再検討する。	
第5回	グラフ・図・表の使い方	グラフ・図・表の論文での使い方を学び、自分の論文での計画を立てる。	自分の論文の中のグラフ・図・表の解釈文を考える。	90
第6回	引用の方法2	引用文献一覧等の書き方を学び、練習問題を通して形式を身につける。	自分の論文の引用文献一覧を作成する。	90
第7回	引用の方法3	自分の論文の引用部分を整理する。	どの部分に直接引用、どの部分に要約引用を用いるかを考える。	90
第8回	グラフ・図・表の使い方	グラフ・図・表の論文での使い方を学び、自分の論文での計画を立てる。	自分の論文の中のグラフ・図・表の解釈文を考える。	90
第9回	本論の構成	本論の構成を学び、自分の論文の本論を執筆する。	本論の執筆をする。	90
第10回	結論の構成	結論の構成を学び、自分の論文の結論を執筆する。	結論の執筆をする。	90
第11回	要約の方法	要約の方法を学び、論文要旨を作成する。	論文要旨を修正し完成する。	90
第12回	レジュメの作成	レジュメの作成方法を学び、卒業研究発表会のレジュメを作成する。	レジュメを修正し完成する。	90
第13回	口述原稿の作成	口述原稿の作成方法を学び、卒業研究発表会の口述原稿を作成する。	口述原稿を修正し完成する。	90
第14回	発表の方法	発表の方法を学び、卒業研究発表会の準備をする。	発表のリハーサルし、時間に合わせて調整する。	90
第15回	卒業研究発表会	各自の卒業研究について発表し、質疑応答を行う。	卒業研究について振り返りを行う。	90

学生へのフィードバック方法 課題に対する口頭および書面によるコメント

評価方法 卒業研究の内容（内容、構成、表現、形式）、平常点（ディスカッション、発表、取り組みの姿勢）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
卒業研究の内容	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合 卒業研究の内容80% 平常点20%

使用教科書名 (ISBN番号) なし

ディプロマポリシーとの関連
 【知識・理解】 家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。
 【思考・判断】 社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。
 【関心・意欲・態度】 社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
 【技能・表現】 課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。

オフィスアワー 月曜日3限、水曜日2限（後期）

学生へのメッセージ 自分の興味を深めながら、それまでに習得した技術を駆使し、卒業研究を完成しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自ら設定した課題で研究を進める。
情報リテラシー教育	○	文献収集、調査・統計処理、論文作成および口頭発表を行う。
ICT活用	○	PCを駆使して資料を作成する。

シラバス参照

講義名	テキスタイル材料学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 花田 朋美	指定なし

ナンバリング	D12101M21
授業概要(教育目的)	我々の生活に欠く事のできない被服を科学的に捉え、正しく理解するために、繊維製品に関する消費性能について考え、これらの性能を発現させるための原料となる繊維、繊維からなる糸、糸を組み合わせた織物・編物などの布帛について学び、主要な被服材料の化学的・物理的構造が被服にどのように反映されているのかについて考察する力を育成する。
履修条件	なし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	繊維集合体としての被服材料の性質を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	繊維製品の諸課題を主体的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	繊維製品の諸問題について、積極的に関心を有している。
技術・表現の観点 (A)	繊維製品の課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	テキスタイル材料学材料学って何?	テキスタイル材料学の講義内容について概説する。グループに分かれて、今着用しているものはどのようなものか(素材、色、形等)について調査し、集計をして、発表する。	グループワークの調査結果をまとめておくこと。	180分
第2回	被服着用の目的と繊維製品の消費性能	私たちはなぜ被服を着用しているのか、繊維製品の消費性能とは何か学習する。	配付プリントの「被服着用の目的」「繊維製品の消費性能」を読んでおくこと。	180分
第3回	繊維について	被服材料の原料となる繊維とはどのようなものであるか理解する。	配付プリントの「繊維について」を読んでおくこと。	180分
第4回	糸について	グループに分かれて、糸とはどのようなものか、繊維がどのように集合して糸を構成しているのか試料を分解しながら観察する。	配付プリントの「糸について」を読んでおくこと。	180分
第5回	糸の太さの	恒長式番手、恒重式番手の表示の仕方、糸の太さの計算	配付プリントの「糸の太さの表	180分

	表示	を方法を理解する。板書した問題にグループで回答を導き出す。	示」を読んでおくこと。	
第6回	布帛について	布帛は、繊維や糸がどのように構成されてきているのか、織物分解鏡で試料を観察する。また身近な布帛はどのようなものか調べる。	配付プリントの「布について」を読んでおくこと。	180分
第7回	織物の種類と構造	織物の基本構造三原組織とはどのようなものか組織図を理解する。	配付プリントの「織物の組織について」を読んでおくこと。	180分
第8回	織物組織資料の製作	三原組織（平織、斜文織、朱子織）の資料を各自作成し、組織の構造と表記の仕方を理解する。	三原組織（平織、斜文織、朱子織）の資料を完成させる。	180分
第9回	編物の種類と構造 その他の布帛	編物経編と横編を理解し、編物の基本組織学が。近年、使用量の増加している不織布等、その他の布帛についても学習する。	配付プリントの「編物の組織について」を読んでおくこと。	180分
第10回	繊維の分類 (1) -植物性天然繊維-	植物性天然繊維の構造と特徴を理解する。	配付プリントの「植物性天然繊維」を読んでおくこと。	180分
第11回	繊維の分類 (2) -動物性天然繊維-	動物性天然繊維の構造と特徴を理解する。	配付プリントの「動物性天然繊維」を読んでおくこと。	180分
第12回	繊維の分類 (3) -化学繊維-	化学繊維の紡糸法を理解し、繊維製造の概要を理解する。	配付プリントの「化学繊維の紡糸法」を読んでおくこと。	180分
第13回	繊維の分類 (4) -化学繊維-	レギュラー合成繊維の特徴と改質技術についての概要を理解する。	配付プリントの「合成繊維と改質」を読んでおくこと。	180分
第14回	繊維製品の消費性能	繊維製品の消費性能のうち特に快適性に寄与する強度に関する性能と着心地に関する性能について理解する。また、グループに分かれて、今着用しているものはどのようなものか（素材、色、形等）について調査し、集計をして、発表する。結果をこの授業の第1回目と比較し、快適な被服についてディスカッションを行う。	配付プリントの「繊維製品の消費性能」を読んでおくこと。	180分
第15回	繊維製品と環境問題	衣服の製造、着用、廃棄の各段階で生じている環境問題について理解する。	配付プリントの「繊維製品と環境問題」を読んでおくこと。	180分
第16回	筆記試験	筆記試験とまとめ	配布プリントを整理し、総復習をしておくこと。	

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 毎回の授業におけるアドバイス、及びディスカッション。提出課題に対しての修正、コメント。

評価方法
 ①筆記試験
 ②課題提出（内容の理解、完成度、提出日の順守について評価）
 ③平常点（意欲、態度、グループワークにおける行動力、調整力、理解力を評価）

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
筆記試験	○	○	○	
提出課題	○	○	○	○
平常点	○	○	○	

評価割合 筆記試験60% 提出課題20% 平常点20% を総合的に評価

使用教科書名 (ISBN番号) 適宜プリントを配布

参考図書
 ①衣服材料の科学 (ISBN4-7679-1044-7 島崎恒藏編著 建帛社発行 平成14年第4刷)
 ②最新テキスタイル工学Ⅱ (ISBN978-4-908111-09-9 西松豊典編著 繊維社企画出版発行 2016年第2版)

ディプロマポリシーとの関連
 【知識・理解】衣生活デザイン分野に関する専門的知識、技術を有している。
 【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し、考察することができる。各種の多様な情報を客観的に理解し、判断できる。
 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持つことができる。

	【技能・表現】衣生活デザイン分野の学びを深め課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。															
オフィスアワー	金曜日 11時～12時30分 2407被服材料学研究室															
学生へのメッセージ	被服を最も身近な環境と捉え、快適な衣服とは何か考えてほしいと思います。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>グループワークによる観察、ディスカッション</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング	○	グループワークによる観察、ディスカッション	情報リテラシー教育			ICT活用		
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業																
アクティブ・ラーニング	○	グループワークによる観察、ディスカッション														
情報リテラシー教育																
ICT活用																

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	衣繊維学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 花田 朋美	指定なし

ナンバリング	D22103M21
授業概要(教育目的)	糸や布の原料である繊維材料としての高分子、その集合体である繊維の構造や性質を微細構造的に捉え、天然繊維、化学繊維の特徴を理解する。更に、高感性繊維、高機能性繊維等の話題の繊維とその繊維に施された技術や発想の原点を学び、繊維を形成する高分子がいかに多彩に変身するか、いかに新しい性質を持つようになったか等について考察する力を育成する。
履修条件	なし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	繊維集合体としての被服材料の性質を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	繊維製品の諸課題を主体的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	繊維製品の諸問題について、積極的に関心を有している。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	衣繊維学の概要	衣繊維学の講義内容について概説する。グループに分かれて、今着用している衣服はどのような素材からできているか調査し、集計をして発表する。	グループワークの調査結果をまとめておく。身近にかわった繊維がないか調べておくこと。	180分
第2回	繊維高分子の構造	繊維の構造はどのようなものか、特に衣料用繊維は鎖状高分子であり、結晶性高分子であることが重要な要素であることを理解する。	配付プリントの「繊維高分子の構造」を読んでおくこと。	180分
第3回	セルロース繊維ー綿・麻ー	セルロース繊維である綿と麻の微細構造を理解する。	配付プリントの「セルロース繊維の構造」を読んでおくこと。	180分
第4回	タンパク質繊維(1)ー羊毛ー	タンパク質繊維である羊毛の微細構造を理解する。	配付プリントの「タンパク質繊維ー羊毛ーの構造」を読んでおくこと。	180分
第5回	タンパク質繊維(2)	タンパク質繊維である絹の微細構造を理解する。	配付プリントの「タンパク質繊維ー絹ーの構造」を読んでおくこと。	180分

	－絹－		こと。	
第6回	再生繊維・半合成繊維	再生繊維（キュプラ、レーヨン）と半合成繊維（アセテート）の微細構造を理解する。	配付プリントの「再生繊維・半合成繊維」を読んでおくこと。	180分
第7回	合成繊維 （1）－ナイロン－	ナイロン繊維の微細構造について理解する。	配付プリントの「ナイロン繊維」を読んでおくこと。	180分
第8回	合成繊維 （2）－ポリエステル－	ポリエステル繊維の微細構造について理解する。	配付プリントの「ポリエステル繊維」を読んでおくこと。	180分
第9回	合成繊維 （3）－アクリル－	アクリル繊維の微細構造について理解する。	配付プリントの「アクリル繊維」を読んでおくこと。	180分
第10回	合成繊維 （4）－その他の合成繊維、生分解性合成繊維－	その他衣料用繊維として汎用性の高い繊維や、近年注目されている生分解性合成繊維の構造を理解する。	配付プリントの「その他の合成繊維」を読んでおくこと。	180分
第11回	高感性・高機能性繊維の開発の歴史と製造技術の進展 （1）	高機能性繊維の発想の原点とその背景を理解する。	配付プリントの「高感性・高機能性繊維（1）」を読んでおくこと。	180分
第12回	高感性・高機能性繊維の開発の歴史と製造技術の進展 （2）	高機能性繊維の製造技術の進展と技術要素、更に、バイオミメティック（生体模倣）繊維の着眼点と技術要素を理解する。	配付プリントの「高感性・高機能性繊維（2）」「バイオミメティック繊維」を読んでおくこと。	180分
第13回	進化を続ける高機能繊維	繊維の製造技術は進化し続け、私たちの周りには従来品を超える新しい高機能繊維があふれていることを理解し、快適な衣生活とは何か考察する。	配付プリントの「進化を続ける高機能繊維」を読んでおくこと。	180分
第14回	持続可能な衣生活	衣服の製造、着用、廃棄の各段階で生じている諸問題について理解する。DVD観賞。	DVDを見て感じた事、考えたことを整理してまとめておくこと。	180分
第15回	まとめと試験	持続可能な衣生活のために求められることは何か考察する。	配布プリントを整理し、総復習をしておくこと。	180分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 毎回の授業におけるアドバイス、及びディスカッション。

評価方法 筆記試験
平常点（意欲、態度、グループワークにおける行動力、調整力、理解力を評価）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
筆記試験	○	○	○	
平常点	○	○	○	

評価割合 筆記試験80% 平常点20% を総合的に評価

使用教科書名 (ISBN番号) 適宜プリントを配布

参考図書
 ①衣服材料の科学 (ISBN4-7679-1044-7 島崎恒蔵編著 建帛社発行 平成14年第4刷)
 ②最新テキスタイル工学Ⅱ (ISBN978-4-908111-09-9 西松豊典編著 繊維社企画出版発行 2016年第2版)
 ③新繊維学材料入門 (ISBN4-526-03172-01 宮本武明 本宮達也著 日刊工業新聞社発行 2004年)
 ④繊維の科学 (ISBN978-4-526-07641-1 日本繊維技術士センター編 日刊工業新聞社発行 2016年)

ディプロマポリシーとの関連
 【知識・理解】衣生活デザイン分野に関する専門的知識、技術を有している。
 【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し、考察することができる。各種の多様な情報を客観的に理解し、判断できる。
 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持つことができる。

オフィスアワー	火曜日 12時30分～14時 2407被服材料学研究室	
学生へのメッセージ	被服を最も身近な環境と捉え、快適な衣服とは何か考えてほしいと思います。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークによる観察、ディスカッション
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	被服整理学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 園野 哲也	指定なし

ナンバリング	D32108M21
授業概要(教育目的)	衣服は、人が着用することによって人体から汗や皮脂、外部環境から泥や粉塵などの汚れが付着する。付着した汚れは、洗濯によって取り除かれ、衣服は清潔に保たれる。近年、加工により様々な性質を持つ繊維が現れ、その洗浄方法は複雑化している。この授業では、洗剤、洗濯用水、衣服の付着した汚れ、汚れの種類と洗浄方法について科学的に解説する。衣服の洗浄について基礎的知識を習得し、日常生活に応用することを目標とする。
履修条件	テキスタイル材料学を履修していることが望ましい

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	洗剤や洗濯用水、衣服の付着した汚れ、汚れの種類と洗浄方法等について自然科学的に説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	洗剤や洗濯について正確な情報を収集して、論理的批判的に思考し、健康で快適な衣生活の設計と運用における、判断力が備わるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	大学生として、大学の授業に臨む態度が備わるようになる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

被服整理学2019スケジュール

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	この授業の進め方、教科書の紹介、ヒトはなぜ服を着るのか？ヒトはなぜ洗濯をするのか？	オリエンテーション	予習：授業で使用するスライドは、できるかぎり授業前にManabaネットに掲載いたしません。スライドに一通り目を通しておいてください。 復習：この科目は復習重視としています。授業スライドをみながら、ノートを充実させてください。	学習計画注記を参照。
第2回	被服の汚	教科書 第1章	同上	同上

	れ			
第3回	洗濯用水と洗濯機	教科書 第2章	同上	同上
第4回	洗剤 (1)	教科書 第2章	同上	同上
第5回	洗剤 (2)	教科書 第2章	同上	同上
第6回	洗浄理論 (1)	教科書 第4章	同上	同上
第7回	洗浄理論 (2)	教科書 第4章	同上	同上
第8回	TAと被服整理学 中間試験	中間試験を実施します。	同上	同上
第9回	中間試験の解説 家庭洗濯	中間試験の問題を持参してください。 教科書 第6章	同上	同上
第10回	商業洗濯	教科書 第7章	同上	同上
第11回	漂白と増白, 糊つけと仕上げ, 染み抜き	教科書 第8, 9, 10章	同上	同上
第12回	衣服の保管	教科書 第11章	同上	同上
第13回	衣服の廃棄とリサイクル 循環型社会の5R	教科書 第12章	同上	同上
第14回	TESと被服整理学 期末試験	期末試験を実施する	同上	同上
第15回	期末試験の解説, この授業のまとめ	期末試験の問題を持参してください。	同上	同上

学習計画注記	<p>予習：授業で使用使用するスライドは、できるかぎり授業前にManabaネットに掲載いたします。スライドに一通り目を通しておいてください。</p> <p>復習：この科目は復習重視としています。授業スライドをみながら、ノートを充実させてください。</p> <p>教室外学習の時間について 文部科学省の規定では、90分/週の授業に対して自修時間は4.5時間/週です。実際には、大学の規定に従ってください。</p> <p>Manabaネットで連絡する事項は以下の通りである； (1) 授業で使用した、またはこれから使用する予定のスライド* (2) 試験に関する注意事項 (3) 過去問 (4) 緊急の連絡事項** (5) その他</p> <p>* スライドはAdobeAcrobat形式のファイルで提供する。 ファイルにはコピー&ペースト、内容の変更、印刷に制限をかけている。 **緊急の連絡等が遅滞なく受信できるように、リマインダー受信等の登録を、授業開始までに確実にしておくこと。 (特に学年の切り替わりで、受信メールアドレスを変更した場合には、各自の責任でManabaネットの登録内容も変更しておくこと)</p>
学生へのフィードバック方法	<p>毎回授業の最後に行う小クイズは、回収して次週に返却し、課題の解説を行います。</p>
評価方法	<p>授業への積極的参加度 毎回の小クイズを含め、授業への参加度を評価します。(30点満点9)</p> <p>中間試験 第7回までの授業内容で、20点満点で中間試験を実施します。</p> <p>期末試験 第1回～第13回の授業範囲で、50点満点で期末試験を実施します。</p>

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業への積極的参加度	○	○	○	
中間試験	○	○		
期末試験	○	○		

評価割合	授業への積極的参加度：30 % 中間試験：20 % 期末試験：50 % の総合評価とする。
使用教科書名 (ISBN番号)	衣服管理の科学 (衣の科学シリーズ) 片山 倫子 (著), 杉原 黎子 (著), 阿部 幸子 (著), 吉村 祥子 (著) 建帛社 本体価格：2,200円 ISBN-10: 476791048X ISBN-13: 978 - 4767910482
参考図書	授業中に適宜紹介します。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、被服、環境の相互関係から「人間の衣生活」を理解できる専門的知識を有している。 【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、健康で快適な衣生活の設計と運用における判断力を身につけている。 【関心・意欲・態度】大学生として、大学に授業に臨む態度を備えている。
オフィスアワー	非常勤講師のため、オフィスアワーはありません。 電子メール等で、随時ご相談は受け付けます。 連絡方法は、授業冒頭で紹介します。
学生へのメッセージ	質問は授業中、授業終了後は対面で受け付けます。 その他は、電子メール、Manabaネットのスレッドなどで随時受け付けます。 本科目の中心は洗濯です。各自が自分の生活の中で、洗濯（洗濯機洗い、手洗い、柔軟仕上げ、乾燥方法、仕上げと保管）を体験してください。また洗剤、漂白剤、柔軟剤、糊料などにはどのようなものがあるのか、ご自宅ではどのようなものを使っているのか、興味を持って調べてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	毎回の小クイズ
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	授業に関する連絡事項は、できる限りManabaネットを利用する。 Manabaネットの運用方法は、上記学習計画注記を参照のこと。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	染色加工学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 花田 朋美	指定なし

ナンバリング	D32106M21
授業概要(教育目的)	染色は古代から人類の生活に密接に関連する重要な分野で、多くの自然科学に関連する境界領域の科学である。色についての基礎的理解を深め、天然・合成染料の化学構造、化学構造と性質・分類などの一般的概念、及び染色の基礎理論を理解する。更に、伝統的な染色方法、現代の染色について学び、染色加工の問題について考察する力を育成する。
履修条件	なし（染色学実験を併せて履修することが望ましい）
学習目標(到達目標)	
学習目標（到達目標）	
知識・理解の観点 (K)	染色に関する基礎理論を理解し、実践できる知識と技術を身につけている。
思考・判断の観点 (K)	繊維に適した染料の選択と染色方法を例示できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	繊維製品の諸問題について、積極的に関心を有している。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	染色学の概要	染色学の講義内容について概説する。染色とはどのような現象か、染料と顔料の違いは何か理解できる。	身近な衣服で染料で染色されたものと顔料でプリントされたものを探してみる。	180分
第2回	染色の歴史	染色の起源はいつどのようなものであったか、またどのように発展してきたかを学び、染色に使われてきた天然染料と合成染料の概要を理解する。	配付プリントの「染色の歴史」を読んでおくこと。	180分
第3回	染色の方法と条件	浸染や捺染等の染色加工法の概要、及び、時間、温度、浴比、濃度等、染色時の設定条件を理解する。	配付プリントの「染色の方法と条件」を読んでおくこと。	180分
第4回	光と色	色を認識するためには、「光」「物体」「視覚」の三要素が必要であること、特に可視領域の電磁波と色は密接な関係があることを理解する。	配付プリントの「光と色」を読んでおくこと。	180分
第5回	染色性の評価法	染色化学においては、染料液の濃度や染色布の染着量などを科学的に測定することが基本となるため、染料液の	配付プリントの「染料及び染色物の評価」を読んでおくこと。	180分

		吸光度測定と繊維表面の反射率測定により色素濃度を測定することを理解する。		
第6回	天然染料の概説と伝統的な染色方法	代表的な天然染料を染料の実物や染色物を確認しながら理解する。伝統的な染色技法についても解説する。	配付プリントの「天然染料」を読んでおくこと。	180分
第7回	染色の基礎理論	染色過程における染料の染着挙動、繊維内部への拡散挙動を理解する。	配付プリントの「染色とは」を読んでおくこと。	180分
第8回	合成染料の概説	合成染料開発の背景を理解する。	配付プリントの「合成染料」を読んでおくこと。	180分
第9回	合成染料の分類	各種合成染料の特徴を理解し、各々に適用繊維があることを理解する。	配付プリントの「合成染料の分類」を読んでおくこと。	180分
第10回	繊維と染料の結合力	繊維と染料間に結合力（ファンデルワールス結合、水素結合、イオン結合、共有結合と配位結合）が生じるために染色ができることを理解する。	配付プリントの「結合の種類とその力」を読んでおくこと。	180分
第11回	セルロース繊維の染色	セルロース繊維の染色機構を理解する。	配付プリントの「セルロース繊維の染色機構」を読んでおくこと。	180分
第12回	タンパク質繊維の染色	タンパク質繊維の染色機構を理解する。	配付プリントの「タンパク質繊維の染色機構」を読んでおくこと。	180分
第13回	合成繊維の染色	合成繊維の染色機構を理解する。	配付プリントの「合成繊維の染色機構」を読んでおくこと。	180分
第14回	染色に関するトラブル	染色物の変退色、事故品、色に関わるトラブル、染色の環境問題について理解する。	配付プリントの「染色に関するトラブル」を読んでおくこと。	180分
第15回	まとめと試験	繊維に適した染色について総括的に理解する。	配布プリントを整理し、総復習をしておくこと。	180分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	毎回の授業におけるアドバイス、及びディスカッション。
評価方法	筆記試験、平常点

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
筆記試験	○	○	○	
平常点			○	

評価割合	筆記試験80% 平常点20% を総合的に評価
使用教科書名 (ISBN番号)	適宜プリントを配布
参考図書	①染色 理論と工芸染色 (青木美津枝 飯島敏郎 蓮見幸子共著 柴田書店発行 昭和61年三訂版第6刷) ②染色って何?やさしい染色の化学 (ISBN978-4-9902580-4-7 繊維応用技術研究会編 繊維社企画出版発行 2015年第3版) ③染色加工学 (一般社団法人 日本衣料管理協会出版部会編 日本衣料管理協会発行 2020年2月)
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】衣生活デザイン分野に関する専門的知識、技術を有している。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し、考察することができる。各種の多様な情報を客観的に理解し、判断できる。 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持つことができる。
オフィスアワー	火曜日 12時30分～14時 2407被服材料学研究室
学生へのメッセージ	被服を最も身近な環境と捉え、快適な衣服とは何か考えてほしいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	染色加工学実験		
講義開講時期	前期	講義区分	実験
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 花田 朋美	指定なし

ナンバリング	D32107M23
授業概要(教育目的)	染色学の講義で習得した知識をもとに、1) 酸性染料の合成と羊毛の染色 2) ナフトール染料による木綿の染色 3) 塩基性カチオン染料によるアクリルの染色 4) 建染め染料による木綿の染色 5) 天然繊維、合成繊維に対する各種染料の染色等のテーマについて、さまざまな染色条件での実験や測色に関する実験を実施し、染色に関する基礎理論を理解し、実践できる力を育成する。
履修条件	なし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	染色に関する基礎理論を理解し、実践できる知識と技術を身につけている。
思考・判断の観点 (K)	繊維に適した染料の選択と染色方法を例示できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	繊維製品の諸課題について、積極的に関心を有している。
技術・表現の観点 (A)	繊維製品の課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	実験プログラムの説明	染色学実験で行う実験内容、試料、器具の取り扱い等について概要を説明する。レポートの書き方や情報検索の方法についても解説する。	実験書を確認し授業の全体像を確認する。実験やレポート作成に必要なものを準備する。	45分
第2回	酸性染料 Orange II の合成 (1)	酸性染料 Orange II の合成方法を理解し、グループ毎にカップリング反応の準備をする。	実験書 (p. 1~2) 「酸性染料 Orange II の合成」の英文を訳してくる。	120分
第3回	酸性染料 Orange II の合成 (2)	ジアゾ化反応、カップリング反応を理解し、グループ毎に酸性染料 Orange II を合成する。	実験書 (p. 1~3) 「酸性染料 Orange II の合成」の英文と「Direction」を読み、Orange II の合成方法を確認しておく。	60分
第4回	酸性染料 Orange II に	合成した酸性染料 Orange II を使用し、羊毛繊維の染色を行う。グループ毎に酸性度の条件を変化させ、酸性染料	実験書 (p. 4~6) 「Orange II による羊毛の染色」を読んでおく	135分

	よる羊毛繊維の染色	の染色に及ぼす酸性度の影響について考察する。	こと。 酸性染料Orange IIの合成と羊毛繊維の染色のレポートを作成する。	
第5回	ナフトール染料（不溶性アゾ染料）による木綿の染色（1）	グループ毎に繊維上で染料を合成する染色法のナフトール染料を用いて木綿の染色を行う。下付け液を合成し、顕色剤として、Fast colour saltを用いる。更に、ソーピングの方法と効果を理解する。	実験書（p. 7～17）「ナフトール染料による木綿の染色」を読んでおくこと。	60分
第6回	ナフトール染料（不溶性アゾ染料）による木綿の染色（2）	グループ毎にジアゾ化反応を行い、顕色剤を合成してナフトール染料による木綿の染色を行い、不溶性アゾ染料の染色方法を理解する。	実験書（p. 7～17）「ナフトール染料による木綿の染色」を読み、顕色剤の合成方法を確認しておくこと。 ナフトール染料による木綿の染色のレポートを作成する。	120分
第7回	カチオン染料によるアクリル繊維の染色（1）	カチオン染料によるアクリル繊維の染色を行う。グループ毎に染色温度を変化させ、染色に及ぼす温度効果について検討する。	実験書（p. 18～20）「アクリル繊維の染色」を読んでおくこと。	60分
第8回	カチオン染料によるアクリル繊維の染色（2）	カチオン染料水溶液の検量線の作成、及び、アクリル繊維を染色した後のカチオン染料残液の可視吸収スペクトル測定を行い、染色量を算出する。	可視吸収スペクトル測定値より、検量線となるグラフ、及び染色量の温度依存性の結果をグラフにまとめる。	90分
第9回	カチオン染料によるアクリル繊維の染色（3）	カチオン染料で染色したアクリル繊維の測色を行う。試料の反射率測定の結果から、K/S値を算出し、染色された色を客観的に分析する。	カチオン染料によるアクリル繊維の染色のレポートを作成する。	120分
第10回	木綿の建築め染料による染色（1）	インジゴのヒドロサルファイト建築め染料を用いて木綿の染色を行い、建築染料の染色機構を理解する。参加回数の効果について検討する。	実験書（p. 21、22、24、25） 「木綿の建築め染料による染色－インジゴのヒドロサルファイト建築め染料－」を読んでおくこと。	60分
第11回	木綿の建築め染料による染色（2）	アントラキノン系建築め染料を用いて、温浴法中色染色により木綿の染色を行う。染色時間の効果について検討する。	実験書（p. 23、26、27） 「木綿の建築め染料による染色－アントラキノン系建築め染料－」を読んでおくこと。 木綿の建築め染料による染色のレポートを作成する。	120分
第12回	各種染料による染色（1）	グループ毎に三大天然繊維と三大合成繊維計6種を染色温度と時間の条件を変化させ、直接染料と酸性染料で染色実験を行う。	実験書（p. 28、29、30） 「各種染料による染色」「直接染料による染色」「酸性染料による染色」を読んでおくこと。	90分
第13回	各種染料による染色（2）	グループ毎に三大天然繊維と三大合成繊維計6種を染色温度と時間の条件を変化させ、塩基性染料と分散染料で染色実験を行う。	実験書（p. 28、31、32） 「各種染料による染色」「塩基性染料による染色」「分散染料による染色」を読んでおくこと。	90分
第14回	各種染料による染色（3）	三大天然繊維と三大合成繊維計6種を、染色温度と時間の条件を変化させ、4種の染料で染色した試料を整理、分析し、繊維による染色性の違いと温度と時間の効果を総合的に考察する。	各種染料による染色のレポートを作成する。	120分
第15回	総合的考察	全体の実験結果を振り返り、各種染料の用法と染色方法、染料と繊維の染着機構を考察する。	繊維と染料間に働く親和力について整理する。	60分

学習計画注記 授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 毎回の授業におけるアドバイス、及びディスカッション。実験レポートへのコメント。

評価方法 ①実験レポートの提出（実験内容の理解、構成、丁寧さ、意欲の程度を評価）
②平常点（実験内容の理解、行動力、調整力、意欲、態度の程度を評価）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
実験レポート	○	○	○	○

平常点	○	○	○	○
評価割合	レポート60% 平常点40% を総合的に評価			
使用教科書名 (ISBN番号)	染色学実験実験書			
参考図書	①染色 理論と工芸染色 (青木美津枝 飯島敏郎 蓮見幸子共著 柴田書店発行 昭和61年三訂版第6刷) ②染色って何?やさしい染色の化学 (ISBN978-4-9902580-4-7 繊維応用技術研究会編 繊維社企画出版発行 2015年第3版) ③染色加工学 (一般社団法人 日本衣料管理協会出版部会編 日本衣料管理協会発行 2020年2月)			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】衣生活デザイン分野に関する専門的知識、技術を有している。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し、考察することができる。各種の多様な情報を客観的に理解し、判断できる。 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持つことができる。 【技能・表現】衣生活デザイン分野の学びを深め課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。			
オフィスアワー	火曜日 12時30分～14時 2407被服材料学研究室			
学生へのメッセージ	各実際に実験を経験することで、講義で習得した知識をより深めることができます。主体的に参加してほしいと思います。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング	○	毎回グループワークによる実験を実施する。		
情報リテラシー教育	○	実験テーマ毎のレポート提出を課題とする。		
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	アパレル設計論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田 弘美	指定なし

ナンバリング	D22206M21
授業概要(教育目的)	被服設計の基礎知識として衣服の分類、人体の構造と計測、体型の特徴と衣服、JISサイズ、衣服原型の設定、身頃・袖・衿・スカート原型のデザイン展開、服飾素材・副資材の選定、立体化の技法、縫製の基礎、衣服の評価などについて学び、衣服製作の製図、材料、縫製のデザイン(設計)を理解することを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	衣生活に関する諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点 (K)	衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	衣生活に関する課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

アパレル設計論

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	人体計測 1	既製服の誕生から量産の背景、量産のために必要な人体計測機器について理解する。	教科書「人体形態の把握」(5~11)を読んでおくこと。	180分
第2回	人体計測 2 体型の特徴	計測方法について理解し、身頃原型の製図に必要な項目をグループで計測する。個体差、成長と老化、性差、人種差について理解する。	教科書「基準線から」(11~30)を読んでおくこと。計測は衣服の上から行うが、厚い上着の場合は脱げるような服装でくこと。教科書「人体分析」(32~36)を読んでおくこと。	180分
第3回	パターン設計 1 (身頃原型)	立体的な人体と平面的な身頃原型について立体的な身頃から形態を把握する。身頃原型の製図作成のための数値計算を学ぶ。	教科書「パターン設計」(37~40、45~46)を読んでおくこと。	180分
第4回	パターン設計 2 (身頃原型)	実物大の身頃原型の製図を学び、点検を受ける。シーティング(生地)の扱い方を学ぶ。	教科書「パターン設計」(46~48)、配付プリントを読んでおくこと。点検後は原型を修正し	180分

			て提出、後期の服飾造形実習Bで使用する。	
第5回	パターン設計3 (原型作成)	製図からシーチングに原型をトレースし、裁断、印付けを学ぶ。	配布プリントを読んでおくこと。	180分
第6回	パターン設計4 (原型作成)	縫製方法を学び、完成させることができる。	配布プリントを読んでおくこと。	180分
第7回	ダーツ展開1	バストダーツの移動についてその意味と方法を理解する。	教科書「パターン設計」(46~48)、教科書「バストダーツの移動」(41~43)を読んでおくこと。	180分
第8回	ダーツ展開2 衿の製図1	肩ダーツの移動についてその意味と方法を理解する。衿の製図(シャツカラー1/4)の製図を理解する。	教科書「肩ダーツの移動」(44)、「衿の作図」(54~55)を読んでおくこと。	180分
第9回	特別授業(副素材)	副素材のファスナー・スナップについて株式会社YKKの講師によって講義を行う。実務経験を活かした授業である。	配付プリント、資料の整理すること。	180分
第10回	衿の製図2	基本シャツカラー(1/4)から、各種の衿に展開し、衿の上がり寸法の変化について理解する。	教科書「衿の作図」(54~55)を読んでおくこと。服飾造形実習Bの課題に関連するので衿の製図手順を整理しておくこと。	180分
第11回	袖の製図1	基本のセットインスリーブの製図(実物寸法)と袖山、袖幅の関係を理解する。	教科書「袖の作図」(51~54)を読んでおくこと。服飾造形実習Bで使用するので、点検後の製図は保管しておくこと。	180分
第12回	袖の製図2	基本のセットインスリーブからパフスリーブへの展開を学ぶ。	教科書「袖の作図」(51~54)を読んでおくこと。	180分
第13回	スカートの製図(下肢を包むもの1)	基本タイトスカートからセミタイトスカート、フレアスカート、ギャザースカートへの展開とその方法を学ぶ。	教科書「スカート」(60~63)を読んでおくこと。学ぶ	180分
第14回	パンツの製図(下肢を包むもの2)	パンツの製図(1/4)法を理解する。	教科書「パンツ」(64~65)を読んでおくこと。パンツの製図を完成させて製図法を整理する。	180分
第15回	素材の選定	標本を作成し、天然繊維(木綿)、化学繊維の薄物生地について特徴と用途を学ぶ。	素材の特徴、用途をまとめ、筆記試験に対する準備をすること。	180分

学生へのフィードバック方法 提出物(身頃原型の製図)に対するコメント

評価方法 平常点(授業への参加状況・提出期日などで総合的に判断する)、提出物(身頃原型の製図)、レポート

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解(K)	思考・判断(K)	関心・意欲・態度(V)	技術・表現(A)
平常点			○	
提出物(身頃原型の製図)	○	○	○	○
筆記試験	○	○		

評価割合 平常点30%(授業への参加状況・提出期日などで総合的に判断する)、提出物(身頃原型の製図)20%、レポート50%

使用教科書名(ISBN番号) アパレル生産実習・アパレル設計実習
一般社団法人日本家等管理協会

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】衣生活に関する諸課題についての知識を深める。【思考・判断】衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。【技術・表現】衣生活に関する課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

オフィスアワー 木曜日12:30~14:00

学生へのメッセージ 身頃原型は服作りで最も基本的な体型を表現する基型です。

この授業では身頃原型を製図し、後期の服飾造形実習Bで使用しますので履修する学生は保管しておいてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	副資材を扱っているファスナー会社の講師に特別授業を依頼している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ウィービングデザイン演習 A		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	1 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 馬場 美和子	指定なし

ナンバリング	D22302M22
授業概要(教育目的)	テキスタイル材料学で学んだ織物に関する基礎知識をもとに、目的や用途に合った物性、風合い、色柄を備えたテキスタイルを適切に企画、設計、素材選定できる力を身に付けるため、手織機により三原組織(平織・斜文織・朱子織)の基礎織の設計及び制作を行う。テキスタイルデザインの基礎的な理論と技術を理解できるようにする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 織物組織、糸と密度の関係、風合いについて理解を深める。 2. 手織機の構造を理解する。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	1. 用途に合った布の仕上げ、表現ができる。 2. 手織機のセッティングと操作ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	織物の概要。基礎制作「三原組織の色糸配列効果」の課題説明。一人一台手織機を使用し2色以上のコントラストのはっきりしたウール糸を用いて異なる配列を作りパターンを製作する。	経糸の配色を決めること。機結びを練習する。	120分
第2回	基礎織：三原組織の色糸配列効果	整経をする。	経糸アレンジメントの表を理解する。整経を終わらせること。	120分
第3回	基礎織：三原組織の色糸配列効果	機ごしらえ(箆通し、綜統通し、織り付け)をする。	機ごしらえを終わらせること。	120分
第4回	基礎織：三原組織の色	平織、斜文織の製織をする。	製織を終わらせること。	120分

	糸配列効果			
第5回	基礎織：三原組織の色糸配列効果	平織、斜文織、朱子織の組織図を作成する。実際に織った布を糸の色を反映した図式化をして織物組織を理解する。	組織図を完成させること。	180分
第6回	基礎織：三原組織の色糸配列効果	朱子織の機ごしらえ（綜統通し、箄通し、織り付け）をする。	織り付けを終わらせること。	120分
第7回	基礎織：三原組織の色糸配列効果	朱子織を製織する。房を毛糸綴じ針でかがり始末する。 応用制作：プレゼントの課題説明をする。	製織を終わらせ、房の始末をすること。	120分
第8回	基礎織：三原組織の色糸配列効果	平織、斜文織の房の始末をする。平織はネクタイ結び、斜文織はフリンジで始末し、デザインや用途によって使い分けることを学ぶ。 布を縮絨し風合い出しをする。	房を始末し、縮絨を終わらせること。アイロンがけをしておくこと。次回からの応用制作「プレゼント」のレポート作成を完成させること。	予習：180分 復習：240分
第9回	応用制作：プレゼント	「プレゼント」のプレゼンテーションをする。プレゼントしたい相手とアイテムを設定し織物を制作する。織物設計表を作成する。	使用糸を決めておくこと。織物設計表を完成させること。	120分
第10回	応用制作：プレゼント	経糸アレンジメントを作成し、整経をする。	整経を終わらせること。	120分
第11回	応用制作：プレゼント	機ごしらえをする。（箄通し、綜統通し、織り付け）	機ごしらえを終わらせること。	120分
第12回	応用制作：プレゼント	製織作業をする。織物設計表に基づいて、織り進める。何センチ織ったかを測って記録を付ける。	作業時間を記録し、製織作業を進めておくこと。	240分
第13回	応用制作：プレゼント	製織作業をする。織物設計表に基づいて織り進める。	織り上げること。	240分
第14回	応用制作：プレゼント	布を仕上げる。用途、素材に合った仕上げをする。デザインに沿った縫製をする。	布の仕上げ、縫製を完成させる。	240分
第15回	応用制作：プレゼント	合評会をする。課題「プレゼント」の作品を発表する。受講生同士で感想を述べ、意見交換をする。	提出物のまとめをする。作品、織物設計表と中間レポートを提出すること。	予習：120分 復習：180分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になることがあります。

学生へのフィードバック方法 期末提出物は採点し、返却する。

評価方法 期末提出物は2課題とし、
第1課題「基礎制作」は織物組織を理解しているか、布の仕上げが出来ているかを評価。
第2課題「応用制作：プレゼント」は制作意欲やアイデア、仕上げの丁寧さ、プレゼンテーション（発表）を評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
期末提出物	○	○	○	○
平常点・授業姿勢	○		○	
合評会（発表含む）	○		○	

評価割合 期末提出物（基礎・応用制作作品・織物設計表など）60%
平常点・授業姿勢（作業記録レポート含む）30%
合評会5% 発表5%

使用教科書名 (ISBN番号) プリント資料配布

参考図書 ウィービング・ノート 織物と組織・織りの計画・織りと道具 岸田幸吉著 1978年10月美術出版社
手織のデザイン基礎編 長谷川委子著 1979年9月源流社
ハンドウィービング手織りの実習 浜野義子 田中佳子 太作星乃 田中通子共著 1984年9月文化出版局

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】「衣」について専門的知識・技能を有している。グローバルな視点から「衣」の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。

学生へのメッセージ 織り実習では織機を1人1台使用します。毎回異なった作業をするので、できるだけ遅刻欠席の無いようにして下さい。基礎制作では、学校にある糸を使用しますが、応用制作は、コンセプトにあった材料を各自購入してください。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は染織作家として実務経験を有している。作品制作を行い個展の開催や商品の販売を行っており制作について指導することができる。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	衣環境衛生学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 丸田 直美	指定なし

ナンバリング	D32110M21
授業概要(教育目的)	快適で健康的・機能的な被服の在り方を人体の生理衛生的観点から理解するため、被服の条件を「気候への適応性」「運動・動作への適応性」「皮膚の生理・衛生」の3つの視点から捉え、適切な被服素材、設計、着装が選択でき、現代社会における被服の健康問題について考察する基礎的な知識を習得することを目的とする。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	被服の素材、デザイン、着方および環境を含む衣生活全般について、専門的な知識を含めて修得し、その内容を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	快適で健康的・機能的な被服の在り方について、適切な被服素材、設計、着装の選択について考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	衣料管理士として、健康的な衣生活について専門的な知識や情報収集能力を持つことを自覚できる。
技術・表現の観点 (A)	人体生理衛生に関する事象に対して実証的に調べる基礎的な方法を身につける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	被服による健康確保の概論および歴史的背景	オリエンテーション 衣環境衛生学の目的、研究対象と範囲、快適性・健康とは何か。 アパレルが健康に及ぼす影響や健康増進に果たす役割を人間の生理に基礎をおいて捉えることの重要性について概説する。	テキストの熟読	1時間
第2回	体温と皮膚温	人間の体温は環境温度が変化してもほぼ一定に保たれるが、皮膚温は環境温度によって変化する。これらの仕組みについて体温調節の観点から概説する。	自分の平熱を測り、1日の体温変動についてフィールドワークを行う。 体温の変動と自分の活動内容、着装状態等を考えて、体温変動について考察しレポートを作成する。	測定2時間、レポート作成3時間
第3回	人体における産熱	人体のエネルギー代謝の仕組みや種類、特徴について概説する。	自分の行動内容とエネルギー代謝の関係等テキストを読んで理解を深める。	1時間

		自分の基礎代謝や一日のエネルギー代謝について調べ、自分自身の身体について理解を深める。		
第4回	人体からの熱の放散	人体からの熱の放散には4種類あり、その概念について概説し、自分の周りに起こっている熱の移動現象について理解を深める。	日常生活での熱移動現象についてテキストを熟読しながら理解を深める。	1時間
第5回	体温調節機構	人体の体温調節機構について説明し、人間の体温調節の仕組みを理解する。	自律性体温調節と行動性体温調節などの現象について、テキストで復習する。	1時間
第6回	環境の温熱条件	環境条件を説明するための温熱因子、総合的な指標としての温熱指標にはどのようなものがあるのかを解説し、生活の中での温熱因子や温熱指標について理解する。	テキストを熟読し、身の回りの環境温熱条件を考え、環境と人体の関係について理解を深める。	1時間
第7回	衣服による気候調節	我々は衣服を着ることで、暑い時でも寒い場所でも手軽に快適な状態を得ることができる。どのような衣服が気候調節に優れているのか、気候調節の観点から効果的に衣服を着るにはどうしたらよいかを考える。また、快適な着衣を考える上での基本的な性能について、衣服の素材や形態に着目して学修する。	自分の持っている衣服を用いて、暑さ寒さに対応した衣服のコーディネートを考える。	1時間
第8回	環境に適した着衣量（衣服の保温性の評価）	暑さ寒さに対応した快適な着装をするための指標として、衣服の保温性（熱抵抗）を表すクロ値（clo値）について概説する。各自の着衣のクロ値を計算し、季節ごとにどのくらいのクロ値を着用しているのかを調べ、適正着衣量について考える。	実際に着用していた四季の衣服の着衣量（保温性）について調べ、環境との関係をまとめる。	1時間
第9回	暑い季節に適した衣服	暑い環境において、具体的にどのような衣服を着用すればよいか、衣服の形態、着装方法、重ね方などについて、科学的データをもとに解説し、理解を深める。さらに、今後の自分の着装行動に応用できるようにする。	暑い環境への対策と適した衣服について、テキストの熟読	1時間
第10回	寒い環境に適した衣服	寒い環境において、具体的にどのような衣服を着用すればよいか、衣服の形態、着装方法、重ね方などについて、科学的データをもとに解説し、理解を深める。さらに、今後の自分の着装行動に応用できるようにする。	寒い環境への対策と適した衣服について、テキストの熟読	1時間
第11回	身体の拘束の指標としての衣服圧	衣服圧は、身体を拘束し着用時の無効仕事量を増大させるため、重要な指標として用いられている。そこでまず、衣服圧の発生要因とその測定方法を理解し、日常衣服での衣服圧について考える。	身の回りの衣服による締め付けと快適性について考えながら、テキストを熟読する。	1時間
第12回	衣服圧の人体への影響とアパレルにおける有効活用	過度な衣服は健康に害をもたらす一方、適度な衣服圧は身体によい影響を及ぼし、生活の質の向上に資することも報告されている。そこで、衣服圧の影響についてその基本を理解するとともに、衣服圧の功罪をしり、適切なアパレルの選択ができるように理解を深める。	テキストを熟読する。	1時間
第13回	アパレルと皮膚の生理・衛生	皮膚の構造や機能について概説し、皮膚に関連して、被服と汚れ、衣料による皮膚障害について例をあげて概説する。	皮膚の生理と衣服の関係性等を考えながらテキストを熟読する。	1時間
第14回	アパレルと健康をめぐる現代的課題	アパレルによる障害と対策、衣服による環境からの危害の防止、高齢者や障がい者などの衣服について考える。これらの人々が快適な衣生活、健康的な衣生活をするように、みんなで話し合いながら問題解決を行う。	快適で健康的な衣生活のための問題について考えながらテキストを熟読する。	1時間
第15回	アパレルと環境	アパレルと環境についてこれまでの学習のまとめを行う。	学修した内容を生かして、今後の衣生活を快適で健康的に過ごす。	

学生へのフィードバック方法 定期的リアクションペーパーに記入してもらい、次回の授業でその内容や質問に関して学生にフィードバックを行う。

評価方法 平常点とレポート

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
レポート	○	○		○

評価割合	レポート（60%）平常点（40%）	
使用教科書名（ISBN番号）	アパレル生理衛生論（一般社団法人 日本衣料管理協会）	
学生へのメッセージ	教科書を持参して、必要な内容を毎回書き込んで使ってください。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食品衛生学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次 R2年度のみ読替		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 山崎 薫	指定なし

授業概要(教育目的)	食品に対する多様な要望の中でも安全性は基本的必要条件である。食品衛生の対象は食品だけでなく食品添加物、器具、容器包装、おもちゃ、洗剤なども含まれる。近年の食中毒の発生状況からみた傾向、食品添加物の安全性と発ガンの問題、食品と感染症や寄生虫との関係などについての理解を深め、食生活の中で留意すべき点についても学ぶ。現代生活学部生活デザイン学科フードスペシャリスト(専門を含む)受験資格、フードコーディネーター3級認定登録に関する必修科目である。
履修条件	高校までの生物、化学の知識を有していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

観点	説明
知識・理解の観点 (K)	多種多様な食品と場の安全管理に必要な専門的知識を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	多種多様な食品と場の安全確保の思考、応用判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	多種多様な食品と場の安全管理に関心をもち、応用展開ができる。
技術・表現の観点 (A)	多種多様な食品と場の安全管理に関する事項を他者へ正しく伝える文章を作成できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	食品の衛生と法規	食品の衛生概要、国内外の食品に関連する法規と組織について理解する。	教科書;第1章「食品衛生と法規」(12~37ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第2回	食品の変質①	食品の変質原因物質と食品の変質発生機序について理解する。	教科書;第2章「食品の変質」(38~44ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第3回	食品の変質②	食品の変質に対する判定方法と食品の変質防止方法について理解する。	教科書;第2章「食品の変質」(44~53ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第4回	食中毒①	食中毒の発生状況、三類感染症、細菌性食中毒①(サルモネラ属、腸炎ピブリオ、病原大腸菌)について理解する。	教科書;第3章「食品と微生物」・第4章「食中毒」(54~73ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第5回	食中毒②	細菌性食中毒②(ウェルシュ、エルシニア、セレウス、カンピロバクター、リステリア)について理解する。	教科書;第4章「食中毒」(74~78ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分

			と。	
第6回	食中毒③	細菌性食中毒③（ナグビブリオ等）、ウイルス性食中毒（ノロウイルス等）、人獣共通感染症について理解する。	教科書；第4章「食中毒」（79～83, 94～96ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第7回	食中毒④	寄生虫（魚類からの感染、肉類からの感染、野菜や水からの感染）、化学物質による食中毒について理解する。	教科書；第4章「食中毒」（83～93, 97～98ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第8回	食中毒⑤	動物性自然毒（フグ毒、シガテラ毒、麻痺性貝毒、下痢性貝毒等）について理解する。	教科書；第4章「食中毒」（98～100ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第9回	食中毒⑥	植物・真菌性自然毒（キノコ毒、アルカロイド配糖体、青酸配糖体、その他）について理解する。	教科書；第4章「食中毒」（100～106ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第10回	食品中の汚染物質①	カビ毒、内分泌かく乱物質、有害元素（水銀、カドミウム、ヒ素、銅、スズ）について理解する。	教科書；第5章「食品中の汚染物質」（107～122ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第11回	食品中の汚染物質②	放射性物質（人体への影響、食品汚染）、異物混入（動物性、植物性、鉱物性）について理解する。	教科書；第5章「食品中の汚染物質」（122～129ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第12回	食品添加物	食品添加物の分類と安全性評価（食品衛生法による食品添加物の分類を含む）について理解する。	教科書；第6章「食品添加物および残留農薬等」（130～143ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第13回	残留農薬等	ポジティブリスト制度、食品に関わる器具・容器包装、遺伝子組換え食品等について理解する。	教科書；第6章「食品添加物および残留農薬等」（143～155ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第14回	食品衛生管理と食品表示制度	国内外の食品衛生管理基準と食品衛生管理手法（HACCP・ISO等）、衛生事項および品質事項に関する食品表示基準等について理解する。	教科書；第7章「食品衛生管理」（156～175ページ）、第8章「食品表示制度」（176～205ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第15回	定期試験とまとめ	定期試験とまとめを行う。	第1～15回目の授業の振り返りを行っておくこと。	予習90分、復習90分

学習計画注記	* 授業展開において、履修者数や授業進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業内において、必要事項を適宜、フィードバックします。また、質問等がある場合は町田校舎2308研究室へ訪問、もしくはメールにて連絡して下さい。訪問される際は事前にメールで連絡し、アポイントをとって下さい。
評価方法	課題レポート20%、定期試験（筆記試験）80%の総合評価（100%）とします。

評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	課題レポート	○	○	○	
	定期試験（筆記試験）	○	○		

評価割合	課題レポート20%、定期試験（筆記試験）80%の総合評価（100%）
使用教科書名 (ISBN番号)	栄養科学イラストレイテッド 食品衛生学 改訂第2版 田崎達明／編 2019年08月20日発行 B5判 272ページ ISBN 978-4-7581-1359-5
参考図書	トニー・ハート 恐怖の病原体図鑑 ウイルス・細菌・真菌完全ビジュアルガイド 西村書店 濱田篤郎 寄生虫ビジュアル図鑑 危険度・症状で知る人に寄生する生物 誠文堂新光社
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。 【思考・判断】多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度】食品の分類と特性に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。 【技術・表現】専門的知識を他者に正しく伝える文章力を身につける。
オフィスアワー	水曜5限 2308研究室 授業前後、メール等で事前に予約と時間の承諾を得て下さい。
学生へのメッセージ	食品を理解するために基礎生物学、基礎化学に始まり、有機化学的な学びの要素も出てきます。それらの学びは苦手なほど、共通科目や学科専門科目で学びを深めておいて下さい。 現代生活学部食物学科における栄養士免許の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科でもありません。食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格取得、フードスペシャリスト（専門を含む）受験資格、フードコ

一ディネーター3級認定登録に関する必修科目でもあります。家庭科の中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状の資格取得の選択科目でもあります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、授業展開を行う。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	調理と素材		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次 R2年度のみ読替		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小口 悦子	指定なし

授業概要(教育目的)	食生活の源泉である食材は、多種多様である。それぞれの食材も調理条件により食味の異なった料理となる。日常使用頻度の高い素材について、その性質を生かした調理法を究めることにより、料理への創造性を養うことを目的とする。あわせて、素材の適性な組み合わせ、献立構成、地域の素材を使った料理の提案など調理全般についての応用力を養うことを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	食材の扱い方、調理特性を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	食材の特性を生かした献立立案ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	授業のテーマ(食材)について調査し、まとめることができる。
技術・表現の観点 (A)	提案された課題について、情報収集をし適切なまた、創造的な調理法の提案ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業概要	授業の内容説明と評価法等を説明する。6週、9週目に予定している「地域の食材を利用した献立」の目的、流れを説明する。実習上の取り決めや実習室の使用法について理解する。	次週の献立をノートに記入しておくこと。 6週、9週目に予定している「地域の食材を利用した献立」についての調査や下準備をしておくこと。	120分
第2回	米を主とした献立	千葉県郷土料理のひとつである、飾り巻きずしの実習を行う。また小鯛のてまり寿司、いなりずしなど、すしのバリエーションとその技術的な要点を学ぶとともに、巻きずしの切り口を生かした盛り付け方、配膳法を学ぶ。うるち米を加工した道明寺粉を用いて桜餅の実習を行う。	実習ノートに、献立、材料、分量、調理法、盛り付け・配膳図、反省、感想を記入し、米を用いた料理1品を調べて記入しておくこと。 次週の献立もノートに記入しておくこと	120分
第3回	小麦粉を主とした献立による実習	小麦粉を使用した、包子饅頭(肉饅頭、豆沙饅頭)鍋貼餃子、杏仁酥餅の実習を通して、小麦粉グルテンの特徴とでんぷんの特徴が調理上どのように生かされ、嗜好性	実習ノートに、献立、材料、分量、調理法(科学的、技術的要点)、盛り付け・配膳図、反省、感想を記入し、小麦粉を用	120分

	(中国料理、点心)	に影響するかも知る。また、点心の意味合いと盛り付け・配膳等テーブルコーディネートについても学ぶ。	いた料理1品を調べて記入しておくこと。 次週の献立もノートに記入しておくこと。 トマトのレシピを考案し次週提出すること。	
第4回	いも類を主とした献立による実習(西洋料理)	ニョッキ ポローニャ風ミートソース添え、アプリコットのクヌーデル、レタスのサラダ アンチョビーソースの実習を通して、西洋でのいも(じゃがいも)の調理法とその特徴も学ぶ。また、男爵、メークインの品種の違いと調理特性の違いと料理への適性を学ぶ。盛り付け・配膳等テーブルコーディネートについても学ぶ。	実習ノートに、献立、材料、分量、調理法(科学的、技術的要点)、盛り付け・配膳図、反省、感想を記入し、いもを用いた料理1品を調べて記入しておくこと。 次週の献立もノートに記入しておくこと。	120分
第5回	いも類を主とした献立の実習(日本料理)地域の食材を使った献立立案	丸ご飯(さつまいも)、たぬき汁(さつまいも、こんにゃく)、里芋といかの煮物(里芋)、新じゃがいもの梨もどき(新じゃがいも・男爵)、大和いもの磯部揚げ(やまといも)、じょうよう饅頭(やまといも)の一汁三菜と菓子の献立のすべてにいもを使用し、その扱い方と調理特性を学ぶ。また、横浜のトマトを使ったレシピの立案のため、生産者から講義をいただき生産から出荷までのプロセスについても学ぶ。	実習ノートに、献立、材料、分量、調理法(科学的、技術的要点)、盛り付け・配膳図、反省、感想を記入し、いもを用いた料理1品を調べて記入しておくこと。 次週の献立もノートに記入しておくこと。	120分
第6回	トマトを使った料理・菓子の考案(試作・発表・試食)	前週のトマトの生産者からの講義をもとに考案したレシピをもとに試作を行い、レシピのコンセプト、調理法等の発表を行い、試食と評価を行う。また、発表・評価から良いものを選び、提案するレシピを決定する。	授業内での評価をもとに、提案するレシピ内容の修正を行う。	120分
第7回	豆類を主とした献立による実習(日本料理)	藤色飯(黒豆)、そら豆のすり流し汁(そら豆)、鯛の卵の花和え(大豆 おから) 擬製豆腐(大豆 豆腐、グリーンピース)、菓子(そぼろ菓子)岩つつじ(白花豆、小豆)の実習を通して、豆類の種類と扱い方、調理法を学ぶ。盛り付け・配膳等テーブルコーディネートについても学ぶ。	実習ノートに、献立、材料、分量、調理法(科学的、技術的要点)、盛り付け・配膳図、反省、感想を記入し、豆を用いた料理1品を調べて記入しておくこと。 次週の献立もノートに記入しておくこと。	120分
第8回	魚介類を主とした献立の実習(日本料理)	冷拌鮭魚(いかの酢のもの)、如意魚巻(魚のすり身の卵巻き)、糖酢魚(魚の丸揚げ甘酢あんかけ)、乾焼明蝦(殻付き車海老の辛み炒め)、干貝粥(干し貝柱の粥)、搾菜の実習を通して、以下、すり身、いさき、えび、干し貝柱の扱いを学ぶ。中国料理の盛り付け・配膳等テーブルコーディネートについても学ぶ。	実習ノートに、献立、材料、分量、調理法(科学的、技術的要点)、盛り付け・配膳図、反省、感想を記入し、魚貝類を用いた料理1品を調べて記入しておくこと。 次週の献立もノートに記入しておくこと。	120分
第9回	地域の食材を使用した料理・菓子の提案	第6周で提案・修正したレシピをもとに最終発表、試食・評価をおこなう。生産者そのほか関係者からも高評をいただく。	評価をまとめ、調理ノートに記入すること。	120分
第10回	魚介類を主とした献立の実習(日本料理 鯛づくしの献立)	鯛一尾を用いて、たいそぼろ飯、たい頭の潮汁、たい平作り、たい幽庵焼き、たい皮と野菜の胡麻酢和えの一汁三菜の実習を行う。鯛の下ろし方、部位と料理への利用法・調理法を学ぶ。盛り付け・配膳・コーディネートも学ぶ。	実習ノートに、献立、材料、分量、調理法(科学的、技術的要点)、盛り付け・配膳図、反省、感想を記入し、魚貝類を用いた料理1品を調べて記入しておくこと。 次週の献立もノートに記入しておくこと。	120分
第11回	肉類を主とした献立による実習(中後k料理)	中国料理の、蘿蔔鶏絲沙拉(鶏もも肉)(大根と鶏肉のサラダ)、京醬肉絲(豚ひれ肉)(豚ひれ肉の味噌煮)、京醬肉絲(豚ひれ肉)(豚ひれ肉の味噌煮)、蠟油青花(牛もも肉)(牛肉とブロッコリーの炒め物)の実習を通して、鶏肉、牛ひれ肉、牛もも肉、豚ロース肉、豚の背脂の特徴、扱い方、調理法を学ぶ。盛り付け・配膳・コーディネートを学ぶ。	実習ノートに、献立、材料、分量、調理法(科学的、技術的要点)、盛り付け・配膳図、反省、感想を記入し、肉類を用いた料理1品を調べて記入しておくこと。 次週の献立もノートに記入しておくこと。	120分
第12回	乳・乳製品を主とした献立による実習(トルコ・ギリシャ・ロシア料理等)	西洋料理の、ムサカ(ヨーグルト・チーズ) 茄子と牛肉のヨーグルトソース焼き、きゅりのサラダ(サワークリーム)、レモンフラン(生クリーム・牛乳・コンデンスミルク)、無塩バターの実習を通して、乳・乳製品の種類と適正な扱い方、調理法を学ぶ。盛り付け・配膳・コーディネートを学ぶ。	実習ノートに、献立、材料、分量、調理法(科学的、技術的要点)、盛り付け・配膳図、反省、感想を記入し、乳・乳製品を用いた料理1品を調べて記入しておくこと。 次週の献立もノートに記入しておくこと。	120分
第13回	果物と野菜を主とした献立による	季節向きの野菜を主とした献立、みょうが飯、焼きなすの味噌汁、じゅんさい、かぼちゃの直煮、なすのはさみ揚げ、たこのきゅうりみぞれかけ、フルーツ白玉の実	実習ノートに、献立、材料、分量、調理法(科学的、技術的要点)、盛り付け・配膳図、反	120分

	実習（日本料理）	習を通して、野菜・果物の扱い方、調理法を学ぶ。盛り付け・配膳・配置、テーブルコーディネートも学ぶ。	省、感想を記入し、野菜・果物を用いた料理1品を調べて記入しておくこと。 次週の献立もノートに記入しておくこと。	
第14回	果物と野菜を主とした献立による実習（西洋料理）	ラタトイユにペンネリガータを添えて、かぼちゃのコロケ、フルーツのサラダ、バナナ入りケーキの実習を通して、西洋での野菜・果物の利用法、調理法を学ぶ。盛り付け・配膳・配置、テーブルコーディネートも学ぶ。	実習ノートに、献立、材料、分量、調理法（科学的、技術的要点）、盛り付け・配膳図、反省、感想を記入し、野菜・果物を用いた料理1品を調べて記入しておくこと。 次週の献立もノートに記入しておくこと。	120分
第15回	素材の組み合わせによる献立による実習（日本料理：松華堂弁当箱への盛り付け）	日本料理、あなごの押しずし、酢どりみょうが、とろろ汁の味噌仕立て、茶筌茄子の揚げ煮、枝豆塩ゆで、千草卵、いかのチーズ焼き、切り干大根の酢の物、くず菓子 黒蜜、において、これまでのすべての素材を用いた料理の実習を行い、松華堂弁当箱への盛り付け方なども学ぶ。	実習ノートに、献立、材料、分量、調理法（科学的、技術的要点）、盛り付け・配膳図、反省、感想を記入すること。	120分

学習計画注記 天候等で材料の搬入に影響がある場合は、内容を変更することがあります。

学生へのフィードバック方法 デモンストレーション後の実習において、机間巡視をしながら理解できていない点や技術面の指導、サポートを行います。また、質問等は時間内または、研究室（2208室やemail）で受けます。

評価方法

- ・平常点（授業への積極的な参加状況）30%。
- ・課題（レシピ考案と調理）30%は、独創性、創造性、食味、盛り付け方などを評価する。
- ・ノートと課題（30%）の3種を総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
実習参加状況	○	○	○	○
課題（レシピ）	○			○
調理ノート	○			○

評価割合 平常点（40%、授業への参加状況）、課題（レシピ考案）（30%）、ノートと課題（30%）の総合評価。

使用教科書名 (ISBN番号) プリントを配布する。

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連

- 【知識・理解】グローバルな視点から知識を深めている。
- 【思考・判断】社会にある諸課題を自ら発見し、理論的に分析し考察できる。また、多様な情報を客観的に理解、判断して行動できる。
- 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚をもって責任を果たすことができる。
- 【技術・関心】家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている。

オフィスアワー 火曜12時10分～13時（2108室）

学生へのメッセージ 授業で使用する主たる食品素材の特徴については、授業前または、授業後に調べてノートにまとめておくと実習での作業に生かされます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	調理と文化		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小口 悦子	指定なし

授業概要(教育目的)	食文化的視点から調理実習をおこなう。諸外国の種々の料理の調理法、副材料との組み合わせ、調味法を実習を通して学び、気候風土や文化による違いと食事との関連性を理解する。 日本国内の各地域の伝統的な郷土料理の実習、伝統食品や伝統野菜を用いた実習を通して食文化の特徴や背景を考える。また、欧米と日本のこども向け料理書のレシピの実習を通して、材料、調理法、諸注意等から食育と食文化的特徴を比較考察する。市場見学、日本料理(会席)の試食とプロの料理人からの説明などを通して、食材の流通の現状と食事様式とマナーの実際を学ぶ。
------------	--

履修条件	特になし
------	------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	粉食における無発酵、発酵について説明ができる。 京都の伝統野菜、伝統食品、雑穀の定義について説明ができる。
思考・判断の観点 (K)	国や地域による食文化的背景によって、食材の使われ方を分類できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	食材の新たな調理法を考案できる。
技術・表現の観点 (A)	地域・文化と食に関する調査及び実習した経緯・結果について適切な発表ができる。 地域における伝統的な調理法を実践できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業概要と実習上の諸注意	授業の概要と評価方法を説明する。実習室の使い方や取り決めごとについて説明をする。	授業内容を調理ノートに記入すること。次週の献立も記録しておくこと。	120分
第2回	世界の粉飾文化(1) 無発酵生地 ①メキシコ トウモロコシ粉	メキシコ料理素材の一つであるトウモロコシ粉を使って、マサを作りこれに合わせたサルサ、料理を学ぶ。トウモロコシ粉の特徴を理解し、メキシコの調理器具マキナを使って生地(マサ)を作成し、無発酵生地の膨化方法を学ぶ。メキシコの気候風土、食文化も学ぶ。テーブルコーディネートも学ぶ。	調理ノートに材料、分量、調理法、配膳図、反省、感想を記入しておくこと。 プリントの課題を調査し調理ノートに記入しておくこと。	120分
第3回	世界の粉食文化(2) 無発酵生地 ②イン	小麦粉、小麦全粒粉を使ってインドのブリ、チャパティ、サムサを作り無発酵の膨化について学ぶ。インドの地理的条件、気候風土と食文化の関係をj通して学ぶ。またこれらに合わせて、シーフードカレー、カチュ	調理ノートに材料、分量、調理法、配膳図、反省、感想を記入しておくこと。	120分

	ド小麦粉、小麦全粒粉	ンパル、ラッシーの実習を通して香辛料についても学ぶ。	プリントの課題を調査し調理ノートに記入しておくこと。	
第4回	世界の粉食文化(3)発酵生地 ③イタリア ④イギリス小麦粉	これまでの無発酵の生地に対し発酵生地を学ぶ。イタリアのピッツァ生地、イギリスのホワイトパンズを小麦粉を使用し実習し、発酵生地について学ぶ。また、イーストによる発酵させるパンの種類も学ぶ。生地に合わせたトマトソース、マルゲリータピッツァを実習する。ホワイトパンズ用にハンバーグとそのソースの調理法を学ぶ。	調理ノートに材料、分量、調理法、配膳図、反省、感想を記入しておくこと。 プリントの課題を調査し調理ノートに記入しておくこと。	120分
第5回	世界の粉食文化(4)無発酵生地 ⑤北イタリア トウモロコシ粉、そば粉	北イタリアのポレンタ(トウモロコシ粉)、ピッツオケリ(そば粉)の実習を通して、それぞれの国特有の調理法を学ぶ。また、これらの地域の気候風土と食との関係も学ぶ。また、クレープの実習も行う。	調理ノートに材料、分量、調理法、配膳図、反省、感想を記入しておくこと。 プリントの課題を調査し調理ノートに記入しておくこと。	120分
第6回	世界の粒食文化 ①イタリア米 ②スペイン米	リゾット、米のコロッケ、トマトの米詰め、パエリア、ライスプディングを通して、諸外国の米料理の調理法の特徴を学ぶ。またそれぞれの国の気候風土と食との関係を学ぶ。	調理ノートに材料、分量、調理法、配膳図、反省、感想を記入しておくこと。 プリントの課題を調査し調理ノートに記入しておくこと。	120分
第7回	京の伝統野菜を使って(1)	京都の伝統野菜の定義を知る。また、伝統野菜(京えんどう豆・九条ねぎ・万願寺とうがらし・賀茂なす・京水菜・赤ずいき)を使って、えんどう豆ご飯、九条ねぎの難波焼き、賀茂なす田楽、京水菜とちりめんじゃこの炒め煮、赤ずいきの梅酢あえと葛餅の実習を行い、調理法を学ぶ。	調理ノートに材料、分量、調理法、配膳図、反省、感想を記入しておくこと。 プリントの課題を調査し調理ノートに記入しておくこと。	120分
第8回	京の伝統野菜を使って(2)	第7回に続き京野菜(坊っちゃんかぼちゃ、青うり、やまのいも、さんどまめ、新しょうが(京都産))を新生姜飯、すいとろろ、締め鰻、加茂なすの揚げ煮、坊ちゃん南瓜の卵豆腐詰め、青うりと茄子のわさび酢和え、蜜豆の実習を行い、京野菜の特徴や扱い方を学ぶ。	調理ノートに材料、分量、調理法、配膳図、反省、感想を記入しておくこと。 プリントの課題を調査し調理ノートに記入しておくこと。	120分
第9回	粒食 雑穀を使って	雑穀の定義を学ぶ。また、アワ・ヒエ・キビ・ハトムギを使い、きびとはと麦・発芽玄米のご飯、雑穀豚汁、鶏のから揚げ、ひえの衣、あわ餅の実習を通して、その扱い方、調理法を学ぶ。小麦粉との栄養価の違いも学ぶ。	調理ノートに材料、分量、調理法、配膳図、反省、感想を記入しておくこと。 プリントの課題を調査し調理ノートに記入しておくこと。	120分
第10回	日本の伝統食品を使って(1)	日本の伝統食品(三輪そうめん、凍みこんにやく、高野(凍み)豆腐、六条(淨)豆腐、納豆、麩、生麩)を使ったり冷やしそうめん、揚げ高野豆腐のやまかけ、凍みこんにやくの田楽味噌あえ、玲瓏豆腐 黒密の実習を通して学ぶ。	調理ノートに材料、分量、調理法、配膳図、反省、感想を記入しておくこと。 プリントの課題を調査し調理ノートに記入しておくこと。	120分
第11回	日本の伝統食品を使って(2)	日本の伝統食品(豆腐・納豆・麩・昆布・かつお節・豆乳(呉汁)・寒天)を使い、白飯、卵豆腐の清まし汁、変わり揚げ 2種 ごま豆腐と甘辛車麩の盛り合わせ、漬物、淡雪かんの実習を通してその利用法・調理法を学ぶ。	調理ノートに材料、分量、調理法、配膳図、反省、感想を記入しておくこと。 プリントの課題を調査し調理ノートに記入しておくこと。	120分
第12回	学外授業	市場見学と日本料理店にての会席料理マナーを学ぶ。	見学の資料等をノートにまとめ感想を記入すること。	120分
第13回	子ども向け料理書(日本、欧米他)の料理書の調査	調理学研究室で所有する子ども向け料理書(日本、欧米他)の翻訳と内容の調査を行い、その特徴を理解する。また、次週にこれらの試作(再現)を行う料理について、材料、分量、方法などについてまとめを行う。	授業内容(翻訳他)を調理ノートにまとめること。	120分
第14回	子ども向け料理書(日本、欧米他)の料理書を用いた実習(再現)と発表	実習を通して、国・地域による特徴的な分量割合、操作法、材料の扱い方等を学び、日本の類似した料理(菓子)との違いを知る。また、子供を対象とした料理書としての特徴も見出す。これについて班ごとに発表を行う。	授業内容を調理ノートに記載すること。	120分
第15回	日本の伝統食品の製造について	本学図書館に所蔵される(ビデオ収録)資料(六条豆腐、三輪そうめん、麩)鑑賞し、その製造のプロセスや変遷を通してや日本人のの食への関わり方を学ぶ。	鑑賞内容をまとめ、日本人と食についての今後の課題を見出し、その解決法などをまとめておくこと。	120分
第16回				

学習計画注記

天候等により材料の搬入ができない場合は、内容を変更することがある。

学生へのフィードバック方法	デモンストレーション後の実習において、机間巡視をしながら理解できていない点や技術面の指導、サポートを行います。また、質問等は時間内または、研究室（2208室やemail）で受けます。				
評価方法	授業参加状況40%、課題30%、調理ノートの記録内容30%の総合評価とする。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	実習参加状況	○	○	○	○
	課題	○	○	○	○
	調理ノート	○	○	○	○
評価割合	実習試験(30%)、ノート提出(30%)、平常点(40%)、実習を通して、実習班内での協力や実習へ意欲的・積極的な参加態度を評価する。授業への参加状況)の総合評価。				
使用教科書名 (ISBN番号)	実習用資料を配布する。				
参考図書	必要に応じて紹介する。				
ディプロマポリシーとの関連	<p>知識・理解】グローバルな視点から知識を深めている。</p> <p>【思考・判断】社会中にある諸課題を自ら発見し、理論的に分析し考察できる。また、多様な情報を客観的に理解、判断して行動できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚をもって責任を果たすことができる。</p> <p>【技術・関心】家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている。</p>				
学生へのメッセージ	テーマとしている国々や地域の食事文化や地理的な特徴を調べておくと実習に生かされます。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング	○	実習中はその内容を通して、学生自身が能動的、実践的に技術・知識深めながら、判断力、汎用力の育成を図ることができる。			
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食文化論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次 R2年度のみ読替		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 小林 毅	指定なし

授業概要(教育目的)	日本および諸外国の食文化・食生活の講義を行う。 日本および諸外国の食生活は、その地域の気候風土による生産、収穫物や宗教、流通事情などと切り離して考えることはできない。各国々や地域での食の循環について、過去から現在の時間軸を通して、その普遍性と変化、食生活への影響を及ぼす様々な要因を考察し、現在およびこれからの食生活の課題について講義する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	日本および諸外国の食文化・食生活の歴史と現状について基礎的な内容を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	われわれを取り巻く食のさまざまな問題と結びつけて食生活の諸課題を読み解くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	時代とともに食生活が大きく変化していることを身近なテーマの中から見付け出すことができる。
技術・表現の観点 (A)	講義や自らの知見によって得た内容・情報を整理し、一定の考え方とともに表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	食の世界遺産 (1)	国連機関であるユネスコが認定した8つの「食の世界遺産」から、食文化とは何かを2回にわたって考える。食の世界遺産とは特定の料理に対するものではなく、その地域における食を取り巻く環境や文化に対する認定であることを認識し、食文化の多様性を理解する。	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	30分
第2回	食の世界遺産 (2)	国連機関であるユネスコが認定した8つの「食の世界遺産」から、食文化とは何かを2回にわたって考える。食の世界遺産とは特定の料理に対するものではなく、その地域における食を取り巻く環境や文化に対する認定であることを認識し、食文化の多様性を理解する。	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	30分
第3回	主食から食文化を考える	人間の生存に関わる主食は、米や麦などの穀物だけではない。豆類や芋類など、気候や風土によって主食が国や地域で異なることを理解する。	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	30分
第4回	食材から食	食材は、国や地域で主食同様に環境が大きく影響するほ	原則として予習の必要はない。	30分

	文化を考える	か、その利用法が社会状況や風習・宗教などによって多様化した背景を理解する。	復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	
第5回	新大陸の発見で一変した食文化	コロンブスが発見した新大陸から持ち込まれた食材が世界中の食生活を変えた。どんな食材がどこに持ち込まれ、どう生活が一変したかを理解する。	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	30分
第6回	日本は外国の食文化をどう受け入れて来たか	日本は、稲作伝来以来諸外国の食文化をどう受け入れてきたのか。鎖国時代を挟んで日本が受け入れてきた外国の食文化の歩みを理解する。	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	30分
第7回	味の決め手は調味料&スパイス	料理の味を左右する調味料&スパイスの関係は深い。時には戦争の要因ともなった調味料&スパイスの歴史を辿ることで世界の食文化を理解する。	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	30分
第8回	食文化は宗教と結びついている	宗教と食生活の関係を正しく認識することがグローバル時代には欠かせない。宗教と密接に結び付いた食文化をその歴史とともに理解する。	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	30分
第9回	食後のデザート(スイーツ)は別腹?	食後やおやつに食べるデザート(果物や菓子)の歴史は古い。デザートとともに喫するコーヒー、紅茶の歴史を日本の食文化と比較しながら理解する。	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	30分
第10回	食のマナーに国境はない?	マナーを一つ間違うととんでもないことになりかねない。食のマナーを諸外国と日本を比較しながら、マナー成立の過程とともに理解する。	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	30分
第11回	世界に酒と肴は無数にある	食事の場に酒は欠かせない。世界中に無数にあると言われる酒とともに発展した「珍味」「肴」というジャンルと合わせて酒の食文化を理解する。	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	30分
第12回	人はお祝いや弔いの時に何を食べて来たのか	行事食(慶弔など)がその国の文化や風習とどのように結びついて進化してきたのか。日常食を離れたハレとケの食文化を理解する。	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	30分
第13回	調理器具、器としつらいで味も変わる	料理を盛る器や演出も食生活の大きな要素である。食の周辺を彩るさまざまな演出について、日本と海外の食文化の捉え方を通じて理解する。	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	30分
第14回	ファストフード、外食産業が食文化を変える?	ファストフードや外食産業の歴史とともに、現在、世界を席捲するファストフード文化とグローバル化する外食産業の今後について考える。	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	30分
第15回	食のグローバル化で食生活はどうなるのか?	メディアの進展により食の画一化が急速に進んでいる。地球温暖化など現在起きているさまざまな事象から今後の私たちの食生活を考える	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	30分

学習計画注記 ※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 講義時に随時課す課題については、必要に応じて講義の中でフィードバックする。

評価方法 学期末レポート(定期試験)で基本的な評価を行い、講義で随時課す課題と合わせて総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
------	-----------	-----------	--------------	-----------

学期末レポート	○	○	○
講義時の課題			○

評価割合	学期末レポート80%、講義で課す課題20%
使用教科書名 (ISBN番号)	なし
参考図書	『食の世界地図』 (21世紀研究会編／文春新書) ISBN4-16-660378-7 C0239
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】過去・現在における日本および諸外国の食文化・食生活の成立過程や環境等の考察を通じて、食に関する文化の多様性を理解できる専門的知識を有している。 【思考・判断】食生活に関するグローバルな課題について、正確な情報に基づいて思考し、的確に判断できる力を身に付けている。
学生へのメッセージ	食は文化であり、器に美しく盛られた料理はその時点で芸術となる。ただし、絵画や彫刻は鑑賞することができるが、料理は食べてみなければわからない。料理を鑑賞するということ、それは取りも直さず食べることである。テレビや雑誌、あるいはネット等で気になった食べ物があつたら、どこの国のものだろう、どんな味がするんだろうなどと思いを巡らせ、可能な限り自分の舌で味わってみてほしい。それが食文化・食生活の多様性や奥深さを理解する原点である。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	NHKテキスト「きょうの料理」編集長を務めた経験を活かし、授業にあたっては単に文献や資料だけに依らず、実務経験に基づいたジャーナリスティックな視点から、身近で理解しやすい教授法を取り入れる。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	住居デザイン演習 A		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小池 孝子	指定なし
准教授	深石 圭子	指定なし

ナンバリング	D13101M22
授業概要(教育目的)	本授業は、近い将来、建築やインテリアのプロ(専門職)として、また、本学科で学んだ知識や技術を生かした職業に就くことを目指すための初歩的で基礎的な製図手法や技術を習得する演習授業である。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	住宅をはじめとする建物の基本的な図面作成方法と構成及び構法と模型製作方法を学ぶ。基本的な建築やインテリアとしての建築製図分野の全般的な知識を習得する。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	住宅をはじめとする建物の基本的な図面作成方法と構成及び構法と模型製作方法を学ぶ。基礎的な図面の表現法及び手法(技法)を習得する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	課題1:線の練習	製図道具の種類、使い方について学び、線の引き方に関する課題に取り組む。	(復習) 授業内容を確認し、課題1を完成させる。	90分
第2回	課題2:レタリング・文字の練習	線の引き方に加え、建築製図に用いる文字の書き方に関する課題に取り組む。	(復習) 授業内容を確認し、課題2を完成させる。	90分
第3回	課題3:建築図面の表示記号	建築図面の表記に用いる表示記号に関する課題に取り組む。	(復習) 授業内容を確認し、課題3を完成させる。	90分
第4回	課題4:木造住宅/配置図・平面図の表現方法-1	木造住宅の配置図・平面図のトレース課題に取り組む。	(復習) 授業内容を確認し、授業時間内に指示する段階まで図面作成を進める。	90分
第5回	課題4:木	木造住宅の配置図・平面図のトレース課題に取り組む。	(復習) 授業内容を確認し、授	90分

	造住宅／配置図・平面図の表現方法－2		業時間内に指示する段階まで図面作成を進める。	
第6回	課題4：木造住宅／配置図・平面図の表現方法－3	木造住宅の配置図・平面図のトレース課題に取り組む。	(復習) 授業内容を確認し、課題4を完成させる。	90分
第7回	課題5：木造住宅／断面図・立面図の表現方法－1	木造住宅の断面図・立面図のトレース課題に取り組む。	(復習) 授業内容を確認し、授業時間内に指示する段階まで図面作成を進める。	90分
第8回	課題5：木造住宅／断面図・立面図の表現方法－2	木造住宅の断面図・立面図のトレース課題に取り組む。	(復習) 授業内容を確認し、課題5を完成させる。	90分
第9回	課題6：RC住宅／平面図の表現方法－1	鉄筋コンクリート造住宅の平面図のトレース課題に取り組む。	(復習) 授業内容を確認し、授業時間内に指示する段階まで図面作成を進める。	90分
第10回	課題6：RC住宅／平面図の表現方法－2	鉄筋コンクリート造住宅の平面図のトレース課題に取り組む。	(復習) 授業内容を確認し、課題6を完成させる。	90分
第11回	課題7：RC住宅／断面図・立面図の表現方法－1	鉄筋コンクリート造住宅の断面図・立面図のトレース課題に取り組む。	(復習) 授業内容を確認し、授業時間内に指示する段階まで図面作成を進める。	90分
第12回	課題7：RC住宅／断面図・立面図の表現方法－2	鉄筋コンクリート造住宅の断面図・立面図のトレース課題に取り組む。	(復習) 授業内容を確認し、課題7を完成させる。	90分
第13回	課題8：住吉の長屋：安藤忠雄設計／模型製作－1	課題6、課題7をもとに、建築模型を製作する。	(復習) 授業内容を確認し、授業時間内に指示する段階まで模型製作を進める。	90分
第14回	課題8：住吉の長屋：安藤忠雄設計／模型製作－2	課題6、課題7をもとに、建築模型を製作する。	(復習) 授業内容を確認し、授業時間内に指示する段階まで模型製作を進める。	90分
第15回	課題8：住吉の長屋：安藤忠雄設計／模型製作－3	課題6、課題7をもとに、建築模型を製作する。	(復習) 授業内容を確認し、課題8を完成させる	90分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業時間内は教員が巡回して指導をおこなう。質問を歓迎する。提出された課題は採点后に講評とともに返却する。
評価方法	授業への参加度合、取り組み状況により平常点を採点する。提出された課題は完成度によって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○			
課題	○			○

評価割合	平常点：15%、課題：85%による総合評価とする。但し全課題提出を条件とする。	
使用教科書名 (ISBN番号)	「新しい建築の製図」「新しい建築の製図」編集委員会／学芸出版社／2005／978-4-7615-2375-6 「図解 すまいの寸法・計画事典」岩井一幸／彰国社／2004／4-395-10032-5	
参考図書	その都度必要に応じ、参考になる資料を配布する。	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」分野 について、専門的知識・技術を有している 【技能・表現】 社会に対して洗練された表現力で課題解決を発信するための基礎的な力を身につけている	
オフィスアワー	金曜 3 時限 3508 研究室 (小池) 金曜 2 時限 3512 研究室 (深石)	
学生へのメッセージ	図書館にある新建築や新建築住宅特集、住宅建築などの建築雑誌を読むことを習慣とし、身近な建物の構造と図面表現の関係についての理解を深めること。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	住居デザイン演習B		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小池 孝子	指定なし
准教授	深石 圭子	指定なし

ナンバリング	D13102M22
授業概要(教育目的)	10m角の独立住宅の設計作図を通して、設計技術、作図技術、プレゼンテーション技術などの習得と上達を目指す。平面図、立面図、断面図、パースなどの作図を行い、模型を作成する。さらに、図面の着色、模型写真の撮影などを通して、プレゼンテーション技術の上達をも目標とする。
履修条件	住居デザイン演習Aを履修していることが望ましい。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	基礎的な設計課題を通し、住まい手の求める生活像を実現する住宅設計の基本プロセスを習得する
思考・判断の観点(K)	住まい手の求める生活像と住宅の適合性について判断できる
関心・意欲・態度の観点(V)	住まい手の求める生活像について積極的に考え、提案できる
技術・表現の観点(A)	住宅設計作品について、図面・パース・模型・写真・言葉を用いて表現できる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	課題説明・コンセプト立案	(アクティブラーニング:グループワーク) 課題説明後、グループワークによるコンセプト立案のための資料収集を実施し、コンセプト案について発表する。	(予習)自分が住みたい住宅として、どのような住宅とすべきか(仮想の)家族構成も含め、その構想をまとめる (予習)はさみと糊を持参する	90分
第2回	エスキース(配置図・平面図)	平面や配置図の表現方法を再確認し、配置図・平面図のエスキースを表現する。また、必要な室や大きさ、そのつながりを視覚的に把握し、室のつながりを検討する。	(予習)教科書①第2章の「2-1.配置図」(18~19ページ) 「2-2.平面図」(20~23ページ)を読んでおく (復習)平面図のエスキースを完成させておく	90分
第3回	エスキース(断面図)	断面図の表現方法を再度確認し、断面のエスキースで表現する。また、平面図との関係を再考し、齟齬を修正する。	(予習)教科書①第2章の「2-3.断面図」(24~27ページ)を読んでおく	90分

			(復習) 断面図のエスキスは完成させておくこと	
第4回	エスキース (立面図)	立面図の表現方法を再度確認し、立面のエスキースで表現する また、2~4回の授業で描いた各種図面の相互関係を確認し、必要に応じて修正を行う	(予習) 教科書①第2章の「2-4. 立面図」(28~31ページ)を読んでおく (復習) 立面図も含めた各図面のエスキースを完成させておく	90分
第5回	清書(配置図・平面図)	配置図・平面図のエスキースを清書する手順を再確認しながら、作図技術も理解する また、配置図・平面図エスキースを清書として表現する (情報リテラシー教育)	(予習) 教科書①第2章の「2. 平面図」(20~23ページ)を再度読んでおく (予習) トレーシングペーパー(A3版又は幅のロール)を持参する	90分
第6回	清書(断面図)	断面図のエスキースを清書する手順を再確認しながら、作図技術も理解する また、断面図エスキースを清書として表現する	(予習) 教科書①第2章の「2-3. 断面図」(24~27ページ)を再度読んでおく (予習) トレーシングペーパー(A3版又は幅のロール)を持参する	90分
第7回	清書(立面図)	立面図のエスキースを清書する手順を再確認しながら、作図技術も理解する また、立面図エスキースを清書として表現する さらに10回目の授業で使用する模型材料について説明をする	(予習) 教科書①第2章の「2-4. 立面図」(28~31ページ)を再度読んでおく (予習) トレーシングペーパー(A3版又は幅のロール)を持参する	90分
第8回	パース作成 (一点透視図法) - 1	一点透視図法の原理を把握する また、表現する室とアングルを決定し、パースガイドを作成する	(予習) 5~7回目に清書した図面は、数枚ずつコピーをしてくる (予習) 教科書①第7章の「7-4. 一点透視投影法」(116~117ページ)を読んでおく (復習) 前回授業で作成したパースガイドは完成させておく	90分
第9回	パース作成 (一点透視図法) - 2	一点透視図法による作図手順を理解しながら、作図技術を習得し、パースを清書する 人物や植物その他仕器の書き方についても理解する	(予習) 参考にしたい家具等の写真を持参する (予習) トレーシングペーパー(A3版又は幅のロール)を持参する	90分
第10回	模型製作 - 1	模型制作技法を理解する。敷地や、外壁を作成する。	(予習) 5~7回目に清書した図面は、数枚ずつコピーする (予習) 自らが作成する模型に適した材料を検討し、その材料を持参する	90分
第11回	模型製作 - 2	模型制作技法を理解する 内壁や屋根、家具や人等も制作する	(予習) 5~7回目に清書した図面は、数枚ずつコピーをしてくる (予習) 自らが作成する模型に適した材料を検討し、その材料を持参する	90分
第12回	模型写真の撮り方	模型写真撮影技法を理解する 照明の当て方を理解し、実践する 図面等に寸法や文字を貼り込み印刷原稿を作成する	(予習) スティック糊、完成した模型、5~9回目の授業で清書した図面を数枚コピーし、持参する (予習) 図面等に必要な寸法・文字・タイトル等をワード等で打ち込み、印刷したものを持参する	90分
第13回	レイアウトの手法	レイアウトの基本を理解し、A2版レイアウト用紙(支給)に、図面やタイトル、写真等の配置の検討を行い、模型写真以外のものの仮止めを行う	(予習) 12回目の授業で完成した図面等をコピーしたもの(印刷原稿)を持参する	90分
第14回	印刷、着色・写真貼付	アルコールマーカーによる着色技法を理解する また、レイアウト用紙に配置した図面等(模型写真を除く)を印刷(KVAショップ前コピー機の印刷代: 80円/1枚)し、図面やパースの着色を行い、模型写真を貼り込む	(予習) 貼り付ける模型写真の大きさを検討し、現像若しくは印刷し、持参する (予習) スティック糊を持参する	90分
第15回	仕上げ・プレゼンテーション	授業前半で図面・模型の最終仕上げを行い、授業後半でそれらを用いたプレゼンテーションを行う。	課題に手を入れ、完成させる。 ポートフォリオを作成する。	90分

学習計画注記

履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

授業時間内は教員が巡回して指導をおこなう。質問を歓迎する。提出された課題のプレゼンテーションに対して

	講評をおこなう。				
評価方法	授業への参加度合、取り組み状況により平常点を採点する。 提出された課題は完成度、プレゼンテーション内容によって評価する。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点	○	○	○	○
	課題	○	○	○	○
評価割合	平常点：30%、提出課題の完成度・プレゼンテーション内容：70%による総合評価とする。				
使用教科書名 (ISBN番号)	①「新しい建築の製図」「新しい建築の製図」編集委員会／学芸出版社／2005／978-4-7615-2375-6 ②「図解 すまいの寸法・計画事典」岩井一幸／彰国社／2004／4-395-10032-5 (住居デザイン演習Aと共通)				
参考図書	その都度必要に応じ、参考になる資料を配布する。				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」分野について、専門的知識・技術を有している 【思考・判断】多様な情報を客観的に理解し判断できる 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、その解決策を立案できる 【技能・表現】社会に対して洗練された表現力で課題解決策を発信するための基礎的な力を身につけている				
オフィスアワー	金曜3時限 3508研究室 (小池) 金曜4時限 3512研究室 (深石)				
学生へのメッセージ	図書館にある新建築や新建築住宅特集、住宅建築などの建築雑誌を読むことを習慣とし、身近な建物の構造と図面表現の関係についての理解を深めること。自分が心地よいと感じる空間について、スケール、素材など、その空間の構成要素について注意を払うこと。また、設計は、段階を踏んで形になっていきます。毎回の作業が遅れると、他の部分に支障をきたしますので、終わらすべき作業は、次回の授業までに完成をさせ、授業には主体的に取り組んでください。毎回の製図道具一式の持参、その都度持参を指示するトレーシングペーパーや模型材料等の消耗品は、個人負担で用意してください。				
教育等の取り組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング	○	初回授業では設計コンセプトに関するグループワーク、個人の発表を実施する。最終授業では各自の設計した住宅の図面、模型を用いたプレゼンテーションを実施する。			
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	住居デザイン演習 C		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 原口 秀昭	指定なし
非常勤講師	柏木 穂波	指定なし
非常勤講師	塚田 豊	指定なし

ナンバリング	D23103M22
授業概要(教育目的)	RC造区分所有建物内の住宅（住戸）の設計、RC造独立建物の店舗の設計の2課題を通して、デザインを楽しみながら、設計、作図、プレゼンテーション技術の習得、各寸法、ゾーニング、機能連携、構造、構法、計画における知識の習得を目的とする。第1課題は、与えられた実在する区分所有のRCマンション躯体内部に、住宅（住戸）の設計を指導する。第2課題は、与えられたRC造の店舗ビル躯体内部に、店舗の設計を指導する。エスキース、平面図、立面図、断面図などの作図、模型、パースの制作などを通じて、立体としての建物を理解させ、把握できるようにする。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	学習目標（到達目標）
知識・理解の観点 (K)	区分所有住宅、店舗の機能・面積配分、ゾーニング、基本寸法、基準寸法が分かる。
思考・判断の観点 (K)	区分所有住宅、店舗の設計案に対して、その設計、デザイン、機能の良否、可否を考え判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	区分所有住宅、店舗の内装デザインに関心を持ち、自らの設計、デザインに意欲的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	区分所有住宅、店舗における基本設計、平面図、立面図、断面図の作図、パース、模型の制作ができる。

学習計画

区分所有住宅、店舗の設計製図

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス、課題説明	住居デザイン演習の進め方、評価などの説明、第1課題（区分所有住宅）の説明をする。その後少人数グループに分かれて、区分所有住宅や今後の作業に関して各教員から説明を受け、資料集めとエスキースを始める。	1LDK程度の区分所有住宅について、ネットや図書で調べ、どのような問題点、設計上の課題、デザインがあるかを調べておく。	120分
第2回	区分所有住宅の見学	可能ならば、設計に用いる区分所有住宅（実物）を見学し、寸法、面積を実際の建物で確認する。見学が不可能な場合は、各グループ単位で、家族構成、設計コンセプトを考え、教員の指導を受ける。	区分所有住宅の平面図、断面図を十二分に読み込んでくる。家族構成、設計コンセプトを考え、紙にまとめる。	120分

第3回	平面図の作成	平面図の作成を行う。家具の配置、床・壁・天井の仕上げ、照明の配置も同時に考え、平面図に記入する。	平面図のエスキース、製図を行う。	120分
第4回	断面図の作成	断面図2面の作成を行う。キッチン収納などの造り付け家具の立面、断面も必ず記入する。	断面図2面のエスキース、製図を行う。	120分
第5回	パースの作成	居間などの主要室のパース（透視図）を作成する。家具、人物を必ず入れる。	パースの下図を作成する。	240分
第6回	模型の作成	模型を作成する。家具は必ず入れる。	模型の部品を作成する。	240分
第7回	ポスターセッション (展示発表会)	自分の作品を展示発表し、全教員の講評を受ける。	作品をインキング、コピー、着彩し、模型の写真を撮り、レイアウトする。	240分
第8回	課題説明	第2課題（店舗）について説明を行う。その後グループに分かれて、店舗の種類、コンセプトを考え、資料を集める。	雑誌で店舗の設計、デザインを見て、イメージを膨らませる。	120分
第9回	コンセプト発表、コンセプトワーク	各グループでコンセプトの発表を一人ずつ行い、教員の講評を受ける。授業の後に、コンセプトボードは張り出される。コンセプトが不十分な場合は、再度、練り直す。	店舗の種類、コンセプト、デザインイメージについて、A3用紙1枚にまとめる。	240分
第10回	エスキース	前回のコンセプトを元に、エスキースを進める。コンセプト模型、ラフな平面図、断面図を作成する。	平面図のエスキース。	120分
第11回	平面図の作成	平面図のエスキース、製図を行う。造り付けの家具、什器は必ず記入する。	平面図のエスキース、製図を行う。	120分
第12回	断面図の作成	断面図を作成する。造り付けの家具、什器の断面、立面は必ず記入する。	断面図のエスキース、製図を行う。	120分
第13回	パースの作成	店舗のメイン部分のパースを作成する。	パースの下書きを行う。	240分
第14回	模型の作成	模型を作成する。家具、什器は必ず入れる。	模型の部品を作成する。	240分
第15回	ポスターセッション (展示発表会)	自分の作品を展示発表し、全教員の講評を受ける。	作品をインキング、コピー、着彩し、模型の写真を撮り、レイアウトする。	240分

学生へのフィードバック方法	毎回、各教員が学生のエスキース、図面、模型などを評価し、その都度、助言を与え、修正などの指示を与える。
評価方法	ポスターセッション（発表会）で作品を展示発表し、教員3人により、機能、デザイン、プレゼンテーションの3つの評価軸で採点する。平常点として授業への参画、取り組み姿勢を評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
設計作品の展示、発表	○	○	○	○

評価割合	課題作品の評価と出席による。配点は課題評価80%。課題評価のうち、第1作品40%、第2作品40%。平常点20%。総合点100点。必要図面の欠落、展示発表会の遅刻は各マイナス5点。
------	---

使用教科書名 (ISBN番号)	新しい建築の製図編集委員会編「新しい建築の製図」学芸出版 (4-7615-2375-1)
-----------------	--

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」の分野の区分所有住宅、店舗についての専門的知識を有している。 【思考・判断】社会にある区分所有住宅、店舗の基本設計を理解して良否、可否を判断できる。 【関心・意欲・態度】社会にある区分所有住宅、店舗に関心を持ち、デザインに意欲を持つ。 【技術・表現】区分所有住宅、店舗の設計を立案でき、社会に対して洗練された表現力で提示できる。
---------------	---

オフィスアワー	金曜2時限 3602研究室
---------	---------------

学生へのメッセージ	2年生前期はインテリアデザインに重点を置いた課題ですが、建築の基本として、住宅や店舗の各部寸法や平面図、断面図、立面図（展開図）などをしっかりとマスターしてください。製図するうちに、立体と2次元の図面が結びついて考えられるようになり、後期の独立住宅へとつなげることができます。建築、インテリアの設計ができるようになるためには、多くの図面、パースを書く必要があります。それを実行するために一番重要なのは、デザインを楽しみながら演習に取り組むことです。楽しんで続けることを、常に心がけてください。
-----------	--

教育等の取り組み状況	
------------	--

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、約20年の設計監理経験を有しており、区分所有住宅、店舗の実施設計経験がある。設計指導にあたり、実務で学んだ設計、デザインの知識を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	毎回小人数グループで、設計製図の指導を演習を通して行う。現場（区分所有住宅）にも見学に行く。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	住居デザイン演習D		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 原口 秀昭	指定なし
非常勤講師	柏木 穂波	指定なし
非常勤講師	塚田 豊	指定なし

ナンバリング	D23104M22
授業概要(教育目的)	RC造住宅、木造住宅の設計の2課題を通して、デザインを楽しみながら、設計、製図、プレゼンテーション技術の習得、各寸法、ゾーニング、機能連携、構造、構法、計画における知識の習得を目的とする。第1課題は、与えられた敷地と自らが想定した家族構成で、RC造住宅の設計を指導する。第2課題は、与えられた敷地と家族構成で、木造住宅の設計を指導する。エスキース、平面図、立面図、断面図などの作図、模型、パースの制作などを通じて、立体としての建物を理解させ、把握できるようにする。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	RC造、木造住宅の機能・面積配分、ゾーニング、基本寸法、基準寸法が分かる。
思考・判断の観点 (K)	RC造、木造住宅の設計案に対して、その設計、デザイン、機能の良否、可否を考え判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	RC造、木造住宅のデザイン、設計に関心を持ち、自らの設計、デザインに意欲的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	RC造、木造住宅における基本設計、平面図、立面図、断面図の作図、パース、模型の制作ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス、課題説明	住居デザイン演習の進め方、評価などの説明、第1課題(RC造住宅)の説明をする。その後少人数グループに分かれて、RC造住宅や今後の作業に関して各教員から説明を受け、資料集めとエスキースを始める	RC造住宅について、ネットや図書で調べ、どのような問題点、設計上の課題、デザインがあるかを調べておく。	120分
第2回	エスキース	各グループ単位で、家族構成、設計コンセプトを考え、エスキースを始め、教員の指導を受ける。	家族構成、設計コンセプトを考えてまとめてくる。	120分
第3回	平面図の作成	平面図の作成を行う。家具の配置も同時に考え、平面図に記入する。	平面図のエスキース、製図を行う。	120分
第4回	断面図、立面図の作成	断面図2面、立面図4面の作成を行う。キッチン収納などの造り付け家具の立面、断面も必ず記入する。	断面図2面、立面図4面のエスキース、製図を行う	240分
第5回	パースの作	居間などの主要室のパース(透視図)を作成する。家	パースの下図を作成する。	240分

	成	具、人物を必ず入れる		
第6回	模型の作成	模型を作成する。家具は必ず入れる	模型の部品を作成する。	240分
第7回	ポスターセッション (展示発表会)	自分の作品を展示発表し、全教員の講評を受ける。	作品をインキング、コピー、着彩し、模型の写真を撮り、レイアウトする。	240分
第8回	課題説明	第2課題（木造住宅）について説明を行う。その後グループに分かれて、コンセプトを考え、資料を集める。	雑誌で木造住宅の設計、デザインの資料を集め、図面をよく読みこんでおく。	120分
第9回	コンセプト発表、コンセプトワーク	各グループでコンセプトの発表を一人ずつ行い、教員の講評を受ける。木造住宅のエスキースを始める。	コンセプト、デザインイメージについて、考え、紙に書く。	120分
第10回	エスキース	前回のコンセプトを元に、エスキースを進める。コンセプト模型、ラフな平面図、断面図を作成する。	平面図のエスキース	120分
第11回	平面図の作成	平面図のエスキース、製図を行う。造り付けの家具、什器は必ず記入する。	平面図のエスキース、製図を行う。	120分
第12回	断面図、立面図の作成	断面図2面、立面図4面を作成する。造り付けの家具、什器の断面、立面は必ず記入する。	断面図2面、立面図4面のエスキース、製図を行う。	240分
第13回	パースの作成	木造住宅のメイン部分のパースを作成する。	パースの下書きを行う	240分
第14回	模型の作成	模型を作成する。家具、什器は必ず入れる。	模型の部品を作成する	240分
第15回	ポスターセッション (展示発表会)	自分の作品を展示発表し、全教員の講評を受ける	作品をインキング、コピー、着彩し、模型の写真を撮り、レイアウトする。	240分

学生へのフィードバック方法	毎回、各教員が学生のエスキース、図面、模型などを評価し、その都度、助言を与え、修正などの指示を与える。
---------------	---

評価方法	ポスターセッション（発表会）で作品を展示発表し、教員3人により、機能、デザイン、プレゼンテーションの3つの評価軸で採点する。平常点として授業への参画、取り組み姿勢を評価する。
------	---

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
設計作品の展示、発表	○	○	○	○

評価割合	課題作品の評価と出席による。配点は課題評価80%。課題評価のうち、第1作品40%、第2作品40%。平常点20%。総合点100点。必要図面の欠落、展示発表会の遅刻は各マイナス5点。
------	---

使用教科書名 (ISBN番号)	新しい建築の製図編集委員会編「新しい建築の製図」学芸出版 (4-7615-2375-1)
-----------------	--

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」の分野のRC造、木造住宅についての専門的知識を有している。 【思考・判断】社会にあるRC造、木造住宅の基本設計を理解して良否、可否を判断できる。 【関心・意欲・態度】社会にあるRC造、木造住宅に関心を持ち、デザインに意欲を持つ。 【技術・表現】RC造、木造住宅の設計を立案でき、社会に対して洗練された表現力で提示できる。
---------------	---

オフィスアワー	金曜2時限 3602研究室
---------	---------------

学生へのメッセージ	2年生後期は住宅に重点を置いた課題ですが、建築の基本として、住宅の各部寸法や平面図、断面図、立面図（展開図）などをしっかりとマスターしてください。RC造、木造の構造の基本も同時に習得してください。多くの図面、パースを書く必要がありますが、それを実行するために一番重要なのは、デザインを楽しみながら演習に取り組むことです。楽しんで続けることを、常に心がけてください。
-----------	--

教育等の取り組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、約20年の設計監理経験を有しており、RC造、木造住宅の実設計経験がある。設計指導にあたり、実務で学んだ設計、デザインの知識を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	毎回小人数グループで、設計製図の指導を演習を通して行う。

情報リテラシー 教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	建築デザイン演習 A		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 原口 秀昭	指定なし
非常勤講師	瀬川 康秀	指定なし
非常勤講師	前鶴 謙二	指定なし

ナンバリング	D33105M22
授業概要(教育目的)	RC造集合住宅の2課題を通して、デザインを楽しみながら、設計、製図、プレゼンテーション技術の習得、各寸法、ゾーニング、機能連携、構造、構法、計画における知識の習得を目的とする。第1課題は、与えられた敷地で、RC造テラスハウスを設計する。第2課題は、与えられた敷地と自らが想定したコンセプトによるシェアハウスで、RC造集合住宅を設計する。エスキース、平面図、立面図、断面図などの作図、模型、パースの制作などを通じて、立体としての建物を理解し、把握できるようにする

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	RC造集合住宅の機能・面積配分、ゾーニング、基本寸法、基準寸法、RC造の構造が分かる。
思考・判断の観点 (K)	RC造集合住宅の設計案に対して、その設計、デザイン、機能の良否、可否を考え判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	RC造集合住宅のデザイン、設計に関心を持ち、自らの設計、デザインに意欲的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	RC造集合住宅における基本設計、平面図、立面図、断面図の作図、パース、模型の制作ができる。

学習計画

RC造集合住宅の設計製図

回	授業テーマ	学習内容(アキティプランニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス、課題説明	建築デザイン演習の進め方、評価などの説明、第1課題(RC造集合住宅・シェアハウス)の説明をする。その後少人数グループに分かれて、RC造集合住宅、シェアハウスや今後の作業に関して各教員から説明を受け、コンセプトを考える。	RC造集合住宅、シェアハウスについて、ネットや図書で調べ、どのような問題点、設計上の課題、デザインがあるかを調べておく。	120分
第2回	コンセプトワーク	コンセプトボードを使ってグループ内で発表し、教員の講評を受ける。コンセプトを考え、エスキースを始める。	集合住宅、シェアハウスのコンセプトをまとめたコンセプトボード(A3)をつくる。	120分
第3回	平面図の作成	平面図の作成を行う。ベッド、テーブル、椅子などの家具も記入する。	平面図のエスキース、製図を行う。	120分

第4回	断面図、立面図の作成	断面図2面、立面図4面の作成を行う。キッチン収納などの造り付け家具の立面、断面も必ず記入する。	断面図2面、立面図4面のエスキース、製図を行う。	240分
第5回	パースの作成	居間などの主要室のパース（透視図）を作成する。家具、人物を必ず入れる。	パースを作成する。	240分
第6回	模型の作成	模型を作成する。	模型の部品を作成する。	240分
第7回	ポスターセッション （展示発表会）	自分の作品を展示発表し、全教員の講評を受ける。	模型の写真を撮り、図面、パースと共にレイアウトする。	240分
第8回	課題説明	第2課題（RC造テラスハウス）について説明を行う。その後グループに分かれて、コンセプトを考え、資料を集める。	雑誌でRC造テラスハウスの設計、デザインの資料を集め、図面をよく読みこんでおく。	120分
第9回	コンセプト発表、コンセプトワーク	各グループでコンセプトの発表を一人ずつ行い、教員の講評を受ける。RC造テラスハウスのエスキースを始める。	コンセプト、デザインイメージについて、考え、紙に書く。	120分
第10回	エスキース	前回のコンセプトを元に、エスキースを進める。コンセプト模型、ラフな平面図、断面図を作成する。	平面図のエスキース	120分
第11回	平面図の作成	平面図のエスキース、製図を行う。	平面図のエスキース、製図を行う。	120分
第12回	断面図、立面図の作成	断面図2面、立面図4面を作成する。	断面図2面、立面図4面のエスキース、製図を行う。	240分
第13回	パースの作成	RC造テラスハウスのメイン部分のパースを作成する。	パースを作成する。	240分
第14回	模型の作成	模型を作成する。	模型の部品を作成する。	240分
第15回	ポスターセッション （展示発表会）	自分の作品を展示発表し、全教員の講評を受ける。	模型の写真を撮り、図面、パースと共にレイアウトする。	240分

学生へのフィードバック方法 毎回、各教員が学生のエスキース、図面、模型などを評価し、その都度、助言を与え、修正などの指示を与える。

評価方法 ポスターセッション（発表会）で作品を展示発表し、教員3人により、機能、デザイン、プレゼンテーションの3つの評価軸で採点する。平常点として授業への参画、取り組み姿勢を評価する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
設計作品の展示、発表	○	○	○	○

評価割合 課題作品の評価と出席による。配点は課題評価80%。課題評価のうち、第1作品40%、第2作品40%。平常点20%。総合点100点。必要図面の欠落、展示発表会の遅刻は各マイナス5点。

使用教科書名 (ISBN番号) 新しい建築の製図編集委員会編「新しい建築の製図」学芸出版 (4-7615-2375-1)

ディプロマポリシーとの関連
 【知識・理解】「住」の分野のRC造集合住宅についての専門的知識を有している。
 【思考・判断】社会にあるRC造集合住宅の基本設計を理解して良否、可否を判断できる。
 【関心・意欲・態度】社会にあるRC造集合住宅に関心を持ち、デザインに意欲を持つ。
 【技術・表現】RC造集合住宅の設計を立案でき、社会に対して洗練された表現力で提示できる。

オフィスアワー 金曜2限時 3602研究室

学生へのメッセージ 3年生前期は集合住宅に重点を置いた課題ですが、建築の基本として、住宅の各部寸法や平面図、断面図、立面図（展開図）などをしっかりとマスターしてください。RC造の構造の基本も同時に習得してください。多くの図面、パースを書く必要がありますが、それを実行するために一番重要なのは、デザインを楽しみながら演習に取り組むことです。楽しんで続けることを、常に心がけてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活か	○	担当教員は、約20年の設計監理経験を有しており、RC造集合住宅の実設計経験がある。設計指導にあたり、実

した授業		務で学んだ設計、デザインの知識を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	毎回小人数グループで、設計製図の指導を演習を通して行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	建築デザイン演習B		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 原口 秀昭	指定なし
非常勤講師	瀬川 康秀	指定なし
非常勤講師	前鶴 謙二	指定なし

ナンバリング	D33106M22
授業概要(教育目的)	幼稚園、美術館の大型の建築2課題を通して、デザインを楽しみながら、設計、製図、プレゼンテーション技術の習得、各寸法、ゾーニング、機能連携、構造、構法、計画における知識の習得を目的とする。第1課題は与えられた敷地に建つ幼稚園、第2課題は与えられた敷地に建つ展示施設を設計する。エスキース、平面図、立面図、断面図などの作図、模型、パースの制作などを通じて、立体としての建物を理解し、把握できるようにする。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	幼稚園、美術館の機能・面積配分、ゾーニング、基本寸法、基準寸法、RC造、S造の構造が分かる。
思考・判断の観点 (K)	幼稚園、美術館の設計案に対して、その設計、デザイン、機能の良否、可否を考え判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	幼稚園、美術館のデザイン、設計に関心を持ち、自らの設計、デザインに意欲的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	幼稚園、美術館における基本設計、平面図、立面図、断面図の作図、パース、模型の制作ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス、課題説明	建築デザイン演習の進め方、評価などの説明、第1課題(RC造、S造幼稚園)の説明をする。その後少人数グループに分かれて、幼稚園や今後の作業に関して各教員から説明を受け、コンセプトを考える。	幼稚園について、ネットや図書で調べ、どのような問題点、設計上の課題、デザインがあるかを調べておく。	120分
第2回	コンセプトワーク	コンセプトボードを使ってグループ内で発表し、教員の講評を受ける。コンセプトを考え、エスキースを始める。	幼稚園のコンセプトをまとめたコンセプトボード(A3)をつくる。	120分
第3回	平面図の作成	平面図の作成を行う。テーブル、椅子などの家具も記入する	平面図のエスキース、製図を行う。	120分
第4回	断面図、立面図の作成	断面図2面、立面図4面の作成を行う。造り付け家具の立面、断面も必ず記入する。	断面図2面、立面図4面のエスキース、製図を行う。	240分

第5回	パースの作成	幼稚園の主要室のパース（透視図）を作成する。家具、人物を必ず入れる	パースを作成する。	240分
第6回	模型の作成	模型を作成する	模型の部品を作成する	240分
第7回	ポスターセッション（展示発表会）	自分の作品を展示発表し、全教員の講評を受ける。	模型の写真を撮り、図面、パースと共にレイアウトする。	240分
第8回	課題説明	第2課題（RC造、S造美術館）について説明を行う。その後グループに分かれて、コンセプトを考え、資料を集める。	美術館の設計、デザインの資料を集め、図面をよく読みこんでおく。	120分
第9回	コンセプト発表、コンセプトワーク	各グループでコンセプトの発表を一人ずつ行い、教員の講評を受ける。RC造テラスハウスのエスキースを始める。	コンセプト、デザインイメージについて、考え、紙に書く。	120分
第10回	エスキース	前回のコンセプトを元に、エスキースを進める。コンセプト模型、ラフな平面図、断面図を作成する	平面図のエスキース	120分
第11回	平面図の作成	平面図のエスキース、製図を行う。	平面図のエスキース、製図を行う。	120分
第12回	断面図、立面図の作成	断面図2面、立面図4面を作成する。	断面図2面、立面図4面のエスキース、製図を行う。	240分
第13回	パースの作成	RC造テラスハウスのメイン部分のパースを作成する。	パースを作成する。	240分
第14回	模型の作成	模型を作成する。	模型の部品を作成する。	240分
第15回	ポスターセッション（展示発表会）	自分の作品を展示発表し、全教員の講評を受ける。	模型の写真を撮り、図面、パースと共にレイアウトする。	240分

学生へのフィードバック方法	毎回、各教員が学生のエスキース、図面、模型などを評価し、その都度、助言を与え、修正などの指示を与える。
評価方法	ポスターセッション（発表会）で作品を展示発表し、教員3人により、機能、デザイン、プレゼンテーションの3つの評価軸で採点する。平常点として授業への参画、取り組み姿勢を評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
設計作品の展示、発表	○	○	○	○

評価割合	課題作品の評価と出席による。配点は課題評価80%。課題評価のうち、第1作品40%、第2作品40%。平常点20%。総合点100点。必要図面の欠落、展示発表会の遅刻は各マイナス5点。
使用教科書名 (ISBN番号)	新しい建築の製図編集委員会編「新しい建築の製図」学芸出版 (4-7615-2375-1)
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」の分野のRC造、S造の大型建物についての専門的知識を有している。 【思考・判断】社会にあるRC造、S造の大型建物の基本設計を理解して良否、可否を判断できる。 【関心・意欲・態度】社会にあるRC造、S造の大型建物に関心を持ち、デザインに意欲を持つ。 【技術・表現】RC造、S造の大型建物の設計を立案でき、社会に対して洗練された表現力で提示できる。
オフィスアワー	金曜2限時 3602研究室
学生へのメッセージ	3年生後期は大型建築に重点を置いた課題ですが、建築の基本として、各部寸法や平面図、断面図、立面図（展開図）などをしっかりとマスターしてください。RC造、S造の構造の基本も同時に習得してください。多くの図面、パースを書く必要がありますが、それを実行するために一番重要なのは、デザインを楽しみながら演習に取り組むことです。楽しんで続けることを、常に心がけてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、約20年の設計監理経験を有しており、RC造集合住宅の実設計経験がある。設計指導にあたり、実務で学んだ設計、デザインの知識を教授している。
アクティブ・ラ	○	毎回小人数グループで、設計製図の指導を演習を通して行う。

ーニング		
情報リテラシー 教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	住居CAD演習		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 足立 幸寿	指定なし

ナンバリング	D23107M22
授業概要(教育目的)	建築設計においてCADの基礎を身に付けることを目的とし、設計製図の基本を学習する。本講義では、フリーソフトの中でも特に一般的なJWCAD for windowsを使用し、基礎的操作から図面作成のテクニックまで、さらに3次元CADやプレゼンテーション技法の習得を目指し、住宅の基本設計図を適切に表現するための必要な知識と技法を学ぶ。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 平面図、立面図、断面図の関連が説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. CADの重要なレイヤーという概念を類別できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 図面の描き方について参考になるHPに興味をもてるようになる。 https://www.designboom.com/
技術・表現の観点 (A)	1. 2DCAD・3DCADの基本コマンドを使いこなせる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	JW_CAD	概要と基本 JW-CADでできること・画面構成・画面操作・図面設定	建築レンピ フリーソフト https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第2回	JW_CAD	作図系・編集系コマンドの基本操作 紹介基本コマンド・よく使うコマンド	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第3回	JW_CAD	作図系・編集系コマンドの応用操作 住宅平面図の作成 基本 基本コマンドの復習・簡単な住宅の平面図作成	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第4回	JW_CAD	作図系・編集系コマンドの応用操作 プレゼンの作成 画像編集 チュートリアル・応用コマンド	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第5回	JW_CAD	集合住宅平面図作成 他 チュートリアル・新しいコマンドと総復習・マンション平面図の作図	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分

第6回	JW_CAD	集合住宅平面図作成 他 チュートリアル・作図練習	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第7回	JW_CAD	プレゼンテーション作成 JW-CADの総仕上げ・プレゼンテーション	https://arch-free-cad.blogspot.com/ ☆JW-CADでJPG画像表示： 「SUSie」 https://arch-free-cad.blogspot.com/2017/10/jw-cadjpg.html	60分
第8回	SketchUp	SketchUpとの連携エクスポート・インポートと 環境設定 JW-CAD総復習・SketchUp・初期設定・3DCADによる立体化	https://arch-free-cad.blogspot.com/ ORSJwwによる外部変形 https://arch-free-cad.blogspot.jp/2017/10/jw-cadsketchupkerkythe.html	60分
第9回	SketchUp	立体化 3Dモデリング（小テスト：JW-CADの確認） Sketchup初期設定の復習から・JW中間小テスト（100点満点-----全体の20%）	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第10回	SketchUp	外観パース マンションの立体化 JWの図面マンションの立体化	https://arch-free-cad.blogspot.com/ JWからSKUへ（小テストの住宅を3Dにしてみる） ○ https://arch-free-cad.blogspot.jp/2017/11/jw-cadsketchup.html	60分
第11回	SketchUp	内観パース（510型・サザエさん） 2次元から3次元CADの一連操作 総合復習・	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第12回	SketchUp	KERKYTHEAとの連携エクスポート 最終課題 データー提出要綱・モデリング～レンダリング～プレゼン・添景の挿入方法	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第13回	KERKYTHEA	レンダリング（総合復習） JW-CAD製図～プレゼンテーション作成・確認テスト	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第14回	KERKYTHEA+G I N P	プレゼンテーション 確認テスト返却・フォーマットデーターにインポート	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第15回	KERKYTHEA+G I N P	プレゼンテーション（最終課題） 最終仕上げ・プリントアウト A4サイズ提出・データー提出	https://arch-free-cad.blogspot.com/ 授業内容等質疑受付メールアドレス（提出期限切れ課題提出先） shomei@kasei-gakuin.ac.jp	60分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業の最後に、確認データーを提出してもらい次週の授業でExcellent・Good評価の人の内容を確認する。 小テストは、次週に採点して返却する。
評価方法	小テスト・確認テスト合わせて20% 最終課題80%

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト				○
確認テスト	○			
最終課題	○	○		○
Excellent・Good	○		○	

評価割合	小テスト・確認テスト（20%） 最終課題（80%）
使用教科書名 (ISBN番号)	なし
参考図書	Jw_cad徹底解説(操作解説編)2012-2013
参考URL	https://arch-free-cad.blogspot.com/

学生へのメッセージ

CADを使うのが初めての方が大多数と思われるので、予習よりも授業で行った操作について繰り返し練習してください。
わからない、うまくできない人は、積極的に質問をするように心掛けてください。

教育等の取組み状況

	該当有 無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	建築CAD演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 足立 幸寿	指定なし

ナンバリング	D33108M22
授業概要(教育目的)	<p>住居CAD演習で習得したスキルを基本に実社会に応用できる設計製図手法を身に付けることを目的とし、計におけるプレゼンテーション技法のテクニックを学習する。本講義ではすべてフリーソフトを使用し、3次元図面作成のテクニックをさらに効果的に視覚化できる動画によるプレゼンテーション技法の指し、建築をわかりやすく適切に表現するために必要な知識と技法を学ぶ。差別化を図る為に動画にポートフォリオを作成する。</p> <p>最初の授業でソフトのインストール、プラグインの設定を行います。ご自身のパソコンをお持ちの方は、ご持参ください。</p>
履修条件	住居CAD演習を履修したもの(合否不問)
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	1. フリーソフトの連携を関係付けられる。
思考・判断の観点(K)	1. フリーソフトの目的にあったプレゼンが可能になる
関心・意欲・態度の観点(V)	1. 授業だけでなく積極的にプレゼンの可能性を探求できる。 設計のヒントになるHP: https://www.designboom.com/ ポートフォリオ参考事例紹介 issuu.com https://issuu.com/search?q=architecture%20portfolio
技術・表現の観点(A)	1. フリーソフトを応用してプレゼンテーションできる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間
第1回	JW-SU-GE	フリーソフトの連携の概要 動画 使用するソフト: SketchUP・GIMP・INSCAPE・GoogleEarth PowerPoint MovieMaker 紹介	建築レシピ フリーソフト https://arch-free-cad.blogspot.com/ 設計のヒントになるHP: http://www.designboom.com/ ポートフォリオ参考事例紹介 issuu.com https://issuu.com/search?q=architecture%20portfolio	60分
第2回	SketchUp	写真合成の手法 モンタージュ手法 (Sketchupデータ)・Kerkythea チュートリアル 背景写真を利用した合成: https://arch-free-cad.blogspot.jp/2018/03/blog-post.html	https://arch-free-cad.blogspot.com/ KerkytheaのSUN&SKYウィザード: https://arch-free-cad.blogspot.jp/2018/03/3d-cad.html Kerkytheaのglobal: https://arch-free-cad.blogspot.jp/2017/12/kerkythea_7.html	60分
第3回	SketchUp	モンタージュ写真 SU+KT+GIMP 背景画+GIMPによる合成: https://arch-free-cad.blogspot.jp/2018/03/blog-post.html 図面のPDF化: https://arch-free-cad.blogspot.jp/2018/03/inkscapepdf.html	https://arch-free-cad.blogspot.com/ 添景の挿入: https://arch-free-cad.blogspot.jp/2018/03/gimp_22.html GIMPのフィルター効果: https://arch-free-cad.blogspot.jp/2018/03/gimp_23.html	60分
第4回	KERKYTHEA	添景の貼り付け プレゼンテーションボードの作成・JW-CADIによるプレゼン	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分

		Inkscapeによるプレゼン : https://arch-free-cad.blogspot.jp/2018/03/inkscape.html		
第5回	KERKYTHEA+GINP	断面パース・インテリアパースの基本 合成画の応用・断面パースの作り方・Inkscapeによるプレゼン・A1プレゼン図面	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第6回	KERKYTHEA+GINP	ライティングの基本・インテリアのライティング・照明の変更の仕方・照明の位置移動 断面パースの作り方 : http://arch-free-cad.blogspot.jp/2017/12/blog-post_11.html	https://arch-free-cad.blogspot.com/ ☆KT-Lightsのインストール http://arch-free-cad.blogspot.jp/2017/11/sketchupkt-lights.html	60分
第7回	KERKYTHEA+Inkscape	プレゼンテーションの基本 内観パース ライティング・夜景の作り方・添景の影の付け方・インテリアパースの作り方	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第8回	動画作成 SU+GE+PP	パソコンによる動的プレゼンテーション Inkscape A1プレゼンテーション・パソコンによるプレゼンテーション手法	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第9回	GoogleEarth総合プレゼン	小テスト SUデータ者を利用しA3横にプレゼンテーションする。 inkscapeにレイアウト	https://arch-free-cad.blogspot.com/ Sketchupのプラグインの場所 C:\Users\ユーザー名\AppData\Roaming\SketchUp\SketchUp 2016\SketchUp ※隠しフォルダを表示する設定が必要です。	60分
第10回	パソコンによるプレゼンテーション PP・MM	ポートフォリオの作成 小テスト返却・パワーポイント（チュートリアル）	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第11回	Movie Maker 動画編集	最終課題発表 プレゼンテーション SketchUpによるウォークスルー動画作成・Movie Makerの動画編集・Sketchupの便利なプラグインの紹介	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第12回	プレゼンテーション ポートフォリオ	動画ウォークスルーのプレゼンテーション 最終課題・ポートフォリオムービーの作成	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第13回	Inkscape プレゼンテーション	A1プレゼンテーション 素材内容の確認・マスタープラン・透視図・外観・内観・断面	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第14回	最終課題 プレゼンテーション	ポートフォリオ+プレゼンテーション パワーポイントによるA3プレゼン・ポートフォリオムービー	https://arch-free-cad.blogspot.com/	60分
第15回	ポートフォリオムービー（MM）	ポートフォリオムービーによるプレゼンテーション（最終課題） ムービーマーカーによる動画編集	https://arch-free-cad.blogspot.com/ データが重いのでファイヤーストレージ等のサイトを利用して提出するようお願いいたします。 http://firestorage.jp/ 授業内容等質疑受付メールアドレス shomei@kasei-gakuin.ac.jp	60分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業の最後に、確認データを提出してもらい次週の授業でExcellent・Good評価の人の内容を確認する。小テストは、次週に採点して返却する。
評価方法	小テスト20% 最終課題80% Excellent・Good評価による加点

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○			
確認テスト		○		
最終課題	○			○
Excellent・Good			○	

評価割合	授業中の小テスト (20%) 最終課題 (80%)
使用教科書名 (ISBN番号)	なし
参考図書	なし
参考URL	https://arch-free-cad.blogspot.com/
学生へのメッセージ	住居CAD演習で習得したスキルを前提といたします。 インターネット上にはたくさんの参考サイトがあります。 授業で習わないことも丁寧に説明されていますのでいろいろ検索してみてください。
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	建築総合演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 柏木 穂波	指定なし

ナンバリング	D43109M22
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科における4年間の学修を確実なものとするために、木造軸組構法、RCラーメン構造の戸建て住宅の設計作図をおこなう。設計にあたっては、構造計画・設備計画及び周辺環境との調和を図り、総合的にまとめあげることが要求される。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	木造軸組構法、RCラーメン構造の住宅の構成・構造を理解する。
思考・判断の観点 (K)	木造軸組構法、RCラーメン構造の住宅について、適切な計画・構造となっているか判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	住宅について、積極的に住まい手の要求をくみ取り、快適な住生活のための適切な計画を提案できる。
技術・表現の観点 (A)	住宅について、住まい手の要求に適合した計画案を作成でき、建築設計図書として表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス、課題1 その1	ガイダンス、課題1説明後、各自、平面計画をおこなう	建築製図の基礎、木造とRC造の構法の違いについて確認しておく	90分
第2回	課題1 その2	課題1の完成図例を配布および解説後、各自、平面図を作成する	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること	90分
第3回	課題1 その3	面積表、仕上げ表、主要構造部材表、断面図を作成する	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること	90分
第4回	課題1 その4	配置図、立面図を作成する。法規チェック、記入もれがないか確認をおこなう	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること	90分
第5回	課題2 その1	課題1提出。課題2の説明後、各自、平面計画をおこなう	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること	90分
第6回	課題2 その2	課題2の完成図例を配布および解説後、各自、面積表、配置図、平面図を作成する	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること	90分
第7回	課題2 その3	床伏図の考え方を解説後、主要構造部材表、床伏図を作成する	授業内で指示した段階まで図面	90分

	の3	成する	を仕上げてくること	
第8回	課題2 の4	そ	矩計図の解説後、矩計図を作成する。法規チェック、記入もれがないか確認をおこなう	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること 90分
第9回	課題3 の1	そ	課題2提出。課題3の説明後、各自、平面計画をおこなう	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること 90分
第10回	課題3 の2	そ	授業内に平面計画を提出。指導を受けた後、各自、面積表、平面図を作成する	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること 90分
第11回	課題3 の3	そ	授業内に床伏図を提出。指導を受けた後、主要構造部材表、床伏図を作成する	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること 90分
第12回	課題3 の4	そ	課題3の完成図例を配布および解説 配置図、矩計図を作成する。法規チェック、記入もれがないか確認をおこなう	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること 90分
第13回	課題4 の1	そ	課題3提出。課題4の説明後、各自、平面計画をおこなう。 授業内に平面計画を提出。指導を受けた後、各自、面積表、平面図を作成する	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること 90分
第14回	課題4 の2	そ	課題4の完成図例を配布および解説。平面図の完成と断面図を作成する	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること 90分
第15回	課題4 の3	そ	配置図、立面図を作成する。法規チェック、記入もれがないか確認をおこなう。 課題4提出	授業内で指示した段階まで図面を仕上げてくること 90分

学生へのフィードバック方法 演習課題方式で授業を進める。授業内での質問を歓迎する。

評価方法 課題については、計画の適切性および図面の完成度によって評価する。平常点については、授業中の学習態度によって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題	○	○	○	○

評価割合 平常点：20%/課題：80%による総合評価、但し全課題提出を条件とする。

使用教科書名 (ISBN番号) 「特に指定しない」
適宜、シラバスに沿ってプリント及び関連資料を配布する。

参考図書 「はじめての建築製図」建築のテキスト委員会編/学芸出版/1997

ディプロマポリシーとの関連
 【知識・理解】「住」分野 について、専門的知識・技術を有している。
 【思考・判断】 各種の多様な情報を客観的に理解し判断できる。
 【関心・意欲・態度】 社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
 【技能・表現】 課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、1級建築士の資格を有し、設計事務所開設後、約23年、木造住宅、店舗等の設計監理に携わっている。 建築総合演習の指導にあたり、実務で学んだ設計の専門的知識、技術を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	建築計画		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小池 孝子	指定なし

ナンバリング	D33205M21
授業概要(教育目的)	建築計画学とは、建築をつくる上での基礎となる技術であり、人間の生活と空間との対応が重視される分野である。授業は建築計画に関する基礎的理論を学んだ後、各種建物に共通する基礎的問題や空間性能について具体的な建築としての各種施設を概説しながら進行する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	寸法の単位や寸法のシステム等寸法、人間の心理・行動と空間との関連、建築・住居の安全性に関する基本的な考え方及び技術者の社会的業務、各種施設の機能・形態別の特色と居住性などの基本的な「建築士」としての建築計画分野の全般的な知識を習得する。
思考・判断の観点 (K)	建物が適切な建築計画に基づいてつくられているか判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	建築士としての社会的業務・責務に関わる諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス ／建築計画とは	建築計画の全体像について学ぶ。	(復習) 市民参加ワークショップによる計画事例について調べ、市民の設計プロセスへの係わりについて理解する。	180分
第2回	寸法の決め方・決まり方	建築における寸法体系、寸法の決め方について学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、さまざまな要因から決まる寸法の事例について建築雑誌を用いて調べる。	180分
第3回	空間移動と安全性	群衆行動の法則性と建物の安全計画・安全設計、防災計画について学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、群衆事故の事例について調べ、対策を考える。	180分
第4回	空間と知覚 1	空間の概念、知覚について、哲学、地理学、建築学、心理学の観点から学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、空間の概念について自分なりの考えをまとめる。	180分

第5回	空間と知覚 2	錯視と知覚の恒常性、アフォーダンスの概念について学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、身近なアフォーダンスの例について考える。	180分
第6回	空間と人間のイメージ	都市のイメージ、レジビリティの概念について学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、自分の住む都市のイメージについて考える。	180分
第7回	周辺空間と人間の心理	空間におけるプライバシー、テリトリー、テリトリアリティの概念について学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、自分の家の周りの領域性、自然監視について考える。	180分
第8回	小学校・中学校・高等学校	小学校・中学校・高等学校の建築計画に関わる法規・機能・計画手法について学ぶ。	(復習) 配付プリントを復習し、小学校・中学校・高等学校の計画事例について建築雑誌を用いて調べる。	180分
第9回	幼稚園・保育所	幼稚園・保育所の建築計画に関わる法規・機能・計画手法について学ぶ。	(復習) 配付プリントを復習し、幼稚園・保育所の計画事例について建築雑誌を用いて調べる。	180分
第10回	美術館・図書館	美術館・図書館備えるべき機能・計画手法について学ぶ。	(復習) 配付プリントを復習し、美術館・図書館の計画事例について建築雑誌を用いて調べる。	180分
第11回	劇場	劇場の備えるべき機能・計画手法について学ぶ。	(復習) 配付プリントを復習し、劇場の計画事例について建築雑誌を用いて調べる。	180分
第12回	ホテル・事務所	ホテルの建築計画に関わる法規・機能・計画手法、事務所の備えるべき機能・計画手法について学ぶ。	(復習) 配付プリントを復習し、ホテル・事務所の計画事例について建築雑誌を用いて調べる。	180分
第13回	病院・診療所・高齢者施設	病院・診療所・高齢者施設の建築計画に関わる法規・機能・計画手法について学ぶ。	(復習) 配付プリントを復習し、病院・診療所・高齢者施設の計画事例について建築雑誌を用いて調べる。	180分
第14回	病院・診療所・高齢者施設	病院・診療所・高齢者施設の建築計画に関わる法規・機能・計画手法について学ぶ。	(復習) 配付プリントを復習し、病院・診療所・高齢者施設の計画事例について建築雑誌を用いて調べる。	180分
第15回	まとめ・定期試験	定期試験では、授業内容全般に関し、穴埋め問題、正誤問題を出題する	(予習) 今までの授業内容を振り返る	180分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	小課題については採点し、次回授業時に全体講評をおこない返却する。 小レポートについては、次回授業時に全体講評をおこなう。 小テストについては採点し、授業内で解説するとともに返却する。				
評価方法	小課題は、授業時間内に実習課題として実施する。取り組み状況、完成度によって評価する。2回の実施を予定している。 小レポートは、授業内に提示する資料をもとに授業内容を踏まえて自分の意見をまとめて記述する。授業内容の理解、意見の妥当性について評価する。6回程度を予定している。 小テストは、第1回～第7回の授業内容について第8回授業にて、第8回～第14回の授業内容について第14回授業にて実施する。穴埋め問題を出題する。 定期試験は穴埋め問題、正誤問題を出題する。				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	小課題	○	○		
	小レポート	○	○	○	
	小テスト	○			
	定期試験	○			
評価割合	小課題10%、小レポート25%、小テスト25%、定期試験40%により総合的に評価する。				
使用教科書名 (ISBN番号)	特にテキストは指定しない。				

参考図書	「図説やさしい建築計画」 深水浩／学芸出版社／2011
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」分野 について、専門的知識を有している 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる。また各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる
オフィスアワー	金曜3限 3508研究室
学生へのメッセージ	建築士やインテリアコーディネーターなど資格取得の必須の科目であるため、その試験概要について把握していること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	建築環境学B		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 梶田 考一	指定なし

ナンバリング	D33209M21
授業概要(教育目的)	建築環境学は建築の内外空間の環境形成を計画・評価する分野であり、建築設計において建物性能を決める重要なポイントのひとつである。この授業では、建築環境を形成する物理的要素である「光・音」の基本的性質を説明するとともに、その環境を評価する我々の感覚の特性を示すことによって、建物・設備性能が居住者へ与える影響を教示する。また、それらの知識を踏まえて、居住者にとって望ましい建築環境を構築するための具体的な手法を講義する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	[建築士指定科目] 建築環境を構成する、光・音の基本的性質を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

建築環境学B

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業計画 人間の視覚と聴覚の特徴について、概要を説明する。		0
第2回	光環境と色彩 生活環境の中の光と色	光環境の概要について理解する。 光と色の歴史／もののデザインから見えの効果へ／光と色の計画の基本／光が人体へ与える生理的影響	教科書p.115-119(光環境の概要)について読んでおくこと	90
第3回	光と視覚 (1)	光と目の特性について理解する。 光と面と目の特性／光の波長、視細胞、比視感度曲線、明所視、暗所視、分光特性(反射率、透過率)	教科書p.120-129(視覚と測光量)について読んでおくこと	180
第4回	光と視覚 (2)	測光量と光源の色特性について理解する。 測光量／光束、照度、光束発散度、光度、輝度 光源の色特性／色温度、演色性	配布資料(測光量)で測光量の定義について修得すること	200 120

			課題1 (測光量) について復習すること	
第5回	見えの効果 (1)	視覚特性について理解する。 視覚特性/暗順応, 明順応, 色順応, 色の恒常性, 対比明るさ/空間の明るさ感	教科書p.130-135 (見えの効果) について読んでおくこと	180
第6回	見えの効果 (2)	見えの効果について理解する。 明視性/グレア評価, UGR 快適性・雰囲気/均斉度, 照明ベクトル, モデリング	見えの効果を実際に体験すること	180
第7回	光環境のデザイン (1)	照明計算について理解する。 照明計算について解説し、課題により演習を行う。 照明計算/照明基準総則, 照度の逆二乗則/光束法	教科書p.136-149 (照明計算, 昼光照明, 人工照明) について読んでおくこと 課題2 (照明計算) について復習すること	180 120
第8回	光環境のデザイン (2)	昼光照明について理解する。 昼光照明/直射光, 天空光, 昼光率, 側窓, 天窓, 光ダクト, ガラス素材	斬新な昼光利用の実例を探ること	180
第9回	光環境のデザイン (3)	人工照明について理解する。 人工照明/LED, 白熱電球, 蛍光灯, 高輝度放電ランプ, 屋内照明, 全般照明, 局部照明, 配光特性, 直接照明, 間接照明, 街路照明, 景観照明 省エネルギー/タスク・アンビエント照明, 昼光利用	配布資料 (住宅の照明) で住宅の照明デザインについて修得すること 課題3 (光環境) について復習すること	250 120
第10回	色彩環境のデザイン	色彩環境について理解する。 色の見え/色の心理効果/色彩調和	教科書p.150-152 (色彩) について読んでおくこと 課題4 (色彩) について復習すること	45 45
第11回	音環境 生活の中の音	音環境の概略について理解する。 心地よい音・不快な音/コミュニケーションと音 対数の計算	教科書p.19-21 (音環境) について読んでおくこと 配布資料 (指数と対数) で対数の計算方法について修得すること	90 120
第12回	音の基礎知識 (1)	音の物理的性質について理解する。 音の性質と基本現象/粗密波, 音速, 周波数特性, 音場, 音の強さ, 距離減衰, 反射, 屈折, 回折, 干渉	教科書p.22-32 (音の基礎知識) について読んでおくこと	180
第13回	音の基礎知識 (2) 騒音の評価	音の心理効果について理解する。 聴覚と心理/聴覚と可聴範囲, ウェーバー・フェヒナーの法則, マスキング効果, カクテルパーティー効果, 両耳効果, 先行音効果 騒音の評価/等ラウドネス曲線, 等価騒音レベル, NC曲線	音の心理効果について体験すること	120
第14回	建物の音響性能 (1)	吸音率と透過損失について理解する。 壁の音響特性/吸音率, 吸音力, 透過率, 透過損失 吸音機構と吸音材量/多孔質吸音材, 共鳴器型吸音構造, 板振動型吸音構造	教科書p.33-44 (建物の音響性能) について読んでおくこと	180
第15回	建物の音響性能 (2) 定期試験	遮音性能と残響時間について理解する。 遮音特性とその評価量/質量則, 空気音遮断性能, 床衝撃音遮断性能 室内音響計画/エコー, 残響時間, 残響式	課題5 (音環境) について復習すること	120

学生へのフィードバック方法 すべての課題について、採点の後、授業中に解説を行う。

評価方法
・課題は、二級建築士試験に出題された過去問より抽出した文章について、正誤を問う形式である。
・定期試験は、課題の間を多肢択一で選ぶ設問がおおよそ60%、教科書・配布資料から作成した問を多肢択一で選ぶ設問がおおよそ40%である。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			
課題	○			

評価割合 定期試験 (70%)、課題 (30%) による総合評価

使用教科書名 (ISBN番号) 生活環境学 [改訂版] / 岩田利枝 他 / 井上書院 / 2015 978-4-7530-1759-1

参考図書	図説テキスト 建築環境工学／加藤信介 他／彰国社／2008	
ディプロマポリシーとの関連	[知識・理解] 住分野について専門的知識を有して、専門的な職業の道へつなぐことができる。	
オフィスアワー	町田C 金曜 4 限 3604室	
学生へのメッセージ	建築士試験指定科目 ③建築環境工学 に認定。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	建築環境システム		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 梶田 考一	指定なし

ナンバリング	D33211M21
授業概要(教育目的)	私たちが建物の中で生活するためには、建築設備（給排水衛生・空気調和・電気・搬送・防災）が必要不可欠である。この授業では、安全で快適な居住環境を形成するために必要な建築設備のシステムを説明し、建築と設備のかかわりを教示することによって、平面・断面計画上の設備スペースについて講義する。また、省エネルギー手法について、エネルギー消費性能とライフサイクルアセスメント（環境評価）および経済性の関係についても説明する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

観点	説明
知識・理解の観点 (K)	[建築士指定科目] 建築設備の名称とその働きを説明できること。また、設備システムを選択する上で、考慮すべき点を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

建築環境システム

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	建築設備の概要を理解する。 建築設備の概要/要約配布資料の説明	授業内容を要約した配布資料を読んでおくこと	60
第2回	建築から建築設備へ(1)	建築における建築設備の位置付けを理解する。 建築設備と地球環境/建築環境を構成する要素/意匠・構造・設備を合理的にまとめる	教科書p.9-20(建築から建築設備へ)を読んでおくこと	180
第3回	建築から建築設備へ(2)	設備デザインについて事例を通して理解する。 設備デザインの可能性 事例紹介	建築設備の概要の復習 レポート「設備デザインの事例を調べる」	120 540
第4回	防災設備(1)	防災設備について理解する。 建築災害の種類/自然現象によるもの、人為的要因によるもの	教科書154-167(防災設備)を読んでおくこと	180

		防災計画／地震に対する建築計画／火災に対する建築計画／防災設備／防排煙設備		
第5回	防災設備 (2)	消火設備について理解する。 消火設備／火災になるまでの経緯／燃焼の3要素／火災の種類／消火方法の分類／消火設備の種類／消火設備の設置方法／消火設備の設置対象	課題1 (防災設備) による復習	120
第6回	空気調和設備の概要 (1)	建物内のエネルギーの流れを理解する。 熱の流れ／ヒートポンプパッケージ空調方式／吸収式温水発生機による空調方式	教科書21-30 (空気調和設備の概要) を読んでおくこと	180
第7回	空気調和設備の概要 (2)	建物内の空気の流れを理解する。 空調空気の流れ／換気空気の流れ／水の流れ	建物内の熱・空気・水の流れについての復習	120
第8回	空調負荷 (1)	自然環境と建築環境の関係について理解する。 入れ子としての内と外／自然環境の違いと変化／内と外の条件と設備／快適な温熱環境とは	教科書32-44 (外界条件) を読んでおくこと	180
第9回	空調負荷 (2)	太陽エネルギーの利用と遮蔽について理解する。 太陽エネルギーの基本的性質／太陽エネルギー利用／日射の遮蔽	外界条件について復習すること	120
第10回	空調負荷 (3)	空調負荷について理解する。 加熱・加湿／冷却・除湿／暖房負荷と冷房負荷の要素／冷暖房負荷・空調負荷を減らす方法	教科書45-50 (空調負荷) を読んでおくこと 課題2 (空調負荷) による復習	90 60
第11回	空気調和設備 (1)	空調熱源装置と使用エネルギーについて理解する。 エネルギーの選択／冷熱源と温熱源／新しい空調熱源方式	教科書51-60 (熱源設備) を読んでおくこと 課題3 (空調熱源) による復習	90 60
第12回	空気調和設備 (2)	空調方式について理解する。 中央方式と個別方式／タスク空調と床吹き出し空調	教科書61-68 (空調方式) を読んでおくこと 課題4 (空調方式) による復習	90 60
第13回	空気調和設備 (3)	熱搬送について理解する。 熱搬送方式／室内空気分布と吹き出し口／換気設備／自動制御設備	教科書69-100 (熱搬送) を読んでおくこと 熱搬送方式について、その特徴を復習すること	90 60
第14回	建築と省エネルギー設備計画とスペース	省エネルギー計画について理解する。 エネルギー消費の決定要因／省エネルギーはどのように実現するか／省エネ法 設備スペース／建築プラン検討時の設備計画	教科書170-194 (省エネルギー計画) を読んでおくこと 課題5 (省エネルギー) による復習	90 60
第15回	電気設備の概要	電気設備の概要について理解する。 関連法規／電気の基本事項／配線設備	配布資料 (電気設備の概要) を読んでおくこと 電気設備の復習をすること	90 60

学生へのフィードバック方法 すべての課題について、採点の後、授業中に解説を行う。

評価方法

- ・課題は、二級建築士試験に出題された過去問より抽出した文章について、正誤を問う形式である。
- ・レポートは、「環境に配慮した設備デザイン」の実例を調べる課題である。
- ・定期試験は、課題の問を多肢択一で選ぶ設問がおおよそ60%、教科書・配布資料から作成した問を多肢択一で選ぶ設問がおおよそ40%である。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			
課題	○			
レポート	○			

評価割合 定期試験 (70%)、レポート及び課題 (30%) による総合評価

使用教科書名 (ISBN番号) 「建築の設備」入門 新訂第二版／同編集委員会編／彰国社／2017年 978-4-395-32095-0

ディプロマポリシーとの関連 [知識・理解] 住分野について専門的知識を有して、専門的な職業の道へつなぐことができる。

オフィスアワー 町田C 金曜 3限 3604室

学生へのメッセージ 建築士試験指定科目 ④建築設備 に認定。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	構造力学B		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 西村 彰敏	指定なし
教授	小池 孝子	指定なし

ナンバリング	D33302M21
授業概要(教育目的)	静定構造物と不静定構造物を通して建築(住居)構造力学を学ぶ力を身に付け、自らの力で基本的な問題に対し解決できる能力の育成を目的とする。 本科目は初学者を対象とし、ラーメン構造やトラス構造などを題材とする。 また、反力計算や応力計算の他、材料や断面の性質を通して構造力学に対する問題解決の方法を学び、基礎力を身に付ける。
履修条件	構造力学Aを履修していること

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 静定と不静定構造の反力と応力計算ができる 2. 材料性質の計算ができる 3. 断面性質の計算ができる
思考・判断の観点 (K)	1. 静定と不静定構造を正しく理解し説明できる 2. 材料性質を正しく理解し説明できる 3. 断面性質を正しく理解し説明できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	静定構造の反力計算1	1. ラーメン構造とは 2. 構造力学Aで学習した反力計算の復習 3. ラーメン構造の反力計算	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第2回	静定構造の応力計算1	1. 構造力学Aで学習した応力計算の復習 2. ラーメン構造の反力計算 3. ラーメン構造の応力図	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第3回	静定構造の反力計算2	1. トラス構造とは 2. トラス構造の反力計算	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習して	180分

			おくこと	
第4回	静定構造の応力計算2	1. トラス構造の応力計算 2. トラス構造の応力図	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第5回	不静定構造の反力計算	1. 静定・不静定構造とは 2. 不静定構造の反力計算	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第6回	不静定構造の応力計算	1. 不静定構造の応力計算 2. 不静定構造の応力図	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第7回	材料の性質1	1. 応力度とは 2. ひずみ度とは 3. ヤング係数とは	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第8回	材料の性質2	1. 荷重-変形と応力度-ひずみ度の関係 2. 部材軸方向の剛性	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第9回	断面の性質1	1. 断面積の計算 2. 断面1次モーメントとは 3. 断面1次モーメントの計算	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第10回	断面の性質2	1. 断面2次モーメントとは 2. 断面2次モーメントの計算	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第11回	断面の性質3	1. 断面係数・縁応力度とは 2. 断面係数の計算 3. 縁応力度の計算	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第12回	梁のたわみ	1. 梁のたわみとは 2. 弾性曲線式 3. 数学の基礎	参考書の該当頁を読んでおくこと又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第13回	力学演習1	1. ラーメン構造の反力と応力計算の演習 2. トラス構造の反力と応力計算の演習 3. 不静定構造の反力と応力計算の演習	授業の第1～6回を復習しておくこと	180分
第14回	力学演習2	1. 材料と断面の性質の演習 2. 梁のたわみ計算の演習	授業の第6～12回を復習しておくこと	180分
第15回	授業の振り返り	1. 理解度の確認 2. 授業内容の総括	授業の第1～14回を復習しておくこと	180分

学生へのフィードバック方法	小レポートは採点し、次週の授業で返却する。 授業中に質問の時間を設ける(当日理解が原則)。
---------------	--

評価方法	小レポートの提出は、授業終了後とする(毎回)。 小レポートの内容は、当日授業のまとめとする(板書を基準に自らの考えも含めること)。 定期テストは、学習目標に対する習熟度が判定できる内容とする。
------	--

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小レポート	○	○		
定期テスト	○	○		

評価割合	小レポート(40%)、定期テスト(60%)で評価する
------	----------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない
-----------------	---------

参考図書	力のつり合いを理解する構造力学, 彰国社 変形を理解する構造力学, 彰国社
------	--

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」分野 について、専門的知識を有している 【思考・判断】 各種の多様な情報を客観的に理解し判断できる
---------------	--

学生へのメッセージ	講義内容を自ら確認するため、各講義時間の中で15～30分程度の演習時間を設ける(質問等は演習時間に随時受け付ける)。 演習課題は次回の講義で解説するので、各自復習しておくこと。
-----------	---

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	住宅設計論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 原口 秀昭	指定なし

ナンバリング	D23304M21
授業概要(教育目的)	木造の基本を習得する。構法、構造、計画、材料、施工など、すべての分野のベースとなる部分を学ぶ。尺、寸、間などの寸法、在来工法、枠組み壁工法の基本、比較、基礎・地盤、壁・軸組み、1階床組み、2階床組み、小屋組み、屋根、外装、内装などの基本を、簡単な演習を交えて講義する。単に木造の知識を習得するのではなく、設計や実務に役に立つような生きた知恵の習得を目指す。後期から始まる木造設計に向けて、その時に知っておかなければならない最低限の知識を身に付ける。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	木造建築に関する材料、構法、納まりなどの基本事項を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	具体的な建築設計で、木造の構造的可否を判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	設計や工事現場における木造構法に関心をもち、設計を意欲的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	木造住宅の1/100の設計ができ、それを図面に表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	面積計算、寸、尺、間、坪	面積計算(建ぺい率、容積率)の説明の後、寸、尺、間、坪などの伝統的な寸法体系、畳、襖、障子、テーブル、椅子、浴室、トイレなどの寸法を学ぶ。	教科書のp8~p28を読んでおくこと。	180分
第2回	容積率、建ぺい率、軸組構法と枠組み壁構法	容積率、建ぺい率の計算の説明の後、在来軸組構法と枠組み壁構法(ツーバイフォー構法)を比較し、両者の長所、短所を学ぶ。小屋組みの和小屋、洋小屋を学ぶ。	教科書のp29~p50を読んでおくこと。	180分
第3回	面積計算、ドライエリア、軸組構法と枠組み壁構法の床組み、地盤	面積計算とドライエリアの説明の後、軸組構法と枠組み壁構法の床組みの違いを学ぶ。地盤、L形擁壁、スウェーデン式貫入試験、不同沈下、地盤改良、杭などについて学ぶ。	教科書のp51~p66を読んでおくこと。	180分

第4回	近代建築の5原則、家具の大きさ、縄張り、コンクリート	コルビュジエの近代建築の5原則と家具の大きさの説明の後、水杭、水貫、水系、ベンチマーク、縄張り、フーチング、コンクリートなどを学ぶ。	教科書のp67～p83を読んでおくこと。	180分
第5回	コルビュジエの住宅構成、軸組構法、枠組み壁構法、基礎、土台	コルビュジエの住宅構成の説明、軸組構法、枠組み壁構法の復習の後、布基礎、べた基礎、割栗石、切込み砂利、捨てコンクリート、RCの意味、RCの構造的特徴、モルタル、セメントペースト、コンクリート、基礎、土台、換気口などを学ぶ。	教科書のp84～p105を読んでおくこと。	180分
第6回	ミースの住宅構成、W造、RC造、S造、木造軸組	ミースの住宅構成、W造、RC造、S造の説明の後、木造1/100平面図の書き方、柱の置き方、通し柱、管柱、胴差し、軒桁、筋交い、金物、間柱などを学ぶ。	教科書のp106～p129を読んでおくこと。	180分
第7回	ミースの均質空間、RC造、S造、木造1階床組み	ミースの均質空間、RC造、S造の説明の後、1階根太、大引き、金物、火打ち土台、土台の継手などを学ぶ。	教科書のp130～p150を読んでおくこと。	180分
第8回	アアルトの住宅、木造2階床組み	アアルトの住宅の説明の後、2階根太、梁、梁の仕口、金物などを学ぶ。	教科書のp151～p168を読んでおくこと。	180分
第9回	カーンの住宅、パラペット、ペントハウス、ドレイン、笠木、木造の屋根	カーンの住宅、パラペット、ペントハウス、ドレイン、笠木の説明の後、垂木、母屋、棟木、小屋束、小屋梁、梁間、桁行、平側、妻側、切妻、寄棟、入母屋、京呂、折置、梁の仕口などを学ぶ。	教科書のp169～p190を読んでおくこと。	180分
第10回	ガウディの建物、木造小屋組み	ガウディの建物の説明の後、木造の垂木と梁の架け方を何種類か学ぶ。	教科書のp191～206pを読んでおくこと。	180分
第11回	マッキントッシュの住宅、木造屋根材	マッキントッシュの住宅の説明の後、アスファルトルーフィング、スレート、屋根勾配、水切り、棟包み、金属瓦葺き、金属立てはげ葺き、本瓦、棧瓦、冠瓦、鬼瓦、巴瓦、スペイン瓦、セメント瓦、金属瓦、折版、雪留めなどを学ぶ。	教科書のp207～p227を読んでおくこと。	180分
第12回	ワグナーの建物、基礎、土台、木造の雨仕舞、外壁	ワグナーの建物、基礎と土台の違いの説明の後、軒天井、樋、内樋、屋根の1/100立面図、1/100断面図、フラットルーフの防水、防水立ち上がり、ドレイン、笠木、下見板、サイディング、ガルバリウム鋼板、ALC板、シーリング、役物、胴縁、壁体内通気などを学ぶ。	教科書のp228～p248を読んでおくこと。	180分
第13回	柱の入れ方、左官、サッシ	柱の入れ方（RC造、S造、W造比較）の説明の後、ラス、木摺、吹き付けタイル、リシン吹き付け、磁器質タイル、役物、外付けサッシ、半外付けサッシ、サッシの留め方、木製枠、サッシの平面図、框などを学ぶ。	教科書のp249～p266を読んでおくこと。	180分
第14回	床組み、ガラス、断熱材、ボード類、床材	床組み（軸組、枠組み壁）の比較の説明の後、フロートガラス、型ガラス、複層ガラス、網入りガラス、サランネット、ポリスチレンフォーム、グラスウール、岩綿吸音板、石膏ボード、化粧石膏ボード、石膏ラスボード、フローリング、クッションフロア、畳などを学ぶ。	教科書のp267～p284を読んでおくこと。	180分
第15回	小屋組み、仕上げの納まり	小屋組みの復習の後、幅木、畳寄せ、回り縁、野縁、吊り木、吊り木受け、ドア枠、ドア枠の平面図、散り、フラッシュ戸、框戸、側桁、ささら桁、踏板、蹴込み板、踏み面、蹴上げなどを学ぶ。	教科書のp285～p295を読んでおくこと。	180分

学生へのフィードバック方法	各回で実施した小テストは、次週の授業にて返却する。質問等がある場合は、授業の前後か、3602研究室まで訪問すること。			
評価方法	毎回小テストを実施する。小テストの内容は、その回に行った授業内容とし、問題数は10問。すべて記述式とする。小テストの再テストは原則として行わないので注意すること。定期試験は行わず、小テスト（平常点も兼ねる）で評価する。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)

小テスト	○	○	○

評価割合	各授業の最後に、その授業でやったことの小テストを行い、その合計点で評価する。配点は平常点20%、テストの得点80%で評価。
使用教科書名 (ISBN番号)	原口秀昭著「ゼロからはじめる木造建築入門」彰国社 (978-4-395-01014-1)
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】木造建築に関する基本的知識を有している。 【思考・判断】木造の軸組に対して、構造的、計画的思考、判断ができる。 【関心・意欲・態度】社会にある木造建築に対して、常に関心をいだき、木造の設計に対して意欲がある。 【技術・表現】木造建築を平面図などの図面で表現できる。
オフィスアワー	金曜2限時 3602研究室
学生へのメッセージ	設計する上で必須の木造建築の技術を身に付け、デザイン演習の木造住宅の設計につなげてください。就職先がハウスメーカーやリフォーム会社の場合、必須の知識となります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、約20年間の設計監理経験を有しており、木造建築の基本知識が設計、施工にどのように生かせるかを教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	建築材料学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 白井 篤	指定なし

ナンバリング	D33308M21
授業概要(教育目的)	現在のように次々に建築用新素材や新製品が開発されている時代には、各種の建築物の用途に応じた適正な建築材料の選択と使用方法が必要になる。そこで、建築材料の中から、建物の柱、梁などの構造材料として用いられているコンクリート、木材及び鋼材について取り上げて、それら材料の基本的事項（種類、特徴、性能など）を平易に解説する。また、部位に要求される性能条件と材料の性質との関連性を理解させると共に、建築材料選定に当たっての基礎的知識を養う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	建築材料（コンクリート・木材・金属）について、その基本的事項（種類、性質など）を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 各種の木材について、年輪幅、含水率、密度と強さの関係を思考・判断できる。 2. 適正なコンクリートを製造するためのポイントを指摘できる。 3. 金属材料（鉄筋）の機械的性質がJIS（日本工業規格）に合格しているか思考・判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	「知識・理解の観点」「思考・判断の観点」で得た、知識及び思考・判断をレポートにまとめる（表現する）ことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(7ヶ月前・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス 木質系材料(1)	授業概要、授業の進め方、到達目標、必要とする教室外学習、成績評価の方法・基準などについて理解すること。又、木質系材料の基本的な性質について説明できること。	【復習】ガイダンス(第1回の授業)で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。	30
第2回	木質系材料(2)	木質系材料の性質について説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	90
第3回	木質系材料(3)	住宅用材料として用いられている各種の木材について、縦圧縮試験を行い、その性状を明らかにする。なお、授	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて	120

		業はグループワークでの体験学習で実施する。	理解すること。 【復習】返却したデータシートについて復習すること。	
第4回	木質系材料 (4)	木材の圧縮試験のレポート作成方法について理解すること。又、レポート課題を作成する上で必要となる情報活用方法についても理解すること。 【レポート課題①の出題】	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、レポート課題①に関する資料集めを行う。	180
第5回	コンクリート (1)	コンクリートに用いられている材料（セメント）の種類や特徴などについて説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すると共に、レポート課題①を書き始める。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、レポート課題①についてまとめる作業を行う。	240
第6回	コンクリート (2)	コンクリートに用いられている材料（骨材・混和材料）の種類や特徴などについて説明できること。 【レポート課題①の提出期限】	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すると共に、レポート課題について、ルーブリックに示した観点に従って書かれているか見直しを行い、提出できるようにする。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	300
第7回	コンクリート (3)	コンクリートの作製を通して、まだ固まらないコンクリートの性質を説明できること。授業はグループワークでの体験学習で実施する。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テスト及びレポート課題①について見返すこと。	180
第8回	コンクリート (4)	硬化前のコンクリートの性質について説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第9回	金属材料 (1)	金属材料の性質について説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第10回	金属材料 (2)	鉄筋の引張試験を通して、鉄筋の機械的性質について説明できること。授業はグループワークでの体験学習で実施する。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却したデータシートについて復習すること。	120
第11回	金属材料 (3)	鉄筋の引張試験のレポート作成方法について理解すること。レポート課題を作成する上で必要となる情報活用方法についても理解すること。 【レポート課題②の出題】	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解する。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、レポート課題②に関する資料集めを行う。	240
第12回	コンクリート (5)	コンクリートの圧縮強度試験を通して、硬化後のコンクリートの性質を説明できること。授業はグループワークでの体験学習で実施する。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すると共に、レポート課題について書き始める。 【復習】返却したデータシートについて復習すると共に、レポート課題②についてまとめる作業を行う。	240
第13回	コンクリート (6)	コンクリートの各種試験のレポート作成方法について理解すること。又、レポート課題を作成する上で必要となる情報活用方法についても理解すること。【レポート課題②の提出期限】 【レポート課題③の出題】	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すると共に、レポート課題②について、ルーブリックで示した観点に従って書かれているか見直しを行い、提出できるようにする。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、レポート課題③に関する資料集めを行う。	180

第14回	鉄筋コンクリート (1)	鉄筋コンクリートの性質について説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すると共に、レポート課題③を書き始める。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、レポート課題③についてまとめる作業を行う。	240
第15回	鉄筋コンクリート (2)	鉄筋コンクリートの耐久性について説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却したデータシートについて復習すると共に、レポート課題③について、ルーブリックで示した観点に従って書かれているか見直しを行い、提出できるようにすること。	300

学生へのフィードバック方法	実施した小テスト及びデータシートは、採点して次週の授業の初めに返却する。返却時に、小テストについては正答の説明を行う。実験レポート課題については、提出された翌週もしくは翌々週に返却し、返却時に評価基準の解説を行う。
---------------	---

評価方法	平常点については、授業の最後に行う小テストもしくは、実験時のデータシートの記載内容で評価する。小テストの問題は、○×問題もしくは択一問題である。問題の多くは、過去の二級建築士及び木造建築士の資格試験で出されたもので、授業時の内容8割、授業外学習の内容2割である。1回の授業の平常点は10点満点とし、小テストの正答率もしくはデータシートの記述内容によって3段階(A:10点、B:5点、C:0点)で評価する。実験レポート課題については、「課題に対する記述」「表現方法」「文章を書くときの技術的な約束事」「参考文献の活用」「その他(提出期限、分量、体裁など)」の5つの観点で評価する。評価基準については、レポート課題出題時に説明する。レポート課題については、50点満点とし、10段階(S:50点、SA:45点、A:40点、AB:35点、B:30点、BC:25点、C:20点、CD:15点、D:10点、E:5点)で評価する。
------	--

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○			
データシート	○			
レポート課題	○	○		○

評価割合	平常点(50%)及びレポート課題(50%)で評価する。
------	-----------------------------

使用教科書名(ISBN番号)	適宜、資料を印刷・配付する。
----------------	----------------

参考図書	初学者の建築講座 建築材料/橋高義典ら/市ヶ谷出版、やさしい建築材料/松本進/学芸出版社、初めての建築材料/前田幸夫ら/学芸出版社
------	---

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】住分野の中の建築材料についての専門的知識・技術を深めて理解することで、専門的な職業の道へつながることができる。 【思考・判断】講義及び実験から得られる情報、授業外学習から得られる情報などを客観的に理解して関係性を導き出すことができる。 【技能・表現】建築材料の学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理して、レポートにまとめることができる。
---------------	---

オフィスアワー	水曜日3時限及び4時限、3号棟6階3606研究室、できるだけ、メールなどで事前予約して下さい。
---------	---

学生へのメッセージ	ガイダンス(第1回目の授業)で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について、事前に勉強した上で、授業に臨むこと。
-----------	---

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	教室内でのグループワークによる体験学習を通して、課題発見能力を養う。
情報リテラシー教育	○	レポート課題を作成する上で、図書館の利用方法、文献探索方法などの情報活用能力を養う。
ICT活用		

シラバス参照

講義名	建築施工		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 白井 篤	指定なし

ナンバリング	D33309M21
授業概要(教育目的)	建築生産の最終段階である施工について、建築物の主要構造形式である鉄筋コンクリート造と鋼構造を中心として、地業工事、主体工事、内外装工事、防水工事、設備工事の順に施工方法を平易に解説する。また、施工する際に重要となる、積算及び工事機械についても説明する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	鉄筋コンクリート造及び鋼構造で建てられた建築物の施工方法について、工事種別ごとに説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス 施工・管理 計画(1)	授業概要、授業の進め方、到達目標、必要とする教室外学習、成績評価の方法・基準などについて理解すること。又、工事契約の概略について説明できること。【レポート課題(鉄骨の接合方法とその特徴について)の説明】	【復習】ガイダンス(第1回の授業)で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること	60
第2回	施工・管理 計画(2)	工程表の種類及びその読み方について説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、レポート課題に関する資料集めを行う。	180
第3回	地業工事 (1)	建築物が建てられる地盤について説明できること。又、建築物の地盤調査として用いられている標準貫入試験について説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストにつ	240

			いて復習すると共に、レポート課題を書き始める。	
第4回	地業工事 (2)	根切り工事及び山留め工事について説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すると共に、レポート課題について、ループリックで示した観点に従って書かれているか見直しを行い、提出できるようにすること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、レポート課題についてまとめる作業を行う。	300
第5回	主体工事 (1)	鉄骨工事の中の高力ボルト接合について説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	360
第6回	主体工事 (2)	鉄骨工事の中の溶接について説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テスト及びレポート課題について見返すこと。	180
第7回	主体工事 (3)	鉄筋コンクリート工事の中の鉄筋工事について説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第8回	主体工事 (4)	鉄筋コンクリート工事の中の型枠工事について説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第9回	主体工事 (5)	鉄筋コンクリート工事の中のコンクリート工事について説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第10回	内外装工事	内外装工事の中のタイル工事について説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第11回	防水工事 (1)	防水工事の中のアスファルト防水について説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第12回	防水工事 (2)	防水工事の中の改質アスファルト防水、シート防水などについて説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第13回	防水工事 (3)	防水工事の中の塗膜防水、ステンレスシート防水、モルタル防水及びシーリング防水について説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第14回	設備工事	設備工事の中の給排水工事について説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第15回	積算・工事 機械	積算、施工機械・器具などについて説明できること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、定期試験に備えて第1回から第15回までの授業内容について復習しておくこと。	420

学生へのフィードバック方法	実施した小テスト及びレポート課題については、採点して次週の授業の初めに返却する。返却時に、小テストについては正答の説明を、レポート課題については評価基準の解説を行う。																																	
評価方法	平常点については、授業の最後に行う小テストで評価する。小テストの問題は、○×問題もしくは択一問題である。問題の多くは、過去の二級建築士及び木造建築士の資格試験で出されたもので、授業時の内容8割、授業外学習の内容2割である。1回の授業の平常点は10点満点とし、小テストの正答率によって3段階（A:10点、B:5点、C:0点）で評価する。レポート課題については、「課題に対する記述」「表現方法」「文章を書くときの技術的な約束事」「参考文献の活用」「その他（提出期限、分量、体裁など）」の5つの観点で評価する。評価基準については、レポート課題出題時に説明する。レポート課題については、50点満点とし、10段階（S:50点、SA:45点、A:40点、AB:35点、B:30点、BC:25点、C:20点、CD:15点、D:10点、E:5点）で評価する。定期試験については、150点満点とし、全て記述式の問題とする。																																	
評価基準	<p>評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小テスト</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>レポート課題</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	小テスト	○				レポート課題	○				定期試験	○													
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																														
小テスト	○																																	
レポート課題	○																																	
定期試験	○																																	
評価割合	平常点（約43%）、レポート課題（約14%）及び定期試験（約43%）で評価する。																																	
使用教科書名 (ISBN番号)	適宜、資料を印刷・配付する。																																	
参考図書	建築施工テキスト／兼歳昌直／井上書院、やさしい建築施工／松本進／学芸出版社、専門士課程 建築施工／福田健策ら／学芸出版社																																	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】住分野の中の建築施工についての専門的知識・技術を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。																																	
オフィスアワー	水曜日 4 時限 3606研究室																																	
学生へのメッセージ	ガイダンス（第1回目の授業）で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について、事前に勉強した上で、授業に臨むこと。																																	
教育等の取組み状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング			情報リテラシー教育			ICT活用																	
	該当有無	概要																																
実務経験を活かした授業																																		
アクティブ・ラーニング																																		
情報リテラシー教育																																		
ICT活用																																		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	マルチメディア演習		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 呉 起東	指定なし

ナンバリング	D34206M22
授業概要(教育目的)	現代社会に溢れている様々な情報を収集し、論理的に分析することにより、より正確な情報に変え、可視化することが出来る。 本授業では、映像制作を通じてマルチメディアの原理を理解し、情報伝達を理解することを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
思考・判断の観点 (K)	多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
技術・表現の観点 (A)	社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション、チーム構成	授業の概要や内容、成績の評価の説明を行う、チーム構成とそれぞれの役割決める。ブレインストーミング方法によるテーマを設定する。	映像作品を1つ選定して映像の構成、特徴、視覚的效果などを調査してレポートでまとめる。	90分
第2回	コンセプト、シナリオの作成1	ブレインストーミング方法を用いてコンセプト、シナリオを作成する。	映像作品を1つ選定して映像の構成、特徴、視覚的效果などを調査してレポートでまとめる。	90分
第3回	コンセプト、シナリオの作成2	ブレインストーミング方法を用いてコンセプト、シナリオを作成する。	映像作品のテーマ、コンセプト、シナリオをまとめる。	90分
第4回	絵コンテの作成1	まとめたシナリオを基づいて絵コンテを作成する。	まとめたシナリオを基づいて絵コンテを作成する。	90分
第5回	絵コンテの作成2	まとめたシナリオを基づいて絵コンテを作成する。	絵コンテの完成度を高める。	90分
第6回	ロケーション	作成したシナリオや絵コンテを用いて撮影場所を視察す	撮影するための準備を行う。	90分

	ン	る。		
第7回	撮影	作成したシナリオや絵コンテを用いて撮影を行う。	撮影したデータを確認する。	90分
第8回	撮影	作成したシナリオや絵コンテを用いて撮影を行う。	作成したシナリオや絵コンテを用いて撮影を行う。	90分
第9回	撮影	作成したシナリオや絵コンテを用いて撮影を行う。	撮影したデータを確認する。	90分
第10回	撮影	作成したシナリオや絵コンテを用いて撮影を行う。	撮影したデータを確認する。	90分
第11回	映像編集	撮影したデータを用いて撮影を行う。カット編集でストーリーを繋げる。	編集したデータを確認する。	90分
第12回	映像編集	撮影したデータを用いて撮影を行う。カット編集でストーリーを繋げる。	編集したデータを確認する。	90分
第13回	映像編集	撮影したデータを用いて撮影を行う。BGMやアフレコの録音を行う。	編集したデータを確認する。	90分
第14回	映像編集	撮影したデータを用いて撮影を行う。字幕処理などを行い完成する。	編集したデータを確認する。プレゼンテーション準備を行う。	90分
第15回	プレゼンテーション	完成した作品の試写会とプレゼンテーションを行う。	完成した作品の試写会とプレゼンテーションを行う。	90分

学生へのフィードバック方法	この演習は学生が主体で行う授業ですがブレインストーミングの手法、シナリオの作成方法、撮影、編集のテクニックについて授業中およびオフィスアワーの時間に適切なアドバイスをを行う。別の質問などがある場合は研究室1307 (E-mailも可) まで訪問すること。
---------------	---

評価方法	<p>課題は60点満点で課題の結果とプレゼンテーションで評価を行う。評価の基準は3つの基準は「課題の理解」「誠実さ」「デザイン性」で5段階評価を行う。</p> <p>レポートと最終報告書は20点満点で課題と同じく3つの基準を5段階評価で行う。</p> <p>平常点は20点満点で15回を通して「背極的な授業の参加、態度」「背極的なディスカッション」を基準に加点及び減点を行います。</p>
------	--

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題	○	○	○	○
レポート		○	○	○
最終報告書	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合	課題 (60%)、レポート (10%) 最終報告書 (10%) 平常点 (20%) で評価をする。
------	---

使用教科書名 (ISBN番号)	特になし
-----------------	------

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 情報 について、専門的知識・技術を有している。</p> <p>【思考・判断】 多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】 積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。</p> <p>【技能・表現】 課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。</p>
---------------	--

オフィスアワー	月曜日2限 1307研究室
---------	---------------

学生へのメッセージ	映像は情報表現にはとても重要な表現の手段です。映像制作に興味がある方は是非参加して楽しい映像を制作しましょう。受講申請が5名以下の場合には開講できません。少人数の映像製作は難しいからです。
-----------	--

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題に関して、自ら調べ、発表する。
情報リテラシー教育	○	情報そのものと情報の伝達をするための情報の収集、分類、基本的な表現スキルを教育する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	デジタルフォト論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 呉 起東	指定なし

ナンバリング	D24208M21
授業概要(教育目的)	カメラの仕組みと写真の基本的な理論を理解して演習を通じて知識を深める。写真は情報伝達の表現において大切な方法である。まず、「表現する」ために必要な能力を育つことを目的とする。テーマを用いた風景や人物などの撮影を行い、その結果を用いて様々なデジタル処理を行う。
履修条件	CGデザイン演習の履修が望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	グローバルな視点から、写真の知識を深めて理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
技術・表現の観点 (A)	社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業のオリエンテーション、デジタルフォトの概要	授業の概要や内容、成績の評価の説明を行う。デジタルフォトと表現の可能性について説明を行う。	写真家を2人選び作品(世界観、特徴など)について調査しレポート1でまとめる。	180分
第2回	カメラについて	カメラの種類と機能、レンズの種類・絞りとシャッターの機能について理解する。	写真家を2人選び作品(世界観、特徴など)について調査しレポート1でまとめて提出。	180分
第3回	カメラについて	シャッターの役割を学習して露出について理解する。またシャッターの変化による表現の可能性を理解する。	課題1:カメラの基本1(露出、シャッターの理解)を行う。	180分
第4回	カメラについて	絞りの役割を学習して露出について理解する。また絞りの変化による表現の可能性を理解する。	課題2:カメラの基本2(露出、絞り、露出の理解)を行う。	180分
第5回	撮影について	季節をテーマとした写真について理解する。風景写真家	課題3:季節をテーマとして撮	180分

	て	1の作品について解説を行う。	影を行う。写真と撮影についてまとめてレポート2を作成する。インスタグラムで発信を行う。	
第6回	撮影について	季節をテーマとした写真について理解する。風景写真家2の作品について解説を行う。	課題3：季節をテーマとして撮影を行う。写真と撮影についてまとめてレポート2を作成して提出。インスタグラムで発信を行う。	180分
第7回	撮影について	人物をテーマとした写真について理解する。ポートレート写真家1の作品について解説を行う。	課題4：人物をテーマとして撮影を行う。写真と撮影についてまとめてレポート3を作成する。インスタグラムで発信を行う。	180分
第8回	撮影について	人物をテーマとした写真について理解する。ポートレート写真家2の作品について解説を行う。	課題4：人物をテーマとして撮影を行う。写真と撮影についてまとめてレポート3を作成して提出。プレゼンテーションの準備を行う。	180分
第9回	プレゼンテーション1	季節・人物のテーマで撮影した作品についてプレゼンテーションを行う。	今までの課題やレポート、プレゼンテーションを振り返る。	180分
第10回	デジタル補正1	画像補正ツールについて理解する。写真をイメージとした表現の可能性について理解する。	デジタル補正の方法や表現の可能性について調査し、レポート4でまとめる。	180分
第11回	デジタル補正2	画像補正ツールについて理解する。写真をイメージとした表現の可能性について理解する。	デジタル補正の方法や表現の可能性について調査し、レポート4でまとめて提出。	180分
第12回	撮影について	ドキュメントをテーマとした写真について理解する。ドキュメント写真家1の作品について解説を行う。	課題5：自由にテーマを設定し撮影を行う。写真と撮影についてまとめてレポート5を作成する。インスタグラムで発信を行う。	180分
第13回	撮影について	ドキュメントをテーマとした写真について理解する。ドキュメント写真家2の作品について解説を行う。	課題5：自由にテーマを設定し撮影を行う。写真と撮影についてまとめてレポート5を作成する。インスタグラムで発信を行う。	180分
第14回	撮影について	ドキュメントをテーマとした写真について理解する。ドキュメント写真家3の作品について解説を行う。	課題5：自由にテーマを設定し撮影を行う。写真と撮影についてまとめてレポート5を作成する。プレゼンテーションの準備を行う。インスタグラムで発信を行う。	180分
第15回	プレゼンテーション2	自由にテーマを設定し撮影した作品についてプレゼンテーションを行う。	デジタル補正や課題5、レポート、プレゼンテーション2を振り返る。	180分

学生へのフィードバック方法 課題、レポートは採点して、次週の授業にて返却をする。質問などがある場合は研究室1307 (E-mailも可) まで訪問すること。

評価方法 5回の課題は50点満点で課題の結果とプレゼンテーションで評価を行う。評価の基準は3つの基準は「課題の理解」「誠実さ」「デザイン性」で5段階評価を行う。
5回のレポートは30点満点で課題と同じく3つの基準を5段階評価で行う。
平常点は20点満点で15回を通して「背極的な授業の参加、態度」「背極的なディスカッション」を基準に加点及び減点を行います。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合	課題（50%）、レポート（30%）平常点（20%）で評価をする。	
使用教科書名（ISBN番号）	なし	
参考図書	なし	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】情報 について、専門的知識・技術を有している。 【思考・判断】多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。”	
オフィスアワー	火曜日3限 1307研究室	
学生へのメッセージ	写真は情報表現、情報伝達にとっても有効なツールです。課題は多いですが写真について楽しく学びましょう。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題に関して、自ら調べ、発表する。
情報リテラシー教育	○	情報そのものと情報の伝達をするための情報の収集、分類、基本的な表現スキルを教育する。
ICT活用	○	情報収集、作品制作、発表のために、PCや通信機器を活用する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	インテリアデザイン論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 原口 秀昭	指定なし

ナンバリング	D31114M21
授業概要(教育目的)	インテリアデザインの入門として、内部空間との関係が深いモノや人との関係に関心を持ち、モジュールや形、色、テクスチャーの心理、家具、椅子、照明や材料などについての知識を深めていく。インテリアデザイン計画では建築空間の制約を受けると同時に、室内に配される物とも密接な関連を持っている。材料、技術、手法、建築法規などのハード面についての知識と人間の心理や行動、あるいは人間のスケールなど具体的な設計に応用できるための計画技術を学ぶ。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. インテリアエレメントの幅広い知識を理解し説明できる。 2. 建築の工法、材料、建築法規などを理解し説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1. 様々な諸問題を理解し、インテリアデザイン計画を行なうことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	インテリアデザインとは、日本の住まいの特徴	インテリア計画学、インテリアデザインの発生、必要となった理由、計画の目的と対策、範囲、インテリア計画を行う時のアプローチの方法を理解する。日本の住まい、伝統的木造住宅の特徴を理解する。	インテリア計画学、インテリアデザインとは(P10～11)を読んでおくこと。	120分
第2回	日本の住まいとインテリアの変遷	寝殿造り、書院造り、数寄屋造りのそれぞれの特徴を理解する。西洋建築の普及と中廊下型住宅の特徴を理解する。1回目練習問題(台所寸法、天井高、建築材料)	日本の住まいとインテリアの変遷(P12～19)を読んでおくこと。前回の復習として、インテリアデザインを行う場合に行う4つのアプローチの方法を理解しておく。	240分
第3回	西洋のインテリア家具	古代エジプトから近代アールデコまでの西洋家具様式の特徴と変遷を理解する。ビデオ(2×4工法)	西洋のインテリア家具様式の変遷(P20～25)、第二次世界対	240分

	様式の変遷、第二次世界対戦後のデザインの流れと日本の現代家具		戦後のデザインの流れと日本の現代家具 (P26 ~27) を読んでおくこと。	
第4回	人間工学の意味と人体寸法、家具・設備への人間工学の応用	人体寸法と設計との関係、姿勢、作業域、動作空間を考慮した設計について理解する。2回目練習問題(色彩、造形)	人間工学の意味と人体寸法、家具・設備への人間工学の応用 (P28 ~35) を読んでおくこと。	120分
第5回	インテリアの安全性、形・色・テクスチャーの心理	日常災害、非常災害について理解する。形と色の心理、テクスチャーの心理、人体感覚と内装材料について理解する。ビデオ(建物探訪・スローライフ編)	インテリアの安全性、形・色・テクスチャーの心理 (P36 ~47) を読んでおくこと。	240分
第6回	人間尺度と空間の心理	建築モジュール、(モジュール)、日本の木割を理解する。ビデオ(建物探訪・狭少・変形敷地編)	人間尺度と空間の心理 (P48 ~55) を読んでおくこと。	120分
第7回	家具、テキスタイル、照明、サイン、グリーン、アート	家具の構造、家具デザインの条件、デザイン変遷を理解する。インテリアエレメントとしてのテキスタイル、照明等について学ぶ。ビデオ(建物探訪・ローコスト編)	家具、テキスタイル、照明、サイン、グリーン、アート (P56 ~67) を読んでおくこと。	120分
第8回	材料と仕上げ(木材、石材、タイル、金属、プラスチック)	教科書に加え、床下地と仕上げ、壁、天井、開口部、窓の納まり、派バキと廻縁の納まり等の構法を学ぶ。3回目練習問題(住居、住まいの変遷)	材料と仕上げ(床/壁/天井/開口部、カーペット・カーテン) (P68 ~75) を読んでおくこと。	120分
第9回	インテリアの構法	教科書に加え、別紙資料配布により、カーペット、カーテン、建具、扉、障子、ふすま、窓、照明器具、給排水設備、階段、住宅の構法、屋根の種類と構法を理解する。ビデオ(コーポラティブ住宅Vol13)	インテリアの構法 (P76 ~83) を読んでおくこと。	120分
第10回	建築基準法・建築士法・消防法	別紙資料により、建築物、建築設備、居室、主要構造部、耐火構造、延焼のおそれのある部分、環境衛生に関する規定、防火・避難、建築士法、消防法を学ぶ。4回目練習問題(日本史、西洋史)	建築基準法・建築士法・消防法の別紙事前配布資料を読んでおくこと。	120分
第11回	室内環境計画とその制御	熱環境、空気環境と湿気、光環境と音環境、エコロジ的な室内環境について理解する。	室内環境計画とその制御 (P84 ~91)	120分
第12回	プライベートインテリアの計画、住空間設計	事例を学ぶ。住まいの機能、集合住宅の計画について学ぶ。5回目練習問題(寸法計画)	住空間計画 (P94 ~97) を読んでおくこと。	120分
第13回	コミュニケーション空間	LDK空間、DK空間、和室・洋室、これからのD空間、L空間のインテリア、家事空間を学ぶ。フォーマルリビングについて考える。ビデオ(建築家の設計した住宅・フォーマルリビングVol10)	コミュニケーション空間 (P98 ~105) を読んでおくこと。	120分
第14回	プライベート空間、子供の空間、高齢者の空間、夫と妻の空間	子供の成長、空間概念、プライバシー意識、子供と家族、親の養育態度、子供部屋の装備、高齢者の身体機能の衰え、フレキシブルな将来対応、夫婦寝室と書斎、趣味の部屋を考える。	子供の空間、高齢者の空間、夫と妻の空間 (P106 ~117) を読んでおくこと。	120分
第15回	サニタリー空間、収納方式と収納空間、アプローチ空間	健康空間としての便所、浴室、ユーティリティ空間について考える。	サニタリー空間、収納方式と収納空間、アプローチ空間 (P118~127) を読んでおくこと。	予習: 240分、復習: 420分

学習計画注記

教科書の項目順に進めていくが、進み具合によりスケジュール変更の場合もある。

学生へのフィードバック方法

授業についての質問は常時受け付ける。質問がある場合は、研究室へ訪ねて下さい。メールも可。練習問題(2級建築士問題集、キッチンスペシャリスト問題集)を5回、授業前に行うが、答え合わせと同時に解説、質問を受け付ける。ビデオ鑑賞後、短時間であるが意見交換を行う。

評価方法	定期試験の評価及び平常点。 ビデオ鑑賞後の意見交換や、積極的な質問や意見、授業態度による評価。 練習問題は自己採点し、評価に反映しない。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	試験	○			
	平常点			○	
評価割合	試験(85%)、平常点(15%)				
使用教科書名 (ISBN番号)	インテリアデザイン教科書第二版／インテリアデザイン教科書研究会編著／彰国社／2800円＋税				
参考図書	「住居学入門」学芸出版社				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」分野における知識を得、専門的な職業に通じる知識を得ることができる				
オフィスアワー	水曜3限 1502研究室				
学生へのメッセージ	インテリアに関心を持ち幅広い知識を吸収して、インテリア計画のできる人になれるように学修してくれることを期待します。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング					
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	生活美学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 澤田 雅彦	指定なし

ナンバリング	D31115M21
授業概要(教育目的)	ものの価値を判断する基準の1つである「美しさ」は、主観的な部分が大きく、時として曖昧であるが重要視される。その一方で、近代デザインに機能重視の考え方は欠かせない。生活用品の「美しさ」、あるいは生活における「美しさ」の考え方について、機能と美しさの関係も考慮しながら、歴史的な観点から考える。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	生活用品の「美しさ」「機能」「デザイン」の考え方を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	生活用品の価値の様々な側面を考慮しながら、生活における「美しさ」について判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業内容の説明	授業の進め方と目的について解説する。	授業の目的と生活デザイン学科全体の学習内容の関係を考える。	180分
第2回	くらしの中のデザイン(1)	生活用品のデザインについて歴史的な観点で考える。	特定の生活用品を選び、現在と過去のデザインの違いを比べてみる。	180分
第3回	くらしの中のデザイン(2)	生活用品のデザインを、機能・美しさ・使いやすさ等の面から考える。	普段自分が使っている生活用品の使いやすさや美しさについて考える。	180分
第4回	日本のやきものについて(1)	日本のやきもの作りの技術的な変化について説明する。	日本の歴史の大まかな流れを理解しておくこと。	180分
第5回	日本のやきものについて(2)	中国の陶磁器と、その制作技術が、日本のやきもの作りに与えた影響について理解する。	中国のやきものが、日本のやきものへ与えた影響を、実際の陶磁器で探す。	180分

第6回	日本のやきものについて(3)	日本のやきものの作り方や材料と、そのデザイン・使いやすさとの関係について説明する。	自分の身の周りにおけるやきものが、陶器なのか磁器なのか、手にとって観察し考える。	180分
第7回	ヨーロッパの陶磁器について(1)	ヨーロッパのやきもの作りの技術的な変化の概略を説明する。	18世紀までの世界史の大まかな流れを理解しておくこと。	180分
第8回	ヨーロッパの陶磁器について(2)	ヨーロッパのやきもの作りが、中国とイスラム文化圏から受けた影響について理解する。	イスラム文化圏のやきものが、どのようなものなのか、資料を探して確かめてみる。	180分
第9回	ヨーロッパの陶磁器について(3)	ドイツのマイセンの磁器について解説し、ヨーロッパの磁器の歴史と、特徴について学ぶ。	現在のヨーロッパで、どのような磁器が作られているのか調べる。	180分
第10回	漆器(1)	漆の特徴と、漆器の素地となる材料について理解する。	自分の家にある漆器を探して観察すること。	180分
第11回	漆器(2)	木を素地とする漆塗りの椀の制作工程について学ぶ。	博物館、美術館、あるいはデパートや食器店に行って漆器を観察し、そのデザインや作り方について考える。	180分
第12回	漆器(3)	漆器の色や加飾方法について解説し、漆器の美しさを使いやすさの関係について考える。	陶磁器と漆器を、様々な点について比較してみる。	180分
第13回	民藝運動について(1)	民藝運動の歴史と考え方について説明する。	自分の生活の中にある「民藝品」を探してみる。	180分
第14回	民藝運動について(2)	民藝運動が現代の我々の生活に与えた影響を考える。	特定の生活用品を選び、その「価値」について考える。	180分
第15回	まとめ	14回の授業を振り返り、生活における「美しさ」について、機能との関係も含めて、もう一度考える。	レポートの作成	180分

学習計画注記 授業の進み具合や履修学生の状況を考慮し、授業内容を変更する可能性があります。

学生へのフィードバック方法 中間のレポートと、ミニレポートは後日採点して返却し、その時に解説をする。

評価方法

1. 授業終了時に、授業内容を整理するミニレポートを適宜課す。
2. ミニレポートは、授業内容をどの程度理解できているか、さらに、授業内容を自身の体験や生活と関連づけて考えているか、という視点で採点をし、出席状況とあわせて、平常点として評価する。
3. 学期の半ば頃と、学期末にレポートを出題する。
4. レポートは、それまでの授業内容を体系的に整理できているか否か、そして、生活と「美しさ」の関わりに関する問題を考察し、自身の考え方として整理されているか否か、という視点で採点する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○			
レポート	○	○		

評価割合 平常点40%、レポートが各30%、2つのレポートで60%の割合で評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】 各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
【思考・判断】 各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。

オフィスアワー 木曜日2時限 1503研究室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	生活デザイン演習D(石綱)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石綱 史子	指定なし

ナンバリング	D21206M12
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門分野の内容を体験的に学ぶために、各教員の授業の補完的または発展的な内容の授業や、学外学内のイベントへの参加、学外見学などのプログラムを実施する。内容は、プログラムを設定する教員によって異なり、複数のプログラムが設定される予定である。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	生活デザイン学科で学ぶために必要なことは何かを体験的に理解する。
思考・判断の観点 (K)	生活デザイン学科で主体的に学ぶための考え方を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	協同作業に積極的に参加し、他のメンバーと協調して作業を進めることできる。
技術・表現の観点 (A)	生活デザイン学科の専門分野の授業で必要とされる手法や表現方法を体験する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション	演習の内容と進め方について	演習内容と課題の確認	45分
第2回	一般的な文章①	課題1 一般的な文章を読み、要約する	課題の文献を読む	45分
第3回	一般的な文章②	課題1 一般的な文章を読み、要約する	課題の文献を読む	45分
第4回	一般的な文章③	課題1 一般的な文章を読み、要約する	課題の文献を読む	45分
第5回	文献の探し方	文献の種類と探し方について解説し、各自興味のある文献を探す。	文献の探し方を復習し、課題②の文献を決める	45分
第6回	文献を読む①	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第7回	文献を読む	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する	45分

	②		る準備をする	
第8回	文献を読む ③	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第9回	文献を読む ④	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第10回	文献を読む ⑤	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第11回	文献を読む ⑥	課題3 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第12回	文献を読む ⑦	課題3 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第13回	文献を読む ⑧	課題3 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第14回	文献を読む ⑨	課題3 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第15回	文献を読む ⑩	課題3 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する 演習全体のまとめ	本演習で学んだことをまとめ、 今後の学修に活用する	45分

学習計画注記 履修者数や演習の進み具合などにより、スケジュールや課題変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法 演習中に随時ディスカッションを行い、フィードバックする。各課題は採点し、コメントを付けて返却する。疑問・質問が生じた場合は、e-mailで連絡をするか、3609研究室を訪問すること。

評価方法 平常点：課題に取り組む意欲的な姿勢や理解度を総合的に評価する。
課題：読解力、要約力、文章構成力などを総合的に判断して評価する。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
課題	○	○	○	○

評価割合 平常点50%、課題50%で総合的に判断する。

使用教科書名 (ISBN番号) 適宜、資料を印刷・配付する。

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】各分野の知識と理解を深めること。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見すること。
【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持つこと。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけること。

オフィスアワー 月曜3限 3609研究室

学生へのメッセージ 初歩的な学術論文や科学雑誌などの文献を正しく読めるようになることを目的としています。この演習を通じ、文章の読解力、要約する力、文章構成力などの基礎力の向上を目指します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	生活デザイン演習D(河田)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2,3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田 敦子	指定なし

ナンバリング	D21206M12
授業概要(教育目的)	<p>本演習は、本学科教職課程が学生の実際のキャリア形成に結びつくことを目的としている。</p> <p>将来中学高等学校で家庭科の教員になることを目指す学生(2,3年次)を対象として、教員採用試験における筆記試験、小論文、面接試験、模擬授業に対する勉強方法、受験時のポイント等を元高等学校の校長先生で教育委員会でのご経験もある坂本紀典先生からご教示頂く。また、模擬授業も行う。</p>
履修条件	教員採用試験受験希望者
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	教員採用試験がどのような試験なのかについて、知識・理解を有している。
思考・判断の観点(K)	本演習を通して、教員となるための思考力・判断力を高めようとしている。
関心・意欲・態度の観点(V)	将来教員になりたいという意欲があり、教員採用試験に強い関心を持って取り組んでいる。
技術・表現の観点(A)	教員採用試験時の模擬授業や面接時に、自分の意図や考えを相手に伝えるように表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	教員採用試験について	教員採用試験が何月にどのような内容で実施されているのかを学ぶ。自分がどの地方公共団体の教員採用試験を受験するかを考える。	2,3年次の年頭では未だ教員採用試験に実感は持っていないと思われるので、インターネットを通じて自分が受けようとしている地方公共団体の採用試験について調べること。	90分
第2回	第1回教員採用試験模擬試験(教職教養)	教員採用試験の教職教養に関する過去問について模擬テストを実施する。	事前学習は不要であるが、受験後、わからなかったところは調べる努力をすること。	120分
第3回	志望動機の書き方	第1回教員採用試験模擬試験の答案が正解と共に返却され、解説を受ける。志望動機の書き方についても学ぶ。	志望動機は、時間内に書き終わられない場合は、授業後に書き終わっておくこと。	90分
第4回	「志望動	前回作成した「志望動機」を受講生の前で発表し、コメ	教員志望の意欲を受講生同士で	90分

	機」発表	ントし合う。他の学生の発表を聴きながら、良い点を学び合う。	高め合えるような関係を作ること。	
第5回	第2回教員採用試験模擬試験（専門）	専門教科（家庭科）に関する教員採用試験の模擬試験を実施する。自分が受験希望している地方公共団体の過去問が出る。	家庭科の教科書を良く読んでおくこと。わからなかったことは、受験後に調べておくこと。現在の模擬試験の点数は気にする必要は無い。ただ、どのような問題が出題されているのかを体験することが重要であるという意識を持つこと。	120分
第6回	模擬テスト答案返却	第2回の模擬テスト答案が正解と共に返却される。家庭科の教科書をもとに、間違っていたところを調べ学習する。	受験のための家庭科の教科書の読み方も研究すること。どの分野についても学習しておくこと。次週から模擬授業を行うので、事前準備をしておくこと。	90分
第7回	外部講師による指導教員採用試験のための模擬授業 学生1人45分（2名）	外部講師の坂本紀典先生の前で模擬授業を行い、指導を受ける。「何を教えたいのか」が伝わる授業、教壇に立つ時の言葉づかいや姿勢についても学ぶ。	事前の準備に真剣に取り組むこと。	120分
第8回	外部講師による指導教員採用試験のための模擬授業 学生1人45分（2名）	外部講師の坂本紀典先生の前で模擬授業を行い、指導を受ける。「何を教えたいのか」が伝わる授業、教材研究、授業の組み立てについて学ぶ。	事前準備に真剣に取り組むこと。	120分
第9回	外部講師による指導教員採用試験のための模擬授業 学生1人45分（2名）	外部講師の坂本紀典先生の前で模擬授業を行い、指導を受ける。「何を教えたいのか」が伝わる授業、教壇に立つ時の言葉づかいや姿勢についても学ぶ。	事前準備、事後反省に真剣に取り組むこと。	120分
第10回	模擬授業における自己の課題発見と今後の学習計画	模擬授業を通して発見した自分の課題を受講生同士で発表し合う。	他の学生の模擬授業も自分の今後の学習指導案作成に活かすように、きちんとファイルしておくこと。	90分
第11回	模擬面接	教員採用試験で実施される面接の練習を行う。	受講生同士で、模擬授業や面接の練習を行えるようになること。	90分
第12回	家庭科の先生のお話	中学高等学校で長く家庭科教員を勤められた先生をお招きしてお話を聴く。（4年次教職実践演習と共同開設を予定している。）	質問したい事等を考えておくこと。	90分
第13回	高校訪問・授業見学	授業見学させて頂ける高等学校を訪問し、家庭科その他の授業見学をする。本時に実施できない場合は振り替えとする。	教室外学習である。	180分
第14回	高校訪問・授業見学	授業見学をさせて頂ける高校の家庭科の授業を見学する。実際に授業見学することで、教員志望を確かなものとする。本時に実施できない場合は2回分の振り替えとする。	教室外であり、参観記録をきちんと取っておくこと。	90分
第15回	本演習の振り返り	本演習を振り返って、自分の弱点を見つけ、その部分の学習を行う。希望により、過去問の模擬試験を実施する。	教員志望を高め、教員採用試験合格ために学習を積み重ね、受講生同士で切磋琢磨する。	120分

学習計画注記 坂本先生が担当される回は、変更することがあります。

学生へのフィードバック方法 教員採用試験の模擬試験答案は、正解とともに返却します。

評価方法 教員採用試験受験への意欲
模擬授業への取り組み

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
教員採用試験受験への意欲	○		○	

	模擬授業への取り組み		○	○	○
評価割合	教員採用試験受験への意欲 (50%) 模擬授業への取り組み (50%)				
使用教科書名 (ISBN番号)	特になし				
参考図書	受験する地方公共団体の教員採用試験の過去問等、授業内に紹介する。				
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】「衣」「住」「コミュニケーション・情報」「地域・園芸・ビジネス」「家庭科教育」の各分野について、専門的知識・技術を有している。</p> <p>【技能・表現】家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。</p> <p>・社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている。</p>				
オフィスアワー	アポイントメントにより時間調整を行う。				
学生へのメッセージ	「真剣に教員になりたい」と思っている人は、本演習を受講してください。その気持ちを大切にしてください。				
教育等の取り組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	講師 坂本紀典先生は教員採用試験監督としての実務経験、高等学校教員、校長としての実務経験を持っています。			
アクティブ・ラーニング	○	模擬授業、面接、志望動機の発表等アクティブラーニングの要素が多く取りこまれています。			
情報リテラシー教育					
ICT活用	○	図書館ラーニングコモンズでの模擬授業も可能です。			

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	生活デザイン演習D(齋藤史)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 齋藤 史夫	指定なし

ナンバリング	D21206M12
授業概要(教育目的)	国分寺市立ひかり児童館他市内児童施設において、国分寺市・委託先民間団体・地域と協働し、子どもの楽しいプログラム・居場所づくりに取り組む。コミュニティデザインの実習でもある。
履修条件	特に無し

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	実施に子どもを対象とした児童福祉施設(児童館・学童保育)等の社会的役割にふさわしい活動と居場所作りに取り組もうという姿勢を持つ。
技術・表現の観点 (A)	子どもたちの生活を充実させる活動をプログラムし、施設・地域の方と対話して課題を共有しながら取り組むことができる。

学習計画

こどもにやさしいまちづくりの実践

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	こどもにやさしいまちづくり	ユニセフ提唱のこどもにやさしいまちづくりとは	こどもにやさしいまちづくりをネット調査する。	60分
第2回	国分寺市の児童施設	国分寺市の児童施設の概要	国分寺市の児童施設にはどのようなものがあるか調査する。	60分
第3回	国分寺市の児童施設見学(校外授業)	現場を訪問して見学する(アクティブ・ラーニング)	ネットで国分寺市の児童施設を調査する。	60分
第4回	国分寺市の児童施設見学(校外授業)	現場を訪問して見学する(アクティブ・ラーニング)	ネットで国分寺市の児童施設を調査する。	60分

第5回	国分寺市の児童施設見学（校外授業）	現場を訪問して見学する（アクティブラーニング）	ネットで国分寺市の児童施設を調査する。	60分
第6回	国分寺市の児童施設見学（校外授業）	現場を訪問して見学する（アクティブラーニング）	ネットで国分寺市の児童施設を調査する。	60分
第7回	見学の振り返り	国分寺市の児童施設の概要を、見学をもとにまとめる	見学の様子をまとめる	60分
第8回	児童施設における活動内容の構想	グループで児童施設での活動プログラムを構想する（アクティブラーニング）	子どもを対象としたプログラムを調査する。	60分
第9回	児童施設での活動プログラム準備	児童施設での活動を実施するための準備活動を行う。	グループ活動に必要な内容・品物の準備。	60分
第10回	国分寺市の児童施設においてプログラム実践	学生のグループで立案したプログラムを実践する。	プログラム実施の準備	60分
第11回	国分寺市の児童施設においてプログラム実践	学生のグループで立案したプログラムを実践する。	プログラム実施の準備	60分
第12回	国分寺市の児童施設においてプログラム実践	学生のグループで立案したプログラムを実践する。	プログラム実施の準備	60分
第13回	国分寺市の児童施設においてプログラム実践	学生のグループで立案したプログラムを実践する。	プログラム実施の準備	60分
第14回	プログラム実施の振り返り	国分寺市の児童施設にて実践したプログラムの振り返り	国分寺市の児童施設にて実践したプログラムの内容・気づきをまとめる	60分
第15回	こどもにやさしいまちづくりを再度考える	15回の授業を通してこどもにやさしいまちづくりの役割と可能性を考える。	15回の授業を振り返る	60分

学習計画注記 学生主体でグループを形成し、実際に国分寺市の児童施設（市立ひかり児童館他）に出かけ、子どもとともに楽しいプログラムを実施します。主体的、共同的に参加することを求めます。

学生へのフィードバック方法 プログラム実施・前後の授業において計画と振り返りの時間を設ける。

評価方法 プログラムへの共同的で積極的な参加と、実施したプログラムの内容によって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
プログラムへの共同的積極的参加			○	○
プログラムの実施内容			○	○

評価割合 プログラムへの共同的積極的参加（50%）
プログラムの実施内容（50%）

使用教科書名 (ISBN番号) 授業内で提示する

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】 【思考・判断】 子どもにとって必要な社会を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断し提案できる能力
【関心・意欲・態度】 社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって子どもたちのために働く能力
【技能・表現】 学修で得た専門的技術(技術)をもって課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することでこどもにやさしいまちを創り出す能力

オフィスアワー 火曜日3限1607研究室

学生へのメッセージ

子どもたちにとって大学生は、身近で憧れの存在です。子どもたちの中に積極的に飛び込み、施設・地域の方と協働して子どもにやさしいまちづくりに実践的に取り組みましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループで活動することを基本とする。
情報リテラシー教育	○	子どものための活動プログラムを図書・インターネットで調査する。
ICT活用	○	インターネット調査

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	生活デザイン演習D(佐々木)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 佐々木 麻紀子	指定なし

ナンバリング	D21206M12
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門分野の内容を体験的に学ぶために、各教員の授業の補完的または発展的な内容の授業や、学外学内のイベントへの参加、学外見学などのプログラムを実施する。内容は、プログラムを設定する教員によって異なり、複数のプログラムが設定される予定である。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	生活デザイン学科で学ぶために必要なことは何かを体験的に理解する。
思考・判断の観点 (K)	生活デザイン学科で主体的に学ぶための考え方を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	協同作業に積極的に参加し、他のメンバーと協調して作業を進めることできる。
技術・表現の観点 (A)	生活デザイン学科の専門分野の授業で必要とされる手法や表現方法を体験する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業の進め方、プログラム内容について理解する	プログラム内容についてガイダンスで配布した資料を読んでおくこと。	45分
第2回	天然染料染色の特徴	天然染料の特徴を学ぶ	天然染料の種類や特徴について調べておくこと	45分
第3回	天然染料染色の特徴2	天然染料の特徴を学ぶ	天然染料の種類や特徴について調べておくこと	45分
第4回	天然染料の染色1	サンプル制作を通じて、天然染料の特徴を知る	天然染料特徴について参考書等を読んでおくこと。	45分
第5回	天然染料の染色2	サンプル制作を通じて、天然染料の特徴を知る	天然染料特徴について参考書等を読んでおくこと。	45分
第6回	天然染料の染色3	サンプル制作を通じて、天然染料の特徴を知る	天然染料特徴について参考書等を読んでおくこと。	45分

第7回	天然染料の染色4	サンプル制作を通じて、天然染料の特徴を知る	天然染料特徴について参考書等を読んでおくこと。	45分
第8回	天然染料の染色5	サンプル制作を通じて、天然染料の特徴を知る	天然染料特徴について参考書等を読んでおくこと。	45分
第9回	天然染料の染色6	サンプル制作を通じて、天然染料の特徴を知る	天然染料特徴について参考書等を読んでおくこと。	45分
第10回	天然染料の染色7	サンプル制作を通じて、天然染料の特徴を知る	天然染料特徴について参考書等を読んでおくこと。	45分
第11回	染色堅牢度試験1	染色した試料の染色堅牢度を調べる	染色堅牢度試験方法について調べおくこと	45分
第12回	染色堅牢度試験2	染色した試料の染色堅牢度を調べる	染色堅牢度試験方法について調べおくこと	45分
第13回	染色堅牢度試験3	染色した試料の染色堅牢度を調べる	染色堅牢度試験結果をまとめておく	45分
第14回	染色堅牢度試験4	染色した試料の染色堅牢度を調べる	染色堅牢度試験結果をまとめておくこと	45分
第15回	講座のまとめ	講座について振り返り、討議した結果をレポートにまとめる。	レポートを作成する。	45分

学習計画注記 受講人数によってはスケジュールが変更になる場合があります。また、複数回の授業を、まとめて実施することがあります。

学生へのフィードバック方法 授業にて解説します。

評価方法 平常点80%、レポート20%で評価します。
平常点は授業への積極的な参加態度、授業内容の理解等を総合的に判断し評価します。
レポートは各A4用紙2枚程度に ①天然染料の種類と特徴②自身の取り組み方について記載してもらいます。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
レポート①	○			○
レポート②		○		○

評価割合 平常点80%、レポート各10%で評価します。

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書
・染色の技法/田中清香/理工学社/978-4844585855
・染色の基礎知識 増補改訂版合成染料の技法/高橋誠一郎/染色と生活社/978-4-975374-62-3

ディプロマポリシーとの関連
【知識・理解】各分野の知識と理解を深めること。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見すること。
【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持つこと。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけること。

オフィスアワー 月曜2時限 2406研究室

学生へのメッセージ 積極的な参加を期待します。

教育等の取り組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	身近な染料を用いて自身でサンプル制作をする。
情報リテラシー教育	○	課題に関する情報を収集・分析・整理する。
ICT活用	○	情報収集やレポート作成のために、PCや通信機器を活用する。

シラバス参照

講義名	生活デザイン演習D(富田1)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田 弘美	指定なし

ナンバリング	D21206M12
授業概要(教育目的)	(集中授業) パターンメイキング3級検定試験の課題「ブラウス」の身頃と袖、衿の応用バリエーションの製図(実物大)とテキストによる記述試験の対策を行う。さらに、製図からシーチングによる立体組み立ての知識と技術を習得して試験合格基準の力を身に付けることが目的である。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	社会の中にある諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点 (K)	社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会の中にある諸課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	社会の中の課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

生活デザイン演習D(富田1)

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	パターンメイキング3級検定試験対策講座	道具、テキスト、日程、要項内容を理解する。	パターンメイキング検定試験の要項を読んでおくこと。製図用紙を準備すること。	45分
第2回	パターンメイキング3級検定試験対策講座	衿の種類の製図1(スタンドカラー、台衿付きシャツカラー、フラットカラー、セーラーカラー、オープンカラーなど)を学ぶ。	衿の製図を練習し、製図用紙を準備すること。パターンメイキング検定試験の要項を読んでおくこと。受験を希望する学生は、検定試験の申込みをすること。	45分
第3回	パターンメイキング3級検定試験対策講座	衿の種類の製図2(スタンドカラー、台衿付きシャツカラー、フラットカラー、セーラーカラー、オープンカラーなど)を学ぶ。	衿の製図を練習し、製図用紙を準備すること。パターンメイキング検定試験の要項を読んでおくこと。受験を希望する学生	45分

			は、検定試験の申込みをすること。	
第4回	パターンメーキング3級検定試験対策講座	袖の種類の製図1（パフスリーブ2種）を学ぶ。	袖の製図を練習し、製図用紙を準備すること。受験を希望する学生は、検定試験の申込みをすること。	45分
第5回	パターンメーキング3級検定試験対策講座	袖の種類の製図2（パフスリーブ2種）を学ぶ。	袖の製図を練習すること。シーチングと製図用紙を準備（基準線、アイロンかけなど）すること。受験を希望する学生は、検定試験の申込みをすること。	45分
第6回	パターンメーキング3級検定試験対策講座	ブラウスAの製1、ファーストパターン、シーチング裁断、組み立てを学ぶ。	製図を練習し、ノートやプリントを見ないで時間内に書けるようにすること。	45分
第7回	パターンメーキング3級検定試験対策講座	ブラウスAの製図2、ファーストパターン、シーチング裁断、組み立てを学ぶ。	製図を練習し、ノートやプリントを見ないで時間内に書けるようにすること。	45分
第8回	パターンメーキング3級検定試験対策講座	ブラウスAの点検と修正3、身丈、衿の形、袖丈、ボタンの間隔、袖のいせこみ、袖・衿の付け方などを学ぶ。	修正をしておくこと。	45分
第9回	パターンメーキング3級検定試験対策講座	ブラウスBの製図1、ファーストパターン、シーチング裁断、組み立てを学ぶ。	製図を練習し、ノートやプリントを見ないで時間内に書けるようにすること。	45分
第10回	パターンメーキング3級検定試験対策講座	ブラウスBの製図2、ファーストパターン、シーチング裁断、組み立てを学ぶ。	製図を練習し、ノートやプリントを見ないで時間内に書けるようにすること。	45分
第11回	パターンメーキング3級検定試験対策講座	ブラウスBの点検と修正3、身丈、衿の形、袖丈、ボタンの間隔、袖のいせこみ、袖・衿の付け方などを学ぶ。	修正をしておくこと。	45分
第12回	パターンメーキング3級検定試験対策講座	記述問題のポイント、疑問点などを学ぶ。	問題・質問等を用意してくること。	45分
第13回	パターンメーキング3級検定試験対策講座	各自の不得手な箇所を学ぶ。	試験時間内に仕上がるように練習すること。	45分
第14回	パターンメーキング3級検定試験対策講座	各自の不得手な箇所を学ぶ。	試験時間内に仕上がるように練習すること。	45分
第15回	パターンメーキング3級検定試験対策講座	試験用のシーチング2組、製図用紙2組、道具等の準備について学ぶ。	シーチングや製図用紙は、皺にならないように持ち運びを工夫すること。	45分

学生へのフィードバック方法 製図、シーチング組み立てを点検してコメントする。

評価方法 平常点、作業の取り組み方

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
製図、組み立て	○	○	○	○

評価割合 平常点60%、練習作品40%

使用教科書名 (ISBN番号)	パターンメイキング技術検定試験3級ガイドブック 日本ファッション教育振興協会
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会の中にある諸課題についての知識を深める。【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】社会の中にある諸課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。【技術・表現】者ハイの中の課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。
オフィスアワー	木曜日 12:30~14:00
学生へのメッセージ	パターンメイキングの知識、技術を深めたい学生は、検定試験の受験に関係なく履修してください。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	生活デザイン演習D(花田1)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 花田 朋美	指定なし

ナンバリング	D21206M12
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門分野の内容を体験的に学ぶために、各教員の授業の補完的または発展的な内容の授業や、学外学内のイベントへの参加、学外見学などのプログラムを実施する。内容は、プログラムを設定する教員によって異なり、複数のプログラムが設定される予定である。
履修条件	ウィービングデザイン演習Aを履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	生活デザイン学科で学ぶために必要なことは何かを体験的に理解する。
思考・判断の観点 (K)	生活デザイン学科で主体的に学ぶための考え方を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	協同作業に積極的に参加し、他のメンバーと協調して作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	生活デザイン学科の専門分野の授業で必要とされる手法や表現方法を体験する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	この授業は、ウィービングデザイン演習Aを補完するものであることを理解する。織物の三原組織(平織、斜文織、朱子織)について、更に織物の並置加法混色について理解する。	【復】織組織、並置加法混色の理論を踏まえ、基本的な平織、斜文織、朱子織の織物製作の配色を考える。	45分
第2回	織物の製作工程を理解する - 織機の構造 -	織機の構造を理解し、織物を製作するための糸の準備(整経作業)を行う。	【復】平織、斜文織、朱子織の織物製作の整経作業を終わらせる。	45分
第3回	織物の製作工程を理解する - 織機のセッティング -	基礎的な織物を製作するために糸を織機にセットする手順を理解し、箆通し、綜統通しを行い、織機に糸をセットする。	【復】平織、斜文織の織物製作のための糸のセッティング作業を終わらせる。	45分
第4回	織物の製作工程を理解	平織、斜文織を製織する。	【復】平織、斜文織の織物を完成させる。	45分

	する -基礎的な織物製作-			
第5回	織物の製作工程を理解する -組織図の作成-	織りあげた平織と斜文織の組織図を作成する。	【復】組織図を完成させる。	45分
第6回	織物の製作工程を理解する -朱子織のセッティング-	朱子織のための綜統通しを理解し、織機に糸をセッティングする。	【復】朱子織の織物製作のための糸のセッティング作業を終わらせる。	45分
第7回	織物の製作工程を理解する -朱子織の織物製作-	朱子織を製織する。	【復】朱子織の織物を完成させる。	45分
第8回	織物の製作工程を理解する -房の始末、縮絨-	房の始末、縮絨をして、布の仕上げを行う。	【復】アイロンがけや房を始末し、平織、斜文織、朱子織の基礎織物サンプルを仕上げる。	45分
第9回	織物製造施設の見学	八王子近郊の織物施設の見学（教室外での見学学習）	【予】八王子のテキスタイル産業の歴史、現状について調べておく。	135分
第10回	織物製造施設の見学	八王子近郊の織物施設の見学（教室外での見学学習）	【復】機械で織られる織物の製織工程と技術について整理してまとめる。	135分
第11回	織物施設見学の振り返り	グループに分かれ、織物製造施設を見学した振り返りを行う。	【復】織物製造施設の見学を振り返り、見学レポートを作成する。	45分
第12回	織物施設見学の振り返り	八王子のテキスタイル産業の歴史と現状について考察し、地場産業と地域振興の関係性について、ディスカッションし、整理して発表する。	【復】織物製造施設の見学を振り返り、見学レポートを完成させる。	90分
第13回	応用作品の制作	応用作品の製織を進める。	【復】製織作業を進める。	30分
第14回	応用作品の制作	応用作品の製織を進める。	【復】製織作業を進める。	30分
第15回	応用作品の制作	応用作品の仕上げを行う。	【復】製織したテキスタイルを使用した応用作品を制作する。	30分

学習計画注記 複数回の授業を、まとめて実施することがあります。また状況により、計画が変更される可能性もあります。

学生へのフィードバック方法 毎回の授業におけるアドバイス、及びディスカッション。見学レポートへのコメント。

評価方法 ①見学レポートの提出（実験内容の理解、構成、丁寧さ、意欲 の程度を評価）
②平常点（内容の理解、行動力、調整力、意欲、態度 の程度を評価）

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
見学レポート	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合 レポート80% 平常点20% を総合的に評価

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】各分野の知識と理解を深めること。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見すること。
【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持つこと。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけること。

オフィスアワー	水曜日 4 限後半～5 限前半 2407 被服材料学研究室	
学生へのメッセージ	学外の施設を見学することは、製織技術についての理解が深まる貴重な機会です。積極的に参加してほしいと思います。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学生の能動的な作業の実施
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	生活デザイン演習D(花田2)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 花田 朋美	指定なし

ナンバリング	D21206M12
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門分野の内容を体験的に学ぶために、各教員の授業の補完的または発展的な内容の授業や、学外学内のイベントへの参加、学外見学などのプログラムを実施する。内容は、プログラムを設定する教員によって異なり、複数のプログラムが設定される予定である。
履修条件	プリンティングデザイン演習を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	生活デザイン学科で学ぶために必要なことは何かを体験的に理解する。
思考・判断の観点 (K)	生活デザイン学科で主体的に学ぶための考え方を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	協同作業に積極的に参加し、他のメンバーと協調して作業を進めることできる。
技術・表現の観点 (A)	生活デザイン学科の専門分野の授業で必要とされる手法や表現方法を体験する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	この授業は、プリンティングデザイン演習を補完するものであることを理解する。捺染とはどのようなものかを理解する。	【復】捺染の技法について調べる。	30分
第2回	型染めの工程を理解するーデザインの考案(1)ー	シルクスクリーンプリントのルーツとなる型染めについて理解し、デザインを考案する。	【復】型染めのデザインを考案する。	45分
第3回	型染めの工程を理解するーデザインの考案(2)ー	シルクスクリーンプリントのルーツとなる型染めについて理解し、デザインを考案する。	【復】型染めのデザイン案を決定する。	45分
第4回	型染めの工程を理解す	考案したデザインの型彫りを進める。	【復】型彫りを進める。	45分

	る一型彫り (1)ー			
第5回	型染めの工程を理解する一型彫り (2)ー	考案したデザインの型彫りを進める。	【復】型彫りを完了させる。	45分
第6回	型染めの工程を理解する一染色ー	糊置きした生地を染色する。	【復】染色を完了させる。	45分
第7回	シルクスクリーンプリントの工程を理解する一色彩計画ー	色彩計画の方法を理解し、画像から色を抽出してストライプを構成する。	【復】ストライプの色彩計画を完了する。	45分
第8回	シルクスクリーンプリントの工程を理解する一パターン計画(1)ー	パターンデザインの抽出と抽象化する方法を理解し、デザインを考案する。	【復】シルクスクリーンプリントのデザインを考案する。	45分
第9回	シルクスクリーンプリントの工程を理解する一パターン計画(2)ー	パターンデザインの抽出と抽象化する方法を理解し、デザインを考案する。	【復】シルクスクリーンプリントのデザイン案を決定する。	30分
第10回	シルクスクリーンプリントの工程を理解する一リピート計画(1)ー	シルクスクリーンプリントのリピートを理解し、リピート計画を立てる。	【復】シルクスクリーンプリントのリピートを考える。	45分
第11回	シルクスクリーンプリントの工程を理解する一リピート計画(2)ー	シルクスクリーンプリントのリピートを理解し、リピート計画を立てる。	【復】シルクスクリーンプリントのリピートを完了する。	30分
第12回	捺染施設の見学	八王子近郊の捺染施設の見学(教室外での見学学習)	【予】八王子のテキスタイル産業の歴史、現状について調べておく。	135分
第13回	捺染施設の見学	八王子近郊の捺染施設の見学(教室外での見学学習)	【復】捺染の方法について整理してまとめる。	135分
第14回	捺染施設見学の振り返り	グループに分かれ、捺染施設見学を振り返りを行う。	【復】捺染施設見学を振り返り、見学レポートを作成する。	45分
第15回	捺染施設見学の振り返り	八王子のテキスタイル産業の歴史と現状について考察し、地場産業と地域振興の関係性について、ディスカッションし、整理して発表する。	【復】捺染施設見学を振り返り、見学レポートを完成させる。	90分

学習計画注記

複数回の授業を、まとめて実施することがあります。また状況により、計画が変更される可能性もあります。

学生へのフィードバック方法

毎回の授業におけるアドバイス、及びディスカッション。見学レポートへのコメント。

評価方法

- ①見学レポートの提出(実験内容の理解、構成、丁寧さ、意欲の程度を評価)
- ②平常点(内容の理解、行動力、調整力、意欲、態度の程度を評価)

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
見学レポート	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合	レポート80% 平常点20% を総合的に評価	
使用教科書名 (ISBN番号)	なし	
参考図書	なし	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 各分野の知識と理解を深めること。 【思考・判断】 社会の中にある諸課題を自ら発見すること。 【関心・意欲・態度】 社会の中の問題に積極的に関心を持つこと。 【技能・表現】 課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけること。	
オフィスアワー	水曜日 4限後半～5限前半 2407被服材料学研究室	
学生へのメッセージ	学外の施設を見学することは、捺染技術についての理解が深まる貴重な機会です。積極的に参加してほしいと思います。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学生の能動的な作業の実施
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	生活デザイン演習D(富田2)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田 弘美	指定なし

ナンバリング	D21206M12
授業概要(教育目的)	(集中授業) ユニコムプラザ(相模大野)の展示スペースに、何をどのように展示するか年間の企画をし、住の模型・舞台衣装・デジタルデザイン・その他(研究・調査等のパネル)など、学生の作品を色彩・照明・配置・演出をデザインして効果的な空間ディスプレイを考える。(搬出入は大学の車両を使用。)

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	社会の中にある諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点 (K)	社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会の中にある諸課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

生活デザイン演習D(富田2)

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ユニコムプラザの空間ディスプレイの企画・運営	展示・作業日程の確認、展示内容・場所について理解する。	空間ディスプレイとして展示希望作品を考えてくること。	45分
第2回	ユニコムプラザの空間ディスプレイの企画・運営	展示年間計画を確認し、コンセプト、展示作品・内容について学ぶ。既存の作品で展示を考える。	空間ディスプレイの年間計画・展示内容の案を考える。	45分
第3回	ユニコムプラザの空間ディスプレイの企画・運営	作品の入換え、既存作品の展示、展示スペースの採寸と見学により会場の状況を把握する。	展示スペースの写真等を整理する。	45分

第4回	ユニコムプラザの空間ディスプレイの企画・運営	作品展示後の写真や説明を整理してホームページに掲載することを学ぶ。	展示物の整理、片付けをする。	45分
第5回	ユニコムプラザの空間ディスプレイの企画・運営	ディスプレイの基礎1について学ぶ。	空間ディスプレイのプリント1を読んでおくこと。	45分
第6回	ユニコムプラザの空間ディスプレイの企画・運営	ディスプレイの基礎2について学ぶ。	ノートの整理、展示空間のディスプレイを考える。	45分
第7回	ユニコムプラザの空間ディスプレイの企画・運営	年間の展示内容を決め、大学名、学科名の看板づくり1、デザイン、材料の検討する。	看板の作業の続きを行う。	45分
第8回	ユニコムプラザの空間ディスプレイの企画・運営	年間の展示内容を決め、大学名、学科名の看板づくり2を検討する。	看板等を完成させる。	45分
第9回	ユニコムプラザの空間ディスプレイの企画・運営	大学名、学科名の看板づくり3を検討する。	大学名等のパネルを完成させる。	45分
第10回	ユニコムプラザの空間ディスプレイの企画・運営	展示作品のパネルづくり1、デザイン、材料の検討する。	展示作品のパネルづくりの続き作業を行う。	45分
第11回	ユニコムプラザの空間ディスプレイの企画・運営	展示作品のパネルづくり2を検討する。	空間ディスプレイー展示用のパネル作業の続きを行う。	45分
第12回	ユニコムプラザの空間ディスプレイの企画・運営	展示用のパネルづくり3の検討と完成させる。	ディスプレイ空間を演出する小道具を考える。	45分
第13回	ユニコムプラザの空間ディスプレイの企画・運営	後期、作品展示の演出小道具のデザイン、コンセプトを検討する。	スペース、コンセプト、デザインを考える。	45分
第14回	ユニコムプラザの空間ディスプレイの企画・運営	第2回作品の入換え準備、作品展示、大学名の看板、パネル等を準備する。	作品の整理、搬出準備をする。	45分
第15回	ユニコムプラザの空間ディスプレイの企画・運営	第2回作品の入換え、既存の作品を展示する。看板を設置する。	作品の整理、片付け。	45分

学生へのフィードバック方法 空間ディスプレイの計画書に対するコメント、展示会場での講評

評価方法 空間ディスプレイ、平常点

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	

空間ディスプレイ	○	○	○	○
評価割合	企画書30%、空間ディスプレイ30%、平常点40%			
使用教科書名 (ISBN番号)	適宜プリント配付			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会の中にある諸課題についての知識を深める。【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】社会の中にある諸課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。【技術・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。			
オフィスアワー	木曜日 12:30~14:00			
学生へのメッセージ	各自が授業で制作したものや友達と共同で制作したものなど、身近な作品を中心に効果的な空間ディスプレイを考えてください。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング	○	空間ディスプレイ・オペラ・ショーまたは展示——学生の能動的な参加によって外部の会場で活動し、グループで協力し、展示、発表する。		
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	生活デザイン演習D(富田3)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田 弘美	指定なし

ナンバリング	D21206M12
授業概要(教育目的)	(集中授業) オペラ衣装の制作ではデザイン・プレゼンテーション・仮縫い・フィッティング・本縫いを行い、公演ではゲネプロ・本番に参加して衣装を管理する。これらの過程から基礎的な知識と技術を習得し、スタッフと協力して総合的芸術を創作する力を身に付けることが目的である。(会場は南大沢文化会館の予定である。)

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	社会の中にある諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点 (K)	社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会の中にある諸課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

生活デザイン演習D(富田3)

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オペラ衣装のデザイン・制作・管理	DVDやオペラ公演を観てあらすじ、時代背景、役柄などを把握する。	DVD等の衣装をスケッチし、デザインを参考にしてイメージを膨らませること。	45分
第2回	オペラ衣装のデザイン・制作・管理	衣装および頭飾りや小道具などのデザインをし、デザイン画を描き、色彩、素材を考える。	デザイン画の下描きをすること。	45分
第3回	オペラ衣装のデザイン・制作・管理	デザイン画に彩色して仕上げる。デザイン画を仕上げる。	デザイン画を仕上げる。	45分

第4回	オペラ衣装のデザイン・制作・管理	素材とデザイン画を用意して演出家、脚本家などにプレゼンテーションを行う。(デザインが決定する。)	プレゼンテーションのパワーポイントや資料を作成する。	45分
第5回	オペラ衣装のデザイン・制作・管理	生地標本から材料を決定して調達する。製図を書く。	製図を完了させる。	45分
第6回	オペラ衣装のデザイン・制作・管理	製図(点検)、型紙づくり、裁断をする。	印つけまで完了させる。	45分
第7回	オペラ衣装のデザイン・制作・管理	仮縫いの方法を理解し、縫いまとめる。	仮縫いまとめを完了させる。	45分
第8回	オペラ衣装のデザイン・制作・管理	フォッティングを行い、補正、変更等を入れる。表面装飾の材料を調達する。	製図、型紙を修正し、本縫いの準備をする。	45分
第9回	オペラ衣装のデザイン・制作・管理	衣装および頭飾りの本縫い1を行い、小道具を制作する。	続きの本縫い1等を行う。	45分
第10回	オペラ衣装のデザイン・制作・管理	衣装および頭飾りの本縫い2を行い、小道具を制作する。	続きの本縫い2等を行う。	45分
第11回	オペラ衣装のデザイン・制作・管理	衣装および頭飾りの本縫い3を行い、小道具を制作する。	続きの本縫い3等を行う。	45分
第12回	オペラ衣装のデザイン・制作・管理	衣装および頭飾りの本縫い4を行い、小道具を制作する。	続きの本縫い4等を行う。	45分
第13回	オペラ衣装のデザイン・制作・管理	衣装および頭飾りの本縫い5行って仕上げる。小道具を仕上げる。昨年のオペラ衣装(展示)とボディ、パネルを用意し、大学からの搬出準備をする。	搬出準備を完了させる。	45分
第14回	オペラ衣装のデザイン・制作・管理	会場に衣装を搬入する。ゲネプロ、衣装管理、ロビーに衣を展示する。舞台上で確認して衣装の裾合わせと裾上げをする。頭飾りのとヘアスタイルの打合せを行う。	裾上げを完了させる。	45分
第15回	オペラ衣装のデザイン・制作・管理	公演当日は、衣装着替えの補助、衣装管理(汚れ除去、アイロンかけなど)、衣装と展示の片付け、会場から搬出する。	大学にて衣装や小道具等の片付けをする。	45分

学生へのフィードバック方法 プレゼンテーション、衣装作品に対するコメント

評価方法 平常点、プレゼンテーション、衣装作品

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
オペラ衣装	○	○	○	○

評価割合	平常点40%、衣装作品60%	
使用教科書名 (ISBN番号)	なし	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会の中にある諸課題についての知識を深める。【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】社会の中にある諸課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。【技術・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。	
オフィスアワー	木曜日 12:30~14:00	
学生へのメッセージ	舞台衣装の制作は、日常着用しないスタイルや材料を使用する衣服です。今まで衣服を作ったことのない方、もっと技術を磨きたい方、ステージ裏の作業を経験したい方など興味のある方は参加してください。衣服制作が初めての方は、グループで取り組んで部分的な箇所を担当していただき、また、頭飾りなどを担当していただきますのでご心配なさらないでください。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学生の能動的な参加である。演出家、脚本家、ソリストなどと打ち合わせ、外部の会場にて開催するに当たり、発見やトラブルが生じることがあり、これらから問題解決能力や社会的能力の成長を目指している。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	高分子材料学実験		
講義開講時期	後期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限後半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 花田 朋美	指定なし

ナンバリング	D22105M13
授業概要(教育目的)	テキスタイル材料学、衣繊維学の講義で習得した知識を、自分の手で実験し観察することは習得した事柄の理解をより深めると共に、実生活における有効な応用を可能にする手段となる。糸・布の構造観察と表示、及び機械的性質、快適性に関する性質、実用性能などに関する実験を行い、高分子の構造を背景とした繊維、繊維から糸、布にいたる繊維集合体としての性質、及びその相関を考察する力を育成する。
履修条件	繊維学実験を履修していることが望ましい。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	繊維集合体としての被服材料の性質を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	繊維の性質を評価する方法を理解し、分析できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	繊維製品の課題について、積極的に関心を有している。
技術・表現の観点 (A)	繊維製品の課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	実験プログラムの説明	繊維学実験で行う実験内容、試料等について概要を説明する。 レポートの書き方や情報探索の方法についても解説する。	実験書(p.1~16)読み、実験に対する心構えや諸注意、器具の取り扱い方、レポート書き方等を理解する。	45分
第2回	糸の観察(1)	グループに分かれ、糸の長さ重量計測から糸の太さを算出する。恒長式番手・恒重式番手による糸の表示が理解できる。	実験書の「糸の観察」(p.高17~高23)を読んでおくこと。	45分
第3回	糸の観察(2)	グループに分かれ、検撚機を用いて、糸の合系数、より方向、より数の測定等を観察し、糸の構造を理解する。	糸の観察の実験レポートを作成する。	45分
第4回	織物の構造(1)	グループに分かれ、織物の厚さと重量を計測し、目付、見掛け比重、含気率、カバーファクターを算出する。	実験書の「織物の構造」(p.高24~高33)を読んでおくこと。	45分
第5回	織物の構造(2)	グループに分かれ、三原組織試料布を用いて、組織図の表示、織密度、織縮率を算出し、織物の基本構造について理解する。	織物の構造の実験レポートを作成する。	45分

第6回	引張強度試験	グループに分かれ、各種繊維の切断時の強さと伸び率を測定し、織物の伸長特性を理解する。乾湿強度についても検討する。	実験書の「引張強度試験」(p.高34～高38)を読んでおくこと。引張強度試験の実験レポートを作成する。	45分
第7回	東京農工大学科学博物館見学	博物館所蔵の繊維製造機や繊維・糸・布に関する展示を見学することにより、近代から現代日本の繊維産業について理解を深める。	見学レポートを作成する。	45分
第8回	吸湿・吸水性試験(1)	グループに分かれ、各種繊維を湿度の異なる環境下で処理した各種繊維の等温吸湿曲線を作成し、繊維の吸湿性について理解する。	実験書の「吸湿性試験」(p.高39～高46)を読んでおくこと。吸湿性試験の実験レポートを作成する。	45分
第9回	吸湿・吸水性試験(2)	グループに分かれ、バイレック法により各種繊維の吸水性を観測する。	実験書の「吸水性試験」(p.高47～高48)を読んでおくこと。吸水性試験の実験レポートを作成する。	45分
第10回	摩擦・摩擦試験	グループに分かれ、各種繊維の平面摩擦試験と屈曲摩擦試験を行い繊維の摩擦特性について理解する。更に、傾斜板法により、静摩擦係数を測定し、織物の摩擦特性について理解する。	実験書の「摩擦試験」(p.高49～高52)を読んでおくこと。摩擦試験、摩擦試験の実験レポートを作成する。	45分
第11回	ドレープ性試験(1)	グループに分かれ、簡便法により各種繊維のドレープ係数を測定し、織物のドレープ性について考察する。	実験書の「ドレープ性試験」(p.高53～高56)を読んでおくこと。	45分
第12回	ドレープ性試験(2)	グループに分かれ、新合織を試料として簡便法によりドレープ係数を測定し、繊維径によるドレープ性の相違を検討する。	ドレープ性試験の実験レポートを作成する。	45分
第13回	保温性試験	グループに分かれ、冷却法により保温性試験を行い、繊維の保温性について考察する。	実験書の「保温性試験」(p.高57～高61)を読んでおくこと。保温性試験の実験レポートを作成する。	45分
第14回	防しわ性試験	グループに分かれ、針金法により防しわ性試験を行い、繊維の防しわ性について考察する。	実験書の「防しわ性試験」(p.高62～高63)を読んでおくこと。防しわ性試験の実験レポートを作成する。	45分
第15回	総合的考察	全体の実験結果を整理し、布帛は、繊維、糸、布の各々の性質と構造が複合的に相関した繊維集合体であることを総合的に理解する。	繊維、糸、布の構造や性質が、身近な衣服にどのように影響しているのか考察する。	45分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	毎回の授業におけるアドバイス、及びディスカッション。 実験レポートへのコメント。				
評価方法	①実験レポートの提出(実験内容の理解、構成、丁寧さ、意欲)の程度を評価) ②平常点(実験内容の理解、行動力、調整力、意欲、態度)の程度を評価)				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解(K)	思考・判断(K)	関心・意欲・態度(V)	技術・表現(A)
	実験レポート	○	○	○	○
	平常点	○	○	○	○
評価割合	レポート60% 平常点40% を総合的に評価				
使用教科書名(ISBN番号)	高分子材料学実験実験書				
参考図書	①新稿被服材料学—概説と実験—(ISBN978-4-332-10047-8 中島利誠編著 光生館発行 2010年) ②被服材料実験書 (ISBN4-8103-1104-X 石川欣造編 同文書院発行 平成10年第三版14刷) ③衣服材料学実験 (ISBN978-4-254-60634-8 松梨久仁子 平井郁子編著 朝倉書店発行 2018年)				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】衣生活デザイン分野に関する専門的知識、技術を有している。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し、考察することができる。各種の多様な情報を客観的に理解し、判断できる。 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持つことができる。 【技能・表現】衣生活デザイン分野の学びを深め課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。				

オフィスアワー	金曜日 11時～12時30分 2407被服材料学研究室	
学生へのメッセージ	実際に実験を経験することで、講義で習得した知識をより深めることができますと思います。主体的に参加してほしいと思います。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	毎回グループワークによる実験を実施する。
情報リテラシー教育	○	実験テーマ毎のレポート提出を課題とする。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	繊維学実験		
講義開講時期	後期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 花田 朋美	指定なし

ナンバリング	D22104M13
授業概要(教育目的)	被服材料の構造と性質を考察するためには、被服を構成している基本物質である繊維、及び高分子についての理解が必要である。各種繊維の顕微鏡観察、繊維の燃焼性、呈色性、耐薬品性、繊維の製造実験等の繊維に関する化学的・物理的性質について実験し、繊維を鑑別する知識と技術を習得すると共に、繊維、及び高分子について深く理解させる。
履修条件	高分子材料学実験を履修していることが望ましい。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	被服材料として取り扱われている繊維の化学的・物理的性質を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	繊維の性質を評価する方法を理解し、分析できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	繊維製品の課題について、積極的に関心を有している。
技術・表現の観点 (A)	繊維製品の課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	実験プログラムの説明	繊維学実験で行う実験内容、試料等について概要を説明する。 レポートの書き方や情報探索の方法についても解説する。	実験書(p.1~16)読み、実験に対する心構えや諸注意、器具の取り扱い方、レポート書き方等を理解する。	45分
第2回	顕微鏡の取り扱いと繊維の観察(1)	グループに分かれ、光学顕微鏡の取り扱いとマイクロメータの使い方を理解する。	実験書の「顕微鏡による繊維の観察」(p.17~20)を読んでおくこと。	45分
第3回	顕微鏡による繊維の観察(2)	グループに分かれ、光学顕微鏡により、既知繊維の側面・断面を観察し、各種繊維の形態的特徴を理解する。	顕微鏡による繊維の観察の実験レポートを作成する。	45分
第4回	繊維の燃焼性試験(1)	グループに分かれ、既知繊維繊維の燃え方、煙の状態、臭い、灰の様子について観察し、繊維の燃焼性について考察する。	実験書の「繊維の燃焼性試験」(p.21~26)を読んでおくこと。	45分

第5回	繊維の燃焼性試験(2)	グループに分かれ、パイルシュタイン法により既知繊維中の塩素を検出する。	繊維の燃焼性試験の実験レポートを作成する。	45分
第6回	着色による繊維の鑑別(1)－鑑別用試薬－	グループに分かれ、鑑別用試薬を用いて、既知繊維の呈色反応試験を行う。	実験書の「繊維の燃焼性試験」(p.27～32)を読んでおくこと。	45分
第7回	着色による繊維の鑑別(2)－混合インク－	グループに分かれ、混合インクを用いて、既知繊維の呈色反応試験を行う。	着色による繊維の鑑別の実験レポートを作成する。	45分
第8回	シルク博物館見学	博物館所蔵の蚕やシルク繊維・糸・布に関する展示を見学することにより、近代から現代日本の繊維産業について理解を深める。	見学レポートを作成する。	45分
第9回	耐薬品性試験(1)	グループに分かれ、繊維の薬品による溶解性について、安全に実験を行い、正しく、理解する。	実験書の「耐薬品性試験」(p.33～38)を読んでおくこと。	45分
第10回	耐薬品性試験(2)	グループに分かれ、繊維の薬品による溶解性について、安全に実験を行い、正しく、理解する。	耐薬品性試験の実験レポートを作成する。	45分
第11回	ビニロン糸の紡糸－湿式紡糸法－	グループに分かれ、ポリビニルアルコールを繊維化し、凝固浴中に押し出してビニロン糸を製作する。ビニロン糸の製作を通して湿式紡糸の原理を理解する。	実験書の「耐薬品性試験」(p.39～40)を読んでおくこと。	45分
第12回	ビニロン糸の紡糸－アセタール化－	グループに分かれ、紡糸したビニロン糸にアセタール化処理を行い、実用性について検討する。	ビニロン糸の紡糸の実験レポートを作成する。	45分
第13回	未知試料の鑑別(1)－天然繊維－	繊維学実験で行った実験方法を活かして、未知試料の鑑別試験を行う。参考にできるのは、各自のレポートのみとする。	事前に実験書の「繊維鑑別のための各種繊維の性質表」(p.41～44)を確認しておくこと。	45分
第14回	未知試料の鑑別(2)－化学繊維－	繊維学実験で行った実験方法を活かして、未知試料の鑑別試験を行う。参考にできるのは、各自のレポートのみとする。	鑑別試験の結果を振り返り回答を導き出した思考プロセスを確認する。	45分
第15回	総合的考察	全体の実験結果を振り返り、繊維の形態的特徴や化学的性質を整理し理解する。	繊維の形態的特徴や化学的特徴を決定する要因について考察する。	45分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 毎回の授業におけるアドバイス、及びディスカッション。実験レポートへのコメント。

評価方法 ①実験レポートの提出(実験内容の理解、構成、丁寧さ、意欲の程度を評価)
②平常点(実験内容の理解、行動力、調整力、意欲、態度の程度を評価)

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解(K)	思考・判断(K)	関心・意欲・態度(V)	技術・表現(A)
実験レポート	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合 レポート60% 平常点40% を総合的に評価

使用教科書名(ISBN番号) 繊維学実験実験書

参考図書 ①新稿被服材料学－概説と実験－(ISBN978-4-332-10047-8 中島利誠編著 光生館発行 2010年)
②被服材料実験書 (ISBN4-8103-1104-X 石川欣造編 同文書院発行 平成10年第三版14刷)
③衣服材料学実験 (ISBN978-4-254-60634-8 松梨久仁子 平井郁子編著 朝倉書店発行 2018年)

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】衣生活デザイン分野に関する専門的知識、技術を有している。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し、考察することができる。各種の多様な情報を客観的に理解し、判断できる。
【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持つことができる。
【技能・表現】衣生活デザイン分野の学びを深め課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

オフィスアワー	金曜日 11時～12時30分 2407被服材料学研究室	
学生へのメッセージ	実際に実験を経験することで、講義で習得した知識をより深めることができます。主体的に参加してほしいと思います。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	毎回グループワークによる実験を実施する。
情報リテラシー教育	○	実験テーマ毎のレポート提出を課題とする。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	アパレルデザイン論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田 弘美	指定なし

ナンバリング	D12204M21
授業概要(教育目的)	アパレル製品の企画・設計には、アパレルデザインに関する基礎的な知識が必要である。商品企画とファッションビジネスの状況、ファッションの変遷と時代背景などを理解し、衣服デザインの基礎としてデザイン構成要素やフォーム、色彩、テキスタイル、デザインとコストなどを学び、デザイン感覚や基礎知識を身につけることが目的である。アパレル企業に勤務経験のある講師に特別講義を依頼している。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	衣生活に関する諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点 (K)	衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	衣生活に関する課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

アパレルデザイン論

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	商品企画とアパレルデザイン 1	アパレル製品の台頭、衣服のファッション化、ファッションとアパレルデザイン、商品企画について学ぶ。	教科書「商品企画とアパレルデザイン」(2~9)を読んでおくこと。	180分
第2回	特別授業(商品企画とアパレルデザイン 2)	ファッションビジネスについて具体的に学ぶ。アパレル企業で実務経験のある講師の授業である。	教科書「ファッションビジネスとは」(10~19)を読んでおくこと。	180分
第3回	ファッションの変遷とその背景 1	近代から1940年代までの服飾について学ぶ。	教科書「服装の変遷」(22~25)を読んでおくこと。	180分

第4回	ファッションの変遷とその背景2	現代（20世紀後半）の服飾について学ぶ。	教科書「現代の服飾」（25～30）を読んでおくこと。	180分
第5回	衣服デザインの基礎1	デザイン構成の基礎として、形態の分析、装飾形式の原理を学ぶ。 デザイン画による表現を学ぶ。	教科書「衣服デザインの基礎」（32～40）を読んでおくこと。	180分
第6回	衣服デザインの基礎2	衣服の美の表現、立体造形に求められる機能について学ぶ。 デザイン画による表現を学ぶ。	教科書「衣服デザインの基礎」（40～44）を読んでおくこと。	180分
第7回	フォーム1	フォームのディテールとバリエーションを学ぶ。	教科書「フォーム」（46～63）を読んでおくこと。	180分
第8回	フォーム2	イメージによる形態の表現、服種とデザインポイントについて学ぶ。	教科書「フォーム」（64～72）を読んでおくこと。	180分
第9回	カラー1	マンセル表色系、色名、色の見え方と見えやすさ、カラーイメージについて学ぶ。	教科書「カラー・オーダー・システム」（78～86）を読んでおくこと。	180分
第10回	カラー2	色彩好悪、配色調和、色と個人、社会と色彩について学ぶ。	教科書「色彩好悪」（86～92）を読んでおくこと。	180分
第11回	テキスタイル1	テキスタイルの外観効果について、実際に生地標本を作成して視覚的に確認しながら学ぶ。	教科書「テキスタイル」（95～102）を読んでおくこと。	180分
第12回	テキスタイル2	テキスタイルの表現効果について、実際に生地標本を作成して手触りで確認しながら学ぶ。	教科書「テキスタイル」（103～110）を読んでおくこと。	180分
第13回	テキスタイル3	テキスタイルのイメージとデザインについて学ぶ。	教科書「テキスタイル」（111～115）を読んでおくこと。 課題をレポートにまとめる。	180分
第14回	着装とデザイン	身体とデザイン、個性とデザインについて学ぶ。	課題をレポートにまとめる。	180分
第15回	コストとデザイン	商品のコスト、商品のグレード、デザインおよびパターンメイキングのとコストについて理解する。	課題をレポートにまとめる。	180分

学生へのフィードバック方法	レポートに対するコメント
評価方法	平常点、レポート、提出物

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
レポート	○	○	○	○
提出物	○			○

評価割合	平常点30%、レポート50%、提出物20%
------	-----------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	『改訂 アパレルデザインの基礎』 日本衣料管理協会
-----------------	---------------------------

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】衣生活に関する諸課題についての知識を深める。【思考・判断】衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。【技術・表現】衣生活に関する課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。
---------------	---

オフィスアワー	木曜日12:30～14:00
---------	----------------

学生へのメッセージ	服飾デザインの基礎には、デザインの発想を促す基本的な要素が満載です。デザインを説明するときや感覚を伝えるときなどに大変役立ちます。
-----------	---

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	アパレル企業に勤務経験のある講師に特別講義を依頼している。
アクティブ・ラ		

ーニング		
情報リテラシー 教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	アパレルデザイン表現実習		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 手島 由記子	指定なし

ナンバリング	D12205M13
授業概要(教育目的)	アパレルデザインの表現として、衣服のデザイン画を描く方法では、顔、手、足、ボディなどの人体のパーツやギャザー・フレアーの描き方など2次元的な表現を学ぶ。またドレーピング（立体裁断）で形を作る方法では、シーチングを組んでパターンを得る3次元的な表現を学ぶ。アパレルの企画に沿ってデザイナーと生産者、バイヤーとのコミュニケーションなどのツールとして各表現方法を身につけることが目的である。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. デザイン画の基本的な描き方を理解できる。 2. ドレーピング（立体裁断）の基本的な製作方法を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. デザイン画の課題に対して、積極的に作業を進め完成させることができる。 2. ドレーピング（立体裁断）の課題に対して、意欲的に作業を進め完成させることができる。
技術・表現の観点 (A)	1. デザイン画の基本的な描き方を身につけ、それを表現することができる。 2. ドレーピング（立体裁断）の基本的な制作方法を身につけ、それを表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業の概要。アパレルのデザイン画とは。	授業の概要。準備する道具について学ぶ。指導を受ける前に、デザイン画を描いてみる。	配付プリントをよく読んでおくこと。	90分
第2回	デザイン画ーパーツ(手と脚、顔)	人体の法則、骨格・筋肉について理解する。パース(遠近法)について理解する。人体のパーツ(手、脚、正面の顔)の描き方を習得する。	手、脚、正面の顔の描き方を復習すること。	90分
第3回	D画ー正面と斜めの全身画、様々なポーズ、着装画	正面と斜めの全身画(ヌードボディ)の描き方を習得する。様々なポーズの描き方を学ぶ。ブラウスとスカートの着装画を描いていく。	正面と斜めの全身画(ヌードボディ)のポーズをつけた描き方を復習すること。	90分

第4回	デザイン画 —着装画	様々なポーズをとりながら、着装画を描いていく。立体感、遠近法を学ぶ。ギャザーとフレアーの布地の柔らかさの表現法を身につける。	着装画の描き方を復習しておくこと。	90分
第5回	デザイン画 —ハンガーイラスト	ハンガーイラスト（Tシャツ、ブラウス、スカート、パンツ、ジャケット）の表現法を習得する。	ハンガーイラストの描き方を復習しておくこと。	90分
第6回	デザイン画 —着彩	素材感による着彩手法を学ぶ。これまでに描いたデザイン画、ハンガーイラストに着彩していく。	デザイン画、ハンガーイラストの着彩方法を復習しておくこと。	90分
第7回	デザイン画 —着装画①	テーマを選んで、着装画を描いていく。布地をまとった人体の表現法を習得する。輪郭線の強弱の表現法を学ぶ。7回目と8回目の授業を通して課題作品を描いていく。	次回までに着装画の下書きを完成させること。ペン入れまで仕上げてくること。	120分
第8回	デザイン画 —着装画②	テーマを選んで、着装画を描いていく。布地をまとった人体の表現を習得する。着彩を行う。完成させて次回、課題作品として提出する。	着装画を着彩して次回までに完成させておくこと。次回提出。	180分
第9回	ドレーピングの説明、 タオルの準備	ドレーピング（立体裁断）とは何かを学習する。身頃原型（ウエストフィット型）をドレーピングで製作していく。布地にガイドラインを入れ、地直しをしていく。	次回までに布地にガイドラインを入れ、地直しまでしておくこと。	90分
第10回	ドレーピング—上半身 前身頃①	前身頃原型のドレーピングを学習する。中心線をボディに合わせガイドラインに合わせてながらピン打ちをする。前身頃の上半分までを仕上げる。	次回までに前身頃の上半分までを完成させておくこと。	120分
第11回	ドレーピング—上半身 前身頃②	前身頃原型のドレーピングを学習する。前身頃の下半分にピン打ちをして前身頃を完成させる。	次回までに前身頃までを完成させておくこと（復習）。	120分
第12回	ドレーピング—上半身 後ろ身頃①	後ろ身頃原型のドレーピングを学習する。中心線をボディに合わせガイドラインに合わせてながらピン打ちをする。後ろ身頃の上半分までのドレーピングを行う。	次回までに後ろ身頃の上半分までを完成させておくこと。	120分
第13回	ドレーピング—上半身 後ろ身頃②	後ろ身頃原型のドレーピングを学習する。後ろ身頃の下半分を仕上げ、上半身を完成させていく。	次回までに後ろ身頃を完成させておくこと。	240分
第14回	ドレーピング—製図に 転写する①	布地を製図にうつしとっていく。ボディに試着させ、タオルを修正していく。	次回までにマーキングまでを完成させておくこと。	90分
第15回	ドレーピング—製図に 転写する②	布地を製図にうつしとっていく。ボディに試着させ、タオルを修正していく。授業内で課題を提出する。	課題の提出があるため、今回までに製図をある程度完成させておくこと。	120分

学習計画注記 ※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 授業内で製作された優れた作品を公表し、全員で共有していく。

評価方法

- ・デザイン画の評価は、着装画とする（40%）。
- ・ドレーピングの評価は、身頃原型のタオルと製図とする（40%）。
- ・授業参加状況などの平常点（20%）。

授業参加状況、作品制作の取り組み等、総合的に判断する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
作品（デザイン画）	○		○	○
作品（ドレーピング）	○		○	○

評価割合 平常点（20%）、作品（80%）

使用教科書名（ISBN番号） なし。配付プリント

参考図書 文化服装学園編「文化ファッション大系 アパレル生産講座③ 立体裁断 基礎編」文化出版局、2005年

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】・アパレルのデザイン画と、身頃原型とタイトスカートのドレーピングについて専門的な知識・技術を有している。
・知識を深め、専門的な職業への道へつながることができる。

【技術・表現】・デザイン画の基本的な描き方を身につけ、それを表現することができる。・ドレーピング（立体裁断）の基本的な制作方法を身につけ、それを表現することができる。

学生へのメッセージ	実習では作品を完成させるので、欠席をしないでください。 日頃よりファッション商品のシルエット、ディテールに注目するようにしてください。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員はアパレルメーカーにおいて商品企画の実務経験を有している。その実務経験を活かし、「デザイン画」、「ドレーピング」を指導する。
アクティブ・ラーニング	○	デザイン画、ドレーピングの課題制作を体験的に学んでいく。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	服飾造形実習 A		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田 弘美	指定なし

ナンバリング	D12201M23
授業概要(教育目的)	基本的な下衣のショートパンツとスカートの各構成を把握し、デザイン（スタイル、素材、色彩など）、人体の構造とパターン設計（製図）との関係、素材の選定と扱い方、裁断と縫製準備（印つけ）、ミシン縫製の基礎技術、仕上げ（アイロンの扱い）など、衣服製作の基礎的な流れを習得する。消費者として日常着用している既製の素材、縫製、着心地（サイズ感）などの品質を見分けられることを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	衣生活に関する諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点 (K)	衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	衣生活に関する課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	課題スカートとショートパンツ、レポート、材料、人体計測、スカート1(製図)	スカートのデザイン条件と種類、材料(生地)、レポートの説明、材料、人体計測(ウエスト、ヒップ、股上など)、基本型セミタイトスカートの製図を学ぶ。	基本型セミタイトスカートの製図を1/4で書きまとめる。生地との検討。	90分
第2回	洋裁道具説明、ショートパンツ1(製図、地直し)	ショートパンツの製図、生地、地直しについて学ぶ。	ショートパンツの製図を1/4で書きまとめること。生地と糸等を購入し、生地は地直しをして持参すること。	90分
第3回	ショートパンツ2(型)	ショートパンツの製図型紙づくり、裁断、印付け、ロックミシンの使い方を学ぶ。	裁断、印付けまで進めること。	90分

	紙づくり、裁断、印付け)			
第4回	ショーツパンツ3 (本縫い1)	直線ミシンの使い方、ポケットづくりと付け、脇、股下、股上の縫合を学ぶ。	説明内容まで進めること。	90分
第5回	ショーツパンツ4 (本縫い2)	裾上げ、ウエストの始末、ゴム通し、仕上げについて学ぶ。	ショーツパンツを完成させて提出準備とスカート生地の地直しをすること。	90分
第6回	スカート2 (型紙展開、裁断、印付け)	基本型セミタイトスカートの展開(フレア、ギャザー)、裁断、切りじつけによる印付けを学ぶ。	裁断、切りじつけまで進めること。	90分
第7回	スカート3 (裁断、印付け完成) (仮縫い1)	裁断、切りじつけまで完成させ、ダーツの縫い方を学ぶ。	説明内容まで進めること。	90分
第8回	スカート4 (仮縫い2)	仮縫い合わせ(脇、裾、ベルト付け)の縫い方を学ぶ。	スカートの仮縫いを完成させること。	90分
第9回	スカート5 (試着点検、本縫い1)	試着点検、補正、本縫いではダーツ縫い、ファスナー付けの準備について学ぶ。	説明内容まで進めること。	90分
第10回	スカート6 (本縫い2)	ファスナーを付け、脇縫い、縫い代のロックかけを学ぶ。	ファスナー付けを完成させて、次週点検をうけること。	90分
第11回	スカート7 (本縫い3、基礎縫い1)	ベルトづくりとベルトつけ、基礎縫い1(まつり縫い・たてまつり縫い)を学ぶ。	説明内容まで進めること。基礎縫い1を完成させること。	90分
第12回	スカート8 (本縫い4、基礎縫い2)	ベルト付け完成、基礎縫い2(奥まつり)、スカートの裾にロックをかけ、奥まつりを学ぶ。	ベルト付け、基礎縫い2を完成させること。	90分
第13回	スカート9 (基礎縫い3、前カンつけ)	基礎縫い3(前カンのかがり)、ベルトに前カン(フックとバー)の付け方を学ぶ。	基礎縫い3を完成させること。	90分
第14回	スカート10 (仕上げアイロン、基礎縫い4)	仕上げアイロンを掛け、基礎縫い4(半返し縫い・全返し縫い・千鳥がけ)の縫い方を理解する。	基礎縫い4を完成させること。	90分
第15回	着装発表、基礎縫い・作品(スカート・ショーツ)、レポートの提出	スカートとのコーディネートを考えて着装し、デザインのコンセプト・特徴、生地名と素材、制作に対する問題点や反省点を発表する。	着装発表の準備をすること。	90分

学生へのフィードバック方法 作品・基礎縫い・レポート・発表に対するコメント、

評価方法 平常点、作品、基礎縫い、レポート、発表を通して、授業の参加状況、作品制作の取り組み方等を総合的に判断する

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
作品	○	○	○	○
基礎縫い	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○

発表	○	○	○	○
評価割合	平常点20%、作品30%、基礎縫い10%、レポート30%、発表10% 授業の参加状況、作品制作の取り組み方等を総合的に判断する			
使用教科書名 (ISBN番号)	プリント配付			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】衣生活に関する諸課題についての知識を深める。【思考・判断】衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。【技術・表現】衣生活に関する課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。			
オフィスアワー	木曜日12:30~14:00			
学生へのメッセージ	好みのデザインで制作しますので、是非挑戦してみてください。ただし、欠席せずに、説明内容まで進めてくること（宿題）が大事です。教職を履修する学生は、教育実習で被服製作を担当する場合があります。また、教職に就くと家庭科全般を教えることとなりますので、学ぶことと教えることの両サイドから取り組む姿勢を心がけて受講してください。			
教育等の取り組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	生活デザイン演習B		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 生活デザイン学科 教員	指定なし

ナンバリング	D11204M12
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門分野が関わる社会の諸課題について、住生活、衣生活、コミュニケーション・情報の各分野の視点で考え、生活デザイン学科で学ぶための基礎となる考え方を体験的に学習する。今年度は、「ひとや自然にやさしい暮らし」をテーマにして演習授業を行う。また卒業生を招いて懇談会を開催し、生活デザイン学科での学習の意義と将来の進路についても考えられるようになることを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	「人や自然にやさしい」とは具体的にどのようなことかの知識・理解が身についている。
思考・判断の観点 (K)	現代社会で何故「人や自然にやさしい暮らし」が求められているのかを掘り下げて考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	今回演習で学んだことを踏まえ、「自分の人生にも「人や自然にやさしい」何かを取り入れようとする意欲がある。
技術・表現の観点 (A)	各課題について、問題意識を持って調べ、プレゼンテーションする能力がある。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	本演習の目的と意義および概要を説明する。		
第2回	図書館ガイダンス	各テーマに関する情報収集の方法について学ぶ。	授業後に、検索の方法についてまとめておくこと。	45分
第3回	子どもと環境1	国連SDGs(持続可能な開発目標)と国連子どもの権利条約から、地球環境と子どもの生活を考える。	国連SDGsと国連子どもの権利条約をネットで調べる。	60分
第4回	子どもと環境2	子どもの遊び環境とユニセフ子どもにやさしいまちづくりから、子どもの最善の利益と地域環境を考える。	自分の身近な遊び環境を調べる。	60分
第5回	水と洗濯1	資源保護の観点から、水と洗濯の関わりについて考える。	家庭での洗濯の諸問題について考えておく	45分
第6回	水と洗濯2	家庭での洗濯用水の使用状況から、水資源の保護としてできることを考える	洗濯について水資源保護の観点から考えたことをA3用紙にまとめる	45分
第7回	快適な住環境	教員による住環境についての講義を受けた後、グループ	(復習) 自分の住む地域のタウ	90分

	境を考える～タウンウォッチングをやってみよう～	ワークでタウンウォッチングに必要な視点について討議する。	ンウォッチングを行い、発表用レジュメにまとめる。	
第8回	快適な住環境を考える～わたしのまちの問題点～	各自が実施したタウンウォッチングの結果を発表し、住環境改善のために何ができるか討議する。	(復習) 討議で得られたアイデアをもとに、再度タウンウォッチングを実施する。	30分
第9回	生活デザイン学科の学びと将来について (1) 資格取得及び就職	自己を見つめたり、同級生の考えに触れたりすることで、様々な生き方について知り、大学生生活の意義をより多角的に捉えることができる。 課題(資格取得のメリット/関心・興味のある資格/その資格を取得することで、どのような仕事に就くことができるか など): 授業時間内に作成して提出する。	復習: 自分自身のキャリアを設計する上での必要な考え方を身につけるための第一歩となるように振り返る。	30分
第10回	生活デザイン学科の学びと将来について (2) 社会人の先輩に聴く	社会で活躍する卒業生の講演を通して、これからの進むべき方向を考えるきっかけを作ることができる。 講演内容: 学生生活の過ごし方、現在の仕事について、将来設計の考え方についてなど 課題(講演の要点、講演を聴いて学んだことなど): 授業時間内に作成して提出する。	予習: 卒業生への質問項目について考えてくること	30分
第11回	住宅における環境的な配慮	日本の住宅において、冬暖かく、夏涼しくするにはどうしたらよいか考える。新築の場合や、現在使っている中古住宅で可能な方法を考え、グループ内でディスカッションし、A3用紙1枚にまとめる(プレゼンテーションボード)。	日本住宅の住環境に関して、ネットや書籍で調べる。	60分
第12回	プレゼンテーションボードによる発表	A3用紙1枚のプレゼンテーションボードを完成させ、グループ内で発表し、それに関してディスカッションし、教員の講評を受ける。	プレゼンテーションボードに手を入れる。	60分
第13回	やさしい日本語 1	地域構成員の多様化が進む現代社会における「やさしい日本語」の必要性を学んだ上で、誰にでも伝わりやすい日本語とは何かを考えていく。	「大変分かりやすい」から「大変分かりにくい」と自分が感じる文書、書籍等を探す(次回の授業に持参)。	45分
第14回	やさしい日本語 2	日本語コミュニケーションの特徴を学び、誰にでも伝わるコミュニケーションの方法を考えていく。	日本語以外を母語とし、日本文化以外で育った人に分かりにくいと思う表現、コミュニケーションの方法をリストアップする。	45分
第15回	ポスターによる各テーマの成果発表会	各テーマで実施したプレゼンテーションの内容を各自A3版1枚にまとめ、ポスターとして展示して、全員が鑑賞する。「人や自然に優しい」をテーマにした学習内容を一望することで、本演習全体を振り返り、学生相互に良いところを学び合う。	A3版のポスターは、各テーマの演習終了時に作成しておくことが望ましい。	90分

学生へのフィードバック方法

担当教員が随時行う。

評価方法

各回とも、授業への参画度合いにより平常点として評価する(全体で10点)。
各課題についての評価は15点×6課題とする。詳細は以下の通り。
第3・4回: 授業内課題・グループワークへの参加・プレゼンテーションを総合的に評価する。
第5・6回: 授業内課題5点、プレゼンテーション(内容・表現方法を総合的に判断)10点とする。
第7・8回: 授業内課題2点×2、プレゼンテーションの内容8点、表現方法3点
第9・10回: 授業内課題で評価する。
第11・12回: プレゼンテーションボード15点。機能、デザイン、プレゼンテーション(ボード表現と発表の仕方)の3つの評価軸による。
第13・14回: 授業内課題10点(プレゼンテーションも含む)、授業参加5点で評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点		○	○	○
プレゼンテーションの内容	○	○	○	
表現方法				○

評価割合	各担当教員によって出された評価点を合計し、総合評価する。	
使用教科書名 (ISBN番号)	適宜、資料を印刷・配付する。	
参考図書	授業内で各担当者が紹介する。	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【思考・判断】社会の中にある諸課題を自を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。</p>	
オフィスアワー	各教員にアポイントメントを取って、時間を調整してください。	
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回目の授業で、この授業の「目的・意義」について説明します。その内容を理解して、意欲的に授業に取り組むことを期待します。 ・自分なりに取り組める「人や自然にやさしくらし」のあり方を、日常的に考える姿勢を身に付けて下さい。 	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員原口は、約20年間の設計監理実務経験を有しており、戸建て住宅の設計に関し、計画的、環境的、構造的な配慮を注意点を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	各テーマ毎にグループワーク、ディスカッションを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	情報デザイン論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 呉 起東	指定なし

ナンバリング	D34207M21
授業概要(教育目的)	現代社会で最も必要なのは情報とコミュニケーション能力と言える。情報を正しく理解し、伝えるのがコミュニケーションの始まりである。本授業では、情報の収集 → 分類 → 情報の再構築 → 情報の視覚化に流れるプロセスを理解し、如何に情報の表現を行うかを講義や事例を用いて説明を行う。また、グループワークを用いて、実際に情報を収集し、分類、情報の視覚化を体験しながらコミュニケーションを理解することを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
思考・判断の観点 (K)	多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信

学習計画

情報デザイン

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション: ガイダンス、情報とコミュニケーション	授業の概要や内容、成績の評価の説明を行う、情報とコミュニケーションについて講義を行う。	情報デザインについて調査してレポートでまとめる。	120分
第2回	広告デザインとコミュニケーション	広告デザインとコミュニケーションの役割を理解する。	情報デザインについて調査してレポートでまとめる。情報の可視化の手法について振り返る。	120分
第3回	インフォメーションデザインと事例	インフォメーションデザインと事例について理解する。	インフォメーションデザインのまとめる。	120分

第4回	グラフィックデザインの要素（デザイン原理）	グラフィックデザインの要素（デザイン原理）について理解する。	グラフィックデザインのみ	120分
第5回	テーマ決定、ブレインストーミング	（アクティブ・ラーニング）チーム構成、テーマ決定、ブレインストーミング	情報の可視化について調査を行う。	120分
第6回	情報の収集	（アクティブ・ラーニング）情報の収集	収集したデータの整理をまとめる。	120分
第7回	情報の分類	（アクティブ・ラーニング）情報の分類	収集したデータの分類を行う。	120分
第8回	表現の基礎：反復、多様性	表現の基礎：反復、多様性について理解する。	表現の基礎演習	120分
第9回	表現の基礎：リズム、バランス	表現の基礎：リズム、バランスについて理解する。	表現の基礎演習	120分
第10回	表現の基礎：強調、簡潔性	表現の基礎：強調、簡潔性について理解する。	表現の基礎演習	120分
第11回	情報の可視化1	アクティブ・ラーニング）情報の可視化1	制作を行う。	120分
第12回	情報の可視化2	（アクティブ・ラーニング）情報の可視化2	制作を行う。	120分
第13回	情報の可視化3	（アクティブ・ラーニング）情報の可視化3	制作を行う。	120分
第14回	情報の可視化4	（アクティブ・ラーニング）情報の可視化4	制作を行う。	120分
第15回	プレゼンテーション	プレゼンテーションを行う。	プレゼンテーションの準備を行う。	240分

学生へのフィードバック方法 毎回授業の最後に感想や質問を提出させて、次回に感想や質問について解説を行う。別の質問などがある場合は研究室1307（E-mailも可）まで訪問すること。

評価方法 課題は60点満点で課題の結果とプレゼンテーションで評価を行う。評価の基準は3つの基準は「課題の理解」「誠実さ」「デザイン性」で5段階評価を行う。レポートと最終報告書は20点満点で課題と同じく3つの基準を5段階評価で行う。平常点は20点満点で15回を通して「背極的な授業の参加、態度」「背極的なディスカッション」を基準に加点及び減点を行います。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題	○	○	○	○
レポートと最終報告書	○		○	○
平常点		○	○	

評価割合 課題（60%）、レポート（10%）最終報告書（10%）平常点（20%）で評価をする。

使用教科書名 (ISBN番号) 授業中に指定する。

参考図書 授業中に指定する。

ディプロマポリシーとの関連 【【知識・理解】情報 について、専門的知識・技術を有している。【思考・判断】多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。【関心・意欲・態度】積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

オフィスアワー 月曜日 5限

学生へのメッセージ 現代社会において情報の可視化はとても大切である。情報を可視化するために情報の収集、分類、情報の再構築と情報の表現を理解することが必要である。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題に関して、自ら調べ、発表する。
情報リテラシー教育	○	情報そのものと情報の伝達をするための情報の収集、分類、基本的な表現スキルを教育する。
ICT活用	○	情報収集、作品制作、発表のために、PCや通信機器を活用する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	家庭電気・機械・情報処理		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 山際 基	指定なし

ナンバリング	D31106M21
授業概要(教育目的)	家庭で使用される機械や電気機器、情報機器について、仕組みと取扱法といった基本的知識の修得および消費するエネルギーの観点から機械や機器へのエネルギー変換、省エネルギーと経済性について、生活を合理的に管理するための能力を身につける。また社会における情報化の進展について理解し、家庭生活においてコンピュータを活用する能力と態度を育成する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	家庭で使用される機械や電気機器、情報機器についての基本的知識の習得すること
思考・判断の観点 (K)	家庭生活において、修得した知識をもとに機械、電気、情報の各技術を活用すること
関心・意欲・態度の観点 (V)	日々進化する機械、電気、情報の各技術に対する関心を持つこと
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

家庭電気・機械・情報処理				
回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	本講義の講義計画を説明するとともに、家庭における機械、電気、情報の利用についての全体像・概要を理解する。	自分の家庭においてどのような機械、電気機器、情報機器があるのか調査する。	60
第2回	家庭における機械①	現代生活と機械の基本的な関係について理解する。道具や機械の始まりや機械の3要素について説明する。	道具や機械を利用する利点を考える。	200
第3回	家庭における機械②	機械の要素と働きについて理解するとともに、家庭生活と素材・材料について考えを深める。	金属材料、非金属材料、複合素材、新素材と様々な材料を知るとともに、その機械的効果を考える。	180
第4回	家庭における機械③	家庭生活における機械の実例について理解を深める。身近にあるミシンや自動車、自転車について取り上げる。	機械の実例(ミシン、自転車、自動車)の構造、仕組みについて理解を深める。各機械の様々な機能を実現するためにどのよ	180

			うな機構が存在するのか理解する。	
第5回	機械、電気とエネルギー	エネルギーを発生させるものになるものの存在から、機械や電気機器を動かすに至るまでのエネルギーの変換の基礎概念について理解する。	エネルギーの種類と目的に応じた機械的、電氣的利用について理解する。	200
第6回	電気の変換と家庭での利用①	電気の熱への変換について、アイロン、調理機器、エアコン、冷蔵庫を実例にあげて仕組みや構造を理解する。	電気を熱に変換する方法を理解する。熱への変換は加熱と冷却の双方を念頭に置いて考える。	180
第7回	電気の変換と家庭での利用②	電気の動力への変換について、洗濯機や掃除機を実例に挙げて理解する。	電気を動力に変換する方法を理解し、実例に挙げた以外の電気機器についても考えてみる。	180
第8回	電気の変換と家庭での利用③	電気の光への変換について、照明器具を実例に挙げて理解を深める。また変換以外へのエネルギーの利用について、電子機器を実例に挙げて理解を深める。	電気の光への変換方法を理解するとともに、電子機器の機構や仕組みを理解する。	180
第9回	一般家庭における電力の供給	電気が発電所から一般家屋に届くまでの概要と一般家屋における電力線の屋内配線や利用される機器について理解する。	屋内の配線における規格や利用される機器について理解を深める。	180
第10回	現代生活と情報機器	現代生活と情報機器の関わりについて理解し、コンピュータの機能と操作について理解を深める。	コンピュータの機能と仕組みについて理解する。	200
第11回	情報機器の家庭での利用①	コンピュータのハードウェアとソフトウェアおよびネットワークについて理解を深める。	コンピュータの各機能を実現するためにどのようなハードウェア、ソフトウェアがあるのか理解する。	180
第12回	家庭生活と情報システム①	家庭生活に密着した情報システムについて、情報家電、Home Energy Management System、各種ネットワークサービスの実例を挙げるとともに理解を深める。	既に自分自身が家庭生活上で利用している情報システムやネットワークサービスについて、機能と仕組みを理解する。	180
第13回	家庭生活と情報システム②	情報システムの家庭経済への活用について理解する。	自分自身の家計（会計）管理、消費者としての活動に合わせて、現存するシステムやネットワークサービスの活用方法について理解を深める。	180
第14回	環境を意識した、機械、電気、情報の活用	地球環境を意識した機械の利用、電気機器の利用、情報処理について考える。	我が国のエネルギー事情を理解するとともに、対策方法、機器類の選定や利用方法について理解を深める。	200
第15回	講義全般のまとめ	機械、電気、情報の各技術の関係と家庭への利用についてまとめる。また省エネルギー、経済性を考慮した家庭生活を送るための考え方について理解を深める。	機械、電気、情報の各技術の関係と家庭への利用について、従来までの考え方や運用方法と新たな考え方や運用方法を検討する。	220

学生へのフィードバック方法	・毎回の講義時の小レポートの講評については、採点后、授業中に行う。
評価方法	・期末レポートは、機械・電気・情報の各技術が家庭生活に与えた影響について論じるレポートを出題する。記述の論理整合性、技術的（理論的）正当性を当然問うこととなるが、自身の経験などを含めた主体性のある主張、指摘についても評価する。 ・平常点は、毎回の講義において、講義内容に沿った小レポートを出題する。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
期末レポート	○	○	○	
平常点	○		○	

評価割合	期末レポート(50%)、平常点(50%)による総合評価。
使用教科書名 (ISBN番号)	新しい時代の家庭機械・電気・情報／池本洋一、山下省蔵／ジュピター書房／2015 (978-4990748371)
ディプロマポリシーとの関連	[知識・理解] 家庭生活の基盤として「より良い生活と技術」の関わりについて理解できる。 [思考・判断] 生活の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。 [関心・意欲・態度] 日々進化する技術について関心を持ち、どのようにして自分自身の家庭生活に役立てるか活動意欲を持つことができる。
オフィスアワー	非常勤講師のため講義時以外はメール(myamagiwa@yamanashi.ac.jp)で問い合わせること

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	デザイン概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 澤田 雅彦	指定なし

ナンバリング	D11110M21
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科での学習の基本として、デザインとはなにかという問題を考える。そのことを通して、デザインの思考方法の特徴と、デザインという行為に求められることを理解する。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	デザインとは何かを理解できる。
思考・判断の観点 (K)	デザインするのに必要なことは何かを判断し、それに基づいて考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	分かりやすく表現をすることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	デザインとは何か	「デザインとは何か」という問題を考えながら、この授業の目標と、15回の授業で考えることについて理解する。	「デザインとは何か?」という問いについての自分自身の考えを整理しておく。	180分
第2回	デザインを「デザインあ」で考える	NHK教育テレビの「デザインあ」のビデオをみて、デザインとは何かということと、デザインの考え方と手法の特徴について考える。	「デザインあ」の放送を見て、番組内容の意図するところを考察し、デザインの考え方、デザインに必要なことを考える。	180分
第3回	デザインと「観察」	デザインにおける「観察」の大切さを理解する。	実際にいろいろなものとことを観察し、その結果をどのようにデザインに結び付けられるかを考える。	180分
第4回	デザインと「理解」	「理解する」「分かる」ということは、どういうことなのかを考え、デザインと「理解すること」との関係を考える。	「観察」と「理解すること」と「デザイン」の関係について、具体的な事例を探して、総合的に考える。	180分
第5回	デザインと	「観察」「理解」「デザイン」の関係に基づいて、「表	ポスター、Webページ、雑誌な	180分

	「表現」	現することとはどのようなことなのかを考える。そこから「分かりやすい表現」について理解する。	どのデザインを、「分かりやすいデザイン」という視点で観察する。	
第6回	デザインの対象と領域	デザインの対象となるものごとについて考え、一般的に、デザインの対象領域はどのように考えられているのかを理解する。	「…デザイン」という言葉を探して、そのデザインの対象と範囲について具体的に考える。	180分
第7回	サインデザインについて(1)	サインデザインの種類や事例を見て、サインデザインとは何かということを理解する。	サインデザインの実例を見つけて、そのサインの役割や性質について考える。	180分
第8回	サインデザインについて(2)	サインデザインの特徴や分かりやすさについて考え、「伝えること」とデザインの関係について理解する。	具体的なサインデザインの事例を選んで、そのサインの分かりやすさと、それをデザインした人の意図について考える。	180分
第9回	ユニバーサルデザインについて(1)	ユニバーサルデザインとは何かについて理解する。	身のまわりのユニバーサルデザインを探して、そのどこが、どう「ユニバーサルデザイン」なのかを考える。	180分
第10回	ユニバーサルデザインについて(2)	ユニバーサルデザインの発展の歴史と、これからのユニバーサルデザインの考え方について理解する。	ユニバーサルデザインの考え方で、世の中の様々なものごとを観察し、どのような問題があるかを考える。	180分
第11回	「デザインのこころ」	デザインに必要な心構えは何かを考える。	「デザインのこころ」とは何かを、短い文で表現する。	180分
第12回	「デザインのこころをみがくアドバイス」を考える	デザインの考え方、見方、デザインに必要な心構えを身につけるにはどうしたら良いのか、「デザインあ」を参考に考える。	自分自身の「デザインのこころをみがくアドバイス」を考える。	180分
第13回	デザイン思考について(1)	「デザイン思考」あるいは「デザインシンキング」とはどのような概念なのかを理解する。	生活デザイン学科の学習に、「デザイン思考」の考え方と手法が、どのように応用できるかを考える。	180分
第14回	デザイン思考について(2)	現代における「デザイン思考」「デザインシンキング」の重要性を理解する。	「デザイン思考」の考え方を応用して、デザイン概論のこれまでの授業の内容を整理する。	180分
第15回	デザインとはなにか(まとめ)	15回の授業をふり返り、「デザインとは何か」という問題を再度考える。	学期末レポートの作成	180分

学習計画注記 授業の進み具合や履修学生の状況を考慮し、授業内容を変更する可能性があります。

学生へのフィードバック方法 中間のレポートと、ミニレポートは後日採点して返却し、その時に解説をする。

評価方法

1. 授業終了時にミニレポートを適宜課す。ミニレポートは、その日の授業内容にあわせて課題を提示する。
2. ミニレポートは、その日の授業内容がどの程度理解できているか、さらに、その内容をふまえて、自分の考えが分かりやすく整理されているか否か、という視点で採点をし、出席状況とあわせて、平常点として評価する。
3. 学期末にレポートを出題する。
4. レポートは、15回の授業内容を関連づけて整理できているか否か、そしてデザインについての自分の考えが、論理的に整理されて、記述されているか否か、という視点で採点する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○		○
レポート	○	○		○

評価割合 平常点50%とレポート50%で評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連

- 【知識・理解】 各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつながることができる。
- 【思考・判断】 社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し考察することができる。
- 【技術・表現】 課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

オフィスアワー	後期木曜日2時限 1503研究室	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	家庭経営学概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田 敦子	指定なし
教授	上村 協子	指定なし

ナンバリング	D11103M21
授業概要(教育目的)	人間が人間らしく生きる拠点が家庭であり、家庭生活を中心とした家族・コミュニティの営みが家政＝家庭経営である。現代社会における家庭経営の課題を、「家族」「ジェンダー」「消費者」をキーワードに、概説する。特に、親と子、夫と妻など家族を核とする人と人の関係や、仕事や消費といった日々の生活と生命の再生産の営みを中心に現代社会の危機的状況を生活者の視点から見直し、誰もが安心してくらせる、持続可能性のある消費者市民社会につくりかえる方法を、自分の生活設計と重ねながら考える。今年度は、2019年度まで相模原市で消費生活総合センター所長を務めておられた萩原康秋氏をお招きして「消費者」とはどのような存在なのか、その生き方をご講義頂き、考察を深める機会を設けている。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	家庭生活が個人にとって、社会にとってどのような役割を持っているかを理解できる。
思考・判断の観点 (K)	多様で急激な社会変動の中で、どのように家庭生活を営むかを自律的に構想できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分の現在の家族・家庭のあり方を見つめ、広い視野で将来設計に取り組める。
技術・表現の観点 (A)	人間の生き方や家族・家庭について豊かな感性と言葉で表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	現代社会における家庭経営の枠組み	家庭経営学の定義、家族の定義、生活時間等家庭経営学で頻りに用いる概念について解説する。	授業後、レジュメを良く読んでおくこと。	120分
第2回	社会における「家庭」パブリックとプライベートの領域	社会における家庭の位置、その機能をパブリックとプライベートの概念に基づいて学ぶ。	レジュメを良く復習しておくこと。	180分
第3回	地域と消費	日本の家庭経済の時代変化を産業構造や家族の変化と関	授業後、金融広報中央委員会	180分

	者市民社会	連させながら概説する。具体例として女性農業者のエンパワメントにはどのような意義があるか。教科書pp・110～119を参考に検討する	「これであなたもひとり立ち」ワーク1～5のいずれかを使った家庭科授業のアイデアをレポートにする。	
第4回	生活経営～新しい価値・規範の創造へ～	現代社会において家族・家庭がどのような状況にあるかを、主に津敬資料を用いて考察する。グラフの読み取り方、その現象の意味について学ぶ。	授業前後に教科書pp.7-15を良く読んでおくこと。	180分
第5回	経済生活設計と金融リテラシー	グローバル化・キャッシュレス化がすすみ経済格差が広がっている。18歳成年年齢引き下げのなか貧困の連鎖を防ぐ金融リテラシーを教科書pp67～74を参照し学びエンパワメントの方法を考える。	授業後、金融広報中央委員会「これであなたもひとり立ち」ワーク1～5のいずれかを使った家庭科授業のアイデアをレポートにする。	180分
第6回	地域と消費者市民社会	人生100年時代の自助・共助・公助を学び、pp102～110を参照し地域のコミュニティデザインによる公正で持続可能な消費者市民社会について考察する。	授業後、金融広報中央委員会「これであなたもひとり立ち」ワーク11～のいずれかを使った家庭科授業のアイデアをレポートにする。	180分
第7回	消費者としての生き方	萩原康秋先生による講義。萩原先生は、2019年度まで、相模原市 市民局 消費生活総合センターの所長であられた。「消費者」とは、社会の中でどのような存在なのかを、人間の生き方として広い視野でお話頂く。	第3回、5回、6回で行われた消費者に関する授業内容をよく理解しておくこと。	180分
第8回	家庭経営とジェンダー (1) 現代社会におけるワークライフバランス	女性が社会で働くことが社会に定着するようになってからまだ日は浅い。それはなぜか。男女共同参画社会はどのようにしたら実現可能なかを考察する。	この部分は教科書には無いので、授業後レジュメを良く読んでおくこと。	120分
第9回	家庭経営とジェンダー (2) 近現代日本におけるジェンダー構造の変動	近現代日本社会でジェンダーの構造はどのように変動してきたのかを、江戸時代も含めて概説する。	この部分は教科書には無いので、授業後レジュメを良く読んでおくこと。	120分
第10回	江戸時代の女性の生き方	江戸時代の女性の生き方について学ぶ。日本においてジェンダー構造が大きく変動したのは、明治中期であることは前回学んだ。では、それ以前の江戸時代の女性はどのように生きていたのか、只野真葛、内藤ます等の女性の生き方から、現代女性として自らの生き方についての考えを深める。	江戸時代の女性にはどのような人がいるかを調べておくこと。可能であれば参考文献②を読んでおくことが望ましい。	180分
第11回	出産と子育て	女性の合計特殊出生率が急激に低下している日本社会における出産と子育てについて、その歴史の変遷も含めて概説する。	30問程度の中間テストを実施する。授業内で河田が配布したレジュメと教科書pp.33-49を参考程度に読んでおくこと。	240分
第12回	家族・家庭と法律 婚姻・親権・相続等	家族がどのような法律によって、どのように規定されているのかを、民法をもとに概説する。	この部分は教科書には無いので、授業後レジュメを良く読んでおくこと。	120分
第13回	少子高齢化社会と福祉	少子高齢化が急速に進む日本社会では、どのような問題が生じ、それをどのように解決して行ったらよいのかを、概説する	教科書pp.137-169を授業の前後に良く読んでおくこと。	120分
第14回	少子高齢化社会における生活設計	少子高齢化や家族をめぐる社会問題が顕在化した事件や新聞記事を紹介し、関心のあるテーマ毎に分かれて、グループディスカッションを行う。	自分にとっての少子高齢化社会における生き方を見つめる機会である。前回の授業と教科書で学んだことをもとにディスカッションを行うので、自分の考えをまとめておくこと。	180分
第15回	家庭と環境問題 持続可能な社会づくりのための家庭経営	グループ毎に前回ディスカッションした内容をまとめて発表する。期末レポートを提出する。	関心のあるテーマを持つ者同士が集まってディスカッションをした内容を、代表者がプレゼンする。	420分

学習計画注記	特になし
学生へのフィードバック方法	中間テストは、模範解答と共に返却します。プレゼンテーション時には、随時コメントします。
評価方法	・中間テストは30問程度で、穴埋め方式である。

・期末レポートの課題は、「現代社会の状況を踏まえて今後の自分の生き方を考える」である。1600字以上。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間テスト	○			
期末レポート		○	○	○
グループディスカッション		○	○	○
プレゼンテーション				

評価割合

平常点 (グループディスカッション、プレゼンテーションを含む) 20点
小テスト (30%)・レポート 50%

使用教科書名 (ISBN番号)

日本家政学会 生活経営学部会編 『暮らしをつくりかえる生活経営力』朝倉書店 2010年

参考図書

- ①原ひろ子著『生活の経営—21世紀の人間の営み—』放送大学教育振興会 2002年
- ②柴桂子著『近世おんな旅日記 (歴史文化ライブラリー: 13)』吉川弘文館 1997年
- ③河田敦子著 加藤時男翻刻 『幕末明治の女性 内藤ますの生涯とその教養形成過程』お茶の水女子大学グローバルCOE「格差センシティブな人間発達科学の創成」2010年
- ④日本家政学会・生活経営学部会編『暮らしをつくりかえる生活経営力』朝倉書店 2014年・臼井和恵編著『21世紀の生活経営 自分らしく生きる』同文書院 2011年
- ⑤山口一男『ワークライフバランス』日本経済新聞出版社2009年

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「衣」「住」「コミュニケーション・情報」「地域・園芸・ビジネス」「家庭科教育」の各分野について、専門的知識・技術を有している
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。

オフィスアワー

前期水曜日4限 (アポイントメントを取り、時間調整を行うこと)

学生へのメッセージ

生活者としての視点から現代の家族問題や女性の生き方、ジェンダーの問題、消費者の様相を相対化して考察できる基盤を培ってほしいと願います。
教職必修

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	アクティブラーニング: 第14回の授業ではディスカッション、第15回の授業では発表の機会を設けてある。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	家庭看護		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 遠藤 由美子	指定なし

ナンバリング	D21107M21
授業概要(教育目的)	家庭とは、生活を共にする家族の集まりである。家族が健康で日常生活を営むために年代別による健康管理が求められる。また加齢、病気などで障がいがあってもその人らしく生活を過ごすための知識・技術も必要である。家庭看護では、健康や疾患、加齢についての基礎知識とともに、生活を支援するための技術についても学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	健康と病気の定義について説明ができる。 年代別の健康問題と管理について説明ができる。 乳幼児から高齢期の特徴について説明ができる。
思考・判断の観点 (K)	制作をする過程において創造力を駆使して、作品を完成する。 自ら設定した課題のレポートを作成する過程で、資料検索の方法を知り、問題解決に導く力を養い、自己の考えを人に伝える能力を磨く。
関心・意欲・態度の観点 (V)	課された課題を、自宅学習を含め取り組み、「提出期限を守る」「決められたこと確実にやる」など社会的役割や責任を身に着ける
技術・表現の観点 (A)	演習を通して、人とのかかわりを学び社会性を身に着け、専門職としての視点を磨く。

学習計画

家庭看護

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション 病児の遊びを考えよう①		
第2回	健康と病気 ①健康について		
第3回	健康と病気 ②看護と介護		
第4回	病気と看護 家族の年代別健康管理		
第5回	病気と看護 病気の種類と特徴(子ども編)		
第6回	病気と看護 病気の種類と特徴(大人編)		

第7回	病気と看護 病児の遊びを考えよう②		
第8回	病気と看護 看護の基本と高齢者の心身の特徴		
第9回	高齢者の介護 介護の基本① 移譲（車いすにTRY）	演習・校内散策（動きやすい服装・補水・日焼け対策・運動靴）	介護実習室（90分）
第10回	高齢者の介護 介護の基本② 体位変換（着脱にTRY）	動きやすい服装・運動靴	介護実習室（90分）
第11回	高齢者の介護 介護の基本③ 清潔（口腔ケアにTRY）	動きやすい服装・運動靴	介護実習室（90分）
第12回	高齢者の介護 介護の基本④ 排泄（排泄介助にTRY）	動きやすい服装・運動靴	介護実習室（90分）
第13回	高齢者の介護 介護の基本⑤ （視覚障害者の介助にTRY）	校内散策（動きやすい服装・補水・日よけ対策・運動靴）	介護実習室（90分）
第14回	課題作成	図書室・パソコン室・自習室などを活用し、自身の決めた課題の資料を探し、レポート（5枚）、発表（5分）資料の作成を行う。	図書室・パソコン室・自習室
第15回	課題作成・発表・提出	他の学生の前で、自ら作成した資料を基に発表を行う。	

学生へのフィードバック方法 講義の他、グループワーク、演習等を取り入れ、学生が主体的に授業に参加できるようにしていく。はさみ、サインペン、色鉛筆、カッターナイフ等毎授業持参すること。

評価方法 授業成果物10点（パズル、眼鏡）個々の個人の創造性を駆使して、完成を目指す。作成したもので遊びを通して、子供の特性を学ぶ。
授業内平常課題30点授業内の課題プリントを課し、自宅学習を促す。
発表評価50点（態度、プレゼン準備、プレゼン資料、学生個々評価）レポート10点、テーマに従い資料検索を重ねレポートをまとめ、それをもとに他者に自分の考えを伝えるべく様々な方法を用いて発表準備を行い、人前で意見を述べることを通して、達成感を養い今後の自身の活動に役立つ手法を身に着ける。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
成果物		○	○	○
授業内平常課題	○	○	○	
発表評価	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○

評価割合 成果物10点（パズル、眼鏡）授業内課題30点、発表評価50点（態度、プレゼン準備、資料、学生個々評価）レポート10点
平常点は授業への参加状況、受講への意欲、討論への参加等で総合的に判断する。

使用教科書名 (ISBN番号) 授業内で配布

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】幅広い視点から知識を深め、専門な職業への道をつなぐことができている。
【思考・判断力】自ら設定した課題に取り組むことで、情報収集方法、理論的に分析する方法、考察するプロセスを学び行動できる力を身に着けている。
【関心・意欲・態度】授業内に課せられた課題に自ら取り組み、「課せられた課題をこなす」「提出期限を守る」など社会的マナーを守る力を培い、社会人としての役割を果たせる。
【技能・表現】他の学生と演習を通して関わり、社会性を身に着けている。自ら設定した課題を人前で発表することで表現力を身に着けている。

オフィスアワー 前期金曜日1限 指定教室

学生へのメッセージ 日常生活のなかでは、特に健康について意識をしていないけれど病気になるとその大切さに気づきます。自分自身の健康管理ができて、家族の健康も守ることができるように、自分の日常生活から健康について考えてみましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラ		

ーニング		
情報リテラシー 教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	消費者調査法		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 小野 由美子	指定なし

ナンバリング	D15301M12
授業概要(教育目的)	消費者調査の種類と方法を理解し、調査を正しく行うための技術と、調査の結果を集計・分析・考察するための知識の修得を目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	消費者調査に関わる専門的知識を有している。
思考・判断の観点 (K)	消費者調査について多面的に考える姿勢を身に付けている。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自ら取り組む学習態度を身につけている。
技術・表現の観点 (A)	自らの考えをまとめ、人に伝える技術力を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	消費者調査とは何か	消費者調査の定義や意義、重要性などについて理解する。知識調査や意識調査の共通点や相違点を学ぶ。	テキスト第1章の演習問題に取り組むこと。	120
第2回	利用目的による分類、情報の種類による分類、量と質による分類	事実調査、知識調査、意識調査について確認する。量的調査と質的調査の特徴と相違点を理解する。	テキスト第2章の演習問題に取り組むこと。	120
第3回	情報の収集による分類(質問紙調査法、観察法)、動機調査	質問紙調査法の種類とメリット・デメリットについて学習する。	テキスト第2章の演習問題に取り組むこと。	120
第4回	質問紙調査法の手順、	質問文の作成や実施に関わる留意事項を学習する。	テキスト第3章の演習問題に取り組むこと。	120

	調査票作成の手順			
第5回	調査票作成の仕方	質問文の作成に関わる留意事項や、質問と回答の形式について理解する。	テキスト第3章の演習問題に取り組むこと。	120
第6回	全数調査と標本調査、母集団と標本、標本抽出法	調査対象の選び方に関わり、全数調査と標本調査、母集団と標本について理解する。	テキスト第4章の演習問題に取り組むこと。	120
第7回	標本誤差と標本数	調査対象の選び方に関わり、標本誤差と標本数について理解する。	テキスト第4章の演習問題に取り組むこと。	120
第8回	消費実態調査・トピックス調査の実例	衣料の消費実態調査の特徴と意義を理解する。調査項目や集計・分析について学習する。	テキスト第6章の演習問題に取り組むこと。	120
第9回	調査企画	質問紙調査を自ら実施するための調査企画を立てる。	テキスト第7章の演習問題に取り組むこと。	120
第10回	調査票の作成①	質問紙調査を自ら実施するための調査項目を作成する。	テキスト第7章の演習問題に取り組むこと。	120
第11回	調査票の作成②	質問紙調査の調査票を完成をする。	テキスト第7章の演習問題に取り組むこと。	120
第12回	調査の実施	質問紙調査を実施して、回収した調査票のデータを集計する。	テキスト第7章の演習問題に取り組むこと。	120
第13回	集計・分析①	集計の方法とグラフ化など分析に必要な知識を理解する。	テキスト第5章の演習問題に取り組むこと。	120
第14回	集計・分析②	実施した質問紙調査のデータを集計・分析する。	テキスト第5章の演習問題に取り組むこと。	120
第15回	発表	自ら実施した質問紙調査の分析結果を発表する。	他の学修者の発表内容や、自分自身が受けた指摘について情報を整理する。	120

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法 授業の最初に前回の授業内容を簡潔に解説する。

評価方法 ・定期試験は40点満点で出題し、課題レポートを課す。
・提出物、定期試験は下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
提出物			○	○
定期試験	○	○		

評価割合 提出物 (60%)、定期試験 (40%) などを総合的に評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) 日本衣料管理協会刊行委員会編『新版 消費者調査法』 (日本衣料管理協会、2004年)

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】 各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
【思考・判断】 各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。
【関心・意欲・態度】 社会の諸問題に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
【技術・表現】 課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

オフィスアワー 【後期】 水曜日 1701共同ゼミ室 10:40~12:50
※上記は千代田三番町キャンパスのため、メールなどで適宜対応する。

学生へのメッセージ 自分でテーマを決めて質問紙調査を実施しますので、取り上げたいテーマを決めて、どのような質問をしたいのかを考えておきましょう。

教育等の取組み状況

	該当	概要
--	----	----

	有無	
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に演習することによって能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報の分析に関する利活用能力を養成する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	消費生活論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 黒澤 佳子	指定なし

ナンバリング	D25307M21
授業概要(教育目的)	安全で豊かな消費生活を送るために、消費者問題の現状と、それに対して消費者、行政、企業がなすべきことを知る必要がある。この授業は、消費者問題を体系的に捉え、消費者・行政・企業のあるべき姿を理解し、消費者問題の現状と政策を考察する基礎的な力を育成することを目的とする。近年はインターネットで買い物をする機会が増え、モノやサービスの購入スタイルも多様化してきた。また、貯蓄・投資や保険などの金融商品を選ぶ際には、自己責任が求められるようになっている。将来生きていくうえで誰もが知っておくべき金融経済の知識について、事例や体験談、ニュースで話題になっている事柄などを取り上げてわかりやすく解説する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	消費者問題の現状を知り、その背景にある市場メカニズムや経済状況、施策等を理解する。
思考・判断の観点 (K)	自立した社会人になるために、自分の身を自分で守るための「人間力」を養う。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

消費生活論

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	消費者問題の基礎	消費者問題とは何か、消費者を取り巻く環境の変化	教科書第1章「消費者問題の基礎」(1~18ページ)を読んでおくこと	180分
第2回	消費者問題と消費者政策(1)	消費者政策の転換~消費者保護基本法から消費者基本法へ	教科書第2章「消費者問題と消費者生活」(25~32ページ)を読んで、わからないワードは調べておくこと	180分
第3回	消費者問題と消費者政策(2)	消費者政策の理念	教科書第2章「消費者問題と消費者生活」(32~36ページ)を読んで、わからないワードは調べておくこと	180分

第4回	消費者問題と消費者政策 (3)	消費者行政と消費者関連法	教科書第2章「消費者問題と消費者生活」(36~42ページ)を読んで、わからないワードは調べておくこと	180分
第5回	消費者政策の展開 (1)	消費生活の安全の確保	教科書第3章「消費者政策の展開」(43~52ページ)を読んで、わからないワードは調べておくこと	180分
第6回	消費者政策の展開 (2)	広告・表示の適正化	教科書第3章「消費者政策の展開」(52~62ページ)を読んで、わからないワードは調べておくこと	180分
第7回	消費者政策の展開 (3)	消費者契約の適正化	教科書第3章「消費者政策の展開」(63~80ページ)を読んで、わからないワードは調べておくこと	180分
第8回	企業の消費者対応 (1)	事業者と事業者団体の責務	教科書第4章「企業の消費者対応」(81~83ページ)を読んで、わからないワードは調べておくこと	180分
第9回	企業の消費者対応 (2)	消費者対応部門の役割と機能	教科書第4章「企業の消費者対応」(83~90ページ)を読んで、わからないワードは調べておくこと	180分
第10回	企業の消費者対応 (3)	消費者対応部門の課題	教科書第4章「企業の消費者対応」(90~96ページ)を読んで、わからないワードは調べておくこと	180分
第11回	企業の消費者対応 (4)	事業者団体の消費者対応	教科書第4章「企業の消費者対応」(97~101ページ)を読んで、わからないワードは調べておくこと	180分
第12回	消費者教育	消費者教育の歴史・担い手・内容	教科書第5章「消費者教育」(103~122ページ)を読んで、わからないワードは調べておくこと	180分
第13回	消費生活情報 (1)	消費生活における情報の重要性	教科書第6章「消費生活情報」(123~129ページ)を読んで、わからないワードは調べておくこと	180分
第14回	消費生活情報 (2)	消費生活情報の現況	教科書第6章「消費生活情報」(129~143ページ)を読んで、わからないワードは調べておくこと	180分
第15回	消費生活論まとめ	これまでの授業の振り返り、消費者問題に対する意識の変化の考察	これまで授業で行ったリアクションペーパー(ミニレポート)および小テストをみかえしておくこと	180分

学生へのフィードバック方法 実施した小テストおよびミニレポートは、採点して、次週の授業にて返却する。小テストの解説は、授業内にて行う。

評価方法 毎回の授業で、その回の授業で扱った内容から、小テストもしくはミニレポートを実施する。定期試験に代えて、学期末にレポートを課す。提出期限、テーマ、作成方法は授業中に指示をする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
ミニレポートおよび小テスト	○	○		
レポート	○	○		

評価割合 授業ごとのリアクションペーパーおよび小テスト (50%)、レポート等の課題提出 (50%) で評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) 「衣料管理士養成のための消費生活論」社団法人日本衣料管理協会平成22年7月発行

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「消費生活」の分野 について専門的知識を有し、グローバルな視点から知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができ、また、多様な情報を客観的に理解し判断して行動することができる。	
学生へのメッセージ	資格取得の観点だけでなく、自分自身のためになる内容なので、関心を持って主体的に取り組んでほしい。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、銀行において金融の実務経験を有しており、ファイナンシャルプランナーとして消費生活におけるアドバイスを行っている。また中小企業診断士として企業側の消費者問題についても精通しており、生活に密着した身近な経済について教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	保育学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新開 よしみ	指定なし

ナンバリング	D31108M21
授業概要(教育目的)	子どもと大人が共に豊かな成長を続けていくことのできる社会を目指し、家庭・地域・社会において大人が果たすべき役割、保育所・幼稚園・認定こども園における保育・幼児教育の今日的課題、共に育つ保育実践について解説する。また、保育観察や子どもとのふれあい体験(自主実習)を通して実際の子どもの発達や遊びの実態を体験しながら、家庭科教育における保育領域の授業実践の工夫を具体的に構想できるよう導いていく。
履修条件	家庭科教員免許取得を目指していること、またはそれに準ずる意欲のあること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 家庭科教育における保育領域の意義と目的を説明できる。 2. 保育・幼児教育の基本的事項について説明できる。 3. 子どもとふれあいながら、乳幼児の生活と発達を体験的に理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	1. 自主実習や模擬授業を通して自己課題を発見する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 保育領域に関心を持ち、積極的に教材研究を行うことができる。 2. 保育観察や自主実習に意欲を持って取り組む。
技術・表現の観点 (A)	1. 家庭科(保育領域)の授業を構想し、模擬的に実践できる。 2. 電子黒板等を活用し、効果的にプレゼンテーションできる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	家庭科教育における保育領域の意義と目的	グループワークを通して、学習指導要領「家庭科」における保育領域の意義と目的、及び改訂の背景を理解する。	中学校・高校の学習指導要領「家庭科」のページ、及びテキストのP.1~18、P.26~28を読んでおくこと	120分
第2回	保育・幼児教育の今	新しい幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」「育みたい資質・能力」について理解する。	配布プリントを読んでおくこと	120分
第3回	子どもの発達と保育	ビデオを観ながら、乳幼児の発達について理解する。	課題「子どもの姿レポート」に取り組む	120分
第4回	子どもの遊びと保育	幼稚園等で生活する子どもの姿から、遊びを中心とした保育について考える。	課題「自主実習のための準備」に取り組む	120分

第5回	「ぼかぼかひろば」保育観察	乳児グループ「ぼかぼかひろば」の観察を行う。	「ぼかぼかひろば」の資料を読んでおくこと／観察記録をまとめること	120分
第6回	保育研究課題の設定と自主実習計画の作成	模擬授業で扱う保育研究課題を設定する。また、自主実習に向けた計画を作成する。	保育研究課題に関する教材研究及び自主実習の準備	240分
第7回	自主実習(1)	乳児(0・1・2歳児)クラスの自主実習に取り組む。	自主実習記録の作成	60分
第8回	絵本の教材研究発表	絵本を3冊選びその内容を紹介するとともに1冊について「読み聞かせ」の実践をする。	絵本選びと読み聞かせの練習	180分
第9回	自主実習(2)	幼児(3・4・5歳児)クラスの自主実習に取り組む。	自主実習記録の作成	60分
第10回	保育研究課題に基づく模擬授業(1)発表グループA	各自の課題に基づいた模擬授業を行う。	A:教材研究、授業準備、資料作成、振り返り等 B~E:Aグループの発表から得たことをまとめる	A:720分 B~E:60分
第11回	保育研究課題に基づく模擬授業(1)発表グループB	各自の課題に基づいた模擬授業を行う。	B:教材研究、授業準備、資料作成、振り返り等 A,C~E:Bグループの発表から得たことをまとめる	B:720分 B以外:60分
第12回	保育研究課題に基づく模擬授業(1)発表グループC	各自の課題に基づいた模擬授業を行う。	C:教材研究、授業準備、資料作成、振り返り等 A,B,D,E:Cグループの発表から得たことをまとめる	C:720分 C以外:60分
第13回	保育研究課題に基づく模擬授業(1)発表グループD	各自の課題に基づいた模擬授業を行う。	D:教材研究、授業準備、資料作成、振り返り等 A~C,E:Dグループの発表から得たことをまとめる	D:720分 D以外:60分
第14回	保育研究課題に基づく模擬授業(1)発表グループE	各自の課題に基づいた模擬授業を行う。	E:教材研究、授業準備、資料作成、振り返り等 A~D:Eグループの発表から得たことをまとめる	E:720分 A~D:60分
第15回	振り返りとまとめ	自主実習や模擬授業等を通して学んだことを振り返り、自己課題を明確にする。	これまでの授業内容を総復習しておくこと(まとめのファイルの提出)	120分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によって計画が前後したり変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	課題等は発表時または返却時にコメントするなどしてフィードバックを行う。質問や相談等がある場合は、1635研究室(emailも可)まで訪問すること。				
評価方法	自主実習に対する取り組み(自主実習点)、模擬授業に対する取り組み(模擬授業点)に加えて、これら以外の課題への取り組み(課題点)について総合的に評価する。課題点には指定の提出物に加え、グループワークや発表など平常授業への取り組みの評価を含むものとする。				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解(K)	思考・判断(K)	関心・意欲・態度(V)	技術・表現(A)
	課題点	○	○	○	
	自主実習点		○	○	
	模擬授業点	○	○	○	○
評価割合	課題点(30%)自主実習点(30%)模擬授業点(40%)の割合で評価する。				
使用教科書名(ISBN番号)	高等学校学習指導要領解説「家庭編」,文部科学省,平成30年7月				
参考図書	なし				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「家庭科教育」(保育)分野について専門的知識を有している。 【関心・意欲・態度】社会の中にある(保育をめぐる)諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通してそ				

	<p>の解決策を立案できる。 【技能・表現】家政学を学修し、家庭科教育（保育）分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。</p>	
オフィスアワー	(後期) 金曜 4 限 1635研究室	
学生へのメッセージ	この授業では自主実習や保育分野模擬授業に向けての事前の準備学習や教材研究など取り組むべき課題が多くあります。それぞれの課題に主体的に取り組む意欲と覚悟を持って受講してください。同時に、子どもについて学ぶこと、子どもとのふれあい体験をぜひ楽しんでください。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッションなどのグループワーク取り入れた授業を展開する。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	模擬授業においては、効果的なプレゼンテーション資料の作成や電子黒板の活用に取り組む。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	被服学概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田 弘美	指定なし
准教授	花田 朋美	指定なし

ナンバリング	D11101M21
授業概要(教育目的)	<p>被服に求められる機能は、社会・心理的快適性に関わる機能と、身体・生理的快適性に関わる機能とから成る。従って、被服について学ぶには、被服材料学、被服管理学、被服衛生学、服飾デザイン、被服構成学、服装史等、多角的に学ぶことが必要となる。本講では、学年進行に伴う被服に関する発展的学習に備えること、また教育の現場で求められる知識・能力を身につけることを目的として、被服領域全般における基礎的事項を概括的に学ぶ。さらに、現代そして今後の被服に求められている課題について考える力を育成する。</p> <p>(花田朋美／7回) 被服に要求される保健衛生的快適性に関わる機能について概説する。</p> <p>(富田弘美／8回) 被服に要求される社会心理的快適性に関わる機能について概説する。</p>
履修条件	なし
学習目標(到達目標)	なし
学習目標(到達目標)	なし
知識・理解の観点 (K)	衣生活デザイン分野の基礎的な知識を多角的に捉え、習得する。
思考・判断の観点 (K)	衣生活デザイン分野の各領域を総括的に捉え、被服に関する発展的学習に備えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	衣生活デザイン分野に内在する諸課題に積極的に関心を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	衣服に関する分野の課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

被服学概論

回	授業テーマ	学習内容(7ヶ月前ラニング・情報リテ教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	被服学の領域、被服の着用目的・起源	被服着用の目的を、人間の進化の観点から考察し、被服と人の関わりについて理解する。	自分がなぜ服を着用しているのか考える。	180分
第2回	布帛の構造－繊維・糸・織物・編物の構造－	グループワークを行う。着用している衣服の構造を織物分解で観察する。配布した試料セットを使用し、繊維、糸、織物、編物の構造を観察し、布帛の構造を理解する。	配付プリントの布帛の構造について読んでおくこと。	180分

第3回	被服の素材 (1) -天然繊維-	グループワークを行う。着用している衣服の商品タグを確認し、身近な衣料品にはどのような素材が使われているのか観察する。代表的な天然繊維（綿、麻、羊毛、絹）の概要を理解する。	配付プリントの天然繊維について読んでおくこと。	180分
第4回	被服の素材 (2) -化学繊維-	代表的な化学繊維（再生繊維、半合成繊維、四大合成繊維）について、その製造方法と繊維の概要を理解する。	配付プリントの化学繊維について読んでおくこと。	180分
第5回	被服素材の 染色加工と 機能化	衣服素材の染色加工と高機能化について概要を理解する。	配付プリントの衣服素材の高機能化について読んでおくこと。	180分
第6回	被服の機能 保持と健康	被服の洗浄と保管、及び被服の快適性について概要を理解する。	配付プリント被服の汚れと洗浄、及びアパレルと健康について読んでおくこと。	180分
第7回	まとめと小 テスト	快適な衣生活と環境配慮の方法について概要を理解する。小テストの実施	1～6回までの配付プリントと授業内容を整理し、総復習をしておくこと。	180分
第8回	服飾デザイン1-デザイン構成-	「デザイン」という言葉の意味・概念を理解する。	自分の分野、興味ある分野に落とし込んで「デザインとは何か」を考える。	180分
第9回	服飾デザイン2-デザイン要素-	デザインの要素としてリズム、色彩、フォーム、テクスチャなどについてその効果を理解する。	デザイン要素のプリントを読み、デザインについてノートを整理すること。	180分
第10回	被服の変遷 1-西洋の 服装-	古代ギリシャ・ローマ、中世、15世紀から20世紀の服装について社会背景とともに変遷を理解する。	創立者大江スミが留学した頃の20世紀初頭のファッション、芸術についてノートを整理すること。	180分
第11回	被服の変遷 2-日本の 服装と和服 文化-	古代から中世の公家装束、近世の小袖（きもの）、近代の宮廷服、戦後日本のファッションについて社会背景とともに変遷を理解する。また、和服の基礎知識を知る。	戦後日本のファッションについてノート整理をしておくこと。	180分
第12回	特別授業 振袖の基本 知識	国際的な活動にも役立つ伝統的な和服の知識を深める。和服のデザイン・製造・販売・レンタル会社より講師を招き、振袖の基礎知識、デザイン傾向、着付けなどを標本を用いて学ぶ。	和服を普及させるには、どのような方法があるのか各自考える。	180分
第13回	アパレル設計-アパレル産業と既製服サイズ-	既製服の誕生から量産の背景、アパレル産業の構造、および既製服のJISサイズのシステムを理解する。	自分のJISサイズを把握し、ノートを整理すること。	180分
第14回	衣生活とファッション ビジネス・ 福祉（ユニ バーサルフ ァッション）	アパレルの仕事、アパレル産業の現状について理解し、高齢者・障害のある人に考慮したデザイン（運動機能、生理機能）を学ぶ。	アパレル産業の現状、高齢者・障害のある人に考慮したデザインについてノートを整理すること。	180分
第15回	まとめと小 テスト	まとめとして社会心理的な快適性機能を学び、小テストを実施する。	配付プリントとノートを整理しておくこと。	180分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 授業内でのグループワークでの体験学習時のアドバイス、及びディスカッション。

評価方法

①第1回～第7回担当者による小テスト
②第1回～第7回の平常点
③第8回～第15回担当者による小テスト
④第8回～第15回平常点

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
第1回～第7回の筆記試験	○	○	○	
第1回～第7回の平常点			○	
第8回～第15回の筆記試験	○	○	○	

	第8回～第15回の平常点			○	
評価割合	第1回～第7回と第8回～第15回の担当者別の筆記試験（80%）および平常点（20%）による総合評価				
使用教科書名（ISBN番号）	適宜プリント配付				
参考図書	第1回～第7回 ①やさしい繊維の基礎知識（ISBN4-526-05289-2 繊維学会編 日刊工業株式会社発行 2004年） ②アパレル生理衛生論（日本衣料管理協会刊行委員会編 一社 日本衣料管理協会発行 平成28年） ③衣服管理の科学（ISBN978-4-7679-1048-2 片山倫子編 建帛社発行 2016年第11刷） ④衣生活のための消費科学（日本衣料管理協会刊行委員会編 一社 日本衣料管理協会発行 平成30年）				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】衣生活デザイン分野に関する基礎的な知識を有している。 【思考・判断】社会の中にある課題を自ら発見し、分析、整理し、考察できる。 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心をもつことができる。				
オフィスアワー	火曜日12時30分から14時 2407被服材料学研究室（花田） 木曜日12時30分から14時 1405被服構成学研究室（富田）				
学生へのメッセージ	被服を最も身近な環境と捉え、快適な衣服とは何か考えてほしいと思います。（花田） 被服材料、被服衛生、被服管理、被服造形、服飾デザイン、服飾美学、服飾史などを多角的に概説します。被服の領域全般を広く学ぶことによって基礎的な生活力が身に付き役に立ちますが、自分の興味ある分野とその繋がりを考えて学際的な広い視野を持っていただきたいと思います。（富田）				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	和服のデザイン・製造・販売・レンタル会社に講師を依頼し、商品サンプルを用いて講義する。（富田）			
アクティブ・ラーニング	○	グループワークによる織物分解鏡を用いての観察。			
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	和服構成学実習		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田 弘美	指定なし

ナンバリング	D32203M23
授業概要(教育目的)	日本の民族衣装である和服(浴衣)製作を課題として、各自の身体を計測し、基本的な手縫いの技法、和服の特徴と構造、縫製技術、着付けの仕方などを学ぶ。さらに和服の歴史、織物、色彩、文様などから日本の文化を理解し、自分で着装できること、英語で着付けの方法を説明できることを目的とする。また、和服のデザイン・製造・販売・レンタル会社より講師を招き、袴の基礎知識、デザイン傾向、着付けなどを商品サンプルを用いて講義する。
履修条件	なし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	和服に関する諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点(K)	和服に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点(V)	和服に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点(A)	

学習計画

和服構成学実習

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	和服の種類と構成、縫製道具、浴衣地、採寸	和服の基礎、材料(浴衣地、糸)、道具、採寸(寸法計算)方法を学ぶ。	採寸のため着脱可能な上着を着用し、浴衣地の準備をすること。	90分
第2回	柄合わせ、裁断、運針、小テスト	身頃、袖の柄合わせ、裁断方法、運針の仕方などを学ぶ。小テストを行う。	裁断まで進めること。	90分
第3回	袖1	印付け、袖下の縫製を学ぶ。	説明内容まで進めること。	90分
第4回	袖2	丸みの始末、袖口の三つ折りぐけを学ぶ。	袖を仕上げ、次週の提出準備をすること。	90分

第5回	特別授業 袴の基礎知識	和服のデザイン・製造・販売・レンタル会社の講師より、袴の基礎知識、デザイン傾向、着付けなどを商品サンプルを用いて学ぶ。	なぜ卒業式に袴を着用するのか、各自の考えをまとめること。	90分
第6回	身頃 1	印付け、背縫い、肩当てについて学ぶ。	説明内容まで進めること。	90分
第7回	身頃 2	脇縫い、衿印付け、縫い代始末を学ぶ。	説明内容まで進めること。	90分
第8回	身頃 3	衿付け、衿下ぐけ、和装小物の製作 1（糊付け）を学ぶ。	説明内容まで進めること。	90分
第9回	身頃 4	裾上げ、角の始末（部分縫い 2）、和装小物の製作 2（裁断）を学ぶ。	裾上げを進めること。	90分
第10回	身頃 5	角の始末（実物）、和装小物の製作 3（組み立て）を学ぶ。	角の始末（実物）を仕上げること。	90分
第11回	衿 1	身頃との衿の柄合わせ、掛衿づくり、印付け、衿つけと衿先の止め（部分縫い 2）を学ぶ。	掛衿を仕上げてくること。	90分
第12回	衿 2	衿付け、三つ衿芯、本ぐけ、衿先の止め（実物）を学ぶ。	衿付けの点検を受け、衿を仕上げること。	90分
第13回	衿 3、身頃と袖 1	袖つけ、袖の縫い代始末、（いしき当て）、門止め、仕上げを学ぶ。	袖周りを仕上げること。	90分
第14回	仕上げ、英語による着付け	アイロン仕上げ、たたみ方、英語による着付けの手順を学ぶ。	着付けの下着その他の準備と着付けの手順のプリントを読むこと。	90分
第15回	着装発表、レポート提出	着付けを学ぶ。また、和装小物やその他の小物を用いてコーディネートを考え、浴衣の着こなし、製作ポイントなどをわかりやすく説明することを学ぶ。	コーディネート、発表、レポートの準備をすること。	90分

学生へのフィードバック方法 作品、部分縫い、和装小物、発表のコメント

評価方法 平常点（授業への参加・状況、提出期日などで総合的に判断する）作品、部分縫い、和装小物、発表、小テスト

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
作品	○	○	○	○
部分縫い	○			○
和装小物			○	○
発表・小テスト	○	○	○	○

評価割合 平常点20%（授業への参加・状況、提出期日などで総合的に判断する）、部分縫い10%、作品30%、発表30%、小テスト10%

使用教科書名 (ISBN番号) プリント配布

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】衣分野の諸課題についての知識を深める。【思考・判断】衣分野の諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】衣分野の諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。【技術・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

オフィスアワー 木曜日12:30～14:00

学生へのメッセージ 浴衣の知識、技術、着付けなどを身に付けて自分らしい着こなしを楽しみ、授業外の作業みましょう。また、説明した内容まで進めてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	和服のデザイン・製造・販売・レンタル会社より講師を招き、袴の基礎知識、デザイン傾向、着付けなどを標本を用いて学ぶ。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		

シラバス参照

講義名	食科学概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 山崎 薫	指定なし

ナンバリング	D11104M21
授業概要(教育目的)	「食」は心豊かに健康な日常生活を送る上で重要な要素である。自立した社会生活を個々が営むためにも「食」を取り巻く環境や現状、変遷を踏まえ、日本国内に限らず、大きな視野で「食」を捉え、幅広く「ヒトと食生活」「ヒトと栄養」「ヒトと食品」「ヒトと食の安全と衛生」をキーワードにライフステージにも留意し、最新の話題も交えながら総合的に授業展開する。
履修条件	高校までの総合家庭科の食関係領域と基礎的な生物、化学の知識を有していることが望ましい。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	家庭科教育並び食の専門家として、他者に正しく食の知識や現代課題を提示できる知識を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	家庭科教育並び食の専門家として、他者に正しく食の知識や現代課題を倫理的に提示できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	家庭科教育並び食の専門家として、他者に正しく食の知識や現代課題を倫理的、公平性をもち、提示できる。
技術・表現の観点 (A)	家庭科教育並び食の専門家として、他者に正しく食の知識や現代課題を提示できる文章を作成できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ヒトと食生活①	食情報と現代の食の課題について理解する。	事前配布資料を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第2回	ヒトと食生活②	日本の食文化と現代の食生活について理解する。	事前配布資料を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第3回	ヒトと食生活③	世界の食文化について理解する。	事前配布資料を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第4回	ヒトと食生活④	地域の食文化について理解する。	事前配布資料を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第5回	ヒトと栄養①	人体組成と栄養素のはたらき；炭水化物(糖質・食物繊維)について理解する。	事前配布資料を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第6回	ヒトと栄養②	人体組成と栄養素のはたらき；脂質・タンパク質について理解する。	事前配布資料を読んでおくこと。	予習90分、復習90分

第7回	ヒトと栄養 ③	人体組成と栄養素のはたらき；ビタミン・ミネラルについて理解する。	事前配布資料を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第8回	ヒトと栄養 ④	人体組成と栄養素のはたらき；水分・ファイトケミカルについて理解する。	事前配布資料を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第9回	ヒトと食品 ①	日本食品標準成分表と食事バランスガイドについて理解する。	事前配布資料を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第10回	ヒトと食品 ②	食品の特徴；分類と成分、表示について理解する。	事前配布資料を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第11回	ヒトと食品 ③	食品の特徴；植物性・動物性食品とその加工食品について理解する。	事前配布資料を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第12回	ヒトと食の 安全と衛生 ①	微生物的危険について理解する。	事前配布資料を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第13回	ヒトと食の 安全と衛生 ②	化学的危険について理解する。	事前配布資料を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第14回	ヒトと食の 安全と衛生 ③	安全管理手法について理解する。	事前配布資料を読んでおくこと。 課題レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
第15回	定期試験と まとめ	定期試験とまとめを行う。	第1回から第14回までを復習しておくこと。 課題レポートを作成すること。	予習90分、復習90分

学習計画注記	* 授業展開において、履修者数や授業進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業内において、必要事項を適宜、フィードバックします。また、質問等がある場合は町田校舎2308研究室へ訪問、もしくはメールにて連絡して下さい。訪問される際は事前にメールで連絡し、アポイントをとって下さい。
評価方法	課題レポート20%、定期試験（筆記試験）80%の総合評価（100%）

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題レポート	○	○	○	
定期試験（筆記試験）	○	○		

評価割合	課題レポート20%、定期試験（筆記試験）80%の総合評価（100%）とします。
使用教科書名 (ISBN番号)	なし 必要な資料を授業中に適宜、配布します。
参考図書	授業内で必要に応じて、適宜、紹介します。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 様々な立場を想定した食に関わる総合的な知識を他者に伝えることができる。 【思考・判断】 教員並びに食の専門家として倫理観を持って食に関する事項を遂行できる思考・判断力を身につける。 【関心・意欲・態度】 食に関わる事象を他者に正しく伝える対する倫理的素養を身につける。
オフィスアワー	水曜5限 2308研究室 授業前後、メール等で事前に予約と時間の承諾を得て下さい。
学生へのメッセージ	専門的な用語も出てきますが、食に関する専門教科への導入部分的内容となります。平成30年度以降の入学生生活デザイン学科履修者は中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状（家庭）のための必修科目となります。平成29年度以前入学の生活デザイン学科履修生は、中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状（家庭）のための選択科目となります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、授業展開を行う。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー		

教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	フードビジネス論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 山岡 義卓	指定なし

授業概要(教育目的)

フードビジネスの範囲は、農業・漁業、小売業、飲食業、流通業、医療福祉、情報産業など幅広い分野におよぶ。フードビジネスは、ライフスタイルの変容やグローバル化の進展など昨今の社会の変化に伴って拡大、発展してきた産業分野であるが、一方で、食の安全性の確保や食品ロスの増大といった諸問題とも深く関係している。本授業では、私たちの日々の生活と深く関わるフードビジネスについて、その普及の経緯と現代社会における役割や諸課題等を理解するとともに、今後、持続可能な社会を目指していくに際して、同産業のあり方や方向性について考える。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	フードビジネスの普及の経緯や役割、問題等を理解できるようになる。
思考・判断の観点 (K)	上記理解に基づき、持続可能な食の営みを目指すうえでフードビジネスの望ましいあり方や進むべき方向性を考究することができるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	消費者として、あるいは商品やサービスを提供する側の人間として、フードビジネスに関わる際には、短期的な視点からの消費者メリットやビジネス上のメリットだけでなく、長期的および倫理的な観点も考慮して相応しい考え方や行動ができるようになる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス：フードビジネスとは	シラバスに記載された本科目の目的や授業計画について理解し、学習領域であるフードビジネスの全体像を概観する。	フードビジネスの全体像(生産・加工・流通・消費)を概観したうえで自分自身が興味・関心のある分野を複数選び、どのようなフードビジネスの事例があるか調べ、意義や課題について考察する。	120分
第2回	私たちの暮らしとフードビジネス	フードビジネスをめぐる昨今の話題を題材にして、フードビジネスが私たちの暮らしとどのように関係しているかを理解する。	復習としてフードビジネスをめぐる昨今の話題(授業で取り上げた以外)をとりあげ、私たちの暮らしにどのように関係しているかを確認する。	180分
第3回	フードビジネスに関する	消費社会がの成り立ちを踏まえてフードビジネスと消費社会の関係を理解する。	復習として自分自身の日々の食品消費行動を振り返り、フード	180分

	る諸課題 ① 消費社会		ビジネスにどのような影響を及ぼすか確認する。	
第4回	フードビジネスに関する諸課題 ② グローバル化	グローバル化の進展の経緯を確認し、フードビジネスとグローバル化の関係について理解する。予習として新聞やニュース、インターネットにより食のグローバル化に関する昨今話題を調べておく。	復習として具体的な食品を題材に、グローバル化が進展することによる課題を解決するための方策を考察する。予習として新聞やニュース、インターネットにより食品の安全性に関する最近の話題を調べる。	180分
第5回	フードビジネスに関する諸課題 ③ 食の安全性	食の安全性に関する問題とフードビジネスの関係について理解する。	復習として食の安全性に関する諸課題を自分たち（消費者）の立場で解決できる方策を考察する。予習として新聞やニュース、インターネットにより食と環境問題に関する最近の話題を調べる。	180分
第6回	フードビジネスに関する諸課題 ④ 環境問題	環境問題とフードビジネスの関係について理解する。	復習として食に関する環境問題を自分たち（消費者）の立場で解決できる方策について考察する。予習として食品表示や食品営業に関する法規制について調べる。	180分
第7回	フードビジネスと関連法規 食品表示・食品営業	食品表示法をはじめとしたフードビジネスに関連する食品表示や食品営業に関する基本的な法規制を理解する。	復習として身近な食品の食品表示についてそれぞれの法律や規制に基づく表示なのかを確認する。予習として次回のケーススタディの事例について書籍やインターネットにより情報収集し、疑問点等を整理する。	180分
第8回	事例に見るフードビジネス① 生産	今回から4回にわたり各分野における先進的なフードビジネスのケーススタディ（事例研究）により、ディスカッションを通じて意義、課題、可能性等を理解する。第1回目は主に生産（農業）分野のフードビジネスを取り上げる。	復習として授業内でのディスカッションを振り返り、取り上げた事例の特徴を確認する。予習として次回のケーススタディの事例について書籍やインターネットにより情報収集し、疑問点等を整理する。	180分
第9回	事例に見るフードビジネス② 流通	フードビジネスのケーススタディ（事例研究）の第2回目として流通業を取り上げる。前回同様、ディスカッションを通じて意義、課題、可能性等を理解する。	復習として授業内でのディスカッションを振り返り、取り上げた事例の特徴を確認する。予習として次回のケーススタディの事例について書籍やインターネットにより情報収集し、疑問点等を整理する。	180分
第10回	事例に見るフードビジネス③ 飲食	フードビジネスのケーススタディ（事例研究）の第3回目として飲食業を取り上げる。前回同様、ディスカッションを通じて意義、課題、可能性等を理解する。	復習として授業内でのディスカッションを振り返り、取り上げた事例の特徴を確認する。予習として次回のケーススタディの事例について書籍やインターネットにより情報収集し、疑問点等を整理する。	180分
第11回	事例に見るフードビジネス④ 小売	フードビジネスのケーススタディ（事例研究）の第4回目として小売業を取り上げる。前回同様、ディスカッションを通じて意義、課題、可能性等を理解する。	復習として授業内でのディスカッションを振り返り、取り上げた事例の特徴を確認する。また、全3回のケーススタディを踏まえて、授業で取り上げた以外の先進的なフードビジネス事例を一つ以上選んで、事例の概要を説明したうえで、意義、課題、可能性等を論ずる。	240分
第12回	フードビジネスをつくってみる ①事業計画の作り方	これまでの学習を踏まえてこれから3回にわたり食に関するビジネスプラン（事業計画）を作成する。第1回目では事業計画の作り方を理解する。	復習として事業計画作成に必要な要素を整理し、事業計画作成に向けてフードビジネスのアイデアを3つ以上考える。	180分
第13回	フードビジネスをつくってみる ②事業計画作成	ビジネスプランづくりの2回目として、具体的なビジネスアイデアに基づき、グループワークによりプランの骨格を作成する。	作成したビジネスプランに基づき、インターネット等により関連情報（業界や市場、競合等）を収集し、次週のワークの材料とする。	180分
第14回	フードビジネスをつくってみる	前回作成したビジネスプランの骨格とその後収集した関連情報をもとに最終的なビジネスプランとしてプレゼン	授業内で作成したプレゼンテーション資料を脚色し、最終版を完成させる。	180分

	③プレゼン資料作成	テーション資料を作成する。引き続きグループワークで作業を行う。	
第15回	まとめ・振り返り	グループごとに作成したビジネスプランを発表し、課題や可能性等について意見交換する。これまでに学んだことを振り返り、学習目標の達成度を確認する。	授業全体を通して学んだことを振り返り、知識の定着を確認することはもちろん、自分自身が今後、どのようにフードビジネスに向き合っていきたいかを考える。 180分

学習計画注記 授業冒頭において10分程度の時間で前回の振り返りを行う。

学生へのフィードバック方法 講義形式の授業においては毎回の授業の最後に質疑応答の時間を設けてフィードバックの時間とする。後半のケーススタディにおいてはディスカッションを通じて学生の考えや意見に対してその場で随時フィードバックする。

評価方法 レポートは授業で学んだことを踏まえて今後のフードビジネスの望ましいあり方を論考する内容とする。レポート課題は8回目以降の授業内で提示する。
ワークは、ビジネスプラン作成のグループワークにおいて、理解力、発想力、課題解決力、思考力、チームワーク等により評価する。
平常点は授業内のディスカッション等における発言や質疑等に基づき理解度を確認し、評価する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート	○	○	○	
ワーク	○	○	○	
平常点	○	○	○	

評価割合 レポート40点、ワーク30点、平常点30点

使用教科書名 (ISBN番号) 特に指定しない。必要な文献や資料は授業の際に随時配付する。

ディプロマポリシーとの関連
 【知識・理解】グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができた、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。
 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任果たすことができる。

学生へのメッセージ フードビジネスに限らず、食に関するさまざまな社会問題、先進的な事例、政策や法律等に関する情報を積極的に収集するように心がけること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品メーカーにおいて商品開発に実務に携わった経験があり、また、現在もさまざまなフードビジネス事業者（生産、流通、小売等）との連携活動を行っている。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークによりビジネスプランを作成し、発表する。ケーススタディを通じてディスカッションを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	住居学概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小池 孝子	指定なし

ナンバリング	D11102M21
授業概要(教育目的)	住居全般についての基礎的知識を習得することを目的に、個人・家族の生活の拠点である住居について、様々な角度から検討を行う。 住居は個人や家族の生活の拠点であり、人間生活の最も基本的な場である。人間にとって住まいとは何かを考え、人間らしい生活を送るための空間としての住居のあり方について検討するための基礎的知識を講義する。建築製図の基本的な技術についての実習を含む。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	住居全般についての基礎的知識、住生活に関する諸問題を理解する。
思考・判断の観点 (K)	人間にとって住まいとは何かを考え、人間らしい生活を送るための空間としての住居のあり方について考察できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	個人・家族の生活の拠点である住居について、様々な角度からみた課題について検討を行うことができる。
技術・表現の観点 (A)	建築製図の基本的な技術を習得する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス・住居の機能	住居の備えるべき機能、住生活を構成する要素、生活行為と住空間の関係について学ぶ。	(復習) 自宅を事例として、住居の備えるべき機能について考える。	180分
第2回	寸法と空間	住宅内での生活行為とスケールの関係、住空間の配置とゾーニング、動線について学ぶ。	(復習) 自宅を事例として、スケール、ゾーニング、動線について考える。	180分
第3回	日本の住まいの変遷 (1) 明治時代以前	日本の住まい、住まい方の変遷について、古代～江戸時代までについて学ぶ。	(復習) 住まい、住まい方の変化と時代背景について考える。	180分
第4回	日本の住まいの変遷 (2) 明治時代以後・	日本の住まい、住まい方の変遷について、明治時代～昭和時代までについて学ぶ。	(復習) 住まい、住まい方の変化と時代背景について考える。	180分

	生活様式と住居			
第5回	現代の家族と住まい	少子化・高齢化など現代日本における家族の状況と、それに合わせて必要になる住まいについて学ぶ	(復習) 自分自身のライフサイクル、ライフコースと住居との関係について考える。	180分
第6回	日本の住宅政策	第二次世界大戦後の日本の住宅政策の展開について学ぶ。	(復習) 誘導居住面積水準、最低居住面積水準で示される面積について、自宅や住宅広告などを例に具体的な広さを体感する。	180分
第7回	住居の選択と管理	住居の選択に際して考慮に入れるべきこと、住居の管理と耐用年数との関係について学ぶ。	(復習) 自宅を事例として、住居の管理が適切に行われているか考える。	180分
第8回	住まいと環境	快適な住まいを実現するための温熱、光、音、空気、水などの住環境の調整方法について学ぶ。	(復習) 自宅での水道使用量について調べ、平均と比較しながら水の節約について考える。	180分
第9回	安心・安全な住まい	事故・災害、犯罪、健康被害などの建物の安全を脅かす事象とその防止法について学ぶ。	(復習) 自宅を事例に、災害への備えについて点検する。	180分
第10回	高齢者・障害者の住まい	高齢社会における住居について、ユニバーサルデザイン、バリアフリーの観点から学ぶ。	(復習) 自宅を事例に、バリアフリー化の状況について点検する。	180分
第11回	集まって住むということ	集合住宅に住む意義、集合住宅と街との関係性、集合住宅の供給形式について学ぶ。	(復習) 自分の住む町の大規模集合住宅と周辺との関係性について考える。	180分
第12回	住まいの設計／製図 (1) 図面作成のルール	住居の設計プロセス、建ぺい率、容積率について学ぶ。建築図面の種類、図面作成のルールについて学び、作図の実習をおこなう。	(復習) 授業時間内に指示する段階まで図面作成を進める。	180分
第13回	住まいの設計／製図 (2) 平面図の作成・生活行為と生活空間	生活行為と生活空間について考えながら平面図を読み解き、平面図の作図実習をおこなう。	(復習) 授業時間内に指示する段階まで図面作成を進める。	180分
第14回	住まいの設計／製図 (3) 配置図の作成・周辺環境との調和	住宅と周辺環境との調和を考えながら、配置図の作図実習をおこなう。	(復習) 図面を完成させる。	180分
第15回	まとめ・定期試験	製図課題の提出及び定期試験を行う。定期試験は、授業内容全般に関し、択一問題、穴埋め問題、語句の説明問題、考えを問う問題を出題する	(予習) 今までの授業内容を振り返る	180分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	小課題については、授業時間内に全体講評をおこなう。製図課題については、授業時間内に教員が巡回して指導をおこなう。質問を歓迎する。
評価方法	小課題は、授業時間内に実習課題として実施するものと、授業内に提示する資料をもとに授業内容を踏まえて自分の意見をまとめて記述するもの、合わせて6回程度の実施を予定している。授業内容の理解、意見の妥当性について評価する。 製図課題については、完成度により評価する。 定期試験は、授業で配付したプリントのみ持ち込み可能とし、択一問題、穴埋め問題、語句の説明問題、考えを問う問題を出題する。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小課題	○	○	○	
製図課題	○			○
定期試験	○	○	○	

評価割合	小課題30%、製図課題30%、定期試験40%により総合的に評価する。	
使用教科書名 (ISBN番号)	定行まり子「生活と住居」光生館	
参考図書	小澤紀美子ほか「豊かな住生活を考える－住居学」彰国社	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】「住」分野について、専門的知識・技術を有している</p> <p>【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる</p> <p>【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる</p> <p>【技能・表現】社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信するための基礎的な力を身につけている</p>	
オフィスアワー	金曜 3限 3508研究室	
学生へのメッセージ	家政学の他分野等との関連・連携を念頭に置き、広い視野に立ち問題を考えるよう心がけてください。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	建築史 A		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	4 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 大橋 竜太	指定なし

ナンバリング	D13202M21
授業概要(教育目的)	日本建築史の通史を学ぶ。主としてパワーポイントを用いながら、おのおの時代の建築を、タイプごとに、それらを代表する具体的な実例をいくつか取り上げながら、それぞれの建築の特徴を解説していく。また、意匠や技術的側面ばかりでなく、それぞれの建築のもつ社会的意義についても考察し、わが国の伝統文化を理解する。
履修条件	特に定めない

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	日本建築の構造、意匠の特徴を理解する
思考・判断の観点 (K)	既存の建築から建築の建てられた時代背景を考える力を習得する
関心・意欲・態度の観点 (V)	既存の歴史的建築物の存在意義について考える力を身に付ける
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション 日本建築の構造	建築史とは何か、建築史を学ぶ目的とは 木造軸組構造の基礎、部材の名称	授業で説明した用語を復習すること	120分
第2回	先史時代の建築	竪穴住居、高床住居	教科書第1部I「竪穴式住居と高床式建物」(pp.10-11)を読んでもらうこと	120分
第3回	神社建築の成立	住吉造、大社造、神明造	教科書第1部II「古代の神社建築」(pp.12-13)を読んでもらうこと	120分
第4回	仏教建築の伝来	飛鳥時代の仏教寺院の伽藍、法隆寺、奈良時代の寺院建築、組物の発達	教科書第1部III「仏教建築の伝来」(pp.14-15)を読んでもらうこと。また、授業で配布するプリント(組物について)の組物名称を覚えること	120分

第5回	古代の都市計画と寝殿造	条坊制、モヤ・ヒサン構造、寝殿造	教科書第1部IV「古代の都市計画と住宅」(pp.16-17)を読むこと	120分
第6回	平安時代の仏教建築	密教建築、浄土教の建築	教科書第1部V「浄土教の建築」(pp.18-19)を読むこと	120分
第7回	中世の神社建築	春日造、流造、拝殿や境内の整備	教科書第1部VII「中世の神社建築」(pp.24-25)を読むこと	120分
第8回	中世の仏教建築1	南都焼討と奈良の再建、大仏様、禅宗様	教科書第1部VI「中世の仏教建築」(pp.20-23)を読むこと	120分
第9回	中世の仏教建築2	和様、折衷様、構造技術の発達	教科書第1部VI「中世の仏教建築」(pp.20-23)を読むこと	120分
第10回	中世の住宅建築から書院造へ	寝殿造の簡略化、楼閣建築、座敷飾り、書院造	教科書第1部VIII「中世の住宅から書院造へ」(pp.26-27)を読むこと	120分
第11回	近世の都市と建築	城郭建築、茶室・数寄屋、近世社寺、新しい建築タイプの誕生	教科書第1部IX「城郭建築」(pp.28-29) IX「城郭建築」(pp.28-29) X「茶室と数寄屋」(pp.30-31) XI「近世の社寺建築」(pp.32-33)を読むこと	120分
第12回	民家建築	民家の種類、町屋、土蔵造	教科書第1部XII「民家」(pp.36-39)を読むこと	120分
第13回	西洋建築の移入	擬洋風建築、日本人建築家の誕生	教科書第2部I「西洋文化の移入」(pp.42-43) II「日本人建築家の誕生」(pp.44-46)を読むこと	120分
第14回	戦後の住宅建築と都市政策	同潤会アパート、公営住宅、住宅公団、ニュータウンの開発、nLDK住宅の誕生	教科書第2部IV「都市計画および構造技術の発達」(pp.48-49) VII「戦後の住宅政策とDK住宅の誕生」(pp.56-58)を読むこと	120分
第15回	わが国のモダニズム建築	わが国の近代建築運動、耐震建築の発達、メタポリズム	教科書第2部V「モダニズム建築の到来」(pp.50-53) VIII「日本建築界からの発信」(pp.59-61) IX「モダニズムの先を求めて」(pp.62-63)を読むこと	120分

学生へのフィードバック方法 学期内に2度に分けて、採点したレスポンスシートを返却する

評価方法

- ・毎回の授業の最後に10分程度で授業の概要をまとめ(レスポンスシート)、提出する。これにより、授業内容の把握状況を判断する。また、受講生の多くが十分に理解していないと判断した場合には、次回の授業の最初に、復習を行う
- ・定期試験は、大問5題と小問10題を出題する。大問は記述方式で、建築様式や重要項目に関して、関連事項とともに説明することを要求する。小問では、用語の説明、著名建築の説明、等を出題する。特に、建築を理解したり説明したりするためには、部材名称を覚えることが必須となるため、部材名称が説明できるようにしておくことが望まれる

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レスポンスシート	○	○		
定期試験	○	○	○	

評価割合 授業態度(レスポンスシートで判断)50%および定期試験50%で評価する

使用教科書名(ISBN番号) 「建築史」編纂委員会編著、『コンパクト版 建築史【日本・西洋】』、彰国社 (ISBN:978-4-395-00876-6)

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】「住」の分野について、専門的知識を有している

	<p>【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し考察することができる</p> <p>【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる</p>															
オフィスアワー	水曜3限 3509室															
学生へのメッセージ	建築を学ぶためには、建築を実際に見て、空間を体験することがもっともよい方法です。授業で知った建築を、チャンスがあったら見に行く とよいでしょう。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング			情報リテラシー教育			ICT活用		
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業																
アクティブ・ラーニング																
情報リテラシー教育																
ICT活用																

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	建築史 B		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	1 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2,3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 大橋 竜太	指定なし

ナンバリング	D23203M21
授業概要(教育目的)	西洋建築史の通史を学ぶ。主としてパワーポイントを用いながら、おのおのの時代の建築を、タイプごとに、それらを代表する具体的な実例をいくつか取り上げながら、それぞれの建築の特徴を解説していく。また、意匠や技術的側面ばかりでなく、それぞれの建築のもつ社会的意義についても学び、建築やそこで行われる生活を通して、各国の伝統文化の理解を深める。
履修条件	特に定めない

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	西洋建築の構造、意匠の特徴を理解する
思考・判断の観点 (K)	既存の建築から建築の建てられた時代背景を考える力を習得する
関心・意欲・態度の観点 (V)	既存の歴史的建築物の存在意義について考える力を身に付ける
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション 先史時代の建築	ラスコー洞窟、ストーンヘンジ、ルドルフスキー『建築家なしの建築』	図書館で西洋建築史の通史数冊の目次をみて、この授業で何を学ぶかを把握すること	120分
第2回	古代エジプトとオリエントの建築	マスタバ、ピラミッド、スフィンクス、オベリスク、エジプト神殿、ジグurat、宮殿建築、アーチ構造	教科書第3部I「エジプト建築」(pp.66-67)II「オリエント建築」(pp.68-69)を読んでおくこと	120分
第3回	ギリシア建築	クレタ島とミュケナイの建築、ギリシア神殿、アクロポリスとアゴラ、オーダーの誕生(ドリス式、イオニア式、コリント式)	教科書第3部III「ギリシア建築」(pp.70-75)を読んでおくこと	120分
第4回	ローマ建築	5つのオーダーの完成、ローマの神殿、フォルム、公共建築、世俗建築、アトリウム型住宅	教科書第3部IV「ローマ建築」(pp.76-79)を読んでおくこと	120分
第5回	初期キリス	旧サン・ピエトロ大聖堂、集中式教会堂と長堂式教会	教科書第3部V「初期キリスト	120分

	ト教建築 ビザンティン建築	堂、ドームの発達（スキンチ、トロンブ、ペンデンティヴ）、ハギア・ソフィア大聖堂	教建築」(pp.80-81) VI「ビザンティン建築」(pp.82-83)を読んでもおくこと	
第6回	ロマネスク建築	修道院の建築、巡礼路教会、各国のロマネスク教会堂	教科書第3部VIII「ロマネスク建築」(pp.86-89)を読んでもおくこと	120分
第7回	ゴシック建築	ゴシック建築の特徴、構造の発達、各国のゴシック建築	教科書第3部IX「ゴシック建築」(pp.90-94)を読んでもおくこと	120分
第8回	中世の都市と世俗建築	中世都市の特徴、城郭建築、町屋、民家（ハーフ・ティンバー等）	教科書第3部X「中世の世俗建築」(pp.94-95)を読んでもおくこと	120分
第9回	ルネサンス建築	ルネサンス建築の特徴（古典様式の復興、教会堂建築の課題）、パラッツォとヴィッラ、フィレンツェの建築、ローマの建築、マニエリスム建築、ルネサンス建築の派生、パラディオの建築	教科書第3部XI「ルネサンス建築」(pp.96-100)を読んでもおくこと	120分
第10回	バロック建築	サン・ピエトロ大聖堂の建替、ベルニーニとポロツミーニ、バロック建築の特徴、絶対王政と王宮建築	教科書第3部XII「バロック建築」(pp.101-107)を読んでもおくこと	120分
第11回	近代と建築界	建築界と近代、啓蒙主義と建築、リヴァイヴァル建築、新古典主義とゴシック・リヴァイヴァル	教科書第3部XIII「リヴァイヴァル建築」(pp.108-111)を読んでもおくこと	120分
第12回	新材料を用いた建築	鉄・ガラス・コンクリートの建築、土木構築物、アイアン・ブリッジ、温室、クリスタル・パレス	教科書第4部I「新材料を用いた構築物」(pp.114-115)を読んでもおくこと	120分
第13回	近代の都市・住宅問題	産業革命の弊害としての都市問題、慈善家による住宅建設、モデル住宅、企業都市、ユートピア思想、郊外住宅地、田園都市論、ニュータウン	教科書第4部II「都市問題・住宅問題」(pp.116-118)を読んでもおくこと	120分
第14回	近代建築運動	アーツ・アンド・クラフツ運動、アール・ヌーヴォー、アール・デコ、セセッション、シカゴ派、ドイツ工作連盟、ドイツ表現主義、イタリア未来派、ロシア構成主義、ディ・ステイル、バウハウス	教科書第4部III「アーツ・アンド・クラフツ運動」、IV「アール・ヌーヴォー」、V「アメリカ建築の近代化」、VI「セセッション」(pp.118-127)ならびにVIII「ドイツ工作連盟」、IX「近代建築運動」(pp.130-133)、XI「アール・デコとスカスケレイパー」(p.141)を読んでもおくこと	120分
第15回	モダニズム建築の完成と流布	モダニズム建築、CIAM、ル・コルビュジェ、ミース・ファン・デル・ローエ、ウォルター・グロピウス、フランク・ロイド・ライト、ポスト・モダニズム建築	教科書第4部X「モダニズム建築の完成と流布」(pp.134-140) XII「第二次世界大戦後の建築」(pp.142-143) XIII「ポスト・モダニズム建築」(pp.144-145)を読んでもおくこと	120分

学生へのフィードバック方法	学期内に2度に分けて、採点したレスポンスシートを返却する			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業の最後に10分程度で授業の概要をまとめ（レスポンスシート）、提出する。これにより、授業内容の把握状況を判断する。また、受講生の多くが十分に理解していないと判断した場合には、次回の授業の最初に、復習を行う ・定期試験は、大問5題と小問10題を出題する。大問は記述方式で、建築様式や重要項目に関して、関連事項とともに説明することを要求する。小問では、用語の説明、著名建築の説明、等を出題する。特に、建築を理解したり説明したりするためには、部材名称を覚えることが必須となるため、部材名称が説明できるようにしておくことが望まれる 			
評価基準	評価基準			
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レスポンスシート	○	○		
定期試験	○	○	○	
評価割合	授業態度（レスポンスシートで判断）50%および定期試験50%で評価する			
使用教科書名 (ISBN番号)	『建築史』編纂委員会編著、『コンパクト版 建築史【日本・西洋】』、彰国社 (ISBN : 978-4-395-00876-6)			

参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】「住」の分野について、専門的知識を有している。グローバルな視点から専門分野の知識を深めて理解する</p> <p>【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し考察することができる</p> <p>【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる</p>
オフィスアワー	水曜2限 3509室
学生へのメッセージ	建築を学ぶためには、建築を実際に見て、空間を体験することがもっともよい方法です。授業で知った建築を、チャンスがあったら見に行くといよいでしょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	住生活論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小池 孝子	指定なし
准教授	深石 圭子	指定なし

ナンバリング	D13201M21
授業概要(教育目的)	住生活および住環境について、現代における問題点を理解し、その解決方法について検討する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	住生活について科学的に分析し理解するための基礎知識を身に付ける
思考・判断の観点 (K)	住生活について科学的に分析し理解する能力を身に付ける
関心・意欲・態度の観点 (V)	住生活に関する課題の発見能力・問題解決能力を養う
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

授業計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	参考書や建築関連書籍、建築雑誌等、住・建築関連の資料を知ること、情報の活用の仕方を学ぶ 建築系の資格についても簡単に説明できるようにする	(予習) 建築系の資格について、どのようなものがあるのか、を調べ理解しておく	180分
第2回	敷地の把握と機能図	住宅が建設されるまでの流れを理解する また、機能図の表現の仕方を学ぶ	(復習) 一定の条件の元、機能図で室のつながり等を図に書いて理解する(小課題)	180分
第3回	ゾーニングと動線	使いやすい住宅とは何かを考察し、住宅としての室の配置やつながりの重要性を理解する 住宅における動線の種類や、室の構成要素、空間構成の一例を理解する	(復習) 空間構成について再確認し、イメージが湧くよう、具体的事例を雑誌やweb等で見しておく	180分
第4回	尺度	尺度の概念の理解し、説明ができる 三角スケールの使い方を習得することで、スケール感覚を身に垂付ける	(復習) 授業終了時に配布する模範解答に三角スケールを当て、なぜその解答になるのかを再確認する	180分

		また、図面のコピー倍率の計算方法も理解する（小課題）	（三角スケールを持っていない学生に対しては、貸出しを行う）	
第5回	木造在来軸組工法（平屋）の部材名称と施工順序	配布する課題プリントを基に、木造在来軸組工法の概要と、平屋の地盤調査から屋根工事までの建て方を理解し、矩計図や軸組模型を参考に、使われている部材名称やその役目についても把握する プリントの部材を着彩することで、視覚的に理解できる（小課題）	色鉛筆（12色以上）を持参する（復習）授業内に着彩した部材の図面と施工写真、軸組のアイソメ図を見比べながら、部材名称と役割を再確認する	180分
第6回	木造在来軸組工法（2階建）の部材名称と施工順序	配布する課題プリントを基に、木造在来軸組工法の概要と2階建ての2階床木工事から屋根工事までの建て方を理解し、矩計図や軸組模型を参考に、使われている部材名称やその役目についても把握する プリントの部材を着彩することで、視覚的に理解する（小課題）	色鉛筆（12色以上）を持参する（復習）授業内に着彩した部材の図面と施工写真、軸組のアイソメ図を見比べながら、部材名称と役割を再確認する	180分
第7回	階段の構造・種類・各部名称・寸法	階段の種類や各部の名称、構造を理解し、一定の条件のもと、図面としての階段の表現ができるようになる	三角スケールを持っている場合は、持参する（予習）身近にある階段の実物をよく観察し、構造を理解しておく	180分
第8回	直階段	直階段の構造を立体的に把握し、図面での階段表現方法を理解する 課題プリントを用いて、一定の条件の元、階段の平面図・断面図を作図する（小課題）	三角スケールを持っている場合は、持参すること（復習）授業終了後に配布する模範解答と自分の解答を見比べながら、表記の方法などの再確認をする	180分
第9回	折り返し階段	折り返し階段の構造を立体的に把握し、図面での階段表現方法を理解する また、課題プリントを用いて、一定の条件の元、階段の平面図・断面図を作図する 授業回数1回目から9回目までの振り返り、定期試験の出題傾向を理解する（小課題）	三角スケールを持っている場合は、定期試験時に持参する（復習）授業終了後に配布する模範解答と自分の解答を見比べながら、表記の方法などの再確認する	180分
第10回	住まいの管理	住生活基本法の基本理念、日本の住宅の整備状況、住まいの老朽化対策について学ぶ	（復習）住生活基本法について、授業で取り上げなかった項目についても含め全体像を理解する	120分
第11回	集合住宅の管理	集合住宅の管理に関する法律、現代における課題について理解する	（復習）区分所有法に関して全体像を理解する	120分
第12回	居住地の管理	良好な居住環境形成のための居住地管理について理解する	（復習）自分の住む地域でおこなわれているまちづくり活動について調べる	120分
第13回	空き家問題	日本の人口構造の変化に伴う空き家問題について理解する	（復習）自分の住む地域の空き家の状況について考える （レポート課題 1/2）空き家問題に関するレポート課題に取り組む	120分 +レポート180分
第14回	福祉と住まい	国、地方自治体が実施している居住支援について学ぶ	（復習）自分の住む自治体で実施されている居住支援策について調べる （レポート課題 2/2）空き家問題に関するレポート課題に取り組む	120分 +レポート180分
第15回	子どもと住まい	社会・家族のあり方の変化に伴う住まいの変容について、子どものための居住環境という視点から学ぶ	（復習）自分の住む地域における子どもの居住環境について考える	復習 120分
第16回	定期試験	単語や数値、簡単な図面の読み書きができるかどうかを問う内容		

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	小課題は、添削し返却、若しくは模範解答の配布を行う。 実施した小レポートについては、次回授業時に全体講評を行う。 期末レポートについては採点后にコメントを付けて返却する。
評価方法	小課題は、授業の進行と同時に取り組み、より授業内容を深めるために行い、6回実施する。 定期試験は、100点満点で出題し、課題プリントの内容も含む。単語や数値、簡単な図面の読み書きができるかどうかを問う内容とし、問題出題の傾向については、9回目の授業後半で説明する。 小レポートは、10～15回の授業内に提示する資料をもとに授業内容を踏まえて自分の意見をまとめて記述する。 授業内容の理解、意見の妥当性について評価する。 期末レポートは、授業で得られた知識をもとに情報収集をおこない、発見した課題について自分の意見をまとめて記述する。情報収集・整理は十分か、課題解決案は適切か、結論に至る筋道に論理性があるかについて評価する。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小課題	○	○		
定期試験	○	○	○	
小レポート	○	○		
期末レポート	○	○	○	
評価割合	小課題20%、定期試験30%、小レポート20%、期末レポート30%により総合的に評価する。			
使用教科書名 (ISBN番号)	特にテキストは指定しない。			
参考図書	定行まり子「生活と住居」光生館 小澤紀美子ほか「豊かな住生活を考える－住居学」彰国社 その他、必要に応じ、参考になる資料を配布する。			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」の分野 について、専門的知識・技術を有している 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる			
オフィスアワー	金曜 4 時限 3508研究室 (小池) 金曜 4 時限 3512研究室 (深石)			
学生へのメッセージ	身の回りに存在する住生活に関する諸問題への関心をもつこと。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	住居設備		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 梶田 考一	指定なし

ナンバリング	D23210M21
授業概要(教育目的)	私たちが生活する住まいは様々な設備システムを維持管理することによって成り立っている。その設備システムには、快適性、利便性、機能性、安全性、信頼性、経済性、省エネ・省資源、環境安全性、保守管理性が求められており、住居を供給する立場からも、生活者としても、それらを適切に評価できる能力を身につける必要がある。受講者が住居において使用する、給排水衛生設備、換気設備について講義する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	[建築士指定科目] 住まいの給排水衛生設備システムについて、その名称、働きを説明できる。
思考・判断の観点(K)	
関心・意欲・態度の観点(V)	
技術・表現の観点(A)	

学習計画

住居設備

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業計画 (配布資料) 建築設備の位置付けについて理解する。 戸建住宅の建築設備/住宅で 사용되는エネルギーの種類/建築士の仕事(映像資料)	建築設備の位置付けについて復習すること	60
第2回	住居設備の概要	設備システムから見た戸建住宅と集合住宅の違いについて理解する。 (配布資料) すまいの「水・お湯」のしくみ/すまいの「空気・熱」のしくみ/ビルの「給排水・衛生」のしくみ/ビルの「空調」のしくみ/インテリアコーディネーターの仕事(映像資料)	水、湯、熱の供給廃棄のしくみについて復習すること	60
第3回	建築と水環境(1)	水環境について理解する。 快適な水環境をつくるもの/水の流れ/都市設備と建築	教科書p.102-110(水環境・水の用途)について読んでおくこ	180

		設備/建築設備と自然環境/自然にやさしい再利用水	と	
第4回	建築と水環境 (2)	水の用途について理解する。 水と生活/生命維持のための水/水の用途と設備 給排水衛生設備 上水 雑用水/生活用水と使用水量	水の用途について復習すること	120
第5回	水に関する基礎知識 (1)	水質、給水圧力について理解する。 水質/上水、下水、再利用水/おいしい水、湯(定義、洗浄力)、浄水器 残留塩素 水に対する溶解度 水と圧力/圧力の単位/ベルヌーイの式	教科書p.111-120(水に関する基礎知識)について読んでおくこと	180
第6回	水に関する基礎知識 (2)	トラップの機能、破封現象、水使用の負荷について理解する。 トラップの機能/封水損失現象とその防止対策/誘導サイホン作用 自己サイホン作用 蒸発 水の使われ方と負荷/水使用パターンとピーク負荷/適正器具数	課題1(水基礎知識)による復習	120
第7回	給水設備 (1)	給水の汚染防止について理解する。 安全な水/飲料用給水の汚染と防止/クロスコネクション 逆サイホン作用 吐水口空間 バキュームブレイカー 逆止弁 受水槽の6面点検 器具の汚染と防止/間接排水 排水口空間	教科書p.121-125(給水設備)について読んでおくこと	180
第8回	給水設備 (2)	給水方式について理解する。 システムの種類/器具の必要給水圧力/直結直圧方式 直結増圧方式 高置水槽方式 圧力水槽方式 ポンプ直送方式 システムの構成/ポンプ 水槽 配管材料	課題2(給水設備)による復習	120
第9回	給湯設備 (1)	給湯熱源の仕組みについて理解する。 湯と水の違い/給湯エネルギー/住宅のエネルギー消費熱源とシステム機器/自然冷媒ヒートポンプ給湯器 潜熱回収型ガス瞬間湯沸器 ハイブリット型給湯器 太陽熱温水器	教科書p.126-129(給湯設備)について読んでおくこと	180
第10回	給湯設備 (2)	給湯方式について理解する。 システムの種類/住戸セントラル給湯方式 さや管ヘッダー配管方式 中央式給湯方式 システムの構成/湯沸器 貯湯槽 膨張水槽 逃し管 伸縮継手	課題3(給湯設備)による復習	120
第11回	排水通気設備 (1)	排水の仕組みについて理解する。 排水管内の流れ/圧力発生原理/特殊継手排水システム/排水の種類と排水方式	教科書p.130-136(排水通気設備)について読んでおくこと	180
第12回	排水通気設備 (2)	排水の円滑な流れについて理解する。 システムの部品構成/ベントキャップ/排水管・継手類/フロアドレン/阻集器/排水ます・排水槽	課題4(排水通気設備)による復習	120
第13回	衛生設備	衛生器具の種類について理解する。 衛生器具の種類/給水器具 水受け容器 排水器具 付属品 プレハブ ユニット化 水栓金具/大便器/洗面化粧台/浴槽/流し類/排水器具	教科書p.137-141(衛生設備)について読んでおくこと 課題5レポート「キッチン・洗面・浴室・トイレの製品特徴・選択理由・設置寸法を調べる」による復習	90 690
第14回	浄化設備・ガス設備	浄化槽、ガス設備について理解する。 浄化槽の役割/設置基準/処理方式/構造 ガス利用の歴史/都市ガスとLPG/ガスの性質/供給方式/設備設計/安全対策	教科書p.142-151(浄化設備・ガス設備)について読んでおくこと 配布資料(ガス設備の燃焼方式)について復習すること	90 60
第15回	換気設備	換気設備について理解する。 換気方式と換気量/シックハウス対策と24時間換気/換気の法的規制	教科書p.87-95(換気設備)について読んでおくこと 換気の方式について復習すること	90 60

学生へのフィードバック方法 すべての課題について、採点の後、授業中に解説を行う。

評価方法

- ・課題は、二級建築士試験に出題された過去問より抽出した文章について、正誤を問う形式である。
- ・レポートは、衛生器具設備(キッチン・洗面・浴室・トイレ)の製品特徴・選択理由・設置寸法についてシヨールームあるいはカタログで調べる課題である。
- ・定期試験は、課題の間を多肢択一で選ぶ設問がおおよそ60%、教科書・配布資料から作成した問を多肢択一で選ぶ設問がおおよそ40%である。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			

課題	○			
レポート	○			

評価割合	定期試験(70%)、レポート及び課題(30%)による総合評価
使用教科書名(ISBN番号)	「建築の設備」入門 新訂第二版/同編集委員会編/彰国社/2017年 978-4-395-32095-0
ディプロマポリシーとの関連	現代家政学科 [知識・理解] 社会の基盤として「質の高い生活」とは何かを理解できる。 生活デザイン学科 [知識・理解] 住分野について専門的知識を有して、専門的な職業の道へつなぐことができる。
オフィスアワー	千代田三番町C 火曜5限 1807室 / 町田C 金曜3限 3604室
学生へのメッセージ	建築士試験指定科目 ④建築設備 に認定。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	構造力学 A		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 西村 彰敏	指定なし
教授	小池 孝子	指定なし

ナンバリング	D23301M21
授業概要(教育目的)	建築(住居)における力学について講義する。構造力学Aは初学者向けの入門編である。単純な構造(単純梁、片持ち梁)を通して、力の性質・力の種類・力の釣り合い・構造物の表現・反力計算・応力計算・応力図を理解し力学に対する興味を喚起する。また、基礎編の構造力学Bに向け、事象に対する力学的な思考力の育成を目指す。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 反力(支点に作用する力)と応力(部材に作用する力)の計算ができる 2. 応力図(軸方向力図、せん断力図、モーメント図)を描くことができる
思考・判断の観点 (K)	1. 力の釣り合いを正しく理解し説明できる 2. 反力と応力の違いを正しく理解し説明できる 3. 応力図の意味を正しく理解し説明できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

構造力学A

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	力の性質1	1. 力とは(力の3要素) 2. 力の演算(符号、力の和と差) 3. 力の単位(SI単位系) 4. 数学の基礎(スカラーとベクトル)	参考書P8~11を読んでおくこと 又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第2回	力の性質2	1. 力の合成と分解(同一作用線上の力の合成, 同一作用線上にない力の合成) 2. 生活における力の合成と分解 3. 数学の基礎(三角関数, 単位円)	参考書P12~28を読んでおくこと 又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第3回	力の性質3	1. 力のモーメント	参考書P29~38を読んでおくこと	180分

		2. 生活におけるちからのモーメント 3. 偶力(偶力とは、偶力の性質) 4. バリニオンの定理	と又は相当する内容を学習しておくこと	
第4回	構造物の表現と種類	1. 構造のモデル化とは 2. 節点の種類(剛節点、滑節点) 3. 支点の種類(移動端、回転端、固定端) 4. 荷重の種類(集中荷重、等分布荷重、等変分布荷重、モーメント荷重)	参考書P40～51を読んでおくこと と又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第5回	力のつり合い(反力1)	1. 反力とは 2. 力のつり合いとは 3. 力のつり合い条件(2力のつり合い、3力のつり合い) 4. 反力の求め方	参考書P54～66を読んでおくこと と又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第6回	力のつり合い(反力2)	1. 反力の求め方(復習) 2. 力のつり合い(復習) 3. 力の合成と分解(復習) 4. 支点の種類(復習) 5. 集中荷重が作用する片持梁の反力計算 6. 集中荷重が作用する単純梁の反力計算	参考書P54～66を読んでおくこと と又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第7回	力のつり合い(反力3)	1. モーメント力(復習) 2. 生活におけるモーメント力(事例) 3. モーメント荷重が作用する片持梁の反力計算 4. モーメント荷重が作用する単純梁の反力計算	参考書P54～66を読んでおくこと と又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第8回	力のつり合い(反力4)	1. 合力とは、重心とは 2. 合力と重心の考え方 3. 等分布荷重または等変分布荷重が作用する片持梁の反力計算 4. 等分布荷重または等変分布荷重が作用する単純梁の反力計算	参考書P54～66を読んでおくこと と又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第9回	力のつり合い(応力1)	1. 応力とは 2. 反力と応力の違い 3. 応力の種類(軸方向力、せん断力、曲げモーメント) 4. 応力の描き方(N図、Q図、M図)	参考書P67～113を読んでおくこと と又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第10回	力のつり合い(応力2)	1. 反力計算(復習) 2. 切断法の考え方 3. 集中荷重が作用する片持梁の応力計算 4. 集中荷重が作用する単純梁の応力計算	参考書P67～113を読んでおくこと と又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第11回	力のつり合い(応力3)	1. 力のつり合い(復習) 2. 切断法の考え方(復習) 3. モーメント荷重が作用する片持梁の応力計算 4. モーメント荷重が作用する単純梁の応力計算	参考書P67～113を読んでおくこと と又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第12回	力のつり合い(応力4)	1. 合力の考え方(復習) 2. 等分布荷重と等変分布荷重が作用する片持梁の応力計算 3. 等分布荷重と等変分布荷重が作用する単純梁の応力計算 4. 数学の基礎(2次関数、極値)	参考書P67～113を読んでおくこと と又は相当する内容を学習しておくこと	180分
第13回	力学演習1	1. 反力計算の演習(建築士試験問題) 2. ディスカッション 3. 演習問題の解説	授業の第1～8回を復習しておくこと	180分
第14回	力学演習2	1. 応力計算の演習(建築士試験問題) 2. ディスカッション 3. 演習問題の解説	授業の第9～12回を復習しておくこと	180分
第15回	授業の振り返り	1. 理解度の確認 2. 授業内容の総括	授業の第1～14回を復習しておくこと	180分

学生へのフィードバック方法	小レポートは採点し、次週の授業で返却する。 授業中に質問の時間を設ける(当日理解が原則)。
評価方法	小レポートの提出は、授業終了後とする(毎回)。 小レポートの内容は、当日授業のまとめとする(板書を基準に自らの考えも含めること)。 定期テストは、学習目標に対する習熟度が判定できる内容とする。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小レポート	○	○		
定期テスト	○	○		

評価割合	小レポート(40%)、定期テスト(60%)で評価する
使用教科書名(ISBN番号)	特に指定しない
参考図書	力のつり合いを理解する構造力学, 彰国社
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」分野 について、専門的知識を有している 【思考・判断】 各種の多様な情報を客観的に理解し判断できる
学生へのメッセージ	講義内容を自ら確認するため、各講義時間の中で15~30分程度の演習時間を設ける(質問等は演習時間に随時受け付ける)。演習課題は次回の講義で解説するので、各自復習しておくこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	構造計画		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 西村 彰敏	指定なし
教授	小池 孝子	指定なし

ナンバリング	D33306M21
授業概要(教育目的)	構造設計例を通して建築(住居)構造計画に対する興味を喚起し、構造計画を学ぶ能力の育成を目的とする。本科目は初学者を対象とし、木造、RC造、S造の構造設計に共通する項目を題材とする。また、構造力学と構造計画の知識を意匠設計に活かすための基本的な力を身に付ける。
履修条件	構造力学AとBを履修していること
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	構造力学と構造計画の知識を意匠設計に活かすための基本的な計算ができる
思考・判断の観点(K)	構造力学と構造計画の知識を意匠設計に活かすための概念が理解できる
関心・意欲・態度の観点(V)	
技術・表現の観点(A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	構造設計法1	構造設計の概要	構造力学の復習をしておくこと	180分
第2回	構造設計法2	構造力学と構造設計	第1回目の復習をしておくこと 板書する課題に取り組むこと	180分
第3回	構造設計法3	構造設計の流れ	第2回目の復習をしておくこと 板書する課題に取り組むこと	180分
第4回	耐力要素1	耐力要素の種類と考え方	第3回目の復習をしておくこと 板書する課題に取り組むこと	180分
第5回	耐力要素2	耐力要素の設計例	第4回目の復習をしておくこと 板書する課題に取り組むこと	180分
第6回	平面・立面的配置バラ	耐力要素の配置バランスの考え方	第5回目の復習をしておくこと 板書する課題に取り組むこと	180分

	ンス1			
第7回	平面・立面的配置バランス2	大量様相の配置バランスの設計例	第6回目の復習をしておくこと 板書する課題を取り組むこと	180分
第8回	継手と接合部1	継ぎ手・接合部の種類と考え方	第7回目の復習をしておくこと 板書する課題を取り組むこと	180分
第9回	継手と接合部2	継ぎ手・接合部の設計例	第8回目の復習をしておくこと 板書する課題を取り組むこと	180分
第10回	各種構造1	RC造とS造の特徴	第9回目の復習をしておくこと 板書する課題を取り組むこと	180分
第11回	各種構造2	木造とその他構造の特徴	第10回目の復習をしておくこと 板書する課題を取り組むこと	180分
第12回	演習1	構造設計の演習（1回目）	第1～11回目の復習をしておくこと	180分
第13回	演習2	構造設計の演習（2回目）	第1～11回目の復習をしておくこと	180分
第14回	演習3	構造設計の演習（3回目）	第1～11回目の復習をしておくこと	180分
第15回	授業の振り返り	1. 理解度の確認 2. 授業内容の総括	授業の第1～14回を復習しておくこと	180分

学生へのフィードバック方法	小レポートは採点し、次週の授業で返却する。 授業中に質問の時間を設ける（当日理解が原則）。
評価方法	小レポートの提出は、授業終了後とする（毎回）。 小レポートの内容は、当日授業のまとめとする（板書を基準に自らの考えも含めること）。 最終レポートは、学習目標に対する習熟度が判定できる内容とする。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小レポート	○	○		
最終レポート	○	○		

評価割合	小レポート(40%)、最終レポート(60%)で評価する
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない
参考図書	特に指定しない
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」分野 について、専門的知識を有している 【思考・判断】 各種の多様な情報を客観的に理解し判断できる
学生へのメッセージ	講義内容を自ら確認するため、各講義時間の中で15～30分程度の演習時間を設ける（質問等は演習時間に随時受け付ける）。 演習課題は次回の講義で解説するので、各自復習しておくこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	インテリア材料		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 白井 篤	指定なし

ナンバリング	D23307M21
授業概要(教育目的)	建築材料の中から、インテリアを中心とした仕上げ材料(壁材料、天井材料、床材料など)を取り上げて、それらの材料(せっこうボード、繊維補強系ボード、軽量気泡コンクリート、タイル、れんが、石材、ガラス、塗料、断熱材、接着剤、プラスチックなど)の基本的事項を平易に解説する。また、インテリア材料は構造材料とは異なり、安全性や耐久性以外に、機能性、快適性、美観性などの性能も要求される。そこで、各部位に要求される性能条件と材料との関連性を理解させると共に、建築仕上げ材料選定にあたっての基礎的知識を養う。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	各種の建築仕上げ材料について、その基本的事項(種類、性質など)を説明できる。
思考・判断の観点(K)	
関心・意欲・態度の観点(V)	
技術・表現の観点(A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業概要、授業の進め方、到達目標、必要とする教室外学習、成績評価の方法・基準などについて理解すること。 【レポート課題(繊維板の種類とその特徴について)の説明】	【復習】ガイダンス(第1回の授業)で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すると共に、レポート課題に関する資料集めを行う。	180
第2回	屋根材料 (1) 粘土瓦	粘土瓦(釉薬瓦、無釉瓦、いぶし瓦など)の種類や特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、レポート課題を書き始める。	240
第3回	屋根材料 (2) 金属板	金属板(トタン、ブリキ、ガルファン、ガルバリウム鋼板など)の特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて	300

	属板		理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、レポート課題についてまとめる作業を行う。	
第4回	屋根材料 (3) スレートなど	住宅屋根用化粧スレート、プレスセメント瓦などの特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、作成したレポート課題についてルーブリックで示した観点に沿ってまとめられているか、再度、読み返し、提出できるようにする。	360
第5回	内外装仕上げ材料 (1) せっこうボード	せっこうボードの特徴や種類について説明できるようにすること。 【レポート課題の提出】	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第6回	内外装仕上げ材料 (2) 木質系材料	木質系材料（合板、集成材、繊維板、パーティクルボードなど）の種類や特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テスト及びレポート課題について見返すこと。	180
第7回	内外装仕上げ材料 (3) 繊維補強系ボード	繊維補強系ボードの種類やその特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第8回	内外装仕上げ材料 (4) 軽量気泡コンクリート	軽量気泡コンクリートの特徴、壁への熱の伝わり方（熱伝導、熱伝達、熱貫流）及び不燃、準不燃、難燃材料の違いについて説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第9回	内外装仕上げ材料 (5) タイル	タイルの種類(素地による区分) やその特徴について説明する。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第10回	内外装仕上げ材料 (6) れんが	れんがの種類とその特徴、及び目地の種類について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第11回	内外装仕上げ材料 (7) 石材	石材の種類とその特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第12回	内外装仕上げ材料 (8) 左官材料	左官材料の種類とその特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第13回	内外装仕上げ材料 (9) ガラス	ガラスの種類とその特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第14回	その他の材料 (1) 塗装材料	塗装材料（塗料）の種類とその特徴について説明できるようにすること。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すること。	120
第15回	その他の材料 (2) 接着剤・断熱材料	接着剤及び断熱材料の種類とその特徴について説明できるようにすること。 授業の最後に定期試験について説明する。	【予習】授業予定表に記載した「キーワード」について調べて理解すること。 【復習】返却した小テストについて復習すると共に、定期試験に備えて第1回から第15回まで	360

					の授業内容について復習しておくこと。																														
学生へのフィードバック方法	実施した小テスト及びレポート課題については、採点して次週の授業の初めに返却する。返却時に、小テストについては正答の説明を、レポート課題については評価基準の解説を行う。																																		
評価方法	平常点については、授業の最後に行う小テストで評価する。小テストの問題は、○×問題もしくは択一問題である。問題の多くは、過去のインテリアコーディネーター及び二級建築士資格試験で出されたもので、授業時の内容8割、授業外学習の内容2割である。1回の授業の平常点は10点満点とし、小テストの正答率によって3段階（A:10点、B:5点、C:0点）で評価する。レポート課題については、「課題に対する記述」「表現方法」「文章を書くときの技術的な約束事」「参考文献の活用」「その他（提出期限、分量、体裁など）」の5つの観点で評価する。評価基準については、レポート課題出題時に説明する。レポート課題については、50点満点とし、10段階（S:50点、SA:45点、A:40点、AB:35点、B:30点、BC:25点、C:20点、CD:15点、D:10点、E:5点）で評価する。定期試験については、150点満点とし、全て記述式の問題とする。																																		
評価基準	<p>評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小テスト</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>レポート課題</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	小テスト	○				レポート課題	○				定期試験	○													
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																															
小テスト	○																																		
レポート課題	○																																		
定期試験	○																																		
評価割合	平常点(約43%)、レポート課題(約14%)及び定期試験(約43%)で評価する。																																		
使用教科書名 (ISBN番号)	適宜、資料を印刷・配付する。																																		
参考図書	コーディネーター受験のためのインテリア仕上げ材／砂川幸雄・江口征男／相模書房、初学者の建築講座 建築材料／橋高義典ら／市ヶ谷出版																																		
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】住分野の中の建築仕上げ材料についての専門的知識・技術を深めて理解することで、専門的な職業の道へつながることができる。																																		
オフィスアワー	水曜日4時限 3606研究室																																		
学生へのメッセージ	ガイダンス（第1回目の授業）で配付した授業予定表に記載した「キーワード」について、事前に勉強した上で、授業に臨むこと。																																		
教育等の取組み状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング			情報リテラシー教育			ICT活用																	
	該当有無	概要																																	
実務経験を活かした授業																																			
アクティブ・ラーニング																																			
情報リテラシー教育																																			
ICT活用																																			

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	建築法規		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 原口 秀昭	指定なし

ナンバリング	D33207M21
授業概要(教育目的)	道路、敷地、面積、高さ、防火、避難、居室、構造など、建築基準法、建築士法、都市計画法、消防法の規制を知り、面積計算、高さ計算、採光計算などの計算練習をすることで、建築の設計、施工、不動産取引において必要となる法的な知識を身に付け、応用できる力を養う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	建築法規の目的、全体像、概念を知り、道路、敷地、面積、高さ、防火、避難、居室、構造などの建築基準法の基本的な規制を説明できる。建築関係法令集を自力で引ける。
思考・判断の観点 (K)	設計において、建築基準法の道路、敷地、面積、高さ、防火、避難、居室、構造などのチェックができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	建築基準法の概要	法規のアウトライン 法律と条令、施行令、手続き規定と実体規定(単体規定、集団規定)、都市計画区域、市街化区域、市街化調整区域、各用途地域、高度地区などの意味、包含関係、適用範囲。また確認申請、工事届・除去届け、中間検査、完了検査、定期報告などの手続き。用語の定義などを理解する。	教科書の8~25pを読み、p69の用途地域名はすべて暗記しておくこと。	180分
第2回	道路と敷地	道路、敷地 42条の各項の道路、43条、44条など。特に2項道路、五号道路(位置指定道路)、接道義務について学ぶ。	教科書のp26~p64を読んでおくこと。	180分
第3回	建築物、特殊建築物、住居、長屋、共同住宅、寄宿舎の定義、住	建築物、特殊建築物、住居、長屋、共同住宅、寄宿舎の定義、違いについて説明する。13種の用途地域の特色と建てられる建築物について概説し、住居系用途地域8種について詳述する。	p65~p82まで読んでおくこと。	180分

	居系用途地域8種			
第4回	商業系、工業系用途地域	商業系、工業系用途地域5種の用途地域の説明をする。	教科書のp83～p89を読んでおくこと。	180分
第5回	建築面積、床面積、建蔽率、容積率	建築面積、床面積の定義とその緩和規定、建蔽率、容積率とその計算方法を説明し、計算練習をする。	教科書のp95～p113を読んでおくこと。	180分
第6回	床面積	地階の住宅や駐車場の緩和規定を説明し、計算練習をする。	教科書のp114～p131を読んでおくこと。	180分
第7回	道路幅から決まる容積率、用途地域をまたぐ場合の建ぺい率、容積率の計算	道路幅から決まる容積率、用途地域をまたぐ場合の建ぺい率、容積率の計算の説明をし、計算練習をする。	教科書のp132～p138を読んでおくこと。	180分
第8回	高さ制限	高さ、軒高の測り方、緩和規定、絶対高さ、道路斜線、隣地斜線、北側斜線を説明する。	教科書のp139～p169を読んでおくこと。	180分
第9回	高さ制限の緩和規定	公園、広場、水路などによる緩和の取り方を説明し、計算練習をする。	教科書のp154～p170を再度読んで、代表的な緩和規定は覚えてくる。	180分
第10回	天空率、日影規制	斜線制限ではない高さ制限としての天空率、日影規制の説明をする。斜線制限を入れたすべての高さ制限を再度説明し、計算練習を行う。	教科書のp171～p183を読んでおくこと。また斜線制限を入れた高さ制限全体を、復習してくる。	180分
第11回	防火規定	不燃材料、準不燃材料、難燃材料、耐火構造、準耐火構造、防火構造、準防火構造、耐火建築物、準耐火建築物、防火地域、準防火地域の説明をする。	教科書のp184～p219を読んでおくこと。	180分
第12回	特殊建築物、防火区画、防火壁、界壁、隔壁、内装制限	特殊建築物、防火区画、防火壁、界壁、隔壁、内装制限の説明をする。	教科書のp214～p242を読んでおくこと。	180分
第13回	階段、避難の規定	階段の一般構造、直通階段、2以上の直通階段、歩行距離、避難階段、特別避難階段、排煙、非常用照明装置、非常用の進入口、非常用昇降機の説明をする。	教科書のp243～p270を読んでおくこと。	180分
第14回	居室の規制	居室の定義、採光面積計算、換気面積、換気設備の説明をし、計算練習をする。	教科書のp271～p290を読んでおくこと。	180分
第15回	構造規定	構造規定 固定荷重、積載荷重、長期荷重、短期荷重、許容応力度層間変形角、剛性率、偏心率、必要壁量の意味と計算方法の説明をする。	教科書のp291～p302を読んでおくこと。	180分

学生へのフィードバック方法 各回で実施した小テストは、次週の授業にて返却する。質問等がある場合は、授業の前後か、3602研究室まで訪問すること。

評価方法 毎回小テストを実施する。小テストの内容は、その回に行った授業内容とし、問題数は10問、すべて記述式とする。小テストの再試験は原則として行わないので注意すること。定期試験は行わず、小テスト（平常点も兼ねる）で評価する。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○		○

評価割合 毎回、その回でやった授業内容の小テストをして、15回分を集計して成績評価する。その際、平常点20%、得点80%とする。

使用教科書名 (ISBN番号) 原口秀昭著「ゼロからはじめる建築の法規入門」彰国社 (ISBN978-4-395-01028-8)

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】「住」の分野について、専門的知識・技術を有している。
【思考・判断】社会の中にある「住」分野の諸課題を自ら発見し、建築法規に照らして論理的に分析し考察する

	<p>ことができる。 【技術・表現】 社会に対して建築法規の範囲内で、洗練された表現力で「住」分野の課題解決を行い、設計図面として表現することができる。</p>															
オフィスアワー	金曜2限時 3602研究室															
学生へのメッセージ	2年次、3年次でのデザイン演習では建ぺい率、容積率が法規制として提示されました。実際の設計では、さらに道路制限、用途制限、高さ制限、防火規定、避難規定など、多くの法規制がされます。この授業で建築関連法規の基本を身に付けて社会に出しましょう。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>担当教員は、約20年間の設計監理実務経験を有しており、建築基準法などが設計監理にいかに関与するか、設計時での法的な注意点を教授している。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	担当教員は、約20年間の設計監理実務経験を有しており、建築基準法などが設計監理にいかに関与するか、設計時での法的な注意点を教授している。	アクティブ・ラーニング			情報リテラシー教育			ICT活用		
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、約20年間の設計監理実務経験を有しており、建築基準法などが設計監理にいかに関与するか、設計時での法的な注意点を教授している。														
アクティブ・ラーニング																
情報リテラシー教育																
ICT活用																

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	建築環境学 A		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 梶田 考一	指定なし

ナンバリング	D23208M21
授業概要(教育目的)	建築環境学は建築の内外空間の環境形成を計画・評価する分野であり、建築設計において建物性能を決める重要なポイントのひとつである。この授業では、建築環境を形成する物理的要素である「熱・空気」の基本的性質を説明するとともに、その環境を評価する我々の感覚の特性を示すことによって、建物・設備性能が居住者へ与える影響を教示する。また、それらの知識を踏まえて、居住者にとって望ましい建築環境を構築するための具体的な手法を講義する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	[建築士指定科目] 建築環境を構成する、熱・空気の基本的性質を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

建築環境学A

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	建築環境学の位置付けについて理解する。 (配布資料) 建築環境学の位置付け／自然環境と室内環境の関わり／建築環境学と建築設備の関わり／人間のための快適な環境形成とエネルギー消費	建築環境学の位置付けについて復習すること	60
第2回	建築に要求される性能	建築に要求される性能について理解する。 (配布資料) 安全・衛生(健康)と快適を提供する建物／脅かす要素／環境制御の目標と原理／建物と建築設備による制御	建築に要求される性能について復習すること	60
第3回	気候風土と建築	気候風土と建築について理解する。 (配布資料) 気候風土に適応した建築的工夫と建築の熱環境設計	気候風土と建築について復習すること	60

		寒い地方の建築的工夫／暑い地方の建築的工夫／これからの建築熱環境設計		
第4回	建築環境学の概要	「環境とは」、SI単位について理解する。 生活環境とは／人間と生活環境／感覚と環境／環境とストレス／日常感じる良い環境悪い環境 SI単位／接頭語／対数／三角関数	教科書p.10-18（環境とは・SI単位）について読んでおくこと 配布資料（SI単位・接頭語）について復習すること	90 60
第5回	熱環境 温熱感（1）	温熱感に影響する要因を理解する。 代謝量／人体の熱収支（熱伝導、熱対流、熱放射、蒸発）／温冷感に影響する要因（気温、湿度、放射、気流、着衣量、代謝量）／MRT	教科書p.71-78（温熱感）について読んでおくこと	180
第6回	温熱感（2）	温熱感の環境評価指標について理解する。 温熱環境指標（OT, SET*, PMV）／住宅の温熱環境	課題1（温熱感）による復習	120
第7回	外界条件	外界条件について理解する。 気温（デグレデー）／湿度（クリモグラフ, WBGT）／潜熱と顕熱 日射（紫外線、可視光線、赤外線）／直達日射、天空日射、全天日射／大気透過率／大気放射量と夜間（実効）放射量／放射冷却	教科書p.79-85（外界条件）について読んでおくこと 課題2（外界条件）による復習	90 60
第8回	日照環境（1）	日照について理解する。 太陽の動き／太陽位置の表し方（太陽方位角、太陽高度）／時刻の表し方（真太陽時）／均時差／太陽位置図	教科書p.86-94（日照環境）について読んでおくこと	180
第9回	日照環境（2）	日影について理解する。 太陽位置と日影／日影曲線図／日影時間図／日影による中高層建築物の高さの制限／終日日影／永久日影／隣棟間隔／日射量	課題3（日照）による復習	120
第10回	建物の熱性能（1）	建物の伝熱について理解する。 熱貫流／熱伝導（断熱材）／対流熱伝達／放射による熱伝達／室内側・屋外側総合熱伝達率／熱貫流率	教科書p.95-107（建物の熱性能）について読んでおくこと	180
第11回	建物の熱性能（2）	建物の断熱・熱容量について理解する。 日射吸収率と長波長放射率／中空層の伝熱／壁の温度分布／平均熱貫流率／熱橋／建物の熱容量／内断熱と外断熱／充てん断熱／外張り断熱	課題4（伝熱）による復習	120
第12回	湿気環境（1）	結露現象の原理を理解する。 湿り空気線図／飽和水蒸気圧／相対湿度／絶対湿度／露点温度／比エンタルピー	教科書p.108-113（湿気環境）について読んでおくこと	180
第13回	湿気環境（2）	結露現象とその防止策について理解する。 表面結露／熱橋と表面結露／内部結露	課題5（湿気環境）による復習 レポート「日本の気候風土に適した住宅」	120 720
第14回	空気環境（1） 空気と人の健康	室内の空気質について理解する。 屋外の空気と室内の空気／室内空気汚染物質（二酸化炭素、一酸化炭素、ホルムアルデヒド、VOC、窒素酸化物、硫酸酸化物、臭気、浮遊粒子状物質、PM2.5、アスベスト）／室内空気質／シックハウス症候群／シックハウス対策／室内空気環境基準	教科書p.47-69（空気環境）について読んでおくこと	180
第15回	空気環境（2） 室内の空気汚染対策 定期試験	換気方式・換気量について理解する。 室内の空気浄化の考え方／換気／必要換気量／換気回数／全般（希釈）換気／局所換気／置換換気／自然換気（風力、室内外温度差）／機械換気	課題6（空気環境）による復習	120

学生へのフィードバック方法 すべての課題について、採点の後、授業中に解説を行う。

評価方法

- ・課題は、二級建築士試験に出題された過去問より抽出した文章について、正誤を問う形式である。
- ・レポートは、「日本の気候風土に適した住宅」の実例を調べる課題である。
- ・定期試験は、課題の間を多肢択一で選ぶ設問がおおよそ60%、教科書・配布資料から作成した問を多肢択一で選ぶ設問がおおよそ40%である。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			
課題	○			
レポート	○			

評価割合	定期試験(70%)、レポート及び課題(30%)による総合評価	
使用教科書名(ISBN番号)	生活環境学 [改訂版] / 岩田利枝 他 / 井上書院 / 2015 978-4-7530-1759-1	
参考図書	図説テキスト 建築環境工学 / 加藤信介 他 / 彰国社 / 2008	
ディプロマポリシーとの関連	現代家政学科 [知識・理解] 社会の基盤として「質の高い生活」とは何かを理解できる。 生活デザイン学科 [知識・理解] 住分野について専門的知識を有して、専門的な職業の道へつなぐことができる。	
オフィスアワー	千代田三番町C 火曜 5限 1807室 / 町田C 金曜 4限 3604室	
学生へのメッセージ	建築士試験指定科目 ③建築環境工学 に認定。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	住居計画		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小池 孝子	指定なし

ナンバリング	D23204M21
--------	-----------

授業概要(教育目的)	家族の暮らしの場である住居について、現代的な課題を踏まえたうえで、それぞれの家族にとって快適な住宅、住宅地のあり方について検討をおこなう。
------------	---

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	住宅および住宅地を計画する際に必要となるさまざまなことから理解し、住居設計のための基礎知識を習得する
思考・判断の観点 (K)	家族の暮らしの場である住居に関する現代的な課題について、客観的に理解できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	住居に関する現代的な課題について、積極的に関心を持って考えることができる
技術・表現の観点 (A)	住居に関する現代的な課題に対応した快適な住宅、住宅地のあり方について提案ができる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス・現代の家族と住まい	家族のあり方の変化に伴う住まいの変容について学ぶ	(復習) 自分の家族を対象に、家族形態の移り変わりについて考える	120分
第2回	家族のかたちと住まいのかたち	家族認知、近代家族と住まいについて学ぶ	(復習) 自分の家族、自分の住む住宅について、授業で取り上げた内容と照らし合わせて考える	120分
第3回	家族の変化と新しい住まいのかたち	建築家の提案する新しい住まいのかたちについて学ぶ	(復習) 建築雑誌を読み、新しい住まいのかたちのバリエーションについて学ぶ	120分
第4回	居住歴と原風景	理想とする住まい・住環境に対して原風景が与える影響について学ぶ	(復習) 自分の住む地域を対象に、建築が生み出す原風景について考える	120分
第5回	住居の設計	住居の設計プロセスと建築家の責務、建築に関わる法規	(復習) 住居の設計プロセスと	120分

	プロセス	について学ぶ	建築に関わる法規について復習する (中間レポート1/4) 住宅計画に関する中間レポートに取り組む	+レポート120分
第6回	独立住宅の計画手法	独立住宅の計画における敷地と建物の関係、室の配置計画について学ぶ	(復習) 建築雑誌を読み、独立住宅の敷地と建物の関係、室の配置計画のバリエーションについて学ぶ (中間レポート2/4) 住宅計画に関する中間レポートに取り組む	120分 +レポート120分
第7回	生活行為と生活時間	住宅内の生活行為と生活空間、生活時間との関係性について学ぶ	(復習) 自分や家族の生活時間について考え、小課題を仕上げる	180分
第8回	生活行為と住空間	生活行為とスケール、住空間のゾーニング、動線計画について学ぶ	(復習) 自分や家族の生活を振り返り、起居様式の変化について考える (中間レポート3/4) 住宅計画に関する中間レポートに取り組む	120分 +レポート120分
第9回	独立住宅の構造・構法	独立住宅の構造、敷地と建物の関係、室の配置計画のバリエーションについて学ぶ	(復習) 建築雑誌を読み、独立住宅の敷地と建物の関係、室の配置計画のバリエーションについて学ぶ (中間レポート4/4) 住宅計画に関する中間レポートに取り組む	120分 +レポート120分
第10回	集合住宅の平面構成	集合住宅の平面構成の移り変わりについて学ぶ	(復習) 建築雑誌を読み、集合住宅の平面構成のバリエーションについて学ぶ	120分
第11回	生活の外部化と地域施設	生活の外部化の状況、生活圏と地域施設配置計画について学ぶ	(復習) 自分の生活を対象に生活の外部化について考える (期末レポート1/3) 地域施設計画に関する期末レポートに取り組む	120分 +レポート120分
第12回	住宅でまちをつくる	住宅地計画、ニュータウン計画について学ぶ	(復習) 多摩ニュータウン、港北ニュータウンを対象に、まちの構成について考える (期末レポート2/3) 地域施設計画に関する期末レポートに取り組む	120分 +レポート120分
第13回	集合住宅地の計画 1	集合住宅のアクセス形式、住棟配置計画について学ぶ	(復習) 自分の住む地域の街並みの美しさについて考える (期末レポート3/3) 地域施設計画に関する期末レポートに取り組む	120分 +レポート120分
第14回	集合住宅地の計画 2	集合住宅団地の容積率、戸数密度、住棟配置計画について学ぶ	(復習) 自分の家の周りについて、共有領域の形成状況について考える	120分
第15回	集合住宅団地の再生	日本における集合住宅の管理状況、マンション建て替え問題について学ぶ	(復習) 自分の家の近くに管理不全マンションがないか考えてみる	120分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
--------	--------------------------------------

学生へのフィードバック方法	実施した小課題・小レポート・中間レポート・期末レポートについて、授業時間内に全体講評をおこなう。
---------------	--

評価方法	小課題は、授業時間内に実習課題として実施する。取り組み状況、完成度によって評価する。3回の実施を予定している。 小レポートは、授業内に提示する資料をもとに授業内容を踏まえて自分の意見をまとめて記述する。授業内容の理解、意見の妥当性について評価する。7回程度の実施を予定している。 レポートは、授業で得られた知識をもとに情報収集をおこない、発見した課題について自分の意見をまとめて記述する。情報収集・整理は十分か、課題解決は適切か、結論に至る筋道に論理性があるかについて評価する。中間と期末の2回実施する。
------	--

評価基準	
------	--

評価基準	
------	--

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小課題	○	○		

小レポート	○	○	○	
レポート	○	○	○	○

評価割合	小課題15%、小レポート15%、中間レポート40%、期末レポート30%により総合的に評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	特にテキストは指定しない。
参考図書	定行まり子「生活と住居」光生館 岡田光正ほか「住宅の計画学入門－住まい設計の基本を知る」鹿島出版会 小澤紀美子ほか「豊かな住生活を考える－住居学」彰国社
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「住」分野について、専門的知識・技術を有している。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる。また各種の多様な情報を客観的に理解し判断できる 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。
オフィスアワー	金曜3時限 3508研究室
学生へのメッセージ	住居の計画について、家族の生活という視点から考えること。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	福祉住環境		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小池 孝子	指定なし

ナンバリング	D23206M21
授業概要(教育目的)	超高齢社会を迎え、高齢者や障害者が在宅で自立した生活をおくるための住環境整備が求められている。本授業は、この福祉住環境整備分野の初歩的な知識を習得することを目的とし、高齢者や身体障害者を対象とした住環境整備についての基礎知識を学ぶとともに、在宅介護の現状と問題点、特徴、必要な視点等から、介護保険制度の対象となる住宅改修、福祉用具、特定疾病等、建築・福祉・医療などに関して体系的な幅広い知識を学ぶ。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	高齢者や身体障害者を対象とした住環境整備についての基礎知識とともに、在宅介護の現状と問題点、特徴、必要な視点等から介護保険制度の対象となる住宅改修、福祉用具、特定疾病等、建築・福祉・医療などに関して体系的な幅広い知識を習得する。
思考・判断の観点 (K)	住環境整備についての基礎知識をもとに、在宅介護の現状と問題点に関する今日的課題を発見し、解決策について考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	住環境整備に関する諸問題に積極的に関心を持ち、その解決策を立案できる。
技術・表現の観点 (A)	住環境整備に関する課題に対応した住宅改修の方法について提案ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス・福祉住環境の意義と役割	福祉住環境整備の意義と役割について、超高齢社会である日本の人口構成・世帯構成と合わせて学ぶ。	(復習) 日本の人口の動向について調べ、理解する。	150分
第2回	福祉・ノーマライゼーションの考え方	福祉・ノーマライゼーションの考え方と、介護保険制度との対応について学ぶ。	(復習) 配付プリント、WEBなどを参照し、介護保険制度について理解しておく。	150分
第3回	高齢者・障害者の住環境整備-1	高齢者・障害者の生活を支える福祉用具・共用品について学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、福祉用具・共用品について理解し、自分の身の回りにある生活用具について、共用品・福	150分

			祉用具にあたるものがないか考える。	
第4回	高齢者・障害者の住環境整備－2	生活行為別にみた福祉用具の活用による住環境整備について学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、自宅での生活と照らし合わせて、福祉用具の種類と使い方について理解しておく。	150分
第5回	高齢者・障害者の住環境整備－3	生活行為別にみた福祉用具の活用による住環境整備について学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、自宅での生活と照らし合わせて、福祉用具の種類と使い方について理解しておく。	150分
第6回	日本の住宅と住生活上の課題	日本の在来工法による住宅にみられる高齢者・障害者の日常生活上の課題について学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、自宅の構造と照らし合わせて、福祉住環境整備における日本の住宅の問題点について理解しておく。	150分
第7回	福祉住環境整備の技術－1	福祉住環境整備を目的に住宅改修をおこなう際の技術について、住宅の場所別に具体的に学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、自宅での生活・自宅の構造と照らし合わせて、住宅内で改修が必要となる場所と改修方法について理解しておく。	150分
第8回	福祉住環境整備の技術－2	福祉住環境整備を目的に住宅改修をおこなう際の技術について、住宅の場所別に具体的に学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、自宅での生活・自宅の構造と照らし合わせて、住宅内で改修が必要となる場所と改修方法について理解しておく。	150分
第9回	福祉住環境整備の技術－3	福祉住環境整備を目的に住宅改修をおこなう際の技術について、住宅の場所別に具体的に学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、自宅での生活・自宅の構造と照らし合わせて、住宅内で改修が必要となる場所と改修方法について理解しておく。 (レポート) 住宅改修に関するレポートに取り組む。	150分 +レポート150分
第10回	福祉住環境整備の技術－4	福祉住環境整備を目的に住宅改修をおこなう際の技術について、住宅の場所別に具体的に学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、自宅での生活・自宅の構造と照らし合わせて、住宅内で改修が必要となる場所と改修方法について理解しておく。 (レポート) 住宅改修に関するレポートに取り組む。	150分 +レポート150分
第11回	関連法規・高齢者の住環境整備	高齢者の住環境の実態について理解し、法令に基づく高齢者の住まいの選択肢について学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、高齢者の住まいの選択肢について理解しておく。 (レポート) 住宅改修に関するレポートに取り組む。	150分 +レポート150分
第12回	障害とは何か・障害者の住環境整備	障害についての考え方・障害者の住環境の実態について理解し、法令に基づく障害者の住まいの選択肢について学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、障害についての考え方・障害者の住まいの選択肢について理解しておく。	150分
第13回	高齢者の健康と自立	高齢者の健康と自立、栄養と運動、身体的特性について学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、高齢者のウェル・ビーイングのための条件について理解しておく。	150分
第14回	リハビリテーションの考え方	リハビリテーションの考え方と地域包括ケアシステムについて学ぶ。	(復習) 配付プリントを参照し、リハビリテーションの考え方と地域包括ケアシステムについて理解し、自分の住む地域の地域包括ケアシステムについて確認する。	150分
第15回	介護保険制度の変遷とこれから	福祉住環境整備を支える介護保険制度について、制度創設以来の変遷を振り返る。	(復習) 社会情勢の変化を踏まえ、介護保険制度の今後について考える。	150分
第16回	定期試験	授業内容全般に関し、穴埋め問題、正誤問題を出題する		

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	第2回以降、毎回授業開始時に前回講義内容に関する確認テストを実施する。確認テストは評価に含めず、授業時間内に解説付きの答え合わせを行うことにより知識の定着を図る。 実施した小レポートについては、次回授業時に全体講評をおこなう。 レポートについては採点后にコメントを付けて返却する。
評価方法	小レポートは、授業内に提示する資料をもとに授業内容を踏まえて自分の意見をまとめて記述する。授業内容の

理解、意見の妥当性について評価する。
 期末レポートは、授業で得られた知識をもとに情報収集をおこない、発見した課題について自分の意見をまとめて記述する。課題の発見・整理は十分か、課題解決は適切か、結論に至る筋道に論理性があるかについて評価する。
 定期試験は穴埋め問題、正誤問題を出題する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小レポート	○	○	○	
レポート	○	○	○	○
定期試験	○			

評価割合	小レポート20%、レポート40%、定期試験40%により総合的に評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	特にテキストは指定しない。
参考図書	「新版福祉住環境」 浅沼由紀/市ヶ谷出版社/2008
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】「住」分野 について、専門的知識・技術を有している</p> <p>【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる。また各種の多様な情報を客観的に理解し判断できる</p> <p>【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる</p> <p>【技能・表現】家政学を学修し、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている</p>
オフィスアワー	金曜4時限 3508研究室
学生へのメッセージ	本授業は、福祉住環境コーディネーター検定試験2級程度の基礎知識を習得する。現在の高齢者問題などの状況を把握していること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	生活デザイン演習C(石綱)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年生		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石綱 史子	指定なし

ナンバリング	D21205M12
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門分野の内容を体験的に学ぶために、各教員の授業の補完的または発展的な内容の授業や、学外学内のイベントへの参加、学外見学などのプログラムを実施する。内容は、プログラムを設定する教員によって異なり、複数のプログラムが設定される予定である。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	生活デザイン学科で学ぶために必要なことは何かを体験的に理解する。
思考・判断の観点 (K)	生活デザイン学科で主体的に学ぶための考え方を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	協同作業に積極的に参加し、他のメンバーと協調して作業を進めることできる。
技術・表現の観点 (A)	生活デザイン学科の専門分野の授業で必要とされる手法や表現方法を体験する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション	演習の内容と進め方について	演習内容と課題の確認	45分
第2回	一般的な文章①	課題1 一般的な文章を読み、要約する	課題の文献を読む	45分
第3回	一般的な文章②	課題1 一般的な文章を読み、要約する	課題の文献を読む	45分
第4回	一般的な文章③	課題1 一般的な文章を読み、要約する	課題の文献を読む	45分
第5回	文献の探し方	文献の種類と探し方について解説し、各自興味のある文献を探す。	文献の探し方を復習し、課題②の文献を決める	45分
第6回	文献を読む①	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第7回	文献を読む	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する	45分

	②		る準備をする	
第8回	文献を読む ③	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第9回	文献を読む ④	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第10回	文献を読む ⑤	課題2 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第11回	文献を読む ⑥	課題3 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第12回	文献を読む ⑦	課題3 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第13回	文献を読む ⑧	課題3 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第14回	文献を読む ⑨	課題3 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する	課題の文献を読み要約、解説する準備をする	45分
第15回	文献を読む ⑩	課題3 各自選んだ文献を要約し、クラス内で解説する 演習全体のまとめ	本演習で学んだことをまとめ、 今後の学修に活用する	45分

学習計画注記 履修者数や演習の進み具合などにより、スケジュールや課題変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法 演習中に随時ディスカッションを行い、フィードバックする。各課題は採点し、コメントを付けて返却する。疑問・質問が生じた場合は、e-mailで連絡をするか、3609研究室を訪問すること。

評価方法 平常点：課題に取り組む意欲的な姿勢や理解度を総合的に評価する。
課題：読解力、要約力、文章構成力などを総合的に判断して評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
課題	○	○	○	○

評価割合 平常点50%、課題50%とし総合的に判断する。

使用教科書名 (ISBN番号) 適宜、資料を印刷・配付する。

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】各分野の知識と理解を深めること。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見すること。
【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持つこと。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけること。

オフィスアワー 月曜3限 3609研究室

学生へのメッセージ 初歩的な学術論文や科学雑誌などの文献を正しく読めるようになることを目的としています。この演習を通じ、文章の読解力、要約する力、文章構成力などの基礎力の向上を目指します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	生活デザイン演習C(齋藤史)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 齋藤 史夫	指定なし

ナンバリング	D21205M12
授業概要(教育目的)	国分寺市立ひかり児童館他市内児童施設において、国分寺市・委託先民間団体・地域と協働し、子どもの楽しいプログラム・居場所づくりに取り組む。コミュニティデザインの実習でもある。
履修条件	特に無し

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	実施に子どもを対象とした児童福祉施設(児童館・学童保育)等の社会的役割にふさわしい活動と居場所作りに取り組もうという姿勢を持つ。
技術・表現の観点 (A)	子どもたちの生活を充実させる活動をプログラムし、施設・地域の方と対話して課題を共有しながら取り組むことができる。

学習計画

こどもにやさしいまちづくりの実践

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	こどもにやさしいまちづくり	ユニセフ提唱のこどもにやさしいまちづくりとは	こどもにやさしいまちづくりをネット調査する。	60分
第2回	国分寺市の児童施設	国分寺市の児童施設の概要	国分寺市の児童施設にはどのようなものがあるか調査する。	60分
第3回	国分寺市の児童施設見学(校外授業)	現場を訪問して見学する(アクティブ・ラーニング)	ネットで国分寺市の児童施設を調査する。	60分
第4回	国分寺市の児童施設見学(校外授業)	現場を訪問して見学する(アクティブ・ラーニング)	ネットで国分寺市の児童施設を調査する。	60分

第5回	国分寺市の児童施設見学（校外授業）	現場を訪問して見学する（アクティブラーニング）	ネットで国分寺市の児童施設を調査する。	60分
第6回	国分寺市の児童施設見学（校外授業）	現場を訪問して見学する（アクティブラーニング）	ネットで国分寺市の児童施設を調査する。	60分
第7回	見学の振り返り	国分寺市の児童施設の概要を、見学をもとにまとめる	見学の様子をまとめる	60分
第8回	児童施設における活動内容の構想	グループで児童施設での活動プログラムを構想する（アクティブラーニング）	子どもを対象としたプログラムを調査する。	60分
第9回	児童施設での活動プログラム準備	児童施設での活動を実施するための準備活動を行う。	グループ活動に必要な内容・品物の準備。	60分
第10回	国分寺市の児童施設においてプログラム実践	学生のグループで立案したプログラムを実践する。	プログラム実施の準備	60分
第11回	国分寺市の児童施設においてプログラム実践	学生のグループで立案したプログラムを実践する。	プログラム実施の準備	60分
第12回	国分寺市の児童施設においてプログラム実践	学生のグループで立案したプログラムを実践する。	プログラム実施の準備	60分
第13回	国分寺市の児童施設においてプログラム実践	学生のグループで立案したプログラムを実践する。	プログラム実施の準備	60分
第14回	プログラム実施の振り返り	国分寺市の児童施設にて実践したプログラムの振り返り	国分寺市の児童施設にて実践したプログラムの内容・気づきをまとめる	60分
第15回	こどもにやさしいまちづくりを再度考える	15回の授業を通してこどもにやさしいまちづくりの役割と可能性を考える。	15回の授業を振り返る	60分

学習計画注記 学生主体でグループを形成し、実際に国分寺市の児童施設（市立ひかり児童館他）に出かけ、子どもとともに楽しいプログラムを実施します。主体的、共同的に参加することを求めます。

学生へのフィードバック方法 プログラム実施・前後の授業において計画と振り返りの時間を設ける。

評価方法 プログラムへの共同的で積極的な参加と、実施したプログラムの内容によって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
プログラムへの共同的積極的参加			○	○
プログラムの実施内容			○	○

評価割合 プログラムへの共同的積極的参加（50%）
プログラムの実施内容（50%）

使用教科書名 (ISBN番号) 授業内で提示する

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】 【思考・判断】 子どもにとって必要な社会を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断し提案できる能力
【関心・意欲・態度】 社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって子どもたちのために働く能力
【技能・表現】 学修で得た専門的技術(技術)をもって課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することでこどもにやさしいまちを創り出す能力

オフィスアワー 火曜日3限1607研究室

学生へのメッセージ

子どもたちにとって大学生は、身近で憧れの存在です。子どもたちの中に積極的に飛び込み、施設・地域の方と協力してこどもにやさしいまちづくりに実践的に取り組みましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループで活動することを基本とする。
情報リテラシー教育	○	子どものための活動プログラムを図書・インターネットで調査する。
ICT活用	○	インターネット調査

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	生活デザイン演習C(佐々木)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 佐々木 麻紀子	指定なし

ナンバリング	D21205M12
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門分野の内容を体験的に学ぶために、各教員の授業の補完的または発展的な内容の授業や、学外学内のイベントへの参加、学外見学などのプログラムを実施する。内容は、プログラムを設定する教員によって異なり、複数のプログラムが設定される予定である。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	生活デザイン学科で学ぶために必要なことは何かを体験的に理解する。
思考・判断の観点 (K)	生活デザイン学科で主体的に学ぶための考え方を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	協同作業に積極的に参加し、他のメンバーと協調して作業を進めることできる。
技術・表現の観点 (A)	生活デザイン学科の専門分野の授業で必要とされる手法や表現方法を体験する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業の進め方、プログラム内容について理解する	プログラム内容についてガイダンスで配布した資料を読んでおくこと。	45分
第2回	工芸染色技法について	日本の伝統的染色技法の特徴について学ぶ	染色技法についてHP等で調べておくこと	45分
第3回	サンプル制作1	サンプル制作を通じて、摺込み染の染色方法について理解する	摺込み染の染色方法について参考書等を読んでおくこと。	45分
第4回	サンプル制作2	サンプル制作を通じて、摺込み染の特徴について理解する。	摺込み染のサンプルを完成させる	45分
第5回	サンプル制作3	サンプル制作を通じて、墨流し染のデザインと特徴を理解する。	墨流し染について調べておくこと	45分
第6回	サンプル制作4	墨流し染で作品を制作する	墨流し染の特徴についてまとめる	45分

第7回	サンプル作成5	絞り染の特徴について理解し、サンプルを作成する	絞り染の特徴についてまとめておく	45分
第8回	サンプル作成6	絞り染のサンプル作成を行う	絞り染のサンプル作成を進めておく	45分
第9回	サンプル作成7	絞り染のサンプルの染色を行う	絞り染のサンプル制作を進めておく	45分
第10回	サンプル作成8	ろうけつ染めの特徴について理解し、サンプルを作成する	ろうけつ染めの特徴についてまとめておく	45分
第11回	サンプル作成9	ろうけつ染めの特徴を活かしてサンプルを作成する	ろうけつ染めの特徴についてまとめておく	45分
第12回	サンプル作成10	ろうけつ染めの特徴を活かしてサンプル作成を行う	ろうけつ染めの特徴についてまとめておく	45分
第13回	まとめ1	これまで体験した染色技法を基に自由作品を制作する	各染色技法の特徴についてまとめる	90分
第14回	まとめ2	これまで体験した染色技法を基に自由作品を制作する	各染色技法の特徴についてまとめる	90分
第15回	まとめ3	これまで体験した染色技法を基に自由作品を制作する	各染色技法の特徴についてまとめる	90分

学習計画注記	受講人数によってはスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	授業にて解説します。
評価方法	平常点80%、レポート20%で評価します。 平常点は授業への積極的な参加態度、サンプルの完成度等を総合的に判断し評価します。 レポートは各A4用紙1、2枚程度に ①各種染色技法の特徴について②自身の取り組み方について記載してもらいます。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
レポート①	○			○
レポート②		○		○

評価割合	平常点80%、レポート各10%で評価します。
使用教科書名 (ISBN番号)	なし
参考図書	・染色の技法/田中清香/理工学社/978-4844585855 ・染色の基礎知識 増補改訂版合成染料の技法/高橋誠一郎/染色と生活社/978-4-975374-62-3
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】各分野の知識と理解を深めること。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見すること。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持つこと。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけること。
オフィスアワー	月曜2時限 2406研究室
学生へのメッセージ	積極的な参加を期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークを通じて、協働活動の方法について学ぶ。
情報リテラシー教育	○	課題に関する情報を収集・分析・整理する。
ICT活用	○	情報収集やレポート作成のために、PCや通信機器を活用する。

シラバス参照

講義名	生活デザイン演習C(富田1)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田 弘美	指定なし

ナンバリング	D21205M12
授業概要(教育目的)	(集中授業) パターンメイキング3級検定試験の課題「ブラウス」の身頃と袖・衿の基本的な製図(実物大)とテキストによる記述試験の対策を行う。基礎的な知識と技術を習得して試験合格基準の力を身に付けることが目的である。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	衣分野における諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点 (K)	衣分野における諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	衣分野における諸課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	衣分野における課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

生活デザイン演習C(富田1)

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	パターンメイキング3級検定試験対策講座(記述)	道具、テキスト、日程、要項内容を理解する。	パターンメイキング検定試験の要項を読んでおくこと。	45分
第2回	パターンメイキング3級検定試験対策講座(記述)	ブラウスAの身頃(前・後ろ)の製図(1/2)、胸ぐせ処理について理解する。	ブラウスAの身頃(前・後ろ)の製図(1/2)の練習する。「パターンメイキング技術検定試験3級ガイドブック」(記述問題のテキスト(18~22)、ダーツの方向移動(76~89))を読んでおくこと。	45分
第3回	パターンメイキング3級検定試験	ブラウスAの点検、衿のバリエーション1(シャツカラー、スタンドカラー)の製図を理解する。	ブラウスAの修正、衿のバリエーション1の練習をする。「パターンメイキング技術検定試験	45分

	対策講座 (記述)		3級ガイドブック」既製服の概念～(23～43)、衿(90～99)を読んでおくこと。	
第4回	パターンメーキング3級検定試験対策講座 (記述)	衿のバリエーション2(対衿付シャツカラー、セーラーカラー 他)の製図を理解する。	衿のバリエーション2の練習をする。「パターンメーキング技術検定試験3級ガイドブック」既製服のパターンメーキング～(44～57)、衿(90～99)を読んでおくこと。	45分
第5回	パターンメーキング3級検定試験対策講座 (記述)	ブラウスBの身頃(前・後ろ)の製図を理解する。	ブラウスBの身頃(前・後ろ)の製図の練習をする。「パターンメーキング技術検定試験3級ガイドブック」ファーストパターンメーキング～(60～75)を読んでおくこと。	45分
第6回	パターンメーキング3級検定試験対策講座 (記述)	ブラウスBの点検、袖のバリエーション1(基本セットインスリーブ、パフスリーブA)の製図を理解する。	ブラウスBの修正、袖のバリエーション1の練習をする。「パターンメーキング技術検定試験3級ガイドブック」袖(100～109)を読んでおくこと。	45分
第7回	パターンメーキング3級検定試験対策講座 (記述)	袖のバリエーション2(パフスリーブB、他)の製図を理解する。	袖のバリエーション2の練習をする。「パターンメーキング技術検定試験3級ガイドブック」袖(100～109)を読んでおくこと。	45分
第8回	パターンメーキング3級検定試験対策講座 (記述)	工業パターン(スカート他)の製図を理解する。	工業パターン(スカート他)の練習をする。「パターンメーキング技術検定試験3級ガイドブック」ドレーピングの基礎(134～139)、工業パターンメーキング(160～183)を読んでおくこと。	45分
第9回	パターンメーキング3級検定試験対策講座 (記述)	工業パターンの点検、各製図、過去の問題を確認して理解する。	工業パターンの点検後の修正、製図、過去の問題集、工業パターンの試験準備する。「パターンメーキング技術検定試験3級ガイドブック」工業パターンの基礎知識(184～217)を読んでおくこと。	45分
第10回	パターンメーキング3級検定試験対策講座 (記述)	各製図、グレーディング、過去の問題を確認し、理解する。	製図、過去の問題集、工業パターンの試験準備をする。「パターンメーキング技術検定試験3級ガイドブック」グレーディング(220～225)を読んでおくこと。	45分
第11回	パターンメーキング3級検定試験対策講座 (実技)	ブラウスAの実物製図、シーチングの扱い、ライン入れ、ピン打ちを学ぶ。(製図・立体組み立て点検をする。)	ブラウスAの実物製図、ピン打ちの練習をする。	45分
第12回	パターンメーキング3級検定試験対策講座 (実技)	ブラウスAの実物製図を時間内で組み立てて要点を理解する。(製図・立体組み立て点検をする。)	ブラウスAの実物製図、ピン打ちの練習をする。	45分
第13回	パターンメーキング3級検定試験対策講座 (実技)	ブラウスBの実物製図、シーチングの扱い、ライン入れ、ピン打ちを学ぶ。(製図・立体組み立て点検をする。)	ブラウスBの実物製図、ピン打ちの練習をする。	45分
第14回	パターンメーキング3	ブラウスBの実物製図、シーチングの扱い、ライン入れ、ピン打ちを学ぶ。(製図・立体組み立て点検をする。)	ブラウスBの実物製図、ピン打ちの試験準備をする。	45分

	級検定試験対策講座 (実技)	る。)		
第15回	パターンメイキング3級検定試験対策講座 (実技)	試験用のシーチングのアイロン掛け、ライン入れ、道具の準備をする。	試験に向けて準備をする。	45分

学生へのフィードバック方法	製図の点検とともにコメントする。
---------------	------------------

評価方法	製図、平常点
------	--------

評価基準	
------	--

評価基準	
------	--

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
製図、組み立て	○	○	○	○

評価割合	製図60%、平常点40%
------	--------------

使用教科書名 (ISBN番号)	パターンメイキング技術検定試験3級ガイドブック 日本ファッション教育振興協会
-----------------	---

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会の中にある諸課題についての知識を深める。【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】社会の中にある諸課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。【技術・表現】社会の中にある課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。
---------------	--

オフィスアワー	木曜日 12:30~14:00
---------	-----------------

学生へのメッセージ	検定試験は12月上旬にあります。記述試験に関してはテキストをよく読んでください。また、製図は、前期（生活デザイン演習C）で基本的な身頃、袖、衿を、後期（生活デザイン演習D）で衿、袖の展開とシーチングの立体組み立てを行いますので、前期から計画的に履修してください。なお、パターンメイキングの知識、技術を深めたい学生は、検定試験の受験の有無に関係なく履修してもかまいません。
-----------	---

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	生活デザイン演習C(花田)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 花田 朋美	指定なし

ナンバリング	D21205M12
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門分野の内容を体験的に学ぶために、各教員の授業の補完的または発展的な内容の授業や、学外学内のイベントへの参加、学外見学などのプログラムを実施する。内容は、プログラムを設定する教員によって異なり、複数のプログラムが設定される予定である。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	生活デザイン学科で学ぶために必要なことは何かを体験的に理解する。
思考・判断の観点 (K)	生活デザイン学科で主体的に学ぶための考え方を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	協同作業に積極的に参加し、他のメンバーと協調して作業を進めることできる。
技術・表現の観点 (A)	生活デザイン学科の専門分野の授業で必要とされる手法や表現方法を体験する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	さがみはら環境まつりの紹介	さがみはら環境まつりとはどのようなイベントなのかを理解する。	2019年度さがみはら環境まつりの実施内容について確認する。	45分
第2回	私たちの生活を見直してみよう	私たちの日々の生活は世界と繋がっていること理解し、身近な環境問題について考える。	SDGsとはどういうことか調べてくる。	90分
第3回	持続可能な社会とは	SDGsについて調べてきたことを発表し、ディスカッションを行い、SDGsの概要について理解する。	SDGsについて理解し、各自ができることは何か考える。	45分
第4回	体験教室の実施内容の紹介	さがみはら環境まつりで開催する体験教室の実施内容を把握し、工作物の試作を行い、製作方法を理解する。	制作方法を確認し、再度工作物を作製する。(製作の練習)	90分
第5回	体験教室実施の準備(1)	体験教室で必要となる見本品の制作、及び材料を準備する。	制作方法を確認し、再度工作物を作製する。(製作の練習)	90分

第6回	体験教室実施の準備(2)	体験教室の実施方法(時間配分、参加者への対応等)についてディスカッションし、計画案を作成する。	スムーズな実施方法、参加者とのコミュニケーション方法について考える。	45分
第7回	体験教室実施の準備(3)	体験教室で必要となる道具の確認と材料を準備する。参加者とともにコミュニケーションを図れば良いかディスカッションし、検討する。	体験教室の材料を準備する。	45分
第8回	体験教室実施の準備(4)	体験教室で必要となる道具の確認と材料を準備する。開催当日をシュミレーションし、準備を行う。	体験教室の材料を準備する。	45分
第9回	体験教室実施の準備(5)	当日使用する材料や道具の搬入準備を行う。	前日の会場設営や当日の体験教室開催で必要となる物品リストを作成する。	45分
第10回	さがみはら環境まつり会場設営	6月29日(土)さがみはら環境まつり会場設営に参加(教室外での活動)	実行委員の指示に従い、臨機応変に会場設営を行う。	180分
第11回	さがみはら環境まつり参加	6月30日(日)さがみはら環境まつり参加(教室外での活動)	体験教室のスムーズな運営を行う。	180分
第12回	さがみはら環境まつり参加	6月30日(日)さがみはら環境まつり参加(教室外での活動)	体験教室のスムーズな運営を行う。	180分
第13回	さがみはら環境まつり参加	6月30日(日)さがみはら環境まつり参加(教室外での活動)	体験教室のスムーズな運営を行う。	180分
第14回	さがみはら環境まつり参加の振り返り	さがみはら環境まつりに参加した振り返りとして、アンケート、社会人基礎力評価を実施する。取り組み内容を振り返り自己評価を行う。さがみはら環境まつり報告会用のパワーポイント資料を作成する。	さがみはら環境まつり参加を振り返り報告会用資料の作成と発表準備を進める。	90分
第15回	さがみはら環境まつりの報告会	さがみはら環境まつりの参加報告をパワーポイントを用いてプレゼンテーションにより発表する。	参加報告会を振り返り内容を整理し参加報告書をまとめる。	45分

学習計画注記 複数回の授業を、まとめて実施することがあります。また状況により、計画が変更される可能性もあります。

学生へのフィードバック方法 毎回の授業(ディスカッションや作業時)において、アドバイスをを行う。発表会での講評。参加報告書へのコメント。

評価方法

- ①報告会(報告内容、構成、表現、プレゼンテーションを評価)
- ②報告書(報告内容、構成、表現を評価)
- ③さがみはら環境まつりでのパフォーマンス(参加者とのコミュニケーション能力、自律的行動力)
- ④平常点(提案力、調整力、行動力、課題への取り組みの姿勢を評価)

評価基準

評価方法	知識・理解(K)	思考・判断(K)	関心・意欲・態度(V)	技術・表現(A)
報告会	○	○	○	○
報告書	○	○	○	○
さがみはら環境まつりでのパフォ	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合 報告会15% 報告レポート15% さがみはら環境まつりでのパフォーマンス40% 平常点30% を総合的に評価

使用教科書名(ISBN番号) なし

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連

- 【知識・理解】グローバルな視点から、社会ある諸課題についての知識と理解を深めること。
- 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、分析、整理し、考察すること。
- 【関心・意欲・態度】社会の中の諸問題に積極的に関心を持つこと。
- 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけること。

オフィスアワー 水曜日4限後半～5限前半 2407被服材料学研究室

学生へのメッセージ 学外の方々や他学年の学生と協同することは、大きな成長に繋がる貴重な経験の機会となります。積極的に参加してほしいと思います。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション、協同作業の実施。
情報リテラシー教育	○	課題に対する情報を収集し、整理、分析して、発表する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	生活デザイン演習C(富田2)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田 弘美	指定なし

ナンバリング	D21205M12
授業概要(教育目的)	(集中授業) ユニコムプラザ(相模大野)の展示スペースに、何をどのように展示するか年間の企画をし、住の模型・舞台衣装・デジタルデザイン・その他(研究・調査等のパネル)など、学生の作品を色彩・照明・配置・演出をデザインして効果的な空間ディスプレイを考えることが目的である。(搬出入は大学の車両を使用する。)

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点(K)	社会の中にある諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点(K)	社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点(V)	社会の中にある諸課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点(A)	課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

生活デザイン演習C(富田2)

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ユニコムプラザの空間ディスプレイの企画・運営	展示・作業日程の確認、展示内容・場所について理解する。	空間ディスプレイとして展示希望作品を考えてくること。	45分
第2回	ユニコムプラザの空間ディスプレイの企画・運営	展示年間計画・コンセプト、展示作品・内容について学ぶ。既存の作品で展示を考える。	空間ディスプレイの年間計画・展示内容の案を考える。	45分
第3回	ユニコムプラザの空間ディスプレイ	作品の入換え、既存作品の展示、展示スペースの採寸と見学により会場の状況を把握する。	展示スペースの写真等を整理する。	45分

	イの企画・運営			
第4回	ユニコムプラザの空間ディスプレイの企画・運営	作品展示後の写真や説明を整理してホームページに掲載することを学ぶ。	展示物の整理、片付けをする。	45分
第5回	ユニコムプラザの空間ディスプレイの企画・運営	ディスプレイの基礎1について学ぶ。	空間ディスプレイのプリント1を読んでおくこと。	45分
第6回	ユニコムプラザの空間ディスプレイの企画・運営	ディスプレイの基礎2について学ぶ。	ノートの整理、展示空間のディスプレイを考える。	45分
第7回	ユニコムプラザの空間ディスプレイの企画・運営	年間の展示内容を決め、大学名、学科名の看板づくり1、デザイン、材料の検討する。	看板の作業の続きを行う。	45分
第8回	ユニコムプラザの空間ディスプレイの企画・運営	年間の展示内容を決め、大学名、学科名の看板づくり2を検討する。	看板等を完成させる。	45分
第9回	ユニコムプラザの空間ディスプレイの企画・運営	大学名、学科名の看板づくり3を検討する。	大学名等のパネルを完成させる。	45分
第10回	ユニコムプラザの空間ディスプレイの企画・運営	展示作品のパネルづくり1、デザイン、材料の検討する。	展示作品のパネルづくりの続き作業を行う。	45分
第11回	ユニコムプラザの空間ディスプレイの企画・運営	展示作品のパネルづくり2を検討する。	空間ディスプレイー展示用のパネル作業の続きを行う。	45分
第12回	ユニコムプラザの空間ディスプレイの企画・運営	展示用のパネルづくり3の検討と完成させる。	ディスプレイ空間を演出する小道具を考える。	45分
第13回	ユニコムプラザの空間ディスプレイの企画・運営	後期、作品展示の演出小道具のデザイン、コンセプトを検討する。	スペース、コンセプト、デザインを考える。	45分
第14回	ユニコムプラザの空間ディスプレイの企画・運営	第2回作品の入換え準備、作品展示、大学名の看板、パネル等を準備する。	作品の整理、搬出準備をする。	45分
第15回	ユニコムプラザの空間ディスプレイの企画・運営	第2回作品の入換え、既存の作品を展示する。看板を設置する。	作品の整理、片付け。	45分

学生へのフィードバック方法 空間ディスプレイの計画書に対するコメント、展示会場での講評

評価方法 空間ディスプレイ、平常点

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
企画書	○	○	○	○
空間ディスプレイ	○	○	○	○
平常点			○	
製図	○	○	○	○

評価割合	企画書30%、空間ディスプレイ30%、平常点40%
使用教科書名 (ISBN番号)	適宜プリント配付
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会の中にある諸課題についての知識を深める。【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】社会の中にある諸課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。【技術・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。
オフィスアワー	木曜日 12:30~14:00
学生へのメッセージ	各自が授業で制作したものや友達と共同で制作したものなど、身近な作品を中心に効果的な空間ディスプレイを考えてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学生の能動的な参加である。外部の会場に展示するために発見や思いがけないトラブルが生じることがある。これらから問題解決能力や社会的能力の成長を目指している。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	服飾造形実習B		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田 弘美	指定なし

ナンバリング	D22202M23
授業概要(教育目的)	衿と袖付きブラウス・シャツの製作が課題である。デザインは各自がスタイル、ディテール、素材・色彩等を考え、パターン設計(製図)、裁断、身頃・衿・袖のミシン縫製を習得して仕上げる。立体的な人体の上半身・腕・頸の構造と衣服の平面的なパターンとの関係を理解することを目的とする。
履修条件	「服飾造形実習A」を履修していること。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	衣服に関する分野の諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点(K)	衣服に関する分野の諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点(V)	衣服に関する分野の諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点(A)	

学習計画

服飾造形実習B

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	課題のブラウス・シャツの説明、デザイン条件、材料・道具・レポートの説明	ブラウスの種類、材料(生地・糸)道具、レポートの説明、身頃原型を製図用紙にトレースすることを学ぶ。	身頃原型を製図用紙にトレースすること。 ブラウスまたはシャツのデザインを考え、デザイン画にまとめること。	90分
第2回	ブラウス、シャツの製図1、材料の準備、製図点検	各自のデザインに対する身頃(ブラウスとシャツ)の製図を学ぶ。	道具、材料の準備をすること。	90分
第3回	ブラウス、シャツの製	袖(セットインスリーブとシャツスリーブ)の製図を学ぶ。	道具、材料の準備をすること。	90分

	図2、製図点検			
第4回	ブラウス、シャツの製図3、製図点検	衿（シャツカラー、フラットカラー、台衿付きシャツカラー、スタンドカラー）の製図、生地・地直について学ぶ。	生地を購入して地直をすること。	90分
第5回	ブラウスの型紙づくり、裁断・印付け1	製図から型紙をトレースし、裁断、チャコペーパーによる印付けについて学ぶ。	型紙は完成させること。	90分
第6回	裁断・印付け2、仮縫い1	裁断、チャコペーパーの印付け、身頃のダーツ、ヨーク、脇の仮縫い合わせを学ぶ。	印付けまで完成させること。	90分
第7回	仮縫い2	肩・衿づくり、衿付け、袖づくりを学ぶ。	説明した内容まで進めること。	90分
第8回	仮縫い3、ブラウスの試着点検1	カフス付け、袖付け、裾上げ、試着点検、補正について学ぶ。	仮縫いを完成させて試着点検を受けられる状態で持参すること。	90分
第9回	本縫い1	ダーツ、肩、脇、接着芯張り（衿、カフス、見返し・前立て）の縫製、縫い代（ロックミシン）を学ぶ。	説明した内容まで進めること。	90分
第10回	本縫い2、レポートの説明	衿づくりと衿付け（シャツカラー、台衿付きシャツカラー、フラットカラー）、カフスづくりを学ぶ。	説明した内容まで進めること。	90分
第11回	本縫い3	袖づくり、袖口の開きの始末（見返し・短冊）について学ぶ。	説明した内容まで進めること。	90分
第12回	本縫い4、ボタンホール（手かがり）の練習1	袖付け、ボタンホールの手かがりを学ぶ。	説明した内容まで進めること。	90分
第13回	本縫い5、ボタンホール（手かがり）の練習2、ボタンホール（ミシン）1	裾の始末、ボタンホールの手でかがり、実物はミシンで行うことを学ぶ。	説明した内容まで進めること。	90分
第14回	ボタンホール（ミシン）2、ボタン付け、仕上げ	ボタンホールを手でかがり、実物はミシンで行い、ボタンを付け、仕上げアイロンをかけを学ぶ。	ブラウスを仕上げる。口頭発表内容を考えてまとめる。	90分
第15回	着装発表、レポート提出	コーディネイトをして着装し、デザインの特徴、生地名と素材、制作に対する問題点や反省点を発表する。	ブラウス、レポートの提出準備をすること。	90分

学生へのフィードバック方法	製図・部分縫いのコメント、作品と発表への講評			
評価方法	平常点（授業への参加・状況、提出期日などで総合的に判断する）製図、部分縫い、作品、発表			
評価基準	評価基準			
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
製図	○	○	○	○
部分縫い	○	○	○	○
作品	○	○	○	○
発表	○	○	○	○
評価割合	平常点30%（授業への参加・状況、提出期日などで総合的に判断する）製図10%、部分縫い10%、作品30%、発表20%			
使用教科書名 (ISBN番号)	アパレル生産実習・アパレル設計実習 一般社団法人衣料管理協会			

	適宜プリント配付															
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】衣分野の諸課題についての知識を深める。【思考・判断】衣分野の諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】衣分野の諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。【技術・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。															
オフィスアワー	木曜日12:30~14:00															
学生へのメッセージ	授業の遅れは次回までに取り戻しておくこと。欠席をしないこと。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>各自がデザインしたブラウス・シャツのコンセプト、特徴、素材について調べ、着装発表を行う。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング	○	各自がデザインしたブラウス・シャツのコンセプト、特徴、素材について調べ、着装発表を行う。	情報リテラシー教育			ICT活用		
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業																
アクティブ・ラーニング	○	各自がデザインしたブラウス・シャツのコンセプト、特徴、素材について調べ、着装発表を行う。														
情報リテラシー教育																
ICT活用																

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ゼミナールA(石綱)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石綱 史子	指定なし

ナンバリング	D31207M12
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。
履修条件	なし。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	生活デザイン学科で学ぶために必要なことは何かを体験的に理解する。
思考・判断の観点 (K)	生活デザイン学科で主体的に学ぶための考え方を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	協同作業に積極的に参加し、他のメンバーと協調して作業を進めることできる。
技術・表現の観点 (A)	生活デザイン学科の専門分野の授業で必要とされる手法や表現方法を体験する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	全体ガイダンス(1)	各担当教員のテーマ説明① (石綱・呉・小池・斎藤・佐々木・澤田・白井・千葉)	各テーマについての予備調査と、各教員との個別の相談。	45分
第2回	全体ガイダンス(2)	各担当教員のテーマ説明② (富田・花田・原口・深石・森・加地・嶋田・西口)	各テーマについての予備調査と、各教員との個別の相談。	45分
第3回	石綱担当分の内容についてのガイダンス	演習の目的、進め方について解説する。 この演習は、各回を「1分間スピーチ」、「ドリル(理論的思考力、漢字など)」、「文章を読み要約し、発表する」の3部構成とする。	1分間スピーチを準備する。	45分
第4回	卒業研究とは	本学科の卒業研究の要件、進め方について実例を挙げて解説する。 卒業研究要旨を読む、1分間スピーチ、ドリル(理論的思考力、漢字など)	1分間スピーチを準備する。	45分
第5回	卒業研究の要旨を読む①	各自興味のあるテーマの卒業研究要旨を選び、読み、要約し、発表する。 1分間スピーチ、ドリル(理論的思考力、漢字など)。	1分間スピーチを準備する。	45分

第6回	卒業研究の要旨を読む②	各自興味のあるテーマの卒業研究要旨を選び、読み、要約し、発表する。 1分間スピーチ、ドリル（理論的思考力、漢字など）。	1分間スピーチを準備する。	45分
第7回	卒業研究の要旨を読む③	各自興味のあるテーマの卒業研究要旨を選び、読み、要約し、発表する。 1分間スピーチ、ドリル（理論的思考力、漢字など）。	1分間スピーチを準備する。	45分
第8回	卒業研究の要旨を読む④	各自興味のあるテーマの卒業研究要旨を選び、読み、要約し、発表する。 1分間スピーチ、ドリル（理論的思考力、漢字など）。	1分間スピーチを準備する。	45分
第9回	卒業研究の要旨を読む⑤	各自興味のあるテーマの卒業研究要旨を選び、読み、要約し、発表する。 1分間スピーチ、ドリル（理論的思考力、漢字など）。	1分間スピーチを準備する。	45分
第10回	文献を読む①	文献の種類を解説する。各自、興味のある一般的な文章または初歩的な文献を探す。 1分間スピーチ、ドリル（理論的思考力、漢字など）。	1分間スピーチを準備する。 各自、興味のある文章を探しておく。	45分
第11回	文献を読む②	各自選んだ一般的な文書または初歩的な文献を、読み、要約し、発表する。 1分間スピーチ、ドリル（理論的思考力、漢字など）。	1分間スピーチを準備する。	45分
第12回	文献を読む③	各自選んだ一般的な文書または初歩的な文献を、読み、要約し、発表する。 1分間スピーチ、ドリル（理論的思考力、漢字など）。	1分間スピーチを準備する。	45分
第13回	文献を読む④	各自選んだ一般的な文書または初歩的な文献を、読み、要約し、発表する。 1分間スピーチ、ドリル（理論的思考力、漢字など）。	1分間スピーチを準備する。	45分
第14回	卒業研究のテーマを考える①	各自、興味のある卒業研究のテーマを考え、目的、構成などを検討する。 1分間スピーチ、ドリル（理論的思考力、漢字など）。	1分間スピーチを準備する。	45分
第15回	卒業研究のテーマを考える②	各自、興味のある卒業研究のテーマを考え、目的、構成などを検討する。 1分間スピーチ、ドリル（理論的思考力、漢字など）。	本演習で学んだことをまとめ、今後の学修に活用する。 卒業研究で扱いたいテーマを検討しておく。	45分

学習計画注記	第1回と第2回の授業はゼミナールA全テーマ合同の授業です。第3回目以降は担当教員別の授業で、各教員が指定する時間割と教室で授業を行います。 履修者数や演習の進み具合などにより、スケジュールや課題変更になる場合があります。
--------	---

学生へのフィードバック方法	演習中に随時ディスカッションを行い、フィードバックする。各課題は採点し、コメントを付けて返却する。疑問・質問が生じた場合は、e-mailで連絡をするか、3609研究室を訪問すること。
---------------	---

評価方法	平常点：課題に取り組む意欲的な姿勢や理解度を総合的に評価する。 課題：1分間スピーチの準備状況、文献の読解力、要約力、文章構成力などを総合的に判断して評価する。
------	---

評価基準	
------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点		○	○	
課題	○			○

評価割合	平常点50%、課題50%で総合的に判断する。
------	------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	適宜、資料を印刷・配付する。
-----------------	----------------

参考図書	なし
------	----

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】各分野の知識と理解を深めること。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見すること。 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持つこと。 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけること。
---------------	--

オフィスアワー	火曜日4限 3609研究室
---------	---------------

学生へのメッセージ	石網担当では、基礎的な話す・書く・読む・考える力の向上を目的としています。4年次で取り組む卒業研究の実施内容を理解し、初歩的な学術論文を正しく読めるようになることを目標としています。
-----------	---

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自ら興味がある文献を探し、読み、要約し、発表する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ゼミナールA(呉)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 呉 起東	指定なし

ナンバリング	D31207M12
授業概要(教育目的)	ゼミナールA・B：生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
思考・判断の観点 (K)	多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
技術・表現の観点 (A)	社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信

学習計画

ゼミナールA

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	全体ガイダンス(1)	各担当教員のテーマ説明① (石綱・呉・小池・斎藤・佐々木・澤田・白井・千葉)	各テーマについての予備調査と、各教員との個別の相談。	45分
第2回	全体ガイダンス(2)	各担当教員のテーマ説明② (富田・花田・原口・深石・森・加地・嶋田・西口)	各テーマについての予備調査と、各教員との個別の相談。	45分
第3回	グラフィックの基本1	グラフィックデザインの基本を学び各自の作品に応用する	各自のテーマを決め作品を制作する	45分
第4回	グラフィックの基本2	グラフィックデザインの基本を学び各自の作品に応用する	各自のテーマを決め作品を制作する	45分
第5回	グラフィックの基本3	グラフィックデザインの基本を学び各自の作品に応用する	各自のテーマを決め作品を制作する	45分
第6回	グラフィックのまとめ	作品の発表を行い作品についてディスカッションを行う	作品の報告書を書く	45分

第7回	写真の基本1	写真の基本を学び各自の作品に応用する	各自のテーマを決め作品を制作する	45分
第8回	写真の基本2	写真の基本を学び各自の作品に応用する	各自のテーマを決め作品を制作する	45分
第9回	写真の基本3	写真の基本を学び各自の作品に応用する	各自のテーマを決め作品を制作する	45分
第10回	写真のまとめ	作品の発表を行い作品についてディスカッションを行う	作品の報告書を書く	45分
第11回	映像の基本1	映像の基本を学び各自の作品に応用する	各自のテーマを決め作品を制作する	45分
第12回	映像の基本2	映像の基本を学び各自の作品に応用する	各自のテーマを決め作品を制作する	45分
第13回	映像の基本3	映像の基本を学び各自の作品に応用する	各自のテーマを決め作品を制作する	45分
第14回	映像のまとめ	作品の発表を行い作品についてディスカッションを行う	作品の報告書を書く	45分
第15回	プレゼンテーション	全体作品を振りかえを行い作品についてディスカッションを行う	全作品の報告書を書く	45分

学生へのフィードバック方法 毎回授業の最後に感想や質問を提出させて、次回に感想や質問について解説を行う。別の質問などがある場合は研究室1307 (E-mailも可) まで訪問すること。

評価方法 課題は60点満点で課題の結果とプレゼンテーションで評価を行う。評価の基準は3つの基準は「課題の理解」「誠実さ」「デザイン性」で5段階評価を行う。レポートと最終報告書は20点満点で課題と同じく3つの基準を5段階評価で行う。平常点は20点満点で15回を通して「背極的な授業の参加、態度」「背極的なディスカッション」を基準に加点及び減点を行います。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合 課題80%
平常点20%

ディプロマポリシーとの関連 【【知識・理解】情報について、専門的知識・技術を有している。【思考・判断】多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。【関心・意欲・態度】積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

学生へのメッセージ グラフィックデザイン、写真、映像の基本を理解してゼミナールBや卒業研究A, Bの基礎に役立つために積極的に課題に取り込んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題に関して、自ら調べ、発表する。
情報リテラシー教育	○	情報そのものと情報の伝達をするための情報の収集、分類、基本的な表現スキルを教育する。
ICT活用	○	情報収集、作品制作、発表のために、PCや通信機器を活用する。

シラバス参照

講義名	ゼミナールA(河田)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田 敦子	指定なし

ナンバリング	D31207M12
授業概要(教育目的)	<p>4年生で取り組む卒業研究の準備学習を行う。</p> <p>①文献調査の方法（インターネットで調べる。図書館で調べる。文書館で調査する。） ②フィールドワークの方法（インタビュー調査。現地調査。聞き取り調査。学校調査等） ③テーマの設定（テーマはどの程度の絞り、広がりのある展望のあるテーマにするか） ④先行研究の検討</p> <p>以上の4項目は、どのような研究においても必要な基礎力である。ゼミナールAでは①、②について文献を読み、図書館に赴いき、学校調査に参加する等、基礎的理解を深め、能力を高める。 教職課程履修学生の場合は、「教えるということ」や「授業研究」についても学習の機会を設ける予定である。</p>
履修条件	<p>社会における教育や人間の在り方に興味を持っている事。</p> <p>基本的に、文献調査かインタビュー調査なので、こうした研究方法に興味関心があることが望ましい。</p>

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	文献を読みながら要約することができる。
思考・判断の観点 (K)	フィールドワークや文献調査を行いながら、何が重要かを自分なりに考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分の興味関心を深く調べ、様々なことに関連付けて発展させることができる。
技術・表現の観点 (A)	自分の興味関心のあることや自分で調べたことを少しずつでも論理的に他者に伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	研究に必要なこと (1) 文献調査の方法	研究するためには、研究対象に対して知識、理解が必要である。そのために、関連文献を調べ、ひも解く力を養う。インターネット検索や図書館のOPACの使い方、文献の取り寄せ方を学ぶ。	インターネット検索を学んだら、実際に様々な検索ワードで検索をしてみる。	240分
第2回	国会図書館、大学図書館のOPACの使い方	パソコン室で国会図書館や大学図書館のOPACを用いて、どのような文献がヒットするかを実際に行う。	検索用語は沢山ある。思わぬ用語で面白い文献に出会う面白さを味わってほしい。	240分
第3回	文献を読む	検索して入手を申し込んだ文献を読んで要約する。	文献を読む。研究論文は、小説	240分

	(1)		や物語のように読めない。論文を読むことを学ぶ。	
第4回	文献を読む(2)	自分が選んだ文献を読んで要点をまとめ、プレゼンする。	プレゼン用のレジュメの準備をする。	360分
第5回	文献を読む(3)	プレゼンされた文献について、ゼミ生同士でディスカッションする。自分の物事の見方だけでなく、他者の多様な見方を学ぶ。	ディスカッションで学んだことにより自分の研究を更に発展させて、調べる。	360分
第6回	フィールドワークとは(1)	フィールドワークとは、現地調査のことであるが、どのような方法があるかを原ひろ子著『観る・集める・考える』(1993年)を読みながら学ぶ。	短い文章なので、一人10ページを担当する。本全体を読みながら自分の担当する部分の意味を考え、要約のレジュメを作成する。	240分
第7回	フィールドワークとは(2)	フィールドワークとは、現地調査のことであるが、どのような方法があるかを原ひろ子著『観る・集める・考える』(1993年)を読みながら学ぶ。	短い文章なので、一人10ページを担当する。本全体を読みながら自分の担当する部分の意味を考え、要約のレジュメを作成する。	240分
第8回	『フィールドワークの技法』を読む	箕浦康子著『フィールドワークの技法』を一人一章ずつ担当して、その要約を発表する。	『フィールドワークの技法』を読んで、担当章をまとめる。	240分
第9回	『フィールドワークの技法』を読む	箕浦康子著『フィールドワークの技法』を一人一章ずつ担当して、その要約を発表する。	『フィールドワークの技法』を読んで、担当章をまとめる。	240分
第10回	『フィールドワークの技法』を読む	箕浦康子著『フィールドワークの技法』を一人一章ずつ担当して、その要約を発表する。	『フィールドワークの技法』を読んで、担当章をまとめる。	240分
第11回	国会図書館を使ってみる(3回分)	実際に国会図書館へ行き、自分の興味ある事柄について文献調査を行う。アクティブラーニングである。	調べたいことを整理しておくこと。	240分
第12回	国会図書館を使ってみる	実際に国会図書館へ行き、自分の興味ある事柄について文献調査を行う。アクティブラーニングである。	調べたいことを整理しておくこと。	240分
第13回	国会図書館を使ってみる	実際に国会図書館へ行き、自分の興味ある事柄について文献調査を行う。アクティブラーニングである。	調べたいことを整理しておくこと。	240分
第14回	調べたことをまとめてプレゼンする。	今回のゼミで自分が調べた学びをまとめてプレゼンする。一人20分程度	プレゼンの準備をする。	300分
第15回	調べたことをまとめてプレゼンする。	今回のゼミで自分が調べた学びをまとめてプレゼンする。一人20分程度	プレゼンの準備をする。	300分

学習計画注記	ゼミ形式。随時ゼミ発表を行う。国会図書館へ行ったり、近隣の学校に足を運んだりする。
学生へのフィードバック方法	発表時にコメントし、調査方法については随時助言する。
評価方法	研究への関心・意欲・態度。 ゼミ発表の内容 で評価する。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
熱意をもってゼミに参加している			○	
文献の要約ができる	○	○		○
研究として深めようとする意欲が			○	

評価割合	熱意をもってゼミに参加している (30%)。
------	------------------------

	論文や参考資料等、文献の要約ができる (40%)。 自分の興味や関心を研究として深めようとする意欲がある (30%)															
使用教科書名 (ISBN番号)	特に無															
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・原ひろ子『観る・集める・考えるー発見のためのフィールド・ワーク』カタツムリ社1993年 ・箕浦康子『フィールドワークの技法』 ・河田敦子「宮城県M郡K町における「姉家督」について」『民族学研究』1985年 ・林竹二『授業の成立』筑摩書房1983年 ・ 															
ディプロマポリシーとの関連	<p>①知識・理解 教育について調査研究、「家庭科教育」について、専門的知識・技術を学ぶ。</p> <p>②思考・判断 社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。</p> <p>③関心・意欲・態度 社会の中にある、教育に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。</p>															
オフィスアワー	月曜日4限ほか随時。メールでアポイントメントを取ること。															
学生へのメッセージ	研究とは、自分の興味関心を「とことん極める」ことです。 自分が何を「知りたい」、「極めたい」のか、何に「興味があるのか」を知ることが一番大切です。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td></td> <td>ゼミ発表。図書館調査。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td>文献検索。</td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td>PPTを用いた発表。</td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング		ゼミ発表。図書館調査。	情報リテラシー教育		文献検索。	ICT活用		PPTを用いた発表。
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業																
アクティブ・ラーニング		ゼミ発表。図書館調査。														
情報リテラシー教育		文献検索。														
ICT活用		PPTを用いた発表。														

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ゼミナールA(小池)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小池 孝子	指定なし

ナンバリング	D31207M12
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	自ら設定した課題に対し、グローバルな視点に立ち、「住」をはじめとする家政学の各分野の知識を深めて理解する。
思考・判断の観点 (K)	社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
技術・表現の観点 (A)	課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	全体ガイダンス(1)	各担当教員のテーマ説明①(石網・呉・小池・斎藤・佐々木・澤田・白井・千葉)	各テーマについての予備調査と、各教員との個別の相談。	45分
第2回	全体ガイダンス(2)	各担当教員のテーマ説明②(富田・花田・原口・深石・森・加地・嶋田・西口)	各テーマについての予備調査と、各教員との個別の相談。	45分
第3回	社会調査の方法について・研究課題の検討(1)	社会調査の意義と方法についての講義 (アクティブラーニング:グループワーク) 各自の問題意識に基づき研究課題としたいテーマについて検討する	(予習)興味のあるテーマを抽出し、レジюмеにまとめる	45分
第4回	研究課題の検討(2)	(アクティブラーニング:グループワーク) 各自の問題意識に基づき研究課題としたいテーマについて検討する	(予習)興味のあるテーマを抽出し、レジюмеにまとめる	45分
第5回	先行研究レビュー	(アクティブラーニング:グループワーク) 研究テーマに関する先行研究をレビューしまとめたもの	(予習)先行研究を検索し、要約をレジюмеにまとめる	45分

	(1)	を持ち寄り、発表しディスカッションをおこなう		
第6回	先行研究レビュー (2)	(アクティブラーニング：グループワーク) 研究テーマに関する先行研究をレビューしまとめたものを持ち寄り、発表しディスカッションをおこなう	(予習) 先行研究を検索し、要約をレジュメにまとめる	45分
第7回	フィールドワーク調査の立案 (1)	(アクティブラーニング：グループワーク) 研究テーマに関するフィールドワーク調査を立案し、発表しディスカッションをおこなう	(予習) 先行研究を検索し、各自の研究テーマに合った調査方法についてレジュメにまとめる	45分
第8回	フィールドワーク調査の立案 (2)	(アクティブラーニング：グループワーク) 研究テーマに関するフィールドワーク調査を立案し、発表しディスカッションをおこなう	(予習) 先行研究を検索し、各自の研究テーマに合った調査方法についてレジュメにまとめる	45分
第9回	フィールドワーク調査の実施 (1)	(アクティブラーニング：グループワーク) 立案した調査計画に基づき、フィールドワーク調査をおこなう	(復習) フィールドワーク調査結果を資料として整理する	45分
第10回	フィールドワーク調査の実施 (2)	(アクティブラーニング：グループワーク) 立案した調査計画に基づき、フィールドワーク調査をおこなう	(復習) フィールドワーク調査結果を資料として整理する	45分
第11回	フィールドワーク調査の実施 (3)	(アクティブラーニング：グループワーク) 立案した調査計画に基づき、フィールドワーク調査をおこなう	(復習) フィールドワーク調査結果を資料として整理する	45分
第12回	フィールドワーク調査の実施 (4)	(アクティブラーニング：グループワーク) 立案した調査計画に基づき、フィールドワーク調査をおこなう	(復習) フィールドワーク調査結果を資料として整理する	45分
第13回	フィールドワーク調査のまとめ (1)	(アクティブラーニング：グループワーク) フィールドワーク調査の結果についてディスカッションし、まとめる	(復習) フィールドワーク調査結果についてまとめる	45分
第14回	フィールドワーク調査のまとめ (2)	(アクティブラーニング：グループワーク) フィールドワーク調査の結果についてディスカッションし、まとめる	(復習) フィールドワーク調査結果についてまとめる	45分
第15回	全体のまとめ	研究全体を振り返り、ディスカッションをおこなう	(予習) ディスカッションする内容をレジュメにまとめる	45分

学習計画注記
第1回と第2回の授業はゼミナールA全テーマ合同の授業です。第3回目以降は担当教員別の授業で、各教員が指定する時間割と教室で授業を行います。履修者数や各自の希望する研究テーマによって授業内容が変更になることがあります。

学生へのフィードバック方法
ゼミでは研究の進捗に関するレジュメを毎回用意して発表し教員の指導を受ける。全員でのグループディスカッションを実施するので、積極的に議論に参加すること。毎回のゼミに必ず出席すること。やむなく欠席する場合にはオフィスアワー等を利用して個別指導を受けること。

評価方法
課題については、問題設定の着眼点・独自性、調査研究の精度、結論に至る論理構成について評価する。平常点については、授業（ゼミ）への参画状況、研究への取り組みの積極性、計画的な研究の遂行について評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題	○	○	○	○
平常点	○	○	○	

評価割合
課題の完成度50%、平常点50%とし、総合的に評価する

使用教科書名 (ISBN番号)
特に指定しない

ディプロマポリシーとの関連
【知識・理解】
・グローバルな視点から「住」をはじめとする家政学の各分野についての知識を深めて理解する
【思考・判断】

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる 【関心・意欲・態度】 ・ 社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる 【技能・表現】 ・ 家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている
--	---

学生へのメッセージ	身近な住生活課題の解決のために、論文・設計作品による提案を行うのが卒業研究です。卒業研究に向けて、課題解決・提案の手法について学びましょう。
-----------	--

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業はゼミ形式で実施する。研究の進捗について毎回発表、グループディスカッションを実施する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ゼミナールA(齋藤史)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 齋藤 史夫	指定なし

ナンバリング	D31207M12
授業概要(教育目的)	子ども・子育て応援の実践と基礎理論 子ども・子育て応援の現場にゼミナールとして、また、個人で積極的にかかわる。 『子ども白書』をテキストに、子ども・子育ての現状と課題を学び考える。 子ども・若者に関わる社会的活動の現場に出かけて課題を考えるとともに、卒業研究受講生とともにゼミナールを実施することを基本として、研究の実際に触れることによって理論を深め研究の方法を学ぶ。
履修条件	特に無し
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	自らの問題意識を解決する専門領域の知識を得る。
思考・判断の観点 (K)	自ら掲げた課題を解決する方法を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会的課題を自分の課題として解決しようという意欲を持つ。
技術・表現の観点 (A)	自ら到達した解決の方法をまとめて、他者に伝えられるよう表現できる。

学習計画

子ども・子育て応援の実践と基礎理論

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	後期ガイダンス(1)	後期のゼミナールの運営の説明	自分の研究テーマを深める	45分
第2回	後期ガイダンス(2)	後期ゼミナールの運営の相談	ゼミ計画案の立案	45分
第3回	テーマに関する共同研究討議(1)	各自の研究テーマの発表	発表準備	60分
第4回	テーマに関する共同研究討議(2)	各自の研究テーマの発表	ネットで国分寺市の児童施設を調査する。	60分
第5回	テーマに関	各自の研究テーマの発表	ネットで国分寺市の児童施設を	60分

	する共同研究討議(3)		調査する。	
第6回	テーマに関する共同研究討議(4)	各自の研究テーマの発表	ネットで国分寺市の児童施設を調査する。	60分
第7回	テーマに関する共同研究討議(5)	各自の研究テーマの発表	見学の様子をまとめる	60分
第8回	校外授業—教育改革先進事例調査	教育改革先進事例調査	事前調査	60分
第9回	校外授業—教育改革先進事例調査	教育改革先進事例調査	事例調査	60分
第10回	校外授業—教育改革先進事例調査	教育改革先進事例調査	教育改革先進事例調査まとめ	60分
第11回	テーマに関する共同研究討議(6)	研究発表	発表の準備	60分
第12回	テーマに関する共同研究討議(7)	研究発表	発表の準備	60分
第13回	ゼミナール論議	ゼミナール内での論議	発表の準備	60分
第14回	ゼミナール論議	ゼミナール内での論議	論議をまとめる	60分
第15回	ゼミナールでの学びのまとめ	15回の授業を通じた学びを考える。	15回の授業を振り返る	60分

学習計画注記	学生主体でグループを形成し、主体的、共同的に参加することを求めます。
学生へのフィードバック方法	適宜ゼミにて研究の経過の報告を受け、集団的に論議する。
評価方法	研究がテーマに基づき、日々深められているかその経過を重視する。同時に、研究発表が、自分なりに整理され他者に伝えられるよう的確に整理・表現されているかを評価する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
ゼミへの共同的積極的参加			○	
研究の深化	○			
発表		○		○

評価割合	ゼミへの共同的積極的参加 (40%) 研究の深化 (30%) 発表 (30%)
使用教科書名 (ISBN番号)	授業内で提示する
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 社会の諸課題を理解することで、将来の社会的貢献へつなぐことができる。 【思考・判断】 諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】 高い徳性をもって 人々のために働く能力を持つ。 【技 能・表 現】 専門的技能をもってコミュニティの課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を持つ。
オフィスアワー	火曜日3限1607研究室
学生へのメッセージ	研究的協同実践者を目指し、子ども理解の研究と実践を進めましょう。

教育等の取組み状況

該当	概要
----	----

	有無	
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループで活動することを基本とする。
情報リテラシー教育	○	子どものための活動プログラムを図書・インターネットで調査する。
ICT活用	○	インターネット調査

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ゼミナールA(佐々木)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 佐々木 麻紀子	指定なし

ナンバリング	D31207M12
授業概要(教育目的)	ゼミナールA・B：生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	被服整理分野の研究対象に必要な基礎を理解する
思考・判断の観点 (K)	被服整理分野を主体的に学ぶための考え方を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	必要な資料の収集ができる
技術・表現の観点 (A)	生活デザイン学科の専門分野の授業で必要とされる手法や表現方法を体験する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	全体ガイダンス(1)	各担当教員のテーマ説明① (石綱・呉・小池・斎藤・佐々木・澤田・白井・千葉)	各テーマについての予備調査と、各教員との個別の相談。	45分
第2回	全体ガイダンス(2)	各担当教員のテーマ説明② (富田・花田・原口・深石・森・加地・嶋田・西口)	各テーマについての予備調査と、各教員との個別の相談。	45分
第3回	文献を読む1	課題1被服整理分野の先行研究論文を読み、要約をする	課題の文章を要約し、紹介する。	45分
第4回	文献を探す	課題2 文献の種類と探し方について理解し、各自興味ある文献を探し、要約をする。	文献の探し方を復習しておく	45分
第5回	文献を読む2	課題2 各自興味ある文献を探し、要約をする。	文献の探し、読んでおく	45分
第6回	文献を読む3	課題2 各自興味ある文献を探し、要約をする。	文献の探し、読んでおく	45分
第7回	文献を読む	課題2 各自興味ある文献を探し、要約をす、解説をす	文献を要約し解説をする準備を	45分

	4	る。	行う	
第8回	被服整理学演習1	課題3 被服整理学分野に関わる演習を行い、被服整理学分野の課題を見つける	演習で行った結果をまとめておく	45分
第9回	被服整理学演習2	課題3 被服整理学分野に関わる演習を行い、被服整理学分野の課題を見つける	演習で行った結果をまとめておく	45分
第10回	被服整理学演習3	課題3 被服整理学分野に関わる演習を行い、被服整理学分野の課題を見つける	演習で行った結果をまとめておく	45分
第11回	被服整理学演習4	課題3 被服整理学分野に関わる演習を行い、被服整理学分野の課題を見つける	演習で行った結果をまとめておく	45分
第12回	被服整理学演習5	課題3 被服整理学分野に関わる演習を行い、被服整理学分野の課題を見つける	演習で行った結果をまとめておく	45分
第13回	被服整理学演習6	課題3 被服整理学分野に関わる演習を行い、被服整理学分野の課題を見つける	演習で行った結果をまとめておく	45分
第14回	まとめ1	演習で学んだことをまとめ発表する準備を行う	演習で行った結果をまとめておく	45分
第15回	まとめ2	演習全体のまとめ	本演習で学んだことをまとめる	45分

学習計画注記 受講人数によっては課題やスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法 演習中に随時ディスカッションを行い、フィードバックします。

評価方法 平常点と課題で評価します。
平常点は授業への積極的な参加態度や演習への取り組み状況を総合的に評価します。
課題1,2は読解力、文章構成力などを総合的に判断します。
課題3は演習内容の理解、課題解決の方法および結果を正確に表現できるかを評価します。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	
課題	○	○	○	○

評価割合 平常点40%、課題60%で評価します。

使用教科書名 (ISBN番号) なし

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】各分野の知識と理解を深めること。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見すること。
【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持つこと。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけること。

オフィスアワー 月曜2時限 2406研究室

学生へのメッセージ 文献の探し方、文献を読み要約することを学びます。また演習を通して被服整理学分野でどんな課題があるのか自ら体験することで新たな課題を発見することを目指します。

教育等の取り組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	課題に関する情報を収集・分析・整理する。
ICT活用	○	情報収集や課題作成のために、PCや通信機器を活用する。

シラバス参照

講義名	ゼミナールA(澤田)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 澤田 雅彦	指定なし

ナンバリング	D31207M12
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。 澤田が担当する授業では、「デザイントレーニング」のテーマで、手を動かして、形を描くこと、作ること、あるいは自分の考えを表現すること、伝えること、そして、デザインを考えることを実践する。
履修条件	なし
学習目標(到達目標)	学習目標(到達目標)
知識・理解の観点(K)	デザインに関する知識と理解を深めること。
思考・判断の観点(K)	自らの意図や思考に基づき、自分が表現したいことを論理的に考察できる。
関心・意欲・態度の観点(V)	社会とデザインと自分自身の学びを関連づけて考えることができる。
技術・表現の観点(A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	全体ガイダンス(1)	各担当教員のテーマ説明① (石綱・呉・小池・斎藤・佐々木・澤田・白井・千葉)	各テーマについての予備調査と、各教員との個別の相談。	45分
第2回	全体ガイダンス(2)	各担当教員のテーマ説明② (富田・花田・原口・深石・森・加地・嶋田・西口)	各テーマについての予備調査と、各教員との個別の相談。	45分
第3回	形を描く(1)	三角法を用いた製図の基本	製図の作図	45分
第4回	形を描く(2)	三角法を用いた製図の基本	製図の作図	45分
第5回	形を描く(3)	漢字のレタリング	レタリングの作業	45分
第6回	形を描く	漢字のレタリング	レタリングの作業	45分

	(4)			
第7回	形を描く (5)	写生(クロッキー)の練習	次の課題のためのアイデアスケッチ	45分
第8回	形をつくる (1)	粘土の造形(基礎:円筒形を作る)	作品の制作	45分
第9回	形をつくる (2)	粘土の造形(基礎:円筒形を作る)	作品の制作	45分
第10回	形をつくる (3)	粘土の造形(応用:陶土のペン立て制作)	作品の制作	45分
第11回	形をつくる (4)	粘土の造形(応用:陶土のペン立て制作)	作品の制作	45分
第12回	形を描く (6)	写生(クロッキー)の練習	見学予定の博物館・美術館についての下調べ	45分
第13回	博物館・美術館見学	近隣の博物館の見学	作品についてのプレゼンテーションレポートを作成する準備	45分
第14回	形をつくる (5)	粘土の造形(応用:陶土のペン立て制作)	作品の写真撮影とプレゼンテーションレポートの制作	45分
第15回	作品の発表会	作品についてのプレゼンテーションレポートを作成して発表する。	プレゼンテーションレポートの手直し	45分

学習計画注記 第1回と第2回の授業はゼミナールA全テーマ合同の授業です。第3回目以降は担当教員別の授業で、各教員が指定する時間割と教室で授業を行います。3回目以降の授業計画は、課題の進捗状況を考慮して変更します。

学生へのフィードバック方法 課題作品やレポートについては、15回目の作品の発表会でコメントします。

評価方法

1. 課題・作品等は、指定した条件にあっているか、制作意図を反映したデザインであるか、丁寧に作られているか、といった観点で評価する。
2. レポートは、作品についての情報と、作品の制作意図や制作の手順・工夫を、正確に分かりやすく示しているか、といった観点で評価する。
3. 平常点は、作品の制作過程で、どれだけ多くのアイデアを出して試作をしたか、どの程度集中して制作に取り組んだか、といった観点で評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題・作品等の完成状況	○	○		
レポート	○	○		
平常点		○	○	

評価割合 課題・作品等の完成状況30%、レポート30%、平常点40%

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連

- 【知識・理解】デザインに関する知識と理解を深めること。
- 【思考・判断】デザインについての諸課題を自ら発見し、それを解決するために論理的な思考ができること。
- 【関心・意欲・態度】社会とデザインと自分自身の学びの関わりに積極的に関心を持つこと。
- 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけること。

オフィスアワー 前期水曜日3時限 1503研究室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		

シラバス参照

講義名	ゼミナールA(白井)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 白井 篤	指定なし

ナンバリング	D31207M12
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	新聞や雑誌、書籍などを読んで、その内容を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	新聞や雑誌、書籍などを読んで、自分の意見を持つと共に、問いを立てることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	「知識・理解の観点」「思考・判断の観点」で得た、知識・理解及び思考・判断をレポートにまとめることができると共に、そのまとめた内容を相手に正しく伝えるように話すことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	全体ガイダンス (1) 各担当教員のテーマ説明	各担当教員のテーマについて理解できる。 各担当教員のテーマについて興味・関心を持つ。	興味・関心を持ったテーマについて、書籍、雑誌、インターネットなどを用いて調べる。	30
第2回	全体ガイダンス (2) 各担当教員のテーマ説明	各教員のテーマについて理解できる。 各教員のテーマについて興味・関心を持つ。	興味・関心を持ったテーマについて、書籍、雑誌、インターネットなどを用いて調べる。	30
第3回	個別ガイダンス 情報源の長所・	私達の身近な情報源として「新聞」「テレビ」「インターネット」の3つを取り上げて、それぞれの特徴を導き出すことで、新聞活用の意味を理解する。	返却された課題(学修成果)を見返して、学修内容を定着させる。	45

	短所を理解しよう。			
第4回	新聞を比較しよう。	複数の新聞の記事を比較することで、それぞれの新聞の特徴や、同じ出来事でも捉え方が異なることを理解する。(新聞を読む初歩として)	返却された課題(学修成果)を見返して、学修内容を定着させる。	45
第5回	新聞活用(1)	新聞記事を要約し、プレゼンすることで、読む力、書く力、話す力の3つを養う。	返却された課題(学修成果)を見返して、学修内容を定着させる。	45
第6回	振り返り(1)	前回の授業を振り返る。	返却された課題(学修成果)を見返して、学修内容を定着させる。	45
第7回	新聞活用(2)	新聞を見て、気になる記事を読み、それを要約する。	返却された課題(学修成果)を見返して、学修内容を定着させる。	45
第8回	振り返り(2)	前回の授業で要約した新聞記事についてプレゼンテーションする。	返却された課題(学修成果)を見返して、学修内容を定着させる。	45
第9回	ロジカルシンキング(1)	ロジカルシンキングについて理解できること。	返却された課題(学修成果)を見返して、学修内容を定着させる。	45
第10回	ロジカルシンキング(2)	問題となっている事柄を観察し、正しい方法で解決策や改善策を導き出す技術を身につける。	返却された課題(学修成果)を見返して、学修内容を定着させる。	45
第11回	ロジカルシンキング(3)	問題となっている事柄を観察し、正しい方法で解決策や改善策を導き出す技術を身につける。	返却された課題(学修成果)を見返して、学修内容を定着させる。	45
第12回	新聞活用(3)	新聞記事を要約し、プレゼンすることで、読む力、書く力、話す力の3つを養う。	返却された課題(学修成果)を見返して、学修内容を定着させる。	45
第13回	振り返り(3)	前回の授業を振り返る。	返却された課題(学修成果)を見返して、学修内容を定着させる。	45
第14回	最終課題作成	「私の強み」というテーマで書く力を養う。	返却された課題(学修成果)を見返して、学修内容を定着させる。	60
第15回	最終課題のプレゼン	前回の課題についてプレゼンを行うことで、話す力を養う。	返却された課題(学修成果)を見返して、学修内容を定着させる。	60

学生へのフィードバック方法 実施した課題については、採点・評価して次週の授業の初めに返却する。返却時に評価基準についての解説を行う。

評価方法 平常点については、授業で実施した課題の成果で評価する。最終課題については、書く力(レポート)と話す力(プレゼンテーション)で評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○		○
最終課題	○	○		○

評価割合 平常点(70%)と最終課題(30%)で総合評価する。

使用教科書名(ISBN番号) 特になし。

参考図書 適宜、資料を印刷、配付する。

ディプロマポリシーとの関連 知識・理解の観点(K): 新聞や雑誌、書籍などを読んで、その内容を理解することで、専門的知識・技術を有することにつなげている。
 思考・判断の観点(K): 新聞や雑誌、書籍などを読んで、自分の意見を持つと共に、問いを立てることができる。このことは、社会の中にある諸課題を分析し、考察することができるにつながる。
 技術・表現の観点(A): 「知識・理解の観点」「思考・判断の観点」で得た、知識・理解及び思考・判断をレポートにまとめることができると共に、そのまとめた内容を相手に正しく伝えるように話すことができる。

オフィスアワー	金曜日3時限及び4時限。3号棟6階3606研究室。できるだけ、メールなどで事前予約してください。	
学生へのメッセージ	個別ガイダンス（第3回）で配付した授業予定表に従って行うので、事前に予習した上で、授業に臨んでください。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	教室内でのグループワークによる体験学習を通して、課題発見能力を養う。
情報リテラシー教育	○	課題を作成する上で、図書館の利用方法、文献探索方法などの情報活用能力を養う。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ゼミナールA(千葉)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 千葉 一博	指定なし

ナンバリング	D31207M12
授業概要(教育目的)	(学生便覧掲載の授業科目概要) ゼミナールA：生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。
履修条件	卒業要件単位を 46 単位以上修得していること

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	ゲーム理論または情報科学の分野における基本的な知識や技術を概ね説明できる。
思考・判断の観点 (K)	学生間や教員との間での議論において問題を指摘できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	学生間や教員との間での議論に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	全体ガイダンス(1)	各担当教員のテーマ説明① (石綱・呉・小池・斎藤・佐々木・澤田・白井・千葉)	各テーマについての予備調査と、各教員との個別の相談。	45
第2回	全体ガイダンス(2)	各担当教員のテーマ説明② (富田・花田・原口・深石・森・加地・嶋田・西口)	各テーマについての予備調査と、各教員との個別の相談。	45
第3回	ゲーム理論事始め	ゲーム理論について、入門的な内容を学習する。	ゲーム理論について、内容を復習する。	45
第4回	情報科学事始め	情報科学について、その各分野と基礎から応用までの入門的な内容を学習する。	情報科学について、その各分野と基礎から応用までの内容を復習する。	45
第5回	コンピュータサイエンス	計算に関する分析や計算による問題解決について、入門的な内容を学習する。	ゲーム理論または情報科学の分野で、意欲的に取り組めるテーマについて考える。	45
第6回	テーマに関	ゲーム理論または情報科学の分野で、意欲的に取り組め	ゲーム理論または情報科学の分	45

	する議論	るテーマについて議論する。	野で、意欲的に輪読できる文献を検索する。	
第7回	文献に関する議論	ゲーム理論または情報科学の分野で、意欲的に輪読できる文献について議論する。	輪読する文献を調達する。	45
第8回	輪読の計画	輪読の計画について議論する。	必要に応じ、次回輪読する部分を予習する。	45
第9回	文献の輪読	ゲーム理論または情報科学の分野に関する文献を輪読し、勉強・議論する。	輪読した部分を復習する。必要に応じ、次回輪読する部分を予習する。	45
第10回	文献の輪読	ゲーム理論または情報科学の分野に関する文献を輪読し、勉強・議論する。	輪読した部分を復習する。必要に応じ、次回輪読する部分を予習する。	45
第11回	文献の輪読	ゲーム理論または情報科学の分野に関する文献を輪読し、勉強・議論する。	輪読した部分を復習する。必要に応じ、次回輪読する部分を予習する。	45
第12回	文献の輪読	ゲーム理論または情報科学の分野に関する文献を輪読し、勉強・議論する。	輪読した部分を復習する。必要に応じ、次回輪読する部分を予習する。	45
第13回	文献の輪読	ゲーム理論または情報科学の分野に関する文献を輪読し、勉強・議論する。	輪読した部分を復習する。	45
第14回	理解したことのまとめ	ゲーム理論または情報科学の分野に関して、理解したことをまとめる。	ゲーム理論または情報科学の分野に関して、理解したことをまとめて提出する。	45
第15回	理解したいことのまとめ	ゲーム理論または情報科学の分野に関して、今後理解したいことをまとめる。	ゲーム理論または情報科学の分野に関して、今後理解したいことをまとめて提出する。	45

学習計画注記 第1・2回は合同。学生らとの議論を通してより意欲的に取り組めるよう方法などは変更する可能性がある。

学生へのフィードバック方法 理解したことのまとめは、チェックして返却する。

評価方法

- ・平常点は、平常時の理解度や思考力等に基づいて総合的に判断する。
- ・最後のまとめは、理解したことの程度と今後理解したいことの明確さや独自性を確認する。
- ・平常点、最後のまとめは、下表に示す力を養うことを目的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点		○	○	
最後のまとめ	○			

評価割合 平常点 (50%)、最後のまとめ (50%) などを総合的に評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) 議論して考える

参考図書 議論して考える

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】 家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。
【思考・判断】 社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。
【関心・意欲・態度】 社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。

オフィスアワー 金曜3限 1411研究室

学生へのメッセージ 議論を通してコミュニケーション力を向上させましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に勉強・議論する。

情報リテラシー 教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ゼミナールA(富田)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田 弘美	指定なし

ナンバリング	D31207M12
授業概要(教育目的)	ゼミナールA・B：生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	衣分野における諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点 (K)	衣分野における諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	衣分野における諸課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	衣分野における課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

ゼミナールA(富田)

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	全体ガイダンス(1)	各担当教員のテーマ説明①(石綱、呉、小池、斎藤、佐々木、澤田、白井、千葉)	各テーマについての予備調査と、各教員との個別の相談。	45分
第2回	全体ガイダンス(2)	各担当教員のテーマ説明①(富田、花田、原口、深石、森、加地、嶋田、西口)	各テーマについての予備調査と、各教員との個別の相談。	45分
第3回	衣服のデザイン・制作の流れ	衣服をデザイン(設計)制作するための資料収集、コンセプト、色彩・材料選定、デザイン画表現、制作(採寸、製図、縫製技術、材料の扱いなど)全般の流れを理解する。	各自が興味ある課題を考える。	45分
第4回	衣服のデザイン1	衣服をデザイン(設計)制作するための資料収集、コンセプト、色彩・材料選定を学ぶ。	デザイン・制作するアイテム(例:ジャケット、ワンピースドレス、舞台衣装 他)、色彩・材料を考え、デザイン画で表現する。	45分

第5回	衣服のデザイン2	資料収集、コンセプト、色彩・材料選定、デザイン画でデザイン（設計）について分かりやすい発表の仕方を学ぶ。	デザインを決定して発表準備をする。	45分
第6回	衣服のデザイン3	他の学生の発表や質問等からわかりやすい発表について学ぶ。	発表準備と発表結果による修正をする。	45分
第7回	制作1（計測、製図）	人体計測の仕方、各アイテムの製図（身頃原型の胸ぐせ処理含む）を学ぶ。	製図を書き進め、問題点を調べる。	45分
第8回	制作2（製図）	人体計測の仕方、各アイテムの製図（身頃原型の胸ぐせ処理含む）を学ぶ。	製図を仕上げ、次週提出する。	45分
第9回	制作3（縫製技術）	各自のアイテム、デザインに関連した基礎縫い（例：ポケット、コンシールファスナー他）を学ぶ。	基礎縫いを仕上げ、次週提出する。	45分
第10回	制作4（裁断、縫製、材料の扱い、仮縫い）	各自のデザインに合わせて裁断（工業生産の手法）、印付け（工業生産の手法）、仮縫いを学ぶ。	印としてノッチを入れる段階まで進めること。	45分
第11回	制作5（仮縫い）	仮縫い点検を受け、補正の技術を学ぶ。	補正箇所の製図、型紙、実物に修正を入れる。	45分
第12回	制作6（本縫い1）	各アイテムに合わせた縫製を学ぶ。	説明内容まで進めること。	45分
第13回	制作7（本縫い2）	各アイテムに合わせた縫製を学ぶ。	説明内容まで進めること。	45分
第14回	制作8（本縫い3）	各アイテムに合わせた縫製を学ぶ。	説明内容まで進めること。	45分
第15回	作品発表	デザインと制作について、コンセプト、材料、色彩、デザイン画による表現、製図、裁断、仮縫い、縫製、仕上げなどものづくりの流れをわかりやすく発表することを学ぶ。	作品を完成させ、図、表を作成してパワーポイントで分かりやすい発表を考えて準備する。	45分

学生へのフィードバック方法 製図の点検とともにコメントする。

評価方法 平常点、デザイン、製図・縫製、作品、発表

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
デザイン	○	○		○
製図・縫製	○	○		○
作品	○	○		○
発表	○	○	○	○

評価割合 平常点10% デザイン20%、製図・縫製20%、作品30%、発表20%

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】社会の中にある諸課題についての知識を深める。【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】社会の中にある諸課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。【技術・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

オフィスアワー 木曜日 12:30~14:00

学生へのメッセージ 各自の興味あるアイテムについて、デザイン（設計）から作品完成までの流れを学びますが、特に卒業制作ではデザイン段階が重要です。初めての方、もう一段階上のデザイン力を身につけたい方など、どなたでも参加してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラ		

ーニング		
情報リテラシー 教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ゼミナールA(花田)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 花田 朋美	指定なし

ナンバリング	D31207M12
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	家政学及びそれに関連する分野の基礎知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点 (K)	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	課題解決に必要な情報を収集・分析・整理し、自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	全体ガイダンス(1)	各担当教員のテーマ説明① (石綱・呉・小池・斎藤・佐々木・澤田・白井・千葉)	各テーマについての予備調査と、各教員との個別の相談。	45分
第2回	全体ガイダンス(2)	各担当教員のテーマ説明② (富田・花田・原口・深石・森・加地・嶋田・西口)	各テーマについての予備調査と、各教員との個別の相談。	45分
第3回	研究室ガイダンス	グループワークを行う。研究の進め方、スケジュールの確認、ゼミ生として研究室での過ごし方を理解する。本研究室の先行研究を理解し、研究課題の検討を行う。	〔予〕各自の問題意識、興味に基づき、衣服や環境をテーマとした身近な問題を調べる。	45分
第4回	衣服や環境に関する社会問題について	衣服や環境をテーマとして、身近な社会問題について調べ、その解決方法について検討する。	〔予〕調査した結果や検討した解決方法をまとめ、発表資料を作成する。	45分
第5回	衣服や環境に関する社会問題について	各自が調査した結果を発表し、問題の解決方法についてグループディスカッションを行う。	〔予〕調査した結果や検討した解決方法をまとめ、発表資料を作成する。 〔復〕興味を持った社会問題の	45分

			解決方法について再考し、整理する。	
第6回	持続可能な社会とは—SDGsについて—	グループディスカッションを行う。SDGsについて調べたことを発表し、概要について理解する。	〔予〕SDGsについて調べる。 〔復〕各自の興味とSDGsの関連性について検討する。	45分
第7回	衣服や環境に関する社会問題について	各自が興味を持った社会問題に関連する先行研究を調べ、研究概要のレジュメを作成する。	〔予・復〕先行研究のレジュメを作成する。	45分
第8回	衣服や環境に関する社会問題について	各自がまとめたレジュメに従い、先行研究の要約を発表し、問題の解決方法についてグループディスカッションを行う。	〔予〕先行研究のレジュメを作成する。 〔復〕研究テーマを検討する。	45分
第9回	衣服や環境に関する社会問題について	各自がまとめたレジュメに従い、先行研究の要約を発表し、問題の解決方法についてグループディスカッションを行う。	〔予〕先行研究のレジュメを作成する。 〔復〕研究テーマを検討する。	45分
第10回	予備研究計画の検討	個別ディスカッションを行い、予備研究の計画を検討する。	〔予・復〕ディスカッションに基づき、研究計画を検討する。	45分
第11回	予備研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	45分
第12回	予備研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	45分
第13回	研究報告会の準備	個別ディスカッションを行う。報告会にむけ、研究の進捗状況をまとめる。	〔予〕研究の進捗状況をレジュメにまとめておくこと。 〔復〕検討結果に基づき、プレゼンテーション資料を作成する。	45分
第14回	研究報告会	グループディスカッションを行う。進捗状況を整理し、プレゼンテーション発表を行う。	〔予〕プレゼンテーション資料及びレジュメを作成し、発表練習をしておくこと。	45分
第15回	研究計画の検討	個別ディスカッションを行う。プレゼンテーション発表での課題について、再検討し、研究計画を再考する。	〔予〕今後の研究計画の再検討をしておくこと。	45分

学習計画注記 研究の進捗状況によりスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 個別ディスカッション、グループディスカッションにおいて対応。質問や相談は、随時受付。

評価方法
 ①平常点（意欲、態度、研究遂行に対する行動力、調整力、理解力を評価）
 ②研究報告会での発表（理解力、意欲、思考力を評価）
 ③成果物（理解力、構成力、思考力、完成度 を評価）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
発表（報告会）	○	○	○	○
成果物	○	○	○	○

評価割合 平常点40% 発表（報告会）40% 成果物20%を総合的に評価

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 適宜指示

ディプロマポリシーとの関連
 【知識・理解】 家政学及びそれに関連する分野の基礎知識を有し、その理解を深めること。
 【思考・判断】 社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。
 【関心・意欲・態度】 社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できること。
 【技能・表現】 課題解決に必要な情報を収集・分析・整理し、自らの考えを的確に形や文章として表現できること。

オフィスアワー 火曜日12時30分～14時 2407被服材料学研究室

学生へのメッセージ	卒業研究に向けた基礎知識と手法の修得のため、積極的に取り組んでほしいと思います。 3、4年生が合同で活動することもあります。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	実験・実習・調査活動、グループディスカッション
情報リテラシー教育	○	文献探索、プレゼンテーションの指導
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ゼミナールA(深石)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 深石 圭子	指定なし

ナンバリング	D31207M12
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究の対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究の対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。本ゼミナールでは、主に卒業設計のための調査に取り組む前段階としての演習を行う。
履修条件	卒業研究で設計を行う予定の場合、住居デザイン演習C/Dの単位取得、建築デザイン演習Aの履修をしていることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	専門知識・技術を持つことができる。
思考・判断の観点 (K)	基礎的な調査・分析方法を習得することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自身が取り組む課題に対し、問題意識をもって、取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	的確な方法を用いて人に伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	全体ガイダンス(1)	各担当教員のテーマ説明①(石網・呉・小池・斎藤・佐々木・澤田・白井・千葉)	各テーマについての予備調査と、各教員との個別相談。	45
第2回	全体ガイダンス(2)	各担当教員のテーマ説明②(富田・花田・原口・深石・森・加地・嶋田・西口)	各テーマについての予備調査と、各教員との個別相談。	45
第3回	卒業設計・論文とは何か	卒業研究の目標・位置づけの他、これからやるべきことを整理する。ミニレポート(1)・発表。	(予習)卒業設計・論文について、調べてくること。	45
第4回	卒業設計の事例分析(1)	近代建築社「卒業制作」掲載作品について事例分析を行う。ミニレポート(2)・発表。	(予習)近代建築社「卒業制作」から良いと思う作品のコピーし、熟読する。	45
第5回	卒業設計の事例分析(2)	近代建築社「卒業制作」以外の掲載作品について事例分析を行う。ミニレポート(3)・発表。	(予習)近代建築社「卒業制作」から良いと思う作品のコピーし、熟読する。	45
第6回	卒業研究のスケジュール設定	前期、後期に何に取り組むかを検討、そのためのスケジュールを考える。ミニレポート(4)・発表。	(復習)前期後期に何を研究するのかを明確にすること。	45

第7回	設計のためのレポートの基本構成	目的・対象・方法・結論・考察・謝辞・出典について解説する。ミニレポート(5)・発表。	(復習)ミニ課題で何を明らかにするのかを考え、どうすることでそれが明らかになるのかを考えてくること。	45
第8回	目的・方法・仮説の立案	ミニ課題に取り組むにあたり、自身の興味のあるテーマを決め、目的・方法・仮説を立案する。また、データの探し方を解説する。ミニレポート(6)・発表。	(予習)ミニ課題プログラム案を複数考えて、そのレポートの基本構成について、まとめてくること。	45
第9回	データ収集	必要な資料(書籍、雑誌、地図、写真、図面)を収集する。附属図書館・CAD室での作業。ミニレポート(7)・発表。	(予習)必要だと思うデータを予め収集してくる。出典がわかるようにしておくこと。	45
第10回	データ処理	必要な書籍、雑誌、地図、写真、図面のデータ処理を行う。ミニレポート(8)・発表。	(復習)データ処理を完成させること。	45
第11回	データ分析1(図表まとめ)	オリジナルの図表、グラフ等の作成(エクセルによる集計等)する。CAD室での作業。ミニレポート(9)・発表。	(復習)図表の作成を完成させること。	45
第12回	データ分析2(考察)	表やグラフ等より明らかになったこと元に考えを文章でまとめる。ミニレポート(10)・発表。	(復習)考察を完成させること。	45
第13回	レイアウト	分析結果等をわかりやすいようにパワーポイントでまとめる(タイトル、目的、方法、結果、考察)。ミニレポート(11)・発表。	(復習)授業内に終わらなかった部分を進めること。	45
第14回	発表練習	決められた時間内に、いかに的確に伝えるかを目標に発表の練習を行う。ミニレポート(12)・発表。	(復習)発表の練習をしてくること。	45
第15回	発表	これまでの成果をグループ全員に発表する。	(予習)発表の練習をしてくること。	45

学習計画注記 第1回と第2回の授業はゼミナールA全テーマ合同の授業です。第3回目以降は担当教員別の授業で、各教員が指定する時間と教室で授業を行います。履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 3回目以降(最終回を除く)、毎回自身の考えをミニレポートにまとめ、発表する。提出されたミニレポートは授業時間内に回答もしくは翌週までにコメントを記載し、返却する。

評価方法 発表・授業態度
ミニレポート：最終回を除く12回
ミニ課題：1課題

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
発表・授業態度			○	
ミニレポート	○	○		
ミニ課題				○

評価割合 平常点(発表・授業態度)20%、ミニレポート30%、ミニ課題50%

使用教科書名(ISBN番号) なし

参考図書 必要であれば、随時指示する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
「住」の分野について、専門的知識・技術を有している。

【思考・判断】
社会の中にある諸問題を自ら発見し、理論的に分析し考察することができる。

【関心・意欲・態度】
社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。

【技術・表現】
家政学を修学し、住の分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

オフィスアワー 金曜2限 3512研究室

学生へのメッセージ 自ら問題意識を持ち、手を動かしながら考え、作業を継続することが重要です。また、授業外においても学外の展示会等には積極的に足を運び、自身の考えと向き合うことを習慣化させてください。4年次に取り組む卒業研究を悔いのないものにしましょう。

教育等の取組み状況

該当有無	概要
------	----

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業は、授業内に提出されたミニレポートをもとにゼミ形式で進める。他の学生の研究内容も把握し、グループディスカッションを行いながら客観的に自身の課題と向き合うこと。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ゼミナールA(森)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森 朋子	指定なし

ナンバリング	D31207M12
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	日本語教育および言語コミュニケーションの分野の知識を学び、理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	日本語教育および言語コミュニケーションの分野の諸問題について、論理的に分析し考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日本語教育および言語コミュニケーションの分野に深い関心を持ち、意欲的かつ積極的に課題に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	問題解決に必要な情報を収集・分析・考察し、研究作法に則って表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	全体ガイダンス(1)	各担当教員のテーマ説明①	各テーマについての予備調査と、各教員との個別の相談。	45分
第2回	全体ガイダンス(2)	各担当教員のテーマ説明②	各テーマについての予備調査と、各教員との個別の相談	45分
第3回	イントロダクション テーマの決定	ゼミナールAの概要を理解する。テーマの決定について、練習を通して理解する。	課題1のテーマを考える。	45分
第4回	課題1①	各自の課題1のテーマについてクラス全体で検討し、修正ポイントを明らかにする。修正後、アウトライン作成について学ぶ。	課題1のアウトラインを作成する。	45分
第5回	課題1②	各自のアウトラインをクラス全体で検討し、修正ポイントを明らかにする。修正後、文献の探し方について学ぶ。	アウトラインにそって、情報が必要な項目や内容を整理する。	45分
第6回	課題1③	図書館で文献検索の方法を実習し、文献を収集する。	探した文献を参考にアウトラインに修正を加える。	45分
第7回	課題1④	収集した文献を参考にアウトラインを修正する。さらに必要な文献をリストアップする。	足りない文献を探す。	45分

第8回	課題1⑤	レポートの3部構成を学び、練習を通して理解を深める。	自分のレポートの下書きを書く。	45分
第9回	課題1⑥	資料を用い、第三者のレポートの下書きを分析する。その上で、自分のレポートの修正点を明らかにする。	レポートの修正をする。	45分
第10回	課題1⑦	レポートにふさわしい表現を練習を通して学ぶ。自分のレポートの修正点を明らかにする。	自分のレポートを修正する。	45分
第11回	課題2①	新たな課題のテーマを考える。クラス全体で各自の課題を検討する。	課題2のアウトラインを書く。	45分
第12回	課題2②	各自のアウトラインをクラス全体で検討し、修正点を明らかにする。修正後、文献収集をする。	課題2の文献収集をする。	45分
第13回	課題2③	口頭発表の方法および発表資料の作成の仕方を練習を通して学ぶ。	口頭発表の資料を作成する。	45分
第14回	課題2④	効果的なプレゼンテーションの方法を練習を通して学ぶ。	発表の準備をする。	45分
第15回	課題2⑤	口頭発表を実施する。提供された話題についてディスカッションをすることで課題に対する理解を深める。	発表を振り返り、改善点をまとめる。	45分

学生へのフィードバック方法 口頭および書面によるコメント

評価方法 課題（完成度により評価する） ポートフォリオ（課題設定、記録内容、整理の仕方により評価する） 平常点（ディスカッション、発表、取り組みの姿勢により評価する）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題	○	○	○	○
ポートフォリオ		○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合 課題50% ポートフォリオ10% 平常点40%

ディプロマポリシーとの関連
【知識・理解】日本語教育および言語コミュニケーションの分野の知識を学び、理解を深める。
【思考・判断】日本語教育および言語コミュニケーションの分野の諸問題について、論理的に分析し考察することができる。
【関心・意欲・態度】日本語教育および言語コミュニケーションの分野に深い関心を持ち、意欲的かつ積極的に課題に取り組むことができる。
【技術・表現】問題解決に必要な情報を収集・分析・考察し、研究作法に則って表現することができる。

オフィスアワー 月曜日5限 水曜日4限（前期）

学生へのメッセージ 自分の興味・関心を大きく広げて、新しい世界に踏み出しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題に自主的に取り組む。ディスカッション等を通して、自分の意見を伝えると同時に、異なった意見をまとめる訓練をする。
情報リテラシー教育	○	図書館やインターネットを駆使して情報収集をし、成果物をまとめる。
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ゼミナールB(石綱)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石綱 史子	指定なし
教授	生活デザイン学科 教員	指定なし

ナンバリング

D31208M12

授業概要(教育目的)

生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。

履修条件

なし。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	生活デザイン学科で学ぶために必要なことは何かを体験的に理解する。
思考・判断の観点 (K)	生活デザイン学科で主体的に学ぶための考え方を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	協同作業に積極的に参加し、他のメンバーと協調して作業を進めることできる。
技術・表現の観点 (A)	生活デザイン学科の専門分野の授業で必要とされる手法や表現方法を体験する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	演習の目的、進め方について解説する。 この演習は、各回を「1分間スピーチ」、「ドリル(理論的思考力、漢字など)」、「文章を読み要約し、発表する」の3部構成とする。	1分間スピーチの準備 卒業研究のテーマを考える	45分
第2回	卒業研究のテーマについて①	卒業研究のテーマを具体的に考え、目的、アウトライン、方法を考える。 1分間スピーチ、ドリル(理論的思考力、漢字など)	1分間スピーチの準備	45分
第3回	卒業研究のテーマについて②	卒業研究のテーマを具体的に考え、目的、アウトライン、方法を考える。 1分間スピーチ、ドリル(理論的思考力、漢字など)	1分間スピーチの準備	45分
第4回	卒業研究のテーマに関連した文献を読む①	各自の卒業研究のテーマの先行研究や関連した文献を選び、読み、要約し、発表する。 1分間スピーチ、ドリル(理論的思考力、漢字など)。	1分間スピーチを準備する。	45分
第5回	卒業研究のテーマに関	各自興味のあるテーマの卒業研究要旨を選び、読み、要約し、発表する。 1分間スピーチ、ドリル(理論的思考力、漢字など)。	1分間スピーチを準備する。	45分

	連した文献を読む②			
第6回	卒業研究のテーマに関連した文献を読む③	卒業研究のテーマに必要な手法について調べて発表する。 1分間スピーチ、ドリル（理論的思考力、漢字など）	1分間スピーチの準備	45分
第7回	卒業研究のテーマに関連した文献を読む④	各自興味のあるテーマの卒業研究要旨を選び、読み、要約し、発表する。 1分間スピーチ、ドリル（理論的思考力、漢字など）。	1分間スピーチを準備する。	45分
第8回	卒業研究のテーマに関連した文献を読む⑤	各自興味のあるテーマの卒業研究要旨を選び、読み、要約し、発表する。 1分間スピーチ、ドリル（理論的思考力、漢字など）。	1分間スピーチを準備する。	45分
第9回	卒業研究で用いる手法①	卒業研究のテーマで用いる可能性がある手法について調べて発表する。 1分間スピーチ、ドリル（理論的思考力、漢字など）	1分間スピーチの準備	45分
第10回	卒業研究で用いる手法②	卒業研究のテーマで用いる可能性がある手法について調べて発表する。 1分間スピーチ、ドリル（理論的思考力、漢字など）。	1分間スピーチを準備する。 各自、興味のある文章を探しておく。	45分
第11回	卒業研究で用いる手法③	卒業研究のテーマで用いる手法について調べて発表する。 1分間スピーチ、ドリル（理論的思考力、漢字など）	1分間スピーチを準備する。	45分
第12回	卒業研究で用いる手法④	卒業研究のテーマで用いる手法について調べて発表する。 1分間スピーチ、ドリル（理論的思考力、漢字など）	1分間スピーチを準備する。	45分
第13回	卒業研究で用いる手法⑤	卒業研究のテーマで用いる手法について調べて発表する。 1分間スピーチ、ドリル（理論的思考力、漢字など）	1分間スピーチを準備する。	45分
第14回	卒業研究のテーマを決める①	卒業研究のテーマ、目的、アウトライン、方法、材料を決める。 1分間スピーチ、ドリル（理論的思考力、漢字など）。	本演習で学んだことをまとめ、今後の学修に活用する。 卒業研究で扱いたいテーマを検討しておく。	45分
第15回	卒業研究のテーマを決める②	卒業研究のテーマ、目的、アウトライン、方法、材料を決める。 1分間スピーチ、ドリル（理論的思考力、漢字など）。	1分間スピーチを準備する。	45分

学習計画注記 履修者数や演習の進み具合などにより、スケジュールや課題変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法 演習中に随時ディスカッションを行い、フィードバックする。各課題は採点し、コメントを付けて返却する。疑問・質問が生じた場合は、e-mailで連絡をするか、3609研究室を訪問すること。

評価方法 平常点：課題に取り組む意欲的な姿勢や理解度を総合的に評価する。
課題：1分間スピーチの準備状況、文献の読解力、要約録、文章構成力などを総合的に判断して評価する。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点		○	○	
課題	○			○

評価割合 平常点50%、課題50%で総合的に判断する。

使用教科書名 (ISBN番号) 適宜、資料を印刷・配付する。

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】各分野の知識と理解を深めること。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見すること。
【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持つこと。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけること。

オフィスアワー 月曜日2限 3609研究室

学生へのメッセージ 石綱担当では、基礎的な話す・書く・読む・考える力の向上を目的としています。4年次で取り組む卒業研究の実施内容を検討し、研究遂行に必要な文献や資料を読む力、文章を書く力、実験方法、調査方法、制作方法などを習得する。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自ら興味がある研究テーマを探し、調査し、遂行方法を決める
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ゼミナールB(呉)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 呉 起東	指定なし

ナンバリング	D31208M12
授業概要(教育目的)	ゼミナールA・B：生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつながることができる。
思考・判断の観点 (K)	多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
技術・表現の観点 (A)	社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	ゼミナールAを振り返って各自テーマを考える。	ゼミナールAの課題の考察を行う。	45分
第2回	課題テーマの検討	課題のテーマを検討し、課題の背景、目的、方法を考える。	課題の計画やスケジュールを作成	45分
第3回	先行事例の調査1	先行事例の調査を行い発表及びディスカッションを行う	先行事例の調査を行いまとめる	45分
第4回	先行事例の調査2	先行事例の調査を行い発表及びディスカッションを行う	先行事例の調査を行いまとめる	45分
第5回	課題資料の調査1	計画に沿って研究資料を収集	調査を結果をまとめる	45分
第6回	課題資料の調査2	計画に沿って研究資料を収集	調査を結果をまとめる	45分
第7回	課題の制作1	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら作品制作を行う	作品制作を行う	45分
第8回	課題の制作2	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら作品制作を行う	作品制作を行う	45分

第9回	課題の制作3	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら作品制作を行う	作品制作を行う	45分
第10回	課題の制作4	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら作品制作を行う	作品制作を行う	45分
第11回	課題の制作5	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら作品制作を行う	作品制作を行う	45分
第12回	課題の制作6	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら作品制作を行う	作品制作を行う	45分
第13回	課題の制作6	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら作品制作を行う	作品制作を行う	45分
第14回	課題の制作7	進行状況の発表を行い、個別指導を受けながら作品制作を行う	作品制作をまとめ発表の準備を行う	45分
第15回	発表の準備	課題の完成と報告書のまとめ	プレゼンテーション資料を完成する	45分

学生へのフィードバック方法 毎回授業の最後に感想や質問を提出させて、次回に感想や質問について解説を行う。別の質問などがある場合は研究室1307（E-mailも可）まで訪問すること。

評価方法 課題は60点満点で課題の結果とプレゼンテーションで評価を行う。評価の基準は3つの基準は「課題の理解」「誠実さ」「デザイン性」で5段階評価を行う。レポートと最終報告書は20点満点で課題と同じく3つの基準を5段階評価で行う。平常点は20点満点で15回を通して「背極的な授業の参加、態度」「背極的なディスカッション」を基準に加点及び減点を行います。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合 課題80%
平常点20%

ディプロマポリシーとの関連 【【知識・理解】情報について、専門的知識・技術を有している。【思考・判断】多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。【関心・意欲・態度】積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

学生へのメッセージ グラフィックデザイン、写真、映像について理解して卒業研究A, Bの基礎に役立つために積極的に課題に取り込んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題に関して、自ら調べ、発表する。
情報リテラシー教育	○	情報そのものと情報の伝達をするための情報の収集、分類、基本的な表現スキルを教育する。
ICT活用	○	情報収集、作品制作、発表のために、PCや通信機器を活用する。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	ゼミナールB(河田)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田 敦子	指定なし

ナンバリング	D31208M12
授業概要(教育目的)	4年生で取り組む卒業研究の準備学習を行う。 ①文献調査の方法(インターネットで調べる。図書館で調べる。文書館で調査する。) ②フィールドワークの方法(インタビュー調査。現地調査。聞き取り調査。学校調査等) ③テーマの設定(テーマはどの程度の絞り、広がりのある展望のあるテーマにするか) ④先行研究の検討 以上の4項目は、どのような研究においても必要な基礎力である。ゼミナールBでは③、④について文献を読んだり、図書館に赴いたり、学校調査に参加する等、基礎的理解を深め、能力を高める。
履修条件	ゼミナールAを履修済みであること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

観点	内容
知識・理解の観点(K)	研究とはどういうものかを理解する。
思考・判断の観点(K)	テーマの設定はどのようにしたら良いのかを考えられる。
関心・意欲・態度の観点(V)	何かを研究によって明らかにしたいという意欲を持つ。
技術・表現の観点(A)	自分の研究で明らかにしたいことについての方法を考え、それを説明する筋を表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	研究テーマの設定	自分が興味があることを具体化する。	いろいろな情報を得ながら、テーマを絞ったり広げたり試みる。	240分
第2回	テーマの設定	おおよそのテーマを決めたら、そのテーマに関連する文献を渉猟する。	国会図書館OPACや本学図書館、様々な図書館のホームページに入って、多様なキーワードで検索を行う。	240分
第3回	研究方法を考える	文献調査なのかフィールドワークなのか、自分のテーマと適性をもとに考える。	自分の調べたいことがあるところ、人がいるところへ行ってみる。	240分
第4回	学校調査(1)	学校にはどのような文書があるのか、実際に学校調査を行う。調査時、調査終了後にどのような挨拶が必要なのかを学ぶ。	撮影用カメラ、フィールドノートを準備すること。	90分
第5回	学校調査	学校にはどのような文書があるのか、実際に学校調査を	撮影用カメラ、フィールドノー	240分

	(2)	行う。 調査したことの記録の方法、個人情報への配慮を学ぶ。	トを準備すること。	
第6回	調査結果の整理(1)	撮影した情報の整理。エクセル表の作成の仕方を学ぶ。	エクセル表の作成方法を学んだら、自宅でデータ入力をする。	240分
第7回	調査結果の整理(2)	撮影した情報の整理。エクセル表の作成の仕方を学ぶ。	エクセル表の作成方法を学んだら、自宅でデータ入力をする。	240分
第8回	調査結果から何を読み取るか	得られたデータを整理した結果から何が読み取れるかを考える。	データをよく見る習慣を持つ。	240分
第9回	調査結果を発表し合う(1)	自分なりに読み取った調査結果を報告し合う。アクティブラーニングである。	報告発表の準備をする。	240分
第10回	調査結果を発表し合う(2)	自分なりに読み取った調査結果を報告し合う。アクティブラーニングである。	報告発表の準備をする。	240分
第11回	インタビュー調査(1)	研究方法でインタビューを選んだ者は、インタビューノート作成とテープ起こしを行う。	テープ起こしをしてくる。	240分
第12回	インタビュー調査(2)	インタビュー調査時の状況、相手の様子等、を記録する。	インタビューノートの作成。	360分
第13回	インタビュー調査から読み取れること	インタビュー調査の報告会をする。言葉、表情、状況から何を読み取るかを考える。	インタビュー調査記録の読み取り。	240分
第14回	インタビュー調査から読み取れること	インタビュー調査の報告会をする。言葉、表情、状況から何を読み取るかを考える。	インタビュー調査記録の読み取り。	240分
第15回	ゼミナールA/Bを振り返って	ゼミナールBを振り返って、何を学び、何を面白く感じたかを発表し合う。	自分の考えをまとめておく。	60分

学生へのフィードバック方法 随時コメント、指導を行う。

評価方法

- ①自分が関心を持っているテーマに対し、どれほど真剣に、取り組んでいるか。
 - ②学術的なレベルに達するために、先行研究や文献の探索に取り組んでいるか。
 - ③調査対象となる人々との関わりや事象に対し、しっかりとした配慮や態度で取り組んでいるか。
 - ④まとめられた研究成果は論理性があるか。
- の項目で評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
真剣に組む姿勢			○	
先行研究や文献の渉猟	○	○	○	○
調査対象への配慮	○	○	○	
研究成果の論理性	○			○

評価割合

- ①テーマに対する取り組み方。(30%)
- ②興味関心を学術的なレベルに達するために、先行研究の探索に取り組んでいるか。(20%)
- ③調査対象への配慮。(20%)
- ④研究成果の論理性。(30%)

使用教科書名 (ISBN番号)

特に無。

参考図書

- ・原ひろ子『観る・集める・考える一発見のためのフィールド・ワーク』カタツムリ社1993年
- ・箕浦康子『フィールドワークの技法』
- ・河田敦子「宮城県M郡K町における「姉家督」について」『民族学研究』1985年
- ・林竹二『授業の成立』筑摩書房1983年

ディプロマポリシーとの関連

- ①知識・理解
 - ・教育について調査研究、「家庭科教育」について、専門的知識・技術を学ぶ。
- ②思考・判断
 - ・社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。
- ③関心・意欲・態度
 - ・社会の中にある、教育に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
- ④技能・表現

	<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭科教育」、教育の分野で学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理する技能を身に付けている。 ・社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身に付ける。 															
オフィスアワー	アポイントメントにより、随時相談に応じる。															
学生へのメッセージ	研究は、自分のテーマに対する興味関心の強さ深さによって大きく左右されます。その意味で、自分を見つめ、育てる良い学びをしてください。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>随時、ゼミ発表を行う。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td>○</td> <td>文献検索。図書館での調査。</td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td>○</td> <td>図書館ラーニングcommonsでの模擬授業も可能です。</td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング	○	随時、ゼミ発表を行う。	情報リテラシー教育	○	文献検索。図書館での調査。	ICT活用	○	図書館ラーニングcommonsでの模擬授業も可能です。
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業																
アクティブ・ラーニング	○	随時、ゼミ発表を行う。														
情報リテラシー教育	○	文献検索。図書館での調査。														
ICT活用	○	図書館ラーニングcommonsでの模擬授業も可能です。														

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ゼミナールB(小池)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小池 孝子	指定なし

ナンバリング	D31208M12
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	自ら設定した課題に対し、グローバルな視点に立ち、「住」をはじめとする家政学の各分野の知識を深めて理解する。
思考・判断の観点 (K)	社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
技術・表現の観点 (A)	課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	研究課題の検討	(アクティブラーニング:グループワーク) 各自の問題意識に基づき研究課題としたいテーマについて検討する	(予習)興味のあるテーマを抽出し、レジュメにまとめる	45分
第2回	先行研究レビュー(1)	(アクティブラーニング:グループワーク) 研究テーマに関する先行研究をレビューしまとめたものを持ち寄り、発表しディスカッションをおこなう	(予習)先行研究を検索し、要約をレジュメにまとめる	45分
第3回	先行研究レビュー(2)	(アクティブラーニング:グループワーク) 研究テーマに関する先行研究をレビューしまとめたものを持ち寄り、発表しディスカッションをおこなう	(予習)先行研究を検索し、要約をレジュメにまとめる	45分
第4回	アンケート調査の立案	(アクティブラーニング:グループワーク) 研究テーマに関するアンケート調査を立案し、発表しディスカッションをおこなう	(予習)先行研究を検索し、各々の研究テーマに合った調査方法についてレジュメにまとめる	45分
第5回	アンケート調査票の作成(1)	(アクティブラーニング:グループワーク) 調査計画に沿ってアンケート調査票を作成し、進捗状況について発表、ディスカッションをおこなう	(予習)アンケート調査票を作成する	45分
第6回	アンケート調査票の作	(アクティブラーニング:グループワーク) 調査計画に沿ってアンケート調査票を作成し、進捗状況	(予習)アンケート調査票を作成する	45分

	成 (2)	について発表、ディスカッションをおこなう		
第7回	アンケート調査票の検討 (1)	(アクティブラーニング：グループワーク) 作成したアンケート調査票を試してもらった結果について、ディスカッションをおこなって検討する	(予習) アンケート調査票を周囲の人に試してもらう	45分
第8回	アンケート調査票の検討 (2)	(アクティブラーニング：グループワーク) 作成したアンケート調査票を試してもらった結果について、ディスカッションをおこなって検討する	(予習) アンケート調査票を周囲の人に試してもらう	45分
第9回	量的データを用いた分析 1 (基本統計量・代表値・分散など)	エクセルを用い、基本統計量・代表値・分散の計算方法を学ぶ	(復習) データを用いて基本統計量・代表値・分散の計算方法を確認する	45分
第10回	量的データを用いた分析 2 (ヒストグラム・相関係数・散布図など)	エクセルを用い、ヒストグラム・相関係数・散布図の作成方法を学ぶ	(復習) データを用いてヒストグラム・相関係数・散布図の作成方法を確認する	45分
第11回	量的データを用いた分析 3 (平均値の検定、t 検定)	エクセルを用い、平均値の検定、t 検定の方法を学ぶ	(復習) データを用いて平均値の検定、t 検定の方法を確認する	45分
第12回	質的データを用いた分析 1 (単純集計・データの性質)	エクセルを使って単純集計の方法を学ぶ	(復習) 別のデータを用いて単純集計の方法を確認する	45分
第13回	質的データを用いた分析 2 (クロス集計など)	エクセルを使ってクロス集計の方法を学ぶ	(復習) 別のデータを用いてクロス集計の方法を確認する	45分
第14回	質的データを用いた分析 3 (カイ二乗検定)	エクセルを使ってカイ二乗検定の方法を学ぶ	(復習) 別のデータを用いてカイ二乗検定の方法を確認する	45分
第15回	アンケートデータのまとめ・表現方法	各自が立案したアンケートデータのまとめ方、表現方法について学ぶ	(予習) 各自のアンケートデータをデータシートにまとめる	45分

学習計画注記	履修者数や各自の研究テーマによって授業内容が変更になることがあります。
学生へのフィードバック方法	ゼミでは研究の進捗に関するレジュメを毎回用意して発表し教員の指導を受ける。全員でのグループディスカッションを実施するので、積極的に議論に参加すること。毎回のゼミに必ず出席すること。やむなく欠席する場合にはオフィスアワー等を利用して個別指導を受けること。
評価方法	課題については、問題設定の着眼点・独自性、調査研究の精度、結論に至る論理構成について評価する。平常点については、授業（ゼミ）への参画状況、研究への取り組みの積極性、計画的な研究の遂行について評価する。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題	○	○	○	○
平常点	○	○	○	

評価割合	課題の完成度50%、平常点50%とし、総合的に評価する
------	-----------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない
-----------------	---------

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバルな視点から「住」をはじめとする家政学の各分野についての知識を深めて理解する <p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析考察することができる <p>【関心・意欲・態度】</p>
---------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる <p>【技能・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている 	
学生へのメッセージ	身近な住生活課題の解決のために、論文・設計作品による提案を行うのが卒業研究です。卒業研究に向けて、課題解決・提案の手法について学びましょう。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業はゼミ形式で実施する。研究の進捗について毎回発表、グループディスカッションを実施する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ゼミナールB(齋藤史)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 齋藤 史夫	指定なし

ナンバリング	D31208M12
授業概要(教育目的)	子ども・子育て応援の実践と基礎理論 子ども・子育て応援の現場にゼミナールとして、また、個人で積極的にかける。 『子ども白書』をテキストに、子ども・子育ての現状と課題を学び考える。 子ども・若者に関わる社会的活動の現場に出かけて課題を考えるとともに、卒業研究受講生とともにゼミナールを実施することを基本として、研究の実際に触れることによって理論を深め研究の方法を学ぶ。
履修条件	特に無し
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	自らの問題意識を解決する専門領域の知識を得る。
思考・判断の観点 (K)	自ら掲げた課題を解決する方法を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会的課題を自分の課題として解決しようという意欲を持つ。
技術・表現の観点 (A)	自ら到達した解決の方法をまとめて、他者に伝えられるよう表現できる。

学習計画

子ども・子育て応援の実践と基礎理論

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	全体ガイダンス(1)	各担当教員のテーマ説明①(石綱・呉・小池・齋藤・佐々木・澤田・白井・千葉)	各テーマについての予備調査と、各教員との個別の相談。	45分
第2回	全体ガイダンス(2)	各担当教員のテーマ説明②(富田・花田・原口・深石・森・加地・嶋田・西口)	各テーマについての予備調査と、各教員との個別の相談。	45分
第3回	テーマに関する共同研究討議(1)	各自の研究テーマの発表	発表準備	60分
第4回	テーマに関する共同研究討議(2)	各自の研究テーマの発表	ネットで国分寺市の児童施設を調査する。	60分
第5回	テーマに関する共同研究討議(3)	各自の研究テーマの発表	ネットで国分寺市の児童施設を調査する。	60分
第6回	テーマに関する	各自の研究テーマの発表	ネットで国分寺市の児童施設を	60分

	する共同研究討議(4)		調査する。	
第7回	テーマに関する共同研究討議(5)	各自の研究テーマの発表	見学の様子をまとめる	60分
第8回	校外授業－教育改革先進事例調査	教育改革先進事例調査	事前調査	60分
第9回	校外授業－教育改革先進事例調査	教育改革先進事例調査	事例調査	60分
第10回	校外授業－教育改革先進事例調査	教育改革先進事例調査	教育改革先進事例調査まとめ	60分
第11回	テーマに関する共同研究討議(6)	研究発表	発表の準備	60分
第12回	テーマに関する共同研究討議(7)	研究発表	発表の準備	60分
第13回	ゼミナール論議	ゼミナール内での論議	発表の準備	60分
第14回	ゼミナール論議	ゼミナール内での論議	論議をまとめる	60分
第15回	ゼミナールでの学びのまとめ	15回の授業を通した学びを考える。	15回の授業を振り返る	60分

学習計画注記 学生主体でグループを形成し、主体的、共同的に参加することを求めます。

学生へのフィードバック方法 適宜ゼミにて研究の経過の報告を受け、集団的に論議する。

評価方法 研究がテーマに基づき、日々深められているかその経過を重視する。同時に、研究発表が、自分なりに整理され他者に伝えられるよう的確に整理・表現されているかを評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
ゼミへの共同的積極的参加			○	
研究の深化	○			
発表		○		○

評価割合 ゼミへの共同的積極的参加 (40%)
研究の深化 (30%)
発表 (30%)

使用教科書名 (ISBN番号) 授業内で提示する

ディプロマポリシーとの関連
 知識・理解】社会の諸課題を理解することで、将来の社会的貢献へつなぐことができる。
 【思考・判断】諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。
 【関心・意欲・態度】高い徳性をもって人々のために働く能力を持つ。
 【技能・表現】専門的技能をもってコミュニティの課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を持つ。

オフィスアワー 火曜日3限1607研究室

学生へのメッセージ 研究的協同実践者を目指し、子ども理解の研究と実践を進めましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループで活動することを基本とする。

情報リテラシー教育	<input type="radio"/>	子どものための活動プログラムを図書・インターネットで調査する。
ICT活用	<input type="radio"/>	インターネット調査

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ゼミナールB(佐々木)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 佐々木 麻紀子	指定なし

ナンバリング	D31208M12
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門領域の中で各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	被服整理分野の研究対象に必要な基礎を理解する
思考・判断の観点 (K)	被服整理分野を主体的に学ぶための考え方を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	必要な資料の収集ができる
技術・表現の観点 (A)	生活デザイン学科の専門分野の授業で必要とされる手法や表現方法を体験する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業の進め方、演習内容について理解する	演習内容と課題の確認	45分
第2回	文献を読む1	課題1被服整理分野の先行研究論文を読み、要約をする	課題の文章を読む	45分
第3回	文献を読む2	課題1被服整理分野の先行研究論文を読み、要約をする	課題の文章を要約し、紹介する。	45分
第4回	文献を探す	課題2 文献の種類と探し方について理解し、各自興味ある文献を探し、要約をする。	文献の探し方を復習しておく	45分
第5回	文献を読む3	課題2 各自探して文献を読み、要約し解説する。	文献を読み、要約す、解説をする準備をする	45分
第6回	文献を読む4	課題2 各自探して文献を読み、要約し解説する。	文献を読み、要約す、解説をする準備をする	45分
第7回	文献を読む5	課題2 各自探して文献を読み、要約し解説する。	文献を読み、要約す、解説をする準備をする	45分
第8回	演習1	課題3 被服整理学分野の演習を通して、研究課題を見つける	演習で行った結果をまとめておく	45分

第9回	演習2	課題3 ける	被服整理学分野の演習を通して、研究課題を見つける	演習で行った結果をまとめておく	45分
第10回	演習3	課題3 ける	被服整理学分野の演習を通して、研究課題を見つける	演習で行った結果をまとめておく	45分
第11回	演習4	課題3 ける	被服整理学分野の演習を通して、研究課題を見つける	演習で行った結果をまとめておく	45分
第12回	演習5	課題3 ける	被服整理学分野の演習を通して、研究課題を見つける	演習で行った結果をまとめておく	45分
第13回	演習6	課題3 ける	被服整理学分野の演習を通して、研究課題を見つける	演習で行った結果をまとめておく	45分
第14回	まとめ1		演習で学んだことをまとめ、発表する準備を行う	演習で行った結果をまとめておく	45分
第15回	まとめ2		演習で学んだことをまとめ、発表する	演習で行った結果をまとめ、発表する準備を行う	45分

学習計画注記 受講人数によっては課題やスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法 演習中に随時ディスカッションを行い、フィードバックします。

評価方法 平常点と課題で評価します。
平常点は授業への積極的な参加態度や演習への取り組み状況を総合的に評価します。
課題1,2は読解力、文章構成力などを総合的に判断します。
課題3は演習内容の理解、課題解決の方法および結果を正確に表現できるかを評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	
課題	○	○	○	○

評価割合 平常点40%、課題60%で評価します。

使用教科書名 (ISBN番号) なし

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】各分野の知識と理解を深めること。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見すること。
【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持つこと。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけること。

オフィスアワー 月曜2時限 2406研究室

学生へのメッセージ 文献の探し方、文献を読み要約することを学びます。また演習を通して被服整理学分野でどんな課題があるのか自ら体験することで新たな課題を発見することを目指します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	課題に関する情報を収集・分析・整理する。
ICT活用	○	情報収集や課題作成のために、PCや通信機器を活用する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ゼミナールB(澤田)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 澤田 雅彦	指定なし

ナンバリング	D31208M12
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。 澤田が担当する授業では、「デザイントレーニング」のテーマで、手を動かして、形を描くこと、作ること、あるいは自分の考えを表現すること、伝えること、そして、デザインを考えることを実践する。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	デザインに関する知識と理解を深めること。
思考・判断の観点 (K)	自らの意図や思考に基づき、自分が表現したいことを論理的に考察できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会とデザインと自分自身の学びを関連づけて考えることができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	制作テーマの設定	自分自身の制作テーマを考える。	制作テーマの決定と、目的・意義の検討。	45分
第2回	制作の進め方の検討	決定したテーマでの制作の計画を考える。	計画表の作成。	45分
第3回	第1作品の制作(1)	1つめの作品の制作に着手。	作品の制作。	
第4回	第1作品の制作(2)	1つめの作品の制作を継続する。	作品の制作。	45分
第5回	第1作品の制作(3)	1つめの作品の制作を継続する。	作品の制作。	45分
第6回	第1作品の制作(4)	1つめの作品の完成。	まとめの報告会の準備。	45分
第7回	中間まとめの報告会	第1作品について発表する。	第2作品のテーマを考える。	45分

第8回	博物館・美術館見学	近隣の博物館・美術館の見学	第2作品の制作の計画を考える。	45分
第9回	第2作品の制作(1)	第1作品の制作の内容をふまえて2つめの作品の制作方針を決定し、制作に着手する。	作品の制作	45分
第10回	第2作品の制作(2)	2つめの作品の制作を継続する。	作品の制作	45分
第11回	第2作品の制作(3)	2つめの作品の制作を継続する。	作品の制作	45分
第12回	第2作品の制作(4)	2つめの作品の制作を継続する。	作品の制作	45分
第13回	第2作品の制作(5)	2つめの作品を完成させる。	作品の写真撮影と、プレゼンテーションレポート作成の準備	45分
第14回	第2作品の制作(6)	作品の発表会の準備(プレゼンテーションレポートの作成)	プレゼンテーションレポートの作成	45分
第15回	作品の発表会	作品についてのプレゼンテーションレポートを作成して発表する。	プレゼンテーションレポートの手直し	45分

学習計画注記 授業計画は、課題の進捗状況を考慮して変更します。

学生へのフィードバック方法 課題作品やレポートについては、15回目の作品の発表会でコメントします。

評価方法

1. 課題・作品等は、制作意図をきちんと考えて制作しているか、丁寧に作られているか、といった観点で評価する。
2. レポートは、作品についての情報と、作品の制作意図や制作の手順・工夫を、正確に分かりやすく示しているか、といった観点で評価する。
3. 平常点は、作品の制作過程で、どれだけ多くのアイデアを出して試作をしたか、どの程度集中して制作に取り組んだか、といった観点で評価する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題・作品等の完成状況	○	○		
レポート	○	○		
平常点		○	○	

評価割合 課題・作品等の完成状況30%、レポート30%、平常点40%

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】 デザインに関する知識と理解を深めること。
【思考・判断】 デザインについての諸課題を自ら発見し、それを解決するために論理的な思考ができること。
【関心・意欲・態度】 社会とデザインと自分自身の学びの関わりに積極的に関心を持つこと。
【技能・表現】 課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけること。

オフィスアワー 木曜日2時限 1503研究室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	ゼミナールB(白井)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 白井 篤	指定なし

ナンバリング	D31208M12
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。 ゼミナールAの履修を通して、「読む力」「書く力」「話す力」を養うことで、「考える力」の基礎的な部分を養えたので、ゼミナールBでは、「課題解決型プロジェクト」に取り組む。課題としては、「卒業研究のテーマ」もしくは「地域連携活動のテーマ」を取り上げる。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	社会の中にある課題について、論理的に分析し考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	課題解決に必要な情報を集めて分析・整理でき、その課題解決策を発信できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス(課題の提示/社会人基礎力)	課題解決を通して養って欲しい力(社会人基礎力)について理解できる。	返却された課題(学修成果)を見返して、学修内容を定着させる。	30
第2回	提案課題の解決(1)	課題解決に必要な資料や情報などを収集する。	返却された課題(学修成果)を見返して、学修内容を定着させる。	45
第3回	提案課題の解決(2)	課題解決に必要な資料や情報などを収集する。	返却された課題(学修成果)を見返して、学修内容を定着させる。	45
第4回	提案課題の解決(3)	課題解決に必要な資料や情報などを収集する。	返却された課題(学修成果)を見返して、学修内容を定着させる。	45
第5回	提案課題の解決(4)	課題解決のために収集した資料や情報を分析する。	返却された課題(学修成果)を見返して、学修内容を定着させる。	45

第6回	提案課題の解決 (5)	課題解決のために収集した資料や情報を分析する。	返却された課題 (学修成果) を見返して、学修内容を定着させる。	45
第7回	提案課題の解決 (6)	分析した結果に基づいて、課題解決策を発信できるようにする。	返却された課題 (学修成果) を見返して、学修内容を定着させる。	45
第8回	提案課題の解決 (7)	課題解決策を発信する。	返却された課題 (学修成果) を見返して、学修内容を定着させる。	60
第9回	自己課題の解決 (1)	課題解決に必要な資料や情報などを収集する。	返却された課題 (学修成果) を見返して、学修内容を定着させる。	30
第10回	自己課題の解決 (2)	課題解決に必要な資料や情報などを収集する。	返却された課題 (学修成果) を見返して、学修内容を定着させる。	45
第11回	自己課題の解決 (3)	課題解決に必要な資料や情報などを収集する。	返却された課題 (学修成果) を見返して、学修内容を定着させる。	45
第12回	自己課題の解決 (4)	課題解決のために収集した資料や情報を分析する。	返却された課題 (学修成果) を見返して、学修内容を定着させる。	45
第13回	自己課題の解決 (5)	課題解決のために収集した資料や情報を分析する。	返却された課題 (学修成果) を見返して、学修内容を定着させる。	45
第14回	自己課題の解決 (6)	分析した結果に基づいて、課題解決策を発信できるようにする。	返却された課題 (学修成果) を見返して、学修内容を定着させる。	45
第15回	自己課題の解決 (7)	課題解決策を発信する。	返却された課題 (学修成果) を見返して、学修内容を定着させる。	60

学生へのフィードバック方法	実施した課題については、評価して次週の授業の初めに返却する。返却時に評価基準についての説明を行う。
評価方法	平常点については、授業で実施した課題解決策の成果で評価する。課題解決策については、解決内容 (書く力・まとめる力) とプレゼンテーション (話す力) で評価する。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点		○		○
課題解決策		○		○

評価割合	平常点 (52%) と課題解決策 (48%) で総合評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	特になし
参考図書	適宜、資料を印刷、配付する。
ディプロマポリシーとの関連	思考・判断の観点 (K) : 課題について論理的に分析し考察できることは、社会の中にある課題解決にもつながる。 技術・表現の観点 (A) : 課題解決に必要な情報を集めて分析・整理でき、その課題解決策を発信できる。
オフィスアワー	金曜日3時限及び4時限。3号棟6階3606研究室。できるだけ、メールなどで事前予約してください。
学生へのメッセージ	第1回のガイダンスで配付した授業予定表に従って行うので、事前に予習した上で、授業に臨んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	教室内でのグループワークによる体験学習を通して、課題発見能力・課題解決能力を養う。
情報リテラシー教育	○	課題を解決する上で、図書館の利用方法、文献探索方法などの情報活用能力を養う。

シラバス参照

講義名	ゼミナールB(千葉)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 千葉 一博	指定なし

ナンバリング	D31208M12
授業概要(教育目的)	(学生便覧掲載の授業科目概要) ゼミナールB：生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。
履修条件	「ゼミナール A」の単位を修得していること

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	ゲーム理論または情報科学の特定の分野における基本的な知識や技術を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	学生間や教員との間での議論において問題を指摘しまた解決できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	学生間や教員との間での議論に意欲的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	テーマに関する議論	ゲーム理論または情報科学の特定の分野で、意欲的に取り組めるテーマについて議論する。	必要に応じ、ゲーム理論または情報科学の特定の分野で、意欲的に輪読できる文献を検索する。	45
第2回	文献に関する議論	ゲーム理論または情報科学の特定の分野で、意欲的に輪読できる文献について議論する。	必要に応じ、輪読する文献を調達する。	45
第3回	輪読の計画	輪読の計画について議論する。	必要に応じ、次回輪読する部分を予習する。	45
第4回	文献の輪読	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関する文献を輪読し、勉強・議論する。	輪読した部分を復習する。必要に応じ、次回輪読する部分を予習する。	45
第5回	文献の輪読	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関する文献を輪読し、勉強・議論する。	輪読した部分を復習する。必要に応じ、次回輪読する部分を予習する。	45
第6回	文献の輪読	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関する文献を輪読し、勉強・議論する。	輪読した部分を復習する。必要に応じ、次回輪読する部分を予習する。	45

第7回	文献の輪読	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関する文献を輪読し、勉強・議論する。	輪読した部分を復習する。必要に応じ、次回輪読する部分を予習する。	45
第8回	文献の輪読	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関する文献を輪読し、勉強・議論する。	輪読した部分を復習する。必要に応じ、次回輪読する部分を予習する。	45
第9回	文献の輪読	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関する文献を輪読し、勉強・議論する。	輪読した部分を復習する。必要に応じ、次回輪読する部分を予習する。	45
第10回	文献の輪読	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関する文献を輪読し、勉強・議論する。	輪読した部分を復習する。必要に応じ、次回輪読する部分を予習する。	45
第11回	文献の輪読	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関する文献を輪読し、勉強・議論する。	輪読した部分を復習する。	45
第12回	理解したこと のまとめ	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関して、理解したことをまとめる。	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関して、理解したことをまとめて提出する。	45
第13回	理解したい ことのまとめ	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関して、今後理解したいことをまとめる。	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関して、今後理解したいことをまとめて提出する。	45
第14回	論文スタイル で書く	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関して、理解したことや今後理解したいことを論文スタイルで書く。	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関して、理解したことや今後理解したいことを論文スタイルで書いたものを仮提出する。	45
第15回	卒業研究に 向けて	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関する卒業研究に向けて、独自の視点や問題意識を持つ。	ゲーム理論または情報科学の特定の分野に関して、理解したことや今後理解したいことを論文スタイルで書いたものを提出する。	45

学習計画注記 学生らとの議論を通してより意欲的に取り組めるよう方法などは変更する可能性がある。

学生へのフィードバック方法 仮提出された論文は、チェックして返却する。

評価方法

- ・平常点は、平常時の理解度や思考力等に基づいて総合的に判断する。
- ・最後のまとめは、理解したことと今後理解したいことの明確さや独自性を確認する。
- ・論文は、論理的な思考力と文章の的確性を確認する。
- ・平常点、最後のまとめ、論文は、下表に示す力を養うことを目的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点		○	○	
最後のまとめ	○			
論文	○			

評価割合 平常点 (30%)、最後のまとめ (30%)、論文 (40%) などを総合的に評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) 議論して考える

参考図書 議論して考える

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】 家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。
【思考・判断】 社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。
【関心・意欲・態度】 社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。

オフィスアワー 金曜3限 1411研究室

学生へのメッセージ 基本的な知識や技術を学んで様々な場面で活用できる基礎力を身につけましょう。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラ	○	学修者が能動的に勉強・議論する。

ーニング		
情報リテラシー 教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ゼミナールB(富田)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田 弘美	指定なし

ナンバリング	D31208M12
授業概要(教育目的)	ゼミナールA・B：生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	衣分野における諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点 (K)	衣分野における諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	衣分野における課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	衣分野における情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

ゼミナールB(富田1)

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	全体ガイダンス(1)	各担当教員のテーマ説明①(石綱、呉、小池、斎藤、佐々木、澤田、白井、千葉)	各テーマについての予備調査と、各教員との個別の相談。	45分
第2回	全体ガイダンス(2)	各担当教員のテーマ説明①(富田、花田、原口、深石、森、加地、嶋田、西口)	各テーマについての予備調査と、各教員との個別の相談。	45分
第3回	デザイン・制作の進め方	衣服のデザイン・制作の流れ、衣服をデザイン(設計)制作するための資料収集、コンセプト、色彩・材料選定、デザイン画表現、制作(採寸、製図、縫製技術、材料の扱いなど)全般の流れを理解する。	各自が興味ある課題を考える。	45分
第4回	テーマ・目的の設定1	卒研において興味をもったテーマがどのような目的があるのか、また社会的にどのような意義をもつのか、各自のテーマについて学ぶ。	各自テーマ・目的を考える。	45分
第5回	テーマ・目的の設定2	各自のテーマについて資料を収集し、文献を参考にしてテーマ設定をすることを学ぶ。(例：舞台衣装、他)	各自テーマ・目的を考える。	45分
第6回	デザイン・制作の方法設定	デザイン(設計)するための資料収集、コンセプト、色彩・材料選定、および制作するための資料収集、人体計	デザイン・制作するアイテム、色彩・材料を考え、デザイン画	45分

		測、製図、パターン、裁断、印付け、仮縫い、本縫いの方法設定について学ぶ。	で表現する。また、材料の準備、日程計画を立てる。	
第7回	制作作業の結果1	人体計測、各アイテムの製図、パターン、裁断、印付けを学ぶ。	パターンを仕上げておく。	45分
第8回	制作作業の結果2、考察1	仮縫い、仮縫い点検を行い、その補正結果から考察することを学ぶ。	補正量を製図、パターン、実物に書き込んで修正する。	45分
第9回	制作作業の結果3 本縫い1	各自のアイテムに合わせた本縫いの順序、縫製の縫製方法を学ぶ。	特殊生地は部分縫いで試し、練習してから行う。	45分
第10回	制作作業の結果4 本縫い2	各自のアイテムに合わせた本縫いの順序、縫製の縫製方法を学ぶ。	説明内容まで進めること。	45分
第11回	制作作業の結果5 本縫い3	各自のアイテムに合わせた本縫いの順序、縫製の縫製方法を学ぶ。	説明内容まで進めること。	45分
第12回	制作の作業結果6 本縫い4	各自のアイテムに合わせた本縫いの順序、縫製の縫製方法を学ぶ。	説明内容まで進めること。	45分
第13回	制作の作業結果7 本縫い5	各自のアイテムに合わせた本縫いの順序、縫製の縫製方法を学ぶ。	説明内容まで進めること。	45分
第14回	制作の作業結果8 本縫い6	各自のアイテムに合わせた本縫いの順序、縫製の縫製方法、仕上げアイロンを学ぶ。	作品を完成させる。	45分
第15回	仕上げ、考察2 まとめ	テーマや作品の目的、デザイン画のシルエット・タイトル、材料・色彩の効果、サイズとフィット性、運動機能性、制作手順などについての考察を学ぶ。	制作の日程計画は妥当であったか検討する。	45分

学生へのフィードバック方法 ショーの構成・台本、演出、担当作業に対するコメント

評価方法 平常点、デザイン、制作・製図、作品

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
デザイン	○	○	○	○
制作・製図	○	○	○	○
作品	○	○	○	○

評価割合 平常点20%、デザイン20%、制作・製図20%、作品40%

使用教科書名 (ISBN番号) なし

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】社会の中にある諸課題についての知識を深める。【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】社会の中にある諸課題に積極的に関心を持ち、自主的かつ協力的に作業を進めることができる。【技術・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

オフィスアワー 木曜日 12:30~14:00

学生へのメッセージ 各自のアイテムや舞台衣装などを課題にして、デザインや制作方法を身につけ、卒業研究の要旨、発表資料、卒業論文のまとめ方などを学びます。この分野に興味のある方、卒業研究で制作を希望する方、または初めて制作をする方も参加してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		

シラバス参照

講義名	ゼミナールB(花田)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 花田 朋美	指定なし

ナンバリング	D31208M12
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	家政学及びそれに関連する分野の基礎知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点 (K)	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	課題解決に必要な情報を収集・分析・整理し、自らの考えを的確に形や文章として表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	研究テーマの確認	グループワークを行う。ゼミナールAの成果を整理し、ゼミナールBの研究計画を再考する。	〔予〕ゼミナールBの研究計画を整理し、人数分の資料を準備しておくこと。	45分
第2回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	45分
第3回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	45分
第4回	研究検討会	グループディスカッションを行う。各自の進捗状況を整理し、レジュメに基づき報告する。	〔予〕研究の進捗状況をレジュメにまとめ、人数分の資料を準備しておくこと。〔復〕ディスカッションに基づき、研究計画を再検討する。	45分
第5回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	45分
第6回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕研究に必要な試料や	45分

		ンを行う。	器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	
第7回	研究検討会	グループディスカッションを行う。各自の進捗状況を整理し、レジュメに基づき報告する。	〔予〕研究の進捗状況をレジュメにまとめ、人数分の資料を準備しておくこと。〔復〕ディスカッションに基づき、研究計画を再検討する。	45分
第8回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	45分
第9回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	45分
第10回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	45分
第11回	研究遂行	研究計画に従い、研究を遂行する。個別ディスカッションを行う。	〔予・復〕研究に必要な試料や器具、機器の準備、調整を進め、研究を遂行する。	45分
第12回	研究報告会の準備	個別ディスカッションを行う。報告会にむけ、研究の進捗状況をまとめる。	〔予〕研究の進捗状況をレジュメにまとめておくこと。〔復〕検討結果に基づき、プレゼンテーション資料を作成する。	45分
第13回	研究報告会の準備	個別ディスカッションを行う。報告会にむけ、研究の進捗状況をまとめ、プレゼンテーション資料を作成する。	〔予〕検討結果に基づき、プレゼンテーション資料を作成する。〔復〕検討結果に基づき、プレゼンテーション資料を修正し、発表練習をすること。	45分
第14回	研究報告会	3、4年生合同のグループディスカッションを行う。進捗状況を整理し、プレゼンテーション発表を行う。	〔予〕プレゼンテーション資料作成し、発表練習をしておくこと。	45分
第15回	研究計画の検討	個別ディスカッションを行う。プレゼンテーション発表での課題について、再検討し、研究計画を再考する。	〔予〕今後の研究計画の再検討をしておくこと。	45分

学習計画注記 研究の進捗状況によりスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 個別ディスカッション、グループディスカッションにおいて対応。質問や相談は、随時受付。

評価方法
 ①平常点（意欲、態度、研究遂行に対する行動力、調整力、理解力を評価）
 ②研究報告会での発表（理解力、意欲、思考力を評価）
 ③成果物（理解力、構成力、思考力、完成度 を評価）

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
発表（検討会・報告会）	○	○	○	○
成果物	○	○	○	○

評価割合 平常点40% 発表（検討会・報告会）40% 成果物20%を総合的に評価

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 適宜指示

ディプロマポリシーとの関連
 【知識・理解】家政学及びそれに関連する分野の基礎知識を有し、その理解を深めること。
 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。
 【関心・意欲・態度】社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できること。
 【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理し、自らの考えを的確に形や文章として表現できること。

オフィスアワー 金曜日11時～12時30分 2407被服材料学研究室

学生へのメッセージ 卒業研究に向けた基礎知識と手法の修得のため、積極的に取り組んでほしいと思います。3、4年生が合同で活動することもあります。

教育等の取組み状況

	該当	概要
--	----	----

	有無	
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	実験・実習・調査活動、グループディスカッション、グループワークの実施
情報リテラシー教育	○	文献探索、プレゼンテーションの指導
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ゼミナールB(深石)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 深石 圭子	指定なし

ナンバリング	D31208M12
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究の対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究の対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。本ゼミナールでは、主に卒業設計に取り組む前段階としての演習を行う。
履修条件	卒業研究で設計を行う予定の場合、住居デザイン演習C/D、建築デザイン演習の単位取得、建築デザイン演習Bの履修をしていることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	専門知識・技術を持つことができる。
思考・判断の観点 (K)	基礎的な調査・分析方法を習得することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自身が取り組む課題に対し、問題意識をもって、取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	的確な方法を用いて人に伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業の概要、シラバスの説明を行う。プレゼンボード作成の概要説明。いつまでに何をすべきか手順を確認し、スケジュールを作成する。ミニレポート(1)・発表。	(復習) 次回までに卒業研究用のノートを用意・持参すること。	45
第2回	卒業研究のテーマとは	自身の興味のある事柄などから、卒業研究のテーマを考えて仮に決める。ミニレポート(2)・発表。	(予習) 取り組みたいテーマを数案考えてくること。	45
第3回	調査1(建築用途)	テーマに関する建築計画の再確認、事例作品、所要室の調査等。ミニレポート(3)・発表。	(予習) 取り組みたいテーマの建築計画を調べてくること。	45
第4回	調査2(建設地)	建設地域の歴史、産業、地形、交通等の特徴の調査、ミニレポート(4)・発表。	(復習) 建設地域の特徴を図表にまとめることが出来る資料を準備しておく。	45
第5回	テーマ、コンセプトとは	テーマとコンセプトを理解し、自身の取り組むテーマ・コンセプトや空間のイメージを考え決定する。ミニレポート(5)・発表。	(復習) テーマとコンセプトの具体的なイメージを考えてくること。	45
第6回	敷地決定、データ化	テーマと敷地の関係を考え、敷地を決定し、ゾーニングを行う。ミニレポート(6)・発表。	(予習) 出来る限り、敷地やその周辺を調査すること。(写真、気づいたことをメモ)	45

第7回	プログラム決定	ダイアグラム、所要室の検討、機能図作成を行う。見せ場となる空間のイメージ（スケッチ）決定。ミニレポート（7）・発表。	（復習）ダイアグラムはデータ化しておくこと。	45
第8回	ラフ模型制作	ラフ模型を制作し、カタチを検討する。同時に構造計画も検討する。発表。	（予習）ラフ模型の材料を用意しておくこと。	45
第9回	エスキス1	配置計画、平面計画、断面計画。発表。	（予習）必要な設計データを収集しておくこと。	45
第10回	エスキス2、データ作成（作図）1	立面計画、設備（EV、エスカレーター）計画。コンセプトの表現できる図面やパースを選択し作図する。発表。	（予習）必要な設計データを収集しておくこと。	45
第11回	データ作成（作図）2	必要な図面、パースの作図する発表。ポリウム模型制作の説明。	（予習）レイアウトを検討し、必要な図面を決定する。	45
第12回	ポリウム模型制作	ポリウム模型を制作し、カタチを検討する。発表。	（予習）適した模型材料や道具を考え、用意しておくこと。 （復習）模型写真の撮影をしていくこと。	45
第13回	プレゼンボード作成1	プレゼンボードの作成。発表。	（予習）予定通りに進んでいない場合は、作業を進めていくこと。	45
第14回	プレゼンボード作成2	プレゼンボードの作成。印刷設定。発表。	（復習）発表出来るようA1版1枚にまとめ、印刷すること。	45
第15回	最終発表	完成したプレゼンボードを用い、発表を行う。	（予習）発表の練習をしていくこと。	45

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	1回目から8回目は、授業毎に毎回自身の考えをミニレポートにまとめる。提出されたミニレポートは、授業内に回答もしくは、翌週までにコメントを記載し、返却する。
評価方法	平常点（発表・授業態度） ミニレポート：全7回分 プレゼンボード：1課題

評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	発表・授業態度			○	
	ミニレポート	○	○		
	プレゼンボード				○

評価割合	平常点（発表・授業態度）20%、ミニレポート30%、プレゼンボード50%
使用教科書名 (ISBN番号)	なし
参考図書	必要であれば、随時指示する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 「住」の分野について、専門的知識・技術を有している。 【思考・判断】 社会の中にある諸問題を自ら発見し、理論的に分析し考察することができる。 【関心・意欲・態度】 社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。 【技術・表現】 家政学を修学し、住の分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。
オフィスアワー	金曜 4 限 3512研究室
学生へのメッセージ	自ら問題意識を持ち、手を動かしながら考え、作業を継続することが重要です。また、授業外においても学外の展示会等には積極的に足を運び、自身の考えと向き合うことを習慣化させてください。4年次に取り組む卒業研究を悔いのないものにしましょう。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング	○	授業は、授業内に提出されたミニレポートをもとにゼミ形式で進める。他の学生の研究内容も把握し、グループディスカッションを行いながら客観的に自身の課題と向き合うこと。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ゼミナールB(森)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森 朋子	指定なし

ナンバリング	D31208M12
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の専門領域の中で、各学生が特に興味を抱いている領域について、研究対象となる問題や研究の事例、研究方法を学び、研究対象となる課題を発見して、卒業研究に取り組むための基礎的知識と手法を身につける。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	日本語教育および言語コミュニケーションの分野の知識を学び、理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	日本語教育および言語コミュニケーションの分野の諸問題について、論理的に分析し考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日本語教育および言語コミュニケーションの分野に深い関心を持ち、意欲的かつ積極的に課題に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	問題解決に必要な情報を収集・分析・考察し、研究作法に則って表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション 研究の方法	ゼミナールBの内容を理解する。ゼミナールAの内容をふまえ、グループで研究の流れを整理する。	アンケート調査のテーマを決める。	45分
第2回	アンケート調査1	各自のテーマにそってアウトラインを作成する。各自のアウトラインをクラス全体で検討し、修正点を明らかにする。	アウトラインを修正し、文献が必要な項目、内容を確認する。	45分
第3回	アンケート調査2	図書館で文献収集を行う。	文献を参考にアウトラインを修正する。	45分
第4回	アンケート調査3	文献の使い方を学び、各自文献から引用する箇所を検討する。	不足する文献を探す。	45分
第5回	アンケート調査4	文献の内容を資料にまとめて発表する方法を学ぶ。各自発表の準備をする。	発表の準備をする。	45分
第6回	アンケート調査5	先行文献のまとめの部分を発表する。ディスカッションを通して、お互いの発表内容について理解を深める。	アンケートの例を探す。	45分
第7回	アンケート調査6	アンケートに必要な項目についてグループで考えた上で、アンケート作成方法について学ぶ。各自アンケート(下書き)の作成を始める。	アンケート(下書き)を完成する。	45分
第8回	アンケート	各自のアンケートをクラス全体で検討し、修正点を明らかにする。	アンケートを完成する。	45分

	調査7	かにする。各自修正を開始する。		
第9回	アンケート調査8	アンケートの実施方法について学び、クラス全体で実施計画を立てる。	アンケートを配付する。	45分
第10回	アンケート調査9	アンケートの集計方法および統計処理の方法を練習を通して学ぶ。表、グラフの作成のしかたも練習する。	各自アンケートの項目によってどのように統計を処理するかを考える。	45分
第11回	アンケート調査10	アンケート調査の口頭発表の方法を練習を通して学ぶ。アンケートの集計と統計処理を始める。	各自口頭発表の資料を作る。	45分
第12回	アンケート調査11	アンケート調査の口頭発表をする。ディスカッションを通して、相互の内容について理解を深める。	アンケート調査のある文献を読む。	45分
第13回	アンケート調査12	アンケート調査のあるレポートの作成方法を練習を通して学ぶ。	レポートの下書きを作成する。	45分
第14回	アンケート調査13	レポートに適する表現を練習を通して学ぶ。各自のレポートの修正点を相互に指摘し、修正を開始する。	レポートを修正し完成する。	45分
第15回	アンケート調査14	お互いのレポートを読み、発展できる点をディスカッションする。	レポートを修正する。	45分

学生へのフィードバック方法 口頭および書面によるコメント

評価方法 課題（完成度により評価する） ポートフォリオ（課題設定、記録内容、整理の仕方により評価する） 平常点（ディスカッション、発表、取り組みの姿勢により評価する）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題	○	○	○	○
ポートフォリオ		○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合 課題50% ポートフォリオ10% 平常点40%

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】日本語教育および言語コミュニケーションの分野の知識を学び、理解を深める。
【思考・判断】日本語教育および言語コミュニケーションの分野の諸問題について、論理的に分析し考察することができる。
【関心・意欲・態度】日本語教育および言語コミュニケーションの分野に深い関心を持ち、意欲的かつ積極的に課題に取り組むことができる。
【技術・表現】問題解決に必要な情報を収集・分析・考察し、研究作法に則って表現することができる。

オフィスアワー 月曜日3限 水曜日2限

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題に自主的に取り組む。ディスカッション等を通して、自分の意見を伝えると同時に、異なった意見をまとめる訓練をする。
情報リテラシー教育	○	図書館やインターネットを駆使して情報収集をし、成果物をまとめる。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	アパレル生産実習		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田 弘美	指定なし

ナンバリング	D32208M13
授業概要(教育目的)	アパレル製品が、システム化された作業工程に従って商品化される過程を模擬的に体験して学園祭で販売する。商品の企画、デザイン、CADによる工業用衣料パターンメイキング、サンプル製作、縫製仕様書による指示、カッティング、縫製、仕上げ、検品と製品評価などの生産工程と商品のパッケージ、広告、販売について学び、品質のよい製品を効率よく生産するための基礎を習得することが目的である。また、特別授業として工業ミシン製造会社の見学、実務経験をもつ講師（デザイナー）によるユニークな作品の解説などを行う。
履修条件	R2年度開講なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	衣生活に関する諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点 (K)	衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	衣生活に関する課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

アパレル生産実習

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション、プロジェクトの説明、既製服の歴史	グループごとに模擬的なアパレル企業として企画、設計、生産、検品、販売などの作業内容を学ぶ。	各グループの商品テーマ、コンセプトを考える。	45分
第2回	プロダクトパターン、プロダクト1(商品企画)	プロダクトパターン、商品企画としてターゲット、ライフスタイル、コンセプトについて学ぶ。	各グループの商品テーマ、コンセプトに沿ったデザインを考える。	45分

第3回	グレーディング、マーキング、縫製仕様書、プロジェクト2 (コンセプト決定)	グレーディング、マーキング、縫製仕様書、ターゲット、ライフスタイル、コンセプトを決定し、デザイン画で表現することを学ぶ。	各グループで生産する商品のコンセプト、デザインを決定し、作業担当者を決める。	45分
第4回	縫製工程分析、プロジェクト3 (デザイン決定)	縫製工程分析の書き方、デザイン決定と材料について学ぶ。	商品の材料 (生地、副資材) などを準備する。	45分
第5回	プロジェクト4 (シーチングによる試作、中間発表の準備)	シーチングでサンプル製作、シルエット、大きさ、縫製、材料 (生地・副資材)、グループごとの中間発表の準備について学ぶ。	製図を書き、パターン作成、シーチングのサンプルを完成させる。	45分
第6回	特別授業 工業用各種ミシンの見学	ジューキ株式会社の工業ミシンを見学して縫製工場の特殊ミシンの種類、縫製方法、速さなどを理解する。	見学内容をまとめること。各担当者ごとにパワーポイントを作成し、口頭発表の練習をする。	45分
第7回	プロジェクト5 (中間発表、縫製準備)	シーチングサンプル、デザイン画でデザインの発表、プロダクトパターン作成 (CAD使用1)、裁断指示書、縫製指示書、工程分析表の質問、確認、コメントの対応などを学ぶ。	各担当者ごとにパワーポイントを作成し、口頭発表の練習をする。	45分
第8回	プロジェクト6 (裁断・縫製準備)	地直し、裁断、仕分け (バンドリング)、芯貼りの方法を学ぶ。	縫製前段階まで進めておくこと。	45分
第9回	特別授業 独創的な服飾造形作品の解説	独創的な服飾造形作品を制作しているデザイナーを講師に招き、アパレル製品の発想、知識、技術などを講義・演習を通して学ぶ。	小作品を完成させること。	45分
第10回	プロジェクト7 (縫製1)	工業ミシン、縁かがりミシン、アイロンなどは縫製仕様書を確認し、工程分析表の流れで作業をすることを学ぶ。	縫製、アイロンかけを進める。	45分
第11回	プロジェクト8 (縫製2)	工業ミシン、縁かがりミシン、アイロンなどは縫製仕様書を確認し、工程分析表の流れで作業をすることを学ぶ。	縫製、アイロンかけを進める。	45分
第12回	プロジェクト9 (縫製3、パッケージデザイン)	工業ミシン、縁かがりミシン、アイロンなどは縫製仕様書を確認し、工程分析表の流れ、パッケージデザイン、パネル作成について学ぶ。	縫製、アイロンかけを進める。パッケージ (包装) デザインを考える。	45分
第13回	プロジェクト10 (製品完成・製品評価・検品・プレゼンテーションの準備)	検査項目に従って検品方法、プレゼンテーションの内容を学ぶ。	パネル作成、プレゼンテーションの準備をする。	45分
第14回	プロジェクト11 (製品の包装)	洗濯表示、品質表示などの法的に添付する内容、製品の包装プレゼンテーションのパネル作成を学ぶ。	検品、包装済みの商品を提出すること。プレゼンテーションの準備をする。パネルを完成させること。	45分
第15回	プレゼンテーション	各グループごとにパネルを使用し、商品説明、質問、確認、コメントの対応などを学ぶ。	発表練習をすること。パネルは学園祭で販売するときにも使用する。	45分

学生へのフィードバック方法	商品企画・製作物・レポートに対するコメント			
評価方法	平常点、商品企画・製作物、発表、レポート			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)

平常点			○	
商品企画・制作物	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○

評価割合	平常点：20点、商品企画・制作物：30点、発表：20点、レポート30点
使用教科書名 (ISBN番号)	プリント配付
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】衣生活に関する諸課題についての知識を深める。【思考・判断】衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。【技術・表現】衣生活に関する課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。
オフィスアワー	木曜日12:30~14:00
学生へのメッセージ	グループ作業のため欠席をしないように心掛け、協力し合って取り組んでください。
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	実務経験をもつ講師（デザイナー）を招いてユニークな服飾造形作品について学ぶ。また、工業ミシンの見学では、縫製機器の担当者によって世界中の縫製工場で使用している最新のミシンについて学ぶ。
アクティブ・ラーニング	○	課題に関して自発的に調べ、グループで協議して発表する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	室内園芸		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 濱田 恵理子	指定なし

ナンバリング	D35205M21
授業概要(教育目的)	室内園芸全般につき、素材、栽培法などを知る。 インテリアの概要、インテリアの歴史、近代の建築家のインテリアデザイン等について知り、合わせてそれぞれのインテリアに対し、適切で効果的な植物の種類、コーディネート方法を説明する。技術的、用語的な解説だけではなく、コーディネートや設計に応用可能なように、なるべくデザインに関連させて説明する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	室内園芸に関係する素材、栽培方法、見せ方やコーディネート方法などの基本事項を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	具体的なインテリア内での植物の姿を思考し、関係する素材をピックアップし、コーディネートできる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	グリーンインテリアデザインをなどにつき、コラージュボード、図面などで具体的に表現できる。

学習計画

室内園芸の実際

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	植物のある空間について考える	植物のもつさまざまな効用、演出上の効果など概要を説明する。自分が植物につき現在どの程度理解しているか再確認に、上手に共生していくために何を学ぶべきか知る。	教科書の最初からp. 27を読んでおくこと。	
第2回	基本的な植物の性質と環境づくり、手入れ。	植物が他の無機質のインテリアエレメントと大きく異なる点は「いきもの」であることです。ただ、美しい、可愛らしいとチョイスするのでは欠ける部分が生育環境となります。基本的な生育環境、栽培について学びます。	教科書のp. 64あたりまで目を通す。	
第3回	植物をより魅力的に見せるには。	コンテナやスタンドなど植物をより効果的に見せるアイテム、植物のテクスチャーを読み取ることを学びます。あわせて、色彩につき知識を得ます。	教科書の～p84に目を通しておくこと。	
第4回	園芸的な作	植物を栽培する上での年間作業につきおさえる。関連専		

	業	門用語の知識を身につける。		
第5回	植物のある家1	各居室、スペースの特徴、性質を知り、そこにマッチした植物選びを講じる。	教科書のp123～p147を読んでおくこと。	
第6回	植物のある家2	植物を「置く」「吊るす」「掛ける」等レイアウト方法のバリエーションを知る。合わせてそれぞれに適した植物の選択、栽培方法につき知識を広める。	教科書の～p174を読んでおくこと。	
第7回	インテリアの歴史とスタイル、それにあった植物の姿	西洋、日本でのインテリア様式の遷移をおおまかに知り、それにあった植物の姿はどんなもの学習する。		
第8回	インテリアエレメントと植物のテクスチャー	家具や内装を構成する素材、植物の種類によりことなる素材感につき学習する。	教科書のp79～p83を読んでおくこと。	
第9回	水周りに置く植物	敬遠しがちな洗面所、バスルーム、キッチン等水周りで植物を楽しむには。居室の機能を失わず、かつ効果的に楽しむにはどう考えるか。		
第10回	植物の緑とコンテナのテクスチャー、色彩	さまざまなコンテナのテクスチャーにつき、それが視覚上植物に及ぼす影響を知る。実際にどんなものがあり、どう感じるか体感する。	教科書のp213～p228を読んでおくこと。	
第11回	リビングルームの考察	リビングルームを考える。インテリアと植物の具体的な展開。	教科書のp229～p241を読んでおくこと。	
第12回	インテリアテイストと植物	ナチュラルカントリー、和モダンなど流行のインテリアスタイルを知り、そこにあるべき植物を考える。		
第13回	ハンドメイドという考え方	DIY、ハンドクラフトを施して楽しむインテリアと植物。ペイントやワイヤー、雑貨との組み合わせや、具合的な方法などにつき知る。		1
第14回	室内と屋外をつなぐ植物	掃き出しからのベランダ、テラス、玄関から玄関アプローチなど、内外をつなぐスペースのインテリア、エクステリア、ライティング、植物について考える。外と中の連動感をもたせる発想。		
第15回	さまざまなスペースと植物(まとめ)	一般的な住宅、小スペースの店舗等につき全体の植物コーディネートプランする。注意点や配慮すべき点と、現実性をふまえた上でより効果的であることのボーダーを探る。		
第16回				

学習計画注記 ※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 数回実施予定の小テストは、次週の授業にて返却する。おおまかな解説を次回の講義内でおこなう。

評価方法 隔回程度の頻度で小テストを実施する。小テストの内容は、その回に行った授業内容とし、問題数は3～5問。すべて記述式とする。小テストの再試験は原則として行わない。定期試験を実施。小テスト（平常点も兼ねる）で評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○		
定期試験	○	○		○

評価割合 隔回でやった授業内容の小テストをして、集計して成績評価する。その際、平常点20%、得点80%とする。

使用教科書名 (ISBN番号) カラ・ラグントン&ローズ・レイ著「美しいインドアグリーン」株式会社エクスマレッジ (ISBN978-7678-2309-6)

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】「住」と「衣」分野に関係するインテリアとそれに付随する植物について、専門知識・技術を有している。
【思考・判断】社会の中にある住宅、店舗の中での植物のもつ課題を自ら発見し、分析し、考察することができる。

	【技術・表現】 社会に対して、インテリアエレメントとしての植物に関して、洗練された表現で課題解決を行い、表現することができる。
学生へのメッセージ	「住」と「衣」分野の双方にまたがるインテリアデザイン、より快適な空間の構成をするために植物の存在は欠かせません。デスクの上のほんのひと鉢から、インテリア全体にかかわるインテリアエレメントとしての植物は、非常に興味深い分野であると同時に、人間生活を名実共に優香にするものでもあります。この授業で室内園芸とインテリアの基本を身に付けましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、約30年間の植物プランニングの経験を有しており、園芸や植物の基本知識がインテリアデザインやインテリアコーディネートにどのように生かせるかを教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	CGデザイン演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 呉 起東	指定なし

ナンバリング	D14202M22
授業概要(教育目的)	情報の伝達、表現方法である2次元CGの基礎学習を目的とする。この授業は2次元グラフィックツールを用いて課題を行いながら表現の基礎を学ぶ。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	2次元グラフィックツールの知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
思考・判断の観点 (K)	必要な情報を収集し分類を行う。その結果を用いてアイデアに展開することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	必要な情報を収集し分類を行う。その結果を用いてアイデアに展開することができる。
技術・表現の観点 (A)	情報伝達を理解し情報を可視化することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業のオリエンテーション、2次元CGの概要	授業の概要や内容、成績の評価の説明を行う。2次元CGについて概要と表現の可能性について説明を行う。	2次元CGについてどのようなことができるか、何を表現したいのかについて調査を行いレポートを書く。	90分
第2回	2次元CG基礎1-1	ビットマップ画像を用いたグラフィックツールの基本的なインターフェースを理解する。選択、移動、拡大、縮小の機能を応用した小課題1(野菜でコックさんを作る)を行う。	課題を理解するために再度小課題1(野菜でコックさんを作る)を復習する。次回の課題1(コラージュ)のための素材を収集する。	90分
第3回	2次元CG基礎1-2	レイヤー機能について演習を行う。画像の合成、スタンツールなどを用いて小課題2(ベネチアの風景)を行う。課題1(コラージュ)を制作する。	課題を理解するために再度小課題2(ベネチアの風景)を復習する。	90分
第4回	2次元CG基礎1-3	イメージのレタッチについて演習を行う。課題2(ありえない世界)の説明行い制作を始める。	課題2(ありえない世界)のアイデアスケッチと表現のための素材を収集する。	90分
第5回	課題2(あ	ビットマップ画像を用いたグラフィックツールを駆使し	課題2(ありえない世界)の完	90分

	りえない世界)の制作	て課題2(ありえない世界)の制作を行う。	成度を高める。	
第6回	2次元CG基礎2-1	ベクトル画像を用いたグラフィックツールの基本的なインタフェースを理解する。基本形の図形、選択、移動、拡大、縮小の機能を応用した小課題2(初めてドロー)を行う。	ベクトル画像を用いたグラフィックツールの基本を復習する。	90分
第7回	2次元CG基礎2-2	色の選択・グラデーション・ペンツールの使い方を学ぶ。課題3(キャラクター)の制作を始める。	キャラクターについて資料を収集して課題3(キャラクター)のアイデアスケッチを行う。	90分
第8回	課題3(キャラクター)の制作	ベクトル画像を用いたグラフィックツールを駆使してキャラクターを制作する。	キャラクターデザインの完成度を高める。	90分
第9回	課題3(キャラクター)の制作	ベクトル画像を用いたグラフィックツールを駆使してキャラクターを制作する。	キャラクターデザインの完成度を高める。	90分
第10回	課題3(キャラクター)の制作	ベクトル画像を用いたグラフィックツールを駆使してキャラクターを制作する。制作レポートを作成する。	キャラクターデザインの完成度を高める。制作レポートを作成する。	90分
第11回	課題4(年賀状)の制作	課題3のキャラクターを用いて年賀状を制作する。	年賀状デザインの完成度を高める。	90分
第12回	課題4(年賀状)の制作	課題3のキャラクターを用いて年賀状を制作する。	年賀状デザインの完成度を高める。	90分
第13回	課題4(年賀状)の制作	課題3のキャラクターを用いて年賀状を制作する。	年賀状デザインの完成度を高める。	90分
第14回	課題4(年賀状)の制作	課題3のキャラクターを用いて年賀状を制作する。制作レポートを作成しプレゼンテーションの準備を行う。	制作レポートを作成しプレゼンテーションの準備を行う。	90分
第15回	プレゼンテーション	キャラクター、年賀状のデザインについてプレゼンテーションを行う。	制作レポートを作成して提出する。	90分

学生へのフィードバック方法 小課題、課題、レポートは採点して、次週の授業にて返却をする。質問などがある場合は研究室1307(E-mailも可)まで訪問すること。

評価方法 2回の小課題は10点満点で提出した結果を3つの基準で評価を行う。3つの基準は「課題の理解」「誠実さ」「デザイン性」で5段階評価を行う。4回の課題は60点満点で課題の結果、制作レポート、プレゼンテーションで評価を行う。評価の基準は小課題と同じく3つの基準を5段階評価で行う。2回のレポートは20点満点で小課題や課題と同じく3つの基準を5段階評価で行う。平常点は10点満点で15回を通して「背極的な授業の参加、態度」「背極的なディスカッション」を基準に加点及び減点を行います。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解(K)	思考・判断(K)	関心・意欲・態度(V)	技術・表現(A)
小課題	○	○	○	○
課題	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○
平常点			○	

評価割合 小課題(10%)、課題(60%)、レポート(20%)平常点(10%)で評価をする。

使用教科書名(ISBN番号) 特になし、必要に応じてプリントを配布する。

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】情報について、専門的知識・技術を有している。
【思考・判断】多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。
【関心・意欲・態度】積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。
【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

オフィスアワー 火曜日2限 1307研究室

学生へのメッセージ 情報の表現は沢山の方法があります。如何に効率よく正確にわかりやすく伝えるかが大切です。更に表現を行うさいには美しくなる必要があります。どうすれば美しいデザインができるかを一緒に探してみたいです。この授

業はパソコンを使います。パソコンの基本をわからないのであれば事前学習して下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題に関して、自ら調べ、発表する。
情報リテラシー教育	○	情報そのものと情報の伝達をするための情報の収集、分類、基本的な表現スキルを教育する。
ICT活用	○	情報収集、作品制作、発表のために、PCや通信機器を活用する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ガーデニング概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石網 史子	指定なし

ナンバリング	D1111M21
授業概要(教育目的)	人々が様々なストレスを抱えた現代の社会では、植物に求められる機能や用途も多様化している。本講義では、園芸やガーデニングとは何かについて考え、定義する。主にガーデニングを行う際に必要な植物学や庭のデザインに関する基礎的な知識や技術について紹介する。本講義を通じ、私たちの生活の中に多く存在している植物に気づき、見る力を養う。園芸領域科目（園芸学、ガーデニング実習など）の入門編の講義である。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標（到達目標）	
知識・理解の観点 (K)	身の回りの植物を用いた空間デザインについて興味を持ち、理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	植物を生活に取り入れることのメリット、デメリットを判断し、その楽しさや難しさ示すことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	本講義を受ける前には気が付かなかった、私たちの生活の中にある植物に気づき、興味を持つ。
技術・表現の観点 (A)	植物を生活に取り入れるために必要な園芸やガーデニングの基礎的な知識を身につける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンスとイントロダクション	本講義の到達目標、講義内容、進め方を説明する。身近にどのような植物があるか、どのような植物を知っているかを考える。	本講義の到達目標や進め方をよく理解すること。生活の中にある植物を観察する。	240分
第2回	植物、庭、花壇、園芸、ガーデニングとは	本講義で扱う言葉の定義を例を紹介しながら解説する	講義で扱った言葉の定義を復習し違いを理解し解説できるようにする。	240分
第3回	造園とランドスケープの歴史①	日本庭園の歴史と様式を事例を挙げながら解説する。	日本庭園の歴史を復習し、なぜ時代によって庭園の様式が変化したか理解する。	240分
第4回	造園・ランドスケープの歴史②	西洋の庭園の歴史、様式を実例を挙げながら解説する。	授業内容を復習し、西洋の庭園の歴史と時代によって異なる様式を理解する。	240分

第5回	造園・ランドスケープの歴史③	国外の庭園の歴史と様式を実例を挙げて解説する。	講義内容を復習する。第3回から第5回までの造園・ランドスケープの歴史について理解する。	240分
第6回	植物学の基礎	植物学的分類、命名法、植物の形態の基礎を実例を挙げながら解説する。	植物の名前はどの様につけられているか、植物の形態と部分の名前を理解し解説できるようになる。	240分
第7回	園芸植物の基礎①	園芸植物とは何か、栽培植物の起源と育種について、特に野菜の実例を挙げて解説する。	講義内容を復習する。野菜の栽培化や育種について理解し、具体例を説明できるようにする。	240分
第8回	園芸植物の基礎②	園芸植物とは何か、栽培植物の起源と育種について、特に果物の実例を挙げて解説する。	講義内容を復習する。果物の栽培化や育種について理解し、具体例を説明できるようにする。	240分
第9回	園芸植物の基礎③	園芸植物とは何か、栽培植物の起源と育種について、特に花の実例を挙げて解説する。	講義内容を復習する。花の栽培化や育種について理解し、具体例を説明できるようにする。	240分
第10回	植物についての正しい情報を得る方法	植物図鑑の見方（用語の解説など）、インターネットサイトなど、植物についての正しい情報を得る方法を解説する。	講義内容の復習とインターネットなどを実際に閲覧し、情報を得る方法を確認する。	240分
第11回	季節の重要性と植物を使った空間デザイン	庭や植物の季節の重要性、日本文化で昔から用いられる四季の代表的な植物を実例を挙げて解説する。植物を使った空間デザインについて、実例を紹介し解説する。	講義内容の復習と秋の植物を観察する。	240分
第12回	園芸用資材と季節の飾り	ガーデニングや園芸で使用する特殊な資材、用土について実例を挙げて解説する。年末から年始にかけてみられるクリスマス、お正月飾りについて解説する。	講義内容の復習。どのような道具や資材を使うか理解し、解説できるようにする。冬休みの間に街に飾られている植物を使った飾りを観察する。	240分
第13回	デザイントライアル①	初歩的な題材、寄せ植えのデザイン方法とポイントを実例を挙げて解説する。	講義内容の復習。寄せ植えデザインのコンセプトなどについて検討する。	240分
第14回	デザイントライアル②	初歩的な題材、寄せ植えのデザインを行う。	講義内容の復習。寄せ植えデザインを完成させる。	240分
第15回	デザイントライアルの発表と本講義の総括	デザイントライアルでデザインした内容を発表し、他の人のデザインの考え方も学ぶこの講義で学んだこと、到達目標は達成できたか振り返る。	デザインの考え方について復習する。身の回りある植物を改めて観察する。	240分

学習計画注記	履修者数などにより、スケジュールや課題が変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	課題は採点し、コメントを付けて返却する。疑問・質問が生じた場合は、e-mailで連絡をするか、3609研究室を訪問すること。
評価方法	平常点：講義中のディスカッションや課題に取り組む意欲的な姿勢や理解度を総合的に評価する。 課題：課題の主旨を理解しているか、疑問や問題に適切に答えているか、文章構成力などを総合的に判断して評価する。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○		○	
課題	○	○		○

評価割合	平常点 (50%) と、課題 (レポート・小テスト) (50%)による総合評価。
使用教科書名 (ISBN番号)	適宜、資料を印刷・配付する。
参考図書	適宜紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。 【思考・判断】 社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。 【関心・意欲・態度】 社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】 課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。

オフィスアワー	月曜日 2限 3609研究室	
学生へのメッセージ	私たちの生活の中にある植物について学びます。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、植物園および大学研究機関で庭や植物コレクションの栽培管理業務に従事した実務経験を有している。実務経験をもとに現場に必要な園芸と植物の基礎的知識とは何かを講義で伝えている。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	言語学概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森 朋子	指定なし

ナンバリング	D11109M21
授業概要(教育目的)	「ことば」は「コミュニケーションの道具」と言われており、人間の生活は「ことば」なしには成り立たない。授業では、あまりにも身近な存在である「ことば」の特徴を客観的に学ぶことで、外国語習得や言語コミュニケーションに活かせる基礎力を養う。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	言語を音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論の観点から理解する。
思考・判断の観点 (K)	学んだ知識を基に、自分達が日常使っている言語を科学的に分析する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	言語の機能、不思議さ、面白さに興味を持ち、外国語習得や言語コミュニケーションに役立てることができる。
技術・表現の観点 (A)	言語の分析を論理的に他者に伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	人間の言語と動物のコミュニケーションのシステムの違い	人間の言語と動物のコミュニケーション・システムの違いについて学び、言語の役割や機能について考える。言語学概論がどのような学問なのかについても学ぶ。	世界にはどのぐらいの言語があるかを調べる。自分の興味のある言語の概要についても調べる。	180
第2回	世界の言語	世界の言語の数や分類、特徴について学ぶ。各自調べてきた言語について発表する。	授業内容を復習し小テストに備える。	180
第3回	音声学 1	音声のしくみと子音について学び、日本語の子音の特徴について考える。	授業内容を復習し小テストに備える。	180
第4回	音声学 2	母音について学び、日本語の母音の特徴を分析する。母語の体系にない音声はなぜ難しいのか、母語にない音はどのように発声するのかについても学ぶ。	授業内容を復習し小テストに備える。	180
第5回	音韻論 1	音と音がつながった時にどのような変化が起きるのかを分析する。	授業内容を復習し小テストに備える。	180

第6回	音韻論 2	音と音がつながった時にどのような変化が起きるのかの分析を続ける。このような変化がなぜ起きるのかについても考える。	授業内容を復習し小テストに備える。	180
第7回	形態論 1	形態素について学び、語がどのように成り立っているのかを分析する。	授業内容を復習し小テストに備える。	180
第8回	形態論 2	新しい語ができる際の成り立ちについて学び、いくつかの例を分析する。	授業内容を復習し、中間試験に備える。	180
第9回	中間試験 (ここまでの振り返り)	人間の言語と動物のコミュニケーション・システムの違い、言語の役割、世界の言語の分類、音の体系、語の構成について、学んだ知識を活かして分析する。	中間試験で十分に分析できなかったところを復習する。	180
第10回	統語論 1	伝統文法による文の分類について学び、文を分析する。	授業内容を復習し小テストに備える。	180
第11回	統語論 2	構造主義による統語論を学び、文を分析する。	授業内容を復習し小テストに備える。	180
第12回	統語論 3	変形生成文法について学び、文を分析する。	授業内容を復習し小テストに備える。	180
第13回	意味論・語用論 1	意味の分類について学び、例を用いて意味を分析する。	授業内容を復習し小テストに備える。	180
第14回	意味論・語用論 2	例を用いた意味の分析を続ける。また、コミュニケーションで実際に使う際の機能について学ぶ。	授業内容を復習し小テストに備える。	180
第15回	意味論・語用論 3	日本語のコミュニケーションの特徴を学ぶ。例を用いて分析をする。	授業内容を復習し期末試験に備える。	180

学生へのフィードバック方法 試験は振り返りを行う。その他は口頭、書面でコメントする。

評価方法 小テスト（全体を理解するために要点となる知識を評価する）
中間試験・期末試験（主に学んだ知識を使って分析する力を評価する）
平常点（授業およびグループディスカッションでの発言、取り組みの姿勢を評価する）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○			
中間試験・期末試験	○	○		○
平常点	○	○	○	○

評価割合 小テスト10% 中間試験35% 期末試験35% 平常点20%

使用教科書名 (ISBN番号) なし

ディプロマポリシーとの関連
【知識・理解の観点】言語を音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論の観点から理解する。
【思考・判断の観点】学んだ知識を基に、自分達が日常使っている言語を科学的に分析する。
【関心・意欲・態度の観点】言語の機能、不思議さ、面白さに興味を持ち、外国語習得や言語コミュニケーションに役立てることができる。
【技術・表現の観点】言語の分析を論理的に他者に伝えることができる。

オフィスアワー 月曜日3限、水曜日2限（後期）

学生へのメッセージ 授業では、実際に体験したり、グループで話し合ったりすることが多い。好奇心を持って、積極的に参加してほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	例を収集する。ディスカッションをする。
情報リテラシー教育	○	図書館を利用して課題について調べる。

シラバス参照

講義名	ウェブデザイン		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 呉 起東	指定なし

ナンバリング	D14203M21
授業概要(教育目的)	情報化社会に必須とされる情報の発信のためウェブデザインの理解が必要である。本講義では、ウェブデザインの歴史、技術、デザインなどの知識を通してウェブデザインについて理解を深めることを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
思考・判断の観点 (K)	多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
技術・表現の観点 (A)	社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション、Webデザインとは	授業の概要や内容、成績の評価の説明を行う、Webデザインの概要について講義を行う。	教科書1章の「Webデザインの世界を知る」(9~26ページ)を読んでおくこと。	180分
第2回	Webデザインの世界を知る	インターネットの誕生から今日までの展開、影響と意味、役割を理解する。	教科書2章の「Webサイトを設計する」(29~52ページ)を読んでおくこと。	180分
第3回	Webサイトを設計する1	Webサイトについて理解する。テクノロジー(CGI, PHP, Flash)について、Webの現状と今後について理解する。	教科書2章の「Webサイトを設計する」(29~52ページ)を読んでおくこと。	180分
第4回	Webサイトを設計する2	Webサイトについて理解する。テクノロジー(CGI, PHP, Flash)について、Webの現状と今後について理解する。	教科書3章の「HTMLの役割とできること」(55~112ページ)を読んでおくこと。	180分
第5回	HTMLの役割とできること1	HTMLについて理解する。テキスト情報とマークアップ。要素と属性の違い。HTMLの基本構造を理解する。	教科書3章の「HTMLの役割とできること」(55~112ページ)を読んでおくこと。	180分

第6回	HTMLの役割とできること2	HTMLについて理解する。Headの要素とBodyの要素などを理解する。	教科書3章の「HTMLの役割とできること」(55～112ページ)を読んでおくこと。	180分
第7回	HTMLの役割とできること3	HTMLについて理解する。リストを表現する要素と表組みを作成するための要素などを理解する。	教科書5章の「Webサイトを構成する素材」(193～210ページ)を読んでおくこと。	180分
第8回	CSSの役割とできること1	CSSはで情報をデザインするなどを理解する。	教科書5章の「Webサイトを構成する素材」(193～210ページ)を読んでおくこと。	180分
第9回	CSSの役割とできること2	情報をブロック単位で並べるなどを理解する。	教科書4章の「CSSの役割とできること」(117～190ページ)を読んでおくこと。	180分
第10回	CSSの役割とできること3	CSSによるレイアウトなどを理解する。	教科書5章の「Webサイトを構成する素材」(193～210ページ)を読んでおくこと。	180分
第11回	Webサイトを構成する素材	Webサイトで使う素材、著作権などについて理解する。	教科書6章の「Webサイトを表現する色」(213～220ページ)を読んでおくこと。	180分
第12回	Webサイトを表現する色	Webカラーについて理解する。	教科書7章の「Webサイトを公開する」(223～240ページ)を読んでおくこと。	180分
第13回	Webサイトを公開する	ホスティングサービスや情報を公開する前に確認することなどを理解する。	教科書8章の「Webサイトを運用する」(243～258ページ)を読んでおくこと。	180分
第14回	Webサイトを運用する	SNSとの連携やアクセス解析などを理解する。	教科書9章の「Webサイトを制作する」(261～278ページ)を読んでおくこと。	180分
第15回	Webサイトを制作する	HTMLのコーディングなどを理解する。	これまでの授業内容を総復習しておくこと。	240分

学生へのフィードバック方法 毎回授業の最後に感想や質問を提出させて、次回に感想や質問について解説を行う。別の質問などがある場合は研究室1307(E-mailも可)まで訪問すること。

評価方法 定期試験は70点満点で出題する。Webデザインを行う際に必要な基本的な知識を出題する。平常点は30点満点で15回を通して「毎回の感想や質問」「背極的な授業の参加、態度」「背極的なディスカッション」を基準に加点及び減点を行います。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			
平常点		○	○	

評価割合 定期試験(70%) 平常点(30%)で評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) Webデザインの新しい教科書「改訂新版」 ISBN978-8443-6563-1

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】情報について、専門的知識・技術を有している。
【思考・判断】多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。
【関心・意欲・態度】積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。

オフィスアワー 火曜日 3限

学生へのメッセージ 現代社会において情報発信はとても大切である。情報発信の基本であるWebデザインを理解することで情報表現する幅が広がると思われる。特にこの科目はウェブデザイン実務士の必須科目でもあるので主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

該当有無	概要

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	情報そのものと情報の伝達をするための情報の収集、分類、基本的な表現スキルを教育する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ファッションビジネス論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 手島 由記子	指定なし

ナンバリング	D15304M21
授業概要(教育目的)	ファッションビジネスの特色を理解するために、ファッション産業の発展の歴史や産業構造について学習し、現状を把握してファッション産業の将来を展望するための基礎的な力を育成することを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. ファッション産業の構造とその業務について理解できる。 2. ファッション産業の歴史を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. ファッションビジネスの現状と課題を認識し、考察できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	1. ファッション産業の課題解決に必要な情報を、収集、分析、整理できる技能を身につける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業の概要、ファッションビジネスとは	授業の概要。ファッションビジネスの定義と、その特性を学ぶ。	配付プリントのファッションビジネスの定義と、その特性を読んで復習すること。	120分
第2回	ファッション産業の構造、ファッション産業(1)素材産業	繊維ファッション産業の4段階の構造と、それぞれの流れを学ぶ。その中の繊維素材産業とテキスタイル産業について学習する。	配付プリントの繊維ファッション産業の4段階を読んで復習すること。	120分
第3回	ファッション産業(2)アパレル産業	アパレル産業の分類とアパレルメーカーの業種・業態を学ぶ。アパレルメーカーの各職種(デザイナー、パタンナー等)と、その業務について理解する。	配付プリントのアパレルメーカーの業種と業態を読んで復習すること。	120分
第4回	ファッション	アパレル小売業の分類と3つの業態を学ぶ。アパレル小売	配付プリントの小売業の分類と	120分

	ン産業 (3) アパレル小売産業	業の各職種（バイヤー、FA等）と、その業務について理解する。	業態を読んで復習すること。	
第5回	ファッション消費と消費者行動	消費者行動とファッション表現（マズローの5段階欲求）を学ぶ。ライフスタイルの各分類とお客様の購買行動について理解する。	配付プリントのライフスタイルの各分類を読んで復習すること。	120分
第6回	ファッション・マーケティング	マーケティングの定義とマーケティングの4Pについて学ぶ。	配付プリントの4Pと、ファッション感性に関する用語を覚えるようにすること。	120分
第7回	フランスのファッション産業の歴史 (1)	オートクチュールの盛衰からプレタポルテの発展までの歴史を学ぶ。ウォルト、ポワレに注目し、そのビジネススタイルを概観する。	配付プリントのオートクチュールからプレタポルテまでの歴史を復習しておくこと。	120分
第8回	フランスのファッション産業の歴史 (2)	チャンネルなどに焦点をあて、そのビジネス戦略を学習する。また、LVMHグループによるブランド戦略についても学ぶ。	配付プリントのフランスの産業の歴史を読んで復習しておくこと。	120分
第9回	イタリアのファッション産業の歴史	ミラノの3G、ベネトンなどのイタリアのファッション産業について学習する。	配付プリントのイタリアとアメリカの産業の歴史を読んで復習すること。	120分
第10回	日本のファッションビジネスの歴史 (1)	日本のファッションビジネスの変遷について、戦前から1980年代までを、当時の時代背景を踏まえながら学ぶ。	配付プリントの日本のファッションビジネスの歴史を読んで復習すること。	120分
第11回	日本のファッションビジネスの歴史 (2)	日本のファッションビジネスの変遷について、1990年代から2000年代までを学習する。また、コム・デ・ギャルソンや、日本人デザイナーのブランドビジネスについて学ぶ。	配付プリントの日本のデザイナーズブランドの戦略について読んで復習すること。レポート課題の調査を行う。	180分
第12回	グローバルビジネスの世界 (1) —ファストファッション	ラグジュアリーブランドの「ブランドの民主化」と、台頭するファストファッションの構造を学習する。	配付プリントのファストファッションの構造を読んで復習すること。レポート課題の調査を行う。	180分
第13回	グローバルビジネスの世界 (2) —エコとエシカル	エコ、エシカルの視点から、世界のファッション生産地の問題を考察する。ファッション産業の問題点について議論する。	配付プリントの世界の工場について読んで復習すること。レポート課題の分析を行う。	180分
第14回	新しいビジネスモデル (1) —ECビジネス	ECビジネスの発展について学ぶ。	配付プリントのECビジネスについて読んで復習すること。	120分
第15回	新しいビジネスモデル (2) —セレクトショップ	セレクトショップの歴史を概観し、セレクトショップが現在取り組んでいるマルチチャネル戦略について学ぶ。これまでの復習。	配付プリントのセレクトショップの多角経営について読んで復習すること。	120分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	ファッション産業についての質問がある学生には、授業内で提出するミニレポートに質問を書いてもらう。その質問に対して授業内で解説していく。
評価方法	現代のファッションビジネスについてレポート課題を出す。レポート課題は、専門的な職業の道につなげられることを目的としている。 授業参加状況等、総合的に判断する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート	○	○	○	○

評価割合	平常点・授業への取り組み方（40%）、レポート（60%）
使用教科書名（ISBN番号）	なし。配付プリント
参考図書	・社）日本衣料管理協会刊行委員会 「ファッションビジネス論」 日本衣料管理協会、2003年 ・永松浩介編 「ファッションビジネスの世界」 日本衣料管理協会、2011年
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】・ファッションビジネスの専門的知識を有している。 ーバルな視点から知識を深め、専門的な職業の道につなげることができる。 【思考・判断】ファッション産業における諸問題を自ら発見し、論理的に考察できる。 ・グロ
学生へのメッセージ	店舗で洋服を購入する際に、ブランドの特徴、商品の価格帯、店員の接客態度、商品の原産国表示などにも注目するようにしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員はアパレルメーカーにおいて商品企画の実務経験を有している。その実務経験を活かし、「ファッション産業の構造」「産業の歴史」「ファッションビジネスの現状と課題」を解説する。
アクティブ・ラーニング	○	・12回、13回の授業内で、現在のファッション産業界の課題について簡単なディスカッションを行う。他者と意見交換を行うことで、意見の相違点や新たな課題を確認し、それに対して解決策をみつけていく。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	基礎調理学実習		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 小野 かおり	指定なし

ナンバリング	D21105M23
授業概要(教育目的)	日本・西洋・中国料理の調理実習を通して、基礎的調理技術（加熱、非加熱、調味）や、食品の性質と衛生的な取り扱い方、食事作法など食事に関する基礎的総合能力を養うことを目的とする。また、原則として1回の食事となる献立の実習を通して、それぞれの料理様式の特徴や食卓の整え方についても示範を確認しながら理解できるよう、また、多面的な場面で実践をすることが可能となる内容とする。 本科目は、中・高教員免許（家庭）のための必須科目である。
履修条件	特になし。
学習目標(到達目標)	

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	炊飯方法、各種だしの取り方など基本的な調理手順を説明できる。 実習で用いた食材の名称、調理特性、調理法を説明できる。 栄養価計算方法を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	食材・器具の衛生敵な取り扱いをすることができる。 調理器具、食器、計量器具などを目的に合わせた扱いができる。 調理の目的に合わせて食材を適切に切碎でき、加熱・調味ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	一つの食材を工夫し、多様に調味、調理できる。
技術・表現の観点 (A)	盛り付け、配膳、コーディネートなど目的、対象者に合わせて展開することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業の概要及び実習室使用上の取り決め事の説明	調理の意義・目的を学び、実習授業の流れと実習室使用上のルールを把握する。包丁、まな板、各種計量器具について種類と適切な使い方を学ぶ。また、各種洗剤、石鹸、布巾類の取り扱い方他、調理担当者としての健康管理、安全衛生管理など実習授業全般の流れ、取り決め事について学ぶ。	調理実習ノートを作成する。 授業の目的と授業内容を整理し、次週からの実習に備える。	120分
第2回	炊飯(白飯)、だしの取り方、野菜の切り方	炊飯の調理工程(計量、洗米、浸漬、加水、むらし)を理解し、盛り付け方、配膳・配置を学ぶ。だしは、昆布、かつお、および混合出しの取り方を学ぶ。汁物の椀種、椀妻、吸い口を学ぶ。また、まな板の設置方法と正	実習ノートに献立、料理名、分量、調理法(科学的なポイント、調理上の要点など)、配膳図(写真)、反省・感想を記録すること。	120分

		しい向かい方、包丁の持ち方と野菜の切り方の基本的な技術を実習を通して取得する。	次週の授業の目的と内容を確認し、次週の授業に備える。	
第3回	季節向き日本料理の献立による実習①(えんどう飯、みそ汁、魚の照り焼き、ほうれん草の胡麻和え、果物)	えんどう飯では塩味飯の塩分濃度、調味料の添加時期などを白飯と比較しながら要点と技術を理解・習得する。みそ汁は味噌の塩分量を学びみそ汁へ応用する。魚の照り焼きは、切り身魚の扱い方と直火焼きの要点を学ぶ。ほうれん草の胡麻和えでは、青菜の茹で方、和え衣の調味割合、和え方の注意点を学ぶ。また、果物については扱い方と切り方他、盛り付け・配膳を学ぶ。	実習ノートに献立、料理名、分量、調理法(科学的なポイント、調理上の要点など)、配膳図(写真)、反省・感想を記録すること。次週の授業の目的と内容を確認し、次週の授業に備える。	120分
第4回	栄養価計算と菓子の実習(桜餅)	日本食品成分表の成り立ちと栄養価計算の基本的な方法を学ぶ。菓子の実習では、桜餅の生地、餡の作り方を実習を通して学ぶ。	実習ノートに献立、料理名、分量、調理法(科学的なポイント、調理上の要点など)、配膳図(写真)、反省・感想を記録すること。また、2~4回の実習の栄養価計算を行いノートに記録すること。次週の授業の目的と内容を確認し、次週の授業に備える。	120分
第5回	季節向き日本料理の献立による実習②(たけのこ飯、卵豆腐のすまし汁、鰯の香味揚げ、じゅんさいの酢の物、豆大福)	たけのこ飯では醤油飯の塩分量、食塩の添加時期、加熱方法など炊飯の要点を習得し、食塩と醤油の塩分換算も学ぶ。卵豆腐のすまし汁は卵豆腐の要点(卵液の希釈と加熱方法)について学ぶ。鰯の香味揚げでは、魚の鮮度の見分け方、衛生的な取り扱い、三枚おろしを習得する。さらに揚げ物の要点・注意点についても学ぶ。じゅんさいの酢の物は、酢の物の調味と要点を学ぶ。豆大福では、上新粉・白玉粉の取り扱い方の違い、小豆の加熱・調味法を学び、餅菓子の調理技術を習得する。	実習ノートに献立、料理名、分量、調理法(科学的なポイント、調理上の要点など)、配膳図(写真)、栄養価計算、反省・感想を記録すること。次週の授業の目的と内容を確認し、次週の授業に備える。	120分
第6回	季節向き日本料理の献立による実習③(新茶飯、沢煮椀、鯉のたたき、茄子の南蛮煮、葛寄せ)	新茶飯は茶飯および湯炊きの要点、沢煮椀では混合だしの取り方、たたきでは生もの調理の注意点を学ぶ。葛寄せは、くず澱粉の糊化や透明感、滑らかな口触りにする温度管理などを学ぶ。さらに、黒蜜の作り方(黒砂糖と白糖の割合、溶かし方)を学ぶ。	実習ノートに献立、料理名、分量、調理法(科学的なポイント、調理上の要点など)、配膳図(写真)、栄養価計算、反省・感想を記録すること。次週の授業の目的と内容を確認し、次週の授業に備える。	120分
第7回	日本料理の献立による実習④(そぼろ飯、みそ汁、五目きんぴら、鯛皮ときゅうりの胡麻酢和え、淡雪寒)	そぼろ飯は、鯛そぼろと卵そぼろの調理法の要点を学ぶ。みそ汁では木綿豆腐となめこの扱い方、五目きんぴらでは根菜類の切り方と調理法を学ぶ。鯛皮ときゅうりの胡麻酢和えは、胡麻酢の調理法を学ぶ。淡雪寒では寒天の種類と取り扱い方、使用量、凝固温度、卵白の気泡の要点を学ぶ。	実習ノートに献立、料理名、分量、調理法(科学的なポイント、調理上の要点など)、配膳図(写真)、栄養価計算、反省・感想を記録すること。次週の授業の目的と内容を確認し、次週の授業に備える。	120分
第8回	日本料理の献立による実習⑤(ちらし寿司、茶碗蒸し、いんげんの胡麻和え、わらび餅)	ちらし寿司は、すし飯のための炊飯(加水量・加熱・むらし時間)の要点と合わせ酢の調味割合を学ぶ。茶碗蒸しでは、だし汁と卵の割合、加熱の要点を学ぶ。いんげんの胡麻和えは、いんげんの処理と和え衣の注意点を学ぶ。わらび餅ではわらび粉の取り扱いを習得する。	実習ノートに献立、料理名、分量、調理法(科学的なポイント、調理上の要点など)、配膳図(写真)、栄養価計算、反省・感想を記録すること。次週の授業の目的と内容を確認し、次週の授業に備える。	120分
第9回	日本料理の献立による実習⑥(赤飯、蛤の潮汁、炒り鶏、天ぷら、水羊羹)	赤飯は、もち米の吸水、加熱法とささげ豆によるもち米への着色方法を学ぶ。蛤の潮汁では、貝の処理方法と潮汁の要点を学ぶ。炒り鳥は、煮汁の少ない煮物(炒り煮)の要点と野菜、肉の取り扱いと切り方、調味法について学ぶ。天ぷらは、食材の下処理、衣、揚げ温度など揚げ物の要点を学ぶ。さらに、薬味の種類と役割についても学ぶ。水羊羹ではさらし餡の処理法と、粉寒天の扱い方と使用割合、凝固方法を習得する。	実習ノートに献立、料理名、分量、調理法(科学的なポイント、調理上の要点など)、配膳図(写真)、栄養価計算、反省・感想を記録すること。次週の授業の目的と内容を確認し、次週の授業に備える。	120分
第10回	西洋料理の献立による実習①(ミネストローネスープ、舌平目のムニエル)	ミネストローネスープはパスタの種類と扱い方、舌平目のムニエルでは舌平目の下ろし方、ムニエルの要点を学ぶ。バターライスは、ピラフの米の炒め方、加水・加熱の要点を学ぶ。フランジェでは、コンスターチの調理上の特徴(糊化)と攪拌効果(粘弾性)を学ぶ。	実習ノートに献立、料理名、分量、調理法を記載し、技術的なポイント、科学的ポイントを整理する。さらに、配膳図(写真)、栄養価計算、反省・感想を記録する。	120分

	マトのソテー、バターライス、ブラマンジェ)		次週の授業の目的と内容を確認し、次週の授業に備える。	
第11回	西洋料理の献立による実習②(南瓜のピューレスープ、豚肉のソテー、リンゴソース添え、マッシュドポテト、紫キャベツのサラダ、ピネグレットソース、カスタードプリン)	スープでは基本となるブイヨン(スープストック)の取り方と南瓜のピューレの方法を学ぶ。豚肉のソテーは、豚肉の下処理法、調味法、焼き方を学ぶ。マッシュドポテトはジャガイモの裏ごしの要点と加熱・調理法を学ぶ。ヴィネグレットソースは基本の調味割合を調理法を学ぶ。プディングではカスタードの材料割合と加熱の要点・カラメル調理法の要点を学ぶ。	実習ノートに献立、料理名、分量、調理法を記載し、技術的なポイント、科学的ポイントを整理する。さらに、配膳図(写真)、栄養価計算、反省・感想を記録する。 次週の授業の目的と内容を確認し、次週の授業に備える。	120分
第12回	西洋料理の献立による実習③(オニオンスープ、蟹のクリームコロッケ、トマトソース、ニンジンのグラッセ、ロールスポンジケーキ)	オニオンスープは、玉葱の切り方と炒め方の終点を学ぶ。クリームコロッケでは、ルウの材料割合、濃厚ベシヤメルソースの加熱方法とその終点を学ぶ。ニンジンのグラッセはニンジンの切り方、グラッセの要点について、ロールスポンジケーキは、洋菓子の基本であるジェノワーズ(スポンジ)生地配合割合と起酵、焼成方法とその終点について要点を学ぶ。また、生地の丸め方の要点を学ぶ。	実習ノートに献立、料理名、分量、調理法を記載し、技術的なポイント、科学的ポイントを整理する。さらに、配膳図(写真)、栄養価計算、反省・感想を記録する。 次週の授業の目的と内容を確認し、次週の授業に備える。	120分
第13回	使用料理の献立による実習④(コンソメスープ、魚介類のリゾット、ニンジンのサラダ、ピネグレットソース、フルーツケーキ)	コンソメスープはスープの澄まし方、魚介類のリゾットでは米の扱い方と加水・加熱方法、魚介類の扱い方と処理方法を学ぶ。フルーツケーキでは、12回で学んだスポンジケーキとの比較をしながら、バターケーキの材料割合と混合、焼成方法の違いと調理上の要点を学ぶ。	実習ノートに献立、料理名、分量、調理法を記載し、技術的なポイント、科学的ポイントを整理する。さらに、配膳図(写真)、栄養価計算、反省・感想を記録する。 次週の授業の目的と内容を確認し、次週の授業に備える。	120分
第14回	中国料理の献立による実習①(涼拌茄子、蟹仁吐司、麻婆豆腐、酸辣湯、芝麻球)	中国料理の様式の特徴と盛り付け、配置・配膳を学ぶ。涼拌茄子は茄子の処理と加熱(蒸す)方法、溜菜(麻婆豆腐)では、肉への下味、炒め方など溜菜の要点を学ぶ。蟹仁吐司ではすり身の調製方法、酸辣湯では湯(鶏ガラスープ)の取り方、澄ませ方について西洋料理のスープストック取り方の相違点なども比較しながら学ぶ。芝麻球では浮き粉の扱い方を学ぶ。	実習ノートに献立、料理名、分量、調理法を記載し、技術的なポイント、科学的ポイントを整理する。さらに、配膳図(写真)、栄養価計算、反省・感想を記録する。また、調理法や栄養価など日本料理、西洋料理との違いなども比較してまとめておくこと。 次週の授業の内容を確認すること。	120分
第15回	中国料理の献立による実習②(什錦拼盤、干貝蘿蔔球湯、什錦炒飯、乳奶豆腐)	什錦拼盤では、3種の食材の冷菜としての盛り付け方、塩クラゲの処理法と味付け、きゅうりの切り方と下処理法、調味を学ぶ。湯では、干し貝柱の処理法と加熱法、球状大根の作り方を学ぶ。炒飯は飯、具材の下準備と炒め方、味付けの要点を学ぶ。乳奶豆腐は、粉寒天の扱い方の復習(第9回)と牛乳の調理上の注意点を学ぶ。さらに、シロップの材料割合と加熱条件を学ぶ。	実習ノートに献立、料理名、分量、調理法を記載し、技術的なポイント、科学的ポイントを整理する。さらに、配膳図(写真)、栄養価計算、反省・感想を記録する。 15週の実習を終えて、復習として自身の評価をまとめること。	120分
第16回				

学習計画注記	天候他で食材に影響がある場合、授業内容を変更することがあります。
学生へのフィードバック方法	デモンストレーション後の実習において、机間巡視をしながら理解できていない点や技術面の指導、サポートを行います。また、質問等は時間内またはemailで受け付けます。
評価方法	実習参加状況：デモンストレーション、実習を通して、実習班内での協力や実習へ意欲的・積極的な参加態度を評価する。 筆記テスト：調理の基本的な内容についての筆記試験。

実習試験：基礎的な調理技術（到達）を確認する試験。
調理ノート：指定された項目の記載（15週分）内容について評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
実習参加状況	○	○	○	○
実習試験		○		○
筆記試験	○	○		
実習ノート	○			○

評価割合

実習試験（15%）筆記試験（15%）調理のノート（材料・分量・調理法の記載、配膳図、反省、感想、実習ごとの栄養価計算の記載、30%）、授業参加状況（40%）

使用教科書名 (ISBN番号)

七訂 食品成分表 女子栄養大学出版部 (978-4-7895-1020-2)
調理のためのベーシックデータブック 女子栄養出版部 (978-4-7895-0323-5)
基礎調理学実習テキスト（印刷して配布）

参考図書

必要に応じて配布。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】グローバルな視点から知識を深めている。
【思考・判断】社会中にある諸課題を自ら発見し、理論的に分析し考察できる。また、多様な情報を客観的に理解、判断して行動できる。
【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚をもって責任を果たすことができる。
【技術・関心】家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている。

学生へのメッセージ

授業後には、実習内容を毎回調理ノートに整理し、栄養価計算を行うこと。調理の機会を作ることで技術の上達や応用力が身につきます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	実習を通して、グループ内での協力・協調性を養います。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ものづくり演習A		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 澤田 雅彦	指定なし

ナンバリング	D21112M12
授業概要(教育目的)	数種類の材料を使って、立体的な造形物を複数制作する。その作業を通して、材料の特徴や制作技術の応用方法などを考えつつ、制作意図に沿ったかたちを作ることを体験的に理解する。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	指定された材料と道具を用いて、定められた条件の形を作る課程を理解し、形を作ることができる。
思考・判断の観点 (K)	材料の特徴を考え、作り方を工夫しながら、形を作りあげることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	自分の考えを形にすることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業内容と日程の説明	授業日程の説明と予備課題	作品制作の手順の確認。	45分
第2回	課題1:立方体の制作(1)	異なる素材と異なる作り方で、一辺が50mmまたは40mmの立方体を、3個以上制作する。	次回以降の授業で使用する材料と道具の準備と、立方体の作り方の考案	45分
第3回	課題1:立方体の制作(2)	異なる素材と異なる作り方で、一辺が50mmまたは40mmの立方体を、3個以上制作する。	次回以降の授業で使用する材料と道具の準備と、立方体の作り方の考案	45分
第4回	課題1:立方体の制作(3)	異なる素材と異なる作り方で、一辺が50mmまたは40mmの立方体を、3個以上制作する。	完成作品の写真撮影とレポート作成の準備	45分
第5回	練習課題:クロッキー	短時間で対象物の特徴をとらえて描く。	クロッキーの自主練習と対象物の観察	45分
第6回	課題2:木で曲面を作る	木の丸枝材を削り、平面・曲がった面・ねじれた面で構成された形をつくる。	試作品の制作作業	45分

	る (1)	(1) 試作品の制作と面の形の確認		
第7回	課題2: 木で曲面を作る (2)	木の丸枝材を削り、平面・曲がった面・ねじれた面で構成された形をつくる。 (2) 形の決定とヤスリでの切削作業開始	作品の制作作業。	45分
第8回	課題2: 木で曲面を作る (3)	木の丸枝材を削り、平面・曲がった面・ねじれた面で構成された形をつくる。 (3) 制作作業の継続	作品の制作作業。	45分
第9回	課題2: 木で曲面を作る (4)	木の丸枝材を削り、平面・曲がった面・ねじれた面で構成された形をつくる。 (4) 制作作業の継続	作品の制作作業	45分
第10回	課題2: 木で曲面を作る (5)	木の丸枝材を削り、平面・曲がった面・ねじれた面で構成された形をつくる。 (5) 紙ヤスリによる作品の仕上げ	完成作品の写真撮影とレポート作成の準備	45分
第11回	課題3: 紙のカードの「TOWER」制作 (1)	60mm×49mmのケント紙のカード30枚を、切り込みだけで組み合わせ、高さ350mm以上の構造物「TOWER」を制作する。材料は、A3のケント紙を用いる。 (1) カードの裁断作業とデザインの検討	「TOWER」のデザイン、紙の組み方の検討。	45分
第12回	課題3: 紙のカードの「TOWER」制作 (2)	ケント紙のカード30枚を、切り込みだけで組み合わせ、高さ350mm以上の構造物「TOWER」を制作する。 (2) 試作品の制作	試作品の制作作業。	45分
第13回	課題3: 紙のカードの「TOWER」制作 (3)	ケント紙のカード30枚を、切り込みだけで組み合わせ、高さ350mm以上の構造物「TOWER」を制作する。 (3) 試作品の制作とデザインの決定	試作品の制作作業とデザインの決定。	45分
第14回	課題3: 紙のカードの「TOWER」制作 (4)	ケント紙のカード30枚を、切り込みだけで組み合わせ、高さ350mm以上の構造物「TOWER」を制作する。 (4) 作品の完成	制作意図のまとめと作品の制作レポート (プレゼンテーションレポート) の制作	45分
第15回	作品の合評会	作品とプレゼンテーションレポートを提示して、自分の作品の制作意図や制作過程での工夫点などについて発表する。	作品の制作レポート (プレゼンテーションレポート) の修正	45分

学習計画注記	作品制作の進捗状況等により、授業計画を変更します。																							
学生へのフィードバック方法	提出された作品は授業終了後に返却します。																							
評価方法	<p>1. 提出する課題は以下のとおり。 課題1: 完成した立方体9点 課題2: 試作品と、完成した作品とプレゼンテーションレポート 課題3: 完成した「TOWER」とプレゼンテーションレポート</p> <p>2. 作品は、指定した条件にあっているか、制作意図を反映したデザインであるか、丁寧に作られているか、といった観点で評価する。</p> <p>3. レポートは、作品についての情報と、作品の制作意図や制作の手順・工夫を、正確に分かりやすく示しているか、といった観点で評価する。</p> <p>4. 平常点は、作品の制作過程で、どれだけ多くのアイデアを出して試作をしたか、どの程度集中して制作に取り組んだか、といった観点で評価する。</p>																							
評価基準	<p>評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>提出作品</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>平常点</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>				評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	提出作品	○	○		○	レポート	○	○		○	平常点		○		○
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																				
提出作品	○	○		○																				
レポート	○	○		○																				
平常点		○		○																				
評価割合	提出作品40%とレポート40%と平常点20%で評価する。																							
使用教科書名 (ISBN番号)	なし																							
参考図書	なし																							
ディプロマポリシーとの関連	<p>【思考・判断】 各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】 自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】 課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。</p>																							
オフィスアワー	水曜4時限目 1503研究室または工作工房																							

学生へのメッセージ

授業では常時、紙と鉛筆でのスケッチを行うので、鉛筆とクロッキー帳は毎回必ず準備する。また動きやすく、汚れてもかまわない服装で出席すること。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ものづくり演習B		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 澤田 雅彦	指定なし

ナンバリング	D31113M12
授業概要(教育目的)	ものづくりの基礎として、材料に適した形を考えること、寸法を正確に測ってものを作ること、抽象的な形を考えること等、いくつかの手法でものづくりを体験し、デザインの手法と考え方を理解する。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	指定された材料と道具を用いて、定められた条件の形を作る過程を理解し、形を作ることができる。
思考・判断の観点 (K)	材料の特徴を考え、作り方を工夫しながら、意図する形を正確に作りあげることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	自分の考えを形にすることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業内容の説明と予備課題	授業内容と日程の説明と予備課題(漢字とアルファベットのレタリング作業)	予備課題の完成と、次回以降の授業で使用する材料と道具などの準備。	45分
第2回	[課題1] 文字を切り抜いた立方体の制作(1)	立方体6面のうち、5面に文字(アルファベット)を切り抜いた立方体を作る (1) 材料の検討と切り抜く文字のデザイン	立方体をつくる材料の調達と文字のデザイン	45分
第3回	[課題1] 文字を切り抜いた立方体の制作(2)	立方体6面のうち、5面に文字(アルファベット)を切り抜いた立方体を作る (2) 文字の切り抜き作業	文字の切り抜き作業と試作品の制作	45分
第4回	[課題1] 文字を切り抜いた立方	立方体6面のうち、5面に文字(アルファベット)を切り抜いた立方体を作る (3) 立方体の組み立て・作品の完成	作品レポート制作(プレゼンテーションレポート)の準備	45分

	体の制作 (3)			
第5回	[練習課題] クロッキー	短時間で対象物の特徴をとらえて描く。	クロッキーの自主練習と対象物の観察と課題2の材料の準備。	45分
第6回	[課題2] 重さを支える形の制作(1)	30~50kg程度の重さを載せられる「台」を、限られた材料と条件のもとで制作する (1) 形と構造の検討と試作	試作品の制作とデザインの検討。	45分
第7回	[課題2] 重さを支える形の制作(2)	30~50kg程度の重さを載せられる「台」を、限られた材料と条件のもとで制作する。 (2) 試作に基づいたデザインの決定と作品の制作作業。	作品の制作作業。	45分
第8回	[課題2] 重さを支える形の制作(3)	30~50kg程度の重さを載せられる「台」を、限られた材料と条件のもとで制作する。 (3) 作品の完成	作品の制作作業と、分解図(部品図)と組立て図の作成	45分
第9回	[課題2] 重さを支える形の制作(4)	30~50kg程度の重さを載せられる「台」を、限られた材料と条件のもとで制作する。 (4) 作品の分解図(部品図)と組立て図の作成	課題3のバターナイフのデザインの検討。	45分
第10回	[課題3] : 木のバターナイフの制作(1)	木の丸枝を材料としてバターナイフを3つ制作する。 (1) 1つめと2つめの作品のデザインの検討と制作	バターナイフの制作作業	45分
第11回	[課題3] : 木のバターナイフの制作(2)	木の丸枝を材料としてバターナイフを3つ制作する。 (2) 1つめの作品の制作と2つめの作品のデザインの検討	バターナイフの制作作業	45分
第12回	[課題3] : 木のバターナイフの制作(3)	木の丸枝を材料としてバターナイフを3つ制作する。 (3) 2つめの作品の制作と3つめの作品のデザインの検討	バターナイフの制作作業	45分
第13回	[課題3] : 木のバターナイフの制作(4)	木の丸枝を材料としてバターナイフを3つ制作する。 (4) 3つめの作品の制作	バターナイフの制作作業	45分
第14回	[課題3] : 木のバターナイフの制作(5)	木の丸枝を材料としてバターナイフを3つ制作する。 (5) 3つの作品の仕上げ作業	バターナイフの制作作業と作品レポート(プレゼンテーションレポート)の準備	45分
第15回	作品の合評会	作品とプレゼンテーションレポートを提示して、自分の作品の制作意図や制作過程での工夫点などについて発表する。	プレゼンテーションレポートの修正	45分

学習計画注記 教室外学習の時間を有効に使う作品の制作を進めて下さい。

学生へのフィードバック方法 提出された作品は授業終了後に返却します。

評価方法

- 提出する課題は以下のとおり。
課題1: 完成した立方体1点
課題2: 完成した作品と作品の分解図(部品図)と組立て図
課題3: 完成したバターナイフ3本とプレゼンテーションレポート
- 作品は、指定した条件にあっているか、制作意図を反映したデザインであるか、丁寧に作られているか、といった観点で評価する。
- レポートは、作品についての情報と、作品の制作意図や制作の手順・工夫を、正確に分かりやすく示しているか、といった観点で評価する。
- 平常点は、作品の制作過程で、どれだけ多くのアイデアを出して試作をしたか、どの程度集中して制作に取り組んだか、といった観点で評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
提出作品		○		○

レポート	○	○	○
平常点		○	
評価割合	提出作品40%とレポート40%と平常点20%で評価する。		
使用教科書名 (ISBN番号)	なし		
参考図書	なし		
ディプロマポリシーとの関連	【思考・判断】 各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】 自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】 課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。		
オフィスアワー	火曜日5時限 1503教室または工作工房		
教育等の取組み状況			
	該当有無	概要	
実務経験を活かした授業			
アクティブ・ラーニング			
情報リテラシー教育			
ICT活用			

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	スタディツアー		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 生活デザイン学科 教員	指定なし

ナンバリング	D21202M22
授業概要(教育目的)	生活デザイン学科の各分野（「衣」「住」「コミュニケーション・情報」「地域・園芸・ビジネス」「家庭科教育」）に関係する地域や施設を訪ねる実習体験を通して、高度な専門性と実践的な知識・技術の習得や、現地での人との交流を通してコミュニケーション力を育成することを目的としている。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	韓国の子ども支援、建築、デザインなどの現状の知識を得ることができる。
思考・判断の観点 (K)	実践的な知識や技術を理解し、分析することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会の中にある諸課題に主体的、複眼的に関心を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	収集した情報を分析、整理し、他者に分かり易く発信することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	韓国訪問先の紹介とスタディツアー実施方法と課題の説明。	(復習) 韓国について、どのような地域なのかを確認する。	60
第2回	ソウル市の取り組み事前調査	アクティブラーニング：グループ活動、及び、情報リテラシー教育：情報の収集・アウトプット グループ毎に、ソウル市の取り組みについて調査を行い、多角的視点から分析する。	(復習) 授業内のグループ課題をまとめる。	60
第3回	ソウル市の事前調査報告会	アクティブラーニング：グループ活動、及び、情報リテラシー教育：情報の収集・アウトプット グループ毎にソウル市の事前調査の報告を行う。	(復習) 他グループの発表を振り返る。	30
第4回	ソウル市スタディツアーの実施(第2日)	・ソウル市の子ども・若者施設訪問見学(備考：初日は移動日)	(復習) 訪問した施設の内容報告・感想をまとめる。	60
第5回	ソウル市ス	・ソウル市の子ども・若者施設訪問見学(備考：初日は	(復習) 訪問した施設の内容報	60

	タディツアーの実施 (第2日)	移動日)	告・感想をまとめる。	
第6回	ソウル市スタディツアーの実施 (第2日)	・ソウル市の子ども・若者施設訪問見学(備考:初日は移動日)	(復習)訪問した施設の内容報告・感想をまとめる。	60
第7回	ソウル市スタディツアーの実施 (第3日)	・韓国の伝統的および最新の建築調査	(復習)訪問した建築の内容報告・感想をまとめる。	60
第8回	ソウル市スタディツアーの実施 (第3日)	・韓国の伝統的および最新の建築調査	(復習)訪問した建築の内容報告・感想をまとめる。	60
第9回	ソウル市スタディツアーの実施 (第3日)	・韓国の伝統的および最新の建築調査	(復習)訪問した建築の内容報告・感想をまとめる。	60
第10回	ソウル市スタディツアーの実施 (第4日)	・韓国デザインの最前線見学	(復習)見学した韓国デザインの内容報告・感想をまとめる。	60
第11回	ソウル市スタディツアーの実施 (第4日)	・韓国デザインの最前線見学	(復習)見学した韓国デザインの内容報告・感想をまとめる。	60
第12回	ソウル市スタディツアーの実施 (第4日)	・韓国デザインの最前線見学	(復習)見学した韓国デザインの内容報告・感想をまとめる。	60
第13回	第13回 ソウル市スタディツアーの実施(第5日)	・現地でのまとめミーティング・帰国	(復習)見学活動を振り返り内容をまとめ報告レポートを作成する。	120
第14回	スタディツアーの振り返り	アクティブラーニング:グループ活動、情報リテラシー教育:情報のアウトプット 各自が作成した見学活動報告レポートを基に、グループ毎に見学活動内容を振り返り、実施報告用のパワーポイント資料の作成を行う。	(復習)見学活動の振り返り内容をまとめ発表準備を行う。	120
第15回	スタディツアー実施報告会	グアクティブラーニング:グループ活動、情報リテラシー教育:情報のアウトプット グループ毎にまとめた見学活動報告について、パワーポイントを用いてプレゼンテーションにより発表する。	(復習)見学活動報告会を振り返り、内容をまとめ各自の報告レポートを完成させる。	120

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 グループワーク時に適宜口頭でアドバイス。
発表会での講評。
報告レポートへのコメント。

評価方法 ①報告会(報告内容、構成、表現、プレゼンテーション)
②報告レポート(報告内容、構成、表現)
③ツアーでの活動内容(計画の遂行能力、自律的行動力)
④平常点(グループワークにおける提案力、調整力、行動力、課題への取り組みの姿勢)などから総合的に評価する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
事前調査報告会	○	○	○	○
実施報告会	○	○	○	○
報告レポート	○	○	○	○
ツアー活動内容	○	○	○	○

平常点	○	○	○	○
評価割合	報告会・報告レポート・ツアーでの活動内容・平常点から総合的に評価する。			
使用教科書名 (ISBN番号)	増山均他『市民力で創る子育てとコミュニティ 韓国・市民活動の挑戦』Art. 31			
参考図書	なし			
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】生活デザインの専門分野に関する知識を身につけ、高度な専門性について理解できる。</p> <p>【思考・判断】実践的な知識や技術を理解し、分析することができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】社会の中にある諸課題に主体的、複眼的に関心を持つことができる。</p> <p>【技術・表現】情報を収集し、分析、整理できる能力を身につけ、他者に分かり易く発信することができる。</p>			
オフィスアワー	火曜日3限1607研究室 (齋藤)			
学生へのメッセージ	ソウル市の子ども・若者施設訪問、優れたデザインを観察し体感することや、伝統から最新の建築を見学することは、貴重な学びの経験になります。積極的に行動し、学んでほしいと思います。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング	○	課題に対し自ら調べ、グループワークで協議し、発表する。		
情報リテラシー教育	○	課題に関する情報を収集、分析、整理し、発表する。		
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	テキスタイル加工演習		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 花田 朋美	指定なし

ナンバリング	D22102M12
授業概要(教育目的)	各種繊維の性質を応用してテキスタイルにデザインの・機能的な付加価値を付与するための加工法について理解する。特にデザイン性を付与する加工については、作品制作を通して、デザインの考案と加工理論や技術を習得させることを目的としている。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	繊維製品の高付加価値化に関する理論や技術を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	繊維製品の諸課題を主体的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	繊維製品の諸問題について、積極的に関心を有している。
技術・表現の観点 (A)	洗練された表現力で課題解決策を発信できる力を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	繊維製品の加工	繊維製品の一般加工と特殊加工について学習する。この授業では、特に布の風合いやテクスチャー、外観を変化させる特殊加工を行い作品制作をすることを理解する。	各テーマの作品デザイン要素を収集する。	30分
第2回	繊維の耐薬品性の相違を応用した加工(1) ー綿の収縮加工①ー	繊維の耐薬品性を応用した綿布の収縮加工の理論と技術を理解する。	【予】綿の収縮加工のデザインを考案してくる。【復】収縮加工の準備を完了させること。	60分
第3回	繊維の耐薬品性の相違を応用した加工(1) ー綿の収縮加工②ー	繊維の耐薬品性を応用した綿布の収縮加工の理論と技術を理解する。	【復】綿の収縮加工のレポートを作成すること。収縮加工テキスタイルを使用した作品制作を行う。	60分

第4回	繊維の耐薬品性の相違を応用した加工(2) -オパール加工①-	繊維の耐薬品性を応用したオパール加工の理論と技術を理解する。	【予】オパール加工のデザインを考案してくること。【復】オパール加工の下絵を終わらせること。	45分
第5回	繊維の耐薬品性の相違を応用した加工(2) -オパール加工②-	繊維の耐薬品性を応用したオパール加工の理論と技術を理解する。	【予】オパール加工テキスタイルを使用した作品制作準備をしておくこと。	30分
第6回	繊維の耐薬品性の相違を応用した加工(2) -オパール加工③-	繊維の耐薬品性を応用したオパール加工の理論と技術を理解する。	【復】オパール加工糊置を完了させること。	45分
第7回	繊維の耐薬品性の相違を応用した加工(2) -オパール加工④-	繊維の耐薬品性を応用したオパール加工の理論と技術を理解する。	【予】オパール加工糊置を完了させること。【復】オパール加工のレポートを作成すること。オパール加工テキスタイルを使用した作品制作を行う。	60分
第8回	羊毛繊維の縮絨加工①	羊毛繊維の縮絨の原理と縮絨性を利用したテキスタイル制作の方法を理解する。	【予】羊毛繊維の縮絨加工のデザインを考案してくること。【復】縮絨の準備を完了させること。	30分
第9回	羊毛繊維の縮絨加工②	羊毛繊維の縮絨の原理と縮絨性を利用したテキスタイル制作の方法を理解する。	【予】羊毛の縮絨加工テキスタイルを使用した作品制作準備をしておくこと。	30分
第10回	羊毛繊維の縮絨加工③	羊毛繊維の縮絨の原理と縮絨性を利用したテキスタイル制作の方法を理解する。	【復】羊毛繊維の縮絨加工のレポートを作成すること。縮絨加工テキスタイルを使用した作品制作を行う。	60分
第11回	特殊素材の加工-アルミ蒸着布①-	グループワーク。アルミ蒸着布の構造を理解し、どのようにデザインに活かすかを考える。	【復】アルミ蒸着布の加工デザインを考案してくること。	30分
第12回	特殊素材の加工-アルミ蒸着布②-	グループワーク。アルミ蒸着布の加工方法を学ぶ。	【復】アルミ蒸着布の加工のレポートを作成すること。アルミ蒸着布を加工したテキスタイルを使用して作品制作を行う。	60分
第13回	糸を染める	グループワーク。糸ぞめの方法を理解し、下準備をする。	【予】グループで染めたい色を相談しておくこと。	30分
第14回	糸を染める	グループワーク。糸染を体験する。	【復】糸ぞめのレポートを作成する。	45分
第15回	作品発表会	加工したテキスタイルを活かした作品のコンセプト、制作方法等をプレゼンテーションする。	【予】作品発表会の準備をしておくこと。	60分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 毎回の授業におけるアドバイス、及びディスカッション。
作品発表会での講評。
提出レポート、作品に対してのコメント。

評価方法 ①レポート提出（内容の理解、丁寧さ、提出日の順守について評価）
②作品提出（完成度）
③発表会でのパフォーマンス（内容の理解、構成、表現力を評価）
④平常点（意欲、態度、グループワークにおける行動力、調整力、理解力を評価）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート	○	○	○	○
作品	○	○	○	○
発表会	○	○	○	○

平常点	○	○	○	○
-----	---	---	---	---

評価割合	提出レポート40% 作品30% 平常点30% を総合的に評価
使用教科書名 (ISBN番号)	適宜プリントを配付
参考図書	①衣服材料の科学 (ISBN4-7679-1044-7 島崎恒蔵編著 建帛社発行 平成14年第4刷) ②最新テキスタイル工学Ⅱ (ISBN978-4-908111-09-9 西松豊典編著 繊維社企画出版発行 2016年第2版)
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】衣生活デザイン分野に関する専門的知識、技術を有している。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を発見し、論理的に分析し、考察することができる。各種の多様な情報を客観的に理解し、判断できる。 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持つことができる。 【技能・表現】衣生活デザイン分野の学びを深め課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。
オフィスアワー	金曜日 11時～12時30分 2407被服材料学研究室
学生へのメッセージ	イメージしたことを形にすることを楽しんでほしい。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークによる作業、ディスカッション。作品発表会。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	テキスタイルデザイン論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 顧 真源	指定なし

ナンバリング	D22301M21
授業概要(教育目的)	私たちの生活に欠くことのできない布帛（テキスタイル）はどのように設計され、制作されているのか、技術的、歴史的、文化的側面から捉え、テキスタイルデザインとは何かについて考察考察する力を育成する。
履修条件	特に無し

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1、テキスタイルデザインについて技法の特徴を説明できる。 2、技法について歴史的な発展経緯を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1、社会的要因によって、影響を受けてきたテキスタイルデザインの分析を重ね、デザインについての分析の仕方を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	この授業の全体をオムニバスの紹介する。東洋の織りと染めの歴史の変遷を文様の意匠から理解する。染織品に表れた文様がどのような染織技法で表現され、それが時代によってどのように移り変わってきたかを学ぶ。	授業で配布したプリントの「染織史」を読むこと。	140分
第2回	植物繊維	植物から糸を作る工程を紹介する。植物の素材としての特徴と使用する人々が持っている認識についての分析。また、使用されるシチュエーションの紹介。	授業で配布したプリントの「繊維―1. 植物繊維」を読むこと。	140分
第3回	動物繊維	動物から糸を作る工程を紹介する。動物の素材としての特徴と使用する人々が持っている認識についての分析。また、使用されるシチュエーションの紹介。	授業で配分したプリントの「繊維―2. 動物繊維」を読むこと。	140分
第4回	色	天然の染料の原料の紹介。天然染料の発色と、化学染料の発色を見比べる。	授業で配分したプリントの「染料について」を読むこと。	140分
第5回	絞り	絞りは昔纈纈と呼ばれ、糸や紐で布をくくったり、しごいたりして防染する古典的な染色技法の一つである。イ	授業で配分したプリントの「染―1. 絞り」を読むこと。	140分

		ンドから中央アジア、中国を経て日本には7世紀に伝播している。現在では愛知県の有松・鳴海絞りや京都の京絞りへと伝承されている。授業内では、様々な絞りの手法を実材見本を提示し、さらに知識を深めていく。		
第6回	型染	三重県白川白子地区で代々受け継がれている「伊勢型」を使った染色法である。「型染め」のルーツと変遷、現在へどのように受け継がれているかを検証し学ぶ。	授業で配分したプリントの「染—2. 型染」を読むこと。	140分
第7回	シルクスクリーンプリント	日本の「型染め」がルーツと言われ、印刷技術と共にイギリスで開発された効率化を実現した「シルクスクリーンプリント」技法。その歴史的背景と、現況と市場での位置づけなどを作品の実例などを提示しながらその特徴を学ぶ。	授業で配分したプリントの「染—3. シルクスクリーンプリント」を読むこと。	140分
第8回	デジタルプリント	1983年にパーソナルコンピューターが普及し、印刷技術のデジタル化が急速に発展した。同時に染色分野にもデジタル化が追従することになるが、あらゆる表現が可能になるデジタル染色品の事例と実材サンプルを手捺染との比較をしながらその特徴を学ぶ。	授業で配分したプリントの「染—4. デジタルプリント」を読むこと。	140分
第9回	注染	明治時代後期に始まった染色法で、ゆかたやてぬぐいに用いられてきた。技法の特徴と歴史を紹介する。	授業で配分したプリントの「染—5. 注染」を読むこと。	140分
第10回	緋	日本の木綿の三大緋を中心に講義を進める。その中でも現在も市場で評価の高い、久留米緋を中心に、その発祥から現在に至るまでの産地の状況や、緋布の魅力を学ぶ。さらには、これからの伝統工芸の課題なども考察していく。	授業で配分したプリントの「織—1. 緋」を読むこと。	140分
第11回	銘仙	平織りの絹織物の一つで、経糸と緯糸の糸の段階で文様を描く「ほぐし技法」で染色し、その糸を使って織り上げる技法を銘仙と呼ぶ。大正時代から昭和初期にかけて大流行した銘仙、その理由には、銘仙の図柄、デザインに特徴がある。それらのデザインを知ることで、様々な美術様式の変遷を学ぶ。	授業で配分したプリントの「織—2. 銘仙」を読むこと。	140分
第12回	綴織	西洋でいうところのタペストリーと同じ技法なので、東洋の作品と西洋の作品の両方の紹介。	授業で配分したプリントの「織—3. 綴織」を読むこと。	140分
第13回	編み	「編み」は「織り」と違い、一本の糸で一枚の布の構造を作ることのできる技法である。手芸的に発展した「編み」の技法が家庭用編み機の発明につながり、その後「横編み機」、無縫製横編み機「ホールガーメント機」へ発展したかをサンプルを手に取りながら学ぶ。また、現在では美術表現の一つとして新しい美術様式として確立してきていることを学ぶ。	授業で配分したプリントの「編について」を読むこと。	140分
第14回	沖縄の染織	久米島紬、宮古上布、琉球緋、首里織、喜如嘉の芭蕉布、紅型などそれぞれの技法を紹介する。	授業で配分したプリントの「沖縄の染織について」を読むこと。	140分
第15回	近代から現代へ	アニ・アルバースによる、バウハウスのテキスタイルデザインと後世への影響を紹介する。また、株式会社社会社NUNOを紹介し、時代の転機と現代のテキスタイル業界を把握する。	授業で配分したプリントの「バウハウスのテキスタイルデザインについて」を読むこと。 日本の染織技法・工芸家・作家・デザイナーなど、各自テキスタイルに関わるテーマを決めて2000文字のレポートにまとめ提出する。授業についてのリアクション・レポートでも構わない。	140分 150分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	毎回授業の最後にレジュメを提出する。質問等がある場合には、次の授業にで回答する。
評価方法	・毎回のレジュメの内容から理解度の確認。 ・日本の染織技法・工芸家・作家・デザイナーなど、各自テキスタイルに関わるテーマを決めて2000文字のレポートにまとめ提出する。授業についてのリアクション・レポートでも構わない。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レジュメ	○			
レポート	○	○		

評価割合	レジュメ（60%）及びレポート（40%）で評価する。	
使用教科書名（ISBN番号）	適宜プリントを配付。	
参考図書	なし	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】テキスタイル作品を見ることで、その生地の技法を判断できる。 【思考・判断】テキスタイルの歴史を分析することで、時代に沿った提案ができるようになる。	
学生へのメッセージ	生活の中で、切り離すことができないテキスタイルという分野を詳しく理解して見ませんか。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、型染デザイナーとして実務経験を有りしており、個人的に作家活動を行っている。広い視野でテキスタイルデザインについて指導することができる。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	プリンティングデザイン演習		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	1 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 顧 真源	指定なし

ナンバリング	D22304M22
授業概要(教育目的)	テキスタイルプリントデザインの基本となる柄の送りについて学び、自然をモチーフにしたデザイン、幾何学的デザイン等、更に、対象や用途を設置したデザインについて解説し、捺染技法の基礎を理解する力を育成する。
履修条件	特に無し

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1、歴史的な観点で捺染を説明することができる。 2、染物の種類を把握することができる。
思考・判断の観点 (K)	1、色の組み合わせ、モチーフの選択、配置をバランスよく組み合わせることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1、自らクリエイティブな発想をしようと日常的に意識することができる。
技術・表現の観点 (A)	1、プリントする際に、キレイに見せるための段取りや力加減が調整できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	講義	捺染とは：染料を布地になすりつけて染めること。技法で分類すると、直接捺染法・抜染法・型付け浸染法などが主である。それぞれの技法の説明と特徴についての講義と、作品制作のサンプルを提示する。	授業で配分したプリントを読むこと。	60分
第2回	型染	シルクスクリーンプリントのルーツである型染について説明し、デザインを考える。	授業で配分したプリントを読むこと。 型染のデザインを考えること。	120分
第3回	型彫り	デザインの定まったものから型紙の制作をする。	デザインを考えること。 型紙を制作すること。	140分
第4回	制作	型染の手順に沿って作業を進める。	デザインを考えること。 型紙を制作すること。	140分
第5回	紗張り、糊	制作した型紙を紗張りし、糊置きする。	型紙を制作すること。	120分

	置き		糊置きすること。	
第6回	染色	染色に使う染料を作る。糊が乾いた生地に染色を行う。	作品を染めること。	140分
第7回	講評	型染の作品の講評とシルクスクリーンプリントの説明。	授業で配分したプリントを読むこと。	60分
第8回	色彩計画	これまでに撮影した画像を見直し、気に入った素材を探し出す。画像から色を抽出し、ストライプ状に色を構成する。(刺繍糸、カラーカード、ガッシュ、ポスターカラー、クレヨン、色鉛筆等々)	色彩計画を作成すること。	120分
第9回	パターン計画	何からデザインを抽出するかを考える。写真などの画像から、あるいは、手描きドローイングなどを元に抽象化することを学ぶ。	デザインを考えること。	120分
第10回	リピート計画	抽象化したパターンを繰り返し構成することで、画面の広がりと共にリズムが生まれる。捺染する前の重要な行程である。	デザインを考えること。 原画を制作すること。	120分
第11回	リピート計画	抽象化したパターンを繰り返し構成することで、画面の広がりと共にリズムが生まれる。捺染する前の重要な行程である。	デザインを考えること。 原画を制作すること。	120分
第12回	染色	⑧で検討した色彩計画のなかからデザインとのバランスを考慮して色を抽出しインクを選択する。力加減を注意しながら作成する。	原画を制作すること。 作品を染めること。	140分
第13回	捺染	捺染の手順に沿って染め進める。	作品を染めること。	140分
第14回	展示発表	制作した布がどのように使われるべきか、あるいはどのように展示されるべきか検討する。	作品を染めること。 展示方法を考えること。	140分
第15回	鑑賞と講評	仕上がった布を展示することで、作品の見え方、環境が変化することを実感することは重要である。テキスタイルが生活にとってどのような役割であるかを検証する。	作品をディスプレイしておくこと。 これまでの授業内容を復習しておくこと。	120分

学習計画注記 ※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 毎回授業の最後にレジュメを提出する。質問等がある場合には、次の授業にて回答する。

評価方法 ・作品からは色と模様とリズムのバランスを見て評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レジュメ		○		
作品		○		○

評価割合 出席 (30%) 及び作品 (70%) で評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) 適宜プリントを配付。

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連 【思考・判断】 歴史的な背景からデザインを語る。
【技術・表現】 オリジナリティ溢れる表現を身につける。

学生へのメッセージ 伝統技法が衰退しているかなで、イノベーションを起こしませんか。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、型染デザイナーとして実務経験を有りしており、個人的に作家活動を行っている。生地制作と、生地を日用品にする制作の両方を行っており、広い視野で制作について指導することができる。

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	日本文化論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 内藤 久義	指定なし

ナンバリング	D24101M21
授業概要(教育目的)	「文化」を考える上で、日本文化を取り上げる。授業は、日本文化の知識を伝達することから始め、それを生み出した人々の価値観、思考形式、行動様式について考えを深められるよう進めていく。日本文化について、衣食住および、生活という観点から、各回のタイトルをそれぞれ通史的に取り上げる。通史的な歴史や文化を知ること、教養を身につけると同時に、現代にまだ残っている問題を認識できる構成とし、その解決方法の一つとして、デザイン的な手法も紹介する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	身の回りの日本文化の歴史について、通史的に知る。博物館・史跡等に行く意義を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	日本文化を知ること、現代社会の中の諸課題との関りを意識し、解決法を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	授業内で積極的にグループディスカッションを行うことができる。
技術・表現の観点 (A)	学んだ知識を簡潔にまとめ、他者に伝えることができる。

学習計画

日本文化論

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	日本文化とは何かについて、グループに分けて話し合いを行う。日本文化は、いつの時代からのものかを考えてもらう。評価方法を示す。	授業で配布するプリントの見直しと、期末レポートのテーマの選定(必須)。授業内で提示した博物館に行く(推奨)。	180
第2回	衣: 着物の歴史	着物の歴史を通史的に取り扱う。埴輪などの考古遺物から、前近代は衣服令規定の朝服・物具装束・小袖・腰巻・前帯等、近代以降は礼服・制服等を扱う。	配布プリントを読み直しておくこと(必須)。授業内で提示した博物館等を訪れること(推奨)	180
第3回	衣: お香の歴史	衣に香りをつける、お香について、通史的に概観する。蘭奢待・薫物・塗香・香木・源氏香・十種香・組香や香道の成立を扱う。	雑貨店などで、どのようなお香関連グッズが売られているか、観察しておく(予習、推奨)。授業で配布するプリントの見直しをする(必須)。	120

第4回	食：お茶の歴史	日本のお茶について、通史的に概観する。茶葉の遺物・団茶・抹茶・煎茶・ぼてぼて茶など、日本のお茶を扱う。	日本茶や抹茶を扱うカフェには、どんなお店があるか挙げられるようにしておく（予習、推奨）。授業で配布するプリントの見直しをする（必須）。	180
第5回	衣&食：博物館見学	校内の附属博物館を見学する。実際に日本の文化に触れる。	博物館を見学後、翌週までに感想レポートを準備する（必須）。	180
第6回	食：和食の歴史	和食について、通史的に概観する。縄文時代から、様々な変化をしつつ、現代の食事に至る日本の食事文化を扱う。	授業プリントの見直し（必須）と、和食の特徴を観察する（推奨）	180
第7回	住：トイレの歴史	トイレの歴史について概観する。考古学的なトイレ遺構や、現代に残る寺社のトイレ（東司）などを扱う。現代も変化を続けるトイレのデザインも紹介する。	授業で配布するプリントの見直しをする（必須）。より優れたトイレのデザインについて考えてみる（推奨）。	120
第8回	住：お風呂の歴史	お風呂の歴史について、通史的に取り扱う。洞窟風呂・釜風呂・施浴・戸だな風呂・蒸気風呂・湯屋・銭湯等を扱う。余裕があれば風呂敷も扱う。	授業で配布するプリントの見直しをした上で、日本の入浴文化を観察する（必須）。風呂敷の包み方を試みる（推奨）	120
第9回	住：建物の歴史	建物の変遷について通史的に取り扱う。竪穴住居・掘立柱建物・礎石式建物・寝殿造・武家屋敷・城郭建築・長屋・数寄屋造・コンクリート建築等を扱う。	授業で配布するプリントの見直し（必須）をした上で、江戸東京たても園に行く（推奨）	300
第10回	住：お庭の歴史	庭園の歴史について、通史的に取り扱う。酒船石遺跡・神泉苑・浄土庭園・方丈庭園・枯山水・回遊式庭園等を扱う。	授業で配布するプリントの見直し（必須）をした上で、いずれかの都立庭園を訪れる（推奨）	180
第11回	住：お墓の歴史	お墓の歴史について、通史的に取り扱う。方形周溝墓・甕棺墓・古墳と石室・火葬と土葬等について扱う。	授業で配布するプリントの見直し（必須）をした上で、史跡に指定される古墳を訪れる（推奨）。	240
第12回	生活：仏教の歴史	仏教の歴史について、基礎的な事項を扱う。お寺が何をするとお坊さんとはどのような人か、仏様とはなにか、仏像とは何か等を扱う。	授業で配布するプリントの見直し（必須）をした上で、お寺にお参りしてみる（推奨）。	120
第13回	生活：女性の立場の歴史	女性の立場の歴史（ジェンダーの歴史）について、通史的に概観する。班田収授法・相続差・就学率の差・女工・男女雇用機会均等法・女性活躍推進法等を扱う。	授業で配布するプリントの見直しをする。同時に、自分の周りのジェンダーについて、具体例を考えてみる（必須）。	120
第14回	生活：LGBTの歴史	LGBTの歴史について、通史的に概観する。阿豆那比の罪・台記・寺社や武家の男色や殉死・陰間茶屋・近代以降のタブー化等を扱う。現代に残る問題も紹介し、その解決についても考えてもらう。	授業で配布するプリントの見直しをする。現代に続く問題と解決について考えてみる。次週提出のレポートを準備する（必須）。	240
第15回	まとめ	半期の総括を行う。これまでの授業の底辺に共通するテーマについて考える。レポートを集める。	次週の試験準備を行う（必須）。	240
第16回				

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	各回の出席カードに感想や質問を書いてもらい、それに回答する形式。				
評価方法	初回に各自が選定したテーマで、第15回に提出のレポートを課す。定期試験は、衣・食・住・生活のテーマからそれぞれ一題（合計4題）を説明できるかを問う。レポートには、授業内でのディスカッションの参加状況（積極性）も加味するので、ディスカッションの際は積極的に意見を出し、考えてほしい。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	試験	○			
	レポート	○	○	○	
評価割合	試験60%、レポート40%				
使用教科書名 (ISBN番号)	なし				

参考図書	各回の授業で紹介する。例えば、『日本衣服史』『日本食物史』『日本葬制史』『図表でみる男女格差』『トイレの考古学』等
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「衣」「住」等の分野について、専門的知識を有している。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を論理的に分析し考察することができる。各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】社会の中にある諸課題に積極的に関心を持ち、その解決策を立案できる。
オフィスアワー	なし
学生へのメッセージ	身の回りにある色々なものの歴史を知ることで、今やこれからの世界の見方が少し変わります。授業で紹介する博物館や史跡等に行くことも勉強の一つなので、第5回以外は必須ではありませんが、授業中で紹介する博物館等は、あちこち行ってみることをお勧めします。この先の人生のために、大学生の間に知っておくとよいことも、いくつか扱いたいと考えています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	博物館見学（校内）、ディスカッション
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	パワーポイント使用（毎回）・パワーポイント内リンクから、ネット上の映像再生

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	Practical English A		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森 朋子	指定なし

ナンバリング	D24102M22
授業概要(教育目的)	英語を使った教室活動を通して、英語によるコミュニケーション能力を養っていく。授業は英語で行われるが、現在の力は問わない。求められるのは「文法の正確さ」ではなく、英語を使ってコミュニケーションを成立させようとする力である。また、英語を使ったコミュニケーション時の態度および英語圏の国の習慣・文化についても学び、英語による思考能力も高めていく。
履修条件	なし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	グローバルな視点から、英語コミュニケーションに必要な知識を学び、理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	伝える内容および伝え方を客観的、論理的に考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語および英語圏文化ならびに世界共通語としての英語の役割に関心を持ち、意欲を持って習得に励むことができる。また、自主的に自らの課題を見つけ、解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	意味を伝えるための的確な表現で英語を使ったコミュニケーションができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス ／自己紹介 1	コミュニケーションとは何かを学んだ上で、自分についての情報を伝える。その際に具体的な説明を加えていく練習をする。授業内容・方法について理解する。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。自分が好きなもの・こと／きれいなもの・ことの絵を描く。	45
第2回	自己紹介2	自分が好きなもの・こと／嫌いなもの・ことについて考え、他者に伝える。その際に必要な具体的な情報について説明できるよう練習する。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。自分の住居の写真を撮る。	45
第3回	自己紹介3	自分の住まいについて他者に伝える。聞き手は、質問ができるよう練習する。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。自分の住んでいる街の写真を撮る。	45
第4回	自己紹介4	自分が住んでいる街について他者に伝える。お互い質問し合うことで、話題を発展していく。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45

			る。	
第5回	大学生活 1	東京家政学院大学を他者に紹介する場合、何を伝えたいかを考える。さらに、それがどのような様子なのかを整理する。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第6回	大学生活 2	大学紹介の一要素をグループが担当する。どのような写真を撮るかと役割分担を決め、キャンパスで写真撮影を行う。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第7回	大学生活 3	各グループで、パワーポイントを作成し、伝えたい情報を整理する。説明の表現を考える。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第8回	大学生活 4	グループごとの内容をひとつにつなげ、全体としてまとまりがあるかどうかをクラス全体で検証する。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。発表の練習をする。	45
第9回	大学生活 5	大学生活について発表する。発表後は、評価シートで自己採点する。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第10回	いつも何を してる？ 1	自分の習慣について書き出す。自分の習慣を他者に伝え、共通点を見つけ話題を発展させる。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第11回	いつも何し てる？ 2	異なる年齢、職業の人の行動をワークシートにまとめ、他者に伝える。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第12回	今何して る？/あの 時何して た？ 1	絵を見ながら、登場人物の行動を挙げていく。その際に、様子も伝えられるよう練習していく。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第13回	今何して る？/あの 時何して た？	過去のある大きな出来事の際に、自分は何をしていて、何を思っていたのかを整理し、他者に伝える。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第14回	これやった ことある？ 1	絵を見ながら、過去に経験したことを整理した上で、まとめて他者に伝える。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第15回	これやった ことある？ 2	他の人が経験したことのない事柄について情報を伝える。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第16回	最近何を した？ 1	最近やったことを整理し、まとめて他者に伝える。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第17回	最近何を した？ 2	週末に何をしたかを整理し、他者に伝える。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第18回	最近何を した？ 3	物語を読んで、登場人物の行動をワークシートにまとめ、再話する。再話はグループで行う。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第19回	ご予約は？ 1	週末の予定を考え、他者に伝える。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第20回	ご予約は？ 2	将来の予定を整理し、他者に伝える。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第21回	日本の文化 1	日本の文化の中で、紹介したいものについてブレインストーミングし、いくつかを選択する。グループに分かれ、具体的に何を紹介したいのかを考える。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第22回	日本の文化 2	グループごとに情報収集した上で、紹介のためのパンフレットのコンセプト、内容および表現を考える。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第23回	日本の文化 3	グループごとに紹介をパンフレットの形にしてまとめる。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第24回	日本の文化 4	グループごとに、パンフレットのコンセプトの紹介を考える。また、発表時の評価表をグループごとに作成する。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第25回	日本の文化	グループごとにパンフレットのコンセプトを発表する。	覚えたい表現をワークシートを	45

	5	その後、各グループのパンフレットを評価する。グループ内で、評価を検証し、成果と改善点をまとめる。	使って練習し小テストに備える。	
第26回	これについてどう思う？1	ある話題について、映像および文章から情報を得た後に、自分の考えを整理する。問題解決のために、何ができるかをディスカッションする。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。自分がクラスで覚えたいテーマを決める。	45
第27回	これについてどう思う？2	各自自分のテーマについてコンセプトを決め、情報収集する。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。自分がクラスで覚えたいテーマを決める。	45
第28回	これについてどう思う？3	自分のテーマについて内容とディスカッションポイントを決める。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第29回	これについてどう思う？4	自分の発表の配付資料をまとめ、質疑応答の練習をする。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第30回	これについてどう思う？5	各自発表し、各テーマについてディスカッションする。	他の人の発表内容から、覚えたい表現を学ぶ。	45

学生へのフィードバック方法 口頭および書面によるコメント。授業最後の質問・確認コーナーでの対応。

評価方法 小テスト（課題設定力、表現の的確さで評価する）
発表（内容、構成、表現で評価する）
ポートフォリオ（課題設定力、解決力、分類・整理力で評価する）
平常点（発言、グループワークでの協働、取り組みの姿勢で評価する）

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○	○	
発表（グループ2回、個人1回）	○	○	○	○
ポートフォリオ	○	○	○	○
平常点	○	○	○	

評価割合 小テスト20% グループ発表2回 20% 個人発表1回 20% ポートフォリオ20% 平常点20%

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連
【知識・理解の観点】グローバルな視点から、英語コミュニケーションに必要な知識を学び、理解を深める。
【思考・判断の観点】伝える内容および伝え方を客観的、論理的に考えることができる。
【関心・意欲・態度の観点】英語および英語圏文化ならびに世界共通語としての英語の役割に関心を持ち、意欲を持って習得に励むことができる。また、自主的に自らの課題を見つけ、解決に取り組むことができる。
【技術・表現の観点】意味を伝えるための的確な表現で英語を使ったコミュニケーションができる。

オフィスアワー 月曜日5限、水曜日2限（前期）

学生へのメッセージ 今の力は問いません。「英語でコミュニケーションできるようになる」という強い気持ちだけ持って来て下さい。

教育等の取り組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自ら課題を見つけ、解決に取り組む。コミュニケーションを目的とした教室活動を通して実践的に学ぶ。
情報リテラシー教育	○	自らの課題を解決するために情報を収集する。
ICT活用		

シラバス参照

講義名	Practical English B		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森 朋子	指定なし

ナンバリング	D24103M22
授業概要(教育目的)	英語を使った教室活動を通して、英語によるコミュニケーション能力を養っていく。授業は英語で行われ、英語でタスクを達成したり、自分の考えが述べられるように訓練していく。また、英語を使ったコミュニケーション時の態度および英語圏の国の習慣・文化についても学び、英語による思考能力も高めていく。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	グローバルな視点から、英語コミュニケーションにひつような知識を学び、理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	伝える内容および伝え方を客観的、論理的に考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	英語および英語圏文化ならびに世界共通語としての英語の役割に関心を持ち、意欲を持って習得に励むことができる。また、自主的に自らの課題を見つけ、解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	意味を伝えるために的確な表現で英語を使ったコミュニケーションができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス 食事 1	好きな食べ物と嫌いな食べ物を挙げ、その理由をまとめる。使われている材料、調理法を確認し、自分の好きな食べ物と嫌いな食べ物について文章にまとめる。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第2回	食事 2	グループに分かれ、海外の人に食事でもてなす際のメニューを決める。自宅に招いた時に使われる表現を学ぶ。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第3回	食事 3	海外の人に食事でもてなすという場面で、グループごとにロールプレイを行う。相互に改善のためのアドバイスをする。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第4回	食事 4	海外で自宅に食事に招かれた時の表現を学び、客となってロールプレイをする。食事について感想を述べ、楽しく話すという練習をする。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第5回	食事 5	レストランで食事をする際の表現を学ぶ、ロールプレイをする。支払い、チップの計算なども練習する。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45

第6回	旅行 1	グループに分かれ、旅行ガイドブックを見ながら旅程を決める。それぞれの訪問先で見たいもの、やりたいことについても考える。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第7回	旅行 2	旅行代理店で、不明な点を確認するというロールプレイを行う。質問事項については、グループ内で予め決めておく。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第8回	旅行 3	旅行代理店で得た情報を基にグループ内で旅程を調整する。旅程は各自ワークシートにまとめる。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第9回	旅行 4	海外に入国する際の手続きについて知り、入国審査のロールプレイをする。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第10回	旅行 5	各自、旅行先で購入したい物を決める。店でないものを探するというロールプレイを行う。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第11回	人物・街並み 1	写真を見て、何が写っているのかを詳細を確認する。その後、写真についてストーリーを書く。作業はグループ内で行う。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第12回	人物・街並み 2	2枚の人物写真を見て、共通点および相違点を分析する。それぞれに名前をつけ、ワークシートに性格や行動パターンをまとめる。作業はグループワークで行う。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第13回	人物・街並み 3	人物を表す表現を学んだ上で、誰の説明をしているのかを当てるゲームを行う。自分について描写する文章を書く。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第14回	人物・街並み 4	街並みを表す表現を学び、道案内をするゲームおよび練習をする。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第15回	人物・街並み 5	自分の住んでいるところの絵を描き、どのような場所か説明する。文章でもまとめる。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。分担してサンクスギビングとクリスマスについて調べる。	45
第16回	行事 1	サンクスギビングとクリスマスに関する表現を学んだ後、それぞれに関するストーリーを読み、ワークシートにまとめる。クリスマスソングを練習する。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。サンクスギビングとクリスマスについての絵本を読む。	45
第17回	行事 2	サンクスギビングとクリスマスの料理について学び、説明文を書く。クリスマスソングを練習する。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第18回	行事 3	自分の理想のサンクスギビングおよびクリスマスの計画を立てる。その様子を絵に描き、クラスで発表する。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。分担し日本の正月について調べる。	45
第19回	行事 4	日本の正月を紹介する内容を話し合っで決める。グループに分かれ、分担となった内容について何を紹介するのかを決める。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。分担し日本の正月について調べる。	45
第20回	行事 5	グループごとに日本の正月について紹介する文章を作り、写真を決める。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第21回	行事 6	日本の正月について、グループごとに発表する。発表について、相互に評価表に記入をする。評価表は各グループで成果と改善点を検討する。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第22回	物語 1	物語Aを聞き、登場人物と出来事をグループで分析する。物語の構造を学び、聞いた物語の出来事を当てはめる。物語を再話して書く。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第23回	物語 2	物語Bを聞き、登場人物と出来事を物語の構造に当てはめてグループで分析する。物語を再話して書く。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第24回	物語 3	物語Cを読み、登場人物と出来事を物語の構造に当てはめてグループで分析する。物語を再話して話す。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第25回	物語 4	物語Dを読み、登場人物と出来事を物語の構造に当てはめてグループで分析する。物語を再話して話す。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45

第26回	物語 5	物語の構造に当てはめて、グループで物語を書く。まずは登場人物を設定する。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第27回	物語 6	グループで物語の出来事を決める。脚本を書く。必要なコスチュームや小道具を決める。	脚本を覚える。コスチュームと小道具を用意する。	45
第28回	物語 7	各グループで発表のリハーサルをする。	劇の練習をする。	45
第29回	物語 8	各グループでオリジナルの物語を劇で発表する。相互に評価表に記入し、成果と改善点を口頭で伝え合う。	覚えたい表現をワークシートを使って練習し小テストに備える。	45
第30回	まとめ	1学期間の学びを振り返り、ワークシートにまとめる。クラスで発表し、お互いの成果と今後の課題を確認する。相互にコメントを述べる。	覚えたい表現を勉強する。	45

学生へのフィードバック方法 口頭および書面でのコメント。授業最後の質問・確認コーナーでの対応。

評価方法 小テスト（課題設定力、表現の的確さで評価する）
 課題（ワークシート、発表）（内容、プレゼンテーションで評価する）
 ポートフォリオ（課題設定力、解決力、分類・整理力で評価する）
 オリジナル劇（内容、創造性、パフォーマンスで評価する）
 平常点（発言、グループワークでの協働、取り組みの姿勢で評価する）

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○	○	
課題	○	○	○	○
ポートフォリオ	○	○	○	○
オリジナル劇	○	○	○	○
平常点	○	○	○	

評価割合 小テスト 20% 課題20% ポートフォリオ20% オリジナル劇20%
 平常点 20%

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解の観点】グローバルな視点から、英語コミュニケーションにひつような知識を学び、理解を深める。
 【思考・判断の観点】伝える内容および伝え方を客観的、論理的に考えることができる。
 【関心・意欲・態度の観点】英語および英語圏文化ならびに世界共通語としての英語の役割に関心を持ち、意欲を持って習得に励むことができる。また、自主的に自らの課題を見つけ、解決に取り組むことができる。
 【技術・表現の観点】意味を伝えるために的確な表現で英語を使ったコミュニケーションができる。

オフィスアワー 月曜日3限、水曜日3限（後期）

学生へのメッセージ 英語は、「科目」ではなく「ことば」です。文法の正確さを重視するのではなく、意味が伝わるかどうかを重視して練習していきます。

教育等の取り組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自ら課題を見つけ、解決に取り組む。コミュニケーションを目的とした教室活動を通して実践的に学ぶ。
情報リテラシー教育	○	自らの課題を解決するために情報を収集する。
ICT活用		

シラバス参照

講義名	言語コミュニケーション		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森 朋子	指定なし

ナンバリング	D24106M21
授業概要(教育目的)	言語コミュニケーションを円滑にするためには、言語の「形」を覚えるだけでは不十分であり、「相手」「場面」「状況」に応じて適する「ことば」を選ぶ必要がある。授業では、日本語だけでなく、他言語における例も取り上げ、言語コミュニケーションのあり方を探っていく。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	グローバルな視点から言語コミュニケーションの知識を学び、理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	真のコミュニケーションにおける言語運用の諸課題について分析的に考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	言語コミュニケーションについての諸課題に関心を持ち、自分の言動に反映させることができる。
技術・表現の観点 (A)	課題解決に必要な情報を収集・分析・整理した上で、分かりやすく他者に伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	コミュニケーションとは何か	コミュニケーションとは何かについて考える。その上で、言語コミュニケーションの役割について分析する。	日本的だと思う言語表現を挙げる。	180
第2回	言語と文化の関係1	言語と文化の関係を学び、例を分析することで理解を深める。	文化の違いによる言語の違いについて思いつく例を集める。	180
第3回	言語と文化の関係2	文化の違いによる言語表現の違いを例を用いて分析する。各自集めてきた例についても、文化のどのような違いから生まれた表現であるかを分析する。	日本語文化と日本語の関係についてワークシートにまとめる。	180
第4回	言語と文化の関係3	日本文化と日本語の関係から、日本語にどのような特徴があるのかを分析する。発話収集の方法について学ぶ。	自分と第三者の会話を録音し、文字化する。	180
第5回	グローバル・コミュニケーションに必要なこと1	言語が異なる会話・談話を分析し、どのような話し方が不特定多数に分かりやすいのかを考察する。	分かりにくい説明を分かりやすく書き直すワークシートをやる。	180

第6回	グローバルなコミュニケーションに必要なこと2	ペアになり、あるものをパートナーに説明する。不特定多数に分かりやすい発話の構成、表現を例を用いて分析し、それを参考に再度説明をする。	ワークシートにいくつかの短い説明文を書く。	180
第7回	グローバル・コミュニケーションに必要なこと3	分かりやすい発話をするための練習をする。練習はグループで実施し、クラス全体で内容を検証する。	授業で練習したものを文章にまとめる。	180
第8回	グローバル・コミュニケーションに必要なこと4	分かりやすい発話をするための練習を続ける。練習はグループで実施し、クラス全体で内容を検証する。	授業で連取したものを文章にまとめる。	180
第9回	グローバル・コミュニケーションに必要なこと5	日本的な談話をグローバルな視点で表現等を変える練習をする。	グローバル・コミュニケーションに必要なことをワークシートにまとめる。	180
第10回	媒介語としての「やさしい日本語」1	分かりにくい文書等について具体例を挙げ、なぜ分かりにくいのかを分析する。	分かりにくい文書等を収集する。	180
第11回	媒介語としての「やさしい日本語」2	分かりにくい文書の例を分析し、分かりにくい理由を考察する。さらに、分かりやすくするためにどうすればよいかを考える。	「やさしい日本語」についての文章を読む。	180
第12回	媒介語としての「やさしい日本語」3	媒介語としての「やさしい日本語」について学んだ上で、「やさしい日本語」が必要な相手、場面、状況について考える。発表のためのグループ分けをする。	グループのテーマにしたがって原案を作成する。	180
第13回	媒介語としての「やさしい日本語」4	グループごとに、「やさしい日本語」で伝える内容、表現、方法について考える。	グループで決めた役割分担に従って作業を行う。	180
第14回	媒介語としての「やさしい日本語」5	発表のための作業をグループごとに進める。	発表のための練習をする。	180
第15回	媒介語としての「やさしい日本語」6	グループごとに発表する。発表後は質疑応答を行う。	「やさしい日本語」についてワークシートをまとめる。	180

学生へのフィードバック方法 口頭および書面でのコメント

評価方法 ワークシート（完成度、独創性等で評価する）
発表（内容、構成、表現、ニーズとの合致度で判断する）
平常点（発言、グループでの協働、取り組みの姿勢で判断する）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
ワークシート	○	○	○	○
発表	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合 ワークシート 50%
発表 30%
平常点 20%

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解の観点】グローバルな視点から言語コミュニケーションの知識を学び、理解を深める。</p> <p>【思考・判断の観点】真のコミュニケーションにおける言語運用の諸課題について分析的に考えることができる。</p> <p>【関心・意欲・態度の観点】言語コミュニケーションについての諸課題に関心を持ち、自分の言動に反映させることができる。</p> <p>【技術・表現の観点】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理した上で、分かりやすく他者に伝えることができる。</p>
---------------	---

オフィスアワー	月曜日3限、水曜日2限（後期）
---------	-----------------

学生へのメッセージ	グローバル化、多文化共生化が進む社会において、万人とコミュニケーションできる「ことば」を持つことは大切な力となります。日本語コミュニケーションの特徴についての発見を楽しみながら、世界の人と通じる「ことば」の修得に励んで下さい。
-----------	---

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題達成を自主的に進める。ディスカッションを行う。
情報リテラシー教育	○	図書館やインターネットで情報を収集する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	情報倫理		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 千葉 一博	指定なし

ナンバリング	D24201M21
授業概要(教育目的)	情報社会と情報を伝達するメディアについて考え、それらに関する問題を探ることにより、情報倫理の学修力を育成することを目的とする。皆で考えて話し合うように、積極的な参加を促す。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	情報社会におけるさまざまな問題を正しく認識することができる。
思考・判断の観点 (K)	情報社会におけるさまざまな問題の解決策を自分で考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	話し合いに積極的に参加することができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	高度情報社会と生活	授業全体のガイダンスを受け、学習目標・計画や評価方法を理解する。高度情報社会における生活に関する人工知能について考える。	人工知能について復習すること	90
第2回	情報とはなにか1	個人情報について考える。	個人情報に関して自分で考えて下調べしておくこと 個人情報について復習すること	180
第3回	情報とはなにか2	ビッグデータについて考える。	ビッグデータに関して自分で考えて下調べしておくこと ビッグデータについて復習すること	180
第4回	情報社会における心の問題	情報社会における心の問題を議論し、情報倫理の必要性について考える。	情報社会における心の問題に関して自分で考えて下調べしておくこと 情報社会における心の問題について復習すること	180
第5回	SNS	SNSについて考える。	SNSに関して自分で考えて下調	180

	(Social Networking Service)		べしておくこと SNSについて復習すること	
第6回	撮影（ドローン、防犯カメラ、…）	ドローンや防犯カメラなどによる撮影について議論し、倫理的な視点で考える。	ドローンや防犯カメラなどによる撮影に関して下調べしておくこと ドローンや防犯カメラなどによる撮影について復習すること	180
第7回	メディアとはなにか	メディアについて理解し、表現の自由について議論する。	メディアと表現の自由に関して自分で考えて下調べしておくこと 表現の自由について復習すること	180
第8回	メディア（新聞）	メディアのなかでも新聞などマスメディアについて考える。	マスメディアに関して自分で考えて下調べしておくこと マスメディアについて復習すること	180
第9回	IoT（Internet of Things）	IoTと日常生活環境の関連について議論する。	IoTに関して自分で考えて下調べしておくこと IoTについて復習すること	180
第10回	ネット依存	ネット依存について自己評価し、ネットやゲームに関わる問題を議論する。	ネットやゲームに関わる問題を自分で考えておくこと ネット依存について復習すること	180
第11回	バーチャルリアリティ	バーチャルリアリティについて議論し、その応用について考える。	バーチャルリアリティに関して自分で考えて下調べしておくこと バーチャルリアリティについて復習すること	180
第12回	情報メディア	情報メディアの一つとしてデジタルサイネージについて議論する。	デジタルサイネージに関して下調べしておくこと デジタルサイネージについて復習すること	180
第13回	情報社会と生活1	知的財産権について考える。	知的財産権に関して自分で考えて下調べしておくこと 知的財産権について復習すること	180
第14回	情報社会と生活2	セキュリティについて考える。	セキュリティに関して自分で考えて下調べしておくこと セキュリティについて復習すること	180
第15回	ふり返りと学習到達度の確認テスト	授業全体のふり返りを行ったうえで、学習到達度を確認するための試験を行う。	授業全体をふり返ること	270

学習計画注記 ※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法 下調べのレポートなどは、チェックして返却する。

評価方法

- ・平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する。
- ・定期試験は 40 点満点で、授業のふり返りに基づいた論述形式とする。また、情報倫理に関する理解度と思考力を確認する。
- ・平常点、レポート、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に評価・実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
レポート	○			
定期試験		○		

評価割合 平常点 (50%)、レポート (10%)、定期試験 (40%) などを総合的に評価する。

使用教科書名 (ISBN番号)	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「コミュニケーション・情報」分野の倫理に関する知識を有している。 【思考・判断】情報社会の諸課題を分析し考察することができる。 【関心・意欲・態度】情報社会の諸問題に関心を持ち、社会人として責任を果たすことができる。
オフィスアワー	金曜3限 1411研究室
学生へのメッセージ	授業の予習・復習をすること。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的にディスカッションに参加することによって、倫理的、社会的な能力の育成を図る。
情報リテラシー教育	○	情報倫理の学修力を養成する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ウェブデザイン演習A		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 高嶋 章雄	指定なし

ナンバリング	D24204M22
授業概要(教育目的)	ウェブサイトは情報化社会における情報発信手段として必須のメディアである。この授業では、学生がウェブサイトデザインするための技術的な要素 (HTML、CSS) を理解し、基礎的なウェブサイト制作スキルを身につけることを目的として、演習形式で講義する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	1. ウェブサイトを構成する、HTML、CSSの仕組みを説明できる。 2. ウェブサイト制作技術を用いてコーディングし、情報をウェブサイトとして表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	サイト制作の基礎	サイト制作の流れを把握し、学習範囲を明確にする。ウェブ技術の標準化、オーサリングソフトやエディタ、jQuery等、周辺技術の紹介も含め全講義を概観する。ウェブサイトの構成要素 (HTML、CSS) を理解する。	ウェブサイト構成要素を確認し、PCを用いた作業の流れを把握する。	60
第2回	HTML・CSSの基礎 (1)	基本的なタグ (ドキュメントタイプ宣言、メタデータ用タグ、見出し、段落、箇条書き等) を利用したサイトを制作する。セレクトタについて理解する。	基本要素だけで構成されるシンプルなページを制作する。	90
第3回	HTML・CSSの基礎 (2)	基本的なタグ (画像、表、リンク等) を利用したサイトを制作する。セクショニングコンテンツ (section、article、nav、header、footer等) を理解する。	基本要素だけで構成されるシンプルなページを制作する。	90
第4回	HTML・CSSの基礎 (3)	IDセレクトタ、クラスセレクトタ、タイプセレクトタを使い分けたサイトを制作する。リセットCSSを理解する。	セレクトタを使い分けてサイトを制作する。	90
第5回	レイアウト	ボックスモデルを理解する。基本的な単位 (px、%、em、	ボックスモデルを用いたサイト	60

	(1)	rem、vh、vw)を理解する。	を制作する。	
第6回	レイアウト (2)	float、positionを利用したサイトを制作する。	複数のレイアウト手法によるサイトを制作する。	90
第7回	CSS3、ウェブフォント	CSS3で導入された属性(角丸、シャドウ、グラデーション、ウェブフォント等)を利用したサイトを制作する。	様々なCSS3表現を用いた試用する。	90
第8回	レイアウト (3)	flexboxを理解する。ナビゲーションメニューを実現するための手法(画像スプライト、CSS3、疑似クラス)を理解する。	リンクの表現方法を確認する。	90
第9回	動的なwebサイト	JavaScript、jQueryを用いた動きのあるサイトを制作する。	様々なJavaScript(jQuery)プラグインを検索する。	90
第10回	外部ウェブサービス	Googleマップ、Twitter、Facebook等の外部コンテンツを埋め込む手法を理解する。	SNS等外部ウェブサービスを埋め込んだサイトを制作する。	60
第11回	レイアウト (4)	メディアクエリを理解し、モバイル対応したサイトを制作する。	複数デバイスに対応したサイトを制作する。	90
第12回	レイアウト (5)	モバイル対応したシングルページを制作し、これまでの内容を復習する。	スマートフォン向けのサイトを制作する。	90
第13回	レイアウト 実践(1)	個人またはグループで、テーマに沿ったウェブサイトを作成する(企画、コンテンツ収集、コーディング等)。	テーマに沿ったサイトを制作する。	120
第14回	レイアウト 実践(2)	個人またはグループで、テーマに沿ったウェブサイトを作成する(コーディング)。	テーマに沿ったサイトを制作する。	120
第15回	レイアウト 実践(3)	個人またはグループで、テーマに沿ったウェブサイトを作成する(コーディング、まとめ、発表)。	テーマに沿ったサイトを制作する。	120
第16回				

学習計画注記	※履修者数や学生の理解度に応じてスケジュールが変更になる場合がある。
学生へのフィードバック方法	各課題に対しコメント付きで返却し、必要に応じて授業内で講評する。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義時間内のコーディング作業に取り組む姿勢を平常点とし、実装の完了を以て技術の習得を確認する。 ・各回の学習内容に関するレポートで、技術の習得および内容の理解度を確認する。締め切りを過ぎたレポートは著しく評価が下がるので注意すること。 ・最終課題では、学習した技術を実践で活用できたかを確認し、グループへの貢献も含めて評価する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点				○
レポート				○
最終課題				○

評価割合	平常点20%、各回のレポート60%、最終課題20%を基準とし、総合的に判断して評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	なし。必要に応じて講義関連資料を配布する。
ディプロマポリシーとの関連	【技術・表現】 テーマに沿った情報を収集・分析・整理し、ウェブサイトという媒体を通じて表現、発信できる。
学生へのメッセージ	パソコンやタブレット、スマートフォンの普及により、ウェブサイトは最も手軽な情報収集の手段となっている。情報の受け手としてではなく、送り手として情報を表現・発信するために、ウェブサイトを構成する技術を主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	一部の課題でグループワークを実施する。
情報リテラシー教育	○	情報の表現方法を検討し、ウェブサイトとしてアウトプットする。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	コミュニティデザイン論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 齋藤 史夫	指定なし

ナンバリング	D25101M21
授業概要(教育目的)	日本の都市でも農山漁村でも、地域社会のあり方の変貌から多くの課題を抱えている。産業の衰退と暮らし、人と人の繋がりの希薄化、子どもを育てる環境の悪化など、多くの困難が指摘されている。しかし、その一方で、地域の人たちの繋がりを作り、伝統的な暮らしと新しい生活の双方の可能性から、新しい地域のあり方を創造している取り組みが多数存在している。子どもから高齢者まで、あらゆる世代が地域の主人公として活躍し、その力を結集している現場での実践は未来の日本と世界への希望を培っている。コミュニティのあり方を主体的に創造するコミュニティデザインの考えを学び、社会課題に主体的に取り組み貢献できる力を身につける。
履修条件	特に無し。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	日本社会の変貌と課題を理解する。
思考・判断の観点 (K)	課題の原因と解決の方向のための資源を知る。
関心・意欲・態度の観点 (V)	子どもから高齢者まで、あらゆる世代が地域の主人公として活躍する社会を主体的に構想しようという態度を持つ。
技術・表現の観点 (A)	自ら考える新たなコミュニティの姿を他者に伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	コミュニティデザインの課題とは—授業ガイダンス	コミュニティの姿を知り、コミュニティデザインの課題を考える。	自分の育った地域の姿を振り返る。	180分
第2回	私の生まれたまち	絵日記ワーク(アクティブラーニング)で、自分の育った地域の姿を記述する。	自分の育った地域の姿の特徴を考える。	180分
第3回	私の地域の姿と課題	絵日記ワークから地域の姿を知る。	自分の育った地域の課題を考える。	180分
第4回	地域の持つ	絵日記ワークから見えてくる、これからのコミュニティ	自分の地域の資源を調査する。	180分

	資産に目を向ける一地域の特徴とは	をデザインするとき、活用できる資源を探る。		
第5回	校外授業—コミュニティデザインの実践1	コミュニティデザインの先進事例の地域に出かけ調査する。	インターネットで対象事例の状況調査する。	180分
第6回	校外授業—コミュニティデザインの実践2	コミュニティデザインの先進事例の地域に出かけ調査する。	インターネットで対象事例の状況調査する。	180分
第7回	コミュニケーション・ワーク演習1	コミュニティデザインで活用されるワークを体験する。	インターネットでコミュニティワークの事例を調査する。	180分
第8回	コミュニケーション・ワーク演習2	コミュニティデザインで活用されるワークを体験する。	インターネットでコミュニティワークの事例を調査する。	180分
第9回	実践から考えるコミュニティデザインの可能性	ワークの体験からコミュニティデザインの可能性を考える	ワークを振り返る。	180分
第10回	地域と子ども	ユニセフ・こどもにやさしいまちづくりを学ぶ。	インターネットでユニセフ・こどもにやさしいまちづくりを調査する。	180分
第11回	校外講師による授業—若い世代とコミュニティ	校外講から若い世代が主体となったコミュニティデザインの先進事例を学ぶ	若者の持つ可能性を考える。	180分
第12回	世代間交流とコミュニティ	世代間交流とコミュニティのあり方を考える。	地域の他世代の生活を考える。	180分
第13回	都市と農山漁村	地域の違いによる課題と可能性を学ぶ。	自分の育った地域と違う特徴を持つ地域の様子を調査する。	180分
第14回	自治と民主主義	市民が主体となるコミュニティデザインを考える。	市民とは何かを考える。	180分
第15回	コミュニティデザインの展望（BRD）	コミュニティデザインの展望を自分の考えとしてまとめる。	全回の学びを振り返る。	180分
第16回				

学習計画注記	アクティブ・ラーニング、すなわち学生主体の能動的な学修として授業を行う。そのため、学生の能動性の発揮によって授業内容を発展的に組み替える場合もある。 講義・グループワーク（生徒指導を主題とした模擬授業の構想と実践など）・ミニテスト・BRD（当日ブリーフレポート）など多面的な方法で授業を行う。
--------	---

学生へのフィードバック方法	学生相互で学びの評価を行い、授業時の学生アンケートを学生にフィードバックする。
---------------	---

評価方法	グループワークへの主体的参加と貢献度、および、BRD（当日ブリーフレポート）によって評価する。
------	---

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
グループワークへの参加と貢献			○	○
レポート	○	○		

評価割合	グループワークへの参加と貢献 (50%) レポート (50%)
------	------------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	授業の中で指定する。	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】コミュニティの諸課題を理解することで、教師の道へつなぐことができる。</p> <p>【思考・判断】コミュニティの諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】コミュニティで高い徳性をもって人々のために働く能力を持つ。</p> <p>【技能・表現】専門的スキルをもってコミュニティの課題を究め、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を持つ。</p>	
オフィスアワー	火曜日 3限1607研究室	
学生へのメッセージ	自分の育った地域の姿を知り、コミュニティの一員として主体的に参加する姿勢で授業に参加し、他者との共同から新しいコミュニティのあり方を創造しましょう。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループ活動を主体として授業を実施
情報リテラシー教育	○	図書館でのリファレンス・インターネットによる法・施策等の調査
ICT活用	○	パワーポイント等によるプレゼンテーション

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	園芸論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石網 史子	指定なし

ナンバリング	D25201M21
授業概要(教育目的)	近年、園芸植物やそれを扱うに人々に技術は多様化している。本講義では、蔬菜(野菜)、果樹、花卉(花)の生産を主とする商業園芸と家庭菜園や庭づくりなどの家庭園芸の現状、ガーデニングなどで園芸植物を栽培、利用するために必要な基礎的な技術や植物生理について解説する。園芸領域科目(ガーデニング実習等)の他の科目につながる、基礎的な力を養う。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	園芸の現状を理解し、植物の基礎的知識を身につけ、説明できる。
思考・判断の観点(K)	植物の栽培管理を行う場合に、いつ、なぜ、この管理作業が必要であるか判断できる。
関心・意欲・態度の観点(V)	
技術・表現の観点(A)	本講義で得た植物の性質や特徴の知識を、植物を用いた空間デザインや表現や生活の中で活かすことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション	本講義の到達目標、講義内容、進め方について説明する。本講義で扱う園芸学の定義について解説する。	本講義の内容と園芸学の定義について理解する。	240分
第2回	園芸の起源と歴史	日本の園芸の発達と変遷、園芸植物の起源について解説する。	講義内容の復習、日本の園芸の起源と歴史について理解する。	240分
第3回	種子と発芽	植物の種子の構造とその役割、種子の休眠と発芽に影響する環境条件について解説する。	講義内容の復習、植物の種子の構造、役割や発芽のメカニズムについて理解する。疑問点がある場合は、次の講義までにまとめておくこと。	240分
第4回	植物の生長	植物の生長と組織の分化、茎や葉の構造について解説する。	講義内容の復習、植物の生長と組織の分化、茎や葉の構造について理解する。疑問点がある場合は、次の講義までにまとめておくこと。	240分

第5回	地下器官の生長と発達	根の生長と地下器官の発達、菌根菌との共生などについて解説する。	講義内容の復習、根の生長と地下器官の発達、菌根菌について理解する。疑問点がある場合は、次の講義までにまとめておくこと。	240分
第6回	花芽分化と開花	生殖と花芽形成、花芽分化に影響する環境条件やホルモンについて解説する。	講義内容の復習、生殖と花芽形成、花芽分化に影響する環境条件やホルモンについて理解する。疑問点がある場合は、次の講義までにまとめておくこと。	240分
第7回	果実の発育と成熟	果実の形態、発達の仕組み、生産と栽培について解説する。	講義内容の復習、果実の形態、発達の仕組み、生産と栽培について理解する。疑問点がある場合は、次の講義までにまとめておくこと。	240分
第8回	植物ホルモン	オーキシン、ジベレリン、サイトカイニン、アブシジン酸、エチレンなどの植物ホルモンについて解説する。	講義内容の復習、オーキシン、ジベレリン、サイトカイニン、アブシジン酸、エチレンなどの植物ホルモンについて理解する。疑問点がある場合は、次の講義までにまとめておくこと。	240分
第9回	養分の吸収と光合成	植物の養分吸収の生理と光合成の仕組みと役割について解説する。	講義内容の復習、植物の養分吸収の生理と光合成の仕組みと役割について理解する。疑問点がある場合は、次の講義までにまとめておくこと。	240分
第10回	栽培環境とその制御	温度、光、水など園芸作物の栽培に影響する栽培環境について解説する。	講義内容の復習、園芸作物の栽培に影響する栽培環境について理解する。疑問点がある場合は、次の講義までにまとめておくこと。	240分
第11回	病害虫と雑草、繁殖	病気、外注、雑草の防除とコントロール法について解説する。園芸植物の繁殖様式（種子繁殖と栄養繁殖）法について解説する。	講義内容の復習、病気、外注、雑草の防除とコントロール法について理解する。疑問点がある場合は、次の講義までにまとめておくこと。	240分
第12回	特別授業	学外から講師を招き、植物育種についての最前線についてのお話を伺う。	講義内容の復習、園芸植物の繁殖様式（種子繁殖と栄養繁殖）法について理解する。疑問点がある場合は、次の講義までにまとめておくこと。	240分
第13回	品種改良	園芸植物の品種の改良について実例を挙げて解説する。	講義内容の復習、園芸植物の品種の改良について理解する。疑問点がある場合は、次の講義までにまとめておくこと。	240分
第14回	園芸植物の利用と機能	園芸植物の利用（食、観賞、癒し）と機能（抗酸化機能、栄養価）について解説する。	講義内容の復習、園芸植物の利用と機能について理解する。疑問点がある場合は、次の講義までにまとめておくこと。	240分
第15回	総括	本講義のまとめと到達目標の達成度の確認。定期試験の方法について説明する。	本講義全体の復習を行い、定期試験の準備をすること。	240分

学習計画注記	履修者数や講義の進み具合などにより、スケジュールや課題変更になる場合がある。
学生へのフィードバック方法	講義中に質問時間を設け、必要に応じディスカッションを行い、フィードバックする。疑問・質問が生じた場合は、e-mailで連絡をするか、3609研究室を訪問すること。
評価方法	平常点：講義中のディスカッションや問題に取り組む意欲的な姿勢や理解度を総合的に評価する。 定期試験：講義で扱った話題や問題の中から選択式と記述式で50点満点で出題する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○			○
定期試験	○	○		○

評価割合	平常点50%、定期試験50%で総合的に判断する。
使用教科書名 (ISBN番号)	「園芸学の基礎」 鈴木正彦編 (農山漁村文化協会) 978-4-540-11105-1
参考図書	「最新園芸・植物用語集」 土橋豊 (淡交社) 978-4473042668 その他、必要に応じて授業内で紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。 【思考・判断】 社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。 【関心・意欲・態度】 社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】 課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。
オフィスアワー	月曜 2限 3609研究室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、植物園および大学研究機関で庭や植物コレクションの栽培管理業務に従事した実務経験を有している。実務経験をもとに現場で必要な園芸と植物の基礎的知識とは何かを講義で伝えている。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ガーデニング実習 I		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石網 史子	指定なし

ナンバリング	D25202M23
授業概要(教育目的)	ガーデニング概論と園芸論などの講義で得た基礎的な知識を活かし、実際に植物の栽培管理を行う。ガーデニング実習Ⅱと合わせて年間を通した植物の栽培管理法を学ぶ。季節に適した植物を用い、その栽培に必要な管理計画を検討し、実習する。また、植物を生活に取り入れ利用する力も養う。
履修条件	「ガーデニング概論」、「園芸論」、「観賞植物素材論」を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	身の回りで栽培されている植物に興味を持ち、理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	植物を栽培することの楽しさや難しさ示すことができる。 植物を取り入れたい生活空間の目的や場所の環境条件に適した植物種を選ぶことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	植物栽培に必要な作業を考え、他の人と協力し安全に配慮しながら行うことができる。
技術・表現の観点 (A)	庭や花壇をデザインする際に必要な植物、材料、道具を使用することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容
第1回	イントロダクション	本実習の到達目標、進め方、持ち物、服装、安全上の注意などについて説明する。	本実習の内容と安全上の注意などをよく理解すること。持ち物、服装を準備する。
第2回	花壇の準備	区画分け、土づくり、地慣らしなど花壇の準備作業を行う。	花壇づくりの手順の確認。 作業日誌を記入する。
第3回	園芸店見学	近隣の園芸店を見学し、この季節に入手できる植物苗の大きさと価格を学ぶ。	作業日誌を記入する。
第4回	秋・冬花壇のデザイン	各自担当の花壇の区画を計測し、図面化する。秋から冬の花壇をデザインし、植栽図面を製作する。	作業日誌を記入する。
第5回	花壇に植える植物の準備	健康で良い苗の選び方を解説する。各自デザインした花壇の植物を購入その他により準備する。	作業日誌を記入する。
第6回	植栽	デザインした花壇と準備した植物を用いて植栽する。	作業日誌を記入する。

第7回	植栽管理計画	植栽した花壇の植物の管理計画を作成する。	作業日誌を記入する。
第8回	植栽管理と近隣農家の見学	植栽した後の花壇の管理を行う。 近隣で野菜や菊の栽培を行っている農家の見学。	作業日誌を記入する。
第9回	初歩的な寄せ植えをつくる	サボテンや多肉植物を使って小さな寄せ植えをつくる。	作業日誌を記入する。生育状況を観察する。
第10回	近隣農家の見学	秋冬の果樹の管理作業（剪定・整枝など）を学ぶ。	作業日誌を記入する。
第11回	季節の飾りを作る	クリスマスやお正月に向けて季節の飾りを作成する。	作業日誌を記入する。
第12回	校内の植物観察	校内に生育している木本、草本の冬の姿を観察する。	作業日誌を記入する。
第13回	特別校外授業振替	世界らん展見学	
第14回	特別公開授業振替	世界らん展見学	
第15回	総括	本実習のまとめ、到達目標の達成度について確認する。 花壇の野菜収穫、片付け。 作業日誌提出。	

学習計画注記 履修者数、天候、植物の生育速度により、スケジュールや課題変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法 実習中に随時ディスカッションを行い、フィードバックする。各課題は採点し、コメントを付けて返却する。疑問・質問が生じた場合は、e-mailで連絡をするか、3609研究室を訪問すること。

評価方法 平常点：実習中の作業や課題に取り組む意欲的な姿勢や理解度を総合的に評価する。
課題：日誌：実習中に行った作業、実習以外に行った管理作業、作業を通じて生じた疑問点、その疑問点を解決するために自ら調べた結果などを第三者へ伝わる様式で記録を残す。作業日誌を総合的に判断して評価する。
レポート：課題の主旨を理解しているか、質問や問題提起が適切か、疑問に適切に答えているかなどを総合的に判断して評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○		○	
課題	○	○		○

評価割合 平常点50%、課題50%(作業日誌40%、世界らん展見学レポート10%)で総合的に判断する。

使用教科書名 (ISBN番号) 適宜、資料を印刷・配付する。

参考図書 適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】 家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。
【思考・判断】 社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。
【関心・意欲・態度】 社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
【技能・表現】 課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。

オフィスアワー 月曜日 2限 3609研究室

学生へのメッセージ 本科履修には、以下の費用の負担が必要です。
材料費：一人2,000円
特別校外授業：世界らん展入場料2,000円、自宅からJR水道橋（東京ドーム）までの交通費

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、植物園および大学研究機関で庭や植物コレクションの栽培管理業務に従事した実務経験を有している。実務経験をもとに庭や植栽のデザイン、植栽管理計画、管理作業の重要性を実習を通して伝えている。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		

シラバス参照

講義名	観賞植物素材論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石網 史子	指定なし

ナンバリング	D25204M21
授業概要(教育目的)	園芸やガーデニングには多種多様な植物が用いられる。植物を使った空間デザインを行うためには、個々の植物の知識が不可欠である。本講義では、特にエクステリアデザインなどで用いられる一般的な樹木を同定する力を身につける。熱帯花木、山野草、盆栽、ハーブ、サボテン類、洋ラン等の観賞植物の分類及び特徴と栽培方法を学び、園芸における活用方法を講義する。観賞植物の特徴を、体系的に理解し、正しい情報を入手する力を養う。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	園芸やガーデニングには多種多様な植物の名前、性質、特徴などを理解し説明できる。
思考・判断の観点 (K)	園芸やガーデニングには多種多様な植物を栽培法や環境条件を類別できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	本講義で得た植物の知識を植物を用いた空間デザインや植物の栽培に活用できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション	本講義の到達目標、講義内容、進め方、樹種名同定小テストの方法について説明する。本講義で用いる用語や植物の利用上の分類の定義を確認する。	本講義で用いる用語や植物の利用上の分類の定義を確認する。講義の内容と用語や植物の利用上の分類を理解する。	240分
第2回	観葉植物	観葉植物の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。 樹種名同定小テスト①	観葉植物について理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。	240分
第3回	多肉植物とサボテン	多肉植物とサボテンの性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。 樹種名同定小テスト②	多肉植物とサボテンについて理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。	240分
第4回	草花(一年草、二年草)	草花(一年草、二年草、多年草、宿根草)の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。	草花(一年草、二年草、多年草、宿根草)について理解を深	240分

	草、多年草、宿根草)	樹種名同定小テスト③	め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。	
第5回	低木と高木	低木と高木の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。 樹種名同定小テスト④	低木と高木について理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。	240分
第6回	果樹	果樹の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。 樹種名同定小テスト⑤	果樹について理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。	240分
第7回	家庭菜園	家庭菜園で使われる植物の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。 樹種名同定小テスト⑥	家庭菜園で使われる植物について理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。	240分
第8回	山野草	山野草の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。 樹種名同定小テスト⑦	山野草について理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。	240分
第9回	薬草と有毒植物	薬草と有毒植物の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。 樹種名同定小テスト⑧	薬草と有毒植物について理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。	240分
第10回	盆栽とラン	盆栽とランの性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。 樹種名同定小テスト⑨	盆栽とランについて理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。	240分
第11回	屋上緑化、壁面緑化、ベランダガーデニング	屋上緑化、壁面緑化、ベランダガーデニングに適した植物の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。 樹種名同定小テスト⑩	屋上緑化、壁面緑化、ベランダガーデニングに適した植物について理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。	240分
第12回	在来植物と外来植物	在来植物と外来植物の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。 樹種名同定小テスト⑪	在来植物と外来植物について理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。	240分
第13回	公園とビオトープ	公園とビオトープで使用される植物の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。 樹種名同定小テスト⑫	公園とビオトープで使用される植物について理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。	240分
第14回	ファイトレメディエーション	ファイトレメディエーションに用いられる植物の性質、特徴、栽培法について実例を挙げて解説する。 樹種名同定小テスト⑬	ファイトレメディエーションに用いられる植物について理解を深め、いくつかの具体例の名前を挙げて説明できるようにする。	240分
第15回	総括	本講義のまとめ、到達目標の達成状況の確認。	本講義で得た知識をもとに、生活の中にある植物にこれまで以上に注意を払い、名前と特徴を知っている身の回りの植物を増やして欲しい。	240分

学習計画注記	履修者数や講義の進み具合などにより、スケジュールや課題変更になる場合があります。				
学生へのフィードバック方法	講義中に質問時間を設け、必要に応じディスカッションを行い、フィードバックする。疑問・質問が生じた場合は、e-mailで連絡をするか、3609研究室を訪問すること。				
評価方法	平常点：講義中のディスカッションや課題に取り組む意欲的な姿勢や理解度を総合的に評価する。 課題：課題の主旨を理解しているか、疑問や問題に適切に答えているか、文章構成力などを総合的に判断して評価する。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点	○	○		○
	課題	○	○		○
評価割合	平常点50%、小テスト40%、課題10%で総合的に判断する。				

使用教科書名 (ISBN番号)	適宜、資料を印刷・配付する。
参考図書	「葉っぱでわかる造園樹木図鑑」船越亮二著 講談社 その他随時、講義内で紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。 【思考・判断】 社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。 【関心・意欲・態度】 社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。 【技能・表現】 課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。
オフィスアワー	月曜 2限 3609研究室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、植物園および大学研究機関で庭や植物コレクションの栽培管理業務に従事した実務経験を有している。実務経験をもとに現場に必要な園芸と植物の基礎的知識とは何かを講義で伝えている。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	インターネットビジネス論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 前田 邦宏	指定なし

ナンバリング	D25302M21
授業概要(教育目的)	SNSを活用したビジネスモデルとそれを展開するための基礎的な技術を理解し、インターネット時代の新しいビジネスの創造について考える力を育成することを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. インターネットビジネスはこれまでのビジネスと何が異なるのか理解し、説明できる 2. インターネットビジネスの発展により、生活者のライフスタイルや価値観がどのように変化するかを理解し、説明できる
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	1. 新しい情報通信技術について議論し、新しいビジネスを発想する考え方を身につけ、表現できる 2. ビジネスにおけるSNS利用の基本的なを理解し、自身の活動に応用することができる

学習計画

イントロダクション

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション	授業内容の概観とルールの確認	予習として、シラバスを一読する。 復習として、高等学校までで学んだ情報科の関連する内容や、他のビジネス関連の授業で学んだことと、本授業の概要から関連する項目を関連づけることを試みる。	150分
第2回	インターネットビジネスの歴史	インターネットビジネスの歴史を理解する。	復習として、インターネット黎明期から現在までのビジネス活用を配布資料や紹介した資料などを使い、整理する。	150分

第3回	インターネットビジネスの概観	インターネットを活用したビジネスモデルの分類を行い、パターンを理解する。	復習として、自分自身が利用、また知っているインターネットビジネスの分類を試みる。	150分
第4回	分野別概観：ソーシャルメディア(広告モデル)	ソーシャルメディアの歴史と仕組みを理解する。ソーシャルメディアを活用したインターネットビジネスの内容を概観する。	予習として、自分自身が利用しているSNSをはじめとするソーシャルメディアを把握する。復習として、ソーシャルメディアのビジネス利用の例を、自分の視点で整理する。	150分
第5回	分野別概観：eコマース(商品販売モデル)	eコマースの歴史と仕組みを理解する	予習として、自分自身が利用しているeコマースサイトを把握する。復習として、自身の知っているeコマースサイトの改善点を検討し、整理する(授業の展開に応じ、簡単な課題を提示する予定)	300分
第6回	分野別概観：デジタルコンテンツ(コンテンツ販売モデル)	デジタルコンテンツの歴史と仕組みを理解する	予習として、自分自身や周囲が利用しているデジタルコンテンツのサービスを把握する。復習として、デジタルコンテンツサービスを、自分の視点で整理する。	150分
第7回	ソーシャルメディアの活用	ソーシャルメディアの活用提案を検討する。履修者各自に、アイデアを授業内で報告してもらう。	予習として、簡単なソーシャルメディアの活用提案を検討し、資料を作成する。	300分
第8回	分野別概観：シェアリングエコノミー	シェアリングエコノミーの概念、歴史と仕組みを理解する	予習として、「シェアリングエコノミー」という言葉の定義やその概要を調べて整理しておく。復習として、シェアリングエコノミーの文脈で登場するサービスを、自分の視点で整理する。	150分
第9回	既存企業におけるインターネットビジネスの活用	既存企業、大企業、中小企業でのインターネットの活用と課題について理解する。	予習として、ネットニュースやテレビ、新聞、雑誌などのマスメディアでの大企業でのインターネットビジネスの展開に関する記事を確認しておく。復習として、授業で学んだことを踏まえて、自分の関心のある業界での主要企業のインターネットビジネスへの展開や、スタートアップへの参画を整理する。	150分
第10回	公的セクターにおけるインターネットの活用	政府、自治体におけるインターネットの活用について理解する。	予習として、自身の住んでいる自治体(都道府県、市町村)のウェブサイトを確認し、掲載内容を把握する。復習として、民間セクターが取り組めない、公的セクターが参画するべきだと考える分野について、自分なりの考えを整理する。	150分
第11回	制度・法的課題	インターネットビジネスに関わる制度・法律を理解する。	予習として、他の授業で学んだ法制度(消費者関係など)でインターネットビジネスに関わるものがないかを把握しておく。復習として、授業で学んだ法制度と自分自身の消費活動との関わりについて整理する。	150分
第12回	課題提示	報告のテーマ(新規ビジネスの提案)の提示と発表の要件について、説明する。(クラスの人数等の条件で、個人発表とするかグループ発表とするかは決定する)	プレゼンテーションについて、資料を提示するので一読する。発表に向けた情報収集を行う。	300分
第13回	技術動向	インターネットビジネスに関わる技術を理解する。	予習として、高等学校まで学んだインターネットに関係する技術について用語を整理する。復習として、授業で学んだ技術用語について、自分自身の言葉で説明できるよう、概念をまとめる。	150分
第14回	報告(1)	個人もしくはグループでの報告を行う。	事前の準備として、発表の準備・リハーサル等を各自で行	300分

			う。 発表後は、それぞれのクラスでのコメントやフィードバック等を整理する。	
第15回	報告(2)とまとめ	報告と授業全体のまとめを行う。未発表者がいる場合は、発表を行い、総括を行う。	定期試験に向けた復習を行う。	150分

学習計画注記	インターネットビジネスに関する企画提案を課題として提示する予定ですが、履修者の実態に応じて、提示時期は前後する可能性があります。 また、取り上げるテーマは時勢に応じて、変更する可能性があります。
学生へのフィードバック方法	課題については授業内でフィードバックをする。
評価方法	定期試験は、授業の内容やITパスポートなどの国家試験の内容・レベルを概要を把握できているかを問う内容を中心に出題する予定です。 課題は、授業の理解度や関心に応じて、インターネットビジネスの内容を理解しているか、また、自身で、学生活動を含めた様々なシーンで企画できるかをみる内容とし、数回提示します。 プレゼンテーションは、インターネットビジネスに関するビジネスプラン等を検討していますが、履修者の関心に応じて、授業内で決定し、要件を提示します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
プレゼンテーション	○			○
定期試験	○			
課題	○			○

評価割合	定期試験(40%) 課題(20%) プレゼンテーション(40%)
使用教科書名 (ISBN番号)	なし
参考図書	授業内で適宜説明します。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「コミュニケーション・情報」「ビジネス」の分野について、専門的知識を有している。 【技能・表現】社会に対して洗練された表現力でその問題解決策を発信できる力を有している。
学生へのメッセージ	どの業界への進路についても役立つ知識と成果物を得られる授業にしますので、インターネットやコンピュータ利用に自信のない方にも積極的な参加を希望しています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当者は、ICT分野を専門とする市場調査会社に勤務経験があり、大企業やスタートアップのICTビジネスに関する支援業務の経験を有する。
アクティブ・ラーニング	○	授業内で、プレゼンテーションと、必要に応じてディスカッションを取り入れます。
情報リテラシー教育		授業内で、プレゼンテーションを実施するため、その技法について取り上げます。 履修者のリテラシーに応じて、PC利用教室での授業を実施します。
ICT活用	○	

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	マーケティング論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 神田 正樹	指定なし

ナンバリング	D25303M21
授業概要(教育目的)	マーケティングの本質を理解し、アパレルビジネスを中心に、消費者に焦点をあてたマーケティング戦略、計画、評価などマーケティング活動の基礎を学ぶことを目標とする。マーケティングの基本的な考え方とマーケティングの実践に役立つ枠組み（フレームワーク）が活用できるようになることを目的とする。実際のビジネスで展開されているマーケティングの事例を多く含めて講義をすすめる。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1. マーケティング・マネジメント（マーケティング・ミックスとSTP）について説明できる。 2. 消費者行動の基本概念（消費者関与・顧客満足・ロイヤルティ）について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. アパレルビジネスにおけるマーケティング戦略の特徴について指摘できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 教室外学習を確実に実行し、課題に取り組む。 2. 質疑または議論の場で、質問・意見・アイデアを積極的に共有する。
技術・表現の観点 (A)	1. マーケティングの理論やフレームワークをアパレルビジネスに当てはめて表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	講義の目的、目標、講義スケジュール、評価方法について説明する。	予習：シラバスの内容を読んでおくこと。 復習：教科書第1章「マーケティングの考え方」(1～12ページ)を読んでおくこと。	30分
第2回	マーケティングとは	マーケティングの定義、意義、目標について理解する。また、真の顧客志向とマーケティングの本質について学ぶ。	予習：教科書第1章「マーケティングの考え方」(13～31ページ)を読んでおくこと。 復習：指定された課題に取り組むこと。	90分
第3回	マーケティング・マネジメント1	STP(セグメンテーション・ターゲティング・ポジショニング)について理解する。	予習：教科書第2章「マーケティングの構図」「3 マーケティング・マネジメント・プロセス」(49～61ページ)を読んで	120分

			おくこと。 復習：指定された課題を行うこと。	
第4回	マーケティング・マネジメント2	マーケティング・ミックス（製品・価格・流通・プロモーションの4P）について理解する。	予習：教科書 第2章「マーケティングの構図」CASE「サンリオ」（33～38ページ）、「3マーケティング・マネジメント・プロセス」（49～61ページ）を読んでおくこと。 復習：指定された課題を行うこと。	120分
第5回	マーケティング戦略の基本	SWOT（強み・弱み・機会・脅威）分析を中心にマーケティング環境分析のための枠組み（フレームワーク）を理解する。	予習：教科書 第2章「マーケティング環境のとらえ方」（80～91ページ）を読んでおくこと。 復習：指定された課題を行うこと。	120分
第6回	製品・サービス戦略	製品・サービスは、消費者にどのように価値を提供する必要があるのかについて学ぶ。また、リポジショニングの目的と重要性について理解する。	予習：教科書 第5章「セグメンテーションとターゲティング」（139～166ページ）を読んでおくこと 復習：指定された課題を行うこと。	120分
第7回	価格・コミュニケーション戦略	価格の役割、価格設定の基本アプローチ、マーケティング・コミュニケーションの機能、目的、類型について理解する。	予習：教科書 第6章「ポジショニング」（177～187ページ）、第7章「マーケティング・ミックス」（201～217ページ）を読んでおくこと 復習：指定された課題を行うこと。	120分
第8回	流通チャネル戦略	アパレルビジネスにおける流通の役割、特に小売業の役割と業態について理解する。 また、前半のまとめと理解度の確認のために、小テストを行う。	予習：教科書 第7章「マーケティング・ミックス」（217～227ページ）と配布資料を読んでおくこと また、第1回から第7回までの授業内容の復習をしておくこと。8回目に小テストを行います。	180分
第9回	マーケティング計画	実際のアパレルビジネスでのマーケティング活動について、アパレル企業の事例を取り上げて事例を検討することで理解を深める。	事前に事例資料を配布します。 しっかり内容を読んで、設問の回答を用意しておくこと。	120分
第10回	消費者の理解	消費者の購買意思決定、消費者の知覚と製品開発、マーケティング環境をふまえた消費者理解について学ぶ。	教科書 第4章「消費者の理解」（110～129ページ）を読んでおくこと。 復習：指定された課題を行うこと。	120分
第11回	ブランドの理解	マーケティングにおけるブランドの役割と機能を理解する。消費者視点でのブランドを理解するために、消費者関与・顧客満足・顧客ロイヤルティの概念について学ぶ。	予習：教科書 第4章「消費者の理解」（129～134ページ）、第2章「マーケティングの構図」の「4 補完的な視点」（63～71ページ）を読んでおくこと。 復習：指定された課題を行うこと。	120分
第12回	顧客価値とマーケティング・リサーチ	顧客価値を焦点とするマーケティングについて理解する。また、マーケティング・リサーチの目的と方法についての概要を理解する。	予習：教科書 第2章「マーケティングの構図」（38～49ページ）、第3章「マーケティング環境のとらえ方」（98～109ページ）を読んでおくこと。 復習：指定された課題を行うこと。	120分
第13回	アパレル企業におけるマーケティング戦略1	アパレルビジネスでのマーケティング戦略について、アパレル製造小売企業（SPA）の事例を取り上げて議論し、理解を深める。	事前に事例資料を配布します。 しっかり内容を読んで、設問の回答を用意しておくこと。	120分
第14回	アパレル企業におけるマーケティング戦略2	アパレルビジネスでのマーケティング戦略について、アパレル製造小売企業（SPA）の事例を取り上げて議論し、理解を深める。	事前に事例資料を配布します。 しっかり内容を読んで、設問の回答を用意しておくこと。	120分
第15回	定期試験：全体の総括	定期試験を行う。試験後、全体の総括として、アパレル企業の事例をもとに、マーケティングの最新動向について学ぶ。	これまでの授業内容を総復習しておくこと。	180分

学習計画注記	※履修者の理解度によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8回目の授業で、小テストを実施する。小テスト後に模範解答について説明する。 ・ 14回目の授業内でアパレル企業の事例を取り上げてディスカッションを行う。議論の場では相互の意見・アイデアについてコメントする。 				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小テストは、20点満点とし、前半の7回分の授業の範囲から穴埋めおよび記述方式で出題する。 ・ 質問・意見・アイデアの共有は、課題提出物と双方向の場において、思考、判断、関心、意欲、態度を重視して評価する。 ・ 定期テストは、100点満点とし、講義の中で説明した内容から穴埋めおよび記述方式で出題する。 ・ 小テスト、質問・意見・アイデアの共有、定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	小テスト	○	○		○
	質問・意見・アイデアの共有	○	○	○	○
	定期試験	○	○		○
評価割合	小テスト (20%) 定期試験 (50%) 質問・意見・アイデアの共有 (30%)				
使用教科書名 (ISBN番号)	はじめてのマーケティング 久保田進彦・渋谷覚・須永努 (有斐閣ストゥディア) 978-4-641-15003-4				
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】「衣」(アパレル)の分野における顧客の理解とマーケティングに関する専門知識を有している</p> <p>【思考・判断】消費者に向けたマーケティング上の課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる</p> <p>【関心・意欲・態度】自主的な学習を通じて、アパレルビジネスにおけるマーケティングに関して解決策を立案できる</p> <p>【技術・表現】マーケティングの理論と枠組みを活用して、ビジネスの現場の課題解決に必要な情報を収集・分析・整理ができる</p>				
学生へのメッセージ	<p>マーケティングは、将来のどの分野に進むにしても必ず役立ちます。</p> <p>マーケティング・マインドを身につけて、マーケティングに取り組む方法や枠組み(フレームワーク)を学んで欲しい。</p> <p>アパレルビジネスの事例を多く取り上げて講義を行います。質疑や議論の場では、質問・意見・アイデアを共有し、積極的な参加を望みます。</p>				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、アパレル企業において、販売管理と店舗オペレーション、マーケティングの実務経験を有しており、講義では、実企業で行われている実践内容や事例を多く取り上げて教授する。			
アクティブ・ラーニング	○	9回目、14回目の授業内で、アパレル企業の事例を取り上げて検討を行う。事前に資料を配布し、設問に対する回答についての意見の交換と共有を行い、気づきと理解を深める。			
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	被服整理学実験		
講義開講時期	後期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 佐々木 麻紀子	指定なし

ナンバリング	D32109M13
授業概要(教育目的)	衣料用洗剤の洗浄力に関して、起泡性、浸透力、界面張力等を測定し臨界ミセル濃度を求める。また、人工汚染布を用いた洗浄力試験を行い、市販洗剤の性能を評価すると共に、洗浄に関する要因とそれらの相関性などを考察する。これらの実験を通じ、生活に関わる身近な問題を科学的に観察する方法を学ぶことを目的とする。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	被服の洗浄に関わる現象を理解することを目標とする。
思考・判断の観点 (K)	得た知識を持って有効な洗濯および取扱い方法を選択できることを目標とする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自ら主体的に学ぶ姿勢を身につけることを目標とする。
技術・表現の観点 (A)	洗剤、洗濯、漂白などについて適切で効果的な方法や条件を学び、実生活で活用できることを目標とする

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	実験概要の説明及び実験にあたっての諸注意		
第2回	洗剤水溶液の性質1	洗剤水溶液の性質の溶解性、pH測定	実験結果をレポートにまとめる	45分
第3回	洗剤水溶液の性質2 起泡力の測定	起泡力測定実験を通じて、洗剤水溶液の性質を学ぶ	実験結果をレポートにまとめる	45分
第4回	洗剤水溶液の性質3 浸透力の測定1	浸透力測定実験を通じて、洗剤濃度と洗剤水溶液の性質を理解する。	実験結果をレポートにまとめる	45分
第5回	洗剤水溶液の性質3 浸透力の測定2	浸透力測定実験を通じて、洗剤濃度と洗剤水溶液の性質を理解する。	実験結果をレポートにまとめる	45分

第6回	洗剤水溶液の性質4 水の硬度測定1	水の硬度測定を行い、洗剤の溶解性と硬度の影響を理解する	実験結果をレポートにまとめる	45分
第7回	洗剤水溶液の性質4 水の硬度測定2	水の硬度測定を行い、洗剤の溶解性と硬度の影響を理解する	実験結果をレポートにまとめる	45分
第8回	洗剤水溶液の性質5 比界面張力の測定1	洗剤水溶液の比界面張力を測定し、洗剤水溶液の性質を知る	実験結果をレポートにまとめる	45分
第9回	洗剤水溶液の性質5 比界面張力の測定2	洗剤水溶液の比界面張力を測定し、洗剤水溶液の性質を知る	実験結果をレポートにまとめる	45分
第10回	洗浄力試験1	人工汚染布を用いて洗浄力試験を行い、洗濯条件と洗浄力の関係について学ぶ	実験結果をレポートにまとめる	45分
第11回	洗浄力試験2	人工汚染布を用いて洗浄力試験を行い、洗濯条件と洗浄力の関係について学ぶ	実験結果をレポートにまとめる	45分
第12回	洗浄力試験3	人工汚染布を用いて洗浄力試験を行い、洗濯条件と洗浄力の関係について学ぶ	実験結果をレポートにまとめる	45分
第13回	漂白試験1	各種漂白剤の特徴を知る	実験結果をレポートにまとめる	45分
第14回	漂白試験2	各種漂白剤試験を行い、漂白剤の特徴を理解する	実験結果をレポートにまとめる	45分
第15回	まとめ	これまでの実験結果を総括し、洗濯と洗剤について考察する	これまでの実験結果を読み返しておく	45分
第16回				

学生へのフィードバック方法	質問は授業中および授業後に受けるが、出来る範囲内で適宜個別対応も行う。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点は、授業への参加、実験への取り組み状況等で総合的に評価する。 ・レポートは、各テーマの内容を把握し、実験で得られた結果を図表などにまとめ適切な考察ができていないかを評価する。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	
レポート	○	○		○

評価割合	レポートを80%、平常点を20%の総合評価とする。
使用教科書名 (ISBN番号)	使用しない。適宜プリントを配布する。
参考図書	被服管理学／増子 他／朝倉書店 被服整理学／吉永 他／光生館 被服整理学/日本衣料管理協会刊行委員会編/社団法人日本衣料管理協会
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 レポートの書き方に関する豊かな知識を有している。 【関心・意欲・態度】 主体的に学ぶ姿勢を身につけている。 【技術・表現】 実験形式の具体的な作業で得た技術をもって生活の中へ応用できる能力を身につけている。
オフィスアワー	月曜日2限 2406研究室
学生へのメッセージ	生活に欠かせない洗濯について、洗濯機と水と洗剤がどのようなメカニズムで汚れを落としているのか、実験によって理解を深めて下さい。ひとつひとつの実験を注意深く丁寧に行い、得られた結果から分かる事は何か、また、各項目の結果を総合的に考まともてみると、洗浄条件と洗浄力の色々な関係が見えてきます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活か		

した授業		
アクティブ・ラーニング	○	学修者が能動的に授業に参加することによって、被服管理の専門性への理解を図る。
情報リテラシー教育	○	レポートの作成方法に関する教育を行う。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	アパレル企画実習		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 手島 由記子	指定なし

ナンバリング	D32209M13
授業概要(教育目的)	売れ筋を作り出すには、シーズンのトレンドや市場の動きを観察しながら「何が売れるのか」を予測することが必要である。その収集した情報を分析して、その分析結果を商品企画に翻訳する。本授業ではアパレル企業における製品についての、消費者動向、トレンド情報分析、ブランドコンセプトの設定を行い、シーズンテーマ、素材・カラー・デザイン、コーディネート、サイズ・価格構成、製造原価などのシーズン商品企画と、小売業における販促企画を、課題制作を通じて体験的に学んでいく。企業における基本的なアパレル企画の手法を指導していく。
履修条件	「マーチャンダイジング」を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	アパレルにおける商品企画について基礎的な知識を身につけることができる。
思考・判断の観点 (K)	多種多様なファッション情報を分析・整理し、ファッション企画を立案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	各回の課題作品に対して、意欲的に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	自らが立案したファッション企画を課題作品に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業の概要、アパレル企業の商品企画とは	授業の概要。アパレルの商品企画とは何かを学ぶ。	配付プリントのアパレルの商品企画について読んでおくこと。次回の持ち物の準備をしておくこと。	120分
第2回	情報収集(1)	メディアからファッション情報(コンペティター情報)の収集を行う。	メディアからの情報を次回までに収集し整理しておくこと。	120分
第3回	情報収集(2)	ファッション情報をマップに作成する。	ファッション情報マップを次回までに完成させてくること。	120分
第4回	ブランドコンセプト企画(1)	ブランドイメージ企画(ライフスタイル)を立案する。	ブランドイメージ企画マップの下書きを完成させてくること。	120分
第5回	ブランドコ	ターゲットのブランドイメージ企画をマップに作成す	ブランドイメージ企画マップを	180分

	コンセプト企画 (2)	る。	次回までに完成させること。	
第6回	ターゲット企画 (1)	ターゲット企画 (年齢、ライフスタイル、プライスゾーン、販路) を立案する。	ターゲット企画の下書きを完成させてくること。	120分
第7回	ターゲット企画 (2)	ターゲット企画をマップに作成する。	ターゲット企画を次回までにマップに作成させておくこと。	120分
第8回	シーズンコンセプト・コーディネート企画 (1)	シーズンテーマとシーズンコンセプトの設定を行う。カラー、イメージのコンセプトを立案する。シーズンテーマのマップを作成する。	シーズンテーマのマップを次回までに仕上げしておくこと。	120分
第9回	シーズンコンセプト・コーディネート企画 (2)	シーズンコーディネート企画 (カラー、素材、スタイリング) を立案する。	シーズンコーディネート企画の下書きを、次回までに仕上げしておくこと。	120分
第10回	シーズンコンセプト・コーディネート企画 (3)	シーズンコーディネート企画のマップを作成する。	シーズンコーディネート企画のマップを次回までに仕上げしておくこと。	180分
第11回	アイテム企画 (1)	アイテム企画 (アイテム、カラー、素材、サイズ構成、価格構成) の立案をする。	アイテム企画の下書きを、次回までに仕上げにくること。	120分
第12回	アイテム企画 (2)	アイテム企画のマップを作成する。	アイテム企画のマップを次回までに仕上げにくること。	180分
第13回	プロモーション企画 (1)	プロモーション企画 (プロモーションストーリーとVMD) の立案をする。	プロモーション企画の下書きを、次回までに仕上げにくること。	120分
第14回	プロモーション企画 (2)	プロモーション企画のマップを作成する。	プロモーション企画のマップを、次回までに完成してくること。	120分
第15回	プレゼンテーション	課題マップのプレゼンテーション	今回の授業のために、すべての課題マップを仕上げ、プレゼンテーションの準備をしてくること。	120分

学生へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> 各回で立案された学生の企画作品について、コメントしていく。 プレゼンテーションに対する講評。
---------------	---

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 各回の企画マップ作品を、情報収集、分析、企画の立案、表現、完成度の点から総合的に評価していく。 授業参加状況等、総合的に判断する。
------	--

評価基準	
------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
作品	○	○	○	○
プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合	作品・プレゼンテーション (90%)、平常点 (10%)
------	------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	なし。配付プリント
-----------------	-----------

参考図書	<ul style="list-style-type: none"> 菅原正博監修 「アパレル・マーチャンダイジング」 ファッション教育社、2007年 菅原正博・本山光子共著 「ファッション・マーケティング」 ファッション教育社、2010年
------	--

ディプロマポリシーとの関連	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・理解】 アパレルにおける商品企画について専門的な知識・技術を有している。 【思考・判断】 ファッション産業における多種多様な情報を分析・整理することができる。 【関心・意欲・態度】 商品企画における各課題に対して、積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその課題を解決していくことができる。 【技術・表現】 自ら立案した商品開発をわかりやすく作品に表現することができる。
---------------	--

学生へのメッセージ	商品企画は、アパレル企業における企画部門のマーチャンダイザー (MD) やデザイナーの中心となる仕事です。生産部門のパタンナー、販売部門の販売スタッフ、販促部門のプレスを目指す学生も、商品企画の仕事について知っておくとよいでしょう。課題作品を完成させるため、できるだけ出席するようにしてください。
-----------	--

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員はアパレルメーカーにおいて商品企画の実務経験を10年以上有している。その実務経験を活かし、商品企画の「情報収集」「ブランドコンセプト企画」「シーズン企画」「アイテム企画」「プロモーション企画」を指導する。
アクティブ・ラーニング	○	各回で、各企画の課題マップを制作していく。最終日にプレゼンテーションを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	情報収集のために、PCや通信機器を活用する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ウィービングデザイン演習B		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 馬場 美和子	指定なし

ナンバリング	D32303M22
授業概要(教育目的)	基礎織(平織)を理解した上で、変化織(二重織、振り織等)の技法を学び、デザインを起こし、組織、糸を選択する。大機を用いて製織することによりテキスタイルを設計・制作する技術を身につけることを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	織物組織図を理解することができる。 素材と織物組織の名前が分かる。
思考・判断の観点 (K)	素材や布の密度によって季節感や用途を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	織物の概要。織り機と織道具の名称を理解する。 織り機の使い方を理解するため、織物の基本組織である平織でランチョンマットを織る。	糸を決める。整経をする。	120分
第2回	基礎制作 1: ランチョンマット	機ごしらえをする。(箆通し、綜統通し、織り付け)をする。	機ごしらえを終わらせる。	120分
第3回	基礎制作 1: ランチョンマット	製織する。ランチョンマットの仕上げを説明する。	製織を終わらせ、仕上げる。	240分
第4回	基礎制作 2: 変化組織のサンプル織	数種類の織り組織の中から担当を決めて機ごしらえをし、全受講生が順次織って布サンプルを作る。 変化組織の織物組織図を作成する。	織物組織図を完成させること。	120分
第5回	基礎制作 2: 変化組	担当組織の織物設計表を作成し、整経をする。	整経を終わらせること。	120分

	織のサンプル織			
第6回	基礎制作 2: 変化組織のサンプル織	担当組織の機ごしらえ（箆通し、綜統通し、織り付け）をする。	機ごしらえを終わらせること。	120分
第7回	基礎制作 2: 変化組織のサンプル織	担当組織を織る。	担当組織を織り上げる。	120分
第8回	基礎制作 2: 変化組織のサンプル織	担当組織以外の組織を織る。	1枚以上織り上げる。	120分
第9回	基礎制作 2: 変化組織のサンプル織	担当組織以外の組織を織る。	サンプル織を織り上げる。	120分
第10回	基礎制作 2: 変化組織のサンプル織	担当組織以外の組織を織る。	サンプル織を織り上げる。	120分
第11回	基礎制作 2: 変化組織のサンプル織	サンプル織の布を分けてファイリングする。	サンプル帳を完成させる。	360分
第12回	応用制作： 布小物	変化組織のサンプル織から1つ選択し、布小物を企画デザインする。 織物設計表を作成する。	織物設計表を完成させること。 糸を購入すること。	予習240分復習180分
第13回	応用制作： 布小物	機ごしらえをする。	機ごしらえを終えて織り始める。	120分
第14回	応用制作： 布小物	製織する。	製織を終らせて布を整理する。 必要ならば縫製する。	240分
第15回	応用制作： 布小物	作品を発表する。サンプル帳と布小物の合評会をする。	布小物を仕上げる。	240分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になることがあります。

学生へのフィードバック方法 期末提出物は採点し、返却する。

評価方法 期末提出物は3課題とし、
第1課題「ランチョンマット」は織り機の操作が出来ているか、綺麗に織れているかを評価。
第2課題「変化組織のサンプル織」は組織図を理解し織れているか、サンプル帳が整理できているかを評価。
第3課題「布小物」は第二課題の織サンプルを応用して制作し工夫が成されているかを評価する。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
期末提出物	○	○		○
平常点・授業姿勢	○		○	
合評会（発表含む）		○		○

評価割合 期末提出物（基礎・応用制作作品・織物設計表など）60% 平常点・授業姿勢（作業記録レポート含む）30% 合評会5% 発表5%

使用教科書名 (ISBN番号) プリント資料配布

参考図書 ウィービング・ノート 織物と組織・織りの計画・織りと道具 岸田幸吉著 1978年10月美術出版社
手織のデザイン基礎編 長谷川愛子著 1979年9月源流社
ハンドウィービング手織りの実習 浜野義子 田中佳子 太作星乃 田中通子共著 1984年9月文化出版局

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】「衣」「住」について専門的知識・技術的を有している。グローバルな視点から「衣」「住」の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。

学生へのメッセージ	織り実習では織機を1人1台使用します。毎回異なった作業をするので、できるだけ遅刻欠席の無いようにして下さい。基礎制作では学校にある糸を原則使用しますが、応用制作はコンセプトにあった素材を各自購入して下さい。
-----------	---

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は染織作家として実務経験を有している。作品制作を行い個展の開催や商品の販売を行っており制作について指導することができる。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ファッション・インテリアファブリックデザイン演習		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 馬場 美和子	指定なし

ナンバリング	D32305M22
授業概要(教育目的)	ウィービングデザイン演習で身につけた基本的な織物の技術を基に、ファッション用、またはインテリア用のテキスタイルを企画し、設計、製作する体験を通して、用途に応じたテキスタイル設計のプロセスを理解することを目的としている。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	「衣」「住」のテキスタイルに関心を持ち、自主的な学習を通じて企画・デザインを立案できるようになる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	ファッション、インテリアテキスタイルの使用例を見る。 様々な布サンプルやウィービングデザイン演習で織った布からイメージしたファッション又はインテリアテキスタイルを考える。 イメージをビジュアル化するための資料を探す。	イメージマップの資料を集める。(フィールドワーク等含む)	240分
第2回	第1課題 イメージマップ作成	集めた資料をボードに貼って、イメージマップを作る。 コンセプトとタイトルを決める。織る布の用途を決め、素材を選ぶ。	イメージマップを完成させる。 コンセプトとタイトルを決めておく。	120分
第3回	第2課題 サンプル織	織る布のカラーイメージを作る。	カラーイメージを決めておく。	120分
第4回	第2課題 サンプル織	織物設計表を作成し、糸を選ぶ。	織物設計表を完成させる。 糸を購入する。	240分
第5回	第2課題 サンプル織	サンプル織の機がけをする。	機がけを終わらせる。	120分

第6回	第2課題 サンプル織	製織する。 緯糸を変えたり、タイアップを変えたり、打ち込み段数を変えたり、色々試し織をする。	試し織を終わらせる。	240分
第7回	第3課題 ファブリック ク作品制作	サンプル織に基づき作品を制作する。 織物設計表を作成する。設計表に従い、糸量を計算する。	設計表を完成させる。糸を購入する。	240分
第8回	第3課題 ファブリック ク作品制作	機ごしらえをする。（整経をする）	整経を終わらせる。	120分
第9回	第3課題 ファブリック ク作品制作	機ごしらえをする。（箆通し、綜統通し、織りつけ）	機ごしらえを終わらせる。	120分
第10回	第3課題 ファブリック ク作品制作	製織する。	製織する。 何時間で何センチ織ったか長さを測って記録する。	120分
第11回	第3課題 ファブリック ク作品制作	製織する。	製織する。 何時間で何センチ織ったか長さを測って記録する。	120分
第12回	第3課題 ファブリック ク作品制作	製織する。	製織する。 何時間で何センチ織ったか長さを測って記録する。	240分
第13回	第3課題 ファブリック ク作品制作	製織する。 織り上げ、ふさの始末、布の整理（縮絨、又は水通し）アイロンをかける。	布の整理を終わらせる。	240分
第14回	第4課題 ファブリック ク作品 画像提出	布を仕立てる。 撮影するため、作品のコーディネートを考える。ファッションテキスタイルは、ファブリックに合わせる服や服飾雑貨を用意しインテリアテキスタイルは、ファブリックに合わせる食器や家具を用意する。	仕立てを終わらせる。 写真撮影をし現像（出力）する。	300分
第15回	合評会	作品のプレゼンテーションをする。	提出物をまとめる。	120分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になることがあります。

学生へのフィードバック方法 期末提出物は採点し、返却する。

評価方法 期末提出物は4課題とし、
第1課題「イメージマップ」はコンセプトが明解に表現出来ているかを評価。
第2課題「サンプル織」は設計通りに織れていて試行錯誤がなされているかを評価。
第3課題「ファブリック作品」は計画通り織れているか、コンセプトに合っているかを評価。
第4課題「作品画像」はアングル、トリミング、背景等、作品の特徴を捉えた画像であるかを評価する。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
期末提出物	○	○	○	○
平常点・授業姿勢	○		○	
合評会（発表含む）				○

評価割合 期末提出物60% 平常点・授業姿勢（作業記録レポート含む）30% 合評会5% 発表5%

使用教科書名 (ISBN番号) プリント資料配布

参考図書 ウイーピング・ノート 織物と組織・織りの計画・織りと道具 岸田幸吉著 1978年10月美術出版社
手織のデザイン基礎編 長谷川麦子著 1979年9月源流社
ハンドウィーピング手織りの実習 浜野義子 田中佳子 太作星乃 田中通子共著 1984年9月文化出版局

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】「衣」「住」について専門的知識・技術的を有している。グローバルな視点から「衣」「住」の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。
【技能・表現】「衣」「住」のテキスタイルの学びを深め、課題解決に必要な情報蒐集・分析・整理できる技能を身につけている。

学生へのメッセージ 織り実習では織り機を1人1台使用します。毎回違った作業をするので出来るだけ遅刻欠席のないようにしてください。作品作りの為の資料集めを積極的に行ってください。画像を検索したり、図書館、書店、ファッション、インテリアの専門店に行き、情報蒐集すること。糸は原則自分で購入してください。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は染織作家として実務経験を有している。作品制作を行い個展の開催や商品の販売を行っており制作について指導することができる。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ハンドクラフト演習A		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 顧 真源	指定なし

ナンバリング	D32306M22
授業概要(教育目的)	近年衣料素材としての使用量が急増している(編物)について、その特性や製造方法を理解するため、経編の基礎としてかぎ針編と緯編の基礎として棒針編みについて学び、ニット製品の規格に必要な編技法の基礎知識を習得させることを目的とする。
履修条件	特に無し

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1、技術的な観点で編みを説明することができる。 2、編み物の種類を把握することができる。
思考・判断の観点 (K)	1、編糸の選択、編み方の組み合わせをバランスよく組み合わせることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1、自らクリエイティブな発想をしようと日常的に意識することができる。
技術・表現の観点 (A)	1、編み物をする際に、キレイに見せるための段取りや力加減が調整できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	講義	編み物は大きく分けると、経編の基礎としてかぎ針編と緯編の基礎として棒針編この二種類がある。それぞれの技法の説明と特徴についての講義と、作品制作のサンプルを提示する。	授業で配分したプリントを読むこと。道具や糸を準備すること。	60分
第2回	かぎ針編み	かぎ針の持ち方と糸のかけ方について説明する。正しい持ち方とかけ方を覚えとくと、指が疲れず、スムーズに編める。その後、「作り目」の種類とそれぞれの編み方を説明し演習する。	授業で配分したプリントを読むこと。 作り目の編み方を練習すること。	120分
第3回	基本の編み方	平編みで編む・中心から編む・だ円に編む・立体に編むなどの基本的な編み方を説明し演習する。	基本的編み方を練習しサンプルを作ること。	140分
第4回	制作	基本の編み方でコースターを作る。	コースターを制作すること。	140分
第5回	応用	編み込み模様の編み方・モチーフ編みの編み方・ビーズの編み込み方を演習する。	デザインを考えること。	120分

第6回	制作	モチーフ編みでマットを作る。	作品を制作すること。	140分
第7回	講評	かぎ針編み作品の講評と棒針編みの説明。	授業で配分したプリントを読むこと。	60分
第8回	棒針編み	棒針の持ち方と糸のかけ方について説明する。6種類の基本的編み方を説明し演習する。	6枚の編み地を作ること。	120分
第9回	制作	それぞれの基本的編み方で編み地を作る。	6枚の編み地を作ること。	120分
第10回	応用	編み込み模様を編む・目を増やす・目を減らすなどを演習する。	それぞれの編み方を練習すること。	120分
第11回	制作	ロシアの編み作家であるオルガさんの作品の紹介。並びに、オルガさんの作品の編み方を演習する。	プリントを読むこと。デザインを考えること。	120分
第12回	制作	⑪で学んだ編み方を選んで組み合わせ、作品を作る。	作品を制作すること。	140分
第13回	制作	編みの手順に沿って作業を進める。	作品を制作すること。	140分
第14回	制作	編みの手順に沿って作業を進める。制作した作品がどのように使われるべきか、あるいはどのように展示されるべきか検討する。	作品を制作すること。展示方法を考えること。	140分
第15回	鑑賞と講評	仕上がった作品を展示することで、作品の見え方、環境が変化することを実感することは重要である。テキスタイルが生活にとってどのような役割であるかを検証する。	作品をディスプレイしておくこと。これまでの授業内容を復習しておくこと。	120分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	毎回授業の最後にレジュメを提出する。質問等がある場合には、次の授業にで回答する。
評価方法	・作品からは色と模様とリズムのバランスを見て評価する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レジュメ	○	○	○	
作品	○	○		○

評価割合	出席 (30%) 及び作品 (70%) で評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	適宜プリントを配付。
参考図書	「棒針編みの教科書」 「かぎ針編みの教科書」
ディプロマポリシーとの関連	【思考・判断】 技術的背景からデザインを語れる。 【技術・表現】 オリジナリティ溢れる表現を身につける。
学生へのメッセージ	やってみたら簡単なことばかりなので、一緒にチャレンジしてみましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、型染デザイナーとして実務経験を有りしており、個人的に作家活動を行っている。生地制作と、生地を日用品にする制作の両方を行っており、広い視野で制作について指導することができる。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	Practical English C		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ フィッシャー 麗子	指定なし

ナンバリング	D34104M22
授業概要(教育目的)	英語を使った教室指導を通して、英語によるコミュニケーション能力を養っていく。授業は英語で行われ、英語でタスクを達成したり、自分の考えが述べられるように訓練していく。また、英語を使ったコミュニケーション時の態度、及び英語圏の国の習慣、文化についても学び使える英語 (Practical English) を身に着けていく。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	観察と分析を通して英語圏で使われている英語表現をその背景にある文化・習慣などを理解しながら学ぶ。
思考・判断の観点 (K)	それぞれ与えられた状況に対応できる適切な表現方法を身に着けていく。
関心・意欲・態度の観点 (V)	他国の文化や習慣の違いに関心を持ち、意欲的かつ積極的に理解を深めていく態度を養う。
技術・表現の観点 (A)	このコースで学んだ英語表現のスキルを活かして、積極的に会話をしたり自分の意見を述べたり口頭発表する。

学習計画

Practical English C

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	授業内容の説明 会話の中での自己紹介のコツを学び練習していく。	授業で学んだ表現方法を復習する。	45分
第2回	スピーチアクト: 挨拶とSmall talk 1	会話 (Small talk) の始め方、続け方、終わり方などのコツ・テクニクを学び練習する。前回で学んだ自己紹介も会話の中で練習する。 日記DAY 1 (授業の感想、反省、自己評価等簡単な表現を用いて日記を書く。)	授業で学んだ表現方法を復習する。 授業内で終わらなかった日記を終わらせてくる。	45分
第3回	スピーチアクト: 挨拶とSmall talk 2	前回の授業内容を復習しながらさらに会話を上手に続けていくためのコツ・テクニクを学び練習する。また映画から挨拶、会話の場面を観察かつ分析し、文化や習慣の背景を比べながら適切な表現を学んでいく。 日記DAY 2	授業で学んだ表現方法を復習する。 日記を終わらせてくる。	45分
第4回	スピーチアクト: 挨拶	復習も兼ねていろんな立場に適應できるSmall talkを練習していく。グループに分かれロールプレーをしながら	授業で学んだ表現方法を復習する。	45分

	とSmall talk 3	表現を自分のものとしていく。 日記DAY 3	日記を終わらせてくる。	
第5回	スピーチアクト：褒めると感謝1	映画の場面から褒めたり感謝をしたりの表現を学ぶ。またその文化や習慣の背景を観察・分析し、理解を深めながら適切な表現を学んでいく。 日記DAY 4	授業で学んだ表現方法を復習する。 日記を終わらせてくる。	45分
第6回	スピーチアクト：褒めると感謝2	前回の授業内容に加えてさらに表現方法を学びまた受け答えの表現も練習していく。レッスン1から5までに学んだ表現を復習しながらSmall talkがスムーズにできるように練習する。日記DAY 5	授業で学んだ表現方法を復習する。 日記を終わらせてくる。	45分
第7回	Small talk 4	自分の事をもう少し具体的に説明できるように、準備と練習する。日記DAY 6	自分の話をまとめる。 日記を終わらせてくる。	45分
第8回	Small talk 5	会話の中で自分の事を話したり相手の話を聞いたり、加えて相手に質問したり、された質問に対してどう返答していくかの練習もしていく。日記DAY 7	授業で学んだ事を復習する。 日記を終わらせてくる。	45分
第9回	復習 1	レッスン8までに学んだ会話のテクニックと表現を全部使いグループでロールプレーをする。クラスで評価しあう。 日記DAY 8	授業で学んだ事を復習する。 日記を終わらせてくる。	45分
第10回	スピーチアクト：招待と返答1	映画の場面から招待をするまたされる表現を学び、また簡単な返答の表現を学ぶ。またその文化や習慣の背景を観察・分析し、理解を深めながら適切な表現を学んでいく。 日記DAY 9	授業で学んだ表現方法を復習する。 日記を終わらせてくる。	45分
第11回	スピーチアクト：招待と返答2	前回の授業で学んだ表現を復習しながらさらに加えての表現方法を学び練習していく。ロールプレーをしながら表現を自分のものとしていく。日記DAY 10	授業で学んだ表現方法を復習する。 日記を終わらせてくる。	45分
第12回	スピーチアクト：拒否と断り1	映画の場面から英語圏ではどのような断りの表現を使っているか学ぶ。またその文化や習慣の背景を観察・分析し、理解を深めながら適切な表現を学んでいく。日記DAY 11	授業で学んだ表現方法を復習する。 日記を終わらせてくる。	45分
第13回	スピーチアクト：拒否と断り2	前回の授業で学んだ表現を復習しながらさらに加えての表現方法を学び練習していく。ロールプレーをしながら表現を自分のものとしていく。日記DAY 12	授業で学んだ表現方法を復習する。 日記を終わらせてくる。	45分
第14回	スピーチアクト：依頼と返答1	映画の場面から依頼の表現を学ぶ。またその文化や習慣の背景を観察・分析し、理解を深めながら適切な表現を学ぶ。 日記DAY 13	授業で学んだ表現方法を復習する。 日記を終わらせてくる。	45分
第15回	スピーチアクト：依頼と返答2	前回の授業で学んだ表現を復習しながらさらに加えての表現方法を学び練習していく。ロールプレーをしながら表現を自分のものとしていく。日記DAY 14	授業で学んだ表現方法を復習する。 日記を終わらせてくる。	45分
第16回	復習 2	レッスン10~15で学んだスピーチアクト：招待、依頼、返答の仕方を復習。日記DAY 15	授業で学んだ表現方法を復習する。 日記を終わらせてくる。	45分
第17回	Email 1 メールを出す。	メールのコツとテクニック入門。メールにて依頼・招待のやり取りをする。クラスメートに出すカジュアルなスタイルから先生に出すフォーマルな書き方を学ぶ。	Emailを書く。	45分
第18回	Email 2 メールで返答する	前日に引き続きメールの書き方の練習をする。今回は受けたメールに対して適切な返答の書き方を学び練習する。 日記DAY 16	Emailを書く。	45分
第19回	課題発表 1	課題：期末試験として口頭発表する課題の計画、また準備に取り掛かる。	第26回の授業までに資料を集める。	45分
第20回	スピーチアクト：苦情と謝罪1	映画の場面から苦情と謝罪の表現を学ぶ。またその文化や習慣の背景を観察・分析し、理解を深めながら適切な表現を学ぶ。日記DAY 17	授業で学んだ表現方法を復習する。 日記を終わらせてくる。	45分
第21回	スピーチアクト：苦情と謝罪2	前回の授業で学んだ表現を復習しながらさらに加えての表現方法を学び練習していく。ロールプレーをしながら表現を自分のものとしていく。日記DAY 18	授業で学んだ表現方法を復習する。 日記を終わらせてくる。	45分
第22回	スピーチアクト：苦情と謝罪3	復習しながらいろんなシチュエーションに適する表現法を練習する。 日記DAY 19	授業で学んだ表現方法を復習する。 日記を終わらせてくる。	45分
第23回	スピーチアクト：アドバイスと提案1	映画の場面からアドバイスと提案の表現を学ぶ。またその文化や習慣の背景を観察・分析し、理解を深めながら適切な表現を学ぶ。日記DAY 20	授業で学んだ表現方法を復習する。 日記を終わらせてくる。	45分

第24回	スピーチ アクト：アド バイスと提 案2	前回の授業で学んだ表現を復習しながらさらに加えての表現方法を学び練習していく。ロールプレーをしながら表現を自分のものとしていく。日記DAY 2 1	授業で学んだ表現方法を復習する。 日記を終わらせてくる。	45分
第25回	復習 3	レッスン20~24で学んだスピーチアクト：苦情、謝罪、アドバイスと提案の復習。 日記DAY 2 2	授業で学んだ事を復習する。 日記を終わらせてくる。	45分
第26回	課題発表 2	課題発表のために集めた資料をもとに発表の準備に取り掛かる。発表時にクラスに配布する資料を作成する。	授業内で作り始めた資料の内容を見直す。	45分
第27回	課題発表 3	課題発表で役に立つプレゼンテーション表現を学び、口頭発表の原稿を作成し練習する。	原稿を完成させる。	45分
第28回	課題発表 4	プレゼンテーションの最終準備をする。	課題発表の練習。	45分
第29回	課題発表 5	それぞれのグループが課題発表をする。	授業全体を復習・反省し日記を書く準備をする。	45分
第30回	復習と反省	日記DAY 2 3：今学期を顧みて反省と自己評価を書く。グループで又はクラス全体でディスカッションをする。	授業全体の復習	45分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合に寄ってスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	授業内でアクティビティ事に必要に応じてフィードバックをする。また反省日記にフィードバックを書く。
評価方法	授業で与えられる課題（例 ワークシート等） ミニスピーチ[自分の事を話そう] Eメール [リクエスト/招待、返答] 反省日記 課題発表 [スピーチアクトを観察・解析]

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業で与えられる課題	○	○	○	○
ミニスピーチ		○	○	
Eメール	○	○		○
日記		○	○	
課題発表	○	○	○	○

評価割合	20% 授業で与えられる課題 10% ミニスピーチ 10% Eメール 30% 日記 30% 課題発表
------	--

使用教科書名 (ISBN番号)	なし
-----------------	----

参考図書	なし
------	----

ディプロマポリシーとの関連	「知識・理解」コミュニケーション・情報の分野について、専門的知識・技術を有している またグローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる 「思考・判断」社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができるまた、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。 「技能・表現」社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている
---------------	---

学生へのメッセージ	この授業では英語を今までとは違った角度から学んでいきます。英文法をあまり気にせず一旦横に置いてまずは話してみましょう。積極的に授業のアクティビティに参加して英語を話す練習に取り組んでください。復習はとても大切です。
-----------	---

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	講師は英語圏に在住経験があり、そこで得た語学、文化や日常生活、習慣等を多分に授業に盛り込み、また自らの経験を生かした授業内容にしている。
アクティブ・ラーニング	○	授業は生徒がInputされた内容を観察、解析、応用、そして練習することでその場に適した英語表現を身につけるように計画されている。

情報リテラシー 教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	Practical English D		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ フィッシャー 麗子	指定なし

ナンバリング	D34105M22
授業概要(教育目的)	英語を使った教室指導を通して、英語によるコミュニケーション能力を養っていく。授業は英語で行われ、英語でタスクを達成したり、自分の考えが述べられるように訓練していく。また、英語を使ったコミュニケーション時の態度、及び英語圏の国の習慣、文化についても学び使える英語 (Practical English) を身に着けていく。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	観察と分析を通して英語圏で使われている英語表現をその背景にある文化・習慣などを理解しながら学ぶ。
思考・判断の観点 (K)	それぞれ与えられた状況に対応できる適切な表現方法を身に着けていく。
関心・意欲・態度の観点 (V)	他国の文化や習慣の違いに関心を持ち、意欲的かつ積極的に理解を深めていく態度を養う。
技術・表現の観点 (A)	このコースで学んだ英語表現のスキルを活かして、積極的に会話をしたり自分の意見を述べたり口頭発表する。

学習計画

Practical English D

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	授業内容の説明 会話の中での自己紹介のコツを学び練習していく。	授業で学んだ表現方法を復習する。	45分
第2回	スピーチアクト: 挨拶と Small talk 1	会話 (Small talk) の始め方、続け方、終わり方などのコツ・テクニックを学び練習する。前回で学んだ自己紹介も会話の中で練習する。 日記DAY 1 (授業の感想、反省、自己評価等簡単な表現を用いて日記を書く。)	授業で学んだ表現方法を復習する。 授業内で終わらなかった日記を終わらせてくる。	45分
第3回	スピーチアクト: 挨拶と Small talk 2	前回の授業内容を復習しながらさらに会話を上手に続けていくためのコツ・テクニックを学び練習する。また映画から挨拶、会話の場面を観察かつ分析し、文化や習慣の背景を比べながら適切な表現を学んでいく。 日記DAY 2	授業で学んだ表現方法を復習する。 日記を終わらせてくる。	45分
第4回	スピーチア	復習も兼ねているんな立場に適應できるSmall talkを練	授業で学んだ表現方法を復習す	45分

	クト： 挨拶と Small talk 3	習していく。グループに分かれロールプレーをしながら表現を自分のものとしていく。 日記DAY 3	る。 日記を終わらせてくる。	
第5回	スピーチアクト： 褒めると感謝1	映画の場面から褒めたり感謝をしたりの表現を学ぶ。またその文化や習慣の背景を観察・分析し、理解を深めながら適切な表現を学んでいく。 日記DAY 4	授業で学んだ表現方法を復習する。 日記を終わらせてくる。	45分
第6回	スピーチアクト： 褒めると感謝2	前回の授業内容に加えてさらに表現方法を学びまた受け答えの表現も練習していく。レッスン1から5までに学んだ表現を復習しながらSmall talkがスムーズにできるように練習する。日記DAY 5	授業で学んだ表現方法を復習する。 日記を終わらせてくる。	45分
第7回	Small talk 4	自分の事をもう少し具体的に説明できるように、準備と練習する。日記DAY 6	自分の話をまとめる。 日記を終わらせてくる。	45分
第8回	Small talk 5	会話の中で自分の事を話したり相手の話を聞いたり、加えて相手に質問したり、された質問に対してどう返答していくかの練習もしていく。日記DAY 7	授業で学んだ事を復習する。 日記を終わらせてくる。	45分
第9回	復習 1	レッスン8までに学んだ会話のテクニックと表現を全部使いグループでロールプレーをする。クラスで評価しあう。 日記DAY 8	授業で学んだ事を復習する。 日記を終わらせてくる。	45分
第10回	スピーチアクト： 招待と返答1	映画の場面から招待をするまたされる表現を学び、また簡単な返答の表現を学ぶ。またその文化や習慣の背景を観察・分析し、理解を深めながら適切な表現を学んでいく。 日記DAY 9	授業で学んだ表現方法を復習する。 日記を終わらせてくる。	45分
第11回	スピーチアクト： 招待と返答2	前回の授業で学んだ表現を復習しながらさらに加えての表現方法を学び練習していく。ロールプレーをしながら表現を自分のものとしていく。日記DAY 10	授業で学んだ表現方法を復習する。 日記を終わらせてくる。	45分
第12回	スピーチアクト： 拒否と断り1	映画の場面から英語圏ではどのような断りの表現を使っているか学ぶ。またその文化や習慣の背景を観察・分析し、理解を深めながら適切な表現を学んでいく。日記DAY 11	授業で学んだ表現方法を復習する。 日記を終わらせてくる。	45分
第13回	スピーチアクト： 拒否と断り2	前回の授業で学んだ表現を復習しながらさらに加えての表現方法を学び練習していく。ロールプレーをしながら表現を自分のものとしていく。日記DAY 12	授業で学んだ表現方法を復習する。 日記を終わらせてくる。	45分
第14回	スピーチアクト： 依頼と返答1	映画の場面から依頼の表現を学ぶ。またその文化や習慣の背景を観察・分析し、理解を深めながら適切な表現を学ぶ。 日記DAY 13	授業で学んだ表現方法を復習する。 日記を終わらせてくる。	45分
第15回	スピーチアクト： 依頼と返答2	前回の授業で学んだ表現を復習しながらさらに加えての表現方法を学び練習していく。ロールプレーをしながら表現を自分のものとしていく。日記DAY 14	授業で学んだ表現方法を復習する。 日記を終わらせてくる。	45分
第16回	復習 2	レッスン10~15で学んだスピーチアクト：招待、依頼、返答の仕方を復習。日記DAY 15	授業で学んだ表現方法を復習する。 日記を終わらせてくる。	45分
第17回	Email 1 メールを出す。	メールのコツとテクニック入門。メールにて依頼・招待のやり取りをする。クラスメートに出すカジュアルなスタイルから先生に出すフォーマルな書き方を学ぶ。	Emailを書く。	45分
第18回	Email 2 メールで返答する	前日に引き続きメールの書き方の練習をする。今回は受けたメールに対して適切な返答の書き方を学び練習する。 日記DAY 16	Emailを書く。	45分
第19回	課題発表 1	課題：期末試験として口頭発表する課題の計画、また準備に取り掛かる。	第26回の授業までに資料を集める。	45分
第20回	スピーチアクト： 苦情と謝罪1	映画の場面から苦情と謝罪の表現を学ぶ。またその文化や習慣の背景を観察・分析し、理解を深めながら適切な表現を学ぶ。日記DAY 17	授業で学んだ表現方法を復習する。 日記を終わらせてくる。	45分
第21回	スピーチアクト： 苦情と謝罪2	前回の授業で学んだ表現を復習しながらさらに加えての表現方法を学び練習していく。ロールプレーをしながら表現を自分のものとしていく。日記DAY 18	授業で学んだ表現方法を復習する。 日記を終わらせてくる。	45分
第22回	スピーチア	復習しながらいろんなシチュエーションに適する表現法	授業で学んだ表現方法を復習す	45分

	クト： 苦情と謝罪 3	を練習する。 日記DAY 1 9	る。 日記を終わらせてくる。	
第23回	スピーチア クト： アドバイス と提案 1	映画の場面からアドバイスと提案の表現を学ぶ。またその文化や習慣の背景を観察・分析し、理解を深めながら適切な表現を学ぶ。日記DAY 2 0	授業で学んだ表現方法を復習する。 日記を終わらせてくる。	45分
第24回	スピーチア クト： アドバイス と提案 2	前回の授業で学んだ表現を復習しながらさらに加えての表現方法を学び練習していく。ロールプレーをしながら表現を自分のものとしていく。日記DAY 2 1	授業で学んだ表現方法を復習する。 日記を終わらせてくる。	45分
第25回	復習 3	レッスン 2 0 ~ 2 4 で学んだスピーチアクト：苦情、謝罪、アドバイスと提案の復習。 日記DAY 2 2	授業で学んだ事を復習する。 日記を終わらせてくる。	45分
第26回	課題発表 2	課題発表のために集めた資料をもとに発表の準備に取り掛かる。発表時にクラスに配布する資料を作成する。	授業内で作り始めた資料の内容を見直す。	45分
第27回	課題発表 3	課題発表で役に立つプレゼンテーション表現を学び、口頭発表の原稿を作成し練習する。	原稿を完成させる。	45分
第28回	課題発表 4	プレゼンテーションの最終準備をする。	課題発表の練習	45分
第29回	課題発表 5	それぞれのグループが課題発表をする。	授業全体を復習・反省し日記を書く準備をする。	45分
第30回	復習と反省	日記DAY 2 3：今学期を顧みて反省と自己評価を書く。グループで又はクラス全体でディスカッションをする。	授業全体の復習	45分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合に寄ってスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法 授業内でアクティビティ事に必要に応じてフィードバックをする。また 反省日記にフィードバックを書く。

評価方法 授業で与えられる課題 (例 ワークシート等)
ミニスピーチ [自分の事を話そう]
Eメール [リクエスト/招待、返答]
反省日記
課題発表 [スピーチアクトを観察・解析]

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業で与えられる課題	○	○	○	○
ミニスピーチ		○	○	
Eメール	○	○		○
日記		○	○	
課題発表	○	○	○	○

評価割合 20% 授業で与えられる課題
10 % ミニスピーチ
10 % Eメール
30% 日記
30% 課題発表

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連

「知識・理解」コミュニケーション・情報の分野について、専門的知識・技術を有している またグローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる

「思考・判断」社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができるまた、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。

「技能・表現」社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている。

学生へのメッセージ この授業では英語を今までとは違った角度から学んでいきます。英文法をあまり気にせず一旦横に置いてまずは話してみましょう。積極的に授業のアクティビティに参加して英語を話す練習に取り組んでください。復習はとても大切です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	講師は英語圏に在住経験があり、そこで得た語学、文化や日常生活、習慣等を多分に授業に盛り込み、また自らの経験を生かした授業内容にしている。
アクティブ・ラーニング	○	授業は生徒がInputされた内容を観察、解析、応用、そして練習することでその場に適した英語表現を身に着けるように計画されている。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	日本語教育法		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森 朋子	指定なし

ナンバリング	D34107M21
授業概要(教育目的)	「日本語教育」とは、「日本語を母語としない人」に日本語を教える教育のことである。授業では日本語学習者の多様性、シラバスや教授法、外国語として見た日本語の特徴、を学び、日本語教育における基礎的な力を養っていく。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

観点	目標
知識・理解の観点 (K)	日本語教育に関する基礎的な知識を学び、理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	日本語教育および外国語教育の諸課題について分析的に考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日本語教育に関心・意欲を持って、積極的に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	問題解決に必要な情報を収集・分析・整理した上で、分かりやすく他者に伝えることができる。

学習計画

第1回

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	日本語学習者の多様性、日本語教育とは何か	日本国内外の日本語学習者について、国籍、人数、年齢、学習目的等の点から学ぶ。また、日本語教育とは何かを学び、外国語教育の必要性について考察していく。	自分の周辺にいる日本語学習者についての情報をまとめる。	180
第2回	学習者のニーズおよびレディネス	外国語教育における学習者のニーズとレディネスについて学び、様々なケースについて分析していく。	これまで受けた外国語の授業で「何」を学んだのかをリストアップしてくる。	180
第3回	シラバス1	シラバスとは何かを学んだ上で、構造的シラバス、場面的シラバスについて学ぶ。それぞれの長所・短所、適する学習者についてグループで分析する。	構造的シラバスおよび場面的シラバスで作成された日本語教科書の1課がどのような構成になっているかを分析する。	180
第4回	シラバス2	機能的シラバス、トピックシラバス、スキルシラバス、タスクシラバスについて学び、それぞれの長所・短所、	それぞれのシラバスを中心に作成された日本語教科書につい	180

		適する学習者についてグループで分析する。	て、1課がどのような構成になっているかを分析する。	
第5回	シラバス3	複合シラバスについて学び、シラバス決定の際の留意点を考える。日本語の教科書の構成がシラバスによってどのように違っているかをグループごとに発表する。	これまで受けた外国語のクラスではどのように授業が進んでいたかをまとめる。	180
第6回	外国語教授法1	外国語教授法のうち文法訳読法とオーディオ・リンガル法のミニ・レッスンを受ける。それぞれの長所・短所および適する学習者についてグループで分析し、理論と実践、および結果のつながりについて考えていく。	コミュニケーションで使えるようになるためには、どのような方法で外国語を学べば効果的かを考える。	180
第7回	外国語教授法2	コミュニケーション・アプローチのミニ・レッスンを受け、長所・短所、および文法訳読法およびオーディオ・リンガル法との違いについてグループで分析する。また、どのような工夫で教室活動をコミュニケーションにできるかを考えていく。	外国人力士の日本語がなめらかで自然である理由を考える。	180
第8回	中間試験（ここまでの振り返り）	日本語教育とは何か、日本語学習者の多様性、ニーズ、レディネス、シラバスデザイン、教授法（文法訳読法・オーディオリンガル法）について、学んだ知識を活かして分析する。	中間試験で十分に分析できなかったところを復習する。	180
第9回	外国語教授法3	中間試験の振り返りを行う。コンプリヘンション・アプローチのミニ・レッスンを受け、長所・短所および適する学習者についてグループで分析する。また、教授法を決める上での留意点について学ぶ。	ニーズ、レディネス、目的の異なる学習者について、どの教授法が適するのかを考える。	180
第10回	日本語の音声の特徴と教え方	日本語の音声の特徴をグループで分析した上で、母語別にどのような音を苦手とするのかを考える。	日本語非母語話者にはどのようなアクセントの特徴があるのかを考えてくる。	180
第11回	日本語のアクセントの特徴と教え方	日本語のアクセントの特徴をグループで分析した上で、どのように教えるのが効果的かを考える。	日本語の文字にはどのような種類があり、どのように使い分けられているかを考える。	180
第12回	日本語の文字の特徴と教え方	日本語の文字の特徴についてグループで分析した上で、どのように教えるのが効果的なのかを考える。	日本語の語彙にはどのような種類があり、どのように使い分けられているかを考える。	180
第13回	日本語の文法の特徴	日本語の文法の特徴についてグループで分析した上で、日本語学習者にとって難解となるポイントを考える。	授業で取り上げなかった日本語文法を分析する。	180
第14回	日本語の文法の教え方	日本語の文法の教え方について、文法項目ごとにグループで検討した上で、効果的な教え方について考える。	日本的だと感じる言語コミュニケーションについてリストアップする。	180
第15回	まとめ	日本語コミュニケーションについてグループで分析した上で、どのような点が学習者に難しいのかを考える。	9回～15回までの授業内容を復習し、期末試験に備える。	180

学生へのフィードバック方法 口頭および書面でのコメント

評価方法 中間試験・期末試験（主に学んだ知識を使って分析する力を評価する）
平常点（授業およびグループディスカッションでの発言、取り組みの姿勢を評価する）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間試験・期末試験	○	○		○
平常点	○	○	○	○

評価割合 中間試験40% 期末試験40% 平常点20%

使用教科書名 (ISBN番号) なし

ディプロマポリシーとの関連
【知識・理解の観点】日本語教育に関する基礎的な知識を学び、理解を深める。
【思考・判断の観点】日本語教育および外国語教育の諸課題について分析的に考えることができる。
【関心・意欲・態度の観点】言語教育に関心・意欲を持って、積極的に取り組むことができる。
【技術・表現の観点】問題解決に必要な情報を収集・分析・整理した上で、分かりやすく他者に伝えることができる。

オフィスアワー 月曜日5限 水曜日4限（前期）

学生へのメッセージ 日本が多文化共生社会となる上で、日本語教育は重要な要素です。身近な問題として考えていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題達成を自主的に進める。ディスカッションを行う。
情報リテラシー教育	○	図書館やインターネットで情報を収集する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	比較文化論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 柳下 実	指定なし

ナンバリング	D34108M21
授業概要(教育目的)	本科目ではジェンダー・家族を事例に、日本と他国の比較を通して文化の多様性を映像なども用いて学ぶ。まず自文化・他文化を比較する議論を概観し、ジェンダー・セクシュアリティの視角を詳説する。次に家族・結婚・睡眠などの多様性を日本・欧米の事例から検討する。最後に日本社会における文化の多様化を検討し、異文化間コミュニケーションの前提であるさまざまな文化とその社会的背景について学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	コミュニケーションの前提となる文化について、比較の視点をやしなう。
思考・判断の観点 (K)	文化によって生じる社会の諸問題について考察できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	文化から生じる諸問題に関心を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる基礎を身につけることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	比較文化論とは?	比較文化とは何か、異文化間コミュニケーションにおいて自文化について批判的に考察する重要性について議論する。全15回の授業内容と評価方法を確認する。	身の回りで文化と考えられるものを探す。	180
第2回	自文化・他文化・サブカルチャー	自文化と他文化との文化間の比較や自文化内の比較の基礎について学ぶ。また、主たる文化の中に形成される下位文化、いわゆるサブカルチャーについても取り扱う。	身の回りのサブカルチャーや文化の差の例を集める。	180
第3回	文化統合・グローバル化	さまざまな文化が繁栄してきた一方で、現代社会では中心的な文化の支配が強まりつつある。今回は文化の差を減らす文化統合やグローバル化について概説する。	文化統合やグローバル化が引き起こす諸問題を挙げる。	180
第4回	ジェンダーとセクシュアリティ1	ジェンダーとは何か、ジェンダー視点とは何かを議論する。男性や女性であること、また男性・女性間の格差など、ジェンダーは比較文化のキー概念の一つである。比較文化の方法とジェンダー概念が同時に発展してきた歴史をたどる。	大学生活や今後出会う男女差や違いを列挙する。	180
第5回	ジェンダー	セクシュアリティとは何か、セクシュアリティの視点の	セクシュアリティの差や同質化	180

	とセクシュアリティ2	重要性を議論する。LGBTなど性的指向によって格差が生じるかどうかは社会によって異なり、セクシュアリティも比較文化の重要な切り口である。	が身の回りで生じていないか調べる。	
第6回	ジェンダーとセクシュアリティ3	ジェンダーとセクシュアリティについて具体例を通して学ぶ。ジェンダーに関するドキュメンタリーとセクシュアリティに関するドキュメンタリーを視聴し、討論する。	ジェンダーやセクシュアリティの差が文化とどのような関連にあるかを考察する。	180
第7回	結婚の多様性——日本	日本における結婚がどのように変化してきたのかを示す。江戸時代・明治維新から第二次大戦前・第二次大戦後から現在まで日本社会における結婚の位置を描く。現代の問題として、晩婚化・未婚化や法律婚・非法律婚（事実婚・同棲）の問題を取り上げる。	自分が思い描く結婚と実際の「結婚」との差を考察する。	180
第8回	結婚の多様性——アメリカ	アメリカは同棲や離婚、またひとり親の問題でも先進諸国のトップを走ってきた。現代のアメリカにおける結婚と夫婦生活を取り上げ、日本社会との違いを浮き彫りにする。	アメリカの社会制度と日本の社会制度との差を考察する。	
第9回	結婚の多様性——ヨーロッパ	ヨーロッパでは結婚はどのように扱われているのだろうか。ヨーロッパにおいても同棲や同性婚などさまざまな制度的変革が生じている。また、ヨーロッパの中でもイタリア・スペインなどの南欧や、フランス・ドイツの中欧、スウェーデン・デンマークなどの北欧では異なった変化がみられる。比較文化の視点からヨーロッパ内の差にも留意して議論する。	ヨーロッパの社会制度と日本の社会制度との差を考察する。	180
第10回	家族の多様性——日本	現代日本社会において家族とは何か？父親と母親がいて、子どもが二人いる家族は典型家族と呼ばれてきたが、果たしてそれはいつ典型なのか（だったのか）？現代日本社会における家族について、比較文化の視点からその多様性を検討する。	現代日本社会そしてこれからの日本社会における家族について考察する。	
第11回	家族の多様性——アメリカ・ヨーロッパ	日本の家族とは異なり、アメリカやヨーロッパの家族とはどのような状況にあるのだろうか。比較文化の視点を通して、日本における家族を念頭にアメリカやヨーロッパの家族を取り上げる。	アメリカやヨーロッパの家族と日本の家族のあり方とを比較する。	180
第12回	日本における家族の多様化に伴う社会制度的問題	日本社会においても、二人の親と二人の子どもからなるいわゆる典型家族とは異なる世帯が増加傾向にある。日本において離婚や死別、またそれによるひとり親や高齢期の独居など、日本における家族の多様化に伴う社会制度的問題について議論する。	家族の多様化が自分とどのような関連にあるかを考察する。	180
第13回	日本の睡眠	最後に身近な題材として睡眠に注目する。外国においては日本における睡眠が異様であるとして取り上げられることがある。特に、異様と映る「居眠り」に関して比較文化の視点から日本の睡眠を考察する。	自分の睡眠について振り返る。	180
第14回	他国の睡眠	他国では睡眠は日本とどのように違うのか？比較文化の視点から東アジア・ヨーロッパ・アメリカにおける睡眠について文化によって差がある一方で、グローバル化によって差がなくなる傾向もあることを取り上げる。また、ジェンダー差についても議論する。	他国の睡眠と日本の睡眠との差を考察する。	180
第15回	総括	授業全体の内容を総括する。比較文化の視点がどのように異文化コミュニケーションに生かせるのかを考察する。	授業を通して、異文化コミュニケーションの基礎である諸文化とその社会的背景について学んだことをまとめる。	180

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法 コメントペーパーは次回の授業で一部を紹介し、コメントする。

評価方法 ・コメントペーパーは、授業内で提示する課題に対する考察や意見を記入するものとする。
・定期試験は、1～15回の各テーマに関して、授業内でポイントとした部分を中心とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○	○	○
コメントペーパー	○	○	○	○

評価割合 定期試験70%、平常点・コメントペーパー等を含む授業参加30%

参考図書	西野理子・米村千代、2019、『よくわかる家族社会学』ミネルヴァ書房。
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 コミュニケーションの前提となる文化について、比較の視点をやしなう。</p> <p>【思考・判断】 文化によって生じる社会の諸問題について考察できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】 文化から生じる諸問題に関心を持つことができる。</p> <p>【技能・表現】 課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる基礎をみにつけることができる。</p>
オフィスアワー	授業内容に関する質問は授業時間内に受け付ける。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題達成を自主的に進める。
情報リテラシー教育	○	図書館やインターネットで情報を検索し、まとめる。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	多文化共生		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 高橋 誠一	指定なし

ナンバリング	D34109M21
授業概要(教育目的)	グローバル化が進む現代社会では、日常生活のさまざまな場面において外国にルーツをもつ人たちと出会い、関わる機会が確実に増えている。こうした状況のなか、日本においても「多文化共生」という言葉や考え方が注目されるようになってきている。この授業では、とくに人権という観点から、あらゆる人々の多様性を尊重していく多文化共生社会のあり方やそれを実現するための方法について考える力を身につけることを目的とする。
履修条件	なし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	グローバルな視点から現代生活の諸問題を理解することができるようになる。
思考・判断の観点 (K)	現代生活の諸問題を分析し、問題解決に導く考察をすることができるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	生活者の視点に立ち、社会の諸問題に対して関心をもって取り組むことができるようになる。
技術・表現の観点 (A)	他者と議論し、その結果や自分の考えを的確に表現することができるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業の目的やねらい、評価方法、進め方などについて説明する。「多文化共生」に対して抱いているイメージを明確にする。	「多文化共生」からイメージされること／ものについて考える。	180
第2回	ヨーロッパにおける移民との共生 (1) フランス	「共和国モデル」に着目し、移民との共生について考える。	「共和国モデル」について復習し、理解を深める。	180
第3回	ヨーロッパにおける移民との共生 (2) ドイツ	「国籍法」の変化に着目し、移民との共生について考える。	日本の国籍制度について自分なりの考えをまとめる。	180
第4回	ヨーロッパ	「シティズンシップ・テスト」に着目し、移民との共生	「シティズンシップ・テスト」	180

	における移民との共生 (3) イギリス	について考える。	の有効性と課題について自分の考えをまとめる。	
第5回	難民問題について考える	難民問題の現状と背景について考える。	難民問題と自分との関わりについて考える。	180
第6回	日本における多文化共生 (1)	日本における外国人住民について、その歴史的背景・経緯や現状を知る。「言葉の壁」と「文化の違い」について考える。	自分の周りにいる外国人について想像し、考える。	180
第7回	中間試験	これまでの授業の内容をふまえ、「共生」のあり方にはさまざまなバリエーションがあることを理解する。	中間試験に向けて授業の内容を振り返り、自分の考えをまとめておく。	180
第8回	日本における多文化共生 (2)	外国人住民を対象としたアンケート調査の報告書から、外国人が抱えている課題を読み解く。グループワークを行う。	課題の分析と考察。	180
第9回	日本における多文化共生 (3)	報告書から読み解いた課題に対して、どのような取り組みや改善ができるのか／求められているのか考える。グループワークの成果を発表する。	グループワークの成果に対して、自分なりに考察を深める。	180
第10回	日本における多文化共生 (4)	外国につながる子どもたちについて、とくにアイデンティティや教育に関する問題を中心に考える。	アンケート調査の報告書を読み返す。	180
第11回	日本における多文化共生 (5)	外国人住民の存在を肯定的にとらえ、その能力や資源を活かすことに着目した多文化共生2.0という考え方について考察する。	多文化共生2.0の有効性と問題点についてまとめる。	180
第12回	多文化共生の課題	近年の排外主義の高まりやヘイトスピーチといった問題について考察することで、多文化共生の難しさや課題について考える。	多文化共生の実現のために必要なことを考える。	180
第13回	人権とは	人権についてその意義や重要性を確認するとともに、それを保障し、実現することの難しさや課題についても考察する。	人権をめぐる理想と現実について考える。	180
第14回	あらためて多文化共生を考える	「障害の社会モデル」や「LGBT」などを取りあげ、多文化共生の射程と意義についてあらためて考える。	移民／外国人以外の多文化共生について、自分の身近な例から考える。	180
第15回	まとめ	これまでの授業を振り返り、多文化共生社会のあり方やそれを実現するための方法について、それぞれが自分の考えをまとめる。	これまでの授業の内容を振り返り、自分の考えを表現できるように整理し、まとめておく。	180

学習計画注記 学生の関心や授業の展開によって若干の変更がありうる。

学生へのフィードバック方法 ディスカッション時のコメント、中間試験の採点結果の返却。

評価方法 中間試験と期末試験（授業内容についての確認と授業をふまえて自分の考えを述べる論述）
平常点（ディスカッション時の発言、グループワークの発表、授業への取り組み姿勢）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間試験	○	○	○	○
期末試験	○	○	○	○
平常点	○	○	○	○

評価割合 中間試験 (30%)
期末試験 (40%)
平常点 (30%)

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】グローバルな視点から現代生活の諸問題を理解する。
【思考・判断】現代生活の諸問題を分析し、問題解決に導く考察をする。
【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、社会の諸問題に対して関心をもって取り組む。
【技能・表現】他者と議論し、その結果や自分の考えを的確に表現する。

学生へのメッセージ	「多文化共生」という視点や考え方は、私たち一人ひとりの「生」（生き方や生活）に関わるものです。授業では一方的な講義とならないように、ディスカッションやグループワークを行い各自が「考える」ことを重視します。他者との議論を通して、自分の視野を広げ、考えを深めていってください。
-----------	--

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	ディスカッション時に自分の考えや意見を述べる。グループワークとその成果の発表。
情報リテラシー教育	○	授業の内容について理解を深めるために必要な情報を収集する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ウェブデザイン演習B		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 高嶋 章雄	指定なし

ナンバリング	D34205M22
授業概要(教育目的)	ウェブサイトは情報化社会における情報発信手段として必須のメディアである。この授業は、学生がウェブサイトデザインするための技術（HTML、CSSなど）を駆使し、サイトのコンセプト設計・デザイン・コーディング・公開を含めたウェブディレクションスキルを身につけることを目的として、演習形式で実施する。
履修条件	ウェブデザイン演習Aを履修済みであること、またはそれと同等の勉強をし、HTML、CSSに関する技術を十分理解していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報を収集・整理・分析し、表現に落とし込むことができる。 2. ウェブサイトを構成する、HTML、CSSの仕組みを説明できる。 3. ウェブサイト制作技術を用いてコーディングし、情報をウェブサイトとして表現・発信できる。

学習計画

ウェブデザイン演習B

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	ウェブディレクションの流れを把握し、学習範囲を明確にする。	ウェブサイト構成要素を確認し、PCを用いた作業の流れを把握する。	60
第2回	ウェブサイトの評価	ウェブデザインの主要原則を学び、制作者視点でウェブを閲覧する。	既存のウェブサイトからGoodデザイン&Badデザインを選び、内容をまとめる。	60
第3回	ウェブサイト設計(1)	基本的なレイアウト構成、サイトマップ、ワイヤーフレーム制作、ウェブの標準化、ユーザビリティ、アクセシビリティについて学ぶ。	設計に必要な要素を理解し、制作に試用する。	60
第4回	ウェブサイト設計	タイポグラフィ、配色、トーン&マナーについて学ぶ。デザイン案・デザイン解説書を含むデザインカンパを作	デザインカンパを試作する。	60

	(2)	成する。		
第5回	HTML・CSS (1)	ウェブデザイン演習Aで学習した、基本的なタグを用いた表現を復習する。	ボックスモデルを用いたサイトを制作する。	60
第6回	HTML・CSS (2)	ウェブデザイン演習Aで学習した、基本的なレイアウト表現を復習する。	複数のレイアウト手法によるサイトを制作する。	60
第7回	HTML・CSS (3)	ウェブデザイン演習Aで学習した、javascript、外部サービスを用いた表現を復習する。	javascriptを利用したサイト、SNS等外部ウェブサービスを埋め込んだサイトを制作する。	60
第8回	企画 (1)	制作するウェブサイトのテーマを設定する。ウェブサイト制作をプロジェクトとしてとらえ、管理する。	プロジェクト管理ツールを設定し使用する	120
第9回	企画 (2)	テーマに沿った資料を収集し、必要となるコンテンツを準備する。	企画書を制作する。資料収集・コンテンツを制作する。	120
第10回	ウェブサイト制作 (1)	テーマに沿ったウェブサイトを制作する。	プロジェクト計画に基づき、資料収集・コンテンツ制作・コーディングを実施する。	120
第11回	ウェブサイト制作 (2)	テーマに沿ったウェブサイトを制作する。	プロジェクト計画に基づき、資料収集・コンテンツ制作・コーディングを実施する。	120
第12回	ウェブサイト制作 (3)	テーマに沿ったウェブサイトを制作する。	プロジェクト計画に基づき、資料収集・コンテンツ制作・コーディングを実施する。	120
第13回	ウェブサイト制作 (4)	テーマに沿ったウェブサイトを制作する。	プロジェクト計画に基づき、資料収集・コンテンツ制作・コーディングを実施する。	120
第14回	ウェブサイト制作 (5)	テーマに沿ったウェブサイトを制作する。完成したウェブサイトをサーバーにアップロードし公開する。	プロジェクト計画に基づき、資料収集・コンテンツ制作・コーディングを実施し、完成したウェブサイトを公開する。	120
第15回	プレゼンテーション	制作したウェブサイトの内容を、他者に伝える。	プロジェクトを振り返る。	90

学習計画注記 履修者数や学生の理解度に応じてスケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法 課題等提出物に対しコメント付きで返却し、必要に応じて授業内で講評する。

評価方法

- ・ 講義時間内の作業に取り組む姿勢を平常点とし、実装の完了を以て技術の習得を確認する。
- ・ 制作したウェブサイトの実装内容と各回の作業報告をもとに、サイト完成度と作業量を確認する。
- ・ 最終報告書で、講義で学習した知識・技術を実践で活用できたかを確認し評価する。

※ウェブデザイン実務士の資格を取得する場合は、「良」以上の評価を要する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点				○
サイト完成度と作業量				○
最終報告書				○

評価割合 平常点 (20%)、制作したサイトの完成度および各自の作業量 (60%)、最終報告書 (20%) を基準とし、総合的に判断して評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) なし。必要に応じて講義関連資料を配布する。

ディプロマポリシーとの関連 【技術・表現】 テーマに沿った情報を収集・分析・整理し、ウェブサイトという媒体を通じて表現、発信できる。

学生へのメッセージ 近年、ウェブサイトは最も手軽な情報収集の手段となっている。情報の受け手としてではなく、送り手として情報を表現・発信するために、ウェブサイトを構成する技術を主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

該当有無	概要

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		一部の課題でグループワークを実施する。
情報リテラシー教育		情報の表現方法を検討し、ウェブサイトとしてアウトプットする。
ICT活用		PCを利用し、HTML・CSSのコーディングを行う。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	地域政策論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 横手 典子	指定なし

ナンバリング	D35102M21
授業概要(教育目的)	行政による政策と地域社会の関係を理解し、生活者の立場から政策のあり方を考える。更に、政策決定への市民としてのアプローチの方法について考察する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	地域政策のしくみやガバナンスを学び、地域の課題を自ら提起し解決していくための知識が身につく。
思考・判断の観点 (K)	自分の身の回りで起こる地域の問題について、地域政策の観点から考察できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	地域社会の担い手という意識をもって、政治、経済、世界など幅広い分野の社会問題に関心を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	与えられたテーマに対して自分の考えを整理し、他者に伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	講師自己紹介、講義の目的、学習計画、学習の到達点、評価の方法、参考図書紹介	当講義に期待することや学びたいことを考えておくこと	60分
第2回	地域政策の論理(地域政策とは、地域政策の歴史)	地域政策の歴史を学び、何のために地域政策があるのか理解する。 ◆グループディスカッション: 将来住みたい街	「地域政策」の定義を調べておくこと。前回授業で課題が出れば、その課題を解いておくこと。	90分
第3回	人口減少時代の地域課題1(人口減少・少子高齢化)	我が国の人口減少や少子高齢化の状況を知り、地域に及ぶ影響について学ぶ。 ◆グループディスカッション: 消滅可能性都市と消滅しない都市	前回の授業内容を復習しておくこと。前回授業で課題が出れば、その課題を解いておくこと。	90分
第4回	人口減少時代の地域課題2(工業の衰退、商	我が国の産業や商業地の状況を知り、地域に及ぶ影響について学ぶ。 ◆グループディスカッション: 商店街の今後	前回の授業内容を復習しておくこと。前回授業で課題が出れば、その課題を解いておくこと。	90分

	業地の空洞化)			
第5回	人口減少時代の地域課題3(身近な地域の課題)	身近な地域の人口動態や産業構造等を調査し、地域課題を考える。 ◆グループワーク：身近な地域の現況と課題 ◆情報リテラシー：地域経済分析システムRESASの活用 ◆ICT活用：インターネットによる情報検索、オープンデータ利用	前回の授業内容を復習しておくこと。 経産省及び内閣官房が提供する地域経済分析システムRESASについて調べておくこと(何ができるのか、どんな機能があるのか等)	90分
第6回	地域のしくみ1(国と自治体)	国や自治体の地域政策における役割を知り、私たちの暮らしを支えている制度や組織の構造を理解する。 ◆グループディスカッション：平成の大合併	前回の授業内容を復習しておくこと。前回授業で課題が出れば、その課題を解いておくこと。	90分
第7回	地域のしくみ2(自治体政策の体系)	自治体の政策体系、特に条例について学び、自治体の政策はどのようにつくられるものなのか理解する。 ◆グループワーク：様々な条例 ◆ICT活用：インターネットによる情報検索	前回の授業内容を復習しておくこと。前回授業で課題が出れば、その課題を解いておくこと。	90分
第8回	地域のしくみ3(自治体計画と財政)	自治体の計画と財政のしくみについて学び、政策実現の枠組みを理解する。 ◆グループワーク：身近な自治体の計画と事業 ◆ICT活用：インターネットによる情報検索	前回の授業内容を復習しておくこと。前回授業で課題が出れば、その課題を解いておくこと。	90分
第9回	地域のしくみ4(自治体の政策決定過程)	自治体の予算案策定ゲームを通じて政策決定過程を疑似体験し、自治体政策に対する理解を深める。 ◆グループワーク：予算案策定ゲーム	前回の授業内容を復習しておくこと。前回授業で課題が出れば、その課題を解いておくこと。	90分
第10回	地域のガバナンス1(ガバナンスと政策評価)	ガバナンスと政策評価について学び、政策選択の視点を理解する。 ◆グループディスカッション：正しい政策	前回の授業内容を復習しておくこと。前回授業で課題が出れば、その課題を解いておくこと。	90分
第11回	地域のガバナンス2(住民参加と公共意思決定)	地域政策と多様なステークホルダーの関係について学び、公共意思決定のあり方を考える。 ◆グループディスカッション：住民参加の課題	前回の授業内容を復習しておくこと。前回授業で課題が出れば、その課題を解いておくこと。	90分
第12回	地域のガバナンス3(地域の担い手)	町内会やNPO、まちづくり協議会などの役割と活動を学び、地域の担い手について理解を深める。 ◆グループワーク：身近な地域の活動団体	前回の授業内容を復習しておくこと。前回授業で課題が出れば、その課題を解いておくこと。	90分
第13回	地域の活性化方策1(地方創生と新産業)	地域創生戦略と新産業について学び、政府が主導する地域活性化の方向性を理解する。 ◆グループワーク：身近な地域の振興産業 ◆ICT活用：インターネットによる情報検索	前回の授業内容を復習しておくこと。前回授業で課題が出れば、その課題を解いておくこと。	90分
第14回	地域の活性化方策2(ソーシャルマーケティング、コミュニティビジネス)	ソーシャルマーケティングの概念を学び、その可能性と地域に与える影響を考える。 ◆グループディスカッション：稼げるまちづくり事例	前回の授業内容を復習しておくこと。前回授業で課題が出れば、その課題を解いておくこと。	90分
第15回	地域政策の今後と定期試験	講義の振り返りを行い、地域政策の潮流を学ぶ。定期試験の出題傾向を説明する。定期試験を行う。	これまでの授業内容を復習しておくこと。	90分

学習計画注記	履修者数や履修者の理解度、授業の進み具合によってスケジュールは変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	質問や意見は、毎回配布・回収するリアクションペーパーで対応します。 リアクションペーパーは、毎回の授業の終わりで配布・回収し、次の授業の冒頭で、前回授業の振り返りとともに適宜記載内容を紹介、回答などもしていきます。 またグループワークの内容は、授業の中で適宜講評、解説します。
評価方法	平常点、リアクションペーパー、定期試験の結果を点数化し合計100点として絶対評価で成績をつけます。 平常点は、グループワークやディスカッションでの発言や取り組み姿勢から、理解度、思考力、参加意欲、表現力を評価します。(中でも特に評価するのは参加意欲) リアクションペーパーは、授業の感想、興味を持ったこと、考えたこと、疑問に思ったこと、授業への要望・提案等の記載内容によって学習意欲と授業内容の理解度を測り評価します。 定期試験は、資料等の持ち込み可とし、記述式の問題を2~3問程度出題します。出題傾向については最後の授業で説明します。
評価基準	
評価基準	

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
リアクションペーパー	○		○	
定期試験	○	○		○

評価割合	平常点 (50%)、リアクションペーパー (20%)、定期試験 (30%) とします。
使用教科書名 (ISBN番号)	教科書は特に指定しません。適宜レジメやプリントを配布します。
参考図書	<p>受講に当たって購入する必要はありませんが、自主学習向けに以下の図書を紹介します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新版 地域政策入門 - 地域創造の時代に -」家中茂ほか/ミネルヴァ書房/2019年 ・「自治体の“台所”事情 “財政が厳しい”ってどういうこと?」今村寛/ぎょうせい/2018年 ・「自治体政策法務講義」磯崎初仁/第一法規/2018年・「地域政策 ベーシック+」山崎朗ほか/中央経済社/2016年 ・「“町内会”は義務ですか?～コミュニティと自由の実践～」紙屋高雪/小学館新書/2014年 ・「条例で学ぶ 政策づくり入門」牧瀬稔/東京法令出版/2009年
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】「地域・園芸・ビジネス」の分野について、専門的知識・技術を有している。</p> <p>【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。</p> <p>【技能・表現】家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。</p>
学生へのメッセージ	<p>地域政策論は、学術的に定まった定義のない、時代とともに変化していく学問です。皆さんとともに、授業も臨機応変につかっていきたいと考えていますので、臆することなく積極的に素朴な疑問や意見を挙げてください。</p> <p>なお、授業ではディスカッションやワークを多用し、手を動かしながら考えることで実践的な学びの場となることを心掛けたと思います。</p>

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	講師は、都市計画コンサルタントおよび自治体内シンクタンク勤務の経験があり、具体の政策事例や業務で使用している統計等を用いながら地域政策の理論と実務を教授します。
アクティブ・ラーニング	○	授業では学生相互のディスカッションやワークを多く行い、学生が自ら考え、それを表現し、能動的に授業に参加することを促進します。
情報リテラシー教育	○	授業では、地域政策に有用な公的機関が提供する統計ビッグデータ等を紹介し、実際に使ってみます。
ICT活用	○	グループワーク等で適宜PCを使用します。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	社会園芸		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 土橋 豊	指定なし

ナンバリング	D35103M21
授業概要(教育目的)	園芸と人間との関わりにおける社会的役割、人々の暮らしや社会を豊かにし、心に安らぎを与える園芸の効用と可能性を学修するとともに、植物を活用するうえで注意すべき有毒植物についても、具体的な事例を通して学ぶことを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 園芸と人間との関わりにおける社会的役割を説明できる。 心に安らぎを与える園芸の効用と可能性を説明できる。 植物を活用するうえで注意すべき有毒植物について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 植物および園芸により社会を豊かにするためのデザインを考察することができる。 植物を活用するうえで注意すべき有毒植物を利活用する際の留意点を考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

社会園芸

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス、「社会園芸」を学ぶにあたって	本講義の到達目標、講義内容、進め方、評価方法について説明する。社会園芸学および周辺領域学問を解説する。	本講義の到達目標についてあらかじめ理解しておく。	60分
第2回	人はなぜ花を愛でるのか	園芸療法が成り立つ前提条件として、人が植物(花)を愛でる行為について考える。	花を愛でる行為について、自身のこれまでの経験をまとめておく。	60分
第3回	「園芸」とはなにか	「園芸」とは何か、人にとってどのような意味があるかを解説する。	これまで学習した園芸に関する内容を復習しておく。	60分
第4回	社会の発展	社会の発展が園芸に及ぼす影響を、日本の明治末期～大	明治末期から大正初期の日本の	60分

	と園芸との関係	正時代の事例を基に解説する。	現状を調べておく。	
第5回	植物および園芸の効用	植物および植物を栽培する園芸により、生産的・経済的効用以外にどのような効用があるかを解説する。	植物および園芸により、私たちの生活にどのような恩恵があるかを考えておく。	60分
第6回	伝統行事に見る生活の中の植物	伝統行事の見る植物の活用、伝統行事を理解するうえで必要な旧暦について解説する。	伝統行事にはどのようなものがあるか、調べておく。	60分
第7回	幼少期における植物・園芸の役割	植物を用いた子どもの遊びと発達について解説する。	これまでに行った植物を用いた遊びについてまとめておく。	60分
第8回	QOL向上における植物・園芸の役割	植物・園芸によるQOLの向上について解説する。	QOLとは何かを調べておく。	60分
第9回	園芸活動で注意すべき植物：食中毒	園芸活動において活用する園芸植物による食中毒被害について解説する。	食中毒を引き起こす植物について調べておく。	60分
第10回	園芸活動で注意すべき植物：接触皮膚炎	園芸活動において活用する園芸植物による接触皮膚炎被害について解説する。	接触皮膚炎を引き起こす植物について調べておく。	60分
第11回	植物介在療法と園芸療法	生物介在療法における植物介在療法および園芸療法、園芸福祉の位置づけと特徴、発達史について解説する。	園芸療法、園芸福祉とは何かを調べておく。	60分
第12回	園芸療法で用いる植物	園芸療法で用いる植物の特性と活用法について解説する。	園芸療法の内容と植物との関係を調べておく。	60分
第13回	植物・園芸による五感の刺激	植物および園芸活動による五感の刺激について解説する。	これまでに植物・園芸による五感の刺激の経験をまとめておく。	60分
第14回	園芸療法の手順と評価法	園芸療法の手順と、効果に対する評価法を解説する。	園芸療法にはどのような対象者がいるのか調べておく。	60分
第15回	超高齢社会と園芸療法	超高齢社会における園芸療法の役割について解説する。最後に、本講義のまとめと最終試験を実施する。	超高齢社会と何かを調べておく。また、これまでの学習範囲を復習しておく。	120分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になることがあります。

学生へのフィードバック方法 実施した小テストおよび最終試験は、実施後に解説するとともに、小テストについては次週の授業で返却する。

評価方法 授業内の小テストは3~4回分の学習範囲とし、授業内に3回実施する。講義最終日には、最終試験を実施する。なお、合理的な理由がない限り、小テストおよび最終試験の再試験は実施しない。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○			
最終試験	○	○		

評価割合 小テスト (20%) および最終試験 (80%) で評価する。ただし、最終試験はすべての学習範囲とし、正解率が60%に満たない場合は、不可とする。

使用教科書名 (ISBN番号) 人もペットも気をつけたい園芸有毒植物図鑑 (978-4-473-03959-0)

参考図書 デザイン農学概論 (978-4-254-40563-7)

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】「衣」「住」「コミュニケーション・情報」「地域・園芸・ビジネス」「家庭科教育」の各分野について、専門的知識・技術を有している。
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる

学生へのメッセージ 生活園芸士の資格取得に必要な科目とともに、植物および園芸を活用した生活デザインを考えるために必要な知識が得られます。主体的に学んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、公立植物園および農業試験場に勤務し、植物を介した生活デザインの実務経験を有している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	生活と環境		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 土橋 豊	指定なし

ナンバリング	D35104M21
授業概要(教育目的)	生活を取り巻く環境の理解を通して、持続可能な開発目標（SDGs）に基づく都市や郊外住宅地の住環境整備において緑化の果たす役割について理解する。また、バイオフィリア仮説に基づくデザイン、園芸活動によるまちづくりの手法について学ぶ。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1. 生活を取り巻く環境を説明できる。 2. 持続可能な開発目標（SDGs）を説明できる。 3. バイオフィリア仮説に基づくデザインを説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 持続可能な開発目標（SDGs）に基づく都市や郊外住宅地の住環境整備において緑化の果たす役割を考察することができる。 2. バイオフィリア仮説に基づくデザイン、園芸活動によるまちづくりの手法を提示することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

生活と環境

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス、「生活と環境」を学ぶにあたって	本講義の到達目標、講義内容、進め方、評価方法について説明する。また、「生活」と「環境」について考える。	本科目の到達目標等を理解しておく。生活とは何か、環境とは何かについて調べておく。	60分
第2回	衣食住と植物	衣食住に関わる植物について主な種類を解説する。	食生活における植物について調べておく。	60分
第3回	庭と植栽デザイン	庭の役割と、植栽デザインについて解説する。	庭の役割にはどのようなものがあるか考えておく。	60分
第4回	バイオフィ	バイオフィリア仮説とそれに基づくデザインについて解	バイオフィリアとは何かを調べ	60分

	リックデザイン	説する	ておく。	
第5回	景観要素と心身との関係	景観要素による心理的・生理的影響を解説する。	自律神経について調べておく。	60分
第6回	室内環境における植物の役割	室内で利活用する室内植物の効用について解説する。	室内植物にはどのような種類があるか調べておく。	60分
第7回	園芸活動とユニバーサルデザイン	園芸活動の場における環境設定とユニバーサルデザインについて解説する。	ユニバーサルデザインとバリアフリーについて調べておく。	60分
第8回	生活と環境を学ぶ場としての植物園 1	植物園の種類と役割について解説する。	身近な植物園の公式サイトで、そのような内容が掲載されているかを調べておく。	60分
第9回	生活と環境を学ぶ場としての植物園 2	植物園における様々な活動を調べ、発表する。	植物園の公式サイト情報をまとめて、植物園の役割として考えられることを発表する。	120分
第10回	いま地球で起きていること	『世界がもし100人の村だったら』を読み、世界で起きている問題を考える。	世界で起きている問題にはどのようなものがあるか、情報を整理しておく。	60分
第11回	持続可能な開発目標 1	持続可能な開発目標 (SDGs) について解説する。	SDGs とは何かを調べておく。	60分
第12回	持続可能な開発目標 2	植物・園芸によるSDGsの可能性について発表と討議を行う。	植物・園芸によるSDGsの可能性について発表できるように準備しておく。	120分
第13回	地球温暖化における緑化の役割	屋上緑化、壁面緑化を中心に、どのような効果があるかを解説する。	屋上緑化、壁面緑化とは何かを調べておく。	60分
第14回	植物から見た環境問題	絶滅危惧植物と人間による活動について考える。	絶滅危惧植物とは何かを調べておく。	60分
第15回	園芸活動による街づくり	園芸活動による街づくりについて、事例をもとに解説する。最後に、本講義のまとめと最終試験を実施する。	街づくりとは何かを調べておく。また、これまでの学習範囲を復習しておく。	120分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法 実施した小テストおよび最終試験については、実施後に解説するとともに、小テストは次週の授業で返却する。

評価方法

- ・授業内で小テストは3~4回分の学習範囲とし、授業内に3回実施する。講義最終日には、最終試験を実施する。なお、合理的な理由がない限り、小テストおよび最終試験の再試験は実施しない。
- ・出題傾向については、適宜、説明する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○			
最終試験	○	○		

評価割合 小テスト (20%) および最終試験 (80%) で評価する。ただし、最終試験はすべての学習範囲で実施し、正解率が60%に満たない場合は、不可とする。

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 デザイン農学概論 (978-4-254-40563-8)

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「衣」「住」「コミュニケーション・情報」「地域・園芸・ビジネス」「家庭科教育」の各分野について、専門的知識・技術を有している。
 グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる
 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。

学生へのメッセージ 生活園芸士の資格取得に必要な科目とともに、現代社会を理解し、SDGsに基づく生活デザインを考えるために

必要な知識が得られます。主体的に学んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、公立植物園および農業試験場に勤務し、植物を介した生活デザインの実務経験を有している。
アクティブ・ラーニング	○	教室内でのディスカッション、グループ・ワークを実施する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ガーデニング実習 II		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石網 史子	指定なし

ナンバリング	D35203M23
授業概要(教育目的)	1,2年次の園芸領域の講義と実習で得た基礎的な知識と経験を活かし、実際に植物の栽培管理を行う。ガーデニング実習 I と合わせて年間を通した植物の栽培管理法を学ぶ。季節に適した植物を用い、その栽培に必要な管理計画を検討し、実習する。また、園芸や造園の役割を理解し、植物を使った時間的、空間的なデザインを見る目、思考力、判断力の向上を目指す。
履修条件	「ガーデニング概論」、「園芸論」、「観賞植物素材論」、「ガーデニング実習 I」を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	身の回りで栽培されている植物に興味を持ち、理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	植物を栽培することの楽しさや難しさ示すことができる。 植物を取り入れたい生活空間の目的や場所の環境条件に適した植物種を選ぶことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	植物栽培に必要な作業を考え、他の人と協力し安全に配慮しながら行うことができる。
技術・表現の観点 (A)	庭や花壇をデザインする際に必要な植物、材料、道具を使用することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容
第1回	イントロダクション	本実習の到達目標、進め方、春夏の季節に必要な持ち物、服装、安全上の注意などについて説明する。 花壇の区分分け、片付け、植栽準備。	本実習の内容と安全上の注意などをよく理解すること。春夏の季節に必要な持ち物、服装を準備する。 作業日誌を記入する。
第2回	花壇の準備、栽培計画	花壇の栽培計画を作成する。 苗用の草花の播種作業を行う。	作業日誌を記入する。
第3回	校外特別授業 園芸店見学	近隣の園芸店を見学し、この季節に入手できる植物苗の大きさと価格を学ぶ。 各自、追加で植栽したい植物を購入する。	作業日誌を記入する。 水やりなど、栽培中の植物の観察と管理。
第4回	花壇の植え付け	野菜などの野菜の苗の植え付け。 防虫ネットを設置等の作業。	作業日誌を記入する。 水やりなど、栽培中の植物の観察と管理。
第5回	観葉植物の増	観葉植物を増殖する(挿し木、取り木など)。	作業日誌を記入する。

	殖 花壇の植え付け	花壇に追加の苗を植え付け、直播の種子を蒔く。	水やりなど、栽培中の植物の観察と管理。
第6回	園芸実習場花壇の植え付け準備	春植え球根の植え付け。 花壇の管理作業。	作業日誌を記入する。 水やりなど、栽培中の植物の観察と管理。
第7回	イネの種まき、花壇の管理	花壇の管理作業（追肥、除草、防虫）。 イネの種まき。	作業日誌を記入する。 水やりなど、栽培中の植物の観察と管理。
第8回	観葉植物の植え替え 花壇の管理	花壇の管理作業（追肥、除草、防虫）。 観葉植物の鉢上げ、株分け作業を行う。	作業日誌を記入する。 水やりなど、栽培中の植物の観察と管理。
第9回	コケの増殖 花壇の管理	校内のコケを採取し、同定、増殖する。 花壇の管理作業（追肥、誘引、間引き、芽かきなど）。	作業日誌を記入する。 水やりなど、栽培中の植物の観察と管理。
第10回	園芸実習場花壇の植え付け	植栽配置図を作成し、それに従って植え付けを行う。	作業日誌を記入する。 水やりなど、栽培中の植物の観察と管理。
第11回	イネの定植、花壇の管理	イネを桶に定植する。 花壇の管理。	作業日誌を記入する。 水やりなど、栽培中の植物の観察と管理。
第12回	校内の植物観察 花壇の管理	校内に生育している植物の初夏の姿を観察する。 花壇の管理作業。	作業日誌を記入する。 水やりなど、栽培中の植物の観察と管理。
第13回	校外特別授業 近隣果樹園見学	相原ブルーベリー農園の見学。	作業日誌を記入する。 水やりなど、栽培中の植物の観察と管理。
第14回	園芸実習場の花壇の管理	園芸実習場の花壇の管理作業。	作業日誌を記入する。 水やりなど、栽培中の植物の観察と管理。
第15回	総括	本実習のまとめ、到達目標の達成度について確認する。 花壇の野菜収穫、片付け。 作業日誌提出。	夏休み期間中、「植物を各自収穫し片付けを行う。

学習計画注記 履修者数、天候、植物の生育速度により、スケジュールや課題変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法 実習中に随時ディスカッションを行い、フィードバックする。各課題は採点し、コメントを付けて返却する。疑問・質問が生じた場合は、e-mailで連絡をするか、3609研究室を訪問すること。

評価方法 平常点：実習中の作業や課題に取り組む意欲的な姿勢や理解度を総合的に評価する。
課題（作業日誌）：実習中に行った作業、実習以外に行った管理作業、作業を通じて生じた疑問点、その疑問点を解決するために自ら調べた結果などを第三者へ伝わる様式で記録を残す。作業日誌を総合的に判断して評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○		○	
課題	○	○		○

評価割合 平常点50%、課題50%で総合的に判断する。

使用教科書名 (ISBN番号) 適宜、資料を印刷・配付する。

参考図書 適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】 家政学及びそれに関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。
【思考・判断】 社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。
【関心・意欲・態度】 社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。
【技能・表現】 課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。

オフィスアワー 月曜日 4限 3609研究室

学生へのメッセージ 本科目には、材料費一人2,000円の負担が必要です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、植物園および大学研究機関で庭や植物コレクションの栽培管理業務に従事した実務経験を有している。実務経験をもとに庭や植栽のデザイン、植栽管理計画、管理作業の重要性を実習を通して伝えている。

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	園芸装飾実習		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 澤田 佳与子	指定なし

ナンバリング	D35207M23
授業概要(教育目的)	生活に植物を取り入れるためには様々な方法があることを理解し、行事と植物の関係性に着目して、工夫やその効果を実践的に学ぶ。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	植物の利用法や多様性について理解する。 植物が生活にどう溶け込んでいるかを知る。
思考・判断の観点 (K)	様々な場面でどんな植物を扱うのかを考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	生活の中に植物を利用して豊かな感性を培う。
技術・表現の観点 (A)	場面に適応できる技術や手法知る。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション : 人と植物の出会い	植物と人が関わる歴史や、人生の節々の行事などを取り上げ、植物との関わりを理解する。	復習	60分
第2回	暮らしの中の植物 1 : 五節句 - おもてなしの心 -	一年を通して迎える5節句について知り、人々が節句に抱く思いや、それにまつわるおもてなしの様式などを学ぶ。	復習	60分
第3回	いけばな : ① 盛花	日本伝統文化のいけばなに触れる。盛花は水盤と剣山を使用する。(草月流)	持ち帰った植物をいいける	60分
第4回	いけばな	いけばなのもう一つの手法で、投入れを体験する。(草	持ち帰った植物をいいける	60分

	な： ②投入	月流)		
第5回	いけばな： ③自己表現としての自由花	いけばなは自己表現の方法にもなる。ここでは、型にとられず植物を使い制作する。	いけばなのまとめ	60分
第6回	暮らしの中の植物2： ハロウィン	近年では、日本古来の行事に加わり外国の文化を取り入れた行事もある。この回では、ハロウィンに着目する。	復習	60分
第7回	暮らしの中の植物3： キャンパスの自然をいける -大きな花器や流木を使って-	キャンパスにある植物を採取し、それを使用して大きな器に合作を行う。	キャンパスの中を散策してみる	60分
第8回	ウェディングフラワーアレンジ： ①コサージュを作る	ウェディングでのフラワーアレンジメントの一つ、新郎用コサージュを作る。	復習	60分
第9回	ウェディングフラワーアレンジ： ②ブーケを作る	ウェディングでのフラワーアレンジメントの花嫁用ブーケを作る。	復習	60分
第10回	ウェディングフラワーアレンジ： ③会場装飾	ウェディング会場を想定し、テーブル花などを制作する。	フラワーアレンジのまとめ	60分
第11回	押花： 花の表情の変化を学ぶ	押し花の手法を知り実際に作り、立体的な花が平面になることで生まれる表情などを観察する。	復習	60分
第12回	暮らしの中の植物4： クリスマス	クリスマス行事の時に植物を使用して飾るリースなどを制作する。	復習	60分
第13回	暮らしの中の植物5： お正月	一年の最初の行事であるお正月に備える松飾りなどを学ぶ。	復習	60分
第14回	ドライ・漂白・着色素材などを使って： レリーフ	枯らした植物や、白く漂白された植物、またそれらに着色などをし、材料の魅力を見つけレリーフを制作する。	復習	60分
第15回	ドライフラワーなどを使ったハーバリウム・レジン作品制作 まとめ	近年流行をしている、ハーバリウムやレジンを使った小物やインテリアなどを学び、ハーバリウムを作る。授業の総括をし、レポートを提出する。	復習・最終提出日までにレポートを提出する。	90分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールがなどによって変更がある場合もあります。			
学生へのフィードバック方法	実習については、作業の様子や、完成した作品を見てアドバイスをを行い、質問なども受ける。レポートにもコメントを加える。			
評価方法	授業の出席率、作品制作への理解、レポートなど			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)

作品制作	○	○	○	○
レポート	○	○		

評価割合	課題制作50%、最終報告30%、授業への参加及び平常点20%
使用教科書名 (ISBN番号)	プリント
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	生活デザイン学科では生活環境を取り巻く諸問題に積極的に向き合い、生活をデザインするための高度な専門的知識と技術、及び表現力を体得することを目的の一つとしている。園芸装飾実習はコミュニティデザイン領域に配した科目であり、植物を介して人や生活を捉え直し、彩りと豊かさ、癒しを生活に取入れるための表現力を学ぶことができる
学生へのメッセージ	本科目では、材料費一人8000円程度かかります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員はいけばな草月流本部講師であり国内外で指導を行い、スポーツや企業イベントなどでいけばなの手法を使い会場装飾なども手がける。 また、デモンストレーションや、子供イベントなども展開している。 オランダでフラワーアレンジメント留学をし、ウエディングの仕事なども展開。
アクティブ・ラーニング	○	華展やフラワーショップを見て回る。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	マーチャンドライジング		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 手島 由記子	指定なし

ナンバリング	D35305M21
授業概要(教育目的)	マーチャンドライジングとは、企業のマーケティング活動の中で「ファッション製品を商品化すること」である。つまり「製品」が「市場で商品価値を持つ」状態をつくることである。マーチャンドライジングは商品計画と言われ、「市場が求める最適な商品を、最適な場所と時期に、最適な価格と数量を計画」することである。本授業では、アパレル企業や小売企業における商品企画・開発の基本、販売計画、売価設定と利益の構造、市場調査、プロモーション技術について解説していく。理解を深めてもらうために、演習を交えながら授業を行う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. マーチャンドライジング(商品企画)の重要性と構造、その業務について理解できる。
思考・判断の観点 (K)	1. ファッション市場における様々なターゲットの類型を理解し区別することができる。 2. 市場が求める最適な商品・場所・価格を調査し、考察する基本を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 学外学習について積極的に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1. 学修で得た専門知識をもって、課題を論理的に分析・統合し、それを表現し発信することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業の概要、マーチャンドライジングとは	授業の概要。マーチャンドライジングの定義と、その特性を学ぶ。	配付プリントのマーチャンドライジングの定義と、その特性を読んで復習すること。	120分
第2回	マーケティング上の分類方法(1)	ファッションマーケティング戦略の基礎知識を学ぶ。ターゲット設定の重要性と、ターゲットセグメンテーションの手法を理解する。	ファッションマーケティング戦略の基礎知識を復習すること。	120分
第3回	マーケティング上の分類方法(2)、シ	ファッション志向による分類(ティスト分類、革新度による分類、マインド別分類法)を学ぶ。シーズンサイクルについて理解する。	ファッション志向による分類、特にティスト別の分類を覚えるようにすること。	120分

	ーズンサイ クル			
第4回	ファッション感性による分類	グレード別分類法について学ぶ。後半はファッション感性の中のテストによる分類をグループワークを通して学習する。	グレード別分類法について復習すること。	120分
第5回	商品企画のステップ、MDとデザイナーの仕事	アパレル企業の商品企画の必要性、商品企画立案のポイントと、商品企画ステップについて学ぶ。MDとデザイナーの職務について理解する。商品企画のスケジュールを学習する。	アパレル企業の商品企画の重要性、企画のステップについて復習しておくこと。	120分
第6回	ターゲット企画	アパレルの商品企画におけるターゲット・クラスター分類について具体的に学ぶ。	次回までに新聞等で、最近の社会の動向を調べておくこと。	180分
第7回	ファッション情報の収集と分析	ファッション情報の収集と分析について学ぶ。市場調査とマーケティングリサーチの基本を学習する。	配付プリントのファッション情報の収集の手法を復習しておくこと。	120分
第8回	シーズンコンセプトとコーディネート企画	シーズンテーマの設定、シーズン・コンセプト立案について学ぶ。シーズン毎のテーマの特徴について学習する。	シーズンコンセプト企画、コーディネート企画について復習しておくこと。	120分
第9回	アイテム企画と価格	商品コンセプトにおけるファッション感度の段階と品揃え構成について学ぶ。アイテム構成企画について学習する。アパレルメーカーの製造原価、上代・下代・掛け率、売価設定について理解する。	製造原価と価格の関係を理解しておくこと。	120分
第10回	商品企画の具体化活動、プロモーション	商品企画の具体化活動について学ぶ。企業のプロモーションについて概観する。後半はクラスター分析についてグループワークを行う①	グループワークについて、次回までに課題の下書きを完成させておくこと。	120分
第11回	シーズン別VMDストーリー	店舗におけるシーズン別VMDを理解する。後半はクラスター分析についてグループワークを行う②	グループワークの課題を次回までに完成させておくこと。	180分
第12回	VMD戦略の基礎	グループワークのプレゼンテーション。後半は小売業におけるVMD戦略の基礎を学ぶ。	VMD戦略の基礎について復習しておくこと。	120分
第13回	リテールMD計数	目標達成率と前年比、粗利益、商品管理などの小売店における基本的な計数の知識を、演習を通して学ぶ。	リテールMD計数について復習しておくこと。	120分
第14回	SPAのVMD、これまでの復習	小売業における業態別VMD、とりわけSPAのVMDの特性について学ぶ。これまでの復習。後半は、課題レポートの制作を行う。課題内容についての質問を受けつける。	次回のレポート、プレゼンテーションの準備をしておくこと。	240分
第15回	プレゼンテーション	課題レポートのプレゼンテーション	予習では、課題レポートとプレゼンテーションの準備を行うこと。これまでの復習をする。	240分

学生へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回授業内で書いてもらうミニレポートで、マーチャンドライジングについての質問を提出してもらい、その質問に回答していく。 ・14回の授業内に課題レポートについての質問を受けつける。 ・プレゼンテーションに対する講評。
---------------	--

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・最終レポートは、現代のマーチャンドライジングについての課題を出す。その課題を最終回にプレゼンテーションしてもらう。 ・中間のグループワークでは、クラスター分析を行ってもらう。その分析結果を発表してもらう。 ・授業参加状況等、総合的に判断する。
------	--

評価基準	
------	--

評価基準	
------	--

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート・プレゼンテーション	○	○	○	○
グループワーク	○	○	○	○

評価割合	レポート・プレゼンテーション (70%)、グループワークの作品 (10%)、平常点・授業への取り組み方 (20%)
------	---

使用教科書名 (ISBN番号)	なし。配付プリント
-----------------	-----------

参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・菅原正博監修 「アパレル・マーチャンドライジング」 ファッション教育社、2007年 ・高見俊一、川畑洋之助、風間健 「マーケティング論」 日本衣料管理協会、2006年
------	---

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】マーチャンダイジングの専門的知識を有している。 【思考・判断】市場が求める最適な商品・場所・価格を調査し、客観的に分析することができる。 【関心・意欲・態度】学外での自主的な学習に取り組むことができる。 【技能・表現】課題を論理的に分析・統合・表現し、発信することができる。</p>
学生へのメッセージ	<p>マーチャンダイジングは、アパレル企業における企画部門のマーチャンドライザー（MD）やデザイナーの仕事ですが、生産部門のパタンナーを目指す学生も企画の仕事について知っておくとよいでしょう。講義の後半は小売業におけるMDの話となるため、販売部門の販売員や、販促部門のプレスを目指す学生にも受講をお勧めします。</p>

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員はアパレルメーカーにおいて商品企画の実務経験を10年以上有している。その実務経験を活かし、「商品企画・商品開発の基本」「売価設定と利益の構造」「市場調査」「プロモーションの基礎」を解説する。
アクティブ・ラーニング	○	<ul style="list-style-type: none"> ・4回目、10～12回目の授業内でグループ・ワークを行う。体験的に学ぶことで思考力を養っていく。 ・13回目の授業内では、基礎的な計数の知識を演習を通して学ぶ。理解を深めていく目的である。 ・15回目の授業内では、課題レポートのプレゼンテーションを行う。表現力と提案力を養っていく。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	PCを活用する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	グローバルビジネス論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 増永 真	指定なし

ナンバリング	D35306M21														
授業概要(教育目的)	<p>本講義では、国際関係の基礎的な概念を理解し、企業を取り巻く環境の変化がビジネス活動のグローバル化にどのように影響しているのかを考える力を育成する。時事問題となっている国際社会における諸問題を中心に、日本と世界とのかかわりを理解することに主眼を置く。学生が将来、ビジネスや家庭科教育に従事する際に役立つ内容である。国際社会が直面する問題には、政治問題と経済問題があり、時には双方が絡み合うので、関連する国際政治学と国際経済学の考え方の基本も学ぶ。他の授業や将来のキャリア、その他、学生の関心を考慮して、新聞や動画も使って分かりやすく解説するので、心配はいらない。授業では他の科目の学習や卒業論文の執筆、就職活動や将来の仕事にも役立つ「記述力」を高めることを重視する。このため、毎回の授業では、受講者に理解した内容や興味を持った事項、あるいは、理解が不十分であった点についてのまとめのペーパーを書いてもらう。</p> <p>各授業の事前事後学習としては、授業内容を確実に理解すると共に、広く時事問題に関心を持つことが必要である。単に知識を身につけるだけでなく、物事を整理して理解し、理解したことを表現できるようになることが目標である。国際情勢を見る眼と考え方、記述力、問題を設定する力を養うことを重視するため、テストではなく、プレゼンとレポートによって評価する。</p>														
履修条件	なし。														
学習目標(到達目標)	<p>学習目標(到達目標)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>観点</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識・理解の観点 (K)</td> <td>時事問題が、他の科目の学習や、日常生活、就職活動、そして、将来の仕事とどのように関連するのかをイメージできる。</td> </tr> <tr> <td>思考・判断の観点 (K)</td> <td>時事問題の原因と影響を説明できる。</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度の観点 (V)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>技術・表現の観点 (A)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			観点	内容	知識・理解の観点 (K)	時事問題が、他の科目の学習や、日常生活、就職活動、そして、将来の仕事とどのように関連するのかをイメージできる。	思考・判断の観点 (K)	時事問題の原因と影響を説明できる。	関心・意欲・態度の観点 (V)		技術・表現の観点 (A)			
観点	内容														
知識・理解の観点 (K)	時事問題が、他の科目の学習や、日常生活、就職活動、そして、将来の仕事とどのように関連するのかをイメージできる。														
思考・判断の観点 (K)	時事問題の原因と影響を説明できる。														
関心・意欲・態度の観点 (V)															
技術・表現の観点 (A)															
学習計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業テーマ</th> <th>教室外学習(予習・復習)の内容</th> <th>教室外学習の時間(分)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>ガイダンスとイントロダクション この授業でどのようなことを学び、どのような心構えが必要なのかを説明する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>第2回 国際政治学とはどのような学問か 国同士はなぜ友好的になったり、敵対的になったりするのかを考える</td> <td>授業で説明のあった問題につき、自分で調べ、整理する</td> <td>120</td> </tr> </tbody> </table>			回	授業テーマ	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)	第1回	ガイダンスとイントロダクション この授業でどのようなことを学び、どのような心構えが必要なのかを説明する			第2回	第2回 国際政治学とはどのような学問か 国同士はなぜ友好的になったり、敵対的になったりするのかを考える	授業で説明のあった問題につき、自分で調べ、整理する	120
回	授業テーマ	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)												
第1回	ガイダンスとイントロダクション この授業でどのようなことを学び、どのような心構えが必要なのかを説明する														
第2回	第2回 国際政治学とはどのような学問か 国同士はなぜ友好的になったり、敵対的になったりするのかを考える	授業で説明のあった問題につき、自分で調べ、整理する	120												

第3回	国際経済学とはどのような学問か 貿易、為替相場の変動、景気と物価の関係についての基本を学ぶ	授業で説明のあった問題につき、自分で調べ、整理する	120
第4回	日米関係 安全保障問題 安全保障問題を中心に日米関係について考える	授業で説明のあった問題につき、自分で調べ、整理する	120
第5回	日米関係 経済問題1 経済問題を中心に日米関係について学ぶ。繊維交渉から日米貿易協定及び日米デジタル貿易協定までの歴史	授業で説明のあった問題につき、自分で調べ、整理する	120
第6回	日米関係 経済問題2 繊維交渉と農産物交渉に焦点を当て、農家、商社、繊維メーカー、飲食業界、消費者への影響を考える。農産物交渉は、経済的な利益だけでなく、食の安全に関連することを理解する	授業で説明のあった問題につき、自分で調べ、整理する	120
第7回	日韓および日朝関係 日本と韓国、北朝鮮との間にある諸問題について学ぶ。	授業で説明のあった問題につき、自分で調べ、整理する	120
第8回	米中関係 米中間の安全保障と経済の問題について学ぶ。貿易交渉に焦点を当てる	授業で説明のあった問題につき、自分で調べ、整理する	120
第9回	日本とアジア諸国との関係 日本とアジア諸国との間の貿易、直接投資、日本企業の現地でのビジネスに焦点を当てる	授業で説明のあった問題につき、自分で調べ、整理する	120
第10回	発展途上国が直面する課題 発展途上国が直面する政治や経済の問題全般と日本との関係について学ぶ。援助、貿易、直接投資、日本企業の現地でのビジネスに焦点を当てる	授業で説明のあった問題につき、自分で調べ、整理する	120
第11回	まとめ 学期に学んだことの総まとめと学生の実施するプレゼンテーション、ミニレポートについて説明	授業で学んだ内容につき、自分でも整理し、プレゼンテーションとレポートのテーマを決定する	120
第12回	学生のプレゼンテーション	自分のプレゼンテーションの問題点や他の学生のプレゼンテーションの良い点を整理する。	120
第13回	学生のプレゼンテーション	自分のプレゼンテーションの問題点や他の学生のプレゼンテーションの良い点を整理する	120
第14回	ミニレポートの執筆：今までの授業内容と学生の関心のあるテーマに関して	自分の関心のあるテーマに関連する情報を調べ、整理して、レポート執筆の準備をする。	
第15回	プレゼンテーションとミニレポートに対する講評、最終レポートの通知	ミニレポートの問題点を踏まえ、最終レポートを完成させる	

学生へのフィードバック方法 毎回の授業で書いたペーパーの質問は翌週の授業で解答し、補足説明をする

評価方法
評価方法
 毎回の授業で書くペーパー、第12回と13回に行うプレゼンテーション、および第14回に行うミニレポートにより、授業の理解度や積極性、出席状況を評価する
 毎回出席しても、最終レポートを提出しないと単位を与えない。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
プレゼンテーション	○	○	○	○
ミニレポート			○	○
最終レポート	○	○	○	○
毎回の授業で書くペーパー			○	

評価割合 毎回の授業で書くペーパー、第12回と13回に行うプレゼンテーション、第14回に行うミニレポート合計50%、最終レポート50%

使用教科書名 (ISBN番号) なし。資料は毎回の授業で配布。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつながることができる

	【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができるまた、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる	
学生へのメッセージ	授業で扱うトピックを難しい問題や縁のない問題と思わずに、身近な問題であり、自分にかかわる問題として捉えること。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	教員は、金融界での実務経験の有しているが、授業の内容で関連のするのは、国際経済に関する解説の一部だけである。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	アパレルCAD実習		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田 弘美	指定なし

ナンバリング	D32207M13
授業概要(教育目的)	アパレルCADは、設計(デザイン)、パターンメイキング(製図)、生産工程等を効率化するための道具である。基本的なパターンメイキングを理解し、CADの操作方法を身に付ける。また、「アパレル生産実習」の授業で企画したデザインを商品化するために、CADで製図、型紙(パターン)、マーキング(裁ち合せ図)等を作成し、生産工程におけるCADを操作できることを目的とする。また、特別授業ではアパレル企業で商品企画、店舗管理などの実務経験をもつ講師に依頼している。
履修条件	R2年度開講なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	衣生活に関する諸課題についての知識を深める。
思考・判断の観点 (K)	衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。
技術・表現の観点 (A)	衣生活に関する課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。

学習計画

アパレルCAD実習

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	基本操作、画面の表示操作方法	基本操作である直線・曲線の引き方、拡大・縮小・移動・印刷・ファイル保存などを学ぶ。	操作について各自練習すること。	45分
第2回	特別授業	アパレル企業の商品企画、店舗の管理について学ぶ。実務経験を活かした授業である。	アパレル企業についてノート整理をすること。	45分
第3回	パターンメイキング(ストレートスカート) 1	9ARサイズの前スカートの製図およびCADの操作を学ぶ。	前スカートの製図を仕上げること。	45分

第4回	パターンメーキング (ストレートスカート) 2	9ARサイズの後ろスカートの製図を理解する。	後ろスカートの製図を仕上げること。	45分
第5回	パターンメーキング (フレアスカート)	前タイトスカートのダーツ止まりまで裾から切り開き、フレアを入れることを理解する。	フレアスカートを仕上げること。	45分
第6回	グレーディング1	9号前スカートを7号と11号にグレーディングする方法を学ぶ。	グレーディングを練習すること。	45分
第7回	グレーディング2	9号前スカートを7号、11号にグレーディングする方法を理解する。	グレーディングを仕上げること。	45分
第8回	マーキング	前後スカートとベルトを縮小し、限られた範囲の上に配置する方法を学ぶ。	マーキングを仕上げること。	45分
第9回	パターンメーキング (身頃原型) 1	自分のサイズの身頃原型を製図するために、まずは身基本線を引くことを学ぶ。	説明内容まで進めること。	45分
第10回	パターンメーキング (身頃原型) 2	後ろ身頃原型の衿ぐり、肩、AH、脇を引く方法を学ぶ。	説明内容まで進めること。	45分
第11回	パターンメーキング (身頃原型) 3	前身頃原型の衿ぐり、肩、AH、脇、ウエストダーツを引く方法を学ぶ。	身頃原型を仕上げること。	45分
第12回	パターンメーキング (袖) 1	原型の袖ぐり寸法を利用し、その寸法を測ってセットインスリーブの製図を学ぶ。	セットインスリーブを仕上げること。	45分
第13回	パターンメーキング (袖) 2 マーキング、縫製仕様書作成	セットインスリーブからパフスリーブへの展開を学ぶ。アパレル生産実習の履修学生は、マーキング、縫製仕様書等の作成を学ぶ。	セットインスリーブを仕上げること。	45分
第14回	パターンメーキング (衿) 1、 マーキング、縫製仕様書作成	原型の衿ぐり寸法を利用し、その寸法を測ってシャツカラーの製図を学ぶ。	シャツカラーを仕上げるころ。	45分
第15回	まとめ	ストレートスカート、フレアスカート、グレーディング、マーキング、身頃原型、セットインスリーブ(パフスリーブ)、シャツカラーについてデータ整理の仕方を学ぶ	提出するデータを整理すること。	45分

学生へのフィードバック方法	課題に対するコメント				
評価方法	平常点、課題				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点			○	
	課題	○	○	○	○
評価割合	平常点30点(授業への参加状況などで総合的に判断する)、課題70点				
使用教科書名 (ISBN番号)	CADのマニュアル 適宜プリント配付				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】衣生活に関する諸課題についての知識を深める。【思考・判断】衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。【関心・意欲・態度】衣生活に関する諸課題に積極的に関心を				

	持ち、自主的に作業を進めることができる。【技術・表現】衣生活に関する課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能、および他者に分かりやすく発信する技能を持つ。	
オフィスアワー	木曜日12:30~14:00	
学生へのメッセージ	授業で行ったCAD操作は空き時間を利用して練習してください。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	アパレル企業で商品企画、店舗管理などの経験をもつ講師に特別講義を依頼している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	エクステリア演習		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	生活デザイン学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石網 史子	指定なし

ナンバリング	D35206M22
授業概要(教育目的)	建築物の設計において、内部空間のデザインと同様に外部空間のデザインもまた重要である。豊かな外部空間は、建築物全体の快適性を高めるものである。また、エクステリアは建物単体に付随するだけのものではなく、都市の景観を形成する重要な要素でもある。本授業では、植物を使った空間デザインを学ぶ。設計課題を通し、玄関や庭などのプライベートな小さな空間や公園など公共性のある大きな空間のデザインについて検討する。エクステリアやガーデンデザインの基本を学び、見る力と表現力の向上を目指す。
履修条件	「住居学概論」、「住居学デザインA・B」、「ガーデニング概論」を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	エクステリアの基礎的な用語や考え方を理解する。
思考・判断の観点 (K)	建築物の外部空間、庭、公園など必要な構成要素を自ら考え、適切な材料や植栽する植物を判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	演習で扱う課題を通じ、身の回りのエクステリアに関心を持ち、使われている材料や植物などを識別できる。
技術・表現の観点 (A)	自分の考える空間(外溝、庭、公園など)を図面、写真などを用いて人に伝える技術を習得する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	本演習の目的、進め方、評価方法、本演習で扱うエクステリアに関連した用語、準備が必要な道具について説明する。 都市景観とエクステリアデザイン・ランドスケープデザインについて解説する。	演習内で説明したエクステリアの概要と用語を理解する。	90
第2回	平面図の基本	住宅(個人宅・集合住宅)のエクステリアデザインについて解説する。 エクステリアデザインの基本、平面図をトレースする。	平面図の基本①課題を完成させる。	90
第3回	植栽配置図	公園のデザインについて解説する。 花壇の植栽配置図をトレースする。植物や舗装などエクステリアの基本的構成要素の表現方法を習得する。	平面図の基本②課題を完成させる。	90

第4回	課題①説明と事例紹介	まちなみのデザインについて解説する。各自、課題①のコンセプトをデザインする。	コンセプト、エスキースを完成させる。	90
第5回	課題①平面図	平面図を作成し、着色する。	平面図を完成させる。	90
第6回	課題①断面図と植栽配置図	断面図と植栽配置図を作成し、着色する。	断面図と植栽配置図を完成させる。	90
第7回	課題①パース	パースを作成し、着色する。	パースを完成させる。	90
第8回	課題①プレゼンテーション、提出	自分のデザインのコンセプトや特徴について発表し、他の作品についてもコメントする。	自分の作品の評価を理解し、今後にかす。	90
第9回	課題②説明、事例解説	課題の②のコンセプトをデザインする。	コンセプトデザインを完成させる。	90
第10回	課題②平面図	平面図を作成し着色する。	平面図を完成させる。	90
第11回	課題②断面図と植栽配置図	断面図と植栽配置図を作成し着色する。	断面図と植栽配置図を完成させる。	90
第12回	課題②パース	パースを作成し着色する。	パースを完成させる。	90
第13回	課題②図面作成、プレゼンテーション準備	平面図、断面図、パースを作成し、プレゼンテーションの準備をする。	図面とプレゼンテーションを完成させる。	90
第14回	課題②プレゼンテーション、提出	自分のデザインのコンセプトや特徴について発表し、他の作品についてもコメントする。	演習内容を振り返り、実生活や今後の仕事で活用できる点をまとめる。	90
第15回	特別授業	エクステリアやガーデンデザイナーとして活躍している講師をお招きする。実際のプロジェクトについてお話を伺い、現現場を知る。	講義内容を理解し、実生活に関連した身の回りの課題を見つける。	90

学習計画注記 演習や作業の進捗状況などの諸事情により、スケジュールや課題が変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法 授業中の作業時に口頭でアドバイスと、課題と発表会について評価とコメントをする。

評価方法

- 1) 平面図の基本①・② (各10%) : 図面の正確性、表現方法を評価
- 2) 課題① (20%) : デザインの独創性、図面の正確性、表現方法、プレゼンテーションを評価
- 3) 課題② (30%) : デザインの独創性、図面の正確性、表現方法、プレゼンテーションを評価
- 4) 平常点 (30%) : 発言・質問・提案の内容と課題への取り組みの姿勢を評価

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
課題	○	○		○

評価割合 課題 (提出物と発表会) 70%、平常点30%。

使用教科書名 (ISBN番号) 適宜、資料を印刷・配付する。

参考図書 適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】 エクステリアについての専門的知識を有している。
【思考・判断】 身近にある (社会の中にある) 外溝デザイン、庭などの空間デザインを客観的に判断できる。
【関心・意欲・態度】 身の回りにある外溝デザイン、庭、公園などの空間デザインに積極的に関心を持つ。
【技術・表現】 課題解決に必要な情報を収集、分析、整理、表現できる。

オフィスアワー 月曜日 2限 3609室

教育等の取組み状況

	該当	概要
--	----	----

	有無	
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	課題に関して、自ら考え、調べ、デザインとして表現する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	児童学研究法		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 畝部 典子	指定なし

授業概要(教育目的)	児童学研究における研究課題の決定、研究方法、卒業論文に求められる要素など、4年次の卒業研究（卒業論文作成）に必要な基本的知識について学ぶ。
------------	---

履修条件	なし
------	----

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	児童学の6領域（子どもの保育・教育・福祉・健康・心理・文化）における知識と、児童学研究の在り方について理解している。
思考・判断の観点 (K)	児童学における研究課題を見いだすことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。
技術・表現の観点 (A)	4年次で取り組む卒業研究のための基本的知識・技能が身についている。

学習計画

児童学研究法

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業オリエンテーション	児童学研究法授業概要、卒業論文に関する取り決め、児童学研究法の評価等について概説し、児童学研究ゼミ配属先決定方法について説明する。児童学研究法第2回～第14回の講義を聞いて指定期日までに児童学研究ゼミ配属先希望調査票を提出する。	自分の取り組みたい研究課題について考えておく。	120分
第2回	文献研究の方法1	文献研究の方法について概説し、論文の構成や参考文献目録の書き方について学習する。	リテラシー演習で学んだ内容を復習しておく。	120分
第3回	文献研究の方法2	文献の読み方、要約の仕方について学習する。	リテラシー演習で学んだ内容を復習しておく。	120分
第4回	文献研究の方法3	文献研究の方法で学んだ内容を復習し、まとめテストを行う。	文献研究の方法で学んだ参考文献目録の書き方、要約の仕方などを復習しておく。	120分
第5回	質問紙調査の作り方	質問紙調査の作り方について学習する。	質問紙調査について理解し、応用できるレベルにする。	120分
第6回	質問紙調査の結果の分析1	質問紙調査の結果の分析方法について学ぶ。	質問紙調査の分析方法を理解し、応用できるレベルにする。	120分

第7回	質問紙調査の結果の分析2	質問紙調査の結果の分析方法について学び、まとめテストを行う。	質問紙調査の分析方法を理解し、応用できるレベルにする。	120分
第8回	領域別研究方法1	児童学の6領域（子どもの保育・教育・福祉・健康・心理・文化）別に具体的にどのような研究ができるか学習する。卒業論文テーマの決定方法についても学ぶ。	自分の取り組みたい研究課題について考えておく。	120分
第9回	領域別研究方法2	児童学の6領域（子どもの保育・教育・福祉・健康・心理・文化）別に具体的にどのような研究ができるか学習する。卒業論文テーマの決定方法についても学ぶ。	自分の取り組みたい研究課題について考えておく。	120分
第10回	領域別研究方法3	児童学の6領域（子どもの保育・教育・福祉・健康・心理・文化）別に具体的にどのような研究ができるか学習する。卒業論文テーマの決定方法についても学ぶ。	自分の取り組みたい研究課題について考えておく。	120分
第11回	領域別研究方法4	児童学の6領域（子どもの保育・教育・福祉・健康・心理・文化）別に具体的にどのような研究ができるか学習する。卒業論文テーマの決定方法についても学ぶ。	自分の取り組みたい研究課題について考えておく。	120分
第12回	領域別研究方法5	児童学の6領域（子どもの保育・教育・福祉・健康・心理・文化）別に具体的にどのような研究ができるか学習する。卒業論文テーマの決定方法についても学ぶ。	自分の取り組みたい研究課題について考えておく。	120分
第13回	児童学研究ゼミ（1）	児童学研究勢配属先希望調査票に基づき決定されたゼミに分かれて児童学研究を行う。	自分の取り組みたい研究課題について発表できるようにしておく。	120分
第14回	児童学研究ゼミ（2）	児童学研究勢配属先希望調査票に基づき決定されたゼミに分かれて児童学研究を行う。	自分の取り組みたい研究課題について発表できるようにしておく。	120分
第15回	児童学研究ゼミ（1）	児童学研究勢配属先希望調査票に基づき決定されたゼミに分かれて児童学研究を行う。	自分の取り組みたい研究課題について発表できるようにしておく。	120分

学生へのフィードバック方法 各研究室で質問・相談を受け付ける。

評価方法 ・平常点、「文献研究の方法まとめテスト」および「質問紙調査まとめテスト」の結果により評価する。
・平常点は、授業中の実績（授業の取り組み方、提出物等）に基づき総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
文献研究の方法まとめテスト	○	○		○
質問紙調査まとめテスト	○	○		○
平常点	○	○	○	○

評価割合 文献研究の方法まとめテスト30%、質問紙調査まとめテスト30%、平常点40%

使用教科書名 (ISBN番号) なし（プリント配付）

参考図書 授業中に指示する。

ディプロマポリシーとの関連
【知識・理解】児童学の6領域（子どもの保育・教育・福祉・健康・心理・文化）について総合的・専門的知識が修得できている。
【思考・判断】子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学びあう具体的・実践的な機会を通して、自らさまざまな課題に柔軟に対応できる。
【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。
【技能・表現】理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる。保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。

オフィスアワー 研究室により異なる。

学生へのメッセージ これまでに学んだ児童学全般の授業内容について復習をしておくこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	実務経験(保育・教育現場経験)のある教員による講義が含まれる。
アクティブ・ラーニング	○	議論、発表など双方向の授業を行う。
情報リテラシー	○	情報収集、情報整理、情報発信について学ぶ

教育		
ICT活用	○	コンピューター技術を利用した情報処理を行う。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	発達心理学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 丹羽 さがの	指定なし

ナンバリング	P10002M21
授業概要(教育目的)	人は生涯を通じて発達的に変化していく。その発達の過程を、特に心的活動の変化に焦点を当てて学習することとする。まず、発達心理学の考え方や研究法の基本、発達の諸理論を学び、その上で、胎児期から老年期に至るまでの各時期の発達課題や発達の特徴について、具体的事例や視覚教材も参照しながら基本的知識を身に付けられるようにする。人の発達に関する知見を、保育・教育実践に結び付けることができるよう、事例や自分自身の体験とも関連させながら具体的に理解し、考えを深められるようにする。
履修条件	なし
学習目標(到達目標)	なし
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	・発達心理学の基本的概念を説明できる・人の生涯発達の概観、各発達期の特徴を理解する
思考・判断の観点 (K)	・人の発達に関する知見を、保育・教育実践に結びつけて考えることができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	・自分自身のこれまでの体験と関連させながら、人の発達について具体的に理解しようとする
技術・表現の観点 (A)	・発達心理学的知見が保育、教育実践にどのように活かされているか説明できる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション：発達を学ぶ重要性、発達のメカニズム	生涯発達心理学の考え方を学ぶ。教育における発達の理解の意義を学ぶ。内的要因(遺伝)と外的要因(環境)の相互作用による発達のメカニズムを理解する。	〔予習〕(1)テキスト第1～3章(p.3-52)を読み、生涯発達を対象とする心理学について概観をつかむ。発達のメカニズムを理解する。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について、再度テキストを読み考える。	180分
第2回	乳児期の運動・認知の発達	乳児期の運動発達と認知発達について相互に関連しながら発達することを学べる	〔予習〕テキスト第5章(pp.77-97)を読み乳児期の身体的機能・運動機能・知覚と認知の発達について概観をとらえる〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について、再度テキストを読み考える。	180分
第3回	乳児期の言語・社会性の発達	乳児期の言語発達と社会性の発達について認知面とも相互に関連しながら発達することを学ぶ	〔予習〕テキスト第9章～第10章(pp.157-188)を読み、乳児期、幼児期の言語と社会性	180分

			の発達について概観をつかむ 〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について、再度テキストを読み考える	
第4回	幼児期の運動・認知の発達	幼児期の運動発達の様子を学ぶ、幼児の認知発達（記憶、概念学習、推論能力、メタ認知）を学ぶ	〔予習〕テキスト第8章（pp.135-156）と事前配布資料を読み、乳幼児期の運動発達、認知発達の概観をつかむ〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について、再度テキストを読み考える	180分
第5回	幼児期の言語・社会性の発達	幼児の文字への関心を含めた言語発達、仲間関係の発達について事例も用いて学ぶ	〔予習〕テキスト第11章（pp.189-204）と事前配布資料を読み、幼児の言語発達・社会性の発達について、園での生活をイメージしながらつかむ〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について、再度テキストを読み考える	180分
第6回	乳幼児期の自己と情動制御の発達	乳幼児期を通して現れてくる自己と情動制御（自己主張・自己抑制）の発達について学ぶ	〔予習〕テキスト第7章（pp.117-133）を読み、情動の発達、自己の発達、社会情動的スキルの発達についてつかむ〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について、再度テキストを読み考える	180分
第7回	児童期の認知発達	児童期の認知発達をその要因（物理的・人的環境）とともに学ぶ	〔予習〕テキスト第15章（pp.265-274）を読み、児童期の環境と認知発達との関係を考える〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について、再度テキストを読み考える	180分
第8回	児童期の社会性の発達	仲間関係の発達、仲間関係を形成する力を高めるソーシャルスキル・トレーニングについて学ぶ	〔予習〕テキスト第5章（pp.265-274）と事前配布資料を読み、児童期の仲間関係が教室での適応と深くかかわっていることを理解する。その上で、教室での適応に必要な社会的能力を書き出してくる。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について、再度テキストを読み考える	180分
第9回	青年期のアイデンティティの発達	アイデンティティとは何か、アイデンティティ選択の方法について自らを振り返りながら学ぶ	〔予習〕エリクソンの発達理論と青年期の課題についてテキスト第15章（pp.278-286）を読む他、参考図書などを用いて調べる〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について、再度参考図書を読み考える	180分
第10回	青年期の人間関係	青年期の親子関係、友人関係の様相について、自らの関係性を振り返りながら学ぶ	〔予習〕テキスト第15章（pp.275-277）を読んだ上で、自らの高校時代～現在の親子関係について振り返りまとめる。自分にとっての友人の存在の意味についてまとめる〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について、再度参考図書を読み考える	180分
第11回	学びの様々な理論	学びの原理に関する代表的な理論（学習理論、観察学習理論、ピアジェとヴィゴツキーの認知発達理論）を学び、各発達段階の学びにふさわしい学習の仕方を理解する	〔予習〕テキスト第12章（pp.207-222）を読み、代表的な学習に関する理論の概観と、各発達段階における学びの概観をとらえる〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について、再度テキストを読み考える	180分
第12回	学びの動機づけ	主体的な学びを支える動機づけ、主体的学びを阻害する経験（学習性無力感）について学び、各発達段階にふさわしい指導のあり方を理解する	〔予習〕事前配布資料を読み、動機づけ、原因帰属、学習性無力感など、学びにかかわる心理学的概念を理解する。その上で各発達段階にふさわしい指導のあり方のポイントを考えてみる〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について、再度テキストを読み考える	180分
第13回	集団における学び・育ちと保育における評価	幼児期の協同的な活動において得られる学び、育ちについて事例を用いて学ぶ。個と集団の育ちの視点に立った評価について理解する	〔予習〕事前配布プリントを読み、協同的な活動を通して得られる学び・育ちとは何か考える〔復習〕事例を再度読み、協同	180分

			的な活動を通しての学び・育ちについてまとめる。保育における評価とはどういうものかまとめる	
第14回	成人期の発達	子育て期から子育て卒業期の親の心理について学び、子育てという経験がもつ意味を考える。教育・保育現場における保護者支援・保護者との連携の必要性和重要性を理解する	〔予習〕テキスト第16章 (pp. 287-294) と事前配布資料を読み、子育て支援の意義、支援の実際の概要をつかむ〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について、再度テキストを読み考える	180分
第15回	老年期の発達	生物学的な衰えを補う心理的・社会的仕組みについて学び、生涯学び続ける存在としての人の一生を概観する	〔予習〕テキスト第16章 (pp. 294-301) を読み、老年期の発達の特徴を知る〔復習〕バルテスの理論について授業資料を読み返しまとめる。その上で、生涯学び続けるために必要な環境について考える	180分

学生へのフィードバック方法	コミュニケーション・カードに下線and/orコメント付きで返却する。多かった質問・疑問については次回授業冒頭で解説する。また特に良かったコメントについては次回授業冒頭で紹介する。それ以外の質問がある場合は1626研究室まで訪問すること。
---------------	--

評価方法	平常点は学びに向かう姿勢、意欲、理解度をコミュニケーション・カードの記入状況、内容から評価する。定期試験は60点満点で出題し、授業で学んだ内容全てが範囲となる。心理学的概念、各発達段階の特徴の理解度、心理学的知見と教育・保育実践との関連についての理解度を測る選択式・記述式の問題から構成される。出題の傾向については、最後の授業にて説明する。
------	--

評価基準	
------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	
定期試験	○	○		○

評価割合	平常点 (40%) 及び定期試験 (60%) で評価する。
------	-------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	ベーシック発達心理学, 東京大学出版会, 開一夫・齋藤慈子 (編), 978-4-13-012113-2
-----------------	--

参考図書	問いから始める心理学—生涯にわたる育ちの科学, 有斐閣ストゥディア, 坂上裕子他編著, 978-4-641-15013-3
------	---

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもの心理についての専門的な知識を有している。【思考・判断】子どもの心身の発達についての知識を基に教育・保育実践の現場で出会う様々な課題に柔軟に対応できる力を身に付けている。
---------------	---

オフィスアワー	水曜日 2限 1626研究室
---------	----------------

学生へのメッセージ	人の発達・成長の面白さに触れるとともに、自らの成長の道のりを振り返る機会にもなる授業です。積極的に参加してくれることを期待します。毎回授業内容の復習をしてください。わからない点についてはそのままにせず、質問したり自分で調べたりするようにして下さい。
-----------	--

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自らの体験を振り返るワーク、事例に基づき考えるワーク等に、小グループでのディスカッションを取り入れる
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	教育心理学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 木村 文香	指定なし

ナンバリング	P10101M21
授業概要(教育目的)	教育心理学は、歴史的には、心理学の教育への応用から始まったが、近年では、「人と環境の相互作用から人間形成を解明しつつ、教育における諸問題の解決に必要な知識や技術を体系化する目的を持つもの」という捉え方をすることが多い。この過程で避けて通れないのは、人間形成はいかにあるべきかという問題である。教育心理学は、自らの教育観や人間観を見つめ直し、教育の目的や内容の妥当性を問い直し、よりよい教育の実現に、教職志望者の立場から貢献できる人材を育むための授業を行い、特に、実践的能力の涵養をはかる。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1. 教育心理学の理論を理解する。 2. 教育にまつわる事象が教育心理学の理論によってどのように説明できるのかを理解する。
思考・判断の観点 (K)	1. 教育心理学の理論を、教育現場において生かそうとすることができる。 2. 自身の疑問を教育心理学の知識を用いて解決しようとするすることができる。 3. 教育的な問題を教育心理学の知識を用いて解決しようとするすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教育現場での日常にある事象から、教育心理学的なテーマを見つけることができる。
技術・表現の観点 (A)	教育現場における問題、自身や身近な人の行動、及び社会現象に関して、教育心理学で得た知識に基づいて説明するなど、教育心理学と教育現場のつながりを発信することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション—心理学と教育、人の発達の関わり—	ガイダンスとして、授業の進め方、スケジュールなど、受講にあたっての基本を理解する。 その上で、教育心理学で扱う内容を概観し、これから学ぶ学問領域は何かを知る。 この授業ではgoogle classroomを使用するため、その使い方についても簡単に説明する。	教育心理学を学ぶ上で、自分が興味のある内容を考え、授業の該当回がいつなのかを見つける。また、授業に臨むにあたって、自分なりの目標を定める。	180分
第2回	発達と教育1—発達課題と身体的発達—	発達と教育について学ぶ。発達の定義、発達課題と、発達の身体的側面について知る。	「発達」に関して自分が持っていたイメージとの相違点を整理し、自分が関心のある分野と教育心理学のつながりを考える。	180分
第3回	発達と教育2—運動機能の発達と発達の普	運動機能の発達について知り、発達の普遍的な部分と、時代や地域、文化によって可変的な部分について理解する。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分

	遍性と可変性——	授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。		
第4回	発達と教育3——脳と神経の発達——	発達の内、脳と神経の発達について知る。授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第5回	発達と教育4——自我の発達——	自我の発達について理解する。授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第6回	発達と教育5——自我の防衛機制——	自我の防衛機制を理解し、日常場面、教育場面においてどのような状況が想定されるか考える。授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第7回	発達と教育6——社会性の発達——	社会性の発達を理解する。授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第8回	発達と教育7——認知の発達——	認知の発達について理解する。授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第9回	学習を支えるメカニズム1——動機づけ——	学習理論について知り、動機づけとは何かを理解する。授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第10回	学習を支えるメカニズム2——記憶——	記憶のメカニズムを理解する。授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第11回	学習を支えるメカニズム3——自己効力感——	自己効力感を理解し、教育現場でどのように応用できるかを考える。授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第12回	学習に関する理論1——条件づけ——	条件づけを理解し、教育現場でどのように応用できるかを考える。授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第13回	学習に関する理論2——観察学習と技能学習、教育における評価——	観察学習と技能学習について理解し、教育現場でどのように応用できるか考える。評価とは何かを知る。授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第14回	障害と教育——「障害のある子ども」とは——	障害とは何かを理解し、特別支援教育やインクルーシブ教育について知る。授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第15回	総括——教育心理学の理論の実践への応用——	教育心理学の理論から、教育現場や子どもを取り巻く社会の中での課題を考え、どのように実践につなげるのかを考える。授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分

学習計画注記	講義を中心に展開する予定であるが、質疑応答・討論も大切にしたい。その展開によって生きた流れを優先するため、上記スケジュールを変更することもある。
学生へのフィードバック方法	1. 授業時に実施する自己チェックについては、その都度、教員との間で結果を共有する。 2. コメント欄付きの出席カードについては、毎回配布、回収し、最終的に教員が出席状況と記入内容をチェックした後、返却する。
評価方法	最終試験をもとに総合評価を行う。授業への意欲、態度も加味する。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
自己チェック	○		○	
出席カード (コメント式)		○	○	○
最終試験	○	○		

評価割合	最終試験70%、授業への意欲・態度（自己チェック、出席カードなど）30%	
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。授業時にレジュメを配布する。	
参考図書	『教育心理学』丸善出版 ￥2,500 このほか適宜、授業の中で紹介する。	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】「教育」という観点から人間を相対化することで、「自然界における人間」を理解する心理学的な知識を得る。</p> <p>【思考・判断】心理学的な思考をもって「教育」を理解し、その現代社会においてあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を得る。</p> <p>【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々、特に教育現場のために働く能力を、教育の心理学への知識に基づく関心によって得る。</p> <p>【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会、教育現場の中に課題を発見し、教育心理学的な思考や教育心理学の理論を用いて、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を得る。</p>	
オフィスアワー	月曜日のお昼休み、4限（町田キャンパス1633室）	
学生へのメッセージ	教室外学習は欠かさず行ってください。また、教育問題や、自分自身をも含めた「人」への関心を高めてください。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	教育、福祉、医療・保健領域において、子どもを対象とする心理臨床活動を、臨床心理士として行った実務経験をベースに授業を行う。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	google classroomを、自己チェック、配布資料のアーカイブなどで活用する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	教育原理		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田 敦子	指定なし

ナンバリング	P10005M21
授業概要(教育目的)	教育が人間にとってどのような意味をもっているのかを根本的に考えるために、人類の歴史、教育の歴史および思想、教科書問題、学力、生涯学習、子どもの権利等の多様な観点から理解が深められるように授業を行う。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	教育が人間固有の営みであり、人間にとって必要不可欠であり、社会文化国家によって異なる歴史と思想によって形成されてきたことを理解できる。
思考・判断の観点 (K)	現代教育問題の本質にあるものを見つめられる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教員になるための最も基本的な科目である。常に「教育とは何か」という問題意識を持って受講している。
技術・表現の観点 (A)	教育の意義を理解することで、教職をこころざす者としての心構えを身につけ、広い視野で教育活動を中心とした社会貢献ができる教員を目指す姿勢を持てるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	教育が人間にとって持つ意味(1)	人間とチンパンジー等の他の動物と比較しながら、人間にとって教育がもつ意味を考える。	授業前後に教科書pp. 1-16を読むこと。	120分
第2回	人間は教育をどのように捉えてきたか	「教育とは何か」を考える導入として、古代から現代に至るまで、世界の著名人が教育について述べた理念および名言等を学ぶ。	授業前後に教科書pp. 16-42とレジュメの第2回の部分を読むこと。	180分
第3回	<子ども>の発見	西洋近代では「子ども期」の発見によって教育が誕生した。フィリップ・アリエスの研究を紹介しながら西洋教育史の導入とし、西洋近代における教育思想：コメニウス、ルソー、コンドルセの教育思想等を学ぶ。	授業前後に教科書pp. 43-54とレジュメの第3回の部分をよく読むこと。	180分
第4回	近代日本に影響を与えた西洋教育思想	ベスタロッチー、フレーベル、デューイの教育思想の概要を学ぶ。	授業前後に、教科書pp. 54-59とレジュメの第4回の部分をよく読むこと。	180分
第5回	近世以前の教育と近世	近世以前に存在した教育機関大学寮、足利学校等でのどのような教育が行われていたのかをスライドを見ながら学	西洋教育史に関する小テストを実施する。授業後に、教科書	180分

	の教育	ぶ。江戸時代についても、藩校郷校等の教育機関で行われていた教育内容について学ぶ。藩校等の映像を見ながら学ぶ。(第1回小テスト)	pp.61-65とレジュメの第5回の部分を良く読んでおくこと。	
第6回	近世の教育思想	中江藤樹、細井平洲、貝原益軒等と私塾の塾主となった本居宣長、広瀬淡窓、吉田松陰等江戸時代の代表的な教育者の思想を学ぶ。	授業前後に、教科書pp.65-67とレジュメの第6回の部分を良く読んでおくこと。	180分
第7回	近代日本公教育制度の成立と展開	明治維新以降、近代日本公教育制度成立期の制度として、学制と教育令について学ぶ。	授業前後に、教科書pp.67-71とレジュメの第7回の部分を良く読んでおくこと。	180分
第8回	近代日本公教育制度の成立と展開	教育令が改正、再改正を経て、小学校令が初代文部大臣森有礼によって公布されるに至る過程、森有礼の教育政策と教育勅語の公布について学ぶ。	授業前後に、教科書pp.71-74とレジュメの第9回の部分を良く読んでおくこと。	180分
第9回	子どもの権利条約	子どもの権利条約成立の契機となったコルチャック神父の思想について学び、子どもの権利条約の条文を示しながら、それに抵触する現代日本社会における児童虐待等の問題を子どもの権利の観点から批判的に検討する。	近代以前の日本の教育史について第2回目の小テストを実施する。設問は25問程度。授業前後に、教科書pp.243-257と第5回～第9回のレジュメを良く読んでおくこと。	240分
第10回	教科書の歴史	近代日本の教科書の歴史、現代的課題を学ぶ。	今回の部分は教科書に詳述されていないので、レジュメを良く読んでおくこと。	180分
第11回	大正自由教育運動	大正自由教育運動でどのような教育主張が展開されたかを学ぶ。「主体的で対話的な深い学び」が重要視される今日、大正期にも同じような傾向が見られたことを現代と対照しながら学ぶ。	授業前後に教科書pp.75-77、pp.174-181と第11回のレジュメを良く読んでおくこと。	180分
第12回	授業をつくる	授業のデザインの仕方、教材とは何か、学習指導案の書き方を学ぶ。教育実習時や将来教員になる時のことを想定してしっかり学ぶこと。	授業前後に、教科書pp.157-173と第12回のレジュメを良く読んでおくこと。	180分
第13回	学力とは何か	学力をめぐる考え方、論争等を示しながら、学力とは何か、どのように評価できるかについて理解を深める。	授業前後に、教科書pp.91-107と第13回のレジュメを良く読んでおくこと。	180分
第14回	生涯学習	生涯学習社会がどのように形成され、現代社会にどのような役割を果たしているか、何が求められているかを概説する。	第2回テストの返却。授業前後に、教科書pp.209-242と第14回のレジュメを良く読んでおくこと。	120分
第15回	現代日本の教育課題	いじめや不登校等の教育問題がなぜ生じたのかを考えながら、それらの問題を解決するために教育に何が求められているかを考える。学生に発言を求める。	授業前後に、教科書pp.259-281と第15回のレジュメを良く読んでおくこと。期末レポートはこの授業内に提出すること。	240分

学習計画注記 ※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 小テスト(2回)の採点後の返却。模範解答も同時に配布する。リアクションペーパーへの応答。

評価方法

- ・小テストは、基本的知識の定着と理解度を測るために行う。第1回は西洋教育史について15問程度、第2回は日本教育史について25問程度行う。すべて穴埋め方式で出題する。なお、特別な事情と申し出が無い限り、小テストの再試験は行わないので注意すること。
- ・期末レポートのテーマは、「教育とは何か、貴女の考えを述べなさい」(2000字以上)である。本講義を通して学んだことを理解した上で、自分の考えや経験をもとに、自分の考えを自分の言葉で論じることを求めている。引用の多いレポートや説明だけでは、本課題に取り組んだと言う評価は与えられないので、注意すること。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
第1回小テスト	○			
第2回小テスト	○			
期末レポート		○		○
リアクション・ペーパー			○	○

評価割合 小テスト(2回)30%、平常点20%、最終レポート50%

使用教科書名 (ISBN番号) 田嶋一ほか『やさしい教育原理 改訂版』有斐閣 (978-4-641-22081-2)

参考図書

- ・古沢常雄・米田俊彦『教育史』学文社 2009年、
- ・高橋陽一『教育通義』武蔵野美術大学出版会 2014年、
- ・ポルトマン著『人間はどこまで動物か』岩波新書 1961年
- ・松沢哲郎『想像する力 チンパンジーが教えてくれた人間の心』岩波書店 2011年、
- ・コメニウス著 井ノ口淳三 訳『世界図絵』平凡社ライブラリ 1995年

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐこと

	<p>ができる。</p> <p>【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に判断して行動できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】社会の中に在る諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。</p>															
オフィスアワー	水曜日3限（要アポイントメントにより時間調整を行う。）															
学生へのメッセージ	「教員とは何か」について常に問題意識を持って日常生活を送り、受講してください。考える材料は、身近に沢山あります。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>アクティブ・ラーニング：常時、学生へ質問し発言を求め、対話的な授業形式を取る。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング	○	アクティブ・ラーニング：常時、学生へ質問し発言を求め、対話的な授業形式を取る。	情報リテラシー教育			ICT活用		
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業																
アクティブ・ラーニング	○	アクティブ・ラーニング：常時、学生へ質問し発言を求め、対話的な授業形式を取る。														
情報リテラシー教育																
ICT活用																

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	教師・保育者論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 齋藤 義雄	指定なし
教授	新開 よしみ	指定なし

ナンバリング	P20201M21
授業概要(教育目的)	教師・保育者は、どのような仕事をしているかについて具体的に学ぶ。教師・保育者の指導観・保育観の基本は、「子どものためになるかどうか」である。優れた教師・保育者の実践を振り返り、教職とは何か、教職の意義とは何かを学び、理想の教師・保育者像を議論する。教師・保育者の1日や1年の仕事の具体的な内容について、教師・保育者の仕事の実態を理解させたい。反省的实践家としての教師・保育者は、日々の授業や保育を振り返り、常に改善を図っている。職場において、若手の教師・保育者が抱える悩みや不安についてアクティブラーニングを通して、理解を深めたり改善策を考えたりして、教育実習・保育実習や教職への意欲の向上を図る。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	教育者・保育者の資質・能力について、いくつか具体例を挙げて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 教育者・保育者としての成長のプロセスを自分なりにイメージし、「わたしの理想の教師像・保育者像」を持つことができる。 2. 自分を振り返り、必要な知識・技能・態度について考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教育・保育のあり方についての様々な意見・考え方に関心を持ち、自分で調べたり、グループ討議に積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	教職の意義：公教育の目的	公教育の目的を学ぶとともに、「わたしの理想の教師像・保育者像」をイメージしながら、教育者・保育者の専門性とは何か、教育者・保育者になるために身につけるべき知識・技能・態度とは何かを考える。	テキスト『教職概論』の序章・第1章を読んでおく。	120分
第2回	教職の意義：他の職業との比較による教職の特徴の理解	他の職業との比較を通して、教職の特徴を理解する。	テキスト『教職概論』の第2章を読んでおく。	120分
第3回	保育者とは：「幼稚園教諭」「保育士」	「幼稚園教諭」「保育士」の制度的位置づけと、職務内容の特徴や義務、倫理等について学ぶ。	指定された課題に取り組む。	120分

	の制度的位置づけとその特徴			
第4回	教員の役割：教職観の変遷	教員の役割について考えるとともに、教職観の変遷について学ぶ。	テキスト『教職概論』の第4章を読んでおく。	120分
第5回	教員の役割：教員に求められる資質 道徳	教員の役割について考えるとともに、教員に求められる資質として、知・徳・体の徳をになう道徳について学ぶ。	テキスト『教職概論』の第5章を読んでおく。	120分
第6回	保育者の役割：幼稚園教育要領・保育所保育指針	保育者の役割について、幼稚園教育要領、保育所保育指針を通して学ぶ。	指定された課題に取り組む。	120分
第7回	保育者の役割：倉橋惣三「育ての心」を手がかりに	保育者の役割について、倉橋惣三の「育ての心」を手がかりに考える。	指定された課題に取り組む。	120分
第8回	保育者の役割：保育の記録を手がかりに	保育者の役割について、保育の記録を手がかりに考える。	指定された課題に取り組む。	120分
第9回	教員の職務内容：教員研修の意義	教員の職務内容について理解するとともに、教員研修の意義について考える。	テキスト『教職概論』の第11章を読んでおく。	120分
第10回	教員の職務内容：服務上・身分上の義務	教育者・保育者の職務内容について学ぶとともに、服務上・身分上の義務について学ぶ。	テキスト『教職概論』の第13章を読んでおく。	120分
第11回	保育者の専門性：子どもの理解と保育実践	子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢でいることの重要性について考えることを通して、保育実践について考える。	指定された課題に取り組む。	120分
第12回	保育者の専門性：幼稚園の実践から考える	幼稚園の実践事例を通して、保育者の専門性について学ぶ。	指定された課題に取り組む。	120分
第13回	保育者の専門性：認定こども園の実践から考える。	認定こども園の実践事例を通して、保育者の専門性について学ぶ。	指定された課題に取り組む。	120分
第14回	チーム学校運営への対応：主に校内	チーム学校として、同僚とのチームワークや学びあい、専門職、関係機関との連携や協働の重要性について学ぶ。	テキスト『教職概論』の第10章・終章を読んでおく。	120分
第15回	まとめと振り返り～教育者・保育者の資質向上とキャリア形成	これまでの学習を振り返り、「わたしの理想の教師像・保育者像」を明確にするとともに、教育者・保育者としての資質向上とキャリア形成のために必要なことについて具体的に考える。	これまでの授業の総復習をしておく。	240分

学習計画注記 ※授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 齋藤：毎時間のリフレクションペーパーを通して、授業内小試験の重要項目を周知する。初期の段階にレポート課題を提示することで、作成の期間を十分に取る。質問等がある場合は1628研究室まで訪問すること。
 新開：提出課題等については授業内にてその都度返却し解説を行う。質問等がある場合は1635研究室（emailも可）まで訪問すること。

評価方法 齋藤：授業内小試験を実施するとともに、レポートを提出してもらう。授業に取り組む状況等については、「積極的な参加態度」として評価する。
 新開：提出課題を毎回ファイリングしていき「学びの記録」として1冊にまとめたものを最終回に提出、これを主な評価対象とする。加えて、各回の授業に取り組む態度やグループワークへの参加状況等については「積極的な参加態度」として評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業内小試験	○	○	○	

	レポート	○	○	○	○
	学びの記録	○	○	○	○
	積極的な参加態度		○	○	
評価割合	授業内小試験（20%）、レポート（20%）、学びの記録（40%）、積極的な参加態度（20%）の割合で評価する。				
使用教科書名 (ISBN番号)	齋藤義雄『教職概論』大学図書出版 保育所保育指針				
参考図書	小学校学習指導要領 幼稚園教育要領 認定こども園教育・保育要領				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもの教育・保育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。 【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性が備わっている。 【関心・意欲・態度】子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。 【技能・表現】子どもの専門家として社会に貢献できる。				
オフィスアワー	齋藤：木曜2時限 1628研究室 新開：金曜4時限 1635研究室				
学生へのメッセージ	「わたしの理想の教師像・保育者像」を考え、教育者・保育者の専門性について学ぶ授業です。自分の考えを深めるために教育・保育に関する文献を最低1冊は読みましょう。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	小学校教員としての実務経験を活かし、小学校の実態や実践事例等を具体的に教える。			
アクティブ・ラーニング	○	グループワークを適宜取り入れる。			
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	児童文化		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 未 定1	指定なし

ナンバリング	P10603M21
授業概要(教育目的)	子どもを取り巻くさまざまな文化について学ぶ。 ・児童文化史を概観し、児童文化の流れを把握する。 ・年中行事や伝承遊び等の伝承文化について学び、基礎的な知識を習得する。 ・現代の子どもの暮らしについて学び、子どもの生活文化についての理解を深める。 ・現代の子どもの遊びの現状を具体的に検討することによって、子どもを取り巻く文化についての考察を深める。 ・子どもにとって身近な児童文化財のひとつである絵本や紙芝居などについて学び、知識を深める。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	児童文化の歴史の変遷、伝承遊びや伝承文化などについて基礎的な知識が身についている。
思考・判断の観点 (K)	児童文化の重要性を理解した上で、子どもたちとの関わり方について自ら思考し、判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的に児童文化に興味・関心を持ち、子どもたちのより良い成長や発達に貢献できる。
技術・表現の観点 (A)	絵本や紙芝居などを作成し、児童文化を具体的に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	絵本の概要	絵本作りの基本。絵本は絵描きと文筆家とデザイナー、編集者で作られる。それぞれの役目について「ボタ山であそんだころ」を読みながら製作について話をする。	「ボタ山であそんだころ」を読んでくる。持参すること。	120分
第2回	絵本を読み解く①子どもと自然、人間関係	絵本に登場人物やもの、動物についての背景を想像する。家族関係、友達関係。背景を自分なりに想像し、お話の軸を考える。「あひる」の登場人物の人間関係を読み解く。	「あひる」を読んでくる。持参することが望ましい。	120分
第3回	絵本を読み解く②子どもと家族	「またおこられてん」を読み合う。家族関係を想像する。主人公の性格、お父さんの仕事、性格。お母さんの趣味、性格、身体的変化などを考える。各自発表する。	「またおこられてん」を読んでくる。持参することが望ましい。	120分
第4回	絵本を読み解く③自分の中の「子ども」を発見する	「かんけり」を読みあいながら 自分の中の「子ども」を見つける。絵本制作をしていると自分の中の子どもがどのような人間関係、生活環境で育ったかが明確になってくる。その子どもと向き合う。	「かんけり」を読んでくる。持参すること。	180分

第5回	絵本を読み解く④絵本の中の登場人物を自分に投影する	選んできた絵本の登場人物などを自分なりに読み解き発表する。	自分の好きな絵本を一冊選んでくる。	180分
第6回	絵本の読みあい	グループごとにそれぞれの本の朗読法を探る。朗読発表。読み方の違い、理解の違いに気づく。	複数名のグループを設定する。グループ内で、それぞれ異なる絵本を選び、読んでおく(4人だったらそれぞれ違う本を4冊選んでおく)。	180分
第7回	自分の中に見つけた「子ども」	1～6の中で見えてきた自分の中の「子ども」を、エピソード(ドストーリー)を書くことにより見出す。	これまでの学習内容について復習し、その中に見えてくる自分の中の「子ども」について考えておく。	180分
第8回	自分の中の「子ども」	自分の中の「子どものストーリー」を発表する。他者のストーリーに質問したり、質問に答えるうちにさらに、その内容が深くなったり、別の「子ども」が見えてくることに気づく。	自分の中のストーリーが発表できるようまとめておく。	210分
第9回	見えてきたストーリーを絵本にする①絵本制作とは	見えてきたストーリーを絵本にするための方法について考える。	絵本制作の手順について、Web等で調べてみる。ラフ用のスケッチブック、画用紙、画材(自由)を準備しておく。	120分
第10回	見えてきたストーリーを絵本にする②大ラフとは	大ラフについて、制作を通して理解する。	大ラフのアイデアを練っておく。	180分
第11回	見えてきたストーリーを絵本にする③作画について	各自の大ラフを固める作画について、制作を通して理解する。	作画のアイデアを練っておく。	210分
第12回	見えてきたストーリーを絵本にする④絵本ができるまで	作画を絵本に制作していくことを体験し、ストーリーと作画の関係を理解する。	絵本づくりの下準備を行う。	210分
第13回	見えてきたストーリーを絵本にする⑤絵本制作を振り返る	見えてきたストーリー → 大ラフ作り → ラフを固める作画 → 絵本に制作の過程を、自身の制作した絵本に基づいて振り返ることを通し、絵本と子どもの関係について理解を深める。	絵本を仕上げる。	210分
第14回	絵本を語る(発表会)	制作した絵本を発表する。他者の発表を聴き、その絵本の中の語り手のストーリーを味わう。絵本の魅力を考える。	制作した絵本を声に出して読み、語り方の練習をしておく。	120分
第15回	絵本の魅力を再考察する	これまでの学習内容を振り返り、また実際に制作することを通して、絵本の魅力、絵本の意味を再考察する。	これまでの学習内容を振り返り、また実際に制作することを通して感じたことをまとめておく。	210分

学習計画注記 履修者数、授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合もある。絵本の制作に関しては、予定が合えば複数の回数をまとめて行いたい。

学生へのフィードバック方法 毎回の講義で提出するレポートを通し、質問や感想を受け付ける。質問事項に関しては、翌週の講義で解説する。

評価方法
 ・平常点(授業中の実績)と課題レポートの結果から判定する。
 ・授業中の実績には毎回の授業でのミニレポート、課題(絵本の制作及びレポート)授業への参加状況を含む。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
試験または課題	○	○	○	○

評価割合 平常点40%・試験または課題60%

	(平常点は、毎回の授業でのミニレポート、授業への参加状況等を総合して判断します)	
使用教科書名 (ISBN番号)	石川えりこ『ボタ山であそんだころ』(福音館書店)、石川えりこ『かんけり』(アリス館)	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】児童学を構成する6領域を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識を修得した上で児童文化について考えることができる。</p> <p>【思考・判断】実習などで子どもと直接ふれあい学び合う実践的な機会を通して児童文化の学びを応用し、学生自らがさまざまな課題に柔軟に対応できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】子どもたちの健全な成長・発達のために使命感を持って行動でき、子どもたちに児童文化を積極的に伝えることができる。</p> <p>【技能・表現】子どもの専門家として児童文化の伝承に貢献できると同時に、絵本や紙芝居などを作成できる豊かな表現力が身についている。</p>	
学生へのメッセージ	児童文化は子どもの幸せを願いながら育まれてきたものです。教科書やプリントによる予習・復習に加えて、児童文化に日頃から興味を持ち、幅広く情報を取り入れることを心掛けてください。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	絵本作家として現在も創作活動を行っていることを授業に反映させる。
アクティブ・ラーニング	○	授業は学生が自分で考え、それを表現することで進められる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	子どもの保健		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 未定1	指定なし

ナンバリング	P20001M21
授業概要(教育目的)	地域における保健活動、子どもの身体的特徴や発育発達を学び基礎知識を習得する。子どもの発達段階に応じた事故予防や保育における衛生管理、危機管理、安全管理を理解する。
履修条件	「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を総合的に理解し子どもに関する専門的な知識を習得するために、意欲的に授業にのぞむ。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	からだのしくみを知ることにより、子どもの身体的特徴や発育発達を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	子どもの発達段階に応じた事故予防、保育における衛生管理、危機管理、安全管理を理解できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	虐待や貧困などの社会的問題に真剣に取り組む、地域の子育て支援に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	子どもの変化に気づくことができるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション 子どもの健康と保健の意義① 保健活動の意義と目的	授業の進め方等のオリエンテーションから、今後の授業の進め方を理解する。	教科書P1～13ページを読む。 今後の授業の進め方を確認し自分自身の学習計画を立てる。	180分
第2回	母子保健の意義と現代社会における子どもの健康に関する現状と課題	母子保健の現状と課題を子どもの健康の視点で考え検討する。	教科書P14～27を読む。 授業で学んだ内容をノートにまとめる。	180分
第3回	子どもの発育・発達と保健	子どもの健康について理解を深める。	教科書P28～35を読む。 身体発育曲線の課題を行う(次回提出)	180分
第4回	子どもの運動機能の発達と保健	子どもの運動機能の視点で学びを深める。	教科書P36～41を読む。 授業で学んだ内容をノートにまとめる。	180分

第5回	子どもの生理機能の発達と保健	子どもの生理機能の視点で学ぶを深める。	教科書P42～50を読む。 授業で学んだ内容をノートにまとめる。	180分
第6回	子どもの精神機能の発達と保健	子どもの精神機能の視点から学びを深める。	授業で学んだ内容をノートにまとめる。	180分
第7回	母子健康手帳からみる発達と保健	母子健康手帳の意義を理解する。	自分自身の母子健康手帳から自らの発達を知る。	180分
第8回	地域における保健活動と子どもの虐待防止	子育て支援のあり方を考える。	虐待についての新聞記事等を1事例をレポートし提出する(500字以内)。 次回提出	180分
第9回	子どもの生活習慣と食生活	子どもの生活習慣を理解する。	配布資料を読む。 授業で学んだことをノートにまとめる。	180分
第10回	発達障害の理解	発達障害とはを知り、どのように関わることが必要であるかを理解する。	配布資料を読む。 授業で学んだ内容をノートにまとめる。	180分
第11回	保育における環境整備と衛生管理	環境整備の必要性和健康を守るための生成管理方法を理解する。	授業で学んだ内容をノートにまとめる。	180分
第12回	保育における危機管理と安全管理	子どもの安全、安心を守るために必要なことを学ぶ。	配布資料を読む。 授業で学んだ内容をノートにまとめる。	180分
第13回	子どもの事故の現状と課題	子ども事故の現状をすることで防ぐために何が必要であるかを考える。	平成30年 教育・保育施設等における事故報告集計を読む。	180分
第14回	事故やけがに対する応急処置・救命処置	実際の処置の方法を知識として深める。	教科書P81～86を読む。 授業で学んだ内容をノートにまとめる。	180分
第15回	小児保健Ⅰの総合理解	小児保健Ⅰの総合的理解を深める。	小児保健としての意義を再度確認する。	180分

学習計画注記 授業で学んだ内容を再度自分自身で振り返ることにより、更に理解が深まります。時間を上手に使いましょう。

学生へのフィードバック方法 授業終了後、質問等がある場合は教室内で対応する。

評価方法 毎日に振り返りシートの記入により、授業の理解度を確認する。授業の理解状況に応じて課題を設け、次回の授業開始時に提出する。定期試験は100点満点とし、毎回の授業に配布する資料や教科書などから出題し記述問題とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
振り返りシート	○	○	○	
課題	○			
平常点	○		○	
定期試験	○	○	○	

評価割合 定期試験 (70%)
課題 (10%)
振り返りシート (10%)
平常点 (10%)

使用教科書名 (ISBN番号) 授業で現場で役に立つ! 子どもの保健テキスト 診断と治療社 小林 美由紀

参考図書 保育所保育指針 平成29年告示 フレーベル館

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】 子どものからだのしくみを理解し、子どもの成長発達に応じた支援ができる知識を習得する。

オフィスアワー なし

学生へのメッセージ ・日頃から子どもの健康に関するニュースなどに関心を持ち情報収集を行うこと。

- ・授業で習った内容を復習し定着を図ること。
- ・配布プリントは1冊にファイリングをして授業に持参すること。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は公立の保育所の看護師として実務経験があり、保育現場現状を踏まえた授業を行う。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究A（畝部）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 畝部 典子	指定なし

ナンバリング	P40001M22
授業概要(教育目的)	テーマの決定、文献検索、論文作法などを学び、卒業研究の基礎となる前期レポートを完成させる。
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・3年次終了までに90単位取得していること。 ・論文/レポート作成には、コンピューターを利用しての文書作成技能が求められる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	卒業研究（卒業論文）の書式、卒業研究（論文）作成のための情報検索方法を理解し、研究課題に関する深い知識を持っている。
思考・判断の観点 (K)	これまでに学んだ知識を背景に、卒業研究（卒業論文）の研究課題について検討・考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	主体的、意欲的に卒業研究（卒業論文）作成に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	結束性と一貫性のある論理的文章を書くことができる。

学習計画

卒業研究A

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	テーマの絞り込み1	ディスカッションを通じてテーマの絞り込みをする。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第2回	テーマの絞り込み2	ディスカッションを通じてテーマの絞り込みをする。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第3回	文献目録作成1	ディスカッションを通じて文献目録を作成する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第4回	文献目録作成2	ディスカッションを通じて文献目録を作成する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第5回	先行研究の調査1	ディスカッションを通じて先行研究を調査する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第6回	先行研究の調査2	ディスカッションを通じて先行研究を調査する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分

第7回	先行研究の調査3	ディスカッションを通じて先行研究を調査する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第8回	研究課題の確定、最終的主張の決定1	ディスカッションを通じて研究課題を確定し、最終的主張を決定する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第9回	研究課題の確定、最終的主張の決定2	ディスカッションを通じて研究課題を確定し、最終的主張を決定する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第10回	卒業研究(論文)アウトライン作成1	ディスカッションを通じて論文のアウトラインを作成する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第11回	卒業研究(論文)アウトライン作成2	ディスカッションを通じて論文のアウトラインを作成する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第12回	前期レポート作成と添削1	ディスカッションを通じて前期レポートを作成し、添削を行う。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第13回	前期レポートの作成と添削2	ディスカッションを通じて前期レポートを作成し、添削を行う。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第14回	前期レポートの作成と添削3	ディスカッションを通じて前期レポートを作成し、添削を行う。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第15回	前期レポートの作成と添削4	ディスカッションを通じて前期レポートを作成し、添削を行う。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第16回	前期レポートの提出	前期レポートを指定の期日までに提出する。提出にあたっては必ず担当教員の内容確認を受け、文字数は10,000字以上とする。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分

学生へのフィードバック方法 提出される論文・レポートは添削または修正点を指摘する。

評価方法 平常点(授業中の実績)と10,000字以上のレポートの提出により評価する。レポートの書式は指示に従い、参考文献目録を必ずつけること。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
レポート提出	○	○	○	○

評価割合 平常点(50%)、前期レポートの提出(50%)により総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号) なし(プリント配付)

参考図書 別途指示する。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】児童学の6領域(子どもの保育・教育・福祉・健康・シリ・文化)について総合的・専門的知識が修得できている。
【思考・判断】子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学びあう具体的・実践的な機会を通して、自らさまざまな課題に柔軟に対応できる。
【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。
【技能・表現】理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる。保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。

オフィスアワー 木曜2時限 1630研究室

学生へのメッセージ 指示に従って積極的・主体的に資料収集、文献研究、論文/レポート作成を行うこと。事前に本学の『リテラシー演習テキスト』を読んでおくこと。実習で欠席したゼミにおける課題は、必ず後で提出すること。ゼミは卒業研究作成に重要な授業となるため、最優先すること。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	議論、発表など双方向の授業を行う。
情報リテラシー教育	○	情報蒐集、情報処理、情報発信について学ぶ。
ICT活用	○	コンピューター技術を利用した情報処理を行う。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究A（金子）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金子 和正	指定なし

ナンバリング	P40001M22
授業概要(教育目的)	子どもの福祉と保育，心理と発達，健康と環境，文化と社会，生活と教育の5つの学びの分野及びその他の児童学関連分野から，先行研究をふまえて自らの研究課題を設定し，研究方法を吟味し，研究計画に基づいて調査・データ収集等に従事する。中間報告会では，これまでの研究成果をプレゼンテーションし，卒業研究Bに向けての課題を明らかにする。なお，授業内容の詳細については各指導教員の指導によるものとする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	テーマに関する知識や力をしている。
思考・判断の観点 (K)	研究の目的を明らかにする方法を判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	研究に関する積極的関心・意欲を持っている。
技術・表現の観点 (A)	発表が様々な機器を使用してできる。データの蓄積のデバイスについての知識がある。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	卒業研究について	大学での4年間の勉強の集大成としての卒業研究の目的や意義について理解する。	研究論文が報告書や感想分、レポートと異なることを理解しておく。卒業論文は研究論文であり科学性を有していることを理解しておく。	120分
第2回	歴史的、哲学的研究法とその成果	論文の書き方の歴史的・哲学的研究法について理解する。	歴史的・哲学的研究法と成果について理解しておく。研究方法として多くの時間を費やすことも理解しておく。	120分
第3回	調査研究法とその成果	質問紙やアンケートの作成方法について半構造化質問法を中心に理解する。	統計処理の初歩的方法、Excel統計やspssを使った検定方法を調べておく。t検定や二元配置の分散分析について理解しておく。	120分
第4回	実験的研究法とその成	実験的研究法について理解する。	実験的研究は、仮説の検証のために行われ、あらかじめ計画さ	120分

	果		れた手続きに基づいてデータ収集や分析が行われることを理解しておく。	
第5回	事例研究	事例研究の対象者や事例研究で明らかになる実践の知について理解する。	事例研究の対象者となる園児、児童と先生との関係について、園や学校、行事を通して理解しておく。	120分
第6回	質的・量的研究法	研究の質的・量的研究について研究デザインから理解する。	質的・量的研究の意味するところは何かを調べておく。	120分
第7回	テーマを決める	卒業研究のテーマを設定することを理解する。	テーマを設定する条件として、テーマへの関心、研究の期間内での完成、研究方法などの条件が挙げられることを理解しておく。	120分
第8回	テーマの背景をとらえる	卒業研究のテーマが、現在の社会でどのような位置にあるのか、どのように取り挙げられているのか理解する。	卒業研究のテーマが、社会の中でどう取り挙げられ方をしているか理解しておく。	120分
第9回	仮説の設定	研究の目的を明らかにするための仮説を立てる。あるいは仮説を検証するための研究目的を設定し、研究がどちらのタイプなのか理解する。	仮説検証型か仮説生成型か、研究は基本的にはこの2つのどちらかであることを理解しておく。	120分
第10回	先行研究を探る	研究のテーマに関係するこれまでの先行研究を調べる。先行研究の検索の方法を理解する。	論文では過去10年程度を検索する。基本的な図書はしっかりと読み込んでおく必要性を理解しておく。キーワードの探し方や検索エンジンを理解しておく。	120分
第11回	研究方法、手続きの検討	測定や実験、調査、事例研究のどの研究方法を用いるかについて、テーマとの関連から理解する。	研究手法について、研究の仮説の証明からどの方法がもっとも望ましいかについて理解しておく。	120分
第12回	研究計画を立てる	研究の目的を明らかにするために、研究方法、期間、協力体制、その他の諸条件から研究の計画を立てる。	要旨の提出、研究論文発表会を見据えて研究計画を時間軸を主に立てていく。	120分
第13回	データ収集①	論文のためのデータを収集する。アンケート、ネット、調査等から研究の軸となるデータを収集することをお理解する。	データの期限内の収集を理解しておく。	120分
第14回	データ収集②	データ収集に長い期間を要するとデータの信頼性に影響が出ること、対象を子どもにした場合は発育・発達の差違が異なった要因として現れてしまうことを理解する。	データの収集は短期に集中して行い、依頼をしている場合は先方に催促する。データの収集は論文の第一歩であることを理解しておく。	120分
第15回	中間発表	データの収集までを区切りに中間発表を行う。第三者にわかりやすい研究計画の説明や仮説の設定、研究手法や手順について説明することを理解する。	第三者にわかりやすいプレゼンテーションをすることを理解しておく。	120分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	毎授業時に研究の進み具合の発表に対して、コメントを与える。
評価方法	研究に取り組む姿勢、データ収集への積極的姿勢、中間発表プレゼンテーションの総合的評価とする。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
研究に取り組む姿勢	○	○	○	
データ収集への積極的姿勢	○	○	○	
中間発表プレゼンテーション	○		○	○

評価割合	研究に取り組む姿勢 (40%)、データ収集への積極的姿勢 (30%)、中間発表プレゼンテーション (30%) の総合的評価とする。
------	---

ディプロマポリシーとの関連	【知識・技術】テーマについて多くの知識をもっている。 【思考・判断】
---------------	---------------------------------------

	【関心・意欲・態度】研究の目的を明らかにするために積極的に取り組む。 【技術・表現】発表の技術に関して、ICTを活用している。															
オフィスアワー	月曜日4時限目															
学生へのメッセージ	3年次後期に指導教員を決めるので、それまでに自分の興味・関心のあるテーマを探し検討しておくことが望ましい。また、4年次は実習や就職活動等で慌ただしくなるため、指導教員と連絡を密に取りながら、計画的に研究のための時間を十分に確保して、一步一步研究が進められるように努力しよう。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>卒論の執筆までの準備を通して、様々な情報限に接する。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td>○</td> <td>先行研究やテーマの背景を考える上で、多くの情報の整理を行う。</td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td>○</td> <td>中間発表の方法をiPadや形態電話からプレゼンテーションしていく。</td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング	○	卒論の執筆までの準備を通して、様々な情報限に接する。	情報リテラシー教育	○	先行研究やテーマの背景を考える上で、多くの情報の整理を行う。	ICT活用	○	中間発表の方法をiPadや形態電話からプレゼンテーションしていく。
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業																
アクティブ・ラーニング	○	卒論の執筆までの準備を通して、様々な情報限に接する。														
情報リテラシー教育	○	先行研究やテーマの背景を考える上で、多くの情報の整理を行う。														
ICT活用	○	中間発表の方法をiPadや形態電話からプレゼンテーションしていく。														

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究A（中田）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 中田 範子	指定なし

ナンバリング	P40001M22
授業概要(教育目的)	<p>各自でテーマを決めて論文を作成する。幼児教育学研究室では、保育現場での観察研究などの方法を用いて、保育・幼児教育現場における乳幼児の生活に関わるすべてのことを研究対象としている。その際には、保育者と子どもという関係性を踏まえて、子どもを中心とした考察をすること、子どもの現在と未来がより豊かで充実したものとなるための研究を行うことを重視している。具体的には、以下のような研究内容である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育・教育方法に関する研究 2. 保育・教育現場での環境や教材に関する研究 3. 保育現場における事例に見られる関係性(子どもと保育者、子ども同士など)に関する研究
履修条件	所定の単位数を修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各自のテーマに関連する先行研究から研究に有意な情報を判断し、論文作成に活用する。 ・ 各自のテーマに関連する事項を多角的な視点からとらえ、子どもを中心とした思考・判断のもとに考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	研究協力者である子どもや保護者、園関係者に対する倫理的配慮のある態度で、子どもの現在と未来に有意義な研究をすすめる。
技術・表現の観点 (A)	各自のリサーチクエスションに適した研究方法を実現し、論文に適した文章等に表現する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	先行研究リストの作成と先行研究の活用について 卒論提出までのスケジュールの確認	先行研究文献リストの完成	90分
第2回	テーマの設定	テーマの設定と研究の方向性について検討する。	「卒業研究テキスト」内のサブノートの確認・修正を完成する。	90分
第3回	研究方法①	児童学の研究に関する基本について資料に基づき検討する。先行研究を自身の研究に活用する際の視点について理解する。	「卒業研究テキスト」内の演習問題を完成する。	90分

第4回	研究方法②	自身のテーマに適した研究方法を検討する。	研究方法に関する文献を手掛かりに適した研究方法について検討する。	90分
第5回	論文発表①	先行研究の収集と考察として各自のテーマに沿った先行研究を発表し討議する。	論文発表の準備及びレジュメの作成	90分
第6回	論文発表②	先行研究の収集と考察として各自のテーマに沿った先行研究を発表し討議する。	論文発表の準備及びレジュメの作成	90分
第7回	論文発表③	先行研究の収集と考察として各自のテーマに沿った先行研究を発表し討議する。	論文発表の準備及びレジュメの作成	90分
第8回	論文発表④	先行研究の収集と考察として各自のテーマに沿った先行研究を発表し討議する。	論文発表の準備及びレジュメの作成	90分
第9回	予備調査と中間発表の概要	予備調査の手続きについて検討し、各自準備を進める。	予備調査の手続きを具体的に考え、適したフィールドを検索する。	90分
第10回	中間発表①	先行研究のまとめと予備調査の結果、今後の予定について各自発表し、考察の視点、研究方法等について討議する。	中間発表の準備及びpptとレジュメの作成	90分
第11回	中間発表②	先行研究のまとめと予備調査の結果、今後の予定について各自発表し、考察の視点、研究方法等について討議する。	中間発表の準備及びpptとレジュメの作成	90分
第12回	中間発表③	先行研究のまとめと予備調査の結果、今後の予定について各自発表し、考察の視点、研究方法等について討議する。	中間発表の準備及びpptとレジュメの作成	90分
第13回	中間発表④	先行研究のまとめと予備調査の結果、今後の予定について各自発表し、考察の視点、研究方法等について討議する。	中間発表の準備及びpptとレジュメの作成	90分
第14回	調査研究の実際①	観察法について、観察園での倫理的配慮及び記録、分析の視点について検討する。	観察園への依頼文を完成し、観察研究を進める。	90分
第15回	調査研究の実際②	インタビュー法、アンケート調査について、研究協力者への倫理的配慮及び記録、分析の視点について検討する。	インタビューガイド、アンケート項目を作成する。	90分

学習計画注記	授業の進行状況等により変更する可能性があります。
学生へのフィードバック方法	提出された、サブノート、発表用レジュメ等はすべて確認し、適宜添削し、コメントを付して返却する。また、基本的には個別にフィードバックをするが、クラス全体で考えたい問題については、授業内で解説をする。
評価方法	作成されたサブノート、発表用レジュメを点数化して評価する。評価の観点は、主に、テーマとの関連性、先行研究や予備調査の結果の妥当性、分析や考察の視点の独自性である。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
論文発表(レジュメも含む)		○	○	○
中間発表(資料も含む)		○	○	○

評価割合	論文発表50%、中間発表50%
------	-----------------

使用教科書名 (ISBN番号)	無
-----------------	---

参考図書	2019-2020 東京家政学院大学児童学科中田ゼミ卒業研究テキスト 中澤潤他：心理学マニュアル観察法、北大路書房、2014 秋田喜代美ほか編：はじめての質的研究法 教育・学習編、東京図書、2014 中坪史典編：子ども理解のメソロジー、ナカニシヤ出版、2012 他、適宜紹介する。
------	--

ディプロマポリシーとの関連	【思考・判断】 子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学び合う、具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる。 【関心・意欲・態度】 子どもをめぐる多様化する 課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊
---------------	--

	かな成長・発達のために 使命感を持って行動できる。 【技能・表現】理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる。															
オフィスアワー	前期は火曜日4,5限、後期は火曜日1-3限															
学生へのメッセージ	研究を進めていく中では疑問点を持つことは大切です。疑問・質問がある場合には、遠慮せずに申し出てください。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>担当教員は、幼稚園・保育所で教諭・保育士として実務経験を有しており、幼稚園、保育所をフィールドとした研究について実務経験に基づいて教授している。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>毎回、発表、討議を行う。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td>○</td> <td>研究テーマに関連した資料を収集し、論文作成に活用する。</td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td>○</td> <td>中間発表の際には、予備調査の結果を画像、動画等を利用し、PPTを用いて自身の研究を報告する。</td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	担当教員は、幼稚園・保育所で教諭・保育士として実務経験を有しており、幼稚園、保育所をフィールドとした研究について実務経験に基づいて教授している。	アクティブ・ラーニング	○	毎回、発表、討議を行う。	情報リテラシー教育	○	研究テーマに関連した資料を収集し、論文作成に活用する。	ICT活用	○	中間発表の際には、予備調査の結果を画像、動画等を利用し、PPTを用いて自身の研究を報告する。
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、幼稚園・保育所で教諭・保育士として実務経験を有しており、幼稚園、保育所をフィールドとした研究について実務経験に基づいて教授している。														
アクティブ・ラーニング	○	毎回、発表、討議を行う。														
情報リテラシー教育	○	研究テーマに関連した資料を収集し、論文作成に活用する。														
ICT活用	○	中間発表の際には、予備調査の結果を画像、動画等を利用し、PPTを用いて自身の研究を報告する。														

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究A（新開）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新開 よしみ	指定なし

ナンバリング	P40001M22
授業概要(教育目的)	子どもと保育にかかわる児童学関連分野から、先行研究をふまえて自らの研究課題を設定し、研究方法を吟味し、研究計画に基づいて調査・データ収集等に従事する。中間報告会では、これまでの研究成果をプレゼンテーションし、卒業研究Bに向けての課題を明らかにする。
履修条件	学生便覧に示された条件を満たしていること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	論文の読み方や構成について理解する。
思考・判断の観点 (K)	先行研究を行いながら、研究テーマを深めたり、研究の目的と方法を検討することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的に論文・文献収集を行う。 ゼミのディスカッションに主体的に参加する。
技術・表現の観点 (A)	ゼミのディスカッションにおいて、わかりやすい言葉で研究について報告したり意見を述べたりできる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	卒業論文提出までの道のりを考える。	自身の研究計画について、いつ、何をどこまで明らかにしたいのかについて考えておく。	180分
第2回	現状分析	各自の研究テーマについての現状分析を行い、争点・論点について検討する。	研究テーマについての現状分析を行い、争点・論点を探しておく。	180分
第3回	先行研究① 文献抄読 (1)	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。	先行研究を検索し、論文を精読しておく。	180分
第4回	先行研究② 文献抄読 (2)	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。	先行研究を検索し、論文を精読しておく。 抄読した論文を、要約して提出する。	180分
第5回	先行研究③ 文献抄読	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。 抄読した論文を、要約して提出する。	先行研究を検索し、論文を精読しておく。	180分

	(3)			
第6回	先行研究④ 文献抄読 (4)	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。	先行研究を検索し、論文を精読しておく。 抄読した論文を、要約して提出する。	180分
第7回	先行研究⑤ 発展的まとめ	先行研究の要約を検討する中で、各自の研究課題・研究方法を明確にしていく。	先行研究の要約。 様々な調査の中から、自身のに研究にふさわしい手法を探しておく。	180分
第8回	研究方法と 手続き①	各自が研究方法について発表し、全員で検討する。	研究方法について明らかにし、具体的に説明できるようにしておく。	180分
第9回	研究方法と 手続き②	研究計画立案に向け、研究方法およびその手続きについて決定する。	研究方法を決定し、具体的な手続きについてまとめておく。	180分
第10回	研究骨子の 検討	各自の研究計画について検討する。	研究計画を立案する。	180分
第11回	調査・データ 収集等①	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討①	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。	180分
第12回	調査・データ 収集等②	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討②	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。	180分
第13回	調査・データ 収集等③	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討③	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。	180分
第14回	調査・データ 収集等④	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討④	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。	180分
第15回	中間報告会	研究の進捗状況について、全員が報告する。	研究の進捗状況について、PPT等を活用してプレゼンテーションの準備をしておく。	240分

学習計画注記 ※履修状況や研究の進捗状況によって、スケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法 研究方法・内容について、受講生の課題解決に向けて、毎回の講義で相談・指導を行います。メール、および研究室訪問による質問も、随時受け付けます。

評価方法 受講生の、講義内における発表内容および中間報告について、テーマに関する先行研究の収集の状況とその整理、提出するレポートへの文章のわかりやすさ、文章構造の論理性などにより評価します。ディスカッションへの参加は、積極的に様々な課題について思考し、主体的対話的に問題解決に向かう姿勢を評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
先行研究の整理	○	○	○	
ディスカッションへの参加			○	
中間報告 (プレゼンテーション)		○		○

評価割合 研究への取り組み・先行研究の整理 (40%)、ディスカッションへの参加 (30%)、中間報告 (プレゼンテーション) (30%) で評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
子どもと保育についての専門的知識を習得する。

【思考・判断】
子どもと直接触れ合ったり、保育者・教師などの実践から学ぶなど、具体的・実践的な学びの機会から得た知識をもとに、様々な課題に柔軟に対応できる感性と応用力をもつ。

【関心・意欲・態度】
自ら課題を見出し、それに向けて専門的知識を収集するとともに、保育参観及び子どもと関わることから学びを深める。

【技能・表現】
知識・理解をもとに、考えたことを論理的に表現する。

オフィスアワー 金曜 4 時限 1635研究室

学生へのメッセージ	3年次後期に指導教員を決めるので、それまでに自分の興味・関心のあるテーマを探し検討しておくことが望ましい。また、4年次は実習や就職活動等で慌ただしくなるため、指導教員と連絡を密に取りながら、計画的に研究のための時間を十分に確保して、一步一步研究が進められるように努力しよう。
-----------	---

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	発表内容について全員でディスカッションを重ねることを通し、主体的・能動的に学びを深めていく。
情報リテラシー教育	○	webコンテンツや参考図書、検索サイトを活用する学習を通して、情報の真偽や人権・法令に配慮する基礎的知識と基本的リテラシーを向上する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究A（柳瀬）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 柳瀬 洋美	指定なし

ナンバリング	P40001M22
授業概要(教育目的)	子どもの福祉と保育，心理と発達，健康と環境，文化と社会，生活と教育の5つの学びの分野及びその他の児童学関連分野から，先行研究をふまえて自らの研究課題を設定し，研究方法を吟味し，研究計画に基づいて調査・データ収集等に従事する。中間発表では，これまでの研究成果をプレゼンテーションし，卒業研究Bに向けての課題を明らかにする。なお，授業内容の詳細については各指導教員の指導によるものとする。
履修条件	3年次終了までに90単位修得していること。
学習目標(到達目標)	
学習目標（到達目標）	
知識・理解の観点（K）	4年間の児童学科における学びの集大成として，自ら研究課題を設定し研究計画を立てる。
思考・判断の観点（K）	研究課題は，将来的に実務に生かすことのできる内容等，自身の興味・関心に沿うものとする。
関心・意欲・態度の観点（V）	主体的に研究活動に取り組む
技術・表現の観点（A）	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	卒業論文提出までの道のりを考える。	自身の研究計画について、いつ、何をどこまで明らかにしたいのかについて考えておく。	180分
第2回	問題の分析と課題領域の設定	各自の研究テーマについての現状分析を行い、争点・論点について検討する。	研究テーマについての現状分析を行い、争点・論点を探しておく。	180分
第3回	先行研究一週目(文献抄読①)	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。	先行研究を検索し、論文を精読しておく。	180分
第4回	先行研究二週目(文献抄読②)	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。	先行研究を検索し、論文を精読しておく。抄読した論文を、要約して提出する。	180分
第5回	先行研究三	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。	先行研究を検索し、論文を精読	180分

	週目（文献抄読③）		しておく。 抄読した論文を、要約して提出する。	
第6回	先行研究四週目（文献抄読④）	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。	先行研究を検索し、論文を精読しておく。 抄読した論文を、要約して提出する。	180分
第7回	先行研究のまとめと研究課題の設定	先行研究の要約を検討する中で、各自の研究課題・研究方法を明確にしていく。	先行研究の要約。 様々な調査の中から、自身の研究にふさわしい手法を探しておく。	180分
第8回	研究方法、手続きの検討	各自が研究方法について発表し、全員で検討する。	研究方法について明らかにし、具体的に説明できるようにしておく。	180分
第9回	研究方法、手続きの決定	研究計画立案に向け、研究方法およびその手続きについて決定する。	研究方法を決定し、具体的な手続きについてまとめておく。	180分
第10回	研究計画の立案	各自の研究計画について検討する。	研究計画の立案	180分
第11回	調査・データ収集等一週目	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討①	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。	180分
第12回	調査・データ収集等二週目	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討②	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。	180分
第13回	調査・データ収集等三週目	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討③	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。	180分
第14回	調査・データ収集等四週目	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討④	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。	180分
第15回	中間発表	研究の進捗状況について、全員が報告する。	研究の進捗状況について、要旨原稿の書式にまとめ、プレゼンテーションの準備をしておく。	240分

学習計画注記 ※履修学生の保育・教育実習の状況によりスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法 毎回の授業時の助言に加えて、学生一人ひとりのペースに即して、適宜コメントや助言を返す。

評価方法 受講生の、講義内における発表内容および中間報告について、テーマに関する先行研究の収集の状況とその整理、提出するレポートへの文章のわかりやすさ、文章構造の論理性などにより評価します。ディスカッションへの参加は、積極的に様々な課題について思考し、主体的対話的に問題解決に向かう姿勢を評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
先行研究の整理	○	○	○	
ディスカッションへの参加			○	
論理的思考		○		○
プレゼンテーション		○		○

評価割合 研究への取り組み・先行研究の整理（40%）、ディスカッションへの参加（30%）、中間発表（プレゼンテーション）（30%）で評価する。

参考図書 講義内で必要に応じて紹介する。

ディプロマポリシーとの関連
【知識・理解】
「児童学」について、音楽・教育・文化といった領域に関する豊かな知識。
【思考・判断】
子どもと直接触れ合ったり、保育者・教師などの実戦から学ぶなど、具体的な・実践的な学びの機会から得た知識をもとに、様々な課題に柔軟に対応できる感性と応用力をもつ。
【関心・意欲・態度】
自ら課題を見出し、それに向けて専門的知識を収集するとともに、保育・授業参観及び子どもと関わることから学びを深める。

	【技能・表現】 知識・理解をもとに、考えたことを論理的に表現する。															
オフィスアワー	水曜日5時限 1619研究室															
学生へのメッセージ	3年次後期に指導教員を決めるので、それまでに自分の興味・関心のあるテーマを探し検討しておくことが望ましい。また、4年次は実習や就職活動等で慌ただしくなるため、指導教員と連絡を密に取りながら、計画的に研究のための時間を十分に確保して、一步一步研究が進められるように努力しよう。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>担当教員は心理臨床現場での実務経験が豊富であり、学生の研究テーマが現場での実践や事例に関するものである場合に、教員の実務経験に基づく助言を、研究を進める上で生かしていく。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>発表内容について全員でディスカッションを重ねることを通し、主体的・能動的に学びを深めていく。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td>○</td> <td>webコンテンツや参考図書、検索サイトを活用する学習を通して、情報の真偽や人権・法令に配慮する基礎的知識と基本的リテラシーを向上する。</td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	担当教員は心理臨床現場での実務経験が豊富であり、学生の研究テーマが現場での実践や事例に関するものである場合に、教員の実務経験に基づく助言を、研究を進める上で生かしていく。	アクティブ・ラーニング	○	発表内容について全員でディスカッションを重ねることを通し、主体的・能動的に学びを深めていく。	情報リテラシー教育	○	webコンテンツや参考図書、検索サイトを活用する学習を通して、情報の真偽や人権・法令に配慮する基礎的知識と基本的リテラシーを向上する。	ICT活用		
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業	○	担当教員は心理臨床現場での実務経験が豊富であり、学生の研究テーマが現場での実践や事例に関するものである場合に、教員の実務経験に基づく助言を、研究を進める上で生かしていく。														
アクティブ・ラーニング	○	発表内容について全員でディスカッションを重ねることを通し、主体的・能動的に学びを深めていく。														
情報リテラシー教育	○	webコンテンツや参考図書、検索サイトを活用する学習を通して、情報の真偽や人権・法令に配慮する基礎的知識と基本的リテラシーを向上する。														
ICT活用																

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究A（新海）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 新海 公昭	指定なし

ナンバリング	P40001M22
授業概要(教育目的)	「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」の6つの学びの分野及びその他の児童学関連分野から、先行研究をふまえて自らで研究課題を設定し、研究方法を吟味し、研究計画に基づいて調査・データ収集等に従事できる力を養う。中間報告会では、これまでの研究成果をプレゼンテーションしてもらい、卒業研究Bに向けての課題を明らかにする機会をもつ。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	4年間の児童学科における学びの集大成として、子どもをめぐる課題に対して、自ら研究課題を設定し研究計画を立て、主体的に研究活動に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	子どもをめぐる課題をより深め、発展させることができ、理論と実践の融合を図り、専門家として社会に貢献できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	卒業論文提出までのスケジュールや、計画について話し合う。 自身の興味の対象についてゼミ生たちに説明することで、自身の研究テーマの方向性を明らかにする。	翌週に向けての研究の準備をする。	180分
第2回	課題の分析と課題領域の設定	研究テーマおよび課題領域を決める。	翌週に向けての研究の準備をする。	180分
第3回	先行研究一週目	研究テーマおよびその周辺領域の先行研究を行う。	先行研究をまとめながら、翌週に向けての研究の準備をする。	180分
第4回	先行研究二週目	先行研究を重ねながら、自身の研究テーマを焦点化していく。	先行研究一週目の報告をし、翌週に向けての研究の準備をする。	180分
第5回	先行研究三週目	先行研究を重ねながら、自身の研究テーマを焦点化していく。	先行研究二週目の報告をし、翌週に向けての研究の準備をする。	180分

			る。	
第6回	先行研究四週目	先行研究を重ねながら、自身の研究テーマを焦点化していく。	先行研究三週目の報告をし、翌週に向けての研究の準備をする。	180分
第7回	先行研究のまとめと研究課題の設定	自身の研究に取り組んだ動機、研究課題の背景、研究課題の設定に関する事柄をまとめたうえで、先行研究の概要を紹介することで、自身の研究テーマと先行研究との関係性を明らかにする。	自身の研究に関する動機、背景、研究課題の設定、および先行研究について整理しなおす。	180分
第8回	研究方法、手続きの検討	自身の研究課題に対する仮説をたてる。	翌週に向けて、仮説の妥当性について説明する資料等を集める。	180分
第9回	研究方法、手続きの決定	自身の研究課題に対する仮説をさらに焦点化する。	翌週に向けて、焦点化された仮説の妥当性を説明する資料を集める。	180分
第10回	仮説検証のための研究計画の立案	焦点化された仮説を検証するための計画を立てる。どのような立場から、何を、どこまで、どのような方法で明らかにするのかを考える。必要な統計手法を確認する。	仮説を検証する計画概要を完成させる。	180分
第11回	調査・データ収集等一週目	調査対象者、調査期間等の決定等、調査やデータ収集に必要な調査票の作成等の準備を始める。	調査対象者、調査期間等の決定等、調査やデータ収集に必要な調査票の作成等の準備を進める。	180分
第12回	調査・データ収集等二週目	調査対象者、調査期間等の決定等、調査やデータ収集に必要な調査票の内容を完成させる。	検証のために必要な調査票等を完成させる。	180分
第13回	調査・データ収集等三週目	調査等により、実際にデータを収集する。	収集したデータを整理する。	180分
第14回	調査・データ収集等四週目	調査等により、実際にデータを収集する。	先週に続き、得られたデータ等を整理し、データ分析を開始する。	180分
第15回	調査・データ収集等五週目 中間報告会	得られたデータの集計結果を報告し、検証に必要な統計手法等を再確認する。これまでの研究成果をプレゼンテーションし、卒業研究Bに向けての課題を明らかにする。	中間報告に向けての準備をする。卒業研究Bに向けて、中間報告で明らかになった課題を整理する。	180分

学生へのフィードバック方法 毎回のゼミの時間で、各ゼミ生に発表する機会をもってもらう。その発表に対して、ゼミ生全員で協議を行う。その協議の内容を基に、次への課題等を教員から提案する。

評価方法

1. 平常課題
平常課題は毎週報告する自身の研究への取り組みや、ゼミ生同士の討論への参加の積極性等で総合的に判断する。
2. 中間報告
報告内容とプレゼンテーションを評価する。

* 平常課題や中間報告は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常課題			○	
中間報告			○	○

評価割合 平常課題 (60%)、中間報告 (プレゼンテーション) (40%)

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連 【関心・意欲・態度】子どもをめぐり課題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のための提案ができる。

	【技能・表現】子どもをめぐる課題に関する理論と実践の融合を図り、専門家として社会に貢献できる力を有している。
オフィスアワー	前期：水曜日 12:30～14:00 後期：水曜日 12:30～14:00
学生へのメッセージ	現実の世界にはあいまいさを含む事項が多数存在する。例えば、人間の感情、感性、意思決定、評価はその典型である。私は主に、このようなあいまいな情報や事象を、ファジィ理論や統計解析の手法を主に用いて、定量的に取り組む研究をしている。また、算数・数学教育にも興味をもっており、主に教育評価、教材構造分析、豊かな学びあいを実現するための数学的活動に関する研究、遊びから豊かな学びを実現させる就学前算数教育に関心がある。興味があれば、ぜひ1625研究室を訪問してほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	教員主導ではなく、ゼミ生同士で討議を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究A (齋藤義)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 齋藤 義雄	指定なし

ナンバリング	P40001M22
授業概要(教育目的)	子どもの福祉と保育, 心理と発達, 健康と環境, 文化と社会, 生活と教育の5つの学びの分野及びその他の児童学関連分野から, 先行研究をふまえて自らの研究課題を設定し, 研究方法を吟味し, 研究計画に基づいて調査・データ収集等に従事する。なお、授業内容の詳細については各指導教員の指導によるものとする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	先行研究をふまえて、自らの研究課題を設定する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	研究方法を吟味し、研究計画に基づいて、調査・データ収集に意欲的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

卒業研究A

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	1. オリエンテーション	卒業研究Aの概要について理解できる。	卒業研究Aの概要について理解できる。	45分
第2回	2(1) 問題の分析と課題領域の設定	問題の分析と課題領域を設定する。	問題の分析と課題領域を設定する。	45分
第3回	2(2) 問題の分析と課題領域の設定	問題の分析と課題領域を設定する。	問題の分析と課題領域を設定する。	45分
第4回	2(3) 課題の分析と	課題の分析と課題領域を設定する。	課題の分析と課題領域を設定する。	45分

	課題領域の設定			
第5回	3(1) 先行研究調査一週目	先行研究を調査する。	先行研究を調査する。	45分
第6回	3(2) 先行研究調査第一週目	先行研究を調査する。	先行研究を調査する。	45分
第7回	4(1) 先行研究調査第二週目	先行研究を調査する。	先行研究を調査する。	45分
第8回	4(2) 先行研究調査第二週目	先行研究を調査する。	先行研究を調査する。	45分
第9回	5(1) 先行研究調査第三週目	先行研究を調査する。	先行研究を調査する。	45分
第10回	5(2) 先行研究調査第三週目	先行研究を調査する。	先行研究を調査する。	45分
第11回	6(1) 先行研究調査第四週目	先行研究を調査する。	先行研究を調査する。	45分
第12回	6(2) 先行研究調査第四週目	先行研究を調査する。	先行研究を調査する。	45分
第13回	7(1) 先行研究のまとめと研究課題の設定	先行研究のまとめと研究課題を設定する。	先行研究のまとめと研究課題を設定する。	45分
第14回	7(2) 先行研究のまとめと研究課題の設定	先行研究のまとめと研究課題を設定する。	先行研究のまとめと研究課題を設定する。	45分
第15回	8(1) 研究方法, 手続きの検討	研究方法, 手続きを検討する。	研究方法, 手続きを検討する。	45分
第16回	8(2) 研究方法, 手続きの検討	研究方法, 手続きを検討する。	研究方法, 手続きを検討する。	45分
第17回	9(1) 研究方法, 手続きの決定	研究方法, 手続きを決定する。	研究方法, 手続きを決定する。	45分
第18回	9(2) 研究方法, 手続きの決定	研究方法, 手続きを決定する。	研究方法, 手続きを決定する。	45分
第19回	10(1) 今後の研究計画の立案	今後の研究計画を立案する。	今後の研究計画を立案する。	45分
第20回	10(2) 今後の研究計画の立案	今後の研究計画を立案する。	今後の研究計画を立案する。	45分
第21回	11(1) 調査・データ収集第一週目	調査・データ収集を行う。	調査・データ収集を行う。	45分
第22回	11(2) 調査・データ収集第一週目	調査・データ収集を行う。	調査・データ収集を行う。	45分
第23回	12(1) 調査・データ収集第二週目	調査・データ収集を行う。	調査・データ収集を行う。	45分
第24回	12(2) 調査・データ収集を行う。	調査・データ収集を行う。	調査・データ収集を行う。	45分

	調査・データ収集第二週目			
第25回	13(1) 調査・データ収集第三週目	調査・データ収集を行う。	調査・データ収集を行う。	45分
第26回	13(2) 調査・データ収集第三週目	調査・データ収集を行う。	調査・データ収集を行う。	45分
第27回	14(1) 調査・データ収集第四週目	調査・データ収集を行う。	調査・データ収集を行う。	45分
第28回	14(2) 調査・データ収集第四週目	調査・データ収集を行う。	調査・データ収集を行う。	45分
第29回	15(1) 調査・データ収集第五週目	調査・データ収集を行う。	調査・データ収集を行う。	45分
第30回	15(2) 調査・データ収集第五週目	調査・データ収集を行う。	調査・データ収集を行う。	45分

学生へのフィードバック方法 ゼミでは、毎回研究に関する進捗状況を確認し、質疑・応答のコミュニケーションを通して、今後の指針を学生に伝えていく。レポートに関しては、内容に関する修正案を提案する。

評価方法 ゼミは、出席するのが当たり前である。平常点は毎週の授業への積極的な参加、研究への取り組みや討論への積極的な参加が望まれる。また、卒業研究の2万字に対し、前期終了時点で1万字程度記述することが望ましい。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
レポート		○		

評価割合 平常点(50%)、レポート(50%)による総合評価。
(平常点は毎週の授業への積極的な参加、研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する)

使用教科書名 (ISBN番号) 特になし。

参考図書 各自に伝える。

ディプロマポリシーとの関連 【思考・判断】自ら様々な課題に柔軟に対応できる。
【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。

オフィスアワー ゼミの前後 1628研究室

学生へのメッセージ 3年次までに、自分の興味・関心のあるテーマを探し検討しておくことが望ましい。また、4年次は実習や就職活動等で慌ただしくなるため、指導教員と連絡を密に取りながら、計画的に研究のための時間を十分に確保して、一步一步研究が進められるように努力することが望まれる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	小学校・中学校の教員としての経験を伝えるとともに、幼稚園・保育園・認定こども園・児童養護施設等の巡回訪問の経験を伝えている。
アクティブ・ラーニング	○	卒業研究のテーマに関して、話し合い(コミュニケーション)を通して、理解の深化を図っている。
情報リテラシー	○	先行研究の調査において、適切な引用の在り方を学んでいる。

教育		
ICT活用	○	調査やデータ収集の結果を、パソコン等で適切に処理している。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究A (杉野)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 杉野 学	指定なし

ナンバリング	P40001M22
授業概要(教育目的)	1. 子どもの福祉と保育、心理と発達、健康と環境、文化と社会、生活と教育の5つの学びの分野及びその他の児童学関連分野から先行研究をふまえて自らの研究課題を設定し研究方法を吟味し、研究計画に基づいて調査・データ収集等に従事する。中間報告会では、これまでの研究成果をプレゼンテーションし卒業研究Bに向けての課題を明らかにする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 児童学科における学びの集大成として捉え、自ら研究課題を設定し研究計画を立てて論文作成の方法を身に付けること。
思考・判断の観点 (K)	1. 研究テーマに応じた情報収集に努め問題意識をより深めて発展させること。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 自ら進んで研究計画を練り主体的に論文を作成するなどして研究活動に取り組むこと。
技術・表現の観点 (A)	1. 研究論文の基本的な作成方法を身に付けて適切な文章表現や発表ができるようにすること。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	卒業論文の作成方法について学び論文構成・作成、文献調査について理解する。	論文作成の方法について予習・復習をする。	120分
第2回	問題の分析と課題領域の設定	研究テーマの設定について学び問題を分析し課題を導き出すことを理解する。	研究テーマの設定について予習・復習をする。	120分
第3回	先行研究	研究テーマに関連する文献を読み内容をまとめる。	研究テーマに関連する文献を調べ予習・復習をする。	120分
第4回	先行研究	研究テーマに関連する文献を読み内容をまとめ発表する。	研究テーマに関連する文献を読み予習・復習をする。	120分
第5回	先行研究	研究テーマに関連する研究論文を読み先行研究の内容を理解する。	研究テーマに関連する研究論文を読み予習・復習をする。	120分

第6回	先行研究	研究テーマに関連する研究論文を読み先行研究の内容を理解し序論に活かす。	研究テーマに関連する研究論文を読み予習・復習をする。	120分
第7回	先行研究のまとめと研究課題の設定	先行研究をまとめて研究課題を設定する。	研究課題の設定について予習・復習をする。	120分
第8回	研究方法、手続きの検討	研究方法について学び研究の手続きを検討する。	研究方法について予習・分集をする。	120分
第9回	研究方法、手続きの決定	研究方法について学び研究の手続きを決定し結果を予測する。	研究方法について予習・復習をする。	120分
第10回	研究計画の立案	研究論文の構成について学び、の目的・内容・方法・結果・考察・文献一覧までの論文作成を理解する。	研究論文の構成について予習・復習をする。	120分
第11回	調査・データ収集	調査・データ収集の方法を学び具体的な方法を理解する。	調査・データ収集について予習・復習をする。	120分
第12回	調査・データ収集	調査・データ収集について学び研究テーマに応じた研究の方法を理解する。	調査・データ収集について予習・復習をする。	120分
第13回	調査・データ収集	調査・データ収集を行い集計する。	調査・データ収集と集計について予習・復習をする。	120分
第14回	調査・データ収集	調査・データ収集を行い集計し結果について考察する。	調査・データ収集と集計について予習・復習をする。	120分
第15回	調査・データ収集	調査・データ収集と集計を行い集計し結果を分析し結果を考察する。	調査・データ収集の結果分析について予習・復習をする。	120分
第16回	中間報告会	中間報告会で研究の概要についてまとめ発表する。	中間報告会の資料を作成発表し意見交換を基に研究方法を改善・充実する。	120分

学習計画注記	特になし
--------	------

学生へのフィードバック方法	卒業研究を進める当たり、一人一人が問題意識をもって研究テーマを設定する必要があるため、必要な文献調査を行うことを重視する。そして、研究テーマに迫るために具体的な研究方法を検討するために、先行研究を丁寧に行う。そのためには、毎回のゼミで、必ず文献調査の結果を報告し合い、自らの論文に活かすことを行う。
---------------	---

評価方法	ゼミでは、文献調査により研究テーマと関連させた内容を発表することと、中間発表会では、研究の目的・内容・方法・予想される結果・考察・文献一覧の記述内容を評価する。
------	--

評価基準	
------	--

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間報告会	○		○	
ゼミでの発表		○		○

評価割合	ゼミでの発表内容 (60%)、中間報告の発表内容・方法 (40%) に基づき総合評価をする。
------	--

使用教科書名 (ISBN番号)	特になし。毎回、プリントを用意する。
-----------------	--------------------

参考図書	各自の研究テーマに応じて、適宜、図書等を紹介する。
------	---------------------------

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】卒業論文を計画的に仕上げることで、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭に必要なこどもの教育に関する専門的な知識の修得ができています。</p> <p>【思考・判断】子どもの教育や子育て支援に関する理解を深め、具体的・実践的な教育活動や地域連携などの状況を把握し障害の有無に関係なく共に育つ共生社会を創造できる感性やコミュニケーション能力が備わっている。</p>
---------------	---

オフィスアワー	水曜日1.2限目、杉野研究室
---------	----------------

学生へのメッセージ	自分の興味・関心のあるテーマを探し検討しておく必要がある。4年次は実習や就職活動等で慌ただしくなるため、計画的に研究テーマに迫る方法として、ゼミでの文献調査結果の発表会を実施する。そのため、必ず情報を収集し発表原稿としてまとめたものを用意してゼミには必ず出席すること。
-----------	--

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当	概要
--	----	----

	有無	
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、東京都教育委員会の指導主事や東京都立特別支援学校の教員・管理職として、第1次東京都特別支援教育推進計画の策定に関わるとともに、特別支援教育に関する教育課程や指導法に関する幅広い実務経験を有しており、実践的な知見を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	ゼミ学生間で研究テーマに関する発表を行うとともに、研究領域に関する意見交換を積極的にする。
情報リテラシー教育	○	調査研究や論文作成の折に、個人情報に関する事例研究等については対象児や家族等への個人情報の保護や流出防止を徹底し人権に配慮することを意識する。
ICT活用		パソコンによる入力・図表作成などの論文作成、パワーポイントを使用した資料作成や発表技術を確実に身に付ける。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究A (立川)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 立川 泰史	指定なし

ナンバリング

P40001M22

授業概要(教育目的)

子どもの福祉と保育，心理と発達，健康と環境，文化と社会，生活と教育の5つの学びの分野及びその他の児童学関連分野から，先行研究をふまえて自らの研究課題を設定し，研究方法を吟味し，研究計画に基づいて調査・データ収集等に従事する。中間報告会では，これまでの研究成果をプレゼンテーションし，卒業研究Bに向けての課題を明らかにする。なお，授業内容の詳細については各指導教員の指導によるものとする。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	児童学の専門的な知識に基づく視点を持ち、主体的に設定した研究課題の背景・目的・内容・方法について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	自らの研究課題に関する問題意識を明確にし、先行研究や調査結果を整理・考察を通して課題解決に向けた提案や根拠を説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自らの問題意識を基に今日的課題を解決することに関心を持ち、研究の倫理・人権・法令に準拠した探究活動を実践できる。
技術・表現の観点 (A)	研究課題の探究について、適切な調査方法に基づく調査・分析・考察・論述の基本的な技能を有している。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	問題意識に沿い、課題化に向けた問題の精選や分析の可能性を検討・考察する。各自の問題意識をメンバーで共有し、質疑応答を通して問題設定の意味や価値について明らかにする。	各自の問題意識を整理し、先行研究の有無や調査対象について説明できるようにしておく。	90分
第2回	問題の分析と課題領域の設定	着目した問題の本質化を試み、課題領域、参考文献の検索領域を明らかにする。	問題に関する先行研究(論文・著書・事例)をあげ、メンバーに提示できるように資料の準備をしておく。	90分
第3回	先行研究一週目	先行研究の検索・精選・整理を行う。基本事項を記録し、参照・集積する手段を検討する。	参考テキスト「卒業研究のいろは(ゼミ版)」を参照し、参考資料・先行研究文献の基本情報を整理しておく。	90分
第4回	先行研究二週目	先行研究の検索・精選・整理を行う。基本事項を記録し、参照・集積する手段を検討する。	参考テキスト「卒業研究のいろは(ゼミ版)」を参照し、参考	90分

			資料・先行研究文献の基本情報を整理しておく。	
第5回	先行研究三週目	先行研究の検索・精選・整理を行う。基本事項を記録し、参照・集積する手段を検討する。	参考テキスト「卒業研究のいろは（ゼミ版）」を参照し、参考資料・先行研究文献の基本情報を整理しておく。	90分
第6回	先行研究四週目	先行研究の検索・精選・整理を行う。基本事項を記録し、参照・集積する手段を検討する。	参考テキスト「卒業研究のいろは（ゼミ版）」を参照し、参考資料・先行研究文献の基本情報を整理しておく。	90分
第7回	先行研究のまとめと研究課題の設定	先行研究について文献・資料の有効性や有意性を検討し、討論や質疑を通して研究課題や目的を明らかにする。問題意識を疑問文にした資料を基に、研究主題・副題の趣旨を表す文言を検討する。	収集した文献・資料の要約一覧を作成しながら、文献相互の重要度や主従関係を整理しておく。	90分
第8回	研究方法、手続きの検討	課題に関わる実態や解決策を調査する対象や方法について検討する。調査の対象施設や調査依頼のスケジュール、具体的な調査手段などについて実施の準備を行う。	調査の対象・事象を精選し、調査と分析方法に応じた計画案を仮作成しておく。	90分
第9回	研究方法、手続きの決定	課題に関わる実態や解決策を調査する対象や方法を決定する。調査の対象施設や調査依頼のスケジュール、具体的な調査手段などの実施手続きを確認する。	調査と分析方法に応じた計画案に沿って、依頼状や調査日程、必要となる調査用具を整理しておく。	90分
第10回	研究計画の立案	これまで検討した調査の内容や方法、調査日程を確認し、研究計画を作成する。調査を分析・考察する際に参照できる文献・資料を確認し、必要な情報処理機器類の準備を進める。	参考テキスト「卒業研究のいろは（ゼミ版）」を参照し、調査の種類や要件を確認しておく。調査機器の取り扱い事項や人権保護の観点を中心に確認しておく。	90分
第11回	調査・データ収集等一週目	課題解決に向けた調査を計画案を基に実施し、必要なデータを収集する。個人情報の取り扱いや著作権等の法令に配慮し、セキュリティの高い保存方法を理解する。	データの取り扱いについて基礎的事項を確認し、保存に適した機材や場所を準備しておく。	90分
第12回	調査・データ収集等二週目	課題解決に向けた調査を計画案を基に実施し、必要なデータを収集する。個人情報の取り扱いや著作権等の法令に配慮し、セキュリティの高い保存方法を理解する。	データの取り扱いについて基礎的事項を確認し、保存に適した機材や場所を準備しておく。	90分
第13回	調査・データ収集等三週目	課題解決に向けた調査を計画案を基に実施し、必要なデータを収集する。個人情報の取り扱いや著作権等の法令に配慮し、セキュリティの高い保存方法を理解する。	データの取り扱いについて基礎的事項を確認し、保存に適した機材や場所を準備しておく。	90分
第14回	調査・データ収集等四週目	課題解決に向けた調査を計画案を基に実施し、必要なデータを収集する。個人情報の取り扱いや著作権等の法令に配慮し、セキュリティの高い保存方法を理解する。	データの取り扱いについて基礎的事項を確認し、保存に適した機材や場所を準備しておく。	90分
第15回	調査・データ収集等五週目	課題解決に向けた調査を計画案を基に実施し、必要なデータを収集する。個人情報の取り扱いや著作権等の法令に配慮し、セキュリティの高い保存方法を理解する。	データの取り扱いについて基礎的事項を確認し、保存に適した機材や場所を準備しておく。	90分
第16回	中間報告会	作成した「研究計画書」を基に、研究の主題、研究の概要と背景、研究目的、研究方法、調査の目的・対象・手段、分析方法などを中心に報告する。視覚機材を用いたメンバー全員の討論や質疑を基に、不足や修正に関する事項を理解し、対策や改善を行う。	研究計画書を作成し、上記の要旨について説明できるように資料を用意しておく。	90分

学習計画注記 履修学生の各種実習期間の都合により、スケジュールは柔軟に変更する場合がある。

学生へのフィードバック方法 ・毎回、各自の研究課題についてドキュメンテーションを行い、相互質疑や討論を中心に協働的に取り組む。特に、研究主題の設定理由となる社会的背景や問題意識、研究の目的と調査分析の方法について、研究の進捗に沿って助言・コメントや資料や情報の提供で応答する。
・学期末には、中間報告書（研究計画と研究の概要）の提出と、各自15分程度のプレゼンテーションを求め、中間報告書は、研究主題・内容・調査方法の改善についてコメント付きで返却する。

評価方法 ・毎回の報告や討論・質疑については、自他の問題意識への関心や着目点の明確さについて総合的に評価する。
・中間報告書とプレゼンテーションは、調査計画の内容や調査・分析方法の課題を観点に評価する。
特に、論文の構成について、卒業研究として設定する主題や問題意識、調査・分析・考察の内容や方法について、探究の筋道や論理に着目し、論文構成の妥当性・主題や問題意識の独自性・社会への寄与を総合的に評価する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
ドキュメンテーション・質疑		○	○	

中間報告書・プレゼンテーション	○	○	○
評価割合	平常点（60%），中間報告（プレゼンテーション）（40%）による総合評価。 （平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）		
使用教科書名（ISBN番号）	各自の探求課題にそって適宜提示する。		
参考図書	各自の探求課題にそって適宜提示する。 『卒業研究論文のいろは（ゼミ版）』の冊子を配布する。		
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】児童学を構成する領域（子どもの心理・健康・保育・教育・福祉・文化）に関する専門的な知識に基づき問題意識をもち、研究主題を設定している。 【思考・判断】研究主題に応じた研究の調査・分析・考察方法を選定し、計画を立案している。 【関心・意欲・態度】明確な問題意識をもち、研究課題の解決と提案に向かう主体性を発揮している。 【技能・表現】論文の記述や調査について、基本的な技能を有し、人権・倫理・法令を尊重して探究できる。		
オフィスアワー	火曜日3限、1629研究室		
教育等の取組み状況			
	該当有無	概要	
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、小学校教員としての経験をもち、造形・美術教育の実践研究・開発・提案に従事した。文部科学省の学習資料作成委員や文部科学省検定教科書の編修者として、現職教員の研修・地域行政や社会的教育機関・企業などのネットワークを生かして、今日的な課題に応じた造形教育の内容や情報を考察対象として提供する。	
アクティブ・ラーニング	○	各自による研究調査の報告とメンバー間の相互主体的な討論や質疑を中心に進める。	
情報リテラシー教育	○	参照する文献の検索・整理し、主題との整合性・妥当性を判断する場面で、情報処理の基本的な能力を発揮する機会をもつ。	
ICT活用	○	文献の検索サイトやアプリケーションの活用、図書館での著書や資料の閲覧システムの利用、プレゼンテーションや分析データの視覚化などについて、適切なテクノロジーを効率的に運用する機会をもつ。	

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究A（丹羽）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 丹羽 さがの	指定なし

ナンバリング	P40001M22
授業概要(教育目的)	発達心理学に関わる児童学関連分野から、先行研究をふまえつつ自らの研究課題を設定し、研究方法を吟味し、研究計画に基づいて調査・データ収集等が行えるようにする。中間報告会では、これまでの研究成果をプレゼンテーションし、卒業研究Bに向けての課題を明らかにする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの心の発達を中心とした、文化・保育・教育といった領域について総合的に理解する。 論文の読み方や構成について理解する。
思考・判断の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 複数の論文をクリティカルに読み、総合的に判断して自分の考えをまとめることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ul style="list-style-type: none"> 自身のテーマに関する、関連する文献・論文等を積極的に収集する。 ゼミのディスカッションにおいて、主体的に意見を述べる。
技術・表現の観点 (A)	<ul style="list-style-type: none"> わかりやすい文章表現ができる。 論理的に文章を構成することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	卒業論文提出までのスケジュールや、計画について話し合う。自身の興味の対象についてゼミ生たちに説明することで、自身の研究テーマの方向性を明らかにする。	自身の研究計画について、いつ、何をどこまで明らかにしたいのかについて考えておく。	180分
第2回	課題の分析と課題領域の設定	各自の研究テーマについての現状分析を行い、争点・論点について検討する。	研究テーマについての現状分析を行い、争点・論点を探っておく。	180分
第3回	先行研究一週目	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。	先行研究をまとめながら、翌週に向けての研究の準備をする。	180分
第4回	先行研究二週目	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。	先行研究をまとめながら、翌週に向けての研究の準備をする。	180分
第5回	先行研究三週目	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。	先行研究をまとめながら、翌週に向けての研究の準備をする。	180分
第6回	先行研究四週目	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。	先行研究をまとめながら、翌週に向けての研究の準備をする。	180分

第7回	先行研究のまとめと研究課題の設定	自身の研究に取り組んだ動機、研究課題の背景、研究課題の設定に関する事柄をまとめたうえで、先行研究の概要を紹介をすることで、自身の研究テーマと先行研究との関係性を明らかにする。	自身の研究に関する動機、背景、研究課題の設定、および先行研究について整理しなおす。	180分
第8回	研究方法、手続きの検討	各自が研究方法について発表し、全員で検討する。	研究方法について明らかにし、具体的に説明できるようにしておく。	180分
第9回	研究方法、手続きの決定	研究計画立案に向け、研究方法およびその手続きについて決定する。	研究方法を決定し、具体的な手続きについてまとめておく。	180分
第10回	研究骨子の検討	各自の研究計画について検討する。	研究計画の立案	180分
第11回	調査・データ収集等(1)	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討(1)	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。	180分
第12回	調査・データ収集等(2)	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討(2)	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。	180分
第13回	調査・データ収集等(3)	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討(3)	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。	180分
第14回	調査・データ収集等(4)	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討(4)	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。	180分
第15回	中間発表	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、発表できるようにしておく。	研究の進捗状況について、PPT等を活用してプレゼンテーションの準備をしておく。	180分

学習計画注記 履修状況や研究の進捗状況によって、スケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法 研究方法・内容について、受講生の課題可決に向けて、毎回の講義で相談・指導を行います。メール、および研究室訪問による質問も、随時受け付けます。

評価方法 受講生の、講義内における発表内容および中間報告について、テーマに関する先行研究の収集の状況とその整理、提出するレポートへの文章のわかりやすさ、文章構造の論理性などにより評価します。ディスカッションへの参加は、積極的に様々な課題について思考し、主体的対話的に問題解決に向かう姿勢を評価します。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
先行研究の整理	○	○	○	
ディスカッションへの参加			○	
論理的思考		○		○
プレゼンテーション		○		○

評価割合 研究への取り組み・先行研究の整理（40%）、ディスカッションへの参加（30%）、中間報告（プレゼンテーション）（30%）で評価する。

参考図書 講義内で適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連
【知識・理解】子どもの心の発達を中心とした、文化・保育・教育といった領域についての専門的知識を習得する。
【思考・判断】子どもと直接触れ合ったり、保育者・教師などの実践から学ぶなど、具体的・実践的な学びの機会から得た知識をもとに、様々な課題に柔軟に対応できる感性と応用力をもつ。
【関心・意欲・態度】自ら課題を見出し、それに向けて専門的知識を収集するとともに、保育・授業参観及び子どもと関わることから学びを深める。
【技術・表現】知識・理解をもとに、考えたことを論理的に表現する。

オフィスアワー 水曜日2限

学生へのメッセージ 3年次後期に指導教員を決めるので、それまでに自分の興味・関心のあるテーマを探し検討しておくことが望ましい。また、4年次は実習や就職活動等で慌ただしくなるため、指導教員と連絡を密に取りながら、計画的に研究のための時間を十分に確保して、一步一步研究が進められるように努力しましょう。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	発表内容について全員でディスカッションを重ねることを通し、主体的・能動的に学びを深めていく。
情報リテラシー教育	○	webコンテンツや参考図書、検索サイトを活用する学習を通して、情報の真偽や人権・法令に配慮する基礎的知識と基本的リテラシーを向上する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究A (和田)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 和田 美香	指定なし

ナンバリング	P40001M22
授業概要(教育目的)	子どもの福祉と保育, 心理と発達, 健康と環境, 文化と社会, 生活と教育の5つの学びの分野及びその他の児童学関連分野から, 先行研究をふまえて自らの研究課題を設定し, 研究方法を吟味し, 研究計画に基づいて調査・データ収集等に従事する。中間報告会では, これまでの研究成果をプレゼンテーションし, 卒業研究Bに向けての課題を明らかにする。
履修条件	規定の単位を満たしていること。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	研究の方法について理解する。
思考・判断の観点 (K)	自ら立てた問いについて, 様々な可能性を考え, 適切な研究方法を選択していく。
関心・意欲・態度の観点 (V)	4年間の児童学科における学びの集大成として, 子どもをとりまく課題について自ら問いを立て, 研究計画を立案することで, 主体的に研究活動に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	子どもをめぐる課題をより深め, 発展させることにより, 理論と実践を癒合していく。

学習計画

卒業研究A (和田)

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	卒業論文提出のスケジュールや計画について話し合う。	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。次週の発表に向けて準備をする。	90分
第2回	課題領域の設定	おおまかな課題領域の設定を行う。	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。次週の発表に向けて準備をする。	90分
第3回	先行研究の探し方	先行研究の探し方を図書館のレクチャーも含めて学ぶ。	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。次週の発表に向けて準備をする。	90分
第4回	先行研究の	ゼミのメンバーに自分の先行研究を紹介しながら、自身	ゼミでの内容を検討し、卒業研	90分

	検討	の研究テーマを明らかにしていく。	究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。	
第5回	研究テーマの焦点化	先行研究をもとに、研究テーマを焦点していく。	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。	90分
第6回	研究テーマと概要	研究テーマと概要について、ゼミのメンバーに発表する。	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。	90分
第7回	研究の動機、背景をまとめる	自身の研究の動機、背景をまとめながら、先行研究を整理し直す。	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。	90分
第8回	研究方法、手続きの検討	自身の研究課題に対する仮説をたて、仮説の妥当性についてゼミのメンバーに説明し討論する。	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。	90分
第9回	研究方法、手続きの具体化	資料を集め、仮説をもとに研究方法、手続きの具体化を行う。	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。	90分
第10回	研究方法、手続きの決定	自身の研究方法、手続きを分りやすく説明し、ゼミのメンバーで共有する。 それぞれの研究の様々な可能性について話し合う。	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。	90分
第11回	研究計画の立案	おおまかな研究計画を立てる。 どのような立場から、何を、どこまで、どのような方法で明らかにするのかを考える。	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。	90分
第12回	調査、データ収集について	立案した研究計画にしたがい、調査、データ収集について具体的に考えていく。 必要な調査票の作成などの準備を始める。	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。	90分
第13回	調査・データ収集	調査等により、実際にデータを収集する。	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。	90分
第14回	調査・データ習得	調査等により、実際にデータを収集する。	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。	90分
第15回	中間報告会	これまでの研究成果をプレゼンテーションし、卒業研究Bに向けての課題を明らかにする。	ゼミでの内容を検討し、卒業研究の計画に沿って進める。 次週の発表に向けて準備をする。	90分

学生へのフィードバック方法 毎回のゼミの時間で、各ゼミ生に発表の機会をもってもらう。その発表に対して、ゼミ生全員で協議を行い、それをもとに、次の課題を教員から助言する。

評価方法 平常点と中間報告により評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	
中間報告			○	○

評価割合 平常点 (60%)， 中間報告 (プレゼンテーション) (40%) による総合評価。
(平常点は毎週の授業への参加状況， 研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する)

使用教科書名 (ISBN番号) 特になし。

参考図書	特になし。	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】研究の方法について理解する。</p> <p>【思考・判断】自ら立てた問いについて、様々な可能性を考え、適切な研究方法を選択していく。</p> <p>【関心・意欲・態度】子どもをめぐる課題に関心をもって取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のための提案ができる。</p> <p>【技能・表現】子どもをめぐる課題に関する理論と実践の融合を図り、専門家として社会に貢献できる力を有する。</p>	
オフィスアワー	月曜日 2限から4限	
学生へのメッセージ	3年次後期に指導教員を決めるので、それまでに自分の興味・関心のあるテーマを探し検討しておくことが望ましい。また、4年次は実習や就職活動等で慌ただしくなるため、指導教員と連絡を密に取りながら、計画的に研究のための時間を十分に確保して、一步一步研究が進められるように努力しよう。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は保育所等の実務経験を有しており、子どもと関わるフィールドワークを中心に研究を行う。
アクティブ・ラーニング	○	教員主導ではなく、ゼミ生同士で討議を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究A（阿尾）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 阿尾 有朋	指定なし

ナンバリング	P40001M22
授業概要(教育目的)	子どもの福祉と保育、心理と発達、健康と環境、文化と社会、生活と教育の5つの学びの分野及びその他の児童学関連分野から、先行研究をふまえつつ自らの研究課題を設定、研究方法を吟味し、研究計画に基づいて調査・データ収集等に従事させる。中間報告会では、これまでの研究成果をプレゼンテーションし、卒業研究Bに向けての課題を明らかにさせる。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標（到達目標）	
知識・理解の観点 (K)	論文の読み方や構成について、基本的事項が理解できる。
思考・判断の観点 (K)	論文を分析的に読み込み、自身の意見を表すことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自身の研究テーマについて、積極的かつ主体的に考える姿勢をもつ。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

卒業研究A

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	卒業研究Bまで含めた年間の日程の確認をする。また、卒業研究への取り組みの姿勢や必要な作業について概説する。	過去の児童学科の卒業研究に目を通して、卒業論文のイメージを把握しておくこと。	120分
第2回	研究方法について知る	事例、実験、調査等の研究について概説する。それぞれの研究の特徴、目的に沿った研究方法の選択について述べる。	研究法に関する書籍等を図書館で探し、目を通しておくこと。	120分
第3回	文献検索	文献検索の方法について解説する。インターネットの論文検索システムや図書館のデータベースを使って、検索の実際を体験する。	自身の研究テーマについて考えるとともに、関連するキーワードをまとめておく。	120分
第4回	文献抄読(1)	自身が調べた論文を持ち寄り、全員で内容を読み込む。授業の最後には、当該論文の要約を求める。	自分の研究テーマに関連した論文を検索し、授業当日に印刷して持ってくること。	120分

第5回	文献抄読 (2)	自身が調べた論文を持ち寄り、全員で内容を読み込む。 授業の最後には、当該論文の要約を求める。	自分の研究テーマに関連した論文を検索し、授業当日に印刷して持ってくること。	120分
第6回	文献抄読 (3)	自身が調べた論文を持ち寄り、全員で内容を読み込む。 授業の最後には、当該論文の要約を求める。	自分の研究テーマに関連した論文を検索し、授業当日に印刷して持ってくること。	120分
第7回	論文構成について知る (1)	論文構成（問題と目的、方法、結果、考察等）の内、問題と目的の立て方、方法の選択について解説する。問題と目的については、仮説の設定についても触れる。	自身の関心のあるテーマについて、なぜ関心をもったのか、研究で何を明らかにしたいのか、を考えておくこと。	120分
第8回	論文構成について知る (2)	論文構成（問題と目的、方法、結果、考察等）の内、結果、考察の書き方について解説する。考察については、先行研究と対照的にみる視点について話をする。	自身の研究テーマについて、関連する論文を検索し、特に関連性が高いと思われる論文を印刷して授業に持参すること。	120分
第9回	分析的論文抄読 (1)	自身が調べた論文を持ち寄り、全員で内容を読み込む。 当該論文の論点を整理し、自分の考えを述べるトレーニングを行う。	自身の研究テーマについて、関連する論文を検索し、特に関連性が高いと思われる論文（複数が見たい）を印刷して授業に持参すること。	120分
第10回	分析的論文抄読 (2)	自身が調べた論文を持ち寄り、全員で内容を読み込む。 当該論文の論点を整理し、自分の考えを述べるトレーニングを行う。	自身の研究テーマについて、関連する論文を検索し、特に関連性が高いと思われる論文（複数が見たい）を印刷して授業に持参すること。	120分
第11回	分析的論文抄読 (3)	自身が調べた論文を持ち寄り、全員で内容を読み込む。 当該論文の論点を整理し、自分の考えを述べるトレーニングを行う。	自身の研究テーマについて、関連する論文を検索し、特に関連性が高いと思われる論文（複数が見たい）を印刷して授業に持参すること。	120分
第12回	先行研究を整理する (1)	9～11回の抄読で抽出した自身の考えを織り交ぜながら、先行研究を整理する。	授業に臨むにあたり、自身の研究テーマに関連する先行研究すべてに目を通し、9～11回で考えた自身の考えを踏まえて、先行研究をレポートにまとめて授業に持参すること。	240分
第13回	先行研究を整理する (2)	9～11回の抄読で抽出した自身の考えを織り交ぜながら、先行研究を整理する。	授業に臨むにあたり、自身の研究テーマに関連する先行研究すべてに目を通し、9～11回で考えた自身の考えを踏まえて、先行研究をレポートにまとめて授業に持参すること。	240分
第14回	研究骨子の検討 (1)	自身の研究テーマについて、前回授業までに考えた、研究の目的や先行研究の概観を再度整理した上で、論文構成の骨子を考える。問題と目的、方法、（予測される）結果、考察の各部について、おおよそ何を書くのかをイメージできるようにする。	前回授業までに考えた、研究の目的や先行研究の概観を再度整理した上で、論文構成の骨子を考えておくこと。	240分
第15回	研究骨子の検討 (2)	自身の研究テーマについて、前回授業までに考えた、研究の目的や先行研究の概観を再度整理した上で、論文構成の骨子を考える。問題と目的、方法、（予測される）結果、考察の各部について、おおよそ何を書くのかをイメージできるようにする。	前々回授業までに考えた、研究の目的や先行研究の概観を再度整理した上で、論文構成の骨子を考えておくこと。	240分
第16回	中間報告	論文の骨子及び進捗状況について、全員が報告する。	論文の骨子及び進捗状況について、一人5分程度で話せるように整理しておくこと。	420分

学習計画注記 * 履修状況や論文検討の進み具合によりスケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法 ・ 受講生の研究テーマに関する考えやレポートに対して、論文としてまとめられるよう適時の指導、助言を行う。

評価方法 ・ 予習、復習で求める課題への取り組み姿勢や論文の構成作業の進捗具合によって評価する。
・ 先行研究の整理が適切な解釈のもとになされているかを評価する。
・ 論文の骨子と内容が論理的に整合性があるかを評価する。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
取り組みの姿勢			○	

先行研究の整理	○	○		
論文骨子の論理的整合性		○		○

評価割合	平常点（60％）、中間報告（プレゼンテーション）（40％）による総合評価。（平常点は毎週の授業への参加態度、研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）
ディプロマポリシーとの関連	子どもの保育、教育、福祉、健康、心理、文化のいずれかに関連するテーマについて、授業や現場体験（ボランティアや実習等）での気づきや知見を踏まえた深い考察ができています。
オフィスアワー	水曜1, 2限（1605研究室）
学生へのメッセージ	3年次後期に指導教員を決めるので、それまでに自分の興味・関心のあるテーマを探し検討しておくことが望ましい。また、4年次は実習や就職活動等で慌ただしくなるため、指導教員と連絡を密に取りながら、計画的に研究のための時間を十分に確保して、一步一步研究が進められるように努力しよう。

教育等の取り組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究A (吉永)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 吉永 早苗	指定なし

ナンバリング	P40001M22
授業概要(教育目的)	主に音楽に関連する児童学関連分野から、先行研究をふまえつつ、学生自らが研究課題を設定し、研究方法を吟味し、研究計画に基づいて調査・データ収集等に從事できるよう指導します。中間報告会では、これまでの研究成果をプレゼンテーションすることを通し、また、ゼミ仲間の研究内容・方法についても共に考えながら、卒業研究Bに向けての課題を明らかにしていきます。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	子どもと音楽を中心とした、文化・保育・教育といった領域について総合的に理解する。 論文の読み方や構成について理解する。
思考・判断の観点 (K)	複数の論文をクリティカルに読み、総合的に判断して自分の考えをまとめることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自身のテーマに関する、関連する文献・論文等を積極的に収集する。 ゼミのディスカッションにおいて、主体的に意見を述べる。
技術・表現の観点 (A)	わかりやすい文章表現ができる。 論理的に文章を構成することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	卒業論文提出までの道のりを考える。	自身の研究計画について、いつ、何をどこまで明らかにしたいのかについて考えておく。	180分
第2回	現状分析	各自の研究テーマについての現状分析を行い、争点・論点について検討する。	研究テーマについての現状分析を行い、争点・論点を探しておく。	180分
第3回	先行研究① 文献抄読 (1)	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。	先行研究を検索し、論文を精読しておく。	180分
第4回	先行研究② 文献抄読 (2)	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。	先行研究を検索し、論文を精読しておく。 抄読した論文を、要約して提出する。	180分

第5回	先行研究③ 文献抄読 (3)	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。	先行研究を検索し、論文を精読しておく。 抄読した論文を、要約して提出する。	180分
第6回	先行研究④ 文献抄読 (4)	受講生が検索した先行研究について、全員で抄読する。	先行研究を検索し、論文を精読しておく。 抄読した論文を、要約して提出する。	180分
第7回	先行研究⑤ 発展的まとめ	先行研究の要約を検討する中で、各自の研究課題・研究方法を明確にしていく。	先行研究の要約。 様々な調査の中から、自身の研究にふさわしい手法を探しておく。	180分
第8回	研究方法と 手続き①	各自が研究方法について発表し、全員で検討する。	研究方法について明らかにし、 具体的に説明できるようにしておく。	180分
第9回	研究方法と 手続き②	研究計画立案に向け、研究方法およびその手続きについて決定する。	研究方法を決定し、具体的な手続きについてまとめておく。	180分
第10回	研究骨子の 検討	各自の研究計画について検討する。	研究計画の立案	180分
第11回	調査・データ 収集等①	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討①	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、 発表できるようにしておく。	180分
第12回	調査・データ 収集等②	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討②	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、 発表できるようにしておく。	180分
第13回	調査・データ 収集等③	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討③	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、 発表できるようにしておく。	180分
第14回	調査・データ 収集等④	各自の調査・データ収集等の進捗状況の発表とその検討④	文献調査、データ収集、実験内容の検討などの経過をまとめ、 発表できるようにしておく。	180分
第15回	中間発表	研究の進捗状況について、全員が報告する。	研究の進捗状況について、PPT 等を活用してプレゼンテーションの準備をしておく。	240分

学習計画注記	履修状況や研究の進捗状況によって、スケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	研究方法・内容について、受講生の課題決に向けて、毎回の講義で相談・指導を行います。メール、および研究室訪問による質問も、随時受け付けます。
評価方法	受講生の、講義内における発表内容および中間報告について、テーマに関する先行研究の収集の状況とその整理、提出するレポートへの文章のわかりやすさ、文章構造の論理性などにより評価します。ディスカッションへの参加は、積極的に様々な課題について思考し、主体的対話的に問題解決に向かう姿勢を評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
先行研究の整理	○	○	○	
ディスカッションへの参加			○	
論理的思考		○		○
プレゼンテーション		○		○

評価割合	研究への取り組み・先行研究の整理（40%）、ディスカッションへの参加（30%）、中間報告（プレゼンテーション）（30%）で評価する。
------	--

参考図書	講義内で紹介する。
------	-----------

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 子どもと音楽を中心とした、文化・保育・教育といった領域についての専門的知識を習得する。</p> <p>【思考・判断】 子どもと直接触れ合ったり、保育者・教師などの実践から学ぶなど、具体的・実践的な学びの機会から得た知識をもとに、様々な課題に柔軟に対応できる感性と応用力をもつ。</p> <p>【関心・意欲・態度】 自ら課題を見出し、それに向けて専門的知識を収集するとともに、保育・授業参観及び子どもと関わることから学びを深める。</p>
---------------	---

	【技能・表現】 知識・理解をもとに、考えたことを論理的に表現する。															
オフィスアワー	前期・後期：月曜日 3限 1601															
学生へのメッセージ	3年次後期に指導教員を決めるので、それまでに自分の興味・関心のあるテーマを探し検討しておくことが望ましい。また、4年次は実習や就職活動等で慌ただしくなるため、指導教員と連絡を密に取りながら、計画的に研究のための時間を十分に確保して、一步一步研究が進められるように努力しよう。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>発表内容について全員でディスカッションを重ねることを通し、主体的・能動的に学びを深めていく。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td>○</td> <td>webコンテンツや参考図書、検索サイトを活用する学習を通して、情報の真偽や人権・法令に配慮する基礎的知識と基本的リテラシーを向上する。</td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td>○</td> <td>タブレット型PCやアプリケーション、視聴覚機器などを課題解決に用いる学習を通して、チームアプローチによる討論や対話の深まりを体験的に理解する。</td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング	○	発表内容について全員でディスカッションを重ねることを通し、主体的・能動的に学びを深めていく。	情報リテラシー教育	○	webコンテンツや参考図書、検索サイトを活用する学習を通して、情報の真偽や人権・法令に配慮する基礎的知識と基本的リテラシーを向上する。	ICT活用	○	タブレット型PCやアプリケーション、視聴覚機器などを課題解決に用いる学習を通して、チームアプローチによる討論や対話の深まりを体験的に理解する。
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業																
アクティブ・ラーニング	○	発表内容について全員でディスカッションを重ねることを通し、主体的・能動的に学びを深めていく。														
情報リテラシー教育	○	webコンテンツや参考図書、検索サイトを活用する学習を通して、情報の真偽や人権・法令に配慮する基礎的知識と基本的リテラシーを向上する。														
ICT活用	○	タブレット型PCやアプリケーション、視聴覚機器などを課題解決に用いる学習を通して、チームアプローチによる討論や対話の深まりを体験的に理解する。														

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B（畝部）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 畝部 典子	指定なし

ナンバリング	P40002M21
授業概要(教育目的)	研究データの収集、整理、分析、考察を行い、研究の成果をまとめた卒業論文を作成する。卒業論文完成後は論文要旨を提出する。卒業研究発表会では、最終的な研究成果を口頭およびパワーポイントで発表する。
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究Aの単位を取得していること。 論文／レポート作成には、コンピューターを利用しての文書作成技能が求められる。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	卒業研究（卒業論文）の書式、卒業研究（論文）作成のための情報検索方法を理解し、研究課題に関する深い知識を持っている。
思考・判断の観点 (K)	これまでに学んだ知識を背景に、卒業研究（卒業論文）の研究課題について検討・考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	主体的、意欲的に卒業研究（卒業論文）作成に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	結束性と一貫性のある論理的文章を書くことができる。

学習計画

卒業研究B

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	アウトライン再考1	ディスカッションを通じて卒業研究（論文）アウトラインを再考する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第2回	アウトライン再考2	ディスカッションを通じて卒業研究（論文）アウトラインを再考する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第3回	研究データ加筆1	ディスカッションを通じて研究データを加筆する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第4回	研究データ加筆2	ディスカッションを通じて研究データを加筆する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第5回	研究データ整理、分	ディスカッションを通じて研究データを整理、分析、考察する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分

	析、考察1	う。		
第6回	研究データ整理、分析、考察2	ディスカッションを通じて研究データを整理、分析、考察する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第7回	論文構成の検討	ディスカッションを通じて論文構成を検討する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第8回	卒業研究（論文）作成1	ディスカッションを通じて卒業研究（論文）を作成する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。文字数は20,000字以上とする。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第9回	卒業研究（論文）作成2	ディスカッションを通じて卒業研究（論文）を作成する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。文字数は20,000字以上とする。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第10回	卒業研究（論文）作成3	ディスカッションを通じて卒業研究（論文）を作成する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。文字数は20,000字以上とする。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第11回	卒業研究（論文）作成4	ディスカッションを通じて卒業研究（論文）を作成する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。文字数は20,000字以上とする。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第12回	卒業研究（論文）要旨作成1	ディスカッションを通じて卒業研究（論文）を作成する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。文字数は20,000字以上とする。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第13回	卒業研究（論文）要旨作成2	ディスカッションを通じて卒業研究（論文）の要旨を作成する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第14回	卒業研究（論文）発表原稿・パワーポイント作成1	ディスカッションを通じて発表原稿とパワーポイントを作成する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第15回	卒業研究（論文）発表原稿・パワーポイント作成2、製本	ディスカッションを通じて発表原稿とパワーポイントを作成する。コンピューターによる情報検索、情報処理を行う。卒業研究（論文）の内容を最終確認後、製本する。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分
第16回	卒業研究（論文）の提出	20,000字以上という基準を満たした卒業研究（論文）を指定の期日までに提出し、受領証を受ける。	継続的に自分自身の研究課題の追究に取り組む。	120分

学生へのフィードバック方法 提出される論文は添削、または修正点を指摘する。

評価方法 平常点（授業中の実績）、20,000字以上の卒業研究（論文）の提出および卒研発表会における口頭発表により評価する。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
卒業研究（論文）提出	○	○	○	○

評価割合 平常点（25%）、卒業研究（論文）の提出（50%）、卒研発表会における口頭発表（25%）により総合的に評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) なし（プリント配付）

参考図書 別途指示する。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】 児童学の6領域（子どもの保育・教育・福祉・健康・シリ・文化）について総合的・専門的知識が修得できている。
【思考・判断】 子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学びあう具体的・実践的な機会を通して、自らさまざまな課題に柔軟に対応できる。
【関心・意欲・態度】 子どもをめぐめる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。
【技能・表現】 理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる。保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。

オフィスアワー	木曜2時限 1630研究室	
学生へのメッセージ	指示に従って積極的・主体的に資料収集、文献研究、論文作成を行うこと。参考文献目録の書き方は『リテラシー演習テキスト』を参照する。自分の意見と他人の意見を区別し、論文の孫引きをしないように十分注意する。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	議論、発表など双方向の授業を行う。
情報リテラシー教育	○	情報蒐集、情報処理、情報発信について学ぶ。
ICT活用	○	コンピューター技術を利用した情報処理を行う。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B（金子）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金子 和正	指定なし

ナンバリング	P40002M21
授業概要(教育目的)	卒業研究Aにおいて得られた研究データの整理、分析、考察を行い、研究の成果をまとめた論文及び要旨を作成・提出する。卒業研究発表会では、最終的な研究成果を口頭で発表し、質疑応答を行う。なお、授業内容の詳細については各指導教員の指導によるものとする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	研究のテーマについて深い知識と理解を示している。
思考・判断の観点 (K)	研究について得られたデータから様々な判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	研究テーマに高い関心や態度がある。
技術・表現の観点 (A)	発表の技術や表現能力が高い。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	データの分析・整理①	収集したデータの分析方法を決定し、Excel等のソフトを使い整理することを学ぶ。	データは失うことがないように、いくつかのデバイスに保存しておくことを理解しておく。	120分
第2回	データの分析・整理②	データは短時間でまとめ整理することを理解する。	収集したデータは短時間で整理し、統計処理をしていくことを理解しておく。	120分
第3回	データの分析・整理③	データの処理にはExcel統計やspssを用いて、統計的処理を的確に行う。	データは同一のもの2つの条件下での比較なのか、AとBの比較なのか、統計処理の検定においても十分配慮することを理解しておく。	120分
第4回	データの分析・整理④	整理されたデータは、どのような結果を生んだのか考察することを学ぶ。	データから何が言えるのか、何が予測できるのか、様々な角度から考察を加えることを理解しておく。	120分
第5回	結果の考察	結果の考察を行う。結果は事実についてのみ記し、考察	考察では先行研究で明らかにな	120分

	①	は結果から考えられることを述べることを理解する。	ってきたことも含めて、考えを記述していく。考察が研究者の力量を示していることを理解しておく。	
第6回	結果の考察②	考察では常に先行研究や関連研究に当たり、今までの研究結果と何が違うのか、何が明らかになったのかを述べていくことを理解する。	研究のオリジナリティや妥当性、客観性、信頼性を大前提に考察を加えていくことを理解しておく。	120分
第7回	結果の考察③	先行研究の結果と比較したりしながら様々な観点から考察を加え、論文の特徴を見つけていくことを理解する。	新しい事実は、容易には発見しにくいことを理解しておく。	120分
第8回	図・表の作成①	図や表の作成手順を理解する。	論文は図や表を添えることによって、要旨も整ってくることを理解しておく。縦軸と横軸の関係を理解しておく。	120分
第9回	図・表の作成②	結果や考察を容易にするため、論文をわかりやすくするために図や表を作成することを理解する。	図や表は収集されたデータをわかりやすく説明するために、x軸とy軸の数値を明確にすることを理解しておく。	120分
第10回	論文作成①	論文は緒言から始まってテーマの背景、動機、先行研究、目的、仮説、方法、手順・研究対象者・期日・実験群・対象群、統計的処理の方法、結果、考察、まとめ、今後の課題、引用文献一覧、図・表の順で構成することを理解する。	論文は順番に執筆することなく、本論はデータの収集や結果から執筆し時間をかけて考察を加えていくことを理解しておく。	120分
第11回	論文作成②	論文の中心に常に研究の目的があることを理解する。	卒業論文はページ数も多いので、論旨が途中でブレないように理解しておく。	
第12回	論文のまとめ	ページ数を入れ、論文の全体の構成をまとめる。論文に流れがあるかを理解する。	論文は目的に向かって全体が構成されている必要がある。余計な先行研究を取り挙げていないか。図・表に誤りは無いか。無理な考察を加えていないか等のチェックをすることを理解しておく。	120分
第13回	要旨の作成	論文を要旨としてまとめることを理解する。	論文の重要部分を書き出して要旨にまとめる。要旨は緒言から始まって図・表も入れ引用文献までを簡潔に表記したものである。論文の流れに沿って簡潔にまとめることを理解しておく。	120分
第14回	発表資料の作成	論文発表のためのppt資料の作成を理解する。	短時間で自分の論文を理解してもらい発表資料を作成する。論文の中身について全く知らない第三者に、わかりやすく発表する方法を理解しておく。プレゼンテーション資料の作成方法を理解しておく。	120分
第15回	発表の準備	時間内で発表が終わるようにする。最も言いたいこと、研究の方法、どのようなことが明らかになったのかについて、わかりやすく発表することを理解する。	研究の骨子は何なのかを常に考えながら、発表の準備をすることを理解しておく。	120分

学習計画注記 授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 毎授業時に研究の進み具合の発表に対して、コメントを与える。

評価方法 卒論製作への積極的態度、要旨、卒論発表、卒業論文の総合的評価とする。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
卒論製作への積極的態度	○	○	○	
要旨	○	○	○	
卒論発表	○	○	○	○
卒業論文	○	○		

評価割合 卒論製作への積極的態度 (20%)、要旨 (20%)、卒論発表 (20%)、卒業論文 (40%) の総合的評価とする。

ディプロマポリシーとの関連	【知識・技術】 テーマについて多くの知識をもっている。 【思考・判断】 論文執筆において先行研究の結果を読み取る判断をしている。 【関心・意欲・態度】 研究の目的を明らかにするために積極的に取り組む。 【技術・表現】 発表の技術に関して、ICTを活用している。
オフィスアワー	月曜日4時限目
学生へのメッセージ	卒業研究Bでは、卒業研究Aの成果をさらに発展させて、1つの論文としてまとめることを目指す。論文作成は、大変根気の要る作業であり、一日一日の積み重ねが非常に大切である。また、研究成果を要約した要旨の作成や、卒業研究発表会でのプレゼンテーションも評価の対象となる。学生生活の締めくくりとして、ぜひ意欲的に取り組んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	研究テーマの調査のために保育園や幼稚園に出かけ、直接確かめている。
情報リテラシー教育	○	論文の作成において様々な情報を整理している。
ICT活用	○	論文発表のためにICTを活用し、わかりやすい発表をしている。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B（中田）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 中田 範子	指定なし

ナンバリング	P40002M21
授業概要(教育目的)	<p>「卒業研究A」での成果をもとに、論文を完成し、発表する。幼児教育学研究室では、以下のような視点から研究を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育・教育方法に関する研究 2. 保育・教育現場での環境や教材に関する研究 3. 保育現場における事例に見られる関係性(子どもと保育者、子ども同士など)に関する研究 <p>なお、各自のテーマ、研究方法は異なるため、進捗状況に応じて、個別指導が中心となる。</p>
履修条件	「卒業研究A」の単位を修得し、所定の単位数を修得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	調査結果を多角的な視点からとらえ、子どもを中心とした思考・判断のもとに考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	研究を進めるにあたり、研究協力者である子どもや保護者、園関係者に対する倫理的配慮をしながら、子どもの現在と未来に有意義な研究をすすめる。
技術・表現の観点 (A)	自身の研究をアウトリーチの意義を踏まえ、他者が理解できるような論文に適した文章に表現する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	予備調査の結果等研究の進捗状況を報告し、卒業研究発表会までの概要を理解する。	予備調査の結果をまとめておく	90分
第2回	論文の構成と文章化①	作成したサブノート①の内容を確認しながら、「はじめに」を作成する。	「はじめに」の文章を完成させる。	90分
第3回	論文の構成と文章化②	作成したサブノート②の内容を確認しながら、「目的」を作成する。	「目的」の文章を完成させる	90分
第4回	論文の構成と文章化③	作成した文献リストの内容を確認しながら、先行研究をまとめ、リサーチクエスチョンを明確にする。	「先行研究」の文章を完成させる。	90分

第5回	論文の構成と文章化④	中間発表の内容を確認し、「方法」を作成する。	「方法」の文章を完成させる。	90分
第6回	論文の構成と文章化⑤	中間発表の内容を確認し、「分析手続き」を作成する。	「分析手続き」の文章を完成させる。	90分
第7回	論文の構成と文章化⑥	調査結果を文章化、図式化する。	「結果」を完成させる。	90分
第8回	論文の構成と文章化⑦	調査結果をもとに考察する。	「考察」の文章を完成させる。	90分
第9回	論文の構成と文章化⑧	調査結果及び考察をもとに全体的な考察を文章化する。	「全体的な考察」の文章を完成させる	90分
第10回	論文の構成と文章化⑨	研究全体から見いだされた知見を明らかにし、「今後の展望」を見出し、文章化する。	「今後の展望」の文章を完成させる。	90分
第11回	研究結果のアウトリーチについて	研究結果を外部に公表することの意義と責任について理解する。	論文全体の構成について見直し、外部に公表することを踏まえて適宜修正する。	90分
第12回	要旨の作成について	卒業研究を通して最も伝えたい点を明らかにし、要旨を作成する。	要旨を完成させる。	90分
第13回	発表原稿の作成	他者が理解しやすいプレゼンテーションの方法を理解し、発表原稿を作成する。	発表原稿を完成させる。	90分
第14回	卒業研究発表会の予行	卒業研究発表会を想定して、発表の予行を行う。限られた時間内にどのようにポイントを定めて発表するかを考える。また、質疑応答について、学生同士で考えあう。	予行において気付いた修正点を修正し、発表会の準備を進める。	90分
第15回	卒業研究発表会	卒業研究発表会で、自身の研究を発表し、質疑応答する。	発表会の準備を進める。	90分

学習計画注記	授業の進行状況等により、変更する可能性があります。
学生へのフィードバック方法	提出された、論文、要旨、発表原稿等はすべて確認し、適宜添削し、コメントを付して返却する。また、基本的には個別にフィードバックをするが、クラス全体で考えたい問題については、授業内で解説をする。
評価方法	完成された論文と卒業研究発表会の発表内容(要旨、発表原稿も含む)を点数化して評価する。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
論文		○	○	○
要旨	○			○
卒業研究発表会				○

評価割合	論文50%、要旨25%、卒業研究発表25%
使用教科書名 (ISBN番号)	無
参考図書	2018-2019 東京家政学院大学児童学科中田ゼミ卒業研究テキスト 中澤潤他：心理学マニュアル観察法。北大路書房。2014 秋田喜代美ほか編：はじめての質的研究法 教育・学習編。東京図書。2014 中坪史典編：子ども理解のメソドロジー。ナカニシヤ出版。2012

ディプロマポリシーとの関連	<p>【思考・判断】 子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学び合う、 具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に 対応できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】 子どもをめぐる多様化する 課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために 使命感を持って行動できる。</p> <p>【技能・表現】 理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる。</p>
オフィスアワー	前期は火曜日4, 5限、後期は火曜日1-3限
学生へのメッセージ	研究を進めていく中では疑問点を持つことは大切です。疑問・質問がある場合には、遠慮せずに申し出てください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、幼稚園・保育所で教諭・保育士として実務経験を有しており、幼稚園、保育所をフィールドとした研究について実務経験に基づいて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	発表、討議を中心とした授業を行う。
情報リテラシー教育	○	研究テーマに関連した資料を収集し、論文作成に活用する。
ICT活用	○	卒業研究発表会の際には、PPTを用いて自身の研究を報告する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B（新開）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新開 よしみ	指定なし

ナンバリング	P40002M21
授業概要(教育目的)	卒業研究Aにおいて得られた研究データの整理、分析、考察を行い、研究の成果をまとめた論文及び要旨を作成・提出を求める。卒業研究発表会では、最終的な研究成果を口頭で発表し、質疑応答を行う。
履修条件	※学生便覧参照

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自身の研究内容についての豊かな知識を身につけ、適切に理解している。
思考・判断の観点 (K)	研究課題の分析と考察が適切に行われ、自分の研究について論理的に説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	主体的に研究論文に取り組み、計画的に遂行しようとしている。
技術・表現の観点 (A)	文章表現や議論の展開が明確である。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	研究データの整理・分析・考察①	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討①	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第2回	研究データの整理・分析・考察②	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討②	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第3回	研究データの整理・分析・考察③	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討③	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第4回	研究データの整理・分析・考察④	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討④	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第5回	研究データの整理・分析・考察⑤	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討⑤	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分

第6回	論文構成の見直し	これまでのデータについての整理・分析・考察のまとめと論文構成とを照合し、見直しを行う。	これまでの成果を大まかにまとめ、章立てを見直しておく。	180分
第7回	研究データの整理・分析・考察⑥	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討⑥	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第8回	研究データの整理・分析・考察⑦	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討⑦	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第9回	論文執筆内容の検討①	研究の目的と先行研究レビューの検討	研究の目的と先行研究レビューをまとめておく。	180分
第10回	論文執筆内容の検討②	研究方法と結果及び図表についての検討と調整	研究方法及び図表を中心に整理しておく。	180分
第11回	論文執筆内容の検討③	考察の記述に関する検討①	先行研究、結果に基づいて考察を深める。	180分
第12回	論文執筆内容の検討④	考察の記述に関する検討②	第11回の検討に基づき、考察を深める。	180分
第13回	論文執筆内容の検討⑤	全体考察を検討し、序及び結の内容を確認する。	全体考察・論文のまとめを作成する。序及び結びの内容を加筆修正しておく。	180分
第14回	論文要旨の作成	論文全体の確認及び論文要旨の検討	指定された様式に則し、要旨を作成しておく。	180分
第15回	プレゼンテーションの作成	プレゼンテーションの内容及び発表原稿の検討	PPT等を活用して発表用の量及及び原稿を準備しておく。	180分
第16回	卒業研究発表会	卒業研究の成果を発表する。	発表練習をしておく。	180分

学習計画注記 ※履修状況や研究の進捗状況によって、スケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法 研究方法・内容について、受講生の課題可決に向けて、毎回の講義で相談・指導を行います。メール、および研究室訪問による質問も、随時受け付けます。

評価方法 受講生の授業への参加状況、研究への取り組みやディスカッションへの参加の積極性等を総合的に判断します。論文執筆では、考察の深まり、論理的思考の展開、明確な議論の展開、文章表現のわかりやすさ等の総合的な視点から評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
取り組みの姿勢			○	
論理的思考	○	○		○
文章表現	○	○		○

評価割合 平常点 (40%)、研究論文 (50%)、研究発表 (プレゼンテーション) (10%) による総合評価。(平常点は毎週の授業への参加状況、研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する)

使用教科書名 (ISBN番号) なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
「児童学」の保育領域に関する豊かな知識。

【思考・判断】
子どもと直接触れ合ったり、保育者・教師などの実戦から学ぶなど、具体的・実践的な学びの機会から得た知識をもとに、様々な課題に柔軟に対応できる感性と応用力をもつ。

【関心・意欲・態度】
自ら課題を見出し、それに向けて専門的知識を収集するとともに、保育・授業参観及び子どもと関わることから学びを深める。

【技能・表現】
知識・理解をもとに、考えたことを論理的に表現する。

オフィスアワー 金曜 4 時限 1635 研究室

学生へのメッセージ 卒業研究Bでは、卒業研究Aの成果をさらに発展させて、1つの論文としてまとめることを目指す。論文作成は、大変根気の要る作業であり、一日一日の積み重ねが非常に大切である。また、研究成果を要約した要旨の作成や、卒業研究発表会でのプレゼンテーションも評価の対象となる。学生生活の締めくくりとして、ぜひ意欲的に取り組んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	発表内容について全員でディスカッションを重ねることを通し、主体的・能動的に学びを深めていく。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B（柳瀬）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 柳瀬 洋美	指定なし

ナンバリング	P40002M21
授業概要(教育目的)	卒業研究Aにおいて得られた研究データの整理、分析、考察を行い、研究の成果をまとめた論文及び要旨を作成・提出する。卒業研究発表会では、最終的な研究成果を口頭で発表し、質疑応答を行う。なお、授業内容の詳細については各指導教員の指導によるものとする。
履修条件	卒業研究Aの単位を修得済みであること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自身の研究内容についての豊かな知識を身につけ、適切に理解している。
思考・判断の観点 (K)	研究課題の分析と考察が適切に行われ、自分の研究について論理的に説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	主体的に研究論文に取り組み、計画的に遂行しようとしている。
技術・表現の観点 (A)	文章表現や議論の展開が明確である。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	研究データの整理・分析・考察①	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討①	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第2回	研究データの整理・分析・考察②	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討②	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第3回	研究データの整理・分析・考察③	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討③	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第4回	研究データの整理・分析・考察④	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討④	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第5回	研究データの整理・分析・考察⑤	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討⑤	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分

第6回	論文構成の見直し	これまでのデータについての整理・分析・考察のまとめと論文構成とを照合し、見直しを行う。	これまでの成果を大まかにまとめ、章立てを見直しておく。	180分
第7回	研究データの整理・分析・考察⑥	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討⑥	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第8回	研究データの整理・分析・考察⑦	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討⑦	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第9回	論文執筆内容の検討①	研究の目的と先行研究レビューの検討	研究の目的と先行研究レビューをまとめておく。	180分
第10回	論文執筆内容の検討②	研究方法と結果及び図表についての検討と調整	研究方法及び図表を中心に整理をしておく。	180分
第11回	論文執筆内容の検討③	考察の記述に関する検討①	先行研究、結果に基づいて考察を深める。	180分
第12回	論文執筆内容の検討④	考察の記述に関する検討②	第11回の検討に基づき、考察を深める。	180分
第13回	論文執筆内容の検討⑤	全体考察を検討し、序及び結の内容を確認する。	全体考察・論文のまとめを作成する。序及び結びの内容を加筆修正しておく。	180分
第14回	論文要旨の作成	論文全体の確認及び論文要旨の検討	指定された様式に則し、要旨を作成しておく。	180分
第15回	発表用プレゼンテーションの作成	プレゼンテーションの内容及び発表原稿の検討	PPT等を活用して発表用の資料及び原稿を準備しておく。	240分
第16回	卒業研究発表会	卒業研究の成果を発表する。	発表練習をしておく。	180分

学習計画注記	※履修学生の保育・教育実習の状況や研究の進捗状況によりスケジュールが変更になる場合があります。																												
学生へのフィードバック方法	毎回の授業時の助言に加えて、学生一人ひとりのペースに即して、適宜コメントや助言を返す。																												
評価方法	平常点 (40%) , 研究論文 (50%) , 研究発表 (プレゼンテーション) (10%) による総合評価。(平常点は毎週の授業への参加状況, 研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する)																												
評価基準	<p>評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>研究への取り組みの姿勢</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>論理的思考</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>文章表現</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	研究への取り組みの姿勢			○		論理的思考	○	○		○	文章表現	○	○		○					
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																									
研究への取り組みの姿勢			○																										
論理的思考	○	○		○																									
文章表現	○	○		○																									
評価割合	平常点 (40%) , 研究論文 (50%) , 研究発表 (プレゼンテーション) (10%) による総合評価。(平常点は毎週の授業への参加状況, 研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する)																												
参考図書	授業内で必要に応じて紹介する。																												
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 「児童学」について、音楽・教育・文化といった領域に関する豊かな知識。</p> <p>【思考・判断】 子どもと直接触れ合ったり、保育者・教師などの実戦から学ぶなど、具体的・実践的な学びの機会から得た知識をもとに、様々な課題に柔軟に対応できる感性と応用力をもつ。</p> <p>【関心・意欲・態度】 自ら課題を見出し、それに向けて専門的知識を収集するとともに、保育・授業参観及び子どもと関わることから学びを深める。</p> <p>【技能・表現】 知識・理解をもとに、考えたことを論理的に表現する。</p>																												
オフィスアワー	水曜日5時限 1619研究室																												
学生へのメッセージ	卒業研究Bでは、卒業研究Aの成果をさらに発展させて、1つの論文としてまとめることを目指す。論文作成は、大変根気の要る作業であり、一日一日の積み重ねが非常に大切である。また、研究成果を要約した要旨の作成や、卒業研究発表会でのプレゼンテーションも評価の対象となる。学生生活の締めくくりとして、ぜひ意欲的に取り組んでほしい。																												
教育等の取り組み状況																													

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は心理臨床現場での実務経験が豊富であり、学生の研究テーマが現場での実践や事例に関するものである場合に、教員の実務経験に基づく助言を、考察に生かしていく。
アクティブ・ラーニング	○	発表内容について全員でディスカッションを重ねることを通し、主体的・能動的に学びを深めていく。
情報リテラシー教育	○	webコンテンツや参考図書、検索サイトを活用する学習を通して、情報の真偽や人権・法令に配慮する基礎的知識と基本的リテラシーを向上する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B（新海）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 新海 公昭	指定なし

ナンバリング	P40002M21
授業概要(教育目的)	卒業研究Aにおいて得られた研究データの整理・分析・考察を行い、研究の成果をまとめた論文及び要旨を作成・提出できるような力を養成する。卒業研究発表会では、最終的な研究成果を口頭で発表する機会をもつ。
履修条件	卒業研究Aの単位を取得済みであること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	4年間の児童学科における学びの集大成として、子どもをめぐる課題に対して、自ら設定した研究課題に関して、主体的に分析と考察を重ねながら、最終的な結論を導き出すことができる。
技術・表現の観点 (A)	子どもをめぐる課題をより深く、発展させることができ、研究成果についての発表と質疑応答を通して、理論と実践の融合を図り、専門家として社会に貢献できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	研究データの整理、分析、考察一週目	自身の卒業研究に関して、卒研Aでの中間発表で得られた課題を深化そして発展させる。 卒研Aで得られたデータに関してデータ分析を進める。	翌週の報告に向けて、研究を進める。	180分
第2回	研究データの整理、分析、考察二週目	自身の卒業研究に関する課題に関して、先週までに取り組んだ内容を報告し協議する。 得られたデータに関してデータ分析を進める。	翌週の報告に向けて、研究を進める。	180分
第3回	研究データの整理、分析、考察三週目	自身の卒業研究に関する課題に関して、先週までに取り組んだ内容を報告し協議する。 得られたデータに関してデータ分析を進める。	翌週の報告に向けて、研究を進める。	180分
第4回	研究データの整理、分	自身の卒業研究に関する課題に関して、先週までに取り組んだ内容を報告し協議する。	翌週の報告に向けて、研究を進める。	180分

	析, 考察四週目	得られたデータに関してデータ分析を進める。		
第5回	研究データの整理, 分析, 結果の整理	今までの分析結果を整理し, 報告する。その結果について協議する。	卒研Aから取り組んでいる先行研究, 研究課題に関する仮説検証の結果を統合的に整理する。	180分
第6回	論文の構成の検討	論文の構成を検討する。	検討した論文校正に従って論文を書き始める。	180分
第7回	論文作成 1	論文作成で, 先週までに取り組んだを報告し協議する。	協議で得た課題を反映させながら, 論文を書き進める。	180分
第8回	論文作成 2	論文作成で, 先週までに取り組んだを報告し協議する。	協議で得た課題を反映させながら, 論文を書き進める。	180分
第9回	論文作成 3	論文作成で, 先週までに取り組んだを報告し協議する。	協議で得た課題を反映させながら, 論文を書き進める。	180分
第10回	論文作成 4	論文作成で, 先週までに取り組んだを報告し協議する。	協議で得た課題を反映させながら, 論文を書き進める。	180分
第11回	論文作成 5	論文作成で, 先週までに取り組んだを報告し協議する。	協議で得た課題を反映させながら, 論文を書き進める。	180分
第12回	論文作成 6	論文を完成させる。	完成した論文をもとに, 要旨の構想を考える。	180分
第13回	論文要旨作成 1	論文の要旨に記すコンテンツを整理する。	論文の要旨作成を進める。	180分
第14回	論文要旨作成 2	論文要旨を完成させる。	卒業論文および要旨の内容を基にして, 発表資料を作成する。	180分
第15回	発表資料作成	発表資料を完成させる。ゼミ生の前で質疑応答を含む発表練習をする。	発表練習をふまえて, 卒業研究発表会に向けた準備を行う。	180分
第16回	卒業研究発表会	自身の1年間の集大成として, 卒業研究発表会で発表を行う。		

学生へのフィードバック方法 毎回のゼミの時間で, 各ゼミ生に発表や報告をする機会をもってもらおう。その発表や報告に対して, ゼミ生全員で協議を行う。その協議の内容を基に, 次への課題等を教員から提案する。

評価方法

1. 平常課題
平常課題は毎週発表や報告する自身の研究への取り組みや, ゼミ生同士の討論への参加の積極性等で総合的に判断する。
2. 卒業論文
内容を評価する。
3. 卒研発表会
報告内容とプレゼンテーションを評価する。

* 平常課題, 卒業論文, そして卒研発表会は, 下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常課題			○	
卒業論文			○	
卒研発表会			○	○

評価割合 平常課題 (50%)、卒業論文 (40%)、研究発表会 (10%)

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連

【関心・意欲・態度】子どもをめぐる課題に関心を持って取り組み, 子どもたちの健全で豊かな成長・発達のための提案ができる。

【技能・表現】子どもをめぐる課題に関する理論と実践の融合を図り, 専門家として社会に貢献できる力を有している。

オフィスアワー 前期: 水曜日 12:30~14:00

後期：水曜日 12:30～14:00

学生へのメッセージ

卒業研究Bでは、卒業研究Aの成果をさらに発展させて、自身の研究をレポートレベルではない1つの論文としてまとめることを目指す。論文作成は、大変根気の要る作業であり、一日一日の積み重ねが非常に大切になる。また、研究成果を要約した要旨の作成や、卒業研究発表会でのプレゼンテーションも行う。学生生活の締めくくりとして、主体的に取り組んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	教員主導ではなく、ゼミ生同士で討議を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B (齋藤義)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 齋藤 義雄	指定なし

ナンバリング	P40002M21
授業概要(教育目的)	子どもの福祉と保育, 心理と発達, 健康と環境, 文化と社会, 生活と教育の5つの学びの分野及びその他の児童学関連分野から, 先行研究をふまえて自らの研究課題を設定し, 研究方法を吟味し, 研究計画に基づいて調査・データ収集等に従事する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	先行研究をふまえて、自らの研究課題を設定する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	研究方法を吟味し、研究計画に基づいて、調査・データ収集に意欲的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

卒業研究B

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	1(1) 研究データの整理、分析、考察第一週目	研究データの整理、分析、考察する。	研究データの整理、分析、考察する。	45分
第2回	1(2) 研究データの整理、分析、考察第一週目	研究データの整理、分析、考察する。	研究データの整理、分析、考察する。	45分
第3回	2(1) 研究データの整理、分析、考察第二週目	研究データの整理、分析、考察する。	研究データの整理、分析、考察する。	45分

第4回	2(2) 研究データの整理、分析、考察第二週目	研究データの整理、分析、考察する。	研究データの整理、分析、考察する。	45分
第5回	3(1) 研究データの整理、分析、考察第三週目	研究データの整理、分析、考察する。	研究データの整理、分析、考察する。	45分
第6回	3(2) 研究データの整理、分析、考察第三週目	研究データの整理、分析、考察する。	研究データの整理、分析、考察する。	45分
第7回	4(1) 研究データの整理、分析、考察第四週目	研究データの整理、分析、考察する。	研究データの整理、分析、考察する。	45分
第8回	4(2) 研究データの整理、分析、考察第四週目	研究データの整理、分析、考察する。	研究データの整理、分析、考察する。	45分
第9回	5(1) 研究データの整理、分析、考察第五週目	研究データの整理、分析、考察する。	研究データの整理、分析、考察する。	45分
第10回	5(2) 研究データの整理、分析、考察第五週目	研究データの整理、分析、考察する。	研究データの整理、分析、考察する。	45分
第11回	6(1) 研究データの整理、分析、考察第六週目	研究データの整理、分析、考察する。	研究データの整理、分析、考察する。	45分
第12回	6(2) 研究データの整理、分析、考察第六週目	研究データの整理、分析、考察する。	研究データの整理、分析、考察する。	45分
第13回	7(1) 論文構成の検討	論文構成を検討する。	論文構成を検討する。	45分
第14回	7(2) 論文構成の検討	論文構成を検討する。	論文構成を検討する。	45分
第15回	8(1) 論文作成 第一週目	論文を作成する。	論論文を作成する。	45分
第16回	8(2) 論文作成 第一週目	論文を作成する。	論文を作成する。	45分
第17回	9(1) 論文作成 第二週目	論文を作成する。	論文を作成する。	45分
第18回	9(2) 論文作成 第二週目	論文を作成する。	論文を作成する。	45分
第19回	10(1) 論文作成 第三週目	論文を作成する。	論文を作成する。	45分
第20回	10(2) 論文作成	論文を作成する。	論文を作成する。	45分

	第三週目			
第21回	11(1) 論文作成 第四週目	論文を作成する。	論文を作成する。	45分
第22回	11(2) 論文作成 第四週目	論文を作成する。	論文を作成する。	45分
第23回	12(1) 論文作成 第五週目	論文を作成する。	論文を作成する。	45分
第24回	12(2) 論文作成 第五週目	論文を作成する。	論文を作成する。	45分
第25回	13 (1)・論文 完成・論文 要旨作成	論文完成・論文要旨を作成する。	論文完成・論文要旨を作成する。	45分
第26回	13 (2)・論文 完成・論文 要旨作成	論文完成・論文要旨を作成する。	論文完成・論文要旨を作成する。	45分
第27回	14(1) 卒業研究の 要旨をワー ドポイント 作成	卒業研究の要旨をワードポイントで作成する。	卒業研究の要旨をワードポイントで作成する。	45分
第28回	14(2) 卒業研究の 要旨をワー ドポイント 作成	卒業研究の要旨のワードポイントを作成する。	卒業研究の要旨のワードポイントを作成する。	45分
第29回	15(1) 卒業研究発 表会	卒業研究の要旨をワードポイントで発表する。	卒業研究の要旨をワードポイントで発表する。	45分
第30回	15(2) 卒業研究発 表	卒業研究の要旨をワードポイントで発表する。	卒業研究の要旨をワードポイントで発表する。	45分

学生へのフィードバック方法 ゼミでは、毎回研究に関する進捗状況を確認し、質疑・応答のコミュニケーションを通して、今後の指針を学生に伝えていく。レポートに関しては、内容に関する修正案を提案する。

評価方法 ゼミは、出席するのが当たり前である。平常点は毎週の授業への積極的な参加、研究への取り組みや討論への積極的な参加が望まれる。また、卒業研究の2万字は、11月中に書き上げ、12月・1月は、修正に充てること望ましいので、計画的に研究を進めることが望まれる。卒業研究Bでは、卒業研究という成果として具現化するので、

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
卒業研究		○		

評価割合 平常点(30%)、卒業研究(60%)、研究発表(プレゼンテーション)(10%)による総合評価。
(平常点は毎週の授業への積極的な参加、研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する)

使用教科書名 (ISBN番号) 特になし。

参考図書 各自に伝える。

ディプロマポリシーとの関連 【思考・判断】自ら様々な課題に柔軟に対応できる。
【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。

オフィスアワー ゼミの前後 1628研究室

学生へのメッセージ 4年次は実習や就職活動等で慌たしくなるため、指導教員と連絡を密に取りながら、計画的に研究のための時

間を十分に確保して、一步一步研究が進められるように努力することが望まれる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	小学校・中学校の教員としての経験を伝えるとともに、幼稚園・保育園・認定こども園・児童養護施設等の巡回訪問の経験を伝えている。
アクティブ・ラーニング	○	卒業研究のテーマに関して、話し合い（コミュニケーション）を通して、理解の深化を図っている。
情報リテラシー教育	○	先行研究の調査において、適切な引用の在り方を学んでいる。
ICT活用	○	調査やデータ収集の結果を、パソコン等で適切に処理している。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B (杉野)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 杉野 学	指定なし

ナンバリング	P40002M21
授業概要(教育目的)	卒業研究Aにおいて得られた研究データの整理・分析・考察を行い、研究の成果をまとめた論文及び要旨を作成・提出する。卒業研究発表会では、最終的な研究成果を口頭で発表し質疑応答を行う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 研究テーマに迫る適切な研究方法を理解する。
思考・判断の観点 (K)	1. 卒業研究Aにおける研究課題を発展させて、分析と考察を重ねながら研究テーマに応じた最終的な結論を導き出す。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 研究成果の発表と質疑応答を通して、積極的に今後の課題を明らかにする。
技術・表現の観点 (A)	1. 卒業論文・要旨・発表資料を適切に作成し発表する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	研究データの整理	研究データの整理を学びテーマに応じた分析方法を理解する。	研究データの整理方法について予習・復習をする。	120分
第2回	研究データの整理	研究データの整理について学び研究テーマに応じた分析方法と解釈の仕方を理解する。	研究データの整理方法について予習・復習をする。	120分
第3回	研究データの整理・分析	研究テーマに応じた研究データの整理・分析方法を学び研究データの整理・分析の具体的方法と解釈の仕方を理解する。	研究データの整理・分析方法について予習・復習をする。	120分
第4回	研究データの整理・分析	研究テーマに応じた研究データの整理・分析方法を学び研究データの整理・分析について具体的に実施可能な方法を理解する。	研究データの整理・分析方法について予習・復習をする。	120分
第5回	研究データの整理・分析・考察	研究テーマに応じた研究データの整理・分析・考察の方法を学び具体的に実施可能な方法について理解する。	研究データの整理・分析・考察の方法について予習・復習をする。	120分

第6回	研究データの整理・分析・考察	研究テーマに応じた研究データの整理・分析・考察を学び仮説を検証する。	仮説の検証方法について予習・復習をする。	120分
第7回	論文構成の検討	中間報告の発表を基に、論文構成を検討し卒業論文の全体像を理解する。	論文構成について予習・復習をする。	120分
第8回	論文作成(序論)	論文作成(序論)を作成し問題意識を明確にする。	論文作成(序論)の内容について予習・復習をする。	120分
第9回	論文作成(序論)	論文作成(序論)を作成し問題意識と研究目的・方法を明確にする。	論文作成(序論)内容について予習・復習をする。	120分
第10回	論文作成(本論)	論文作成(本論)を作成し結果を明確にする。	論文作成(本論)の内容について予習・復習をする。	120分
第11回	論文作成(本論)	論文作成(本論)を作成し結果を分析し研究仮説の検証をする。	結果を分析し研究仮説の検証について予習・復習をする。	120分
第12回	論文作成(本論)	論文作成(本論)を作成し結果を分析し研究仮説の検証をする事で、序論の問題意識や方法との整合性をみる。	研究仮説の検証について予習・復習をする。	120分
第13回	論文作成(結論)	論文作成(結論)を作成し序論や本論との整合性をみて、論文の校正をする。	論文の結論の内容を予習・復習する。	120分
第14回	要旨作成	要旨の書式を学び論文の概要をまとめる。	要旨作成について予習・復習をする。	120分
第15回	発表資料作成・発表練習	プレゼンテーションの方法を学び、要旨に基づき発表資料を作成し発表練習をする。	プレゼンテーションについて予習・復習をする。	120分
第16回	卒業研究発表会	卒業研究発表会で卒業論文の要旨を発表し意見交換した内容を論文作成に活かす。	卒業研究の発表内容・方法について予習・復習をする。	120分

学習計画注記	特になし
--------	------

学生へのフィードバック方法	卒業論文の作成を進める当たり、一人一人が問題意識をもって研究テーマを設定し、そして、研究テーマに迫るための具体的な研究方法を定めて、先行研究を行うことを重視する。そのため、毎回のゼミで卒業論文の構成や序論・本論・結論の記載内容を報告し合い、自らの研究論文に活かすことを行う。
---------------	---

評価方法	ゼミでは、中間発表を生かしてより研究テーマと関連させた内容を論文として記載することと、卒業論文は研究目的・内容・方法・結果・考察・文献一覧を適切に構成し20,000字以上の論文として記述してあることを基準として評価する。
------	--

評価基準	
------	--

評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	卒業研究発表会	○	○	○	○
	ゼミでの発表		○	○	○
	卒業論文	○	○		○

評価割合	卒業論文の記載内容(60%)、ゼミでの発表内容(20%)、卒論発表会の発表内容・方法(20%)に基づき総合評価をする。
------	---

使用教科書名 (ISBN番号)	特になし
-----------------	------

参考図書	各自の研究テーマに応じて、適宜、図書や研究論文等を紹介する。
------	--------------------------------

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】卒業論文を計画的に仕上げることで、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭に必要なこどもの教育に関する専門的な知識の修得ができています。 【思考・判断】子どもの教育や子育て支援に関する理解を深め、具体的・実践的な教育活動や地域連携などの状況を把握し障害の有無に関係なく共に育つ共生社会を創造できる感性やコミュニケーション能力が備わっている。
---------------	--

オフィスアワー	水曜日1.2限目、杉野研究室
---------	----------------

学生へのメッセージ	卒業研究Bでは、卒業研究Aの成果をさらに発展させて卒業論文としてまとめる。論文作成は、計画的に行うため、ゼミには必ず文献調査結果や序論・本論・結論に関する文章化したプリントを用意すること。また、研究成果を要約した要旨の作成や卒業研究発表会でのプレゼンテーションも大切であるため、日頃から積極的に分掌を作成したり自分に意見を整理して表現をしたりすることに取り組んでほしい。
-----------	---

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、東京都教育委員会の指導主事や東京都立特別支援学校の教員・管理職として、第1次東京都特別支援教育推進計画の策定に関わるとともに、特別支援教育に関する教育課程や指導法に関する幅広い実務経験を有しており、実践的な知見を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	個人による作業や小集団による協議・発表、調査研究により、主体的に論文構成を行う姿勢を身に付けさせる。
情報リテラシー教育	○	調査研究等において、個人情報の保護や流出を防止するために、個人情報保護や情報管理に関する法令等を説明し個人情報の管理を徹底する。
ICT活用	○	パソコンやICT機器の使用に慣れて論文を主体的に作成し適切に発表できる力を育む。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B（立川）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 立川 泰史	指定なし

ナンバリング	P40002M21
授業概要(教育目的)	卒業研究Aにおいて得られた研究データの整理、分析、考察を行い、研究の成果をまとめた論文及び要旨を作成・提出する。卒業研究発表会では、最終的な研究成果を口頭で発表し、質疑応答を行う。なお、授業内容の詳細については各指導教員の指導によるものとする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	児童学の専門的な知識に基づく視点を持ち、主体的に設定した研究課題の背景・目的・内容・方法について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	自らの研究課題に関する問題意識を明確にし、先行研究や調査結果を整理・考察を通して課題解決に向けた提案や根拠を説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自らの問題意識を基に今日的課題を解決することに関心を持ち、研究の倫理・人権・法令に準拠した探究活動を実践できる。
技術・表現の観点 (A)	研究課題の探究について、適切な調査方法に基づく調査・分析・考察・論述の基本的な技能を有している。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	研究データの整理、分析、考察一週目	調査から収集できたデータを整理し、適切な観点と方法で分析・考察を行う。分析・考察の過程について、随時討論と質疑応答を通して確認・改善を行う。	収集したデータを課題の領域や時系列で整理・保管しておく。	90分
第2回	研究データの整理、分析、考察二週目	調査から収集できたデータを整理し、適切な観点と方法で分析・考察を行う。分析・考察の過程について、随時討論と質疑応答を通して確認・改善を行う。	収集したデータを課題の領域や時系列で整理・保管しておく。	90分
第3回	研究データの整理、分析、考察三週目	調査から収集できたデータを整理し、適切な観点と方法で分析・考察を行う。分析・考察の過程について、随時討論と質疑応答を通して確認・改善を行う。	収集したデータを課題の領域や時系列で整理・保管しておく。	90分
第4回	研究データの整理、分析、考察四週目	調査から収集できたデータを整理し、適切な観点と方法で分析・考察を行う。分析・考察の過程について、随時討論と質疑応答を通して確認・改善を行う。	収集したデータを課題の領域や時系列で整理・保管しておく。	90分

	析、考察四週目			
第5回	研究データの整理、分析、考察五週目	調査から収集できたデータを整理し、適切な観点と方法で分析・考察を行う。分析・考察の過程について、随時討論と質疑応答を通して確認・改善を行う。	収集したデータを課題の領域や時系列で整理・保管しておく。	90分
第6回	研究データの整理、分析、考察六週目	調査から収集できたデータを整理し、適切な観点と方法で分析・考察を行う。分析・考察の過程について、随時討論と質疑応答を通して確認・改善を行う。	収集したデータを課題の領域や時系列で整理・保管しておく。	90分
第7回	論文構成の検討	論文の構成について、基本的な事項や順序を考慮して検討する。研究全体の運び方と調査・分析の過程を区別し、問題領域の中で論理的な文脈が保たれているか確認する。	章立てや項目トピックの主従関係を図式化し、整理しておく。	90分
第8回	論文作成一週目	序章・第1章では、問題意識の所在を明確にし、研究の背景、研究の目的・研究の方法について記述する。	研究計画案に則して研究の概要を整理しておく。	90分
第9回	論文作成二週目	第1章では、先行研究の歴史的変遷や問題点の現代の社会・文化歴史的な実態における位置づけを明確に述べる。論理的な文脈とともに、引用文献と主観的な考察との区別・データ分析や図表の取り扱い・脚注など、論文記述の原則に適した方法をとる。	研究の目的や趣旨に則して、有意な文献や調査データを精選し、整理しておく。	90分
第10回	論文作成三週目	論理的な文脈とともに、引用文献と主観的な考察との区別・データ分析や図表の取り扱い・脚注など、論文記述の原則に適した方法をとる。	研究の目的や趣旨に則して、有意な文献や調査データを精選し、整理しておく。	90分
第11回	論文作成四週目	論理的な文脈とともに、引用文献と主観的な考察との区別・データ分析や図表の取り扱い・脚注など、論文記述の原則に適した方法をとる。	研究の目的や趣旨に則して、有意な文献や調査データを精選し、整理しておく。	90分
第12回	論文作成五週目	論理的な文脈とともに、引用文献と主観的な考察との区別・データ分析や図表の取り扱い・脚注など、論文記述の原則に適した方法をとる。	研究の目的や趣旨に則して、有意な文献や調査データを精選し、整理しておく。	90分
第13回	論文作成六週目	論理的な文脈とともに、引用文献と主観的な考察との区別・データ分析や図表の取り扱い・脚注など、論文記述の原則に適した方法をとる。最終章では、総合的考察では、各章の成果を概観し、研究主題に対応した結論を記述する。	研究の目的や趣旨に則して、有意な文献や調査データを精選し、整理しておく。	90分
第14回	要旨作成	研究発表会における口頭発表（プレゼンテーション）に向けて、研究の要旨を作成する。規定のフォーマット（A4/縦、横書き・フォント指定・図表と参考文献を含む）にまとめ、指導教員に提出する。	研究の要旨について、目的や概要、事例や図表を精選し、整理しておく。	90分
第15回	発表資料作成	研究発表会に向け、口頭発表に使用するプレゼンテーション資料を作成する。プレゼンテーションに適したアプリケーションを用いてデータを作成し、内容や発表時間の確認を兼ねてリハーサルを実施する。各自のプレゼンテーションについて相互評価や模擬質疑を行い、内容や表現を改善する。	プレゼンテーションに適した表現の工夫を試し、視覚的な効果や論理的な内容構成を確認しておく。	90分
第16回	卒業研究発表会	自身の卒業研究について、プレゼンテーション資料を提示しながら口頭で発表する。学生や教員と質疑応答を行い、研究の成果や意義について振返る機会とする。また、質疑の成果や課題を受けて、卒業研究論文の改善や修正を行う。	口頭発表のルールやマナーを理解し、予想される質疑などを基に、シミュレーションを行っておく。	90分

学習計画注記	修学生の各種実習期間の都合により、スケジュールは柔軟に変更する場合がある。
学生へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回、各自の研究課題についてドキュメンテーション（進捗状況の報告等）を行い、相互質疑や討論を中心に協働的に取り組む。特に、研究主題の設定理由となる社会的背景や問題意識、研究の目的と調査分析の方法について、研究の進捗に沿って助言・コメントや資料や情報の提供で応答する。 ・ 学期末には、卒業研究論文の提出と、卒業研究論文は、規定文字数（2000字以上）の有無、研究主題・内容・調査方法、及び研究の成果と課題の明確さなどについて、仮提出後に修正・改善のコメントを記して返却する。 ・ 「卒業研究発表会」において各自10分程度の口頭発表によるプレゼンテーションを求める。プレゼンテーションのリハーサル段階において、必要な修正・改善についてコメントで応答する。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各自が行う研究課題についてのドキュメンテーションは、研究主題の設定理由となる社会的背景や問題意識、研究の目的と調査分析の方法に関する観点から、質疑応答の実態を基に評価する。 ・ 卒業研究論文は、規定文字数（2000字以上）の有無、研究主題・内容・調査方法、及び研究の成果と課題の明確さなどを基に、研究の妥当性や独自性を観点に総合的に評価する。 ・ プレゼンテーションは、発表リテラシーに着目し、内容整理の適切さ、視覚的な情報伝達技能を中心に総合的に評価する。
評価基準	
評価基準	

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
ドキュメンテーション		○	○	
卒業研究論文	○	○		○
プレゼンテーション			○	○

評価割合	平常点 (40%) , 研究論文 (50%) , 研究発表 (プレゼンテーション) (10%) による総合評価。 (平常点は毎週の授業への参加状況, 研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する)
使用教科書名 (ISBN番号)	各自の課題に添い適宜提示する。
参考図書	各自の課題に添い適宜提示する。 『卒業研究論文のいろは (ゼミ版)』の冊子を配布する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 児童学を構成する領域 (子どもの心理・健康・保育・教育・福祉・文化) に関する専門的な知識に基づく問題意識をもち、研究主題を設定している。 【思考・判断】 研究主題に応じた研究の調査・分析・考察方法を選定し、計画を立案している。 【関心・意欲・態度】 明確な問題意識をもち、研究課題の解決と提案に向かう主体性を発揮している。 【技能・表現】 論文の記述や調査について、基本的な技能を有し、人権・倫理・法令を尊重して探究できる。
オフィスアワー	水曜日3限、1629研究室
学生へのメッセージ	卒業研究Bでは、卒業研究Aの成果をさらに発展させて、1つの論文としてまとめることを目指す。論文作成は、大変根気の要る作業であり、一日の積み重ねが非常に大切である。また、研究成果を要約した要旨の作成や、卒業研究発表会でのプレゼンテーションも評価の対象となる。学生生活の締めくくりとして、ぜひ意欲的に取り組んでほしい。

教育等の取り組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、小学校教員としての経験をもち、造形・美術教育の実践研究・開発・提案に従事した。文部科学省の学習資料作成委員や文部科学省検定教科書の編修者として、現職教員の研修・地域行政や社会的教育機関・企業などのネットワークを生かして、今日的な課題に応じた造形教育の内容や情報を考察対象として提供する。
アクティブ・ラーニング	○	各自による研究調査の報告とメンバー間の相互主体的な討論や質疑を中心に進める。
情報リテラシー教育	○	参照する文献の検索・整理し、主題との整合性・妥当性を判断する場面で、情報処理の基本的な能力を発揮する機会をもつ。
ICT活用	○	文献の検索サイトやアプリケーションの活用、図書館での著書や資料の閲覧システムの利用、プレゼンテーションや分析データの視覚化などについて、適切なテクノロジーを効率的に運用する機会をもつ。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B（丹羽）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 丹羽 さがの	指定なし

ナンバリング	P40002M21
授業概要(教育目的)	卒業研究Aにおいて得られた研究データの整理、分析、考察を行い、研究の成果をまとめた論文及び要旨を作成・提出を求める。卒業研究発表会では、最終的な研究成果を口頭で発表し、質疑応答を行う。
学習目標(到達目標)	
学習目標（到達目標）	
知識・理解の観点 (K)	自身の研究内容についての豊かな知識を身につけ、適切に理解している。
思考・判断の観点 (K)	研究課題の分析と考察が適切に行われ、自分の研究について論理的に説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	主体的に研究論文に取り組み、計画的に遂行しようとしている。
技術・表現の観点 (A)	文章表現や議論の展開が明確である。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	研究データの整理・分析・考察(1)	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討(1)	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第2回	研究データの整理・分析・考察(2)	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討(2)	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第3回	研究データの整理・分析・考察(3)	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討(3)	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第4回	研究データの整理・分析・考察(4)	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討(4)	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第5回	研究データ	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告	収集しているデータを整理・分	180分

	の整理・分析・考察 (5)	と検討 (5)	析・考察し、報告できるようまとめておく。	
第6回	論文構成の見直し	これまでのデータについての整理・分析・考察のまとめと論文構成とを照合し、見直しを行う。	これまでの成果を大まかにまとめ、章立てを見直しておく。	180分
第7回	研究データの整理・分析・考察 (6)	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討 (6)	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第8回	研究データの整理・分析・考察 (7)	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討 (7)	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第9回	論文執筆内容の検討 (1)	研究の目的と先行研究レビューの検討	研究の目的と先行研究レビューをまとめておく。	180分
第10回	論文執筆内容の検討 (2)	研究方法と結果及び図表についての検討と調整	研究方法及び図表を中心に整理をしておく。	180分
第11回	論文執筆内容の検討 (3)	考察の記述に関する検討 (1)	先行研究、結果に基づいて考察を深める。	180分
第12回	論文執筆内容の検討 (4)	考察の記述に関する検討 (2)	第11回の検討に基づき、考察を深める。	180分
第13回	論文執筆内容の検討 (5)	全体考察を検討し、序及び結の内容を確認する。	全体考察・論文のまとめを作成する。序及び結びの内容を加筆修正しておく。	180分
第14回	論文要旨の作成	論文全体の確認及び論文要旨の検討	指定された様式に則し、要旨を作成しておく。	180分
第15回	プレゼンテーションの作成	プレゼンテーションの内容及び発表原稿の検討	PPT等を活用して発表用の資料及び原稿を準備しておく。	180分
第16回	卒業研究発表会	卒業研究の成果を発表する。	発表練習をしておく。	180分

学習計画注記	履修状況や研究の進捗状況によって、スケジュールが変更になる場合があります。
--------	---------------------------------------

学生へのフィードバック方法	研究方法・内容について、受講生の課題解決に向けて、毎回の講義で相談・指導を行います。メール、および研究室訪問による質問も、随時受け付けます。
---------------	--

評価方法	参加状況、研究への取り組みやディスカッションへの参加の積極性等を総合的に判断します。論文執筆では、考察の深まり、論理的思考の展開、明確な議論の展開、文章表現のわかりやすさ等の総合的な視点から評価します。
------	---

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
取り組みの姿勢			○	
論理的思考	○	○		○
文章表現	○	○		○

評価割合	平常点 (40%)，研究論文 (50%)，研究発表 (プレゼンテーション) (10%) による総合評価。(平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する)
------	---

参考図書	講義内で適宜紹介する。
------	-------------

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】「児童学」について、発達・心理・教育・文化といった領域に関する豊かな知識。</p> <p>【思考・判断】子どもと直接触れ合ったり、保育者・教師などの実践から学ぶなど、具体的・実践的な学びの機会から得た知識をもとに、様々な課題に柔軟に対応できる感性と応用力をもつ。</p> <p>【関心・意欲・態度】自ら課題を見出し、それに向けて専門的知識を収集するとともに、保育・授業参観及び子どもと関わることから学びを深める。</p> <p>【技術・表現】知識・理解をもとに、考えたことを論理的に表現する。</p>
---------------	--

オフィスアワー	水曜日 2限
---------	--------

学生へのメッセージ	卒業研究Bでは、卒業研究Aの成果をさらに発展させて、1つの論文としてまとめることを目指す。論文作成は、大変根気の要る作業であり、一日一日の積み重ねが非常に大切である。また、研究成果を要約した要旨の作成や、卒業研究発表会でのプレゼンテーションも評価の対象となる。学生生活の締めくくりとして、ぜひ意欲的に取り組んでほしい。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	発表内容について全員でディスカッションを重ねることを通し、主体的・能動的に学びを深めていく。
情報リテラシー教育	○	webコンテンツや参考図書、検索サイトを活用する学習を通して、情報の真偽や人権・法令に配慮する基礎的知識と基本的リテラシーを向上する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B（和田）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 和田 美香	指定なし

ナンバリング	P40002M21
授業概要(教育目的)	卒業研究Aにおいて得られた研究データの整理、分析、考察を行い、研究の成果をまとめた論文及び要旨を作成・提出する。卒業研究発表会では、最終的な研究成果を口頭で発表し、質疑応答場面において教員や学生とやりとりを行う。
履修条件	規定の単位数を取得していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	研究の方法について理解する。
思考・判断の観点 (K)	自ら立てた問いについて、様々な可能性を考え、適切な研究方法を選択していく。
関心・意欲・態度の観点 (V)	4年間の児童学科における学びの集大成として、子どもをとりまく課題について自ら問いを立て、研究計画を立案することで、主体的に研究活動に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	子どもをめぐる課題をより深め、発展させることにより、理論と実践を癒合していく。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	研究データの整理	卒業研究に関して、中間発表で得られた課題を明確にし、発展させる。 卒研Aで得られたデータを整理する。	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。	90分
第2回	研究データの整理、分析	卒業研究に関する課題について、先週までに取り組んだ内容を報告し、ゼミ内で協議する。 得られたデータについて分析を始める。	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。	90分
第3回	データの分析	卒業研究に関する課題について、先週までに取り組んだ内容を報告し、ゼミ内で協議する。 得られたデータについて分析を進める。	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。	90分
第4回	データの分析	得られたデータの分析をしながら、適宜、ゼミ内で発表していく。	ゼミで扱った課題を明確にし、卒業研究作成に向けて作業を進	90分

			める。 次の週の発表準備をする。	
第5回	データ分析 の成果発表	得られたデータ分析について、結果を報告する。 その結果について協議する。	ゼミで扱った課題を明確にし、 卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。	90分
第6回	論文の構成 の検討	論文の構成を検討する。	ゼミで扱った課題を明確にし、 卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。	90分
第7回	論文作成 1	論文作成で、先週までに取り組んだ内容を報告し、協議する。	ゼミで扱った課題を明確にし、 卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。	90分
第8回	論文作成 2	論文作成で、先週までに取り組んだ内容を報告し、協議する。	ゼミで扱った課題を明確にし、 卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。	90分
第9回	論文作成 3	論文作成で、先週までに取り組んだ内容を報告し、協議する。	ゼミで扱った課題を明確にし、 卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。	90分
第10回	論文作成 4	論文作成で、先週までに取り組んだ内容を報告し、協議する。	ゼミで扱った課題を明確にし、 卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。	90分
第11回	論文作成 5	論文作成で、先週までに取り組んだ内容を報告し、協議する。	ゼミで扱った課題を明確にし、 卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。	90分
第12回	論文作成 6	論文作成で、先週までに取り組んだ内容を報告し、協議する。	ゼミで扱った課題を明確にし、 卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。	90分
第13回	論文要旨作 成	論文要旨に記すコンテンツを整理する。	ゼミで扱った課題を明確にし、 卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。	90分
第14回	論文要旨完 成	論文要旨を完成させる。	ゼミで扱った課題を明確にし、 卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。	90分
第15回	卒業研究発 表資料作成	発表資料を完成させる。ゼミ生の前で質疑応答を含む発表練習をする。	ゼミで扱った課題を明確にし、 卒業研究作成に向けて作業を進める。 次の週の発表準備をする。	90分
第16回	卒業研究発 表会	自身の一年間の集大成として、卒業研究発表会で発表を行う。		

学生へのフィードバック方法 毎回のゼミの時間で、各ゼミ生に発表の機会をもってもらおう。その発表に対して、ゼミ生全員で協議を行い、それをもとに、次の課題を教員から助言する。

評価方法 平常点、卒業論文とその発表により評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○		
卒業論文			○	○
研究発表			○	○

評価割合 平常点 (40%)、研究論文 (50%)、研究発表 (プレゼンテーション) (10%) による総合評価。
(平常点は毎週の授業への参加状況、研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する)

使用教科書名 (ISBN番号)	特になし。
参考図書	特になし。
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】研究の方法について理解する。</p> <p>【思考・判断】自ら立てた問いについて、様々な可能性を考え、適切な研究方法を選択していく。</p> <p>【関心・意欲・態度】子どもをめぐる課題に関心をもって取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のための提案ができる。</p> <p>【技能・表現】子どもをめぐる課題に関する理論と実践の融合を図り、専門家として社会に貢献できる力を有する。</p>
オフィスアワー	月曜日 2 限から 4 限
学生へのメッセージ	卒業研究Bでは、卒業研究Aの成果をさらに発展させて、1つの論文としてまとめることを目指す。論文作成は、大変根気の要る作業であり、一日一日の積み重ねが非常に大切である。また、研究成果を要約した要旨の作成や、卒業研究発表会でのプレゼンテーションも評価の対象となる。学生生活の締めくくりとして、ぜひ意欲的に取り組んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は保育所等の実務経験を有しており、子どもと関わるフィールドワークを中心に研究を行う。
アクティブ・ラーニング	○	教員主導ではなく、ゼミ生同士で討議を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B（阿尾）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 阿尾 有朋	指定なし

ナンバリング	P40002M21
授業概要(教育目的)	卒業研究Aにおいて得られた研究データの整理、分析、考察を行い、研究の成果をまとめた論文及び要旨を作成・提出させる。卒業研究発表会では、最終的な研究成果を口頭で発表し、質疑応答を行う。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	自身の研究テーマについて適切に理解できている。
思考・判断の観点 (K)	研究テーマに沿った論述の展開ができている。
関心・意欲・態度の観点 (V)	主体的かつ計画的に論文の執筆に取り組んでいる。
技術・表現の観点 (A)	文章表現や議論の展開が適切である。

学習計画

卒業研究B

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	執筆スケジュールの確認	卒業研究Aでの取り組みの進捗状況を踏まえ、論文の執筆スケジュールを立案する。年内の執筆完了(校正を除く)を想定し、作業行程の目安を考える。	各自の進捗状況を踏まえ、年内の執筆完了を想定した予定を考えておくこと。	120分
第2回	問題と目的の整理	自身の研究テーマについて、問題と目的を整理する。論文の軸がぶれないよう、より具体的な目的を設定する。	自身の研究テーマについて、なぜ当該のテーマを選んだのか、研究を通して何を明らかにしたいのかを考えておくこと。	120分
第3回	問題と目的の執筆	前回の授業内容を踏まえて、問題と目的の執筆をする。内容について、文意が適切であるか、ゼミ生同士で確認する。	前回の授業内容を踏まえて、問題と目的をレポートにまとめておくこと。	120分
第4回	方法の検討	自身の研究の目的に沿った方法について検討する。具体的には、データの蒐集の時期、場所、手法等について考える。執筆も併せて行う。	自身の研究目的に沿った方法について、具体的に考えておくこと。	120分
第5回	データの集	データの集計と主な解析手法について解説する。集計ソ	自身の研究で蒐集するデータの	120分

	計と解析	フトとしてExcel (®Microsoft)、解析ソフトとしてSPSS STATISTICS (®IBM) を使用する。	型を考えておくこと。	
第6回	図・表の作成	前回の授業で取り上げたデータをもとに、図・表を作成する技術を学ぶ。Excel (®Microsoft) を使い、実際に作成してみる。	自身の研究で取り扱うデータについて、疑似データをもとにExcelに入力しておく。	120分
第7回	データ収集の準備 (1)	データの収集に必要な準備を行う。研究方法により異なるが、アンケート項目やデータ収集の手続き等について具体的に考える。	自身の研究目的に沿ったデータ収集について、準備すべき事項を整理しておくこと。	120分
第8回	データ収集の準備 (2)	データの収集に必要な準備を行う。研究方法により異なるが、アンケート項目やデータ収集の手続き等について具体的に考える。	自身の研究目的に沿ったデータ収集について、準備すべき事項を整理しておくこと。	120分
第9回	結果の整理	収集したデータと作成した図・表をもとに結果を記述する。	データの整理及び図・表から読み取れる結果について、箇条書きにまとめておくこと。	120分
第10回	考察を考える (1)	結果をもとに考察を考える。考察については、卒業研究Aでまとめた先行研究を踏まえて、自身の考えや主張を整理する。	考察をまとめるにあたり、卒業研究Aでまとめた先行研究を振り返りしておくこと。	120分
第11回	考察を考える (2)	結果をもとに考察を考える。考察については、卒業研究Aでまとめた先行研究を踏まえて、自身の考えや主張を整理する。	考察をまとめるにあたり、卒業研究Aでまとめた先行研究を振り返りしておくこと。	120分
第12回	考察の執筆 (1)	前2回の内容を踏まえて考察を執筆する。執筆に際しては、目的との整合性に留意するよう指導する。	前2回の内容を踏まえて、考察をまとめておくこと。	240分
第13回	考察の執筆 (2)	前々2回の内容を踏まえて考察を執筆する。執筆に際しては、目的との整合性に留意するよう指導する。	前々2回の内容を踏まえて、考察をまとめておくこと。	240分
第14回	論文要旨の作成	執筆した原稿の内容を踏まえて、要旨を作成する。	執筆原稿の内容について十分に理解できているか、あらためて確認しておくこと。	240分
第15回	発表用資料の作成	卒業研究発表会に向けて、発表用の資料をPowerpoint (®Microsoft) で作成する。	前回作成した論文要旨をもととするので、よく読み込んでおくこと。	240分
第16回	卒業研究発表会	1年の取り組みの成果を、卒業研究発表会にて発表する。	発表の練習を各自しておくこと。	420分

学習計画注記 * 履修状況や論文検討の進み具合によりスケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法 ・ 受講生の研究テーマに関する考えやレポートに対して、論文としてまとめられるよう適時の指導、助言を行う。

評価方法 ・ 予習、復習で求める課題への取り組み姿勢や論文の執筆状況によって評価する。
 ・ 論述の展開が適切か評価する。
 ・ 文章表現が適切か評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
取り組みの姿勢			○	
論述の展開	○	○		○
文章表現	○	○		○

評価割合 平常点 (30%)、研究論文 (60%)、研究発表 (プレゼンテーション) (10%) による総合評価。(平常点は毎週の授業への参加態度、研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する)

ディプロマポリシーとの関連 子どもの保育、教育、福祉、健康、心理、文化のいずれかに関連するテーマについて、授業や現場体験 (ボランティアや実習等) での気づきや知見を踏まえた深い考察ができています。

オフィスアワー 水曜1, 2限 (1605研究室)

学生へのメッセージ 卒業研究Bでは、卒業研究Aの成果をさらに発展させて、1つの論文としてまとめることを目指す。論文作成は、大変根気の要る作業であり、一日一日の積み重ねが非常に大切である。また、研究成果を要約した要旨の作成や、卒業研究発表会でのプレゼンテーションも評価の対象となる。学生生活の締めくくりとして、ぜひ意欲的に取り組んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B (吉永)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 吉永 早苗	指定なし

ナンバリング	P40002M21
授業概要 (教育目的)	卒業研究Aにおいて得られた研究データの整理、分析、考察を行い、研究の成果をまとめた論文及び要旨の作成・提出を求めます。卒業研究発表会において最終的な研究の成果をスライドに示しながら口頭で発表し、質疑応答を行います。

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	自身の研究内容についての豊かな知識を身につけ、適切に理解している。
思考・判断の観点 (K)	研究課題の分析と考察が適切に行われ、自分の研究について論理的に説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	主体的に研究論文に取り組み、計画的に遂行しようとしている。
技術・表現の観点 (A)	文章表現や議論の展開が明確である。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	研究データの整理・分析・考察①	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討①	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第2回	研究データの整理・分析・考察②	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討②	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第3回	研究データの整理・分析・考察③	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討③	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第4回	研究データの整理・分析・考察④	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討④	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第5回	研究データの整理・分析・考察⑤	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討⑤	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第6回	論文構成の	これまでのデータについての整理・分析・考察のまとめ	これまでの成果を大まかにまと	180分

	見直し	と論文構成とを照合し、見直しを行う。	め、章立てを見直しておく。	
第7回	研究データの整理・分析・考察⑥	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討⑥	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第8回	研究データの整理・分析・考察⑦	収集したデータについての整理・分析・考察過程の報告と検討⑦	収集しているデータを整理・分析・考察し、報告できるようまとめておく。	180分
第9回	論文執筆内容の検討①	研究の目的と先行研究レビューの検討	研究の目的と先行研究レビューをまとめておく。	180分
第10回	論文執筆内容の検討②	研究方法と結果及び図表についての検討と調整	研究方法及び図表を中心に整理しておく。	180分
第11回	論文執筆内容の検討③	考察の記述に関する検討①	先行研究、結果に基づいて考察を深める。	180分
第12回	論文執筆内容の検討④	考察の記述に関する検討②	第11回の検討に基づき、考察を深める。	180分
第13回	論文執筆内容の検討⑤	全体考察を検討し、序及び結の内容を確認する。	全体考察・論文のまとめを作成する。序及び結びの内容を加筆修正しておく。	180分
第14回	論文要旨の作成	論文全体の確認及び論文要旨の検討	指定された様式に則し、要旨を作成しておく。	180分
第15回	プレゼンテーションの作成	プレゼンテーションの内容及び発表原稿の検討	PPT等を活用して発表用の量量及び原稿を準備しておく。	180分
第16回	卒業研究発表会	卒業研究の成果を発表する。	発表練習をしておく。	180分

学習計画注記 履修状況や研究の進捗状況によって、スケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法 研究方法・内容について、受講生の課題可決に向けて、毎回の講義で相談・指導を行います。メール、および研究室訪問による質問も、随時受け付けます。

評価方法 受講生の授業への参加状況、研究への取り組みやディスカッションへの参加の積極性等を総合的に判断します。論文執筆では、考察の深まり、論理的思考の展開、明確な議論の展開、文章表現のわかりやすさ等の総合的な視点から評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
取り組みの姿勢			○	
論理的思考	○	○		○
文章表現	○	○		○

評価割合 平常点 (40%)，研究論文 (50%)，研究発表 (プレゼンテーション) (10%) による総合評価。(平常点は毎週の授業への参加状況，研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する)

参考図書 講義内で紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
「児童学」について、音楽・教育・文化といった領域に関する豊かな知識。

【思考・判断】
子どもと直接触れ合ったり、保育者・教師などの実戦から学ぶなど、具体的・実践的な学びの機会から得た知識をもとに、様々な課題に柔軟に対応できる感性と応用力をもつ。

【関心・意欲・態度】
自ら課題を見出し、それに向けて専門的知識を収集するとともに、保育・授業参観及び子どもと関わることから学びを深める。

【技能・表現】
知識・理解をもとに、考えたことを論理的に表現する。

オフィスアワー 前期・後期：月曜日 3限 1601

学生へのメッセージ 卒業研究Bでは、卒業研究Aの成果をさらに発展させて、1つの論文としてまとめることを目指す。論文作成は、大変根気の要る作業であり、一日一日の積み重ねが非常に大切である。また、研究成果を要約した要旨の作成や、卒業研究発表会でのプレゼンテーションも評価の対象となる。学生生活の締めくくりとして、ぜひ意欲的に取り組んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	発表内容について全員でディスカッションを重ねることを通し、主体的・能動的に学びを深めていく。
情報リテラシー教育	○	webコンテンツや参考図書、検索サイトを活用する学習を通して、情報の真偽や人権・法令に配慮する基礎的知識と基本的リテラシーを向上する。
ICT活用	○	タブレット型PCやアプリケーション、視聴覚機器などを課題解決に用いる学習を通して、チームアプローチによる討論や対話の深まりを体験的に理解する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	発達臨床心理学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 柳瀬 洋美	指定なし

ナンバリング	P30101M21
授業概要(教育目的)	人間のライフサイクルを「生涯発達」という連続性のなかで捉え、乳児期・幼児期、学童期・思春期、青年期、成人期、老年期の各時期に生ずる様々な悩みや問題について理解を深める。また、直面する課題に即した臨床実践のあり方や支援に必要な心理臨床の基礎的理論、技法、実践を学ぶ。発達臨床心理学の意義と課題、子どもの問題のとらえ方、臨床心理学の基礎理論、発達と学習、心理的アセスメントと援助の方法、事例研究、等から理解し学ぶ。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1. 課題に対応するために必要な心理臨床の基礎的な理論・方法を学ぶ。
思考・判断の観点 (K)	1. 人間のライフサイクルにおいて直面するさまざまな問題について「生涯発達」という視点から理解を深めていく。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	1. 各種発達検査・心理検査の模擬体験等を通して、発達臨床に関する課題の把握とアセスメント、課題解決に向けての実践力を培う。 2. 事例を理解する上で有効な手段であるジェノグラムとエコマップなどの作成方法を学ぶ。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	発達臨床心理学の背景と意義	発達心理学と臨床心理学の基本的な考え方と発達臨床心理学という学問が生まれた背景と意義について学ぶ	「発達とは何か」という問いについて、配布資料をもとに考える。	120分
第2回	生涯発達とライフサイクル論	発達を生涯にわたるものとしてとらえ、エリクソンのライフサイクル論やピアジェやフロイトの発達論などおもな生涯発達に関する理論について学ぶ。	授業で配布する資料を復習し、生涯発達の基本について理解しておく。	120分
第3回	胎児期～乳児期の発達と心理臨床	胎児期～乳児期の発達の基本について学び、未熟児医療やこの時期の臨床的な課題と支援について学ぶ。	胎児期～乳児期の臨床事例について、学んだことをもとに検討しまとめる。	120分
第4回	幼児期～学童期の発達と心理臨床	幼児期～学童期の発達のテーマを知り、この時期に多く見られる心理臨床的な課題とその対応について学ぶ。	これまで学んできたことや自分自身が実習等で経験したことをもとに、事例をまとめる。	120分
第5回	発達障害と共に生きる	おもな発達障害に関する事例の検討を通し、発達障害と共に生きること、共に生きる家族を支えることについて	これまで学んできたことや自分自身が実習等で経験したことを	120分

	ということ	考える。	もとに、事例をまとめる。	
第6回	心理的アセスメントの方法①発達検査・心理検査	心理的アセスメントの方法として、主な発達検査・心理検査について知り、その一部を実際に体験し、各種検査への理解を深める。	実際に発達検査・心理検査を経験し、得られた考察をまとめる。	120分
第7回	心理的アセスメントの方法②総合的理解と見立て	各種検査から得られた検査結果をどのように読み取り、どのように対象児に生かすのか、支援の基本を学ぶ。	これまで学んできたことや自分自身が実習等で経験したことをもとに、事例をまとめる。	120分
第8回	学校の発達臨床—不登校といじめ	不登校やいじめ等、学校現場における臨床事例について、発達臨床的な視点から理解する。	今回の授業で学んだことをもとに、学校現場における臨床事例について検討してみる。	120分
第9回	児童養護と発達臨床	虐待等、児童養護の問題について現状について知り、発達臨床的な視点から考える。	今回の授業で学んだことをもとに、児童養護に関する臨床事例について検討してみる。	120分
第10回	ジェノグラムとエコマップ	事例を理解し方針を検討する上で有効な手段であるジェノグラムとエコマップの作成方法について学ぶ。	事例をもとに、自分でジェノグラムとエコマップを作成する課題に取り組む。	120分
第11回	思春期～青年期の発達と心理臨床	思春期～青年期の発達のテーマを知り、この時期に多く見られる心理臨床的な課題とその対応について学ぶ。	思春期～青年期の臨床事例について、学んだことをもとに検討しまとめる。	120分
第12回	成人期の発達と心理臨床	成人期の発達のテーマを知り、この時期に多く見られる心理臨床的な課題とその対応について学ぶ。	今回の授業で学んだことをもとに、成人期の臨床事例について検討してみる。	120分
第13回	老年期の発達と心理臨床	老年期の発達のテーマを知り、この時期に多く見られる心理臨床的な課題について、「語ること」「傾聴すること」の重要性を主軸とした対応について学ぶ。	今回の授業で学んだことをもとに、老年期の臨床事例について検討しまとめる。	120分
第14回	家族関係と発達臨床	「家族もまた発達する存在である」という考え方を基盤とし、そこに展開する家族関係や家族に関する諸問題を発達の視点から理解する。	今回の授業で学んだことをもとに、家族に関する臨床事例について検討してみる。	120分
第15回	まとめと確認テスト	授業全体を振り返り、最後に、発達臨床に関する基礎知識を問い、臨床的な課題への対応について考える確認テストを実施する。	確認テストは授業内で配布した資料や板書の内容から提出する。	予習240分、復習420分

学習計画注記 ※履修者の保育・教育実習の状況や授業の進み具合によりスケジュールが変更になることがあります。

学生へのフィードバック方法 授業内ミニ課題やリアクションペーパーを実施し、次の回の授業時間内に、寄せられた質問への回答や解説する。また、学生の興味・関心を授業内容に適宜反映させる。

評価方法
 ・授業内で実施する課題への取り組みも評価の対象とする。
 ・授業の最後に、まとめと振り返りを行い、確認テストを実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○	○	
授業内課題			○	

評価割合 定期試験70%、授業内ミニ課題20%、平常点（授業への取り組み等）10%

使用教科書名 (ISBN番号) 特になし

参考図書 人間関係の理解と心理臨床 (978-4-7664-2466-9) 吉川晴美・松井知子 編著 (慶應義塾大学出版会)

ディプロマポリシーとの関連
 【知識・理解】課題に対応するために必要な心理臨床の基礎的な理論・方法を学ぶ。
 【思考・判断】人間のライフサイクルにおいて直面するさまざまな問題について「生涯発達」という視点から理解を深めていく。
 【技術・表現】心理劇（ロールプレイ）等を通じて、問題の把握と問題解決への実践力を養う。

オフィスアワー 水曜日5時限 1619研究室

学生へのメッセージ 子どもの発達や臨床に関する身の回りの記事やニュースに興味をもって授業に臨んでください。

教育等の取組み状況

	該当	概要
--	----	----

	有無	
実務経験を活かした授業	○	担当教員の療育現場や子育て支援現場での実務経験を生かし、事例をもとに考える授業を取り入れる。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークによる事例検討やロールプレイを取り入れながら、学生自身が感じ、考え、理解を深める時間を大切にする。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	対人関係の発達		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 丹羽 さがの	指定なし

ナンバリング	P30102M21
授業概要(教育目的)	乳幼児期から老年期までの、各世代の対人関係の発達や特徴について概観した上で、社会の変化を背景として対人関係のあり方も変化してきていることを理解できるようにする。現代に生きる子どもたちの対人関係の課題について取り上げ、ソーシャルスキルトレーニングなどの支援について紹介する。青年期の対人関係の課題については、学生自身の対人関係について振り返りつつ考えていけるようにする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	・乳幼児期から老年期までの各世代の対人関係の特徴を説明できる
思考・判断の観点 (K)	・授業で学んだ知識を自らの人間関係の課題と結び付け考えられる
関心・意欲・態度の観点 (V)	・現代社会における人間関係をめぐる課題に関心を持ち、よりよく人と人がつながり、生きることができる社会のあり方を考え続ける態度を身に付けている
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション：人にとっての人のかわり	人の一生を他者とのかわりという視点から概観する	〔予習〕誕生から人生の終わりまでの人とのかわりにどのようなものがあるか書き出してみる。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料を読み考える。	180分
第2回	乳児期の人間関係	生後一年間の成長を追ったドキュメンタリー映画を教材に、人は人との関係の中に生まれてくること、それほどの社会においても変わらないこと、乳児と他者との関係のありようは文化によって違うこと等を学ぶ。	〔復習〕生後一年間の乳児と他者のかかわりについて、文化を通じて共通している点、文化によって異なる点をまとめ小レポートを作成する。	180分
第3回	幼児期の人間関係	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の領域人間関係の内容を中心に、幼児期の人とのかわり力の発達について学ぶ	〔予習〕要領、指針、教育・保育要領の領域人間関係を読む。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料を読み考える。	140分
第4回	児童期の人間関係(1)	児童期の人間関係の特徴を概観した後、児童期の子どもたちを描いた映像作品を鑑賞し、その特徴の具体的な現れ方を考える	〔予習〕1年次「発達心理学」で学んだ児童期の発達の特徴についてテキスト・授業資料の該	220分

			当箇所を読み直し確認しておく。〔復習〕授業中に鑑賞した映像作品において、児童期の親子関係、仲間関係の特徴が具体的にどのように現れていたか小レポートにまとめる。	
第5回	児童期の人間関係(2)	各自作成したレポートをグループ内で発表し、児童期の人間関係についてディスカッションを行う	〔予習〕前回の授業後に作成したレポートを基にグループでの発表準備をする。〔復習〕グループディスカッションで得た気づきを小レポートにまとめる。	180分
第6回	思春期・青年期の人間関係(1):ソーシャルスキルトレーニング	思春期・青年期の対人関係の特徴を概観したうえで、近年教育の現場にも取り入れられているソーシャルスキルトレーニングについて学ぶ	〔予習〕1年次前期「発達心理学」で学んだ思春期・青年期の発達の特徴についてテキスト・授業資料の該当箇所を読み直し確認しておく。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料を読み考える。	180分
第7回	思春期・青年期の人間関係(2):恋愛関係	青年期の恋愛関係の発達について概観を学んだ後、グループディスカッションを行う	〔予習〕事前配布プリントを読んでおく。〔復習〕グループディスカッションを通して得た気づきを小レポートにまとめる。	180分
第8回	現代社会における人間関係を考える(1)青年の人間関係	友人との関係のあり方について、自分たちの世代と上の世代を比較し、グループディスカッションを行う。	〔予習〕事前配布プリントを読んでおく。〔復習〕グループディスカッションを通して得た気づきを小レポートにまとめる。	180分
第9回	現代社会における人間関係を考える(2)SNSの世代	現代の青年の人間関係にSNSがどのような影響を与えているかグループディスカッションを行う。	〔予習〕一週間のうちどのようなSNSをどのくらいどのように利用したか記録しておく。若者のSNS利用についてどのような意見があるかインターネット等で調べておく。〔復習〕グループディスカッションを通して得た気づきを小レポートにまとめる。	180分
第10回	現代社会における人間関係を考える(3)自分たちの人間関係を振り返る	現代の青年の人間関係の特徴について他の世代との比較、SNS利用との関係などから総合的に考察する	〔予習〕第8回、第9回のグループディスカッションの内容を見返しておく。〔復習〕グループディスカッションの内容を次回発表できる形にまとめる	180分
第11回	現代社会における人間関係を考える(4)グループ発表	現代の青年の人間関係の特徴について各グループの考察を発表する	〔復習〕これまでのグループディスカッションから得た気づきを小レポートにまとめる。	180分
第12回	成人期の人間関係(1)メンターの役割①	職場でのメンターの役割について学んだ上で、メンターの存在を描く映像作品を鑑賞する	〔予習〕自分が社会で働く際、上司に求めることを書き出しておく。〔復習〕映像作品に描かれるメンターの存在の特徴について気が付いたことを書き出しておく。	180分
第13回	成人期の人間関係(2)職場の人間関係	職場の人間関係において大切なことについてグループディスカッションを行う	〔復習〕自分が働きだしたとき、新人としてどのような姿勢をもつことが必要か、自分が指導する立場に立ったとき、どのような配慮が必要か、授業でのディスカッションを参考にまとめる。	180分
第14回	老年期の人間関係	人生の最後の時期の人とのかかわりについて学ぶ	〔予習〕祖父母とどのようななかかわりをもってきたか、自分が乳幼児の時、児童期の時、思春期、青年期に分けて書き出す。〔復習〕祖父母の視点から見た孫との関係について、気が付いたことをまとめる。	180分
第15回	まとめと発表	授業を通して人との関係について学んだことを各自発表する	〔予習〕これまでの授業資料を読み返し、学んだことを発表できる形にまとめる。〔復習〕発表した内容も含めた形で最終レポートを作成する。	180分

学習計画注記

授業の進み具合等によりスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

コミュニケーション・カードに下線and/orコメント付きで返却する。多かった質問・疑問については次回授業冒

	頭で解説する。また特によかったコメントについては次回授業冒頭で紹介する。それ以外の質問がある場合は1626研究室まで訪問すること。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点は学びに向かう姿勢、意欲、理解度をコミュニケーション・カードの記入状況、内容から評価する。 ・小レポートは、取り組みと内容により評価する。 ・最終レポート課題では、授業で得た気づきを基に、自ら積極的に考える姿勢、考察の内容を評価する。 ・平常点、課題、最終レポートは、下表に示す力を養うことを目的に実施する。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点	○	○	○	
	小レポート	○	○	○	
	最終レポート		○	○	
評価割合	平常点 (20%) , 課題 (50%) , 最終レポート (30%) で評価する。				
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。適宜資料を配布する。				
参考図書	授業のなかで適宜紹介する。				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人の生涯にわたる人間関係の発達に関する専門的知識を有している。【思考・判断】授業で学んだ知識を自らの人間関係の課題と結び付け考えられる。【関心・意欲・態度】現代社会における人間関係をめぐる課題に関心を持ち、よりよく人と人につながり、生きることが出来る社会のあり方を考え続ける態度を身に付けている。				
オフィスアワー	水曜日 2限 1626研究室				
学生へのメッセージ	授業形態は講義ですが、演習的な内容が多く含まれています。知識を得るだけでなく、それをを用いて考えることを重視した授業ですので、受け身でなく、積極的な姿勢で参加できる方の受講を歓迎します。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング	○	小グループでのディスカッション、全体での発表を行う。			
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	発達障害の理解と支援		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 杉野 学	指定なし
助教	原田 晋吾	指定なし

ナンバリング	P20404M21
授業概要(教育目的)	<ul style="list-style-type: none"> ・自閉症、高機能自閉症、アスペルガー症候群、学習障害(LD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)等についての理解と指導や支援方法について理解する。 ・幼稚園、小学校、特別支援学校における指導事例を取り上げ、障害が及ぼす学習面・行動面・コミュニケーション面等への影響と二次障害について理解し、具体的な指導や支援の在り方について学ぶ。 ・個別指導、集団指導、校内支援、保護者・地域関係機関との連携について、発達障害等のある幼児児童やその家族にとって望ましい支援の在り方について考える。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点(K)	1. 自閉症、高機能自閉症、アスペルガー症候群、学習障害(LD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)等についての理解と指導や支援方法について理解する。 2. 幼稚園、小学校、特別支援学校における指導事例を取り上げ、障害が及ぼす学習面・行動面・コミュニケーション面等への影響と二次障害について理解し、具体的な指導や支援の在り方について学ぶ。
思考・判断の観点(K)	1. 個別指導、集団指導、校内支援、保護者・地域関係機関との連携について、発達障害等のある幼児児童やその家族にとって望ましい支援の在り方について考える。
関心・意欲・態度の観点(V)	1. 様々な発達障害の障害特性や状況及び学習や生活上の困難について、事例を通して特徴的な行動について理解を深める。
技術・表現の観点(A)	1. 発達障害の様々な障害特性や支援法について、説明ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	発達障害の理解と支援	インクルーシブ教育システムについて学ぶ。インクルーシブ教育、特別支援教育、小・中学校等における特別な配慮を必要とする児童生徒等への指導を理解する。	教科書第1章8～19ページで、インクルーシブ教育、特別支援教育の概要について事前・事後学習をする。	120分
第2回	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園、教育・保育要	新保育指針・教育要領・学習指導要領改訂の特別支援教育に関するポイントを学び、特別支援教育への理解を深める。	教科書第2章21～26ページで、特別支援教育に関する改訂のポイントについて事前・事後学習をする。	120分

	領、小学校、特別支援学校学習指導要領改訂のポイント			
第3回	小・中学校、特別支援学校学習指導要領改訂のポイント	小・中学校、特別支援学校学習指導要領改訂の特別支援教育に関するポイントを学び、特別支援教育への理解を深める。	教科書第2章28～34ページで、小・中学校、特別支援学校学習指導要領について事前・事後学習をする。	120分
第4回	学習障害児の理解と支援	学習障害児の理解と支援を学び、状態像、支援、教育の場を理解する。	教科書第3章37～42ページで、学習障害児の教育について、事前・事後学習をする。	120分
第5回	注意欠陥多動性障害児の理解と支援	注意欠陥多動性障害児の理解と支援を学び、状態像、支援、教育の場を理解する。	教科書第4章43～48ページで、注意欠陥多動性障害児の教育について、事前・事後学習をする。	120分
第6回	自閉症児の理解と支援	自閉症児の理解と支援を学び、自閉症の概念、状態像、支援、教育の場を理解する。	教科書第5章49～55ページで、自閉症児の教育について、事前・事後学習をする。	120分
第7回	幼稚園等における発達障害等の教育	幼稚園・保育所における特別支援について学び、現状と指導の実際、地域ネットワークについて理解する。	教科書第6章56～66ページで、幼稚園等の特別支援教育について、事前・事後学習をする。	120分
第8回	小・中学校、高等学校における発達障害等の教育	小・中学校、高等学校における発達障害等の教育について学び、教育課程の編成、学級経営上の配慮、授業における配慮、校内支援体制、保護者・関係機関との連携について理解する。	教科書第7・8章67～86ページで、小・中学校における発達障害等の教育について、事前・事後学習をする。	120分
第9回	特別支援学校における発達障害等の教育	特別支援学校における発達障害等の教育を学び、教育課程の編成、自閉症学級の指導、学習指導案作成、支援・指導法について理解する。	教科書第9章90～105ページで、特別支援学校における発達障害等の教育について、事前・事後学習をする。	120分
第10回	個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成と活用	個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成と活用について学び、作成の目的、実態把握の方法、指導・支援への活用について理解する。	教科書第10章105～113ページで、個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成と活用について、事前・事後学習をする。	120分
第11回	障害の特性等に応じた指導・支援の実際(幼稚園)	幼稚園における障害の特性等に応じた指導・支援の実際を学び、指導計画、実態把握、教材、環境の構造化、評価の工夫を理解する。	教科書第11章-1、122～131ページで、幼稚園における障害の特性等に応じた指導・支援について、事前・事後学習をする。	120分
第12回	障害の特性等に応じた指導・支援の実際(小学校通常の学級)	小学校通常の学級における発達障害児の教育を学び、通常の学級の授業の中での支援を理解する。	教科書第11章-2、132～144ページで、小学校通常の学級における発達障害の特性等に応じた指導・支援について、事前・事後学習をする。	120分
第13回	障害の特性等に応じた指導・支援の実際(小学校特別支援学級)	小学校特別支援学級における発達障害児の教育を学び、特別支援学級の授業の指導・支援を理解する。	教科書第12章145～153ページで、小学校特別支援学級における発達障害の特性等に応じた指導・支援について、事前・事後学習をする。	120分
第14回	障害の特性等に応じた指導・支援の実際(小学校通級による指導)	小学校通級による指導における発達障害児の教育を学び、特別支援学級の授業の指導・支援を理解する。	教科書第13章154～163ページで、小学校通級による指導における発達障害の特性等に応じた指導・支援について、事前・事後学習をする。	102分
第15回	発達障害の理解と指導	地域における障害のある子どもの子育て支援について学び、子ども・子育て支援制度、障害者差別解消法等を理解する。	教科書第14章164～173ページで、地域における障害のある子どもの子育て支援について、事前・事後学習をする。	120分
第16回	発達障害児の理解と指導に関する定期試験を実施	定期試験を通して、これまでの学習内容の習得状況を各自把握するとともに、発達障害児への教育活動についてより理解を深める。	定期試験を通して、発達障害児への教育活動についてより理解を深める。	90分

学生へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を基に講義を行うが、プリントやビデオ等も使用し見て分かりやすい授業をする。 ・授業の内容によっては、図書館での調べ学習やグループディスカッションなどを取り入れて、学生の主体的な学びを深める。 ・質問等がある場合は、研究室訪問やメール連絡で対応する。 																											
評価方法	定期試験は、基本的な学習内容を整理したプリントを後半の授業で配布し出題の傾向を説明するので、復習を必ずして定期試験を受けること。																											
評価基準	<p>評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>振り返りシート</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	振り返りシート	○				定期試験	○	○												
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																								
振り返りシート	○																											
定期試験	○	○																										
評価割合	定期試験80%、授業の振り返りシートの記載内容20%で総合的に評価する。																											
使用教科書名 (ISBN番号)	「発達障害の理解と指導」、杉野学、梅田真理、柳瀬洋美編著 大学図書出版 978-4-907166-90-8C3037																											
参考図書	なし																											
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】小・中学校等の発達障害児等への理解と指導について理解し、障害のある子どもの教育に関する専門的な知識の修得ができています。</p> <p>【思考・判断】小・中学校等の発達障害児等への理解と指導について理解を深め具体的・実践的な教育活動や地域連携などの状況を把握し障害の有無に関係なく共に育つ共生社会を創造できる完成やコミュニケーション能力が備わっている。</p>																											
オフィスアワー	水曜日1.2限目、杉野研究室 月曜日3.4限目、原田研究室																											
学生へのメッセージ	<p>保育所、幼稚園、小学校、特別支援学校の教員をめざす学生にとって、発達障害のある子どもに対する理解を深めるとともに、さまざまな支援方法を知り、それを活用できる力を育むことは、今日とても必要とされている。この授業で学んだことは、皆さんの将来の仕事に役立つものである。</p> <p>障害の捉え方やさまざまな発達障害の理解と支援について、教科書、プリント、ビデオなどを用いて、はじめての学生にも分かりやすく授業をするので、是非、受講して欲しい。</p>																											
教育等の取組み状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>担当教員は、東京都教育委員会の指導主事や東京都立特別支援学校の教員・管理職として、第1次東京都特別支援教育推進計画の策定に関わるとともに、特別支援教育に関する教育課程や指導法に関する幅広い実務経験を有しており、特別支援学校教諭免許状を取得する学生に必要な特別支援教育課程の科目に関する実践的な知見を教授している。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>授業内容に応じて、ワークシートを活用して個人の意見をまとめたり、小集団での話し合いや発表をしたりする機会を設けて、より主体的に学ぶ姿勢を育む。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td>○</td> <td>障害のある子どもに関する教育におけるICT活用や個人情報保護及び個人情報流出防止等に関する情報を提供し人権尊重に結びつけた指導をする。</td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td>○</td> <td>映像、パワーポイント資料、新聞記事などを活用しながら、より障害理解を深めるための適切な指導とICT機器を活用した視覚・聴覚支援について情報を提供する。</td> </tr> </tbody> </table>				該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	担当教員は、東京都教育委員会の指導主事や東京都立特別支援学校の教員・管理職として、第1次東京都特別支援教育推進計画の策定に関わるとともに、特別支援教育に関する教育課程や指導法に関する幅広い実務経験を有しており、特別支援学校教諭免許状を取得する学生に必要な特別支援教育課程の科目に関する実践的な知見を教授している。	アクティブ・ラーニング	○	授業内容に応じて、ワークシートを活用して個人の意見をまとめたり、小集団での話し合いや発表をしたりする機会を設けて、より主体的に学ぶ姿勢を育む。	情報リテラシー教育	○	障害のある子どもに関する教育におけるICT活用や個人情報保護及び個人情報流出防止等に関する情報を提供し人権尊重に結びつけた指導をする。	ICT活用	○	映像、パワーポイント資料、新聞記事などを活用しながら、より障害理解を深めるための適切な指導とICT機器を活用した視覚・聴覚支援について情報を提供する。										
	該当有無	概要																										
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、東京都教育委員会の指導主事や東京都立特別支援学校の教員・管理職として、第1次東京都特別支援教育推進計画の策定に関わるとともに、特別支援教育に関する教育課程や指導法に関する幅広い実務経験を有しており、特別支援学校教諭免許状を取得する学生に必要な特別支援教育課程の科目に関する実践的な知見を教授している。																										
アクティブ・ラーニング	○	授業内容に応じて、ワークシートを活用して個人の意見をまとめたり、小集団での話し合いや発表をしたりする機会を設けて、より主体的に学ぶ姿勢を育む。																										
情報リテラシー教育	○	障害のある子どもに関する教育におけるICT活用や個人情報保護及び個人情報流出防止等に関する情報を提供し人権尊重に結びつけた指導をする。																										
ICT活用	○	映像、パワーポイント資料、新聞記事などを活用しながら、より障害理解を深めるための適切な指導とICT機器を活用した視覚・聴覚支援について情報を提供する。																										

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	児童とカウンセリング		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 柳瀬 洋美	指定なし

ナンバリング	P40101M21
授業概要(教育目的)	人は生きていく上で、苦しみや哀しみと無縁ではいられない。時には「何が辛く苦しいのか」すら分からないほど困難な状態に陥ってしまう場合もある。そのような場合、まず困っている自分自身に気づき、理解し、その状況を客観的に再認識するところから始めると、新たななかかわり方の工夫が可能となり、問題解決へと結びついていくことが少なくない。本授業では、事例検討を交えながら基本的なカウンセリングの理論と技法、実践を統合的に理解し自分と向き合いながら、人が人を理解し支えるとはどういうことなのか、子どもの心に寄り添うとはどういうことなのかについて考えていく。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	1. 基本的なカウンセリングに関する理論と知識・支援者としての姿勢について学ぶ。
思考・判断の観点(K)	1. 課題や悩みを抱える相手に寄り添うということについて理解を深め、支えていくために必要な姿勢とカウンセリング・スキルの基礎を身につける。
関心・意欲・態度の観点(V)	1. 「自己の内面を見つめ、肯定的にありのままの自分を受け入れること」の大切さと他者の思いに寄り添う際に求められる基本的な姿勢について学ぶ。
技術・表現の観点(A)	1. 自己の課題に気づき、課題と向き合うために必要なスキルを学ぶ。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション～カウンセリングとは何か	カウンセリングとは何か、カウンセリングについてのイメージや、身近なカウンセリングについて知っていることを話し合う。	各自がこの授業で学びたいことについてまとめる。	120分
第2回	カウンセリングの歴史の変遷	現代のカウンセリングという形になるまでの歴史の変遷と精神分析学、ゲシュタルト心理学、ユング心理学、クライアント中心療法、認知行動療法など、カウンセリングへとつながるおもな心理療法について学ぶ。	「こころ」について、興味のあるテーマや自分自身の課題についてまとめてみる。	120分
第3回	こころとからだのメッセージ	心身一元論や心身二元論など、こころとからだに関する基本的な理論について知り、様々な事例から、こころとからだの深い関連性について学ぶ。 自律訓練法や呼吸法、リラクゼーションなどについても実際に体験してみる。	授業で学んだ自律訓練法や呼吸法、リラクゼーションなど体験したことについてまとめる。	120分
第4回	こころの病理の理解	こころの病理について基本的な知識を学び、おもな精神疾患の症状と周囲の理解や対応について学ぶ。	今回の授業で学んだことをもとに、こころの病理に関するテ	120分

			マでのミニレポートを作成する。	
第5回	“Who am I?” ~私の「自分探し」~自分を理解するという事	自己分析の技法のひとつである「Who am I test」を用いて自分自身を客観的に見つけ、自己分析を行う。	自己分析によって気づいたことをまとめる。	120分
第6回	自分の内面を見つめる —描画法と投影法	描画法と投影法を用いて、自分の内面を見つめる経験をし、自己理解体験をする。	授業で体験した描画法や投影法によって気づいたことをまとめる。	120分
第7回	自己を表現するということ~セルフアサーション	「さわやかな自己表現」と言われるセルフアサーションを学び、ロールプレイ等による体験を通して「相手も自分も尊重する」コミュニケーションのあり方について実践的に学ぶ。	授業で体験したセルフアサーションから得た気づきをミニレポートにまとめる。	120分
第8回	語ることの意味と聴くことの意味	カウンセリングの最も重要な作業である「語ること」と「聴くこと」について、その意義を学び、ロールプレイにより実際に体験する。	ロールプレイで体験した「語ること」と「聴くこと」の重要性について、自分自身の経験をもとにまとめる。	120分
第9回	カウンセリングにおける基本的な態度	相手の話を聴く際に必要な基本的な姿勢として、「受容」「共感」「無条件の肯定的関心」「自己一致」等、カウンセリングにおける基本的な態度について学ぶ。	模擬カウンセリングによって体験したカウンセリングにおける基本的な態度について、ミニレポートにまとめる。	120分
第10回	カウンセリングの展開と気づきのプロセス	インテーク（初回面接）に始まる、カウンセリングの基本的な展開とクライアントの気づきのプロセスについて、いくつかの事例をもとに学ぶ。	授業で提示された事例について、自分自身で気づいたことについてまとめる。	120分
第11回	カウンセリングの理論と技法①クライアント中心療法	C. ロジャーズが創始者であるクライアント中心療法について、その基本理念と理論について学ぶ。	今回の授業で学んだことを、教科書と配布資料をもとに復習する。	120分
第12回	カウンセリングの理論と技法②認知療法	うつの治療に有効とされる認知療法について、そのもととなるA. エリスの論理療法や論理情動療法のABC理論、ABCD理論から学ぶ。	復習として、認知療法に関するミニワークを実際に取り組んでみる。	120分
第13回	カウンセリング体験～ロールプレイ	あらかじめ用意されたシナリオを用いたロールプレイによるカウンセリング体験と自分で考えた課題場面を用いた試行カウンセリングにより、相談をする側と受ける側の体験を通してカウンセリングに必要な配慮やスキルを実践的に学ぶ。	カウンセラー側、クライアント側、それぞれの立場で感じたことや考えたことについてまとめる。	120分
第14回	事例検討とスーパーヴィジョン	保育・療育・教育現場や心理相談の場で対応することの多い事例を取り上げ、アセスメントと支援について検討する。	事例検討を通して得られた気づきや考察についてミニレポートにまとめる。	120分
第15回	まとめ	授業全体を振り返り、「自己の内面を見つめ、肯定的にありのままの自分を受け入れること」の大切さと他者の思いに寄り添う際に求められる基本的な姿勢について、確認する。	基本的なカウンセリングの技法と、授業全体を通して自身の学びをレポートにまとめる。	120分

学習計画注記 ※履修者の実習期間の状況や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法 講義に加えて、グループワークやロールプレイ等の実践演習もまじえ、その場で解説を行い、理解を深める。リアクションペーパーを通して出された質問事項や興味・関心に対しては、以降の授業で回答したり、授業内容に反映させたりしていく。

評価方法 期末レポートや授業内ミニ課題、平常点（授業への取り組み状況等）により評価する。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
期末レポート	○	○	○	
ミニレポート	○		○	○

評価割合 期末レポート50%、ミニレポート30%、平常点（授業への参加状況・討論への参加などで総合的に判断）20%による総合評価

使用教科書名 (ISBN番号) 「自己理解ワークブック」(978-4780304015) 福島 脩美 著(金子書房)

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 基本的なカウンセリングに関する理論と知識・支援者としての姿勢について学ぶ。</p> <p>【思考・判断】 課題や悩みを抱える相手に寄り添うということについて理解を深め、支えていくために必要な姿勢とカウンセリング・スキルの基礎を学ぶ。</p> <p>【関心・意欲・態度】 「自己の内面を見つめ、肯定的にありのままの自分を受け入れること」の大切さと他者の思いに寄り添う際に求められる基本的な姿勢について学ぶ。</p> <p>【技術・表現】 自己の課題に気づき、課題と向き合うために必要なスキルを学ぶ。</p>	
オフィスアワー	水曜日5時限 1619研究室	
学生へのメッセージ	・自分自身の課題や、身近な人が抱える課題について、整理しておいてください。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	授業担当者は長年、療育や教育、子育て支援等の現場において心理の専門職として勤務しており、豊富で実践的な教材を提供することができる。
アクティブ・ラーニング	○	・事例検討や試行カウンセリング体験、心理検査体験を取り入れた授業展開ができる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	心理検査法実習		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限後半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 加地 雄一	指定なし
非常勤講師	田中 圭	指定なし

授業概要(教育目的)

子どもの発達検査、知能検査、性格・人格検査などの各種の心理検査に関する基礎知識の習得とともに、人間理解の一つの方法として心理学的臨床観察と検査方法に関して実習を行う。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	各種心理検査について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	心理検査の結果を解釈することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	心理検査の検査者、被検者として取り組み、倫理を守ることができる。
技術・表現の観点 (A)	心理検査の所見が書ける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業の進め方や倫理等、心理検査についての講義	なし	0分
第2回	質問紙法	新版TEG II (エゴグラム)、YG	なし	0分
第3回	質問紙法	MMPI (略式) の実施	なし	0分
第4回	質問紙法	MMPI (略式) のスコアリング、解釈	なし	0分
第5回	投影法	風景構成法	なし	0分
第6回	投影法	ロールシャッハ	なし	0分
第7回	投影法	TAT	なし	0分
第8回	投影法	P-Fスタディ	なし	0分
第9回	投影法	SCT、バウム	なし	0分
第10回	作業検査法	内田クレペリン	なし	0分
第11回	知能検査	WAIS-IIIの実施	なし	0分
第12回	知能検査	WAIS-IIIのスコアリング、解釈	なし	0分
第13回	発達検査	デンバー、津守、新版K式	なし	0分

第14回	神経心理学検査	長谷川式、MMSE、ベントン、ペンダー・ゲシュタルト	なし	0分	
第15回	総括・まとめ	これまでの検査をまとめる	なし	0分	
学生へのフィードバック方法		授業にて解説。			
評価方法		平常点（50%：出席状況、授業態度）、レポート（50%）			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点	○	○	○	○
	レポート	○	○	○	○
評価割合		平常点（50%：出席状況、授業態度）、レポート（50%）			
使用教科書名 (ISBN番号)		各種テスト解説書			
参考図書		適宜紹介する。			
ディプロマポリシーとの関連		<p>【知識・理解】児童学を構成する6領域「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている</p> <p>【思考・判断】子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学び合う、具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる</p> <p>・家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性が備わっている</p> <p>【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる</p> <p>・子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている</p> <p>【技能・表現】本学科の特色ある授業への積極的な参加を通して理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる</p> <p>・保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている</p>			
オフィスアワー		月曜昼休み、火曜3限			
学生へのメッセージ		種々の心理検査法器具を実際に扱いながら学びますので、授業への参加態度等も重視いたします。			
教育等の取り組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング					
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	社会福祉		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 嶋田 芳男	指定なし

ナンバリング	P10401M21
授業概要(教育目的)	社会福祉の意味と理念、社会福祉の原理、社会福祉を取り巻く環境を理解した上で、社会福祉の展開、社会福祉を支える仕組みや専門職、方法論、社会保障、高齢者と障害者福祉など、社会福祉全般について講義する
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	社会福祉の意味と理念、社会福祉の原理、社会福祉の歴史的展開、社会福祉を支える仕組みや専門職、方法論、社会保障、高齢者と障害者福祉について説明できる
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	保育分野に関わる関心だけでなく、他の社会福祉分野に対する関心が持てる
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	社会福祉の基礎概念(1)	社会福祉の意味とライフステージごとの福祉課題及び理念(ノーマライゼーションなど)が理解する	配布したプリントを基に、授業内容を復習する	180分
第2回	社会福祉の基礎概念(2)	「社会生活の原理」と「バーステックの7原則」双方の原理が理解する	配布したプリントを基に、授業内容を復習する	180分
第3回	社会福祉を取り巻く環境(1)	少子高齢化社会の現状と課題について理解する	少子化、高齢化の状況を調べておく	180分
第4回	社会福祉を取り巻く環境(2)	家族の現状や地域社会の特性・動向について理解するとともに、それぞれの課題についても併せて理解する	世帯の状況を調べておく。配布したプリントを基に、授業内容を復習する	180分
第5回	わが国における社会福祉の展開(1)	明治期から大正期において、どのような社会福祉が展開されてきたかを理解する	テキスト31~36ページを読んでおく。また、分からない用語について調べておく	180分
第6回	わが国における社会福祉	昭和期から現在に至るまで、どのような社会福祉が展開されてきたかを理解する	テキスト37~40ページを読んでおく。また、分からない用語に	180分

	社の展開 (2)		ついて調べておく	
第7回	社会福祉を支える法体系	社会福祉の法体系及び各種法律の概要について理解する	配布したプリントを基に、授業内容を復習する	240分
第8回	社会福祉を支える組織	社会福祉における国・都道府県・市町村によって設けられた各種行政組織や、民間組織について理解する	配布したプリントを基に、授業内容を復習する	180分
第9回	社会福祉を支える専門職	ソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）やケアワーカー、保育士、医療関係専門職の業務内容と資格、および連携について理解する	テキスト42～50ページを読んでおく。また、分からない用語について調べておく	240分
第10回	社会福祉の援助方法	ケースワークを中心に、グループワーク、コミュニティワーク他、さまざまな方法論の内容を理解する	テキスト52～61ページを読んでおく。また、分からない用語について調べておく	120分
第11回	社会保障制度の概要 (1)	年金保険、医療保険制度の概要について理解する	配布したプリントを基に、授業内容を復習する	120分
第12回	社会保障制度の概要 (2)	公的扶助（生活保護）の基本原則、基本原則、種類と内容について理解する	配布したプリントを基に、授業内容を復習する	120分
第13回	高齢者の福祉 (1)	高齢者の現状と法体系、および公的介護保険制度の概要を理解する	テキスト73～82ページを読んでおく。また、分からない用語について調べておく	120分
第14回	高齢者の福祉 (2)	公的介護保険制度におけるさまざまなサービスの種類と内容について理解する	配布したプリントを基に、授業内容を復習する	300分
第15回	障害者の福祉	障害者福祉の法体系と、障害者総合支援法におけるさまざまなサービスの種類と内容について理解する	テキスト85～94ページを読んでおく。また、分からない用語について調べておく	180分

学習計画注記 授業の進み具合によってスケジュールが変更になることがある

学生へのフィードバック方法 特になし

評価方法

- ・平常点
授業の受講態度・姿勢について評価する
- ・定期試験
保育士として、他の福祉専門職との連携を図るために必要な知識について把握しているかを問う出題とする。詳細については、最後の授業で説明する

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	
定期試験	○			

評価割合 平常点20%、定期試験80%

使用教科書名 (ISBN番号) 大熊信成他編『現代社会福祉の諸相』大学図書出版
必要に応じ、授業時にプリントを配布

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
子どもの保育活動に直接的・間接的に関係する各種社会福祉制度や社会福祉方法論に関する専門的な知識が修得できる

【関心・意欲・態度】
子どもをめぐるさまざまな福祉課題などに関心が持て、子どもたちが健全で豊かに成長できるように行動するとともに、子どもの視点で支援できる

オフィスアワー 火曜3限、木曜2限

学生へのメッセージ 新聞等により、児童・障害者・高齢者にどのような社会問題があるのかを把握したうえで、授業に臨んでもらいたい

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	地域で福祉活動を展開している児童・高齢者施設のソーシャルワーカーの経験を有しており、保育士業務を遂行していく上で必要と考える社会福祉全般の知識を講義している

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	社会的養護 I		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 塩谷 隼平	指定なし

ナンバリング	P20402M21
授業概要(教育目的)	この授業では、社会的養護について、原理、理論、援助方法、課題などの視点から総合的に教示する。特に施設養護に注目し、児童福祉施設における支援の実践例を通して、子どもの育ちとケアの方法について理解を深めることを目的とする。また、そのために必要な子どもの心理的発達について説明し、社会的養護にある子どもの抱える心理的な問題とその援助方法についても理解できるようにする。さらに児童虐待の問題についても大きく扱い、現代社会における子どもを取り巻く養護の諸問題に対して保育士としてできることを考えていく。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1. 社会的養護の制度や現状について説明できるようになる。 2. 児童福祉施設の制度や現状について説明できるようになる。
思考・判断の観点 (K)	児童福祉施設で保育士として働くための基礎を身につけることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	児童虐待の問題について、多角的、かつ主体的に考えることができるようになる。
技術・表現の観点 (A)	施設養護の子どもたちの心理について理解し、その支援方法を身につけることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	社会的養護とは	社会的養護の原理や定義、現状について理解する。	シラバスをよく読んで、本講義で扱う内容について予習し、配布プリントをみて社会的養護について復習すること	90分
第2回	社会的養護の制度と歴史	社会的養護の歴史について理解する。特に児童福祉法の制定からはじまる施設養護の経過について学ぶ。	第二次世界大戦後の日本の歴史について予習し、社会的養護の歴史と絡めて復習すること	90分
第3回	家庭養護と施設養護	里親などの家庭養護と施設における家庭的養護について理解する。	里親制度について予習、復習すること	90分
第4回	環境に問題を抱えた子どもの施設養護	環境に問題を抱えた子どもの入所施設である乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設について理解する。	乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設について予習、復習すること	90分
第5回	問題行動を抱えた子ども	問題行動を抱えた子どもの入所施設である児童自立支援施設、児童心理治療施設について理解する。	児童自立支援施設、児童心理治療施設について予習、復習すること	90分

	もの施設養護			
第6回	障害を抱えた子どもの施設養護	障害を抱えた子どもの入所施設である障害児入所施設について理解する。	障害児入所施設について予習、復習すること	90分
第7回	児童福祉施設における支援	児童養護施設でのレジデンシャルワークを中心に、施設における支援について理解する。	施設におけるレジデンシャルワークについて予習、復習する	90分
第8回	施設における乳幼児期の支援	乳幼児期の心理的発達について理解し、施設における支援について学ぶ。また、自分の幼児期についてふりかえるワークを通して理解を深める。	自分自身の乳幼児期についてふりかえり、授業で学んだこととつなげて理解する	90分
第9回	施設における児童期の支援	児童期の心理的発達について理解し、施設における支援について学ぶ。また、自分の児童期についてふりかえるワークを通して理解を深める。	自分自身の児童期についてふりかえり、授業で学んだこととつなげて理解する	90分
第10回	施設における思春期の支援	思春期の心理的発達について理解し、施設における支援について学ぶ。また、自分の思春期についてふりかえるワークを通して理解を深める。	自分自身の思春期についてふりかえり、授業で学んだこととつなげて理解する	90分
第11回	児童虐待の現状	児童虐待の種類や現状について理解する。	児童虐待のニュースなどに関心をもって目を通しておくこと	90分
第12回	児童虐待の影響	児童虐待が子どもに与える心理的影響について理解する。	児童虐待について予習、復習すること	90分
第13回	児童虐待の原因	児童虐待の原因について理解し、虐待をしてしまう親にどのような支援が必要かを考える。	保育士として、虐待を予防するために何ができるか予習、復習すること	90分
第14回	児童虐待を受けた子どもへの援助	児童虐待を受けた子どもへの施設における支援について理解する。	施設における被虐待児の支援について予習、復習すること	90分
第15回	これからの社会的養護	施設の小規模化など社会的養護における変化と課題について理解する	これまでの授業で学んだことをふりかえり、社会的養護がどうあるべきかについて考えること	90分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法 小レポートやふりかえりシートについては、次週の授業内で解説する。

評価方法 授業への参加態度、授業中に課す小レポート、ワークなどの後に書くふりかえりシートなどにより平常点を評価する。
また、最後に定期試験を行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小レポート	○	○		
ふりかえりシート		○	○	
定期試験	○			

評価割合 平常点 (50%)、および定期試験 (50%) で評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) 使用しない

参考図書
1. 福田佳織 2012 「笑って子育て—物語でみる発達心理学—」 北樹出版
2. 吉田眞理 2019 「児童の福祉を支える 社会的養護 I」 萌文書林

ディプロマポリシーとの関連
【知識・理解】児童学を構成する6領域のうち、「子どもの福祉」「子どもの心理」について理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できる
【関心・意欲・態度】児童虐待の問題を通して、子どもをめぐる課題や問題について理解し、子どもの健全な成長・発達のために自分に何ができるかを考えることができる。また、社会的養護にある子どもたちの理解を通して、子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけることができる。

オフィスアワー 非常勤なのでオフィスアワーは設定しません。授業の前後の時間を利用してください。

学生へのメッセージ 授業で説明した理論や事例を、施設実習などにおける実際の体験と結びつけて理解できるように普段から意識してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業	○	担当教員は、児童養護施設において心理職としての実務経験を有しており、施設養護の現状や子どもたちへの支援について、実際の体験をもとに教授している。
アクティブ・ラーニング	○	子どもの心理アセスメントに使用するテストを学生自身が体験したり、学生自身の子ども時代をふりかえるようなワークを実施したりすることで、子どもの心理について体験的に理解する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	社会的養護Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 杉野 学	指定なし
非常勤講師	横井 義広	指定なし

ナンバリング	P20402M12
授業概要(教育目的)	施設で子ども達と関わりあうための基礎となる重要な概念について身につけているかどうか自己評価・相互検討を行い、スーパーヴァイズを受ける。併せて養護技術の基礎を習得する。子どもとの関わりの中で主体的に考え判断できるような態度を形成する。また、児童期にふさわしい生活プログラムを作成するなどの演習をとおして、居住型児童施設に生活する児童の立場についての理解を深める。日常的に展開されている児童の具体的な活動や生活の援助の方法を学ぶ。児童の心身の成長や発達を保障し、援助するために必要な知識や技能を習得する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解することができる
思考・判断の観点 (K)	1. 施設養護及び家庭養護の実際について理解し社会的養護を必要とする子どもの家庭状況や施設での生活について考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 子どもとの関わりの中で主体的に考え判断できるような態度を形成し社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について関心をもつことができる
技術・表現の観点 (A)	1. 施設で子ども達と関わりあうための基礎的な概念を理解し養護技術の基礎を習得することができる。 2. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解し個に応じた具体的な支援法を習得することができる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	社会的養護の概要	社会的養護の概要について学び、社会的養護における子どもの理解として、社会的養護の理念と仕組み、社会的養護を必要とする子どもの現状、児童相談所一時保護、子ども家庭支援センター、家庭養護と施設養護について理解する。	厚生労働省HPを閲覧し社会的養護の定義と原理、児童虐待、障害児の入所増加、障害児入所施設の種類のについて予習・復習をする。	60分
第2回	日常生活支援	日常生活支援について学び、基本的な生活習慣の獲得、生活リズムと日課、社会性の獲得と自立、事例分析と支援方法を理解する。	厚生労働省HPを閲覧し障害児入所施設の概要、障害者総合支援法、障害児入所施設における支援、児童福祉施設と保育士の役割について予習・復習をする。	60分
第3回	治療的支援	治療的支援について学び、愛着関係の形成、行動の分析と理解、心理治療、事例分析と支援方法について理解する	図書で治療的支援について予習・復習をする。	60分

第4回	自立支援	自立支援について学び、児童養護施設の自立支援、自立援助ホームの自立支援、施設出身者の自助グループの自立支援、事例分析と支援方法を理解する。	図書で、児童養護施設における自立支援について予習・復習をする	60分
第5回	施設養護の生活特性及び実際	施設養護の生活特性及び実際を学び、乳児院、児童養護施設における生活支援の実際について理解する。	乳児院、児童養護施設HPで児童養護施設の生活と支援の実際について予習・復習をする。	60分
第6回	施設養護の生活特性及び実際	施設養護の生活特性及び実際を学び、児童自立支援施設、母子生活支援施設、児童心理治療施設における生活支援の実際を理解する。	図書で、施設における発達障害児の理解と支援、自閉症等の発達障害児などのある子どもへの接し方について予習・復習をする。	60分
第7回	福祉型障害児入所施設の生活特性及び実際	福祉型障害児入所施設の生活特性及び実際を学び、主として知的障害のある児童を入所させる施設、主として自閉症児を入所させる施設、主として盲児を入所させる施設、主としてろう児を入所させる施設、主として肢体不自由児を入所させる施設における生活支援の実際を理解する。	入所型施設HPを閲覧し日常生活の支援、個別及び集団における支援、個別支援計画について予習・復習をする。	60分
第8回	医療型障害児入所施設の生活特性及び実際	医療型障害児入所施設の生活特性及び実際を学び、主として肢体不自由児を入所させる施設、主として重症心身障害児を入所させる施設における生活支援について理解をする。	図書で児童福祉施設の支援者としての資質について予習・復習をする。	60分
第9回	家庭養護の生活特性及び実際	家庭養護の生活特性及び実際を学び、家庭的養護と家庭養護、小規模グループケア、地域小規模児童養護施設、里親、ファミリーホームの概要について理解する。	図書や関連施設HPで、各施設の概要と特徴について理解を深める。	60分
第10回	社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価	アセスメントと個別支援計画の作成を学び、アセスメントの意義と方法、個別支援計画の内容、事例分析と個別支援計画の作成について理解する。	図書でアセスメントと個別の支援計画について理解を深める	60分
第11回	社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価	社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価を学び、記録の意義と内容、第三者評価、自己評価ガイドライン、自己評価の実際について理解する	図書で支援計画と自己評価について調べ理解を深める	60分
第12回	社会的養護に関わる専門的技術 保育の専門性に関わる知識・技術とその実践	社会的養護に関わる専門的技術を学び、保育の専門性に関わる知識・技術とその実践として、施設環境の整備、生活支援の基本、行動上の問題への対応、個別援助と集団援助について理解する	図書で、社会的養護が必要な子どもに対する様々な支援法について理解を深める	60分
第13回	社会的養護に関わる専門的技術	社会的養護に関わる専門的技術を学び、社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践として、家庭との協働、支援プログラムによる保護者への支援、児童福祉施設における就労支援について理解する	図書で、相談援助や家庭との連携について理解を深める	60分
第14回	今後の課題と展望-社会的養護における家庭支援	今後の課題と展望について学ぶ。社会的養護における家庭支援として、子ども虐待・DV等の現状、施設による親子関係再構築支援の重要性、親子関係再構築支援の事例分析と支援内容・方法について理解する	図書や厚生労働省HPなどで、社会的養護に関する施策を理解する	60分
第15回	社会的養護の課題と展望-新しい社会的養護の方向-	新しい社会的養護の方向について学ぶ。生活単位の小規模化とケア体制、新たな社会的子育て支援システム構築について理解する。	図書、厚生労働省HP等で新しい施策について理解を深める。	60分
第16回	社会的養護の概要について、定期試験を通して自身の学習の習得状況を把握する。	社会的養護内容に関する定期試験、試験を通して保育士として求められる資質・能力について考える	定期試験内容を振り返り、社会的内容に関する知見を深める	60分

学習計画注記	履修数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。 ※前半を横井が8回分、後半を杉野が8回分(定期試験を含む)担当する。
学生へのフィードバック方法	・参考図書、プリント、ビデオなどを用いて、実践的に具体的で見て分かりやすい授業をする。 ・質問等がある場合は、メール等で対応する。
評価方法	定期試験、授業内レポートや授業態度等で、総合的に評価する。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		
授業内レポート			○	○

評価割合	定期試験80% 授業内レポート・授業態度20%
使用教科書名 (ISBN番号)	特になし
参考図書	・社会的養護、新保育士養成講座、全国社会福祉協議会 ・よくわかる社会的養護内容、小木・宮本・鈴木編、ミネルヴァ書房 ○適宜、資料を配布する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもの保育を総合的に理解し子どもに関する専門的な知識が修得できている。 【技能・表現】保育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身に付けている。
オフィスアワー	水曜日1.2限目 杉野研究室
学生へのメッセージ	保育所、施設等で勤務する際、虐待などの子どもを取り巻く環境の変化や地域の子育て支援に関する知識や実践的な指導力は欠かせない。社会的養護内容を学び、基本的な考え方や支援方法について理解を深めて欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、施設長として施設運営、母子生活支援等に関する基本的な考え、援助方法、地域連携に関する幅広い実務経験を有しており、保育士資格に関する実務的・実践的な知見を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	ワークシートを活用して個人の意見をまとめたり、小集団での話し合いや発表をしたりする機会を設けて、より主体的に学ぶ施設を育む。
情報リテラシー教育	○	個人情報保護や個人情報流出防止に関する法令等を説明し人権尊重に結びつけた指導をする。
ICT活用	○	映像、パワーポイント資料、新聞記事などを活用しながら、より障害理解を深めるための適切なICT機器による視覚・聴覚支援について情報を提供する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	幼児理解		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新開 よしみ	指定なし

授業概要(教育目的)	目の前の幼児のありのままの姿から幼児の内的世界を理解し、その育ちや学びの「芽」を見出すことは、保育の出発点であり、保育者の専門性の中核である。この授業では、幼児理解の基本を踏まえ、それに基づくかわり・援助の可能性・工夫について考えとともに、事例を用いながら具体的に検討していくことを通して、幼児理解に必要な多角的な視点の獲得を目指す。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	幼児理解の基本的視点と具体的な方法について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	出来事の背景や文脈に目を向けながら、幼児の内面について推察できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	事例検討において自分なりの考察ができる。また、他者の読み取りからさらに視点を広げることができる。
技術・表現の観点 (A)	事例から読み取ったことを自分の言葉や文章でわかりやすく表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	わたしの中的子どもと出会う	記憶に残る幼児期のエピソードを読み合い、幼児だった頃の自分の内面に今と同じようにさまざまな思いがあったことを確認する。	課題：幼児期の印象に残っているエピソード記憶を詩やイラストで表現しておく。	120分
第2回	幼児理解と評価の考え方	幼児理解と評価についての基本的な考え方を理解する。	配布プリントを読んで要点をまとめておく。	120分
第3回	幼児理解の基本(1)幼児を肯定的に見る	事例をもとに、幼児理解の基本的視点について理解する。	授業を振り返り「幼児を肯定的に見る」とはどういうことかまとめておく。	120分
第4回	幼児理解の基本(2)活動の意味を理解する	事例をもとに、幼児理解の基本的視点について理解する。	授業を振り返り「活動の意味を理解する」とはどういうことかまとめておく。	120分
第5回	幼児理解の基本(3)発達する姿をとらえる	事例をもとに、幼児理解の基本的視点について理解する。	授業を振り返り「発達する姿をとらえる」とはどういうことかまとめておく。	120分
第6回	幼児理解の	事例をもとに、幼児理解の基本的視点について理解する	授業を振り返り「集団と個の関	120分

	基本(4)集団と個の関係をとらえる	る。	係をとらえる」とはどういうことかまとめておく。	
第7回	幼児理解の方法(1)保育を見直す	幼児理解の具体的方法を学ぶ。	授業を振り返り「保育を見直す」とはどういうことかまとめておく。	120分
第8回	幼児理解の方法(2)教師の姿勢	幼児理解の具体的方法を学ぶ。	授業を振り返り「教師の姿勢」とはどうあるべきかまとめておく。	120分
第9回	幼児理解の方法(3)触れ合う・観察する	幼児理解の具体的方法を学ぶ。	授業を振り返り「触れ合う・観察する」とはどういうことかまとめておく。	120分
第10回	幼児理解の方法(4)記録する	幼児理解の具体的方法を学ぶ。	授業を振り返り「記録する」とはどういうことかまとめておく。	120分
第11回	幼児理解の方法(5)家庭との連携	幼児理解の具体的方法を学ぶ。	授業を振り返り「家庭との連携」とはどういうことかまとめておく。	120分
第12回	事例研究(1)エピソードの取り出しと読み取り	幼児の姿を観察し、エピソードに書き出して考察を試みる。	公園や幼稚園・保育園など、幼児の遊ぶ場所で数時間観察を行い、エピソードを記録しておく。実習やボランティアの記録を活用しても良い。	120分～240分
第13回	事例研究(2)発表と討議	エピソード記録をもとに事例検討を行う。	事例から学んだことをまとめておく。	120分
第14回	事例研究(3)発表と討議	エピソード記録をもとに事例検討を行う。	事例から学んだことをまとめておく。	120分
第15回	振り返りとまとめ(小テストを含む)	これまでの学びを振り返り、知識の確認をするとともに、幼児理解の視点の広がりについて自己評価する。	授業全体の総復習をしておく。	180分

学習計画注記 ※履修者の実習時期や授業の進み具合によってスケジュールが前後したり変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 課題等については授業内で解説する。質問等がある場合には1635研究室まで訪問すること。

評価方法 授業での事例検討等への参加状況や取り組みの姿勢及び課題提出物の内容について「課題点」として評価する。最終回に行う「小テスト」では知識の確認と自己評価を行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題点		○	○	○
小テスト	○	○		

評価割合 課題点（授業への参加・取り組みへの姿勢、提出物を含む）60% + 小テスト40%

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 授業内で必要に応じて紹介する。

ディプロマポリシーとの関連
【知識・理解】子どもの保育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。
【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性が備わっている。
【関心・意欲・態度】子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。
【技能・表現】子どもの専門家として社会に貢献できる。

オフィスアワー 金曜3時限 1635研究室

学生へのメッセージ 幼稚園教諭免許取得のための必修科目です。園生活でみられるさまざまな幼児の姿に触れ、ディスカッションに積極的に参加することで、幼児をみる目を養い、その視点をさらに広げていってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活か		

した授業		
アクティブ・ラーニング	○	事例検討などグループディスカッションを取り入れる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	保育内容総論A		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 中田 範子	指定なし

ナンバリング	P20202M12
授業概要(教育目的)	幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が示す内容を踏まえ、乳幼児期の発達を理解しながら、保育現場で展開されている保育の内容について総体的に学ぶ授業である。また、わが国の保育の基本である「一人ひとりの特性に応じた援助」、「環境を通じた教育」、「遊びを通じた総合的な指導」について、討議を通して理解を深めることを目的とする。
履修条件	特に定めない。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の各領域の構造や位置づけについて説明できる。 ・「遊びを通じた総合的指導」の重要性を踏まえ、幼児の遊びの種類について調査し、乳幼児の遊びと学び・発達との関連性を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	小学校教育への接続を踏まえ、学びの芽生えから自覚的な学びの接続について考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	保育内容の概要	子どもの園生活と遊びの様子を紹介するビデオを視聴し、保育内容の意味と意義について理解する。	授業内容を確認し、配布資料の演習問題を完成する。	30分
第2回	幼児の園生活と保育者の援助①	保育現場の事例から、「言葉の前のことば」「子どもの視点に立つ」「子ども同士の関係を援助する」について討議する。	配布資料の演習問題を完成する。	30分
第3回	幼児の園生活と保育者の援助②	保育現場の事例から、「共感する」「乳幼児の表現」について討議する。	配布資料の演習問題を完成する。	30分
第4回	子ども観と保育の変遷	様々な時代、様々な国の子ども観と子どもの生活から「子ども」を大人がどう捉え、どのような保育が求められたのかを考える。確認テストあり。	教科書第1章をよく読み、大人は子どもをどうとらえるのかについて考えをまとめておくこと。	30分
第5回	子どもの遊	子どもの行う遊びの実際から、遊びのもつ総合性と子ども	確認テストの復習、乳幼児向け	60分

	びの意味	もの学びについて考える。確認テストあり。	の遊びの種類について資料を収集する。	
第6回	領域・ねらい・内容②	領域、ねらい、内容の関連性を構造的に理解する。確認テストあり。	教科書第2章を予習し、5領域について内容を確認する。確認テストの復習	60分
第7回	領域・ねらい・内容③	領域「健康」と関連事項として、食育、「幼児期運動指針」について理解する。確認テストあり。	教科書第5章を予習し、子どもの言葉と人とのかわりについて内容を確認する。確認テストの復習	60分
第8回	領域・ねらい・内容④	領域「人間関係」、「環境」と関連事項として、「道徳性の芽生え」「協同的な学び」「規範意識の芽生え」「環境を通した教育」について理解する。確認テストあり。	教科書第4章を予習し、子どもの環境について内容を確認する。確認テストの復習	60分
第9回	領域・ねらい・内容⑤	領域「言葉」、「表現」と関連事項として絵本の読み聞かせを体験する。確認テストあり。	教科書第4章の予習・復習し、子どもの環境について内容を確認する。確認テストの復習	60分
第10回	乳児保育と保育所保育指針①	保育所の機能と役割、保育所保育指針について理解する。確認テストあり。	教科書第7章の予習し、保育所の概要について内容を確認する。確認テストの復習	60分
第11回	乳児保育と保育所保育指針②	保育所の生活や保育士の援助について実際に理解する。	ワークシートの完成	30分
第12回	幼児教育と幼稚園教育要領	幼児期の発達特性と幼稚園教育要領の内容と構造について理解する。確認テストあり。	教科書第6章を予習し、幼稚園の概要について内容を確認する。確認テストの復習	60分
第13回	幼保連携型認定こども園	幼保連携型認定こども園の役割と実際について考え、理解する。確認テストあり。	教科書第8章を予習し、様々な保育形態について内容を確認する。確認テストの復習	60分
第14回	身近な素材を使った遊びの実際	「小麦粉粘土」の製作を通して、身近で可塑性のある素材の活用について、演習を通して考える。	ワークシートに、小麦粉粘土の作り方や完成後の変化について記入する。	30分
第15回	構成遊びの意義と実際	「カプラ」を利用した構成遊びの実際と保育の工夫について、演習を通して考える。	ワークシートに、完成した製作物の画像とともに遊び方の工夫について記入する。	30分

学習計画注記	授業の進行状況等により変更する場合があります。				
学生へのフィードバック方法	授業時に行われる確認テストは、学生が自己採点をする。教員が学生の習熟度を確認しながら、解説を行う。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に行う確認テストは、各自で採点し授業内容の理解を確認するためのものであるため、評価に含めない。 ・定期テストは、第1回から13回までの授業内容を試験範囲とし、60点満点で出題する。 				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	定期テスト	○	○		
	ワークシート		○		○
評価割合	定期テスト(60%)、ワークシート(40%)				
使用教科書名 (ISBN番号)	中田範子著「子どもの育ちと環境—未来を見据えた保育の探求—」大学図書出版				
参考図書	幼稚園教育要領、同解説書、保育所保育指針、同解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、同解説書その他、適宜紹介する。				
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 児童学を構成する6領域のうち、「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」を理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている</p> <p>【思考・判断】 家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・感性が備わっている</p> <p>【技能・表現】 保育者・教育者として求められる豊かな表現力を身につけている</p>				
オフィスアワー	火曜日4,5限				
学生へのメッセージ	日常生活の中で乳幼児とその周りの人やものに目を向けて観察・考察するようにしてください。受け身ではなく、積極的な態度で受講することを期待します。				

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、幼稚園・保育所で教諭・保育士として実務経験を有しており、幼稚園、保育所の保育の実際について実務経験に基づいて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	学生が実物を使って遊ぶ中での気づきを大切にしながら、グループ討議を取り入れている。
情報リテラシー教育	○	乳幼児向けの遊びの種類について調査し、情報を収集、活用する。
ICT活用	○	画像や動画を活用しながら、保育所の生活や保育士の援助の実際を理解する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	保育内容演習言葉A		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 和田 美香	指定なし

授業概要(教育目的)	領域のねらい「生活の中で、言葉の興味や関心を育て、話したり、聞いたり、相手の話を理解しようとするなど、言葉の豊かさを養うこと」を柱にして、保育のあり方、子どもの姿の捉え方、について考えることを目的とする科目である。 言葉の機能や乳幼児期の言葉の発達について理解しそれらの知識を総合的に保育実践に取り入れる力を養うようにする。 保育の中で活動を展開できる技術を獲得する他、指導計画を作成し模擬保育を行うなかで、その技術をさらに実践的な力にしていく。 また、言葉でのかかわりに配慮を必要とする子どもの理解や、言葉をめぐる相談の実際と対応について等、現代における言葉の諸問題についても学べるようにする。
履修条件	3年次以降読み替え対応 「子どもと言葉」

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	領域「言葉」の基礎となる考え方を理解する。 「言葉」の意義と機能について理解する。
思考・判断の観点 (K)	幼児がどのようにしたら豊かな言葉や表現を育むことが出来るかを考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	グループディスカッションやワークショップなどを取り入れながら主体的に考える。
技術・表現の観点 (A)	実践を通して言葉に対する感覚を豊かにし、保育実践に生かすための技術を学ぶ。

学習計画

言葉の指導法

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	保育所保育指針、幼稚園教育要領の基本的な考え方(乳児保育の視点と領域言葉を中心に)	保育所保育指針、幼稚園教育要領から領域言葉の内容を捉える。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第2回	領域言葉のねらいと内容	領域言葉のねらいと内容について、文言を一つ一つ確認し、具体的事例をあげながら解説をする。その後、保育の実践と照らし合わせてグループワークの形式で議論する。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分

第3回	生活と遊びの中の言葉 (養護と教育に関わる保育内容の展開)	生活と遊びの中の言葉について、具体的な事例に基づいて考えていく。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第4回	領域言葉の指導上の留意点、配慮事項	領域言葉の指導上の留意点、配慮事項について、解説書をもとに理解をする。その後、事例や動画などを見ながら、具体的な実践に置き換えて考えていく。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第5回	保育の過程 (計画、実践、記録、省察、評価、改善)について	保育の過程(計画、実践、記録、省察、評価、改善)について領域言葉を中心にして指導計画をもとに考えていく。実際に計画を立てることをしながら、保育の流れ(計画、実践、記録、省察、評価、改善)のポイントをつかむ。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第6回	指導案の立案と模擬保育	遊び(5領域)は総合的な活動なので領域言葉だけを取り出して指導案を書くという考え方ではないことを伝えたくて、まずは指導案を書くということに目的にして、言葉の発達を意識した指導計画を立てていく。その指導案をもとに、模擬保育を行う。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第7回	模擬保育の振り返り	前回行った模擬保育の振り返りをグループごとに行う。その際、どのような視点から保育の評価を行うかということについて具体的に考えていく	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第8回	教材研究	子どもの言葉を育む教材について、グループごとにテーマを決めて議論していく。KJ法で行う。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第9回	児童文化財とは何か (子どもにとっての児童文化財の意義)	児童文化財の定義から、その具体的な実践に至るまで、体験を通して考えていく。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第10回	領域言葉と国語科教育のスムーズな連携(幼保小接続)	領域言葉と国語科教育のそれぞれのねらいや内容を確認し、その違いや共通点について話し合う。そのうえで、どのような配慮があればスムーズな連携が可能になるのかを考えていく。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第11回	配慮の必要な子どもへの対応(外国籍の子ども、障害のある子ども)	配慮の必要な子どもへの対応について、その配慮や留意点について、領域言葉の側面から考えていく。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第12回	他領域との連携	領域言葉は、5領域の中でどの領域にも関連が深い。言葉などによるコミュニケーションは、すべての領域の基本となる部分であるため、そのことをまず理解する。そのうえでそれぞれの領域と関連付けながら、その育ちを遊びや生活の中の事例をもとに考えていく。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第13回	保育の現代的課題を領域「言葉」の側面から考える。	グループごとに保育の現代的課題についてテーマを決め、領域「言葉」の視点を入れながら、意見を出し合い、議論する。 (ゲームやタブレットの普及・外国籍の子どもとのコミュニケーションなど)	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第14回	領域言葉の保育実践の動向	保育実践が、今どのような方向を目指しているのかということを紹介し、領域言葉の視点から、グループワークの形式で考えていく。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第15回	総合的な保育の展開・まとめ	これまでの授業を振り返りながら、保育の現代的課題と領域言葉の関連について考えていく。保育者の振り返りの視点、保育の評価の視点を確認し、その具体的な方法について事例をもとに考える。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第16回				

学習計画注記	講義と演習形式で行う。 ①資料を手掛かりとして、考察し、発見しあう授業 ②過去の研究を手掛かりとして、知識を得る講義 ③テーマを共有してふるまいながら気付き、身につける演習
学生へのフィードバック方法	大篇幅を利用して、授業の質問、感想、要望、雑談を受け付ける。毎回それに対してのフィードバックを行う。指導案など提出したものは、添削、助言をして返却する。
評価方法	平常点50%、定期試験50% (平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する)

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点		○	○	○
定期試験	○			

評価割合	平常点50%、定期試験50% (平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する)
使用教科書名 (ISBN番号)	コンパクト版『保育内容シリーズ4 言葉』
参考図書	特になし。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】言葉のもつ意義と機能を理解する。 【思考・判断】言葉の美しさや楽しさを幼児の生活の中に適宜取り入れていける力を付ける。 【関心・意欲・態度】子どもの姿（生活や遊び、発達段階）を基本に活動内容を考えていく。 【技能・表現】幼児にとっての児童文化財の意義を理解し、その技術を身に付ける。
オフィスアワー	月曜2限から4限
学生へのメッセージ	領域「言葉」は、他の領域との関係が大変深い。言葉が、生活や遊びの中で、他の領域と密接に関連しながら子ども達の育ちを支えていることをよく理解して、広い視点から言葉について考えてもらいたい。そのために、日頃から日常生活の中での言葉に感心を持ち、課題を見つけ積極的に授業に参加して欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、保育士・幼稚園教諭として実務経験を有しており、子どもとかわるうえで必要な資質・能力について実務経験に基づいて教授を行う。
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、発表などを行い、教員と学生、学生同士の双方向のやり取りを行っていく。
情報リテラシー教育	○	調べ学習で情報を収集する際、その情報の発信元や発信の目的などに目を向けて、信憑性のある情報か否かを判断する。
ICT活用	○	各自の発表をパワーポイントなどにまとめて行い、他者にわかりやすいプレゼンテーションを実践する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	保育内容演習人間関係A		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 丹羽 さがの	指定なし

授業概要(教育目的)	幼稚園教育要領等に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、幼児の姿と保育実践とを関連させて理解を深める。その上で、幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身につける。
履修条件	3年次以降読み替え対応 「子どもと人間関係」

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1) 幼稚園教育要領における領域「人間関係」のねらい及び内容、並びに全体構造を理解している。 2) 幼稚園教育における育みたい領域「人間関係」における資質能力について理解している。 3) 領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえ、自立心を育て、人とかかわる力を養うために必要な、幼児が経験し見につけていく内容と指導上の留意点を理解している。 4) 幼児期の集団生活を通してさまざまな人と関わる経験と、小学校以降の生活や教科等とのつながりについて理解している。
思考・判断の観点 (K)	1) 幼児の心情、認識、思考及び幼児の体験と動き等を踏まえた教材研究や環境の重要性を理解し、保育構想に活用することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1) 模擬保育やロールプレイとその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけている。 2) 領域「人間関係」の特性に応じた現代課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1) 領域「人間関係」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の効果的な活用法を理解し、保育構想に活用することができる。また、情報機器について、幼児の体験との関連を考慮しながら活用するなど留意点を理解している。 2) 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション・幼稚園教育要領における「人間関係」	保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領との比較を通して幼稚園教育要領における領域「人間関係」の全体像をつかむ	〔復習〕今回授業で学んだことを、教科書や配布資料を読んで復習し、しっかり理解する	90分
第2回	保育者との信頼関係と園生活における安定感を形成する	保育者との信頼関係と園生活における安定感を形成する援助のあり方について、個々への丁寧なかかわりと集団保育の展開を意識しながら考える	〔予習〕事前配布の事例について、保育者としてどのような関わりが望ましいのか考えてくる 〔復習〕自分が考えてきた援助が適切なものだったかどうか、授業中の学びを基に検討し、よ	90分

	援助のあり方		りよい援助の在り方について考える。	
第3回	自立心を育む援助	3～5歳の育ちの姿に沿った、自立心を育むために必要な援助と環境構成について学ぶ	〔予習〕3～5歳の一般的な発達の特徴について調べてくる 〔復習〕自分が考えてきた援助が適切なものだったかどうか、授業中の学びを基に検討し、よりよい援助の在り方について考える	90分
第4回	トラブル場面と教師の援助	他者との遊びを楽しむ中で多様な感情を経験し、自他の気持ちに気づく援助のあり方—トラブルと教師の援助	〔予習〕事前配布プリントの事例を読み、幼児期の友達とのケンカなどのトラブルに対する保育者のかかわり・援助について気が付いたことをまとめる。 〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について、再度資料を読み考える。	120分
第5回	自分の気持ちを調整する力を育む援助の在り方	自他の気持ちの違いへ気づき、自分の気持ちを調整する力を育む援助の在り方—折り合いがつかない事例を考える	〔予習〕事前配布プリントの事例を読み、自分が保育者だったらどのような援助を行うか考え書いてくる。 〔復習〕自分が考えてきた援助が適切なものだったかどうか、授業中の学びを基に検討し、よりよい援助の在り方について考える。	90分
第6回	きまりをめぐるさまざまな幼児の葛藤と援助	家庭・園・社会生活のきまりと幼児に経験させたい内容を考える	〔予習〕事前配布プリントの事例を読み、自分が保育者だったらどのような援助を行うか考え書いてくる。 〔復習〕自分が考えてきた援助が適切なものだったかどうか、授業中の学びを基に検討し、よりよい援助の在り方について考える。	90分
第7回	ルールのある遊びの援助	葛藤しながら自分たちにとって意味のあるきまりをつくるための援助について考える	〔予習〕事前配布プリントの事例を読み、自分が保育者だったらどのような援助を行うか考え書いてくる。 〔復習〕自分が考えてきた援助が適切なものだったかどうか、授業中の学びを基に検討し、よりよい援助の在り方について考える。	90分
第8回	個と集団の育ちを考える	幼児同士の係わり合いを生かす教員の間接的援助のあり方について考える	〔予習〕事前配布プリントの事例を読み、自分が保育者だったらどのような援助を行うか考え書いてくる。 〔復習〕自分が考えてきた援助が適切なものだったかどうか、授業中の学びを基に検討し、よりよい援助の在り方について考える。	90分
第9回	協同的な遊びの中で育ちあう長期的な保育の展開	協同的な遊びの中で育ちあう長期的な保育の展開について、見通しや振り返りの工夫を意識して考える	〔予習〕事前配布プリントの事例を読み、見通しや振り返りを書いてくる 〔復習〕授業中の学びを基に検討し、協同的な遊びの中で育ちあう長期的な保育の展開についてまとめてみる	90分
第10回	園の行事のねらいと活動内容	幼児にとって意味ある行事のねらいと協同的な活動内容について、導入段階を含む1ヶ月の展開を考え、実際に模擬保育を行う	〔予習〕園の1年間の主な行事について調べてくる 〔復習〕模擬保育を行ってみて得た気づきをまとめ、考察する	120分
第11回	幼小の交流活動を考える	幼小の交流活動における相互主体的で互恵的な活動の展開と工夫について考える	〔予習〕現在、自分の住む地域でどのような幼稚園・保育所—小学校の交流活動が行われているか、調べてまとめてくる。 〔復習〕相互主体的で互恵的と言える交流活動には何が必要	90分

			か、授業での学びを復習し、交流活動の具体例を考えてみる。	
第12回	小学校以降の生活や学習で活かされる力	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を軸に幼小接続期を考える	〔予習〕「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を読み、人間関係にかかわる項目について、年長の終わり頃にどのような具体的な姿が見られそうか考えてみる。そしてそれが、小学校での生活と学びにどのようにつながっていきそうか、考えてみる。 〔復習〕幼児期に育まれた力を大切に、接続期の小学校での学び方・生活の仕方について、授業での学びを基に具体的に考えてみる。	90分
第13回	地域とのかかわりを考える	さまざまな人との関わりにある特徴を捉え、幼児期に経験させたい地域の人との関わりを考える	〔予習〕身近な地域の人にはどのような人々がいるのかについて調べてくる 〔復習〕授業で学んだことを元に、地域とのかかわりが幼児期の成長に果たす役割についてまとめる	90分
第14回	多様な人、多様な子どもとの関わり	多様な人、多様な子どもとの関わりの中で豊かに生きていく上で、幼児の経験を育ちへ根付かせる長期的な計画と教師の援助を考える	〔予習〕幼児を取り巻く多様な人・多様な子どもについて書いてくる 〔復習〕自分で事例を挙げ、幼児の経験を育ちへ根付かせる長期的な計画と教師の援助について考え、それをまとめる	90分
第15回	領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題・まとめ	現代における情報機器を通した子どもの人とのかかわりについて考える	〔予習〕人間関係をめぐる現代的諸問題について考えて書いてくる 〔復習〕情報機器を通した子どもの人とのかかわりにおいて、保育者の援助の在り方についてまとめる	予習120分、復習120分
第16回	定期試験			

学習計画注記 授業の進み具体等によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 コミュニケーション・カードに下線and/orコメント付きで返却する。多かった質問・疑問については次回授業冒頭で解説する。また特によかったコメントについては次回授業冒頭で紹介する。それ以外の質問がある場合は1626研究室まで訪問すること。

評価方法

- ・平常点は、学びに向かう姿勢、意欲、理解度をコミュニケーション・カードの記入状況、内容から評価する。
- ・課題は、事前課題への取り組みと内容により評価する。
- ・最終レポート課題は、授業到達目標の達成の程度を測るものとする。
- ・平常点、課題、最終レポートは、下表に示す力を養うことを目的に実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	
課題	○	○	○	
定期試験	○	○		

評価割合 平常点 (30%) , 課題(30%) , 最終レポート (40%) で評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) 特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

参考図書 授業内で随時紹介する。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】領域人間関係、乳幼児期の人間関係の発達に関する専門的知識を有している。【思考・判断】子どもの人と関わる力を育む保育、保育者の援助について考えることができる。【関心・意欲・態度】現代社会に育つ子どもたちの人間関係をめぐる課題に関心をもち、保育者としてその解決に意欲的に取り組む姿勢をもつ。

オフィスアワー 水曜日 2限 1609研究室

学生へのメッセージ	1. 演習科目ですので、ワークやディスカッションに積極的に参加する姿勢を求めます。 2. 毎回授業内容を復習しておいてください。 3. 宿題とした予習課題は必ず次回までに取り組んでおいてください。
-----------	--

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	事例検討を効果的に取り入れる
アクティブ・ラーニング	○	小グループでのディスカッションを行う
情報リテラシー教育	○	情報機器を通じた子どもの人とのかかわりについて考える
ICT活用	○	

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	保育内容演習環境A		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 中田 範子	指定なし

授業概要(教育目的)	乳幼児の発達の特長や環境を通じた教育の重要性を踏まえた、領域環境のねらい、内容に応じた指導法を修得する。乳幼児は、様々な環境と関わりながら深い学びを実現する。このような乳幼児の発達の特長や環境を通じた教育の重要性を踏まえた、乳児保育における三つの視点、及び領域「環境」の示すねらいや内容、内容の取扱いを踏まえた指導法について、カリキュラムマネジメントを意識しながら演習を通して学ぶ。
履修条件	3年次以降読み替え対応 「子どもと環境」
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	幼児期の環境との関わり的重要性を踏まえ、環境を通じた教育と小学校教育への接続について理解する。
思考・判断の観点 (K)	環境を通じた教育の指導を行うための教材の活用法を理解しその具体的な方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	国内外の乳幼児向けの自然体験活動の実践に関心を持ち、保育の質の向上に向けて、カリキュラムマネジメントの在り方を理解する。
技術・表現の観点 (A)	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画(活動案)の作成を通して、年齢に応じた環境構成や援助、指導法を身につける。 作成した指導案や園内環境図の考案をもとに模擬保育を行い、振り返りながら保育を改善する視点を身に付ける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	幼児の環境を通して学ぶ姿	レイチェルカーソン「センス・オブ・ワンダー」を参照しながら、乳幼児期の環境との関わり的重要性について考える。	授業内容を踏まえ、環境の影響の大きさについて日常生活の中で考える。	90分
第2回	環境を通じた教育	我が国の保育・幼児教育の基本的な考え方の一つである「環境を通じた教育」について理解する。	授業内容を復習し、環境を通して学ぶ幼児の姿についてメモをする。	30分
第3回	幼児向け野外活動プログラムの概要	森のムッレ教室、森のようちえん等、幼児向けの自然体験活動の概要と意義について考える。	小レポートに幼児向け体験活動の意義について考えたことを記入する。	60分
第4回	幼児向け野外活動プログラムの実際と検討	ネイチャーゲーム「森の色合わせ」、「カメラゲーム」の実践を通して、自然環境に対する興味を喚起し、自然に対する気付きの重要性を理解する。	ワークシートにネイチャーゲームを通して気づいたこと、子どもに気付いてほしいことを記入する。	90
第5回	季節の移り	秋・冬の自然に関する事項や保育内容を調査・発表し、	秋・冬の自然に関する資料を取	90

	替わりに関わる保育内容の指導法の検討	保育実践にどのように取り入れるのかを考える。	集し、発表の準備をする。	
第6回	季節の伝統行事に関わる保育内容の指導法の検討	秋・冬の伝統行事に関する事項や保育内容を調査・発表し、保育実践にどのように取り入れるのかを考える。	秋・冬の伝統行事に関する資料を収集し、発表の準備をする。	90
第7回	園内環境の実際	保育現場における保育の記録の実際を参照しながら、画像を用いたドキュメンテーションを作成する。	保護者へ伝えたいこと、子どもが自身の経験を振り返り、意味づけられることを考えながら、ドキュメンテーションを完成させておく。	120
第8回	園内環境の構成案の作成と検討	【私たちの園を作ろう】様々な園の園舎や園庭を調査し、子どもにとって有意義な園内環境を考える。また、園の設置基準に関する法令等を調査し、園の保育方針、人的配置等を考える。	各班で園庭や園舎を園パンフレットの形式で作成する。	120
第9回	園外保育の計画の作成	【秋の遠足の立案】秋の遠足に適した場所を検索し、立案する。また、その内容を保護者向けのおたよりの形式でまとめる。	秋の遠足に適した場所を検索しておく。「チェックシート」、「保護者向けおたより」を完成する。	120
第10回	模擬保育①園生活と社会環境(保護者会を通じた保護者との連携)	立案した秋の遠足の内容を保護者向け説明会の形式で発表する。保護者の立場に立ってねらいと内容を分かりやすく説明する。	発表の準備をする。秋の遠足のねらいと内容をどのようにわかりやすく説明するか、保護者に信頼感と安心感を得ることができると発表の方法を考える。	90
第11回	模擬保育②園生活と社会環境(園外保育と自然環境に関わる保育内容)	立案した秋の遠足の内容を保護者向け説明会の形式で、発表する。想定される保護者からの要望への対応を考える。	保護者の立場に立って、保育者に対する要望や子どもに対する配慮等について想定し、よりよく家庭と連携しながら、子どもを中心とした保育への実現について考える。	90
第12回	模擬保育③園生活と社会環境(社会資源の活用と幼児の地域社会とのかわり)	模擬保育を振り返り、省察しながら計画の修正を行う。また、家庭や地域との連携について考える。	演習問題を完成する。	90
第13回	幼児の事故の特徴と災害に対する安全教育	保育環境にある安全に対する配慮、災害に対する対応について考える。	ワークシートに授業内容と園での災害に対する対応について考察を記入する。	90
第14回	国内外の幼児向け環境教育プログラムの概要と検討	乳幼児向けの環境教育プログラムを理解し、内容を検討する。	演習問題を完成する。	90
第15回	小学校教育への接続と環境教育	環境教育、ESDIに関する国内外の資料をもとに、現状と課題を理解する。	演習問題を完成する。	90

学習計画注記

授業の進行状況等により、変更の可能性があります。

学生へのフィードバック方法

学生が提出した提出物はすべて添削、採点し、返却する。
グループ討議、発表の際には、質疑応答を通して学習目標が達成できるように適宜助言する。

評価方法

- ・提出物、学期末レポートの評価を点数化する。
- ・提出期限が守られなかった場合には、減点の対象とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小レポート	○	○		

	ワークシート				○
	学期末レポート	○	○		
	発表内容	○			○
評価割合	ワークシート(10%)、園パンフレット(10%)、保護者向けおたより(10%)、発表(20%)、学期末レポート(50%)				
使用教科書名(ISBN番号)	無				
参考図書	幼稚園教育要領、同解説書、保育所保育指針、同解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、同解説書				
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 児童学を構成する 6 領域のうち、「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」を理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている</p> <p>【思考・判断】 家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性が備わっている</p> <p>【関心・意欲・態度】 子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組む。</p> <p>【技能・表現】 保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている</p>				
オフィスアワー	火曜日4-5限目 1623教室				
学生へのメッセージ	「子どもと環境」で学んだことを整理し、実際に乳幼児と関わる経験と結びつけながら理解を深めてください。受け身ではなく、積極的な態度で授業に臨むことを期待しています。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、幼稚園・保育所で教諭・保育士として実務経験を有しており、領域「環境」の指導法について実務経験に基づいて教授している。			
アクティブ・ラーニング	○	学内において、ネイチャーゲームの実施等を通して、体験を通して学ぶ。			
情報リテラシー教育	○	季節の自然や伝統行事に関する資料を収集し、自ら設定したテーマのもとに情報をまとめ、発表する。			
ICT活用	○	調査した季節の自然や伝統行事を発表する際には、画像や動画を用いて、発表内容をppt等にまとめ、他者に理解しやすく発表する。			

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	保育内容演習表現A		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新開 よしみ	指定なし
教授	立川 泰史	指定なし
教授	吉永 早苗	指定なし

授業概要(教育目的)	乳幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、子どもの感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成について実践的に学ぶ。様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通し、乳幼児の表現を支える保育者としての感性や表現力・創造性を養う。
履修条件	3年次以降読み替え対応 「子どもと表現」

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	乳幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けを理解し説明できる。
思考・判断の観点 (K)	様々な表現の基礎的な知識技能を活かし、乳幼児の表現活動に展開することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	乳幼児の発達と表現の関係について関心を持ち、積極的に課題に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	身の回りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	領域「表現」とは	領域「表現」のねらい及び内容について理解する。	幼稚園教育要領の領域「表現」の章をよく読んでおくこと。	60分
第2回	乳幼児の素朴な表現の実際	事例を通して、乳幼児の表現の発達について考える。	テキスト第1部(第1章～第3章)を読んでおくこと。	60分
第3回	表現の源に出会う体験(1)身体への気づき	ノンバーバルコミュニケーションを中心としたいくつかのワークを通して、表現媒体・コミュニケーション媒体としての「身体」に気づく。	テキスト第4章を読んでおくこと。	60分
第4回	表現の源に出会う体験(2)多感覚を実感する	触り心地を音にする。音楽を描く。絵から音を作り出す。	「黄色い声」「尖った音」など、複数の感覚が重なった音の表現を探してみる。「共感覚」について調べておく。	90分
第5回	表現の源に出会う体験	様々なさわりごち(触感)を基に、身近な場所の特徴を視覚化するマップをつくる。統合的に働く感覚と造形表	からだの感覚や経験から生まれる新しい見方・感じ方につい	60分

	(3) さわりごこちマップ	現の関連を理解し、教材選び・活動構成・環境づくりの意味を実体験する。	て、自身の経験や事例をあげて説明できるようにしておく。	
第6回	からだで感じて(1) 絵の具で遊ぶ	共同絵の具の特徴や用具の扱いから生まれる造形表現について理解し、活動や主題の構成・開発について可能性と課題を探究する。	共同絵の具や用具の種類、特徴などについて実践事例をあげ、活動の趣旨を整理しておく。	60分
第7回	からだで感じて(2) 音のマップ〜環境との対話	サウンドウォークを体験する。自然の中、建物の中を歩き、そこに聞こえる音や音の響きに耳をすませてみよう。壁に耳を当てると、聴こえ方が違うかも知れない。右足と左足、音は同じかな？	サウンドウォーク、サウンドマップ、サウンドスケープをキーワードとした論文を検索し、読んでおく。	60分
第8回	からだで感じて(3) からだであらわすワーク	「なりたいたいものになる」ワークなど、即興的な身体表現に取り組み、表現活動を仲間とつくっていく楽しさや心地よさを味わう。	予習課題：身体表現としての「ふり」探し	60分
第9回	身近な素材の発見(1) コラージュで遊ぶ	「形や色(造形言語)の引用」という観点から、創造的な造形表現の可能性を探究する。異なるものを結び重ねると生じる発想イメージの働きについて、体験的に理解する。	「～としてみる」「～であってもよい」という比喩的な見方・感じ方を活用する事例を探索し、子どもの認識発達と関連付けて説明できるようにする。	60分
第10回	身近な素材の発見(2) つくって遊ぶ	身近で親しみのある材料を生かす造形表現の意義や可能性を探究する。製作とチームアプローチの討論から、諸材料(自然材料と人工材料・手に取れる材料と取れない材料、可塑性の有無で区別できる材料、透明・不透明材料など)の特徴を知り、活動構成と育てたい資質・感性・技能を考察する。	日常生活にある身近な材料を「自分の観点」で探す。(例：白いもの、光るもの、透明なもの、細長いもの) 集めた材料を授業に持参できるように、準備しておく。	60分
第11回	身近な素材の発見(3) 音遊び・音づくり	手作り楽器の製作とアンサンブル。音のイメージを描き、それを音にしていく。そのあと、音で会話してみよう。どんな音の物語ができるかな？	手作り楽器を製作する。	120分
第12回	文化的・協働的表現(1) 鑑賞から企画へ	①子どもを対象にする作品、②子どもと体験する表現遊び、のいずれかをグループごとに企画する。	各自「企画案」を作成する。	120分
第13回	文化的・協働的表現(2) 創造する	①子どもを対象にする作品、②子どもと体験する表現遊び、のいずれかをグループごとに制作する。	グループ内で分担を決め、企画・制作に向けた準備等を行う。	240分
第14回	文化的・協働的表現(3) 発表	①子どもを対象にする作品、②子どもと体験する表現遊び、のいずれかをグループごとに発表する。	発表に向けてグループごとに準備・練習等を行う。	240分
第15回	総括	ポートフォリオをまとめながら学びの過程の振り返りを行う。	これまでの授業内容を総復習し、ポートフォリオ(学びの記録)を作成する。	120分

学生へのフィードバック方法 3名の授業担当者より、それぞれの専門の立場からコメントやアドバイスを加えながら授業を進行していく。

評価方法 各授業における課題(提出物、演習への取り組み、発表態度等)の評価とともに、「ポートフォリオ」によって本授業全体を通した学びの過程と成果を総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業課題	○	○	○	○
ポートフォリオ	○	○	○	○

評価割合 授業課題への評価(60%)、ポートフォリオによる評価(40%)

使用教科書名(ISBN番号) 保育内容表現/吉永早苗他/光生館/2018 (978-4-332-70188-0)

参考図書 幼稚園教育要領
保育所保育指針
認定こども園教育・保育要領

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】「子どもの保育」における「表現」の位置付けを理解し、子どもに関する専門的な知識が習得できている。
【関心・意欲・態度】子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。子どもの視点

	に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。 【技能・表現】保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。	
オフィスアワー	(前期) 新開：金曜3限 1635研究室 吉永：前期月曜3限 後期水曜2限 1601研究室 立川：水曜3限 1629研究室	
学生へのメッセージ	保育士資格・幼稚園教員免許の必修科目です。実習などでのやむを得ない欠席の場合も、後日必ず学習内容を確認して、それぞれの課題に臨みましょう。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当者は国公立小学校の教諭として教育研究に従事した経験を有する。文部科学省検定教書の編修著者代表や文部科学省学習資料作成委員として各教育委員会主催の現職教員の研究・研修及び地域行政や企業と連携するネットワークを生かし、今日的な教育・保育の課題に対応する情報や知見を提供する。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークによる課題への取り組みや発表など、さまざまな実践的ワークを通して主体的、能動的に学んでいく。
情報リテラシー教育	○	webコンテンツや参考図書、検索サイトを活用する学習を通して、情報の真偽や人権・法令に配慮する基礎的知識と基本的リテラシーを向上する。
ICT活用	○	タブレット型PCやアプリケーション、視聴覚機器などを課題解決に用いる学習を通して、チームアプローチによる討論や対話の深まりを体験的に理解する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	保育方法論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 末松 加奈	指定なし

ナンバリング

P30202M21

授業概要(教育目的)

本講義では、従来の保育思想を基本に踏まえながら、現代社会とのかかわりの中で改めて保育理論を構造的に解明し、保育方法の内容を検討し、保育実践を整理・再考できるようにする。乳幼児が主体的、自発的に遊び、活動する中で、価値のある学びが生まれ、心身のすこやかな成長と発達が助成される。そのような環境を構成し、価値のある取り組みができるように援助する方法を学び、幼稚園・保育所における保育の計画や指導方法、ならびに幼稚園教諭・保育士としての役割について考えられるようにする。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	保育の基本、および保育の方法に関する基本的知識を身につける。
思考・判断の観点 (K)	事例等から学び、自ら保育の方法を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	子どもへの理解を深め、保育者の役割について考えられるようになる。
技術・表現の観点 (A)	現場に生きるような保育の方法を考える力を身につける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション、保育方法とは何か	・授業の進め方、スケジュールなど、本講義の受講の仕方等について確認する。 ・保育の方法について「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」をもとに確認する。	・教科書第1章および幼稚園教育要領、保育所保育指針の説明した部分を読み返す。	180分
第2回	子ども理解からはじまる保育方法	・子どもの何を理解するのか確認する。 ・事例検討を通して、子どもの内面や発達を捉える視点を学ぶ。	教科書第1章、2章の説明した部分を読み返す。	180分
第3回	環境を生かした保育方法	・環境を生かした保育について、様々な園の事例を通して理解する。 ・グループで保育室・園庭の環境構成について話し合い、環境を構成することについて具体的に考える。	保育室・園庭の環境構成についてグループや個人で調べてくる。	180分
第4回	環境を生かした保育方法	・教室外学習で調べた内容をもとに、グループで理想となる環境を絵に描き発表する。	各グループで発表された内容を振り返り、環境構成において保育者として大切にしたいことをまとめる。	180分
第5回	遊びを通しての総合的な指導方法	・遊びの重要性について、事例をもとに理解を深める。 ・総合的な保育について、事例をもとにグループごとに検討し理解を深める。	教科書第4章を読み、総合的な保育を行う上で何が大切なのか考えをまとめる。	180分

第6回	個と集団を生かした保育方法	・個の育ちと集団の育ちについて事例をもとに理解を深める。	教科書第5章を読み返し、さらに理解を深める。	180分
第7回	子どもにふさわしい園生活と保育形態	・色々な園の保育形態（園の環境、方針、1日の流れや行事など）を調べ、グループ内で発表する。	教科書第6章の事例を読み、子どもにふさわしい園生活を考えるにあたり、保育者がどのような点に気をつければよいかまとめる。	180分
第8回	3・4・5歳児の発達の時期に応じた保育方法	・入園当初、園生活に慣れたころ、気の合う友達と遊びを進める時期、仲間と協力して生活する時期、卒園を前にした時期、それぞれの子どもの様子を事例から読み取る。さらに、各時期において保育者が大切にすべきことをグループで考える。	教科書第7章を読み返し、理解を深める。	180分
第9回	0・1・2歳児の発達の時期に応じた保育方法	・各年齢ごとに園に慣れるまでの子どもの様子を理解する。 ・各年齢の遊びの形と保育者の関わり方について理解する。 ・0・1・2歳の保育室の環境についてグループ毎にまとめる。	教科書第8章を読み返し、理解を深める。	180分
第10回	家庭・地域との連携を生かした保育	・連絡帳やクラスだより、園だよりを見て、グループで話し合いながら、園での子どもの姿や成長の様子を家庭や地域に伝える上で何が大切なのか理解する。	教科書第10章を読み返し、理解を深める。	180分
第11回	小学校との交流活動のデザインとアプローチカリキュラム	・事例をもとに幼小連携の実際について理解する。	教科書第11章の事例を読み、様々な交流活動があることを理解する。	180分
第12回	保育の計画・実践・評価	・教科書のワークをもとに、各自指導案を書く。	授業で作成した指導案を読み返し、修正等を行う。	180分
第13回	保育の計画・実践・評価	・前回作成した指導案をグループで読み合わせ、お互いに気付いたことや改善点などを話し合う。	グループの話し合いで出た意見をもとに、各自指導案を振り返る。	180分
第14回	配慮を要する子どもへの保育方法：統合保育の実際	・事例をもとに統合保育の実際について理解する。	教科書第12章を読み返し、理解を深める。	180分
第15回	配慮を要する子どもへの保育方法：外国とかかわりのある子どもへの保育の実際	・現在の外国と関わりのある子どもの実態を知る。 ・ワークを通して、具体的な配慮の方法について考える。	教科書第12章を読み返し、理解を深める。	180分

学習計画注記	※授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。				
学生へのフィードバック方法	課題等の提出物は、次週以降にコメントを記載して返却する。また、必要に応じて授業中に紹介するなどし、授業内容理解に役立てる。				
評価方法	平常点（提出物、授業態度、出席状況など）と定期試験で評価する。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点		○	○	○
	定期試験	○	○		
評価割合	平常点（提出物、授業態度、出席状況など）50%、定期試験50%				
使用教科書名 (ISBN番号)	「最新保育講座 6 保育方法・指導法」大豆生田啓友・渡辺英則・森上史郎 編（ミネルヴァ書房）				
参考図書	保育所保育指針（厚生労働省）、幼稚園教育要領（文部科学省） 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】保育の方法について総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。 【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能				

	<p>力・感性が備わっている。 【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組むことができている。子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。 【技能・表現】子どもの専門家として社会に貢献できる。</p>	
学生へのメッセージ	<p>事例の検討やグループワークなど、積極的に参加してください。自分の考えを持つこと、他者の考えを聞くことを大切にしてください。</p>	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	個別探究（個人で考える）→協同探究（グループ・ディスカッション）→個別探究（個人で考える）のサイクルを取り入れることで理解を深めます。
情報リテラシー教育	○	調べ学習の際には、情報発信元の信憑性をよく考えた上で適切に情報収集を行う。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	保育実践演習		
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 児童学科 教員	指定なし
准教授	中田 範子	指定なし

授業概要(教育目的)	地域社会が抱える児童にかかわる問題を取り上げ、多面的に分析・考察し、先の見通しを立て、課題解決の可能性を広げるための授業である。最終日にはこれらの実践活動を振り返り発表する。具体的には以下のような点を念頭に置く。 <ul style="list-style-type: none"> ・保育に関する科目横断的な学習である。 ・保育に関する現代的課題について取り上げ、現状分析や考察、検討を行う。 ・子どもに関する問題解決のための対応や判断について子どもを中心に置いて考え、討議する。 ・これまでの自らの学びを振り返り、保育士として必要な知識・技能の修得に関する確認と新たな課題を生成し、「反省的实践家」「学び続ける保育者」となるための基礎を培う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	学生自らが保育者としての自分の在り方について考え、現代的課題を多角的に分析し、解決するために求められることを考察する力を習得する
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士に必要な、専門的知識及び技術、教養、判断力、専門職としての倫理観等の資質能力が形成について最終的に確認し、補う。 ・地域社会が抱える児童にかかわる問題を取り上げ、多面的に分析・考察し、先の見通しを立て、課題解決の可能性を広げる。
技術・表現の観点 (A)	あるテーマのもとに調査、研究、討議の内容を他者にわかりやすく表現する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	保育実践演習ガイダンス	これまで得られた児童学の学修をもとに、保育士に必要な資質能力について考える。	ワークシートの作成	45分
第2回	調査研究・討議	次の①～⑧のうちいずれか、または全てを選択し、授業回数に入れる。その他、各教員の指導に基づいて子どもにかかわる実践や討議・調査・研究発表等を行う。 ① 子ども体験塾 ② 学外への見学、ボランティア ③ 特別公開講座(講座内容が保育分野であったときのみ) ④ 特別授業等の学内での講座 ⑤ 森のようちえん ⑥ 乳児グループ ⑦ 幼児グループ	実施レポートの作成	45分

		③ 特別公開講座（講座内容が保育分野であったときのみ） ④ 特別授業等の学内での講座 ⑤ 森のようちえん ⑥ 乳児グループ ⑦ 幼児グループ		
第23回	調査研究・討議	次の①～⑧のうちいずれか、または全てを選択し、授業回数に入れる。その他、各教員の指導に基づいて子どもにかかわる実践や討議・調査・研究発表等を行う。 ① 子ども体験塾 ② 学外への見学、ボランティア ③ 特別公開講座（講座内容が保育分野であったときのみ） ④ 特別授業等の学内での講座 ⑤ 森のようちえん ⑥ 乳児グループ ⑦ 幼児グループ	実施レポートの作成	45分
第24回	調査研究・討議	次の①～⑧のうちいずれか、または全てを選択し、授業回数に入れる。その他、各教員の指導に基づいて子どもにかかわる実践や討議・調査・研究発表等を行う。 ① 子ども体験塾 ② 学外への見学、ボランティア ③ 特別公開講座（講座内容が保育分野であったときのみ） ④ 特別授業等の学内での講座 ⑤ 森のようちえん ⑥ 乳児グループ ⑦ 幼児グループ	実施レポートの作成	45分
第25回	調査研究・討議	次の①～⑧のうちいずれか、または全てを選択し、授業回数に入れる。その他、各教員の指導に基づいて子どもにかかわる実践や討議・調査・研究発表等を行う。 ① 子ども体験塾 ② 学外への見学、ボランティア ③ 特別公開講座（講座内容が保育分野であったときのみ） ④ 特別授業等の学内での講座 ⑤ 森のようちえん ⑥ 乳児グループ ⑦ 幼児グループ	実施レポートの作成	45分
第26回	調査研究・討議	次の①～⑧のうちいずれか、または全てを選択し、授業回数に入れる。その他、各教員の指導に基づいて子どもにかかわる実践や討議・調査・研究発表等を行う。 ① 子ども体験塾 ② 学外への見学、ボランティア ③ 特別公開講座（講座内容が保育分野であったときのみ） ④ 特別授業等の学内での講座 ⑤ 森のようちえん ⑥ 乳児グループ ⑦ 幼児グループ	実施レポートの作成	45分
第27回	調査研究・討議	次の①～⑧のうちいずれか、または全てを選択し、授業回数に入れる。その他、各教員の指導に基づいて子どもにかかわる実践や討議・調査・研究発表等を行う。 ① 子ども体験塾 ② 学外への見学、ボランティア ③ 特別公開講座（講座内容が保育分野であったときのみ） ④ 特別授業等の学内での講座 ⑤ 森のようちえん ⑥ 乳児グループ ⑦ 幼児グループ	実施レポートの作成	45分
第28回	調査研究・討議	次の①～⑧のうちいずれか、または全てを選択し、授業回数に入れる。その他、各教員の指導に基づいて子どもにかかわる実践や討議・調査・研究発表等を行う。 ① 子ども体験塾 ② 学外への見学、ボランティア ③ 特別公開講座（講座内容が保育分野であったときのみ） ④ 特別授業等の学内での講座 ⑤ 森のようちえん ⑥ 乳児グループ ⑦ 幼児グループ	実施レポートの作成	45分
第29回	研究発表	保育実践演習報告会の準備及び実施（ポスターセッション）	本科目における学修内容をポスターにまとめる。	90分
第30回	研究発表	保育実践演習報告会の準備及び実施（ポスターセッション）	本科目における学修内容をポスターにまとめる。	90分

学習計画注記 各ゼミ担当教員の指導の下、外部機関と連携しながら学習を進めること。

学生へのフィードバック方法 学生が作成・提出したものは、授業担当者である各ゼミ担当者が添削し、返却する。フィードバックを通して、学生が、学修した内容を「どのように学んだか」「どう捉え、考えたか」の視点で深め、教員は保育士としてのキャリアアップにつながるような助言を与える。

評価方法
・提出物、報告会の発表内容等を対象に評価を点数化する。
・各ゼミ担当者が評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
実施レポート		○	○	
報告会の発表内容		○	○	○

評価割合	実施レポート60%、ポスター発表40%	
使用教科書名 (ISBN番号)	無	
参考図書	保育所保育指針、保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】児童学を構成する6領域「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。</p> <p>【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性が備わっている。</p> <p>【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。</p> <p>【技能・表現】本学科の特色ある授業への積極的な参加を通して理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる。</p>	
オフィスアワー	中田：前期は火曜日4,5限、後期は火曜日1-3限 具体的な内容については、各ゼミ担当教員を訪ねること	
学生へのメッセージ	指導担当教員と事前によく相談し、年間計画を立てて、グループで協働して主体的に地域貢献活動を進めていくことを望む。 保育士資格取得 必修	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員のうち2名は、保育士として実務経験を有しており、保育士に必要な資質・能力について実務経験に基づいて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	学外でのボランティア等の活動、見学、子どもや保護者との関わりを通して、現代的課題について理解を深める。
情報リテラシー教育	○	子どもや保育に関する諸問題について、様々な情報を収集するが、その情報の発信元や発信の目的等に目を向け、問題を解決するのに有益で信頼性のある情報か否かを判断する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	算数科教育		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 新海 公昭	指定なし

ナンバリング	P20303M21
授業概要(教育目的)	まずは、学習指導要領における小学校算数科の目標と内容（「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」および「数学的活動」）について解説する。次に、学びの連続性の観点から、小学校から高校までに学習する算数・数学を系統別に概観し、特に躓きやすい分野については再考するとともに、これらを分かりやすく指導するにあたって教師に必要とされるより深い数学的内容について解説する。また、幼小連携・接続、保小連携・接続等の観点から、就学前算数（インフォーマル算数）についても扱う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	発達の連続性を意識した就学前の算数に関する遊びを提案できる。小学校および中学校課程レベルの問題を解くことができるだけでなく、教えることができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	新学習指導要領の概略、就学前算数と数学の概論	小学校学習指導要領解説算数編および幼稚園教育要領解説の中で算数に関するポイントを学び、今後何を学ぶべきかを明らかにする。	予習：小学校学習指導要領解説算数編の第1章「総説」および第2章「算数科の目標及び内容」に目を通すこと。さらに、幼稚園教育要領解説の第1章「総説」および第2章「ねらい及び内容」第2節3の「環境」に目を通すこと。 復習：予習で指定した箇所を読み直ししながら、授業で学んだことを整理する。	180分
第2回	就学前算数1(数、量)	0歳児から5歳児までの数と量に関する発達を学ぶ。	復習：学修で得た知識を使って、発達段階に応じた数や量に関する遊びを考え始める。	180分
第3回	就学前算数2(図形、論理)	0歳児から5歳児までの図形と論理に関する発達を学ぶ。	復習：学修で得た知識を使って、発達段階に応じた図形や論理に関する遊びを考え始める。	180分
第4回	就学前算数	発達段階に応じた数や量に関する遊びの例を紹介する。	復習：中間テストに向かって、	240分

	3 (発達段階に応じた連続的な遊びの提案 1)		発達段階に応じた数や量に関する遊びを具体化する。	
第5回	就学前算数 4 (発達段階に応じた連続的な遊びの提案 2)	発達段階に応じた図形や論理に関する遊びの例を紹介する。	復習：中間テストに向かって、発達段階に応じた数や量に関する遊びを具体化する。	240分
第6回	数と計算 1 (数の体系, 四則演算, 記数法)	数の体系, 四則演算, 記数法, 筆算を学ぶ。	予習：配布プリントの課題に取り組む。 復習：配布プリントの課題について再考する。	180分
第7回	数と計算 2 (因数分解, 二次方程式や不等式)	文字式, 恒等式と方程式, 因数分解, 二次方程式や二次不等式を学ぶ。	予習：配布プリントの課題に取り組む。 復習：配布プリントの課題について再考する。	180分
第8回	測定および変化と関係 1 (量, 単位)	離散量と連続量, 量の性質, 単位を学ぶ。	予習：配布プリントの課題に取り組む。 復習：配布プリントの課題について再考する。	180分
第9回	測定および変化と関係 2 (単一量と複合量, 割合, 比)	単一量と複合量, 割合 (同種, 異種), 比を学ぶ	予習：配布プリントの課題に取り組む。 復習：配布プリントの課題について再考する。	180分
第10回	測定および変化と関係 3 (表とグラフ, 関数)	表とグラフから始めて, 関数を学ぶ。	予習：配布プリントの課題に取り組む。 復習：配布プリントの課題について再考する。	180分
第11回	図形 1 (平面幾何)	様々な平面図形とその性質, 面積について学ぶ。	予習：配布プリントの課題に取り組む。 復習：配布プリントの課題について再考する。	180分
第12回	図形 2 (立体幾何)	様々な空間図形とその性質, 体積を学ぶ。ユークリッド幾何およびリーマン幾何についても紹介する。	予習：配布プリントの課題に取り組む。 復習：配布プリントの課題について再考する。	180分
第13回	図形 3 (図形の合同, 図形の相似)	図形の合同, 図形の相似, 論証幾何を学ぶ。	予習：配布プリントの課題に取り組む。 復習：配布プリントの課題について再考する。	180分
第14回	データの活用 1 (平均値, 分散, 箱ひげ図)	まず, 平均値, 中央値, 最頻値を学ぶ。次に散らばりを見る分散, 箱ひげ図を学ぶ。	予習：配布プリントの課題に取り組む。 復習：配布プリントの課題について再考する。	180分
第15回	データの活用 2 (場合の数, 確率)	場合の数および確率 (条件付確率, ベイズの定理を含む) を学ぶ。	予習：配布プリントの課題に取り組む。 復習：配布プリントの課題について再考する。	180分

学生へのフィードバック方法 予習・復習で扱う課題について, 毎回回収してチェックをして返却する。質問等がある場合は遠慮せず1625研究室 (emailも可) まで訪問すること

評価方法

- 就学前算数の遊びの提案 (中間テスト)
第1回から第3回で学習した内容を踏まえて, 3歳児から5歳児の数, 量, 図形, 論理に関する具体的な遊びを提案する。その際, 子どもの発達段階に応じた連続的な遊びであるかを評価する。
- 定期テスト (期末テスト)
各回で学習した内容の類題を出題する。テスト中は教科書や参考書の持ち込みは不可とする。
- 課題

* テストや課題は, 下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
------	-----------	-----------	--------------	-----------

	遊びの提案（中間テスト）	○		
	定期テスト（期末テスト）	○		
	課題	○		
評価割合	遊びの提案(30%)、定期テスト(30%)、課題(40%)			
使用教科書名(ISBN番号)	小学校学習指導要領解説算数編（平成29年告示）（ISBN:978-4-536-59010-5） 幼稚園教育要領解説（平成30年3月）（ISBN:978-4-577-81447-5）			
参考図書	なし			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間社会と自然の多様性を，算数・数学的な知識をもって理解し，あるべき姿を的確に判断することができる。			
オフィスアワー	前期：水曜日12：30～14：00 後期：水曜日12：30～14：00			
学生へのメッセージ	算数・数学は，授業のみでは理解した気になるだけで身につかない。予習と復習を通して，自らの頭と手を動かして思考することが大事である。あるときは教師として，あるときは小学生として，算数・数学を考えてほしい。 授業は丁寧に説明したいと思うが，理解できない部分は，遠慮せずに気軽に1625研究室（emailも可）まで訪問すること。主体的に学んでほしい。			
教育等の取組み状況				
	該当 有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	生活科教育		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 中田 範子	指定なし

ナンバリング	P10301M21			
授業概要(教育目的)	<p>小学校教育課程の生活科で取り扱われている基本的事項について理解を深める。身近な生活に関する見方・考え方を生かし、自立し、生活を豊かにしていく資質・能力を育成することを目標にした生活科教育の特性を理解し、幼保小の接続のあり方を視野に入れながら学ぶ授業である。そのため、可能な限り、学内や学外での踏査を通じた演習を取り入れ、体験を通して小学校低学年の児童を対象とした生活科教育に役立つ知識、概念、技能を習得する。</p>			
履修条件	特になし			
学習目標(到達目標)	学習目標(到達目標)			
知識・理解の観点 (K)	幼稚園教育から小学校教育への接続の重要性を踏まえ、生活科の意義と内容の基本を説明できる。			
思考・判断の観点 (K)	生活科で取り上げている児童と人・自然・社会・家庭などのかかわりについて実践例を通して意義と内容を思考・判断できる。			
関心・意欲・態度の観点 (V)				
技術・表現の観点 (A)				
学習計画	学習計画			
回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス・我が国の小学生の生活	諸外国の子どもと我が国の子どもの生活や社会経験・自然体験について、調査結果をもとに理解し、小学校教育の中でできることを探る。	配布資料の演習問題を完成する。	90
第2回	子どもを取り巻く環境と生活	情報環境を含めて、子どもを取り巻く環境の現状と課題について理解を深める。	配布資料の演習問題を完成する。	90
第3回	就学前の教育・保育	幼児教育の概要と幼児期に育まれる「資質・能力」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について	配布資料の演習問題を完成する。	90
第4回	幼児教育と小学校教育の接続について	アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの目的と概要を理解しながら、幼児教育と小学校教育の違いと接続に関する課題について理解を深める。	演習問題を完成させる。	90

第5回	生活科の概要・目標	生活科創設の経緯を理解するとともに、現在の子どもを取り巻く環境や学校教育における課題に即して、生活科の位置づけや意義について理解する。	配布資料の演習問題を完成する。	90
第6回	学校と生活	学校内を探索することを通して、得られた気づきの質を高めることの意義と方法について理解する。	ワークシートを完成する。また、友人の記入したワークシートに教師の立場からコメントを記入する。	90
第7回	地域と生活	学校と地域の連携の重要性と児童にとっての意義について、理解する。児童館の見学を通して、地域と学校・家庭の連携や、地域に所在する子どもの居場所の実態を理解する。また、児童館の周囲の環境を踏査する。	踏査の結果をまとめ、考察する。	90
第8回	公共物や公共施設の利用	児童館の実態とその地域の特性について踏査した結果をもとに、児童の公共物・公共施設の利用に関する意義と意味について演習を交えながら考える。	地図を完成する。	90
第9回	季節の変化と生活	児童の自然体験活動の意義について理解する。	配布資料の演習問題を完成する。	90
第10回	自然や物を使った遊び	学内において、児童向けの野外活動を体験しながら、身近な自然から豊かな体験と気づきが得られる学習内容について検討する。	ワークシートに季節の移り変わりについて感じたことを「季節からの招待状」として作成する。	90
第11回	環境教育・家庭と生活	昨今の家庭環境の変化と課題について把握しながら、「地域に開かれた教育課程」について理解する。	演習問題を完成する。	90
第12回	動植物の飼育・栽培	児童にとっての石工栽培の意味、命の教育、食育について理解する。	ワークシートを完成する。	90
第13回	自分自身の成長	児童が捉える自己評価、他者評価について理解し、児童に対する教師の評価について理解する。	ワークシートを完成させ、友人のワークシートに教師としてのコメントを記入する。	90
第14回	多文化共生教育	学校教育における外国につながる児童に関する諸問題を理解する。	配布資料の演習問題を完成する。	90
第15回	子どもと事故、災害、安全教育	学校環境の安全対策の在り方について事例を交えながら理解する。	グループ討議の結果を踏まえたワークシートを完成する。	90

学習計画注記 授業の進行状況等により変更する場合があります。

学生へのフィードバック方法 提出されたワークシート等はすべて確認し、授業内に返却する。また、授業内に、適宜生活科教育の内容に合致したものか、自身の考察が適切に記入されているか等を観点とした助言を行う。

評価方法 提出物、学期末レポートの評価をすべて点数化して成績を付ける。また、提出期限が守られなかった場合には、減点の対象とする。

評価基準

評価基準					
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	
ワークシート	○	○			
学期末レポート	○	○			

評価割合 ワークシート40%、学期末レポート60%

使用教科書名 (ISBN番号) 特に指定しない。適宜授業時に紹介する。

参考図書 小学校学習指導要領生活編、同解説書、環境教育指導資料(幼稚園、小学校編)他、適宜授業中に示す。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】児童学を構成する6領域のうち、「子どもの教育」を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。
【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・感性が備わっている。

オフィスアワー 火曜日1-3限

学生へのメッセージ 学習を進めていく中では疑問点を持つことは大切です。疑問・質問がある場合には、遠慮せずに申し出てください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
--	------	----

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学内及び学外を踏査、見学を行う。また、学内において、自然と関わる演習を行う。
情報リテラシー教育	○	環境教育の実際について情報を収集し、レポート作成に活用する。
ICT活用	○	第4回目の授業「学校と生活」では、学内を踏査し、発見したもの等を画像を用いて伝える。その際には、デジタルカメラやパソコンを利用する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	音楽科教育		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 吉永 早苗	指定なし

ナンバリング	P30306M21
授業概要(教育目的)	子どもの音楽表現の発達の諸相を知ると同時に、乳幼児期の音楽表現の指導から小学校の音楽科の指導に関する知識と実践について解説する。学習指導要領の内容に沿って、音楽科の各領域（歌唱・器楽・鑑賞・音楽づくり）の内容について理解を目指す。また、歌唱や器楽、鑑賞等の実践を通して、学生自身の音楽実践力の向上を図る。
学習目標(到達目標)	
学習目標（到達目標）	
知識・理解の観点 (K)	幼児・児童期の音楽的発達について理解する。音楽表現の多様性を実感するとともに、教科教育としての音楽科の目標・内容・方法を理解する。
思考・判断の観点 (K)	音楽に関する知識・技能を応用して、幼児期の音楽表現活動や小学校音楽科の授業内容を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	生活や社会の中の音や音楽と豊かにかかわるとともに、表現することを楽しむ。わが国や諸外国の音楽に触れることを楽しむ。
技術・表現の観点 (A)	曲想と音楽の構造等の関わりについての理解、音楽表現に関する知識・技能、小学校音楽科学習指導要領にある【共通事項】に関する知識を用いて音楽表現を工夫したり、音楽づくりをしたりすることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション：音楽教育の意義と目的①	保育・学校教育における音楽教育は何を目指すのか	保育所保育指針、幼稚園教育要領、小学校音楽科学習指導要領等の関連箇所を読んでおく。	150分
第2回	音楽教育の意義と目的②	保育・音楽科教育の当たり前を疑ってみることを通し、保育者・小学校教師に求められる音楽的資質について考える。	保育者、小学校教師に、なぜピアノ実技が求められるのか考えてみる。また、「小学校音楽科・図画工作科を廃止し、表現科を設置する」となった時の、メリット・デメリットを考えておく(ディベート準備)。	150分
第3回	音楽教育の意義と目的③	小学校音楽科に関するマイクロディベート	論題に対する肯定側及び否定側立論を考える。	240分
第4回	子どもと音楽表現①身	事例に基づきながら解説を行う。写真や映像を視聴することを通し、子ども理解を深める。	テキスト第2章を読んでおく。	150分

	の回りのもの・楽器			
第5回	子どもと音楽表現② 声・歌唱	事例に基づきながら解説を行う。写真や映像を視聴することを通し、子ども理解を深める。	テキスト第3章を読んでおく。	150分
第6回	歌唱についての知識・技能②	声遊びからボイスアンサンブルへ。発声法について学ぶ。	テキスト第4章第2節の内容について予習しておく。	150分
第7回	歌唱についての知識・技能②	情景が伝わるように童謡を歌う。	1・2年次に使用した『ピッコリーノ』に収録された曲を復習しておく。	240分
第8回	歌唱についての知識・技能③	合唱の実践を通し、アンサンブルの美しさを感じ、合唱指導の基礎知識を学ぶ。	パート練習をしておく。	240分
第9回	音楽を通しての学校づくり	合唱指導を通し、クラス・学校づくりに取り組んできた実践家の、授業づくりに関する特別講義	合唱が発表できるよう、パート練習・全体練習を行う。	240分
第10回	サウンドエデュケーション	聴くことの教育とその実践方法について、体験を通して理解する。	テキストの第1章、第5章の通読。	150分
第11回	アンサンブルの基礎知識	ボディーパーカッションを通してその基礎知識を学ぶとともに、アンサンブルの教育的意義を考える。	課題曲の予習。	150分
第12回	音・音楽のコミュニケーション	身の回りのものを使った即興表現	テキスト第4章第3節の内容について予習しておく。	150分
第13回	音楽づくりの基礎知識	図形楽譜を描き、紙を使って音楽作品を制作する。	図形楽譜について調べる。様々な素材の紙を収集する。	240分
第14回	器楽についての基礎知識	保育・小学校音楽で使用する楽器について、実践を通してその基礎的な知識・技能を身につける。	リコーダーの練習をしておく。	150分
第15回	指揮法の知識・技能	既習曲を用いて指揮法の基礎的な知識を学び、実践を通してその基礎技能を習得する。	合唱指揮あるいはオーケストラの映像を探し、指揮の様子を視聴しておく。	150分

学習計画注記 学習内容により、教室を移動することがあります。

学生へのフィードバック方法 リフレクションシート、レポートは採点して、次週の授業で返却します。リフレクションシートに記載された質問事項についても、次週にお答えします。

評価方法 評価の視点は次の通りです。
・ディベートやペアトークに積極的に参加し、その内容に自分の考えを反映させてレポートやリフレクションシートが書かれているか。
・幼児期の音楽表現活動のねらいや、小学校音楽科の目標が理解されているか。
・表現活動に積極的に取り組み、基礎的な技能の習得につとめているか。
・音楽の基礎的な知識を理解し、音楽表現や音楽の授業プランへの応用を考えることができているか。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート	○	○		
作品発表	○		○	○
ディベート	○	○	○	
リフレクションシート	○	○	○	

評価割合 リフレクションシート (40%) 作品発表 (20%)、ディベートおよび期末レポート (40%) で評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) 無藤隆監修 吉永早苗著 「子どもの音感受の世界」 萌文書林 2016

参考図書 保育所保育指針解説
幼稚園教育要領解説
小学校学習指導要領解説 音楽編 文部科学省

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】
子どもの保育・子どもの教育・子どもの文化としての音楽についての知識を修得する。
【思考・判断】
音楽に関する知識・技能を応用して、幼児期の音楽表現活動や小学校音楽科の授業内容を考えることができる。
【関心・意欲・態度】
子どもの豊かな成長・発達を想定して、生活や社会の中の音や音楽と豊かにかかわる。

	【技術・表現】 協働して音楽表現に取り組むことにより、保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につける。															
オフィスアワー	前期・後期： 月曜日 3限 1601															
学生へのメッセージ	教科教育の基礎を学ぶとともに、音楽実践として合唱、合奏を行います。積極的な参加と自主的な練習を期待します。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>豊かな教師経験を有し、現在は授業・学校づくりの研修に従事している実践家の特別講義を実施する。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>音楽教育をテーマとしたディベートを行う。また、実践を通しての知識・技能を習得する。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td>○</td> <td>音楽の著作権法についての基本的な知識を学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	豊かな教師経験を有し、現在は授業・学校づくりの研修に従事している実践家の特別講義を実施する。	アクティブ・ラーニング	○	音楽教育をテーマとしたディベートを行う。また、実践を通しての知識・技能を習得する。	情報リテラシー教育	○	音楽の著作権法についての基本的な知識を学ぶ。	ICT活用		
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業	○	豊かな教師経験を有し、現在は授業・学校づくりの研修に従事している実践家の特別講義を実施する。														
アクティブ・ラーニング	○	音楽教育をテーマとしたディベートを行う。また、実践を通しての知識・技能を習得する。														
情報リテラシー教育	○	音楽の著作権法についての基本的な知識を学ぶ。														
ICT活用																

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	図画工作科教育		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 立川 泰史	指定なし

ナンバリング	P20306M21
授業概要(教育目的)	小学校図画工作科の特性を理解し、学習指導要領の目標と内容に準じた指導方法について学ぶ。A表現「造形遊びをする活動」、「絵や立体・工作に表す活動」においては、「思考・判断・表現」の力としての発想や構想に関する事項、「技能」に関する事項としての材料・用具の特徴、表し方を工夫する力の指導について体験的に理解する。「B鑑賞」においては、実践教材を用いた様々な展開方法や見方・感じ方を生活の中の造形に広げる指導や表現活動との連携などを考察する。理論と実践の両面から「形や色、イメージ」など、造形的な特徴への視点及び「内容の取り扱い」に必要な知識と技能の修得する。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	小学校図画工作科の教科の特性及び目標・内容・内容の取り扱い・評価活動について学習指導要領に基づく基礎的知識を有し、説明できる。
思考・判断の観点 (K)	小学校図画工作科の内容領域の構成と事項に基づいた題材の開発や展開について、発達に配慮した観点を基に学習指導計画案を作成できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	子どもの生活を取り巻く教育課題や造形文化に関心をもち、主体的な感性を重視する造形活動の意味や価値を説明できる。
技術・表現の観点 (A)	子どもが主体的に取り組む造形活動を開発・導入・展開する技能を有し、適切な評価の材料・観点について説明できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	今日的な教育課題と子どもの造形表現	今日的な教育課題と子どもの造形表現の関連を知り、子どもの生活に根ざす発想や表現の特徴について理解する。現代の社会・文化的状況や教育の歴史的変遷の観点から事例や情報を参照し、造形教育・教科学習の役割を理解する。	教育課題と期待する子ども像に関連した学校や地域の実例を参照し、特徴や観点を整理しておく。	180分
第2回	図画工作科の目標・内容と期待する児童像	図画工作科の目標・内容と期待する児童像の関連に着目して学習指導要領の改訂趣旨や教科目標を捉え、内容領域の構成、学年ごとの目標と内容、題材活動の概要を理解する。	学習指導要領の総則にある改訂趣旨・図画工作科の教科目標を参照し、重視する観点を整理しておく。	180分
第3回	A表現「造形遊び」(低学年)の指導と評価	A表現「造形遊び」(低学年)における指導と評価の一体的扱いについて、体験的に理解する。低学年児童の遊びや生活に根ざす発想過程と表現について理解する。	A表現「造形遊び」(低学年)の指導と評価について、検定教科書の題材や事例を参照しながら気付いた特徴や観点を整理しておく。	180分
第4回	A表現「造	A表現「造形遊び」(中・高学年)における指導と評価の	A表現「造形遊び」(中・高学	180分

	形遊び」(中・高学年)の指導と評価	一体的扱いについて、体験的に理解する。中学年・高学年児童の認識の発達に根ざす発想過程と表現について理解する。	年)における指導と評価について、検定教科書の題材や事例を参照しながら気付いた特徴や観点を整理しておく。	
第5回	A表現「絵に表す」活動の指導と評価	A表現「絵に表す」活動の指導と評価の一体的な扱いについて、体験的に理解する。描画材料や用具の基礎的な知識を知り、題材の目標との関連や育てたい資質・能力との関連を理解する。	A表現「絵に表す」活動の指導と評価について、検定教科書の題材や事例を参照し、気付いた特徴や観点を整理しておく。	180分
第6回	A表現「立体に表す」活動の指導と評価	A表現「立体に表す」活動の指導と評価の一体的な扱いについて、体験的に理解する。材料・用具の特徴や育てたい資質・能力との関連について理解する。	A表現「立体に表す」活動の指導と評価について、検定教科書の題材や事例を参照し、気付いた特徴や観点を整理しておく。	180分
第7回	A表現「工作に表す」活動の指導と評価	A表現「工作に表す」活動の指導と評価の一体的な扱いについて、体験的に理解する。工作と伝統工芸、理科工作との違いを知り、材料の特徴や発想過程を理解する。	A表現「工作に表す」活動の指導と評価について、検定教科書や事例を参照し、気付いた特徴や観点を整理しておく。	180分
第8回	デジタル機器やメディアコンテンツを活用する題材の展開	デジタル機器やメディアコンテンツを活用する題材の展開について、題材の目標との関連や機器機能の活用方法について体験的に理解する。タブレット型PCを有効に活用する表現活動について理解する。	デジタル機器やメディアコンテンツを活用する題材の展開について、検定教科書の題材や事例を参照し、気付いた特徴や観点を整理しておく。	180分
第9回	身体感覚や認識を楽しむ題材の展開	日常生活で培われる身体感覚や認識を楽しむ題材の展開について、発想過程や表現の特徴を体験的に理解する。感覚と連携する認識と造形発想について理解する。	日常生活で培われる身体感覚や認識を楽しむ題材の展開について事例を参照し、気付いた特徴や観点を整理しておく。	180分
第10回	造形的な関わりを楽しむコミュニケーション題材の展開	友だちとの造形的な関わりを造形発想や行為のきっかけとする題材について、「意味や価値をつくり出す喜び」と相互作用の関連に着目し、体験的に理解する。	友だちとの造形的な関わりに着目する造形表現について、検定教科書や事例を参照し、気付いた特徴や観点を整理しておく。	180分
第11回	B鑑賞「相互鑑賞活動」の展開と方法	B鑑賞「相互鑑賞活動」の展開と方法について、体験的に理解する。子どもの造形的な見方・感じ方を多面多様にするゲームや視覚機器(タブレット型PCやデジタルカメラ)を活用する実践事例を基に、鑑賞活動の可能性や課題を理解する。	B鑑賞「相互鑑賞活動」の展開と方法について、児童相互が見方・感じ方を変化させるための手だてや観点を整理しておく。	180分
第12回	B鑑賞「親しみのある造形文化や生活観を活かす鑑賞活動」の展開と方法	B鑑賞の独立した鑑賞活動について、親しみのある造形文化や生活観を活かす展開と方法について体験的に理解する。	B鑑賞「親しみのある造形文化や生活観を活かす鑑賞活動」の展開と方法について検定教科書の題材を参照し、気付いた特徴や観点を整理しておく。	180分
第13回	B鑑賞「表現と鑑賞を一体的に扱う題材」の展開と方法	B鑑賞「表現と鑑賞を一体的に扱う題材」の展開と方法について、体験的に理解する。表現から鑑賞に、または鑑賞から表現に領域を超えて働く子どもの感覚や感性の特徴を理解する。	B鑑賞「表現と鑑賞を一体的に扱う題材」の展開と方法をもつ活動について、検定教科書の題材を参照し、気付いた特徴や観点を整理しておく。	180分
第14回	身の回りの場所や自然を活用する題材の展開と方法	身の回りの場所や自然を活用する題材の展開と方法について、発想過程の特徴や内容領域を超えて働く子どもの感覚や感性を体験的に理解する。	身の回りの場所や自然を活用する題材の展開と方法について、検定教科書にある題材を参照し、気付いた特徴や観点を整理しておく。	180分
第15回	指導計画・評価計画の作成と実践	指導計画・評価計画の作成と実践方法について、具体的事例や集団討論を通して体験的に理解する。指導計画の作成方法や評価規準の扱いや評価材料の収集・活用計画の基本的な要件を理解する。	指導計画・評価計画の作成と実践について、検定教科書や教師用指導書から事例を参照し、気付いた観点を整理しておく。	180分

学習計画注記	履修者数やテーマに対する関心の広がりによってスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義及び討論・発表による混合形式。グループや全体のディスカッションでは適宜必要な解説と助言で応じる。毎回授業を振り返り、各自の気付きや考察を記して提出するドキュメントシートについて、コメント付きで返却する。 ・ 授業中盤で、子どもの発達に応じた対応に考慮した題材の略案を記す課題レポートの提出を求め、改善点をチェックして返却する。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回授業を振り返り、各自の気付きや考察を記して提出するドキュメントシート(各回200字程度)の提出を求める。記述内容について、学習目標の規準を観点に評価する。 ・ 発達を踏まえた題材の略案レポートは、発達に応じた対応を中心とする実践課題への着目と方略を観点に評価する。 ・ 学期末に、「生活や遊び・身近な材料を生かす造形題材」を共通テーマにした小論レポートの提出(1600～2000字程度)を求める。レポートは、学習目標の到達規準に準拠する観点から評価する。
評価基準	
評価基準	

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
ドキュメントシート	○	○	○	
課題レポート	○			○
小論レポート	○	○		
評価割合	平常点10%、ドキュメントシート20%、課題レポート20%、期末小論レポート50%を総合的に判断する。			
使用教科書名 (ISBN番号)	特になし (授業者が適宜資料を配布する)			
参考図書	①文部科学省『小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説・図画工作編』日本文教出版、2018年3月、ISBN-10: 4536590110 ②『形・色・イメージ+これからの図画工作』 (ISBN978-4-536-60007-1) (上記及びその他資料を授業内で適宜配布する。)			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】教科の特性を理解し、育む資質・能力について実践に必要な基礎的かつ専門的な知識を有している。 【思考・判断】教科の目標や内容・評価について、児童観・教材観・指導観を基に展開方法を考察する指導観と評価観を有している。 【関心・意欲・態度】児童の発達や造形教育の歴史の変遷に関心を持ち、現代的な課題の解決に向かう実践感覚を有している。 【技能・表現】造形的な見方・考え方を育む実践展開を考察・計画・評価する基本的な能力を有している。			
オフィスアワー	水曜3限・1629研究室			
学生へのメッセージ	講義内容を体験的に学ぶので、そのプロセスや成果を自身で記録・保管する。 参考資料は授業で適宜配布する。 講義のほか簡単な制作実技を行うため、動きやすく汚れてもよい服装や安全に配慮する。			
教育等の取組み状況				
	該当 有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、小学校教員としての経験を持ち、造形・美術教育の実践研究・開発・提案に従事した。文部科学省の学習資料作成委員や文部科学省検定教科書の編修者として、現職教員の研修・地域行政や社会的教育機関・企業などのネットワークを生かして、今日的な課題に応じた造形教育の内容や情報を考察対象として提供する。		
アクティブ・ラーニング	○	造形表現活動の意味や価値について体験的に理解するとともに、集団討論を通して、基礎的な知識・技能の実践的な活用・応用力を向上する。		
情報リテラシー教育	○	事前学習や集団討論に必要な観点の基礎になる実践事例の収集、自身が着目した観点から事後学習で参照する実態調査を通して、情報処理能力を向上する機会をもつ。		
ICT活用	○	教師や子どもの学習評価、表現・鑑賞活動の中でデジタル機器の活用場面を知るとともに、授業内の集団討論やプレゼンテーションでタブレット型 PC・アプリケーションコンテンツを活用する。		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	国語科教育（書写を含む）		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 深瀬 須美子	指定なし

ナンバリング	P10302M21
授業概要(教育目的)	国語科教育の意義、小学校国語科教育の目標や内容を理解し、小学校教師として指導にあたるにおいて必要な国語科教育についての基礎的知識を身に付ける。 概要 ・国語教育の歴史、今の国語科教育に至る背景 ・国語科教育の意義 ・小学校国語科教育に求められていること ・小学校国語科教育の目標や内容、方法 ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化や読書や言葉、書写などの言語文化」等における指導に必要な基礎的知識

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	国語教育の取り組みの歴史、背景をふまえて、国語科教育の意義、小学校国語科教育の目標や内容を理解し、指導に必要な基礎的知識を身に付ける。
思考・判断の観点 (K)	現代の国語科教育に求められていることを踏まえ、基礎的知識を生かして、授業構想に取り組み、指導の在り方を考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	毎時間の課題、提出課題に真摯に向き合い、学んだことをもとに自分の考えをもち、話し合いや記述等、学習に取り組んでいる。
技術・表現の観点 (A)	学習指導要領、指導に必要な基礎的知識等を、生かして授業を構想し、学習指導案に書き表すことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	“ガイダンス 国語科教育の意義”	“学習の見通しを持つ。文化審議会答申、国語科学習指導要領等の資料を読み、考えたことを話し合い、小学校国語科教育の目標、国語科教育のもつ意味について、理解する。”	毎回、ダウンロードした資料、配布する配布資料を読み、整理してファイルし持参する。途中、出された課題を期日までに提出する。	240
第2回	“国語科教育の内容”	小学校国語科学習指導要領解説を読み、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」から構成されている国語科の内容について理解する。	“小学校学習指導要領解説「国語編」を読んでおくことP12～P15 文部科学省HP「生きる力」をダウンロードし読んでおくこと 配布資料を読み、学んだことを身に付けておくこと。”	240
第3回	“学習指導要領の変遷	今までに取り組みられてきた国語科教育、PISA（国際的な学力調査）の変遷、学習指導要領の変遷等を振り返り、	国立政策研究所「教育課程の改善の方針、各教科等の目標、評	240

	と今まで取り組まれてきた国語科教育実践	国語科教育が目指すことについて考える。	価の観点等の変遷」をダウンロードし、読んでおくこと。	
第4回	読書活動	国語科で育成を目指す資質・能力をより高めるうえで重要な読書活動について理解する。	“配布資料を読み、学んだことを身に付けておくこと。 文部科学省HPを開き「読書活動推進」について優秀賞を得た全国の取り組みを読んでおくこと。”	240
第5回	“国語科教育の授業方法 1”	“主体的・対話的・深い学び”の実現に向け、「見方・考え方」「グループにおける対話」「振り返り」を大切に授業が求められていること、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力育成が求められていることを理解する。	“小学校学習指導要領解説「国語編」を読んでおくことP3～P5 配布資料を読み、学んだことを身に付けておくこと。”	240
第6回	国語科教育の授業方法 2	優れた学習指導案の授業を体験し、「国語で正確に理解し適切に表現する」主体的な学びを支え、言語活動を通して生きて働く「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」を育てていくという授業の在り方について理解する。	“文部科学省「言語活動の充実に関する指導事例集」第1章～第3章、国語科の指導事例をダウンロードし、読んでおくこと。 配布資料を読み、学んだことを身に付けておくこと。”	240
第7回	“国語科教育の基礎的知識「話すこと」”	“話すこと”を指導するうえで必要な基礎的事項を理解する。	“配布資料を読み、学んだことを身に付けておくこと。 「新訂国語便覧」の指示された箇所を読んで理解しておくこと。”	240
第8回	“国語科教育の基礎的知識「書くこと」”	“書くこと”を指導するうえで必要な基礎的事項を理解する。	“配布資料を読み、学んだことを身に付けておくこと。 「新訂国語便覧」の指示された箇所を読んで理解しておくこと。”	240
第9回	“国語科教育の基礎的知識「読むこと」”	“読むこと”を指導するうえで必要な基礎的事項を理解する。	“配布資料を読み、学んだことを身に付けておくこと。 「新訂国語便覧」の指示された箇所を読んで理解しておくこと。”	240
第10回	“国語科教育の基礎的知識「言葉・情報・言語文化」”	“言葉・情報・言語文化”を指導するうえで必要な基礎的事項を理解する。(書写を含む)	“配布資料を読み、学んだことを身に付けておくこと。 「新訂国語便覧」の指示された箇所を読んで理解しておくこと。”	240
第11回	“単元づくり 課題解決型学習の実践”	優れた学習指導案の授業を通して、児童の学びに向かう力を引き出しながら、主体的に学ぶ単元づくりの在り方について理解する。	“大学図書館等で小学校国語教科書1～6年を見ておくこと。 配布資料を読み、学んだことを身に付けておくこと。”	240
第12回	教材研究とは	優れた学習指導案の授業を通して、単元づくりにおける、教材選び、教材研究の在り方を理解する。	“配布資料を読み、学んだことを身に付けておくこと。 文部科学省「言語活動の充実に関する指導事例集」第1章～第3章、国語科の指導事例をダウンロードし、読んでおくこと。”	240
第13回	国語科教育を支える教具 ノート指導等	優れた学習指導案の授業を通して、国語科教育を支える教具 ノート指導等の在り方について理解する。	配布資料を読み、学んだことを身に付けておくこと。	240
第14回	“国語科教育をすすめる環境”	国語科教育を行う上での環境の重要性、在り方について現場の実際を踏まえながら理解する。	配布資料を読み、学んだことを身に付けておくこと。	240
第15回	まとめと評価	自らの学びを振り返り、国語科教育について学び続ける自らの学びの方向性を確認する。	配布資料を整理して国語科教育についての自らの学びを振り返る。	240

学習計画注記	授業の進み具合等によってスケジュールが変更になることもあります。ダウンロードした資料は持参して下さい。資料は、さかのぼって使用することがあります。○回○月○日配布と記入しファイルしておき資料整理、活用力も身に付けてください。
学生へのフィードバック方法	振り返りカードに書かれた振り返りや質問、提出課題などに、評価またはコメントを記入し返却する。
評価方法	“毎回、自身の取組の振り返りや、授業内容についての自身の考察を記入する。授業に真摯に参加し、記述する

ことで思考力・判断力・表現力を確認する。
最後の全体振り返りは、記述方法を提示する。毎回の授業の積み重ねの中で、得た知識を根拠として自分の考えが書けるようになることの確認を行う。

知識・理解 振り返り、提出課題記述内容 授業中の取組
思考・判断 振り返り 提出課題記述内容 授業中の取組
関心・意欲・態度 授業への取組 課題への取組 記述内容

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
振り返り記述内容	○	○	○	○
提出課題記述内容	○	○	○	○
授業への取組	○	○	○	○

評価割合

授業への取組 30%
振り返り記述内容 40%
提出課題への取組と記述内容 30%

使用教科書名 (ISBN番号)

“小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編 文部科学省 ISBN978-4-491-03462-1 東洋館出版
新訂 総合国語便覧 新版六訂 ISBN978-4-8040-3301-3 第一学習社

”

参考図書

“言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力の育成に向けて～ [小学校版] 文部科学省 教育出版

”

ディプロマポリシーとの関連

授業への積極的な参加を通して理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる。

学生へのメッセージ

生涯、主体的に学び続ける人の育成が求められています。学ぶために「話す・聞く」「書く」「読む」力を育てる国語科はさらに重要となってきました。指導するためには、信頼されるだけの知識、人としての姿勢が必要となります。日ごろから、探求心をもって主体的に学び、調べ、読書し、考えを交流し、振り返りをしながら、自らを高めていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	小学校教諭経験を活かし、実際の児童の様子、実際場面での指導の様子も具体的に示して授業を行う。
アクティブ・ラーニング	○	体験する、自らの考えを記述する、グループ等で交流する等の活動を取り入れて授業を行う。
情報リテラシー教育	○	指導を行う上で必要な情報の探索方法、情報モラル、伝えるための技法に触れながら授業を行う。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	体育科教育		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金子 和正	指定なし

ナンバリング	P20308M21
授業概要(教育目的)	子どもたちの健康の維持・増進、体力の向上及び健康な生活を維持するための基本の習得は小学校体育の目標です。体育科教育の各運動領域の特性について理解し、それぞれの領域の指導方法や展開について学びます。学習指導案の作成と模擬授業の展開から体育科教育の実践力を養います。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	小学校における体育科の授業を展開できる。
思考・判断の観点 (K)	児童の求めている授業内容を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	体育科の授業について関心を持ち、積極的に教えることができる。
技術・表現の観点 (A)	小学校体育科の授業において、実技の模範を示す技術をもっている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	小学校教科教育「体育科教育」の目的	体育は、すべての子どもたちが、生涯にわたって運動やスポーツに親しむのに必要な素養と健康・安全に生きていくのに必要な身体能力、知識などを身に付けることをねらいとすることを理解する。	小学校体育について文部科学省の体育科指導要領を通読しておく。	120分
第2回	指導計画と指導案作成	指導案に基づいた授業指導の手順を整理し、授業の展開を理解する。	指導案に基づいた指導の手順と、授業準備について理解しておく。	120分
第3回	模擬授業準備	模擬授業に必要な用具、生徒の動き、授業展開時の教員の位置、授業時配布物の確認を理解する。	授業準備と授業に必要な用具の点検、資料の用意、振り返りシート等の確認をする。	120分
第4回	指導案作成と模擬授業の展開Ⅰ	アイスブレイクを中心とした遊びを取り入れた授業の展開を理解する。	授業に参加する児童の気持ちを理解しておく。次回の授業に期待するように授業を展開することを理解しておく。	120分
第5回	指導案作成と模擬授業の展開Ⅱ	マット運動の授業展開を理解する。	柔軟体操の必要性、授業中の教員の位置、順番を待つ児童の位置、観察のポイント等について理解しておく。	120分
第6回	指導案作成と模擬授業	跳び箱の授業展開を理解する。	授業教材の的確な選択、踏み切り板の位置、マットの正しい位	120分

	の展開Ⅲ		置、事故防止への配慮等について理解しておく。	
第7回	指導案作成と模擬授業の展開Ⅳ	バトンパスの授業展開を理解する。	バトンパスの段階を追っての指導法を理解しておく。	120分
第8回	指導案作成と模擬授業の展開Ⅴ	陸上競技のハードルの授業展開を理解する。	インターバルの適切な距離、振り上げ足、両腕の役目等について理解しておく。	120分
第9回	指導案作成と模擬授業の展開Ⅵ	陸上競技の走り幅跳びの授業展開を理解する	助走、踏み切りの合わせ方、踏切角度、両腕の役目について理解する。	120分
第10回	指導案作成と模擬授業の展開Ⅶ	ボールゲーム（サッカー）の授業展開を理解する。	パスの種類、脚・足の使いかた、両腕のバランス、軸足の役目について理解しておく。	120分
第11回	指導案作成と模擬授業の展開Ⅷ	ソフトボールの授業展開を理解する。	ボールの握り方、手首、腕、肩の使い方、上体の使い方、遠投について理解しておく。	120分
第12回	指導案作成と模擬授業の展開Ⅸ	バスケットボールの授業展開を理解する。	ドリブルとパスについて理解しておく。	120分
第13回	指導案作成と模擬授業の展開Ⅹ	縄跳びの授業展開を理解する。	様々な跳び方について理解する。単縄や大縄を使用したの縄跳びを使ったゲームを理解しておく。	120分
第14回	指導案作成と模擬授業の展開Ⅺ	第5学年「けがの防止」（けがの手当）について授業展開を理解する。	「病気の予防」（生活行動がかかわって起こる病気の予防） 「病気の予防」（地域の様々な保健活動の取組）等について理解しておく。	120分
第15回	模擬授業の整理	模擬授業の整理をし、ふりかえりをする。	指導案の作成、授業資料の作成、授業展開について整理しておく。	120分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	毎時間展開される模擬授業に児童として参加し、教師役の学生の授業を評価できる。自身の授業の計画や実施に、そのフィードバックを効果的に使うことが可能である。
評価方法	1. 指導案の作成への取り組み、2. 指導案、3. 指導案にもとづいた授業の展開、4. 授業の振り返り、5. 授業への積極的な参加の5点からの総合評価とする。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
指導案の作成	○	○	○	
指導案	○	○	○	
授業の展開	○	○	○	○
授業の振り返り	○	○	○	
授業への積極的な参加	○	○	○	

評価割合	1. 指導案の作成への取り組み (20%)、2. 指導案 (20%)、3. 指導案にもとづいた授業に展開 (20%)、4. 授業の振り返り (20%)、5. 授業への積極的な参加 (20%) の5点からの総合評価とする。
------	--

参考図書	文部科学省「小学校学習指導要領解説-体育編-」
------	-------------------------

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 小学校体育科の目的や具体的な指導方法について理解している。 【思考・判断】 児童に対応した授業の構成ができる。 【関心・意欲・態度】 児童の積極的に行う。 【技術・表現】 小学生の体育科授業で取り上げる教材の模範演技ができる。
---------------	--

オフィスアワー	月曜日4時限目
---------	---------

学生へのメッセージ	子どもに体育を教えることの重要性和必要性について、基本的な考え方を身につけて欲しい。
-----------	--

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活か		

した授業		
アクティブ・ラーニング	○	児童が運動の方法やゲームのルールを積極的に修得するように、様々なメディアを用いて自ら学習するようにする。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	運動やスポーツの理解をするために、PC等を用いた授業を展開する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	社会科教育		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 未 定1	指定なし

ナンバリング	P20302M21
授業概要(教育目的)	・新学習指導要領に沿って、小学校社会科の目標及び内容、授業方法等について指導する。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	・小学校社会科の目標と内容(各学年の単元構成)を説明できる。
思考・判断の観点(K)	・主体的・対話的で深い学びを実現する授業形態・指導方法の有効性について説明できる。
関心・意欲・態度の観点(V)	・周囲と積極的に関わりコミュニケーションを取りながら、学習内容を理解しようとしている。
技術・表現の観点(A)	・「授業のまとめと振り返り」において、わかったことをまとめ、そこから考えたことを文章にまとめることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーションと社会科の概要	小学校社会科の目標と内容の全体像をつかむ。	(予習)『社会編』1~30、167~178ページを読んでおく。	180分
第2回	小学校社会科の目標と内容	「何ができるようになるか」「何を学ぶか」について理解する。	(予習)『社会編』148~153ページを読んでおく。	180分
第3回	「主体的・対話的で深い学び」と「問題解決的学習」	社会科の変遷を知り、目指す授業改善の方法を理解する。	(予習)『社会編』135~141ページを読んでおく。	180分
第4回	第3学年の学習	第3学年の学習を具体的に調べ、目標と内容について理解する。	(予習)『社会編』31~47ページを読んでおく。	180分
第5回	第4学年の学習	第4学年の学習を具体的に調べ、目標と内容について理解する。	(予習)『社会編』48~69ページを読んでおく。	180分
第6回	第5学年の学習	第5学年の学習を具体的に調べ、目標と内容について理解する。	(予習)『社会編』70~96ページを読んでおく。	180分
第7回	第6学年の学習	第6学年の学習を具体的に調べ、目標と内容について理解する。	(予習)『社会編』97~134ページを読んでおく。	180分

第8回	地図帳の活用	全学年を通した地図帳の活用方法について理解する。	(予習)『社会編』141～146ページを読んでおく。	180分
第9回	地球儀の活用	地球儀を製作し、地球儀の特性や活用法について理解する。	(予習)『地図帳』51～64、84～86ページを読んでおく。 (準備)はさみ、油性ペンを持参する。	180分
第10回	表現活動とICT活用の充実	社会科学習における表現活動・ICT活用の工夫について理解する。	(予習)『社会編』143～146ページを読んでおく。 (準備)インターネット検索ができるツール(スマートフォンやタブレット等)を持っている人は持参する。	180分
第11回	模擬授業①	学習指導案の作成と授業準備	(課題)授業発表の準備	180分
第12回	模擬授業②	模擬授業発表	(課題)ポートフォリオの作成と次回提出	180分
第13回	模擬授業③	学習指導案の作成と授業準備	(課題)授業発表の準備	180分
第14回	模擬授業④	模擬授業発表	(課題)ポートフォリオの作成と次回提出	180分
第15回	模擬授業⑤	模擬授業の振り返りと修正指導案の作成	(予習)模擬授業を振り返り、学習指導案を修正してくる。 (復習)試験(論述式)に向け、学習内容を復習しておく。	180分

学生へのフィードバック方法	・毎時間、授業の最後に5～10分間「授業のまとめと振り返り」の時間をとり、評価して次週の授業にて返却する。
評価方法	・毎時間、授業の最後に5～10分間「授業のまとめと振り返り」の時間をとり、評価して次週の授業にて返却する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
参加態度・発言等			○	○
授業のまとめと振り返り	○	○		
課題への取り組み			○	○
定期試験	○	○		

評価割合	・参加態度・発言等(25%) ・課題への取り組み(25%)	・授業のまとめと振り返り(25%) ・定期試験(25%)
------	----------------------------------	---------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	・『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説社会編』(文部科学省発行)(ISBN978-4-536-59009-9) ・『楽しく学ぶ小学生の地図帳』(帝国書院発行)(ISBN978-4-8071-6111-9)
-----------------	--

ディプロマポリシーとの関連	・【知識・理解】「子どもの教育」を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。 ・【思考・判断】家族・地域・社会と共同しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性が備わっている。 ・【関心・意欲・態度】子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。 ・【技能・表現】本学科の特色ある授業への積極的な参加を通して理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献する。
---------------	---

学生へのメッセージ	・現在「主体的・対話的で深い学び」を目指す授業改革が進められている。旧来の暗記中心の座学型授業形態から脱し、アクティブな授業形態のあり方を学び、その重要性に気付けるようにしていきたい。
-----------	--

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・担当教員は公立小学校の教員経験を有し、社会科教育について授業研究を続けてきた。児童の意欲を高める導入のあり方や学習課題への取り組みせ方のポイントを具体的に示しながら、わかりやすく指導していきたい。
アクティブ・ラーニング	○	・学習者が能動的に学ぶ方法として、グループディスカッション、ディベート、グループワーク等を取り入れ、体験的に学ばせたい。
情報リテラシー教育	○	・調べ学習をする際の図書の活用法やインターネットでの情報収集の仕方、調べた結果をまとめる方法、情報を扱う上での注意点(情報モラル)等について具体的に紹介し理解させたい。
ICT活用		

シラバス参照

講義名	理科教育		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 沼波 秀樹	指定なし

ナンバリング	P20304M21
授業概要(教育目的)	理科の学習では、子どもが自然に対して興味・関心をもち、問題解決の活動を通して科学的なものの見方や考え方をできるようになることが期待されている。小学校理科の目標と各区分の内容を理解し、子どもの自然認識の形成を図る基本的な指導法を習得する。理科離れ・理科嫌いと言われる最近の子どもにいかに関心を持たせるかについても考える。
履修条件	「生活科教育」を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	児童が科学的なものの見方や考え方を育てるように指導する知識を得ることが出来る。
思考・判断の観点 (K)	自身が科学的な思考の基本である客観的な考え方やそれに基づいた判断が出来て、それを児童に教えることが出来る。
関心・意欲・態度の観点 (V)	科学教育への関心、意欲、態度を持つことが出来る。
技術・表現の観点 (A)	小学校理科のVTR映像や講義中の実験を通して、児童に対して適切な表現が出来るようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション (小学校理科の初歩的知識の確認1)	「昆虫の体」(第3学年B領域「身の回りの生物」), 「ヒトの体」(第6学年B領域「人の体のつくりと働き」), 「月の動き」(第4今後, 小学校理科を教えるに当たり, 学年B領域「月と星」, 第6学年B領域「月と太陽」), 「流水のはたらき」(第5学年B領域「流れる水の働きと土地の変化」)について基本的な知識を問う課題を行って, 小学校理科の内容をどのくらい理解しているかを確認する。	時間中に作成した課題について, 各自で正解を調べ, 間違っている部分を訂正する。同時に周辺知識についても調べ, 最も興味深い現象についてまとめる。	180分
第2回	小学校理科の初歩的知識の確認2	前回の課題について各自で調べた正解について説明する。また, 一緒に調べた周辺知識について紹介・発表する。	発表を聞き, 最も興味の持った事象と最も興味の持てなかった事象について, その内容と興味を持った理由を書く。	180分
第3回	学習指導要領内容の変遷と現在の小学校「理科」の目的	学習指導要領の変遷と平成30年度から一部改訂が実施されている小学校学習指導要領について, 変更点などを解説する。	予習: 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説「理科編」p.1~11を読む。復習: 授業内容の確認。	180分
第4回	小学校理科	理科の教科目標について, 理科的な見方・考え方, 問題	予習: 小学校学習指導要領(平	180分

	教育の目標と内容1	を科学的に解決するために必要な資質・能力について解説する。	成29年告示)解説「理科編」p.12～19を読む。復習：授業内容の確認。	
第5回	小学校理科教育の目標と内容2	理科の内容構成(学年進行)について解説する。	予習：小学校学習指導要領(平成29年告示)解説「理科編」p.20～26を読む。復習：授業内容の確認。	180分
第6回	学年進行を経験する(植物の成長を例として)	学年目標の構成・内容の基本的な考え方を解説し、植物の成長を例として、VTR映像を使って学年進行を体験する。	予習：小学校学習指導要領(平成29年告示)解説「理科編」p.27～28を読む。復習：授業内容の確認。	180分
第7回	各学年の目標と内容1	第3学年の目標及び内容についてVTR映像も交えて解説する。	予習：小学校学習指導要領(平成29年告示)解説「理科編」p.29～44を読む。復習：授業内容の確認。	180分
第8回	各学年の目標と内容2	第4学年の目標及び内容についてVTR映像も交えて解説する。	予習：小学校学習指導要領(平成29年告示)解説「理科編」p.45～60を読む。復習：授業内容の確認。	180分
第9回	各学年の目標と内容3	第5学年の目標及び内容についてVTR映像も交えて解説する。	予習：小学校学習指導要領(平成29年告示)解説「理科編」p.61～74を読む。復習：授業内容の確認。	180分
第10回	各学年の目標と内容4	第6学年の目標及び内容についてVTR映像も交えて解説する。	予習：小学校学習指導要領(平成29年告示)解説「理科編」p.75～93を読む。復習：授業内容の確認。	180分
第11回	理科教育における体験的な学び1	「A.物質・エネルギー」区分の電気の働きについて、第3学年の「電気の通り道」に関連する簡単な実験を行い、理科教育における体験的な学びについて理解する。	予習：配布したテキストを読み、実験方法を確認する。復習：実験レポートの作成。	180分
第12回	理科教育における体験的な学び2	「A.物質・エネルギー」区分の電気の働きについて、第4学年の「電流の働き」に関連する簡単な実験を行う。さらに第6学年の「電気の利用」に結びつけるように理科教育における体験的な学びについて理解する。	予習：配布したテキストを読み、実験方法を確認する。復習：実験レポートの作成。	180分
第13回	社会教育施設との連携について1	小学校学習指導要領中の「指導計画の作成と内容の取扱い」中にある、博物館や科学館との連携について解説する。また、次回に見学する見学テーマ(学習目標)を決める。	予習：小学校学習指導要領(平成29年告示)解説「理科編」p.94～103を読む。予習：国立科学博物館のHPで展示の概要を調べる。	180分
第14回	社会教育施設との連携2	パソコンを使って国立科学博物館のHPで見学テーマ(学習目標)に合わせた見学ルートの検討する。	見学コースの検討。	180分
第15回	社会教育施設との連携3	国立科学博物館での学習目標に沿った見学を行う。見学後に展示を巡る見学ルートの再検討を行い、実際に児童との見学を想定し、フィードバックする。	見学レポートの作成。	180分

学習計画注記 博物館の見学先は、国立科学博物館(最寄り駅JR上野駅、東京メトロ上野駅、京成上野駅)を予定。上野駅までの交通費と入館料(630円)が必要となる。なお、3時間程度の見学を予定しているので、土日、祝日、補講日での見学となる。

学生へのフィードバック方法 発表については、解説と評価を口頭で伝える。レポート・提出物に関しては、コメントを返す予定。

評価方法 レポート・提出物、平常点の総合評価(平常点は授業への取り組み状況等で総合的に判断する)。授業内での提出物、レポートを出す予定である。授業に出席しなければ提出物は提出できないので注意すること。また、博物館の見学をするが、見学に参加しないとレポートは書けないので、注意すること。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解(K)	思考・判断(K)	関心・意欲・態度(V)	技術・表現(A)
レポート	○	○	○	○
提出物	○	○	○	
発表	○			○
授業への取り組み(平常点)			○	

評価割合 レポート・提出物(80%)、平常点(20%)の総合評価。

使用教科書名(ISBN番号) 小学校学習指導要領解説 理科編 ―平成29年7月(978-4-491-03463-8)

参考図書	適宜、授業中に紹介する。	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】子どもに関する専門的な知識が習得できている。</p> <p>【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。</p> <p>【技能・表現】本学科の特徴ある授業への積極的な参加を通して理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる。</p>	
オフィスアワー	月曜日1時間目 2309室	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	調査項目に関する発表と評価。
情報リテラシー教育	○	PCを利用した見学先の情報入手。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	国語科教育法（書写を含む）		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 深瀬 須美子	指定なし

ナンバリング	P20301M21
授業概要(教育目的)	<p>小学校における国語科教育の位置づけと役割、国語科の目標と内容を、教育にかかわる法、社会情勢を含めて理解する。指導するにあたって必要な基本的事項、小学校の低学年、中学年、高学年の各々の発達にふさわしい指導内容、主体的に学ぶ児童を育成し、思考力、判断力、表現力を身に付ける国語指導のありかたについて実践的に学習する。</p> <p>具体的には、小学校国語科教育の目標と内容、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の教材研究の実際、国語科授業展開の方法、書写指導の方法、学習評価のあり方等を、優れた授業の記録や、小学校の取り組み事例をもとに模擬授業や討論などにより学び、児童の視点に立ち、主体的な学びをひきだす国語科授業法を身に付けることを目指す。</p>

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	小学校国語科の目標と内容を関連付けて授業方法の説明ができる。
思考・判断の観点 (K)	小学校国語科の目標の背景、発達段階、児童の視点を根拠として、指導の在り方について考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	国語科教育の目標と児童の視点、主体的学びを意識して授業に参加している。
技術・表現の観点 (A)	学習指導要領、学習教材、読書教材を授業づくりに生かすことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	講座ひらき 15時間の 学びの見 通し	主体的な学びの指導者をめざし、目指す授業イメージ、指導者像をつかみ、自らの学びの目当てと意欲をもつ。	毎回、配布するレジメを読み、整理してファイルし持参する。途中、出された課題を期日までに提出する。	180分
第2回	学校教育に 求められて いること	現代社会が学校教育に求めていること、法が求めている教育について理解する。	小学校指導要領解説「国語編」総説を読んでおくこと P1～P10	180分
第3回	小学校国語 科教育の目 標	小学校国語科学習指導要領解説を読み、国語科教育の目標を理解する。	小学校指導要領解説「国語編」国語科の目標を読んでおくこと	180分

		学習指導要領を読み、児童の発達段階の概要と学習の系統について知る。	P11～P15 P196～p207	
第4回	小学校国語科学習指導要領解説の読み方と国語科の内容	小学校国語科学習指導要領解説の読み方を知り、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」から構成されている国語科の内容について理解する。 「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」の3領域と、言語活動を通して指導事項を指導することを知らる。	小学校指導要領解 「国語編」を読んでおく。 P16～P39	180分
第5回	小学校の国語科の授業の実際(1) 「話すこと・聞くこと」	言語活動を通して指導事項を指導する授業のあり方を優れた実践記録をたどり理解する。「話すこと・聞くこと」 言語活動とは何か。優れた実践記録等を見ながら体験し、気づいたことを交流する。 説明する スピーチをする 討論する	小学校指導要領解 「国語編」 「話すこと・聞くこと」を読んでおく。 P28～, P57～, P94～, P132～	180分
第6回	小学校の国語科の授業の実際(2) 「書くこと」	言語活動を通して指導事項を指導する授業のあり方を優れた実践記録をたどり理解する。「書くこと」 言語活動とは何か。優れた実践記録等を見ながら体験し、気づいたことを交流する。 手紙を書く 説明文を書く 新聞を作る 俳句・短歌・詩を書く	小学校指導要領解 「国語編」 「書くこと」を読んでおく。 P32～, P63～, P101～, P139～	180分
第7回	小学校の国語科の授業の実際(3) 「読むこと」	言語活動を通して指導事項を指導する授業のあり方を優れた実践記録をたどり理解する。「読むこと」 言語活動とは何か。優れた実践記録等を見ながら体験し、気づいたことを交流する。 音読する 物語を読み、感想を交流する 本を紹介する、推薦する	小学校指導要領解 「国語編」 「読むこと」を読んでおく。 P36～, P67～, P108～, P146～	180分
第8回	小学校の国語科の授業の実際(4) 書写 読書 漢字指導	書写、漢字指導、読書を取り入れた授業のあり方を優れた実践例をもとに一部、体験も取り入れながら理解する。	小学校指導要領解 「国語編」 を読んでおく。 P16～P27	180分
第9回	学ぶ意欲を引き出す授業づくりと学習評価の概要	児童の学ぶ意欲を引き出す授業作りのあり方と学習評価の目的、概要について理解する。	今まで配布された資料等を、授業で活用できるようファイルしておく。	360分
第10回	教材研究と授業計画づくり1	児童の目線にたった教材研究の重要性と授業計画への生かし方を、体験とグループ討議を通じて理解する。	第10回における教材研究、グループ討議をもとに細案、指導案本時案を作成する。出席を要する。	180分
第11回	教材研究と授業計画づくり2	児童の目線にたった教材研究の重要性と授業計画への生かし方を、グループ討議を通じて理解し、学習指導案本時案、細案を作成する。	第10回における教材研究、グループ討議をもとに細案、指導案本時案を作成する。出席を要する。	180分
第12回	教材研究と授業計画づくり3	細案をもとに、教師役と児童役に別れ実践しながら、グループで改善点を話し合い、発問・指示、板書、教材、支援等わかる授業に向けた工夫のあり方について理解する。	指導案本時案、細案を完成させて持参する。	180分
第13回	教材研究と授業計画づくり4	細案をもとに、教師役と児童役に別れ、実践しながら、グループで改善点を話し合い、発問・指示、板書、教材、支援等わかる授業に向けた工夫のあり方について理解する。	指導案本時案、細案を持参する。	180分
第14回	学んだことの振り返り 目指す国語の授業像、教師像、学びの目標の確認	今までの学びを振り返り、わかったこと、わからないことを整理するとともに、これから自ら目指す国語の授業像、教師像、学びの目標を確認する。	振り返り記入をするので前回までのレジメを読み返し、わかったこと、わからないことを整理するとともに自ら目指す国語の授業像、教師像、学びの目標を考察しておく。	180分
第15回	まとめ	前回の振り返り、疑問点、国語の授業像、教師像などを交流し、今後の学びの目標をもつ。グループ討議で解決できなかった疑問点を質問し、確実な学びを得る。		

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になることもあります。 配布資料は、さかのぼって使用することがあります。○回○月○日配布と記入し、ファイルしておき資料整理、活用力も身に付けて下さい。
学生へのフィードバック方法	振り返りカードに書かれた振り返りや質問、提出課題などに、評価またはコメントを記入し返却する。
評価方法	毎回、自身の取組の振り返りや、授業内容についての自身の考察を記入する。授業に真摯に参加し、記述することで思考力・判断力・表現力を確認する。 最後の全体振り返りは、記述方法を提示する。毎回の授業の積み重ねの中で、得た知識を根拠として自分の考えが書けるようになることの確認を行う。

知識・理解 振り返り、提出課題記述内容 授業中の取組
 思考・判断 振り返り 提出課題記述内容 授業中の取組
 関心・意欲・態度 授業への取組 課題への取組 記述内容

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
振り返り記述内容	○	○	○	○
提出課題記述内容	○	○	○	○
授業への取組	○	○	○	○

評価割合	授業への取組 30% 振り返り記述内容 40% 提出課題への取組と記述内容 30%
使用教科書名 (ISBN番号)	小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 国語編 文部科学省
参考図書	言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力の育成に向けて～ [小学校版] 文部科学省
ディプロマポリシーとの関連	関心・意欲・態度 子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身に付けている。
学生へのメッセージ	生涯、主体的に学び続ける人の育成が求められています。学ぶために「話す・聞く」「書く」「読む」力を育てる国語科はさらに重要となってきています。そして指導するためには、児童との信頼感が土台となります。日ごろから、探求心をもって主体的に学び、読書しましょう。そして、児童の気持ち、思いに寄り添える、信頼される教師となるために、常にどうすればよいか考え、互いの考えの交流を行い、自らを振り返ることを大切にしながら、学んでいきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	小学校教諭経験を生かし、実際の児童の様子、実際場面での指導の様子も具体的に示して授業を行う。
アクティブ・ラーニング	○	体験する、自らの考えを記述する、グループ等で交流する等の活動を取りいれて授業を行う。
情報リテラシー教育	○	指導を行う上で必要な情報の探索方法、図書館の活用、情報モラル、伝えるための技法に触れながら授業を行う。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	社会科教育法		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 佐藤 広美	指定なし

ナンバリング	P30301M21
授業概要(教育目的)	小学校の社会科の目標・内容を確認し、子どもたちに如何に授業を行うか、その要点をのべる。また社会科誕生(戦後に誕生した新しい科目である)から現在に至る、すぐれた社会科授業を分析し、遺産を学びたい。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	学習指導要領と実際の教科書の「比較ができること。教師の工夫や子ども理解に即して、社会科教育の編成が出来ること。
思考・判断の観点 (K)	社会科の基礎は社会科学の基礎にもとづく。学問的な基礎の上で、実際の教育現場の応用が可能なように思考と判断力の形成が重視される
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

社会科教育府

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	社会科教育法とは何か	講義で配布した資料とテキストを読み直し、KGノートを作成する。	180分
第2回	社会科の誕生	戦前の修身、地理、国史	講義で配布した資料とテキストを読み直し、KGノートを作成する。	180分
第3回	社会科の誕生	戦前の教科書	講義で配布した資料とテキストを読み直し、KGノートを作成する。	180分
第4回	社会科の誕生	戦後教育改革と社会科の誕生	講義で配布した資料とテキストを読み直し、KGノートを作成する。	180分
第5回	社会科の誕生	山びこ学校	講義で配布した資料とテキストを読み直し、KGノートを作成する。	180分
第6回	社会科の誕生	社会科と日本国憲法	講義で配布した資料とテキストを読み直し、KGノートを作成する。	180分

			る。	
第7回	社会科と地域	戦後日本社会の発展と社会科の課題	講義で配布した資料とテキストを読み直し、KGノートを作成する。	180分
第8回	学習指導要領と社会科	社会科学学習指導要領	講義で配布した資料とテキストを読み直し、KGノートを作成する。	180分
第9回	学習指導要領	社会科の構成	講義で配布した資料とテキストを読み直し、KGノートを作成する。	180分
第10回	学習指導要領	目的と方法	講義で配布した資料とテキストを読み直し、KGノートを作成する。	180分
第11回	社会科の目的	社会科3年生	講義で配布した資料とテキストを読み直し、KGノートを作成する。	180分
第12回	社会科の目的	社会科4年生	講義で配布した資料とテキストを読み直し、KGノートを作成する。	180分
第13回	社会科の目的	社会科5年生	講義で配布した資料とテキストを読み直し、KGノートを作成する。	180分
第14回	社会科の目的	社会科6年生	講義で配布した資料とテキストを読み直し、KGノートを作成する。	180分
第15回	社会科の目的	社会科の評価と方法	講義で配布した資料とテキストを読み直し、KGノートを作成する。	180分

学生へのフィードバック方法	KGノート（家庭学習の一と）を作成するよう指示する。講義で作成されたノートを、自宅で再度、読み直して、テキストや資料の文章を、書き写して、知識の定着を確実なものにする。KGノートの点検を時々行うことを学生に周知させる。
---------------	---

評価方法	KGノートと定期試験（レポート）の、総合評価
------	------------------------

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験（レポート）	○	○		
KGノート	○		○	

評価割合	授業への出席、発言、レポートの提出、試験など総合評価。
------	-----------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説社会編
-----------------	--------------------------

参考図書	講義の中で適宜、紹介する。
------	---------------

ディプロマポリシーとの関連	知識・理解、豊かな知識を得ることができる 思考・判断力、ありべき人間と教育の姿を追究し、判断力を形成できる
---------------	--

オフィスアワー	月曜4限
---------	------

学生へのメッセージ	小学校課程の免許取得希望者は、例年、30数名ですので、ゼミ形式を採用している。講義をただ受けるという姿勢ではなく、積極的に、参加する態度が絶対に不可欠である。また、予習など、事前の準備をきびしく要求する。 日本とはどのような国家なのか、その点を、これまでの教科書はどのように子どもたちに教えようとしてきたのか、その点の基本学習を積んでおくことが重要である。
-----------	---

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー		

教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	算数科教育法		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 新海 公昭	指定なし

ナンバリング

P30302M21

授業概要(教育目的)

学習指導要領における小学校算数科の目標と内容（「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」および「数学的活動」）を読み解くことで、各領域の学習内容や指導方法そして評価方法について理解し、実際に子どもを指導できる力を養成する。そのために、教材研究、指導案の作成、模擬授業、協議会を通して、実践的な授業力や指導力を養う。関連して、模擬授業では、教材・教具（ICTを含む）を、その有効な役割を理解できるように、積極的に活用する。

また、現場の小学校教員による特別講義を提供することで、算数科をとりまく今日的な課題や子どもの実態に即した教育法について知り、授業における教師の役割についての認識を深めるための機会をつくる。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	小学校および中学校課程の問題を解くことができるに留まらず、その問題の背景や系統的な視点で教えることができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	学習で得た知識・技術・思考をもって算数授業や学級運営等の中でみえる様々な課題に対応することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	算数教育、新学習指導要領と算数科の目標	主体的・対話的で深い学びを目指す算数教育、ICTを用いた算数教育、カリキュラム・マネジメントに基づく算数教育、算数教育のユニバーサルデザイン、数学的活動の重視の観点から算数科の目標を確認する。	予習：教科書第1章と第2章（1ページから25ページ）に目を通すこと。適宜、小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習：予習で指定した箇所を読み直ししながら、授業で学んだことを整理し報告書を作成する。	180分
第2回	「A 数と計算」の指導	「A 数と計算」の指導法を学ぶ。数学的活動も考える。	予習：教科書第3章（27ページから61ページ）に目を通すこと。適宜、小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習：予習で指定した箇所を読み直ししながら、授業で学んだことを整理し報告書を作成する。	180分
第3回	「C 測定」の指導	「C 測定」の指導法を学ぶ。数学的活動も考える。	予習：教科書第5章（87ページから94ページ）に目を通すこ	180分

			と。適宜，小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習：予習で指定した箇所を読み直ししながら，授業で学んだことを整理し報告書を作成する。	
第4回	「C 変化と関係」の指導	「C 変化と関係」の指導法を学ぶ。数学的活動も考える。	予習：教科書第6章（97ページから105ページ）に目を通すこと。適宜，小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習：予習で指定した箇所を読み直ししながら，授業で学んだことを整理し報告書を作成する。	180分
第5回	「B 図形」の指導	「B 図形」の指導法を学ぶ。数学的活動も考える。	予習：教科書第4章（65ページから85ページ）に目を通すこと。適宜，小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習：予習で指定した箇所を読み直ししながら，授業で学んだことを整理し報告書を作成する。	180分
第6回	「D データの活用」の指導	「D データの活用」の指導法を学ぶ。数学的活動も考える。	予習：教科書第7章（109ページから124ページ）に目を通すこと。適宜，小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習：予習で指定した箇所を読み直ししながら，授業で学んだことを整理し報告書を作成する。	180分
第7回	算数の授業づくり，指導計画の作成と評価1	算数の授業づくりにおける学習指導の視点を学ぶ。	予習：教科書第8章（127ページから130ページ）に目を通すこと。適宜，小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習：予習で指定した箇所を読み直ししながら，授業で学んだことを整理し報告書を作成する。	180分
第8回	算数の授業づくり，指導計画の作成と評価2	評価と指導，学習指導案の作成方法を学ぶ。	予習：教科書第9章（135ページから144ページ）に目を通すこと。適宜，小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習：予習で指定した箇所を読み直ししながら，授業で学んだことを整理し報告書を作成する。	180分
第9回	模擬授業と協議会1（1年生）	1年生の学習内容において，模擬授業と協議会を行う。模擬授業では積極的にICTを活用する。	予習：授業者は指導案作成等を含めた授業準備を行う。授業者以外は，授業者の授業の指導案に目を通して，その前後を含めた単元の理解を深めておく。適宜，小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習：協議会の内容を整理し，省察を通してよりよい授業を行うための提案を行う。	180分
第10回	模擬授業と協議会2（2年生）	2年生の学習内容において，模擬授業と協議会を行う。模擬授業では積極的にICTを活用する。	予習：授業者は指導案作成等を含めた授業準備を行う。授業者以外は，授業者の授業の指導案に目を通して，その前後を含めた単元の理解を深めておく。適宜，小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習：協議会の内容を整理し，省察を通してよりよい授業を行うための提案を行う。	180分
第11回	模擬授業と協議会3（3年生）	3年生の学習内容において，模擬授業と協議会を行う。模擬授業では積極的にICTを活用する。	予習：授業者は指導案作成等を含めた授業準備を行う。授業者以外は，授業者の授業の指導案に目を通して，その前後を含めた単元の理解を深めておく。適宜，小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習：協議会の内容を整理し，省察を通してよりよい授業を行うための提案を行う。	180分
第12回	模擬授業と協議会4（4年生）	4年生の学習内容において，模擬授業と協議会を行う。模擬授業では積極的にICTを活用する。	予習：授業者は指導案作成等を含めた授業準備を行う。授業者以外は，授業者の授業の指導案に目を通して，その前後を含めた単元の理解を深めておく。適宜，小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習：協議会の内容を整理し，	180分

			省察を通してよりよい授業を行うための提案を行う。	
第13回	模擬授業と協議会5 (5年生)	5年生の学習内容において、模擬授業と協議会を行う。模擬授業では積極的にICTを活用する。	予習：授業者は指導案作成等を含めた授業準備を行う。授業者以外は、授業者の授業の指導案に目を通して、その前後を含めた単元の理解を深めておく。適宜、小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習：協議会の内容を整理し、省察を通してよりよい授業を行うための提案を行う。	180分
第14回	模擬授業と協議会6 (6年生)	6年生の学習内容において、模擬授業と協議会を行う。模擬授業では積極的にICTを活用する。	予習：授業者は指導案作成等を含めた授業準備を行う。授業者以外は、授業者の授業の指導案に目を通して、その前後を含めた単元の理解を深めておく。適宜、小学校学習指導要領解説算数編も確認する。 復習：協議会の内容を整理し、省察を通してよりよい授業を行うための提案を行う。	180分
第15回	特別講師による種々の教育法の提案および模擬授業と協議会	特別講師から、算数科をとりまく現場の今日的な課題や子どもの実態に即した教育法について学ぶことで、授業における教師の役割についての認識を深める。	予習：事前に告知された課題に取り組む。 復習：授業で学んだことを整理し報告書を作成する。	180分

学生へのフィードバック方法
復習で扱う報告書や模擬授業後の提案については、毎回回収してチェックをして返却する。質問等がある場合は遠慮せず1625研究室（emailも可）まで訪問すること。また、模擬授業実施にあたっては、授業時以外の時間で、指導案検討等の模擬授業ための指導を行う。

評価方法
1. 指導案作成
内容を評価する。
2. 模擬授業
模擬授業の内容と協議会のやりとりを評価する。
3. 課題
毎回の復習時に取り組む報告書や、模擬授業後の省察や授業の改善案の提案の内容を評価する。
*上記の評価項目は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
指導案作成	○			
模擬授業と協議会	○			○
課題	○			

評価割合
指導案作成 (30%)， 模擬授業と協議会 (40%)， 課題 (30%)

使用教科書名 (ISBN番号)
小学校学習指導要領解説算数編 (平成29年告示) (ISBN:978-4-536-59010-5)
小学校算数科教育法 (ISBN:978-4-7679-2112-9)

参考図書
なし

ディプロマポリシーとの関連
【知識・理解】人間社会と自然の多様性を、算数・数学的な知識をもって理解し、あるべき姿を的確に判断することができる。
【技能・表現】学修で得た算数・数学的知識・技術をもって、算数授業や学級運営、さらには人間社会や自然の中にみえる課題を発見し、その課題を論理的に分析・統合・表現することで、他者との共感を創り出すことができる。

オフィスアワー
前期：水曜日 12:30～14:00
後期：水曜日 12:30～14:00

学生へのメッセージ
算数・数学は、授業のみでは理解した気になるだけで身につかない。予習と復習を通して、自らの頭と手を動かして思考することが大事である。あるときは教師として、あるときは小学生として、算数・数学を考えてほしい。
授業は丁寧に説明したいと思うが、理解できない部分は、遠慮せずに気楽に1625研究室（emailも可）まで訪問すること。主体的に学んでほしい。
必修 (小)

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	大学教員が学問の専門性を伝えるだけでなく、現場の教員から日々の実践研究に裏付けされた視点による今日的な課題や子どもの実態に即した教育法について知り、授業における教師の役割についての認識を深める。
アクティブ・ラーニング	○	模擬授業はまさにアクティブ・ラーニングであることが求められる。また、協議会等では、学生同士で活発な議論を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	模擬授業時は、積極的にICTの活用をする。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	理科教育法		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	4 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 猿渡 厚史	指定なし

ナンバリング	P30303M21
授業概要(教育目的)	子どもに対して、理科の楽しさや興味・関心をもたせるためには、子どもの考えに基づいた問題が大切となる。本授業では、子どもの問題解決的な学習を構成できる資質・能力を身につけることを目的とする。初等理科での授業実践に必要な基礎的内容・方法を学ぶ授業内容となる。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	
学生へのフィードバック方法	1. 授業前半は、講義形式で行うが、授業後半は、学生同士の話し合いを中心に授業を進める。
評価基準	
評価基準	
評価割合	授業でのポートフォリオ作成 (30%)、平常点 (30%)、事後テスト(40%)の結果より評価する。(平常点は、授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する。)
使用教科書名 (ISBN番号)	森本信也・森藤義孝著「小学校理科の指導」第2版、建帛社 2018年4月に改訂版が出版される。
参考図書	森本信也著「考える力が身につく対話的な理科授業」、東洋館出版社、ISBN-10: 4491028869 ISBN-13: 978-4491028866
ディプロマポリシーとの関連	木曜午前にしか出講していない。まずは、atkuroda@kanto-gakuin.ac.jpのメールにて受け付ける。
学生へのメッセージ	理科教育法を受講するための準備として、身の回りにある自然や科学について考える習慣をもってほしい。また、将来、皆さんが向き合う小学生は、それについて如何に考えるだろうかという見方・考え方も養ってもらいたい。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	生活科教育法		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 池田 仁人	指定なし

ナンバリング	P20305M21
授業概要(教育目的)	生活科の成果と課題の検討、授業参観を通して授業構成の原理を探求し、生活科の授業を計画・実施するために必要な力量を育成するとともに授業技術の向上をはかる。また、学習指導案を作成し、模擬授業を展開する事を通して生活科授業実践のための指導力を育成する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	学習目標(到達目標)
知識・理解の観点(K)	小学校教育における生活科の役割を理解する。
思考・判断の観点(K)	生活科における子どもの見方、支援の仕方について理解する。
関心・意欲・態度の観点(V)	模擬授業及びその準備に積極的に参加する。
技術・表現の観点(A)	指導案作成を通し生活科授業を構成する力および生活科の活動計画を作成する力を身につける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	生活科の理念と目標	生活科で育てたい子ども像や生活科の役割について解説する。	学習指導要領解説生活編を熟読し、生活科の目的や育てたい子ども像について具体的に捉えておく。	160分
第2回	生活科の現状と課題	現在の生活科が置かれている状況、問題点などについて解説する。	生活科成立までの歴史や現在の問題点などについて調べておく。	120分
第3回	生活科の授業例の紹介	生活の理念に沿った学習展開の例を紹介する。	生活科の理念に沿った投げかけや展開の仕方について整理する。	180分
第4回	授業の実際	ビデオ視聴を通し、授業の見方や授業展開上の疑問点などを整理する。	生活科の理念に沿った投げかけや展開の仕方について整理すると共に生活課を構成する上でわからないことなどを整理しておく。	180分
第5回	生活科の指導計画の解説①	教材開発から単元計画の立て方について解説し、生活科単元の骨組みを考える。	自らの生活科の経験を振り返り、どのような活動がどのような目的の下に行われたかについて考察する。	180分

第6回	生活科指導計画基礎資料作成	生活科マップ・カレンダー等の作成及び機器の活用について解説する。	校外や実際の町に出て、活用できそうな教材をピックアップする。	200分
第7回	生活科の指導計画の解説②	単元目標の設定の仕方について解説し、実際に計画を立てる。	教材を設定し、単元の枠組みを考えておく。 授業後、生活科の理念を反映させて単元目標を修正していく。	240分
第8回	生活科の指導計画の解説③	指導観、教材観、児童観について解説する。	主に指導の流れについて修正を加える。 扱う教材について下調べをしておく。	180分
第9回	生活科の指導計画の解説④	全体指導計画の立案について解説し、実際に単元計画を立てる。	指導の流れや教材観をもとにし、授業中に立てた単元の計画を修正していく。	180分
第10回	生活科の指導計画の解説⑤	本時の授業計画案作りについて解説し、実際に一時間の計画を立てる。	指導計画や子どもへの投げかけを想定し、指導案の修正をする。また、教材の調べ活動も引き続き行う。	180分
第11回	生活科の指導計画の実際①	各グループ（若しくは個人）で授業計画を立案する。	授業では各々が持ち寄った指導計画をもとに模擬授業で用いる授業を検討するので、その準備を行う。	180分
第12回	生活科の指導計画の実際②	授業計画案作りの仕上げと模擬の授業準備を行う。	授業内で検討し尽くせなかった指導案の作成と、模擬授業に用いる教材の準備を行う。	180分
第13回	生活科の指導計画の実際③	授業計画案作りの仕上げと模擬の授業準備を行う。	授業内で検討し尽くせなかった指導案の作成と、模擬授業に用いる教材の準備を行う。	180分
第14回	模擬授業	PC・プロジェクター・ICレコーダーなど視聴覚機器も活用しながら授業計画を元にして役割分担して授業（活動）を行う	役割分担の練習を行い、授業の準備をする。 授業後はどの点が良かったか、また良くなかったかについて考察する。	180分
第15回	模擬授業の反省まとめ	導入の仕方、支援などの観点に基づいて反省を行う。 その他、生活科を中心に据えた低学年学級経営などについて解説する。	模擬授業の反省をまとめ、低学年指導の仕方について考察する。	180分

学生へのフィードバック方法 単元計画や単元目標、指導観など、その時間で立てた計画等は回収し、添削を加えて返却することにより、指導案作りの力が身につくようにしていく。

評価方法 ・授業の中で作成した単元目標、指導観や単元計画など（授業内のレポート）と完成した指導案で総合的に評価する。
・模擬授業の完成度を評価に加える。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業内レポート	○	○	○	○
指導案	○	○		○
模擬授業			○	

評価割合 授業内レポート(20%)、指導案(70%)、模擬授業(10%)

参考図書 小学校学習指導要領解説生活編

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】児童学を構成する6領域のうち、「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」を理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている
【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・感性が備わっている
【技能・表現】本学科の特色ある授業への積極的な参加を通して理論と実践の融合を図り、子ども専門家として社会に貢献できる

学生へのメッセージ 生活科は特に学級経営・子ども支援に影響のある科目です。低学年教師になったつもりで取り組んで下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活か	○	担当者は小学校教員経験者である。実際の授業や低学年指導の様子を話しながら、イメージしにくい生活科の授

した授業		業について教授していく。
アクティブ・ラーニング	○	模擬授業を行ううえで、学生同士で内容を検討しながら学びを進めていく。また、実際に低学年が行う活動を体験し、実体験の重要性などについて理解する。
情報リテラシー教育	○	季節や地域の特長を活かすために、図書資料、映像資料、文献等を検索し、活用する。
ICT活用	○	模擬授業に於いて、導入に視聴覚機器を用いるなどして子どもの関心を引き起こすようにする。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	音楽科教育法		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 吉永 早苗	指定なし

ナンバリング	P30307M21
授業概要(教育目的)	小学校音楽科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された小学校音楽科の学習内容について、目標・内容・指導計画等と対応させながら理解を深める。様々な学習理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けることを目指し、子どもにとって実りある授業づくりを探究する。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	小学校音楽科における目標、目指す資質・能力及び指導内容について理解する。 小学校音楽科学習指導要領の内容について理解する。
思考・判断の観点 (K)	小学校音楽の授業を構成し実践するための授業感を形成する。 児童の学習の実際や様々な指導方法に基づいた授業づくりの方法を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	児童に伝えたい音楽を探求する。
技術・表現の観点 (A)	小学校音楽科の授業を行うにあたっての、豊かな表現力や基礎的な指導技術を身に付ける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	学習指導要領解説①	日本の音楽教育の歴史、教育目標・育成を目指す資質能力について	小学校音楽科学習指導要領、音楽科の目標を通読。日本の音楽教育の歴史に関する文献を検索し、読んでおく。	150分
第2回	学習指導要領解説②	小学校音楽科学習指導要領に関する全体構造及び指導上の留意点の理解	小学校音楽科学習指導要領と小学校音楽科教科書を照合しながら読んでおく。	240分
第3回	音楽的発達と学習内容の関連及び保幼小連携としての音楽の役割	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をふまえた低学年における指導上の留意点	幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿について復習し、小学校音楽科との関連を考えておく。	150分
第4回	小学校音楽科教育に関する実践研究の動向	小学校音楽科教育に関する実践研究について検索した内容の発表とその検討	小学校音楽科教育に関する実践研究について検索し、要点をまとめておく。	240分
第5回	児童の認	歌唱教材・器楽教材の教材研究の方法と展開について	小学校音楽科教科書に掲載され	150分

	識・思考・学力等の実態を視野に入れた教材研究①		ている歌唱教材及び器楽教材に目を通し、歌ったり演奏したりしておく。	
第6回	児童の認識・思考・学力等の実態を視野に入れた教材研究②	鑑賞曲の教材研究の方法と展開について	小学校音楽教科書に掲載されている鑑賞教材を調べ、CDやYouTube等で確認しておく。	150分
第7回	児童の認識・思考・学力等の実態を視野に入れた教材研究③	音楽づくりの実践と発表	小学校音楽教科書に掲載されている音楽づくりのための教材をピックアップし、その内容を確認しておく。	150分
第8回	日本の伝統音楽について	小学校音楽教科書に掲載されている日本の伝統音楽について、鑑賞したり実際に楽器を演奏したりして知識・理解を深める。	小学校音楽教科書に掲載されている日本の伝統音楽を調べ、CDやYouTube等で確認しておく。	120分
第9回	音楽科におけるインクルーシブ教育の実践とその意義の理解	事例を通し、音楽を介したコミュニケーションの可能性を考える。	自分の体験を振り返ったり文献を検索したりして、インクルーシブ教育における音楽の役割を考えておく。	240分
第10回	音楽の授業づくり①	学習指導案の構成について、事例を通して理解する。	学習指導案の書き方について、配布プリントを熟読して具体的なイメージがもてるようにしておくとともに、疑問点を確認しておく。	150分
第11回	音楽の授業づくり②	情報機器を活用した学習指導案やポートフォリオの作成方法についての基礎知識及び、音楽の著作権法や引用の方法について理解する。	パソコンを使用した学習指導案の作成の方法や、写真やイラストの添付の仕方について予習しておく。	150分
第12回	音楽の授業づくり③	歌唱教材に関する模擬授業（2グループ）とその振り返り	模擬授業の実践に向けての教材研究、学習指導案の準備、模擬授業実践の打ち合わせ等を行なっておく。	240分
第13回	音楽の授業づくり④	器楽教材に関する模擬授業（2グループ）とその振り返り	模擬授業の実践に向けての教材研究、学習指導案の準備、模擬授業実践の打ち合わせ等を行なっておく。	240分
第14回	音楽の授業づくり⑤	鑑賞教材、音楽づくりに関する模擬授業とその振り返り	模擬授業の実践に向けての教材研究、学習指導案の準備、模擬授業実践の打ち合わせ等を行なっておく。	240分
第15回	音楽の授業づくり⑥と講義の振り返り	評価についての理解。模擬授業及び講義全体を通しての振り返りを行う。	6件の模擬授業について、学び・助言・反省点を含むレポートを作成する。	150分

学習計画注記	講義の後半は模擬授業です。第7回終了時に、グループ分けと分担を決めますので、早めに準備を開始してください。
学生へのフィードバック方法	コメントシートに記載された質問事項については、翌週に解説します。模擬授業の学習指導案についての相談は、研究室で受け付けます。
評価方法	3回的小レポートでは、小学校音楽科に関する知識・理解、及び予習と講義の振り返りに対する関心・意欲・態度を評価します。 学習指導案・模擬授業では、講義内容の理解とその応用、実践力を中心に評価します。 期末レポートでは、小学校音楽科の授業に向けての資質・能力、授業づくりの方法についての理解と応用力などを評価します。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小レポート	○		○	
学習指導案・模擬授業	○	○	○	○
期末レポート	○	○		

評価割合	小レポート（20%）、学習指導案・模擬授業（40%）、期末レポート（40%）で評価する。	
使用教科書名（ISBN番号）	小学校音楽科学習指導要領解説（文部科学省） 小学校音楽教科書1年～6年（教育出版）	
参考図書	新版 教員養成課程 小学校音楽科教育法（教育芸術社）	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 小学校音楽科における目標、目指す資質・能力及び指導内容、小学校音楽科学習指導要領の内容について専門的な知識を修得する。</p> <p>【思考・判断】 模擬授業を通し、児童の学習の実際や様々な指導方法に基づいた授業づくりの方法を、実践的に学び、さまざまな課題に柔軟に対応できる姿勢を身に付ける。</p> <p>【関心・意欲・態度】 児童に伝えたい音楽を探求する。</p> <p>【技術・表現】 小学校音楽科の授業を行うにあたっての、豊かな表現力や基礎的な指導技術を身に付ける。</p>	
オフィスアワー	前期 月曜日 3限 1601 後期 水曜日 2限 1601	
学生へのメッセージ	全員が模擬授業を行います。一人ひとりが責任をもって取り組んでください。 小免必修	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	公立小学校及び国立大学教育学部附属小学校での経験の豊富な実践家による特別講義を行う（第5回目を予定）。
アクティブ・ラーニング	○	グループで協働し、学習指導案を作成し、模擬授業の準備を行う。講義ではペアトーク、グループディスカッションを毎回取り入れて、理解の向上を図る。
情報リテラシー教育	○	音楽の著作権法や文献の引用方法についての基礎的な知識を身に付ける。
ICT活用	○	パソコンを使用した学習指導案の作成の方法や、写真やイラストを挿入したレポートの作成を行う。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	家庭科教育法		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2,3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 金田 佳子	指定なし

ナンバリング	P20307M21
授業概要(教育目的)	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校家庭科教育の歴史と現状を踏まえ、教科としての位置づけ、意義や目標、指導内容について中学校との関連を踏まえ系統的に学ぶ。 ・子どもたちを取り巻く生活の状況を見つめ、学習指導要領を元にこれからの家庭科教育の在り方も視野に入れて学習する。 ・学習指導案の作成を通して、家庭科の指導を行うための実践力を養う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	学習指導要領に基づき家庭科教育の意義や目標、果たす役割について理解し、解説できる
思考・判断の観点 (K)	各領域のねらいを理解し、児童の実態に合わせた指導を考えることができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	家庭科授業構想力と実践的指導に必要な資質を身に付けようとしている
技術・表現の観点 (A)	学習指導要領に基づき家庭科の学習指導計画(指導案)を立てることができる

学習計画

家庭科教育法

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	家庭科教育の変遷と今日的意義	家庭科教育全体像をつかみ、その変遷と今日的意義を理解する。 ※目標・教材分析について研究課題テーマの提示	課題選択後、関連資料を収集(第3時以降で使用)	30分
第2回	小学校家庭科の目標と内容	法的根拠に基づいた学習指導要領の位置付けを理解し、小学校家庭科教育の目標と内容について理解する。	第5時の「目標・教材分析のまとめ」(レポート)提出に向けて資料の読み込み	30分
第3回	家庭科における教材研究と資料等の活用(1)	学習指導要領、小学校教科書、その他資料を活用し、目標・教材分析を通して指導内容を理解する。	第5時の「目標・教材分析のまとめ」(レポート)提出に向けて資料の読み込み	30分
第4回	家庭科における教材研究と資料等の活用(2)	学習指導要領、小学校教科書、その他資料を活用し、目標・教材分析を通して指導内容を理解する。	第5時の「目標・教材分析のまとめ」(レポート)提出に向けて資料の読み込み	30分

第5回	家庭科における授業展開の視点と方法(1) ※「目標・教材分析のまとめ」提出日	授業の構造を理解するとともに、学習指導法について理解する。 ・学びの過程と家庭科授業 ・授業の成立	授業構造・学習指導法について復習し、理解を深める	15分
第6回	家庭科における授業展開の視点と方法(2)	授業の構造を理解するとともに、学習指導法について理解する。 ・年間指導計画 ・家庭科指導案の構成	授業構造・学習指導法について復習し、理解を深める	15分
第7回	家庭科における授業展開の視点と方法(3)	授業の構造を理解するとともに、学習指導法について理解する。 ・家庭科における学習指導方法	授業構造・学習指導法について復習し、理解を深める	15分
第8回	家庭科における評価の視点と方法	指導計画作成を通して、評価の種類とその方法について理解する。	指導計画と評価について復習し、理解を深める	15分
第9回	教材研究・授業研究	教材研究を通して指導内容を理解し、学習指導計画(指導案)を作成する。 ※学習指導計画(指導案)作成について課題提示	学習指導計画(指導案)作成に向けて資料収集・資料作成	30分
第10回	教材研究・授業研究	教材研究を通して指導内容を理解し、学習指導計画(指導案)を作成する。	学習指導計画(指導案)作成に向けて資料収集・資料作成	30分
第11回	教材研究・授業研究 ※研究成果提出日	教材研究を通して指導内容を理解し、学習指導計画(指導案)を作成する。	成果発表へ向けての資料作成	15分
第12回	教材研究・授業研究(発表、評価・交流)	研究課題ごとのグループで研究成果発表。評価し、交流する。(グループディスカッション)	成果発表へ向けての資料作成	15分
第13回	教材研究・授業研究(発表、評価・交流)	全体での研究成果発表。評価し、交流する。	次回行う模擬授業の準備	10分
第14回	教材研究・授業研究(発表、評価・交流)	授業研究成果発表を兼ねて模擬授業を実施。	次回行う模擬授業の準備	10分
第15回	教材研究・授業研究(発表、評価・交流)	授業研究成果発表を兼ねて模擬授業を実施。		

学生へのフィードバック方法 実施したレポート等は、採点して次週の授業にて返却する。また、模範解答等は授業内で解説する。

評価方法 教材分析レポート、選択した研究課題をもとに研究成果レポートを実施。平常点としてワークシート・作品提出を対象とする。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート1、2	○	○	○	○
発表、交流		○	○	○
ワークシート等平常点	○		○	

評価割合 教材分析レポート(20%)、研究成果レポート(50%)、平常点(ワークシート・作品提出、授業態度)(30%)

使用教科書名(ISBN番号) 小学校学習指導要領解説 家庭編 文部科学省 東洋館出版
小学校家庭科教育法 建帛社

参考図書 小学校家庭科教科書「新しい家庭5・6」 東京書籍

ディプロマポリシーとの関連 【知】子どもの発達を踏まえた家庭科教育の進め方を理解することができる
【思】家庭科指導内容を通して、家族・地域・社会とのコミュニケーション能力を高めるよう意識することができる

	【関】子どもをめぐる多様化する課題に関心を持ち、家庭科の指導内容を工夫する力を養うことができる 【技】家庭科教育における理論と実践の融合を図り、その考え方を身に付けている															
学生へのメッセージ	家庭科は「生活」そのものを学びの対象にする教科です。 身近な生活を観察したり、子どもの生活や置かれている現状を意識しておきましょう。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当 有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>小学校・中学校での家庭科教育実践経験をもとにして、実践的な授業づくりを目指します。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>互いに学び合うアクティブ・ラーニングを取り入れ、互いに高め合うことを目指します。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td>○</td> <td>資料の提示や書画カメラの活用でわかりやすい授業を組み立てます。</td> </tr> </tbody> </table>		該当 有無	概要	実務経験を活かした授業	○	小学校・中学校での家庭科教育実践経験をもとにして、実践的な授業づくりを目指します。	アクティブ・ラーニング	○	互いに学び合うアクティブ・ラーニングを取り入れ、互いに高め合うことを目指します。	情報リテラシー教育			ICT活用	○	資料の提示や書画カメラの活用でわかりやすい授業を組み立てます。
	該当 有無	概要														
実務経験を活かした授業	○	小学校・中学校での家庭科教育実践経験をもとにして、実践的な授業づくりを目指します。														
アクティブ・ラーニング	○	互いに学び合うアクティブ・ラーニングを取り入れ、互いに高め合うことを目指します。														
情報リテラシー教育																
ICT活用	○	資料の提示や書画カメラの活用でわかりやすい授業を組み立てます。														

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	体育科教育法		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金子 和正	指定なし

ナンバリング	P30305M21
授業概要(教育目的)	小学校における生きる力を育成する体育を中心として、体育科の教科目標を中心に扱う。児童の発育・発達に応じた教材の適切な取り上げ方、指導法について代表的な教材を基に小学校体育科の目的・目標、学習内容、方法、評価等についての基本的理論を学ぶ。さらに学習指導要領と指導書の内容について取り上げ、小学校における体育科の意義を考える。また、小学校体育の各領域の内容を指導できることを目指し、指導計画及び指導方法についても学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	小学校体育の授業方法について理解している。
思考・判断の観点 (K)	小学校の学年に対応した教材の構成を組み立てられる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教材について研究心がある。
技術・表現の観点 (A)	体育科教材の児童へのプレゼンテーションができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	教科としての体育の歴史と意義	体育が教科として学校教育の中で果たしてきた役割と意義について理解する。	体育科教育について戦前・戦後の役割について理解しておくこと。	120分
第2回	発達と体育	子どもの発達と体育の関わりについて理解する。	体育の教材が子どもの発育・発達とどのように関わっているか理解しておく。	120分
第3回	学校体育の役割	学校体育の社会との関わり、子どもの発育・発達との関わり、家庭との関わりについて理解する。	学校体育は、社会や家庭で補うことのできない子どもの運動やスポーツ、保健と関わってきていることを理解しておくこと。	120分
第4回	運動やスポーツの楽しさ	運動やスポーツは、なぜ楽しいのかについて理解する。	体育教材の中で運動やスポーツは、子どもに何を教えるのか理解しておくこと。	120分
第5回	運動やスポーツの教授方法	運動やスポーツを教えるための基本的ルールを理解する。	学習法や学習者の心理的影響、体の発育・発達に伴うスポーツの影響等の基本を理解しておく。	150分
第6回	授業計画の	学習計画や指導案の作成について基本的原則を理解する	環境や教科を教えるスタッフ、	120分

	作成	る。	地域性等から年間の学習計画が影響されること、施設や用具等の制限から教材選びが影響されることを理解しておく。	
第7回	マット運動の演習	低学年児童のマット運動を取りあげ、種目や授業の展開について理解する。	マット運動は保育園や幼稚園でも扱っているところが多く、低学年児童のスムーズに入りやすい教材の一つである。運動嫌いを作らない授業の展開について理解しておく。	120分
第8回	跳び箱の演習	低学年児童の跳び箱を取りあげ、種目や授業の展開について理解する。安全への配慮について理解する。	手の位置、踏み切り板の位置、マットの有効活用、他の子どもの演技を見る位置など、跳び箱運動には体育科教育の中でも多くの重要なポイントが含まれていることを理解しておく。	120分
第9回	陸上競技の演習	中学年の児童の陸上競技を取りあげバトンリレーを行う。バトンの効果的な受け渡しについて理解する。	バトンゾーンの有効な使い方を理解しておく。	120分
第10回	縄跳びの演習	中学年児童の縄跳び運動を取りあげ、様々な跳び方や評価表、振り返り表の作成について理解する。	短縄や長縄の指導展開について理解しておく。	120分
第11回	ソフトボールの演習	高学年児童の球技運動を取りあげ、ソフトボールの握り方やキャッチボールの方法、トスパッティングについて理解する。	ボールの握り方、バットの握り方、遠投の方法を理解しておく。	120分
第12回	サッカーの演習	高学年児童の球技運動のサッカーを取りあげ、パスやドリブルの授業の展開について理解する。	インサイドキックを中心としたパスの練習を理解する。	120分
第13回	表現運動の演習	低学年児童の表現運動を取りあげ、授業の展開について理解する。	運動嫌いを作らないように注意する。音楽やリズムに合わせることで表現をしやすいうことを理解しておく。	120分
第14回	保健の演習	高学年児童の保健を取りあげ、事故防止や救急手当の授業展開について理解する。	事故や疾病の予防、救急法について理解しておく。	120分
第15回	まとめ	授業のまとめから小学校体育の指導案の作成時の注意事項や、授業の展開方法について理解しておく。	小学校体育の授業展開の理解をしておく。	120分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	毎授業の終了時に15分程度の討議を実施し、授業時のテーマについて理解度をフィードバックする。
評価方法	授業終了時の小テスト、期間中の模擬授業演習、2回の課題提出の総合的な評価とする。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○		○	
模擬授業	○	○	○	○
課題	○	○	○	

評価割合	授授業終了時の小テスト (4点×15回=60点)、期間中の模擬授業演習 (10点)、2回の課題提出 (15点×2回=30点) の総合的な評価とする。
------	--

使用教科書名 (ISBN番号)	文部科学省「小学校学習指導要領解説-体育編-」
-----------------	-------------------------

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】小学校体育の授業方法について理解している。 【思考・判断】小学校の学年に対応した教材の構成を組み立てられる。 【関心・意欲・態度】教材について研究心がある。 【技術・表現】体育科教材の児童へのプレゼンテーションができる。
---------------	--

オフィスアワー	火曜4時限目
---------	--------

学生へのメッセージ	子どもに体育を教えることの重要性和必要性について基本的な考え方を身につけて欲しい。実践力を養ってほしい。
-----------	--

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング	○	児童が理解しやすい教材作りのために様々な教材作りに関わる。
情報リテラシー教育	○	児童の成長の段階に応じた授業の展開をするために、多くの資料の整理を行い適切な指導案の作成を行う。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	小児保健Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 松井 知子	指定なし

授業概要(教育目的)	小児保健では、小児期における心身両面の成長・発達の理論を学び、それを理解した上で自らは健康の保持増進の支援にいかに関わっていくことができるかを考えることを目標としている。
履修条件	保育者・教育者としての役割を意識して講義に参加することができる
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	「子どもの健康」「こどもの心理」を中心に児童学を構成する6領域について総合的な理解を促す。
思考・判断の観点(K)	保育者・教育者として、家族・地域・社会と協働するコミュニケーション能力ならびに思考過程を学ぶ。
関心・意欲・態度の観点(V)	子供をめぐる多様化する課題や問題に取り組む。子ども視点に立ち、子供から学ぶという謙虚な態度を身につけることができる。
技術・表現の観点(A)	保育者、教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	健康の定義、健康・不健康とは(総論)	小児の健康の定義について理解した上、その対極にある不健康状態について、生理、発達の観点から説明する。	教科書「第1章集団保育の場での健康」	120分
第2回	生活環境と心身の健康1 小児期(新生児期、乳幼児期、学童期)	小児期における生活環境との関わりの中で、心身の保健について説明する	教科書「第2章子どもの発育・発達と保健」	120分
第3回	生活環境と心身の健康2 青年期(青年期の課題)	青年期における生活環境との関わりの中で、心身の保健について説明する	教科書「第2章子どもの発育・発達と保健」	120分
第4回	事故と応急処置	小児期における生活環境との関わりで事故発生につながることを理解し、その応急処置ならびに予防法を学ぶ	教科書「第4章子どもの事故とその対応」	120分
第5回	感染症と予防接種	小児期における感染症の理解とその予防法、特に予防接種の必要性を学ぶ	教科書「第3章子どもの病気とその対応」	120分
第6回	感染症ガイ	厚労省の保健行政について説明する中で、感染症ガイド	教科書「第3章子どもの病気と	120分

	ドライン	ラインを理解する	その対応	
第7回	小児期の病 気：感染症 (発疹 症)、消化 器系疾患	小児期の身体状態・免疫状態を理解した上で、病気の症 状、対応について説明する	教科書「第3章子どもの病気と その対応」	120分
第8回	小児期の病 気：呼吸循 環器系疾患	小児期の身体機能、発達状況を理解した上で、病気の症 状、対応について説明する	教科書「第3章子どもの病気と その対応」	120分
第9回	小児期の病 気：その他 の疾患	小児期の身体機能、発達状況を理解した上で、その他 の病気の症状、対応について説明する	教科書「第3章子どもの病気と その対応」	120分
第10回	小児の病 気：神経 精神疾患 (ダウン症 を含む)	小児期の精神保健、精神発達を理解した上で、神経精神 疾患の症状対応について説明する	教科書「第2章子どもの発育・ 発達と保健、第5章障がい児と 保健」	120分
第11回	小児の病 気：心身 症、養育者 との関係	小児期の精神保健、精神発達を理解した上で、養育者 との関わりの中での精神不調について説明する	教科書「第2章子どもの発育・ 発達と保健、第5章障がい児と 保健」	120分
第12回	小児の病 気：学習 障害・発達 障害など	小児期における保育・学校現場における発達障害の理解 と対応について説明する	教科書「第2章子どもの発育・ 発達と保健、第5章障がい児と 保健」	120分
第13回	小児の病 気：悪性 腫瘍・川崎 病など・母 子保健	小児期における心身両面における病気についての理解と 対応について説明する	教科書「第3章子どもの病気と その対応」	120分
第14回	母子保健、 子育て・家 庭の問題	養育者との関係で発症する心身両面からの病気理解、母 子保健からの視点	教科書「第7章母子保健の現状 と課題」	120分
第15回	保健行政	小児期における生活環境、地域、社会環境との関わり の中で小児期における心身状態の理解を深める	教科書「第7章母子保健の現状 と課題」	120分

学習計画注記 ※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 実施した小レポート課題（毎回授業中に行う）については次回の講義中に再度説明する。

評価方法 試験(60%)、授業への取り組み(10%)、課題レポート(30%)、その他を総合的に評価する。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
試験				
授業への取り組み				
課題レポート				

評価割合 試験(60%)、授業への取り組み(10%)、課題レポート(30%)、その他を総合的に評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) 教科書「保育の中の保健」 萌文書林 (ISBN:9784893471512)、配布するオリジナルテキスト

参考図書 人間関係の理解と心理臨床 (ISBN:9784766424669)

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】小児の保健は家庭や地域社会と密接な関係にあり、今日発生している小児の心身の健康に関する問題と養育環境との関係を理解する専門的知識を有している。
【思考・判断】子どもの健全な豊かな成長・発達のために使命感をもって行動できる力を身につけている。

オフィスアワー 水曜日 講義終了後昼休み

学生へのメッセージ 小児保健の理解を通して、自分の心身状態の気づきを促し、健康の保持増進に努めてほしい

教育等の取り組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	小児保健演習 (PA)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田中 和香菜	指定なし

ナンバリング	P30501M12
授業概要(教育目的)	子どもの保健の講義で学んだ知識を基に、今日の子どもたちを取り巻く様々な環境に目を向け、保育者として子どもの健康を保持増進するために必要な技術や小児期に多い疾病への対応、事故防止対策や災害への備え等について講義します。それらの知識が実践できるように演習を行います。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	学習目標 (到達目標)
知識・理解の観点 (K)	・子どもの病気や健康診断について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	・子どもの健康に関する情報をニュースや本等から収集する。 ・積極的に授業に参加し、グループの仲間と協力する。 ・自分自身の健康状態を正しく感じとり、体調管理ができる。
技術・表現の観点 (A)	・だっこやおんぶ、沐浴等の子どもの養護が適切に行える。 ・身長・体重やバイタルサインがきちんと測定できる。 ・応急手当が正しく行える。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス、乳幼児の養護(1)だっこ	保育者として子どもの健康と命を守る大切さを理解する。乳児のだっこの仕方を学ぶ。	オリエンテーション、教科書第1章、第4章だっこを読んでおくこと。	120分
第2回	乳幼児の養護(2)衣服の着脱・おむつ交換	衣服の着脱とおむつ交換ができる。	教科書第4章衣服の着脱、おむつ交換を読んでおくこと。	120分
第3回	乳幼児の養護(3)おんぶ	安全におんぶができる。	教科書第4章おんぶを読んでおくこと。	120分
第4回	身体計測	身長、体重などの正しい計測法やその注意点について学ぶ。	教科書第2章を読んでおくこと。	120分
第5回	身体発育の評価	身体計測の結果を評価する方法について理解し、正しく使える。	教科書第2章を読んでおくこと。発育評価の結果をワークシ	240分

			ートにまとめる。	
第6回	保育における健康観察	健康観察のポイントを理解し、体温や脈拍など正しく計測する。	教科書第3章健康観察を読んでおくこと。	120分
第7回	乳幼児の養護(4)沐浴	乳児の清潔を守るため、沐浴について学ぶ。	教科書第4章沐浴を読んでおくこと。服装に注意する。	120分
第8回	健康診断	健康診断の方法と注意点を理解する。	教科書第3章脊髄診断を読んでおくこと。	120分
第9回	乳幼児の養護(5)歯みがきと歯みがき指導	基本的な生活習慣の一つである歯みがきについて、その方法と援助について学ぶ。	教科書第4章歯みがきを読んでおくこと。歯ブラシ、コップ、手鏡、色鉛筆(赤)、リップクリームを持参する。	120分
第10回	保育環境と安全対策	子どもが長い時間を過ごす園の環境について学ぶ。	教科書第7章を読んでおくこと。	120分
第11回	病気の症状とケア、保育と健康教育	体調の良くない子どもへの対応を学ぶ。保健指導の一つであるほけんだよりを作成する。	教科書第5章第8章を読んでおくこと。ほけんだより作成に必要な資料を収集する。	240分
第12回	応急手当(1)きずの種類と応急手当	基本的な応急手当について学ぶ。	教科書第6章を読んでおくこと。	120分
第13回	応急手当(2)包帯法	包帯の一つである三角巾が正しく扱える。	教科書第6章を読んでおくこと。	240分
第14回	応急手当(3)一次救命処置	心肺蘇生法とAEDについて学ぶ。	教科書第6章を読んでおくこと。服装に注意すること。	120分
第15回	個別の配慮を必要とする子どもへの対応、まとめと解説	食物アレルギーなど個別に配慮を必要とする疾病を理解し、そのような子どもへの対応や緊急時の対応について学ぶ。	教科書第5章を読んでおくこと。	240分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法 毎回授業の終わりに簡単な感想やわからないことを書いてもらい、毎授業開始時にコメント付きで返却します。質問等がある場合は授業中または終了後などに聞きにきてください。

評価方法 ・筆記試験を行います。出題の傾向については最後の授業で説明します。
・各々の課題の点数を合計した総合評価ですが、合格には筆記試験が6割以上できていることが条件です。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		
授業への参加姿勢			○	○
課題	○			

評価割合 定期試験 (60%)、授業への参加姿勢 (20%)、課題 (20%)

使用教科書名 (ISBN番号) 「これだけはおさえたい! 保育者のための子どもの保健II [第2版]」(鈴木美枝子編著、創成社)

参考図書 「これだけはおさえたい! 保育者のための子どもの保健I」(鈴木美枝子編著、創成社)
その他、授業時に適宜紹介します。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】保育者として乳幼児の保健、養護に関する専門的な知識を有している。
【技術・表現】体調の良くない子どもやけがをした子どもなどの状況を正しく判断し、適切な対応を行うことができる。

オフィスアワー 月曜2、3限 非常勤講師室

学生へのメッセージ 子どもの気持ちに寄り添い、子どもの健康と命を守る保育者になるべく主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
--	------	----

実務経験を活かした授業	○	担当教員は幼稚園で養護教諭として勤務経験があり、保育者としての心構えや習得すべき子どもの健康の保持増進についての知識と技術を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	子どもの食と栄養 (PA)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 太田 百合子	指定なし

ナンバリング	P20501M22
授業概要(教育目的)	乳児期、幼児期、学童期、産前産後の食事、小児期の疾病の特徴と食事、児童福祉施設の給食の役割などDVD視聴や献立作成を通して実践力を身に付け、食育を行うための能力を習得するための講義をする。実習は、理論を生かした調乳、離乳食、幼児食、成人食等の調理実習を指導する。食育発表を通して実践力を身に付けるための演習指導を行う。 栄養学、調理学、食品学などの基礎的な知識や子どもの身体発育・発達を理解し、子どもに教えらるる基礎を身に付けることを目指す。また、保護者に対して食生活支援ができる知識を身に付けることを目指す。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 献立と栄養素の関連を関係づけられる。 2. 子どもの発育・発達に即した要点を説明できる。 3. 栄養に関する基礎知識を食育に関係づけられる。
思考・判断の観点 (K)	1. 現代の食生活の問題点を指摘できる。 2. 子どもの病気の時の食事を理解し、それに合わせた食事内容を判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 食育の媒体作りにはグループ活動として参加できる。 2. 調理実習には意欲を持って積極的に参加し、コミュニケーションを持って協調できる。
技術・表現の観点 (A)	1. 食育の媒体作りにはプレゼンテーション力を活かした表現ができる。 2. 調理では、調理器具を適宜使用できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	子どもの健康と食生活の意義	現代の食生活の問題点を理解する。 自分の食生活、家族の食生活などを比較し、食生活の改善点を探る。	教科書第1章P.10~19を読んでおくこと。	120分
第2回	栄養に関する基礎知識	栄養学の基本的理論を理解する。	教科書第2章P.22~35を読んでおくこと。	120分
第3回	栄養に関する制度	食事摂取基準の理解と献立作成の応用からバランスのとれた献立を理解する。 食中毒予防と衛生管理について理解する。	教科書第3章 P.36~46を読んでおくこと。	120分
第4回	妊娠期と授乳期の食生活	妊娠前の食生活のありかたを理解する。 産前産後の食生活を理解する。 胎児の発育・発達と栄養を理解する。 葉酸、食物繊維の摂取基準を満たす献立作成から妊娠中の食生活を理解する。 食品添加物についてDVD視聴から理解する。	教科書第4章 P.48~59を読んでおくこと。	120分

第5回	乳児期の食生活	乳汁栄養の種類と特徴を理解する。 調整粉乳の調乳法を理解する。 授乳と離乳食の栄養バランスを理解する。 授乳の仕方、栄養について理解する。	教科書第5章 P. 62～74を読んでおくこと。	120分
第6回	離乳期の食生活	離乳の必要性を理解する。 離乳の支援のポイントを理解する。 ベビーフードを理解する。 子どもの食べる機能の発達DVDを視聴し、感想や意見をまとめる。	教科書第5章 P. 68～74を読んでおくこと。	120分
第7回	幼児期の食生活 (1)	食機能の発達を理解する。 食事の内容の理解と間食の意義を理解する。 発達に合わせた食具使用を促す献立をワークから理解する。	教科書第6章 P. 76～83を読んでおくこと。	120分
第8回	幼児期の食生活 (2)	保護者の食事上の問題と対応を理解する。DVDを視聴し、対応の理解を深める。 食べ物の誤嚥、窒息事故の予防を理解する。 弁当の衛生管理と栄養配分を理解する。 間食の与え方、内容をワークで理解する。	教科書 第6章 P. 83～89を読んでおくこと。	120分
第9回	学齢期・思春期の食生活、生涯発達と食生活	身体的特徴を理解する。 肥満と痩せ、朝食欠食を理解する。 カルシウムと鉄不足を補う献立作成から理解する。 今まで経験した給食の内容、食育の思い出の情報交換を行う。	教科書第7章 P. 90～116を読んでおくこと。	120分
第10回	食育の基本と内容	食育がなぜ必要とされるのかを理解する。 和食文化を理解する。 子どもに望ましい食育を理解する。	教科書第9章 P. 117～131を読んでおくこと。	240分
第11回	家庭や児童福祉施設における食事と栄養 特別な配慮を必要とする食事と栄養 (1) 体調不良	児童福祉施設の食生活の特徴を理解する。 体調不良の時の食事を理解する。 下痢と便秘時の食事の違いをワークから理解する。	教科書第10章 P. 132～143、11章 P. 144～148を読んでおくこと。	120分
第12回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 (2) 障がいのある子どもへの対応	障がいの種類や特徴を理解する。 食事摂取基準の考え方、食事形態を理解する。 DVD視聴から感想や意見をまとめる。 介助方法を身に付けるために理解する。	教科書第11章 P. 148～158を読んでおくこと。	120分
第13回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 (3) 食物アレルギー	食物アレルギーの定義、症状、診断方法について理解する。 食物除去の考え方を理解する。 園における食物アレルギー対応を理解する。	教科書第12章 P. 161～170を読んでおくこと。	120分
第14回	栄養の理解 献立作成	栄養の基礎をもとに献立の作成を通して理解する。	これまでの授業内容を総復習しておくこと。	120分
第15回	演習：子どもの栄養評価と幼児の栄養バランス (1)	身体発育曲線で栄養を評価することを理解する。 献立カードで栄養バランス、配膳の仕方を理解する。 コミュニケーションを図りグループで協力することを体得する。	教科書第巻末付録P. 171～184を理解しておくこと。	120分
第16回	演習：子どもの栄養評価と幼児の栄養バランス (2)	身体発育曲線で栄養を評価することを理解する。 献立カードで栄養バランス、配膳の仕方を理解する。 コミュニケーションを図りグループで協力することを体得する。	教科書巻末付録P. 171～184を理解しておくこと。	120分
第17回	演習調理実習 成人用献立 (1)	調理器具の扱いを理解する。 調理の段取りを理解する。 コミュニケーションを持って協調する。	りんごをウサギに切れるよう練習すること。	60分
第18回	演習調理実習 成人用献立 (2)	調理器具の扱いを理解する。 調理の段取りを理解する。 コミュニケーションを持って協調する。	りんごをウサギに切れるよう練習すること。	60分
第19回	演習調理実習 調乳と離乳食 (1)	無菌操作法を理解する。 調乳の仕方を理解する。 離乳食を理解する。	教科書第5章 P. 67、P. 71を理解しておくこと。 包丁でみじん切り、乱切りなど切り方を練習すること。	60分
第20回	演習調理実習 調乳と	無菌操作法を理解する。 調乳の仕方を理解する。 離乳食を理解する。	教科書第5章 P. 67、P. 71を理解しておくこと。	60分

	離乳食 (2)		包丁でみじん切り、乱切りなど切り方を練習すること。	
第21回	演習調理実習 1～2歳児の幼児食、おやつ(1)	1～2歳児に適する調理を理解する。 1～2歳児のおやつを理解する。	教科書第6章 P.76～80を理解しておくこと。 おにぎりを握れるように練習すること。	60分
第22回	演習調理実習 1～2歳児の幼児食、おやつ(2)	1～2歳児に適する調理を理解する。 1～2歳児のおやつを理解する。	教科書第6章 P.76～80を理解しておくこと。 おにぎりを握れるように練習すること。	60分
第23回	演習調理実習 3～5歳児の弁当、おやつ(1)	衛生管理を理解する。 弁当の内容、バランスを理解する。 3歳以上のあ奴を理解する。	教科書第6章 P.82～83をよく理解しておくこと。 3歳以上に適する弁当の容量を調べて用意する。	60分
第24回	演習調理実習 3～5歳児の弁当、おやつ(2)	衛生管理を理解する。 弁当の内容、バランスを理解する。 3歳以上のあ奴を理解する。	教科書第6章 P.82～83をよく理解しておくこと。 3歳以上に適する弁当の容量を調べて用意する。	60分
第25回	演習調理実習 行事食(1)	行事食の内容を理解する。 食育の要点を理解する。	行事食の内容を調べてよく理解しておくこと。	60分
第26回	演習調理実習 行事食(2)	行事食の内容を理解する。 食育の要点を理解する。	行事食の内容を調べてよく理解しておくこと。	60分
第27回	演習 食育媒体制作(1)	食育を理解する。 協調性をもって積極的に参加し理解する。	教科書第9章 P.121～122をよく理解しておくこと。 グループ内の制作に生かせるように絵本など教材を調べておく。	120分
第28回	演習 食育媒体制作(2)	食育を理解する。 協調性をもって積極的に参加し理解する。	教科書第9章 P.121～122をよく理解しておくこと。 グループ内の制作に生かせるように絵本など教材を調べておく。	120分
第29回	食育発表(1)	食育のテーマ、対象年齢、対象人数を明確にしてグループごとに発表し、プレゼンテーション力を習得する。 他の食育発表を体験して評価し、よりよい食育を理解する。	子どもにとって理解しやすく、楽しめる食育になっているか振り返り、発表に向けて練習する。	120分
第30回	食育発表(2)	食育のテーマ、対象年齢、対象人数を明確にしてグループごとに発表し、プレゼンテーション力を習得する。 他の食育発表を体験して評価し、よりよい食育を理解する。	子どもにとって理解しやすく、楽しめる食育になっているか振り返り、発表に向けて練習する。	120分

学習計画注記	第1～14回は1コマ講義、第15～30回は、講義の後に原則隔週で演習や調理実習を行います。オリエンテーションで日程、教室を示したものを渡しますので間違えないで参加してください。
--------	--

学生へのフィードバック方法	演習後、行事食のレポートは、採点して次週の授業にて返却する。
---------------	--------------------------------

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・演習、行事食のレポートは、文章表現などから知識や理解を評価する。 ・食育発表は、子どもの発達を理解し、楽しく学べる表現方法がグループ評価とする。 ・調理実習は、知識をもとに協力しあって時間内において適切な器の選択、盛り付けなどが出来ているか評価する。 ・定期試験は、選択式、穴埋め式、記述式で出題する。知識、理解を評価する。
------	--

評価基準	
------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
演習後レポート	○			
行事食レポート	○			
食育発表	○	○	○	○
調理実習	○	○	○	○
定期試験	○			

評価割合	平常点5%、レポート15%、発表20%、調理実習10%、試験50%による総合評価。
------	---

	ただし定期試験において6割以上取れていること。平常点は受講態度、調理実習や演習への参加状況等で総合的に判断する。	
使用教科書名 (ISBN番号)	子どもの食と栄養 羊土社 太田百合子、堤ちはる編著 (978-4-7581-0907-9)	
参考図書	なし	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもの食に関して専門的な知識を有している。 【思考・判断】具体的、実践的な機会を通して、柔軟に対応できる力を身に付けている。 【関心・意欲・態度】子どもの食の課題を理解し、専門的にかかわれる態度を身に付けている。 【技術・表現】豊かな表現力、コミュニケーション能力を身に付けている。	
学生へのメッセージ	専門職として食生活の支援力を養うために、自分の食生活を意識して自らバランスの良い食生活をする。日頃の食事や、食生活・健康に関心を持ち、発信される情報に注目すること。 調理実習のまえには、包丁が使えること、簡単な料理が出来るよう練習しておくこと。食品や器具の取扱いや服装について衛生面安全面の配慮について事前に学習しておくこと。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、国立児童館の中の小児保健部・小児科クリニックに30年間勤務経験がある。小児肥満改善教室、離乳食講座、広場事業、妊婦栄養相談、離乳食・幼児食栄養相談、ダウン症、自閉症等の摂食指導を主に行い、保育士、栄養士等キャリアアップ講師、育児雑誌監修等を生かした授業を行う。
アクティブ・ラーニング	○	保育士として食育を行うには、知識、経験、環境などから自分の食生活を振り返る事が重要である。グループワークをもとに発見学習を繰り返し、今後の実習や卒後に生かせるようにする。
情報リテラシー教育	○	食育発表には、図書館利用、情報を収集する力を養い、発表に役立てる。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	児童体育演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金子 和正	指定なし

ナンバリング	P20502M12
授業概要(教育目的)	人間の発育・発達と運動との関連について幼児期・児童期を中心に考察していく。子どもの身体能力や運動技能を高める道筋をさまざまな方法によって展開していく。子どもが自由にのびのびと活動する身体表現の楽しさを共有しつつ、指導者としての技術を習得することを目的としていく。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	運動技術用語や指導用語を知解する。
思考・判断の観点 (K)	自然の中での運動やゲームを通して、危険を察知する判断力をつける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	子どもの遊びや運動への関心を高める。
技術・表現の観点 (A)	運動表現の授業を通して、動きを見せる表現能力を高める。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	室内を使った運動遊びの実践と指導法Ⅰ(集団で行うアイスブレイクゲーム)	仲間作りゲームのアイスブレイクを理解する。	アイスブレイクゲームは、緊張を解きほぐすゲームであり、次の活動へのスムーズな導入をまねく事を理解しておく。	60分
第2回	室内を使った運動遊びの実践と指導法Ⅱ(集団から少人数グループで行う協力ゲーム)	グループの中でできるゲームや、グループ対抗のゲームを理解する。	グループとグループが対抗して競うゲームは、競技スポーツと異なり勝ち負けにこだわらないことを理解しておく。	60分
第3回	室内を使った運動遊びの実践と指導法Ⅲ(ボール運動、マット運)	ボールを使った基本的な運動を行う。様々なボールを使い体の柔軟性と巧緻性を高めることを理解する。	メデシングボールを使つての柔軟運動、柔らかいボールを使用するのヘディングでのパスはボールに対する不安感を取り去り、親しみをもち運動できることを理解しておく。	60分

	動、縄を用いた運動)			
第4回	屋外を使った運動遊びの実践と指導法Ⅰ(芝地や平地で行うレクリエーションゲーム)	屋外での鬼ごっこやタッチゲームを通して、瞬発的な動きや脚の細かな運びを修得する。	戸外遊びの爽快さを理解しておく。	60分
第5回	屋外を使った運動遊びの実践と指導法Ⅱ(ボールを使ったスポーティーなゲーム)	サッカーやタッチフットボールを通して、相手との間合いや相手のスピードを予測することを理解する。	適切な広さや距離での運動は、楽しさを維持できることを理解しておく。	60分
第6回	屋外を使った運動遊びの実践と指導法Ⅲ(ボールを蹴ったり、投げたりするスポーツゲーム)	サッカー遊びを通して、サッカーの楽しさと足でボールを運ぶ難しさを同時に理解する。	パスが通った時の楽しさ、ボールを足で処理する難しさを学びながら戸外遊びの開放感を理解しておく。	60分
第7回	自然環境を利用した運動遊びの実践と指導法Ⅰ(林を使った野外ゲーム)	自然の中でのゲームをするための準備や、自然の中でのゲームのルールを理解する。	自然の中での運動やゲーム遊びのルールは、怪我や事故を防ぐために重要であることを理解しておく。	60分
第8回	自然環境を利用した運動遊びの実践と指導法Ⅱ(追跡ハイキング等自然を生かせるゲーム)	林の中での迷路や、木登りの楽しさを理解する。	自然の中での追跡ハイキング、ネイチャーゲームの手順と楽しさを理解しておく。	60分
第9回	自然環境を利用した運動遊びの実践と指導法Ⅲ(自然環境を考えるゲーム)	自然環境を利用したゲームや、ASE を通して環境教育と冒険教育の効果を理解する。	自然の中での遊びは、環境教育と冒険教育を学ぶ機会を与えてくれることを理解しておく。	60分
第10回	運動教材を用いた運動Ⅰ(フープ・ボール・縄を用いて屋内・屋外で運動する)	縄跳び、フープ、ボール、マット、跳び箱を障害物に入れたリレーを行い、個人の能力が結果に反映しないことを理解する。	縄跳びや跳び箱の課題を低く設定することで、全員が参加出来る運動になることを理解しておく。	60分
第11回	運動教材を用いた運動Ⅱ(様々な運動を運動会様式に配列し実践する)	模擬運動会を企画し実施する。	保育園や幼稚園、小学校で行われる運動会種目をアレンジして模擬運動会を行う。どのような種目が楽しいのか理解しておく。	60分
第12回	児童の運動遊びの創造	音楽に合わせて体を動かすことの楽しさを理解する。	音楽が体の動きのリズムを作る手助けをしていることを理解しておく。	60分
第13回	児童の運動遊びの指導と安全・管理の方法	色々な運動やスポーツ場面における安全への配慮について理解する。	運動中の怪我や事故の発生原因について理解しておく。	60分
第14回	幼児の運動遊びの評価方法	運動やスポーツの結果について、評価の方法を理解する。	運動やスポーツの評価の難しさについて理解しておく。	60分
第15回	まとめ	幼児や子どもにとって楽しい運動とはどのような運動	運動やスポーツ嫌いを作らない	

	か、運動の評価は何を評価するのか理解する。	運動指導について理解しておくこと。																														
学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。																															
学生へのフィードバック方法	毎回の実技授業を通して、自身の運動への関心や興味の度合いをフィードバックできる。修得できない運動については、終了後に練習をすることが可能である。																															
評価方法	授業への積極的態、授業時の運動の修得度合い、12回目の運動遊びの創造の3つの観点からの総合評価とする。																															
評価基準	<p>評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業への積極的態</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業時の運動の修得度合い</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>運動遊びの創造</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	授業への積極的態	○	○	○		授業時の運動の修得度合い	○	○	○		運動遊びの創造	○	○	○	○										
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																												
授業への積極的態	○	○	○																													
授業時の運動の修得度合い	○	○	○																													
運動遊びの創造	○	○	○	○																												
評価割合	授業への積極的態 (40%)、授業時の運動の修得度合い (30%)、12回目の運動遊びの創造 (30%) の3つの観点からの総合評価とする。																															
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。																															
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 様々なスポーツのルールを理解する。スポーツの戦術やトレーニングの方法を理解している。</p> <p>【思考・判断】 ゲームを通して相手の動きの予測や判断ができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】 様々なスポーツゲームに積極的に取り組む、チームのために努力を惜しまない。</p> <p>【技術・表現】 新しい運動を考え、他者に見せるための表現をしている。</p>																															
オフィスアワー	月曜日4時限目																															
学生へのメッセージ	子どもの運動指導について、大人とは違った観点を持ってほしい。子どもの運動への関心はその後の成長に大きく影響し、また子どもの時の運動の好き嫌いがその後に持続することも考えてほしい。運動指導の楽しさを経験することの重要性を考えて欲しい。																															
教育等の取組み状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>運動遊びの創造で、幼児や子どもの楽しめる遊びを様々な観点から考え実施している。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td>○</td> <td>幼児や子どもの運動や遊びを集約し整理している。</td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング	○	運動遊びの創造で、幼児や子どもの楽しめる遊びを様々な観点から考え実施している。	情報リテラシー教育	○	幼児や子どもの運動や遊びを集約し整理している。	ICT活用																	
	該当有無	概要																														
実務経験を活かした授業																																
アクティブ・ラーニング	○	運動遊びの創造で、幼児や子どもの楽しめる遊びを様々な観点から考え実施している。																														
情報リテラシー教育	○	幼児や子どもの運動や遊びを集約し整理している。																														
ICT活用																																

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	野外活動論（児童と野外環境）		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	2 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金子 和正	指定なし

ナンバリング	P40501M21
授業概要(教育目的)	子どもの成長にとって自然環境の果たす役割は極めて重要です。自然の中で子どもたちは他者との関わり、自己への認識、自然との関わりをそれぞれの発育・発達段階のちょうど良いペースで学んでいきます。自然環境がもつ多くの魅力と、子どもの成長にとって重要な要素となる野外環境について内外の知見や身近な実践例から学んでいきます。
学習目標(到達目標)	
学習目標（到達目標）	
知識・理解の観点 (K)	野外活動に関する専門的知識を理解している。野外活動の効果について理解している。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	野外活動の実践ができる知識と技術を理解している。
技術・表現の観点 (A)	自然の中の生活の知識と技術を持っている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	野外教育の考え方	野外教育の概念について、アメリカの包括的な考え方である環境教育と冒険教育の側面から理解していく。	日本では1960年代に、アメリカの野外教育の本や雑誌の紹介で普及してきた。Outdoor Educationの訳語が野外教育となったことを理解しておく。	90分
第2回	野外教育の歴史	野外教育の思想的な根源を踏まえ、アメリカの野外教育史と、日本の動向について理解する。	アメリカにおいては1930年代が教育キャンプの黎明期であり、日本においてはYMCA、ボーイスカウトといった民間の青少年団体が戦前、戦後に大きく貢献したことを理解しておく。	90分
第3回	野外教育の効果	野外教育は冒険教育や環境教育などの手法により、身体的スキル、対人的成長または教育的スキル、エコロジカルな関係性について学び深める機会であることを理解する。	野外教育は様々な領域がブレンドされた教育手法である。そのことによって心理的側面、社会的側面、環境・行動的側面からの効果が期待できることを理解しておく。	90分
第4回	野外教育と組織キャンプ	野外教育の原点となっている教育的な意図をもって行われる組織的キャンプについて、野外教育の手段としてなぜ組織キャンプが有効なのかについて理解する。	アメリカにおいては、キャンプ教育や学校キャンプが学校教育のカリキュラムの中に入り野外	90分

			教育となってきたことを理解しておく。	
第5回	冒険教育	日本では多くのキャンププログラムや野外活動の中に、冒険教育プログラムが取り入れられていることを理解する。	冒険教育は、主に自然環境を活用し、冒険の要素を特定の教育目的をもって体験学習として組織的に行う活動であることを理解しておく。	90分
第6回	環境教育	環境教育には教科書を読んだり、授業を受けたり、という伝統的な学びの方法だけではなく、野外教育的手法を採り入れた体験を通じた学びも大切であることを理解しておく。	野外教育を環境教育における手法ととらえ、両者は切り離せないという考えを理解しておく。	90分
第7回	キャンプ療法	キャンプ療法の歴史や考え方、意義について理解する。	キャンプのもつ要素から考えられるキャンプ療法の効果を、「身体的」「精神的」「社会的」の視点から理解しておく。	90分
第8回	チャレンジベースドキャンプ	最近のキャンプでは、チャレンジ、冒険、人間関係づくりをキーワードとしたプログラムが数多く行われている。これをチャレンジベースドキャンプということを理解する。これはキャンプの目標を効果的に達成するためのプログラムであることを理解する。	チャレンジベースドキャンプの代表としてイニシアティブゲームを理解しておく。	90分
第9回	自然を感じるプログラム	ネイチャーアウェアネスプログラムを経験し、自然環境の中に身を置き、からだ全体でその場の環境や生物を感じとる。	現代人の多くは、使われない筋肉のように自然に対する気づきの眼や感覚は鈍ってきていることを理解しておく。感覚を取り戻すには自然の中に身を置き、直接的な体験活動を行うことが必要であることを理解しておく。	90分
第10回	地域研究プログラム	野外教育にとって自然は、「活動の場」と同時に「学びの場」であり、豊かな自然なくして野外教育は成立しないことを理解する。	「人のいない自然」と「人のいる自然」について理解する。	90分
第11回	創作・芸術活動	キャンプでは、自然環境を活かした身体活動が中心となるが、適切なタイミングでゆったりと過ごせる創作活動や芸術活動を取り入れることで、キャンプ全体にメリハリが生まれることを理解する。	活動をふりかえったり、記録したりする手段としても有意義な時間の過ごし方となることを理解しておく。からだと心をつなげるフレッシュさせる積極的休養にもなることを理解しておく。	90分
第12回	野外生活技術	普段の生活とは異なった環境の中で、自然への配慮やリスクマネジメントなどのさまざまな観点から必要なスキルであり、その習得は快適なキャンプ生活につながることを理解する。	野外生活技術を良く理解し、さまざまな状況に柔軟に対応できることもスキルの1つであることを理解しておく。	90分
第13回	デイプログラム	デイプログラムのように短いプログラムは、活動目的は重要であり、明確に示す必要があることを理解する	デイプログラムは、初めてのキャンプ参加者には最適である。野外活動歴が少ない保護者にとっても気軽に第一歩を踏み出すことができることを理解しておく。	90分
第14回	短～中期プログラム、中～長期プログラム	短期のキャンプでもテーマ、ねらい、内容の一貫性を考えることが重要であることを理解する。中～長期のプログラムは、面白そうな活動を並べるのではなく、「参加者にこうなって欲しい」というねらいを達成できるプログラムを作ることを理解する。	目的が達成できるプログラムを作るために、アクティビティとプログラムとプログラムデザインの違いを理解しておく。	90分
第15回	学校教育とキャンプ	学校教育における自然体験活動のプログラムデザインについて理解する。	「生きる力」「総合的な学習の時間」「学校週5日制」をキーワードに理解しておく。	90分
第16回				

学習計画注記

授業の進み具合によってはスケジュールが変更になる場合があります、

学生へのフィードバック方法

実施した小テストは、採点して返却する。小テストの模範解答はgoogle drive上に提示する。質問はメールにて随時受け付ける。

評価方法

- ・毎授業時の終わりに、5分間の小テストを実施する。小テストは授業時の講義の内容に沿ったものとする。
- ・小テストは5点満点とし、総計は5点×14回で70点とする。
- ・授業期間中2回の課題レポートを出し、それぞれ15点満点とし、15点×2回で30点とする。
- ・課題は全て講義で話した内容を基に提出することとなるので、十分注意すること。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○		○	

課題レポート	○	○	○	
評価割合	小テスト（70%）課題・レポート（30%）を総合して評価する。			
参考図書	1) 日本野外教育研究会編「野外活動-その考え方と実際-」杏林書院、2001年 2) 筑波大学野外運動研究室編「キャンプの知」勉強出版、2002年 3) 星野敏男、金子和正 監修「野外教育入門シリーズ1巻～5巻」杏林書院2013年			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもの教育、子どもの健康、子どもの心理、子どもの文化を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が習得できる。 【思考・判断】自ら様々な課題に柔軟に対応できる。 【関心・意欲・態度】子どもをめぐる体や健康の問題に関心を持って取り組み、こどもたちの健全な発達のために使命感をもって行動できる。			
オフィスアワー	火曜日4時限目			
学生へのメッセージ	子どもを取り巻く遊び環境について考える姿勢を身につけ、環境が子どもを育てる意味について考える態度を修得して欲しい。近年の野外教育ブームが子どもの成長にどのような効果を及ぼしているのかを科学的に考察する習慣を身に付けるように、毎日の自身をとりまく現象について考えて欲しい。先進国が、次代を担う子ども達をどのような環境で育てていくのかという教育の原点を考えてほしい。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング	○	野外活動全般について、自ら知識を深めている。		
情報リテラシー教育	○	得られた情報を整理し、日本とアメリカの野外活動の違いについて説明できる。		
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	児童とことば		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 和田 美香	指定なし

ナンバリング	P30601M21
授業概要(教育目的)	児童期の子どもの言葉の発達を理解し、その時期の言語生活を豊かにするための具体的な環境や方法について伝える。 また、幼児期からの繋がりを意識した上で、小学校以降の教科学習をしていくための基礎としての言葉についても考えていくようにする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の基本や児童期の子どもの言葉の発達について理解する。 1次的言葉から2次的言葉への移行について理解する。
思考・判断の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 児童期の子どもの言葉の課題をみつけ、解決していく態度を養う。
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ul style="list-style-type: none"> 児童期の子どもが置かれた言葉の環境や、現代的課題について関心をもつ。
技術・表現の観点 (A)	<ul style="list-style-type: none"> 言葉を味わい、言語活動を展開していく技術を養う。 話すこと、聞くこと、読むこと、書くことの実践的な指導力を身に付ける。

学習計画

児童とことば

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力とは	国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力とは何か、ということを講義形式で学習する。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。	90分
第2回	日常生活における児童期の言葉	日常生活における児童期の言葉について、事例を用いながら講義形式とグループワークを組み合わせ学習する。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。	90分
第3回	1次的言葉と2次的言葉	1次的言葉と2次的言葉について、資料と具体的事例をもとに理解する。またその獲得が、児童の生活にどのように影響するのかということについて考える。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。	90分
第4回	言葉の発達が気になる	言葉の発達が気になる児童に対する支援について、具体的事例をもとにその実際を考える。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。	90分

	児童に対する支援			
第5回	伝え合う力を高めるとは	伝え合う力を高める実践について講義形式とグループワークにより理解する。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。	90分
第6回	思考力や想像力を養うとは	言葉によって思考力や想像力を養うことについて理解し、その具体的実践について学ぶ。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。	90分
第7回	文字・語句・表記に関する事項	文字・語句・表記に関する事項について、児童期の言語発達の視点から学ぶ。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。	90分
第8回	話すこと・聞くこと	児童期の話すこと・聞くことに関する事例をもとに、その発達と具体的な実践について考える。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。	90分
第9回	読むこと・書くこと	児童期の読むこと・書くことに関する事例をもとに、その発達と具体的な実践について考える。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。	90分
第10回	児童期の言語感覚を養う実践	児童期の言語感覚を養う実践について、講義とグループワークにより学ぶ。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。	90分
第11回	言語活動の展開1	『ごんぎつね』を題材にして児童期の言語活動の展開を具体的に考える。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。	90分
第12回	言語活動の展開2	『スーホの白い馬』を題材にして児童期の言語活動の展開を具体的に考える。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。	90分
第13回	言語活動の展開3	『モチモチの木』を題材にして児童期の言語活動の展開を具体的に考える。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。	90分
第14回	言語活動の展開4	『注文の多い料理店』を題材にして児童期の言語活動の展開を具体的に考える。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。	90分
第15回	児童の言葉をはぐくむ読書の指導について	児童期の読書活動について、具体的事例を取り上げながら考察する。	授業で利用したワークシートを完成させながら復習を行う。	90分
第16回	定期試験	授業内容に基づいた定期試験を行う。		

学習計画注記 テキストは使用しないが、毎回プリントを配布する。ワークシートの形式の部分は、授業後に復習を兼ねて完成させ、ファイルに綴じておく。定期試験の前には、その資料をもとに準備すること。

学生へのフィードバック方法 大篇幅を利用して、授業の質問、感想、要望、雑談を受け付ける。毎回それに対するフィードバックを行う。指導案など提出したものは添削、助言をして返却する。

評価方法 平常点（50％）、定期試験（50％）
（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	○
定期試験	○	○		

評価割合 平常点（50％）、定期試験（50％）
（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）

使用教科書名 (ISBN番号) 特になし

参考図書 『のはらうたⅠ』 工藤直子 童話屋

ディプロマポリシーとの関連
【知識・理解】 言葉の基本や児童期の子どもの言葉の発達について理解できている。
【思考・判断】 児童期の子どもの言葉の課題を見つけ、解決していく態度を養う。
【関心・意欲・態度】 児童期の子どもの置かれた言葉の環境や、現代的課題について関心をもつ。
【技能・表現】 言葉を味わい、言語活動を展開していく技術を養う。

オフィスアワー 月曜2限から4限

学生へのメッセージ 言葉に関する自分自身の感性を豊かにするために、日頃から言葉の楽しさや美しさを意識して、授業に臨んでほしい。

教育等の取組み状況

該当	概要
----	----

	有無	
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、保育士・幼稚園教諭として実務経験を有しており、子どもとかわるうえで必要な資質・能力について実務経験に基づいて教授を行う。
アクティブ・ラーニング	○	言語活動の展開は、グループワークを取り入れ、教員と学生、学生同士の双方向のやりとりを行う。
情報リテラシー教育	○	先行研究などを収集する際、その情報の発信元や発信の目的などに目を向けた上で、信頼性のある情報か否かを判断する。
ICT活用	○	各自の言語活動の展開をパワーポイントなどにまとめて発表し、他者にわかりやすいプレゼンテーションを実践する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	音楽実技B (PA)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 吉永 早苗	指定なし
非常勤講師	渡邊 有里香	指定なし
非常勤講師	久田 由紀子	指定なし
非常勤講師	佐藤 くみ	指定なし
非常勤講師	三好 朝香	指定なし

ナンバリング	P20601M12
授業概要(教育目的)	児童と音楽Aで習得した演奏技術を基礎に、乳幼児・児童を対象とした弾き歌いの課題曲を扱う。乳幼児・児童が生き生きと音楽活動を楽しみ、感性を育むことができるような歌唱・ピアノ伴奏についての演習を行う。
履修条件	児童と音楽Aを履修済みであること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	子どもの歌における伴奏の役割を理解している。
思考・判断の観点 (K)	子どもの動きに合わせて、即興的に伴奏を工夫することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	他者の表現の工夫を学び、自分の演奏に生かすことができる。
技術・表現の観点 (A)	簡易伴奏を考えたり、子どもの声域に合わせた伴奏を考えたりできるような、実践的な力を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	本講義のねらい、講義の進め方の説明とクラス分け	児童と音楽Aで習得した曲を復習しておく。	90分
第2回	春のうた①	ぶんぶんぶん、チューリップ など	課題曲の譜読み・個人練習	90分
第3回	春のうた②	めだかのがっこう、ことりのうた など。	課題曲の譜読み・個人練習	90分
第4回	夏のうた①	しゃぼんだま、うみ など	課題曲の譜読み・個人練習	90分
第5回	夏のうた②	たなばたさま、あめふりくまのこ など	課題曲の譜読み・個人練習	90分
第6回	秋のうた①	とんぼのめがね、まつぼっくり など	課題曲の譜読み・個人練習	90分
第7回	秋のうた②	どんぐりころころ など	課題曲の譜読み・個人練習	90分
第8回	冬のうた①	ジングルベル、あわてんぼうのサンタクロース など	課題曲の譜読み・個人練習	90分

第9回	冬のうた②	お正月、こぎつね など	課題曲の譜読み・個人練習	90分
第10回	みんなのうた①	さんぼ	課題曲の譜読み・個人練習	90分
第11回	みんなのうた②	おかあさん、とけいのうた など	課題曲の譜読み・個人練習	90分
第12回	みんなのうた③	思い出のアルバム など	課題曲の譜読み・個人練習	90分
第13回	動物のうた①	アイアイ など	課題曲の譜読み・個人練習	90分
第14回	動物のうた②	ぞうさん など	課題曲の譜読み・個人練習	90分
第15回	発表と自己評価	発表と鑑賞、講義を振り返り、自己評価を行う。	発表会用の弾き歌いを練習する。	90分
第16回				

学習計画注記	1クラスを4つのグループに分け、4人の講師が順に個人レッスンを行います。最初の講義において、グループ分けをします。学習計画に具体的な曲名をあげていますが、各自の技術、進度に合わせて課題曲を選定します。
学生へのフィードバック方法	リフレクションシートに、気づき、学び、困ったことなどを記載して毎回のレッスン時に提示していただきます。そのことで、全員の講師が受講生それぞれの状況を把握し、しっかりと支援をします。その他質問事項があれば専任教員の吉永がお答えします。
評価方法	リフレクションシートに記載された学習状況と音楽的な気づき等によって、関心・意欲・態度や知識・理解の状況、保育者・教師としての音楽的資質に関する思考等について判断します。課題の取り組みの進捗状況から、積極的に個人練習に励んでいるか、また表現技術の習得について判断します。最終週には発表会を予定しています。クラス全員の前で弾き歌いを発表することを通し、表現技術の習得状況を判断します。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
リフレクションシート	○		○	
課題の進捗状況		○	○	○
発表		○		○

評価割合	リフレクションシート（40%）、課題の進捗状況（30%）、発表会（30%）で評価する。参加態度および授業内容に関連した課題20%で評価する
使用教科書名 (ISBN番号)	島田和昭・高倉秋子 編（1998）『うたってひいて童謡ぴっこりーの』共同音楽出版社
参考図書	各自の進度に応じて、紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 子どもの文化をとしての、楽譜の読み方、基本的な音楽理論の習得。 【思考・判断】 子どもの状況に合わせて、弾き歌いをする事ができる。 【関心・意欲・態度】 保育者・小学校教諭として身につけておきたい弾き歌い曲について、豊かなレパートリーを有している。 【技能・表現】 子どもとともに音楽を楽しみ、子どもの音楽的感性を育むための表現技術を身に付けている。
オフィスアワー	吉永をお訪ねください。 前期・後期：月曜日 3限 1601
学生へのメッセージ	予習復習および自己練習の時間を毎日確保して、表現技術の向上に努めてください。 ピアノ伴奏の練習をする前に、まずその曲の詩を味わい、よく歌えるようにしておくこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	児童と身体表現		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 荒金 幸子	指定なし

ナンバリング	P20602M12
授業概要(教育目的)	身体表現の楽しさを共有し、これからの子どもたちにとって本当に求められているものは何かを考えながら、指導者として持つべき資質・能力（洞察力、コミュニケーション力、人間力、等を含む実践的指導力）を培っていくことを目的とする。
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・上手、下手を気にせず、子どもの心で楽しくからだを動かしてみようと思う人。 ・安全面、衛生面を考えた身支度（運動着、体育館履き含む）で参加できる人。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	子どもにとっての身体活動の意義が理解できる。
思考・判断の観点 (K)	子どものからだの発達にあった工夫と指導法について、自らの体験を通して理解できるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	グループワークにも積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	自らの身体活動の向上にむけ、充分動きを楽しむことができるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	からだほぐしの運動	自らのからだの使い方や動きのクセを知り、からだを正しく動かす方法を身につける。	ケガをしないように、からだを整え準備をしておくこと 疲労を感じられる部分をしっかりケアしておくこと	45分
第2回	保護者と(子ども同士でも)できるコミュニケーション遊び	現場ですぐに実践できるコミュニケーション遊びを紹介し、体験する。	今まで、自分自身が体験してきたコミュニケーション遊びをあげておくこと コミュニケーション遊びを記録に残しておくこと	45分
第3回	自分の動きを見直そう	日常生活の中では動かしきれない「からだの使い方」を学び、必要性を理解する。	巧緻性とは、巧緻性を高める運動とは何かを調べておくこと からだを器用に動かす練習をしておくこと	45分
第4回	動きに慣れよう	いろいろな動きを体験し実践しながら身につけていく。	からだを動かす練習をしておくこと いろいろな動きに慣れるよう練習をしておくこと	45分

第5回	動きを楽しもう	自分のイメージ通りに、からだを動かすことができるようになる過程を楽しむ。	からだを動かす時間を持つようにしておくこと 疲労が長く残らないように工夫をしておくこと	45分
第6回	ボール遊びを考えよう	ボールの特性を理解する。 ボールをいかした遊びを体験する。	ボールに慣れておくこと ボール特性をいかした遊びを考えておくこと	45分
第7回	縄跳びを工夫しよう	縄の活用法、跳び方等ひと工夫した遊びを体験する。	縄に慣れておくこと 縄を使った遊びや跳び方を考えておくこと	45分
第8回	身近な用具で運動遊びを考えよう	すぐに活用できる用具や小道具を利用した運動遊びを体験する。 自ら工夫し提案する。	身近にある用具で利用できそうな物をあげておくこと 他者の提案した遊びを記録に残しておくこと	45分
第9回	運動会作品にチャレンジしよう	運動会作品（身体表現）を実践する。 上手、下手を考えずにチャレンジする。	からだを動かし体調の確認をしておくこと 疲労回復できる体操等を行なっておくこと	45分
第10回	運動会作品を工夫しよう	グループで運動会作品を創作する。 動き、隊形など運動会をイメージして工夫する。	子どもたちをイメージした表現方法を考えておくこと 仲間の提案した動きや隊形等、創作に必要なことをまとめておくこと	45分
第11回	運動会作品を発表しよう	グループで創作した運動会作品を発表する。 各グループの表現を楽しむ。	発表に必要な事項をグループごと確認しておくこと 自ら楽しむことができたか、創作から発表までをふり返っておくこと	45分
第12回	体操・ダンスの指導法	号令と動きについて 心地よく動くため、動かせるために必要なことを体験し理解する。	号令とは何か調べておくこと 号令のかけ方を練習をしておくこと	45分
第13回	体操・ダンスの指導法	姿勢と示範について 正しい姿勢とは、示範に必要なことは何かを体験し理解する。	正しい姿勢、良い姿勢とは何か調べておくこと 示範について理解を深めておくこと	45分
第14回	笑顔の素敵な先生を目指して	指導実践の中で、指導上の留意点を明確にし理解する。	子どもたちを前にして指導する場合、指導上配慮することをあげておくこと 指導者として表現できたか、自分自身でふり返りをしておくこと	45分
第15回	楽しくからだを動かそう	まとめ 専門的リーダーシップをもつ指導者に必要なことを理解する。	リーダーシップとは何かを調べておくこと からだを動かすことを楽しむことができるようになったか自己評価をしておくこと	45分

学生へのフィードバック方法 授業での課題やレポートについて、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

評価方法 指導者の前に、人間として成長していくため自らが自主性や自発性をもち、いろいろな課題に取り組みながら、新しい能力を修得することができたか総合的に評価する。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート	○		○	
実技	○	○	○	○
グループワーク	○	○	○	○

評価割合 レポート等提出物 (30%)
グループワーク・実技テスト・授業への取り組み方 (積極性、協調性、安全性) を (70%) で評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) なし
必要に応じて資料を配布する。

参考図書 教育技術 (小学館) 幼児と保育 (小学館) より
運動会作品 (オリジナル)、その他

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】 実践的なプログラムを通して、その必要性を理解し自らの成長を高めている。

	【関心・意欲・態度】何事もチャレンジする姿勢をもち、自分自身の可能性を広げている。	
学生へのメッセージ	からだを動かすことが大好きな子どもたちの輪を広げるリーダー（指導者）を目指します。自らを変革していく姿勢を大切に、身体表現を通じて学びを深めましょう。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	現在も担当教員が、子育て教室・子どもの健康教室において実践指導している内容を体験させ、その指導方法を伝えている。
アクティブ・ラーニング	○	既存の運動会作品（担当教員オリジナル振付）をグループに分け、創作から発表までの展開方法を伝えている。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	子どもと造形		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 立川 泰史	指定なし

ナンバリング	P20603M12
授業概要(教育目的)	子どもの心身の発達に伴う造形表現の変容を知り、指導の内容と方法について体験的に学ぶ。「生活や遊び」から表したいことを見付ける題材、「形や色」を言葉のように使って表し伝える喜びを味わう活動、子どもの「感覚や感性」を生かす環境や言葉掛けなど、実践的な事例を体験しながら理解を深める。また、さまざまな造形表現の演習を通して、素材の具体的な特徴や出会い方、子どもの表現に適した「材料・用具」に関する知識と技能を身につけ、今日の教育的課題を解決する応用力・指導力を培う。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 幼児期における造形表現の特徴と発達の関連、活動の意義や価値について、基礎的な事項を説明できる。 2. 幼児の造形活動に適した内容や教材・用具の使用方法に関する基礎的な知識をもち、説明できる。
思考・判断の観点 (K)	幼児の発達や個性を理解する視点をもち、個に応じた支援・指導の展開方法を検討できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	幼児が親しむ遊びや造形文化に関心をもち、子どもらしく個性的な感性を育む視点を説明できる。
技術・表現の観点 (A)	身近な生活や遊びに関連づけた造形活動に導入・展開する基本的技能を活用し、具体的な活動を運ぶ要件を説明できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	1. 子どもの造形表現と保育の意義	今日の社会や造形文化と子どもの造形表現の関連を知り、保育における位置づけや意義を理解する。	親しみのある造形文化の概要を把握し、幼児の造形表現と生活の関連を整理しておくこと。	45分
第2回	「形や色」に触れる出会い	生活や遊びにある「形や色」に触れる大切さを知り、造形活動を展開する実践的方法を理解する。	生活にある「形や色」について考え、造形活動を開発・展開する事例を調査しておく。	45分
第3回	「描画材や用具」に触れる出会い	幼児が造形表現に用いる描画材や用具の特徴について、基礎的な知識と基本的な技能を体験的に理解する。	造形表現に用いる材料や用具の活用に係る事例をあげ、意義や特徴を整理しておく。	45分
第4回	「身近な材料」に触れる出会い	身近な自然材料や人工材料の種類や特徴及び活用方法について、体験的に理解する。	身近な生活にある自然材料を中心に活用事例をあげ、意義や特徴を整理しておく。	45分
第5回	子どもの育ちと造形表現	幼児期から児童期に至る心身や認識の発達と造形表現の特徴を知り、支援の方法や観点を体験的に理解する。	幼児期の発達や成長の特徴について整理しておく。	45分

第6回	さまざまな表し方と活用(1)技法や行為から	幼児の造形活動に適した表現技法や遊びを生かした表現行為について体験的に理解する。	幼児期の造形活動について技法や行為を生かした事例を調べておく。	45分
第7回	さまざまな表し方と活用(2)感覚や認識から	幼児の造形表現を支える身体感覚や認識の特徴を知り、造形活動に導く意義や具体的な方法を体験的に理解する。	幼児の成長に伴う感覚や認識の発達について、参考資料を基に特徴を整理しておく。	45分
第8回	季節を感じる表現と壁面装飾	季節感を基に発想する造形表現の意味や材料特徴の生かし方を知り、楽しい壁面装飾と環境づくりを体験的に理解する。	季節感を大切にされた造形活動や材料の事例を調べ、活動構成に求められる観点を整理しておく。	45分
第9回	遊びから生まれる造形表現	材料の特徴を味わう遊びや気付きを生かした造形表現の内容や環境づくりについて体験的に理解する。	幼児の遊びにある感覚や認識の働きについて年齢を基に基礎的な事項を整理しておく。	45分
第10回	人とつながる造形表現	協働性や社会性を重視する造形表現について意義や価値を知り、具体的な展開方法について体験的に理解する。	幼児のコミュニケーション能力を生かす造形活動の内容や展開について事例をあげ、特徴を整理しておく。	45分
第11回	からだで生み出す造形表現	身体の動きや感覚を生かした造形表現の意義や内容を知り、知覚や認識をつなげる造形活動の展開について体験的に理解する。	日常生活の中で動く幼児の運動感覚や身体感覚について具体的な場面の特徴を整理しておく。	45分
第12回	かたまりから生まれる造形表現	粘土の種類や特徴の違いを知り、かたまりの中から発想を広げる造形表現の可能性について体験的に理解する。	紙粘土や土粘土の特徴を生かした幼児の表現について事例をあげ、支援する観点を整理しておく。	45分
第13回	語り継がれるお話づくり(1)構想と制作	幼児に適した創作物語を構想するグループの話し合いを通して物語文化に触れ、楽しく表現するための要件について体験的に理解する。タブレット型PCを活用したビジュアル・コミュニケーションや構想プロセスを体験的に理解する。	パネルシアターやエプロンシアターなどの実践事例をあげ、物語の創作・演技の意義・目的を整理しておく。	45分
第14回	語り継がれるお話づくり(2)制作と演じ方	グループで構想した創作物語を保育者が演技する際の「材料の活用」や「演じ方」について体験的に理解する。	幼児の興味・関心を高める物語の演じ方や材料の活用について事例をあげ、工夫点を整理しておく。	45分
第15回	物語表現の発表・まとめ	グループで創作した物語を相互鑑賞し改善点や工夫点を協議することを通して、物語的表現のよさや違い、幼児の発達・成長に果たす役割を体験的に理解する。各演習で習得した知識や技能について総合的に振り返る対話を基に、子どもと造形表現の関係や支援環境の要件を理解する。	これまでの造形体験や討論を振り返り、造形的な表現活動に求められる知識・技能について資料を基に整理する。各演習で体験した内容を基に、実践的な造形活動の構想・計画し、子どもの発達に寄与する意義を考察するレポートを提出する。	45分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法 実技演習を中心とする。取り組みの中で個やグループに応じた支援・助言をする。毎回の実技体験について自身の考察を記すドキュメントシートをコメント付きで返却する。

評価方法 ・毎回の授業で、体験した内容から気付きや考察を記すドキュメントシート(各回200字程度)の提出を求める。記述内容について、学習目標の規準を観点に評価する。
・全演習の内容に準拠した実践開発・教材研究を共通テーマにした小論レポート(1600~2000字程度)の提出を学期末に求める。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
ドキュメントシート	○	○	○	
小論レポート	○	○		
演習・グループディスカッション			○	○

評価割合 平常点20%・提出物30%・期末小論レポート50%について総合的に評価する。

使用教科書名(ISBN番号) 特になし(毎回の授業にて適宜資料を配布する)

参考図書 文部科学省『幼稚園教育要領解説 平成30年3月』フレーベル館、2018年 (ISBN : 9784577814475)

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】子どもをとりまく生活や遊びの視点を通して、児童学を構成する領域を総合的に理解し、子ども

	<p>の造形表現の特徴と発達に関連など、専門的な知識を有している。</p> <p>【思考・判断】幼児期における造形表現の特徴に適した具体的・実践的な造形活動の展開について考察・検討し、討論する方略を有し、家族・地域・社会と協働しながら「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション力・感性を備えている。</p> <p>【技能・表現】造形活動を開発・展開する基礎的な技能や表現力を有し、理論と実践の融合を図ることを通して、子どもの専門家として社会に貢献できる。</p>
オフィスアワー	水曜3限 1629研究室
学生へのメッセージ	<p>「つくる・みる・つたえる」ことに関心をもって、演習に取り組むこと。</p> <p>自らつくる楽しさを味わうことが、子どもに表現の喜びを知らせることにつながる。</p> <p>そのため、身近な材料や自然、地域と文化に興味をもち、造形表現やデザインへの意識を広げることが望ましい。</p> <p>学んだ成果やエピソードは、配布資料とともにポートフォリオとしてまとめるように心がける。</p>

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は小学校教員として教育現場に従事した経験をもち、文部科学省検定教科書の編修代表として題材開発や教材開発に携わる。文部科学省の学習資料作成委員として学習指導要領に準拠する教育内容の普及に努める一方、幼稚園・小学校の現職教員の研修、社会的教育機関や企業との連携を生かし、今日的課題に応じた学習内容を提供する。
アクティブ・ラーニング	○	演習では個人の活動と協働的学習の両立を目指し、自他の対話を通じた対話的で実感的な理解を主に授業を構成する。
情報リテラシー教育	○	教育現場で実践されている具体的な事例を授業前後に参照することを通して、webコンテンツや検索スキルを向上する。
ICT活用	○	タブレット型PCをグループディスカッションや造形表現の構想プロセス等で活用する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	保育表現技術		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 桜井 郁子	指定なし

ナンバリング	P10604M12
授業概要(教育目的)	<p>「子どもの心理」「子どもの文化」を総合的に理解するために、保育者・教育者に不可欠な情報伝達能力とコミュニケーション能力の開発を目指す。</p> <p>「伝える」ように伝える方法を各自が自主的に考え、課題を通して実践的に表現力を身につけることを目標とする。</p> <p>グループ単位のワークショップ形式授業では、グループメンバーの多様性を尊重して独創的で創造力豊かな表現方法を習得することを目的とする。そのうえで「他者が発信する情報の読み取り方」「自身が発信したい情報の伝え方」までを学習することを目指します。</p>
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 正しい日本語と友達同士の会話を臨機応変に使い分けができる。 情報リテラシーを理解したうえで、最新の情報機器を効果的に使い表現することができる。 保育者、教育者として常に社会情勢に関心を持ち、それについて学び、考え、自分の意見を述べるができる。 防災知識や災害時の的確な情報伝達能力を身につける。
思考・判断の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの視点に立ち思考を共有したうえで、様々な課題に実践的に取り組み解決することができる。 年齢を問わず様々な人と相互理解できるコミュニケーション能力を有し、柔軟に対応する判断力を持つ。
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容に関心を持ち、積極的に能動的に参加し表現力豊かに情報発信ができる。 グループワークではメンバーの多様性を認め、それぞれが能力を発揮するチーム作りができる。
技術・表現の観点 (A)	<ul style="list-style-type: none"> 理論と実践の融合を図り、保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。 「伝えるように伝える」ために、明瞭で良く通る声を持つ。 言葉だけでなく全身を使って情報発信をすることができるスキルを持つ。 書く、読む、話す、演じるの基本的なスキルを身につけ、演出力や表現力を十分に発揮することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	情報伝達技術1	<ul style="list-style-type: none"> 全員の前で、各自がマイクを使って自己紹介 印象的なフレーズや全身で自己表現する技術を授業で身につけるための第一歩とする 	<ul style="list-style-type: none"> 自宅やアルバイト先などで他人が自分をどう見ているかをリサーチ 他人が自分に対して持つイメージを確認し自己イメージとのギャップを確認 自己イメージを投影したオリジナル名刺を作成(提出) 	120分

第2回	情報伝達技術2—① 各自の体験を言語化して表現する力を身につける	・第1回発声と滑舌の基本練習 全員で詩の朗読 ・「ある日の私」をテーマに2分程度のスピーチをする	スピーチ原稿の作成	120分
第3回	情報伝達技術2—② 他者の体験を理解し評価する	・第2回発声と滑舌の基本練習 全員で詩の朗読 ・「ある日の私」をテーマに書かれた他者のスピーチを聞き、印象的な部分や興味深い部分など評価してメモをとる	・発声・滑舌の自習 ・評価メモの作成	30分
第4回	表現技術1—① グループで朗読劇上演 構想と推敲	・第3回発声と滑舌の基本練習 全員で詩の朗読 ・グループに分かれ課題童話を朗読劇にする。上演のための脚本を作成し演出を考える	・脚本案作成と推敲→決定稿作成 ・演出に合わせた衣装など準備 ・発声・滑舌の自習	120分
第5回	表現技術2—② グループで朗読劇上演と評価	・第4回発声と滑舌の基本練習 全員で詩の朗読 ・グループごとに朗読劇上演 他グループの上演を見て評価する ・作成し脚本の提出	・発声と滑舌の自習 ・脚本をもとにグループでリハーサル 衣装や小道具準備	90分
第6回	読み聞かせ基礎1 基礎的な朗読技術習得	・第5回発声と滑舌の基本練習 全員で詩の朗読 ・具体的な文章を使って、意味の取り方・強調の方法・読むスピードの演劇的効果などを学ぶ	・発声・滑舌の自習	20分
第7回	読み聞かせ基礎2 聴衆を巻き込む朗読技術取得	・第6回発声と滑舌の基本練習 全員で詩の朗読 ・グループに分かれて童話の朗読 メンバーの声質・雰囲気ほかで配役を決める 間の取り方や強調に注意して表現力を磨く	・発声・滑舌の自習 ・朗読のための下読み	30分
第8回	保育教材研究1 創作童話を書く	・第7回発声と滑舌の基本練習 全員で詩の朗読 ・課題絵画を見てイメージことを基に創作童話を書く	・発声と滑舌の自習 ・創作童話の推敲・清書	120分
第9回	保育教材研究2 自分で書いた創作童話を朗読	・第8回発声と滑舌の基本練習 全員で詩の朗読 ・各自が書いた同作童話を朗読	・発声と滑舌の自習 ・創作童話の推敲と朗読のための下読み	120分
第10回	情報伝達技術 言葉だけに頼らない情報収集と情報伝達手法「持ち物展覧会」開催	・第9回発声と滑舌の基本練習 全員で詩の朗読 ・ペアを組んでお互いの持ち物に関する情報を収集机の上に相手の人柄や生活態度などを表現するコピーを添えてお互いに品物を展示をする 全員で展示内容・方法の評価をつける	・発声と滑舌の自習 ・「持ち物展覧会」の記録と評価メモの作成	30分
第11回	読み聞かせ応用編 一人で好きな詩を朗読	・第10回発声と滑舌の基本練習 全員で詩の朗読 ・課題として10篇の詩を配布 自分の声や気分にあった作品を選び朗読 自己評価と他者評価をする	・発声と滑舌の自習 ・朗読の下読み ・朗読の自己評価メモ作成	60分
第12回	演出技術1 創作朗読劇を作る	・第11回発声と滑舌の基本練習 全員で詩の朗読 ・創作朗読劇上演のために、各自で課題童話の「続編」を書き創作童話を作る	・発声と滑舌の自習 ・課題童話の朗読下読みと執筆	120分
第13回	演出技術2 創作朗読劇における脚本演出の工夫	・第12回：発声と滑舌の基本練習 全員で詩の朗読 ・グループでのワークショップ形式授業 各自が書いた創作童話を参考にしながら、グループごとに脚本作成 観客を楽しく巻き込める演出を工夫する チームリーダーを決めて配役を決める それにまつわる衣装・小道具・メイク・音響などの役割分担	・発声と滑舌の自習 ・創作朗読劇に脚本推敲と清書。衣装・メイク・音響効果など準備 ・上演に向けてのリハーサル	180分
第14回	演出技術3 創作朗読劇発表と最新情報機器の演出的利用の工夫	・第13回：発声と滑舌の基本練習 全員で詩の朗読 ・グループごとに創作朗読劇上演 脚本・演出（情報機器利用を含む）に関しての評価 ・グループ単位で脚本提出	・発声と滑舌の自習 ・創作朗読劇上演に向けてのリハーサル ・上演後の評価メモ作成	120分
第15回	インタビューのテクニックと情報処理技術	・第14回発声と滑舌の基本練習 全員で詩の朗読 ・ペアを組んでお互いに統一テーマに関するインタビューを実施 相手の情報を聞き出し1分程度のスピーチ原稿にまとめ	・発声と滑舌の自習 ・発表の評価メモ作成	30分

学生へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物（レポートなど）採点しコメントを付けてフィードバックする。 ・質問があれば直接またはメールなどで応じる。
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) 15回の講義の中で適宜宿題としてレポート（作文を含む）提出を求める。知識・思考・意欲・表現技術を念頭に置いて採点する。 2) 全員の前で決められたテーマについてマイクを使って発表する機会を繰り返し設け、授業の理解度・積極性・表現力を採点する。 3) 学ぶ意欲をもって「積極的に授業に参加しているか」「他者への協調性があるか」など授業態度で採点する。 4) グループでの協同作業を協調性をもってスムーズに行い、自分の得意分野を積極的に生かしてグループに貢献しているかを採点する。 <p>※定期テストは行わない。</p>

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート（作文を含む）	○	○	○	○
発表（朗読やスピーチ）	○	○	○	○
授業態度	○	○	○	○
グループ作業	○	○	○	○

評価割合	<ol style="list-style-type: none"> 1) レポート（作文を含む）の内容と提出 30% 2) 発表での表現力・コミュニケーション能力・朗読スキルほか 30% 3) 授業での集中力と積極性40%
使用教科書名 (ISBN番号)	随時配付
参考図書	随時配付
ディプロマポリシーとの関連	<ul style="list-style-type: none"> ・本学科の特色ある授業への積極的な参加を通して理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる ・保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている
学生へのメッセージ	<p>将来的に必ず役立つ実践と経験を重要視する授業です</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手に自分の気持ちが伝わる＜話し方＞＜聞き方＞を学ぼう ・子どもの視点を忘れずに、常に好奇心を持ち、発見を楽しもう ・授業には積極的に参加し自分から楽しむ気持ちを大切にしよう

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	1977年から2014年までフジテレビに勤務。アナウンサー、番組制作、イベント制作、CSR推進業務を経験したことを授業で生かす。
アクティブ・ラーニング	○	積極的にグループワークを行う。話す・演じる・演出するなど人前で情報を発信する効果的な方法を指導する。
情報リテラシー教育	○	テレビ局勤務の実務経験を生かして、適宜情報リテラシー教育を行う。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	英語アクティビティ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 畝部 典子	指定なし

ナンバリング	P10605M12
授業概要(教育目的)	英語圏の伝承動揺であるマザーグースを中心に、英語の歌を実際に歌って覚える。同時に歌に伴うあそびを覚え、子どもたちに教えられるレベルをめざす。
履修条件	なし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	英語の歌を通じて子どもの文化を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	子どもの文化を子どもの視点で考え、子どもの文化を適切に伝承できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的に子どもの文化を学ぶ意欲を持ち、その文化を実践できる。
技術・表現の観点 (A)	子どもに歌と遊びの技術を伝え、子どもと一緒にその技術を表現できる。

学習計画

英語アクティビティ

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	マザーグース概説、英語の歌(1)	マザーグースとは何か理解する。Bingo; Old MacDonald Had a Farm; Ten Fat Sausagesなどを覚える。	教科書に付属のCDを利用して歌と手あそびを覚える。	120分
第2回	英語の歌(2)	Jelly in a Bowl; Pease Porridge Hot; The Wheels on the Busなどを覚える。	教科書に付属のCDを利用して英語の歌と遊びかたを覚える。	120分
第3回	英語の歌(3)	London Bridge Is Falling Down; What Are You Wearing?; Hokey Pokeyなどを覚える。	教科書に付属のCDを利用して英語の歌と遊びかたを覚える。	120分
第4回	英語の歌(4)	I Have a Joy; Head, Shoulders, Knees and Toes; The ABC Songなどを覚える。	教科書のDVDを利用して歌と手あそびを覚える。	120分
第5回	英語の歌(5)	Seven Steps; If You're Happy and You Know It; Finger Familyなどを覚える。	教科書に付属のCDを利用して英語の歌と遊びかたを覚える。	120分
第6回	英語の歌(6)	The Farmer in the Dell; If All the Raindrops; One Windy Dayなどを覚える。	教科書に付属のCDを利用して英語の歌と遊びかたを覚える。	120分
第7回	英語の歌(7)	Skip to Your Friend; Let's Go Hunting; There's a Hole in the Middle of the Seaなどを覚える。	教科書に付属のCDを利用して英語の歌と遊びかたを覚える。	120分

第8回	英語の歌 (8)	Row, Row, Row Your Boat; Ten Little Witches; Pumpkin, Pumpkinなどを覚える。	教科書に付属のCDを利用して英語の歌と遊びかたを覚える。	120分
第9回	英語の歌 (9)	Jingle World: We Wish You a Merry Christmas; A Big Red Lacy Heartなどを覚える。	教科書に付属のCDを利用して英語の歌と遊びかたを覚える。	120分
第10回	英語の歌 (10)	Skidamarink; So Early Easter Morning; O Christmas Tree; Deck the Hallsなどを覚える。	教科書に付属のCDを利用して英語の歌と遊びかたを覚える。	120分
第11回	英語の歌 (11)	Eensy Weensy Spider; I'm a Little Teapot; Hickory Dickory Dock; Hot Cross Bunsなどを覚える。	DVDを視聴して英語の歌と遊びかたを覚える。	120分
第12回	英語の歌 (12)	Humpty Dumpty; Jack and Jill; John Brown's Baby; The Grand Old Duke of Yorkなどを覚える。	DVDを視聴して英語の歌と遊びかたを覚える。	120分
第13回	英語の歌 (13)	Where Is Thumbkin?; Pat-a-Cake, Pat-a-Cake; Twinkle, Twinkle, Little Star; Polly, Put the Kettle Onなどを覚える。	DVDを視聴して英語の歌と遊びかたを覚える。	120分
第14回	英語の歌 (14)	One Two Three Four Five!; One Potato, Two Potato; A Sailor Went to Sea; Teddy Bear, Teddy Bearなどを覚える。	DVDを視聴して英語の歌と遊びかたを覚える。	120分
第15回	英語の歌 (15)、期末試験	この授業で学んだ英語の歌を復習し、期末試験を行う。	授業で学んだ手あそび歌を全てメロディー・遊びとともに暗唱する。	120分

学習計画注記 履修者数、授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法 随時小テストを行う。期末試験答案は後期に希望者に返却する。

評価方法 ・平常点（授業中の実績）50%、期末試験50%により評価する。
・授業中の実績には小テストの結果を含める。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
試験	○	○		○

評価割合 平常点（授業中の実績）50%、期末試験50%で評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) アルクキッズ英語編集部『英語の歌&アクティビティ集』アルク、978-4-7574-0934-7

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】【思考・判断】マザーグースや英語の童謡についての知識と深い思考によって英語圏の児童文化を理解し、子どもたちに伝えられる。
【関心・意欲・態度】積極的に海外の児童文化を理解しようと努め、社会の構成員として次世代に子どもの文化を伝えることができる。
【技能・表現】英語の歌の知識と手あそびの技術を子どもたちに伝えることができる。

オフィスアワー 木曜2時限 1630研究室

学生へのメッセージ 教科書付属のCDを自宅でよく聞いて、遊びを覚えてください。授業中は積極的に参加することを心がけて下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	CDを利用し実際に手あそびをやりながら学習する。授業は学生が自分で考え、それを表現し、能動的に授業に参加することで進められる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	児童と外国語A		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 畝部 典子	指定なし

ナンバリング	P30602M21
授業概要(教育目的)	この授業では、小学校外国語活動や外国語科の教育内容、第二言語習得理論と外国語教授法、指導案の作成、正しい英語の発音など、児童に英語を教えるために必要な知識を学び、外国語活動または外国語科の模擬授業を行う。
履修条件	なし
学習目標(到達目標)	学習目標(到達目標)
知識・理解の観点 (K)	小学校での外国語(英語)の授業の進め方について理解し、実践できる。
思考・判断の観点 (K)	小学校での外国語活動、外国語科の授業をどのように運営するか判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的に外国語(英語)の表現を学び、子どもたちに英語の面白さ、楽しさを伝えることができる。
技術・表現の観点 (A)	正しい英語の発音を身につけ、使える英語の語彙を増やし、自信をもって子どもたちに英語を教えることができる。

学習計画

児童と外国語A				
回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	小学校における外国語教育	小学校における外国語教育の理論と背景、学習指導要領「外国語活動」「外国語科」について学習する。	教科書第1章、学習指導要領「外国語活動」「外国語科」を読んでおく。	120分
第2回	第二言語習得理論	第二言語習得理論と基本的な外国語教授法について学習する。	教科書第2章、第3章を読んでおく。	120分
第3回	国際理解教育、評価方法	小学校での国際理解教育の狙い、外国語の評価の意義と方法について学習する。	教科書第4章、第5章を読んでおく。	120分
第4回	カリキュラムデザイン、英語授業作り	カリキュラム作成、小学校での英語授業作り、特別支援教育における外国語活動について学習する。	教科書第6章～第8章を読んでおく。	120分
第5回	クラスルーム・イングリッシュの活用	クラスルーム・イングリッシュについて学習し、暗記する。	教科書第9章を読んでおく。	120分

第6回	求められる教員の資質、教材の選び方	外国語活動・外国語科を担当する教員に求められる資質、教材の選び方と工夫、ICTの活用について学習する。	教科書第10章～第12章を読んでおく。	120分
第7回	指導のポイント、文字指導の在り方	音声指導、1時間の指導の組み立て方と構成、文字指導の在り方について学習する。	教科書第13章～第15章を読んでおく。	120分
第8回	英語の発音：母音	英語の母音の発音の仕方について学習する。	授業で学んだ発音方法を繰り返し練習する。	120分
第9回	英語の発音：子音	英語の子音の発音の仕方について学習する。	授業で学んだ発音方法を繰り返し練習する。	120分
第10回	小学校外国語活動教材研究Let's Try! ①②	Let's Try! ①②の教材研究を行う。	配付されるLet's Try! ①②を読み、使い方について考えておく。	120分
第11回	小学校外国語科教材研究We Can! ①②	小学校外国語科We Can! ①②の教材研究を行う。	配付されるWe Can! ①②を読み、使い方について考えておく。	120分
第12回	小学校外国語活動・外国語科指導案作成	Let's Try! ①②およびWe Can! ①②を使って指導案を作成する。	外国語活動および外国語科の指導案を作成する。	120分
第13回	模擬授業(1)	外国語活動または外国語科における模擬授業を行う。発表は一人ずつ行う。	発表前に教材研究、指導案検討を十分に行っておくこと。	120分
第14回	模擬授業(2)	外国語活動または外国語科の模擬授業を行う。発表は一人ずつ行う。	発表前に教材研究、指導案検討を十分に行っておくこと。	120分
第15回	復習と期末試験	これまでに学んだ内容を復習し、小学校外国語活動、外国語科に関して期末試験を行う。	授業での学習内容を復習しておくこと。	120分

学習計画注記 履修者数、授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法 授業では随時小テストを行う。

評価方法
 ・平常点（授業中の実績）と試験の結果から判定する。
 ・授業中の実績には小テストの結果を含める。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
試験	○	○		○

評価割合 平常点（授業中の実績）50%、試験50%で評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) 金森強編著『小学校英語科教育法－理論と実践－』成美堂 978-4-7919-7196-1

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連
 【知識・理解】児童学を構成する6領域を総合的に理解し、子どもに関する専門てきた知識を修得した上で外国語を指導できる。
 【思考・判断】子どもと直接ふれあい学びあう実践的な機会を通して、学生自らがさまざまな課題に柔軟に対応できる。
 【関心・意欲・態度】子どもたちの健全な成長・発達のために使命感を持って行動でき、子どもたちへの外国語の指導に意欲的取り組みることができる。
 【技能・表現】子どもの専門家として外国語を指導することができ、豊かな表現力・コミュニケーション能力を身につけている。

オフィスアワー 木曜2時限 1630研究室

学生へのメッセージ 小学校の現場で自信をもって外国語（英語）を教えられるように、授業では積極的・主体的に取り組んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業は学生が自分で考え、それを表現し、能動的に授業に参加することで進められる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	児童と外国語B		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 畝部 典子	指定なし

ナンバリング	P30603M21
授業概要(教育目的)	この授業では、小学校で外国語を指導する上で必要な「英語」について実践的に学ぶ。具体的には、ALTとの会話、教室で使う英語、学校生活に関する英語、英語を使った活動など、小学校で英語を教える上で必要な英語表現を学習する。
履修条件	なし
学習目標(到達目標)	学習目標(到達目標)
知識・理解の観点(K)	小学校での外国語(英語)授業の進め方について理解し、実践できる。
思考・判断の観点(K)	小学校での外国語活動、外国語科の授業をどのように運営するか判断できる。
関心・意欲・態度の観点(V)	積極的に外国語(英語)の表現を学び、子どもたちに英語の面白さ、楽しさを伝えることができる。
技術・表現の観点(A)	正しい英語の発音を身につけ、使える英語の語彙を増やし、自信をもって子どもたちに英語を教えることができる。

学習計画

児童と外国語B				
回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	小学校での外国語活動、外国語科の指導について	学習指導要領「外国語活動」「外国語科」の内容を確認する。英語での授業の進め方をDVDで学ぶ。	学習指導要領「外国語活動」「外国語科」を読んでおく。	120分
第2回	Unit 1 ALTの初訪問	ALTとの会話、学校における英語表現について学習する。	Unit 1を学習する。	120分
第3回	Unit 2 ALTとのコミュニケーション	ALTとの会話、お互いに知りあうための英語、学校の施設などの英語表現を学習する。	Unit 2を学習する。	120分
第4回	Unit 3 学校給食	ALTとの会話、学校給食に関する英語表現について学習する。	Unit 3を学習する。	120分
第5回	Unit 4 休み時間	ALTとの会話、学校での遊びに関する英語表現について学習する。	Unit 4を学習する。	120分

第6回	Unit 5 最初の授業	ALTとの会話、英語で授業を行う際の英語表現について学習する。	Unit 5を学習する。	120分
第7回	Unit 6 数を数える 1	ALTとの会話、英語の数の言い方について学習する。	Unit 6を学習する。	120分
第8回	Unit 7 数を数える 2	ALTとの会話、英語の数の言い方、数式の言い方について学習する。	Unit 7を学習する。	120分
第9回	Unit 8 振り返り	ALTとの会話、外国語の授業の振り返りについて学習する。	Unit 8を学習する。	120分
第10回	Unit 9 幼稚園でのアクティビティ	幼稚園での外国語の授業の進め方、様々な英語活動について学習する。	Unit 9を学習する。	120分
第11回	Unit 10 英語を使った生活科・理科の授業	生活科・理科の授業における英語表現について学習する。	Unit 10を学習する。	120分
第12回	Unit 11 英語を使った家庭科の授業	家庭科の授業における英語表現について学習する。	Unit 11を学習する。	120分
第13回	Unit 12 英語を使った社会科の授業	社会科の授業における英語表現について学習する。	Unit 12を学習する。	120分
第14回	Unit 13 英語による日本文化の紹介	文化交流において日本文化を英語で紹介する時の表現を学習する。	Unit 13を学習する。	120分
第15回	Unit 14 避難訓練、Unit 15 卒業式の英語	小学校での避難訓練や卒業式における英語表現について学習する。	Unit 14、15を学習する。	120分
第16回	期末試験	この授業で学んだことについて期末試験を行う。	Unit 1~Unit 15を復習する。 学校生活に関わる語彙、教室英語表現を暗記する。	120分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法 授業では随時小テストを行う。

評価方法 ・平常点（授業中の実績）と試験の結果から判定する。
・授業中の実績には小テストの結果を含める。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
試験	○	○		○

評価割合 平常点（授業中の実績）50%、試験50%で評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) 相羽千州子他 (2016) 『子どもに教える先生のための英語一会話から授業までー』 (成美堂) 978-4-7919-4797-3

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】児童学を構成する6領域を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識を修得した上で外国語を指導できる。
【思考・判断】子どもと直接ふれあい学びあう実践的な機会を通して、学生自らがさまざまな課題に柔軟に対応できる。
【関心・意欲・態度】子どもたちの健全な成長・発達のために使命感を持って行動でき、子どもたちへの外国語の指導に意欲的に取り組むことができる。
【技能・表現】子どもの専門家として外国語を指導することができ、豊かな表現力・コミュニケーション能力を身につけている。

オフィスアワー 木曜2時限 1630研究室

学生へのメッセージ 学んだ表現や知識は、言葉として「使う」ことが大切です。外国語を使ってコミュニケーションすることの楽しさを子どもたちに伝えられるようになってください。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業は学生が自分で考え、それを表現し、能動的に授業に参加することで進められる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	児童と文学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 原 善	指定なし

ナンバリング	P40501M21
授業概要(教育目的)	幼児期から学童期にある子どもを主な読者対象とし、その年齢の子どもを描いた児童文学作品を取りあげ、その内容、意義について考究する。絵本、童話作品、伝承文学などを、子どもの要求や発達に即した表現という観点から検証するとともに、文学作品との関わりの中で、子どもに何が育まれていくのかについて探求する。その上で、保育・教育者として子どもの年齢にふさわしい文学作品を選択出来るようになることを目指す。
履修条件	なし。なお本科目は幼稚園・小学校教諭免許取得に必要である。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	・各回に取り上げる具体的な作品についての精緻な読解に到達すること。
思考・判断の観点 (K)	・児童文学をめぐる毎週のテーマについて、自分なりの理解を深めること。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・毎週のテーマに関わる作品を探して実際に自分で読むことを重ねる中で、自身で推薦図書を選択できるようになること。
技術・表現の観点 (A)	・取り扱った伝承文学について、自分なりの効果的な再話ができるようになったり、独創的な続編の創作ができるようになったりすること。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス (言葉と生命について)	・宮沢賢治「おきなぐさ」読解	授業前には宮沢賢治の文学についておおよそのところを調べておく。 授業後には、言葉を主題にした作品について調べて、テーマについての理解を深める。	120分
第2回	児童文学のはじまり	・巖谷小波「こがね丸」読解	配布されたプリントで作品の全文を授業前に通読しておく。 授業後には出発期の児童文学の状況について調べて当該作品の位置づけを自分なりに確認する。	120分
第3回	子供の純粋さ	・志賀直哉「清兵衛と瓢箪」読解	授業前に当該作品を通読しておく。 授業後には、党相作品と類似したテーマの児童文学作品について探しておく。	120分

第4回	子供の純粋さへの幻想	・川端康成「バッタと鈴虫」読解	授業前に当該作品を通読しておく。 授業後には、党相作品と類似したテーマの児童文学作品について探しておく。	120分
第5回	「赤い鳥」の意義	・芥川龍之介「蜘蛛の糸」読解	授業前に当該作品を通読しておく。 授業後には、党相作品と類似したテーマの児童文学作品について探しておく。	120分
第6回	童謡の世界	・北原白秋・金子みすゞ・まどみちお 読解	授業前に当該作品を通読しておく。 授業後には、党相作品と類似したテーマの児童文学作品について探しておく。	120分
第7回	児童文学と戦争	・小川未明「野薔薇」読解	授業前に当該作品を通読しておく。 授業後には、党相作品と類似したテーマの児童文学作品について探しておく。	120分
第8回	児童文学と教科書	・新美南吉「ごん狐」読解	授業前に当該作品を通読しておく。 授業後には、党相作品と類似したテーマの児童文学作品について探しておく。	120分
第9回	児童文学と道徳性	・太宰治「走れメロス」読解	授業前に当該作品を通読しておく。 授業後には、党相作品と類似したテーマの児童文学作品について探しておく。	120分
第10回	児童文学と動物	・椋鳩十「大造爺さんと雁」読解	授業前に当該作品を通読しておく。 授業後には、党相作品と類似したテーマの児童文学作品について探しておく。	120分
第11回	ファンタジーとそれを支える伝承	・三浦哲郎「ユタとふしぎな仲間たち」読解	授業前に当該作品を通読しておく。 できれば映像作品も観ておく。 授業後には、党相作品と類似したテーマの児童文学作品について探しておく。	120分
第12回	伝承文芸と現代	・阪田寛夫「桃次郎」読解	授業前に当該作品を通読しておく。 授業後には、党相作品と類似したテーマの児童文学作品について探しておく。	120分
第13回	児童にとっての悲哀の仕事	・石井睦美「五月の初め、日曜日の朝」読解	授業前に当該作品を通読しておく。 授業後には、党相作品と類似したテーマの児童文学作品について探しておく。	120分
第14回	童話と絵本	・村上春樹「ふわふわ」読解	授業前に当該作品を通読しておく。 授業後には、党相作品と類似したテーマの児童文学作品について探しておく。	120分
第15回	絵本の読み聞かせ	・谷川俊太郎「もこもこもこ」他の実演	授業前に絵本の読み聞かせの法則を調べておく。 授業後には、党相作品と類似したテーマの児童文学作品について探しておく。	120分

学習計画注記 ※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法 個々の課題 やコメントシートについては、そのつど授業の中で解説していく。

評価方法 毎回の授業への参加状況・随時行う課題の得点などで総合的に判断する平常点評価と、学期末のレポートの得点を合わせて評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○

レポート	○	○	○	
評価割合	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点… (60%) ・定期試験及びレポート等… (40%) 			
使用教科書名 (ISBN番号)	三浦哲郎『ユタとふしぎな仲間たち』（新潮文庫、ISBN4-10-115307-X）は必携。その他はそのつど指示し、必要に応じてプリントを配布する。			
参考図書	参考書として関口安義編『アプローチ児童文学』（翰林書房）があればいいが、必要なものはそのつど指示する。なお、取り扱う作品のいくつかを収録したものに『日本児童文学名作集（上）』（岩波文庫ISBN4-00-311431-0）があるが、これは今後のためにも手元におくことが望ましい。			
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】「子どもの文化」としての児童文学の意義と魅力を理解できる専門的知識を有し、「子どもの教育」の場に提供する教材を選別できる作品の読解力が修得できている。</p> <p>【関心・意欲・態度】文学が描いてきた児童像の中から・子ども視点に立ち、・子ども視点に立ち、・子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。</p>			
学生へのメッセージ	時間内に読む場合も多く、積極的に読みに参加することが求められるが、随時出席票を使った小さな課題を提出して貰うので、事前にプリントが配られている場合には、きちんと作品を読んでくること。また最終週までに5編の作品を選定できるように、毎週のテーマについて関連作品を自分なりに渉猟すること。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング	○	教員による一方的な講義形式をとらず、各自が自ら対象作品を能動的に読解し、課題を発見していけるようなグループ・ディスカッションを取り入れていく。		
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	カリキュラム論		
講義開講時期	前期後半	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	1 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 中田 範子	指定なし

ナンバリング	P30309M21
授業概要(教育目的)	保育所及び幼保連携型認定こども園における指導計画及び全体的な計画の意義やその種類と役割を理解しつつ、保育内容の充実に資する計画と評価の在り方を具体的に学ぶ授業である。乳幼児の育ちを支えるための記録・計画・実践の関連性について理解しながら、よりよい保育のあり方を探ることが目的である。具体的な事例を通じた演習や計画の作成を行う。
履修条件	保育士資格取得希望の者

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	保育実践における計画の種類とそれらの意味と意義を説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	子どもの発達の様子に即した保育内容を吟味しながら、育ちを支える保育者の援助の在り方と方法について考え、判断し、計画に反映することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容を踏まえた表現で、計画を作成することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	計画の意味と意義	保育の展開における計画の意味と意義について理解する。	教科書第9章を予習し記録の意味と意義について内容を確認する。	60分
第2回	保育の計画	計画の種類と実践・記録・計画の関連について理解する。	教科書第10章を予習・復習し、計画の種類について内容を確認する。	60分
第3回	保育所の計画①	保育所の短期的な活動の内容案を考案し、活動案の作成について理解する。	年齢に応じた遊び・保育内容に関する資料を収集し、適した保育内容を吟味する。	90分
第4回	保育所の計画②	保育所の日案を作成するうえで必要な、保育所の生活の流れや援助の主要な観点について理解する。	配布資料の演習問題を完成する。	60分
第5回	保育所の計画③	保育所の日案を作成する。	日案を完成する。	120分
第6回	未満児の計	保育所の0-2歳児の計画の特徴を理解する。	0-5歳児が参加できる行事につ	120分

	画		いて調査し、資料を収集する。		
第7回	長期計画	行事を鑑みた長期的な計画を考案し、週案、月案を作成する。	週案、月案を完成する。	120分	
第8回	計画と省察	保育を展開する手がかりを導くための評価・反省・省察の在り方の実際について理解する。	要領・指針に記載の内容について復習する。	60分	
学習計画注記		授業の進行状況等により、変更の可能性があります。			
学生へのフィードバック方法		提出された指導案はすべて添削して授業内に返却する。また、子ども主体の内容になっているか、年齢に応じた保育内容か、保育者として適切な表現を用いているか等を観点として、適宜助言をする。			
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ・短期計画は各自で作成し、評価する。 ・長期計画はグループ討議の結果を踏まえてグループごとに作成し、評価する。 ・提出物の提出期限が守られなかった場合には、減点の対象とする。 			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	指導案		○		○
	学期末レポート	○	○		○
評価割合		指導案45%、学期末レポート55%			
使用教科書名 (ISBN番号)		中田範子「子どもの育ちと環境—未来を見据えた保育の探求」大学図書出版 2018			
参考図書		保育所保育指針、同解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、同解説書 授業中に適宜紹介する。			
ディプロマポリシーとの関連		<p>【知識・理解】児童学を構成する6領域のうち、「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」を理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。</p> <p>【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・感性が備わっている。</p> <p>【技能・表現】保育者・教育者として求められる豊かな表現力を身につけている。</p>			
オフィスアワー		火曜日3-5限目			
学生へのメッセージ		<p>学習を進めていく中では疑問点を持つことは大切です。疑問・質問がある場合には、遠慮せずに申し出てください。</p> <p>保育士資格取得 必修</p>			
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、幼稚園・保育所で教諭・保育士として実務経験を有しており、幼稚園、保育所の保育の実際について実務経験に基づいて教授している。			
アクティブ・ラーニング	○	計画作成にあたりグループ討議を行い、行事等を踏まえた長期の計画を作成する。			
情報リテラシー教育	○	保育所の乳幼児に適した保育内容に関する情報を収集し、指導案作成に活用する。			
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	相談援助 (PA)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	1 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 西口 守	指定なし
非常勤講師	井上 真	指定なし

授業概要(教育目的)	社会福祉の専門援助技術の基本的な理論や方法を演習を通して学習する。また、援助の方法や技術を知識として理解するだけでなく、援助の展開過程をより深く理解するために、具体的な事例検討等を通して学生自身が主体的に考え参加できるようにすすめる。
------------	---

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	ソーシャルワークが大別できる 虐待の諸問題を理解できる
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	保育士としての支援のレパトリーを増やし、対応する状況での実践的方法を理解できる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	貧困問題	相対的貧困 わが国の貧困状況と国際比較 子供の貧困を学び、社会福祉の課題を保育の場に即して理解する	貧困問題に触れる	120分
第2回	ソーシャルワークの方法 理念 基本的考え かつ	ソーシャルワークの歴史を踏まえ、現代的課題を理解する。またその方法も理解する。	ソーシャルワークをインターネットで調べる	120分
第3回	ケースワーク	ケースワーク リッチモンドの定義 その方法 バイスティックの原則を学ぶ	バイスティックの原則を調べておく	120分
第4回	ケースワーク②	特にバイスティックの原則を学ぶ 特に「統制された情緒関与」「意図的な感情表出」	バイスティックの原則をしっかりと理解する	120分
第5回	グループワーク	小集団の定義 建設的側面と破壊的側面 グループワークの課題 定義	グループワークを概観しておく	120分
第6回	グループワーク	小集団の定義 建設的側面と破壊的側面 グループワークの課題 定義	グループワークを概観しておく	120分
第7回	命はだれのものか	NHK 彼女は安楽死を選んだを見る	安楽死とは何か 尊厳死とは何かを整理しておく	120分

第8回	ソーシャルワークの歴史	イギリスの発展	英国のソーシャルワークの歴史をネットで概観する 救貧法 新救貧法 COSなどの言葉を理解しておく	120分
第9回	ソーシャルワークの歴史②	アメリカでの発展を学ぶ いくつかのアプローチを理解する	リッチモンドの定義 機能学派 診断学派を調べておく	120分
第10回	心理臨床の立場からの児童虐待	児童虐待を多面的に考える その構造 対応 そして日本の課題	虐待事案をフォローする	120分
第11回	心理臨床の立場からの児童虐待	児童虐待を多面的に考える その構造 対応 そして日本の課題	虐待事案をフォローする	120分
第12回	心理臨床の立場からの児童虐待	児童虐待を多面的に考える その構造 対応 そして日本の課題	虐待事案をフォローする	120分
第13回	心理臨床の立場からの児童虐待	児童虐待を多面的に考える その構造 対応 そして日本の課題	虐待事案をフォローする	120分
第14回	心理臨床の立場からの児童虐待	児童虐待を多面的に考える その構造 対応 そして日本の課題	虐待事案をフォローする	120分
第15回	授業のまとめ 試験	15回を振り返る 試験の実施		120分

学生へのフィードバック方法	レポートへのコメント付記
評価方法	①学期末試験による知識の客観的評価（正誤問題） ②レポートによる論述するちからの評価

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
学期末試験	○			○
レポート				○

評価割合	井上、西口の総合点評価 期末試験60% レポート40%
使用教科書名 (ISBN番号)	なし
参考図書	都度紹介
ディプロマポリシーとの関連	【知識・技術】 児童学を構成する児童の福祉を弱者の視点から学び、その解決の方法を理解する 【技能・表現】 ソーシャルワークの展開方法を学び、この中で、バイステイックのケースワークの原則を理解し、コミュニケーションの方法を深める
オフィスアワー	月3時限
学生へのメッセージ	保育士にとって相談という行為は重要です。ここではその基本、原則そして実際について学びます。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	ソーシャルワーカーやセラピストの経験がある担当教員はできるだけ事例に即して授業展開を行う
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	保育相談支援 (PA)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 柳瀬 洋美	指定なし

授業概要(教育目的)	複雑化している日本の今日の子育てに関する諸問題保育相談支援の意義と原則、及び保護者支援の基本について理解する。また支援の実際を学び、その内容や方法を理解するとともに、保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際についての理解を深める。
履修条件	特になし 保育士資格必修科目です。
学習目標(到達目標)	
学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1. 保育所、児童養護施設等、さまざまな現場で行われている保育相談支援について学ぶ。 2. 保育相談支援における基本的な姿勢や技法を身につけ、地域における子育て家庭を支える地域支援ネットワークについて知り、事例を通し、単に問題解決にとどまらない、保護者も子どもも「共に育ちあう」支援のあり方を探る。
思考・判断の観点 (K)	1. 子育て中の保護者や子どもが抱える諸問題について知り、多様化する保育現場に求められるニーズについて考える。 2. 保育相談支援にかかわる事例の検討を通して、保育者としての専門性、実践力を養う。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	1. 事例検討やロールプレイを通して、基本的な相談支援の姿勢とスキルを身につける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション・保育相談支援とは～保育相談支援の目指すもの	保育相談支援とは何か、保育ソーシャルワークの基本について学ぶ	今回授業で学んだことを、教科書や配布資料を読んで復習し、しっかり理解する	120分
第2回	現代日本の子育てに関する問題	現代日本の子育てにおける問題について、社会的背景を踏まえながら、各自で気づいたことを発表し全体で共有する。	日本の子育てに関する問題を新聞やネットで各自で調べ、興味のあるものをまとめる。	120分
第3回	保育現場の気になる子どもの理解と支援	保育現場の気になる子どもを挙げ、その子の抱える課題や背景について理解し、支援について考える。	自分自身が実習やボランティア等で経験したことをもとに、事例をまとめる。	120分

第4回	保護者と家族に対する支援	保育相談支援における保護者への対応や家族支援のあり方について考える。	教科書や授業で配布した資料を読んで、保護者対応の基本について確認する。	120分
第5回	地域におけるさまざまな子育て支援の実際①～地域子育て支援ネットワーク	地域子育て支援ネットワークを中心に、地域におけるさまざまな子育て支援の実際について知る。	自分が住んでいる地域の子育て支援機関や制度について調べてミニレポートにまとめる。	120分
第6回	園における保育相談支援～保育者の果たす役割とは	保育現場における保育相談支援について、事例をもとに、保育者の果たす役割について考える。	これまで学んできたことや自分自身が実習等で経験したことをもとに、事例をまとめる。	120分
第7回	保育相談支援に求められる基本的な姿勢と技法	保育相談支援に求められる基本的な姿勢と技法について学ぶ 事例検討に有効なジェノグラムとエコマップの作成について学ぶ	これまで学んできたことや自分自身が実習等で経験したことをもとに、事例をまとめる。	120分
第8回	「保育相談支援」の実際～ロールプレイ体験	いくつかの保育相談支援場面を設定し、ロールプレイにより保育者と保護者の双方の役割体験を通し、保育相談支援の実際について実践的に学ぶ。	実際に保育相談支援のロールプレイを経験し、得られた考察をまとめる。	120分
第9回	事例を通して学ぶ保育相談支援①～発達の子どもの気になる子どもとその家族への支援	発達の気になる子どもの事例を読み、子ども自身の理解と支援や家族への支援について考える。特に二次障害について、しっかりと理解する。	今回の授業で学んだことをもとに、発達の気になる子どもの臨床事例について検討してみる。	120分
第10回	事例を通して学ぶ保育相談支援②～養育に課題を抱える家庭への支援	養育の課題を抱える家庭の子どもの事例を読み、子ども自身の理解と支援や家族への支援について考える。特に、虐待について、通告等、虐待対応の流れについて十分に理解する。	今回の授業で学んだことをもとに、授業で取り上げられた児童養護に関する臨床事例について検討してみる。	120分
第11回	気になる保護者への対応	精神疾患等、保護者自身が課題を抱える事例について、保護者への理解と支援のあり方について学ぶ	これまで学んできたことや自分自身が実習等で経験したことをもとに、事例をまとめる。	120分
第12回	施設における保育相談支援①～児童福祉施設の果たす役割と現状	成人期の発達のテーマを知り、この時期に多く見られる心理臨床的な課題とその対応について学ぶ。	今回の授業で学んだことをもとに、成人期の臨床事例について検討してみる。	120分
第13回	施設における保育相談支援②～社会的養護施設の子どもたちへの支援	社会的養護施設の子どもたちへの保育相談支援の実際を知り、そのあり方について考える。	今回の授業で学んだことをもとに、授業で取り上げられた臨床事例について自分自身で検討する。	120分
第14回	地域におけるさまざまな子育て支援の実際②～他機関との連携	保育相談支援における医療機関等、他の専門機関との連携の実際を知り、あり方について考える。	今回の授業で学んだことをもとに、授業で取り上げられた臨床事例について自分自身で検討する。	120分
第15回	まとめと確認テスト	授業全体を振り返り、最後に、発達臨床に関する基礎知識を問い、臨床的な課題への対応について考える確認テストを実施する。	確認テストは授業内で配布した資料や板書の内容から提出する。	予習240分、復習420分

学習計画注記	※履修者の実習期間の状況や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	講義のほか、事例検討やグループワーク、実際の保育相談場面を想定したロールプレイ等を取り入れた演習をおこなう。
評価方法	期末レポート50%、ミニレポート30%、平常点（授業への参加状況・討論への参加などで総合的に判断）20%による総合評価
評価基準	
評価基準	

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○	○	
ミニレポート		○	○	○
授業・討論への参加	○	○	○	
評価割合	平常点（授業への参加状況・討論への参加などで総合的に判断）40%、授業内に出される課題30%、ミニテスト30%により総合的に評価			
使用教科書名 (ISBN番号)	福丸由佳・安藤智子・無藤隆 編著, 2011, 「新保育ライブラリ『保育相談支援』」 (978-4-7628-2744-0) 北大路書房			
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 保育所、児童養護施設等、さまざまな現場で行われている保育相談支援について学ぶ。保育相談支援における基本的な姿勢や技法を身につけ、地域における子育て家庭を支える地域支援ネットワークについて知り、事例を通し、単に問題解決にとどまらない、保護者も子どもも「共に育ちあう」支援のあり方を探る。</p> <p>【思考・判断】 子育て中の保護者や子どもが抱える諸問題について知り、多様化する保育現場に求められるニーズについて考える。保育相談支援にかかわる事例の検討を通して、保育者としての専門性、実践力を養う。</p> <p>【技術・表現】 事例検討やロールプレイを通して、基本的な相談支援の姿勢とスキルを身につける。</p>			
オフィスアワー	水曜日5時限 1619研究室			
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃より、子育て家庭に関する、新聞・雑誌の記事に関心を持ち、「保育者」としての視点から考えてみてください。 ・3年次より始まる、保育実習に向けて、自分の実習先の施設への事前学習を進めておいてください。 			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	授業担当者は長年、療育や教育、子育て支援等の現場において心理の専門職として勤務しており、豊富で実践的な教材を提供することができる。		
アクティブ・ラーニング	○	事例検討やグループワーク、実際の保育相談場面を想定したロールプレイ等を取り入れた演習をおこなう。		
情報リテラシー教育				
ICT活用				

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	家庭支援論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新開 よしみ	指定なし
非常勤講師	赤沼 未佳	指定なし

授業概要(教育目的)

現代において社会的な子育て支援が必要となった背景、家族を取りまく社会状況、子育て支援体制の現状をふまえ、家庭支援の実際や関係機関との連携のあり方について事例を通して具体的に考えることを目的とする。前半(担当:赤沼)は、障害のある子どもとその家族の支援についての理解を深める。家族が子どもの誕生から成長に伴い、どのような生活問題に直面することになるのかを考えていくことにより、家庭支援のあり方について学ぶ。後半(担当:新開・末松)は、保育の場における保護者支援や地域の子育て支援の実際について学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	・保育の場に求められる家庭支援の意義と基本的事項について理解し、説明できる。 ・障害のある子どもとその家族の抱える様々な困難について理解し、いくつかの支援方法について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	事例検討において、家庭のニーズに応じた支援方法について考えたり、提案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	課題やグループワークに意欲を持って取り組み、積極的に参加することができる。
技術・表現の観点 (A)	事例理解の手法(ジェノグラム・エコマップなど)を必要に応じて活用することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	障害のある子どもとその家族への支援 ①障害の基礎的な知識	保育や幼児教育の現場で関わる可能性の高い障害についての基礎的な知識を身につける。	配布資料をよく読み、理解を深める。	120分
第2回	障害のある子どもとその家族への支援 ②ライフステージに応じた支援	各年齢段階において、障害のある子どもとその家族がどのような支援機関、専門職とかかわり、どのような制度やサービスを利用しているのかについて学び、ライフステージに応じた支援について理解を深める。	配布資料をよく読み、理解を深める。	120分
第3回	障害のある子どもとその家族への支援 ③家族は子	障害のある子どもの家族が、障害にどのように向き合っているか、いくつかの学説について触れながら学ぶ。また、障害のある子どもを支えている家族をどのようにエンパワメントしていくのかについて具体的な支援例を通じて理解を深める。	配布資料をよく読み、理解を深める。	120分

	どもの障害をどのように受けとめていくのか			
第4回	障害のある子どもとその家族への支援 ④家族が障害のある子どもの特性について理解を深めていくための援助	障害のある子どもの認知や行動について、家族がより深く理解し、互いに良好なコミュニケーションを持てるようになることを目指してどのような援助が行われているのかについて、いくつかの支援方法を通じて学ぶ。	配布資料をよく読み、理解を深める。	120分
第5回	事例検討① (幼児期のケースについて)	障害のある子どもとその家族が、幼児期において感じやすい困難について事例を通してより深く理解する。また、第4回で学習した障害特性に応じた支援方法が実際の場面でどのように活用されているのかについて、グループワークを通して体験的に学習する。	配布資料をよく読み、理解を深める。	120分
第6回	事例検討② (就学準備期、就学以降のケースについて)	障害のある子どもとその家族が、就学準備期及び就学後において感じやすい困難について事例を通してより深く理解する。後半は次回のゲストスピーカーの講演聴講への準備として、事前にいただいている基礎情報を参考にしながらご家族がどのような困難を抱え、どのような支援者と関わってきたのかについてグループで想像しながら話し合い、ワークシートに記入する。	配布資料をよく読み、理解を深める。	120分
第7回	ゲストスピーカーによる講演	障害のある子どもを育ててこられたご家族にお越しいただき、子育ての困難やその困難にどのように向き合ってきたか、またどのような保育者や支援者、専門職と出会い、どのようななかかわりや支援があったかなどについてお話を聞かせていただく。	配布資料をよく読み、理解を深める。	120分
第8回	まとめの講義とレポート作成	前半はまとめの講義を行い、後半はレポート作成を行う。	レポート作成の準備を行う。	120分
第9回	保育の場における家庭支援の意義と目的	保育所保育指針「子育て支援」の内容と現代の子育て家庭の課題を関連付けて考えることにより、保育所における家庭支援の意義と目的についての理解を深める。	指定された課題に取り組み、理解を深める。	120分
第10回	保育の専門性を生かした支援とは	保育所や地域子育て支援施設における子育て支援の原則、保護者と連携して子どもの育ちを育てる視点、子どもの育ちを保護者と共に喜び合う基本的態度について考える。	指定された課題に取り組み、理解を深める。	120分
第11回	日常的な実践例について考える	実習で見聞きしたこと、文献・インターネット等で調べたことを持ち寄って、保育者が日常的に行う家庭支援のバリエーションについての理解を深める。	日常的な実践例について事前に調べたり、実習での実践例についてまとめておく。	180分
第12回	保育ソーシャルワークの展開について	子どもの最善の利益を中核にソーシャルワークの基本原則に援用した実践、組織で取り組む体制、地域の様々な社会資源、関係機関との連携の必要性について理解する。	指定された課題に取り組み、理解を深める。	120分
第13回	子育て家庭を多面的に理解する	事例について、ジェノグラムやエコマップを作成することにより支援ニーズを可視化したり、リスクやアセットについて考えることにより子育て家庭を多面的に理解する態度を身につける。	指定された課題に取り組み、理解を深める。	120分
第14回	当事者のお話を聴く —ゲストスピーカーによる講演—	障害のある子を育ててこられたご家族にきていただき、子育ての困難やその困難をどう解決していったか、幼児期や学齢期においてどのような保育者や支援者、専門職と出会い、どのようななかかわりや支援があったかなどについてお話をいただく。	これまでの配布資料で障害のある家族についてふりかえっておく。また、ゲストスピーカーからの話をコメントペーパーにまとめる。	120分
第15回	まとめの講義とレポート作成	前半はまとめの講義を行い、後半はレポート作成を行う。	レポート作成の準備を行う。	120分

学習計画注記	* 授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業中に記述したコメントペーパーや事例検討などについては、適宜次週以降の授業中に紹介し、授業内容の理解に役立てていく。 質問がある場合には授業の前後または研究室 (mailも可) に積極的に声をかけること。
評価方法	平常点 (提出物、授業態度、出席状況など) 20%、レポートおよび試験80%の割合で評価する。レポートの課題については授業中に説明する。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点		○	○	○
定期試験 (レポート)	○	○	○	○

評価割合	平常点 (提出物を含む) 20%・レポートまたは試験80%の割合で評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	保育所保育指針
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】子ども家庭支援にかかわる専門的な知識を修得する。</p> <p>【思考・判断】家庭・地域・社会と協働しながら「共に育つ」ことのできる想像力・コミュニケーション能力・感性を磨く。</p> <p>【関心・意欲・態度】子ども家庭をめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子ども家庭の健全で豊かな育ちのために使命感を持って行動できる。</p> <p>【技術・表現】保育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につける。</p>
オフィスアワー	新開：金曜日 4時限 1635研究室
学生へのメッセージ	保育士資格の必修科目です。保育施設に通う子どもの家庭、地域の子育て家庭、障害のある子どもの家庭など、さまざまなニーズをもつ家庭への支援について、興味関心を持って受講してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	前半を担当する赤沼先生は療育センターでの実務経験を有する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	家庭科教育		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	4 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 金田 佳子	指定なし

ナンバリング	P10303M21
授業概要(教育目的)	小学校家庭科教育の意義や目標と果たす役割について学ぶとともに、指導内容について生活の科学的理解や児童の実態、中学校との関連を踏まえ系統的に学ぶ。また、学習指導要領を通して、小学校で進められている家庭科教育の現状を理解するとともに、これからの家庭科教育の在り方について考究する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	家庭科教育の歴史的変遷と今日的意義と目標、果たす役割について理解できる。
思考・判断の観点 (K)	家庭科教育が目指す視点をもとに思考・判断することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	家庭科授業構想力と実践的指導に必要な資質を身に付けようとしている
技術・表現の観点 (A)	学習指導要領に基づき家庭科の学習指導計画を立てることができる

学習計画

家庭科教育

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション 家庭科教育の概要	学校における教科の一つである「家庭科」とは何かについて自分が学んだことをもとに考える		
第2回	家庭科教育の変遷と今日的意義	家庭科教育全体像を掴み、その変遷と今日的意義を理解する		
第3回	小学校家庭科における目標と内容	学習指導要領に基づき、小学校家庭科の目標と内容を理解する		
第4回	教材研究と授業展開① 「調理の基礎」の目標・教材分析	目標・教材分析を通して指導内容を理解する①		
第5回	教材研究と授	目標・教材分析を通して指導内容を理解する②		

	業展開② 「調理の基礎」の目標・教材分析			
第6回	教材研究と授業展開③ 「調理の基礎」の授業分析	1単位時間の指導計画の授業分析を的確に行う ※学習指導計画作成について課題提示		
第7回	「衣食住の生活」内容の教材研究とその実践① 「調理の基礎」ゆでてみよう	教材研究・実践を通して指導内容を理解する①		
第8回	教材研究・授業研究①	教材研究を通して指導内容を理解し、学習指導計画（指導案）を作成する①	学習指導計画作成	120分
第9回	教材研究・授業研究②	教材研究を通して指導内容を理解し、学習指導計画（指導案）を作成する②	学習指導計画作成	120分
第10回	「衣食住の生活」内容の教材研究と指導上の留意点①	教材研究を通して指導内容を理解する① 生活を豊かにするための布を用いた製作 ※学習指導計画提出	学習指導計画提出	
第11回	「衣食住の生活」内容の教材研究と指導上の留意点②	教材研究を通して指導内容を理解する② より快適な住まい、季節に合わせた着方・住まい方		
第12回	「家族・家庭生活」内容の教材研究と指導上の留意点	教材研究を通して指導内容を理解する③ 少子高齢社会の進展への対応、異なる世代の人々との関わり ※研究課題の提示	研究課題レポート作成	120分
第13回	「消費生活・環境」内容の教材研究と指導上の留意点	教材研究を通して指導内容を理解する④ 現在の消費生活と消費者の行動、意思決定、自立した消費者の育成	研究課題レポート作成	120分
第14回	「衣食住の生活」内容の教材研究とその実践② 布を用いた製作	教材研究・実践を通して指導内容を理解する② ※研究課題レポート提出	研究課題レポート提出	
第15回	まとめ	小学校家庭科の目標・役割を理解し、生活の質の向上を図るための指導内容を理解する。		

学生へのフィードバック方法 実施したレポート等は、採点して次週の授業にて返却する。また、模範解答等は授業内で解説する。

評価方法 教材分析レポート、課題をもとに研究課題レポートを実施。平常点としてワークシート・作品提出を対象とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート1、2	○	○	○	○
発表、交流		○	○	○
ワークシート等平常点	○		○	

評価割合 教材分析レポート（20%）、研究課題レポート（40%）、平常点（ワークシート・作品提出、授業態度）（40%）

使用教科書名 (ISBN番号) 小学校家庭科教育法 建帛社
小学校家庭科教科書「新しい家庭5・6」東京書籍

ディプロマポリシーとの関連 【知】子どもの発達を踏まえた家庭科教育の進め方を理解することができる
【思】家庭科指導内容を通して、家族・地域・社会とのコミュニケーション能力を高めるよう意識することができる
【関】子どもをめぐる多様化する課題に関心を持ち、家庭科の重要性を理解することができる
【技】家庭科教育における理論と実践の融合を図り、その考え方を身に付けている

学生へのメッセージ 家庭科は「生活」を学ぶ教科です。人と人、人とのをつなぎ、生活文化の継承、持続可能な社会の構築を目指す

すものです。楽しみながら、積極的に学ぶ姿勢を期待します。

教育等の取組み状況

	該当有 無	概要
実務経験を活かした授業	○	小学校・中学校での家庭科教育実践経験をもとにして、実践的な授業づくりを目指します。
アクティブ・ラーニング	○	互いに学び合うアクティブ・ラーニングを取り入れ、互いに高め合うことを目指します。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	資料の提示や書画カメラの活用でわかりやすい授業を組み立てます。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	青年心理学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 合澤 典子	指定なし

ナンバリング	P20101M21
授業概要(教育目的)	青年期は自我を確立していくとともに、心身の大きな変化が伴う大切な時期である。本講では、青年期が人として生きていく上で大切な時期であることを理解した上で、青年期の課題や問題について考え、問題意識を高めていくことを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 青年心理学に関連する学問領域とそれらとの関係を知る。 2. 青年心理学の知識によって、どのような社会の問題を明らかにできるのかがわかる。
思考・判断の観点 (K)	1. 物事を考え、理解する方法の手段の一つとして、青年心理学の内容を生かそうとすることができる。 2. 自身の疑問を青年心理学の知識を用いて解決しようとするすることができる。 3. 社会的な問題を青年心理学の知識を用いて解決しようとするすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日常生活にある事象から、青年心理学的なテーマを見つけることができる。
技術・表現の観点 (A)	自身や身近な人の行動、及び社会現象に関して、青年心理学で得た知識に基づいて説明するなど、青年心理学と生活のつながりを発信することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	青年心理学とは	青年期の定義、区分、一般的な特徴を学ぶ。ガイダンスとして、授業の進め方、スケジュールなど、受講にあたっての基本的な姿勢を理解する。 この授業ではgoogle classroomを使用するため、その使い方についても簡単に説明する。	青年心理学を学ぶ上で、自分が興味のある内容を考え、授業の該当回がいつなのかを見つける。また、授業に臨むにあたって、自分なりの目標を定める。	180分
第2回	青年期の思考と感情	青年期における特徴を、思考や感情の側面から理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	青年心理学に関して自分が持っていたイメージとの相違点を整理し、自分が関心のある分野と青年心理学のつながりを考える。	180分
第3回	青年期の課題1:身体	青年期における身体発達や身体に係る意識の形成について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第4回	青年期の課題2:性・	青年の生物学的性や社会文化的性であるジェンダーの問題について理解する。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点	180分

	ジェンダー	授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	を明らかにしておく。	
第5回	青年期の課題3：自己・アイデンティティ	アイデンティティとは何かを知り、自我と自己の発達について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第6回	青年期の課題4：家族と友人	青年期における家族関係や友人関係の特徴を知り、対人関係の発達を理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第7回	青年期の課題5：恋愛と結婚	青年期における恋愛関係の発展や、結婚のとらえかたから、青年期の課題について考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第8回	青年期の課題6：進路と職業	青年期の進路や意思決定、学校から職場への移行の特徴を知り、青年期の課題について考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第9回	青年期の「問題」1：不登校	青年期における問題を理解し、不登校の特徴および支援について知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第10回	青年期の「問題」2：ひきこもり	青年期における問題を理解し、引きこもりの実態と支援について知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第11回	青年期の「問題」3：非行・リスク行動	青年期における問題を理解し、その内、非行やリスク行動の実態と対応について知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第12回	青年期の「問題」4：摂食障害・発達障害	青年期における問題を理解し、その内、摂食障害や発達障害の病理や特徴について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第13回	現代の青年期：メディアの影響	青年期における問題に対するメディアの関わりを理解し、対応について考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第14回	現代の青年期：自立と決断	青年期における自立を自己や社会の側面からとらえ、青年期の特徴について理解を深める。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第15回	まとめ：青年期から大人へ	心理学の観点から、変化する社会の中での青年期の課題を考え、展望する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分

学習計画注記	講義を中心に展開する予定であるが、質疑応答・討論も大切にしたい。 学生の興味や関心によって、上記スケジュールを変更することもある。
学生へのフィードバック方法	1. 授業時に実施する自己チェックについては、その都度、教員との間で結果を共有する。 2. コメント欄付きの出席カードについては、毎回配布、回収し、最終的に教員が出席状況と記入内容をチェックした後、返却する。
評価方法	最終試験をもとに総合評価を行う。発表や、授業への意欲、態度も加味する。
評価基準	
評価基準	
評価割合	最終試験50%、プレゼンテーション（発表）20%、授業への意欲・態度（自己チェック、出席カードなど）30%
使用教科書名（ISBN番号）	特に指定しない。授業時にレジュメを配布する。

参考図書	授業の中で紹介する。	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】青年期という発達段階から人間を相対化することで、「自然界における人間」を理解する心理学的な知識を得る。</p> <p>【思考・判断】心理学に関する思考をもって「青年期」を理解し、その現代社会においてあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を得る。</p> <p>【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々のために働く能力を、青年心理学への知識に基づく関心によって得る。</p> <p>【技能・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会の中に課題を発見し、青年心理学的な思考や青年心理学の理論を用いて、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を得る。</p>	
学生へのメッセージ	教室外学習は欠かさず行ってください。また、自分自身をも含めた「人」への関心を高めてください。日常的に触れる媒体にも注目し、青年期の課題を身近に感じましょう。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	現代社会における青年期特有の問題やその解決方法についてグループ・ディスカッションを行う。
情報リテラシー教育	○	気になるトピックや問題点についての情報検索や、PowerPointを用いたプレゼンテーションを行う。
ICT活用	○	google classroomを用いて、自己チェック、配布資料のアーカイブを可能にする。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	人格心理学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	4 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 早野 富美	指定なし

ナンバリング	P30103M21
授業概要(教育目的)	パーソナリティとはどのようなものか、個人差はあるのか、また、パーソナリティは測れるものなのか、について解説する。各回ではそれぞれパーソナリティについて心理学的、精神医学的、精神症候学的、そして生物学的な側面から多面的な視点で説明する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 人格を記述する方法として、類型論、特性論、因子論の3つの理論について理解し説明できる。 2. 人格を形成するには人間の心理的な理解にとどまらず、進化や遺伝、脳との関連からも関係づけられる。 3. 人格を測るにはどのような心理テストがあり、心理テストの理論背景を知り特徴を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 人格を論じるときにどの理論で記述されているのかを類別できる。 2. 人格を測る心理テストには知能テストやパーソナリティテストなど様々なテストがあり、どのような場面でどのようなテストを用いたらよいかを類別できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 簡単な心理テストを行ったり解釈するときには参加できる。 2. ディスカッションを行うときには積極的に意見を出し合うことができる。
技術・表現の観点 (A)	1. 講義を通して、客観的事実なのか、自分の意見なのかを区別して表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	導入、人格とは	人格、性格、気質、特性、資質の違いについて学ぶ。それぞれの言葉の意味を理解しながら人格とは何かを考察する。	(予習) 人格とは何か?どのように形成されるのかについて考えてくること。 (復習) 人格、性格、気質、特性、資質の違いについて復習しておくこと。	120分
第2回	人格理論Ⅰ	心理学の歴史の中で、どのような理論が提唱され人格心理学が出来上がってきたのかを理解する。	(予習) 歴史の中で古代ギリシャでは人の性格をどのように見ていたかを調べておくこと。 (復習) 講義で配布する資料を復習しておくこと。	240分
第3回	人格心理学Ⅱ	日本における人格心理学の歴史について理解するとともに、人格理論の一つである類型論について学ぶ。	(予習) 類型論について調べておく。 (復習) 講義で配布した資料を復習しておくこと。	240分
第4回	人格理論Ⅲ	人格理論の中の特性論と因子論について理解する。	(予習) 特性論について調べて	240分

			おく。 (復習) 講義で配布した資料を復習しておくこと。	
第5回	人格と知能	人格形成には知能がかかわっていることを理解し、知能検査の歴史や種類を知る。	(予習) 人格にはなぜ知能が関係するのかを考えてみる。 (復習) 講義で配布した資料を読んでおくこと。	240分
第6回	人格と測定 I	人格は測定できるのか、測定できるとしたらどのような測定の方法があるのかを理解する。	(予習) 人格は測定できるのかについて考えてくる。 (復習) 講義で配布した資料を復習しておくこと。	240分
第7回	人格と測定 II	人格を測定する各種心理テストについて知る。実際に心理テストを行い解釈の方法について学ぶ。	(予習) どのような心理テストがあるのかを調べ、どのようなことを測定するのかについて調べる。 (復習) 講義で配布した資料を復習しておく。	240分
第8回	進化と遺伝から見る人格	人格はヒトの個体が発生した時から、成長・発達に伴って形成されていくものと、ヒトが出現したときから備えている基本的な人格の要素が受け継がれていることを知る。	(予習) ヒトが出現したときから備わっているとされる基本的な人格の要素について考えておく。 (復習) 講義で配布した資料を復習しておく。	240分
第9回	人格の生物基盤	人格の形成は脳の形成や働きと深く関係していることを学ぶ。	(予習) 前回の講義で配布する資料を読んでおく。 (復習) 講義で配布する資料を復習しておく。	240分
第10回	脳の器質的な変化と人格の変化	人格は頭を強く打って脳の中に損傷ができた場合や、脳を手術した場合などによって人格が変化することがあることを知る。	(予習) 前回の講義で配布した脳の領域と機能について理解しておく。 (復習) 講義で配布した資料を復習しておくこと。	240分
第11回	心身の健康と人格	こころとからだの健康について講義の中で考察する。また心と体の健康状態が人格に与える影響について理解する。	(予習) こころとからだの健康な状態とは、また健康でない状態とはどのような状態化について考えておく。 (復習) 講義で配布した資料を復習しておくこと。	240分
第12回	精神病理から見た人格 I	統合失調症、うつ病、不安障害などについて学び、それぞれの疾患の特徴的だといわれる性格について理解する。	(予習) 前回の講義で配布した資料を読んでおく。 (復習) 講義で配布した資料を復習しておくこと。	240分
第13回	精神病理から見た人格 II	発達障害、摂食障害などについて学び、それらの疾患に特徴的だといわれる性格について理解する。	(予習) 前回の講義で配布した資料を読んでおく。 (復習) 講義で配布した資料を復習しておくこと。	240分
第14回	精神症候学から見た人格	サイコパス、ミュンヒハウゼン症候群など症候学的にみた行動の異常を学び、それらの人格特性について理解する。	(予習) 前回の講義で配布した資料を読んでおく。 (復習) 講義で配布した資料を復習しておくこと。	240分
第15回	全体のまとめ	人格理論、歴史、脳との関係など、これまでの講義の全体を振り返りながらまとめる。	(予習) 前回までに講義で配布した資料すべてを読んでおく。 (復習) 理解できたところとできなかつたところを把握し、理解できなかつたところは重点的に復習しておくこと。	360分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールや内容が変更になることがあります。
学生へのフィードバック方法	各自講義前に調べてきたことや、講義の中で考察したことなどを小レポートにまとめて提出してもらおう。提出したものはとりまとめて整理し、次回の講義で紹介し、みんなで意見を出し合って考察する。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2回程度のレポートを課題として出すので、テーマに沿って書いたものを提出してもらおう。レポートの評価点は30%。 ・ 定期試験の評価点は55%。問題形式は選択式および記述式で実施する。 ・ レポートおよび定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート	○	○	○	○
定期試験	○	○	○	○

評価割合	平常点（15%）、レポート（30%）、定期試験（55%）で評価する。			
使用教科書名（ISBN番号）	使用しない。			
参考図書	授業の中で適宜紹介する。			
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】児童学を構成する子どもの6領域「保育」「教育」「福祉」「健康」「心理」「文化」を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識を有している。</p> <p>【思考・判断】具体的・実践的な機会を通して、自らさまざまな課題に柔軟に対応でき、家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性を備えている。</p> <p>【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心をもって取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。</p> <p>【技能・表現】子どもの専門家として社会に貢献できるとともに、保育者・養育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身に付けている。</p>			
学生へのメッセージ	人格心理学は「人とは何か」を知る手掛かりになる学問です。私たちは皆それぞれに特徴を持っていて、全く同じ特徴を持った人は存在しません。その特徴とは何なのか、どのように形成されるのかを学びながら人の魅力に迫っていきましょう。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、大学院医学系研究科精神医学教室にて、200人以上の研究協力者に対して知能検査をはじめ、各種心理検査を施行したじっけきがあり、その経験をもとに心理検査の種類や手法、解釈の仕方などを享受している。		
アクティブ・ラーニング	○	主に「ラウンドロビン」を用いている。グループで順番に意見を言い発表する手法を少し形を変えた形で実施している。まずはそれぞれの意見をノートに書きだして、それを教員が集計してまとめたものを次回の講義で紹介し、それをもとに考察する方式で進めている。		
情報リテラシー教育	○	論文を活用したり、どのような機関が発信している情報に信ぴょう性があるかなど、常に情報リテラシーの意識をもって講義をするように心がけている。		
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	家庭教育論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時間	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 柳瀬 洋美	指定なし

ナンバリング	P20309M21
授業概要(教育目的)	現代社会の変容の中で、近年、家庭が果たす役割や機能もまた変化してきている。家庭とは何か、人が成長してゆく過程に沿って家庭と家庭をめぐる諸問題を見つめるとともに、保育園・幼稚園・学校・地域社会等、社会全体と家庭とのかわりについても目を向け、今後の家庭教育のあり方について探究する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	・家庭と家庭教育をめぐる諸問題について現代社会全体との関連からとらえる。
思考・判断の観点 (K)	・人が成長してゆく過程に沿って家庭と家庭をめぐる諸問題について考えてみる。 ・保育園・幼稚園・学校・地域社会等、社会全体と家庭とのかわりについても目を向け、今後の家庭教育のあり方について探究する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・家庭と家庭教育をめぐる諸問題について、積極的に関心をもって現代社会全体との関連からとらえる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション・家庭とは何か	家庭や家族について、各自が抱くイメージを出し合い、共有する。 養育家庭の体験談を読み、様々な家族のあり方に気づく。	「家族・家庭とは何か」について授業内で話し合ったことをもとに、自分が考えたことをまとめる。	120分
第2回	子どもが育つ場としての家庭(養育者と子どものかかわり方の基本原理)	子どもが育つ場としての家庭について、養育家庭など血縁関係による家族という形にとらわれず、さらに施設で育つ子どもたちにも目を向け、養育者と子どものかかわり方の基本原理について考える。	さまざまな家族関係について、授業で学んだことをもとにまとめる。	120分
第3回	乳児期と家庭教育	乳児期の基本的な発達を踏まえた上で、この時期の発達テーマと家庭における家族関係のあり方や親の果たす役割について、特に生きていくための基盤となる愛着関係や信頼関係の構築に着目して考える。	今回の授業で学んだことや授業で提示された事例について考えたことをミニレポート(リアクションペーパー)としてまとめる。	120分
第4回	幼児期と家庭教育	幼児期の基本的な発達を踏まえた上で、この時期の発達テーマと家庭における家族関係のあり方や親の果たす役	今回の授業で学んだことや授業で提示された事例について考え	120分

		割について、特に自律と自立に着目して考える。	たことをミニレポート（リアクションペーパー）としてまとめる。	
第5回	学童期・思春期と家庭教育	学童期・思春期の基本的な発達を踏まえた上で、この時期の発達テーマと家庭における家族関係のあり方や親の果たす役割について、特に自立の前段階としての親子関係に着目して考える。	今回の授業で学んだことや授業で提示された事例について考えたことをミニレポート（リアクションペーパー）としてまとめる。	120分
第6回	青年期と家庭教育	青年期の基本的な発達を踏まえた上で、この時期の発達テーマと家庭における家族関係のあり方や親の果たす役割について、特に「自立」というテーマに着目して考える。	今回の授業で学んだことや授業で提示された事例について考えたことをミニレポート（リアクションペーパー）としてまとめる。	120分
第7回	家庭教育にみる家族の発達の課題～育てられる者から育てる者へ	成人期以降の基本的な発達を踏まえた上で、特に「育てる者から育てる者へ」という役割転換に着目し、家庭における家族関係のあり方や親の果たす役割について考える。	今回の授業で学んだことや授業で提示された事例について考えたことをミニレポート（リアクションペーパー）としてまとめる。	120分
第8回	事例から考える家庭教育	子育てにおいて、親が悩んだり迷ったり不安に感じることの多い場面を取り上げ、親としてどのような対応が望ましいのか、または考えられるのか、各自で検討し、発表する。合わせて、支援者の立場からどのような助言や支援ができるのかについて考える。	今回の授業で学んだことや授業で提示された事例について考えたことをミニレポート（リアクションペーパー）としてまとめる。	120分
第9回	現代社会の変容と家庭教育をめぐる諸問題①	現代社会の変容について、「社会全体」「家族」「人間関係」「ライフスタイル」「その他」の5つの視点から捉え、各自が気づいたことを発表し、全体で共有する。また、変容自体を良い・悪いで評価するのではなく、その結果、現在どのような状況になっているのか、良い面と悪い面の両面から考える。	今回の授業で学んだことや授業で提示された事例について考えたことをミニレポート（リアクションペーパー）としてまとめる。	120分
第10回	現代社会の変容と家庭教育をめぐる諸問題②	前回授業で考えた現代社会の変容について、家族や家庭をひとつのシステムとしてとらえる。また、現代日本社会における結婚観と家族観の変容について知り、その背景について考える。	今回の授業で学んだことや授業で提示された事例について考えたことをミニレポート（リアクションペーパー）としてまとめる。	120分
第11回	現代社会の変容と家庭教育をめぐる諸問題③	資料として「女性の社会的変容と子育ての上で生じている心の諸相」（菅井,2001）と「女性のライフサイクルの木」（岡本他,2002）を使い、女性と子どもの視点から、家族と家庭、家庭教育について考える。	今回の授業で学んだことや授業で提示された事例について考えたことをミニレポート（リアクションペーパー）としてまとめる。	120分
第12回	家庭教育支援の現状と課題～家庭・保育所・幼稚園・学校・社会の連携	子育て家庭への支援の現状を知り、家庭・保育所・幼稚園・学校・社会の連携のあり方について考える。	今回の授業で学んだことや授業で提示された事例について考えたことをミニレポート（リアクションペーパー）としてまとめる。	120分
第13回	海外の家庭教育	海外の家庭教育のあり方について、社会的・文化的背景を踏まえつつ、日本の家庭教育と比較検討する。	今回の授業で学んだことや授業で提示された事例について考えたことをミニレポート（リアクションペーパー）としてまとめる。	120分
第14回	今後の家庭教育に求められるもの	現代の社会的背景を踏まえながら、今後、家庭教育に求められるもの、必要とされる支援について考える。	今回の授業で学んだことや授業で提示された事例について考えたことをミニレポート（リアクションペーパー）としてまとめる。	120分
第15回	まとめと確認テスト	授業全体を振り返り、発達の視点、社会的視点からみた、「家族」「家庭」「家庭教育」についての総括を行う。授業の最後に、まとめとしての確認テストを行う。	これまで学んできたことをしっかり復習しておく。	240分

学習計画注記 ※ 授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法 授業時のミニレポートなどを活用し、質問や疑問については毎回の授業内で回答やコメント、または助言等を通していく。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
試験	○	○	○	
ミニレポート		○	○	

平常点		○	○	
評価割合	試験60%、ミニレポート30%、平常点（授業への参加状況・討論への参加など）10%により総合的に評価			
使用教科書名 (ISBN番号)	特になし。必要な資料を配布します。			
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 家庭と家庭教育をめぐる諸問題について現代社会全体との関連からとらえる。</p> <p>【思考・判断】 人が成長してゆく過程に沿って家庭と家庭をめぐる諸問題について考えてみる。また、保育園・幼稚園・学校・地域社会等、社会全体と家庭とのかかわりについても目を向け、今後の家庭教育のあり方について探究する。</p> <p>【関心・意欲・態度】 家庭と家庭教育をめぐる諸問題について、積極的に関心をもって現代社会全体との関連からとらえる。</p>			
オフィスアワー	水曜日5時限 1619研究室			
学生へのメッセージ	各自、新聞や雑誌等の家庭や家族に関する記事を意識し、目を通しておいください。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	担当教員は長年、子育て支援の現場での臨床経験があり、本科目が扱う領域に詳しい。		
アクティブ・ラーニング	○	グループで本科目で取り上げるテーマについてディスカッションするなどの時間を取り入れている。		
情報リテラシー教育	○			
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	児童学概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 児童学科 教員	指定なし
教授	新開 よしみ	指定なし
教授	齋藤 義雄	指定なし
准教授	柳瀬 洋美	指定なし
准教授	丹羽 さがの	指定なし
助教	原田 晋吾	指定なし

ナンバリング	P10001M21
授業概要(教育目的)	子どもとは何か。私たちは子どもについてどのように考え、関わっていったらよいか。児童学における基礎的課題(子ども観、子どもの発達等)を、現実の生活と関連して捉え、子どもについての理解をすすめる。また、子どもの問題の解明に向けて、課題を捉え、知識を深め、実践できる力をつける。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	児童学での学びを構成する6領域「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を理解するための子どもに関する基礎的な知識を修得する。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	・子どもをめぐる諸問題・課題に関心を持ってとりくみ、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために行動できる態度を身につける。 ・子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につける。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	子どもを知り、子どもに学び、子どもとの関係を考える	自分の中の子ども、目の前の子ども、様々な時代・社会・文化・制度の中の子どもについて理解する。	授業で気づいた課題について、メディアや文献を自分でも調べて、次回の授業に向けて理解を深めておく。	120分
第2回	多様なニーズに対応できる保育、教師をめざして	子どもを知るために学ぶべきことについて学習する。	授業で気づいた課題について、メディアや文献を自分でも調べて、次回の授業に向けて理解を深めておく。	120分

第3回	特別な支援を必要とする障害のあることへの教育を知ろう	多様な連続した特別支援教育の場、様々な障害の理解と支援などについて学ぶ。	授業で気づいた課題について、メディアや文献を自分でも調べて、次回の授業に向けて理解を深めておく。	120分
第4回	障害のある子どもとその家族の支援	出生前診断の現状と課題について学び、障害のある子どもとその保護者の支援について考えよう。	これまでの授業で学んだことをしっかりと整理し、次回以降の学習に、興味・関心を持って臨めるようにする。	120分
第5回	幼児教育の基本を知ろう	幼稚園・保育園・こども園での幼児教育で大切にしていることについて学ぶ。	これまでの授業で学んだことをしっかりと整理し、次回以降の学習に、興味・関心を持って臨めるようにする。	120分
第6回	乳児期と幼児期の学びの芽生えと支援	乳幼児保育の3つの視点と5領域、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿から考える。	これまでの授業で学んだことをしっかりと整理し、次回以降の学習に、興味・関心を持って臨めるようにする。	120分
第7回	子どもの心の発達	子どもの心はどのように発達していくのか、発達のメカニズムの基本について学ぶ。	これまでの授業で学んだことをしっかりと整理し、次回以降の学習に、興味・関心を持って臨めるようにする。	120分
第8回	子どもの言語習得	幼児期の言葉の習得はどのように行われるか、母語獲得と第二言語習得理論から理解する。	これまでの授業で学んだことをしっかりと整理し、次回以降の学習に、興味・関心を持って臨めるようにする。	120分
第9回	子どもと自然の関わりを知る	自然の中で様々な体験をすることは、子どもの冒険心、挑戦する気持ち、生きる力を育むということを理解する。	これまでの授業で学んだことをしっかりと整理し、次回以降の学習に、興味・関心を持って臨めるようにする。	120分
第10回	科学的な考え方の芽生えと育ち	センス・オブ・ワンダーから始まる科学教育について学ぶ。	これまでの授業で学んだことをしっかりと整理し、次回以降の学習に、興味・関心を持って臨めるようにする。	120分
第11回	小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針から算数教育を考えよう	子どもの発達の連続性や学びの系統性を意識して、算数教育について学ぶ。	これまでの授業で学んだことをしっかりと整理し、次回以降の学習に、興味・関心を持って臨めるようにする。	120分
第12回	音に触れる・音を見る・音にときめく	身体の諸感覚をとおして音にあそぶ子どもの感性について学ぶ。	これまでの授業で学んだことをしっかりと整理し、次回以降の学習に、興味・関心を持って臨めるようにする。	120分
第13回	子ども世界の広がりや造形表現	「みる・つくる」が育む造形的な見方・感じ方・造形文化にふれる経験の理解と指導について学ぶ。	これまでの授業で学んだことをしっかりと整理し、次回以降の学習に、興味・関心を持って臨めるようにする。	120分
第14回	小学校のスタートカリキュラムと小1プロブレム	幼・保・小の円滑な接続を目指して、小学校のスタートカリキュラムについて学ぶ。	これまでの授業で学んだことをしっかりと整理し、次回以降の学習に、興味・関心を持って臨めるようにする。	120分
第15回	現代社会の変容と子育て家族	日本の子育て支援の現状と課題について考える。	これまでの授業で学んだことをしっかりと整理し、次回以降の学習に、興味・関心を持って臨めるようにする。	120分

学習計画注記	* オムニバス形式での開講なので、担当教員のスケジュールの変更がある場合もあります。			
学生へのフィードバック方法	講義形式が主であるが、子どもに関わる実際の活動や映画のDVD等による視聴覚教材を通して児童学を考究する方法も実施する。 質問は授業の前後または、各授業担当の研究室に訪問すること。			
評価方法	授業への取り組みの態度、参加状況、授業中の実績に基づく平常点と、毎回の授業で提出する小レポートにより総合的に判断する。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)

	平常点		○	○	
	小レポート	○	○	○	○
評価割合	平常点（20%）、小レポート（80%）				
使用教科書名（ISBN番号）	なし				
参考図書	授業中に適宜指示する。				
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 児童学を構成する6領域「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を理解するための子どもに関する基礎的な知識を修得する。</p> <p>【関心・意欲・態度】 子どもをめぐる諸問題・課題に関心を持ってとりくみ、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために行動できる態度を身につける。 子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につける。</p>				
オフィスアワー	木曜日 2時限 1501研究室				
学生へのメッセージ	子どもに関する様々な課題（子どもを観察したり、接したりしてみること、子どもに関する様々な問題についてニュース、新聞、本等で調べること、絵本、児童文学や玩具、遊び場、子どもの生活する環境等に触れてみることに）に関心を向け、積極的にかかわったり、行ったりしてみること。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	幼・保・小・特別支援等、現場経験のある教員による講義			
アクティブ・ラーニング					
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	児童福祉論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 市川 和男	指定なし
非常勤講師	上石 晶子	指定なし

ナンバリング	P20401M21
授業概要(教育目的)	児童福祉の理念と意義、現代社会における児童の成長・発達と生活実態、それらにおける問題点や、児童福祉制度の歴史的社会的背景について理解する。さらに、児童に関する福祉ニーズの捉え方や、現在の児童福祉に関する法律および制度、福祉サービス体系について学ぶ。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 児童福祉の意義及び歴史的展開過程について説明できる。 2. 児童福祉の法律、制度、福祉機関、施設を体系的に説明できる。 3. 児童の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、人権擁護、児童福祉需要(子育て、ひとり親家庭、児童虐待、ドメスティックバイオレンスなど)に対するサービスを説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 児童の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、人権擁護、児童福祉需要(子育て、ひとり親家庭、児童虐待、ドメスティックバイオレンスなど)に対するサービスの現状と課題について指摘できる。 2. 児童福祉の専門職としての社会福祉士、保育士などの役割を類別し、現状と課題について指摘できる。 3. 児童家庭福祉の動向と展望について指摘できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	【4/10(金)2限目】 オリエンテーション 児童家庭福祉とは何か	児童家庭福祉の授業の全体像について理解する。 子どもを表す用語や社会福祉や児童福祉の目的を学び、児童とは何か、児童福祉とは何かについて理解する。	・予習：テキスト第1章「児童福祉とは何か」(11～15ページ)を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第2回	【4/16(木)1限目】 現代の社会と子どもの生活(1)	急速な社会の変化や、少子化の進展について学び、子どもの生活環境の変化について理解する。	・予習：テキスト第2章1節「子どもの生活環境の変化」(17～24ページ)を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。	予習90分、復習90分

	子どもの生活環境の変化		と。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	
第3回	【4/24(金)2 限目】 現代の社会と子どもの生活（2） 子どもの成長や発達をめぐる問題	子どもの生活習慣やからだと心の変化、高学歴社会の子ども達や、心と行動へのケアが必要な子ども達の現状を学び、子どもの成長や発達をめぐる問題について理解する。	・予習：テキスト第2章2節「子どもの成長や発達をめぐる問題」（25～37ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第4回	【5/1(金)2 限目】 現代の社会と子どもの生活（3） 子育てをめぐる問題	子育ての負担・安心感や、経済的な負担感、仕事と子育ての両立の現状を学び、子育てをめぐる問題を理解する。	・予習：テキスト第2章3節「子育てをめぐる問題」（37～50ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第5回	【5/8(金)2 限目】 児童家庭福祉の理念と概念	児童福祉理念の国際的動向や、日本における児童福祉の理念、子どもの権利条約の意義と内容について学び、児童家庭福祉の理念と概念について理解する。	・予習：テキスト第3章「児童家庭福祉の理念と概念」（51～60ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第6回	【5/15(金)2 限目】 児童家庭福祉の歴史	近代以前の時代における児童保護、明治初期の児童保護対策、児童保護事業の始まり、児童保護にかかわる制度・政策、児童福祉法の成立とその後、欧米における児童福祉の歩みについて学び、児童家庭福祉の歴史を理解する。	・予習：テキスト第4章「児童家庭福祉の歴史」（61～80ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第7回	【5/22(金)2 限目】 児童福祉および関連施策の体系	児童福祉及び関連施策の対象、関連施策の諸形態、児童対策にかかわる主な法律、児童福祉及び関連施策の全体場について学び、児童福祉および関連施策の体系を理解する。	・予習：テキスト第5章「児童福祉および関連施策の体系」（81～88ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第8回	【5/29(金)2 限目】 児童福祉の法制度	児童福祉法の構成、児童福祉施設および事業、児童福祉の機関と児童福祉実施のしくみ、児童福祉の財政について学び、児童福祉の法制度を理解する。	・予習：テキスト第6章「児童福祉の法制度」（89～107ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第9回	【6/5(金)2 限目】 児童家庭福祉と保育	保育をめぐる現状、子ども・子育て支援制度、保育所・認定こども園、地域型保育給付、地域子ども・子育て支援事業について学び、児童家庭福祉と保育を理解する。	・予習：テキスト第7章「児童家庭福祉と保育」（110～123ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第10回	【6/11(木)4 限目】 児童家庭福祉と児童養護	社会的養護の仕組み、要保護児童の動向、児童虐待、社会的養護の現状について学び、児童家庭福祉と児童養護を理解する。	・予習：テキスト第8章「児童家庭福祉と児童養護」（134～143ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第11回	【6/19(金)2 限目】 児童家庭福祉と非行問題	非行とは、少年非行への対応、非行の要因と背景、非行少年の自立支援について学び、児童家庭福祉と非行問題を理解する。	・予習：テキスト第9章「児童家庭福祉と非行問題」（145～158ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワー	予習90分、復習90分

			ドを整理してまとめておくこと。	
第12回	【6/26(金)2 限目】 児童家庭福祉と障害児問題	障害のある子ども、障害児福祉の制度を学び、児童家庭福祉と障害児問題を理解する。	・予習：テキスト第10章「児童家庭福祉と障害児問題」（159～175ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第13回	【7/3(金)2 限目】 次世代育成支援と子どもの遊びの保障	子どもの「遊び」やその問題、「遊び」を保障する場と制度、「子どもの権利」と「遊び」について学び、次世代育成支援と子どもの遊びの保障を理解する。	・予習：テキスト第11章「次世代育成支援と子どもの遊びの保障」（177～192ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第14回	【7/10(金)2 限目】 児童家庭福祉の専門職	児童福祉に関わる専門職、保育士制度の歴史と意義について学び、児童家庭福祉の専門職を理解する。	・予習：テキスト第12章「児童家庭福祉の専門職」（193～199ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第15回	【7/17(金)2 限目】 世界の子どもたちと児童家庭福祉の今後	世界の子どもの福祉を学び、世界の子どもたちと児童家庭福祉の今後を理解する。	・予習：テキスト第13章「世界の子どもたちと児童家庭福祉の今後」（201～214ページ）を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめ、とこれまでの授業内容を総復習しておくこと。	予習90分、復習90分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 実施した小テストは授業中に解説する。それでも疑問点がある学生は、必ず教員に質問してください。

評価方法 小テストは3～4回分の授業に係る学習範囲から出題し、授業内に実施します。1回あたりの問題数は10問程度で出題します。
定期試験は、小テストの振り返りや記述問題によって応用的な思考力や判断力を確認する。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○			
態度		○	○	
定期試験	○			

評価割合 小テスト (20%)、態度 (20%)、定期試験 (60%) にて評価します。

使用教科書名 (ISBN番号) 松本園子・堀口美智子・森和子編著『子どもと家庭の福祉を学ぶ』ななみ書房 2017年。978-4-903355-66-5C3037

参考図書 その日の授業に関連する資料を配布します。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】
・児童学を構成する6領域「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識を有している。
【思考・判断】
・子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学び合う、具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる力を身につけている。
・家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性を身につけている。

オフィスアワー 特になし。

学生へのメッセージ 主体的に授業に参加するために、日ごろから授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読み、その内容の背

景に関心を持ち、取りあげられている現状に対して自分自身や身近な身の回りのことに照らし合わせたり置き換え、考えられる客観的な理由などをもとにして、自分なりに考えるようにしましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、児童家庭福祉領域の中で、知的障害児、重症心身障害児になどの児童やその家族に関する、福祉、看護医療の専門職として実務経験を有しており、生活支援技術、相談支援技術、保育（療育）に関する理論や支援技術を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	自然体験活動演習 I		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金子 和正	指定なし

ナンバリング	P10501M12
授業概要(教育目的)	小学校教育で施行される長期自然体験活動指導者の育成を目的とする。キャンプや自然体験のより多くの経験を積み、実践経験を通して得た知識をもつ指導者の養成を目的とする。様々な条件に臨機応変に対応できる指導者、対象者や環境を考慮した指導者の育成。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	・自然体験活動についての知識をもっている。 ・自然の中での生活の方法について知識をもっている。
思考・判断の観点 (K)	・サバイバルの知識をもち、非常時の時の生活方法を身につけている。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・自然の中での活動や生活について関心を持っている。
技術・表現の観点 (A)	・サバイバルテクニックを習得している。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	自然体験の計画と組織	自然の中で活動するためには事前の下見を中心に、準備に多くの時間をかける。計画から実施までの過程を整理して一度シュミレーションをすることを理解する。	準備に多くの労力を費やすか否かで、効果に影響が出ることを理解しておく。	120分
第2回	自然体験活動の指導者	自然の中で生活する時の指導者の役割、あり方、心得について理解する。	自然の中での生活に対応できる指導者の条件について理解しておく。	120分
第3回	安全管理	自然体験の安全管理について考え方、健康管理、指導者の注意義務について理解する。	保険や最近の自然体験の事故判例について調べておく。	120分
第4回	自然体験活動での調査と評価	活動前・活動中・活動終了後に目的や目標が達成できたかの評価を行うことを理解する。この評価を次回の活動の参考としていくことを理解する。	反省会は活動が終了した時に実施されるが、活動中も常にプログラムが計画通り実施されているかをチェックしていく必要があることを理解しておく。	120分
第5回	自然体験活動と天気	自然の中での活動は、天気が大きく左右される。スタッフや装備が十分であっても気象の激変はプログラムに影響を及ぼす。気象図の読み方や、観天望気、気象ニュースから天気を予測する知識や技術を理解する。	気象図や観天望気について理解しておく。	120分
第6回	キャンプ用具とその使	テントを中心に自然の中で宿泊するために必要な装備や用具について理解する。	期間やプログラム、フィールドに合わせた用具や装備について	120分

	い方		理解しておく。	
第7回	野外炊事	野外炊事は活動の目的によってメニューが異なってくる。施設の状況や参加者の経験の度合いが、炊事方法を左右することを理解する。	野外炊事はプログラムに影響することを理解しておく。	120分
第8回	テントの設営法・撤収法	長期間の活動ではテントを立てる場所は大切である。テント設営の時間、テントの立て方、撤収とメンテナンスについて理解する。	いろいろなテントの種類と特徴について理解しておく。	120分
第9回	読図とコンパスワーク	地形図から今いる場所や、地形の特質を読めるようにする。コンパスを使って目標地点まで行けるようにする。地図の中の記号を理解する。	国土地理院の地形図から記号や、等高線を見て地形を思い描けるようにする。	120分
第10回	ロープワーク	プログラムに必要なロープワークを習得する。日常生活で活用できる結び方や繋ぎ方を習得する。	たくさんあるロープワークでも、自然体験活動の中で用いるロープワークは10種類ほどである。基本的なロープワークを理解しておく。	120分
第11回	サバイバルテクニック	森の中で緊急に一晚を過ごさなくてはならない時に、どのようにしたら体を守り、睡眠を取れるのかについて理解する。	サバイバルテクニックは、日常の中でも十分に活用できる技術を含んでいることを理解しておく。	120分
第12回	傷病対策と救急法	自然の中での活動中の怪我や傷病について理解し、救急法について学ぶ。	自然の中で活動するためには、怪我や事故を想定し対応を考えてからプログラムを遂行することを理解しておく。	120分
第13回	イニシアティブゲーム/アドベンチャーゲーム	イニシアチブゲームは課題を解決することで、集団内のメンバーが、お互いをよく知り合い、集団での活動の仕方を学ぶとともに責任感や問題解決能力を身につけることを理解する。アドベンチャーゲームでは目的や目標を見失わないことを理解する。	目的や目標を持たずイニシアティブゲームやアドベンチャーゲームをプログラムに入れることは、危険を追いかけ事故を招くことを理解しておく。	120分
第14回	パッケージプログラム	自然学習を効果的に進めるためのパッケージプログラムについて理解する。	パッケージプログラムは野外のことに関連した課題を一つ一つパッケージにして、それぞれの学習のねらいや準備、活動の進め方などの要点をまとめてあるものである。小学校の低学年を対象にしたパッケージプログラムを考えておく。	120分
第15回	キャンプファイヤー	キャンプファイヤーの企画と準備、方法、片付けまでの一連の活動について理解する。	キャンプファイヤーについて、目的や種類について理解しておく。	120分

学習計画注記 授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 自然の中で4泊5日間過ごしながら、学んだ知識や技術が毎日使用され習得が確認できる。忘れた時は友達と確認したり、教員に直ぐに教わることができる。

評価方法 4泊5日間の生活を通して、守らなければならない自然の中でのルールについて確認する。キャンプ生活中の態度、基本的なルールの厳守、協調性の3点からの総合評価とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
実習	○	○	○	○

評価割合 実習のオリエンテーション及び実習への参加をもって単位の認定をする。オリエンテーション50%、実習参加50%

使用教科書名 (ISBN番号) 特に指定しない。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】 自然体験に関する知識を有し、理解をしている。
【思考・判断】 気象や地形を推測・判断し自ら行動できる。
【関心・意欲・態度】 自然の中でのプログラムに興味を持っている。
【技術・表現】 ロープワークやコンパスを使い、地図を使って目的地に行ける。

学生へのメッセージ 自身が野外活動（主に夏のキャンプ）の楽しさを体験することによって、子どもにその楽しさを与えられることができるようになって欲しい。

教育等の取組み状況

該当有無	概要
------	----

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	地形図から様々な風景を描く。
情報リテラシー教育	○	様々なメディアや情報を駆使して天気図を読んだり、気象を予測する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	自然体験活動演習Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金子 和正	指定なし

ナンバリング	P20503M12
授業概要(教育目的)	自然体験活動演習Ⅰで学んだ知識や技術をさらに充実し、特に冬季の自然体験活動を中心に実施する。雪の中での遊びやゲーム、スキーやスノーボーでの雪山の楽しみ方、さらにテントでの宿泊体験も経験する。自然体験が夏季中心のなかで実施されている現況の中で、冬季の自然体験の素晴らしさを経験していく。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	冬季の自然体験活動の知識や技術を有している。
思考・判断の観点 (K)	寒冷曝露下で自身の体を守れる能力を身につけている。
関心・意欲・態度の観点 (V)	冬の自然体験を積極的に実施する意欲や態度を身につけている。
技術・表現の観点 (A)	雪の上でのテント泊の方法を修得している。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	雪上キャンプ	雪の上にテントを設営する方法を学ぶ。	夏に立てるテントの方法と雪上でのテントの立て方の相違を理解しておく。	90分
第2回	冬の気象	西高東低を中心とした冬特有の気圧配置を理解する。観天望気を理解する。	冬の自然体験は気象条件に大きく左右されることを理解しておく。	90分
第3回	冬のキャンプの装備と用具	テントや寝袋、スコップやスノーソーなどの用具や装備について使用方法を理解する。	雪のブロックを切り出したりする、スコップやスノーソーなどの特別な用具や装備について理解しておく。	90分
第4回	そり遊び	ソリを使って子ども達の喜ぶ遊びを理解する、	子ども達にとって人気のソリ遊びについて理解しておく。	90分
第5回	スキー・スノーボード	スキー・スノーボードの履き方から、初歩的な滑降技術を理解する。	スキーとボードの特徴や、初歩的な技術を理解しておく。スノーボードのグーフィーやレギュラースタンスについて理解しておく。	90分
第6回	アニマルトラッキング	アニマルトラッキングについて学び、足跡から冬の雪国の動物の生態について理解する。	雪上にできた動物の足跡から、動物の種類と生態を理解しておく。	90分

第7回	イグルー/ 雪洞作り	雪洞の掘り方やイグルーのブロックの積み方を理解する。テント、雪洞、イグルー内の保温について理解する。	雪洞やイグルーが、冬の野外での宿泊方法として有効な手段であることを理解しておく。	90分
第8回	雪上運動会	子ども達にとって、雪の上での運動会種目はどのようなものが楽しいのか理解する。	雪上運動会の企画と運営について理解しておく。	90分
第9回	雪の中の寒冷曝露	人の体の寒冷曝露について、体温や皮膚温の変化について理解する。就寝中の人の体温や皮膚温の変化について理解する。外気温の人の体に及ぼす体温低下について理解する。	外気温とテントや雪洞やイグルー内の温度との関係を理解しておく。	90分
第10回	スノーシュー遊び	森の中を歩く手段としてのスノーシューの機能について理解する。雪の中で使用する襪について理解し作成する。	スノーシューの履き方、歩き方について理解しておく。竹藪の作り方を理解しておく。	90分
第11回	雪国の生活	雪の多い地方の文化について理解する。スキー場周辺で暮らす人たちの冬の生活スタイルについて理解する。	スキー場関係で働く人たちの、生活スタイルについて理解しておく。スキー人口の激減とスキー場の関係について理解しておく。	90分
第12回	子ども達の冬の遊び	雪国の子ども達の冬の過ごし方について理解する。スキークラブに所属する子ども達のスキーの練習と、その指導者達について理解する。	インバウンドが非常に多くなっているスキー場、インバウンドが増えないスキー場、様々な雪国の地方の子ども達の冬のあそびや生活スタイルについて理解しておく。	90分
第13回	スキー場	スキー、ボード、テレマーク、スノーバイク、チューブなどの様々な滑走手段がゲレンデに見られるようになり、事故も増えつつあることを理解する。スキー場とゲレンデのこれからについて理解する。	ゲレンデは年齢や性差、技術に関係なく、さらに色々な滑走方法で多くの人たちが一つの場所で運動をするという場所である。スノースポーツの観点から上記の現象についてゲレンデの抱える課題を理解しておく。	90分
第14回	冬のキャンプの特徴	冬の自然体験活動が一般化されない理由について理解する。	距離、宿泊、寒さや、用具、装備のキーワードから冬の自然体験について理解しておく。	90分
第15回	雪上キャンプの準備	が雪上キャンプ	キャンプ場やネイチャーセンターの抱える問題の一つに、冬季の活用の低さが取り上げられていることを理解しておく。	90分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	3泊4日の活動演習を通して、プログラムの遂行と同時に事前に習得した知識や技術が試される。新しい知識や技術は短時間の内に、常にフィードバックされる。仲間との協力や協働によって成功体験を得ることができる。
評価方法	3泊4日の演習への参加期間中の積極的参加態度、友だちとの協力や協働、演習終了後に提出する課題の総合評価とする。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
参加態度	○	○	○	
協力・協働		○	○	
課題	○	○	○	

評価割合	授業への積極的参加 (35%)、仲間との協力・協働 (35%)、演習終了後の課題提出 (30%)。以上の3つの総合評価とする。
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 冬季の自然体験活動の知識や技術を有している。 【思考・判断】 寒冷曝露下で自身の体を守る判断能力を身につけている。 【関心・意欲・態度】 冬の自然体験を積極的に実施する意欲や態度を身につけている。 【技術・表現】 仲間と協力して雪の上でのテント泊の方法を修得している。
学生へのメッセージ	キャンプは夏だけでなく、十分な計画と準備があれば冬期の活動も可能であることを学んでほしい。実際に経験しながら子どもに指導する時の注意点や重要な事を学んでいって欲しい。 冬の自然体験を積極的に実施する意欲や態度を身につけている。

教育等の取組み状況	
該当	概要

	有無	
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	冬の自然の中での活動を実際に経験し、体温を低下させない方法やイグルーの製作等を経験する。
情報リテラシー教育	○	厳しい寒冷化でのキャンプ生活について様々な方法を用いて情報を得る。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	自然体験活動実習		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金子 和正	指定なし

ナンバリング	P40502M23
授業概要(教育目的)	自然体験活動演習Ⅰと自然体験活動演習Ⅱで学んだ知識と実践的能力を基に、1週間の自然体験活動の実習を行う。子ども達が自然の中で生活することが、子ども達にどのような効果を及ぼすのかについて実際の経験を通じて考える。本実習を履修した後に「長期自然体験活動指導者」として登録し、全国の小学校で実施される自然体験活動へプログラムや事業評価の助言者として参加できる能力を身につけることを目的とする。さらに、子どもの発育・発達を理解した自然体験活動指導者の育成を目指す。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	自然体験活動施設を利用した活動の手伝いができる。
思考・判断の観点 (K)	対象年齢や経験の有無に応じた活動プログラムを紹介できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自然体験活動施設の利用者に積極的な言葉かけができる。
技術・表現の観点 (A)	参加者の様々なプログラムの補助や技術の指導補助ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	実習オリエンテーション	実習施設のオリエンテーションを理解する。	実習施設について情報を得ておくこと。	90分
第2回	施設について	施設の利用方法について理解する。	一般の人の施設の利用方法について理解しておく	90分
第3回	利用者の心理	施設を利用する人の不安や心配、質問の事項について理解する。	施設を利用する人の目的、年齢、性別、プログラムについて報告書などから理解しておく。	90分
第4回	野外活動施設	野外活動施設の特徴を宿泊形態や活動内容を中心に理解する。	施設の特徴をプログラムの種類、宿泊形態、交通のアクセス等から理解しておく。	90分
第5回	事業の展開 1. キャンプファイヤー	キャンプファイヤーの指導補助について理解する。	薪の組み方、火の維持、片付け等を理解しておく。	90分
第6回	事業の展開 2. クラフト	工作の種類や道具の使い方を理解する。	のこぎり、ナイフ、彫刻刀、紙やすり等の使い方を理解しておく。	90分

第7回	事業の展開 3. テントの設営と撤収	テントの立て方と片付け方を理解する。	テントの種類は沢山あるが、基本的にはいくつかのルールが共通している事を理解しておく。	90分
第8回	事業の展開 4. ハイキング	ハイキングや登山について、装備やルート、行動中の注意事項、緊急時の体制について理解する。	ハイキング時の先頭や最後尾を歩く時の注意事項、持ち物、ルートの確認、休憩の時間、不測の事態の連絡体制や緊急時体制について理解しておく。	90分
第9回	事業の展開 5. 野外炊事	実施場所の気圧との関係、炊飯で用いる用具の種類、参加者の経験の有無、野外炊事に使うことが可能な時間等から野外炊事プログラムについて理解する。	野外炊事は、参加者にとって楽しいプログラムの一つである。メニューの内容や時間、経験の有無から活動の補助をどのように行うか理解しておく。	90分
第10回	事業の展開 6. 天体観察	プラネタリウムのある施設では、星座観察は重要なプログラムの一つであることを理解する。	様々なメディアを使って星座の学習をしておく。	90分
第11回	事業の展開 7. 自然観察	施設の存在する周辺の地形、植物や生物の生態、森林生態等について理解する。	施設の周辺の動植物や地形等について、理解しておく。気象についても理解しておく。	90分
第12回	事業の展開 8. ゲーム指導	イニシアチブゲームやキャンプファイヤーでのゲーム、雨天時のゲームについて知解する	目的や場所、人数、対象年齢に応じたゲームを理解しておく。	90分
第13回	事業の展開 9. ナイトハイキング	ナイトハイキングは、懐中電灯や月明かりを頼りに行う簡単なハイキングから、2~3時間のプログラムもある。目的や対象年齢を考慮したハイキングについて理解する。	夜のプログラムであることから、危険の回避、救急体制、目的等を考慮したナイトハイキングについて理解しておく。	90分
第14回	事業の展開 10. サバイバルテクニック	緊急時の露営泊について、知識や技術を理解する。	天気の急変や事故に遭遇した時の緊急露営の方法について理解しておく。	90分
第15回	施設の点検と報告書のまとめ	施設の点検をしながら、看板や危険な場所のチェック、危険生物・植物への注意喚起のお知らせ等について理解する。 1週間の実習報告書をまとめる。	施設の専門職員等と巡回しながら点検を行う。報告書の完成を行う準備をする。	90分

学習計画注記 施設の都合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 毎日指導補助を行うことで、学んだ知識や技術の確認ができる。失敗や成功が次の活動に生かされる。

評価方法 様々なスポーツ施設での1週間のボランティア活動の実践を行い、報告書、先方の受け入れ機関の証明をもって成績の評価の対象とする。活動中の態度や積極性、勤務状況等について書類及び面接をもって評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
実践報告書（勤務状況を含む）	○	○	○	○
報告書	○		○	
面接	○	○	○	

評価割合 実践活動報告書（勤務状況を含む）60%、報告書15%、面接15%の総合評価とする。

使用教科書名 (ISBN番号) 特になし。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】【思考・判断】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考を持って理解し、あるべき姿を的確に判断して提案できる能力を持っている。
【技術・表現】学修で得た専門的技術をもって人間社会と自然のなかに課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を作り出す能力をもつ。

オフィスアワー 火曜4時限目

学生へのメッセージ 全国の自然体験活動施設を積極的に使用し、自然体験のすばらしさを積極的に学んで欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング	○	全国の施設を調査し、自身に合った実習先を見つける。施設を活用したプログラムを考え、行動する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	初等教育演習A		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 齋藤 義雄	指定なし
非常勤講師	坂本 紀典	指定なし

ナンバリング	P20311M12
授業概要(教育目的)	小学校教員採用試験に合格するために必要な様々な準備を行う。初等教育演習Aでは、小学校・特別支援学校でのボランティアや授業見学を通じて教師とはどのような職業か理解する他、教員採用試験に合格するために必要な基礎学力の向上を図る。 特別支援教育については、別途勉強会を実施しているので、希望者は連絡して参加する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	小学校の教員採用試験の基礎・基本を理解し、過去問を通して実践力をつける。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的な態度で学び、教職に関する関心・意欲がある。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

初等教育演習 A

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	心構え、ガイダンス、教職教養	教職の心構えについて確認する。授業の概要について確認する。教職教養について復習する。時間割に位置づけ、継続的に学ぶ。	教職の心構えについて確認する。授業の概要について確認する。教職教養について復習する。	90分
第2回	教職教養 算数・数学	教員採用試験対策演習 教職教養 算数・数学 週1回木曜日5限を通して継続的に学ぶ。	教職教養 算数・数学について復習する。	90分
第3回	算数・数学	教員採用試験対策演習 算数・数学 週1回木曜日5限を通して継続的に学ぶ。	算数・数学について復習する。	90分
第4回	英語	教員採用試験対策演習 英語週1回木曜日5限を通して継続的に学ぶ。	英語について復習する。	90分
第5回	英語・国語	教員採用試験対策演習 英語・国語	英語・国語について復習する。	90分
第6回	国語	教員採用試験対策演習 国語 週1回木曜日5限を通して	国語について復習する。	90分

		継続的に学ぶ。		
第7回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 最も印象に残っている先生（坂本紀典） 集中講義で行う。	最も印象に残っている先生について復習する。	90分
第8回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 大きな影響を与えてくれた先生（坂本紀典）	大きな影響を与えてくれた先生について復習する。	90分
第9回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 教師に求められる力（坂本紀典）	教師に求められる力について復習する。	90分
第10回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 教職とは（坂本紀典）	教職とはについて復習する。	90分
第11回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 自分の教職への適性（坂本紀典）	自分の教職への適性について復習する。	90分
第12回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 教育界の課題や子どもたちの抱える問題（坂本紀典）	教育界の課題や子どもたちの抱える問題について復習する。	90分
第13回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 教育課題への対応についての小論文（坂本紀典）	教育課題への対応についての小論文について復習する。	90分
第14回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 目標とする子どもの姿（坂本紀典）	目標とする子どもの姿について復習する。	90分
第15回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 学習指導要領について（坂本紀典）	学習指導要領についてについて復習する。	90分

学生へのフィードバック方法 作成した小論文、自己アピール文は、修正して学生に返却する。

評価方法 各分担による試験またはレポート課題、平常点をもとに評価する。
ボランティア活動の報告を評価する。
担当者の評価を、総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			
レポート		○		
平常点			○	

評価割合

試験またはレポート（50%）、平常点（50%）
総合的に評価する。

使用教科書名 (ISBN番号)

特になし

参考図書

2022年度 教員採用試験対策問題集1 一般教養』東京アカデミー編 2021年10月刊行

ディプロマポリシーとの関連

【知識理解】子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。
【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちのために使命感をもって行動できる。

オフィスアワー

各担当者の都合を確認し、各研究室に質問に行く。

学生へのメッセージ

教員採用試験の勉強は、基本的には自分が主体的に進めるものである。この時間は、ペースづくりに活用してほしい。教えてもらうという受動的な態度ではなく、能動的な取り組みを期待する。授業では丁寧に説明するように心掛けたい。理解できない部分は、遠慮せずに気楽に研究室を訪れ、質問して疑問を解消するように努めることを期待する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	教職としての実践経験に基づいて、教職の実践事例等を詳しく伝える。
アクティブ・ラーニング	○	現代的な教育課題について話し合い、理解を深める。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	初等教育演習B		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 齋藤 義雄	指定なし
非常勤講師	坂本 紀典	指定なし

ナンバリング	P30312M12
授業概要(教育目的)	小学校教員採用試験に合格するために必要な様々な準備を行う。初等教育演習Bでは、初等教育演習Aでの学びを基礎に、教員採用試験の過去問題の演習を通して教員採用試験に合格するために必要な基礎学力の定着を図る。 特別支援教育については、別途勉強会を実施しているので、希望者は連絡して参加する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	小学校の教員採用試験の基礎・基本を理解し、過去問を通して実践力をつける。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的な態度で学び、教職に関する関心・意欲がある。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

初等教育演習B

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	心構え、ガイダンス、教職	教職の心構えについて確認する。授業の概要について確認する。教職教養について復習する。時間割に位置づけ、継続的に学ぶ。	教職教養の心構えについて確認する。授業の概要について確認する。教職教養について復習する。	90分
第2回	教職教養、算数・数学	教員採用試験対策演習 教職教養 算数・数学 週1回木曜日5限を通して継続的に学ぶ。	教職教養 算数・数学について復習する。	90分
第3回	算数・数学	教員採用試験対策演習 数学 週1回木曜日5限を通して継続的に学ぶ。	数学について復習する。	90分
第4回	英語	教員採用試験対策演習 英語 週1回木曜日5限を通して継続的に学ぶ。	英語について復習する。	90分
第5回	英語・国語	教員採用試験対策演習 英語・国語 週1回木曜日5限を通して継続的に学ぶ。	英語・国語について復習する。	90分

第6回	国語	教員採用試験対策演習 国語 週1回木曜日5限を通して継続的に学ぶ。	国語について復習する。	90分
第7回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 自己分析 集中講義で行う。	自己分析について復習する。	90分
第8回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 教職に生かせる自分の性格や資質・能力	教職に生かせる自分の性格や資質・能力について復習する。	90分
第9回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 理想の教師像と努力したいこと	理想の教師像と努力したいことについて復習する。	90分
第10回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 これまでの人生で自分を大きく成長させた体験や出来事	これまでの人生で自分を大きく成長させた体験や出来事について復習する。	90分
第11回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 自己アピール文作成	自己アピール文作成について復習する。	90分
第12回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 教育に求められている「生きる力」の育成について	教育に求められている「生きる力」の育成について復習する。	90分
第13回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 新しい学力論とアクティブラーニング	新しい学力論とアクティブラーニングについて復習する。	90分
第14回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 豊かな心や健やかな体	豊かな心や健やかな体について復習する。	90分
第15回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 自己アピール文完成	自己アピール文を完成させる。	90分

学生へのフィードバック方法 作成した小論文、自己アピール文は、修正して学生に返却する。

評価方法 各分担による試験またはレポート課題、平常点をもとに評価する。ボランティア活動の報告も評価する。担当者の評価を、総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			
レポート		○		
平常点			○	

評価割合 試験またはレポート (50%)、平常点 (50%)
総合的に評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) 特になし

参考図書 2021年度 教員採用試験対策問題集1 一般教養』東京アカデミー編 2020年10月刊行

ディプロマポリシーとの関連 【知識理解】子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。
【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちのために使命感をもって行動できる。

オフィスアワー 各担当者の都合を確認し、各研究室に質問に行く。

学生へのメッセージ 教員採用試験の勉強は、基本的には自分が主体的に進めるものである。この時間は、ペースづくりに活用してほしい。教えてもらうという受動的な態度ではなく、能動的な取り組みを期待する。授業では丁寧に説明するように心掛けたい。理解できない部分は、遠慮せずに気楽に研究室を訪れ、質問して疑問を解消するように努めることを期待する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	教職としての実践経験に基づいて、教職の実践事例等を詳しく伝える。
アクティブ・ラーニング	○	現代的な教育課題について話し合い、理解を深める。
情報リテラシー教育		

シラバス参照

講義名	初等教育演習C		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 齋藤 義雄	指定なし
准教授	新海 公昭	指定なし
非常勤講師	坂本 紀典	指定なし

ナンバリング	P30313M12
授業概要(教育目的)	小学校教員採用試験に合格するために必要な様々な準備を行う。初等教育演習Cでは、初等教育演習Bまでの学びを基礎に、教員採用試験の過去問題や予想問題の演習を通して教員採用試験に合格するために必要な一般・教職教養の学力の向上を図る。また、面接や小論文および模擬授業の対策も行う。特別支援教育については、別途勉強会を実施しているので、希望者は連絡して参加する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	小学校の教員採用試験の基礎・基本を理解し、過去問を通して実践力をつける。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的な態度で学び、教職に関する関心・意欲がある。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

初等教育演習C

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	心構え、ガイダンス、教職	教職の心構えについて確認する。授業の概要について確認する。教職関係について復習する。時間割に位置づけ、継続的に学ぶ。	教職の心構えについて確認する。授業の概要について確認する。教職関係について復習する。	90分
第2回	教職教養 算数・数学	教員採用試験対策演習 教職教養 算数・数学 週1回木曜日5限を通して継続的に学ぶ。	教職教養 算数・数学について復習する。	90分
第3回	算数・数学	教員採用試験対策演習 算数・数学 週1回木曜日5限を通して継続的に学ぶ。	算数・数学について復習する。	90分
第4回	英語	教員採用試験対策演習 英語 週1回木曜日5限を通して継続的に学ぶ。	英語について復習する。	90分
第5回	英語・国語	教員採用試験対策演習 英語・国語	英語・国語について復習する。	90分

第6回	国語	教員採用試験対策演習 国語	国語について復習する。	90分
第7回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 場面指導の実際 1 集中講義で行う。	場面指導の実際について復習する。	90分
第8回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 場面指導の実際 2	場面指導の実際について復習する。	90分
第9回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 教育課題の解決に向けて小論文作成	教育課題の解決に向けて小論文作成について復習する。	90分
第10回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 模擬授業と集団協議 1	模擬授業と集団協議について復習する。	90分
第11回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 模擬授業と集団協議 2	模擬授業と集団協議について復習する。	90分
第12回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 模擬授業と集団協議 3	模擬授業と集団協議について復習する。	90分
第13回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 授業力をつける 指導案の改善	授業力をつける 指導案の改善について復習する。	90分
第14回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 授業力をつける 教材の工夫	教材の工夫について復習する。	90分
第15回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 指導内容と方法の工夫改善	指導内容と方法の工夫改善について復習する。	90分

学生へのフィードバック方法 作成した小論文、自己アピール文は、修正して学生に返却する。

評価方法 各分担による試験またはレポート課題、平常点をもとに評価する。担当者の評価を、総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			
レポート		○		
平常点			○	

評価割合 試験またはレポート (50%)、平常点 (50%)
総合的に評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) 2022年度 教員採用試験対策問題集1 教職教養』東京アカデミー編 2020年10月発刊

ディプロマポリシーとの関連 【知識理解】子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。
【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちのために使命感をもって行動できる。

オフィスアワー 各担当者の都合を確認し、各研究室に質問に行く。

学生へのメッセージ 教員採用試験の勉強は、基本的には自分が主体的に進めるものである。この時間は、ペースづくりに活用してほしい。教えてもらうという受動的な態度ではなく、能動的な取り組みを期待する。授業では丁寧に説明するように心掛けたい。理解できない部分は、遠慮せずに気楽に研究室を訪れ、質問して疑問を解消するように努めることを期待する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	教職としての実践経験に基づいて、教職の実践事例等を詳しく伝える。
アクティブ・ラーニング	○	現代的な教育課題について話し合い、理解を深める。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	初等教育演習D		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 齋藤 義雄	指定なし
非常勤講師	猿渡 厚史	指定なし

ナンバリング	P40301M12
授業概要(教育目的)	小学校教員採用試験に合格するために必要な様々な準備を行う。初等教育演習Dでは、初等教育演習Cまでの学びを基礎に、教員採用試験の過去問題や予想問題の演習を通して教員採用試験に合格するために必要な一般・教職教養の学力の定着を図る。また、面接や小論文及び模擬授業の対策も行い、教師への志望動機や理想とする教師像等について適切に表現できるかを再確認するとともに、自己理解を深め、自己に関するプレゼンテーション能力の向上を図る。 特別支援教育については、別途勉強会を実施しているので、希望者は連絡して参加する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	小学校の教員採用試験の基礎・基本を理解し、過去問・予想問題を通して実践力をつける。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的な態度で学び、教職に関する関心・意欲がある。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

初等教育演習D

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	心構え、ガイダンス、教職	教職の心構えについて確認する。授業の概要について確認する。教職教養について復習する。時間割に位置づけ、継続的に学ぶ。	教職の心構えについて確認する。授業の概要について確認する。教職教養について復習する。	90分
第2回	教職教養 算数・数学	教員採用試験対策演習 教職教養 算数・数学 週1回木曜日5限を通して継続的に学ぶ。	教職教養 算数・数学について復習する。	90分
第3回	英語	教員採用試験対策演習 英語 週1回木曜日5限を通して継続的に学ぶ。	英語について復習する。	90分
第4回	英語	教員採用試験対策演習 英語 週1回木曜日5限を通して継続的に学ぶ。	英語について復習する。	90分
第5回	英語・国語	教員採用試験対策演習 英語・国語 週1回木曜日5限	英語・国語について復習する。	90分

		を通して継続的に学ぶ。		
第6回	国語	教員採用試験対策演習 国語 週1回木曜日5限を通して継続的に学ぶ。	国語について復習する。	90分
第7回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 自己アピール文提出 集中講義で行う。	自己アピール文提出について復習する。	90分
第8回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 教育実習に向けての心構え	教育実習に向けての心構えについて復習する。	90分
第9回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 教育実習の反省と学習したこと	教育実習の反省と学習したことについて復習する。	90分
第10回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 自己アピール文完成	自己アピール文を完成する。	90分
第11回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 予想問題の小論文作成	予想問題の小論文作成について復習する。	90分
第12回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 模擬授業と集団協議の実施と改善1	模擬授業と集団協議の実施と改善1について復習する。	90分
第13回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 模擬授業と集団協議の実施と改善2	模擬授業と集団協議の実施と改善2について復習する。	90分
第14回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 面接対応と場面指導の実施と改善1	面接対応と場面指導の実施と改善1について復習する。	90分
第15回	教職実践演習	教員採用試験対策講座 面接対応と場面指導の実施と改善1	面接対応と場面指導の実施と改善1について復習する。	90分

学生へのフィードバック方法 作成した小論文、自己アピール文は、修正して学生に返却する。

評価方法 各分担による試験またはレポート課題、平常点をもとに評価する。担当者の評価を、総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			
レポート		○		
平常点			○	

評価割合 試験またはレポート (50%)、平常点 (50%)
総合的に評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) 特になし

参考図書 2020年度 教員採用試験対策問題集1 教職教養』東京アカデミー編

ディプロマポリシーとの関連 【知識理解】子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。
【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちのために使命感をもって行動できる。

オフィスアワー 各担当者の都合を確認し、各研究室に質問に行く。

学生へのメッセージ 教員採用試験の勉強は、基本的には自分が主体的に進めるものである。この時間は、ペースづくりに活用してほしい。教えてもらうという受動的な態度ではなく、能動的な取り組みを期待する。授業では丁寧に説明するように心掛けたい。理解できない部分は、遠慮せずに気楽に研究室を訪れ、質問して疑問を解消するように努めることを期待する。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	教職としての実践経験に基づいて、教職の実践事例等を詳しく伝える。
アクティブ・ラーニング	○	現代的な教育課題について話し合い、理解を深める。
情報リテラシー教育		

シラバス参照

講義名	児童臨床実習B I		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限後半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 末松 加奈	指定なし
非常勤講師	佐藤 冬果	指定なし

ナンバリング	P40104M13
授業概要(教育目的)	豊かな自然の中で幼児教育を行う「森のようちえん」について、野外教育の観点、自然体験の観点からその歴史的経緯や意義について学ぶ。さらに学んだことについて、学内における「森のようちえん」活動を通し、実践的に理解を深めていく。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	森のようちえんなど、子どもを対象とした野外活動に関する専門的知識を修得し、子どもを対象とした野外活動の効果について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	森のようちえんなど、野外活動を用いた教育の現状と課題について指摘することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	森のようちえんなど、子どもを対象とした野外活動の指導力の修得に対して積極的に寄与できる。
技術・表現の観点 (A)	森のようちえんなど、子どもを対象とした野外活動の実践・指導ができる知識と技術を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	野外活動の教育的意義 野外活動プログラム (1): アイスブレイクゲーム	自然の中での諸活動(野外活動)が子どもに与える様々な教育的効果について理解する。また、自分自身がこれまでに経験した野外活動をふりかえり、その意味づけと共有を行いながら、野外教育がもつ教育効果についての理解を深める。 また、野外活動の具体的なプログラムの一つである「アイスブレイクゲーム」をいくつか体験し、その教育的意義を理解する。	自分自身の最も印象的な野外活動経験について小レポートにまとめる。	90分
第2回	野外教育の歴史的背景 野外活動プログラム (2): オリエンテーリング	人間と自然の繋がりに関する歴史や、子どもの教育に野外活動が活用されるようになった国内外の文化的背景について知り、その歴史、変遷を理解する。 また、野外活動の具体的なプログラムの一つである「自然発見オリエンテーリング」を体験し、動物の痕跡探し(アニマルトラッキング)や植物の観察を行うことで、その教育的意義を理解する。	自然発見オリエンテーリングを通して得た気づきや、子どもが自然発見オリエンテーリングを経験することによって得ることが期待される効果について、レポートにまとめる。	90分
第3回	野外教育の現状と課題 野外活動プログラム	現在、学校や青少年教育施設、民間団体等において様々な野外教育プログラムが提供されている。それらの背景にある法・管中や制度を知る。また実際のプログラム事例等の観点から、野外教育を取り巻く現状を理解する。	ASEを通して得た気づきや、子どもがASEを経験することによって得ることが期待される効果	90分

	(3) : ASE(コミュニケーション系のゲーム)	また、野外活動の具体的なプログラムの一つである「ASE」の中から「コミュニケーション系のゲーム」をいくつか体験し、その教育的意義を理解する。	について、レポートにまとめる。	
第4回	森のようちえんとその歴史 野外活動プログラム (4) : ASE(問題解決・信頼系のゲーム)	幼児を対象とした野外活動である「森のようちえん」活動について、その概要や国内外での発展の歴史と現状を知るとともに、幼稚園教育における意義について理解する。 また、野外活動の具体的なプログラムの一つである「ASE」の中から「問題解決・信頼系ゲーム」をいくつか体験し、その教育的意義を理解する。	ASEを通して得た気づきや、子どもがASEを経験することによって得ることが期待される効果について、レポートにまとめる。	90分
第5回	冒険教育の理論的背景	野外活動の具体的なプログラムの一つである「ASE」について、冒険教育の観点からその歴史と理論的背景を知る。また野外活動の教育効果を支える考え方である「アドベンチャーベースドカウンセリング」について理解する。また、これまでの体験を踏まえ、その指導法と効果について理解し、実際の指導計画を作成する。	ASEの指導計画を作成し、レポートにまとめる。	90分
第6回	冒険教育の指導実践	野外活動の具体的なプログラムの一つである「ASE」について、グループに対する指導を経験する。	ASEの体験や指導を通して得た気づきをレポートにまとめる。	90分
第7回	環境教育の理論的背景 野外活動プログラム (5) : ネイチャーゲーム(春夏編)	野外活動の具体的なプログラムの一つである「ネイチャーゲーム」について、環境教育の観点から歴史や理論的背景を知る。また、いくつかの春や夏に適したアクティビティを実際に体験することで、その指導法と教育的意義について理解する。	ネイチャーゲームの指導計画を作成し、レポートにまとめる。	90分
第8回	環境教育の指導実践	野外活動の具体的なプログラムの一つである「ネイチャーゲーム」について、グループに対する指導を経験する。	ネイチャーゲームの体験や指導を通して得た気づき、子どもがネイチャーゲームを経験することによって得ることが期待される効果について、レポートにまとめる。	90分
第9回	焚き火の教育的意義 野外活動プログラム (6) : 焚き火	野外活動において多く用いられる「焚き火」について、その教育的意義を理解する。 また、実際に焚き火を体験し、火を扱う際の技術や安全管理の方法を修得する。	焚火の体験を通して得た気づきや、子どもが焚火を経験することによって得ることが期待される効果についてレポートにまとめる。	90分
第10回	創作・芸術的活動の教育的意義 野外活動プログラム (7) : ネイチャークラフト(春夏編)	野外活動の具体的なプログラムの一つである「ネイチャークラフト」について、理論的背景を知る。また、作品作りを実際に体験することで、その指導法と教育的意義について理解する。	ネイチャークラフトを通して得た気づきや、子どもがネイチャークラフトを経験することによって得ることが期待される効果について、レポートにまとめる。	90分
第11回	野外活動の身体面への効果 野外活動プログラム (8) : ツリークライミング	自然環境下での多様な活動が子ども達の身体、健康面に与える影響を理解する。 また、野外活動のプログラムの中でも身体的な活動である「ツリークライミング」および「スラックライン」を実際に体験することで、その指導法と教育的意義について理解する。	ツリークライミングを通して得た気づきや、子どもがツリークライミングを経験することによって得ることが期待される効果について、レポートにまとめる。	90分
第12回	野外活動の指導(1) : リスクマネジメント	野外活動を安全に運営するための知識や技術(自然環境の危険、生物的な危険、社会文化人為的な危険等)を理解する。 また、自然環境下での実地踏査から、危険認知や安全管理の考え方を養う。	子どもを対象とした野外活動において生じた実際の事故事例について調べ、レポートにまとめる。	90分
第13回	野外活動の指導(2) : 緊急時の対応	野外活動中に生じる緊急事態に対応するための基礎的な知識や技術を修得する。 また、トラブル発生時を想定したシュミレーショントレーニングを体験し、野外活動指導者としての安全への意識を養う。	シュミレーショントレーニングを通して得た気づきについて、レポートにまとめる。	90分
第14回	野外活動の指導(3) : 自然への配慮	野外活動の主な活動フィールドである森林について、その持続的利用のために必要な知識、技術を理解する。 また、実際に森の中へ赴き、自然への負荷を軽減させるための技術や活動の工夫方法を身につける。	森のようちえん活動によって生じることが想定される環境負荷と、それを軽減させるための方法についてレポートにまとめる。	90分
第15回	野外活動の指導(4) : 指導の哲学	これまでの授業をふりかえり、森のようちえんの指導をする上での自分自身の指導哲学についてまとめ、共有する。	森のようちえんを通じて子どもに提供したい体験や学びについて、最終レポートにまとめる。	90分

	全体のまとめ																							
学習計画注記	<ul style="list-style-type: none"> ・野外活動が出来る服装で受講して下さい。 ・天候等によってはスケジュールが変更になる場合があります。 																							
学生へのフィードバック方法	提出されたレポートは、採点・コメントの記入をして返却します。質問はメールにて随時受け付けます。																							
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業後のレポート70点（5点×14回） ・最終レポート15点 ・平常点15点 																							
評価基準	<p>評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>レポート</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>最終レポート</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平常点</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>				評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	レポート	○	○			最終レポート	○	○			平常点	○	○	○	○
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																				
レポート	○	○																						
最終レポート	○	○																						
平常点	○	○	○	○																				
評価割合	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業後のレポート70% ・最終レポート15% ・平常点15% 																							
参考図書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 日本野外教育研究会編「野外活動-その考え方と実際-」杏林書院、2001年 2) 星野敏男、金子和正 監修「野外教育入門シリーズ1巻～5巻」杏林書院、2013年 3) ベーター・ヘフナー、佐藤笠[訳]「ドイツの自然・森の幼稚園—就学前教育における正規の幼稚園の代替物—」公人社、2009年 4) 国土緑化推進機構編「森と自然を活用した保育・幼児教育ガイドブック」風鳴舎、2018年 																							
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】自然環境下での子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている</p> <p>【思考・判断】具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる</p> <p>【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる</p>																							
学生へのメッセージ	<p>都市化された現代の生活では、子ども達が自然に触れる機会が減少しています。しかし、幼児・児童期に自然と直接関わり、五感を刺激し、自然（じねん）と生まれる興味のままに物事に取り組んだ経験は、無意識のうちに心の深いところに根付き、その後の心身の成長に大きな影響を与えてくれます。そして、その体験の質の鍵を握るのは、そこにいる「大人」の存在であるとも言われます。保育者・教育者になる皆さんには、まずは皆さんが自然にたくさん触れることで子ども達の自然体験の意義を実感を持って理解し、豊かな体験をサポートできる存在になってほしいと願います。</p>																							
教育等の取組み状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>野外活動プログラムや指導技術について、実際の体験活動から学びを得る。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td>○</td> <td>得られた情報を整理し、レポートにまとめる。</td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング	○	野外活動プログラムや指導技術について、実際の体験活動から学びを得る。	情報リテラシー教育	○	得られた情報を整理し、レポートにまとめる。	ICT活用							
	該当有無	概要																						
実務経験を活かした授業																								
アクティブ・ラーニング	○	野外活動プログラムや指導技術について、実際の体験活動から学びを得る。																						
情報リテラシー教育	○	得られた情報を整理し、レポートにまとめる。																						
ICT活用																								

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	児童臨床実習B II		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限後半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 末松 加奈	指定なし
非常勤講師	佐藤 冬果	指定なし

ナンバリング	P40105M13
授業概要(教育目的)	児童臨床実習B Iにおいて修得した知見や前期の活動を踏まえ、引き続き、実際に「森のようちえん」活動を企画・運営していく中で、指導者・教育者としての力を養っていく。
履修条件	児童臨床実習B Iと合わせて履修することが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	森のようちえんなど、子どもを対象とした野外活動に関する専門的知識を習得し、森のようちえんなど、子どもを対象とした野外活動の効果について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	森のようちえんなど、野外活動を用いた教育の現状と課題について指摘することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	森のようちえんなど、子どもを対象とした野外活動の指導力の修得に対して積極的に寄与できる。
技術・表現の観点 (A)	森のようちえんなど、子どもを対象とした野外活動の実践・指導ができる知識と技術を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	野外活動の基礎知識(1): 森林の生態系	野外活動の主な活動フィールドである森林について、食物連鎖、生態系の繋がり等の観点から理解する。また、実際に樹木の観察を行うことで同定技術を修得し、危険植物の判別や自然解説に必要な知識を身につける。	樹木観察を通して得た気づきや、子どもが樹木観察を経験することによって得ることが期待される効果について、レポートにまとめる。	90分
第2回	野外活動の基礎知識(2): 土壌と水	野外活動の主な活動フィールドである森林について、土壌および水の観点から理解する。また、実際に土壌観察を行うことで土壌に関する基礎知識を身につける。	土壌観察を通して得た気づきや、子どもが土壌観察を経験することによって得ることが期待される効果について、レポートにまとめる。	90分
第3回	組織キャンプ(1): プログラムデザイン ネイチャーゲーム(秋冬編)	野外教育プログラムの実施形態である「組織キャンプ」について、その概要や、プログラムの立案に必要な知識を修得するとともに、指導者の役割分担とそれぞれの役割について理解する。また、秋や冬に適したネイチャーゲームを体験し、季節に合わせたプログラム開発の意義を理解する。	ネイチャーゲーム(秋冬編)を通して得た気づきや、子どもが季節に合わせたプログラムを経験することによって得ることが期待される効果について、レポートにまとめる。	90分
第4回	組織キャン	組織キャンプの中でも、子どもと直接関わり、体験の質	これまでの自身の経験をふりか	90分

	プ(2)：キャンプカウンセラー	に大きな影響を与える「キャンプカウンセラー」について、その役割や、求められる資質能力を理解する。	えり、自分自身に肯定的な影響を与えた大人の行動、態度などについてレポートにまとめる。	
第5回	組織キャンプ(3)：食料のマネジメント	キャンプ運営を支える食料のマネジメントに必要な知識技術を理解し、対象やプログラムに合った食料計画の立案を行う技術を修得する。 また、実際に薪割りから火起こし、飯盒での炊飯までの過程を体験し、その技術と指導法を身につける。	飯盒炊飯を通して得た気づきや、子どもが飯盒炊飯を経験することによって得ることが期待される効果について、レポートにまとめる。	90分
第6回	組織キャンプ(4)：装備のマネジメント	野外活動に使用する装備の名称や正しい使い方を理解し、キャンプ運営を支える装備のマネジメントに必要な知識技術、対象やプログラムに合った装備計画の立案を行う技術を修得する。 また、実際にテント設営を体験し、ロープワーク等の野外活動技術と指導法を身につける。	テント設営を通して得た気づきや、子どもがテント設営を経験することによって得ることが期待される効果について、レポートにまとめる。	90分
第7回	森のようちえんプログラムの立案(1)	1時間半の森のようちえんプログラムの運営に向け、グループ毎にプログラムの立案を行い、募集要項を作成する。また、実際に試行を行い、プログラムの改善を行う。	教育目標やプログラム、指導法、準備する装備、安全管理法などについて、授業内容や外部資料等を基に企画立案を進める。	90分
第8回	森のようちえんプログラムの立案(2)	1時間半の森のようちえんプログラムの運営に向け、グループ毎にプログラムの立案を行い、募集要項を作成する。また、実際に試行を行い、プログラムの改善を行う。	教育目標やプログラム、指導法、準備する装備、安全管理法などについて、授業内容や外部資料等を基に企画立案を進める。	90分
第9回	森のようちえんプログラムの実践(1)	グループ毎に、1時間半の森のようちえんプログラムを運営する。また、他グループの提供するプログラムを子どもの立場で体験することで参加者目線での気づきを深め、森のようちえんプログラムの指導力を身につける。	森のようちえんプログラムの運営に向け、準備を進める。	90分
第10回	森のようちえんプログラムの実践(2)	グループ毎に、1時間半の森のようちえんプログラムを運営する。また、他グループの提供するプログラムを子どもの立場で体験することで参加者目線での気づきを深め、森のようちえんプログラムの指導力を身につける。	森のようちえんプログラムの運営に向け、準備を進める。	90分
第11回	森のようちえんプログラムの実践(3)	グループ毎に、1時間半の森のようちえんプログラムを運営する。また、他グループの提供するプログラムを子どもの立場で体験することで参加者目線での気づきを深め、森のようちえんプログラムの指導力を身につける。	森のようちえんプログラムの運営に向け、準備を進める。	90分
第12回	森のようちえんプログラムの実践(4)	グループ毎に、1時間半の森のようちえんプログラムを運営する。また、他グループの提供するプログラムを子どもの立場で体験することで参加者目線での気づきを深め、森のようちえんプログラムの指導力を身につける。	森のようちえんプログラムの運営に向け、準備を進める。	90分
第13回	森のようちえんプログラムの実践(5)	グループ毎に、1時間半の森のようちえんプログラムを運営する。また、他グループの提供するプログラムを子どもの立場で体験することで参加者目線での気づきを深め、森のようちえんプログラムの指導力を身につける。	森のようちえんプログラムの運営に向け、準備を進める。	90分
第14回	森のようちえんプログラムの振り返り(1)	グループ毎に、運営した森のようちえんプログラムの反省を行い、報告書としてまとめる。	森のようちえんプログラムの報告書作成に向けて、気づきと反省点をまとめる。	90分
第15回	森のようちえんプログラムの振り返り(2)	グループ毎に、運営した森のようちえんプログラムの反省を行い、報告書としてまとめる。	森のようちえんプログラムの企画立案、運営、ふりかえりを通しての気づきを最終レポートにまとめる。	90分

学習計画注記	<ul style="list-style-type: none"> ・野外活動が出来る服装で受講して下さい。 ・天候等によってはスケジュールが変更になる場合があります。
--------	---

学生へのフィードバック方法	提出されたレポートは、採点・コメントの記入をして返却します。質問はメールにて随時受け付けます。
---------------	---

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業後のレポート70点 (5点×14回) ・最終レポート15点 ・平常点15点
------	---

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート	○	○		
最終レポート	○	○		
平常点	○	○	○	○

評価割合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎授業後のレポート70% ・ 最終レポート15% ・ 平常点15% 	
参考図書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 日本野外教育研究会編「野外活動-その考え方と実際-」杏林書院、2001年 2) 星野敏男、金子和正 監修「野外教育入門シリーズ1巻～5巻」杏林書院、2013年 3) ベーター・ヘフナー、佐藤笠[訳]「ドイツの自然・森の幼稚園—就学前教育における正規の幼稚園の代替物—」公人社、2009年 4) 国土緑化推進機構編「森と自然を活用した保育・幼児教育ガイドブック」風鳴舎、2018年 	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 自然環境下での子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている</p> <p>【思考・判断】 具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる</p> <p>【関心・意欲・態度】 子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる</p>	
学生へのメッセージ	<p>都市化された現代の生活では、子ども達が自然に触れる機会が減少しています。しかし、幼児・児童期に自然と直接関わり、五感を刺激し、自然（じねん）と生まれる興味のままに物事に取り組んだ経験は、無意識のうちに心の深いところに根付き、その後の心身の成長に大きな影響を与えてくれます。そして、その体験の質の鍵を握るのは、そこにいる「大人」の存在であるとも言われます。保育者・教育者になる皆さんには、まずは皆さんが自然にたくさん触れることで子ども達の自然体験の意義を実感を持って理解し、豊かな体験をサポートできる存在になってほしいと願います。</p>	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	野外活動プログラムや指導技術について、実際の体験活動から学びを得る。
情報リテラシー教育	○	得られた情報を整理し、レポートにまとめる。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	児童臨床実習 C I		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	1 限後半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 柳瀬 洋美	指定なし

授業概要(教育目的)	学内で実施している乳児とその保護者を対象とした親子参加型のグループ活動実習を通し、現代日本の子育て支援の現状についてその実際を知り、保育者としての実践力、児童臨床の実践者としての資質を養成する。
履修条件	原則として、後期開講の「児童臨床実習CII」と合わせ、通年で履修すること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 乳幼児の発達について実践を通して学ぶ。 2. 保護者との交流を通し、現代日本の子育て支援の現状についてその実際を知る。
思考・判断の観点 (K)	1. 個々の子どもに寄り添った保育者としてのかわりについて実践的に学ぶ。 2. 保護者との交流を通し、現代日本の子育て支援の現状についてその実際を知り、保護者支援のあり方について理解を深める。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	1. 学生が主体となって毎回の保育活動計画を立て、保育者としての実践力を身につける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	現代の子育て事情を背景に、本実習授業の目的や各自の課題について知る。 初回の活動準備を行う。	各自が授業を履修するにあたっての目的と課題について考える。	120分
第2回	子育て支援の現状と子育て支援グループ活動の基礎理論	グループ参加者(子どもと保護者)の基本的な情報を共有する。 子育て支援グループ活動の基礎理論について学ぶ。	次回活動に向けての準備を行う。 次回の活動リーダー(担当者)は、活動案を計画を作成する。	120分
第3回	子育て支援グループ実践活動①インタビュー(集団における個の課題の確認)	インタビュー面談により、各参加者(子どもと保護者)の様子を把握し、現状と課題について確認する。	・活動終了後、各参加者(子どもと保護者)の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	120分
第4回	子育て支援	集団に包まれ安定できる状況のもと、参加者(子どもと	・活動終了後、各参加者(子どもと	120分

	グループ実践活動② (集団での安定、出会い体験)	保護者)が安心して活動するために、保育者はどのようなことに留意し、役割を果たしたらよいかについて考え、実践する。	もとと保護者)の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	
第5回	子育て支援を考える② (親子の交流の場としての役割について考える)	親子の交流の場としての子育てひろば、子育て支援拠点が果たす役割について考える	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー(主担当者)は、活動案を計画を作成する。	120分
第6回	子育て支援グループ実践活動③ (保護者支援の実践の試み)	・保育者として、子どもたち一人ひとりの活動の充実をはかる。 ・保護者のグループワークへの参加を通して、保護者支援のあり方を探る。	・活動終了後、各参加者(子どもと保護者)の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	120分
第7回	子育て支援を考える③ (保育者による保護者支援)	保護者支援において、保育者が果たしうる役割やかかわりのポイントについて考えてみる。	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー(主担当者)は、活動案を計画を作成する。	120分
第8回	子育て支援グループ実践活動④ (集団におけるコーナー活動の展開②)	集団活動において、コーナー間の交流を促進する保育者としてののかかわりに留意し、保育を実践する。	・活動終了後、各参加者(子どもと保護者)の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	120分
第9回	子育て支援グループ実践活動⑤ (グループダイナミクス)	集団におけるグループダイナミクスに着目した保育を実践する。	・活動終了後、各参加者(子どもと保護者)の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	120分
第10回	子育て支援を考える④ (地域社会と子育て)	地域社会による子育て支援について、社会資源とのかかわりで考える。	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー(主担当者)は、活動案を計画を作成する。	120分
第11回	子育て支援グループ実践活動⑥ (季節行事を取り入れた家族参加活動)	通常活動に参加している子どもと保護者に加えて祖父母やきょうだい等も一緒に参加する家族参加活動の実践を通し、保育者としてのスキルアップを図る。	・活動終了後、各参加者(子どもと保護者)の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	120分
第12回	子育て支援を考える⑤ (現代社会における子育てをめぐる環境について)	現代社会における子育てをめぐる環境について学ぶ。	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー(主担当者)は、活動案を計画を作成する。	120分
第13回	子育て支援グループ実践活動⑦ (集団活動体験の統合)	保育場面において、子どもたち一人ひとりの活動やコーナー活動での体験が統合され、個と集団が共に育ちあうために、保育者がどのように動いたらよいかについて考え、実践する。	・活動終了後、各参加者(子どもと保護者)の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	120分
第14回	子育て支援活動を考える⑥ (現代社会における子育ての課題の理解と支援の実践)	現代日本社会の子育てをめぐる社会的背景を踏まえながら、子育てに関する課題を理解し、支援の実践について探る。	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー(主担当者)は、活動案を計画を作成する。	120分
第15回	まとめ (前期活動の総括および個人の実	前期の活動を総括し、個人の実践研究の成果を発表し、全体で共有する。また、前期の総括を踏まえ、後期の「児童臨床実習CⅡ」に向け、課題を検討する。	・活動終了後、各参加者(子どもと保護者)の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・前期も含めた1年間の実習の	240分

	実践研究成果 発表)		全体の活動の総括と各自の課題 についての総括をおこなう。		
学習計画注記	※履修学生の保育・教育実習の状況によりスケジュールが変更になる場合があります。				
学生へのフィードバック方法	・毎回の活動前後の話し合いでのコメント ・期末レポートへのコメント				
評価方法	実習課題への取り組みや期末レポート、毎回の活動記録、平常点（活動への参加状況や討論への参加）などによる総合評価				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	期末レポート	○	○	○	
	実習課題への取り組み	○	○	○	○
	毎回の活動記録	○	○	○	
評価割合	平常点（授業への参加状況・討論への参加など）および実習課題への取り組みやレポートなどによる総合評価				
参考図書	東京家政学院大学児童学科「児童臨床実習」担当者グループ著「子育て・発達支援—地域に開く大学として共に育つ保育活動から— 第三巻 2010年度」				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】乳幼児の発達について実践を通して学ぶ。保護者との交流を通し、現代日本の子育て支援の現状についてその実際を知る。 【思考・判断】個々の子どもに寄り添った保育者としてのかかわりについて実践的に学ぶ。 【技術・表現】学生が主体となって毎回の保育活動計画を立て、保育者としての実践力を身につける。				
オフィスアワー	水曜日5時限 1619研究室				
学生へのメッセージ	0歳～3歳未満の乳幼児期の子どもたちの発達や子育て支援について、これまで学んできたことを振り返っておいて下さい。また、卒業研究テーマ等、各自の興味や・関心について、本実習授業をどのように生かしていくのか考えておいて下さい。				
教育等の取組み状況					
	該当 有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	学生が主体となって毎回の保育活動計画を立て、保育者としての実践力を身につける。(担当教員は長年、子育て支援の現場で臨床経験がある。)			
アクティブ・ラーニング	○	毎回の活動計画を学生が立てるほか、活動後にはグループディスカッションを通じて、各自の理解を深める。			
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	児童臨床実習C II		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限後半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 柳瀬 洋美	指定なし

授業概要(教育目的)	0歳～3歳の乳幼児とその保護者を対象とした親子参加型のグループ活動学内実習。前期の「児童臨床実習C II」を踏まえ、参加者である子どもと保護者個々の課題と取り組み、保育者、臨床家としての資質の向上をはかる。毎回の活動体験にもとづく集団討議をおこない、児童学研究上の諸問題などについても考究する。
履修条件	原則として、前期開講の「児童臨床実習C I」と合わせ、通年で履修すること。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1. 保護者の置かれている状況や心情への理解を深め、子育て支援のあり方について実践的に学ぶ。 2. 個と集団の相即的發展を意識し、保育者としての役割について実践的に学ぶ。
思考・判断の観点 (K)	1. 子どもひとりひとりの個性や発達課題を踏まえ、個々に寄り添った支援をおこなう。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 子どもひとりひとりの個性や発達課題を踏まえ、個々に寄り添った支援をおこなう。
技術・表現の観点 (A)	1. 学生が主体となって毎回の保育活動計画を立て、保育者としての実践力を身につける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション・後期・子育て支援グループ準備活動	前期「児童臨床実習C I」を改めて振り返り、後期からの本実習授業の目的や各自の課題についてグループで共有する。 また、後期の活動準備を行う。	各自が授業を履修するにあたっての目的と課題について考える。	120分
第2回	子育て支援グループ実践活動①(集団における個の課題の検討)	グループ参加者(子どもと保護者)の個と集団の育ちに着目し、個々の課題を検討する。	・活動終了後、各参加者(子どもと保護者)の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	120分
第3回	子育て支援を考える①(子ども理解と保育の目標及び子育て支援の)	前回活動での参加児と保護者の様子を踏まえ、各参加者(子どもと保護者)の課題を確認し、後期の活動・支援方針について検討する。	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー(主担当者)は、活動案を計画を作成する。	120分

	目標の設定)			
第4回	子育て支援グループ実践活動② (集団におけるコーナー活動の展開①)	個と集団の関係性に着目しながら、一人ひとりの子どもたちにとってのコーナー活動の充実を意識した保育を実践する。	・活動終了後、各参加者(子どもと保護者)の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	120分
第5回	子育て支援を考える② (親子の交流の場としての役割について考える)	親子の交流の場としての子育てひろば、子育て支援拠点が果たす役割について考える	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー(主担当者)は、活動案を計画を作成する。	120分
第6回	子育て支援グループ実践活動③ (保護者支援の実践の試み)	・保育者として、子どもたち一人ひとりの活動の充実をはかる。 ・保護者のグループワークへの参加を通して、保護者支援のあり方を探る。	・活動終了後、各参加者(子どもと保護者)の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	120分
第7回	子育て支援を考える③ (保育者による保護者支援)	保護者支援において、保育者が果たしうる役割やかかわりのポイントについて考えてみる。	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー(主担当者)は、活動案を計画を作成する。	120分
第8回	子育て支援グループ実践活動④ (集団におけるコーナー活動の展開②)	集団活動において、コーナー間の交流を促進する保育者としてのかかわりに留意し、保育の実践を	・活動終了後、各参加者(子どもと保護者)の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	120分
第9回	子育て支援グループ実践活動⑤ (グループダイナミクス)	集団におけるグループダイナミクスに着目した保育を実践する。	・活動終了後、各参加者(子どもと保護者)の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	120分
第10回	子育て支援を考える④ (地域社会と子育て)	地域社会による子育て支援について、社会資源とのかかわりで考える。	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー(主担当者)は、活動案を計画を作成する。	120分
第11回	子育て支援グループ実践活動⑥ (季節行事を取り入れた家族参加活動)	通常活動に参加している子どもと保護者に加えて祖父母やきょうだい等も一緒に参加する家族参加活動の実践を通し、保育者としてのスキルアップを図る。	・活動終了後、各参加者(子どもと保護者)の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	120分
第12回	子育て支援を考える⑤ (現代社会における子育てをめぐる環境について)	現代社会における子育てをめぐる環境について学ぶ。	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー(主担当者)は、活動案を計画を作成する。	120分
第13回	子育て支援グループ実践活動⑦ (季節行事を取り入れた保育)	クリスマスという季節行事を取り入れながら、子どもたちが主体的に楽しめる保育内容を考える。	・活動終了後、各参加者(子どもと保護者)の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	120分
第14回	子育て支援活動を考える⑥ (現代社会における子育ての課題の理解と支援の実践)	これまでの活動も振り返りながら、現代社会における子育ての課題の理解と支援の実践についてグループディスカッションを取り入れながら理解を深める。	前回活動を踏まえ、次回活動に向けての準備を行う。次回の活動リーダー(主担当者)は、活動案を計画を作成する。	120分
第15回	子育て支援	前期「児童臨床実習CI」も含め、1年間の活動全体を振	・活動終了後、各参加者(子どもと保護者)の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・学生は、保育者としての視点から自身の活動を振り返り、各自の課題確認、記録作成を行う。	120分

グループ実践活動（最終）とまとめ（1年間の活動の総括および個人の実践研究成果発表）	り返り、参加者（子どもと保護者）一人ひとりの成長や変化、集団全体の成長と発展について確認し、今年度最後の活動をまとめる。また学生についても保育者としての気づきや成長を総括する。	もと保護者）の様子を踏まえ、現状と課題について確認する。 ・前期も含めた1年間の実習の全体の活動の総括と各自の課題についての総括をおこなう。
---	--	---

学習計画注記	※履修学生の保育・教育実習の状況によりスケジュールが変更になる場合があります。
--------	---

学生へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の活動前後の話し合いでのコメント ・期末レポートへのコメント
---------------	--

評価方法	実習課題への取り組みや期末レポート、毎回の活動記録、平常点（活動への参加状況や討論への参加）などによる総合評価
------	---

評価基準	
------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
期末レポート	○	○	○	
実習課題への取り組み	○	○	○	○
毎回の活動記録	○		○	

評価割合	期末レポート30%、実習課題への取り組み30%、毎回の活動記録40%
------	------------------------------------

参考図書	東京家政学院大学児童学科「児童臨床実習」担当者グループ著「子育て・発達支援—地域に開く大学として共に育つ保育活動から— 第三巻 2010年度」
------	---

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】保護者の置かれている状況や心情への理解を深め、子育て支援のあり方について実践的に学ぶ。個と集団の相即的發展を意識し、保育者としての役割について実践的に学ぶ。</p> <p>【思考・判断】子どもひとりひとりの個性や発達課題を踏まえ、個々に寄り添った支援をおこなう。</p> <p>【関心・意欲・態度】子どもひとりひとりの個性や発達課題を踏まえ、個々に寄り添った支援をおこなう。</p> <p>【技術・表現】学生が主体となって毎回の保育活動計画を立て、保育者としての実践力を身につける。</p>
---------------	---

オフィスアワー	水曜日5時限 1619研究室
---------	----------------

学生へのメッセージ	0歳～3歳の乳幼児期の子どもの発達や子育て支援について、これまで学んできたことを振り返っておいて下さい。また、卒業研究のフィールドとして選択している人は、研究課題等、各自の興味や・関心について、本実習授業をどのように生かしていくのか考えておいて下さい。
-----------	--

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	授業担当者は公認心理師・臨床心理士等の有資格者であり、長年、療育・子育て支援現場で心理専門職としての実務経験を有している。
アクティブ・ラーニング	○	毎回の活動計画を学生が立てるほか、活動後にはグループディスカッションを通じて、各自の理解を深める。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	障害の基礎的理解		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 阿尾 有朋	指定なし

ナンバリング	P10004M21
授業概要(教育目的)	障害を捉える枠組み、障害の概念、障害種による基礎的知識、障害児の発達と発達診断、生活に係る困難さとそれへの支援、家族への支援と連携、自立(自律)に向けた教育指導の必要性について総合的・基礎的理解を図る。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	障害種による基本的知識の理解が十分である。
思考・判断の観点 (K)	障害による生活や学習上の困難さを説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	疑似体験活動にグループ内で協力的態度を取れる。リフレクションペーパーを通して、積極的な感想や質問をする。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション、「障害」を学ぶとは	オリエンテーションとして、年間の授業計画及び学習目標を提示する。また、「障害」という言葉の概念について触れるとともに、「障害について学ぶ」ことの大切さの理解を目指す。	授業にあたりノートを準備しておく。 自分が考える「障害」のイメージや定義について、ノートに記載しておくこと。	120分
第2回	障害を捉える枠組み	国際生活機能分類(ICF)について理解するとともに、肢体不自由者の例をもとにICFによる障害と障害に基づくニーズの整理法について理解する。ICFについては、国際障害分類(ICIDH)との違いの観点からも理解する。	授業後、自身の健康状態について、ICFの枠組みに当てはめて、モデル図を作成すること。	120分
第3回	障害児保育・教育の歴史の変遷	障害児保育と教育について、我が国の歴史の変遷を理解する。特に、障害への差別的な社会観に始まり、篤志家による支援、そして国による支援へと繋がる、流れについて理解を深める。	授業後、命が選択されることについて、自身の考えをノートにまとめること。	120分
第4回	戦後の障害児保育・教育	戦後の民主化により、障害児保育・教育がどのように変わっていったのかを概観する。特に、戦後に始まった特殊教育の特徴と障害児保育が分離から統合へと移行した背景について理解する。	授業後、分離保育と統合保育のメリット、デメリットについて、ノートに整理すること。	240分
第5回	インクルーシブ教育、	特殊教育から特別支援教育へと転換した背景について理解する。また、特別支援教育の中核的概念であるインク	授業後、インクルーシブな教育が求められるようになった背景	120分

	保育	ルーシブ教育（保育）について理解を深める。	（理由）について、自分なりに考察すること。	
第6回	考えてみよう！合理的配慮	教育における合理的配慮について具体例をもとに理解する。さらに、校内を巡回し、合理的配慮を要する場所について探索し、理解を深める。	授業後、学校外の場所（家庭や近隣地域等）について、合理的配慮を要する場所や場面をノートに整理すること。	120分
第7回	合理的配慮と社会的障壁	第6回の授業内で探索した合理的配慮について発表する。その後、学校現場における合理的配慮を推進する上での課題について学ぶ。	授業後、保育や教育の場における合理的配慮の例を自分で考えて、ノートに書き出すこと。	120分
第8回	障害児・者を支える法制度	障害福祉に係るサービス受給の仕組みを概観するとともに、当事者の人権を擁護するための法律について理解する。	障害福祉サービスの事業を1種類取り上げ、それがどのような目的と内容の事業であるかを調べる。	240分
第9回	障害者虐待と権利擁護	障害者虐待の事例をもとに、虐待が起きる背景や予防するための視点について理解を深める。	障害者虐待防止法の第一章「総則」に目を通しておくこと。	120分
第10回	視覚障害の基礎的理解	視覚障害者の生理・心理について理解する。視器と視覚認知の仕組み、自覚・他覚検査や行動に基づく視覚機能のアセスメント、視覚障害の種別による困難さ、視覚障害の補償ツールについて理解する。	目の仕組みについて、インターネットや文献を通じて調べておくこと。	120分
第11回	聴覚障害の基礎的理解	聴覚障害者の生理・心理について理解する。聴覚器と聴覚認知の仕組み、自覚・他覚検査や行動に基づく聴覚機能のアセスメント、伝音声難聴と感音性難聴の違い、手話や指文字について理解する。	耳の仕組みについて、インターネットや文献を通じて調べておくこと。	120分
第12回	知的障害の基礎的理解(1)	知的障害者の心理機能について理解する。特に、知覚、認知、学習、行動調整の特性を中心に理解する。また、知的機能の基準を表すIQについて、概念や検査法について理解する。	知的障害があることによる困難さを、自身の経験や資料等をもとにノートに書き出しておくこと。	120分
第13回	知的障害の基礎的理解(2)	知的障害のある幼児への対応について、具体的な事例をもとに考える。また、対応方法を考えるための子どもの見方について知る。	知的障害があることによる困難さを、自身の経験や資料等をもとにノートに書き出しておくこと。	240分
第14回	発達障害の基礎的理解	自閉症スペクトラム、注意欠陥多動性障害、学習障害について、その感覚や行動等の特性について理解する。	発達障害の診断基準について、インターネットや文献を通じて調べておくこと。	120分
第15回	「障害」って何だろう一働くことから考える一	知的障害者を多数雇用する会社を取り上げた動画を視聴し、障害者が活躍できる社会や「障害」という概念について自身の考えを整理する。	授業後、障害者が活躍できる社会や「障害」の概念について、自身の考えをノートにまとめること。	予習240分、総復習420分

学習計画注記 * 履修状況や授業の進捗具合によりスケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法 ・小テストについては、次回の授業の最初に解説する。

評価方法 ・毎回の授業後に実施する小テスト（またはリフレクションペーパー）の内容、定期試験、授業態度により評価する。
 ・学外実習等の止むを得ない事情により欠席する場合は、学生からの申し出により個別の補講を実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業・疑似体験		○	○	
小テスト・リフレクションペーパー	○	○	○	
定期試験	○	○		

評価割合 小テスト（またはリフレクションペーパー）の内容（20%）、定期試験（70%）、授業態度（10%）

参考図書 柘植雅義ほか編 2010「はじめての特別支援教育：教職を目指す大学生のために（改訂版）」有斐閣（ISBN：4641220387）

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】特別な支援ニーズを有する子どもの専門的、基礎的知識が修得できている。
 【思考・判断】家族・地域・社会との繋がりの観点から、共生社会に向けた障害理解について主体的に考えられる。
 【関心・意欲・態度】障害のある子どもの立場から、生活、学習上の困難さを理解しようとする。

オフィスアワー 水曜1、2限（1605研究室）

学生へのメッセージ 社会環境の変化や価値観の多様化に伴い、子どもの支援ニーズも多様化しています。保育や教育の現場では、多様な支援ニーズに対応するための専門的知識や技能が求められています。本講で「障害」の基礎的事項について学び、「障害」について主体的に考えて欲しいと思います。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、障害者の入所及び通所施設にて、利用者への直接的支援並びに家族支援の実務経験を有しており、障害者の有する困難さや家族支援の実際の経験に基づいた教授をしている。
アクティブ・ラーニング	○	授業には歩行器や車椅子を使った体験を取り入れており、当該体験に基づき自ら考えることを学生に求めている。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	特別支援学校教育課程論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1,3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 杉野 学	指定なし

ナンバリング	P10306M21
授業概要(教育目的)	障害の重度・重複化、多様化の傾向が著しい。また、通常の学級に在籍する特別支援教育を必要とする子どもが増加している。子どもの障害の状態や特性に応じた教育内容・方法の工夫が求められている。そのため、幼稚園、小学校、特別支援学校等の教育課程編成に関する法令や教育課程編成・実施・評価について理解を深め確かな知識を身に付けることが重要である。特別支援教育を必要とする子どもの障害特性や指導法、教育課程編成に関する基本的な内容について、新教育要領、学習指導要領等を基に概説する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 幼稚園、小学校、特別支援学校等の教育課程編成に関する法令、学習指導要領等の基礎的な知識を獲得する。
思考・判断の観点 (K)	1. 幼稚園、小学校、特別支援学校等の特色ある教育課程編成と授業展開を理解する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 幼稚園、小学校、特別支援学校等の教育課程編成・実施・評価・改善への関心を深める。
技術・表現の観点 (A)	1. 幼稚園、小学校、特別支援学校等における教育課程に関する教育内容・方法を他者に説明することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	特別支援学校教育の現状	特殊教育から特別支援教育への転換を学ぶ。インクルーシブ教育システム、特別支援教育の概要、障害の重度・重複化に伴う障害理解と指導、校内委員会、個別的教育支援計画、個別の指導計画を理解する。	教科書第1章7～21ページを読む しておくこと。	120分
第2回	教育要領・学習指導要領改訂のポイント	幼稚園教育要領、学習指導要領の改訂、特別支援学校学習指導要領、幼稚園、小学部、中学部、高等部の改訂内容を学ぶ。改訂の背景と中央教育審議会答申、学校教育法などの法令改正、各部の教育の特色について理解を深める。	教科書第2章22～32ページを読む しておくこと。	120分
第3回	幼稚園等の特別支援教育	保育所、幼稚園における特別支援教育の現状、教育的支援の実際、小学校との連携、個別的教育支援計画、個別の指導計画の作成、外部専門機関との連携を学ぶ。幼児期の特別支援教育について理解を深める。	教科書第3章33～41ページを読む しておくこと。	120分
第4回	小学校の特別支援教育	小・中学校における特別支援教育の現状、特別支援学級での指導、通級による指導を学ぶ。多様な教育の場における特別支援教育の現状を理解する。	教科書第4章42～51ページを読む しておくこと。	120分
第5回	特別支援学	特別支援学校の現状と設置状況、特色ある教育活動、教	教科書第5章52ページ～64ペー	120分

	校の教育	育課程編成、カリキュラム・マネジメント、学習評価、センター的機能、進路指導を学ぶ。特別支援学校における教育活動の特色を理解する。	ジを読んでおくこと。	
第6回	自立活動の指導	自立活動の意義、内容、個別の指導計画の作成、指導上の配慮を学ぶ。自立活動の指導内容・方法を理解する。	教科書第6章67～75ページを読んでおくこと。	120分
第7回	視覚障害児の理解と指導	視覚障害、視覚障害教育の特色、教育内容と指導の実際を学ぶ。視覚障害教育の特色を理解する。	教科書第7章76～88ページを読んでおくこと。	120分
第8回	聴覚障害児の理解と指導	聴覚障害児と聴覚障害教育、聴覚障害教育の特色、教育内容と指導の実際を学ぶ。聴覚障害教育の特色を理解する。	教科書第8章89～101ページを読んでおくこと。	120分
第9回	知的障害児の理解と指導	知的障害の定義、教育的対応、指導内容・方法、多様な教育の場を学ぶ。知的障害教育の特色を理解する。	教科書第9章102～115ページを読んでおくこと。	120分
第10回	肢体不自由児の理解と指導	肢体不自由とは、主な疾病の特徴と配慮、学校教育の現状、教育課程、教科指導・生活指導を学ぶ。肢体不自由教育の特色について理解する。	第10章教科書116～125ページを読んでおくこと。	120分
第11回	病弱時の理解と指導	病弱・身体虚弱と病弱教育、病弱教育の特色、教育内容と指導の実際を学ぶ。病弱教育の特色について理解をする。	教科書第11章126～138ページを読んでおくこと。	120分
第12回	重複障害児の理解と指導	重複障害とは、困難さの理解、教育課程編成、自立活動の指導と指導の実際、医療的ケアを学ぶ。重複障害児の教育の特色について理解する。	教科書第12章139～148ページを読んでおくこと。	120分
第13回	発達障害児の理解と指導	発達障害の定義、障害特性と状態像、つうきゅうによる指導、通常の学級における配慮を学ぶ。発達障害児への多様な支援法について理解する。	教科書第13章149～162ページを読んでおくこと。	120分
第14回	インクルーシブ教育の推進	インクルーシブ教育システム推進の経緯と実際の取組について学ぶ。インクルーシブ教育システムにおける対象児の拡大、特別支援教育の多様な連続した学びの場、合理的配慮や基礎的環境整備について理解する。	教科書第14章163～171ページを読んでおくこと。	120分
第15回	実践的指導力を磨く	特別支援教育における実践的指導力とは、教員に求められる実践的指導力の実際を学ぶ。特別支援教育に携わる教員に求められる実践的な指導力について理解する。	教科書第15章172～174ページを読んでおくこと。	120分
第16回	特別支援教育に関する定期試験を実施	定期試験を通して、これまでの学習内容の習得状況を各自把握するとともに、特別支援学校の教育活動についてより理解を深める。	定期試験を通して、特別支援教育の特色ある教育活動について理解を深める。	90分

学習計画注記 履修数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法

- ・教科書を基に講義を行うが、プリントやビデオ等も使用し見て分かりやすい授業をする。
- ・授業の内容によっては、図書館での調べ学習やグループディスカッションなどを取り入れて、学生の主体的な学びを深める。
- ・質問等がある場合は、研究室訪問やメール連絡で対応する。

評価方法 定期試験は、基本的な学習内容を整理したプリントを後半の授業で配布し出題の傾向を説明するので、復習を必ずして定期試験を受けること。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
振返りシート	○		○	
定期試験	○	○		

評価割合 定期試験80%、授業の振返りシートの記載内容20%で総合的に評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) 「特別支援教育の基礎」、杉野学、長沼俊夫、徳永亜希雄編著 大学図書出版 978-4-907166-89-2C3037

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】特別支援学校の教育課程について理解し、障害のある子どもの教育に関する専門的な知識の修得ができています。

【思考・判断】特別支援学校の教育課程への理解を深め具体的・実践的な教育活動や地域連携などの状況を把握し障害の有無に関係なく共に育つ共生社会を創造できる感性やコミュニケーション能力が備わっている。

オフィスアワー 水曜日1・2限目、杉野研究室

学生へのメッセージ 特別支援教育は全ての幼稚園・学校において実施されている。教育課程は、特別支援教育を学ぶための基礎基本である。様々な障害について理解を深めるとともに、障害のある児童生徒が学ぶ教育内容・方法への理解を深め

よう。特別支援教育について興味関心のある学生や保育所、幼稚園、小学校、特別支援学校小学部の教員をめざしている学生に対して、実践的指導力を身に付けてもらうために、教科書の他にプリントやビデオ等を使用して、分かりやすい授業をするので、是非、受講して欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、東京都教育委員会の指導主事や東京都立特別支援学校の教員・管理職として、第1次東京都特別支援教育推進計画の策定に関わるとともに、特別支援教育に関する教育課程や指導法に関する幅広い実務経験を有しており、特別支援学校教諭免許状を取得する学生に必要な特別支援教育課程の科目に関する実践的な知見を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	授業内容に応じて、ワークシートを活用して個人の意見をまとめたり、小集団での話し合いや発表をしたりする機会を設けて、より主体的に学ぶ姿勢を育む。
情報リテラシー教育	○	障害のある幼児児童生徒に関する教育におけるICT活用や個人情報保護及び個人情報流出防止等に関する情報を提供し人権尊重に結びつけた指導をする。
ICT活用	○	授業内容に関する映像、パワーポイント資料、新聞記事などを活用しながら、より障害理解を深めるための適切なICT指導と必要な視覚的支援などについて情報を提供する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	特別支援教育総論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 杉野 学	指定なし

ナンバリング	P10305M21
授業概要(教育目的)	特別支援教育は、幼稚園、小学校、中学校、高等学校等の全ての学校において実施されている。特別支援学校の教育活動の意義や概要について、理解を深め確かな知識を身に付ける必要がある。授業では、インクルーシブ教育システム、新教育要領・学習指導要領、カリキュラム・マネジメント、チーム学校、主体的で対話的な学び、障害理解と支援、合理的配慮と支援、各種障害教育の特色、知的障害教育、発達障害、自立活動、個別の教育支援計画・個別の指導計画、地域の子育て支援、母国語や貧困家庭の学習・生活指導について概説する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	学習目標(到達目標)
知識・理解の観点 (K)	1. 特別支援教育の意義、特別支援学校の教育活動に関する基礎的な知識を獲得する。 2. 学校の組織マネジメント、チーム学校、危機管理に関する理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	1. 特別支援教育の教育内容・方法に関する特徴的な指導法について考えより理解を深める。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 特別支援教育における障害種別の教育活動への関心と理解を深める。
技術・表現の観点 (A)	1. 障害種ごとの特徴的な教育内容・方法を、他者に説明することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育制度	共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築、特別支援教育の理念と現状の概要について、特殊教育から特別支援教育への転換の経緯から学ぶ。特別支援教育の理念と教員に求められている資質能力を理解する。	教科書第1章8～17ページを読む しておくこと	120分
第2回	新教育要領・学習指導要領における特別支援教育	教育要領、小・中学校、特別支援学校学習指導要領における特別支援教育の内容を学ぶ。特別支援教育の意義、特別支援教育に携わる教員に求められている資質能力を理解する。	教科書第2章18～27ページを読む しておくこと	120分
第3回	特別支援学校におけるカリキュラム・マネジメント	社会に開かれた教育課程、特別支援学校のカリキュラム・マネジメントの考え方と実際を学ぶ。担任に求められる障害児の理解と学級経営力について理解する。	教科書第3章28～35ページを読む しておくこと	120分
第4回	「チーム学校」による	「チーム学校」の意義、構成する教職員と専門職スタッフとの連携、特別支援教育の充実を学ぶ。「チーム学	教科書第4章36～45ページを読む しておくこと	120分

	特別支援教育の充実	校」校外の特別支援教育の推進を理解する。		
第5回	主体的で対話的な学び	生きる力の育成、授業づくりと授業改善、個々の特性に応じた指導法の工夫を学ぶ。特別支援学校の授業計画と展開を理解する。	教科書第5章56～63ページを読んでおくこと	120分
第6回	障害の理解と支援	ICFの考え、各障害、重複障害の理解と支援を学ぶ。各障害種の特性に応じた実践的指導力を身に付けるための指導法を理解する。	教科書第6章56～63ページを読んでおくこと	120分
第7回	合理的配慮と支援	合理的配慮の意義、障害特性に応じた支援方法、ICTの活用について学ぶ。合理的配慮や基礎的環境整備の必要性について事例を通して理解する。	教科書第7章64～69ページを読んでおくこと	120分
第8回	視覚、聴覚、肢体不自由、病弱特別支援学校教育の特色	視覚、聴覚、肢体不自由、病弱特別支援学校教育の特色ある教育活動を学ぶ。障害種別の授業や学習指導案の構成を理解する。	教科書第8章70～79ページを読んでおくこと	120分
第9回	知的障害特別支援学校教育の特色	知的障害教育の教育課程編成、各教科の段階の目的と内容、各教科等を合わせた指導、自立活動、重複障害の指導を学ぶ。特別支援学校の特色ある教育内容・方法や知的障害教育の教育課程編成について理解する。	教科書第9章80～89ページを読んでおくこと	120分
第10回	発達障害児の学習・生活上の心身の発達と心理的特性の理解	自閉症、学習障害、注意欠陥多動性障害等の発達障害児の発達と心理的特性を学ぶ。事例を通して発達障害児の教育について理解する。	教科書第10章90～99ページまでを読んでおくこと	120分
第11回	幼稚園、小・中学校、高等学校における特別支援教育	幼稚園、小・中学校、高等学校における特別支援教育の概要について学ぶ。障害特性に応じた指導内容・方法や教材・教具の工夫点を理解する。	教科書第11章100～109ページを読んでおくこと	120分
第12回	自立活動の指導	自立活動の意義、教育課程上の位置づけ、個別の指導計画の作成・活用を学ぶ。自立活動の6区分27項目に関連する指導事例を通して理解する。	教科書第12回110～119ページを読んでおくこと	120分
第13回	個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成と活用	個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成の意義、作成方法を学ぶ。個別の教育支援計画や個別の指導計画を活用した指導について理解する。	教科書第13回120～129ページを読んでおくこと	120分
第14回	地域における障害児の子育て支援	発達支援センター等の地域支援機関、校内委員会、特別支援教育コーディネーターの役割、教育相談、保護者支援について学ぶ。障害児に対する地域支援や小・中学校等への支援について理解する。	教科書第14章130～139ページを読んでおくこと	120分
第15回	特別な配慮を必要とする母国語や貧困の問題等のある子どもの学習・生活上の困難と対応	日本語指導が必要な子どもに対する支援、貧困の問題を抱える子どもの教育について学ぶ。様々な状況の子ども達が在籍する学校の状況や知季節な指導や必要な支援を理解する。	教科書第15章140～149ページを読んでおくこと	120分
第16回	特別支援学校の教育活動に関する定期試験を実施	定期試験を通して、これまでの学習内容の習得状況を各自把握するとともに、特別支援学校の教育活動についてより理解を深める。	定期試験を通して、特別支援学校の教育活動について理解を深める。	90分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。			
学生へのフィードバック方法	・教科書を基に講義を行うが、スライド、ビデオ、プリントなども使用して目で見て分かりやすい授業をする。 ・質問等がある場合は、研究室訪問やメール連絡で対応する。			
評価方法	定期試験は、基本的な学習内容を整理したプリントを後半の授業で配布し出題の傾向を説明するので、復習を必ずして定期試験を受けること。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
振返りシート	○		○	

定期試験	○	○		
評価割合	・定期試験80%、授業の振り返りシートの記載内容20%で総合的に評価する。			
使用教科書名 (ISBN番号)	「特別支援教育概論」 杉野学編著 大学図書出版 9784909655080			
参考図書	なし			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】障害のある子どもの特別支援教育について理解し、障害のある子どもの教育に関する専門的な知識の修得ができています。 【思考・判断】特別支援学校の教育への理解を深め具体的・実践的な教育活動や地域連携などの状況を把握し障害の有無に関係なく共に育つ共生社会を創造できる感性やコミュニケーション能力が備わっている。			
オフィスアワー	水曜日1.2限目、杉野研究室			
学生へのメッセージ	特別支援教育は、全ての保育所、幼稚園、小学校、特別支援学校で実施されている。したがって、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭を目指している学生は、是非、授業を受講して欲しい。プリントやビデオなどを使用して、特別支援教育を学ぶのが初めての学生に対しても見て分かりやすい授業を行う。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、東京都教育委員会の指導主事や東京都立特別支援学校の教員・管理職として、第1次東京都特別支援教育推進計画の策定に関わるとともに、特別支援教育に関する教育課程や指導法に関する幅広い実務経験を有しており、特別支援学校教諭免許状を取得する学生に必要な特別支援教育課程の科目に関する実践的な知見を教授している。		
アクティブ・ラーニング	○	ワークシートを活用して個人の意見をまとめたり、小集団での話し合いや発表をしたりする機会を設けて、より主体的に学ぶ姿勢を育む。		
情報リテラシー教育	○	個人情報保護及び個人情報流出防止等に関する法令等を説明し人権尊重に結びつけた指導をする。		
ICT活用	○	映像、パワーポイント資料、新聞記事などを活用しながら、より障害理解を深めるためのICT機器を活用した視覚・聴覚支援について情報を提供する。		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	知的障害者の教育		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 杉野 学	指定なし
助教	原田 晋吾	指定なし

ナンバリング

P20310M21

授業概要(教育目的)
 知的障害児の障害や学習特性を正しく理解して個別の指導計画に基づき授業を計画的に実施することは重要である。また幼稚園、小学校等に在籍する特別な教育的ニーズを要する幼児児童も含めて、一人一人の障害の状態や学習特性等に応じた多様な指導方法が求められている。そのためには、まず知的障害児の障害や学習特性に応じた指導内容・方法について理解を深め確かな知識を身に付けることが重要である。知的障害児の障害や学習特性の理解、知的障害教育の教育内容・方法、実態把握から指導目標の設定や指導内容・方法及び学習評価の理解、個別の教育支援計画や個別の指導計画及び指導案の作成、教材・教具の作成について概説する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 知的障害児の障害や学習特性及び基本的な指導方法を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	1. 事例を通して、知的障害の障害特性や行動面への理解を深めることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 知的障害児の指導法について、実態把握を行い指導目標の設定や指導内容・方法の検討を行う指導の流れを理解し適切な指導や必要な支援について理解を深めることができる。
技術・表現の観点 (A)	1. 知的障害教育の指導内容・方法や学習評価の理解及び学習指導案を作成することができる。 2. 知的障害教育における基本的な指導内容や指導方法を他者に説明することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	教育要領・学習指導要領改訂のポイント	知的障害教育に関する教育要領、特別支援学校学習指導要領(幼稚園部、小学部・中学部・高等部)と小学校・中学校学習指導要領の改訂のポイントについて学び、知的障害教育の概要を理解する。	教科書第1章を読んでおくこと。	120分
第2回	知的障害児の障害特性と配慮	障害の捉え方(ICF)、知的障害とは、各障害特性と配慮(知的障害、ダウン症、自閉症・情緒障害、重度・重複障害)を学び、各障害特性や状況を理解する。	教科書第3章を読んでおくこと。	120分
第3回	知的障害教育における教育課程編成と多様な教育の場	教育課程編成の基本的な考え方について、各教科等に係る具体的な改善事項、各教科、道徳、特別活動、特別の教科道徳、総合的な時間の指導、自立活動、外国語活動、幼稚園、小学校・中学校(特別支援学級)、特別支援学校(幼稚園部、小学部、中学部、高等部)の教育活動の特色を学び、特別支援教育の多様な教育の概要について理解する。	教科書第3章を読んでおくこと。	120分

第4回	知的障害教育における指導の特徴	知的障害児の学習上の特性、教育的配慮の基本について、指導の形態(教科別の指導、道徳科、外国語活動、特別活動、自立活動の時間を設けた指導、各教科等を含めた指導)の指導内容の設定と授業時数の配当及び各教科の目標に準拠した評価の観点による学習評価について学び、教育課程の編成・実施・評価について理解する。	教科書第4章を読んでおくこと。	120分
第5回	個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成と活用	個別の教育支援計画と個別の指導計画作成の意義、配慮事項について、その作成と活用例を学び、実際の指導について理解する。	教科書第5章を読んでおくこと。	120分
第6回	自立活動の指導	自立活動の指導内容・方法を学び、個々の障害特性に応じた指導法について理解する。	教科書第6章を読んでおくこと。	120分
第7回	学習指導案の作成・活用	学習指導案の作成に関する事項(単元名、本時のねらい、児童生徒の実態、指導目標の設定、授業の導入・展開・まとめ)、学習評価等について学び、特別支援教育における授業を理解する。	教科書第7章を読んでおくこと。	120分
第8回	日常生活の指導	特別支援学校(幼稚部、小学部、中学部、高等部)、小学校・中学校特別支援学級における日常生活の指導について実践的に学び、知的障害児の生活指導について理解する。	教科書第8章を読んでおくこと。	120分
第9回	遊びの指導	特別支援学校(幼稚部、小学部)、小学校特別支援学級における遊びの指導の実践を学び、知的障害児の社会性や生活力を高める方法について理解する。	教科書第9章を読んでおくこと。	120分
第10回	生活単元学習	特別支援学校(幼稚部、小学部、中学部)、小学校・中学校特別支援学級における生活単元学習の実践を学び、知的障害児の体験を通じた学びについて理解する。	教科書第10章を読んでおくこと。	120分
第11回	作業学習の指導	特別支援学校(中学部・高等部)、小学校・中学校特別支援学級における実践例を学び、知的障害児の社会的・職業的な自立に必要な知識・技能・生活習慣を育むことについて理解する。	教科書第11章を読んでおくこと。	120分
第12回	国語科の指導	特別支援学校(小学部、中学部、高等部)、小学校・中学校特別支援学級の実践を学び、知的障害児の言語力やコミュニケーション力を育む国語指導について理解する。	教科書第12章を読んでおくこと。	120分
第13回	算数科の指導	特別支援学校(小学部、中学部、高等部)、小学校・中学校特別支援学級の実践を学び、知的障害児の数量等の指導に関する学習指導法を理解する。	教科書第13章を読んでおくこと。	120分
第14回	重複障害児の理解と指導	重複障害及び重度・重複障害の定義、状態像、多様な教育の場、実態把握と指導目標・内容の設定、指導方法の工夫などを学び、知的障害と重複した障害のある子どもに対する指導内容・方法について理解する。	教科書14章を読んでおくこと。	120分
第15回	知的障害児の進路指導	個別の移行支援計画、現場実習、進路先の決定を学び、知的障害児の進路指導について理解する。	教科書第15章を読んでおくこと。	120分
第16回	知的障害の教育に関する定期試験を実施	定期試験を通して、これまでの学習内容の習得状況を各自把握するとともに、知的障害児への教育活動についてより理解を深める。	定期試験を通して、知的障害児の教育活動についてより理解を深める。	90分

学習計画注記	履修数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。			
学生へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> 教科書を基に講義を行うが、プリントやビデオ等も使用し見て分かりやすい授業をする。 授業の内容によっては、図書館での調べ学習やグループディスカッションなどを取り入れて、学生の主体的な学びを深める。 質問等がある場合は、研究室訪問やメール連絡で対応する。 			
評価方法	定期試験は、基本的な学習内容を整理したプリントを後半の授業で配布し出題の傾向を説明するので、復習を必ずして定期試験を受けること。			
評価基準	評価基準			
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
振り返りシート	○		○	
定期試験	○	○		○
評価割合	定期試験80%、授業の振り返りシートの記載内容20%で総合的に判断する。			
使用教科書名 (ISBN番号)	はじめて学ぶ知的障害児の理解と指導 杉野学、上田征三編著 1917			

	大学図書出版															
参考図書	特になし															
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】特別支援学校の知的障害教育について理解し、知的障害のある子どもの教育に関する専門的な知識の修得ができています。 【技能・表現】学習指導案の作成や指導法及び教材の作成について学び、保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション力を身に付けています。															
オフィスアワー	水曜日1.2限目、杉野研究室 月曜日3.4限目、原田研究室															
学生へのメッセージ	知的障害と他の障害は重複している場合も多いので、知的障害について知ることは、様々な障害を知る上での基礎となる。したがって、将来、保育所、幼稚園、小学校、特別支援学校の教員をめざしている学生にとって、知的障害を理解しておくことはとても重要である。学習指導案の作成や教材・教具を活用した支援方法などについて、具体的にプリントやビデオなどを使用して、分かりやすく授業をする。初めての学生にも分かるように授業をするので、是非、受講して知的障害教育への理解を深めて欲しい。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>担当教員は、東京都教育委員会の指導主事や東京都立特別支援学校の教員・管理職として、第1次東京都特別支援教育推進計画の策定に関わるとともに、特別支援教育に関する教育課程や指導法に関する幅広い実務経験を有しており、特別支援学校教諭免許状を取得する学生に必要な特別支援教育課程の科目に関する実践的な知見を教授している。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>ワークシートを活用して個人の意見をまとめたり、小集団での話し合いや発表をしたりする機会を設けて、より主体的に学ぶ姿勢を育む。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td>○</td> <td>個人情報保護及び個人情報流出防止等に関する法令等の情報を提供し人権尊重に結びつけた指導をする。</td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td>障害理解を深めるためICT機器を活用した映像やパワーポイント資料などを活用し適切な指導と必要な視覚・聴覚支援に関する理解を深めるように情報を提供する。</td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	担当教員は、東京都教育委員会の指導主事や東京都立特別支援学校の教員・管理職として、第1次東京都特別支援教育推進計画の策定に関わるとともに、特別支援教育に関する教育課程や指導法に関する幅広い実務経験を有しており、特別支援学校教諭免許状を取得する学生に必要な特別支援教育課程の科目に関する実践的な知見を教授している。	アクティブ・ラーニング	○	ワークシートを活用して個人の意見をまとめたり、小集団での話し合いや発表をしたりする機会を設けて、より主体的に学ぶ姿勢を育む。	情報リテラシー教育	○	個人情報保護及び個人情報流出防止等に関する法令等の情報を提供し人権尊重に結びつけた指導をする。	ICT活用		障害理解を深めるためICT機器を活用した映像やパワーポイント資料などを活用し適切な指導と必要な視覚・聴覚支援に関する理解を深めるように情報を提供する。
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、東京都教育委員会の指導主事や東京都立特別支援学校の教員・管理職として、第1次東京都特別支援教育推進計画の策定に関わるとともに、特別支援教育に関する教育課程や指導法に関する幅広い実務経験を有しており、特別支援学校教諭免許状を取得する学生に必要な特別支援教育課程の科目に関する実践的な知見を教授している。														
アクティブ・ラーニング	○	ワークシートを活用して個人の意見をまとめたり、小集団での話し合いや発表をしたりする機会を設けて、より主体的に学ぶ姿勢を育む。														
情報リテラシー教育	○	個人情報保護及び個人情報流出防止等に関する法令等の情報を提供し人権尊重に結びつけた指導をする。														
ICT活用		障害理解を深めるためICT機器を活用した映像やパワーポイント資料などを活用し適切な指導と必要な視覚・聴覚支援に関する理解を深めるように情報を提供する。														

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	肢体不自由者の教育		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 阿尾 有朋	指定なし

ナンバリング	P30310M21
授業概要(教育目的)	肢体不自由のある子どもの基本的理解を踏まえ、指導法を中心とした授業を行う。肢体不自由教育の歴史や学習上又は生活上の困難等に関する基本的事項について解説する。また、障害の特性に応じた指導について、実際に学習指導案を作成しながら、合理的配慮や教材の工夫について考える。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	学習目標(到達目標)
知識・理解の観点(K)	肢体不自由に関する基本的知識を理解している。
思考・判断の観点(K)	肢体不自由による生活や学習上の困難さを説明できる。
関心・意欲・態度の観点(V)	学習指導案や教材の作成に関して、他学生と共同して積極的に取り組むことができる。
技術・表現の観点(A)	学習指導案や教材が事例のニーズに沿った内容となっている。

学習計画

肢体不自由者の教育

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション、肢体不自由教育の歴史	オリエンテーションとして、年間の授業計画及び学習目標を提示する。肢体不自由児を取り巻く社会や教育の歴史をテーマに解説する。	授業にあたりノートを準備しておく。「肢体不自由者」という言葉から自身が持つイメージについてノートに書いておくこと。	120分
第2回	肢体不自由教育の制度と学ぶ場	肢体不自由者が教育を受ける場や関連する制度について解説する。また、肢体不自由教育における合理的配慮について解説する。	障害者差別解消法及び障害者虐待防止法について、厚生労働省の資料をネットで調べ、目を通しておくこと。	120分
第3回	骨、関節、筋の構造的・機能的問題とそれへのアプローチ	肢体不自由者における骨、関節、筋の構造的・機能的問題について、先天性疾患を中心として解説する。また、そうした問題について理解することの教育的意義についても述べる。	YouTubeで「脳性麻痺」をキーワードとして検索し、関連する動画を視聴しておくこと。肢体不自由者のイメージを把握するため。	120分
第4回	障害の重度・重複化	重複障害の大勢を占める「肢体不自由と知的障害」の重複障害について解説する。加えて、近年、増加傾向にある	医療的ケアの種類について、ネットで調べておくこと。	240分

	と医療的ケア	る医療的ケアを要する肢体不自由者の現状についても解説する。		
第5回	肢体不自由の体験的理解	疑似体験セットを用いて、肢体不自由者の学習上及び生活上の困難さを体験的に理解するための授業を行う。	授業での体験的理解で気づいたことや学んだことについてノートに整理すること。	120分
第6回	自立活動の指導：個別の指導計画の作成	学習指導要領に基づき肢体不自由者の自立活動に関する個別の指導計画について解説する。また、事例をもとに実際に個別の指導計画の作成を体験する。	「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編」の第7章1「個別の指導計画の作成」及び肢体不自由生徒の個別の指導計画（P140-143）に目を通しておくこと。	120分
第7回	各教科等の指導：国語科・算数科指導の観点、工夫、合理的配慮	肢体不自由者の事例をもとに、国語科及び算数科の指導について解説する。また、指導における合理的配慮や教材の工夫等について学生自身が考える時間を設ける。	「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 各教科等編」の第3章第4「肢体不自由者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校」に目を通しておくこと。	120分
第8回	各教科等の指導：生活単元学習の観点、工夫、合理的配慮	肢体不自由者の事例をもとに、生活単元学習の指導について解説する。また、指導における合理的配慮や教材の工夫等について学生自身が考える時間を設ける。	「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編」の第7章3～4「他領域・教科等との関連」「指導方法の創意工夫」「自立活動を主とした指導」に目を通しておくこと。	240分
第9回	ICT機器を活用した指導	ICT機器を活用した指導について体験的に学ぶ。タブレット端末や様々なセンサースイッチを実際に使い、そこから肢体不自由の子どもへの指導の有効性について考える。	特別支援教育総合研究所資料「特別支援教育でICTを活用しよう」に目を通しておくこと。*ネットで資料名を検索して、閲覧する。	120分
第10回	個別の指導計画の作成	仮想事例をもとに個別の指導計画を作成する。作成した個別の指導計画は、第11回以降に作成する学習指導案のベースとする。受講人数により、個人またはグループでの作成を決定する。	「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編」の第7章6～8「教師の協力体制」「専門の医師等との連携協力」「個別の教育支援計画等の活用」に目を通しておくこと。	120分
第11回	学習指導案の作成(1)	作成した個別の指導計画をベースとして、学習指導案を作成する。学習指導案は都立特別支援学校の様式に基づき作成する。	授業内に作成できなかった計画について、時間外に取り組んでおくこと。	120分
第12回	学習指導案の作成(2)	作成した個別の指導計画をベースとして、学習指導案を作成する。学習指導案は都立特別支援学校の様式に基づき作成する。	授業内に作成できなかった指導案について、時間外に取り組んでおくこと。	120分
第13回	学習指導案の作成(3)	作成した個別の指導計画をベースとして、学習指導案を作成する。学習指導案は都立特別支援学校の様式に基づき作成する。併せて使用教材を作成する。	授業内に作成できなかった指導案について、時間外に取り組んでおくこと。	240分
第14回	学習指導案の発表(1)	作成した学習指導案を発表する。発表された指導案について、受講者間で意見交換する。	授業内に作成できなかった指導案について、時間外に取り組んでおくこと。	120分
第15回	学習指導案の発表(2)	作成した学習指導案を発表する。発表された指導案について、受講者間で意見交換する。	授業後に、再度、学習指導要領について目を通し、授業内容の復習をすること。	240分、420分

学生へのフィードバック方法 ・小テストについては、次回の授業の最初に解説する。

評価方法 ・毎回の授業後に実施する小テスト（またはリフレクションペーパー）の内容、定期試験、作成した学習指導案、授業態度により評価する。
・学外実習等の止むを得ない事情により欠席した場合には、個別の欠席課題等により評価を行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業・疑似体験		○	○	
小テスト・リフレクションペーパー	○	○	○	
学習指導案	○	○	○	○
定期試験	○	○		

評価割合 小テスト（またはリフレクションペーパー）の内容（10%）、学習指導案（30%）、定期試験（50%）、授業態度（10%）

使用教科書名 (ISBN番号) 「特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）」（文部科学省、ISBN:4304042300）

	「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）」（文部科学省、ISBN:4304042319）	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 肢体不自由のある子どもの専門的、基礎的知識が修得できている。</p> <p>【思考・判断】 肢体不自由があることによる独自の困難さが理解できている。</p> <p>【関心・意欲・態度】 学習指導案や教材等の作成に熱心に取り組んでいる。</p> <p>【技術・表現】 仮想事例のニーズに沿った学習指導案や教材を作成できている。</p>	
オフィスアワー	水曜2限（1605研究室）	
学生へのメッセージ	<p>肢体不自由はただ手や足が不自由ということではありません。それによる学習や生活上の困難さが存在します。本授業では、そうした困難さと当該ニーズに応じた指導法について、実際に教具を用いて体験的な理解を図ります。</p>	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、肢体不自由を伴う重度・重複障害者の入所及び通所施設にて、利用者への直接的支援並びに家族支援の実務経験を有しており、肢体不自由者の困難さや支援の経験に基づいた教授ができる。
アクティブ・ラーニング	○	疑似的な体験を行ったり、学習指導案や教材を作成する機会を設けたりして、主体的な学修を進める。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	特別支援教育の現場で活用されるICT機器を体験する授業を行う。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	病弱者の教育		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 阿尾 有朋	指定なし

ナンバリング	P30311M21
授業概要(教育目的)	病弱・身体虚弱の子どもの基本的理解を踏まえ、指導法を中心とした授業を行う。病弱教育の歴史や学習上又は生活上の困難等に関する基本的事項について解説する。また、障害の特性に応じた指導について、実際に学習指導案を作成しながら、合理的配慮や教材の工夫について考える。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	学習目標(到達目標)
知識・理解の観点 (K)	主な疾患に関する基本的知識を理解している。
思考・判断の観点 (K)	疾患の治療等による生活や学習上の困難さを説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	学習指導案や教材の作成に関して、他学生と共同して積極的に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	学習指導案や教材が事例のニーズに沿った内容となっている。

学習計画

病弱者の教育

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション、病弱教育の歴史	オリエンテーションとして、年間の授業計画及び学習目標を提示する。病弱者を取り巻く社会や教育の歴史をテーマに解説する。	授業にあたりノートを準備しておく。「病弱」や「身体虚弱」という言葉から自身が持つイメージについてノートに書いておくこと。	120分
第2回	病弱教育の制度と学ぶ場	病弱者が教育を受ける場や関連する制度について解説する。また、病弱教育における現代的課題について解説する。	障害者差別解消法及び障害者虐待防止法について、厚生労働省の資料をネットで調べ、目を通しておくこと。	120分
第3回	医療的ケアと自己管理	主な医療的ケア及び疾患における自己管理の必要性や実際について解説する。	主な医療的ケアについてネットで調べ、ノートに整理しておくこと。	120分
第4回	病弱者とライフスキル	病弱者の課題となる適応行動の内、ライフスキルに焦点化し、なぜ当該スキルが課題となるのかを説明する。また、ライフスキルの向上のための指導について解説する。	「ライフスキル」という用語をネットで調べ、その具体的な行動や能力の例をノートに書き留めておくこと。	240分
第5回	長期療養児	病弱児が長期療養することにより、学習及び生活上にお	長期療養による体験の不足及び	120分

	における体験の不足を 考える	いてどのような体験が不足するのか、またそのことによる影響について考える。	影響について、自分なりに想像し、ノートに書き留めておくこと。	
第6回	自立活動の指導：個別の指導計画の作成	学習指導要領に基づき病弱者の自立活動に関する個別の指導計画について解説する。また、事例をもとに実際に個別の指導計画の作成を体験する。	「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編」の第7章1「個別の指導計画の作成」及び病弱者の生徒の個別の指導計画（P144-147）に目を通しておくこと。	120分
第7回	各教科等の指導：国語科・算数科指導の観点、工夫、合理的配慮	病弱者の事例をもとに、国語科及び算数科の指導について解説する。また、指導における合理的配慮や教材の工夫等について学生自身が考える時間を設ける。	「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 各教科等編」の第3章第5「病弱者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校」に目を通しておくこと。	120分
第8回	各教科等の指導：領域・教科を合わせた指導の観点、工夫、合理的配慮	病弱者の事例をもとに、生活単元学習の指導について解説する。また、指導における合理的配慮や教材の工夫等について学生自身が考える時間を設ける。	「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編」の第7章3～4「他領域・教科等との関連」「指導方法の創意工夫」「自立活動を主とした指導」に目を通しておくこと。	240分
第9回	ICT機器を活用した指導	ICT機器を活用した指導について体験的に学ぶ。タブレット端末や様々なセンサースイッチを実際に使い、そこから病弱者の子どもへの指導の有効性について考える。	特別支援教育総合研究所資料「特別支援教育でICTを活用しよう」に目を通しておくこと。* ネットで資料名を検索して、閲覧する。	120分
第10回	個別の指導計画の作成	仮想事例をもとに個別の指導計画を作成する。作成した個別の指導計画は、第11回以降に作成する学習指導案のベースとする。受講人数により、個人またはグループでの作成を決定する。	「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編」の第7章6～8「教師の協力体制」「専門の医師等との連携協力」「個別の教育支援計画等の活用」に目を通しておくこと。	120分
第11回	学習指導案の作成(1)	作成した個別の指導計画をベースとして、学習指導案を作成する。学習指導案は都立特別支援学校の様式に基づき作成する。	授業内に作成できなかった計画について、時間外に取り組んでおくこと。	120分
第12回	学習指導案の作成(2)	作成した個別の指導計画をベースとして、学習指導案を作成する。学習指導案は都立特別支援学校の様式に基づき作成する。	授業内に作成できなかった指導案について、時間外に取り組んでおくこと。	120分
第13回	学習指導案の作成(3)	作成した個別の指導計画をベースとして、学習指導案を作成する。学習指導案は都立特別支援学校の様式に基づき作成する。併せて使用教材を作成する。	授業内に作成できなかった指導案について、時間外に取り組んでおくこと。	240分
第14回	学習指導案の発表(1)	作成した学習指導案を発表する。発表された指導案について、受講者間で意見交換する。	授業内に作成できなかった指導案について、時間外に取り組んでおくこと。	120分
第15回	学習指導案の発表(2)	作成した学習指導案を発表する。発表された指導案について、受講者間で意見交換する。	授業後に、再度、学習指導要領について目を通し、授業内容の復習をすること。	240分、420分

学生へのフィードバック方法	・小テストについては、次回の授業の最初に解説する。			
評価方法	・毎回の授業後に実施する小テスト（またはリフレクションペーパー）の内容、定期試験、作成した学習指導案、授業態度により評価する。 ・学外実習等の止むを得ない事情により欠席した場合には、個別の欠席課題等により評価を行う。			
評価基準	評価基準			
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業・疑似体験		○	○	
小テスト・リフレクションペーパー	○	○	○	
学習指導案	○	○	○	○
定期試験	○	○		
評価割合	小テスト（またはリフレクションペーパー）の内容（10%）、学習指導案（30%）、定期試験（50%）、授業態度（10%）			
使用教科書名 (ISBN番号)	「特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）」（文部科学省、ISBN:4304042300） 「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）」（文部科学省、ISBN:4304042319）			

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】主な疾患に関する専門的、基礎的知識が修得できている。 【思考・判断】病弱であることによる独自の困難さが理解できている。 【関心・意欲・態度】学習指導案や教材等の作成に熱心に取り組んでいる。 【技術・表現】仮想事例のニーズに沿った学習指導案や教材を作成できている。	
オフィスアワー	水曜2限（1605研究室）	
学生へのメッセージ	病弱者の中には、慢性疾患のため頻繁な入院や長期の療養を余儀なくされる子どもたちが多くいます。病弱の子どもたちは、治療等による日常的なストレスはもちろんのこと、生活が制限されることによる困難さが存在します。そうした子どもたちの現状を知り、必要な支援について考えましょう。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、てんかん治療を目的とする小児病棟や外来にて、知能検査や療育支援の業務に従事した経験がある。本授業では、長期療養等による問題やそれへの支援について、自身の経験をもとに知見を教授する。
アクティブ・ラーニング	○	疑似的な体験を行ったり、学習指導案や教材を作成する機会を設けたりして、主体的な学修を進める。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	特別支援教育の現場で活用されるICT機器を体験する授業を行う。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	知的障害者の心理・生理・病理		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	5 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 原田 晋吾	指定なし
非常勤講師	飯野 彰人	指定なし

ナンバリング	P10502M21
授業概要(教育目的)	知的障害者の発生要因や病理的特徴、学習、記憶、認知、思考等の心理的特徴から障害特性等の基礎的な知識を学び、知的障害児の定義、評価法、障害診断、病理、知的障害児・者の社会生活上の課題等について事例を取り上げながら理解を深める。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 知的障害に関する諸側面を、医学的、病理学的な観点から説明することができる。 知的障害のある子どもの心理的特性について、定型発達児と異なる点を解説できる。 知的障害のある子どもにみられる疾患にはどのようなものがあるか説明できる。
思考・判断の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 知的障害の心理的特性について説明することができ、生活上の困難を指摘したり、特性に合わせた指導支援のあり方を提案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ul style="list-style-type: none"> 授業の予習(事前学習)で調べたことをまとめる。 授業内で取り上げた障害について要点を整理し、毎回の授業後に記述する。 授業内で行う疑似体験やグループ討議等で、積極的に発言する。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

知的障害者の心理・生理・病理

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業ガイダンス 知的障害の基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> 知的障害の定義に関する歴史の変遷。 現在の知的障害(精神疾患)の診断基準。 知的障害の発生要因と発生頻度。 	(事前)厚生労働省のサイト(e-ヘルスネット)で「知的障害(精神遅滞)」について調べ、要点をまとめておく。 (事後)知的障害の診断基準について整理しておく。	90
第2回	知的障害者の知的機能	<ul style="list-style-type: none"> 知的障害の診断基準の1つである「知的機能」という概念について。 「知的機能の制約」とはどのような状態を指すか。 知能指数(IQ)、生活年齢(CA)、精神年齢(MA)について。 知能指数(IQ)の観点から定型発達と知的障害について考える。 	(事前)第1回で学習した「知的障害の診断基準」を復習する。インターネット等で「正規分布」について調べ、簡単な図とそれが示す意味を知る。 (事後)知的機能の制約によって生じる生活上の困難について考える。知能指数(IQ)の分布について説明できるようにしておく。	90

第3回	知的機能の評価法	<ul style="list-style-type: none"> ・知能指数(IQ)を評価するための心理検査(田中ビネー式知能検査Ⅴ・WISC-Ⅳ)の概要 ・知能指数の算出方法 ・知的障害者の知能指数(IQ)を測定することの意味について 	<p>(事前)第2回で学習した「知能指数(IQ)」を復習する。</p> <p>(事後)知的障害児が社会生活を送る上で、心理検査結果をどのように活用するとよいか説明できるようにしておく。</p>	90
第4回	知的障害者の適応機能	<ul style="list-style-type: none"> ・知的障害の診断基準の1つである「適応機能」という概念について。 ・「適応機能の制約」とはどのような状態を指すか。 ・社会生活、日常生活を支えるための指導支援 	<p>(事前)第1回で学習した「知的障害の診断基準」を復習する。</p> <p>(事後)適応機能の低位分類について整理する。</p>	90
第5回	適応機能の評価法と分類	<ul style="list-style-type: none"> ・適応機能を評価するための評価尺度(SM社会生活能力検査、vineland-II)の概要 ・知能指数の算出方法 ・知的障害者の知能指数(IQ)を測定することの意味について 	<p>(事前)第4回で学習した「適応機能」を復習する。</p> <p>(事後)知的障害児が社会生活を送る上で、適応機能尺度の結果をどのように活用するとよいか説明できるようにしておく。</p>	90
第6回	知的障害者の心理機能①(言語・コミュニケーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・知的障害者の言語・コミュニケーションの特徴。 ・重度知的障害者のコミュニケーションの特徴と補助代替コミュニケーション。 ・コミュニケーションの指導・支援。 	<p>(事前)インターネット等で、重度の知的障害者のコミュニケーション手段(支援ツール)について調べておく。</p> <p>(事後)知的障害児のコミュニケーション指導を行ううえで重要な点を整理しておく。支援ツールのアイデアを出す。</p>	90
第7回	知的障害の心理機能②(記憶)	<ul style="list-style-type: none"> ・記憶の分類について ・知的障害者の記憶に関する特徴 ・発達支援の視点からの検討 	<p>(事前)インターネット等で「ワーキングメモリー」について調べ、書き留めておく。</p> <p>(事後)支援方法や支援ツールのアイデアを箇条書きで挙げておく。</p>	90
第8回	知的障害の心理機能③(知覚・注意)	<ul style="list-style-type: none"> ・知的障害者の視知覚および注意に関する特徴 ・発達支援の視点からの検討 	<p>(事前)インターネット等で「ゲシュタルトの法則」について調べ、まとめておく。</p> <p>(事後)知的障害児の指導・支援を進めていく上での注意点について整理しておく。支援方法や支援ツールのアイデアを箇条書きで挙げておく。</p>	90
第9回	知的障害の心理機能④(運動)	<ul style="list-style-type: none"> ・知的障害者の運動機能(粗大運動・微細運動)に関する特徴 ・行動調整機能 ・発達支援の視点からの検討 	<p>(事前)新生児・乳児の反射反応や運動発達について要点をまとめておく。</p> <p>(事後)知的障害児の指導・支援を進めていく上での注意点について整理しておく。</p>	90
第10回	知的障害のある子どもの支援	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園、保育園に在籍する知的障害児の支援の実際 ・特別支援学校に在籍する知的障害児の支援の実際 ・ユニバーサルデザイン 	<p>(事前)インターネット等で「ユニバーサルデザイン」について調べておく。</p> <p>(事後)幼稚園や保育園で実施するユニバーサルデザインを取り入れた教育・保育に関するアイデアを挙げる。</p>	90
第11回	まとめ・振り返り・中間試験	第1～10回の講義を振り返り、中間試験を実施する。	<p>(事前)第1～10回の講義内容をおさらいしておく。</p> <p>(事後)中間試験で溶けなかった問題について各自確認しておく。</p>	90
第12回	知的障害と自閉症スペクトラム障害(ASD)	<ul style="list-style-type: none"> ・自閉症スペクトラム障害の基礎的知識(診断基準、疫学、行動特性等)について。 ・自閉症スペクトラム障害の子どもの治療(診療)と支援。 	<p>(事前)自閉症スペクトラム障害の子どもの特徴について、インターネット等で調べておく。</p> <p>(事後)自閉症スペクトラム障害の子どもの支援の要点をまとめておく。</p>	90
第13回	注意欠如多動性障害(ADHD)	<ul style="list-style-type: none"> ・注意欠如多動性障害(ADHD)の基礎的知識(診断基準、疫学、行動特性等)について。 ・ADHDの子どもの治療(診療)と支援。 	<p>(事前)ADHDの子どもの特徴について、インターネット等で調べておく。</p> <p>(事後)ADHDの子どもの支援の要点をまとめておく。</p>	90
第14回	障害児入所施設の見学	島田療育センターの見学を通して、知的障害者の生活や支援者の役割について学ぶ。	(事前)医療型障害児入所施設とは何か、インターネット等で調べる。島田療育センターのHPを確認する。	90
第15回	障害児入所施設の見学	島田療育センターの見学を通して、知的障害者の生活や支援者の役割について学ぶ。	(事前)医療型障害児入所施設とは何か、インターネット等で	90

			調べる。島田療育センターのHPを確認する。		
学生へのフィードバック方法	・授業の中では学生が主体となって活動する機会を設定する。活動の成果や授業内での発言、グループ討議で出されたアイデアに対して、適宜フィードバックを行う。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・各授業において、その時間に学んだ内容をA5用紙に簡潔にまとめる時間を設ける。授業終了後に回収し、担当教員がコメントを付けて返却する。事前学習の内容や授業後のまとめは、受講生の学習ログとして取り扱い、評価の対象とする。 ・第11回目の授業では、振り返りと中間試験を実施する。また、校外授業で見学した内容についてレポート用紙にまとめる。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	学習ログの評価	○		○	
	中間試験の結果	○	○		
	校外学習のレポート	○	○	○	
評価割合	学習ログの評価(30%)、中間試験の結果(40%)、校外学習のレポート(30%)				
使用教科書名 (ISBN番号)	小野次郎・西牧謙吾・榎原洋一編著『特別支援教育に生かす病弱児の生理・病理・心理』（ミネルヴァ書房）978-4-623-06153-2				
参考図書	小池敏英・北島善夫著「知的障害の心理学」北大路書房				
ディプロマポリシーとの関連	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの健康・心理」を理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できる（知識・理解） ・子どもを巡る多様化する課題や問題に関心をもって取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感をもって行動できる（関心・意欲・態度）。 				
オフィスアワー	原田（月曜3～4限 1509教室）				
学生へのメッセージ	<p>授業は5月15日（金）5限を初回とし、毎週金曜5限に実施します。 また、夏期集中講義期間に集中講義4コマを予定しています。詳しい日程は決定次第、授業内で連絡します。</p> <p>知的障害のある子どもの保育や教育に携わるうえで、心理・生理・病理の各側面から障害の特性を知っておくことはとても重要です。この科目を通して、知的障害の子どもたちの保育や教育について興味を持ってほしいと思います。特別支援学校の免許取得を希望する学生は必修の授業となっていますが、それ以外の学生の受講も歓迎します。</p>				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング	○	学生のみなさんが主体となって考え、活動できるように話題提供を行います。調べ学習、ペアワーク、授業内の作業、疑似体験への参加などの機会を作ります。			
情報リテラシー教育	○	授業では適宜グラフを使って解説を行います。グラフの読み取り方など、必要に応じて説明を加えます。また、情報のアウトプットに関する指導として、レポート課題では文章表現のチェックを行います。			
ICT活用	○	講義中心の授業では、オンライン質問投稿サイト“HandsUp!”を使って、常時質問を受け付けます。			

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	肢体不自由者の心理・生理・病理		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 岡澤 慎一	指定なし

ナンバリング	P20504M21
授業概要(教育目的)	肢体不自由がある子どもの心理・生理・病理に関する基本的な事項について講義する。実際の、具体的な理解を促進するために、肢体不自由がある子どもとの教育的係わり合いに関する映像資料を多用する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	肢体不自由のある子どもが抱える困難と障害状況について心理的あるいは生理・病理的な観点から一定程度説明することができる
思考・判断の観点 (K)	肢体不自由がある子どもとの教育的係わり合いの実際について具体的に検討することをとおして、肢体不自由がある子どもとの教育的係わり合いの方針を設定することができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	肢体不自由の定義と状態像	肢体不自由の定義と状態像について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち、該当部分を事前によく読み、事後によく振り返ること	120分
第2回	肢体不自由のある子どもが抱える困難と障害状況／運動系の発達	肢体不自由のある子どもが抱える困難と障害状況について理解する 運動系の発達について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち、該当部分を事前によく読み、事後によく振り返ること	120分
第3回	肢体不自由のある子どもの生理・病理1(肢体不自由の原因疾患：脳原性疾患)	肢体不自由の原因疾患：脳原性疾患について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち、該当部分を事前によく読み、事後によく振り返ること	120分
第4回	肢体不自由のある子ども	肢体不自由の原因疾患：神経・筋疾患について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち、該当部分を事前によく読み、事後によく振り返ること	120分

	もの生理・病理2 (肢体不自由の原因疾患: 神経・筋疾患)		み, 事後によく振り返ること	
第5回	肢体不自由のある子どものもの生理・病理3 (肢体不自由の原因疾患: 骨・関節疾患)	肢体不自由の原因疾患: 骨・関節疾患について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち, 該当部分を事前によく読み, 事後によく振り返ること	120分
第6回	肢体不自由のある子どもの心理1 (感覚・知覚・認知)	肢体不自由のある子どもの心理 (感覚・知覚・認知) について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち, 該当部分を事前によく読み, 事後によく振り返ること	120分
第7回	肢体不自由のある子どもの心理2 (言語)	肢体不自由のある子どもの心理 (言語) について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち, 該当部分を事前によく読み, 事後によく振り返ること	120分
第8回	肢体不自由のある子どもの心理3 (コミュニケーション)	肢体不自由のある子どもの心理 (コミュニケーション) について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち, 該当部分を事前によく読み, 事後によく振り返ること	120分
第9回	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの視点1 (探索活動, Joyful shared event)	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの視点 (探索活動, Joyful shared event) について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち, 該当部分を事前によく読み, 事後によく振り返ること	120分
第10回	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの視点2 (コミュニケーション・システム)	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの視点 (コミュニケーション・システム) について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち, 該当部分を事前によく読み, 事後によく振り返ること	120分
第11回	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの視点3 (感覚運動)	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの視点 (感覚運動) について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち, 該当部分を事前によく読み, 事後によく振り返ること	120分
第12回	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの視点4 (課題学習)	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの視点 (課題学習) について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち, 該当部分を事前によく読み, 事後によく振り返ること	120分
第13回	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの実際1 (知的障害を併せ有する肢体不自由事例)	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの実際 (知的障害を併せ有する肢体不自由事例) について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち, 該当部分を事前によく読み, 事後によく振り返ること	120分
第14回	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの実際2 (感覚障害を併せ有す	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの実際 (感覚障害を併せ有する肢体不自由事例) について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち, 該当部分を事前によく読み, 事後によく振り返ること	120分

	る肢体不自由事例)			
第15回	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの実際3 (医療的ケアの必要な肢体不自由事例)	肢体不自由のある子どもとの教育的係わり合いの実際 (医療的ケアの必要な肢体不自由事例) について理解する	配布の講師資料のプリントの打ち、該当部分を事前によく読み、事後によく振り返ること	120分
第16回				

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールは変更します

学生へのフィードバック方法 毎回、授業の終わりに意見や感想、質問を書いてもらい、次回の授業の冒頭で意見や感想を紹介したり、質問に答えたりする

評価方法 毎回の「意見や感想、質問」の内容および最終試験の結果による

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
「意見や感想、質問等」の内容		○	○	○
最終試験	○	○		

評価割合 「意見や感想、質問等」の内容 (20%) , 最終試験 (80%)

使用教科書名 (ISBN番号) テキストは使用しない。参考資料は適宜配布する。

参考図書 重度・重複障害児指導研究会 (編) (1979) 講座 重度・重複障害児の指導技術 第1巻～第6巻. 岩崎学術出版社.
川住隆一 (1999) 生命活動の脆弱な重度・重複障害児への教育的対応に関する実践的研究. 風間書房.

ディプロマポリシーとの関連 肢体不自由のある子どもが抱える困難と障害状況について心理的あるいは生理・病的な観点からの理解を深めるとともに、肢体不自由がある子どもとの教育的係わり合いの実際について具体的に検討することをおして、肢体不自由がある子どもの行動の意味を捉えるための実践的な力量を身に着けている

オフィスアワー 集中講義のため、休み時間などにお尋ねください

学生へのメッセージ 障害児教育が教育の原点であるという言説の実相の一端を共有できればうれしく思います

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	病弱者の心理・生理・病理		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 市川 和男	指定なし
非常勤講師	上石 晶子	指定なし
助教	原田 晋吾	指定なし

ナンバリング	P20505M21
授業概要(教育目的)	病弱児の人体の生理、各種疾患や障がいの病理、心理的特性について学び、病弱児への適切な配慮、具体的な発達の支援について事例を取り上げながら理解を図る。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 小児慢性疾患を抱える病弱児の人体の特徴の生理、小児慢性疾患の病理、心理特性について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 小児慢性疾患を抱える病弱児に必要な配慮や発達支援の方法について類別し、現状と課題について指摘できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	【4/10(金)1限目】 オリエンテーション 病気や障害をめぐる動向(1)	健康や病気、障害の概念や、疫学統計、病弱、障害児教育の歴史的展開について学び、病気や障害をめぐる動向について理解する。	・予習：テキスト序章「病気や障害をめぐる動向」(1~14ページ)を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第2回	【4/24(金)1限目】 病気や障害をめぐる動向(2)	健康や病気、障害の概念や、疫学統計、病弱、障害児教育の歴史的展開について学び、病気や障害をめぐる動向について理解する。	・予習：テキスト序章「病気や障害をめぐる動向」(1~14ページ)を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第3回	【5/1(金)1限目】 子どもの発	発達の領域、支えるもの、脳内機能局在、遅れの診断について学び、子どもの発達・精神、運動面の発達について理解する。	・予習：テキスト第1章「子どもの発達・精神、運動面の発達」(17~27ページ)を読んで	予習90分、復習90分

	達・精神、運動面の発達		おくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	
第4回	【5/8(金)1 限目】 発達障害の考え方と広汎性発達障害、注意欠陥性障害(1)	発達障害、自閉症、広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害を学び、発達障害の考え方と広汎性発達障害、注意欠陥性障害について理解する。	・予習：テキスト第2章「発達障害の考え方と広汎性発達障害、注意欠陥性障害」(28~44ページ)を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第5回	【5/15(金)1 限目】 発達障害の考え方と広汎性発達障害、注意欠陥性障害(2)	発達障害、自閉症、広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害を学び、発達障害の考え方と広汎性発達障害、注意欠陥性障害について理解する。	・予習：テキスト第2章「発達障害の考え方と広汎性発達障害、注意欠陥性障害」(28~44ページ)を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第6回	【5/22(金)1 限目】 知的障害を伴わない発達障害と二次障害(1)	二次障害に陥りやすい子どもたち、二次障害を予防していくための視点、メンタルヘルスを考慮した個別の指導計画の作成と指導や支援について学び、知的障害を伴わない発達障害と二次障害について理解する。	・予習：テキスト第3章「知的障害を伴わない発達障害と二次障害」(45~55ページ)を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第7回	【5/29(金)1 限目】 知的障害を伴わない発達障害と二次障害(2)	二次障害に陥りやすい子どもたち、二次障害を予防していくための視点、メンタルヘルスを考慮した個別の指導計画の作成と指導や支援について学び、知的障害を伴わない発達障害と二次障害について理解する。	・予習：テキスト第3章「知的障害を伴わない発達障害と二次障害」(45~55ページ)を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第8回	【6/5(金)1 限目】 病気や障害の受容とセルフケア	病気や障害の受容とセルフケア、発達段階とセルフケア、疾患の受け止め方と心理や情緒面、セルフケアの力を育てるカリキュラム、慢性疾患に適応するための支援について学び、病気や障害の受容とセルフケアについて理解する。	・予習：テキスト第12章「病気や障害の受容とセルフケア」(197~205ページ)を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第9回	【6/19(金)1 限目】 病気や障害の子どもの心理特性	病気の概念の発達、疾患と病気の違い、発達段階から見た心理社会的問題について学び、病気や障害の子どもの心理特性を理解する。	・予習：テキスト第13章「病気や障害の子どもの心理特性」(206~214ページ)を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第10回	【6/26(金)1 限目】 教育・医療・保健・福祉の連携と支援	地域で暮らすことへの包括支援、全人的ケアの理念と機能、QOLを高める教育・医療・保健・福祉の連携と支援について学び、教育・医療・保健・福祉の連携と支援を理解する。	・予習：テキスト第14章「教育・医療・保健・福祉の連携と支援」(215~224ページ)を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第11回	【7/3(金)1 限目】 病気や障害のある子どもを支える法制度	社会保障制度、母子保健関連施策と子どもの医療制度について学び、病気や障害のある子どもを支える法制度を理解する。	・予習：テキスト第15章「病気や障害のある子どもを支える法制度」(225~231ページ)を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第12回	8月下旬予定	就学先の循環器疾患の経年変化、学校現場で良く見る循	・予習：テキスト第4章「環器	予習90分、復習90分

	環器疾患の理解と支援と吸器疾患の理解と支援	環器疾患、学校における心疾患児童への対応の注意点や、呼吸器の感染症、気管支ぜん息、過換気症候群について学び、環器疾患の理解と支援と吸器疾患の理解と支援を理解する。	疾患の理解と支援」、第5章「吸器疾患の理解と支援」(59～85ページ)を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	
第13回	8月下旬予定腎・泌尿器疾患の理解と支援と成長障害・内分泌疾患の理解と支援	子どもの腎疾患・泌尿器疾患、慢性心疾患の子どもの学校生活における留意点、人の成長と異常、内分泌疾患について学び、腎・泌尿器疾患の理解と支援、成長障害・内分泌疾患の理解と支援を理解する。	・予習：第7章「腎・泌尿器疾患の理解と支援」、第8章「成長障害・内分泌疾患の理解と支援」(103～133ページ)を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第14回	8月下旬予定消化器・腎臓・栄養疾患の理解と支援と神経系疾患の理解と支援	教育現場で遭遇しやすい消化器・肝臓・栄養疾患、胃食道逆流現象、急性下痢症・慢性下痢症、嘔吐・周期性嘔吐症、便秘、胃十二指腸潰瘍、慢性ウイルス肝炎、肥満と肥満症、非アルコール性脂肪性肝炎について学び、消化器・腎臓・栄養疾患の理解と支援を理解する。	・予習：テキスト第9章「消化器・腎臓・栄養疾患の理解と支援」(115～149ページ)を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：その日の章のキーワードを整理してまとめておくこと。	予習90分、復習90分
第15回	8月下旬予定神経系疾患の理解と支援	てんかん、脳性麻痺、ダウン症、神経皮膚症候群について学び、神経系疾患の理解と支援を理解する。	・予習：テキスト第10章「神経系疾患の理解と支援(1)」(150～172ページ)を読んでおくこと。授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読んでおくこと。 ・復習：テキスト序章「病気や障害をめぐる動向」から、テキスト第15章「病気や障害のある子どもを支える法制度」(1～231ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分

学習計画注記	・履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。 ・授業教室：XXXX教室
学生へのフィードバック方法	・実施した小テストは授業中に解説する。それでも疑問点がある学生は、必ず教員に質問してください。
評価方法	・小テストは3～4回分の授業に係る学習範囲から出題し、授業内に計4回実施する。1回あたりの問題数は10問で、すべて穴埋め方式で出題する。 ・定期試験は、小テストの振り返りの問題を含む。また、記述問題によって応用的な思考力や判断力を確認する。 ・小テスト及び定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○		
定期試験	○	○		

評価割合	・小テスト (20%)、態度 (20%)、定期試験 (60%) にて評価します。
使用教科書名 (ISBN番号)	・小野次郎・西牧謙吾・榊原洋一編著『特別支援教育に生かす病弱児の生理・病理・心理』(ミネルヴァ書房) 978-4-623-06153-2
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 ・児童学を構成する6領域「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識を有している。 【思考・判断】 ・子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学び合う、具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる力を身につけている。 ・家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性を身につけている。
オフィスアワー	・特になし。
学生へのメッセージ	・主体的に授業に参加するために、日ごろから授業のテーマに関連するニュースや新聞記事を読み、その内容の背景に関心を持ち、取りあげられている現状に対して自分自身や身近な身の回りのことに照らし合わせたり置き

換え、考えられる客観的な理由などをもとにして、自分なりに考えるようにしましょう。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	<上石>担当教員は、小児医療を専門とする医療機関において、肢体不自由児、知的障害児、重症心身障害児などの病弱の児童やその家族に対して、医療の専門職として実務経験を有している。 <市川>担当教員は、特別支援学校、児童福祉施設、小児医療を専門とする医療機関において、教員と連携しながら、病弱の児童やその家族に対して、医療や福祉の専門職として実務経験を有している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	視覚障害の理解と支援		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 阿尾 有朋	指定なし

ナンバリング	P10402M12
授業概要(教育目的)	視覚障害児(者)の実態と支援の必要性についての理解を目指す。授業では、日常生活や学習に係る支援機器やシュミレーションレンズを用いた疑似体験を行い、視覚障害による生活や学習上の困難さについての体験的理解を図る。また、視覚障害者が共に暮らす社会の実現に向けて、どういった障害理解教育や合理的配慮が必要かを主体的に考えさせる。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	視覚障害に係る基本的知識及び必要な支援の理解が十分である。
思考・判断の観点 (K)	視覚障害による生活や学習上の困難さを説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	疑似体験活動にグループ内で協力的態度を取れる。リフレクションペーパーを通して、積極的な感想や質問をする。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	視覚障害の概念	視覚障害者の病理・生理・心理について理解する。視器と視覚認知の仕組み、自覚・他覚検査や行動に基づく視覚機能のアセスメント(視力検査を体験する)、視覚障害の補償ツールについて理解する。	教科書第1章「視覚障害の概念」並びに第8章「弱視(ロービジョン)」を読んでおくこと。	225分
第2回	視覚障害幼児の発達	視覚障害が乳幼児の発達に及ぼす影響について、全盲と弱視に分けて理解する。また乳幼児期の発達を促すための支援について理解する。	教科書第4章「自立活動と生活訓練」を読んでおくこと。	225分
第3回	視覚障害者の歩行とその指導	視覚障害者の位置の定位や歩行を促すための指導について理解する。また、歩行を介助、誘導するための介助方法について、白杖を用いた疑似体験をもとに理解する。	教科書第5章「歩行(定位と移動)とその指導」を読んでおくこと。	225分
第4回	視覚障害者の教育	視覚障害者の自立活動や準ずる教育における指導法について理解する。また、点字盤を使った打点を体験し、点字を読むことの難しさを体験的に理解する。	教科書第2章「視覚障害の教育とリハビリテーション」を読んでおくこと。	225分
第5回	視覚障害の疑似体験	シュミレーションレンズを用いて、弱視、視野狭窄、白内障等による生活や学習の困難さについて体験的に理解する。	教科書第11章「疑似障害体験」を読んでおくこと。	225分
第6回	視覚障害者	視覚障害者が環境や事物を把握し、慣れ親しむことの重	教科書第7章「ファミリアリゼー	225分

	にのつてのファミリアリゼーション	要性について理解する。また、そのための教育や支援の方法について理解する。	シオン」を読んでおくこと。		
第7回	視覚障害者との共生	視覚障害者の理解を促すための教育や共生社会実現のための合理的配慮について、グループ討議をもとに考える。	教科書第12章「障害理解と社会」を読んでおくこと。	225分	
第8回	まとめ	全7回の内容について総括するとともに、内容の理解について確認をする。	学んだ内容について、振り返り、自身の理解度について再確認しておくこと。	225分	
学習計画注記		* 履修状況や授業の進捗具合によりスケジュールが変更になる場合がある。			
学生へのフィードバック方法		・小テストについては、次回の授業の最初に解説する。			
評価方法		・毎回の授業後に実施する小テスト（またはリフレクションペーパー）の内容（20%）、定期試験（70%）、授業態度（10%）により評価する。			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	授業・疑似体験		○	○	
	小テスト・リフレクションペーパー	○	○	○	
	定期試験	○	○		
評価割合		小テスト（またはリフレクションペーパー）の内容（20%）、定期試験（70%）、授業態度（10%）			
参考図書		芝田裕一 2015「視覚障害児・者の理解と支援（新版）」北大路書房（ISBN: 4762828858）			
ディプロマポリシーとの関連		【知識・理解】視覚障害者の専門的、基礎的知識が修得できている。 【思考・判断】家族・地域・社会との繋がり観点から、共生社会に向けた障害理解について主体的に考えられる。 【関心・意欲・態度】視覚障害者の立場から、生活、学習上の困難さを理解しようとする。			
オフィスアワー		水曜1、2限（1605研究室）			
学生へのメッセージ		ひとくちに「視覚障害」といっても、その様態は多様です。また、視覚障害のある子どものニーズは生活面から教育面に至るまで多岐に及びます。本講義では、視覚障害による生活や学習上の困難さについて体験的に学びます。			
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、障害者の入所及び通所施設にて、利用者への直接的支援並びに家族支援の実務経験を有している。入所系サービスでは、視覚障害を合併する児・者を対象とした支援にも携わった。当該の経験に基づいた授業を行う。			
アクティブ・ラーニング	○	授業には疑似体験装置や支援器具を使った体験を取り入れ、当該体験に基づき自ら考えることを学生に求める。			
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	聴覚障害の理解と支援		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2,3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 信方 壽幸	指定なし

ナンバリング	P204 O5M12
授業概要(教育目的)	聴覚障害の生理・病理の基礎、聴覚障害教育の制度と教育課程、聴覚補償やコミュニケーション方法の在り方や聴覚障害の特性に配慮した指導事例を理解し、聴覚障害児の指導の在り方を考え、対応できるようになる。
学習目標(到達目標)	
学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	聴覚障害教育の実際を学びながら、教育学または心理学に関する基本的な知識及び方法を修得する。
思考・判断の観点 (K)	聴覚障害教育における教育学的・心理学的諸問題の解決方法を構想する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	聴覚障害教育にかかわる教育学的・心理学的諸問題に関心を示し、主体的に学びを深める。
技術・表現の観点 (A)	聴覚障害の特性に配慮した指導ができるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	聴覚障害の定義と特質	聴覚障害の定義・原因・分類について学ぶ。	これまでの経験をもとに、聴覚障害とはどんな障害かを考えておくこと	60分
第2回	聴覚障害児の支援と教育の場	聴覚障害児は、どのような場で学び、どのような支援を受けているかを理解する。	学校教育の制度の概要について学んでおく	60分
第3回	特別支援学校(聴覚障害)の教育課程	聴覚障害児の言語指導や児童生徒の各教科等の教育課程の現状と課題について、体験的に学ぶ。	聴覚障害教育の制度の概要を配布プリントで予習しておく	60分
第4回	音や音声の聴取に関する生理と補償	聴覚障害の原因や分類を理解し、聴覚補聴のための聴力検査、補聴器、人工内耳及び集団補聴システムについて学ぶ。	聴覚の生理・病理に関する基礎的な事項を復習しておく	60分
第5回	聴覚障害と多様なコミュニケーション	聴覚口話法やキュード法、手話などの多様なコミュニケーション方法について体験的に学ぶ	手話について情報を得たり、考えたりしておく	60分
第6回	言語と指導	聴覚障害児に対する発音指導や聴覚活用の指導方法を学ぶ	幼児のことばの獲得について基礎的な事項を学んでおく	120分

第7回	聴覚障害教育における教科指導と自立活動	聴覚障害児一人一人に応じた授業の実際について、具体的な場面をDVDで見ながら学び考える。	学校教育の基本的な教育課程について予習しておく	60分
第8回	聴覚障害教育の歴史	世界及び日本の聴覚障害教育の歴史について学び、コミュニケーション指導の考え方の変遷から、現在の聴覚障害教育の在り方を考える。	世界及び日本の聴覚障害教育の歴史について学び、コミュニケーション指導の考え方の変遷から、現在の聴覚障害教育の在り方を考える。	120分

学生へのフィードバック方法 実施した小テストは、終了後に答え合わせをする。不明な点等は、講義の最初に質問すること。

評価方法

- ・2日間の集中講義となるため、小テストは各日の最後に行い、すべて穴埋め方式で出題する。解答は授業にて解説する。
- ・定期試験は、100点満点で出題し、記述問題によって、応用的な思考力や判断力を確認する。
- ・小テスト及び定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○		
定期試験	○	○		

評価割合 小テスト (30%) 及び定期試験 (70%) で評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) なし (自作テキストを活用する)

参考図書

1. 聴覚障害教育の基本と実際 (2008) 中野 善達・根本 匡文 田研出版
2. 聴覚障害児の言語指導—実践のための基礎知識 (2011) 我妻 敏博 田研出版
3. リテラシーと聴覚障害 (2009) 四日市章 コレール社
4. 特別支援学校学習指導要領・解説 文部科学省

URL: 就学支援資料: 文部科学省

参考URL http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250.htm

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】聴覚障害児に対する適切な教育を行うことのできる専門的な知識を有している。
【思考・判断】自ら様々な課題に柔軟に対応し、保護者等と協働しながら、「共に育つ」ことのできる想像力・コミュニケーション能力・感性が備わっている。

学生へのメッセージ 聴覚障害は、見た目には分からない障害である。そのため、聴覚障害の障害特性を理解した指導の在り方を学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、聴覚障害特別支援学校の教員及び校長としての実務経験を有しており、具体的な授業実践例を挙げた講義を行うことができる。また、東京都教育委員会の指導主事、主任指導主事として、障害のある児童・生徒の就学相談に携わっていたことから、保護者の心情を理解した講義を行うことができる。
アクティブ・ラーニング	○	グループを組んで、課題に対するディスカッションやワークを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	重複障害の理解と支援		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 阿尾 有朋	指定なし

ナンバリング	P30401M21
授業概要(教育目的)	障害が重複することによる独自の困難さを理解し、個別のニーズに基づいた指導法について受講者自らが考え、理解することを目的とする。授業においては、学習指導案及び教材の作成を体験する。資料の配付は行わないため、記録のためのノートを準備しておくこと。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	学習目標(到達目標)
知識・理解の観点 (K)	重複障害に関する基本的知識を理解している。
思考・判断の観点 (K)	障害が重複することによる生活や学習上の困難さを説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	学習指導案や教材の作成に関して、他学生と共同して積極的に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	学習指導案や教材が事例のニーズに沿った内容となっている。

学習計画

重複障害の理解と支援

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション、重複障害について学ぶということ	オリエンテーションとして、年間の授業計画及び学習目標を提示する。学修にあたり、障害が重複することのイメージを持てるように関係するビデオ教材を視聴する。	授業にあたりノートを準備しておく。「重複障害」という言葉から自身が持つイメージについてノートに書いておくこと。	120分
第2回	重複障害児を取り巻く現状(歴史を含む)	重度・重複障害の子どもや大人を取り巻く社会環境や国の施策等について、歴史的経過をたどる。さらに、現代的課題を統計資料をもとに解説する。	相模原事件のYouTube動画を視聴しておくこと。 https://www.youtube.com/watch?v=4rQMkH2LOXs	120分
第3回	重複障害の困難さ(盲ろう二重障害)	盲ろう二重障害の原因、状態像、生活上や学習上の困難さについて解説する。また、発達や学習を促進するための取り組みについてビデオ教材を用いて紹介する。	「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編」の第2章第8節「重複障害者等に関する教育課程の取扱い」に目を通しておくこと。	120分
第4回	重複障害の困難さ(強度行動障害)	重度の知的障害や発達障害、あるいはその重複する子どもにみられる強度行動障害について解説するとともに、それへの対応について事例をもとに紹介する。	「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編」の第3章「自立活動の意義と指導の基本」に目を通しておくこと。	240分

第5回	重複障害の困難さ（重症心身障害）	重度の知的障害と肢体不自由が重複する重症心身障害について、原因、状態像、生活上や学習上の困難さについて解説する。併せて、医療的ケアを要する重症心身障害児についても解説する。	「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編」の第6章1と2「健康の保持」及び「心理的な安定」に目を通しておくこと。	120分
第6回	重複障害者の世界を体験しよう	アイマスクとイヤーマフを使い、盲ろう二重障害の人の世界を疑似体験する。体験から、環境を把握し、移動することの困難さを整理する。	「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編」の第6章3と4「人間関係の形成」及び「環境の把握」に目を通しておくこと。	120分
第7回	重複障害者とのコミュニケーション	重症心身障害児と教員役に分かれて、コミュニケーションの疑似体験を行う。体験から、コミュニケーションをとるこの難しさとともに、その本質について学ぶ。	「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編」の第6章5と6「身体の動き」及び「コミュニケーション」に目を通しておくこと。	120分
第8回	重複障害の教育課程：自立活動	学習指導要領に示される、重複障害者等の教育課程の特例について学ぶ。なかでも、自立活動主体の課程について、自立活動の項目に分けて解説する。	「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編」の第7章1～2「個別の指導計画の作成」「個別の指導計画の作成手順」に目を通しておくこと。	240分
第9回	ICT機器を活用した指導	ICT機器を活用した指導について体験的に学ぶ。タブレット端末や様々なセンサースイッチを実際に使い、そこから重複障害の子どもへの指導の有効性について考える。	「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編」の第7章3～5「他領域・教科等との関連」「指導方法の創意工夫」「自立活動を主とした指導」に目を通しておくこと。	120分
第10回	個別の教育支援計画と個別の指導計画	重複障害における関係機関との連携に焦点化した個別の教育支援計画、障害の特性に応じた個別の指導計画の作成と活用について、学習指導要領に示される事項を基本として学ぶ。	「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編」の第7章6～8「教師の協力体制」「専門の医師等との連携協力」「個別の教育支援計画等の活用」に目を通しておくこと。	120分
第11回	個別の指導計画の作成	仮想事例をもとに個別の指導計画を作成する。作成した個別の指導計画は、第12回以降に作成する学習指導案のベースとする。受講人数により、個人またはグループでの作成を決定する。	授業内に作成できなかった計画について、時間外に取り組んでおくこと。	120分
第12回	学習指導案の作成(1)	作成した個別の指導計画をベースとして、学習指導案を作成する。学習指導案は都立特別支援学校の様式に基づき作成する。	授業内に作成できなかった計画について、時間外に取り組んでおくこと。	120分
第13回	学習指導案の作成(2)	作成した個別の指導計画をベースとして、学習指導案を作成する。学習指導案は都立特別支援学校の様式に基づき作成する。併せて使用教材を作成する。	授業内に作成できなかった指導案について、時間外に取り組んでおくこと。	240分
第14回	学習指導案の作成(3)	作成した個別の指導計画をベースとして、学習指導案を作成する。学習指導案は都立特別支援学校の様式に基づき作成する。併せて使用教材を作成する。	作成した個別の指導計画をベースとして、学習指導案を作成する。学習指導案は都立特別支援学校の様式に基づき作成する。併せて使用教材を作成する。	120分
第15回	学習指導案の発表	作成した学習指導案を発表する。発表された指導案について、受講者間で意見交換する。	授業後に、再度、学習指導要領について目を通し、授業内容の復習をすること。	240分、420分

学生へのフィードバック方法	・小テストについては、次回の授業の最初に解説する。
評価方法	・毎回の授業後に実施する小テスト（またはリフレクションペーパー）の内容、定期試験、作成した学習指導案、授業態度により評価する。 ・学外実習等の止むを得ない事情により欠席した場合には、個別の欠席課題等により評価を行う。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業・疑似体験		○	○	
小テスト・リフレクションペーパー	○	○	○	
学習指導案	○	○	○	○
定期試験	○	○		

評価割合	小テスト（またはリフレクションペーパー）の内容（10%）、学習指導案（30%）、定期試験（50%）、授業態度（10%）
------	---

使用教科書名 (ISBN番号)	「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）」（文部科学省、
-----------------	---

	ISBN:4304042297) 「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）」（文部科学省、ISBN:4304042319)	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】障害が重複する子どもの専門的、基礎的知識が修得できている。 【思考・判断】障害が重複することによる独自の困難さが理解できている。 【関心・意欲・態度】学習指導案や教材等の作成に熱心に取り組んでいる。 【技術・表現】仮想事例のニーズに沿った学習指導案や教材を作成できている。	
オフィスアワー	水曜2限（1605研究室）	
学生へのメッセージ	障害が重複することは「1+1」ではありません。独自の生活上、学習上の困難さがあります。また、個人による多様性も重複障害の特徴です。こうした事柄について理解し、多様な子ども理解に繋げて欲しいと思います。	
教育等の取組み状況		
	該当有 無	概要
実務経験を活かし た授業	○	担当教員は、重度・重複障害者の入所及び通所施設にて、利用者への直接的支援並びに家族支援の実務経験を有しており、重複障害者の独自の困難さや支援の経験に基づいた教授ができる。
アクティブ・ラー ニング	○	疑似的な体験を行ったり、学習指導案や教材を作成する機会を設けたりして、主体的な学修を進める。
情報リテラシー教 育		
ICT活用	○	特別支援教育の現場で活用されるICT機器を体験する授業を行う。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	保育原理		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 和田 美香	指定なし

ナンバリング	P10003M21
授業概要(教育目的)	保育とは何か、保育の理念と概念、社会的役割や制度的位置づけ、保育の原理と方法など、保育を行う上で基本となる知識、考え方を伝える。これまでの日本、諸外国における保育の歴史を理解し、我が国の保育の特色と現状、課題を把握できるようにする。子育て支援、小学校教育との接続のあり方、子ども・子育て新制度などを取りあげ、理解を深めるようにする。また、保育実践の基礎となる子ども観、保育観、発達観について、学生自身のもつそれらを確かめ、授業を進める中でその多様性や専門家である保育者との違いに気がつくようにする。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	保育の意義や保育所保育指針・幼稚園教育要領における保育の基本について理解する。
思考・判断の観点 (K)	保育の思想と歴史的変遷について学習しながら、それぞれの保育観、子ども観を考えていく。
関心・意欲・態度の観点 (V)	保育の内容と方法の基本について関心をもって取り組む。
技術・表現の観点 (A)	保育内容について技術的な面も含め習得する。

学習計画

保育原理

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	幼児教育・保育の概念と意義	幼児教育・保育の基本的概念、理念にはどのようなものがあるのか理解する。	授業で使用したワークシートなどをもとに、保育の概念や意義を復習する。	60分
第2回	西洋における保育思想の歴史	西洋における保育思想の歴史を理解し、どのような歴史的変遷があったのかを学ぶ。	授業で使用したワークシートなどをもとに、保育の西洋の歴史を復習する。その際、授業で取り扱わなかった人物についても調べておく。	60分
第3回	日本の保育思想と歴史	日本の保育思想と歴史について、年代を追って理解する。	授業で使用したワークシートなどをもとに、日本の保育思想と歴史について復習する。その際、授業で取り扱わなかった人物についても調べておく。	60分
第4回	保育ニーズ	保育ニーズの拡大と保育制度の整備について、現代的課	保育ニーズの拡大と保育制度の	60分

	の拡大と保育制度の整備	題と絡めながら理解する。	整備について、身近な事例を取り上げて考察する。	
第5回	新たな保育制度の始まり（認定子ども園、子ども・子育て支援新制度）	新たな保育制度の始まりについて理解する。	認定子ども園や子ども子育て支援新制度について整理する。	60分
第6回	保育所保育と幼稚園教育の実際	保育所保育と幼稚園教育の実際について、共通点と相違点を指針と要領で確認しながら理解する。	授業で使用したワークシートなどをもとに、保育所保育と幼稚園教育の実際について復習する。	60分
第7回	保育の内容	保育の内容について乳児保育の3つの視点や5領域、10の姿の視点も含めて理解する。	授業で使用したワークシートなどをもとに保育の方法や形態について復習する。	60分
第8回	保育の計画と記録・評価	前回の保育の内容と関連付けながら、保育の計画と記録・評価について理解する。	保育の計画と記録について要点をまとめ、復習する。	60分
第9回	保育の方法	方法や形態について具体的事例をもとに学ぶ。	授業で使用したワークシートなどをもとに、保育の方法や形態について復習する。	60分
第10回	保育者の職務	保育者の職務について、具体的な事例をもとに理解する。 保育士の倫理綱領についても触れる。	保育士の倫理綱領については、具体的な事例をあげながら復習する。	60分
第11回	園と家庭との連携、地域との連携	園と家庭との連携、地域との連携にはどのようなものがあるのか理解する。	授業で使用したワークシートなどをもとに、園と家庭との連携、地域との連携について復習する。 地域の広報などにも関心を持ち、身近な事例をもとにその実際を調べ学習する。	60分
第12回	子育てに関する相談・援助	子育てに関する相談・援助があるのか理解する。 保育園の子育て機能について知る。	授業で使用したワークシートなどをもとに、保育園の子育て機能について理解を深める。 さらに、興味がある人は、地域の子育て支援センターなどに行き、そのニーズを知る。	60分
第13回	多様な保育ニーズ	多様な保育ニーズにはどのようなものがあるのか理解する。 その際、保育における現代的課題と関連付けて考える。	多様な子育てニーズについて、新聞やインターネットなどで調べ学習を行う。	60分
第14回	今日の保育問題（現在の保育環境、待機児童問題、気になる子ども）	今日の保育問題（現在の保育環境、待機児童問題、気になる子ども）について、事例を中心に学ぶ。	授業で扱った事例をもとに、新聞やインターネットなどで調べ学習を行う。	60分
第15回	今日の保育問題（保幼小連携、外国籍の子ども、経済的に困窮している家庭の子ども）	今日の保育問題（保幼小連携、外国籍の子ども、経済的に困窮している家庭の子ども）にはどのようなものがあるのか理解する。 具体的事例を中心に学ぶ。	授業で扱った事例をもとに、新聞やインターネットなどで調べ学習を行う。	60分

学習計画注記	原則講義形式で行うが、DVD視聴、ワーク、ディスカッション等も取り入れる。
学生へのフィードバック方法	提出物については、添削して返却する。
評価方法	平常点20%、定期試験80%で評価する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点		○	○	○
定期試験	○			

評価割合	定期試験（80%）、平常点（20%）	
使用教科書名（ISBN番号）	保育の質を高める保育原理（大学図書出版）	
参考図書	保育所保育指針（厚生労働省）、幼稚園教育要領（文部科学省） 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】保育の意義や保育所保育指針・幼稚園教育要領における保育の基本について理解する。 【思考・判断】保育の思想と歴史的変遷について学習しながら、それぞれの保育観、子ども観を考えていく。 【関心・意欲・態度】保育の内容と方法の基本について関心をもって取り組む。 【技能・表現】保育内容について技術的な面も含め習得する。	
オフィスアワー	月曜2限から4限	
学生へのメッセージ	保育所保育指針、幼稚園教育要領、教育・保育要領の内容がわかるものを用意してください。 毎回予習復習をし、理解が十分でなかった点については質問をするか、自分で調べて確認しておいてください。 保育の基本を理解する重要な科目です。積極的に参加することを期待します。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は保育所等の実務経験を有しており、子どもと関わるうえで必要な資質・能力について実務経験に基づいて教授を行う。
アクティブ・ラーニング	○	発表などを通して、講義形式の中にもアクティブラーニングの要素を取り入れる。
情報リテラシー教育	○	調べ学習で情報を収集する際、その情報の発信元や発信の目的などに目を向けて、信憑性のある情報か否かを判断する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	子どもの理解と援助		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 丹羽 さがの	指定なし

ナンバリング	P10102M12
授業概要(教育目的)	子ども理解が「保育の出発点」であることを理解できるようにする。幼稚園、子ども園、保育所における乳幼児の生活や遊びの実態に即して、乳幼児の発達及びその過程で生じるつまづき、その要因を把握するための原理を理解し、対応の方法を考えられるようにする。幼児理解が幼児教育のあらゆる営みの基本となることを理解できるようにする。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	・子ども理解が保育の出発点であるという意味を説明できる
思考・判断の観点 (K)	・乳幼児の発達過程で生じるつまづきとその要因を把握するための原理を理解し対応の方法を考えられる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・子どもの発達をめぐる課題、問題に関心をもって取り組み、保育現場における援助の方法を提案できる
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション・幼児教育における幼児理解の意義	幼児理解と指導案作成・保育実践・評価との関係を学ぶ	〔予習〕テキスト第1章②、④(p.15-23, p.30-42)を読み、子どもの発達の把握と保育の振り返り・評価の概要を理解する 〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。	180分
第2回	乳幼児理解における発達の把握	発達段階と発達過程、個人差への配慮を学ぶ	〔予習〕テキスト第1章②(p.15-23)を読み、発達段階と発達過程、発達を捉えるツールとしての発達検査の概要を捉える。乳幼児期にどのような個人差が見られるか考え、必要な配慮点について考える。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。	180分
第3回	乳幼児の学びの課程を	乳幼児が遊び、生活の中で何を学び、身に付けているのかを読み取る	〔予習〕テキスト第2章(p.51-89)を読み、乳幼児期	180分

	捉える視点		の遊び・生活を通じた学びの概観をつかむ。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。	
第4回	乳幼児の学びを支える保育者	保育者の受容的姿勢、乳幼児と保育者の信頼関係の重要性	〔予習〕テキスト第2章①(p. 51-58)を読み、人的環境としての保育者、乳幼児の学びを支える存在としての保育者の役割について理解する。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。	180分
第5回	いざごさから学ぶこと	いざごさ場面の事例から、個の育ちと集団の育ちを読み取る	〔予習〕テキスト第2章②(p. 59-78)を読み、いざごさが育ちにつながる体験となること、そのために必要な援助について理解する。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。	180分
第6回	仲間関係の事例からつまずきの要因を学ぶ	仲間関係におけるつまずきの事例から、子ども同士の関係性その他の要因を考える	〔予習〕事前配布プリントを読み、仲間関係におけるつまずきの要因について考える。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキスト・授業資料を読み考える。	180分
第7回	観察・記録の方法と分析・考察の視点	乳幼児の発達や学びを捉える観察及び記録の方法を学ぶ	〔予習〕テキスト第2章③(p. 24-29)を読み、保育の観察と記録の方法を理解する。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキスト・授業資料を読み考える。	180分
第8回	観察・記録の実際	乳幼児の遊び場面を観察し、記録する	〔予習〕前回授業で学んだ観察・記録のポイントを復習する。〔復習〕授業中に学んだ観察記録のポイントに沿って記録をまとめ考察する。	180分
第9回	観察記録と考察の発表とディスカッション	各自の記録と考察をグループ内で発表し協議することを通して多様な見方・考え方に気付く	〔予習〕観察記録と考察を、グループ発表できる形にまとめる。〔復習〕グループ内での話し合いで得られた気づきを小レポートにまとめる	180分
第10回	観察・記録からの乳幼児理解と学びの読み取り(1)	学びのつながり、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について学ぶ	〔予習〕テキスト第1章①、第3章③(p. 1-14, p. 111-122)を読み、乳幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、発達と学びの連続性について概観をつかむ。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキスト・授業資料を読み考える。	180分
第11回	観察・記録からの入用理解と学びの読み取り(2)	観察記録から読み取った子どもの姿から指導案を考える	〔予習〕事前配布プリントをよみ、指導案の構成、作成について理解する。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキスト・授業資料を読み考える。	180分
第12回	子育てに関わる現代的課題の特徴	統計資料や事例から子育て支援の課題を捉える	〔予習〕テキスト第4章①(p. 123-130)を読み、乳幼児をもつ家族の現状を把握する。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキスト・授業資料を読み考える。	180分
第13回	子育て支援に生かすカウンセリング技法	カウンセリングの基本的な姿勢と技法を学ぶ	〔予習〕テキスト第4章④(p. 149-156)を読み、子育て支援に生かすカウンセリングの基本的姿勢と技法の概観を捉える。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキスト・授業資料を読み考える。	180分
第14回	ロールプレイで子育て相談を体験する	保護者の心情を理解し、保育者に求められる対応・支援の方法を学ぶ	〔予習〕テキスト第4章①②③(p. 123-148)を読み、乳幼児をもつ保護者の心情、保育者に求められる対応・支援について知る。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキストを読み考える。	180分

第15回	園内の支援体制の整備・家庭や地域との連携	園内の協力体制，地域の専門機関等との連携について学ぶ	〔予習〕事前配布プリントを読み，園内の協力体制作り，地域の専門機関等との連携について知る。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。	180分																									
学生へのフィードバック方法	コミュニケーション・カードに下線and/orコメント付きで返却する。多かった質問・疑問については次回授業冒頭で解説する。また特によかったコメントについては次回授業冒頭で紹介する。それ以外の質問がある場合は1626研究室まで訪問すること。																												
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点は学びに向かう姿勢，意欲，理解度をコミュニケーション・カードの記入状況，内容から評価する。中間レポートは観察記録と考察，グループディスカッションを通しての気づきをまとめたものとし，理解度・観察記録技術・考察，気づきの深さを評価する。最終レポート課題では，多角的な視点から子どもの育ちを理解する視点，子ども理解に基づき具体的な援助を考える力等，授業の到達目標に基づき評価する。 ・平常点，中間レポート，最終レポートは，下表に示す力を養うことを目的に実施する。 																												
評価基準	<p>評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平常点</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>中間レポート</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>最終レポート</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	平常点	○	○	○		中間レポート		○	○	○	最終レポート		○							
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																									
平常点	○	○	○																										
中間レポート		○	○	○																									
最終レポート		○																											
評価割合	平常点 (30%)，中間レポート(30%)，最終レポート (40%) で評価する。																												
使用教科書名 (ISBN番号)	子どもの理解と援助—子どもの育ち・学びをとらえて支える—/光生館，無藤隆・掘越紀香・古賀松香・丹羽さかの (編著)，978-4-332-70195-8																												
参考図書	授業中に適宜指示する。																												
ディプロマポリシーとの関連	【思考・判断】子どもの心身の発達についての知識を基に教育・保育実践の現場で出会う様々な課題に柔軟に対応できる力を身に付けている。【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心をもって取り組み，子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。子どもの視点に立ち，子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身に付けている。																												
オフィスアワー	水曜日 2限 1626研究室																												
学生へのメッセージ	前期の発達心理学で学んだ知識を基に，子どもを理解しその育ちを援助する方法について学びます。前期のテキスト，授業資料も手元に置いて，必要に応じて見返ししながら受講してください。保育・教育現場での実践につながる内容です。授業，ワーク，課題へ積極的に参加するとともに，理論と実践を結びつけながら，自ら考える姿勢を期待します。																												
教育等の取組み状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>小グループでのディスカッションを取り入れる</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング	○	小グループでのディスカッションを取り入れる	情報リテラシー教育			ICT活用												
	該当有無	概要																											
実務経験を活かした授業																													
アクティブ・ラーニング	○	小グループでのディスカッションを取り入れる																											
情報リテラシー教育																													
ICT活用																													

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	乳児保育 I		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	1 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 柳瀬 洋美	指定なし
准教授	和田 美香	指定なし

ナンバリング	P10201M21			
授業概要(教育目的)	テキストや保育所保育指針等を手掛かりとして「乳児保育の基本となる考え方」について理解を深める。乳児保育に関する歴史的変遷も踏まえながら、保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状を知る。さらに3歳未満児の発達と生活について知る。 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解し、豊かな保育内容を探求するための基盤づくりをする。			
履修条件	特になし。 なお、本科目は保育士必修科目である。			
学習目標(到達目標)	学習目標 (到達目標)			
知識・理解の観点 (K)	1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解し説明できる。 2. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解し説明できる。			
思考・判断の観点 (K)	1. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 2. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。			
関心・意欲・態度の観点 (V)				
技術・表現の観点 (A)				
学習計画	学習計画			
回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	乳児保育の意義・目的と歴史的変遷	乳児保育の意義と目的、歴史的変遷について知る。	教科書第1章を読んでおく。	120分
第2回	乳児保育の役割と機能	乳児保育が果たす役割の機能について理解する。	教科書第1章を読んでおく。	120分
第3回	乳児保育における養護及び教育	乳児保育における養護と教育について、日本の現状を知り、今後の展開について考える。	児童養護と教育の観点から、自分でもメディア等でニュースを調べてみる。	120分
第4回	乳児保育及	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状	教科書第3章、第7章をよく読む	120分

	び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題	況と課題について、最新のデータを踏まえながら、事例等を通して理解を深める。	でよく。 メディア等、乳児保育や子育て支援家庭に関する社会の動向に興味・関心をもって自分でも調べてみる。	
第5回	保育所における乳児保育	保育所における乳児保育の基本について保育所保育指針をもとに理解する。	教科書第3章を読んでおく。	120分
第6回	保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育	保育所以外の児童福祉施設について知り、その役割や機能、そこに入所している（利用している）乳児の生活や実状について知る。	教科書第9章 § 5「乳児院」について読んでおく。	120分
第7回	家庭的保育等における乳児保育	家庭的保育とは何か、その意義と現状について知る。	教科書第9章 § 3 在宅保育についてよく読んでおくほか、今住んでいる地域の資源について調べてみる。	120分
第8回	3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場	3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場として、保育所や認定こども園のほか、在宅保育や乳児院、子育て支援センター等のさまざまな社会資源について知る。	教科書第9章を読んでおく。	120分
第9回	3歳未満児の生活と環境	3歳未満児の生活と環境のうち、日課や保育室内外の環境について知る。	教科書第2章 § 1「日課」、§ 7「子どもの居る場所」、第4章についてよく読んでおく。	120分
第10回	3歳未満児の遊びと環境	3歳未満児の遊びと環境のうち、遊びを取り上げ、発達等の観点から理解する。	教科書第2章 § 2「遊ぶ」読んでおく。	120分
第11回	3歳以上児の保育に移行する時期の保育	3歳未満児から3歳以上児の保育について、その概要と基本となる考えについて理解する。	教科書の第5章、第7章についてよく読んでおく。	120分
第12回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮および保育士等による援助や関わり	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮および保育士等による援助や関わりについて、実践例をもとに理解を深める。	教科書第5章、第6章をよく読んでおく。	120分
第13回	乳児保育における計画・記録・評価とその意義	乳児保育において、子どもたちの生活を支える上で重要な保育計画・記録・評価のあり方について学び、その意義について理解する。	教科書第5章を読んでおく。	120分
第14回	乳児保育における連携・協働①（職員間および保護者との連携・協働）	乳児保育現場における、保育者間の連携・協働や家庭との連携・協働のあり方について学ぶ。	教科書第3章、第6章を読んでおく	120分
第15回	乳児保育における連携・協働②（自治体や地域の関係機関との連携・協働）・まとめ	乳児保育の現場でどのような関係機関とどのように連携・協働しているのかについて学ぶ。	自分が住んでいる地域の乳児期を支援する関係機関や事業について調べる。	120分

学習計画注記 ※ 授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法 授業内で出す課題やリアクションペーパーへのコメントを通じて、学生の疑問や質問へのフィードバックを行うていく。また

評価方法 ・試験はテキストと必要に応じて配布する資料の中から出題する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○	○	

授業内課題			○	
評価割合	試験60%、提出物（授業内課題等）30%、平常点10%			
使用教科書名（ISBN番号）	演習乳児保育の基本（978-4-89347-125-3）阿部和子編（萌文書林）			
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解し説明できる。また、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解し説明できる。</p> <p>【思考・判断】保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について把握できている。乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について考えることができる。</p>			
オフィスアワー	水曜5時限 1619研究室			
学生へのメッセージ	日頃より、本授業の対象年齢である0～3歳児を意識し、身の回りや社会の状況に興味・関心をもって授業に臨んでください。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	担当教員2名のうち1名は障害児療育センターや子育て支援センターにおいて長年の臨床経験を有しており、家庭的保育以外にも施設での乳児保育等の実際についてもよく知っている。またもう1名は保育士として保育現場での実務経験を有する。		
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	乳児保育Ⅱ (PA)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 柳瀬 洋美	指定なし
准教授	和田 美香	指定なし

ナンバリング

P10202M12

授業概要(教育目的)

保育とは何か、保育の理念と概念、社会的役割や制度的位置づけ、保育の原理と方法など、保育を行う上で基本となる知識、考え方を学ぶ。これまでの日本、諸外国における保育の歴史を学び、我が国の保育の特色と現状、課題を把握する。特に、子育て支援、小学校教育との接続のあり方、子ども・子育て新制度などを取りあげ、理解を深める。また、保育実践の基礎となる子ども観、保育観、発達観について学生自身のもつそれらを確認、その多様性や専門家である保育者との違いに気がつく。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	保育の意義や保育所保育指針・幼稚園教育要領における保育の基本について理解する。
思考・判断の観点 (K)	保育の思想と歴史的変遷について学習しながら、それぞれの保育観、子ども観を考えていく。
関心・意欲・態度の観点 (V)	保育の内容と方法の基本について関心をもって取り組む。
技術・表現の観点 (A)	保育内容について技術的な面も含め習得する。

学習計画

保育原理

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	幼児教育・保育の概念と意義	幼児教育・保育の基本的概念、理念にはどのようなものがあるのか理解する。	授業で使用したワークシートなどをもとに、保育の概念や意義を復習する。	60分
第2回	西洋における保育思想の歴史	西洋における保育思想の歴史を理解し、どのような歴史的変遷があったのかを学ぶ。	授業で使用したワークシートなどをもとに、保育の西洋の歴史を復習する。その際、授業で取り扱わなかった人物についても調べておく。	60分
第3回	日本の保育思想と歴史	日本の保育思想と歴史について、年代を追って理解する。	授業で使用したワークシートなどをもとに、日本の保育思想と歴史について復習する。その際、授業で取り扱わなかった人物についても調べておく。	60分
第4回	保育ニーズ	保育ニーズの拡大と保育制度の整備について、現代的課	保育ニーズの拡大と保育制度の	60分

	の拡大と保育制度の整備	題と絡めながら理解する。	整備について、身近な事例を取り上げて考察する。	
第5回	新たな保育制度の始まり（認定子ども園、子ども・子育て支援新制度）	新たな保育制度の始まりについて理解する。	認定子ども園や子ども子育て支援新制度について整理する。	60分
第6回	保育所保育と幼稚園教育の実際	保育所保育と幼稚園教育の実際について、共通点と相違点を指針と要領で確認しながら理解する。	授業で使用したワークシートなどをもとに、保育所保育と幼稚園教育の実際について復習する。	60分
第7回	保育の内容	保育の内容について乳児保育の3つの視点や5領域、10の姿の視点も含めて理解する。	授業で使用したワークシートなどをもとに保育の方法や形態について復習する。	60分
第8回	保育の計画と記録・評価	前回の保育の内容と関連付けながら、保育の計画と記録・評価について理解する。	保育の計画と記録について要点をまとめ、復習する。	60分
第9回	保育の方法	方法や形態について具体的事例をもとに学ぶ。	授業で使用したワークシートなどをもとに、保育の方法や形態について復習する。	60分
第10回	保育者の職務	保育者の職務について、具体的な事例をもとに理解する。 保育士の倫理綱領についても触れる。	保育士の倫理綱領については、具体的な事例をあげながら復習する。	60分
第11回	園と家庭との連携、地域との連携	園と家庭との連携、地域との連携にはどのようなものがあるのか理解する。	授業で使用したワークシートなどをもとに、園と家庭との連携、地域との連携について復習する。 地域の広報などにも関心を持ち、身近な事例をもとにその実際を調べ学習する。	60分
第12回	子育てに関する相談・援助	子育てに関する相談・援助があるのか理解する。 保育園の子育て機能について知る。	授業で使用したワークシートなどをもとに、保育園の子育て機能について理解を深める。 さらに、興味がある人は、地域の子育て支援センターなどに行き、そのニーズを知る。	60分
第13回	多様な保育ニーズ	多様な保育ニーズにはどのようなものがあるのか理解する。 その際、保育における現代的課題と関連付けて考える。	多様な子育てニーズについて、新聞やインターネットなどで調べ学習を行う。	60分
第14回	今日の保育問題（現在の保育環境、待機児童問題、気になる子ども）	今日の保育問題（現在の保育環境、待機児童問題、気になる子ども）について、事例を中心に学ぶ。	授業で扱った事例をもとに、新聞やインターネットなどで調べ学習を行う。	60分
第15回	今日の保育問題（保幼小連携、外国籍の子ども、経済的に困窮している家庭の子ども）	今日の保育問題（保幼小連携、外国籍の子ども、経済的に困窮している家庭の子ども）にはどのようなものがあるのか理解する。 具体的事例を中心に学ぶ。	授業で扱った事例をもとに、新聞やインターネットなどで調べ学習を行う。	60分

学生へのフィードバック方法 原則講義形式で行うが、DVD視聴、ワーク、ディスカッション等も取り入れる。
提出物については、添削して返却する。

評価方法 平常点20%、定期試験80%で評価する。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点		○	○	○
定期試験	○			

評価割合	定期試験（80%）、平常点（20%）	
使用教科書名（ISBN番号）	保育の質を高める保育原理（大学図書出版）	
参考図書	保育所保育指針（厚生労働省）、幼稚園教育要領（文部科学省） 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 保育の意義や保育所保育指針・幼稚園教育要領における保育の基本について理解する。 【思考・判断】 保育の思想と歴史的変遷について学習しながら、それぞれの保育観、子ども観を考えていく。 【関心・意欲・態度】 保育の内容と方法の基本について関心をもって取り組む。 【技能・表現】 保育内容について技術的な面も含め習得する。	
オフィスアワー	月曜2限から4限	
学生へのメッセージ	保育所保育指針、幼稚園教育要領、教育・保育要領の内容がわかるものを用意してください。 毎回予習復習をし、理解が十分でなかった点については質問をするか、自分で調べて確認しておいてください。 保育の基本を理解する重要な科目です。積極的に参加することを期待します。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は保育所等の実務経験を有しており、子どもと関わるうえで必要な資質・能力について実務経験に基づいて教授を行う。
アクティブ・ラーニング	○	発表などを通して、講義形式の中にもアクティブラーニングの要素を取り入れる。
情報リテラシー教育	○	調べ学習で情報を収集する際、その情報の発信元や発信の目的などに目を向けて、信憑性のある情報が否かを判断する。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	外国語科教育		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 畝部 典子	指定なし

ナンバリング	P10304M21
授業概要(教育目的)	小学校の外国語活動・外国語科の指導に必要な第二言語習得理論、小学校教員に必要な英語四技能、マザーグース、異文化理解・国際理解教育など、外国語教育に必要な知識を学ぶ。
履修条件	なし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	外国語活動・外国語科の授業実践に必要な基本的英語運用力が身についている。
思考・判断の観点 (K)	外国語(英語)を指導する授業の在り方について自ら思考し、判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的に英語運用力の向上に努め、第二言語習得理論、英米の児童文化、異文化理解・国際理解教育などについて興味関心を持って学ぶことができる。
技術・表現の観点 (A)	基本的な英文法、英語音声の調音方法、英語の四技能について学ぶことができる。

学習計画

外国語科教育

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	学習指導要領外国語活動および外国語科の理解	学習指導要領外国語活動および外国語科の内容を学習する。	学習指導要領外国語活動および外国語科を読んでおく。	120分
第2回	第二言語習得理論の理解(1)	児童期の第二言語の学びの特徴を理解する。	配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第3回	第二言語習得理論の理解(2)	児童期の第二言語の学びの特徴を理解する。	配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第4回	英語音声の理解(1)	英語の発音・リズム・アクセントについて理解し、英文を適切に音読できるようになる。	配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第5回	英語音声の理解(2)	英語の発音・リズム・アクセントについて理解し、英文を適切に音読できるようになる。	配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第6回	英文法の理解(1)	小学校での外国語教育に必要な英文法について学習する。	配付されるプリントの内容を学習する。	120分

第7回	英文法の理解 (2)	小学校での外国語教育に必要な英文法について学習する。	配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第8回	話す英語のトレーニング (1)	クラスルーム・イングリッシュ、スモールトークなどについて学習する。	配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第9回	話す英語のトレーニング (2)	クラスルーム・イングリッシュ、スモールトークなどについて学習する。	配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第10回	英語技能の向上のために (1)	指導者としてリスニング・スピーキング・リーディング・ライティング能力を向上させるにはどうしたら良いか学習する。	配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第11回	英語技能の向上のために (2)	指導者としてリスニング・スピーキング・リーディング・ライティング能力を向上させるにはどうしたら良いか学習する。	配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第12回	マザーグースの知識 (1)	英米の伝承童謡 (マザーグース) について学習する。	配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第13回	マザーグースの知識 (2)	英米の伝承童謡 (マザーグース) について学習する。	配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第14回	異文化理解・国際理解教育の知識	外国語教育における異文化理解・国際理解教育について学習する。	配付されるプリントの内容を学習する。	120分
第15回	復習と期末試験	外国語教育において学習した内容に関して復習し、期末試験を実施する。	学習指導要領外国語活動および外国語科を熟読し、授業で学習したプリント教材を復習しておく。	120分

学習計画注記 履修者数、授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法 授業では随時小テストを行う。

評価方法 ・平常点 (授業中の実績) と試験の結果から判定する。
・授業中の実績には小テストの結果を含める。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
試験	○	○		○

評価割合 平常点 (50%)、試験50%

使用教科書名 (ISBN番号) 文部科学省 (2018) 小学校学習指導要領—平成29年告示 (東洋館出版社) 978-4-4910-3460-7

参考図書 別途指示する。

ディプロマポリシーとの関連
 【知識・理解】 児童学を構成する6領域を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識を修得した上で外国語を指導できる。
 【思考・判断】 子どもと直接ふれあひ学びあう実践的な機会を通して、学生自らがさまざまな課題に柔軟に対応できる。
 【関心・意欲・態度】 子どもたちの健全な成長・発達のために使命感を持って行動でき、子どもたちへの外国語の指導に意欲的に取り組むことができる。
 【技能・表現】 子どもの専門家として外国語を指導することができ、豊かな表現力・コミュニケーション能力を身につけている。

オフィスアワー 木曜2時限 1630研究室

学生へのメッセージ 学んだ知識や技能を実践的に活用できるように、常に訓練を怠らないようにしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラ	○	授業は学生が自分で考え、それを表現し、能動的に授業に参加することで進められる。

ーニング		
情報リテラシー 教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	インターンシップ		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 齋藤 義雄	指定なし

ナンバリング	P10307M23
授業概要(教育目的)	小学校・特別支援学校等の教育現場において、教師としての経験を積むために、インターンとして仕事の一部を体験する。教育現場でのインターンとしての活動では、学生ではなく教師としての言動が求められる。事前・事後の学習では、小学校・特別支援学校の別のコースに分かれて学習する。体験後、学んだことをレポートにまとめるとともに、成果報告会でのプレゼンテーションなどの振り返り（リフレクション）を通して、教育実習に生かすことはもとより、将来の職業選択・キャリア形成に資する力の育成を目指す。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	教職に関する知識を身につけ、教職について理解している。
思考・判断の観点 (K)	子ども、教育者などと直接ふれあい学び合う、具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教職に関する関心があり、教育現場で体験に意欲的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

インターンシップ

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	1 オリエンテーション・校種選択	インターンシップに関する概要を知り、小学校が特別支援学校かの参加する学校種を明らかにする。小学校と特別支援学校とに分かれる。 小学校：インターンシップの意義と目的 特別支援学校：インターンシップの意義と目的・心構え、勤務規律等	学校種について考え、変更がある場合は、直ちに連絡する。 インターンシップの意義と目的について確認する。	60分
第2回	2 インターンシップの概要、インターンシップ校の研究	小学校：インターンシップの概要について理解する。 特別支援学校：インターンシップ校の研究（学校目標、教育課程等）	小学校：インターンシップの概要について確認する。 特別支援学校：インターンシップ校について調べる。	60分
第3回	3 インターンシップの心得、	小学校：インターンシップの心得について理解する。 特別支援学校：知・肢・聴・視の障害特性、自閉症の特性等	小学校：インターンシップの心得について確認する。 特別支援学校：知・肢・聴・視	60分

	様々な障害の理解と支援		の障害特性、自閉症の特性について確認する。	
第4回	4 インターンシップ校の研究、特別支援学校の教育課程	小学校：インターンシップ校の研究（学校目標、教育課程等） 特別支援学校：校種ごとの特徴、教科・領域について等	小学校：インターンシップ校の研究（学校目標、教育課程等）について調べる。 特別支援学校：校種ごとの特徴、教科・領域について等について調べる。	60分
第5回	5 インターンシップ校の研究、自立活動の指導	小学校：インターンシップ校の研究（教育課程、日課表等） 特別支援学校：自立活動の6区分の内容、指導法	小学校：インターンシップ校の研究（教育課程、日課表等）について調べる。 特別支援学校：自立活動の6区分の内容、指導法について確認する。	60分
第6回	6 自己紹介文の書き方、知的障害特別支援学校小学部における国語算数指導	小学校：自己紹介文を書く 特別支援学校：知的障害特別支援学校小学部における国語算数指導（指導法、学習指導案、教育活動の理解）	小学校：自己紹介文を確認する。 特別支援学校：知的障害特別支援学校小学部における国語算数指導（指導法、学習指導案、教育活動の理解）について確認する。	60分
第7回	7 日誌の書き方、肢体不自由特別支援学校小学部における国語算数指導	小学校：日誌の書き方 特別支援学校：肢体不自由特別支援学校小学部における国語算数指導（指導法、学習指導案、教育活動の理解）	小学校：日誌の書き方を確認する。 特別支援学校：肢体不自由特別支援学校小学部における国語算数指導（指導法、学習指導案、教育活動の理解）を確認する。	60分
第8回	8 直前の最終確認、危機管理・アレルギー対策、日常生活の中での指導	小学校：直前の最終確認（インターンシップ日誌の書き方、心構え） 特別支援学校：危機管理・アレルギー対策、日常生活の中での指導	小学校：直前の最終確認（インターンシップ日誌の書き方、心構え）をする。 特別支援学校：危機管理・アレルギー対策、日常生活の中での指導を確認する。	60分
第9回	インターンシップ	インターンシップ（8時間×6日間）	インターンシップ（8時間×6日間）	
第10回	インターンシップ	インターンシップ（8時間×6日間）	インターンシップ（8時間×6日間）	
第11回	インターンシップ	インターンシップ（8時間×6日間）	インターンシップ（8時間×6日間）	
第12回	インターンシップ	インターンシップ（8時間×6日間）	インターンシップ（8時間×6日間）	
第13回	インターンシップ	インターンシップ（8時間×6日間）	インターンシップ（8時間×6日間）	
第14回	インターンシップ	インターンシップ（8時間×6日間）	インターンシップ（8時間×6日間）	
第15回	インターンシップ	インターンシップ（8時間×6日間）	インターンシップ（8時間×6日間）	
第16回	インターンシップ	インターンシップ（8時間×6日間）	インターンシップ（8時間×6日間）	
第17回	インターンシップ	インターンシップ（8時間×6日間）	インターンシップ（8時間×6日間）	
第18回	インターンシップ	インターンシップ（8時間×6日間）	インターンシップ（8時間×6日間）	
第19回	インターンシップ	インターンシップ（8時間×6日間）	インターンシップ（8時間×6日間）	
第20回	インターンシップ	インターンシップ（8時間×6日間）	インターンシップ（8時間×6日間）	
第21回	インターンシップ	インターンシップ（8時間×6日間）	インターンシップ（8時間×6日間）	
第22回	インターンシップ	インターンシップ（8時間×6日間）	インターンシップ（8時間×6日間）	
第23回	インターンシップ	インターンシップ（8時間×6日間）	インターンシップ（8時間×6日間）	
第24回	インターン	インターンシップ（8時間×6日間）	インターンシップ（8時間×6	

	シップ		日間)	
第25回	インターンシップ	インターンシップ (8時間×6日間)	インターンシップ (8時間×6日間)	
第26回	インターンシップ	インターンシップ (8時間×6日間)	インターンシップ (8時間×6日間)	
第27回	インターンシップ	インターンシップ (8時間×6日間)	インターンシップ (8時間×6日間)	
第28回	インターンシップ	インターンシップ (8時間×6日間)	インターンシップ (8時間×6日間)	
第29回	インターンシップ	インターンシップ (8時間×6日間)	インターンシップ (8時間×6日間)	
第30回	インターンシップ	インターンシップ (8時間×6日間)	インターンシップ (8時間×6日間)	
第31回	インターンシップ	インターンシップ (8時間×6日間)	インターンシップ (8時間×6日間)	
第32回	インターンシップ	インターンシップ (8時間×6日間)	インターンシップ (8時間×6日間)	
第33回	インターンシップ	インターンシップ (8時間×6日間)	インターンシップ (8時間×6日間)	
第34回	インターンシップ	インターンシップ (8時間×6日間)	インターンシップ (8時間×6日間)	
第35回	インターンシップ	インターンシップ (8時間×6日間)	インターンシップ (8時間×6日間)	
第36回	インターンシップ	インターンシップ (8時間×6日間)	インターンシップ (8時間×6日間)	
第37回	インターンシップ	インターンシップ (8時間×6日間)	インターンシップ (8時間×6日間)	
第38回	インターンシップ	インターンシップ (8時間×6日間)	インターンシップ (8時間×6日間)	
第39回	インターンシップ	インターンシップ (8時間×6日間)	インターンシップ (8時間×6日間)	
第40回	インターンシップ	インターンシップ (8時間×6日間)	インターンシップ (8時間×6日間)	
第41回	41 リフレクション (1)	小学校：インターンシップの振り返り、各自の成果と課題をまとめる (ワークシート) 特別支援学校：観察した内容の整理、指導内容の再現 (報告)	小学校：インターンシップの振り返り、各自の成果と課題のまとめ (ワークシート)を確認する。 特別支援学校：観察した内容の整理、指導内容の再現 (報告)を確認する。	60分
第42回	42 リフレクション (2)	小学校：インターンシップの振り返り、成果のパワーポイントの作成 特別支援学校：児童生徒指導、1人1人の特性に応じた指導支援	小学校：インターンシップの振り返り、成果のパワーポイントの作成。 特別支援学校：児童生徒指導、1人1人の特性に応じた指導支援の確認。	60分
第43回	リフレクション (3)	小学校：インターンシップの振り返り、課題のパワーポイントの作成 特別支援学校：指導法、教室環境の工夫、構造化	小学校：インターンシップの振り返り、課題のパワーポイントの作成 特別支援学校：指導法、教室環境の工夫、構造化を確認する。	60分
第44回	44 リフレクション (3)	小学校：インターンシップ報告会 パワーポイントによるプレゼンテーション 特別支援学校：身につけたい力と発揮したい力の検討	小学校：インターンシップ報告会 パワーポイントによるプレゼンテーション 特別支援学校：身につけたい力と発揮したい力の検討を確認する。	60分
第45回	45 リフレクション (5)	小学校：まとめ、報告会についてまとめることを通して、インターンシップのまとめを行う。 特別支援学校：4年生教育実習報告会への参加	小学校：まとめ、報告会についてまとめることを通して、インターンシップのまとめを行う。 特別支援学校：4年生教育実習報告会への参加	60分
学生へのフィードバック方法		インターンシップを通して、教育現場の現実をよく理解してほしい。		
評価方法		インターンシップ校による観察に基づく評価と事前・事後指導の平常点		

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
観察			○	
平常点			○	

評価割合	インターンシップ校による観察に基づく評価 (70%) 事前・事後指導の平常点 (30%)
使用教科書名 (ISBN番号)	授業で紹介する
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的知識が修得できている。 【思考・判断】子ども、保育者、教育者などと直接ふれあい学び合う、具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる。 【関心・意欲・態度】子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。
オフィスアワー	随時 1628研究室
学生へのメッセージ	インターンシップは、教育現場を知る貴重な機会である。教育実習の準備段階でもあるが、将来の職業選択やキャリア形成に役立ててほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	教職の実践経験を活かし、実践事例を含めて説明する。
アクティブ・ラーニング	○	グループラーニングやプレゼンテーションを取り入れたアクティブラーニングを実践する。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	パワーポイントによるプレゼンテーション

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	子どもと音楽 (PA)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 吉永 早苗	指定なし

ナンバリング	P10601M12
授業概要(教育目的)	乳幼児期に育みたい資質能力を理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されたねらいおよび内容に基づいた、乳幼児期の表現活動を支援するための音楽的表現活動のあり方について講義する。様々な音楽表現の実践を取り入れ、事例を通して乳幼児の音楽表現について解説する。また、音楽の基礎理論についての講義も行う。
学習目標(到達目標)	
学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	様々な音楽表現活動の実践を通し、乳幼児の表現の発達を踏まえた音楽表現のあり方について理解する。
思考・判断の観点 (K)	表現の基礎的な知識を生かし、子どもの表現活動に展開することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	共同して表現することを通し、主体的・対話的で深い学びのあり方について理解しようとする。
技術・表現の観点 (A)	表現の基礎的な知識を生かし、子どもの表現活動に展開することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	乳幼児の発達と生活や遊びの中での音楽表現①	身の回りの音の感受と表現	テキスト第1章、第2章の通読	90分
第2回	乳幼児の発達と生活や遊びの中での音楽表現②	人の声の感受と表現	テキスト第3章の通読	90分
第3回	乳幼児の発達と生活や遊びの中での音楽表現③	音・声が音楽的になっていくということ	第1回、第2回の講義内容から、本テーマが示すであろう具体的な内容について考えておく。	90分
第4回	乳幼児の豊かな感性と表現を支えるために①	歌唱活動の実践と指導の視点	課題曲の詩を味わい、歌えるようにしておく。	90分
第5回	乳幼児の豊	楽器を用いた活動と指導の視点	テキスト第4章第1節の通読	90分

	かな感性と表現を支えるために②			
第6回	乳幼児の豊かな感性と表現を支えるために③	音環境を考える	テキスト第5章第1節の通読	90分
第7回	乳幼児の豊かな感性と表現を支えるために④	幼児期の終わりまでの育ってほしい姿の視点から	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について調べておく。	90分
第8回	乳幼児の音・歌遊びを学びの視点からとらえる①	リズム遊びの展開	配布プリントの譜読み・練習をしておく。	90分
第9回	乳幼児の音・歌遊びを学びの視点からとらえる②	歌遊びの展開	テキスト第4章第2節の予習	90分
第10回	乳幼児の音・歌遊びを学びの視点からとらえる③	楽器遊びの展開	テキスト第4章第3節の予習	90分
第11回	イメージを表現する①	楽器の響きを追求する。手作り楽器に応用する。	配布プリントの譜読み・練習をしておく。	90分
第12回	イメージを表現する②	視覚からのインプットを聴覚的用言に変容させる。	手作り楽器を仕上げる。配布プリントの予習。	90分
第13回	イメージを表現する③	聴覚からのインプットを視覚的表現に変容させる。	配布プリントの予習	90分
第14回	イメージを表現する④	幼児と楽しめる歌の創作	幼児と楽しめる歌の歌詞を考えておく。	90分
第15回	発表と総括	創作した歌を発表する。 幼児の音楽的表現を育むICT活用について。 総括	発表曲の練習 幼児の音楽的表現を育むICT活用のアイデアを考える。	90分

学習計画注記 講義内容により、教室を変更することがある。
前半の講義では、毎回、実践を通し、わらべうた遊びのレパートリーづくりのための時間をもちます。習得したわらべうたを、楽譜に表すことを通し、音楽の基礎理論を学びます。

学生へのフィードバック方法 質問および疑問点はリフレクションシートに記載してください。翌週の講義内でお答えします。作品発表については、コメントをお伝えします。「私のテキスト」は、添削して返却します。

評価方法 講義ではリフレクションシートを配布し、学習内容の理解、講義への意欲・態度等を評価します。個人発表、グループ発表は、講義内容の理解と応用力、取り組み方、表現力等の視点で評価します。私のテキストとは、講義内で紹介したわらべうたあそびについて、その楽譜とあそびかた等をまとめたものですが、知識・理解・思考・判断の状況を判断します。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
リフレクションシートの内容	○		○	
発表への取り組みとその内容		○	○	○
「私のテキスト」の作成	○	○		

評価割合 リフレクションシート（40%）、発表（30%）、「私のテキスト」（30%）で評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) 無藤隆監修・吉永早苗著 (2016) 『子どもの音感受の世界一心の耳を育む音感受教育による保育内容「表現」の探求』 萌文書林
島田和昭・高倉秋子 編 (1998) 『うたってひいて童謡ぴっこりーの』 共同音楽出版社

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】
「子どもの音楽的成長と発達」についての基礎知識を身に付けるとともに、子どもの音楽的感性とその表現について理解する。
【思考・判断】
子どもの音楽的表現を支える創造力・コミュニケーション力・感性を身に付ける。
【関心・意欲・態度】
子どもと音楽を通して豊かに関わるための、様々な音楽表現を体験し、積極的にレパートリーを増やす。

	【技能・表現】 保育者・教育者として求められる豊かな音楽的表現力を身に付ける。	
オフィスアワー	前期後期：月曜日 3限 1601	
学生へのメッセージ	乳幼児期を対象とした講義内容であるが、学びの連続性・保幼小連携の観点からも、小学校教諭免許希望者も受講すること。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	子どもとの音楽遊びの経験の豊かな作曲家による特別講義を予定している。
アクティブ・ラーニング	○	ペアトークおよび学び合いを通して、理解を深める。テーマを設定し、協働して音楽表現を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	幼児の音楽表現を育むICTの活用について考える。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	音楽実技A (PA)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 吉永 早苗	指定なし
非常勤講師	渡邊 有里香	指定なし
非常勤講師	久田 由紀子	指定なし
非常勤講師	佐藤 くみ	指定なし
非常勤講師	三好 朝香	指定なし

ナンバリング	P10602M12
授業概要(教育目的)	本授業の目的は、ピアノの弾き歌いの実技を通し、保育者として子どもの様々な音楽的な表現を受けとめ、育むために必要な知識や技術の基礎を身につけることである。楽譜の読み方や音楽理論の知識を実践を通して理解し、各自のレベルに応じた童謡や唱歌に取り組みながら、ピアノ演奏の基本的な技術および歌唱技術を獲得できるように講義を構成する。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	楽譜の読み方や基本的な音楽理論について理解している。
思考・判断の観点 (K)	子どもの音楽的成長を支えるための保育者・教師としての音楽的な資質について理解している。
関心・意欲・態度の観点 (V)	表現技術の獲得に向け、積極的に教室外学習に励んでいる。
技術・表現の観点 (A)	子どもの音楽表現活動のための弾き歌いの基本的な技術が身についている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	本講義のねらい、弾き歌いを通しての学びについての概説、講義の進め方の説明とクラス分け	弾き歌いのテキスト『ぴっこり一の』に目を通し、知っている曲について1~3曲、歌ったり弾いたりしておく。	90分
第2回	読譜の基礎学習	楽譜の読み方・ピアノ演奏の基礎基本	初回に決められた課題曲の練習	90分
第3回	発声の基本知識	保育者・小学校教諭として必要な歌唱技能に関し、その発声法の基礎を学ぶ。	課題曲を暗譜して歌えるようにしておく。	90分
第4回	ピアノ伴奏の基礎技術①	和音の弾き方を中心とした、音の響かせ方や音色作りについて	個別に提示された課題曲の予習・復習	90分
第5回	ピアノ伴奏	指遣いとメロディーの響かせ方	個別に提示された課題曲の予	90分

	の基礎技術 ②		習・復習	
第6回	ピアノ伴奏 の基礎技術 ③	強弱の表現について	個別に提示された課題曲の予 習・復習	90分
第7回	ピアノ演奏 の基礎技術 ④	歌唱と伴奏のバランス	個別に提示された課題曲の予 習・復習	90分
第8回	ピアノ伴奏 の基礎技術 ⑤	曲の構造に関する知識	個別に提示された課題曲の予 習・復習	90分
第9回	ピアノ伴奏 の基礎技術 ⑥	アーティキュレーションを学ぶ	個別に提示された課題曲の予 習・復習	90分
第10回	ピアノ演奏 の基礎技術 ⑦	子どもの声を引き出すために	個別に提示された課題曲の予 習・復習	90分
第11回	ピアノ伴奏 の基礎技術 ⑧	子どもとともに歌うということ	個別に提示された課題曲の予 習・復習	90分
第12回	ピアノ演奏 の基礎技術 ⑨	歌詞の情景が思い描かれるような歌唱表現	個別に提示された課題曲の予 習・復習	90分
第13回	ピアノ伴奏 の基礎技術 ⑩	情景が思い描いた伴奏表現の方法	個別に提示された課題曲の予 習・復習	90分
第14回	ピアノ伴奏 の基礎技術 ⑩	情景が思い描いた伴奏表現の方法	個別に提示された課題曲の予 習・復習	90分
第15回	発表会	発表会形式で、弾き歌いを披露する。友達の演奏表現から学ぶ。	発表会用の弾き歌いを練習する。	90分

学習計画注記 1クラスを4つのグループに分け、4人の講師が個人レッスンをを行います。最初の講義において、グループ分けをします。

学生へのフィードバック方法 リフレクションシートに、気づき、学び、困ったことなどを記載して毎回のレッスン時に提示していただきます。そのことで、全員の講師が受講生それぞれの状況を把握し、しっかりと支援をします。その他質問事項があれば専任教員の吉永がお答えします。

評価方法 リフレクションシートに記載された学習状況と音楽的な気づき等によって、関心・意欲・態度や知識・理解の状況、保育者・教師としての音楽的資質に関する思考等について判断します。課題の取り組みの進捗状況から、積極的に個人練習に励んでいるか、また表現技術の習得について判断します。最終週には発表会を予定していません。クラス全員の前で弾き歌いを発表することを通し、表現技術の習得状況を判断します。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
リフレクションシート	○		○	
課題の進捗状況		○	○	○
発表		○		○

評価割合 リフレクションシート (40%)、課題の進捗状況 (30%)、発表会 (30%) で評価する。参加態度および授業内容に関連した課題20%で評価する

使用教科書名 (ISBN番号) 島田和昭・高倉秋子 編 (1998) 『うたってひいて童謡ぷっこりーの』 共同音楽出版社

参考図書 各自の進度に合わせ、適宜紹介します。

ディプロマポリシーとの関連
【知識・理解】
 子どもの文化をとしての、楽譜の読み方、基本的な音楽理論の習得。
【思考・判断】
 子どもとの音楽表現の場面を想定し、弾き歌いをすることができる。
【関心・意欲・態度】
 保育者・小学校教師に必要な音楽的資質の獲得に向けて、積極的に課題に取り組んでいる。
【技能・表現】
 子どもとともに音楽を楽しみ、子どもの音楽的感性を育むための表現技術を身に付けている。

オフィスアワー 吉永をお訪ねください。
 前期・後期：月曜日 3限 1601

学生へのメッセージ

予習復習および自己練習の時間を毎日少しでも確保して、表現技術の向上に努めてください。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	造形表現基礎 (PA)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 立川 泰史	指定なし

ナンバリング	P10606M12
授業概要(教育目的)	子どもが造形文化に親しみ、美的な生活づくりに向かう態度や感性を育む意味を造形体験から考える。さまざまな実技体験を通して子どもの造形活動に立ち合うための基礎的な知識と基本的な技能に関する知見を広げる。また、各種の画材や素材の特徴や可能性、さまざまな材料や用具の適切な扱い方を知る。それにより、子どもの造形体験と文化的な生活との親和的な関係、教材化に向けた開発・応用についての討論を深め、造形感覚に基づく視点を子どもの生活や遊びに活かす視点と力を培う。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	子どもの発達過程と造形表現の関連、材料や用具の特徴について基礎的な知識を有し、表現活動を安全かつ効果的に実践する要件を理解する。
思考・判断の観点 (K)	子どもの心身の発達に応じた造形活動を計画・展開する視点から、さまざまな材料・用具の特徴を生かす題材を展開するための基本的事項を検討して説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	子どもが生活の中で親しむ造形文化や遊びに関心をもち、表現活動に立ち合うための環境づくりについて説明できる。
技術・表現の観点 (A)	子どもの主体的な造形表現を促す主題設定、材料・用具の特徴に見合う取り扱いなどについて基本的な技術を有し、安全で楽しい活動を展開する環境を構想し説明できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	今日の生活・文化と子どもの造形表現	今日の生活や造形文化と子どもの造形活動の関連について考え、簡単な実技を通して造形活動の意義や役割を体験的に理解する。	親しみ深い今日の造形文化について事例をあげ、それぞれの特徴や問題について整理しておく。	45分
第2回	遊びから生まれるイメージと造形表現	自然な遊びから生まれるイメージと造形表現を知り、子どもの認識や関心に基づく造形表現の特徴について体験的に理解する。	遊びから生まれるイメージと造形表現について象徴的な事例を探し、共通する特徴を整理しておく。	45分
第3回	からだの感覚を生かす造形表現(1)	からだの感覚を生かす造形表現を知り、心身の成長・発達に基づく感覚を楽しむ造形表現を体験的に理解する。特に、からだ全体の運動感覚を楽しみながら働く造形的な想像力の特徴を討論し、考察・検討する。	からだの感覚を生かす造形表現について象徴的な事例を探し、共通する特徴を整理しておく。	45分
第4回	からだの感覚を生かす造形表現(2)	からだの感覚を生かす造形表現を知り、心身の成長・発達に基づく感覚を楽しむ造形表現を体験的に理解する。特に、触感・視覚・聴覚など形・色・質感の感覚が総合	手触りや形・色などの感覚を生かす造形表現についていくつかの事例をあげ、共通する特徴を整理しておく。	45分

		的に働く造形的な想像力の特徴を討論し、考察・検討する。		
第5回	自然の材料から生まれる造形表現(1)	自然の材料(木枝・葉や実・石・土・水など)に触れることから生まれる造形表現を知り、自然材料のもつ性質や特徴を生かすイメージ発想と造形表現について体験的に理解する。	子どもの造形表現に使われる自然材料(上記)について実践事例をあげ、それぞれの特徴の生かし方について観点を整理しておく。	45分
第6回	自然の材料から生まれる造形表現(2)	自然の材料(光や影、風・空気などの手に取れないもの)に触れることから生まれる造形表現を知り、自然材料のもつ性質や特徴に基づくイメージ発想と造形表現について体験的に理解する。	子どもの造形表現に使われる自然材料(上記)について実践事例をあげ、それぞれの特徴の生かし方について観点を整理しておく。	45分
第7回	身近な材料から生まれる造形表現(1)	日常生活で触れる身近な人工材料(紙や粘土など)から生まれる造形表現について知り、それぞれの特徴に基づくイメージ発想や造形表現について体験的に理解する。	日常にある人工材料(上記)を活用する実践事例を参照し、それぞれの活動で期待される効果や観点を整理しておく。	45分
第8回	身近な材料から生まれる造形表現(2)	特殊な人工材料(アルミ箔・プラスチック素材・段ボールなど)から生まれる造形表現について知り、それぞれの特徴に基づくイメージ発想や造形表現について体験的に理解する。	やや特殊な人工材料(上記)を活用する実践事例を参照し、それぞれの活動で期待される効果や観点を整理しておく。	45分
第9回	用具の操作や技法から生まれる造形表現(1)	用具の操作や技法から生まれる造形表現を知り、ウレタンローラー・絵筆・凸凹のある素材などの操作や身体的な感覚を生かす技法から発想するイメージや造形表現について体験的に理解する。	用具の特徴を生かした技法や実践事例をあげ、期待する効果や観点を整理しておく。	45分
第10回	用具の操作や技法から生まれる造形表現(2)	用具の操作や技法から生まれる造形表現を知り、ローラー・絵筆・凸凹のある素材などの操作や身体的な感覚を生かす技法から発想するイメージや造形表現について体験的に理解する。	用具の操作や技法から発想する実践事例をあげ、期待する効果や観点を整理しておく。	45分
第11回	ことばから生まれるイメージと造形表現	ことばから生まれるイメージと造形表現を知り、ことばの発達に応じて広がる認識や感情からイメージする造形表現について体験的に理解する。	ことばの発達に応じて広がる認識や感情を生かす実践事例をあげ、共通する特徴や観点を整理しておく。	45分
第12回	物語から生まれるイメージと造形表現	絵本やアニメなどの物語から生まれるイメージと造形表現を知り、子どもの発想や構想の基になる物語性や創造的想像力について体験的に理解する。	物語のストーリーや絵から発想する造形表現の実践事例をあげ、期待する効果や観点を整理しておく。	45分
第13回	季節や地域の体験から生まれる造形表現	四季の自然や行事で感じる季節感や地域の風土や行事など、子どもの実体験から生まれる造形表現について、活用意図や期待効果について体験的に理解する。	季節感を大切にする実践事例を参照し、共通する特徴や観点を整理しておく。	45分
第14回	見方・感じ方の変化や重なりを生かす造形表現	さまざまな対象や事象に触れつつ変化する「見方・感じ方」を重視する造形表現を知り、活動の意味や価値について体験的に理解する。	形や色についての見方・感じ方の変化を楽しむ造形的な表現の事例をあげ、着目点の変化やイメージの特徴を整理しておく。	45分
第15回	造形行為のみとりと環境づくり・まとめ	子どもの造形行為に寄り添うみとりと造形環境の構成に関する基礎的な要件を知り、個におうじた援助や適切な環境づくりについて体験的に理解する。全演習を通して造形体験を振り返り、実践的な知識・技能の生かし方に関する討論を通じて整理・理解する。	造形的な表現行為をさせる子どもの心情や興味について、具体例をあげながら整理しておく。	45分

学習計画注記 履修者数や進み具合でスケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法 ・実技演習を中心とする。取り組みの中で個やグループに応じた支援・助言をする。
・毎回の実技体験について自身の考察を記すドキュメントシートをコメント付きで返却する。
・授業中期以降に、それまでの演習体験から印象に残る3～5例の画像をあげて考察する中間ポートフォリオ(A4判・形式自由)の提出を求める。

評価方法 ・毎回の授業で、体験した内容から気付きや考察を記すドキュメントシート(各回200字程度)の提出を求める。記述内容について、学習目標の規準を観点に評価する。
・授業中間意向に提出するポートフォリオは、コメントを記して返却する。
・学期末に全演習の内容に準拠した実践開発・教材研究を共通テーマにした小論レポート(1200字程度)の提出を求める。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
ドキュメントシート	○	○	○	
中間ポートフォリオ			○	○

小論レポート	○	○		
評価割合	平常点20%・提出物30%・期末小論レポート50%について総合的に評価する。			
使用教科書名 (ISBN番号)	特になし。必要な資料を適宜配布する。			
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働省／編『保育所保育指針 平成30年3月』2018、フレーベル館、ISBN：9784577814482 ・内閣府／文部科学省／厚生労働省／著『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月』2018、フレーベル館、ISBN：9784577814499 ・文部科学省／著『幼稚園教育要領解説 平成30年3月』2018、フレーベル館、ISBN：9784577814475 			
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】子どもの生活・文化・遊び、子どもの造形表現の特徴について専門的な知識を有している。</p> <p>【思考・判断】乳幼児期の造形的な表現の特徴に適した材料・用具・環境に配慮し考察・判断できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】成長・発達する子どもの生活、文化、遊びに関心をもち、特徴や意味を理解している。</p> <p>【技能・表現】乳幼児の認識や関心に基づいて造形的な表現活動や環境を設定し、立ち合う技術や方略を発揮する能力を有する。</p>			
オフィスアワー	火曜日3限・1629研究室			
学生へのメッセージ	<p>「つくる・みる・つたえる」ことに関心をもって、演習に取り組むこと。</p> <p>自らつくる楽しさを味わうことが、子どもに表現の喜びを知らせることにつながる。</p> <p>そのため、身近な材料や自然、地域と文化に興味をもち、造形表現やデザインへの意識を広げることが望ましい。自身が学んだ成果やエピソードは、配布資料とともにポートフォリオとしてまとめるように心がける。</p>			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、小学校教員としての経験をもち、造形・美術教育の実践研究・開発・提案に従事した。文部科学省の学習資料作成委員や文部科学省検定教科書の編修著者として、現職教員の研修・地域行政や社会的教育機関・企業などのネットワークを生かして、今日的な課題に応じた造形教育の内容や情報を考察対象として提供する。		
アクティブ・ラーニング	○	演習を中心とし、成長・発達する子どもの感覚や認識に着目し、造形表現活動の意味や価値について体験的に理解するとともに、集団討論を通して、基礎的な知識・技能の実践的な活用・応用力を向上する。		
情報リテラシー教育	○	今日の社会や文化の視点から子どもの生活や遊びの実態を把握するために、webコンテンツやジャーナルの実践事例を参照し考察する。		
ICT活用	○	造形活動のみとり・言葉掛け・援助・反省的实践に活用できる機器としてタブレット型PCやアプリケーションの活用方法を体験的に理解する。		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	子どもと健康		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金子 和正	指定なし

ナンバリング	P20205M12
授業概要(教育目的)	乳幼児期の子どもの健康について、健康の考えや健康の維持・増進について理解していく。この時期の健康に対する考えが大人になっての自身への身体に対する考え方を構築していくことを学ぶ。乳幼児期の健康の概念を理解するとともに、遊びや運動をどのように習得し、健康の基礎を築いて行くのかについても演習を通して理解する。子どもの生活習慣は環境によってどのように影響をされていくのか、家庭、社会、園によっても左右されていく。保幼小との連携からも考察を加えていく。子どもと関わっていく大人にとって、子どもの健康を常に考えながら接していく事の重要性を身につけ、健康の構築の理論と実践の方法が修得することを目的としている。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の子どもの健康の構築、維持・増進について理解している。 ・子どもの健康のために大人が何をすべきかを理解している。 ・子どもの健康形成について大人のとるべき行動を理解している。
思考・判断の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康について、様々な側面から判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の子どもの健康観について関心がある。
技術・表現の観点 (A)	<ul style="list-style-type: none"> ・演習の課題発表の能力や集団での討論の能力がある。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	乳幼児期の健康について	子どもは大人の縮小版ではない。保育における健康について理解する。	子どもの健康と大人の健康について考え、乳幼児期の健康をどのように捉えるのかについて理解しておく。	90分
第2回	心身の健康について、領域「健康」のねらい、内容について	子どもに対する健康教育の意義について理解する。	様々な年齢段階の子どもに対して、自身の健康をどのように学んでもらうかについて理解しておく。	90分
第3回	領域「健康」のねらいと内容について	幼稚園教育要領における領域「健康」のねらいや内容について理解する。	就学前における子どもの健康を形成していく様々な事象について理解しておく。	90分
第4回	子どもの生活習慣の形	生活習慣による健康の形成と生活習慣病について理解する、子どもの生活習慣に影響を及ぼす様々な要因について	子どもの生活習慣と生活習慣病について、様々な要因から理解	90分

	成と疾病について	て理解する。	しておく。	
第5回	子どもの心の安定について	健康は身体の健全な発育・発達だけでなく心の安定も必要である。家庭、社会、園、学校における生活環境や人的環境等について心の安定をもたらす要因について理解する。	子どもの心の安定に影響を与えるものは何かについて理解しておく。	90分
第6回	子どもの遊びと運動について	子どもにとって遊びは最も重要な要素である。一人遊びから集団遊び室内遊び、戸外遊びについて理解する。遊びを通して子どもは身体の健康、心の健康をどのように修得していくのかについて理解する。	遊びを通して、子どもの身体や心はどのように変わっていくのかについて理解しておく。	90分
第7回	遊びの指導について	遊びの中のルールについて、子どもが理解できるようにする。個から集団へ室内から戸外遊びへと発展していくなかで遊びのルールについて重要性和、指導について理解する。	子どもが遊びのルールを理解していくことは、その後の成長においても大きな影響を持つことを理解しておく。	90分
第8回	子どもの身体の形態と機能①	乳幼児期の身体について形態と機能を理解する。特に骨格系について理解する。	乳幼児期の身体について、図や写真を用いて骨格系の特徴について理解しておく。	90分
第9回	子どもの身体の形態と機能②	乳幼児期の身体について形態と機能を理解する。特に呼吸・循環器系について理解する。	幼児期の身体について、図や写真を用いて呼吸・循環器系の特徴について理解しておく。	90分
第10回	子どもの運動機能について	年齢に応じた運動機能の発育発達について理解する。子どもによって運動機能の発育発達には大きな個人差があることを理解する。	運動機能の発育発達には様々な要因が関わること、個人が大きいことを理解しておく。	90分
第11回	子どもの遊びと運動と安全管理について	子どもの遊びについて安全と危険の側面から理解する。危険に潜む要因について冒険や挑戦といった言葉から考え、大人の子どもに対する義務についても理解する。危険の法則や安全管理について理解する。	遊びの持つ潜在的な危険について、リスクマネジメントから理解しておく。子どもに対する注意義務や管理義務について用語の理解もしておく。	90分
第12回	子どもの食生活習慣について	子どもの食生活習慣について、問題点や課題について考え大人の役割について理解する。食生活習慣の重要性について理解する。	現代の子どもの食生活スタイルについて、その問題を理解しておく。	90分
第13回	子どもの生活スタイルについて	今日の子どもの生活スタイルについて理解する。生活スタイルと健康の関連性について理解する。保護者の生活スタイルと子どもの生活スタイルについて、様々な要因を取り上げ関連性について理解する。	子どもたちの生活スタイルは、健康にどのように影響しているのかについて理解しておく。	90分
第14回	領域「健康」に関する授業計画の作成と実施①	授業計画の作成と実施、振り返りを行う事によって、子どもと健康について総合的に理解する。	授業計画作成に当たり、配慮すべき注意点、実施にあつての準備や留意点について理解しておく。	90分
第15回	領域「健康」に関する授業計画の作成と実施②	授業計画の作成と実施、振り返りを行う事によって、子どもと健康について総合的に理解する。	授業計画作成に当たり、配慮すべき注意点、実施にあつての準備や留意点について理解しておく。	

学習計画注記 授業の進み具合によってスケジュールを変更する場合も

学生へのフィードバック方法 毎授業時の終わりに実施する小テストの解答を模範的な解答と比較し、フィードバックすることができる。他の学生の発表や意見を聞くことによって、自分の考えをフィードバックできる。

評価方法 授業への積極的な参加態度、毎授業時の終わりに実施する小テスト（小テストは授業時の内容に沿ったもの）、与えられた課題の発表1回の総合評価とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業への積極的な参加態度	○	○	○	
小テスト	○	○	○	
課題の発表	○	○	○	○

評価割合 授業への積極的な参加態度 (30%)、毎授業時の終わりに実施する小テスト (60%) (小テストは授業時の内容に沿ったものとする)、与えられた課題の発表1回 (10%) の総合評価とする。

ディプロマポリシーとの関連
【知識・理解】 子どもの健康に関心がある。
【思考・判断】 子どもや保護者の健康観について判断できる。
【関心・意欲・態度】 子ども健康について関心がある。
【技術・表現】 子ども健康について表現できる。

オフィスアワー	火曜4時限目	
学生へのメッセージ	子どもの健康に関心を持つ態度を養ってほしい。子どもを取り巻く環境と健康について、様々な角度から考える習慣を身につけて欲しい。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		保育園や幼稚園に出かけ、実際の子どもの健康をどのように捉えられているか調べる。
情報リテラシー教育		子どもの健康について、様々な方法を用いて調べ整理する。
ICT活用		与えられた課題の発表に様々なメディアを駆使する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	子どもと言葉		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 和田 美香	指定なし

ナンバリング	P20207M12
授業概要(教育目的)	領域「言葉」の基礎となる考え方を理解し、「言葉のもつ意義と機能」「言葉の感覚を豊かにする実践」「児童文化財の活用」の視点から、どのようにしたら乳幼児が豊かな言葉や表現を育むことができるかを考えるようにする。上記の目的を達成する過程において、主体的に考えることができるように、グループディスカッションやワークショップなども取り入れながら、「言葉」の意義と機能について具体的に理解するようにする。その上で乳幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身につけるようにする。
履修条件	特になし。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解する。「言葉」の意義と機能について理解する。乳幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身につける。
思考・判断の観点 (K)	乳児の言葉を育てるための具体的な方法について考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	乳児の言葉を育てるための方法について主体的に考えることができる。
技術・表現の観点 (A)	子どもの生活と遊びを豊かに展開するために「言葉」の領域から、必要な知識や技術を実践的に習得する。児童文化財などの教材の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。

学習計画

子どもと言葉

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	保育内容としての領域言葉(他領域との関わりなど)	領域言葉の内容を捉えた後、グループワークなどを通して、他領域との関係の中で具体的に考える。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第2回	乳児保育の3つの視点と5領域における領域言葉	前言語期から乳児の言葉、さらに幼児の言葉への発達をどのように支えていくかという視点から領域言葉を考える。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第3回	言葉のもつ意義と機能(コミュニケーション)	言葉のもつ意義と機能について、実際にワークショップを行いながら具体的に考える。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分

	ン、思考の手段など)			
第4回	言葉のもつ意義と機能(コミュニケーション、思考の手段など)	前回の授業の内容を踏まえて、事例や動画などを見ながら、具体的な実践に置き換えて考えていく。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしていく。	90分
第5回	子どもの言葉の発達2(話し言葉から書き言葉の習得まで、1次的言葉と2次的言葉)	話し言葉から書き言葉の習得までを子どもの発達段階に合わせて考えていく。さらに保育の中で具体的な援助をどのようにしていけばよいかということを、議論を展開しながら考える。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしていく。	90分
第6回	言葉に対する感覚(言葉の美しさ、楽しさ)	詩や回文などを題材にして、実際に言葉の美しさや楽しさを体験する。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしていく。	90分
第7回	言葉を豊かにする保育環境(保育者の役割、言葉掛け、保育室の環境など)	子どもの言葉を育む環境とはどのようなものか。物的環境と人的環境の両面から議論し、保育室の環境設定や言葉かけなど自分なりの視点で考えていく。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしていく。	90分
第8回	言葉遊びと保育実践	様々な言葉遊びの世界を体験するなかで、その楽しさを味わう。さらに、保育実践の中ではどのような援助が必要かということにつなげて考えていく。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしていく。	90分
第9回	児童文化財とは何か(子どもにとっての児童文化財の意義)	児童文化財の定義から、その具体的な実践に至るまで、体験を通して考えていく。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしていく。	90分
第10回	児童文化財の実践(種類や歴史、保育への取入れ方)	紙芝居や絵本などの児童文化財を保育に取り入れる場合、どのような配慮が必要かという視点からグループワークなどを通して考える。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしていく。	90分
第11回	児童文化財を用いた実践(絵本、紙芝居を用いた模擬保育)	前回議論した内容をもとに、絵本や紙芝居を用いた模擬保育を行う。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしていく。	90分
第12回	児童文化財を用いた実践(昔話とストーリーテリングを用いた模擬保育)	前回の模擬保育の経験を踏まえて、昔話やストーリーテリングといった題材をもとに、模擬保育を行う。また、2回分の模擬保育の振り返りを行う。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしていく。	90分
第13回	児童文化財を用いた実践(ペープサート、人形劇、パネルシアターを用いた模擬保育)	ペープサート、人形劇、パネルシアターなどの教材を用いた模擬保育を行う。その際、子どもにとってどのような学びがあるのか、また子ども自身が主体的にその時間を過ごすためにはどのような工夫や配慮が必要かということを考えながら行うようにする。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしていく。	90分
第14回	子どもの生活と遊びにおける体験(見立て遊び、っこ遊び、劇遊び、わらべうた遊び等)	子どもの生活と遊びという視点から、言葉の発達を考えていく。ままごと遊びや見立て、ごっこ遊びの中で子どもの言葉の育ちをどうとらえるかということグループワークで考えていく。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしていく。	90分
第15回	保育の現代的課題と領域言葉(ICT、アク	これまでの授業を振り返りながら、保育の現代的課題と領域言葉の関連について考えていく。ICTやアクティブラーニングをどのように保育に取り入れていくのか、また	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしていく。	90分

	ティフラーニング, 幼保少接続, 特別な支援等)	保育者の振り返りとしてもそのような視点が持てるようにしていく。			
学習計画注記	講義と演習形式で行う。 ①資料を手掛かりとして、考察し、発見しあう授業 ②過去の研究を手掛かりとして、知識を得る講義 ③テーマを共有してふるまいながら気づき、身につける演習				
学生へのフィードバック方法	大福帳を利用して、授業の質問、感想、要望、雑談を受け付ける。毎回それに対するフィードバックを行う。指導案など提出したものは、添削、助言をして返却する。				
評価方法	平常点50%、定期試験50% (平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する)				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点		○	○	○
	定期試験	○			
評価割合	平常点50%、定期試験50% (平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する)				
使用教科書名 (ISBN番号)	コンパクト版『保育内容シリーズ4 言葉』				
参考図書	保育所保育指針 幼稚園教育要領				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】言葉のもつ意義と機能を理解する。 【思考・判断】言葉の美しさや楽しさを幼児の生活の中に適宜取り入れていける力を付ける。 【関心・意欲・態度】子どもの姿 (生活や遊び、発達段階) を基本に活動内容を考えていく。 【技能・表現】幼児にとっての児童文化財の意義を理解し、その技術を身に付ける。				
オフィスアワー	月曜2限から4限				
学生へのメッセージ	保育所保育指針、幼稚園教育要領を基本に進めていくので、毎回持参すること。グループワークなども多く含まれるので、授業では自分の意見を述べるなど、積極的に参加してほしい。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、保育士・幼稚園教諭として実務経験を有しており、子どもとのかかわるうえで必要な資質・能力について実務経験に基づいて教授を行う。			
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、発表などを行い、教員と学生、学生同士の双方向のやり取りを行っていく。			
情報リテラシー教育	○	調べ学習で情報を収集する際、その情報の発信元や発信の目的などに目を向けて、信憑性のある情報か否かを判断する。			
ICT活用	○	各自の発表をパワーポイントなどにまとめて行い、他者にわかりやすいプレゼンテーションを実践する。			

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	子どもと人間関係		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員		
職種	氏名	所属
准教授	◎ 丹羽 さがの	指定なし

ナンバリング	P20209M12
授業概要(教育目的)	現代の乳幼児を取り巻く人間関係をめぐる課題を理解し、幼児教育に求められる教育内容について理解する。乳幼児期の人と関わる力は、大人や仲間など他者との関係や集団における経験の中で育つことを理解する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 現代の乳幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解する 乳幼児期の人間関係の発達について基本的な知識を身に付ける 「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」について理解する
思考・判断の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 保育の現場における子どもたちの実際の姿と、それに影響を与えている社会的要因を結び付けて考えることができる 乳幼児期の人と関わる力を育む援助、保育について考えることができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ul style="list-style-type: none"> 現代社会に育つ子どもたちの人間関係をめぐる課題に関心を持ち、保育者としてその解決に意欲的に取り組む姿勢をもつ
技術・表現の観点 (A)	

学習計画				
回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	現代の乳幼児の人間関係、領域「人間関係」とは	・家庭・地域での経験と乳幼児教育に期待されるもの、領域「人間関係」のねらいと内容、他の領域との関連について学ぶ	〔予習〕「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」を読む。 〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料等を読み考える。	90分
第2回	乳幼児期の発達と領域「人間関係」(1) 親との出会いとかかわり (2) 保育者との出会いとかかわり	人生最初の人間関係である愛着の形成と、園での生活の基盤となる保育者との信頼関係について学ぶ	〔予習〕幼稚園、保育所での保育者とかかわりで印象に残っているエピソードを書いてくる。 〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料等を読み考える。	90分
第3回	乳幼児期の発達と領域	園での仲間との出会い、関係の始まり・発展と、仲間集団・クラス集団において現れる自己主張・自己抑制の発	〔予習〕自分が幼稚園や保育所に通っていた時の、友達とか	90分

	「人間関係」(3) 仲間との出会いとかかわり	達について学ぶ	かわりで思い出に残っていることを書き出してくる。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料等を読み考える。	
第4回	乳幼児期の遊びと人間関係 (1) 遊びと子どもの育ち (2) 遊びと人間関係の発達	遊びを通して学ぶ子どもの姿、遊びの発達と人間関係の発達との関連について学ぶ	〔予習〕乳幼児が「砂場」での遊びで学ぶことを思いつく限り書き出してくる。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料等を読み考える。	90分
第5回	乳幼児期の遊びと人間関係 (3) うまうまいかない経験	「自分を出して遊ぶこと」と「なかまとともに遊ぶこと」の統合の仕方を学ぶ過程について学ぶ	〔予習〕幼児期の友だちとのケンカで覚えていることを書き出してくる。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について授業資料等を読み考える。	90分
第6回	乳幼児期の生活と人間関係 (1) 家庭生活を通して	きょうだいや祖父母とのかかわり、家庭生活を通しての価値やルールの学びについて理解する	〔予習〕自分が乳幼児期に家庭で伝えられた生活上のルールにどのようなものがあったか、書き出してくる。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度テキストや授業資料を読み考える。	90分
第7回	乳幼児期の生活と人間関係 (2) 園生活を通して	生活の自立と人とかかわり、自分たちで生活を作っていく中での学び・育ちについて理解する	〔予習〕園生活の中で経験されに身につけられていく「生活に必要な行動」にはどのようなものがあるか、思いつく限り書き出してくる。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について授業資料等を読み考える。	90分
第8回	個と集団の育ち	仲間集団やクラス集団における関係性の育ち、個と集団の育ちの捉え方について学ぶ	〔予習〕これまでの友達とのかかわりから学んだことにどのようなものがあるか、書き出してくる。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料等を読み考える。	90分
第9回	乳幼児期の自立心の育ち	自己の発達と自立心の育ちについて学ぶ	〔予習〕乳幼児期の自己の発達、自己主張と自己抑制の発達について、1年次前期「発達心理学」のテキスト・授業資料の該当箇所を見直し確認しておく。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料等を読み考える。	90分
第10回	幼児期の協同性の育ち	他者と目標を共有してやり遂げようとする力の育ちについて学ぶ	〔予習〕幼児期になかまと力を合わせた経験、そのときの保育者のかかわりを思い出し書き出す。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料等を読み考える。	90分
第11回	乳幼児期の道徳性・規範意識の芽生えと育ち	他者との葛藤経験を通してきまりの必要性を理解し、気持ちを調整し折り合いをつける力の育ちについて学ぶ	〔予習〕事前配布プリントを読み、乳幼児期の道徳性の発達に関する理論にどのようなものがあるか知る。園生活における「お約束」にどのようなものがあったかを思い出し書き出す。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料等を読み考える。	90分
第12回	乳幼児期の思いやりの芽生えと育ち	仲間とのかかわりの中で現れてくる他者への思いやりの気持ちとその発達について学ぶ	〔予習〕事前配布プリントを読み、幼児期に友だちにしてもらってうれしかったこと、友だちにしてあげた思いやり行動を書き出してくる。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料等を読み考える。	90分
第13回	幼児の人と関わる力の育ちについて映像から学ぶ	仲間集団における葛藤を経験する中で、他者の気持ちに気づき、自分の行動を調整する姿を見せる女児のエピソードを見て、仲間とのかかわりを通した、人と関わる力の育ちの実際を知る	〔予習〕現在の自分のコミュニケーション能力について、高いか低いか、何か課題を感じているか、振り返ってまとめる。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料等を読み考える。	90分

第14回	乳幼児期の人間関係の広がり	乳幼児の地域での生活で経験される人間関係や、そこで育まれるものについて考える	〔予習〕乳幼児期の地域の人々とのかかわりについて、覚えていることを書き出してくる。 〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料等を読み考える。	90分
第15回	幼児期に育みたい資質・能力と人間関係	乳児期・幼児期・学童期以降の育ちのつながりを理解する	〔予習〕事前配布課題に取り組む。〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について再度授業資料等を読み考える。	90分

学習計画注記	授業の進み具体等によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	コミュニケーション・カードに下線and/orコメント付きで返却する。多かった質問・疑問については次回授業冒頭で解説する。また特によかったコメントについては次回授業冒頭で紹介する。それ以外の質問がある場合は1626研究室まで訪問すること。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点は、学びに向かう姿勢、意欲、理解度をコミュニケーション・カードの記入状況、内容から評価する。 ・課題は、事前課題や授業内の課題（グループワークや発表を含む）への取り組みと内容により評価する。 ・最終レポート課題は、授業到達目標の達成の度を測るものとする。 ・平常点、課題、最終レポートは、下表に示す力を養うことを目的に実施する。

評価基準

評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点	○	○	○	
	課題	○	○	○	
	最終レポート	○	○		

評価割合	平常点 (30%) , 課題 (30%) , 最終レポート (40%) で評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。
参考図書	授業中に適宜紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】領域人間関係、乳幼児期の人間関係の発達に関する専門的知識を有している。【思考・判断】子どもの人と関わる力を育む保育、保育者の援助について考えることができる。【関心・意欲・態度】現代社会に育つ子どもたちの人間関係をめぐる課題に関心を持ち、保育者としてその解決に意欲的に取り組む姿勢をもつ。
オフィスアワー	水曜日 2限 1626研究室
学生へのメッセージ	1. 演習科目ですので、ワークやディスカッションに積極的に参加する姿勢を求めます。 2. 毎回授業内容を復習しておいてください。 3. 宿題とした課題は必ず次回までに取り組んでおいてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	小グループでのディスカッションを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	子どもと環境		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 中田 範子	指定なし

ナンバリング	P20111M12
授業概要(教育目的)	子どもを取り巻く環境は、保育者、保護者、友達等の人的環境及び玩具等の物的環境、自然環境や社会環境等子どもを取り巻くすべてが相互に関連しながら構成されている。子どもを取り巻く環境の現状を踏まえ、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示す領域「環境」及び乳児保育における三つの視点に示すねらい及び内容、内容の取扱いについての理解を深める。また、その指導のもととなる環境に対する感性を養い、必要な知識・技能を身に付ける。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	「環境を通じた教育」の意味を踏まえ、子どもを取り巻く環境の構造を理解する。
思考・判断の観点 (K)	領域「環境」のねらい及び内容を踏まえ、子どもの経験内容とそれに対する保育者の配慮事項について考える。子どもが環境にかかわる姿を捉え、その意味や意義を考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	小学校教育への接続を踏まえ、自然環境、数量・図形、標識・文字等に関わる姿から、幼児の科学的概念の発達について関心を持って捉える。
技術・表現の観点 (A)	子ども主体の環境を通じた保育を展開するために必要な技術を演習を通して身につける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	現代の子どもを取り巻く環境の構造と特徴	現代の子どもを取り巻く環境の概要から、その構造と子どもに与える影響について考え、理解する。	現代の子どもにとって必要な体験と幼児期の体験が意味することを考え、ノートにまとめる。	90
第2回	子どもを取り巻く環境の変化	現代の子どもを取り巻く環境に関する様々なデータから、現状と課題について考え、理解する。	配布資料の演習問題を完成する。	90
第3回	乳幼児にとっての環境の意味と意義	乳幼児が自発的、主体的に環境に関わる様々な事例を通して、子どもにとっての環境の意味を考え、理解する。	配布資料の演習問題を完成する。	90
第4回	領域「環境」のねらい・内容・内容の取扱い	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示す、領域「環境」のねらい、内容、内容の取扱いについて理解する。	これまでの授業内容を復習し、領域「環境」との関連について理解する。	90

第5回	植物栽培の知識と技術	植物栽培に関する基礎的事項を理解し、ハツカダイコンの栽培に取り組む。	ハツカダイコンを栽培・観察・記録する。園生活で子どもたちが飼育する小動物の生態と飼育方法について調査・まとめ・発表準備をする。	150
第6回	生き物の飼育の知識と技術	生き物の飼育や生態系に関する基礎的事項を理解し、飼育の方法について調査・発表する。	演習問題を完成する。	90
第7回	身近な環境にある数と形	ネイチャーゲーム「フィールドパターン」、「カモフラージュ」を行い、数と形に関する保育内容について検討する。	ワークシートを完成する。	90
第8回	子どもの文字環境	乳幼児が文字・数量とかわかる姿から、文字・数量に対する「感覚を豊かにする」ことの意味を理解する。	子どもの遊びの中にある文字・数量について考える。	90
第9回	子どもの情報環境	子どもの生活にある情報とICTとの関わりについて考え、理解する。	演習問題を完成する。	90
第10回	子どもの自然環境	ネイチャーゲーム「フィールドパターン」、「サウンドマップ」、「サイレントウォーク」の実践を通して、自然環境に対する感覚を豊かにする。	ワークシートにネイチャーゲームを通して気付いたことを記入する。	90
第11回	自然の移り変わりや伝統行事	春・夏の自然と伝統行事に関する事項や保育内容を調査し、発表する。	自然と伝統行事に関する資料を収集し、発表の準備をする。	90
第12回	保育現場に見られる命の教育について	保育現場で、命に触れる子どもの姿から、命に関する保育内容を検討する。	演習問題を完成する。	90
第13回	子どもの地域社会とのかかわりについて	「まち保育」を例に挙げ、地域の社会的資源を生かした保育内容について考え、理解する。	演習問題を完成させる。	90
第14回	多文化共生保育	外国につながる子どもを取り巻く環境に関する現状と課題、多文化共生保育の実際について考え、理解する。	演習問題を完成する。	90
第15回	生活科教育と領域「環境」	領域「環境」に示す保育内容と生活科教育との連続性について理解する。	演習問題を完成する。	90

学習計画注記 授業の進行状況等により変更の可能性があります。

学生へのフィードバック方法 提出されたワークシートはすべて添削し、返却する。また、グループ討議、発表の際には、質疑応答を通して学習目標が達成できるように適宜助言する。

評価方法

- ・発表は授業内に評価する。
- ・学期末レポートは各自で作成し、評価する。
- ・ワークシート等の提出物については、提出期限が守られなかった場合には、減点の対象とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
ワークシート		○	○	○
観察記録		○	○	○
発表	○		○	
学期末レポート	○	○		

評価割合 ワークシート(20%)、観察記録(10%)、発表(20%)、学期末レポート(50%)

使用教科書名 (ISBN番号) 特に定めない。

参考図書 幼稚園教育要領、同解説書、保育所保育指針、同解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、同解説書

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】 児童学を構成する6領域のうち、「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」を理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。

【思考・判断】 家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・感性が備わっている。

【関心・意欲・態度】 子どもの環境をめぐる多様化した課題や問題に関心を持って取り組む。

【技能・表現】 保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。

オフィスアワー 火曜日2限 1623研究室

学生へのメッセージ 実際に乳幼児と関わる経験と結びつけながら理解を深めてください。受け身ではなく、積極的な態度で授業に臨むことを期待しています。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、幼稚園・保育所で教諭・保育士として実務経験を有しており、領域「環境」の実際について実務経験に基づいて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	学内において、ネイチャーゲームの実施等を通して、体験を通して学ぶ。
情報リテラシー教育	○	季節の自然や伝統行事に関する資料を収集し、自ら設定したテーマのもとに情報をまとめ、発表する。
ICT活用	○	調査した季節の自然や伝統行事を発表する際には、画像や動画を用いて、発表内容をppt等にまとめ、他者に理解しやすく発表する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	子どもと表現		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新開 よしみ	指定なし
教授	立川 泰史	指定なし
教授	吉永 早苗	指定なし

ナンバリング	P20213M12
授業概要(教育目的)	乳幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、子どもの感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成について実践的に学ぶ。様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通し、乳幼児の表現を支える保育者としての感性や表現力・創造性を養う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	乳幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けを理解し説明できる。
思考・判断の観点 (K)	様々な表現の基礎的な知識技能を活かし、乳幼児の表現活動に展開することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	乳幼児の発達と表現の関係について関心を持ち、積極的に課題に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	身の回りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	領域「表現」とは	領域「表現」のねらい及び内容について理解する。	幼稚園教育要領の領域「表現」の章をよく読んでおくこと。	60分
第2回	乳幼児の素朴な表現の実際	事例を通して、乳幼児の表現の発達について考える。	テキスト第1部(第1章～第3章)を読んでおくこと。	60分
第3回	表現の源に出会う体験(1)身体への気づき	ノンバーバルコミュニケーションを中心としたいくつかのワークを通して、表現媒体・コミュニケーション媒体としての「身体」に気づく。	テキスト第4章を読んでおくこと。	60分
第4回	表現の源に出会う体験(2)多感覚を実感する	触り心地を音にする。音楽を描く。絵から音を作り出す。	「黄色い声」「尖った音」など、複数の感覚が重なった音の表現を探してみる。「共感覚」について調べておく。	90分
第5回	表現の源に	様々なさわりごち(触感)を基に、身近な場所の特徴を	からだの感覚や経験から生まれ	60分

	出会う体験 (3) さわりごちマップ	視覚化するマップをつくる。統合的に働く感覚と造形表現の関連を理解し、教材選び・活動構成・環境づくりの意味を実体験する。	る新しい見方・感じ方について、自身の経験や事例をあげて説明できるようにしておく。	
第6回	からだで感じて(1) 絵の具で遊ぶ	共同絵の具の特徴や用具の扱いから生まれる造形表現について理解し、活動や主題の構成・開発について可能性と課題を探究する。	共同絵の具や用具の種類、特徴などについて実践事例をあげ、活動の趣旨を整理しておく。	60分
第7回	からだで感じて(2) 音のマップ～環境との対話	サウンドウォークを体験する。自然の中、建物の中を歩き、そこに聞こえる音や音の響きに耳をすませてみよう。壁に耳を当てると、聴こえ方が違うかも知れない。右足と左足、音は同じかな？	サウンドウォーク、サウンドマップ、サウンドスケープをキーワードとした論文を検索し、読んでおく。	60分
第8回	からだで感じて(3) からだであらわずワーク	「なりたいたいものになる」ワークなど、即興的な身体表現に取り組み、表現活動を仲間とつくっていき楽しさや心地よさを味わう。	予習課題：身体表現としての「ふり」探し	60分
第9回	身近な素材の発見 (1) コラージュで遊ぶ	「形や色(造形言語)の引用」という観点から、創造的な造形表現の可能性を探究する。異なるものを結び重ねると生じる発想イメージの働きについて、体験的に理解する。	「～としてみる」「～であってもよい」という比喩的な見方・感じ方を活用する事例を探索し、子どもの認識発達と関連付けて説明できるようにする。	60分
第10回	身近な素材の発見 (2) つくって遊ぶ	身近で親しみのある材料を生かす造形表現の意義や可能性を探究する。製作とチームアプローチの討論から、諸材料(自然材料と人工材料・手に取れる材料と取れない材料、可塑性の有無で区別できる材料、透明・不透明材料など)の特徴を知り、活動構成と育てたい資質・感性・技能を考察する。	日常生活にある身近な材料を「自分の観点」で探す。(例：白いもの、光るもの、透明なもの、細長いもの) 集めた材料を授業に持参できるように、準備しておく。	60分
第11回	身近な素材の発見 (3) 音遊び・音づくり	手作り楽器の製作とアンサンブル。音のイメージを描き、それを音にしていく。そのあと、音で会話してみよう。どんな音の物語ができるかな？	手作り楽器を製作する。	120分
第12回	文化的・協働的表現 (1) 鑑賞から企画へ	①子どもを対象にする作品、②子どもと体験する表現遊び、のいずれかをグループごとに企画する。	各自「企画案」を作成する。	120分
第13回	文化的・協働的表現 (2) 創造する	①子どもを対象にする作品、②子どもと体験する表現遊び、のいずれかをグループごとに制作する。	グループ内で分担を決め、企画・制作に向けた準備を行う。	240分
第14回	文化的・協働的表現 (3) 発表	①子どもを対象にする作品、②子どもと体験する表現遊び、のいずれかをグループごとに発表する。	発表に向けてグループごとに準備・練習等を行う。	240分
第15回	総括	ポートフォリオをまとめながら学びの過程の振り返りを行う。	これまでの授業内容を総復習し、ポートフォリオ(学びの記録)を作成する。	120分

学生へのフィードバック方法 3名の授業担当者より、それぞれの専門の立場からコメントやアドバイスを加えながら授業を進行していく。

評価方法 各授業における課題(提出物、演習への取り組み、発表態度等)の評価とともに、「ポートフォリオ」によって本授業全体を通じた学びの過程と成果を総合的に評価する。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業課題	○	○	○	○
ポートフォリオ	○	○	○	○

評価割合 授業課題への評価(60%)、ポートフォリオによる評価(40%)

使用教科書名 (ISBN番号) 無藤隆監修・浜口順子編者代表『事例で学ぶ保育内容 領域「表現」』萌文書林 2018(978-4-89347-260-1)

参考図書 幼稚園教育要領
保育所保育指針
認定こども園教育・保育要領

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】「子どもの保育」における「表現」の位置付けを理解し、子どもに関する専門的な知識が習得で

	きている。 【関心・意欲・態度】子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。 【技能・表現】保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。	
オフィスアワー	(前期) 新開：金曜 4 限 1635研究室 吉永：月曜 3 限 1601研究室 立川：火曜 3 限 1629研究室	
学生へのメッセージ	保育士資格・幼稚園教員免許の必修科目です。実習などでのやむを得ない欠席の場合も、後日必ず学習内容を確認して、それぞれの課題に臨みましょう。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当者は国公立小学校の教諭として教育研究に従事した経験を有する。文部科学省検定教書の編修著者代表や文部科学省学習資料作成委員として各教育委員会主催の現職教員の研究・研修及び地域行政や企業と連携するネットワークを生かし、今日的な教育・保育の課題に対応する情報や知見を提供する。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークによる課題への取り組みや発表など、さまざまな実践的ワークを通して主体的、能動的に学んでいく。
情報リテラシー教育	○	webコンテンツや参考図書、検索サイトを活用する学習を通して、情報の真偽や人権・法令に配慮する基礎的知識と基本的リテラシーを向上する。
ICT活用	○	タブレット型PCやアプリケーション、視聴覚機器などを課題解決に用いる学習を通して、チームアプローチによる討論や対話の深まりを体験的に理解する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	児童学研究ゼミA		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 児童学科 教員	指定なし
教授	畝部 典子	指定なし

ナンバリング	P30001M12
授業概要(教育目的)	児童学研究における研究課題の決定、研究方法、卒業論文に求められる要素など、4年次の卒業研究（卒業論文作成）に必要な基本的知識について学ぶ。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	児童学の6領域（子どもの保育・教育・福祉・健康・心理・文化）における知識と、児童学研究の在り方について理解している。
思考・判断の観点 (K)	児童学における研究課題を見いだすことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。
技術・表現の観点 (A)	4年次で取り組む卒業研究のための基本的知識・技能が身についている。

学習計画

児童学研究法

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	児童学研究ゼミA (1)、授業オリエンテーション	児童学研究ゼミAの授業概要、卒業論文に関する取り決め、児童学研究ゼミAの評価等について概説し、児童学研究ゼミA配属先決定方法について説明する。児童学研究ゼミA第2回～第12回の講義を聞いて指定期日までに児童学研究ゼミ配属先希望調査票を提出する。	自分の取り組みたい研究課題について考えておく。	120分
第2回	児童学研究ゼミA (2)、文献研究の方法1	文献研究の方法について概説し、論文の構成や参考文献目録の書き方について学習する。	リテラシー演習で学んだ内容を復習しておく。	120分
第3回	児童学研究ゼミA (3)、文献研究の方法2	文献の読み方、要約の仕方について学習する。	リテラシー演習で学んだ内容を復習しておく。	120分
第4回	児童学研究	文献研究の方法で学んだ内容を復習し、まとめテストを	文献研究の方法で学んだ参考文	120分

	ゼミA (4)、文献 研究の方法 3	行う。	献目録の書き方、要約の仕方な などを復習しておく。	
第5回	児童学研究 ゼミA (5)、質問 紙調査の作 り方	質問紙調査の作り方について学習する。	質問紙調査について理解し、応 用できるレベルにする。	120分
第6回	児童学研究 ゼミA (6)、質問 紙調査の結 果の分析1	質問紙調査の結果の分析方法について学ぶ。	質問紙調査の分析方法を理解 し、応用できるレベルにする。	120分
第7回	児童学研究 ゼミA (7)、質問 紙調査の結 果の分析2	質問紙調査の結果の分析方法について学び、まとめテ ストを行う。	質問紙調査の分析方法を理解 し、応用できるレベルにする。	120分
第8回	児童学研究 ゼミA (8)、領域 別研究方法 1	児童学の6領域（子どもの保育・教育・福祉・健康・心 理・文化）別に具体的にどのような研究ができるか学習 する。卒業論文テーマの決定方法についても学ぶ。	自分の取り組みたい研究課題に ついて考えておく。	120分
第9回	児童学研究 ゼミA (9)、領域 別研究方法 2	児童学の6領域（子どもの保育・教育・福祉・健康・心 理・文化）別に具体的にどのような研究ができるか学習 する。卒業論文テーマの決定方法についても学ぶ。	自分の取り組みたい研究課題に ついて考えておく。	120分
第10回	児童学研究 ゼミA (10)、領域 別研究方法 3	児童学の6領域（子どもの保育・教育・福祉・健康・心 理・文化）別に具体的にどのような研究ができるか学習 する。卒業論文テーマの決定方法についても学ぶ。	自分の取り組みたい研究課題に ついて考えておく。	120分
第11回	児童学研究 ゼミA (11)、領域 別研究方法 4	児童学の6領域（子どもの保育・教育・福祉・健康・心 理・文化）別に具体的にどのような研究ができるか学習 する。卒業論文テーマの決定方法についても学ぶ。	自分の取り組みたい研究課題に ついて考えておく。	120分
第12回	児童学研究 ゼミA (12)、領域 別研究方法 5	児童学の6領域（子どもの保育・教育・福祉・健康・心 理・文化）別に具体的にどのような研究ができるか学習 する。卒業論文テーマの決定方法についても学ぶ。児童 学研究ゼミ配属先希望調査票を午後3時まで提出する。	自分の取り組みたい研究課題に ついて考えておく。	120分
第13回	児童学研究 ゼミA (13)	児童学研究ゼミ配属先希望調査票に基づき決定されたゼ ミに分かれて児童学研究を行う。	自分の取り組みたい研究課題に ついて発表できるようにしておく。	120分
第14回	児童学研究 ゼミA (14)	児童学研究ゼミ配属先希望調査票に基づき決定されたゼ ミに分かれて児童学研究を行う。	自分の取り組みたい研究課題に ついて発表できるようにしておく。	120分
第15回	児童学研究 ゼミA (15)	児童学研究ゼミ配属先希望調査票に基づき決定されたゼ ミに分かれて児童学研究を行う。	自分の取り組みたい研究課題に ついて発表できるようにしておく。	120分

学生へのフィードバック方法 各研究室でゼミに関する質問・相談を受け付ける。配属先決定までに相談をしておくこと。

評価方法 ・平常点、「文献研究の方法まとめテスト」および「質問紙調査まとめテスト」の結果により評価する。
・平常点は、授業中の実績（授業の取り組み方、提出物等）に基づき総合的に評価する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
文献研究の方法まとめテスト	○	○		○
質問紙調査まとめテスト	○	○		○
平常点	○	○	○	○

評価割合 文献研究の方法まとめテスト30%、質問紙調査まとめテスト30%、平常点40%

使用教科書名 (ISBN番号)	なし (プリント配付)	
参考図書	授業中に指示する。	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】児童学の6領域 (子どもの保育・教育・福祉・健康・心理・文化) について総合的・専門的知識が修得できている。</p> <p>【思考・判断】子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学びあう具体的・実践的な機会を通して、自らさまざまな課題に柔軟に対応できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。</p> <p>【技能・表現】理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる。保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。</p>	
オフィスアワー	研究室により異なる。	
学生へのメッセージ	これまでに学んだ児童学全般の授業内容について復習しておくこと。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	実務経験(保育・教育現場経験)のある教員による講義が含まれる。
アクティブ・ラーニング	○	議論、発表など双方向の授業を行う。
情報リテラシー教育	○	情報収集、情報整理、情報発信について学ぶ
ICT活用	○	コンピューター技術を利用した情報処理を行う。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	児童学研究ゼミB		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 児童学科 教員	指定なし
教授	畝部 典子	指定なし

ナンバリング	P30002M12
授業概要(教育目的)	4年次に開講される卒業研究A・B履修に先立ち、各自が取り組みたいテーマをもとに研究の基礎について学ぶ。具体的には、資料の収集、講読及び討議を通して仮説や探究したい点を絞り込み、論文の構成や書き方について理解を深める。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	児童学の6領域(子どもの保育・教育・福祉・健康・心理・文化)における知識と、児童学研究の在り方について理解している。
思考・判断の観点 (K)	児童学における研究課題を見いだすことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。
技術・表現の観点 (A)	4年次で取り組む卒業研究のための基本的知識・技能が身についている。

学習計画

卒業研究基礎ゼミ

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	児童学研究ゼミB(1)	配属される卒業研究基礎ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分
第2回	児童学研究ゼミB(2)	配属される卒業研究基礎ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分
第3回	児童学研究ゼミB(3)	配属される卒業研究基礎ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分
第4回	児童学研究ゼミB(4)	配属される卒業研究基礎ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分
第5回	児童学研究ゼミB(5)	配属される卒業研究基礎ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分
第6回	児童学研究ゼミB(6)	配属される卒業研究基礎ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分

第7回	児童学研究ゼミB (7)	配属される卒業研究基礎ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分
第8回	児童学研究ゼミB (8)	配属される卒業研究基礎ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分
第9回	児童学研究ゼミB (9)	配属される卒業研究基礎ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分
第10回	児童学研究ゼミB (10)	配属される卒業研究基礎ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分
第11回	児童学研究ゼミB (11)	配属される卒業研究基礎ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分
第12回	児童学研究ゼミB (12)	配属される卒業研究基礎ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分
第13回	児童学研究ゼミB (13)	配属される卒業研究基礎ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分
第14回	児童学研究ゼミB (14)	配属される卒業研究基礎ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分
第15回	児童学研究ゼミB (15)	配属される卒業研究基礎ゼミ担当教員の指示に従う。	自分で取り組みたい研究課題について考察する。	120分

学生へのフィードバック方法 配属されるゼミの指示に従う。

評価方法 配属されるゼミにおける平常点（授業中の実績）と課題（保育実践演習ポスターセッション、卒研発表会におけるワークシート等）の提出等により評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	○
課題提出	○	○	○	○

評価割合 卒研基礎ゼミ平常点（授業中の実績）50%、保育実践演習発表会と卒研発表会におけるワークシート提出50%

使用教科書名 (ISBN番号) 配属されるゼミ担当教員の指示に従う。

参考図書 配属されるゼミ担当教員の指示に従う。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】児童学の6領域（子どもの保育・教育・福祉・健康・心理・文化）について総合的・専門的知識が修得できている。
【思考・判断】子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学びあう具体的・実践的な機会を通して、自らさまざまな課題に柔軟に対応できる。
【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。
【技能・表現】理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる。保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。

オフィスアワー 研究室により異なる。

学生へのメッセージ これまでに学んだ児童学全般の授業内容について復習をしておくこと。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	実務経験(保育・教育現場経験)のある教員による講義が含まれる。
アクティブ・ラーニング	○	議論、発表など双方向の授業を行う。
情報リテラシー教育	○	情報収集、情報整理、情報発信について学ぶ。
ICT活用	○	コンピューター技術を利用した情報処理を行う。

シラバス参照

講義名	障がい児保育A (PA)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 中野 佐世子	指定なし

ナンバリング	P30203M12
授業概要(教育目的)	障害児保育を支える理念に関して理解を深め、保育所、障害乳幼児通園施設等での保育の変遷と現状、および今後の課題を理解する。 障害についての基本的考え方としては、障害を持つ子どもを「要助児」と捉える。そして保育者としての役割は「助けることを必要としている子ども (self - help needed person) であることに気づいて、保育者として自分が何をしたらいいか、役割の可能性を探ることにある。 このように「障害児保育」ととらえ、福祉・保育・心理などの知見を総合的に学ぶ。
履修条件	講義の初回から毎回出席し、意欲的に学ぶ姿勢のある者。 話し合い、発表を行うため、他者とのコミュニケーションが積極的に取れる者。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	個々の障害について正しく理解し、保護者と共に子どもの発達を促せる保育者になる。
思考・判断の観点 (K)	障害児の成長を促すため、今どのような助けが必要となるのかを判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	障害を身近な問題としてとらえ、社会の中の障害者への関心が高まる。
技術・表現の観点 (A)	保護者への伝え方、提言の仕方を考え、保育者のアドバイスを受け入れてもらえる伝え方が身につく。手話ソングや手話によるゲームをする技術が身につく。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	「障害」の とらえ方 - 「障害」と は	障害とは何か? を 身近なマークなどから学ぶ	教科書P-17を読んで復習	60分
第2回	「障害」の とらえ方 - 「障害児と は」「要助 児の概念」	身体障害、知的障害、精神障害・発達障害の概要を学び、障害児についての理解を深める	教科書P-4, 5を読んで復習をする	60分
第3回	障害に応じた 保育支援 視覚障 害 I	視野の発達と障害、色覚の発達と障害について学び、援助方法、保護者への伝え方などについて学ぶ グループ討議をして発表する	教科書P-10, 11を読んで復習 ネットで<色覚多様性>について確認をする	90分
第4回	障害に応じた 保育支	視力の障害について学び、援助・ガイドの方法を理解する	教科書P-12, 13を読んで復習する	90分

	援 視覚障害Ⅱ		身近にあるユニバーサルデザインについて調べる	
第5回	障害に応じた保育支援 聴覚言語障害Ⅰ	耳の構造を学び、聞こえのしくみと聴覚障害について理解する	教科書P-6,7を読んで復習する 「みみ展」を検索し、聞こえ方についての理解を深める	90分
第6回	障害に応じた保育支援 聴覚言語障害Ⅱ	聞こえないことと話せないことの関係について学び、二次的な障害（話せない、日本語の獲得が難しい）について理解を深める	配布したプリントを読み復習をする	60分
第7回	障害に応じた保育支援 聴覚言語障害Ⅲ	聴覚障害児、難聴児とのコミュニケーション方法や留意点について学ぶ	教科書P-8,9を読んで復習をする	60分
第8回	障害に応じた保育支援 肢体不自由Ⅰ	肢体不自由の種類や状態、介助する場合の留意点について学び、理解を深める DVDを視聴	視聴したDVDについてレポートを作成する	90分
第9回	障害に応じた保育支援 肢体不自由Ⅱ	肢体不自由者の目に見えない障害について理解し、園活動における留意点を学ぶ	教科書P-14を読んで復習する	60分
第10回	障害に応じた保育支援 知的障害Ⅰ	知的障害について学び、理解する DVDを視聴する	視聴したDVDのレポートを作成する	120分
第11回	障害に応じた保育支援 知的障害Ⅱ	知的障害の特性を学び、それぞれの特性に合わせた援助方法を理解する 援助方法についてグループ討議をし、発表する	配布したプリントを読んで復習する	60分
第12回	障害に応じた保育支援 発達障害Ⅰ	発達障害の種類やその特性について学ぶ DVDを視聴する	視聴したDVDのレポートを作成する	90分
第13回	障害に応じた保育支援 発達障害Ⅱ	発達障害の特性に合わせた援助方法や留意点について学ぶ 援助方法についてグループ討議をし、発表する	配布したプリントを読んで復習する	60分
第14回	障害児を取り巻く保育の現状と課題 補助犬について	今まで学んできたことを踏まえ、改めて障害児保育の現状と課題について学ぶ 補助犬（盲導犬、聴導犬、介助犬）について理解し、園活動における留意点について学ぶ（DVDを視聴）	配布したプリントと教科書P-15を読んで復習をする	90分
第15回	生活動作に関する具体的な保育技術 家庭への支援、家庭との連携と協力	障害の特徴に応じた生活動作（食事動作、排泄動作、行為動作など）に関する具体的な保育技術について学ぶ 家庭への支援、家庭との連携と協力について学ぶ プリントを配布し、グループ討議、発表をする	プリントを読んで復習 試験に向けて今までの総復習をする	120分

学習計画注記	講義時間30時間（2時間×1コマ×15週）＋事前事後学習20時間 こちらは前期（中野先生）のシラバスです。後期（上出先生）のシラバスは（PB）をご覧ください。
--------	--

学生へのフィードバック方法	講義の最後にリアクションペーパーに感想や考察、疑問点を記入し提出。 講師はこれを添削し、コメントを記載して返却する。 また、必要なことに関しては、全体に向けても再度説明を行い、講師と学生の意見交換をすすめる。
---------------	--

評価方法	リアクションペーパーの内容、平常点、定期試験等で評価を決定する。
------	----------------------------------

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
リアクションペーパー	○	○	○	
グループ発表	○	○	○	○
定期試験	○	○	○	

評価割合	平常点30% レポート20% 試験50% の割合で評価する (平常点とは、授業での積極的な態度や、リアクションペーパーの内容等を総合的に評価するものである。)	
使用教科書名 (ISBN番号)	①「手話ソングブック ～ともだちになるために～」 すずき出版 新沢としひこ 中野 佐世子 共著 ②「ハッピーコミュニケーションのすすめ」中野 佐世子著 書店での取り扱いがないため、講義内で販売します。800円(税込)	
参考図書	・手話ゲームブック/新沢としひこ他/すずき出版	
ディプロマポリシーとの関連	<ul style="list-style-type: none"> ・児童学を構成する6領域を総合的に理解し、障害児の専門職における必要な知識・技能を有することができる。 ・障害児に対する総合的かつ包括的な相談支援の知識と技術を修得し、子ども及び保護者への支援ができる。 ・講義を通してコミュニケーションの取り方の基本を身につけ、子ども及び保護者に対して円滑なコミュニケーションを図ることができる。 ・多様化する障害に対して興味関心を持ち続け、先入観を持たず、今、目の前にいる子どもから学ぼうとすることができる。 ・子どもや障害に関する知識と技術を修得し、社会貢献できる以下の能力（基礎的な能力・知識・技術）を有することができる。 ・手話の学習を通して、豊かなコミュニケーション能力が身に付き、それを保育で実践できる 	
学生へのメッセージ	<p>保育の現場で出会う「障害児」達を想定し、皆さんが「困らない」、子ども達を「困らせない」知識を身につけます。</p> <p>実習に間に合うよう、すぐに使える手話ゲーム・手話ソングを取り入れています。</p> <p>テキスト②の「ハッピーコミュニケーションのすすめ」は、書店での取り扱いがないため、講義の中で販売します。</p>	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	<ul style="list-style-type: none"> ・心身障害児総合医療療育センターで勤務した経験を活かし、様々な障害および支える家族の問題について伝える。 ・NHK手話ニュースキャスター、手話通訳として活動している経験を活かし、手話の楽しさ、保育における有用性について伝える
アクティブ・ラーニング	○	・グループトークを行い、発表する
情報リテラシー教育	○	・毎回のリアクションペーパーを通して、考察の導き方、書き方を説明する
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	障がい児保育B (PA)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 上出 香波	指定なし

ナンバリング	P30204M12
授業概要(教育目的)	障がい児保育を支える基本的理念と障害の概念が歴史的変遷を遂げ、ソーシャルインクルージョンを取り入れていくことを目指している保育の現状があることを理解する。そのうえで、保育者として必要である様々な障害の正しい知識と保育における発達支援や実際、家族支援、専門機関等の連携などを幅広く学び理解を深め、多様な子どもたちをひとしく大切に、個々に合わせた配慮がおこなえるよう、基本的態度や技術も含めて具体的に学ぶことを目的としている。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1. 子どもにかかわる障害の概念と種類について具体的な例を挙げて説明できるようになる。 2. 障がいのある子どもの理解の方法・支援の方法について具体的に説明できるようになる。
思考・判断の観点 (K)	1. 障がいのある子ども一人ひとりに合わせた援助の方法、合理的配慮や環境設定の工夫等、保育内容を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 障がいに関連する保育や社会問題などに関心を示し、意欲的に授業課題に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1. 障がいのある子どもの一人ひとりのニーズに合わせた実践的な配慮方法や発達支援の方法の技術が身につく。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション、「障害」の捉え方	障がい児保育の授業についての説明から授業概要を把握する。 障害の概念について学ぶ。	教科書の「障害の概念」の章及び配布プリントを読み、復習しておく。教科書「障害児保育の歴史」の章を読んで予習しておくこと。	20分
第2回	障害児保育の歴史	子どもの障害にかかわる保育、教育に関することを含めたわが国における障害児の歴史について学ぶ。	教科書の「障害児保育の歴史」の章及び配布プリントを読み、復習しておく。教科書「障害児保育の基本」の章を読んで予習しておくこと。	45分
第3回	障害児保育の基本	障害児保育の歴史を踏まえたうえで、基本として、対象、理念を知り、保育者の役割について学ぶ	教科書の「障害児保育の基本」の章及び配布プリントを読み、復習しておく。教科書「肢体不自由児、視覚障害・聴覚障害児の理解と支援」の章を読んで予習しておくこと。	45分

第4回	障害の理解と保育における発達への支援—肢体不自由児、視覚・聴覚障害児	肢体不自由児、視覚・聴覚障害児について、講義とともに映像を含めて、障害の状態や生活、保育・教育について学ぶ。そのうえで、実践できる具体的支援や合理的配慮を事例を通して学ぶ。	教科書の「肢体不自由児、視覚障害・聴覚障害児の理解と支援」の章及び配布プリントを読み、復習しておく。教科書「知的障害児の理解と支援」の章を読んで予習しておくこと。	45分
第5回	障害の理解と保育における発達への支援—知的障害児	知的障害児について、講義とともに映像を含めて、障害の状態や生活、保育・教育について学ぶ。そのうえで、実践できる具体的支援や合理的配慮を事例を通して学ぶ。	教科書の「知的障害児」の章及び配布プリントを読み、復習しておく。教科書「発達障害児（自閉症）」の章を読んで予習しておくこと。	45分
第6回	障害の理解と保育における発達への支援—発達障害児（自閉症）	発達障害児（自閉症）について、講義とともに映像を含めて、障害の状態や生活、保育・教育について学ぶ。そのうえで、実践できる具体的支援や合理的配慮を事例を通して学ぶ。	教科書の「発達障害児（自閉症）」の章及び配布プリントを読み、復習しておく。教科書「発達障害児（ADHD・LD）」の章を読んで予習しておくこと。	45分
第7回	障害の理解と保育における発達への支援—発達障害児（ADHD、LD）	発達障害児（ADHD・LD）について、講義とともに映像を含めて、障害の状態や生活、保育・教育について学ぶ。そのうえで、実践できる具体的支援や合理的配慮を事例を通して学ぶ。	教科書の「発達障害児（ADHD・LD）」の章及び配布プリントを読み、復習しておく。「医療保育」について関連サイト等を検索し予習しておくこと。	45分
第8回	医療を要する子どもの理解と保育における発達への支援—病児、病弱児	医療保育について、講義とともに映像を含めて、医療における子どもの保育や教育について学ぶ。	「医療保育」の配布プリントを読み、復習しておく。教科書「障害児保育の歴史」の章を読んで予習しておくこと。	45分
第9回	障害児保育の実際①生活と遊びの環境	障害児保育の実際として、遊びの中での療育（ゲーム療育等）を学生同士で実践しグループワークから学ぶ。	教科書の「障害児保育の実際、生活と遊びの環境」の章及び配布プリントを読み、復習しておく。教科書「障害児保育の実際、子ども同士のかかわりと育ち合い」の章を読んで予習しておくこと。	30分
第10回	障害児保育の実際②子ども同士のかかわり、職員間の協働（グループワーク）	障害児保育の実際における子ども同士のかかわり、職員間の協働を事例から具体的支援の計画立案、方法をグループワークで協議する。次回の発表準備のために、文献検索等をおこなう。	教科書の「障害児保育の実際子ども同士のかかわり、職員間の協働」の章及び配布プリントを読み、復習しておく。また、次回の発表のために文献等検索し準備をおこなう。	50分
第11回	障害児保育の実際③子ども同士のかかわり職員間の協働（グループ発表）	障害児保育の事例について、10回でグループワークをおこない、10回の授業の障害児保育の事例から具体的支援の計画立案、方法をグループワークで協議した内容を発表して、学生同士で共有することで様々な視点の療育を学ぶ。	配布プリントで発表内容を振り返る。教科書「家庭との連携、家族への支援」の章を読んで予習しておくこと。	40分
第12回	家庭との連携、家族への支援	障害児保育を円滑かつ効果的に行うために重要な家庭との連携、家族支援について学ぶ。	教科書の「家庭との連携、家族支援」の章及び配布プリントを読み、復習しておく。教科書「専門機関との連携」の章を読んで予習しておくこと。	45分
第13回	専門機関との連携	障害児への支援や配慮について、様々な専門機関、関係機関の取り組みや連携を学ぶ。	教科書の「専門機関との連携」の章及び配布プリントを読み、復習しておく。教科書「障害のある子どもを取り巻く保育の現状と課題」の章を読んで予習しておくこと。	45分
第14回	障害のある子どもを取り巻く保育の現状と課題	保健・医療・福祉・教育における障害を有する子どもの課題と現状について、事例から学ぶ。	教科書の「障害のある子どもを取り巻く保育の現状と課題」の章及び配布プリントを読み、復習しておく。教科書全体、今までの配布資料を読んで予習しておくこと。	45分
第15回	障がい児保育の授業のまとめ	障害児保育を支える理念から振り返り、保育者として子どもと家族に必要な支援や配慮を改めて総合的に理解する。	教科書全体及び今までの配布資料を読み返す。教科書や資料内の重要な部分を覚え、定期試験に向けて学習する。	85分

	こちらは後期(上出先生)のシラバスです。前期(中野先生)のシラバスは(PB)をご覧ください。				
学生へのフィードバック方法	レポート課題については、添削し返却する。授業内で解説をおこなう。				
評価方法	平常点とは、授業への積極性、課題・プレゼンに対する取り組み等を総合的に評価するものである。 レポートは、事例を基に支援計画を考え、考察する。 定期試験は、選択式問題及び小論文である。出題傾向については、最後の授業にて説明する。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点 (プレゼンを含む)	○	○	○	○
	レポート	○	○		
	定期試験	○	○		
評価割合	平常点 (プレゼンを含む) 20%・レポート20%・定期試験60%で評価する。				
使用教科書名 (ISBN番号)	藤永保 (監修) 阿部五月他 (著) 『障害児保育 子どもとともに成長する保育者を目指して』 萌文書林				
参考図書	なし				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 児童学を構成する6領域を総合的に理解し、障がいや疾患のある子どもに関する専門的知識を有している。 【思考・判断】 障がいのある子どもと家族への支援を具体的に計画し、実践的な学びに繋げることができる。 【関心・意欲】 障がいに関連する保育や社会問題などに関心を持ち、意欲的に課題へ取り組むことを身につける。 【技術・表現】 保育者として、障がいや疾患のある子どもの具体的な支援の実践技術をプレゼンを通して表現する力、コミュニケーション力を身につける。				
学生へのメッセージ	障がいのある子どもの理解と支援は、実際に関わることで深めることができます。日頃から多様な子どもたちと接する機会を積極的につくるとともに、障害に関連する保育や社会的問題などに関心を示し、自ら学ぶように努めてほしいと思います。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	大学病院小児病棟の保育、児童発達支援室の療育指導・心理相談及び市の巡回相談員としての勤務経験を活かし、障がいや疾患を有する子どもとその家族の保育、支援の方法等について事例を基に具体的に教授している			
アクティブ・ラーニング	○	グループワークをおこない、プレゼン (発表) する。			
情報リテラシー教育	○	課題レポートのために必要な情報をデータベース活用、文献等探索をおこない作成する。			
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	健康の指導法		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金子 和正	指定なし

ナンバリング	P20204M22
授業概要(教育目的)	<p>乳幼児期の健康は乳幼児の行動力を高めるだけでなく、その後の児童期、青年期へと成長していくための基礎である。乳幼児が健康に育つための基礎理論と保育環境と保育実践例を学ぶ。乳幼児が健やかに育つために「おとなの育てる機能」とその機能を働かせる「保育」における具体的な方法を修得する。8回から15回までは学生の発表を中心として授業を展開する。</p> <p>授業時間外の学習として保育内容「健康」Bでは、児童学科承認の森のようちえん活動に参加し、総合的な指導力・実践力を修得する。</p>

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの成長と運動の関係について理解している。 運動が子どもにとって大切な事項であることを説明出来る。 年齢段階に応じた運動について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの健康について判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの健康、運動、食事について関心がある。
技術・表現の観点 (A)	<ul style="list-style-type: none"> 演習の課題について発表する能力がある。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	健康観の変遷	健康観は、人、家庭、社会、国家により様々な解釈があることを理解する。	社会環境は健康観の定義や考え方に大きな影響を与えていることを理解しておく。	90分
第2回	領域「健康」	領域「健康」では、「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う」ことが目的とされていることを理解する。	領域「健康」の3つのねらいを理解しておく。(1)明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。(2)自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。(3)健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。ことを理解しておく。	90分
第3回	子どもの健康の現状と課題	近年の子ども達の遊びや運動の変化は、体力こそ横ばい状態であるがダイナミックな運動や駆け巡る運動は縮小している。これに伴い思いっきり遊んだり運動したりということがなくなってきている。健康を維持・増進するための課題が山積していることを理解する。	子どもの健康の現状を考え、どのような対策が考えられるか理解しておく。	90分

第4回	遊びと健康	子どもにとって遊びは健康作りの基本である。様々な遊びが混じり合って健康を作り上げていることを理解する。	毎日の遊びが、子どもにとって健康のみならずであり、バロメーターになっていることを理解しておく。	90分
第5回	健康教育と健康指導	子どもの遊びや、身近な所から健康に気付かせ意識させることを理解する。	遊びを通して、健康な体が遊びをできるようにしていること、健康は毎日の遊びと食事を楽しむことを子どもに学ばせるさせる。健康教育や健康指導を子どもが楽しく学べる工夫を理解しておく。	90分
第6回	安全管理と安全指導	遊びの中の怪我や事故の防止について理解する。	年齢と遊びの種類によって、怪我や事故防止の対策が異なってくることを理解しておく。	90分
第7回	発育・発達と遊び	近年の子どもの発育発達は、スキヤモンの発育発達曲線を例に取れば、全体が左に2歳前後ずれてきている。子どもの発育環境を考慮した遊びについて理解する。	年齢による遊びの発達は様々であるが、遊びの順番は子どもの発達に重要であることを理解しておく。	120分
第8回	運動遊びを考える	運動は遊びを含んで年齢が経つにつもなって動きやスピードも大きくなっていく。運動環境について望ましい場所や施設等について理解する。	運動環境にとってフィールドは重要である。人間関係の形成や事故防止の点から理解しておく。	120分
第9回	運動習慣の形成と必要性	運動は体を動かすだけでなく、心の底から楽しいと思っ行動しないと運動習慣は身につかない。子どもが運動を習慣化するための方法を理解する。	運動習慣の重要性について、子どもの体の発達とともに理解しておく。	120分
第10回	生活習慣と健康	食事、塾、運動、TV、睡眠、肥満、ゲームといったキーワードから望ましい生活習慣を理解する。	健康は、食事と運動+休息のベクトル上にあることを理解しておく。	120分
第11回	食事と健康	食事は健康のバロメーターであり、健康は食事のバロメーターでもある。食習慣は運動習慣と高い相関をもっていることを理解する。	食習慣は運動習慣を反映している。十分な休息と運動、食事は互いに関係しながら運動の内容や食事の内容にお互いに影響を与えていることを理解しておく。	120分
第12回	運動と健康	運動習慣の形成は健康の形成にも繋がっている。遊びから運動、スポーツへと子どもの遊びがルールを伴うスポーツになっていく過程で身体的健康と心の健康教育もしていくことを理解する。	健康は体とともに心の健康も育てることを理解しておく。	120分
第13回	ケガの予防と救急法	遊び場、用具、施設のハード面と遊びの内容から、子どもにとって危ないという概念を理解する。禁止事項でなく、どのようにすれば子どもにとって危なくないのか理解する。	危険行為の禁止で無く、危険にならないための行動や行為について理解しておく。危険行為や行動に対する言葉掛けを理解しておく。	120分
第14回	保育者の危機管理	注意義務、管理義務、相殺、業務上・・・、受忍の法則、ハインリッヒの法則等について裁判事例から理解する。	怪我や事故を未然に防ぐために、怪我や事故の要因をどのように排除するのかについて理解しておく。	120分
第15回	まとめ	これまでの演習内容のテーマについて討議を行い、まとめる。	演習内容の中で関心のあるテーマについて理解しておく。	120分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールを変更する場合があります。				
学生へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎授業時の終わりに実施する小テストの模範解答と自身の解答を比較しフィードバックできる。 ・ 他者の発表を聞いて自身の考え方をフィードバックできる。 				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への積極的な参加態度、毎授業時の終わりに実施する5分間の小テスト（小テストは授業時の内容に沿ったものとする）、与えられた課題の発表3回の総合評価とする。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	授業への積極的な参加態度	○	○	○	
	小テスト	○	○	○	
	課題の発表	○	○	○	○
評価割合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への積極的な参加態度 (30%)、毎授業時の終わりに実施する5分間の小テスト (30%) (小テストは授業時の内容に沿ったものとする)、与えられた課題の発表3回 (30%) の総合評価とする。 				

使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもの健康や運動に関心がある。 【思考・判断】子どもや保護者の健康観について、判断できる 【関心・意欲・態度】子どもの運動・健康・食事について関心がある。 【技術・表現】子どもの健康について表現できる y。	
オフィスアワー	火曜4時限目	
学生へのメッセージ	児童の健康に関心をもつ態度を日頃から持ってほしい。子どもを取り巻く環境と健康についていろいろな角度から考える習慣を身につけて欲しい。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	保育園や幼稚園に出かけ、実際の子どもの運動や健康について調べる。
情報リテラシー教育	○	子どもの健康について様々な方法を用いて調べ、整理している。
ICT活用	○	課題の発表に様々なメディアを駆使する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	言葉の指導法		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 和田 美香	指定なし

ナンバリング	P20206M22
授業概要(教育目的)	領域のねらい「生活の中で、言葉の興味や関心を育て、話したり、聞いたり、相手の話を理解しようとするなど、言葉の豊かさを養うこと」を柱にして、保育のあり方、子どもの姿の捉え方、について考えることを目的とする科目である。 言葉の機能や乳幼児期の言葉の発達について理解しそれらの知識を総合的に保育実践に取り入れる力を養うようにする。 保育の中で活動を展開できる技術を獲得する他、指導計画を作成し模擬保育を行うなかで、その技術をさらに実践的な力にしていく。 また、言葉でのかかわりに配慮を必要とする子どもの理解や、言葉をめぐる相談の実際と対応について等、現代における言葉の諸問題についても学べるようにする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	領域「言葉」の基礎となる考え方を理解する。 「言葉」の意義と機能について理解する。
思考・判断の観点 (K)	幼児がどのようにしたら豊かな言葉や表現を育むことが出来るかを考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	グループディスカッションやワークショップなどを取り入れながら主体的に考える。
技術・表現の観点 (A)	実践を通して言葉に対する感覚を豊かにし、保育実践に生かすための技術を学ぶ。

学習計画

言葉の指導法

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	保育所保育指針、幼稚園教育要領の基本的な考え方(乳児保育の視点と領域言葉を中心に)	保育所保育指針、幼稚園教育要領から領域言葉の内容を捉える。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習しておく。	90分
第2回	領域言葉のねらいと内容	領域言葉のねらいと内容について、文言を一つ一つ確認し、具体的事例をあげながら解説をする。その後、保育の実践と照らし合わせてグループワークの形式で議論する。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習しておく。	90分

第3回	生活と遊びの中の言葉（養護と教育に関わる保育内容の展開）	生活と遊びの中の言葉について、具体的事例に基づいて考えていく。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第4回	領域言葉の指導上の留意点、配慮事項	領域言葉の指導上の留意点、配慮事項について、解説書をもとに理解をする。その後、事例や動画などを見ながら、具体的な実践に置き換えて考えていく。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第5回	保育の過程（計画、実践、記録、省察、評価、改善）について	保育の過程（計画、実践、記録、省察、評価、改善）について領域言葉を中心にして指導計画をもとに考えていく。実際に計画を立てることをしながら、保育の流れ（計画、実践、記録、省察、評価、改善）のポイントをつかむ。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第6回	指導案の立案と模擬保育	遊び（5領域）は総合的な活動なので領域言葉だけを取り出して指導案を書くという考え方ではないことを伝えたいので、まずは指導案を書くということに目的にして、言葉の発達を意識した指導計画を立てていく。その指導案をもとに、模擬保育を行う。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第7回	模擬保育の振り返り	前回行った模擬保育の振り返りをグループごとに行う。その際、どのような視点から保育の評価を行うかということについて具体的に考えていく	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第8回	教材研究	子どもの言葉を育む教材について、グループごとにテーマを決めて議論していく。KJ法で行う。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第9回	児童文化財とは何か（子どもにとっての児童文化財の意義）	児童文化財の定義から、その具体的な実践に至るまで、体験を通して考えていく。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第10回	領域言葉と国語科教育のスムーズな連携（幼保小接続）	領域言葉と国語科教育のそれぞれのねらいや内容を確認し、その違いや共通点について話し合う。そのうえで、どのような配慮があればスムーズな連携が可能になるのかを考えていく。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第11回	配慮の必要な子どもへの対応（外国籍の子ども、障害のある子ども）	配慮の必要な子どもへの対応について、その配慮や留意点について、領域言葉の側面から考えていく。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第12回	他領域との連携	領域言葉は、5領域の中でどの領域にも関連が深い。言葉などによるコミュニケーションは、すべての領域の基本となる部分であるため、そのことをまず理解する。そのうえでそれぞれの領域と関連付けながら、その育ちを遊びや生活の中の事例をもとに考えていく。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第13回	保育の現代的課題を領域「言葉」の側面から考える。	グループごとに保育の現代的課題についてテーマを決め、領域「言葉」の視点を入れながら、意見を出し合い、議論する。 （ゲームやタブレットの普及・外国籍の子どもとのコミュニケーションなど）	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第14回	領域言葉の保育実践の動向	保育実践が、今どのような方向を目指しているのかということを紹介し、領域言葉の視点から、グループワークの形式で考えていく。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第15回	総合的な保育の展開・まとめ	これまでの授業を振り返りながら、保育の現代的課題と領域言葉の関連について考えていく。保育者の振り返りの視点、保育の評価の視点を確認し、その具体的な方法について事例をもとに考える。	授業で取り扱ったプリントやテキストをもとに、復習をしておく。	90分
第16回				

学習計画注記	講義と演習形式で行う。 ①資料を手掛かりとして、考察し、発見しあう授業 ②過去の研究を手掛かりとして、知識を得る講義 ③テーマを共有してふるまいながら気付き、身につける演習
学生へのフィードバック方法	大幅帳を利用して、授業の質問、感想、要望、雑談を受け付ける。毎回それに対するフィードバックを行う。指導案など提出したものは、添削、助言をして返却する。
評価方法	平常点50%、定期試験50% （平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点		○	○	○
定期試験	○			
評価割合	平常点50%、定期試験50% (平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する)			
使用教科書名 (ISBN番号)	コンパクト版『保育内容シリーズ4 言葉』			
参考図書	特になし。			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】言葉のもつ意義と機能を理解する。 【思考・判断】言葉の美しさや楽しさを幼児の生活の中に適宜取り入れていける力を付ける。 【関心・意欲・態度】子どもの姿(生活や遊び、発達段階)を基本に活動内容を考えていく。 【技能・表現】幼児にとっての児童文化財の意義を理解し、その技術を身に付ける。			
オフィスアワー	月曜2限から4限			
学生へのメッセージ	領域「言葉」は、他の領域との関係が大変深い。言葉が、生活や遊びの中で、他の領域と密接に関連しながら子ども達の育ちを支えていることをよく理解して、広い視点から言葉について考えてもらいたい。そのために、日頃から日常生活の中での言葉に感心を持ち、課題を見つけ積極的に授業に参加して欲しい。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、保育士・幼稚園教諭として実務経験を有しており、子どもとのかかわるうえで必要な資質・能力について実務経験に基づいて教授を行う。		
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、発表などを行い、教員と学生、学生同士の双方向のやり取りを行っていく。		
情報リテラシー教育	○	調べ学習で情報を収集する際、その情報の発信元や発信の目的などに目を向けて、信憑性のある情報か否かを判断する。		
ICT活用	○	各自の発表をパワーポイントなどにまとめて行い、他者にわかりやすいプレゼンテーションを実践する。		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	人間関係の指導法		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 丹羽 さがの	指定なし
准教授	柳瀬 洋美	指定なし

ナンバリング	P20208M22
授業概要(教育目的)	幼稚園教育要領等に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、幼児の姿と保育実践とを関連させて理解を深める。その上で、幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身につける。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1) 幼稚園教育要領における領域「人間関係」のねらい及び内容、並びに全体構造を理解している。 2) 幼稚園教育における育みたい領域「人間関係」における資質能力について理解している。 3) 領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえ、自立心を育て、人とかかわる力を養うために必要な、幼児が経験し見につけていく内容と指導上の留意点を理解している。 4) 幼児期の集団生活を通してさまざまな人と関わる経験と、小学校以降の生活や教科等とのつながりについて理解している。
思考・判断の観点 (K)	1) 幼児の心情、認識、思考及び幼児の体験と動き等を踏まえた教材研究や環境の重要性を理解し、保育構想に活用することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1) 模擬保育やロールプレイとその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけている。 2) 領域「人間関係」の特性に応じた現代課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	1) 領域「人間関係」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の効果的な活用法を理解し、保育構想に活用することができる。また、情報機器について、幼児の体験との関連を考慮しながら活用するなど留意点を理解している。 2) 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション・幼稚園教育要領における「人間関係」	保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領との比較を通して幼稚園教育要領における領域「人間関係」の全体像をつかむ	〔復習〕今回授業で学んだことを、教科書や配布資料を読んで復習し、しっかり理解する	90分
第2回	保育者との信頼関係と園生活にお	保育者との信頼関係と園生活における安定感を形成する援助のあり方について、個々への丁寧なかかわりと集団保育の展開を意識しながら考える	〔予習〕事前配布の事例について、保育者としてどのような関わりが望ましいのか考えてくる	90分

	ける安定感を形成する援助のあり方		〔復習〕自分が考えてきた援助が適切なものだったかどうか、授業中の学びを基に検討し、よりよい援助の在り方について考える。	
第3回	自立心を育む援助	3～5歳の育ちの姿に沿った、自立心を育むために必要な援助と環境構成について学ぶ	〔予習〕3～5歳の一般的な発達の特徴について調べてくる 〔復習〕自分が考えてきた援助が適切なものだったかどうか、授業中の学びを基に検討し、よりよい援助の在り方について考える	90分
第4回	トラブル場面と教師の援助	他者との遊びを楽しむ中で多様な感情を経験し、自他の気持ちに気づく援助のあり方—トラブルと教師の援助	〔予習〕事前配布プリントの事例を読み、幼児期の友達とのケンカなどのトラブルに対する保育者のかかわり・援助について気が付いたことをまとめる。 〔復習〕授業中に理解不足を感じた点について、再度資料を読み考える。	120分
第5回	自分の気持ちを調整する力を育む援助の在り方	自他の気持ちの違いへ気づき、自分の気持ちを調整する力を育む援助の在り方—折り合いがつかない事例を考える	〔予習〕事前配布プリントの事例を読み、自分が保育者だったらどのような援助を行うか考え書いてくる。 〔復習〕自分が考えてきた援助が適切なものだったかどうか、授業中の学びを基に検討し、よりよい援助の在り方について考える。	90分
第6回	きまりをめぐるさまざまな幼児の葛藤と援助	家庭・園・社会生活のきまりと幼児に経験させたい内容を考える	〔予習〕事前配布プリントの事例を読み、自分が保育者だったらどのような援助を行うか考え書いてくる。 〔復習〕自分が考えてきた援助が適切なものだったかどうか、授業中の学びを基に検討し、よりよい援助の在り方について考える。	90分
第7回	ルールのある遊びの援助	葛藤しながら自分たちにとって意味のあるきまりをつくるための援助について考える	〔予習〕事前配布プリントの事例を読み、自分が保育者だったらどのような援助を行うか考え書いてくる。 〔復習〕自分が考えてきた援助が適切なものだったかどうか、授業中の学びを基に検討し、よりよい援助の在り方について考える。	90分
第8回	個と集団の育ちを考える	幼児同士の係わり合いを生かす教員の間接的援助のあり方について考える	〔予習〕事前配布プリントの事例を読み、自分が保育者だったらどのような援助を行うか考え書いてくる。 〔復習〕自分が考えてきた援助が適切なものだったかどうか、授業中の学びを基に検討し、よりよい援助の在り方について考える。	90分
第9回	協同的な遊びの中で育ちあう長期的な保育の展開	協同的な遊びの中で育ちあう長期的な保育の展開について、見通しや振り返りの工夫を意識して考える	〔予習〕事前配布プリントの事例を読み、見通しや振り返りを書いてくる 〔復習〕授業中の学びを基に検討し、協同的な遊びの中で育ちあう長期的な保育の展開についてまとめてみる	90分
第10回	園の行事のねらいと活動内容	幼児にとって意味ある行事のねらいと協同的な活動内容について、導入段階を含む1ヶ月の展開を考え、実際に模擬保育を行う	〔予習〕園の1年間の主な行事について調べてくる 〔復習〕模擬保育を行ってみて得た気づきをまとめ、考察する	120分
第11回	幼小の交流活動を考える	幼小の交流活動における相互主体的で互恵的な活動の展開と工夫について考える	〔予習〕現在、自分の住む地域でどのような幼稚園・保育所—小学校の交流活動が行われてい	90分

			るか、調べてまとめる。 〔復習〕相互主体的で互恵的と言え交流活動には何が必要か、授業での学びを復習し、交流活動の具体例を考えてみる。	
第12回	小学校以降の生活や学習で活かされる力	「幼児期の終わりにまで育てほしい姿」を軸に幼小接続期を考える	〔予習〕「幼児期の終わりにまで育てほしい姿」を読み、人間関係にかかわる項目について、年長の終わりに頃にはどのような具体的な姿が見られそうか考えてみる。そしてそれが、小学校での生活と学びにどのようにつながっていきそうか、考えてみる。 〔復習〕幼児期に育まれた力を大切に、接続期の小学校での学び方・生活の仕方について、授業での学びを基に具体的に考えてみる。	90分
第13回	地域とのかかわりを考える	さまざまな人との関わりにある特徴を捉え、幼児期に経験させたい地域の人との関わりを考える	〔予習〕身近な地域の人にはどのような人々がいるのかについて調べてみる 〔復習〕授業で学んだことを元に、地域とのかかわりが幼児期の成長に果たす役割についてまとめる	90分
第14回	多様な人、多様な子どもとの関わり	多様な人、多様な子どもとの関わりの中で豊かに生きていく上で、幼児の経験を育ちへ根付かせる長期的な計画と教師の援助を考える	〔予習〕幼児を取り巻く多様な人・多様な子どもについて書いてみる 〔復習〕自分で事例を挙げ、幼児の経験を育ちへ根付かせる長期的な計画と教師の援助について考え、それをまとめる	90分
第15回	領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題・まとめ	現代における情報機器を通じた子どもの人とのかかわりについて考える	〔予習〕人間関係をめぐる現代的諸問題について考えて書いてみる 〔復習〕情報機器を通じた子どもの人とのかかわりにおいて、保育者の援助の在り方についてまとめる	予習120分、復習120分
第16回	定期試験			

学習計画注記	授業の進み具体等によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	コミュニケーション・カードに下線and/orコメント付きで返却する。多かった質問・疑問については次回授業冒頭で解説する。また特によかったコメントについては次回授業冒頭で紹介する。それ以外の質問がある場合は1626研究室まで訪問すること。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点は、学びに向かう姿勢、意欲、理解度をコミュニケーション・カードの記入状況、内容から評価する。 ・課題は、事前課題への取り組みと内容により評価する。 ・最終レポート課題は、授業到達目標の達成の程度を測るものとする。 ・平常点、課題、最終レポートは、下表に示す力を養うことを目的に実施する。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点	○	○	○	
	課題	○	○	○	
	定期試験	○	○		
評価割合	平常点 (30%)、課題(30%)、最終レポート (40%) で評価する。				
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。				
参考図書	授業内で随時紹介する。				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】領域人間関係、乳幼児期の人間関係の発達に関する専門的知識を有している。【思考・判断】子どもの人と関わる力を育む保育、保育者の援助について考えることができる。【関心・意欲・態度】現代社会に				

	育つ子どもたちの人間関係をめぐる課題に関心もち、保育者としてその解決に意欲的に取り組む姿勢をもつ。	
オフィスアワー	水曜日2限 1609研究室	
学生へのメッセージ	1. 演習科目ですので、ワークやディスカッションに積極的に参加する姿勢を求めます。 2. 毎回授業内容を復習しておいてください。 3. 宿題とした予習課題は必ず次回までに取り組んでおいてください。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	事例検討を効果的に取り入れる
アクティブ・ラーニング	○	小グループでのディスカッションを行う
情報リテラシー教育	○	情報機器を通した子どもの人とのかかわりについて考える
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	環境の指導法		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 中田 範子	指定なし

ナンバリング	P20210M22
授業概要(教育目的)	乳幼児の発達の特長や環境を通じた教育の重要性を踏まえた、領域環境のねらい、内容に応じた指導法を修得する。乳幼児は、様々な環境と関わりながら深い学びを実現する。このような乳幼児の発達の特長や環境を通じた教育の重要性を踏まえた、乳児保育における三つの視点、及び領域「環境」の示すねらいや内容、内容の取扱いを踏まえた指導法について、カリキュラムマネジメントを意識しながら演習を通して学ぶ。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	幼児期の環境との関わり的重要性を踏まえ、環境を通じた教育と小学校教育への接続について理解する。
思考・判断の観点 (K)	環境を通じた教育の指導を行うための教材の活用法を理解しその具体的な方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	国内外の乳幼児向けの自然体験活動の実践に関心を持ち、保育の質の向上に向けて、カリキュラムマネジメントの在り方を理解する。
技術・表現の観点 (A)	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画(活動案)の作成を通して、年齢に応じた環境構成や援助、指導法を身につける。 作成した指導案や園内環境図の考案をもとに模擬保育を行い、振り返りながら保育を改善する視点を身に付ける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	幼児の環境を通して学ぶ姿	レイチェルカーソン「センス・オブ・ワンダー」を参照しながら、乳幼児期の環境との関わり的重要性について考える。	授業内容を踏まえ、環境の影響の大きさについて日常生活の中で考える。	90分
第2回	環境を通じた教育	我が国の保育・幼児教育の基本的な考え方の一つである「環境を通じた教育」について理解する。	授業内容を復習し、環境を通して学ぶ幼児の姿についてメモをする。	30分
第3回	幼児向け野外活動プログラムの概要	森のムッレ教室、森のようちえん等、幼児向けの自然体験活動の概要と意義について考える。	小レポートに幼児向け体験活動の意義について考えたことを記入する。	60分
第4回	幼児向け野外活動プログラムの実際と検討	ネイチャーゲーム「森の色合わせ」、「カメラゲーム」の実践を通して、自然環境に対する興味を喚起し、自然に対する気付きの重要性を理解する。	ワークシートにネイチャーゲームを通して気づいたこと、子どもに気付いてほしいことを記入する。	90

第5回	季節の移り替わりに関わる保育内容の指導法の検討	秋・冬の自然に関する事項や保育内容を調査・発表し、保育実践にどのように取り入れるのかを考える。	秋・冬の自然に関する資料を収集し、発表の準備をする。	90
第6回	季節の伝統行事に関わる保育内容の指導法の検討	秋・冬の伝統行事に関する事項や保育内容を調査・発表し、保育実践にどのように取り入れるのかを考える。	秋・冬の伝統行事に関する資料を収集し、発表の準備をする。	90
第7回	園内環境の実際	保育現場における保育の記録の実際を参照しながら、画像を用いたドキュメンテーションを作成する。	保護者へ伝えたいこと、子どもが自身の経験を振り返り、意味づけられることを考えながら、ドキュメンテーションを完成させておく。	120
第8回	園内環境の構成案の作成と検討	【私たちの園を作ろう】様々な園の園舎や園庭を調査し、子どもにとって有意義な園内環境を考える。また、園の設置基準に関する法令等を調査し、園の保育方針、人的配置等を考える。	各班で園庭や園舎を園パンフレットの形式で作成する。	120
第9回	園外保育の計画の作成	【秋の遠足の立案】秋の遠足に適した場所を検索し、立案する。また、その内容を保護者向けのおたよりの形式でまとめる。	秋の遠足に適した場所を検索しておく。「チェックシート」、「保護者向けおたより」を完成する。	120
第10回	模擬保育① 園生活と社会環境(保護者会を通じた保護者との連携)	立案した秋の遠足の内容を保護者向け説明会の形式で発表する。保護者の立場に立ってねらいと内容を分かりやすく説明する。	発表の準備をする。秋の遠足のねらいと内容をどのようにわかりやすく説明するか、保護者に信頼感と安心感を得ることができ発表の方法を考える。	90
第11回	模擬保育② 園生活と社会環境(園外保育と自然環境に関わる保育内容)	立案した秋の遠足の内容を保護者向け説明会の形式で、発表する。想定される保護者からの要望への対応を考える。	保護者の立場に立って、保育者に対する要望や子どもに対する配慮等について想定し、よりよく家庭と連携しながら、子どもを中心とした保育への実現について考える。	90
第12回	模擬保育③ 園生活と社会環境(社会資源の活用と幼児の地域社会とのかかわり)	模擬保育を振り返り、省察しながら計画の修正を行う。また、家庭や地域との連携について考える。	演習問題を完成する。	90
第13回	幼児の事故の特徴と災害に対する安全教育	保育環境にある安全に対する配慮、災害に対する対応について考える。	ワークシートに授業内容と園での災害に対する対応について考察を記入する。	90
第14回	国内外の幼児向け環境教育プログラムの概要と検討	乳幼児向けの環境教育プログラムを理解し、内容を検討する。	演習問題を完成する。	90
第15回	小学校教育への接続と環境教育	環境教育、ESDに関する国内外の資料をもとに、現状と課題を理解する。	演習問題を完成する。	90

学習計画注記 授業の進行状況等により、変更の可能性があります。

学生へのフィードバック方法 学生が提出した提出物はすべて添削、採点し、返却する。グループ討議、発表の際には、質疑応答を通して学習目標が達成できるように適宜助言する。

評価方法
・提出物、学期末レポートの評価を点数化する。
・提出期限が守られなかった場合には、減点の対象とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
------	-----------	-----------	--------------	-----------

小レポート	○	○		
ワークシート				○
学期末レポート	○	○		
発表内容	○			○

評価割合	ワークシート(10%)、園パンフレット(10%)、保護者向けおたより(10%)、発表(20%)、学期末レポート(50%)
使用教科書名 (ISBN番号)	無
参考図書	幼稚園教育要領、同解説書、保育所保育指針、同解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、同解説書
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】児童学を構成する6領域のうち、「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」を理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている</p> <p>【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性が備わっている</p> <p>【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組む。</p> <p>【技能・表現】保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている</p>
オフィスアワー	火曜日4-5限目 1623教室
学生へのメッセージ	「子どもと環境」で学んだことを整理し、実際に乳幼児と関わる経験と結びつけながら理解を深めてください。受け身ではなく、積極的な態度で授業に臨むことを期待しています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、幼稚園・保育所で教諭・保育士として実務経験を有しており、領域「環境」の指導法について実務経験に基づいて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	学内において、ネイチャーゲームの実施等を通して、体験を通して学ぶ。
情報リテラシー教育	○	季節の自然や伝統行事に関する資料を収集し、自ら設定したテーマのもとに情報をまとめ、発表する。
ICT活用	○	調査した季節の自然や伝統行事を発表する際には、画像や動画を用いて、発表内容をppt等にまとめ、他者に理解しやすく発表する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	表現の指導法		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新開 よしみ	指定なし
教授	立川 泰史	指定なし
教授	吉永 早苗	指定なし

ナンバリング	P20212M22
授業概要(教育目的)	領域「表現」は、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことを目指すものである。乳幼児期に育みたい資質能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説に示されたねらい及び内容について、音楽・造形・身体表現領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想し、実現する方法を習得する。
履修条件	「子どもと表現」を履修しておくこと。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1. 領域「表現」のねらい及び内容並びに全体構造を理解し、乳幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点、評価、小学校の教科等とのつながりを理解している。
思考・判断の観点 (K)	1. 乳幼児の生活と実態に即した表現について構想することができる。 2. 表現活動を豊かにするための環境構成・指導法の工夫について考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. グループ討議、指導案の作成や模擬保育において積極的に協働し、自分の役割を見つけて寄与できる。
技術・表現の観点 (A)	1. 指導案の作成や模擬保育への参加において、自分なりの感性、創造力、表現力を十分に発揮することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	領域「表現」のねらい及び内容	幼児教育の基本及び領域「表現」のねらい及び内容について、乳幼児の姿と関連づけて理解する。	「幼稚園教育要領解説」・「保育所保育指針解説」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」関連個所の抄読	150分
第2回	領域「表現」のねらい及び内容	幼児の表現する姿を通し、表現活動において育みたい資質・能力について、具体的に考える。	テキスト第1章の精読	150分
第3回	領域「表現」のねらい及び内容	表現活動における「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を具体的に関連付けることを通し、幼児の表現における評価の考え方を理解する。	テキスト第2章及び第9章-3の精読	150分
第4回	乳幼児期の	事例や映像から幼児の心情・認識・思考及び動きなどを	テキスト第3章の精読	150分

	発達と表現	考察し、幼児が経験し身に付けていく表現の内容と指導上の留意点を理解する。		
第5回	領域「表現」における学びの連続性—教科教育との連携	幼児期の表現活動と小学校の様々な教科との学びの連続性を理解し、具体的な実践を考える。	小学校低学年での教育内容を調べておく。	240分
第6回	表現活動におけるインクルーシブ教育	インクルーシブ保育としての領域「表現」の可能性について理解し、具体的な活用を考える。	個々に事例収集を行い、グループでの情報交換の準備を行う。	240分
第7回	乳幼児期の表現活動に関する保育研究の動向	乳幼児の表現活動における保育実践の動向について知見を深め、保育構想の向上に取り組む。	個々に論文検索を行い、グループでの情報交換の準備を行う。	240分
第8回	表現の指導方法と保育の構想	豊かな感性を育み表現を引き出す保育者の役割日について理解し、具体的な保育を構想した指導場面での活用を考える。	テキスト第6章の精読	150分
第9回	表現の指導方法と保育の構想	豊かな表現と環境構成について、事例や映像から具体的に考える。	テキストの第3章、第4章の精読	150分
第10回	表現の指導方法と保育の構想	情報機器及び教材の活用法について体験的に学び、保育に活用できるアイデアを考える。	個々に事例収集を行い、グループでの情報交換の準備を行う。	150分
第11回	表現の指導方法と保育の構想	指導案の構造を理解し、表現のねらいについて具体的に考え、ねらいを実現する教材研究を行う。	保育における表現活動の事例（指導案）を収集しておく。	150分
第12回	表現の指導方法と保育の構想	モデル指導案から保育実践をイメージしたり体験したりして、具体的な援助について考える。	グループで集まり、実践の準備を行う。	150分
第13回	表現の指導方法と保育の構想	3歳未満児の表現遊びの指導案を作成し、模擬保育とその振り返りを行う。	グループごとに指導案を作成し、実践の準備を行う。	240分
第14回	表現の指導方法と保育の構想	3～5歳児の表現活動の指導案を作成し、模擬保育とその振り返りを行なう。	グループごとに指導案を作成し、実践の準備を行う	240分
第15回	振り返りと総括	これまでの学びを振り返り、乳幼児の表現とその指導のあり方について考える。	模擬保育をの振り返りと学びのまとめを作成する。	150分

学習計画注記 「表現の指導方法と保育の構想」では、グループに分かれて指導案を作成し、模擬保育とその振り返りを行います。模擬保育では、保育者役を担当する人以外は幼児役を担当し、その年齢の幼児になりきることで子ども理解を深めます。

学生へのフィードバック方法 3名の授業担当者より、それぞれの専門の立場からコメントやアドバイスを加えながら授業を進行します。提出物へのコメントやリフレクションシートに記載された質問事項については、次週にお答えします。

評価方法 以下の5つの観点から3名の教師が総合的に評価を行う。
1. 乳幼児の表現のありようと指導上の留意点を理解している。
2. 情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。
3. 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。
4. 模擬保育とその振り返りを通し、他者と協力して保育を改善する視点を見出すことができる。
5. 保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
学びの過程の評価		○	○	○
学びの成果の評価	○	○	○	○

評価割合 学びの過程の評価（授業態度・グループ発表や模擬保育への参加等）70%、学びの成果の評価（最終レポート）30%、 の割合で総合的に評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) 無藤隆監修・浜口順子編者代表『事例で学ぶ保育内容 領域「表現」』萌文書林 2018 (978-4-89347-260-1)

参考図書 幼稚園教育要領
保育所保育指針
認定こども園教育・保育要領

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】子どもの表現についての知識を広げ、より豊かな感性と表現を育むための指導法について理解している。</p> <p>【思考・判断】模擬保育における具体的・実践的な場面において、自ら様々な課題に柔軟に対応できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。</p> <p>【技能・表現】本学科の特色ある授業への積極的な参加を通して理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる。保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。</p>	
オフィスアワー	<p>新開：金曜 4 限 1635研究室 吉永：月曜 3 限 1601研究室 立川：水曜3限 1629研究室</p>	
学生へのメッセージ	<p>ICTを活用し、ドキュメンテーションやポートフォリオなどの記録、幼児にわかり易い教材や資料の作成を行ってみましょう。</p> <p>グループで指導案作成に取り組み、協働して模擬保育を展開することができるよう、自主学習を行ってください。</p> <p>幼稚園教諭一種免許状・保育士資格取得に必要な授業科目であることに留意すること。</p>	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当者は、国公立小学校教諭として従事した経験を有する。文部科学省検定教科書の編修や文部科学省学習資料作成委員として教育委員会主催の現職教員の研究研修や地域行政・企業と連携するネットワークを生かし、今日的な教育・保育課題に対応する知識や情報を提供する。
アクティブ・ラーニング	○	指導案作成や模擬保育のほか、グループワークを多く取り入れています。
情報リテラシー教育	○	活動をデジタル機器に記録・保存したり、トピック・エピソードを精選したりする活動を通して、情報管理や発信に関する倫理観、基本的な処理技能を高める。
ICT活用	○	乳幼児期の表現教育におけるICT活用について学ぶと共に、学生自身がタブレット型PCやアプリケーションを用いて、学習プロセスのドキュメンテーションや相互評価を行う。

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	保育内容総論B		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	児童学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 中田 範子	指定なし

ナンバリング	P20203M21
授業概要(教育目的)	「保育内容総論A」で学習した内容を踏まえ、現行の幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領の5領域にそれぞれ示されているねらい、内容、内容の取扱いについての理解を深める授業である。さらに、年齢に応じた保育の計画と実践に関する今日的課題に視点を広げ、発達段階に応じた保育の計画と指導法のあり方について演習を通して検討し、学生自らの発見をもとに理解を深めることを目的とする。
履修条件	「保育内容総論B」の単位を取得した者を原則とする。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	乳幼児期の発達の特徴を踏まえ、一人ひとりの乳幼児の特性に応じた援助の重要性を説明できる。国内・国外の保育の実際を参考にしながら、乳幼児の興味や発達の特徴に応じた援助の在り方を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	乳幼児期の遊びや環境の重要性を踏まえ、遊びを通じた保育を行うための教材の活用法を理解しその具体的な方法を考案することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	作成した指導案をもとに模擬保育を行い、振り返りながら保育を改善する視点を身に付ける。
技術・表現の観点 (A)	それまで得られた保育に関するあらゆる知識を結び付けながら、実際を想定して指導計画(活動案)を作成し、適した保育技術を身につける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	幼児の園生活と保育者の援助①	ガイダンス 「気になる子ども」について考える	自分が気になる子どもの特徴とその理由について覚知する。	30分
第2回	幼児の園生活と保育者の援助②	「個と集団」「一人で遊ぶ子ども」をテーマとした事例をもとに、討議する。	配布資料の演習問題を完成する。	30分
第3回	幼児の園生活と保育者の援助③	「子ども同士の育ちあい」「子どもの自己主張と自己抑制」をテーマにした事例をもとに討議する。	配布資料の演習問題を完成する。	30分
第4回	0-1歳児の生活と保育	0-1歳児の発達の特徴と保育者の援助について理解する。	教科書第4章を予習し、0-1歳児の言葉と人とのかかわりについて内容を確認しておく。	30分

第5回	1-2歳児の生活と保育	1-2歳児の発達の特徴と遊び、おもちゃとの関わりについて理解し、物とのかかわりの重要性について考える。	教科書第4章を予習し、1-2歳児の言葉と人とかかわりについて内容を確認しておく。	30分
第6回	3歳児の生活と保育	3歳児の発達の特徴と遊び、遊びの意義について考える。	配布資料の演習問題を完成する。	30分
第7回	4歳児の生活と保育	4歳児の発達の特徴と遊び、子ども同士の関係への援助について考える。	ワークシートに「子ども同士の言葉の伝え合いと保育者の援助」を観点として、考察を記入する。	30分
第8回	5歳児の生活と保育	5歳児の発達の特徴と遊び、遊具を活用した遊びの工夫について考える。	ワークシートに「運動遊びの種類と工夫」を観点として考察を記入する。	30分
第9回	諸外国の特徴的な指導法	レジヨ・エミリア・アプローチに見る子どもを中心とした教育について考える。	ワークシートにレジヨ・エミリア・アプローチの概要を記入し、大人が子どもに寄り添うことと環境の作り方について考察を記入する。	30分
第10回	保育に活用する教材について	保育に活用できる身近な素材と環境構成について考える。	サブノートのテーマ1,2を完成する。	90分
第11回	保育内容と指導計画	指導計画(活動案)の作成について理解し、年齢に応じた保育内容を考える。	教科書第10章を予習し、計画作成の概要について内容を確認する。	30分
第12回	指導計画の作成	子どもが主体になって楽しむことが中心となる保育内容の計画を作成・検討する。	各グループで討議をすすめ、指導計画を完成する。	90分
第13回	模擬保育① 音楽遊びの展開	作成した指導計画をもとに、音楽遊びをテーマとした模擬保育を行う。時系列の観察記録を作成する。	模擬保育の省察をもとに計画の修正をする。観察記録を完成する。	90分
第14回	模擬保育② 造形遊びの展開	作成した指導計画をもとに、造形遊びをテーマとした模擬保育を行う。エピソード記録を作成する。	模擬保育の省察をもとに計画の修正をする。観察記録を完成する。	90分
第15回	模擬保育③ 運動遊びの展開	作成した指導計画をもとに、造形遊びをテーマとした模擬保育を行う。エピソード記録を作成する。	模擬保育の省察をもとに計画の修正をする。観察記録を完成する。	90分

学習計画注記	授業の進行状況等により変更の可能性があります。
学生へのフィードバック方法	提出された指導案はすべて確認し、修正点について適宜コメントする。観点は、年齢に応じた保育内容であること、ねらいと内容が合致していること、保育の展開方法が適切であること等である。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬保育はグループ討議の結果を踏まえてグループごとに行い、授業内に評価する。 ・サブノート、学期末レポートは各自で作成し、評価する。 ・サブノート等の提出物については、提出期限が守られなかった場合には、減点の対象とする。

評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	模擬保育		○	○	○
	サブノート	○	○	○	○
	学期末レポート	○	○		

評価割合	模擬保育(指導案の作成を含む)25%、サブノート25%、学期末レポート50%
使用教科書名(ISBN番号)	中田範子著「子どもの育ちと環境—未来を見据えた保育の探求」大学図書出版
参考図書	幼稚園教育要領、同解説書、保育所保育指針、同解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、同解説書 その他、適宜紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】児童学を構成する6領域のうち、「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」を理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。</p> <p>【関心・意欲・態度】子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。</p> <p>【技能・表現】保育者・教育者として求められる豊かな表現力を身につけている。</p>
オフィスアワー	火曜日1-3限
学生へのメッセージ	学習を進めていく中では疑問点を持つことは大切です。疑問・質問がある場合には、遠慮せずに申し出てください

い。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、幼稚園・保育所で教諭・保育士として実務経験を有しており、幼稚園、保育所の保育の実際について実務経験に基づいて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	学生が模擬保育を通して、考案した保育内容をどのように実現するかを考え、理解する。また、子ども同士の関係や保育者の援助をテーマとした、グループ討議を行う。
情報リテラシー教育	○	乳幼児に適した保育内容について調査し、情報を収集し、指導案作成に活用する。
ICT活用	○	画像や動画を活用しながら、保育所の生活や保育士の援助の実際を理解する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究A（西口）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間福祉学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 西口 守	指定なし

授業概要(教育目的)	3年間学修した知識や実習で得た技術を統合して研究テーマを考え、成果をまとめることを目的とする。Aでは個々のテーマに沿った先行研究の探索、調査、資料収集、整理分析をしながら論文としてまとめる準備を行い、前期終了時には中間報告を行う。
履修条件	3年次終了までに90単位を取得していること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	テーマに沿った先行研究が探索できる 研究の目的と方法が理解できる
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会福祉の課題について探索しようとしている
技術・表現の観点 (A)	研究の目的と方法が論理的に表現できる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	論文を書くとは 関心を持つこと	学生一人一人に何かを書いた経験があるかを尋ね、人はなぜ書くのかを考える	学術論文を読み、その論文で伝えなかったことを400字以内で述べる。	120分
第2回	論文を読む	予習でまとめたものを皆で検討する。	論文を読む②論文の構成がどのようなになっているかを理解する	120分
第3回	論文の構成を学ぶ	実際の学術論文を読んで構成を学ぶ	目的を考えてみる	120分
第4回	論文の構成②	調査の方法を考える	どのような調査をしたいかを考える	120分
第5回	調査の方法 1 アンケート調査	アンケート調査 量的調査の中の質問用紙の作り方を学ぶ	アンケート調査をインターネットで調べる	120分
第6回	アンケート調査②	アンケート調査の実際を学ぶ 質問用紙の配布と方法 そのやり方	視聴率調査を調べてくる	120分
第7回	アンケート調査③	アンケート調査の集計を学ぶ またエクセルを使ったグラフの作成方法を学ぶ	エクセルのグラフをインターネット調べる	120分
第8回	質的調査①	事例調査を学ぶ インタビュー調査を学ぶ	質的調査とは何かをインターネ	120分

			ットで調べる	
第9回	質的調査② グラウンデッドセオリーが目指すもの	インタビューを分類しタイトルをつける 実際にやってみる	KJを調べておく	120分
第10回	テーマを考える①	何を書くかを考える	授業で発表できるように準備する	120分
第11回	テーマを考える②	テーマを考える 特に目的	テーマを考える	120分
第12回	調査の方法を考える	論文の調査の方法を考える	質的調査 量的調査を復習し、自らの方法を考える	120分
第13回	目的と方法	目的方法を原稿にする	目的方法を明確にしておく	120分
第14回	発表準備	原稿をパワポにしてみる	原稿からパワポへのやり方を考える	120分
第15回	プレゼンテーション	完成したパワポをプレゼンする	パワポ準備	240分

学習計画注記 学生の理解度をみながら、順番を入れ替えたり、また別の単元を挿入することもある

学生へのフィードバック方法 リアクションペーパーへのコメント

評価方法 ①都度の宿題の達成状況
②発表内容

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
都度の宿題の達成状況	○		○	
発表内容				○

評価割合 ①40%
②60%

使用教科書名 (ISBN番号) 教員が個別に提示する。

ディプロマポリシーとの関連
【技術・表現】
自らの作品を効果的に発表できるスキルが身についた。
【知識・理解】
論文構成が理解できた。また質的調査、量的調査の方法が理解できた

オフィスアワー 月曜日3時限

学生へのメッセージ 与えられた課題を確実に着実に終了すること

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は高齢者福祉施設に勤務した経験があり、現場の状況を踏まえた具体的な課題を設定して授業を進める
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	卒業研究A (嶋田)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間福祉学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 嶋田 芳男	指定なし

授業概要(教育目的)	3年間学修した知識や実習で得た技術を統合して研究テーマを考え、成果をまとめるために、個々のテーマに沿った調査、資料収集、整理分析を行えるように指導する。また、前期終了時には論文の進捗状況を把握するために中間報告を行う
履修条件	3年次終了までに90単位以上取得した者

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	3年間の学修から学んだ知識を活用しながら、論文テーマとその内容を考えることができる
思考・判断の観点 (K)	3年間の学修から蓄積されたさまざまな知識を基に、論文の枠組みを構成することができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	決められた期限までに与えられた課題を達成することができる
技術・表現の観点 (A)	資料収集するための文献検索の方法が理解でき、関係文献の収集ができる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	論文の作成方法(1)	論文の構成を学ぶとともに、事例を用いながら深化させていく。また、論文にふさわしい文言やふさわしくない文言についても理解する	これから研究していく論文のテーマや構成について考えておく。また、配布したプリントを基に授業内容を復習しておく	360分
第2回	論文の作成方法(2)	論文にふさわしい数値表記とふさわしくない数値表記について学ぶとともに、引用文献や参考文献の違いについても理解する	引き続き論文のテーマと構成について考えるとともに、配布したプリントを基に授業内容を復習しておく	360分
第3回	論文の作成方法(3)	前2回の授業内容をどの程度把握しているかを学生間で確認する。また、論文テーマとその構成についても討議し、深化を図る	引き続き論文テーマとその構成について考える	360分
第4回	研究計画書の作成(1)	考えている論文テーマとその構成を文章化し、論文作成上の指導を受ける	論文に必要な文献や資料について考えておく	360分
第5回	研究計画書の作成(2)	前回の授業で指導された点について再考し、研究計画書を作成する	引き続き論文作成に必要な文献や資料について考えておく	360分
第6回	論文関係文献の検索法	インターネットや書籍などから、先行研究、関係文献、関係資料を検索する方法について理解する	インターネットや書籍などから、先行研究、関係文献、関係資料について調べる	360分

第7回	先行研究の検討(1)	収集した先行研究を整理し、分析することで研究の具体的な方向性を知る	先行研究の整理と分析を行う	360分
第8回	先行研究の検討(2)	収集した先行研究を整理し、分析することで研究の具体的な方向性を知る	先行研究の整理と分析を行う	360分
第9回	収集した文献、資料の整理(1)	具体的な研究の方向性に基づき、収集した文献、資料を整理することを知る	収集した文献、資料の整理を行う	360分
第10回	収集した文献、資料の整理(2)	具体的な研究の方向性に基づき、収集した文献、資料を整理することを知る	収集した文献、資料の整理を行う	360分
第11回	収集した文献、資料の分析(1)	研究の方向性に合致している文献、資料の分析を行い、論文にどのように反映できるかを学ぶ	研究の方向性に合致している文献、資料の分析を行う	360分
第12回	収集した文献、資料の分析(2)	研究の方向性に合致している文献、資料の分析を行い、論文にどのように反映できるかを学ぶ	研究の方向性に合致している文献、資料の分析を行う	360分
第13回	量的調査の内容と手法	留め置き・郵送・集合・面接・電話調査、公的データの活用について学ぶ	授業で配布したプリントを基に、授業内容を復習しておく	360分
第14回	質的調査の内容と手法	個別インタビュー、フォーカスグループインタビュー、KJ法の内容と手法について学ぶ	配布したプリントを基に、授業内容を復習しておく	360分
第15回	研究方法を決定する	研究の方向性や関係文献、関係資料の分析から、研究対象に対してどのような調査を実施するのかを学ぶ	研究対象に対して、どのような調査方法を用いるのかについて考える	360分

学習計画注記	1つの授業テーマに対して、2限(2コマ)の授業時間を充てる。また、授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合がある
--------	--

学生へのフィードバック方法	中間報告書は、評価した上で返却する
---------------	-------------------

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点 先行研究、文献、資料の収集状況と論文作成に対する意欲から評価する ・中間報告の成果 中間報告のプレゼンテーションと報告書の内容から評価する
------	---

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	
中間報告の成果	○	○		

評価割合	平常点50% 中間報告の成果50%
------	-------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	必要に応じてプリントを配布する
-----------------	-----------------

参考図書	白井利明他著『よくわかる卒論の書き方』(ミネルヴァ書房)
------	------------------------------

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】 さまざまな福祉課題が惹起されている状況を受け止め、その福祉課題の軽減、あるいは解消のために修得してきた知識を活用することができる</p> <p>【思考・判断】 さまざまな福祉課題に対して、各種社会福祉制度やソーシャルワークの方法論を活用し、福祉課題の軽減、あるいは解消するための視点を養うことができる</p> <p>【関心・意欲・態度】 福祉課題を複眼的、構造的に捉えることができ、それら福祉課題が「人と状況との相互作用」の中で生成されていることを理解することができる</p> <p>【技能・表現】 各種社会福祉制度に関わる知識や、さまざまなソーシャルワークの方法論を活用することができる。また、他の専門職との連携から福祉課題の軽減や解消を図っていく力を修得できる</p>
---------------	---

オフィスアワー	火曜3限、木曜2限
---------	-----------

学生へのメッセージ	日常から論文テーマに関係する新聞記事やニュースに関心を持ち、文献や関係資料の収集に努めて欲しい
-----------	---

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業	○	高齢者施設や児童福祉施設におけるソーシャルワーカーの経験から、地域で発生している福祉課題の実態やその解決方策などを論文に反映できるような授業を展開している
アクティブ・ラーニング	○	図書館で論文作成に必要な文献、関係資料を収集するとともに、フィールドワークによる関係者へのインタビューを論文に反映できるよう指導している
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	インターネットの活用により、先行研究、関係資料、研究対象に関わる情報を収集するように指導している

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究A（加地）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間福祉学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 加地 雄一	指定なし

授業概要(教育目的)	3年間学修した知識や実習で得た技術を統合して研究テーマを考え、成果をまとめることを目的とする。Aでは個々のテーマに沿った調査、資料収集、整理分析をしながら論文としてまとめる準備を行い、前期終了時には中間報告を行う。
------------	---

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)

評価割合	平常点50% 中間報告書の成果50%
------	--------------------

使用教科書名(ISBN番号)	各指導教員が個別に提示する。
----------------	----------------

学生へのメッセージ	自己のテーマに沿った内容について資料収集をする。
-----------	--------------------------

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	卒業研究B（西口）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間福祉学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 西口 守	指定なし

授業概要(教育目的)	卒業研究Aでまとめた資料（文献、調査項目等）をもとに論文としてまとめることを目的とする。終了後にはその成果を発表する。
履修条件	卒研Aの単位を取得していること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	プレゼンで分かりやすい表現委をこころよみようとした
技術・表現の観点 (A)	プレゼンにおいてパワポの構成やパワポの操作などが正確でなおかつ説得力がある

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	前期の発表論を見直す	前期の発表論文を再検討する	論文を何度も読む	120分
第2回	調査方法を学ぶ	調査の仕方を学ぶ	調査方法を学ぶ	120分
第3回	論文の精査	個別に進める	執筆を進める	120分
第4回	論文の精査	個別に進める	執筆を進める	120分
第5回	論文の精査	個別に進める	執筆を進める	120分
第6回	論文の精査	個別に進める	執筆を進める	120分
第7回	論文の精査	個別に進める	執筆を進める	120分
第8回	論文の精査	個別に進める	執筆を進める	120分
第9回	論文の精査	個別に進める	執筆を進める	120分
第10回	論文の精査	個別に進める	執筆を進める	120分

第11回	論文の精査	個別に進める	執筆を進める	120分
第12回	論文の精査	個別に進める	執筆を進める	120分
第13回	論文の精査	個別に進める	執筆を進める	120分
第14回	論文の精査	個別に進める	執筆を進める	120分
第15回	プレゼン	発表会でのプレゼンテーション	準備	240分

学生へのフィードバック方法 精査の過程で論文をチェックする

評価方法 ①プレゼンテーション

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
プレゼンテーション				○

評価割合 プレゼンテーション100%

ディプロマポリシーとの関連 技能・表現
自らの表現を一つ伝えることができる

オフィスアワー 月3時限

学生へのメッセージ テーマに沿った内容について資料の整理をする。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B（嶋田）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間福祉学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 嶋田 芳男	指定なし

授業概要(教育目的)	卒業研究Aで検討した文献、関係資料、調査結果を基に論文としてまとめ、学生自身が自己の論文を客観的に批判し、検証することができるよう指導していく。併せて、その成果をプレゼンテーションできるように助言していく
履修条件	卒業研究Aの単位を取得している者

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	卒業研究Aで収集した文献、関係資料、調査結果から新たな知識を知るとともに、理解することができる
思考・判断の観点 (K)	論文作成に関係したさまざまな資料等と調査結果の分析から、思考と判断能力が向上する
関心・意欲・態度の観点 (V)	決められた期限までに与えられた課題を達成することができる
技術・表現の観点 (A)	関係資料の検索、収集した資料の分析、量的・質的調査手法について理解できる。また、成果をプレゼンテーションできる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	論文に関わる調査結果を整理する	夏季期間中に実施した調査結果を整理する手法を学ぶ	中間報告書を確認することで研究の方向性を再確認する。また、調査結果を整理しておく	360分
第2回	論文に関わる調査結果を分析する(1)	論文に調査結果を反映させるために、調査結果の分析について学ぶ	調査結果の分析を行う	360分
第3回	論文に関わる調査結果を分析する(2)	前回の授業に引き続き、調査結果の分析方法を学ぶ	調査結果の分析を行うとともに、その成果を論文に反映させる	360分
第4回	調査結果を論文に反映させる(1)	分析した調査結果を論文に反映させる手法について学ぶ	分析した調査結果を論文に反映させる	360分

第5回	調査結果を論文に反映させる (2)	分析した調査結果を論文に反映させる手法について学ぶ	分析した調査結果を論文に反映させる	360分
第6回	文献・調査研究を通じて考察を行う (1)	これまでの文献研究と調査研究によって得られた研究成果について文献を基に考察していく手法を学ぶ	これまでの研究によって得られた研究成果について考察していく	360分
第7回	文献・調査研究を通じて考察を行う (2)	これまでの文献研究と調査研究によって得られた研究成果について、文献を基に考察していく手法を学ぶ	これまでの研究によって得られた研究成果について考察していく	360分
第8回	文献・調査研究を通じて考察を行う (3)	これまでの文献研究と調査研究によって得られた研究成果について文献を基に考察していく手法を学ぶ	これまでの研究によって得られた研究成果について考察していく	360分
第9回	ゼミ内での研究成果のプレゼンテーション	これまでの研究成果をプレゼンテーションし、他者からの意見や指導教員からの意見を基に、自己の論文を客観的に批判し、検証・修正していく	自己の論文を客観的に批判し、検証・修正していく	360分
第10回	論文のまとめ (1)	これまでの文献・調査研究、および考察を基に研究成果をまとめる手法を学ぶ	これまでの研究成果をまとめる	360分
第11回	論文のまとめ (2)	これまでの文献・調査研究、および考察を基に研究成果をまとめる手法を学ぶ	これまでの研究成果をまとめる	360分
第12回	作成された論文の点検 (1)	これまでの授業で作成した論文を指導教員が点検し、修正点の指導を受ける	指導を受けた修正点に対して、修正を行う	360分
第13回	作成された論文の点検 (2)	指導教員から指摘された事項の修正を行っていくために、論文指導を受ける	指導を受けた修正点に対して、修正を行う	360分
第14回	プレゼンテーションの準備 (1)	これまでの研究成果を要旨として作成するための手法について学ぶ	これまでの研究成果を要旨としてまとめる	360分
第15回	プレゼンテーションの準備 (2)	これまでの研究成果をスライドを用いながらプレゼンテーションしていく手法について学ぶ	これまでの研究成果のスライドを作成する	360分

学習計画注記 1つの授業テーマに対して、2限(2コマ)の授業時間を充てる。また、授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合がある

学生へのフィードバック方法 ゼミ内での研究成果のプレゼンテーション報告書については、評価した上で返却する

評価方法

- ・平常点
文献研究および調査研究に対する姿勢・意欲から評価する
- ・論文
先行研究、研究方法、研究結果、考察が適切な方法に基づき作成されているかについて評価する
- ・プレゼンテーション
プレゼンテーションの内容から評価する

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	
論文	○	○	○	○
プレゼンテーション				○

評価割合 平常点20% 論文70%、プレゼンテーション10%

使用教科書名 (ISBN番号) 必要に応じてプリントを配布する

参考図書 白井利明他著『よくわかる卒論の書き方』(ミネルヴァ書房)

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
さまざまな福祉課題が惹起されている状況を受け止め、その福祉課題の軽減、あるいは解消のために修得してきた知識を活用することができる

【思考・判断】

	<p>さまざまな福祉課題に対して、各種社会福祉制度やソーシャルワークの方法論を活用し、福祉課題の軽減、あるいは解消するための視点を養うことができる</p> <p>【関心・意欲・態度】 福祉課題を複眼的、構造的に捉えることができ、それら福祉課題が「人と状況との相互作用」の中で生成されていることを理解することができる</p> <p>【技能・表現】 各種社会福祉制度に関わる知識や、さまざまなソーシャルワークの方法論を活用することができる。また、他の専門職との連携から福祉課題の軽減や解消を図っていく力を修得できる</p>
--	---

オフィスアワー	火曜3・4限
---------	--------

学生へのメッセージ	論文テーマに即した新たな知見を収集するために、日常の新聞やニュースなどに関心を持ってもらいたい
-----------	---

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	高齢者施設や児童福祉施設におけるソーシャルワーカーの経験から、論文内容について指導する際、実践的な視点から論文が作成していけるように指導している
アクティブ・ラーニング	○	図書館で論文作成に必要な文献、関係資料を収集し、論文に反映できるよう指導している
情報リテラシー教育		
ICT活用		インターネットの活用により、関係資料、研究対象に関わる情報を収集するように指導している

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	卒業研究B（加地）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間福祉学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 加地 雄一	指定なし

授業概要(教育目的)	卒業研究Aでまとめた資料（文献、調査項目等）をもとに論文としてまとめることを目的とする。終了後にはその成果を発表する。
------------	---

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)

評価割合	平常点50% 中間報告書の成果50%
------	--------------------

学生へのメッセージ	テーマに沿った内容について資料の整理をする。
-----------	------------------------

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	就労支援		
講義開講時期	前期前半	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間福祉学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 木本 明	指定なし

授業概要(教育目的)	現在の社会の中で、人が生きる際に「働く」ということは不可欠に必要なこととされている。しかし、実際にはさまざまな理由から「働く」ことから社会的に遠ざけられている人々がいます。そのため、就労にあたって何らかの支援を必要とする人々へ社会的に人が「働く」ことを支援していくことの必要性や労働を取り巻く環境について理解することが大切です。さらに、現代における就労支援の本質として、人が「働く」ということの社会的な意味を考え、人が「働く」ことを社会的に保障する方向性や今後の改善につながる視点を理解します。
履修条件	特にありません。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	人が社会において「就労」する際には、どのような支援が必要とされるか、また、人の「就労」する際の困難や難しさに際しての支援の必要性を具体的に理解します。
思考・判断の観点 (K)	人の「就労」のなかなか難しい状況が、当人に及ぼす生きる際の困難を客観的な側面と、主観的な側面の両面から考え、必要な支援の在り方を判断する力を身につけます。
関心・意欲・態度の観点 (V)	人の「就労」のなかなか難しい状況に際しての支援は、何より、当事者主体をつらぬいて、当事者本位の支援に向けての態度、さらに、強い関心や意欲を持った支援として展開し得る力を身につけます。
技術・表現の観点 (A)	人の「就労」のなかなか難しい状況する支援に際してはソーシャルワークとしての取組を縦横無尽に展開することの可能な技術、さらに、その支援を力あるものとして展開して支援者としての自分をより良く表現可能な力を身につけます。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション・働くことの意味と社会福祉士の役割	人の「就労」することの主体的な意味、社会的な意味について考え、さらに、さまざまな生活状況にあつてなかなか「就労」することの困難な状況にある人達に向けての理解を進めます。	教員配布レジュメの該当箇所を前もって読んでおくこと	120分
第2回	雇用・就労の動向と施策	2000年以降の約20年間の期間に労働に関する規制緩和が行われ、今では、非正規の雇用者の割合が40%近くにまで増えています。このような雇用と労働の社会的な状況について、その動向と、社会的な対応施策について理解します。	教員配布のレジュメの該当箇所を前もって読んでおくこと	120分
第3回	障害と就労	障害(身体障害、知的障害、精神障害、発達障害等)のた	教員配布のレジュメの該当箇所	120分

	支援(1)	めに「就労」の困難な状況にある人達に、特に、社会福祉的な「就労」の場の提供の在り方についての理解を進めます。	を前もって読んでおくこと	
第4回	障害と就労支援(2)	障害のために「就労」に際して、具体的な支援を必要としている状況と、その具体的な支援の在り方について理解を進めます。	教員配布のレジメの該当箇所を前もって読んでおくこと	120分
第5回	専門職の役割と実際(1)	「就労」を支援する専門職は必ずしも十分な専門性を持ち、その力をフルに発揮する労働条件の中で支援活動に従事しているわけではない。施策・制度として専門職の役割を理解することに留めることなく、その支援の現場の実際を理解していく。	教員配布のレジメの該当箇所を前もって読んでおくこと	120分
第6回	低所得者と就労支援(1)・専門職の役割と実際(2)、就労支援の連携と実際(1)	低所得状況にあって人は「就労」は先ず、生活していくために不可欠な収入源を得る手段である。その手段を得なければ低所得状況からの脱出は困難になる。そのような状況での専門職の支援の在り方と、さらに多職種間の連携の在り方を理解します。	教員配布のレジメの該当箇所を前もって読んでおくこと	120分
第7回	低所得者と就労支援(2)・専門職の役割と実際(3)、就労支援の連携と実際(2)	低所得状況にあって生活保護制度を利用したり児童扶養手当を利用したりしている人達に対するぐたいてきな「就労」支援の実際を理解します。	教員配布のレジメの該当箇所を前もって読んでおくこと	120分
第8回	就労支援の現在の課題	「就労」についての主観的意味、社会的意味の理解に立って、「就労」に向けた支援の実際の具体的な問題点・課題を理解します。	教員配布のレジメの該当箇所を前もって読んでおくこと	120分

学習計画注記	授業内容の理解の進展状況によっては若干のスケジュールの変更がある場合もあります。
学生へのフィードバック方法	事前学習、講義形式による学習を通して、その都度、未だ、明確になっていない個所などのある場合には、その都度、質問時間を設けて対応します。
評価方法	出席状況・質疑応答状況50%、期末試験50%の評価を基本とします。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
出席状況・質疑応答状況	○	○	○	○
期末試験	○	○	○	○

評価割合	平常点(50%)、期末試験(50%)の総合評価(平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断します)とします。
使用教科書名(ISBN番号)	特にありません。こちらでレジメを渡します。
参考図書	適宜、プリントを配布します。
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】：「就労」支援に際しての施策・制度の知識を身につけて、「就労」支援に関する理解を深めます。</p> <p>【思考・判断】：「就労」支援に際しての当事者の思いを基礎にした当事者主体の「就労」支援に際して必要とされる考え方・思考と適切な判断力を身につけます。</p> <p>【関心・意欲・態度】：「就労」支援の現在の雇用状況における難しさもよく理解したうえで、積極的な「就労」支援を担う関心・意欲・態度を身につけます。</p> <p>【技能・表現】：「就労」支援をソーシャルワークとして取り組む際の技能、当事者にソーシャルワーク援助を歓迎されるような展開能力と表現力を基礎とした支援の力を身につけます。</p>
学生へのメッセージ	講義の展開方法と受講方法はオリエンテーションで説明します。現在の非正規雇用が40%近くにもなっている状況で、「就労」支援を必要としている当事者の立場を擁護しつつ支援を展開する力を身につけましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活か	○	担当教員は複数年度における社会福祉6法担当現業員としての業務経験があり、その経験からする実際の「就労」

した授業		支援の問題点や課題も経験しているので、それらの問題点や課題についても、学生の皆さんと積極的に話し合い、議論していきたいと思います。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	更生保護制度		
講義開講時期	前期後半	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	2 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間福祉学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 木本 明	指定なし

授業概要(教育目的)	司法政策(犯罪対策)としての更生保護制度の位置づけを明確にしたうえで、更生保護制度の概要を説明します。また、更生保護制度の担い手である諸機関・団体及び担い手等について説明し、更生保護制度の特色である官民協働システムについて理解します。さらに、最近の更生保護で課題になっている司法と福祉との連携の必要性についても理解を深めていきます。加えて、関連する制度である医療観察についての理解も深めていきます。
履修条件	特にありません。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	実際の更生保護制度と医療観察制度の知識、理解を深め、それらの具体的な内容を身につけます。
思考・判断の観点 (K)	犯罪により社会外処遇を受け、仮釈放等に際して更生保護が対応する際の、刑余者に対するソーシャルワークの視点からの思考・判断力を身につけます。
関心・意欲・態度の観点 (V)	更生保護が社会的には十分に機能せずに、犯罪を繰り返して社会外処遇を受けることとなる人達のうちの一定数以上の人達に何等かの障害があり、むしろ、社会福祉による支援が必要とされている現状から、この問題は現在の社会の抱える社会問題と言えます。このことに対する関心・意欲・態度を身につけることが急務の課題になっています。
技術・表現の観点 (A)	犯罪によって社会外処遇を受ける人達へのソーシャルワーク援助に際しては、特に「非審判的態度」が必要とされ、それを保持するための技術や、その「態度」を具体的に表現する力を身につけます。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	刑事司法と更生保護制度	刑事司法と更生保護制度の実際の流れと現在の問題点や課題について身につけます。	教員配布のレジュメの該当箇所を前もって読んでおくこと。	120分
第2回	仮釈放と生活環境の調整	社会外処遇では刑期を満了せずに仮釈放として社会内処遇に切り替えることが行われます。その際には前もって生活環境の調整が保護観察所の保護観察官と保護司によって行われます。その実際についての理解を身につけます。	教員配布のレジュメの該当箇所を前もって読んでおくこと。	120分
第3回	保護観察	更生保護の中軸をなす保護観察の実際の理解を身につけます。	教員配布のレジュメの該当箇所を前もって読んでおくこと。	120分
第4回	緊急更生保護	社会外処遇からの満期釈放時等に釈放後の住居・仕事などの生活上の不可欠な支援を必要とする際の緊急更生保護	教員配布のレジュメの該当箇所を前もって読んでおくこと。	120分

		についての実際を身につけます。		
第5回	更生保護制度の担い手、関係機関・団体との連携	保護観察所の保護観察官と保護司、その他にはボランティア団体による更生保護に際しての実際の連携の在り方について身につけます。	教員配布のレジメの該当箇所を前もって読んでおくこと。	120分
第6回	医療観察制度の概要	重大な刑事犯罪を犯した者が心神喪失状況にある場合に、社会外処遇による刑罰によっては更生することは難しく、その場合には、医療保護観察による制度での対応が行われる。医療保護観察制度の実際について身につけます。	教員配布のレジメの該当箇所を前もって読んでおくこと。	120分
第7回	更生保護の動向と今後の展望	更生保護の動向についてこれまでの授業を通して身につけてきた内容を踏まえて、今後の展望について学生と話し合います。	教員配布のレジメの該当箇所を前もって読んでおくこと。	120分

学習計画注記	授業内容の理解の進展状況に応じて若干、スケジュールの変更を行う場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業の中で、理解の今一つ明確にならない箇所について、その都度、質問時間を確保して、より理解の進むように配慮します。
評価方法	出席状況・質疑応答状況50%、期末試験50%を基本とした評価方法を考えています。

評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	出席状況・質疑応答状況	○	○	○	○
	期末試験	○	○	○	○

評価割合	出席 (50%) と定期試験 (50%) で評価することを基本とします。
使用教科書名 (ISBN番号)	特にありません。こちらでレジメを渡します。
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】：更生保護制度、医療観察制度に関する知識の理解を身につけます。</p> <p>【思考・判断】：更生保護制度、医療観察制度の実際における難しさや困難なこと等に際しての思考する態度、支援の在り方に際しての判断能力を身につけます。</p> <p>【関心・意欲・態度】：社会内処遇としての更生保護制度等についての現在の喫緊な対応の必要性に鑑みてこの問題と課題に対して積極的な関心や意欲を持ち、積極的に関わろうとする態度を身につけます。</p> <p>【技能・表現】：社会外処遇を受けた人達の実際の社会参入の困難さを理解すると都道府県別に設置されている地域生活定着支援センターの果たしている役割の重要性が理解されます。そのような局面でのソーシャルワーク援助に必要な技能を身につけます。</p>
学生へのメッセージ	司法の枠組みの中だけでは社会的な対応の全く不十分な社会外処遇から仮釈放になった人達等に対する社会福祉援助の必要性を理解しましょう。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は社会福祉6法担当現業員としての福祉事務所での業務に携わる際に、保護観察官との連携も経験してきました。この分野の司法と社会福祉援助の連携をより強めていくことの重要性を理解していきましょう。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	スクールソーシャルワーク実習		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間福祉学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 芦田 正博	指定なし

授業概要(教育目的)

次に掲げる事項について個別指導及び集団指導を行うものとする。

- ① S S W実習の意義
- ② 学校、教育委員会、教育センター、適応指導教室など基本的な理解
- ③ 実習先で必要とされる相談援助(子ども、家族、教員対象)に係る知識と技術に関する理解
- ④ 実習先で必要とされるチームで対応する力やケース会議に係る知識と技術に関する理解
- ⑤ 実習先の市の子ども相談体制について理解
- ⑥ 現場体験学習(個別面接、ケース会議、連携会議など)、見学実習
- ⑦ 実習における個人のプライバシー保護と守秘義務等の理解
- ⑧ 実習記録ノートへの記録内容及び記録方法に関する理解
- ⑨ 実習生、実習担当専任教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成
- ⑩ 巡回指導
- ⑪ 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理、実習における S S W実習としての不足分のレポート、実習総括レポートの作成
- ⑫ 実習の評価全体総括会

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> ① S S W実習の意義について理解できる。 ② 学校現場等を知り、学校組織を体験的に理解することができる。 ③ 具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる。 ④ 用意された現場ではなく社会福祉が展開されるべく新しい現場に入るという意味を十分理解し、開拓の視点を持つことができる。
思考・判断の観点 (K)	① 教育の場で生かせる社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等総合的に対応できる能力を習得する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	① S S W実習にかかる個別指導並びに集団指導を通して学校における相談援助活動やソーシャルワーク実践にかかる知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)
第1回	ガイダンス	自己覚知演習
第2回	学校におけるソーシャルワークの価値の理解	子どもを取り巻く様々な専門職の立場や視点を考える
第3回	学校アセスメントと地域アセスメントの方法	学校組織及び学校状況、市町村内の資源及びサービス

第4回	マイクロプラクティス（1）	いじめ事例検討① ・チームアプローチ ・予防的関与
第5回	マイクロプラクティス（1）	いじめ事例検討②
第6回	マイクロプラクティス（2）	障がいのある子ども事例検討① ・特別支援教育
第7回	マイクロプラクティス（2）	障がいのある子ども事例検討②
第8回	マイクロプラクティス（3）	生活困窮事例検討① ・福祉事務所（生活保護） ・民生委員
第9回	マイクロプラクティス（3）	生活困窮事例検討②
第10回	マイクロプラクティス（4）	虐待事例検討① ・児童相談所 ・要保護児童対策地域協議会
第11回	マイクロプラクティス（4）	虐待事例検討②
第12回	マイクロプラクティス（5）	不登校事例検討① ・教育支援センター ・フリースクール
第13回	マイクロプラクティス（5）	不登校事例検討②
第14回	メゾプラクティス	校内ケース会議及び連携ケース会議の手法
第15回	マクロプラクティス	学校外の資源の活用及び地域に根ざした相談体制の確立

学生へのフィードバック方法 オフィスアワー時に、講義の質問等については受け付けます。また求めがあれば、メールアドレスを教示しますので、メールにての質問等も対応します。

評価方法 記録、中間及び最終評価、報告書、出席簿すべてを整え、実習に取り組む姿勢を含め、授業目的と照らして総合的に判断する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
記録、中間及び最終評価、報告書			○	○

使用教科書名 (ISBN番号) 特になし。（スクールソーシャルワーク論で指定したテキストや参考文献を読み込んでおくこと）

学生へのメッセージ スクールソーシャルワーク論でも事例を扱いますが、本講ではより実践的な形で扱います。講義ではなく演習という形がベースになります。また実際の実習は、受け入れ先によって大きく対応が異なりますが、受け入れ先で提供された様々な機会すべてを学びと捉えてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	実践英会話 I		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間福祉学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ マーク ルイス	指定なし

授業概要(教育目的)	The goal of this course is to improve fluency in spoken English for students majoring in Social Welfare.
履修条件	None

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	Students will further their knowledge of basic English conversation patterns.
思考・判断の観点 (K)	Students will develop critical thinking skills to describe their feelings and to understand the perspectives of others.
関心・意欲・態度の観点 (V)	Students will become active learners and find that English is enjoyable and that they desire to learn more.
技術・表現の観点 (A)	Students will learn techniques to express their feelings more easily in English, and will become more at ease when speaking with others.

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	Introduction	Introduce yourself / Talk about your town.	Please read each week's handout before class. Handouts will be provided in class each week. Weekly quiz questions will come directly from the weekly handouts.	
第2回	Commuting	How do you come to school? / Is where you live convenient?	Read handout	60
第3回	School Life	Your school schedule: are you busy? / Are you shy or outgoing?	Read handout	60
第4回	Work	Talk about your job or your club or your circle / What are you going to do after school?	Read handout	60
第5回	Seasons	What is your favorite season? How come? / Favorite movie? How come?	Read handout	60
第6回	High School	Was your high school strict? / What did you do	Read handout	60

	Life	yesterday?		
第7回	Fashion	What's your favorite color? How come? / What color suits you?	Read handout	60
第8回	Food	Talking about spaghetti and ramen and other noodles / What's your favorite ramen restaurant?	Read handout	60
第9回	Technology	Using the internet / Watching Television	Read handout	60
第10回	Sports	Do you play sports? / Are you good at skiing?	Read handout	60
第11回	Animals	Talk about your pet. Do you like animals? / Do you like going to the zoo?	Read handout	60
第12回	Fast Food	How often do you eat fast food? / What's your favorite fast food restaurant? How come?	Read handout	60
第13回	Travel	Have you ever been abroad? / Do you want to visit another country? How come?	Read handout	60
第14回	Practice for Speaking Test	Practice with a partner for final speaking test. No notes or books during the test.	Read all handouts	120
第15回	Speaking Test	Five minute conversation speaking test with a partner.	Read all handouts	120

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	Students receive weekly quiz scores, feedback from weekly in-class writing, and from speaking with the teacher.
評価方法	Quizzes are worth 5 points each week. Questions are from the previous week's lesson, and the current week's lesson. If you read the handouts as assigned, you'll do well on the weekly quizzes. You can also earn points from in-class weekly writing topics. Write a lot about yourself and what you like to do, as well as your ideas, and you can earn many points. The final speaking test lets you know how comfortable and fluent you've become speaking English.

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
Quizzes	○	○	○	○
Speaking Test	○	○	○	○
Participation	○	○	○	○
Writing	○	○	○	○

評価割合	Participation 60%; Quizzes 20%; Writing 10%; Speaking Test 10%
使用教科書名 (ISBN番号)	None
参考図書	A Japanese - English Dictionary
ディプロマポリシーとの関連	The ability to engage in English conversation on a variety of topics.
オフィスアワー	Wednesday, Machida Campus, 9-10.
学生へのメッセージ	Relax and enjoy speaking English.

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	Students talk to each other.
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	実践英会話Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間福祉学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ マーク ルイス	指定なし

授業概要(教育目的)	The goal of this course is to further improve fluency in Spoken English for students majoring in Social Welfare
履修条件	None

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	Students will further their understanding of Basic English conversation patterns.
思考・判断の観点 (K)	Students will develop critical thinking skills to describe their feelings and to understand the perspectives of others.
関心・意欲・態度の観点 (V)	Student will become active learners and find that English is enjoyable and that they desire to learn more.
技術・表現の観点 (A)	Students will learn techniques to express their feelings more easily in English, and will become more at ease when speaking with others.

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	Introductions	Talk about where you are from / Summer Vacation	Please read each week's handout before class. Handouts will be provided in class each week. Weekly quiz questions will come directly from the weekly handouts.	
第2回	Away from School	Circles and clubs / Shopping	Read handout	60
第3回	What We Can See	What We Can See	Read handout	60
第4回	The Past and the Future	How was yesterday? / Looking forward to...	Read handout	60
第5回	Popular Culture	Favorite movies and music / What's important for you to be happy?	Read handout	60
第6回	Campus Life	This university / Who is your best friend?	Read handout	60

第7回	Free Time	What sports are you good at? / Are you shy or outgoing?	Read handout	60
第8回	Home Life	Last night's dinner / A famous person	Read handout	60
第9回	Coffee Shops	How often do you drink coffee? / Is this class interesting?	Read handout	60
第10回	Smartphone Games	What smartphone game do you play? / Do you study hard?	Read handout	60
第11回	Wildlife	What's your favorite zoo animal? / Do you have plans for the coming holidays?	Read handout	60
第12回	In Japan	A visit to Kyoto / What is the most expensive thing you bought this year?	Read handout	60
第13回	Money	How much money do you save? / Do you have plans for spring vacation?	Read handout	60
第14回	Practice for Speaking Test	Practice with a partner for the final speaking test. No notes or books during the test.	Read all handouts	120
第15回	Speaking Test	Five minute natural English conversation speaking test with a partner.	Read all handouts	120

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	Students receive weekly quiz scores, feedback from weekly in-class writing, and from speaking with the teacher.
評価方法	Quizzes are worth 5 points each week. Questions are from the previous week's lesson, and the current week's lesson. If you read the handouts as assigned, you'll do well on the weekly quizzes. You can also earn points from in-class weekly writing topics. Write a lot about yourself and what you like to do, as well as your ideas, and you can earn many points. The final speaking test lets you know how comfortable and fluent you've become speaking English.

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
Quizzes	○	○	○	○
Speaking Test	○	○	○	○
Participation	○	○	○	○
Writing	○	○	○	○

評価割合	Participation 60%; Quizzes 20%; Writing 10%; Speaking Test 10%
使用教科書名 (ISBN番号)	None
参考図書	A Japanese - English Dictionary
ディプロマポリシーとの関連	The ability to engage in English conversation on a variety of topics.
オフィスアワー	Wednesday, Machida Campus, 9-10.
学生へのメッセージ	Relax and enjoy speaking English.

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	Students talk to each other.
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	ソーシャルビジネス論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間福祉学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 西口 守	指定なし
非常勤講師	人間福祉学科 教員	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>この授業は、ビジネスの手法を活用した社会貢献型企業活動を学ぶ。ソーシャルビジネスとは、ビジネスを手段として社会問題を解決しようとする取り組みのことで、言い換えると、収益事業を行いながら社会貢献に取り組むこととも言えます。</p> <p>そして、その主体となる事業体（組織）を「社会的企業」、「ソーシャルベンチャー」、「ソーシャルエンタープライズ」と呼びます。また、ソーシャルビジネスに挑戦する起業家のことを「社会起業家」と呼びます。</p> <p>2007年に発足された、経済産業省のソーシャルビジネス研究会によると、ソーシャルビジネスの定義は以下の3点を満たすこととされています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解決が求められる社会的課題に取り組むこと ・ビジネスとして、継続的に事業活動を進めていくこと ・新しい仕組みを開発・活用し、新しい社会的価値を創出すること <p>すなわち、社会問題への取り組みを「ビジネス」という手段で行い、それを通して新たな社会的価値を創出すること、それが「ソーシャルビジネス」なのです。</p>
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	ソーシャルビジネスの社会的意義を理解する
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	ソーシャルビジネスの対象分野に関心を持つ
技術・表現の観点 (A)	ソーシャルビジネスを展開してみる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ソーシャルビジネスとはなにか ビジネスとソーシャルは対立関係	なぜソーシャルなビジネスか？ソーシャルをなぜビジネスで実現しようとするのか。いろいろ考えてみましょう	ネットでソーシャルビジネスをできるだけ多く調べてみよう	120分

	ではないのか			
第2回	ソーシャルビジネスとはなにか ビジネスとソーシャルは対立関係ではないのか	なぜソーシャルなビジネスか？ソーシャルをなぜビジネスで実現しようとするのか。いろいろ考えてみましょう	ネットでソーシャルビジネスをできるだけ多く調べてみよう	120分
第3回	ソーシャルビジネスとはなにか ビジネスとソーシャルは対立関係ではないのか	なぜソーシャルなビジネスか？ソーシャルをなぜビジネスで実現しようとするのか。いろいろ考えてみましょう	ネットでソーシャルビジネスをできるだけ多く調べてみよう	120分
第4回	ソーシャルビジネスとはなにか ビジネスとソーシャルは対立関係ではないのか	なぜソーシャルなビジネスか？ソーシャルをなぜビジネスで実現しようとするのか。いろいろ考えてみましょう	ネットでソーシャルビジネスをできるだけ多く調べてみよう	120分
第5回	現場に行ってみよう	ソーシャルビジネスを行うNPO法人を尋ね①「外国人介護福祉士の支援事業」②「子どもの貧困への対応としての子ども食堂」について実践的に学ぶ	2つの事業を整理する また補習的に現場に尋ねてみる	240分
第6回	現場に行ってみよう	ソーシャルビジネスを行うNPO法人を尋ね①「外国人介護福祉士の支援事業」②「子どもの貧困への対応としての子ども食堂」について実践的に学ぶ	2つの事業を整理する また補習的に現場に尋ねてみる	240分
第7回	現場に行ってみよう	ソーシャルビジネスを行うNPO法人を尋ね①「外国人介護福祉士の支援事業」②「子どもの貧困への対応としての子ども食堂」について実践的に学ぶ	2つの事業を整理する また補習的に現場に尋ねてみる	240分
第8回	現場に行ってみよう	ソーシャルビジネスを行うNPO法人を尋ね①「外国人介護福祉士の支援事業」②「子どもの貧困への対応としての子ども食堂」について実践的に学ぶ	2つの事業を整理する また補習的に現場に尋ねてみる	240分
第9回	現場に行ってみよう	ソーシャルビジネスを行うNPO法人を尋ね①「外国人介護福祉士の支援事業」②「子どもの貧困への対応としての子ども食堂」について実践的に学ぶ	2つの事業を整理する また補習的に現場に尋ねてみる	240分
第10回	現場に行ってみよう	ソーシャルビジネスを行うNPO法人を尋ね①「外国人介護福祉士の支援事業」②「子どもの貧困への対応としての子ども食堂」について実践的に学ぶ	2つの事業を整理する また補習的に現場に尋ねてみる	240分
第11回	現場に行ってみよう	ソーシャルビジネスを行うNPO法人を尋ね①「外国人介護福祉士の支援事業」②「子どもの貧困への対応としての子ども食堂」について実践的に学ぶ	2つの事業を整理する また補習的に現場に尋ねてみる	240分
第12回	現場に行ってみよう	ソーシャルビジネスを行うNPO法人を尋ね①「外国人介護福祉士の支援事業」②「子どもの貧困への対応としての子ども食堂」について実践的に学ぶ	2つの事業を整理する また補習的に現場に尋ねてみる	240分
第13回	フィールドワークをまとめてみよう	実践現場で学んだことをまとめてみよう その際に自分が明らかにしたい「先行研究」もみてみよう	発表ができるようにまとめる	240分
第14回	フィールドワークをまとめてみよう	実践現場で学んだことをまとめてみよう その際に自分が明らかにしたい「先行研究」もみてみよう	発表ができるようにまとめる	240分
第15回	発表してみよう	自分が作り上げた現場でのフィールドワークを踏まえた「研究論文」を発表する	プレゼントするので準備する	120分

学習計画注記

特になし

学生へのフィードバック方法

レポートへのコメント

評価方法

レポート

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート	○		○	○

評価割合	レポート：100%
使用教科書名 (ISBN番号)	なし
参考図書	都度紹介
ディプロマポリシーとの関連	社会福祉の実践的側面に着目し展開する
オフィスアワー	月曜日3時限
学生へのメッセージ	起業に関心をもって受講してください

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	NPO法人の代表者の経験がある担当教員は、できるだけ現在展開する「外国人介護福祉士育成事業」の実践事例を提供し授業を行う
アクティブ・ラーニング	○	自らが課題設定しインターネットや図書館で情報収集をし、それを教員と共有する
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	地域包括ケアマネジメント		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間福祉学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 嶋田 芳男	指定なし
非常勤講師	人間福祉学科 教員	指定なし

授業概要(教育目的)	地域包括ケアが求められる背景、地域包括ケアの構成要素、担い手、システムづくり、地域の現状把握と課題の抽出について講義した上で、先進的に取り組まれた実践事例について紹介する。また、学生自らが住んでいる地域における地域包括ケアについて調査・検討することで、理解を深める授業を行う
履修条件	高齢者福祉論Ⅰ・Ⅱを履修していること

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	地域包括ケアが求められる背景、地域包括ケアの構成要素、担い手、システムづくり、地域の現状把握と課題の抽出について説明できる
思考・判断の観点 (K)	地域の特性に応じた地域包括ケアがイメージできる
関心・意欲・態度の観点 (V)	地域特性を有したさまざまな地域への関心を持てる
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	地域包括ケアの必要性	地域包括ケアが求められる背景について理解する	テキスト24～43ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に、授業内容を復習する	180分
第2回	地域包括ケアの構成要素(1)	構成要素である「本人・家族の選択と心構え」、「住まいと住い方」について理解する	テキスト10～11ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に、授業内容を復習する	180分
第3回	地域包括ケアの構成要素(2)	構成要素である「生活支援・福祉サービス」、「医療・看護、介護・リハビリテーション、保健・予防」について理解する	前回の授業内容と官界の授業内容を復習しておく	180分
第4回	地域包括ケアの担い手(1)	自助・互助・共助・公助の内容や役割について理解する	テキスト12～13ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に、授業内容を復習する	240分
第5回	地域包括ケアのシステム	市町村における地域包括ケアシステムの構築プロセスについて理解する	テキスト14～15ページを読んでおく。また、配布したプリント	180分

	ムづくり		を基に、授業内容を復習する	
第6回	地域の現状把握と課題(1)	日常生活圏におけるニーズとそこに住んでいる高齢者のニーズを調査から明らかにしていくプロセスを理解する	テキスト16～17ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に、授業内容を復習する	180分
第7回	地域の現状把握と課題(2)	ニーズ調査から明らかとなった日常生活圏と高齢者の課題抽出と、目標設定が理解する	テキスト18～19ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に、授業内容を復習する	180分
第8回	地域包括ケアの実践事例(1)	神奈川県Y市における実践を分析することで、地域包括ケアシステムづくりの視点を養う	テキスト46～53ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に、授業内容を復習する	120分
第9回	地域包括ケアの実践事例(2)	千葉県M市における実践を分析することで、地域包括ケアシステムづくりの視点を養う	テキスト54～61ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に、授業内容を復習する	120分
第10回	地域包括ケアの実践事例(3)	大阪府T市における実践を分析することで、地域包括ケアシステムづくりの視点を養う	テキスト70～79ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に、授業内容を復習する	120分
第11回	地域包括ケアの実践事例(4)	和歌山県N郡S町における実践を分析することで、地域包括ケアシステムづくりの視点を養う	テキスト90～97ページを読んでおく。また、配布したプリントを基に、授業内容を復習する	120分
第12回	わが町の地域包括ケアシステムを知る(1)	学生自ら住んでいる自治体の地域包括ケアシステムについて、自治体関係資料、ホームページを活用し、把握する	収集した情報を整理する	300分
第13回	わが町の地域包括ケアシステムを知る(2)	学生自ら住んでいる自治体の地域包括ケアシステムを詳細に把握するために、市役所を訪問し、情報収集を行う。これにより、自ら住んでいる自治体における現状を把握する	収集した情報を整理する	240分
第14回	わが町の地域包括ケアシステムを知る(3)	学生自ら住んでいる自治体の地域包括ケアシステムの調査結果をプレゼンテーションし、意見交換を行うことで地域の特性に応じたさまざまなシステムを共有する	プレゼンテーションされた資料を基に、さまざまな地域包括ケアシステムについて復習する	180分
第15回	わが町の地域包括ケアシステムを知る(4)	学生自ら住んでいる自治体の地域包括ケアシステムの調査結果をプレゼンテーションし、意見交換を行うことで地域の特性に応じたさまざまなシステムを共有する	プレゼンテーションされた資料を基に、さまざまな地域包括ケアシステムについて復習する	180分

学習計画注記 授業の進み具合によってスケジュールが変更になることがある

学生へのフィードバック方法 関係資料の収集やフィールドワークから得られた各地域包括ケアシステム内容については、評価した上で返却する

評価方法

- ・平常点
授業に対する態度・姿勢、グループ討議への参加度から評価する
- ・フィールドワーク
課題に対してどのような役割を担ったかについて評価する
- ・定期試験
地域包括ケアシステムの基本的事項について出題する

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	
フィールドワーク	○	○	○	○
定期試験	○	○		

評価割合 平常点20%、フィールドワーク40%、定期試験40%

使用教科書名 (ISBN番号) 田中滋監修『地域包括ケアサクセスガイド』メディカ出版 (ISBN978-4-8404-4966-3)

参考図書 二木立著『地域包括ケアと福祉改革』勁草書房 (ISBN978-4-326-70098-1)

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】
高齢化が進展している社会状況の中で、高齢者を取り巻くさまざまな福祉課題が惹起されている。そのような福祉課題を謙虚に受け止め、対応していく知識が修得できる

【思考・判断】
高齢者を取り巻くさまざまな福祉課題に関心を持ち、各種社会福祉制度やソーシャルワークを活用して、福祉課

	<p>題の軽減や解決を図っていく視点が持てる 【関心・意欲・態度】 さまざまな福祉課題を複眼的かつ構造的に捉えることができ、また、福祉課題が「人と状況の相互作用」で生成されることが理解できる</p>															
オフィスアワー	火曜3限、木曜2限															
学生へのメッセージ	新聞等により、高齢者にどのような社会問題があるのかを把握したうえで、授業に臨んでもらいたい															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>地域で福祉活動を展開している児童・高齢者施設のソーシャルワーカーの経験を有しており、実践的な地域包括ケアシステムを構築していくために必要となる知識や手法について講義している</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>地域の包括ケアシステムに関する情報を収集するために、文献（関係資料）とインターネットを活用している</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	地域で福祉活動を展開している児童・高齢者施設のソーシャルワーカーの経験を有しており、実践的な地域包括ケアシステムを構築していくために必要となる知識や手法について講義している	アクティブ・ラーニング	○	地域の包括ケアシステムに関する情報を収集するために、文献（関係資料）とインターネットを活用している	情報リテラシー教育			ICT活用		
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業	○	地域で福祉活動を展開している児童・高齢者施設のソーシャルワーカーの経験を有しており、実践的な地域包括ケアシステムを構築していくために必要となる知識や手法について講義している														
アクティブ・ラーニング	○	地域の包括ケアシステムに関する情報を収集するために、文献（関係資料）とインターネットを活用している														
情報リテラシー教育																
ICT活用																

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	社会調査実習		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間福祉学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 福嶋 美佐子	指定なし

授業概要(教育目的)	社会調査の知識と技術を用いて真理を追究することは、卒業研究を進める上で必須である。社会調査を自律的に計画、調査、分析すること、その知識を用いて学術論文やレポートを書く力とプレゼンテーション力を向上させること、を旨としている。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1. 自律的に社会調査を計画、調査、分析でき、それを研究に反映させられる。
思考・判断の観点 (K)	1. 調査事例を通じて、社会調査が生活や仕事にどのように役立てられているかを理解できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. グループプロジェクトを通じて、ダイバーシティ&インクルージョンを学び、サーバントリーダーとしての自覚を持つ。
技術・表現の観点 (A)	1. グループプロジェクト発表を通じて、パワーポイントを使ったプレゼンテーション技術を高める。 2. グループプロジェクトを反映させた調査報告書を仕上げることで、学術論文を執筆できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)
第1回	社会調査の概要	1. オリエンテーションを通じて、この授業の目的と意義を理解する。
第2回	社会調査の概要	2. 社会調査の概要を復習し、福祉分野との関連を理解する。
第3回	社会調査の概要	3. 社会調査における倫理を学ぶ。
第4回	プロジェクトの立ち上げ	1. グループプロジェクトを立ち上げ、メンバーの関心を共有し、テーマを決定する。
第5回	プロジェクトの立ち上げ	2. テーマに基づいた調査対象・調査方法を決定する。
第6回	プロジェクトの立ち上げ	3. 調査のスケジュールを立て、各メンバーの役割を決定する。
第7回	先行研究の検討	1. グループのテーマに関する先行研究を探索し、何が研究され、何が未済なのかの整理をする。
第8回	先行研究の検討	1. グループのテーマに関する先行研究を探索し、何が研究され、何が未済なのかの整理をする。
第9回	先行研究の検討	2. 先行研究の検討結果を発表する。 3. 他のグループの発表を基に、自分のグループの優れた点と不足している点を話し合う。
第10回	調査票の作成	1. 先行研究の検討から明らかとなった調査すべき点に基づき、調査票を作成する。

第11回	調査票の作成	1. 先行研究の検討から明らかとなった調査すべき点に基づき、調査票を作成する。
第12回	調査票の作成	1. 他のグループの調査票と比較し、自分のグループが優れている点、不足している点を話し合う。 2. それを基に、調査票を修正し、提出する。
第13回	プレ調査	修正した調査票を基に、プレ調査を実施する。
第14回	プレ調査	修正した調査票を基に、プレ調査を実施する。
第15回	プレ調査	修正した調査票を基に、プレ調査を実施する。
第16回	調査票の修正	1. プレ調査を通じて気づいた点を話し合い、調査票の最終版を作成する。
第17回	調査票の修正	1. プレ調査を通じて気づいた点を話し合い、調査票の最終版を作成する。
第18回	調査票の修正	1. プレ調査を通じて気づいた点を話し合い、調査票の最終版を作成する。 2. 調査票の最終版を提出する。
第19回	本調査	調査票の最終版を基に、本調査を実施する。
第20回	本調査	調査票の最終版を基に、本調査を実施する。
第21回	本調査	調査票の最終版を基に、本調査を実施する。
第22回	本調査	調査票の最終版を基に、本調査を実施する。
第23回	本調査	調査票の最終版を基に、本調査を実施する。
第24回	本調査	調査票の最終版を基に、本調査を実施する。
第25回	分析法の概要	1. 分析ソフトを用いた分析法を学ぶ。
第26回	分析法の概要	2. 分析結果のグラフ化を学ぶ。
第27回	分析	1. 分析ソフトを用いて調査結果の分析を行う。
第28回	分析	1. 分析ソフトを用いて調査結果の分析を行う。
第29回	分析	2. 分析結果をグラフ化する。
第30回	分析	2. 分析結果をグラフ化する。
第31回	社会調査の現場（校外学習）	1. 福祉施設等を訪ね、社会調査が社会福祉にどのように役立てられているかを学ぶ。 2. プロの下で、社会調査を体験する。
第32回	社会調査の現場（校外学習）	1. 福祉施設等を訪ね、社会調査が社会福祉にどのように役立てられているかを学ぶ。 2. プロの下で、社会調査を体験する。
第33回	社会調査の現場（校外学習）	1. 福祉施設等を訪ね、社会調査が社会福祉にどのように役立てられているかを学ぶ。 2. プロの下で、社会調査を体験する。
第34回	社会調査の現場（校外学習）	1. 福祉施設等を訪ね、社会調査が社会福祉にどのように役立てられているかを学ぶ。 2. プロの下で、社会調査を体験する。
第35回	社会調査の現場（校外学習）	1. 福祉施設等を訪ね、社会調査が社会福祉にどのように役立てられているかを学ぶ。 2. プロの下で、社会調査を体験する。
第36回	社会調査の現場（校外学習）	1. 福祉施設等を訪ね、社会調査が社会福祉にどのように役立てられているかを学ぶ。 2. プロの下で、社会調査を体験する。
第37回	調査報告書の作成	1. ①序論（先行研究の検討）、②調査概要、③調査結果と分析、④結論を踏まえた調査報告書の作成方法を学ぶ。
第38回	調査報告書の作成	1. ①序論（先行研究の検討）、②調査概要、③調査結果と分析、④結論を踏まえた調査報告書を作成する。
第39回	調査報告書の作成	1. ①序論（先行研究の検討）、②調査概要、③調査結果と分析、④結論を踏まえた調査報告書を作成する。 2. 調査報告書（下書き）を提出する。
第40回	プレゼンテーションの準備	1. プレゼンテーションについて学ぶ。 2. パワーポイントを用いたプレゼンテーションを学ぶ。
第41回	プレゼンテーションの準備	3. パワーポイントを用いたプレゼンテーションを準備する。
第42回	プレゼンテーションの準備	3. パワーポイントを用いたプレゼンテーションを準備する。 4. 教員のアドバイスに基づき、調査報告書を修正する。
第43回	プロジェクト発表会	1. 学会形式に基づいたプレゼンテーションを行う。 2. プレゼンテーションの内容に関し質疑応答を行う。 3. 自己ならびに他の学生の評価を行う。
第44回	プロジェクト発表会	1. 学会形式に基づいたプレゼンテーションを行う。 2. プレゼンテーションの内容に関し質疑応答を行う。

		3. 自己ならびに他の学生の評価を行う。			
第45回	プロジェクト発表会	4. 他の学生からの評価に基づき、調査報告書の最終版を仕上げる。 5. 調査報告書の最終版を提出する。			
学習計画注記	履修者数や授業の進み具合により、スケジュールが変更になる場合もある。				
学生へのフィードバック方法	1. 平常点：調査分析作業中にコメント 2. プレゼンテーション：予め定めた基準に沿ってコメント 3. 調査報告書：ドラフトをコメントつきで返却				
評価方法	1. 平常点：授業内でのディスカッション等、クラスやグループへの貢献を評価する。 2. プレゼンテーション：プレゼンテーションの技術を評価する。 3. 調査報告書：①序論（先行研究の検討）、②調査概要、③調査結果と分析、④結論を踏まえた学術論文として評価する。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点	○	○	○	
	グループプロジェクト	○	○	○	○
	最終レポート	○	○		○
評価割合	平常点（40%）、プレゼンテーション（30%）、調査報告書（30%）				
使用教科書名 (ISBN番号)	なし				
参考図書	なし				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】社会状況の大きな変化の中で、様々な福祉の問題が惹起されている現代社会のありようを、社会調査を通じて客観的に分析することができる。				
オフィスアワー	なし				
学生へのメッセージ	【第1回は4月9日（木）3限です】現代社会における福祉問題に注目し、現場に足を運ぶだけでなく、その現実を客観的に調査・分析することで、問題を深く理解できます。その分析結果を、4年間で学んだことと関連させながら論文にまとめれば、多くの人に伝えることができます。さらに、グループプロジェクトを通じて、スケジュールを管理することや、仲間と協力し合うことも学びます。これらは全て卒業研究に役立てられるだけでなく、卒業後の社会での活躍にも結びつくことでしょう。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	当教員は、企業内研究所での実務経験を有しており、社会調査がどのように生活や社会に役立てられているかという視点から授業を計画し、各学生の理解度にも配慮しながら教授する。			
アクティブ・ラーニング	○	毎回の授業冒頭で、1週間の福祉関連を中心としたニュースを振り返りながら、ディスカッションを行う。また、社会調査を行う福祉施設等を訪ね、社会調査が生活や仕事にどのように役立てられているのかを理解させる。さらに、グループワークを通じて、サーバント・リーダーシップを学ばせる。			
情報リテラシー教育	○	インプットでは、先行研究のための①文献検索、②データベース活用法を、アウトプットでは、グループプロジェクト発表会に向け①パワーポイント作成法や②プレゼンテーション技術を、調査報告書の作成にあたり③アカデミックライティングを教授する。			
ICT活用					

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	スクールソーシャルワーク論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間福祉学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 芦田 正博	指定なし

授業概要(教育目的)	学校は今、様々な課題に直面している。義務教育の小中学校では、虐待や不登校・いじめ・発達障害・保護者による激しいクレーム等、高等学校では中途退学や学費未納・女子生徒のデートDVや妊娠、大学等でも中途退学や発達障害等がその代表としてあげられる。こうした課題に直面することも達の最善の利益を、教育現場で実現していくのが、スクールソーシャルワーカーである。教育現場では長年、心理学を専門とする者（スクールカウンセラー）が長く活動してきたが、心理学の専門家とは違う視点やアプローチが求められている中で、スクールソーシャルワーカー（社会福祉学の専門家）はどのような役割を果たせ、こうした課題に直面できるのかを、講義を通じて理解してもらいたい。
------------	---

履修条件	特に条件はないが、精神保健に関する科目の履修をしていることが望ましい。
------	-------------------------------------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	①今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義と必要性を理解することができる。 ②スクールソーシャルワークの発展過程を理解することができる。 ③海外のスクールソーシャルワーカーの役割と活動を理解することができる。 ④スクールソーシャルワークの実践モデルについて理解できる。権利擁護モデル、地域生活支援モデル。 ⑤スクールソーシャルワーカーへのスーパービジョンの必要性について理解できる。
思考・判断の観点 (K)	①子ども親を獲得できる。 ②子どもの貧困を理解し、支援展開を考察できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	出席及びリアクションペーパーの記述にて、本観点を評価する。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	講義の概要			
第2回	今日の学校教育現場の課題	学校現場の様々な課題を取り上げ、現状を理解する。取り上げる課題は、「不登校」「虐待」「貧困」「発達障害」等を予定している。	日頃から、新聞報道される、学校関係の様々な報道に関心を払い、記事を読んでおくこと。	15分～30分
第3回	今日の学校教育現場の課題	学校現場の様々な課題を取り上げ、現状を理解する。取り上げる課題は、「不登校」「虐待」「貧困」「発達障害」等を予定している。	日頃から、新聞報道される、学校関係の様々な報道に関心を払い、記事を読んでおくこと。	15分～30分
第4回	今日の学校	学校現場の様々な課題を取り上げ、現状を理解する。取	日頃から、新聞報道される、学	15分～30分

	教育現場の課題	り上げる課題は、「不登校」「虐待」「貧困」「発達障害」等を予定している。	校関係の様々な報道に関心を払い、記事を読んでおくこと。	
第5回	スクールソーシャルワーク導入の意義	上記の課題を踏まえて、スクールソーシャルワークが導入された経緯を理解する。	「現代社会と福祉」（社会福祉原論）で触れられる、歴史（社会福祉発達史）について復習しておくこと。	30分
第6回	スクールソーシャルワーク発展過程	スクールソーシャルワークの歴史について、主に日本について理解する。	「現代社会と福祉」（社会福祉原論）で触れられる、歴史（社会福祉発達史）について復習しておくこと。	30分
第7回	スクールソーシャルワークの実践	スクールソーシャルワーカーに求められる学校理解（学校文化・教師文化・学校の福祉機能）について理解する。	指定したテキストの当該箇所を、事前に読んでおくこと。	30分
第8回	スクールソーシャルワークの実践	スクールソーシャルワーカーに求められる学校理解（学校文化・教師文化・学校の福祉機能）について理解する。	指定したテキストの当該箇所を、事前に読んでおくこと。	30分
第9回	スクールソーシャルワークの支援理論	スクールソーシャルワーカーに必要な、支援理論について理解する。	援助技術に関する科目で学んだことを、事前に復習しておくこと。	31分
第10回	スクールソーシャルワークの支援理論	スクールソーシャルワーカーに必要な、支援理論について理解する。	援助技術に関する科目で学んだことを、事前に復習しておくこと。	31分
第11回	ここまでのまとめ	理論学習を振り返る。小テストを実施。		
第12回	スクールソーシャルワークの実践事例Ⅰ	スクールソーシャルワーカーが実際に扱った事例を紹介し、ケーススタディをグループワークにて行う。貧困、不登校、虐待等を取り上げる予定。	指定したテキスト以外にも、スクールソーシャルワーク実践に関する図書が出版されているので、それらに掲載されている事例を読んでおくことを勧めたい。	15分～30分
第13回	スクールソーシャルワークの実践事例Ⅱ	スクールソーシャルワーカーが実際に扱った事例を紹介し、ケーススタディをグループワークにて行う。貧困、不登校、虐待等を取り上げる予定。	指定したテキスト以外にも、スクールソーシャルワーク実践に関する図書が出版されているので、それらに掲載されている事例を読んでおくことを勧めたい。	15分～30分
第14回	スクールソーシャルワークの実践事例Ⅲ	スクールソーシャルワーカーが実際に扱った事例を紹介し、ケーススタディをグループワークにて行う。貧困、不登校、虐待等を取り上げる予定。	指定したテキスト以外にも、スクールソーシャルワーク実践に関する図書が出版されているので、それらに掲載されている事例を読んでおくことを勧めたい。	15分～30分
第15回	講義のまとめ	本講のまとめ。小テストを実施予定。		

学生へのフィードバック方法 オフィスアワー時に、講義の質問等については受け付けます。また求めがあれば、メールアドレスを教示しますので、メールにての質問等も対応します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
リアクションペーパー	○	○	○	
定期試験	○	○		

評価割合 リアクションペーパー（50%）、定期試験（50%）で評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) 「スクールソーシャルワーカーの学校理解」鈴木編著 ミネルヴァ書房

参考図書

- ①「新スクールソーシャルワーク論 子どもを中心にすえた理論と実践」山下・内田・牧野編著 学苑社
- ②「子どもにえられるためのスクールソーシャルワーク」山下監修 日本スクールソーシャルワーク協会編 学苑社
- ③「子どもへの気づきがつなぐ「チーム学校」 スクールソーシャルワークの視点から」鈴木・佐々木・住友編

	著 かもがわ出版 ④日本スクールソーシャルワーク協会編「スクールソーシャルワーク論 歴史・理論・実践」(山下・内田・半羽編著)学苑社	
オフィスアワー	4時限眼講義終了後、17時頃までを予定。(ただし、業務が入った場合を除く)	
学生へのメッセージ	担当教員はスクールソーシャルワーク実践者ですので、実務的なことを可能な限り取り上げ、仕事がイメージできるような講義を心がけていきたいと考えています。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	スクールソーシャルワーク演習・実習指導		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間福祉学科・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 芦田 正博	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>①子どもたち、教職員、教育委員会、事例や学校に関する関係者との基本的コミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成</p> <p>②子ども・家族の理解、学校、教育委員会、教育センター、適応指導教室など基本的な理解、そしてそのニーズ把握と支援計画の作成</p> <p>③子ども・家族、そして学校、教育委員会などとの援助関係の形成</p> <p>④子ども・家族への権利擁護、そして学校、教育委員会など含めて支援（エンパワメント含む）とその評価</p> <p>⑤校内におけるケース会議や学年会議でのケース検討における進め方の実際</p> <p>⑥校内や関係機関含めた他職種によるチームアプローチの実際</p> <p>⑦社会福祉士としての職業倫理、教員など学校関係者の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解</p> <p>⑧学校運営、学校組織、教育委員会組織の実際</p> <p>⑨市町村の子ども相談体制について理解し、学校がどのようにつながっているのかを学ぶ。具体的なネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に案する理解。</p>
履修条件	特に条件はないが、精神保健に関する科目の履修をしていることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	①日々子どもたちが過ごす学校現場等を知り、学校組織を体験的に学び、理解することができる。 ②教職員ほかとの連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解できる。
思考・判断の観点 (K)	①S Wとして求められる資質、技能、倫理から、福祉が一次分野でない教育現場における課題を見つけることができる。 ②子どもや家族、教職員から自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	演習ですので、出席することが原則です。またリアクションペーパーの記述内容で、評価を実施します。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	自己覚知演習		
第2回	S W実習の意義と目的について			
第3回	S W r の	社会福祉士の倫理綱領の理解	「相談援助の基盤と専門職」の	30分

	価値と倫理 (1)		講義で学んだことを、復習しておくこと。	
第4回	S S W r の 価値と倫理 (2)	子どもの権利条約について	外務省のHP「児童の権利に関する条約」を読んでおくこと。	30分
第5回	S S W r の 知識 (1)	学校関連組織、生徒指導上の諸課題、関連法、社会資源	スクールソーシャルワーク論の講義内容を復習すること。	15分
第6回	S S W r の 知識 (2)	いじめや不登校の実態と原因、子どもの障害に関する知識、非行に関する知識	スクールソーシャルワーク論の講義内容を復習すること。	15分
第7回	S S W r の 機能 (1)	S S W r に関する説明ロールプレイ	パワーポイントを各自作成すること。	60分
第8回	S S W r の 機能 (2)	S S W r の広報誌の作成	こども向けの広報誌を各自作成すること。	60分
第9回	S S W r と 環境 (1)	実習先の学校の組織体系理解と環境整備	実習先の学校が属する自治体の組織図や事務分掌規等を調べておくこと。	60分
第10回	S S W r と 環境 (2)	実習先の社会資源やサービスの理解と環境整備・環境開発	実習先の社会資源やサービスの理解と環境整備・環境開発	60分
第11回	S S W r と 環境 (3)	実習先の社会資源やサービスの理解と環境整備・環境開発	実習先の学校が属する自治体(ないしは配置校)の(特に児童)福祉資源について、調査しておくこと。	60分
第12回	実習記録について			
第13回	実習計画について			
第14回	実務評価について			
第15回	実習報告会			

学習計画注記 13回までを前期に行い、14回と15回は後期に行う。

学生へのフィードバック方法 オフィスアワー時に、講義の質問等については受け付けます。また求めがあれば、メールアドレスを教示しますので、メールにての質問等も対応します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題	○			
講義内での発言や参加態度			○	

評価割合 課題提出とその内容50%、講義内での発言や参加態度50%

使用教科書名 (ISBN番号) 特になし。必要に応じてプリント等を配布。(スクールソーシャルワーク論で指定したテキストや参考文献を読み込んでおくこと)

参考図書 特になし。(スクールソーシャルワーク論で指定したテキストや参考文献を読み込んでおくこと)

オフィスアワー 4時限眼講義終了後、17時頃までを予定。(ただし、業務が入った場合を除く)

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		

シラバス参照

講義名	ソーシャルワーク実習（4年）		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	4		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間福祉学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 西口 守	指定なし

授業概要(教育目的)	<p>現場実習を通して社会福祉専門職として仕事をするための基礎となる「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」についての理解を目的とする。</p> <p>理論と実践の統合を目指していく。学内における事例研究、演習で学習したことを応用し、実習の中で体験的に社会福祉の制度的理解、職業倫理や心構えの基本的な理解、利用者の理解、ソーシャルワーク（社会福祉援助）の過程の理解、援助の実践、自己理解などを進め統合的理解を目的とする。</p> <p>また、巡回担当教員による巡回を実習中に4回程度実施し実習中における指導を行う。</p>
------------	--

履修条件	<p>ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ及びソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅳを履修済みであること。</p> <p>その他社会福祉関連科目を順調に履修できていることを条件とする。</p> <p>原則実習は3年次の夏期休暇中に180時間実施されるが、実習先によっては時期が異なることがある。</p>
------	--

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	ソーシャルワーク実習を通じて利用者や専門職との係りから、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
技術・表現の観点 (A)	関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	実習先の特性、利用者の理解	配属先実習施設・機関の特性、利用者の背景を理解する。	法的根拠を理解する。 実習ノートの記入	90分
第2回	実習先の特性、利用者の理解	配属先実習施設・機関の特性、利用者の背景を理解する	法的根拠を理解する。 実習ノートの記入	90分
第3回	実習先の特性、利用者の理解	配属先実習施設・機関の特性、利用者の背景を理解する	法的根拠を理解する。 実習ノートの記入	90分
第4回	実習先職員の業務の理	利用者の背景と現状を理解する。 相談援助をはじめ福祉専門職である施設職員の業務につ	実習先分野に関連する事例集や文献を読んでおくこと。	90分

	解・利用者の理解	いて理解する。	実習ノートの記入	
第5回	実習先職員の業務の理解・利用者の理解	利用者の背景と現状を理解する。相談援助をはじめ福祉専門職である施設職員の業務について理解する。	実習先分野に関連する事例集や文献を読んでおくこと。実習ノートの記入	90分
第6回	実習先職員の業務の理解・利用者の理解	利用者の背景と現状を理解する。相談援助をはじめ福祉専門職である施設職員の業務について理解する。	実習先分野に関連する事例集や文献を読んでおくこと。実習ノートの記入	90分
第7回	利用者の理解 福祉専門職業務の実態 地域との連携	1人の利用者について記録から背景を理解し支援方法を理解する。具体的な支援方法について会議や記録の書き方、利用者との関わり方を実務的に理解する。	支援に必要な施策、福祉専門職としての倫理や行動規範について理解しておくこと。実習ノートの記入。	90分
第8回	利用者の理解 福祉専門職業務の実態 地域との連携	1人の利用者について記録から背景を理解し支援方法を理解する。具体的な支援方法について会議や記録の書き方、利用者との関わり方を実務的に理解する。	支援に必要な施策、福祉専門職としての倫理や行動規範について理解しておくこと。実習ノートの記入。	90分
第9回	利用者の理解 福祉専門職業務の実態 地域との連携	1人の利用者について記録から背景を理解し支援方法を理解する。具体的な支援方法について会議や記録の書き方、利用者との関わり方を実務的に理解する。	支援に必要な施策、福祉専門職としての倫理や行動規範について理解しておくこと。実習ノートの記入。	90分
第10回	支援計画の作成 自己覚知	実際に支援計画を作成する。福祉専門職としての適性を考える。	支援計画を作成する利用者について情報収集をする。適宜、情報収集の在り方、支援方法について実習担当職員に確認をとること。実習ノートの記入。	90分
第11回	支援計画の作成 自己覚知	実際に支援計画を作成する。福祉専門職としての適性を考える。	支援計画を作成する利用者について情報収集をする。適宜、情報収集の在り方、支援方法について実習担当職員に確認をとること。実習ノートの記入。	90分
第12回	支援計画の作成 自己覚知	実際に支援計画を作成する。福祉専門職としての適性を考える。	支援計画を作成する利用者について情報収集をする。適宜、情報収集の在り方、支援方法について実習担当職員に確認をとること。実習ノートの記入。	90分
第13回	支援計画の作成 自己覚知	実際に支援計画を作成する。福祉専門職としての適性を考える。	支援計画を作成する利用者について情報収集をする。適宜、情報収集の在り方、支援方法について実習担当職員に確認をとること。実習ノートの記入。	90分
第14回	支援計画の作成 自己覚知	実際に支援計画を作成する。福祉専門職としての適性を考える。	支援計画を作成する利用者について情報収集をする。適宜、情報収集の在り方、支援方法について実習担当職員に確認をとること。実習ノートの記入。	90分
第15回	実習のまとめ	実習生、実習担当職員、巡回担当職員による実習の振り返り。	実習での疑問、課題、達成度についてまとめておくこと。	90分

学習計画注記	実習先の状況等により、スケジュールが変更となる場合があります。
学生へのフィードバック方法	実習担当教員、巡回担当教員とのグループ及び個別指導による。 人間福祉学科 実習指導室において実習についての資料等を自由に閲覧できる。 また、質問等は実習担当教員、巡回担当教員に質問をすること。
評価方法	実習先からの実習内容の評価、実習担当教員による実習内容の評価、実習報告書の提出（必須）、その他実習先への提出物の確認/各種検査の有無/実習準備/実習期間の態度/礼状の提出など、実習の事前/事後について手続を完了しているかどうかを含め、総合的に判断する。（実習先からの評価50%、学内における評価50%） なお、ソーシャルワーク実習指導、その他関連科目の出席状況、履修状況が芳しくない等、担当教員が実習実施が困難であると判断した場合等は実習実施を取りやめることもあるので、注意すること。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
実習先からの評価	○		○	○
学内における評価	○		○	○

評価割合	実習先からの評価50%、学内における評価50%
使用教科書名 (ISBN番号)	ソーシャルワーク実習の手引き・他
参考図書	適宜紹介します。
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】ソーシャルワーク実習を通じて、社会問題を当事者に寄り添いながらかつ客観的に受け止める力を有する。</p> <p>【関心・意欲・態度】複眼的、構造的に社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を有する。</p> <p>【技術・表現】関連分野の専門職との連携のあり方、地域との連携及びその具体的内容を実践的に理解する力を有する。</p>
オフィスアワー	各巡回担当の教員に確認のこと。 実習指導室：前期水曜日3限目 後期火曜日6限目
学生へのメッセージ	社会福祉施設・機関における、具体的かつ実践的な学びのチャンスです。利用者のみなさんと関わることへの責任感を持ち続けることができる学生の参加を期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食生産体験演習A		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 高尾 純宏	指定なし

ナンバリング	R10001M12
授業概要(教育目的)	1年生の必修科目であり、学科の全教員が担当する授業でもあります。通年開講される重要な授業で、主に担当する教員の授業内容は、野菜栽培などを通した「食育」の学びとなります。野菜等を育成栽培する基礎知識、栽培管理の実体験を通して野菜栽培を学ぶ。他の教員による、食生産関係の見学会を数回予定している。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	野菜の品種と料理の関係、栽培の方法を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	一般的な夏野菜、冬野菜の野菜栽培ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス、屋上グループ分け、屋上プランター種の植付け(枝豆)	野菜の生産と管理、それぞれの野菜の植物としての特徴を知り、適した育成の仕方を学ぶ。	種の植え方、管理の方法を資料で、復習しておく。	90分
第2回	畑栽培説明、グループ分け、看板製作作業	野菜の種類により、栽培が異なることを理解する、それぞれの方法を学ぶ。	種の植え方、管理の方法を資料で、復習しておく。	90分
第3回	畑植付けの準備(マルチ)	土のpH値測定、マルチを張り、ミニトマト、キュウリの植付け準備を学ぶ。屋上プランターの苗の間引き作業を体験する。	畝の作り方、道具の使い方、間引き、誘引作業を資料で復習しておく。	90分
第4回	畑、苗の植付け(ミニ)	ミニトマトには、コンパニオンプランツとしてニラをキュウリにはネギを同時に植え、生育、病中対策に良いことを理解する。	コンパニオンプランツの種類、効果を調べる。	90分

	トマト・キュウリ)			
第5回	支柱立て、誘引作業、追肥、土寄せ作業	苗の管理方法、誘引や追肥、ネット掛けの方法を学ぶ・	資料を確認しておく。	90分
第6回	屋上、追肥作業	野菜栽培についての資料、野菜の科目、分類、土壌の酸性度、連作障害、肥料の三要素、肥料の量、好光性・嫌光性種子、種の撒き方、コンパニオンプランツ、定植についての知識を身に付ける。	復習しておく。後期小テストを行う。	90分
第7回	外部講師講義（予定）	卒業生を予定（食生産関係者）を招き、現場での話を伺い、現状を知る。	感想とこれからに生かしたいことをまとめ、小レポート提出。	90分
第8回	講義「食料・農業・農業白書」農林水産省派遣講師（予定）	日本の食料自給率、「食」を支える「農業」の重要性、今後の農業を担う若手農業者（農業女子）の現状を理解する。	農業女子プロジェクトについて調べる。食生産の現場について調べる。	90分
第9回	校外授業工場見学「カップヌードルミュージアム」（予定）	インスタントラーメン ヒストリーキューブ、約60年前にひとつの商品から始まったインスタントラーメンが世界的な食文化へと発展（3,000点のパッケージ）を見学し食文化の歴史を学習する。	レポートにまとめ、次週提出。	90分
第10回	畑、誘引、追肥、土寄せ作業	第1回ミニトマト、キュウリ、その他野菜の収穫を体験する。土寄せ、雑草取りの経験。	グループごとに、夏野菜のそれぞれの野菜の特徴と調理方法を調べ、アレンジ料理の考案をグループで行う。最終的にレポート提出。	90分
第11回	屋上、追肥、土寄せ作業	生育の観察、管理、散水等をの作業を行なう。	グループごとに、夏野菜のそれぞれの野菜の特徴と調理方法を調べ、アレンジ料理の考案をグループで行う。最終的にレポート提出。	90分
第12回	校外授業工場見学「味の素川崎工場」（予定）	原料・製造工程・品質管理など、製品ができるまでを見学し、食生産の現場を理解する。	レポートにまとめ、次週提出。	90分
第13回	野菜収穫（屋上）収穫祭	枝豆、ジャガイモ（男爵）の収穫、試食、あと片付けを体験する。	グループごとに、夏野菜のそれぞれの野菜の特徴と調理方法を調べ、アレンジ料理の考案をグループで行う。最終的にレポート提出。	90分
第14回	野菜収穫（畑）	ミニトマト、キュウリの収穫と糖度検査、試食を体験する。グループ作業での協調性、チームワークを学ぶ。	グループごとに、夏野菜のそれぞれの野菜の特徴と調理方法を調べ、アレンジ料理の考案をグループで行う。最終的にレポート提出。	90分
第15回	畑の後片付け、レポート提出	グループワーク、協調性を身に付ける。	野菜栽培、調理についての知識や体験を振り返り、後期の食生産Bへの活かし方を考えておく。	90分

学習計画注記	畑や屋上での野菜栽培は、天候に左右されることがあり、また校外授業、工場見学（1回）も先方の予約状況にもよる。また外部講師を予定していますが日程の調整があるため、予定変更が多く発生すると予想されます。ご留意をお願いします。
学生へのフィードバック方法	レポート提出は、後期最初の授業で返却し、評価についてコメントをします。
評価方法	授業への積極的な参加を重要視します。特にグループワークとして行動、活動することが多いため協調性、チームワーク等の態度を見ます。平常点、工場見学レポート2回、小レポート、最終レポート（グループ作成）で評価。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
最終レポート	○			

工場見学レポート		○	○	
小レポート		○	○	
平常点			○	

評価割合	平常点（45%）、工場見学レポート2回（20%）小レポート（5%）、最終レポート（グループ作成）（30%）
使用教科書名（ISBN番号）	なし
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】野菜の品種と料理の関係、野菜の栽培方法等の専門的知識を有している。 【技術・表現】一般的な夏野菜、冬野菜の栽培方法を身に付けている。
オフィスアワー	水曜3限 1502研究室
学生へのメッセージ	野菜栽培に興味を持ち、実祭に体験・体得することも多いと考えます。積極的な授業参加を期待しています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	実際に体験することを重んじる。より良いやり方を試行錯誤の中から習得する。
アクティブ・ラーニング	○	手や体を動かし、能動的に対応することで体得する。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	グループで作業を行ったり、調べたりすることにより、コミュニケーションを身に付ける

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食生産体験演習B		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 高尾 純宏	指定なし

ナンバリング	R10007M12
授業概要(教育目的)	<p>①秋・冬野菜の栽培方法として苗からの栽培、種からの栽培を体験し、栽培と管理の知識を身に着ける。</p> <p>②ジャガイモや大根の品種の違い、その品種の特徴と料理の関係について講義を行う。</p> <p>③伝統的野菜や新顔野菜についてグループで調査し、パワーポイントを用いた発表を行う。</p> <p>④食に関する博物館の見学会を予定しているので、食と農について関心を持ち、見聞を広める。</p>

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	野菜の品種と料理の関係、栽培の方法を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	一般的な秋・冬野菜の野菜栽培ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	畑栽培説明、(大根の種撒き作業)	冬野菜にはどのような野菜があるのか、根菜は種から育てるため、代表的な青首大根の栽培を行ない、種蒔きの方法や手順を学ぶ。	大根の品種名と特徴、どんな料理に向くのかをネット検索し、記録を取る	60分
第2回	屋上栽培説明、種芋・球根植付け作業	ジャガイモの植え付け作業を体験する。	ジャガイモの植え付け作業の記録を取る。植え付け時期、酸度PH値、深さ、間隔、肥料の量や時期、芽の方向、芽かきのタイミング等ネット検索により調べ、本日の作業と比較する。	60分
第3回	畑(間引き作業)	大根の間引き作業を体験する。間引きながら徐々に大きく育てることを体験する。	空き時間に、散水、雑草取りの作業を行なう。	60分
第4回	校外授業工場見学「鎌倉ハム	食生産の現場を見学し、現状を知る。	見学して考えたことをまとめ、レポート提出。	60分

	富岡商会本社工場」(予定)			
第5回	プレゼン説明、パワポの作り方説明、	パワーポイントの作り方、良いパワポづくりのポイントを理解する。	グループワーク、パワーポイントを作成する 1)	60分
第6回	講義、「野菜の品種と料理」、パワポ発表例	野菜の品種と特徴、どの品種がどんな料理に向いているのかに興味を持ち、講義の事例を参考に、他の野菜についても関心を持つようにする。グループワークとして、「新顔野菜・果物」を調べ、パワポを作成し、発表するための準備。参考事例を提示するので、参考にする。	グループワーク、パワーポイントを作成する 2)	60分
第7回	畑(間引き作業)	大根の間引き作業を体験する。間引きながら徐々に大きく育てることを体験する。	グループワーク、パワーポイントを作成する 3)	120分
第8回	外部講師講義(予定)	外部講師(卒業生を予定)食の生産、食開発等に携わっている講師を招き講義を受ける。将来の職業や仕事について考える。	感想、意見をまとめ次週提出。	60分
第9回	プレゼン作業	「新顔野菜・果物」紹介のためのパワポ作成(グループワーク)し、発表準備、発表のポイント、役割分担、練習、時間内にまとめられるかをグループで話し合う。	グループワーク、パワーポイントを作成する 4)	120分
第10回	学生プレゼン発表①	発表の体験、発表を振り返り、「良い発表とは？」を考える。	他グループの発表の良い点を考え、記録する。	60分
第11回	学生プレゼン発表②	発表の体験、発表を振り返り、「良い発表とは？」を考える。	発表の反省点を考え、記録する。	60分
第12回	校外授業 東京農業大学「食と農」の博物館(予定)	「食と農」の博物館展示を見学し、食の一端(稲作について、ビタミンB1の発見、日本酒の醸造、ニワトリの種類や特徴)を知ることにより食に対する関心や知識を深める。	見学して考えたことをまとめ、レポート提出する。	60分
第13回	野菜収穫(屋上、畑)	ジャガイモの収穫作業を体験する。	小テストのための復習。レポート作成。	予習:120分 復習:120分
第14回	収穫祭	大根の収穫と畑作業の後片付けを体験する。	小テストのための復習。レポート作成。	予習:120分 復習:120分
第15回	小テスト、レポート提出	小テスト、野菜の科目、分類、土壌の酸性度、連作障害、肥料の三要素、肥料の量、好光性・嫌光性種子、種の撒き方、コンパニオンプランツ、定植についての知識を身に付ける。	野菜栽培作業の体験を通して、身に付けたことを振り返り、記録する。自然を対象に作業、収穫することの難しさを記録する。	30分

学習計画注記	畑や屋上での野菜栽培は、天候に左右されることがあり、また校外授業、工場見学(2回)も先方の予約状況にもよる。また外部講師を予定していますが日程の調整があるため、予定変更が多く発生すると予想されます。ご留意をお願いします。
学生へのフィードバック方法	グループワークでのプレゼン発表に対し、多くの教員から講評を行ない、良い発表とはどんな発表か、プレゼンテーション技術とはの説明を行う。
評価方法	授業への積極的な参加を重要視します。特にグループワークとして行動、活動することが多いため協調性、チームワーク等の態度を見ます。平常点、工場見学レポート2回、小テスト、プレゼン発表(グループ作成)で評価。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
プレゼン発表	○			
工場見学レポート		○	○	
小テスト	○			
平常点			○	

評価割合	平常点(45%)、工場見学レポート2回(10%)、小レポート(5%)、小テスト(10%)、プレゼン発表(グループ作成)(30%)で評価。
使用教科書名(ISBN番号)	なし
参考図書	なし

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】野菜の品種と料理の関係、野菜の特徴等の専門的知識を理解し、プレゼンテーション能力を身に付けている。 【技能・表現】野菜の栽培技術を身に付けている。	
オフィスアワー	水曜3限 1502研究室	
学生へのメッセージ	野菜栽培に興味を持ち、実際に体験・体得することも多いと考えます。積極的な授業参加を期待しています。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	実際に体験することを重んじる。より良いやり方を試行錯誤の中から習得する。
アクティブ・ラーニング	○	手や体を動かし、能動的に対応することで体得する。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	グループで作業を行ったり、調べたりすることにより、コミュニケーションを身に付ける。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	栄養士論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山田 正子	指定なし

ナンバリング	R10002M21
授業概要(教育目的)	この科目は、栄養士養成のための必須科目である。 この授業は、職業倫理と使命感のある栄養士の養成の一基盤となるものである。そのため、栄養士の有資格者や雇用者、行政の担当者からの講義を得ながら、栄養士として備えるべき資質や知識・技能を理解することを目的とする。具体的には、保育所・学校給食・高齢者福祉施設・病院などの栄養士、管理栄養士を招き、栄養士の置かれている現状と、栄養士として何か求められているかなどについて講義する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	栄養士の活動分野、役割、業務内容を理解し、栄養専門職としての栄養士の役割と業務内容を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	栄養士業務に必要な知識が何かを理解することにより、栄養士を目指すために学ぶ意義を確認することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	栄養士養成のためのカリキュラムおよび4年間で学ぶ意義を理解し、学ぶ意欲を高めることができる。
技術・表現の観点 (A)	様々な分野で栄養士・管理栄養士として仕事をされている方々からの講義聞き、その内容についてグループディスカッションおよび発表することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	栄養士の役割と業務	栄養士の仕事内容、活躍分野、役割について、管理栄養士との違いも含め解説する。	教科書の1編の「栄養士・管理栄養士の基礎知識」を読んでおくこと。	120分
第2回	食事に関する調査方法について①	食事調査の目的、方法、結果の読み取り方、分析方法について説明する。	教科書の付録の「7日間の食事を見直してみよう」を読んでおくこと。	120分
第3回	食事に関する調査方法について②	食事調査の結果から、対象者を行動変容に導く指導方法について説明する。	第3回の食事に関する調査方法について、配布資料の復讐をしておくこと。また、再度教科書の付録の「7日間の食事を見直してみよう」を読んでおくこと。	120分

第4回	栄養素の働きについて	栄養素の働きについて理解する。	教科書の2編・2章を読んでおくこと。	120分
第5回	日本食品成分表について	日本食品成分表の内容および使い方を説明する。	教科書の2編・1章を読んでおくこと。	120分
第6回	献立と献立計算	献立表の記入方法および日本食品成分表を用いた献立計算方法を理解する。	調理学実習で習った献立計算の理解および復習をしておくこと。	120分
第7回	体の構造と働きについて	体の構造と働きについて理解する。	教科書の3編・1章を読んでおくこと。	120分
第8回	日本人の食事摂取基準について	日本人の食事摂取基準について、その内容と利用方法を理解する。	教科書の2編・1章を読んでおくこと。	120分
第9回	食生活・食文化の基礎知識について	日本の食生活の変化、食文化、現代の食の問題について理解する。	教科書の4編を読んでおくこと。	120分
第10回	正しい情報の選択の仕方	食と健康に関する様々な情報について、正しい選択方法について理解する。また、「科学的根拠」についても理解する。	事前に配布する資料をしっかりと読んでおくこと。また、食に関する情報、広告などにどのようなものがあるか確認しておくこと。	120分
第11回	栄養士の活動分野① 保育所	実際に保育所で活躍している栄養士から、実際の仕事内容の説明を受け、保育所の栄養士の業務内容を理解する。また、栄養士の話聞いて、考えたこと・気が付いたことについてグループディスカッションを行い発表することで、グループでのコミュニケーションをとる能力、まとめて発表する能力を身につける。	教科書の1編・1章を読んで、保育所の栄養士の仕事内容を復習しておくこと。	120分
第12回	栄養士の活動分野② 小学校	実際に小学校で活躍している栄養士から、実際の仕事内容について説明を受け、小学校の栄養士業務を理解する。また、栄養士の話聞いて、考えたこと・気が付いたことについてグループディスカッションを行い発表することで、グループでのコミュニケーションをとる能力、まとめて発表する能力を身につける。	教科書の1編・1章を読んで、学校の栄養士の仕事内容を復習しておくこと。	120分
第13回	栄養士の活動分野③ 病院	実際に病院で活躍している管理栄養士から、実際の仕事内容について説明を受け、病院の栄養士業務を理解する。また、栄養士の話聞いて、考えたこと・気が付いたことについてグループディスカッションを行い発表することで、グループでのコミュニケーションをとる能力、まとめて発表する能力を身につける。	教科書の1編・1章および2章を読んで、病院の栄養士の仕事内容を復習しておくこと。	120分
第14回	栄養士の責務と職業倫理	栄養士の責務と職業倫理について理解する。	事前に配布する資料を読んでおくこと。	120分
第15回	栄養士養成教育とカリキュラムとの関連	栄養士養成におけるカリキュラムおよび科目の内容を知ること、4年間の学びの流れを理解する。	学生便覧の食物学科の授業科目概要を読んでおくこと。また、配布資料（参考時間割、4年間の科目）も確認しておくこと。	120分

学生へのフィードバック方法 提出されたレポートについて、コメントを付けて返却する。

評価方法 平常点、レポート提出状況、レポート内容、グループディスカッションへの参加状況により評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
レポート提出状況			○	
レポート内容	○	○		○
グループ討議参加状況	○	○	○	○

評価割合 平常点 (30%)、レポート提出状況 (30%)、レポート内容 (30%)、グループディスカッション参加状況 (10%)

使用教科書名 (ISBN番号)	めざせ栄養士・管理栄養士 まずはこちらからナビゲーション／小野章史編著／第一出版
参考図書	日本食品成分表
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】様々な立場や状況の人々と疎通ができるコミュニケーション力を身につけ、【思考・判断】多種多様な情報を整理し、【関心・意欲・態度】栄養士として探求心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲を持つ。
オフィスアワー	金曜日 5時限 2309研究室
学生へのメッセージ	初回の授業に出席する前に、中学あるいは高校までに習った食物、調理、栄養、体の構造について、各自復習しておいてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	様々な分野で栄養士・管理栄養士から講義いただいた内容についてグループディスカッションを行い、感じたこと、考えたこと、気付いたこと等をグループでまとめ、発表を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	地球環境と食		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 山岡 義卓	指定なし

ナンバリング

R21012M21

授業概要(教育目的)

食は人類が存続するために不可欠な要素である。一方、人口が一定水準を超えた段階から、食料の安定確保は地球環境に対する「作用」なしには持続することができなくなった。その「作用」は結果として食料の安定的生産を損ねる結果を招いており、この悪循環が地球環境の破壊を再生不能な段階まで進めることとなっている。そこで、地球環境と食料生産・食料確保との関係を理解し、持続可能な食の確保について考察する。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	地球環境と食にどのような関係があるのか理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	地球環境の観点から、現代の食に関する問題点を把握、理解することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自ら問題解決に向けての取り組みを進められるようになること。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	シラバスに記載された本科目の目的や授業計画について理解する。	授業計画で取り上げているテーマのうち自分自身が興味・関心のある分野を複数選び、それぞれ食の営みとどのような関係があるのか調べる。	60分
第2回	食と地球環境の関係	私たちの食の営みが地球環境とどのような関係があるのかを俯瞰的に理解する。	発展学習として身の回りの食の営み(例:アルバイト先や日頃利用するスーパー、飲食店等)と自然環境との関係を調べる。予習として日本と世界の食糧需給の状況を調べる。	180分
第3回	日本の食料需給・世界の食料需給	地球環境と食の関係を理解するための基礎知識として日本と世界の食料需給の現状について理解する。	復習として私たちの日頃の食品消費のあり方を振り返り、どのように見直すことができるか考える。予習として新聞やニュース、インターネットにより地球	180分

			温暖化に関する最近の話題を調べる。	
第4回	地球環境と食にまつわる諸課題 ①地球温暖化	今回から7回にわたり地球環境と食にまつわる諸課題をテーマごとに学習する。第1回として地球温暖化と食の関係を理解する。	復習としてここ最近の大規模な自然災害（特に地球温暖化と関連する可能性のあるもの。例：2018年の西日本豪雨）による食産業への影響について調べる。予習として新聞やニュース、インターネットにより水資源に関する最近の話題を調べる。	180分
第5回	地球環境と食にまつわる諸課題 ②水資源の問題	水資源の現状と課題等を理解する。	復習として水の大切さについての理解を促す活動にどのようなものがあるか調べる。予習として生物多様性の言葉の意味やその意義等について書籍やインターネット等により調べる。	180分
第6回	地球環境と食にまつわる諸課題 ③生物多様性	生物多様性と食の関係を理解する。	復習として生物多様性が大切だという理解を促すための方策を考える。予習として新聞やニュース、インターネットにより遺伝子組換え食品に関する最近の話題（特に環境と関係するもの）を調べる。	180分
第7回	地球環境と食にまつわる諸課題 ④遺伝子組換え食品	遺伝子組換え食品と地球環境の関係を理解する。	発展学習としてゲノム編集技術について調べ環境への影響について考察する。予習として新聞やニュース、インターネットにより食の工業化・グローバル化に関する最近の話題（特に環境と関係するもの）を調べる。	180分
第8回	地球環境と食にまつわる諸課題 ⑤食の工業化・グローバル化	食の工業化・グローバル化と地球環境の関係を理解する。	復習として身の回りの工業化・グローバル化された食品を取り上げ、その生産から消費に至るプロセスがどのようになっているか調べる。予習として新聞やニュース、インターネットにより食品廃棄物等に関する最近の話題（特に環境と関係するもの）を調べる。	180分
第9回	地球環境と食にまつわる諸課題 ⑥廃棄物問題とリサイクル	食品廃棄物や容器包装リサイクルと地球環境の関係を理解する。	復習として自分の生活における食品廃棄や容器包装の取り扱いを振り返り、どのように改善できるか考察する。予習として東日本大震災の被災地における放射能による被害や復興の状況について調べる。	180分
第10回	地球環境と食にまつわる諸課題 ⑦東日本大震災と食	東日本大震災における原発事故が環境と食に及ぼす影響について理解する。	復習として被災地の食の復興に関する活動にどのようなものがあるか調べ、その意義や課題等について考察する。予習として資源リサイクル事業（特にゲスト講師の携わる事業）についてインターネット等により調べる。	180分
第11回	地球環境に配慮した食の営み ①資源リサイクル事業	資源リサイクル事業に携わるゲスト講師の講話を聞き、その活動の意義や課題、可能性等について理解する。	復習としてゲスト講師の講話を踏まえて資源リサイクル事業を推進するための方策を考える。予習として地産地消の言葉の意味や具体的な取り組み等について書籍やインターネット等により調べる。	180分
第12回	地球環境に配慮した食の営み ②地産地消	地球環境に配慮した営みとして地産地消の活動、意義、課題等について理解する。	復習として身近な地産地消の取り組み（直売所やマルシェ等）を見聞き、授業で学んだことと照らし合わせて考察する。予習としてフェアトレードの言葉の意味や具体的な取り組み等について書籍やインターネット等により調べる。	180分
第13回	地球環境に配慮した食の営み ③フェアトレード	地球環境に配慮した営みとしてフェアトレードの活動、意義、課題等について理解する。	復習として身近なフェアトレード商品（食品）を取り上げ授業で学んだことと照らし合わせて考察する。11回から13回までの学習を踏まえて、身の回り地	240分

			球環境に配慮していると思われる営みを取り上げ、その内容、意義、課題、可能性等について論ずる。	
第14回	ワーク 地球環境の視点からこれからの食品消費を考える	これまでの学習を踏まえて地球環境の視点からこれからの食品消費の望ましいあり方についてグループワークを通じて考究する。	復習として授業内のワークで作った提案内容を振り返り、具体的な行動に落とし込めるようにブラッシュアップする。予習としてこれまでの授業内容を確認し、疑問点や確認したいこと等を洗い出しておく。	180分
第15回	まとめ・振り返り	これまでに学んだことを振り返り、学習目標の達成について確認する。	試験に備えて授業全体を通して学んだことを振り返り、知識の定着を確認することはもちろん、地球環境への影響を配慮しつつ、今後自分はどうのように食に関わっていきたいかを考える。	240分

学習計画注記 毎回の授業において主に学習内容を確認するためのリアクションペーパーを記載する。また毎回の授業冒頭において10分程度の時間で前回の振り返りを行う。

学生へのフィードバック方法 リアクションペーパーのコメントのうちのいくつかをピックアップし、授業内で解説や補足説明等によりフィードバックする。

評価方法 定期試験は基本的な知識の定着を確認する設問と、理解度や考え方を確認するための論述式の設問により構成される。レポートは授業の復習の一環として9回目以降に実施し、記載内容、書式、考察に基づき評価する。レポート課題は授業内にて提示する。平常点は毎回のリアクションペーパーの記載内容により理解度を確認し、評価する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○	○	
平常点	○	○	○	
レポート	○	○	○	

評価割合 試験60点、平常点20点、レポート20点

使用教科書名 (ISBN番号) 特に指定しない。必要な文献や資料は授業の際に随時配付する。

参考図書 必要に応じて紹介する。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】学内外で講義・実習・演習を通し、多様な食環境や食文化を理解し、様々な立場や状況の人々と意思疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身に着ける。
【思考・判断】多種様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている 力を身につけている
【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。

学生へのメッセージ 食と環境に関連する諸課題、先進的な事例、政策や法律等に関する情報を積極的に収集するように心がけること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品メーカーにおいて商品開発に実務に携わった経験があり、また、現在もさまざまなフードビジネス事業者（生産、流通、小売等）との連携活動を行っている。
アクティブ・ラーニング	○	第14回の授業において学んだことを踏まえて自分たちに何ができるかを考えるグループワークを実施する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	フードビジネス概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 山岡 義卓	指定なし

ナンバリング

R11005M21

授業概要(教育目的)

「食」は、いのちの源であり、私たちが生きていく上では欠くことのできない営みである。フードビジネスは、食に関わるあらゆる事業活動の総称であり、私たちの生活に密接に関わることはもちろん、殊更重要な社会的役割を有する。本授業では、食品の生産から消費に至る過程を軸に各種フードビジネスの事業や担い手について概観し、その機能や役割を理解すると同時にフードビジネスが抱える諸課題を確認する。さらに、今後、持続可能な社会の構築を目指すうえで望ましいあり方や進むべき方向性についても考える。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	各種フードビジネスの事業や担い手、歴史的経緯等基本的な知識を身につけることにより、その機能や役割、現代社会における諸課題を理解できるようになる。
思考・判断の観点 (K)	上記理解に基づき、持続可能な食の営みを指すうえでフードビジネスの望ましいあり方や進むべき方向性を考究することができるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	短期的な視点からの消費者メリットやビジネス上のメリットだけでなく、長期的および倫理的な観点も考慮して相応しい考え方や行動ができるようになる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス：フードビジネスとは	シラバスに記載された本科目の目的や授業計画について理解し、学習領域であるフードビジネスの全体像を概観する。	フードビジネスの全体像(生産・加工・流通・消費)を概観したうえで自分自身が興味・関心のある分野を複数選び、どのようなフードビジネスの事例があるか調べ、意義や課題について考察する。	60分
第2回	私たちの暮らしとフードビジネス	身近な食品を題材にして、フードビジネスが私たちの暮らしとどのように関係しているのかを理解する。	復習として身近な食品(授業で取り上げた以外)のいくつかについて、それぞれどのようなフードビジネスが関係しているのかを洗い出して、改めてフードビジネスと自分たちの生活との関係を確認する。予習として新聞やニュース、インターネット	180分

			により農業や漁業に関する最近の話題を調べる。	
第3回	フードビジネス①生産（農業・漁業：概要）	農業・漁業について概観するとともにフードビジネスとしての特徴を理解する。	復習として加工食品の原材料や家庭で使用している食材について産地や生産方法を調べ、さまざまな食料生産のあり方があることを確認する。予習として新聞やニュース、インターネットにより農業や漁業に関する最近の話題（特に課題に関する事柄）を調べる。	180分
第4回	フードビジネス②生産（農業・漁業：意義と可能性）	前回に続き農業と漁業を扱う。フードビジネスとしての農業・漁業の意義と可能性について理解する。	復習として前回と今回の授業で学んだ農業・漁業の現状や課題、可能性を整理し、その特徴を確認する。予習として新聞やニュース、インターネットにより食品製造業に関する最近の話題を調べる。	180分
第5回	フードビジネス③加工・製造（食品製造業）	食品製造業について概観し、その特徴を理解する。	復習として身近な加工食品を自分自身でつくることで製造工程の複雑さや衛生管理の難しさ等を理解する。予習として新聞やニュース、インターネットにより食品の流通に関する最近の話題を調べる。	180分
第6回	フードビジネス④流通（食品の流通）	食品流通の全体像について概観し、その特徴を理解する。	復習として授業で学んだ食品流通の仕組みを整理し、その特徴を確認する。予習として新聞やニュース、インターネットにより卸売市場に関する最近の話題を調べる。	180分
第7回	フードビジネス⑤流通（卸売流通）	食品流通のうち生鮮食品（青果、鮮魚、精肉等）の卸売流通の特徴について理解する。	復習として授業で学んだ卸売流通の流れを食品の種類ごとに整理し、その特徴を確認する。予習として新聞やニュース、インターネットにより食品小売業に関する最近の話題を調べる。	180分
第8回	フードビジネス⑥流通（小売流通）	食品流通のうち小売流通（スーパー、専門小売店等）についてその特徴を理解する。	代表的な小売流通であるスーパーと専門小売店について、両者で買い物をしたうえでその特徴、メリット、デメリットなどを比較し、今後、小売流通をどのように利用したいか考察する。	240分
第9回	フードビジネス⑦外食・中食	外食についてはチェーンレストランと個人経営の飲食店の比較を通して、中食についてはコンビニエンスストアを題材に、それぞれフードビジネスとしての特徴を理解する。	復習として外食や中食の利用に際してそのオペレーションを想像しながら授業で学んだことを確認する。予習として次週講義のゲスト講師のビジネスについてインターネット等で事前に情報収集し、その特徴等を理解する。	180分
第10回	フードビジネスの実際	フードビジネスに携わるゲスト講師を招き、フードビジネスの現場から見た意義や課題、可能性等について理解する。	復習としてゲスト講師の講話を振り返り、当該ビジネスの意義、課題、可能性を整理し、課題解決の方策を考察する。予習として経営学の教科書等によりマーケティングに関する基本的な情報を得ておく。	180分
第11回	フードビジネス⑧マーケティング	マーケティングに関する基礎知識を身につけるとともにフードビジネスにおけるマーケティングの特徴や留意点を理解する。	復習として身近な食品における企業等のマーケティング活動について学んだことと照らし合わせてどのような課題があるかを考察する。予習として新聞やニュース、インターネットにより食のグローバル化や工業化に関する最近の話題を調べる。	180分
第12回	フードビジネスの現代的課題①グローバル化・工業化	グローバル化や工業化が進展することでフードビジネスの領域において生起する諸課題を理解する。	復習として具体的な食品を題材に、工業化やグローバル化が進展することによる課題を解決するための方策を考察する。予習として新聞やニュース、インターネットにより食品の安全性や	180分

			環境に関する最近の話題を調べる。	
第13回	フードビジネスの現代的課題②食の安全性・環境問題	食の安全性や環境に関する問題とフードビジネスの関係について理解する。	復習として食の安全性や環境に関する諸課題を自分たち（消費者）の立場で解決できる方策について考察する。予習として地産地消について言葉の意味や具体的な取り組み等について書籍やインターネット等により調べる。	180分
第14回	これからのフードビジネス	フードビジネスの抱える諸課題を解決するための方策のひとつとして地産地消、スローフード等いくつかの事例を取り上げ、その内容や意義、課題について理解する。	復習として身近な地産地消の営み（直売所やマルシェ等）を見聞し、授業内容に照らし合わせて意義や課題等について考察する。予習としてこれまでの授業内容を確認し、疑問点や確認したいこと等を洗い出しておく。	180分
第15回	まとめ・振り返り	定期試験を実施する。これまでに学んだことを振り返り、学習目標の達成について確認する。	試験に備えて授業全体を通して学んだことを振り返り、知識の定着を確認することはもちろん、自分自身が今後、どのようにフードビジネスに向き合っていきたいかを考える。	240分

学習計画注記	毎回の授業において主に学習内容を確認するためのリアクションペーパーを記載する。また毎回の授業冒頭において10分程度の時間で前回の振り返りを行う。
学生へのフィードバック方法	リアクションペーパーのコメントのうちのいくつかをピックアップし、授業内で解説や補足説明等によりフィードバックする。
評価方法	定期試験は基本的な知識の定着を確認する設問と、理解度や考え方を確認するための論述式の設問により構成される。 レポートは授業の復習の一環として7回目以降に実施し、記載内容、書式、考察に基づき評価する。レポート課題は授業内にて提示する。 平常点は毎回のリアクションペーパーの記載内容により理解度を確認し、評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○	○	
平常点	○	○	○	
レポート	○	○	○	

評価割合	試験60点、平常点20点、レポート20点
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。必要な文献や資料は授業の際に随時配布する。
参考図書	なし。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】学内外で講義・実習・演習を通し、多様な食環境や食文化を理解し、様々な立場や状況の人々と意思疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につける。 【思考・判断】多種様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている 力を身につけている 【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
学生へのメッセージ	フードビジネスに限らず、食に関するさまざまな社会問題、先進的な事例、政策や法律等に関する情報を積極的に収集するように心がけること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品メーカーにおいて商品開発に実務に携わった経験があり、また、現在もさまざまなフードビジネス事業者（生産、流通、小売等）との連携活動を行っている。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		

シラバス参照

講義名	コミュニケーション・プレゼン演習		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 黒田 久夫	指定なし

ナンバリング	R11003M12
授業概要(教育目的)	<p>【授業の概要】アクティブラーニングに対応するための基本的な対話力を養います。グループワーク形式で各種課題に取り組む過程で、コミュニケーションの基礎である受容・発信・協創等のコンピテンシーを身につけ、人間関係形成の基本である多様性の尊重を理解します。また、演習形式により多数の人に効果的なプレゼンする手法を学び、発信の力を養います。近代的な教育に適応するためのグループワーク演習であり、大学の学びに必要な対話力を養い、主体的な学びの基盤を築きます。コミュニケーションのワークは、テキストを利用したものと、独自に開発したワーク（オリジナルコンテンツ）の2種類があります。</p> <p>【授業の形式】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4人または3人1組でチームを組み、ファシリテーター・プレゼンター・記録係・タイムキーパーの役割を交代しながらコミュニケーションのワークを進めていきます。 ・各クールで、メンバーの組み替えをします。クールは、3回あります。各クールでメンバーの組み替えがあります。 ・クラス全体にプレゼンテーションを行う回があります。 <p>【資格取得との関係】本科目は、FBA（フードビジネスアドミニストレーター）の資格取得に必要な科目です。</p>
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目では、チームによるディスカッションとワークがあります。グループは、くじ引きで決定します。 ・コミュニケーションは、目と口元の情報が必要です。マスクは、極力外して参加ください。カラーコンタクトなど虹彩の動きが確認しづらいものについても極力外して参加してください。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーションが理解できている ・プレゼンテーションスキルが理解できている ・ファシリテーターの役割が理解できている
思考・判断の観点 (K)	良好なコミュニケーションを促すための行動を思考・判断できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	<ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーターの役割を担うことができる ・多数の人に自分の考えを表現・発信することができる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	「グループワークの進め方と基本的なコミュニケーション技術の説明」	本日のグループワークに対する振り返りをGoogle Classroomへ	60分

		コミュニケーションに必要な受容と発信、コミュニケーションを促すファシリテーションをグループ形式で学びます。 オリジナルコンテンツ	投稿してください（提出期限：次週授業日の前日9:00）	
第2回	第1クール：チーム・ディスカッション ①	「大学で学びたいこと、学ぶべきこと」 私たちは大学で何を学ぶべきでしょうか？何を学びたいですか？大学に入学した意味をグループでディスカッションし、発表します。 オリジナルコンテンツ	本日のグループワークに対する振り返りをGoogle Classroomへ投稿してください（提出期限：次週授業日の前日9:00）	60分
第3回	第1クール：ファシリテーション・ワーク ①	「新説・桃太郎」 昔話桃太郎を題材としたグループワークから、コミュニケーションを考えます。 テキスト p. 74-78	本日のグループワークに対する振り返りをGoogle Classroomへ投稿してください（提出期限：次週授業日の前日9:00）	60分
第4回	第1クール：ファシリテーション・スキル ①	「プレゼンテーション・スキルを磨く」 良いプレゼンテーションとはどのようなプレゼンテーションでしょうか？心に響くプレゼンをTEDから学びます。 オリジナルコンテンツ	本日のグループワークに対する振り返りをGoogle Classroomへ投稿してください（提出期限：次週授業日の前日9:00）	60分
第5回	第1クール：ファシリテーション・ワーク ②	「5人のツアーガイド（選択編）」 あなたは、登山をすることになりました。どのガイドを連れて行きたいですか？このグループワークから、合意を形成する（コンセンサスをとる）ために必要な要素を考えていきます。 テキスト p. 126-127	本日のグループワークに対する振り返りをGoogle Classroomへ投稿してください（提出期限：次週授業日の前日9:00）	60分
第6回	第2クール：チーム・ディスカッション ②	「私たちが置かれている状況について考える」 社会環境や時代を考えてみましょう。ディスカッションにより、気づきを得ます。 オリジナルコンテンツ	本日のグループワークに対する振り返りをGoogle Classroomへ投稿してください（提出期限：次週授業日の前日9:00）	60分
第7回	第2クール：ファシリテーション・ワーク ③	「デザインコピー」 設計図を元に模型を組み立てます。グループで協力して取り組んでください。このグループワークから、コミュニケーションに必要な要素を考えていきます。 テキスト p. 112-113	本日のグループワークに対する振り返りをGoogle Classroomへ投稿してください（提出期限：次週授業日の前日9:00）	60分
第8回	第2クール：ファシリテーションスキル②	「ジョハリの窓」 自己分析のワークをしてみましょう。 テキスト p. 60-63	本日のグループワークに対する振り返りをGoogle Classroomへ投稿してください（提出期限：次週授業日の前日9:00）	60分
第9回	第2クール：ファシリテーション・ワーク ④	「チームファシリテーション」 これまでの学びを利用して、効果的にファシリテーションができるか試してみましょう。このワークを通して、良いファシリテーターのモデルを考えていきます。 テキスト p. 5-9	本日のグループワークに対する振り返りをGoogle Classroomへ投稿してください（提出期限：次週授業日の前日9:00）	60分
第10回	第3クール：チーム・ディスカッション ③	「ジェンダーと女性の自立」 ジェンダーを考えてみましょう。 オリジナルコンテンツ	本日のグループワークに対する振り返りをGoogle Classroomへ投稿してください（提出期限：次週授業日の前日9:00）	60分
第11回	第3クール：ファシリテーション・ワーク ⑤	「5人のツアーガイド（派遣編）」 5人のツアーガイドのワークを、メンバーを変えてもう一度やってみましょう。今回は、どのガイドを派遣するかを考えます。このグループワークから、合意を形成する（コンセンサスをとる）ために必要な要素を考えていきます。 テキスト p. 128-132	本日のグループワークに対する振り返りをGoogle Classroomへ投稿してください（提出期限：次週授業日の前日9:00）	60分
第12回	第3クール：ファシリテーション・スキル ③	「観察する」 私達が普段どのようなコミュニケーションをしているのかを観察してみましょう。 テキスト p. 47-53	本日のグループワークに対する振り返りをGoogle Classroomへ投稿してください（提出期限：次週授業日の前日9:00）	60分
第13回	第3クール：ファシリテーション・ワーク ⑤	「干ばつを救え」 干ばつを救うため井戸を探します。グループで協力してプロジェクトを成功させてください。このグループワークから、コミュニケーションに必要な要素を考えていきます。 テキスト p. 87-95	・本日のグループワークに対する振り返りをGoogle Classroomへ投稿してください（提出期限：次週授業日の前日9:00） ・次回ショートプレゼンに用いる画像をパワーポイントのスライドに貼り付けてファイルを作り、図書館ラーニング commons の電子黒板に接続しているPCの指定のフォルダに保存してください（次回授業開始時まで）。	60分

			また、Googleドライブの所定のフォルダにファイルを保存してください（次週授業日の前日17:00まで）	
第14回	ショートプレゼン	「効果的に大勢の人の心に伝える」あなたの興味のある題材について、短いスピーチを試みてください。うまくプレゼンする必要はありません。あなたらしいプレゼンを試してみてください。オリジナルコンテンツ	本日のグループワークに対する振り返りをGoogle Classroomへ投稿してください（提出期限：次週授業日の前日9:00）	60分
第15回	まとめのファシリテーション・ワーク	「共に成長する」最後のワークです。コミュニケーションを高めるために、今後どのようなことをしたら良いかクラス全体で話し合い、共有します。テキスト p.141-147		0分

学生へのフィードバック方法	Google Classroomの投稿機能を利用して、各回の「本日のグループワークに対する振り返り」について回答してください。毎回回答を確認してフィードバックのコメントを送信します。コミュニケーションに関する質問に対してアドバイスしますので、遠慮なく何でも聞いてください。
---------------	--

評価方法	・演習への参加度とショートプレゼンは、ルーブリック評価します。ルーブリック表は、Google Classroomから入手すること（参考URLをクリックし、参考図書に記載したクラスコードを入力するとクラスルームにログインできます）
------	--

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
演習への参加度	○	○		○
ショートプレゼン	○	○		○

評価割合	演習への参加度：15回×6点 = 90点 ショートプレゼン：10点
------	--------------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	【教科書】実践 人間関係づくりファシリテーション ISBN 9784760826476 この教科書は、グループワークが終了してから該当箇所を読むようにしてください。先入観のない条件でワークを行うことにより、自身のコミュニケーションスキルを正確に分析することができます。このテキストは、ティーチングのキャリアを志向する人にもとても役に立ちます。 【その他】プリント・動画を適宜使用します。
-----------------	---

参考図書	Google Classroomのクラスコード：4oahyf6 参考URLにアクセスして、上記のクラスコードを使ってクラスに参加してください。 Google Classroomの利用方法は、以下のURLを参照してください。 https://edu.google.com/intl/ja/products/classroom/?modal_active=none
------	--

参考URL	https://classroom.google.com/u/0/c/NTA40TA00dk1MzZa
-------	---

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】様々な立場や状況の人々と意思疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身に着けている。 【思考・判断】多様な情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【技能・表現】開発企画や表現力の基本となるコミュニケーション技術の基礎が養われている。
---------------	---

オフィスアワー	金曜日 昼休み・5限 フード・サイエンス&アーツ研究室 (2206) 面談を希望する場合は、必ずGmailで予約を取ること。会議や出張で不在にする場合があります。
---------	--

学生へのメッセージ	・楽しく、有意義で、役に立つ演習にしたいと思います。みなさんの積極的でポジティブな姿勢が授業を楽しくします。実りのある時間にしましょう。みなさんの建設的な意見も積極的に取り入れてきます。 ・ファシリテーションの技術は、ティーチングにとっても役に立つので、教職を目指す学生にもお勧めします。新指導要領において要求されているアクティブラーニングやコンピテンシーについても、体験的に学ぶことができると思います。
-----------	---

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	企業で経験した人事管理やチーム形成マネジメントの経験をもとに、人の心理行動を理解する方法や、効果的に人とコミュニケーションするためのファシリテーション技術などを継承しています。コンテンツについては、大学生が理解できる内容・レベルに調整して授業を展開しています。
アクティブ・ラーニング	○	本科目は、学生どうしのディスカッションやグループワークを中心とした内容となります。
情報リテラシー		

教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	有機化学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 三島 綾子	指定なし

ナンバリング	R11008M21
授業概要(教育目的)	有機化学で学ぶべき課題を基礎的な事項から複雑な生体構成成分まで学習する。特に食品、生体分子に関連する有機化合物の理解に力を入れる。生体分子や食物に含まれる有機化合物のみならず、私たちの身のまわりに存在する有機化合物についても、その性質や反応性について講義する。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1、有機化合物の構造の分類、構造の特徴を知る。 2、官能基や立体的な特徴を理解する。 3、酸化・還元、置換、付加、脱離など基本的な反応機構を理解する。 4、生体構成有機化合物の基本的な構造や特徴を理解する。
思考・判断の観点 (K)	1、生体構成有機化合物の構造や特徴をこれまでに学んだ基本事項と結びつけて考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1、それぞれの単元で積極的に課題に取り組み、理解を深める。 2、小テスト、確認テストでの間違い直しを積極的に行う。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	有機化合物の分類と化学結合	有機化合物における化学結合は主として共有結合である。炭素原子の結合様式、単結合、二重結合、三重結合などによって炭化水素を分類する。また、官能基による分類についても学ぶ。共有結合の他にも、イオン結合、水素結合について学習する。	教科書第1章の「有機化学を学ぶにあたって」、第2章の「有機化合物の分類と化学結合」(1~18ページ)を読んでおくこと。高校時代、もしくは化学入門の授業で学習した炭素原子の結合様式、官能基についての復習を行う。	120分
第2回	有機化合物の立体化学 I	同じ分子式をもっているが、化学構造や物理的性質が一致しない分子を互いに異性体と呼ぶ。異性体は構造異性体と立体異性体に大別され、立体異性体は、さらに幾何異性体及び鏡像異性体に分類される。第2回では、これらの異性体と、旋光性、不斉炭素について学ぶ。	教科書第3章「有機化合物の立体化学」の3.1から3.4(19~28ページ)を読んでおくこと。授業のはじめに、第一回の復習として、有機化合物の官能基による分類の小テストを行う。	180分

			官能基について十分に復習する。	
第3回	有機化合物の立体化学II	主に炭素原子上の立体関係、すなわち立体配置、及び原子に結合している置換基の相対的な立体関係の立体葉いざについて学ぶ。また、食品成分の立体化学についても学ぶ。	教科書第3章「有機化合物の立体化学」の3・5、3・6(28~36ページ)を読んでおくこと。授業のはじめに、第2回の復習として、鏡像異性体についての小テストを行う。前回の授業「有機化合物の立体化学I」の復習を十分に行い、演習問題を解いておくこと。	180分
第4回	鎖式炭化水素(アルカン、アルケン、アルキン)の命名法と特徴	炭化水素の中でも鎖状飽和炭化水素アルカンと二重結合、三重結合をもつ不飽和炭化水素アルケン、アルキンの命名方法、特徴を学ぶ。	教科書第4章「有機化合物の構造による特徴」アルカン、アルケン、アルキン(37~42ページ)を読んでおく。高校時代、もしくは化学入門で学習したアルカン、アルケン、アルキンの命名法を復習しておく。授業のはじめに、立体配座について的小テストを行う。前回授業「有機化合物の立体化学I」の復習も十分に行うこと。	180分
第5回	芳香族化合物	環状の炭化水素の特徴、命名法について学ぶ。	教科書第4章「有機化合物の構造による特徴」の環状炭化水素(43~46ページ)をよく読んでおくこと。授業のはじめに、鎖式炭化水素の命名、特徴について的小テストを行う。前回授業の「鎖式炭化水素の命名法と特徴」について十分に復習すること。	180分
第6回	官能基による特徴・・・酸素含有有機化合物と硫黄を含む化合物	酸素、硫黄を含む有機化合物をその官能基の特徴に分類して、命名法や特徴を学ぶ。	教科書第4章「有機化合物の構造による特徴」の官能基による特徴A(46~57ページ)をよく読んでおくこと。授業のはじめに、芳香族化合物について的小テストを行う。前回授業「芳香族化合物」の復習を十分に行うこと。	180分
第7回	官能基による特徴・・・窒素含有有機化合物	窒素含有有機化合物をその官能基の特徴に分類して、命名法や特徴を学ぶ。	教科書第4章「有機化合物の構造による特徴」の官能基による特徴B(57~66ページ)をよく読んでおくこと。授業のはじめに、酸素含有有機化合物と硫黄を含む化合物について的小テストを行う。前回授業の復習を十分に行うこと	180分
第8回	第1回から第7回確認テスト 有機化合物の反応・・・酸化還元反応	酸化・還元とは電子の受け渡し、すなわち酸化数の変化を伴う反応である。有機化合物の酸化では、主として分子中に酸素が入るか、または分子から水素が脱離する。一方、有機化合物の還元では、主として分子中に水素が入る反応である。また、分子中の原子または置換基が、別の原子または置換基を攻撃し、入れ替わる置換反応についてその反応様式を学ぶ。授業のはじめに、第1回から第7回有機化合物の構造と特徴までの範囲の確認テストを行う。	教科書第5章「有機化合物の反応」の5・1(67~72ページ)を読んでおく。授業のはじめに、第1回から第7回有機化合物の構造と特徴までの範囲の確認テストを行う。第7回までの範囲を十分に復習しておくこと。	240分
第9回	有機化合物の反応・・・置換反応	分子中の原子または置換基が、別の原子または置換基を攻撃し、入れ替わる置換反応についてその反応様式を学ぶ。授業のはじめに、前回の確認テストの解説を行う。	教科書第5章「有機化合物の反応」の5・2(72~79ページ)を読んでおく。授業のはじめに、前回確認テストの解説を行う。間違えた問題については、レポートにまとめて提出すること。	240分
第10回	有機化合物の反応・・・付加反応	不飽和結合や環を有する分子へ別の分子が結合する付加反応について学ぶ	教科書第5章「有機化合物の反応」の5・3(79~82ページ)を読んでおく。授業のはじめに、置換反応について的小テストを行う。前回授業の復習も十分にしておくこと。	180分
第11回	有機化合物の反応・・・脱離反応	ある分子から2個の原子または置換基が取り去られ、その位置に不飽和結合、または環が生成する脱離反応についてその反応様式を学ぶ。	教科書第5章「有機化合物の反応」の5・4(83~86ページ)を読んでおく。授業のはじめに、付加反応につ	180分

			いての小テストを行う。前回授業の復習も十分にしておくこと。	
第12回	第8回から第11回までの確認テスト 炭水化物	生体構成有機化合物である炭水化物について、構造、構成単位、分類や特徴について学ぶ。 糖アルコール、糖の酸化物などの糖誘導体について、その構造や分類、特徴について学ぶ。 授業のはじめに、第8回から第11回までの確認テストを行う。	教科書第6章「炭水化物」の(87~102ページ)を読んでおく。 授業のはじめに、第8回から第11回までの確認テストを行う。 有機化合物の反応の復習も十分にしておくこと。	240分
第13回	アミノ酸と蛋白質	生体構成有機化合物であるアミノ酸、蛋白質について、その構成単位や立体構造による特徴や結合様式について学ぶ。	教科書第7章「アミノ酸と蛋白質」(103~113ページ)を読んでおくこと。 授業のはじめに、前回の確認テストの解説を行う。間違えた問題についてはレポートにまとめて提出すること。	240分
第14回	脂質	生体構成有機化合物である脂質を基本的な構造や特徴に分類しながら学ぶ。	教科書第8章「脂質」(114~122ページ)を読んでおくこと。 授業のはじめに、「アミノ酸と蛋白質」の小テストをおこなう。前回授業の復習を十分にすること。	180分
第15回	ビタミン、核酸	生体構成有機化合物であるビタミンについて、その分類方法や基本的な構造、特徴について学ぶ。また、核酸の構成単位を知り、その構造や特徴について学ぶ。	教科書第9章「ビタミン」、第10章「核酸」(123~141ページ)を読んでおくこと。 授業のはじめに、「脂質」についての小テストを行う。前回授業の復習を十分にすること。 また、定期試験に向けて、全範囲の復習を行うこと。	420分

学生へのフィードバック方法 授業毎に小テストを行い、理解度を確認します。次回の授業にて小テストの解説を行います。質問等は、授業終了後に質問に来ること。

評価方法

- ・毎回の授業での小テストと単元ごとの確認テストを重視する。
- ・小テスト及び確認テストの間違い直しを課題提出として実施する。
- ・定期テストでは、小テストや確認テストの振り返りを含む問題、管理栄養士国家試験の出題形式に基づく選択式の問題を含む。
- ・小テスト、確認テスト及び定期試験は下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○	○	
確認テスト	○	○	○	
課題提出	○		○	
定期試験	○	○	○	

評価割合 出席、小テスト、確認テスト、課題提出を含む平常点(50%)および定期試験の得点(50%)により評価する。
平常点は授業への参加状況・演習・課題レポート等により総合的に判断する。

使用教科書名 (ISBN番号) 基礎有機化学(栄養科学シリーズNEXT) 講談社サイエンティフィック (978-4-06-155357-6)

学生へのメッセージ 特に、化学の基礎に自身のない人は「化学入門」の履修をすること。
繰り返しテキスト読み、併せて配布するプリントを見直して下さい。
小テストの直しは確実にやり、分からない単元を残さないように進めてください。
有機化学の基本的な手法や考え方に慣れて来ると授業の内容がわかり易くなります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	分子生物学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 岩見 哲夫	指定なし

ナンバリング	R11009M21
授業概要(教育目的)	生命の基本的特性のひとつである遺伝現象を司る遺伝子のはたらきを明らかにすることを目的に、DNA・ゲノムの構造・機能、遺伝情報の解読・利用の仕組みを学び、さらには、近年注目されているエピジェネティクスや遺伝子組換え技術について理解を深める。免疫や代謝等の重要な生命現象についても、分子生物学的視点から解説し、その機構について明らかにしていく。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	生物を構成している主要物質について、構造・機能を説明できる 遺伝現象について、その原理を説明できる DNAやRNAの構造・機能について説明できる
思考・判断の観点 (K)	生命維持に関わる物質について、構造や所在からその機能を類推することができる 今後発展が予想される遺伝子に関する科学技術について、その意義・問題点等を評価・批判することができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	生命維持に関わる物質を、摂食によって得られる要素と関連付け、食に関する興味・関心をもつ 遺伝子に関わる技術が人間社会におよぼす影響について関心を持つ
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	分子生物学で扱う領域を説明し、高等学校で学んだこととの関連を解説します。	高等学校で学んだ遺伝に関する領域において頻出の用語について、その意味・内容を理解しておく。授業で解説した高等学校での授業内容との関連を復習しておくこと。	240
第2回	生命を支える物質	生物の体を構成しその活動を支える物質—有機物として、タンパク質・糖質・脂質について概要を説明する。	高等学校で学んだ有機物に関する知識を再確認しておく。また、授業で学んだ有機物に関する事項について、ノートの記述で確認しておくこと。	240
第3回	細胞の構造	さまざまな細胞の形態・構造とその機能の関わりについて	高等学校で学んだ細胞に関する	240

	と機能	て理解を深める。細胞内の構造であるオルガネラについては、その機能と生命維持との関わりについて解説する。	知識を再確認しておく。また、授業で学んだ細胞に関する事項について、ノートの記述で確認しておくこと。	
第4回	細胞とゲノム	生物を規定する遺伝子の最小単位であるゲノムについて、ヒトを例にその実体を説明する。	ゲノムという言葉について、身の回りで使われている例を見つけ、その内容を調べる。	120
第5回	DNAの構造	遺伝子の本体であるDNAについて、分子構造上の特徴とその性質について学ぶ。	高等学校で学んだDNAに関する知識を再確認しておく。授業後は、DNAの構造について新たに学んだ内容をノートで確認しておく。	120
第6回	DNAと染色体	DNAが染色体の構成にどう関わっているか学び、染色体の挙動と性別や血液型などの遺伝現象との関連を理解する。	高等学校で学んだ染色体に関する知識を再確認しておく。また、ヒトの染色体についてその本数や性染色体などの特徴を調べておく。授業後は遺伝現象を染色体の挙動から説明できるように復習しておく。	240
第7回	DNAと遺伝子	DNAという物質が遺伝子として機能するしくみを学び、遺伝子の実体を理解する。	高等学校で学んだ遺伝子に関する知識を再確認しておく。	120
第8回	DNAの複製	DNAの構造と複製の課程との関連を解説し、細胞分裂時におけるDNAの挙動と複製機構を理解する。	高等学校で学んだDNAに関する知識を再確認しておく。特に細胞周期について理解した上で授業に臨むこと。	120
第9回	DNAからRNAへ	セントラルドグマと言われる遺伝子からタンパク質への流れを理解し、その流れの中でDNAの塩基配列がRNAに転写される仕組みを学ぶ。	高等学校で学んだDNAやRNAに関する知識を再確認しておく。特に、DNAとRNAの違いについて理解しておくこと。	120
第10回	RNAからタンパク質へ	映像資料も利用して、RNAの塩基配列が翻訳され、目的とするタンパク質が合成する仕組みについて学ぶ。	高等学校で学んだRNAに関する知識を再確認しておく。また、タンパク質の基本構造についても予習しておくこと。	120
第11回	複製・転写・翻訳	これまで個々に学んだ複製・転写・翻訳について、この過程全体を通じて再度それぞれの機構を理解する。特に、転写時におけるプロセッシングや翻訳時のコドン対応についてより詳しく学ぶ。	これまでの授業で学んだDNA・RNAに関する事柄をノートやハンドアウトで振り返り、その内容を再確認しておく。授業後に翻訳に関する課題に取り組むこと。	240
第12回	エピジェネティクス	遺伝子の塩基配列によって制御されない遺伝現象として最近注目されているエピジェネティクスについて学び、その機構がヒトの形質発現にどう関わっているのか理解する。	エピジェネティクスをキーワードに、身近な例について調べておく。	120
第13回	免疫の多様性と遺伝子	免疫機構について学び、多様な抗原に対して対応できる仕組みを遺伝子制御の観点から理解する。	高等学校で学んだ免疫に関する知識を再確認しておく。特に、体液性免疫についてその発現の機構を復習しておくこと。	120
第14回	遺伝子に関する最近の話題	iPS細胞や遺伝子治療、遺伝子組換え技術など、新しい分子生物学上の技術について解説し、私たちの暮らしにどう関わっていくかを考える。	ネットや新聞、図書館にある書籍などを用いてiPS細胞や遺伝子治療、遺伝子組換え技術について知識を深めておくこと。また、これらのメリットそして問題点を考えておくこと。	120
第15回	生命と遺伝子	この授業で学んできた遺伝子に関する内容を復習・再確認し、遺伝子が支える生命と遺伝子が駆動する進化について理解を深める。	これまでの授業ノートの内容を通覧し、疑問な点を明確にしておくこと。また、授業終了後にもこれまでの授業内容で不明確であった部分も含め、総復習しておくこと。	420

学習計画注記	授業で分かりにくかった点をそのままにせず、担当教員のオフィスアワー等を利用して理解しておくこと。
学生へのフィードバック方法	授業の理解度を確認するため、毎授業理解度アンケートを実施する。そのアンケートで理解度が不十分と判断される内容については、次の授業の冒頭に改めて説明する。また、課題についてはコメントを付けて返却し、授業にて解説する。
評価方法	授業に積極的に参加し、自身の理解度を客観的に捉えようとしているか。遺伝子を中心とした分子生物学的な知識を十分に得ているか。また、分子生物学的な技術の利点・問題点等を理解しているかななどを評価する。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
アンケート	○		○	
課題	○	○	○	
定期試験	○	○		○

評価割合	毎回実施するアンケートへの回答状況10%，課題10%，定期試験80%。
使用教科書名 (ISBN番号)	必要に応じて事前にハンドアウト（資料）を配付する。
参考図書	ワトソン遺伝子の分子生物学 第7版 東京電機大学出版局 細胞の分子生物学 第6版 ニュートンプレス よくわかる分子生物学の基本と仕組み 第2版 秀和システム
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境は遺伝子の働きについても影響します。その原理等を理解することができます。 【思考・判断】情報を整理し、客観的な判断ができるような基礎力が身につきます。 【関心・意欲・態度】食生活を取り巻くさまざまな事象について、関心をもち、自ら課題を見だし、その解決に意欲的に取り組むことができます。
オフィスアワー	後期 火曜日2限・昼休み（10:40～12:30） 生物学研究室（2205） 相談を希望する学生は、可能な限りGmailを用いて予約をしてください。
学生へのメッセージ	分子生物学の分野は、近年最も発展している分野のひとつで、日々新しい発見が生まれています。その知見を応用した技術は、くらしを便利にしたり、病気を治したりすることに留まらず、人間の生まれ持った個性や寿命にまで影響するような段階に来ています。本講義を受講して、これらの知識・技術の基本を理解し、その有用性と問題点について理解を深めて下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		ただし、授業の一部では、グループワークによる課題検討を行うことがあります。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	統計学演習		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 黒田 久夫	指定なし

ナンバリング	R11004M12
授業概要(教育目的)	<p>【授業の概要】統計の基礎概念を理解し、計算方法を習得します。最終的には、実験データや社会調査結果がどのように数値化され、意味付けられているかを理解します。疫学や心理統計学の考え方も紹介していきます。</p> <p>【授業の形式】</p> <ul style="list-style-type: none"> 座学で統計の考え方と計算方法を学んだ後に、PC演習で演習問題に取り組みます。演習では、マイクロソフト・エクセルの使い方も学びます。 <p>【資格取得との関係】本科目は、FBA（フードビジネスアドミニストレーター）の資格取得に必要な科目です。</p>
履修条件	・加減乗除、指数、平方根、分数の概念が理解できて、計算ができること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 統計学の基礎概念と計算方法が理解できている エクセルソフトウェアを利用した統計量の計算、作表や作図などが理解できている
思考・判断の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> データを数値化して統計的検定を行い、データの信頼性を評価できる ものごとを印象や主観ではなく、データを客観的に分析して解釈できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(7keyブランキング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス／中学と高校の数学の振り返り (PC演習)	<ul style="list-style-type: none"> 統計に必要な中学と高校の数学について理解度を確認する。 統計学の概要と目的を理解する。 	理解度チェックのプリントで解けなかった問題を次回までに取り組むこと	60分
第2回	Googleアプリとエクセルの習得 (PC演習)	Gmail、Google Classroom、Google ドライブ、Google スプレッドシートの使用方法を習得する。Microsoft Excelによる演算の基本を理解する。	演習シート①を復習すること。	60分
第3回	データ／尺度／データ	データの種類を理解し、データの種類によってどのような統計量や図表を利用したら良いのかを学びます。	本日解説したテキストの該当ページをもう一度良く読んで復習	60分

	の図表化／基本統計量（座学）	テキスト：18 - 41	すること	
第4回	データ／尺度／データの図表化／基本統計量（PC演習）	エクセルを用いて、データの基本統計量の計算や図表を作成します。	演習シート②を復習すること	60分
第5回	散布図と相関／クロス集計（座学）	2つのデータを比較して、関連性を分析する手法を学びます。 テキスト：44 - 62	本日解説したテキストの該当ページをもう一度良く読んで復習すること	60分
第6回	散布図と相関／クロス集計（PC演習）	エクセルを用いた散布図の作図、相関係数の計算、クロス集計を学びます	演習シート③を復習すること	60分
第7回	母集団と標本／標本の分布／推測／統計的仮説検定とp値／対応のあるt検定（座学）	母集団と標本の概念、標本の分布、推測について学びます。 統計的仮説検定について学び、p値の取り扱い方を学びます。 対応のあるt検定について学びます。 テキスト：68 - 73；108 - 125；144 - 145；150 - 153	本日解説したテキストの該当ページをもう一度良く読んで復習すること	60分
第8回	母集団と標本／標本の分布／推測／統計的仮説検定とp値／対応のあるt検定（PC演習）	対応のあるt検定の計算をエクセルで行い、統計量をもとに考察します。	演習シート④を復習すること	60分
第9回	独立な2群のt検定（座学）	独立な2群について、分散が等しい場合と、等しくない場合に場合分けして計算する方法を学びます。 テキスト：146 - 149；154 - 161	本日解説したテキストの該当ページをもう一度良く読んで復習すること	60分
第10回	独立な2群のt検定（PC演習）	独立な2群について、分散が等しい場合と、等しくない場合についてエクセルを用いて統計量を計算し、結果を考察する方法を学びます。	演習シート⑤を復習すること	60分
第11回	分散分析と多重比較（座学）	分散分析と多重比較の計算方法を学びます。 テキスト：162 - 173	本日解説したテキストの該当ページをもう一度良く読んで復習すること	60分
第12回	分散分析と多重比較（PC演習）	分散分析表の作成、多重比較の計算をエクセルを用いて行います	演習シート⑥を復習すること	60分
第13回	実験計画／交互作用（座学）	実験計画の立て方、2要因被検者間計画における交互作用について学びます。 テキスト：174 - 193	本日解説したテキストの該当ページをもう一度良く読んで復習すること	60分
第14回	実験計画／交互作用（PC演習）	2要因被検者間計画における分散分析・多重比較・交互作用をエクセルで計算します。	演習シート⑦を復習すること	60分
第15回	栄養学と統計／統計学演習のまとめ／期末試験（PC室）	・栄養学や疫学で使われている統計について学びます。 ・これまで学んだ統計手法について復習します。 ・期末試験を実施します。PCを利用して統計の問題を解きますが、履修生が多い場合には、教室での筆記試験とします。		

学習計画注記 教室での座学の回と、PC室でのPC演習の回があります。会場を間違えないこと。

学生へのフィードバック方法 演習シートや模擬試験を通して、皆さんの理解度を確認していきます。

評価方法 授業への参加度は、ルーブリック評価します。ルーブリック表は、Google Classroomから入手すること（参考URLをクリックし、参考図書に記載したクラスコードを入力するとログインできます）

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業への参加度	○	○		

期末試験	○	○		

評価割合	授業への参加度 (5点×14=70点) 第2回-第15回 期末試験 (30点)
使用教科書名 (ISBN番号)	①教科書は、『よくわかる心理統計』(ISBN-13: 978-4623039999)を使います。必ず購入すること。 ②Google Classroomを利用します。利用方法は、第1回の授業で説明します。PC室のPCのログインと、GSuiteへのログインのアカウントとパスワードを用意してください。Google ClassroomのURLは、参考URLを確認してください。クラスコードは、参考図書を参照してください。 ③演習シートは、以下のURLにアクセスして、ダウンロードします。Google Classroomの登録アドレスを確認して、アクセス権を付与します。 フォルダ内でファイルを開かないようにしてください。ファイルが編集されてしまいます。 https://drive.google.com/drive/folders/1kjnEDHxFjWabsx158fqSpUymuMOK7SQY
参考図書	Google Classroomのクラスコード: zhfjjgg
参考URL	https://classroom.google.com/u/0/c/NTA1NTQ3MDU1MzFa
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている 【思考・判断】食生活を取り巻く様々な事象について調査研究されたデータについて、信頼性や課題を指摘することができる
オフィスアワー	金曜日 昼休み・5限 フード・サイエンス&アーツ研究室 (2206) 面談を希望する場合は、必ずGmailで予約を取ること。会議や出張で不在になる場合があります。
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ものごとを数値で評価する利点は、主観や印象に基づいた偏りや誤差を少なくすることです。特に、統計を学んでおくと、官能検査、疫学調査、社会調査のデータの信頼性について論じることができるようになります。 ・本授業では、数学的原理をなるべくわかりやすく説明し、統計の手法をどのように利用するかを学んでいきます。もちろん、統計学に興味のある方は、進んで高等数学を学んでください。このクラスで学んだことは、必ず実験や卒業研究に役立ちます。 ・エクセルソフトウェアは、ワード・パワーポイントと並んで必須のICTスキルになっています。この授業で技術をマスターしてください。エクセルに強くなれて良かったと感想が毎年多いです。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	ペアやグループを作って、統計の演習問題に取り組みます。
情報リテラシー教育	○	統計情報の扱い方を学びます。
ICT活用	○	エクセルソフトウェアの使い方をマスターします Googleアプリケーションをマスターします

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	基礎サイエンス実験		
講義開講時期	後期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 岩見 哲夫	指定なし
准教授	黒田 久夫	指定なし

ナンバリング	R11010M13
授業概要(教育目的)	実験実習を通して、食品科学の基礎となる化学・生化学・生物学の考え方と実験技術を学ぶ。試薬調製、ガラス器具の操作、滴定や酵素反応などの基本的な実験操作や生物学の基礎実験を実習し、クリティカルシンキング、仮説構築と検証など基本的な考え方を理解する。また、ラボノートの作成や研究倫理についても学習し、専門科目の学びの基盤を築く。
履修条件	化学分野 化学分野については、高校基礎化学と、加減乗除・指数・対数・2次関数が理解できている前提で授業を進めます。高校基礎化学と加減乗除・指数・対数・2次関数が理解できていない場合は、事前学習と教室外学習を十分に行ってください。履修人数と、高校基礎化学の理解度チェックの結果によっては、クラス分けをする場合があります。 化学実験を行うには、頭髮・爪・服装・履物の条件があります(安全に、支障なく操作を行うため)。また、事故や怪我を起ささないように、体調管理を整えて参加してください。安全に支障があると判断した場合は、退席を命ずる場合があります。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	動植物細胞や生物の構造・特徴を具体的に列挙できる 化合物の化学構造と性質の関係が理解できている モル・pH・中和反応など、基礎化学分析に必要な概念が理解できている
思考・判断の観点 (K)	実験結果から作用機序等について理論的な推論が行える 自然科学を背景とした合理的で根拠に基づいた考え方が身についている
関心・意欲・態度の観点 (V)	グループ内でコミュニケーションを取り、協調して実験操作できる 主体的に実験に参加し、そのグループの課題解決に寄与できる
技術・表現の観点 (A)	顕微鏡操作に習熟する 薬品等の計量・扱いができる 化学反応の観察・測定ができる 化学分析に必要な計算ができる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リソース教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	・班分けとそれに伴う実験の準備、実験を行うにあたっての基本的な注意事項を説明する。科学的思考法について	高校基礎化学の理解度チェックで解けなかった問題は、自宅で	0分

	班分け・準備作業、科学的思考法の説明	て解説し、ラボノートの記載の仕方、注意点を説明する。 ・PCの操作、Googleアプリの使用方法を習得する。化学分野の第1回目の実験ノートに手順を記載する。 ・ガラス器具の使用方法について説明し、基本的な操作を練習する。 ・高校基礎化学の理解度チェックを行う。	取り組んでください。	
第2回	顕微鏡・マイクロメータ一の使い方	顕微鏡の各部名称・操作方法を説明し、ピント合わせ、絞り調節などの基本操作を行う。さらに、マイクロメータ一の使用法を説明し、各倍率での目盛の計算を行う。	事前にテキストの該当部分を熟読し、顕微鏡各部の名称や基本的な操作手順について理解しておく。	0分
第3回	植物細胞の構造	植物細胞を材料として顕微鏡操作に慣れる。植物細胞内の構造を観察し、その形態・特徴を記述する。さらに、マイクロメータ一を用いて細胞の大きさを測定する。	事前にテキストの該当部分を熟読し、実験の手順について理解しておく。	0分
第4回	動物細胞の構造	動物細胞の観察を通じて、顕微鏡操作に習熟する。前回行った植物細胞の観察から得られた知識から、動物細胞の特徴を理解する。ヒトの血液細胞（血球）の特徴を理解する。	事前にテキストの該当部分を熟読し、実験の手順について理解しておく。	0分
第5回	生物集団の研究法	生物集団を対象とした研究方法を実習し、その原理を理解する。作業方法とデータの信頼性について理解を深める。実験によって得られた結果はグループ単位で検討し、その検討結果を各グループ間で検証する。	事前にテキストの該当部分を熟読し、個体数の推定方法に関わる数式について理解しておく。	0分
第6回	酵素実験・DNA抽出実験の事前学習	実験手順とその意味について詳細に解説する。また、酵素やDNAの基本的な性質について説明し、コハク酸デヒドロゲナーゼの作用、DNAの特徴について理解を深める。	予めテキストの該当部分を読み、実験操作の意味が分からない部分をチェックしておく。	0分
第7回	コハク酸デヒドロゲナーゼの働き	生体内で行われている酵素反応を、生体外の比較的簡単な系を用いて再現し、酵素の働きについて理解を深める。試薬の計量や実験器具の取り扱いに習熟する。確認された実験結果を理論的に解釈し、その反応過程を合理的に説明する。	第6回の授業で得た知識をもってテキストの該当部分を熟読し、実験の手順とその操作の意味について理解しておく。	0分
第8回	DNA抽出実験	遺伝情報の担い手であるDNAを細胞から抽出し、その存在を肉眼で確認する。抽出したDNAを用いて、その性質について理解を深める。	第6回の授業で得た知識をもってテキストの該当部分を熟読し、実験の手順とその操作の意味について理解しておく。	0分
第9回	【化学分野①】化学結合を理解する（1）化学結合の基本・分子の極性	私たちが学ぶ対象は、食品やヒトです。食品やヒトはどのような元素から出来ていますか？どのように結びついて成分（化合物）が作られますか？この回では、高校で学んだ元素と化学結合を復習したのち、化合物の極性を理解する実験を行います。	授業時間中にラボノートの記載が終わらなかった場合は、次回までに完成させること。当日の実験の結果と考察の記載を完了し、次回の実験について目的と方法を記載すること（授業の後半で次回の実験内容を説明します）。	0分
第10回	【化学分野②】化学結合を理解する（2）脂質の融点・有機化合物の分離	「化学結合を理解する」の2回目は、化学構造と性質との関連を学びます。脂肪酸や脂質のサンプルの融点を測定し、化学構造と融点の関係を解析します。食品成分や生体成分は複雑な構造をしていますが、部分部分は良く似ており、これがその化合物の性質を決めています。この授業を通して化学構造から化合物の性質を予測する方法も学びます。また、化合物データベースの検索の方法を説明します。	授業時間中にラボノートの記載が終わらなかった場合は、次回までに完成させること。当日の実験の結果と考察の記載を完了し、次回の実験について目的と方法を記載すること（授業の後半で次回の実験内容を説明します）。	0分
第11回	【化学分野③】モルの概念と計算／試薬の調製	第3回～第5回は、化学量論の考え方を学んでいきます。食品の加工保存中に起こる成分変化や、生体内の化学反応はランダムに起こるのではなく化学法則に従って定量的に進みます。これらの授業では、シンプルな化学反応をもとに基本となる化学反応を学びます。今回は、化学量論の基盤となるモルの概念と計算方法を学びます。クエン酸を試料として一定のモル濃度を有する試薬を調整してください。	授業時間中にラボノートの記載が終わらなかった場合は、次回までに完成させること。当日の実験の結果と考察の記載を完了し、次回の実験について目的と方法を記載すること（授業の後半で次回の実験内容を説明します）。	0分
第12回	【化学分野④】酸と塩基（1）中和滴定	今回は、前回調製したクエン酸水溶液のモル濃度を中和滴定で調べます。中和の公式と測定値のばらつき・実験誤差の概念などを学びます。	授業時間中にラボノートの記載が終わらなかった場合は、次回までに完成させること。当日の実験の結果と考察の記載を完了し、次回の実験について目的と方法を記載すること（授業の後半で次回の実験内容を説明します）。	0分
第13回	【化学分野⑤】酸と塩基（2）pH	化学量論の最後は、化学平衡とpHを学びます。pHは食品の加工貯蔵、生体の化学反応や恒常性に大きな影響を与えますが、pHはどのようにして数値にするかを正確に理解できていますか？この授業では試薬の濃度からpHを求める方法を説明します。	授業時間中にラボノートの記載が終わらなかった場合は、次回までに完成させること。当日の実験の結果と考察の記載を完了し、次回の実験について目的と	0分

			方法を記載すること（授業の後半で次回の実験内容を説明します）。	
第14回	【化学分野⑥】アミノ酸のニンヒドリン反応／ランベルト・ベールの法則	分光光度計は、化学・生化学実験で最も頻繁に利用される機器です。分光光度計は、ランベルト・ベールの法則を利用して測定されます。アミノ酸のニンヒドリン反応を実験例としてランベルト・ベールの法則と定量計算の方法を学びます。	授業時間中にラボノートの記載が終わらなかった場合は、次回までに完成させること。当日の実験の結果と考察の記載を完了し、次回の実験について目的と方法を記載すること（授業の後半で次回の実験内容を説明します）。	0分
第15回	【化学分野⑦】高分子化合物と酵素／反証可能性	・生体の化学反応は酵素の触媒作用により進みます。酵素の触媒作用は、食品の加工やおいしさに大きな影響を与えます。本実験では、 α -アミラーゼがデンプンを分解することができることを、科学的に証明する実験方法を自分たちで考え、証明に挑戦していただきます。栄養学を学ぶ科学者として、初めての研究に挑戦してください。また、自然科学の基本的な考えである「反証可能性」を理解してください。	授業時間中にラボノートの記載が終わらなかった場合は、次回までに完成させること。当日の実験の結果と考察の記載を完了し、次回の実験について目的と方法を記載すること（授業の後半で次回の実験内容を説明します）。	0分

学習計画注記

「実験」形式の授業なので、事前・事後学習の時間を設定していないが、必ず実験を行う前にテキストを熟読しておくこと。授業開始時には簡単な注意事項を述べるのみで、すぐに操作に入ることもあるので、班メンバー間で実験作業の流れについて確認しておくこと。化学分野については、履修条件を良く確認しておいてください。

学生へのフィードバック方法

生物分野
毎回ラボノートに必要な事項を記載し提出してもらう。提出したラボノートには添削・コメントを付けて、次の授業開始時に返却する。毎回終了時にアンケートを実施する。そのアンケートで理解度が不十分と判断される内容については、次の授業の冒頭に改めて説明する。

化学分野
適宜、理解度を測るテストを出題します。正解できなかった場合は、良く復習しておくこと。期末試験の対策にもなります。

適宜、ラボノートの記入について確認します。

評価方法

生物分野
実験に積極的に参加し、自身の役割を果たそうとしているか。顕微鏡操作技術や基本的な実験技術を修得しているか。観察事実に基づく推論を行っているか。結果の理論的な考察が行えているか等を評価する。

化学分野
授業への参加度をルーブリック評価します。ルーブリック表は、Google Classroomを参照すること。期末試験により授業の理解度を評価します。期末試験は、ラボノートの持ち込みを可とします。本人のものであることを確認します。ラボノートは手書きとし、指定した実験データの印刷物以外をノートに貼らないでください。書籍やマニュアルのコピーなどの添付は不可です。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
顕微鏡操作・実験技術の習得	○			○
実験に積極的に参加		○	○	
実験結果の理論的な考察	○	○		○
授業への参加度	○	○	○	
期末試験	○	○		

評価割合

生物分野：平常点（アンケートへの回答状況を含む）50%，ラボノートの内容50%
化学分野：授業への参加度70%，期末試験30%

使用教科書名 (ISBN番号)

生物分野：テキストを配付する。
化学分野：
（テキスト）理系大学受験 化学の新研究 改訂版 三省堂（ISBN：978-4385260938）
（実験マニュアル）実験方法は、Google Classroomに公開する。次回の実験までに、ラボノートに手順を記載すること。クラスコード：2tsvpcz

参考図書

生物の実験法 I 培風館／教養 生物学実験 共立出版
やさしくわかりやすい化学基礎 文英堂
基礎分析化学実験（東京化学同人）

参考URL

<https://classroom.google.com/u/0/c/NTA40TA00Dk3NjBa>

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】食に関わる問題を科学的に考察するために必要な基礎知識が身につきます。
【思考・判断】人間社会と自然の関係の中に発見された課題について、理論的に考え分析・総合する力が身につきます。
【関心・意欲・態度】自ら考え、課題の解決に向けてチームでディスカッションする力が身につきます。
【技能・表現】客観的な判断をするために必要なデータを収集する技能が身につきます。また、成果を効果的にプレゼンテーションすることができます。

オフィスアワー	生物分野：後期 火曜日2限・昼休み（10:40～12:30）生物学研究室（2205） 化学分野：木曜日（基礎サイエンス実験終了後～13:00） 面談希望者は、Gmailで予約してください。	
学生へのメッセージ	実験という体験を通して、基本的な実験技術と科学的思考法（仮説を立て、その真偽を検証し、結果を考察、結論する）を身につけます。思考の過程は、ラボノート等に記録しますが、記載方法は添削等を通して指導します。実験を進める上で必要となる化学・生化学・生物学分野の知識も学んでいきますが、基礎知識があると実験内容の理解が進みます。そのため、化学・生物学系の基礎科目の履修や、高校化学・生物学の教科書の復習により理解を深めておくことを薦めます。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	生物分野 観察結果・実験結果の評価・考察について班単位で検討し、検討結果をもとにクラス全体で考える。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食と語学A		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大和田 寛	指定なし

ナンバリング	R11011M12
授業概要(教育目的)	栄養・食の専門家として、国際的な視野を持つために、「食」をキーワードに国際的なコミュニケーション能力・外国語運用能力を有する学びを展開する。「食」をグローバルに発信できるスキルを身に着ける。なお、本科目は、フードビジネスアドミニストレーター資格取得に必須の科目である。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	「食」に関する英語を、日常会話から基礎的な専門用語にまでわたって知る、理解する。
思考・判断の観点 (K)	食と栄養教育における日米の多少の違いを掴む。
関心・意欲・態度の観点 (V)	外国人と積極的に英語で「食」について話し合えるよう、自信と興味を身に着ける。
技術・表現の観点 (A)	「食」に関係して知った英語を、教室内での練習を経て、実生活で使えるようにする。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	Meeting People	英語で自己紹介をする。大学での勉強のことや、大学外での自分のこと、興味のあること等を英語で会話をする。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第2回	Talking about the Kitchen (1)	1. 各種台所用品の英語を学ぶ。 2. 台所用品の置き場所が説明できるようにするために、場所を表す前置詞や形容詞を学び、クラスメートと練習する。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第3回	Talking about the Kitchen (2)	前回に続いて各種台所用品の英語を学ぶ。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
第4回	Likes and Dislikes	1. 自分の食べ物の好き嫌いを英語で話せるようにし、クラスメートと練習する。 2. 人の話したことへの肯定、否定の返答の表現を学び、練習する。 3. クラスメートと相談しながら、自分の興味ある日本、	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。 学習内容の3を完成させておくこと。	60分

		その他の国の料理をインターネット等で調べ、次回の授業で英語で発表できるように準備をする。		
第5回	1. 自分が興味がある料理についての英語での発表。(発表①) 2. Ordering Food: What Do We Need?	1. 自分が興味を持っている料理を英語で発表する。内容と聞き取り易さの2面から評価する。 2. 食品の買い物例にして、各種食品の数の数え方、量の計り方を学ぶ。(可算名詞、不可算名詞の学習)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第6回	At a Restaurant	1. レストランでの注文の場面の英語を学び、練習する。 2. 自分の好きなレストランについて、英語で紹介できるようにする。(次回で発表)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。 学習内容2を完成させておくこと。	60分
第7回	1. 自分の好きなレストランについての英語での紹介 2. Cooking	1. 前回の授業で作成した自分の好きなレストランの英語での紹介を発表する。(発表②) 2. 具体的な調理手順を英語で聞き、話せるようにする。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第8回	Recipes	1. 英文レシピを読むようにする。 2. 自分で料理を選んで英文レシピを作成する。(次回で発表)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。 学習内容2を完成させておくこと。	60分
第9回	1. 自分で作成した英文レシピの発表 2. Giving Dietary Advice	1. 前回の授業で作成した英文レシピの発表をする。(発表③) 2. 栄養指導で重要となる英語を学び、練習する。 3. 食品各種のグリセミック指数(血糖指数)を学ぶ。 4. 「～しなさい」、「～してはいけません」の英語を練習する。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第10回	Talking about Diets (1)	1. 食関係の場面を例として、英語での頻度の表し方を学び、練習する。 2. 日米のそれぞれの外食利用の頻度を比較する。 3. 頻度の表現を含めて、自分の食生活を英語で紹介できるようにする。(次回で発表)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。 学習内容3を完成させておくこと。	60分
第11回	1. 自分の食生活についての発表 2. Researching Diet Information	1. 前回の授業で作成した自分の食生活についての英語での発表をする。(発表④) 2. 食品各種の栄養価について英語で聞き、話せるようにする。 3. 食品の英語での栄養分析表を読む練習をする。 4. バランスの良い食生活のための食品チャートの日米の違いを知る。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分
第12回	Life as a Dietitian	栄養士の仕事内容を英語で説明できるようにし、将来自分がどのような栄養士として働きたいのか、を英語で作成する。(次回で発表)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。 学習内容を完成させておくこと。	60分
第13回	1. 自分が将来どのような栄養士として働きたいのかの英語での発表 2. Talking about Diets (2)	1. 前回の授業で作成した将来の希望についての英語での発表(発表⑤) 2. さらに食関係の英語を学ぶ。 3. 日本式朝食と西洋式朝食のそれぞれの長所と短所をクラスメートと相談しながら考え、英語で作成する。(次回で発表)	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。 学習内容3を完成させておくこと。	60分
第14回	1. 日本式朝食と西洋式朝食のそれぞれの長所と短所についての英語での発表 2. People with Special Dietary Needs	1. 前回の授業で作成した日本式朝食と西洋式朝食のそれぞれの長所と短所についての英語での発表をする。(発表⑥) 2. 特別食が必要な人達のための栄養指導で使われる英語を学ぶ。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に着けておくこと。	60分

第15回	Talking about Food Experiences	自分の過去の食体験について語る。	授業中で重要として指摘されたことを復習して身に付けておくこと。	60分
学生へのフィードバック方法		授業毎回での小テストは採点してその次回の授業で返却する。		
評価方法		小テストは、その前回の授業で重要として指摘されたことの中から当日5問を選んで出題する（5点満点）。欠席、遅刻で受験できなかった場合は学生の申し出により随時追テストを行う。申し出がなければその分は0点として合算する。定期試験では最終回の授業分の小テストを行う。		
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○		○
定期試験	○	○		○
評価割合	発表60%、小テスト（定期試験含む）40%			
使用教科書名 (ISBN番号)	Speaking of Nutrition（南雲堂、2017）978-4-523-17827-9			
参考図書	食ことば英語辞典（小学館、2004）			
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】世界での多様な食環境、食文化を知るとともに、外国人相手に日本食を英語で紹介でき、相手の状態に合わせて英語での基礎的な栄養指導を行えるようにコミュニケーション力をつける。</p> <p>【思考・判断】食品各種の持つ栄養価についてのアメリカでの資料、アメリカと日本とでの外食の頻度の違い、両国での栄養指導方法の違い等を考える。</p> <p>【関心・意欲・態度】栄養士としての関心を国内に限らず、外国人とも英語で栄養指導をしたり、食事、食習慣について話そうとする意欲と態度を養う。</p> <p>【技能・表現】英語で、基礎的な栄養指導ができ、将来自分が目指す栄養士像を話すことができ、日本食の紹介ができたり、好きなレストランの紹介ができたりするようにする。</p>			
オフィスアワー	月昼休み、水2時間目、昼休み、4時間目			
学生へのメッセージ	食と栄養について、そう難しくなく、重要な英語を学べる教科書です。発表の内容も重要なことが選ばれています。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング	○	クラスメートとの会話練習や共同作業		
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食と語学B		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大和田 寛	指定なし

ナンバリング	R21013M12
授業概要(教育目的)	「食と語学A」に続き、栄養・食の専門家として、国際的な視野を持つために、「食」をキーワードに国際的なコミュニケーション能力・外国語運用能力を有する学びを展開する。「食」をグローバルに発信できるスキルを身に着ける。なお、本科目は、フードビジネスアドミニストレーター資格取得に必須の科目である。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 「炭水化物」、「タンパク質」、「脂質」等、栄養学の重要表現の英語を学ぶ。 2. 近年、食にまつわり話題にされている事柄を知る。
思考・判断の観点 (K)	1. 自分の食生活を栄養学的に判断する。 2. 日本と諸外国の食とを比較検討する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	初歩的な栄養学への興味を引き出し、近年の食を取り巻く諸問題を考えることに発展させる。
技術・表現の観点 (A)	「食」を題材にして、英語自体の勉強をする。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	Unit 1 エネルギー産生栄養素	炭水化物、タンパク質、脂質の体内での働きを学ぶ。	自分が昨日食べたものを炭水化物、タンパク質、脂質に分け、翌週発表。	60分
第2回	Unit 2 栄養学：略史	18世紀に壊血病の予防法の発見から始まり、20世紀に大きく発展した栄養学を歴史的に概観する。	自分の普段の食事バランスを検討して、翌週発表。	60分
第3回	Unit 3 主食	世界各地域の主食について学ぶ。	和食と外国の食との違いを考え、翌週発表。	60分
第4回	Unit 4 食の文化遺産	和食のみが食の文化遺産ではないことを学ぶ。食の文化遺産登録の意味を考える。	自分の好きな外国料理について調べて、翌週発表。	60分
第5回	Unit 5 弁当箱のアート	今日、日本の弁当は国内だけでなく、国外からも注目を受けている。その理由を考える。	自分の作りたい弁当のデザインを描いて、翌週発表。	60分

第6回	Unit 6 日本 の給食制度	日本の学校給食の独自な点を考える。	学校への弁当持参と給食とどちらの方が好きか、その理由とともに翌週発表。	60分
第7回	Unit 7 こ ども食堂	近年増えてきているこども食堂について考える。	自分の知っている食に関するボランティア活動について、翌週発表。	60分
第8回	Unit 8 ス ーパーフ ード	近年増えてきているスーパーフードのはらむ問題について考える。	自分で実行している健康食について、翌週発表。	60分
第9回	Unit 9 ハ ラルフード	今日日本でもイスラム教徒のためにハラルフードが食べられるようになってきていることについて学ぶ。	外国人にとって食べやすい和食と食べづらい和食について考え、翌週発表。	60分
第10回	Unit 10 味 覚	現在分かっている味覚の仕組みについて学ぶ。	自分が食品を購入する時に気にすることを翌週発表。	60分
第11回	Unit 11 機 内食	人間の味覚は飛行機の中では変わるとのこと。そこを考えて機内食は作られることを学ぶ。	自分が作りたい機内食のデザインを描いて、翌週発表。	60分
第12回	Unit 12 砂 糖	砂糖の取りすぎが健康に悪影響を与えることについて学ぶ。	自分で砂糖の取りすぎを気にするかどうかをその理由とともに翌週発表。	60分
第13回	Unit 13 砂 糖税	砂糖の取りすぎによる健康への悪影響を抑えるために砂糖税を設けた国があることを学ぶ。	日本でも砂糖税が必要かどうかを考え、翌週発表。	60分
第14回	Unit 14 抗 酸化物質	老化を防ぐと言われる抗酸化物質について学ぶ。	抗酸化物質の上手な取り方を考え、翌週発表。	60分
第15回	Unit 15 遺 伝子組み 換え食品	遺伝子組み換え食品のいい点、悪い点について学ぶ。		

学生へのフィードバック方法 毎回の授業での小テストは採点して次回の授業で返却する。

評価方法 小テストは毎回で行う。各授業ごとに重要なところを指摘する。その中から次回の授業で5問を選んで出題する(5点満点)。第15回目の授業時の小テストはその時間中に行う。遅刻、欠席で小テストを受験できなかった場合は学生の申し出により随時追テストを行う。申し出がなければその分は0点として合算する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○		○
定期試験	○	○	○	○

評価割合 発表60%、小テスト40%

使用教科書名 (ISBN番号) 健康生活に見る食育と栄養 (入門編) (南雲堂、2020) 978-4-523-17896-5

参考図書 食ことば英語辞典 (小学館、2004)

ディプロマポリシーとの関連
 【知識・理解】 栄養学の基礎的なことを英文でおさらいをする。さらに、食にまつわる今日的ないくつかの注目すべきトレンドについて、英文を通じて理解を深める。
 【思考・判断】 食にまつわる今日的な状況について、客観的な立場で考慮できるような態度を養う。
 【関心・意欲・態度】 今日の食にまつわる社会的状況と自分の日常の食生活との関連を見出し、食についての視野を広め、深め、栄養学への関心を喚起する。
 【技術・表現】 食を題材にして、英語の読解力、英単語力、会話力の上達をはかる。

オフィスアワー 月昼休み、水2時限、昼休み、4時限

学生へのメッセージ 「食と語学A」の教科書に比べてより英語学習が中心となっています。題材はすべて食についてです。学習者にとってあまり難しくなく、興味が持てるように注意して作られています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング	○	クラスメートとの会話練習と協同作業
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	社会福祉学概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 西口 守	指定なし

ナンバリング	R11006M21								
授業概要(教育目的)	社会福祉とは何かという根源的な課題を整理し、社会福祉の歴史てき変遷、ソーシャルワークの発展とその方法また社会福祉やソーシャルワークの現代の課題を理解する。特に現代社会の貧困問題、生活保護制度、高齢者の支援、介護保険制度、子どもへの虐待、児童福祉制度や虐待防止法について理解を深める。 この授業対象者が栄養士を目指していることに鑑み、食と社会福祉の関連についても理解を深めていくことを目的として授業を展開する。								
履修条件	特になし								
学習目標(到達目標)	学習目標（到達目標） <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">知識・理解の観点 (K)</td> <td>社会福祉やソーシャルワークが理解できる また福祉6法の概略を理解できる</td> </tr> <tr> <td>思考・判断の観点 (K)</td> <td>社会福祉の制度と実践を理解し、ボランティア活動などで実践し、自らが評価できる</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度の観点 (V)</td> <td>社会的弱者と当事者の視点に関心を持ち、共生の思想と実践の意欲や態度を持つことができる</td> </tr> <tr> <td>技術・表現の観点 (A)</td> <td></td> </tr> </table>	知識・理解の観点 (K)	社会福祉やソーシャルワークが理解できる また福祉6法の概略を理解できる	思考・判断の観点 (K)	社会福祉の制度と実践を理解し、ボランティア活動などで実践し、自らが評価できる	関心・意欲・態度の観点 (V)	社会的弱者と当事者の視点に関心を持ち、共生の思想と実践の意欲や態度を持つことができる	技術・表現の観点 (A)	
知識・理解の観点 (K)	社会福祉やソーシャルワークが理解できる また福祉6法の概略を理解できる								
思考・判断の観点 (K)	社会福祉の制度と実践を理解し、ボランティア活動などで実践し、自らが評価できる								
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会的弱者と当事者の視点に関心を持ち、共生の思想と実践の意欲や態度を持つことができる								
技術・表現の観点 (A)									

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	福祉を知る	新聞記事から福祉の問題を探す	それを整理する	120分
第2回	社会福祉が必要な社会の状況	前回の資料をまとめ、現代社会の中での社会福祉の意義を考える	一週間のテレビや新聞、ネットで扱われた福祉の問題を気にする	120分
第3回	人は一人で生きられるか 人を他者の顔色を見つけて生きるのか	アッシュの実験 ローソン工場の実験を基にして「人と社会を考える」	◎一人は好き？ 一人ぼっちは好き？ ◎人と「共に」生きるのには好き？ こんなことを考えてみて？	120分
第4回	社会福祉の歴史	中世から救貧法までを学ぶ なぜ「救貧法」が制定されたか。それに及ぼした「宗教改革」を学ぶ	世界史の教科書で中世の出来事をおさえておく 特に宗教改革	120分

	社会福祉の歴史① イギリスの発達史		におけるルターの役割。ルター の目指したものを理解する	
第5回	歴史②	英国の歴史②	救貧法から新救貧法そして慈善 組織協会の流れを理解する	120分
第6回	社会福祉の歴史③	ロンドンCOSからリッチモンドまでを学ぶ	リッチモンドを調べておく	120分
第7回	ソーシャルワークを学ぶ①	グローバル定義を学ぶ	ソーシャルワークとは何かを調べる	120分
第8回	ソーシャルワークを学ぶ①	グローバル定義を学ぶ	ソーシャルワークとは何かを調べる	120分
第9回	ソーシャルワークを学ぶ②	方法の学び① ケースワーク グループワーク	バイステックの原則を勉強しておく	120分
第10回	ソーシャルワークを学ぶ②	方法の学び① ケースワーク グループワーク	バイステックの原則を勉強しておく	120分
第11回	児童福祉①	現代の課題 虐待問題を新聞記事から考える	児童虐待を新聞記事から学ぶ	120分
第12回	児童福祉①	現代の課題 虐待問題を新聞記事から考える	児童虐待を新聞記事から学ぶ	120分
第13回	貧困と生活保護	貧困の問題を学ぶまた生活保護制度を概観する	貧困問題をインターネットから 学んでおく	120分
第14回	介護保険を学ぶ①	介護保険の全体像を学ぶ	介護保険を知っておく	120分
第15回	介護保険を知る②	介護保険の具体像を知る	申請手続きを学んでおく	120分

学習計画注記	外部施設への見学もあり
学生へのフィードバック方法	提出物へのコメントを付しての返却とコミュニケーション
評価方法	①中間試験 ②実務家講演のコメント ③学期末試験 ④平常点

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間試験	○		○	
コメント		○	○	
学期末試験	○			

評価割合	①中間試験 30% ②コメント 20% ③学期末試験 40% ④その他 平常点 10%
使用教科書名 (ISBN番号)	別途指示
参考図書	別途指示
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 ソーシャルワークの理解を通じて多様な人々との対話嫌コミュニケーションができる 【思考・判断】 ボランティア活動などを通じて情報の収集と分析ができて、客観的判断につなげられる 【関心・意欲・態度】 食生活への関与を通じて、弱者や当事者の立場から事象を観察し、それらの立場から問題解決の意欲を持てる
オフィスアワー	毎週月曜日 2時限
学生へのメッセージ	食と社会福祉との関連を考えながら授業を作っていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、高齢者福祉施設での勤務経験があり、できるだけ、現場の事例に即して現実的な思考と対応また現場が求めるミッションとは何かを配慮し授業展開する
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	公衆衛生学 I (総論)		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	5 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 佐々木 溪円	指定なし

ナンバリング	R20101M21
授業概要(教育目的)	公衆衛生学ではヒトの集団を対象とし、疾病の予防、健康の保持と増進等を学ぶ。本授業では健康の概念と公衆衛生の歴史および環境と健康を、我が国の現状を踏まえ、総体的に学ぶ。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	主要な生活習慣病と感染症の疫学と予防対策について説明できる。 生態系、環境と健康の関連性について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	健康やヘルスプロモーションについて、自分の考えをもち、他者の意見を判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	精神保健の現状と課題について、関心をもつことができる。
技術・表現の観点 (A)	健康情報を効率的に収集し、その質を評価することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	衛生と公衆衛生	公衆衛生の概念、疾病予防と健康管理	教科書CHAPTER-1 (P. 1~6) を読んで、「健康」に関する自分の考えをもってから出席してください。	120分
第2回	ヘルスプロモーション	健康日本21(第二次)とソーシャル・キャピタル	「健康日本21(第二次)」について調べてから出席してください。	120分
第3回	環境と健康1	生態系と環境保全、環境汚染と健康影響	教科書CHAPTER-2 (P. 7~14) を読んで、代表的な公害について調べてから出席してください。	120分
第4回	環境と健康2	環境衛生	教科書CHAPTER-2 (P. 14~22) を読んで、熱中症について調べてから出席してください。	120分
第5回	情報とコミュニケーション	エビデンスに基づいた医療と保健、ヘルスリテラシー	教科書CHAPTER-5 (P. 59~65) を読んで、インターネットで入	120分

	ヨン		手できる健康情報について自分の考えをもってから出席してください。	
第6回	生活習慣の現状と対策1	食生活、身体活動、休養	教科書CHAPTER-6 (P. 67~69)に記載されている情報と、自分や周囲の人達の日常生活とを比較して考えを得てから出席してください。	120分
第7回	生活習慣の現状と対策2	喫煙	教科書CHAPTER-6 (P. 69~70)を読んで、喫煙問題について自分の考えをもってから出席してください。	120分
第8回	生活習慣の現状と対策3	飲酒	教科書CHAPTER-6 (P. 70~71)を読んで、妊娠期のアルコール摂取について調べてから出席してください。	120分
第9回	主要疾患の疫学と予防対策1	悪性新生物、循環器疾患	教科書CHAPTER-7 (P. 73~78)を読んで、分からなかった単語について調べてから出席してください。	120分
第10回	主要疾患の疫学と予防対策2	代謝疾患と骨・関節疾患	教科書CHAPTER-7 (P. 78~84)を読んで、分からなかった単語について調べてから出席してください。	120分
第11回	主要疾患の疫学と予防対策3	口腔保健	教科書CHAPTER-7 (P. 71-72)を読んで、離乳食の進め方について調べてから出席してください。	120分
第12回	感染症対策1	感染症と関連法規	教科書CHAPTER-8 (P. 87~91)を読んで、予防接種について自分の考えをもってから出席してください。	120分
第13回	感染症対策2	主要感染症の疫学	教科書CHAPTER-8 (P. 91~93)を読んで、結核について調べてから出席してください。	120分
第14回	精神保健対策1	精神保健対策1	教科書CHAPTER-9 (P. 95~98)を読んで、精神保健対策の歴史と現状について自分の考えをもってから出席してください。	120分
第15回	精神保健対策2	虐待・暴力対策	教科書CHAPTER-9 (P. 101-104)を読んで、子ども虐待(児童虐待)について自分の考えをもってから出席してください。	120分

学習計画注記 ※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 授業内課題については、各授業で解説します。質問は授業後・次回授業前ならびに、e-mailでも対応します。

評価方法

- ・授業内課題は、その授業で学ぶ範囲について出題しますので、予習は必ずしてください。グループで相談する課題では、積極的に自分の考えを発言して、他の学生の意見も聴いて下さい。30点に相当するように、評価します。
- ・定期試験は、管理栄養士国家試験の出題形式に基づく選択式の問題で出題し、70点満点で評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業内課題	○	○	○	
定期試験	○			○

評価割合 定期試験

使用教科書名 (ISBN番号) 「社会・環境と健康 公衆衛生学2020年版」 編著：柳川洋・尾島俊之 医歯薬出版株式会社 978-4-263-70746-3

参考図書 「国民衛生の動向」 厚生統計協会

ディプロマポリシーとの関連	<p>○知識・理解 学内外で講義・実習・演習を通し、多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。</p> <p>○思考・判断 多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている</p> <p>○関心・意欲・態度 食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる</p>
---------------	---

学生へのメッセージ	公衆衛生学は覚えることが多いので「暗記科目」と思われがちですが、実際に行われる健康課題の対策には正解がないこともあります。各回のテーマについて、自分の考えをもつようしてください。
-----------	---

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は相模原市保健所等で公衆衛生の実務経験を有しており、現在も厚生労働省研究班で母子保健政策に関与している。これらの経験をもとに、暗記に終わらない授業を実施している。
アクティブ・ラーニング	○	適宜、学生間で意見交換をする機会を設定している。
情報リテラシー教育	○	第5回に情報とコミュニケーションをテーマとする回を設定している。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	公衆衛生学Ⅱ(各論)		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 佐々木 溪円	指定なし

ナンバリング	R30102M21
授業概要(教育目的)	公衆衛生学ではヒトの集団を対象とし、疾病の予防、健康の保持と増進等を学ぶ。本授業では疫学と保健・医療・福祉政策の各論を学ぶ。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	健康、疾病、行動にかかわる統計について説明できる。 疫学の方法、保健・医療・福祉政策について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	公衆衛生学の各領域について、栄養士を目指す者として自分の考えをもち、他者の意見を判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会・環境と健康の現状と課題について、関心をもつことができる。
技術・表現の観点 (A)	健康情報を効率的に収集し、その質を評価することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	健康にかかわる統計1	人口静態統計など	教科書CHAPTER-3 (P. 29-34) を読んで、自分の住んでいる自治体の人口構成について考えをもってから出席してください。	120分
第2回	健康にかかわる統計2	人口動態など	教科書CHAPTER-3 (P. 34-48) を読んで、日本人の死因について考えをもってから出席してください。	120分
第3回	疫学 1	疫学指標、バイアスと交絡の制御	教科書CHAPTER-4 (P. 49~53) を読んで、バイアスについて調べてから出席してください。	120分
第4回	疫学 2	直接法と間接法、疫学の方法	教科書CHAPTER-4 (P. 53~56) を読んで、疫学手法の例を考えてから出席してください。	120分
第5回	疫学3	スクリーニング、リスク・アナリシス	教科書CHAPTER-4 (P. 56~62)	120分

			を読んで、スクリーニングの例を考えてから出席してください。	
第6回	保健・医療・福祉のしくみ	社会保障	教科書CHAPTER-10 (P. 105～112) を読んで、自分が利用してきた社会保障の例を考えてから出席してください。	120分
第7回	医療制度、医療法と医療計画	医療法、医療計画	教科書CHAPTER-11 (P. 113～121) を読んで、医療制度や医療費について自分の考えをもってから出席してください。	120分
第8回	社会福祉	障害者福祉	教科書CHAPTER-12 (P. 123～132) を読んで、栄養士を目指す者として障害者福祉について考えをもって出席してください。	120分
第9回	地域保健	地域保健、健康危機管理	教科書CHAPTER-13 (P. 133～135) を読んで、保健所の機能について調べてから出席してください。	120分
第10回	母子保健	母子保健政策、健やか親子21 (第2次)	教科書CHAPTER-14 (P. 137～140) を読んで、母子保健における栄養士の活動について調べてから出席してください。	120分
第11回	成人保健	特定健康診査・特定保健指導、生活習慣病	教科書CHAPTER-15 (P. 141～144) を読んで、健康日本21 (第2次) について復習してから出席してください。	120分
第12回	高齢者保健	高齢者保健と介護保険	教科書CHAPTER-16 (P. 89～93) を読んで、分からなかった語句を調べてから出席してください。	120分
第13回	産業保健	労働と健康、労働安全衛生対策	教科書CHAPTER-17 (P. 151～161) を読んで、労働者のメンタルヘルスについて調べてから出席してください。	120分
第14回	学校保健	学校保健安全法、学校保健安全対策	教科書CHAPTER-18 (P. 163～172) を読んで、感染症について復習してから出席してください。	120分
第15回	国際保健	地球規模の健康問題、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ、SDGs	教科書CHAPTER-19 (P. 173～181) を読んで、国際保健について自分の考えをもってから出席してください。	120分

学習計画注記 ※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 授業内課題については、各授業で解説します。質問は授業後・次回授業前ならびに、e-mailでも対応します。

評価方法

- ・授業内課題は、その授業で学ぶ範囲について出題しますので、予習は必ずしてください。グループで相談する課題では、積極的に自分の考えを発言して、他の学生の意見も聴いて下さい。30点に相当するように、評価します。
- ・定期試験は、管理栄養士国家試験の出題形式に基づく選択式の問題で出題し、70点満点で評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業内課題	○	○	○	
定期試験	○			○

評価割合 定期試験

使用教科書名 (ISBN番号) 「社会・環境と健康 公衆衛生学2019年版」 編著：柳川洋・尾島俊之 医歯薬出版株式会社 978-4-263-70738-8

参考図書	「国民衛生の動向」 厚生統計協会	
ディプロマポリシーとの関連	<p>○知識・理解 学内外で講義・実習・演習を通し、多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。</p> <p>○思考・判断 多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている</p> <p>○関心・意欲・態度 食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる</p>	
学生へのメッセージ	公衆衛生学は覚えることが多いので「暗記科目」と思われがちですが、実際に行われる健康課題の対策には正解がないこともあります。各回のテーマについて、自分の考えをもつようしてください。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は相模原市保健所等で公衆衛生の実務経験を有しており、現在も厚生労働省研究班で母子保健政策に関与している。これらの経験をもとに、暗記に終わらない授業を実施している。
アクティブ・ラーニング	○	適宜、学生間で意見交換をする機会を設定している。
情報リテラシー教育	○	統計や疫学に関する教育機会を多く設定している。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	解剖生理学 I (解剖学)		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	2 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 未 定1	指定なし

ナンバリング	R10201M21
授業概要(教育目的)	「解剖生理学」は人体の構造と機能について学ぶ学問である。解剖生理学I(解剖学)では特に人体の構造に重点をおいて学ぶ。この講義の教育目的は、臨床栄養の現場で持つべき、正常な(健康な)人体の構造と機能の基礎知識を習得することである。解剖生理学を学ぶことは、臨床栄養、病態生理などを学ぶ基礎となる。講義はパワーポイントを使用する。本科目は現代生活学部食物学科における栄養士免許の授与資格取得に必要な必修科目である。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	基本的な人体の構造と機能を理解し、いろいろな立場の人に説明できる。
思考・判断の観点 (K)	人体の構造と機能についての基礎知識をもとに健康に関する客観的な判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	解剖生理学の知識を活かし、それぞれの立場から社会貢献しようという意欲を持つ。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	細胞、組織、皮膚	細胞、組織、皮膚の構造を学ぶ。	教科書の1章を通読する。	180分
第2回	骨格、筋肉系	骨格、筋肉系の構造を学ぶ。	教科書の12章を通読する。	180分
第3回	感覚器	感覚器の構造を学ぶ。	教科書の13章を通読する。	180分
第4回	消化管	消化管の構造を学ぶ。	教科書の2章を通読する。	180分
第5回	肝・胆・膵	肝臓、胆のう、膵臓の構造を学ぶ。	教科書の3章を通読する。	180分
第6回	心臓・血管系	心臓・血管系の構造を学ぶ。	教科書の4章を通読する。	180分
第7回	呼吸器	呼吸器の構造を学ぶ。	教科書の5章を通読する。	180分

第8回	内分泌	内分泌臓器の構造を学ぶ。	教科書の6章を通読する。	180分
第9回	代謝	栄養素の代謝について学ぶ。	教科書の7章を通読する。	180分
第10回	腎臓、泌尿器	腎臓、尿管、膀胱、尿道の構造を学ぶ。	教科書の8、14章を通読する。	180分
第11回	血液	血液の成分を学ぶ。	教科書の9章を通読する。	180分
第12回	免疫	免疫の概念について学ぶ。	教科書の10章を通読する。	180分
第13回	神経	神経系の構造を学ぶ。	教科書の11章を通読する。	180分
第14回	生殖器	生殖器の構造を学ぶ。	教科書の14、15章を通読する。	180分
第15回	まとめ	重要項目について、再度解説する。	教科書と配布プリントを準備して下さい。	180分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	講義終了時に記入していただくコメントシートに対して、次の講義でフィードバックします。その他の質問等がありましたら、大学に登録してあるメールアドレスまでご連絡ください。
評価方法	定期試験と授業中の演習で評価します。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		
授業中の演習	○	○	○	○

評価割合	定期試験と授業中の演習で評価します。割合については後日説明します。
------	-----------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	Visual栄養学テキスト 人体の構造と機能および疾病の成り立ち I 解剖生理学 (中山書店) ISBN 978-4-521-74284-7
-----------------	--

参考図書	栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学 人体の構造と機能 (羊土社) はじめての解剖生理学: めりえで覚える人体の仕組み (東海大学出版部)
------	---

ディプロマポリシーとの関連	人体の構造と機能を理解し、いろいろな立場の人に説明できる。 食事や栄養が人体に与える影響について、客観的に判断することができる。
---------------	---

学生へのメッセージ	食事や栄養は人間が生きていく上で毎日行う活動です。近年の健康ブームにより、様々な健康法が提案されていますが、中には科学的根拠が乏しいものもあります。この講義を通して、人体の構造と機能についての基礎知識を身につけて、様々な情報を客観的に判断する一助としていただければと思います。また、解剖生理学は臨床栄養、病態生理などを学ぶうえで必須の知識となりますので、頑張ってください。
-----------	--

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	解剖生理学Ⅱ(生理学)		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 野元 謙作	指定なし

ナンバリング	R20203M21
授業概要(教育目的)	「解剖生理学」は人体の構造と機能について学ぶ学問である。解剖生理学Ⅱ(生理学)では特に人体の機能に重点をおいて学ぶ。この講義の教育目的は、臨床栄養の現場で持つべき、正常な(健康な)人体の構造と機能の基礎知識を習得することである。解剖生理学を学ぶことは、臨床栄養、病態生理などを学ぶ基礎となる。講義はパワーポイントを使用する。本科目は現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修科目である。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	基本的な人体の構造と機能を理解し、いろいろな立場の人に説明できる。
思考・判断の観点(K)	人体の構造と機能についての基礎知識をもとに健康に関する客観的な判断ができる。
関心・意欲・態度の観点(V)	解剖生理学の知識を活かし、それぞれの立場から社会貢献しようという意欲を持つ。
技術・表現の観点(A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	細胞、組織、皮膚	細胞、組織、皮膚の構造を学ぶ。	教科書の1章を通読する。	180分
第2回	骨格、筋肉系	骨格、筋肉系の構造を学ぶ。	教科書の12章を通読する。	180分
第3回	感覚器	感覚器の構造を学ぶ。	教科書の13章を通読する。	180分
第4回	消化管	消化管の構造を学ぶ。	教科書の2章を通読する。	180分
第5回	肝・胆・膵	肝臓、胆のう、膵臓の構造を学ぶ。	教科書の3章を通読する。	180分
第6回	心臓・血管系	心臓・血管系の構造を学ぶ。	教科書の4章を通読する。	180分
第7回	呼吸器	呼吸器の構造を学ぶ。	教科書の5章を通読する。	180分

第8回	内分泌	内分泌臓器の構造を学ぶ。	教科書の6章を通読する。	180分
第9回	代謝	栄養素の代謝について学ぶ。	教科書の7章を通読する。	180分
第10回	腎臓、泌尿器	腎臓、尿管、膀胱、尿道の構造を学ぶ。	教科書の8、14章を通読する。	180分
第11回	血液	血液の成分を学ぶ。	教科書の9章を通読する。	180分
第12回	免疫	免疫の概念について学ぶ。	教科書の10章を通読する。	180分
第13回	神経	神経系の構造を学ぶ。	教科書の11章を通読する。	180分
第14回	生殖器	生殖器の構造を学ぶ。	教科書の14、15章を通読する。	180分
第15回	まとめ	重要項目について、再度解説する。	教科書と配布プリントを準備して下さい。	180分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	講義終了時に記入していただくコメントシートに対して、次の講義でフィードバックします。その他の質問等ありましたら、大学に登録してあるメールアドレスまでご連絡ください。
評価方法	定期試験と授業中の演習で評価します。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		
授業中の演習	○	○	○	○

評価割合	定期試験と授業中の演習で評価します。割合については授業にて説明します。
------	-------------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	Visual栄養学テキスト 人体の構造と機能および疾病の成り立ち I 解剖生理学 (中山書店) ISBN 978-4-521-74284-7
-----------------	--

参考図書	栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学 人体の構造と機能 (羊土社) はじめての解剖生理学: めりえで覚える人体の仕組み (東海大学出版部)
------	---

ディプロマポリシーとの関連	人体の構造と機能を理解し、いろいろな立場の人に説明できる。 食事や栄養が人体に与える影響について、客観的に判断することができる。
---------------	---

学生へのメッセージ	食事や栄養は人間が生きていく上で毎日行う活動です。近年の健康ブームにより、様々な健康法が提案されていますが、中には科学的根拠が乏しいものもあります。この講義を通して、人体の構造と機能についての基礎知識を身につけて、様々な情報を客観的に判断する一助としていただければと思います。また、解剖生理学は臨床栄養、病態生理などを学ぶうえで必須の知識となりますので、頑張ってください。1年生で学んだ内容をもとに演習も行なっていきます。
-----------	---

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	解剖生理学実習 (RA)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岩本 直樹	指定なし

ナンバリング	R20202M13
授業概要 (教育目的)	<p>人体模型や実験動物を用いた実習によってヒトにおける各臓器や臓器系の配置、形態を学習する。さらに、ブタ、ヒトの組織標本を用いて組織の形態と機能の間の関連について実地に理解する。また、鏡検観察によって細胞レベルでの微細構造を観察し、各組織・臓器にみられる細胞学的特徴を把握して機能との関連を理解する。生理学的領域においては、生体の基本的バイタルサインを、検査機器を用いて観察・記録し、さらにバイタルサインが示す生理機能について理解する。本科目は、栄養士免許証取得のための必須科目である。</p>

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体模型、ブタ、ヒトの組織標本を用いて人体の形態と機能について説明できる。 2. 臨床栄養学の理解につなげるために病理学についても形態的観点から説明できる。 3. 生理学的領域において、生体の基本的バイタルサインを、検査機器を用いて観察・記録し、さらにバイタルサインが示す生理機能について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命の尊厳を尊重できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション (実習の目的と進め方) を行う。	実習におけるレポートを作成する。	60分
第2回	人体模型	人体模型による臓器位置の確認及び骨格標本を用いて骨の名称の確認を行う。	実習におけるレポートを作成する。	60分
第3回	身体観測	身体観測と計測を行う。	実習におけるレポートを作成する。	60分
第4回	循環器に関するビデオ学習	NHKスペシャル 驚異の小宇宙 人体 Vol. 2 「しなやかなポンプ～心臓・血管～」 [DVD] を観て、心臓内部の様子やしくみを理解する。	学習におけるレポートを作成する。	60分
第5回	循環 1	血圧の測定、心音の聴取、安静時の体温測定を行う。	実習におけるレポートを作成する。	60分

第6回	循環2	運動負荷による心拍数、血圧、体温の測定を行う。	実習におけるレポートを作成する。	60分
第7回	心肺蘇生法	心肺蘇生法の原理や方法を習得する。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第8回	呼吸	肺活量の測定、努力肺活量の測定を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第9回	組織の観察1	光学顕微鏡を用いて消化器系（胃・腸）の組織を観察する。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第10回	組織の観察2	光学顕微鏡を用いて消化器系（肝臓）の組織を観察する。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第11回	組織の観察3	光学顕微鏡を用いて筋肉の構造を観察する。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第12回	内分泌	インスリンによる低血糖状態の観察と血糖測定（マウス）を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第13回	解剖	動物の解剖（マウス）を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第14回	感覚	皮膚感覚・反射神経、盲斑の検出を行う。	実習におけるレポートを作成する。	60分
第15回	総括と学習到達度の確認テスト	1回目～14回目の実習についての総括を行い、授業の一部で学習到達度の確認テストを実施する。	確認テストの復習をする。	60分

学習計画注記	※シラバスの内容は、やむをえない事情等により一部修正することがあります。
学生へのフィードバック方法	提出されたレポート（オリジナル実習ノート）は、評価した後に返却する。確認テストも同様に問題用紙は返却する。質問等がある場合には1201研究室まで訪問すること。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 確認テストは実習の振り返りを行い、100点満点で出題する。また、出題の傾向については、第13回の実習にて説明する。 レポート、確認テストおよび実習態度は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート	○	○		
確認テスト	○	○		
実習態度			○	

評価割合	科目修了試験40%、レポート（オリジナル実習ノート）評価50%および実習態度10%で総合的に評価する（小数点以下は四捨五入）。ただし、確認テストが60%未満の者は再試験を行う。
使用教科書名 (ISBN番号)	松村譲児 編『人体解剖ビジュアル』サイオ出版 (9784907176273) 東京消防庁 編『身につけよう応急手当普通救命講習テキスト』東京法令出版
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。</p> <p>【思考・判断】多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。</p> <p>【関心・意欲・態度】実習内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。</p>
オフィスアワー	月曜4限 1201研究室
学生へのメッセージ	実習時は白衣（実験用）を着用のこと。 レポート（オリジナル実習ノート）の提出は、提出期限・形式を守ること。 授業内容を事前に教科書などで予習すること。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー 教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	生化学(総論)		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 三島 綾子	指定なし

ナンバリング	R20204M21
授業概要(教育目的)	生体内での様々な化学反応や物質交換によって、生命維持が行われる。生命活動の主軸となる細胞や生体物質構造、生理機能について総合的に学ぶ。また、食物として外界から取り込んだ物質の利用、すなわち代謝とその調節の基礎について講義する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1、生体成分の構造と性質を理解する。 2、酵素の役割、その調節機構を十分に理解する。 3、生体成分の代謝の基礎、代謝調節の基礎を理解する。
思考・判断の観点 (K)	1、これまでに学習した有機化学の概念を生化学の学習に応用する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1、予習、復習、授業毎の小テスト、確認テストで理解度を深める。 2、小テスト、確認テストの間違い直しを積極的に行う。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	細胞の構造と機能	生体膜、細胞の小器官など細胞の基本構造とその機能について学ぶ。 生化学を学ぶための基本事項の確認を行う。	教科書 1-11ページ、生物の基本単位-細胞をよく読んでおくこと。 生化学きほんノート第1章「生化学を学ぶための基本の「き」」(1~7ページ)を予習、復習に用いる。	180分
第2回	糖質の構造と性質	糖質は、主要なエネルギー源であるとともに、生体の構成材料や細胞間の情報伝達物質として、きわめて広範囲にわたる生命活動に関係している。糖質は、単糖類、オリゴ糖、多糖類に大別される。これらの構造と性質について学習する。	教科書41~51ページ、糖質の特徴をよく読んでおくこと。 生化学きほんノート第2章「糖質」(9~18ページ)を予習、復習に用いる。	180分
第3回	糖質の代謝	解糖系におけるグルコースの代謝と生成物について理解	教科書52~58ページ、解糖系・	180分

	①	する。TCA回路とその生成物について理解する。	TCA回路をよく読んでおくこと。 生化学きほんノート第10章「糖質代謝」(99~111ページ)を予習、復習に用いる。	
第4回	糖質の代謝②	グリコーゲンの合成と分解について理解する。糖質以外の生体成分からのグルコース生成である糖新生について理解する。 五炭糖リン酸回路で生成する物質とその働きについて理解する。	教科書58~68ページをよく読んでおくこと。 生化学きほんノート第10章「糖質代謝」(99~111ページ)を予習、復習に用いる。	180分
第5回	脂質の性質と分類	脂質の性質と分類について学ぶ。単純脂質、複合脂質、誘導脂質の分類とその構造、性質について学習する。	教科書79~8ページをよく読んでおくこと。 生化学きほんノート第3章「脂質」(19~29ページ)を予習、復習に用いる。	180分
第6回	脂質の代謝①	脂質は生体内でどのような代謝物に変換するかを学習する。 コレステロール代謝・リン脂質の合成・イコサノイドの種類と機能について学習する。	教科書 85~95ページをよく読んでおくこと。 生化学基本ノート第10章「脂質代謝」(113~122ページ)を予習、復習に用いる。	180分
第7回	脂質の代謝②	脂肪酸合成・リポたんぱく質と脂質の輸送について理解する。	教科書95~103ページをよく読んでおくこと。 生化学きほんノート第10章「脂質代謝」(113~122ページ)を予習、復習に用いる。	240分
第8回	アミノ酸・たんぱく質の構造	最も重要な生体物質として位置づけられるたんぱく質の構造と機能について学習する。生化学反応の触媒、運動、物質の運搬など、生命活動の至るところでたんぱく質は働いている。たんぱく質は20種類のアミノ酸からなり、それらの構成アミノ酸の数、種類、結合順序がことなると、性質や働きも異なってくる。	教科書 104~112ページをよく読んでおくこと。 生化学きほんノート第4章「タンパク質」(31~40ページ)を予習、復習に用いる。	240分
第9回	アミノ酸・たんぱく質の代謝①	たんぱく質の分解 アミノ酸の代謝 アミノ基転移反応・酸化的脱アミノ反応について理解する。個々のアミノ酸の代謝と生成物について理解する。	教科書 112~119ページをよく読んでおくこと。 生化学きほんノート第11章「タンパク質代謝」(123~134ページ)を予習、復習に用いる。	180分
第10回	アミノ酸・たんぱく質の代謝②	尿素回路、神経伝達物質について理解する。	教科書119~122をよく読んでおくこと。 生化学きほんノート第11章「タンパク質代謝」(123~134ページ)を予習、復習に用いる。	240分
第11回	核酸代謝	ヌクレオチドの生合成、ヌクレオチドの分解とサルベージ経路、デオキシリボヌクレオチドの合成などヌクレオチドの代謝の基礎を学習する。	教科書 125~129ページを読んでおくこと。 生化学きほんノート第13章「核酸代謝」(135~144ページ)を予習、復習に用いる。	180分
第12回	たんぱく質の生合成・遺伝子発現の調節	たんぱく質の生合成の機序、遺伝子発現について理解する。	教科書 130~138ページをよく読んでおくこと。 生化学きほんノート第14章「遺伝情報とその発現」(145~155ページ)を予習、復習に用いる。	180分
第13回	酵素と代謝①	酵素はたんぱく質のみから成るものと、たんぱく質以外の補助因子を含むものがあるが、いずれも反応速度を大きく促進する機能を示す。第7回では、まず、酵素の分類と性質について学習する。	教科書 145~152ページをよく読んでおくこと。 生化学きほんノート第9章「酵素」(75~87ページ)を予習、復習に用いる。	180分
第14回	酵素と代謝②	酵素は、反応が触媒される場合、最初に酵素—基質複合体を生成する。酵素の濃度と反応速度との関係について学ぶ。また、酵素反応の阻害についても学習する。	教科書 153~158ページをよく読んでおくこと。 生化学基本ノート第9章「酵素」(75~87ページ)を予習、復習に用いる。	180分
第15回	遺伝子と生体情報	DNAと遺伝子、遺伝子の多様性、DNAの損傷と修復など遺伝子と生体情報の基礎について学ぶ。	生化学きほんノート第14章「遺伝情報とその発現」(145~155ページ)を予習、復習に用いる。	420分
第16回				

学生へのフィードバック方法	授業ごとの小テストや確認テストの解説は次回授業にて行う。質問等がある場合には、授業後に質問に来ること。				
評価方法	平常点では、出席を含む小テスト、確認テストの点数及び間違い直しの課題提出を重視する。各回の授業にて小テスト、確認テスト対策を行い、理解を深めること。 定期試験では、小テスト、確認テストの振り返りや、管理栄養士国家試験の出題形式に基づく選択式の問題を含む。 小テスト、確認テスト、及び定期試験は、下記に示す力を養うことを目的に実施している。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	出席、小テスト	○	○	○	
	確認テスト	○	○	○	
	定期試験	○	○	○	
	課題提出	○		○	
評価割合	出席、小テスト、確認テストを含む平常点 (50%)、定期試験 (50%) で評価する。				
使用教科書名 (ISBN番号)	基礎から学ぶ生化学 (南江堂) (978-4-254-24651-9) 生化学きほんノート (南山堂) (978-4-525-13151-7)				
学生へのメッセージ	「生化学きほんノート」を予習、復習用の課題として教科書に指定しました。本講義終了までに、「生化学きほんノート」の内容はすべてマスターできるように、毎回予習、復習に十分に時間を取ってください。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング					
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	代謝栄養学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 三島 綾子	指定なし

ナンバリング	R30206M21
授業概要(教育目的)	生化学等の学習の上に、代謝とその調節、恒常性を維持するホルモンの作用、及び免疫のしくみについて学び、生化学における各論部分を学習する。栄養素との関連を重視しながら、栄養素の代謝の仕組み、食生活、環境の変化に対する生体機能の適応の仕組みについて学ぶ。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1、生体における代謝調節のしくみについて理解する。 2、食生活、環境の変化に対する生体機能の調節のしくみについて理解する。
思考・判断の観点 (K)	1、これまでに生化学(総論)で学習した概念を生化学の学習に応用する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1、予習、復習、授業毎の小テスト、確認テストで理解度を深める。 2、小テスト、確認テストの間違い直しを積極的に行う。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	代謝とは	異化と同化、物質の代謝、生体のエネルギー源、など代謝の基本的概念について学ぶ	代謝ガイドブック p12から19をよく読んでおくこと	180分
第2回	栄養素(糖質、脂質、タンパク質)	直接生体のエネルギー源になる、「三大栄養素」糖質、脂質、タンパク質の代謝について学ぶ。	代謝ガイドブック p22から40をよく読んでおくこと	180分
第3回	栄養素(核酸、核酸の代謝、ビタミン、ミネラル)	核酸の構造の確認、核酸の代謝について学ぶ。ビタミン、ミネラルの働きについて学ぶ。	代謝ガイドブック p40から53をよく読んでおくこと	180分
第4回	第4回	栄養素を分解し、エネルギーを作り出し、それによってさまざまな運動を行い、熱を生産し、身体の恒常性を維持して生命活動を維持する。代謝の全体像について学	代謝ガイドブック p56から61をよく読んでおくこと	180分

		ぶ。 糖質の分解と吸収、タンパク質の分解と吸収、脂肪の分解と吸収など、細胞における代謝の経路の概観について学ぶ。		
第5回	エネルギーの産生	ヒトの生体内で利用されるエネルギー源は主にATPである。吸収された三大栄養素がどのような過程でATPを産生していくのかについて学ぶ。	代謝ガイドブック p90から105をよく読んでおくこと	180分
第6回	ミトコンドリアの働き	ミトコンドリアでは、TCAサイクル、およびそれに続く電子伝達系、酸化リン酸化などの役割をもち、効率よくATPを産生する。ミトコンドリアのTCA回路に入る前の各栄養素の代謝、TCA回路、電子伝達系の詳細について学ぶ。	代謝ガイドブック p108から114をよく読んでおくこと	180分
第7回	肝臓の働き①	肝臓では、糖や脂質、タンパク質などの合成、分解、胆汁生成と分泌などを行っている。糖質の代謝、糖新生、ケトン体の生成の詳細について学ぶ。	代謝ガイドブック p116から125をよく読んでおくこと	240分
第8回	肝臓の働き②	タンパク質の代謝、オルニチン回路、脂肪の代謝の詳細について学ぶ。	代謝ガイドブック p126から136をよく読んでおくこと	240分
第9回	筋と代謝	筋の構造と収縮、収縮のエネルギー源（代謝）について学ぶ。	代謝ガイドブック p138から149をよく読んでおくこと	180分
第10回	遺伝子と生体情報	DNAと遺伝子、染色体、ゲノムなどの詳細について学ぶ。	生化学 p165～175をよく読んでおくこと	240分
第11回	DNAとたんぱく質の合成	遺伝子発現、転写調節による遺伝子発現の調節、遺伝子解析の現状について学ぶ	生化学 p176～191をよく読んでおくこと	180分
第12回	細胞内環境と生体機能	水の生理機能、水と細胞内環境、電解質濃度の調節、腎臓における尿の生成について学ぶ。	生化学 p193～200をよく読んでおくこと	180分
第13回	生体内情報伝達系と生体機能	情報伝達物質の種類とその伝達経路、ホルモンと生体調節について学ぶ。	生化学 p201～216をよく読んでおくこと	180分
第14回	血液と生体	血液の機能、白血球と生体防御、血小板と血液凝固について学ぶ	生化学 p217～223をよく読んでおくこと	180分
第15回	生体防御機構	生体防御機構における免疫系のしくみについて学ぶ。	生化学 p225～236をよく読んでおくこと	420分
第16回				

学生へのフィードバック方法	授業ごと的小テストや確認テストの解説は次回授業にて行う。質問等がある場合には、授業後に質問に来ること。
---------------	---

評価方法	平常点では、出席を含む小テスト、確認テストの点数及び間違い直しの課題提出を重視する。各回の授業にて小テスト、確認テスト対策を行い、理解を深めること。 定期試験では、小テスト、確認テストの振り返りや、管理栄養士国家試験の出題形式に基づく選択式の問題を含む。 小テスト、確認テスト、及び定期試験は、下記に示す力を養うことを目的に実施している。
------	---

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
出席、小テスト	○	○	○	
確認テスト	○	○	○	
定期試験	○	○	○	
課題提出	○		○	

評価割合	出席、小テスト、確認テストを含む平常点（40％）、定期試験（60％）で評価する。
------	--

使用教科書名 (ISBN番号)	代謝ガイドブック（技術評論社）（978-4-7741-6499-1） 生化学（化学同人）（978-4-7598-1236-7）
-----------------	--

参考図書	生化学きほんノート（南山堂）（978-4-525-13151-7）
------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	毎回の授業の前に、生化学の内容を「生化学きほんノート」などで十分に復習してから授業に出席してください。これまでの復習をしておくこと代謝栄養学の内容がスムーズに理解できます。
-----------	--

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	栄養学・生化学実験 (RA)		
講義開講時期	後期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限後半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岩本 直樹	指定なし
准教授	山崎 薫	指定なし

ナンバリング	R20205M13
授業概要 (教育目的)	<p>栄養学・生化学実験では食品学実験でも扱う栄養素成分に対して生体試料の側面から採り上げ、分析する力を学ぶ。実験遂行に際し、必然となる事前準備や手法、試料の扱い方を体得していく。人体に対する実験的学びの中で必要とされる倫理面に対する留意事項に関しても学ぶ。本科目は現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科である。また、食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する必修科目、HACCP管理者資格取得に必要な選択科目でもある。</p>
履修条件	基礎的な生物、化学を理解し、関係教科を履修済み、履修中であることが望ましい。

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	各関係教科の知識と理解を応用し、結果の予測、得られた結果の考察に活用できる。
思考・判断の観点 (K)	栄養学・生化学領域の講義で修得した成分、生体物質の構造および機能について、客観的に実験手法を分析し、結果を解析できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	使命感と責任感をもって職務を遂行するためのコミュニケーションがとれる。
技術・表現の観点 (A)	各実験における機器・器具を正しく操作活用できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	実験の心得 (担当: 岩本)	使用機器・器具の予備知識, 実験対象試料と研究倫理を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第2回	消化試験 1 (担当: 岩本)	唾液アミラーゼによるデンプンの分解を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第3回	消化試験 2 (担当: 岩本)	膵液による脂質の消化試験を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第4回	消化試験 3 (担当: 岩本)	膵液によるタンパク質の消化試験を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分

	本)			
第5回	生体成分の分析法(栄養学)1 (担当:岩本)	血液成分に関する実験(血糖の定量:ムタロラーゼ・GOD法)を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第6回	生体成分の分析法(栄養学)2 (担当:岩本)	血液成分に関する実験(血中中性脂肪・コレステロール・遊離脂肪酸の定量)を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第7回	生体成分の分析法(栄養学)3 (担当:岩本)	尿成分に関する実験(尿中クレアチニンの定量)を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第8回	実験準備 (担当:山崎)	各実験における試薬準備等の事前準備(試薬調製、機器準備)を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第9回	生体反応の分析法(生化学)1 (担当:山崎)	DNAプロファイリング実験(PCR)①PCRを用いたDNA増幅	実験におけるレポートを作成する。	60分
第10回	生体反応の分析法(生化学)2 (担当:山崎)	DNAプロファイリング実験(電気泳動)②PCR産物の電気泳動	実験におけるレポートを作成する。	60分
第11回	生体反応の分析法(生化学)3 (担当:山崎)	DNAプロファイリング実験③解析, タンパク質精製実験① 細菌を用いたライブラリ構築	実験におけるレポートを作成する。	60分
第12回	生体反応の分析法(生化学)4 (担当:山崎)	タンパク質精製実験②スクリーニングと培養	実験におけるレポートを作成する。	60分
第13回	生体反応の分析法(生化学)5 (担当:山崎)	タンパク質精製実験③タンパク質抽出	実験におけるレポートを作成する。	60分
第14回	生体反応の分析法(生化学)6 (担当:山崎)	タンパク質精製実験③カラムクロマトグラフィーを用いたタンパク質精製と解析	実験におけるレポートを作成する。	60分
第15回	総括と学習到達度の確認テスト (担当:岩本・山崎)	1回目~14回目の実習についての総括を行い、授業の一部で学習到達度の確認テストを実施する。	確認テストの復習をする。	60分

学習計画注記	※シラバスの内容は、やむをえない事情等により一部修正することがある。			
学生へのフィードバック方法	提出されたレポートは、評価した後に返却する。確認テストも同様に問題用紙は返却する。質問等がある場合には1201研究室(岩本)または2308研究室(山崎)まで訪問すること。			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・科目確認テスト40%、レポート評価50%および実習態度10%で総合的に評価する(小数点以下は四捨五入)。ただし、確認テストの点数が60%未満の者は再試験を行う。 ・確認テストは実習の振り返りを行い、100点満点で出題する。また、出題の傾向については、第13回の実験にて説明する。 ・レポート、確認テストおよび実習態度は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。 			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解(K)	思考・判断(K)	関心・意欲・態度(V)	技術・表現(A)

レポート	○	○		
確認テスト	○	○		○
実験態度			○	

評価割合	科目確認テスト40%、レポート評価50%および実習態度10%で総合的に評価（小数点以下は四捨五入）
使用教科書名 (ISBN番号)	田村明 他編『イラスト基礎栄養学』東京教学社（978-4-8082-6053-8）（岩本） 必要内容資料を適宜配布（山崎）
参考図書	各関係教科の教科書、授業配布資料等
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。 【思考・判断】多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度】実験内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。 【技術・表現】専門的技術を身につける。
オフィスアワー	月曜4限 1201研究室（岩本） 月曜3限 2308研究室（山崎）
学生へのメッセージ	実習時は白衣（実験用）を着用のこと。 レポートの提出は、提出期限・形式を守ること。 授業内容を事前に教科書などで予習すること。 現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科でもあります。 また、食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する必修科目、HACCP管理者資格取得に必要な選択科目でもあります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	生化学領域においては、担当教員が食製造現場等における現地調査等を行った実務経験より、実験内容がヒトと食においてどのように活用されているか、今後、活用されるかについても紹介する。
アクティブ・ラーニング	○	指定された班員において、実験を協同し、得られた実験結果を共有、解析する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食品学総論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 山崎 薫	指定なし

ナンバリング	R10301M21																						
授業概要(教育目的)	食品はヒトにとって大変身近な存在であり、生命維持に必要不可欠な存在である。食品の成分を理解し、日々の生活の維持、健康増進のために役立てる知識を自身が実動的に活用、また第三者へも提供できる基盤となる知識を食品が有する三つの基本的機能（一次機能：栄養特性、二次機能：嗜好特性、三次機能：健康機能特性）を柱に本講義では学びを展開する。そのために食品を構成する成分を化学的に捉えられるようになる学びに加え、近年の食品に関する法律の変化も捉えながら知識を深める講義展開を行う。本科目は現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修科目であり、卒業要件科目である。また、食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する必修科目、中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状（家庭）に必要な選択科目でもある。																						
履修条件	高校までの生物、化学の知識を有していることが望ましい。																						
学習目標(到達目標)	学習目標（到達目標）																						
知識・理解の観点 (K)	食品の成分と機能を説明することができる。																						
思考・判断の観点 (K)	様々な食品を扱う際に食品の成分と機能の知識を基に思考、判断できる。																						
関心・意欲・態度の観点 (V)	食の諸問題対処に対し、食品の成分や機能を基に意欲をもって対処できる。																						
技術・表現の観点 (A)	食品の成分と機能に関し、他者に正しく伝える文章を作成できる。																						
学習計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業テーマ</th> <th>学習内容(7ヶ月のラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)</th> <th>教室外学習(予習・復習)の内容</th> <th>教室外学習の時間(分)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>人間と食品(食べ物)</td> <td>1. 食文化と食生活、2. 食生活と健康、3. 食料と環境問題を理解する。</td> <td>教科書；第1章「人間と食品(食べ物)」(12～25ページ)を読んでおくこと。</td> <td>予習90分、復習90分</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>食品の一次機能(食品成分の化学)①</td> <td>1. 食品の一次機能とは、2. 炭水化物(糖質、食物繊維)の構造と種類と特性を理解する。</td> <td>教科書；第2章「食品の一次機能(食品成分の化学)」(26～43ページ)を読んでおくこと。</td> <td>予習90分、復習90分</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>食品の一次機能(食品成分の化学)②</td> <td>3. 脂質の構造と種類と特性を理解する。</td> <td>教科書；第2章「食品の一次機能(食品成分の化学)」(43～57ページ)を読んでおくこと。</td> <td>予習90分、復習90分</td> </tr> </tbody> </table>			回	授業テーマ	学習内容(7ヶ月のラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)	第1回	人間と食品(食べ物)	1. 食文化と食生活、2. 食生活と健康、3. 食料と環境問題を理解する。	教科書；第1章「人間と食品(食べ物)」(12～25ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分	第2回	食品の一次機能(食品成分の化学)①	1. 食品の一次機能とは、2. 炭水化物(糖質、食物繊維)の構造と種類と特性を理解する。	教科書；第2章「食品の一次機能(食品成分の化学)」(26～43ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分	第3回	食品の一次機能(食品成分の化学)②	3. 脂質の構造と種類と特性を理解する。	教科書；第2章「食品の一次機能(食品成分の化学)」(43～57ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
回	授業テーマ	学習内容(7ヶ月のラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)																			
第1回	人間と食品(食べ物)	1. 食文化と食生活、2. 食生活と健康、3. 食料と環境問題を理解する。	教科書；第1章「人間と食品(食べ物)」(12～25ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分																			
第2回	食品の一次機能(食品成分の化学)①	1. 食品の一次機能とは、2. 炭水化物(糖質、食物繊維)の構造と種類と特性を理解する。	教科書；第2章「食品の一次機能(食品成分の化学)」(26～43ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分																			
第3回	食品の一次機能(食品成分の化学)②	3. 脂質の構造と種類と特性を理解する。	教科書；第2章「食品の一次機能(食品成分の化学)」(43～57ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分																			

第4回	食品の一次機能（食品成分の化学）③	4. タンパク質の構造と種類と特性について理解する。	教科書；第2章「食品の一次機能（食品成分の化学）」（57～69ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第5回	食品の一次機能（食品成分の化学）④	5. ビタミンのの構造と種類と特性を理解する。	教科書；第2章「食品の一次機能（食品成分の化学）」（69～77ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第6回	食品の一次機能（食品成分の化学）⑤	6. ミネラル（無機質）の構造と種類と特性、7. 核酸・核酸の構成成分を理解する。	教科書；第2章「食品の一次機能（食品成分の化学）」（77～89ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第7回	食品の二次機能（嗜好成分の化学）①	1. 食品の二次機能、2. 水分、3. 食品中に含まれる色素成分の分類と特徴を理解する。	教科書；第3章「食品の二次機能（嗜好成分の化学）」（90～107ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第8回	食品の二次機能（嗜好成分の化学）②	4. 呈味成分（味とは、甘味成分、酸味成分、苦味成分、塩味成分、うまみ成分）を理解する。	教科書；第3章「食品の二次機能（嗜好成分の化学）」（107～111ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第9回	食品の二次機能（嗜好成分の化学）③	5. 香り・におい成分、6. 官能評価、7. 有害成分（植物・動物性、アレルゲン、突然変異原性物質）を理解する。	教科書；第3章「食品の二次機能（嗜好成分の化学）」（111～122ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第10回	食品の三次機能（食品の健康機能性）①	1. 食品の三次機能とは、2. 機能性食品とは、3. 口腔内や消化管内で作用する機能を理解する。	教科書；第4章「食品の三次機能（食品の健康機能性）」（123～131ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第11回	食品の三次機能（食品の健康機能性）②	4. 消化管吸収後の標的組織における生理機能調節を理解する。	教科書；第4章「食品の三次機能（食品の健康機能性）」（131～137ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第12回	食品成分の変化①	1～4. 炭水化物・脂質・たんぱく質・ビタミンの変化、5. 成分の相互作用による変化を理解する。	教科書；第5章「食品成分の変化」（138～149ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第13回	食品成分の変化②	6・7. 褐変、光による変化、8. 加圧・加圧・減圧による変化、9. 酵素による変化を理解する。	教科書；第5章「食品成分の変化」（150～161ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第14回	食品の物性	1. 食品の物性とは、2. コロイド、3. レオロジー、4. テクスチャーを理解する。	教科書；第6章「食品の物性」（162～175ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第15回	食品の表示と規格基準	1. 食品表示制度、2. 健康や栄養に関する表示の制度、3. 基準について理解する。	教科書；第7章「食品の表示と規格基準」（176～196ページ）を読んでおくこと。 第1回から第15回の授業内容を復習しておくこと。	予習90分、復習90分

学習計画注記	* 授業展開において、履修者数や授業進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業内において、必要事項を適宜、フィードバックします。また、質問等がある場合は町田校舎2308研究室へ訪問、もしくはメールにて連絡して下さい。訪問される際は事前にメールで連絡し、アポイントをとって下さい。
評価方法	課題レポート20%、定期試験（筆記試験）80%の総合評価（100%）とします。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題レポート	○	○	○	
定期試験（筆記試験）	○	○		

評価割合	課題レポート20%、定期試験（筆記試験）80%の総合評価（100%）
------	------------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	栄養科学イラストレイテッド 食品学 I 食べ物と健康—食品の成分と機能を学ぶ／羊土社 水品善之、菊崎泰枝、小西洋太郎／編
-----------------	---

	定価2600+税
参考図書	授業内で必要に応じて、紹介します。
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。</p> <p>【思考・判断】多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。</p> <p>【関心・意欲・態度】食品の成分と機能に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。</p> <p>【技術・表現】専門的知識を他者に正しく伝える文章力を身につける。</p>
オフィスアワー	月曜3限 2308研究室 授業前後、メール等で事前に予約と時間の承諾を得てください。
学生へのメッセージ	<p>食品を理解するために基礎生物学、基礎化学に始まり、有機化学的な学びの要素も出てきます。それらの学びは苦手なほど、共通科目や学科専門科目で学びを深めておいて下さい。</p> <p>現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科でもあります。</p> <p>また、食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する必修科目、中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状（家庭）に必要な選択科目でもあります。</p>

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、授業展開を行う。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食品学各論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 山崎 薫	指定なし

ナンバリング	R20302M21
授業概要(教育目的)	多種多様な食品を利用し、ヒトは生命を維持しながら、多彩な食文化を構築し、食生活を営んでいる。食生活形成においては食材の特性を知り、有効活用できる能力が必要である。本講義においては、日本食品標準成分上の分類ごとの特性と属する食品素材に加え、グローバル化する現況を鑑み、輸入食材や新たな食素材にも視点をおき、選択を的確に行うために必要な専門的知識を学ぶ授業展開を行う。現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科である。食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格取得、フードスペシャリスト(専門を含む)受験資格、フードコーディネーター3級認定登録に関する必修科目でもある。家庭科の中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状の資格取得の選択科目でもある。
履修条件	高校までの生物、化学の知識を有していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	多種多様な食品の特性とその利用について専門的知識を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	多種多様な食品の特性を活かした思考、応用判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	多種多様な食品の特性に関心を持ち、応用展開ができる。
技術・表現の観点 (A)	多種多様な食品の特性を他者へ正しく伝える文章を作成できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	食品の分類と食品成分表	1. 分類の種類、2. 食品成分表の理解について理解する。	教科書; 第1章「食品の分類と食品成分表」(12~26ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第2回	植物性食品①	1. 穀類(種類と特徴、米、小麦、大麦、とうもろこし、そば、その他)について理解する。	教科書; 第2章「植物性食品」(27~36ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第3回	植物性食品②	2. いも類(種類と特徴、じゃがいも、さつまいも、その他)、3. 豆類(種類と特徴、大豆、雑豆類)について理解する。	教科書; 第2章「植物性食品」(36~51ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第4回	植物性食品③	4. 種実類(種類と特徴、ごま、アーモンド、その他)、5. 野菜類①(種類と特徴、葉菜、根菜)について理解する。	教科書; 第2章「植物性食品」(51~62ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分

		る。	こと。	
第5回	植物性食品④	5. 野菜類②(果菜、茎菜、花菜、その他)、6. 果実類(種類と特徴、成分、加工特性)について理解する。	教科書;第2章「植物性食品」(62~68ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第6回	植物性食品⑤	7. きのこと類(種類と特徴、成分、加工特性)、8. 藻類(種類と特徴、成分、加工特性)について理解する。	教科書;第2章「植物性食品」(68~81ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第7回	動物性食品①	1. 食肉類(種類と特徴、成分変化、牛、豚、鶏、その他の食肉;ジビエ等、加工特性)について理解する。	教科書;第3章「動物性食品」(82~91ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第8回	動物性食品②	魚介類(種類と特徴、成分、品質特性、加工特性等)について理解する。	教科書;第3章「動物性食品」(92~104ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第9回	動物性食品③	乳類(種類と特徴、成分、飲用乳、乳製品等)について理解する。	教科書;第3章「動物性食品」(104~111ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第10回	動物性食品④	卵類(種類と特徴、構造、成分、調理加工特性、品質判定、栄養強化卵等)について理解する。	教科書;第3章「動物性食品」(112~119ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第11回	油脂	1. 食用油脂の特徴と分類、2. 植物性油脂、3. 動物性油脂、4. 加工油脂(マーガリン類、ショートニング、低カロリー油脂代替物)について理解する。	教科書;第4章「油脂」(120~137ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第12回	調味料、香辛料、嗜好飲料	1. 甘味料(天然、合成)、2. 調味料(食塩等)、3. 香辛料、4. 嗜好飲料(茶類、コーヒー、ココア、清涼飲料)について理解する。	教科書;第5章「調味料、香辛料、嗜好飲料」(138~162ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第13回	加工食品	1. 加工食品とは、2. 一次加工食品、3. 二次加工食品、4. 三次加工食品、5. 食品添加物について理解する。	教科書;第6章「加工食品」(163~179ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第14回	微生物利用食品、バイオ食品などの新規食品	1. 微生物利用食品(発酵食品)の分類と性質、2. アルコール飲料、3. 発酵調味料、4. その他の微生物利用食品について理解する。5. バイオテクノロジー応用食品、6. 最近の食品加工技術による食品について理解する	教科書;第7章「微生物利用食品」(180~193ページ)、第8章「バイオ食品などの新規食品」(194~204ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第15回	定期試験とまとめ	定期試験とまとめを行う。	第1~15回目の授業の振り返りを行っておくこと。	予習90分、復習90分

学習計画注記 * 授業展開において、履修者数や授業進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 授業内において、必要事項を適宜、フィードバックします。また、質問等がある場合は町田校舎2308研究室へ訪問、もしくはメールにて連絡して下さい。訪問される際は事前にメールで連絡し、アポイントをとって下さい。

評価方法 課題レポート20%、定期試験(筆記試験)80%の総合評価(100%)とします。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題レポート	○	○	○	
定期試験(筆記試験)	○	○		

評価割合 課題レポート20%、定期試験(筆記試験)80%の総合評価(100%)

使用教科書名(ISBN番号) 栄養科学イラストレイテッド 食品学Ⅱ 食べ物と健康—食品の分類と特性、加工を学ぶ/羊土社 栢野新市、水品善之、小西洋太郎/編 定価2700円+税 2017年2月15日発行 B5判 216ページ

参考図書 栄養科学イラストレイテッド 食品学Ⅰ 食べ物と健康—食品の成分と機能を学ぶ/羊土社 水品善之、菊崎泰枝、小西洋太郎/編 定価2600円+税 2018年2月15日発行 B5判 208ページ

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。
【思考・判断】多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】食品の分類と特性に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
【技術・表現】専門的知識を他者に正しく伝える文章力を身につける。

オフィスアワー	水曜5限 2308研究室 授業前後、メール等で事前に予約と時間の承諾を得て下さい。
学生へのメッセージ	<p>食品を理解するために基礎生物学、基礎化学に始まり、有機化学的な学びの要素も出てきます。それらの学びは苦手なほど、共通科目や学科専門科目で学びを深めておいて下さい。</p> <p>現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科でもありません。食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格取得、フードスペシャリスト（専門を含む）受験資格、フードコーディネーター3級認定登録に関する必修科目でもあります。家庭科の中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状の資格取得の選択科目でもあります。</p> <p>1年次「食品学総論」で使用した教科書（参考図書部分に記載）毎回、持参して下さい。</p>

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、授業展開を行う。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食品学実験 (RA)		
講義開講時期	前期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 山崎 薫	指定なし

ナンバリング	R20303M13
授業概要(教育目的)	健康の維持・増進に不可欠な各種食品成分の栄養特性・成分変化、性質を実践的に理解するために、食品に係わる分析法、分析技術、分析値の解析を学ぶ授業展開を行う。また、実験を行うにあたり必要となる化学実験における一般的注意事項や試薬・器具・機器の取り扱いについても学びながら、科学的な考え方や技術を学ぶ授業展開も行う。現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科である。また、食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する必修科目、フードスペシャリスト(専門を含む)受験資格に必要な必修科目でもある。
履修条件	高校までの生物、化学の知識を有していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	食品の成分分析の基礎と併せて理化学試験を遂行する知識を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	倫理的、客観的視野から実験結果を捉える思考、判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	実験を編成された班で協同遂行し、実験工程における試料変化等に関心を持ち、実験工程、結果を観察し、情報共有ができる。
技術・表現の観点 (A)	安全性と倫理性に留意した精密で正確な実験操作ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	実験を行うための基礎知識・基礎実験を行う準備①	食品学実験を行う注意事項、試薬調製、実験器具、基本操作を理解し、実働する。 実験器具の洗浄と乾燥を行う。	1. 教科書や参考図書の関連部分(多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う)、並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第2回	実験を行うための基礎知識・基礎実験を行う準備②	食品学実験を行う注意事項、試薬調製、実験器具、基本操作を理解し、実働する。 計測器具・機器の特性把握を行う。 試薬調製を行う。	1. 教科書や参考図書の関連部分(多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う)、並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分

第3回	定性分析と定量分析①	容量分析；中和滴定（水酸化ナトリウム溶液の標定）を行う。 食品成分定量実験用試料調製を行う。 水分の定量；常圧加熱乾燥法用秤量びん恒量① 灰分の定量；直接灰化法用つぼの恒量①	1. 教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第4回	定性分析と定量分析②	容量分析；中和滴定（食酢中の酢酸の定量）を行う。 食品成分定量実験用試料調製を行う。 水分の定量；常圧加熱乾燥法用秤量びん恒量② 灰分の定量；直接灰化法用つぼの恒量②	1. 教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第5回	定性分析と定量分析③	容量分析；沈澱滴定（醤油中の食塩の定量）を行う。 食品成分定量実験用試料調製を行う。 水分の定量；常圧加熱乾燥法用秤量びん恒量③ 灰分の定量；直接灰化法用つぼの恒量③	1. 教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第6回	定性分析と定量分析④	強酸と強塩基の滴定曲線作成を行う（pH測定）。 水分の定量；試料の乾燥又は灼熱～秤量① 灰分の定量；試料の乾燥又は灼熱～秤量①	1. 教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第7回	定性分析と定量分析⑤	タンパク質・アミノ酸の定性反応実験を行う。 水分の定量；試料の乾燥又は灼熱～秤量② 灰分の定量；試料の乾燥又は灼熱～秤量②	1. 教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第8回	定性分析と定量分析⑥	脂質の定性反応実験を行う。 水分の定量；試料の乾燥又は灼熱～秤量③ 灰分の定量；試料の乾燥又は灼熱～秤量③	1. 教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第9回	定性分析と定量分析⑦	糖の定性反応実験を行う。 脂質の定量；ソックスレー抽出法；受器（脂肪定量びん）恒量①	1. 教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第10回	定性分析と定量分析⑧	脂質の定量；ソックスレー抽出法；試料と円筒ろ紙精秤、受器（脂肪定量びん）恒量② タンパク質の定量；ケルダール法；試薬調製	1. 教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第11回	定性分析と定量分析⑨	脂質の定量；ソックスレー抽出法；脂質抽出 タンパク質の定量；ケルダール法；試薬調製、試料調製	1. 教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第12回	定性分析と定量分析⑩	脂質の定量；ソックスレー抽出法；脂質抽出後の受器（脂肪定量びん）恒量① タンパク質の定量；ケルダール法；試料の分解	1. 教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第13回	定性分析と定量分析⑪	脂質の定量；ソックスレー抽出法；脂質抽出後の受器（脂肪定量びん）恒量② タンパク質の定量；ケルダール法；蒸留・中和滴定①	1. 教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでおくこと。	予習30分、復習60分

			と。 2. 実験レポートを作成すること。	
第14回	定性分析と定量分析⑫	タンパク質の定量：ケルダール法：蒸留・中和滴定①	1. 教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでください。 2. 実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第15回	定性分析と定量分析⑬と実技+筆記試験	分析データのまとめを行う。 実技+筆記試験を行う。	1. 教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでください。 2. 実験レポートを作成すること。 3. 第1回～第14回の復習を行うこと。	予習30分、復習60分

学習計画注記 * 授業展開において、履修者数や授業進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 授業内において、必要事項を適宜、フィードバックします。また、質問等がある場合は町田校舎2308研究室へ訪問、もしくはメールにて連絡して下さい。訪問される際は事前にメールで連絡し、アポイントをとって下さい。

評価方法 実験態度（編成された班における協同の様子等）25%、実験結果解析・課題レポート45%、実技試験（実験操作）10%、筆記試験（全15回授業内容）20%の総合評価（100%）とします。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
実験態度	○	○	○	○
レポート	○	○		
実技試験	○	○		○
筆記試験	○	○		

評価割合 実験態度（編成された班における協同の様子等）25%、実験結果解析・課題レポート45%、実技試験（実験操作）10%、筆記試験（全15回授業内容）20%の総合評価（100%）

使用教科書名 (ISBN番号) 食品学総論実験／同文書院 江角彰彦 著
定価2640円（税込）ISBN 978-4-8103-1345-1

参考図書 栄養科学イラストレイテッド 食品学Ⅰ 食べ物と健康—食品の成分と機能を学ぶ／羊土社
水品善之、菊崎泰枝、小西洋太郎／編 定価2600+税
栄養科学イラストレイテッド 食品学Ⅱ 食べ物と健康—食品の分類と特性、加工を学ぶ／羊土社
栢野新市、水品善之、小西洋太郎／編 定価2700円+税

ディプロマポリシーとの関連
【知識・理解】食品の専門的な知識を基礎に多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。
【思考・判断】多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】実験内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
【技術・表現】食品成分分析における専門的技術を身につける。

オフィスアワー 水曜5限 2308研究室 授業前後、メール等で事前に予約と時間の承諾を得て下さい。

学生へのメッセージ 食品を理解するために基礎生物学、基礎化学に始まり、有機化学的な学びの要素も出てきます。それらの学びは苦手なほど、共通科目や学科専門科目で学びを深めておいて下さい。
現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科でもあります。
また、食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する必修科目、フードスペシャリスト（専門を含む）受験資格に必要な必修科目でもあります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、授業展開を行う。
アクティブ・ラ	○	指定されたグループで協同かつ得られた結果を共有し、共に解析を行う。

ーニング		
情報リテラシー 教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食品衛生学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 山崎 薫	指定なし

ナンバリング	R30304M21
授業概要(教育目的)	食品に対する多様な要望の中でも安全性は基本的必要条件である。食品衛生の対象は食品だけでなく食品添加物、器具、容器包装、おもちゃ、洗剤なども含まれる。近年の食中毒の発生状況からみた傾向、食品添加物の安全性と発ガンの問題、食品と感染症や寄生虫との関係などについての理解を深め、食生活の中で留意すべき点についても学ぶ。現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科である。食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格取得、フードスペシャリスト(専門を含む)受験資格、フードコーディネーター3級認定登録に関する必修科目でもある。家庭科の中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状の資格取得の選択科目でもある。
履修条件	高校までの生物、化学の知識を有していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	多種多様な食品と場の安全管理に必要な専門的知識を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	多種多様な食品と場の安全確保の思考、応用判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	多種多様な食品と場の安全管理に関心をもち、応用展開ができる。
技術・表現の観点 (A)	多種多様な食品と場の安全管理に関する事項を他者へ正しく伝える文章を作成できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	食品の衛生と法規	食品の衛生概要、国内外の食品に関連する法規と組織について理解する。	教科書；第1章「食品衛生と法規」(12~37ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第2回	食品の変質①	食品の変質原因物質と食品の変質発生機序について理解する。	教科書；第2章「食品の変質」(38~44ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第3回	食品の変質②	食品の変質に対する判定方法と食品の変質防止方法について理解する。	教科書；第2章「食品の変質」(44~53ページ)を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第4回	食中毒①	食中毒の発生状況、三類感染症、細菌性食中毒①(サルモネラ属, 腸炎ビブリオ, 病原大腸菌)について理解する	教科書；第3章「食品と微生物」・第4章「食中毒」(54~	予習90分、復習90分

		る。	73ページ) を読んでおくこと。	
第5回	食中毒②	細菌性食中毒②(ウェルシュ, エルシニア, セレウス, カンピロバクター, リステリア) について理解する。	教科書; 第4章「食中毒」(74~78ページ) を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第6回	食中毒③	細菌性食中毒③(ナグビブリオ等)、ウイルス性食中毒(ノロウイルス等)、人獣共通感染症について理解する。	教科書; 第4章「食中毒」(79~83, 94~96ページ) を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第7回	食中毒④	寄生虫(魚類からの感染, 肉類からの感染, 野菜や水からの感染)、化学物質による食中毒について理解する。	教科書; 第4章「食中毒」(83~93, 97~98ページ) を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第8回	食中毒⑤	動物性自然毒(フグ毒, シガテラ毒, 麻痺性貝毒, 下痢性貝毒等) について理解する。	教科書; 第4章「食中毒」(98~100ページ) を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第9回	食中毒⑥	植物・真菌性自然毒(キノコ毒, アルカロイド配糖体, 青酸配糖体, その他) について理解する。	教科書; 第4章「食中毒」(100~106ページ) を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第10回	食品中の汚染物質①	カビ毒、内分泌かく乱物質、有害元素(水銀, カドミウム, ヒ素, 銅, スズ) について理解する。	教科書; 第5章「食品中の汚染物質」(107~122ページ) を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第11回	食品中の汚染物質②	放射性物質(人体への影響, 食品汚染)、異物混入(動物性, 植物性, 鉱物性) について理解する。	教科書; 第5章「食品中の汚染物質」(122~129ページ) を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第12回	食品添加物	食品添加物の分類と安全性評価(食品衛生法による食品添加物の分類を含む) について理解する。	教科書; 第6章「食品添加物および残留農薬等」(130~143ページ) を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第13回	残留農薬等	ポジティブリスト制度, 食品に関わる器具・容器包装, 遺伝子組換え食品等について理解する。	教科書; 第6章「食品添加物および残留農薬等」(143~155ページ) を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第14回	食品衛生管理と食品表示制度	国内外の食品衛生管理基準と食品衛生管理手法(HACCP・ISO等)、衛生事項および品質事項に関する食品表示基準等について理解する。	教科書; 第7章「食品衛生管理」(156~175ページ)、第8章「食品表示制度」(176~205ページ) を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第15回	定期試験とまとめ	定期試験とまとめを行う。	第1~15回目の授業の振り返りを行っておくこと。	予習90分、復習90分

学習計画注記	* 授業展開において、履修者数や授業進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	授業内において、必要事項を適宜、フィードバックします。また、質問等がある場合は町田校舎2308研究室へ訪問、もしくはメールにて連絡して下さい。訪問される際は事前にメールで連絡し、アポイントをとって下さい。				
評価方法	課題レポート20%、定期試験(筆記試験)80%の総合評価(100%)とします。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解(K)	思考・判断(K)	関心・意欲・態度(V)	技術・表現(A)
	課題レポート	○	○	○	
	定期試験(筆記試験)	○	○		
評価割合	課題レポート20%、定期試験(筆記試験)80%の総合評価(100%)				
使用教科書名(ISBN番号)	栄養科学イラストレイテッド 食品衛生学 改訂第2版 田崎達明/編 2019年08月20日発行 B5判 272ページ ISBN 978-4-7581-1359-5				
参考図書	トニー・ハート 恐怖の病原体図鑑 ウイルス・細菌・真菌完全ビジュアルガイド 西村書店 濱田篤郎 寄生虫ビジュアル図鑑 危険度・症状で知る人に寄生する生物 誠文堂新光社				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。 【思考・判断】多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度】食品の分類と特性に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。 【技術・表現】専門的知識を他者に正しく伝える文章力を身につける。				
オフィスアワー	水曜5限 2308研究室 授業前後、メール等で事前に予約と時間の承諾を得て下さい。				

<p>学生へのメッセージ</p>	<p>食品を理解するために基礎生物学、基礎化学に始まり、有機化学的な学びの要素も出てきます。それらの学びは苦手なほど、共通科目や学科専門科目で学びを深めておいて下さい。 現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科でもあります。食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格取得、フードスペシャリスト（専門を含む）受験資格、フードコーディネーター3級認定登録に関する必修科目でもあります。家庭科の中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状の資格取得の選択科目でもあります。</p>
------------------	--

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、授業展開を行う。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食品衛生学実験 (RA)		
講義開講時期	後期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限後半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 山崎 薫	指定なし

ナンバリング	R30305M13
授業概要(教育目的)	<p>実際に取引をされている食品の安全性はどのように確認をされているのか、基準を設定されているのか、食品を扱う・食品衛生の管理を行う・食品衛生管理の指導をする立場として必要とされる食品衛生管理手法を実際の各現場における実用性にも視点をおき、実験手法を通して講義教科で学んだ内容を体得していく。実験を行うにあたり必要となる化学実験における一般的注意事項や試薬・器具・機器の取り扱いについても学びながら、科学的な考え方や技術を学ぶ授業展開も行う。現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科である。また、食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する必修科目、フードスペシャリスト（専門を含む）受験資格に必要な必修科目でもある。</p>
履修条件	高校までの生物、化学の知識を有していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	食品衛生管理の基礎知識と併せて理化学試験を遂行する知識を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	倫理的、客観的視野から実験結果を捉える思考、判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	実験を編成された班で協同遂行し、実験工程における試料変化等に関心をもち、実験工程、結果を観察し、情報共有ができる。
技術・表現の観点 (A)	安全性と倫理性に留意した精密で正確な実験操作ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	実験を行うための基礎知識・基礎実験を行う準備	食品衛生学実験を行うための基礎知識・食品微生物学的検査を行うための事前準備を行う。	1. 教科書や参考図書の関連部分(多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う)、並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第2回	食品の微生物的検査①	発酵食品を試料とした細菌の形態観察と染色法、顕微鏡観察を行う。	1. 教科書や参考図書の関連部分(多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う)、並びに配布資料を読んでおくこと。	予習30分、復習60分

			2. 実験レポートを作成すること。	
第3回	食品の微生物的検査②	食品の一般衛生微生物検査（生菌数・大腸菌群・真菌類・黄色ブドウ球菌）を行う。	1. 教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第4回	食品の微生物的検査③	前週に採取・培養した食品の一般衛生微生物検査（生菌数・大腸菌群・真菌類・黄色ブドウ球菌）結果の解析を行う。	1. 教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第5回	環境衛生実験①	飲用水中の生菌・大腸菌検査、水道水の残留塩素試験、空中落下細菌検査を行う。	1. 教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第6回	環境衛生実験②	前週に採取・培養した飲用水中の生菌・大腸菌検査結果、空中落下細菌検査結果解析を行う。	1. 教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第7回	食品の鮮度・異常簡易試験①	調理器具・手指の細菌検査、食品成分の残留試験を行う。	1. 教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第8回	食品の鮮度・異常簡易試験②	調理器具・手指の細菌検査結果解析を行う。 魚類の鮮度試験（揮発性塩基窒素測定）を行う。	1. 教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第9回	食品の鮮度・異常簡易試験③	牛乳の鮮度試験（レサズリン試験）、卵の鮮度試験（比重測定、割卵判定）を行う。	1. 教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第10回	食品の鮮度・異常簡易試験④	油脂の変質試験（酸価試験、過酸化価試験）を行う。	1. 教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第11回	食品の理化学試験①	保存料試験（高速液体クロマトグラフィー・紫外線吸光法による定性・定量試験）を行う。	1. 教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第12回	食品の理化学試験②	着色料試験（薄層クロマトグラフィーによる定性試験、羊毛染色法試験）を行う。	1. 教科書や参考図書の関連部分（多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う）、並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第13回	食品の理化	漂白料試験（亜硫酸定性試験、通気蒸留法による定量試	1. 教科書や参考図書の関連部	予習30分、復習60分

	学試験③	験)を行う。	分(多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う)、並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実験レポートを作成すること。	
第14回	食品の理化学試験④	発色剤試験(比色法による亜硝酸塩定量試験)を行う。	1. 教科書や参考図書の関連部分(多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う)、並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実験レポートを作成すること。	予習30分、復習60分
第15回	食品の理化学試験⑤と実技+筆記試験	植物有害成分検出試験(シアン化合物)、容器包装材試験(材料判別燃焼試験)を行う。 実技+筆記試験を行う。	1. 教科書や参考図書の関連部分(多岐にわたるため実験内容に併せて指示を事前に行う)、並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実験レポートを作成すること。 3. 第1回~第15回の復習を行うこと。	予習30分、復習60分

学習計画注記	* 授業展開において、履修者数や授業進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業内において、必要事項を適宜、フィードバックします。また、質問等がある場合は町田校舎2308研究室へ訪問、もしくはメールにて連絡して下さい。訪問される際は事前にメールで連絡し、アポイントをとって下さい。
評価方法	実験態度(編成された班における協同の様子等)25%、実験結果解析・課題レポート45%、実技試験(実験操作)10%、筆記試験(全15回授業内容)20%の総合評価(100%)とします。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
実験態度	○	○	○	○
レポート	○	○		
実技試験	○	○		○
筆記試験	○	○		

評価割合	実験態度(編成された班における協同の様子等)25%、実験結果解析・課題レポート45%、実技試験(実験操作)10%、筆記試験(全15回授業内容)20%の総合評価(100%)
------	---

使用教科書名 (ISBN番号)	新しい食品衛生実験 新版第2版 西島基弘・宮澤文雄・安達修一・石川ふさ子・井部明弘・大島赴夫・金井美恵子・佐藤吉朗 三共出版 B5判 148ページ ISBN 978-4-7827-0753-1
-----------------	--

参考図書	栄養科学イラストレイテッド 食品衛生学 改訂第2版 田崎達明/編 羊土社 2019年08月20日発行 B5判 272ページ ISBN 978-4-7581-1359-5
------	---

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】食品衛生管理の専門的な知識を基礎に、多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。 【思考・判断】多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度】実験内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。 【技術・表現】食品衛生分析における専門的技術を身につける。
---------------	---

オフィスアワー	月曜3限 2308研究室 授業前後、メール等で事前に予約と時間の承諾を得て下さい。
---------	---

学生へのメッセージ	食品衛生管理を理解するために基礎生物学、基礎化学に始まり、有機化学的な学びの要素も出てきます。それらの学びは苦手なほど、共通科目や学科専門科目で学びを深めて下さい。 現代生活学部食物学科における栄養士免許証の授与資格取得に必要な必修教科であり、卒業要件教科でもあります。 また、食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する必修科目、フードスペシャリスト(専門を含む)受験資格に必要な必修科目でもあります。
-----------	--

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、授業展開を行う。

アクティブ・ラーニング	<input type="radio"/>	指定されたグループで協同かつ得られた結果を共有し、共に解析を行う。
情報リテラシー教育	<input type="checkbox"/>	
ICT活用	<input type="checkbox"/>	

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	基礎栄養学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岩本 直樹	指定なし

ナンバリング

R20401M21

授業概要(教育目的)

栄養とは何かを理解し、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割及び5大栄養素（炭水化物、脂質、タンパク質、ビタミン、無機質）の生理的意義を理解する。また、消化・吸収と栄養素の体内動態についても講義する。栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験出題基準に従い、管理栄養士・栄養士に必要な栄養学の基礎知識を理解する。本科目は、栄養士免許証およびフードスペシャリスト、教職（中高）、食品衛生監視員・食品衛生指導者、フードコーディネーター取得のための必須科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1. 栄養に関する基本用語を説明することができる。 2. 5大栄養素の体内での変化、生理的作用並びに相互作用について説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	1. 各栄養素がからだの中に入ると消化器官のどこでどのような作用を受け、どのような作用を發揮するのかを類別できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	栄養の概論	栄養の定義、栄養学の歴史を学ぶ。	教科書の第1章(p1-12)を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第2回	摂食行動	生活リズムと食生活、摂食の調節について学ぶ。	教科書の第2章(p13-19)を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第3回	炭水化物の栄養(1)	炭水化物の消化・吸収について学ぶ。	教科書の第5章(p53-65)を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第4回	炭水化物の	炭水化物の体内代謝について学ぶ。	教科書の第5章(p53-65)を通	120分

	栄養（2）		読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	
第5回	脂質の栄養（1）	脂質の消化と吸収について学ぶ。	教科書の第6章（p67-77）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第6回	脂質の栄養（2）	脂質の体内代謝、脂質代謝異常と動脈硬化について学ぶ。	教科書の第6章（p67-77）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第7回	タンパク質の栄養（1）	アミノ酸とタンパク質とは何か、タンパク質の消化と吸収について学ぶ。	教科書の第4章（p39-52）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第8回	タンパク質の栄養（2）	タンパク質の体内代謝について学ぶ。	教科書の第4章（p39-52）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第9回	ビタミンの栄養（1）	脂溶性ビタミンの働きと摂取量について学ぶ。	教科書の第7章（p79-97）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第10回	ビタミンの栄養（2）	水溶性ビタミンの働きと摂取量について学ぶ。	教科書の第7章（p79-97）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第11回	無機質の栄養	多量元素・微量元素の働きと摂取量について学ぶ。	教科書の第8章（p99-112）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第12回	機能性非栄養成分	水・食物繊維について学ぶ。	教科書の第9章（p113-121）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第13回	消化と吸収と栄養素の体内動態（1）	消化器系の構造と機能（消化の場・仕組み）について学ぶ。	教科書の第3章（p21-38）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第14回	消化と吸収と栄養素の体内動態（2）	消化・吸収の基本概念（吸収部位・吸収の仕組み）について学ぶ。	教科書の第3章（p21-38）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第15回	エネルギー代謝	生体におけるエネルギー、消費エネルギーについて学ぶ。	教科書の第10章（p123-136）を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分

学習計画注記 ※授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法 毎時間実施する小テストは、マークカードのみ回収し問題用紙は持ち帰ってよい。また解答については授業内で提示する。定期試験も同様に問題用紙は返却する。質問等がある場合には1201研究室まで訪問すること。

評価方法

- ・小テストは前回の授業に係る学習範囲内から出題し、14回実施する（初回の授業では実施しない）。1回あたりの問題数は5問で5点満点、原則五者択一で出題する。なお、授業を欠席した場合、学外実習等の合理的な理由等がない限り、小テストの再テストは行わないので注意すること。
- ・定期試験は小テストの振り返りを行い、100点満点で出題する。また、出題の傾向については、第13回の授業にて説明する。
- ・小テストおよび定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○		
定期試験	○	○		

評価割合	定期試験（70%）および授業中に行う小テスト（30%）で総合的に判断し評価する。それぞれの点数を0.7倍、0.3倍した点数を合算する（小数点以下は四捨五入）。	
使用教科書名（ISBN番号）	イラスト基礎栄養学、田村明 他、（東京教学社）978-4-8082-6053-8	
参考図書	なし	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。 【思考・判断】多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。	
オフィスアワー	月曜4限 1201研究室	
学生へのメッセージ	基礎栄養学は応用栄養学や人体の構造、臨床栄養学とも関連が深く、2年前期に「基礎栄養学」をマスターすればこれらの科目の理解もアップする。結果として栄養士実力認定試験（全員受験）や管理栄養士国家試験（希望者・要実務経験）の勉強も楽に進めることができる。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	応用栄養学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岩本 直樹	指定なし

ナンバリング	R20402M21
授業概要(教育目的)	人の一生を通して発育、加齢や妊娠などの各ライフステージにおける身体の構造変化、生理学的・生化学的な代謝の変化を学び、それらに基づいて各段階における適切な栄養ケア・マネジメント(栄養管理)の基本的考え方を習得する。更に適切な評価、判定を行った上で身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の方法を学ぶ。栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験出題基準に従い、管理栄養士・栄養士に必要な各ライフステージ別栄養学の基礎知識を理解する。また、運動・スポーツやストレス、特殊環境の特性に基づいた栄養ケアも学ぶ。本科目は、栄養士免許証および食品衛生監視員・食品衛生指導者取得のための必須科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 各ライフステージにおける身体状況や栄養状態に応じた栄養管理について説明できる。 2. 運動や特殊環境における人体の特性、栄養管理について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 健康の維持・増進及び疾病予防のために栄養素の機能等を十分理解し、健康に及ぼすリスクの管理について基本的な考え方を説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	食事摂取基準	ライフステージ別食事摂取基準について学ぶ。	教科書の第2章(p28-49)を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第2回	成長・発達・加齢	運動機能の発達、加齢による機能低下について学ぶ。	教科書の第3章(p50-61)を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第3回	妊娠期(1)	妊娠期の生理的特徴と性周期について学ぶ。	教科書の第4章(p62-83)を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分

第4回	妊娠期 (2)	妊娠期の栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ。	教科書の第4章 (p84-88) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第5回	授乳期	授乳期の栄養・食事管理について学ぶ。	教科書の第4章 (p84-88) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第6回	新生児・乳児期 (1)	新生児・乳児の生理的特徴について学ぶ。	教科書の第5章 (p89-110) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第7回	新生児・乳児期 (2)	新生児期・乳児期の発育について学ぶ。	教科書の第5章 (p89-110) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第8回	成長期 (1)	成長期 (幼児期・学童期・思春期) の生理的特徴について学ぶ。	教科書の第6章 (p111-132) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第9回	成長期 (2)	成長期 (幼児期・学童期・思春期) の栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ。	教科書の第6章 (p111-132) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第10回	成人期 (1)	成人期の生理的特徴について学ぶ。	教科書の第7章 (p132-149) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第11回	成人期 (2)	成人期の栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ。	教科書の第7章 (p132-149) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第12回	高齢期 (1)	高齢期の生理的特徴について学ぶ。	教科書の第8章 (p150-173) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第13回	高齢期 (2)	高齢期の栄養アセスメントと栄養ケアについて学ぶ。	教科書の第8章 (p150-173) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第14回	健康増進と運動、スポーツ	健康増進と運動およびスポーツと栄養について学ぶ。	教科書の第9章 (p174-186) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第15回	特殊環境と栄養	特殊な環境 (ストレス反応、高温・低温環境、高圧・低圧環境、無重力環境) と栄養について学ぶ。	教科書の第10章 (p187-201) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第16回				

学習計画注記 ※授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法 毎時間実施する小テストは、マークカードのみ回収し問題用紙は持ち帰ってよい。また解答については授業内で提示する。定期試験も同様に問題用紙は返却する。質問等がある場合には1201研究室まで訪問すること。

評価方法

- ・小テストは前回の授業に係る学習範囲内から出題し、14回実施する (初回の授業では実施しない)。1回あたりの問題数は5問で5点満点、原則五者択一で出題する。なお、授業を欠席した場合、学外実習等の合理的な理由等がない限り、小テストの再テストは行わないので注意すること。
- ・定期試験は小テストの振り返りを行い、100点満点で出題する。また、出題の傾向については、第13回の授業にて説明する。
- ・小テストおよび定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○		
定期試験	○	○		

評価割合	定期試験（70%）および授業中に行う小テスト（30%）で総合的に判断し評価する。それぞれの点数を0.7倍、0.3倍した点数を合算する（小数点以下は四捨五入）。			
使用教科書名（ISBN番号）	栄養科学イラストレイテッド応用栄養学、栢下 淳他、（羊土社）978-4-7581-0877-5			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。			
オフィスアワー	月曜4限 1201研究室			
学生へのメッセージ	「応用栄養学」で学ぶ内容は多岐にわたる。様々なライフステージだけでなく、スポーツ時や特殊な環境下における人体の生理的特徴を理解し、その状況に応じた栄養管理などを習得する。学ぶ範囲はとてつもなく広いが、学んだことを自身や周りにいる家族、友人に還元できるように主体的に取り組んでほしい。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	栄養学各論実習 (RA)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岩本 直樹	指定なし

ナンバリング	R30405M13
授業概要(教育目的)	応用栄養学の講義を踏まえ、各ライフステージおよびさまざまな環境に応じた実践的な栄養マネジメントが展開できることを目指す。目的となる対象者の特性を理解し、食事摂取基準に基づいた献立作成も含めた食事計画を行い、実際に作成した献立を実習することで理解を深める。本科目は、栄養士免許証取得のための必須科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 応用栄養学で学習した内容を基礎とし、各ライフステージ及びスポーツ時の特性を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 対象者に応じた栄養ケアプロセスを展開し、栄養診断することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 食品構成からの献立作成、調理、供食という一連の流れを、実践に繋げていくことができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション・栄養マネジメントの理論	オリエンテーション(実習の目的と進め方)を行う。また栄養マネジメントについて学ぶ。	実習におけるレポートを作成する。	60分
第2回	日本人の食事摂取基準(2020年版)を用いた望ましい食事計画食品構成表の作り方	モデル献立を用いて、望ましい食事計画を立てる。また食品構成表の作り方を学ぶ。	実習におけるレポートを作成する。	60分
第3回	栄養診断、SOAPの書き方	栄養ケアプロセスによる栄養診断、SOAPの書き方を学ぶ。	実習におけるレポートを作成する。	60分

第4回	成人期の栄養 (1)	成人期のモデルに対する献立作成を行う。	実習におけるレポートを作成する。	60分
第5回	成人期の栄養 (2)	成人期のモデルに対して立てた献立について栄養価計算を行う。	実習におけるレポートを作成する。	60分
第6回	妊娠期の栄養 (1)	妊娠期のモデルに対して栄養診断・献立作成をする。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第7回	妊娠期の栄養 (2)	妊娠期のモデルに対して立てた献立で調理実習を行い、評価をする。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第8回	乳児期の栄養 (1)	乳児期のモデルに対する調乳実習と評価を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第9回	乳児期の栄養 (2)	乳児期のモデルに対して栄養診断及び離乳食調理を行い、さらに粥の種類について学ぶ。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第10回	学童期の栄養	学童期のモデルに対して間食について学び調理を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第11回	高齢期の栄養 (1)	高齢期のモデルに対して献立作成を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第12回	高齢期の栄養 (2)	高齢期のモデルに対して立てた献立で軟菜食調理を行う。	実習におけるレポートを作成する。	60分
第13回	スポーツと栄養 (1)	競技スポーツ選手のモデルに対して献立作成を行う。	実習におけるレポートを作成する。	60分
第14回	スポーツと栄養 (2)	競技スポーツ選手のモデルに対して立てた献立で調理を行う。	実習におけるレポートを作成する。	60分
第15回	総括と学習到達度の確認テスト	1回目～14回の実習についての総括を行い、授業の一部で学習到達度の確認テストを実施する。	確認テストの復習をする。	60分

学習計画注記 ※シラバスの内容は、やむをえない事情等により一部修正することがあります。

学生へのフィードバック方法 提出されたレポート（オリジナル実習ノート）は、評価した後に返却する。確認テストも同様に問題用紙は返却する。質問等がある場合には1201研究室まで訪問すること。

評価方法 ・確認テストは実習の振り返りを行い、100点満点で出題する。また、出題の傾向については、第13回の実習にて説明する。
・レポート、確認テストおよび実習態度は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート		○	○	○
確認テスト	○	○		
実習態度			○	

評価割合 科目修了試験40%、レポート（オリジナル実習ノート）評価50%および実習態度10%で総合的に評価する（小数点以下は四捨五入）。ただし、確認テストが60%未満の者は再試験を行う。

使用教科書名 (ISBN番号) 堀江 祥允 編『ライフステージ栄養学実習書』光生館 (978-4332020974)

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。
【思考・判断】多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
【関心・意欲・態度】実習内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。

オフィスアワー 月曜4限 1201研究室

学生へのメッセージ 実習時は白衣（実験用）を着用のこと。
レポート（オリジナル実習ノート）の提出は、提出期限・形式を守ること。
授業内容を事前に教科書などで予習すること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活か		

した授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	臨床栄養学総論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岩本 直樹	指定なし

ナンバリング	R30403M21
授業概要(教育目的)	<p>栄養ケアプロセスの概要を知り、臨床栄養学分野における栄養士業務について学ぶ。また、栄養素の補給手段である栄養法（経口栄養・経腸栄養・静脈栄養）について学ぶ。そして、代表的な代謝・内分泌疾患である肥満、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症、甲状腺機能亢進症・低下症の病態生理や栄養状態の特徴に基づいた適切な栄養管理の基本を学ぶ。</p> <p>栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験出題基準に従い、管理栄養士・栄養士に必要な不可欠な栄養学の基礎知識を理解する。本科目は、栄養士免許取得のための必須科目である。</p>

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 医療における臨床栄養の意義を説明できる。 2. 栄養補給法の目的、種類、手法について説明ができる。
思考・判断の観点 (K)	1. 各疾患の栄養生理及び栄養食事療法について説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	臨床栄養の概念	臨床栄養の意義・医療及び介護における管理栄養士・栄養士について学ぶ。	教科書の第1章(p2-9)を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第2回	栄養ケア・マネジメント	栄養ケアの意義と方法、栄養スクリーニング、栄養評価等について学ぶ。	教科書の第2章(p10-35)を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第3回	人体への栄養補給(1)	栄養補給法の歴史、経口栄養法について学ぶ。	教科書の第3章(p36-37)を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第4回	人体への栄養	経腸栄養法について学ぶ。	教科書の第3章(p38-41)を通	120分

	養補給 (2)		読する。 教科書の線を引いた部分を中心 にノートを見ながら復習する。	
第5回	人体への栄 養補給 (3)	経静脈栄養法について学ぶ。	教科書の第3章 (p42-45) を通 読する。 教科書の線を引いた部分を中心 にノートを見ながら復習する。	120分
第6回	肥満と代謝 疾患 (1)	肥満・メタボリックシンドロームについて学ぶ。	教科書の第6章 (p58-61) を通 読する。 教科書の線を引いた部分を中心 にノートを見ながら復習する。	120分
第7回	肥満と代謝 疾患 (2)	脂質異常症 (病態生理) について学ぶ。	教科書の第6章 (p70-75) を通 読する。 教科書の線を引いた部分を中心 にノートを見ながら復習する。	120分
第8回	肥満と代謝 疾患 (3)	脂質異常症 (栄養食事療法・薬物療法) について学ぶ。	教科書の第6章 (p70-75) を通 読する。 教科書の線を引いた部分を中心 にノートを見ながら復習する。	120分
第9回	肥満と代謝 疾患 (4)	糖尿病 (病態生理) について学ぶ。	教科書の第6章 (p62-69) を通 読する。 教科書の線を引いた部分を中心 にノートを見ながら復習する。	120分
第10回	肥満と代謝 疾患 (5)	糖尿病 (病態生理・薬物療法) について学ぶ。	教科書の第6章 (p62-69) を通 読する。 教科書の線を引いた部分を中心 にノートを見ながら復習する。	120分
第11回	肥満と代謝 疾患 (6)	糖尿病 (栄養食事療法) について学ぶ。	教科書の第6章 (p62-69) を通 読する。 教科書の線を引いた部分を中心 にノートを見ながら復習する。	120分
第12回	肥満と代謝 疾患 (7)	糖尿病 (運動療法・妊娠糖尿病・小児糖尿病) について 学ぶ。	教科書の第6章 (p62-69) を通 読する。 教科書の線を引いた部分を中心 にノートを見ながら復習する。	120分
第13回	肥満と代謝 疾患 (8)	糖尿病腎症について学ぶ。	教科書の第11章 (p164-166) を 通読する。 教科書の線を引いた部分を中心 にノートを見ながら復習する。	120分
第14回	肥満と代謝 疾患 (9)	高尿酸血症と痛風について学ぶ。	教科書の第6章 (p76-81) を通 読する。 教科書の線を引いた部分を中心 にノートを見ながら復習する。	120分
第15回	内分泌の疾 患	甲状腺機能亢進症と低下症についてについて学ぶ。	教科書の第12章 (p190-195) を 通読する。 教科書の線を引いた部分を中心 にノートを見ながら復習する。	120分

学習計画注記 ※授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法 毎時間実施する小テストは、マークカードのみ回収し問題用紙は持ち帰ってよい。また解答については授業内で提示する。定期試験も同様に問題用紙は返却する。質問等がある場合には1201研究室まで訪問すること。

評価方法

- ・小テストは前回の授業に係る学習範囲内から出題し、14回実施する（初回の授業では実施しない）。1回あたりの問題数は5問で5点満点、原則五者択一で出題する。なお、授業を欠席した場合、学外実習等の合理的な理由等がない限り、小テストの再テストは行わないので注意すること。
- ・定期試験は小テストの振り返りを行い、100点満点で出題する。また、出題の傾向については、第13回の授業にて説明する。
- ・小テストおよび定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○	○	
定期試験	○	○		

評価割合	定期試験（70%）および授業中に行う小テスト（30%）で総合的に判断し評価する。それぞれの点数を0.7倍、0.3倍した点数を合算する（小数点以下は四捨五入）。
使用教科書名（ISBN番号）	多賀昌樹 編『臨床栄養学基礎から学べる』アイ・ケイコーポレーション（9784874923641）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
オフィスアワー	月曜4限 1201研究室

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	臨床栄養学各論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岩本 直樹	指定なし

ナンバリング

R30407M21

授業概要(教育目的)

疾患・病態の成立および予防と治療に栄養がどのように関係しているかの機序を学び、どのような栄養学的治療手段が適切かを学び、対象者のQOLを損なわない食事について考える。病状に影響を及ぼす栄養素、食品、調理法を知り、適正な栄養管理を行う為の知識を得る。
 栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験出題基準に従い、管理栄養士・栄養士に必要な不可欠な栄養学の基礎知識を理解する。本科目は、栄養士免許証取得のための必須科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1. 各疾患の栄養状態、病態について説明ができる。
思考・判断の観点 (K)	1. 栄養・治療アセスメントの意義・手技を呈示することができる。 2. 各疾患の患者の栄養ケアについて説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	栄養障害	栄養失調、たんぱく質・エネルギー栄養障害やリフィーディング症候群及びその患者の栄養管理について学ぶ。	教科書の第5章(p52-57)を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第2回	消化器疾患	胃炎、胃・十二指腸潰瘍・胃癌、大腸癌及びその患者の栄養管理について学ぶ。	教科書の第7章(p88-103)及び第8章(p106-115)を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第3回	肝・胆膵系疾患(1)	肝臓の働きと栄養代謝及び肝炎及びその患者の栄養管理について学ぶ。	教科書の第9章(p116-135)を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第4回	肝・胆膵系	脂肪肝、NAFLD及びその患者の栄養管理について学ぶ。	教科書の第9章(p116-135)を	120分

	疾患 (2)		通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	
第5回	循環器疾患 (1)	高血圧、動脈硬化及びその患者の栄養管理について学ぶ。	教科書の第10章 (p138-153) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第6回	循環器疾患 (2)	虚血性心疾患・心不全及びその患者の栄養管理について学ぶ。	教科書の第10章 (p138-153) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第7回	腎臓の疾患 (1)	腎臓の働きと栄養代謝について学ぶ。	教科書の第11章 (p154-189) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第8回	腎臓の疾患 (2)	慢性腎臓病とその患者の栄養管理について学ぶ。	教科書の第11章 (p154-189) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第9回	腎臓の疾患 (3)	糸球体腎炎・ネフローゼ症候群・透析及びその患者の栄養管理について学ぶ。	教科書の第11章 (p154-189) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第10回	摂食障害、神経疾患	神経性食欲不振症及び神経性過食症について学ぶ。	教科書の第13章 (p196-203) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第11回	呼吸器系疾患	慢性閉塞性肺疾患・気管支喘息の栄養管理について学ぶ。	教科書の第14章 (p204-213) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第12回	血液疾患	貧血とその患者の栄養管理について学ぶ。	教科書の第15章 (p216-223) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第13回	筋・骨格疾患	骨粗鬆症、くる病、サルコペニアについて学ぶ。また、それらの栄養ケアについても学ぶ。	教科書の第16章 (p224-233) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第14回	小児疾患	先天性代謝異常症・周期性嘔吐症・消化不良症について学ぶ。	教科書の第20章 (p270-283) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第15回	妊産婦・授乳婦疾患	妊娠高血圧症候群について学ぶ。	教科書の第21章 (p284-287) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分

学習計画注記 ※授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法 毎時間実施する小テストは、マークカードのみ回収し問題用紙は持ち帰ってよい。また解答については授業内で提示する。定期試験も同様に問題用紙は返却する。質問等がある場合には1201研究室まで訪問すること。

評価方法

- ・小テストは前回の授業に係る学習範囲内から出題し、14回実施する（初回の授業では実施しない）。1回あたりの問題数は5問で5点満点、原則五者択一で出題する。なお、授業を欠席した場合、学外実習等の合理的な理由等がない限り、小テストの再テストは行わないので注意すること。
- ・定期試験は小テストの振り返りを行い、100点満点で出題する。また、出題の傾向については、第13回の授業にて説明する。
- ・小テストおよび定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○	○	
定期試験	○	○		

評価割合	定期試験（70%）および授業中に行う小テスト（30%）で総合的に判断し評価する。それぞれの点数を0.7倍、0.3倍した点数を合算する（小数点以下は四捨五入）。
使用教科書名（ISBN番号）	多賀昌樹 編『臨床栄養学基礎から学べる』アイ・ケイコーポレーション（9784874923641）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
オフィスアワー	月曜4限 1201研究室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	臨床栄養学実習 (RA)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限後半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 吉川 絵梨	指定なし

ナンバリング	R30406M13
授業概要(教育目的)	臨床栄養学の実践として、各疾患の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理(栄養ケアマネジメント)を行うために、栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解し、栄養療法の基礎を習得する。具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用について理解する。さらに、代表的な治療食の献立作成から調理、評価を行う。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 適切な栄養管理を行うために、栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解できる 2. 具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用について理解できる 3. チーム医療における管理栄養士の役割を理解できる
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. チーム医療の一員として臨床に通用する力を身につけることができる
技術・表現の観点 (A)	1. 代表的な疾患の病態に適した治療食の献立作成、調理ができる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業概要 病院における管理栄養士の役割 治療食の意義、目的 栄養補給方法	授業概要の説明 病院における管理栄養士の役割、治療食、栄養補給方法について理解する	臨床栄養学の授業を復習しておく	10分
第2回	栄養管理	臨床検査からの栄養状態および病態の評価、身体計測、カルテの書き方、食事調査について実習を行う	臨床栄養学の授業を復習しておく	10分
第3回	栄養補給方法	傷病者の栄養補給方法について学ぶ 一般治療食の展開を学び、献立作成する	臨床栄養学の授業を復習しておく	10分
第4回	肥満症、脂	肥満症、脂質異常症の栄養管理計画書作成	肥満症、脂質異常症について調	10分

	質異常症		べておく	
第5回	糖尿病①	糖尿病の栄養管理計画書作成 糖尿病食の献立作成	糖尿病について調べておく	10分
第6回	糖尿病②	糖尿病食の調理実習を行う	前回作成した献立を調理できる よう準備しておく	30分
第7回	エネルギー コントロール 食	糖尿病食の栄養管理、献立作成、調理についてグループ ごとに発表する その他エネルギーコントロール食について学ぶ	発表準備をしておく	30分
第8回	腎臓病①	腎臓病の栄養管理計画書作成 腎臓病食の献立作成	腎臓病について調べておく	10分
第9回	腎臓病②	腎臓病食の調理実習を行う	前回作成した献立を調理できる よう準備しておく	30分
第10回	たんぱくコ ントロール 食	腎臓病食の栄養管理、献立作成、調理についてグループ ごとに発表する その他たんぱくコントロール食について学ぶ	発表準備をしておく	30分
第11回	膵臓病①	膵臓病の栄養管理計画書作成 膵臓病食の献立作成	膵臓病について調べておく	10分
第12回	膵臓病②	膵臓病食の調理実習を行う	前回作成した献立を調理できる よう準備しておく	30分
第13回	脂質コント ロール食	膵臓病食の栄養管理、献立作成、調理についてグループ ごとに発表する その他脂質コントロール食について学ぶ	発表準備をしておく	30分
第14回	その他の疾 患について	その他の疾患について栄養管理計画作成を行う	興味のある疾患を考えておく	10分
第15回	まとめ 症例検討	提示した症例に対して栄養計画を作成する	今までの授業を復習しておく	30分

学習計画注記 履修者や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 提出した課題は次週返却し、授業中に解説します。

評価方法 平常点、発表、課題提出

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点、発表、課題提出	○		○	○

評価割合 平常点30%、発表30%、課題提出40%

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 糖尿病食事療法のための食品交換表
腎臓病食品交換表

ディプロマポリシーとの関連 適切な栄養管理を行うための知識と技術を有している。
チーム医療の一員として栄養管理に責任をもって参画できる知識と技術を有している。

学生へのメッセージ チーム医療の中で、管理栄養士は責任をもって積極的に栄養管理をしていく必要があります。ぜひ積極的に授業に参加し、その知識と技術を習得してください。臨床現場のみならず多方面で活躍できる管理栄養士を目指しましょう。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、臨床現場での栄養管理の経験を有し、その経験を元に授業を行う。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー		

教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	栄養学実習		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岩本 直樹	指定なし

ナンバリング	R30404M13
授業概要(教育目的)	基礎栄養学の講義では、栄養学の基礎領域を全体的に学んだ。本実習ではこれらの基礎知識を、「動物」や「ヒト(自分)」のサンプルを用い実験・実習を通して再確認する。本科目は、栄養士免許証取得のための必須科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 生体成分(血液、尿、唾液)の成分値や体内での働きについてについて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 生命の尊厳を尊重できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 実習を通して学んだ栄養に関する知識を、応用栄養学や人体の構造、臨床栄養学で発展できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション(実習の目的と進め方)を行う。	実習におけるレポートを作成する。	60分
第2回	味の閾値と五基本味	味の閾値と五基本味の識別の検査を行う。	実習におけるレポートを作成する。	60分
第3回	生活時間調査票	生活時間調査票からのエネルギー代謝量の算出を行う。	実習におけるレポートを作成する。	60分
第4回	正常尿成分実験	尿中尿素窒素の測定を行う。	実習におけるレポートを作成する。	60分
第5回	トリグリセリドの定量	1日絶食したマウスの血清中のトリグリセリドの定量を行う。	実習におけるレポートを作成する。	60分
第6回	血糖値の測定①	経口ブドウ糖負荷試験を行う。	実習におけるレポートを作成する。	60分
第7回	血糖値の測定②	経口ブドウ糖負荷試験の評価をする。	実験におけるレポートを作成する。	60分

第8回	血糖値の測定③	食品成分が血糖に与える影響について、血糖値を測定して観察する。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第9回	血糖値の測定④	食品成分が血糖に与える影響について、測定した血糖値を用いて考察する。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第10回	食品成分が腸内細菌叢に与える影響	食品（海藻）を用いて腸内細菌について考察する。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第11回	呼気からの安静時代謝の算出	呼気からの安静時代謝の算出する。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第12回	安静時代謝量の測定	安静時代謝量の測定を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第13回	ビタミン	ビタミンの過剰症・欠乏症カルタ大会を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第14回	ミネラル	ミネラルの過剰症・欠乏症カルタ大会を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第15回	総括と学習到達度の確認テスト	1回目～14回目の実習についての総括を行い、授業の一部で学習到達度の確認テストを実施する。	確認テストの復習をする。	60分

学習計画注記	※シラバスの内容は、やむをえない事情等により一部修正することがあります。
学生へのフィードバック方法	提出されたレポート（オリジナル実習ノート）は、評価した後に返却する。確認テストも同様に問題用紙は返却する。質問等がある場合には1201研究室まで訪問すること。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 確認テストは実習の振り返りを行い、100点満点で出題する。また、出題の傾向については、第13回の実習にて説明する。 レポート、確認テストおよび実習態度は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート	○	○	○	○
確認テスト	○	○		
実習態度			○	

評価割合	科目修了試験40%、レポート（オリジナル実習ノート）評価50%および実習態度10%で総合的に評価する（小数点以下は四捨五入）。ただし、確認テストが60%未満の者は再試験を行う。
参考図書	イラスト基礎栄養学、田村明 他、（東京教学社）978-4-8082-6053-8
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。</p> <p>【思考・判断】多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。</p> <p>【関心・意欲・態度】実習内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。</p>
オフィスアワー	月曜4限 1201研究室
学生へのメッセージ	実習時は白衣（実験用）を着用のこと。 レポート（オリジナル実習ノート）の提出は、提出期限・形式を守ること。 授業内容を事前に教科書などで予習すること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	栄養指導論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 三澤 朱実	指定なし

ナンバリング	R30501M21
授業概要(教育目的)	本科目は、栄養士免許証の取得のための必修科目である。この授業では、人々の健康増進や疾病予防のため、健康状態や栄養状態、食生活状況を把握する方法（アセスメント）について講義し育成する。対象者のライフステージ、ライフスタイルに合わせた栄養指導や食育の方法について、個別指導と集団指導に分けて、P（計画）・D（実施）・C（評価）・A（改善）サイクルに沿って講義し育成する。
履修条件	特に無し

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	学生が、栄養指導対象者の健康・栄養状態をアセスメントする方法を説明できるようになる。対象者のライフステージ、ライフスタイルに沿った栄養指導ポイントを説明できるようになる。多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々の食生活を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	学生が、対象者に応じた栄養指導の目標設定、指導計画立案、評価の方法を判断できるようになる。集団討議法の特徴を理解し、目的に応じた集団栄養指導を判断できるようになる。多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
関心・意欲・態度の観点 (V)	学生が自分や家族、地域等における食関連問題に関心を持ち、課題解決に向けて積極的に教育手法や食教材を考える意欲がある。食生活を取り巻く様々な事象について関心を持ち、自ら課題を見出し、解決に意欲的取り組むことができる。栄養士として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	1回目 第1・2・3章 栄養指導の定義と意義、栄養指導の沿革、栄養指導と関係法規	・栄養指導の定義と意義、栄養指導の沿革、栄養指導と関係法規(栄養指導にかかわる法規、教育関連・保健・医療関連・高齢者関連の法規)について、理解する。	教科書を読んでおく(p1~36)。	90分
第2回	2回目 第4・5章 食	・食生活・栄養に関する調査の概要を理解する。 栄養指導の方法と技術として、栄養指導の一般原則、栄	教科書を読んでおく(p37~54)。	90分

	生活・栄養に関する諸調査、栄養教育の方法と技術	養指導のマネジメントサイクル（PDCA）について、理解する。		
第3回	3回目 第5章 栄養教育の方法と技術	・栄養指導の計画、方法として、個別指導について理解する。	教科書を読んでおく（p55～59）。	90分
第4回	4回目 第5章 栄養教育の方法と技術	・栄養指導の方法として、集団指導の方法について、理解する。	教科書を読んでおく（p60～62）。	90分
第5回	5回目 第6章 栄養指導の実際	栄養指導の実際として、指導方法の選択、カウンセリングの理論と意義、行動科学と栄養指導（行動科学理論、行動変容技法）について、理解する。	教科書を読んでおく（p63～73）。	90分
第6回	6回目 第7章 栄養指導に必要な基礎事項	・栄養指導に必要な基礎事項として、日本人の食事摂取基準の基本的な考え方、活用した栄養指導方法について、理解する。	教科書を読んでおく（p74～77）。	90分
第7回	7回目 第7章 栄養指導に必要な基礎事項	・栄養指導に使う教材・媒体として、食生活指針について、理解する。	教科書を読んでおく（p78～79）。	90分
第8回	8回目 第7章 栄養指導に必要な基礎事項	・栄養指導に使う教材・媒体として、食事バランスガイドについて、基本的な考え方、料理区分、活用の方法について、理解する。	教科書を読んでおく（p80～84）。	90分
第9回	9回目 第7章 栄養指導に必要な基礎事項	食育関連として、食育基本法と栄養指導、食育と栄養教諭制度について、理解する。	教科書を読んでおく（p85～86）。	90分
第10回	10回目 第7章 栄養指導に必要な基礎事項	・栄養指導と運動指導（運動指導の原則、健康づくりのための身体活動基準、健康づくりのための身体活動指針）について、理解する。	教科書を読んでおく（p90～93）。	90分
第11回	11回目 第8章 ライフステージ別栄養指導	・ライフステージ別栄養指導として、妊娠期・授乳期、乳児期、幼児期における栄養指導のポイントについて、理解する。	教科書を読んでおく（p94～103）。	90分
第12回	12回目 第8章 ライフステージ別栄養指導	・ライフステージ別栄養指導として、乳幼児期、学童期、における栄養指導のポイントについて、理解する。	教科書を読んでおく（p103～110）。	90分
第13回	13回目 第8章 ライフステージ別栄養指導	・ライフステージ別栄養指導として、思春期、成人期、高齢期における栄養指導のポイントについて、理解する。	教科書を読んでおく（p110～117）。	90分
第14回	14回目 第9章 ライフスタイル別栄養指導	・ライフスタイル別栄養指導として、単身生活者、スポーツ栄養（スポーツの種類と栄養特性、エネルギーの供給源からみたスポーツ種目）における栄養指導ポイントについて、理解する。試験範囲の連絡。	教科書を読んでおく（p118～122）。	90分
第15回	15回目 第11章 給食における栄養指導、定期試験	給食における栄養指導として、病院給食、学校給食、福祉施設給食、事業職給食の栄養指導ポイントについて、理解する。定期試験。	教科書を読んでおく（p123～133）。1～14回の講義内容を復習しておく。	90分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが前後したり、変更することがあります。
学生へのフィードバック方法	授業の最後に毎回質問を受け付ける。さらに質問がある場合にはオフィスアワー時間に2106研究室を訪問すること。
評価方法	定期試験は100点満点で出題する。出題範囲は授業で講義した箇所、配布資料を基本とするが、具体的な範囲および傾向については、試験前の週の授業で説明する。定期試験は下表に示す力を養うことを目的として実施している。
評価基準	
評価基準	

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		

評価割合	定期試験（100％）で評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	Nブックス 改定 栄養指導論 建帛社 (ISBN 978-4-7679-0530-3 C3047)
参考図書	「食事バランスガイド」を活用した栄養教育・食育実践マニュアル 第3版 第一出版 (ISBN 978-4-8041-1358-6 C3077)、日本人の食事摂取基準 2020版
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】栄養指導論を構成する基本的な知識に加えて、健康の維持・増進に係る総合的な知識を有していること。 【思考・判断】人々の健康・栄養問題に対し、適切な栄養情報を収集して、栄養改善のための取り組みを他職種と共同して積極的に計画・実行・評価できるスキルを身に着けていること。
オフィスアワー	月・火曜昼休み、木曜2限：栄養指導研究室（1206室）
学生へのメッセージ	栄養士になるための必須専門科目であることから、実社会における栄養指導や食育の実例を示しながら講義するので、学生自身も卒後の働く場をイメージして是非主体的に学んで欲しい。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は外来診療における患者への個別栄養指導、健診後の個別・集団の栄養教育の実務経験を有しており、生活習慣病やメタボリックシンドローム等の疾病者への指導、健常者への予防的教育に関し、栄養士・管理栄養士として習得すべき対象者に応じた「栄養指導ポイント」、「PDCAサイクルに沿った計画立案・評価・改善」を実践的に教授する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	栄養指導実習 (RA)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 三澤 朱実	指定なし

ナンバリング	R30504M13
授業概要(教育目的)	本科目は、栄養士免許証の取得のための必修科目である。この授業では、人々の健康増進や疾病予防のため、健康状態や栄養状態、食生活状況を把握する方法（アセスメント）について実習し育成する。対象者のライフステージ、ライフスタイルに合わせた栄養指導や食育の方法について、個別指導と集団指導に分けて、P（計画）・D（実施）・C（評価）・A（改善）サイクルに沿って実習し育成する。栄養指導対象者の問題解決に対し、食行動の変容を図るための技法を実習し育成する。
履修条件	「栄養指導論」を履修済みであることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	学生が、栄養指導対象者の健康・栄養状態、食行動の変容に関する知識を身に付け、それを理解すること。多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々の食生活を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	学生が、栄養指導対象者の健康・栄養状態をアセスメントして、正しい判断ができるようになる。多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
関心・意欲・態度の観点 (V)	学生が、協調的に参加し栄養指導方法を積極的に提案して、グループの考えをまとめることができるようになる。食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。栄養士、教員、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
技術・表現の観点 (A)	学生が、対象者の栄養問題解決に向け目標設定、計画立案、評価のスキルを身に付けそれを表現できるようにする。対象者の問題行動を修正し、行動変容を導くためのサポートや効果的な集団指導のスキルを身に付けそれを表現できるようにする。食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や表現力を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	1回目 集団討議法-ブレインストーミング	ブレインストーミングを体験し、集団討議法の特徴を把握して効果的な討議能力を身に着ける。同時にコミュニケーション能力を養う。	朝食を食べない理由について調べておく。教科書を読んでおく(p54~61)。	135分
第2回	2回目 減塩指導一味噌汁編	対象者の減塩を支援するため、だしの異なる同じ塩分量の味噌汁(天然だし・インスタントだし、具材入り・具材無し)を作り、味や美味しさ等の違いを試飲・評価する。この体験を栄養指導に役立てる。	汁物の減塩方法について調べておく。	135分

第3回	3回目 行動変容ステージの把握と栄養指導	対象者の食生活改善を支援するため、行動変容の準備性を把握して栄養の指導に役立てる。	教科書を読んでおく「行動変容に対する準備性の把握、対象者アセスメントのまとめ、指導計画」(p29~37)。	135分
第4回	4回目 健康信念モデル、自己効力感に沿った栄養指導	健康信念モデルを用いたり、自己効力感を高める栄養指導を身につける。コミュニケーションやカウンセリング能力を養う。	教科書を読んでおく 教科書を読んでおく「健康信念モデルを用いた栄養指導、自己効力感を高める工夫」(p37~37)。	135分
第5回	5回目 栄養アセスメント-身体計測・評価	対象者の栄養状態や健康状態を把握するための方法として、身体計測の実際を体験する。併せて、その評価を行って対象者の身体状況や栄養状態等を推測する。	教科書を読んでおく「栄養アセスメント、身体計測、栄養状態の把握」(p3~9)。	135分
第6回	6回目 身体活動レベル、基礎代謝量、推定エネルギー必要量の把握	個人の身体活動を評価して身体活動レベルを判定する。身体活動レベルから基礎代謝量、推定エネルギー必要量を算出する。	教科書を読んでおく「栄養アセスメント、身体計測、栄養状態の把握」(p3~9)。	135分
第7回	7回目 内臓脂肪減量(エネルギー調整)のためのプランニング、モニタリング	肥満やメタボリックシンドロームの者、予備群に対する科学的な減量方法として、「内臓-脂肪減量のためエネルギー調整シート」を活用した指導計画を立てる技術を身につける。	教科書を参照しておく「健康づくりのための身体活動基準2013、内臓-脂肪減量のためエネルギー調整シート」(p11)。	135分
第8回	8回目 食事調査結果の食事摂取基準を用いた栄養評価、教材を用いた栄養指導1	食事摂取基準を用いて栄養素等摂取量を評価し、個人に見合った栄養指導計画(フードモデル・料理カード)を立てる技術を身につける。	公衆栄養学実習シート3-2「食事摂取基準を用いた食事調査の評価表」(秤量記録法)を完成させ持参する。教科書を読んでおく(p14~23)。	135分
第9回	9回目 食事調査結果の食事摂取基準を用いた栄養評価、教材を用いた栄養指導2	食事摂取基準を用いて栄養素等摂取量を評価し、個人に見合った栄養指導計画(フードモデル・料理カード)を立てる技術を身につける。	公衆栄養学実習シート5-3「食事摂取基準を用いた食事調査の評価表」(24時間思い出し法)を完成させ持参する。	135分
第10回	10回目 食事調査結果の食事摂取基準を用いた栄養評価、教材を用いた栄養指導3	食事摂取基準を用いて栄養素等摂取量を評価し、個人に見合った栄養指導計画を立て、栄養指導(フードモデル・料理カード活用)の技術を身につける。	公衆栄養学実習シート6-3「食事記録分析結果比較表」(FFQ3年次と1年次の比較)を完成させ持参する。	135分
第11回	11回目 食事バランスガイドを活用した栄養指導(教材活用)	食事バランスガイドを活用した食事評価、教材を活用した栄養指導の方法を身につける。	食事バランスガイドの5つの料理区分、1SVについて把握しておく。	135分
第12回	12回目 栄養教育媒体の企画・作成	食事バランスガイドを活用して、実際に想定した栄養指導のロールプレイングを行い指導スキルを磨く。実習後、「栄養指導実習シート」を提出する。	食事バランスガイドの5つの料理区分、1SVについて把握しておく。	135分
第13回	13回目 小学校低学年向け食育教材の開発・作成	小学校低学年向けの食育教材(エプロンシアター)を考え、作成する。どのように教材を活用すれば、分かりやすい食育ができるかを学ぶ。	食育テーマを事前に考えておく。テーマについて理解してもらうため、何を作るかを相談しておく。	135分
第14回	14回目 集団栄養教育方法の発表用ポスター作成	発表用のポスターを作成し、表現力を養う。	ポスターの構想を事前に考えておく。	135分

第15回	15回目 集団栄養教育方法の発表・評価	ポスター発表を経験し、プレゼンテーション能力を養う。他班の発表を聴き、質問し評価する。	グループで協働して、事前に発表練習を行い、想定される質問、その回答を考えておく。	135分
------	---------------------	---	--	------

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが前後したり、変更することがあります。
--------	--------------------------------------

学生へのフィードバック方法	授業の最後に毎回質問を受け付ける。さらに質問がある場合にはオフィスアワー時間に2106研究室を訪問する。
---------------	--

評価方法	平常点30%、レポート60%、発表10%で評価する。レポートの評価方法は、例えば15回レポートを提出した場合は、60点満点÷15回として、1回のレポートの配分点は4点とする。レポート作成・提出は下表に示すスキルを養うことを目的として実施している。
------	---

評価基準	
------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
レポート提出	○	○		○
発表				○

評価割合	平常点30%、レポート60%、発表10%で評価する。
------	----------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	栄養科学シリーズNEXT 栄養教育論実習 第2版 講談社 (ISBN 978-4-06-155381-1 C3377)
-----------------	---

参考図書	「食事バランスガイド」を活用した栄養教育・食育実践マニュアル 第3版 第一出版 (ISBN 978-4-8041-1358-6 C3077)、日本人の食事摂取基準 2020版
------	---

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】栄養指導論を構成する基本的な知識に加えて、健康の維持・増進に係る総合的な知識を有していること。【思考・判断】人々の健康・栄養問題に対し、適切な栄養情報を収集して、栄養改善のための取り組みを他職種と共同して積極的に計画・実行・評価できるスキルを身に着けていること。
---------------	--

オフィスアワー	月・火曜昼休み、木曜2限：栄養指導研究室 (1206室)
---------	------------------------------

学生へのメッセージ	栄養士になるための必須専門科目であることから、実社会における栄養指導や食育の実例を示しながら実習してもらうので、学生自身も卒後の働く場をイメージして是非主体的に学んで欲しい。
-----------	---

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は外来診療における患者への個別栄養指導、健診後の個別・集団の栄養教育の実務経験を有しており、生活習慣病やメタボリックシンドローム等の疾病者への指導、健康者への予防的教育に関し、栄養士・管理栄養士として習得すべき対象者に応じた「栄養指導ポイント」、「PDCAサイクルに沿った計画立案・評価・改善」を実践的に教授する。
アクティブ・ラーニング	○	栄養指導対象者の食生活改善上の問題解決を図り、栄養指導技術をより高めるため、グループ内でディスカッションし、時にデイベイトして、能動的に学べるよう教授する。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	食事摂取量の測定方法の一つとして、若年層の誰もが保有するスマートフォンを活用して自らの食事を撮影する方法を実習に取り入れる。食事画像を食教材「食事バランスガイド」に沿って定量評価し、自らの食事改善を図ることで授業における学びが能動的になるよう教授する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	栄養カウンセリング論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 三澤 朱実	指定なし

ナンバリング	R30502M21
授業概要(教育目的)	本科目は、栄養士免許証の取得のための必修科目である。この授業では、栄養カウンセリング理論や技法の基礎について講義する。食生活や食行動は心理的な側面によっても大きく左右されるため、人々の複雑な心のあり方や、心理面からの食生活改善のためのアプローチ方法について講義し育成する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	学生が、カウンセリングの必要性、理論と技術、人々の食行動と心理面の関係性を説明できるようになる。多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々の食生活を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	学生が、対象者の気持ちに寄り添ったサポートについて判断できるようになる。人々の健康状態、ストレス状態を理解し、それに合ったアプローチについて判断できるようになる。多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
関心・意欲・態度の観点 (V)	学生が、家族や友人等の身近な人々の食の悩みや相談に関心を持ち、積極的に人々に寄り添い、共感しようとする意欲がある。食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち自ら課題を見出し、解決に意欲的取り組みができる。栄養士として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	1回目 栄養教育におけるカウンセリングの位置づけ	栄養教育におけるカウンセリングの位置づけ(栄養カウンセリングの定義、特徴、効果)について、理解する。	教科書を読んでおく (p1~5)。	90分
第2回	2回目 栄養教育に必要な栄養カウンセリングスキル	栄養教育に必要な栄養カウンセリングスキルとして、基本的態度(受容、共感、自己一致)、傾聴の意義について、理解する。	教科書を読んでおく (p6~8)。	90分
第3回	3回目 栄養教育に必	傾聴を構成する技法(かわり行動、単純受容、確認、受けとめ、要約、開かれた質問・閉ざされた質問)につ	教科書を読んでおく (p9~14)。	90分

	要な栄養カ ウンセリン グスキル	いて、理解する。		
第4回	4回目 栄 養教育に必 要な栄養カ ウンセリン グスキル	目標、計画、実行段階における行動療法やコーチングの活用について、理解する。	教科書を読んでおく（p15～17）。	90分
第5回	5回目 栄 養カウンセ リングに必 要なカウン セリング理 論	栄養カウンセリングに必要な栄養カウンセリング理論（精神分析療法、来訪者中心療法）について、理解する。	教科書を読んでおく（p18～20）。	90分
第6回	6回目 栄 養カウンセ リングに必 要なカウン セリングス キル	行動療法（行動療法とは、流れ、保健医療分野への応用、手順、技法）について、理解する。	教科書を読んでおく（p21～23）。	90分
第7回	7回目 栄 養カウンセ リングに必 要なカウン セリング理 論	交流分析（交流分析とは、交流分析）、家族療法（家族療法とは、栄養教育における家族療法）について、理解する。	教科書を読んでおく（p24～27）。	90分
第8回	8回目 栄 養カウンセ リングに必 要なカウン セリング理 論	パーソナリティ理論（パーソナリティ理論とは、その発達）、グループアプローチ（グループアプローチとは、特徴）について、理解する。	教科書を読んでおく（p28～34）。	90分
第9回	9回目 心 理アッセメ ント	心理アセスメントとして、面接、心理テスト、行動観察による心理面のアセスメントについて、理解する。	教科書を読んでおく（p35～39）。	90分
第10回	10回目 栄 養教育に関 係が深い疾 病や健康に 関する保健 行動	栄養教育に関係深い保健行動として、健康信念モデル、自己効力感について、理解する。	教科書を読んでおく（p40～45）。	90分
第11回	11回目 カ ウンセリン グに必要な 食行動理論	栄養カウンセリングに必要な食行動理論として、食行動に影響を及ぼす要因（文化的、社会的、生理的、心理的、認知的要因）、食行動と学習（レスポナント学習、オペラント学習、認知的学習）について、理解する。	教科書を読んでおく（p46～49）。	90分
第12回	12回目 カ ウンセリン グに必要な 食行動理論	ストレスと食行動（ストレスとは、行動との関係）、摂食障害における食行動（高度な肥満、神経性食欲不振症、神経性大食症）について、理解する。	教科書を読んでおく（p50～56）。	90分
第13回	13回目 ラ イフステー ジと食行動 の特徴	ライフステージと食行動の特徴として、妊婦・授乳期、乳幼児期、学童期の食行動について、理解する。	教科書を読んでおく（p57～66）。	90分
第14回	14回目 ラ イフステー ジと食行動 の特徴	青年期、成人期、壮年期、高齢期の食行動について、理解する。	教科書を読んでおく（p67～73）。	90分
第15回	15回目 栄 養カウンセ リングの応 用、定期試 験	栄養カウンセリングの応用として、様々な場での栄養カウンセリングの応用（個別栄養教育、集団栄養教育、特定健診・特定保健指導）について、理解する。定期試験。	教科書を読んでおく（p74～90）。1～14回の講義内容を復習しておく。	90分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが前後したり、変更することがあります。
学生へのフィードバック方法	授業の最後に毎回質問を受け付ける。さらに質問がある場合にはオフィスアワー時間に2106研究室を訪問すること。
評価方法	定期試験は100点満点で出題する。出題範囲は授業で講義した箇所、配布資料を基本とするが、具体的な範囲および傾向については、試験前の週の授業で説明する。定期試験は下表に示す力を養うことを目的として実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		

評価割合	定期試験 (100%) で評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	栄養科学シリーズ NEXT 栄養カウンセリング論 第2版 : 講談社 (ISBN 978-4-06-155358-3 C3377)
参考図書	医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎 生活習慣病を中心に : 医歯薬出版 (ISBN 978-4-263-23337-5 C3047)
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 栄養カウンセリング論を構成する基本的な知識に加えて、健康の維持・増進に係る総合的な知識を有していること。 【思考・判断】 人々の健康・栄養問題に対し、適切な栄養情報を収集して、栄養改善のための取り組みを他職種と共同して積極的に計画・実行・評価できるスキルを身に着けていること。
オフィスアワー	月・火曜昼休み、木曜2限 : 栄養指導研究室 (1206室)
学生へのメッセージ	栄養士になるための必須専門科目であることから、実社会における栄養カウンセリングの実例を示しながら講義するので、学生自身も卒後の働く場をイメージして是非主体的に学んで欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は外来診療における患者や健診後の有所見者に対する栄養カウンセリングの実務経験を有しており、生活習慣病やメタボリックシンドローム等、心的要因による拒食症や過食症等の患者に対する個別面談の栄養指導に関し、栄養士・管理栄養士として習得すべき対象者の気持ちに寄り添った栄養カウンセリングを実践的に教授する。
アクティブ・ラーニング	○	栄養指導対象者の気持ちに寄り添い共感力を身に着けるため、単に講義を聴講するのではなく、講義内容についてどのように共感したか、できなかったか、隣席の学生とディスカッションを行う。これにより考える力、表現する力が養えるよう教授する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	栄養カウンセリング実習 (RA)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 三澤 朱実	指定なし

ナンバリング	R30505M13
授業概要(教育目的)	本科目は、栄養士免許証の取得のための必修科目である。この授業では、食生活や食行動は心理的な側面によっても大きく左右されるため、人々の複雑な心のあり方や、心理面からの食生活改善のためのアプローチ方法について実習し育成する。具体的には、コーチングやロールプレイ等の実習を通して、個々の対象者に合わせた心理面からの栄養ケアについて、対象者が自発的に行動変容できるよう実習し育成する。
履修条件	「栄養カウンセリング論」を履修済みであることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	学生が、栄養指導対象者の健康・栄養状態に伴う心理面の状態に関する知識を身に着け、それを理解できること。多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々の食生活を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	学生が、対象者の心理面を考え、気持ちに寄り添ったサポートを判断できるようになる。多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
関心・意欲・態度の観点 (V)	学生が、協調的に参加し栄養カウンセリング方法を積極的に提案して、グループの考えを纏めることができる。食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。栄養士として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
技術・表現の観点 (A)	学生が、対象者の心理面を理解し信頼関係を築くことで、対象者の気持ちに寄り添ったサポートや、対象者の自発的な行動変容を促すためのスキルを身に着け、それを表現できるようになる。食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や表現力を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	1回目 栄養カウンセリング実習の基本的事項	栄養カウンセリングを行う際の基本的事項(倫理、環境整備、場面構成および実施通知)について身に着ける。実習後、「栄養カウンセリング実習シート 1-1, 1-2」を提出する。	教科書を読んでおく(p91~95)。	135分
第2回	2回目 人の話を聴くときの視線、姿勢、態度	人の話を聴く時の好ましい時とそうでない時の違いについて体験し、人の話を聴く技術を身に着ける。実習後、「栄養カウンセリング実習シート 2-1」を提出する。	教科書を読んでおく(p96~97)。	135分

第3回	3回目 初回面接時での接し方、かかわり行動	初回面接でのクライアントに対する栄養士の好ましい接し方やかわり行動について体験し、かかわり行動に関する技術を身に着ける。実習後、「栄養カウンセリング実習シート 3-1」を提出する。	教科書を読んでおく (p98～98)。	135分
第4回	4回目 単純受容	「うなずき、あいづち、繰り返し」を活用し、クライアントの話の流れを妨げずに熱心に聴く態度を養う。実習後、「栄養カウンセリング実習シート 4-1」を提出する。	教科書を読んでおく (p99～100)。	135分
第5回	5回目 話しの内容を理解し、正確に簡潔に確認する	クライアントの話しの内容や気持ちを理解して、正確に簡潔に確認する方法を習得する。実習後、「栄養カウンセリング実習シート 5-1」を提出する。	教科書を読んでおく (p101～102)。	135分
第6回	6回目 自己開示	クライアントがこれまで言えなかった気持ちが表現されるようきっかけを作り、それを受けとめる技術を養う。実習後、「栄養カウンセリング実習シート 6-1」を提出する。	教科書を読んでおく (p103～103)。	135分
第7回	7回目 対象者の気持ちの受けとめ	栄養士がクライアントの気持ちを受けとめる方法を習得して、受け止めることの効果を知り、技術を身に着ける。実習後、「栄養カウンセリング実習シート 7-1」を提出する。	教科書を読んでおく (p103～103)。	135分
第8回	8回目 クライアント役の体験	クライアント役の体験をととして、クライアントの気持ちを大切にしたい栄養士としての対応に関する技術を身に着ける。実習後、「栄養カウンセリング実習シート 8-1」を提出する。	教科書を読んでおく (p106～109)。	135分
第9回	9回目 カウンセラー役の体験	カウンセラー役の体験をととして、クライアントの気持ちを大切にしたいカウンセリングスキルを身に着ける。実習後、「栄養カウンセリング実習シート 9-1」を提出する。	教科書を読んでおく (p110～113)。	135分
第10回	10回目 要約	クライアントの状況や思いを関連付けて、話の趣旨を要約することの効果を実感し、技術を身に着ける。実習後、「栄養カウンセリング実習シート 10-1」を提出する。	教科書を読んでおく (p114～114)。	135分
第11回	11回目 開かれた質問と閉ざされた質問	クライアントの正確な情報を引き出し気持ちを理解するため、開かれた質問と閉ざされた質問を状況に応じて活用し、対象者を理解する技術を身に着ける。実習後、「栄養カウンセリング実習シート 11-1」を提出する。	教科書を読んでおく (p115～117)。	135分
第12回	12回目 信頼関係を築く	栄養教育の実践事例の体験をととして、クライアントの気持ちを受け止めて受容し、信頼関係を築く技術を身に着ける。実習後、「栄養カウンセリング実習シート 12-1」を提出する。	教科書を読んでおく (p118～118)。	135分
第13回	13回目 信頼関係を築く	栄養教育の実践事例を体験することで、クライアントに共感し信頼関係を築く技術を身に着ける。実習後、「栄養カウンセリング実習シート 13-1」を提出する。	教科書を読んでおく (p118～118)。	135分
第14回	14回目 行動療法やコーチングの活用	行動療法やコーチングを活用して、対象者（クライアント）が自己決定し行動変容するように導く技術を身に着ける。実習後、「栄養カウンセリング実習シート 14-1」を提出する。	教科書を読んでおく (p124～129)。	135分
第15回	15回目 栄養カウンセリングの総仕上げ、評価	栄養カウンセリングの総仕上げとして、役割演技を行い、それを評価する技術を身に着ける。実習後、「栄養カウンセリング実習シート 15-1」を提出する。	教科書を読んでおく (p130～130)。	135分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが前後したり、変更することがあります。
学生へのフィードバック方法	授業の最後に毎回質問を受け付ける。さらに質問がある場合にはオフィスアワー時間に2106研究室を訪問する。
評価方法	平常点30%、レポート60%、発表10%で評価する。レポートの評価方法は、例えば15回レポートを提出した場合は、60点満点÷15回として、1回のレポートの配分点は4点とする。レポート作成・提出は下表に示すスキルを養うことを目的として実施している。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
レポート提出	○	○		○

発表					○

評価割合	平常点30%、レポート60%、発表10%で評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	栄養科学シリーズ N E X T 栄養カウンセリング論 第2版：講談社 (ISBN 978-4-06-155358-3 C3377) (栄養カウンセリング論の講義と同じ教科書)、
参考図書	医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎 生活習慣病を中心に 医歯薬出版 (ISBN 978-4-263-23337-5 C3047)
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】栄養カウンセリング論を構成する基本的な知識に加えて、健康の維持・増進に係る総合的な知識を有していること。 【思考・判断】人々の健康・栄養問題に対し、適切な栄養情報を収集して、栄養改善のための取り組みを他職種と共同して積極的に計画・実行・評価できるスキルを身に着けていること。
オフィスアワー	月・火曜昼休み、木曜2限：栄養指導研究室 (1206室)
学生へのメッセージ	栄養士になるための必須専門科目であることから、実社会における栄養カウンセリングの実例を示しながら実習してもらおうので、学生自身も卒後の働く場をイメージして是非主体的に学んで欲しい。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は外来診療における患者や健診後の有所見者に対する個別面談栄養指導（栄養カウンセリング）の長年の実務経験を有しており、栄養士・管理栄養士として習得すべき対象者の心理面に応じた栄養指導方法を実践的に教授する。
アクティブ・ラーニング	○	栄養指導対象者の気持ちに寄り添った栄養カウンセリング技術をより高めるため、グループワーク、グループディスカッションを行い能動的に学べるよう教授する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	公衆栄養学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 三澤 朱実	指定なし

ナンバリング	R30503M21
授業概要(教育目的)	本科目は、栄養士免許証の取得のための必修科目である。この授業では、地域や職場などの健康・栄養問題の実態、それらを取り巻く自然、社会、経済、環境問題について解説し育成する。人々の健康の保持増進を図るため、健康・栄養施策や具体的な実践活動、集団に対する栄養ケア・マネジメントについて講義し育成する。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	学生が、公衆栄養活動の進め方を説明できるようになる。健康・栄養問題の現状と、それに対しどのような施策・取り組みが行われているかを説明できるようになる。多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々の食生活を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	学生が、人々の栄養と健康の関連や問題点を類別し判断できるようになる。学生が、具体的な対策方法として、対象者に応じた食事調査方法、研究デザインを判断できるようになる。多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
関心・意欲・態度の観点 (V)	学生が、地域や近郊における食関連問題に関心を持ち、課題解決に向けて積極的に施策や活動を計画しようとする意欲がある。食生活を取り巻く様々な事象について関心を持ち、自ら課題を見出し解決に意欲的に取り組むことができる。栄養士として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	1回目 第1章 公衆栄養の概念	公衆栄養の概念、公衆栄養活動について理解する。	教科書を事前に読んでおく(p1~14)。	90分
第2回	2回目 第2章 健康・栄養問題の現状と課題	社会環境と健康・栄養問題(食料問題)、健康状態の変化について理解する。	教科書を事前に読んでおく(p15~25)。	90分
第3回	3回目 第2章 健康・栄養問題	食事の変化(エネルギー・栄養素・食品群別摂取量、食事パターン)、食生活の変化(食行動、食知識、食態度、食スキルの変化)について理解する。	教科書を読んでおく(p26~39)。	90分

	題の現状と課題			
第4回	4回目 第2章 健康・栄養問題の現状と課題	食環境の変化（フードバランスシート、食糧自給率）、諸外国の健康・栄養問題の現状と課題について理解する。	教科書を読んでおく（p40～50）。	90分
第5回	5回目 第3章 栄養政策	わが国の公衆栄養活動、公衆栄養関係法規（地域保健法、健康増進法、食育基本法など）について理解する。	教科書を読んでおく（p51～58）。	90分
第6回	6回目 第3章 栄養政策	国民健康・栄養調査（調査の目的、沿革、内容、方法）について理解する。	教科書を読んでおく（p62～66）。	90分
第7回	7回目 第3章 栄養政策	国の健康増進の基本方針と地方計画（健康日本21、健康日本21（第二次）、食育推進基本計画）について理解する。	教科書を読んでおく（p76～87）。	90分
第8回	8回目 第3章 栄養政策	諸外国の健康・栄養政策（現状、ヘルシーピープル、フードガイドなど）の概要について理解する。	教科書を読んでおく（p88～94）。	90分
第9回	9回目 第4章 栄養疫学	栄養疫学の概要、曝露情報としての食事摂取量、食事摂取量の測定方法（食事記録法、24時間思い出し法、食物摂取頻度調査法など）の特徴について理解する。	教科書を読んでおく（p95～108）。	90分
第10回	10回目 第4章 栄養疫学	食事摂取量の評価方法（食事調査と食事摂取基準、総エネルギー調整栄養素摂取量、栄養素密度法、残差法）について理解する。	教科書を読んでおく（p109～114）。	90分
第11回	11回目 第4章 栄養疫学	食事摂取量の評価方法（データ処理と解析、主な統計解析手法、栄養疫学研究デザイン）について理解する。	教科書を読んでおく（p115～121）。	90分
第12回	12回目 第5章 公衆栄養マネジメント	公衆栄養マネジメントの方法（PDCAサイクルとプリシード・プロシードモデルの各段階）、公衆栄養アセスメント（質問調査の方法と活用）について理解する。	教科書を読んでおく（p122～130）。	90分
第13回	13回目 第5章 公衆栄養マネジメント	公衆栄養プログラムの計画（アセスメント）、目標設定（短期・中期・長期目標）、評価（経過・影響・成果評価）について理解する。	教科書を読んでおく（p130～145）。	90分
第14回	14回目 第6章 公衆栄養プログラムの展開	食環境づくりのためのプログラムの展開（食環境の整備、栄養成分表示の活用）について理解する。	教科書を読んでおく（p146～186）。	90分
第15回	15回目 第6章 公衆栄養プログラムの展開、定期試験	地域集団の特性別プログラムの展開（生活習慣病ハイリスク集団への特定健康診査・特定保健指導）について理解する。定期試験。	教科書を読んでおく（p187～211）。1～14回の講義内容を復習しておく。	90分

学習計画注記 授業の進み具合によってスケジュールが前後したり、変更することがあります。

学生へのフィードバック方法 授業の最後に毎回質問を受け付ける。さらに質問がある場合にはオフィスアワー時間に2106研究室を訪問すること。

評価方法 定期試験は100点満点で出題する。出題範囲は授業で講義した箇所、配布資料を基本とするが、具体的な範囲および傾向については、試験前の週の授業で説明する。定期試験は下表に示す力を養うことを目的として実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		

評価割合 定期試験（100%）で評価する。

使用教科書名 (ISBN番号)	カレント 公衆栄養学 第3版 建帛社 (ISBN 978-4-7679-0626-3 C3047)
参考図書	日本人の食事摂取基準 2020版
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】公衆栄養学を構成する基本的な知識に加えて、健康の維持・増進に係る総合的な知識を有していること。 【思考・判断】人々の健康・栄養問題に対し、適切な栄養情報を収集して、栄養改善のための取り組みを他職種と共同して積極的に計画・実行・評価できるスキルを身に着けていること。
オフィスアワー	月・火昼休み、木曜2限：栄養指導研究室 (1206室)
学生へのメッセージ	栄養士になるための必須専門科目であることから、実社会における公衆栄養活動の実例を示しながら講義するので、学生自身もできる限り卒後の働く職場や実践社会をイメージして是非主体的に学んで欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は企業に課せられたトータル・ヘルス・プロモーションプランにおける栄養教育、厚生労働省外郭団体労務安全衛生協会産業保健部門における健康増進、集団給食部門における栄養改善に関する実務経験を有しており、栄養士として習得すべきPDCAサイクルに沿った公衆栄養施策の計画立案・評価・改善を実践的に教授する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	公衆栄養学実習 (RA)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 三澤 朱実	指定なし

ナンバリング	R30506M13
授業概要(教育目的)	本科目は、栄養士免許証の取得のための必修科目である。この授業では、人々の健康の保持・増進を図るため、健康・栄養問題の把握と分析について実習し育成する。これらの実習を通して、対象集団の状況に即した栄養改善計画の立案、実践、評価、フィードバックを行うための栄養マネジメントについて実習し育成する。
履修条件	「公衆栄養学」を履修済みであることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	学生が、栄養指導対象集団の健康・栄養状態に及ぼす食環境面の様々な要因に関する知識を身に付け、それを理解すること。多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々の食生活を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	学生が、健康・栄養問題を分析し、なぜそうなるのかの要因や問題点を抽出し、判断できるようになる。多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
関心・意欲・態度の観点 (V)	学生が、協動的に参加し公衆栄養施策の方法を積極的に提案して、グループの考えを纏めることができるようになる。食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。栄養士として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。
技術・表現の観点 (A)	学生が、公衆栄養活動のための的確な調査を実施し、対象集団に応じた計画立案、評価・改善のスキルを身に付け、それを表現できるようになる。栄養疫学、統計の基本処理のスキルを身に付け、それを表現できるようになる。食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や表現力を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(7key learning・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	1回目 公衆栄養マネジメントサイクルに沿った計画書の作成	公衆栄養マネジメントサイクルに沿った計画書の作成に関する技術を身に付ける。実習後、「公衆栄養学実習シート 1-1」を提出する。	教科書を読んでおく (p1~5)。	135分
第2回	2回目 秤量記録法による食事調査	実測法としての秤量記録法による食事調査の特徴を理解する。調理前の食材や出来あがった料理を秤量し記録する方法、目安量で記録する方法を習得する。実習後、「公衆栄養学実習シート 2-1, 2-2, 2-3, 2-4」を提出する。	摂取した食事等の写真、秤量記録法による食事記録(公衆栄養学実習シート2-2)を記入しておく。教科書を読んでおく (p50~53)。	135分

第3回	3回目 秤量記録法による食事調査の分析、評価	秤量記録法による食事調査の食品番号化、栄養素摂取量の計算の方法を習得する。個人の栄養素摂取量を食事摂取基準に沿って評価できるようになる。実習後、「公衆栄養学実習シート 3-1, 3-2」を提出する。	摂取した食事等の写真、秤量記録法による食事記録（公衆栄養学実習シート2-2）を記入しておく。教科書を読んでおく（p50～53）。	135分
第4回	4回目 24時間思い出し法による食事調査	24時間思い出し法による食事調査の特徴を理解し、面接による食事内容の聞き取りを体験する（ロールプレイング）。実習後、「公衆栄養学実習シート 4-1, 4-2, 4-3」を提出する。	料理・食品の1食分、ポーションサイズ等を把握しておく。教科書を読んでおく（p40～49）。	135分
第5回	5回目 24時間思い出し法による食事調査の分析、評価	24時間思い出し法による食事調査記録の目安量を重量化できるようになる。食事記録を食品群別摂取量で評価する方法を学ぶ。実習後、「公衆栄養学実習シート 5-1, 5-2, 5-3」を提出する。	教科書を読んでおく（p40～49）。	135分
第6回	6回目 食物摂取頻度調査法による食事調査	食物摂取頻度調査法による食事調査の特徴を理解する。食物摂取頻度調査法における摂取頻度とポーションサイズに関する技術を身に着ける。実習後、「公衆栄養学実習シート 6-1, 6-2」を提出する。	教科書を読んでおく（p54～59）。	135分
第7回	7回目 食物摂取頻度調査法による食事調査の分析、評価	食物摂取頻度調査法における摂取頻度とポーションサイズから習慣的な栄養素摂取量の算出方法に関する技術を身に着ける。食物摂取頻度調査法による食事調査の限界を理解する。実習後、「公衆栄養学実習シート 7-1, 7-2」を提出する。	「公衆栄養学実習シート 2-2：食事等の写真、秤量記録法による食事記録を作成しておく。教科書を読んでおく（p54～59）。	135分
第8回	8回目 食物摂取頻度調査票の信頼性（妥当性）、再現性の検証	秤量記録法や24時間思い出し法による食事調査結果と比較検証して、その違いを知る。食物摂取頻度調査法の信頼性（妥当性）、再現性について検証できるようになる。実習後、「公衆栄養学実習シート 8-1, 8-2」を提出する。	教科書を読んでおく（p60～62）。	135分
第9回	9回目 生活活動時間調査（タイムスタディ）	生活活動時間調査（タイムスタディ）の記録方法を習得する。総エネルギー消費量（TEE）の算出方法に関する技術を身に着ける。実習後、「公衆栄養学実習シート 9-1, 9-2, 9-3, 9-4, 9-5」を提出する。	「公衆栄養学実習シート 9-2：生活活動時間調査表」に記録しておく。教科書を読んでおく（p71～76）。	135分
第10回	10回目 食事摂取基準を用いた集団のエネルギー・栄養素摂取量の評価	秤量記録法、24時間思い出し法、食物摂取頻度調査法による食事調査結果から、食事摂取基準を用いた集団のエネルギー、栄養素の評価方法に関する技術を身に着ける。実習後、「公衆栄養学実習シート 10-1, 10-2, 10-3」を提出する。	秤量記録法、24時間思い出し法、食物摂取頻度調査法による食事調査の分析記録を仕上げしておく。教科書を読んでおく（p71～76）。	135分
第11回	11回目 食生活改善のための活動計画立案	食集団のエネルギー・栄養素摂取量の評価結果からテーマを選定し、対象集団の食生活改善のための活動計画書の作成方法、評価方法に関する技術を身に着ける。実習後、「公衆栄養学実習シート 11-1, 11-2」を提出する。	教科書を読んでおく（p77～79）。	135分
第12回	12回目 食生活質問票の作成	栄養改善のための活動や取組の効果を評価するための方法を考案できるようになる。食生活質問票の作成方法に関する技術を身に着ける。実習後、「公衆栄養学実習シート 12-1, 12-2」を提出する。	教科書を読んでおく（p63～65, p91～95）。	135分
第13回	13回目 食生活質問票の集計	作成した食生活質問票を使って調査し、集計する。調査報告書の作成方法に関する技術を身に着ける。実習後、「公衆栄養学実習シート 13-1, 13-2, 13-3, 13-4」を提出する。	作成した食生活質問票を使って調査を実施しておく。教科書を読んでおく（p63～65, p91～95）。	135分
第14回	14回目 調査データの評価、問題点抽出、考察、発表資料作成	調査データの処理、分析、評価、問題点抽出、考察に関する技術を身に着ける。実習後、公プレゼンテーションのための資料の作成できるようになる。実習後、「公衆栄養学実習シート14-1, 14-2」を提出する。	教科書を読んでおく（p124～128）。	135分
第15回	15回目 調査結果の報告・発表	調査結果を発表し、質問に的確に回答して、プレゼンテーション力をつける。他班の発表を聞き、質問することでさらに学ぶ。実習後、「公衆栄養学実習シート 15-1, 15-2」を提出する。	発表資料を仕上げ、想定される質問や回答を考えておく。	135分

学習計画注記	授業の進み具合によってスケジュールが前後したり、変更することがあります。
学生へのフィードバック方法	授業の最後に毎回質問を受け付ける。さらに質問がある場合にはオフィスアワー時間に2106研究室を訪問する。
評価方法	平常点30%、レポート60%、発表10%で評価する。レポートの評価方法は、例えば15回レポートを提出した場合は、60点満点÷15回として、1回のレポートの配分点は4点とする。レポート作成・提出は下表に示すスキルを養うことを目的として実施している。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
レポート提出	○	○		○
発表				○
評価割合	平常点30%、レポート60%、発表10%で評価する。			
使用教科書名 (ISBN番号)	栄養科学シリーズ N E X T 公衆栄養学実習 講談社 (ISBN 978-4-06-155355-2 C3347)			
参考図書	日本人の食事摂取基準 2020版			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】公衆栄養学を構成する基本的な知識に加えて、健康の維持・増進に係る総合的な知識を有していること。 【思考・判断】人々の健康・栄養問題に対し、適切な栄養情報を収集して、栄養改善のための取り組みを他職種と共同して積極的に計画・実行・評価できるスキルを身に付けていること。			
オフィスアワー	月・火曜昼休み、木曜2限：栄養指導研究室（1206室）			
学生へのメッセージ	栄養士になるための必須専門科目であることから、実社会における公衆栄養活動の実例を示しながら実習してもらうので、学生自身も卒後の働く場をイメージして是非主体的に学んで欲しい。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	担当教員は企業に課せられたトータル・ヘルス・プロモーションプランにおける栄養改善施策、厚生労働省外郭団体労務安全衛生協会産業保健部門における健康施策、集団給食部門における栄養改善策に関する実務経験を有しており、栄養士として習得すべき「PDCAサイクルに沿った公衆栄養施策の計画立案・評価・改善」を実践的に教授する。		
アクティブ・ラーニング	○	公衆栄養学活動における計画、実施、評価、改善の技術をより高めるため、グループ内でディスカッションし、時にダイバートして、能動的に学べるよう教授する。		
情報リテラシー教育				
ICT活用	○	食事摂取量の測定方法の一つとして、若年層の誰もが保有するスマートフォンを活用して自らの食事を撮影する方法を実習に取り入れる。食事画像を食教材「食事バランスガイド」に沿って定量評価し、これらを統計学的に評価・分析することで人々の食事改善に興味を持ち、授業における学びが能動的になるよう教授する。		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	給食管理学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山田 正子	指定なし

ナンバリング	R20603M21
授業概要(教育目的)	この科目は、栄養士養成のための必須科目である。 この授業は、特定多数の健康や栄養状態の改善・維持・増進等を目標とした栄養食事管理を実践するために、給食運営や関連資源を判断し、栄養面、安全面、経営管理全般のマネジメントを行う能力について講義する。また、特定給食施設における経営管理を中心に、基礎的な学習や栄養・食事管理システムとマネジメントを行うための知識と技術について講義する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	栄養士の役割、特定給食施設の種類および特性、実際の給食運営について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	給食運営管理業務の実践・管理手法および実施後の評価をすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	食事・栄養管理はライフステージを通して行うものであることを理解し、対象者に合わせた献立立案・作成を常に関心を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	給食管理について	給食の概念、給食の目的、特定給食の概要と法規、栄養士・管理栄養士の役割について理解する。	教科書の「第1章 給食のマネジメント」を読んでおくこと。	120分
第2回	給食における経営管理と情報管理について	経営管理として給食経営、経営管理と経営組織、コントラクトフードサービス、情報管理としてマーケティング、フードビジネス、顧客情報管理について理解する。	教科書の「第2章 給食にける経営管理の基本」および「第3章 情報管理」を読んでおくこと。	120分
第3回	栄養・食事管理について	栄養管理の意義と目的、栄養管理計画、栄養教育計画、食事計画、献立管理、品質管理、栄養・食事管理の評価について理解する。	教科書の「第4章 栄養・食事管理」を読んでおくこと。	120分
第4回	メニュー管理について	給食におけるメニュー、メニューのマーチャンダイジング、メニュー管理の展開、メニュー管理の評価について理解する。	教科書の「第5章 メニュー管理」を読んでおくこと。	120分
第5回	食材管理について	食材管理の目的、食材の条件、食材管理業務の流れ、保	教科書の「第6章 食材管理」	120分

	について	管条件別食品の種類、食材の購入管理、発注・検収、保管・在庫管理、食材管理の評価について理解する。	を読んでおくこと。	
第6回	生産管理について	生産管理の基本、給食におけるシステム化と生産管理、調理作業工程の管理、調理作業の標準化、配食・配膳の管理、洗浄・清掃作業の管理、給食における廃棄物処理について理解する。	教科書の「第7章 生産管理」を読んでおくこと。	120分
第7回	食事サービス管理について	食事サービス管理、食事サービスにおける精度管理、適温管理、食数管理、利用者サービスについて理解する。	教科書の「第8章 食事サービス管理」を読んでおくこと。	120分
第8回	リスクマネジメントについて	リスクマネジメントの概要、給食施設の衛生管理、各種事故と災害における危機管理について理解する。	教科書「第9章 リスクマネジメント」を読んでおくこと。	120分
第9回	施設・設備管理について	給食の施設・設備管理の概要、給食の施設・設備計画、施設・設備の保守管理について理解する。	教科書の「第10章 施設・設備管理」を読んでおくこと。	120分
第10回	給食施設の実際（病院）	病院給食の概要、病院給食の実際について理解する。	教科書の「第11章 病院給食」を読んでおくこと。	120分
第11回	給食施設の実際（学校）	学校給食の概要、学校給食の実際について理解する。	教科書の「第12章 学校給食」を読んでおくこと。	120分
第12回	給食施設の実際（児童福祉施設）	児童福祉施設給食の概要、児童福祉施設給食の実際について理解する。	教科書の「第13章 児童福祉施設給食」を読んでおくこと。	120分
第13回	給食施設の実際（高齢者福祉施設）	高齢者福祉施設給食の概要、高齢者福祉施設給食の実際について理解する。	教科書の「第14章 高齢者福祉施設給食」を読んでおくこと。	120分
第14回	給食施設の実際（事業所）	事業所給食の概要、事業所給食の実際について理解する。	教科書の「第15章 高齢者福祉施設給食」を読んでおくこと。	120分
第15回	まとめおよび定期試験	給食の運営をするにあたり、関連する全ての管理内容について理解する。定期試験も行う。	教科書全般を読んで理解しておくこと。	120分

学生へのフィードバック方法 定期試験の結果を受け、上位関連科目において説明・解説を行う。

評価方法 平常点、定期試験で評価を行う。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
定期試験	○	○		

評価割合 平常点30%、定期試験70%

使用教科書名 (ISBN番号) 実践 給食マネジメント論／高城孝助ら編著／第一出版
日本人の食事摂取基準2020年版／第一出版

参考図書 給食施設のための献立作成／赤羽正之ら著／医薬出版

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、【思考・判断】多種多様な情報を整理し、【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組み、【技能・表現】食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図る。

オフィスアワー 金曜日 5時限 2311研究室

学生へのメッセージ 校内・校外給食管理実習を学ぶ前の給食管理の基礎と理論を学ぶ授業です。この科目は校内給食管理実習を受けるための必須要件となっていますので、しっかり勉強しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	校内給食管理実習		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山田 正子	指定なし

ナンバリング	R30605M13
授業概要(教育目的)	この科目は、栄養士養成のための必須科目である。 給食の管理・運営について、その計画・実施・販売・提供について校内実習を通して学ぶ。対象者に応じた食事計画を実施することは、栄養士にとって必要不可欠なスキルである。食事計画論や基礎および応用調理学実習で学んだ知識・技能を基に、献立作成、調理実習、献立評価などを実習することにより、適切な食事計画を実施することのできる能力を備えることを目標とする。また、その作業工程でHACCPの概念に基づいた衛生・安全管理の実際を学ぶ。
履修条件	校内給食管理実習を履修するためには、以下の科目を修得済みでなければならない。 1. 基礎調理学実習（1年前期・必須科目） 2. 調理学（2年前期・必須科目） 3. 調理科学実験（2年後期・必須科目） 4. 給食管理学（2年後期・必須科目）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	学内実習を通じ、栄養士が行う給食の運営全般について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	作業の流れを理解し、的確な指示をすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	校内実習はグループワークであるため、それぞれ尊重、協力し合い、コミュニケーションをとらなければ、安心・安全で喫食者が満足する給食を作ることができないことが理解できる。
技術・表現の観点 (A)	基本的な調理技術だけではなく、大量調理の技術を身につけて実践することができる。また、栄養指導媒体作成を通じ、喫食者に理解してもらえる表現技術を身につけることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	実習内容および実習の進め方を理解する。また、実習室の清掃をすることで、実習室の構造および機器備品類の配置を理解する。	給食管理学で使用した「給食経営管理論」全般と「調理場における衛生管理&調理技術マニュアル」全般、事前に配布した校内実習の資料の内容の確認と復習をしておくこと。	120分
第2回	指示献立実習	指示された献立の調理を行うことで、実習室の作業区域の区別、食材の消毒方法、加熱食材の中心温度の計測方法、盛り付け方法など、給食の一連の作業を理解する。	給食管理学で使用した「給食経営管理論」全般と「調理場における衛生管理&調理技術マニ	120分

			アル」全般、事前に配布した校内実習の資料の内容の確認と復習をしておくこと。	
第3回	試作	各グループで作成した予定献立を試作し、献立内容の再検討、修正等を行うことで、試作の必要性を理解する。	給食管理学で使用した「給食経営管理論」全般と「調理場における衛生管理&調理技術マニュアル」全般、事前に配布した校内実習の資料の内容の確認と復習をしておくこと。	120分
第4回	実習準備①	予定献立をもとに、レシピ、作業工程表、発注表等の関連帳票、媒体などの作成を行い、事前準備の重要性を理解する。また、本作実施シミュレーションを栄養士が班行うことで、実習当日の作業の流れおよび指示内容の確認をすることの必要性を理解する。	給食管理学で使用した「給食経営管理論」全般と「調理場における衛生管理&調理技術マニュアル」全般、事前に配布した校内実習の資料の内容の確認と復習をしておくこと。	120分
第5回	実習準備②	予定献立をもとに、レシピ、作業工程表、発注表等の関連帳票、媒体などの作成を行い、事前準備の重要性を理解する。また、本作実施シミュレーションを栄養士が班行うことで、実習当日の作業の流れおよび指示内容の確認をすることの必要性を理解する。	給食管理学で使用した「給食経営管理論」全般と「調理場における衛生管理&調理技術マニュアル」全般、事前に配布した校内実習の資料の内容の確認と復習をしておくこと。	120分
第6回	第1回140食実習①	栄養士、調理員、計測係、記録係に分かれて140食を作る実習を行い、一人一人が自分の作業内容の把握および実施、コミュニケーションをとり協力することの重要性を理解する。	給食管理学で使用した「給食経営管理論」全般と「調理場における衛生管理&調理技術マニュアル」全般、事前に配布した校内実習の資料の内容の確認と復習をしておくこと。	120分
第7回	第1回140食実習②	栄養士、調理員、計測係、記録係に分かれて140食を作る実習を行い、一人一人が自分の作業内容の把握および実施、コミュニケーションをとり協力することの重要性を理解する。	給食管理学で使用した「給食経営管理論」全般と「調理場における衛生管理&調理技術マニュアル」全般、事前に配布した校内実習の資料の内容の確認と復習をしておくこと。	120分
第8回	第2回140食実習①	栄養士、調理員、計測係、記録係に分かれて140食を作る実習を行い、一人一人が自分の作業内容の把握および実施、コミュニケーションをとり協力することの重要性を理解する。	給食管理学で使用した「給食経営管理論」全般と「調理場における衛生管理&調理技術マニュアル」全般、事前に配布した校内実習の資料の内容の確認と復習をしておくこと。	120分
第9回	第2回140食実習②	栄養士、調理員、計測係、記録係に分かれて140食を作る実習を行い、一人一人が自分の作業内容の把握および実施、コミュニケーションをとり協力することの重要性を理解する。	給食管理学で使用した「給食経営管理論」全般と「調理場における衛生管理&調理技術マニュアル」全般、事前に配布した校内実習の資料の内容の確認と復習をしておくこと。	120分
第10回	前半の反省会、後半の準備	前半の実習の反省が、後半の実習でよりよい献立を喫食者提供できることにつながることを理解する。	給食管理学で使用した「給食経営管理論」全般と「調理場における衛生管理&調理技術マニュアル」全般、事前に配布した校内実習の資料の内容の確認と復習をしておくこと。	120分
第11回	第3回140食実習①	栄養士、調理員、計測係、記録係に分かれて140食を作る実習を行い、一人一人が自分の作業内容の把握および実施、コミュニケーションをとり協力することの重要性を理解する。	給食管理学で使用した「給食経営管理論」全般と「調理場における衛生管理&調理技術マニュアル」全般、事前に配布した校内実習の資料の内容の確認と復習をしておくこと。	120分
第12回	第3回140食実習②	栄養士、調理員、計測係、記録係に分かれて140食を作る実習を行い、一人一人が自分の作業内容の把握および実施、コミュニケーションをとり協力することの重要性を理解する。	給食管理学で使用した「給食経営管理論」全般と「調理場における衛生管理&調理技術マニュアル」全般、事前に配布した校内実習の資料の内容の確認と復習をしておくこと。	120分
第13回	第4回140食実習①	栄養士、調理員、計測係、記録係に分かれて140食を作る実習を行い、一人一人が自分の作業内容の把握および実施、コミュニケーションをとり協力することの重要性を理解する。	給食管理学で使用した「給食経営管理論」全般と「調理場における衛生管理&調理技術マニュアル」全般、事前に配布した校内実習の資料の内容の確認と復習をしておくこと。	120分
第14回	第4回140食実習②	栄養士、調理員、計測係、記録係に分かれて140食を作る実習を行い、一人一人が自分の作業内容の把握および実	給食管理学で使用した「給食経営管理論」全般と「調理場における衛生管理&調理技術マニユ	120分

		施、コミュニケーションをとり協力することの重要性を理解する。	アル」全般、事前に配布した校内実習の資料の内容の確認と復習をしておくこと。	
第15回	反省会、まとめ	4回行った大量調理実習の総括を行い、校内給食管理実習が校外給食管理実習につながる重要な実習であることを理解する。	給食管理学で使用した「給食経営管理論」全般と「調理場における衛生管理&調理技術マニュアル」全般、事前に配布した校内実習の資料の内容と実施した献立および実習内容との比較を行い、予定通りに実習を行うことができたか、また不足・不備な点があったかを確認する。	120分

学生へのフィードバック方法	提出してもらったレポートにコメントを入れて返却する。
---------------	----------------------------

評価方法	平常点、実習に取り組む姿勢、協働意欲、給食運営理解度を総合的に評価する。
------	--------------------------------------

評価基準	
------	--

評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	平常点			○	
	実習に取り組む姿勢			○	
	協働意欲		○	○	
	給食運営理解度	○	○		○

評価割合	平常点50%、実習に取り組む姿勢20%、協働意欲20%、給食運営理解度10%
------	--

使用教科書名 (ISBN番号)	調理場における衛生管理マニュアル&調理技術マニュアル 日本人の食事摂取基準2020年版 (第一出版) その他資料を配布する
-----------------	---

参考図書	日本食品成分表、給食経営管理論 (第一出版)
------	------------------------

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】学内での実習を通し、様々な立場や状況の人々とのコミュニケーション力を身につけ、【思考・判断】多種多様な情報を整理し、【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組み、栄養士として探究心および倫理観を持ち、【技術・表現】専門的、体系的な学修を通じて、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図る技能を身につける。
---------------	---

オフィスアワー	金曜5限 2311研究室
---------	--------------

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	
情報リテラシー教育	○	
ICT活用	○	

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	校外給食管理実習		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山田 正子	指定なし

ナンバリング	R30606M13
授業概要(教育目的)	この科目は、栄養士養成のための必須科目である。 実際の給食施設において、給食を運営する栄養士の業務を体験することにより、実践力を培い、栄養士としての主体的な自覚を養う。総合的なマネジメントについて理解し、給食施設における栄養士の役割と業務内容を習得する。
履修条件	校外給食管理実習を履修するためには、以下の科目を修得済みでなければならない。 1. 校内給食管理実習を修得済みであること 2. 食品衛生学（3年前期・必修）が修得済みであること 3. 食品衛生学実験（3年後期・必修）は履修中であること 4. GPA2.00 以上であること（3年前期の単位修得時点）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	学外での実習を通し、栄養士業務の実際を理解し、給食管理学や校内給食管理実習で学んだ内容と合致させることができる。
思考・判断の観点 (K)	実習施設における多種多様な情報を整理し、また社会人としての行動を判断し実行できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	校外実習で学ぶ意味を理解し、実習先の指導者の指示内容に真摯な態度で臨み行うことができる。実習施設の給食の運営以外の特徴等にも関心を持ち、施設自体の役割等についても理解することができる。
技術・表現の観点 (A)	実習施設の指導者の指示に従い、調理作業等をきちんとすることができる。また、実習記録ノートの記載も、正式な書類の扱いとして、丁寧にわかりやすく行うことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	校外実習①	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習	120分
第2回	校外実習②	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習	120分
第3回	校外実習③	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習	120分

第4回	校外実習④	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習	120分
第5回	校外実習⑤	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習	120分
第6回	校外実習⑥	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習	120分
第7回	校外実習⑦	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習	120分
第8回	校外実習⑧	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習	120分
第9回	校外実習⑨	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習	120分
第10回	校外実習⑩	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習	120分
第11回	校外実習⑪	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習	120分
第12回	校外実習⑫	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習	120分
第13回	校外実習⑬	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習	120分
第14回	校外実習⑭	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習	120分
第15回	校外実習⑮	栄養士業務の実際を学び、栄養士の仕事内容、役割、使命を理解する。また、他職種との連携およびコミュニケーションの重要性も理解する。	実習先の情報収集、実習先の対象者の特徴の把握、給食の運営に関する学びの復習	120分

学生へのフィードバック方法	実習先の指導者からいただいたご指摘内容を個別に伝える。 実習記録ノートにコメントを記載し返却する。
評価方法	実習前の事前指導に取り組む姿勢・意欲、実習先の指導者の評価、実習後の事後指導に取り組む姿勢・意欲、実習記録ノートの内容を総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
事前指導に取り組む意欲・姿勢	○		○	
事後指導に取り組む意欲・姿勢	○		○	○
実習先からの評価	○	○	○	○
実習記録ノートの内容	○	○	○	○

評価割合	実習先の指導者の評価60%、実習前の事前指導に取り組む姿勢20%、実習後の事後指導に取り組む姿勢20%
使用教科書名 (ISBN番号)	資料を配布する
参考図書	日本人の食事摂取基準、日本食品成分表、給食経営管理論 (第一出版)
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】学外での実習を通し、様々な立場や状況の人々とのコミュニケーション力を身につけ、【思考・判断】多種多様な情報を整理し、【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組み、栄養士として探究心および倫理観を持ち、【技術・表現】専門的、体系的な学修を通じて、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図る技能を身につける。
オフィスアワー	金曜日 5時限 2311研究室
学生へのメッセージ	意欲をもって、真面目に取り組むこと。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	
情報リテラシー教育	○	
ICT活用	○	

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	基礎調理学実習 (RA)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小口 悦子	指定なし

ナンバリング	R10601M23
授業概要(教育目的)	日本・西洋・中国料理の調理実習を通して、基礎的調理技術（加熱、非加熱、調味）や、食品の性質と衛生的な取り扱い方、食事作法など食事に関する基礎的総合能力を養うことを目的とする。また、原則として1回の食事となる献立の実習を通して、それぞれの料理様式の特徴や食卓の整え方についても師範を確認しながら理解できるよう、また、多面的な場面で実践をすることが可能となる内容とする。 本科目は、栄養士免許証、中・高教員免許（家庭）、フードスペシャリスト、フードコーディネーター3級、FBA取得のための必須科目である。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	炊飯方法、各種だしの取り方など基本的な調理手順を説明できる。 実習で用いた食材の名称、調理特性、調理法を説明できる。 栄養価計算方法を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	食材・器具の衛生敵な取り扱いをすることができる。 調理器具、食器、計量器具などを目的に合わせた扱いができる。 調理の目的に合わせて食材を適切に切碎でき、加熱・調味ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	協調して授業に参加することができ、班の構成員としての役割に対して寄与できる。
技術・表現の観点 (A)	基本的な調理道具が使用でき、盛り付け、配膳、コーディネートなど目的、対象者に合わせて展開することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	1. 授業の概要及び実習室使用上の取り決め事の説明	調理の意義・目的を学び、実習授業の流れと実習室使用上のルールを把握する。包丁、まな板、各種計量器具について種類と適切な使い方を学ぶ。また、各種洗剤、石鹸、布巾類の取り扱い方他、調理担当者としての健康管理、安全衛生管理など実習授業全般の流れ、取り決め事について学ぶ。	調理実習ノートを作成し、授業の目的と授業内容を整理し、次週からの実習に備える。	120分
第2回	2. 炊飯(白飯)、だしの取り方、	炊飯の調理工程(計量、洗米、浸漬、加水、むらし)を理解し、盛り付け方、配膳・配置を学ぶ。だしは、昆布、かつお、および混合出しの取り方を学ぶ。汁物の椀	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法(科学的なポイント、調理上の要点	120分

	野菜の切り方	だね、椀妻、吸い口を学ぶ。正しいまな板への向かい方、包丁の持ち方と野菜の切り方を実習を通して、技術を取得する。	など)、配膳図(写真)、反省・感想を記録すること。	
第3回	3. 季節向き日本料理の献立による実習(えんどう飯、みそ汁、魚の照り焼き、ほうれん草の胡麻和え、果物)	塩味飯について塩分濃度、調味料の添加時期など白飯と比較をしながら要点と技術を理解・習得する。切り身魚の扱い方と直火焼きの要点を学ぶ。青菜のゆで方、和え衣の調味割合、和え方の注意点を学ぶ。果物の扱い方と切り方他、盛り付け・配膳を学ぶ。	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法(科学的なポイント、調理上の要点など)、配膳図(写真)、反省・感想を記録すること。	120分
第4回	4. 栄養価計算と菓子の実習(桜餅)	日本食品成分表の成り立ちと栄養価計算の基本的な方法を学ぶ。菓子の実習では、道明寺粉の扱い方、餡の作り方を実習を通して学ぶ。	実習ノートの作成をする。献立、料理名、分量、調理法(科学的なポイント、調理上の要点など)、配膳図(写真)、反省・感想を記録すること。また、2~4回の実習の栄養価計算を行いノートに記録すること。	120分
第5回	5. 季節向き日本料理の献立による実習(たけのこ飯、卵豆腐のすまし汁、鰯の香味揚げ、じゅんさいの酢の物、豆大福)	醤油飯の塩分量、食塩の添加時期、加熱方法など炊飯の要点と食塩と醤油の塩分換算も学ぶ。卵豆腐(卵液の希釈と加熱方法)の要点を学ぶ。魚の鮮度の見分け方、衛生的な取り扱い、三枚おろしを習得する。揚げ物の要点・注意点、酢の物の調味と要点を学ぶ。上新粉、白玉粉の扱い方、小豆の加熱・調味法を学び・餅菓子の調理技術を習得する。	実習ノートの作成(献立、料理名、分量、調理法)を記載しながら、技術的ポイント、科学的ポイントを整理し、復習すること。栄養価計算、配膳図、反省・感想を記録する。次週の実習内容を確認すること。	120分
第6回	季節向き日本料理の献立による実習(新茶飯、沢煮椀、鯉のたたき、茄子の南蛮煮、葛よせ)	茶飯及び湯炊きの要点、混合出しの取り方、生もの調理の注意点を実習を通して学ぶ。くずでんぶんの糊化と透明感と口触り、温度管理など実習を通して学ぶ。黒蜜の作り方(黒砂糖と白糖の割合、溶かし方)を学ぶ。	実習ノートの作成(献立、料理名、分量、調理法)を記載しながら、技術的ポイント、科学的ポイントを整理し、復習すること。栄養価計算、配膳図、反省・感想を記録すること。次週の実習内容を確認すること。	120分
第7回	日本料理の献立による実習(そば飯、みそ汁、五目きんぴら、鯛皮ときゅうりの胡麻酢和え、淡雪寒)	鯛そばろ、卵そばろの調理法の要点を学ぶ。木綿豆腐、なめこと扱い方、根菜類の切り方と調味法を学ぶ。味噌の塩分量を学び味噌汁へ応用する。棒寒天の種類と扱い方、使用料、凝固温度、卵白の気泡の要点を実習を通して学ぶ。	実習ノートの作成(献立、料理名、分量、調理法)を記載しながら、技術的ポイント、科学的ポイントを整理し、復習すること。栄養価計算、配膳図、反省・感想を記録する。次週の実習内容を確認すること。	120分
第8回	日本料理の献立による実習(ちらし寿司、茶わん蒸し、いんげんの胡麻和え、わらび餅)	すし飯のための炊飯(加水量、加熱・むらし時間)の要点と合わせ酢の調味割合を実習を通して学ぶ。茶わん蒸しのだしと卵の割合、加熱の要点を学ぶ。わらび粉の扱い方について学ぶ。	実習ノートの作成(献立、料理名、分量、調理法)を記載しながら、技術的ポイント、科学的ポイントを整理し、復習すること。栄養価計算、配膳図、反省・感想を記録する。次週の実習内容を確認すること。	120分
第9回	日本料理の献立による実習(赤飯、蛤の潮汁、炒り鶏、てんぷら、水ようかん)	実習を通して、もち米の吸水、加熱法とささげ豆によるもち米への着色方法を学ぶ。潮汁の要点、てんぷらの食材の下処理、衣、揚げ温度など揚げ物の要点を学ぶ。天つゆの調味割合、薬味の種類と役割について学ぶ。煮汁の少ない煮物(炒り煮)の要点と野菜、肉理の扱い方と切り方、調味法を学ぶ。粉寒天の扱い方と使用割合、さらし餡の扱い方、分量、凝固方法を学ぶ。	実習ノートの作成(献立、料理名、分量、調理法)を記載しながら、技術的ポイント、科学的ポイントを整理し、復習すること。栄養価計算、配膳図、反省・感想を記録する。次週の実習内容を確認すること。	120分
第10回	西洋料理の献立の実習(ミネストローネスープ、舌平目のムニエル、トマトのソテー)	パスタの種類と扱い方、舌平目の下ろし方、ムニエルの要点を学ぶ。ピラフの米の炒め方、加水、加熱の要点を学ぶ。ブラマンジェは、コーンスターチの調理上の特徴(糊化)と攪拌効果(粘弾性)を学ぶ。	実習ノートの作成(献立、料理名、分量、調理法)を記載しながら、技術的ポイント、科学的ポイントを整理し、復習すること。栄養価計算、配膳図、反省・感想を記録すること。次週の実習内容を確認すること。	120分

	バターライス、ブラマンジェ)			
第11回	西洋料理の献立による実習（南瓜のピュレスープ、豚肉のソテー、リンゴソース添え、マッシュドポテト、ピネグレットソース、カスタードプリン）	実習を通して、スープは、基本となるブイヨン（スープストック）の取り方と南瓜のピュレの方法を学ぶ。豚肉のソテーは、豚肉の下処理法、調味法、焼き方を学ぶ。マッシュドポテトはジャガイモの裏ごしの要点と加熱・調味法を学ぶ。ピネグレットソースの基本の調味割合と調理法を学ぶ。カスタードの材料配合割合と加熱の要点、カラメル調理法の要点を学ぶ。	実習ノートの作成（献立、料理名、分量、調理法）を記載しながら、技術的ポイント、科学的ポイントを整理し、復習すること。栄養価計算、配膳図、反省・感想を記録すること。次週の実習内容を確認すること。	120分
第12回	西洋料理の献立による実習（オニオンスープ、蟹のクリームコロッケ トマトソース、ニンジンのグラッセ、ロールスポンジケーキ）	実習を通してオニオンスープの玉ねぎの切り方と炒め方の終点を学ぶ。ルウの材料割合とクリームコロッケ用の濃厚ベシャメルソースの加熱方法とその終点を学ぶ。ニンジンのグラッセのはニンジンの切り方、グラッセの要点について、洋菓子の基本であるジェノワーズ（スポンジ）生地配合割合と起泡、焼成方法とその終点について要点を学ぶ。また生地丸め方の切り方の要点を学ぶ。	実習ノートの作成（献立、料理名、分量、調理法）を記載しながら、技術的ポイント、科学的ポイントを整理し、復習すること。栄養価計算、配膳図、反省・感想を記録すること。次週の実習内容を確認すること。	120分
第13回	使用料理の献立による実習（コンソメスープ、魚介類のリゾット、ニンジンのサラダ、ピネグレットソース、フルーツケーキ）	実習を通して、コンソメスープではスープの澄まし方、リゾットでは、米の扱い方と加水・加熱方法、魚介類の扱い方と処理方法を学ぶ。フルーツケーキでは、12回で学んだスポンジケーキとの比較をしながら、バターケーキの材料割合と混合、焼成方法の違いと調理上の要点を学ぶ。	実習ノートの作成（献立、料理名、分量、調理法）を記載しながら、技術的ポイント、科学的ポイントを整理し、復習すること。栄養価計算、配膳図、反省・感想を記録すること。次週の実習内容を確認すること。	120分
第14回	中国料理の献立による実習（涼拌茄子、蟹仁吐司、麻婆豆腐、酸辣湯）	中国料理の様式の特徴と盛り付け、配置・配膳を学ぶ。茄子の処理と加熱（蒸す）方法、溜菜（麻婆豆腐）では、肉への下味、炒め方など溜菜の要点を学ぶ。湯（鶏ガラスープ）の取り方、澄ませ方について西洋料理のスープストック取り方の相違点なども比較しながら学ぶ。	実習ノートの作成（献立、料理名、分量、調理法）を記載しながら、技術的ポイント、科学的ポイントを整理し、復習すること。栄養価計算、配膳図、反省・感想を記録すること。また、調理法や栄養価など日本料理、西洋料理との違いなども比較してまとめておくこと。次週の実習内容を確認すること。	120分
第15回	中国料理（まとめ）の献立による実習（什錦拌盤、干貝蘿蔔球湯、什錦炒飯、乳奶豆腐）と定期試験	什錦拌盤では、3種の食材を冷菜としての盛り付け方、塩クラゲの処理法と味付け、きゅうりの切り方と下処理法と調味を学ぶ。湯は、干し貝柱の処理法と加熱法、球状大根の作り方を学ぶ。炒飯は、飯、具材の下準備と炒め方、味付けの要点を学ぶ。乳奶豆腐では、粉寒天の扱い方の復習（8第9回）と牛乳の調理上の注意点を学ぶ。シロップの材料割合と加熱条件を学ぶ。	実習ノートの作成（献立、料理名、分量、調理法）を記載しながら、技術的ポイント、科学的ポイントを整理し、復習すること。栄養価計算、配膳図、反省・感想を記録すること。15週の実習を終えて、復習として自信の評価をまとめること。	120分

学習計画注記	天候他で食材に影響がある場合、授業内容を変更することがあります。
学生へのフィードバック方法	デモンストレーション後の実習において、机間巡視をしながら理解できていない点や技術面の指導、サポートを行います。また、質問等は時間内または、研究室（2208室やemail）で受けます。
評価方法	実習参加状況：デモンストレーション、実習を通して、実習班内での協力や実習へ意欲的・積極的な参加態度を評価する。 筆記テスト：調理の基本的な内容についての筆記試験。 実習試験：基礎的な調理技術（到達）を確認する試験。 調理ノート：指定された項目の記載（15週分）内容について評価する。
評価基準	
評価基準	

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
実習参加状況	○	○	○	○
実習試験		○		○
筆記試験	○	○		
実習ノート	○	○	○	○

評価割合	実習試験 (15%) 筆記試験 (15%) 調理のノート (材料・分量・調理法の記載、配膳図、反省、感想、実習ごとの栄養価計算の記載、30%)、授業参加状況 ; (40%)
使用教科書名 (ISBN番号)	七訂 2020食品成分表 女子栄養大学出版部 (978-4-7895-1019-6) 調理のためのベーシックデータブック 女子栄養出版部 (978-4-7895-0323-5) 基礎調理学実習テキスト (印刷製本して配布)
参考図書	必要に応じて配布。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境・食事文化を理解する。 【思考・判断】多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力身につけている。 【関心・意欲・態度】食生活を取りまくさまざまな事象について関心を持ち、課題を見出し、その解決に意欲的の取り組む。 【技能・表現】食と通じて生活質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理加工の技能とこれらの開発企画や表現力を身につけている。
学生へのメッセージ	授業後には、実習内容を毎回調理ノートに整理し、栄養価計算を行うこと。調理の機会を作ることで技術の上達や応用力が身につきます。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	実習中はその内容を通して、学生自身が能動的、実践的に技術・知識深めながら、判断力、汎用力の育成を図ることができる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	調理学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 小野 かおり	指定なし

ナンバリング	R20602M21
授業概要(教育目的)	調理過程でおこる科学的な諸現象について食品材料の性質と調理操作上のかかわりを理論的に学ぶとともに、おいしさを左右する要因について総合的に理解する。本科目は、栄養士免許、中・高教員免許（家庭）、フードスペシャリスト、フードコーディネーター3級取得のための必科目である。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1. 調理の意義、目的を説明できる。 2. 食品の調理特性を説明できる。 3. 調理による食品の栄養成分の変化、テクスチャーの変化を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 適切な調理操作と調理機器の使用法、関係性を分類できる。 2. おいしさの要因について分類できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業概要、調理の目的と意義について	調理学の授業内容の概要を理解する。また、調理の目的と意義を理解する。	教科書1章の1、人間と食べ物(1~9ページ)を読んでおくこと。	120分
第2回	食べ物と嗜好性、おいしさの要因(食物の特性、人の特性、環境の特性)	おいしさの要因(食物の特性の中の科学的要因: 味、におい)を理解する。	教科書第2章食べ物と嗜好性(17~26ページ)を読んでおくこと。	120分
第3回	食べ物と嗜好性 おい	おいしさの要因(食物の特性の中の物理的要因: 温度、テクスチャー、人の特性、環境要因)を理解する。	教科書第2章食べ物と嗜好性(26~36ページ)を読んでおく	120分

	しさの要因 (物理的特性、人の特性、環境要因)		こと。	
第4回	非加熱調理操作と調理器具	非加熱調理操作の種類と目的およびその操作に必要なとなる器具の種類と特徴について理解をする。	教科書5・3非加熱調理操作(93~103)を読んでおくこと。授業前に第2~3回の授業内容に関する小テストを実施するので、復習をしておくこと。	120分
第5回	加熱調理操作と調理器具・設備、調味操作	加熱調理操作の種類と操作目的とその効果について学ぶ。また、それらの操作に用いる加熱器具・設備についてその特徴と調理上の効果を学ぶ。	教科書5・1加熱操作(78~92)と5・5調味操作(104~107)を読んでおくこと。	120分
第6回	植物性食品の調理性(穀類、小麦)	植物性食品(米、小麦)について調理操作による物性、嗜好性、栄養成分の変化を学ぶ。米は、その種類と調理特性、小麦粉は、小麦たんぱく質とでんぷんの調理操作への影響、膨化調理法の種類と特徴について学ぶ。	教科書6・1・1、6・1・2米、小麦粉(108~118)を読んでおくこと。	120分
第7回	植物性食品の調理性(雑穀、いも類)	雑穀の定義、種類を知り、栄養面、調理上の特徴を米、小麦と比較しながら理解する。いもの種類と調理操作による物性、嗜好性栄養成分の変化を学ぶ。	教科書6・1・3、6・1・4の雑穀類、いも類(118~120ページ)を読んでおくこと。	120分
第8回	植物性食品の調理性(豆、野菜、果物)	豆の調理操作による物性、栄養成分の変化について学ぶ。特に、あん、豆腐他大豆加工品、煮豆の調理上の要点を理解する。野菜の色についてその変化の要因と調理との関連性を学ぶ。	教科書6・2・1、6・2・2の豆、野菜・果物(121~133ページ)を読んでおくこと。	120分
第9回	動物性食品の調理性(鶏卵)	鶏卵の構造、成分、調理操作による組織、物性の変化を学ぶ。特に鶏卵の調理特性(希釈性、熱凝固性、起泡性、乳化性など)について、これらに影響をおよぼす要因とメカニズムについて学ぶ。	教科書6・4・2の鶏卵(148~155ページ)を読んでおくこと。授業前に植物性食品(第6回~8回)の小テストを実施するので復習をしておくこと。	120分
第10回	動物性食品の調理性(肉)	食肉の構造と加熱による筋肉組織、嗜好性および栄養成分の変化について学ぶ。食肉の部位と適正な加熱調理法を学ぶ。	教科書6・3・1肉(134~140ページ)を読んでおくこと。	120分
第11回	動物性食品の調理性(魚類)	魚、いかの組織と調理操作による物性、嗜好性の変化について学ぶ。水や酢を用いた処理による変化、摩砕による変化、また、魚臭を抑える調理法、生魚、煮魚、焼き魚の要点について学ぶ。	教科書6・3・2の魚(140~145ページ)を読んでおくこと。	120分
第12回	動物性食品の調理特性(乳・乳製品)	牛乳の成分と調理操作による組織、物性に及ぼす変化(色(褐変)、におい、凝固、皮膜の形成)などを学ぶ。また、発酵乳、チーズ、バター、クリームの調理特性について学ぶ。	教科書6・4・3の牛乳(154~157ページ)を読んでおくこと。授業前に植物性食品、動物性食品の小テストを行うので復習しておくこと。	120分
第13回	成分抽出素材の調理特性(でんぷん、糖類)	穀類、豆類、いも類、野菜類から抽出した主なデンプンの特性と利用状況を学ぶ。また、これらの糊化、老化特性を学び、調理への適性を理解する。	教科書6・5・1のデンプン、6・4・1の砂糖(145~148、157~162ページ)を読んでおくこと。	120分
第14回	成分抽出素材の調理性(寒天、ゼラチンなどのゲル化素材)	寒天・ゼラチンの原料の違いや膨潤、溶解、凝固、融解温度特性を学ぶ。また、調味料やその添加量による凝固への影響を両者を比較しながら学ぶ。これにより、調理への適性とその応用法を理解する。	教科書6・5・3寒天、6・5・4のゼラチンとカラギーナンゲル(166~171ページ)を読んでおくこと。	120分
第15回	調理と環境と食生活(環境とエネルギー、フードマイレージ)	食物連鎖と人間のかかわり、食料と環境問題を日常生活の視点から学ぶ。また、地産地消、加熱調理と省エネルギーについてモデルメニューを比較し、実際の調理への応用する視点を養う。	教科書1・6の食料と環境問題(10~16ページ)を読んでおくこと。	120分
第16回				

学習計画注記	授業の進み具合によって授業内容を変更することがある。
学生へのフィードバック方法	毎時間5分程度の質問の時間を設ける。また、小テスト(確認)を実施し、採点后に正回答を明示する。質問等がある場合には時間内またはemailにすること。
評価方法	小テスト10%、定期試験90%の総合評価とする。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○			
筆記試験	○			

評価割合	小テスト10%、定期試験90%を合計して評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	新スタンダード栄養・食物シリーズ6 調理学 東京化学同人 畑江敬子他 (978-4-8079-1666-5)
参考図書	必要に応じて指示する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境・食事文化を理解する。 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力身につけている。
学生へのメッセージ	栄養士養成の必修科目であるため、授業前に教科書を読んでおくこと。また、授業後は講義内容を復習するなど、積極的、自主的に授業に臨んで下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	調理科学実験 (RA)		
講義開講時期	後期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小口 悦子	指定なし

ナンバリング	R20604M13
授業概要(教育目的)	調理科学実験では、調理操作上で起こる様々な現象について、その諸条件と食品の物性や化学性への変化との関連性、および食感、食味への影響を学び、食品の調理特性と嗜好性の向上に関与する要因について理解する。また、調理の実際において実践展開ができる応用力をつけることを目的とする。本授業は、栄養士免許、中学・高校教員免許(家庭)、フードスペシャリスト、フードコーディネーター3級の免許取得に必須科目である。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 食品の調理特性を説明できる。 2. 調理操作法(非加熱、加熱、調味)による食品の外観、テクスチャーなど食味、栄養成分への影響を関係づけて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	食品の調理・加工特性に基づいて、調理法の適否を指摘できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	調理上の変化のメカニズムを探究することに協調的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	実験機器・器具が正しく使用できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	調理額実験の概要と実験上の諸注意。機器・器具の取り扱い方、計量・計測について。実験レポートの作成法について。	調理科学実験の概要について理解する。実験の進め方、実験結果のまとめ方を理解する。また、基本的な器具・機器の扱い方を学ぶ。	教科書3~5ページの調理科学実験を始めるにあたってを読んでおくこと。 教科書8~9ページを読んでおくこと。	120分
第2回	味覚：5基本味の閾値	甘味、塩味、酸味、苦み、うま味の5基本味について、検知域、認知域を確認する。鰹節と昆布、およびこれらの	授業前は、教科書14ページの実験1、18ページの実験2の方法	120分

	と味の相互作用ついて、実験を通して学ぶ。	混合出しから、味の相互作用（相乗効果）について確認をする。また、うま味成分と塩味の関係性を確認する。	を読み、実験の流れをノートにまとめておくこと。 授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。	
第3回	米と米粉（米の吸水と炊飯、米粉の調理特性）	米の吸水について種類（もち米、うるち米、無洗米）と水温により吸水速度が異なることを理解する。白飯、塩味飯、醤油飯、ピラフの鯛かがり重量、色、テクスチャーを比較し、炊飯と味付け飯の要点を理解する。	授業前は、教科書56ページの実験1、プリント（炊飯）の方法を読み、実験の流れをノートにまとめておく。 授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出する。	120分
第4回	小麦粉の種類と特徴：グルテン形成に及ぼす要因	薄力粉と強力粉の違いを識別できるように、外観、色、手触りを比較する。ドウ調製のための加水量とドウの伸展性を比較し、こね、寝かしの効果を確認する。また、調味料の種類とその添加時期によりグルテン形成への影響を確認し、調理への応用を考察する。	授業前は、教科書62ページの実験1、プリント（グルテン形成）の方法を読み、実験の流れをノートにまとめておくこと。 授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。	120分
第5回	小麦粉：蒸しパンに及ぼす膨化剤の影響、クッキーの性状に及ぼす材料配合割合の影響	クッキーに使用する砂糖、油脂の割合によってドウのやわらかさに影響を与えることを調べ、色、テクスチャーへの効果的な割合を学ぶ。これらの材料の換水値を理解する。膨化剤の種類の違いが、小麦粉生地の色や膨化及びにおいへの影響を知り調理への適性を考察する。	授業前は、教科書64ページの実験2、70ページの実験5の方法を読み、実験の流れをノートにまとめておく。 授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出する。	120分
第6回	野菜・果物の色（溶液のpHと加熱条件、酵素的褐変）	野菜にふくまれ色素（クロロフィル、アントシアニン、フラボノイド）は、加熱溶液のpHや食塩、塩類の影響を受けることを理解し、調理への適性を考察する。酵素的褐変の機構と防止法を理解する。	教科書の72ページ実験1と配付プリント（野菜果実の色）、74ページ実験2を読み実験手順をまとめておくこと。 授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。	120分
第7回	卵の調理性（熱凝固性、希釈性）	卵黄、卵白の熱凝固性を知る。希釈卵液の希釈濃度、希釈液や調味料種類による影響について、茶碗蒸し、卵豆腐、カスタードプリンを対象にゲル化特性を理解する。	教科書の106ページ実験3.と配付プリント（鶏卵の加熱凝固性）、112ページ実験5を読み実験手順をまとめておくこと。 授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。	120分
第8回	卵液の調理性2（起泡性、乳化性）	卵白を攪拌すると起泡するが、その際の添加物（砂糖、油脂、卵黄、塩、レモン汁）と温度の影響を理解する。卵黄の乳化作用を利用したマヨネーズの調製法の理論を、調味料の添加時期と割合、攪拌操作から理解し、安定なエマルションの形成要因を学ぶ。	教科書の114ページ実験7、116ページ実験8を読み、実験の手順をまとめておくこと。 授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。	120分
第9回	牛乳・乳製品の調理特性1（酸、熱による影響）	牛乳が酸凝固（カード化）するpHを確認し、カッテージチーズを調製する。 牛乳のたんぱく質の熱変性（皮膜、加熱臭）について、その要因を把握する。	教科書の118ページ実験1、119ページ実験2を読み、実験の手順をまとめておくこと。 授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。	120分
第10回	牛乳・乳製品の調理特性2（クリーム）の起泡性）	各種クリームの気泡条件とその違いを理解し、適正な起泡条件を知る。	教科書の120ページ実験3を読み、実験の手順をまとめておくこと。 授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。	120分
第11回	いも類の扱い方（じゃがいも、さつまいも）	じゃがいもにおいて粉質性と粘質性の2種のいもの加熱後の扱いが、調理後のテクスチャーの与える影響を学ぶ。 さつまいもの加熱方法（蒸し加熱、オープン加熱、電子レンジ加熱）の違いが甘味、色調、香りが異なることを知り、調理への応用を考察する。	教科書の82ページ実験1、84ページ実験2を読み、実験の手順をまとめておくこと。 授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。	120分
第12回	肉の加熱と調味液によるテクスチャーと味の変化1	調味料類や野菜・果物中に含まれる酵素（植物プロテアーゼ）の作用が肉の軟化に及ぼす影響を理解する。 ハンバーグにおける食塩や副材料の影響について、それぞれの役割を理解し、その他のひき肉料理への応用を考察する。	教科書の94ページ実験5、96ページ実験6を読み、実験の手順をまとめておくこと。 授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。	120分
第13回	魚肉の加熱と調味液に	魚の塩締め、酢締めについて生の魚肉に及ぼす食塩、食酢の影響を知り、その役割を理解する。	教科書の98ページ実験1、104ページ実験4を読み、実験の手順	120分

	よるテクスチャーと味の変化（あじ、いか）	いかにテクスチャーが加熱時間により変化することを理解する。	をまとめておくこと。 授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。	
第14回	成分抽出素材と調理1（寒天、ゼラチン、カラギーナンゲルの調理特性）	寒天、ゼラチンに添加する砂糖のゲル化、テクスチャーへの影響について理解する。また、牛乳、果汁を添加することで各ゲル化に及ぼす影響を理解する。たんぱく質分解酵素を含む果物の添加方法とゲル化への影響を理解する。	教科書の126ページ実験1、128ページ実験2を読み、130ページ実験3の手順をまとめておくこと。 授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。	120分
第15回	成分抽出素材と調理2（砂糖の加熱による変化）	砂糖の加熱温度と攪拌時間の関係を理解し、フォンダン、砂糖衣、カラメル、抜糸、あめの作り方の要点を理解する。	教科書の122ページ実験1、配布プリント（砂糖の加熱による変化）を読み手順をまとめておくこと。 授業後は実験の目的、結果、考察についてレポートを作成し、次週提出すること。	120分

学習計画注記	諸事情により食材の搬入に影響があった場合は、授業内容を変更することがある。
学生へのフィードバック方法	提出されたレポートのコメントを参考にして修正を行い再提出すること。質問がある場合には、2108研究室（email可）まで訪問すること。
評価方法	実験授業への参加状況（実験を通して、班内での協力や実験へ意欲的・積極的な参加態度を評価する。）40% レポートによる評価60%

評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	授業参加状況	○	○	○	○
	レポート	○	○	○	

評価割合	授業参加状況（実験を通して、班内での協力や実験へ意欲的・積極的な参加態度を評価する。）40%、レポート60%
使用教科書名 (ISBN番号)	調理学実験 改訂新版 今井悦子他 アイ・ケイコーポレーション (978-4-87492-345-0 C3077)
参考図書	必要に応じて提示する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境・食事文化を理解する。 【思考・判断】多種多様な情報を整理し客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度】食生活を取りまく様々な事象について関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
学生へのメッセージ	失敗をせず、嗜好性の高い食事づくりには、その食材の調理特性を知り、的確な調理・加工をすることが必要です。調理は、実習、実験、講義の3つの科目を履修し技術を向上させながら、科学的な理由を学び、実験により確認をすることで栄養士として、様々な対象者に対して確実な食事作りが可能となります。主体性をもって授業に臨んでほしい。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	実験中はその内容を通して、学生自身が能動的、実践的に知識深めながら、判断力、汎用力の育成を図ることができる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	微生物学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 鈴木 武人	指定なし

ナンバリング	R21705M21
授業概要(教育目的)	微生物は多種多様であり、ヒトの生活と密接な関係を持っている。本講義では食品の安全確保、あるいは食品加工（伝統食品や新食品開発）などに重要なヒト・動植物および食品に関わる病原あるいは有用微生物を対象とし、その種類・性質といった微生物の概略から、微生物の利用、制御、感染症の発生メカニズムなど応用的な事柄に至るまで授業展開する。
履修条件	高校における生物を理解していることが望ましい。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 微生物の種類、特徴、構造・形態、増殖様式を説明できる。 微生物による食品の変敗や食中毒について説明できる。 微生物の食品への有効利用について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 微生物と人との関わりについて、有効利用と排除の両面から具体的に説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ul style="list-style-type: none"> 食品の安全に関する理解に寄与できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	微生物の種類と性質① 微生物とは何か	細菌、ウイルス、真菌の分類とそれらの基本的な違いについて学修する。	配付した資料を再読し、講義内容を整理しておくこと。	120分
第2回	微生物の種類と性質② 細菌(I)	細菌の構造と機能について学修する。	講義資料(前回配付済み)を読んでもおくこと。 講義に使用した資料を再読し、講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、理解しておくこと。	120分
第3回	微生物の種類と性質③ 細菌(II)	細菌の栄養・代謝、増殖について学修する。	講義資料(前回配付済み)を読んでもおくこと。 講義に使用した資料を再読し、	120分

			講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、 理解しておくこと。	
第4回	微生物の種類と性質④ ウイルス (I)	ウイルスの構造と機能について学修する。	講義資料(前回配付済み)を 読んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、 講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、 理解しておくこと。	120分
第5回	微生物の種類と性質⑤ ウイルス (II)	ウイルスと宿主の関係、増殖について学修する。	講義資料(前回配付済み)を 読んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、 講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、 理解しておくこと。	120分
第6回	微生物の種類と性質⑥ 真菌類	真菌類の構造と機能、増殖、栄養・代謝について学修する。	講義資料(前回配付済み)を 読んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、 講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、 理解しておくこと。	120分
第7回	微生物の培養	細菌、ウイルス、真菌の培養方法を学修する。	講義資料(前回配付済み)を 読んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、 講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、 理解しておくこと。	120分
第8回	微生物の利用①	発酵食品など食品加工への微生物の利用を学修する。	講義資料(前回配付済み)を 読んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、 講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、 理解しておくこと。	120分
第9回	微生物の利用②	微生物の酵素代謝系を利用した物質生産について学修する。	講義資料(前回配付済み)を 読んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、 講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、 理解しておくこと。	120分
第10回	消毒と滅菌	滅菌と消毒の概念や代表的な消毒・滅菌法について学修する。	講義資料(前回配付済み)を 読んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、 講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、 理解しておくこと。	120分
第11回	食品の腐敗と保存①	腐敗による食品の変敗について学修する。	講義資料(前回配付済み)を 読んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、 講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、 理解しておくこと。	120分
第12回	食品の腐敗と保存②	食品の保存と微生物管理について学修する。	講義資料(前回配付済み)を 読んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、 講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、 理解しておくこと。	120分
第13回	感染と免疫	微生物の感染とそれに対する生体防御について学修する。	講義資料(前回配付済み)を 読んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、 講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、 理解しておくこと。	120分
第14回	感染性食中毒	国内で発生率の高い感染性食中毒について、病原体の種類や病態について学修する。	講義資料(前回配付済み)を 読んでおくこと。 講義に使用した資料を再読し、 講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、 理解しておくこと。	120分
第15回	腸内細菌叢と健康	腸内細菌叢とメタボリックシンドロームの関係について学修する。	講義に使用した資料を再読し、 講義内容を整理しておくこと。 前回の小テストの内容を復習、	予習240分 復習420分

			理解しておくこと。 これまでの授業内容を総復習しておくこと。																									
学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。																											
学生へのフィードバック方法	毎回の講義後に行う小テストは、次回の講義で正答の提示と解説を行う。																											
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の講義後に、その回の講義を振り返る小テストを行う。問題数は5問で4～5択の選択問題とする。1～14回までの点数の合計点（70点）を20点満点に換算し、評価する。小テストの再試験は行わないので注意すること。 ・定期試験は80点満点で出題し、栄養士実力試験の出題形式に基づく選択式の問題により知識と理解度を確認し、記述問題によって応用的な思考力や判断力を確認する。出題の傾向については、最後の授業にて説明する。 ・小テスト及び定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。 																											
評価基準	<p>評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定期試験</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>小テスト</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	定期試験	○	○			小テスト	○													
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																								
定期試験	○	○																										
小テスト	○																											
評価割合	定期試験（80%）および小テスト（20%）で評価する。 試験の内容・形式等は初回授業時に説明する。																											
使用教科書名 (ISBN番号)	なし																											
参考図書	なし																											
ディプロマポリシーとの関連	栄養士や教員、食の専門家として、探究心を持つとともに、使命感と倫理観を持って社会に貢献するための専門知識を有している。 また、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るために必要な指導力を身につけている。																											
学生へのメッセージ	微生物は食品加工への応用により保存性や嗜好性の改善に加えて様々な機能性を発揮させる一方で、食品の変敗や我々人の命を脅かす食中毒の原因にもなります。これらの知識は食品を扱う上で必要不可欠であるため、理解を深めるよう務めて下さい。																											
教育等の取組み状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>担当教員は、真菌の発酵抽出物を用いた家畜飼料添加物や健康食品を製造する企業とその機能性解明の共同研究を実施するなかで、その際に得られた知見から使用方法や使用目的に関するアドバイスをしたり、製造時の品質管理に関する知見を提供するなどの経験を有している。このような微生物発酵産物の利用に関し、生産現場における留意点や、利用の注意点などを教授している。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	担当教員は、真菌の発酵抽出物を用いた家畜飼料添加物や健康食品を製造する企業とその機能性解明の共同研究を実施するなかで、その際に得られた知見から使用方法や使用目的に関するアドバイスをしたり、製造時の品質管理に関する知見を提供するなどの経験を有している。このような微生物発酵産物の利用に関し、生産現場における留意点や、利用の注意点などを教授している。	アクティブ・ラーニング			情報リテラシー教育			ICT活用												
	該当有無	概要																										
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、真菌の発酵抽出物を用いた家畜飼料添加物や健康食品を製造する企業とその機能性解明の共同研究を実施するなかで、その際に得られた知見から使用方法や使用目的に関するアドバイスをしたり、製造時の品質管理に関する知見を提供するなどの経験を有している。このような微生物発酵産物の利用に関し、生産現場における留意点や、利用の注意点などを教授している。																										
アクティブ・ラーニング																												
情報リテラシー教育																												
ICT活用																												

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食品機能学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 黒田 久夫	指定なし

ナンバリング	R31708M21
授業概要(教育目的)	<p>【授業の概要】近年の栄養学や食品科学の発展は目覚ましく、食品の2次機能と3次機能に関する多くの知見が蓄積されている。また、それらの知見を利用して新しい食品素材や技術が開発・実用化されている。本講義では、最新の科学研究論文を紹介しながら、食品の2次機能と3次機能の科学研究の実際と産業応用例を学ぶ。</p> <p>【授業の内容】グループワークと座学の組み合わせで、食品の2次機能と3次機能の最新の知見を理解して行きます。教材は、科学雑誌や専門書を用います。英文の文献も教材に用います。将来、医療機関で管理栄養士を目指す方や大学院進学を考えている方にも役に立つ内容です。</p>
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> 食品学総論・食品学各論・生化学（総論）・基礎栄養学・応用栄養学の知識を習得している前提で講義を進めます。不足していると感じたら、授業が始まる前にテキストを読み返すなど、準備をしておいてください。第1回のガイダンス時に、本授業に必要な基礎知識の理解度をチェックします。 履修の条件とはしませんが、統計学と分子生物学の関連科目を習得していると、より理解が深まると思われます。科学データを解釈するためには統計学の考え方を理解している必要があります。ヒトゲノム解読後は、遺伝情報と栄養・健康に関する情報が急激に増えました。これからの時代は、分子レベルのこと（有機化合物の構造、遺伝子情報・タンパク質の機能など）がわからないと、栄養学の本質は理解できない時代になると思われます。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 食品科学と栄養学の基礎知識を基にして、食と健康に関する最新の科学研究や産業応用例が理解できている 科学研究の研究発表における基本的なプレゼン方法が理解できている
思考・判断の観点 (K)	データを読み取って、科学的根拠に基づく客観的で合理的な解釈ができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	食や栄養の専門家として深い探究心を持ち、より進んだ学びを志している
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス／基礎知識の理解度チェック／科学の考え方と科学的知	<ul style="list-style-type: none"> 本授業の概要、到達目標と評価方法を説明する。 食品科学と栄養学の基礎知識の理解度チェックを行う。 科学的根拠に基づく考え方（批判的思考）の基本を確認する。 	基礎知識の理解度チェックについて、解けなかった問題、間違えた問題をテキストで確認してきてください。	0-120分

	見の認知について（座学）	・科学の知見がどのように世の中に定着されるかを説明する。		
第2回	2次機能の最新の知見（座学）	・「おいしさ」について、現在どの程度研究が進んでいるかを説明する。 ・「おいしさ」を測る実験技術を説明する。 ・官能検査に用いられる統計的手法の概要を説明する。	本日説明した2次機能の最新の知見について、自分が興味を持った事例（製品開発や研究例）について調べ、ノートにまとめてください。	120分
第3回	和文論文の読解・2次機能（グループワーク）	2次機能に関する論文を配布しますので、個別・グループで調べてください。調べ方がわからない時や、調べてもわからなかった時は、ヒントを与えます。	本日のグループワークで使用した教材で、調べきれなかったところを調べてきてください。	0-120分
第4回	和文論文の読解・2次機能（座学）	前回のグループワークで用いた論文を背景や関連の知見を含めて解説します。	本日の講義についてノートにまとめたことを振り返り、必要な情報を記述してください。	60分
第5回	英文論文の読解・2次機能（グループワーク）	2次機能に関する英語の論文を渡しますので、個別・グループで調べて理解してください。調べ方がわからない時や、調べてもわからなかった時は、ヒントを与えます。	本日のグループワークで使用した教材で、調べきれなかったところを調べてきてください。	0-120分
第6回	英文論文の読解・2次機能（座学）	前回のグループワークで用いた論文を背景や関連の知見を含めて解説します。	本日の講義でわからなかったこと、調べきれなかったところを調べてノートに記述してください。	60-120分
第7回	3次機能の最新の知見（座学）	・健康機能性について、どの程度研究が進んでいるかを概説する。 ・健康機能性を分析・評価するための実験技術や調査方法を説明する。	本日説明した3次機能の最新の知見について、自分が興味を持った事例（製品開発や研究例）について調べ、ノートにまとめてください。	120分
第8回	和文論文の読解・3次機能（グループワーク）	3次機能に関する論文を渡しますので、個別・グループで調べて理解してください。調べ方がわからない時や、調べてもわからなかった時は、ヒントを与えます。	本日のグループワークで使用した教材で、調べきれなかったところを調べてきてください。	0-120分
第9回	和文論文の読解・3次機能（座学）	前回のグループワークで用いた論文を背景や関連の知見を含めて解説します。	本日の講義について、調べきれなかったことをノートにまとめてください。	0-120分
第10回	英文論文の読解・3次機能（グループワーク）	3次機能に関する英文の論文を渡しますので、個別・グループで調べて理解してください。調べ方がわからない時や、調べてもわからなかった時は、ヒントを与えます。	本日のグループワークで使用した教材で、調べきれなかったところを調べてきてください。	0-120分
第11回	英文論文の読解・3次機能（座学）	前回のグループワークで用いた論文を背景や関連の知見を含めて解説します。	本日の講義で、わからなかったところを調べてノートに記述してください。	0-120分
第12回	発表会の準備	・発表会に必要なレポートとパワーポイントを準備する ・エクセル統計ベルカーブについて説明する	・発表会に備えて、十分な準備をする ・レポートを1部印刷して提出すること（次回授業開始時） ・パワーポイントファイルを図書館LCのPCに保存し、動作確認しておくこと（授業開始時まで） ・パワーポイントファイルを指定のドライブフォルダに保存すること（次回授業日の前日の13:00）	120分
第13回	発表会（1）	・各自が調べたテーマについて、発表し、口頭での質疑に応える ・発表者のプレゼンへのコメントシートに、評価を記入する	・発表会に備えて、十分な準備をすること	120分
第14回	発表会（2）	・各自が調べたテーマについて、発表し、口頭での質疑に応える ・発表者のプレゼンへのコメントシートに、評価を記入する ・クラス内で投票し、優秀なレポートを表彰する	第1回から第11回までのノートを振り返りをしてください。	60分

第15回	2次機能と3次機能の科学研究のまとめ/期末試験対策	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業で学んだことを振り返る。 ・記述式問題への解答の仕方を説明する 	期末試験に対して十分準備すること	120分																									
学習計画注記	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会の準備は、PC室で実施予定です。PC室のPCと、GSuiteのログイン用のアカウントとパスワードを用意してください。 ・グループワークと発表会は、図書館ラーニングコモンズで実施予定です。 																												
学生へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークでは、教員がグループに順番に参加し対話して行きます。 ・レポートと発表資料については、都度中間作成物を評価し、アドバイスします。 																												
評価方法	<p>①レポートと発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2次機能または3次機能、もしくは両方をテーマとした調査研究、または実験報告をすること。テーマは、自由に決めて良い。テーマの設定については、個別に相談を受ける。評価方法は、ルーブリック表を参照すること。 ・プレゼン用のパワーポイントファイルと、レポート（サイズA4）を提出する。レポートの書式は自由とするが、標準的な書式や、記載すべき情報については説明する。パワーポイントの見栄えと成績はほとんど関係ない。内容のある発表を心がけること。 <p>②期末試験</p> <p>記述式5問とする。うち1題の問題文は英文とする（配点10点）。回答は日本語で良い。他の4題の問題文は日本語とする（配点10点×4=40点）ノートと配布プリントの持ち込みを可とする。付箋・印刷物その他の添付物を禁止する。全て手書きとすること。プリントへの書き込みはして良い。ノートと配布プリントを持ち込む場合は、期末試験開始前に確認し、試験終了後に答案とともに回収する。ノートの内容は、評価対象外とする。ノートと配布プリントは、成績評価終了後に返却する。</p>																												
評価基準	<p>評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>レポートと発表</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>期末試験</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	レポートと発表	○	○	○		期末試験	○	○												
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																									
レポートと発表	○	○	○																										
期末試験	○	○																											
評価割合	<p>①レポートと発表 50点</p> <p>②期末試験 50点</p> <p>①と②の合計に、第2回から第15回の出席率を乗じて評価する</p>																												
使用教科書名 (ISBN番号)	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントを配布する ・スライド、ルーブリック表などの資料は、Google Classroomを利用して情報共有する。参考URLにアクセスし、クラスに参加すること。クラスコードは、以下の通り。 yfb4t56 																												
参考図書	<p>最新栄養学 第10版—専門領域の最新情報— (978-4-7679-6175-0)</p> <p>日経サイエンス別冊205 食の探究 (978-4-532-51205-7)</p> <p>日経サイエンス別冊222 食の未来 地中海食からゲノム編集まで (978-4-532-51222-4)</p> <p>データベース上の文献 (Pubmedなどを利用)</p>																												
参考URL	<p>https://classroom.google.com/u/0/c/NTAxMDcxNzc2NDVa</p>																												
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている</p> <p>【思考・判断】多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる ・栄養士、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある 																												
オフィスアワー	<p>火曜日5限、水曜日4限、金曜日 昼休み・5限 フード・サイエンス&アーツ研究室 (2206)</p> <p>面談を希望する場合は、必ずGmailで予約を取ること。会議や出張で不在にする場合があります。</p>																												
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・近年の食品科学と栄養学の発展は、目覚ましいものがあります。食品科学と栄養学の本質を理解するためには、最新の科学研究を理解しておく必要があるでしょう。 ・特に、医療機関で医師と共に仕事をすることを考えている人、大学院進学を考えている人、機能性食品の開発を携わりたい人などは、必修科目の習得だけでなく、進んだ学びが必要でしょう。 ・本授業では、グループワークも取り入れて、単に知識を暗記するのではなく、科学的な原理を理解することを主眼に置いて学びを進めます。 ・最終的には、レポートとプレゼンで表現することにより、知識が身につけているかを確認することができます。他者にわかりやすく、かつ正確に伝えることができれば、その知識は真に身についたと判断できるからです。 ・10年後、20年後も専門家として活躍するためには、知識だけでなく、科学的思考の本質をマスターしておくことが必要です。言い換えると、今は知識は不十分でも、論理思考力が身につけていれば、キャリアを始めてから勉強することで最新の科学に追いつけるということです。 ・科学の知見は、そのほとんどが英語で発信されます。日本語に翻訳される情報は少なく、タイムラグもあります。従って科学の世界では、英語ができるかどうかクリティカルになります。医学や、自然科学の分野では、英文の論文を執筆できるかどうか、発表論文があるかどうかで研究者の実力が評価されます。皆さんにとって 																												

は、英語は低くないハードルかも知れませんが、今からでも遅くないと思います。この授業を契機に、少しでも科学英語の力を磨いて行って欲しいと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	<ul style="list-style-type: none">・嗜好性飲料や機能性食品の研究開発と商品開発の実績あり（食品企業での研究開発のキャリア26年）・論文、特許、学会報告など、多数の研究業績あり・若手研究員への指導実績あり
アクティブ・ラーニング	○	<ul style="list-style-type: none">・グループで研究論文や製品開発例についてディスカッションします・グループで助け合って、英語の文献を読解します
情報リテラシー教育	○	<ul style="list-style-type: none">・化合物・生体成分・論文などのデータベースの検索方法を学びます・特に、アメリカ国立衛生研究所（NIH）・アメリカ国立医学図書館（NLM）が提供するMEDLINEの利用方法を習得します https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/
ICT活用	○	<ul style="list-style-type: none">・科学研究分野におけるICT技術を学びます・エクセル統計ベルカーブの利用方法を学びます

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食品加工学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 山崎 薫	指定なし

ナンバリング	R21706M21
授業概要(教育目的)	食品の加工・貯蔵技術は有限な素材を有効に活用するために重要である。本授業では農林畜産物、水産物等の加工・貯蔵意義、原理、加工方法に加え、加工特性や貯蔵特性を捉えた包材に関する知識、加工食品の表示に関する規格や制度に加え、実際の加工食品製造ラインの流れ、製造工程で使用される食品機械についての学びも授業展開する。本科目は現代生活学部食物学科における食品衛生管理者及び食品衛生監視員、フードスペシャリスト（専門を含む）受験資格、フードコーディネーター3級認定登録、HACCP管理者資格取得に関する必修科目、中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状（家庭）に必要な選択科目である。
履修条件	高校までの生物、化学の知識を有していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	多種多様な食品の特性を生かした加工食品製造に必要な専門知識を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	加工食品製造における各種工程において、安全面に配慮し、倫理的思考と判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	基礎的知識を生かして、応用発展に繋げるコミュニケーションができる。
技術・表現の観点 (A)	加工食品に関する知識を正しく他者に伝える文章作成ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	食料の生産と栄養	1. 食料生産の現状と課題、2. 生産条件と栄養について理解する。	今後変更；教科書；1「食料生産」と栄養」（1～29ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第2回	食品加工と栄養	1. 食品加工の意義と目的、2. 食品加工の方法、3. 三次加工品とその利用について理解する。	今後変更；教科書；2「食品加工と栄養」（30～50ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第3回	加工食品とその利用①	1. 穀類について理解する。	今後変更；教科書；3「加工食品とその利用」（51～56ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第4回	加工食品とその利用②	2. いも類とでんぷん類、3. 砂糖類と甘味類を理解する。	今後変更；教科書；3「加工食品とその利用」（56～63ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分

第5回	加工食品とその利用③	4. 豆類、5. 野菜類を理解する。	今後変更；教科書；3「加工食品とその利用」（63～69ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第6回	加工食品とその利用④	6. 果実類、7. きのこと類、8. 藻類を理解する。	今後変更；教科書；3「加工食品とその利用」（70～76ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第7回	加工食品とその利用⑤	9. 魚介類を理解する。	今後変更；教科書；3「加工食品とその利用」（76～80ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第8回	加工食品とその利用⑥	10. 肉類を理解する。	今後変更；教科書；3「加工食品とその利用」（80～83ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第9回	加工食品とその利用⑦	11. 卵類、12. 乳類を理解する。	今後変更；教科書；3「加工食品とその利用」（83～89ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第10回	加工食品とその利用	13. 油脂類、14. 菓子類を理解する。	今後変更；教科書；3「加工食品とその利用」（89～95ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第11回	加工食品とその利用	15. し好飲料、16. 調味料と香辛料を理解する。	今後変更；教科書；3「加工食品とその利用」（96～115ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第12回	食品流通・保存と栄養	1. 食品流通・保存と栄養、2. 食品保存の方法を理解する。	今後変更；教科書；4「食品流通・保存と栄養」（116～127ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第13回	加工および保存中の成分変化	1. 脂質の変化、2. たんぱく質の変化、3. 糖質の変化、4. ビタミンの変化、5. 保存条件による食品栄養成分変化について理解する。	今後変更；教科書；5「加工および保存中の成分変化」（128～140ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第14回	器具と容器包装	1. 容器の材料・形態・安全基準、2. 包装による品質変化、3. 素材による環境汚染、4. 包装リサイクルを理解すること。	今後変更；教科書；6「器具と容器包装」（141～164ページ）を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第15回	食品の表示	1. 食品表示の法律、2. 食品の表示課題、3. 産地判別技術による表示の監視を理解すること。	1. 今後変更教科書；7「食品の表示」（195～200ページ）を読んでおくこと。 2. 第1回～第15回までの復習を行っておくこと。 3. 出題課題レポートを作成すること。	予習90分、復習90分

学習計画注記	* 授業展開において、履修者数や授業進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業内において、必要事項を適宜、フィードバックします。また、質問等がある場合は町田校舎2308研究室へ訪問、もしくはメールにて連絡して下さい。訪問される際は事前にメールで連絡し、アポイントをとって下さい。
評価方法	課題レポート20%、定期試験（筆記試験）80%の総合評価（100%）とします。
評価基準	
評価基準	
評価割合	課題レポート20%、定期試験（筆記試験）80%の総合評価
使用教科書名 (ISBN番号)	* 二重に購入をされないよう気をつけて下さい。2020年5月5日変更 ●平成31年度（令和元年度）食品学総論使用教科書；栄養科学イラストレイテッド 食品学Ⅰ 食べ物と健康—食品の成分と機能を学ぶ／羊土社水品善之、菊崎泰枝、小西洋太郎／編 定価2600+税 ●令和2年度食品学各論使用教科書；栄養科学イラストレイテッド 食品学Ⅱ 食べ物と健康—食品の分類と特性、加工を学ぶ／羊土社栢野新市、水品善之、小西洋太郎／編 定価2700円+税
参考図書	必要に応じて、別途、紹介します。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。 【思考・判断】多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。

	【関心・意欲・態度】食品加工に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。 【技術・表現】専門的知識を他者に正しく伝える文章力を身につける。															
オフィスアワー	月曜3限 2308研究室 授業前後、メール等で事前に予約と時間の承諾を得て下さい。															
学生へのメッセージ	食品を理解するために基礎生物学、基礎化学に始まり、有機化学的な学びの要素も出てきます。それらの学びは苦手なほど、共通科目や学科専門科目で学びを深めておいて下さい。 現代生活学部食物学科における食品衛生管理者及び食品衛生監視員、フードスペシャリスト（専門を含む）受験資格、フードコーディネーター3級認定登録、HACCP管理者資格取得に関する必修科目、中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状（家庭）に必要な選択科目でもあります。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、授業展開を行う。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、授業展開を行う。	アクティブ・ラーニング			情報リテラシー教育			ICT活用		
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、授業展開を行う。														
アクティブ・ラーニング																
情報リテラシー教育																
ICT活用																

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食品加工学実習		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 山崎 薫	指定なし

ナンバリング	R21707M23
授業概要(教育目的)	食品加工学の講義内容を踏まえ、実際の加工食品製造に準拠した製法にて缶詰や瓶詰、レトルト食品等をつくる。糖蔵、塩蔵、燻煙等の加工手法を実際に実習することにより、多種多様な食品素材の加工特性を捉える。併せて、包材特性試験や貯蔵試験や製造規格試験等も行い、加工食品の規格や貯蔵試験も体得する授業展開を行う。本科目は現代生活学部食物学科における食品衛生管理者及び食品衛生監視員、HACCP管理者資格取得に関する必修科目である。
履修条件	高校までの生物、化学の知識を有していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	多種多様な食品素材を生かした一般的な加工技術工程を食品加工を行う意義と併せて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	加工原料、加工工程の状態を把握し、応用的思考、判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	基礎的な食品加工工程を応用へ繋げる意欲や関心を持ち、編成された班で協働できる。
技術・表現の観点 (A)	基礎的な食品加工操作を自身並びに他者への安全面にも留意した加工操作ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	豆類の加工 ① 和食惣菜キット①	納豆の製造を行う。 和食惣菜キット検討企画の説明を行う。	1. 事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実習レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
第2回	豆の加工 ② 和食惣菜キット②	米味噌の製造を行う。 和食惣菜キット企画を行う。	1. 事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実習レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
第3回	豆の加工 ② 和食惣菜キット③	豆腐の製造(木綿豆腐、絹ごし豆腐)を行う。 和食惣菜キット企画を行う。	1. 事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読んでおくこと。	予習90分、復習90分

			2. 実習レポートを作成すること。	
第4回	果実の加工 ①	みかんのシラップ缶詰の製造を行う。	1. 事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実習レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
第5回	果実の加工 ②	グレープフルーツマーマレードの瓶詰の製造、ペクチン検査を行う。	1. 事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実習レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
第6回	穀類の加工 和食惣菜キット④	パンの製造を行う。 和食惣菜キットの企画検討を行う。	1. 事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実習レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
第7回	いもの加工 和食惣菜キット⑤	コンニャクの製造を行う。 和食惣菜キット企画の中間報告を行う。	1. 事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実習レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
第8回	乳の加工 ① 和食惣菜キット企画⑥	バター製造の製造、ヨーグルトの製造、酸乳飲料の製造①を行う。 和食惣菜キット企画検討を行う。	1. 事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実習レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
第9回	乳の加工 ②、和食惣菜キット⑦	乳酸菌飲料の製造②、ヨーグルトの乳酸測定を行う。 和食惣菜キット企画検討を行う。	1. 事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実習レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
第10回	野菜の加工 和食惣菜キット⑧	調味キノコの瓶詰製造を行う。 和食惣菜キット企画検討を行う。	1. 事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実習レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
第11回	和食惣菜キット⑨	和食惣菜キット企画最終調製を行う。	1. 事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実習レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
第12回	嗜好品の加工	キャラメル製造を行う。	1. 事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実習レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
第13回	畜肉の加工	ソーセージの製造を行う。	1. 事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実習レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
第14回	和食惣菜キット⑩	和食惣菜キット企画の最終発表を行う。	1. 事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実習レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
第15回	製造基準検査と確認試験	みかんのシラップ缶詰の缶詰検査を行う。 実技+筆記試験を行う。	1. 事前に案内する参考図書の指定内容並びに配布資料を読んでおくこと。 2. 実習レポートを作成すること。 3. 第1回～第15回を復習しておくこと。	予習90分、復習90分

学習計画注記	* 授業展開において、履修者数や授業進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業内において、必要事項を適宜、フィードバックします。また、質問等がある場合は町田校舎2308研究室へ訪問、もしくはメールにて連絡して下さい。訪問される際は事前にメールで連絡し、アポイントをとって下さい。
評価方法	実習態度（編成された班における協同の様子等）30%、実習結果検討・課題レポート50%、実技+筆記試験（全15回授業内容）20%の総合評価（100%）とします。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
実習態度	○	○	○	○
レポート	○	○		
実技試験	○	○		○
筆記試験	○	○		
評価割合	実習態度（編成された班における協同の様子等）30%、実習結果検討・課題レポート50%、実技＋筆記試験（全15回授業内容）20%の総計100%による総合評価			
使用教科書名 (ISBN番号)	なし 必要な資料を授業中に適宜、配布します。			
参考図書	栄養科学イラストレイテッド 食品学Ⅰ 食べ物と健康—食品の成分と機能を学ぶ／羊土社 水品善之、菊崎泰枝、小西洋太郎／編 定価2600円＋税 2018年2月15日発行 B5判 208ページ 栄養科学イラストレイテッド 食品学Ⅱ 食べ物と健康—食品の分類と特性、加工を学ぶ／羊土社 栢野新市、水品善之、小西洋太郎／編 定価2700円＋税 2017年2月15日発行 B5判 216ページ 食べ物と健康Ⅲ第2版食品加工と栄養／三共出版 船津保浩、竹田保之 加藤 淳 編著 定価2500円＋税 2017年3月31日発行 B5判 222ページ			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度】実習内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。 【技術・表現】食品加工における専門的技術を身につける。			
オフィスアワー	水曜5限 2308研究室 授業前後、メール等で事前に予約と時間の承諾を得てください。			
学生へのメッセージ	食品を理解するために基礎生物学、基礎化学に始まり、有機化学的な学びの要素も出てきます。それらの学びは苦手なほど、共通科目や学科専門科目で学びを深めておいて下さい。 現代生活学部食物学科における食品衛生管理者及び食品衛生監視員、HACCP管理者資格取得に関する必修科目です。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、授業展開を行う。		
アクティブ・ラーニング	○	指定されたグループで協同かつ得られた結果を共有し、共に解析を行う。		
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	応用調理学実習		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小口 悦子	指定なし

ナンバリング	R11702M23
授業概要(教育目的)	基礎調理学実習を発展させた日本・西洋・中国料理の調理実習を行う。季節向きの献立、行事食、精進料理等、各趣向や目的に合わせた献立において内容に沿った食べ物の文化的、歴史背景も学べる内容とする。技術、食品の性質とその取り扱い方、演出、食事作法なども学ぶ。本科目は、フードコーディネーター3級の資格取得に必須の科目である。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1. 行事食を通して食べ物と行事の繋がりがや意味合い、食の文化的、歴史的背景を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 食材の下処理法や衛生的な取り扱い方、調理技術が身についている。 2. 食品の種類と量を説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	協調して授業に参加することができ、班の構成員としての役割に対して寄与できる。
技術・表現の観点 (A)	調理用具・機器を使用でき、目的に合わせた食事の演出とマナーや献立作成ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業概要、授業の目的と概要、授業の進め方、評価。実習上の心得、準備等	授業の意義・目的を学び、実習授業の流れと実習室使用上のルールを把握する。	実習ノートを作成し授業の目的と授業内容を整理すること。	120分
第2回	アメリカンスタイルの朝食の献立実習	各種パン料理(クロックムッシュ、フレンチトースト)と卵料理(オムレツ) スープと果物の実習をとおして、アメリカンブレックファースト献立の成り立ちと技術、配膳を学ぶ。	実習ノートに献立、材料、分量、調理法(科学的要点、技術的要点)、配膳図、反省、感想を記載すること。 また西洋料理の朝食の種類とその内容をまとめておくこと。	120分

第3回	西洋料理の献立による実習	ブイヨンの取り方、卵白を用いた衣の作り方と揚げ物の要点、マヨネーズとその応用（タルタルソース）を理解する。 青菜のゆで方とソテー法を理解する。 オレンジゼリーは、果汁の分量とゼラチンの扱い方を理解する。	実習ノートに献立、材料、分量、調理法（科学的要点、技術的要点）、配膳図、反省、感想を記載すること。	120分
第4回	日本料理、秋の献立	栗ご飯では栗の扱い方、薩摩汁は鶏肉、野菜の切り方、煮方、調味法を学ぶ。サバのみぞれ煮では、さばの二枚卸と調味、上げ方の要点を学ぶ。えのきだけの扱い方、加熱方法、浸し物の要点を学ぶ。どら焼きは、生地材料割合と焼き方を学ぶ。秋の趣向での配膳を学ぶ。	実習ノートに献立、材料、分量、調理法（科学的要点、技術的要点）、配膳図、反省、感想を記載すること。	120分
第5回	雑穀を使った献立（日本料理）による実習	きび、あわ、はと麦、発芽玄米を飯、汁、揚げ物の衣、菓子に使用した献立を通し、その取扱い方、特徴、栄養価を学ぶ。	実習ノートに献立、材料、分量、調理法（科学的要点、技術的要点）、配膳図、反省、感想を記載すること。 また、雑穀の定義と栄養価を小麦粉、米と比較しノートに記入すること。	120分
第6回	中国料理の献立による実習	冷拌魷魚では、冷菜としてのいかの処理、味付け、盛り付け方を学ぶ。如意魚拌では、すり身の作り方と巻物調理法を学ぶ。糖酢魚では、鯖の丸揚げの要点を学ぶ。干貝粥では、粥の加熱の要点味付けを学ぶ。仁杏豆腐は、生のアーモンドから仁杏を作る方法を学ぶ。	実習ノートに献立、材料、分量、調理法（科学的要点、技術的要点）、配膳図、反省、感想を記載すること。	120分
第7回	秋の行楽弁当の献立による実習	松花堂弁当箱他各種お弁当箱に盛り付けを行い、通常の器との盛り付け方の違いを学ぶ。 実習内容は、松茸ご飯は、松茸の扱い方と醤油飯の調味割合と調味の時期を学ぶ。焼き茄子の味噌汁は、茄子の焼き方と調理法を学ぶ。瓢卵（巻焼卵と瓢形作り）、そうめん、すり身、栗の甘露煮を使いたいぐりの作り方を学ぶ。さんまのさばきかた、里いもと粟部の煮物は、里芋の下処理、粟麩の扱い方、調味法を学ぶ。柿なますは、立て塩法と調味割合、無花果の煮方を学ぶ。	実習ノートに献立、材料、分量、調理法（科学的要点、技術的要点）、配膳図、反省、感想を記載すること。 松花堂弁当箱、幕の内弁当箱の由来を調べノートに記載すること。	120分
第8回	西洋料理の献立による実習	ビーフストロガノフでは、ルウの作り方、肉の煮込み法、調味法について学ぶ。サフランソースの要点を学ぶ。白菜とみかんのサラダとソースを学ぶ。シュー生地の材料割合と加熱方法、デコレーション法を学ぶ。カスタードクリーム材料割合と調理法、生クリームの泡立ての要点を学ぶ。	実習ノートに献立、材料、分量、調理法（科学的要点、技術的要点）、配膳図、反省、感想を記載すること。	120分
第9回	西洋料理の献立による実習	クラムチャウダーは、ルウと貝を加える要点を学ぶ。豚肉のウイーン風カツレツは、豚肉の処理とソテー方法を学ぶ。付け合わせのペンネパスタ、芽キャベツ、ブロッコリーのゆで方と味付けを学ぶ。アップルパイでは、パイ生地の材料割合と調理法、リンゴの煮方を学ぶ。	実習ノートに献立、材料、分量、調理法（科学的要点、技術的要点）、配膳図、反省、感想を記載すること。	120分
第10回	行事食：お正月料理1	田作り、伊達巻、きんかんの甘煮、五色なます、小豆飯、粕汁の実習と器への盛り付け、重箱詰め（一の重、二の重、三の重、与の重）などを学ぶ。	実習ノートに献立、材料、分量、調理法（科学的要点、技術的要点）、配膳図、反省、感想を記載すること。 おせち料理の由について調べ、ノートに記入すること。	120分
第11回	行事食：お正月料理2	栗きんとん、五目のし鶏、わかさぎの南蛮漬、人参と大根の相合結び、雑煮、薯蕷饅頭の実習と重詰めと盛り付け、テーブルコーディネートを学ぶ。	実習ノートに献立、材料、分量、調理法（科学的要点、技術的要点）、配膳図、反省、感想を記載すること。 五節句と食べ物について調べ、ノートに記入すること。	120分
第12回	行事食：クリスマス料理	エビのスープ、鶏肉のクリーム煮、ラディッシュのサラダ、ブッシュドノエル（クリスマスの薪）の実習を通して、鶏肉の扱い方、ラディッシュの加熱方法と調味、ブッシュドノエルのスポンジケーキ生地の要点を学ぶ。クリスマスとしてテーブルコーディネートを学ぶ。	実習ノートに献立、材料、分量、調理法（科学的要点、技術的要点）、配膳図、反省、感想を記載すること。 クリスマスの由来と食べ物について調べ、ノートに記入すること。ブッシュドノエルのいわれについても調べること。	120分
第13回	中国料理 立春を祝う料理	立春を祝う料理（春餅）の実習と、甜酸脆魚、雲吞湯、棗糕を実習する。春餅、棗糕では、小麦粉の扱い方の違いを学ぶ。	実習ノートに献立、材料、分量、調理法（科学的要点、技術的要点）、配膳図、反省、感想を記載すること。	120分
第14回	行事食 ひな祭りの献立による実習	ひな祭りの趣向で、はまぐり寿司、茶巾寿司、いなりずしの実習を通して、ひな祭りと食べ物のいわれも学ぶ。えび真蒸のすまし汁では、椀種の真蒸の作り方の要点、桜餅では、道明寺粉の扱い方を学ぶ。また、盛り付けについても行事食としての趣向を学ぶ。	実習ノートに献立、材料、分量、調理法（科学的要点、技術的要点）、配膳図、反省、感想を記載すること。	120分

第15回	西洋料理の実習	わかさぎのエスカベージュ、人参のポタージュスープ、帆立て貝のグラタン、パバロアの献立から、これまでの復習となる調理法（材料の切り方、揚げ物、裏ごし（ピュレ）、スープの取り方、ルウ、魚介類の扱い方、生クリーム、ゼラチン）、食材の扱い方について学ぶ。	実習ノートに献立、材料、分量、調理法（科学的要点、技術的要点）、配膳図、反省、感想を記載すること。	120分	
学習計画注記		天候他、材料の搬入に影響があった場合は実習内容の変更をすることがあります。			
学生へのフィードバック方法		デモンストレーション後の実習において、机間巡視をしながら理解できない点や技術面の指導、サポートを行います。また、質問等は2108研究室（emailも可）を訪問してください。			
評価方法		実習参加状況：デモンストレーション、実習を通して、実習班内での協力や実習への取り組み方を評価する。 筆記試験：授業内容に関する試験を実施する。 技術試験：応用的な実技試験を行う。 調理ノート：指定された項目の記載（15週分）と課題の記述を評価する。			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	実習参加状況	○	○	○	○
	実習試験		○		○
	筆記試験	○	○		
	実習ノート	○	○	○	○
評価割合		平常点（40%、授業への参加状況）、筆記試験（15%）、実習試験（15%）、調理実習ノート他提出物（30%）による総合評価。			
使用教科書名 (ISBN番号)		<ul style="list-style-type: none"> 「応用調理実習」のテキスト（作成教材）を配布する。 七訂 食品成分表2020 / 女子栄養大学出版部（978-4-7895-1019-6） 調理のためのベーシックデータ/女子栄養大学出版部（978-4-7895-0323-5） 			
参考図書		必要に応じて配布する。			
ディプロマポリシーとの関連		<p>【知識・理解】多様な食環境・食事文化を理解する。</p> <p>【思考・判断】多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力身につけている。</p> <p>【関心・意欲・態度】食生活を取りまくさまざまな事象について関心を持ち、課題を見出し、その解決に意欲的の取り組む。</p> <p>【技能・表現】食と通じて生活質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理加工の技能とこれらの開発企画や表現力を身につけている。</p>			
学生へのメッセージ		実習ノートを活用し、時間を見つけて調理をすることで技術が上達します。栄養士は、多様な食材の特徴を知り、一食材を多様に、また多くの食材を使いこなせる知識と技術が求められます。積極的に取り組みましょう。			
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング	○	実習中はその内容を通して、学生自身が能動的、実践的に技術・知識深めながら、判断力、汎用力の育成を図ることができる。			
情報リテラシー教育					
ICT活用					

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	製品・食品鑑別演習		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 新原 恵子	指定なし

ナンバリング	R31709M22
授業概要(教育目的)	食品の栄養、安全性、機能性に関して客観的に鑑別する方法は、現代社会の機器分析の発達により格段に進歩をしたが、「おいしさ」や「品質の総合的な評価」の大部分は人による官能評価に委ねられている。各食品の種類や特性などを理解し、品質を評価できる能力を身に着けることが、適切な食材を選択するためには重要になる。官能評価法の中で使用頻度の高い手法を使用して、実験計画を立てられるようにし、具体的な実施方法について、演習や発表を取り入れながら習得する。
履修条件	食品の基礎知識を有していることを前提にした授業内容もあるため、「食品学」や「調理学」を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	食品の品質を評価する官能評価法の中でも、主要な方法について説明できる。 化学的評価法、物理的な評価法について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	食品の官能評価から、食品の開発に必要な要素を考えることができる。 食品の品質評価を通し、食の安全性や食生活についての問題点を指摘することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	食品のもつ「おいしさ」や「栄養価」に関心を持ち、毎日の健康的で、豊かな食生活に寄与できる。
技術・表現の観点 (A)	官能評価の目的、正しい評価の方法、結果の出し方を習得し、専門的に記述表現できるようにする。 「おいしさ」や「品質の評価」を専門的な表現で口頭発表できる。

学習計画

食品の官能評価と鑑別

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション。 食品の品質についての概要。	食品であるために優先すべき、基本的な特性を理解する。	自分が「おいしい」と感じている食材や料理を、「食品学」や「調理学」など履修した授業の観点などを取り入れてまとめ、次週発表出来るようにする。	60分
第2回	官能評価の概要と意義について	先週のまとめ発表。演習1：官能評価5味識別テストの実施	授業前に教科書P3-P12を読んでおく。次週までに官能評価に必	予習60分。復習60分

			要な条件を理解し、レポートにまとめ提出する。	
第3回	官能評価の手法の選定①	演習2: 比較法について演習を通して学ぶ。2点識別試験法及び、2点嗜好試験法について演習を通して理解をする。	先週のもとも発表。授業前に教科書P12からP15を読んでおく。検定方法の結果をふまえ「好ましさ」に寄与する要因を理解し、レポートにまとめ提出する。	予習60分、復習90分
第4回	官能評価の手法の選択②: 3点識別法について学ぶ	演習3: 3点識別試験法の演習と解析をする。前回の2点識別試験法との違いを理解し、質的な違いについて表現できるようにする。	授業前に教科書P15-17ページを読んでおく。比較して選ぶ(2点比較法、2点識別試験法、2点嗜好試験法、3点識別法)について理解を深め、レポートにまとめ提出する。	予習60分、復習60分
第5回	官能評価の手法の選択③: 順位法について学ぶ	演習4: 順位法の実施。試料の特性について特徴や好ましさなどを判定し、順位をつける方法について学ぶ。	教科書P17-P21までを読み、スピアマンの順位相関係数、Newell&MacFarlaneの検定表を用いる検定、ケンドールの一致性の係数などの検定方法について予習しておく。演習で使用した検定方法で好ましいと判断された試料について、なぜ好ましいと判定されたのかレポートにまとめ提出する。	予習60分、復習90分
第6回	官能評価の手法の選択④: 評点をつける。特性を記述する方法や特性を記述する方法について学ぶ	演習5: 評点法の実施 試料の特性について、経験を通して培った基準で採点する方法を学ぶ。評価する尺度が評点を使用する相対的な比較だけでなく、絶対的な評価の方法であるため、適切な評価項目を設定することや適切な表現で評価できるようにできるようにする。	授業前に教科書P22-P29まで読んでおく。官能評価の内容を含めて書きだして整理し、官能評価で試食した試料が、「なぜ、おいしく感じるのか。」理由をレポートにまとめ提出する。	予習60分。復習90分
第7回	化学的評価法について理解をする。	演習6: 食品の酵素による変質 食品成分と品質の関りを学び、それを基に化学的方法を用いた品質検査法について演習を取り入れて学習する。市場などや、購入段階では外観に頼った選別も行われるため、外観による食品情報についても学ぶ。	教科書P31-P58までを読んでおく。実際に食品を店頭で購入する際に、今回の授業を踏まえ留意した点。また酵素褐変を防止法をした調理法についてレポートにまとめて提出し、次週発表する。	予習60分。復習120分。
第8回	物理的評価方法について学ぶ	先週のもとも発表。食品の基本的な特性を踏まえ、食品全体がもつ理解学的性質、レオロジー、食感、テクスチャー、色の評価について、学ぶ。特に近年の高齢社会において、高齢者が栄養摂取をしやすい形態での食の開発が、重要になっている。咀嚼や嚥下を考慮するユニバーサルデザインフードについての物性規格について学ぶ。	教科書P59-P85まで読んでおく。	予習60分。復習120分。
第9回	個別食品の鑑別: 米、麦類、トウモロコシ、雑穀類、芋類について	演習7: 小麦粉の湿グルテン量の測定 無数にある食品を総合的・体系的な知識で鑑別できる知識を習得する。演習を通し、各種小麦粉の物理的な評価をする。各評価を踏まえ小麦粉の特徴を調べ、食品の原料や調理適性について各グループごとにまとめて次週発表する。	授業前に教科書P88-106を読み、食品学で学んだ各食材の特徴を予習しておく。次週の発表にむけ、授業内で準備が終わらない部分を補う。	予習60分。復習90分
第10回	個別食品の鑑別: 豆類、種実類、野菜類、キノコ類、果物類、海藻類について	先週のもとも発表。 演習8: 野菜の生食、加工食品の鑑別。野菜や果物などの品質だけでなく、鮮度保持や熟成についても知識を深める。また豆類としての「植物性たんぱく質」の可能性を考え、品質や取り扱いの知識を深める。	授業前に教科書P111-138までを読んでおく。家庭で食べる豆類や加工品の食べ方、おいしさについてレポートまとめ提出する。	予習60分、復習90分。
第11回	個別食品の鑑別: 魚介類、肉類、卵とその加工品について	先週のもとも発表。 演習9: 魚介の鮮度判定。鮮度が重要視される魚介類の官能評価による鮮度判定の指標や鮮度を保つための流通技術を学び、理解を深める。肉類は輸入物も含め種類が多い。部分肉の種類や銘柄、品種について学び日常の食生活にも寄与できるように学ぶ。	授業前に教科書P151-168まで読んでおく。授業後の1週間の中で、授業で学んだことをもとに魚介類もしくは肉類を購入する場合の様なことを問題視したか、店頭での鑑別についてレポートにまとめ提出し、次週発表する。	予習60分、課題180分
第12回	個別食品の鑑別: 乳と乳製品について	先週のもとも発表。 演習10: 牛乳、乳製品官能評価を実施。牛乳、乳製品の官能評価を通し、成分の違いや種類、特徴について知識を深める。 機能性表示食品と特定保健用食品の内容も含む。	授業前にP168-P177を読んでおく。授業前の1週間の中で、毎日の牛乳・乳製品の摂取した種類や量を書き出しておく。授業の中で簡易のカルシウム摂取チェックをするので、授業後のレ	予習90分、課題90分

			ポートで「自分の食生活の中で の牛乳製品について」をまと めて提出する。	
第13回	個別食品の 鑑別：油 脂、菓子 類、酒類に ついて	健康ブームにより、店頭 の植物油の種類も増えて いる。各食用油の特徴や 変敗防止について理解を 深める。菓子や酒類など の嗜好品は多種多様であ るが、酒に関しては、製 造方法の違いによる分類 は理解しておくことが必 要になる。	授業前に教科書P169- P1981を読んでおく。 復習として醸造法につ いて理解を深める。	予習60分、復習60分
第14回	個別食品の 鑑別：茶 類、コー ヒー、コ コア、嗜 好飲料に ついて	演習11：市販飲料の官 能評価。 その他飲料の鑑別につ いて理解をする。	授業前にP198-209を 読んでおく。官能評価を 基に、市販の紅茶やコー ヒーや嗜好飲料の糖分 やおいしさについてレポ ートにまとめレポート、 次週に提出する。	予習60分、課題90分
第15回	個別食品の 鑑別：醸 造食品、 調味料、 香辛料、 インスタ ント食 品、冷凍 食品、弁 当 授業のま とめ	食文化の広がり、食生 活、社会生活の変化に伴 い、外食・中食が普及し ている。その中で食の鑑 別の理解を深める。 15回の授業の中で補足 すべき点や、テストにつ いて説明をする。	授業前に教科書P209- 236をよんでおく。	予習60分

学習計画注記 授業展開において、履修者数や授業進捗状況によって、スケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 官能評価を実施することにより、専門的な表現で記述できているか確認する。発表内容については、内容が適切か、表現が伝わるかを講評する。その他必要事項については授業内で、適宜フィードバックする。

評価方法 「官能評価」だけでなく、「食品学」や「調理学」の観点から、食への関心を持ち、レポートにまとめられ、発表できるかどうかを評価する。演習の授業であるため、授業内での取り組み、プレゼンテーション、発言など平常点と提出レポートを重要視し、定期試験は60点満点で出題する。授業課題レポートは日時、時間厳守とし、提出期限を遅延したものは減点とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題レポート	○	○	○	○
演習・課題の取り組み、発表	○	○	○	○
定期試験（筆記試験）	○	○		

評価割合 課題レポート30%、演習・課題の取り組み発表20%、定期試験50%

使用教科書名 (ISBN番号) 三訂食品の官能評価・鑑別演習/建帛社
日本フードスペシャリスト協会編

参考図書 授業内で適宜紹介します。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】人間の営みのなかで、最重要事項である「食」について「おいしさ」が重要であることを認識し、人が基準として判断する唯一の測定方法である官能評価を実施、分析し、提案や発信ができる。
【嗜好・判断】食を取り巻く環境が大きく変動する中で、食に関する総合的知識、技術を身に付け、食材を鑑別し、問題解決に導くための考察をすることができる。
【関心・意欲・態度】消費者、生活者の視点に立ち、市場の動向や現代社会の諸問題に目を向け、「食」に関する関心を持ち続けることができる。

学生へのメッセージ フードスペシャリストの受験資格科目（協会指定科目）であるため、食品学や調理学の専門的知識を前提に授業を進めます。そのため関連教化の習得、復習が必要になります。日々の生活の中でも、なるべく多くの食材に興味・関心を持ち、市場調査や家庭でも料理を実践することが望ましいです。

教育等の取り組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品企業に勤務し、食品開発、食品製造などを経験し、現在は普及活動などの実務経験をしている。実学的な現場情報も取り入れながら授業展開を行う。
アクティブ・ラーニング	○	市場調査学習、食生活問題解決学習、グループワーク、発表等を含む。

情報リテラシー 教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食空間コーディネート論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山田 正子	指定なし
准教授	高尾 純宏	指定なし

ナンバリング	R21703M21
授業概要(教育目的)	この科目は、フードコーディネーター資格取得のために必須の科目である。 この授業は、心地よい食卓・食事空間の演出は、豊かな食生活を営む上で最も重要なことである。日常の食卓や行事に伴う様々な趣向を凝らした食卓の演出について、日本や諸外国の基本的テーブルセッティングのルールとその歴史的・文化的背景を含めて学ぶ。また、食器やカトラリー、クロスの材質、フラワーアレンジメントやこれらを総合したカラーコーディネート、食卓とイスなどテーブルを中心としたコーディネートの適正、採光や音響、温湿度などについてもその適切な条件について実演・実習を加えながら解説する。また、これらを基本とするテーブルマナーを解説する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	幅広い文化によって構成されている食空間に関する知識を勉強することは、感性が豊かに磨かれ、「おもてなしの心と感謝の気持ち」が現れ、よりよい食環境づくりにつながる。食空間をプロデュースすることの意義を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	国、行事、季節等により食空間コーディネート内容は変化するため、国の習慣、行事内容等を考慮しコーディネートできる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	食空間を整える要素として食器の種類・形・触感、照明、色彩、花、部屋の広さ、料理内容など多くある。それらの組み合わせにより、食空間を様々なに変化させることができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(7key'sラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	食空間コーディネートとは	食空間コーディネートの目的、意義、役割について理解する。	テキストの「基礎理論」を読むしておくこと。	120分
第2回	テーブルコーディネートアイテムについて①	テーブルコーディネートのアイテムとして重要な食器の種類について理解する。	テキストの「テーブルコーディネートアイテムI」を読んでおくこと。	120分

第3回	テーブルコーディネートアイテムについて②	テーブルコーディネートアイテムとして重要な食卓装飾品、照明・光、テーブルリネン、テーブルに飾る花について理解する。	テキストの「テーブルコーディネートアイテムⅡ」を読んでおくこと。	120分
第4回	色彩について	食空間コーディネートをする際の、カラーシステム、配色テクニック、テーブルの色使いについて理解する。	テキストの「色彩」を読んでおくこと。	120分
第5回	和洋中のコーディネートについて	洋風テーブルセッティング、和食卓のセッティング、中国料理のセッティング、パーティー、国内外の行事について理解する。	テキストの「コーディネート」を読んでおくこと。	120分
第6回	おもてなし料理について	日本料理、西洋料理、中国料理、酒類・飲料類、日本料理・西洋料理・中国料理のテーブルマナーについて理解する。	テキストの「おもてなし料理」を読んでおくこと。	120分
第7回	卓食について	食育基本法、卓食の意味・役割について理解する。	テキストの「卓食」を読んでおくこと。	120分
第8回	LDKとキッチン	食卓の変遷、家の中の食卓空間の位置、DK・D・K、ワークトライアングル、キッチンレイアウト（I、II、L、U、アイランド型、ペニンシュラ型）、LDKの構成について理解する。	復習：キッチンとダイニング、リビングの関係を理解し、それぞれのメリット、デメリットを理解しておく。キッチンの種類、ワークトライアングルとの関係も理解しておく。	120分
第9回	動作空間と寸法	人体寸法、動作特性、ダイニングの動作空間、キッチンの動作空間について理解する。調理台の高さの算出を実際に自分の身長を基に計算する。	復習：収納や配膳などの動作空間について理解しておく。自分自身に合った調理台の高さについての導き方を復習しておく。	120分
第10回	インテリアエレメント1) 照明器具、ウインドウトリートメント	コーディネーション、照明器具のスタイル、キャンドルの種類や効果を学ぶ。	復習：インテリアエレメントについての理解、6つのスタイルの特徴とそれぞれのエレメントの選択について理解しておく。	120分
第11回	インテリアエレメント2) 家具、壁紙、天井材、床材、カーペット	家具の歴史、家具のスタイル、内装材スタイル、ウインドウトリートメントについての幅広い知識を得る。	復習：日本と世界の家具の歴史を復習。西洋については時代によって様式があることを理解しておく。内装材の種類、窓の装飾、カーテンの装飾について理解しておく。	120分
第12回	和陶磁器、洋陶磁器、漆器、ガラス器、銀器	和陶磁器、炆器の産地、陶器、磁器、食器の種類、陶磁器の技法、器の形状、古窯、漆器の産地、加飾について学ぶ。	復習：陶器、磁器、漆器の産地と特徴を理解しておく、またガラス器、銀器との組み合わせ方、それぞれのイメージをつかんでおく。	120分
第13回	西洋の食卓文化	西洋の食卓文化、時代で見る、西洋のお酒と飲み物、お菓子和飲み物について学ぶ。	復習：時代や国で食事の仕方が様々であったことを理解しておく。西洋についてはフォークの発達に時間がかかったことも理解しておく。酒、紅茶、コーヒー、茶、お菓子の発達、習慣を理解しておく。	120分
第14回	日本の食卓文化、その他の文化圏	日本料理の流れ、五節句、懐石の流れ、お茶と器、和菓子の歴史、酒と器、中国、韓国、タイ・ベトナムの食卓文化、その他の文化圏について理解する。	復習：大饗料理、精進料理、本膳料理、懐石料理、会席料理、食卓の変遷、五節句、懐石（茶事）について理解しておく。	120分
第15回	まとめ	テーブルマナーやテーブルセッティングについて、食事空間と様々なエレメント、日本独自の食習慣など総合的に理解しする。	復習：配布資料の理解、試験対策としての学習をしておく。	120分

学生へのフィードバック方法 定期試験の結果を受け、定期試験問題の解説と答案用紙を一緒に返却する。

評価方法 平常点（20%）、定期試験（80%）で評価を行う。
担当教員が2名いるが、それぞれが上記割合で評価を行い、その評価を合わせて総合的に成績を出す。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
定期試験	○	○		

評価割合	平常点20%、定期試験80%	
使用教科書名 (ISBN番号)	「TALK 食空間コーディネーターテキスト・3級」／食空間コーディネーター協会 ただし、すでに本学で食空間コーディネーター協会による講習会を受講した学生は購入しなくてよい。	
参考図書	「TALK 食空間コーディネーターテキスト・2級」／食空間コーディネーター協会 「TEXT BOOK テーブルコーディネーター」／(株)優しい食卓	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し【思考・判断】多種多様な情報を整理し、【関心・意欲・態度】食の専門家として探求心を持ち、社会に貢献したいという意欲があり、【技能・表現】食に関する表現力を身につける。	
オフィスアワー	水曜3限 1502研究室 (高尾) 金曜5限 2311研究室 (山田)	
学生へのメッセージ	フードコーディネーター資格取得希望者は、必ず履修してください。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	食に関する幅広い知識を習得し、食空間を構成する要素の必要性和感性を磨くことにより、食空間をプロデュースすることの意義を身に付ける。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	比較食文化・食生活論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 小林 毅	指定なし

ナンバリング	R11701M21
授業概要(教育目的)	日本および諸外国の食文化・食生活の講義を行う。 日本および諸外国の食生活は、その地域の気候風土による生産、収穫物や宗教、流通事情などと切り離して考えることはできない。各国々や地域での食の循環について、過去から現在の時間軸を通して、その普遍性と変化、食生活への影響を及ぼす様々な要因を考察し、現在およびこれからの食生活の課題について講義する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	日本および諸外国の食文化・食生活の歴史と現状について基礎的な内容を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	われわれを取り巻く食のさまざまな問題と結びつけて食生活の諸課題を読み解くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	時代とともに食生活が大きく変化していることを身近なテーマの中から見付け出すことができる。
技術・表現の観点 (A)	講義や自らの知見によって得た内容・情報を整理し、一定の考え方とともに表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	食の世界遺産(1)	国連機関であるユネスコが認定した「食の世界遺産」から、食文化とは何かを2回にわたって考える。食の世界遺産とは特定の料理に対するものではなく、その地域における食を取り巻く環境や文化に対する認定であることを認識し、食文化の多様性を理解する。	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	60分
第2回	食の世界遺産(2)	国連機関であるユネスコが認定した「食の世界遺産」から、食文化とは何かを2回にわたって考える。食の世界遺産とは特定の料理に対するものではなく、その地域における食を取り巻く環境や文化に対する認定であることを認識し、食文化の多様性を理解する。	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	60分
第3回	主食から食文化を考える	人間の生存に関わる主食は、米や麦などの穀物だけではない。豆類や芋類など、気候や風土によって主食が国や地域で異なることを理解する。	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	60分

第4回	食材から食文化を考える	食材は、国や地域で主食同様に環境が大きく影響するほか、その利用法が社会状況や風習・宗教などによって多様化した背景を理解する。	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	60分
第5回	新大陸の発見で一変した食文化	コロンブスが発見した新大陸から持ち込まれた食材が世界中の食生活を変えた。どんな食材がどこに持ち込まれ、どう生活が一変したかを理解する。	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	60分
第6回	日本は外国の食文化をどう受け入れて来たか	日本は、稲作伝来以来諸外国の食文化をどう受け入れてきたのか。鎖国時代を挟んで日本が受け入れてきた外国の食文化の歩みを理解する。	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	60分
第7回	味の決め手は調味料&スパイス	料理の味を左右する調味料&スパイスの関係は深い。時には戦争の要因ともなった調味料&スパイスの歴史を辿ることで世界の食文化を理解する。	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	60分
第8回	食文化は宗教と結びついている	宗教と食生活の関係を正しく認識することがグローバル化時代には欠かせない。宗教と密接に結び付いた食文化や近年急増しているベジタリアンの食事情をその歴史とともに理解する。	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	60分
第9回	食後のデザート（スイーツ）は別腹？	食後やおやつに食べるデザート（果物や菓子）の歴史は古い。デザートとともに喫するコーヒー、紅茶の歴史と合わせて日本と諸外国の菓子文化を比較しながら、その歩みを理解する。	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	60分
第10回	食のマナーに国境はない？	マナーを一つ間違うととんでもないことになりかねない。食のマナーを諸外国と日本を比較しながら、マナー成立の過程とともに理解する。	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	60分
第11回	世界に酒と肴は無数にある	食事の場に酒は欠かせない。世界中に無数にあると言われる酒とともに発展した「珍味」「肴」というジャンルと合わせて酒の食文化を理解する。	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	60分
第12回	人はお祝いや弔いの時に何を食べて来たのか	行事食（慶弔など）がその国の文化や風習とどのように結びついて進化し変容してきたのか。日常食を離れたハレとケの食文化を理解する。	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	60分
第13回	調理器具、器としつらいで味も変わる	料理を盛る器や演出も食生活の大きな要素である。食の周辺を彩るさまざまな演出について、日本と諸外国の食文化の捉え方を通じて理解する。	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	60分
第14回	ファストフード、外食産業が食文化を変える？	ファストフードや外食産業の歴史とともに、現在、世界を席捲するファストフード文化とグローバル化する外食産業の今後について考える。	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	60分
第15回	食のグローバル化で食生活はどうなるのか？	メディアの進展により食の画一化が急速に進んでいる。地球温暖化など現在起きているさまざまな事象から今後の私たちの食生活を考える	原則として予習の必要はない。復習として、講義中ないしは講義終了時に配布するハンドアウトによって、講義の内容を確認する。	60分

学習計画注記 ※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 講義時に随時課す課題については、必要に応じて講義の中でフィードバックする。

評価方法 学期末レポート（定期試験）で基本的な評価を行い、講義で随時課す課題と合わせて総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
------	-----------	-----------	--------------	-----------

学期末レポート	○	○	○	○
講義時の課題	○	○	○	

評価割合	学期末レポート70%、講義で課す課題30%
使用教科書名 (ISBN番号)	なし
参考図書	『食の世界地図』 (21世紀研究会編／文春新書) ISBN4-16-660378-7 C0239
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】過去・現在における日本および諸外国の食文化・食生活の成立過程や環境等の考察を通じて、食に関する文化の多様性を理解できる専門的知識を有している。 【思考・判断】食生活に関するグローバルな課題について、正確な情報に基づいて思考し、的確に判断できる力を身に付けている。
学生へのメッセージ	食は文化であり、器に美しく盛られた料理はその時点で芸術となる。ただし、絵画や彫刻は鑑賞することができるが、料理は食べてみなければわからない。料理を鑑賞するということ、それは取りも直さず食べることである。テレビや雑誌、あるいはネット等で気になった食べ物があつたら、どこの国のものだろう、どんな味がするんだろうなどと思いを巡らせ、可能な限り自分の舌で味わってみてほしい。それが食文化・食生活の多様性や奥深さを理解する原点である。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	NHK「きょうの料理」編集長を務めた経験を活かし、授業にあたっては単に文献や資料だけに依らず、実務経験に基づいたジャーナリスティックな視点から、身近で理解しやすい教授法を取り入れる。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	栄養士総合演習		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山田 正子	指定なし

ナンバリング	R20704M12
授業概要(教育目的)	この科目は、栄養士養成のために必須科目である。食育、健全な食生活形成として栄養と健康に携わるエキスパートとしての栄養士としてのキャリアデザインを総合的に学習し、栄養士という有資格者としての礎について講義する。また、栄養士の基本ともいえる栄養計算、対象者別の献立作成についても説明する。さらに、災害時の栄養士の役割についても講義する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	食事摂取基準の考え方、食品成分表の使い方、献立作成の基本を理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	対象者に合わせた各栄養素およびエネルギー量を満たす栄養基準の設定をすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	献立作成においては積極的に料理や調理方法の提案ができ、HUGIにおいては積極的に意見をいうことができる。
技術・表現の観点 (A)	給食施設ごとの献立作成ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	日本食品成分表の使い方について	日本食品成分表の役割、使い方について理解する。	日本食品成分表を見て、目的、性格、掲載内容を理解しておくこと。	120分
第2回	献立作成および栄養計算について	献立作成の要件と日本食品成分表を用いた献立計算の方法を習得する。	調理学実習等で習った献立計算方法の復習をしておくこと。また、テキストの「第1章 献立作成にあたって」を読んでおくこと。	120分
第3回	日本人の食事摂取基準による栄養管理・給食管理について①	日本人の食事摂取基準について理解する。	テキストの「第2章 献立作成の理論と実際 2. 日本人の食事摂取基準と給食運営」を読んでおくこと。	120分

第4回	日本人の食事摂取基準による栄養管理・給食管理について②	日本人の食事摂取基準を用いた栄養管理・食事管理の基本を理解する。	テキストの「第2章 献立作成の理論と実際 3. 献立作成までの手順 4. 食品群別荷重平均栄養成分について 5. 食品構成」を読んでおく。	120分
第5回	日本人の食事摂取基準による栄養管理・給食管理について③	日本人の食事摂取基準を用いた事業所給食の栄養管理・食事管理を理解する。	テキストの「第4章 施設別献立の特徴と献立作成 2. 事業所給食の献立作成」を読んでおくこと。	120分
第6回	日本人の食事摂取基準による栄養管理・給食管理について④	日本人の食事摂取基準を用いた保育所給食の栄養管理・食事管理を理解する。	テキストの「第4章 施設別献立の特徴と献立作成 3. 社会福祉施設給食の献立作成」を読んでおくこと。	120分
第7回	学校給食実施基準による栄養管理・給食管理について	学校給食実施基準を用いた学校給食の栄養管理・食事管理を理解する。	テキストの「第4章 施設別献立の特徴と献立作成 1. 学校給食の献立作成」を読んでおくこと。	120分
第8回	対象者に合わせた献立作成①	自分たちで設定した対象者に合った献立作成をする。	これまで学んだ食事摂取基準および献立作成について復習し、対象者に合わせた献立作成ができるようにしておくこと。	120分
第9回	対象者に合わせた献立作成②	自分たちで設定した対象者に合った献立作成をする。	これまで学んだ食事摂取基準および献立作成について復習し、対象者に合わせた献立作成ができるようにしておくこと。	120分
第10回	対象者に合わせた献立作成③	自分たちで設定した対象者用に作成した献立をグループごとに発表する。	これまで学んだ食事摂取基準および献立作成について復習し、対象者に合わせた献立作成ができるようにしておくこと。	120分
第11回	災害時における栄養士の役割について①	給食施設における事故と災害を知り、その対策について理解する。	給食管理論で使用する教科書「実践給食マネジメント」の「第9章 リスクマネジメント 3. 各事故と災害における危機管理」を読んでおくこと。	120分
第12回	災害時における栄養士の役割について②	災害時の栄養士会の役割と取り組みの実際について理解する。	日本栄養士会の災害時の取り組みに関する配布資料を読んでおくこと。	120分
第13回	災害時における栄養士の役割について③	災害時は、住居環境が平常時と著しく異なる。特に食事の調整は難しい。災害時の状況に合わせた食事管理について理解する。	給食管理論で使用する教科書「実践給食マネジメント」の「第9章 リスクマネジメント 3. 各事故と災害における危機管理」を読んでおくこと。また、事前に配布する資料を読んでおくこと。	120分
第14回	災害時における避難所での栄養士の役割について	HUG (hinanzyo : 避難所, unei : 運営, game : ゲーム) を行うことで、避難所に集まる避難者にどのような状態の方々がいるのか、その方々にどう対応していくかを理解する。	応用栄養学で使用する教科書で、ライフステージ別の食事形態や必要な栄養素量について確認をしておくこと。	120分
第15回	まとめ	食品成分表、食事摂取基準、対象者にあった献立作成、災害時の栄養士としての対応等について学んだ中で、栄養士に必要な知識や技術は何かを、グループディスカッションを行い発表する。	この授業で使用したテキスト、配布資料を読み返しておくこと。	120分

学生へのフィードバック方法 提出された献立等の提出物にコメントを入れて返却する。また、グループディスカッション後の発表に対してもコメントを伝える。

評価方法 平常点、提出物、グループディスカッションの参加状況（グループ作業も含む）で評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
------	-----------	-----------	--------------	-----------

平常点			○	
提出物	○	○		
レポート	○	○		
GDの参加状況			○	○

評価割合	平常点30%、提出物40%、グループディスカッションの参加状況（グループ作業も含む）30%
使用教科書名（ISBN番号）	給食施設のための献立作成／赤羽正之ら著／医薬薬出版
参考図書	日本食品成分表、日本人の食事摂取基準、応用栄養学で使用する教科書
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々と疎通ができるコミュニケーション力を身につけ、【思考・判断】多種多様な情報を整理し、【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組み、【技能・表現】食を通じて生活の質の向上を図るために食品・食物の調理・加工の技能を身につけている。
オフィスアワー	金曜日 5時限 2311研究室
学生へのメッセージ	献立作成は栄養士の基本業務です。一見、簡単そうに感じますが、対象者や基準に合わせた献立を作成することは食事摂取基準、食品成分表等に関する知識および理解と献立を組み立てるセンスや判断が大切になります。またそれらは、予期せぬ災害時における食事管理にも役立ちます。この授業で献立作成技術をマスターしましょう。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	自分たちで設定した対象者用の献立作成およびHUGは、グループディスカッションにより出来上がった成果物について発表を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食物総合演習A (岩見)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 岩見 哲夫	指定なし

ナンバリング	R30710M12
授業概要(教育目的)	3年次までに学修した知識・技術を総合的に判断する能力を養うことを目的とし、栄養士や食のスペシャリストとして、社会で活動する多様な分野について最新の情報をもとにした演習を行う。
履修条件	「分子生物学」「基礎サイエンス実験」を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	具体的な研究テーマ案を説明できる
思考・判断の観点 (K)	提案する研究テーマについて、その意義(オリジナリティ・有用性等)を考えることができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	自らテーマを探し、調査研究の対象として具体化することができる
技術・表現の観点 (A)	研究テーマの内容とその意義(オリジナリティ・有用性等)を分かりやすくプレゼンテーションできる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション・希望調査			
第2回	研究室ガイダンス	生物学研究室の研究テーマや本研究室で可能な研究方法を紹介	紹介された内容を確認し、当研究室で学べることを考える	30
第3回	研究分野の説明	生物学研究室の研究テーマに関連した分野に関連の資料を用いて紹介	自分の興味を具体的にイメージし、研究室の主要な研究テーマとの関連を考える	30
第4回	興味の対象を絞り込む	各自、興味・関心の内容、興味・関心を抱いた理由を説明し、質問・提案等を受けてより具体化する	自分の興味・関心と、研究する内容との関係を説明できるようにしておく	30
第5回	興味の対象を絞り込む	各自、興味・関心の内容、興味・関心を抱いた理由を説明し、質問・提案等を受けてより具体化する	自分の興味・関心と、研究する内容との関係を説明できるようにしておく	30
第6回	興味の対象	具体化されたテーマに関して、先行研究の状況を調べる	図書館・インターネットを利用	120

	について文献調査をする		して、テーマに関する情報を収集しておく	
第7回	文献調査結果の発表	文献調査結果を発表し、テーマのオリジナリティ、有用性等について議論する	収集した情報の内容・精度を検討し、説明できるようにしておく	45
第8回	文献調査結果の発表	文献調査結果を発表し、テーマのオリジナリティ、有用性等について議論する	収集した情報の内容・精度を検討し、説明できるようにしておく	45
第9回	研究（調査）方法の検討	文献調査で判明した問題点を検討し、研究方法について解説する	議論の中で指摘された問題点について検討しておく	30
第10回	研究（調査）に必要な要素とは	文献調査の結果を踏まえ、自分のテーマについて必要となる要素について検討する	指摘された問題点の解決方法について検討しておく	60
第11回	研究（調査）に必要な要素とは	文献調査の結果を踏まえ、自分のテーマについて必要となる要素について検討する	指摘された問題点の解決方法について検討しておく	60
第12回	問題点の検討	発表されたテーマの優れている点・問題点について検討する	助言内容を反映できるよう検討しておく	60
第13回	研究テーマの発表	今までの検討を踏まえ、改めて研究テーマを発表する	設定した研究テーマの内容をブラッシュアップし、説明できるようにしておく。他の発表内容について、優れている点・問題点を指摘できるようにしておく。	45
第14回	研究テーマの発表	今までの検討を踏まえ、改めて研究テーマを発表する	設定した研究テーマの内容をブラッシュアップし、説明できるようにしておく。他の発表内容について、優れている点・問題点を指摘できるようにしておく。	45
第15回	研究テーマの発表	今までの検討を踏まえ、改めて研究テーマを発表する	設定した研究テーマの内容をブラッシュアップし、説明できるようにしておく。他の発表内容について、優れている点・問題点を指摘できるようにしておく。	45

学習計画注記 テーマ内容によっては準備に時間がかかることもあるので、授業外学習時間については変動があると予想される。また、一部は学外での活動を要する可能性もある（必ず事前に調整する）。原則として各自テーマを設定するが、内容によっては共同で取り組むことも可能。

学生へのフィードバック方法 基本的にゼミ形式で進行するので、授業中・発表中の質問・回答等、フィードバックを随時行う。

評価方法 授業への参加度（積極的に意見を出し、自分の考えを明らかにできているか）と課題となる発表内容・完成度で評価する

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業への参加度	○	○	○	
プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合 授業への参加度50%
プレゼンテーション50%

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 提示されたテーマにあわせて紹介する

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】 様々な立場や状況の人々に、自分が検討した内容を具体的に伝えることができる
【思考・判断】 種々の情報を整理し、研究テーマの意義を客観的に判断できる
【関心・意欲・態度】 自らテーマを設定し、課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる
【技能・表現】 体系的な学修を通じて、研究テーマの内容・意義を分かりやすく伝えることができる

オフィスアワー 前期 火曜日2限・昼休み・3限 (10:40~12:30) 生物学研究室 (2205)

相談を希望する学生は、可能な限りGmailを用いて予約をしてください。

学生へのメッセージ

研究という活動には、自ら興味・関心を持つことが重要ですが、その前提には知らないもの・分からないものに対する「好奇心」が必要です。教員は「好奇心」を持つきっかけを提供することができますが、「好奇心」を抱き、自ら研究活動に入るには、皆さん自身の意志が不可欠です。ゼミの主役は皆さん自身であることを理解して授業に臨んで下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	南極地域観測隊員としてフィールドで調査・研究をした経験を活かして、一定の制限の中で結果を出していく取り組み方を伝えます。
アクティブ・ラーニング	○	多くの回で、履修者同士が議論・検討・提案できる機会を設定します。
情報リテラシー教育	○	研究情報・文献調査において、引用に値する情報と、参考にできない情報との違いについて教授します。
ICT活用	○	研究情報・文献調査については、インターネットを利用しての情報収集を行います。また、各種ソフトウェアを使用して、数値データ・画像データ等の解析について教授します。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食物総合演習A (河田)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田 敦子	指定なし

ナンバリング	R30710M12
授業概要(教育目的)	<p>4年生で取り組む卒業研究の準備学習を行う。</p> <p>①文献調査の方法 (インターネットで調べる。図書館で調べる。文書館で調査する。)</p> <p>②フィールドワークの方法 (インタビュー調査。現地調査。聞き取り調査。学校調査等)</p> <p>③テーマの設定 (テーマはどの程度の絞り、広がりのある展望のあるテーマにするか)</p> <p>④先行研究の検討</p> <p>以上の4項目は、どのような研究においても必要な基礎力である。ゼミナールAでは①、②について文献を読み、図書館に赴いき、学校調査に参加する等、基礎的理解を深め、能力を高める。</p> <p>教職課程履修学生の場合は、「教えるということ」や「授業研究」についても学習の機会を設ける予定である。</p>
履修条件	<p>社会における教育や人間の在り方に興味を持っている事。</p> <p>基本的に、文献調査かインタビュー調査なので、こうした研究方法に興味関心があることが望ましい。</p>

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	文献を読みながら要約することができる。
思考・判断の観点 (K)	フィールドワークや文献調査を行いながら、何が重要かを自分なりに考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分の興味関心を深く調べ、様々なことに関連付けて発展させることができる。
技術・表現の観点 (A)	自分の興味関心のあることや自分で調べたことを少しずつでも論理的に他者に伝えることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	研究に必要なこと (1) 文献調査の方法	研究するためには、研究対象に対して知識、理解が必要である。そのために、関連文献を調べ、ひも解く力を養う。インターネット検索や図書館のOPACの使い方、文献の取り寄せ方を学ぶ。	インターネット検索を学んだら、実際に様々な検索ワードで検索をしてみる。	240分
第2回	国会図書館、大学図書館のOPACの使い方	パソコン室で国会図書館や大学図書館のOPACを用いて、どのような文献がヒットするかを実際に行う。	検索用語は沢山ある。思わぬ用語で面白い文献に出会う面白さを味わってほしい。	240分
第3回	文献を読む	検索して入手を申し込んだ文献を読んで要約する。	文献を読む。研究論文は、小説	240分

	(1)		や物語のように読めない。論文を読むことを学ぶ。	
第4回	文献を読む(2)	自分が選んだ文献を読んで要点をまとめ、プレゼンする。	プレゼン用のレジュメの準備をする。	360分
第5回	文献を読む(3)	プレゼンされた文献について、ゼミ生同士でディスカッションする。自分の物事の見方だけではなく、他者の多様な見方を学ぶ。	ディスカッションで学んだことにより自分の研究を更に発展させて、調べる。	360分
第6回	フィールドワークとは(1)	フィールドワークとは、現地調査のことであるが、どのような方法があるかを原ひろ子著『観る・集める・考える』(1993年)を読みながら学ぶ。	短い文章なので、一人10ページを担当する。本全体を読みながら自分の担当する部分の意味を考え、要約のレジュメを作成する。	240分
第7回	フィールドワークとは(2)	フィールドワークとは、現地調査のことであるが、どのような方法があるかを原ひろ子著『観る・集める・考える』(1993年)を読みながら学ぶ。	短い文章なので、一人10ページを担当する。本全体を読みながら自分の担当する部分の意味を考え、要約のレジュメを作成する。	240分
第8回	『フィールドワークの技法』を読む	箕浦康子著『フィールドワークの技法』の第1章をを一人一節ずつ担当して、その要約を発表する。	『フィールドワークの技法』の第1章を読んで、担当節をまとめる。	240分
第9回	『フィールドワークの技法』を読む	箕浦康子著『フィールドワークの技法』第2章を一人一節ずつ担当して、その要約を発表する。	『フィールドワークの技法』第2章を読んで、担当節をまとめる。	240分
第10回	『フィールドワークの技法』を読む	箕浦康子著『フィールドワークの技法』第3章を一人一節ずつ担当して、その要約を発表する。	『フィールドワークの技法』第3章を読んで、担当節をまとめる。	240分
第11回	国会図書館を使ってみる(3回分)	実際に国会図書館へ行き、自分の興味ある事柄について文献調査を行う。アクティブラーニングである。	調べたいことを整理しておくこと。	240分
第12回	国会図書館を使ってみる	実際に国会図書館へ行き、自分の興味ある事柄について文献調査を行う。アクティブラーニングである。	調べたいことを整理しておくこと。	240分
第13回	国会図書館を使ってみる	実際に国会図書館へ行き、自分の興味ある事柄について文献調査を行う。アクティブラーニングである。	調べたいことを整理しておくこと。	240分
第14回	調べたことをまとめてプレゼンする。	今回のゼミで自分が調べた学びをまとめてプレゼンする。一人20分程度	プレゼンの準備をする。	300分
第15回	調べたことをまとめてプレゼンする。	今回のゼミで自分が調べた学びをまとめてプレゼンする。一人20分程度	プレゼンの準備をする。	300分

学習計画注記	ゼミ形式。随時ゼミ発表を行う。国会図書館へ行ったり、近隣の学校に足を運んだりする。
学生へのフィードバック方法	発表時にコメントし、調査方法については随時助言する。
評価方法	研究への関心・意欲・態度。 ゼミ発表の内容 で評価する。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
熱意をもってゼミに参加している			○	
文献の要約ができる	○	○		○
研究として深めようとする意欲が			○	

評価割合	熱意をもってゼミに参加している (30%)。
------	------------------------

論文や参考資料等、文献の要約ができる（40%）。
 自分の興味や関心を研究として深めようとする意欲がある（30%）

使用教科書名 (ISBN番号)	特に無
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・原ひろ子『観る・集める・考えるー発見のためのフィールド・ワーク』カタツムリ社1993年 ・箕浦康子『フィールドワークの技法』 ・河田敦子「宮城県M郡K町における「姉家督」について」『民族学研究』1985年 ・林竹二『授業の成立』筑摩書房1983年 ・
ディプロマポリシーとの関連	<p>○思考・判断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身に着けている、に該当。 <p>○関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる、に該当。
オフィスアワー	月曜日4限ほか随時。メールでアポイントメントを取ること。
学生へのメッセージ	研究とは、自分の興味関心を「とことん極める」ことです。 自分が何を「知りたい」、「極めたい」のか、何に「興味があるのか」を知ることが一番大切です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		ゼミ発表。図書館調査。
情報リテラシー教育		文献検索。
ICT活用		PPTを用いた発表。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食物総合演習A (三澤)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 三澤 朱実	指定なし

ナンバリング	R30710M12
授業概要(教育目的)	本科目は、卒業のための必修科目である。本演習では、人々の健康増進、疾病予防、栄養・食生活改善のための研究論文や学術資料を検索し、読み熟し、理解することが必要である。これらの基本的な作業に加えて、どこまでが解明され、何が明らかになっていないのかを整理し、まとめる能力も身に着ける。これにより、どのようにしたら地域社会に食の面で貢献できるかを考える力も養う。
履修条件	栄養指導論、栄養カウンセリング論、公衆栄養学を履修中であること。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	学生が、対象となる人々の 多様な食生活や食環境の実態を調査する方法を学び、その内容を理解できること。
思考・判断の観点 (K)	学生が、多様な栄養・食生活等に関する情報を整理して、客観的に思考、判断することができるようになること。
関心・意欲・態度の観点 (V)	学生が、対象集団・地域社会の課題を見出し、その解決のための食育や食生活改善に興味や関心を持ち、貢献したいという意欲をもつようになること。
技術・表現の観点 (A)	さらなる実態把握や研究のため、質問紙調査、食事調査などを考案できるようになること。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	1回目 オリエンテーション	食物総合演習の全体の進め方について、説明する。卒業研究のテーマ選定のため、調査を行う。	卒業研究のテーマ選定のため、興味をもって事前に調べ考えておく。	90分
第2回	〇2回目 食育・栄養教育体験①	〇実践社会における食育や栄養教育の体験学習をしていただく。	実践社会における食育や栄養教育について、興味をもって事前に調べておく。	90分
第3回	3回目 対象集団の設定・課題抽出・整理①	対象となる人々の 多様な食生活や食環境の実態を調査する方法を学び、その内容を理解し、課題抽出・整理する。	事前に図書館で検索し、書籍等で調べておく。	90分
第4回	4回目 対象集団の設定	対象となる人々の 多様な食生活や食環境の実態を調査する方法を学び、その内容を理解し、課題抽出・整理し、まとめる。	事前に図書館で検索し、書籍等で調べておく。	90分

	定・課題抽出・整理②			
第5回	5回目 食育・食生活改善の手法、試作、教材の調査・整理①	課題解決のための食育や食生活改善に対し、手法、施策、教材等を意欲的に調べ、まとめる。	事前に図書館で検索し、書籍等で調べておく。	90分
第6回	○6回目 食育・栄養教育体験②	○実践社会における食育や栄養教育の体験学習をしていただく。	実践社会における食育や栄養教育について、興味をもって事前に調べておく。	90分
第7回	7回目 食育・食生活改善の手法・教材の調査、整理②	課題解決のための食育や食生活改善に対し、手法、施策、教材等を意欲的に調べ、まとめる。	事前に図書館で検索し、書籍等で調べておく。	90分
第8回	8回目 質問紙調査票・食事調査票の考案、教材開発、食事改善計画立案①	課題解決・評価のため、質問紙調査票・食事調査票を考案し、教材開発、食事改善計画を実際に立案する。	事前に図書館で検索し、書籍等で調べておく。	90分
第9回	○9回目 食育・栄養教育体験③	○実践社会における食育や栄養教育の体験学習をしていただく。	実践社会における食育や栄養教育について、興味をもって事前に調べておく。	90分
第10回	10回目 質問紙調査票・食事調査票の考案、教材開発、食事改善計画立案②	課題解決・評価のため、質問紙調査票・食事調査票を考案したり、教材開発、食事改善計画を実際に立案する。	事前に図書館で検索し、書籍等で調べておく。	90分
第11回	11回目 発表会の資料作成①	これまで作成した調査票、教材、計画書を用いて、発表資料を作成する。	同じ研究分野の発表資料を事前に調べておく。	90分
第12回	12回目 発表会の資料作成②	これまで作成した調査票、教材、計画書を用いて、発表資料を作成する。	同じ研究分野の発表資料を事前に調べておく。	90分
第13回	○13回目 食育・栄養教育体験④	○実践社会における食育や栄養教育の体験学習をしていただく。	実践社会における食育や栄養教育について、興味をもって事前に調べておく。	90分
第14回	14回目 卒業研究中間発表会聴講	他学科の4年次卒業研究の中間発表会に参加、聴講し、自身の研究計画に生かす。	発表資料を事前に調べておく。	90分
第15回	15回目 発表会	これまでの資料、教材、計画書に関して発表し（パワーポイントを用いたプレゼンテーション）、開発した教材を公表する。他者の発表を聴いて自己の発表を改善する。	発表の練習をしておく。	90分

学習計画注記	進み具合によってスケジュールが前後したり、変更することがあります。
学生へのフィードバック方法	毎回質問を受け付ける。さらに質問がある場合にはオフィスアワー時間に2106研究室を訪問すること。
評価方法	平常点30%、レポート60%、発表10%で評価する。レポートの評価方法は、例えば2回レポートを提出した場合は、60点満点÷2回として、1回のレポートの配分点は30点とする。レポート作成・提出、発表は下表に示すスキルを養うことを目的として実施している。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
レポート提出	○	○		○
発表	○	○		○

評価割合	平常点30%、レポート60%、発表10%で評価する。	
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない	
参考図書	「食事バランスガイド」を活用した栄養教育・食育実践マニュアル 第3版 第一出版 (ISBN 978-4-8041-1358-6 C3077) 日本人の食事摂取基準 2020版 第一出版	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】栄養指導論を構成する基本的な知識に加えて、健康の維持・増進に係る総合的な知識を有していること。【思考・判断】多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について関心を持ち、自ら課題を見出し、解決に意欲的取り組むことができる。栄養士として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。【技術・表現】食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や表現力を身につけている。	
オフィスアワー	月・火曜昼休み、木曜2限：栄養指導研究室（1206室）	
学生へのメッセージ	栄養士になるための必須専門科目である。実社会における食育等の経験や地域連携活動の機会を提供するので、是非主体的、積極的に学んで欲しい。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は外来診療における患者への個別栄養指導、健診後の個別・集団の栄養教育の実務経験を有しており、生活習慣病やメタボリックシンドローム等の疾病者への指導、健常者への予防的教育に関し、栄養士・管理栄養士として習得すべき対象者に応じた食育、食生活改善の方法を実践的に教授する。伴って、事前・事後の調査・分析、結果の纏め方等の実例を分かりやすく教授する。
アクティブ・ラーニング	○	対象者の食生活改善上の問題解決を図り、栄養の指導分野の技術をより高めるため、チームで自主的にディスカッションし、能動的に学べるよう教授する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食物総合演習A (山田)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山田 正子	指定なし

ナンバリング	R30710M12
授業概要(教育目的)	2年から3年までに学修した知識・技術を総合的に判断する能力を養うことを目的とし、栄養士や食のスペシャリストとして、社会で活動する多様な分野について最新の情報をもとにした演習を行う。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	これまで学んだ体の構造、栄養素の役割および体内での代謝を理解し、特にナトリウムおよび鉄について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	文献検索をすることができ、文献の内容を読み取り、それら情報を整理し研究に結び付けることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	自分の研究テーマについて理解し、研究計画・立案をすることができ、それら内容について説明することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	後期の演習の進め方について打ち合わせを行う。	これまで学んだ専門科目の内容で、興味のあるものを復習しておく。	60分
第2回	文献検索について①	文献検索について説明する。	これまで受講した実験・実習で提出したレポートの書き方の復習をしておく。	60分
第3回	文献検索について②	文献検索の方法について説明する。	これまで受講した実験・実習で提出したレポートの書き方の復習をしておく。	60分
第4回	文献検索について③	実際に、PCを利用した文献検索を行う。	これまで受講した実験・実習で提出したレポートの書き方の復習をしておく。	60分
第5回	テーマ発表準備①	興味のあるテーマあるいは課題を見つけ、それに関する文献検索を行い、発表準備を行う。	テーマの内容にあった文献検索を行い、発表の準備を行う。	60分

第6回	テーマ発表準備②	興味のあるテーマあるいは課題を見つけ、それに関する文献検索を行い、発表準備を行う。	テーマの内容にあった文献検索を行い、発表の準備を行う。	60分
第7回	テーマ発表準備③	興味のあるテーマあるいは課題を見つけ、それに関する文献検索を行い、発表準備を行う。	テーマの内容にあった文献検索を行い、発表の準備を行う。	60分
第8回	テーマ発表準備④	興味のあるテーマあるいは課題を見つけ、それに関する文献検索を行い、発表準備を行う。	テーマの内容にあった文献検索を行い、発表の準備を行う。	60分
第9回	テーマ発表準備⑤	興味のあるテーマあるいは課題を見つけ、それに関する文献検索を行い、発表準備を行う。	テーマの内容にあった文献検索を行い、発表の準備を行う。	60分
第10回	発表①	自分で決めたテーマ・課題について調べ、まとめた内容を発表する。	友人の発表を聞き、良い点・悪い点を見出し、自分のプレゼンテーションの改善につなげる。	60分
第11回	発表①	各自で決めたテーマ・課題について調べ、まとめた内容を発表する。	友人の発表を聞き、良い点・悪い点を見出し、自分のプレゼンテーションの改善につなげる。	60分
第12回	発表②	各自で決めたテーマ・課題について調べ、まとめた内容を発表する。	友人の発表を聞き、良い点・悪い点を見出し、自分のプレゼンテーションの改善につなげる。	60分
第13回	発表③	各自で決めたテーマ・課題について調べ、まとめた内容を発表する。	友人の発表を聞き、良い点・悪い点を見出し、自分のプレゼンテーションの改善につなげる。	60分
第14回	発表④	各自で決めたテーマ・課題について調べ、まとめた内容を発表する。	友人の発表を聞き、良い点・悪い点を見出し、自分のプレゼンテーションの改善につなげる。	60分
第15回	まとめ	発表に関する総括を行う。	前期に行ったことを踏まえ、後期の研究テーマを考えておく。	60分

学生へのフィードバック方法 直接本人に研究計画内容について確認し、指導する。

評価方法 平常点、取り組む意欲、課題提出状況、プレゼンテーション内容について総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
取り組む意欲			○	
課題提出状況	○	○	○	○
プレゼンテーション内容	○	○	○	○

評価割合 平常点 (20%)、取り組む意欲 (20%)、課題提出状況 (30%)、プレゼンテーション内容 (30%)

使用教科書名 (ISBN番号) なし

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】学内外で講義・実習・演習を通し、多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。【思考・判断】多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。また、栄養士、教員、食の専門家として探究心を持っている。【技術・表現】専門的、体系的な学修を通じて、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能を身につけている。

オフィスアワー 金曜日 5時限 2311研究室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	
情報リテラシー教育	○	
ICT活用	○	

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	食物総合演習A (岩本)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岩本 直樹	指定なし

ナンバリング	R30710M12
授業概要 (教育目的)	3年までに学修した知識・技術を総合的に判断する能力を養うことを目的とし、栄養士や食のスペシャリストとして、社会で活動する多様な分野について最新の情報をもとにした演習を行う。科目を横断して知識・技能を統合し、総合的な能力を養う。本科目は、栄養士免許証取得のための必須科目である。

学習目標 (到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	栄養と食のスペシャリストとして、栄養学の概念、消化・吸収の調節機構、糖質、脂質等の栄養素の摂取と生活習慣病との関連について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	3年次までに学んだ様々な知識・技術を横断的に統合し、現代の食・栄養に関わる課題に対して解決案が提示できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	栄養と食のスペシャリストとして、人々の健康に広く貢献する者としての意欲と使命感を身につけている。
技術・表現の観点 (A)	学習内容や研究活動についてプレゼンテーションができ、根拠に基づくディスカッションができる。社会の一員であることを自覚し、コミュニケーション能力および豊かな人間性を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション (食物総合演習Aの目的と進め方) を行う。	研究テーマを考える。栄養士実力認定試験の過去問題についてグループ学習を行う。	60分
第2回	栄養士実力認定試験対策①	栄養士実力認定試験の問題 (栄養学総論・五大栄養素) についてディスカッション及びプレゼンテーションを行う。	学習内容に対して復習を行う。また、次回の予習としてグループ学習を行う。	60分
第3回	卒業研究体験①	4年次の卒業研究につながるような体験をする。商品開発や動物実験、学外での地域連携活動等、幅広く体験してもらう。	研究体験活動における報告書を作成する。	60分
第4回	栄養士実力認定試験対策②	栄養士実力認定試験の問題 (栄養学総論・消化吸収) についてディスカッション及びプレゼンテーションを行う。	学習内容に対して復習を行う。また、次回の予習としてグループ学習を行う。	60分
第5回	卒業研究体験②	4年次の卒業研究につながるような体験をする。商品開発	研究体験活動における報告書を作成する。	60分

	験②	や動物実験、学外での地域連携活動等、幅広く体験してもらう。	作成する。	
第6回	栄養士実力認定試験対策③	栄養士実力認定試験の問題（解剖生理学）についてディスカッション及びプレゼンテーションを行う。	学習内容に対して復習を行う。また、次回の予習としてグループ学習を行う。	60分
第7回	卒業研究体験③	4年次の卒業研究につながるような体験をする。商品開発や動物実験、学外での地域連携活動等、幅広く体験してもらう。	研究体験活動における報告書を作成する。	60分
第8回	栄養士実力認定試験対策④	栄養士実力認定試験の問題（応用栄養学・乳幼児期）についてディスカッション及びプレゼンテーションを行う。	学習内容に対して復習を行う。また、次回の予習としてグループ学習を行う。	60分
第9回	卒業研究体験④	4年次の卒業研究につながるような体験をする。商品開発や動物実験、学外での地域連携活動等、幅広く体験してもらう。	研究体験活動における報告書を作成する。	60分
第10回	栄養士実力認定試験対策⑤	栄養士実力認定試験の問題（応用栄養学・妊娠期）についてディスカッション及びプレゼンテーションを行う。	学習内容に対して復習を行う。また、次回の予習としてグループ学習を行う。	60分
第11回	卒業研究体験⑤	4年次の卒業研究につながるような体験をする。商品開発や動物実験、学外での地域連携活動等、幅広く体験してもらう。	研究体験活動における報告書を作成する。	60分
第12回	栄養士実力認定試験対策⑥	栄養士実力認定試験の問題（応用栄養学・高齢期）についてディスカッション及びプレゼンテーションを行う。	学習内容に対して復習を行う。また、次回の予習としてグループ学習を行う。	60分
第13回	卒業研究体験⑥	4年次の卒業研究につながるような体験をする。商品開発や動物実験、学外での地域連携活動等、幅広く体験してもらう。	研究体験活動における報告書を作成する。	60分
第14回	栄養士実力認定試験対策⑧	栄養士実力認定試験の問題（臨床栄養学）についてディスカッション及びプレゼンテーションを行う。	学習内容に対して復習を行う。また、次回の予習としてグループ学習を行う。	60分
第15回	総括と学習到達度の確認テスト	1回目～14回目の演習についての総括を行い、授業時間の一部で学習到達度の確認テストを実施する。	確認テストの復習をする。	60分

学習計画注記 ※シラバスの内容は、やむをえない事情等により一部修正することがあります。

学生へのフィードバック方法 授業時間内でフィードバックできない場合は研究室で個別に対応する。また質問等がある場合には1201研究室まで訪問すること。

評価方法

- ・確認テスト（栄養士実力認定試験出題基準の問題）を行い、20点満点で出題する。
- ・随時提出を求める研究活動報告書および毎回のプレゼンテーションを評価する。

確認テスト、報告書作成、プレゼンテーションは、下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
確認テスト	○			
報告書	○	○	○	○
プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合 確認テスト20%、研究活動報告書50%およびプレゼンテーション30%で総合的に評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) 全国栄養士養成施設協会 編『栄養士実力認定試験過去問題集』建帛社 (978-4-7679-0659-1)

参考図書

- ・田村明 他編『イラスト基礎栄養学』東京教学社 (978-4-8082-6053-8)
- ・松村譲児 編『人体解剖ビジュアル』サイオ出版 (9784907176273)
- ・栢下 淳他編『栄養科学イラストレイテッド応用栄養学』羊土社 (978-4-7581-0877-5)
- ・多賀昌樹 編『臨床栄養学基礎から学べる』アイ・ケイコーポレーション (9784874923641)

ディプロマポリシーとの関連

- 【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。
- 【思考・判断】多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
- 【関心・意欲・態度】学習内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
- 【技能・表現】専門的、体系的な学修を通じて、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。

オフィスアワー 月曜4限 1201研究室

学生へのメッセージ	<p>栄養士の勉強の上に研究があります。より良い研究をするために、しっかり栄養士の知識を身につけてください。問題集を解く際にグループ学習を事前に行ってもらいます。また、研究活動にあたっては、担当教員（岩本）と十分にコミュニケーションをとり、研究活動に対する助言・指導を受けるとともに、進捗状況に関する情報を共有してください。</p>	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループ学習を事前に行った上で、担当教員を含めて活発なディスカッションを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食物総合演習A（大和田）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大和田 寛	指定なし

ナンバリング	R30710M12
授業概要(教育目的)	3年までに学修した知識・技術を総合的に判断する能力を養うことを目的とし、栄養士や食のスペシャリストとして、社会で活動する多様な分野について最新の情報をもとにした演習を行う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	うどん、そばの材料、作り方の手順、材料の産地や製粉業者による違い、粉の分類、配合のバランス、加水率、塩分濃度、つなぎの割合、地域のお店マップの例、英語メニュー、良いお店の探し方を学ぶ。
思考・判断の観点 (K)	自分でうどん、そばを作る技術を持つことにより、お店のうどん、そばの客観的な評価ができるようにする。自分で作る際の適正な粉の配合や加水率、塩分濃度の加減を得られるようにする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	うどん、そばの作り方の基本を知ったあとは、いかに自分なりにより高度のものを作れるか、その向上心を育てる。また、いいお店を探そうとする意欲を培う。
技術・表現の観点 (A)	手打ちのうどん、そばを作れるようにする。その技術の上達に努める。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション、希望調査	学年全体集合、希望調査票提出		
第2回	校外実習事前指導①	校外実習テキストを使用した説明	説明を受けたことをよく復習しておくこと	60分
第3回	メンバーの顔合わせ	お互いに自分のやりたいことを述べ合う。	他のメンバーの述べたことを考慮に入れて、さらに自分のやりたいことを深めて考える。	60分
第4回	うどん打ち①	粉の分量、加水率、塩分量、水回し、捏ね	加水～捏ねまでの練習	60分
第5回	うどん打ち②	加水～捏ね(続)	加水～捏ねの練習	60分
第6回	校外実習	高齢者福祉施設の管理栄養士の講義	取ったノートをよく復習しておく	60分

事前指導②		くこと	
第7回	うどん打ち③	のし、切り	のし、切りの練習 60分
第8回	うどん打ち④	ゆで、締め	ゆで、締めの練習 60分
第9回	校外実習 事前指導③	実習先の情報収集、課題内容の検討	説明を受けたことをよく復習しておくこと 60分
第10回	うどん打ち⑤	うどん打ち実技試験	指摘を受けたことをよく考えておくこと。 60分
第11回	蕎麦打ち①	粉の種類、配合、全体の分量、加水率、水回し	水回しまでをよく練習しておくこと。 60分
第12回	蕎麦打ち②	捏ね	捏ねの練習 60分
第13回	校外実習 事前指導④	危機管理マニュアル、個人情報保護に関するマニュアル、災害時対応マニュアルの説明	説明を受けたことをよく復習しておくこと。 60分
第14回	蕎麦打ち③	のし、切り、ゆで、締め	のし、切り、ゆで、締めの練習 60分
第15回	蕎麦打ち④	蕎麦打ち実技試験	指摘を受けたことをよく考えておくこと。 60分

学習計画注記 校外実習事前指導で欠けた分はお店訪問で埋める。日程は相談の上決める。

学生へのフィードバック方法 お互いに作ったものを食べあって評価をしあう。

評価方法 授業やお店でのディスカッションから知識、判断、関心、意欲を評価する。実技試験では、加水率、水回しの具合、捏ね具合、つながり具合、塩分の具合、粉の配合の出来、不出来、のし具合、切り具合、ゆで加減、調理時間、衛生への配慮等をチェック項目とし、技術を評価する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業やお店でのディスカッション	○	○	○	
実技試験	○			○

評価割合 ディスカッション30%、実技試験70%

使用教科書名 (ISBN番号) 使用せず。

ディプロマポリシーとの関連
 【知識、理解】うどん、そばの材料と作り方を知る。とくにそばは粉が種類に分かれるので、その配合が重要になる。うどんでは塩加減が重要。もちろんうどん、そばともに加水率には細心の注意が必要である。
 【思考、判断】自分で作れることによってはじめて人の作ったものの評価ができるようになる。そうでないと、お店の良しあしも判断がつかない。
 【関心・意欲・態度】教師からだけでなく、学生がお互いに批評しあうことにより、さらなる技術の向上を目指していただきたい。
 【技術・表現】うどん、そば打ちの技術を手にする。

オフィスアワー
 月：昼休み、4時間目
 水：2時間目、昼休み、4時間目
 木：昼休み

学生へのメッセージ 頑張れば、自分にしか作れないうどん、そばを作れるようになることも可能です。この点だけは人には負けない、というものをもちこなってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食物総合演習A（黒田）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 黒田 久夫	指定なし

ナンバリング	R30710M12
授業概要(教育目的)	<ul style="list-style-type: none"> ・3年までに学修した知識・技術を総合的に判断する能力を養うことを目的とし、栄養士や食のスペシャリストとして、社会で活動する多様な分野について最新の情報をもとにした演習を行う（シラバスより） ・本研究室の食物総合演習Aでは、研究テーマの探索方法を習得し、各自が研究テーマを探索し、予備調査や予備実験を行います。各自が目指す栄養士や食のスペシャリストのキャリアへの橋渡しとなるテーマを探索してください。次に、予備調査や予備実験を実施することにより、それぞれの分野に必要な知識・技術を習得してください。以上のトレーニングを繰り返すことにより、知識・技術を総合的に判断する能力（コンピテンシー）を養うことができます。
履修条件	<p>本研究室の研究テーマは、以下の分類に該当するものとします。どれか一つを選んで、テーマを検討してください。難易度が上がりますが、分類間を複合したテーマを設定することも可能です。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①食品の酵素と2次機能 ②ヒトの化学感覚と2次機能 ③PBL（Project Based Learning）の研究 ④学生からの提案テーマ <ul style="list-style-type: none"> ・①-③は、教員の専門とする分野で、これまでの研究の実績が蓄積され、方法論が確立され、実験機器などの研究環境も整っています。 ・④は、学生が自由に研究テーマを提案し、研究を行います。学生がテーマと研究計画を教員に提案します。教員の専門性と大きく異なり研究指導ができない場合や、研究の実施が現実的に非常に困難な場合は、代替のテーマを提案していただくこととなります ・いずれのテーマも統計解析を必要とするので、統計学演習は必ず履修してください。①と②については、食品機能学と基礎サイエンス実験を必ず履修してください。③については、食品流通経済、食企画・開発演習I, II, IIIとフードビジネス演習を全て履修してください。加えて、100頁程度の論文を執筆する文章作成技術と熱意を準備してください。履修とは、履修登録を意味します。単位修得を必ずしも意味していません。条件にあげた教科は、それぞれの研究テーマを遂行する上で必須となる教科ですので、卒業時まで原則履修してください。卒業要件等に関わる時間割の都合などの理由で履修ができない場合は、個別に相談に応じます。 ・本研究室の卒業研究は、一人1テーマ1研究論文です。グループで取り組んで結構ですが、最終的には、個人で研究をまとめることになるので、承知おきください。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究に必要な2つの要素（新規性と進歩性）の概念が理解できている。 ・研究テーマの探索の進め方が理解できている。
思考・判断の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマの妥当性が判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が興味を持ったテーマを探索し、テーマ調査や予備試験を粘り強く取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	<ul style="list-style-type: none"> ・初歩的な研究報告ができる。 ・研究討議会に参加し、意見や質問を発信できる。

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス(全体)／配属希望調査			
第2回	研究室のガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・本研究室の研究テーマの紹介 ・本研究室のルールの説明 ・研究テーマに必要な要素「新規性」と「進歩性」 ・研究計画書の作成の手順の説明 ・選択日記の記入について 	研究テーマの探索を始めてください	120分
第3回	研究テーマの探索(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究計画書を提出してください(途中経過が良いです)。今後の進め方をアドバイスします。 ・参考にした書籍・文献・データについても質問しますので、記録し、情報を整理しておいてください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フィードバックを良く確認して、さらに研究テーマを探索してください。 	120分
第4回	研究テーマの探索(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・改訂した研究計画書を提出してください(途中経過が良いです)。今後の進め方をアドバイスします。 ・参考にした書籍・文献・データについても質問しますので、記録し、情報を整理しておいてください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フィードバックを良く確認して、さらに研究テーマを探索してください。 	120分
第5回	研究テーマの探索についての中間発表(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマの探索について、これまでの調査結果をパワーポイントを用いて、ゼミのメンバー全員に対して発表してください。 ・探索した内容と、テーマの妥当性について全員でディスカッションします。 ・ディスカッションの内容を良く確認して、研究テーマの探索を継続してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッションを良く確認して、さらに研究テーマを探索してください。 	120分
第6回	研究テーマの探索(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・改訂した研究計画書を提出してください(途中経過が良いです)。今後の進め方をアドバイスします。 ・参考にした書籍・文献・データについても質問しますので、記録し、情報を整理しておいてください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フィードバックを良く確認して、さらに研究テーマを探索してください。 	120分
第7回	研究テーマの探索(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・改訂した研究計画書を提出してください(途中経過が良いです)。今後の進め方をアドバイスします。 ・参考にした書籍・文献・データについても質問しますので、記録し、情報を整理しておいてください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フィードバックを良く確認して、さらに研究テーマを探索してください。 	120分
第8回	研究テーマの探索についての中間発表(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマの探索について、これまでの調査結果をパワーポイントを用いて、ゼミのメンバー全員に対して発表してください。 ・探索した内容と、テーマの妥当性について全員でディスカッションします。 ・ディスカッションの内容を良く確認して、研究テーマの探索を継続してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フィードバックを落ち着いて再考し、さらに研究計画を検討してください。 	120分
第9回	研究テーマの予備的な調査研究、または予備実験(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマの探索結果に基づいて、予備的な調査研究、または予備実験を計画して、実行してください 	<ul style="list-style-type: none"> ・予備的な調査研究、または予備実験を進めてください。予備実験は、担当教員の管理のもとで進めてください。 	120分
第10回	研究テーマの予備的な調査研究、または予備実験(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマの探索結果に基づいて、予備的な調査研究、または予備実験を計画して、実行してください 	<ul style="list-style-type: none"> ・予備的な調査研究、または予備実験を進めてください。予備実験は、担当教員の管理のもとで進めてください。 	120分
第11回	研究テーマの予備的な調査研究、または予備実験の中間発表	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマの予備的な調査研究、または予備実験の結果をパワーポイントを用いて、全員にプレゼンしてください ・予備的な調査研究、または予備実験について、妥当性を全員でディスカッションします。 ・ディスカッションの内容を良く確認して、予備的な調査研究、または予備実験を継続してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッションを良く確認して、予備的な調査研究、または予備実験を実施してください。 	120分
第12回	研究テーマの予備的な調査研究、または予備実験(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマの探索結果に基づいて、予備的な調査研究、または予備実験を計画して、実行してください 	<ul style="list-style-type: none"> ・予備的な調査研究、または予備実験を進めてください。予備実験は、担当教員の管理のもとで進めてください。 	120分
第13回	研究テーマの予備的な調査研究、または予備実験(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマの探索結果に基づいて、予備的な調査研究、または予備実験を計画して、実行してください 	<ul style="list-style-type: none"> ・予備的な調査研究、または予備実験を進めてください。予備実験は、担当教員の管理のもとで進めてください。 	120分

第14回	食物総合演習A研究レポートの提出と発表 (前半)	<ul style="list-style-type: none"> 食物総合演習A研究レポートを全員分印刷して、提出してください (前半・後半担当全員が対象) 前半の担当に当たっているメンバーは、ゼミ全員に対して研究発表してください。パワーポイントを利用して良いです。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究討議の結果をもう一度確認してください。 レポートは、再提出が可能です。期限は、別途指定します。 	120分
第15回	食物総合演習A研究レポートの発表 (後半)	<ul style="list-style-type: none"> 後半の担当に当たっているメンバーは、ゼミ全員に対して研究発表してください。パワーポイントを利用して良いです。 選択日記の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> 研究討議の結果をもう一度確認してください。 レポートは、再提出が可能です。期限は、別途指定します。 	120分

学習計画注記

- 履修人数が多い場合は、テーマの分類によって2つのグループに分けて、研究指導を進める場合があります。
- 食物総合演習A研究レポートの発表は、前半と後半に分けます。当番は、くじ引きで決定します。準備の時間が公平となるように、レポートの提出期限は、前半・後半共に、第14回授業開始時とします。
- 選択日記のエピソードについて、適宜紹介していきます。

学生へのフィードバック方法

- ゼミでの報告と発表に対して、質問をしますので回答してください。回答の妥当性を評価し、アドバイスし、研究の進め方についてフィードバックします。フィードバックをよく理解し、次の研究活動に活かしてください。このPDCAを繰り返します。

評価方法

①演習への参加度 (50点)
 ②食物総合演習A研究レポート (発表と質疑応答含む) (50点)
 ①と②について、ルーブリック表を用意しますので、よく確認してください。ルーブリック表は、クラスルームに掲載します。
 ①と②の合計に、[出席した授業時間数/総授業時間]を乗じて成績評価します。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
①演習への参加度	○	○	○	○
②食物総合演習A研究レポート	○	○	○	○

評価割合

①50点
 ②50点
 ①と②の合計に、[出席した授業時間数/総授業時間]を乗じて成績評価する

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書

- 選択日記 The Choice Diary (978-4163756004)
- 研究室のクラスルーム「フード・サイエンス&アーツ研究室」
<https://classroom.google.com/u/0/r/MTk1NDIwODE5NFpa/sort-last-name>
 クラスコード : eykunn7
 研究室のビジョン、研究業績、これまでの卒業研究の要旨 (生活デザイン学科・食分野) が確認できます。

参考URL <https://classroom.google.com/u/0/c/NDcz0Tc3Mzg0MzIa>

ディプロマポリシーとの関連

- 【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている
- 【思考・判断】多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている
- 【関心・意欲・態度】
 - 食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる
 - 栄養士、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある
- 【技能・表現】生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている

オフィスアワー 金曜日 昼休み・5限 フード・サイエンス&アーツ研究室 (2206)
 面談を希望する場合は、必ずGmailで予約を取ること。会議や出張で不在にする場合があります。

学生へのメッセージ

- ゼミは、大学でしか経験できないコンテンツの一つでしょう。ボリューム感、レベル共に高いので、取り組むのはとても大変ですが、やり遂げた時には、大きな達成感と心の充実を感じると思います。
- ゼミは、教員と学生のメンター・メンティーの関係も経験できます。専門領域の学びだけでなく、人生をどう生きるべきかなど、哲学的な話もたくさんする機会があると思います。大学の教員は、基本的に博士 (Ph.D.) をもっていますが (私も有していますが)、Ph.D.とは、Doctor of Philosophyの略です。Doctor of Philosophyとは、哲学や論理思考力 (生き方や学び方) を教えることができます。
- 最後に、ラルフ・エマーソンの言葉を引用します「大学とは？大学とは、高い理想を仰ぎ見る若い魂が人生経験の深い賢明な魂と出会う場である。」ようこそ、私たちの研究室へ！実りある時間を共に過ごすことをとても楽しみにしています。

教育等の取組み状況

該当有無	概要

実務経験を活かした授業	○	・食品企業での研究開発の実務経験26年。研究開発部門の若手の育成で培った研究開発の指導のノウハウを、大学生のみなさんが理解できるようにアレンジして演習を行います。
アクティブ・ラーニング	○	・学生同士でディスカッションし、研究討議を実践し、論理思考力と対話力を磨いていきます。 ・メンターとして、みなさんの論理思考力と対話力を鍛えます。
情報リテラシー教育	○	・各種学術データベースの使用方法を教授します。
ICT活用	○	・マイクロソフトオフィス（エクセル・パワーポイント・ワード）の上級スキルを教授します。 ・各テーマに必要な統計計算や作図・作表について、エクセルや、統計ソフトウェア「エクセル統計」の使用方法を教授します。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食物総合演習A（高尾）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 高尾 純宏	指定なし

ナンバリング	R30710M12
授業概要(教育目的)	3年前期までに学修した知識・技術を総合的に判断する能力を養うことを目的とし、栄養士や食のスペシャリストとして、社会で活躍する多様な分野について最新の情報をもとにした演習を行う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	論文とは何か、論文の作法、口頭発表の作法と技法、調査の方法を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	自分の論文テーマを考え、何を明らかにするのかを明確化することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日常生活の中で、疑問に思うこと、興味を持てるテーマを探し、追及できる力を身につける。
技術・表現の観点 (A)	予備調査から分かることを分析し、明確化し、発表表現できる。

学習計画

食物総合演習A

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	全体ガイダンス 配属希望調査			
第2回	表現するに足りる議論とは何か (1) 論文を書くとはどのようなことか(資料)	論文を書くとはどのようなことかを理解する。	資料を読み返し復習しておく。	60分
第3回	③表現するに足りる議論とは何か (2) 論文	論文の作法 引用の仕方、註のつけかた。を学ぶ。	次回、資料、口頭発表の作法と技法を読んでおく。	60分

	の作法（引用、註）			
第4回	表現するに足りる議論とは何か (3) 口頭発表の作法と技法	口頭発表の作法と技法を学ぶ。	次回、資料、調査の方法を読んでおく。	60分
第5回	表現するに足りる議論とは何か (4) 調査の方法	調査の方法を学ぶ。	「表現するに足りる議論とは何か」をまとめる。	60分
第6回	レポートにまとめる①	「表現するに足りる議論とは何か」をレポートにまとめる。	自分で行いたい研究論文のテーマを考えておく。	60分
第7回	自分で行いたい論文のテーマに即した学術論文を探す。	学術論文検索の仕方を学ぶ。	学術論文を探す。	120分
第8回	学術論文を読み理解する(1)	学術論文の検索、学術論文を読み理解する・	学術論文を読み理解する。	60分
第9回	学術論文を読み理解する(2)	学術論文を読み理解する。何を伝えたいのかを理解する。	学術論文を読み理解する。	60分
第10回	学術論文を理解する(3)	学術論文を読み理解する。	学術論文を読み理解する。	60分
第11回	レポートにまとめる。②	学術論文を読み、理解できたことをレポートにまとめる。	学術論文を読み、理解できたことをレポートにまとめる。	60分
第12回	研究テーマの設定	自分が行いたい研究テーマの設定。抽出したものの中から、選択する。	研究テーマの検討（何を明白にしたいのかを再度検討する）	120分
第13回	先行研究調査。	自分が行いたいテーマの先行研究結果から学ぶ。	先行研究結果をよく理解し、自分のテーマとの違いを明確化する。	120分
第14回	研究手法の検討	先行研究との相違点、結論の抽出方法などを明確化する。	抽出方法の明確化の検討。	120分
第15回	研究テーマ・調査方法等の発表	自分の行いたい研究テーマ・調査方法を決定し、他のゼミ生に発表し質問、意見等を募る。	研究テーマ・調査方法の再度検討。特に方法の検討を行う。	120分

学習計画注記 研究テーマは、2～3名のグループで取り組むことも可能であるが、最終的な結論は個人の考察とする。研究テーマ設定に時間を要し、進行スピードが異なることがあると予想されるため、後半の授業計画にばらつきが出ることもある。

学生へのフィードバック方法 研究は個人のテーマに即したものであるため、自分で進めることが肝要である。研究の方法などには助言を行います。

評価方法 論文を書くとはどのようなことかを理解し、自分の研究テーマの何を明確化するかを理解し、結論（考察）を導き出すことを重視する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
出席			○	
レポート①	○			
レポート②	○	○		
発表		○		○

評価割合 出席 (20%)、レポート① (10%)、レポート② (10%)、発表 (60%)

使用教科書名 (ISBN番号)	なし
参考図書	知の技法：東京大学教養学部「基礎演習」テキスト（単行本） 著者：小林 康夫、船曳 建夫
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】論文とは何かを理解する理解力。 【思考・判断】先行研究を熟読し、先行研究結果と自分の研究方法の相違点と結論を明確化する力。 【関心・意欲・態度】自分が興味を持てる研究テーマを見つけ探求する力。 【技能・表現】自分自身の考察を表現発表できる力。
オフィスアワー	火曜 3限 1502研究室
学生へのメッセージ	野菜栽培の実験を行いたい人は、授業（ゼミ）と同時に進行することになります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		野菜栽培の実験では、授業「食生産体験演習A,B」で得た知識と経験を活かした実験を行い、データの収集能力を身につけます。
アクティブ・ラーニング	○	自ら興味を持てる研究テーマを見つけ出し、問題を発見解決し、考察に導く力を身につけます。
情報リテラシー教育	○	資料や先行研究論文を熟読し理解して、レポートにまとめる力を養います。
ICT活用	○	ゼミの中での相互理解、討議等を重ねることによって、コミュニケーションを養います。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食物総合演習A（山崎）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 山崎 薫	指定なし

ナンバリング	R30710M12
授業概要(教育目的)	3年までに学修した知識・技術を総合的に判断する能力を養うことを目的とし、栄養士や食のスペシャリストとして、社会で活動する多様な分野について最新の情報をもとにした演習を行う。
履修条件	食物学科3年次以上の学年であること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	食に関連する分野において、より進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点 (K)	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	習熟した技能習得を目指し、自らの考えを的確に形や文章として表現できる基礎を培うことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス(全体)／配属希望調査	1. 学科全体ガイダンス 2. 配属希望調査	食物総合演習Aで遂行する研究テーマの研究計画素案を考える。	90分
第2回	指導教員による個別及びゼミ合同指導①	1. 研究室ガイダンス 2. 研究テーマを検討する。	先行研究等の情報収集を行う。	90分
第3回	指導教員による個別及びゼミ合同指導②	先行研究から得た情報を反映した食物総合演習Bまで視野に入れた研究計画を報告し、検討する。	研究に必要な試料と試薬の調達、調整等、研究実働に必要と考えられる情報収集準備を進める。	90分
第4回	指導教員による個別及びゼミ合同指導③	前回に続き、先行研究から得た情報を反映した食物総合演習Bまで視野に入れた研究計画を報告し、試料・試薬調製計画、研究手法の概要案を検討する。	研究テーマに必要と考えられる情報収集を行う。	90分

第5回	指導教員による個別及びゼミ合同指導④	前日までの研究テーマに対する情報収集等の進捗状況報告と今後の予定を報告し、研究テーマ内容検討を行う。	研究テーマに必要と考えられる情報収集を行う。	90分
第6回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑤	前回に続き、前日までの研究テーマに対する情報収集等の進捗状況報告と今後の予定を報告し、研究テーマ内容検討を行う。	研究テーマに必要と考えられる情報収集を行う。	90分
第7回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑥	前回に続き、前日までの研究テーマに対する情報収集等の進捗状況報告と今後の予定を報告し、研究テーマ内容検討を行う。	研究テーマ内容に関する情報整理を行う。	90分
第8回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑦	研究室内、中間報告会へ向けた準備を行う。	中間報告会へ向けた準備を行う。	90分
第9回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑧	研究室内、中間報告会へ向けた準備を行う。	中間報告会へ向けた準備を行う。	90分
第10回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑨	中間報告会に参加し、報告、質疑応答を行う。	中間報告会の結果を反映した研究計画検討を行う。	90分
第11回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑩	中間報告会に参加し、報告、質疑応答を行う。	中間報告会の結果を反映した研究計画検討を行う。	90分
第12回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑪	中間報告会の結果を受け、研究実働に必要な研究技術習得を行う。	研究技術習得実働を進める。	90分
第13回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑫	研究技術習得と併せて、生活デザイン学科食生活分野卒業研究A発表会用の要旨案を読み始める。	研究技術習得実働を進める。	90分
第14回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑬	次年度卒業研究着手に向けた学びの一環である生活デザイン学科食生活デザイン分野卒業研究A発表会参加への準備（質疑案検討等）を行う。	生活デザイン学科食生活デザイン分野卒業研究A発表会要旨案を読み、質問を考える。	90分
第15回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑭	次年度卒業研究着手に向けた学びの一環である生活デザイン学科食生活デザイン分野卒業研究A発表会参加する。	食物総合演習Bに向けた研究実働と併せて発表会における質疑応答内容検討等も行う。	90分

学習計画注記	研究指導内容に関しては、研究テーマ、研究試料特性、研究進捗状況により変更する場合があります。				
学生へのフィードバック方法	研究指導時、履修生からの問い合わせ時に適宜、フィードバックを行います。				
評価方法	研究室ゼミへの参加（15%）、研究テーマに関連する中間報告内容（15%）、令和2年度においては生活デザイン学科食生活分野卒業研究A発表会への出席及び参加報告書内容（10%）、研究テーマに対する取り組み内容（60%）の総合評価（100%）とします。				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	研究要旨	○	○	○	○
	中間報告発表	○	○	○	○
	研究姿勢	○	○	○	
評価割合	ゼミへの参加（15%）、中間報告内容（15%）、令和2年度においては生活デザイン学科食生活分野卒業研究A発表会出席及び参加報告書（10%）、研究テーマに対する取り組み（60%）の総合評価（100%）				
使用教科書名 (ISBN番号)	なし				

参考図書	研究テーマに即し、適宜、紹介します。
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】食に関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。</p> <p>【思考・判断】食を中核とした社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。</p> <p>【関心・意欲・態度】食を中核とした社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。</p> <p>【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。</p>
オフィスアワー	水曜5限 2308研究室 メール等で事前に予約と時間の承諾を得てください。
学生へのメッセージ	<p>指導教員による個別・グループ指導では、事前に十分な準備をして望んで下さい。</p> <p>研究テーマに関連する教科を既修並びに履修しておいて下さい。</p> <p>理化学的に実験手法を用いますので、生物、化学の専門的知識を活用します。</p> <p>研究テーマにより試料等の特性上、連日、研究を行う必要がある場合もありますし、研究内容変更が生じることもあります。</p> <p>よって、探求心を持って継続して研究をすることが必要となります。</p> <p>研究遂行においては、連絡、報告、相談をこまめに行ってください。</p>

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、研究テーマにより研究指導を行う。
アクティブ・ラーニング	○	ゼミ、研究テーマ打ち合わせ時にディスカッションを積極的に行う。
情報リテラシー教育	○	ゼミ報告書作成、将来的に作成する論文作成、発表会用資料作成や研究遂行時に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	中間報告用資料作成等、研究遂行時に必要なツールを活用する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食物総合演習B (岩見)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 岩見 哲夫	指定なし

ナンバリング	R30711M12
授業概要(教育目的)	3年次までに学修した知識・技術を総合的に判断する能力を養うことを目的とし、栄養士や食のスペシャリストとして、社会で活動する多様な分野について最新の情報をもとにした演習を行う。
履修条件	原則として「食物総合演習A(岩見担当)」を履修していること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	具体的な研究テーマ案を説明できる
思考・判断の観点 (K)	提案する研究テーマについて、その意義(オリジナリティ・有用性等)を考えることができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	自らテーマを探し、調査研究の対象として具体化することができる
技術・表現の観点 (A)	研究テーマの内容とその意義(オリジナリティ・有用性等)を分かりやすくプレゼンテーションできる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	研究テーマの設定	食物総合演習Aで設定したテーマについて、再度検討する	食物総合演習Aで設定したテーマについて、確認しておく	45
第2回	研究テーマに関連した文献の探索	図書館・インターネットで文献情報を得る方法について学修する	今までに習った文献検索方法について復習しておく	30
第3回	研究テーマに関連した文献の探索	図書館・インターネットで文献情報を得る方法について学修する	今までに習った文献検索方法について復習しておく	30
第4回	文献紹介・問題点の指摘	収集した文献を紹介し、その問題点を議論する	テーマに関連した文献を収集し、紹介できるようにしておく	45
第5回	文献紹介・問題点の指摘	収集した文献を紹介し、その問題点を議論する	テーマに関連した文献を収集し、紹介できるようにしておく	45
第6回	文献紹介・	収集した文献を紹介し、その問題点を議論する	テーマに関連した文献を収集	45

	問題点の指摘		し、紹介できるようにしておく	
第7回	各種実験方法の紹介	テーマに関係する実験方法を具体的に紹介する	文献等に記された実験手法について予習しておく	30
第8回	各種実験方法の実習	本研究室で行える実験方法を習得する	事前に実験マニュアルを熟読しておく	45
第9回	各種実験方法の実習	本研究室で行える実験方法を習得する	事前に実験マニュアルを熟読しておく	45
第10回	実験計画の立案	今までの情報・経験をもとに、改めて研究テーマに即した実験計画を作成する	実験計画の作成において疑問点・問題点を集約しておく	60
第11回	実験計画の発表・検討	立案した実験計画を発表し互いに検討する	分かりやすく説明できるようにしておく。気付いた問題点等を提示できるようにしておく	60
第12回	実験計画の発表・検討	立案した実験計画を発表し互いに検討する	分かりやすく説明できるようにしておく。気付いた問題点等を提示できるようにしておく	60
第13回	研究テーマの発表	今までの検討を踏まえ、改めて研究テーマを発表する	研究テーマの発表準備をする。問題点を指摘された場合は、その解決策を検討しておく	45
第14回	研究テーマの発表	今までの検討を踏まえ、改めて研究テーマを発表する	研究テーマの発表準備をする。問題点を指摘された場合は、その解決策を検討しておく	45
第15回	研究テーマの発表	今までの検討を踏まえ、改めて研究テーマを発表する	研究テーマの発表準備をする。問題点を指摘された場合は、その解決策を検討しておく	45

学習計画注記	テーマ内容によっては準備に時間がかかることもあるので、授業外学習時間については変動があると予想される。また、一部は学外での活動を要する可能性もある（必ず事前に調整する）。原則として各自テーマを設定するが、内容によっては共同で取り組むことも可能。
--------	--

学生へのフィードバック方法	基本的にゼミ形式で進行するので、授業中・発表中の質問・回答等、フィードバックを随時行う。
---------------	--

評価方法	授業への参加度（積極的に意見を出し、自分の考えを明らかにできているか）と課題となる発表内容・完成度で評価する
------	--

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業への参加度	○	○	○	
プレゼンテーション	○	○	○	○

評価割合	授業への参加度50% プレゼンテーション50%
------	----------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	なし
-----------------	----

参考図書	提示されたテーマにあわせて紹介する
------	-------------------

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】様々な立場や状況の人々に、自分が検討した内容を具体的に伝えることができる 【思考・判断】種々の情報を整理し、研究テーマの意義を客観的に判断できる 【関心・意欲・態度】自らテーマを設定し、課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる 【技能・表現】体系的な学修を通じて、研究テーマの内容・意義を分かりやすく伝えることができる
---------------	---

オフィスアワー	後期 火曜日2限・昼休み・3限 (10:40~12:30) 生物学研究室 (2205) 相談を希望する学生は、可能な限りGmailを用いて予約をしてください。
---------	--

学生へのメッセージ	研究という活動には、自ら興味・関心を持つことが重要ですが、その前提には知らないもの・分からないものに対する「好奇心」が必要です。教員は「好奇心」を持つきっかけを提供することができますが、「好奇心」を抱き、自ら研究活動に入るには、皆さん自身の意志が不可欠です。ゼミの主役は皆さん自身であることを理解して授業に臨んでください。
-----------	---

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業	○	南極地域観測隊員としてフィールドで調査・研究をした経験を活かして、一定の制限の中で結果を出していく取り組み方を伝えます。
アクティブ・ラーニング	○	多くの回で、履修者同士が議論・検討・提案できる機会を設定します。
情報リテラシー教育	○	研究情報・文献調査において、引用に値する情報と、参考にできない情報との違いについて教授します。
ICT活用	○	研究情報・文献調査については、インターネットを利用しての情報収集を行います。また、各種ソフトウェアを使用して、数値データ・画像データ等の解析について教授します。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食物総合演習B (河田)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田 敦子	指定なし

ナンバリング	R30711M12
授業概要(教育目的)	<p>4年生で取り組む卒業研究の準備学習を行う。</p> <p>①文献調査の方法 (インターネットで調べる。図書館で調べる。文書館で調査する。)</p> <p>②フィールドワークの方法 (インタビュー調査。現地調査。聞き取り調査。学校調査等)</p> <p>③テーマの設定 (テーマはどの程度の絞り、広がりのある展望のあるテーマにするか)</p> <p>④先行研究の検討</p> <p>以上の4項目は、どのような研究においても必要な基礎力である。ゼミナールBでは③、④について文献を読んだり、図書館に赴いたり、学校調査に参加する等、基礎的理解を深め、能力を高める。</p>
履修条件	ゼミナールAを履修済みであること。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	研究とはどういうものかを理解する。
思考・判断の観点 (K)	テーマの設定はどのようにしたら良いのかを考えられる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	何かを研究によって明らかにしたいという意欲を持つ。
技術・表現の観点 (A)	自分の研究で明らかにしたいことについての方法を考え、それを解明する筋を表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	研究テーマの設定	自分が興味があることを具体化する。	いろいろな情報を得ながら、テーマを絞ったり広げたり試みる。	240分
第2回	テーマの設定	おおよそのテーマを決めたら、そのテーマに関連する文献を渉猟する。	国会図書館OPACや本学図書館、様々な図書館のホームページに入って、多様なキーワードで検索を行う。	240分
第3回	研究方法を考える。	文献調査なのかフィールドワークなのか、自分のテーマと適性をもとに考える。箕浦康子著『フィールドワークの技法と実際』第4章を読む。	箕浦康子著『フィールドワークの技法と実際』第4章を一人1節ずつ担当して読む。自分の調べたいところがあるところ、人がい	240分

			るところへ行ってみる計画を立てる。	
第4回	学校調査(1)	学校にはどのような文書があるのか、実際に学校調査を行う。調査時、調査終了後にどのような挨拶が必要なのかを学ぶ。	撮影用カメラ、フィールドノートを準備すること。	90分
第5回	学校調査(2)	学校にはどのような文書があるのか、実際に学校調査を行う。調査したことの記録の方法、個人情報への配慮を学ぶ。	撮影用カメラ、フィールドノートを準備すること。	240分
第6回	調査結果の整理(1)	撮影した情報の整理。エクセル表の作成の仕方を学ぶ。	エクセル表の作成方法を学んだら、自宅でデータ入力をする。	240分
第7回	調査結果の整理(2)	撮影した情報の整理。エクセル表の作成の仕方を学ぶ。	エクセル表の作成方法を学んだら、自宅でデータ入力をする。	240分
第8回	調査結果から何を読み取るか	得られたデータを整理した結果から何が読み取れるかを考える。	データをよく見る習慣を持つ。	240分
第9回	調査結果を発表し合う(1)	自分なりに読み取った調査結果を報告し合う。アクティブラーニングである。	報告発表の準備をする。	240分
第10回	調査結果を発表し合う(2)	自分なりに読み取った調査結果を報告し合う。アクティブラーニングである。	報告発表の準備をする。	240分
第11回	インタビュー調査(1)	研究方法でインタビューを選んだ者は、インタビューノート作成とテープ起こしを行う。	テープ起こしをしてくる。	240分
第12回	インタビュー調査(2)	インタビュー調査時の状況、相手の様子等、を記録する。	インタビューノートの作成。	360分
第13回	インタビュー調査から読み取れること	インタビュー調査の報告会をする。言葉、表情、状況から何を読み取るかを考える。	インタビュー調査記録の読み取り。	240分
第14回	インタビュー調査から読み取れること	インタビュー調査の報告会をする。言葉、表情、状況から何を読み取るかを考える。	インタビュー調査記録の読み取り。	240分
第15回	ゼミナールA/Bを振り返って	ゼミナールBを振り返って、何を学び、何を面白く感じたかを発表し合う。	自分の考えをまとめておく。	60分

学生へのフィードバック方法 随時コメント、指導を行う。

評価方法 ①自分が関心を持っているテーマに対し、どれほど真剣に、取り組んでいるか。
②学術的なレベルに達するために、先行研究や文献の探索に取り組んでいるか。
③調査対象となる人々との関わりや事象に対し、しっかりとした配慮や態度で取り組んでいるか。
④まとめられた研究成果は論理性があるか。
の項目で評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
真剣に組む姿勢			○	
先行研究や文献の渉猟	○	○	○	
調査対象への配慮		○	○	○
研究成果の論理性	○	○		○

評価割合 ①テーマに対する取り組み方。(30%)
②興味関心を学術的なレベルに達するために、先行研究の探索に取り組んでいるか。(20%)
③調査対象への配慮。(20%)
④研究成果の論理性。(30%)

使用教科書名 (ISBN番号) 特に無。

参考図書 ・原ひろ子『観る・集める・考える一発見のためのフィールド・ワーク』カタツムリ社1993年

	<ul style="list-style-type: none"> ・箕浦康子『フィールドワークの技法』 ・河田敦子「宮城県M郡K町における「姉家督」について」『民族学研究』1985年 ・林竹二『授業の成立』筑摩書房1983年 ・ 															
ディプロマポリシーとの関連	<p>○知識・理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内外で講義・実習・演習を通し、多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている <p>○思考・判断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている <p>③関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。 															
オフィスアワー	アポイントメントにより、随時相談に応じる。															
学生へのメッセージ	研究は、自分のテーマに対する興味関心の強さ深さによって大きく左右されます。その意味で、自分を見つめ、育てる良い学びをしてください。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>随時、ゼミ発表を行う。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td>○</td> <td>文献検索。図書館での調査。</td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td>○</td> <td>図書館ラーニングコモンズでの模擬授業も可能です。</td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング	○	随時、ゼミ発表を行う。	情報リテラシー教育	○	文献検索。図書館での調査。	ICT活用	○	図書館ラーニングコモンズでの模擬授業も可能です。
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業																
アクティブ・ラーニング	○	随時、ゼミ発表を行う。														
情報リテラシー教育	○	文献検索。図書館での調査。														
ICT活用	○	図書館ラーニングコモンズでの模擬授業も可能です。														

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食物総合演習B (三澤)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 三澤 朱実	指定なし

ナンバリング	R30711M12
授業概要(教育目的)	本科目は、卒業のための必修科目である。本演習では、栄養素等の分析結果、食生活状況に関するアンケート調査結果の処理、集計、分析方法について解説するので、実際に演習してもらう。分析結果を用いた図表の作成方法、論文の構成、書き方についても解説するので、実際に作成・執筆してもらう。最後に作成した資料をスライドに作成し直して発表し、プレゼンテーション能力も身につける。これにより、研究発表能力を養う。
履修条件	栄養指導論、栄養カウンセリング論、公衆栄養学を履修済みであること。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	学生が、対象となる人々の 多様な食事、食生活、食環境の実態を表現するため、データの分析、図表の作成方法について学び、理解すること。
思考・判断の観点 (K)	学生が、多様な栄養・食情報を整理し、表現して、客観的に思考、判断することができるようになること。
関心・意欲・態度の観点 (V)	学生が、対象集団・地域社会の課題を見出し、その解決のための食育や食生活改善に興味や関心を持ち、貢献したいという意欲をもつようになること。
技術・表現の観点 (A)	学生が、対象集団の課題解決のための教材開発や食事改善計画をプランニングし、それらを活用して周知したり、発表できるようになること。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	1回目 オリエンテーション	食物総合演習の全体の進め方について、説明する。	学術論文に興味をもって事前に調べておく。	90分
第2回	〇2回目 食育・栄養教育体験①	〇実践社会における食育や栄養教育の体験学習をしていただく。	実践社会における食育や栄養教育を実施したあとのまとめ方について、事前に調べておく。	90分
第3回	〇3回目 食育・栄養教育体験②	〇実践社会における食育や栄養教育の体験学習をしていただく。	実践社会における食育や栄養教育を実施したあとのまとめ方について、事前に調べておく。	90分
第4回	4回目 調査票の処理・分析①	調査票の処理・分析について解説するので、実際に分析してみる。	統計処理された文献を読みこなしておく。	90分

第5回	5回目 調査票の処理・分析②	調査票の処理・分析について解説するので、実際に分析してみる。	統計処理された文献を読みこなしておく。	90分
第6回	6回目 図表作成、論文構成①	図表の作成方法、論文の構成について解説するので、実際に作成・執筆してみる。	統計処理された文献を読みこなしておく。	90分
第7回	○7回目 食育・栄養教育体験③	○実践社会における食育や栄養教育の体験学習をしていただく。	実践社会における食育や栄養教育を実施したあとのまとめ方について、事前に調べておく。	90分
第8回	8回目 図表作成、論文構成②	図表の作成方法、論文の構成について解説するので、実際に作成・執筆してみる。	統計処理された文献を読みこなしておく。	90分
第9回	9回目 発表資料作成①	発表資料を作成する。	同じ研究分野の発表資料を事前に調べておく。	90分
第10回	○10回目 食育・栄養教育体験④	○実践社会における食育や栄養教育の体験学習をしていただく。	実践社会における食育や栄養教育を実施したあとのまとめ方について、事前に調べておく。	90分
第11回	11回目 発表資料作成②	発表資料を作成する。	同じ研究分野の発表資料を事前に調べておく。	90分
第12回	12回目 卒業研究発表会聴講	他学科の4年次卒業研究の発表会に参加、聴講し、自身の研究計画に生かす。	発表資料を事前に見ておく。	90分
第13回	○13回目 食育・栄養教育体験⑤	○実践社会における食育や栄養教育の体験学習をしていただく。	実践社会における食育や栄養教育を実施したあとのまとめ方について、事前に調べておく。	90分
第14回	○14回目 食育・栄養教育体験⑤	○実践社会における食育や栄養教育の体験学習をしていただく。	実践社会における食育や栄養教育を実施したあとのまとめ方について、事前に調べておく。	90分
第15回	15回目 発表会	これまでの資料、教材、計画書に関して発表し（パワーポイントを用いたプレゼンテーション）、開発した教材を公表する。他者の発表を聴いて自己の発表を改善する。	発表の練習をしておく。	90分

学習計画注記	進み具合によってスケジュールが前後したり、変更することがあります。																																	
学生へのフィードバック方法	毎回質問を受け付ける。さらに質問がある場合にはオフィスアワー時間に2106研究室を訪問すること。																																	
評価方法	平常点30%、レポート60%、発表10%で評価する。レポートの評価方法は、例えば2回レポートを提出した場合は、60点満点÷2回として、1回のレポートの配分点は30点とする。レポート作成・提出、発表は下表に示すスキルを養うことを目的として実施している。																																	
評価基準	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平常点</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>レポート提出</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>発表</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	平常点			○		レポート提出	○	○		○	発表	○	○		○										
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																														
平常点			○																															
レポート提出	○	○		○																														
発表	○	○		○																														
評価割合	平常点30%、レポート60%、発表10%で評価する。																																	
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない																																	
参考図書	「食事バランスガイド」を活用した栄養教育・食育実践マニュアル 第3版 第一出版 (ISBN 978-4-8041-1358-6 C3077) 日本人の食事摂取基準 2020版 第一出版																																	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】栄養指導論を構成する基本的な知識に加えて、健康の維持・増進に係る総合的な知識を有していること。 【思考・判断】多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について関心を持ち、自ら課題を見出し、解決に意欲的取り組むことができる。栄養士として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。 【技術・表現】食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や表現力を身につけている。																																	
オフィスアワー	月・火曜昼休み、木曜2限：栄養指導研究室 (1206室)																																	
学生へのメッセージ	栄養士になるための必須専門科目である。実社会における食育等の経験や地域連携活動の機会を提供するので、																																	

是非主体的、積極的に学んで欲しい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は外来診療における患者への個別栄養指導、健診後の個別・集団の栄養教育の実務経験を有しており、生活習慣病やメタボリックシンドローム等の疾病者への指導、健常者への予防的教育に関し、栄養士・管理栄養士として習得すべき対象者に応じた食育、食生活改善の方法を実践的に教授する。伴って、事前・事後の調査・分析、結果の纏め方等の実例を分かりやすく教授する。
アクティブ・ラーニング	○	対象者の食生活改善上の問題解決を図り、栄養の指導分野の技術をより高めるため、チームでディスカッションし、能動的に学べるよう教授する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食物総合演習B (山田)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山田 正子	指定なし

ナンバリング	R30711M12
授業概要(教育目的)	卒業研究時には研究の遂行、論文作成時、卒業後にも社会や進学により研究や調査を行うような現場では、他の研究者が行っている研究内容を参考に、利用する必要がある。そのためには学術論文等を読み、理解することが必要となる。本演習では食科学、栄養学分野における学術論文を読みこなせる能力を養う。また、併せて栄養士という資格を実践的・包括的に捉えることができる能力も養う。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	これまで学んだ体の構造、栄養素の役割および体内での代謝を理解し、特にナトリウムおよび鉄について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	文献検索をすることができ、文献の内容を読み取り、それら情報を整理し研究に結び付けることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	食生活をとり巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	自分の研究テーマについて理解し、研究計画・立案をすることができ、それら内容について説明することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	後期の演習の進め方について打ち合わせを行う。	これまで学んだ専門科目の内容で、興味のあるものを復習しておく。	60分
第2回	論文の書き方について①	論文の書き方について学ぶ。	興味のあるテーマの論文を読んでおく。	60分
第3回	論文の書き方について②	テーマを決め、簡単な実験か調査を行い、データ処理の方法、統計処理の方法、図表の書き方、文章の書き方について学ぶ。	テーマに関する論文を読み、論文の書き方の流れについて予習・復習しておく。	60分
第4回	論文の書き方について②	テーマを決め、簡単な実験か調査を行い、データ処理の方法、統計処理の方法、図表の書き方、文章の書き方について学ぶ。	テーマに関する論文を読み、論文の書き方の流れについて予習・復習しておく。	
第5回	論文の書き	テーマを決め、簡単な実験か調査を行い、データ処理の	テーマに関する論文を読み、論	

	方について ③	方法、統計処理の方法、図表の書き方、文章の書き方について学ぶ。	文の書き方の流れについて予習・復習しておく。	
第6回	論文の書き方について ④	テーマを決め、簡単な実験か調査を行い、データ処理の方法、統計処理の方法、図表の書き方、文章の書き方について学ぶ。	テーマに関する論文を読み、論文の書き方の流れについて予習・復習しておく。	60分
第7回	論文の書き方について ⑤	テーマを決め、簡単な実験か調査を行い、データ処理の方法、統計処理の方法、図表の書き方、文章の書き方について学ぶ。	テーマに関する論文を読み、論文の書き方の流れについて予習・復習しておく。	60分
第8回	給食関連施設の見学①	給食関連食材を扱う食品メーカーの見学を行い、大量調理用に作られている食材について学ぶ。	校内給食管理実習で行ったことを復習しておく。	60分
第9回	給食関連施設の見学②	給食関連食材を扱う食品メーカーの見学を行い、大量調理用に作られている食材について学ぶ。	校内給食管理実習で行ったことを復習しておく。	60分
第10回	給食関連施設の見学③	給食関連食材を扱う食品メーカーの見学を行い、大量調理用に作られている食材について学ぶ。	校内給食管理実習で行ったことを復習しておく。	
第11回	次年度に行う研究テーマを決める ①	次年度に行う研究テーマを決め、研究計画をたてる。	食物総合演習A・Bおよびこれまで学んだ専門科目の復習をし、研究テーマを決める参考にする。	60分
第12回	次年度に行う研究テーマを決める ②	次年度に行う研究テーマを決め、研究計画をたてる。	食物総合演習A・Bおよびこれまで学んだ専門科目の復習をし、研究テーマを決める参考にする。	60分
第13回	次年度に行う研究テーマを決める ③	次年度に行う研究テーマを決め、研究計画をたてる。	食物総合演習A・Bおよびこれまで学んだ専門科目の復習をし、研究テーマを決める参考にする。	60分
第14回	次年度に行う研究テーマを決める ③	次年度に行う研究テーマを決め、研究計画をたてる。	食物総合演習A・Bおよびこれまで学んだ専門科目の復習をし、研究テーマを決める参考にする。	60分
第15回	まとめ	次年度の研究に向け、その研究テーマおよび研究計画の確認を行う。	食物総合演習A・Bおよびこれまで学んだ専門科目の復習をし、研究テーマを決める参考にする。	60分

学生へのフィードバック方法 直接本人に研究計画内容について確認し、指導する。

評価方法 平常点、取り組む意欲、課題提出状況、プレゼンテーション内容について総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
取り組む意欲			○	
課題提出状況	○	○		○
プレゼンテーション内容	○	○		○

評価割合 平常点 (20%)、取り組む意欲 (20%)、課題提出状況 (30%)、プレゼンテーション内容 (30%)

使用教科書名 (ISBN番号) なし

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】学内外で講義・実習・演習を通し、多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。【思考・判断】多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。また、栄養士、教員、食の専門家として探究心を持っている。【技術・表現】専門的、体系的な学修を通じて、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能を身につけている。

オフィスアワー 金曜日 5時限 2311研究室

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
--	------	----

実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	
情報リテラシー教育	○	
ICT活用	○	

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食物総合演習B (岩本)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岩本 直樹	指定なし

ナンバリング	R30711M12
授業概要(教育目的)	卒業研究時には研究の遂行、論文作成時、卒業後にも社会や進学により研究や調査を行うような現場では、他の研究者が行っている研究内容を参考に、利用する必要がある。そのためには学術論文等を読み、理解できることが必要となる。本演習では食科学、栄養学分野における学術論文を読みこなせる能力を養う。また、併せて栄養士という資格を実践的・包括的に捉えることができる能力も養う。本科目は、栄養士免許取得のための必須科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	栄養と食のスペシャリストとして、栄養学の概念、消化・吸収の調節機構、糖質、脂質等の栄養素の摂取と生活習慣病との関連について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	3年次までに学んだ様々な知識・技術を横断的に統合し、現代の食・栄養に関わる課題に対して解決案が提示できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	栄養と食のスペシャリストとして、人々の健康に広く貢献する者としての意欲と使命感を身につけている。
技術・表現の観点 (A)	学習内容や研究活動についてプレゼンテーションができ、根拠に基づくディスカッションができる。社会の一員であることを自覚し、コミュニケーション能力および豊かな人間性を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション(食物総合演習Bの目的と進め方)を行う。	研究テーマを考える。栄養士実力認定試験の過去問題についてグループ学習を行う。	60分
第2回	栄養士実力認定試験対策①	栄養士実力認定試験の問題(栄養学総論)についてディスカッション及びプレゼンテーションを行う。	学習内容に対して復習を行う。また、次回の予習としてグループ学習を行う。	60分
第3回	卒業研究計画書作成準備①	4年次の卒業研究のための研究テーマを予備実験・予備調査や文献調査等を通して具体化させていく。	研究体験活動における報告書を作成する。	60分
第4回	栄養士実力認定試験対策②	栄養士実力認定試験の問題(応用栄養学)についてディスカッション及びプレゼンテーションを行う。	学習内容に対して復習を行う。また、次回の予習としてグループ学習を行う。	60分

第5回	卒業研究計画書作成準備②	4年次の卒業研究のための研究テーマを予備実験・予備調査や文献調査等を通して具体化させていく。	研究体験活動における報告書を作成する。	60分
第6回	栄養士実力認定試験対策③	栄養士実力認定試験の問題（解剖生理学）についてディスカッション及びプレゼンテーションを行う。	学習内容に対して復習を行う。また、次回の予習としてグループ学習を行う。	60分
第7回	卒業研究計画書作成準備③	4年次の卒業研究のための研究テーマを予備実験・予備調査や文献調査等を通して具体化させていく。	研究体験活動における報告書を作成する。	60分
第8回	栄養士実力認定試験対策④	栄養士実力認定試験の問題（臨床栄養学）についてディスカッション及びプレゼンテーションを行う。	学習内容に対して復習を行う。また、次回の予習としてグループ学習を行う。	60分
第9回	卒業研究計画書作成準備④	4年次の卒業研究のための研究テーマを予備実験・予備調査や文献調査等を通して具体化させていく。	研究体験活動における報告書を作成する。	60分
第10回	栄養士実力認定試験対策⑤と学習到達度の確認テスト	栄養士実力認定試験の問題（まとめ）についてディスカッション及びプレゼンテーションを行う。授業時間の一部で学習到達度の確認テストを実施する。	学習内容に対して復習を行う。	60分
第11回	卒業研究計画書作成準備⑤	4年次の卒業研究のための研究テーマを予備実験・予備調査や文献調査等を通して具体化させていく。	研究体験活動における報告書を作成する。	60分
第12回	卒業研究計画書作成準備⑥	4年次の卒業研究のための研究テーマを予備実験や文献調査等を通して考える。	研究体験活動における報告書を作成する。	60分
第13回	卒業研究計画書作成準備⑦	4年次の卒業研究のための研究テーマを予備実験・予備調査や文献調査等を通して具体化させていく。	研究体験活動における報告書を作成する。	60分
第14回	卒業研究計画書作成準備⑧	4年次の卒業研究のための研究テーマを予備実験や文献調査等を通して考える。	研究体験活動における報告書を作成する。	60分
第15回	総括と卒業研究計画書提出	1回目～14回目の演習についての総括を行い、研究テーマを具体化した卒業研究計画書を提出してもらう。	来年度の卒業研究に向けて文献調査等を進める。	60分

学習計画注記	※シラバスの内容は、やむをえない事情等により一部修正することがあります。				
学生へのフィードバック方法	授業時間内でフィードバックできない場合は研究室で個別に対応する。また質問等がある場合には1201研究室まで訪問すること。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・確認テスト（栄養士実力認定試験出題基準の問題）を行い、20点満点で出題する。 ・随時提出を求める研究活動報告書および毎回のプレゼンテーションを評価する。 ・提出を求める研究計画書について評価する。 確認テスト、報告書作成、プレゼンテーション、研究計画書は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	確認テスト	○			
	報告書	○	○	○	○
	プレゼンテーション	○	○	○	○
	研究計画書	○	○	○	○
評価割合	確認テスト10%、研究活動報告書50%およびプレゼンテーション30%、研究計画書10%で総合的に評価する。				
使用教科書名 (ISBN番号)	全国栄養士養成施設協会 編『栄養士実力認定試験過去問題集』建邦社 (978-4-7679-0659-1)				
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・田村明 他編『イラスト基礎栄養学』東京教学社 (978-4-8082-6053-8) ・松村譲児 編『人体解剖ビジュアル』サイオ出版 (9784907176273) ・栢下 淳他編『栄養科学イラストレイテッド応用栄養学』羊土社 (978-4-7581-0877-5) ・多賀昌樹 編『臨床栄養学基礎から学べる』アイ・ケイコーポレーション (9784874923641) 				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけて				

	<p>いる。</p> <p>【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。</p> <p>【関心・意欲・態度】学習内容に関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。</p> <p>【技能・表現】専門的、体系的な学修を通じて、食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。</p>
オフィスアワー	月曜4限 1201研究室
学生へのメッセージ	<p>栄養士の勉強の上に研究があります。より良い研究をするために、しっかり栄養士の知識を身につけてください。問題集を解く際にグループ学習を事前に行ってもらいます。また、研究活動にあたっては、担当教員（岩本）と十分にコミュニケーションをとり、研究活動に対する助言・指導を受けるとともに、進捗状況に関する情報を共有してください。</p>

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループ学習を事前に行った上で、担当教員を含めて活発なディスカッションを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食物総合演習B（大和田）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大和田 寛	指定なし

ナンバリング	R30711M12
授業概要(教育目的)	卒業研究時には研究の遂行、論文作成時、卒業後にも社会や進学により研究や調査を行うような現場では、他の研究者が行っている研究内容を参考に、利用する必要性がある。そのためには学術論文等を読み、理解できることが必要となる。本演習では食科学、栄養学分野における学術論文を読みこなせる能力を養う。
履修条件	食物総合演習A（大和田）を履修していること

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	蕎麦打ちの知識を深める（粉の色々について）。うどん、そばに関する文化研究の端緒となるような書籍を読む。
思考・判断の観点 (K)	うどんには地域性がある。そばには系統がある。個々のお店の特徴を考える際にそれらが興味深いポイントとなる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	うどん、そばを歴史的、地域的、系統的に深い背景の上で考えていこうとする態度を養う。
技術・表現の観点 (A)	そばのバリエーション（御前蕎麦、田舎蕎麦、粗びき、変わり蕎麦、太切り、細切り）等にチャレンジする。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	蕎麦打ち⑤	前期最終回までに学んだ蕎麦打ちの復習	夏休みを挟んで忘れていた技術を思い出すこと。	60分
第2回	校外実習事前指導⑤	実習先の特徴等について調べる（グループワーク）	相談したことをよく復習しておくこと。	60分
第3回	校外実習事後指導分①	校外実習で学んだ内容をパワーポイントでまとめる	学んだことをよく復習しておくこと。	60分
第4回	蕎麦打ち⑥	蕎麦を打ったあと、汁を合わせる。	自分の打つ蕎麦に合う汁を見つけること。	60分
第5回	蕎麦打ち⑦	お互いの打つ蕎麦とそれに合わせた汁の食べ比べ	新たな汁の可能性を試すこと。	60分
第6回	蕎麦打ち⑧	田舎蕎麦打ち（太切り）	田舎蕎麦打ちの練習	60分

第7回	校外実習 事前指導⑥	⑤で調べたことを発表（グループワーク）	話し合ったことをよく復習しておくこと。	60分
第8回	蕎麦打ち⑨	粗びきそば	粗びきそばの練習	60分
第9回	蕎麦打ち⑩	御前そば	御前蕎麦打ちの練習	60分
第10回	校外実習 事前指導⑦	課題への取り組み	よく復習しておくこと。	60分
第11回	蕎麦打ち⑪	変わり蕎麦（菊）	菊切り蕎麦の練習	60分
第12回	蕎麦打ち⑫	変わり蕎麦（柚子）	柚子切り蕎麦の練習	60分
第13回	校外実習 事後指導分②	校外実習で学んだことをパワーポイントでまとめる	よく復習しておくこと。	60分
第14回	校外実習 事後指導分③	報告会	よく復習しておくこと。	60分
第15回	うどん、蕎麦の文化研究	うどん、蕎麦の文化研究をするために端緒となるような書籍を読み、ディスカッションをする。	お互いの議論したことをよく考えておくこと。	60分

学習計画注記 校外実習事前・事後指導で欠けた分はお店訪問で埋める。日程は相談の上決める。

学生へのフィードバック方法 お互いに作ったものを食べあって評価をしあう。

評価方法 授業やお店でのディスカッションから知識、判断、関心、意欲を評価する。実技試験では自分の最も得意とする蕎麦を打ってもらう。汁との相性も判断の根拠とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
ディスカッション	○	○	○	
実技試験	○			○

評価割合 ディスカッション40%、実技試験60%

使用教科書名 (ISBN番号) 藤村 和夫、『うどんの秘密』（PHP新書、2006）4-569-65219-0
（蕎麦については後日追加します）

ディプロマポリシーとの関連
 【知識・理解】そば粉の色々と、その色々な打ち方を知る。うどん、蕎麦の文化研究の刺激となるような書籍を読む。
 【思考・判断】お店のうどん、蕎麦を歴史的、地域的、系統的に深い背景の上で判断できるようにする。
 【関心・意欲・態度】新たなる変わり蕎麦に挑戦しようとする意欲を培う。
 【技術・表現】蕎麦打ち技術のさらなる向上を図る。

オフィスアワー
 月：昼休み、4時間目
 水：2時間目、昼休み、4時間目
 木：昼休み

学生へのメッセージ 書籍を読むことで視野が広がります。蕎麦打ちは難しくなりますが、厳しくはしません。お互いに失敗を楽しみながら進めていきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	食物総合演習B (黒田)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 黒田 久夫	指定なし

ナンバリング	R30711M12
授業概要(教育目的)	<p>卒業研究時には研究の遂行、論文作成時、卒業後も社会や進学により研究や調査を行うような現場では、他の研究者が行っている研究内容を参考に、利用する必要がある。そのためには学術論文等を読み、理解できることが必要となる。本演習では食科学、栄養学分野における学術論文を読みこなせる能力を養う。また、併せて栄養士という資格を実践的・包括的に捉えることができる能力も養う(シラバスより)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本研究室の食物総合演習Bでは、研究分野を決定した後に(変更は、可能)、各々が選んだテーマについて、学術的背景を深く分析し、基盤となる知識と技術を習得します。科学情報のほとんどは、英語で書かれているため、科学英語にも慣れ親しみ、まずは読解できるようにしていきたいと思います。また、卒業研究にスムーズに移行できるように、必要な調査技術や実験技術についても習熟して行きます。 ・研究テーマを取り組む中で、目指す栄養士や食のスペシャリストのキャリアについても深く考えてみてください。
履修条件	<p>本研究室の研究テーマは、以下の分類に該当するものとします。どれか一つを選んで、テーマを検討してください。難易度が上がりますが、分類間を複合したテーマを設定することも可能です。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①食品の酵素と2次機能 ②ヒトの化学感覚と2次機能 ③PBL (Project Based Learning) の研究 ④学生からの提案テーマ <ul style="list-style-type: none"> ・①-③は、教員の専門とする分野で、これまでの研究の実績が蓄積され、方法論が確立され、実験機器などの研究環境も整っています。 ・④は、学生が自由に研究テーマを提案し、研究を行います。学生がテーマと研究計画を教員に提案します。教員の専門性と大きく異なり研究指導ができない場合や、研究の実施が現実的に非常に困難な場合は、代替のテーマを提案していただくこととなります ・いずれのテーマも統計解析を必要とするので、統計学演習は必ず履修してください。①と②については、食品機能学と基礎サイエンス実験を必ず履修してください。③については、食品流通経済、食企画・開発演習I, II, IIIとフードビジネス演習を全て履修してください。加えて、100頁程度の論文を執筆する文章作成技術と熱意を準備してください。履修とは、履修登録を意味します。単位修得を必ずしも意味していません。条件にあげた教科は、それぞれの研究テーマを遂行する上で必須となる教科ですので、卒業時まで原則履修してください。卒業要件等に関わる時間割の都合などの理由で履修ができない場合は、個別に相談に応じます。 ・本研究室の卒業研究は、一人1テーマ1研究論文です。グループで取り組んで結構ですが、最終的には、個人で研究をまとめることになるので、承知おきください。
学習目標(到達目標)	
学習目標 (到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究に必要な2つの要素(新規性と進歩性)の概念が深く理解できている。 ・仮説立案-証明の考え方や手順が理解できている。
思考・判断の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> ・初歩的な批判的思考ができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が興味を持ったテーマについて、粘り強く文献調査・予備調査や予備実験に取り組むことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス・研究分野の決定	<ul style="list-style-type: none"> ・食物総合演習Aの取り組みを参考に、卒業研究の準備をします。 ・研究分野を決めてください(変更は可能です) ・選択日記の記入について 	研究分野の検討	120分
第2回	研究テーマの最新情報の分析(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマの中心となる文献の一つを選んでください。実験系の学生は、英語科学論文を選びます。英語の情報が無い分野については、日本語とします。 ・熟読してください。 ・論文を読んだことがない人にその内容を説明できるように、理解を深めてください 	選んだ論文を熟読してください	120分
第3回	研究テーマの最新情報の分析(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマの中心となる文献の最後に記載されている「引用文献」を確認して、重要と思われる文献の一つを選んでください。実験系の学生は、英語科学論文を選びます。英語の情報が無い分野については、日本語とします。 ・熟読してください。 ・論文を読んだことがない人にその内容を説明できるように、理解を深めてください 	選んだ論文を熟読してください	120分
第4回	研究テーマの最新情報の分析の中間発表(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ここまで調査した結果をまとめて、ゼミの全メンバーに内容を説明してください。 ・発表は、パワーポイントを利用してください。 	・フィードバックを良く確認して、さらに論文を読み返してください。	120分
第5回	研究テーマの最新情報の分析(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・改めて、テーマの中心となる文献をもう一つを選んでください。実験系の学生は、英語科学論文を選びます。英語の情報が無い分野については、日本語とします。 ・熟読してください。 ・論文を読んだことがない人にその内容を説明できるように、理解を深めてください 	選んだ論文を熟読してください	120分
第6回	研究テーマの最新情報の分析(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマの中心となる文献の最後に記載されている「引用文献」を確認して、重要と思われる文献の一つを選んでください。実験系の学生は、英語科学論文を選びます。英語の情報が無い分野については、日本語とします。 ・熟読してください。 ・論文を読んだことがない人にその内容を説明できるように、理解を深めてください 	選んだ論文を熟読してください	120分
第7回	研究テーマの最新情報の分析の中間発表(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・ここまで調査した結果をまとめて、ゼミの全メンバーに内容を説明してください。 ・発表は、パワーポイントを利用してください。 	・フィードバックを良く確認して、さらに論文を読み返してください。	120分
第8回	卒業研究のための予備試験・予備調査(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究を想定して、証明したい「仮説」を考えます。 ・仮説を証明する調査か、実験を考案します。 	調査、または実験の計画と手順を詳しく検討してください。	120分
第9回	卒業研究のための予備試験・予備調査(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・考案した調査・実験を実施します。 ・結果をまとめます。 ・考察します。 ・次の調査・実験を考案します。 	調査・実験の結果を振り返り、次の調査・実験の計画と手順を詳しく検討してください。	120分
第10回	卒業研究のための予備試験・予備調査の中間発表	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマの探索結果に基づいて、予備的な調査研究、または予備実験を計画して、実行してください 	・予備的な調査研究、または予備実験を進めてください。予備実験は、担当教員の管理のもとで進めてください。	120分
第11回	卒業研究のための予備試験・予備調査(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・考案した調査・実験を実施します。 ・結果をまとめます。 ・考察します。 ・次の調査・実験を考案します。 	調査・実験の結果を振り返り、次の調査・実験の計画と手順を詳しく検討してください。	120分
第12回	卒業研究のための予備試験・予備調査(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・考案した調査・実験を実施します。 ・結果をまとめます。 ・考察します。 ・次の調査・実験を考案します。 	調査・実験の結果を振り返り、次の調査・実験の計画と手順を詳しく検討してください。	120分
第13回	卒業研究のための予備試験・予備調査(5)	<ul style="list-style-type: none"> ・考案した調査・実験を実施します。 ・結果をまとめます。 ・考察します。 ・次の調査・実験を考案します。 	調査・実験の結果を振り返り、次の調査・実験の計画と手順を詳しく検討してください。	120分

第14回	食物総合演習B研究レポートの提出と発表（前半）	<ul style="list-style-type: none"> 食物総合演習B研究レポートを全員分印刷して、提出してください（前半・後半担当全員が対象） 前半の担当に当たっているメンバーは、ゼミ全員に対して研究発表してください。パワーポイントを利用して良いです。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究討議の結果をもう一度確認してください。 レポートは、再提出が可能です。期限は、別途指定します。 	120分	
第15回	食物総合演習B研究レポートの発表（後半）	<ul style="list-style-type: none"> 後半の担当に当たっているメンバーは、ゼミ全員に対して研究発表してください。パワーポイントを利用して良いです。 選択日記の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> 研究討議の結果をもう一度確認してください。 レポートは、再提出が可能です。期限は、別途指定します。 	120分	
学習計画注記		<ul style="list-style-type: none"> 履修人数が多い場合は、テーマの分類によって2つのグループに分けて、研究指導を進める場合があります。 食物総合演習B研究レポートの発表は、前半と後半に分けます。当番は、くじ引きで決定します。準備の時間が公平となるように、提出期限は、前半・後半共に、第14回授業開始時とします。 選択日記のエピソードについて、適宜紹介していきます。 			
学生へのフィードバック方法		<ul style="list-style-type: none"> ゼミでの報告と発表に対して、質問をしますので回答してください。回答の妥当性を評価し、アドバイスし、研究の進め方についてフィードバックします。フィードバックをよく理解し、次の研究活動に活かしてください。このPDCAを繰り返します。 			
評価方法		<p>①演習への参加度（50点） ②食物総合演習B研究レポート（発表と質疑応答含む）（50点） ①と②について、ルーブリック表を用意しますので、よく確認してください。ルーブリック表は、クラスルームに掲載します。 ①と②の合計に、[出席した授業時間数/総授業時間]を乗じて成績評価します。</p>			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	演習への参加度	○	○	○	○
	食物総合演習B研究レポート	○	○	○	○
評価割合		①50点 ②50点 ①と②の合計に、[出席した授業時間数/総授業時間]を乗じて成績評価する			
使用教科書名 (ISBN番号)		Google Classroomのクラスコード：izntyun			
参考図書		<ul style="list-style-type: none"> 選択日記 The Choice Diary (978-4163756004) 研究室のクラスルーム「フード・サイエンス&アーツ研究室」 https://classroom.google.com/u/0/r/MTk1NDIwODE5NFpa/sort-last-name クラスコード：eykunn7 研究室のビジョン、研究業績、これまでの卒業研究の要旨（生活デザイン学科・食分野）が確認できます。 			
参考URL		https://classroom.google.com/u/0/c/NDcz0Tc3MzgOMzla			
ディプロマポリシーとの関連		<p>【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている</p> <p>【思考・判断】多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている</p> <p>【関心・意欲・態度】 ・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる ・栄養士、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある</p> <p>【技能・表現】生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている</p>			
オフィスアワー		火曜日5限、水曜日4限、金曜日 昼休み・5限 フード・サイエンス&アーツ研究室（2206）面談を希望する場合は、必ずGmailで予約を取ること。会議や出張で不在にする場合があります。			
学生へのメッセージ		<ul style="list-style-type: none"> 半年間、ゼミを経験してきて、如何でしたでしょうか？おそらく、こんなに大変だとは思わなかった。難しくてめげそうになった。これまでこんなに頭を使うことはなかった・・・。色々な感想が生まれていることと思います。ただ、どうでしょう、今まで経験したことがなかった深い充実感、成長しているという手応え、もっと高い理想に挑戦したい、わくわくとした気持ち芽生えているのではと思います。 教員と学生のメンター・メンティーの関係はどうでしたか？楽しく充実した話はできたでしょうか？人生をどう生きるべきかなど、大きな問いを考える機会も生まれたのでは、と思います。 食物総合演習Bでは、さらに批判的思考を鍛えていきたいと思っています。なぜ？どうして？どのように？の科学的根拠を見つけ、実証し、正確で分かりやすく説明ができるようになるために、トレーニングを継続します。さて、批判的思考とは、何でしょうか？ここに、湯浅八郎の言葉を引用します「懐疑、Critical Thinkingとは：見直すとは、結論を急がぬということである。最後まで別の解釈、新しい理論、より鋭い批判の可能性を謙虚に認める厳粛な科学精神の表現である。」この言葉の意味を一学期間考えてみてください。 今期も、教科書を読むだけでは経験できない深い学びができるように授業を工夫していきます。そして皆さんと「共に学ぶ」ことができることをとても楽しみにしています。 			
教育等の取組み状況					

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・食品企業での研究開発の実務経験26年。研究開発部門の若手の育成で培った研究開発の指導のノウハウを、大学生のみなさんが理解できるようにアレンジして演習を行います。
アクティブ・ラーニング	○	・学生同士でディスカッションし、研究討議を実践し、論理思考力と対話力を磨いていきます。 ・メンターとして、みなさんの論理思考力と対話力を鍛えます。
情報リテラシー教育	○	・各種学術データベースの使用方法を教授します。 ・特に、アメリカ国立衛生研究所（NIH）・アメリカ国立医学図書館（NLM）が提供するMEDLINEの利用方法を習得します https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/ ・実験系の学生は、化合物・生体成分・論文などのデータベースの検索方法を学びます https://pubchem.ncbi.nlm.nih.gov/
ICT活用	○	・マイクロソフトオフィス（エクセル・パワーポイント・ワード）の上級スキルを教授します。 ・各テーマに必要な統計計算や作図・作表について、エクセルや、統計ソフトウェア「エクセル統計」の使用方法を教授します。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食物総合演習B（高尾）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 高尾 純宏	指定なし

ナンバリング	R30711M12
授業概要(教育目的)	卒業研究時には研究の遂行、論文作成時、卒業後にも社会や進学により研究や調査を行うような現場では、他の研究者が行っている研究内容を参考に、利用する必要がある。そのためには学術論文等を読み、理解できることが必要となる。本演習では食科学、栄養学分野における学術論文を読みこなせる能力を養う。また、併せて栄養士という資格を実践的・包括的に捉えることができる能力も養う。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	先行研究と自分の研究との相違点、結論の導き方、研究方法の違いを説明できる。
思考・判断の観点(K)	研究の目的、方法を明確化し、何を明らかにするかを説明できる。
関心・意欲・態度の観点(V)	積極的なデータ収集、データ分析ができる。
技術・表現の観点(A)	データ集積の分析、グラフ化、視覚化(技術)することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	研究テーマ設定	自ら興味を持てる研究テーマを抽出し、数点より選択しテーマを設定する。	テーマの抽出と検討	60分
第2回	予備調査(1)	研究テーマに即した先行研究、事例研究等を探し、自らのテーマとの違いを発見する。また考察の方向性についても検討を行う。	先行研究、事例等の検索。	60分
第3回	予備調査(2)	研究テーマに即した先行研究、事例研究等を探し、自らのテーマとの違いを発見する。また考察の方向性についても検討を行う。	先行研究、事例等の検索。	60分
第4回	予備調査(3)	研究テーマに即した先行研究、事例研究等を探し、自らのテーマとの違いを発見する。また考察の方向性についても検討を行う。	先行研究、事例等の検索。	60分
第5回	データ収集(1)	生活用具等の調査の場合は、数値の計測を行う。(重さ、各部位の大きさ、形、色、特徴など)一覧表にまと	書籍、論文等による事例のデータを収集する。	120分

		める。 書籍、論文等による事例のデータを収集する。		
第6回	データ収集 (2)	生活用具の調査研究では、引き続きデータを収集する。 (最低でも数十点以上) 書籍、論文等による事例のデータを収集する。	書籍、論文等による事例のデータを収集する。	120分
第7回	データ解析	生活用具調査研究の場合は、データの分類を行う。(時代、大きさ、色、用途、特徴等のグルーピング化) 野菜等の栽培実験では、それぞれの計測データを収集する。計測する対象により時期が異なるためその時期に行う。	データ収集。	120分
第8回	データ解析 (2)	生活用具調査研究では、データのグラフ化し、視覚的にわかりやすいデータとし特徴を読み解く。 野菜栽培実験では、条件とデータの因果関係を考察する。	データの解析、またデータの組み合わせ等による解析、別の結果へ導き出せないかを検討する。	60分
第9回	まとめ	中間のまとめとして、データより考察できることを各項目ごとに挙げる。	解析作業。	60分
第10回	レポート作成 (1)	研究結果データをグラフ化し、仮の考察として文章化してみる。	文章化作業。	120分
第11回	レポート作成 (2)	生活用具調査に於いては、データ解析による考察の検討。図式化等による比較検討などを行う。 比較検討して分かったことを、箇条書きとして抽出する。	考察できることの抽出。	120分
第12回	レポート作成 (3)	分かったことを抽出、整理して考察する。文書としてまとめ、研究室内での発表準備を行う。	発表準備。	60分
第13回	発表 (1)	研究室内に於いて、研究発表会を行う。パワポによる発表、質疑応答等を行い、研究発表形式を体験する。	予習、復習等。	60分
第14回	発表 (2)	研究室内に於いて、研究発表会を行う。パワポによる発表、質疑応答等を行い、研究発表形式を体験する。	予習、復習等。	60分
第15回	発表 (3)	研究室内に於いて、研究発表会を行う。パワポによる発表、質疑応答等を行い、研究発表形式を体験する。	予習、復習等。	60分

学習計画注記 研究テーマにより、データが集まりやすいテーマとやや難しいテーマが出てくると考えられるため、個々により進捗状況が異なることになる。進めることができる人は早めに進めても構わない。最終的に個人の考察が述べられるようにしてほしい。

学生へのフィードバック方法 データ収集の仕方、解析等の助言を行う。考察について表現の仕方についても指導を行う。

評価方法 地道にデータの収集を行い、データ分析、グラフ化、図式化などの作業を行なうことが賢明です。多くのデータが集まれば、より確信的な考察が述べられるようになると思います。毎回の細かなデータ収集作業を行なって下さい。多くのデータ収集を評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
発表		○		○

評価割合 平常点 (20%)、発表 (80%)

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連
【思考・判断】 先行研究を熟読し、先行研究結果と自分の研究方法の相違点と結論を明確化する力を身につけている。
【関心・意欲・態度】 自分が興味を持てる研究テーマを見つけ、探求する力を身につけている。
【技能・表現】 自分自身の考察を表現発表できる力を身につけている。

オフィスアワー 火曜 3限

学生へのメッセージ 野菜栽培の実験を行いたい人は、授業 (ゼミ) と同時に進行することになります。毎回の細かなデータ収集作業を行なって下さい。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	データ収集と解析。予備調査から解ることを分析し明確化。
アクティブ・ラーニング	○	自ら興味を持てる研究テーマを見つけ出し、疑問に思ふ事柄を調査に基づきデータを収集し、考察を導き出す力を身につけます。
情報リテラシー教育	○	先行研究論文を熟読し理解して、考察を読み取る力を身につけます。
ICT活用		発表等を踏まえ、コミュニケーション能力を身につけます。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食物総合演習B (山崎)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 山崎 薫	指定なし

ナンバリング	R30711M12
授業概要(教育目的)	卒業研究時には研究の遂行、論文作成時、卒業後にも社会や進学により研究や調査を行うような現場では、他の研究者が行っている研究内容を参考に、利用する必要がある。そのためには学術論文等を読み、理解できることが必要となる。本演習では食科学、栄養学分野における学術論文を読みこなせる能力を養う。また、併せて栄養士という資格を実践的・包括的に捉えることができる能力も養う。
履修条件	食物学科3年次以上の学年であること。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	食に関連する分野において、より進んだ専門知識を持ち、それを活用する事ができる。
思考・判断の観点(K)	問題点を設定して論理的な思考を展開し、それに基づき自らの見解を築くことができる。
関心・意欲・態度の観点(V)	問題意識を持って課題に主体的に取り組むことができ、他人と協力して、その解決に取り組むことができる。
技術・表現の観点(A)	習熟した技能習得を目指し、自らの考えを的確に形や文章として表現できる基礎を培うことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	指導教員による個別及びゼミ合同指導①	食物総合演習Aの振り返りと食物総合演習Bにおける研究計画立案を行う。	食物総合演習Bで遂行する研究テーマの研究計画素案を考える。	90分
第2回	指導教員による個別及びゼミ合同指導②	各自の研究テーマに即した食物総合演習Bにおける研究計画立案を行う。	食物総合演習Bにおける研究計画を検討する。	90分
第3回	指導教員による個別及びゼミ合同指導③	食物総合演習Aで行った内容を受け、卒業研究まで視野に入れた研究計画を報告し、検討する。	研究立案を基に研究実働を行う。	90分
第4回	指導教員による個別及	前回に続き、先行研究から得た情報を反映した食物総合演習Bまで視野に入れた研究計画を報告し、食物総合演習	研究立案を基に研究実働を行う。	90分

	びゼミ合同指導④	Bにおける研究計画を検討する。		
第5回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑤	前日までの研究進捗状況報告と今後の予定を報告し、研究内容検討を行う。	研究立案を基に研究実働を行う。	90分
第6回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑥	前日までの研究進捗状況報告と今後の予定を報告し、研究内容検討を行う。	研究立案を基に研究実働を行う。	90分
第7回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑦	前日までの研究進捗状況報告と今後の予定を報告し、研究内容検討を行う。	研究立案を基に研究実働を行う。	90分
第8回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑧	研究室内、中間報告会へ向けた準備を行う。	研究立案を基に研究実働を行う。	90分
第9回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑨	研究室内、中間報告会へ向けた準備を行う。	研究立案を基に研究実働を行う。	90分
第10回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑩	中間報告会に参加し、報告、質疑応答を行う。	中間報告会へ向けた準備を行う。	90分
第11回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑪	中間報告会に参加し、報告、質疑応答を行う。	中間報告結果を反映し、研究立案を基に実働を行う。	90分
第12回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑫	中間報告会の結果を受け、研究を進める。	研究立案を基に実働を行う。	90分
第13回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑬	研究遂行と併せて、生活デザイン学科食生活分野卒業研究B発表会用の要旨案を読み始める。	中間報告結果を反映し、研究立案を基に実働を行う。	90分
第14回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑭	卒業研究着手に向けた学びの一環である生活デザイン学科食生活デザイン分野卒業研究B発表会参加への準備（質疑案検討等）を行う。	生活デザイン学科食生活デザイン分野卒業研究B発表会要旨案を読み、質問を考える。	90分
第15回	指導教員による個別及びゼミ合同指導⑮	次年度卒業研究着手に向けた学びの一環である生活デザイン学科食生活デザイン分野卒業研究B発表会へ参加し、質疑応答を行う。	卒業研究Aに向けた研究実働と併せて生活デザイン学科食生活デザイン分野卒業研究B発表会における質疑応答内容検討等を行い、発表会参加後は報告書作成を行う。	90分

学習計画注記 研究指導内容に関しては、研究テーマ、研究試料特性、研究進捗状況により変更する場合があります。

学生へのフィードバック方法 研究指導時、履修生からの問い合わせ時に適宜、フィードバックを行います。

評価方法 研究室ゼミへの参加（15%）、研究テーマに関連する中間報告内容（15%）、令和2年度においては生活デザイン学科食生活分野卒業研究B発表会への出席及び参加報告書内容（10%）、研究テーマに対する取り組み内容（60%）の総合評価（100%）とします。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
研究要旨	○	○	○	○
中間報告発表	○	○	○	○
研究姿勢	○	○	○	

評価割合	ゼミへの参加（15%）、中間報告内容（15%）、令和2年度においては生活デザイン学科食生活分野卒業研究B発表会出席及び参加報告書（10%）、研究テーマに対する取り組み（60%）の総合評価（100%）
使用教科書名（ISBN番号）	なし
参考図書	研究テーマに即し、適宜、紹介します。
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】食に関連する分野の専門的知識を有し、その理解を深めること。</p> <p>【思考・判断】食を中核とした社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析して考察すること。</p> <p>【関心・意欲・態度】食を中核とした社会の中の問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案できる。</p> <p>【技能・表現】課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。</p>
オフィスアワー	月曜3限 2308研究室 メール等で事前に予約と時間の承諾を得てください。
学生へのメッセージ	<p>指導教員による個別・グループ指導では、事前に十分な準備をして望んで下さい。</p> <p>研究テーマに関連する教科を既修並びに履修しておいて下さい。</p> <p>理化学的に実験手法を用いますので、生物、化学の専門的知識を活用します。</p> <p>研究テーマにより試料等の特性上、連日、研究を行う必要がある場合もありますし、研究内容変更が生じることもあります。</p> <p>よって、探求心を持って継続して研究をすることが必要となります。</p> <p>研究遂行においては、連絡、報告、相談をこまめに行ってください。</p>

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、研究テーマにより研究指導を行う。
アクティブ・ラーニング	○	ゼミ、研究テーマ打ち合わせ時にディスカッションを積極的に行う。
情報リテラシー教育	○	ゼミ報告書作成、将来的に作成する論文作成、発表会用資料作成や研究遂行時に必要なツールについて指導する。
ICT活用	○	中間報告用資料作成等、研究遂行時に必要なツールを活用する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	フードスペシャリスト論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山田 正子	指定なし

ナンバリング	R11801M21
授業概要(教育目的)	この科目は、フードスペシャリストおよび専門フードスペシャリストの資格取得のために必須の科目である。「食」は心豊かに健康な日常生活を送る上で重要な要素である。「食」を取り巻く環境や現状、変遷を踏まえ、日本国内に限らず、大きな視野で「食」を捉え、食文化、食生活、食品産業、食情報、加工・貯蔵性など幅広く最新の話題も交えながら総合的に学ぶ。フードスペシャリストの意義とその概要、活用等の基本知識を習得する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	フードスペシャリストの仕事内容、活躍の分野、役割について説明ができる。
思考・判断の観点 (K)	食に関する様々な問題および課題について、食品産業分野の観点から考え、解決方法を提案できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	食品の開発製造から流通、販売、外食、消費に至る食関係の広範な分野について、常に関心を持ち、情報収集を積極的にできる。
技術・表現の観点 (A)	「食」に関する総合的・体系的な知識・技術を身につけ、豊かで安全かつバランスのとれた「食」を消費者に提案できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	フードスペシャリストとは	食の専門職の現状、フードスペシャリストの概念、フードスペシャリストの業務とその専門性、フードスペシャリストの養成と資格、フードスペシャリストの活躍分野、フードスペシャリストの責務について理解する。	教科書の第1章の「食の専門職の現状」「フードスペシャリストの概念」「フードスペシャリストの業務とその専門性」「フードスペシャリストの養成と資格」「フードスペシャリストの活躍分野」「フードスペシャリストの責務」を読んでおくこと。	120分
第2回	人類と食物①	人類の歩みと食物について理解する。	教科書の第2章の「人類の歩みと食物」を読んでおくこと。	120分
第3回	人類と食物②	食品の加工・保存技術史について理解する。	教科書の第2章の「食品の加工・保存技術史」を読んでおくこと。	120分

			こと。	
第4回	世界の食①	食作法、食の禁忌と忌避について理解する。	教科書の第3章の「食作法」「食の禁忌と忌避」を読んでおくこと。	120分
第5回	世界の食②	世界各地の食事情について理解する。	教科書の第3章の「世界各地の食事情」を読んでおくこと。	120分
第6回	日本の食①	日本食物史について理解する。	教科書の第4章の「日本食物史」を読んでおくこと。	120分
第7回	日本の食②	食の地域差について理解する。	教科書の第4章の「食の地域差」を読んでおくこと。	120分
第8回	現代日本の食生活①	戦後の食生活の変化、食生活の現状と消費生活について理解する。	教科書の第5章の「戦後の食生活の変化」「食生活の現状と消費生活」を読んでおくこと。	120分
第9回	現代日本の食生活②	食生活の変化と食産業、食料の供給と食料自給率、環境と食について理解する。	教科書の第5章の「食生活の変化と食産業」「食料の供給と食料自給率」「環境と食活」を読んでおくこと。	120分
第10回	食品産業の役割①	フードシステムと食品産業、食品製造業の規模と動向、食品製造業の目的と特徴について理解する。	教科書の第6章の「フードシステムと食品産業」「食品製造業の規模と動向」「食品製造業の目的と特徴」を読んでおくこと。	120分
第11回	食品産業の役割②	食品卸売業、食品小売業、外食産業について理解する。	教科書の第6章の「食品卸売業」「食品小売業」「外食産業」を読んでおくこと。	120分
第12回	食品の品質規格と表示①	食品の品質規格、表示に関わる法律、JAS法による規格、食品表示法による表示について理解する。	教科書の第7章の「食品の品質規格」「表示に関わる法律」「JAS法による規格」「食品表示法による表示」を読んでおくこと。	120分
第13回	食品の品質規格と表示②	健康や栄養に関する表示制度、その他お法令等による表示による表示について理解する。	教科書の第7章の「健康や栄養に関する表示制度」「その他お法令等による表示」を読んでおくこと。	120分
第14回	食情報と消費者保護	食情報の発信と受容、食情報の濫用、食の情報管理、食品の安全、消費者保護の制度について理解する。	教科書の第8章の「食情報の発信と受容」「食情報の濫用、食の情報管理」「食品の安全」「消費者保護の制度」を読んでおくこと。	120分
第15回	まとめ	全体のまとめを行う。	わかりにくかった内容について、その箇所を教科書で確認しておくこと。	120分

学生へのフィードバック方法 学んだ内容について、各回でフードスペシャリストの過去問題を行い、その場で答え合わせを行う。質問等がある場合には、2309研究室まで来るか、メールで問い合わせをすること。

評価方法 平常点と定期試験で評価を行う。この科目は、フードスペシャリストおよび専門フードスペシャリストの資格取得のための必須の科目であるが、定期試験の再試験は行わないため注意すること。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
定期試験	○	○		

評価割合 平常点30%、定期試験70%

使用教科書名 (ISBN番号) フードスペシャリスト論/日本フードスペシャリスト協会編/建帛社

参考図書 特に指定しない

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し【思考・判断】多種多様な情報を整理し、【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組む。

オフィスアワー	金曜日 5時限 2309研究室	
学生へのメッセージ	<p>フードスペシャリスト協会認定資格試験を受験したい学生には必修の科目です。 教科書と併せて過去問題集の取り組みもしましょう。 また、この科目は定期試験の再試験は行いませんので、しっかり勉強しましょう。</p>	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	フードコーディネート論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山田 正子	指定なし

ナンバリング

R21803M21

授業概要(教育目的)

この科目は、フードコーディネーター3級およびフードスペシャリスト・専門フードスペシャリストの資格取得のために必須の科目である。
食の様々な場面において、多様な条件や要求を満足させるための演出をすることが、フードコーディネートである。食卓、食品販売、食情報を発信するイベントやマスメディアや広告企画、ライフステージに合わせた食育、店舗経営などで、食空間のコーディネートやサービスマナー、メニュープランニング、フードマネージメントなどについて講義する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	フードコーディネーターの仕事の内容、活躍の分野、役割について説明ができる。
思考・判断の観点 (K)	食に関する正しい知識および情報と誤った情報との選択・識別をすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	専門分野だけの知識・技術をコーディネートするだけではなく、専門以外にも幅広い知識を習得し、多様な状況においてものごとを総合的な視点で捉えることができる。
技術・表現の観点 (A)	新しい食の「ブランド」「トレンド」を創る 食の「開発」「演出」「運営」を行うことができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	フードコーディネートの基本理念	おいしさの本質、おいしさとフードコーディネートとに関連について理解する。	教科書の「第1章 フードコーディネートの基本理念」を読んでおくこと。	120分
第2回	食事の文化について①	食事の概念、食のタブーと宗教について理解する。	教科書の第2章の「食事とは」「食のタブーと宗教」を読んでおくこと。	120分
第3回	食事の文化について②	日本の食事の歴史、特別な日の食事、外国の食事について理解する。	教科書の第2章の「日本の食事の歴史」「特別な日の食事」「外国の食事」を読んでおくこと。	120分
第4回	食卓のコー	テーブルコーディネートの要点、日本料理の食卓のコー	教科書の第3章の「テーブルコ	120分

	ディネート ①	ディネートについて理解する。	ーディネートの要点」「日本料理の食卓のコーディネート」を読んでおくこと。	
第5回	食卓のコーディネート ②	中国料理の食卓のコーディネート、西洋料理の食卓のコーディネートについて理解する。	教科書の第3章の「中国料理の食卓のコーディネート」「西洋料理の食卓のコーディネート」を読んでおくこと。	120分
第6回	食卓のサービスとマナー ①	サービスとマナーの基本、日本料理のサービスとマナー、中国料理のサービスとマナー	教科書農耕第4章の「サービスとマナーの基本」「日本料理のサービスとマナー」「中国料理のサービスとマナー」を読んでおくこと。	120分
第7回	食卓のサービスとマナー ②	西洋料理のサービスとマナー、パーティー、プロトコルについて理解する。	教科書の第4章の「西洋料理のサービスとマナー」「パーティー」「プロトコル」を読んでおくこと。	120分
第8回	メニュープランニング	メニュープランニングの要件、料理様式とメニュー開発の基礎について理解する。	教科書の第5章の「メニュープランニングの要件」「料理様式とメニュー開発の基礎」を読んでおくこと。	120分
第9回	食空間のコーディネート ①	食空間のコーディネートの基礎を理解する。	教科書の第6章の「食空間のコーディネートの基礎」を読んでおくこと。	120分
第10回	食空間のコーディネート ②	食事空間のコーディネート、キッチンコーディネートを理解する。	教科書の第6章の「食事空間のコーディネート」「キッチンコーディネート」を読んでおくこと。	120分
第11回	フードサービスマネジメント ①	フードサービスマネジメントの動向と特性、マネジメントの基本、フードサービス（レストラン）の起業について理解する。	教科書の第7章の「フードサービスマネジメントの動向と特性」「マネジメントの基本」「フードサービス（レストラン）の起業」を読んでおくこと。	120分
第12回	フードサービスマネジメント ②	投資計画の作成、収支計画の作成、損益分岐点売上高について理解する。	教科書の第7章の「投資計画の作成」「収支計画の作成」「損益分岐点売上高」を読んでおくこと。	120分
第13回	食企画の実践コーディネート ①	食企画の流れ、食企画に必要な基礎スキルについて理解する。	教科書の第8章の「食企画の流れ」「食企画に必要な基礎スキル」を読んでおくこと。	120分
第14回	食企画の実践コーディネート ②	食企画の実践現場について理解する。	教科書の第8章の「食企画の実践現場」を読んでおくこと。	120分
第15回	まとめと定期試験	全体のまとめおよび定期試験を行う。	わかりにくかった内容について、その箇所を教科書で確認しておくこと。	120分

学生へのフィードバック方法 学んだ内容について、各回でフードスペシャリストの過去問題を行い、その場で答え合わせを行う。質問等がある場合には、2311研究室まで来るか、メールで問い合わせをすること。

評価方法 平常点と定期試験で評価を行う。この科目は、フードコーディネーター3級およびフードスペシャリスト・専門フードスペシャリストの資格取得のために必須の科目であるが、定期試験の再試験は行わないため注意すること。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
定期試験	○	○		

評価割合 平常点30%、定期試験70%

使用教科書名 (ISBN番号) フードコーディネート論／日本フードスペシャリスト協会編／建帛社

参考図書	特に指定しない
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し【思考・判断】多種多様の情報を整理し、【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組み、【技能・表現】食に関する表現力を身につける。
オフィスアワー	金曜日 5時限 2311研究室
学生へのメッセージ	この科目は、フードコーディネーター3級およびフードスペシャリスト・専門フードスペシャリストの資格取得のために必須の科目です。この科目は定期試験の再試験は行わないため、これら資格取得を目指している人はしっかり勉強してください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食品流通経済		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 黒田 久夫	指定なし

ナンバリング	R31809M21
授業概要(教育目的)	<p>【授業の概要】高校政治経済の内容を復習した後、会計と経営の基礎を学ぶ。食品の生産と流通に関して、新聞等を利用して事例を研究する。また、食品企業のビジネス戦略等の事例を研究し、企業の強み・弱みを分析する力を養う。</p> <p>【授業の内容】座学7回；グループワーク7回；ポスター発表会1回；期末試験があります。</p> <p>【資格取得との関係】本科目は、FBA（フードビジネスアドミニストレーター）の資格取得に必要な科目です。</p>
履修条件	本科目は、グループワークがあります。メンバーは、くじ引きで決定します。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	<ul style="list-style-type: none"> 政治と経済の基本が理解できている 財務会計の基礎が理解できている フードビジネスの概要が理解できている
思考・判断の観点 (K)	フードビジネスの諸問題について、根拠に基づいた客観的で合理的な分析ができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	フードビジネスが社会・経済・環境・生活に与える影響に深い関心がある
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス・基礎知識のチェック	<ul style="list-style-type: none"> 授業の概要と評価方法について説明します 高校で学ぶ政治経済の知識の理解度を確認します 	理解度チェックについて、解答できなかった設問をテキストや参考書などで調べてください	60分
第2回	政治の仕組み(1)座学	民主政治の基本原則と日本国憲法 <ul style="list-style-type: none"> 法の支配とは、なぜ法が必要か？ 日本国憲法と民主政治 日本の政治制度 	テキストをよく復習してきてください	60分
第3回	政治の仕組み(2)座学	現代の国際政治 <ul style="list-style-type: none"> 国際法と国際政治 国際機関 グローバル社会の中の日本の役割、過去・現在・未来 	テキストをよく復習してきてください	60分

第4回	財務会計 (1) 座学	会計と経営の概要 ・財務管理の概要を学びます ・経理の基本的な事務作業について学びます ・決算書の基本的な仕組みについて学びます ・企業経営の基本的な考え方を学びます ・コンプライアンスとガバナンスがなぜ重要なのかを学びます	テキストをよく復習してきてください	60分
第5回	財務会計 (2) グループワーク	財務会計グループワーク① 準備 ・ロールプレイを通して、企業活動と財務管理を体験的に学びます。4-5人からなるグループ(会社)を作り、代表取締役・営業部長・総務部長は・経理部長の役割を演じます。 ・伝票の書き方、名刺交換、言葉遣いなどを練習します ・代表取締役は、資本金を銀行に預け、資金を調達してください ・営業部長は、商社に営業をかけてください ・総務部長は、原材料を商社に発注してください	テキストをよく復習してきてください	60分
第6回	財務会計 (3) グループワーク	財務会計グループワーク② 営業の開始 ・営業部長は、商社に営業をかけてください ・総務部長は、原材料を商社に発注してください ・経理部長は、経理書類をチェックしてください ・代表取締役は、資本金を銀行に預け、資金を調達してください	テキストをよく復習してきてください	60分
第7回	財務会計 (4) グループワーク	財務会計グループワーク③ 製品の製造と納入、費用の支払いと回収 ・代表取締役は、社員と共に製品を製造してください ・営業部長は、商社に製品を納入してください ・総務部長は、原材料を受け取ってください ・経理部長は、伝票をチェックしてください	テキストをよく復習してきてください	60分
第8回	財務会計 (5) グループワーク	財務会計グループワーク④ 決算 ・代表取締役を中心として、決算書をまとめてください ・経理部長は、伝票など経理の書類に不備がないかを確認してください ・各社の営業成績を発表し、表彰します	テキストをよく復習してきてください	60分
第9回	経済の仕組み(1) 座学	経済社会の変容と現代経済のしくみ ・資本主義経済 ・国民経済 ・市場経済の機能と限界 ・経済成長 ・財政・税・貨幣・金融政策	テキストをよく復習してきてください	60分
第10回	経済の仕組み(2) 座学	日本経済の発展と国民福祉の向上 ・戦後日本の経済成長 ・産業構造の変化 ・中小企業・農業の問題 ・労働問題 ・社会保障・消費者問題・環境問題	テキストをよく復習してきてください	60分
第11回	経済の仕組み(3) 座学	国民経済と国際政治 ・国際経済のしくみ ・経済のグローバル化の問題	テキストをよく復習してきてください	60分
第12回	フードビジネスの事例研究(1) グループワーク	ポスター発表の準備① 日本経済新聞を購入し、フードビジネスに関する記事についてポスターを作成します	日本経済新聞のフードビジネスに関する記事を分析してください ポスターを作成してください	120分
第13回	フードビジネスの事例研究(2) グループワーク	ポスター発表の準備② 日本経済新聞を購入し、フードビジネスに関する記事についてポスターを作成します	ポスターを完成させてください	120分
第14回	フードビジネスの事例研究(3) 発表会	・ポスターセッションを開催し、学生どうしで意見交換します ・制限時間内で教員にポスターを説明し、口頭での質問に回答します	第2-14回の授業を復習してください。	120分
第15回	まとめと今後の学びについて; 期末試験	授業の内容を整理します。		

学習計画注記

財務会計グループワークは、皆さんの取り組み方を見ながらスピードを調節します。

学生へのフィードバック方法

・座学では、ぜひ質問してください。私からも皆さんに質問します。教員が一方向的に話す座学ではなく、コミュニケーションのある双方向の座学を目指しています。また、対話の質を成績評価しています。

	・グループワークでも、色々と質問してください。教員もグループに加わって対話していきます。主体的・積極的な取り組みを成績評価しています。
評価方法	<p>①授業への参加度 座学とグループワークへの取り組みを評価します。</p> <p>②ポスター発表 日本経済新聞（朝刊）を数部購入して、食に関係するテーマについてポスターを作成します。ポスター発表会にて、制限時間で教員にポスターの内容を説明し、質問に対して回答してください。</p> <p>①と②に関しては、ルーブリック評価します。ルーブリック表は、Google Classroomから入手すること（参考URLをクリックし、参考図書に記載したクラスコードを入力するとクラスルームにログインできます）</p> <p>③期末試験 授業で学んだ内容について試験します。以下のテキストの持ち込みを可とします。本人確認の押印をします。付箋や印刷物などの添付物は認めません。手書きの書き込みは可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新版もういちど読む山川政治経済（978-4-634-59107-3） ・書いてマスター！財務3表・実戦ドリル（978-4532316778） <p>テキストの持ち込みは可ですが、テキストを読み込み、内容を理解していないと解答できない問題を出題します。持ち込みができると安心しないで、良く勉強するようにしてください。</p>

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業への参加度	○	○	○	
ポスター発表	○	○	○	
期末試験	○	○		

評価割合

- ①授業への参加度（30点）
- ②ポスター発表（30点）素点に第12-14回の出席率を乗じて得点を計算します
- ③期末試験（40点）

使用教科書名 (ISBN番号)

- ・新版もういちど読む山川政治経済（978-4-634-59107-3）
- ・書いてマスター！財務3表・実戦ドリル（978-4532316778）
- ・日本経済新聞（朝刊）指定された期間内で数部購入すること

参考図書

クラスルームのコード：4wybh22

参考URL

<https://classroom.google.com/u/0/c/NTAxMDcxNzc1ODRa>

ディプロマポリシーとの関連

- 【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている
- 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている
- 【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる

オフィスアワー

金曜日 昼休み・5限 フード・サイエンス&アーツ研究室（2206）
面談を希望する場合は、必ずGmailで予約を取ること。会議や出張で不在にする場合があります。

学生へのメッセージ

- ・政治と経済は、遠い存在に感じているかも知れませんが、意識はしなくても日々の生活に溶け込んでいます。学生のうちは、政治と経済の重要性を感じないかも知れませんが、キャリアをスタートするとその必要性を痛切に感じると思います。社会人になってから勉強しても遅くはないのですが、時間を豊富に使える学生の間にぜひその基本を学ぶと良いと思います。学んだかどうかで、キャリア形成の道筋が大きく変わると思います。
- ・民間企業への就職を考えている方は、ぜひこの授業を利用して、キャリア形成に必要な基礎を学んでください。教員が企業で経験したことも伝えていきます。これらについては、毎年学生から高い評価を得ています。
- ・民間企業以外のキャリアを考えている人についても、将来リーダーシップが必要なポジションに就く時に役立つと思います。また、社会常識を身につけるためにも役立つと思います。

教育等の取り組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	食品企業での実務経験（26年間）で蓄積したビジネスの知識を皆さんに伝えます。卒業後のキャリア形成に役立つ実践的な座学とグループワークを展開します。
アクティブ・ラーニング	○	学生同士でディスカッションし、論理思考力と対話力を養います。
情報リテラシー教育	○	新聞やメディアの情報から、社会の変化を読み取る力を養います
ICT活用	○	実務に役立つICTの利用方法を学びます

シラバス参照

講義名	バイオサイエンス演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 岩見 哲夫	指定なし

ナンバリング	R31811M22
授業概要(教育目的)	食に関する分野には、その理解にバイオサイエンスの知識・技術を必要とする領域がある。そこでこの授業では、その理解の基礎となる知識・技術の習得を目的として、バイオサイエンスにおいて基本・重要と考えられている染色体解析法・タンパク質フィンガープリント法、さらには遺伝子組換え実験等を体験・学習してもらう。また、ラボノートの使い方や研究倫理についても学習し、社会における当該分野での活動にも対応できる能力の基礎を身につけてもらう。
履修条件	基本的な理化学実験技術を習得し、その基本的な原理について理解していることが前提となる。そのためには、分子生物学・有機化学に関する授業、生化学関係の授業・実験等を履修済みであることが望ましい。実験操作の前には、必ずその作業内容等を説明する授業を行い、安全・確実に実験作業が進むように設定している。従って、事前学習を欠席した場合は、その実験作業は見学のみとなる可能性があることを承知しておくこと。 実験内容によっては、所定の授業時間帯以外の作業を必要とする。授業に関わる総時間数について配慮し、事前に案内した上での授業時間外作業となるが、これらの授業時間外作業についても出席が必須となる。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	セントラルドグマに関わる遺伝現象について説明できる。 実験作業に関わる手順について、その意味を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	実験結果から作用機序等について理論的な推論ができる。 実験結果からなにが肯定されなにが否定されるか、証明できる内容を推察できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	グループ内でコミュニケーションを取り、強調して実験操作ができる。 主体的に実験作業、結果考察検討等に参加し、そのグループの問題解決に寄与できる。
技術・表現の観点 (A)	バイオサイエンスに関わる実験を安全に行うことができる。 基本的なDNA解析技術を身につけている。 得られた結果とそこから導かれる推論について、理解しやすいようにプレゼンテーションできる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	演習全体の流れの解説し、授業を安全に受けるための知識・技術を学ぶ。	既習の実験・実習・演習科目において学んだ実験操作等について復習しておくこと。	180
第2回	細胞周期の確認	植物の分裂組織を材料に、体細胞分裂を観察し、細胞周期を計算する。	授業前に、大学共通科目・高等学校で学んだ細胞周期に関する	90

			知識を再確認しておく。授業後は細胞周期の計算結果を検証しておく。	
第3回	細胞周期の理解/だ腺染色体の構造と機能	前回の実験で得られた結果を班ごとに発表し、全体で検討しつつ細胞周期の特徴について理解を深める。だ腺染色体についてその構造・機能を解説し、解析方法について学習する。	授業後に検討会の結果を再確認しておく。	90
第4回	だ腺染色体の観察	双翅類(ユスリカ等)幼虫のだ腺染色体を用い、DNA・RNAの分別染色(メリルグリーン・ピロニン染色)でその働きを理解する。	だ腺染色体を用いる実験についてその操作法を予習しておく。	45
第5回	だ腺染色体染色結果の解析/セントラルドグマの理解	前回の実験で得られた結果を班ごとに発表し、全体で検討しつつ染色体の構造・機能について確認、セントラルドグマ(DNA→RNA→タンパク質の流れ)について理解を深める。	セントラルドグマについて復習し、遺伝子発現の流れを理解する。	90
第6回	制限酵素によるDNA分析の原理・解析方法	DNA制限酵素の機能、電気泳動法の原理とDNA断片サイズの測定法等を解説、DNA分析技術の基本を学習する。また、次週の実験作業の準備を行う。	DNA制限酵素の働きや電気泳動法の原理について復習しておく。	45
第7回	制限酵素によるDNA断片分析	複数種の制限酵素を用いてDNA断片の分別・同定を行う。	DNA断片分析の実験手順について予習しておく。授業後は得られて結果について検証しておく。	90
第8回	制限酵素によるDNA断片分析実験の結果解析	前回の実験で得られた結果を班ごとに発表し、DNA断片サイズの予測結果等について全体で検討する。検討結果を踏まえて、制限酵素によるDNA断片分析の原理・意義等について理解を深める。	全体での検討結果を踏まえて自分の班の実験結果を確認しておく。問題点等が見つかった場合は、その内容・改善方法等を記録しておく。	90
第9回	プラスミドを用いたバクテリアの遺伝子組換え実験事前学習	遺伝子組換え技術・遺伝子発現制御等について解説し、これを確認するためのプラスミドを用いた細菌の形質転換実験の手順を説明する。次週の実験準備を行う。	遺伝子組換え技術、形質転換の確認方法等の原理について復習しておく。	45
第10回	プラスミドを用いたバクテリアの遺伝子組換え実験	細菌に緑色蛍光タンパク質クラゲ遺伝子を取り込ませ、細菌の形質転換を確認する。	プラスミドを用いたバクテリアの遺伝子組換え実験手順について予習しておく。授業後は得られた結果について検証しておく	90
第11回	プラスミドを用いたバクテリアの遺伝子組換え実験結果の解析	前回の実験で得られた結果を班ごとに発表し、遺伝子組換え実験の結果等について全体で検討する。検討結果を踏まえて、遺伝子組換え技術・遺伝子発現制御等について理解を深める。	全体での検討結果を踏まえて自分の班の実験結果を確認しておく。問題点等が見つかった場合は、その内容・改善方法等を記録しておく。	90
第12回	タンパク質フィンガープリント法による魚類の系統分析の事前学習	タンパク質を分析することで生物の系統関係を推定する方法について解説し、タンパク質分析方法としても一般的なポリアクリルアミド電気泳動法の原理・手順を説明する。次週の実験準備を行う。	ポリアクリルアミド電気泳動法の原理について復習しておく。また、生物の系統関係を構築する分岐分類学的手法について理解を深めておく。	45
第13回	タンパク質フィンガープリント法による魚類の系統分析	アクリルアミドゲル電気泳動法を用いて、魚類の筋タンパク質を分析し、そのプロファイルを作成する。得られた結果を他の種類のプロファイルと比較し、系統樹を構築する。	アクリルアミドゲル電気泳動法の手順について予習しておく。授業後は得られた結果をもとに分析を進める。	90
第14回	タンパク質フィンガープリント法による魚類の系統分析結果解析	前回の実験で得られた結果を班ごとに発表し、得られた魚類の系統樹の内容について全体で検討する。検討結果を踏まえて、遺伝子の変化とそれを反映したタンパク質の変化の関係、さらには遺伝子変異等について理解を深める。	全体での検討結果を踏まえて自分の班の実験結果を確認しておく。問題点等が見つかった場合は、その内容・改善方法等を記録しておく。	90
第15回	バイオサイエンス演習全体の振り返り	分子生物学分野の重要項目とバイオサイエンス演習で行った内容との関連を解説する。実験技術や反応の原理等、学修した内容の再確認を行う。	いままでの実験ノートを確認し、不十分なところ不明瞭なところを加筆修正しておく。授業後、不足の点があればその対応した上で、期限までに実験ノートを提出する。	180

学習計画注記

実験作業を伴う回の前にはテキストを熟読し、その原理を理解し、間違いのない操作ができるよう準備しておくこと。

学生へのフィードバック方法	適宜、ラボノートの内容について確認しコメントする。 毎回、関心度や理解度を測るアンケートを実施し、次回にその内容を踏まえた解説を行い、理解度が不十分と思われる内容については、追加の説明を行う。				
評価方法	授業に積極的に参加しているか、自分の役割を果たそうとしているか、各種実験機器・器具の操作技術を習得しているかについて、授業中の態度によって評価する。 ラボノートに書かれた実験結果の考察内容（結果に基づく推論を行っているか、理論的な考察ができているか等）やアンケート等によって、バイオサイエンスに関わる各項目への理解度を評価する。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	実験器具・機器の操作技術の習得	○	○		○
	授業に積極的に参加	○	○	○	○
	検討結果の発表・討論内容	○	○	○	○
	ラボノートの記述内容	○	○		
評価割合	授業への参加度（器具・機器の操作を含む）50% ラボノートの内容・検討会の内容 50%				
使用教科書名 (ISBN番号)	必要に応じて事前にテキスト・ハンドアウトを配布する。				
参考図書	バイオ実験を安全に行うために 化学同人				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】食環境の中で、バイオサイエンス領域の知見・技術がどのように活用されているかを理解し、説明することができる。 【思考・判断】実験から得られた結果を解析し、論理的・客観的に考察する力が身につく。 【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く事象とバイオサイエンス領域の成果との関係について関心をもち、課題を見だし、理解することができる。 【技術・表現】食に関するさまざまな解析技術を習得し、食品に関わる先端的な技術の理解・習得が可能で、そこから得られる可能性について説明することもできる。				
オフィスアワー	前期 火曜日2限・昼休み・3限 (10:40~12:30) 生物学研究室 (2205) 相談を希望する学生は、可能な限りGmailを用いて予約をしてください。				
学生へのメッセージ	社会において、さまざまなバイオサイエンスの用語や知識が普通に使われるようになっていますが、その内容についてはまだまだ理解が不十分な状況です。そのため、食に関わる分野においても重要性を増しているバイオサイエンスの理論や技術を学び、正しく理解することは、食を考える上でも不可欠となっています。一方で、新しい分析技術の開発も進んでおり、それらの基本原理のみならず、分子生物学の基礎についても理解を深める必要があります。本演習を履修して、バイオサイエンス分野における基礎・応用の両面について理解を深めてください。なお、一定の基礎知識が必要となりますので、「分子生物学」が履修済みであることが望ましい。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング	○	実験結果の評価・考察について班単位で検討し、検討結果をもとにクラス全体で考える。			
情報リテラシー教育	○	ゲノムデータの検索・利用方法を学びます。			
ICT活用	○	マイクロソフト・エクセルを用いた、実験結果の解析を行います。			

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	食企画・開発演習 I		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 黒田 久夫	指定なし

ナンバリング	R21804M22
授業概要(教育目的)	<p>【授業の概要】食品の企画開発を担うための基礎力を養う。グループ形式で、過去の商品開発事例を研究し、背景にある企業文化、開発思想、マーケティングやプロジェクトマネジメントの手法を学ぶ。また、安心安全とCSR や知的財産など、企画開発を担う上で必要な法や制度のシステムを学ぶ。</p> <p>【授業の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つのワークがあります。メンバーは、各ワークで組み替えます。【ワーク1】と【ワーク2】では、3-4人でグループを作り、役割を分担してテーマに取り組みます。【ワーク1】では、履修生全員がファシリテーターとプレゼンターを経験します。【ワーク2】では、履修生全員がリーダーと副リーダーを経験します。 ・【ワーク3】では、【ワーク1】と【ワーク2】で学んだことを生かして、各自が企画を立案し、プレゼンします。優秀な企画は、食企画・開発演習II及びIIIで採用します。 <p>【資格取得との関係】本科目は、FBA（フードビジネスアドミニストレーター）の資格取得に必要な科目です。</p>
履修条件	履修の条件とはしませんが、コミュニケーション・プレゼン演習を履修しておく、グループワークをスムーズに進めることができます。ぜひ、履修してください。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	食品の企画開発に必要な様々な知識が理解できている。
思考・判断の観点 (K)	企画開発の効果的な進め方を思考・判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	グループワークに積極的に参加し、他者との対話により企画開発に必要なことを多面的にディスカッションできている。
技術・表現の観点 (A)	企画の立案とプレゼンテーションの体験を通して、自身の企画力とプレゼンテーションを正確に自己分析できている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	【ワーク1】ガイダンス/グループディスカッションの基本/マーケティングのツール(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の概要、到達目標、成績評価の方法を説明します ・コンピテンシーについて説明します ・ファシリテーションの考え方と、グループワークのディスカッション方法を学びます ・ブレインストーミングと親和図法について学びます ・2軸法—SWOTとクロスSWOTについて学びます 	SWOTとクロスSWOTは、個人企画に必要な分析方法です。よく復習しておいてください。	0分

第2回	【ワーク1】ビジョン形成/デザイン思考と製品開発の考え方/マーケティングのツール(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジョンとは何か、なぜ大切なのかを説明します ・デザイン思考による製品・サービスの設計と製造について学びます ・マインドマップを紹介します ・CVCAと3C分析を説明します 	<ul style="list-style-type: none"> ・マインドマップ「私」を提出してください(次回授業開始時まで) 	60分
第3回	【ワーク1】食の法と制度・知的財産/マーケティングのツール(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・法の目的・概要とコンプライアンス・ガバナンスの概念を学びます ・著作権、特許・実用新案などの知的財産について学びます ・即興と伝える技術(発信)について学びます 	<ul style="list-style-type: none"> 課題を提出してください(Google Classroomに投稿する; 次回授業日の前日9:00まで) 	120分
第4回	【ワーク1】チームビルディングとチームマネジメント/マーケティングのツール(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・チームビルディングとマネジメントを理解します。 ・フィールドワークについて学びます 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りを提出してください(Google Classroomに投稿する; 次回授業日の前日9:00まで) 	120分
第5回	【ワーク1】安全と衛生・HACCP/マーケティングのツール(5)	<ul style="list-style-type: none"> ・プロトタイプングを説明します。 ・レシピを考案し、安全衛生上の課題を検討します ・HACCPを検討します ・マネジメントについて学びます 	<ul style="list-style-type: none"> 【ワーク2】のレシピ開発シートを1枚以上提出してください(次回授業開始時まで) 	120分
第6回	【ワーク2】企画の立案	<ul style="list-style-type: none"> ・チームメンバーをくじ引きします ・リーダーを中心として、企画の立案を進めてください。 ・ガントチャートを作成し、メンバーの役割を明確にしてください。 ・企画を教員に提案してください。ビジョン・マーケティング・製造方法とコスト・コンプライアンス・効果等の観点から質問・コメントします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間内に終わらなかった課題は、手分けするか集まって作業して終了させてください。 ・振り返りを提出してください(Google Classroomに投稿する; 次回授業日の前日9:00まで) 	120分
第7回	【ワーク2】企画の実行(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・企画を実行し、試作品を制作してください。 ・試作品を評価し、改善点を検討してください。 ・次回の試作の内容を検討してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間内に終わらなかった課題は、手分けするか集まって作業して終了させてください。 ・振り返りを提出してください(Google Classroomに投稿する; 次回授業日の前日9:00まで) 	120分
第8回	【ワーク2】企画の実行(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・企画を実行し、試作品を制作してください。 ・試作品を評価し、改善点を検討してください。 ・次回の試作の内容を検討してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間内に終わらなかった課題は、手分けするか集まって作業して終了させてください。 ・振り返りを提出してください(Google Classroomに投稿する; 次回授業日の前日9:00まで) 	120分
第9回	【ワーク2】企画の実行(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・企画を実行し、試作品を制作してください。 ・試作品を評価し、改善点を検討してください。 ・次回の試作の内容を検討してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間内に終わらなかった課題は、手分けするか集まって作業して終了させてください。 ・振り返りを提出してください(Google Classroomに投稿する; 次回授業日の前日9:00まで) 	120分
第10回	【ワーク2】企画のプレゼン	<ul style="list-style-type: none"> ・企画をプレゼンしてください 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間内に終わらなかった課題は、手分けするか集まって作業して終了させてください。 ・振り返りを提出してください(Google Classroomに投稿する; 次回授業日の前日9:00まで) 	120分
第11回	【ワーク3】個人企画の企画書とプレゼン資料の作成方法/個人企画のテー	<ul style="list-style-type: none"> ・企画書とプレゼン資料に必要な条件を説明します。 ・個人企画のアイデアを考えてください。どこまでが自分のオリジナルなのかを明らかにしてください。 	<ul style="list-style-type: none"> ループリック表をよく読んで、企画を練り上げてください。 	120分

	マ調査 (1)			
第12回	【ワーク 3】個人企 画のテーマ 調査 (2)	・企画書とプレゼン資料に必要な条件を説明します。 ・個人企画のアイデアを考えてください。どこまでが自 分のオリジナルなのかを明らかにしてください。	ループリック表をよく読んで、 企画を練り上げてください。	120分
第13回	【ワーク 4】個人企 画の企画書 とプレゼン の準備	・企画を完成させてください。	・発表会に備えて、十分な準備 をしてください ・企画書を1部印刷して提出す ること(次回授業開始時) ・パワーポイントファイルを図 書館LCのPCに保存し、動作確認 しておくこと(授業開始時ま で) ・パワーポイントファイルを指 定のドライブフォルダに保存す ること(次回授業日の前日の 13:00) ・タイトルと氏名をスプレッド シートに入力してください。共 有リンクをメールで配信します (本日中)	120分
第14回	【ワーク 3】個人企 画発表会 (前半)	発表会に積極的に参加し、発表者に建設的なコメントや 感想を発信してください。		
第15回	【ワーク 3】個人企 画発表会 (後半)	・発表会に積極的に参加し、発表者に建設的なコメント や意見・感想を発信してください。 ・授業の振り返りシートを提出してください		

学習計画注記	・校外授業を予定しています。全員のスケジュールが調整できる日程を調整します(プライベートのスケジュールは考慮されません)
--------	--

学生へのフィードバック方法	授業に対する振り返りを確認し、フィードバックします。(Google Classroomを利用)
---------------	---

評価方法	・授業への参加度・個人企画は、ループリック評価します。ループリック表は、Google Classroomから入手すること(参考URLをクリックし、参考図書に記載したクラスコードを入力するとログインできます)
------	---

評価基準	
------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業への参加度	○	○	○	○
個人企画	○	○	○	○

評価割合	授業への参加度(7点×9 = 63点) 第2回-第10回 個人企画(37点) 素点に、第11回-第15回の出席率を乗じて計算します
------	--

使用教科書名 (ISBN番号)	システム×デザイン思考で世界を変える 慶應SDM「イノベーションのつくり方」
-----------------	--

参考図書	Google Classroom クラスコード: npy6kmm 『食品安全の表示と科学—食品表示法を理解する』清水俊雄・同文書院 ISBN-13:978-4810314489 『食品に関する法律と実務がわかる本』佐伯龍夫・日本実業出版社 ISBN-13:978-4534046017 『楽しく学べる「知財」入門』 □稲穂健市 □講談社現代新書 ISBN 978-4-06-288412-9
------	--

参考URL	https://classroom.google.com/u/0/c/NTA40TA00Dk1Nzha
-------	---

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。 【思考・判断】多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。 【関心・意欲・態度】 ・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的取り組むことができる。 ・栄養士、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある。 【技能・表現】生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている。
---------------	---

オフィスアワー	火曜日5限、水曜日4限、金曜日 昼休み・5限 フード・サイエンス&アーツ研究室 (2206) 面談を希望する場合は、必ずGmailで予約を取ること。会議や出張で不在にする場合があります。
---------	--

学生へのメッセージ	企画開発のキャリアを目指す方への実践的な学びを提供します。本講義で学ぶ基本的な考え方と手法は、フード
-----------	--

ビジネスに限らず組織で働く方のキャリアに大きく役立つと思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	・食品企業での研究開発の実務経験26年。実務的な観点も取り入れ、キャリアに役立つ授業を展開しています。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークでは、学生同士でディスカッションし、企画開発に必要な論理思考力と対話力を養います。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	・企画のプレゼンの時に、パワーポイントの利用方法を学びます。 ・企画テーマ調査の時に、知的財産などの情報データベースを検索します。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食企画・開発演習 II		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 黒田 久夫	指定なし

ナンバリング	R31808M22
授業概要(教育目的)	<p>【授業の概要】食品の企画開発を担うための応用力を養う。食企画・開発演習Iで学んだ知識と手法を応用して、地域連携企業にサービスや商品アイテム案を提案する。具体的事例を実践的に学ぶことにより、マーケティングやプロジェクトマネジメントの知識を生きた技術に定着させる。</p> <p>【授業の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通企画と自由企画の2つの企画に取り組みます。 ・共通企画では、教員より出題される課題に取り組んでください。チームメンバーは、学生が決めても良いし、くじ引きでも良いです。メンバーの構成人数は、4-5人とします。役割は、適宜交代してください。 ・自由企画では、学生が提案した企画に取り組みます。個人で取り組んでも良いし、チームで取り組んでも良いです。チームメンバーと役割も学生が決めてください。学生から企画が提案されない場合は、教員が企画テーマを出題し、チームが形成できない場合はくじ引きでメンバーを決めます。メンバーの構成人数は、7人以下とします。優れた自由企画は、食企画・開発演習IIIの前半で継続して運営します。 ・マーケティングに必要な行動経済学の基礎を学びます。 <p>【資格取得との関係】本科目は、FBA（フードビジネスアドミニストレーター）の資格取得に必要な科目です。</p>
履修条件	<p>本授業は、学生の主体的な取り組みを基本とする課題解決型学習です。指示は最小限にして、学生に行動の判断を委ねます。自分に何が必要かを自分で分析・判断して、自ら課題を見つけ取り組んでください。何が必要で、何をすれば良いのかについては、演習レポート、面談、チームミーティングを通して都度アドバイスしていきます。失敗を恐れずチャレンジし、失敗から多くのことを学んでください。</p>

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	行動経済学に関する基礎的な知識が理解できている。
思考・判断の観点 (K)	企画開発の効果的な進め方と、適切なチーム形成とマネジメントの方法を判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	企画に主体的に参加し、チームと協力して成果を達成できる。
技術・表現の観点 (A)	効果的な企画の立案とプレゼンテーションができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(7ヶ月のラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス／企画とプレゼンのコンピテンシ	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業の概要を説明します。 ・企画開発のコンピテンシーを説明します。コンピテンシーの自己分析①を記入し、提出します。 ・パワーポイントの効果的な作成法と使い方についてレ 	<ul style="list-style-type: none"> ・食企画・開発演習Iで作成したパワーポイントファイルを改訂して、指定のフォルダ(Google Drive)に保存してく 	60分

	一／パワーポイントの効果的な作成法と使い方	クチャーします。プレゼンテーションの自己分析①を記入し、提出します。	ださい（次回授業の開始時まで） ・レシピ開発シートを1枚以上作成してください	
第2回	共通企画① ／面談①	・メンバーの決定 ・企画会議（1）コンセプトの検討 ・面談（第1回）コンピテンシーの自己分析①とプレゼンテーションの自己分析①に対してフィードバックします	・活動記録ノートに活動記録を記録してください。 ・活動記録ノートに調べたことや、考えたアイデアをメモしてください。	60分
第3回	共通企画② ／行動経済学のミニレクチャー①	・行動経済学のミニレクチャー① ・企画会議（2）コンセプト確立・製造方法の検討	・活動記録ノートに活動記録を記録してください。 ・活動記録ノートに調べたことや、考えたアイデアをメモしてください。	60分
第4回	共通企画③ ／行動経済学のミニレクチャー②	・行動経済学のミニレクチャー② ・製品の試作（1）連携企業担当者への企画コンセプトと試作品の説明	・活動記録ノートに活動記録を記録してください。 ・活動記録ノートに調べたことや、考えたアイデアをメモしてください。	60分
第5回	共通企画④ ／行動経済学のミニレクチャー③	・行動経済学のミニレクチャー③ ・製品の試作（2）連携企業担当者への企画コンセプトと試作品の説明	・活動記録ノートに活動記録を記録してください。 ・活動記録ノートに調べたことや、考えたアイデアをメモしてください。	60分
第6回	共通企画⑤ ／行動経済学のミニレクチャー④	・行動経済学のミニレクチャー④ ・製品の設計書と企画書の完成 ・プレゼンの準備 ・活動記録ノートの中間提出	・コンピテンシーの自己分析②と共通企画の振り返りを記入し印刷してきてください。本人用と教員用の2部を印刷すること。 ・製品の設計書、企画書、プレゼンの準備が終了しなかった場合は、完成させてください	60分
第7回	共通企画⑥ ／面談②	・企画の発表：チーム単位、連携企業担当者出席予定 ・面談（第2回）コンピテンシーの自己分析を提出し、説明すること。第1回で作成したパワーポイントファイルについてアドバイスする。	・活動記録ノートに活動記録を記録してください。 ・活動記録ノートに調べたことや、考えたアイデアをメモしてください。	60分
第8回	自由企画① ／行動経済学のミニレクチャー⑤	・行動経済学のミニレクチャー⑤ ・企画立案（1）	・活動記録ノートに活動記録を記録してください。 ・活動記録ノートに調べたことや、考えたアイデアをメモしてください。	60分
第9回	自由企画② ／行動経済学のミニレクチャー⑥	・行動経済学のミニレクチャー⑥ ・企画立案（2）	・活動記録ノートに活動記録を記録してください。 ・活動記録ノートに調べたことや、考えたアイデアをメモしてください。	60分
第10回	自由企画③ ／行動経済学のミニレクチャー⑦	・行動経済学のミニレクチャー⑦ ・企画立案（3）	・活動記録ノートに活動記録を記録してください。 ・活動記録ノートに調べたことや、考えたアイデアをメモしてください。	60分
第11回	自由企画④ ／行動経済学のミニレクチャー⑧	・行動経済学のミニレクチャー⑧ ・企画立案（4）	・活動記録ノートに活動記録を記録してください。 ・活動記録ノートに調べたことや、考えたアイデアをメモしてください。	60分
第12回	自由企画⑤ ／行動経済学のミニレクチャー⑨	・行動経済学のミニレクチャー⑨ ・企画立案または、製品の制作（1）	・活動記録ノートに活動記録を記録してください。 ・活動記録ノートに調べたことや、考えたアイデアをメモしてください。	60分
第13回	自由企画⑥ ／行動経済学のミニレクチャー⑩	・行動経済学のミニレクチャー⑩ ・企画立案または、製品の制作（2）	・活動記録ノートに活動記録を記録してください。 ・活動記録ノートに調べたことや、考えたアイデアをメモしてください。	60分
第14回	行動経済学の理解度テ	行動経済学の理解度テスト 企画の中間発表：チーム単位	・演習レポートを完成させてください。コンピテンシーの自己	60分

	スト／自由 企画①	活動記録ノートの最終提出	分析③とプレゼンの自己分析② は、本人用も印刷すること。	
第15回	授業のま とめと振り返 り／面談③	面談（第3回） 演習レポートを完成させて提出してください。		0分

学習計画注記	<ul style="list-style-type: none"> ・企画の進め方とスケジュールは、連携企業との調整により変更する場合があります。 ・「校内における特別授業」と「校外授業」を各1回予定しています。校内における特別授業では、従来のキャリアパスにとらわれずに活躍されている若手女性を講師に招き、キャリアに関するお話を伺う予定です。校外授業は、日清オイリオ横浜磯子事業場の見学を予定しています。全員が参加できるスケジュールを調整します（プライベートのスケジュールは、優先されません）
--------	---

学生へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・演習レポートと面談を通して、自己分析に関してアドバイスをしていきます。 ・都度、チームとミーティングを開き、取り組みに対してアドバイスをしていきます。
---------------	---

評価方法	<p>①授業への参加度：活動記録ノートを提出してください。サイズは、B5とします。ルーズリーフは受け付けません。</p> <p>②演習レポート：コンピテンシーの自己分析シート3枚とプレゼンテーションの自己分析シート2枚、共通企画と自由企画の振り返り各2枚、計7枚のシートからなるレポートを提出してください。書式は、共有フォルダからダウンロードできるようにします。</p> <p>③行動経済学の理解度テスト：選択式の問題を出題します。テキストの持ち込みを可とします（添付物を認めない）。本人確認の押印をします。</p> <p>①と②の評価方法は、ルーブリック表を確認してください。ルーブリック表は、Google Classroomから入手すること（参考URLを参照し、参考図書に記載したクラスコードを入力してログインしてください）</p>
------	--

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業への参加度	○	○	○	○
演習レポート	○	○	○	○
行動経済学の理解度テスト	○	○		

評価割合	授業への参加度（55点） 演習レポート（35点）素点に出席率を乗じて計算します 行動経済学の理解度テスト（10点）第14回で実施
------	--

使用教科書名 (ISBN番号)	知識ゼロでも今すぐ使える！行動経済学見るだけノート (978-4800286710)
-----------------	--

参考図書	Google Classroom クラスコード：r17oeoz
------	---------------------------------

参考URL	https://classroom.google.com/u/0/c/NTAxMDcxNzc1OTZa
-------	---

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている</p> <p>【思考・判断】多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる ・栄養士、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある <p>【技能・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている
---------------	---

オフィスアワー	金曜日 昼休み・5限 フード・サイエンス&アーツ研究室（2206） 面談を希望する場合は、必ずGmailで予約を取ること。会議や出張で不在になる場合があります。
---------	---

学生へのメッセージ	企画開発のキャリアを目指す方への実践的な学びを提供します。本授業で学ぶ考え方と手法は、フードビジネスに限らず組織で働く方に大きく役立つと思います。また本授業は、知識と技術の習得だけでなく、能力の開発を目的としています。企画の運営や、課題解決の取り組みはボリュームがあつて大変だと思いますが、授業が終了した時にコンピテンシーの向上を実感できると思います。真剣に取り組めば、キャリアに間違いなくプラスになります。
-----------	--

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	<ul style="list-style-type: none"> ・企業で経験した企画開発の実践的な知識を教授します。 ・企画とプレゼンに必要なコンピテンシーを教授します。 ・食品企業での研究開発の実務経験26年。研究開発部門の若手の育成で培った指導のノウハウを、大学生が理解できるようにアレンジして授業を行なっています。

アクティブ・ラーニング	○	学生同士でディスカッションと作業を行い、企画を実現していきます。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	パワーポイントを利用したプレゼンテーションの技術を学びます

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食企画・開発演習Ⅲ		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 黒田 久夫	指定なし

ナンバリング	R31810M22
--------	-----------

授業概要(教育目的)	<p>【授業の概要】食企画・開発演習I、IIで学んだ知識・手法・経験を生かして、ビジネスの場で実践できる企画開発力を養う。地域連携企業へのマーケティング提案やコンサルティング、エクセレントカンパニーの見学・ヒアリングを通して、社会で活躍するための企画開発力を養う。</p> <p>【授業の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由企画と個人企画の2つの企画に取り組んでいただきます。 ・自由企画では、学生が提案した企画に取り組みます。食企画・開発演習IIの後半での取り組みを継続しても構いません。チームメンバーや役割も学生が決めてください。個人での取り組みでも結構です。学生から企画が提案されない場合は、教員が企画テーマを出題し、チームが形成できない場合はくじ引きでメンバーを決めます。メンバーの構成人数は、7人以内とします。 ・個人企画では、仮想もしくは現実の企業に、製品またはサービスを提案してください。プレゼンの日程は、履修人数により1日、または2日とします。 ・マーケティングやチーム形成に役立つ行動心理学を学びます。 <p>【資格取得との関係】本科目は、FBA（フードビジネスアドミニストレーター）の資格取得に必要な科目です。</p>
------------	---

履修条件	<p>本授業は、学生の主体的な取り組みを基本とする課題解決型学習です。指示は最小限にして、学生に行動の判断を委ねます。自分に何が必要かを自分で分析・判断して、課題を見つけ取り組んでください。何が必要で、何をすれば良いのかについては、チームミーティング、演習レポートと面談を通して都度アドバイスしていきます。失敗を恐れずチャレンジし、失敗から多くのことを学んでください。</p>
------	--

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	行動心理学に関する基礎的な知識が理解できている。
思考・判断の観点 (K)	企画開発の適切な進め方と、チーム形成に必要なマネジメントについて適切な方法を判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自ら企画を立案・実行し、ステークホルダーの協力を得ながら成果を期限内に達成できる。
技術・表現の観点 (A)	<ul style="list-style-type: none"> ・企画を効果的かつ、魅力的にプレゼンできる。 ・チームに目標を示し、チームとともに目標の達成をマネジメントできる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	自由企画①	<ul style="list-style-type: none"> ・班編成の再検討(必要に応じて) ・企画立案/企画の再検討/ガントチャートの再検討 ・コンピテンシーの自己分析①とプレゼンテーションの 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動記録ノートに活動記録を記録してください。 ・活動記録ノートに調べたこと 	0分

		自己分析①の作成 ・面談（第1回）コンピテンシーの自己分析①とプレゼンテーションの自己分析①へのフィードバック	や、考えたアイデアをメモしてください。	
第2回	自由企画②	・行動心理学のミニレクチャー① ・製品・サービスの設計の決定／ガントチャートの決定	・活動記録ノートに活動記録を記録してください。 ・活動記録ノートに調べたことや、考えたアイデアをメモしてください。	60分
第3回	自由企画③	・行動心理学のミニレクチャー② ・企画立案／試作品・サービスの制作（1）	・活動記録ノートに活動記録を記録してください。 ・活動記録ノートに調べたことや、考えたアイデアをメモしてください。	60分
第4回	自由企画④	・行動心理学のミニレクチャー③ ・企画立案／試作品・サービスの制作（2）	・活動記録ノートに活動記録を記録してください。 ・活動記録ノートに調べたことや、考えたアイデアをメモしてください。	60分
第5回	自由企画⑤	・行動心理学のミニレクチャー④ ・企画立案／試作品・サービスの制作（3）	・活動記録ノートに活動記録を記録してください。 ・活動記録ノートに調べたことや、考えたアイデアをメモしてください。	60分
第6回	自由企画⑥	・行動心理学のミニレクチャー⑤ ・企画立案／試作品・サービスの評価	・活動記録ノートに活動記録を記録してください。 ・活動記録ノートに調べたことや、考えたアイデアをメモしてください。	60分
第7回	自由企画⑦	・発表会の準備	・発表会の準備を完了してください ・活動記録ノートに活動記録を記録してください。 ・活動記録ノートに調べたことや、考えたアイデアをメモしてください。	60分
第8回	自由企画⑧	・自由企画の発表（KVA祭のイベントとして発表予定）	・コンピテンシーの自己分析シート②と自由企画の振り返りを作成し、次回提出してください。 ・活動記録ノートに活動記録を記録してください。 ・活動記録ノートに調べたことや、考えたアイデアをメモしてください。	60分
第9回	自由企画⑨	・行動心理学のミニレクチャー⑥ ・面談（第2回）コンピテンシーの自己分析シート②のフィードバック／由企画の振り返り ・個人企画の準備	・活動記録ノートに活動記録を記録してください。 ・活動記録ノートに調べたことや、考えたアイデアをメモしてください。	60分
第10回	個人企画①	・行動経済学のミニレクチャー⑦ ・ビジョン形成・コンプライアンスの調査	・活動記録ノートに活動記録を記録してください。 ・活動記録ノートに調べたことや、考えたアイデアをメモしてください。	60分
第11回	個人企画②	・行動経済学のミニレクチャー⑧ ・マーケティング施策	・活動記録ノートに活動記録を記録してください。 ・活動記録ノートに調べたことや、考えたアイデアをメモしてください。	60分
第12回	個人企画③	・行動経済学のミニレクチャー⑨ ・製品・サービスの設計	・活動記録ノートに活動記録を記録してください。 ・活動記録ノートに調べたことや、考えたアイデアをメモしてください。	60分
第13回	個人企画④	・行動経済学のミニレクチャー⑩ ・製品・サービスの試作	・パワーポイントファイルを図書館LCのPCに保存し、動作確認しておくこと（授業開始時まで） ・パワーポイントファイルを指定のドライブフォルダに保存すること（次回授業日の前日の13:00）	60分

第14回	個人企画⑤	・行動経済学の理解度テスト ・企画プレゼン（前半）	・コンピテンシーの自己分析③とプレゼンテーションの自己分析②を作成し、演習レポートを完成させて次回提出してください。 ・活動記録ノートを完成し次回提出してください。	60分
第15回	個人企画⑥	・企画プレゼン（後半） ・面談（第3回）		0分

学習計画注記	<ul style="list-style-type: none"> ・企画の進め方とスケジュールは、連携企業との調整により変更する場合があります。 ・第8回の授業は、KVA祭期間中のイベントへの参加を予定しています。 ・個人企画のプレゼンの日程は、履修人数により調整する場合があります。 ・「校内における特別授業」と「校外授業」を各1回予定しています。校内における特別授業では、従来のキャリアパスにとらわれずに活躍されている若手女性を講師に招き、キャリアに関するお話を伺う予定です。校外授業は、キリンビール横浜工場の見学を予定しています。全員が参加できるスケジュールを調整します（プライベートのスケジュールは、優先されません）
--------	--

学生へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・演習レポートと面談を通して、自己分析に関してアドバイスをしていきます。 ・都度、チームとミーティングを開き、具体的な取り組みに関してアドバイスしていきます。
---------------	--

評価方法	<p>①自由企画への参加度：活動記録ノートを提出してください。サイズは、B5とします。ルーブリーフは受け付けません。</p> <p>②演習レポート：コンピテンシーの自己分析シート3枚とプレゼンテーションの自己分析シート2枚、自由企画の振り返り各1枚、計6枚のシートからなるレポートを提出してください。</p> <p>③個人企画とプレゼン</p> <p>④行動心理学の理解度チェック：選択式の問題を出題します。テキストの持ち込みを可とします（添付物を認めない）。本人確認の押印をします。</p> <p>①-③の評価方法は、ルーブリック表を確認してください。ルーブリック表は、Google Classroomから入手すること（参考URLをクリックし、参考図書に記載したクラスコードを入力するとログインできます）</p> <p>自由企画への貢献度（40点）素点に第1-9回の出席率を乗じて計算する 演習レポート（25点）素点に第1-15回の出席率を乗じて計算する 個人企画とプレゼン（25点）素点に第10-15回の出席率を乗じて計算する 行動心理学の理解度チェック（10点）</p>
------	--

評価基準

評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	自由企画への参加度	○	○	○	○
	演習レポート	○	○	○	
	個人企画とプレゼン	○	○	○	○
	行動心理学の理解度チェック	○	○		

評価割合	自由企画への貢献度（40点×第1-9回の出席率） 演習レポート（25点×第1-15回の出席率） 個人企画とプレゼン（25点×第10-15回の出席率） 行動心理学の理解度チェック（10点）
------	--

使用教科書名 (ISBN番号)	図解 モチベーション大百科 (978-4801400429)
-----------------	--------------------------------

参考図書	Google Classroom クラスコード：ow3qcvv
------	---------------------------------

参考URL	https://classroom.google.com/u/0/c/NTAxMDcxNzc2MDNa
-------	---

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている</p> <p>【思考・判断】多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている</p> <p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる ・栄養士、食の専門家として探究心を持ち、使命感と倫理観を持って社会に貢献したいという意欲がある <p>【技能・表現】生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理・加工の技能と、これらの開発企画や表現力を身につけている</p>
---------------	---

オフィスアワー	金曜日 昼休み・5限 フード・サイエンス&アーツ研究室（2206） 面談を希望する場合は、必ずGmailで予約を取ること。会議や出張で不在にする場合があります。
---------	---

学生へのメッセージ	企画開発のキャリアを目指す方への実践的な学びを提供します。本授業で学ぶ考え方と手法は、フードビジネスに限らず組織で企画を担う方に大きく役立つと思います。また本授業は、知識と技術の習得だけでなく、能力の開発を目的としています。本授業はボリュームがあり大変だと思いますが、授業が終了した時にコンピテンシー
-----------	--

の向上を実感できると思います。また、4年次から取り組むキャリアの形成に役立つことが実感できると思います。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	<ul style="list-style-type: none">・企業で経験した企画開発の実践的な知識を教授します。・企画とプレゼンに必要なコンピテンシーを教授します。・食品企業での研究開発の実務経験26年。研究開発部門の若手の育成で培った指導のノウハウを、大学生が理解できるようにアレンジして授業を行なっています。
アクティブ・ラーニング	○	学生同士でディスカッションと作業を行い、企画を実現していきます。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	パワーポイントを利用したプレゼンテーションの技術を学びます

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	病態生理学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岩本 直樹	指定なし

ナンバリング	R21805M21
授業概要(教育目的)	人体の正常な機能の異常や、調節機能が傷害されることによって起こる病気の身体機能の状態と傷害をきたす原因を学ぶ。特に主要疾患の成因、病態、診断、治療などについて説明できるようになることを目的とする。本科目は、HACCP管理者資格取得のための必須科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点(K)	1. 主要疾患の成因、病態、診断、治療などについて説明できる。
思考・判断の観点(K)	1. 主要疾患の治療において栄養面以外で必要とされるケアについても把握し、栄養士・管理栄養士が医療チームの中での役割を列記することができる。
関心・意欲・態度の観点(V)	
技術・表現の観点(A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	病態生理とは	疾患診断の概要を学ぶ。	教科書の第1章(p1-3)を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第2回	循環器疾患(1)	循環器系疾患の成因・病態について学ぶ。	教科書の第6章(p101-119)を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第3回	循環器疾患(2)	循環器系疾患の診断・治療の概要について学ぶ。	教科書の第6章(p101-119)を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第4回	呼吸器疾患(1)	呼吸器疾患の成因・病態について学ぶ。	教科書の第10章(p151-157)を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分

第5回	呼吸器疾患 (2)	呼吸器疾患の診断・治療の概要について学ぶ。	教科書の第10章 (p151-157) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第6回	消化管疾患	消化器疾患の成因・病態・診断・治療の概要について学ぶ。	教科書の第5章 (p69-81) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第7回	肝・胆・膵疾患	肝・胆・膵疾患の成因・病態・診断・治療の概要について学ぶ。	教科書の第5章 (p86-100) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第8回	腎臓・尿路疾患 (1)	腎・尿路疾患の成因・病態について学ぶ。	教科書の第7章 (p122-136) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第9回	腎臓・尿路疾患 (2)	腎・尿路疾患の診断・治療の概要について学ぶ。	教科書の第7章 (p122-136) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第10回	内分泌疾患	内分泌疾患の成因・病態・診断・治療の概要について学ぶ。	教科書の第8章 (p137-144) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第11回	代謝疾患 (1)	代謝疾患の成因・病態について学ぶ。	教科書の第3章 (p24-36) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第12回	代謝疾患 (2)	代謝疾患の診断・治療の概要について学ぶ。	教科書の第4章 (p37-68) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第13回	自己免疫・アレルギー疾患	免疫・アレルギー疾患の成因・病態・診断・治療の概要について学ぶ。	教科書の第14章 (p178-185) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第14回	血液疾患	血液系の疾患・障害の成因・病態・診断・治療の概要について学ぶ。	教科書の第13章 (p171-177) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第15回	筋疾患	筋骨格疾患の成因・病態・診断・治療の概要について学ぶ。	教科書の第11章 (p158-165) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。				
学生へのフィードバック方法	毎時間実施する小テストは、マークカードのみ回収し問題用紙は持ち帰ってよい。また解答については授業内で提示する。定期試験も同様に問題用紙は返却する。質問等がある場合には1201研究室まで訪問すること。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストは前回の授業に係る学習範囲内から出題し、14回実施する（初回の授業では実施しない）。1回あたりの問題数は5問で5点満点、五者択一で出題する。なお、授業を欠席した場合、学外実習等の合理的な理由等がない限り、小テストの再テストは行わないので注意すること。 ・定期試験は小テストの振り返りを行い、100点満点で出題する。また、出題の傾向については、第13回の授業にて説明する。 ・小テストおよび定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	小テスト	○	○		
	定期試験	○	○		
評価割合	定期試験 (70%) および授業中に行う小テスト (30%) で総合的に判断し評価する。それぞれの点数を0.7倍、0.3倍した点数を合算する (小数点以下は四捨五入)。				

使用教科書名 (ISBN番号)	田中明 編『疾病の成り立ち：臨床医学』建帛社 (978-4767906331)
参考図書	松村讓兒 編『人体解剖ビジュアル』サイオ出版 (9784907176273)
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。 【思考・判断】 多種多様の情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
オフィスアワー	月曜4限 1201研究室
学生へのメッセージ	HACCP管理者資格希望者だけでなく、管理栄養士国家試験受験を希望する学生や、病院における食事管理、栄養指導などに興味のある学生はぜひ選択して下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	子供の食とアレルギー		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岩本 直樹	指定なし

ナンバリング	R31806M21
授業概要(教育目的)	子どもに関わる者にとって、子どもの食と栄養についての正しい知識は不可欠である。子どもの栄養のみならず、幅広く食育についての知識も習得する。また、「食べる喜び」は、年齢を問わず与えられるべきものであるが、特定の食品に触れたり、吸い込んだり、摂取することにより心身に様々なアレルギー症状が起こる「食物アレルギー」について、その原因やメカニズム、対処方法等を専門的に解説する。本科目は、HACCP管理者資格取得のための必須科目である。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を説明できる。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について説明できる。 3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について説明できる。 4. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について説明できる。 <p>※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成 23年3月、厚生労働省)、「保育所における食事の提供ガイドライン」(平成24年3月、厚生労働省)等</p>
思考・判断の観点 (K)	1. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について指摘できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス・子どもの健康と食生活の食意義	学修の進め方等のガイダンス及び子どもの心身の健康と食生活、子どもの食生活の現状と課題について学ぶ。	教科書の第1章(p2-7)を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第2回	栄養に関する基本的知識(1)	食物中の栄養素のはたす役割、炭水化物について学ぶ。	教科書の第2章(p56-62)を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分

第3回	栄養に関する基本的知識 (2)	脂質、たんぱく質、ミネラル、ビタミン、水分の機能について学ぶ。	教科書の第2章 (p16-23) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第4回	栄養に関する基本的知識 (3)	食事摂取基準と献立作成・調理の基本について学ぶ。	教科書の第2章 (p24-31) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第5回	子どもの発育・発達と食生活 (1)	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活について学ぶ。	教科書の第3章 (p32-51) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第6回	子どもの発育・発達と食生活 (2)	幼児期の心身の発達と食生活について学ぶ。	教科書の第3章 (p52-64) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第7回	子どもの発育・発達と食生活 (3)	学童期の心身の発達と食生活について学ぶ。	教科書の第3章 (p65-71) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第8回	子どもの発育・発達と食生活 (4)	生涯発達と食生活について学ぶ。	教科書の第3章 (p72-79) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第9回	食育の基本と内容 (1)	保育における食育の意義・目的と基本的考え方について学ぶ。	教科書の第4章 (p80-81) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第10回	食育の基本と内容 (2)	食育の内容と計画及び評価について学ぶ。	教科書の第4章 (p82-94) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120
第11回	食育の基本と内容 (3)	食育のための環境及び地域の関係機関や職員間の連携について学ぶ。	教科書の第4章 (p95-109) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第12回	家庭や児童福祉施設における食生活の現状 (1)	家庭における食事と栄養について学ぶ。	教科書の第5章 (p110-117) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第13回	家庭や児童福祉施設における食生活の現状 (2)	児童福祉施設における食事と栄養について学ぶ。	教科書の第5章 (p118-137) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第14回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 (1)	食物アレルギーの原因やメカニズムについて学ぶ。	教科書の第6章 (p138-149) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分
第15回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 (2)	疾病および食物アレルギーの子どもへの対応について学ぶ。	教科書の第6章 (p138-149) を通読する。 教科書の線を引いた部分を中心にノートを見ながら復習する。	120分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	毎時間実施する小テストは、マークカードのみ回収し問題用紙は持ち帰ってよい。また解答については授業内で提示する。定期試験も同様に問題用紙は返却する。質問等がある場合には1201研究室まで訪問すること。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストは前回の授業に係る学習範囲内から出題し、14回実施する（初回の授業では実施しない）。1回あたりの問題数は5問で5点満点、五者択一で出題する。なお、授業を欠席した場合、学外実習等の合理的な理由等がない限り、小テストの再テストは行わないので注意すること。 ・定期試験は小テストの振り返りを行い、100点満点で出題する。また、出題の傾向については、第13回の授業にて説明する。 ・小テストおよび定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。
評価基準	
評価基準	

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○		
定期試験	○	○		

評価割合	定期試験（70%）および授業中に行う小テスト（30%）で総合的に判断し評価する。それぞれの点数を0.7倍、0.3倍した点数を合算する（小数点以下は四捨五入）。
使用教科書名 (ISBN番号)	小野友紀 他編『子どもの食と栄養』アイ・ケイコーポレーション（978-4-87492-347-4）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境や食事文化を理解し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる知識を身につけている。 【思考・判断】多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている。
オフィスアワー	月曜4限 1201研究室
学生へのメッセージ	栄養学や食物アレルギーの基礎知識を自分自身の食生活に活用・実践することで、知識の定着を図って欲しい。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	調理と素材		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小口 悦子	指定なし

ナンバリング	R31807M23
授業概要(教育目的)	食品の調理特性は、その扱い方により調理後の外観や食味に様々な影響を及ぼす。この授業では、一つの食材または食品群に視点を当て、食品の持つ多様な調理加工上の特徴・特性について調理実習を通して理解することを目的とする。さらに、これらの調理特性を活かした様々な新しい料理法への発想と、嗜好性の高い料理を具現化できる実践力、技術力を向上させる。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	各種食材の種類や品種の特徴やその調理特性(調理中、調理後の変化)を理解して説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 食材の調理特性を生かした献立組やレシピの作成ができる。 2. 調理中の食品の変化を見極め、より嗜好性の高い料理をつくることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 食品、食材への興味感心を持つことができる。 2. 美味しい料理に仕上げるための注意・判断ができる。 3. 協調して授業に参加することができ、自身の役割を果たすことができる。
技術・表現の観点 (A)	1. 食材の特性を生かすための調理技術を基に基本となる調理操作を適切にこなせる。 2. 食材の特性を生かした新しい料理へも応用・展開できる。

学習計画

第1回

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業概要。授業の目的と概要、授業の進め方、評価。実習上の心得、準備等	授業の意義・目的を学び、実習授業の流れと実習室使用上のルールを把握する。	実習ノートを作成し、授業の目的と授業内容を整理すること。	120分
第2回	穀類(米、米粉)に視点をあてた	変わり海苔巻き(米、千葉県郷土料理)、汁物(白玉粉を用いた椀種、青豆饅頭)、代わり揚げ(米の加工品を用いた衣)、上新粉、白玉粉を用いた餅菓子の実習を通して、こめの種類と加工法(うるち、もち種の粒・粉	実習ノートに献立、材料・分量、調理法(科学的、技術的要点)、配膳図、反省・感想を記す。	120分

	献立内容による実習	状)の違いと調理法(扱い方)及び調理後の食味の特徴を学ぶ。	録すること。また、米の調理特性についてまとめる。	
第3回	小麦粉(薄力粉、強力粉)に視点をあてた料理実習(中国料理、点心)	小麦粉の種類(薄力粉、強力粉)と調理特性(伸展性、粘弾性)の違いについて、豆沙饅頭、肉包子、鍋貼餃子、杏仁酥餅他の調理実習を通して、種類、扱い方と調理適性の違いを学ぶ。また点心についても学ぶ。	実習ノートに献立、材料・分量、調理法(科学的、技術的要点)、配膳図、反省・感想を記録すること。また、小麦の調理特性についてまとめる。	120分
第4回	イモ類に視点をあてた献立による実習(1)西洋料理	ニョッキ、クヌーデル、ニソアーズサラダの実習を通して、じゃがいも(男爵、メークイン)の調理特性の違いとそれに伴う調理法の違いを学ぶ。諸外国でのいもの利用法も学ぶ。	実習ノートに献立、材料・分量、調理法(科学的、技術的要点)、配膳図、反省・感想を記録すること。	120分
第5回	いも類を主とした献立(2)日本料理	日本料理の善組。一汁三菜にイモ類やその加工品を使用した献立による調理実習を行う。各イモ類の下処理法などの違いとその理由も学ぶ。内容は、丸ごち飯(さつまいも)、たぬき汁(さつまいも、こんにゃく)、煮物(里芋)酢の物(新男爵いも)、磯部揚げ(やまといも)、諸類まんじゅうを行う。	実習ノートに献立、材料・分量、調理法(科学的、技術的要点)、配膳図、反省・感想を記録すること。また、前回の内容も踏まえて各イモの調理特性についてまとめる。	120分
第6回	豆類に視点をあてた献立(日本料理)	豆とその加工品を使った献立実習により、各種豆の成分の違いから調理・加工法が異なることを実習を通して学ぶ。内容は藤色飯(大豆・黒豆・江戸時代の料理本、名飯部類より)、青豆饅頭のすまし汁、鯛の卵の花和え(大豆、おから)、犠牲豆腐(大豆、豆腐、グリーンピース)、そぼろ菓子(白花豆、小豆)を行う。	実習ノートに献立、材料・分量、調理法(科学的、技術的要点)、配膳図、反省・感想を記録すること。また、まめ類の調理特性についてまとめる。	120分
第7回	魚介類に視点をあてた献立(中国料理)	中国料理の、蝦仁吐司(えびと白身魚のすり身のパン付け揚げ)、酸炒魚黃瓜(いさきときゅうりの酢炒め)、乾焼明蝦(大正えびの辛みソース煮)、豆腐蛤蜊羹(豆腐とあさりのスープ)の実習を通して、蝦、いさき、あさりの下処理やさばき方を学び、魚介類の調理特性を学ぶ。	実習ノートに献立、材料・分量、調理法(科学的、技術的要点)、配膳図、反省・感想を記録すること。	120分
第8回	魚に視点をあてた献立(日本料理 鯛1尾を使って)	鯛一尾を使い、飯、汁、刺身、焼き物、和えものの調理実習を行う。これを通して、鯛のさばき方、部位別の扱い方とその適正な利用法を学ぶ。実習内容は、鯛そぼろ飯、鯛の頭の潮汁、鯛の刺身、鯛の幽庵焼き、鯛皮と野菜の胡麻酢和えを行う。	実習ノートに献立、材料・分量、調理法(科学的、技術的要点)、配膳図、反省・感想を記録すること。鯛料理について調べる。	120分
第9回	肉類に視点をあてた実習(中国料理・沖縄料理)	中国料理の冷菜、炸菜、炒菜、点心に種類の異なる肉を使用し、肉の種類と部位の特徴に適した調理法を学ぶ。蘿蔔鶏絲沙拉(鶏モモ肉)、軟留丸子(豚もものひき肉)、蛎油牛青花(牛もも肉)、鶏蛋糕(豚背脂)、豚飯(豚ロース)、豚飯(沖縄料理の汁かけ飯、豚ロース、鶏ガラスープ)を実習する。	実習ノートに献立、材料・分量、調理法(科学的、技術的要点)、配膳図、反省・感想を記録すること。	120分
第10回	乳・乳製品に視点をあてた献立による実習(西洋料理)	トルコ・ギリシャ料理、ロシア料理に使われている乳・乳製品の料理から、これらの調理特性や扱い方と調理法について、実習を通して学ぶ。実習内容は、ムサカ(ヨーグルト、チーズ)、キュウリのサラダ(サワークリーム)、レモンフラン(生クリーム、牛乳、コンデンスミルク)を行う。また、生クリームから無塩バターを作り、生クリームとバターのエマルジョンの違い、食味の違いも比較する。	実習ノートに献立、材料・分量、調理法(科学的、技術的要点)、配膳図、反省・感想を記録すること。乳・乳製品の特性を生かした料理などを調べる。	120分
第11回	野菜・果物(夏)に視点をあてた献立(1)(日本料理)	夏の野菜と果物を使った一汁三菜の献立による実習。野菜は特有の色、香、食感があるためその特徴を生かした組み合わせや切り方、加熱方法により嗜好性に影響を与える。実習を通してこれらを学ぶ。内容は、みょうが飯(みょうが)、みそ汁(茄子、じゅんさい)、かぼちゃの直煮(黒川日本かぼちゃ)、茄子のはさみ揚げ(茄子、ネギ、しそ、ししとう、大根、生姜)、たこのきゅうりみぞれかけ(きゅうり)、フルーツ白玉(スイカ、メロン)の実習を行う。	実習ノートに献立、材料・分量、調理法(科学的、技術的要点)、配膳図、反省・感想を記録すること。	120分
第12回	野菜・果物に視点をあてた献立による実習(2)(西洋料理)	ラタトイユ(トマト、ナス、ズッキーニ、玉ねぎ、ピーマン、にんにく、バジル、パセリ)、かぼちゃのクロック(西洋かぼちゃ、玉ねぎ、レタス、レモン)、フルーツサラダ(キウイフルーツ、オレンジ、グレープフルーツ、ミント)、バナナケーキ(バナナ)の実習を通して、野菜の種類や品種により調理特性の違いを第11回と比較しながら学ぶ。	実習ノートに献立、材料・分量、調理法(科学的、技術的要点)、配膳図、反省・感想を記録すること。	120分
第13回	食材の新たな利用法(1)	食品の水分を利用した調理法の実習。水や牛乳を使わず、豆腐、ヨーグルト、野菜の水分を利用した小麦粉料理の実習。ピザ(生地)、マフィンの実習を通して、食材の特徴を活かした新しい利用法を学ぶ。	実習ノートに献立、材料・分量、調理法(科学的、技術的要点)、配膳図、反省・感想を記録すること。応用した料理を考え記入する。	120分

第14回	材料の組み合わせによる献立(夏)	第1回～12回(米から野菜)をすべて使用した献立による実習。松華堂弁当箱への盛り付けを行い、皿や鉢への盛り付け方との違いも学ぶ。実習内容は、あなご寿司、とろろ汁の味噌仕立て、茶筌茄子、干草卵、いかのチーズ焼き、切り干し大根の酢の物、くず菓子などを行うことにより食材の組み合わせ方の適性も学ぶ。	実習ノートに献立、材料・分量、調理法(科学的、技術的要点)、配膳図、反省・感想を記録すること。	120分
第15回	まとめと定期試験	食材の調理特性を利用した献立作成を行い、その中から一品の実習を行う。	実習ノートに献立、材料・分量、調理法(科学的、技術的要点)、配膳図、反省・感想を記録すること。	120分

学習計画注記 天候他、材料の搬入に影響があった場合は、実習内容を変更することがあります。

学生へのフィードバック方法 デモンストレーション後の実習において机間巡視しながら理解できていない点や技術面の指導やサポートを行います。また、質問等は授業時間中、時間外は控室(2108室、e-mail可)を訪問してください。

評価方法 実習参加状況：デモンストレーション、実習を通して実習班内での協力や実習への取り組み方を評価する。
 実習試験：素材の特性を生かした課題に関する実技試験を実施、評価する。
 実習ノート：指定された項目にに記載(15回分)を課題の記述内容について評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
実習参加状況	○	○	○	○
実習試験	○	○	○	○
調理ノート	○	○	○	○

評価割合 平常点(40%)、調理ノート(30%)、実習試験(30%)による総合評価。

使用教科書名 (ISBN番号)

- ・「調理と素材」のテキスト(作成教材)を配布。
- ・七訂 食品成分表2019/女子栄養大学出版社(978-4-7895-1019-6)
- ・調理のためのベーシックデータ/女子栄養大学出版社(978-4-7895-1323-5)

参考図書 必要に応じて紹介する。

ディプロマポリシーとの関連

- 【知識・技術】多様な食環境・食事文化を理解できる。
- 【思考・判断】多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる。
- 【関心・意欲・態度】食生活を取り巻く様々な事象について関心を持ち、課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる。
- 【技能・表現】食を通じて生活の質の向上を図るための指導力や、食品・食物の調理加工の技術を身につける。また、新しい発想・応用力を養い、その実践ができる。

学生へのメッセージ 食材の特徴を理解することで、多様な料理へと利用を可能にします。時間を見つけて調理をすることで技術・応用力がついていきます。栄養士は、1つの食材を多様に、また多くの食材を使いこなせることが求められます。積極的に取り組みましょう。

教育等の取り組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	実習中はその内容を通して、学生自身が能動的、実践的に技術・知識深めながら、判断力、汎用力の育成を図ることができる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	食事計画論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 未 定1	指定なし

ナンバリング	R11802M21
--------	-----------

授業概要(教育目的)	食生活指針や食事摂取基準の概念を理解し、喫食者にとって望ましい食事の計画(献立の作成)ができるための基礎を学ぶ。具体的には、エネルギーと各栄養素の指標を理解し、献立の栄養価計算を食品成分表を用いて可能にする。また、自身の食事内容(料理の種類、料理を構成する材料・分量、調理方法、供給の順番)などを計画し、その評価をおこなう。本科目は、食品衛生監視員・指導者、フードコーディネーター3級の取得に必須の科目である。
------------	---

履修条件	特になし
------	------

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	食事計画の意義、目的を説明できる。 日本食品成分表の成り立ちを理解し、その使い方を説明できる。
思考・判断の観点(K)	食生活指針や食事摂取基準など栄養・食品に関する施策や指針の基礎的事項に基づいて日常の食事献立ができる。
関心・意欲・態度の観点(V)	
技術・表現の観点(A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	授業概要について、食事計画の定義と意義	授業概要を理解し、食事計画の定義、意義、目的を理解する。	授業の目的を理解すること。	120分
第2回	食の現状と課題(児童)	調査データを基に、小学生(児童)の食に関連する課題とその原因を理解する。	配布された資料をもとに、課題の解決案(策)についてまとめておくこと。	120分
第3回	食の現状と	調査データを基に、中学・高校生の食に関連する課題と	配布された資料をもとに、課題	120分

	課題（中学、校生）	その原因を理解する。	の解決案（策）についてまとめておくこと。	
第4回	食の現状と課題（大学生）	調査データを基に、大学生の食に関する課題とその原因を理解する。	配布された資料をもとに、課題の解決案（策）についてまとめておくこと。	120分
第5回	食の現状と課題（青年期、壮年期）	調査データを基に、青年期、壮年期の食に関連する課題とその原因を理解する。	配布された資料をもとに、課題の解決案（策）についてまとめておくこと。	120分
第6回	食の現状と課題（高齢期）	調査データを基に、高齢期の食に関する問題とその原因を理解する。	配布された資料をもとに、課題の解決案（策）についてまとめておくこと。	120分
第7回	食生活指針と食事バランスガイド	食生活指針と食事バランスガイド策定の流れと策定の目的、概要を理解する。	事前に配布された資料を読んでおくこと。	120分
第8回	食事摂取基準	食事摂取基準の策定の目的、使用期間、策定方針の概要を学ぶ。	テキスト（食品成分表2018 資料編）の「日本人の食事摂取基準（2015年版）について」の授業内容の項目を読んでおくこと。	120分
第9回	食事摂取基準（栄養の指標）	食事摂取基準を理解するための概念図をもとに栄養素の摂取の過不足を判断するための指標を学ぶ。	テキスト（食品成分表2018 資料編）の「日本人の食事摂取基準（2015年版）について」の授業内容の項目を読んでおくこと。	120分
第10回	食事摂取基準（エネルギー、栄養素の指標）	栄養素の指標の目的、種類を学ぶ。基礎代謝量の求め方、たんぱく質、脂質、炭水化物の総エネルギーに占める割合（エネルギー産性栄養素の構成比率）から、推定エネルギー、たんぱく質、脂質、炭水化物の求め方を学ぶ。	テキスト（食品成分表2018 資料編）の「日本人の食事摂取基準（2015年版）について」の授業内容の項目を読んでおくこと。	120分
第11回	日本食品標準成分表2015年版（七訂）について	日本食品標準成分表2015年版（七訂）の目的、性格、経緯について学ぶ。	テキスト（食品成分表2018 資料編）の「日本人の食事摂取基準（2015年版）について」の授業内容の項目を読んでおくこと。	120分
第12回	日本食品標準成分表2015年版（七訂）について（収載食品、成分項目、数値の表示方法、食品の調理条件他）	日本食品標準成分表2015年版（七訂）の収載食品、成分項目、数値の表示方法、食品の調理条件他を学ぶ。	テキスト（食品成分表2018 資料編）の「日本人の食事摂取基準（2015年版）について」の授業内容の項目を読んでおくこと。	120分
第13回	食卓構成と献立立案	食品群の種類（三色、六つの基礎食品群、4つの食品群）とその特徴について学ぶ。18～29歳代の1日の献立作成を行う。	テキスト（食品成分表2018 資料編）の食品群の種類とその特徴の項目と配布プリントの項目を読んでおくこと。	120分
第14回	献立立案と評価（立案献立の改善）	13回に続き、18～29歳代の1日の献立作成を行う。立案した献立の評価を行い、改善点の検討を行い、献立立案と評価の概要を学ぶ。	テキスト（食品成分表2018 資料編）の食品群の種類とその特徴の項目と配布プリントを読んでおくこと。	120分
第15回	献立立案と評価（立案献立の再評価）	13回に続き、18～29歳代の1日の献立作成を行う。立案した献立の評価を行い、改善点の検討を行い、献立立案と評価の概要を学ぶ。	テキスト（食品成分表2018 資料編）の食品群の種類とその特徴の項目と配布資料を読んでおくこと。	120分

学習計画注記 授業の進み方によって、内容が変更になることがあります。

学生へのフィードバック方法 毎回授業内で質問の時間を取るが、時間内で理解できなかったことは、2108研究室（emailも可）を訪問すること。

評価方法 筆記試験70%、レポート30%の総合評価。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
------	-----------	-----------	--------------	-----------

筆記試験	○	○		
レポート	○	○		

評価割合	定期（筆記）試験（70%）及びレポート（30%）の総合評価。
使用教科書名 (ISBN番号)	日本食品成分表 女子栄養大学出版部（978-4-7895-1019-6） 調理のためのベーシックデータブック 女子栄養大学出版部（978-4-7895-0317-4） 必要に応じ資料を配布する。
参考図書	必要に応じて指示する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多様な食環境・食事文化を理解する。 【思考・判断】多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力身につけている。
オフィスアワー	火曜日12時10分～13時
学生へのメッセージ	配布する授業の資料は、ファイルに閉じるだけでなく、ノートにその概要を整理しておくことで、内容が理解しやすくなります。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	被服学概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田 弘美	指定なし
准教授	花田 朋美	指定なし

ナンバリング	R11904M21																		
授業概要(教育目的)	被服に求められる機能は、社会・心理的快適性に関わる機能と、身体・生理的快適性に関わる機能とから成る。従って、被服について学ぶには、被服材料学、被服管理学、被服衛生学、服飾デザイン、被服構成学、服装史等、多角的に学ぶことが必要となる。本講では、教育の現場で求められる知識・能力を身につけることを目的として、被服領域全般における基礎的事項を概括的に学ぶ。さらに、現代そして今後の被服に求められている課題について考える力を育成する。 (花田朋美／7回) 被服に要求される保健衛生的快適性に関わる機能について概説する。 (富田弘美／8回) 被服に要求される社会心理的快適性に関わる機能について概説する。																		
履修条件	なし																		
学習目標(到達目標)	学習目標(到達目標)																		
	<table border="1"> <tr> <td>知識・理解の観点 (K)</td> <td>被服分野の基礎的な知識を多角的に捉え、様々な立場の人々とのコミュニケーション力を身につけている。</td> </tr> <tr> <td>思考・判断の観点 (K)</td> <td>被服分野の各領域を総括的に捉え、教育現場での発展的学習に備えることができる。</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度の観点 (V)</td> <td>被服分野に内在する諸課題に積極的に関心を持つことができる。</td> </tr> <tr> <td>技術・表現の観点 (A)</td> <td></td> </tr> </table>				知識・理解の観点 (K)	被服分野の基礎的な知識を多角的に捉え、様々な立場の人々とのコミュニケーション力を身につけている。	思考・判断の観点 (K)	被服分野の各領域を総括的に捉え、教育現場での発展的学習に備えることができる。	関心・意欲・態度の観点 (V)	被服分野に内在する諸課題に積極的に関心を持つことができる。	技術・表現の観点 (A)								
知識・理解の観点 (K)	被服分野の基礎的な知識を多角的に捉え、様々な立場の人々とのコミュニケーション力を身につけている。																		
思考・判断の観点 (K)	被服分野の各領域を総括的に捉え、教育現場での発展的学習に備えることができる。																		
関心・意欲・態度の観点 (V)	被服分野に内在する諸課題に積極的に関心を持つことができる。																		
技術・表現の観点 (A)																			
学習計画	被服学概論																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業テーマ</th> <th>学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)</th> <th>教室外学習(予習・復習)の内容</th> <th>教室外学習の時間(分)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>被服学の領域、被服の着用目的・起源</td> <td>被服着用の目的を、人間の進化の観点から考察し、被服と人の関わりについて理解する。</td> <td>自分がなぜ服を着用しているのか考える。</td> <td>180分</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>布帛の構造－繊維・糸・織物・編物の構造－</td> <td>グループワークを行う。着用している衣服の構造を織物分解で観察する。配布した試料セットを使用し、繊維、糸、織物、編物の構造を観察し、布帛の構造を理解する。</td> <td>配付プリントの布帛の構造について読んでおくこと。</td> <td>180分</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)	第1回	被服学の領域、被服の着用目的・起源	被服着用の目的を、人間の進化の観点から考察し、被服と人の関わりについて理解する。	自分がなぜ服を着用しているのか考える。	180分	第2回	布帛の構造－繊維・糸・織物・編物の構造－	グループワークを行う。着用している衣服の構造を織物分解で観察する。配布した試料セットを使用し、繊維、糸、織物、編物の構造を観察し、布帛の構造を理解する。	配付プリントの布帛の構造について読んでおくこと。	180分
回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)															
第1回	被服学の領域、被服の着用目的・起源	被服着用の目的を、人間の進化の観点から考察し、被服と人の関わりについて理解する。	自分がなぜ服を着用しているのか考える。	180分															
第2回	布帛の構造－繊維・糸・織物・編物の構造－	グループワークを行う。着用している衣服の構造を織物分解で観察する。配布した試料セットを使用し、繊維、糸、織物、編物の構造を観察し、布帛の構造を理解する。	配付プリントの布帛の構造について読んでおくこと。	180分															

第3回	被服の素材 (1) -天然繊維-	グループワークを行う。着用している衣服の商品タグを確認し、身近な衣料品にはどのような素材が使われているのか観察する。代表的な天然繊維(綿、麻、羊毛、絹)の概要を理解する。	配付プリントの天然繊維について読んでおくこと。	180分
第4回	被服の素材 (2) -化学繊維-	代表的な化学繊維(再生繊維、半合成繊維、四大合成繊維)について、その製造方法と繊維の概要を理解する。	配付プリントの化学繊維について読んでおくこと。	180分
第5回	被服素材の 染色加工と 機能化	衣服素材の染色加工と高機能化について概要を理解する。	配付プリントの衣服素材の高機能化について読んでおくこと。	180分
第6回	被服の機能 保持と健康	被服の洗浄と保管、及び被服の快適性について概要を理解する。	配付プリント被服の汚れと洗浄、及びアパレルと健康について読んでおくこと。	180分
第7回	まとめと小 テスト	快適な衣生活と環境配慮の方法についての概要を理解する。小テストの実施。	1~6回目までの配付プリントと授業内容を整理し、総復習をしておくこと。	180分
第8回	服飾デザイン1-デザイン構成-	「デザイン」という言葉の意味・概念を理解する。	自分の分野、興味ある分野に落とし込んで「デザインとは何か」を考え、デザインについてノートを整理すること。	180分
第9回	服飾デザイン2-デザイン要素-	デザインの要素としてリズム、色彩、フォーム、テクスチャなどについてその効果を理解する。	デザイン要素のプリントを読み、デザインについてノートを整理すること。	180分
第10回	被服の変遷 1-西洋の 服装-	古代ギリシャ・ローマ、中世、15世紀から20世紀の服装について社会背景とともに変遷を理解する。	創立者大江スミが留学した頃の20世紀初頭のファッション、芸術についてノートを整理すること。	180分
第11回	被服の変遷 2-日本の 服装と和服 文化-	古代から中世の公家装束、近世の小袖(きもの)、近代の宮廷服、戦後日本のファッションについて社会背景とともに変遷を理解する。また、和服の基礎知識を知る。	戦後日本のファッションについてノート整理をしておくこと。	180分
第12回	特別授業 振袖の基本 知識	国際的な活動にも役立つ伝統的な和服の知識を深める。和服のデザイン・製造・販売・レンタル会社より講師を招き、振袖の基礎知識、デザイン傾向、着付けなどを標本を用いて学ぶ。	和服を普及させるには、どのような方法があるのか各自考える。	180分
第13回	アパレル設計-アパレル産業と既製服サイズ-	既製服の誕生から量産の背景、アパレル産業の構造、および既製服のJISサイズのシステムを理解する。	自分のJISサイズを把握し、ノートを整理すること。	180分
第14回	衣生活とファッション ビジネス・ 福祉(ユニ バーサルフ ァッション)	アパレルの仕事、アパレル産業の現状について理解し、高齢者・障害のある人に考慮したデザイン(運動機能、生理機能)を学ぶ。	アパレル産業の現状、高齢者・障害のある人に考慮したデザインについてノートを整理すること。	180分
第15回	まとめと小 テスト	まとめとして社会心理的な快適性機能を学び、小テストを実施する。	配付プリントとノートを整理しておくこと。	180分

学習計画注記 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 授業内でのグループワークでの体験学習時のアドバイス、及びディスカッション。

評価方法 ①第1回~7回担当者による小テスト
②第1回~7回の平常点
③第8回~15回担当者による小テスト
④第8回~15回の平常点

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
第1回~第7回の筆記試験	○	○	○	
第1回~第7回の平常点			○	

第8回～第15回の筆記試験	○	○	○	
第8回～第15回の平常点			○	
評価割合	第1回～第7回と第8回～第15回の担当者別の小テスト(80%)および平常点(20%)による総合評価			
使用教科書名(ISBN番号)	適宜プリントを配布			
参考図書	第1回～第7回 ①やさしい繊維の基礎知識 (ISBN4-526-05289-2 繊維学会編 日刊工業株式会社発行 2004年) ②アパレル生理衛生論(日本衣料管理協会刊行委員会編 一社 日本衣料管理協会発行 平成28年) ③衣服管理の科学 (ISBN978-4-7679-1048-2 片山倫子編 建帛社発行 2016年第11刷) ④衣生活のための消費科学(日本衣料管理協会刊行委員会編 一社 日本衣料管理協会発行 平成30年)			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】被服分野に関する基礎的な知識を有し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる。【思考・判断】社会の中にある課題を自ら発見し、分析、整理し、考察できる。【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心をもつことができる。			
オフィスアワー	火曜日12時30分から14時 2407被服材料学研究室(花田) 木曜日12時30分から14時 1405被服構成学研究室(富田)			
学生へのメッセージ	被服を最も身近な環境と捉え、快適な衣服とは何か考えてほしいと思います。(花田) 被服材料、被服衛生、被服管理、被服造形、服飾デザイン、服飾美学、服飾史などを多角的に概説します。被服の領域全般を広く学ぶことによって基礎的な生活力が身に付き役に立ちますが、自分の興味ある分野とその繋がりを考えて学際的な広い視野を持っていただきたいと思います。(富田)			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	和服のデザイン・製造・販売・レンタル会社に講師を依頼し、商品サンプルを用いて講義する。(富田)		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークによる織物分解鏡を用いての観察。(花田)		
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	服飾造形実習A		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 富田 弘美	指定なし

ナンバリング	R11905M23																	
授業概要(教育目的)	基本的な下衣のショートパンツとスカートの各構成を把握し、デザイン（スタイル、素材、色彩など）、人体の構造とパターン設計（製図）との関係、素材の選定と扱い方、裁断と縫製準備（印つけ）、ミシン縫製の基礎技術、仕上げ（アイロンの扱い）など、衣服製作の基礎的な流れを習得する。消費者として日常着用している既製の素材、縫製、着心地（サイズ感）などの品質を見分けられることを目的とする。																	
学習目標(到達目標)	学習目標（到達目標）																	
	<table border="1"> <tr> <td>知識・理解の観点 (K)</td> <td>被服分野の基礎的な知識を多角的に捉え、様々な立場の人々とのコミュニケーション力を身につけている。</td> </tr> <tr> <td>思考・判断の観点 (K)</td> <td>衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度の観点 (V)</td> <td>衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。</td> </tr> <tr> <td>技術・表現の観点 (A)</td> <td></td> </tr> </table>			知識・理解の観点 (K)	被服分野の基礎的な知識を多角的に捉え、様々な立場の人々とのコミュニケーション力を身につけている。	思考・判断の観点 (K)	衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。	関心・意欲・態度の観点 (V)	衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。	技術・表現の観点 (A)								
知識・理解の観点 (K)	被服分野の基礎的な知識を多角的に捉え、様々な立場の人々とのコミュニケーション力を身につけている。																	
思考・判断の観点 (K)	衣生活に関する諸課題を自ら発見し、論理的に分析し、考察することができる。																	
関心・意欲・態度の観点 (V)	衣生活に関する諸課題に積極的に関心を持ち、自主的に作業を進めることができる。																	
技術・表現の観点 (A)																		
学習計画	服飾造形実習A																	
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業テーマ</th> <th>学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)</th> <th>教室外学習(予習・復習)の内容</th> <th>教室外学習の時間(分)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>課題スカートとショートパンツ、レポート、材料、人体計測、スカート1(製図)</td> <td>スカートのデザイン条件と種類、材料(生地)、レポートの説明、材料、人体計測(ウエスト、ヒップ、股上など)、基本型セミタイトスカートの製図を学ぶ。</td> <td>基本型セミタイトスカートの製図を1/4で書きまとめる。生地との検討。</td> <td>90分</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>洋裁道具説明、ショートパンツ1(製図、地直し)</td> <td>ショートパンツの製図、生地、地直しについて学ぶ。</td> <td>ショートパンツの製図を1/4で書きまとめること。生地と糸等を購入し、生地は地直しをして持参すること。</td> <td>90分</td> </tr> </tbody> </table>			回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)	第1回	課題スカートとショートパンツ、レポート、材料、人体計測、スカート1(製図)	スカートのデザイン条件と種類、材料(生地)、レポートの説明、材料、人体計測(ウエスト、ヒップ、股上など)、基本型セミタイトスカートの製図を学ぶ。	基本型セミタイトスカートの製図を1/4で書きまとめる。生地との検討。	90分	第2回	洋裁道具説明、ショートパンツ1(製図、地直し)	ショートパンツの製図、生地、地直しについて学ぶ。	ショートパンツの製図を1/4で書きまとめること。生地と糸等を購入し、生地は地直しをして持参すること。	90分
回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)														
第1回	課題スカートとショートパンツ、レポート、材料、人体計測、スカート1(製図)	スカートのデザイン条件と種類、材料(生地)、レポートの説明、材料、人体計測(ウエスト、ヒップ、股上など)、基本型セミタイトスカートの製図を学ぶ。	基本型セミタイトスカートの製図を1/4で書きまとめる。生地との検討。	90分														
第2回	洋裁道具説明、ショートパンツ1(製図、地直し)	ショートパンツの製図、生地、地直しについて学ぶ。	ショートパンツの製図を1/4で書きまとめること。生地と糸等を購入し、生地は地直しをして持参すること。	90分														

第3回	ショートパンツ2 (型紙づくり、裁断、印付け)	ショートパンツの製図型紙づくり、裁断、印付け、ロックミシンの使い方を学ぶ。	裁断、印付けまで進めること。	90分
第4回	ショートパンツ3 (本縫い1)	直線ミシンの使い方、ポケットづくりと付け、脇、股下、股上の縫合を学ぶ。	説明内容まで進めること。	90分
第5回	ショートパンツ4 (本縫い2)	裾上げ、ウエストの始末、ゴム通し、仕上げについて学ぶ。	ショートパンツを完成させて提出準備とスカートの生地の地直しをすること。	90分
第6回	スカート2 (型紙展開、裁断、印付け)	基本型セミタイトスカートの展開(フレア、ギャザー)、裁断、切りじつけによる印付けを学ぶ。	裁断、切りじつけまで進めること。	90分
第7回	スカート3 (裁断、印付け完成) (仮縫い1)	裁断、切りじつけまで完成させ、ダーツの縫い方を学ぶ。	説明内容まで進めること。	90分
第8回	スカート4 (仮縫い2)	仮縫い合わせ(脇、裾、ベルト付け)の縫い方を学ぶ。	スカートの仮縫いを完成させること。	90分
第9回	スカート5 (試着点検、本縫い1)	試着点検、補正、本縫いではダーツ縫い、ファスナー付けの準備について学ぶ。	説明内容まで進めること。	90分
第10回	スカート6 (本縫い2)	ファスナーを付け、脇縫い、縫い代のロックかけを学ぶ。	ファスナー付けを完成させて、次週点検をうけること。	90分
第11回	スカート7 (本縫い3、基礎縫い1)	ベルトづくりとベルトつけ、基礎縫い1(まつり縫い・たてまつり縫い)を学ぶ。	説明内容まで進めること。基礎縫い1を完成させること。	90分
第12回	スカート8 (本縫い4、基礎縫い2)	ベルト付け完成、基礎縫い2(奥まつり)、スカートの裾にロックをかけ、奥まつりを学ぶ。	ベルト付け、基礎縫い2を完成させること。	90分
第13回	スカート9 (基礎縫い3、前カンつけ)	基礎縫い3(前カンのかがり)、ベルトに前カン(フックとバー)の付け方を学ぶ。	基礎縫い3を完成させること。	90分
第14回	スカート10 (仕上げアイロン、基礎縫い4)	仕上げアイロンを掛け、基礎縫い4(半返し縫い・全返し縫い・千鳥がけ)の縫い方を理解する。	基礎縫い4を完成させること。	90分
第15回	着装発表、基礎縫い・作品(スカート・ショートパンツ)、レポートの提出	スカートとのコーディネートを考えて着装し、デザインのコンセプト・特徴、生地名と素材、制作に対する問題点や反省点を発表する。	着装発表の準備をすること。	90分

学生へのフィードバック方法	作品・基礎縫い・レポートのコメント、発表に対する講評
---------------	----------------------------

評価方法	平常点、作品、基礎縫い、レポート、発表 授業の参加状況、作品制作の取り組み方等を総合的に判断する
------	---

評価基準	
------	--

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
作品	○	○	○	○
基礎縫い	○	○	○	○

レポート	○	○	○	○
発表	○	○	○	○

評価割合	平常点20%、作品30%、基礎縫い10%、レポート30%、発表10% 授業の参加状況、作品制作の取り組み方等を総合的に判断する
使用教科書名 (ISBN番号)	プリント配付
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】被服分野に関する基礎的な知識を有し、様々な立場や状況の人々との疎通ができる。【思考・判断】社会の中にある課題を自ら発見し、分析、整理し、考察できる。【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心をもつことができる。
オフィスアワー	木曜日12:30~14:00
学生へのメッセージ	好みのデザインで制作しますので、是非挑戦してみてください。ただし、欠席せずに、説明内容まで進めてくること（宿題）が大事です。教職を履修する学生は、教育実習で被服製作を担当する場合があります。また、教職に就くと家庭科全般を教えることになりますので、学ぶことと教えることの両サイドから取り組む姿勢を心がけて受講してください。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	作品を着装し、デザインの特徴や素材について調べて発表する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	住居学概論（製図を含む）		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 小池 孝子	指定なし

ナンバリング	R11903M21
授業概要(教育目的)	住居は個人や家族の生活の拠点であり、人間生活の最も基本的な場である。人間にとって住まいとは何かを考え、人間らしい生活を送るための空間としての住居のあり方について検討するための基礎的知識を講義する。建築製図の基本的な技術についての実習を含む。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	住居全般についての基礎的知識、住生活に関する諸問題を理解する。
思考・判断の観点 (K)	人間にとって住まいとは何かを考え、人間らしい生活を送るための空間としての住居のあり方について考察できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	個人・家族の生活の拠点である住居について、様々な角度からみた課題について検討を行うことができる。
技術・表現の観点 (A)	建築製図の基本的な技術を習得する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス・住居の機能	住居の備えるべき機能、住生活を構成する要素、生活行為と住空間の関係について学ぶ。	(復習) 自宅を事例として、住居の備えるべき機能について考える。	180分
第2回	寸法と空間	住宅内での生活行為とスケールの関係、住空間の配置とゾーニング、動線について学ぶ。	(復習) 自宅を事例として、スケール、ゾーニング、動線について考える。	180分
第3回	日本の住まいの変遷 (1) 明治時代以前	日本の住まい、住まい方の変遷について、古代～江戸時代までについて学ぶ。	(復習) 住まい、住まい方の変化と時代背景について考える。	180分
第4回	日本の住まいの変遷 (2) 明治時代以後・生活様式と住居	日本の住まい、住まい方の変遷について、明治時代～昭和時代までについて学ぶ。	(復習) 住まい、住まい方の変化と時代背景について考える。	180分

第5回	現代の家族と住まい	少子化・高齢化など現代日本における家族の状況と、それに合わせて必要になる住まいについて学ぶ	(復習) 自分自身のライフサイクル、ライフコースと住居との関係について考える。	180分
第6回	日本の住宅政策	第二次世界大戦後の日本の住宅政策の展開について学ぶ。	(復習) 誘導居住面積水準、最低居住面積水準で示される面積について、自宅や住宅広告などを例に具体的な広さを体感する。	180分
第7回	住居の選択と管理	住居の選択に際して考慮に入れるべきこと、住居の管理と耐用年数との関係について学ぶ。	(復習) 自宅を事例として、住居の管理が適切に行われているか考える。	180分
第8回	住まいと環境	快適な住まいを実現するための温熱、光、音、空気、水などの住環境の調整方法について学ぶ。	(復習) 自宅での水道使用量について調べ、平均と比較しながら水の節約について考える。	180分
第9回	安心・安全な住まい	事故・災害、犯罪、健康被害などの建物の安全を脅かす事象とその防止法について学ぶ。	(復習) 自宅を事例に、災害への備えについて点検する。	180分
第10回	高齢者・障害者の住まい	高齢社会における住居について、ユニバーサルデザイン、バリアフリーの観点から学ぶ。	(復習) 自宅を事例に、バリアフリー化の状況について点検する。	180分
第11回	集まって住むということ	集合住宅に住む意義、集合住宅と街との関係性、集合住宅の供給形式について学ぶ。	(復習) 自分の住む町の大規模集合住宅と周辺との関係性について考える。	180分
第12回	住まいの設計／製図 (1) 図面作成のルール	住居の設計プロセス、建ぺい率、容積率について学ぶ。建築図面の種類、図面作成のルールについて学び、作図の実習をおこなう。	(復習) 授業時間内に指示する段階まで図面作成を進める。	180分
第13回	住まいの設計／製図 (2) 平面図の作成・生活行為と生活空間	生活行為と生活空間について考えながら平面図を読み解き、平面図の作図実習をおこなう。	(復習) 授業時間内に指示する段階まで図面作成を進める。	180分
第14回	住まいの設計／製図 (3) 配置図の作成・周辺環境との調和	住宅と周辺環境との調和を考えながら、配置図の作図実習をおこなう。	(復習) 図面を完成させる。	180分
第15回	まとめ、定期試験	製図課題の提出、定期試験を行う。定期試験は、授業内容全般に関し、択一問題、穴埋め問題、語句の説明問題、考えを問う問題を出題する	(予習) 今までの授業内容を振り返る	180分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	小課題については、授業時間内に全体講評をおこなう。製図課題については、授業時間内に教員が巡回して指導をおこなう。質問を歓迎する。				
評価方法	小課題は、授業時間内に実習課題として実施するものと、授業内に提示する資料をもとに授業内容を踏まえて自分の意見をまとめて記述するもの、合わせて6回程度の実施を予定している。授業内容の理解、意見の妥当性について評価する。 製図課題については、完成度により評価する。 定期試験は、授業で配付したプリントのみ持ち込み可能とし、択一問題、穴埋め問題、語句の説明問題、考えを問う問題を出題する。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	小課題	○	○	○	
	製図課題	○			○
	定期試験	○	○	○	
評価割合	小課題30%、製図課題30%、定期試験40%により総合的に評価する。				
使用教科書名 (ISBN番号)	定行まり子「生活と住居」光生館				

参考図書	小澤紀美子ほか「豊かな住生活を考える一住居学」彰国社
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】多様な環境や文化を理解する</p> <p>【思考・判断】多種多様な情報を整理し、客観的な判断ができる基礎力を身につけている</p> <p>【関心・意欲・態度】生活を取り巻く様々な事象について、関心を持ち、自ら課題を見出し、その解決に意欲的に取り組むことができる</p> <p>【技能・表現】生活の質の向上を図るための技能と表現力を身につけている</p>
オフィスアワー	金曜3限 3508研究室
学生へのメッセージ	家政学の他分野等との関連・連携を念頭に置き、広い視野に立ち問題を考えるよう心がけてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	家庭経営学概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田 敦子	指定なし
教授	上村 協子	指定なし

ナンバリング	R11902M21
授業概要(教育目的)	人間が人間らしく生きる拠点が家庭であり、家庭生活を中心とした家族・コミュニティの営みが家政＝家庭経営である。現代社会における家庭経営の課題を、「家族」「ジェンダー」「消費者」をキーワードに、概説する。特に、親と子、夫と妻など家族を核とする人と人の関係や、仕事や消費といった日々の生活と生命の再生産の営みを中心に現代社会の危機的状況を生活者の視点から見直し、誰もが安心してくらせる、持続可能性のある消費者市民社会につくりかえる方法を、自分の生活設計と重ねながら考える。今年度は、2019年度まで相模原市で消費生活総合センター所長を務めておられた萩原康秋氏をお招きして「消費者」とはどのような存在なのか、その生き方をご講義頂き、考察を深める機会を設けている。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	家庭生活が個人にとって、社会にとってどのような役割を持っているかを理解する。
思考・判断の観点 (K)	多様で急激な社会変動の中で、どのように家庭生活を営むかを自律的に構想できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自分の現在の家族・家庭のあり方を見つめ、広い視野で将来設計に取り組める。
技術・表現の観点 (A)	人間の生き方や家族・家庭について豊かな感性と言葉で表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	現代社会における家庭経営の枠組み	家庭経営学の定義、家族の定義、生活時間等家庭経営学で頻りに用いる概念について解説する。	授業後、レジュメを良く読んでおくこと。	120分
第2回	社会における「家庭」パブリックとプライベートの領域	社会における家庭の位置、その機能をパブリックとプライベートの概念に基づいて学ぶ。	レジュメを良く復習しておくこと。	180分
第3回	地域と消費	日本の家庭経済の時代変化を産業構造や家族の変化と関	授業後、金融広報中央委員会	180分

	者市民社会	連させながら概説する。具体例として女性農業者のエンパワメントにはどのような意義があるか。教科書pp・110～119を参考に検討する	「これであなたもひとり立ち」ワーク1～5のいずれかを使った家庭科授業のアイデアをレポートにする。	
第4回	生活経営～新しい価値・規範の創造へ～	現代社会において家族・家庭がどのような状況にあるかを、主に津敬資料を用いて考察する。グラフの読み取り方、その現象の意味について学ぶ。	授業前後に教科書pp.7-15を良く読んでおくこと。	180分
第5回	経済生活設計と金融リテラシー	グローバル化・キャッシュレス化がすすみ経済格差が広がっている。18歳成年年齢引き下げのなか貧困の連鎖を防ぐ金融リテラシーを教科書pp67～74を参照し学びエンパワメントの方法を考える。	授業後、金融広報中央委員会「これであなたもひとり立ち」ワーク1～5のいずれかを使った家庭科授業のアイデアをレポートにする。	180分
第6回	地域と消費者市民社会	人生100年時代の自助・共助・公助を学び、pp102～110を参照し地域のコミュニティデザインによる公正で持続可能な消費者市民社会について考察する。	授業後、金融広報中央委員会「これであなたもひとり立ち」ワーク11～のいずれかを使った家庭科授業のアイデアをレポートにする。	180分
第7回	消費者としての生き方	萩原康秋先生による講義。萩原先生は、2019年度まで、相模原市 市民局 消費生活総合センターの所長であられた。「消費者」とは、社会の中でどのような存在なのかを、人間の生き方として広い視野でお話頂く。		180分
第8回	家庭経営とジェンダー (1) 現代社会におけるワークライフバランス	女性が社会で働くことが社会に定着するようになってからまだ日は浅い。それはなぜか。男女共同参画社会はどのようにしたら実現可能なかを考察する。	この部分は教科書には無いので、授業後レジュメを良く読んでおくこと。	120分
第9回	家庭経営とジェンダー (2) 近現代日本におけるジェンダー構造の変動	近現代日本社会でジェンダーの構造はどのように変動してきたのかを、江戸時代も含めて概説する。	この部分は教科書には無いので、授業後レジュメを良く読んでおくこと。	120分
第10回	江戸時代の女性の生き方	江戸時代の女性の生き方について学ぶ。日本においてジェンダー構造が大きく変動したのは、明治中期であることは前回学んだ。では、それ以前の江戸時代の女性はどのように生きていたのか、只野真葛、内藤ます等の女性の生き方から、現代女性として自らの生き方についての考えを深める。	江戸時代の女性にはどのような人がいるかを調べておくこと。可能であれば参考文献②を読んでおくことが望ましい。	180分
第11回	出産と子育て	女性の合計特殊出生率が急激に低下している日本社会における出産と子育てについて、その歴史の変遷も含めて概説する。	30問程度の中間テストを実施する。授業内で河田が配布したレジュメと教科書pp.33-49を参考程度に読んでおくこと。	240分
第12回	家族・家庭と法律 婚姻・親権・相続等	家族がどのような法律によって、どのように規定されているのかを、民法をもとに概説する。	この部分は教科書には無いので、授業後レジュメを良く読んでおくこと。	120分
第13回	少子高齢化社会と福祉	少子高齢化が急速に進む日本社会では、どのような問題が生じ、それをどのように解決して行ったらよいかを、概説する	教科書pp.137-169を授業の前後に良く読んでおくこと。	120分
第14回	少子高齢化社会における生活設計	少子高齢化や家族をめぐる社会問題が顕在化した事件や新聞記事を紹介し、関心のあるテーマ毎に分かれて、グループディスカッションを行う。	自分にとっての少子高齢化社会における生き方を見つめる機会である。前回の授業と教科書で学んだことをもとにディスカッションを行うので、自分の考えをまとめておくこと。	180分
第15回	家庭と環境問題 持続可能な社会づくりのための家庭経営	グループ毎に前回ディスカッションした内容をまとめて発表する。期末レポートを提出する。	関心のあるテーマを持つ者同士が集まってディスカッションをした内容を、代表者がプレゼンする。	420分

学習計画注記	特になし
学生へのフィードバック方法	中間テストは、模範解答と共に返却します。プレゼンテーション時には、随時コメントします。
評価方法	・中間テストは30問程度で、穴埋め方式である。

・期末レポートの課題は、「現代社会の状況を踏まえて今後の自分の生き方を考える」である。1600字以上。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間テスト	○			
期末レポート		○	○	○
グループディスカッション		○	○	○
プレゼンテーション				

評価割合

平常点 (グループディスカッション、プレゼンテーションを含む) 20点
小テスト (30%)・レポート 50%

使用教科書名 (ISBN番号)

日本家政学会 生活経営学部会編 『暮らしをつくりかえる生活経営力』朝倉書店 2010年

参考図書

- ①原ひろ子著『生活の経営—21世紀の人間の営み—』放送大学教育振興会 2002年
- ②柴桂子著『近世おんな旅日記 (歴史文化ライブラリー : 13)』吉川弘文館 1997年
- ③河田敦子著 加藤時男翻刻 『幕末明治の女性 内藤ますの生涯とその教養形成過程』お茶の水女子大学グローバルCOE「格差センシティブな人間発達科学の創成」2010年
- ④日本家政学会・生活経営学部会編『暮らしをつくりかえる生活経営力』朝倉書店 2014年・臼井和恵編著『21世紀の生活経営 自分らしく生きる』同文書院 2011年
- ⑤山口一男『ワークライフバランス』日本経済新聞出版社2009年

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】「衣」「住」「コミュニケーション・情報」「地域・園芸・ビジネス」「家庭科教育」の各分野について、専門的知識・技術を有している
【思考・判断】社会の中にある諸課題を自・社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。

オフィスアワー

前期水曜日4限 (アポイントメントを取り、時間調整を行うこと)

学生へのメッセージ

生活者としての視点から現代の家族問題や女性の生き方、ジェンダーの問題、消費者の様相を相対化して考察できる基盤を培ってほしいと念願します。
教職必修

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	アクティブラーニング：第14回の授業ではディスカッション、第15回の授業では発表の機会を設けてある。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	家庭電気・機械・情報処理		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 山際 基	指定なし

ナンバリング	R31907M21
授業概要(教育目的)	家庭で使用される機械や電気機器、情報機器について、仕組みと取扱法といった基本的知識の修得および消費するエネルギーの観点から機械や機器へのエネルギー変換、省エネルギーと経済性について、生活を合理的に管理するための能力を身につける。また社会における情報化の進展について理解し、家庭生活においてコンピュータを活用する能力と態度を育成する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	家庭で使用される機械や電気機器、情報機器についての基本的知識の習得すること
思考・判断の観点(K)	家庭生活において、修得した知識をもとに機械、電気、情報の各技術を活用すること
関心・意欲・態度の観点(V)	日々進化する機械、電気、情報の各技術に対する関心を持つこと
技術・表現の観点(A)	

学習計画

家庭電気・機械・情報処理				
回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	本講義の講義計画を説明するとともに、家庭における機械、電気、情報の利用についての全体像・概要を理解する。	自分の家庭においてどのような機械、電気機器、情報機器があるのか調査する。	60
第2回	家庭における機械①	現代生活と機械の基本的な関係について理解する。道具や機械の始まりや機械の3要素について説明する。	道具や機械を利用する利点を考える。	200
第3回	家庭における機械②	機械の要素と働きについて理解するとともに、家庭生活と素材・材料について考えを深める。	金属材料、非金属材料、複合素材、新素材と様々な材料を知るとともに、その機械的効果を考える。	180
第4回	家庭における機械③	家庭生活における機械の実例について理解を深める。身近にあるミシンや自動車、自転車について取り上げる。	機械の実例(ミシン、自転車、自動車)の構造、仕組みについて理解を深める。各機械の様々な機能を実現するためにどのよ	180

			うな機構が存在するのか理解する。	
第5回	機械、電気とエネルギー	エネルギーを発生させるものになるものの存在から、機械や電気機器を動かすに至るまでのエネルギーの変換の基礎概念について理解する。	エネルギーの種類と目的に応じた機械的、電氣的利用について理解する。	200
第6回	電気の変換と家庭での利用①	電気の熱への変換について、アイロン、調理機器、エアコン、冷蔵庫を実例にあげて仕組みや構造を理解する。	電気を熱に変換する方法を理解する。熱への変換は加熱と冷却の双方を念頭に置いて考える。	180
第7回	電気の変換と家庭での利用②	電気の動力への変換について、洗濯機や掃除機を実例に挙げて理解する。	電気を動力に変換する方法を理解し、実例に挙げた以外の電気機器についても考えてみる。	180
第8回	電気の変換と家庭での利用③	電気の光への変換について、照明器具を実例に挙げて理解を深める。また変換以外へのエネルギーの利用について、電子機器を実例に挙げて理解を深める。	電気の光への変換方法を理解するとともに、電子機器の機構や仕組みを理解する。	180
第9回	一般家庭における電力の供給	電気が発電所から一般家屋に届くまでの概要と一般家屋における電力線の屋内配線や利用される機器について理解する。	屋内の配線における規格や利用される機器について理解を深める。	180
第10回	現代生活と情報機器	現代生活と情報機器の関わりについて理解し、コンピュータの機能と操作について理解を深める。	コンピュータの機能と仕組みについて理解する。	200
第11回	情報機器の家庭での利用①	コンピュータのハードウェアとソフトウェアおよびネットワークについて理解を深める。	コンピュータの各機能を実現するためにどのようなハードウェア、ソフトウェアがあるのか理解する。	180
第12回	家庭生活と情報システム①	家庭生活に密着した情報システムについて、情報家電、Home Energy Management System、各種ネットワークサービスの実例を挙げるとともに理解を深める。	既に自分自身が家庭生活上で利用している情報システムやネットワークサービスについて、機能と仕組みを理解する。	180
第13回	家庭生活と情報システム②	情報システムの家庭経済への活用について理解する。	自分自身の家計（会計）管理、消費者としての活動に合わせて、現存するシステムやネットワークサービスの活用方法について理解を深める。	180
第14回	環境を意識した、機械、電気、情報の活用	地球環境を意識した機械の利用、電気機器の利用、情報処理について考える。	我が国のエネルギー事情を理解するとともに、対策方法、機器類の選定や利用方法について理解を深める。	200
第15回	講義全般のまとめ	機械、電気、情報の各技術の関係と家庭への利用についてまとめる。また省エネルギー、経済性を考慮した家庭生活を送るための考え方について理解を深める。	機械、電気、情報の各技術の関係と家庭への利用について、従来までの考え方や運用方法と新たな考え方や運用方法を検討する。	220

学生へのフィードバック方法	・毎回の講義時の小レポートの講評については、採点后、授業中に行う。
評価方法	・期末レポートは、機械・電気・情報の各技術が家庭生活に与えた影響について論じるレポートを出題する。記述の論理整合性、技術的（理論的）正当性を当然問うこととなるが、自身の経験などを含めた主体性のある主張、指摘についても評価する。 ・平常点は、毎回の講義において、講義内容に沿った小レポートを出題する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
期末レポート	○	○	○	
平常点	○		○	

評価割合	期末レポート(50%)、平常点(50%)による総合評価。
------	------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	新しい時代の家庭機械・電気・情報 / 池本洋一、山下省蔵 / ジュピター書房 / 2015 (978-4990748371)
-----------------	--

ディプロマポリシーとの関連	[知識・理解] 家庭生活の基盤として「より良い生活と技術」の関わりについて理解できる。 [思考・判断] 生活の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。 [関心・意欲・態度] 日々進化する技術について関心を持ち、どのようにして自分自身の家庭生活上に役立てるか活動意欲を持つことができる。
---------------	--

オフィスアワー	非常勤講師のため講義時以外はメール (myamagiwa@yamanashi.ac.jp) で問い合わせること
---------	---

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	保育学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新開 よしみ	指定なし

ナンバリング	R31908M21
授業概要(教育目的)	子どもと大人が共に豊かな成長を続けていくことのできる社会を目指し、家庭・地域・社会において大人が果たすべき役割、保育所・幼稚園・認定こども園における保育・幼児教育の今日的課題、共に育つ保育実践について解説する。また、保育観察や子どもとのふれあい体験(自主実習)を通して実際の子どもの発達や遊びの実態を体験しながら、家庭科教育における保育領域の授業実践の工夫を具体的に構想できるよう導いていく。
履修条件	家庭科教員免許取得を目指していること、またはそれに準ずる意欲のあること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 家庭科教育における保育領域の意義と目的を説明できる。 2. 保育・幼児教育の基本的事項について説明できる。 3. 子どもとふれあいながら、乳幼児の生活と発達を体験的に理解することができる。
思考・判断の観点 (K)	1. 自主実習や模擬授業を通して自己課題を発見する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 保育領域に関心を持ち、積極的に教材研究を行うことができる。 2. 保育観察や自主実習に意欲を持って取り組む。
技術・表現の観点 (A)	1. 家庭科(保育領域)の授業を構想し、模擬的に実践できる。 2. 電子黒板等を活用し、効果的にプレゼンテーションできる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	家庭科教育における保育領域の意義と目的	グループワークを通して、学習指導要領「家庭科」における保育領域の意義と目的、及び改訂の背景を理解する。	中学校・高校の学習指導要領「家庭科」のページ、及びテキストのP.1~18、P.26~28を読んでおくこと	120分
第2回	保育・幼児教育の今	新しい幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」「育みたい資質・能力」について理解する。	配布プリントを読んでおくこと	120分
第3回	子どもの発達と保育	ビデオを観ながら、乳幼児の発達について理解する。	課題「子どもの姿レポート」に取り組む	120分
第4回	子どもの遊びと保育	幼稚園等で生活する子どもの姿から、遊びを中心とした保育について考える。	課題「自主実習のための準備」に取り組む	120分

第5回	「ぼかぼかひろば」保育観察	乳児グループ「ぼかぼかひろば」の観察を行う。	「ぼかぼかひろば」の資料を読んでおくこと／観察記録をまとめること	120分
第6回	保育研究課題の設定と自主実習計画の作成	模擬授業で扱う保育研究課題を設定する。また、自主実習に向けた計画を作成する。	保育研究課題に関する教材研究及び自主実習の準備	240分
第7回	自主実習(1)	乳児(0・1・2歳児)クラスの自主実習に取り組む。	自主実習記録の作成	60分
第8回	絵本の教材研究発表	絵本を3冊選びその内容を紹介するとともに1冊について「読み聞かせ」の実践をする。	絵本選びと読み聞かせの練習	180分
第9回	自主実習(2)	幼児(3・4・5歳児)クラスの自主実習に取り組む。	自主実習記録の作成	60分
第10回	保育研究課題に基づく模擬授業(1)発表グループA	各自の課題に基づいた模擬授業を行う。	A:教材研究、授業準備、資料作成、振り返り等 B~E:Aグループの発表から得たことをまとめる	A:720分 B~E:60分
第11回	保育研究課題に基づく模擬授業(1)発表グループB	各自の課題に基づいた模擬授業を行う。	B:教材研究、授業準備、資料作成、振り返り等 A,C~E:Bグループの発表から得たことをまとめる	B:720分 B以外:60分
第12回	保育研究課題に基づく模擬授業(1)発表グループC	各自の課題に基づいた模擬授業を行う。	C:教材研究、授業準備、資料作成、振り返り等 A,B,D,E:Cグループの発表から得たことをまとめる	C:720分 C以外:60分
第13回	保育研究課題に基づく模擬授業(1)発表グループD	各自の課題に基づいた模擬授業を行う。	D:教材研究、授業準備、資料作成、振り返り等 A~C,E:Dグループの発表から得たことをまとめる	D:720分 D以外:60分
第14回	保育研究課題に基づく模擬授業(1)発表グループE	各自の課題に基づいた模擬授業を行う。	E:教材研究、授業準備、資料作成、振り返り等 A~D:Eグループの発表から得たことをまとめる	E:720分 A~D:60分
第15回	振り返りとまとめ	自主実習や模擬授業等を通して学んだことを振り返り、自己課題を明確にする。	これまでの授業内容を総復習しておくこと(まとめのファイルの提出)	120分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によって計画が前後したり変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	課題等は発表時または返却時にコメントするなどしてフィードバックを行う。質問や相談等がある場合は、1635研究室(emailも可)まで訪問すること。				
評価方法	自主実習に対する取り組み(自主実習点)、模擬授業に対する取り組み(模擬授業点)に加えて、これら以外の課題への取り組み(課題点)について総合的に評価する。課題点には指定の提出物に加え、グループワークや発表など平常授業への取り組みの評価を含むものとする。				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解(K)	思考・判断(K)	関心・意欲・態度(V)	技術・表現(A)
	課題点	○	○	○	
	自主実習点		○	○	
	模擬授業点	○	○	○	○
評価割合	課題点(30%) 自主実習点(30%) 模擬授業点(40%)の割合で評価する。				
使用教科書名(ISBN番号)	高等学校学習指導要領解説「家庭編」, 文部科学省, 平成30年7月				
参考図書	なし				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「家庭科教育」(保育)分野について専門的知識を有している。 【関心・意欲・態度】社会の中にある(保育をめぐる)諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通してそ				

	の解決策を立案できる。 【技能・表現】家政学を学修し、家庭科教育（保育）分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる。	
オフィスアワー	（後期）金曜 4 限 1635研究室	
学生へのメッセージ	この授業では自主実習や保育分野模擬授業に向けての事前の準備学習や教材研究など取り組むべき課題が多くあります。それぞれの課題に主体的に取り組む意欲と覚悟を持って受講してください。同時に、子どもについて学ぶこと、子どもとのふれあい体験をぜひ楽しんでください。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッションなどのグループワーク取り入れた授業を展開する。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	模擬授業においては、効果的なプレゼンテーション資料の作成や電子黒板の活用に取り組む。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食科学概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	食物学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 山崎 薫	指定なし

ナンバリング	R11901M21
授業概要(教育目的)	「食」は心豊かに健康な日常生活を送る上で重要な要素である。自立した社会生活を個々が営むためにも「食」を取り巻く環境や現状、変遷を踏まえ、日本国内に限らず、大きな視野で「食」を捉え、幅広く「ヒトと食生活」「ヒトと栄養」「ヒトと食品」「ヒトと食の安全と衛生」をキーワードにライフステージにも留意し、最新の話題も交えながら総合的に授業展開する。
履修条件	高校までの総合家庭科の食関係領域と基礎的な生物、化学の知識を有していることが望ましい。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	家庭科教育並び食の専門家として、他者に正しく食の知識や現代課題を提示できる知識を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	家庭科教育並び食の専門家として、他者に正しく食の知識や現代課題を倫理的に提示できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	家庭科教育並び食の専門家として、他者に正しく食の知識や現代課題を倫理的、公平性をもち、提示できる。
技術・表現の観点 (A)	家庭科教育並び食の専門家として、他者に正しく食の知識や現代課題を提示できる文章を作成できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ヒトと食生活①	食情報と現代の食の課題について理解する。	事前配布資料を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第2回	ヒトと食生活②	日本の食文化と現代の食生活について理解する。	事前配布資料を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第3回	ヒトと食生活③	世界の食文化について理解する。	事前配布資料を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第4回	ヒトと食生活④	地域の食文化について理解する。	事前配布資料を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第5回	ヒトと栄養①	人体組成と栄養素のはたらき；炭水化物(糖質・食物繊維)について理解する。	事前配布資料を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第6回	ヒトと栄養②	人体組成と栄養素のはたらき；脂質・タンパク質について理解する。	事前配布資料を読んでおくこと。	予習90分、復習90分

第7回	ヒトと栄養 ③	人体組成と栄養素のはたらき；ビタミン・ミネラルについて理解する。	事前配布資料を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第8回	ヒトと栄養 ④	人体組成と栄養素のはたらき；水分・ファイトケミカルについて理解する。	事前配布資料を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第9回	ヒトと食品 ①	日本食品標準成分表と食事バランスガイドについて理解する。	事前配布資料を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第10回	ヒトと食品 ②	食品の特徴；分類と成分、表示について理解する。	事前配布資料を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第11回	ヒトと食品 ③	食品の特徴；植物性・動物性食品とその加工食品について理解する。	事前配布資料を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第12回	ヒトと食の安全と衛生 ①	微生物的危害について理解する。	事前配布資料を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第13回	ヒトと食の安全と衛生 ②	化学的危険について理解する。	事前配布資料を読んでおくこと。	予習90分、復習90分
第14回	ヒトと食の安全と衛生 ③	安全管理手法について理解する。	事前配布資料を読んでおくこと。 課題レポートを作成すること。	予習90分、復習90分
第15回	定期試験とまとめ	定期試験とまとめを行う。	第1回から第14回までを復習しておくこと。 課題レポートを作成すること。	予習90分、復習90分

学習計画注記	* 授業展開において、履修者数や授業進捗状況によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	授業内において、必要事項を適宜、フィードバックします。また、質問等がある場合は町田校舎2308研究室へ訪問、もしくはメールにて連絡して下さい。訪問される際は事前にメールで連絡し、アポイントをとって下さい。
評価方法	課題レポート20%、定期試験（筆記試験）80%の総合評価（100%）

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題レポート	○	○	○	
定期試験（筆記試験）	○	○		

評価割合	課題レポート20%、定期試験（筆記試験）80%の総合評価（100%）とします。
使用教科書名 (ISBN番号)	なし 必要な資料を授業中に適宜、配布します。
参考図書	授業内で必要に応じて、適宜、紹介します。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 様々な立場を想定した食に関わる総合的な知識を他者に伝えることができる。 【思考・判断】 教員並びに食の専門家として倫理観を持って食に関する事項を遂行できる思考・判断力を身につける。 【関心・意欲・態度】 食に関わる事象を他者に正しく伝える対する倫理的素養を身につける。
オフィスアワー	水曜5限 2308研究室 授業前後、メール等で事前に予約と時間の承諾を得て下さい。
学生へのメッセージ	専門的な用語も出てきますが、食に関する専門教科への導入部分的内容となります。中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状（家庭）のための必修科目となります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は食品製造等に関連する食品機械製造、食品工場設計・施工等に関する企業において、食品衛生や食品製造工程における必要な情報収集や現場調査、課題解決に関する実務経験を有しており、実学的な現場情報を加味しながら、授業展開を行う。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		

シラバス参照

講義名	家庭看護(学校安全・救急看護法)		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	食物学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 遠藤 由美子	指定なし

ナンバリング	R21906M21
授業概要(教育目的)	家庭とは、生活を共にする家族の集まりである。家族が健康で日常生活を営むために年代別による健康管理が求められる。また加齢、病気などで障がいがあってもその人らしく生活を過ごすための知識・技術も必要である。家庭看護では、健康や疾患、加齢についての基礎知識とともに、生活を支援するための技術についても学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	健康と病気の定義について説明ができる。 年代別の健康問題と管理について述べるができる。 乳幼児期の心身の特徴について、説明ができる。
思考・判断の観点 (K)	制作をする過程において、独自の創造力を駆使して、作品を完成する。自らが選択した課題のレポート作成の過程で、資料検索の方法を知り、問題解決に導く力を養い、自己の考えを人に伝える能力を磨く。
関心・意欲・態度の観点 (V)	課された課題を自宅学習を含め取り組み、提出期限などルールを重んじる力を培う。
技術・表現の観点 (A)	演習を通して、人とのかかわり方を学び社会性を身に着け専門職としての視点を持つ。

学習計画

家庭看護

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション 病児の遊びを考えよう①		
第2回	健康と病気 ①健康について		
第3回	健康と病気 ②看護と介護		
第4回	病気と看護 家族の年代別健康管理		
第5回	病気と看護 病気の種類と特徴 (子ども編)		
第6回	病気と看護 病気の種類と特徴 (大人編)		

第7回	病気と看護 病児の遊びを考えよう②		
第8回	病気と看護 看護の基本と高齢者の心身の特徴		
第9回	演習・高齢者の介護 介護の基本①移譲（車いすにTRY）	校内散策（動きやすい服装・日よけ対策・補水・運動靴）	介護実習室（90分）
第10回	演習・高齢者の介護 介護の基本②体位変換（着脱にTRY）	動きやすい服装・運動靴	介護実習室（90分）
第11回	演習・高齢者の介護 介護の基本③清潔（口腔ケアにTRY）	動きやすい服装・運動靴	介護実習室（90分）
第12回	演習・高齢者の介護 介護の基本④排泄（排泄介助にTRY）	動きやすい服装・運動靴	介護実習室（90分）
第13回	演習・高齢者の介護 介護の基本⑤（視覚障害者の介助にTRY）	校内散策（動きやすい服装・日よけ対策・補水・運動靴）	介護実習室（90分）
第14回	課題作成	図書室・パソコン室・自習室などを活用し、自身の決めた課題の資料を探し、レポート（5枚）発表（5分）資料の作成を行う。	図書室・パソコン室・自習室など
第15回	課題作成・発表・提出	他の学生の前で自ら作成した資料を基に発表を行う。	

学生へのフィードバック方法 講義の他、グループワーク、演習等を取り入れ、学生が主体的に授業に参加できるようにしていく。はさみ、サインペン、色鉛筆、カッターナイフ等毎授業持参すること。

評価方法 授業成果物10点（パズル、眼鏡）個々の個人の創造性を駆使して、完成を目指す。作成したもので遊びを通して、子供の特性を学ぶ。
授業内平常課題30点授業内の課題プリントを課し、自宅学習を促す。
発表評価50点（態度、プレゼン準備、プレゼン資料、学生個々評価）レポート10点、テーマに従い資料検索を重ねレポートをまとめ、それをもとに他者に自分の考えを伝えるべく様々な方法を用いて発表準備を行い、人前で意見を述べることを通して、達成感を養い今後の自身の活動に役立つ手法を身に着ける。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
成果物		○	○	○
授業内平常課題	○	○	○	
発表評価	○	○	○	○
レポート	○	○	○	○

評価割合 成果物10点（パズル、眼鏡）授業内課題30点、発表評価50点（態度、プレゼン準備、資料、学生個々評価）レポート10点
平常点は授業への参加状況、受講への意欲、討論への参加等で総合的に判断する。

使用教科書名 (ISBN番号) 授業内で配布

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】自ら選択した課題を、レポートとして仕上げ発表するプロセスを体験、演習を通して、対人関係に必要なマナーやプレゼンテーション能力を身に着けることができる。
【思考・判断力】情報の整理やまとめる力を培うことができる。
【関心・意欲・態度】課せられた課題に自主的に取り組むことで、自己の責任や役割を認識し、社会人としての倫理観を身に着けている。
【技能・表現】制作など独自の創造力を駆使して、作品完成させることで、表現力を身に着けている。

オフィスアワー 前期金曜日1限 指定教室

学生へのメッセージ 日常生活のなかでは、特に健康について意識をしていないけれど病気になるとその大切さに気づきます。自分自身の健康管理ができて、家族の健康も守ることができるように、自分の日常生活から健康について考えてみましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー 教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	人間栄養学原論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	1 眼前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 加藤 理津子	指定なし
教授	田中 弘之	指定なし
教授	江川 賢一	指定なし
准教授	城田 直子	指定なし

ナンバリング	HI1001C21
授業概要(教育目的)	健康の維持・増進を目的とした栄養管理において、食べ物からの側面(栄養・調理など)だけでなく、人からの側面(嗜好、代謝、疾病・健康状態、身体活動量など)を考慮した食生活を営めるよう計画・実施することが不可欠である。一方、食生活とは、個人を取り巻く地域の自然・社会・経済・文化などの条件や歴史の変遷とも密接に関わって形成される。6～15回では、人間栄養学や管理栄養士としての職業倫理について、管理栄養士業務の実例を通して講義する。6～15回では、望ましい食生活を実現化させるための栄養管理にかかわる基礎知識を、食品の生産・流通、食品の選択、調理、食文化との関連を踏まえて解説する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	①4年間の学びおよび管理栄養士としての業務の基礎となる「人間栄養学」の内容を説明できる。 ②人間栄養学を基にした栄養管理の目的および手法を説明できる。 ③栄養管理に必要な知識(食事摂取基準、食品成分表、食品構成、食文化等)を理解し、説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	①人間栄養学 および管理栄養士の役割を理解したうえで、管理栄養士として社会貢献しようとする意欲を持つ。 ②将来の目標に向かって主体的に学ぶ意欲、態度を身につける。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション: 授業の概要、諸注意事項、人間栄養学の考え方など	4年間の学びの基礎となる「人間栄養学」、授業の受講ルールやレポートの書き方を学ぶ。	復習: 学習した内容を整理し、レポートを作成する。	120分
第2回	人間栄養学からみた管理栄養士の活躍の場(食育・地域栄養ケア)	管理栄養士の活躍の場のうち食育・地域栄養ケアでの現場の実務経験者の講義を通し、管理栄養士の役割や職業倫理を学ぶ。 学習内容をもとに4年間の学びや将来に対する目標を明確にする。	予習: 全国栄養士養成施設協会、日本栄養士会のホームページを検索し、管理栄養士に関連する情報を収集する。 復習: 講義内容を振り返り、4年間の学びや将来に対する目標を明確にしたうえで、レポートを作成する。	120分
第3回	人間栄養学からみた管理栄養士の活躍の場(スポーツ栄養)	管理栄養士の活躍の場のうちスポーツ栄養での現場の実務経験者の講義を通し、管理栄養士の役割や職業倫理を学ぶ。 学習内容をもとに4年間の学びや将来に対する目標を明確にする。	予習: 全国栄養士養成施設協会、日本栄養士会のホームページ、日本スポーツ栄養学会のホームページを検索し、管理栄養士に関連する情報を収集する。 復習: 講義内容を振り返り、4年間の学びや将来に対する目標を明確にしたうえで、レポートを作成する。	120分
第4回	人間栄養学からみた管理栄養士の活躍の場(臨床栄養)	管理栄養士の活躍の場のうち臨床栄養での現場の実務経験者の講義を通し、管理栄養士の役割や職業倫理を学ぶ。 学習内容をもとに4年間の学びや将来に対する目標を明確にする。	予習: 全国栄養士養成施設協会、日本栄養士会のホームページを検索し、管理栄養士に関連する情報を収集する。 復習: 講義内容を振り返り、4年間の学びや将来に対する目標を明確にしたうえで、レポートを作成する。	120分
第5回	人間栄養学からみた管理栄養士の活躍の場(フードサービス)	管理栄養士の活躍の場のうちフードサービスでの現場の実務経験者の講義を通し、管理栄養士の役割や職業倫理を学ぶ。 学習内容をもとに4年間の学びや将来に対する目標を明確にする。	予習: 全国栄養士養成施設協会、日本栄養士会のホームページを検索し、管理栄養士に関連する情報を収集する。 復習: 講義内容を振り返り、4年間の学びや将来に対する目標を明確にしたうえで、レポートを作成する。	120分
第6回	人間栄養学からみた栄養管理の意義	1～5回までに聴講した管理栄養士の役割を振り返りつつ、業務の要となる栄養管理の意義を学ぶ。	復習: ワークシートをもとに学習した内容を振り返り、まとめる。	120分
第7回	食生活の現状と対策: 食品の生産・流通、食糧供給、食品ロス、食品・栄養の情報	日本人の食生活の現状、問題点とその対策を食品の生産・流通、食糧供給、食品ロスの観点から学ぶ。 食品の表示に関する法律とその内容を学ぶ。	予習: 食品の表示に関する情報を調べる。「七訂食品成分表2020(女子栄養大学出版部)」資料編72、83ページを読む。 復習: ワークシートをもとに学習した内容を振り返り、まとめる。	120分
第8回	食文化: 食文化の形成、日本料理の変遷、年中行事と	食文化の形成、日本の伝統食文化としての和食の特徴、日本の伝統的な食事スタイルの種類と特徴、行事食を学ぶ。 正しい食事マナーを理解する。	予習: 農林水産省ホームページ「日本の伝統食文化としての和食」(http://www.maff.go.jp/j/keikaku/syokubunka/culture/wasyoku.html)を読む。 日本料理の種類や行事食を調べる。 復習: ワークシートをもとに学習した内容を振り返り、まとめる。	120分

	食べもの、伝統食・郷土食、食事のマナー				
第9回	健康状態の現状と栄養管理の進め方	生活習慣よって起こる疾病を理解する。また疾病の予防、健康維持・増進を目的とした栄養管理、栄養診断を学ぶ。	予習：生活習慣の種類や原因に関する情報を調べる。 復習：ワークシートをもとに学習した内容を振り返り、まとめる。	120分	
第10回	「栄養素」：栄養素の種類と働き、1日の摂取量（日本人の食事摂取基準[2020年版]）	健康の維持・増進を目的とした栄養管理を計画・実施する際の柱となる日本人の食事摂取基準[2020年版]を学ぶ。	予習：「日本人の食事摂取基準[2020年版]」1～5ページ、「七訂食品成分表2020（女子栄養大学出版部）」資料編16～28、73ページを読む。 復習：ワークシートをもとに学習した内容を振り返り、まとめる。	120分	
第11回	「食品」：栄養素の供給源、食品成分表、廃棄率、購入量、栄養価の算出方法	栄養素の供給源を確認する。食品成分表の見方および使い方、栄養価計算の方法を学ぶ。	予習：「七訂食品成分表2020（女子栄養大学出版部）」本表編口絵6～28、19～20、22、356(7)～362(1)ページを読む。 復習：ワークシートをもとに学習した内容を振り返り、まとめる。	120分	
第12回	「料理」：調理操作、配合、調味の基本	調理の種類と特徴、基本的な調理操作や配合を学ぶ。	予習：「七訂食品成分表2020（女子栄養大学出版部）」資料編90～91ページを読む。 復習：ワークシートをもとに学習した内容を振り返り、まとめる。	120分	
第13回	「食事」と「生活習慣」：食事の基本形、生活リズムと食事、食事と生活習慣	食事の基本的な構成を学ぶ。食事と生活リズムと生活習慣の関連を理解する。	予習：第6～12回までのワークシートをもとに学習した内容を振り返る。 復習：ワークシートをもとに学習した内容を振り返り、まとめる。	120分	
第14回	まとめ	人間栄養学を柱とした栄養管理の目的、手法等の基礎知識について、実践に向け整理する。	予習：第4～13回までのワークシートをもとに学習した内容を振り返る。 復習：第14回の内容を振り返り、まとめる。	150分	
第15回	ふりかえり	第1～15回にわたって学習した内容を振り返り、レポートにまとめる。	予習：第14回の学習内容を振り返る。 復習：第1～15回までの学習内容を振り返り、まとめる。	150分	
学習計画注記		進行状況によって内容を前後させる場合がある。			
学生へのフィードバック方法		リアクションペーパー等の提出物を確認後、返却する。 また質問がある場合には、各教員に問い合わせることができる。			
評価方法		リアクションペーパー等による提出物（40%）と、定期試験（60%）を総合的に評価する。 ※リアクションペーパー等：提出された内容について正確性、丁寧さを評価する。なお、提出遅れ、未提出は0点とする。 ※定期試験：範囲は授業時間中に提示する。			
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	リアクションペーパー	○		○	
	定期試験	○			
評価割合		提出物40%、定期試験60%とし、総合的に評価する。			
使用教科書名 (ISBN番号)		「七訂食品成分表」 女子栄養大学出版部 「調理のためのベーシックデータ」 女子栄養大学出版部 「日本人の食事摂取基準[2020年版]」 第一出版			
参考図書		適宜紹介する			
ディプロマポリシーとの関連		【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。 管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。 【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。			
オフィスアワー		田中：水曜日1、2限 江川：木曜日昼休み 城田：水曜日3、4時限 建路： 加藤：水曜日2限			
学生へのメッセージ		電卓を用意する（試験時の携帯電話等、情報機器類の持ち込みは不可）。 受講にあたり、以下の内容に取り組むことを期待する。 ○遅刻や欠席、私語、内職、居眠りを慎み、メモを取るなど主体的に取り組む。 ○計画的に予習、復習に取り組む、理解を深めるよう努める。 ○提出物は、手順や締め切りを守り、学習した内容を理論的に書くよう努める。			
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	行政機関（田中）、民間企業の研究機関（江川）、臨床施設（城田）、高齢者福祉施設（建路）、スポーツ栄養現場（加藤）等に従事した経験を踏まえ、管理栄養士業務にかかわる食育・地域栄養ケア、フードサービス、臨床栄養、スポーツ栄養の4つの領域に関する基礎知識および職業倫理についての理解を促進するための専門的知識を教授する。			
アクティブ・ラーニング					
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	管理栄養士基礎演習		
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 城田 直子	指定なし

ナンバリング	H11002C12
授業概要(教育目的)	この授業は「管理栄養士とは何か」を学ぶ基礎的な科目である。自分を知り相手を知る機会を通し、「食」と「栄養」の関わりについて一層関心を高め、意欲を持って学びを進めていけるよう管理栄養士の職務や事例を紹介しながら、職業倫理を培う。また、「臨床栄養」「食育・地域栄養ケア」「スポーツ栄養」「フードサービス」の領域における管理栄養士の役割を理解し、さらには管理栄養士が活躍する現場を見学する。見学終了後は報告会を実施し、見学で学んだ内容を発表すると共に、見学に行かなかった現場についても学びを深める。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	管理栄養士とは何かを適切に説明できる。見学を通して管理栄養士の役割や現状を理解できる。見学に行かなかった現場についても理解ができる。
思考・判断の観点 (K)	「臨床栄養」「食育・地域栄養ケア」「スポーツ栄養」「フードサービス」の4領域における管理栄養士の役割や現状を理解し、類別できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	どのように自分を知り相手を知るか、そしてそれらを知ることで「食」と「栄養」の関わりに関心を持ち、意欲を持って学びを進めることにつなげる。見学する現場や領域を主体的に選択する。見学施設については事前に学習し、得られた情報を持って見学に臨む。
技術・表現の観点 (A)	施設見学前後のグループワークおよび個人課題で自分の考えを表現できる。見学後に内容をまとめる力、プレゼンテーション力が身につく。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	管理栄養士とは	管理栄養士とは、4年間の学びについて学ぶ。また、現時点での自分自身の考えや将来像について認識する。	特になし	
第2回	管理栄養士の職業倫理、活躍の場、4領域の関連性	管理栄養士の職務や事例を学びながら、職業倫理を培う。「臨床栄養」「食育・地域栄養ケア」「スポーツ栄養」「フードサービス」の4領域それぞれにおける管理栄養士の役割や現状、4領域の関連性を理解する。上記の理解をふまえ、見学希望調査を実施する。	受講するにあたり、各自、管理栄養士とは何か、職務、役割、活躍の場、4領域の関連性などを調べ、予習しておくこと。	60分
第3回	4領域での学び	「臨床栄養」「食育・地域栄養ケア」「スポーツ栄養」「フードサービス」の4領域について、自分自身が学んだ	受講するにあたり、各自、事前に各領域で学びたいことを明確	60分

		いこと、知りたいことを明確にする。	にしておくこと。	
第4回	自分を知る	体力測定を実施する。人々の健康づくりやスポーツ選手の競技力向上に役立てることを目的とした体力測定の実験を体験的に習得する。	受講するにあたり、各自、体力測定の実験項目および測定項目について予習しておくこと。	60分
第5回	グループディスカッション	グループディスカッションにより、施設見学におけるテーマを決定し、見学により何を学ぶか考える。	受講するにあたり、各自、事前に施設見学における学習テーマを考え、まとめておくこと。	60分
第6回	プレゼンテーションの方法、コミュニケーション、マネー	プレゼンテーションについて学び、報告会へ向け理解を深める。コミュニケーション、マネーについて学び、自分の理解度および実践状況を知る。	受講するにあたり、各自、管理栄養士の学外実習の手引きの該当箇所を熟読しておくこと。	60分
第7回	相手を知る	管理栄養士に必要なスキルとはどのようなものか、「相手を知る」体験を通して学ぶ。また、相手を知るにはどのようなスキルが必要かを考える。	授業内容を復習し、管理栄養士というライセンスを活かした職場で働く際に必要なスキルを今後、どのように身につけていくか自分なりに考えておくこと。	60分
第8回	テーブルマナー講座	都内ホテルにおいて講座を受講し、テーブルマナーを学ぶ。	受講するにあたり、各自、事前にテーブルマナーとはどのようなものかを調べておくこと。	60分
第9回	施設見学（学外実習）	見学可能な時期を利用して「臨床栄養」「食育・地域栄養ケア」「スポーツ栄養」「フードサービス」の4領域の施設より、教員の引率を伴う施設見学を行う。見学を通して、管理栄養士の職務、役割、食と栄養との関わりなどを学ぶ。	見学は1度しかないため、各自意欲を持って、見学施設について事前にしっかりと調べ、予習をしたうえで見学に臨むこと。見学後は、学んだ内容をまとめておくこと。	90分
第10回	グループワーク	「臨床栄養」「食育・地域栄養ケア」「スポーツ栄養」「フードサービス」の4領域の施設見学を通して、グループワークによる意見交換、考察などをまとめる。そして、報告会に向けた資料および提出物、媒体を作成する。	受講するにあたり、活発なディスカッションになるよう、自分の意見などをしっかり準備しておくこと。また、グループでまとめた内容を基に、資料および提出物、媒体作成を進める。	120分
第11回	報告会①	「臨床栄養」「食育・地域栄養ケア」「スポーツ栄養」「フードサービス」の4領域の施設見学を通して、班ごとにプレゼンテーションを行う。見学に行かなかった施設についても理解を深める。	事前に配布される要旨集に目を通し、見学に行かなかった領域および施設について予習しておくこと。	60分
第12回	報告会②	「臨床栄養」「食育・地域栄養ケア」「スポーツ栄養」「フードサービス」の4領域の施設見学を通して、班ごとにプレゼンテーションを行う。見学に行かなかった施設についても理解を深める。	事前に配布される要旨集に目を通し、見学に行かなかった領域および施設について予習しておくこと。	60分
第13回	報告会③	「臨床栄養」「食育・地域栄養ケア」「スポーツ栄養」「フードサービス」の4領域の施設見学を通して、班ごとにプレゼンテーションを行う。見学に行かなかった施設についても理解を深める。	事前に配布される要旨集に目を通し、見学に行かなかった領域および施設について予習しておくこと。	60分
第14回	学びの考察、将来像の描画	当科目の受講を通して、自分自身が学んだこと、解決したことは何かなどを考察する。また、現時点での将来像を認識し、描画する。	これまでの授業を通して、どのようなことを学んだか、自分のなかで何が解決したかなど、考えをまとめておくこと。	60分
第15回	栄養価計算ソフト演習	2年次から使用する栄養価計算ソフトの使用方法について、ソフト開発者による演習を通して学ぶ。	受講後は、自分専用の栄養価計算ソフト（マッシュルームソフト）を実際に操作し、2年次の授業でスムーズに活用できるようしっかり復習しておくこと。	120分

学習計画注記	※通年授業のため、授業日程によりスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	プレゼンテーション用の原稿は、添削し返却する。 個人の提出物は、課題内容および必要に応じ、授業にて解説または採点し返却する。
評価方法	評価は、以下の方法により決定する（秀優良可不可）。 ・平常点は、参加状況・授業への取り組み・授業態度を総合的に評価する。 ・プレゼンテーションは、グループワークでの評価であり、取り組みや提出物、報告会での発表を総合的に判断する。 ・提出物は、個人の提出物を評価する。 施設見学、報告会、栄養価計算ソフト講習の出席は必須である。欠席した場合、他の要件を満たしていても単位を認めない。 ※以上の評価方法は平成31年度入学者から適用され、かつそれ以前の入学で再履修している者は除く。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○		○	○
プレゼンテーション	○	○	○	○
提出物	○	○	○	

評価割合	平常点 (40%) , プレゼンテーション (30%) , 提出物 (30%) で評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	管理栄養士の学外実習の手引き
参考図書	なし
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多面的なカリキュラムの履修により、総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士などの専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。 【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他社と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。
オフィスアワー	城田：水曜日3、4時限
学生へのメッセージ	管理栄養士についての基本的な事柄を正しく理解し、4年間のこれからの学びに繋げていってほしいと思います。自分を知り、自分で考え、相手のことを知る機会でもあります。受け身ではなく、積極的に真面目に取り組みましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、管理栄養士としての実務経験を有しており、管理栄養士の基礎的知識、職業倫理など、管理栄養士に関する幅広い内容について教授している。
アクティブ・ラーニング	○	学外施設見学、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション
情報リテラシー教育	○	プレゼンテーション技法
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	有機化学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 崎濱 由梨	指定なし

ナンバリング	H11003C21
授業概要(教育目的)	有機化学はメタノールのような簡単な分子からビタミンB12や糖、タンパク質のような高分子まで多くの有機化合物を対象としている。有機化合物（炭素化合物）は日常生活に欠かせない食品や繊維・医薬品・動植物の生体内にみられ、それらの化合物を学ぶ有機化学は私たちの生活を化学的に説明し、生活方法の指針を示す学問の一つである。本講義は化学入門（共通教育科目）の履修を前提に行う。有機化合物の基本構造や性質、有機化学反応について体系的に講義する。特に専門科目で必要とされるアルコール・脂肪酸・糖・アミノ酸・タンパク質・核酸等の分子構造や性質について講義する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1. 有機化合物の結合や官能基・性質を理解し、有機化合物を分類することができる。 2. 有機化合物の立体構造について説明することができる。 3. アルコール・脂肪酸・糖・アミノ酸・タンパク質・核酸などの構造式と化学的性質を理解し、食品中の化学物質を説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	簡単な化合物の表記法と結合・官能基	分子モデル模型等を用いて原子価について復習し確認する。さらにメタンやエタン等アルカンについて例にとり、分子式と分子構造と官能基について理解する。	共有結合について復習しておくこと。	180分
第2回	アルケンの命名法・構造・性質	必須脂肪酸が含まれるアルケンの命名法・結合・化学的性質について理解し説明できる。	化学の教科書で二重結合について復習しておくこと。	180分
第3回	アルコールの構造と性質	アルコールの性質を官能基の種類と性質を説明できる。第一級・第二級・第三級アルコールの分類ができる。それらの化学反応性の違いを習得する。構造異性体について理解を深める。	有機化学の教科書のp.52~57読み、アルコールについて理解を深めること。	180分

第4回	アルコールの酸化反応とカルボニル化合物	アルコールの酸化反応について理解を深める。アルデヒドやケトンの官能基の性質について理解を深める。有機化合物の酸化反応と還元反応について説明することができる。	有機化学の教科書p. 63 ~65, p. 71~75のアルデヒドおよびケトンの章を読んでおくこと。	180分
第5回	カルボン酸とエステル	カルボン酸の有機化学的性質や栄養学的性質について学習し、カルボン酸の命名法・化学的性質、アルコールとの反応について理解する。エステルの構造式を理解し、説明できる。	教科書p. 81の表1でカルボン酸の構造式、寛容名IUPAC名を読んでおくこと。	180分
第6回	脂肪酸と光学異性体	脂肪酸の分類、構造、不飽和脂肪酸の接触還元（水素添加）、ラジカル反応による酸化の反応を説明できる。有機化合物の異性体について理解する。	教科書のp. 83~87の脂肪酸について予習しておくこと。	180分
第7回	アミンとアミド	アミンの命名法・化学的性質（塩基性と分子間相互作用）について理解する。アミドの命名法および生成、化学反応を理解し、さらにペプチド結合について説明できる。	教科書p. 106~110, p. 117~120を読んでおくこと。	180分
第8回	芳香族化合物(1) 命名法・構造と芳香族炭化水素	1置換ベンゼン、2置換ベンゼン、多置換ベンゼンについて、芳香族化合物の命名法・構造と芳香族性の法則を理解する。芳香族炭化水素の化学的性質について説明できる。	教科書で芳香族化合物、特にベンゼンの構造について予習すること。	180分
第9回	芳香族化合物(2) フェノール類、芳香族カルボン酸、芳香族アミン	芳香族化合物の中でフェノール類、芳香族カルボン酸、芳香族アミンについての命名法、化学的性質、反応について理解し、説明できる。脂肪酸アルコール・アルデヒド・カルボン酸との性質の違いを認識する。	アルコール・アルデヒド・カルボン酸など酸素を含む脂肪族化合物の構造と性質について復習しておくこと。	180分
第10回	第1回~9回までの理解度の確認	有機化合物の官能基や構造式について習得の度合を確認する。脂肪酸や芳香族化合物の分類や性質について理解度を確認する。有機化学の基礎理論の習得度合いについて確認する。	第1回から第9回までの学習内容を有機化学の教科書と配布資料で復習しておくこと。	180分
第11回	炭水化物：糖類	糖類の構造、表記方法（フィッシャーの式、ハワーズの式）、性質について理解を深める。2糖類、多糖類（デンプン、グリコーゲン）の構成単糖および構造について理解する。	アミノ酸の章を予習すること。必須アミノ酸の名称や構造式を確認しておくこと。	180分
第12回	アミノ酸の構造と性質	アミノ酸の構造と性質について理解を深める。アミノ酸の光学異性体や酸塩基とアミノ酸の反応について考察できる。双性イオンと等電点について説明することができる。	有機化学の教科書でアミノ酸の章を予習すること。必須アミノ酸の名称や構造式を確認しておくこと。	180分
第13回	タンパク質の構造と性質	アミノ酸からタンパク質の構造を理解する。タンパク質のアミノ酸側鎖の相互作用について説明できる。酵素について説明することができる。	アミド結合やジスルフィド結合について有機化学の教科書で確認すること。酵素の名称と分類について調べておくこと。	180分
第14回	核酸の構成成分と性質	DNAやRNAの構成成分とヌクレオシド・ヌクレオチドについて説明できる。リボースやデオキシリボースと塩基やリン酸の結合について説明できる。併せてATPの構造と性質について理解を深める。	リボースとデオキシリボースを確認すること。	180分
第15回	脂質および生体分子のまとめ	脂質の種類と構造について理解する。第11回以降の生体分子の立体構造や性質・結合・反応等について理解を深める。生体分子の理解により専門科目と関わる化学物質の反応性について考察できる。	有機化学の教科書で脂質の章を確認すること。有機化学のテキストと配布資料で糖から脂質まで体系的に復習すること。	180分

学習計画注記 授業内容の進み具合により学習計画が前後することがあります。

学生へのフィードバック方法 授業で演習を行い到達度を判断し予習や復習を促します。授業で小テストを行いその講評を行う。

評価方法 演習の取り組み・小テストの得点から平常点（40点）を与える。定期試験の得点（60点）と併せて評価する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間試験	○			
定期試験	○			

評価割合	平常点（40%）、定期試験の得点（60%）により評価する。
使用教科書名（ISBN番号）	栄養科学イラストレイテッド 有機化学(978-4-7581)
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】有機分子の構造や性質に関する基礎学力により、専門科目の食物栄養や生命科学の内容を理解する力を有する。 【思考・判断】有機化学の基礎理論から、健康や栄養に関わる有機化学反応について論理的に考察する力を身につけている。
オフィスアワー	授業後に質問を受けます。
学生へのメッセージ	「化学入門」を履修すること。 繰り返し有機化学の教科書読み、併せて配布資料を見直して下さい。有機化学の基本的な考え方に慣れて来ると授業の内容がわかり易くなります。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	基礎サイエンス実験		
講義開講時期	後期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限後半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 沼波 秀樹	指定なし
助教	鈴木 孝子	指定なし

ナンバリング	H11004C13
授業概要(教育目的)	食品学実験や栄養学実験など実験科目の基礎となる科目である。自然科学分野の理解は講義を聴くだけでは不十分で、体験に基づく理解が不可欠である。化学及び生物学の分野より、特に必要と思われる基本的な実験を行い、基本的実験技術を体得するとともに、実験結果の分析、観察、考察力を養い、レポートの書き方を習得する。
履修条件	特に無し。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	自然科学の基本的な事項が、実験に裏打ちされた理解の上に成り立っていることを学ぶ。(化学分野) 基礎的な実験によって基本的な生物現象について理解している。(生物学分野)
思考・判断の観点 (K)	基礎的な実験・レポート作成などを通して、管理栄養士として必要不可欠な理学的思考をもつようになる。(両分野)
関心・意欲・態度の観点 (V)	実験結果の整理を通して、文献・書籍を自ら調べ、理解を深める習慣をもつ。(化学分野) 実験に対する取り組み方やレポートの書き方などについて実践できる。(生物学分野)
技術・表現の観点 (A)	基礎的な実験技術、実験結果と考察による理学的な思考の両方を習得し、2年次以降に行われるより高度な実験に対する基礎力をもっている。(両分野)

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	今後の実験の進め方などについての説明。数値データの取り扱いについての説明。	事前に渡されたテキストを読む。	60分
第2回	生物実験の心得と顕微鏡の基本操作(生物学分野1)	基礎サイエンス実験の生物学分野実験(以下、生物学実験)を行うにあたり、実験ノートの書き方、スケッチの描き方などの基本的な知識・技術を習得する。また、生物学実験や専門科目の実験(解剖生理学、微生物学など)に使用する生物顕微鏡の基本操作の習得する。	実験前に配布したテキストを読み、実験内容及び実験手順を確認する。	60分
第3回	動物・植物細胞の観察	顕微鏡技術・顕微鏡標本作成技術の向上。また、植物細胞や動物細胞の観察によって基本的な細胞構造や、生物体と細胞との関わりを理解する。	実験前に配布したテキストを読み、実験内容及び実験手順を確認する。	60分

	(生物学分野2)			
第4回	染色体・DNA・酵素実験解説(生物学分野3)	次回から実験を行う染色体の観察と核型分析, DNAの抽出, 酵素実験に関する基本的生物学的事項について資料を用いて解説することにより, 実験の目的, 意義に対する理解を深める。	実験前に配布したテキストを読み, 実験内容及び実験手順を確認する。	60分
第5回	染色体の観察と核型分析(生物学分野4)	細胞周期における核の変化と遺伝子の座である染色の形成を観察し, 細胞分裂の過程と染色体の構造を理解する。さらに現在でも出生前診断等に用いられている核型分析を行い, 染色体の利用についても理解する。	実験前に配布したテキストを読み, 実験内容及び実験手順を確認する。	60分
第6回	DNAの抽出と定性分析(生物学分野5)	遺伝情報の担い手であるDNAを実際に細胞から抽出し, 定性分析を行い, その実態について理解を深める。	実験前に配布したテキストを読み, 実験内容及び実験手順を確認する。	60分
第7回	ATPによる筋収縮実験(生物学分野6)	骨格筋を材料として筋肉の収縮現象を実際に観察し, さらにその生化学的変化の一端の理解を深めることを目的として行う。	実験前に配布したテキストを読み, 実験内容及び実験手順を確認する。	60分
第8回	コハク酸脱水素酵素の実験(生物学分野7)	生体内で行われている酵素反応を生体外の比較的簡単な実験系を用いて再現・観察し, 酵素の働きについて理解を深める。	実験前に配布したテキストを読み, 実験内容及び実験手順を確認する。	60分
第9回	化学実験の心得と器具の基本操作(化学分野1)	化学実験を行うにあたり, 器具の名前, 各器具の操作方法など基本的な知識・技術を習得する。また実験から得られた数値の取り扱い方などを学ぶ。	実験前に化学実験のマニュアル(基礎の部)を読み, 実験器具や安全ピペッター, ガスバーナーの使用方法について予習しておくこと。	60分
第10回	溶液の濃度と密度(化学分野2)	化学実験を行う際の基本的な測定方法と濃度や密度の計算を学ぶ。電子天秤で物質量を測定し, 水溶液の調整法を習得する。水溶液の濃度と密度の関係や水の密度と温度の関係について考察する。	実験前に化学実験のマニュアル(実験の部)を読み, 実験内容について予習し, 実験ノートに実験計画書き, 実験概要を把握しておくこと。溶液の濃度について復習しておくこと。	60分
第11回	容量分析(1)中和滴定(化学分野3)	中和滴定の実験を行い, 定量分析の基本操作法を学ぶ。定量実験に必要な器具の基本的な扱い方について習得する。滴定の指示薬や定量計算と物質量について理解を深める。	実験前に化学実験のマニュアル(実験の部)を読み, 実験内容について予習し, 実験ノートに実験計画書き, 実験概要を把握しておくこと。「化学基礎」の酸・塩基と塩について復習しておくこと。	60分
第12回	容量分析(2)酸化還元滴定(化学分野4)	過マンガン酸カリウム水溶液によるオキシドールの酸化還元滴定を行う。酸化還元反応に伴う電子の授受や酸化数の変化に着目し, 酸化還元反応の定義について理解を深める。定量計算法と溶液の取り扱い方を習得する。	実験前に化学実験のマニュアル(実験の部)を読み, 実験内容について予習し, 実験ノートに実験計画書き, 実験概要を把握しておくこと。「化学基礎」の酸化反応と還元反応について復習しておくこと。	60分
第13回	緩衝溶液の性質(化学分野5)	緩衝溶液の酸・塩基によるpHの変化を実験で確かめ, 実験からどのような溶液が緩衝作用を示すのかを理解する。酸・塩基とその塩および緩衝溶液のpHの計算方法をイオン平衡から理解する。	実験前に化学実験のマニュアル(実験の部)を読み, 実験内容について予習し, 実験ノートに実験計画書き, 実験概要を把握しておくこと。「化学基礎」のpHと緩衝溶液について復習しておくこと。	60分
第14回	定性分析(1)陽イオン検出(化学分野6)	金属イオンと酸・塩基・塩類の定性反応を行い, 金属イオンの性質を理解し, 定性分析法について習得する。実験で使用する種々の薬品の取り扱いや性質および金属の錯イオンについても理解を深める。	実験前に化学実験のマニュアル(実験の部)を読み, 実験内容について予習し, 実験ノートに実験計画書き, 実験概要を把握しておくこと。「化学基礎」の金属イオンの反応と検出法について復習しておくこと。	60分
第15回	定性分析(2)官能基の検出(化学分野7)	有機化合物の官能基について定性反応を行い, 官能基の検出法を習得する。実験で使用する種々の薬品の取り扱いや性質および官能基の性質について理解する。特に糖やアミノ酸・カルボン酸の性質について理解を深める。	実験前に化学実験のマニュアル(実験の部)を読み, 実験内容について予習し, 実験ノートに実験計画書き, 実験概要を把握しておくこと。「化学基礎」の有機化合物の構造式について復習しておくこと。	60分

学習計画注記

実験内容は, 実験材料の入手などの都合によって変更になる場合があります。(生物学分野)

学生へのフィードバック方法	実験時間内に作成した実験サブノート（実験レポート）、観察スケッチは次回までに添削する。（生物学分野） 実験終了後に提出したレポート内容の講評・総括を行います。各自提出したレポートの添削内容を確認して下さい。（化学分野）																		
評価方法	<p>【化学分野・生物学分野共通】化学分野50%、生物学分野50%で評価する。実験科目は出席（実験）しないとレポートが書けないので、欠席・遅刻は厳しい評価になる。この科目は化学分野と生物学分野の両方の基礎的の知識・基本的な実験操作の習得を目的としているため、全15回であるが、どちらかの分野で欠席が多い場合などは、評価が著しく低くなり不可になる可能性がある。専門実験に繋がる基礎実験なので、実験中の態度なども評価の対象となる。</p> <p>【生物学分野】毎回、実験中に提出する実験サブノートと一部の実験で描くスケッチを評価対象とする。また、専門実験で必要になる顕微鏡操作については、定期試験中に実技試験を行う。毎回の実験の提出物・実技試験・実験態度により、総合的に評価する。</p> <p>【化学分野】提出したレポートの合計点と実験態度等の平常点で総合的に評価する。</p>																		
評価基準	評価基準																		
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)														
	実験サブノート（生物学分野）	○	○	○	○														
	実験レポート（化学分野）	○	○	○	○														
	実技試験（生物学分野）				○														
評価割合	<p>【生物学分野】提出物・実験態度（43.75%）＋顕微鏡実技試験（6.25%）＝50%</p> <p>【化学分野】実験レポートの合計点（K+A； 30%）＋実験態度・出席状況等の平常点（V+A； 20%）＝50%</p>																		
使用教科書名 (ISBN番号)	教員作成の実験テキストを配付する（両分野）。																		
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・技能】人間、食物そして地域との相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識を有す。</p> <p>【思考・判断】食・栄養に関わる諸問題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して批判的・論理的に思考できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持つ。</p> <p>【技能・表現】健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的技能の基盤となる基礎的実験技能を身につける。</p>																		
オフィスアワー	水曜日2時間目（沼波） 木曜日2限目（鈴木）																		
学生へのメッセージ	本実験授業は専門科目の実験授業に必要な基本的な実験手技および理論的思考力を習得することを目標としています。そのため、「化学基礎」と「化学」の基礎的な内容を復習し、授業に臨んでください。（化学分野） 生物学・化学の知識だけでなく、実験を通して、今後、専門科目で必要な実験のリテラシーや理料的な思考を養ってください。（生物学分野）																		
教育等の取組み状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング			情報リテラシー教育			ICT活用		
	該当有無	概要																	
実務経験を活かした授業																			
アクティブ・ラーニング																			
情報リテラシー教育																			
ICT活用																			

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	栄養情報統計演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 田中 弘之	指定なし
教授	海野 知紀	指定なし
教授	江川 賢一	指定なし

ナンバリング	H21005C12
授業概要(教育目的)	Evidence-Based Nutrition (根拠に基づく栄養学) を実践するためには、まずは各種文献等の情報を有効に活用する必要がある。そのためには情報の取得方法や、統計学の理論に基づいたデータのか扱いが必須である。本演習では、インターネットを活用した各種栄養情報の収集方法、さらには統計学の基礎知識を学びながら、統計処理アプリケーションソフトを用いてデータ解析の方法を習得する。特に管理栄養士として扱うことが多い疫学データについて、数値を扱いながら理解を深める。
履修条件	特になし。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	確率論的なものの見方を理解し、統計学的推測(推定と検定)の原理と方法を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	調査や測定により得られた数値・文字データ特性を考察するための適切な集計方法や統計処理方法を類別できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	調査や測定により得られた結果を適切に考察し、図表等で表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	統計とは(田中)	国の実態をとらえるための「統計」、大量の事象をとらえるための「統計」、確率的事象をとらえるための「統計」、データと情報	各自が思いをめぐらせる統計について調べる。配布プリントにより復習する。	予習25分、復習20分
第2回	統計の基礎1(田中)	標本調査とは?~調査のしくみと設計~	配付プリントの復習をする。	45分
第3回	統計の基礎2(田中)	政府統計を読み取る	配付プリントの復習をする。	45分
第4回	統計用語を知る(田中)	用語と使用例を正確に述べられるようになること。	配付プリントの復習をする。	45分

	中)			
第5回	各種統計を読み取る(田中)	統計学以外の統計テストを説く	配付プリントの復習をする。	45分
第6回	1変数の分布の図表による表現(海野)	実験、調査などによって得られたデータは、変数(個人や状況に応じて値が変わるもの)についての分布を図にすることで全体を把握することができる。今回は、実際の質的データあるいは量的データを用いて、様々な図の作成方法を修得する。	演習で学んだ検定方法に関する課題を行うこと。	復習45分
第7回	2変数の同時表現(海野)	データ解析を行うとき、変数(項目)間の関係を調べたい場合がある。今回は、量的データ同士を表示する方法として、散布図を描き、2つの量的データ間の関連を示す指標である相関係数を求める方法を学ぶ。	演習で学んだ検定方法に関する課題を行うこと。	復習45分
第8回	2群の代表値の検定①(海野)	平均値や中央値などの代表値に関する検定には、パラメトリックな方法とノンパラメトリックな方法がある。パラメトリックな方法として、2群(グループ)の母平均値が等しいかどうかの検定、対応のある2つの平均値が等しいかどうかに関する検定がある。今回は、2群の母平均値が等しいかどうかの検定方法について学ぶ。	演習で学んだ検定方法に関する課題を行うこと。	復習45分
第9回	2群の代表値の検定②(海野)	前回は、パラメトリックな方法による2群(グループ)の母平均値が等しいかの検定法を学んだ。今回は、対応のある2つの平均値が等しいかに関する検定法を理解するとともに、2群の代表値のもう一つの検定法である母集団の分布型に関する前提を必要としないノンパラメトリックな検定法をも学ぶ。	演習で学んだ検定方法に関する課題を行うこと。	復習45分
第10回	3群以上の代表値の差の検定(海野)	2つのグループの平均値の差の検定は前回に学習した。今回は、3群以上の平均値の差の検定方法を学ぶ。2群間の検定を繰り返し行うことはせず、検定の多重性に対処する方法として、一元配置分散分析の方法を理解する。	演習で学んだ検定方法に関する課題を行うこと。	復習45分
第11回	栄養疫学入門(江川)	人間集団の栄養摂取、食習慣や食行動と疾病の関連を調査する疫学手法を理解する。	第5章人口統計を予習すること。	45分
第12回	人口統計(江川)	人口静態統計、人口動態統計、出生・死亡に関する指標を理解する。人口ピラミッド、生命表からわが国の人口の動向を理解する。	第6章保健統計調査(1 基幹統計)を予習すること。	45分
第13回	保健統計(江川)	基幹統計、一般統計調査の方法と内容を理解する。	インターネットで国民健康・栄養調査を入手し、回答すること。	45分
第14回	国民健康・栄養調査(江川)	わが国の国民健康・栄養調査の方法と内容を理解する。	第6章保健統計調査(5 情報処理)を予習すること。	45分
第15回	疫学と統計学(江川)	栄養疫学に必要な統計学・情報処理の基礎を理解する。	栄養疫学に関する学習事項を復習すること。	45分

学生へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> 提出課題の返却はせず、模範解答を記したプリントを配布するので、各自で復習すること(田中) 提出課題の返却はせず、模範解答を記したプリントを配布するので、各自で復習すること(海野) 予想問題は、次週の講義で解説する。リアクションペーパーを通じて個別の質問に対応する(江川)
---------------	---

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 教室外学習は、提出課題の内容により理解度を評価する。(田中) 教室外学習は、提出課題の内容により理解度を評価する。(海野) 教室外学習はリアクションペーパーの内容により理解度を評価する。(江川)
------	---

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			
リアクションペーパー		○		○

評価割合	定期試験(60%)、平常点(提出物を含む。40%)(海野) 定期試験(60%)、平常点(提出物を含む。40%)(江川)
------	--

使用教科書名(ISBN番号)	(1~5回)プリントを配布 (6~10回)プリントを配布 (11~15回)ていねいな保健統計学(978-4758109727)
----------------	---

参考図書	(11～15回) 国民健康・栄養調査 https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kenkou_eiyou_chousa.html 身体状況調査票 https://www.mhlw.go.jp/toukei/chousahyo/dl/h29_tyousahyou_sinntai.pdf 栄養摂取状況調査票 https://www.mhlw.go.jp/toukei/chousahyo/dl/h29_tyousahyou_eiyou.pdf 生活習慣調査票 https://www.mhlw.go.jp/toukei/chousahyo/dl/h29_tyousahyou_seikatu.pdf
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多面的なカリキュラムの履修により、人間、食物、そして地域との相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識と、それらを地域社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。 【思考・判断】個人から地域コミュニティ、グローバルな観点から現代の食・栄養に関わる諸問題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。 【技能・表現】人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的技能とともに、マネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。
オフィスアワー	月曜日15:00～17:30（田中） 木曜日1限目（海野） 木曜日昼休み（江川）

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員（田中）内閣府の白書作成や厚生労働省の承認統計（国民健康・栄養調査）の政策主担当をした。担当教員（海野）は民間企業の研究機関における研究に従事した経験を踏まえて、食品開発を目的とした基本的なデータ解析法を教授する。担当教員（江川）は民間企業の研究機関における研究に従事した経験を踏まえて、健康増進を目的としたデータ解析手法を教授する。
アクティブ・ラーニング	○	授業外学習の定着のために、予習事項のディスカッションを行い、復習事項をチェックする。（江川）
情報リテラシー教育	○	白書
ICT活用	○	Google Classroomにより教室外学習を実施し、課題（リアクションペーパー）を提出する。（江川）

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	健康・食発達心理学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	現代家政学科、人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 青木 洋子	指定なし

ナンバリング	H21006C21
授業概要(教育目的)	前半は発達心理学の基本的な知識を学ぶ。後半は、乳幼児期の摂食行動の特徴を学習し、食事を取り巻く社会環境や育児観と関連付けながら健康な食生活とは何か考える。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	発達心理学の基本的な用語とその意味を説明できる。乳幼児期の口腔機能の発達を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	講義で学んだ心理学と食発達の知識を元に、ミルクや離乳食の与え方、健康に関する情報の問題点を分析・指摘できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション: 授業の進め方・授業で扱うテーマの説明	発達心理学の年齢区分と乳幼児期の口腔発達の概要を知る。	授業の後、発達心理学領域の文献やインターネットを使用し、自分が興味を持ったテーマや用語を調べておく。発達の年齢区分の復習する。	120分
第2回	乳児期の発達心理学	乳児期の感覚・知覚・認知・運動発達の特徴を理解する。	講義で学習した用語を復習する。不明な箇所は配布物、文献、インターネット等を使用して自分で調べる。	120分
第3回	幼児期の発達心理学	幼児期の認知・運動発達の特徴を理解する。	講義で学習した用語を復習する。不明な箇所は配布物、文献、インターネット等を使用して自分で調べる。	120分
第4回	児童期の発	児童期の認知発達や社会性の発達を理解する。	講義で学習した用語を復習す	120分

	達心理学		る。不明な箇所は配布物、文献、インターネット等を使用して自分で調べること。	
第5回	青年期の発達心理学	青年期を中心に自己同一性の発達を理解する。	講義で学習した用語を復習する。不明な箇所は配布物、文献、インターネット等を使用して自分で調べること。	120分
第6回	成人期・老年期の発達心理学	成人期と老年期に変化する心理的側面を理解する。	講義で学習した用語を復習する。不明な箇所は配布物、文献、インターネット等を使用して自分で調べること。	120分
第7回	文化と学習	日本とフランスでは、幼児期のスプーン操作の習得過程が異なることを示した論考を紹介する。同じ技能獲得でも、文化によって差があることを理解する。	日本以外の国の食事について文献やインターネット、映像資料等を用いてどのような点が異なるか調べる。	240分
第8回	大学生の食事調査	参考書『若者たちの食卓』の中から、大学生の食事の実態を紹介する。	日本の食事内容と流通の歴史の変遷について、文献やインターネットを使用して調べる。特に昭和と平成の期間を重点的に調べる。	240分
第9回	保育園での生活と家庭での食事	第10回～第13回の講義内容の理解を深めるために、保育園での生活の流れ、保育園の食事、家庭での食事を映像で確認する。	「授乳・離乳の支援ガイド」の内容を確認しておく。	180分
第10回	新生児期から1歳前後の咀嚼と嚥下の発達	新生児期から1歳前後（離乳後期）の口腔機能の特徴を理解する。	教科書第1章を読んでおく。乳幼児期の食事道具にはどのような種類があるのか文献、インターネット、育児雑誌、店頭等で調べる。	240分
第11回	幼児期の食とコミュニケーション	幼児期の食事道具操作の発達と、食事場面でのコミュニケーションの発達を理解する。	教科書第2章を読んでおく。	120分
第12回	うまく食べるための調理形態・子どもの身体・食事環境	子どもがうまく食べられない要因を、食べ物・子どもの運動発達・食事に用いる道具の観点から理解する。	教科書第3章を読んでおく。ベビー用の食品（ベビーフードや菓子等）にはどのような種類があるか、菓子にはどのような特徴があるか調べる。	240分
第13回	うまく食べるための改善方法・道具と食べやすさ	これまで学習した子どもの摂食行動の特徴を踏まえて、乳幼児の食事の介助のポイントを理解する。	教科書第4章を読んでおくこと。	120分
第14回	母乳育児と人工乳	「授乳・離乳の支援ガイド」の改定で、母乳にアレルギーの予防効果がないことや、母乳のみと混合栄養（母乳と粉ミルクの両方を与えること）を比較しても児の肥満に差がないことが付け加えられた。完全母乳（母乳のみを与えること）を支持する意見と対比させながら、母乳と粉ミルクそれぞれの利点・欠点を理解する。	完全母乳（完母）・混合栄養・粉ミルクのみの育児スタイルの違いを調べて区別できるようにする。液体ミルクの発売経緯を調べる。	240分
第15回	まとめ	前半の発達心理学と、後半の乳幼児期の口腔機能の発達を復習し、理解を深める。	配布物と教科書を読み返し、これまでの講義の内容を総復習する。	300分

学習計画注記 授業内容及びスケジュールに変更が生じる場合には、事前に授業で告知する。

学生へのフィードバック方法 他の履修者と考えを共有するために、小レポートの内容を講義で紹介する。

評価方法 (1) 講義の理解度を確認するため、定期試験（筆記試験）を実施する。15回目の講義で出題範囲を告知する。
(2) 講義中に小レポートを2回実施する。レポートの評価は得点化（1回あたり最大10点）し、定期試験の得点に加算する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			
小レポート		○		

評価割合	定期試験80%、小レポート20%で評価する。	
使用教科書名 (ISBN番号)	山崎祥子 (2015) そしゃくと嚙下の発達がわかる本 芽ばえ社	
参考図書	藤村宣之編著 (2009) 発達心理学一周りの世界とかかわりながら人はいかに育つかー ミネルヴァ書房 外山紀子・長谷川智子・佐藤康一郎編著 (2017) 若者たちの食卓 ナカニシヤ出版 その他、必要に応じて講義で紹介する。	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】乳幼児期の摂食に関わる口腔機能の発達について専門的知識を身に付ける。 【思考・判断】食に関する情報を文化、社会構造、心理、栄養学等と関連付けて、正確な判断ができる思考を身に付ける。	
学生へのメッセージ	「食」は文化、歴史、社会、栄養学等様々な価値観が反映された営みです。その価値観は、単純に善悪や正誤に分けられません。本講義が、自分にとって望ましい「食」はどのようなものかを考えるきっかけになると良いです。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	社会福祉学概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 西口 守	指定なし

ナンバリング	H32107C21
授業概要(教育目的)	社会福祉とは何かという根源的な課題を整理し、社会福祉の歴史てき変遷、ソーシャルワークの発展とその方法また社会福祉やソーシャルワークの現代の課題を理解する。特に現代社会の貧困問題、生活保護制度、高齢者の支援、介護保険制度、子どもへの虐待、児童福祉制度や虐待防止法について理解を深める。 この授業対象者が栄養士を目指していることに鑑み、食と社会福祉の関連についても理解を深めていく。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	社会福祉やソーシャルワークが理解できる また福祉6法の概略を理解できる
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	福祉を知る	新聞記事から福祉の問題を探す	それを整理する	120分
第2回	社会福祉が必要な社会の状況	前回の資料をまとめ、現代社会の中での社会福祉の意義を考える	一週間のテレビや新聞、ネットで扱われた福祉の問題を気にする	120
第3回	人は一人で生きられるか 人を他者の顔色を見つけて生きるのか	アッシュの実験 ローソン工場の実験を基にして「人と社会を考える」	◎一人は好き? 一人ぼっちは好き? ◎人と「共に」生きるの好き? こんなことを考えてみて?	120分
第4回	社会福祉の歴史 社会福祉の	中世から救貧法までを学ぶ なぜ「救貧法」が制定されたか。それに及ぼした「宗教改革」を学ぶ	世界史の教科書で中世の出来事をおさえておく 特に宗教改革におけるルターの役割。ルターの目指したものを理解する	120

	歴史① イギリスの発達史			
第5回	障害福祉を学ぶ	障がい者総合支援法 ICFの概念を学ぶ	身体障害 知的障害 精神障害について学び、その3障害の支援を学ぶ ICFと支援の関係を学ぶ	120
第6回	地域福祉を学ぶ	地域福祉の概念を理解する	地域の福祉問題を身近な事例から考えておく	120
第7回	ソーシャルワークを学ぶ①	グローバル定義を学ぶ	ソーシャルワークとな何かを調べる	120分
第8回	ソーシャルワークを学ぶ①	グローバル定義を学ぶ	ソーシャルワークとな何かを調べる	120分
第9回	ソーシャルワークを学ぶ②	方法の学び① ケースワーク グループワーク	バイスティックの原則を勉強しておく	120
第10回	ソーシャルワークを学ぶ②	方法の学び① ケースワーク グループワーク	バイスティックの原則を勉強しておく	120
第11回	児童福祉①	現代の課題 虐待問題を新聞記事から考える	児童虐待を新聞記事から学ぶ	120
第12回	児童福祉①	現代の課題 虐待問題を新聞記事から考える	児童虐待を新聞記事から学ぶ	120
第13回	貧困と生活保護	貧困の問題を学ぶまた生活保護制度を概観する	貧困問題をインターネットから学んでおく	120
第14回	介護保険を学ぶ①	介護保険の全体像を学ぶ	介護保険を知っておく	120
第15回	介護保険を知る② 試験の実施	介護保険の具体像を知る	申請手続きを学んでおく	120

学習計画注記 外部施設への見学もあり

学生へのフィードバック方法 提出物へのコメントを付しての返却とコミュニケーション

評価方法 ①中間試験
②実務家講演のコメント
③学期末試験
④平常点

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間試験	○		○	
コメント			○	
学期末試験	○			
平常点			○	

評価割合 ①中間試験 30% ④平常点 10%
②コメント 20%
③学期末試験 40%
④その他 平常点 10%

使用教科書名 (ISBN番号) 別途指示

参考図書 別途指示

ディプロマポリシーとの関連 ディプロマポリシーでは、現代社会の中で福祉問題を客観的にまた主観的に捉える力を養いその解決のための制度と実践の方法を学び展開できるとしており、この視点に立って本授業は実施する。

オフィスアワー 毎週月曜日2時限

学生へのメッセージ 現代社会の負の問題（痛み）と社会福祉との関連を考えながら授業を作っていきます。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、高齢者福祉施設での勤務経験があり、できるだけ、現場の事例に即して現実的な思考と対応また現場が求めるミッションとは何かを配慮し授業展開する
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	公衆衛生学 I		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 松田 正己	指定なし

ナンバリング	H22101021
授業概要(教育目的)	公衆衛生は疾病を予防し、寿命を延長させ身体的、精神的、社会的、靈的にも健康の増進を図るために学ぶ、自然を対象とする科学(science)と人間の作った技術(art)の体系である。地域社会集団や国といった集団における健康問題を把握する方法としての公衆衛生学について学習する。公衆衛生学の視点から健康および健康問題について学習し、社会の動向も併せて保健活動や施策について学習する。プライマリー・ヘルス・ケアやヘルスプロモーション、健康問題の現状、現在国が進めている健康づくり施策、保健予防活動について学習し、人々を取り巻く環境と健康、労働と健康問題等を理解する。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	公衆衛生の基本的な考え方、理念、方法、歴史、現在等について学習し現在の課題と関係づけられる。
思考・判断の観点 (K)	集団における健康問題を指摘できるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	集団における健康問題を把握し、改善する方法としての公衆衛生学の展開に参加できるようになる。
技術・表現の観点 (A)	健康と社会、環境の関係を理解し、表現できるようになる。

学習計画

公衆衛生学

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	公衆衛生と社会・環境・健康	公衆衛生と社会・環境・健康と管理栄養士国家試験のガイドライン(法、ライフ・サイクル)。社会・環境・健康に影響の大きい人口の実態として、千代田区の昼間人口と夜間人口の予測をたて、それがどの程度当たっているか、インターネットで調べる。また、自分の住んでいる(愛着のある)市町の人口も同様に行い、比較する。集団を見る目がどの程度あるか、確認する。	人口に関係する教科書の該当部分(公衆衛生看護学総論3章)。	180分
第2回	人口動態と公衆衛生	人口動態の過去、現在、未来(予測)をインターネットで調べ、資料の保存(PDFファイル)の仕方を学ぶ。自分の市町のホームページのデータを探す。	人口に関係する教科書の該当部分(公衆衛生看護学総論3章)。	180分
第3回	比、指数、対数、と人	出生、死亡、死因統計について、実数、率、対数(特に年齢調整死亡)、ガンの死亡率、順位について学ぶ。イ	人口に関係する教科書の該当部分(公衆衛生看護学総論3章)。	180分

	口動態、静態	インターネットで自分の市町のデータを調べ、国、県等と比較する。		
第4回	死亡統計、健康指標	人口動態、静態統計の死亡統計、健康指標について、実数、率、対数（特に年齢調整死亡）、ガンの死亡率、順位について学ぶ。インターネットで自分の市町のデータを調べ、国、県等と比較し、日本と世界をインターネットで比較する。	人口に関する教科書の該当部分（公衆衛生看護学総論3章）。ミニテストのための復習。	180分
第5回	統計・ガン、ミニテスト1	統計・ガン、ミニテスト①、視聴覚教材（史的展開）	人口に関する教科書の該当部分（公衆衛生看護学総論3章）。ミニテストのための予習（教科書242-243）。	180分
第6回	公衆衛生とグローバル化	2つの悪循環、健康の定義、PHC、ヘルス・プロモーションについて学び、インターネットで自分の市町の保健、健康づくり計画等に、それらの理念が入っているか確認する。また、WHO（世界保健機関）のホームページにもアクセスを試みる。	教科書の該当部分（公衆衛生看護学総論3章84, 100-107, 128-144）。	180分
第7回	公衆衛生の理念 疾病の自然史と予防の5段階	健康と人権、PHC（プライマリ・ヘルス・ケア）、ヘルス・プロモーション、NCD（非感染症、生活習慣病）について、インターネットで自分の市町の健康日本21計画等に、それらの理念が入っているか確認する。また、WHO（世界保健機関）のホームページにもアクセスを試みる。	教科書の該当部分（公衆衛生看護学総論3章84, 100-107, 128-144）。	180分
第8回	公衆衛生の理念 プライマリ・ヘルス・ケアの4原則、8分野、ヘルス・プロモーションの5方法	プライマリ・ヘルス・ケアの4原則、8分野、ヘルス・プロモーションの5方法について、インターネットで自分の市町の健康日本21計画等に、それらの理念が入っているか確認する。	ミニテストのための復習（教科書244-245）。	180分
第9回	公衆衛生の理念、ミニテスト2、環境	ミニテスト2、フィットネス、水の環境とカッパ伝説についてインターネットで自分の市町を調べる。	ミニテストのための予習（教科書244-245）。	180分
第10回	健康と環境 食の安全	視聴覚教材（雪印食中毒事件）をみて、レポートにまとめる。（内容を整理した上で、自分のコメント、感想を付け加える。）	食中毒について	180分
第11回	健康と環境 食の国際化	視聴覚教材（狂牛病）をみて、レポートにまとめる。（内容を整理した上で、自分のコメント、感想を付け加える。）	狂牛病について	180分
第12回	健康と環境 公害	4大公害裁判について学ぶ。視聴覚教材（公害、水俣等）をみて、レポートにまとめる。（内容を整理した上で、自分のコメント、感想を付け加える。）	教科書の該当部分（公衆衛生看護学総論3章）。	180分
第13回	健康と環境 公害から地球温暖化へ	公害から地球温暖化へを学ぶ。視聴覚教材（公害）をみて、レポートにまとめる。（内容を整理した上で、自分のコメント、感想を付け加える。）	ミニテストのための復習（教科書246-247）。	180分
第14回	健康と環境 公害、ミニテスト3	ミニテスト3、公害から地球温暖化へを学ぶ。視聴覚教材（公害）をみて、レポートにまとめる。（内容を整理した上で、自分のコメント、感想を付け加える。）	ミニテストのための予習（教科書246-247）。	180分
第15回	期末試験	ミニテスト1-3	これまでのミニテスト、視聴覚教材、レポートを整理する。	180分

学習計画注記	授業の進み具合により、スケジュールは変更となります。
学生へのフィードバック方法	質問等は、時間内に対応するので、分からないことは積極的に聞いて下さい。
評価方法	①国試対策を兼ねてミニテストを3回程度（毎回50問程度）、行い、毎回8割で合格点とする。点数等は、その場で、報告する。なお、8割に達していないものは、次回、再テストを行う。 ②ミニテストを併せたものを定期試験として出題予定。 ③定期試験（80%）と平常点（5%）、レポート（5%）、小テスト（5%）

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			
ミニテスト	○			

平常点		○	○	
レポート		○	○	○

評価割合	定期試験（80%）と平常点（5%）、レポート(5%)、小テスト(5%)
使用教科書名 (ISBN番号)	1. 最新 保健学講座 1 公衆衛生看護学概論 4版 編集/金川 克子 メヂカルフレンド社 2017、978-4-8392-2179-9 (後期も使用) 2. 松田正己編、PHCとUHC—現代公衆衛生学、第3版—、クオリティケア、2018、978-4-904363-70-6 (後期も使用)
ディプロマポリシーとの関連	(知識・理解) 人間、健康、環境との相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識基盤を身につけている。 (思考・判断) 個人から地域コミュニティ、グローバルな観点から、現代の食・栄養と健康に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集する力を身につけている。 (感心・意欲・態度) 社会に貢献しようとする意思を身につけている
オフィスアワー	メールで連絡の上、時間を調整すること。
学生へのメッセージ	比の計算、指数、対数の基礎知識を前提とする。 公衆衛生学は、管理栄養士が国家資格となるための基本的要件です。また、今の時代にも必要で、実際に役に立つ学問です。身近な自分の健康問題から、家族、友人、集団、地域、国、そして世界へと、視野を広げていきましょう。毎日のテレビや新聞、インターネット上などで提供される食・栄養、並びに健康・環境関連の情報と公衆衛生を結びつけて理解しよう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	複数の市町における健康日本21の策定にあたり、学識経験者として健康づくり委員会等にて助言を行っている。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	インターネットの健康関連情報の検索、市町のホームページや、WHOのデータベース等の活用方法、レポートの作成
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	公衆衛生学Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 松田 正己	指定なし

ナンバリング	H22102C21
授業概要(教育目的)	公衆衛生学Ⅰで学習した事を基礎に、理念レベル、統計レベル、政策・指標レベル（健康日本21）の公衆衛生学を統合的に学ぶことを目的とする。健康日本21の概要、それを実現するために必要なわが国における保健医療福祉介護の対応策、ケアシステム、及び社会保障制度によって提供されている具体的なサービスの内容や、費用と財源、各種多様な福祉関連施設ならびに社会保障を担う人々について、その資格や職務内容、社会保障制度、地域社会で展開されている保健活動と法律について理解することを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	理念レベル、統計レベル、政策・指標レベル（健康日本21）の公衆衛生学を統合的に学ぶ。また、保健医療福祉介護の対応策、ケアシステム、及び、わが国における社会保障、社会保険、社会福祉制度の歴史と現状、対象別の各種の公衆衛生・保健活動を理解する。
思考・判断の観点 (K)	健康福祉に関する自己学習能力を高める。
関心・意欲・態度の観点 (V)	ケアの分かる管理栄養士を目指す。
技術・表現の観点 (A)	ヘルス・リタラシーを向上させる方法を学ぶ。

学習計画

公衆衛生学Ⅱ

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	健康と悪循環、感染症	貧困・疾病・教育不足の悪循環と感染症について、国立感染症研究所やWHOのホームページのデータベースから、感染症の5分類につき1つずつの感染症を調べる。特に食関連の感染症に注目する。	病原微生物学の復習	180分
第2回	感染症対策とケア	新興・再興感染症としてのHIVエイズの起源とまん延の経過を学ぶ。視聴覚教材（薬害エイズ患者と結婚）をみて、レポートにまとめる。（内容を整理した上で、自分のコメント、感想を付け加える。）	病原微生物学の復習	180分
第3回	感染症対策と性行動	エイズ、梅毒等の性感染症の状況、若者における性感染症増加の原因について学ぶ。視聴覚教材（インスタントセックス）をみて、レポートにまとめる。（内容を整理した上で、自分のコメント、感想を付け加える。）	病原微生物学の復習	180分

第4回	グローバル化と新興・再興感染症	グローバル化と新興・再興感染症について学ぶ。視聴覚教材（エボラ出血熱）をみて、レポートにまとめる。（内容を整理した上で、自分のコメント、感想を付け加える。）	病原微生物学の復習	180分
第5回	ミニテスト4（感染症）、親密性	ミニテスト4（感染症）、視聴覚教材（いきなり結婚）をみて、レポートにまとめる。（内容を整理した上で、自分のコメント、感想を付け加える。）	ミニテストのための予習（教科書248）	180分
第6回	ケアと難病対策と障害保健	難病対策と障害保健について学ぶ。視聴覚教材（ありがとう）をみて、レポートにまとめる。（内容を整理した上で、自分のコメント、感想を付け加える。）	教科書の該当部分。	180分
第7回	精神保健、自殺対策とケア	精神保健とDALY（障害調整生存年）、自殺対策とケアについて学ぶ。視聴覚教材（やどかりの里）をみて、レポートにまとめる。（内容を整理した上で、自分のコメント、感想を付け加える。）	教科書の該当部分。	180分
第8回	健康日本21、数値目標、健康寿命と格差の是正	健康日本21の計画と数値目標について学び、自分の市町のホームページのデータをインターネットで調べる。	教科書の該当部分。	180分
第9回	健康日本21、フィットネス	健康日本21の計画と数値目標について、ベースライン、2次計画の目標値、1次計画の最終値、などを学び、自分の市町のホームページのデータをインターネットで調べる。フィットネスについて学ぶ。	ミニテストのための復習（教科書の該当部分）	180分
第10回	ミニテスト5（健康日本21）、フィットネス	ミニテスト5（健康日本21）、フィットネスについて学ぶ。	ミニテスト5（健康日本21）の予習	180分
第11回	社会保障、フィットネス	社会保障、フィットネスについて学ぶ。	教科書の該当部分。	180分
第12回	社会保障、フィットネス	社会保障とライフサイクル、フィットネスについて学ぶ。	教科書の該当部分。	180分
第13回	フィットネス	フィットネスの実際について、外部講師から学ぶ	教科書の該当部分。	180分
第14回	ライフサイクルと公衆衛生の法、対策	ライフサイクルと公衆衛生の法、対策について学ぶ。	教科書の該当部分。	180分
第15回	ミニテスト6（社会保障）とまとめ	ミニテスト6（社会保障）、公衆衛生学Ⅱのまとめ	教科書の該当部分。	180分

学生へのフィードバック方法	質問等は、時間内に対応するので、分からないことは積極的に聞いて下さい。
評価方法	①国試対策を兼ねてミニテストを3回程度（毎回50問程度）、行い、毎回8割で合格点とする。点数等は、その場で、報告する。なお、8割に達していないものは、次回、再テストを行う。 ②ミニテストを併せたものを定期試験として出題予定。 ③定期試験（80%）と平常点（5%）、レポート(5%)、小テスト(5%)

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			
ミニテスト	○			
平常点		○	○	
レポート		○	○	○

評価割合	定期試験（80%）と平常点（5%）、レポート(5%)、小テスト(5%)
使用教科書名 (ISBN番号)	1. 松田正己編、PHCとUHC—現代公衆衛生学、第3版一、クオリティケア、2018、978-4-904363-70-6(前期に使用)

	したもの) 2.最新 保健学講座 1 公衆衛生看護学概論 4版 編集/金川 克子 メヂカルフレンド社 2017、978-4-8392-2179-9(前期に使用したもの)
ディプロマポリシーとの関連	(知識・理解) 社会の基盤となる健康「生活の質」とは何かを理解し、総合的な公衆衛生学の視点から、現代生活の健康関連の諸問題を理解できる (思考・判断) 健康関連の生活社会の諸問題を自ら発見し分析、問題解決に導く考察ができる (感心・意欲・態度) 生活者の視点に立ち、社会の健康関連の諸問題について関心を持ち続ける ことができる
オフィスアワー	メールで連絡の上、時間を調整すること。
学生へのメッセージ	公衆衛生学には、考える力が必要です。管理栄養士が国家資格となるための基本的要件です。また、今の時代にも必要で、実際に役に立つ学問です。身近な自分の健康問題から、家族、友人、集団、地域、国、そして世界へと、視野を広げていきましょう。毎日のテレビや新聞、インターネット上などで提供される食・栄養だけでなく、健康・環境関連の情報に興味を持ち、公衆衛生と結びつけて理解しよう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	国際保健の実務経験がある。また、複数の市町における健康日本21の策定にあたり、学識経験者として健康づくり委員会等にて助言を行っている。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育	○	インターネットの健康関連情報の検索、市町のホームページや、WHOのデータベース等の活用方法、レポートの作成
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	公衆衛生学実習		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限後半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 松田 正己	指定なし

ナンバリング	H22103C13
授業概要(教育目的)	①ケアの当事者の夢のグループ学習、②放射線等の測定、③個人の人生プラン、④対象別のケア、⑤年齢調整死亡率の計算、等よりなる。
履修条件	公衆衛生学I

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	公衆衛生学に関連する現代の多様なテーマを学び、理解する(災害、原発、難病、精神障害、老い、生、死、パレスチナ難民、エイズ、タイのUHC・国民皆保険、子どもの虐待と里親、食、良い看護と西田哲学等)。また、自分の生活プラン、将来設計を公衆衛生の統計データと結びつけて、作成できるようになる。
思考・判断の観点 (K)	健康福祉に関する自己学習能力を高める。
関心・意欲・態度の観点 (V)	主体的な授業への参画を求める。自分の生活プラン、将来設計を公衆衛生の統計データと結びつけられるようになる。
技術・表現の観点 (A)	健康日本21の数値目標や統計データの読み方を理解する。ヘルス・リタラシーを向上させる方法を学ぶ。

学習計画

公衆衛生学実習

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	総論 オリエンテーション、テーマの説明と各論グループ分け	総論 オリエンテーション、テーマの説明と各論グループ分け 始めにグループ分け(災害、原発、難病、精神障害、老い、生、死、パレスチナ難民、エイズ、タイのUHC・国民皆保険、子どもの虐待と里親、食、良い看護と西田哲学、を予定)(興味のあるテーマにより、8グループを予定、但し、1グループは6人以内、人数が多い場合は、別のテーマに移動)を行い、そのグループによる相互討論「テーマについてどのようなケアが望ましいか、その夢」を語り合う。	教科書第I部	
第2回	各論テーマ毎のグループ・ワーク(その1)	各論テーマ毎のグループ・ワーク(その1) 夢を語る	教科書第I部	
第3回	各論グループ	各論グループ・ワーク(その2) 夢を語り、まとめる	教科書第I部	

	ブ・ワーク (その2)			
第4回	人生プラン、環境測定	ライフサイクル、人生プラン、環境測定		
第5回	人生プラン、環境測定	ライフサイクル、人生プラン、環境測定		
第6回	人生プラン、環境測定	ライフサイクル、人生プラン、環境測定		
第7回	人生プラン、環境測定	ライフサイクル、人生プラン、環境測定		
第8回	死亡率	死亡率の計算、年齢調整死亡率		
第9回	死亡率	死亡率の計算、年齢調整死亡率(間接法)		
第10回	フィットネス	フィットネスの特別授業(実演)		
第11回	各論とモデル認識①	各論(災害、原発、難病、精神障害、老い、生、死、パレスチナ難民、エイズ、タイのUHC・国民皆保険、子どもの虐待と里親、食、良い看護と西田哲学)について、パワポによるモデル認識の作成を学ぶ。	教科書の第Ⅱ部4-5章、第Ⅲ部、第Ⅳ部、第Ⅴ部の各章	
第12回	各論とモデル認識(その②)	各論(災害、原発、難病、精神障害、老い、生、死、パレスチナ難民、エイズ、タイのUHC・国民皆保険、子どもの虐待と里親、食、良い看護と西田哲学)について、パワポによるモデル認識の作成を学ぶ。		
第13回	各論とモデル認識(その③)	各論(災害、原発、難病、精神障害、老い、生、死、パレスチナ難民、エイズ、タイのUHC・国民皆保険、子どもの虐待と里親、食、良い看護と西田哲学)について、パワポによるモデル認識の作成を学ぶ。(その③)		
第14回	ミニテスト(ライフサイクル)	教科書の該当ページ	教科書の該当ページ	180分
第15回	まとめ	各論(災害、原発、難病、精神障害、老い、生、死、パレスチナ難民、エイズ、タイのUHC・国民皆保険、子どもの虐待と里親、食、良い看護と西田哲学)について		

学習計画注記	学習の進度により、内容を調整する。特別講義は、講師の都合により、決まり次第、連絡予定。				
学生へのフィードバック方法	質問等は、時間内に対応するので、分からないことは積極的に聞いて下さい。				
評価方法	平常点(35%)、報告・レポート(65%)				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解(K)	思考・判断(K)	関心・意欲・態度(V)	技術・表現(A)
	平常点		○	○	○
	報告レポート	○	○	○	○
評価割合	授業中の発表(65%)と平常点(35%)				
使用教科書名(ISBN番号)	1. 松田正己編、いのちの地域ケア いのちの倫理を考える(第3版)、やどかり出版、2014、978-4-904185-28-5 C0036				
参考図書	1. 松田正己編、PHCとUHC—現代公衆衛生学、第3版—、クオリティケア、2018 2. 最新 保健学講座 1 公衆衛生看護学概論 4版 編集/金川 克子 メヂカルフレンド社 2017				
ディプロマポリシーとの関連	(知識・理解) 社会の基盤となる健康「生活の質」とは何かを理解し、総合的な公衆衛生学の視点から、現代生活の健康関連の諸問題を理解できる。 (思考・判断) 健康関連の生活社会の諸問題を自ら発見し分析、問題解決に導く考察ができる。 (関心・意欲・態度) 生活者の視点に立ち、社会の健康関連の諸問題について関心を持ち続けることができる。				

	(技能・表現) 他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。
オフィスアワー	月曜4限、メールで連絡の上、時間を調整すること。
学生へのメッセージ	公衆衛生学は、管理栄養士が国家資格となるための基本的要件です。また、実際に役に立つ学問です。身近な自分の健康問題から、家族、友人、集団、地域、国、そして世界へと、視野を広げていきましょう。毎日のテレビや新聞、インターネット上などで提供される食・栄養、だけでなく健康・環境関連の情報と公衆衛生を結びつけて理解しよう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	国際保健の実務経験がある。また、難病、精神保健、結核対策等の組織で実務経験がある。複数の市町における健康日本21の策定にあたり、学識経験者として健康づくり委員会等にて助言を行っている。
アクティブ・ラーニング	○	グループ・ワークを行う。
情報リテラシー教育	○	インターネットで関連資料の検索等を行う。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	疫学・社会調査法		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	疫学社会調査法・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 細川 まゆ子	指定なし

ナンバリング

H32204C21

授業概要(教育目的)

人間集団の疾病および健康現象の発生状況を把握し、それに影響を及ぼしている要因や条件を包括的に探る方策として、疫学的思考および方法を習得する。
社会集団における社会現象を調査によって直接観察し、記述する社会データ収集の一方法である社会調査の基礎的事項を学び、習得する。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	疫学の基礎的事項を理解し説明できる
思考・判断の観点 (K)	社会調査の基礎事項を理解し実施できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	無断欠席、理由の無い途中退席は禁止する。疑問に思うことは積極的に質問する
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	疫学入門 (概念・歴史)	疫学の概念・歴史について学ぶ 大いなる航海-軍医 高木兼弘の280日- (DVD) を鑑賞し、理解を深める		
第2回	疫学研究方法の種類、頻度(割合、率、比)の比較	疫学研究方法の種類について触れ、統計の復習として割合、率、比等基本的な内容について学習する	講義前に確認テストを行うため配布プリントで復習すること	30分
第3回	健康指標と疫学のデザイン	統計の復習(分布、度数分布表、度数・頻度、階級、相対度数、累積度数、累積相対度数、ヒストグラム)、疫学研究のデザイン(介入研究、コホート研究、症例対研究)、健康指標(死亡率、有病率、致命率、年齢調整死亡率とSMR、罹患率)について内容を理解する。	講義前に確認テストを行うため配布プリントで復習すること	30分
第4回	健康指標と疫学のデザ	疫学のサイクル、記述疫学(生態学的研究、横断研究)について学ぶ。事例をもとに罹患率、症例対照研究のオ	講義前に確認テストを行うため配布プリントで復習すること	30分

	イン-計算編1-	ツズ比、コホート研究の相対危険度、寄与危険割合の計算問題を解き、計算方法について理解する。		
第5回	健康指標と疫学のデザイン-計算編2-	事例をもとに、年齢調整死亡率、致命率を計算し理解を深める。また、症例対照研究とコホート研究の違いについて学習する。	講義前に確認テストを行うため配布プリントで復習すること	30分
第6回	バイアス、統計の検定方法	標本調査、無作為抽出、バイアスの種類（選択バイアス、情報バイアス、交絡バイアス）、制御方法について学ぶ。また、統計学の復習として標準偏差と標準誤差、統計の検定方法について理解を深める。	講義前に確認テストを行うため配布プリントで復習すること	30分
第7回	スクリーニング	スクリーニングの目的と適用条件について内容を理解する。スクリーニングの精度（感度、特異度）、陽性反応的中度、ROC曲線について計算を行いながら理解を深める。	講義前に確認テストを行うため配布プリントで復習すること	30分
第8回	根拠（エビデンス）に基づいた医療（EBM）及び保健対策（EBPH）1	エビデンスの質のレベル、系統的レビューとメタアナリシスについて学習する。	講義前に確認テストを行うため配布プリントで復習すること	30分
第9回	根拠（エビデンス）に基づいた医療（EBM）及び保健対策（EBPH）1	診療ガイドライン、保健政策におけるエビデンスについて学ぶ 7000人のカルテ - 九州大学医学部と久山町民の40年 - (DVD) を鑑賞し、EBM・EBPHの理解を深める。	講義前に確認テストを行うため配布プリントで復習すること	30分
第10回	疫学研究と倫理	人を対象とした研究調査における倫理的配慮、インフォームド・コンセント、診療ガイドライン、保健政策におけるエビデンスについて学習する	講義前に確認テストを行うため配布プリントで復習すること	30分
第11回	循環器疾患の疫学	日本で増え続けている生活習慣病の一つである循環器疾患を疫学的な観点から学習する。 生命の警鐘-米国フラミンガム町からのメッセージ-(DVD) の鑑賞を行い、理解を深める。	講義前に確認テストを行うため配布プリントで復習すること	30分
第12回	食事調査と栄養疫学	食事調査法と栄養疫学について内容理解する。	講義前に確認テストを行うため配布プリントで復習すること	30分
第13回	社会調査法（概要、種類、プロセス）	社会調査法の概要を理解し種類プロセスについて学習する。	講義前に確認テストを行うため配布プリントで復習すること	30分
第14回	社会調査の実施（デザイン、調査票、方法、集計作業）	社会調査の実施方法について学ぶ	講義前に確認テストを行うため配布プリントで復習すること	30分
第15回	疫学・社会調査法のまとめ	これまで学習した内容について復習し理解を深める。	講義前に確認テストを行うため配布プリントで復習すること	30分

学生へのフィードバック方法 松田先生を通してご連絡ください。

評価方法 定期試験（100%）

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○	○	

評価割合 定期試験（100%）

使用教科書名 (ISBN番号) グローバル化・健康福祉政策と公衆衛生・倫理-現代公衆衛生学第2版-松田正己編集 クオリティケア2013

参考図書 1.最新 保健学講座 6 疫学/保健統計 丸井英二 メジカルフレンド社 2008

2. はじめて学ぶやさしい疫学～疫学への招待～第2版 日本疫学会監修 南江堂 2010
 3. わかりやすいEBNと栄養疫学 佐々木敏 同文書院 2005

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】疫学・社会調査および統計学の基本的な知識を有する。 【思考・判断】疫学で学ぶ知識を活用し様々な問題解決する方策を導くことができる。
オフィスアワー	なし
学生へのメッセージ	講義で行った内容について、必ず復習う事。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	解剖生理学 I		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 原 光彦	指定なし

ナンバリング	H12201021
授業概要(教育目的)	「解剖学」は体の「構造」を、「生理学」は体の「機能」を学ぶ学問です。 「解剖生理学」は、「解剖学」と「生理学」を統合・簡略した科目で、人体栄養学の基礎となります。 この講義の教育目的は、管理栄養士が基礎知識として持つべき、正常（健康）な人体の構造を学習することです。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1. 人間の解剖学的構造が理解できる。 2. 細胞、組織、器官の部位や名称を記憶している。
思考・判断の観点 (K)	1. 人体解剖学の知識を入手する方法が身についている。 2. 解剖学的知識を応用して細胞、組織、器官の機能について推察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 健康の源であり、適切な栄養によって生まれ維持されている身体に対して関心を持ち、積極的に学ぶ態度を身につけている。
技術・表現の観点 (A)	1. 人体解剖学を理解し、適切な解剖学的用語を用いて人体の構造の説明ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	細胞の構造	身体を形成している細胞の構造や機能を学ぶ。更に、細胞分裂の種類や特徴について学習する。	教科書の第2章I, II (9-16ページ)を読んでおくこと。	180分
第2回	組織・器官の構造	同じ方向に分化した細胞の集団である組織や、いくつかの組織が集まった器官の種類を理解して、名称を記憶する。	教科書の第2章のIII, IV (16-28ページ)を読んでおくこと。	180分
第3回	人体概観・骨格系の構造	解剖学の基本である、忍耐の方向、区分、部位を示す用語を記憶する。更に、体を支持する骨格系について理解し主な骨の名称を記憶する。	教科書の第1章のI, II, III (1-8ページ)、第3章のI-VII (29-50ページ)を読んでおくこと。	180分
第4回	筋系の構造	筋肉の種類や形態を理解する。主な筋肉の名称を記憶する。	教科書、第4章I-IX (51-72ページ)を読んでおくこと。	180分
第5回	血液・生体	血液を構成する細胞性成分と液性成分の種類を理解し記	教科書の第5章 I-VIII (73-102	180分

	防御系の構造	憶する。	ページ)を読んでおくこと。	
第6回	循環器系の構造	循環器系を構成する、心臓、血管、リンパ管の構造を理解し、主な部位の名称を記憶する。	教科書の第6章 I-V (103-132ページ)を読んでおくこと。	180分
第7回	内分泌系の構造	ホルモンを産生・分泌する内分泌系の細胞、組織、器官について理解し、主なホルモンの名称やそれを産生・分泌する細胞や組織器官の名称を記憶する。	教科書の第7章 I-VII (133-156ページ)を読んでおくこと。	180分
第8回	消化管の構造	消化器系を構成する、消化管の部位及び消化腺の種類を理解し、各々の名称を記憶する。	教科書の第8章 I-VII (157-172ページ)を読んでおくこと。	180分
第9回	肝・胆・膵の構造	消化器を形成する肝・胆・膵の構造を理解し、主な構造物や部位の名称を記憶する。	教科書の第8章 VIII-XI (176-188ページ)を読んでおくこと。	180分
第10回	呼吸器系の構造	呼吸器系の解剖を理解し、主な部位の名称を記憶する。	教科書の第9章 I-X (189-216ページ)を読んでおくこと。	180分
第11回	腎・泌尿器系の構造	腎・泌尿器系の解剖学的特徴を理解し、主な部位の名称を記憶する。	教科書の第10章 I-V (217-240ページ)を読んでおくこと。	180分
第12回	生殖器系の構造	生殖器系の構造を理解し、主な部位の名称を記憶する。	教科書の第11章 (241-268ページ)を読んでおくこと。	180分
第13回	神経系の構造	神経系の分類や構造を理解し、主な部位の名称を記憶する。	教科書の第12章 I-XI (269-300ページ)を読んでおくこと。	180分
第14回	皮膚と感覚器系の構造	皮膚や様々な感覚器の構造を理解し、主な部位の名称を記憶する。	教科書の第13章 I-VII (301-326ページ)を読んでおくこと。	180分
第15回	全体の総括	第1回から14回までに学んだ内容で、特に栄養と関連が深い内容について再度見直しを行い、知識を確実なものにする。	第1回から第14回までに配布した資料を読み直しておくこと。知識が不確実な項目については、再度教科書も読んでおくこと。	480分

学習計画注記	授業の進行度合いによって講義スケジュールが変更される場合があります。
学生へのフィードバック方法	授業ごとに配布するプリントに沿って講義を行います。パワーポイントによる写真などの提示も併用します。知識を確実にするため、総括の授業も予定しています。
評価方法	定期試験の成績で100%評価します。学習態度が悪い場合には、回数や程度に応じて定期試験成績から減点します。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期テスト	○			○
授業中の学習態度			○	

評価割合	定期試験100%で評価する。 15回の講義の内、正当な理由なく6回以上欠席すると受験資格を失います。
使用教科書名 (ISBN番号)	管理栄養士を目指す学生のための解剖生理学テキスト (第4版) / 岩堀修明/文光堂/2016年 (978-4-8306-0040-1)
参考図書	ぜんぶわかる人体解剖図/坂井健雄、橋本尚詩著/成美堂出版/2017年/ISBN978-4-415-30619-3
ディプロマポリシーとの関連	本講義は、ディプロマポリシーの「知識・理解」に直結した内容である。本講義を受講することによって、解剖学的用語が身につけば、他職種との専門用語を用いたコミュニケーションが可能となり、ディプロマポリシーの「技能・表現」にも関連している。
オフィスアワー	木曜日3時限目。 1505研究室に在室時。
学生へのメッセージ	人体の主な部位や細胞・組織・器官の名称を記憶することは、人間を理解する上での基礎となります。折に触れて予習復習し、学習した知識を自分のものにして下さい。 この科目を学習すれば、正常な身体の働きについて理解が深まり、栄養と健康に関する様々な事柄が理解しやすくなるでしょう。解剖学的用語は、栄養や健康に関わる他の職種の人たちとのコミュニケーションに欠かせません。 人体は、非常に目的にあった構造をしています。楽しみながら共に勉強してゆきましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、現役の医師であり、実臨床において、いかに解剖学の知識が大切であるかを臨場感をもって教授することができる。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	解剖生理学Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 原 光彦	指定なし

ナンバリング	H12202C21
授業概要(教育目的)	解剖生理学Ⅱでは、解剖生理学Ⅰで習得した解剖学の知識に基づき、管理栄養士にとって重要な領域である「人体の構造と機能」について解説する。特に正常機能(生理学)について理解を深め、応用栄養学、臨床栄養学などの理解を助けるための知識を網羅する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	人体の主な、細胞、組織、器官、器官系の機能を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	解剖学生理学の知識に基づき、栄養障害や疾病に罹患した際にどのような問題が生じるのか推定できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	人体の機能に興味をもって、栄養と関連付けながら学習する。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	細胞の機能	細胞膜や細胞小器官の機能、遺伝情報の伝わり方、エピジェネティクスの概念について学習する。	教科書の第2章I, II (9-16ページ)を読んでおくこと。	120分
第2回	組織・器官の機能	組織・器官、気管系の特徴と機能について学習する。	教科書の第2章のIII, IV (16-28ページ)を読んでおくこと。	120分
第3回	骨格筋、筋肉系の機能	骨格筋、筋肉系、関節の機能について学習する。骨粗鬆症に関する理解を深める	教科書の第3章のI-VII (29-50ページ)と、第4章I-IX (51-72ページ)を読んでおくこと	120分
第4回	神経系の機能	興奮の伝導と伝達、中枢神経の機能局在、自律神経の神経伝達物質、脳代謝と血液脳関門について学習する。	教科書の第12章 I-XI (269-300ページ)を読んでおくこと。	120分
第5回	循環器系の機能	心臓や脈管系の機能、刺激伝導系、血圧調節機構について学習する。	教科書の第6章 I-V (103-132ページ)を読んでおくこと。	120分
第6回	呼吸器系の機能	呼吸器、呼吸運動、ガス交換の仕組み、酸素乖離曲線と酸塩基平衡、慢性肺疾患について学習する。	教科書の第9章 I-X (189-216ページ)を読んでおくこと。	120分

第7回	腎・泌尿器系の機能	体液の分布と調節、レニンアンジオテンシナルドステロン系、腎機能検査、慢性腎疾患について学習する。	教科書の第10章 1-V (217-240ページ)を読んでおくこと。	120分
第8回	血液・生体防御系の機能	血液成分のそれぞれの役割、ヘモグロビンの代謝、血液凝固と線維素溶解系、血液型、免疫とアレルギーの仕組みについて学習する。	教科書の第5章 1-VIII (73-102ページ)を読んでおくこと。	120分
第9回	消化管の機能	それぞれの部位別の消化管の機能および、腸内細菌叢と健康の関係について学習する。	教科書の第8章 1-VII (157-172ページ)を読んでおくこと。	120分
第10回	前半の総括	第1回から7回までの講義内容の復習を行い知識を確実なものにする。	第1回から7回までの配布資料を見直しておくこと。知識が不確実な部分は、教科書で確認すること。	240分
第11回	内分泌系の機能	主な内分泌器官とそこから分泌されるホルモンの名称や作用を学習する。更に、ホルモンの過不足によって生理機能がどのように変調するかを学習する。	教科書の第7章 1-VII (133-156ページ)を読んでおくこと。	120分
第12回	生殖器系の機能	男女別の生殖器の機能と男性ホルモンおよび女性ホルモンの役割、性分化、胎盤や乳腺について学習する。	教科書の第11章 (241-268ページ)を読んでおくこと。	120分
第13回	生殖器系の機能	男女別の生殖器の機能と男性ホルモンおよび女性ホルモンの役割、性分化、胎盤や乳腺について学習する。	教科書の第11章 (241-268ページ)を読んでおくこと。	120分
第14回	皮膚と感覚器系の機能	皮膚や様々な感覚器の機能を理解し、栄養と機能の関係について学ぶ。	教科書の第13章 1-VII (301-326ページ)を読んでおくこと。	120分
第15回	後半の総括	第8回から14回までの講義内容の復習を行い知識を確実なものにする。	第8回から14回までの配布資料を見直しておくこと。知識が不確実な部分は、教科書で確認すること。	240分

学生へのフィードバック方法 特に記憶にとどめるべき内容については、講義中に質問を行い、理解度を確認する。

評価方法 定期試験の成績で100%評価します。学習態度が悪く、他の生徒に迷惑をかけた場合には、程度や回数に応じて減点する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		
受講態度			○	

評価割合 実習態度が50%、レポートが50% (実習態度が良好でもレポートの提出がないと合格点に達しません。必ずレポートを提出すること。) 6回以上欠席すると「不可」の評価になります。

使用教科書名 (ISBN番号) 管理栄養士を目指す学生のための解剖生理学テキスト (第4版) / 岩堀修明/文光堂/2016年 (978-4-8306-0040-1)

参考図書 ぜんぶわかる人体解剖図/坂井健雄、橋本尚詩著/成美堂出版/2010年/ISBN978-4-415-30619-3

ディプロマポリシーとの関連 知識・理解：本実習は、正常なヒトの生理学的知識を身につける目的で行われる。
思考・判断：ヒトの解剖学と生理学を理解することによって適切な栄養の重大性に思いをはせることができる。
関心・意欲など：管理栄養士の職務を全うするためには、本講義内容の積極的な吸収が必要である。

オフィスアワー 月曜日の16:00-17:00

学生へのメッセージ 前期に学んだ解剖学の知識をもとに、さらに、臨床栄養学・応用栄養学を理解するために基盤となる生理学を学習します。人体の精巧な生理的機能について共に学びましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当職員は、現役医師であり、ヒトにおける解剖生理学を適切に教授することが可能である。
アクティブ・ラーニング		

情報リテラシー 教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	解剖生理学実習		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 原 光彦	指定なし

ナンバリング	H22203C13
授業概要(教育目的)	解剖生理学Ⅰ・Ⅱで学んだ「人体の構造と機能」を、器官系別に可能な限り実体験することで理解を深める。さらに、臨床栄養の現場で、医療チームの一員として疾病予防や栄養サポートを実施するために必要な臨床医学の基礎を体験的に習得する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	解剖生理学Ⅰ,Ⅱで学んだ、人体の主な組織、器官、器官系の名称と働きを説明できる。
思考・判断の観点 (K)	実習で得られたデータを、正しく解釈してできる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	人体の構造や機能に興味をもって、意欲的に実習に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	データに基づいて、考察を行い、結果の発表または実習レポートにまとめることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション 実習予定と注意事項、レポートの記載法	実習班の構成や出欠に関するルール、レポート提出期限、実習の評価方法を理解する。病歴の取り方を学習し、実習を安全の施行するための問診票を完成させる。	実習レポートの作成法に関して、リテラシー教育で学んだ内容を復習しておくこと。	120分
第2回	身体計測と栄養状態の評価	体表解剖学で用いられる、主な計測点の部位や名称を理解する。正しい方法で、身長、体重、ウエスト周囲長、上腕周囲長、皮下脂肪厚を測定し、BMIや体脂肪率、上腕筋面積を算出する。	教科書の第2章(18-33ページ)を読んでおくこと。	120分
第3回	運動器系の解剖生理：徒手筋力検査など	筋力評価とロコモ度テスト、運動器健診の項目を実際に体験して、自らの運動器の状態を評価する。	ロコモティブシンドロームやフレイルについて、書籍やウェブ上の情報を読んで予習しておくこと。	120分

第4回	神経系の解剖生理：疲労やストレスの評価など	認知機能検査や主な感情の評価方法を体験する。膝蓋腱反射やアキレス腱反射の出し方を学ぶ。	書籍などでMMSEやビジュアルアナログスケール、POMS2について予習しておくこと。	120分
第5回	循環器系(1)：診察法、臨床症候と血圧	循環器疾患患者に認められる臨床症候を理解する。脈の触診、心音の聴取、血圧測定を実際に経験し結果を解釈する。	教科書の第5章(52-61ページ)を読んでおくこと。	120分
第6回	循環器系(2)：心電図	安静時、運動負荷心電図を記録し結果を解釈する。体位による心電図の変化を理解する。	教科書の愛7章(66-77ページ)を読んでおくこと。	120分
第7回	呼吸器系の解剖生理：呼吸機能検査など	呼吸モデルを用いて、呼吸運動を理解する。呼吸機能検査を実際に体験して、結果を解釈する。	教科書の第6章(62-65ページ)を読んでおくこと。	120分
第8回	腎・泌尿器系の解剖生理：尿検査など	実際の尿を用いて、試験紙法を用いた尿一般検査を行い検査の仕組みや結果の解釈を学習する。血液検査データ等から、eGFRを算出し、CKDの重症度を判定する。	教科書の第10章(96-112ページ)を読んでおくこと。	120分
第9回	血液・アレルギー疾患、アナフィラキシーショックへの対応	貧血に見られる症候をパートナーとともに確認する。血液検査データから、赤血球恒数を算出し、貧血の種類を判定する。アナフィラキシーショックへの対応法をロールプレイを行うことによって身につける。	解剖生理学I, IIで使用した教科書で、貧血、アレルギーについて復習しておくこと。	120分
第10回	消化器系の解剖生理と感染予防：嚥下機能の評価など	口腔内の観察、様々な嚥下評価を体験する。経口感染予防のために、標準予防策について学習し、正しい手洗いを実践で身につける。	解剖生理学I, IIで使用した教科書の、嚥下、咀嚼の部分を復習しておくこと。	120分
第11回	内分泌系の解剖生理：経口糖負荷試験	経口ブドウ糖負荷試験を経験し、負荷後の血糖の反歌を評価する。得られた血液を用いて、ヘマトクリット値の測定法や、出血時間の評価法も学習する。	書籍やウェブで糖尿病の種類や診断方法について予習しておくこと。	120分
第12回	一次救急蘇生法：AEDの使い方	蘇生人形とトレーニング用のAEDを用いて、1次救命措置とAEDの使い方を学習する。	書籍やウェブで、一時救命措置について予習しておくこと。AEDが有効な不整脈について確認しておくこと。	120分
第13回	細胞・組織学(1)：顕微鏡の使い方、組織を顕微鏡で観察	明視野顕微鏡の使用法を身につける。筋肉、軟骨、消化管の組織を実際に観察し、組織の特徴がわかるようにスケッチする。	教科書の第3章(34-36ページ)を読んでおくこと。病理学の教科書や、ウェブ上で観察予定の組織の特徴を予習すること。	120分
第14回	細胞・組織学(2)：主な臓器の組織を顕微鏡で観察	肝臓、腎臓、脾臓、精巣、肺の組織を実際に観察して、組織の特徴がわかるようにスケッチする。	病理学の教科書や、ウェブ上で観察予定の組織の特徴を予習すること。	120分
第15回	骨の解剖：骨格標本の作成	グループで協力して、人体の骨格標本を作成する。	解剖生理学I, IIで使用した教科書の、骨格系の部分を復習しておくこと。	120分

学生へのフィードバック方法 作成された実習レポートは、採点して返却する。一般論をただ記載するのではなく、実習で得られた結果を基にして、正しく考察がなされているレポートを、高評価とする。

評価方法 実習態度が悪く、他の生徒に迷惑をかけた場合には、程度や回数に応じて減点します。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
自習レポート	○	○		○
実習態度			○	

評価割合	実習態度が50%、レポートが50%（実習態度が良好でもレポートの提出がないと合格点に達しません。必ずレポートを提出すること。） 6回以上欠席すると「不可」の評価になります。	
使用教科書名 (ISBN番号)	解剖生理学実習/山田哲雄/第一出版/2014年 (978-4-8041-1317-3)	
参考図書	管理栄養士を目指す学生のための解剖生理学テキスト (第4版) /岩堀修明/文光堂/2016年 (978-4-8306-0040-1)	
ディプロマポリシーとの関連	知識・理解：本実習は、解剖生理学的の知識を補填するものであり、相応の知識があるのを前提として行う。 思考・判断：本実習は、実習で得られたデータを解釈することによって知識を確かなものにするために行われる。 関心・意欲など：実習であることから、積極的な態度がなければ成立しない。 技能・表現：本実習で得られた結果は、プレゼンテーション資料や実習レポートとしてまとめることが要求されている。	
オフィスアワー	月曜日の16：00-17：00	
学生へのメッセージ	この実習では、今まで学んできた解剖生理学の知識を、自ら体験することで確かなものにするために行います。皆様方の積極的な関わりを期待しています。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当職員は、現役の医師であり、医療現場で実際に行なわれている、身体計測や生化学的検査、生理検査を実際に学生に体験させ、得られた結果の解釈を説明することが可能である。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	運動生理学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 江川 賢一	指定なし

ナンバリング	H22204C21
授業概要(教育目的)	運動を遂行するとき、身体は運動に最も適した状態となるように変化する。また、トレーニングを長期間継続すると、身体はそのトレーニング様式に適した変化をする。このような一過性の応答や慢性的な適応の生理学的メカニズムを講義する。
履修条件	解剖生理学および解剖生理学実習と合わせて履修することが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 運動を行ったときに身体に起こる急性応答を理解する。 2. 運動を行ったときに身体に起こる慢性適応を理解する。
思考・判断の観点 (K)	健康のための運動、競技のための運動、リハビリのための運動の違いを判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自ら健康増進や競技力向上の基礎的な実践を通じて、生涯にわたる運動の効用を説明できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス：環境への対応とストレス応答	健康寿命維持増進における運動生理学の意義、概要、学習方法を理解する。 環境適応とストレス応答について、生理学的機序を理解する。	予習：予想問題(1から12) 復習：教科書第2章の通読、用語集の作成	120分
第2回	総論：健康増進と運動	運動による健康増進効果についての科学的エビデンスを学習し、運動の急性応答と慢性適応の生理学的機序を理解する。	予習：予想問題(1から3) 復習：教科書第3章の通読、用語集の作成	120分
第3回	総論：運動・スポーツとエネルギー	運動時のエネルギー供給系の生理学的機序を理解する。	予習：予想問題(1から3) 復習：教科書第3章の通読、用語集の作成	120分
第4回	各論：運動と筋・骨系	運動の実施による筋・骨格系の生理学的メカニズムを理解する。	予習：予想問題(1から4) 復習：教科書第5章の通読、用語集の作成	120分

第5回	各論：運動と循環器系	運動の実施による循環器系の生理学的メカニズムを理解する。	予習：予想問題（1から2） 復習：教科書第6章の通読、用語集の作成	120分
第6回	各論：運動と呼吸器系	運動の実施による呼吸器系の生理学的メカニズムを理解する。	予習：予想問題（1から2） 復習：教科書第7章の通読、用語集の作成	120分
第7回	各論：運動と神経系	運動の実施による神経系の生理学的メカニズムを理解する。	予習：予想問題（1から4） 復習：教科書第8、9章の通読、用語集の作成	120分
第8回	各論：骨格筋収縮能力の維持と改善、体温調節	運動の実施による骨格筋収縮、熱産生の生理学的メカニズムを理解する。	予習：予想問題（8章1、9章1から2） 復習：教科書第9章の通読、用語集の作成	120分
第9回	スポーツと栄養	トップアスリートのスポーツ栄養管理事例から、管理栄養士に必要な運動生理学の理解を深める。	予習：教科書第10章前半（10.1～10.5）の通読 復習：教科書1から9章までの予想問題の自己採点（中間試験）	120分
第10回	スポーツと栄養総論	運動の実施によるエネルギー代謝の生理学的メカニズムを理解する。	予習：予想問題（1から5） 復習：教科書第10章後半（10.6～10.11）の通読、用語集の作成	120分
第11回	スポーツと栄養各論	運動と栄養摂取の生理学的メカニズムを理解する。	予習：予想問題（1から2） 復習：教科書第11章の通読、用語集の作成	120分
第12回	運動負荷評価法	運動負荷テストの目的、種類、様式を理解し、運動負荷テストの実施上の注意点を理解する。	予習：予想問題（1から2） 復習：教科書第12章の通読、用語集の作成	120分
第13回	運動処方	安全で効果的な運動処方の科学的根拠を学習し、健康づくりに応用する。	予習：予想問題（1から4） 復習：教科書第13章の通読、用語集の作成	120分
第14回	運動療法	内科的および外科的疾患の予防、治療に必要な病態を理解し、安全で効果的な運動療法を理解する。	予習：予想問題（1から4） 復習：教科書第14章の通読、用語集の作成	120分
第15回	運動障害	内科的および外科的障害の予防、治療に必要な病態を理解し、安全で効果的な運動療法を理解する。	予習：予想問題（1から2） 復習：教科書の通読、教科書10から14章までの予想問題の自己採点（期末試験）	120分

学習計画注記	※履修者数や講義の進捗によりスケジュールが変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	教室外学習の予想問題は、次週の講義で解説する。リアクションペーパーを通じて個別の質問に対応する。
評価方法	中間試験は教科書1から9章の範囲から出題する。期末試験は教科書10から14章の範囲から出題する。特別授業、教室外学習はリアクションペーパーの内容により理解度を評価する。再試験は実施しない。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
リアクションペーパー			○	
中間試験	○	○		
期末試験	○	○		

評価割合	リアクションペーパー20%、中間試験40%、期末試験40%
------	-------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	山本順一郎 (2018) エキスパート管理栄養士養成シリーズ16運動生理学 (第4版). 化学同人. (ISBN : 9784759812497)
-----------------	---

参考図書	なし
------	----

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】運動を中心とした人間の栄養に関する専門的知識と、それらを応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている 【思考・判断】運動と栄養に関わる諸課題を探索し、その課題解決に向けて正確な情報を収集し、論理的批判的に思考できる 【関心・意欲・態度】運動を中心とした人間の栄養に関心を持ち、管理栄養士として貢献する意欲と態度を身につけている
---------------	--

オフィスアワー	木曜日昼休み	
学生へのメッセージ	人間の生命を守り、健康を増進する上で管理栄養士に不可欠な科目であり、解剖生理学などと関連付けた教室外学習が必須である。疑問や質問は講義中に解決するように積極的に参加し、ディスカッションを中心に予習、復習をすること。スポーツ栄養士を目指す学生は完全にマスターしてほしい。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は民間企業の研究機関における運動生理学的研究に従事した経験を踏まえて、人体の構造と機能に関する理解を促進するための専門的知識を教授する。
アクティブ・ラーニング	○	授業外学習の定着のために、予習事項のディスカッションを行い、復習事項をチェックする。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	Google Classroomにより教室外学習を実施し、課題（リアクションペーパー）を提出する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	微生物学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 津山 淳	指定なし

ナンバリング	H12205G21
授業概要(教育目的)	<p>微生物は身の回りに多く存在し、我々に様々な影響を与えている。特に、管理栄養士は食中毒、発酵、腸内細菌、さらに感染リスクの高い患者の栄養指導など微生物と接する機会が多い。そのため微生物学は重要な基礎科目である。</p> <p>本講義では感染機構および宿主の防御機構、主な感染症の概要について解説する。微生物の基礎的な知識を習得した上で、主に感染症や食中毒を引き起こす微生物について学んでいくための内容となる。</p> <p>初めて微生物を学ぶことを想定し、基本的な内容から丁寧に説明するが、時によっては最新の研究成果も紹介していく。</p>
履修条件	無し

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食中毒や腸内細菌など、食や人間の栄養と微生物との関連について理解する。 2. 免疫学の基本用語を理解し、病原体に対する宿主の防御機構を説明できる。 3. 主な感染症およびそれを引き起こす病原体の種類と構造について理解する。
思考・判断の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染性を持つ病原体の種類や性質、危険性を分類できる。 2. 食中毒を引き起こす病原体を熟知し、調理時の予防策を立案できる。 3. 微生物の本質的な基礎を習得することにより、健康・栄養と微生物の接点をイメージできる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 調理時の適切な衛生環境の向上に積極的に寄与できる 2. 勤務先において感染症患者や感染症発生時の対応に円滑に寄与できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ
第1回	微生物とは何か
第2回	感染の基本と自然免疫システム
第3回	獲得免疫システム
第4回	細菌の分類とグラム陽性球菌
第5回	通性嫌気性グラム陰性桿菌

第6回	好気性菌 芽胞菌
第7回	嫌気性菌 マイコバクテリウム 非定型細菌
第8回	ウイルス I
第9回	ウイルス II
第10回	ウイルス III
第11回	プリオン 真菌
第12回	蠕虫と原虫
第13回	感染性食中毒
第14回	ワクチン・腸内細菌と腸管免疫
第15回	法令・院内感染予防・消毒と滅菌

学習計画注記	アプリを用いたアクティブ・ラーニングを実施する予定である。 スマートフォン、タブレット、ノートPCの持ち込みを推奨する。
学生へのフィードバック方法	質問は講義中いつでも受け付けます。また、メールでの質問も受け付けますが、その場合はメールで返信するか授業において解説するかは講師が判断します。 公平を期すため、定期試験に関する質問は試験前最後の講義以降は基本的に受け付けません。
評価方法	試験100%（100点満点）で行う。 ただし、講義中に内容に関連した質問をした場合や、こちらから出す問いに対して高度な回答した場合は加点の対象とする場合がある。 試験は定期試験のみ。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期テスト	○	○		

評価割合	試験100%（100点満点）で行う。
使用教科書名 (ISBN番号)	なし
参考図書	病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症, 編集: 医療情報科学研究所 ブラック微生物学, 著者: Jacquelyn G. Black, 監修・翻訳: 神谷 茂, 高橋 秀実, 林 英生, 俣野 哲朗
ディプロマポリシーとの関連	微生物学は感染症のみならず食中毒、発酵、腸内細菌など食や健康との関連が深い。 抵抗力の低下した方への栄養指導や食事の提供を行う管理栄養士には、本講義で解説する食中毒を引き起こす病原体の「知識と理解」は必須である。また、最近では腸内細菌叢による各種代謝が人間の栄養に重要な役割を果たしていることが明らかとなっている。このように日進月歩で新しい知見が見出されている領域でもあるため、本講義では最新知見にも対応できる「思考と判断力」の形成に向けた基礎を目指す。そのため表層的な議論に留まらず最新の研究成果やその考え方についての解説も、あくまでも1年生向けに行っていく。
オフィスアワー	火曜日 14:00-14:40, 17:50-18:20 (事前にメールで予約をもらえると確実に対応できます)
学生へのメッセージ	高校までの生物学の知識があることが望ましいです。 ただし、不明点があればいつでも質問して下さい。 どんな初歩的な質問であっても構いませんので、理解しないまま素通りしないようにして下さい。質問は講義中いつでも構いません。 鋭い質問は加点の対象とする場合も有ります。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学生の理解度確認および理解向上のためクリッカーアプリを用いた問題を講義中に出すことを予定している。ネットワークやアプリ動作など環境に応じて柔軟に対応する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	臨床病態栄養学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 斉藤 恵美子	指定なし

ナンバリング	H22206C21
授業概要(教育目的)	臨床栄養の現場で管理栄養士が遭遇する主な疾患について、その疾病の成り立ちを学ぶ。1年次に履修した解剖生理学や生化学、基礎栄養学の知識を基に、種々の疾患の発症機序や主要症状、臨床検査、治療の基本的な考え方について学習し、臨床栄養学習得に向け必要とされる医学的な理解、解釈ができるようにする。
履修条件	解剖生理学I および解剖生理学II を履修していること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	各疾患の病態や診断など、臨床医学の基礎的知識を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	臨床医学の基礎的知識を、栄養ケアプロセスと関連付けて考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	加齢・疾患に伴う変化	加齢に伴う変化、疾患に伴う変化(炎症、萎縮・肥大、化生・異形成、腫瘍など)、個体の死について学ぶ。	事前学習:教科書第1章を読んでおく。 事後学習:授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第2回	疾患診断の概要	主な症候、および主な臨床検査の意義と解釈について学ぶ。	事前学習:教科書第2章を読んでおく。 事後学習:授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第3回	疾患治療の概要	主な治療法について学ぶ。	事前学習:教科書第3章を読んでおく。 事後学習:授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第4回	栄養障害と代謝疾患1	栄養障害、肥満、メタボリックシンドローム、脂質異常症の成因、病態、症状、診断について学ぶ。	事前学習:1年次に学んだ内分泌系や生化学、基礎栄養学について復習しておく。教科書第4	150分

			章の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	
第5回	栄養障害と代謝疾患2	糖尿病、高尿酸血症、痛風について、成因、病態、症状、診断について学ぶ。	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ内分泌系について復習しておく。教科書第4章の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第6回	消化器系1	消化器系疾患（口腔、食道、胃十二指腸、大腸）の影印、病態、症状、診断について学ぶ。	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ消化器系について復習しておく。教科書第5章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第7回	消化器系2	肝胆膵系疾患の成因、病態、症状、診断について学ぶ。	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ消化器系（肝胆膵）について復習しておく。教科書第5章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第8回	循環器系	循環器系疾患（脳卒中を除く）の成因、病態、症状、診断について学ぶ。	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ循環器系について復習しておく。教科書第6章の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第9回	腎臓系1	腎臓系疾患の成因、病態、症状、診断について学ぶ。	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ腎臓系について復習しておく。教科書第7章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第10回	腎臓系2、 尿路系、 生殖器系	腎臓系疾患、尿路系疾患、男性生殖器系疾患の成因、病態、症状、診断について学ぶ。	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ腎・尿路系、生殖器系について復習しておく。教科書第7章および第12章の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第11回	内分泌系	内分泌系疾患の成因、病態、症状、診断について学ぶ。	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ内分泌系について復習しておく。教科書第8章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第12回	脳、神経・ 精神系	脳卒中、神経疾患、精神疾患の成因、病態、症状、診断について学ぶ。	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ呼吸器系について確認しておく。教科書第6章の該当部分および第9章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第13回	呼吸器系、 血液系	呼吸器系疾患および血液系疾患の成因、病態、症状、診断について学ぶ。	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ呼吸器系、造血器系について復習しておく。教科書第10章および第13章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第14回	運動器系	運動器系疾患の成因、病態、症状、診断について学ぶ。	事前学習：1年次の解剖生理学で学んだ運動器系（筋、骨）について復習しておく。教科書第11章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第15回	まとめ	全体を通してのまとめ。 学習到達度の確認テスト。	事前学習：これまでの授業の内容を総復習しておく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	600分
第16回				

学習計画注記	履修者の状況や授業の進度によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	講義時に、講義内容に相当する管理栄養士国家試験に準じた練習問題を行う。				
評価方法	学習到達度の確認テスト（筆記試験）で評価を行う。60%以上の得点で合格とする。筆記試験の形式については授業内で説明する。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	筆記試験	○	○		
評価割合	筆記試験100%				
使用教科書名 (ISBN番号)	健康・栄養科学シリーズ 臨床医学—人体の構造と機能及び疾病の成り立ち (南江堂)				
参考図書	病気がみえる vol.1~11 (MEDIC MEDIA), イメージするからだのしくみシリーズ MEDIC MEDIA				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「人間の栄養」を理解するための専門的知識を身につける。 【思考・判断】食・栄養に関わる諸問題の解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。				
オフィスアワー	火曜4時限 1503研究室				
学生へのメッセージ	1年次に履修してきた科目を基にした科目であると同時に、今後の専門科目の基盤となる科目ですので、しっかり理解するよう努めてください。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、医療の実地臨床において、診療業務等の実務経験を有しており、臨床現場における現状や具体例も呈示しながら、実践的な内容を教授している。			
アクティブ・ラーニング					
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	分子栄養学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 海野 知紀	指定なし

ナンバリング	H22207C21
授業概要(教育目的)	栄養素の代謝は、生体を持つ巧みな分子機構により調節されている。この調節には、ホルモン、酵素タンパク質、ビタミン、微量金属などが重要な役割を担っている。本講義では、人間の健康あるいは疾病に関連する生体の代謝調節機構について分かりやすく概説し、栄養学を細胞生物学あるいは遺伝子生物学と関連させながら、分子レベルの視点から捉えていく。
履修条件	特になし。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞膜を介した物質の移動を説明できる。 2. 酵素とその機能を説明できる。 3. DNAの構造とDNAの複製のしくみを説明できる。 4. 遺伝子の発現とその制御機構を説明できる。 5. 生活習慣病と遺伝子多型(遺伝因子)の関連を説明できる。 6. 細胞間情報伝達物質とそれらによる調節を説明できる。 7. 個体の恒常性(ホメオスタシス)とその調節機構を説明できる。 8. 糖質代謝, 脂質代謝, アミノ酸代謝の相互関連を説明できる。 9. ヌクレオチドの合成, 分解, 再利用を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 遺伝子発現に及ぼす栄養素、非栄養素、栄養状態の影響を類別できる。 2. 満腹時(食後)、空腹時(食間期)の栄養素の代謝変化を類別できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	生体物質と細胞	真核細胞には、核をはじめとして様々な細胞小器官や構造物がみられる。これらが互いに関連して働くことで、生命活動が営まれていることを理解する。特に、細胞膜については水や栄養素の細胞内への取込みに係る役割を果たしていることから、その構造的特徴を中心に説明する。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。	予習・復習をあわせて120分
第2回	細胞膜を介	前回に細胞膜の構造を学んだ。今回は、膜を介した物質	配布されるプリントを予習・復	予習・復習をあわせて

	した物質の移動	の出入りの仕組みについて理解する。生体膜を介して物質が移動する場合、膜に配置された輸送たんぱく質を通過するが、輸送たんぱく質のチャネル、担体、ポンプとしての働きを学ぶ。	習しておくこと。	120分
第3回	酵素とその働き	細胞内の化学反応は生体触媒である酵素のはたらきで行われる。酵素の種類（酸化還元酵素、転移酵素、加水分解酵素、脱離酵素、異性化酵素、合成酵素）や性質（基質特異性、最適温度、最適pHなど）を学ぶ。また、酵素とともに働く補酵素の役割や酵素反応の調節の機序を理解する。さらに、酵素の阻害形式（競争的阻害、非競争的阻害、反競争的阻害）の酵素反応論的な知識を得る。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。	予習・復習をあわせて120分
第4回	遺伝情報とその発現（DNAの構造と複製）	遺伝子の本体はDNAであり、母細胞のDNAが正確に複製され、娘細胞に伝えられる。DNAの構造を学び、DNAの半保存的複製のしくみについて理解する。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。 授業の最初に、1～3回の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。	予習・復習をあわせて240分
第5回	遺伝情報とその発現（たんぱく質の合成）	DNAは、塩基配列という形で遺伝情報を保持している。この塩基配列によって、生命活動で中心的な役割を担うたんぱく質のアミノ酸配列が決められ、形質が発現する。遺伝子が発現してたんぱく質が合成される過程（転写、翻訳）を理解する。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。	予習・復習をあわせて120分
第6回	遺伝子の発現調節	多細胞生物は、同じ遺伝情報を持つ多数の細胞からなるが、それぞれの細胞には形や機能に違いがある。このような違いは、細胞によって発現している遺伝子が異なることによって生じる。真核生物における転写調節因子の役割などについて理解する。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。	予習・復習をあわせて120分
第7回	遺伝子と疾患	単一遺伝子疾患は遺伝要因のみで発症する疾患であるが、生活習慣病などの多くの疾患は遺伝要因と環境要因がそれぞれある割合で関与している。代表的な疾患について学び、さらに近年急速に明らかになりつつある多因子疾患と遺伝子の係りについて理解する。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。	予習・復習をあわせて120分
第8回	情報伝達の機構（細胞間情報伝達、細胞内シグナル伝達と内分泌系・神経系による調節）	細胞同士は様々な形で情報をやりとりしている。大きく分けると、隣り合った細胞がお互いに接着してその部分で情報交換する場合と、ある細胞が何らかの物質を分泌してそれを他の細胞が受け取る場合がある。さらに、情報を細胞膜で受け取ったときに、細胞内にある別の情報伝達を介して細胞内に伝えられる仕組みもある。このような細胞間情報伝達や細胞内シグナル伝達を学ぶ。また、信号分子が特定の細胞から血液中に分泌されて運搬され、離れた場所で作用するホルモンのその働きを理解する。信号分子を分泌する細胞と情報を受け取る細胞が近接している場合の例として、シナプスにおける情報伝達についても学ぶ。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。 授業の最初に、4～7回の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。	予習・復習をあわせて240分
第9回	摂食制御の情報伝達	摂食は、満腹中枢と摂食中枢の相反的な活動によって制御されているが、この活動は様々な情報伝達物質が関わっている。今回は、摂食制御の体液性伝達と神経性伝達について理解する。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。	予習・復習をあわせて120分
第10回	個体の恒常性（ホメオスタシス）とその調節機構	睡眠と覚醒、ホルモンの分泌、体温の変化などは昼夜の光刺激によって調整されている。このような概日リズム（サーカディアンリズム）をコントロールしているのが「時計遺伝子」と呼ばれる遺伝子群である。体内時計の刻みを促進または抑制する因子について学ぶ。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。	予習・復習をあわせて120分
第11回	エネルギー代謝	食事から体内に取り込まれたグルコースは、グルコース6-リン酸となり、グルコース6-リン酸から分岐していく。このようおなグルコースの代謝系は、それぞれの組織特異性によった役割を果たしている。今回は、グルコース代謝系（解糖系、クエン酸回路、電子伝達系と酸化リン酸化、熱産生）を理解し、グルコースの利用における組織の役割の違いを学ぶ。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。	予習・復習をあわせて120分
第12回	糖質の代謝	前回はグルコース代謝に関わる組織特異的な発現について学んだ。今回は、満腹時（食後）と空腹時（食間期）における糖質の代謝について、糖新生経路、グリコーゲンの合成・分解経路、ペントースリン酸経路、ウロン酸経路を取り上げ、それぞれの糖質代謝の全体像を理解する。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。 授業の最初に、8～11回の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。	予習・復習をあわせて240分
第13回	脂質の代謝	生化学の学習内容とリンクさせながら、脂肪酸の合成、伸長、不飽和化の経路とβ酸化、ケトン体の合成・利用経路を学ぶ。食後（満腹時）と食間期（空腹時）におけるトリグリセリドの合成・分解経路を理解するとともに、脂質の輸送経路に関する知識についても修得する。また、コレステロールの合成経路とコレステロールの利用についても学ぶ。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。	予習・復習をあわせて120分

第14回	たんぱく質・アミノ酸の代謝	食後（満腹時）と食間期（空腹時）におけるたんぱく質の合成と分解、アミノ酸の分解経路（アミノ基転移反応と尿素回路、炭素骨格の代謝）とアミノ酸の利用を学ぶ。また、エネルギー産生栄養素としての糖質、脂質、アミノ酸代謝の相互関係を理解する。アミノ酸由来の生理活性アミンの種類などの構造についても説明する。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。	予習・復習をあわせて120分
第15回	ヌクレオチドの代謝	ヌクレオチドのデノボ合成とサルベージ合成の機序を学び、ヌクレオチドの分解・排泄経路とあわせて、巧みな調節機構を理解する。また、これらの機構の異常に伴う疾患についての知識を修得する。	配布されるプリントを予習・復習しておくこと。 授業の最初に、12～14回の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。	予習・復習をあわせて540分

学生へのフィードバック方法	・実施した小テストは、採点して次週の授業にて返却する。小テストの模範解答は掲示するので、質問等がある場合には1205研究室（emailも可）まで訪問すること。
---------------	---

評価方法	・小テストは3～4回分の授業に係る学習範囲から出題し、授業内に計4回実施する。1回当たりの問題数は20問で、すべて穴埋め方式で出題する。なお、学外実習等の合理的な理由がない限り、小テストの追再試験は行わないので注意すること。 ・定期試験は80点満点で出題し、小テストの振り返りや、管理栄養士国家試験の出題形式に基づく選択式の問題を含む。また、記述問題によって応用的な思考力や判断力を確認する。出題の傾向については、最後の授業にて説明する。
------	--

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○			
定期試験	○	○		

評価割合	小テスト（20%）、定期試験（80%）
------	---------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	プリントを配布
-----------------	---------

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物、そして地球・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。 【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養問題に対する積極的な取り組みを判断できる力を身につけている。
---------------	---

オフィスアワー	水曜1時限 1205研究室
---------	---------------

学生へのメッセージ	生活習慣病は、遺伝的素因と環境的要因によって発症する。個々の遺伝子の特徴によって最適な栄養管理を目指すことを「オーダーメイド栄養」と呼ばれる。生活習慣病に係る遺伝子の知識を修得することは、管理栄養士として基本的事項であるので、苦手意識を持たずにしてほしい。
-----------	--

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	生化学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 馬場 修	指定なし

ナンバリング

H12208C21

授業概要(教育目的)

生化学は生命現象の本質を化学的方法によって解明しようとする学問である。生化学 I では、一般的な生化学の知識を習得するとともに、特に食品学、栄養学、調理学との関連を重視し、我々が食品に含まれる栄養素をどのように体内に取り入れ、どのように生命の維持と生命現象の発現に利用しているかについて概説する

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 細胞内小器官における物質代謝を説明できる。 生体成分の構造ならびに機能を説明できる。	2. 主要な
思考・判断の観点 (K)	1. 主要な生体成分の代謝について概説できる。 2. 主要な代謝経路の役割について概説できる。	
関心・意欲・態度の観点 (V)		
技術・表現の観点 (A)		

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	細胞の構造と機能	細胞の構造と細胞小器官の役割について理解する。	教科書6~11頁、生物の基本単位-細胞を読んでおくこと。	90分
第2回	糖質の種類と構造	糖の構造と化学的性質を理解する。	教科書41~49、糖質の特徴を読んでおくこと。	120分
第3回	糖質の代謝①	解糖系におけるグルコースの代謝と生成物について理解する。TCA回路とその生成物について理解する。	教科書52~56頁解糖系・TCA回路を読んでおくこと。	120分
第4回	糖質の代謝②	五炭糖リン酸回路で生成する物質とその働きについて理解する。グリコーゲンの合成と分解について理解する。糖質以外の生体成分からのグルコース生成である糖新生について理解する。	教科書58~62頁を読んでおくこと。	120分
第5回	脂質の構造と化学	たんぱく質の消化と温度の関係を人工消化試験から観察する。	教科書77~86頁を読んでおくこと。	120分
第6回	脂質の代謝①	脂肪酸合成・リポたんぱく質と脂質の輸送について理解する。	教科書92~94、97~101頁を読んでおくこと。	120分

第7回	脂質の代謝②	コレステロール代謝・リン脂質の合成・イコサノイドの種類と機能について理解する。	教科書87～92頁を読んでおくこと。	120分
第8回	アミノ酸・たんぱく質の構造と化学	たんぱく質の分類・構造と変性、アミノ酸の構造・種類について理解する。	教科書101～109頁を読んでおくこと。	120分
第9回	アミノ酸・たんぱく質の代謝①	たんぱく質の分解 アミノ酸の代謝 アミノ基転移反応・酸化的脱アミノ反応について理解する。個々のアミノ酸の代謝と生成物について理解する。	教科書110～114頁を読んでおくこと。	120分
第10回	アミノ酸・たんぱく質の代謝②	尿素回路について理解する。	教科書115～116頁を読んでおくこと。	120分
第11回	たんぱく質の生合成・遺伝子発現の調節	たんぱく質の生合成の機序、遺伝子発現について理解する。	教科書129～135頁を読んでおくこと。	120分
第12回	核酸代謝	核酸の生合成と分解について理解する。	教科書121～123頁を読んでおくこと。	120分
第13回	生体の調節因子	酵素の反応形式と酵素の分類・構造。	教科書141～147頁を読んでおくこと。	120分
第14回	生体の調節因子	酵素の反応速度。	教科書150～152頁を読んでおくこと。	120分
第15回	生体の調節因子	ステロイドホルモン・ペプチドホルモンの作用形式。	教科書158～163頁を読んでおくこと。	120分
第16回				

学生へのフィードバック方法 質問等は随時受け付けるので、1204研究室まで。

評価方法 講義内容の範囲から出題する試験によって評価。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		

評価割合 定期試験 (100%)

使用教科書名 (ISBN番号) 基礎から学ぶ生化学/奥 恒行他編/南江堂/20016 ISBN978-4-524-24779-0 c3047

参考図書 生化学ガイドブック (南江堂)
ハーパー生化学 (丸善)

ディプロマポリシーとの関連 管理栄養士として必要な、基礎専門知識を実験を通して身につける。得られた結果について論理的思考による判断が行える。

オフィスアワー 木 2・3限

学生へのメッセージ 高校で学んだ生物並びに化学の知識が基礎となります。ぜひ再度見直しをして下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	生化学実験		
講義開講時期	前期後半	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	4 限後半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	健康栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 馬場 修	指定なし

ナンバリング

H22209C13

授業概要(教育目的)

生化学的知識、すなわち生体成分の性質やそれらが示す化学反応と生命機序を理解するための基礎的実験を行う。他の実験と同様、実験をうまく進めていくためには、正確な実験操作と細かな観察や記録が不可欠であることはもちろん、どのような原理によっているのか、実験で得られた数値などの結果から、どのような結論が導けるのかなどを理解する。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)
第1回	実験の予定と諸注意 基礎実験Ⅰ	ピペットの使い方に習熟する。比色計を用いて検量線を作成する。
第2回	実験の予定と諸注意 基礎実験Ⅱ	ピペットの使い方に習熟する。比色計を用いて検量線を作成する。
第3回	糖質実験(糖質の代謝Ⅰ)	代謝反応の観察から解糖系について理解する。 代謝産物の同定。
第4回	糖質実験(糖質の代謝Ⅱ)	代謝反応の観察から解糖系について理解する。 代謝産物の同定。
第5回	脂質実験(脂質の抽出と定量Ⅰ)	脂質の抽出法について理解する。
第6回	脂質実験(脂質の抽出と定量Ⅱ)	脂質の抽出法について理解する。 脂質含量の測定。コレステロールの定量
第7回	核酸実験(Ⅰ)	核酸の抽出法について理解する。
第8回	核酸実験(Ⅱ)	核酸の化学的性質について理解する。

第9回	酵素実験 (I)	酵素の反応動力学について理解する。
第10回	酵素実験 (II)	反応形式を理解し、Kmを求める。
第11回	尿中成分の定量	臨床診断にも用いられる尿素、クレアチニンを定量し、特質について理解する。
第12回	尿中成分の定量	臨床診断にも用いられる尿素、クレアチニンを定量し、特質について理解する。得られた結果について評価する。。
第13回	ビタミンの定量 I	抽出法ならびに定量法について理解する。
第14回	ビタミンの定量 II	抽出法ならびに定量法について理解する。得られた結果について評価する。
第15回	まとめと試験	

学生へのフィードバック方法 レポートにより理解ならびに説明が必要な点についてフィードバックする。

評価方法 レポート、小テストによる総合評価。

評価基準

評価基準					
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	
レポート	○	○	○	○	

評価割合 レポート (90%)、小テスト (10%)

使用教科書名 (ISBN番号) プリントを配布
新しい生化学・栄養学実験 ISBN4-7827-0450-x c3077

ディプロマポリシーとの関連 管理栄養士として必要な、基礎専門知識を実験を通して身につける。得られた結果について論理的思考による判断が行える。

オフィスアワー 木 2・3限

学生へのメッセージ 高校で学習した化学・生物に関する基礎知識も必要となります。事前学習は必要としないが、基礎栄養学、生化学の基礎的内容を理解していることが望ましい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	基礎食品学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 海野 知紀	指定なし

ナンバリング	H12301021
授業概要(教育目的)	食品成分(水、炭水化物、タンパク質、脂質、ミネラル、ビタミン、嗜好成分など)の化学的性質について学ぶ。また、食品の生育・生産から、調理・加工を経て、ヒトに摂取されるまでの過程で、その食品の持つ栄養特性と物性がどのように変化するかを総合的に理解する。環境負荷等の観点から食料廃棄など社会生活との関わりについても学ぶ。さらに、食品成分が健康維持・増進に及ぼす影響と疾病予防に対する役割を理解し、食品表示に係る法制度についても概説する。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食べ物の循環(食物連鎖・フードシステム)を説明できる 2. 食品に含まれる各種成分の種類、構造、性質、所在を説明できる。 3. 食品成分間反応における、栄養面、嗜好面、安全面への影響を説明できる。 4. 食品の物性について説明できる。 5. 食品の表示に係る制度を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食品成分の機能性や疾病予防に対する役割を列記することができ、適切に利用するための食品表示制度の仕組みを類別できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	食生活と健康、食料と環境問題	食べ物と人の関わりを歴史の変遷の観点から学ぶ。食料の需給システムと環境問題を理解する。	教科書第1章の「食品の歴史の変遷」「食料と環境問題」(1~9ページ)を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて120分
第2回	食品の主要成分(水分)	食品中の水の状態(結合水・自由水)と、物性や貯蔵性との関連を理解する。	教科書第3章の「1. 水(水分)」(27~33ページ)を読んでおくこと	復習と予習をあわせて120分
第3回	食品の主要成分(炭水)	食品中の単糖、少糖、多糖の種類、構造、性質、所在を知る。食物繊維(水溶性・不溶性)の生理的機能を理解	教科書第3章の「2. 炭水化物」(33~50ページ)を読んでおく	復習と予習をあわせて120分

	化物)	する。	こと。	
第4回	食品の主要成分(脂質)	食品中の脂質の種類、構造、性質、所在を知る。油脂の物理化学的指標としてのケン化価、ヨウ素価、過酸化価等を理解する。	教科書第3章の「3. 脂質」(50～64ページ)を読んでおくこと。 授業の最初に、1～3回の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。	復習と予習をあわせて240分
第5回	食品の主要成分(タンパク質)	食品中のアミノ酸、ペプチド、たんぱく質の種類、構造、性質、所在を知る。たんぱく質の変性の栄養学的意義を理解する。	教科書第3章の「4. たんぱく質」(64～74ページ)を読んでおくこと	復習と予習をあわせて120分
第6回	食品の主要成分(ビタミン)	食品中のビタミンの種類、構造、性質、所在を知る。食品の加工や貯蔵に係る含有量の変化を理解する。	教科書第3章の「5. ビタミン」(75～80ページ)を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて120分
第7回	食品の主要成分(ミネラル)	食品中の無機質の種類、性質、所在、生理的機能を知る。	教科書第3章の「6. 無機質」(81～87ページ)を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて120分
第8回	食品の嗜好成分(呈味成分)	食品の呈味成分(基本味・補助味)の種類、構造、性質を知る。成分の組合せによる呈味の相互作用を理解する。	教科書第4章の「味の成分」(93～99ページ)を読んでおくこと。 授業の最初に、4～7回の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。	復習と予習をあわせて240分
第9回	食品の嗜好成分(香気成分)	食品の香気成分の種類、構造、性質を知る。二次的に生成する香気成分の生成機序を理解する。	教科書第4章の「香りの成分」(100～102ページ)を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて120分
第10回	食品の嗜好成分(色素成分)	食品の色素成分の種類、構造、性質、所在を知る。ポリフィリン系色素の色の変化を理解する。	教科書第4章の「色の成分」(103～109ページ)を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて120分
第11回	食品成分の反応(化学的変化・酵素的変化)	酵素的褐変(ポリフェノールオキシダーゼ)と非酵素的褐変(アミノカルボニル反応、カラメル反応)による食品学的意義を理解する。	教科書第5章の「成分間の相互作用」(111～118ページ)を読んでおくこと。 授業の最初に、8～10回の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。	復習と予習をあわせて240分
第12回	食品の物性	食品におけるコロイド分散系として、エマルションとサスペンション、ゾルとゲルの関係を理解する。液状食品の流動特徴を知る。	教科書第6章の「食品の物性とおしさ」(119～130ページ)を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて120分
第13回	栄養成分表示の概要(強調表示)	食品表示基準の概要と、食品選択における栄養表示の重要性を理解する。	教科書第8章の「栄養成分表示」(145～149ページ)を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて120分
第14回	食品の機能性と特定保健用食品・特別用途食品・栄養機能食品・機能性表示食品	食品の三次機能を有する成分について、具体的な食品表示の例を用いて、保健機能食品制度の概要を理解する。	教科書第8章の「食品の持つ三つの機能」「健康食品にかかわる制度」(139～145ページ)を読んでおくこと。 消費者庁のホームページより、特定保健用食品と機能性表示食品の具体例と食品表示基準の概要を調べておくこと。	復習と予習をあわせて120分
第15回	食品成分表の理解	食品成分表の利用における留意点を把握する。また、一般成分(水分、たんぱく質、脂質、炭水化物、灰分)の測定原理を学び、エネルギーの算出方法を理解する。	教科書第9章の「食品成分表」(153～163ページ)を読んでおくこと。 授業の最初に、11～14回の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。	復習と予習をあわせて240分
第16回	定期試験	学習目標の到達度を確認する。	教科書とノートを復習しておくこと。	復習420分

学生へのフィードバック方法	実施した小テストは、採点して、次週の授業にて返却する。小テストの模範解答は掲示するので、質問等がある場合には1205研究室(emailも可)まで訪問すること。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストは3～4回分の授業に係る学習範囲から出題し、授業内に計4回実施する。1回あたりの問題数は20問で、すべて穴埋め方式で出題する。なお、学外実習等の合理的な理由がない限り、小テストの再試験は行わないので注意すること。 ・定期試験は80点満点で出題し、小テストの振り返りや、管理栄養士国家試験の出題形式に基づく選択式の問題を含む。また、計算問題と記述問題によって応用的な思考力や判断力を確認する。出題の傾向については、最後の授業にて説明する。 ・小テスト及び定期試験は、評価基準に示す力を養うことを目的に実施している。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○			
定期試験	○	○		

評価割合	定期試験 (80%)、小テスト (20%)
使用教科書名 (ISBN番号)	食べ物と健康 I 食品成分を理解するための基礎 (第2版) 喜多野宣子・近藤民恵・水野裕士 (化学同人) (ISBN 978-4-7598-1818-5)
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。 【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養問題に対する積極的な取り組みを判断できる力を身につけている。
学生へのメッセージ	我々は食事を通して様々な化学成分を摂取している。それらを体内で利用して生命活動を営んでいる。どのような食品にどのような成分が含まれているのかを詳しく知ることは、管理栄養士として必要な知識であるので、主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品企業において特定保健用食品等の開発研究に関する実務経験を有しており、食品成分の三次機能に着目した食品に対し、開発者として習得すべき「商品企画から販売までの流れ」、アドバイザースタッフとして習得すべき「利用の注意点」を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	基礎食品学実験		
講義開講時期	前期前半	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 海野 知紀	指定なし

ナンバリング	H22302C13
授業概要(教育目的)	基礎食品学で学んだ知識を確実なものとするために、実際の食品を検体とし、水分、脂質、タンパク質（アミノ酸）、無機質（食塩相当量、カルシウム）、ビタミン（L-アスコルビン酸）、嗜好成分（ポリフェノール、アミノカルボニル反応物）などの定性分析及び定量分析を行う。分析に際しては、滴定法、各種クロマトグラフィー法、分光光度法、原子吸光度法などを駆使する。
履修条件	特になし。
学習目標(到達目標)	学習目標（到達目標）
知識・理解の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 食品成分表における栄養素等の測定法について説明できる。 食品成分の性質と成分間反応について、基礎食品学で学んだ知識と関連づけて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 実験の目的に応じて、食品成分の定量法と定性法を類別できる。 食品が持つ多様な機能性を類別できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	<ol style="list-style-type: none"> 実験結果に対する考察について、実験協力者とのディスカッションに参加できる。
技術・表現の観点 (A)	<ol style="list-style-type: none"> 仮説を立て、それを証明することで、論理的な思考を表現できる。 食品素材や成分に精通して、合理的かつ自主的な食品の選択に使用できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	実験の基礎 (薬品・器具の扱い方、結果の記録方法と報告など)	実験を行うにあたっての注意事項を理解する。ガラス器具やpHメーター等の機器の使用法について理解する。また、実験データの取り扱い方、まとめ方を学ぶ。	実験レポートを作成する。また、指定された「国家試験にチャレンジ」の問題を回答する。それぞれは次週の授業開始前に提出する。	45分
第2回	重量測定 (水分、灰分)	大豆(国産・外国産)を粉砕して、常温加熱乾燥法による水分測定を行う。また、直接灰化法による灰分の測定を行う。	実験レポートを作成する。また、指定された「国家試験にチャレンジ」の問題を回答する。それぞれは次週の授業開始前に提出する。	45分
第3回	タンパク質	乳由来のカゼインが等電点によって沈殿する現象を確認	実験レポートを作成する。ま	45分

	の性質（等電点沈殿）	し、遠心分離によってカゼインを分離される。さらに、カゼインがリン含有たんぱく質であることの性質を、リンモリブデン比色法によって確認する。	た、指定された「国家試験にチャレンジ」の問題を回答する。それぞれは次週の授業開始前に提出する。	
第4回	無機質の定量（モール法による醤油の塩化物イオンの定量）	3種類の醤油（濃口醤油、薄口醤油、減塩醤油）中の塩化物イオンをモール法によって測定する。また、得られた結果から食塩相当量を求め、各醤油の特性を理解する。	実験レポートを作成する。また、指定された「国家試験にチャレンジ」の問題を回答する。それぞれは次週の授業開始前に提出する。	45分
第5回	糖の定性（薄層クロマトグラフィーによる糖類の検出）	薄層クロマトグラフィー（TLC）による分離技術を学ぶ。複数の糖類をTLCを用いて分離し、分離した糖質を発色剤を用いて視覚的に観察する。	実験レポートを作成する。また、指定された「国家試験にチャレンジ」の問題を回答する。それぞれは次週の授業開始前に提出する。	45分
第6回	糖の定量（高速液体クロマトグラフィーによる清涼飲料水中の糖質の定量）	高速液体クロマトグラフィー（HPLC）による分離技術を学ぶ。清涼飲料水に含まれる糖類をHPLCを用いて分離し、清涼飲料水中の複数の糖類を定量する。	実験レポートを作成する。また、指定された「国家試験にチャレンジ」の問題を回答する。それぞれは次週の授業開始前に提出する。	45分
第7回	ポリフェノールの定量（緑茶飲料に含まれるポリフェノールの定量）	分光光度計を用いた比色定量法を学ぶ。酒石酸鉄比色法による緑茶飲料中のポリフェノールを定量する。標準物質を用いた検量線の作成方法を学ぶ。	実験レポートを作成する。また、指定された「国家試験にチャレンジ」の問題を回答する。それぞれは次週の授業開始前に提出する。	45分
第8回	食品成分間反応（アミノカルボニル反応）	糖とアミノ酸によるアミノカルボニル反応を学ぶ。アミノカルボニル反応に及ぼすpHの影響やアミノ酸の種類の影響を視覚的、嗅覚的に観察する。	実験レポートを作成する。また、指定された「国家試験にチャレンジ」の問題を回答する。それぞれは次週の授業開始前に提出する。	45分
第9回	タンパク質の定量（ケルダール法：試料の分解）	たんぱく質に含まれる窒素の定量法であるケルダール法の原理を学ぶ。大豆（国産・外国産）を用いて、たんぱく質の硫酸分解を行う。	実験レポートを作成する。また、指定された「国家試験にチャレンジ」の問題を回答する。それぞれは次週の授業開始前に提出する。	45分
第10回	タンパク質の定量（ケルダール法：アンモニア蒸留）	硫酸分解によって得られたアンモニアを水蒸気蒸留によって回収する。得られた窒素量に、窒素たんぱく質換算係数を乗じることによって求めるタンパク質の定量法を学ぶ。	実験レポートを作成する。また、指定された「国家試験にチャレンジ」の問題を回答する。それぞれは次週の授業開始前に提出する。	45分
第11回	脂質の定量（ソックスレー抽出法による総脂質の定量）	有機溶媒を用いた脂質の抽出法を学ぶ。大豆（国産・外国産）の脂質をジエチルエーテルを用いて抽出し、抽出された脂質の質量を測定する。	実験レポートを作成する。また、指定された「国家試験にチャレンジ」の問題を回答する。それぞれは次週の授業開始前に提出する。	45分
第12回	ビタミンの定量（食品中のL-アスコルビン酸の定量）	インドフェノール法によるL-アスコルビン酸の定量法を学ぶ。大根中のL-アスコルビン酸を定量する。	実験レポートを作成する。また、指定された「国家試験にチャレンジ」の問題を回答する。それぞれは次週の授業開始前に提出する。	45分
第13回	食品成分間反応（L-アスコルビン酸の酵素的変化）	キュウリに含まれるアスコルビン酸酸化酵素の特徴を学ぶ。大根中のL-アスコルビン酸がキュウリのアスコルビン酸酸化酵素によってどのように変化するかを理解する。	実験レポートを作成する。また、指定された「国家試験にチャレンジ」の問題を回答する。それぞれは次週の授業開始前に提出する。	45分
第14回	無機質の定量（原子吸光法によるカルシウムの定量）	原子吸光光度計を用いたカルシウムの定量法を学ぶ。大豆（国産・外国産）に含まれるカルシウムを定量する。	実験レポートを作成する。また、指定された「国家試験にチャレンジ」の問題を回答する。それぞれは次週の授業開始前に提出する。	45分
第15回	脂質の性質（油脂のケン化価の比較）	油脂の物理化学的性質の指標であるケン化価の測定法を学ぶ。長鎖脂肪酸からなる油脂と中鎖脂肪酸からなる脂肪酸でケン化価を比較する。	実験レポートを作成する。また、指定された「国家試験にチャレンジ」の問題を回答する。それぞれは指定日に提出する。	45分

学生へのフィードバック方法 作成された実験レポートは、採点して、返却する。実験結果や考察などについて質問がある場合には1205研究室

	(emailも可)まで訪問すること。																												
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実験レポートは、配布されたテキストに基づき作成すること。 ・実験レポートは、以下の基準に基づき評価される。 ①レポート課題そのものを理解している。 ②課題にそって解答がなされている。 ③答えるべきことがらの内容について正確に理解している。 ④専門用語の意味などについて、正確に理解している。 ・「国家試験の問題にチャレンジ」は、配布されたテキストにある国家試験の過去問題について、誤っている記述を正しい文章に直すなど、単に正答を記すだけにしないこと。																												
評価基準	評価基準 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:15%;">評価方法</th> <th style="width:25%;">知識・理解 (K)</th> <th style="width:25%;">思考・判断 (K)</th> <th style="width:25%;">関心・意欲・態度 (V)</th> <th style="width:10%;">技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>レポート</td> <td style="text-align:center;">○</td> <td style="text-align:center;">○</td> <td></td> <td style="text-align:center;">○</td> </tr> <tr> <td>平常点</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align:center;">○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	レポート	○	○		○	平常点			○											
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																									
レポート	○	○		○																									
平常点			○																										
評価割合	レポート (60%)、平常点 (40%) (平常点は授業への参加状況・実験に対する積極性で総合的に判断する)																												
使用教科書名 (ISBN番号)	プリント配布																												
参考図書	Nブックス実験シリーズ 食品学実験 (青柳康夫・有田政信編) 建帛社																												
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物そして地域との相互関係から、「人間の栄養」を理解できる専門的知識を有している。 【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。 【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思を身につけている。 【技術・表現】人々の生活の質の向上に寄与するべく、健康の保持増進のための専門的スキルと共に、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。																												
オフィスアワー	木曜日1限目																												
学生へのメッセージ	実際に我々が毎日摂取している食品の具体的な成分を分析することは、「食」を扱う管理栄養士として必要な知識・技術となる。論理的な思考も身につけることができることから、常に疑問 (課題) を明らかにするという意欲を持ち続けてほしい。																												
教育等の取組み状況	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:15%;"></th> <th style="width:10%;">該当有無</th> <th style="width:75%;">概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td style="text-align:center;">○</td> <td>担当教員は、食品企業において商品の研究開発の実務経験を有しており、実験的な手法による品質管理等の実際を教授している。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品企業において商品の研究開発の実務経験を有しており、実験的な手法による品質管理等の実際を教授している。	アクティブ・ラーニング			情報リテラシー教育			ICT活用												
	該当有無	概要																											
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品企業において商品の研究開発の実務経験を有しており、実験的な手法による品質管理等の実際を教授している。																											
アクティブ・ラーニング																													
情報リテラシー教育																													
ICT活用																													

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	応用食品学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 林 一也	指定なし

ナンバリング	H22303C21
授業概要(教育目的)	農産物(穀類、いも類、野菜類など)や畜産物、水産物などの食品の成分や特徴を学ぶ。また、それらを基に加工される食品の加工方法等についても学習する。貯蔵法や加工法のいずれにおいても、伝統的な方法に加えて、新しい技術や手法も次々と作り出されている。ここでは、食品の様々な貯蔵法の原理と身近な食品加工法の基礎について理解させる。この講義では、食品の諸性質やその食品の特長を生かした加工方法等を学ぶことにより、食材や加工食品の高度な利用方法等を理解させることを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 食材・食品の種類や、それらに含まれる成分を説明できる。 2. 様々な加工食品の製造方法を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 食材・食品の種類等を類別できる。 2. 食材の旬や成分を活かした食品加工、調理への展開を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 日常で食している食品に対して、その素材や加工法などに関心を持つことができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

応用食品学

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス、現在の食品に関する状況(生鮮食品や加工食品とは何か、食料供給率や供給、消費など)	応用食品学のシラバス等を含めた講義の概要とを学ぶにあたっての諸注意の説明。生鮮食品や加工食品(1次加工食品、2次加工食品など)とは何か、植物性食品、動物性食品、農産物、水産物など、食品の区分を理解する。また、現在の私たちを取り巻く食品の状況(食糧の生産や消費、食料自給率、食料輸入など)について理解をする。	教科書第1章「食品」1~7ページを読んでおくこと。特に第1章4「食品の消費と供給」については予習と復習をして理解すること。	120分
第2回	穀類とその	穀類とは何かを理解する。米や小麦を中心として、その	教科書第2章1.「穀類」8~33ペ	120分

	加工品	他の麦、トウモロコシなどの種類や品種、その性質や含まれる成分を理解し、それらの加工品について学ぶ。	一ジを読んでおくこと。特に米と小麦の項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。	
第3回	いも類とその加工品	いも類とは何かを理解する。ジャガイモやサツマイモを中心として、その他のいも類の種類や品種、その性質や含まれる成分を理解し、それらの加工品について学ぶ。	教科書第2章2.「いも類」34～43ページを読んでおくこと。特にジャガイモとサツマイモの項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。	120分
第4回	豆類・種実類とその加工品	豆類や種実類とは何かを理解する。大豆や小豆を中心として、その他の豆類の種類や品種、その性質や含まれる成分を理解し、それらの加工品について学ぶ。(ただし、納豆の項目は除く)さらに、種実類の種類や品種、その性質や含まれる成分を理解し、それらの加工品についても学ぶ。	教科書第2章3.「豆類」44～52ページおよび4.「種実類」53～59ページを読んでおくこと。特に大豆の項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。(ただし、納豆の項目は除く)	120分
第5回	野菜類とその加工品	野菜類とは何かを理解する。野菜類に含まれる成分、特に香りや味に係わる成分を中心として、野菜類の種類や品種、その性質や含まれる成分を理解し、それらの加工品について学ぶ。	教科書第2章5.「野菜類」60～77ページを読んでおくこと。特に野菜類に含まれる成分、香りや味に係わる項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。	120分
第6回	果実類とその加工品	果実類とは何かを理解する。果実類に含まれる成分、特に香りや味に係わる成分を中心として、果実類の種類や品種、その性質や含まれる成分を理解し、それらの加工品について学ぶ。	教科書第2章6.「果実」78～90ページを読んでおくこと。特に果実類に含まれる成分、香りや味に係わる項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。さらに、第2章の1～6の植物性食品についてそれぞれの項目の食品の成分等の区別ができるように復習をすること。	240分
第7回	きのこ類、海藻類とその加工品	きのこ類や海藻類とは何かを理解する。きのこ類の種類やその性質、含まれる成分を理解し、それらの加工品について学ぶ。さらに、海藻類の種類や性質、含まれる成分を理解し、それらの加工品についても学ぶ。	教科書第2章7.「きのこ類」91～97ページおよび8.「海藻類」98～105ページを読んでおくこと。特にきのこや海藻の成分の項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。	120分
第8回	食肉類とその加工品	食肉類とは何かを理解する。食肉類の種類や品種、その性質や含まれる成分を理解し、それらの加工品について学ぶ。	教科書第3章1.「食肉類」106～124ページを読んでおくこと。特に食肉類の熟成に関わる項目と食肉類加工品の項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。	120分
第9回	乳類、卵類とその加工品	乳類、卵類とは何かを理解する。乳類の種類やその性質、含まれる成分を理解し、それらの加工品について学ぶ。さらに、卵類の種類や性質、含まれる成分を理解し、それらの加工品についても学ぶ。(ただし、乳類発酵食品の項目は除く)	教科書第3章2.「乳類」125～140ページおよび3.「卵類」141～148ページを読んでおくこと。特にそれぞれのたんぱく質の項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。さらに、第3章の1～3の動物性食品(畜産食品)についてそれぞれの項目の食品の成分等の区別ができるように復習をすること。(ただし、乳類発酵食品の項目は除く)	180分
第10回	魚介類とその加工品	魚介類とは何かを理解する。魚介類の種類やその性質、含まれる成分を理解し、それらの加工品について学ぶ。(ただし、魚介類発酵食品の項目は除く)	教科書第3章4.「魚介類」149～175ページを読んでおくこと。特に魚介類に含まれる成分や加工品の項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。(ただし、魚介類発酵食品の項目は除く)	120分
第11回	油脂、甘味料、調味料	油脂、甘味料、調味料とは何かを理解する。油脂、甘味料、調味料の種類や性質、成分、加工方法を理解する。	教科書第4章1.「食用油脂」176～183ページおよび2.「甘味料」184～188ページ、3.「調味料/食塩・うま味調味料」189～190ページを読んでおくこと。	120分
第12回	発酵食品(味噌、醤油、醤油)	発酵食品(味噌、醤油、醤油)とは何かを理解する。発酵食品(味噌、醤油、醤油)の性質や成分、加工方法、発酵に係わる微生物を理解する。	教科書第4章3.「調味料/みそ、しょうゆなど」190～195ページを読んでおくこと。特にそれぞれの加工方法と発酵に係わる微生物の項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。	120分

第13回	発酵食品 (アルコール類など)	発酵食品(アルコール類など)とは何かを理解する。発酵食品(アルコール類、食酢、みりんなど)の性質や成分、加工方法、発酵に係わる微生物を理解する。あわせて嗜好性飲料の茶類についても学ぶ。	教科書第4章3.「調味料/食酢、みりんなど」196~197ページおよび第4章5.「嗜好性飲料とアルコール飲料」208~215ページを読んでおくこと。特にそれぞれの加工方法と発酵に係わる微生物の項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。	120分
第14回	発酵食品 (納豆、乳類発酵食品、漬物、水産発酵食品など)	発酵食品(納豆、乳類発酵食品、漬物、水産発酵食品など)とは何かを理解する。発酵食品(納豆、乳類発酵食品、漬物、水産発酵食品など)の性質や成分、加工方法、発酵に係わる微生物を理解する。	教科書第2章3.「豆類/大豆の用途」48ページおよび第3章2.「乳類/乳類の利用」132~139ページ、第3章4.「魚介類/魚介類の加工品」172~173ページの発酵食品の項目を読んでおくこと。特にそれぞれの加工方法と発酵に係わる微生物の項目は重要点として、予習と復習をして理解すること。さらに、発酵食品についてそれぞれの項目で微生物や加工方法の区別ができるように復習をすること。	240分
第15回	嗜好性飲料、香辛料、まとめ	嗜好性飲料とは何かを理解する。茶やコーヒーの種類やその性質、含まれる成分を理解し、それらの加工方法について学ぶ。さらに、香辛料の種類や性質、含まれる成分についても学ぶ。	教科書第4章4.「香辛料」198~203ページおよび第4章5.「嗜好性飲料とアルコール飲料」204~208ページを読んでおくこと。さらに、本講義の全体にわたって、それぞれの項目の食品の成分等の区別などができるように復習をすること。	720分

学習計画注記	講義内容の進行状況によりシラバスが前後する場合がある。
--------	-----------------------------

学生へのフィードバック方法	各回の講義、復習などで質問や不明な点がある場合は、1401研究室まで訪問するか、e-mailで問い合わせること。
---------------	--

評価方法	成績の評価は、定期試験の成績によって判定する。ただし、授業への参加態度等を成績判定に加えることがある。
------	---

評価基準	
------	--

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		

評価割合	定期試験 (90%) 授業への参加態度などの平常点 (10%)
------	---------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	新版 食品学Ⅱ /菅原龍幸監修/建帛社/2016 ISBN 978-4-7679-0582-2
-----------------	--

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】食品に関する基礎知識を学ぶことによって、管理栄養士として食や栄養を扱う上での食品、食材の基礎を理解できる知識基盤を有している。 【思考・判断】食品に関する正確な情報を収集し、論理的・批判的に思考することで健康や栄養に関する取り組みに対処できる能力を身につける。
---------------	--

オフィスアワー	月曜日3時限 1401研究室
---------	----------------

学生へのメッセージ	普段食べている食品などの基本的な内容です。スーパーなどに行ったとき、食材や食品をよく見てください。パッケージに記載されている表示にも注意をして、いろいろなものに興味を持ってください。
-----------	---

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、民間の食品企業において、官公庁、農協等との食品の研究・開発に携わった内容を踏まえ、応用食品学の講義の上で食品の成分や栽培・生産体系から収穫・加工・販売までを実践的に教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		

シラバス参照

講義名	応用食品学実験（食品の鑑別を含む）		
講義開講時期	後期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 林 一也	指定なし

ナンバリング	H22304C13
授業概要(教育目的)	加工食品を実際に作り、それらの加工法の原理や基礎的な知識を深める。さらに、食品の加工過程で起きる様々な変化を観察し、食品加工の必要性、意義などを学ぶ。さらに、実際につくった加工食品と市販品との違い（食品添加物等の使用の有無）を比較するなど、食品の鑑別についても学ぶ。また、食品開発における基礎についても学ぶ。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	伝統的な加工食品や新しい製造技術など、加工食品の製造方法を理解する。
思考・判断の観点 (K)	食品の加工法や保存法などを学ぶことで、食品を鑑別できる能力を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	食品の加工法や技術を学ぶことで、その食品に関心を持ち、さらにチームで実験を行うことで、協調性を養える。
技術・表現の観点 (A)	加工食品を実際に作り、それらの加工法の原理や基礎的な知識を深めことで、食品の加工過程で起きる様々な変化を観察し、食品加工の必要性、意義などを学び、その技術を習得する。

学習計画

応用食品学実験

回	授業テーマ	学習内容(7ヶ月のラーニング・情報リソース教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス、発酵食品の原理(納豆)	応用食品学実験のシラバス等を含めた実験の概要と実験をする上での諸注意の説明。納豆の製造を通して大豆の納豆菌での発酵による変化と製造原理、保存方法、鑑別方法などを学ぶ。	納豆の製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分
第2回	豆タンパク質の加工変化(豆腐)	豆腐の製造を通じて豆タンパク質の加工による変化と豆腐製造原理、製造原理、保存方法、鑑別方法などを学ぶ。	豆腐の製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分
第3回	乳の変化(チーズ)	チーズの製造を通じて乳タンパク質などの加工による変化と製造原理、保存方法、鑑別方法などを学ぶ。	チーズの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分
第4回	発酵(味噌)	味噌の製造を通じて大豆、米などの原料が麹、味噌発酵微生物などによる変化と製造原理、保存方法、鑑別方	味噌の製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを	60分

		法などを学ぶ。	作成する。	
第5回	缶詰製造	缶詰（サンマの醤油煮）の製造を通じて缶詰製造の原理、食品保存方法（缶詰包装による食品保存・高圧加熱殺菌）、鑑別方法などを学ぶ。	缶詰の製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分
第6回	肉類の加工（ソーセージ）	ソーセージの製造を通じて畜肉類加工の原理、燻製の原理、食品保存方法（発色剤等の添加物）、鑑別方法などを学ぶ。	ソーセージの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分
第7回	果実類のゲル化（マーマレード）	マーマレードの製造を通じて果実類加工・ジャム化の原理、食品保存方法（糖蔵）、鑑別方法などを学ぶ。	マーマレードの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分
第8回	乳類発酵（ヨーグルト）	ヨーグルトの製造を通じて乳たんぱく質の酸凝固の原理、食品保存方法（乳酸発酵）、鑑別方法などを学ぶ。	ヨーグルトの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分
第9回	糖蔵の原理（ミカンシロップ）	ミカンのシロップ漬けの製造を通じて糖蔵や柑橘加工の原理、食品保存方法（糖蔵・酸貯蔵）、鑑別方法などを学ぶ。	ミカンのシロップ漬けの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分
第10回	高圧殺菌法（レトルト食品）	ミートソースのレトルト食品の製造を通じてレトルト加工の原理、食品保存方法（レトルト・高圧加熱殺菌）、鑑別方法などを学ぶ。	レトルトの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分
第11回	糖質マンナンの変化（コンニャク）	コンニャクの製造を通じてコンニャクマンナン加工変化の原理、製造方法、食品保存方法、鑑別方法などを学ぶ。	コンニャクの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分
第12回	カビの酵素による糖化実験（甘酒）	麹による甘酒の製造を通じて麹による米デンプンの糖化の原理、製造方法、食品保存方法、鑑別方法などを学ぶ。	米麹甘酒の製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分
第13回	乳脂肪の変化（バター）	バターの製造を通じてクリームからバターへの転相など乳化の原理、製造方法、食品保存方法、鑑別方法などを学ぶ。	バターの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分
第14回	糖質の加熱変化（キャラメル化）	キャラメルの製造を通じて糖の加熱変化・キャラメライゼーションの原理、製造方法、食品保存方法、鑑別方法などを学ぶ。	キャラメルの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分
第15回	小麦タンパク質の粘性（パスタ）	パスタの製造を通じて小麦たんぱく質のグルテン形成の原理、製造方法、食品保存方法、鑑別方法などを学ぶ。	パスタの製造方法と製造原理を復習し、実験におけるレポートを作成する。	60分

学習計画注記	シラバスは、学年暦などにより回の内容が入れ替わることがある。
学生へのフィードバック方法	各回の内容などで質問や不明な点がある場合は、1401研究室まで訪問するか、e-mailで問い合わせること。
評価方法	成績の評価は、レポート提出と内容および授業へ臨む態度等により成績判定する。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート	○	○		
実験に臨む態度等			○	○

評価割合	レポート（50%）および実験へ臨む態度などの平常点（50%）で判定する。
使用教科書名 (ISBN番号)	プリント配布
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】加工食品の製造方法・特性などを理解し、管理栄養士等の専門職業人として、広く普及する加工食品を扱える技術を身につけている。 【思考・判断】食品の加工法や保存法などを学ぶことで、正確な情報を収集することで食品を鑑別できる能力を身につけている。 【関心・意欲・態度】食品の加工法や技術を学ぶことで、その食品に関心を持ち、さらにチームで実験を行うことで、他者と協働するための共感力を身につけている。 【技術・表現】加工食品をつくる実学を通じて、専門的スキルを身につけている。
オフィスアワー	月曜日3時限あるいは火曜日以外の昼時間 1401研究室

学生へのメッセージ	納豆や、味噌、ヨーグルトなどの発酵食品や豆腐などの伝統的食品やレトルト加工、高圧蒸気加熱加工など、様々な食品の製造、加工技術を学びます。普段、スーパーなどで買ってくるものがこんな風につくられているの
-----------	---

かなど、興味を持って学んでください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、民間の食品企業で産官学との共同研究・共同食品開発に携わった内容を踏まえ、応用食品学実験を担当する上で、食品加工の原理・方法などを実践・実学的に教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	調理学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大富 あき子	指定なし

ナンバリング	H12305C21
授業概要(教育目的)	調理過程における食品材料の化学的、物理的、組織学的変化を知り、おいしくなる方向へとその変化を制御する学問が調理学である。体に必要な栄養成分を食べられる形である献立として示せなければ、せっかくの管理栄養士としての栄養指導も実行できない。従って保存・調理による栄養素の消長や機能成分の変化、物性の変化と食べ易さや消化吸収との関連などは重要である。そこで食品材料や調理操作に関すること、おいしさの評価方法、調理学的な側面からの献立作成についてなど順を追って学ぶ。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 調理学という学問の意義を理解し説明することが出来る。 2. 各食品材料の調理過程による変化を理解し説明することが出来る。
思考・判断の観点 (K)	1. 調理操作の結果、なぜそのような現象が起きるのかを根拠を持って考えることが出来る。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

調理学

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	食べ物と嗜好性	おいしさの要因や評価の方法などを理解する。	授業での配布プリント及び教科書第2章の「食べ物と嗜好性」(17~44ページ)を読んで復習しておくこと。	120分
第2回	食事設計と栄養	食事設計の基本知識や食卓構成などを理解する。	授業での配布プリント及び教科書第3章の「食事設計と栄養」(45~65ページ)を読んで復習しておくこと。	120分
第3回	調理器具	調理熱源や調理器具、設備などを理解する。	授業での配布プリント及び教科書第4章の「調理器具」(66~77ページ)を読んで復習しておくこと。	120分

第4回	調理操作	加熱操作、非加熱操作、冷凍・解凍、調味操作などを理解する。	授業での配布プリント及び教科書第5章の「調理操作」(78～107ページ)を読んで復習しておくこと。	120分
第5回	調理操作による変化(米)	米の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する。	授業での配布プリント及び教科書第6章の「米」(108～112ページ)を読んで復習しておくこと。	120分
第6回	調理操作による変化(小麦)	小麦の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する。	授業での配布プリント及び教科書第6章の「小麦」(112～118ページ)を読んで復習しておくこと。	120分
第7回	調理操作による変化(イモ類、豆類)	イモ類、豆類の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する	授業での配布プリント及び教科書第6章の「イモ類、豆類」(118～125ページ)を読んで復習しておくこと。	120分
第8回	調理操作による変化(野菜、海藻、果物)	野菜、海藻、果物の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する	授業での配布プリント及び教科書第6章の「野菜、海藻、果物」(125～133ページ)を読んで復習しておくこと。	120分
第9回	調理操作による変化(肉)	肉の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する	授業での配布プリント及び教科書第6章の「肉」(134～140ページ)を読んで復習しておくこと。	120分
第10回	調理操作による変化(魚)	魚の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する	授業での配布プリント及び教科書第6章の「魚」(140～145ページ)を読んで復習しておくこと。	120分
第11回	調理操作による変化(砂糖)	砂糖の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する	授業での配布プリント及び教科書第6章の「砂糖」(145～148ページ)を読んで復習しておくこと。	120分
第12回	調理操作による変化(卵)	卵の調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する	授業での配布プリント及び教科書第6章の「卵」(148～154ページ)を読んで復習しておくこと。	120分
第13回	調理操作による変化(牛乳・デンプン)	牛乳、デンプンの調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する	授業での配布プリント及び教科書第6章の「牛乳・デンプン」(154～162ページ)を読んで復習しておくこと。	120分
第14回	調理操作による変化(油脂・寒天・ゼラチン)	油脂、寒天、ゼラチンの調理操作による物性、栄養成分および機能性の変化について理解する	授業での配布プリント及び教科書第6章の「油脂・寒天・ゼラチン」(163～169ページ)を読んで復習しておくこと。	120分
第15回	まとめ	1回から14回までのまとめと振り返り	授業での配布プリント(1～14回)の内容を総復習しておくこと	120分

学生へのフィードバック方法 質問や問い合わせがある場合には、1B04研究室まで訪問してください。(不在時はe-mailも可)

評価方法 定期試験と平常点の総合で評価する。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		
平常点			○	

評価割合 定期試験(90%)、平常点(10%)
(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する)

使用教科書名 (ISBN番号) 「調理学」畑江敬子・香西みどり (東京化学同人)

参考図書	「調理と理論」同文書院
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。 【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養問題に対する積極的な取り組みを判断できる力を身につけている。
オフィスアワー	月曜日5時限
学生へのメッセージ	調理をする上でなぜそうなるのかを理解すると、調理がより楽しくなります。主体的に学習しましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品企業において食品の研究開発に関する実務経験を有しており、商品を開発をする上で食品の調理学的知識を活用していたので、この科目ではそれらの理論と実践を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	調理学実験（官能評価を含む）		
講義開講時期	前期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限後半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大富 あき子	指定なし

ナンバリング	H22306C13
授業概要(教育目的)	調理学実験の目的は、調理の過程でなぜそのような現象が起こるのか、その理由はなぜか、法則性を見出し失敗しない調理技術の修得を目指すもの、すなわち再現性のある「調理のコツ」をつかむことである。この授業では実験の基本操作の修得から各食材の性質を知る実験、調理操作の違いによる料理の出来具合や栄養成分の差を調べる実験へと進め、先の目的を達成する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標（到達目標）	
知識・理解の観点 (K)	調理学実験の基本操作を理解して実践することが出来る。
思考・判断の観点 (K)	実験結果についてなぜそうなったのか調理科学的に説明が出来る。
関心・意欲・態度の観点 (V)	実験の作業を班員と協力し合いながら積極的にかかわることが出来る。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	調理学実験の目的、実施方法、レポートの書き方等を理解する。	配布プリントを復習すること。	60分
第2回	官能検査法	紅茶の甘味の嗜好試験を行うことで3点嗜好試験法について理解する。	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。	60分
第3回	米の炊飯	米の炊飯実験を行うことで、水の浸水時間と吸水量の違い、炊飯要領を理解する。	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。	60分
第4回	卵の熱凝固性	様々な条件のカスタードプリンを作ることで卵の熱凝固性を理解する。	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。	60分
第5回	卵の乳化性	マヨネーズを作ることで卵黄の乳化性を理解する。	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。	60分
第6回	小麦粉中のグルテンの性質	様々な種類の小麦粉からドウを作ることでグルテンの性状を理解する。	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。	60分

第7回	小麦粉に対する副材料の影響	様々な条件のクッキーを作ることでクッキーの性状に及ぼす副材料の影響を理解する。	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。	60分
第8回	乳製品の起泡性と転相	生クリームの泡立て実験を行い、生クリームの起泡性とバターへの転相について理解する。	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。	60分
第9回	揚げ物の吸油率	揚げ物の揚げ方による吸油率の変化について理解する。	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。	60分
第10回	砂糖溶液の加熱とその性質	砂糖溶液の加熱実験を行うことで、調理加工への適性を理解する。	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。	60分
第11回	イカの収縮	イカの加熱実験を行うことで収縮とテクスチャーの変化を理解する。	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。	60分
第12回	魚の酢締め	魚を塩締め、酢締めすることで魚肉に及ぼす調味料の影響を理解する。	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。	60分
第13回	ゼラチンと寒天の性質	パイナップルゼリーを作ることで、ゼラチンと寒天の性質の違い及びたんぱく分解酵素の影響を理解する。	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。	60分
第14回	報告検討会	他班の実験結果を知ることで、実験内容の理解を深める。発表は実物投影機を利用する。	本日の実験を振り返りレポートを作成すること。	60分
第15回	まとめ	まとめと学習到達度の確認テスト	確認テストの内容を復習しておくこと	60分

学生へのフィードバック方法	学生の作成したレポート内容を確認した後に返却、授業にて再度の解説を実施します。さらに質問や問い合わせがある場合には、1B04研究室まで訪問してください。（不在時はe-mailも可）
---------------	--

評価方法	毎回のレポートと確認テストを総合的に評価する。 なお授業を欠席した場合は、その回のレポートは提出できないため評価に影響する。
------	---

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート	○	○		
確認テスト	○	○		

評価割合	レポート (50%)、確認テスト (50%)
------	------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	クッキングエクスペリメント 4th Edition、四宮陽子 (学研書院) 978-4-7624-3853-0
-----------------	---

参考図書	調理と理論 (同文書院)
------	--------------

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。 【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養問題に対する積極的な取り組みを判断できる力を身につけている。
---------------	---

オフィスアワー	月曜5時限
---------	-------

学生へのメッセージ	調理をする上でなぜそうなるのかを理解すると、調理がより楽しくなります。主体的に実験に関わりましょう。
-----------	--

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品企業において調味料等の研究開発に関する実務経験を有しており、商品を開発をする上で食品の調理学的知識や官能評価法を活用していたので、この科目ではそれらの理論と実践を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	実験という科目の性質上、学生らは班ごとに実験を遂行し、結果についてディスカッションして考察をまとめる。
情報リテラシー教育	○	実験結果を書くためのレポート作成の方法を学ぶ。報告会にて結果と考察をプレゼンテーションする。
ICT活用	○	報告会でのプレゼンテーションには実物投影機を利用する。

シラバス参照

講義名	基礎調理学実習		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限後半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大富 あき子	指定なし

ナンバリング	H12307C13
授業概要(教育目的)	具体的な調理技術の到達目標を最初に示すので、授業中ではもとより自宅でも日々調理に慣れること。毎回決められているテーマにそった3~4品の献立を、4~5人のグループごとに調理する。授業の前に実習内容を把握して予習プリントを作成し実習に臨むこと。授業後は実習の反省点や調べた内容を事後レポートに記入する。以上で1回の授業が完結するので、1つでも提出物が出されないと授業が完結したことにならない。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	基本の調理技術と器具類の正しい使用方法、食材の調理特性などを理解して調理を実践できる。
思考・判断の観点 (K)	薄味、均等で美しい盛り付け、最小の栄養損失などを考えた調理が実践出来る。
関心・意欲・態度の観点 (V)	調理の作業を班員と協力し合いながら積極的に関わることが出来る。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

基礎調理学実習

回	授業テーマ	学習内容(7key?ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	これから実習を行うにあたり、基本的な注意事項を理解する。調理室の機器類、および調理器具類の確認を行う。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第2回	計量の練習	デジタル秤の正しい使い方を理解する。衛生的な手洗いの方法を理解する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第3回	野菜の切り方1、生の操作	野菜の基本的な切り方を理解し練習する。包丁の正しい扱い方を理解する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分

第4回	炊飯の方法、だしの取り方他	炊飯の方法、かつお節と昆布の混合だしの取り方、日本茶の基礎的な知識と基本的な煎茶の入れ方を理解する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第5回	一汁三菜、茹でる操作	和食の基本の一汁三菜を理解し、簡単な日本料理を調理する。茹でる操作の基本を理解し野菜を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第6回	野菜の切り方2、魚のおろし方	野菜の基本的な切り方を理解して練習する。魚を3枚におろす。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第7回	煮る操作	煮る操作の基本を理解して煮物を調理する。簡単な日本料理を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第8回	炒める操作	中国料理の構成を理解する。炒める操作の基本を理解して簡単な中国料理を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第9回	揚げる操作	揚げ物の操作の基本について理解する。中華材料について理解して基本的な中華料理を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第10回	焼く操作	西洋料理と焼く操作の基本を理解する。オーブンの正しい扱い方を理解する。基本的な西洋料理を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第11回	蒸す操作	正しい蒸し器の扱い方を理解して基本的な西洋料理を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第12回	和菓子、包丁の研ぎ方について	水ようかんの作り方を知り失敗しない様に調理する。もち米の蒸し方を理解して赤飯を調理する。包丁の研ぎ方の基本を理解して練習する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第13回	実技試験（奇数番号） 図書館で課題（偶数番号）	野菜の切り方1、野菜の切り方2と魚のおろし方の実技試験を実施する。（奇数番号） 図書館の本を使用して、課題の作成を行う。（偶数番号）	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第14回	実技試験（偶数番号） 図書館で課題（奇数番号）	野菜の切り方1、野菜の切り方2と魚のおろし方の実技試験を実施する。（偶数番号） 図書館の本を使用して、課題の作成を行う。（奇数番号）	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第15回	まとめ、包丁の確認	半年間のまとめと調理室の器具類の確認を行う。各自の包丁の手入れ状態を確認する。	半年間学んだことを総合的に復習する。	60分

学生へのフィードバック方法 学生が提出したレポートの内容を確認した後に返却、授業にて再度の解説を実施します。さらに質問や問い合わせがある場合には、1B04研究室（大富）まで訪問してください。（不在時はe-mailも可）

評価方法 各種提出物（予習用プリント、復習のレポート、衛生チェックシート）
実技試験
定期試験
平常点（実習時の身だしなみ、班での取り組み状況等）
以上を総合的に判断する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
提出物	○			
実技試験	○	○		
定期試験	○			

平常点				○	
評価割合	各種提出物30%（1回でも未提出の場合は、30%分を評価の対象外とする） 技術試験30% 定期試験20% 平常点20%				
使用教科書名 (ISBN番号)	「新調理学実習第2版」宮下朋子、村元美代（同文書院）978-4-8103-1457-1 「七訂食品成分表2020」女子栄養大学出版部、 「調理のためのベーシックデータ第5版」女子栄養大学出版部				
参考図書	適宜紹介する				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。 【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養問題に対する積極的な取り組みを判断できる力を身につけている。				
オフィスアワー	月曜日5時限 1B04研究室（大富あき子）				
学生へのメッセージ	調理技術向上には授業を受けるだけでなく日々の生活で調理を行うことが一番効果的です。 「調理が楽しくて好き」と言えるようになります。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品企業において食品の研究開発に関する実務経験を有しており、商品を開発をする上で調理学的知識を活用して調理も実施していたので、この科目ではそれらの理論と実践を教授している。			
アクティブ・ラーニング	○	実習という科目の性質上、学生らは班ごとに実習を遂行し、出来た料理の評価についてディスカッションしてレポートを作成する。			
情報リテラシー教育	○	レポート作成の方法を学ぶ。			
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	応用調理学実習		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大富 あき子	指定なし

ナンバリング	H22308C13
授業概要(教育目的)	基礎調理で学んだことをふまえ、諸外国の料理や行事食、郷土食の調理を通し調理技術の向上を図る。授業中ではもとより自宅でも日々調理を行い調理に慣れること。 基礎調理学実習と同様に毎回決められたテーマにそって3~4品の献立を4~5人のグループごとに調理する。授業の前に実習内容を把握して予習プリントを作成し実習に臨むこと。授業後は実習の反省点や調べた内容を事後レポートに記入する。以上で1回の授業が完結するので、1つでも提出物が出されないと授業が完結したことにならない。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	応用的な調理技術と器具類の正しい使用方法を身に付け実践できる。
思考・判断の観点 (K)	郷土料理や各国の食文化を理解しながら調理が実践できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	班員と協力し合いながら遂行できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

基礎調理学実習

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	これから実習を行うにあたり、基本的な注意事項を理解する。調理室の機器類、および調理器具類の確認を行う。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第2回	日本料理	秋の献立を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第3回	西洋料理 1	フランスの食文化を理解しながらサンドイッチ等を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分

第4回	西洋料理 2	パスタについて理解しながらイタリア料理を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第5回	西洋料理 3	オープンを活用しながら魚の包み焼き、クッキー等を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第6回	中国料理 1	中国の食文化を理解しながら中国料理を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第7回	中国料理 2	揚げる、焼く、蒸す操作を入れながら中国料理を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第8回	韓国料理	韓国の食文化を理解しながら韓国料理を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第9回	東南アジアの料理	東南アジア（インドネシア、ベトナム、タイ）の食文化を理解しながら調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第10回	日本の郷土料理	各県の郷土料理を理解しながら、今回は鹿児島県の郷土料理を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 実技試験に備えて調理の練習を行う。	60分
第11回	行事食 1	クリスマスの意味を理解しながらパーティー料理を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第12回	行事食 2	正月の行事について理解しながら数品のおせち料理を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第13回	行事食 3	桃の節句の行事について理解しながら、桃の節句で食べる料理を調理する。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 次週の実技試験の練習を行う。	60分
第14回	実技試験	応用調理学実習で取り上げた料理の中から1～2品の実技試験を行う。	配布プリントを復習して授業後のレポートを作成する。 来週の実習内容を把握して、予習プリントを完成させる。	60分
第15回	まとめ、包丁の確認	半年間のまとめと調理室の器具類の確認を行う。各自の包丁が正しく扱われているか確認する。	半年間学んだことを総合的に復習する。	60分

学生へのフィードバック方法 学生が提出したレポートの内容を確認した後に返却、授業にて再度の解説を実施します。さらに質問や問い合わせがある場合には、1B04研究室（大富）まで訪問してください。（不在時はe-mailも可）

評価方法 各種提出物（予習用プリント、復習のレポート、衛生チェックシート）
実技試験
定期試験
平常点（実習時の身だしなみ、班での取り組み状況等）
以上を総合的に判断する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
提出物	○			
実技試験	○	○		
定期試験	○			
平常点			○	

評価割合	各種提出物30%（1回でも未提出の場合は、30%分を評価の対象外とする） 技術試験30% 定期試験20% 平常点20%	
使用教科書名 (ISBN番号)	「新調理学実習第2版」宮下朋子、村元美代（同文書院）ISBN 978-4-8103-1457-1 「七訂食品成分表2019」女子栄養大学出版部、ISBN 978-4-7895-1019-6 「調理のためのベーシックデータ第5版」女子栄養大学出版部 ISBN 978-4-7895-0323-5	
参考図書	適宜紹介する	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。 【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養問題に対する積極的な取り組みを判断できる力を身につけている。 【関心・意欲・態度】他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度を身につけている。	
オフィスアワー	金曜日5時限 1B04研究室（大富あき子）	
学生へのメッセージ	調理技術向上には授業を受けるだけでなく日々の生活で調理を行うことが一番効果的です。 「調理が楽しくて好き」と言えるようになりましょう。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、食品企業において食品の研究開発に関する実務経験を有しており、商品を開発をする上で調理学的知識を活用して調理も実施していたので、この科目ではそれらの理論と実践を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	実習という科目の性質上、学生らは班ごとに実習を遂行し、出来た料理の評価についてディスカッションしてレポートを作成する。
情報リテラシー教育	○	レポート作成の方法を学ぶ。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食事計画論実習		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限後半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 加藤 理津子	指定なし

ナンバリング	H12309C13
授業概要(教育目的)	<p>管理栄養士業務の基本は、対象者の状態に応じた栄養管理を適切に運営することである。そのためには、栄養状態の診断結果を客観的に分析する力、必要な支援計画を立案する力、目標達成に向け計画を運営する力が必要となる。</p> <p>そこで、本実習では、栄養管理の要となる食事計画について、栄養管理の手順に沿って実践しながら、対象者の健康状態に応じた栄養管理を行うために必要な知識と技術の習得を目標とする。また、食事計画の立案にあたっては、平成25年にユネスコ無形文化遺産に登録された「和食：日本人の伝統的な食文化」をベースに、「栄養素」、「食品」、「料理」、「食事」、「生活習慣」を適切に選択し、食事計画を立案できる力を育成する。</p>
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	①栄養管理の実践に必要な基礎知識を身につけている。 ②栄養管理の目的および手順を理解し、説明できる。
思考・判断の観点 (K)	対象者の健康状態に応じた「栄養素」、「食品」、「料理」、「食事」を選択できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	班員と協力しながら積極的にかかわることができる。
技術・表現の観点 (A)	①栄養管理の手順に基づいた食事計画を運営できる。 ②栄養管理計画の作成に必要な知識（食事摂取基準、食品成分表、食品構成、食文化等）を適切に使用しながら創意工夫して食事計画を立案できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション：授業の概要、授業の進め方、諸注意事項など 栄養管理の確認、栄養状態の診断(アセスメント)	授業の目的等を確認する。「人間栄養学原論」で学習した栄養管理の基本的知識を振り返り、栄養アセスメントを実践する。	予習：「人間栄養学原論」の学習内容をワークシートをもとに振り返る。 復習：実習内容を振り返り、まとめる。	60分

	ント)の実践			
第2回	栄養状態の診断(アセスメント)の結果分析、目標設定、給与栄養目標量の設定	前回のアセスメントを分析し、その結果にもとづき目標を設定する。また、目標を達成するために必要なエネルギーおよび栄養素の摂取目標量を設定する。実習の内容をワークシートに記録する。	復習：目標および給与栄養目標量の設定内容が適切であるかどうか、資料類および「食事摂取基準[2015年版]」で確認する。ワークシートに記録する。	60分
第3回	食品構成の作成	前回の「給与栄養目標量」を達成するための食品群ごとの摂取量を決定し、食品構成表を作成する。	復習：設定した食品群ごとの摂取量が適切であるか、ワークシートをもとに確認する。ワークシートに記録する。	60分
第4回	献立の作成①(献立構成の決定)	料理様式、調理法、料理の組み合わせを考慮し、食品構成(第3回時に作成)をもとに献立を作成する。	予習：「人間栄養学原論」のワークシートをもとに望ましい献立構成を確認する。 復習：設定した献立が適切であるか、ワークシートやテキスト類をもとに確認する。ワークシートに記録する。	120分
第5回	実習室準備、りんごの皮むきと試食	実習室の清掃後、使用する食器類の選定を行う。また、りんごの皮むきを練習し、食べ比べを行う。	予習：調理実習室に入室する準備を行う。 復習：実習内容をレポートにまとめる。	60分
第6回	献立の作成②(食材および使用量の決定)	第4回で作成した献立構成をもとに使用する食材や使用量を決定する。使用する食材や使用量の栄養価を算出し、第2回で決定した給与栄養目標量の範囲内であることを確認する。	復習：給与栄養目標量の範囲内となるよう献立の栄養価、味、見た目などを確認・調整する。ワークシートに記録する。	120分
第7回	献立の作成③(発注伝票の作成)	献立を実施するにあたり必要な食材を調達するため、発注伝票を作成する。	復習：発注量を確認し、期日までに伝票を提出する。ワークシートに記録する。	60分
第8回	献立の点検、調理計画の立案、衛生管理の確認	献立の構成、組み合わせ、栄養価を確認する。また調理工程を確認し、実施計画を立てる。	復習：実習内容をワークシートに記入する。	60分
第9回	献立の実践(試作)	計画にもとづき調理を行い、評価する。	予習：調理工程を覚え、調理実習室に入室する準備を行う。 復習：調理工程、献立の内容を振り返り、まとめる。ワークシートに記録する。	60分
第10回	献立の評価・献立の改善①(献立の見直し、発注伝票の作成)	第9回の内容を評価し、評価にもとづき改善点を整理して、改善案を作成する。改善内容にしたがって、栄養価の調整、発注伝票の作成を行う。	復習：期日までに発注伝票を提出する。ワークシートに記録する。	120分
第11回	献立の改善②(調理計画の見直し、衛生管理の見直し)	改善案にしたがい、調理工程を修正する。	復習：ワークシートに記録する。	60分
第12回	献立の実践(運営)	計画にもとづき調理を行い、評価する。	予習：調理工程を覚え、調理実習室に入室する準備を行う。 復習：調理工程、献立の内容を振り返り、まとめる。ワークシートに記録する。	60分
第13回	献立の評価	第12回の内容を評価し、評価にもとづき改善点を整理する。栄養管理全体の実施内容について振り返り、報告書の作成、発表の準備を行う。	復習：ワークシートに記録する。発表用のスライドを作成する。	120分
第14回	評価の報告会	栄養管理全体の評価について報告書にまとめた内容を発表する。	予習：発表原稿を覚える。 復習：報告書を作成する。	120分
第15回	まとめ、レポート提出、調理実習室整備	レポートを提出後、調理実習室を清掃する。	予習：調理実習室に入室する準備を行う。 復習：実習を通し学習した内容を振り返り、まとめる。	120分

学生へのフィードバック方法	授業の進行にしたがってワークシートに記入したものを、その都度確認し、返却する。				
評価方法	提出物60%、定期試験20%、平常点20%を総合的に評価する。 ※提出物：提出された内容の正確性、丁寧さを評価する。なお、提出遅れ、未提出は0点とする。 ※定期試験：範囲は授業時間中に提示する。 ※平常点：受講態度、予習の状況、プレゼンテーション等の状況を評価する。				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	提出物	○	○	○	○
	定期試験	○	○		
	平常点			○	○
評価割合	提出物50%、定期試験30%、平常点20%とし、総合的に評価する。				
使用教科書名 (ISBN番号)	「七訂食品成分表」 女子栄養大出版部 「調理のためのベーシックデータ」 女子栄養大出版部 「日本人の食事摂取基準[2020年版]」 第一出版				
参考図書	適宜紹介する				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。 【思考・判断】現代の食・栄養の課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。 【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。 【技能・表現】健康のための栄養管理に関する技能とともに、コミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。				
オフィスアワー	水曜日昼休み (1B05研究室)				
学生へのメッセージ	1) 受講にあたり、以下の内容に取り組むことを期待する。 ○遅刻や欠席、私語、内職、居眠りを慎み、メモを取るなど主体的に取り組む。 ○計画的に予習、復習に取り組み、理解を深めるよう努める。 ○提出物は、手順や締め切りを守り、学習した内容を理論的に書くよう努める。 2) 電卓を用意する。試験時の携帯電話等、情報機器類の持ち込みは不可とする。				
教育等の取組み状況	教育等の取組み状況				
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、スポーツ栄養の現場、行政施設等での実務経験を有しており、対象者に応じた栄養管理業務について理論と技術を教授している。			
アクティブ・ラーニング	○	実習という科目の性質上、学生は班ごとにディスカッションしながら課題を遂行し、その結果をレポートにまとめ、発表する。			
情報リテラシー教育	○	発表会用のプレゼンテーション資料を作成する。			
ICT活用	○	発表会用の資料をパワーポイントで作成し、映写して発表する。			

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食品衛生学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 林 一也	指定なし

ナンバリング	H22310C21
授業概要(教育目的)	食品の取り巻く情勢は、食の多様化、流通の国際化、食品をめぐる環境の変化などめぐるしく変化してきている。また、国民の健康志向が増大し、残留農薬や異物混入、添加物、違法表示など、食品の安全、安心への期待、関心が高まっている。国際的に整合性のある食品衛生管理への要望が高まっており、管理栄養士にもその責務が求められている。本講義では、様々な食品衛生に関する項目（微生物、食品添加物、行政、農薬、化学物質、その他）を学び、食品衛生管理を行ううえでの基礎とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	食の安全・安心とは何かを食品衛生と関連づけて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	様々な場面で食品衛生を行う上で、どのようなことを成すべきかを考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

食品衛生学

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス、食品衛生行政および関連法規、食品の表示	食品衛生学のシラバス等を含めた講義の概要とを学ぶにあたっての諸注意の説明。食品衛生に関連する法規や行政の仕組みを理解する。また、国際的な食品衛生の規格などについても理解をする。	教科書第1章「食品の安全」1～6ページおよび第2章「食品衛生と法規」5～23ページを読んでおくこと。特に衛生に関する行政や法規は複雑なので良く復習をして理解すること。	240分
第2回	食品の変質と防止方法(変質、保存方法、包装容器)	食品の変質はどのようにして起きるのか、またその防止方法について理解をする。	教科書第3章「食品の変質/油脂の酸敗、食品の変質の防止法、鮮度、腐敗、酸敗の判定法」32～54ページを読んでおくこと。	240分
第3回	食品と微生物(微生物の種類)	食品に係わる微生物の種類や基本的な性質について理解する。	教科書第3章「食品の変質/微生物」25～31ページを読んでおくこと。特に微生物の名前や性	240分

			質は複雑なので良く復習をして理解すること。	
第4回	食品と微生物（微生物の諸性質）	食品に係わる微生物の種類や基本的な性質について理解する。	教科書第3章「食品の変質／微生物」32～41ページを読んでおくこと。特に微生物の名前や性質は複雑なので前回の講義内容と合わせて復習をして理解すること。	240分
第5回	食中毒の定義	食中毒とは何か、定義や発生状況等を理解する。	教科書第4章「食中毒／食中毒とは、食中毒の発生状況」57～65ページを読んでおくこと。食中毒は食品衛生の中心となるので良く復習をして理解すること。	240分
第6回	食中毒（細菌性1）	食中毒のうち細菌性の食中毒について理解する。	教科書第4章「食中毒／細菌性食中毒」65～89ページを読んでおくこと。細菌別の食中毒の特徴を良く復習をして理解すること。	240分
第7回	食中毒（細菌性2）	食中毒のうち細菌性の食中毒について理解する。	教科書第4章「食中毒／細菌性食中毒」65～89ページを読んでおくこと。細菌別の食中毒の特徴を良く復習をして理解すること。	240分
第8回	食中毒（細菌性3、ウイルス性）	食中毒のうち細菌性の食中毒およびウイルス性の食中毒について理解する。	教科書第4章「食中毒／細菌性食中毒」65～89ページおよび「食中毒／ウイルス性食中毒」90～95ページを読んでおくこと。細菌別やウイルスの食中毒の特徴を良く復習をして理解すること。	240分
第9回	食中毒（寄生虫・自然毒・化学毒・食物アレルギー）	食中毒のうち微生物によって起こる以外食中毒で、寄生虫、動物性・植物性の食中毒、化学毒、食物アレルギーなどについて理解する。	教科書第4章「食中毒／寄生虫による食中毒、自然毒食中毒、化学性食中毒、食物アレルギー」96～116ページを読んでおくこと。また、全体的に食中毒の特徴を良く復習をして理解すること。	240分
第10回	寄生虫と感染症	前回の続き寄生虫症と食品から感染する感染症について理解する。	教科書第5章「食品による感染症と寄生虫症」117～148ページを読んでおくこと。	240分
第11回	食品汚染物質	食品の汚染物質、カビ毒や化学物質、有害物質、食品加工により生じる有害物について理解する。	教科書第6章「食品の汚染物質」149～170ページを読んでおくこと。特にカビ毒と食品成分の変化（食品加工）によって生じる有害物質について良く復習をして理解すること。	240分
第12回	食品添加物	食品添加物の安全性評価、使用基準、種類と用途について理解する。	教科書第7章「食品添加物」181～206ページを読んでおくこと。食品添加物は加工食品には欠かせないもので、日常的に用いられているため、良く復習をして理解すること。	240分
第13回	食品添加物	食品添加物の安全性評価、使用基準、種類と用途について理解する。	教科書第7章「食品添加物」181～206ページを読んでおくこと。食品添加物は加工食品には欠かせないもので、日常的に用いられているため、良く復習をして理解すること。	240分
第14回	食品衛生管理と包装容器	食品衛生管理法として HACCPやISOを理解する。併せて洗剤や包装容器についても理解する。	教科書第8章「食品衛生管理」209～238ページおよび第9章「食品用器具および包装容器」239～245ページを読んでおくこと。	240分
第15回	食品の安全性の問題とまとめ	食の安全、残留農薬や遺伝子組換え、放射線処理などの問題を理解する。また全体を通したまとめを行う。	教科書第10章「食品の安全性問題」247～263ページを読んでおくこと。食品衛生の全体を良く理解できるように復習すること。	240分

学習計画注記

講義内容の進行状況によりシラバスが前後する場合がある。

学生へのフィードバック方法	各回の講義、復習などで質問や不明な点がある場合は、1401研究室まで訪問するか、e-mailで問い合わせること。				
評価方法	成績の評価は、定期試験の成績によって判定する。ただし、授業への参加態度等を成績判定に加えることがある。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	定期試験	○	○		
評価割合	定期試験 (90%) 授業への参加態度などの平常点 (10%)				
使用教科書名 (ISBN番号)	食べ物と健康 食品の安全 改訂第2版 有菌幸司 (編集) 南江堂 2018 (ISBN 978-4-524-24532-1)				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】食品衛生に関する基礎知識を学ぶことによって、管理栄養士として食や栄養を扱う上での、食品衛生の基礎を理解できる知識基盤を有している。 【思考・判断】食品衛生に関する正確な情報を収集し、論理的・批判的に思考することで食の安全・安心に関する取り組みに対処できる能力を身につける。				
オフィスアワー	月曜日3時限あるいは火曜日以外の昼時間 1401研究室				
学生へのメッセージ	食品衛生は、食品を扱う上での基本です。食品添加物や食品表示、食中毒など様々なものを学んでください。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	民間の食品企業で食品の研究・開発・品質管理における微生物管理や商品管理、HACCP、残留農薬・食品添加物などに携わった内容を踏まえ、食品衛生を実学的・実践的に教授している。			
アクティブ・ラーニング					
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食品衛生学実験		
講義開講時期	前期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限後半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 林 一也	指定なし

ナンバリング	H32311C13
授業概要(教育目的)	食品衛生の立場から、食品の安全性を確かめる物理的、化学的並びに微生物学的諸検査を、身近な食品を対象にして行う。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	食品衛生の技術を学ぶことで、食品衛生に関心を持ち、さらにチームで実験を行うことで、協調性を養える。
技術・表現の観点 (A)	食の安全・安心の基本となる食衛生の諸技術を学ぶことで、様々な場面で食品衛生を行う上で、どのようなことを成すべきかを考えることができる。

学習計画

食品衛生学実験

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	食品衛生学実験のシラバス等を含めた実験の概要と実験をする上での諸注意の説明および実験で使用する器具などの説明。		
第2回	微生物培養培地作製	微生物の標準培養培地の作成。微生物を培養するときの方法や培地の説明		
第3回	微生物培養培地作製	微生物の選択培養培地および大腸菌検査培地の作成。微生物を殺菌法、保存法などを説明。		
第4回	食品の微生物検査(標準平板培養法、大腸菌群テスト)	普段、食している食品中の一般生菌数と大腸菌群数を検査する。		
第5回	食品の微生物検査(生菌数、大腸)	普段、食している食品中の一般生菌数、大腸菌群数の検査および大腸菌群測定培地で得られたコロニーのうち、大腸菌を確定する試験を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分

	菌群数、大腸菌確定検査)			
第6回	真菌類の食品からの分離(カビ、酵母)	真菌を用いてつくられている食品から真菌類(カビおよび酵母)を分離する。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第7回	真菌類の形態観察、細菌類の分離	前回分離したカビおよび酵母のコロニー観察と顕微鏡による形態観察をおこなう。さらに、細菌を用いてつくられた食品から細菌類を分離する。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第8回	細菌類の顕微鏡観察(グラム染色など)	前回分離した細菌類の分離した細菌のコロニー観察と顕微鏡による形態観察をおこなう。さらに、分離した細菌をグラム染色を行い、グラム陽性、陰性の検査を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第9回	微生物の抗生物質耐性試験	真菌類および細菌類の各種抗生物質に対する抵抗性(感受性)試験を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第10回	微生物の耐紫外線、耐熱性試験	細菌類の紫外線および加熱に対する耐性試験を行い、紫外線、加熱殺菌に対する効力を検討する。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第11回	生活環境と手指等の清潔度(微生物汚染度)の測定	生活環境における微生物生息数の試験および手指に生息する微生物数の試験(手洗いによる微生物除去も含め)を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第12回	遺伝子組換え食品の検出試験	遺伝子組換え食品として流通が許されている食品から遺伝子組換え作物を原料として用いているかの判定試験(遺伝子組換え検出試験)を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第13回	食品添加物(着色料)の検出試験	食品添加物の着色料を食品から分離検出する試験を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第14回	油脂の酸化度測定、水道水の残留塩素濃度測定、畜肉加工品の発色剤の検出	使用済み、未使用の油脂の酸化度の測定、水道水の残留塩素濃度の測定、畜肉加工品に使用される発色剤の検出を行う。	実験におけるレポートを作成する。	60分
第15回	残留農薬試験	食品に残留する残留農薬をGC-MSを用いて検出する方法を学ぶ。	実験におけるレポートを作成する。	60分

学習計画注記 シラバスは、学年暦などにより回の内容が入れ替わることがある。

学生へのフィードバック方法 各回の内容などで質問や不明な点がある場合は、1401研究室まで訪問するか、e-mailで問い合わせること。

評価方法 成績の評価は、レポート提出とその内容および授業へ臨む態度等により成績判定する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート	○	○		
実験に臨む態度等			○	○

評価割合 レポート(50%)および実験へ臨む態度などの平常点(50%)で判定する。

使用教科書名(ISBN番号) プリント配布

ディプロマポリシーとの関連
【知識・理解】食品衛生の技術・手法などを理解し、管理栄養士等の専門職業人として、食品衛生を行える能力を身につけている。
【思考・判断】食品衛生の正確な情報を収集することでの確かな食品衛生を行える能力を身につけている。
【関心・意欲・態度】食品衛生の技術・手法などを学ぶことで、食品衛生に関心を持ち、さらにチームで実験を行うことで、他者と協働するための共感力を身につけている。
【技術・表現】食品衛生の技術・手法を学ぶ実学を通じて、食品の安全・安心を的確に扱える専門的スキルを身につけている。

オフィスアワー オフィスアワー 月曜日3時限 1401研究室

学生へのメッセージ	食品企業や衛生検査機関などで行われている微生物の検査，食品添加物の検査などを行います。社会に出て，食の分野で働くためには必要な基礎知識です。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	民間の食品企業で食品の研究・開発・品質管理における微生物管理や商品管理、HACCP、残留農薬・食品添加物などに携わった内容を踏まえ、食品衛生学実験を教える上で食品衛生の管理等の手法を実学的・実践的に教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	基礎栄養学 I		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	4 限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 海野 知紀	指定なし

ナンバリング	H13401C21
授業概要(教育目的)	基礎栄養学 I では、栄養とは何か、その意義について理解するとともに、栄養素の消化・吸収の基本概念を修得する。人間の個体レベルでの栄養現象を、摂取した食品に含まれる栄養素の面から捉え、生体内に吸収された後、生体の構成成分として代謝変換される一連の代謝過程について体系的に講義する。また、エネルギーの消費と供給のバランスを保つ摂食行動及びそれに係る代謝調節の全体像についても概説する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養と栄養素について説明できる。 2. 生活習慣病と遺伝子多型(遺伝因子)の関連について説明できる 3. 摂食行動の調節機構について説明できる。 4. 消化・吸収と排泄の意義と調節機構について説明できる。 5. 栄養素ごとに、関連の消化酵素と作用機序、吸収過程について説明できる。 6. 炭水化物の栄養学的役割について説明できる。 7. 炭水化物の各臓器における役割と動態を説明できる。 8. 血糖とその調節機構を説明できる。 9. 食物繊維の定義、種類、分類、主な生理機能について説明できる。 10. 脂質の栄養学的役割について説明できる。 11. 脂質の体内動態と臓器特性について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 健康維持・増進、疾病予防、治療との係わりから栄養の意義(重要性)を的確に類別できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	栄養の定義、栄養と健康・疾患	栄養の概念および栄養と健康・疾患との関わりから、栄養の意義を理解する。欠乏と過剰を起源とした栄養学の歴史について学ぶ。	教科書第1章の「栄養の定義」「栄養と健康・疾患」(14~19ページ)を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて120分
第2回	遺伝形質と栄養の相互作用	遺伝形質と栄養の相互作用について学び、生活習慣病と遺伝子多型の関連について理解する。特に、節約(節約)遺伝子の種類と役割を知る。	教科書第1章の「遺伝形質と栄養の相互作用」(20~25ページ)を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて120分

第3回	食物の摂取（空腹感と食欲、食事のリズムとタイミング）	空腹時、満腹時における生理的な条件変化（自律神経系、内分泌系など）に伴う摂食行動の調節機構を理解する。また、摂食行動における概日リズムの重要性を知る。	教科書第2章の「満腹感・空腹感と食欲」「摂食量の調節」「食事のリズムとタイミング」（28～36ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて120分
第4回	消化・吸収と栄養素の体内動態（消化器系の構造と機能）	栄養素の消化と吸収の意義と機構について、消化器系の構造と機能の観点から理解する。	教科書第3章の「消化器系の構造と機能」「消化・吸収と栄養」（39～44ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて120分
第5回	消化・吸収と栄養素の体内動態（消化過程の概要、管腔内消化の調節）	物理的消化、化学的消化、生物学的消化の概念を理解する。特に化学的消化に係る消化酵素の種類やはたらきに関する基本的事項を学び、ホルモンによる分泌調節の仕組みを理解する。	教科書第3章の「消化過程（分泌源別の酵素・活性化・基質・終末産物）の概要」「管腔内消化の調節」（44～51ページ）を読んでおくこと。 授業の最初に、1～4回の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。	復習と予習をあわせて240分
第6回	消化・吸収と栄養素の体内動態（膜消化・吸収）	吸収の機序（受動輸送、能動輸送）の基本的概念を理解する。さらに、水溶性栄養素と脂溶性栄養素の体内動態について学ぶ。	教科書第3章の「膜消化・吸収」（52～56ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて120分
第7回	栄養素別の消化・吸収（炭水化物、たんぱく質）	炭水化物とたんぱく質の消化・吸収の機序を学ぶ。特に、それぞれの栄養素の消化に係る酵素と、吸収に係る輸送体（トランスポーター）の種類と役割について理解する。	教科書第3章の「栄養素別の消化・吸収」のたんぱく質と炭水化物（糖質、食物繊維）（56～59ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて120分
第8回	栄養素別の消化・吸収（脂質、ビタミン、ミネラル）	脂質、ビタミン、ミネラルの消化・吸収の機序を学ぶ。特に、生理的条件におけるミネラルの吸収性の違いについても把握する。	教科書第3章の「栄養素別の消化・吸収」の脂質、ビタミン、ミネラル（59～63ページ）を読んでおくこと。 授業の最初に、5～7回の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。	復習と予習をあわせて240分
第9回	栄養素の体内動態、生物学的利用度	消化吸収率の測定法および算定法を理解する。	教科書第3章の「栄養素の体内動態」「生物学的利用度（生物学的有効性）」（64～66ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて120分
第10回	炭水化物の栄養（エネルギー源としての作用、血糖とその調節）	血糖値調節ホルモンの種類と役割を学ぶ。グリコーゲンの体内分布、その分解と合成の過程をエネルギー代謝との関係で把握する。	教科書第4章の「エネルギー源としての作用」「血糖とその調節」（70～74ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて120分
第11回	炭水化物の栄養（糖質の体内代謝）	炭水化物の各臓器における役割と動態を理解する。特に、脳のエネルギー源としてのグルコースの役割を知り、血糖の一定に保つことの重要性を理解する。	教科書第4章の「糖質の体内代謝」（75～78ページ）を読んでおくこと。 授業の最初に、8～10回の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。	復習と予習をあわせて240分
第12回	炭水化物の栄養（他の栄養素との関係、食物繊維）	炭水化物の摂取量に影響して、必要量が変わるビタミンを理解する。食物繊維の定義、種類、分類、それぞれの主な生理作用を理解する。	教科書第4章の「他の栄養素との関係」「食物繊維」（78～83ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて120分
第13回	脂質の栄養（脂質の臓器間輸送）	脂質の臓器間輸送におけるリポたんぱく質の役割を理解する。絶食時の脂肪組織におけるホルモン感受性リパーゼの作用を理解する。	教科書第5章の「脂質の臓器間輸送」（95～98ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて120分
第14回	脂質の栄養（脂質の体内代謝）	食後、食間期の脂質の体内代謝を学ぶ。また、細胞内で脂肪酸からエネルギーが産生されるまでの流れを理解する。	教科書第5章の「脂質の体内代謝」（98～100ページ）を読んでおくこと。 授業の最初に、11～13回の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。	復習と予習をあわせて240分
第15回	脂質の栄養（摂取する脂質の量と質の評価、脂肪酸由来	脂肪酸由来の生理活性物質（エイコサノイド）の種類と役割を理解する。	教科書第5章の「摂取する脂質の量と質の評価」「脂肪酸由来の生理活性物質」「他の栄養素との関係」（101～102ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて540分

の生理活性物質、他の栄養素との関係) 【定期試験】		授業の後半に、定期試験を実施するので、復習しておくこと。
------------------------------	--	------------------------------

学生へのフィードバック方法	実施した小テストは、採点して次週の授業にて返却する。小テストの模範解答は掲示するので、質問等がある場合には1205研究室（emailも可）まで訪問すること。
---------------	--

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストは3～4回分の授業に係る学習範囲から出題し、授業内に計4回実施する。1回あたりの問題数は20問で、すべて穴埋め方式で出題する。なお、学外実習等の合理的な理由がない限り、小テストの再試験は行わないので注意すること。 ・定期試験は80点満点で出題し、小テストの振り返りや、管理栄養士国家試験の出題形式に基づく選択式の問題を含む。また、計算問題と記述問題によって応用的な思考力や判断力を確認する。出題の傾向については、最後の授業にて説明する。 ・小テスト及び定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施している。
------	---

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○			
定期試験	○	○		

評価割合	定期試験（80％）、小テスト（20％）
------	---------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	栄養科学イラストレイテッド基礎栄養学改訂第4版（羊土社）（ISBN 978-4-7581-1360-1）
-----------------	--

参考図書	栄養科学イラストレイテッド [演習版] 基礎栄養学ノート 改訂第4版（羊土社）（ISBN 978-4-7581-1361-8）
------	---

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】人間、食物そして地域との相互関係から、「人間の栄養」を理解できる専門的知識を有している。</p> <p>【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。</p>
---------------	---

オフィスアワー	木曜日1限目
---------	--------

学生へのメッセージ	我々は食事を通して栄養素を摂取し、それを消化・吸収の過程を経て生体内に取り込む。取り込んだ栄養素がどのように役割を果たしているかを理解することは、健康維持・増進、疾病の予防・治療の観点から必要な学修であることから、主体的に学んでほしい。
-----------	--

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	基礎栄養学Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 海野 知紀	指定なし

ナンバリング	H13402C21
授業概要(教育目的)	基礎栄養学Ⅱでは、健康の保持・増進・疾病の予防・治療における栄養の役割を総合的に理解する。特に、ビタミン、無機質(ミネラル)、電解質、水分については、それぞれの栄養学的役割を概説し、欠乏または過剰がもたらす代謝変化を知る。また、基礎代謝や臓器別エネルギー代謝などエネルギー代謝の基本的概念について、その測定法を含めて学ぶ。
履修条件	基礎栄養学Ⅰを履修していること

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> たんぱく質・アミノ酸の栄養学的役割、臓器間輸送と臓器における機能の特徴について説明できる。 窒素平衡と食事たんぱく質の栄養価評価法について説明できる。 ビタミンの栄養学的役割、生理作用と欠乏・過剰について説明できる。 ビタミンの吸収と体内利用に及ぼす食事成分の影響について説明できる。 ミネラルの吸収、体内動態、および生理学的役割について説明できる。 ミネラルの欠乏と過剰が生体に及ぼす影響について説明できる。 生体内の水の分布、機能および水分出納について説明できる。 電解質(Na, K等)の生理学的役割について説明できる。 基礎代謝・安静時代謝、活動時代謝の定義、身体活動レベルについて説明できる。 生体の利用エネルギー、エネルギー消費量の測定法、エネルギー出納について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	<ol style="list-style-type: none"> 健康維持・増進、疾病予防、治療との係わりから栄養の意義(重要性)を的確に類別できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	たんぱく質の栄養(たんぱく質の合成と分解、たんぱく質・アミノ酸の臓器間輸送)	たんぱく質・アミノ酸の代謝について、食後、食間期の違いを把握する。生体内におけるたんぱく質の合成と分解の仕組みについて理解する。	教科書第6章の「たんぱく質の合成と分解」「たんぱく質・アミノ酸の体内代謝」(110~113ページ)を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて120分

第2回	たんぱく質の栄養(たんぱく質・アミノ酸代謝の臓器差、アミノ酸の臓器間輸送)	たんぱく質・アミノ酸の臓器間輸送と臓器における機能の特徴(代謝の臓器差)について理解する。	教科書第6章の「たんぱく質・アミノ酸代謝の臓器差」「アミノ酸の臓器間輸送」(114~117ページ)を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて120分
第3回	たんぱく質の栄養(摂取するたんぱく質の量と質の評価、他の栄養素との関係)	食事たんぱく質の栄養価評価法(生物学的評価法、化学的評価法)について、その基本的概念を理解する。たんぱく質の摂取量に影響して、必要量が変わるビタミンを理解する。	教科書第6章の「摂取するたんぱく質の量と質の評価」「他の栄養素との関係」(117~121ページ)を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて120分
第4回	ビタミンの栄養(ビタミンの構造と機能:脂溶性ビタミン)	脂溶性ビタミンの種類と機能を理解する。また、脂溶性ビタミンの摂取過多による過剰症についても学ぶ。	教科書第7章の「ビタミンの構造と機能」(126~129ページ)を読んでおくこと。授業の最初に、1~3回の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。	復習と予習をあわせて240分
第5回	ビタミンの栄養(ビタミンの構造と機能:水溶性ビタミン①)	水溶性ビタミンの種類(B1, B2, B6, B12, ナイアシン)と機能を理解する。また、水溶性ビタミンの摂取不足による欠乏症についても学ぶ。	教科書第7章の「ビタミンの構造と機能」(129~132ページ)を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて120分
第6回	ビタミンの栄養(ビタミンの構造と機能:水溶性ビタミン②)	水溶性ビタミンの種類(葉酸、パントテン酸、ビオチン、ビタミンC)と機能を理解する。また、水溶性ビタミンの摂取不足による欠乏症についても学ぶ。	教科書第7章の「ビタミンの構造と機能」(133~135ページ)を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて120分
第7回	ビタミンの栄養(ビタミンの栄養学的機能、ビタミンの生物学的利用度、他の栄養素との関係)	ホルモン様作用、補酵素、抗酸化作用、血液凝固、造血作用、一炭素単位代謝に係る各種ビタミンについて理解する。水溶性ビタミンの組織飽和と尿中排泄、腸内細菌によるある種のビタミンの産生、ビタミンB12吸収機構の特殊性を理解する。	教科書第7章の「ビタミンの栄養学的機能」「ビタミンの生物学的利用度」「他の栄養素との関係」(135~139ページ)を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて120分
第8回	ミネラルの栄養(ミネラルの分類と栄養学的機能、硬組織におけるはたらき)	多量ミネラルと微量ミネラルの分類を学び、体内における分布とその意義を理解する。硬組織(骨、歯)におけるカルシウム、リン、マグネシウムの役割を理解する。	教科書第8章の「ミネラルの分類と栄養学的機能」「硬組織におけるはたらき」(143~146ページ)を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて120分
第9回	ミネラルの栄養(生体機能の調節作用、酵素反応の賦活作用)	血圧調節に係るアンジオテンシン、アルドステロンとナトリウムの仕組みを理解する。活性酸素消去酵素、呼吸酵素に係るミネラルを把握する。	教科書第8章の「生体機能の調節機構」「酵素反応の賦活作用」(147~148ページ)を読んでおくこと。授業の最初に、5~8回の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。	復習と予習をあわせて240分
第10回	ミネラルの栄養(鉄代謝と栄養、ミネラルの生物学的利用度)	ヘム鉄と非ヘム鉄、機能鉄と貯蔵鉄の関係を理解する。カルシウム、鉄の消化吸収率と変動要因について理解する。	教科書第8章の「鉄代謝と栄養」「ミネラルの生物学的利用度」(149~151ページ)を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて120分
第11回	水・電解質の栄養的意義(水の出納)	水の供給と排出に係る代謝水、不可避尿、不感蒸泄の実際を理解する。	教科書第9章の「生体内の水」「水の出納」(155~158ページ)を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて120分
第12回	水・電解質の栄養的意義(脱水、浮腫、電解質代謝と栄養)	脱水の種類と臨床的症状を理解する。酸塩基平衡における電解質の役割を理解する。高血圧とナトリウム・カリウムの関与を理解する。	教科書第9章の「脱水、浮腫」「電解質代謝と栄養」(158~166ページ)を読んでおくこと。授業の最初に、9~11回の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。	復習と予習をあわせて240分

第13回	エネルギー代謝の概念	物理的燃焼値と生理的燃焼値の違いについて把握する。基礎代謝量の概念と基礎代謝量に影響を及ぼす因子について理解する。	教科書第10章の「エネルギー代謝の概念」「エネルギー消費量（基礎代謝量）」（170～172ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて120分
第14回	エネルギー消費量、臓器別エネルギー代謝	メッツ（Mets）、身体活動レベル（PAL）の定義を理解する。安静時における臓器別エネルギー代謝量の特徴を理解する。	教科書第10章の「エネルギー消費量」「臓器別エネルギー代謝」（172～176ページ）を読んでおくこと。	復習と予習をあわせて120分
第15回	エネルギー代謝の測定法	呼気ガス分析によるエネルギー代謝量の測定原理、エネルギー基質としての糖質と脂質の燃焼割合の算出法を理解する。	教科書第10章の「エネルギー代謝の測定法」（176～180ページ）を読んでおくこと。授業の最初に、12～14回の授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。	復習と予習をあわせて240分
第16回	定期試験		教科書6章から10章までを復習しておくこと。	復習420分

学生へのフィードバック方法 実施した小テストは、採点して次週の授業にて返却する。小テストの模範解答は掲示するので、質問等がある場合には1205研究室（emailも可）まで訪問すること。

評価方法

- ・小テストは3～4回分の授業に係る学習範囲から出題し、授業内に計4回実施する。1回あたりの問題数は20問で、すべて穴埋め方式で出題する。なお、学外実習等の合理的な理由がない限り、小テストの再試験は行わないので注意すること。
- ・定期試験は80点満点で出題し、小テストの振り返りや、管理栄養士国家試験の出題形式に基づく選択式の問題を含む。また、計算問題と記述問題によって応用的な思考力や判断力を確認する。出題の傾向については、最後の授業にて説明する。
- ・小テスト及び定期試験は、評価基準に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○			
定期試験	○	○		

評価割合 定期試験（80%）、小テスト（20%）

使用教科書名 (ISBN番号) 栄養科学イラストレイテッド基礎栄養学 改訂第4版（羊土社）（ISBN 978-4-7581-1360-1）

参考図書 栄養科学イラストレイテッド [演習版] 基礎栄養学ノート 改訂第4版（羊土社）（ISBN 978-4-7581-1361-8）

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間、食物そして地域との相互関係から、「人間の栄養」を理解できる専門的知識を有している。
【思考・判断】正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。

学生へのメッセージ 我々は食事を通して栄養素を摂取し、それを消化・吸収の過程を経て生体内に取り込む。取り込んだ栄養素がどのように役割を果たしているかを理解することは、健康維持・増進、疾病の予防・治療の観点から必要な学修であることから、主体的に学んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	基礎栄養学実験		
講義開講時期	後期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限後半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	健康栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 馬場 修	指定なし

ナンバリング	H23403C13
授業概要(教育目的)	栄養素が生体にとってどのような吸収・代謝経路をたどり、生理的役割を果たしているか、またそれらが体内で利用された後、どのように排泄されているかなどについて、実験的手法を通して理解する。また、摂取する栄養素の量と質によって生体濃度が変化するがその測定について習得する。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	各栄養素の消化についてその概要が説明できる。血液の生化学的検査手法について説明できる。
思考・判断の観点(K)	実験で得られた結果について、論理的に考察できる。
関心・意欲・態度の観点(V)	
技術・表現の観点(A)	実験の基本操作、実験方法に習熟する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)
第1回	実験の予定と諸注意	
第2回	糖質実験(でんぷんの消化Ⅰ)	糖質の消化による変化を人工消化試験から観察し反応温度と消化の関係について考察する。
第3回	糖質実験(でんぷんの消化Ⅱ)	糖質の消化による変化を人工消化試験から観察しpHと消化の関係について考察する。
第4回	タンパク質実験(タンパク質の消化Ⅰ)	たんぱく質の消化と温度の関係を人工消化試験から観察する。
第5回	タンパク質実験(タンパク質の消化Ⅱ)	たんぱく質の消化と温度の関係を人工消化試験から観察する。
第6回	タンパク質実験(タンパク質の消化Ⅲ)	消化によって生じた低分子のペプチド、アミノ酸をローリー法で測定し、消化の程度を観察する。
第7回	脂質の消化(Ⅰ)	リパーゼによる脂質の人工消化試験を行い、構成する脂肪酸の同定を薄層クロマトグラフィー(TLC)で行う。薄層クロマトグラフィーの原理について理解する。
第8回	脂質の消化(Ⅱ)	薄層板(TLC)の溶媒による展開と消化分解産物と標準脂肪酸の同定。

第9回	クロマトグラフィー(I)	クロマトグラフィーの原理と物質の分離について理解する。
第10回	クロマトグラフィー(II)	カラムクロマトグラフィーを用いた添加回収試験により実験の信頼性について理解する。
第11回	血液成分の分析血漿の遊離脂肪酸、中性脂質測定	血漿の遊離脂肪酸、中性脂質を測定し、測定の原理と意義について理解する。
第12回	血液成分の分析血漿の総コレステロール、遊離コレステロール測定	血漿の遊離脂肪酸、中性脂質を測定し、測定の原理と意義について理解する。
第13回	血液成分の分析血漿のアミノ基転移酵素活性測定	血漿のアミノ基転移酵素活性を測定し、測定の原理と意義について理解する。
第14回	データ解析	統計的手法を用いて実験結果に対して論理的判断ができる。
第15回	データ解析	統計的手法を用いて実験結果に対して論理的判断ができる。

学生へのフィードバック方法 レポートの提出により、栄養成分の消化について理解が進むようフィードバックする。

評価方法 レポート：(90%)、小テスト(10%)

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート	○	○		
小テスト	○	○		

評価割合 レポート(90%)、小テスト(10%)

使用教科書名 (ISBN番号) プリントを配布
新しい生化学・栄養学実験 ISBN4-7827-0450-x c3077

ディプロマポリシーとの関連 管理栄養士として必要な、基礎専門知識を実験を通して身につける。得られた結果について論理的思考による判断が行える。

オフィスアワー 木 2・3限

学生へのメッセージ 基礎専門知識を導く元となる実験を通して管理栄養士の基礎力を身につけてほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食事摂取基準論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 斉藤 恵美子	指定なし

ナンバリング	H23501021
授業概要(教育目的)	食事摂取基準の概念や、エネルギーおよび各栄養素の基準値設定と その根拠について学ぶ。特に国内外における基礎的研究・疫学的研究などの結果の意義や解釈について十分理解できるようにする。さらに食事摂取基準値と疾病リスクとの関連、また、ライフステージ別の特徴に対して理解を深め、種々の対象者における栄養教育・栄養管理上での活用に関する考え方、個人および集団を対象とした場合の具体的な使い方の知識・技術を深める。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	食事摂取基準策定の意義や科学的根拠について説明できる。 栄養素の各指標について科学的根拠に基づき説明できる。
思考・判断の観点 (K)	健康増進・疾病予防に寄与する栄養素の機能などを理解し、各ライフステージにおける栄養管理に活用することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	総論	食事摂取基準について、策定方針、基本的事項、留意事項、活用に関する基本的事項などを理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第2回	エネルギー1	エネルギーに関する基本的事項、エネルギー摂取の消費などについて理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第3回	エネルギー2	エネルギー必要量に関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分

第4回	たんぱく質1	たんぱく質に関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第5回	たんぱく質2	たんぱく質に関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第6回	脂質1	脂質に関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第7回	脂質2	脂質（脂肪酸、コレステロール）に関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第8回	炭水化物、エネルギー産生栄養素バランス	炭水化物、エネルギー産生栄養素バランスに関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第9回	脂溶性ビタミン	脂溶性ビタミンに関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第10回	水溶性ビタミン1	水溶性ビタミン（B1, B2, ナイアシン, B6, B12）に関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第11回	水溶性ビタミン2	水溶性ビタミン（葉酸, パントテン酸, ビオチン, ビタミンC）に関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第12回	多量ミネラル	多量ミネラルに関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第13回	微量ミネラル1	微量ミネラル（鉄, 亜鉛, 銅, マンガン）に関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第14回	微量ミネラル2	微量ミネラル（ヨウ素, セレン, クロム, モリブデン）に関する、基本的事項や必要量の測定・推定・算定方法について理解する。	事前学習：教科書の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第15回	まとめ	食事摂取基準論全体のまとめ	事前学習：第1回～第14回を復習しておく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。 これまでの授業内容を総復習しておく。	600分
第16回	定期試験			

学習計画注記

履修者の状況や授業の進行度合いによってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法

講義時に、講義内容に相当する管理栄養士国家試験に準じた練習問題を行う。

評価方法

定期試験（筆記試験）で評価を行う。60%以上の得点で合格とする。筆記試験の形式については授業内で説明する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		

評価割合	定期試験100%
使用教科書名 (ISBN番号)	日本人の食事摂取基準2020年版 (第一出版)
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「人間の栄養」を理解するための専門的知識を身につける。 【思考・判断】食・栄養に関わる諸問題の解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。
オフィスアワー	火曜4時限 1503研究室
学生へのメッセージ	単に栄養素の数値を覚えるのではなく、その背景にある考え方を理解するようにしてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、医療の実地臨床において、診療業務等の実務経験を有しており、臨床現場における現状や具体例も呈示しながら、実践的な内容を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ライフステージ別栄養学 I		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3 限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 原 光彦	指定なし

ナンバリング	H23502C21
授業概要(教育目的)	ライフステージ別栄養学 I は応用栄養学の一分野に分類される。 ライフステージ別の栄養学とそれに関連した病態生理についての学習する。 この授業ではライフステージ概論にはじまり、妊娠期（児の側からみれば胎児期）、新生児期、乳幼児期、学童期、思春期にいたる成長期における各段階の栄養と母性栄養学を包括的に学ぶ。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	母性栄養と成長期の特徴及び栄養の重要性を理解し説明できる。
思考・判断の観点 (K)	ライフステージについて説明することができ、栄養学的な視点から考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ライフステージ別栄養学の概要	ライフステージやライフサイクルの概念、小児期の分類、ヒトのライフステージと食生活、成長発達に伴う変化生涯にわたる健康のためのアプローチについて理解する。	教科書の第3章、A、B(55-65ページ)を読んでおくこと。	120分
第2回	栄養アセスメント	栄養スクリーニングの方法、臨床検査値の解釈、問診・食事調査法について理解する。	教科書の第1章A-D(1-10ページ)を読んでおくこと。	120分
第3回	妊娠・産褥期の生理	妊娠成立の仕組み、発生週数と在胎週数の違い、妊娠に伴う母体の変化、胎児発育に影響を及ぼす因子、産褥について理解する。	教科書の第4章A(69-73ページ)を読んでおくこと。	120分
第4回	妊娠・分娩・産褥期の栄養アセスメントと病態生理	妊娠中の低栄養と次世代の健康、妊婦・授乳婦の栄養必要量や栄養付加量、妊産婦のための食事バランスガイド、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病について理解する。	教科書の第4章C-E(74-84ページ)を読んでおくこと。	120分

第5回	授乳期	乳汁に関するホルモン、母乳栄養の利点、初乳と生乳の違い、授乳婦の栄養、授乳中に注意すべき食品や服薬、垂直感染について理解する。	教科書の第4章授乳期A-D (85-109ページ) を読んでおくこと。	120分
第6回	正常新生児と乳児	新生児の分類、胎児循環、褐色脂肪細胞、新生児の診察と原始反射、新生児期から乳児期の身体発育の原則、授乳や離乳食が順調か否かの判断法について理解する。	教科書の第5章A, B (111-123ページ) を読んでおくこと。	120分
第7回	未熟児、新生児の病態生理と栄養学的問題	未熟性に起因した疾患や問題点、新生児黄疸、先天性胆道閉鎖症、ビタミンK欠乏性出血症、呼吸窮迫症候群、低血糖、貧血、消化管アレルギー、くる病、絵師成長円などについて理解する。	教科書の第5章C (123-129ページ) を読んでおくこと。	120分
第8回	栄養補給法 母乳と人工乳の違い	母乳と人工乳の違い、母乳育児を進めるためのポイント、育児用ミルクの種類と特徴について理解する。	教科書の第5章D (130-139ページ) を読んでおくこと。	120分
第9回	乳児期の栄養と離乳食	離乳の開始・進行・終了、離乳食の進め方と支援法、手づかみ食べの重要性、咀嚼機能の発達、乳児期の食事摂取基準について理解する。	教科書の第5章のD-F (139-142ページ) を読んでおくこと。	120分
第10回	先天性代謝異常章と特殊ミルク	代表的な先天性代謝異常症の種類と病態・治療法、新生児マススクリーニング、特殊ミルクの適応症について理解する。	この部分は教科書には記載されていないが、国家試験問題としては頻出する。学習内容に記載されたのキーワードを参考にし、書籍やインターネットで予習しておくこと。	240分
第11回	幼児期の成長と栄養アセスメント	スカモンの臓器別発育曲線、幼児の体格判定法、骨年齢、歯牙の生える順番、幼児期における各臓器の発育発達の特徴、間食の量や与え方について理解する。	教科書の第6章A-C (145-154ページ) を読んでおくこと。	120分
第12回	幼児期の病態と栄養ケア	幼児期のやせと栄養障害、貧血、脱水、周期性嘔吐症、食物アレルギー、食を通じた幼児の健全育成について理解する。	教科書の第6章のD-F (154-169ページ) を読んでおくこと。	120分
第13回	学童期の成長障害と栄養アセスメント	思春期のホルモン分泌、成熟度の評価法、小児肥満・肥満症・メタボリック症候群、小児の家族性高コレステロール血症について理解する。	教科書の第7章A-D (171-184ページ) を読んでおくこと	120分
第14回	思春期の病態と栄養ケア	思春期に頻度が上昇する、糖尿病、やせ、貧血、女性アスリート之三主徴や、逸脱行為(喫煙、飲酒、性の問題)、生活リズム障害について理解する。	教科書の第7E-F (185-202ページ) を読んでおくこと。	120分
第15回	ライフステージ栄養学 (妊婦、胎児、新生児、乳幼児、学童期、思春期)のまとめ	第1回から14回の講義で、特に栄養学的に重要な部分を確認し、理解や知識を確かなものとする。	第1回から14回までの配布資料に再度目を通すこと。知識が不確かな部分は、その部分の教科書も再度読んでおくこと。	240分

学習計画注記 授業の進行度合いによって、スケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法 授業ごとに配布するプリントに沿って講義を行います。パワーポイントも併用します。授業中は、皆さんの理解の程度を確認するため、質問をします。質問には積極的に答えてください。

評価方法 定期試験の成績で100%評価します。受講態度が著しく悪く他の受講生に迷惑をかけている場合には、程度に応じて定期試験の点数から減点します。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			
受講態度			○	

評価割合 定期試験の成績で100%評価します。15回の講義の内、正当な理由なく6回以上欠席すると定期試験の受験資格を失います。

使用教科書名 (ISBN番号)	応用栄養学：改訂第5版/渡邊令子ほか/南江堂/2015年/ (978-4-524-26162-8)
参考図書	特になし
ディプロマポリシーとの関連	多面的なカリキュラムの構成因子の1つであり、「人間の栄養」を理解するための重要な領域である。
オフィスアワー	火曜日、3限目
学生へのメッセージ	管理栄養士国家試験の「応用栄養学」に相当する専門科目であるので、確実に身に着けましょう。胎児期や成長期の適切な栄養は、成人後の健康に直結する非常に大切な要因です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、現役の小児科医であり、小児栄養消化器肝臓病学会の専門医/指導医である。従って、ライフステージ栄養学の胎児期から思春期までの領域に関して実臨床に即した講義を行うことができる。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	ライフステージ別栄養学Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 斉藤 恵美子	指定なし

ナンバリング	H33503C21																	
授業概要(教育目的)	本講義では、ライフステージ別の栄養学とそれに関連した病態生理 について学習する。ライフステージ別栄養学Ⅱにおいては、成人期、更年期、高齢者などの各ライフステージの栄養学とそれらに関連した病態生理について学習する。さらに、栄養とエネルギー代謝、スポーツと栄養、環境ストレス（疾患、生体リズム、温度環境、高所、高圧、低圧、無重力など）、災害時といった特殊な環境の条件下における生体の反応と特殊な栄養状態、および栄養的要求について理解する。																	
履修条件	臨床病態栄養学，臨床栄養学基礎，ライフステージ別栄養学Ⅰを履修していること。																	
学習目標(到達目標)	<p>学習目標（到達目標）</p> <table border="1"> <tr> <td>知識・理解の観点 (K)</td> <td>各ライフステージにおける特徴（疾病も含む）に基づいた栄養状態や栄養管理について説明できる。健康と栄養，運動と栄養，特殊環境下などの生理的特徴や栄養について説明できる。</td> </tr> <tr> <td>思考・判断の観点 (K)</td> <td>各ライフステージや環境の違いに応じた疾病の予防と改善のための栄養ケアマネジメントと関連付けて考えることができる。</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度の観点 (V)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>技術・表現の観点 (A)</td> <td></td> </tr> </table>			知識・理解の観点 (K)	各ライフステージにおける特徴（疾病も含む）に基づいた栄養状態や栄養管理について説明できる。健康と栄養，運動と栄養，特殊環境下などの生理的特徴や栄養について説明できる。	思考・判断の観点 (K)	各ライフステージや環境の違いに応じた疾病の予防と改善のための栄養ケアマネジメントと関連付けて考えることができる。	関心・意欲・態度の観点 (V)		技術・表現の観点 (A)								
知識・理解の観点 (K)	各ライフステージにおける特徴（疾病も含む）に基づいた栄養状態や栄養管理について説明できる。健康と栄養，運動と栄養，特殊環境下などの生理的特徴や栄養について説明できる。																	
思考・判断の観点 (K)	各ライフステージや環境の違いに応じた疾病の予防と改善のための栄養ケアマネジメントと関連付けて考えることができる。																	
関心・意欲・態度の観点 (V)																		
技術・表現の観点 (A)																		
学習計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業テーマ</th> <th>学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)</th> <th>教室外学習(予習・復習)の内容</th> <th>教室外学習の時間(分)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>食物アレルギー1</td> <td>乳幼児期のみならず、近年は成人期にも増加している食物アレルギーについて、病態・診断等を学習する。</td> <td>事前学習：2年次までに学習した免疫学について復習しておく。 事後学習：授業で配布する資料や授業内で提示した参考資料等で授業内容を整理し、理解を確実にしておく。</td> <td>150分</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>食物アレルギー2</td> <td>食物アレルギーの治療、栄養管理について学習する。</td> <td>事前学習：2年次までに学習した免疫学について復習しておく。第1回の授業内容を復習しておく。 事後学習：授業で配布する資料や授業内で提示した参考資料等</td> <td>150分</td> </tr> </tbody> </table>			回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)	第1回	食物アレルギー1	乳幼児期のみならず、近年は成人期にも増加している食物アレルギーについて、病態・診断等を学習する。	事前学習：2年次までに学習した免疫学について復習しておく。 事後学習：授業で配布する資料や授業内で提示した参考資料等で授業内容を整理し、理解を確実にしておく。	150分	第2回	食物アレルギー2	食物アレルギーの治療、栄養管理について学習する。	事前学習：2年次までに学習した免疫学について復習しておく。第1回の授業内容を復習しておく。 事後学習：授業で配布する資料や授業内で提示した参考資料等	150分
回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)														
第1回	食物アレルギー1	乳幼児期のみならず、近年は成人期にも増加している食物アレルギーについて、病態・診断等を学習する。	事前学習：2年次までに学習した免疫学について復習しておく。 事後学習：授業で配布する資料や授業内で提示した参考資料等で授業内容を整理し、理解を確実にしておく。	150分														
第2回	食物アレルギー2	食物アレルギーの治療、栄養管理について学習する。	事前学習：2年次までに学習した免疫学について復習しておく。第1回の授業内容を復習しておく。 事後学習：授業で配布する資料や授業内で提示した参考資料等	150分														

			で授業内容を整理し、理解を確実にしておく。	
第3回	臨床検査値の読み方	臨床検査の目的, 種類, 検査値の解釈(尿検査, 便検査, 血液一般検査, 凝固系検査, 血液生化学検査, 免疫系検査等), 臨床検査値と疾患について学習する。	事前学習: 2年次までに学習した各種疾患について復習しておく。 事後学習: 授業で配布する資料および参考図書等で授業内容を整理し、理解を確実にしておく。	150分
第4回	成人期 1	成人期の生理的特徴, 成人期特有の各種疾患(肥満症, メタボリックシンドローム等)について、病態・診断・治療も含め学習し、栄養管理について理解する。	事前学習: 2年次までに学習した左記に関する項目について復習しておく。教科書第8章の左記該当部分を読んでおく。 事後学習: 授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第5回	成人期 2	成人期特有の各種疾患(脂質異常症, 高尿酸血症, 高血圧, その他の生活習慣病, など)について、病態・診断・治療も含め学習し、栄養管理について理解する。	事前学習: 2年次までに学習した左記に関する項目について復習しておく。教科書第8章の左記該当部分を読んでおく。 事後学習: 授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第6回	成人期 3, 更年期	成人期特有の各種疾患、さらに更年期における特有の生理的变化や各種疾患(婦人科系疾患, 骨粗鬆症予防等)について学習し、栄養管理について理解する。	事前学習: 2年次までに学習した左記に関する内容について復習しておく。臨床病態栄養学で使用した教科書の左記疾患該当部分および教科書第8章の左記該当部分を読んでおく。 事後学習: 授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第7回	高齢期 1	高齢期の生理的变化の特徴について学習し、栄養管理について理解する。	事前学習: 2年次までに学習した左記に関する項目について復習しておく。教科書第9章の左記該当部分を読んでおく。 事後学習: 授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第8回	高齢期 2	高齢期に多くみられる、フレイル、ロコモティブシンドローム、サルコペニア、骨粗鬆症等について、病態・診断・治療も含め学習し、栄養管理について理解する。	事前学習: 2年次までに学習した左記に関する項目について復習しておく。教科書第9章の左記該当部分を読んでおく。 事後学習: 授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第9回	高齢期 3	高齢期に多くみられる、摂食・嚥下障害、誤嚥等について、病態・診断・治療も含め学習し、栄養管理について理解する。	事前学習: 2年次までに学習した左記に関する項目について復習しておく。教科書第9章の左記該当部分を読んでおく。 事後学習: 授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第10回	高齢期 4	高齢期に多く見られる認知症、脳血管障害、褥瘡等について、病態・診断・治療も含め学習し、栄養管理について理解する。	事前学習: 2年次までに学習した左記に関する項目について復習しておく。教科書第9章の左記該当部分を読んでおく。 事後学習: 授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第11回	運動生理, スポーツと栄養	運動時の生理的特徴やエネルギー代謝、運動と栄養ケアについて理解する。	事前学習: 運動生理学で学習した内容を確認しておく。教科書第10章の左記該当部分を読んでおく。 事後学習: 授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第12回	環境と栄養	生体リズム, ストレスと栄養の関係について学習する。	事前学習: 運動生理学で学習した内容を復習しておく。教科書第10章の左記該当部分を読んでおく。 事後学習: 授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第13回	特殊環境と栄養 1	高温・低温環境, 高圧・低圧環境, 無重力環境などの生理的变化および栄養との関係について学習する。	事前学習: 教科書第11章の左記該当部分を読んでおく。 事後学習: 授業内容を整理して知識を確実にしておく。	150分
第14回	特殊環境と栄養 2	災害時の栄養、対応について学習する。	事前学習: 教科書第11章の左記該当部分を読んでおく。	150分

			事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	
第15回	まとめ	全体を通してのまとめ。 学習到達度の確認テスト。	事前学習：これまでの授業の内容を総復習しておく。	600分
第16回				

学習計画注記	履修者の状況、授業の進度によってスケジュールが変更になる場合もあります。
--------	--------------------------------------

学生へのフィードバック方法	講義時に、講義内容に相当する管理栄養士国家試験に準じた練習問題を行う。
---------------	-------------------------------------

評価方法	筆記試験で評価を行う。60%以上の得点で合格とする。筆記試験の形式については授業内で説明する。
------	---

評価基準	
------	--

評価基準	
------	--

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
筆記試験	○	○		

評価割合	筆記試験100%
------	----------

使用教科書名 (ISBN番号)	健康・栄養科学シリーズ：応用栄養学：改訂第5版（南江堂）
-----------------	------------------------------

参考図書	栄養科学イラストレイテッド 臨床医学 疾病の成り立ち 改訂第2版：羊土社、 病気がみえる vol.1～11 (MEDIC MEDIA) 栄養科学イラストレイテッド 応用栄養学：羊土社
------	---

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「人間の栄養」を理解するための専門的知識を身につける。 【思考・判断】食・栄養に関わる諸問題の解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。
---------------	--

オフィスアワー	火曜4時限 1503研究室
---------	---------------

学生へのメッセージ	今まで履修してきた基礎系の科目や臨床系の科目のみならず、社会医学系や栄養教育系など、どの科目とも有機的に繋がっています。他の分野とも関連付けながら学修するようにしてください。
-----------	---

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、医療の実地臨床において、診療業務等の実務経験を有しており、臨床現場における現状や具体例も呈示しながら、実践的な内容を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	応用栄養学実習		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 酒井 治子	指定なし
准教授	加藤 理津子	指定なし

ナンバリング	H33504C13
授業概要(教育目的)	ライフステージ別栄養学Ⅰ・Ⅱ、食事摂取基準論で学んだ理論を基に、身体状況や栄養状態を踏まえ、具体的な食事による栄養ケアの実習を通して、栄養管理(マネージメント)の方法を学ぶ。妊娠や発育、加齢など人体の構造や機能の変化の特徴を十分に理解し、栄養状態の評価・判定(栄養アセスメント)に対応したケアプランニングとその評価を行う実践力を養う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	ライフステージ別の特徴を踏まえたマネジメントについて説明できる
思考・判断の観点 (K)	ライフステージ別の対象者の生活に基づいた栄養マネジメントについて考えることができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	ライフステージ別の対象者のQOLが向上する栄養マネジメントを模索しようとする
技術・表現の観点 (A)	ライフステージ別の対象者のための栄養マネジメントをすることができる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	栄養マネジメントの理論	PDCAサイクルに基づいた対象者の栄養マネジメントを行う理論を学ぶ	自身のエネルギー・各栄養素を算出する	30分
第2回	献立立案の方法 妊娠・授乳期の栄養ケアの特徴とプランニング	献立の立案方法を学ぶ。妊娠・授乳期の特徴に基づいた栄養計画について学ぶ。	妊娠・授乳期の特徴を予習する。妊娠・授乳期の栄養マネジメントの特徴を復習する。	30分
第3回	妊娠・授乳期の栄養ケアの実習と	妊娠・授乳期の統一献立を実習し、栄養ケアの特徴を考察する	統一献立の作り方、作業工程表を作成してくる。統一献立の結果をレポートにまとめる。	60分

	評価(統一献立)			
第4回	妊娠・授乳期まとめ 調乳 離乳食の作り方の基本	妊娠・授乳期のマネジメントのまとめをする。調乳を実際に体験し、離乳食づくりの基本操作について学ぶ。	妊娠・授乳期の栄養マネジメントをレポートにまとめる。調乳方法を教科書を見て予習してくる。	60分
第5回	離乳期・幼児期の栄養ケアの特徴とプランニング	離乳期・幼児期の栄養ケアの特徴、プランニングについて学ぶ。	教科書から離乳期・幼児期の特徴を予習する。	30分
第6回	離乳期の栄養ケアの実習と評価 (初期・中期)(統一献立)	離乳食の初期、中期の作り方の特徴を調理実習を通して学ぶ	作り方、作業工程表を作成してくる	30分
第7回	離乳期の栄養ケアの実習と評価 (後期・完了期)(統一献立) ベビーフードの試食	離乳食の後期、完了期の特徴について調理実習を通して学ぶ。ベビーフードとの比較を行う。	作業工程表を作成してくる。ベビーフードを購入してくる。	60分
第8回	離乳期のオリジナル献立立案	統一献立で学んだ離乳食の特徴に基づき、各班で離乳食の献立を作成する。	オリジナルの献立、栄養価計算を行ってくる。	90分
第9回	離乳期の栄養ケアの実習(オリジナル献立)と評価	各班で作成したオリジナルの離乳食献立を調理し、離乳食作りの実際について学ぶ	作業工程表を作成してくる	30分
第10回	幼児期の栄養ケアの実習と評価 (統一献立)	幼児期の食事の特徴について調理実習を通して学ぶ	作業工程表を作成してくる	30分
第11回	幼児期のオリジナル献立立案	統一献立で学んだ幼児期の食事の特徴に基づき、各班でオリジナルの献立を作成する	オリジナル献立、栄養価計算を作成してくる	90分
第12回	幼児期の栄養ケアの実習(オリジナル献立)と評価	実際に各班で考えた献立を調理し、幼児期の食事づくりの特徴を学ぶ	作業工程表を作成してくる。	30分
第13回	離乳期・幼児期のまとめ 高齢期の栄養ケアの特徴	統一献立、オリジナル献立の調理実習を通して、離乳期・幼児期の栄養マネジメントのまとめを行う。高齢期の栄養ケアの特徴について学ぶ。	幼児期のオリジナル献立のレポートを作成してくる。高齢期のライフステージの特徴を教科書を見て予習してくる。	60分
第14回	高齢期の栄養ケアの特徴と実習 (統一献立)	調理実習を通して高齢期の食事づくりの特徴を学ぶ。	作業工程表を作成してくる	30分
第15回	高齢期のまとめ、高齢者食の試食、全体のまとめ	市販の高齢者食を試食し特徴をまとめる。統一献立の高齢者食を通して、高齢期の栄養マネジメントをまとめる。全授業を通して栄養マネジメントを考える。	市販の高齢者食を購入してくる。統一献立のレポートを作成してくる。	60分

学生へのフィードバック方法	提出されたレポートを返却する。作成した献立について教員からコメントを返す。
評価方法	演習課題(作業工程等)に対する学習態度60%、栄養ケアプラン作成等のレポート40%などから総合的に評価する
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
演習課題	○		○	○
レポート	○	○	○	○

評価割合	演習課題（作業工程等）に対する学習態度60%、栄養ケアプラン作成等のレポート40%などから総合的に評価する
使用教科書名 (ISBN番号)	子どもの食生活, 上田玲子、酒井治子他, ななみ書房 4903355290 「応用栄養学実習書—PDCAサイクルによる栄養ケア 第2版」 建帛社 柳沢 幸江 (編著) / 松井 幾子 (編著) 4767905869
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】栄養管理を通して、管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている 【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な栄養管理ができる力を身につけている 【関心・意欲・態度】栄養管理に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている 【技術・表現】栄養管理を通して、人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養指導に関する専門的スキルと共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている
オフィスアワー	酒井 火曜日 1限 地域栄養教育（酒井）研究室 加藤 水曜日 2限 1B05研究室
学生へのメッセージ	実務を意識し、各ライフステージの対象者について管理栄養士の視点を持ち、栄養マネジメントを行い、生活者のための食事を一緒に考えましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員（會退）、担当教員（酒井）は保育所等、担当教員（加藤）はスポーツ栄養の現場経験をふまえ、乳幼児期の栄養管理の理論や技術について専門的知識を教授する。
アクティブ・ラーニング	○	班別にディスカッションを行いながら協力をして各ライフステージの献立作成、調理、振り返りを行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	栄養教育総論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 辻 雅子	指定なし

ナンバリング	H23601C21
授業概要(教育目的)	栄養教育の概念・歴史を学ぶとともに、現代の健康や栄養上の問題点について考え、栄養教育の必要性・意義・目的について理解する。そのために、教育的な手段を用いて、人の健康の保持・増進、適正な食行動への是正や食を介した人々のQOLの向上を目指すために、適切な栄養教育マネジメントについて、アセスメントから計画・実施・評価までの一連のPDCAサイクルを理解した栄養教育実施者となるための心構えを含めた講義を行う。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 栄養教育の目的・目標や対象者について理解し説明できる。 2. 栄養教育マネジメントの流れについて理解し説明できる。 3. 栄養教育関連法規について理解し説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 栄養教育の目的・目標について自ら考え、判断し、説明できる。 2. 栄養教育マネジメントの流れについて自ら考え、判断し、説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. グループワークで授業の最後にディスカッションを行うことがある。その際、意欲関心をもって積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション 栄養教育の概念	栄養教育の概念として教育のとらえ方について学び、栄養教育の最終目標について理解する。	教科書、序章の「栄養教育の概念」を読んでおくこと。	180分
第2回	栄養教育の概念及び歴史	栄養教育の概念の続きと歴史について学ぶ。教科書に乗っていない追加情報については配布プリントで学び、栄養教育の歴史について理解する。	教科書、序章の「栄養教育の概念」、及び巻末資料の歴史の部分を読んでおくこと。	180分
第3回	栄養教育の法的根拠	栄養教育の概念を理解したうえで対象者へ栄養教育を実施するための、栄養教育関連法規について学び、理解する。	教科書の参考資料における関連法規を全て読んでおくこと。	180分
第4回	栄養教育マネジメント：マネジ	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、関連するモデルを中心に学び、理解する。	教科書、第2章の「栄養教育マネジメント」を読んでおくこと。	180分

	メントサイクルとマネジメントに必要なモデル			
第5回	栄養教育マネジメント：アセスメント	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、そのアセスメントを中心的に学び、理解する。	教科書、第3章の「栄養教育のためのアセスメント」を読んでおくこと。	180分
第6回	栄養教育マネジメント：計画立案	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、その計画立案について学び、理解する。	教科書、第4章の「栄養教育計画」の1~2を読んでおくこと。	180分
第7回	栄養教育マネジメント：目標設定	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、その目標設定を学び、理解する。	教科書、第4章の「栄養教育計画」の3~4を読んでおくこと。	180分
第8回	栄養教育マネジメント：目標設定	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、その目標設定を学び、理解する。学習指導案について学ぶ。	教科書、第4章の「栄養教育計画」の5を読んでおくこと。	180分
第9回	栄養教育マネジメント：栄養教育プログラムの実施	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、実施について学び、理解する。食行動変容のための理論とモデルについて学ぶ	教科書、第5章の「栄養教育の実施」1を読んでおくこと。	180分
第10回	栄養教育マネジメント：教材の選択と作成	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、実施時に使用する主な媒体と教材について学び、理解する。	教科書、第5章の「栄養教育の実施」2を読んでおくこと。	180分
第11回	栄養教育マネジメント：学習形態の選択	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、実施時の学習形態について学び、理解する。	教科書、第5章の「栄養教育の実施」3を読んでおくこと。	180分
第12回	栄養教育マネジメント：栄養教育の評価	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、栄養教育の評価について学び、理解する。	教科書、第6章の「栄養教育の評価」の1~5を読んでおくこと。	180分
第13回	栄養教育マネジメント：栄養教育の評価のデザイン	栄養教育マネジメントのPDCAサイクルについて、栄養教育の評価のデザインについて学び、理解する。	教科書、第6章の「栄養教育の評価」の6~7を読んでおくこと。	180分
第14回	栄養教育と食環境づくりとの関連	対象者を支援する環境（食環境）の改善について、食環境の定義から、食物へのアクセスおよび情報へのアクセスにおける食環境整備についてまで学び、理解する。	教科書、第8章の「食環境づくりにおける栄養教育」を読んでおくこと。	180分
第15回	国際栄養の理解 定期試験	栄養教育に関連する持続可能な開発目標（SDGs）や諸外国におけるフードガイドについて学び、理解する。まとめとして定期試験を実施する。	教科書、第9章の「国際栄養の理解」を読んでおくこと。	180分

学習計画注記 講義の進み具合及び学生の理解度によってスケジュールは変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法 毎回講義の理解度について講義の最後に小レポートを提出させる。また時々ノート提出させることで理解度を評価する。翌週学生全体に講義内で理解度についてはフィードバックする。またノート提出の内容は平常点として評価する。

評価方法

- ・小テストは全15回の授業中、数回実施する。小テストは〇×形式のテストとする。また栄養教育関連法規に関しては穴埋め形式で小テストとして実施する。小テストは再試験は行わないので注意すること。
- ・定期試験は〇×形式、および穴埋め記述形式で出題する。授業中に使用した教科書及び配布プリントが全範囲が出題範囲となる。また栄養教育についての知識・理解・思考判断を問う問題として自由記述形式の設問も出題する。
- ・授業の最後の小レポートはグループワークで討論を行うことがある。その結果をリアクションペーパーとして記述形式で提出してもらう。
- ・出席日数が3分の2以上なければ定期試験を受けることはできない。
- ・遅刻3回は欠席1回とみなす。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
------	-----------	-----------	--------------	-----------

小テスト	○			
定期試験	○	○		
グループワーク	○	○	○	

評価割合	定期試験50%、小テスト・レポート30%、平常点20%（平常点は授業への参加状況や討論への参加等で総合的に判断する）
使用教科書名 (ISBN番号)	栄養教育論 第2版 岡崎光子・太田優子・吉野佳織・服部浩子・板東絹恵・坂井真奈美・山王丸靖子・辻雅子・小河原佳子・大山珠美 共著 光生館 (978-4-332-03044-7)
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】専門職業人として、「人間の栄養」につながる知識についてきちんと理解する事に該当。 【思考・判断】食・栄養に関わる諸課題解決に向けて正確な情報を収集し、優先課題に対する取り組みを判断できる力を身につける事に該当。 【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と他社と協働するための共感力をもって、主体的に学ぶ意欲と態度を身につけることに該当。
オフィスアワー	月曜日 4時間目 1605研究室
学生へのメッセージ	現代の健康や栄養上の問題点について考え、栄養教育の必要性・意義・目的について学びます。その為に、教育的な手段を用いて人の健康の保持・増進、適正な食行動への是正や食を介した人々のQOLの向上を目指すための栄養教育マネジメントまで総合的に学ぶことになります。 本講義では関心意欲を持った態度で積極的に学ぶことが必要です。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は国の研究所での実務経験を有しており、健康情報発信の在り方や情報の真偽について等、栄養教育マネジメントに関連する基礎的学びを中心に教授する。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークやレポート作成を通じて課題発見力・課題解決学習を学ぶ事ができる。
情報リテラシー教育	○	レポート作成を通じて情報検索における情報モラルについて学ぶ事ができる。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	栄養教育方法論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 辻 雅子	指定なし

ナンバリング	H23602C21
授業概要(教育目的)	本講義では栄養教育方法における行動科学理論について学ぶ。つまり対象者の特性の把握・教育の目標設定・教育方法の選択・カリキュラムの立て方、実施に必要な教育方法、教育の評価方法を理論的に学ぶうえで必要な行動科学理論の詳細を学ぶ。また栄養教育を効果的に展開するための技法についても理論的に学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 栄養教育方法の理論について理解し説明できる。 2. 栄養教育方法の各種行動変容技法について理解し説明できる。 3. 行動変容カウンセリングについて理解し説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 栄養教育方法の理論について自ら考え、判断し、説明できる。 2. 栄養教育方法の各種行動変容技法について自ら考え、判断し、説明できる。 3. 行動変容カウンセリングについて自ら考え、判断し、説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 授業の中でグループワークを実施する。その際、意欲関心をもって積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	栄養教育と行動科学	栄養教育のために理論的基礎における行動科学の定義について学び、理解する。	教科書1. 第1章の「栄養教育のための理論」を読んでおくこと。	180分
第2回	行動科学の理論とモデル	行動科学の理論における刺激-反応理論について学び、理解する。	教科書1. 第1章の「栄養教育のための行動科学的アプローチ」の刺激反応理論を読んでおくこと。	180分
第3回	ヘルス・ビリーフ・モデル	行動科学の理論におけるヘルス・ビリーフ・モデルについて学び、理解する。	教科書1. 第1章の「栄養教育のための行動科学的アプローチ」のヘルス・ビリーフ・モデル及び、教科書2. のヘルス・ビリーフ・モデルを読んでおくこと。	180分
第4回	トランスセ	行動科学の理論におけるトランスセオレティカルモデル	教科書1. 第1章の「栄養教育の	180分

	オレティカルモデル	について学び、理解する。	ための行動科学的アプローチ」のトランスセオレティカルモデル及び、教科書2.のトランスセオレティカルモデルを読んでおくこと。	
第5回	トランスセオレティカルモデル (グループワーク)	行動科学の理論におけるトランスセオレティカルモデルのグループワークを実施し理解を深める。	教科書1. 第1章の「栄養教育のための行動科学的アプローチ」のトランスセオレティカルモデル及び、教科書2.のトランスセオレティカルモデルを読んで、グループごとに発表準備を進める。	180分
第6回	計画的行動理論	行動科学の理論における計画的行動理論について学び、理解する。	教科書1. 第1章の「栄養教育のための行動科学的アプローチ」の計画的行動理論及び、教科書2.の計画的行動理論を読んでおくこと。	180分
第7回	社会的認知理論	行動科学の理論における社会的認知理論について学び、理解する。	教科書1. 第1章の「栄養教育のための行動科学的アプローチ」の社会的認知理論及び、教科書2.の自己効力感を読んでおくこと。	180分
第8回	ソーシャルサポート	行動科学の理論におけるソーシャルサポートについて学び、理解する。	教科書1. 第1章の「栄養教育のための行動科学的アプローチ」のソーシャルサポート及び、教科書2.のソーシャルサポートを読んでおくこと。	180分
第9回	行動カウンセリング	行動科学の理論における行動カウンセリングについて学び、理解する。学びを深めてもらうために行動カウンセリングDVDを見てもらいレポートを作成する。	教科書1. 第1章の「栄養教育のための行動科学的アプローチ」のカウンセリングを読んでおくこと。 また行動カウンセリングDVDの課題レポートについて提出期日までに提出することが必要。	180分
第10回	ストレスとコーピング	行動科学の理論におけるストレスとコーピングについて学び、理解する。	教科書2.のストレスとコーピングを読んでおくこと。	180分
第11回	コミュニティオーガニゼーション他	行動科学の理論におけるコミュニティオーガニゼーション等について学び、理解する。	教科書1. 第1章の「栄養教育のための行動科学的アプローチ」のコミュニティオーガニゼーションを読んでおくこと。	180分
第12回	行動変容技法と概念①	行動科学の理論における各種行動変容技法について学び、理解する。	教科書1. 第1章の「栄養教育のための行動科学的アプローチ」の行動変容技法と概念を読んでおくこと。	180分
第13回	行動変容技法と概念②	行動科学の理論における各種行動変容技法について学び、理解する。	教科書1. 第1章の「栄養教育のための行動科学的アプローチ」の行動変容技法と概念を読んでおくこと。	180分
第14回	行動変容技法と概念③	行動科学の理論における各種行動変容技法について学び、理解する。	教科書1. 第1章の「栄養教育のための行動科学的アプローチ」の行動変容技法と概念を読んでおくこと。	180分
第15回	組織・地域づくりにおける行動変容技法	行動科学の理論における組織づくり地域づくりでの各種行動変容技法について学び、理解する。	教科書1. 第1章の「栄養教育のための行動科学的アプローチ」の組織づくり・地域づくりへの展開を読んでおくこと。	180分

学習計画注記	講義の進み具合及び学生の理解度によってスケジュールは変更になる場合もある。
学生へのフィードバック方法	毎回講義の理解度について講義の最後に小レポートを提出させる。また時々ノートを提出させることで理解度を評価する。翌週学生全体に講義内で理解度についてはフィードバックする。またノート提出の内容は平常点として評価する。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストは全15回の授業中、数回程度実施する。小テストは〇×形式のテストとする。小テストの再試験は行わないので注意すること。 ・課題レポートを1回実施する。 ・定期試験は〇×形式、および穴埋め記述形式で出題する。授業中に使用した教科書及び配布プリントが全範囲が出題範囲となる。また栄養教育についての知識・理解・思考判断を問う問題として自由記述形式の設問も出題する。 ・授業の最後の小レポートはグループワークで討論を行うことがある。その結果をリアクションペーパーとして記述形式で提出してもらい。さらに授業の中でグループワークを数回実施する。 ・出席日数が3分の2以上なければ定期試験を受けることはできない。 ・遅刻3回は欠席1回とみなす。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○			
レポート	○	○		
グループワーク	○	○	○	
定期試験	○	○		
評価割合	定期試験 50%、小テスト・レポート 30%、平常点 20% (平常点は授業への参加状況や討論状況・発表等で総合的に判断する)			
使用教科書名 (ISBN番号)	1. 栄養教育論 第2版 岡崎光子・太田優子・吉野佳織・服部浩子・板東絹恵・坂井真奈美・山王丸靖子・辻雅子・小河原佳子・大山珠美 共著 光生館 (978-4-332-03044-7) 2. 医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎 松本千明 医歯薬出版株式会社 (9784263233375)			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】専門職業人として、「人間の栄養」につながる知識についてきちんと理解する事に該当。 【思考・判断】食・栄養に関わる諸課題解決に向けて正確な情報を収集し、優先課題に対する取り組みを判断できる力を身につける事に該当。 【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と他社と協働するための共感力をもって、主体的に学ぶ意欲と態度を身につけることに該当。			
オフィスアワー	月曜日 4 時間目 1605研究室			
学生へのメッセージ	現代の健康や栄養上の問題点について考え、栄養教育方法の必要性・意義・目的について学びます。その為に、栄養教育方法の理論から技術まで基礎的知識を詳細に学ぶこととなります。本講義では関心意欲を持った態度で積極的に学ぶことが必要です。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	担当教員は国の研究所での実務経験を有しており、健康情報発信の在り方や情報の真偽について等、栄養教育マネジメントに関連する基礎的学びを中心に教授する。		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークや発表を通じて課題発見力・課題解決学習を学ぶ事ができる		
情報リテラシー教育	○	講義内での情報検索における情報モラルについて学ぶ事ができる		
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	実践栄養教育論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 酒井 治子	指定なし

ナンバリング

H33603C21

授業概要(教育目的)

学習者のライフステージ、すなわち、乳幼児期から高齢期にいたる時期の特徴や、ライフスタイル、健康状態等の特徴を十分に踏まえてアセスメントを行い、栄養教育の目的・目標を設定し、学習カリキュラムを立案して実施し、評価する実践方法を学ぶ。また、複雑化する現代社会の中で、どのようにすれば健康の維持増進ができるかを食環境との関連から捉え、実践する方法を理解する。

履修条件

特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	学習者のライフステージ等に応じた栄養教育に必要な知識について説明することができる
思考・判断の観点 (K)	学習者のライフステージの食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につける
関心・意欲・態度の観点 (V)	学習者のライフステージ、栄養教育(食育)に関心を持ち、管理栄養士として使命感と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度を身につける
技術・表現の観点 (A)	学習者のライフステージ等に応じた栄養教育に必要な実践的な技術をもち、ニーズに応じた教材や学習者とのコミュニケーション能力等の表現力を身につける

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション 栄養教育マネジメント1	本授業の特徴、学習方法を理解する。 人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を構造的に理解する理論枠組みを学ぶ。栄養教育の目的・目標と、ライフステージ・ライフスタイルからみた対象と機会について学ぶ。	予習：教科書① 「第1章 栄養教育の概念 A. 栄養教育の目的・目標」 「B. 栄養教育の対象と機会 1 ライフステージ・ライフスタイルからみた対象と機会」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。	180分
第2回	栄養教育マネジメント2	栄養教育マネジメント、アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法を学ぶ。	教科書① 「第5章 A. 栄養教育のマネジメント」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リ	180分

			アクションペーパーにまとめる。	
第3回	妊娠・授乳期の栄養教育 1	妊娠・授乳期の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。	教科書① 「第11章 ライフステージ・ライフスタイル、健康状態と栄養教育 A. 妊娠・授乳期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。	180分
第4回	妊娠・授乳期の栄養教育 2	妊娠・授乳期の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。	教科書① 「第11章 ライフステージ・ライフスタイル、健康状態と栄養教育 A. 妊娠・授乳期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。	180分
第5回	乳児期（乳汁）の栄養教育 1	乳児期（乳汁）の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。	教科書① 「第11章 B. 乳・幼児期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。	180分
第6回	乳児期（乳汁）の栄養教育 2	乳児期（乳汁）の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。	教科書① 「第11章 B. 乳・幼児期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。	180分
第7回	離乳期の栄養教育 1	離乳期の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。	教科書① 「第11章 B. 乳・幼児期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。	180分
第8回	離乳期の栄養教育 2	離乳期の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。	教科書① 「第11章 B. 乳・幼児期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。	180分
第9回	幼児期の栄養教育 1	幼児期の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。	教科書① 「第11章 B. 乳・幼児期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。	180分
第10回	幼児期の栄養教育 2	幼児期の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。	教科書① 「第11章 B. 乳・幼児期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。	180分
第11回	学童・思春期の栄養教育 1	学童・思春期の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。	教科書① 「第11章 C. 学童期 D. 思春期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。	180分
第12回	学童・思春期の栄養教育 2	学童・思春期の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。	教科書① 「第11章 C. 学童期 D. 思春期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。	180分
第13回	高齢期の栄養教育 1	高齢期の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。	教科書① 「第11章 F. 高齢期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。	180分
第14回	高齢期の栄養教育 2	高齢期の栄養教育マネジメント（アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価の方法）を学ぶ。	教科書① 「第11章 F. 高齢期」を読んでおく。 復習：講義内容を振り返り、リアクションペーパーにまとめる。	180分
第15回	まとめ	ライフステージ・ライフスタイル栄養教育の特徴を振り返り、まとめる。また、習得度を把握するために、試験を行う。	授業全体を振り返り、試験で正解でなかった点を振り返る。	180分

学生へのフィードバック方法	授業毎に前回内容の確認を行う。質問のある場合は1603研究室に訪問すること。																		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業内容の理解度を高めるための、授業毎のリアクションペーパーも評価の一環とする。小テストは国家試験の過去問題から出題する。 ・定期試験は管理栄養士国家試験の出題に対応できる内容であるとともに、より実践的な教育の方法に関する記述問題を含む。 																		
評価基準	評価基準																		
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)														
	リアクションペーパー	○	○	○	○														
	小テスト	○																	
	試験	○	○																
	ロールプレイ	○	○	○	○														
評価割合	授業へのリアクションペーパー(10%)、定期試験(70%)、小テスト(毎授業内におけるテスト)(20%)などから総合的に評価する																		
使用教科書名 (ISBN番号)	「改訂第5版 栄養教育」 丸山千寿子/足達淑子/武見ゆかり編 南江堂 9784524259663 「新版 子どもの食生活」 上田玲子他 ななみ書房 4903355290																		
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】学習者のライフステージに応じた栄養教育について、管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている 【思考・判断】学習者のライフステージに応じた栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている 【関心・意欲・態度】学習者のライフステージに応じた栄養教育に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている 【技能・表現】 学習者のライフステージ等に応じた栄養教育に必要な実践的な技術を持ち、ニーズに応じた教材や学習者とのコミュニケーション能力等の表現力を身につけている																		
オフィスアワー	水曜日 1限 地域栄養教育(酒井)研究室																		
学生へのメッセージ	ライフステージ別栄養論Ⅰ・Ⅱで学んだこと、栄養教育総論、栄養教育方法論で学んだことを復習しながら、栄養教育の実践につなげる方法を探っていきましょう。																		
教育等の取組み状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>担当教員は流通業での消費者対策(食品の衛生実験、商品表示等)、顧客対応(栄養指導)に食環境整備に関する実務経験、また、研究面での栄養教育の実践と評価に関する研究の経験を活かし、研究デザインについて教授している。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	担当教員は流通業での消費者対策(食品の衛生実験、商品表示等)、顧客対応(栄養指導)に食環境整備に関する実務経験、また、研究面での栄養教育の実践と評価に関する研究の経験を活かし、研究デザインについて教授している。	アクティブ・ラーニング			情報リテラシー教育			ICT活用		
	該当有無	概要																	
実務経験を活かした授業	○	担当教員は流通業での消費者対策(食品の衛生実験、商品表示等)、顧客対応(栄養指導)に食環境整備に関する実務経験、また、研究面での栄養教育の実践と評価に関する研究の経験を活かし、研究デザインについて教授している。																	
アクティブ・ラーニング																			
情報リテラシー教育																			
ICT活用																			

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	栄養教育実習 I		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限後半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 辻 雅子	指定なし

ナンバリング	H33604C13
授業概要(教育目的)	栄養教育を効果的に行なうには、専門知識を教育的理論に基づいて応用できなければならない。本実習では、栄養教育マネジメントにおける対象の把握から実施およびその評価にいたる一連のプロセスを理解する。すなわち、対象者から得られたさまざまな情報を整理し、対象者の特性を的確に把握して、問題点を見だし、栄養教育の目標を設定し、教育実施にむけた計画が立てられ、適正な栄養教育を実践することができるような基礎知識・方法を学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	栄養教育マネジメントの流れについて理解し、栄養教育マネジメントの計画を立てることができる。
思考・判断の観点 (K)	自ら考え、判断し、栄養教育マネジメント計画を立てることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	積極的に単独活動やグループ活動に参加し、興味関心をもって参加することでグループ活動に寄与できる。
技術・表現の観点 (A)	レポートとして提出する報告書を適切な技術でもって表現することができる。 グループワークで必要な技術を用いて、他者との協働を円滑に進めることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション 特定健診・保健指導について①	栄養教育マネジメントに沿った実習全体の流れについて理解する。ロールプレイによる特定健診保健指導の流れについて学ぶ。	特定健診保健指導についてグループワークでどのように取り組むべきか考える	60
第2回	特定健診・保健指導について②	ロールプレイによる特定健診保健指導について学ぶ	特定健診保健指導についてグループワークでどのように取り組むべきか考える	90
第3回	特定健診・保健指導について③	ロールプレイによる特定健診保健指導について学ぶ	特定健診保健指導についてグループワークでどのように取り組むべきか考える	60
第4回	特定健診・保健指導について④	ロールプレイによる特定健診保健指導について学ぶ	特定健診保健指導についてグループワークでどのように取り組むべきか考える(各班の発表に)	90(発表準備予習30分含む)

			向けて班ごとに発表準備を進める)	
第5回	特定健診・保健指導について⑤	ロールプレイによる特定健診保健指導について学ぶ(各班ごとの発表)・食事調査法について学ぶ	食事調査や身体活動調査についての課題が出されるのでその課題について取り組むこと	60
第6回	栄養教育マネジメント: アセスメント	栄養教育アセスメントにおける食事調査(秤量食事記録法・自記式食事歴質問法)及び秤量食事記録法の解析について学ぶ	栄養教育アセスメントにおける食事調査について予習復習に取り組むこと	60
第7回	栄養教育マネジメント: アセスメント	栄養教育アセスメントにおける食事調査(秤量食事記録法・自記式食事歴質問法・摂取頻度調査方法)及び秤量食事記録法の解析について学ぶ	食事調査結果について解析に取り組むこと	60
第8回	栄養教育マネジメント: アセスメント	栄養教育アセスメントにおける食事調査(食事バランスガイド)の解析方法を学ぶ	様々な食事調査結果の解析について取り組むこと	60
第9回	栄養教育マネジメント: 栄養教育計画の作成	食事調査の解析結果の分析及びその栄養教育計画の作成を学ぶ	食事調査結果の解析結果を分析し、その栄養教育計画の作成に取り組むこと	60
第10回	栄養教育マネジメント: アセスメント	身体活動調査の解析結果の分析について学ぶ	身体活動調査の解析結果の分析に取り組むこと	60
第11回	栄養教育マネジメント: 栄養教育計画の作成	身体活動調査の解析結果の分析について学ぶ	身体活動調査の解析結果の分析に取り組むこと	60
第12回	栄養教育マネジメント: 栄養教育計画の作成	身体活動調査の解析結果の分析及びその栄養教育計画の作成を学ぶ	身体活動調査の解析結果の分析、その栄養教育計画の作成に取り組むこと	60
第13回	栄養教育マネジメント: 栄養教育計画の作成	身体活動指針を用いた身体活動調査の解析結果の分析及び運動計画の作成を学ぶ	身体活動調査の解析結果の分析、運動計画の作成に取り組むこと	60
第14回	栄養教育マネジメント: 栄養教育目標設定	栄養教育計画の目標設定および評価設定を用いた保健指導プログラムについて学ぶ	栄養教育計画の目標設定および評価設定を用いた保健指導プログラム案作成に取り組むこと	60
第15回	栄養教育マネジメント: 栄養教育評価設定	栄養教育計画の目標設定および評価設定を用いた保健指導プログラムについて学ぶ	栄養教育計画の目標設定および評価設定を用いた保健指導プログラム案作成に取り組むこと(総合レポートを作成する取り組みが必要となる)	90

学習計画注記 実習の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある。実習に必要なプリントなどはその都度配布する。

学生へのフィードバック方法 基本的には実習授業内でフィードバックを全体に行う。個人的な課題に対する質問及び課題の未提出等については個別でメールなどでフィードバックを行う。

評価方法

- ・レポート提出は本実習中栄養教育マネジメントとしての総合レポートの形で提出してもらう。また各課題ごとに新着状況を提出することもレポート評価に含む。
- ・グループワークとして1. 特定健診・保健指導のロールプレイを実施する。グループでの話し合い、実施のサポート、最後の評価に至るまで積極的に興味関心をもって参加することが必要である。2. アセスメント調査及びデータ解析時には二人ペアでグループワークに取り組むため積極的に取り組むことが必要である。
- ・実習に対する積極性が見られず態度が悪いものは、マイナス評価がつく。
- ・出席日数が3分の2以上なければ成績評価を受けることはできない。
- ・遅刻3回は欠席1回とみなす。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
------	-----------	-----------	--------------	-----------

レポート	○	○	○	○
グループワーク	○	○	○	○

評価割合	レポート55%、グループワーク30%、平常点15%（平常点は授業への積極的な参加状況等から総合的に判断する）
使用教科書名 (ISBN番号)	なし
参考図書	栄養教育論（第一出版）
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる知識についてきちんと理解し、活用する事に該当。</p> <p>【思考・判断】食・栄養に関わる諸課題解決に向けて正確な情報を収集し、優先課題に対する取り組みを判断できる力を身につける事に該当。</p> <p>【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と他社と協働するための共感力をもって、主体的に学ぶ意欲と態度を身につけることに該当。</p> <p>【技術・表現】人々の健康の保持増進のための栄養管理に関する専門的技能と共に、コミュニケーション能力やマネジメント力を表現する力を身につける事に該当。</p>
オフィスアワー	月曜日 4時間目 1605研究室
学生へのメッセージ	<p>栄養教育マネジメントの流れを学びます。その為に必要なアセスメントからデータ解析や報告書作成について学び、さらには目標設定、計画設定、評価設定まで行います。</p> <p>本実習では学生個人のスキルアップだけでなく、グループでのスキルアップも目指す為、関心意欲を持った態度で積極的に今までの知識を活用して主体的に考えて作業を進めることが必要です。</p>

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は国の研究所での実務経験を有しており、健康情報のまとめ、解析、HP上での報告等、栄養教育マネジメントに関連する基礎的学びを中心に教授する。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークや発表を通じて課題発見力・課題解決学習を学ぶ事ができる。
情報リテラシー教育	○	実習中の課題作成を通じて情報検索における情報モラルについて学ぶ事ができる。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	栄養教育実習Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限後半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 酒井 治子	指定なし

ナンバリング	H33605C13
授業概要(教育目的)	栄養教育、ヘルスプロモーション等の理論をふまえ、食環境づくりの視点に着目した教育内容を立案する技術を養う。具体的には、グループワークにより、学習者の実態把握のためのアセスメント内容の抽出、学習案の立案（講習会形式型）、企画書のプレゼンテーション、評価計画、評価の実際までのプロセスをフルコースで行う。昨年度に引き続き、身近・手軽に健康的な「和ごはん」を食べる機会を増やすことで、和食文化の保護・継承につなげることを目的とした農林水産省の事業に参画し、和食に関連する企業等と連携した栄養教育（食育）の具体的な展開方法を学ぶというアクティブラーニングの形式を用いる。
学習目標(到達目標)	
学習目標（到達目標）	
知識・理解の観点 (K)	栄養教育に必要な知識、スキルについて説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。
関心・意欲・態度の観点 (V)	栄養教育（食育）に関心を持ち、管理栄養士として使命感と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度を身につける。
技術・表現の観点 (A)	栄養教育の目標設定、教育内容の選定、評価方法を設計する技術と共に、企画書として表現する力、プレゼンテーションスキル、対象者に対するコミュニケーションスキル、活動をすすめていく実践力を養う。

学習計画

回	時限	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	1限後半	オリエンテーション 食育の計画方法1	実習の目的、進め方の確認。食育のための栄養・食生活の枠組みの捉え方、食育の計画の作成方法を学ぶ。PPモデルを活用した「和食を食べること」という行動とQOL・健康状態との関連項目の抽出方法を習得する。(Phrase1・2社会・疫学診断と、Phrase3行動・環境診断の実施)「和食に関する事前調査」により、自己評価を行う。	PPモデルについて、事前に講義科目での学習内容を復習する。昨年度の学生の食育の計画例を確認する。	120分
第2回	1限後半	食育の計画方法2	各対象に応じて、「和食を食べること」に関連する要因の分析と、そのための実現要因分析の方法を学ぶ。(Phrase3行動・環境診断、Phrase4教育・組織診断、Phrase5政策診断の実施。)	自分が、「和食を食べること」に関連する要因の分析と、そのための実現要因について事前に考えてくる。	120分
第3回	1限後半	栄養・食に関わる政策診断	農林水産省食料産業局食文化・市場開拓課和食室での事業に関する講義を聞き、国として「和食文化を推進する意義、管理栄養士に期待すること」を学ぶ。	農林水産省食料産業局食文化・市場開拓課和食室のホームページから事前に情報収集しておく。	120分
第4回	1限後半	栄養・食に関わる企業による食育の展開事例	農林水産省の和ごはんプロジェクトメンバーである企業の食育として、事業展開されている実践内容を理解する。	農林水産省の和ごはんプロジェクトメンバーである企業の食育内容について事前にホームページで調べておく。	120分
第5回	1限後半	食育の計画方法3	「和食を食べること」を促進するための栄養教育の場(拠点・人)の設定、目的・目標を設定する。(Phrase5	農林水産省の和ごはんプロジェクトメンバーである企業の食育	120分

			政策・運営診断の実施)	内容について事前にホームページで調べる。	
第6回	1限後半	食育計画の作成 1	食育計画書の作成、教材・学習案などの立案、提案する献立の決定、発注書の作成を行う。	計画した食育の教材として、適した食事の構成を検討する。食事を通して、何を学んでほしいのか、教育目標との関連を確認する。	120分
第7回	1限後半	食育計画の作成 2	実物提示の決定、試作、教材の料理・食事の作成・撮影をする。	ホームページ等から、教育目標の達成に効果的な食事の盛り付けや撮影方法を調べる。	120分
第8回	1限後半	食育計画の作成 3	食育計画書を修正し、予算案などの立案、評価計画を実施する。実物提示のタイミング等の指導の流れ、評価項目の設計方法を学ぶ。	教材の構成を考え、作成する。	120分
第9回	1限後半	食育計画の作成 4	教材の構成を考え、作成する。	教材の構成を考え、作成する。	120分
第10回	1限後半	食育計画の作成 5	食育計画書を完成させ、プレゼンテーションの準備をする。	プレゼンテーションの練習をする。	120分
第11回	1限後半	プレゼンテーション	農林水産省 和食室・事業担当者や、企業の食育担当者に向けて、各班15分で企画書の説明を行い、講評や学生による相互評価により、企画評価の方法を学ぶ。	プレゼンテーションの練習をする。	120分
第12回	1限後半	ロールプレイングの準備	次回からのロールプレイにむけて、教材の追加が必要であれば、教材の作成、指導のための原稿の作成を行う。	ロールプレイの練習をする。	120分
第13回	1限後半	ロールプレイング1	食育の模擬授業を担当班2班が各45分で行い、その他の学生は授業の受講者となって参加する形式でのロールプレイを行い。プロセス評価を行う。	ロールプレイの練習をする。他の班のロールプレイに対しても批判的議論を行う。	120分
第14回	1限後半	ロールプレイング2	食育の模擬授業を担当班2班が各45分で行い、その他の学生は授業の受講者となって参加する形式でのロールプレイを行い。プロセス評価を行う。	ロールプレイの練習をする。他の班のロールプレイに対しても批判的議論を行う。	120分
第15回	1限後半	ロールプレイング3 まとめ	食育の模擬授業を担当班2班が各45分で行い、その他の学生は授業の受講者となって参加する形式でのロールプレイを行い。プロセス評価を行う。実習のまとめと、「和食に関する事後調査」により、授業の習熟度を自己評価する。	ロールプレイの練習をする。他の班のロールプレイに対しても批判的議論を行う。	120分

学生へのフィードバック方法 授業中の実習課題は当日、また、翌週において質疑応答をしながら、計画書や指導案等の立案方法について指導する。

評価方法 グループワークでの課題実習（計画書・プレゼンテーション）と、テストにて評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
課題実習		○	○	○
テスト	○			

評価割合 グループワークでの課題実習（計画書・プレゼンテーション）60%、テスト40%

使用教科書名 (ISBN番号) 「改訂第5版 栄養教育」 丸山千寿子/足達淑子/武見ゆかり編 南江堂 978452425

ディプロマポリシーとの関連
【知識・理解】栄養教育を通して、管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い栄養を身につけている
【思考・判断】栄養教育を通して、現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている
【関心・意欲・態度】栄養教育に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感性、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている
【技術・表現】栄養教育を通して、人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養指導に即する専門的技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている

オフィスアワー 火曜日 5限 地域栄養教育（酒井）研究室

学生へのメッセージ 本授業には今まで学んできた知識・技術の統合が必要です。実践現場で即座に必要とされる技術です。人の前話すことには慣れが必要です。勇気をもって取り組みましょう。

教育等の取り組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は流通業での消費者対策（食品の衛生実験、商品表示等）、顧客対応（栄養指導）に関する実務経験、また、研究面での栄養教育の実践と評価に関する研究の経験を活かし、研究デザインについて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	行政機関、企業での食育活動の企画案を立案し、それをプレゼンテーションすることで、企画評価を学生間の相

		互評価、行政・企業担当者からの企画評価をいただく。企画段階ではあるが、対象者の設定、食育の場や教材の選定等において、ニーズに応じ、かつ臨場感を持った学習ができる。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	臨床栄養学基礎		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 齊藤 恵美子	指定なし

ナンバリング	H23701C21
授業概要(教育目的)	臨床病態における栄養マネジメントは、各方面の医療スタッフとともにチームを組んで行われる。その中で管理栄養士は多岐にわたる医学的素養を要求される。臨床栄養学基礎では、臨床病態栄養学で学んだ総論的知識を基に、各疾患の病態・症状・診断・治療を網羅的に学ぶ。
履修条件	臨床病態栄養学を履修していること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	各疾患の病因と病態、症状、診断を理解したうえで、栄養とのかかわりの深い各疾患別の治療を説明できるようにする。
思考・判断の観点 (K)	臨床医学の基礎的知識を、栄養ケアプロセスと関連付けて考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	栄養障害, 内分泌系	栄養障害(PEM, カヘキシー, マラスムス, クワシオルコル), ビタミン異常症, ミネラル異常症, 内分泌系疾患の診断・治療について学ぶ。	事前学習: 病態栄養で学んだ栄養障害, 内分泌系疾患について復習しておく。教科書第4章および第8章の該当部分を読んでおく。 事後学習: 授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第2回	糖尿病 1	糖尿病の診断・基本的な治療法について学ぶ。	事前学習: 病態栄養で学んだ糖尿病について復習しておく。教科書第4章の該当部分を読んでおく。 事後学習: 授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第3回	糖尿病 2	糖尿病の診断・治療、特に治療薬について学ぶ。	事前学習: 病態栄養で学んだ糖尿病について復習しておく。教科書第4章の該当部分を読んでおく。 事後学習: 授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第4回	消化器系 1	上部消化管疾患の診断・治療について学ぶ。	事前学習: 病態栄養で学んだ消化器系疾患について復習しておく。教科書第5章の該当部分を	150分

			読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	
第5回	消化器系 2	下部消化管疾患の診断・治療について学ぶ。	事前学習：病態栄養で学んだ消化器系疾患について復習しておく。教科書第5章の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第6回	消化器系 3	肝・胆・膵疾患の診断・治療について学ぶ。	事前学習：病態栄養で学んだ消化器系疾患について復習しておく。教科書第5章の該当部分を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第7回	栄養療法, 周術期, がん, 緩和ケア	栄養療法, 周術期, がん, 緩和ケアの病態・診断・治療について学ぶ。	事前学習：教科書第16章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第8回	循環器系	循環器系疾患（脳卒中を除く）の診断・治療について学ぶ。	事前学習：病態栄養で学んだ循環器系疾患について復習しておく。教科書第6章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第9回	腎臓系 1	腎臓系疾患の診断・治療について学ぶ。	事前学習：病態栄養で学んだ腎臓系疾患について復習しておく。教科書第7章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第10回	腎臓系 2, 泌尿系	腎臓系疾患（透析含む）, 泌尿系疾患の診断・治療について学ぶ。	事前学習：病態栄養で学んだ腎臓系・泌尿系等の疾患について復習しておく。教科書第7章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第11回	呼吸器系, 血液系	呼吸器系疾患, 血液系疾患の診断・治療について学ぶ。	事前学習：病態栄養で学んだ呼吸器系疾患・血液系疾患について復習しておく。教科書第10章および第13章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第12回	感染症, 外傷, 熱傷, クリティカルケア	感染症, 外傷, 熱傷, クリティカルケアの病態・診断・治療について学ぶ。	事前学習：教科書第15章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第13回	脳神経系	脳卒中, 神経系疾患の診断・治療について学ぶ。	事前学習：病態栄養で学んだ脳・神経系疾患について復習しておく。教科書第6章の該当部分および第9章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第14回	免疫系, 運動器系	免疫系疾患の病態・診断・治療を学ぶ。運動器系疾患の診断・治療を学ぶ。	事前学習：解剖生理学で学んだ免疫系及び病態栄養で学んだ運動器系について復習しておく。教科書第11章および第14章を読んでおく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。	150分
第15回	まとめ	全体を通してのまとめ。	事前学習：第1回～第14回で学んだことを復習しておく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にする。 これまでの授業内容を総復習しておく。	600分
第16回	定期試験			

学習計画注記	履修者の状況や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	講義時に、講義内容に相当する管理栄養士国家試験に準じた練習問題を行う。
評価方法	定期試験（筆記試験）で評価を行う。60%以上の得点で合格とする。筆記試験の形式については授業内で説明する。
評価基準	
評価基準	

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		
評価割合	定期試験100%			
使用教科書名 (ISBN番号)	健康・栄養科学シリーズ 臨床医学—人体の構造と機能及び疾病の成り立ち (南江堂)			
参考図書	病気がみえる vol.1~11 (MEDIC MEDIA) , イメージするからだのしくみシリーズ (MEDIC MEDIA) 健康・栄養科学シリーズ 臨床栄養学 改訂第3版 (南江堂)			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「人間の栄養」を理解するための専門的知識を身につける。 【思考・判断】食・栄養に関わる諸問題の解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。			
オフィスアワー	火曜4時限 1503研究室			
学生へのメッセージ	3年次で学修する臨床栄養学応用や臨床栄養ケアマネジメントにつながるだけでなく、ライフステージ別栄養学や臨床実習など他の科目とも有機的に繋がっていますので、関連づけて学修するようにしてください。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、医療の実地臨床において、診療業務等の実務経験を有しており、臨床現場における現状や具体例も呈示しながら、実践的な内容を教授している。		
アクティブ・ラーニング				
情報リテラシー教育				
ICT活用				

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	臨床栄養学応用		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 榎本 真理	指定なし

ナンバリング	H33702C21
授業概要(教育目的)	疾患別の食事療法の実際と栄養管理方法を学び、栄養教育の特性と技法、多職種での栄養管理の取り組みを学ぶ。 疾患別栄養管理方法の根拠が理解でき、栄養サポートの実践力を身につけることを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	各種疾患の栄養管理の特性について理解する。
思考・判断の観点 (K)	各種疾患の栄養管理の実際とチーム医療の取り組みが考えられる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	管理栄養士としての知識と行動、職業倫理観を理解する。
技術・表現の観点 (A)	患者への栄養サポートが実践できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容
第1回	医療における管理栄養士の役割	傷病者の栄養管理を行う上での栄養療法と栄養教育の役割、チーム医療や医療者のコミュニケーション、患者の守秘義務や権利を学ぶ	医療の場での栄養管理やチーム医療について復習する
第2回	入院時食事療養(院内約束食事箋・供与栄養目標量)	医療保険制度、入院時食事療養等について、医療施設における食事療養の算定基準を学ぶ	入院時食事療養費、特別食加算、栄養指導料を予習する
第3回	肥満症の食事療法	肥満症の食事療法の実際、内科的治療および外科的治療の食事療法、栄養管理目標について学ぶ	教科書「肥満症」を予習する
第4回	糖尿病の食事療法	糖尿病の食事療法の基礎および、カーボカウントなど特殊な食事療法の実際、栄養管理目標について学ぶ	教科書「糖尿病」を予習する
第5回	糖尿病教育・献立展開	糖尿病の集団指導、教育入院のクリニカルパスと患者教育方法、糖尿病食の献立作成・展開について学ぶ	教科書「糖尿病」「糖尿病食品交換表」を予習する
第6回	脂質異常症・高尿酸血症の食事療法	脂質異常症・高尿酸血症の食事療法の実際、栄養管理目標について学ぶ	教科書「脂質異常症・高尿酸血症」を予習する
第7回	高血圧・心疾患・脳血管疾患の食事療法	高血圧・心疾患・脳血管疾患の食事療法の実際と、栄養管理目標について学ぶ	教科書「高血圧・心疾患・脳血管疾患」を予習する

第8回	消化器疾患（肝臓・胆のう・膵臓）の食事療法	消化器疾患の食事療養の実際と栄養管理目標、術前術後の栄養管理について学ぶ	教科書「消化器疾患（肝臓・胆のう・膵臓）」を予習する
第9回	緩和ケア・褥瘡治療の栄養管理	がんや心不全などの緩和的ケア、褥瘡の栄養管理方法と多職種による介入の実際を学ぶ	教科書「消化器の術前・術後」「褥瘡」を予習する
第10回	腎疾患の食事療法	腎疾患の食事療養の実際、栄養管理目標について学ぶ	教科書「糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、慢性腎不全、糖尿病性腎症」を予習する
第11回	腎疾患の献立展開	腎臓病食の献立作成・展開について学ぶ	「腎臓病食品交換表」を予習する
第12回	炎症性腸疾患の食事療法	炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）の食事療養の実際、栄養管理目標について学ぶ	教科書「潰瘍性大腸炎、クローン病」を予習する
第13回	上部消化管術後の食事療法	上部消化管術後の食事療養の実際、栄養管理目標について学ぶ	教科書「消化器の術前・術後」を予習する
第14回	周産期食事療法・高齢者（サルコペニア・フレイル）食事療法	周産期食事療法および妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、糖尿病合併妊娠の食事療養の実際と栄養管理目標 高齢者のサルコペニア・フレイル予防についての食事療法を学ぶ	教科書「高血圧・糖尿病」「加齢にともなう機能低下の栄養ケア」および配布資料を予習する
第15回	栄養補給法（静脈栄養・経腸栄養）・咀嚼嚥下障害の食事管理	栄養補給法の種類、輸液・栄養剤の用途と種類について学ぶ 咀嚼嚥下障害のレベルに対応する食事管理について学ぶ	教科書「摂食嚥下障害」「栄養ケアの実施、静脈栄養法、経腸栄養法」を予習する

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
確認レポート		○		
定期試験	○	○	○	○

評価割合

確認レポート20点、定期試験80点

使用教科書名 (ISBN番号)

新臨床栄養学医栄養ケアマネジメント

参考図書

病態栄養ガイドブック
食品成分表
糖尿病食事療法のための食品交換表
腎臓病食品交換表
日本人の栄養摂取基準2020年度版

オフィスアワー

水曜日1限、木曜日1限

学生へのメッセージ

疾患別栄養管理方法の理解（栄養指導と患者給食等）とチーム医療の実際を理解し、臨床栄養臨床実習で応用できる力を身につける。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、大学病院勤務での栄養食事指導、NST専従等の栄養管理業務および給食管理業務への従事経験を有している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	臨床栄養アセスメント論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金澤 良枝	指定なし

ナンバリング	H33703C21
授業概要(教育目的)	疾病者の病態や栄養状態に基づいた、疾病治療のための適切な栄養管理方法を学ぶ。代謝・内分泌系疾患、循環器系疾患、消化器系疾患、腎疾患、外科的疾患などの栄養状態、栄養管理、栄養補給法を学ぶ。理論的に疾患の栄養アセスメントを考え、栄養サポートが出来ることを目的とする。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	各種疾患の栄養アセスメントと栄養管理について理解する。
思考・判断の観点 (K)	各種疾患の栄養管理の特徴、方法が考えられる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	各種疾患の栄養管理の理解と患者教育について考えられる。
技術・表現の観点 (A)	患者の栄養食事指導が出来る。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	臨床栄養学と栄養アセスメント	医療現場における管理栄養士の役割について学ぶ。診療報酬制度、チーム医療、栄養アセスメントの意義、方法について学ぶ。	教科書「栄養ケアの基礎」「栄養アセスメント」を予習しておくこと	120分
第2回	チーム医療と栄養ケアプランの実施	チーム医療には様々なあるが、Nutrition support team (NST) での管理栄養士の役割や栄養ケアプランの立て方について学ぶ	教科書「栄養ケアプランの実施」を予習する	120分
第3回	肥満症の栄養アセスメント	肥満症の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ	教科書「肥満症」を予習する	120分
第4回	糖尿病の栄養アセスメント	糖尿病の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ	教科書「糖尿病」を予習する	240分
第5回	脂質異常症の栄養アセスメント	脂質異常症の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ	教科書「脂質異常症」を予習する	120分
第6回	高血圧・心疾患の栄養	高血圧、心疾患の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ	教科書「高血圧」「虚血性心疾患」「心不全」を予習する	240分

	アセスメント			
第7回	高尿酸血症の栄養アセスメント	高尿酸血症の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ	教科書「高尿酸血症を予習する	120分
第8回	肝疾患の栄養アセスメント	肝疾患（慢性肝炎、脂肪肝、肝硬変）の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ	教科書「慢性肝炎、脂肪肝、肝硬変」を予習する	240分
第9回	胆のう炎、胆石症の栄養アセスメント	胆のう炎、胆石症の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ	教科書「胆のう炎、胆石症」を予習する	120分
第10回	膵疾患の栄養アセスメント	膵疾患の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ	教科書「膵炎」を予習する	240分
第11回	腎疾患の栄養アセスメント	腎疾患の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ	教科書「糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、慢性腎不全、糖尿病性腎症」を予習する	240分
第12回	炎症性腸疾患の栄養アセスメント	炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ	教科書「潰瘍性大腸炎、クローン病」を予習する	240分
第13回	消化器術前・術後の栄養アセスメント	消化器（上部消化器、下部消化器）の術前・術後の病態、栄養食事療法について学ぶ	教科書「消化器の術前・術後」を予習する	120分
第14回	妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病の栄養アセスメント	妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、妊娠中の明らかな糖尿病、糖尿病合併妊娠の診断基準、治療、栄養生理、栄養食事療法について学ぶ	教科書「高血圧、糖尿病」および配布資料を予習する	240分
第15回	加齢にともなう機能低下への栄養アセスメント	加齢にともなう機能低下（サルコペニア、フレイル、認知症、褥瘡など）の診断基準、治療、栄養生理、栄養ケアについて学ぶ	教科書「加齢にともなう機能低下の栄養ケア」を予習する	180分

学習計画注記 食事療法が治療の一翼となる疾患を理解し、栄養アセスメントを身につける。

学生へのフィードバック方法 授業毎に前回内容の確認を行う。質問のある場合は1504研究室に訪問すること。

評価方法

- ・毎回の授業内容の理解度について、授業毎の確認レポートも評価の一環とする。
- ・定期試験は管理栄養士国家試験の出題に対応できる内容とし、栄養管理内容の具体的な算出や応用思考を必要とする記述式問題も含む。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
確認レポート	○	○		
定期試験	○	○	○	○

評価割合 確認レポート20点、定期試験80点

使用教科書名 (ISBN番号) 新臨床栄養学栄養ケアマネジメント (978-4-263-70664-0)
栄養食事療法の実習 (978-4-263-70651-0)

参考図書 食品成分表
糖尿病食事療法のための食品交換表
腎臓病食品交換表

ディプロマポリシーとの関連

- 【知識・理解】各種疾患のアセスメント、栄養食事療法の知識が身に付き理解できている。
- 【思考・判断】各種疾患の臨床検査値を理解し栄養食事療法の計画が考えられる。
- 【関心・意欲・態度】各種疾患の栄養療法に対する関心や考える意欲、態度が身についている。
- 【技能・表現】各種疾患の栄養療法を患者に伝える技術、表現力が身についている。

オフィスアワー 木曜日1、2限、

学生へのメッセージ 栄養食事療法が治療の一環となる疾病を理解して、臨床栄養実地実習で応用できる力を身につける。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業	○	担当教員は、総合病院勤務経験および内科クリニックでの栄養食事指導、集団栄養食事指導経験がある。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	臨床栄養ケアマネジメント論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金澤 良枝	指定なし

ナンバリング	H33704C21
授業概要(教育目的)	臨床分野で医療スタッフの一員として、人びとの健康の保持・増進、および疾患の治療予防に携わっている管理栄養士の仕事を理解し、医療人としての管理栄養士としての資質を養うことを目的とする。前期に学んだ臨床栄養アセスメント論を発展させケアプランを立て栄養療法を実施し、評価するための栄養ケアマネジメントの一連の流れを理解する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	各種疾患と食事マネジメント(献立管理も含め)について理解する。
思考・判断の観点(K)	各種疾患に適合した食事管理が判断できる。
関心・意欲・態度の観点(V)	各種疾患の栄養管理の理解と患者教育について考えられる。
技術・表現の観点(A)	患者の栄養食事指導ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	易消化食のマネジメント	胃炎、消化性潰瘍、腸疾患の病態および適応される流動食、分粥食、副菜の形態を理解し易消化食について系統的に学ぶ。	教科書「胃・腸疾患」を予習する	120分
第2回	塩分コントロール食のマネジメント	高血圧、虚血性心疾患など食塩コントロール食が適応される疾患の病態および栄養・食事マネジメントについて学ぶ	教科書「高血圧、虚血性心疾患」を予習する	120分
第3回	エネルギーコントロール食のマネジメント	肥満症、糖尿病、脂質異常症などエネルギーコントロール食が適応される疾患の病態および栄養・食事マネジメントについて学ぶ	教科書「肥満症、糖尿病、脂質異常症」を予習する	240分
第4回	エネルギーコントロール食のマネジメント	糖尿病治療のための食品交換表よりエネルギーコントロール食のマネジメントを学ぶ	糖尿病治療のための食品交換表を予習する	240分
第5回	エネルギーコントロール食+食塩コントロール	肥満症、糖尿病、脂質異常症などエネルギーコントロール食が適応される疾患に、高血圧が合併し食塩コントロール食が必要となる栄養・食事マネジメントについて学ぶ	教科書「肥満症、糖尿病、脂質異常症、高血圧」を予習する	120分

	食のマネジメント			
第6回	たんぱく質コントロール食のマネジメント	腎臓疾患の病態、たんぱく質コントロール食が適応される病期の栄養・食事マネジメントについて学ぶ	教科書「糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、慢性腎不全、糖尿病性腎症」を予習する	240分
第7回	たんぱく質コントロール食のマネジメント	腎臓病食品交換表よりたんぱく質コントロール食のマネジメントを学ぶ	腎臓病食品交換表を予習する	240分
第8回	たんぱく質コントロール食のマネジメント（治療用特殊食品）	低たんぱく食の適応される慢性腎不全の病態、および治療用特殊食品を用いた栄養・食事マネジメントについて学ぶ	腎臓病食品交換表を予習する、配布資料を予習する	240分
第9回	脂質コントロール食のマネジメント	脂質異常症の病態、脂質コントロール食の栄養・食事マネジメントについて学ぶ	教科書「脂質異常症」を予習する	120分
第10回	脂質コントロール食のマネジメント	慢性閉塞性肺疾患の病態（急性期、慢性期）と脂質比率を増やす場合の栄養・食事マネジメントについて学ぶ	教科書「慢性閉塞性肺疾患」を予習する	120分
第11回	膵臓疾患時の栄養マネジメント	膵臓疾患の病態と、病期に応じた栄養・食事マネジメントについて学ぶ	教科書「膵臓疾患」を予習する	120分
第12回	肝硬変、肝不全時の栄養マネジメント	肝硬変、肝不全時の病態と、病期に応じた食事・栄養マネジメントについて学ぶ	教科書「肝硬変、肝不全」を予習する	240分
第13回	炎症性腸疾患時の栄養マネジメント	炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）の病態、および栄養・食事マネジメントについて学ぶ	教科書「炎症性腸疾患」を予習する	240分
第14回	経腸栄養剤	各種病態において経腸栄養剤を利用する場合の、経腸栄養剤の特徴や、栄養マネジメントについて学ぶ	配布資料を予習する	180分
第15回	嚥下食	各種病態において嚥下食の適応となる場合の、嚥下食の特徴や栄養マネジメントについて学ぶ	配布資料を予習するを予習する	120分

学習計画注記	各種疾患の食事管理を理解する。
学生へのフィードバック方法	授業毎に前回の確認を行う。質問のある場合は1504研究室に訪問すること。
評価方法	・毎回の授業内容の理解度について、授業毎の確認レポートも評価の一環とする。 ・定期試験は、管理栄養士国家試験の出題に対応できる内容とし、栄養管理内容の具体的な算出や応用思考を必要とする記述式問題も含む。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
確認レポート	○	○		
定期試験	○	○	○	○

評価割合	確認レポート20点、定期試験80点
使用教科書名 (ISBN番号)	新臨床栄養学ケアマネジメント (978-4-263-70664-0) 栄養食事療法の実習 (978-4-263-70651-0)
参考図書	食品成分表 糖尿病食事療法のための食品交換表 腎臓病食品交換表
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】疾患に適した栄養マネジメントの知識が身についている。 【思考・判断】疾患を理解し適合する献立管理や食事指導ができる。 【関心・意欲・態度】献立管理、食事指導への関心、意欲、患者対応の態度が身についている。 【技能・表現】献立作成や食事指導への技術、表現力が身についている。
オフィスアワー	木曜1, 2限
学生へのメッセージ	栄養食事療法が各種疾患への治療の一環であることを理解し、臨床栄養臨地実習で応用できる力を身につける。
教育等の取組み状況	

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は。総合病院勤務経験、および内科クリニックでの栄養食事指導、集団栄養食事指導経験がある。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	臨床栄養アセスメント実習		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	金曜日	代表時限	1限後半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金澤 良枝	指定なし

ナンバリング	H33705C13
授業概要(教育目的)	傷病者の病態や栄養状態に基づいて適切な栄養管理を行うために、実習を通して、疾病治療上、特に患者の病態に適した栄養管理の方法について学ぶ。アセスメント(各種検査・診査・計測など)による栄養状態の評価・判定の方法については、事例を解析するなどの実技を通して、詳細に学ぶ。特に、各種生化学的検査値に基づく栄養状態判定には、測定値と病態との関係についての知識が確かなものであることが要求されるため、それらを実習により学ぶ。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	患者の病態に適した栄養管理の方法を説明できる。生化学的検査値と病態を関連づけられる。
思考・判断の観点(K)	患者の病態に適した栄養管理の方法を判断できる。
関心・意欲・態度の観点(V)	グループワークでは積極的に参加し、自らの意見や考察を述べる。
技術・表現の観点(A)	身体計測の手法を身につけ、アセスメントによる栄養状態の評価・判定ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	科目の概要(導入)	臨床栄養アセスメント実習で学ぶ内容、臨床栄養管理に必要な技能について理解する。	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し、授業に臨むこと。	60分
第2回	食事摂取量調査	食事調査の種類と特徴について、実践を通して理解する。	5日間の食事記録法(秤量法)を課題とする。	240分
第3回	食事摂取量調査	5日間の食事記録を元に、管理栄養士役と患者役のペアを組み、食事内容の詳細をロールプレイにより詳細を聞き取る。それらの結果より、管理栄養士役は日本食品標準成分表を用いて栄養量を算出し、食事内容を考察、改善案を作成する。	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し、授業に臨むこと。また、テキストの食事摂取量調査について予習しておくこと。	60分
第4回	市販弁当分析(グループワーク)	市販弁当を元の献立に組み立て直す作業を行う。実際に料理ごとの食材重量を測定し、味見による調味料の想定などを通し、アセスメントのひとつである食事調査を行う際に役立つスキルを身につける。	揚げ物の吸油率や調味料%、基本的な料理の塩分・糖分%などについて復習しておくこと。	60分
第5回	市販弁当分析(グループワーク)	前日に引き続き、食材重量測定、味見による調味料の想定などを通し、元の献立に組み立て直す作業を行う。それらの結果より、弁当の栄養価を算出することで、特徴、問題点や課題を見出し、考察する。	授業内に終わらなかった分析は、課題として終わらせておくこと。	120分
第6回	市販弁当分析	グループ内で、分析した市販弁当の特徴、問題点や課題	授業内に終わらなかったプレゼ	240分

	析(グループワーク)	などを共有し、それらを元に、理想的な市販弁当を考案(対象者、特長、献立、商品名、価格など)する。プレゼンテーション準備として、グループごとに模造紙でポスターおよび発表原稿を作成する。	ンテーションのための媒体・発表原稿準備は、課題として終わらせておくこと。	
第7回	プレゼンテーション	グループごとに、理想的な市販弁当についてプレゼンテーションを行う。他グループのプレゼンテーションでは、聴講者は消費者の立場で積極的にディスカッションを行う。	プレゼンテーションの準備として、グループ内での発表分担および発表原稿を決定し、効果的なプレゼンテーションの練習を忘れないこと。	60分
第8回	栄養補給法	経管(経腸)栄養法の実際を理解するとともに、様々な経腸栄養剤の成分や特徴を把握する。成分栄養剤、消化態栄養剤、半消化態栄養剤、天然濃厚流動食の特徴や製品を知る。	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し、授業に臨むこと。また、テキストの経管(経腸)栄養法について予習しておくこと。	60分
第9回	栄養補給法	病態に応じた経腸栄養剤の内容と使用量について、症例を通して検討する。	経腸栄養剤について予習しておくこと。	60分
第10回	栄養補給法	嚥下調整食についての知識を深め、栄養管理計画作成の手順と重要なポイントを学ぶ。	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し、授業に臨むこと。また、テキストの嚥下調整食について予習しておくこと。	60分
第11回	身体計測法の実践	アセスメントとして実測法である身体計測(身長・体重・体脂肪率・腹囲・上腕三頭筋皮下脂肪厚・肩甲骨下部皮下脂肪厚・上腕周囲長・下腿周囲長・膝高など)法、生理生化学検査(血圧、脈拍数、安静時基礎代謝量)、骨密度測定などの実践を通し、測定方法を理解する。	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し、授業に臨むこと。また、テキストの身体計測法・アセスメントキットのテキストについて予習し、理解しておくこと。測定値より求められる値についても算出しておくこと。	60分
第12回	身体計測法の実践	アセスメントとして実測法である身体計測(身長・体重・体脂肪率・腹囲・上腕三頭筋皮下脂肪厚・肩甲骨下部皮下脂肪厚・上腕周囲長・下腿周囲長・膝高など)法、生理生化学検査(血圧、脈拍数、安静時基礎代謝量)、骨密度測定などの実践を通し、測定方法を理解する。	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し、授業に臨むこと。また、テキストの身体計測法・アセスメントキットのテキストについて予習し、理解しておくこと。測定値より求められる値についても算出しておくこと。	60分
第13回	身体計測法の実践	アセスメントとして実測法である身体計測(身長・体重・体脂肪率・腹囲・上腕三頭筋皮下脂肪厚・肩甲骨下部皮下脂肪厚・上腕周囲長・下腿周囲長・膝高など)法、生理生化学検査(血圧、脈拍数、安静時基礎代謝量)、骨密度測定などの実践を通し、測定方法を理解する。	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し、授業に臨むこと。また、テキストの身体計測法・アセスメントキットのテキストについて予習し、理解しておくこと。測定値より求められる値についても算出しておくこと。	60分
第14回	身体計測法の実践	アセスメントとして実測法である身体計測(身長・体重・体脂肪率・腹囲・上腕三頭筋皮下脂肪厚・肩甲骨下部皮下脂肪厚・上腕周囲長・下腿周囲長・膝高など)法、生理生化学検査(血圧、脈拍数、安静時基礎代謝量)、骨密度測定などの実践を通し、測定方法を理解する。	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し、授業に臨むこと。また、テキストの身体計測法・アセスメントキットのテキストについて予習し、理解しておくこと。測定値より求められる値についても算出しておくこと。	60分
第15回	SOAP記録	POS(問題志向型システム)に沿った栄養記録の作成方法を学ぶなかで、医療における栄養管理の経過記録として、SOAPの4項目に分類して記録する方法を実践を通して理解する。	臨床栄養アセスメント論の授業内容を復習し、授業に臨むこと。また、テキストのPOSおよびSOAP記録について予習しておくこと。	60分

学生へのフィードバック方法 提出物は、添削し返却する。

評価方法 評価はSABCDとする。
・平常点は、参加状況・授業への取り組み・授業態度を総合的に評価する。
・提出物
・定期試験

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○		○	○
提出物	○	○		○
定期試験	○	○		

評価割合 平常点(20%)、提出物(20%)、定期試験(60%)で評価する。

使用教科書名 (ISBN番号)	栄養食事療法の実習 栄養ケアマネジメント第11版 本田佳子編, 医歯薬出版株式会社 (978-4-263-70651-0) 新臨床栄養学 栄養ケアマネジメント第3版 本田佳子編, 医歯薬出版株式会社 (978-4-263-70664-0)	
参考図書	なし	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多面的なカリキュラムの履修により, 総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士などの専門職業人として, 自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。 【技術・表現】体系的学習を通じて, 人々の生活の質の向上に寄与すべく, 健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的技術を身につけている。	
オフィスアワー	金澤 (金曜日1, 2時限), 城田 (金曜日3, 4時限)	
学生へのメッセージ	臨床栄養アセスメント論での学びを基礎とした実習です。両科目を繋げ, 臨床栄養アセスメントについてしっかり理解しましょう。患者の栄養評価は, 臨床現場では重要です。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は, 病院管理栄養士として臨床現場で栄養アセスメントの実務経験を有しており, アセスメントによる栄養状態の評価・判定, 患者の病態に適した栄養管理の方法を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	グループディスカッション, グループワーク, プレゼンテーション
情報リテラシー教育	○	SOAP記録
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	臨床栄養ケアマネジメント実習		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 金澤 良枝	指定なし

ナンバリング	H33706C13
授業概要(教育目的)	臨床栄養ケアマネジメント論で学んだ理論をいかに実践に応用・活用するか、について一連の方法を学ぶ。具体的には、病院給食における栄養管理、NSTにおける管理栄養士の役割、栄養士活動、在宅訪問栄養指導、検診センターや人間ドックにおける管理栄養士の役割、さらに、ターミナルケアに至るまでの栄養ケアプランの作成方法、実施方法、評価方法を学ぶ。そして、献立や治療食を作成するなど疾患の状態に応じた栄養管理は、調理実習を含め修得する。また、各種治療用特殊食品を用いた実習も実施する。
履修条件	なし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	臨床栄養ケアマネジメント論の理論を関連つけ、応用できる。
思考・判断の観点(K)	様々な栄養ケアプランの作成方法、実施方法、評価方法を判断できる。
関心・意欲・態度の観点(V)	献立を元に、事前に調理実習の工程を考え、グループ内で効率よく分担し、積極的に調理実習に参加する。
技術・表現の観点(A)	疾患の状態に応じた栄養管理を献立や調理に応用できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	科目の概要(導入)、易消化食の献立作成	臨床栄養ケアマネジメント実習で学ぶ内容、臨床栄養管理に必要な技能について理解する。易消化食の特徴を理解し、適切に食品選択をしたうえで栄養基準に沿った献立を立てる。	臨床栄養ケアマネジメント論の授業内容を復習し、授業に臨むこと。また、テキストの易消化食について予習しておくこと。授業内に終わらなかった献立作成は、課題とする。	120分
第2回	易消化食の調理実習	基本的な易消化食の献立・食品選択・調理方法を理解し、調理実習により実践する。そして、実際に試食をし、考察する。	調理実習の献立内容をしっかり理解し、当日までに調理工程や食材の切り方・盛り付け方などについて予習しておくこと。	60分
第3回	減塩食の献立作成	減塩食の特徴を理解し、適切に食品選択をしたうえで栄養基準に沿った献立を立てる。	臨床栄養ケアマネジメント論の授業内容を復習し、授業に臨むこと。また、テキストの減塩食について予習しておくこと。授業内に終わらなかった献立作成は、課題とする。	120分
第4回	減塩食の調理実習	基本的な減塩食の献立・食品選択・調理方法を理解し、調理実習により実践する。そして、実際に試食をし、考察する。	調理実習の献立内容をしっかり理解し、当日までに調理工程や食材の切り方・盛り付け方などについて予習しておくこと。	60分

第5回	エネルギーコントロール食の献立作成	エネルギーコントロール食の特徴を理解し、適切に食品選択をしたうえで栄養基準に沿った献立を立てる。	臨床栄養ケアマネジメント論の授業内容を復習し、授業に臨むこと。また、テキストのエネルギーコントロール食について予習しておくこと。授業内に終わらなかった献立作成は、課題とする。	120分
第6回	エネルギーコントロール食の調理実習	基本的なエネルギーコントロール食の献立・食品選択・調理方法を理解し、調理実習により実践する。そして、実際に試食をし、考察する。	調理実習の献立内容をしっかり理解し、当日までに調理工程や食材の切り方・盛り付け方などについて予習しておくこと。	60分
第7回	たんぱく質コントロール食の献立作成	たんぱく質コントロール食の特徴を理解し、適切に食品選択をしたうえで栄養基準に沿った献立を立てる。	臨床栄養ケアマネジメント論の授業内容を復習し、授業に臨むこと。また、テキストのたんぱく質コントロール食について予習しておくこと。授業内に終わらなかった献立作成は、課題とする。	120分
第8回	治療用特殊食品の調理実習	たんぱく質コントロール食で活用される治療用特殊食品の種類・特徴を理解し、調理実習により扱い方を理解する。そして、実際に試食をし、考察する。	臨床栄養ケアマネジメント論の授業内容を復習し、授業に臨むこと。また、テキストの治療用特殊食品について予習しておくこと。	60分
第9回	たんぱく質コントロール食の調理実習	基本的なたんぱく質コントロール食の献立・食品選択・調理方法を理解し、調理実習により実践する。そして、実際に試食をし、考察する。	調理実習の献立内容をしっかり理解し、当日までに調理工程や食材の切り方・盛り付け方などについて予習しておくこと。	60分
第10回	脂質コントロール食の献立作成	脂質コントロール食の特徴を理解し、適切に食品選択をしたうえで栄養基準に沿った献立を立てる。	臨床栄養ケアマネジメント論の授業内容を復習し、授業に臨むこと。また、テキストの脂質コントロール食について予習しておくこと。授業内に終わらなかった献立作成は、課題とする。	120分
第11回	脂質コントロール食の調理実習	基本的な脂質コントロール食の献立・食品選択・調理方法を理解し、調理実習により実践する。そして、実際に試食をし、考察する。	調理実習の献立内容をしっかり理解し、当日までに調理工程や食材の切り方・盛り付け方などについて予習しておくこと。	60分
第12回	嚥下食の献立作成	嚥下食の特徴を理解し、適切に食品選択をしたうえで栄養基準に沿った献立を立てる。	臨床栄養ケアマネジメント論の授業内容を復習し、授業に臨むこと。また、テキストの嚥下食について予習しておくこと。授業内に終わらなかった献立作成は、課題とする。	120分
第13回	嚥下食の調理実習	基本的な嚥下食の献立・食品選択・調理方法を理解し、調理実習により実践する。そして、実際に試食をし、考察する。	調理実習の献立内容をしっかり理解し、当日までに調理工程や食材の切り方・盛り付け方などについて予習しておくこと。	60分
第14回	食物アレルギー対応の献立作成	食物アレルギー対応の方法（除去・代替）を理解し、適切に食品選択をしたうえで栄養基準に沿った献立を立てる。	臨床栄養ケアマネジメント論の授業内容を復習し、授業に臨むこと。また、テキストの食物アレルギー対応について予習しておくこと。授業内に終わらなかった献立作成は、課題とする。	120分
第15回	食物アレルギー対応市販食品の調理実習	食物アレルギー患者に用いられる市販食品の種類・特徴を理解し、調理実習により扱い方を理解する。そして、実際に試食をし、考察する。	調理実習の献立内容をしっかり理解し、当日までに調理工程や食材の切り方・盛り付け方などについて予習しておくこと。	60分

学生へのフィードバック方法 提出物は、添削し返却する。

評価方法 評価はSABCDとする。
・平常点は、参加状況・授業への取り組み・授業態度を総合的に評価する。
・提出物
・定期試験

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○		○	○
提出物	○	○		○
定期試験	○	○		

評価割合 平常点 (20%) , 提出物 (20%) , 定期試験 (60%) で評価する。

使用教科書名 (ISBN番号)	栄養食事療法の実習 栄養ケアマネジメント第11版 本田佳子編, 医歯薬出版株式会社 (978-4-263-70651-0) 新臨床栄養学 栄養ケアマネジメント第3版 本田佳子編, 医歯薬出版株式会社 (978-4-263-70664-0)	
参考図書	日本食品成分表, 糖尿病食品交換表, 腎臓病食品交換表	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多面的なカリキュラムの履修により, 総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士などの専門職業人として, 自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。 【技術・表現】体系的学習を通じて, 人々の生活の質の向上に寄与すべく, 健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的技術を身につけている。	
オフィスアワー	金澤 (木曜日 1, 2時限), 城田 (水曜日 3, 4時限)	
学生へのメッセージ	臨床栄養ケアマネジメント論での学びを基礎とした実習です。両科目を繋げ, 臨床栄養ケアマネジメントについてしっかり理解しましょう。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は, 病院管理栄養士としての実務経験を有しており, 病院給食における栄養管理, NSTにおける管理栄養士の役割, 栄養士活動や栄養ケアプランの作成方法, 評価方法, 治療食献立の作成や調理に至るまで, 臨床現場における管理栄養士の使命について教授している。
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク (調理実習)
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	公衆栄養学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 田中 弘之	指定なし

ナンバリング	H23801C21
授業概要(教育目的)	住民のQOLの向上と、健康の保持・増進のために、地域、国家のような集団・社会レベルで栄養問題と、それを取り巻く自然、文化、経済的要因との関連を分析し、あるいはニーズを把握し、適切な公衆栄養プログラムを計画・実施・モニタリング・評価・フィードバックするための知識と技能を養う。公衆栄養学では、特に、わが国および諸外国の健康・栄養問題の現状、課題及びそれらに対応した公衆栄養政策について理解を深める。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	健康の保持・増進のために、地域、国家のような集団・社会レベルで栄養問題、あるいはニーズを把握する。
思考・判断の観点 (K)	上記を取り巻く自然、文化、経済的要因との関連を分析し、適切な公衆栄養プログラムを計画・実施・モニタリング・評価・フィードバックするといった、思考・判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	わが国および諸外国の健康・栄養問題の現状、課題及びそれらに対応した公衆栄養政策について積極的にかかり改善意欲を身につける。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	1. 公衆栄養の概念、公衆栄養活動の意義	わが国の法律の仕組みと健康づくりに関する法令とその役割を知る。 公衆栄養学と管理栄養士の役割を理解する。	栄養士法、健康増進法、地域保健法 母子保健法、高齢者の医療の確保に関する法律、食品衛生法、介護保険法、食品安全基本法、食料・農業・農村基本法、食育基本法、学校給食法について、教科書の巻末の栄養関連法規を読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	180分
第2回	2. わが国の健康・栄養問題の現状と課題	わが国の人口構造の変化、超高齢社会、健康・栄養問題と健康状態の変化について理解する。	教科書により、わが国の人口構造と、それに伴う健康・栄養問題の現状と課題を読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	180分
第3回	3. 国民健康・栄養調査の沿革	わが国の国民健康・栄養調査の沿革と基本的な考え方を理解する。	教科書により、栄養施策の国民健康・栄養調査について読む。また、国利研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所のHPにある同調査の「栄養調査 情報のひろば」を読んでおくこと。	180分

			配布プリントにより復習すること。	
第4回	4. 国民健康・栄養調査の方法	わが国の国民健康・栄養調査の目的・方法を理解する。	教科書により、栄養施策の国民健康・栄養調査について読む。また、国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所のHPにある同調査の「国民健康・栄養調査の結果と現状について」を読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	180分
第5回	5. 食事の変化	栄養調査に基づく、エネルギー摂取量、栄養素摂取量、食品群別摂取量と料理・食事パターンの面から経時的変化と現状について理解する。	教科書により栄養施策の国民健康・栄養調査について読む。また、国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所のHPにある同調査の「国民健康・栄養調査の結果と現状について」を読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	180分
第6回	6. 食生活の変化	食生活とそれを支える食環境との関連を食物へのアクセスと食情報へのアクセスを理解する。	教科書により、食生活の変化について食行動・食知識・食スキルの変化について、読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	180分
第7回	7. 食環境の変化	食品生産・流通面、食情報面の両面から食環境を理解する。	教科書により、食料需給表と食料自給率について、読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	180分
第8回	8. 地域における健康危機管理の在り方	災害時の栄養・食生活支援活動について、理解する。	教科書により、健康・食生活の危機管理を読む。また、国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所のHPにより、「災害時の健康・栄養について」と日本栄養士会HPより、「災害時の栄養・食生活支援マニュアル」を読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	180分
第9回	9. 栄養施策に関する指針	食生活指針改定の趣旨、国民の食生活の現状と課題と食生活指針の構成と各項目について理解する。	教科書により、食生活指針について、読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	180分
第10回	10. 栄養施策に関する指針やツール	健康・栄養食生活改善のための指針やツールを理解する。	教科書により、他ツール運動指針、食事バランスガイド、食育ガイド及び健康な食事について、読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	180分
第11回	11. 健康日本21の背景と目標設定	わが国の健康づくり対策の沿革と健康日本21の背景と目的を理解する。	教科書により、健康日本21、生活習慣病の定義とその対策の流れについて、読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	180分
第12回	12. 健康日本21第2次について	国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針と同計画の第2次の目標について理解する。	教科書により、健康日本21、生活習慣病の定義とその対策の流れについて、読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	180分
第13回	13. 諸外国における健康・栄養問題	諸外国の健康・栄養状態、栄養素摂取の概況について理解する。	教科書により、国際的に健康状態や栄養状態を比較するとき用いられる指標や国際機関による健康・栄養・食料政策について、読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	180分
第14回	14. 地域特性に対応したプログラムの展開	地域における公衆栄養活動を理解する。	教科書により、地域栄養ケアのための関係団体と食生活改善推進員連絡協議会について、読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	180分
第15回	15. 管理栄養士業務における実践力の強化に向けて	社会に貢献する管理栄養士の業務を地域の特性に対応した制度を理解する。まためとして、テストを行いその狙いを解説する。	教科書により、在宅医療、介護予防の制度について、読んでおくこと。配布プリントにより復習すること。	180分

学生へのフィードバック方法	実施した小テストは、採点して授業の中で解説する。併せてリアクションペーパーにより質問や理解度について把握し、その結果を返却する。
評価方法	・前回の授業内容と配布資料に係る小テストとリアクションペーパーは、14回実施する。1回当たりの問題は国家試験の出題方式で数は、3問とする。 ・定期試験は100点満点で出題して、国家試験の出題方式と穴埋め等により、応用的な思考力や理解力を判断する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○		
リアクションペーパー		○	○	
定期テスト	○	○		

評価割合	平常点は授業へのリアクションペーパー等で総合判断する(10%)、定期試験(60%)、小テスト(毎授業内におけるテスト)(30%)などから総合的に評価する
使用教科書名 (ISBN番号)	公衆栄養学, 古野純典他編, 南江堂, 2018
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物、そして地域との相互関係から「人間の栄養」を理解する。 【思考・判断】学際的な学習を通じて、個人から地域コミュニティ、グローバルな観点から現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決を模索する。 【関心・意欲・態度の観点】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思を持つ。
オフィスアワー	火曜日：10：45～12：00、15：00～17：30、金曜日10：00～12：00
学生へのメッセージ	心身の健全な発育・発達、健康の保持・増進、疾病予防と治療に貢献することを念頭としながら「問題は何か、解決するためにどうするのか」という取組意欲をもつ受講を期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、厚生労働省、内閣府および地方公共団体において、栄養、健康増進、生活習慣病予防対策、疾病対策等における政策の策定や実践をしてきた。
アクティブ・ラーニング	○	リアクションペーパー
情報リテラシー教育	○	政府刊行物、白書
ICT活用	○	政府統計データ、文献検索

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	地域栄養活動論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 田中 弘之	指定なし

ナンバリング	H33802C21
授業概要(教育目的)	公衆栄養マネジメントの概念、既存の理論的枠組みを理解し、公衆栄養プログラムの計画策定・実施する手法や技能を修得すると共に、具体的な公衆栄養プログラムについての理解を深める。地域住民を主体としたネットワークづくりや、食環境整備を含めた地域での公衆栄養活動の進め方について理解する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	公衆栄養マネジメントの概念、既存の理論的枠組みを理解し、公衆栄養プログラムの計画策定・実施する手法や技能を修得すると共に、具体的な公衆栄養プログラムについての理解を深める。
思考・判断の観点 (K)	地域住民を主体としたネットワークづくりの必要性や、食環境整備を含めた地域での公衆栄養活動の推進が思考・判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	実情に応じた公衆栄養マネジメントにより、関心・意欲を高めることができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	1. 公衆栄養マネジメントの概念とプロセス	公衆栄養マネジメントの必要性・対象と実施者・プロセス・モデルについて、理解する。	教科書により、同概念と同対象を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。	180分
第2回	2. 公衆栄養プロセスとアセスメント	アセスメントの種類、流れ、主要な役割、プロセス改善との関係などを理解する。	教科書により、アセスメントの項目と目的・枠組みプロセス改善を理解する。配布プリントにより、復習すること。	180分
第3回	3. 住民参加とコミュニティ・オーガニゼーション	公衆栄養プログラムの計画を理解する。	教科書により、プログラムの目標設定や地域社会資源の把握や施策のアセスメント等について、読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。	180分
第4回	4. 公衆栄養活動のための法規	公衆栄養プログラムの実施について、理解する。	教科書により、プログラムの実施と関係者・機関の役割、コミュニケーション管理について、読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。	180分

第5回	5. 公衆栄養プログラムの評価	評価の意義と方法やその実際について理解する。	教科書により、経過評価、影響評価、結果評価と各要因および経済評価について、読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。	180分
第6回	6. 食育の基本	食育推進の背景と経緯、食育基本法について、理解する。	食育白書や農林水産省HPの今までの食育推進基本計画を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。	180分
第7回	7. 食育推進基本計画	食育推進基本計画とそのツールを理解する。	教科書により、食育基本法の概念と食育推進基本計画を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。	180分
第8回	8. 母子の公衆栄養プログラム策	母子保健法に係る計画や指針やツールを理解する。次世代育成支援法を知る。	教科書により、健やか親子21、保育所保育指針、妊産婦のための食生活指針、授乳・離乳支援ガイドを読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。”	180分
第9回	9. 特定健診・特定保健指導	高齢者の医療の確保に関する法律や特定健診・特定保健指導の仕組みを理解する。	教科書により、特定健診・特定保健指導を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。	180分
第10回	10. 機能を表示する食品	私たちが飲食するものの法律上の分類について、理解する。	教科書により、特別用途表示食品と保健機能食品の活用を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。	180分
第11回	11. 栄養成分表示等	食品表示法と関連する法律について理解する。	教科書により、栄養成分表示の活用を読んでおくこと。消費者庁HP食品表示を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。	180分
第12回	12. 特別用途表示の許可と虚偽誇大広告の禁止	用途別に見た食品の分類と適正な食品表示について理解する。	教科書により用途別に見た食品と消費者庁HP食品表示を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。	180分
第13回	13. 栄養疫学1	栄養疫学の概要や指標について理解する。	教科書により、栄養疫学の概要や指標を読んでおH38:J39くこと。配布プリントにより、復習すること。	180分
第14回	14. 栄養疫学2	栄養疫学の方法や調査について理解する。	教科書により、方法、調査・測定方法を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。	180分
第15回	15. 食事摂取基準	食事摂取基準活用について理解する。まとめとして、テストを行いその狙いを解説する。	教科書により、食事摂取基準による評価方法を読んでおくこと。配布プリントにより、復習すること。	180分

学生へのフィードバック方法 実施した小テストは、採点して授業の中で解説する。併せてリアクションペーパーにより質問や理解度について把握し、その結果を返却する。

評価方法 ・前回の授業内容と配布資料に係る小テストとリアクションペーパーは、14回実施する。1回当たりの問題は国家試験の出題方式で数は、3問とする。
・定期試験は100点満点で出題して、国家試験の出題方式と穴埋め等により、応用的な思考力や理解力を判断する。”

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○	○		
リアクションペーパー		○	○	
定期テスト	○	○		

評価割合 平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合判断する(10%)、定期試験(60%)、小テスト(毎授業内におけるテスト)(30%)などから総合的に評価する

使用教科書名 (ISBN番号) 公衆栄養学 古野純典他編 (南江堂 2018)

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】・管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につける。
【思考・判断】・課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につける。

	【関心・意欲・態度の観点】・他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につける															
オフィスアワー	月曜日15:00~17:30、火曜日10:00~12:00															
学生へのメッセージ	公衆栄養学で学んだ課題の提起と解決の取組について、地域・職域の公衆栄養活動を効果的に実践するために必要な他の専門科目との繋がりをもって受講することを期待します。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>担当教員は、厚生労働省、内閣府および地方公共団体において、栄養、健康増進、生活習慣病予防対策、疾病対策等における政策の策定や実践をしてきた。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td>○</td> <td>白書等政府刊行物の利用</td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td>○</td> <td>府省庁のガイドライン、統計資料の閲覧・ダウンロード</td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	担当教員は、厚生労働省、内閣府および地方公共団体において、栄養、健康増進、生活習慣病予防対策、疾病対策等における政策の策定や実践をしてきた。	アクティブ・ラーニング			情報リテラシー教育	○	白書等政府刊行物の利用	ICT活用	○	府省庁のガイドライン、統計資料の閲覧・ダウンロード
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、厚生労働省、内閣府および地方公共団体において、栄養、健康増進、生活習慣病予防対策、疾病対策等における政策の策定や実践をしてきた。														
アクティブ・ラーニング																
情報リテラシー教育	○	白書等政府刊行物の利用														
ICT活用	○	府省庁のガイドライン、統計資料の閲覧・ダウンロード														

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	公衆栄養学実習		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	1限後半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 田中 弘之	指定なし

ナンバリング	H33803C13
授業概要(教育目的)	公衆栄養学で学んだ理論を基に、集団の栄養問題、社会ニーズを把握するために、社会調査法を用いて公衆栄養学の観点から地域診断を行い、それに基づいて地域栄養計画策定の方法論を学ぶ。グループで設定した対象地域・者にあわせて、ディスカッションし、自分の意見を表現する力、意見をまとめる力を習得する。
履修条件	公衆栄養学概念、健康・栄養問題の現状と課題、栄養政策、栄養疫学、栄養マネジメント、栄養プログラムの展開を理解していること。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	エビデンスに基づいた健康・栄養問題の現状と課題を理解する。
思考・判断の観点(K)	調査結果から得られたエビデンスの合理的な利用と具体的な活用を考える。
関心・意欲・態度の観点(V)	調査結果から得られたエビデンスを基に食習慣・生活習慣の改善への意識・関心を高める。
技術・表現の観点(A)	政策や提案を実効性と継続性のある技術・表現を習得する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーションとスマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」等の栄養調査について	アセスメントのための各栄養調査による比較	各栄養調査方法とその特徴を学ぶ教科書「栄養疫学」を読む予習をする。配付資料により、スマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」復習し、実行日に決行する。	180分
第2回	写真より3日間の食物摂取量を推察する。	主食・主菜・副菜の区別を入力する 献立・食品重量を推察するとともに食品名の判定結果の×をつける 栄養価計算した推察値と真の値の食品ごとの重量とエネルギー等の差を求める その結果どの食品がエネルギー、タンパク質等に影響が大きいかを調べる そのパラツキ(分布)を調べる	予習、復習により食品成分表の使用方法を理解する。	180分
第3回	写真より3日間の食物摂取量を推察する。	推察値と真の値の食品ごとの重量とエネルギー等の差を調べる。 その結果どんな食品がエネルギー、タンパク質等にどのような影響があるのか、読み違いの要因は、どのような点があるのかを調べる。 推察値と真の値の食品ごとのエネルギー等の基本統計等	教科書・食事摂取基準等を参考にエネルギー産生栄養素とその割合を予習復習で理解する。 スマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」の栄養調査を	180分

		を調べる。 そのバラツキ（分布）を調べる。	パートナーと完結しておくこと。	
第4回	写真より3日間の食物摂取量を推察値と真の値を比較する。 スマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」のパートナーから真の値と携帯写真24時間思い出し法の値を比較する。	推察値と真の値の食品ごとの重量とエネルギー等の差を調べる。 その結果どんな食品がエネルギー、タンパク質等にどのような影響があるのか、読み違いの要因は、どのような点があるのかを調べる。 推察値と真の値の食品ごとのエネルギー等の基本統計等を調べる。 そのバラツキ（分布）を調べる。	スマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」の真の値を計算しておく。	180分
第5回	統計処理方法	基本統計、相関、有意差検定を理解する。	教科書の栄養疫学を予習し、配付資料を復習すること。	180分
第6回	写真記録法（推察値）と秤量記録法（真の値）を比較検討する。	様式に従った、入力、データチェックを行う。基本統計や相関を求める。 様式に従った、レポート作成を行う。	教科書栄養疫学で栄養価数値の様式や配付資料の基本統計や相関を予習・復習する。	180分
第7回	携帯カメラ写真による24時間思い出し法による栄養調査の標準化について	写真記録法の食品の同定・定量（推定値）と秤量記録法（真の値）の栄養価計算値の整理 クラス半数のデータを取得し、秤量記録法と写真記録法の栄養価の基本統計の比較や相関を検討する。	栄養調査結果数値の特性や基本統計量と相関関係の測定について、教科書栄養疫学と配付資料により予習・復習する。	180分
第8回	携帯カメラ写真による24時間思い出し法の栄養調査の標準化について	写真記録法の食品の同定・定量（推定値）と秤量記録法（真の値）の栄養価計算値の整理 クラス半数のデータを取得し、秤量記録法と写真記録法の栄養価の基本統計の比較や相関を検討する。 文献の意義と検索方法を学ぶ。	教科書の栄養疫学と配付資料により、文献や基本統計の比較や相関について予習・復習する。	180分
第9回	携帯カメラ写真記録による24時間思い出し法栄養調査の標準化について」のレポート作成（報告書）	秤量記録法と写真記録法との比較（エネルギー・栄養素の基本統計量と相関等を測定） 読み取り違い例のまとめをする	グループごとのデータチェックを行うための適切な数値について、教科書の栄養疫学や配付資料により予習・復習する。	180分
第10回	携帯カメラを使った24時間思い出し法と秤量法（ゴールドスタンダード）との検討	妥当性と標準化に向けた再現性の検討 偶然誤差と系統誤差、妥当性と精度について理解する。	教科書の栄養疫学と配付資料により予習・復習をする。	180分
第11回	習慣的な食事調査結果（秤量法結果より）を食事摂取基準からみた□検討について	食事摂取基準値と調査結果から、栄養素で考え、食品・料理□（主食・主菜・副菜）で伝える事を学び、その適切に行える食生活習慣の改善点を考える。	食事摂取基準値の算出方法と活用について予習・復習する。	180分
第12回	習慣的な食事調査結果を食事摂取基準からみた□検討について	携帯カメラによる栄養調査によって得られたE.N・栄養素を食事摂取基準と比較して課題を抽出する（2～3点に絞る） 主食【穀類（ご飯・パン・麺）】、主菜【肉類・魚類・豆類など】副菜【野菜類など】の観点からの課題 生活習慣からの課題（運動習慣等含む）	教科書栄養マネジメントや配付資料により予習・復習をする。	180分
第13回	20歳代女子学生の習慣的な食事調査結果による食習慣・生活習慣の□改善のポイント（食事摂取	背景、目的、方法、結果、課題抽出（食生活と生活習慣の観点から）、計画及び具体策（食生活と生活習慣の観点から）、考察、実効性、継続性の両観点からまとめについて、プレゼン資料を班ごとに作成する。	学習目的の意義を今までの教科書の箇所と配付資料により予習・復習をする。	180分

	基準から) 報告書の作成			
第14回	調理実習	栄養教育の具体的な提案のツールを増やす。	学修してきた調理技術について、予習・復習する。	180分
第15回	習慣的な食事調査結果を食事摂取基準からみられた検討等についてのプレゼンテーション	<p>I 背景 20歳代の女子の生活習慣や食生活などの問題について背後に潜んでいる状況や事柄を説明している。背景に沿った目的や課題を説明している。</p> <p>II 目的 課題に対して、目指すための目標が明確になっている。</p> <p>III 方法 食事摂取基準からの判定、主食・主菜・副菜などの観点から具体策への手順(検討内容)が示されている。</p> <p>IV 結果 アセスメントや基本統計が課題抽出、計画、具体策及び考察の内容とつながっている。</p> <p>V 課題の抽出 目的、結果に基づく課題になっていて、目標、計画、具体策へつなげていく内容となっている。</p> <p>VI 計画及び具体策 目標は、実施後の結果と比較することが可能となっている。(分かりやすいか) 計画は、食物を摂取するための行動変容について(知識・態度・行動レベル)述べている。食物を摂取するための行動変容に係る環境レベルを述べている。</p> <p>具体策 実施する内容が課題解決(リスクの低減)に向けた内容であり、実効性や継続性の観点から検討されている。</p> <p>VII 考察 食生活の観点から意見・結論が述べられ、関係する論文を引用している。生活習慣改善の観点から意見・結論が述べられ、関係する論文を引用している。実効性や継続性の観点から今後の課題などが提案や検討がされている。</p> <p>まとめとして、小テストを行いその狙いを解説する。</p>	発表する内容と評価基準について、今までを踏まえて予習・復習する。	180分

学生へのフィードバック方法 調査方法の確認やレポート作成時にアドバイスをする。

評価方法 課題遂行能力、期限提出能力、データ作成・集計・チェック能力、データ分析能力、データ解析能力、意見調整・集約能力、まとめ・表現能力、説明能力、評価能力

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業参加状況・討論への参加		○	○	○
グループワークへの積極性		○	○	○
レポート	○	○		○
定期試験	○	○		

評価割合 平常点は実習や討論への参加等で総合判断する(10%)、グループワークへの積極性(10%)、レポート(20%)、定期試験(60%)から総合的に評価する

使用教科書名 (ISBN番号) 公衆栄養学, 古野純典編, 南江堂, 2018

参考図書 スマホ・携帯電話写真「24時間食事思い出し法」マニュアル(同文書院)

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】食物摂取状況の把握と生活習慣、ライフステージ域との関係から「人間の栄養」を理解する。【思考・判断】学際的な学習を通じて、個人から集団の現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決を模索する。【関心・意欲・態度の観点】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思を持つ。

オフィスアワー 火曜日: 10:40~12:00, 15:00~17:30, 金曜日: 9:30~12:00, 15:00~17:30

学生へのメッセージ 公衆栄養学で学んだ課題の提起と解決の取組を公衆栄養活動の展開に際し、事前に他の専門科目との繋がりを想定した状況を踏まえて、受講することを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、厚生労働省、内閣府および地方公共団体において、栄養、健康増進、生活習慣病予防対策、疾病対策等における政策の策定や実践をしてきた。
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク
情報リテラシー教育	○	政府刊行物、白書

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	給食経営管理論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 吉野 知子	指定なし

ナンバリング	H13901C21
授業概要(教育目的)	給食における栄養管理、安全・衛生管理、作業管理および施設管理等の給食運営の理論について講義する。さらに食品流通や給食に関わる経営全般を総合的に判断し、栄養面、安全面、経営面全体のマネジメントを行うための基礎理論について理解する。具体的には、特定給食施設の概要と管理栄養士の配置基準、人事・労務管理、原価管理、給食業務の流れ、栄養管理と栄養教育、食事計画と献立作成、食材料管理、大量調理の特性と作業管理、HACCPと安全・衛生管理等について講義する。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	特定給食施設について説明できる。 特定給食施設における給食経営管理全般について説明できる。 大量調理施設衛生管理マニュアルについて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	給食経営管理において各種サブシステムが具体的にどのように連動してトータルシステムを形成しているか理解し判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	給食経営管理関連の授業の流れ全般を説明する。 特定給食施設の概要を学ぶ。		
第2回	給食の概念 給食の運営	特定給食施設の目的・役割を理解する。 対象者の違いにより様々な特定給食がある事を理解し、 管理栄養士・栄養士の役割や位置づけを学ぶ。 給食のシステムと業務の流れを学ぶ。	テキスト第1章給食の概念、第2章給食の運営とマネジメントを読んで予習しておく。	120分
第3回	栄養・食事管理	特定給食施設において栄養・食事管理を実施するための利用者のアセスメント方法、マネジメント方法を学ぶ。	テキスト第3章栄養・食事管理を読んで予習しておく。	120分
第4回	献立管理	給食運営の中心的役割を担う献立の種類や条件を理解する。 食事の品質向上の観点からPDCAサイクルの実践について学ぶ。	テキスト第4章献立管理を読んで予習しておく。	120分
第5回	生産管理	大量調理の特性を学ぶ。 給食の条件に応じた献立の生産(調理)工程・作業工程の計画と管理について理解する。	テキスト第5章生産管理を読んで予習しておく。 第2回、第3回、第4回の授業の要点をまとめ提出する。	240分
第6回	品質管理 食材料管理	給食における食事の品質管理について学ぶ。 食材料の管理方法を理解し必要な帳票類の作成について学	テキスト第6章品質管理、第7章食材料管理を読んで予習しておく	120分

		ぶ。 食材購入方法を理解し購買計画について学ぶ。	く。	
第7回	衛生・安全管理	安全・安心な給食を提供するための衛生管理の重要性について理解する。 HACCPや大量調理施設衛生管理マニュアルについて具体的に学ぶ。	テキスト第8章衛生・安全管理を読んで予習しておく。	120分
第8回	施設・設備管理	給食の施設・設備を管理し正しく運用することの重要性を理解する。 設備機器、レイアウト、作業動線等も含めた施設・設備管理の範囲と要件について学ぶ。	テキスト第9章施設・設備管理を読んで予習しておく。 第5回、第6回、第7回の授業の要点をまとめ提出する。	240分
第9回	経営管理	経営管理とは経営資源を有効活用して計画を達成するためのプロセスと経営計画の結果を管理することを理解する。	テキスト第10章経営管理を読んで予習しておく。	120分
第10回	マーケティング顧客管理	マーケティングの意義・目的・機能を理解し給食における活用方法を学ぶ。 顧客管理の意義・目的を理解し顧客管理に欠かせない顧客満足度について学ぶ。	テキスト第11章マーケティング、第12章顧客管理を読んで予習しておく。	120分
第11回	人事・労務管理 給食運営の委託	人事・労務管理とは経営活動の主軸となる機能である「人」という資源を対象とした管理活動である事を学ぶ。 組織の目的・目標を達成するために「人」を効率よく活用し能力を最大限に引き出すことを理解する。 各種給食施設の委託状況、委託に関する制度、委託と受託側の役割について理解する。	テキスト第13章人事・労務管理、第14章給食運営の委託を読んで予習しておく。	120分
第12回	原価管理	給食運営に関わる原価管理を含めた費用構成を理解する。 医療・介護制度等に応じた費用の仕組みと食事に関わる費用の算定方法について学ぶ。	テキスト第15章を読んで予習しておく。 第8回、第9回、第10回、第11回の授業の要点をまとめ提出する。	240分
第13回	危機管理 事務・情報管理	給食で想定される災害・事故を理解する。 被害の予防策、被害拡大の防止策、事故後の対策名等の実際について学ぶ。 給食運営業務と事務・情報管理の関係要点について理解する。	テキスト第16章危機管理、第17章事務・情報管理を読んで予習しておく。	120分
第14回	各種給食施設の給食運営の特徴	給食施設毎の利用者の特徴、給食の目的、根拠法令、管理栄養士・栄養士の配置規定等を把握し理解する。 各種給食運営の概要と実際を学ぶ。	テキスト第18章各種給食施設の給食運営の特徴を読んで予習しておく。	120分
第15回	特定給食施設における給食経営管理のまとめ	特定給食施設の給食経営管理についての概要とサブシステムの管理事項を整理し理解する。	これまでの授業内容を復習しておく。 第12回、第13回、第14回の授業の要点をまとめ提出する。	360分

学生へのフィードバック方法 定期的に授業内容のまとめ（自習ノート）を提出し、内容をチェックし返却する。

評価方法 定期試験、平常点で評価する。
（平常点は授業への参加状況、喫食者実習への参加、課題の提出状況等で総合的に判断する）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○		
定期試験	○			

評価割合 定期試験（80%）、平常点（20%）で総合的に評価する

使用教科書名 (ISBN番号) 給食経営管理論/三好恵子、山部秀子、平澤マキ/第一出版

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】 給食経営管理に関わる専門的知識と、それらを社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。
【思考・判断】 給食経営管理に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けた取り組みを判断できる力を身につけている。

オフィスアワー 水曜日1時限、木曜日1時限

学生へのメッセージ この授業では、毎回授業内容の復習を兼ねて課題に取り組みます。次のステップである学内外の実習の基本となる講義です。2年生の実習の喫食者も授業と並行して体験します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業	○	特定給食施設の管理栄養士として実務経験を有している教員が、給食運営における各々の特定給食施設の特徴や基本的知識を教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	給食経営管理実習 (HA)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時間	1限後半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員	
職種	氏名
准教授	◎ 吉野 知子
	所属
	指定なし

ナンバリング	H23902C13
--------	-----------

授業概要 (教育目的)	給食経営管理論の理論の実践を目的とする。この実習では、特定給食施設における大量調理の生産管理をはじめ、給食経営管理のシステム全般を学ぶ。給食経営の理念の目標を明確にし、消費者のニーズに応じ、栄養給食と目標に合った「食事」を作り、提供・サービスを行う。HAOPの概念に基づいた衛生管理による作業工程表を作成し、食品の品質管理および経営管理(コスト、労務、食材、施設・設備、時間、顧客、危機、情報)を実施する。
-------------	---

学習目標 (到達目標)	
-------------	--

学習目標 (到達目標)	
-------------	--

知識・理解の観点 (K)	給食経営管理におけるPOCAサイクル及びサブシステム全般について説明ができる。 給食栄養目標値、消費者の嗜好等を踏まえ、諸条件を考慮した献立作成について説明ができる。 大量調理施設衛生管理マニュアルについて説明できる。
--------------	---

思考・判断の観点 (K)	給食運営の一連の流れと時間管理を意識した臨機応変な判断ができる。
--------------	----------------------------------

関心・意欲・態度の観点 (V)	給食運営における各々の役割を理解し実習に積極的に取り組み、リーダーシップやコミュニケーション能力を発揮できる。
-----------------	---

技術・表現の観点 (A)	給食運営で用いる大量調理機器の使用法が身に付く。 大量調理施設衛生管理マニュアルに準じた衛生管理ができる。
--------------	--

学習計画	
------	--

回	授業テーマ	学習内容 (学びのつながり・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	給食経営のトータルプラン、食事計画、栄養計画、実務経験の有無	実習の流れとスケジュールを確認する。栄養・食事計画 (献立作成等) と実務教育計画 (実務体験等) について学ぶ。試作の流れとスケジュールを確認する。グループワークにて選択献立 (主菜B) を検討・決定し、試作時に必要な構築図を作成し、期間献立表を提出する。栄養教育媒体を検討する。	考案する献立 (主菜B) を自宅で作成し、調整内容を確認する。	120分
第2回	試作実習	グループワークにより運営献立の試作実習を実施する。試作後選択献立 (主菜B) を評価し修正点を調整する。試作時に使用した構築図を記入し提出する。栄養教育媒体を作成し提出する。	試作献立 (主菜B) の内容とレシピを確認し自宅で作成する。	120分
第3回	給食運営管理、生産管理、衛生安全管理、運転準備	生産管理 (作業指示書、作業工程表)、食料管理 (食料日計表、発注書)、衛生管理 (調理室設備と厨房機器、使用方法) について学び確認する。グループワークにて、決定した運営献立に基づき作業指示書、作業工程表、食料日計表、発注書等を作成する。試作機の流れを確認する。	試作後の献立内容の変更点を確認しておく。	60分
第4回	試作転写実習、運営準備	大量調理の試作転写を実施する。運営1班の献立を用いて、実習室の流れ (動線、汚染区域・非汚染区域)、大量調理機器の使用法、衛生管理等の確認を行う。試作転写後グループワークにて自班の運営の具体的なイメージの確認と作業指示書、工程表の発注書を行う。運営日の献立表、食料日計表、発注書、作業指示書、作業工程表を提出する。	作成する献立の内容とレシピを確認しておく。	60分
第5回	運営実習1	運営班1班 運営班、サポートA班、サポートB班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を行う。	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。	60分
第6回	運営実習1のまとめ、運営実習2の準備と確認	運営実習1 (1班) のまとめと運営実習2 (2班) の準備と確認を実施する。1班は運営後の構築図を完成させ提出する。2班は運営前の構築図を完成させ提出する。	運営後の構築図の整理をしておく。	60分
第7回	運営実習2	運営班2班 運営班、サポートA班、サポートB班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を行う。	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。	60分
第8回	運営実習2のまとめ、運営実習3の準備と確認	運営実習2 (2班) のまとめと運営実習3 (3班) の準備と確認を実施する。2班は運営後の構築図を完成させ提出する。3班は運営前の構築図を完成させ提出する。	運営後の構築図の整理をしておく。	60分
第9回	運営実習3	運営班3班 運営班、サポートA班、サポートB班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を行う。	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。	60分
第10回	運営実習3のまとめ、運営実習4の準備と確認	運営実習3 (3班) のまとめと運営実習4 (4班) の準備と確認を実施する。3班は運営後の構築図を完成させ提出する。4班は運営前の構築図を完成させ提出する。主食・主菜 (A・B)、副菜・汁物、デザートの献立作成について説明し具体的な運営献立を検討する。	運営後の構築図の整理をしておく。 コンセプト・テーマに合わせた自分の班の運営献立を考案する。	120分
第11回	運営実習4	運営班4班 運営班、サポートA班、サポートB班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を行う。	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。	60分
第12回	運営実習4のまとめ、運営実習5の準備と確認	運営実習4 (4班) のまとめと運営実習5 (5班) の準備と確認を実施する。4班は運営後の構築図を完成させ提出する。5班は運営前の構築図を完成させ提出する。グループワークにて、構築図・構築物 (計画) (試作) (運営) (結果・評価) に分類し班ファイルを作成する。	運営後の構築図の整理をしておく。 考案した運営献立を自宅で作成する。	120分
第13回	運営実習5	運営班5班 運営班、サポートA班、サポートB班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を行う。	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。	60分
第14回	運営実習5のまとめ、総合評価の準備	運営実習5 (5班) のまとめを実施する。実習の構築図・成果物を確認しながら運営の振り返りを行う。総合評価会の準備を行う。グループワークにて、構築図・構築物 (計画) (試作) (運営) (結果・評価) に分類し班ファイルを作成し提出する。	班ファイルに必要な構築図を作成しておく。	120分
第15回	総合評価会	プレゼンテーション形式にて、5回の運営全体の総合評価を実施する。具体的には栄養・食料管理、原価・会計管理、生産・作業管理、品質管理、顧客管理、衛生安全管理の各クラスおよび各班の運営結果を評価する。実習における自己評価も実施する。	実習で学んだサブシステム、大量調理施設衛生管理マニュアルを復習する。	180分

学習計画注記	※授業日程の変更等によってスケジュールが変更になる場合もあります。
--------	-----------------------------------

学生へのフィードバック方法	班毎に毎回作成し提出する課題 (献立表、日計表、発注書、作業指示書、作業工程表、その他構築図) は、次の授業までに添削・コメントして返却する。
---------------	---

評価方法	実習点と試験で総合的に評価する。 ・実習点 (実習技能、班のチームワークと貢献度、班の運営評価・成果物) ・筆記試験
------	--

評価基準	
------	--

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
実習点	○	○	○	○
筆記試験	○			

評価割合	実習点80%、筆記試験20%で評価する。
------	----------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	給食マネジメント実習/松月弘基、朝舘子、亀山良子/辰南堂出版
-----------------	--------------------------------

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】給食経営管理における専門的知識と、それらをそれらで社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身に付けている。 【思考・判断】給食経営管理に関する課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して、積極的な取り組みや判断ができる力を身に付けている。 【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生活にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身に付けている。 【技術・表現】給食経営管理に関する専門技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション能力などの表現力を身に付けている。
---------------	---

オフィスアワー	吉野：水曜日1時限、木曜日1時限
---------	------------------

学生へのメッセージ	給食経営管理実習では、100食以上の昼食を作り学生・職員に提供します。給食経営管理論で学んだ事や調理技術だけでなく、実習ではリーダーシップやコミュニケーション能力も問われます。クラスの給食運営の理念を全員で共有し、給食経営管理のPOCAサイクルを実感しましょう。
-----------	---

教育等の取り組み状況	
------------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	管理栄養士として特定給食施設の実務経験を有している教員が、給食経営管理の知識と大量調理に関する実践的な技術を指導する。
アクティブラーニング	○	グループワークを実施する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	健康フードマネジメント論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 吉野 知子	指定なし

ナンバリング

H23903C21

授業概要(教育目的)

対象者に応じたフードサービスという視点から、栄養アセスメントからはじまる栄養管理（栄養計画、食事計画）という給食経営・生産（会計、財務、品質評価等）における理論を講義する。また各種給食施設の特徴を学び、具体的に献立管理や生産に関しても理解を深め、給食経営管理実習に繋げる。また3年生が運営する給食を喫食することを原則とし、実際の給食を例にあげて解説する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	対象者に応じたフードサービスという視点から、栄養アセスメントからはじまる栄養管理（栄養計画、食事計画）という給食経営・生産（会計、財務、品質評価等）における理論を説明できる。 大量調理の特徴と必要な帳票類について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	各種特定給食施設の特徴と目的、対象者に応じた食事サービスを理解し各々の給食経営管理の手法を示すことができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	給食経営管理関連の授業の流れと現時点の状況を理解する。 栄養計算ソフトの活用と献立入力課題の取り組みについて説明する。	栄養計算ソフトの使用方法を確認しておく。	120分
第2回	給食経営管理の基本1	給食のマネジメント：給食の概念と目的を理解し、各種給食の概要や管理栄養士・栄養士の配置や役割を理解する。 経営管理、経営組織：給食管理の概念・要素、経営組織、経営管理のプロセスの基本を理解する。	テキスト第1章給食のマネジメント、第2章給食における経営管理の基本（給食経営とは～経営管理のプロセス）を読んで予習しておく。	120分
第3回	給食経営管理の基本2	会計管理：会計システムと財務諸表、原価管理について理解する。 人事管理：人事・労務管理、人材育成と教育研修について理解し人事管理における管理者の役割を学ぶ。	テキスト第2章給食における経営管理の基本（会計システムと財務諸表～部下の育成）を読んで予習しておく。	120分

第4回	給食経営管理の基本 3	<p>コントラクトフードサービス：コントラクトフードサービスの現状を把握し委託契約の基本を理解する。</p> <p>マーケティングと情報管理：マーケティングの定義、機能を理解し給食におけるマーケティングについて学ぶ。</p> <p>フードビジネス：内食・中食・外食市場の動向及び食市場全体の現状を理解する。</p>	<p>テキスト第2章給食における経営管理の基本（コントラクトフードサービス）、第3章情報管理を読んで予習しておく。</p>	120分
第5回	給食経営管理の展開 1	<p>栄養・食事管理：栄養管理の意義と目的を理解し栄養管理計画及び栄養教育計画から食事計画への展開を学ぶ。</p> <p>メニュー管理：給食におけるメニューの機能を理解しメニュー管理の展開をメニュープランニングの実際から学ぶ。</p>	<p>テキスト第4章栄養・食事管理、第5章メニュー管理を読んで予習しておく。</p> <p>第1回、第2回、第3回の授業の要点をまとめ提出する。</p>	240分
第6回	給食経営管理の展開 2	<p>食材管理：食材管理の概要を理解し、食材の購入管理、発注・研修、保管・在庫管理について学ぶ。</p>	<p>テキスト第6章食材管理を読んで予習しておく。</p>	120分
第7回	給食経営管理の展開 3	<p>生産管理：生産管理の構造、種類と特徴を理解する。調理作業の標準化の方法を学び調理作業工程表の作成方法を理解する。</p>	<p>テキスト第7章生産管理を読んで予習しておく。</p>	120分
第8回	給食経営管理の展開 4	<p>食事サービス管理：食事サービス管理と供食システムの種類を理解する。食事サービスにおける制度管理の重要性と適温給食のための方法を学ぶ。食数管理の変動要因を理解し計数管理の実践を学ぶ。</p>	<p>テキスト第8章食事サービス管理を読んで予習しておく。</p> <p>第4回、第5回、第6回の授業の要点をまとめ提出する。</p>	240分
第9回	給食経営管理の展開 5	<p>リスクマネジメント：給食施設におけるリスクマネジメントと危機管理を学ぶ。リスクマネジメントとコンプライアンス（法令順守）について理解する。</p>	<p>テキスト第9章リスクマネジメントを読んで予習しておく。</p>	120分
第10回	給食経営管理の展開 6	<p>施設・設備管理：給食の施設・設備管理の目的、対象と範囲を理解し、施設・設備計画を作成するためのシステム、調理室の条件、設計、機器、関連設備について学ぶ。</p>	<p>テキスト第10章施設・設備管理を読んで予習しておく。</p>	120分
第11回	給食経営管理の実際 1	<p>病院給食 医療を取り巻く環境と栄養管理の現状と理解し病院給食における特性と実践方法について学ぶ。</p>	<p>テキスト第11章病院給食を読んで予習しておく。</p>	120分
第12回	給食経営管理の実際 2	<p>学校給食 学校給食を取り巻く環境と栄養管理の現状と理解し病院給食における特性と実践方法について学ぶ。</p>	<p>テキスト第12章学校給食を読んで予習しておく。</p>	120分
第13回	給食経営管理の実際 3	<p>福祉施設給食（児童・高齢者） 児童・高齢者施設給食を取り巻く環境と栄養管理の現状と理解し病院給食における特性と実践方法について学ぶ。</p>	<p>テキスト第13章児童福祉施設給食、第14章高齢者福祉施設給食を読んで予習しておく。</p>	120分
第14回	給食経営管理の実際 4	<p>事業所給食 事業所給食を取り巻く環境と栄養管理の現状と理解し病院給食における特性と実践方法について学ぶ。</p>	<p>テキスト第15章事業所給食を読んで予習しておく。</p>	120分
第15回	各種施設における給食経営管理のまとめ 定期試験	<p>各種施設における給食経営管理の特徴を比較整理し理解する。</p> <p>喫食者実習の体験を踏まえて給食経営管理実習に向けての概要を理解する。</p> <p>まとめの授業終了後、試験を実施する。</p>	<p>これまでの授業内容を復習しておく。</p> <p>第10回、第11回、第12回、第13回の授業の要点をまとめ提出する。</p>	360分 240分

学生へのフィードバック方法	定期的に授業内容の要点をまとめ（自習ノート）提出し、内容をチェックし返却する。
評価方法	定期試験、平常点で評価する。 （平常点は授業への参加状況、喫食者実習への参加、課題の提出状況等で総合的に判断する）
評価基準	
評価基準	
評価割合	定期試験の得点（80%）、平常点（20%）で総合的に評価する。
使用教科書名（ISBN番号）	実践 給食マネジメント論/高城孝助・三好恵子・松月弘恵編著/第一出版
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】多目的なカリキュラムの履修により、専門的知識と、それらを社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士としての専門職業人として自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。

	【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して、戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。															
オフィスアワー	水曜日：2,3時限															
学生へのメッセージ	この授業では、毎回授業内容の復習を兼ねて課題に取り組みます。次のステップである学内外の実習の基本となる講義です。3年生の実習の喫食者も授業と並行して体験します。次期の実習に向けて目的を持って取り組みましょう。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>特定給食施設の管理栄養士として実務経験を有している教員が、給食運営における各々の特定給食施設の特徴や基本的知識を教授している。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	特定給食施設の管理栄養士として実務経験を有している教員が、給食運営における各々の特定給食施設の特徴や基本的知識を教授している。	アクティブ・ラーニング			情報リテラシー教育			ICT活用		
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業	○	特定給食施設の管理栄養士として実務経験を有している教員が、給食運営における各々の特定給食施設の特徴や基本的知識を教授している。														
アクティブ・ラーニング																
情報リテラシー教育																
ICT活用																

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	健康フードマネジメント実習 (HA)		
講義開講時期	前期	講義区分	実験
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限後半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 吉野 知子	指定なし

ナンバリング

H33904C13

授業概要(教育目的)

健康フードマネジメント論の理論を実践する。給食経営管理実習を発展させ、実際に対象者の栄養アセスメントや食行動スタイルを踏まえ、栄養計画を立案し、給食運営をマネジメントする能力を養う。「給食を好ましい食べ方」の気づきとなる栄養教育媒体ととらえ、モデルとしての食事提案とそのテーマにあった栄養情報の提供を行う。また、生産管理では特にHACCPシステムの理解と厨房設備のドライシステムの運用を習得し、さらに提供料理の品質測定を行いQC活動へと発展させる能力を養う。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	給食経営管理におけるPDCAサイクル及びサブシステム全般について説明ができる。 給与栄養目標量、喫食者の嗜好や諸条件を考慮した献立作成についての説明ができ、具体的に献立作成ができる。 大量調理施設衛生管理マニュアルについて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	給食運営の一連の流れと時間管理を意識した臨機応変な判断ができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	給食運営における各々の役割を理解し実習に積極的に取り組み、リーダーシップやコミュニケーション能力を発揮できる。
技術・表現の観点 (A)	給食運営で用いる大量調理機器の使用方法が身につく。 大量調理施設衛生管理マニュアルに準じた衛生管理ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	給食経営のトータルプラン、栄養・食事計画、栄養教育計画、試作準備	実習の流れとスケジュールを確認する。試作スケジュールの確認と使用する帳票類の準備を行う。グループワークにて、献立表・作業指示書・食材日計表・発注書等を作成し提出する。栄養教育媒体を作成する。	担当する試作献立の内容とレシピを確認し自宅で作成する。	180分
第2回	試作実習	グループワークにより運営献立の試作実習を実施する。試作後、献立を評価し改善点について調整する。試作時に使用した帳票を記入し提出する。栄養教育媒体を作成する。	担当する献立についての内容と手順を確認しておく。	120分
第3回	給食運営管理、食材管	試作時の改善点(栄養・原価・調味・色彩・ボリューム・作業等)を調整し運営献立を決定する。グループワ	試作後の内容変更した担当献立について、自宅で調理し確認し	120分

	理、原価管理、生産管理、衛生安全管理	ークにて、献立表、作業指示書、食材日計表、発注書、栄養媒体を作成する。	ておく。	
第4回	運営準備	運営に必要なすべての帳票を作成する。献立表、日計表、発注書、作業指示書、作業工程表、栄養媒体等提出する。	担当献立について内容を確認し問題点や課題を調整する。次回運営班は、サポート班、評価班に事前に作業指示書、作業工程表、重量測定表等必要な資料を配付し、運営当日の役割を説明しておく。	120分
第5回	運営実習1	運営班1班 運営班、サポートA班、サポートB班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を実施する。	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。	60分
第6回	運営実習1のまとめ、運営実習2の準備と確認	運営実習1（1班）のまとめと運営実習2（2班）の準備と確認を実施する。1班は運営後の帳票類を完成させ提出する。2班は運営前の帳票類を完成させ提出する。	運営後の帳票の整理をしておく。	60分
第7回	運営実習2	運営班2班 運営班、サポートA班、サポートB班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を実施する。	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。	60分
第8回	運営実習2のまとめ、運営実習3の準備と確認	運営実習2（2班）のまとめと運営実習3（3班）の準備と確認を実施する。2班は運営後の帳票類を完成させ提出する。3班は運営前の帳票類を完成させ提出する。	運営後の帳票の整理をしておく。	60分
第9回	運営実習3	運営班3班 運営班、サポートA班、サポートB班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を実施する。	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。	60分
第10回	運営実習3のまとめ、運営実習4の準備と確認	運営実習3（3班）のまとめと運営実習4（4班）の準備と確認を実施する。3班は運営後の帳票類を完成させ提出する。4班は運営前の帳票類を完成させ提出する。	運営後の帳票の整理をしておく。	60分
第11回	運営実習4	運営班4班 運営班、サポートA班、サポートB班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を実施する。	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。	60分
第12回	運営実習4のまとめ、運営実習5の準備と確認	運営実習4（4班）のまとめと運営実習5（5班）の準備と確認を実施する。4班は運営後の帳票類を完成させ提出する。5班は運営前の帳票類を完成させ提出する。	運営後の帳票の整理をしておく。	60分
第13回	運営実習5	運営班5班 運営班、サポートA班、サポートB班、ホール班、評価班の担当に分かれ実習する。 運営終了後に反省会を実施する。	運営、サポート、ホール、評価の当日の自分の役割を事前に予習しておく。	60分
第14回	運営実習5のまとめ、運営全体のまとめ	運営実習5（5班）のまとめと総合評価会の準備を行う。5班は運営後の帳票類を完成させ提出する。 班毎に帳票・成果物を「計画」「試作」「運営」「結果・評価」に分類し班ファイルを作成し提出する。	運営後の帳票の整理をしておく。 班ファイルに必要な帳票類を作成しておく。	180分
第15回	総合評価会試験	プレゼンテーション形式にて、5回の運営全体の総合評価を実施する。具体的には栄養・食事管理、原価・会計管理、生産・作業管理、品質管理、顧客管理、衛生安全管理におけるクラスおよび各班の運営結果を評価する。実習における自己評価も実施する。 評価終了後、筆記試験を実施する。	実習で学んだ給食運営のサブシステム、大量調理施設衛生管理マニュアルを復習する。	240分

学習計画注記	※授業日程の変更等によってスケジュールが変更になる場合があります。
学生へのフィードバック方法	班毎に毎回作成し提出する課題（献立表、日計表、発注書、作業指示書、作業工程表、その他帳票類）は、次の授業までに添削、コメントして返却する。
評価方法	実習点と試験で総合的に評価する。 ・実習点（実習技術、班のチームワークと貢献度、班の運営評価・成果物） ・筆記試験
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
実習点	○	○	○	○
筆記試験	○			

評価割合	実習点 (80%)、筆記試験 (20%) で評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	給食マネジメント実習/松月弘恵、韓順子、亀山良子/医歯薬出版
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】給食経営管理に関する専門的知識と、それらを社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。</p> <p>【思考・判断】給食経営管理に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けた取り組みを判断できる力を身につけている。</p> <p>【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。</p> <p>【技術・表現】給食経営管理に関する専門技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。</p>
オフィスアワー	吉野：水曜日2,3限
学生へのメッセージ	健康フードマネジメント実習では、100食以上の昼食を作り学生・職員に提供します。2年次の実習をさらにステップアップさせ、主体性を持って、目標の設定・栄養管理・生産管理から評価まで、品質管理された食事提供に取り組んで下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	管理栄養士として特定給食施設の実務経験を有している教員が、給食経営管理の知識と大量調理に関する実践的な技術を指導する。
アクティブ・ラーニング	○	グループワークを実施する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	総合演習 I (3年)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時間	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2,3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員		
職種	氏名	所属
准教授	◎ 吉野 知子	指定なし
教授	金澤 良枝	指定なし
教授	酒井 治子	指定なし
教授	田中 弘之	指定なし
准教授	城田 薫子	指定なし
准教授	加藤 理津子	指定なし

ナンバリング	H3001012
授業概要(教育目的)	臨地実習前の事前指導と各組の実習テーマに関する事前準備を行う。具体的には各々の実習の目的や目標の整理、実習施設の概要の周知と動機付け、知識の整理、研究課題の検討等を行う。さらに病院、事業所、小学校、高齢福祉施設、保育所、保健所等実習先の指導者から講義を受け、実習にあたっての心構え、社会における管理栄養士の使命および役割や業務について理解する。
履修条件	給食運営臨地実習、臨床栄養Ⅰ臨地実習、公衆栄養臨地実習または臨床栄養Ⅱ臨地実習のいずれの履修条件を満たしていること。

学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	実習先の特徴や概略を把握し、実習に必要な基本事項や管理栄養士の役割や業務について理解し説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	「課題発見(気づき)と問題解決」、「専門的知識と技術の統合」について考える力が身につく。
関心・意欲・態度の観点 (V)	実習に対する心構えや取り組み姿勢を学び、実習先の管理栄養士等の外部講師による実践的な講義により各分野への興味や関心が深まる。
技術・表現の観点 (A)	課題の取り組みを通じて、学内で学んだ知識と技術を具体的に表現する力が身につく。

回	授業テーマ	学習内容(7行/プログラミング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	総合ガイダンス(2年次実施)	臨地実習(給食運営・公衆栄養・臨床栄養ⅠⅡ)の概要と選択方法を学ぶ。実習先の分野について希望調査を実施する。	特になし	
第2回	全体ガイダンス	臨地実習に向けて3分野合同講義。今後の分野別スケジュールを確認し、各臨地実習の目的と概要を理解する(公衆栄養、臨床栄養ⅠⅡ、給食運営)。実習に向けての準備や心構え及び注意事項を学ぶ。	「学外実習の手引き」の、総合演習Ⅰの部分を読んでおくこと。	60分
第3回	公衆栄養ガイダンス①	公衆栄養臨地実習配属先・班割りを確認し、提出物の確認や準備を行う。実習先の課題設定についてグループワークを行い検討する。	実習「学外実習の手引き」の、公衆栄養臨地実習の分野を読んでおくこと。	60分
第4回	外部講師講演(介護保険施設)	介護老人福祉施設の管理栄養士による「介護保険施設における役割と業務および臨地実習に向けて学生に望むこと」の講義を受講する。講義後のディスカッション、レポートの作成によりさらに内容を整理し理解を深める。	介護保険施設の管理栄養士の役割について予習をしておくこと。指定されたレポートを作成すること。	120分
第5回	公衆栄養ガイダンス②	公衆栄養臨地実習施設への事前訪問や準備を行う。実習先の課題についてグループワークを行い立案および栄養媒体を作成する。	実習実習ごとに課題について検討し具体的に決めておくこと。	120分
第6回	外部講師講演(事業所)	コトカタフードサービスの管理栄養士による「事業所における役割と業務および臨地実習に向けて学生に望むこと」の講義を受講する。講義後のディスカッション、レポートの作成によりさらに内容を整理し理解を深める。	事業所の管理栄養士の役割について予習をしておくこと。指定されたレポートを作成すること。	指 120分
第7回	外部講師講演(保健所・保健センター)	保健所・保健センターの管理栄養士による「保健所・保健センターにおける役割と業務および臨地実習に向けて学生に望むこと」の講義を受講する。講義後のディスカッション、レポートの作成によりさらに内容を整理し理解を深める。	保健所・保健センターの管理栄養士の役割について予習をしておくこと。指定されたレポートを作成すること。	指 120分
第8回	外部講師講演(保育所)	保育所の管理栄養士による「保育所における役割と業務および臨地実習に向けて学生に望むこと」の講義を受講する。講義後のディスカッション、レポートの作成によりさらに内容を整理し理解を深める。	保育所の管理栄養士の役割について予習をしておくこと。指定されたレポートを作成すること。	指 120分
第9回	外部講師講演(小学校)	小学校の管理栄養士による「小学校における役割と業務および臨地実習に向けて学生に望むこと」の講義を受講する。講義後のディスカッション、レポートの作成によりさらに内容を整理し理解を深める。	小学校の管理栄養士の役割について予習をしておくこと。指定されたレポートを作成すること。	指 120分
第10回	外部講師講演(病院)	病院の管理栄養士による「病院における役割と業務および臨地実習に向けて学生に望むこと」の講義を受講する。講義後のディスカッション、レポートの作成によりさらに内容を整理し理解を深める。	病院の管理栄養士の役割について予習をしておくこと。指定されたレポートを作成すること。	120分
第11回	給食運営ガイダンス①	給食臨地実習配属先・班割りを確認し、提出物の確認や準備を行う。実習先の課題設定についてグループワークを行い検討する。	「学外実習の手引き」の給食運営臨地実習の分野を予習しておくこと。	60分
第12回	報告会	4年生における給食運営・公衆栄養・臨床栄養ⅠⅡ臨地実習の報告会(プレゼンテーション)に参加する。発表後のディスカッションにより実際の実習のイメージと理解を深める。	事前に配付される要旨を予習し、当日に質問やディスカッションができるよう準備をしておくこと。	120分
第13回	給食運営ガイダンス②	給食運営臨地実習施設への事前訪問や準備を行う。実習先の課題についてグループワークを行い立案および栄養媒体等を作成する。	実習実習ごとに課題について検討し具体的に決めておくこと。	120分
第14回	臨床栄養ガイダンス①	臨床栄養Ⅰ・Ⅱ臨地実習配属先・班割りを確認し、提出物の確認や準備を行う。実習先の課題設定についてグループワークを行い検討する。	「学外実習の手引き」の臨床栄養臨地実習の分野を予習しておくこと。	60分
第15回	臨床栄養ガイダンス②	臨床栄養Ⅰ・Ⅱ臨地実習施設への事前訪問や準備を行う。実習先の課題についてグループワークを行い立案および栄養媒体等を作成する。	実習実習ごとに課題について検討し具体的に決めておくこと。	120分

学習計画記	※外部講師の講演日程については、場合により変更になることがあります。
学生へのフィードバック方法	レポートは後日返却する。
評価方法	平常点、レポートから総合的に評価する。 (平常点は、授業態度・意欲、課題への取り組み状況から総合的に判断する)
評価基準	

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○	○	○	
レポート	○	○	○	○

評価割合	平常点50%、レポート50%で評価する。
使用教科書名(15桁番号)	管理栄養士の学外実習の手引き

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】給食運営、臨床栄養、公衆栄養等のカリキュラムの履修により習得した専門的知識と、それらを社会で応用・実践できる総合的な知識態度を身につけている。管理栄養士としての専門職人として自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。 【思考・判断】現代の食・栄養に関する諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して、論理的な取り組みを判断できる力を身につけている。 【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。 【技術・表現】人々の健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やネットワーク、プレゼンテーション能力などの表現力を身につけている。
---------------	---

オフィスアワー	吉野(水曜日:3時限)、金澤(木曜日:1,2時限)、酒井(未定)、田中(未定)、城田(水曜日3,4時限)、加藤(火曜日5時限)
---------	---

学生へのメッセージ	臨地実習実施のための事前授業です。実習の目的を明確にし、心構えや基本事項を学び実習の準備を行います。また臨地実習前に実習先の指導者から職場での管理栄養士の役割と業務について学びます。実習先の特徴や業務を捉え、その中から自ら課題・テーマを見出し主体的に取り組みましょう。
-----------	--

教育等の取り組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	管理栄養士として各専門領域の実務経験を有している教員が、各々の実習先における管理栄養士の使命、役割と業務及び取り組むべき課題等の実践的な事前指導を行う。
アクティブ・ラーニング	○	実習班単位によるグループワークを実施する。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	給食運営臨地実習		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員		
職種	氏名	所属
准教授	◎ 吉野 知子	指定なし
准教授	加藤 理津子	指定なし

ナンバリング	H33901C13
授業概要(教育目的)	特定給食施設における給食運営を学ぶ。具体的には、事業所、介護保険施設、病院、小学校、保育所のいずれかを実習先とし、給食業務を行うために必要な食事の計画や調理を含めた給食サービスの提供に関する技術の修得を目的とする。献立作成から栄養・食事管理、給食の提供までの一連の業務、大量調理の特性と留意点、衛生管理等、学内で学んだ知識や技術が実際の給食現場でどのように反映されているかを体験し学習する。
履修条件	食品衛生学、給食経営管理論、健康フードマネジメント論、給食経営管理実習の指定科目を3科目以上の単位を取得していること。

学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	特定給食施設(事業所、介護保険施設、病院、小学校、保育所)における、各々の給食運営の特徴と目的を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	給食現場での体験から、課題を発見(気づき)し、臨機応変に判断し、対応することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	実習を通じて将来の進路への関心や興味が深まり、意欲的に学習に取り組む姿勢が身につく。
技術・表現の観点 (A)	給食業務を行うために、必要な食事計画や調理を含めた給食サービスの提供に関する技術が身につく。

学習計画				
回	授業テーマ	学習内容(7対17「ラーニング」・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	事前指導	実習先に関する基本情報や実習課題・提出物を確認し、実習先での事前オリエンテーションに向けての準備を行う。	「実習の手引き」の給食運営臨地実習の関連項目をよく読んでおく。実習先からの事前課題に取り組み、内容をよく精査しておく。	120分
第2回	事前オリエンテーション(実習施設)	事前オリエンテーションとして、施設の概要、実習内容・日程、持ち物、注意事項、厨房案内等基本的な事項について確認し学ぶ。	実習先の基本情報をよく確認しておく。 「学外実習の手引き」の給食運営臨地実習の関連項目をよく読んでおく。	120分
第3回	給食運営実習	各施設における給食運営(施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理)の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。		
第4回	給食運営実習	各施設における給食運営(施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理)の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。		
第5回	給食運営実習	各施設における給食運営(施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理)の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。		
第6回	給食運営実習	各施設における給食運営(施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理)の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。		
第7回	給食運営実習	各施設における給食運営(施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理)の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。		
第8回	給食運営実習	各施設における給食運営(施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理)の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。		
第9回	給食運営実習	各施設における給食運営(施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理)の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。		
第10回	給食運営実習	各施設における給食運営(施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理)の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。		
第11回	給食運営実習	各施設における給食運営(施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理)の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。		
第12回	給食運営実習	各施設における給食運営(施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理)の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。		
第13回	給食運営実習	各施設における給食運営(施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理)の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。		
第14回	給食運営実習	各施設における給食運営(施設概要・特徴、組織・経営管理、栄養・食事管理、食材管理、生産管理、品質管理、衛生管理、危機管理)の実際について学ぶ。毎日実習日誌を記入し指導者に提出する。		
第15回	事後指導	実習後、実習班毎に教員への報告とグループワークによる総括を行い、課題のまとめ、お礼状、実習日誌、各提出物等を完成させる。	実習課題をまとめ整理しておく。	240分

学生へのフィードバック方法	2519	実習日誌は、毎日記入し実習施設指導者に提出し、添削やコメント付きで返却される。課題については内容も様々で実習先によって対応が異なる。 ・献立課題については、添削指導だけではなく実習中に実際に調理・提供する施設もある
---------------	------	--

	・ミニ栄養指導課題については、添削指導後実習中に実施する ・栄養媒体は、添削後実習中に使用するケースが多い				
評価方法	規定の必要実習時間を終了している、実習施設の指導者による評価点がついている、学内への提出物を全て提出していること、実習日誌の提出を確認し、単位取得「合格」とする。実習施設での指導者の評価、実習報告書の内容を総合的に評価する。単位を取得できた場合の成績評価はP(合格)とする。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	必要実習時間の実施	○	○	○	○
	施設指導者の評価	○	○	○	○
	実習報告・提出物の作成	○	○	○	
	実習日誌の提出	○	○	○	
評価割合	単位取得条件100%で評価する。				
使用教科書名 (ISBN番号)	管理栄養士の学外実習の手引き				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】給食運営に関する専門的知識と、それらを社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。管理栄養士としての専門職業人として自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。 【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して、戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。 【関心・意欲・態度】管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。 【技術・表現】人々の健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門技能と共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。				
オフィスアワー	吉野（水曜日2,3時限）、加藤（火曜日5時限）				
学生へのメッセージ	実習先となる特定給食施設（事業所、介護保険施設、病院、小学校、保育所）の給食運営の特徴を捉えておきましょう。さらに学内での給食経営管理実習の流れを踏まえ「大量調理施設衛生管理マニュアル」を復習して実習に臨みましょう。				
教育等の取り組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	管理栄養士として専門領域の実務経験を有している教員が、給食運営における各々の特定給食施設の特徴や基本的知識を教授している。			
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、プレゼンテーションを実施している。			
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	スポーツ選手の栄養学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 加藤 理津子	指定なし
教授	江川 賢一	指定なし

ナンバリング	H34501C21
授業概要(教育目的)	運動生理学を中心として、栄養（飲食）に関わる事柄について講義形式で授業を進める。 前半（運動生理学）では、運動を行ったときの一過性の生理応答、トレーニングを行ったときの慢性的な適応現象を説明する。 後半ではスポーツ選手の栄養学的課題と栄養素の関わりと、よりよいスポーツ活動のための食事について、実例とともに説明する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1. 運動を行ったときに身体に起こる急性応答を理解する。 2. 運動を行ったときに身体に起こる慢性適応を理解する。 3. スポーツ選手の栄養学的課題を列挙できる。 4. スポーツ選手のよりよいスポーツ活動のための食事を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	健康のための運動、競技のための運動、リハビリのための運動の違いを判断できる。 スポーツ選手の栄養摂取と一般人の栄養摂取の違いを判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自ら健康増進や競技力向上の基礎的な実践を通じて、生涯にわたるスポーツ栄養の意義を説明できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	授業の概要、青年期女性の健康問題と対策を説明する。	スポーツ栄養にマネジメントに関する情報を収集する。	120分
第2回	スポーツと栄養の基礎	身体活動時の生理応答を説明する。	運動生理学で学習した呼吸循環系、運動系、免疫系の一過性応答および慢性適応を復習する。	120分
第3回	スポーツと栄養の応用	身体活動時の代謝を説明する。	基礎栄養学で学習した糖質・たんぱく質・ビタミン・ミネラルの代謝を復習する。	120分
第4回	スポーツと	スポーツに関わる体重管理、摂食障害、貧血、骨代謝、	応用栄養学で学習した食事摂取	120分

	栄養の実践	水分補給の問題を説明する。	基準、ライフステージ別の栄養課題、支援方法を復習する。	
第5回	健康づくりを目的とした運動処方	運動処方の理論を説明し、健康づくりに応用する。	身体活動基準・指針、アクティブガイドの情報を収集する。	120分
第6回	健康づくりを目的としたサポート計画の作成	対象別の健康課題を整理し、健康づくりに必要なサポート計画を作成する。	身体活動基準・指針を復習し、対象別にメッツ計算する。	120分
第7回	前半の振り返り	1～6回目までの学習を振り返る。	予習：1～6回目の内容をまとめ、説明できるようにする。 復習：7回目の授業内容を整理する。	120分
第8回	スポーツ選手の栄養管理	スポーツ選手を対象とした栄養マネジメントと栄養アセスメントを学ぶ。	予習：応用栄養学のテキストを読む。 復習：学習内容を整理する。	120分
第9回	栄養計画の立案	栄養計画の立案方法を学ぶ。	予習：応用栄養学のテキストを読む。 復習：学習内容を整理する。	120分
第10回	目的別の栄養摂取方法	目的別の栄養摂取方法を学ぶ。	予習：応用栄養学のテキストを読む。 復習：学習内容を整理する。	120分
第11回	スポーツ選手の食生活	スポーツ選手の食生活を学ぶ。	予習：応用栄養学のテキストを読む。 復習：学習内容を整理する。	120分
第12回	女性のスポーツ栄養	女性アスリートを対象にした栄養管理を学ぶ。	予習：応用栄養学のテキストを読む。 復習：学習内容を整理する。	120分
第13回	スポーツ選手を対象とした栄養学の応用	学習内容を振り返り、スポーツ選手を対象にした栄養管理計画を立案する。	予習：応用栄養学のテキストを読む。 復習：学習内容を整理する。	120分
第14回	まとめ	スポーツ選手を対象とした栄養管理の実践に向け、学習内容を整理する。	予習：学習内容を整理する。 復習：14回目授業を復習する。	120分
第15回	振り返り	1～15回目の授業を振り返り、まとめる。	予習：第14回の学習内容を振り返る。 復習：第1～15回までの学習内容を振り返り、まとめる。	120分

学習計画注記 ※履修者数や講義の進捗によりスケジュールが変更になる場合もある。

学生へのフィードバック方法 授業の進行にしたがってワークシートに記入したものを、その都度確認し、返却する。

評価方法 中間試験：講義の内容を筆記形式で出題する。期間中に1回実施する。なお、臨地実習など単位取得にかかわる合理的な理由がない限り、追・再試験を実施しない。
課題提出：授業の進行に応じたワークシートおよびまとめのレポートを出題する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間試験	○	○		
課題提出	○	○	○	○

評価割合 中間試験 (50%) , 課題提出 (50%)

使用教科書名 (ISBN番号)
「七訂食品成分表」 女子栄養大出版部 (978-4789510165)
「調理のためのベーシックデータ」 女子栄養大出版部 (978-4789503174)
「日本人の食事摂取基準[2020年版]」 第一出版 (978-4804113128)

参考図書 特になし

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】運動を中心とした人間の栄養に関する専門的知識と、それらを応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている
【思考・判断】運動と栄養に関わる諸課題を探索し、その課題解決に向けて正確な情報を収集し、論理的批判的

	に思考できる 【関心・意欲・態度】運動を中心とした人間の栄養に関心を持ち、管理栄養士として貢献する意欲と態度を身につけている	
オフィスアワー	江川 G0101研究室：木曜日昼休み 加藤 1B05研究室：水曜日昼休み	
学生へのメッセージ	受講にあたり、以下の内容に取り組むことを期待する。 ○遅刻や欠席、私語、内職、居眠りを慎み、メモを取るなど主体的に取り組む。 ○計画的に予習、復習に取り組む、理解を深めるよう努める。 ○提出物は、手順や締め切りを守り、学習した内容を理論的に書くよう努める。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員（江川）は民間企業の研究機関における運動生理学的研究に従事した経験を踏まえて、健康増進を目的とした運動処方に関する専門的知識を教授する。 担当教員（加藤）はスポーツ栄養の現場経験をふまえ、スポーツを実施する人を対象とした栄養管理の理論や技術について専門的知識を教授する。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	江戸・東京の食と文化		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 綿貫 仁美	指定なし

ナンバリング	H24901C21
授業概要(教育目的)	200年以上におよぶ徳川政権下の時代は、現代につながる伝統的な食文化が完成した時代でもある。本科目では、前半は江戸時代以前の日本の食文化の形成・発展を、後半は江戸時代以降の食に関わる事象を取り上げ解説する。日本の食文化の形成要因を、自然環境、社会環境の両面から考え、食文化が現代の私たちの食生活にどのようなつながっているのか、さらにはどのように活かしていけるのかについて考える。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	日本の自然環境の特徴と食文化形成とを関係づけられる。 日本の伝統食品の特徴と歴史を理解する。
思考・判断の観点 (K)	現代の食生活の課題点を発見分析し、課題解決に導く考察をすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	日本の食文化に興味を持ち、主体的に授業に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	日本人の食-狩猟採取時代	日本列島における、旧石器時代から縄文時代の社会と食生活について知る。	稲作の起源、日本への伝播について調べておく。	180分
第2回	稲作社会の成立	弥生時代から古墳時代の社会と食生活について知る。特に水田稲作導入による社会の変換について理解する。	平安時代の貴族の食について調べておく。	180分
第3回	日本的食文化の形成期	飛鳥時代から室町時代前半にかけての社会と食生活について知る。	室町時代にはどのような外来の食が日本に伝来したのか調べておく。	180分
第4回	日本的食文化の再編成期	室町時代後半から江戸時代初期にかけての社会と食生活について知る。特に海外との交流による食文化の伝来について理解する。	上水井戸がどのようなものであったか調べておく。	180分
第5回	伝統的な食文化の完成	江戸時代の社会と食生活について知る。特に生活用水(上水)が江戸の人々の暮らしの基盤となったことを理	江戸時代の海運にどのようなルートがあったか調べておく。	180分

	期	解する。		
第6回	江戸の食材①	江戸時代には輸送ルートが発達した。酒、鰹節、海苔等の食材について、江戸にどのようにして集められ、消費されたのかについて知る。	酒、鰹節等の古くから伝わる食材について調べておく。	180分
第7回	江戸の食材②	江戸時代には輸送ルートが発達した。酒、鰹節、海苔等の食材について、江戸にどのようにして集められ、消費されたのかについて知る。	関西の醤油と関東の醤油の違いについて調べておく。	180分
第8回	調味料-味噌味から醤油味へ	江戸を市場とする醤油産業の発展、それにもなって考案された料理について知る。	江戸時代にはどのような食べ物屋があったのか調べておく。	180分
第9回	江戸の食べ物屋と菓子	高級料理茶屋から軽食屋までさまざまな食べ物屋と菓子類について知る。	江戸時代の料理書にはどのようなものがあるのか調べておく。	180分
第10回	江戸の料理書とグルメガイド	江戸時代には出版文化が盛んとなった。その中から食べ物に関する出版物である、料理書と食べ歩きを楽しむための小冊子（ガイドブック）について知る。	現代にはどのような年中行事があるのかまとめておく。	180分
第11回	江戸の行事と食	日本古来の年中行事は、多種多様な要素が交わり、現代まで伝承されているものがある。ここでは、江戸庶民の年中行事とそれに関わる食について知る。また、江戸の食文化を育てた伝統野菜について知る。	明治時代以降、生活様式にはどのような変化があったのか調べておく。	180分
第12回	近代における食の変化	明治維新後の新しい生活様式の出現、外来料理の受容、戦争の時代の食、現代の食生活の多様化について知る。	身近な調理器具について、どのように変化してきているのか調べておく。	180分
第13回	食卓・台所の変化	膳からテーブルへの変化、食事作法（箸）、台所や調理器具等の変化について知る。	様々な企業の食に関連する取り組みについて、ホームページなどで調べておく。	180分
第14回	食に関わる企業の取り組み	現代の食を取り巻く環境において、企業ではどのような取り組みをしているのか知る。	世界中でどのような日本の料理が食べられているのか調べておく。	180分
第15回	世界に広がる日本食試験	現在世界中で日本の料理が食べられるようになった背景とその実際を知る。試験を行う。	これまでの授業内容を総復習しておく。	180分

学習計画注記 ※履修者数や授業の進み具合によりスケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法 質問や不明な点がある場合は、1402まで訪問するか、e-mailで問い合わせること。

評価方法
 ・試験は70点満点で出題する。記述問題も含め、思考力や判断力を確認する。
 ・平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
試験	○	○		
平常点			○	

評価割合 試験(70%)、平常点(30%)で判定する。

使用教科書名 (ISBN番号) なし

ディプロマポリシーとの関連
 【知識・理解】管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。
 【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸問題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して理論的批判的に思考し、健康・栄養課題に対する積極的な取り組みを判断できる力を身につけている。
 【関心・意欲・態度】生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。

オフィスアワー 火曜日3時限 1402

学生へのメッセージ 現在の私たちの食文化は長い年月をかけて形成されたが、同時に様々な課題も生まれている。日頃から新聞、テレビ等の食に関する情報を意識して得るようにしてほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要

実務経験を活かした授業	○	担当教員は、集団給食施設において業務に携わった内容を踏まえ、江戸・東京の食と文化を担当する上で、特に現代の食生活の多様化、行事食のあり方などを実学的に教授している。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	フードシステム論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 二瓶 徹	指定なし

ナンバリング	H34003C21
授業概要(教育目的)	本講義では、食に関する生産から消費までのフードシステムについて、各段階の役割と全体の流れを体系的に捉えることを目的とし、前半では食を巡る状況の変化について、消費者側と食産業側の両面から理解を促すとともに、フードシステムの概要および近年、発達が著しい中食と外食について理解を促す講義を行う。後半では個別食品の特性や種類、流通について説明し、それら食品の販路拡大手法であるフードマーケティングを学び、最後に時局の問題と今後の課題について考え、本講義の総括を行う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. フードシステム概念と食品産業および食品製造の機能と役割が説明できる。 2. フードシステムと消費者の生活様式および社会環境との関係性が説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 現代におけるフードシステムの利点と課題を整理することができる。 2. 現代および今後フードシステムが抱える課題の解決策を考えることができる。 3. グローバルな視点でのフードシステムの望ましい在り方を考えることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 自分自身の食生活から、我が国のフードシステムを積極的に捉えた発言をする。 2. 自分自身および取り巻く環境を踏まえ、体系的にフードシステムの在り方を捉え、積極的に提言する。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	豊かな食生活を支える食市場	1. 食市場を支える食品産業を理解する。 2. 外食産業が登場した背景と食生活の変化を理解する。 3. 食の外部位をもちこたえた要因を理解する。 4. 少子高齢化が変える食市場を理解する。 5. 食品産業の技術発展内容を理解する。	教科書の第1章第1節を読んでおくこと。また、あらかじめ自分自身の食生活と国内のマクロ的な食生活を比較し、その違いを理解しておくこと。	240分
第2回	消費者の食品消費の変化	1. 品目別食品消費の変化を理解する。 2. 食品の価格決定と所得弾力性、価格段両区制を理解する。 3. 栄養バランスからみた食品消費の変化を理解する。 4. 加工食品がなぜ増加したかを理解する。	教科書の第1章第2節を読んでおくこと。	120分

第3回	食生活の多様化	1. 多様化をもたらした社会的要因を理解する。 2. 食における健康志向がなぜ高まっているかを理解する。 3. 現代における食情報が多様化した理由を理解する。	教科書の第1章第3節を読んでおくこと。また、あらかじめ自身の食生活のスタイルを振り返っておくこと。	240分
第4回	食品流通の役割と社会的使命	1. 食品流通の役割を理解する。 2. 卸売流通の役割を理解する。 3. 小売流通の役割を理解する。 4. 流通の社会的使命を理解する。	教科書の第2章第1節を読んでおくこと。	120分
第5回	卸売流通が必要な食品流通	1. 生鮮食品の卸売市場流通の仕組みを理解する。 2. 加工食品の問屋流通の仕組みを理解する。	教科書の第2章第2節を読んでおくこと。	120分
第6回	食品の小売流通	1. 販売形態の分類を理解する。 2. 食品流通を担う多様な小売り業態を理解する。 3. 家庭内食を支える食品小売業の機能を理解する。	教科書の第2章第3節を読んでおくこと。	120分
第7回	外食産業のマーチャングダイジング	1. 外食産業の業態を理解する。 2. 外食産業の食材流通を輸入食材および国産食材に分けて理解する。	教科書の第3章第1節を読んでおくこと。	120分
第8回	中食産業のマーチャングダイジング	1. 中食産業の業態を理解する。 2. 中食産業の販売形態を理解する。	教科書の第3章第2節を読んでおくこと。	120分
第9回	主要食品の分類	1. 商品特性による基本的分類を理解する。 2. 商品の制度的分類を理解する。	教科書の第4章第1節を読んでおくこと。	120分
第10回	主要食品の温度帯別流通	1. 食品の温度帯（常温から冷凍）を理解する。	教科書の第4章第2節を読んでおくこと。	120分
第11回	主要食品の流通	1. 生鮮食料品をはじめ、加工食品の個々の流通とその特徴を理解する。	教科書の第4章第3節を読んでおくこと。	120分
第12回	フードビジネスとフードマーケティング	1. フードビジネスの概要を理解する。 2. 6次産業化を理解する。 3. フードマーケティングの基礎知識を理解する。 4. フードマーケティングの機能を理解する。 5. フードマーケティングの担い手を理解する。	教科書の第5章を読んでおくこと。また、あらかじめマーケティングとフードマーケティングの違いを考えておくこと。	240分
第13回	食料消費と環境問題	1. 3Rを理解する。 2. 食品リサイクルと食品廃棄物を理解する。 3. 食品ロスを理解する。 4. 環境関連の用語とその意味を理解する。	教科書の第6章第1節を読んでおくこと。	120分
第14回	食品流通の安全確保	1. 食品の安全性を理解する。 2. 食の安全性を取り巻く用語とその意味を理解する。	教科書の第6章第2節を読んでおくこと。また、あらかじめ食品の安全性に関する情報収集しておくこと。	240分
第15回	食料消費を取り巻く課題、まとめおよび定期試験	1. 食を取り巻く諸問題と時局的な事柄を理解する。 2. 授業全体のおさらいをし、総合的に理解する。	教科書の第6章第3節を読んでおくこと。また、あらかじめ、新聞等で時局的な事項を調べておくこと。 なお、定期試験を行うため、授業全体の復習をしておくこと。	240分

学生へのフィードバック方法	毎回、提出を義務付けているリアクションペーパーに履修生と共有すべき課題や内容が盛り込まれている場合、翌週の講義時にフィードバックする。なお、個別で質問がある場合は、E-mail (nihei@tatj.jp) で受け付けるとともに、必要に応じて非常勤講師室にて対応する。
---------------	---

評価方法	1. 定期試験の得点（100%）で評価する。なお、定期試験は100点満点で出題し、フードスペシャリストの出題形式に基づく選択式の問題のほか、記述式の問題を出題する。 2. 定期試験はノート及び配布資料など持ち込みは不可とする。 3. 詳細については、最後の授業にて説明する。
------	---

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		

評価割合	定期試験100%で評価する。
------	----------------

使用教科書名 (ISBN番号)	食品の消費と流通 (9784767905389)	
参考図書	なし	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】履修生が習得する「人間の栄養」のみならず、フードシステムの基礎的知識を習得するとともに、その概要を理解することにより、現代のフードシステムの課題を見出すことができるようになる。</p> <p>【思考・判断】健康・栄養課題を考えるうえで、現代のフードシステムがどのように構築されたかを理解するとともに、現代のフードシステムの利点と課題を整理し、総合的に考察できるようになる。</p> <p>【関心・意欲・態度】現代のフードシステムの諸課題を整理・分析し、望ましいフードシステムの在り方を現代に暮らす生活者の栄養と関連付けた具体的な提言できるようになる。</p>	
オフィスアワー	木曜日の授業終了後 非常勤講師室	
学生へのメッセージ	本講義内容は、卒業後、食産業に従事する学生だけでなく、日々の食生活を送る上でも必要なものである。しかしながら、食関連の専門性を持ち合わせる人でも、フードシステムを体系的に理解している人や望ましい食生活を送るための知識を習得している人は、それほど多くはないため、主として栄養学を学ぶ履修生に消費の部分だけでなく、生産から消費までのフードシステムを体系的に捉え、栄養管理・栄養指導の場面でも活用しているようになることを願っている。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、フードシステムの生産と問屋、商社といった3つの機能を持ち合わせている会社を経営していることから、テキストの基礎知識を教えるだけでなく、実際のフードシステムにおける必要な知識や情報を学生に教授する。
アクティブ・ラーニング	○	自らの思考力を高めるべく、一定の課題に対する分析のワーク（環境分析など）に取り組んでもらい、その内容を発表してもらうようにする。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	食・空間プロデュース論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 大野 治美	指定なし

ナンバリング	H34004C21
授業概要(教育目的)	<p>国内外の食事の文化や料理様式はもとより、食事空間全体のインテリア、食器やテーブルウェア、そしてそれらのテーブルコーディネートの方法、また消費者の食に関する最新のトレンドやニーズなど、心地よく食べるための環境作りをトータルで学ぶ。</p> <p>これまでに学んだ管理栄養士の視点を生かしながら、食事空間の環境づくりの課題について、グループで企画・演出、提案を通して実践力を養う。</p>
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	心地よく食事をするために必要なマナーや心構えを理解し、説明することができる
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	食文化やテーブルウェアに関する感性を高め、ライフスタイルにあわせた心地よい食空間をプロデュースすることができる
技術・表現の観点 (A)	色、食器、空間演出などの工夫を実践できるようになる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	「食」に関する情報についての課題や問題点を挙げ、グループディスカッションを行う。	シラバスを読んでくること。 食情報に関して、文献や新聞・雑誌、インターネット等を利用して調べておく	180分
第2回	食事空間・テーブルコーディネートとは	食空間プロデュースとは何か、その効果と必要性について学ぶ。快適な食空間を作るためには、どのような事に配慮すべきかを理解する。	予習：テーマに沿った内容について、文献や新聞・雑誌、インターネット等を利用して調べておく。 復習：配布資料を整理し、まとめておく。	180分
第3回	日本の食事の歴史・文化・様式について	和食の成り立ちと、日本の食事の形態を学ぶ。 本膳形式、懐石、会席料理の違いを知る。 正しい箸の使い方を習得して、説明できるようになる。	予習：テーマに沿った内容について、文献や新聞・雑誌、インターネット等を利用して調べておく。	180分

			復習：配布資料を整理し、まとめておく。	
第4回	外国の食事の歴史・文化・様式について	日本と代表的な世界の食文化を比較し、それぞれの特徴を理解する。	予習：興味のある外国の食文化を調べておき、その特徴についてまとめる。 復習：配布資料を整理し、まとめておく。	180分
第5回	フードサービスマネジメントとは	マーケティング手法を学び、企画立案の方法を計画することができる。	予習：テーマに沿った内容について、文献や新聞・雑誌、インターネット等を利用して調べておく。 復習：配布資料を整理し、まとめておく。	180分
第6回	食の流通過程・市場リサーチ、トレンドを学ぶ	食の流通過程を知り、市場の役割、消費者の食に関する最近のトレンドやニーズ等を学ぶ。	予習：事前に資料を収集しておく。 復習：学習した内容をリサーチシートにまとめ、次週提出する。写真やイラスト等を添付し、文章と図のバランスを考え、見やすく役立つシートを作成する。	180分
第7回	メニュープランニング①	TPOに応じたメニュープランニングの基礎を学ぶ。	予習：テーマに沿った内容について、文献や新聞・雑誌、インターネット等を利用して調べておく。 復習：配布資料を整理し、まとめておく。	180分
第8回	メニュープランニング②	フードコーディネーターや料理研究家等の食に関わる仕事について理解し、メニュー開発等について実践を通して学ぶ。	予習：テーマに沿った内容について、文献や新聞・雑誌、インターネット等を利用して調べておく。 復習：配布資料を整理し、まとめておく。	180分
第9回	テーブルコーディネートの基礎	食空間のイメージとテーブルセッティングの構成要素について学ぶ。	予習：テーマに沿った内容について、文献や新聞・雑誌、インターネット等を利用して調べておく。 復習：配布資料を整理し、まとめておく。	180分
第10回	テーブルコーディネートの方法	フードコーディネートの専門家に、テーブルコーディネートの要点を学ぶ。	予習：テーマに沿った内容について、文献や新聞・雑誌、インターネット等を利用して調べておく。 復習：配布資料を整理し、まとめておく。	180分
第11回	食空間の演出	テーマ別にテーブルコーディネートのイメージボードを作成する	予習：テーマに沿った内容について、文献や新聞・雑誌、インターネット等を利用して調べておく。 復習：配布資料を整理し、まとめておく。	180分
第12回	行事食とテーブルコーディネート	テーマ別にテーブルコーディネートのイメージボードをまとめて、提出する。	予習：事前に資料を収集しておく。 復習：学習した内容をイメージボードにまとめ、次週提出する。写真やイラスト等を添付し、文章と図のバランスを考え、見やすく役立つシートを作成する。	180分
第13回	食の企画プレゼンテーション①	食の企画書を作成し、プレゼンテーションの準備をする。	予習：テーマに沿った内容について、文献や新聞・雑誌、インターネット等を利用して調べておく。 復習：配布資料を整理し、まとめておく。	180分
第14回	食の企画プレゼンテーション②	食の企画書を提出し、プレゼンテーションを行う。	予習：発表内容についてパワーポイントにまとめ、指定した期日までに提出する。 復習：配布資料を整理し、まとめておく。	180分
第15回	まとめ	食の企画発表についてグループディスカッションおよび評価を行う。これまで学習してきたことを活かし、新し	予習：これまでの授業内容や発表内容を整理し、自分の意見を	180分

	い視点を持って食品や商品、情報提供等、どのように管理栄養士の職務に生かしていけるか、自分の考えをまとめる。	まとめておく 復習：配布資料を整理し、まとめておく。																															
学習計画注記	履修者数や外部講師の予定、進度により、スケジュール等が変更になる場合もあります。																																
学生へのフィードバック方法	講義形式を主とするが、グループワークや発表を含めて積極的に参加できる授業内容とする。レポート（企画書、リサーチシート等）やプレゼンテーションに関する評価は、授業にて解説する。																																
評価方法	授業への取組み姿勢、提出物、プレゼンテーション等で総合的に判断する。																																
評価基準	<p>評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>知識・理解 (K)</th> <th>思考・判断 (K)</th> <th>関心・意欲・態度 (V)</th> <th>技術・表現 (A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平常点</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>レポート（企画書、リサーチシート）</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)	平常点	○		○		レポート（企画書、リサーチシート）	○		○	○	プレゼンテーション	○		○	○										
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)																													
平常点	○		○																														
レポート（企画書、リサーチシート）	○		○	○																													
プレゼンテーション	○		○	○																													
評価割合	平常点（20%）、レポート（60%）、発表（20%）																																
使用教科書名 (ISBN番号)	レジュメを配布する。パワーポイントやDVDなどの視聴覚教材を使用して講義を行う。																																
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】「人間の栄養」を理解できる専門的知識と、それら地域社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。</p> <p>【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と、他者と協働するための共感力、豊かな人間性を身につけている。</p> <p>【技術・表現】体系的学習を通じて、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション能力などの表現力を身につけている。</p>																																
オフィスアワー	木曜3時限 1206研究室																																
学生へのメッセージ	半期の授業をさらに効果的なものにするには、普段の身近な食情報から多くを学ぶことです。日常生活の中で目にする新聞や雑誌等の食関連の記事、「食」に関する情報番組、レストランなどの外食産業やファーストフード店のメニューなど、食品の展示方法や食品表示等、私たちがを取り巻く「食」がこの授業の情報源になります。様々な分野の食情報に触れることで視野を広め、情報の質を見極めることができる力を身につけてほしいと考えております。積極的に主体的に取り組む姿勢を期待しています。																																
教育等の取組み状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>担当教員は、フードサービスや栄養管理分野でメニュープランニング等に従事してきた。管理栄養士の専門的スキルを生かして、対象者に応じたニーズの把握や食を通じた情報提供、分析力を活用し、実学的な授業を展開していく。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>グループワーク、プレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	担当教員は、フードサービスや栄養管理分野でメニュープランニング等に従事してきた。管理栄養士の専門的スキルを生かして、対象者に応じたニーズの把握や食を通じた情報提供、分析力を活用し、実学的な授業を展開していく。	アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、プレゼンテーション	情報リテラシー教育			ICT活用																	
	該当有無	概要																															
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、フードサービスや栄養管理分野でメニュープランニング等に従事してきた。管理栄養士の専門的スキルを生かして、対象者に応じたニーズの把握や食を通じた情報提供、分析力を活用し、実学的な授業を展開していく。																															
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク、プレゼンテーション																															
情報リテラシー教育																																	
ICT活用																																	

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	栄養プロデュース実習		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間栄養学科・2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 綿貫 仁美	指定なし
助教	大野 治美	指定なし
助教	鈴木 孝子	指定なし

ナンバリング	H24001C13
授業概要(教育目的)	臨地実習の前に、様々な実践活動の場で組織の役割を学び、人々を取り巻く社会構造への認識を深め理解する。「食」を通してあらゆるライフステージに適した生活を創造し、乳幼児から高齢者に至る様々な健康状態の人々の健康づくりをプロデュースできる管理栄養士を目指すことを目的とする。
履修条件	特に無し

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	実践活動の場での管理栄養士および栄養士の位置付け、組織、役割、業務、食を通じた取り組み、他職種との連携、情報発信や地域とのかかわり等を説明することができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	様々な実践活動の場において、他者と協働するための共感力、主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。
技術・表現の観点 (A)	他職種とのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につけている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	報告会 (1年次実施)	2年生における報告会(プレゼンテーション)に参加し、実習のイメージと理解を深める。実習先の希望調査を行う。	特に無し	
第2回	ガイダンス	実習概要について、各実習先施設の特徴について知る。	学外実習の手引き「1.学外実習の種類と履修条件」を読んでおくこと。	45分
第3回	事前学習①	学外実習を行うための基本事項(態度・姿勢・服装等)について理解する。先輩の体験談や事例について知る。	学外実習の手引き「2.1)学外実習にむけての心構え」を読んでおくこと。	45分
第4回	事前学習②	授業欠席届、腸内細菌検査等の提出書類の取り扱いについて知る。お礼状の書き方を知る。	学外実習の手引き「2.2)実習にむけての事前準備 提出書類	45分

			の準備、3) 腸内細菌検査の提出方法、4) 出勤簿の取り扱い、5) 実習日誌の記入や提出、6) 実習終了のお礼」をしておくこと。	
第5回	事前学習③	実習先施設の概要、交通経路を調べる。実習報告会に向けてのまとめ方について知る。	学外実習の手引き「4.4) 提出物について」を読んでおくこと。	45分
第6回	事前学習④	誓約書の記入。各施設班毎の実習テーマについて。	実習施設のホームページなどを見て、実習テーマをどのようにするか考えておくこと。	45分
第7回	マナー講習	マナー講師による講習。学外実習に向けての礼儀や態度について体験の場を持って理解する。	マナー講習の体験を踏まえて、お礼状を作成し、提出すること。	45分
第8回	学外施設での実習	各施設の実習日程計画書に沿って学外実習を行う。	実習日誌（実習記録、感想、反省等）の記入を行っておくこと。	45分
第9回	学外施設での実習	各施設の実習日程計画書に沿って学外実習を行う。	実習日誌（実習記録、感想、反省等）の記入を行っておくこと。	45分
第10回	学外施設での実習	各施設の実習日程計画書に沿って学外実習を行う。	実習日誌（実習記録、感想、反省等）の記入を行っておくこと。	45分
第11回	学外施設での実習	各施設の実習日程計画書に沿って学外実習を行う。	実習日誌（実習記録、感想、反省等）の記入を行っておくこと。	45分
第12回	学外施設での実習	各施設の実習日程計画書に沿って学外実習を行う。	実習日誌（実習記録、感想、反省等）の記入を行っておくこと。	45分
第13回	学外施設での実習	各施設の実習日程計画書に沿って学外実習を行う。	実習日誌（実習記録、感想、反省等）の記入を行っておくこと。	45分
第14回	まとめ	各施設の担当教員の指示に従い、お礼状の作成、まとめ作業（要旨集原稿、実習報告会パワーポイントの作成）等を行う。	実習日誌（まとめ）の記入を行っておくこと。	90分
第15回	実習報告会	パワーポイントを用いた各施設の発表および要旨集を熟読し、様々な施設の栄養士・管理栄養士の役割や業務、取組みについて理解する。	実習日誌（報告会を終えて）の記入を行っておくこと。	45分

学習計画注記 授業日程は、予定変更の可能性もあります。

学生へのフィードバック方法 マナー講習後のお礼状課題は添削をし、後日返却をする。実習日誌は確認後返却をする。

評価方法

- ・平常点は授業への参加状況、提出物の状況、授業態度から総合的に判断する。
- ・単位を取得できた場合の成績評価はP（合格）とする
- ・学外施設でのオリエンテーション、学外施設での実習、実習報告会を欠席した場合は、他の要件を満たしていても単位を認めない。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○			○
実習評価表			○	○

評価割合 平常点（50%）、実習評価表（50%）

使用教科書名 (ISBN番号) 管理栄養士の学外実習の手引き

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】人間、食物、地域との相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識と、それらを地域社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている。

【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と、他者と協働するための共感力、豊かな人間性を身につけている。

【技術・表現】体系的学習を通じて、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション能力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー	火曜日3時限 1402（綿貫） 木曜日2時限 1206（大野） 木曜日2時限 1206（鈴木）	
学生へのメッセージ	学外施設での実習に臨む姿勢として、実習先の施設についてしっかりと把握しておくことが大切である。ただ単に、授業や学外施設での実習に受け身で参加することがないように注意し、各自で積極的に取組み、自覚を持って参加してほしい。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	学外施設における3日間以上7日間以内の実習を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	実践栄養プロデュース実習		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	4		
代表曜日	火曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	人間栄養学科・3,4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 大富 あき子	指定なし

ナンバリング	H34002C43
授業概要(教育目的)	所属する研究室において、管理栄養士としての自分の進路を見つけ出すことができるように、管理栄養士が広く活躍する場を踏まえた社会での実践体験を含む研究課題とする。学生が研究課題を理解し、社会で求められているニーズを把握し、実践力を養うことで、社会に貢献することを学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・		

ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	栄養・医学英語		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 橋本 文子	指定なし
教授	斉藤 恵美子	指定なし

ナンバリング	H34003C12
授業概要(教育目的)	<p>国際化が進む中、管理栄養士として仕事をしていく上で、栄養について英語で説明したり、また栄養指導を英語で行うことが今後ますます求められる。栄養・医学英語では、①栄養指導を行う場合や医療現場でよく使われる英語の用語や表現について学ぶ。②さらに、外国人対応をする際に押さえておくべき要点についても学ぶ。</p> <p>尚、この科目は半期15週の授業の内、①を中心に前半の10週を橋本が、②を中心に後半の5週を斉藤が担当し、各担当の最終週にそれぞれ試験を行う。</p>
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	食や健康に関する英語の文献を読んで情報を得ることで、食や健康に関して理解を深めることができる。臨床現場・実社会で管理栄養士として専門対応するうえで、栄養・医学分野の基本的な英語を理解する。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	健康や食に関する英語の表現を知ることができる。臨床現場・実社会において、多様な文化的・言語的背景をもったクライアントに対応するための基礎的な手法を身につける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	Introduction	授業の進め方について説明する。	Chapter 1 Vocabularyを確認し、Readingを訳してくる。	60分
第2回	Chapter 1: Why do people love sweets? Vocabulary, Reading	Vocabularyを確認する。Readingについては、まず音読の練習をし、次に日本語訳とその内容について話し合いながら考えていく。	Readingの続き、Reading Comprehension、Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completionの予習を行うこと。	60分
第3回	Chapter 1	Readingの続きを読み、Reading Comprehension、	Chapter 2 Vocabularyを確認	60分

	Readingの続き、Exercises	Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completionの答え合わせと解説を行う。	し、Readingを訳してくること。	
第4回	Chapter 2: Do you have a "dessert stomach"? Vocabulary、Reading	Vocabularyを確認する。Readingについては、まず音読の練習をし、次に日本語訳とその内容について話し合いながら考えていく。	Readingの続き、Reading Comprehension、Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completionの予習を行うこと。	60分
第5回	Chapter 2 Readingの続き、Exercises	Readingの続きを読み、Reading Comprehension、Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completionの答え合わせと解説を行う。	Chapter 3 Vocabularyを確認し、Readingを訳してくること。	60分
第6回	Chapter 3: Why is Japanese cuisine so popular? Vocabulary、Reading	Vocabularyを確認する。Readingについては、まず音読の練習をし、次に日本語訳とその内容について話し合いながら考えていく。	Readingの続き、Reading Comprehension、Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completionの予習を行うこと。	60分
第7回	Chapter 3 Readingの続き、Exercises	Readingの続きを読み、Reading Comprehension、Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completionの答え合わせと解説を行う。	Quiz 1に答え、Chapter 4 Vocabularyを確認し、Readingを訳してくること。	60分
第8回	Chapter 4: Did you enjoy your school meals? Vocabulary、Reading	Dialogue 1に答え、Quiz 1の答え合わせを行う。Chapter 4のVocabularyを確認する。Readingについては、まず音読の練習をし、次に日本語訳とその内容について話し合いながら考えていく。	Readingの続き、Reading Comprehension、Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completionの予習を行うこと。	60分
第9回	Chapter 4 Readingの続き、Exercises	Readingの続きを読み、Reading Comprehension、Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completionの答え合わせと解説を行う。	これまでの学習内容の総復習を行うこと。	60分
第10回	これまでの学習の総復習と確認を行う。その後、10週分の学習内容についての試験を行う。	これまでのまとめと試験		
第11回	臨床現場の英語 その1	病院等での医療用語や表現について学ぶ。	事前学習：配布資料に目を通しておく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	60分
第12回	臨床現場の英語 その2	病院等での医療用語および栄養指導や検査結果説明等に用いる表現を学ぶ。	事前学習：配布資料に目を通しておく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	60分
第13回	実臨床での外国人対応 その1	外国人対応の現状について学ぶ。	事前学習：配布資料に目を通しておく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	60分
第14回	実臨床での外国人対応 その2	外国人対応の基礎的な手法について学ぶ。	事前学習：配布資料に目を通しておく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	60分
第15回	実臨床での外国人対応 その3、後半のまとめ	外国人対応に必要な、多様な文化的背景について学ぶ。学習到達度の確認テスト。	事前学習：科目後半で学習した内容を復習しておく。 事後学習：授業内容を整理して知識を確実にしておく。	60分

学習計画注記

* 履修者数や授業の進み具合によってスケジュールは変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法

授業の始めに前の週の授業内容の確認と復習を行います。
(斉藤) 授業内で提示した課題に取り組み、解説を加える。

評価方法

前半10週については
・各自その日の授業についてあらかじめ予習してきた内容を確認しながら授業を進めます。
・定期試験はVocabulary、Reading、Reading Comprehension、Listening Comprehension、Words & Idioms、Sentence Completionから出題します。

後半5週については
15回目に行う筆記試験（後半5回分に関する内容）70%，授業中のディスカッションへの取り組み 30%

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
授業内容の予習	○		○	
定期試験	○			
授業中のディスカッション	○			○
筆記試験	○			

評価割合

(前半10週) 定期試験70%、授業への積極的な参加30%で総合的に評価します。
(後半5週: 齊藤) 授業中のディスカッションへの取り組み・プレゼンテーション (30%) , 筆記試験 (70%)

使用教科書名 (ISBN番号)

(前半10週) Living Well, Eating Well / Josh Norman 他/ Asahi Press
(後半5週: 齊藤) 指定なし (授業中に資料配布)

参考図書

(後半5週: 齊藤) 授業内で提示します。

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】管理栄養士として必要な食と健康に関するトピックを英文で読むことで、英語の文献から様々な情報や知識を得ることができる。
【知識・技能】管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。
【技能・表現】体型的学習を通じて、多職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション能力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー

(橋本) 水曜日 4 時限 1610研究室
(齊藤) 火曜日 4 時限 1503研究室

学生へのメッセージ

(橋本) 授業で学んだことを復習し、また次回の授業内容についてあらかじめ予習をしてきて下さい。授業に積極的に参加することを期待します。
(齊藤) 英語のみにとらわれず、多様な文化的・言語的背景をもつ相手とのかかわり方を考える契機となることを期待します。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	(齊藤) 担当教員は、医療の実地臨床において、診療業務や臨床研究等の実務経験を有しており、臨床現場における現状や具体例も呈示しながら教授する。
アクティブ・ラーニング	○	(齊藤) グループ・ディスカッションの実施
情報リテラシー教育	○	(齊藤) 課題解決における情報探索に関する事項
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	実践栄養英会話		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	健康栄養学科・3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ マーク ルイス	指定なし

ナンバリング	H34004C12
授業概要(教育目的)	Students will learn and practice basic conversation patterns for talking about health and nutrition.
履修条件	None. (Communication English 1 and 2 recommended.)

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	Students will gain knowledge of basic English conversation patterns.
思考・判断の観点 (K)	Students will develop critical thinking skills to describe their ideas about health and nutrition and be able to understand the perspective of others.
関心・意欲・態度の観点 (V)	Students will become active learners of English and will desire to learn more.
技術・表現の観点 (A)	Students will learn techniques to express their feelings more easily in English, and will gain confidence in their ability.

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	Introduction	Introducing ourselves / Vitamin A	Perpare for class by reading p. 2-3; and p.34-35	60
第2回	Meals	Breakfast and dinner / Calcium	P. 4-5: 36-37	60
第3回	Family	Talk about your famiy members / Fiber	P. 6-7: 38-39	60
第4回	Free Time	Clubs and circles / Vitamin B1 and meat	P. 8-9: 40-41	60
第5回	Work	Where do you work? / The common cold vs. the flu	P.10-11: 42-43	60
第6回	Fashion	Going to a hair salon / Fermented food	P. 12-13: 44-45	60
第7回	Animals	Having a pet / Vitamin D	P. 14-15: 46-47	60
第8回	Going Out	Eating out with friends / Probiotics	P. 16-17: 48-49	60
第9回	Seasons	Your favorite season / Vitamin C	P.18-19: 50-51	60
第10回	Sightseeing	Going to Disneyland / Protein	P. 20-21: 52-53	60

第11回	At Home	Cooking and cleaning / Vitamin K	P. 22-23; 54-55	60
第12回	Money	Shopping and snacks / Healthy Teeth	P. 24-25; 56-57	60
第13回	Entertainment	The news and music and movies / Carbohydrates	P. 26-27; 58-59	60
第14回	Practice Speaking Test	Use class time to prepare for final speaking test with a partner. Students choose health and nutrition topics to speak about. No notes or books during the test.	P. 2-59	120
第15回	Speaking Test	Speak in natural conversational English for 5 minutes with a partner.	P. 2-59	120

学習計画注記 ※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 Students receive weekly quiz scores and feedback from weekly in-class writing and from discussion with the teacher.

評価方法 Quizzes are worth 5 points each week. Questions are from the previous week's lesson and the current lesson. If you read the assigned homework pages, you will do well on the weekly quizzes. The final speaking test lets you know how comfortable you have become while speaking about health and nutrition topics.

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
Quizzes	○	○	○	○
Speaking Test	○	○	○	○
Participation	○	○	○	○
Writing	○	○	○	○

評価割合 Participation 60%; Quizzes 20%; Writing 10%; Final Speaking Test 10%

使用教科書名 (ISBN番号) Say What You Like 3 (ISBN 978-4-9906347-4-2)

参考図書 A Japanese / English Dictionary

ディプロマポリシーとの関連
 【知識・理解】 管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。
 【思考・判断】 学際的な学習を通じて、グローバルな観点から現代の食・栄養に関わる諸問題について探求することができる。
 【関心・意欲・態度】 社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。
 【技能・表現】 コミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。

オフィスアワー Monday 12:30 - 14:00

学生へのメッセージ Relax and enjoy speaking English.

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	Students talk to each other.
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	食物・栄養演習 A		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	1 限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無			
開設学科・年次	健康栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 辻 雅子	指定なし
教授	健康栄養学科 教員	指定なし

ナンバリング

H34005C12

授業概要(教育目的)

管理栄養士国家試験科目である社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論について、過去問題等を利用しながら総合的に学んでもらうことを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	管理栄養士にとって必要な専門的知識について理解し説明できる。
思考・判断の観点 (K)	食・栄養に関わる諸課題解決に向けて、自ら問題点を見つけ、考え判断し説明することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	管理栄養士として社会の人々に貢献するために意欲関心をもった態度で積極的に講義に参加することができる。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	社会・環境と健康①	社会・環境と健康について学ぶ(担当:松田)	社会・環境と健康について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第2回	社会・環境と健康②	社会・環境と健康について学ぶ(担当:松田)	社会・環境と健康について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第3回	社会・環境と健康②	社会・環境と健康について学ぶ(担当:松田)	社会・環境と健康について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第4回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち①	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて学ぶ(担当:原)	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第5回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち②	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて学ぶ(担当:原)	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて関連分野の学びの復習をおこなう	90分

第6回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち③	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて学ぶ（担当：原）	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第7回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち④	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて学ぶ（担当：斉藤）	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第8回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち⑤	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて学ぶ（担当：斉藤）	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第9回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち⑥	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて学ぶ（担当：斉藤）	人体の構造と機能及び疾病の成り立ちについて関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第10回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち⑦	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（生化学）について学ぶ（担当：馬場）	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（生化学）について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第11回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち⑧	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（生化学）について学ぶ（担当：馬場）	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（生化学）について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第12回	食べ物と健康（基礎食品）①	食べ物と健康（基礎食品）について学ぶ（担当：海野）	食べ物と健康（基礎食品）について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第13回	食べ物と健康（食品衛生）③	食べ物と健康（食品衛生）について学ぶ（担当：林）	食べ物と健康（食品衛生）について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第14回	食べ物と健康（応用食品）③	食べ物と健康（応用食品）について学ぶ（担当：林）	食べ物と健康（応用食品）について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第15回	食べ物と健康（調理）④	食べ物と健康（調理）について学ぶ（担当：大富）	食べ物と健康（調理）について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第16回	基礎栄養学①	基礎栄養学について学ぶ（担当：海野）	基礎栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第17回	基礎栄養学②	基礎栄養学について学ぶ（担当：海野）	基礎栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第18回	基礎栄養学③	基礎栄養学について学ぶ（担当：海野）	基礎栄養学について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第19回	応用栄養①	応用栄養について学ぶ（担当：斉藤）	応用栄養について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第20回	応用栄養②	応用栄養について学ぶ（担当：斉藤）	応用栄養について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第21回	応用栄養③	応用栄養について学ぶ（担当：斉藤）	応用栄養について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第22回	栄養教育①	栄養教育について学ぶ（担当：辻）	栄養教育について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第23回	栄養教育②	栄養教育について学ぶ（担当：酒井）	栄養教育について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第24回	臨床栄養①	臨床栄養について学ぶ（担当：斉藤）	臨床栄養について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第25回	臨床栄養②	臨床栄養について学ぶ（担当：金澤）	臨床栄養について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第26回	公衆栄養①	公衆栄養について学ぶ（担当：田中）	公衆栄養について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第27回	公衆栄養②	公衆栄養について学ぶ（担当：田中）	公衆栄養について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第28回	公衆栄養③	公衆栄養について学ぶ（担当：田中）	公衆栄養について関連分野の学びの復習をおこなう	90分

第29回	給食経営管理①	給食経営管理について学ぶ（担当：吉野）	給食経営管理について関連分野の学びの復習をおこなう	90分
第30回	給食経営管理②	給食経営管理について学ぶ（担当：吉野）	給食経営管理について関連分野の学びの復習をおこなう	90分

学習計画注記	本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、講義回数等が変則的になる。
学生へのフィードバック方法	基本的に、質問は各担当教員のオフィスアワーの時間等を活用すること。その際に各学生にフィードバックする。 全体に返す必要があるものは授業前後の時間を使用して全体へフィードバックする。
評価方法	管理栄養士国家試験科目の中から200点満点で、国家試験と同様の出題形式で定期試験を実施する。6割以上点数が取れなければ不合格となる。 出席日数が3分の2以上なければ定期試験を受けることはできない。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		

評価割合	定期試験100%（授業内で行った管理栄養士国家試験出題範囲）
使用教科書名 (ISBN番号)	クエスチョン・バンク 管理栄養士 国家試験問題解説（メディックメディア）（978-4-89632-718-2） 及びその他プリント
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】管理栄養士として「人間の栄養」につながる専門的知識について理解している。 【思考・判断】管理栄養士として食・栄養に関わる諸課題解決に向けて、自ら問題点を見つけ、考え判断できる。
オフィスアワー	本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、質問等がある場合は各担当教員のオフィスアワーを確認する事。
学生へのメッセージ	管理栄養士国家試験出題範囲の各科目の基礎知識の習得はもちろん、科目間のつながりも重要である。国家試験の出題範囲は明確になっているので、学習するにあたりまずは各科目のポイントをきちんと整理することから始め、定期試験までに適切な知識を復習し、習得する事が必要である。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	海外専門研修（栄養学）		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 田中 弘之	指定なし
准教授	加藤 理津子	指定なし

ナンバリング	H15001C13
授業概要(教育目的)	世界的な競争と共生が進む現代社会において、日本人としてのアイデンティティを持ちながら、広い視野に立つて培われる教養と専門性、異なる言語、文化、価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と協調性、新しい価値を創造する能力などを持った国際社会で活躍できる管理栄養士を育成する。さらに高年次以降本格化する専門分野の学びの動機づけ、視野の広がりを獲得することを目指す。
履修条件	定員に対し、応募者多数の場合は抽選を行います。 実地研修への参加は以下の条件を満たしていることが必須です。 <input type="checkbox"/> 履修登録をしている。 <input type="checkbox"/> 事前指導①～③を全て受講している。 <input type="checkbox"/> 必要経費を納入している。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	日本の食文化、日本の健康増進にかかわる社会制度、栄養管理の国際的動向、国際貢献について基礎的な知識を理解している。
思考・判断の観点 (K)	これまでに学習した基礎的な知識・技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・管理栄養士制度の仕組みや活動、海外の当地の健康事情・健康課題とその背景である人々の生活状況、食料生産、食文化を学びながら、国際的な視野を身につけようとしている。 ・人間栄養に対する興味関心を高め、情報収集するなど、主体的な学習態度を身につけようとしている。
技術・表現の観点 (A)	目標達成に向けた企画立案、マネジメント、コミュニケーションを実践できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	事前指導①	研修の目的および内容、日程および訪問先の説明、現地情報を理解する。	予習：シラバスを読む。 復習：学習内容をワークシートにまとめる。	60分
第2回	事前指導②	外部講師から、現地情報として食文化、イタリア語の挨拶と食べ物を学ぶ。 またグループ別研修として、グループ分けとテーマの決定を行う。	復習：学習内容をワークシートにまとめる。	60分

第3回	事前指導③	渡航に関する注意事項を確認する。	予習：資料を読む。 復習：学習内容をワークシートにまとめる。	60分
第4回	事前指導④	グループ別研修の学習を行う。	予習：資料を収集する。 復習：学習内容をワークシートにまとめる。	60分
第5回	事前指導⑤	入国・出国の流れ、注意事項を確認する。簡単な英会話を学ぶ。	予習：資料を読む。 復習：学習内容をワークシートにまとめる。	60分
第6回	事前指導⑥	グループ研修のリハーサルを行う。	予習：事前にリハーサルの予行練習を行う。 復習：学習内容をワークシートにまとめる。	60分
第7回	実地研修	イタリアでの食科学に基づく生産者育成の場（スローフード国際本部、食科学大学）で学ぶ。	復習：学習内容をワークシートにまとめる。	60分
第8回	実地研修	トリノおよびブラにて現地情報で情報収集を行う。	復習：学習内容をワークシートにまとめる。	60分
第9回	実地研修	イタリアでの栄養士の活動の場（イタリア栄養士協会）で学ぶ。	復習：学習内容をワークシートにまとめる。	60分
第10回	実地研修	イタリアの食文化体験の場（ACミラン本部）で学ぶ。	復習：学習内容をワークシートにまとめる。	60分
第11回	実地研修	ミラノにて現地情報で情報収集を行う。	復習：学習内容をワークシートにまとめる。	60分
第12回	実地研修	イタリアの食文化体験の場（パルサミコ醸造所、FICO EATALY WORLD）で学ぶ。	復習：学習内容をワークシートにまとめる。	60分
第13回	実地研修	現地在住の日本人管理栄養士（卒業生）の活躍の場で学ぶ。	復習：学習内容をワークシートにまとめる。	60分
第14回	事後指導①	報告会資料を作成する。	予習：実地研修の記録をワークシートにまとめる。 復習：報告会のリハーサルを行う。	120分
第15回	事後指導②	研修報告を行う。	予習：報告会のリハーサルを行う。 復習：学習内容をレポートにまとめる。	60分

学習計画注記	授業の進行状況によって内容を前後させる場合がある。
学生へのフィードバック方法	授業の進行にしたがって提出物等に記入したものを、その都度確認し、返却する。
評価方法	提出物50%、平常点20%、プレゼンテーション30%とし、総合的に評価する。 ※提出物：理解度、正確性、丁寧さ ※平常点：研修態度 ※プレゼンテーション：表現力

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
提出物	○	○	○	○
平常点			○	
プレゼンテーション		○	○	○

評価割合	提出物50%、平常点20%、プレゼンテーション30%とし、総合的に評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	適宜紹介する。
参考図書	適宜紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。 【思考・判断】学際的な学習を通じて、個人から地域コミュニティ、グローバルな観点から現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して思考できる力を身につけている。 【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。

	【技能・表現】コミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている。															
オフィスアワー	田中：火曜日昼休み（1607） 加藤：水曜日昼休み（1B05）															
学生へのメッセージ	受講にあたり、以下の内容に取り組むことを期待する。 ○遅刻や欠席、私語、内職、居眠りを慎み、メモを取るなど主体的に取り組む。 ○計画的に予習、復習に取り組み、理解を深めるよう努める。 ○提出物は、手順や締め切りを守り、学習した内容を理論的に書くよう努める。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>担当者（田中）は、厚生労働省で国際会議に参加している。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td></td> <td>学生は、各自が収集した情報をもとに、班ごとにディスカッションしながら課題を遂行し、その結果をレポートにまとめ、発表する。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td>得られた成果を報告書にまとめ、発表スライドを作成する。</td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td>発表スライド用をパワーポイントで作成し、映写して発表する。</td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	担当者（田中）は、厚生労働省で国際会議に参加している。	アクティブ・ラーニング		学生は、各自が収集した情報をもとに、班ごとにディスカッションしながら課題を遂行し、その結果をレポートにまとめ、発表する。	情報リテラシー教育		得られた成果を報告書にまとめ、発表スライドを作成する。	ICT活用		発表スライド用をパワーポイントで作成し、映写して発表する。
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業	○	担当者（田中）は、厚生労働省で国際会議に参加している。														
アクティブ・ラーニング		学生は、各自が収集した情報をもとに、班ごとにディスカッションしながら課題を遂行し、その結果をレポートにまとめ、発表する。														
情報リテラシー教育		得られた成果を報告書にまとめ、発表スライドを作成する。														
ICT活用		発表スライド用をパワーポイントで作成し、映写して発表する。														

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	キャリアデザイン活動		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	専門		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・1年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 酒井 治子	指定なし
教授	江川 賢一	指定なし
助教	會退 友美	指定なし

ナンバリング	H15002C13
授業概要(教育目的)	管理栄養士としてのキャリアデザインの重要性について講義する。キャリアをデザインするための知識に関心を持ち、学生自らがキャリアをデザインすることを目標とする。
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	人間、食物、地域・環境の相互関係を説明できる。管理栄養士業務に多職種連携が必要であり、地域の社会資源を活用できることを説明できる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	人間の栄養に関心を持ち、管理栄養士としてのキャリアプランを立案するための意欲と態度を身につけている。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	はじめに	管理栄養士のキャリアの実例からキャリアデザインについて説明する。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分
第2回	管理栄養士のキャリアデザイン	専門職としてのキャリアデザインの重要性について説明する。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分
第3回	管理栄養士に関係する職業	キャリアコースに関わる職業と管理栄養士との関係を理解する。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分
第4回	管理栄養士と社会とのつながり	管理栄養士が利用可能な社会資源を理解する。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分

第5回	キャリアデザインを考える①	自己分析を通じて自分のキャリアをデザインする。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分
第6回	キャリアデザインを考える②	自分自身の将来像を想定して自分のキャリアをデザインする。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分
第7回	キャリアデザインを考える③	自分のキャリアデザインの実現に必要な行動目標を考える。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分
第8回	管理栄養士のキャリア	現代社会における管理栄養士のキャリアを理解する。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分
第9回	管理栄養士のキャリア（フードサービス）	フードサービスにおける管理栄養士のキャリアを理解する。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分
第10回	管理栄養士のキャリア（食育・地域栄養ケア）	食育・地域栄養ケアにおける管理栄養士のキャリアを理解する。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分
第11回	管理栄養士のキャリア（臨床栄養）	臨床栄養における管理栄養士のキャリアを理解する。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分
第12回	管理栄養士のキャリア（スポーツ栄養）	スポーツ栄養における管理栄養士のキャリアを理解する。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分
第13回	自らのキャリア形成に向けて：多職種連携	キャリア形成に必要な多職種連携について理解する。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分
第14回	自らのキャリア形成に向けて：社会資源の活用	キャリア形成に必要な社会資源の活用について理解する。	次回のテーマについて参考文献等で調べる。	120分
第15回	まとめ・評価	全体のまとめ・評価を行う。	学修事項をまとめ、記録する。	120分

学習計画注記 一方的な講義にならないよう、講義中にディスカッションを行う。

学生へのフィードバック方法 担当教員のオフィスアワーで対応する。

評価方法 平常点と課題の内容により評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点			○	
課題	○		○	

評価割合 平常点 (20%)、課題評価 (80%)

使用教科書名 (ISBN番号) 使用しない。

参考URL <https://www.dietitian.or.jp/career/>

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】人間、食物、そして地域・環境の相互関係から「人間の栄養の営み」を理解できる専門的知識を有している。
管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている。
【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意志と、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている。

オフィスアワー (酒井) 火曜日 5限 地域栄養教育 (酒井) 研究室
(江川) 木曜日昼休み

	(會退) 未定															
学生へのメッセージ	講義での理論と実社会での様々な活動に触れながら、自ら課題を発見し、その解決方法を探求することを期待する。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>担当教員(會退)は保育所、担当教員(酒井)は消費者対策(食品の衛生実験、商品表示等)、顧客対応(栄養指導)に従事した経験をふまえて、栄養教育の実践と評価関連のキャリアコースについて教授する。担当教員(江川)は民間企業の研究機関に従事した経験を踏まえて、健康増進関連のキャリアコースについて教授する。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>人々の生活のニーズを考え、食物の生産から消費まで実体験を基に学習する。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	担当教員(會退)は保育所、担当教員(酒井)は消費者対策(食品の衛生実験、商品表示等)、顧客対応(栄養指導)に従事した経験をふまえて、栄養教育の実践と評価関連のキャリアコースについて教授する。担当教員(江川)は民間企業の研究機関に従事した経験を踏まえて、健康増進関連のキャリアコースについて教授する。	アクティブ・ラーニング	○	人々の生活のニーズを考え、食物の生産から消費まで実体験を基に学習する。	情報リテラシー教育			ICT活用		
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業	○	担当教員(會退)は保育所、担当教員(酒井)は消費者対策(食品の衛生実験、商品表示等)、顧客対応(栄養指導)に従事した経験をふまえて、栄養教育の実践と評価関連のキャリアコースについて教授する。担当教員(江川)は民間企業の研究機関に従事した経験を踏まえて、健康増進関連のキャリアコースについて教授する。														
アクティブ・ラーニング	○	人々の生活のニーズを考え、食物の生産から消費まで実体験を基に学習する。														
情報リテラシー教育																
ICT活用																

[ウインドウを閉じる](#)

資 格 科 目

シラバス参照

講義名	教師論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 佐藤 広美	指定なし

ナンバリング	Y10001M21
授業概要(教育目的)	教職の意義、教員の役割(資質能力)、教員の職務内容、そして、チーム学校の意義について論じる。歴史に即して教師とはどんな職業だったのかを説明し、教育現場の実際に即して教師の仕事を紹介し、教師の使命と服務規律、最後に、チーム学校の一員としての教師の今日的な要請を論じる。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 教師とは何かに関する基礎知識を修得する。 2. 他の教育職との違いを理解する。
思考・判断の観点 (K)	1. 教師とは何かの理論を、教育現場において生かそうとすることができる。 2. 子どもを理解し、尊重する教職の独自の役割を理解しようとする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教育現場に起きている問題を、教師論のテーマにそくして理解しようとする態度を形成する。
技術・表現の観点 (A)	教育現場において起きている問題を教師論で講じた課題に結びつけて考え、自分の意見を発表できる。

学習計画

教師論

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	教師とは何か	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分
第2回	教職の意義	時代の中の教師、戦前、教科書と教師	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分
第3回	教職の意義	時代の中の教師、戦前、国家と教師	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分
第4回	教職の意義	教師の専門性、戦後の教師	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分
第5回	教職の意義、	教育の自由と教師	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分

第6回	教師の役割	子どもを理解する	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分
第7回	教師の役割	子どもを育む、いじめを考える	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分
第8回	教師の役割	不登校を考える	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分
第9回	教師の役割	消費社会の中の若者	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分
第10回	教師と学校	生活指導とは何か	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分
第11回	教師と学校	授業とは何か	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分
第12回	教員の職務	校務分掌	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分
第13回	教員の職務	身分保障など	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分
第14回	チーム学校	同僚とともに学校をつくる	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分
第15回	チーム学校	発達援助職との共同	配付資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する。	180分

学習計画注記	講義を中心に展開するが、質疑応答も大切にしたい。
学生へのフィードバック方法	学生には、KGノート（家庭学習ノート）を自宅で作成するように指導する。講義でとったノートを再度、自宅で読み直し、テキストを読み込んで、あらためて、KGノットを作成すること。復習をかねて、知識の習得を確実なものにするためのもの、このKGノートの点検を時々に行う。
評価方法	定期試験とKGノートの総合評価

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		
KGノート	○		○	

評価割合	KGノート1割、定期試験9割、の「総合評価
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定はしない。
参考図書	講義の中で、紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	知識・理解、人間社会の豊かな知識と理解ができる 思考・判断、あるべき人間都教育の姿を追究できる 関心と表現、学習で得た知識を持って、他者と共感して、問題解決に向かうことができる
オフィスアワー	月曜4限
学生へのメッセージ	教師論は、自分の被教育体験をいかに考えるか、が重要になってくる。つまり、皆さん方が、どのような学校体験を積んできたのか、その経験を振り返ることである。しかも、批判的に、である。批判的に、とはどのようなことなのか、そのこと自体も、じっくり考えていただきたい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	教育原理		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田 敦子	指定なし

ナンバリング	Y20002M21
授業概要(教育目的)	教育が人間にとってどのような意味をもっているのかを根本的に考えるために、人類の歴史、教育の歴史および思想、教科書問題、学力、生涯学習、子どもの権利等の多様な観点から理解が深められるように授業を行う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	教育が人間固有の営みであり、人間にとって必要不可欠であり、社会文化国家によって異なる歴史と思想によって形成されてきたことを理解できる。
思考・判断の観点 (K)	現代教育問題の本質にあるものを見つめられる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教員になるための最も基本的な科目である。常に「教育とは何か」という問題意識を持って受講している。
技術・表現の観点 (A)	教育の意義を理解することで、教職をこころざす者としての心構えを身につけ、広い視野で教育活動を中心とした社会貢献ができる教員を目指す姿勢を持てる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	教育が人間にとって持つ意味(1)	人間とチンパンジー等の他の動物と比較しながら、人間にとって教育がもつ意味を考える。	授業前後に教科書pp. 1-16を読んでおくこと。	120分
第2回	人間は教育をどのように捉えてきたか	「教育とは何か」を考える導入として、古代から現代に至るまで、世界の著名人が教育について述べた理念および名言等を学ぶ。	授業前後に教科書pp. 16-42とレジュメの第2回の部分を読んでおくこと。	180分
第3回	<子ども>の発見	西洋近代では「子ども期」の発見によって教育が誕生した。フィリップ・アリエスの研究を紹介しながら西洋教育史の導入とし、西洋近代における教育思想：コメニウス、ルソー、コンドルセの教育思想等を学ぶ。	授業前後に教科書pp. 43-54とレジュメの第3回の部分をよく読んでおくこと。	180分
第4回	近代日本に影響を与え	ペスタロッチー、フレーベル、デューイの教育思想の概要を学ぶ。	授業前後に、教科書pp. 54-59とレジュメの第4回の部分をよく	180分

	た西洋教育思想		読んでおくこと。	
第5回	近世以前の教育と近世の教育	近世以前に存在した教育機関大学寮、足利学校等でどのような教育が行われていたのかをスライドを見ながら学ぶ。江戸時代についても、藩校郷校等の教育機関で行われていた教育内容について学ぶ。藩校等の映像を見ながら学ぶ。(第1回小テスト)	西洋教育史に関する小テストを実施する。授業後に、教科書pp. 61-65とレジュメの第5回の部分を良く読んでおくこと。	180分
第6回	近世の教育思想	中江藤樹、細井平洲、貝原益軒等と私塾の塾主となった本居宣長、広瀬淡窓、吉田松陰等江戸時代の代表的な教育者の思想を学ぶ。	授業前後に、教科書pp. 65-67とレジュメの第6回の部分を良く読んでおくこと。	180分
第7回	近代日本公教育制度の成立と展開	明治維新以降、近代日本公教育制度成立期の制度として、学制と教育令について学ぶ。	授業前後に、教科書pp. 67-71とレジュメの第7回の部分を良く読んでおくこと。	180分
第8回	近代日本公教育制度の成立と展開	教育令が改正、再改正を経て、小学校令が初代文部大臣森有礼によって公布されるに至る過程、森有礼の教育政策と教育勅語の公布について学ぶ。	授業前後に、教科書pp. 71-74とレジュメの第9回の部分を良く読んでおくこと。	180分
第9回	子どもの権利条約	子どもの権利条約成立の契機となったコルチャック神父の思想について学び、子どもの権利条約の条文を示しながら、それに抵触する現代日本社会における児童虐待等の問題を子どもの権利の観点から批判的に検討する。	近代以前の日本の教育史について第2回目の小テストを実施する。設問は25問程度。授業前後に、教科書pp. 243-257と第5回～第9回のレジュメを良く読んでおくこと。	240分
第10回	教科書の歴史	近代日本の教科書の歴史、現代的課題を学ぶ。	今回の部分は教科書に詳述されていないので、レジュメを良く読んでおくこと。	180分
第11回	大正自由教育運動	大正自由教育運動でどのような教育主張が展開されたかを学ぶ。「主体的で対話的な深い学び」が重要視される今日、大正期にも同じような傾向が見られたことを現代と対照しながら学ぶ。	授業前後に教科書pp. 75-77、pp. 174-181と第11回のレジュメを良く読んでおくこと。	180分
第12回	授業をつくる	授業のデザインの仕方、教材とは何か、学習指導案の書き方を学ぶ。教育実習時や将来教員になる時のことを想定してしっかり学ぶこと。	授業前後に、教科書pp. 157-173と第12回のレジュメを良く読んでおくこと。	180分
第13回	学力とは何か	学力をめぐる考え方、論争等を示しながら、学力とは何か、どのように評価できるかについて理解を深める。	授業前後に、教科書pp. 91-107と第13回のレジュメを良く読んでおくこと。	180分
第14回	生涯学習	生涯学習社会がどのように形成され、現代社会にどのような役割を果たしているか、何が求められているかを概説する。	第2回テストの返却。授業前後に、教科書pp. 209-242と第14回のレジュメを良く読んでおくこと。	120分
第15回	現代日本の教育課題	いじめや不登校等の教育問題がなぜ生じたのかを考えながら、それらの問題を解決するために教育に何が求められているかを考える。学生に発言を求める。	授業前後に、教科書pp. 259-281と第15回のレジュメを良く読んでおくこと。期末レポートはこの授業内に提出すること。	240分

学習計画注記 ※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 小テスト（2回）の採点後の返却。模範解答も同時に配布する。リアクションペーパーへの応答。

評価方法

- ・小テストは、基本的知識の定着と理解度を測るために行う。第1回は西洋教育史について15問程度、第2回は日本教育史について25問程度行う。すべて穴埋め方式で出題する。なお、特別な事情と申し出が無い限り、小テストの再試験は行わないので注意すること。
- ・期末レポートのテーマは、「教育とは何か、貴女の考えを述べなさい」（2000字以上）である。本講義を通して学んだことを理解した上で、自分の考えや経験をもとに、自分の考えを自分の言葉で論じることを求めている。引用の多いレポートや説明だけでは、本課題に取り組んだと言う評価は与えられないので、注意すること。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
第1回小テスト	○			
第2回小テスト	○			
期末レポート		○		○
リアクション・ペーパー			○	○

評価割合 小テスト（2回）30%、平常点20%、最終レポート50%

使用教科書名 (ISBN番号)	田嶋一ほか『やさしい教育原理 改訂版』有斐閣 (978-4-641-22081-2)	
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・古沢常雄・米田俊彦『教育史』学文社 2009年、 ・高橋陽一『教育通義』武蔵野美術大学出版会 2014年、 ・ポルトマン著『人間はどこまで動物か』岩波新書 1961年 ・松沢哲郎『想像する力 チンパンジーが教えてくれた人間の心』岩波書店 2011年、 ・コメニウス著 井ノ口淳三 訳『世界図絵』平凡社ライブラリ 1995年 	
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。</p> <p>【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に判断して行動できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】社会の中に在る諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。</p>	
オフィスアワー	水曜日3限 (要アポイントメントにより時間調整を行う。)	
学生へのメッセージ	「教員とは何か」について常に問題意識を持って日常生活を送り、受講してください。考える材料は、身近に沢山あります。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	アクティブラーニング：常時、学生へ質問し発言を求め、対話的な授業形式を取る。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	教育原理		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 佐藤 広美	指定なし

ナンバリング	Y20002C21
授業概要(教育目的)	<p>1、教育とは何か、を論じる。人間とは何かを論じ、教育の意義を明らかにする。次に、発達とは何かを論じ、発達に応じた教育の意義を論じる。</p> <p>2、学校とは何かを論じる。学校の誕生を説き、次に、近代学校の成立を明らかにする。</p> <p>3、日本の教育の歴史を論じる。「学制」「教育勅語」「植民地教育」「戦後教育改革」「高度経済成長と教育」そして、「グローバル化の教育」を論じる。</p> <p>4、教育の重要な思想を論じる。近代教育思想の子どもの権利思想を論じる。次に発展途上国の教育思想を論じ、最後に、日本の教育遺産としてある生活綴方教育思想を論じる。</p>
履修条件	特になし。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1, 教育の基本原則を理解する。 2, 自分の被教育体験に結びつけて、教育原理の課題を理解する。
思考・判断の観点 (K)	1, 教育現場に実際に起きている問題に結びつけて理解し、判断できるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1, 教育現場に起きている問題と自分自身の被教育体験とを結びつけ、考える意欲を形成出来るようにする。
技術・表現の観点 (A)	1, 教育現場において起きている問題を理解し、自分の意見を発表することができる。

学習計画

教育原理

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	教育とは何か	配布資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する	180分
第2回	教育の基本 概念—教育 とは何か	人間と教育	配布資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する	180分
第3回	教育の基本 概念—発達 とは何か	発達と教育	配布資料の担当箇所を読んで、KGノートを作成する	180分
第4回	教育の基本	学校の誕生	配布資料の担当箇所を読んで、	180分

	概念—学校とは何か		KGノートを作成する	
第5回	教育の基本 概念—近代 学校とは何か	近代学校の成立	配布資料の担当箇所を読んで、 KGノートを作成する	180分
第6回	教育の歴史 —近代日本 と「学制」	学制	配布資料の担当箇所を読んで、 KGノートを作成する	180分
第7回	教育の歴史 —教育勅語	天皇制と教育	配布資料の担当箇所を読んで、 KGノートを作成する	180分
第8回	教育の歴史 —植民地と 教育	アジアと日本の教育	配布資料の担当箇所を読んで、 KGノートを作成する	180分
第9回	教育の歴史 —戦後教育 改革	平和と民主主義と基本的人権	配布資料の担当箇所を読んで、 KGノートを作成する	180分
第10回	教育の歴史 —高度経済 成長と教育	経済と教育	配布資料の担当箇所を読んで、 KGノートを作成する	180分
第11回	教育の歴史 —グローバ リゼーション と教育	現代日本の教育	配布資料の担当箇所を読んで、 KGノートを作成する	180分
第12回	教育の思想 —ルソーの 教育思想	子どもの権利	配布資料の担当箇所を読んで、 KGノートを作成する	180分
第13回	教育の思想 —石川啄 木、島崎藤 村など	教師の自由	配布資料の担当箇所を読んで、 KGノートを作成する	180分
第14回	教育の思想 —フレイレ の課題発見 型学習	発展途上国の教育	配布資料の担当箇所を読んで、 KGノートを作成する	180分
第15回	教育の思想 —生活綴り 方教育	生活と教育の結合	配布資料の担当箇所を読んで、 KGノートを作成する	180分
第16回				
第17回				

学習計画注記	講義が中心であるが、質疑応答も重視する。				
学生へのフィードバック方法	学生には、KGノート（家庭学習ノート）の作成を指示している。講義ノートを自宅で再度、学習する際に、配付資料やテキストを写し、知識の習得を確実にするためである。KGノートを点検する。				
評価方法	KGノートと定期試験の総合評価				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	定期試験	○	○	○	
	KGノート	○		○	
評価割合	KGノート1割、試験9割、の総合評価				
使用教科書名 (ISBN番号)	特に、指定しない。				
参考図書	講義の中で、適宜、紹介する。				
ディプロマポリシーとの関連	知識、理解、人間社会の豊かな知識と理解ができる。 思考、判断、あるべき人間と教育の姿を追求できる 関心と表現、学習で得た知識を持って、他者と共感して、問題解決に向かうことが出来る				

<p>学生へのメッセージ</p>	<p>教育学は、実際にある、教育の現場の困難を解決するためにあるものだ。教育の困難とはどのようなものか、そのことをまずはイメージしてほしい。基礎知識を暗記して安心する、ということではない。現場の教育問題の困難を解決するために学ぶのだ、ということである。</p>	
<p>教育等の取組み状況</p>		
	<p>該当 有無</p>	<p>概要</p>
<p>実務経験を活かした授業</p>		
<p>アクティブ・ラーニング</p>		
<p>情報リテラシー教育</p>		
<p>ICT活用</p>		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	教育心理学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 木村 文香	指定なし

ナンバリング	Y10003M21
授業概要(教育目的)	教育心理学は、歴史的には、心理学の教育への応用から始まったが、近年では、「人と環境の相互作用から人間形成を解明しつつ、教育における諸問題の解決に必要な知識や技術を体系化する目的を持つもの」という捉え方をすることが多い。この過程で避けて通れないのは、人間形成はいかにあるべきかという問題である。教育心理学は、自らの教育観や人間観を見つめ直し、教育の目的や内容の妥当性を問い直し、よりよい教育の実現に、教職志望者の立場から貢献できる人材を育むための授業を行い、特に、実践的能力の涵養をはかる。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 教育心理学の理論を理解する。 2. 教育にまつわる事象が教育心理学の理論によってどのように説明できるのかを理解する。
思考・判断の観点 (K)	1. 教育心理学の理論を、教育現場において生かそうとすることができる。 2. 自身の疑問を教育心理学の知識を用いて解決しようとするすることができる。 3. 教育的な問題を教育心理学の知識を用いて解決しようとするすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教育現場での日常にある事象から、教育心理学的なテーマを見つけることができる。
技術・表現の観点 (A)	教育現場における問題、自身や身近な人の行動、及び社会現象に関して、教育心理学で得た知識に基づいて説明するなど、教育心理学と教育現場のつながりを発信することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション—心理学と教育、人の発達の間わり—	ガイダンスとして、授業の進め方、スケジュールなど、受講にあたっての基本を理解する。 その上で、教育心理学で扱う内容を概観し、これから学ぶ学問領域は何かを知る。 この授業ではgoogle classroomを使用するため、その使い方についても簡単に説明する。	教育心理学を学ぶ上で、自分が興味のある内容を考え、授業の該当回がいつなのかを見つける。また、授業に臨むにあたって、自分なりの目標を定める。	180分
第2回	発達と教育1—発達課題と身体的発達—	発達と教育について学ぶ。発達の定義、発達課題と、発達の身体的側面について知る。	「発達」に関して自分が持っていたイメージとの相違点を整理し、自分が関心のある分野と教育心理学のつながりを考える。	180分

第3回	発達と教育 2——運動 機能の発達 と発達の普 遍性と可変 性——	運動機能の発達について知り、発達の普遍的な部分と、時代や地域、文化によって可変的な部分について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第4回	発達と教育 3——脳と 神経の発達 ——	発達の内、脳と神経の発達について知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第5回	発達と教育 4——自我 の発達——	自我の発達について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第6回	発達と教育 5——自我 の防衛機制 ——	自我の防衛機制を理解し、日常場面、教育場面においてどのような状況が想定されるか考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第7回	発達と教育 6——社会 性の発達 ——	社会性の発達を理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第8回	発達と教育 7——認知 の発達——	認知の発達について理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第9回	学習を支える メカニズム 1——動機 づけ——	学習理論について知り、動機づけとは何かを理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第10回	学習を支える メカニズム 2——記憶 ——	記憶のメカニズムを理解する。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第11回	学習を支える メカニズム 3——自己 効力感 ——	自己効力感を理解し、教育現場でどのように応用できるかを考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第12回	学習に関する 理論1 ——条件づ け——	条件づけを理解し、教育現場でどのように応用できるかを考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第13回	学習に関する 理論2 ——観察学 習と技能学 習、教育に おける評価 ——	観察学習と技能学習について理解し、教育現場でどのように応用できるかを考える。評価とは何かを知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第14回	障害と教育 ——「障害 のある子ども 」とは ——	障害とは何かを理解し、特別支援教育やインクルーシブ教育について知る。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第15回	総括——教 育心理学の 理論の実践 への応用 ——	教育心理学の理論から、教育現場や子どもを取り巻く社会の中での課題を考え、どのように実践につなげるのかを考える。 授業の導入で、google classroomを用い、前回の授業の内容についての自己チェックを行う。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分

学習計画注記	講義を中心に展開する予定であるが、質疑応答・討論も大切にしたい。 その展開によって生じた流れを優先するため、上記スケジュールを変更することもある。
学生へのフィードバック方法	1. 授業時に実施する自己チェックについては、その都度、教員との間で結果を共有する。 2. コメント欄付きの出席カードについては、毎回配布、回収し、最終的に教員が出席状況と記入内容をチェックした後、返却する。
評価方法	最終試験をもとに総合評価を行う。授業への意欲、態度も加味する。
評価基準	
評価基準	

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
自己チェック	○		○	
出席カード (コメント式)		○	○	○
最終試験	○	○		

評価割合	最終試験70%、授業への意欲・態度 (自己チェック、出席カードなど) 30%
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。授業時にレジメを配布する。
参考図書	『教育心理学』丸善出版 ¥2,500 このほか適宜、授業の中で紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「教育」「学校」という観点から人間を相対化することで、「自然界における人間」を理解する心理学的な知識を得る。 【思考・判断】心理学的な思考をもって「教育」を理解し、その現代社会においてあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を得る。 【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々、特に学校現場のために働く能力を、教育の心理学への知識に基づく関心によって得る。 【技能・表現】学修で得た専門的スキル (技術) をもって人間社会、学校の中に課題を発見し、教育心理学的な思考や教育心理学の理論を用いて、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を得る。
オフィスアワー	前期：月曜日のお昼休み、3限、5限 (町田キャンパス1633室) 後期：月曜日のお昼休み、4限 (町田キャンパス1633室)
学生へのメッセージ	教室外学習は欠かさず行ってください。また、教育問題や、自分自身をも含めた「人」への関心を高めてください。 教職必修 質問等は下記メールアドレスまで。 fumicak★kasei-gakuin.ac.jp メール送信の際には★を@に変更してください。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	教育、福祉、医療・保健領域において、子どもを対象とする心理臨床活動を、臨床心理士として行った実務経験をベースに授業を行う。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	google classroomを、自己チェック、配布資料のアーカイブなどで活用する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	教育制度論（中・高・栄）		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田 敦子	指定なし

ナンバリング	Y20005M21
授業概要(教育目的)	なぜ、公教育制度が制定されるようになったのか。教育関連の制度が時代によってどのように変遷してきたのか、教育制度が現代教育問題とどのような関係があるのかについて、憲法、教育基本法、学校教育法、教育公務員特例法等の基本的な教育法規をもとに概説する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	憲法、教育基本法、学校教育法、児童福祉法等主な教育関連法について基本的な知識を有している。
思考・判断の観点 (K)	教育制度の成立過程や存在意義について考え、現状を判断する材料を有している。
関心・意欲・態度の観点 (V)	将来教員となるために教育制度に関して知り、活用しようとする意欲がある。
技術・表現の観点 (A)	法律を遵守し、また法律を守るように生徒を指導できる教育力・伝える力・表現力を持つ。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	教育制度を学ぶことの意味	人間社会にとって教育制度とは何か、について学ぶ。	本授業で教科書について説明を行う。授業後に、pp. 1-17を読んでおくこと。	120分
第2回	教育法のしくみ	教育関連法のしくみと相互関係を特に憲法と教育基本法について学ぶ。	授業前後に教科書pp. 18-38を良く読み、授業後に配布したレジュメを良く読むこと。	180分
第3回	子どもの学習権	子どもの権利、人権、学習権についてその権利を法律でどのように保証しているかを学ぶ。	授業前後に教科書pp. 163-183を良く読み、配布資料とワークシートも授業後に良く読んでおくこと。	180分
第4回	教職員の制度	教員はどのように法によって身分保障され、どのような権利と義務が課せられているのかを学ぶ。	授業後にワークシートをよく復習し、授業前後に教科書教科書pp. 58-68を良く読んでおくこと。	180分
第5回	教員の研修	教員養成・研修に関する制度について概説する。このよ	授業後に教科書pp. 80-94を良	180分

		うな制度がつけられた背景についても説明する。	く読んでおくこと。授業内で配布したワークシートを良く復習すること。	
第6回	学校教育法と義務教育	学校教育法に定められた学校の定義と義務教育の理念について学ぶ。	授業前後に教科書pp.102-125を良く読んでおくこと。	180分
第7回	教育委員会の制度	教育委員会の組織と職務および地域との関わりについて、概説する。	授業前後に教科書pp.68-79を良く読み、ワークシートを良く復習しておくこと。	180分
第8回	教育行政制度の歴史	教育委員会制度の歴史と現状の課題について新聞記事等を用いて概説する。	この部分は、教科書には無いので、授業後に配布資料とワークシートを良く読み、復習しておくこと。	120分
第9回	教科書制度	教科書制度の歴史と現状の問題点、教科書制度の国際比較を行い、教科書制度についての理解を深める。	授業前後に教科書pp.95-101を良く読み、ワークシートを良く復習しておくこと。	180分
第10回	義務教育と教育機会の均等	義務教育における教育機会の均等を定めた法制度と無償性の関係についてと現代社会における状況を概説する。	授業前後に教科書pp.102-106, pp.180-183を良く読み、ワークシートを良く復習しておくこと。30問程度の中間テストを実施するので、前回までに配布したワークシートを良く復習しておくこと。	240分
第11回	生涯学習	生涯学習がなぜ現代社会に必要なのか、生涯学習制度はどのように成立したのかを学ぶ。この部分は、教科書全体に関わる部分でもある。	教科書pp.24-38を良く読んでおくこと。配布資料とワークシートを良く読み、復習しておくこと。	120分
第12回	幼児教育と子育て支援	現代社会は、男女共同参画社会であることを踏まえて、夫婦が働きながら子育てをできる社会になるための子育て支援の法制度を学ぶ。	教科書pp.126-143を授業前後に良く読み、ワークシートを良く復習しておくこと。	120分
第13回	学校の安全管理	学校保健安全法に基づく学校における健康保持と安全、災害時の学校の対応等について学ぶ。災害が多い今日、どのような法律によって教育現場が運営維持されているかを知ることの重要性を理解する。	この部分は、教科書には無いので、配布資料とワークシートを良く読み、復習しておくこと	180分
第14回	教師の教育権について	アクティブラーニング：学校教員に教育権はあるか、あるとすればどのような権利かをグループディスカッションして、グループ毎に発表する。	参考文献にあげた図書をよく読んでくること。	120分
第15回	教育制度論を学び考えたこと	全体の授業での学びを振り返る。	教育制度論で学んだ子どもの学習権、学校教育制度、教員の権利義務、保護者の義務等をきちんと振り返り、期末テストに備える。	240分
第16回	期末テスト		テストに備えて予習・復習をしておく。	240分

学習計画注記	特になし
--------	------

学生へのフィードバック方法	中間テストは模範解答と共に返却する。
---------------	--------------------

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・30問程度の中間テストを1回実施する。 ・期末テストは、中間テストの設問中25問程度を含む50問である。 ・授業中に制度についての知識理解について随時質問を発する。教員の質問に対する応答も関心・意欲・態度の評価に含める。
------	---

評価基準	
------	--

評価基準	
------	--

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間テスト	○			
期末テスト	○	○		
授業態度・リアクションペーパー			○	

評価割合	受講態度20%、試験50%、中間テスト(30%)で総合評価。
------	--------------------------------

使用教科書名 (ISBN番号)	小玉 敏也 (編著), 鈴木 敏正 (編著), 降旗 信一 (編著) 『持続可能な未来のための教育制度論 (「ESDでひらく未来」シリーズ)』学文社 2018年 ISBN : 978-4-7620-2764-2
-----------------	---

参考図書	①ピーター・L・バーガー著 藺田稔訳『聖なる天蓋』新曜社 1995年 ②市川須美子編『教育小六法 平成30年版』学陽書房 2019年 ③兼子仁著『教育権の理論』勁草書房 1976年 ④堀尾輝久著『いま、教育基本法を読む』岩波書店 2003年 ⑤河田敦子著『近代日本地方教育行政制度の形成過程』風間書房 2011年
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。 【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に判断して行動できる
オフィスアワー	火曜日 午後15:00~16:30 (アポイントメントを取り、調整すること)
学生へのメッセージ	教育法規、教育制度に関する話が主になります。現代の自分たちの生活や教育現場と制度がどのように結び付いているかを、新聞やテレビの情報と共に考えながら受講してください。教育法制度の理論と内容をしっかり身に付けることは、教員採用試験でも教育現場でも役に立ちます。授業内容を積極的に吸収するようにしてください。 教職必修です。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	授業は、毎時学生に発言を求め、対話形式で行う。第14回では、グループディスカッション、プレゼンを行う。
情報リテラシー教育	○	資料として新聞記事を多く用いる。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	教育制度論（幼・小）		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	3・4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 中田 範子	指定なし
教授	齋藤 義雄	指定なし

ナンバリング	Y24001M21
授業概要(教育目的)	近代日本における教育制度の展開を論じる。教育制度は、教育政策と教育運動のダイナミックな動きによって、改編されてきた。教育政策の本質と機能、教育運動の果たした役割などを講じる。戦前と戦後、その違いが重要であるので、特に詳しく論じたい。また、今後の教育制度上の課題は何か、具体的に論じたい。
履修条件	3・4年次読み替え科目「教育・保育制度論」
学習目標(到達目標)	
学習目標（到達目標）	
知識・理解の観点 (K)	教育制度は、教育の実際を規定する。教育制度の歴史を踏まえ、教育の理念、目的を正確に理解し、その規定の原因を理解する。
思考・判断の観点 (K)	教育制度は、社会と政治、経済の影響をうけて機能している。広く、その関連に注目することのできる思想と判断力の形成をめざす。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

教育制度論

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	近代日本における教育制度の展開	講義で配布したテキストと資料を読みなおし、KGノートを作成する。	180分
第2回	近代と教育	江戸末期の教育、	講義で配布したテキストと資料を読みなおし、KGノートを作成する。	180分
第3回	近代と教育	学制(1872年)と福沢諭吉	講義で配布したテキストと資料を読みなおし、KGノートを作成する。	180分
第4回	自由民権運	自由民権と近代学校	講義で配布したテキストと資料	180分

	動と教育		を讀みなおし、KGノートを作成する。	
第5回	教育勅語	天皇制国家と教育	講義で配布したテキストと資料を讀みなおし、KGノートを作成する。	180分
第6回	教育勅語	教育勅語の成立と浸透	講義で配布したテキストと資料を讀みなおし、KGノートを作成する。	180分
第7回	教育制度の拡充	女子教育の拡充	講義で配布したテキストと資料を讀みなおし、KGノートを作成する。	180分
第8回	教育制度の拡充	国定教科書の成立	講義で配布したテキストと資料を讀みなおし、KGノートを作成する。	180分
第9回	植民地教育	朝鮮と台湾の教育、日本語教育	講義で配布したテキストと資料を讀みなおし、KGノートを作成する。	180分
第10回	大正期新教育	芸術教育運動	講義で配布したテキストと資料を讀みなおし、KGノートを作成する。	180分
第11回	戦後教育改革	教育基本法の成立	講義で配布したテキストと資料を讀みなおし、KGノートを作成する。	180分
第12回	戦後教育改革	山びこ学校	講義で配布したテキストと資料を讀みなおし、KGノートを作成する。	180分
第13回	1950年代の教育	東西対立と教育制度の変容	講義で配布したテキストと資料を讀みなおし、KGノートを作成する。	180分
第14回	高度経済成長と教育	学習指導要領の変遷と能力主義教育	講義で配布したテキストと資料を讀みなおし、KGノートを作成する。	180分
第15回	まとめ	近代日本の教育制度の進展	講義で配布したテキストと資料を讀みなおし、KGノートを作成する。	180分

学生へのフィードバック方法 学生には、KGノート（家庭学習ノート）を自宅で作成するように指示する。講義で書いたノートを、自宅で再度、あらためて見直して、作成する。確実に知識の習得をめざすよう点検を行う。

評価方法 定期試験とKGノートの総合評価

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○	○		
KGノート	○		○	

評価割合 KGノート1割、定期試験9割、など総合評価。

使用教科書名 (ISBN番号) 有斐閣の『やさしい教育原理』

参考図書 講義の中で、適宜、紹介する。

ディプロマポリシーとの関連 知識、理解、歴史的な知識を得ることができる
思考、判断、あるべき教育と人間の姿を追究できる判断力の形成

オフィスアワー 月曜日4限

学生へのメッセージ 歴史的な説明が大変をしめる講義になる。教育には歴史があるのだ、という当たり前の事実を、まずは、知ってほしい。近代的な学校はいつからスタートしたのか、なぜ、学校は生まれたのか、民衆は学校をどのように受け入れたのか、等々、である。近代日本には、4つの大きな戦争を経験してきた。実は、教育制度は、この戦争と密接な関連をもっていた。こうした事実を、関心を示せる力量をみにつけてほしい。今後の教育の困難な課題に向きあうためには、ぜひ必要な力量となることを、想像して、勉強にどん欲に臨んでほしい。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	教育制度論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	6限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 佐藤 広美	指定なし

ナンバリング	Y20005C21
授業概要(教育目的)	近代日本における教育制度の展開を論じる。教育制度は、教育政策と教育運動のダイナミックな動きによって、改編されてきた。教育政策の本質と機能、教育運動の果たした役割などを講じる。戦前と戦後、その違いが重要であるので、特に詳しく論じたい。また、今後の教育制度上の課題は何か、具体的に論じたい。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1, 教育制度は、教育の実際を規定する事を理解する。 2, 教育制度の歴史を踏まえ、教育の理念、目的を正確に理解し、その規定要因を理解する。
思考・判断の観点 (K)	1, 教育現場の実際を理解し、教育制度による規定要因を判断出来るようにする。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1, 教育現場に生ずる問題を、教育制度との関連で考える関心を深め、意欲的に学習する態度を形成する。
技術・表現の観点 (A)	1, 教育問題を教育制度との関連で考え、自分の意見を発表できる。

学習計画

教育制度論

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	近代日本における教育制度の展開	講義で配布した資料とテキストを読みなおし、KGノートを作成する	180分
第2回	明治憲法と教育	教育勅語体制	講義で配布した資料とテキストを読みなおし、KGノートを作成する	180分
第3回	教育制度の拡充と女子教育	女子教育	講義で配布した資料とテキストを読みなおし、KGノートを作成する	180分
第4回	国定教科書とは何か	検定と国定	講義で配布した資料とテキストを読みなおし、KGノートを作成する	180分

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	教育課程論		
講義開講時期	後期前半	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 齋藤 義雄	指定なし

ナンバリング	Y20006M11			
授業概要(教育目的)	学校教育にはさまざまな問題が山積しており、新たな学校教育のあり方が問われている。そこで重要となるのが、「学校における子どもの学びの総体」である教育課程（カリキュラム）の充実である。また、教育課程経営（カリキュラムマネジメント）の重要さも増している。この講義では、教育課程（カリキュラム）や教育課程経営（カリキュラムマネジメント）をとらえる際に必要な視点や教育課程を規定している学習指導要領についての基礎的・基本的事項について、歴史的な視点を通して講義を行う。			
履修条件	特になし			
学習目標(到達目標)	学習目標（到達目標）			
知識・理解の観点（K）	1 教育課程の意義が理解できる。 2 教育課程に関する基礎的・基本的な知識を獲得し、編成の方法を理解できる。			
思考・判断の観点（K）				
関心・意欲・態度の観点（V）				
技術・表現の観点（A）				
学習計画	教育課程論			
回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	1 ガイダンス、教育課程とカリキュラムの類型	教育課程とカリキュラムの類型を理解する。	教科書の第1章（p8～16）と第2章（p18～22）を読んでおくこと。	120分
第2回	2 教育課程に関する法制及び行政	教育課程に関する法制及び行政、教科書検定制度を理解する。	教科書の第2章（p22～27）と第3章（p30～38）を読んでおくこと。	120分
第3回	3 近代日本の教育課程	明治期や大正自由教育、国民学校を理解する。	教科書の第4章（p40～48）を読んでおくこと。	120分

第4回	4 現代日本の教育課程、昭和編	戦後の経験主義、現代化とゆとり教育を理解する。	教科書の第5章（p50～58）を読んでおくこと。	120分
第5回	5 現代日本の教育課程、平成編	ゆとり教育と生きる力を理解する。	教科書の第6章（p60～68）を読んでおくこと。	120分
第6回	6 学習指導要領の改訂	学習指導要領（中学校編、高等学校編）の解説を学び、詳細を理解する。 新学習指導要領が工夫した点と課題を理解する。	教科書の第7章（p70～77）を読んでおくこと。 レポート（新学習指導要領が工夫した点と課題）の作成。	180分
第7回	7 教育課程の評価とカリキュラムマネジメント	教育課程の評価、カリキュラムマネジメントを理解する。	教科書の第9章（p94～105）と第10章（p108～117）を読んでおくこと。	210分
第8回	8 まとめ、試験	学習のまとめと定期試験を実施する。	これまでの学習の総まとめを行う。	270分

学生へのフィードバック方法 授業の最初と最後には質問の時間を設定するとともに、授業以外では研究室に質問に来ること。提出したノートは、確認後返却する。

評価方法 定期試験は、100点満点で出題する。出題の傾向については、最後の授業で説明し、内容は教員採用試験に出題されるような基礎・基本とする。出題方法は、記述式・選択式の問題を出題する。レポートは、最新の教育課題または学習指導案を作成してもらう予定である。授業のノートはきちんととること。記述したノートに関しては、確認し、その後返却する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			
レポート		○		
ノート	○			
積極的な参加態度			○	

評価割合 定期試験 70%、平常点 30%で評価する。
定期試験：基礎的・基本的な用語を理解し、身に付ける。
平常点：授業への積極的な参加態度、レポート、ノート等

使用教科書名 (ISBN番号) 齋藤義雄・倉本哲男・野澤有希『教育課程論—カリキュラムマネジメント入門—』大学図書出版 2018年 (978-4-907166-86-1)

参考図書 『学習指導要領中学校編』、『学習指導要領高等学校編』文部科学省

ディプロマポリシーとの関連 【知識理解】子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。

オフィスアワー 月曜日4限 1628研究室

学生へのメッセージ 教員免許は、取得するだけでなく教職に就いて初めて生かされる。本講義では、まず教育課程論の教員採用試験に出題されるような基礎的・基本的な内容、重要なポイントについて理解し、身に付けてもらう。身に付けた知識は、実際の教育活動で活用してほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、中学校・小学校において教員、教務主任としての実務経験を有している。学習指導要領に基づいた教科指導や教育課程の編成・運用に関して、実務経験に基づいた経験を積極的に伝えている。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	家庭科教育法 A		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 和田 早苗	指定なし

ナンバリング	Y21101M21
授業概要(教育目的)	中学校・高等学校の家庭科を担当するために必要な基礎知識（家庭科の歴史、教科目標、内容、意義、評価等）について学び、中学生、高校生の発達段階や生活状況、社会の変化の動向を考慮した教育法や題材の選び方を検討し、家庭科についての理解を深めることを目的とする。それらをふまえ、学習指導案の作成および検討、模擬授業を行う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・中学校・高等学校の家庭科の目標や内容、学習方法、評価等について理解することができる。 ・中学生、高校生の発達段階や生活状況、社会の変化の動向を理解した上で学習指導案を作成することができる。
思考・判断の観点 (K)	・学習指導案の検討や模擬授業の際に、受講生同士で良い部分や改善点を指摘することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	・家庭科の効果的な学習方法について、進んで考えることができる。
技術・表現の観点 (A)	・生活に関して調べたことを自分なりに工夫してまとめ、発表することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス、家庭科とは	家庭科とはどのような教科なのか、自分達が学んできた家庭科を振り返りながら考える。	家庭科の教科書に目を通し、家庭科の内容についておさえる。	180分
第2回	家庭科教育の理念、歴史的変遷	家庭科教育が歩んできた道のりを振り返り、家庭科教育で求められていること、何をねらいとしているのかを考える。	学習指導要領解説の総説を読み、改訂の経緯や趣旨・要点をおさえておく。	180分
第3回	家庭科の学習内容(1) 家庭・家族	家庭・家族に関する内容について授業の際にどのようなことに気をつけたらよいのかを扱う。	教科書および学習指導要領解説の家庭・家族に関する部分を読んでおく。授業で取り上げた事項について確認する。	180分
第4回	家庭科の学習内容(2) 衣生活	衣生活の基礎基本事項をおさえる。	教科書および学習指導要領解説の衣生活に関する部分を読んでおく。授業で取り上げた事項について確認する。	180分

第5回	家庭科の学習内容(3) 食生活	食生活の基礎基本事項をおさえて授業の際にどのようなことに気をつけたらよいのかを扱う。	教科書および学習指導要領解説の食生活に関する部分を読んでおく。授業で取り上げた事項について確認する。	180分
第6回	家庭科の学習内容(4) 住生活	住生活の基礎基本事項をおさえる。	教科書および学習指導要領解説の住生活に関する部分を読んでおく。授業で取り上げた事項について確認する。	180分
第7回	家庭科の学習内容(5) 環境	環境に配慮した生活について、授業で実施できるアクティブ・ラーニングを取り入れて考える。	教科書および学習指導要領解説の環境に関する部分を読んでおく。授業で取り上げた事項について確認する。	180分
第8回	家庭科の学習内容(6) 消費生活	消費生活について、生徒が主体的に考えるような授業方法を考えていく。	教科書および学習指導要領解説の消費生活に関する部分を読んでおく。授業で取り上げた事項について確認する。	180分
第9回	家庭科の評価と年間指導計画	家庭科の評価の観点、家庭科の授業計画の立て方などを扱う。	授業で取り上げた内容を確認し、授業計画を立てる上でのポイントを整理しておく。	180分
第10回	学習指導案の作成方法	家庭科の学習指導案の作成方法について扱う。	授業で取り上げた内容を確認し、模擬授業で取り扱いたい内容を考えて、学習指導案を作成するための資料を集める。	180分
第11回	学習指導案の作成(1) 家庭科の教科目標	家庭科の目標について考える。グループで家庭科の学習指導案を作成する。	授業で取り上げた内容を確認し、学習指導案を作成する。	180分
第12回	学習指導案の作成(2) 授業の展開	授業を展開する方法について考える。グループで家庭科の学習指導案を作成する。	授業で取り上げた内容を確認し、学習指導案を作成する。	180分
第13回	学習指導案の検討	作成した学習指導案について意見交換を行う。	配布プリントの作成。模擬授業の準備・練習をする。	180分
第14回	模擬授業(1)	模擬授業を行い、学習指導案の改善点を考える。	模擬授業担当班は授業の準備・練習をする。学習指導案を見直し、意見交換でもらったアドバイスを参考にして修正する。	180分
第15回	模擬授業(2)、総括	模擬授業を行い、学習指導案を改善する。	模擬授業担当班は授業の準備・練習をする。学習指導案を見直し、意見交換でもらったアドバイスを参考にして修正する。これまでの授業内容を復習する。	180分

学習計画注記	受講人数や授業の進捗によりスケジュールを変更する可能性があります。
学生へのフィードバック方法	提出物に対しては内容を吟味して授業内で解説する。
評価方法	学期末レポート（グループで作成した学習指導案に個人で修正を施したもの、および省察）、授業内提出物、小レポート（レジュメ原稿および発表）、平常点（授業への取り組みや発言、グループでのアクティビティ）等を総合的に評価する。

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート（学習指導案、省察）	○	○	○	○
授業内提出物	○	○	○	○
小レポート	○		○	○
平常点（授業への参加状況）			○	

評価割合	レポート：40% 授業内提出物：40% 小レポート：10% 平常点：10%
------	--

使用教科書名 (ISBN番号)	文部科学省「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」（開隆堂）978-4-304-02154-1 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 家庭編」（教育図書）978-4-87730-419-5
-----------------	---

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】【思考・判断】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を身につけている。</p> <p>【技術・表現】学修で得た専門的技能(技術)をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を身につけている。</p>
学生へのメッセージ	<p>普段から生活に関することに興味・関心を持ち、授業で扱った内容との関連性を考えるようにしてください。授業では受け身にならないよう、積極的に参加・発言するよう心掛けてください。</p>

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は中学校にて家庭科非常勤講師をしており、実際に授業を行う上での心構え、配慮事項等について紹介しておく。
アクティブ・ラーニング	○	家庭科の授業に生かすことのできるようにディベートやロールプレイング等様々なアクティブ・ラーニングの要素を取り入れて授業を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	家庭科教育法 A		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	4 限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 花形 美緒	指定なし
教授	上村 協子	指定なし
准教授	竹中 真紀子	指定なし

ナンバリング	Y21101021
授業概要(教育目的)	小学校・中学校・高等学校での家庭科の教科としての位置づけ、学習指導要領における家庭科の目標と指導内容の現状および歴史的経緯を概説する。学習指導案の作成方法など、指導計画や指導方法の基本についての講義や、先輩の教育実習経験などを踏まえ、多様な教材研究をもとに生活を工夫し創造する態度を育成する家庭科教育の意義を探究する。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	学習指導要領の歴史的変遷、小学校・中学校・高等学校における家庭科教育の現状と家庭科教員としてもとめられる事柄を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	自身の生活における課題発見、課題の解決方法の検討と計画、課題解決に向けた実践活動、実践活動の評価・改善というプロセスに沿って適切に判断・行動できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	社会の諸問題について関心を持ち続け、生活者の視点に立ち持続可能な社会の創造に寄与できる。
技術・表現の観点 (A)	グループ発表やノートへの記入において重要な事項を適切に表現することができる。

学習計画

家庭科教育法A

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業予定、評価方法、教科書について確認する。これまで自分が受けてきた家庭科の授業を振り返り、これからの学びをイメージする。	予習として、自身の中学校・高等学校での家庭科の学びについて、教科書等を読み直し振り返っておくこと。授業後に、本時のポイント等をノートにまとめておくこと。	180分
第2回	家庭科とは	家庭科教育の歴史や科目構成などについて学ぶ。	授業後に、ノートに授業のポイントをまとめ直し、配布プリン	180分

			ト等の内容を復習しておくこと。	
第3回	家庭科における食生活領域の学び	家庭科の各科目における食生活領域の学びについて比較し、高等学校「家庭総合」における食生活の学びについて深く理解する。	本授業で指定した教科書（高等学校 家庭総合）の食生活の部分を読んでおくこと。また、自身が高校で使用した教科書の相当する部分も読んでおくこと。	180分
第4回	家庭科の役割と家庭科教員の役割、家族・家庭・福祉領域の学び	小・中・高の家庭科での学習について、また改訂などにより家庭科に求められるものがどのように変化してきたのかについて学ぶ。担当教員の実際の学校での授業経験などから、家庭科教員としての自分の目指す教員像を思い描く。家庭科における家族・家庭・福祉領域の学びについて理解する。	学習指導要領の改訂について、配布プリント等の内容を復習すること。家庭科教員となったらどのような授業をしていきたいか、学習指導案作成までに考えをふくらませておくこと。	180分
第5回	家庭科における衣生活の学び	家庭科の各科目における衣生活領域の学びについて比較し、高等学校「家庭総合」における衣生活の学びについて深く理解する。	本授業で指定した教科書の衣生活の部分を読んでおくこと。また、自身が高校で使用した教科書の相当する部分も読んでおくこと。	180分
第6回	家庭科における住生活の学び	家庭科の各科目における住生活領域の学びについて比較し、高等学校「家庭総合」における住生活の学びについて深く理解する。	本授業で指定した教科書の住生活の部分を読んでおくこと。また、自身が高校で使用した教科書の相当する部分も読んでおくこと。	180分
第7回	年間指導計画、学習指導案の作成方法	家庭科教育の年間指導計画の立て方と学習指導案の作成方法について学ぶ。	家庭科教育の年間指導計画の立て方と学習指導案の作成方法について復習する。	180分
第8回	模擬授業の考察（1）	先輩の模擬授業の動画を見て、考察シートに従って考察・記録する。	考察対象とした模擬授業の内容に相当する部分を、指定した教科書を読んで考察を深める。	180分
第9回	模擬授業の考察（2）	先輩の模擬授業の動画を見て、考察シートに従って考察・記録する。	考察対象とした模擬授業の内容に相当する部分を、指定した教科書を読んで考察を深める。	180分
第10回	模擬授業の考察のまとめ	これまでの模擬授業の考察を振り返り、まとめを行う。	考察対象とした模擬授業の内容に相当する部分を、指定した教科書を読んで考察を深める。	180分
第11回	課題に振り替え	内容については前週までの授業において指示する。		
第12回	家庭科における家庭経済・消費者領域の学び	家庭科教育の歴史的変遷について学び、あわせて本学の家庭科教育法では、「消費生活と環境」教育の重要性を認識し、先輩たちが契約や生活設計の模擬授業を行ってきた歴史があることを理解する。	予習として新聞記事から家庭経済・消費生活に関する記事をえらびノートにスクラップしておくこと。復習として新聞記事をつかった授業内容をまとめること。	180分
第13回	学習指導案の作成	個人で作成している学習指導案をペールに、グループで意見交換を行う。	次時の試験に備え、これまでの授業内容を復習しておくこと。	180分
第14回	期末試験	期末試験に取り組む。	課された課題に取り組む。	180分

学習計画注記 授業の進み具合や、特別授業の講師の都合等によりスケジュールが変更になることがあります。

学生へのフィードバック方法 遠隔授業期間は、提出された課題に対して教員からコメントを行う。

評価方法 模擬授業の考察や指導案の作成、デジタル教材の作成等を課題として、内容を評価する。定期試験では、主に学習指導要領の理解に関する出題を行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
グループ発表	○	○	○	○
課題	○	○	○	○
定期試験	○			

評価割合	平常点：40%、課題：20%、定期試験：40%	
使用教科書名 (ISBN番号)	(1) 学習指導要領解説 (高等学校 家庭) / 文部科学省 (2) 学習指導要領解説 (中学校 技術・家庭) / 文部科学省 (978-4-304-02154-1) (3) 高等学校 家庭総合 パートナーシップでつくる未来 / 実教出版 (978-4-407-20382-0)	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。 【技術・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。	
オフィスアワー	専任教員については担当教員のゼミ室 (研究室) 前の掲示を確認してください。	
学生へのメッセージ	教員免許取得のための授業であり、受講に際しては、私語、携帯電話の使用や授業に関係のない行動を取るなど、受講態度に問題がある場合には退席を求める。面接授業では、グループ内のメンバーと協力して授業参加することが求められる。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	模擬授業を通して、自ら授業を作り上げ他の受講生に伝えるとともに、他の受講生の授業に対して意見を述べ、受講生同士が互いの理解を深めながら自身を高めていくことを目指す。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	家庭科教育法B		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 和田 早苗	指定なし

ナンバリング	Y21102M21
授業概要(教育目的)	家庭科教育法Aの内容を踏まえて、様々な学習方法や指導する際の手がかりについて検討する。学習指導案の作成および模擬授業を行い、意見交換等を通して授業実践力を身につけ、中学校・高等学校の家庭科についてさらに理解を深めることを目的としている。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	中学校・高等学校の家庭科について理解を深めた上で学習指導案を作成することができる。
思考・判断の観点 (K)	受講生同士で模擬授業を検討し、より良いものに改善することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	家庭科を指導する際に必要な知識と技術を進んで身につけることができる。
技術・表現の観点 (A)	学習者にとって意義のある教材・教具を作成することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	家庭科教育法Aの授業を振り返り、模擬授業の担当領域を決める。	家庭科教育法Aで行ったことを復習しておく。模擬授業で取り扱いたい内容を考えて学習指導案を作成する準備をする。	180分
第2回	学習指導案、教具・教材の作成方法	家庭科の様々な学習方法、教具教材の意義について知る。	授業で取り上げた内容を確認し、学習指導案を作成する。	180分
第3回	衣生活実習(1)基礎縫い	基礎縫いを復習し、指導上の留意点を考える。	教科書で基礎縫いについて確認しておく。	180分
第4回	衣生活実習(2)作品製作	簡単な小物製作を通して製作実習の指導上の留意点を考える。	基礎的な裁縫技能を確認しておく。	180分
第5回	衣生活実習(3)作品製	簡単な小物製作を通して製作実習の指導上の留意点を考える。	製作実習を振り返り、製作の記録を作成する。	180分

	作および製作実習振り返り			
第6回	模擬授業 (1)家庭・家族	家庭・家族に関する内容をどのように教えたらよいか、模擬授業を通して体験的に学ぶ。	模擬授業の内容を確認し、授業を観察するポイントについて考える。授業後は模擬授業を振り返り、改善点について考える。	180分
第7回	模擬授業 (2)保育	保育に関する内容をどのように教えたらよいか、模擬授業を通して体験的に学ぶ。	模擬授業の内容を確認し、授業を観察するポイントについて考える。授業後は模擬授業を振り返り、改善点について考える。	180分
第8回	模擬授業 (3)高齢者、福祉、共生	高齢者、福祉、共生に関する内容をどのように教えたらよいか、模擬授業を通して体験的に学ぶ。	模擬授業の内容を確認し、授業を観察するポイントについて考える。授業後は模擬授業を振り返り、改善点について考える。	180分
第9回	模擬授業 (4)食生活	食生活に関する内容をどのように教えたらよいか、模擬授業を通して体験的に学ぶ。	模擬授業の内容を確認し、授業を観察するポイントについて考える。授業後は模擬授業を振り返り、改善点について考える。	180分
第10回	模擬授業 (5)衣生活	衣生活に関する内容をどのように教えたらよいか、模擬授業を通して体験的に学ぶ。	模擬授業の内容を確認し、授業を観察するポイントについて考える。授業後は模擬授業を振り返り、改善点について考える。	180分
第11回	模擬授業 (6)住生活	住生活に関する内容をどのように教えたらよいか、模擬授業を通して体験的に学ぶ。	模擬授業の内容を確認し、授業を観察するポイントについて考える。授業後は模擬授業を振り返り、改善点について考える。	180分
第12回	模擬授業 (7)環境	環境に関する内容をどのように教えたらよいか、模擬授業を通して体験的に学ぶ。	模擬授業の内容を確認し、授業を観察するポイントについて考える。授業後は模擬授業を振り返り、改善点について考える。	180分
第13回	模擬授業 (8)経済生活・消費者	経済生活・消費者に関する内容をどのように教えたらよいか、模擬授業を通して体験的に学ぶ。	模擬授業の内容を確認し、授業を観察するポイントについて考える。授業後は模擬授業を振り返り、改善点について考える。	180分
第14回	模擬授業の振り返り	模擬授業を振り返り、学習内容・学習方法についておさえる。	模擬授業を振り返り、学習指導案の修正・改善を行う。	180分
第15回	学習指導案の検討、修正、総括	意見交換でもらったアドバイスをもとに学習指導案の改善を行う。	学習指導案、配布プリントの修正・改善を行う。これまでの授業内容を復習する。	180分

学習計画注記 受講人数や授業の進捗によりスケジュールを変更する可能性があります。

学生へのフィードバック方法 提出物に対しては内容を吟味して授業内で解説する。学習指導案には個別にコメントする。

評価方法 学期末レポート（学習指導案、教材、省察）、模擬授業、授業内提出物、作品製作（作品、製作の記録）、平常点（授業への取り組みや発言、グループでのアクティビティ）等を総合的に評価する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
学期末レポート	○	○	○	○
模擬授業	○	○	○	○
授業内提出物	○	○	○	○
作品製作	○		○	○
平常点			○	

評価割合 レポート（学習指導案、教材、省察）：40%
 模擬授業：15%
 授業内提出物：20%
 作品製作：10%
 平常点：15%

使用教科書名 (ISBN番号) 文部科学省「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」（開隆堂）978-4-304-02154-1
 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 家庭編」（教育図書）978-4-87730-419-5

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】【思考・判断】人間社会と自然の多様性を豊かな知識と深い思考をもって理解し、そのあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を身につけている。</p> <p>【技術・表現】学修で得た専門的技能（技術）をもって人間社会と自然の中に課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を身につけている。</p>
学生へのメッセージ	<p>普段から生活に関することに興味・関心を持ち、家庭科の授業でどのようにいかすことができるかを考えるようにしてください。</p> <p>第3～5回では基礎縫い・布小物製作を行います。以下のものを各自で用意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・裁縫用具（針・糸・糸切りばさみ） ・ボタン1～2個（2つ穴あるいは4つ穴ボタン。大きさは自由。） ・布小物製作の材料 <p>詳しくは、初回授業にて説明します。</p>

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は中学校にて家庭科非常勤講師をしており、実際に授業を行う上での心構え、配慮事項等について紹介してく。
アクティブ・ラーニング	○	家庭科の授業に生かすことのできるようにディベートやロールプレイング等様々なアクティブ・ラーニングの要素を取り入れて授業を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	家庭科教育法B		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 上村 協子	指定なし
准教授	竹中 真紀子	指定なし
非常勤講師	花形 美緒	指定なし

ナンバリング	Y21102C21
授業概要(教育目的)	体験的な学習活動を通して「家族・家庭」、「衣食住の生活」、「消費と環境」等の科学的な理解を図り「生活の営みに係る見方・考え方」を養う家庭科教員に必要とされる資質を身につけるための基本的な態度を養う。教科に関する学びの内容を踏まえ、グループによりテーマを定め、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業の実施という一連の流れを通して、学生同士が評価し合いながら実践力を高めることを目的とする。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	家政学と家庭科教育の歴史の変遷、家庭科教員として求められるカリキュラムマネジメントについて説明できる。
思考・判断の観点 (K)	自身の生活における課題発見、課題の解決方法の検討と計画、課題解決に向けた実践活動、実践活動の評価・改善というプロセスに沿って適切に判断・行動できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	成年年齢18歳引き下げを踏まえて、男女が協力して主体的に家庭を築き相互に支え合う社会の構築に向けて家庭や地域の生活を創造しようとする態度や主体的に地域社会と関わり、参画することができる。
技術・表現の観点 (A)	小・中・高等学校家庭科の系統性を明確化し「家族・家庭生活」、「衣食住の生活」、「消費生活と環境」の三つの枠組みに整理し家庭科の授業を構成することができる。

学習計画

家庭科教育法B

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業予定、評価方法などについて確認する。この授業に向けて課した課題への取り組みを通して感じたことなどを受講生同士伝え合う。	事前に課した「学習指導案およびワークシートの作成」を行う。	180分
第2回	家庭科の教材研究	家庭科の授業を計画する際に、教科書や資料集以外に日常生活の中から教材として用いることができるものについて考察する。実際に身の回りのものに目を向け、模擬授業に使用できるかどうか検討する。	次時以降の模擬授業において、導入部分あるいは展開部分で使用できそうな教材や見本を、日常生活の中から探して持参できるように準備すること。	180分

第3回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 (1) 家族	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、10分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第4回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 (2) 子ども	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、10分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第5回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 (3) 高齢者	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、10分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第6回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 (4) 食生活	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、10分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第7回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 (5) 衣生活	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、10分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第8回	家庭科の授業と学び	5回の模擬授業を通して、「生徒に伝わる家庭科の授業」の在り方について考察し、次回以降の模擬授業に活かす姿勢を養う。	授業後に、アースノートに講義のポイントや感想をまとめておくこと。	180分
第9回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 (6) 住生活	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、10分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第10回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 (7) 消費行動	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、10分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第11回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 (8) 持続可能な社会環境	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、10分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第12回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 (9) ライフステージと経済計画	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、10分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第13回	模擬授業の振り返り・考察	これまでの全ての模擬授業を振り返り、領域ごとに最も優れていた模擬授業を選び、考察する。	授業後に、アースノートに講義のポイントや感想をまとめておくこと。	180分
第14回	模擬授業の記録	前時に選ばれた模擬授業の担当者は再度授業を実施し、それを次年度以降の教材とするために動画として記録する。	授業後に、アースノートに講義のポイントや感想をまとめておくこと。また、次週のアースノート提出に向けて、ノート全体のまとめを完成させること。	180分
第15回	まとめ	これまでの授業全体を振り返り、領域ごとの授業のポイントを確認し、学習指導案とも対応させて理解を定着させる。	授業全体をよく振り返り、定期試験に向けて準備を行うこと。	180分

学習計画注記	授業の進み具合でスケジュールが変更になることがあります。				
学生へのフィードバック方法	模擬授業についてはその都度評価や改善を要する点をフィードバックする。				
評価方法	模擬授業については、内容や発表態度を評価する。アースノートは最終授業後に回収し、内容を評価する。定期試験では、学習指導案に関する出題を行う。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	模擬授業	○	○	○	○
	アースノート	○			○
	定期試験	○			
評価割合	平常点（模擬授業の内容含む）：40%、授業記録（アースノートへの授業記録）：20%、定期試験：40%				
使用教科書名 (ISBN番号)	(1) 学習指導要領解説（高等学校 家庭）／文部科学省（2019年3月15日現在、最新版入手不可） (2) 高等学校 家庭総合 パートナリシップでつくる未来／実教出版（978-4-407-20382-0）				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【思考・判断】生活社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができる。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。 【技術・表現】次世代につながる健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができる。				
オフィスアワー	専任教員について担当教員のゼミ室（研究室）前の掲示を確認してください。				
学生へのメッセージ	教員免許取得のための授業であり、受講に際しては、私語、携帯電話の使用などや、授業に関係のない行動を取るなど、受講態度に問題がある場合には退席を求める。学習指導案作成等のグループ単位での活動が多いため、グループ内のメンバーと協力して授業参加することが求められる。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング	○	模擬授業を通して、自ら授業を作り上げ他の受講生に伝えるとともに、他の受講生の授業に対して意見を述べ、受講生同士が互いの理解を深めながら自身を高めていくことを目指す。			
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	家庭科教育法 C		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 花形 美緒	指定なし

ナンバリング	Y31103M21
授業概要(教育目的)	家庭科教育法A, Bで学習した中学校「技術・家庭」の「家庭分野」と高等学校「家庭」の目標及び内容について確認する。家庭科の授業づくりでは教材研究、年間指導計画、題材(単元)別指導計画、学習指導案の作成、模擬授業を通して実践力を高める。
履修条件	家庭科教育法A・Bを履修していること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	学習指導要領の改訂に伴う、小学校・中学校・高等学校における家庭科教育の現状と意義、家庭科の授業内容について総合的な知識を持ち、家庭科教員として求められる事柄を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	現代社会における生活課題を発見し、多様な情報を整理した上で自らの経験や体験、知識に基づき課題解決方法を検討することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	家庭科の各領域の学びにより、社会の諸問題に関心を持ち、社会に貢献したいという態度を持って、生活者として持続可能な社会の創造に寄与できる。
技術・表現の観点 (A)	模擬授業や相互評価を通して、教育者として求められるコミュニケーション能力や豊かな表現力を身につけることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業予定、評価方法、教科書等について確認する。家庭科教育法A・Bの履修を通して学んだことを振り返り、家庭科教育法C・Dでどのように発展させるか、家庭科教員として自分自身の目指す教員像を思い描く。	予習として、自分自身の中学・高校時代での家庭科の学びについて振り返っておくこと。家庭科教育法A・Bで学んだ内容についても振り返っておくこと。	180
第2回	家庭科教育の目標と内容、授業形態、授業計画	改訂された家庭科の科目構成や学習指導要領について学び、授業計画の作成方法などについて理解する。	授業後に、授業のポイントを自分の言葉でまとめ、年間授業計画について授業で作成したものを直視しておくこと。	180
第3回	家庭科教育の意義、指導方法	家庭科教育の意義について、家庭科に求められるものはどのように変化してきたのかを学ぶ。さらに家庭科教員	学習指導要領の改訂についてプリント等を整理しまとめること。自分自身がどのような家庭	180

		としての指導方法について、担当教員の実際の学校での授業経験から考察する。	科の授業をしたいか、模擬授業の指導案作成時までに考えておくこと。	
第4回	家庭科における家族・家庭及び福祉領域の学び及び学習指導案の作成	高等学校「家庭総合」における家族・家庭及び福祉領域について学び、学習指導案を計画・作成する。	授業で指定した教科書（高等学校家庭総合）の該当部分を読んでおくこと。自身が高校で使用した教科書の相当部分も読んでおくこと。	180
第5回	家庭科における家庭経済・消費者領域の学び及び学習指導案の作成	高等学校「家庭総合」における家庭経済・消費者領域について学び、学習指導案を計画・作成する。	授業で指定した教科書（高等学校家庭総合）の該当部分を読んでおくこと。自身が高校で使用した教科書の相当部分も読んでおくこと。	180
第6回	家庭科における食生活領域の学び及び学習指導案の作成	高等学校「家庭総合」における食生活領域について学び、学習指導案を計画・作成する。	授業で指定した教科書（高等学校家庭総合）の該当部分を読んでおくこと。自身が高校で使用した教科書の相当部分も読んでおくこと。	180
第7回	家庭科における衣生活領域の学び及び学習指導案の作成	高等学校「家庭総合」における衣生活領域について学び、学習指導案を計画・作成する。	授業で指定した教科書（高等学校家庭総合）の該当部分を読んでおくこと。自身が高校で使用した教科書の相当部分も読んでおくこと。	180
第8回	家庭科における住生活領域の学び及び学習指導案の作成	高等学校「家庭総合」における住生活領域について学び、学習指導案を計画・作成する。	授業で指定した教科書（高等学校家庭総合）の該当部分を読んでおくこと。自身が高校で使用した教科書の相当部分も読んでおくこと。	180
第9回	学習指導案の作成・考察及び模擬授業・省察（1）家族・家庭及び福祉領域	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180
第10回	学習指導案の作成・考察及び模擬授業・省察（2）家庭経済・消費者領域	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180
第11回	学習指導案の作成・考察及び模擬授業・省察（3）食生活領域	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180
第12回	学習指導案の作成・考察及び模擬授業・省察（4）衣生活領域	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180
第13回	学習指導案の作成・考察及び模擬授業・省察（5）住生活領域	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180
第14回	教育実習報告会	教育実習を行った4年生の学生の教育実習体験授業（主に研究授業について）を、司会進行を分担しながら聴講する。教育実習や教育現場での授業について理解を深める。	授業後に、先輩の教育実習についての報告のポイントや感想をまとめておくこと。	180
第15回	学習指導案・模擬授業の考察および総括	授業で作成した学習指導案と、実際に行った模擬授業を振り返り、改善点を修正する。	修正した箇所をポイントごとにまとめ、後期の授業や教育実習につなげられるようにしておくこと。	180

学生へのフィードバック方法	模擬授業については、内容や授業の進め方などその都度評価し改善を要する点を伝えるなどしフィードバックを行う。				
評価方法	模擬授業については、発表態度や授業内容、指導案の記載内容について評価する。模擬授業担当者以外は、行われた模擬授業に対してのコメント内容も評価する。講義授業からはどのようなことを学んだか、各自期末試験にまとめた内容を評価する期末試験では他に学習指導案の作成についての出題を行う。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	模擬授業	○	○	○	○
	模擬授業への考察・相互評価	○	○	○	○
	期末試験	○	○		
評価割合	模擬授業（指導案作成）の発表と質疑応答・・・40% 模擬授業への考察、相互評価・・・20% 定期試験・・・40%				
使用教科書名 (ISBN番号)	中学校 技術・家庭科学学習指導要領解説 高等学校 家庭科学学習指導要領解説 家庭編 家庭総合 パートナーシップでつくる未来（実教出版）				
ディプロマポリシーとの関連	「知識・理解」家庭科教育の総合的な知識を有し、家庭科に関する実践的で専門的な知識を活用できる。 「思考・判断」課題に対して、多様な情報を整理し、客観的に判断し柔軟に対応できる。 「関心・意欲・態度」生活社会の諸問題に関心を持ち、社会に貢献したいという態度をもって解決策を立案できる。 「技能・表現」教育者として求められるコミュニケーション能力や表現力を身につけることができる。				
学生へのメッセージ	家庭科教育法 A、B の学習指導案、模擬授業での省察を見直し、授業計画に合わせた授業を再構築し、また他の単元での授業構成について教材研究を進めておきましょう。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング	○	模擬授業指導案及び模擬授業を作り上げること、他の受講生の模擬授業に対しての相互評価を行うことによって、互いに家庭科の授業内容への知識・理解を深め、意欲的に家庭科や生活への関心を高めていくことを目指す。			
情報リテラシー教育					
ICT活用					

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	家庭科教育法 C		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 樽府 暢子	指定なし
教授	上村 協子	指定なし

ナンバリング	Y31103C21
授業概要(教育目的)	家庭科教育法A、Bで学習した中学校「技術・家庭」の「家庭分野」と高等学校「家庭」の目標及び内容の確認をする。教材研究、年間指導計画、題材(単元)別指導計画、学習指導案の作成、評価等の基礎知識の修得と指導法を学び、模擬授業を通して家庭科の授業をつくる実践力を身につける。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	家庭科教育法A、Bで学習した知識を深め、教材研究、年間指導計画、題材(単元)別指導計画、学習指導案の作成、評価等の基礎知識の修得と指導法をより実践的に理解する。
思考・判断の観点(K)	
関心・意欲・態度の観点(V)	
技術・表現の観点(A)	小・中・高等学校家庭科では「家族・家庭生活」、「衣食住の生活」、「消費生活と環境」の三つの枠組みで系統だて高校ではホームプロジェクトや学校家庭クラブで社会貢献するよう指導する能力を養う。

学習計画

家庭科教育法C

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業予定、評価方法、教科書の確認。専用ノート(アースノート)の使い方を確認。家庭科A・Bの授業を振り返り、教育実習や教員となる様子をイメージする。年間指導計画及び学習指導案作成についての確認を行う。	家庭科教育法A・Bで学んだ内容について振り返り、アースノートにまとめておくこと。	180分
第2回	家庭科における主体的、対話的で深い学び	家庭科における主体的、対話的で深い学びについて協働学習を中心に考えるとともに学校家庭クラブ、ホームプロジェクトについて学ぶ。併せて、探究課題や実習の位置づけについて理解する。	予習として学習指導要領の総説を理解しておくこと。学校家庭クラブ、ホームプロジェクトとして取り組むとよいと思われる課題をみつけておく。授業後に、アースノートに授業のポイントをまとめ直し、復習しておくこと。	180分

第3回	家庭科における持続可能な社会につながる学び	家庭科教育とSDGsとの関わりを授業実践例を通して考える。SDGsの主旨を理解し、持続可能な社会のために多様な視点を大切にしながら問題解決的な学習、実践的・体験的な学習、アクティブラーニングなどについて学ぶ	予習として、海外との関わりがあると思われる新聞記事をスクラップしておくこと。併せて、外国産の食品とその原産国を記録しておくこと。復習として、SDGsの視点を取り入れて新聞記事をまとめておくこと	180分
第4回	家庭科の特性と学習指導の形態・方法	家庭科の学習指導の特質や特徴的な指導法等について理解する。授業実践例を通して、一斉指導、小集団学習、個別学習におけるアクティブラーニングについて学ぶ。併せて、日常生活に結び付ける視点から生活文化についても扱う。	家庭科教育法Bで学んだ家庭科学習指導要領と授業の構築のあり方、家庭科の特徴ある指導について復習しておく。予習として家庭科学習指導の特質や特徴的な指導法、授業の構造、教材研究について理解し、全体計画を構築し、1時間の授業を構築できるようにしておく。	180分
第5回	授業計画と評価	教育評価の意義と目的及びその方法を確認する。年間シラバスにおける目標を明確にし、その評価方法を確認するとともに、各自の学習指導案における目標及び評価の観点を明確にする。	予習として家庭科の授業づくりについて、実際に教材研究を行い、指導細案を作成する。授業後は、授業目標を達成するために必要な授業の進め方を研究し、教材作りを行う。	180分
第6回	家族・家庭生活に関する教材研究・指導案・模擬授業	実践的・体験的な学習、ICTの活用、主体的で・対話的で深い学びを実践する学習指導方法を工夫した授業の学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。模擬授業ではグループワークを意識し、共に授業を作り、互いに学び、協働して授業を創る力をつける。	予習として生活設計に関する記事をえらびアースノートにスクラップしておくこと。指定した教科書の授業内容を読んでくること。復習として新聞記事をつかった授業内容をまとめること。	180分
第7回	衣生活に関する教材研究・指導案・模擬授業	実践的・体験的な学習、ICTの活用、主体的で・対話的で深い学びを実践する学習指導方法を工夫した授業の学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。模擬授業ではグループワークを意識し、共に授業を作り、互いに学び、協働して授業を創る力をつける。	予習として衣生活に関する記事をえらびアースノートにスクラップしておくこと。指定した教科書の授業内容を読んでくること。復習として新聞記事をつかった授業内容をまとめること。	180分
第8回	食生活に関する教材研究・指導案・模擬授業	実践的・体験的な学習、ICTの活用、主体的で・対話的で深い学びを実践する学習指導方法を工夫した授業の学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。模擬授業ではグループワークを意識し、共に授業を作り、互いに学び、協働して授業を創る力をつける。	予習として食生活に関する記事をえらびアースノートにスクラップしておくこと。指定した教科書の授業内容を読んでくること。復習として新聞記事をつかった授業内容をまとめること。	180分
第9回	住生活に関する教材研究・指導案・模擬授業	実践的・体験的な学習、ICTの活用、主体的で・対話的で深い学びを実践する学習指導方法を工夫した授業の学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。模擬授業ではグループワークを意識し、共に授業を作り、互いに学び、協働して授業を創る力をつける。	予習として住生活に関する記事をえらびアースノートにスクラップしておくこと。指定した教科書の授業内容を読んでくること。復習として新聞記事をつかった授業内容をまとめること。	180分
第10回	契約に関する教材研究・指導案・模擬授業	実践的・体験的な学習、ICTの活用、主体的で・対話的で深い学びを実践する学習指導方法を工夫した授業の学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。模擬授業ではグループワークを意識し、共に授業を作り、互いに学び、協働して授業を創る力をつける。	予習として契約に関する記事をえらびアースノートにスクラップしておくこと。指定した教科書の授業内容を読んでくること。復習として新聞記事をつかった授業内容をまとめること。	180分
第11回	消費生活に関する教材研究・指導案・模擬授業	実践的・体験的な学習、ICTの活用、主体的で・対話的で深い学びを実践する学習指導方法を工夫した授業の学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。模擬授業ではグループワークを意識し、共に授業を作り、互いに学び、協働して授業を創る力をつける。	予習として消費生活に関する記事をえらびアースノートにスクラップしておくこと。指定した教科書の授業内容を読んでくること。復習として新聞記事をつかった授業内容をまとめること。	180分
第12回	家庭科の施設設備と安全指導	学習環境の重要性とその条件について学び、家庭科の施設設備について理解し、それぞれの施設で工夫した実習を考える。実習室の使用上の留意点や校外での学習時等の安全指導について理解を深める。	予習として、各自の中学校・高等学校の家庭科教室の施設設備及び実習内容について、まとめておく。授業後は、実習時の安全指導についてまとめておく。	180分
第13回	4年生の教育実習体験を聞いて学ぶ	教育実習を行った4年生の学生の教育実習体験報告会について各チームで役割を担い、先輩との情報交換を行い教育実習や教育現場での授業について理解を深める。	授業後に、アースノートに先輩教員の講義のポイントや感想をまとめておくこと。	180分
第14回	これまでの振り返り及び領域横断	学習指導全体についてのまとめ及びこれまでの学習内容の共有と振り返りを行うとともに、領域や教科を横断した授業についてマッピングなどから考える	これまでの学習指導案を整理しておく。授業後アースノートに	180分

	型や教科横断型授業について		講義のポイントや感想をまとめておく。	
第15回	確認テストと全体のまとめ	これまでの学習の確認を行うとともに、教育実習に向けて学習指導要領や指導方法、指導案の作成などを見直し、教育実習の際の準備と心構えの意欲を高める。	学習内容を確認、理解をして授業に臨むこと。	180分

学生へのフィードバック方法 各チームの発表についてはその都度評価や改善を要する点をフィードバックする。

評価方法 グループごとのDVD教材分析や指導案の作成については、内容や発表態度を評価する。アースノートは最終授業後に回収し、内容を評価する。定期試験では、主に学習指導要領の理解に関する出題を行う。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
グループ発表	○		○	
アースノート	○			○
定期試験	○			○

評価割合 平常点 (DVD教材・指導案の作成含む) : 40%
授業記録 (アースノートへの授業記録) : 20%
定期試験 : 40%

使用教科書名 (ISBN番号)
 (1) 学習指導要領解説 (高等学校 家庭) / 文部科学省 (最新版入手不可?)
 (2) 学習指導要領解説 (中学校 技術・家庭) / 文部科学省 (978-4-304-02154-1)
 (3) 高等学校 家庭総合 パートナリシップでつくる未来 / 実教出版 (978-4-407-20382-0)
 (4) 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校技術・家庭】 / 教育出版 / (978-4-316-30052-8)
 (5) 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【高等学校 共通教科「家庭」】 / (978-4-316-30073-3)

参考図書 授業時に適宜紹介する。

ディプロマポリシーとの関連
 【知識・理解】総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できている。
 【思考・判断】生活・社会の諸問題を自ら発見し分析し、問題解決に導く考察をすることができている。
 【関心・意欲・態度】生活・社会の諸問題について関心を持ち続けることができている。
 【技能・表現】健やかで心豊かな生活を創造するための問題解決と提案・発信ができている。

オフィスアワー 担当教員のゼミ室 (研究室) 前の掲示を確認してください。

学生へのメッセージ 教員免許取得のための授業であり、受講に際しては、私語、携帯電話の使用などや、授業に関係のない行動を取るなど、受講態度に問題がある場合には退席を求める。学習指導案作成等のグループ単位での活動が多いため、グループ内のメンバーと協力して授業参加することが求められる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	模擬授業を通して、自ら授業を作り上げ他の受講生に伝えるとともに、他の受講生の授業に対して意見を述べ、受講生同士が互いの理解を深めながら自身を高めていくことを目指す。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	家庭科教育法D		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 花形 美緒	指定なし

ナンバリング	Y31104M21
授業概要(教育目的)	家庭科教育法Cを継続しながら家庭科の目標と学習内容を確認する。家庭科の授業づくりを通し学習指導の諸方法における留意点等また評価の意義、目的等を具体的に学び、家庭科教員としての実践力を養う。
履修条件	家庭科教育法Cを履修していること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	学習指導要領の改訂に伴う、小学校・中学校・高等学校における家庭科教育の現状と意義、家庭科の授業内容について総合的な知識を持ち、家庭科教員として求められる事柄を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	現代社会における生活課題を発見し、多様な情報を整理した上で自らの経験や体験、知識に基づき課題解決方法を検討することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	家庭科の各領域の学びにより、社会の諸問題に関心をもち、社会に貢献したいという態度を持って、生活者として持続可能な社会の創造に寄与できる。
技術・表現の観点 (A)	模擬授業や相互評価を通して、教育者として求められるコミュニケーション能力や豊かな表現力を身につけることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	授業予定、評価方法などについて確認する。家庭科教育法Cの振り返りから、家庭科教育法Dの模擬授業時の目標を各自設定し、発表する。模擬授業の担当日や担当領域について決定する。	家庭科教育法Cで使用した学習指導案に目を通し、家庭科教育法Dで行う模擬授業時に自分が注意したい点や新たに挑戦したい点などについて箇条書きに書き出してくること。	180
第2回	実習授業の注意点	家庭科の授業のうち、実習を行う場合の注意点について学ぶ。調理実習や被服製作実習、幼児や高齢者とのふれあい実習などさまざまな実習を想定し、課題を発見する。	本授業で指定する家庭総合の教科書の相当するところを読んでおくこと。	180
第3回	実習授業の事前準備と指導方法	前時に確認した注意事項に加え、実習授業の際はどのような事前準備や連絡等が必要になるか理解する。指導方法、手順などの説明が生徒に伝わるようにはどのように工夫できるか検討する。	授業で学んだ点を自分なりにまとめ、担当する模擬授業でどのように活かせるか検討しておくこと。	180

第4回	ワークシート作成の方法と注意点	家庭科の授業で使用するワークシートの作成について学ぶ。授業での効果的な使用法や評価規準などととも、どのようなワークシートが適切か考察する。	自身の模擬授業ではどのようなワークシートを使用することができるか考えをまとめておくこと。	180
第5回	学習指導案の作成および模擬授業・省察	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180
第6回	学習指導案の作成および模擬授業・省察	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180
第7回	学習指導案の作成および模擬授業・省察	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180
第8回	学習指導案の作成および模擬授業・省察	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180
第9回	学習指導案の作成および模擬授業・省察	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180
第10回	学習指導案の作成および模擬授業・省察	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180
第11回	学習指導案の作成および模擬授業・省察	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180
第12回	学習指導案の作成および模擬授業・省察	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180
第13回	学習指導案の作成および模擬授業・省察	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、授業を行う態度や話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。模擬授業終了後は教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶ点や改善点を討論する。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は、本授業で指定する家庭総合の教科書及び学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180
第14回	家庭科の教材研究	家庭科の授業ではどのようなものを教材として用いることができるのか、例を提示し、授業内容を計画する。教材として導入に使用するもの、展開で使用するものなど具体的な授業を想定して深く理解する。	授業後に、実際に自分が授業で使用してみたい教材を身近なところから探しておくこと。各領域1点以上の教材を検討しておくこと。	180
第15回	学習指導案および模擬授業の省察、総括	学習指導案の作成方法を再度確認し、自身が模擬授業で用いた指導案を再評価し修正する。模擬授業で学んだこと、改善すべきことなど意見を交換し、教育実習に向けてのまとめとする。	教育実習に向けて、これまでの授業や模擬授業を振り返り、自分でまとめておくこと。教育実習にむけて、家庭科教育法で学んだことを活かせるようにしっかり省察しておくこと。	180

学生へのフィードバック方法

模擬授業については、内容や授業の進め方などその都度評価し改善を要する点を伝えるなどしフィードバックを行う。

評価方法	模擬授業については、発表態度や授業内容、指導案の記載内容について評価する。模擬授業担当者以外は、行われた模擬授業に対するコメント内容も評価する。講義授業からはどのようなことを学んだか、各自期末試験にまとめた内容を評価する期末試験では他に学習指導案の作成についての出題を行う。		
評価基準	評価基準		
	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)
模擬授業	○	○	○
模擬授業の考察・相互評価	○	○	○
定期試験	○	○	
評価割合	模擬授業（指導案作成）の発表と質疑応答・・・40% 模擬授業への考察、相互評価・・・20% 定期試験・・・40%		
使用教科書名 (ISBN番号)	中学校 技術・家庭科学学習指導要領解説 高等学校 家庭科学学習指導要領解説 家庭編 家庭総合 パートナーシップでつくる未来（実教出版）		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・理解」家庭科教育の総合的な知識を有し、家庭科に関する実践的で専門的な知識を活用できる。 「思考・判断」課題に対して、多様な情報を整理し、客観的に判断し柔軟に対応できる。 「関心・意欲・態度」生活社会の諸問題に関心を持ち、社会に貢献したいという態度をもって解決策を立案できる。 「技能・表現」教育者として求められるコミュニケーション能力や表現力を身につけることができる。		
学生へのメッセージ	家庭科教育法Cでの学習指導案の作成、模擬授業の省察をとおして、中高生の生活実態を把握した授業内容になるよう、情報収集を図り、授業への資料となるよう整理しておきましょう。		
教育等の取組み状況			
	該当有無	概要	
実務経験を活かした授業			
アクティブ・ラーニング	○	模擬授業指導案及び模擬授業を作り上げること、他の受講生の模擬授業に対する相互評価を行うことによって、互いに家庭科の授業内容への知識・理解を深め、意欲的に家庭科や生活への関心を高めていくことを目指す。	
情報リテラシー教育			
ICT活用			

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	家庭科教育法D		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 榎府 暢子	指定なし
教授	上村 協子	指定なし
助教	太田 茜	指定なし

ナンバリング	Y31104C21
授業概要(教育目的)	家庭科教育法ABCの学びを総合して、家庭科の指導方法や教材研究の工夫をすることに重点を置き、家庭科の授業能力を高めることを目標とする。学習指導案を作成して模擬授業を行い、その省察・改善から家庭科の授業の実践力を高める。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	家庭科教員として、国際的視点なども踏まえ、学問的背景と今日的な家庭科の社会的視座を理解する。
思考・判断の観点 (K)	教育現場の現況を理解して、家庭科教員としてふさわしい見識を身につけ、授業を構築する考えや判断力を育成する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自らの教員としての資質を確認し、教壇に立つ上で不足している知識や、技能を身に付けようとする。
技術・表現の観点 (A)	家庭科の学習指導案の作成や模擬授業を行うことができ、家庭科の今日的な課題や実践的動向を知り、自らの授業の向上に取り組むことができる。

学習計画

家庭科教育法D

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	授業予定、評価方法などの確認。この授業に向けて課した課題への取り組みを通して感じたことなどを受講生同士伝え合う。	事前に課した「学習指導案およびワークシートの作成」を行う。	180分
第2回	模擬授業の意義と方法	模擬授業の実践をとおして、相互の授業観察・評価について学ぶ。模擬授業では、教材の工夫、視聴覚教材、PCなどを用いた模擬授業の展開の実施を行い、主体的・対話的・深い学びの学習方法の学習指導案を創る。	家庭科の学習内容でもある「生活課題」について、現代社会の状況と生徒の生活から考え授業としてどう組み立てるか学習指導要領、教科書、新聞等を読んでおくこと。	180分

第3回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 (1) 家族	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第4回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 (2) 子ども	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第5回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 (3) 高齢者	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第6回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 (4) 食生活	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第7回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 (5) 衣生活	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第8回	家庭科の授業と学び	5回の模擬授業を通して、「生徒に伝わる家庭科の授業」の在り方について考察し、次回以降の模擬授業に活かす姿勢を養う。	授業後に、アースノートに講義のポイントや感想をまとめておくこと。	180分
第9回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 (6) 住生活	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第10回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 (7) 消費行動	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第11回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 (8) 持続可能な社会環境	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第12回	学習指導案の作成・考察および模擬授業 (9) ライフステージと経済計画	模擬授業担当者は、自身の模擬授業についての学習指導案を説明し、50分間の模擬授業を行う。他の受講生は、模擬授業の授業計画、題材設定、内容構成、話し方、ワークシートの内容等について広く評価する。教員や他の受講生のコメントを聞き、本時の模擬授業から学ぶべきポイントを見出す。	模擬授業担当者は、自身の模擬授業の準備・練習を十分に行うこと。他の受講生は本授業で指定する家庭総合の教科書および学習指導要領解説の相当するところを読んでおくこと。	180分
第13回	模擬授業の振り返り・考察	これまでの全ての模擬授業を振り返り、領域ごとに最も優れていた模擬授業を選び、考察する。	授業後に、アースノートに講義のポイントや感想をまとめておくこと。	180分
第14回	模擬授業の記録	模擬授業の観察と評価のまとめをする。授業力自己診断シート、相互授業観察シートのまとめをする。授業における教育方法と技術について、まとめる。	自分の模擬授業の授業構想、板書や資料の工夫、発問、机間指導など振り返って確認しておく。	180分
第15回	まとめ	これまでの授業全体を振り返り、領域ごとの授業のポイントを確認し、学習指導案とも対応させて理解を定着させる。	授業全体をよく振り返り、定期試験に向けて準備を行うこと。	180分

学生へのフィードバック方法

模擬授業についてはその都度評価や改善を要する点をフィードバックする。

評価方法	模擬授業については、内容や発表態度を評価する。アースノートは最終授業後に回収し、内容を評価する。定期試験では、学習指導案に関する出題を行う。																	
評価基準	評価基準																	
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)															
模擬授業	○		○															
アースノート	○		○															
定期試験	○																	
評価割合	平常点（模擬授業の内容含む）：40% 授業記録（アースノートへの授業記録）：20% 定期試験：40%																	
使用教科書名 (ISBN番号)	(1) 学習指導要領解説（高等学校 家庭）／文部科学省（最新版入手不可？） (2) 学習指導要領解説（中学校 技術・家庭）／文部科学省（978-4-304-02154-1） (3) 高等学校 家庭総合 パートナーシップでつくる未来／実教出版（978-4-407-20382-0） (4) 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校技術・家庭】／教育出版/（978-4-316-30052-8） (5) 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【高等学校 共通教科「家庭」】/（978-4-316-30073-3）																	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】、総合的な家政学の見地に立ち、現代生活の諸問題を理解できる。 【関心・意欲・態度】生活者の視点に立ち、社会の諸問題について関心を持ち続けることができる。																	
オフィスアワー	担当教員のゼミ室（研究室）前の掲示を確認してください。上村 1805ゼミ室 前期： 水曜日 4限 後期： 火曜日 4限 アポイントを取り時間調整を行うこと。																	
学生へのメッセージ	教員免許取得のための授業であり、受講に際しては、私語、携帯電話の使用などや、授業に関係のない行動を取るなど、受講態度に問題がある場合には退席を求める。学習指導案作成等のグループ単位での活動が多いため、グループ内のメンバーと協力して授業参加することが求められる。																	
教育等の取組み状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>模擬授業を通して、自ら授業を作り上げ他の受講生に伝えるとともに、他の受講生の授業に対して意見を述べ、受講生同士が互いの理解を深めながら自身を高めていくことを目指す。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				該当有無	概要	実務経験を活かした授業			アクティブ・ラーニング	○	模擬授業を通して、自ら授業を作り上げ他の受講生に伝えるとともに、他の受講生の授業に対して意見を述べ、受講生同士が互いの理解を深めながら自身を高めていくことを目指す。	情報リテラシー教育			ICT活用		
	該当有無	概要																
実務経験を活かした授業																		
アクティブ・ラーニング	○	模擬授業を通して、自ら授業を作り上げ他の受講生に伝えるとともに、他の受講生の授業に対して意見を述べ、受講生同士が互いの理解を深めながら自身を高めていくことを目指す。																
情報リテラシー教育																		
ICT活用																		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	道徳教育論（小）		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田 敦子	指定なし

ナンバリング	Y24101M21
授業概要(教育目的)	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育に関する国内外の歴史および実践に関する知識を学びながら、「道徳とは何か」について考えを深める。 ・学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容が理解できるようにする。 ・学生が、現代社会の道徳教育の課題について多様な考え方に触れながら、柔軟な思考と理解力を持ち、発言できるようにする。 ・毎時、学生1人1回ずつ、「心に残る言葉」というテーマで5分程度の発表を行う。 ・1人または1グループ30分程度の学習指導案の作成と模擬授業をおこなう。
履修条件	小学校教諭一種免許状取得希望者は必修。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

観点	到達目標
知識・理解の観点 (K)	道徳教育の歴史と現状を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	道徳教育は正解を求めるのではなく、生徒の多様な意見を引き出すことであることを理解し、授業を工夫できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	人間の心の動きや変化について関心があり、自己を見つめ、相手を尊重する態度を持っている。
技術・表現の観点 (A)	生徒に問いかけたり、受け留める言葉や表現力を持っている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(7keyブ ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	道徳とは何か	「道徳」という言葉の語源や意味および欧米との違いについて学ぶ。	授業後に第1回レジュメを良く読んでおくこと。日常的に心を動かされたり、感動するとはどういう時かを考えるようにする。	120分
第2回	近代日本における道徳教育の歴史 I	1879年、維新後の日本がどのような道徳教育を国民教育に取り入れるかが論争になった。その徳育論争について学ぶ。	第2回レジュメを良く読んでおくこと。「心に残る言葉」発表の準備をする。	180分
第3回	近代日本における道徳	どのような経緯で1890年教育勅語が公布され、公布後どのような修身教育が行われたか、戦前の道徳教育について	第3回レジュメを良く読んでおくこと。	180分

	教育の歴史Ⅱ	て学ぶ。	「心に残る言葉」発表の準備をする。	
第4回	戦後日本における道徳教育の歴史	戦前の道徳教育にどのような問題があり、戦後の教育が計画されたか、その後1958年「道徳の時間」特設に至るまでの歴史的経過を学ぶ。	第4回レジュメを良く読んでおくこと。「心に残る言葉」発表の準備をする。	180分
第5回	現代日本における道徳教育	戦後の道徳教育が大きく変容した2002年『心のノート』に至るまでの社会情勢を学ぶ。	自分にとって道徳教育はどのような教育だったかを振り返っておくこと。	180分
第6回	新教育基本法から道徳の教科化に至るまで	何故、道徳が教科化されたのか。教科化とはどのような意味を持つのかを考える。	今現在どのような道徳教育が学校で行われているのかわかる新聞記事等に敏感になっていること。	120分
第7回	世界の道徳教育Ⅰ 道徳性の発達理論	ローレンス・コールバーグの道徳性の発達理論を、実際に「ハインツのジレンマ」への解答を全員で考える。ディスカッションを行い、考えることの重要性、意見の多様性に気付くことが道徳教育には大切であることを学ぶ。	自分とは異なる考え方、物の見方に耳を傾け、理解するように心がけること。	120分
第8回	世界の道徳教育Ⅱ	アメリカ・フランスの道徳教育を紹介しながら、家庭における民主的な教育、人間の成長過程を学ぶことが道徳教育になっていることを考えさせる。	日本とは異なる道徳教育があることを理解し、視野を広げること。	120分
第9回	世界の道徳教育Ⅲ	独仏共通教科書や日本・中国・韓国が共同で刊行した教科書を用いて、歴史を共通理解することの難しさ、国際理解と道徳教育の関係を考える。	教科書に書かれたことは、政治的に影響を受けていることを理解する。	120分
第10回	いじめについて	「いじめは何故起こるのか」、「いじめは何故『悪』なのか」について学生の意見を聞きながら、多様な考え方があることを学び、ディスカッションを行う。	現在、学校、家庭、職場等で生じている「いじめ」現象に関心をもって、人間関係への洞察を深めること。	120分
第11回	道徳の授業の学習指導案の作成	道徳の模擬授業の学習指導案を3～4人のグループで作成し、実際に35分程度の模擬授業を行う。受講者の人数によってこの回数は変動する可能性がある。	道徳の教科書を良く読み、どのような授業にするかを良く構想を練る。	240分
第12回	学生による模擬授業（ロールプレイングを含む模擬授業）	道徳の模擬授業の学習指導案を3～4人のグループで作成し、実際に35分程度の模擬授業を行うアクティブ・ラーニングである。	模擬授業の準備をしっかりと行うこと。	240分
第13回	学生による模擬授業（読み聞かせ資料を用いた模擬授業）	道徳の模擬授業の学習指導案を3～4人のグループで作成し、実際に35分程度の模擬授業を行うアクティブラーニングである。	他のクラスメイトの模擬授業を良く観察し、自分のグループの模擬授業の準備をしっかりと行うこと。	240分
第14回	学生による模擬授業（グループワーク、ディスカッションを含む模擬授業）	道徳の模擬授業の学習指導案を3～4人のグループで作成し、実際に35分程度の模擬授業を行うアクティブラーニングである。	他のグループの模擬授業を良く観察し、表現方法、教材、生徒への応え方等を学びながら、自分たちのグループの模擬授業を作成実演する。	240分
第15回	現代教育の課題と道徳教育	本授業全体で学んだことを振り返り、反省等を発表し合うアクティブラーニングである。学習指導案の修正版の提出をこの時間内に行う。	本授業で学んだこと、模擬授業の実践を、今後の教職への学びにどのように活かすかを考えて下さい。学習指導案の修正版を作成すること。	300分

学習計画注記	特になし
学生へのフィードバック方法	講義形式、ときに、意見を求める。資料をたくさん配布する。資料を読みこなせる能力を求める。模擬授業において、様々な観点から指導助言を行うので、それをもとに学習指導案を修正して提出して下さい。
評価方法	「心に残る言葉」発表（20%）、学習指導案の作成と修正（20%）、模擬授業（30%）、授業への取り組み・アクションペーパー（30%）

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
「心に残る言葉」発表			○	○

学習指導案の作成と修正	○	○	○	
模擬授業		○	○	○
授業への取り組み			○	

評価割合	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の「心に残る言葉」発表 20%、 学習指導案の作成と修正 (20%) 模擬授業実技 (30%) 平常点 (30%)
使用教科書名 (ISBN番号)	文部科学省『平成30年 小学校道徳学習指導要領解説 (平成29年告示) 特別の教科道徳編』 (教科書というよりは必ず購入する教材である。)
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> 中央教育審議会答申「道徳に係る教育課程の改善等について」 (平成26年)、 岩本俊郎・田沼朗・志村欣一・浪本勝年編『史料 道徳教育の研究』 (北樹出版 1994年) 井ノ口淳三『道徳教育 改訂版 (教師教育テキストシリーズ)』学文社 2016年 河合隼人「『心のノート』作成の経緯」 (心理学会編『心理学ワールド』 vol. 32 2006年) 三宅晶子「『心のノート』における人権を問う」心理学会編『心理学ワールド』 vol. 32 2006年 ローレンス・コールバーグ著 岩佐信道訳『道徳性の発達と道徳教育』麗澤大学出版会 1987年 他
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。</p> <p>【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に判断して行動できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】社会の中に在る諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。</p>
オフィスアワー	随時対応します。
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 「心」はどのように動くのかに関心をもって日々生活してみてください。 道徳に関する時事問題に日頃から敏感になって新聞テレビ等に接して下さい。 道徳教育は今まさに大きな変革の時を迎えています。何が起きているのが、どう考えて教育を行うことが大切なのかを、自律的に考えられるようになって下さい。 <p>小学校教免必修</p>

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	アクティブ・ラーニング：いじめやモラルジレンマについてのディスカッション、模擬授業、発表を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		教具としてICTを活用する場合がある。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	道徳教育論（中・栄）		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田 敦子	指定なし

ナンバリング	Y20201M21
授業概要(教育目的)	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育に関する国内外の歴史および実践に関する知識を学びながら、「道徳とは何か」について考えを深める。 ・学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容が理解できるようにする。 ・学生が、現代社会の道徳教育の課題について多様な考え方に触れながら、柔軟な思考と理解力を持ち、発言できるようにする。 ・毎時、学生1人1回ずつ、「心に残る言葉」というテーマで5分程度の発表を行う。 ・1人または1グループ30分程度の学習指導案の作成と模擬授業をおこなう。
履修条件	中・高等学校教諭一周免許状を取得希望者は、必修。高等学校教諭一種免許状のみ取得希望者は、履修可能であるが、必修ではない。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	道徳教育の歴史と現状を理解できる。
思考・判断の観点 (K)	道徳教育は正解を求めるのではなく、生徒の多様な意見を引き出すことであることを理解し、授業を工夫できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	人間の心の動きや変化について関心があり、自己を見つめ、相手を尊重する態度を持っている。
技術・表現の観点 (A)	生徒に問いかけたり、受け留める言葉や表現力を持っている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	道徳とは何か	「道徳」という言葉の語源や意味および欧米との違いについて学ぶ。	授業後に第1回レジュメを良く読んでおくこと。 日常的に心を動かされたり、感動するとはどのような時かを考えるようにする。	120分
第2回	近代日本における道徳教育の歴史 I	1879年、維新後の日本がどのような道徳教育を国民教育に取り入れるかが論争になった。その徳育論争について学ぶ。	第2回レジュメを良く読んでおくこと。「心に残る言葉」発表の準備をする。	180分
第3回	近代日本に	どのような経緯で1890年教育勅語が公布され、公布後ど	第3回レジュメを良く読んでお	180分

	おける道徳教育の歴史Ⅱ	のような修身教育が行われたか、戦前の道徳教育について学ぶ。	くこと。 「心に残る言葉」発表の準備をする。	
第4回	戦後日本における道徳教育の歴史	戦前の道徳教育にどのような問題があり、戦後の教育が計画されたか、その後1958年「道徳の時間」特設に至るまでの歴史的経過を学ぶ。	第4回レジュメを良く読んでおくこと。「心に残る言葉」発表の準備をする。	180分
第5回	現代日本における道徳教育	戦後の道徳教育が大きく変容した2002年『心のノート』に至るまでの社会情勢を学ぶ。	自分にとって道徳教育はどのような教育だったかを振り返っておくこと。	180分
第6回	新教育基本法から道徳の教科化に至るまで	何故、道徳が教科化されたのか。教科化とはどのような意味を持つのかを考える。	今現在どのような道徳教育が学校で行われているのかがわかる新聞記事等に敏感になっていること。	120分
第7回	世界の道徳教育Ⅰ 道徳性の発達理論	ローレンス・コールバーグの道徳性の発達理論を、実際に「ハインツのジレンマ」への解答を全員で考える。ディスカッションを行い、考えることの重要性、意見の多様性に気付くことが道徳教育には大切であることを学ぶ。	自分とは異なる考え方、物の見方に耳を傾け、理解するように心がけること。	120分
第8回	世界の道徳教育Ⅱ	アメリカ・フランスの道徳教育を紹介しながら、家庭における民主的な教育、人間の成長過程を学ぶことが道徳教育になっていることを考えさせる。	日本とは異なる道徳教育があることを理解し、視野を広げること。	120分
第9回	世界の道徳教育Ⅲ	独仏共通教科書や日本・中国・韓国が共同で刊行した教科書を用いて、歴史を共通理解することの難しさ、国際理解と道徳教育の関係を考える。	教科書に書かれたことは、政治的に影響を受けていることを理解する。	120分
第10回	いじめについて	「いじめは何故起こるのか」、「いじめは何故『悪』なのか」について学生の意見を聞きながら、多様な考え方があることを学び、ディスカッションを行う。	現在、学校、家庭、職場等で生じている「いじめ」現象に関心をもって、人間関係への洞察を深めること。	120分
第11回	道徳の授業の学習指導案の作成	道徳の模擬授業の学習指導案を3～4人のグループで作成し、実際に35分程度の模擬授業を行う。受講者の人数によってこの回数は変動する可能性がある。	道徳の教科書を良く読み、どのような授業にするかを良く構想を練る。	240分
第12回	学生による模擬授業（ロールプレイングを含む模擬授業）	道徳の模擬授業の学習指導案を3～4人のグループで作成し、実際に35分程度の模擬授業を行うアクティブ・ラーニングである。	模擬授業の準備をしっかりと行うこと。	240分
第13回	学生による模擬授業（読み聞かせ資料を用いた模擬授業）	道徳の模擬授業の学習指導案を3～4人のグループで作成し、実際に35分程度の模擬授業を行うアクティブラーニングである。	他のクラスメイトの模擬授業を良く観察し、自分のグループの模擬授業の準備をしっかりと行うこと。	240分
第14回	学生による模擬授業（グループワーク、ディスカッションを含む模擬授業）	道徳の模擬授業の学習指導案を3～4人のグループで作成し、実際に35分程度の模擬授業を行うアクティブラーニングである。	他のグループの模擬授業を良く観察し、表現方法、教材、生徒への応え方等を学びながら、自分たちのグループの模擬授業を作成実演する。	240分
第15回	現代教育の課題と道徳教育	本授業全体で学んだことを振り返り、反省等を発表し合うアクティブラーニングである。学習指導案の修正版の提出をこの時間内に行う。	本授業で学んだこと、模擬授業の実践を、今後の教職への学びにどのように活かすかを考えて下さい。学習指導案の修正版を作成すること。	300分

学習計画注記 特になし

学生へのフィードバック方法 講義形式。時に、学生に意見を求める。配布する資料を読みこなせる能力を求める。模擬授業において、様々な観点から指導助言を行うので、それをもとに学習指導案を修正して提出して下さい。

評価方法 「心に残る言葉」発表（20%）、学習指導案の作成と修正（20%）、模擬授業（30%）、授業への取り組み・リアクションペーパー（30%）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
「心に残る言葉」発表			○	○

学習指導案の作成と修正	○	○	○	
模擬授業		○	○	○
授業への取り組み			○	

評価割合	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の「心に残る言葉」発表 20%、 学習指導案の作成と修正 (20%) 模擬授業実技 (30%) 平常点 (30%)
使用教科書名 (ISBN番号)	<p>家庭科教諭志望者：文部科学省『中学校道徳学習指導要領解説（平成29年告示） 特別の教科道徳編』（教科書というよりは必ず購入する教材である。）</p> <p>栄養教諭志望者：文部科学省『小学校道徳学習指導要領解説（平成29年告示） 特別の教科道徳編』（教科書というよりは必ず購入する教材である。）</p>
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> 中央教育審議会答申「道徳に係る教育課程の改善等について」（平成26年）、 岩本俊郎・田沼朗・志村欣一・浪本勝年編『史料 道徳教育の研究』（北樹出版 1994年） 井ノ口淳三『道徳教育 改訂版（教師教育テキストシリーズ）』学文社 2016年 河合隼人「『心のノート』作成の経緯」（心理学会編『心理学ワールド』vol.32 2006年） 三宅晶子「『心のノート』における人権を問う」心理学会編『心理学ワールド』vol.32 2006年 ローレンス・コールバーグ著 岩佐信道訳『道徳性の発達と道徳教育』麗澤大学出版会 1987年 他
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。</p> <p>【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に判断して行動できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】社会の中に在る諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。</p>
オフィスアワー	随時対応します。
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 「心」はどのように動くのかに関心をもって日々生活してみてください。 道徳に関する時事問題に日頃から敏感になって新聞テレビ等に接して下さい。 道徳教育は今まさに大きな変革の時を迎えています。何が起きているのが、どう考えて教育を行うことが大切なのかを、自律的に考えられるようになって下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	アクティブ・ラーニング：いじめやモラルジレンマについてのディスカッション、模擬授業、発表を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		模擬授業の時にICTを活用する場合がある。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	道徳教育論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	中・栄教職必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田 敦子	指定なし

ナンバリング	Y20201C21
授業概要(教育目的)	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育に関する国内外の歴史および実践に関する知識を学びながら、「道徳とは何か」について考えを深める。 ・学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容が理解できるようにする。 ・学生が、現代社会の道徳教育の課題について多様な考え方に触れながら、柔軟な思考と理解力を持ち、発言できるようにする。 ・毎時、学生1人1回ずつ、「心に残る言葉」というテーマで5分程度の発表を行う。 ・1人または1グループ30分程度の学習指導案の作成と模擬授業をおこなう。
履修条件	中・高等学校家庭科・栄養教諭教職課程履修者であれば履修可。高等学校のみ免許状取得希望の場合は、履修しなくても良い。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	道徳教育の歴史と現状を理解している。
思考・判断の観点 (K)	道徳教育は正解を求めるのではなく、生徒の多様な意見を引き出すことであることを理解し、授業を工夫できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	人間の心の動きや変化について関心があり、自己を見つめ、相手を尊重する態度を持っている。
技術・表現の観点 (A)	生徒に問いかけたり、受け留める言葉や表現力を持っている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	道徳とは何か	「道徳」という言葉の語源や意味および欧米との違いについて学ぶ。	授業後に第1回レジュメを良く読んでおくこと。日常的に心を動かされたり、感動するとはどのような時かを考えるようにする。	120分
第2回	近代日本における道徳教育の歴史 I	1879年、維新後の日本がどのような道徳教育を国民教育に取り入れるかが論争になった。その徳育論争について学ぶ。	第2回レジュメを良く読んでおくこと。「心に残る言葉」発表の準備をする。	180分
第3回	近代日本に	どのような経緯で1890年教育勅語が公布され、公布後ど	第3回レジュメを良く読んでお	180分

	おける道徳教育の歴史Ⅱ	のような修身教育が行われたか、戦前の道徳教育について学ぶ。	くこと。 「心に残る言葉」発表の準備をする。	
第4回	戦後日本における道徳教育の歴史	戦前の道徳教育にどのような問題があり、戦後の教育が計画されたか、その後1958年「道徳の時間」特設に至るまでの歴史的経過を学ぶ。	第4回レジュメを良く読んでおくこと。「心に残る言葉」発表の準備をする。	180分
第5回	現代日本における道徳教育	戦後の道徳教育が大きく変容した2002年『心のノート』に至るまでの社会情勢を学ぶ。	自分にとって道徳教育はどのような教育だったかを振り返っておくこと。	180分
第6回	新教育基本法から道徳の教科化に至るまで	何故、道徳が教科化されたのか。教科化とはどのような意味を持つのかを考える。	今現在どのような道徳教育が学校で行われているのかがわかる新聞記事等に敏感になっていること。	120分
第7回	世界の道徳教育Ⅰ 道徳性の発達理論：	ローレンス・コールバーグの道徳性の発達理論を、実際に「ハインツのジレンマ」への解答を全員で考える。ディスカッションを行い、考えることの重要性、意見の多様性に気付くことが道徳教育には大切であることを学ぶ。	自分とは異なる考え方、物の見方に耳を傾け、理解するように心がけること。	120分
第8回	世界の道徳教育Ⅱ	アメリカ・フランスの道徳教育を紹介しながら、家庭における民主的な教育、人間の成長過程を学ぶことが道徳教育になっていることを考えさせる。	日本とは異なる道徳教育があることを理解し、視野を広げること。	120分
第9回	世界の道徳教育Ⅲ	独仏共通教科書や日本・中国・韓国が共同で刊行した教科書を用いて、歴史を共通理解することの難しさ、国際理解と道徳教育の関係を考える。	教科書に書かれたことは、政治的に影響を受けていることを理解する。	120分
第10回	いじめについて	「いじめは何故起こるのか」、「いじめは何故『悪』なのか」について学生の意見を聞きながら、多様な考え方があることを学び、ディスカッションを行う。	現在、学校、家庭、職場等で生じている「いじめ」現象に関心をもって、人間関係への洞察を深めること。	120分
第11回	道徳の授業の学習指導案の作成	道徳の模擬授業の学習指導案を3～4人のグループで作成し、実際に35分程度の模擬授業を行う。受講者の人数によってこの回数は変動する可能性がある。	道徳の教科書を良く読み、どのような授業にするかを良く構想を練る。	240分
第12回	学生による模擬授業（ロールプレイングを含む模擬授業）	道徳の模擬授業の学習指導案を3～4人のグループで作成し、実際に35分程度の模擬授業を行うアクティブ・ラーニングである。	模擬授業の準備をしっかりと行うこと。	240分
第13回	学生による模擬授業（読み聞かせ資料を用いた模擬授業）	道徳の模擬授業の学習指導案を3～4人のグループで作成し、実際に35分程度の模擬授業を行うアクティブラーニングである。	他のクラスメイトの模擬授業を良く観察し、自分のグループの模擬授業の準備をしっかりと行うこと。	240分
第14回	学生による模擬授業（グループワーク、ディスカッションを含む模擬授業）	道徳の模擬授業の学習指導案を3～4人のグループで作成し、実際に35分程度の模擬授業を行うアクティブラーニングである。	他のグループの模擬授業を良く観察し、表現方法、教材、生徒への応え方等を学びながら、自分たちのグループの模擬授業を作成実演する。	240分
第15回	現代教育の課題と道徳教育	本授業全体で学んだことを振り返り、反省等を発表し合うアクティブラーニングである。学習指導案の修正版の提出をこの時間内に行う。	本授業で学んだこと、模擬授業の実践を、今後の教職への学びにどのように活かすかを考えて下さい。学習指導案の修正版を作成すること。	300分

学生へのフィードバック方法 講義形式。時に、学生に意見を求める。配布する資料を読みこなせる能力を求めます。模擬授業において、様々な観点から指導助言を行うので、それをもとに学習指導案を修正して提出して下さい。

評価方法 「心に残る言葉」発表（20%）、学習指導案の作成と修正（20%）、模擬授業（30%）、授業への取り組み・リアクションペーパー（30%）

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
「心に残る言葉」発表			○	○
学習指導案の作成と修正	○	○	○	

模擬授業		○	○	○
授業への取り組み			○	
評価割合	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の「心に残る言葉」発表 20%、 学習指導案の作成と修正 (20%) 模擬授業実技 (30%) 平常点 (30%) 			
使用教科書名 (ISBN番号)	家庭科教諭志望者：文部科学省『中学校道徳学習指導要領解説（平成29年告示） 特別の教科道徳編』（教科書というよりは必ず購入する教材である。） 栄養教諭志望者：文部科学省『小学校道徳学習指導要領解説（平成29年告示） 特別の教科道徳編』（教科書というよりは必ず購入する教材である。）			
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> 中央教育審議会答申「道徳に係る教育課程の改善等について」（平成26年）、 岩本俊郎・田沼朗・志村欣一・浪本勝年編『史料 道徳教育の研究』（北樹出版 1994年） 井ノ口淳三『道徳教育 改訂版（教師教育テキストシリーズ）』学文社 2016年 河合隼人「『心のノート』作成の経緯」（心理学会編『心理学ワールド』vol.32 2006年） 三宅晶子「『心のノート』における人権を問う」心理学会編『心理学ワールド』vol.32 2006年 ローレンス・コールバーグ著 岩佐信道訳『道徳性の発達と道徳教育』麗澤大学出版会 1987年 他 			
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。</p> <p>【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に判断して行動できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】社会の中に在る諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。</p>			
オフィスアワー	随時対応します。水曜日15：00～16：00			
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 「心」はどのように動くのかに関心をもって日々生活してみてください。 道徳に関する時事問題に日頃から敏感になって新聞テレビ等に接して下さい。 道徳教育は今まさに大きな変革の時を迎えています。何が起きているのが、どう考えて教育を行うことが大切なのかを、自律的に考えられるようになって下さい。 			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング	○	いじめやモラルジレンマに関するディスカッション、模擬授業、発表を行う。		
情報リテラシー教育				
ICT活用		教材としてICTを活用する場合がある。		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	特別活動論（中・高・栄）		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 齋藤 史夫	指定なし

ナンバリング	Y30007M21
授業概要(教育目的)	<p>「人格の完成」をめざす教育の目的（教育基本法）の実現のために、学校の教育課程において教科と共に特別活動が位置付けられている。今日の教育において特別活動の持つ役割を理解し、特別活動を計画し実践する方法を学ぶ。</p> <p>将来の、学校教育の研究的共同実践者である教師として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の教育の課題と特別活動の意義の理解 ・他の教職員と協力して現場で主体的に研究する姿勢 ・生徒の自発性をひきだす特別活動を構想・実践する能力を培う。
履修条件	教員免許資格に必要

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	「人格の完成」をめざす教育の目的（教育基本法）の実現のために、学校の教育課程において教科と共に位置付けられている特別活動、今日の教育において持つ役割を理解する。
思考・判断の観点 (K)	今日の教育の課題から見た特別活動の意義を考えられる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	他の教職員と協力して現場で主体的に研究する姿勢を持つ。
技術・表現の観点 (A)	生徒の自発性をひきだす特別活動を構想・実践する能力を得る。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	特別活動論の課題と目的—授業ガイダンス	学校における特別活動とは何か、その課題を理解する。	今までの学校生活をふり返し、児童の学校生活充実の条件を考える。	180分
第2回	特別活動実践演習ホームルーム開き	特別活動の一つであるホームルーム活動を模擬的に実践し、新学年のクラスをスタートする活動を体験する。	子ども時代の新年度の様子をふり返る。	180分
第3回	教育の目的と特別活動	絵日記ワークにより、生徒にとって楽しい学校となるために条件を探る。	学校の楽しさとは何か、自身の体験から考える。	180分

	1 エピソード記述から探る子どもの願い			
第4回	教育の目的と特別活動 2 学級班活動による教育目標の検討	絵日記ワークをもとに、グループワークによって、学校教育の目標を考える。	グループの絵日記の内容を相互に回覧して、学校教育充実の条件を考える。	180分
第5回	教育の目的と特別活動 3 生徒の視点から見た教育の目的(BRD)	3回の授業を通して、教育の目的を考察し、自分の文章として表現する。	教育の目的についての自分なりの考えを考察する。	180分
第6回	コミュニケーション能力の育成と特別活動	今日の生徒にとってコミュニケーション能力の育成が課題であり、そのための特別活動の役割を考える。	コミュニケーション能力を育てるための、ホームルーム活動・学校行事について図書・インターネットで調査する。	180分
第7回	コミュニケーション・ワーク演習 1 (ホームルーム活動)	児童のコミュニケーション能力を高めるホームルーム活動を、グループで計画し模擬実践する。(アクティブラーニング)	コミュニケーションワークを調査する(ICT活用)	180分
第8回	コミュニケーション・ワーク演習 2 (学校行事)	学校行事で活用できるコミュニケーションワークをグループで計画し、模擬実践する。(アクティブラーニング)	学校行事で実践できるコミュニケーションワークを調査する。(ICT活用)	180分
第9回	BRD 今日の子どものコミュニケーション能力育成の課題	コミュニケーションワークの実践から、今日の児童のコミュニケーション能力の形成のあり方を考えまとめる。	学校現場で行われているコミュニケーションワークの事例を図書・インターネットで調査する。	180分
第10回	事例検討・教師の専門性・生きがいと特別活動	学校教育実践事例を読み、教師の専門性・生きがいを発揮する特別活動の構想について考察する。	教師の教育実践に関する図書を読む。	180分
第11回	憲法・子どもの権利条約・児童憲章・教育基本法	教育に関わる法・条約から特別活動の役割を考察する。	教育に関わる法・条約を調べる。	180分
第12回	特別活動校外授業一下見計画実習 1 (多摩動物公園)	教師として特別活動を計画することを、学外活動を下見する実践として体験する。	多摩動物公園の教育プログラムを調査する。	180分
第13回	特別活動校外授業一下見計画実習 2 (多摩動物公園)	教師として特別活動を計画することを、学外活動を下見する実践として体験する。	多摩動物公園の教育プログラムを調査する。	180分
第14回	特別活動の指導案	学外活動の下見を踏まえて、特別活動の指導案を立案する。	指導案を記述する。	180分
第15回	特別活動の課題と展望(BRD)	今日の生徒の現状から、特別活動の役割とあり方を考察してまとめる。	全回の学びを振り返る。	180分
第16回				

学習計画注記	学生の能動性の発揮によって授業内容を発展的に組み替える場合もある。 講義・グループワーク(指導計画の立案・模擬活動・プレゼンテーションなど)・ミニテスト・BRD(当日ブリーフレポート)など多面的な方法で授業を行う。
学生へのフィードバック方法	学生相互で学びの評価を行い、授業時の学生アンケートを学生にフィードバックする。

評価方法	特別活動指導案の完成度。 グループで実施する特別活動指導案プレゼンテーションの内容と各自の貢献度。 適宜実施するミニテストと、生徒指導のあり方を考えるBRD（当日ブリーフレポート）による。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	特別活動指導案	○		○	○
	プレゼンテーション		○	○	○
	ミニテスト	○			
	レポート		○	○	○
評価割合	特別活動指導案 (30%) プレゼンテーション (30%) ミニテスト (10%) BRD (当日ブリーフレポート) (30%)				
使用教科書名 (ISBN番号)	特に使用しない。 必要に応じて授業内で指定する。				
参考図書	折出健二編『特別活動』学文社				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもに関わる諸課題を理解することで、教師の道へつなぐことができる。 【思考・判断】子どもの諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】教師として、高い徳性をもって人々のために働く能力を持つ。 【技能・表現】教師としての専門的スキルをもって教育の課題を話し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を持つ。				
オフィスアワー	火曜日 3限1607研究室				
学生へのメッセージ	今日的な教育課題や生徒の実情を調べる・自分自身の子ども時代の学校の様子をふり返る・実習等での体験をまとめる、などによって授業に主体的に参加することが求められる。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業					
アクティブ・ラーニング	○	絵日記ワーク・グループワーク・グループプレゼンテーションを行う。			
情報リテラシー教育	○	インターネットによる法・施策・学外活動実施箇所の調査、図書館でのリファレンスの活用。			
ICT活用	○	パワーポイントによるプレゼンテーション。			

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	特別活動論（小）		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 齋藤 史夫	指定なし

ナンバリング	Y34102M21
授業概要(教育目的)	<p>学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事からなる特別活動は、「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。」（小学校学習指導要領）ことが目標とされている。</p> <p>授業では、学生相互の協力によって、特別活動の実践を模擬的に創造する。今日の教育と子どもの現状を学び、共同して指導案を具体的に構想し、模擬実践する。</p>
履修条件	教員免許資格に必要

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	「人格の完成」をめざす教育の目的（教育基本法）の実現のために、学校の教育課程において教科と共に位置付けられている特別活動、今日の教育において持つ役割を理解する。
思考・判断の観点 (K)	今日の教育の課題から見た特別活動の意義を考えられる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	他の教職員と協力して現場で主体的に研究する姿勢を持つ。
技術・表現の観点 (A)	生徒の自発性をひきだす特別活動を構想・実践する能力を得る。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	特別活動論の課題と目的—授業ガイダンス	学校における特別活動とは何か、その課題を理解する。	今までの学校生活をふり返り、児童の学校生活充実の条件を考える。	180分
第2回	特別活動実践演習 学級開き	特別活動の一つである学級活動を模擬的に実践し、新学年のクラスをスタートする活動を体験する。	子ども時代の新年度の様子をふり返る。	180分
第3回	教育の目的と特別活動 1 エピソード記述か	絵日記ワークにより、児童にとって楽しい学校となるために条件を探る。	学校の楽しさとは何か、自身の体験から考える。	180分

	ら探る子どもの願い			
第4回	教育の目的と特別活動 2 学級班活動による教育目標の検討	絵日記ワークをもとに、グループワークによって、学校教育の目標を考える。	グループの絵日記の内容を相互に回覧して、学校教育充実の条件を考える。	180分
第5回	教育の目的と特別活動 3 生徒の視点から見た教育の目的 (BRD)	3回の授業を通して、教育の目的を考察し、自分の文章として表現する。	教育の目的についての自分なりの考えを考察する。	180分
第6回	コミュニケーション能力の育成と特別活動	今日の児童にとってコミュニケーション能力の育成が課題であり、そのための特別活動の役割を考える。	コミュニケーション能力を育てるための、学級活動・学校行事について図書・インターネットで調査する。	180分
第7回	コミュニケーション・ワーク演習 1 (学級活動)	児童のコミュニケーション能力を高める学級活動を、グループで計画し模擬実践する。(アクティブラーニング)	コミュニケーションワークを調査する (ICT活用)	180分
第8回	コミュニケーション・ワーク演習 2 (学校行事)	学校行事で活用できるコミュニケーションワークをグループで計画し、模擬実践する。(アクティブラーニング)	学校行事で実践できるコミュニケーションワークを調査する。(ICT活用)	180分
第9回	BRD 今日の子どもとコミュニケーション能力育成の課題	コミュニケーションワークの実践から、今日の児童のコミュニケーション能力の形成のあり方を考えまとめる。	学校現場で行われているコミュニケーションワークの事例を図書・インターネットで調査する。	180分
第10回	事例検討・教師の専門性・生きがいと特別活動	学校教育実践事例を読み、教師の専門性・生きがいを発揮する特別活動の構想について考察する。	教師の教育実践に関する図書を読む。	180分
第11回	憲法・子どもの権利条約・児童憲章・教育基本法	教育に関わる法・条約から特別活動の役割を考察する。	教育に関わる法・条約を調べる。	180分
第12回	特別活動校外授業一下見計画実習 1 (多摩動物公園)	教師として特別活動を計画することを、学外活動を下見する実践として体験する。	多摩動物公園の教育プログラムを調査する。	180分
第13回	特別活動校外授業一下見計画実習 2 (多摩動物公園)	教師として特別活動を計画することを、学外活動を下見する実践として体験する。	多摩動物公園の教育プログラムを調査する。	180分
第14回	特別活動の指導案	学外活動の下見を踏まえて、特別活動の指導案を立案する。	指導案を記述する。	180分
第15回	特別活動の課題と展望 (BRD)	今日の児童の現状から、特別活動の役割とあり方を考察してまとめる。	全回の学びを振り返る。	180分
第16回				

学習計画注記	学生の能動性の発揮によって授業内容を発展的に組み替える場合もある。 講義・グループワーク (指導計画の立案・模擬活動・プレゼンテーションなど)・ミニテスト・BRD (当日ブリーフレポート) など多面的な方法で授業を行う。
学生へのフィードバック方法	学生相互で学びの評価を行い、授業時の学生アンケートを学生にフィードバックする。
評価方法	特別活動指導案の完成度。 グループで実施する特別活動指導案プレゼンテーションの内容と各自の貢献度。 適宜実施するミニテストと、生徒指導のあり方を考えるBRD (当日ブリーフレポート) による。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
特別活動指導案	○		○	○
プレゼンテーション		○	○	○
ミニテスト	○			
レポート		○	○	○
評価割合	特別活動指導案 (30%) プレゼンテーション (30%) ミニテスト (10%) BRD (当日ブリーフレポート) (30%)			
使用教科書名 (ISBN番号)	特に使用しない。 必要に応じて授業内で指定する。			
参考図書	折出健二編『特別活動』学文社			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもに関わる諸課題を理解することで、教師の道へつなぐことができる。 【思考・判断】子どもの諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】教師として、高い徳性をもって人々のために働く能力を持つ。 【技能・表現】教師としての専門的技術をもって教育の課題を発見し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を持つ。			
オフィスアワー	火曜日 3限1607研究室			
学生へのメッセージ	今日的な教育課題や生徒の実情を調べる・自分自身の子どもの時代の学校の様子をふり返る・実習等での体験をまとめる、などによって授業に主体的に参加することが求められる。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業				
アクティブ・ラーニング	○	絵日記ワーク・グループワーク・グループプレゼンテーションを行う。		
情報リテラシー教育	○	インターネットによる法・施策・学外活動実施箇所の調査、図書館でのリファレンスの活用。		
ICT活用	○	パワーポイントによるプレゼンテーション。		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	教育方法・技術論（幼・小）		
講義開講時期	前期前半	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	1 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 立川 泰史	指定なし
教授	齋藤 義雄	指定なし

ナンバリング	Y34004M11
授業概要(教育目的)	教育の目的である人間形成を図るための道が教育方法である。教育方法を歴史的な面からとらえ、現代の教育にどのようにつながっているかを解説する。また、海外の教育方法の理論や実践が、わが国の教育方法にどのように影響を与えたかという視点からとらえる。教授・学習過程に焦点にすれば、その原理や一般理論を踏まえながら、問題解決型の授業構成や指導の在り方の基本を解説する。さらに、学校教育で必要な指導技術の基礎的な理解を図るとともに、情報機器および教材の活用について講義を行う。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1 教育方法・技術の意義が理解できる。 2 教育方法・技術に関する基礎的・基本的な知識が理解できる。
思考・判断の観点 (K)	教育方法・技術に関する問題点が理解できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教育方法・技術に関して積極的に学習に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	情報機器の活用を図ることが出来る。

学習計画

教育方法・技術論

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	1 ガイダンス、西洋における教育方法(19世紀前半まで)	西洋における教育方法(19世紀前半まで) ベーコン、コメニウス、ロック、ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、ヘルバルトについて理解する。	教科書の第1章(p10~18)を読んでおくこと。	120分
第2回	2 西洋における教育方法(19世紀後半から)	西洋における教育方法(19世紀後半から) デューイ、キルパトリック、ソーンダイク、パーカー、スター、ブルーム、ヴィゴツキーについて理解する。	教科書の第2章(p20~28)を読んでおくこと。	120分

第3回	3 日本における教育方法	日本における教育方法を理解する。	教科書の第3章（p30～38）を読んでおくこと。	120分
第4回	4 学習の理論と授業のデザイン	学習の理論と授業のデザインを理解する。	教科書の第4章（p40～48）と第5章（p50～59）を読んでおくこと。	120分
第5回	5 学びあい	学びあいを理解する。	教科書の第6章（p62～71）を読んでおくこと。 興味のある教育方法・技術についてレポートを作成する。	180分
第6回	6 教育の道具・素材・環境、教育機器とICT	教育の道具・素材・環境、教育機器とICTを理解する。	教科書の第7章（p74～83）と第8章（86～94）を読んでおくこと。	120分
第7回	7 評価とアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）	評価とアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）を理解する。	教科書の第9章（p96～106）と12章（p130～139）を読んでおくこと。	210分
第8回	8 まとめ、定期試験	これまでの学習をまとめるとともに定期試験を実施する。	これまでの学習の総まとめをする。	270分

学生へのフィードバック方法 授業の最初と最後には質問の時間を設定するとともに、授業以外では研究室に質問に来ること。提出されたノートは、確認後返却する。

評価方法 定期試験は、100点満点で出題する。出題の傾向については、最後の授業で説明し、内容は教員採用試験に出題されるような基礎・基本とする。出題方法は、記述式・選択式の問題を出題する。興味を抱いた教育方法・技術についてレポートを作成してもらう予定である。授業のノートはきちんととること。記述したノートに関しては、確認し、その後返却する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			
レポート		○		○
ノート	○			
積極的な参加態度			○	

評価割合 定期試験（70%）平常点（30%）で評価する。平常点は、授業への積極的な参加態度、レポート、ノート等

使用教科書名 (ISBN番号) 齋藤義雄『教育方法・技術論—主体的・対話的で深い学びに向けて—』大学図書出版 2018年

参考図書 『教育方法学』 佐藤学 岩波書店 1996年
他は、授業で紹介する。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。
【技能・表現】教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。

オフィスアワー 授業の前後 授業教室または随時1628研究室

学生へのメッセージ 教員免許は、取得するだけでなく教職に就いて初めて生かされる。本講義では、まず教育方法・技術論の教員採用試験に出題されるような基礎的・基本的な内容、重要なポイントについて理解し、身に付けてもらう。身に付けた知識は、実際の教育活動で活用してほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、中学校・小学校において教員としての実務経験を有している。学習指導の方法や技術に関して、実務経験に基づいた経験を積極的に伝えている。
アクティブ・ラーニング	○	「主体的・対話的で深い学び」（アクティブラーニング）の方法を理解し、授業で実践する。

情報リテラシー教育		
ICT活用	○	情報機器の活用方法を実際に確かめるとともに、ICTについての理解し、活用する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	教育方法・技術論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	6限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 齋藤 義雄	指定なし

ナンバリング	Y30009C11
授業概要(教育目的)	教育の目的である人間形成を図るための道が教育方法である。教育方法を歴史的な面からとらえ、現代の教育にどのようにつながっているかを解説する。また、海外の教育方法の理論や実践が、わが国の教育方法にどのように影響を与えたかという視点からとらえる。教授・学習過程に焦点にしほれば、その原理や一般理論を踏まえながら、問題解決型の授業構成や指導の在り方の基本を解説する。さらに、学校教育で必要な指導技術の基礎的な理解を図るとともに、情報機器および教材の活用について講義を行う。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	1 教育方法・技術の意義が理解できる。 2 教育方法・技術に関する基礎的・基本的な知識が理解できる。
思考・判断の観点 (K)	教育方法・技術に関する問題点が理解できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教育方法・技術に関して積極的に学習に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

教育方法・技術論

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	1 ガイダンス、西洋における教育方法(19世紀前半まで)	西洋における教育方法(19世紀前半まで) ベーコン、コメニウス、ロック、ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、ヘルバルトについて理解する。	教科書の第1章(p10~18)を読んでおくこと。	120分
第2回	2 西洋における教育方法(19世紀後半から)	西洋における教育方法(19世紀後半から) デューイ、キルパトリック、ゾーンダイク、パーカースト、タイラー、ブルーム、ヴィゴツキーについて理解する。	教科書の第2章(p20~28)を読んでおくこと。	120分
第3回	3 日本に	日本における教育方法を理解する。	教科書の第3章(p30~3)	120分

	おける教育方法		8) を読んでおくこと。	
第4回	4 学習の理論と授業のデザイン	学習の理論と授業のデザインを理解する。	教科書の第4章 (p 40~48) と第5章 (p 50~59) を読んでおくこと。	120分
第5回	5 学びあい	学びあいを理解する。	教科書の第6章 (p 62~71) を読んでおくこと。 興味のある教育方法・技術についてレポートを作成する。	180分
第6回	6 教育の道具・素材・環境、教育機器とICT	教育の道具・素材・環境、教育機器とICTを理解する。	教科書の第7章 (p 74~83) と第8章 (86~94) を読んでおくこと。	120分
第7回	7 評価とアクティブ・ラーニング (主体的・対話的で深い学び)	評価とアクティブ・ラーニング (主体的・対話的で深い学び) を理解する。	教科書の第9章 (p 96~106) と12章 (p 130~139) を読んでおくこと。	210分
第8回	8 まとめ、定期試験	これまでの学習をまとめるとともに定期試験を実施する。	これまでの学習の総まとめをする。	270分

学生へのフィードバック方法 授業の最初と最後には質問の時間を設定するとともに、授業以外では研究室に質問に来ること。提出されたノートは、確認後返却する。

評価方法 定期試験は、100点満点で出題する。出題の傾向については、最後の授業で説明し、内容は教員採用試験に出題されるような基礎・基本とする。出題方法は、記述式・選択式の問題を出題する。興味を抱いた教育方法・技術についてレポートを作成してもらう予定である。授業のノートはきちんととること。記述したノートに関しては、確認し、その後返却する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験	○			
レポート		○		○
ノート	○			
積極的な参加態度			○	

評価割合 定期試験 (70%) 平常点 (30%) で評価する。平常点は、授業への積極的な参加態度、レポート、ノート等

使用教科書名 (ISBN番号) 齋藤義雄『教育方法・技術論—主体的・対話的で深い学びに向けて—』大学図書出版 2018年

参考図書 『教育方法学』 佐藤学 岩波書店 1996年
他は、授業で紹介する。

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】子どもの教育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。
【技能・表現】教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。

オフィスアワー 授業の前後 授業教室または講師控室

学生へのメッセージ 教員免許は、取得するだけでなく教職に就いて初めて生かされる。本講義では、まず教育方法・技術論の教員採用試験に出題されるような基礎的・基本的な内容、重要なポイントについて理解し、身に付けてもらう。身に付けた知識は、実際の教育活動で活用してほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、中学校・小学校において教員としての実務経験を有している。学習指導の方法や技術に関して、実務経験に基づいた経験を積極的に伝えている。
アクティブ・ラーニング	○	「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラーニング)の方法を理解し、授業で実践する。
情報リテラシー		

教育		
ICT活用	○	情報機器の活用方法を実際に確かめるとともに、ICTについての理解し、活用する。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	生徒指導論（小）		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 齋藤 史夫	指定なし

ナンバリング	Y34103M11
授業概要(教育目的)	学生の能動的な学習参加（アクティブ・ラーニング）によって、生徒指導にかかわる諸問題を学生相互の協力で研究し、今日の教育と生徒の現状を知り、指導案を具体的に構想し、模擬実践する。
履修条件	教員免許資格に必要
学習目標(到達目標)	
学習目標（到達目標）	
知識・理解の観点 (K)	子どもの学校生活の充実と「人格の完成」（教育基本法）のために、生徒指導について深く理解する。
思考・判断の観点 (K)	子どもの貧困・いじめ・不登校・自殺などの諸課題の本質を理解し、解決策を考察できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	将来の、学校教育の研究的共同実践者である教師として子どもを理解し、他の教職員と協力する姿勢を持ち、良い生徒指導力を身に付ける意欲を持つ。
技術・表現の観点 (A)	子どもと対話し主体的に研究して課題を明らかにする力量・子どもの自発性をひきだす生活指導の視点と技術を身に付ける。 調査し対話した内容をグループで授業に出きる力を身に付ける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	生徒指導論の課題と目的	今日の子どものめぐる課題から、生徒指導の課題と目的を考える。	今日の子どものめぐる状況と課題を、自分の体験やニュース等から考える。	120分
第2回	生徒指導実践演習ー学習指導の新しい構想	アクティブラーニングの実践的な体験によって、これからの学習指導の新しい可能性を考える。	テキストの全体を概観し、自分が深めるべき課題を考える	120分
第3回	体験的教師生徒関係論ー生徒指導の目標(絵日記ワーク)	生徒指導の充実のためには、教師と児童・生徒との良い関係が不可欠である。 アクティブラーニングである、絵日記ワークによって、実際の体験から良い関係とはどのようなものかを理解する。	自分の学校時代の教師・生徒関係をふり返る。	120分

第4回	教育の目標と生徒指導(BRD)	絵日記ワークでの発表をもとに、教育の目標と生徒指導についての考えをまとめる。	児童憲章・子どもの権利条約を調査し、全体を読む。	120分
第5回	文献研究による生徒指導実践の構想	生徒指導に関わる諸問題について、各自の問題意識を深め、関連する書籍を図書館にて調査する。図書館においてはインターネット文献調査・リファレンスを活用する。 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育)	NDO-OPACを活用し、問題意識に関わる文献を下調べする。	120分
第6回	事例研究による生徒指導実践の構想	文献調査から具体的な事例を選定し、その事例を生徒指導の視点から読み解く。	調査した文献を読む。	120分
第7回	子ども理解と協働-学外講師から学ぶ	不登校の親の会・学校事務職員の方の講義から、子ども理解と学校内における協働について学ぶ。	教科書の「特集」を読む。	120分
第8回	子ども親と指導(BRD)	今までの考察から、子どもの本質を考え、その視点から指導について考える。	教科書の「今年の子ども最前線」を読む。	120分
第9回	地域と共にある学校づくりと生徒の成長	学校を広く地域に開くことが提起されている。その意味を理解する。	教科書の「子どもと地域」の章を読む。	120分
第10回	いじめなど子どもの関係性の現状と課題	テーマをグループ研究し、パワーポイント等を準備して授業を行う。(アクティブラーニング・ICT活用)	グループ研究テーマを深め、授業準備する。	120分
第11回	子どもの貧困・不登校・学力不振等の現代的課題	テーマをグループ研究し、パワーポイント等を準備して授業を行う。(アクティブラーニング・ICT活用)	グループ研究テーマを深め、授業準備する。	120分
第12回	生徒指導のための学校内外の連携と教育相談	テーマをグループ研究し、パワーポイント等を準備して授業を行う。(アクティブラーニング・ICT活用)	グループ研究テーマを深め、授業準備する。	120分
第13回	キャリア教育と進路指導	テーマをグループ研究し、パワーポイント等を準備して授業を行う。(アクティブラーニング・ICT活用)	グループ研究テーマを深め、授業準備する。	120分
第14回	「指導」概念研究と『生徒指導提要』	今までの学習内容から『生徒指導提要』の内容を吟味する。	『生徒指導提要』を調査し、読む。	120分
第15回	生徒指導上の課題と展望(BRD)	15回の授業から、自分としての生徒指導観を持つ。	教科書全体をふり返し、最も興味ある文献を再度読む。	120分

学習計画注記	アクティブ・ラーニング、すなわち学生主体の能動的な学修として授業を行う。そのため、学生の能動性の発揮によって授業内容を発展的に組み替える場合もある。 講義・グループワーク(生徒指導を主題とした模擬授業の構想と実践など)・ミニテスト・BRD(当日ブリーフレポート)など多面的な方法で授業を行う。
--------	---

学生へのフィードバック方法	学生相互で学びの評価を行い、授業時の学生アンケートを学生にフィードバックする。
---------------	---

評価方法	授業実施のために作成する生徒指導案。 グループで実施する模擬授業・プレゼンテーションの内容と各自の貢献度。 適宜実施するミニテストと、生徒指導のあり方を考えるレポート。
------	--

評価基準	
------	--

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
生徒指導案	○	○		
模擬授業・プレゼンテーション			○	○
ミニテスト	○			
レポート	○	○		○

評価割合	生徒指導案（30%） 模擬授業・プレゼンテーション（30%） ミニテスト・BRD（当日ブリーフレポート）（40%）	
使用教科書名（ISBN番号）	日本子どもを守る会編『子ども白書2019』かもがわ出版	
参考図書	文部科学省『生徒指導提要』教育図書	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもに関わる諸課題を理解することで、教師の道へつなぐことができる。 【思考・判断】子どもの諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができるまた、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】教師として、高い徳性をもって人々のために働く能力を持つ。 【技能・表現】教師としての専門的技術をもって教育の課題を発し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を持つ。	
オフィスアワー	火曜日 3限1607研究室	
学生へのメッセージ	今日的な教育課題や子どもの実情を調べる・自分自身の生徒時代の学校の様子をふり返る・学生相互の討論や協力、などによって授業に主体的に参加することが求められる。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	絵日記ワーク・グループ研究とグループによる模擬授業など
情報リテラシー教育	○	図書館でのリファレンス・インターネットによる法・施策等の調査
ICT活用	○	パワーポイント等によるプレゼンテーション

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	生徒指導論（中・高・栄）		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 齋藤 史夫	指定なし

ナンバリング	Y30010M11
授業概要(教育目的)	学生の能動的な学習参加（アクティブ・ラーニング）によって、生徒指導にかかわる諸問題を学生相互の協力で研究し、今日の教育と生徒の現状を知り、指導案を具体的に構想し、模擬実践する。
履修条件	教員免許資格に必要
学習目標(到達目標)	学習目標（到達目標）
知識・理解の観点 (K)	生徒の学校生活の充実と「人格の完成」（教育基本法）のために、生徒指導について深く理解する。
思考・判断の観点 (K)	子どもの貧困・いじめ・不登校・自殺などの諸課題の本質を理解し、解決策を考察できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	将来の、学校教育の研究的共同実践者である教師として生徒を理解し、他の教職員と協力する姿勢を持ち、良い生徒指導力を身に付ける意欲を持つ。
技術・表現の観点 (A)	生徒と対話し主体的に研究して課題を明らかにする力量・生徒の自発性をひきだす生活指導の視点と技術を身に付ける。 調査し対話した内容をグループで授業に出きる力を身に付ける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	生徒指導論の課題と目的	今日の子どもをめぐる課題から、生徒指導の課題と目的を考える。	今日の子どもをめぐる状況と課題を、自分の体験やニュース等から考える。	120分
第2回	生徒指導実践演習－学習指導の新しい構想	アクティブラーニングの実践的な体験によって、これからの学習指導の新しい可能性を考える。	テキストの全体を概観し、自分が深めるべき課題を考える	120分
第3回	体験的教師生徒関係論－生徒指導の目標（絵日記ワーク）	生徒指導の充実のためには、教師と児童・生徒との良い関係が不可欠である。 アクティブラーニングである、絵日記ワークによって、実際の体験から良い関係とはどのようなものかを理解する。	自分の学校時代の教師・生徒関係をふり返る。	120分
第4回	教育の目標	絵日記ワークでの発表をもとに、教育の目標と生徒指導	児童憲章・子どもの権利条約を	120分

	と生徒指導 (BRD)	についての考えをまとめる。	調査し、全体を読む。	
第5回	文献研究による生徒指導実践の構想	生徒指導に関わる諸問題について、各自の問題意識を深め、関連する書籍を図書館にて調査する。図書館においてはインターネット文献調査・リファレンスを活用する。 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育)	NDO-OPACを活用し、問題意識に関わる文献を下調べする。	120分
第6回	事例研究による生徒指導実践の構想	文献調査から具体的な事例を選定し、その事例を生徒指導の視点から読み解く。	調査した文献を読む。	120分
第7回	子ども理解と協働-学外講師から学ぶ	不登校の親の会・学校事務職員の方の講義から、子ども理解と学校内における協働について学ぶ。	教科書の「特集」を読む。	120分
第8回	子ども親と指導 (BRD)	今までの考察から、子どもの本質を考え、その視点から指導について考える。	教科書の「今年の子ども最前線」を読む。	120分
第9回	地域と共にある学校づくりと生徒の成長	学校を広く地域に開くことが提起されている。その意味を理解する。	教科書の「子どもと地域」の章を読む。	120分
第10回	いじめなど子どもの関係性の現状と課題	テーマをグループ研究し、パワーポイント等を準備して授業を行う。(アクティブラーニング・ICT活用)	グループ研究テーマを深め、授業準備する。	120分
第11回	子どもの貧困・不登校・学力不振等の現代的課題	テーマをグループ研究し、パワーポイント等を準備して授業を行う。(アクティブラーニング・ICT活用)	グループ研究テーマを深め、授業準備する。	120分
第12回	生徒指導のための学校内外の連携と教育相談	テーマをグループ研究し、パワーポイント等を準備して授業を行う。(アクティブラーニング・ICT活用)	グループ研究テーマを深め、授業準備する。	120分
第13回	キャリア教育と進路指導	テーマをグループ研究し、パワーポイント等を準備して授業を行う。(アクティブラーニング・ICT活用)	グループ研究テーマを深め、授業準備する。	120分
第14回	「指導」概念研究と『生徒指導提要』	今までの学習内容から『生徒指導提要』の内容を吟味する。	『生徒指導提要』を調査し、読む。	120分
第15回	生徒指導上の課題と展望 (BRD)	15回の授業から、自分としての生徒指導観を持つ。	教科書全体をふり返し、最も興味ある文献を再度読む。	120分

学習計画注記	アクティブ・ラーニング、すなわち学生主体の能動的な学修として授業を行う。そのため、学生の能動性の発揮によって授業内容を発展的に組み替える場合もある。 講義・グループワーク（生徒指導を主題とした模擬授業の構想と実践など）・ミニテスト・BRD（当日ブリーフレポート）など多面的な方法で授業を行う。
--------	---

学生へのフィードバック方法	学生相互で学びの評価を行い、授業時の学生アンケートを学生にフィードバックする。
---------------	---

評価方法	授業実施のために作成する生徒指導案。 グループで実施する模擬授業・プレゼンテーションの内容と各自の貢献度。 適宜実施するミニテストと、生徒指導のあり方を考えるレポート。
------	--

評価基準	
------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
生徒指導案	○	○		
模擬授業・プレゼンテーション			○	○
ミニテスト	○			
レポート	○	○		○

評価割合	生徒指導案 (30%) 模擬授業・プレゼンテーション (30%) ミニテスト・BRD (当日ブリーフレポート) (40%)	
使用教科書名 (ISBN番号)	日本子どもを守る会編『子ども白書2020』かもがわ出版	
参考図書	文部科学省『生徒指導提要』教育図書	
オフィスアワー	火曜日 3限1607研究室	
学生へのメッセージ	今日的な教育課題や生徒の実情を調べる・自分自身の生徒時代の学校の様子をふり返る・学生相互の討論や協力、などによって授業に主体的に参加することが求められる。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	絵日記ワーク・グループ研究とグループによる模擬授業など
情報リテラシー教育	○	図書館でのリファレンス・インターネットによる法・施策等の調査
ICT活用	○	パワーポイント等によるプレゼンテーション

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	生徒指導論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	金曜日	代表時限	6限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 齋藤 史夫	指定なし

ナンバリング	Y30010C11
授業概要(教育目的)	学生の能動的な学習参加（アクティブ・ラーニング）によって、生徒指導にかかわる諸問題を学生相互の協力で研究し、今日の教育と生徒の現状を知り、指導案を具体的に構想し、模擬実践する。
履修条件	教員免許資格に必要

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	生徒の学校生活の充実と「人格の完成」（教育基本法）のために、生徒指導について深く理解する。
思考・判断の観点 (K)	子どもの貧困・いじめ・不登校・自殺などの諸課題の本質を理解し、解決策を考察できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	将来の、学校教育の研究的共同実践者である教師として生徒を理解し、他の教職員と協力する姿勢を持ち、良い生徒指導力を身に付ける意欲を持つ。
技術・表現の観点 (A)	生徒と対話し主体的に研究して課題を明らかにする力量・生徒の自発性をひきだす生活指導の視点と技術を身に付ける。 調査し対話した内容をグループで授業に出きる力を身に付ける。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	生徒指導論の課題と目的	今日の子どもをめぐる課題から、生徒指導の課題と目的を考える。	今日の子どもをめぐる状況と課題を、自分の体験やニュース等から考える。	120分
第2回	生徒指導実践演習－学習指導の新しい構想	アクティブラーニングの実践的な体験によって、これからの学習指導の新しい可能性を考える。	テキストの全体を概観し、自分が深めるべき課題を考える	120分
第3回	体験的教師生徒関係論－生徒指導の目標（絵	生徒指導の充実のためには、教師と児童・生徒との良い関係が不可欠である。 アクティブ・ラーニングである、絵日記ワークによって、実際の体験から良い関係とはどのようなものかを理解する。	自分の学校時代の教師・生徒関係をふり返る。	120分

	日記ワーク)			
第4回	教育の目標と生徒指導 (BRD)	絵日記ワークでの発表をもとに、教育の目標と生徒指導についての考えをまとめる。	児童憲章・子どもの権利条約を調査し、全体を読む。	120分
第5回	文献研究による生徒指導実践の構想	生徒指導に関わる諸問題について、各自の問題意識を深め、関連する書籍を図書館にて調査する。図書館においてはインターネット文献調査・リファレンスを活用する。 (アクティブラーニング・情報リテラシー教育)	NDO-OPACを活用し、問題意識に関わる文献を下調べする。	120分
第6回	事例研究による生徒指導実践の構想	文献調査から具体的な事例を選定し、その事例を生徒指導の視点から読み解く。	調査した文献を読む。	120分
第7回	子ども理解と協働-学外講師から学ぶ	不登校の親の会・学校事務職員の方の講義から、子ども理解と学校内における協働について学ぶ。	教科書の「特集」を読む。	120分
第8回	子ども親と指導 (BRD)	今までの考察から、子どもの本質を考え、その視点から指導について考える。	教科書の「今年の子ども最前線」を読む。	120分
第9回	地域と共にある学校づくりと生徒の成長	学校を広く地域に開くことが提起されている。その意味を理解する。	教科書の「子どもと地域」の章を読む。	120分
第10回	いじめなど子どもの関係性の現状と課題	テーマをグループ研究し、パワーポイント等を準備して授業を行う。(アクティブラーニング・ICT活用)	グループ研究テーマを深め、授業準備する。	120分
第11回	子どもの貧困・不登校・学力不振等の現代的課題	テーマをグループ研究し、パワーポイント等を準備して授業を行う。(アクティブラーニング・ICT活用)	グループ研究テーマを深め、授業準備する。	120分
第12回	生徒指導のための学校内外の連携と教育相談	テーマをグループ研究し、パワーポイント等を準備して授業を行う。(アクティブラーニング・ICT活用)	グループ研究テーマを深め、授業準備する。	120分
第13回	キャリア教育と進路指導	テーマをグループ研究し、パワーポイント等を準備して授業を行う。(アクティブラーニング・ICT活用)	グループ研究テーマを深め、授業準備する。	120分
第14回	「指導」概念研究と『生徒指導提要』	今までの学習内容から『生徒指導提要』の内容を吟味する。	『生徒指導提要』を調査し、読む。	120分
第15回	生徒指導上の課題と展望 (BRD)	15回の授業から、自分としての生徒指導観を持つ。	教科書全体をふり返し、最も興味ある文献を再度読む。	120分

学習計画注記	アクティブ・ラーニング、すなわち学生主体の能動的な学修として授業を行う。そのため、学生の能動性の発揮によって授業内容を発展的に組み替える場合もある。 講義・グループワーク(生徒指導を主題とした模擬授業の構想と実践など)・ミニテスト・BRD(当日ブリーフレポート)など多面的な方法で授業を行う。
--------	---

学生へのフィードバック方法	学生相互で学びの評価を行い、授業時の学生アンケートを学生にフィードバックする。
---------------	---

評価方法	授業実施のために作成する生徒指導案。 グループで実施する模擬授業・プレゼンテーションの内容と各自の貢献度。 適宜実施するミニテストと、生徒指導のあり方を考えるレポート。
------	--

評価基準	
------	--

評価基準	
------	--

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
生徒指導案	○	○		
模擬授業・プレゼンテーション			○	○

ミニテスト	○		
レポート	○	○	○

評価割合	生徒指導案 (30%) 模擬授業・プレゼンテーション (30%) ミニテスト・BRD (当日ブリーフレポート) (40%)
使用教科書名 (ISBN番号)	日本子どもを守る会編『子ども白書2019』かもがわ出版
参考図書	生徒指導提要 (文部科学省)
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもに関わる諸課題を理解することで、教師の道へつなぐことができる。 【思考・判断】子どもの諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができるまた、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】教師として、高い徳性をもって人々のために働く能力を持つ。 【技能・表現】教師としての専門的技術をもって教育の課題を発生し、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を持つ。
オフィスアワー	火曜日 3限1607研究室
学生へのメッセージ	今日的な教育課題や生徒の実情を調べる・自分自身の生徒時代の学校の様子をふり返る・学生相互の討論や協力、などによって授業に主体的に参加することが求められる。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	絵日記ワーク・グループ研究とグループによる模擬授業など
情報リテラシー教育	○	図書館でのリファレンス・インターネットによる法・施策等の調査
ICT活用	○	パワーポイント等によるプレゼンテーション

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	教育相談論（幼・小）		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	2限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 木村 文香	指定なし

ナンバリング	Y24005M21
授業概要(教育目的)	学校における教育相談とは、子ども一人ひとりの教育上・発達上の諸問題について問題解決を目指して、子どもや保護者と教師をはじめとする学校関係者が共に考える方法のひとつである。その結果、子どもの発達が促されたり、子どもが充実した学校生活を送れたりする可能性がひろげられる。本授業は、問題が生じた後の相談だけでなく、問題を生じさせず、快適に学校生活を送るための手段としての教育相談という観点も併せて、学校内部での連携と、学校外の教育相談機関との連携なども考慮に入れて、具体的に受講者とともに考えていく。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1. 教育相談とは何かを理解する。 2. 教育現場において生じる問題にはどのようなものがあるのかを知る。 3. 教育現場において生じる問題が教育相談によってどのように解決できるのかを理解する。
思考・判断の観点 (K)	1. 教育相談の知識を、教育現場において生かそうとすることができる。 2. 教育現場における問題を教育相談の知識を用いて解決しようとするすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	学校での日常生活にある事象から、教育相談にまつわるテーマを見つけることができる。
技術・表現の観点 (A)	学校教育現場における問題、自身や身近な人の行動、及び社会現象に関して、教育相談で得た知識に基づいて説明するなど、教育相談と教育現場のつながりを発信することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション ——教育相談の目的と領域——	ガイダンスとして、授業の進め方、スケジュールなど、受講にあたっての基本を理解する。 その上で、教育相談論で扱う内容を概観し、これから学ぶ学問領域は何かを知る。 あわせて、学校における「相談」とは何かを知る。	教育相談を学ぶ上で、自分が興味のある内容を考え、授業の該当回がいつなのかを見つける。 また、授業に臨むにあたって、自分なりの目標を定める。 その中で、「相談」に関して自分が持っていたイメージとの相違点を整理し、自分が関心のある分野と教育相談のつながりを考える。	180分
第2回	問題行動は	学校における問題と発達段階の関係を知る。	事前に配布された資料をよく読	180分

	いつ起きる？2 ——子どもの発達と「困りごと」——		み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	
第3回	子どもの「困りごと」解決の仕組み 1——不登校・いじめと子どもの権利——	学齢期の子どもの問題と解決のための制度や仕組みを知る。 主に、不登校・教育機会確保法、いじめ、子どもの権利に関する条約など	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第4回	子どもの「困りごと」解決の仕組み 2——チーム学校と教育相談——	学齢期の子どもの問題と解決のための制度や仕組みを知る。 主に、虐待（加害者支援の考え方）、チーム学校、生徒指導提要、3段階の心理教育的援助サービスを学ぶ。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第5回	教育相談でのコミュニケーション 1——カウンセリングと心理療法——	カウンセリングと心理療法の違いや、それぞれの進め方を知る。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第6回	教育相談でのコミュニケーション 2——カウンセリングによる問題解決の手法——	カウンセリングによる問題解決の手法について知る。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第7回	教育相談でのコミュニケーション 3——相談場面で起きること——	相談場面で起きる様々なことを何かを知り、問題解決を行う上で気をつけるべきポイントを知る。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第8回	中間総括（中間試験）	これまでの教育相談の理論をふりかえり、どの程度理解しているのかを自分で確認し、この後の実践的な学びにつなげる。	事前に配布された資料や自分のノートをよく確認し、全てわかるようにしておく。	180分
第9回	個別対応の実際 ——ラポールの形成——	実際にラポールはどのように形成するのか、1対1を想定した場面をもとに基準となる方法を知り、自分なりの方法を考える。 ワークブックに基づいて学習する。	事前に配布され、記入済のワークブックを読み返し、不明な点を明らかにしておく。 また、自分の場合にはどのようにラポールを形成するのかを具体的に考える。	180分
第10回	個別対応の実際 2——青年期問題編——	青年期の問題にはどう対応するのか、1対1を想定した場面をもとに基準となる方法を知り、自分なりの方法を考える。 ワークブックに基づいて学習する。	事前に配布され、記入済のワークブックを読み返し、不明な点を明らかにしておく。 また、自分の場合にはどのように青年期特有の問題に対応するのかを具体的に考える。	180分
第11回	学校内での連携 1——非行逸脱行動——	学校ではどのように連携して問題に対応するのか。非行逸脱傾向の子どもたちの事例から、基準となる方法を知り、自分なりの方法を考える。 ワークブックに基づいて学習する。	事前に配布され、記入済のワークブックを読み返し、不明な点を明らかにしておく。 また、自分の場合にはどのように問題に対応するのかを具体的に考える。	180分
第12回	学校内での連携 2——不登校傾向——	学校ではどのように連携して問題に対応するのか。不登校傾向の子どもたちの事例から、基準となる方法を知り、自分なりの方法を考える。 ワークブックに基づいて学習する。	事前に配布され、記入済のワークブックを読み返し、不明な点を明らかにしておく。 また、自分の場合にはどのように問題に対応するのかを具体的に考える。	180分
第13回	集団対応の実際 1——発達障	発達障害の子どもには世界はどう見えているのかを知り、どう対応するのか、集団を想定した場面をでの基準	事前に配布され、記入済のワークブックを読み返し、不明な点を明らかにしておく。	180分

	害の子どもの世界——	となる方法を知り、自分なりの方法を考える。 ワークブックに基づいて学習する。	また、自分の場合にはどのように発達障害の子どもに対応するのかを具体的に考える。	
第14回	集団対応の実際2——合理的配慮とアセスメント——	合理的配慮とは何かを具体的に知り、どう対応するのか、集団を想定した場面での基準となる方法を知り、自分なりの方法を考える。 ワークブックに基づいて学習する。	事前に配布され、記入済のワークブックを読み返し、不明な点を明らかにしておく。 また、自分の場合にはどのように合理的配慮が必要な場面に対応するのかを具体的に考える。	180分
第15回	集団対応の実際3——集団を対象とした予防・開発的取り組み、グルーブマネージメント——	集団を対象とした教育相談について、予防・開発的な取り組みや、グルーブマネージメントをどう対応するのか、具体的な方法を知り、自分なりの方法を考える。 ワークブックに基づいて学習する。	事前に配布され、記入済のワークブックを読み返し、不明な点を明らかにしておく。 また、自分の場合にはどのように集団の場面に対応するのかを具体的に考える。	180分

学習計画注記	講義を中心に展開する予定であるが、質疑応答・討論も大切にしたい。 その展開によって生きた流れを優先するため、上記スケジュールを変更することもある。
--------	--

学生へのフィードバック方法	1. コメント欄付きの出席カードについては、毎回配布、回収し、最終的に教員が出席状況と記入内容をチェックした後、返却する。 2. ワークブックについては、中間試験の前と授業の最終回の前に回収し、記入内容をチェックした後、返却する。
---------------	--

評価方法	出席カードやワークブックへの取り組みなど授業への意欲と態度、中間試験の評価、最終課題の評価をもとに総合評価を行う。
------	---

評価基準	
------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間試験	○	○		
出席カード (コメント式)		○	○	○
ワークブック	○	○		○
最終課題	○	○	○	○

評価割合	出席カードやワークブックへの取り組みなど授業への意欲、態度を30% 中間試験の評価を35% 最終課題の評価を35% として、総合評価を行う。
------	---

使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。授業時にレジュメを配布する。
-----------------	------------------------

参考図書	自学自習用の参考図書として『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房 を推奨する。 このほか適宜、授業の中で紹介する。
------	---

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「教育」「学校」という観点から人間を相対化することで、「自然界における人間」を理解する心理学的な知識を得る。 【思考・判断】心理相済的な思考をもって「教育」を理解し、その現代社会においてあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を得る。 【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々、特に学校現場のために働く能力を、教育の相談に関する知識に基づく関心によって得る。 【技能・表現】学修で得た専門的技術 (技術) をもって人間社会、学校の中に課題を発見し、教育相済的な思考や教育相談の理論を用いて、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を得る。
---------------	---

オフィスアワー	水曜日の4限、会議のない木曜日3限、金曜日3限 (千代田三番町キャンパス1805室)
---------	---

学生へのメッセージ	教室外学習は欠かさず行ってください。また、教育問題や、自分自身をも含めた「人」への関心を高めてください。
-----------	--

教育等の取り組み状況	
------------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	教育、福祉、医療・保健領域において、子どもを対象とする心理臨床活動を、臨床心理士として行った実務経験をベースに授業を行う。
アクティブ・ラ	○	後半の具体的な対応策の検討のところでは、ワークブックに基づき、ディスカッションを交えて進める。

ーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	google classroomを、最終課題、配布資料のアーカイブなどで活用する。

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	教育相談論（中・高・栄）		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 木村 文香	指定なし

ナンバリング	Y20011M21
授業概要(教育目的)	学校における教育相談とは、子ども一人ひとりの教育上・発達上の諸問題について問題解決を目指して、子どもや保護者と教師をはじめとする学校関係者が共に考える方法のひとつである。その結果、子どもの発達が促されたり、子どもが充実した学校生活を送れたりする可能性がひろげられる。本授業は、問題が生じた後の相談だけでなく、問題を生じさせず、快適に学校生活を送るための手段としての教育相談という観点も併せて、学校内部での連携と、学校外の教育相談機関との連携なども考慮に入れて、具体的に受講者とともに考えていく。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1. 教育相談とは何かを理解する。 2. 教育現場において生じる問題にはどのようなものがあるのかを知る。 3. 教育現場において生じる問題が教育相談によってどのように解決できるのかを理解する。
思考・判断の観点 (K)	1. 教育相談の知識を、教育現場において生かそうとすることができる。 2. 教育現場における問題を教育相談の知識を用いて解決しようとするすることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	学校での日常生活にある事象から、教育相談にまつわるテーマを見つけることができる。
技術・表現の観点 (A)	学校教育現場における問題、自身や身近な人の行動、及び社会現象に関して、教育相談で得た知識に基づいて説明するなど、教育相談と教育現場のつながりを発信することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション ——教育相談の目的と領域——	ガイダンスとして、授業の進め方、スケジュールなど、受講にあたっての基本を理解する。 その上で、教育相談論で扱う内容を概観し、これから学ぶ学問領域は何かを知る。 あわせて、学校における「相談」とは何かを知る。	教育相談を学ぶ上で、自分が興味のある内容を考え、授業の該当回がいつなのかを見つける。 また、授業に臨むにあたって、自分なりの目標を定める。 その中で、「相談」に関して自分が持っていたイメージとの相違点を整理し、自分が関心のある分野と教育相談のつながりを考える。	180分
第2回	問題行動は	学校における問題と発達段階の関係を知る。	事前に配布された資料をよく読	180分

	いつ起きる？2 ——子どもの発達と「困りごと」——		み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	
第3回	子どもの「困りごと」解決の仕組み 1——不登校・いじめと子どもの権利——	学齢期の子どもの問題と解決のための制度や仕組みを知る。 主に、不登校・教育機会確保法、いじめ、子どもの権利に関する条約など	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第4回	子どもの「困りごと」解決の仕組み 2——チーム学校と教育相談——	学齢期の子どもの問題と解決のための制度や仕組みを知る。 主に、虐待（加害者支援の考え方）、チーム学校、生徒指導提要、3段階の心理教育的援助サービスを学ぶ。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第5回	教育相談でのコミュニケーション 1——カウンセリングと心理療法——	カウンセリングと心理療法の違いや、それぞれの進め方を知る。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第6回	教育相談でのコミュニケーション 2——カウンセリングによる問題解決の手法——	カウンセリングによる問題解決の手法について知る。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第7回	教育相談でのコミュニケーション 3——相談場面で起きること——	相談場面で起きる様々なことを何かを知り、問題解決を行う上で気をつけるべきポイントを知る。	事前に配布された資料をよく読み、興味をもった点、不明な点を明らかにしておく。	180分
第8回	中間総括（中間試験）	これまでの教育相談の理論をふりかえり、どの程度理解しているのかを自分で確認し、この後の実践的な学びにつなげる。	事前に配布された資料や自分のノートをよく確認し、全てわかるようにしておく。	180分
第9回	個別対応の実際 ——ラポールの形成——	実際にラポールはどのように形成するのか、1対1を想定した場面をもとに基準となる方法を知り、自分なりの方法を考える。 ワークブックに基づいて学習する。	事前に配布され、記入済のワークブックを読み返し、不明な点を明らかにしておく。 また、自分の場合にはどのようにラポールを形成するのかを具体的に考える。	180分
第10回	個別対応の実際 2——青年期問題編——	青年期の問題にはどう対応するのか、1対1を想定した場面をもとに基準となる方法を知り、自分なりの方法を考える。 ワークブックに基づいて学習する。	事前に配布され、記入済のワークブックを読み返し、不明な点を明らかにしておく。 また、自分の場合にはどのように青年期特有の問題に対応するのかを具体的に考える。	180分
第11回	学校内での連携 1——非行逸脱行動——	学校ではどのように連携して問題に対応するのか。非行逸脱傾向の子どもたちの事例から、基準となる方法を知り、自分なりの方法を考える。 ワークブックに基づいて学習する。	事前に配布され、記入済のワークブックを読み返し、不明な点を明らかにしておく。 また、自分の場合にはどのように問題に対応するのかを具体的に考える。	180分
第12回	学校内での連携 2——不登校傾向——	学校ではどのように連携して問題に対応するのか。不登校傾向の子どもたちの事例から、基準となる方法を知り、自分なりの方法を考える。 ワークブックに基づいて学習する。	事前に配布され、記入済のワークブックを読み返し、不明な点を明らかにしておく。 また、自分の場合にはどのように問題に対応するのかを具体的に考える。	180分
第13回	集団対応の実際 1——発達障	発達障害の子どもには世界はどう見えているのかを知り、どう対応するのか、集団を想定した場面をでの基準	事前に配布され、記入済のワークブックを読み返し、不明な点を明らかにしておく。	180分

	害の子どもの世界——	となる方法を知り、自分なりの方法を考える。 ワークブックに基づいて学習する。	また、自分の場合にはどのように発達障害の子どもに対応するのかを具体的に考える。	
第14回	集団対応の実際2——合理的配慮とアセスメント——	合理的配慮とは何かを具体的に知り、どう対応するのか、集団を想定した場面での基準となる方法を知り、自分なりの方法を考える。 ワークブックに基づいて学習する。	事前に配布され、記入済のワークブックを読み返し、不明な点を明らかにしておく。 また、自分の場合にはどのように合理的配慮が必要な場面に対応するのかを具体的に考える。	180分
第15回	集団対応の実際3——集団を対象とした予防・開発的取り組み、グルーブマネージメント——	集団を対象とした教育相談について、予防・開発的な取り組みや、グルーブマネージメントをどう対応するのか、具体的な方法を知り、自分なりの方法を考える。 ワークブックに基づいて学習する。	事前に配布され、記入済のワークブックを読み返し、不明な点を明らかにしておく。 また、自分の場合にはどのように集団の場面に対応するのかを具体的に考える。	180分

学習計画注記	講義を中心に展開する予定であるが、質疑応答・討論も大切にしたい。 その展開によって生きた流れを優先するため、上記スケジュールを変更することもある。
--------	--

学生へのフィードバック方法	1. コメント欄付きの出席カードについては、毎回配布、回収し、最終的に教員が出席状況と記入内容をチェックした後、返却する。 2. ワークブックについては、中間試験の前と授業の最終回の前に回収し、記入内容をチェックした後、返却する。
---------------	--

評価方法	出席カードやワークブックへの取り組みなど授業への意欲と態度、中間試験の評価、最終課題の評価をもとに総合評価を行う。
------	---

評価基準	
------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間試験	○	○		
出席カード (コメント式)		○	○	○
ワークブック	○	○		○
最終課題	○	○	○	○

評価割合	出席カードやワークブックへの取り組みなど授業への意欲、態度を30% 中間試験の評価を35% 最終課題の評価を35% として、総合評価を行う。
------	---

使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定しない。授業時にレジュメを配布する。
-----------------	------------------------

参考図書	自学自習用の参考図書として『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房 を推奨する。 このほか適宜、授業の中で紹介する。
------	---

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】「教育」「学校」という観点から人間を相対化することで、「自然界における人間」を理解する心理学的な知識を得る。 【思考・判断】心理相対的な思考をもって「教育」を理解し、その現代社会においてあるべき姿を的確に判断して提案できる能力を得る。 【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い徳性をもって人々、特に学校現場のために働く能力を、教育の相談に関する知識に基づく関心によって得る。 【技能・表現】学修で得た専門的技術 (技術) をもって人間社会、学校の中に課題を発見し、教育相談的な思考や教育相談の理論を用いて、課題を論理的に分析・総合し表現することで他者との共感を創り出す能力を得る。
---------------	---

オフィスアワー	水曜日の4限、会議のない木曜日3限、金曜日3限 (千代田三番町キャンパス1805室)
---------	---

学生へのメッセージ	教室外学習は欠かさず行ってください。また、教育問題や、自分自身をも含めた「人」への関心を高めてください。
-----------	--

教育等の取り組み状況	
------------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	教育、福祉、医療・保健領域において、子どもを対象とする心理臨床活動を、臨床心理士として行った実務経験をベースに授業を行う。
アクティブ・ラ	○	後半の具体的な対応策の検討のところでは、ワークブックに基づき、ディスカッションを交えて進める。

ーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	google classroomを、最終課題、配布資料のアーカイブなどで活用する。

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	教育実習指導（中等）		
講義開講時期	通年	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田 敦子	指定なし
准教授	齋藤 史夫	指定なし

ナンバリング	Y40103M11
授業概要(教育目的)	本授業は、教育実習そのものである。教科担当の先生や、担任の先生との事前の連絡をしっかりと取れるようになり、担当授業の教材研究・学習指導案作成・実践、生徒との関わり方、担任業務ができるようになることを目的とする。
履修条件	教育実習派遣規程を満たしていること。
学習目標(到達目標)	
学習目標（到達目標）	
知識・理解の観点 (K)	教育実習校で授業を行える家庭科に関する専門的知識・理解、担任としての生徒指導に関する知識・理解を有している。
思考・判断の観点 (K)	教育実習時に教師として思考・判断する力がある。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教員になるために必要な教職への意欲・関心が態度として示されている。学校現場の先生方と積極的にコミュニケーションを取れる。
技術・表現の観点 (A)	生徒に教える技術・表現力を有している。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	教育実習事前指導	教育実習先と連絡を取り、オリエンテーションの日時を確認する。教育実習の心構え、教育実習ノートの書き方等を学ぶ。	教育実習先へは、きちんと連絡を取り、使用教科書、実習中に担当させて頂ける授業の単元、実習日程等をしっかりと事前に把握しておくこと。	120分
第2回	実習校で実施する授業の事前練習	実習校で担当することを指示された授業範囲について模擬授業で事前練習を行う。	本授業時間だけでは、担当させて頂ける授業の模擬授業を出来ない場合は、指導教員と相談し、授業時間外に模擬授業を最低1回はすること。実習先でさせて頂ける授業については綿密にしっかりと授業計画を練っておくこと。生徒の前に立つたら、実習生とはいえ、プロ意識を持	240分

			って授業ができるだけの準備をすること。	
第3回	事前模擬授業	教育実習先で担当させて頂ける授業の模擬授業を行う。	研究公開授業に指定された単元については、2回以上の模擬授業を事前に行った上で、実習先の担当の先生のご指導を受けるようにすること。	240分
第4回	教育実習事前模擬授業	教育実習先で担当させて頂ける授業の模擬授業を行う。	教室外学習教材研究を充分行い、模擬授業を実施すること。	240分
第5回	教育実習事前模擬授業	学級会・ホームルームや学校行事などの特別活動を模擬的に実施する。	実習で担当する学級の生徒の状況と担任の指導方針、実習期間中の学校行事の計画を聞き、指導計画を考える。	240分
第6回	教育実習事後指導	教育実習修了後の反省と御礼状の書き方。教育実習ノートの提出と受け取りについて学ぶ。	教育実習校への御礼状は、教育実習修了後1週間以内にお送りすること。教育実習ノートは、実習修了日に担当の先生に伺った上で校長先生に提出すること。	120分
第7回	教育実習報告会の準備	教育実習で学んだこと、事前の準備で不足していたことへの反省、後輩たちに伝えたいこと等を報告会ためのPPTを作成し、発表のリハーサルを行う（アクティブ・ラーニング）。	報告会の発表内容の作成。PPT資料や報告書のための資料作成。プレゼンの練習。	180分
第8回	教育実習報告会	教育実習で学んだこと、事前の準備で不足していたことへの反省、後輩たちに伝えたいこと等を報告会で発表する。	報告会の発表内容の作成。PPT資料や報告書のための資料作成。	180分

学習計画注記	特になし
--------	------

学生へのフィードバック方法	模擬授業の指導、質問には随時対応します。
---------------	----------------------

評価方法	教育実習への取り組み姿勢（50%） 模擬授業（50%）
------	--------------------------------

評価基準	
------	--

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
教育実習への取り組み姿勢		○	○	○
模擬授業	○	○	○	○

評価割合	実習校の評価を重視する。
------	--------------

使用教科書名 (ISBN番号)	特になし。
-----------------	-------

参考図書	授業中適宜、紹介する。
------	-------------

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】・「家庭科教育」の各分野 について、専門的知識・技術を有している。</p> <p>・グローバルな視点から、各分野 の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる</p> <p>【思考・判断】・社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動することができる。</p> <p>【関心・意欲・態度】・社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。</p> <p>【技能・表現】家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。</p>
---------------	---

オフィスアワー	担当教員が随時対応できる態勢を整えている。
---------	-----------------------

学生へのメッセージ	教育実習は、学生を、飛躍的に成長させる。しかし、その過程は、大変な努力を要求される。その自覚を深くもってもらいたい。教育実習は、毎日、生きた責任ある教育現場である。教師は、これまでになく多忙を極める生活であり、生徒との対応、学校運営、地域の人びとや保護者との関係づくりに、精一杯の努力を傾けている。この実習において欠席は、基本的に許されない、という覚悟をもってほしい。
-----------	--

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		

アクティブ・ラーニング	○	模擬授業や報告会のためのプレゼンの練習。
情報リテラシー教育	○	教材研究における情報活用
ICT活用	○	学校現場でICTを活用した授業ができるようにする。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	教育実習指導		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	6限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 佐藤 広美	指定なし
教授	上村 協子	指定なし
准教授	木村 文香	指定なし

ナンバリング	Y40103C11
授業概要(教育目的)	教育実習についての事前・事後指導を行う。授業実習については教科教育法等で主要事項を扱うので、本授業ではより全般的・包括的な事項を扱う。また、実習実施にあたっての諸連絡もこの時間に行うので、毎時間必ず出席すること。教員免許資格に必要。教育実習参加(派遣)基準に合致していること。
履修条件	3年生前期までの教職科目がすべて履修済みであること

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	教材研究と子ども理解を中心に、教育実習の基本事項を理解すること
思考・判断の観点 (K)	教育実習に必要な技術、および心構えについて思考すること
関心・意欲・態度の観点 (V)	大学での学修内容を教育実習で活かしていくために、積極的に情報を収集すること
技術・表現の観点 (A)	教育実習に必要な理解と学修内容について、相手に合わせた適切な発信ができること

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アキティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	教育実習とは何か	実習ノートを書く。	180分
第2回	教育実習とは何か	教育実習のビデオ鑑賞、実習記録の書き方・要点指導	実習ノートを書く。	180分
第3回	教育実習とは何か	教育実習の評価基準とは何か、子ども理解と教材分析	実習ノートを書く。	180分
第4回	教育実習のまとめ方について	教育実習後に開催される教育実習報告会に向けて、報告書のまとめ方を学ぶ。また、教育実習先の学校、地域についての理解を深め、まとめる。	予習として、学校の概要、案内、指導案など、集められる資料を集めておく(90分)。復習として、教育実習先の学校、学校が位置する地域に関する情報を集め、まとめる(90分)。	180分

第5回	教育実習での生徒理解に向けての準備	教育実習中に重要となる生徒理解のレディネスを高める。そのため、教育実習に必要なこと、目指したい教師像、楽しみにしていることなどをグループワーク形式で検討し、自分の強みを知り、弱みを解決する方法を検討する。	予習として、既にまとめてある教育実習先の学校、学校が位置する地域に関する情報をあらかじめ見直し、加えて自分の強み、弱みへの理解を深めておく(90分)。復習として、自分の強みを生かし、自分の弱みを解決する方法を考える。	180分
第6回	教育実習報告1	家庭科教育法Aの授業履修中の学生(主に学部2年生)を対象として教育実習の報告を行う。家庭科教育法A・B・C・Dで行った家庭科教育の教材研究が教育実習中に活用できたかを中心に報告する。教育実習中の研究授業・学習指導案を提示しながら、生徒の授業の様子・反応をまとめ、評価する。地域や学校の状況にあった、より生徒の生活にあった授業とするには、家庭科教材研究としてどのような準備をして深めておけばよかったかを、発表する。授業中に用いたプリントや活用した資料もあわせて提示する。地域や学校・生徒の生活にあった授業のための教材研究について後輩に発表し、意見交換を行う。	教育実習報告会資料の作成。家庭科教育法のアースノートに、教育実習研究授業の内容・授業の目標が達成できたかなど記載する。	180分
第7回	教育実習報告2	家庭科教育法Cの授業履修中の学生(主に学部3年生)を対象教育実習の報告を行う。教育実習校の特色・生徒・家庭科の教員・実習室の様子、家庭科年間計画などを説明し、家庭科教育法A・B・C・Dで行った家庭科教育の教材研究が教育実習中に活用できたか、実習先を選ぶときにどのような点を留意すべきか、実習校の家庭科教員との連絡の取り方、など教育実習準備しておくべきかを発表する。また、研究授業・学習指導案を提示しながら、題材設定の理由の記載方法や評価する。学校の状況にあった、より生徒の生活あった授業とするにはどのような準備をすればよかったかをまとめて後輩に提示する。授業中に用いたプリントや活用した資料もあわせて提示する。地域や学校・生徒の生活にあった授業のための教材研究について後輩に発表し、意見交換を行う。	教育実習報告会資料の作成。家庭科教育法のアースノートに、教育実習研究授業の内容・授業の目標が達成できたかなど記載する。反省点や後輩へのアドバイスを記載する。後輩からのレスポンスシートに返事を書く。	180分
第8回	教育実習をふりかえる	教育実習全体をふりかえり、地域・学校の状況にあった、より生徒の生活あった授業とするにはどのような準備をすればよかったかをまとめて後輩からのレスポンスシートに記入し、受講生全員で教育実習をふりかえり意見交換を行う。	教育実習報告会資料の作成。家庭科教育法のアースノートに、教育実習研究授業の内容・授業の目標が達成できたかなど記載する。反省点や後輩へのアドバイスを記載する。後輩からのレスポンスシートに返事を書く。	180分

学習計画注記	※受講生の教育実習の日程や、質疑応答・討論を中心に展開する。その展開によって生きた流れを優先するため、上記スケジュールを変更することもある。
学生へのフィードバック方法	授業で提出した課題、製作物については採点后、可能な限り返却する。返却できないもの場合は、担当教員による口頭でのコメント、画像や動画として電子ファイルで返却するなどして、フィードバックする。
評価方法	実習報告会と受講態度の総合評価

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
実習報告会	○	○		
レポートシート	○		○	

評価割合	出席および毎時のレポートにより評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	毎回、プリントを用意する。
参考図書	講義に中で、適宜、紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	知識・理解、豊かな知識をえること 思考・判断力、めざすべき姿の教育を追究し、判断できること 表現など、学んだことを適確に表現できること
オフィスアワー	水曜4限
学生へのメッセージ	教育実習は、学生を、飛躍的に成長させる。しかし、その過程は、大変な努力を要求される。その自覚を深くもってもらいたい。教育実習は、毎日、生きた責任ある教育現場である。教師は、これまでになく多忙を極める生

活であり、生徒との対応、学校運営、地域の人びとや保護者との関係づくりに、精一杯の努力を傾けている。この講義の欠席は、基本的に許されない、という覚悟をもってほしい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	教育実習 A		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	4		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田 敦子	指定なし
准教授	齋藤 史夫	指定なし

ナンバリング

Y40301M43

授業概要(教育目的)

中学校または高等学校において教育実習を行う。授業実習だけでなく、教員として行う全般的な業務に携わることになる。大学での学習と現場での実践とを関連づけて考察しながら、教員になる自覚を高めていくよう指導したい。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	家庭科の授業内容について家庭科教員として実際に教授できる知識・理解を有している。
思考・判断の観点 (K)	学校現場で様々な人々と関わる時、相手、時と場合に応じたコミュニケーションを取れる思考力、判断力を有している。
関心・意欲・態度の観点 (V)	将来教師となることに強い関心・意欲を持って、教育実習を教員らしい態度で取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	授業や生徒指導において教員らしい表現をし、専門性のある技術を有している。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	教育実習開始	実習校での第1日目は、校長先生からのお話、自己紹介、授業見学等である。各学校で異なるので、担当教員の指示に従うこと。	持ち物、担当させていただく授業の学習指導案の作成、教材研究等、事前の準備をしっかりとしておくこと。教育実習ノートの記述。反省、今後への抱負をしっかりと考えておくこと。	600分
第2回	教育実習2日目・3日目	授業見学をしっかりと行い、担当クラスの生徒の名前を覚えたり、生徒と触れあうこと。学校内の導線を頭に入れること。見て触れること全てが学びである。	授業見学をさせて頂きながら、授業の仕方、生徒との関わり方を学ぶこと。担当させて頂く授業の学習指導案を早めに担当の先生に提出し、指導を受けること。	120分
第3回	教育実習4,5日目	実際に授業を行う。授業は、授業内容、構成、教材研究、生徒との関わり、前回授業、次回授業との関係等、	授業前には模擬授業を行い、担当の先生に見て頂くこと。	180分

		様々な要素が絡み合っている。その中でどのように授業を行うかを体得する。		
第4回	教材研究	授業外の時間は、教材研究や学習指導案の作成を行い、生徒に分かり易い授業の仕方を工夫する。	学校現場で活用されている教材をしっかりと見直し、深く学んで自分の授業に活かすこと。	120分
第5回	学修指導案の作成	準備した学習指導案を担当の先生に見て頂き、指導を受ける。学習指導案は先生や学校によって異なるが、柔軟に対応できる力が必要である。	授業をする上で、学習指導案にどのような意義があるのかを考えて、しっかりと作成できるようになること。	120分
第6回	実際の授業	実際に授業を行い、担当の先生の指導を受け、より良い授業を目指す。良い授業とはどのような授業なのかを学ぶ。	事前の授業準備、事後の反省をしっかりとすること。	180分
第7回	実際の授業	実際に授業を行い、担当の先生の指導を受け、より良い授業を目指す。良い授業とはどのような授業なのかを学ぶ。	事前の授業準備、事後の反省をしっかりとすること。	180分
第8回	実際の授業	実際に授業を行い、担当の先生の指導を受け、より良い授業を目指す。良い授業とはどのような授業なのかを学ぶ。	事前の授業準備、事後の反省をしっかりとすること。	180分
第9回	生徒と触れ合い、指導方法を学ぶ(1)	部活やホームルームでの生徒との関わり方、必要事項の伝達の仕方、生徒理解について学ぶ。	体全体、心全体で生徒と関わり、コミュニケーションを取って、多くのことを学ぶこと。	120分
第10回	生徒と触れ合い、指導方法を学ぶ(2)	部活やホームルームでの生徒との関わり方、必要事項の伝達の仕方、生徒理解について学ぶ。わからないことは指導教員に質問して教えて頂く。	自分の体全体、心全体で生徒と関わり、コミュニケーションを取って、多くのことを学ぶこと。気付いたことは必ず教育実習ノートに記録しておくこと。	120分
第11回	研究公開授業の準備(1)	研究公開授業のための学習指導案の作成、教材研究を行う。研究公開授業は、教育実習の集大成である。	学修指導案を早めに担当の先生に見て頂き、指導を受ける。教材研究は十分に行う。	240分
第12回	研究公開授業の準備(2)	研究公開授業は、生徒とのコミュニケーション、授業力、教材研究、教員とのコミュニケーション等全てが評価される場であることを学ぶ。最善の努力をし、自分の力を出し切る集中力を学ぶ。	事前に参観して下さる先生方には、押印した学習指導案をお渡ししながら、参観のお願いをして行くこと。指導の先生の指示を良く聴くこと。	240分
第13回	研究公開授業	教育実習で学んだこと、今までの教職に対する自分の取り組みがしっかり表現できるように準備し、生徒としっかり向き合うことを学ぶ。	時間の許す限り、最大限の準備をして臨むこと。	240分
第14回	教育実習最終日・教育実習ノートの提出	教育実習最終日には、お世話になった先生方に感謝の気持ちを伝え、生徒達にきちんと挨拶をする。社会人としての締めくくりの仕方を学ぶ。	教育実習で学んだことをきちんと教育実習ノートの反省欄に記載し、提出してくること。	120分
第15回	教育実習校への御礼状、大学への報告	教育実習修了後、教育実習でお世話になった、校長先生、クラス担任の先生、教科担当の先生にそれぞれ御礼状をお送りする。大学教職員にも報告する。社会人としての礼儀を学ぶ。	御礼状の書き方は、きちんと調べて書くこと。	240分

学生へのフィードバック方法 実習校からのコメント、指導内容が教育実習ノートに記述されている。
公開研究授業を大学教員が参観する。

評価方法 教育実習校における評価が大部分を占める(90%)。
状況判断により、大学教員が実習校の評価に加味する場合がある(10%)。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
勤務態度		○	○	
教材研究	○	○	○	○
生徒指導		○		○
教員とのコミュニケーション		○	○	
事前準備	○	○	○	

評価割合 実習校の評価(90%)

	特に考慮すべき場合は、大学教員が判断する場合がある。(10%)	
使用教科書名 (ISBN番号)	文部科学省『中学校学習指導要領 家庭科』 文部科学省『中学校学習指導要領解説 家庭科』 文部科学省『高等学校学習指導要領 家庭科』 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 家庭科』 家庭科の教科書	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】・「家庭科教育」の分野について、専門的知識・技術を有している。 【思考・判断】・社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。 【関心・意欲・態度】・社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。 【技能・表現】・家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。	
オフィスアワー	教育実習中なので、アポイントメントにより時間調整を行うこと	
学生へのメッセージ	教育実習は、人生経験の中でもとても貴重な体験です。大変な側面はありますが、全力投球をして、学校現場の教育を肌で感じてきて下さい。そして、教育者として必要な素養を吸収できる素地を自らの中に築いて下さい。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	まさに実務経験のある先生方に囲まれて実習する。
アクティブ・ラーニング	○	教育実習の全てがアクティブラーニングである。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	学校現場でのICT活用方法を学ぶ。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	教育実習 A		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	4		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員		
職種	氏名	所属
教授	◎ 佐藤 広美	指定なし

ナンバリング	Y40301G43			
授業概要(教育目的)	教育実習校において実習を行う。授業実習だけでなく、教員として行う全般的な業務に携わることになる。大学での学習と現場での実践とを関連づけて考察しながら、教員になる自覚を高めてほしい。中学・高校教員免許資格に必要。教育実習参加(派遣)基準に合致していること。			
履修条件	教育実習派遣基準に合格していること			
学習目標(到達目標)	学習目標(到達目標)			
知識・理解の観点(K)	総合家政学の立場を生かし、生活課題を生徒に提示できる知識の獲得をめざす			
思考・判断の観点(K)	子どもの立場に立って、高い倫理性を堅持し、生徒が考えることができる思考に導く			
関心・意欲・態度の観点(V)	子どもが如何に意欲を高め、学習に向かい合うのか、その契機を探る態度の形成			
技術・表現の観点(A)	子どもが学習に向かうためのさまざまな教育的働きかけのための技術と表現(コミュニケーション)の獲得			
評価方法	教育実習校の評価と平常点の総合評価			
評価基準	評価基準			
評価方法	知識・理解(K)	思考・判断(K)	関心・意欲・態度(V)	技術・表現(A)
自習校の評価	○	○	○	○
平常点			○	
評価割合	実習校の評価9割と平常点1割			
参考図書	教育実習事前指導で渡している資料など			
ディプロマポリシーとの関連	知識・理解、教育現場で、子どもたちに分かる学習を保障するための知識の獲得 思考・判断、子どもの寄り添う資質能力を培い、子どもに考えさせる自らの思考の獲得			

	意欲・態度、子どもの学習を成立させるためにあらゆる努力を惜しまない態度の形成 表現と提案、子どもと会話ができるコミュニケーション能力と問題提示の能力形成	
オフィスアワー	水曜4限	
学生へのメッセージ	教材研究のために、睡眠時間が減ってしまうかも知れない。実習中は、それほど、大変である。しかし、児童・生徒たちは、不思議と思えるほど、実習生を快く迎えてくれる。それに力づけられて、実習生は頑張れるのだと、誰もが言う。皆さんのがんばりを期待している。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	教育実習 B		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田 敦子	指定なし
准教授	齋藤 史夫	指定なし

ナンバリング	Y40401M23
授業概要(教育目的)	高等学校において教育実習を行う。授業実習だけでなく、教員として行う全般的な業務に携わることになる。大学での学習と現場での実践とを関連づけて考察しながら、教員になる自覚を高めていくよう指導したい。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	家庭科の授業内容について家庭科教員として実際に教授できる知識・理解を有している。
思考・判断の観点 (K)	学校現場で様々な人々と関わる時、相手、時と場合に応じたコミュニケーションを取れる思考力、判断力を有している。
関心・意欲・態度の観点 (V)	将来教師となることに強い関心・意欲を持って、教育実習を教員らしい態度で取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	授業や生徒指導において教員らしい表現をし、専門性のある技術を有している。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	教育実習開始	実習校での第1日目は、校長先生からのお話、自己紹介、授業見学等である。各学校で異なるので、担当教員の指示に従うこと。	持ち物、担当させていただく授業の学習指導案の作成、教材研究等、事前の準備をしっかりとしておくこと。教育実習ノートの記述。反省、今後への抱負をしっかりと考えておくこと。	600分
第2回	教育実習2日目・3日目	授業見学をしっかりと行い、担当クラスの生徒の名前を覚えたり、生徒と触れあうこと。学校内の導線を頭に入れること。見て触れること全てが学びである。	授業見学をさせて頂きながら、授業の仕方、生徒との関わり方を学ぶこと。担当させて頂く授業の学習指導案を早めに担当の先生に提出し、指導を受けること。	120分
第3回	教育実習4,5日目	実際に授業を行う。授業は、授業内容、構成、教材研究、生徒との関わり、前回授業、次回授業との関係等、様々な要素が絡み合っている。その中でどのように授業を行うかを体得する。	授業前には模擬授業を行い、担当の先生に見て頂くこと。	120分

第4回	教材研究	授業外の時間は、教材研究や学習指導案の作成を行い、生徒に分かり易い授業の仕方を工夫する。	学校現場で活用されている教材をしっかりと見直し、深く学んで自分の授業に活かすこと。	90分
第5回	学修指導案の作成	準備した学習指導案を担当の先生に見て頂き、指導を受ける。学習指導案は先生や学校によって異なるが、柔軟に対応できる力が必要である。	授業をする上で、学習指導案にどのような意義があるのかを考えて、しっかりと作成できるようになること。	90分
第6回	実際の授業	実際に授業を行い、担当の先生の指導を受け、より良い授業を目指す。良い授業とはどのような授業なのかを学ぶ。	事前の授業準備、事後の反省をしっかりとすること。	120分
第7回	実際の授業	実際に授業を行い、担当の先生の指導を受け、より良い授業を目指す。良い授業とはどのような授業なのかを学ぶ。	事前の授業準備、事後の反省をしっかりとすること。	120分
第8回	実際の授業	実際に授業を行い、担当の先生の指導を受け、より良い授業を目指す。良い授業とはどのような授業なのかを学ぶ。	事前の授業準備、事後の反省をしっかりとすること。	120分
第9回	生徒と触れ合い、指導方法を学ぶ(1)	部活やホームルームでの生徒との関わり方、必要事項の伝達の仕方、生徒理解について学ぶ。	体全体、心全体で生徒と関わり、コミュニケーションを取って、多くのことを学ぶこと。	90分
第10回	生徒と触れ合い、指導方法を学ぶ(2)	部活やホームルームでの生徒との関わり方、必要事項の伝達の仕方、生徒理解について学ぶ。わからないことは指導教員に質問して教えて頂く。	自分の体全体、心全体で生徒と関わり、コミュニケーションを取って、多くのことを学ぶこと。気付いたことは必ず教育実習ノートに記録しておくこと。	90分
第11回	研究公開授業の準備(1)	研究公開授業のための学習指導案の作成、教材研究を行う。研究公開授業は、教育実習の集大成である。	学修指導案を早めに担当の先生に見て頂き、指導を受ける。教材研究は十分に行う。	120分
第12回	研究公開授業の準備(2)	研究公開授業は、生徒とのコミュニケーション、授業力、教材研究、教員とのコミュニケーション等全てが評価される場であることを学ぶ。最善の努力をし、自分の力を出し切る集中力を学ぶ。	事前に参観して下さる先生方には、押印した学習指導案をお渡ししながら、参観の願いをしっかりと伝えること。指導の先生の指示を良く聴くこと。	120分
第13回	研究公開授業	教育実習で学んだこと、今までの教職に対する自分の取り組みがしっかり表現できるように準備し、生徒としっかりと向き合うことを学ぶ。	時間の許す限り、最大限の準備をして臨むこと。	180分
第14回	教育実習最終日・教育実習ノートの提出	教育実習最終日には、お世話になった先生方に感謝の気持ちを伝え、生徒達にきちんと挨拶をする。社会人としての締めくくりの仕方を学ぶ。	教育実習で学んだことをきちんと教育実習ノートの反省欄に記載し、提出してくること。	90分
第15回	教育実習校への御礼状、大学への報告	教育実習修了後、教育実習でお世話になった、校長先生、クラス担任の先生、教科担当の先生にそれぞれ御礼状をお送りする。大学教職員にも報告する。社会人としての礼儀を学ぶ。	御礼状の書き方は、きちんと調べて書くこと。	120分

学生へのフィードバック方法	実習校からのコメント、指導内容が教育実習ノートに記述されている。公開研究授業を大学教員が参観する。大学教員も教育実習ノートにコメントをする。
---------------	--

評価方法	教育実習校における評価が大部分を占める(90%)。状況判断により、大学教員が実習校の評価に加味する場合がある(10%)。
------	--

評価基準	
------	--

評価基準	
------	--

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
勤務態度		○	○	
教材研究	○	○	○	○
生徒指導		○		○
教員とのコミュニケーション		○	○	
事前準備	○	○	○	

評価割合	実習校の評価(90%) 特に考慮すべき場合は、大学教員が判断する場合がある(10%)。
------	--

使用教科書名 (ISBN番号)	文部科学省『高等学校学習指導要領 家庭科』
-----------------	-----------------------

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 家庭科』
家庭科の教科書

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】・「家庭科教育」の分野について、専門的知識・技術を有している。
【思考・判断】・社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。
【関心・意欲・態度】・社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って責任を果たすことができる。
【技能・表現】・家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。

オフィスアワー

教育実習中なのでアポイントメントにより時間調整を行うこと。

学生へのメッセージ

教育実習は、人生経験の中でもとても貴重な体験です。大変な側面はありますが、全力投球をして、学校現場の教育を肌で感じてきて下さい。そして、教育者として必要な素養を吸収できる素地を自らの中に築いて下さい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	実務経験のある先生方に囲まれて教育実習する。
アクティブ・ラーニング	○	教育実習の全てがアクティブラーニングである。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	学校現場でのICT活用方法を学ぶ。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	教育実習 B		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 佐藤 広美	指定なし

ナンバリング	Y40401G23			
授業概要(教育目的)	教育実習校において実習を行う。授業実習だけでなく、教員として行う全般的な業務に携わることになる。大学での学習と現場での実践とを関連づけて考察しながら、教員になる自覚を高めてほしい。高校教員免許資格に必要。教育実習参加(派遣)基準に合致していること。			
履修条件	3年生前期までに教育実習派遣基準に合格していること			
学習目標(到達目標)	学習目標(到達目標)			
知識・理解の観点 (K)	総合家政学の立場に立って、生活課題を子どもに提示できる知識の獲得			
思考・判断の観点 (K)	子どもの学習の理解という立場に立って、如何に、学習が成立するのか、そのための思考と判断の獲得			
関心・意欲・態度の観点 (V)	子どもの学習が成立するために如何に努力するべきか、そのための努力を惜しまない意欲の形成			
技術・表現の観点 (A)	子どもと会話できるためのコミュニケーション能力と問題課題解決のための提示能力の形成			
評価方法	教育実習校の評価と平常点の総合評価			
評価基準	評価基準			
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
実習校の評価	○	○	○	○
平常点			○	
評価割合	実習校の評価9割と平常点1割			
参考図書	教育実習事前指導における資料など			
ディプロマポリシーとの関連	知識・理解、総合家政学の立場を生かし、生徒の学習を成立させるための知識の獲得 思考・判断、子どもの立場に立って、如何に生徒が理解できるのか、そのための思考判断の獲得			

	意欲・態度、子どもの学習を成立させるためのあらゆる努力を続けるための意欲と態度の形成 表現と提案、子どもと会話するためのコミュニケーション能力と問題解決のための提示能力の形成	
オフィスアワー	水曜4限	
学生へのメッセージ	教材研究のために、睡眠時間も極端に減るかも知れない。実習中は、それだけ、大変である。しかし、児童・生徒たちは、不思議と思えるほど、実習生を快く迎えてくれる。それに力づけられて、実習生は頑張れるのだ、と誰もが言う。皆さんのがんばりを期待している。	
教育等の取組み状況		
	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	栄養教育実習指導		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 辻 雅子	指定なし

ナンバリング

Y40502C11

授業概要(教育目的)

栄養教諭免許取得に関わる教育実習について、事前・事後指導を行う。食に関する専門的事項及び学校給食管理の学びについては、栄養士免許取得必須科目としてすでに習得済みである。したがって、本授業では包括的な内容で実習指導を行うことを目的とする。また事前指導においては細かい連絡等を行うため必ず毎時間出席すること。本授業は栄養教育実習及び教職実践演習（栄養）と一年間の流れで実施する。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	栄養教諭として現場に必要な知識を理解し、説明できる。
思考・判断の観点 (K)	栄養教諭として現場で、児童生徒に適切な指導について自ら考え、判断し、説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	栄養教諭として行く教育実習に、意欲関心をもって積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	食に関する指導の実施において専門的知識と技能をもって、コミュニケーション力とプレゼンテーション力で適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	教育実習前オリエンテーション	栄養教育実習に行くための準備について学ぶ	教育実習校について学びを深めておく	90分
第2回	栄養教育実習記録の書き方など	栄養教育実習記録の書き方など事前準備から最終評価まで流れを学ぶ	栄養教育実習記録について事前に中身を確認しておく	90分
第3回	教育実習参加にあたっての諸注意	教育実習参加にあたっての諸注意について学ぶ	教育実習参加にあたっての心構え及び身支度等の諸注意について考える	90分
第4回	関連授業と授業参観の方法	関連授業と授業参観の方法について学ぶ	食の指導に関連する授業と各種授業参観の方法について考える	90分
第5回	学校組織の理解	学校の組織について学ぶ	学校の組織について理解を深め、どのように協働すべきかを考	90分

			える	
第6回	栄養教諭の職務内容とその心構え	栄養教諭の職務内容とその心構えについて学ぶ	栄養教諭の職務内容とその心構えについて学びを深める	90分
第7回	教育実習校の教諭との連携	教育実習校の教諭との連携について学ぶ	教育実習校の教諭との連携について学びを深める	90分
第8回	模擬授業の準備①指導案作り	模擬授業の準備として指導案作りについて学ぶ	模擬授業の準備として指導案作りを行う	90分
第9回	模擬授業の準備②教材づくり	模擬授業の準備として教材づくりを学ぶ	模擬授業の準備として教材づくりを行う	90分
第10回	模擬授業の模擬体験①指導案を使用して模擬授業	模擬授業の模擬体験として指導案を使用した模擬授業を学ぶ	模擬授業の模擬体験として指導案を使用した模擬授業準備を行う	90分
第11回	模擬授業の模擬体験②教材も使用しての実践模擬授業	模擬授業の模擬体験として教材も使用しての実践模擬授業を学ぶ	模擬授業の模擬体験として教材も使用しての実践模擬授業準備を行う	90分
第12回	教育実習後のオリエンテーション	教育実習後の報告発表の準備について学ぶ	教育実習後の報告発表の準備を行う	90分
第13回	栄養教育実習記録の整理・報告書作成	栄養教育実習記録の整理・報告書作成について学ぶ	栄養教育実習記録の整理・報告書を作成する	90分
第14回	実習の自己評価と報告会準備	実習の自己評価と報告会準備について学ぶ	実習の自己評価と報告会準備を行う	90分
第15回	栄養教育実習報告会	栄養教育実習報告会を行う	栄養教育実習報告会について準備する	90分

学習計画注記 教育実習時期は人によって異なるため、自ら積極的に指導教諭と協議し栄養教育実習に出るための準備を行い、実習校及び指導教諭と連絡を取り合うことが必要である。

学生へのフィードバック方法 個別に指導案及び教材等、また教育実習に出るための事前準備・事後指導内容について授業中に解説を行ったり、添削して返却する。

評価方法 教育実習に行くための事前準備の取り組み及び報告書作成などの事後の取り組み、さらに報告発表会及び平常点で評価する。(平常点は授業への参加状況や教育実習に挑む態度や報告発表会への参加状況や態度で総合的に評価する)

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
報告発表会	○	○	○	○
レポート	○	○		

評価割合 平常点30%、報告発表会40%、その他報告書作成等のレポート作成30% (平常点は授業への参加状況や教育実習に臨む態度及び報告発表会の準備など総合的に評価する)

参考図書 小学校学習指導要領 (文部科学省)
中学校学習指導要領 (文部科学省)
食に関する指導の手引き (文部科学省)

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】栄養教諭として現場に必要な知識を理解している。
【思考・判断】栄養教諭として現場で児童生徒に適切な指導の実施に向けて正確な情報を収集し、優先課題に対する取り組みについて自ら考え判断できる力を身につける。
【関心・意欲・態度】栄養教諭として現場で指導教諭や職員の方々と協働するための共感力をもって、主体的に学ぶ意欲と態度を身につける。

	【技術・表現】食に関する指導の実施において専門的知識と技能をもって、コミュニケーション力とプレゼンテーション力で適切に表現できる。															
オフィスアワー	月曜日 4 時間目 1605教室															
学生へのメッセージ	栄養教諭になるための教育実習にできるために、教育実習生としての心構えを身につけたうえで、実習に挑めるように事前準備を怠らないことが必要である。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>担当教員は国の研究所での実務経験を有しており、健康情報発信としてキッズページ作成に関わった。その経験を活かし教育実習における基礎的学びをふまえた教授を行うものである。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>教育実習にできるための課題発見力・課題解決学習について模擬授業発表練習を通じて学ぶ事ができる</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td>○</td> <td>教育現場における情報モラルについて学ぶ事ができる。</td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	担当教員は国の研究所での実務経験を有しており、健康情報発信としてキッズページ作成に関わった。その経験を活かし教育実習における基礎的学びをふまえた教授を行うものである。	アクティブ・ラーニング	○	教育実習にできるための課題発見力・課題解決学習について模擬授業発表練習を通じて学ぶ事ができる	情報リテラシー教育	○	教育現場における情報モラルについて学ぶ事ができる。	ICT活用		
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業	○	担当教員は国の研究所での実務経験を有しており、健康情報発信としてキッズページ作成に関わった。その経験を活かし教育実習における基礎的学びをふまえた教授を行うものである。														
アクティブ・ラーニング	○	教育実習にできるための課題発見力・課題解決学習について模擬授業発表練習を通じて学ぶ事ができる														
情報リテラシー教育	○	教育現場における情報モラルについて学ぶ事ができる。														
ICT活用																

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	栄養教育実習		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 辻 雅子	指定なし
助教	會退 友美	指定なし

ナンバリング

Y40503C13

授業概要(教育目的)

教育実習校において実習を行う。「食に関する指導」と「学校給食管理」、および、教員として学校で行う全般的な業務に携わる。大学での学びや実習と現場での実践とを関連づけて考察しながら、栄養教諭となる自覚を高めることを目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標 (到達目標)

知識・理解の観点 (K)	栄養教諭として現場に必要な知識を理解し、説明できる。
思考・判断の観点 (K)	栄養教諭として現場で、児童生徒に適切な指導について自ら考え、判断し、説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	栄養教諭として現場で指導教諭や職員の方々との関わりに、意欲関心をもって積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	食に関する指導の実施において専門的知識と技能をもって、コミュニケーション力とプレゼンテーション力で適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	教育実習一日目①	栄養教諭としての教育現場を学ぶ	栄養教諭の職務内容について理解を深める	90分
第2回	教育実習一日目②	栄養教諭としての教育現場を学ぶ	栄養教諭の職務内容について理解を深める	90分
第3回	教育実習一日目③	栄養教諭としての教育現場を学ぶ	栄養教諭の職務内容について理解を深める	90分
第4回	教育実習二日目①	栄養教諭としての教育現場で他者との協働について学ぶ	栄養教諭の教育現場における協働について理解を深める	90分
第5回	教育実習二日目②	栄養教諭としての教育現場で他者との協働について学ぶ	栄養教諭の教育現場における協働について理解を深める	90分
第6回	教育実習二日目③	栄養教諭としての教育現場で他者との協働について学ぶ	栄養教諭の教育現場における協働について理解を深める	90分

第7回	教育実習三日目①	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への指導について学ぶ	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への指導について理解を深める	90分
第8回	教育実習三日目②	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への指導について学ぶ	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への指導について理解を深める	90分
第9回	教育実習三日目③	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への指導について学ぶ	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への指導について理解を深める	90分
第10回	教育実習四日目①	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への授業の構成について学ぶ	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への授業の指導案及び教材について理解を深める	90分
第11回	教育実習四日目②	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への授業の構成について学ぶ	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への授業の指導案及び教材について理解を深める	90分
第12回	教育実習四日目③	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への授業の構成について学ぶ	栄養教諭として教育現場での児童・生徒への授業の指導案及び教材について理解を深める	90分
第13回	教育実習五日目①	栄養教諭として教育現場で児童・生徒に模擬授業を実施することを学ぶ	栄養教諭として教育現場で児童・生徒へ模擬授業を実施することについて理解を深める	90分
第14回	教育実習五日目②	栄養教諭として教育現場で児童・生徒に模擬授業を実施することを学ぶ	栄養教諭として教育現場で児童・生徒へ模擬授業を実施することについて理解を深める	90分
第15回	教育実習五日目③	栄養教諭として教育現場で児童・生徒に模擬授業を実施することを学ぶ	栄養教諭として教育現場で児童・生徒へ模擬授業を実施することについて理解を深める	90分

学習計画注記	教育実習内容は教育実習校と打ち合わせて決めるため、自ら積極的に実習校と連絡を取り合うことが必要である。
学生へのフィードバック方法	栄養教育実習記録に実習中の学びについての評価は、教育実習校の指導教諭からコメントで返却される。
評価方法	教育実習校からの実習評価と「栄養教育実習記録」及び報告発表会及び平常点で評価する。(平常点は教育実習に挑む態度や報告発表会への参加状況や態度で総合的に評価する)

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
教育実習校の評価	○	○	○	○
栄養教育実習記録	○	○	○	
報告発表会	○	○	○	○

評価割合	教育実習校の評価90%、栄養教育実習記録5%、報告発表会5%
使用教科書名 (ISBN番号)	特に指定はない
参考図書	小学校学習指導要領 (文部科学省) 中学校学習指導要領 (文部科学省) 食に関する指導の手引き (文部科学省)
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 栄養教諭として現場に必要な知識を理解している事に該当。 【思考・判断】 栄養教諭として現場で児童生徒に適切な指導の実施に向けて正確な情報を収集し、優先課題に対する取り組みについて自ら考え判断できる力を身につける事に該当。 【関心・意欲・態度】 栄養教諭として現場で指導教諭や職員の方々と協働するための共感力をもって、主体的に学ぶ意欲と態度を身につける事に該当。 【技術・表現】 食に関する指導の実施において専門的知識と技能をもって、コミュニケーション力とプレゼンテーション力で適切に表現できる事に該当。
オフィスアワー	月曜日3時間目 1605教室
学生へのメッセージ	栄養教諭になるための教育実習であるため、教育現場で教育実習生としての心構えを身につけたうえで、実習に挑めるように事前準備を怠らないことが必要である。

教育等の取組み状況

該当	概要
----	----

	有無	
実務経験を活かした授業	○	辻は国の研究所での実務経験を有しており、健康情報発信としてキッズページ作成に関わった。その経験を活かし教育実習における基礎的学びをふまえた教授を行うものである。また會退は保育園で乳幼児に関わった実務経験を有している。
アクティブ・ラーニング	○	教育実習を通じて、課題発見力・課題解決学習について学ぶ事ができる
情報リテラシー教育	○	教育現場における情報モラルについて学ぶ事ができる。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	初等教育実習指導（小：3年次）		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	火曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	3,4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 立川 泰史	指定なし
教授	杉野 学	指定なし
教授	齋藤 義雄	指定なし

ナンバリング

Y34006M11

授業概要(教育目的)

小学校教育実習の手引きや実習の事前・事後指導などを通して教育実習の意義を確かめ、教育実習生としての基礎的知識と基本的技能を修得する。教育実習生の立場や心得、勤務形態、学齢による心身の成長発達、学習指導要領に準ずる教科指導とカリキュラムマネジメント、教育目標に則した学級経営、児童の生活指導や個に応じた支援、教材研究と研究授業などに関する留意事項を理解する。教育実習生としての真摯な姿勢、具体的な教師像をもつ教育職員として実践に取り組む責任感や態度を身に付ける。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	小学校実習（初等教育実習C）に取り組むための基礎事項を理解し、教育の現場で学ぶための実践的・専門的な知識を実践活動に関連づけられる。
思考・判断の観点 (K)	今日的な課題や地域の実態に応じて教育実践の内容と方法を検討し、教育の目標の達成に向けたよりよい指導を改善する視点と判断力を発揮できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	子どもの人権や個性を尊重し、地域に根ざす学校の教育目標や学校・学年・学級経営方針に即して実践的な知識・技能を学ぶ協調性や姿勢を発揮できる。
技術・表現の観点 (A)	個や状況に応じて学習・生活指導を行うための基礎となる表現力や対話力、教科指導における基本的な技能を実践場面で活用できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	教育実習の意義と目的・実習校の選択ガイドダンス	小学校の教育実習に参加するにあたって教育実習の意義と目的を知る。実習記録(日誌)の記述内容や取り扱いなど、学校教育の現場に参加する際の基本的な留意事項を理解する。	『小学校実習のてびき』（児童学科編）を参照し、教育実習の概要を確認しておく。	90分
第2回	教育実習の具体的な目標と関連する資質	教育目標の達成に向け、児童の発達に応じた要求と特性を捉え、指導を工夫しながら児童への理解と愛情に基づく人間関係を形成する趣旨を理解し、社会的役割と大学での学びを総合的に生かす指導改善の姿勢を準備する。	『小学校実習のてびき』第1章のIIを参照し、児童理解、指導改善、責任等を確認しておく。	90分

第3回	小学校教育実習の心得・学校の組織と生活・教育目標と学級経営	教育実習生の出退勤管理、授業の参観や担当、人権・個人情報や安全管理、危機管理などの概要を知り、所属学級における指導教諭や児童との接し方に関する基礎的事項を理解する。	『小学校実習のてびき』第1章のⅢを参照し、小学校教育実習の心得と厳守・留意する事項を整理しておく。	90分
第4回	事前面談・教育実習計画（オリエンテーション）について	配属学校でのオリエンテーション（実習前の面談・打ち合わせ）について、手続きやマナー、持ち物などの留意事項を理解する。	『小学校実習のてびき』第1章のⅣを参照し、学校オリエンテーションの流れを整理しておく。	90分
第5回	教育実習（教育実地研究）における研究テーマの決め方	教育実習における授業観察や授業研究の意義を考え、研究テーマの決め方や研究授業の設定までの要件と流れを理解する。	『小学校実習のてびき』第1章のⅤを参照し、自身の問題意識と研究目標（テーマ）を検討しておく。	90分
第6回	「学習指導案」作成の手順	学校経営方針（教育目標）に基づく「学習指導案」の意義や責任、「学習指導案」作成に必要な基礎知識と専門的な技能を身に付ける。教科単元の事例をあげて授業改善に向けた観点を共有する討論を通して、実践と計画との関連を捉える。	『小学校実習のてびき』第1章のⅥを参照し、「学習指導案」の形式や作成手順を整理しておく。	90分
第7回	小学校教育実習の実際	小学校各学年の児童の特性について「からだ・こころ」の両面から概要を知り、発達・成長に応じた指導上の配慮を理解する。	『小学校実習のてびき』第1章のⅦを参照し、学年ごとの傾向や特徴を整理しておく。	90分
第8回	授業参観の方法	授業参観や実践観察における記録の取り方について、基本事項や着眼点、記録形式と手順、参加マナー、記録を基にした考察方法などを、事例を参照して理解する。簡単な実践記録を体験することを通して、考察や解釈の方略を修得する。	『小学校実習のてびき』第1章のⅧを参照し、授業観察における基本的な内容を整理しておく。	90分
第9回	学習指導案の作成から授業まで	「学習指導案」の作成から授業実践までの流れを知り、作成の手順、授業当日までの教材研究のポイント、授業後の協議会の留意事項などを理解する。学習指導案の実例を基に簡単な研究協議会を摸し、留意点を体験的に理解する。	『小学校実習のてびき』第1章のⅨを参照し、学習指導案作成と授業までの準備や協議会・反省会の概要を整理しておく。	90分
第10回	実習日誌の書き方	実習日誌の意義及び記録項目や具体的な記述方法について知り、記録に基づいた考察（仮説的視点と解釈・事象の取り扱い）の方法を理解する。記録の実例をあげ、実際の考察記述を体験し、相互評価する討論を通して情報処理の理解を深める。	『小学校実習のてびき』第1章のⅩを参照し、実習日誌の意義や基本項目を整理しておく。	90分
第11回	お礼状の書き方	教育実習終了後に配属校に提示する「お礼状」の書き方について、その意義を踏まえ、記述する内容や指し出しの手順を理解する。	『小学校実習のてびき』第1章のⅪを参照し、「お礼状」作成の基本的な流れを整理しておく。	90分
第12回	教科等の概要（各教科・領域の目標・育てたい資質・能力・学習形態）	学習指導要領に示される「各教科・領域の目標・育てたい資質・能力」について確認し、実習時の授業観察や授業づくりの観点とする方法を理解する。指導と評価の一体的な扱いを実現するための教科特性、合科的指導の可能性や課題について、知見を深める。	『小学校実習のてびき』第2章のⅠを参照し、各教科の目標に準じて「求められる資質・能力」を確認しておく。	90分
第13回	学習指導案の作成（導入形態と主発問）	具体的な教科または領域の単元（題材）の実践を想定した「学習指導案」を作成し、学習指導案の形式や作成方法を体験的に理解する。特に導入と主の発問を相互評価する協議を通して、より実践的な理解を深める。	『小学校実習のてびき』第2章Ⅱ（学習指導案の様式）を参照し、自分が作成する教科または領域の特性を整理し検討しておく。	90分
第14回	学習指導案の作成（指導と評価の一体化・見取りと評価材料）	具体的な教科または領域の単元（題材）の実践を想定した「学習指導案」を作成し、学習指導案の形式や作成方法を体験的に理解する。特に指導と評価活動の連携を観点に相互評価する協議を通して、より実践的な理解を深める。	『小学校実習のてびき』第2章Ⅱを参照し、「全体の指導計画」と「本時の展開」の関連や、目標と評価規準の関係を整理しておく。	90分
第15回	教材研究と反省的実践	授業づくりと授業改善に求められる教材研究の意義や内容、実践授業の成果や課題を省察する観点や協議会の捉えについて理解する。授業改善に向けた実践者の評価サイクルを理解し、授業者としての実践力・改善力を高める。	『小学校実習のてびき』全体を振り返り、実習生活に求められる意識・資質・能力を整理しておく。	90分

学習計画注記

履修者の実習期間により、スケジュールが変動する場合がある。

学生へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習の心構えをはじめ、学習指導案の書き方や教育実習記録の書き方など実務の基礎知識・基本的な技能を高める。授業ごとに個々の疑問や課題を「ドキュメントシート」に記し、適宜、助言指導を返す。 ・教育実習に参加する前に、各教科・領域等の「学習指導案」を作成し、学習指導に要する汎用的スキルを修得する。想定した教科・領域の指導計画について、重要な観点を指摘し、コメント付きで返却する。 ・教育実習終了後は報告会を通して情報を交換し、教育職員としての資質を向上する。討論や講評を通じた振返りの成果を記す「実習報告シート」は討論の継続（類型化）に活用し、その過程を講評する。 				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ドキュメントシートについては、教育実習の基礎的事項に関する理解の深まり方を示す考察記述を評価する。 ・学習指導案については、単元目標と評価計画の整合性、単元設定の理由となる児童観・教材観・指導観の記述、展開方法の妥当性を評価する。 ・実習報告では、実習前後における問題意識の変容や深まり方を評価する。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	ドキュメントシート	○		○	
	学習指導案	○	○		○
	実習報告シート		○	○	
評価割合	ドキュメントシート (20%)、学習指導案 (50%)、実習報告シート (30%) を総合的に評価する。				
使用教科書名 (ISBN番号)	『小学校実習の手引き』東京家政学院大学児童学科編 (配布)				
参考図書	齋藤義雄『教育方法・技術論—主体的・対話的で深い学びに向けて—』大学図書出版、2018年、ISBN : 978-4-907166-85-4c3937				
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】地域に根ざす学校の教育目標や人権を尊重する立場を理解し、初等教育実習 (小) に臨むための基礎的な知識を有する。</p> <p>【思考・判断】場面の状況に応じる指導観を基に、適切な教育行動を実践する主体性や協働性を有する。</p> <p>【関心・意欲・態度】人格を形成という教育の目的に高い関心を持ち、自らを改善する主体性や自己教育力を有する。</p> <p>【技能・表現】教科学習や生活指導場面で基礎となる対話力や創造性を発揮し、指導を計画・展開・省察・改善する基本的な技能を有する。</p>				
オフィスアワー	火曜3限 1629研究室				
学生へのメッセージ	小学校教育実習の意義について理解し、どのような目標をもって臨むか、自身の考えをまとめておくこと。学び手として実習に望むが、子どもにとっては指導者である。期間中、この両義的な立場に位置づけられることを自覚し、将来像をつくりながら誠実に取り組みたい。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、小学校教員として教育現場に従事した経験をもつ。文部科学省検定教科書の編修や文部科学省の学習資料作成委員として現職教員の研修や企業・地域行政と連携するネットワークを生かし、求められる教師像や学校教育の役割など、今日的な情報と知見を提供する。			
アクティブ・ラーニング	○	小学校で常態化している集団討論や協働的な問題解決などの学習形態を実体験することを通して、相互主体的に学び合う機会をもつ。			
情報リテラシー教育	○	指導の実例を積極的に参照するために、著作権・肖像権の有無や情報の真偽にも留意して自身の計画・実践に活用するリテラシーを高める。			
ICT活用	○	タブレット型PCや電子黒板、デジタルコンテンツや教育用アプリケーション、視聴覚機器を活用する実践形態について、体験的に理解する機会をもつ。			

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	初等教育実習 C		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	4		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 立川 泰史	指定なし

ナンバリング	Y44009M43
授業概要(教育目的)	小学校において、校長をはじめとする指導教諭等の指導の下で、授業観察、授業参加、授業指導を主にした実地研究を行う。この教育実習を通して、社会的義務と期待を担う学校教育の実務を体験的に理解する。この実地研究に際し、大学での学習と小学校における指導を関連づけて考察・判断する基礎・基本的な知識・技能を確認したり省察していく。事前・事後を通して、教育実習の意義や教育職員としての服務、学年・学級経営、学習指導、生徒指導等についての資質・能力、教員として相応しい教職観、倫理観などを身に付けることを目的とする。
履修条件	「学生便覧」の定める教育実習派遣基準（小学校）を満たしていること。 「小学校教育実習指導」の授業を履修していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	学習指導要領をはじめ学校教育に求められる社会的機能を実践する場に臨む責任と意義を理解し、実践活動や改善に努めるための基礎的な知識を説明できる。
思考・判断の観点 (K)	教科の特性や場面状況に応じて適切な指導援助を実践する判断力・決断力をもち、問題解決の具体的方法や観点をあげることができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	児童の個性を尊重して理解することに関心をもち、共に育つ喜びを実感しながら個に応じた教育活動に取り組むことができる。
技術・表現の観点 (A)	学級経営への参加や授業づくりに臨むための基本的な技能をもち、適切かつ柔軟に発揮するための表現力・対話力を発揮できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション (学校・地域の特性・実習の流れの把握)	教育実習の概要について、配属学校にて事前説明を受ける。学校と地域の特色、教育目標、配属された学年学級経営方針、児童の実態、学校の行事日程ほか、教育実習の内容日程、勤務時間と出退勤管理、準備品、担当授業数、施設設備と備品管理などの概要を知る。	オリエンテーション前に学校や教育委員会のホームページなどを参照し、地域と特色ある教育活動を把握しておくこと。説明を受けた留意事項は、教育実習記録に記入する。実習初日までに、自分の実習目標(研究テーマ)を想定しておくこと。	120分
第2回	本実習(学校教育目標)	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。	実習初日から配属学校の教育目標と地域に根ざした特色ある教	120分

	の理解と児童理解)	前半は、学校長講話、主幹・各主任教諭（教務・生活・研究）の講話、養護教諭講話などから学校と児童の教育活動の目標や概要を知り、理解する。師範授業の参観、他学年の授業観察、実践補助などを通して学校独自の教育活動の特色を把握し、児童理解に努める。全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。	育活動を把握する。配属学級の経営方針と児童の実態把握に努める。	
第3回	本実習（研究テーマの決定と児童理解）	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 前半は、学校長講話、主幹・各主任教諭（教務・生活・研究）の講話、養護教諭講話などから学校と児童の教育活動の目標や概要を知り、理解する。師範授業の参観、他学年の授業観察、実践補助などを通して学校独自の教育活動の特色を把握し、児童理解に努める。全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。	教育実習記録（実習日誌）に、児童の実態に即して自ら設定した目標を記述する。一日の学校生活の流れを理解し、教科指導と生活指導とのけじめ、登下校指導や給食・清掃指導のルールなど学校生活での教師の役割について振り返る。	120分
第4回	本実習（授業観察・授業参加）	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 前半は、学校長講話、主幹・各主任教諭（教務・生活・研究）の講話、養護教諭講話などから学校と児童の教育活動の目標や概要を知り、理解する。師範授業の参観、他学年の授業観察、実践補助などを通して学校独自の教育活動の特色を把握し、児童理解に努める。全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。	授業観察を通して、教科の特性や指導方法の違い、児童個々の理解を深める。観察記録を振り返り、理解の個人差や対応方法を検討し、担当する教科や指導方法を検討する。	120分
第5回	本実習（教科・単元目標と内容・教材研究）	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 前半は、学校長講話、主幹・各主任教諭（教務・生活・研究）の講話、養護教諭講話などから学校と児童の教育活動の目標や概要を知り、理解する。師範授業の参観、他学年の授業観察、実践補助などを通して学校独自の教育活動の特色を把握し、児童理解に努める。全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。	授業観察を通して、担当する教科における指導法の考察と教材研究を進める。学習指導要領の教科目標と学年目標、内容の取り扱いを理解し、担当学級・学年の実態に合わせた指導方法を検討していく。	120分
第6回	本実習（学習指導案作成と実践）	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 前半は、学校長講話、主幹・各主任教諭（教務・生活・研究）の講話、養護教諭講話などから学校と児童の教育活動の目標や概要を知り、理解する。師範授業の参観、他学年の授業観察、実践補助などを通して学校独自の教育活動の特色を把握し、児童理解に努める。全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。	担当した授業の省察を通して、教科・単元の目標に準拠した教材の研究を進める。児童の学びに向かう態度を高める教材・発問を工夫し、視覚教材、具体物、学習形態を具体的に改善する手段を考察する。	120分
第7回	本実習（学習指導案作成と実践）	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 前半は、学校長講話、主幹・各主任教諭（教務・生活・研究）の講話、養護教諭講話などから学校と児童の教育活動の目標や概要を知り、理解する。師範授業の参観、他学年の授業観察、実践補助などを通して学校独自の教育活動の特色を把握し、児童理解に努める。全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。	学習指導案の作成や改善を通して、指導計画を見直ししながら、単元のねらいを実現する「導入・展開・終結」の流れを具体的に検討する。実践的な指導法や児童個々の理解に応じるみとりについて反省し、学習形態（個人・小グループ・全体活動）の活用展開を改善するための視点を確認する。	180分
第8回	本実習（授業実践）	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 後半は、授業を担当し、教科・領域の指導について「計画・実践・省察・改善」に取り組む。研究授業の教科・領域を決定し、学習指導案作成と教材研究に取り組む。研究授業の実践と授業研究協議会を通して、実践的な問題を明らかにし、大学の学びと関連付けて成果と課題を整理する。	担当した実践授業を通して、教科ごとに児童個々の理解を深め、個に応じた指導方法と教材活用を検討する。検討した教材の選定や活用方法が単元や題材のねらいの具現化に則しているかを視点に考察を重ねる。	180分

		全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。		
第9回	本実習（学習形態と指導法）	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 後半は、授業を担当し、教科・領域の指導について「計画・実践・省察・改善」に取り組む。研究授業の教科・領域を決定し、学習指導案作成と教材研究に取り組む。研究授業の実践と授業研究協議会を通して、実践的な問題を明らかにし、大学の学びと関連付けて成果と課題を整理する。 全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。	能力別編成の学習形態、体験型実技型の教科の特性、発問のことは選び、板書計画、活動の時間配分などについて、各教科の見方・考え方を高め、育てたい資質・能力を培う活動計画を具体的にしていく。	180分
第10回	本実習（研究授業設定と準備）	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 後半は、授業を担当し、教科・領域の指導について「計画・実践・省察・改善」に取り組む。研究授業の教科・領域を決定し、学習指導案作成と教材研究に取り組む。研究授業の実践と授業研究協議会を通して、実践的な問題を明らかにし、大学の学びと関連付けて成果と課題を整理する。 全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。	研究授業とする教科を決定し、学習指導案を作成する。これまで担当した実践授業の成果と課題を振り返り、自分の研究テーマの視点や指導教諭からの助言を基に、指導計画を改善する。	180分
第11回	本実習（研究授業計画）	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 後半は、授業を担当し、教科・領域の指導について「計画・実践・省察・改善」に取り組む。研究授業の教科・領域を決定し、学習指導案作成と教材研究に取り組む。研究授業の実践と授業研究協議会を通して、実践的な問題を明らかにし、大学の学びと関連付けて成果と課題を整理する。 全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。	研究授業の指導案の計画についてシミュレーションを繰り返し、教材の提示と活用、既習事項と発展学習とのつながりなどを視点に考察する。	180分
第12回	本実習（研究授業計画）	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 後半は、授業を担当し、教科・領域の指導について「計画・実践・省察・改善」に取り組む。研究授業の教科・領域を決定し、学習指導案作成と教材研究に取り組む。研究授業の実践と授業研究協議会を通して、実践的な問題を明らかにし、大学の学びと関連付けて成果と課題を整理する。 全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。	研究授業直前準備として、学習指導案の記述と本時の流れについて最終確認を行う。教材準備（内容・提示・配布・回収など）と学習形態との適性を検討し、予想される児童の反応を具体的に想定する。	240分
第13回	本実習（公開研究授業）	学校側が設定した実習計画に沿って実地学習に取り組む。 後半は、授業を担当し、教科・領域の指導について「計画・実践・省察・改善」に取り組む。研究授業の教科・領域を決定し、学習指導案作成と教材研究に取り組む。研究授業の実践と授業研究協議会を通して、実践的な問題を明らかにし、大学の学びと関連付けて成果と課題を整理する。 全般を通して、教育実習記録を記述し、教育目標に準ずる学級・教科経営と児童個々の実態について理解を深め、日々の成果・課題を確認する。日々の所見を基に、指導教諭と問題意識を共有し、自己の問題解決に取り組む。	研究授業を実践と協議会を通して、学習指導案と実践の差異、個に応じた指導や形成的評価、学級全体の活動の様子、教科・単元の目標や内容と理解の実態を省察する。協議会での自評や助言への謝辞など、省察の実践者としての基礎的な態度と意義を体験的に理解する。	360分
第14回	実習成果と課題の整理	教育実習の成果と課題を自分の研究テーマの視点を中心に整理する。 教育実習終了後に教育実習記録を実習学校に提出し、学校から事後指導を受ける。	教科指導を支える学級経営、学年間の連携、特別な配慮を要する児童の理解と支援、学校の教育目標を実現する学級目標に則した生活のあり方について理解を整理する。教育実習記録を振り返り、自分の研究テーマの視	180分

			点から実習の成果と課題を明確にする。	
第15回	教育実習の省察・まとめ	教育実習を通して学んだことを教育実習記録にまとめ、以後の学習に反映する課題を明らかにする。教育実習全般を通して実習生活を支えて頂いた教職員、共に育とうとしてくれた児童に感謝し、教育職員としての職業観や社会人としての礼節を身に付ける。	実習校・学校長の所見・指導助言を受けた事項と自己の研究テーマを観点に実習全般を振り返り、省察する。期間中に作成した学習指導案や教材資料とともに、大学へ提出する。	240分

学習計画注記 受け入れ学校が実情を勘案して立案する教育実習計画により、実習生の配属学年・学級、内容日程が決定する。研究授業の日時・校時・教科または領域は、学校側の指導教員と相談して決定する。

学生へのフィードバック方法

- ・配属学校における事前オリエンテーションの内容について、疑問や不安を解消するよう相談に応じる。
- ・教育実習記録は、記録考察と指導担当教諭の所見を総合的に確認し、コメントする。
- ・自己評価票については、巡回指導担当からの報告と勘案して確認し、必要な場合は個別に面談で対応する。

評価方法

- ・教育実習記録（学習指導案・教材研究資料等を含む）の内容を総合的に評価する。
- ・自己評価票の各観点について、巡回指導教諭の所感・配属学校教諭・校長の所見などを基に、目標到達度を総合的に評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
教育実習記録	○	○		○
自己評価票・省察記述	○	○	○	

評価割合 『教育実習記録』の記述内容と教育実習校による評価及び教材研究（60%）と自己評価票・省察まとめ（40%）を総合的に判断し評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) 『小学校実習のてびき』東京家政学院大学児童学科編
『教育実習記録（日誌・自己評価票）』東京家政学院大学教職教育委員会編

参考図書 文部科学省『学習指導要領解説』（総則と各教科編）
齋藤義雄・中田範子『幼稚園・小学校教育実習一学びの連続性を通して一』大学図書出版 2018年、ISBN : 978-4-907166-87-8c3037

ディプロマポリシーとの関連

- 【知識・理解】児童学を構成する6領域「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を総合的に理解し、児童や学校教育に関する専門的な知識を有する。
- 【思考・判断】児童や学校の教職員・教育実践者などと直接ふれあい実践的機会を通して、様々な場面課題に柔軟に対応できる。
- 【関心・意欲・態度】児童の見方・考え方に関心を持ち、児童と共に育つという主体的・対話的な姿勢・態度を有する。
- 【技能・表現】教科学習や生活場面の指導に求められる基本的な技能と個の状況に応じたコミュニケーション能力を発揮できる。

オフィスアワー 火曜3限（前期）、水曜3限（後期）、1629研究室

学生へのメッセージ

- ・実習とは、単なる体験ではなく、大学の学びと実地での知見を統合する研究（教育実地研究）に位置づく主体的な探究活動である。ゆえに、自分が描く教師像の具現化に向けた「研究テーマ」が必須になることを念頭に置いて臨みたい。
- ・実地研究（実習）を通して、主体的に課題を解決し、小学校教員としての資質・能力の向上につなげるように取り組む。教育実習の意義や実務に参加する社会的責任を自覚した真摯な姿勢が求められる。
- ・教育実習期間中における大学への「報告・連絡・相談」を心掛ける。特に、研究授業の日程や内容は、巡回にあたる担当教員に事前に連絡し、相談に努めること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、小学校教員として教育現場に従事した経験をもつ。文部科学省検定教科書の編修著者や文部科学省学習資料作成委員として現職教員の研修・地域行政や企業との連携するネットワークを生かして、今日的な教育課題に相応した情報や知識、授業実践の実践的な方略を提供する。
アクティブ・ラーニング	○	配属学校の教職員や児童との関わりと対話を通して、地域に根ざす学校教育の意義や役割を実感し、主体的に見いだした課題の解決にあたる。
情報リテラシー教育	○	地域の実態に即した特色ある教育活動について情報を整理し、児童理解のための情報、学校の教育目標に基づく指導方針などに関心をもって実践に活用する。
ICT活用	○	電子黒板、タブレット型PC、ネットワーク、webコンテンツ、デジタル教科書や視覚教材などについて、配属校の環境と指導目的に応じて効果的に活用する。

シラバス参照

講義名	初等教育実習指導（幼：3年次）		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	3,4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 吉永 早苗	指定なし
准教授	中田 範子	指定なし
助教	末松 加奈	指定なし

ナンバリング

Y34006M11

授業概要(教育目的)

幼稚園における初等教育実習に先立って行う事前指導と、教育実習が終了してから行う事後指導が含まれる授業である。実習の意義や実習生としての立場と心得、教育実習生としての勤務の在り方を理解することを目的とする。また、学生が幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容と保育の実際との関連について理解を深めながら、幼児の発達に応じた保育者の援助、保育内容等についての留意事項を学び、実習の成果を高めようとするものである。

履修条件

「初等教育実習A」「初等教育実習B」を履修する者

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	実習の意義や実習生としての基本的な態度について理解し、説明できる。
思考・判断の観点 (K)	幼児に適した保育内容であることを考え、判断することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	初等教育実習A及びBを通して学んだことを省察し、今後に向けた課題を見出し自覚化する。
技術・表現の観点 (A)	実習に向けて幼児の発達段階に応じた保育内容を考え、指導計画の作成に適した文章で表現できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	「初等教育実習A」の報告会へ参加する。幼稚園生活の流れ、幼児の姿や保育を観察する際の観点について理解する。	参加した実習報告会の内容をまとめ、気づきと自らの課題についてワークシートに記入すること。教科書 第1章「実習って何だろう」を予習し、実習を通して学ぶ内容について確認すること。	30
第2回	幼稚園の見学実習	園生活を参加・体験することを通して、実態を理解する。幼稚園の一日見学実習で、幼児の姿と保育の観察を行う。	幼稚園における、登園から降園までの流れを観察した時のメモ及び授業資料をもとに、幼児の姿、保育者の援助、環境構成を時系列で記録用紙に記入する。また、幼稚園生活全般を通して気付いたことをまとめる。	60
第3回	初等教育実習Aガイダンス	実習園の概要を理解し、一日見学実習の振り返りを通して観察の視点や記録の方法について学ぶ。	教科書 第2章「実習を迎えるまでのステップ」を予習し、実習の概要について内容を確認しておくこと。	30
第4回	オリエンテーションの実施概要	実習園でのオリエンテーションの内容と事務手続きについて理解する。	「実習の手引き」をよく読み、疑問点等をまとめておくこと。	30
第5回	初等教育実習Aの心構	実習の意義と実習生としての在り方を理解する。	授業で習った実習の心構えや目	30

	え		標の設定をもとに、「実習生個人票」「初等教育実習Aに臨んで」を作成する。	
第6回	幼児の発達の理解	幼児の発達の特徴と保育における観察の視点を理解する。	添削された一日見学実習記録用紙を確認し、観察の視点や記録の書き方について復習し、自らの不足部分を修正する。	30
第7回	実習記録について	実習記録の作成と観察の実際について演習を通して理解する。	「実習の手引き」、授業資料、日誌等の内容を確認し、疑問点についてまとめておく。	30
第8回	保育の実際	園生活に関する画像や動画を用いて、幼稚園の一日の生活を理解し実習に役立つ技術を修得する。	授業内容と気づき、課題について記入する。	30
第9回	初等教育実習Aの振り返り・実習報告会	初等教育実習Aを省察し、新たな目標を設定する。実習報告会を行う。	実習報告会の発表内容と発表方法を各グループで討議し、資料を作成する。	110
第10回	初等教育実習Bガイダンス	初等教育実習Bの概要を理解し、課題を見出し、自覚化する。また、初等教育実習Bの実習園の概要を理解する。	初等教育実習Aの日誌を復習し、自らの課題についてまとめる。決定した実習園について園パンフレット等の資料をもとに園の概要を理解し、日誌「実習園の概要」を記入する。	30
第11回	部分実習指導案の作成	幼児に適した保育内容に関する資料をもとに、指導案を考案し作成する。	指導案の作成及び検討する。	30
第12回	全日実習の意義・概要	全日実習の意義と概要を理解し、主活動内容案を作成する。	添削された部分実習指導案を確認・修正し、全日実習指導案の作成及び検討をする。	30
第13回	指導計画の作成	全日実習指導案の作成及び、実際に想定した演習を通して検討を行う。	授業で行った演習をもとに、全日実習指導案を確認・修正する。	60
第14回	実践と省察	保育におけるPDCAサイクルについて理解する。	授業で行った幼児の姿と自らのかわりを通じた省察について復習し、初等教育実習Aの日誌や見学実習記録を手掛かりに記録の省察部分のよりよい記入の方法について考える。	30
第15回	初等教育実習Bの振り返り・実習報告会	初等教育実習Bを省察し、新たな目標を設定する。実習報告会を行う。	実習報告会の発表内容と発表方法を各グループで討議し、資料を作成する。	115

学習計画注記 やむを得ない事情で授業を欠席する場合には、授業内容や配付物等を自分で確認すること。また、必要に応じて個別の対応を行う。

学生へのフィードバック方法 提出されたワークシート、指導案等は、すべて確認し添削する。また、必要に応じて個別の指導を行う。

評価方法

- ・ワークシート、指導案等の提出物、及び授業内の発表等を対象に評価を点数化する。
- ・担当者間で協議の上、評価を決定する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
ワークシート	○		○	
一日見学実習記録	○	○		
部分実習指導案		○		
全日実習		○		○
実習日誌		○		○

評価割合 授業内提出物(70%)、報告会発表(30%)

使用教科書名 (ISBN番号) 使用せず

参考図書 文部科学省「幼稚園教育要領」、「幼稚園教育要領解説書」
文科省、厚労省、内閣府「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書」
東京家政学院大学現代生活学部児童学科「初等教育実習A 実習の手引き」「初等教育実習B 実習の手引き」

ディプロマポリシーとの関連

【知識・理解】・児童学を構成する6領域「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。

【思考・判断】・子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学び合う、具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる。

【関心・意欲・態度】・子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている

【技能・表現】・保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。

オフィスアワー 吉永：月曜日3限
中田：前期は火曜日4,5限、後期は火曜日1-3限

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員のうち1名は、幼稚園で教諭として実務経験を有しており、実習の意義、幼稚園における幼児の姿の観察・記録・指導計画の作成等、全般について実務経験に基づいて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	幼稚園での見学実習では、実際に幼稚園を訪問し、幼児と関わりながら観察する。また、実習報告会の準備及び実施の過程において、自らの経験を振り返りながら、学生同士の意見交換を行う。
情報リテラシー教育	○	幼児に適した保育内容について、文献等の資料の収集及び調査し、参照しながら、園生活の流れに適した内容を考え、指導計画を作成する。
ICT活用	○	幼児の姿や幼稚園生活の実際を理解するために、画像や動画を用いた授業を行う。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	初等教育実習 A		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	1		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 吉永 早苗	指定なし
准教授	中田 範子	指定なし

ナンバリング	Y34007M13
--------	-----------

授業概要 (教育目的)	日々子どもたちが生活する幼稚園において、子ども達の遊びや集団活動等の様子を観察することを中心にした実習である。また、初等教育実習日につなげる実習でもあり、適宜、子ども達と実際に関わることを通じた観察や、部分実習等を行う。こうした実習を通して、幼稚園教育の実際を体験し、幼稚園生活や子どもと保育の実態を理解するとともに、初等教育実習Bへ向けての課題の抽出と目標の設定へとつなぐことを目的とする。
-------------	--

履修条件	初等教育実習指導(幼)を履修していること。学生便覧に定める実習参加基準を満たしていること。
------	---

学習目標 (到達目標)	
-------------	--

学習目標 (到達目標)	
-------------	--

知識・理解の観点 (K)	思考・判断の観点 (K)	関心・意欲・態度の観点 (V)	技術・表現の観点 (A)
幼稚園において幼児との関わりを体験しながら、幼児の発達の様子や、保育環境の構成、保育内容等を理解し、幼稚園教諭や他の教職員の役割に気づき、理解を深める	子どもを取り巻く家庭・地域に対する幼稚園や保育者の役割について考える。	日々の保育の省察をもとに積極的に実習課題を見出だし、実践する。	子どもの気持ちに寄り添いながら、保育者として適切に援助し、関わるができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容 (7keyラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習 (予習・復習) の内容	教室外学習の時間 (分)
第1回	オリエンテーション	各自の配属園に赴き、配属園の概要や必要な準備等について話を伺う	オリエンテーションの内容を日誌に記入し、ピアノの練習、読み聞かせをする絵本の選定等、必要な準備をする。	60
第2回	観察実習	・配属園と大学の間で決定した5日間の間、通常3~5歳児クラスのうちいずれかに1~2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、指導担当者による指導を受ける。 ・5日間の実習の後半の日程で学科教員が巡回指導を行い、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・配属園の指導に応じてピアノの伴奏、絵本の読み聞かせ、手遊び等の部分実習を行う。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	60
第3回	観察実習	・配属園と大学の間で決定した5日間の間、通常3~5歳児クラスのうちいずれかに1~2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、指導担当者による指導を受ける。 ・5日間の実習の後半の日程で学科教員が巡回指導を行い、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	60

		・5日間の実習の後半の日程で学科教員が巡回指導を行い、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・配属園の指導に応じてピアノの伴奏、絵本の読み聞かせ、手遊び等の部分実習を行う。		
第13回	観察実習	・配属園と大学の間で決定した5日間の間、通常3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、指導担当者による指導を受ける。 ・5日間の実習の後半の日程で学科教員が巡回指導を行い、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・配属園の指導に応じてピアノの伴奏、絵本の読み聞かせ、手遊び等の部分実習を行う。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。	60
第14回	反省会・事後指導	実習終了後に日誌を配属園に提出し、園からの事後指導を受ける。	実習全体を通して学んだ内容や事後指導での指導内容を復習し、振り返りシートに記入し、大学に提出する。	60
第15回	保育の省察	実習を通して学んだことを日誌にまとめ、自己の保育を振り返り課題を見出す。日誌をすべて記入し、実習園からのコメントをいただいた後で、大学へ提出する。	初等教育実習Bに向けた課題を見出し、準備を進める。	60

学習計画注記 各実習園の状況により、配属クラス、部分実習の内容等が異なるため、各自でよく確認してください。

学生へのフィードバック方法 提出された、実習日誌、振り返りシート等は、すべて確認し添削する。また、必要に応じて個別の指導を行う。

評価方法 ・実習園からの評価(3段階評価、全9項目及び総合評価)、実習日誌等の提出物を点数化する。
・担当者間で協議の上、評価を決定する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
実習園からの評価項目1				○
実習園からの評価項目2			○	
実習園からの評価項目3	○		○	
実習日誌		○		○
振り返りシート		○	○	

評価割合 実習園から評価(60%)及び提出物(実習日誌を含む)(40%)

使用教科書名 (ISBN番号) 使用せず

参考図書 東京家政学院大学現代生活学部児童学科「初等教育実習A 実習の手引き」「初等教育実習A 実習日誌」

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】児童学を構成する6領域「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。
【思考・判断】子ども・保育者・教育者などと直接ふれあひ学び合う、具体的・実践的な機会を通して、自らが様々な課題に柔軟に対応できる。
【関心・意欲・態度】子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。
【技能・表現】保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。

オフィスアワー 吉永：月曜日3限
中田：前期は火曜日4、5限、後期は火曜日1-3限

学生へのメッセージ 実習園の方針をよく理解し、積極的に臨むこと。子どもとの関わりを楽しみ、心を動かしながら多くのことを学んでください。

教育等の取り組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員のうち1名は、幼稚園で教諭として実務経験を有しており、実習の意義、幼稚園における幼児の姿の観察・記録・指導計画の作成等、全般について実務経験に基づいて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	実際に幼稚園で幼児と関わりながら実践を通して学ぶ。
情報リテラシー教育	○	幼児に適した保育内容について、文献等の資料の収集及び調査し、参照しながら、園生活の流れに適した内容を考える。
ICT活用	○	配属園により、画像を用いたドキュメンテーションの作成等、活用する場合がある。

シラバス参照

講義名	初等教育実習 B		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	3		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 吉永 早苗	指定なし
准教授	中田 範子	指定なし

ナンバリング	Y44008M33
授業概要(教育目的)	実際に教育活動が展開されている幼稚園の中で、園長を始め指導教諭等の指導の下で、観察、保育参加、部分実習、全日実習を3週間にわたって行うものである。この実習を通して、教育として行われる業務に全般的に携わることになる。大学での学習と幼稚園における実践等を関連させて考察しながら、教師としての服務、学級経営、環境の構成や保育者の援助等、総合的な力を身に付けるとともに、教員として相応しい教職観、倫理観、識見を豊かにする。
履修条件	「初等教育実習A」の単位を修得し、「初等教育実習指導」を履修していること、「学生便覧」の定める実習参加基準を満たしていること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	幼稚園において、幼児の姿を受け止め、関わることを通して、子ども一人ひとりに応じた援助の在り方を理解する。
思考・判断の観点 (K)	長期的及び短期的な保育のねらいと方法、内容の関連について実践を通して具体的に考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	子どもの様子や自分自身の子どもののかかわりや援助の方法を省察することにより、課題を明確にして取り組む。
技術・表現の観点 (A)	幼稚園における幼児の遊びや活動が充実するような保育者としての援助や環境構成等の保育技術を身につけ、実践する。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	各自の配属園に赴き、配属園の概要や必要な準備等について話を伺う	オリエンテーションの内容を実習日誌に記入し、必要な準備を行う。	60
第2回	本実習	・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60

		<ul style="list-style-type: none"> ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 		
第3回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第4回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第5回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第6回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第7回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60

		<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 		
第8回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第9回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第10回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第11回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第12回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60

		<p>深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 		
第13回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第14回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第15回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第16回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第17回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全</p>	60

		<p>深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	
第18回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第19回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第20回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第21回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第22回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60

		<p>れかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	
第23回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第24回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第25回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第26回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第27回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で 	<p>一日の保育を省察しながら実習</p>	60

		<p>実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	
第28回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第29回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第30回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第31回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60

第32回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週日以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第33回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週日以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第34回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週日以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第35回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週日以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第36回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週日以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60

第37回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第38回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第39回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第40回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60
第41回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、 	<p>一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。</p>	60

		省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。		
第42回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第43回	本実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園と大学との間で決定した15日間の間、幼稚園で実習をする。通常、第1週目は3～5歳児クラスのうちいずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受ける。 ・実習期間の第2週目以降の日程で、学科教員が巡回指導を行う。その際には、実習への取り組み、幼児の観察・記録等について、指導を受ける。 ・第2,3週目は特定のクラスに配属し、子ども一人ひとりとの関係を作り、子ども理解を深めながら、子どもの興味や特性、そして園の長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。 	一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。部分実習・全日実習の指導案の作成及び準備をする。	60
第44回	反省会・事後指導	実習終了後に日誌を配属園に提出し、園からの事後指導を受ける。	実習全体を通して学んだ内容や事後指導での指導内容を復習し、振り返りシートに記入し、大学に提出する。	60
第45回	保育の省察	実習を通して学んだことを日誌にまとめ、自己の保育を振り返り課題を見出す。日誌をすべて記入し、実習園からのコメントをいただいた後で、大学へ提出する。	自己の課題を見出し、よりよい社会人、保育者となるための準備をする。	60

学習計画注記	実習園の方針により、実習内容や配属クラスが異なるため、各自でよく確認してください。
学生へのフィードバック方法	提出された、実習日誌、振り返りシート等は、すべて確認し添削する。また、必要に応じて個別の指導を行う。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実習園からの評価(3段階評価、全9項目及び総合評価)、実習日誌等の提出物を点数化する。 ・担当者間で協議の上、評価を決定する。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
実習園からの評価項目1		○	○	○
実習園からの評価項目2			○	
実習園からの評価項目3				○
実習日誌	○	○		○
振り返りシート		○	○	

評価割合	実習園から評価(60%)及び提出物(実習日誌を含む)(40%)
------	---------------------------------

使用教科書名(ISBN番号)	使用せず
----------------	------

参考図書	東京家政学院大学現代生活学部児童学科「初等教育実習A 実習の手引き」「初等教育実習A 実習日誌」
------	--

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】・児童学を構成する6領域「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」「子どもの健康」「子どもの心理」「子どもの文化」を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。</p> <p>【思考・判断】・子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学び合う、具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】・子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。</p>
---------------	--

	【技能・表現】・保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている。															
オフィスアワー	吉永：月曜日3限 中田：前期は火曜日4,5限、後期は火曜日1-3限															
学生へのメッセージ	実習園の方針をよく理解し、積極的に臨むこと。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>担当教員のうち1名は、幼稚園で教諭として実務経験を有しており、実習の意義、幼稚園における幼児の姿の観察・記録・指導計画の作成等、全般について実務経験に基づいて教授している。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>実際に幼稚園で幼児と関わりながら実践を通して学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td>○</td> <td>幼児に適した保育内容や指導案の作成について、文献等の資料の収集及び調査し、参照しながら、園生活の流れに適した内容を考える。</td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td>○</td> <td>配属園により、画像を用いたドキュメンテーションの作成等、活用する場合がある。</td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	担当教員のうち1名は、幼稚園で教諭として実務経験を有しており、実習の意義、幼稚園における幼児の姿の観察・記録・指導計画の作成等、全般について実務経験に基づいて教授している。	アクティブ・ラーニング	○	実際に幼稚園で幼児と関わりながら実践を通して学ぶ。	情報リテラシー教育	○	幼児に適した保育内容や指導案の作成について、文献等の資料の収集及び調査し、参照しながら、園生活の流れに適した内容を考える。	ICT活用	○	配属園により、画像を用いたドキュメンテーションの作成等、活用する場合がある。
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業	○	担当教員のうち1名は、幼稚園で教諭として実務経験を有しており、実習の意義、幼稚園における幼児の姿の観察・記録・指導計画の作成等、全般について実務経験に基づいて教授している。														
アクティブ・ラーニング	○	実際に幼稚園で幼児と関わりながら実践を通して学ぶ。														
情報リテラシー教育	○	幼児に適した保育内容や指導案の作成について、文献等の資料の収集及び調査し、参照しながら、園生活の流れに適した内容を考える。														
ICT活用	○	配属園により、画像を用いたドキュメンテーションの作成等、活用する場合がある。														

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	教職実践演習（中等）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河田 敦子	指定なし
准教授	齋藤 史夫	指定なし

ナンバリング	Y40102M22
授業概要(教育目的)	大学4年間で学んだ知識と教育実習などで得られた教科指導力や生徒理解力や指導力の実践力とのさらなる統合を図り、教師としての使命感や責任感に基づく、教師としての資質形成を目的とする。教育実習で指摘された改善点に取り組み、教師としての能力を更に高める時間としたい。おもな授業形態は、講義や演習、模擬授業、ロールプレイ、学校見学などを組み合わせ、実際の教育現場を想定した教育課題を取り扱う。
履修条件	教育実習AまたはBを履修していること。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	教育に関する基礎的知識、家庭科教員としての専門的知識をある程度有し、また、知識・理解が不足している時に、その知識に関する調べ方がわかっている。
思考・判断の観点 (K)	生徒への対応が、教育者として思慮深く、客観的な判断基準を有している。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教育や家族・家庭について常に関心を持ち、向上心と研究意欲をもって、より良い教育者になろうとする意欲があり、教師としてふさわしい態度は何かを考えることができる。
技術・表現の観点 (A)	<ul style="list-style-type: none"> 生徒にわかり易く、生徒の興味・関心を惹き出すような学びのプログラムを企画する能力がある。 声・文字・身振り等を通して、相手に伝える表現力がある。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	教職課程の集大成として4年間を振り返り、教育実習で指摘されたこと等を克服して、履修カルテを完成させることが本演習の目的であることを学ぶ。	家庭科は生活科学なので、日々情報入手にアンテナを張り、次世代を育てられる知識量を見に付けること。	90分
第2回	教職と教育実習に関するディスカッション	教職課程全体と教育実習を振り返り、どのような点を今後努力していくべきかを学生間でディスカッションし、確認し合う。	中学高等学校で公開されている授業を積極的に参観すること。	120分
第3回	自らの反省に基づく授	履修カルテを記入しながら、自分が苦手とする分野がどこなのかを確認し、できるだけその苦手分野の模擬授業を本演習で実施することが望ましい。あるいは、実習先	日々、家庭科に関わる情報の入手と学習に心がける。	90分

	業改善計画の作成	で研究公開授業として行った授業をお互いに見せ合うことによって、専門性の高い授業を学び合う。		
第4回	授業力向上のための教材研究・学習会（被服分野 人数によって変動する）	被服分野を模擬授業に選んだ学生の授業に参加しながら、様々な意見を出し合い、より良い授業ができるように学び合う。	中学高等学校が公開している授業をできるだけ参観すること。	90分
第5回	授業力向上のための教材研究・学習会（食分野 人数によって変動する）	食分野を模擬授業に選んだ学生の授業に参加しながら、様々な意見を出し合い、教材研究・学習会を行う。より良い授業ができるように学び合う。	調理実習は、模擬授業ではなかなかできないので、教育実習で担当したことを克明に記録しておくこと。	90分
第6回	授業力向上のための教材研究・学習会（住分野 人数によって変動する）	住分野を模擬授業に選んだ学生の授業に参加しながら、様々な意見を出し合い、教材研究・学習会を行う。将来より良い授業ができるように学び合う。	防災や災害時の安全管理についても再度確認しておくこと。	90分
第7回	授業力向上のための教材研究・学習会（家族分野 人数によって変動する）	家族・保育分野を模擬授業に選んだ学生の授業に参加しながら、様々な意見を出し合い、教材研究・学習会を行う。将来より良い授業ができるように学び合う。	保育分野は、近年教育実習で行うことが多く、教える内容も増えてきている。十分に学習を積んでおくこと。	90分
第8回	授業力向上のための教材研究・学習会（環境・消費者問題 人数によって変動する）	環境・消費者問題を模擬授業に選んだ学生の授業に参加しながら、様々な意見を出し合い、教材研究・学習会を実施する。将来よりよい授業ができるように学び合う。	環境・消費者問題は今社会でも大きな問題になっている。社会で起きていることに敏感になり、正確な情報を次世代に伝えられるように学習すること。	90分
第9回	学級経営	学校における生徒の基礎的な生活集団である学級・ホームルームの活動（特別活動）を通じた生徒指導のあり方を、教育実習を振りかえり深める。	文部科学省「生徒指導提要」などを読む。	90分
第10回	教員間のコミュニケーション	教師同士の協力が教師を育てること、情報交換が生徒指導に役立つことを、教育実習で体験した学校行事（特別活動）などの事例を振り返り学ぶ。	文部科学省「学習指導要領解説 特別活動論」などを読む	90分
第11回	学校訪問・見学	公開授業を実施している学校を訪問する。あるいは、別の日に公開授業を参観したことで本時の振り替えとする。	基本的に教室外学習である。	90分
第12回	学校訪問・授業見学	11回と同様である。1校の授業見学を2回分と換算する。	本時が教室外学習である。	90分
第13回	家庭科教師と現代社会	本時は、家庭科教員を長く勤められた方をお招きして現場の様子や実体験をお話頂く予定である。	家庭科教員になるために聴いておきたい質問事項等準備しておくこと。	90分
第14回	これからの家庭科教育（ディスカッション）	本演習を通して学んだこと、教職課程を通して学んだこと等を振り返り、ディスカッションを行う。履修カルテを完成させる。	自分の不得意分野に就いてはよく学習しておくこと。	90分
第15回	まとめ	履修カルテを提出し、教員となるための心構えを発表し合う。	履修カルテをしっかりと完成させておくこと。	60分

学習計画注記	特になし			
学生へのフィードバック方法	履修カルテ、教育実習ノートにコメントして返却する。			
評価方法	授業参加の姿勢、各授業ごとの話し合いの姿勢の評価。模擬授業の評価。レポート課題の評価など、総合的に評価する。			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)

授業参加の姿勢		○	○	
模擬授業	○	○	○	○
履修カルテ		○	○	

評価割合	授業参加の姿勢（30％）、模擬授業（40％）、履修カルテ（30％）
使用教科書名（ISBN番号）	特に指示しない。各講義中で、参考文献を明示する。
ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】「衣」「住」「家庭科教育」の各分野について、専門的知識・技術を有している。</p> <p>【思考・判断】社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。</p> <p>【関心・意欲・態度】社会の中にある諸問題に積極的に関心を持ち、自主的な学習を通じてその解決策を立案でき、社会人としての自覚を持って、責任を果たすことができる。</p> <p>【技能・表現】家政学を学修し、各分野での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。</p> <p>・社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている。</p>
オフィスアワー	アポイントメントにより時間調整を行うこと。
学生へのメッセージ	教職課程を履修したことが自分の人生にどのように活かされるのか、本当に、教師になりたいのかどうか、真剣に考えてください。いずれは教師への道を選ぶ、という態度もあってよいです。自分の中の教師への志望の意思をある程度明確にされることを希望します。教員という仕事に伴う社会的責任を自覚しながら、自らの人生の歩みを確かなものにしてください。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	家庭科教員経験のある方をお招きしてお話して頂く。
アクティブ・ラーニング	○	模擬授業、ディスカッション
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	教職実践演習（中等）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	1限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 佐藤 広美	指定なし
教授	上村 協子	指定なし
准教授	木村 文香	指定なし

ナンバリング	Y40102C22
授業概要(教育目的)	大学4年間で学んだ学習知と教育実習などで得られた教科指導力や生徒理解力・生徒指導力の実践知とのさらなる統合を図り、使命感や責任感に裏打ちされた教師としての資質形成を目的とする。おもな授業形態は、講義や演習、発表。ロールプレイなどを組み合わせ、実際の教育現場を想定した教育課題を取り扱う。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	教師としての使命感や責任感と教育的愛情を理解し、保護者や同僚教師（管理職を含めて）との共同協力の必要性を理解することに加え、自己理解を深めること
思考・判断の観点 (K)	教育現場で生じている問題に気づき、教師として必要な能力と技術について思考すること
関心・意欲・態度の観点 (V)	教師としての能力の形成を具体的に実感できるようになること
技術・表現の観点 (A)	保護者や同僚教師（管理職を含めて）との共同協力を進める関係能力、児童・生徒理解や学級経営能力、教科内容の指導力、表現力やコミュニケーション能力を得ること

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	教職の使命について	なぜ、教職を志望したのか、そのメモ化。教育実習に行った感想ノート作成。	180分
第2回	履修カルテの完成	履修カルテとは何かをあらためて理解し、必要事項を記入する。	履修カルテの記入に必要な資料をそろえることを予習とする(90分)。授業後、履修カルテのうち、完成できていない部分について記入し、必要事項が全て記入された履修カルテを見て、教職課程での4年間を各自振り返る(90分)。	180分
第3回	教職課程で	自分にとって、教職課程での学びとは何だったのか、今	教職課程で学んだ4年間を振り	180分

	の学びに関するふりかえり(個人)	後どう活かしていくのかを考える。考えた内容は、パワーポイントにまとめる。	返るのに必要な資料をそろえることを予習とする(90分)。まとめたパワーポイントを基に、小グループで共有する方法を検討する(90分)。	
第4回	教職課程での学びに関するふりかえり(小グループ)	前の回に各自でまとめた「教職課程での学び」を小グループで共有する。その後、同じグループで「教職課程での学び」についてグループワークを行い、自分たちの変化、成長への気づきを深める。	作成したプレゼンテーションを、わかりやすくプレゼンテーションできるようにすることを予習とする(90分)。小グループで共有したグループメンバーのプレゼンテーションから、教職課程での4年間を各自振り返る(90分)。	180分
第5回	教職課程での学びに関するふりかえり(全体)	前の回に各小グループで行った「教職課程での学び」に関するグループワークの結果を全体で共有する。また、第2回目から5回目までの授業を振り返り、グループワークの組み立てについても学ぶ。最後に、「教職課程での学び」を共通体験として、自分たちの変化、成長への気づきをさらに深める。	前の回に行ったグループワークから自分が得たことを、適切に表現できるようにすることを予習とする(90分)。気づいた自分の成長を、継続的に伸ばし、社会で活かす方法を考える(90分)。	180分
第6回	学校経営と実習校訪問	教育実習の振り返り、学級経営の課題と教師の任務	併校訪問のためのキャリア教育(中学生)を語る準備	180分
第7回	学校経営と実習校訪問	教育実習の振り返り、学級経営の課題と教師の任務	併校訪問のためのキャリア教育(中学生)を語る準備、中学生の部活動について、教師の部活動指導の実態に関するメモと資料収集	180分
第8回	学校経営と実習校訪問	教育実習の振り返り、学級経営の課題と教師の任務	併校訪問のためのキャリア教育(中学生)を語る準備、現在の中学生の進路選択について資料収集	180分
第9回	学校経営と実習校訪問、併校訪問	学級経営の課題と教師の任務、併校訪問、キャリア教育の実施、併校教師との懇談、学校経営について、生徒の実態と進路状況など、	併校訪問のためのキャリア教育(中学生)を語る準備、中学生時代の自分の生き方の振り返り、現在の進路選択における自己教養形成についての考察ノート作成、	180分
第10回	学校経営と実習校訪問	生徒指導、子ども観、そして同僚教師の連携、チーム学校に一員としての資質能力形成	チーム学校の一員としての資質能力に関する資料種集とメモ化	180分
第11回	持続可能な社会と家庭科教育 1	家庭科教員になるために学んだ専門の学習知と、教育実習などで得られた家庭科指導力、地域や生徒の生活への理解力などの実践知を統合し、持続可能な社会・生活につながるエンカナル消費などに裏打ちされた家庭科について、実際の生活現場を想定した教育課題を取り扱う。	SDGsなど持続可能な社会にむけての家庭科教育で行われている実践事例について、調べる。	180分
第12回	持続可能な社会と家庭科教育 2	シェアリングエコノミーなど、あらたな生活環境が出現しているなかでの家庭科教育を考える。若者の生活設計や家庭科教員になるために学んだ専門の学習知と、教育実習などで得られた家庭科指導力、地域や生徒の生活への理解力などの実践知を統合し、持続可能な社会・生活につながる、使命感や責任感に裏打ちされたかていかきょういくについて、実際の生活現場を想定した教育課題を取り扱う。	SDGsなど持続可能な社会にむけての家庭科教育で行われている実践事例について、調べる。	180分
第13回	持続可能な社会と家庭科教育 3	贈与経済を中心に、家庭科教員になるために学んだ専門の学習知と、教育実習などで得られた家庭科指導力、地域や生徒の生活への理解力などの実践知を統合し、持続可能な社会・生活につながる、使命感や責任感に裏打ちされた家庭科の授業実践を例に、実際の生活現場を想定した授業案を作成する。	東京家政学院大学の先輩家庭科教師が、持続可能な社会にむけて行っている家庭科教育実践について話をきき調べる。	180分
第14回	持続可能な社会と家庭科教育 4	人生100年時代の家族・地域・農業など家庭科教員になるために学んだ専門の学習知と、教育実習などで得られた家庭科指導力、地域や生徒の生活への理解力などの実践知を統合し、持続可能な社会・生活につながる、実際の生活現場を想定した教育課題を取り扱う。	SDGsなど持続可能な社会にむけての家庭科教育で行われている実践事例について、調べる。	180分
第15回	まとめ	教職の使命と課題、大学4年間の教養形成と教育実習での「成果」	常勤、非常勤など、今後の教職への準備に必要なことの整理。非常勤講師の状態に関する資料集など、	180分

学生へのフィードバック方法

演習と講義、見学など、
教職専門教師と家庭科科目専門教師の共同。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験 (レポート)	○	○	○	○
レスポンスシート	○		○	○

評価割合	定期試験8割とレスポンスシート2割の総合評価
使用教科書名 (ISBN番号)	特に使用はしない。授業の中で、その都度、参考文献を指示する。
オフィスアワー	水曜4限
学生へのメッセージ	4年間の教職科目の締めくくりの講義である。 自分自身が本当に教職に向いているのかどうか、真剣に確かめてほしい。 教職を目指すのなら、3, 4年はあきらめず、採用試験を突破して、専任の道を目指す、そういう「意思」を持っているのかどうか。自ら、答えを出してほしい。 そういう、講義にしていきたい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークを用い、自らの成長への気づきを促す。
情報リテラシー教育		
ICT活用	○	プレゼンテーションの作成やグループワークにおいては、パソコンや写真、動画を活用し、内面的なふりかえりにとどめず、客観的な姿を見ることで、より深い気づきを促す

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	教職実践演習（栄養）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	健康栄養学科・4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 佐藤 広美	指定なし
教授	酒井 治子	指定なし
准教授	吉野 知子	指定なし
准教授	辻 雅子	指定なし

ナンバリング	Y40501M22
授業概要(教育目的)	大学4年間で学んだ知識と教育実習などで得られた栄養を中心とする教科指導力や生徒理解力及び指導力とのさらなる統合をはかり、使命感や責任感に裏打ちされた栄養教諭としての現場に出ていくための資質形成を目的とする。おもな授業形態は、講義、演習、模擬授業発表会（ロールプレイ）、学校訪問見学などを組み合わせ、実際の教育現場で遭遇する事案等を想定した教育課題について取り扱い演習を行う事を目的とする。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	栄養教諭として現場に必要な知識を理解し、説明できる。
思考・判断の観点 (K)	栄養教諭として現場で、児童生徒に適切な指導について自ら考え、判断し、説明できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	栄養教諭として行く教育実習に、意欲関心をもって積極的に参加できる。
技術・表現の観点 (A)	食に関する指導の実施において専門的知識と技能をもって、コミュニケーション力とプレゼンテーション力で適切に表現することができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス	使命感や責任感に裏打ちされた栄養教諭としての現場に出ていくための資質形成を目的とした演習についてガイダンスで理解する。(担当:辻)	履修カルテの記入整理をしておく	180分
第2回	これまでの4年間の学修の振り返りと教職の使命・意義	これまでの4年間の学修の振り返りとともに教職の使命・意義と教師の役割について理解する。(担当:佐藤)	履修カルテの記入と栄養教育実習の振り返りをまとめておく。	180分
第3回	教師の使命感について	教師の使命感についての討議を行う。(担当:佐藤)	教師の使命感について栄養教育実習の振り返りを行っておく。	180分

第4回	子ども理解の課題についての討論	子どもについて理解を深めるために子ども観の課題について理解する（担当：佐藤）	栄養教育実習で関わった児童・生徒の状況について振り返りを行っておく。	180分
第5回	子ども理解・子ども観について事例研究・討議	子ども理解・子ども観について事例研究・討議をおこなう（担当：辻）	栄養教育実習で関わった児童・生徒の状況について振り返りを行っておく。	180分
第6回	教育現場における給食運営について講義と討議	教育現場における給食運営について講義と討議をおこなう（担当：吉野）	栄養教育実習の現場における給食運営について振り返りを行っておく	180分
第7回	地域保護者との共同関係の構築について講義	地域保護者との共同関係の構築について講義を行う（担当：酒井）	栄養教育実習の現場における地域保護者との連携について振り返りを行っておく	180分
第8回	栄養教育の教職模擬授業発表会①	栄養教育の教職模擬授業の発表会を実施する（担当：辻）	栄養教育実習で実施した研究授業のまとめを行う	180分
第9回	栄養教育の教職模擬授業発表会②	栄養教育の教職模擬授業の発表会を実施する（担当：辻）	栄養教育実習で実施した研究授業のまとめを行う	180分
第10回	教職教育研修会	教育現場に就職した卒業生からの講義及び討議を行う（担当：辻他）	栄養教育実習での学びを深めて復習しておき、家庭科教諭や栄養教諭として現場で働くにはどのようなことが必要なのか理解する。	180分
第11回	栄養教育実習校における実践演習①	実習校における教育実習以外の学びについて現場で理解を深める	実習校における教育実習以外の学びについて現場で理解を深めるために事前準備をすること。	180分
第12回	栄養教育実習校における実践演習②	実習校における教育実習以外の学びについて現場で理解を深める	実習校における教育実習以外の学びについて現場で理解を深めるために事前準備をすること。	180分
第13回	栄養教育実習校における実践演習③	実習校における教育実習以外の学びについて現場で理解を深める	実習校における教育実習以外の学びについて現場で理解を深めるために事前準備をすること。	180分
第14回	栄養教育実習校における実践演習④	実習校における教育実習以外の学びについて現場で理解を深める	実習校における教育実習以外の学びについて現場で理解を深めるために事前準備をすること。	180分
第15回	資質能力のまとめと確認	栄養教諭としての資質能力のまとめと確認を行う。（担当：佐藤）	栄養教諭としての資質能力のまとめを行い、自分自身の教諭としての資質の確認を行う。	180分

学習計画注記	本演習はオムニバスで複数の教員にて担当するため、欠席などしないように気を付けること。
学生へのフィードバック方法	基本的に、質問は各担当教員のオフィスアワーの時間等を活用すること。その際に各学生にフィードバックする。全体に返す必要があるものは授業前後の時間を使用して全体へフィードバックする。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 各担当教員の授業・演習等の取り組み姿勢や模擬授業発表会及び平常点で評価する。（平常点は授業への参加状況や演習へのグループワーク等への態度や模擬授業発表会への参加状況や態度で総合的に評価する） 出席日数が3分の2以上なければ成績評価を受けることはできない。 遅刻3回は欠席1回とみなす。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
模擬授業発表会	○	○	○	○
グループワーク	○	○	○	○
学校見学報告書	○	○	○	

評価割合	平常点50%、模擬授業発表会30%、その他学校見学報告書作成20%（平常点は授業への参加状況や演習へのグループワーク等への態度や模擬授業発表会への参加状況や態度で総合的に評価する）
使用教科書名（ISBN番号）	テキストは指定しない。配布資料等は随時担当教員が紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】栄養教諭として現場に必要な知識を理解し、説明できる事に該当。 【思考・判断】栄養教諭として現場で、児童生徒に適切な指導について自ら考え、判断し、説明できる事に該当。 【関心・意欲・態度】栄養教諭として行く教育実習に、意欲関心をもって積極的に参加できる事に該当。 【技術・表現】食に関する指導の実施において専門的知識と技能をもって、コミュニケーション力とプレゼンテーション力で適切に表現することができる事に該当。
オフィスアワー	本講義はオムニバスで複数の教員にて担当するものであるため、質問等がある場合は各担当教員のオフィスアワーを確認する事。
学生へのメッセージ	現代社会の中の子どもの食をめぐる問題を考え、学校や教師の役割について考えてほしい。栄養問題は重要であるが、教育現場では、もっと広く、例えば農業の実際の問題など、食をめぐる様々な問題を考えてほしい。その上で、栄養教諭はどんな課題を引き受けなければならないのかを考えてもらいたい。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	グループワークや発表を通じて課題発見力・課題解決学習を学ぶ事ができる。
情報リテラシー教育	○	教育現場における情報モラルについて学ぶ事ができる。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	教職実践演習（幼・小）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 立川 泰史	指定なし
教授	齋藤 義雄	指定なし

ナンバリング	Y44105M22
授業概要(教育目的)	<p>教職課程科目や教育課程外での様々な活動を通じて、学生が身につけてきた資質能力が、教員として最小限度必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、最終的に確認する。</p> <p>教師として教育の理念を学ぶとともに、実践的な指導力・反省力を身に付け、それらを向上する。</p> <p>初等教育実習の園や小学校の実習体験、ボランティア活動など、実践的な経験や観察を通して教師としての姿勢・態度・意識、および自ら資質・能力を高める意義について理解する。</p>
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

観点	内容
知識・理解の観点 (K)	今日の教育課題に照して求められる教師像を理解し、教育者に必要な基礎的・専門的な知識に基づいて、反省や改善に主体的に取り組む実践力や観点について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	児童の理解や教育環境の把握に向かう視点を持ち、実態に即した指導の改善を検討・判断する教育的な見方・考え方を有する。
関心・意欲・態度の観点 (V)	児童・保護者・地域や社会の課題に関心を持ち、主体的・協働的に課題解決に向かう意欲と姿勢を有する。
技術・表現の観点 (A)	多様な場面の教育目的に則して適切な対応を実践する基本的な能力を有し、児童の個性を尊重して地域に貢献する技術、よりよい生活や学習環境を構築する実行力を発揮できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション、教育実習の振り返りと課題の抽出	教育実習を振り返り、印象に残った実践的な課題を抽出する。場面とエピソードを踏まえて、前後の文脈を切り取る。	実習体験や実習日誌の考察から、多様な問題を整理しておく。	90分
第2回	事例・課題によるグループ編成と課題領域の類別	事例・課題を共有するグループを編成し、討論を通して課題を領域(教師・子ども・教材・環境)ごとに類別する。	抽出した課題を領域(教師・子ども・教材・環境)の中に位置づけて整理しておく。	90分

第3回	各領域における課題解決のまとめ・中間プレゼンテーション資料の作成	各領域（教師・子ども・教材・環境）に類型化した課題の解決策をまとめ、中間プレゼンテーション資料の原案を作成する。	課題の本質や背景を考察し、解決の手だてを整理しておく。	90分
第4回	中間プレゼンテーションの役割分担と発表順テマ一覧表の作成	中間プレゼンテーションに際して担当する課題を分担する。各グループの発表順を決定し、発表テマ・メンバーの一覧表を作成する。	グループ内の協議を通して、発表する課題に適した分担責任者を思案しておく。	90分
第5回	中間プレゼンテーション①、相互評価活動	中間プレゼンテーション1回目を実施する。聞き手は、配布された「相互評価票」に気付きや考察点を記述し、質疑応答の活動に役立てる。	発表する分担にそって、視覚的で分かりやすい表現を工夫しておくこと。	90分
第6回	中間プレゼンテーション②、相互評価活動	中間プレゼンテーション2回目を実施する。聞き手は、配布された「相互評価票」に気付きや考察点を記述し、質疑応答の活動に役立てる。	発表する分担にそって、視覚的で分かりやすい表現を工夫しておくこと。	90分
第7回	中間プレゼンテーション③、相互評価活動	中間プレゼンテーション3回目を実施する。聞き手は、配布された「相互評価票」に気付きや考察点を記述し、質疑応答の活動に役立てる。	発表する分担にそって、視覚的で分かりやすい表現を工夫しておくこと。	90分
第8回	模擬授業（ロールプレイ）の構成計画	中間プレゼンテーションで発表した内容の中から選んだ問題場面について、解決する指導を想定し、その場面を含む学習指導案や場面指導案の構成を検討する。	課題の領域を踏まえて、想定場面の根拠となる指導観・子ども観・教材観を整理しておく。	90分
第9回	模擬授業（ロールプレイ）のための学習指導案・場面指導案の作成	中間プレゼンテーションで発表した内容の中から選んだ問題場面について、解決する指導を想定し、その場面を含む学習指導案や場面指導案の構成を作成する。	課題の領域を踏まえて、想定場面の根拠となる指導観・子ども観・教材観を整理しておく。	90分
第10回	模擬授業①、相互評価・講評	模擬授業（ロールプレイ）1回目を行う。聞き手は「相互評価票」に気付きや疑問を記述し、全体での質疑応答に役立てる。講評から関連する実践事例や問題解決の要件を理解する。	模擬授業（ロールプレイ）に必要な資料や模擬教材を準備しておく。	90分
第11回	模擬授業②、相互評価・講評	模擬授業（ロールプレイ）2回目を行う。聞き手は「相互評価票」に気付きや疑問を記述し、全体での質疑応答に役立てる。講評から関連する実践事例や問題解決の要件を理解する。	模擬授業（ロールプレイ）に必要な資料や模擬教材を準備しておく。	90分
第12回	模擬授業③、相互評価・講評	模擬授業（ロールプレイ）3回目を行う。聞き手は「相互評価票」に気付きや疑問を記述し、全体での質疑応答に役立てる。講評から関連する実践事例や問題解決の要件を理解する。	模擬授業（ロールプレイ）に必要な資料や模擬教材を準備しておく。	90分
第13回	模擬授業④、相互評価・講評	模擬授業（ロールプレイ）4回目を行う。聞き手は「相互評価票」に気付きや疑問を記述し、全体での質疑応答に役立てる。講評から関連する実践事例や問題解決の要件を理解する。	模擬授業（ロールプレイ）に必要な資料や模擬教材を準備しておく。	90分
第14回	模擬授業⑤、相互評価・講評	模擬授業（ロールプレイ）5回目を行う。聞き手は「相互評価票」に気付きや疑問を記述し、全体での質疑応答に役立てる。講評から関連する実践事例や問題解決の要件を理解する。	模擬授業（ロールプレイ）に必要な資料や模擬教材を準備しておく。	90分
第15回	「履修カルテ」の確認・まとめ（教育の今日的課題・求められる教師像）	「履修カルテ」に示された観点を基に、これまでに履修した教職科目の目標到達度を自己評価する。自己評価の平均値を基に視覚化される結果を参照し、自身の課題を明確にする。また、今日の教育的課題に対応して求められる教師像を捉え、自己教育力を高める。	履修カルテに記述する科目や成績などの情報を整理しておく。	90分

学習計画注記

履修生の実習期間や人数により、スケジュールが変更になる場合がある。

学生へのフィードバック方法

- ・グループ形態での発表・指導案の作成、模擬授業などと講評を中心に実施する。
- ・前半は、初等教育実習（幼稚園・小学校）での成果と課題を振り返り、共有した課題を小グループでの討論を通して問題領域の分類を行う。各グループが「領域ごとの問題解決をまとめたプレゼンテーション」と質疑応答を行う。それぞれのプレゼンテーションについては、講評・助言で応答する。
- ・後半は、「問題解決の場面に則した学習指導案や場面指導計画」を作成し、模擬授業・ロールプレイ形式で発

	<p>表する。発表直後に全体の質疑応答を設け、講評や助言で応答する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間プレゼンテーションや後半の模擬授業では、それぞれの発表に対して「相互評価票」を記入し、提出を求める。 ・学期末に、これまで学んだ教職科目の修得度を自己評価する「履修カルテ」を作成し、データ提出を求める。本カルテは、教員からのコメントを記して大学が保管する。 			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・中間プレゼンテーション及び後半の模擬授業・ロールプレイは、提起する問題の妥当性や明確さ、解決策に活用する知識や考え方、プレゼンテーション・リテラシーなどを観点に総合的に評価する。 ・発表時に記入する「相互評価票」は、問題への関心の高さや考察内容を観点に評価する。 ・学期末の提出を求める小論レポート（1600字程度）は、「4年間で変容した教職観」を共通テーマとし、「指導観・児童観・教材観」における知識・理解、考察・判断の思考力、記述スキルなどを観点に、総合的に評価する。 			
評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
中間プレゼンテーション	○	○	○	○
相互評価票		○	○	
小論レポート	○	○		○
評価割合	平常点（主体的に討論に参加し学ぶ姿勢）20%、中間プレゼンテーションと模擬授業20%、相互評価票の記入10%、期末小論レポート50%などをもとに、総合的に判断する。			
使用教科書名 (ISBN番号)	特になし。（資料・ワークシートは適宜配布する）			
参考図書	①文部科学省編『幼稚園教育要領解説』フレーベル社 ②文部科学省編『小学校学習指導要領解説・各教科領域編』日本文教出版ほか （ともに平成29年3月公示版）			
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】今日の教育課題を理解し、教職に必要な基礎的な知識を有する。 【思考・判断】子ども・保護者・地域の実態を把握し、実態に応じて課題の解決を案出・実践する柔軟な見方・考え方を有する。 【関心・意欲・態度】学校・地域・行政・社会的教育機関と協働して教育に従事する意義に関心を持ち、反省・改善し続ける自己教育力を有する。 【技能・表現】教職に求められる基本的な技能、豊かな表現力と対話力を発揮する資質を有する。			
オフィスアワー	水曜3限・1628研究室（齋藤）・1629研究室（立川）			
学生へのメッセージ	幼稚園・小学校教諭を目指す自覚をもち、基礎的な知識・基本的な技能を高めるための問題意識を具体化しながら参加すること。 各自の問題意識については「卒業研究」との関連も視野に入れ、効果的・効率的な探求計画をもって取り組む。授業で配布する資料・ワークシート類は各自で管理・保管し、随時提出可能にしておくこと。			
教育等の取組み状況				
	該当有無	概要		
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、小学校教員として教育現場に従事した経験を有する。現職教員の研修や文部科学省検定教科書の編修、文部科学省の学習指導資料作成委員等に参加する経験から、今日の教育的課題に則した情報を提供する。		
アクティブ・ラーニング	○	小グループでの討論や全体発表での質疑応答、相互評価票による発表者と聞き手の相互主体的な学びを通して、対話的で協働的な学習形態をとる。		
情報リテラシー教育	○	実習体験・ボランティアなどで知った実態や事例検索から得た情報を整理し、問題の解決策を案出する機会をもつ。		
ICT活用	○	中間プレゼンテーションでは、各グループの検討を基にプレゼンテーションに適したアプリケーションでデータを作成し、視覚機器を用いて発表する。		

ウインドウを閉じる

シラバス参照

講義名	特別支援教育実習・実習指導		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	3		
代表曜日	金曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 阿尾 有朋	指定なし
教授	杉野 学	指定なし
准教授	柳瀬 洋美	指定なし
助教	原田 晋吾	指定なし

ナンバリング	Y45201M33
授業概要(教育目的)	本科目では、特別支援教育を専門とする教員としての基本的な資質・能力の涵養をねらいとした講義・演習を行う。 指導案の書き方、模擬授業、教材教具の研究、指導技法の習得、学習評価の仕方などを通じて、特別支援教育を専門とする豊かな人間性と指導力のある教師となることを目指す。
履修条件	原則として、特別支援教育領域に関する科目を履修済みであること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	特別支援学校の教育課程を理解し、各教科・領域の概要を説明できる。 特別支援学校に在籍する幼児児童生徒の障害種や障害特性について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	幼児児童生徒の活動の様子をみて、障害の状態に応じた指導計画を立案することができる。 実習で経験したことを事前指導で学習した内容と関連付けて考察することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	教員あるいは社会人としての自覚をもって実習に取り組む。 PDCAサイクルの視点を持ち、子どもへの対応や授業の改善策を考え、実践に活かすことができる。
技術・表現の観点 (A)	障害のある幼児児童生徒に対する指導法を学習し、実践することができる。 幼児児童生徒、教員、その他関係者との対話を通して関係を築き、自身の学びにつなげる。

学習計画

特別支援教育実習・実習指導

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション①	・実習の意義と目的、心構え、勤務と服務規律について確認する。 ・実習初日までに必要な準備を確認し、スケジュール表を作成する。	テキスト「特別支援教育ハンドブック」第1章を読んでおくこと。	60
第2回	オリエンテーション②	・実習日誌を受け取り、事前に書き込める内容(実習先となる学校の概要など)の記載を行う。	実習日誌に目を通し、書き込める箇所に記入すること。	60

		・実習に関するビデオ教材を視聴する。実習中の記録の取り方（日誌の記載方法）を知る。		
第3回	実習校の研究	・実習先が同じ学生同士でグループを作り、学校目標、校種、教育課程を調べ、実習日誌にまとめる。	・テキスト「特別支援教育ハンドブック」第4章、第6章を読んでおくこと。 ・実習校のホームページを閲覧し、学校に関する基礎情報を確認しておくこと。	60
第4回	様々な障害の理解と支援	・知的障害・肢体不自由の障害特性を学び、実際の指導場面で必要な配慮事項を検討し、発表する。 ・視覚障害、聴覚障害、自閉症についてテキストに基づいて復習を行う。	テキスト「特別支援教育ハンドブック」第5章を読んでおくこと。	60
第5回	特別支援学校の教育課程	・特別支援学校（知的・肢体）の教育課程を確認する。 ・それぞれの実習先となる特別支援学校の教育課程と照らし合わせながら、時間割を確認する。	テキスト「特別支援教育ハンドブック」第6章を読んでおくこと。実習先の学校種とその教育課程について調べたことをまとめておくことと良い。	120
第6回	個別の指導計画、個別の教育支援計画	・個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成過程を学習する。仮想事例について、個別の教育支援計画を作成する。また、模擬的なケース会議を開き、個別指導計画を作成する。	テキスト「特別支援教育ハンドブック」第7章を読んでおくこと。	60
第7回	自立活動の指導	・自立活動の意義と、6区分の内容を学習する。 ・自立活動の時間の学習指導案を読み込み、指導の目的や具体的な指導方法を学ぶ。	テキスト「特別支援教育ハンドブック」第8章を読んでおくこと。	60
第8回	知的障害特別支援学校小学部における国語算数指導	・知的障害児を対象とした国語・算数の指導法を学び、学習指導案（略案）の作成を行う。 ・指導案作成が、教師役と児童生徒役に分かれて模擬授業を行う。	テキスト「特別支援教育ハンドブック」第10章を読んでおくこと。	60
第9回	肢体不自由特別支援学校小学部における国語算数指導	・肢体不自由児を対象とした国語・算数の指導法を学び、学習指導案（略案）の作成を行う。 ・指導案作成が、教師役と児童生徒役に分かれて模擬授業を行う。	テキスト「特別支援教育ハンドブック」第11章を読んでおくこと。	60
第10回	危機管理、アレルギー対策、日常生活なかでの指導	・特別支援学校で想定される危機管理、緊急時対応について、具体的なエピソードから対応の仕方について学習する。（一覧表を作成し、日誌に綴じる。）	テキスト「特別支援教育ハンドブック」第12章を読んでおくこと。	60
第11回	学習指導案の作成①	・指導案作成の手順を学ぶ。 ・授業改善のためのPDCAサイクルについて学ぶ。 ・指導案に含まれる各項目の書き方を学ぶ①。	テキスト「特別支援教育ハンドブック」第9章を読んでおくこと。	60
第12回	学習指導案の作成②	・指導案に含まれる各項目の書き方を学ぶ②。 ・指導案を作成する（個別作業①）。	前回の授業で学習したことをまとめておくこと。文部科学省のホームページから特別支援学校の学習指導要領をダウンロードして目を通しておくこと。	120
第13回	学習指導案の作成③	・指導案を作成する（個別作業②）。	指導案作成に必要な情報を収集しておくこと。模擬授業に必要な教材を準備しておくこと。	120
第14回	学習指導案の作成④	・指導案に基づいて模擬授業を行う。（時間の都合上、指導案の一部について模擬授業を行う。）	自分の指導案をよく読み込み、授業者として実演できるようにしておくこと。	120
第15回	事前指導のまとめ	・実習日誌の記載について最終確認を行う。	これまでの授業で学んだことや、作成したものを日誌のファイルに綴じ、すぐに参照できるようにしておくこと。	120
第16回	特別支援学校の授業実践	・実際の学習指導案から、学校目標や学習指導要領との関連、教育課程の位置付け、授業の目的、児童生徒に身につけさせたい知識・技能を読み解く。 ・学習指導案の書き方を学ぶ。	事前に配布する学習指導案に目を通しておく。	60
第17回	特別支援学校の授業実践	・実際の学習指導案から、学校目標や学習指導要領との関連、教育課程の位置付け、授業の目的、児童生徒に身につけさせたい知識・技能を読み解く。 ・学習指導案の書き方を学ぶ。	事前に配布する学習指導案に目を通しておく。	60
第18回	特別支援学校（知的）で使用する	・特別支援学校（知的）で使われている教材や教具を紹介する。 ・実習のなかで作成した教材を学生同士で紹介し、その	知的障害のある児童生徒の教材・教具に関する情報を収集しておくこと。また、実習中に使	120

	教材・教具研究	用途、使用対象となる児童生徒の実態、教材の提示方法を説明する。	用した教材について、用途、使用対象となる児童生徒の実態、教材の提示方法を整理しておくこと。	
第19回	特別支援学校（肢体）で使用する教材・具研究	・特別支援学校（肢体）で使われている教材や教具を紹介する。 ・実習のなかで作成した教材を学生同士で紹介し、その用途、使用対象となる児童生徒の実態、教材の提示方法を説明する。	肢体不自由の児童生徒の教材・教具に関する情報を収集しておくこと。また、実習中に使用した教材について、用途、使用対象となる児童生徒の実態、教材の提示方法を整理しておくこと。	60
第20回	教材・教具の作成	・実習中に使用した教材・教具を実際に作成（再現）し、その使用方法や対象となる児童生徒の実態についてレポートにまとめる。 ・時間が余ったら、使用対象となる児童生徒の障害特性についてまとめておく。	作成（再現）したい教材に必要な材料を事前に書き出し、担当教員に連絡すること。	60
第21回	教材・教具の作成	・実習中に使用した教材・教具を実際に作成（再現）し、その使用方法や対象となる児童生徒の実態についてレポートにまとめる。 ・時間が余ったら、使用対象となる児童生徒の障害特性についてまとめておく。	作成（再現）したい教材に必要な材料を事前に書き出し、担当教員に連絡すること。	60
第22回	教材・教具の作成（発表）	・作成（再現）した教材の発表を行う。 ・すべての教材レポートをまとめた冊子を作成し、授業後に配布する。	発表の仕方について各自確認・練習しておくこと。	60
第23回	特別支援学校（実習校）での実習オリエンテーション	・特別支援学校での教育実習に先駆けて、実習校でオリエンテーションを行う。	・オリエンテーションの日程調整の連絡や、当日のマナーについて予習しておくこと。 ・オリエンテーションで必ず確認する事項について日誌内の所定のページに書き留めておくこと。	60
第24回	特別支援学校見学	特別支援学校の公開研究会に参加する。 （日程が分かり次第、授業内で連絡する。）	見学の観点を整理し、書き留めておく。 見学を通して学んだことを整理して書き留めておく。	60
第25回	特別支援学校見学	特別支援学校の公開研究会に参加する。 （日程が分かり次第、授業内で連絡する。）	見学の観点を整理し、書き留めておく。 見学を通して学んだことを整理して書き留めておく。	60
第26回	特別支援学校見学	特別支援学校の公開研究会に参加する。 （日程が分かり次第、授業内で連絡する。）	見学の観点を整理し、書き留めておく。 見学を通して学んだことを整理して書き留めておく。	60
第27回	特別支援学校見学	特別支援学校の公開研究会に参加する。 （日程が分かり次第、授業内で連絡する。）	見学の観点を整理し、書き留めておく。 見学を通して学んだことを整理して書き留めておく。	60
第28回	実習報告会の準備	・実習報告会の発表内容をグループごとに検討し、当日必要な資料等の準備を行う。 ・発表の手順について、グループ内で打ち合わせを行う。	実習報告会で発表する内容に必要な情報を収集しておくこと。	60
第29回	実習報告会の準備	・実習報告会の発表内容をグループごとに検討し、当日必要な資料等の準備を行う。 ・発表の手順について、グループ内で打ち合わせを行う。	実習報告会で発表する内容に必要な情報を収集しておくこと。	60
第30回	実習報告会への参加	・実習報告会で発表を行う。 ・発表を聞き、就学前機関や小学校の職務を学ぶ。	実習報告会の発表の手順について、グループのメンバーでよく確認しておくこと。	60

学習計画注記	本科目は、通年（前期：金3限、後期：木曜2限）で開講する。 特別支援学校での実習を希望している者は必ず履修すること。
学生へのフィードバック方法	・学生の質問や発表内容について、3名の担当教員が授業内で即時にフィードバックを行う。 ・課題の成果や作成した指導案に、担当教員がコメントをつけて返却する。
評価方法	①実習校から提出される評価票および日誌の記載内容に基づいて評価を行う（40点満点）。 ②大学で実施する事前事後指導では、授業内での発表、課題（指導案や教材作成）、模擬授業の実施状況を評価の対象とする（60点満点）。 上記、①、②の評価点を合計し、総合評価を行う。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
グループ討議・発表	○	○		
指導案・教材作成	○			○
模擬授業			○	
教育実習評価表			○	
実習日誌の記載内容	○	○	○	

評価割合	教育実習 (40%)、実習事前事後指導 (60%) で評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	特別支援教育ハンドブック (東京家政学院大学特別支援教育研究会) を初回授業で配布する。
参考図書	授業内で適宜紹介する。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】 児童学を構成する6領域を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できる。 【思考・判断】 具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる。 【関心・意欲・態度】 子ども達の健全で豊かな成長・発達のために、使命感を持って行動できる。
オフィスアワー	杉野 (前期: 金曜 1~2 限、後期: 水曜 1~2 限 1606教室) 阿尾 (水曜 2 限 1605教室) 原田 (月曜 3~4 限 1509教室)
学生へのメッセージ	特別支援学校だけでなく、幼稚園、保育園、小・中学校でも特別支援教育を推進することが求められています。特別な教育的ニーズや障害の状態について理解を深め、確かな知識や技術で支援を行えるように学びましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	特別支援学校管理職経験者、重症心身障害児施設職員経験者、教育センター心理相談員経験者が本科目を担当する。
アクティブ・ラーニング	○	授業は、少グループに分かれて演習形式 (導入説明→演習→発表→振り返り) で進める。
情報リテラシー教育	○	学校教育における情報教育、教員としての情報倫理、情報管理について授業の中で適宜指導する。
ICT活用	○	教員による解説や学生の発表において、PCやタブレット等の機器を使用する。handsup! を使い、リアルタイムに質疑を受け付ける。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	特別支援教育論（中・高・栄）		
講義開講時期	前期前半	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 杉野 学	指定なし
准教授	木村 文香	指定なし

ナンバリング	Y20004M11
授業概要(教育目的)	障害の有無に関わらず特別の支援を必要とする児童生徒の理解、特別支援教育制度、教育課程編成、指導内容・支援方法、貧困家庭、不登校、日本語指導の必要な子どもへの支援について実践的な授業を行う。映像等を利用して特別支援教育を初めて学ぶ学生に対しても分かりやすい授業を行う。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標（到達目標）	
知識・理解の観点 (K)	1. 特別な支援を必要とする子どもの障害特性や状況等について理解し特別支援教育の教育内容・方法に関する基礎的な知識を獲得する。 2. 特別の支援を必要とする子どもの教育課程編成や個別の教育的ニーズに対して、他教員や関係機関と連携し組織的に対応するための知識や支援方法を理解し発表できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 発達障害等の障害特性や学習・生活上の困難さに対する適切な指導や必要な支援について考え個に応じた支援について理解を深める。 2. 通常の学級にも在籍している発達障害児や軽度知的障害児等の障害特性や心身の発達及び学習・生活上の困難に対する支援を理解し事例を分析することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 発達障害等の障害のある子ども、貧困家庭の子ども、日本語指導が必要な外国籍の子ども、不登校児などに対する教育課題について、理解し特別支援教育への関心を高める。 2. 障害はないが母国語や貧困などの特別の教育的ニーズのある幼児児童生徒の把握や支援について概要を理解しグループディスカッションができる。
技術・表現の観点 (A)	1. インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育制度の概要を説明できる。 2. 発達障害のある子どもの学習指導や生活支援に関する指導法を理解し、他者へ説明ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育制度及び新学習指導要領に	インクルーシブ教育システム、特別支援教育の理念、特別支援教育の概要、学習指導要領の特別支援教育に関する事項について学ぶ。	教科書の第1・2章8～27ページを読んでおくこと	120分

	おける特別支援教育の特色について			
第2回	発達障害や軽度知的障害のある幼児児童生徒の心身の発達と心理的特性の理解及び特別支援教育の視点を生かした学級経営と授業づくり	ICFによる障害の捉え方、合理的配慮、発達障害(自閉症、学習障害、注意欠陥多動性障害)、軽度知的障害の障害特性、学級経営を学ぶ	教科書の第3・4章28～47ページを読んでおくこと	120分
第3回	発達障害や軽度知的障害のある子どもの学習指導と授業改善及び発達障害等の特性に応じた合理的配慮に基づく学習・生活指導の実践	学校における障害のある児童生徒の状況と配慮、学び方の違いに配慮した授業改善、校内での支援体制、授業改善の意義、学校における合理的配慮、指導事例について学ぶ	教科書の第5・6章48～73ページを読んでおくこと	120分
第4回	視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱のある子どもの学習・生活指導及び特別の支援を権よ通とする児童生徒の教育課程編成と支援方法	視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、教育課程と障害の種類や程度を理解した指導方法、就学先の決定について学ぶ	教科書の第7・8章74～93ページを読んでおくこと	120分
第5回	通級による指導及び自立活動の意義と指導の基本	通級による指導に関する制度、学習指導要領上の扱い、対象、特別の教育課程、児童生徒間の理解推進、高等学校における通級指導、自立活動の意義と内容について学ぶ	教科書の第9・10章94～115ページを読んでおくこと	120分
第6回	個別の教育支援計画、個別の指導計画の意義と作成	個別の教育支援計画の作成・活用、個別の指導計画の作成・活用、校内委員会による組織的な支援、保護者との協働について、事例研究で学ぶ	教科書の第11章116～125ページを読んでおくこと	120分
第7回	校内支援体制と特別支援教育コーディネーターの役割	特別支援教育に関するセンター的機能、校内委員会の設置と組織的な支援、教職員の意識改革と共通理解、発達障害児の困難さの変化をみる、アセスメントによる情報収集、教育相談における情報収集方法について学ぶ	教科書の第12章126～135ページを読んでおくこと	120分
第8回	障害はないが母国語や貧困の問題等のある子どもの学習・生活上の困難と支援	特別な配慮を必要とする児童生徒への指導、子どもの貧困問題、不登校対策、組織的な支援について学ぶ	教科書の第13章136～145ページを読んでおくこと	120分
第9回	特別支援教育に関する定期試験を実施	定期試験を通して、これまでの学習内容の習得状況を各自把握するとともに、様々な困難を抱える子どもに対する適切な指導や必要な支援について理解を深める	定期試験を通して、多様な連続した教育の場における特別支援教育の教育内容・方法について理解を深める	90分

学習計画注記	履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある
学生へのフィードバック方法	教科書を使用して講義を行うが、随時スライド、ビデオ、プリントなども使用して分かりやすい授業をする。質問等がある場合は、研究室訪問やメール連絡で対応する。

評価方法	定期試験は、教科書の基本的な学習内容を整理したプリントを後半の授業で配布し出題傾向を説明する。必ず復習をして定期試験を受けること。				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	振り返りシート	○		○	
	定期試験	○	○		
評価割合	定期試験80%、授業態度、振り返りシートの記載内容20%で、総合的に評価する				
使用教科書名 (ISBN番号)	はじめて学ぶ特別支援教育論 杉野学著 大学図書出版 ISBN 978-4-909655-07-3				
参考図書	特になし				
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】障害のある子どもの特別支援教育について理解し、障害のある子どもの多様で連続した園・学校教育に関する専門的な知識の修得ができています。 【思考・判断】特別支援教育への理解を深め具体的・実践的な教育活動や地域連携などの状況を把握し障害の有無に関係なく共に育つ共生社会を地域で創造できる感性やコミュニケーション力が備わっている。				
オフィスアワー	水曜日1.2限目、杉野研究室				
学生へのメッセージ	特別支援教育は、全ての保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等で実施されている。したがって、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭、特別支援学校教諭を目指している学生は、特別支援教育への理解を深める必要がある。特に、教職をめざしている学生は、通常の学級、通級指導による指導、特別支援学級、特別支援学校における教育について積極的に学んで欲しい。				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	担当教員(杉野)は、東京都教育委員会の指導主事や東京都立特別支援学校の教育。管理職として、第1次東京都特別支援教育推進計画の策定に関わるとともに、特別支援教育に関する教育課程や指導法に関する幅広い実務経験を有しており、特別支援学校教諭免許状等を取得する学生に必要な特別支援教育課程の科目に関する実践的な知見を教授している			
アクティブ・ラーニング	○	ワークシートを活用して個人の意見をまとめたり、小集団での話し合いや発表をしたりする機会を設けて、より主体的に学ぶ姿勢を育む			
情報リテラシー教育	○	個人情報保護及び個人情報流出防止等に関する法令等を説明し人権尊重に結びつけた指導をする			
ICT活用	○	映像、パワーポイント資料、新聞記事などを活用しながら、より障害理解を深めるためのICT機器を活用した視覚・聴覚支援について情報を提供する			

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	特別支援教育論（幼・小）		
講義開講時期	前期前半	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	月曜日	代表時限	1 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 杉野 学	指定なし
准教授	木村 文香	指定なし

ナンバリング	Y24002M11
授業概要(教育目的)	障害の有無に関わらず特別の支援を必要とする子どもの理解、特別支援教育制度、教育課程編成、指導内容・支援方法、貧困家庭、不登校、日本語指導の必要な子どもへの支援について実践的な授業を行う。映像等を利用して特別支援教育を初めて学ぶ学生に対しても分かりやすい授業を行う
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標（到達目標）	
知識・理解の観点 (K)	1. 特別な支援を必要とする子どもの障害特性や状況等について理解し特別支援教育の教育内容・方法に関する基礎的な知識を獲得する。 2. 特別の支援を必要とする子どもの教育課程編成や個別の教育的ニーズに対して、他教員や関係機関と連携し組織的に対応するための知識や支援方法を理解する。
思考・判断の観点 (K)	1. 発達障害等の障害特性や学習・生活上の困難さに対する適切な指導や必要な支援について考え個に応じた支援について理解を深める。 2. 通常の学級にも在籍している発達障害児や軽度知的障害児等の障害特性や心身の発達及び学習・生活上の困難に対する支援を理解し事例を分析することができる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 発達障害等の障害のある子ども、貧困家庭の子ども、日本語指導が必要な外国籍の子ども、不登校児などに対する教育課題について、理解し特別支援教育への関心を高める。 2. 障害はないが母国語や貧困などの特別の教育的ニーズのある幼児児童生徒の把握や支援について概要を理解しグループディスカッションができる。
技術・表現の観点 (A)	1. インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育制度の概要を説明できる。 2. 発達障害等のある子どもの学習指導や生活支援に関する指導法を理解し、他者へ説明ができる。

学習計画

インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育制度及び新学習指導要領における特別支援教育の特色について

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育制度	インクルーシブ教育システム、特別支援教育の理念、特別支援教育の概要、学習指導要領の特別支援教育に関する事項について学ぶ。	教科書の第1・2章8～27ページを讀んおくこと	120分

	及び新学習指導要領における特別支援教育の特色について			
第2回	発達障害や軽度知的障害のある子どもの心身の発達と心理的特性の理解及び特別支援教育の視点を生かした学級経営と授業づくり	ICFによる障害の捉え方、合理的配慮、発達障害(自閉症、学習障害、注意欠陥多動性障害)、軽度知的障害の障害特性、学級経営を学ぶ	教科書の第3・4章28～47ページを読んでおくこと	120分
第3回	発達障害や軽度知的障害のある子どもの学習指導と授業改善及び発達障害等の特性に応じた合理的配慮に基づく学習・生活指導の実践	学校における障害のある児童生徒の状況と配慮、学び方の違いに配慮した授業改善、校内での支援体制、授業改善の意義、学校における合理的配慮、指導事例について学ぶ	教科書の第5・6章48～73ページを読んでおくこと	120分
第4回	視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱のある子どもの学習・生活指導及び特別の支援を必要とする子どもの教育課程編成と支援方法	視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、教育課程と障害の種類や程度を理解した指導方法、就学先の決定について学ぶ	教科書の第7・8章74～93ページを読んでおくこと	120分
第5回	通級による指導及び自立活動の意義と指導の基本	通級による指導に関する制度、学習指導要領上の扱い、対象、特別の教育課程、子ども間の理解推進、自立活動の意義と内容について学ぶ	教科書の第9・10章94～115ページを読んでおくこと	120分
第6回	個別の教育支援計画、個別の指導計画の意義と作成	個別の教育支援計画の作成・活用、個別の指導計画の作成・活用、校内委員会による組織的な支援、保護者との協働について、事例研究で学ぶ	教科書の第11章116～125ページを読んでおくこと	120分
第7回	校内支援体制と特別支援教育コーディネーターの役割	特別支援教育に関するセンター的機能、校内委員会の設置と組織的な支援、教職員の意識改革と共通理解、発達障害児の困難さの変化をみる、アセスメントによる情報収集、教育相談における情報収集方法について学ぶ	教科書の第12章126～135ページを読んでおくこと	120分
第8回	障害はないが母国語や貧困の問題等のある子どもの学習・生活上の困難と支援	特別な配慮を必要とする児童生徒への指導、子どもの貧困問題、不登校対策、組織的な支援について学ぶ	教科書の第13章136～145ページを読んでおくこと	120分
第9回	特別支援教育に関する定期試験を実施	定期試験を通して、これまでの学習内容の習得状況を各自把握するとともに、特別支援教育についてより理解を深める	定期試験を通して、特別支援教育の教育内容・方法について理解を深める	90分
学習計画注記		履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もある		
学生へのフィードバック方法		教科書を使用して講義を行うが、随時スライド、ビデオ、プリントなども使用して分かりやすい授業をする。質		

	問等がある場合は、研究室訪問やメール連絡で対応する				
評価方法	定期試験は、教科書の基本的な学習内容を整理したプリントを後半の授業で配布し出題傾向を説明する。必ず復習をして定期試験を受けること				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	振り返りシート	○		○	
	定期試験	○			
評価割合	定期試験80%、授業態度、振り返りシートの記載内容20%で、総合的に評価する				
使用教科書名 (ISBN番号)	はじめて学ぶ特別支援教育論 杉野学著 大学図書出版 ISBN 978-4-909655-07-3				
参考図書	特になし				
ディプロマポリシーとの関連	知識・理解】障害のある子どもの特別支援教育について理解し、障害のある子どもの多様で連続した園・学校教育に関する専門的な知識の修得ができています。 【思考・判断】特別支援教育への理解を深め具体的・実践的な教育活動や地域連携などの状況を把握し障害の有無に関係なく共に育つ共生社会を地域で創造できる感性やコミュニケーション力が備わっている				
オフィスアワー	水曜日1.2限目、杉野研究室				
学生へのメッセージ	特別支援教育は、全ての保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等で実施されている。したがって、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭、特別支援学校教諭を目指している学生は、特別支援教育への理解を深める必要がある。特に、教職をめざしている学生は、通常の学級、通級指導による指導、特別支援学級、特別支援学校における教育について積極的に学んで欲しい				
教育等の取組み状況					
	該当有無	概要			
実務経験を活かした授業	○	担当教員(杉野)は、東京都教育委員会の指導主事や東京都立特別支援学校の教育。管理職として、第1次東京都特別支援教育推進計画の策定に関わるとともに、特別支援教育に関する教育課程や指導法に関する幅広い実務経験を有しており、特別支援学校教諭免許状等を取得する学生に必要な特別支援教育課程の科目に関する実践的な知見を教授している			
アクティブ・ラーニング	○	ワークシートを活用して個人の意見をまとめたり、小集団での話し合いや発表をしたりする機会を設けて、より主体的に学ぶ姿勢を育む			
情報リテラシー教育	○	個人情報保護及び個人情報流出防止等に関する法令等を説明し人権尊重に結びつけた指導をする			
ICT活用	○	映像、パワーポイント資料、新聞記事などを活用しながら、より障害理解を深めるためのICT機器を活用した視覚・聴覚支援について情報を提供する			

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	教育・保育制度論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 中田 範子	指定なし
教授	齋藤 義雄	指定なし

ナンバリング	Y24001M21
授業概要(教育目的)	人間としての基礎を培う、幼児期及び児童期の子どもの保育・教育は、幼稚園・小学校で行われている保育・教育がどのような社会背景や制度のもとに営まれているのかを考える。現代的な諸問題を取り上げながら、学校安全、地域との連携、クラス経営等について社会的な枠組みから考える。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	保育現場や学校をめぐる現代の問題、制度的事項、経営的事項について理解する。
思考・判断の観点 (K)	乳幼児や児童の生活の変化を踏まえた現状を理解し、指導上の課題について考える。
関心・意欲・態度の観点 (V)	諸外国の保育・教育の動向に関心を持ち、カリキュラムマネジメントの重要性を理解する。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	ガイダンス、教育を支える保育・教育制度の仕組み	教育・保育制度の概要について理解し、課題意識を持つ。	幼児・児童を取り巻く現代的課題について、気になる事例を挙げ、まとめる。	60
第2回	保育・教育制度と関連法規	教育・保育に関連する法令等について理解し、目指す教育・保育の方向性について考える。今年度は、家庭との連携や子育て支援制度について焦点を当てる。	演習問題を完成する。	60
第3回	わが国の幼児・児童をめぐる諸問	今年度は「子どもの貧困」を取り上げ、その現状を理解し、課題について考える。	討議の内容をまとめる。	60

	題の実情と対応			
第4回	保育・教育制度の概要①：幼保一体化	幼保一体化と認定こども園に関する現状を理解し、課題について考える。	討議の内容をまとめる。	60
第5回	保育・教育制度の概要②：幼小接続	幼小接続に関する取り組みの必要性和具体的な取り組みについて理解し、課題について考える。	討議の内容をまとめる。	60
第6回	保育・教育制度の概要③：災害と子ども	災害時の子どもや保護者に対する対応について、事例をもとに考える。	演習問題を完成する。	30
第7回	保育・教育制度の概要④：園・学校内の事故	園・学校内の事故や危険性について理解し、その対応について考える。	実際に起こった事故の事例について調査し、まとめる。	120
第8回	保育・教育制度の概要⑤：放課後児童と長時間保育	事例をもとに、教育時間外の教育・保育の現状と課題について理解し、課題について考える。	演習問題を完成する。	60
第9回	教育に関する社会的事項①：社会の状況の理解	社会の状況を理解し、その変化が学校教育にもたらす影響を考え、教職の職業的特徴について理解する。	テキスト『教職概論』の第3章を読んでおく。	120
第10回	教育に関する社会的事項②：教育政策の動向	教育政策の動向を理解し、教師に求められる資質(学び続ける教師)について理解する。	テキスト『教職概論』の第7章 第12章を読んでおく。	120
第11回	教育に関する経営的事項①：学級経営	幼稚園・小学校における学級経営に関する基礎知識と諸問題について理解する。	テキスト『教職概論』の第8章を読んでおく。	120
第12回	教育に関する経営的事項②：校務分掌	園・学校内における各教職員の業務・役割と連携の在り方について理解する。	テキスト『教職概論』の第10章を読んでおく。	120
第13回	13. 教育に関する制度的事項	教師の身分保障や働き方改革に関する現状と諸問題について理解する。	テキスト『教職概論』の第13章を読んでおく。	120
第14回	学校と地域との連携	教職員の連携(チーム学校運営への対応)と外部機関との連携について理解する。	テキスト『教職概論』の第14章を読んでおく。	120
第15回	現代的な課題(学校安全への対応を含む)	現代的な問題(学校安全への対応を含む)を取り上げ、課題について考える。	テキスト『教職概論』の第15章を読んでおく。	120

学習計画注記	状況により、計画に変更が生じる場合もある。
学生へのフィードバック方法	提出物はすべて添削し、返却する。また、グループ討議、発表の際には、質疑応答を通して学習目標が達成できるように適宜助言する。
評価方法	提出物と学期末レポートはすべて点数化し、担当者間で協議の上、評価を決定する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
提出物(討議のまとめ等)	○	○	○	
学期末レポート	○	○	○	

評価割合	提出物(40%)、学期末レポート(60%)
使用教科書名(ISBN番号)	齋藤義雄『教職概論』 大学図書出版
参考図書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】児童学を構成する6領域のうち、「子どもの保育」「子どもの教育」「子どもの福祉」を理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。 【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・感性が備わっている。 【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。
オフィスアワー	火曜日2限 1623研究室
学生へのメッセージ	受け身ではなく、積極的な態度で授業に臨むことを期待しています。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、2名とも、幼稚園・保育所・小学校で教諭・保育士として実務経験を有しており、教育・保育の現場の実際について実務経験に基づいて教授している。
アクティブ・ラーニング	○	教育・保育制度に関する現代的諸問題について、学生同士の討議を通して、課題を抽出し、その解決方法について考える。
情報リテラシー教育	○	子どもを取り巻く諸問題について調査する過程で、的確な情報を収集し、多方面から読み解き、考察する。
ICT活用	○	子どもを取り巻く諸問題について調査・考察し、画像等を用いながらまとめる。

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	学校栄養教育論 I		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	5限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員		
職種	氏名	所属
教授	◎ 酒井 治子	指定なし
准教授	大富 あき子	指定なし

ナンバリング	Y32501C21
授業概要(教育目的)	栄養教諭(一種)教職免許の必修科目である。学校栄養教育論Ⅱ、そして教職実習に向けた基礎の学習として、栄養教諭という資格の成り立ちから、職務内容、使命、役割への理解を深める。また、小・中学校での食に関する指導の全体計画の作成方法を理解し、栄養教諭として食に関する指導の効果的な指導方法を学ぶ。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	幼児・児童・生徒の持つ食に関する健康課題の背景には社会状況の変化があることを客観的に理解し、説明できる。
思考・判断の観点 (K)	幼児・児童・生徒の持つ食に関する健康課題について探求し、その課題解決に向けた方策について情報収集して思考し、効果的な取り組みを判断できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	幼児・児童・生徒の持つ食に関する健康課題の解決のため、栄養教諭(管理栄養士)として使命感を持って取り組む意欲がある。また、他職種と連携するためのコミュニケーション能力や豊かな人間性を身につけている。
技術・表現の観点 (A)	幼児・児童・生徒に効果的な指導を行うための全体計画や指導案を作成することができる。教育者として求められる豊かな表現力を身につけている。

学習計画

回	年月日(曜日)	時限	授業テーマ	学習内容(7分野*ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	令和 2年05月07日(木)	4限前半	栄養教諭の制度と役割(担当教員:酒井)	栄養教諭制度が創設された経緯と関係法規等について理解する。 栄養教諭の職務内容である「給食の管理」と「食に関する指導」を一体的に展開するためには、他の教職員や保護者、地域の専門家等との連携・協力が必要である。そのための効果的な食に関する指導全体計画の作成方法について理解する	栄養教諭論 第1章の「1 栄養教諭の制度と役割」(1~11ページ)および資料1の「食に関する指導体制の整備について」(182~189ページ)を読んでおくこと。	120分
第2回	令和 2年04月16日(木)	4限前半	学校における食育を推進するための施策(担当教員:酒井)	食育基本法と食育推進基本計画における学校における食育の推進の位置づけ及び学校に期待される役割について理解する。	栄養教諭論 第1章「6~8. 学校給食の歴史、食育基本法」と第3次食育推進基本計画(資料2~3 190~206ページ)を読んでおくこと。	120分
第3回	令和 2年04月09日(木)	4限前半	幼児・児童・生徒に対する食育の必要性(担当教員:酒井)	少子高齢化社会を迎えるわが国の課題と次世代を生きる児童生徒の健康の保持増進のため、学校における食育の重要性について理解する。	食に関する指導の手引き第1章「児童生徒の食生活を取り巻く状況等」(1~5ページ)を読んでおくこと。	120分
第4回	令和 2年04月23日(木)	4限前半	学習指導要領の意義と食育のあり方(担当教員:酒井)	学習指導要領改訂の趣旨とカリキュラムマネジメント、学校給食法において学校給食が教育に位置付けられた経緯を踏まえて、学校における食育のあり方を理解する。	栄養教諭論第5章の「学習指導要領の意義と食育のあり方」と「学校給食法 208~210ページ」を読んでおくこと。	120分
第5回	令和 2年05月21日(木)	4限前半	食に関する指導の全体計画の編成(担当教員:酒井)	食に関する全体計画を基本について学ぶ。児童生徒に身につけさせたい、または改善したい食に関する目標を設定し、給食の時間および食に関連する教科等、教育活動全体の中で取り組めるよう演習を通して学ぶ。よりよい計画を作成することを通して、より深く、体系的に食育を推進する方法について学ぶ。	栄養教諭論 第6章「食に関する指導の全体計画」をよく読んでおく。	120分
第6回			食生活に関する歴史と食事・食物の文化的事項(担当教員:大富)	食生活に関する歴史や、食事・食物の文化的事項について学ぶ。	食文化を題材にした食に関する指導の事例を収集する。	120分
第7回			食文化に着目した食に関する指導(担当教員:大富)	食生活に関する歴史や、食事・食物の文化的事項を、どのように食に関する指導に盛り込んでいくか、また、児童・生徒の発達段階に応じた展開のあり方を学ぶ。	食文化を題材にした食に関する指導に適切な教材を考える。	120分
第8回	令和 2年06月04日(木)	4限前半	学校給食の意義・役割 給食の	学校における食育の中心である給食の時間の指導及び食育の教材となる献立の活用方法について学ぶ。	食に関する指導の手引き第4章「学校給食を生きた教材として活用した食育の推進」(196~	120分

			時間の指導案作成(担当教員:白井)		227ページ)を読んでおくこと。また、給食の時間の指導案の題材を考えておくこと。	
第9回	令和 2年06月11日(木)	4限前半	給食の時間の指導案作成(担当教員:白井)	グループで給食の時間の指導案を作成することを通して、児童生徒の食に関する課題を明確にし、学校給食の献立を教材として活用することが、課題解決のために効果的な指導方法であることを理解する。(グループワーク)	給食の時間における指導案を集め、指導案の作成方法を調べておく。	120分
第10回	令和 2年06月18日(木)	4限前半	給食の時間の指導案作成(担当教員:白井)	グループで話し合い、給食時間の指導案を修正し完成させる。作成した指導案で模擬授業を行うとともに、他のグループの模擬授業から、より深く、給食の時間における食に関する指導の題材設定、指導案の作成方法等について学ぶ。(グループワーク)	グループで話し合い、又は分担し、給食の時間の指導案をほぼ完成させておくこと。また、模擬授業に必要な教材を用意しておくこと。	120分
第11回	令和 2年06月25日(木)	4限前半	食に関する個別的な対応指導(担当教員:白井)	生活習慣病の要因となる肥満傾向や近年、増加している食物アレルギーを有する児童生徒等に対応するための望ましい個別対応指導について理解する。	文部科学省作成の学校給食における食物アレルギー対応指針に目を通しておくこと。	120分
第12回	令和 2年07月02日(木)	4限前半	教科等の特性を踏まえた食に関する指導(担当教員:白井)	食と関連した教科等における指導を行う際に、教科の目標や特質を踏まえつつ、食に関する指導の目標達成を図ることが大切なことを理解する。また教科等の指導案作成方法について学ぶ。	食に関する指導の手引き第3章「各教科等における食に関する指導の展開」(46~175ページ)の内、小学校特別活動、体育、家庭科について読んでおくこと。	120分
第13回	令和 2年07月09日(木)	4限前半	教科等における食に関する指導案作成(担当教員:白井)	グループにおいて小学校体育又は家庭科の指導案を作成し、学校給食を教材として活用することが効果的な指導につながることを理解する。また、望ましい指導案の作成方法について学ぶ。(グループワーク)	よくわかる栄養教諭の補遺:指導案例(283~303ページ)の内小学校体育、家庭科の指導案を読んでおく。グループで話し合い、分担し、8割程度指導案を作成しておくこと。	120分
第14回	令和 2年07月16日(木)	4限前半	教科等における食に関する指導案作成(担当教員:白井)	グループで話し合い、または教員の助言を得て指導案を完成させ、模擬授業を行う。教員の講評や他のグループの模擬授業を踏まえ、より深く、効果的な指導方法や指導案の作成方法について理解する。(グループワーク)	模擬授業に必要な教材を作成しておくこと。授業の後で作成した指導案に修正を加え、完成させること。	120分
第15回	令和 2年07月23日(木)	4限前半	諸外国における食育及び学校給食の現状(担当教員:白井)	わが国の学校給食制度が世界で最も優れた制度と評価される所以は、給食の提供と食育が一体的に展開されていることであることを理解し、栄養教諭(管理栄養士・栄養士)の役割が極めて大きいことを、諸外国の学校給食と対比させて学ぶ。	レポートを実施するので、これまでの授業内容を復習しておくこと。	120分
第16回						

学習計画注記	授業の進行状況によっては、スケジュールが変更になる場合がある。
--------	---------------------------------

学生へのフィードバック方法	演習を実施した際には、模範解答を提示する。
---------------	-----------------------

評価方法	レポート提出、食に関する全体計画および指導案の作成並びに模擬授業によって下表に示す力が身についているかどうかを評価する。
------	--

評価基準	
------	--

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート	○		○	
全体計画の作成	○	○		
指導案の作成・模擬授業		○	○	○

評価割合	平常点(40%),教員が課すレポート、指導案等(60%) 平常点は、授業態度や授業及び討論への積極的な参加状況によって評価する。
------	---

使用教科書名 (ISBN番号)	四訂 栄養教諭論:一理論と実際一、金田 雅代、建帛社、2019、4767921163 「食に関する指導の手引き」、文部科学省、2019、4827815755
-----------------	---

参考図書	学習指導要領、体育及び家庭科の教科書
------	--------------------

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】人間、食物、組織的におくこと地域との相互理解から「人間の栄養」を理解できる専門的知識を身につけている。 【思考・判断】現代の食・栄養に関する諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている。 【関心・意欲・態度】栄養教諭(管理栄養士)として社会に貢献しようとする意思と他者と共働するための豊かな人間性を身につけている。 【技術・表現】人々の健康の保持増進のために給食管理と食育に関する専門的な技能と表現力を身につけている。
---------------	---

オフィスアワー	酒井: 火曜日1限 大富: 月曜日5限
---------	------------------------

学生へのメッセージ	本授業と他の教職科目とをつなげ、学習を深めていくことで、児童生徒に対する食育の必要性や栄養教諭の役割の理解及び食に関する指導の実践力の向上が期待できる。児童生徒が健康で明るい未来を生きるための基礎を培うために、栄養教諭の役割は極めて重要であるから、是非、意欲的に学んでいただきたい。
-----------	---

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	酒井は「和食給食を活かした食に関する指導」に関わっている経験、大富も家庭科教諭としての実務経験と、食文化を活かした教育の経験、白井は栄養教諭としての長年の実務経験を生かして、栄養教諭の食に関する指導の方法について教授する。それぞれの特性を活かして栄養教諭が習得すべき効果的な指導方法について教授している。
アクティブ・ラーニング	○	食に関する指導の全体計画、指導案の作成について、グループにおいて意見交換しながら作り上げるグループワークを採用している。
情報リテラシー教育	○	わが国が抱える現代課題や子どもたちの食に関する状況等をインターネット等を通して情報収集する。また食に関する指導案例をインターネットや書籍から収集する。
ICT活用		

シラバス参照

講義名	学校栄養教育論Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	3限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	人間栄養学科・3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 辻 雅子	指定なし
非常勤講師	伏島 礼子	指定なし

ナンバリング	Y32502C21
授業概要(教育目的)	栄養教諭の教職免許の必修科目である。学校栄養教育論Iに引き続き、食に関する指導の全体計画から、家庭や地域と連携した各教科や特別活動等、また、個別指導までの具体的な実践方法を理解する。指導案作成、発表、相互評価等の実践演習や模擬授業を通して指導の手法を取得する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	栄養教諭が行う「食に関する指導」に必要な知識、スキル、態度について説明することができる
思考・判断の観点(K)	「食に関する指導」について栄養教諭の立場から思考することができる
関心・意欲・態度の観点(V)	児童・生徒の発達段階に応じた「食に関する指導」について自ら考えようとし、栄養教諭としての役割を模索しようとする
技術・表現の観点(A)	栄養教諭として「食に関する指導」を行う必要なスキルを習得し、学習者のニーズに応じた指導ができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	オリエンテーション	学校栄養教育論Ⅰの振り返り：栄養教諭の職務内容、使命、役割の確認と、自らの考えをまとめ、討論する。	栄養教諭について学んだこと、自分の考えを整理する。今後学ぶべき内容ややりたい栄養教諭像を模索する。	120
第2回	児童の発達に応じた教科における食に関する指導(家庭科、技術・家庭科) (担当：伏島礼子)	家庭科という教科の全体像を把握し、児童の発達に応じた学習指導内容への理解を深める。	小学校の家庭科の学習指導要領を熟読する。	120
第3回	教科における	教科(家庭科)における食に関する指導の目標、内容の	小学校の家庭科の学習指導要領	120

	る食に関する指導（家庭科、技術・家庭科）の指導案の立案方法1（担当：伏島礼子）	設定方法、指導案の立案方法について学ぶ。	を熟読する。	
第4回	教科における食に関する指導（家庭科、技術・家庭科）の指導案の立案方法2（担当：伏島礼子）	教科（家庭科）における食に関する指導の目標、内容の設定方法、指導案の立案方法について学ぶ。	小学校の家庭科における食に関する指導の指導案を考える。	120
第5回	教科における食に関する指導（家庭科、技術・家庭科）の評価計画（担当：伏島礼子）	教科（家庭科）における食に関する指導の評価方法を学び、指導の再編について学ぶ。	小学校の家庭科における食に関する指導の評価方法を考える。	120
第6回	教科における食に関する指導（家庭科、技術・家庭科）の演習1（担当：伏島礼子）	教科（家庭科）における食に関する指導のロールプレイを行い、相互に学生同士で、指導のあり方について議論し、質を高める。	小学校の家庭科における食に関する指導の指導案のロールプレイの予行練習を行う。	120
第7回	教科における食に関する指導（家庭科、技術・家庭科）の演習2（担当：伏島礼子）	教科（家庭科）における食に関する指導のロールプレイを行い、相互に学生同士で、指導のあり方について議論し、質を高める。	小学校の家庭科における食に関する指導の指導案のロールプレイを行う。	120
第8回	教科における食に関する指導（家庭科、技術・家庭科）の模擬授業（担当：伏島礼子）	教科（家庭科）における食に関する指導のロールプレイを行い、相互に学生同士で、指導のあり方について議論し、質を高める。	小学校の家庭科における食に関する指導の指導案のロールプレイを行う。	120
第9回	児童・生徒の発達段階に応じた食に関する指導（担当：辻 雅子）	児童生徒の食生活の実態把握と活用について学ぶ。さらに発達に応じた食に関する指導の目標、内容の設定方法、指導案の立案方法について学ぶ。	児童・生徒の食に関する問題点について考える。	120
第10回	児童・生徒の発達段階に応じた食に関する指導（担当：辻 雅子）	食育の取り組み事例を参考に、食に関する指導の指導案の立案について学び、指導案を作成する。	小学校における食に関する指導の指導案を考える。	120
第11回	児童・生徒の発達段階に応じた食に関する指導（担当：辻 雅子）	食に関する指導の指導案をもとに模擬授業を行う。	小学校における食に関する指導の評価方法を考える。	120
第12回	児童・生徒	食育の取り組み事例（T1・T2）を参考に、食に関する	小学校における食に関する指導	120

	の発達段階に応じた食に関する指導（担当：辻 雅子）	指導の指導案の立案について学び、指導案を作成する。	の指導案を考える。	
第13回	児童・生徒の発達段階に応じた食に関する指導（担当：辻 雅子）	食に関する指導の指導案（T1・T2）をもとに模擬授業を行う。	小学校における食に関する指導の評価方法を考える。	120
第14回	児童・生徒の発達段階に応じた食に関する指導（担当：辻 雅子）	食に関する指導（個人指導）の事例について学ぶ。まとめ。	小学校における食に関する指導（個人指導）について考える。	120
第15回	児童・生徒の発達段階に応じた食に関する指導（担当：辻 雅子）	まとめ	小学校における食に関する指導について全体的なふりかえりを行う。	120

学生へのフィードバック方法	授業中の演習課題・レポートは当日、また、翌週に質疑応答をしながら、議論を深める。
評価方法	授業中の演習課題と最終回でのレポートにより評価する。

評価基準	
------	--

評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	演習課題	○		○	
	レポート	○	○		○

評価割合	演習課題50%、レポート35%、平常点15%（平常点は授業への積極的な参加状況等から総合的に判断する）
------	---

使用教科書名 (ISBN番号)	四訂 栄養教諭論：—理論と実際—, 金田 雅代, 建帛社, 2019, ISBN-10: 4767921163 「食に関する指導の手引き-第二次改訂版—」, 文部科学省, 健学社, 2019, ISBN-10: 4779704960
-----------------	---

参考図書	小学校学習指導要領, 文部科学省 小学校学習指導要領解説 家庭編, 文部科学省
------	--

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】栄養教諭の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている 【思考・判断】現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている 【関心・意欲・態度】「人間の栄養」に関心を持ち、栄養教諭として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている 【技術・表現】栄養教諭として、栄養の管理と指導に関する専門的スキルと共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている
---------------	--

オフィスアワー	辻：月曜日 4 時間目 1605 研究室
---------	----------------------

学生へのメッセージ	栄養教諭に必要な知識、スキル、態度とはどのようなものか？4年次の教育実習にむけて、食に関する指導の実践力を自主性をもって積極的に高めていくことが必要となる。
-----------	--

教育等の取組み状況	
-----------	--

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員である辻は国の研究所での実務経験を有しており、長年栄養教諭の実習指導に携わっている。また伏島は現職の家庭科教諭としての長年の実務経験があり、それを生かして、栄養教諭の食に関する指導の方法について教授する。
アクティブ・ラーニング	○	各自模擬授業を数回実施することで、自らの栄養教諭としての資質を高めることができる。

情報リテラシー 教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	学校栄養教育論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 塩塚 宏治	指定なし

ナンバリング	Y32501M21
授業概要(教育目的)	栄養教諭の役割を認識し、発育成長期という特殊な時期にある児童および生徒に職の意義を認識させる。また、食に対する正しい知識を習得させ食生活に対して正しい選択ができるようにする。
履修条件	日頃から学校教育で行われている活動をあらゆる場面を見付けて見たり聴いたりできるようにしてください。また、学校教育関わる情報には敏感になって欲しいです。 受講するまえに、その日の予定をみてテキストに目を通し、関連する事項を事前に調べておく様にしてください。 受講後には、その日の学びの内容を整理し、疑問に思った点を自らも調べ補うようにしてください。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	栄養教諭としての必要最低限の知識面の理解
思考・判断の観点 (K)	栄養教諭としての授業をつくっていく上での思考・判断する力
関心・意欲・態度の観点 (V)	栄養教諭として学校現場に入っていくことへの関心・意欲 学校現場に入っていく上での態度
技術・表現の観点 (A)	食に関する授業をつくっていく上での技能・表現

学習計画

15

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)
第1回	栄養教諭とは	栄養教諭とは何か 栄養教諭制度創設の趣旨と意義 栄養教諭の役割および職務内容 社会・時代的な背景 食生活に関する歴史のおよび文化事項並びに食に関する指導の方法に関する事項 児童および生徒の栄養の指導および管理に関わる社会的事情 学校給食の変化 学校における食 各法律や食育基本法と学校における食育 学校給食の目的、意義、役割 (知識・理解)
第2回	学校における給食の目的、意義、役割	児童及び生徒の栄養の指導及び管理にかかる法令(学校給食法) (学校給食法以外の法令と制度(学校保健法、障害者福祉法))

		<p>学習指導要領 学校給食法 教育活動としての学校給食 学校教育活動全体で取り組む食に関する指導 児童及び生徒の食事に関する実態把握、分析等に必要な事項を含む 学校教育活動全体で取り組む食に関する指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ■食に関する指導の全体計画 ■家庭、地域社会と連携した食育 ■発達の段階に配慮した指導計画（知識・理解）
第3回	学習指導要領について	<p>教科等における食に関する指導 特別活動における食に関する指導 給食時間における食に関する指導 学級担任と連携した食に関する指導 課題設定の方法と指導の展開（思考・判断）</p>
第4回	教科における食に関する指導 1	<p>生活科、社会科等における食に関する指導 体育科、保健体育科における食に関する指導 題材設定、教材の作成、指導方法等（思考・判断）（技能・表現）</p>
第5回	教科等における食に関する指導 2	<p>総合的な学習の時間における食に関する指導 食事バランスガイド 題材設定、教材の作成、指導方法等（思考・判断）（技能・表現）</p>
第6回	家庭、地域社会と連携した食育 の推進	<p>家庭と連携した食に関する指導の進め方 地域社会の食育推進関係者との連携のあり方 地場産物等生産者と連携した食育 ※地域における食育基本計画（思考・判断）（技能・表現）</p>
第7回	食に関する指導の課題設定と 実践	<p>給食時間における指導の課題設定 教育活動としての給食 全体計画の作成（実態・法律・学校教育目標・健康教育目標・目指す児童像） 学校における給食（教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動） （思考・判断）（技能・表現）</p>
第8回	食に関する指導の課題設定と 実践	<p>児童生徒が個々に抱える様々な食生活の問題の把握と相談指導等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 専門性を生かした個別指導 食物アレルギー、肥満傾向、痩身傾向、 ■ 偏食傾向、間食、朝食欠食等 2 食物アレルギー指導 3 その他（スポーツアスリート・肥満指導）（知識・理解）
第9回	食に関する指導授業	<p>授業の映像による観察（小学校で行われる食に関する指導内容の授業を映像等を使って観察する）（思考・判断） （技能・表現）</p>
第10回	食に関する指導の課題設定と 実践	<p>家庭、地域社会と連携した食に関する指導の進め方、ネットワークの構築等について学ぶ。 ・地場産物等地域資源を活用した食に関する指導 実践演習 生きた教材を活用した食に関する指導の指導案、教材等の作成 （思考・判断）（技能・表現）</p>
第11回	実践演習	<p>模擬授業に向けて指導案、教材等の作成 授業計画（思考・判断）（技能・表現）</p>
第12回	実践演習	<p>模擬授業に向けて指導案、教材等の作成 （思考・判断）（技能・表現）</p>
第13回	模擬授業	<p>模擬授業の実施と評価法について学ぶ （思考・判断）（技能・表現）</p>
第14回	模擬授業	<p>模擬授業の実施と評価法について学ぶ （思考・判断）（技能・表現）</p>
第15回	まとめ	<p>これまでの学習から、栄養教諭の役割等についてまとめ、意見交換をする。 （知識・理解）（技能・表現）</p>

学習計画注記	<p>本授業では、教材を作成したり、模擬授業を行ったりを何度か行っていきます。受講者の人数にもよりますが、できる限り模擬授業の回数を増やしていきたいと考えています。ですから、受講者人数によってはシラバスの中の授業内容と各回の予定を変更していくこともあります。その際には、授業の予定を再度受講者全員に配布いたします。</p>
学生へのフィードバック方法	<p>栄養教諭の役割を認識し、発育成長期という特殊な時期にある児童及び生徒に食の意義を認識させる。また、食に対する正しい知識を習得させ食生活に対して正しい選択が出来るようにする。こうした考えをもとに、実践的な授業実践ができる知識や技能を獲得させる。また、学校現場に入って仕事をしたいという関心や意欲をもつようにするとともに、学校現場へ入っていく態度を獲得する。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業レポート ・最終回に行う記述式の試験と、途中に行う形成的な評価テスト並びに模擬授業に向けて作成する教材や指導案を元に評価を行う。
評価基準	

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レポート	○			
模擬授業等		○	○	○
定期試験	○			

評価割合	レポート（10%）、模擬授業等（30%）及び定期試験（60%）
使用教科書名 (ISBN番号)	文部科学省 食に関する指導の手引き―第二次改訂版― 平成31年3月 小学校学習指導要領（平成29年告示） 中学校学習指導要領（平成29年告示）
参考図書	もっと食育（東洋システムサイエンス）
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】講義・演習を通して、多様な食文化や食歴を理解し、児童生徒・保護者、地域の人々との疎通ができるコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につけている。 【関心・意欲・態度】子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って教材化し行動できる。 【技能・表現】食生活と健康、食の安全性など、食を通じて生活の向上を図るための指導力や食品・食物の調理の技能と生きた教材としての学校給食を考える技能と、これらの開発企画や表現力を身につける。
オフィスアワー	火曜4限
学生へのメッセージ	学校現場で即座に対応できるだけの力をつけていけるようにします。課題、模擬授業を積極的に行ってください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、公立学校の栄養教諭として実務経験を有しており、食に関する指導の授業研究・教材研究について右に出るものはない。指導案から教材作成や指導方法を教授している。
アクティブ・ラーニング	○	個人やグループで考え発表する場を数多く授業の中で行っていく。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	博物館概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	5 限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石垣 悟	指定なし

ナンバリング	Y13602M21
授業概要(教育目的)	わが国の博物館総数は年々増加しており、現在ではおよそ6,000館あると言われている。博物館という社会教育施設を理解するために、まず博物館と博物館学芸員とのかかわりを明確にして、そのうえで博物館の基本的な性格を学ぶ。さらに今日の博物館が形成された基盤として歴史的な成立過程を概観し、加えて今日の諸問題について理解する。
履修条件	特になし。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	博物館の誕生とその後の性格の変遷、及び現状について説明できる
思考・判断の観点 (K)	博物館における学芸員の役割・使命とその可能性や限界について指摘できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	博物館の展示等の活動への理解を深め、自らの興味関心に基づいて博物館に足を運び考えることができる
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

博物館概論

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	博物館とは何か、学芸員とは何か～オリエンテーション	博物館施設や学芸員活動の概要を説明しつつ、本講義の進め方等を講義します。	前期中に時間を見つけてできるだけ多くの博物館を見学してください。	180分
第2回	ヨーロッパの博物館と江戸期の博物学～日本の博物館前夜	ヨーロッパを中心とした世界の博物館の胎動について概観し、次いで日本の江戸期の博物学の動きを概説します。	前期中に時間を見つけてできるだけ多くの博物館を見学してください。	180分
第3回	近代の博物館と博覧会	明治以降の日本の博物館の誕生について、博覧会や文化財保護、戦時体制などに留意しながら概説します。	前期中に時間を見つけてできるだけ多くの博物館を見学してください。	180分

	～日本の博物館の誕生			
第4回	発展する戦後の博物館～博物館活動の広がり	戦後の博物館活動の展開を社会教育施設、展示施設、研究施設などの面から時系列も加味しつつ概観します。	前期中に時間を見つけてできるだけ多くの博物館を見学してください。	180分
第5回	法律からみた博物館～教育と調査研究の狭間で	博物館に関わる様々な法律を紹介したうえで、博物館法という博物館の定義と役割を確認し、水族館や植物園など様々な種類の博物館も紹介します。	前期中に時間を見つけてできるだけ多くの博物館を見学してください。	180分
第6回	登録博物館その他～モノをみせる施設の展開	博物館と同類と目される、相当施設、資料館、記念館などの展開と、それぞれの役割について、具体の事例を交えながら概説します。	前期中に時間を見つけてできるだけ多くの博物館を見学してください。	180分
第7回	資料の収集と調査研究～博物館活動の第一歩	博物館における資料収集とその整理方法や考え方について具体の事例も交えながら概観します。	前期中に時間を見つけてできるだけ多くの博物館を見学してください。	180分
第8回	資料の保存～資料管理と保存科学	博物館における資料の保存について、日常管理（燻蒸やIPM）や保存処理・修理技術などを具体の事例を交えながら概説します。	前期中に時間を見つけてできるだけ多くの博物館を見学してください。	180分
第9回	資料の展示～博物館の顔とその課題	博物館における資料の展示について、その技術的方法のほか、考え方・思想や課題などを具体の事例を交えながら概説します。	前期中に時間を見つけてできるだけ多くの博物館を見学してください。	180分
第10回	博物館と文化財～保存と活用思想	博物館が文化財保護とどう関わるのか、文化財の保存や活用に役立てる可能性と課題について、具体の事例も交えながら概説します。	前期中に時間を見つけてできるだけ多くの博物館を見学してください。	180分
第11回	教育としての博物館～博学連携	展示をはじめ、講座・講演、出前授業など博物館活動が学校教育や社会教育にどのように関わるかを、具体の事例を交えながら概説します。	前期中に時間を見つけてできるだけ多くの博物館を見学してください。	180分
第12回	博物館とボランティア～市民活動と博物館	博物館活動における各種の支援、特にボランティアの役割と意義、限界について取り上げ、市民・地域社会との協業という視点で博物館を概説します。	前期中に時間を見つけてできるだけ多くの博物館を見学してください。	180分
第13回	博物館の運営と評価～経済的論理から	博物館の運営方法について事例を見ながら概説したうえで、博物館評価の方法と限界を考えることで、逆説的に博物館の特色と意義を浮き彫りにします。	前期中に時間を見つけてできるだけ多くの博物館を見学してください。	180分
第14回	観光と博物館～広がる世界と博物館	国際化の中で国内外からの来館者へどう対応するのか、観光（施設）としての博物館の活動について具体の事例を用いながら概説します。	前期中に時間を見つけてできるだけ多くの博物館を見学してください。	180分
第15回	博物館とデジタル・ネット社会～効率化と広報活動	情報化社会の中での博物館活動、すなわちデジタルデータの有効利用とSNS等による有意義な広報など、最先端の動きについて概説します。	前期中に時間を見つけてできるだけ多くの博物館を見学してください。	180分

学習計画注記	※履修者の人数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	下記リアクションペーパーでは、感想・意見とともに疑問等も受け付けます。その疑問等については、次回以降の講義等で可能な範囲で補足説明をしていきます。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、講義の最後（5～10分程度）にリアクションペーパーを実施します。そこでは、基本的には講義の感想等を記載してもらいますが、自身に引きつけての主体的な言葉での記載を求めます。 ・定期試験は、博物館に関する総合的な観点からのテーマを出題して論じてもらいます。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
リアクションペーパー	○		○	
定期試験	○	○	○	

評価割合	リアクションペーパー（毎回）（30%）、定期試験（70%）で評価します。	
使用教科書名（ISBN番号）	講義の際、必要に応じて資料を配布します。	
参考図書	講義の際、必要に応じて資料を配布します。	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】博物館が社会の中でもつ役割を人々の生活と絡めて理解できる 【思考・判断】博物館において学芸員が果たす役割の可能性と限界について考察できる 【関心・意欲・態度】博物館の活動と自らの興味関心を関連づけて考えることができる	
オフィスアワー	毎週水曜日昼休み（12：30～12：50）に1624研究室にて相談を受けます。	
学生へのメッセージ	博物館という近くて遠い存在を、より身近に感じてもらうとともに、博物館活動がこれからの日本の在り方を考える重要な視点・論点を提供してくれること、すなわち現代社会において博物館が必要不可欠な社会教育施設であることを知ってほしいです。 加えて、博物館活動が現代社会で成り立つ意味／必要とされる意味を理解することで、各自の専攻の社会的立ち位置を自覚する機会ともしてほしいと考えています。 本講義期間中は、予習・復習学習のみならず、できるだけ時間をみつけて様々な博物館（美術館、動植物園、郷土館、資料館など必ずしも博物館という名称でなくてもよい）を講義内容と絡めながら見学してみてください。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、博物館および文化財保護の現場で、学芸員として資料の取り扱いや現場での指導の経験を有しています。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	博物館資料論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	5限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石垣 悟	指定なし

ナンバリング	Y23604M21
授業概要(教育目的)	博物館において最も重視される業務のひとつに博物館資料の保存作業にあるとあってよい。この業務が博物館の中で十分に機能しないと、博物館資料の有効な活用が期待できないばかりか、次世代への確実な受け渡しもできなくなる。講義に当たっては、具体的に資料の収集から資料の活用にいたるまでのプロセスを追って博物館資料の位置づけとその考え方について理解する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点 (K)	博物館で取り扱う資料の性格とその社会的意義について説明できる
思考・判断の観点 (K)	博物館で取り扱う資料のもつ可能性や限界について判断できる
関心・意欲・態度の観点 (V)	博物館で取り扱う資料への理解を深め、自らの興味関心に引き付けて収集・保管から活用までを考えることができる
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

博物館資料論

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	博物館資料論の目的と意義	博物館で取り扱う資料とはどのようなものか、ということ学ぶために博物館資料の種類と分類を総覧し、次いで博物館の所有ないし管理する資料とするための一連の手続きについて概観します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第2回	博物館資料の性格	博物館の資料といえば、実物資料(一次資料)だけが資料と考えられがちであるが、他にも二次資料とよばれる資料があること、その役割などについて学びます。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第3回	博物館資料の収集方法	博物館の資料を収集する方法、具体的には採集、購入、寄贈、寄託、借用、製作などに視点あててその可能性と限界について考察します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第4回	博物館資料の保存と修理	博物館で取り扱う資料は材質も形状も多種多様であるため、それぞれの形状や材質に対応する保存方法がある。多様な保存方法について概観します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分

第5回	博物館資料の整理と管理	博物館で扱う資料の日常的な管理方法について、台帳の作成や整理方法、データベースや検索方法などを紹介しながら概観します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第6回	博物館資料の記録化(1)写真	博物館にある資料を学術資料として有効に活用する方法、すなわち記録化について、特に写真・画像として記録することの有効性と限界について学びます。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第7回	博物館資料の記録化(2)実測図	博物館にある資料を学術資料として有効に活用する方法、すなわち記録化について、特に資料を計測して実測図を作成することの有効性と限界について学びます。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第8回	博物館資料の記録化(3)拓本	博物館にある資料を学術資料として有効に活用する方法、すなわち記録化について、特に拓本として記録する技術とその有効性と限界について学びます。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第9回	博物館資料の記録化(4)台帳	博物館にある資料を学術資料として有効に活用する方法、すなわち記録化について、特に台帳の作成・整備の手順とその有効性・限界について学びます。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第10回	博物館資料の記録化(5)調査法	博物館にある資料を学術資料として有効に活用する方法、すなわち記録化について、特に資料自体を観察したり、聞き取りや文献調査などにより付帯情報を収集・整理することの意義について学びます。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第11回	博物館資料の収蔵と梱包	博物館にある資料を適切な保存・管理の下で活用する方法のうち、特に資料の収蔵と移動(梱包)の技術や考え方について学びます。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第12回	博物館資料の展示と活用	博物館にある資料を有効に活用する代表的な形態としての展示業務について、おもに展示企画の作成と展示技術について考察します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第13回	博物館の刊行物	博物館における調査研究などの活動を公開するさまざまな刊行物を取り上げて、博物館における活動の社会的な広がりや意義について考察します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第14回	実物と複製、偽物、クローン	博物館にある資料を適切に保存しつつ、有効に活用するための手段として、実物以外の形態の資料を作成し用いることの意義と限界、そして課題について学びます。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第15回	再び博物館資料論の目的と意義(まとめ)	改めて博物館で扱う資料とは何か、という問いを立てて講義のまとめを行うことで、社会の中での資料のもつ役割と可能性について理解するとともに、博物館そのものの存在意義を考えてみます。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分

学習計画注記	※履修者の人数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	下記リアクションペーパーでは、感想・意見とともに疑問等も受け付けます。その疑問等については、次回以降の講義等で可能な範囲で補足説明をしていきます。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、講義の最後(5～10分程度)にリアクションペーパーを実施します。そこでは、基本的には講義の感想等を記載してもらいますが、自身に引きつけての主体的な言葉での記載を求めます。 ・定期試験は、博物館資料に関する総合的な観点からのテーマを出題して論じてもらいます。 				
評価基準	評価基準				
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	リアクションペーパー		○	○	
	定期試験	○	○	○	
評価割合	リアクションペーパー(毎回)(30%)、定期試験(70%)で評価します。				
使用教科書名 (ISBN番号)	講義の際、必要に応じて資料を配布します。				
参考図書	講義の際、必要に応じて資料を配布します。				
ディプロマポリシーとの関連	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・理解】博物館資料が保存され展示されることの社会的意義を理解できる 【思考・判断】博物館における資料の可能性について生活と絡めて考察できる 【関心・意欲・態度】博物館の資料を自らの興味関心と関連づけて捉えることができる 				
オフィスアワー	毎週水曜日昼休み(12:30～12:50)に1624研究室にて相談を受けます。				
学生へのメッセージ	博物館で取り扱われる資料の多様性を知るとともに、それが保存され、展示される社会的意義を理解してほしい				

です。加えて、そうした資料を扱う博物館活動が現代社会で必要とされる意味にも思いをはせることで、各自の専攻の社会的立ち位置を自覚する機会としてもほしいと考えています。
 本講義期間中は、予習・復習学習のみならず、できるだけ時間をみつけて様々な博物館（美術館、動植物園、郷土館、資料館など必ずしも博物館という名称でなくてもよい）を講義内容と絡めながら見学してみてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、博物館および文化財保護の現場で、学芸員として資料の取り扱いや現場での指導の経験を有しています。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	博物館経営論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田尾 誠敏	指定なし

ナンバリング	Y33603M21
授業概要(教育目的)	日本における経済的不況は今なお脱しきれず、企業や行政における組織改革や業務内容の改善が当然の課題となっていることは周知の通りである。こうした社会的な潮流は博物館運営の面においても例外とは言えず、博物館の生き残りを賭けた多角的な検討が行われてきている。 本講義では、博物館概論で学んだ博物館のあり方を更に深く掘り下げ、今日的な博物館経営の取り組みや課題を解説することにより、博物館が今日直面している諸問題について、博物館がどのような取り組みを行っているかを概観する。
履修条件	博物館学に関する概説を履修していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 博物館を運営する上での基本的な要素を説明することができる。 2. 博物館が現実的に取り組んでいる施策の事例を通じて、現代社会における博物館のあり方、役割を具体的に述べることができる。 3. 専門分野以外の経営面において、学芸員が取り組むべき視点を学ぶことができる。
思考・判断の観点 (K)	博物館経営の上で重要と思われるテーマを個別に取りあげ解説することにより、現在、博物館が抱える運営上の諸問題について考察することができる
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	博物館の学芸活動を通じて、地域社会やコミュニティにおいて、住民に対してどのように接し活動すべきかの指針を得ることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	博物館経営とは何か	シラバスに基づく講義内容の説明を行うとともに、授業への導入として博物館経営論とはどのようなものであるのかについて解説する。博物館経営論の導入として、現代社会の中で、なぜ博物館に「経営」といった視点が必要なのか。行政が積極的にとりいれているNPM(ニュー・パブリック・マネジメント)の視点から、博物館経営の必要性を知る。	【予習】一般的に、社会において「経営」とは何を意味するのかを考えておく。 【復習】NPMという大きな潮流を理解し、現代社会における博物館経営について何が大切であるかをまとめておく。	予習・復習 各90分
第2回	博物館の設立と基本構	博物館の設立の行程や理想的な博物館建設の形を知り、その中でも基本理念の重要性を知る。	【予習】博物館を新たに設置するために考慮すべき要件をまと	予習・復習 各90分

	想		めておく。 【復習】新設博物館の設立過程を確認し、基本構想の要素について整理しておく。	
第3回	博物館の行政制度と使命	公的機関として設置されることの多い博物館を運営する上での、法的根拠について理解を深めると共に、その使命について考える。	【予習】博物館概論で触れられた、博物館法および関連規則を思い出し、博物館設置の目的について整理しておく。 【復習】博物館の法的位置づけや運営の実態、博物館が果たすべき使命について、プリントと講義内容を復習する。	予習・復習 各90分
第4回	博物館の施設と設備	博物館の施設や設備といったハード面について、近年における傾向やリニューアル等の問題点について知る。	【予習】実際に訪れたことのある博物館を思い出し、博物館の施設がどのような構造になっているかを考えておく。 【復習】博物館の施設や設備が、どのような観点から設計・設置されているかをよく理解しておくこと。	予習・復習 各90分
第5回	博物館の人的資源	博物館を支える人々は多様で、それぞれがどのように博物館の業務と関わっているのか。そのなかでも博物館の専門職員である学芸員に焦点をあて、博物館における役割とその特質について概観する。	【予習】博物館の中で学芸員はどのような仕事をしているのだろうか。博物館概論で学んだ博物館の機能と併せてまとめておく。 【復習】博物館における学芸員の位置づけと重要性について理解し、今日の学芸員が何を求められているのかを復習しておくこと。	予習・復習 各90分
第6回	博物館の財政制度	公的機関でありまた教育機関でもある博物館の、財政基盤ならびに予算の特殊性、出納の実態などを学ぶ。	【予習】一般的に、行政の予算がどのような過程で成立するのかを調べておく。 【復習】博物館の財政的根拠や予算の特質を、講義内容とプリントを確認してまとめておく。	予習・復習 各90分
第7回	ミュージアム・マーケティング	博物館の集客戦略として行われてきているミュージアム・マーケティングの手法と具体例について学ぶ。	【予習】商業的に使われているマーケティングの意味を調べておく。 【復習】ミュージアム・マーケティングの手法と運用上の留意点についてまとめておく。	予習・復習 各90分
第8回	博物館を評価する	博物館組織の内外で実施されている事業評価のあり方について学ぶ。	【予習】行政や企業で行われている事業評価のあらましを調べてみる。 【復習】事業評価について、博物館におけるその意義と問題点について整理しておくこと。	120分予習・復習 各90分
第9回	指定管理者制度と博物館	現在行われている指定管理者制度の有効な点や問題点をよく理解し、より強い官と民のパートナーシップとしての指定管理者制度の新しい姿を知る。	【予習】自治体において採用されてきている指定管理者制度について、その概要をまとめておく。 【復習】旧来の事業委託制度と指定管理者制度の違いをまとめ、博物館やその他の施設における指定管理の具体例を調べてみる。	予習・復習 各90分
第10回	博物館の利用者サービス	博物館経営における「サービス」とは何を意味するのか。今日の博物館が利用者に対して行うべきサービスについて、多角的に学んでいく。	【予習】一般的にイメージするサービスと公共サービスの違いについて考えておく。 【復習】利用者主体の博物館経営という観点から、博物館が行うことができるサービスにはどのようなものがあるのかを、よく整理しておくこと。	予習・復習 各90分
第11回	博物館と観光	旅行ガイドブックには常に登場する博物館であるが、生涯学習機関に位置付けられる博物館は観光には消極的であった。しかしながら政府は、オリンピックを背景に博物館や文化財を観光資源として積極的に活用する姿勢に転換した。こうした流れを概観し、博物館と観光との関係を説明する。	【予習】一般の人が博物館を訪れる契機は何であろうか。思い付くままに列記し、その中で観光利用がどのくらいの位置を占めるのかを検討してみる。 【復習】博物館を観光資源として活用する利点を説明できるようにまとめる。	予習・復習 各90分
第12回	バリアフリ	バリアフリーという用語が社会に浸透しているが、多岐	【予習】近年、公共施設の設計	120分予習・復習 各90

	一からユニバーサルミュージアムへ	にわたるバリアフリーの対象者を知り、博物館が行っているハード面とソフト面での施策について理解し、さらにユニバーサルミュージアムの取り組みについて知る。	に取り入れられるようになってきたユニバーサルデザインについて、予め調べる。 【復習】バリアフリーとユニバーサルデザインの違いを把握し、ユニバーサルミュージアムの特徴を復習しておく。	分
第13回	博物館のネットワーク	博物館における従来型のネットワークと、高度情報社会におけるネットワークについて、近年の動向を学ぶ。	【予習】今日の高度情報社会の特質を踏まえ、人と人のつながりや情報の伝達、博物館での情報機器利用について調べておく。 【復習】高度情報社会における博物館のネットワークについて、従来型のネットワークと比較しながら、その多様性や拡張性についてまとめる。	予習・復習 各90分
第14回	地域社会と博物館	生涯学習機関としての博物館が、地域への貢献として地域が抱える問題に取り組むという新たな課題について、新しい博物館の施策を学ぶ。	【予習】あなたがイメージする地域あるいは地域社会とはどのようなものなのか、地域社会における博物館の存在意義を考えてみる。 【復習】博物館と地域社会との関係、および博物館が地域社会に果たす役割をまとめておく。	予習・復習 各90分
第15回	博物館の現在	現代社会において博物館の果たすべき役割やあるべき姿を、博物館経営の立場から総括的に理解する。	【予習】これまでの講義で説明した内容を基に、今日の博物館が社会において果たすべき役割について考えておく。 【復習】利用者の立場に立った博物館、地域の課題に取り組む博物館といった、新しい博物像を自分なりに描けるようにする。	予習・復習 各90分

学生へのフィードバック方法	授業では各回のポイントやキーワードについての確認を行うが、授業期間に4回程度のリアクションペーパーによる知識・理解度および思考についての確認を行う。リアクションペーパーの解説は、翌週の授業の冒頭で行う。質問等がある場合には、授業の前後に教室または非常勤講師室で受け付ける。
---------------	--

評価方法	定期試験による評価 80% 授業への取り組みおよびリアクションペーパーへの回答などの平常点 20% また、公欠・病欠など学則に定められたやむを得ない場合を除き、5回以上の欠席（授業の1/4以上）は評価の対象としない。
------	--

評価基準

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
リアクションペーパー	○	○		
定期試験	○			

評価割合	期末試験による評価 80% 授業への取り組みおよびリアクションペーパーへの回答などの平常点 20%
------	--

使用教科書名 (ISBN番号)	教科書は特に指定せず、各回の項目に沿ったプリントを教材として配付する。
-----------------	-------------------------------------

参考図書	加藤有次ほか編『博物館経営論』雄山閣出版、1999年刊 大堀 哲編『博物館経営論』樹村房、1999年刊 佐々木亨ほか『博物館経営・情報論』放送大学教育振興会、2008年刊 大堀 哲ほか『博物館学Ⅲ（博物館情報・メディア論・博物館経営論）』学文社、2012年刊
------	--

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】博物館と地域社会の結びつきを理解し、博物館が地域社会に果たすべき役割を説明することができる。 【思考・判断】博物館経営の施策を通して、博物館がどのように地域社会の諸問題を解決していくべきであるのかを思考することができる。 【技術・表現】博物館学芸員が地域社会やコミュニティにおいて、住民に対するコミュニケーションを通じて地域社会の問題に取り組む解決する指針を得ることができる。
---------------	---

オフィスアワー	授業の前後に、教室または非常勤講師室で受け付ける。
---------	---------------------------

学生へのメッセージ	できるだけいろいろな博物館に足を運び、展示だけではなく授業で学んだ視点を生かして、博物館経営の観点から博物館を見学するくせをつけよう。
-----------	---

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、いくつかの自治体において博物館の基本構想策定に委員として関わり、また博物館協議会の委員を務めている。これらの実務経験を活かした授業を行っている。
アクティブ・ラーニング	○	各回の授業は教員が講義する型を基本とするが、ディスカッションを取り入れた双方向型の授業を取り入れていきたい。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	生涯学習概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	1		
代表曜日	木曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	1年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 宮崎 敦子	指定なし

ナンバリング	Y13601M21
授業概要(教育目的)	生涯学習は人が生涯にわたって成長し続けるという概念のもと行われる教育・学習形態で、時・場所の制約を越え、学習する権利を実現させようとするものである。人々が学びを通して新たな自分になることを目指す教育とっていいかもしれない。この講義では生涯学習の理念を踏まえ、社会教育施設のあり方、役割をとらえた後に、国内における様々な様態、特に多文化・多民族の状況下において自己実現に向かう人々の動向に目を向け、学習権の意味を考えていく。最後にすべての人々が直面する「死」について、「生」をいかにとらえるかという課題も検討する。
履修条件	生涯学習、社会教育、多文化共生について学びたいと考える者。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	生涯学習、社会教育の諸事象についての説明ができ、概念的に関係づけられるようになる。
思考・判断の観点 (K)	生涯学習・社会教育を取り巻く諸問題について自己の意見を持てるようになる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	講義中の課題に積極的に取り組む。
技術・表現の観点 (A)	自らのことばで生涯学習の諸事象を具体的に表現することができるようになる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	イントロダクション	これから学習することになる生涯学習論とはどのようなことを学ぶ講義なのか、生涯学習とは何かというところからはじめる。	これまで学校教育以外で行った学習には同様なものがあつたかどうか事前に振り返っておく。これから取り組みたい自己実現の方向性を考え、それには何をすべきか計画を立てる。	120分
第2回	生涯学習の理念と動向	生涯学習の考え方が生まれた背景と進展を国際的な動向から考え、生涯学習の理念と動向をpushし考える。	教科書第3章を読み、ユネスコで生涯教育の発案された背景とのちの発展について理解しておく。	120分
第3回	生涯学習の概念	日本における生涯教育、生涯学習の成り立ちと進展を制度等をpushし考える。	教科書第1章を読み、日本に導入された生涯学習の考え方を社	120分

			会教育とそのあり方との相違点を考えておく	
第4回	社会教育の歴史	日本の社会教育の始まりと発展を押さえ、社会教育の持つ意義と目的を理解する。	教科書第2章を読み社会教育の歴史と現状を知る。	120分
第5回	生涯学習と学校教育	今日学校教育は単独で教育を行うことはできない。学社連携の意味から学校教育と社会教育施設との連携の必要性を考える。	教科書第4章を読み、学校教育が生涯学習体系にどのように位置づけられ、関連性を持つのかを理解しておく。	120分
第6回	生涯学習と図書館	生涯学習施設でもあり社会教育の施設でもある図書館の機能、役割を知り、設置目的を理解する。現在直面する問題について考える。	教科書第10章を読み、図書館の目的と役割を知るとともに、自分が図書館とどのようなかわりを持ってきたかを考えておく。	120分
第7回	生涯学習と博物館	生涯学習施設でもあり社会教育の施設でもある博物館の機能、役割を知り、設置目的を理解する。現在直面する問題について考える。	教科書第10章を読み、博物館の目的と役割を知るとともに、自分が博物館とどのようなかわりを持ってきたかを考えておく。	120分
第8回	生涯学習と公民館	生涯学習施設でもあり社会教育の施設でもある公民館の機能、役割を知り、設置目的を理解する。現在直面する問題について考える。	教科書第10章を読み、公民館の目的と役割を知るとともに、自分が公民館とどのようなかわりを持ってきたかを考えておく。	120分
第9回	生涯学習関連行政の仕組み	社会教育行政の役割、仕組みを理解し、生涯学習を支える行政のあり方を考える。	教科書第8章を読み、社会教育行政を概念的にとらえておく。	120分
第10回	多文化共生社会への取り組み①	今日の日本社会を構成する外国人労働者の問題を考える。多文化共生社会を築く上で重要な視点、問題点を考え、共生社会実現を阻害する要因、克服するために何をすべきかを考える。	近年日本に急増する外国人の労働者について、どのような背景で増加し、どのような職種に多くいるのかを調べ、彼らの抱える問題を見つける。	120分
第11回	多文化共生社会への取り組み②	戦前から日本社会を担ってきたオールドカマー（在日）に視点をおき、彼らの歴史を振り返る。多文化共生社会を築く上で重要な視点、問題点を考え、共生社会実現を阻害する要因、克服するために何をすべきかを考える。	日本社会に戦前から溶け込み暮らしている在日の人々の歴史を調べ、なぜ形成されているのかを理解しておく。	120分
第12回	多文化共生社会への取り組み③	識字教育に視点を当て、識字教育が学習の権利として持つ意味を考える。、今日的な識字問題を考え、識字を獲得できないための弊害、社会参画の制限、生活の限界性などを考えていく。	機能的識字が満たされない場合、生活上どのような弊害が起きてくるかを身の回りの事例をもとに考えてみる。特に外国人労働者の生活などを中心に考える。	120分
第13回	多文化共生社会への取り組み④	日本における先住民族の一つ(アイヌ民族)についてその歴を踏まえ、日本における位置、直面している諸問題、先住民族の権利について考える。	アイヌ民族がどのような人々なのかその歴史、文化について調べる。先住民族の権利とは何か、その概念を調べる。	120分
第14回	学校学力から生涯学力へ	これまで受けてきた学校教育が変わろうとしている。知的基盤社会からさらにその先の社会で人々に必要な能力とは何か。それを獲得するための学習とはどのようなものかを考える。	既に進行しつつあるビッグデータや人工知能（AI）による「第4次産業革命」がさらに急速に進展していく時代に人ができること、すべきことは何かを考える。	120分
第15回	生と死を考える	人は死ぬ瞬間まで自己を高めることができる。死を考えることは生を全うさせることにもなる。よりよく生き、「よりよく死ぬ」とは、どのようなことかを考える。	死ぬこととはどのようなことか、身近な死や自己の死について考え、生きることとの意味を考える。	120分

学習計画注記	※履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。
学生へのフィードバック方法	各回のレビューシートについて次回講義時にコメント、解説を行う。
評価方法	毎回講義中に課題を与えレビューシートを提出してもらおう。当日の講義内容に関する事柄を中心に出题し、思考力を見るときに講義への意欲関心の度合いを計る。欠席に対する特段の考慮はしない。定期試験は講義に関する事柄について知識を計る問いと理解力・判断力を計る論述問題を課す。

評価基準				
評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
レビューシート		○	○	

シラバス参照

講義名	博物館実習		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	3		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石垣 悟	指定なし

ナンバリング	Y43609M33
授業概要(教育目的)	「学内実習」「見学実習」「館園実習」の面から博物館の実務に対する理解を図る。「学内実習」では、資料の取り扱い博物館運営の知識や実務についての習得をはかるために、博物館資料の収集、整理、保管、展示に関する理論や技術など修得する。「博物館見学」では、博物館の構造や施設、バックヤード（研究室、収蔵庫、作業室、燻蒸庫など）、展示技術などを見学して具体的に博物館施設と業務の多様性について理解する。また「館園実習」として、博物館所蔵の実物資料を用いての資料の取り扱い方法、整理方法、各種道具類などの習熟を踏まえたうえで、総括的な実習として博物館展示室において展示実習を行い一般公開する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	学習目標（到達目標）
知識・理解の観点 (K)	学芸員の実務の多様性を理解する。
思考・判断の観点 (K)	学芸員の実務についての可能性や限界について指摘できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	自らの興味関心に絡めて各博物館の活動について考えることができる
技術・表現の観点 (A)	資料の保存と公開に関する技術と思想を自ら実践できる

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容
第1回	学内実習 (1)	オリエンテーションを行うとともに、博物館の環境と保存について講義し、実際に温湿度の計測や環境の管理について実習を行います。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学してください。
第2回	学内実習 (2)	博物館資料の取り扱い方法として、特に資料整理と写真撮影などについて講義し、実習を行います。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学してください。
第3回	学内実習 (3)	博物館資料の取り扱い方法として、特に資料の実測について講義を行い、実習を行います	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学してください。
第4回	学内実習 (4)	博物館資料の取り扱い方法として、特に資料の拓本について講義し、実習を行います。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学してください。
第5回	学内実習 (5)	博物館資料の取り扱い方法として、特に梱包と輸送について講義し、実習を行います。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学してください。

第6回	博物館見学1	近隣の博物館の施設やバックヤードなどの見学を行います。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学してください。
第7回	博物館見学2	近隣の博物館の施設やバックヤードなどの見学を行います。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学してください。
第8回	博物館見学3	近隣の博物館の施設やバックヤードなどの見学を行います。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学してください。
第9回	博物館見学4	近隣の博物館の施設やバックヤードなどの見学を行います。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学してください。
第10回	博物館見学5	近隣の博物館の施設やバックヤードなどの見学を行います。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学してください。
第11回	館園実習1	本学付属生活文化博物館にて資料の取り扱い・清掃から展示までを実習します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学してください。
第12回	館園実習2	本学付属生活文化博物館にて資料の取り扱い・清掃から展示までを実習します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学してください。
第13回	館園実習3	本学付属生活文化博物館にて資料の取り扱い・清掃から展示までを実習します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学してください。
第14回	館園実習4	本学付属生活文化博物館にて資料の取り扱い・清掃から展示までを実習します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学してください。
第15回	館園実習5	本学付属生活文化博物館にて資料の取り扱い・清掃から展示までを実習します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、実習内容の観点から博物館を見学してください。

学習計画注記 ※履修者の人数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合があります。※特に博物館見学については、千代田キャンパスとの合同を計画しているうえ、先方の都合によっては土曜日等に変更になる可能性もあります。

学生へのフィードバック方法 下記リアクションペーパーでは、感想・意見とともに疑問等も受け付けます。その疑問等については、次回以降の講義等で可能な範囲で補足説明をしていきます。

評価方法

- ・毎回の実技に対する取り組み方・姿勢を中心に評価します
- ・また毎回、授業の最後（5～10分程度）にリアクションペーパーを実施します。そこでは、基本的には授業の感想等を記載してもらいますが、自身に引きつけての主体的な言葉での記載を求めます。
- ・授業終了後、レポートの提出を義務づけます。実習に絡めた総合的なテーマを出題し、論じてもらいます。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
リアクションペーパー	○		○	
レポート	○	○	○	
実技	○	○	○	○

評価割合 実技（60%）リアクションペーパー（毎回）（10%）、レポート（30%）で評価します。

使用教科書名 (ISBN番号) 授業の際、必要に応じて資料を配布します。

参考図書 授業の際、必要に応じて資料を配布します。

ディプロマポリシーとの関連

- 【知識・理解】博物館の活動が多岐にわたることを理解できる
- 【思考・判断】博物館において学芸員が果たす役割と生活との関わりについて考察できる
- 【関心・意欲・態度】博物館の活動と自らの興味関心を関連づけて考えることができる
- 【技術・表現】博物館活動を自らの意志で主体的に実践できる

オフィスアワー 毎週水曜日昼休み（12：30～12：50）に1624研究室にて相談を受けます。

学生へのメッセージ 博物館という現場で学芸員がどのような思いで、またどのような課題を抱えつつ業務を遂行しているかを理解してほしいです。そしてそれが、社会の中で、特に私たちの日常生活にどのような意義があるのかを一人一人が考える場としてほしいと考えています。本実習期間中は、できるだけ時間を見つけて様々な博物館（美術館、動植物園、郷土館、資料館など必ずしも博物館という名称でなくてもよい）を実習の内容とも絡めながら見学してみてください。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活か	○	担当教員は、博物館および文化財保護の現場で、学芸員として資料の取り扱いや現場での指導の経験を有してい

した授業		ます。
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	博物館資料保存論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田尾 誠敏	指定なし

ナンバリング	Y33605M21
授業概要(教育目的)	博物館において資料(コレクション)とは、博物館活動を支える重要な役割を果たすと同時に、後世に伝えるべき貴重な遺産である。このような資料は現代社会において、環境や二次適当な要因による物理的な劣化や、喪失による喪失といった人為的な理由により、常に滅失の危機にさらされている。本講義では、博物館が行っている資料保存のあり方を、多面的に解説していく。
履修条件	博物館学に関する概説の授業ならびに博物館資料論を受講していることが望ましい。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	博物館でおこなわれている資料保存に関する幅広い知識や考え方を身につけることができる。
思考・判断の観点(K)	多様な博物館資料の特性を把握し、その資料をどのように取り扱うべきであるのかという判断ができる。
関心・意欲・態度の観点(V)	博物館資料をはじめとする我が国の文化財の重要性を認識し、次世代へと継承していく意欲を養える。
技術・表現の観点(A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	博物館の資料保存 — 守る・残す・伝える —	博物館の使命のひとつである資料保存について、その意義や法的根拠について述べると共に、資料の種類や特性について解説する。	【予習】博物館法では資料保存(保管)がどのように位置づけられているかを確認しておく。 【復習】美術工芸品を含む人文系資料が、どのような素材でつくられているかを整理する。	予習・復習 各90分
第2回	文化財保護法の理念と特質	博物館と文化財保護の関わりを取り上げ、文化財保護法の成り立ち、理念、特質を知る。	【予習】文化財保護法を調べ、文化財とはどのようなものかを確認する。 【復習】文化財保護法の理念をまとめ、博物館資料との関わりを整理しておく。	予習・復習 各90分
第3回	わが国の気候・風土と伝統的保存	年間気候変化が激しく、劣化しやすい材質の資料が多いわが国において培われた、伝統的保存法を概観する。	【予習】わが国の地理的特徴と気候について、その多様性を確認しておく。	予習・復習 各90分

			【復習】日常で行われてきた伝統的な保存方法に、どのようなものがあるのかをまとめておく。	
第4回	正倉院にみる伝統的保存	伝統的保存法の代表例として、奈良時代から続く正倉院の資料保存を取り上げる。	【予習】奈良市に所在する正倉院について調べておく。 【復習】正倉院宝物が長きにわたって伝えられてきた保存法についてまとめておく。	予習・復習 各90分
第5回	博物館資料と文化財科学	資料の保存と修復に関わる理科学研究分野である文化財科学について解説する。	【予習】前回までに学んだ伝統的保存法の限界についてまとめておく。 【復習】文化財科学のインターフェイス的な役割と研究分野について確認しておく。	予習・復習 各90分
第6回	博物館の保存環境	博物館における資料の保存環境について、その調査や保存環境の整備について具体例を挙げて検討する。	【予習】博物館資料や文化財がどのような場所に置かれているかを確認しておく。 【復習】博物館において資料の保存環境を整備する際の留意点をまとめる。	予習・復習 各90分
第7回	博物館資料の生物被害対策	博物館資料に対する生物被害対策として、臭化メチルの全廃を受け手導入されたIPM（総合的有害生物管理）について概説する。	【予習】博物館資料や文化財を汚損・食害する生物を調べておく。 【復習】IPMがなぜ行われるようになってきたのかをまとめ、その理念と手法的特徴を確認しておく。	予習・復習 各90分
第8回	考古資料の保存と修復	考古学的発掘調査による出土資料が、博物館資料として整理・修復される過程を追う。	【予習】考古資料とはどのようなものでどのような特徴があるのかを調べる。 【復習】考古資料が博物館において、修復され展示される「こと」が多い理由についてまとめておく。	予習・復習 各90分
第9回	史料の保存と修復	光や温湿度に影響を受けやすい古典籍等の史料に対する保存・修復について概説し、アーカイブ化にも触れる。	【予習】博物館で展示されている紙資料の種類を調べておく。 【復習】史料の保存手法やアーカイブ化の利点をまとめておく。	予習・復習 各90分
第10回	映像資料・写真資料の保存とアーカイブ	資料の二次的な保存手段である映像・写真を取り上げ、劣化しやすい性質や保存方法およびアーカイブ化について概観する。	【予習】博物館資料において、映像や写真はどのように位置づけられているかを調べておく。 【復習】映像や写真を補完・保存する際の留意点をまとめておく。	予習・復習 各90分
第11回	美術工芸資料の保存	美術系博物館や歴史系博物館が取り扱う、幅広い美術工芸品の保存について概観する。	【予習】博物館資料として扱う美術工芸品の種類や材質の多様性を確認しておく。 【復習】美術工芸品の保存環境と収蔵・保管の留意点をまとめておく。	予習・復習 各90分
第12回	自然資料の保存	自然科学系の博物館のうち、動植物園や水族館が行う種の保護・育成などの意義について述べる。	【予習】博物館法や文化財保護法における、自然系資料の位置付けを確認しておく。 【復習】生物を扱う博物館の特質と、保存の手法および意義についてをまとめておく。	予習・復習 各90分
第13回	コレクション・ドキュメンテーションと資料管理	資料の保存・管理の第一歩であるコレクション・ドキュメンテーションの手法を通じて、登録から保存管理までの流れを学ぶ。	【予習】博物館資料の記録がどのように活用されているかを、博物館のホームページ等で調べておく。 【復習】コレクション・ドキュメンテーションの利点と手順についてまとめておく。	予習・復習 各90分
第14回	博物館の資料保存と危機管理	博物館における資料面での危機管理を取り上げ、短期・中期・長期的な資料の管理について説明する。	【予習】環境による資料の劣化以外に、学芸員が博物館資料を取り扱う際の留意点を考えておく。 【復習】博物館資料を脅かす短期・中期・長期的な危機にどのようなものがあるのかをまと	予習・復習 各90分

			め、その対策について確認する。	
第15回	被災文化財の保護と博物館	近年問題となっている災害に直面した文化財に対して、博物館が果たしてきた役割について述べる。	【予習】震災等の自然災害に直面した文化財の事例について調べておく。 【復習】被災文化財の救出や保護に果たす博物館の役割を確認しておく。	予習・復習 各90分

学生へのフィードバック方法	授業テーマに関連した質疑やディスカッションを取り入れ、授業の最後に各回の要点やキーワードについての確認を行う。 質問等がある場合には、授業の前後に教室または非常勤講師室で受け付ける。
---------------	--

評価方法	定期試験による評価および授業への取り組みおよび質疑やディスカッションへの参加などの平常点で評価する。また、公欠・病欠など学則に定められたやむを得ない場合を除き、5回以上の欠席（授業の1/4以上）は評価の対象としない。
------	--

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
質疑やディスカッションへの参加		○	○	
定期試験	○			

評価割合	積極的な質疑やディスカッションへの参加 20% 定期試験ないしはレポート 80%
------	---

使用教科書名 (ISBN番号)	教科書は特に指定せず、各回の項目に沿ったプリントを教材として配付する。
-----------------	-------------------------------------

参考図書	青木 豊編『人文系博物館資料保存論』雄山閣 2013年刊 石崎武志編『博物館資料保存論』講談社 2012年刊 本田光子・森田 稔編『博物館資料保存論』放送大学教育振興会 2012年刊
------	---

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】博物館の資料保存に関する知識を身に付けることで、博物館資料をはじめとする文化財を次世代に継承し、地域社会における質の高い文化的生活の持続が可能であることが理解できる。
---------------	--

オフィスアワー	授業前後に、教室または非常勤講師室で受け付ける。
---------	--------------------------

学生へのメッセージ	実際の博物館を訪れて、資料の展示環境や展示の方法などから、資料保存と展示との両立を考えてみよう。
-----------	--

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	博物館展示論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 石垣 悟	指定なし

ナンバリング	Y33606M21
授業概要(教育目的)	博物館の展示は、調査研究の成果を公開する場であると同時に、展示する側と見る側のコミュニケーションの場である。この視点をもとにして展示することの意義について学ぶ。実際の展示に基づいて展示の方法を概観するとともに、展示室内に備えられるさまざまな装置類、デザイン・照明などの展示技術、展示企画作成の実際、さらにギャラリートーク、視聴覚機器類、展示図録など博物館の展示の在り方について総合的に理解する。
履修条件	特になし
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	博物館における展示の意味と性格の変遷、及び現状について説明できる
思考・判断の観点(K)	博物館における展示の意義・可能性と限界について判断できる
関心・意欲・態度の観点(V)	博物館の展示への理解を深め、自らの興味関心に基づいて博物館に足を運び考えることができる
技術・表現の観点(A)	

学習計画

博物館展示論

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	博物館展示論の概要(オリエンテーション)	本講義の計画と概要について説明します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第2回	博物館における展示	博物館における展示の性格と種類について概説します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第3回	博物館展示の実際(1)	博物館展示の実例として、本学付属の生活文化博物館の展示をみながら考察します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第4回	展示の種類とそのあり	博物館の展示の種類を紹介し、それぞれの可能性と課題について概説します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館	180分

	方		を見学してください。	
第5回	展示の技術 (1)	博物館の展示における展示室、展示台、展示ケースなど、主としてハード部分について紹介し、展示の意義と限界を理解します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第6回	展示の技術 (2)	博物館の展示における壁面の利用、展示解説パネルの作成、動線の確保などソフト部分の役割と技術について解説します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第7回	展示の技術 (3)	博物館の展示における展示室の環境整備、資料の管理の考え方や技術について解説します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第8回	展示の技術 (4)	博物館の展示におけるキャプションや画像、映像など伝達の目的と限界について解説します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第9回	博物館の展示と教育	博物館における展示と学校及び生涯教育（学習）との関連性と課題について解説します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第10回	博物館展示の実際 (2)	特に地域博物館の展示で用いられることの多い民俗資料の展示について、考え方と限界、可能性について概説します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第11回	博物館の展示と広報	博物館の展示において、いかに外向けにその活動を発信していくか、またそれを展示にフィードバックしていくか、を概説します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第12回	博物館の展示と図録	博物館の展示に合わせて作成される図録やパンフレットといった媒体の役割と限界について考察します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第13回	博物館展示の評価とその方法	博物館の展示を第三者的にどう評価できるのか、その意義と課題について考察します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第14回	博物館展示の実際 (3)	博物館の展示のうち、特に美術・工芸品の展示の考え方や技術について解説します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分
第15回	博物館展示の実際 (4)	博物館の展示において、特に動物や植物、魚類などの展示に意義と課題について説明します。	期間中にできるだけ時間を見つけ、講義内容の観点から博物館を見学してください。	180分

学習計画注記	※履修者の人数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。				
学生へのフィードバック方法	下記リアクションペーパーでは、感想・意見とともに疑問等も受け付けます。その疑問等については、次回以降の講義等で可能な範囲で補足説明をしていきます。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、講義の最後（5～10分程度）にリアクションペーパーを実施します。そこでは、基本的には講義の感想等を記載してもらいますが、自身に引きつけての主体的な言葉での記載を求めます。 ・定期試験は、博物館展示に関する総合的な観点からのテーマを出題して論じてもらいます。 				
評価基準					
評価基準					
	評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
	リアクションペーパー	○		○	
	定期試験	○	○	○	
評価割合	リアクションペーパー（毎回）（30%）、定期試験（70%）で評価します。				
使用教科書名 (ISBN番号)	『博物館の展示をつくる 展示論』（日本展示学会・雄山閣・2010） ISBN-10: 4639021496 ISBN-13: 978-4639021490				
参考図書	講義の際、必要に応じて資料を配布します。				
ディプロマポリシーとの関連	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・理解】博物館の展示が社会の中でもつ役割を人々の生活と絡めて理解できる 【思考・判断】博物館の展示の可能性と限界について考察できる 【関心・意欲・態度】博物館の展示を自らの興味関心と関連づけて考えることができる 				
オフィスアワー	毎週水曜日昼休み（12：30～12：50）に1624研究室にて相談を受けます。				
学生へのメッセージ	博物館という近くて遠い存在を、より身近に感じてもらうとともに、博物館の展示が社会を考える重要な視点・				

論点を提供してくれることを知ってほしいです。それを理解することで、各自の専攻の社会的立ち位置を再度見
つめなおす機会ともしてほしいと考えています。
本講義期間中は、予習・復習学習のみならず、できるだけ時間をみつけて様々な博物館（美術館、動植物園、郷
土館、資料館など必ずしも博物館という名称でなくてもよい）の展示を講義内容と絡めながら見学してくだ
さい。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活か した授業	○	担当教員は、博物館および文化財保護の現場で、学芸員として資料の展示や現場での指導・監修の経験を有して います。
アクティブ・ラ ーニング		
情報リテラシー 教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	博物館展示論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	水曜日	代表時限	2限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田尾 誠敏	指定なし

ナンバリング	Y33606C21
授業概要(教育目的)	来館者にとって、展示は博物館の顔である。しかしながら博物館が収蔵する資料(コレクション)は多岐にわたる。これらの資料は過去にどのように展示されてきたのかという展示の歴史をはじめとして、展示の意義や手法など、博物館展示に関する個別テーマを取り上げて解説する。
履修条件	博物館学に関する概説の授業を受講していることが望ましい。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	展示に関する基礎的な知識を身に付け、博物館および来館者にとって展示とは何を意味するのかを理解することができる。また、博物館が資料を展示するための様々な取り組みを知ることができる。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	博物館における展示とは何か	今日の博物館展示は、教育・普及活動の側面のみならず、地域活性化をはじめとする地域貢献をも視野に入れた事業として展開している。導入として、現代社会における博物館展示の意義について述べる。	【予習】一般的に行われている展示(ディスプレイ)と、博物館が行う展示にはどのような差があるかを考えてみる。 【復習】博物館が行う展示の意義をまとめておく。	予習・復習 各90分
第2回	展示の歴史―陳列から展示へ―	わが国で行われてきた前近代的な陳列や列品が、今日の展示に発展していく様相を、時代を追って概観する。	【予習】前近代において、人に「もの」を見せるという行為にどのようなものがあるかを調べておく。 【復習】近代以降の博物館の歴史を、展示の発達という視点でまとめておく。	予習・復習 各90分
第3回	博物館資料の多様性と	博物館は美術工芸品や考古資料などの文化財や、生き物を含む自然資料など、多様なコレクションを有する。こ	【予習】博物館概説で学んだ博物館の種別を思い出して整理し	予習・復習 各90分

	展示の類型	これらの様々な資料がどのように展示されるのか、展示手法を類型化して概観する。	ておく。 【復習】博物館の分野別による。資料の見せ方の特徴をまとめておく。	
第4回	展示空間の設計	博物館という施設は、ハード面においてもソフト面においても、独特な建築の視点や設備の要素が盛り込まれている。そのなかでも、博物館の顔ともいべき展示空間を構成する諸要素について述べる。	【予習】博物館の展示空間室がどのようなものであるのか、過去に訪れたことのある博物館の展示室を思い出し、その特徴をまとめておく。 【復習】展示空間は展示資料の視点と来館者の視点があることに留意し、展示空間を設計する際の要点をまとめておく。	予習・復習 各90分
第5回	展示を企画する	来館者に展示をより良く理解してもらうためには、ストーリー作りや導線計画が重要な要素となる。ここでは、いくつかの事例に照らしながら、展示解説の手法を含めた展示計画について解説する。	【予習・復習】過去に訪れた博物館を思い出し、また新たに博物館を訪れて、展示物の配置や導線にどのような工夫がなされているかを確認する。	予習・復習 180分
第6回	展示のディスプレイ	博物館が収集する多様な資料を効果的に展示する手法について、屋内外の展示手法ならびに、模型やレプリカを用いた展示の効用についても言及する。	【予習】博物館では、どこにどのような方法で資料（作品）が展示されているのかを列挙してみる。 【復習】展示資料の種類と、多様な資料を展示する際の効果的な手法についてまとめておく。	予習・復習 各90分
第7回	展示の照明	資料を効果的に演出するには、照明は欠かすことのできない設備である。芸術性や快適性など来館者への効果を概観するとともに、資料の保存環境への配慮についても触れる。	【予習】展示に限らず、照明を用いて「もの」を効果的に見せている事例を調べてみる。 【復習】展示において、どのような照明の種類があり、どのような方法によって照明がなされているのか。その効果とともにまとめておく。	予習・復習 各90分
第8回	展示におけるマルチメディアの普及	1970年の大阪万博以来、展示に大型映像機器をはじめとする視聴覚機器の導入が進み、今日の展示にはマルチメディア機器は欠かせないものとなっている。このような視聴覚機器の効果に触れると共に、デジタルミュージアムやインターネット上に展開するバーチャルミュージアムについてもその意義を検討する。	【予習】マルチメディアとは何か、その定義と実態について考えてみる。 【復習】博物館展示においてマルチメディアが急速に普及した背景と、マルチメディア利用の現状を把握しておく。	予習・復習 各90分
第9回	展示の評価	より良い展示を行うためには、博物館の事業評価のひとつとして、展示の評価を行う必要がある。ここでは展示の企画から終了までの各段階における評価の方法と、評価の拠りどころにもなる来館者調査について解説する。	【予習】良い博物館とはどのような施設だろうか。良い博物館の条件を事前に列挙してみる。 【復習】授業で学んだ評価の視点をもとに、実際に博物館を訪れて展示を評価してみる。	予習 90分 復習 180分
第10回	展示のリスクマネジメント	資料を展示するという行為は、資料の保存・継承という博物館の使命や資料の取り扱いの過程において、様々なリスクを伴う。これを資料の保全や展示環境の面から解説する。	【予習】博物館資料保存論で学んだ資料劣化の要因をまとめておく。 【復習】展示における資料の取り扱いを、資料保存の観点から整理しておく。	予習・復習 各90分
第11回	展示にみる博物館の学び	博物館にとって展示活動は、普及・啓発事業と並んで教育活動の一つとして捉えられる。展示の教育的効果を、学校教育との連携および地域社会における生涯学習の両側面から見てみたい。また、教育・普及の視点からガイドボランティアやギャラリートークといった解説活動にも触れる。	【予習】学校教育と生涯学習の相違点を調べておく。 【復習】博物館の教育・普及活動の種類と効果についてまとめておく。	予習・復習 各90分
第12回	こどものための博物館	少子高齢化が進む今日の社会において、次世代を担う子供たちを博物館に誘うことは、博物館の将来を予測する上で重要な課題である。ここでは子供に視点を置いたチルドレンズミュージアムの実態について取りあげる。	【予習】チルドレンズミュージアムとはどのような博物館なのかを調べておく。 【復習】チルドレンズミュージアムの目的と手法について整理しておく	予習・復習 各90分
第13回	博物館の楽しみ ー非日常から日常へー	今日の博物館展示は、学術的な側面を維持しながら、楽しい、分りやすい、ためになる展示を展開する必要がある。このような、共感や感動を呼ぶ身近な博物館づくりの観点から行われている、様々な取り組みについて紹介する。	【予習】これまでに訪れた博物館展示で、面白かった展示の事例を挙げ、どういった点がどのような理由で興味を引いたのかについて考えてみる。 【復習】現代社会あるいは地域社会において行われている、共感や感動を呼ぶ展示の特質をまとめておく。	予習・復習 各90分

第14回	博物館展示のアウトリーチ	博物館の展示は館内にとどまらず、他機関との連携によって館外に展開している。このような館外における展示のあり方の実例を見ながら、効果について考える。	【予習】博物館の外で行われている博物館事業にはどのようなものがあるのかを、博物館の年報などで調べてみる。 【復習】博物館が館外で行う事業のうちで、展示活動にはどのようなものがあるのかを把握し、なぜ行わなければならないのかを説明できるようにする。	予習・復習 各90分
第15回	展示のユニバーサルデザイン	博物館が社会教育施設であると共に公の施設であるという観点から、障害者はもとより誰でも利用ができる博物館づくりとして注目されてきているユニバーサルミュージアムについて展示手法の面から概観する。	【予習】公共建築に取り入れられてきているユニバーサルデザインとは何か、あらかじめ調べてみる。 【復習】博物館のユニバーサル化はなぜ行われなければならないのか、その意義と手法、現状について整理する。	予習・復習 各90分

学生へのフィードバック方法	授業テーマに関連した質疑やディスカッションを取り入れ、授業の最後に各回の要点やキーワードについての確認を行う。 質問等がある場合には、授業の前後に教室または非常勤講師室で受け付ける。
---------------	--

評価方法	定期試験による評価および授業への取り組みおよび質疑やディスカッションへの参加などの平常点で評価する。また、公欠・病欠など学則に定められたやむを得ない場合を除き、5回以上の欠席（授業の1/4以上）は評価の対象としない。
------	--

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
質疑やディスカッションへの参加		○	○	
定期試験	○			

評価割合	積極的な質疑やディスカッションへの参加 20% 定期試験ないしはレポート 80%
------	---

使用教科書名 (ISBN番号)	教科書は特に指定せず、各回の項目に沿ったプリントを教材として配付する。
-----------------	-------------------------------------

参考図書	黒沢浩編『博物館展示論』（講談社 2014年刊） 里見親幸『博物館展示の理論と実践』（同成社 2014年刊） 大堀哲・水嶋英治『博物館学Ⅱ 博物館展示論・博物館教育論』（学文社 2012年刊）
------	--

ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】博物館の展示に対する取り組みや手法等を知ることにより、博物館が展示を通して地域社会に知的豊かさを提供する生涯学習機関であることを理解することができる。 【判断】展示は博物館の意思伝達装置であるので、来館者や地域社会に対してどのようなメッセージを伝えなければならないのかを思考することができる。
---------------	--

オフィスアワー	授業前後に、教室または非常勤講師室で受け付ける。
---------	--------------------------

学生へのメッセージ	博物館は、規模や資料の種類によって様々なものがあるので、そうした多様な資料がどのように展示されているのかを、実際に博物館に足を運んで確かめてみよう。
-----------	--

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	講義が中心であるが、学生諸君との質疑やディスカッション等の双方向性のある授業を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	博物館教育論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	月曜日	代表時限	1限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 高木 幸枝	指定なし

ナンバリング	Y23607M21
授業概要(教育目的)	博物館教育の理念と現状について、外国を含む数多くの事例を紹介しながら理解を促す。教育プログラム(ワークシート、ギャラリートーク、ワークショップなど)の立案と模擬的な実践をグループ作業でおこない、博物館教育の課題理解を促すとともに、学芸員としてのスキルを習得させる。
履修条件	特になし

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 現代の博物館における多彩な教育活動について説明できる。 2. 博物館教育のあり方や課題について理解している。
思考・判断の観点 (K)	
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	1. 教育プログラム全般を実践することができる、基本的なスキルとコミュニケーション力が養われている。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	博物館教育の基礎理論	「博物館の場における学び」、「展示品に関わる学び」を理解する。	ネットの検索エンジンで「博物館教育」の語を調べておくこと。	180分
第2回	日本の博物館教育の歴史	明治時代に「教育博物館」から始まる日本独自の歴史を理解する。	ネットの検索エンジンで「国立博物館」情報を調べておくこと。	180分
第3回	博物館教育の実例 イギリス、アメリカ	イギリスとアメリカの博物館教育の実例を理解する。	イギリスとアメリカの主な博物館(美術館)情報を調べておくこと。	180分
第4回	博物館教育の実例 オランダ、ド	オランダ、ドイツ、フランスの博物館教育の現状を理解する。	オランダ、ドイツ、フランスの主な博物館(美術館)情報を調べておくこと。	180分

	イツ、フランス			
第5回	博物館教育活動の諸形態	多様な博物館教育のありかたを理解する。	近隣の博物館へ足を運び、博物館教育の視点で見学しておくこと。	180分
第6回	博物館教育プログラムの立案と実践	グループ作業のなかで教育プログラムの立案と実践を体験し、博物館教育の課題を理解する。	ネット検索エンジンで、教育プログラムの実例を調べておくこと。	180分
第7回	博物館教育ワークシートの立案と作成	グループ作業のなかでワークシートの立案と作成を実際に行い、博物館教育の課題を理解する。	近隣の博物館へ足を運び、博物館教育の視点で見学しておくこと。	180分
第8回	社会教育施設としての博物館活動	様々な実例をもとに、博物館の現状と課題を理解する。	近隣の博物館へ足を運び、見学しておくこと。	180分
第9回	博物館教育と学校連携	博物館の現状と課題を理解する。	ネット検索エンジンで、博物館と学校との連携事業を調べておくこと。	180分
第10回	博物館の教育活動ギャラリートーク	展示品の解説について実践的におこない、意味とスキルを理解する。	近隣の博物館へ足を運び、学芸員による展示品の解説を実際に聞いてみる。	180分
第11回	博物館の教育活動ワークショップ	ワークショップの立案を実践的におこない、意味とスキルを理解すること。	近隣の博物館へ足を運び、ワークショップの例を調査しておくこと。	180分
第12回	博物館の教育活動「ユニバーサル」への配慮	博物館における「ユニバーサル」の意味と必要性を理解すること。	ネット検索エンジンで「ユニバーサル」の意味を調べておくこと。	180分
第13回	博物館教育を担う学芸員の役割	学芸員の仕事の意味と現状を理解する。	近隣の博物館へ足を運び、博物館教育の視点で見学しておくこと。	180分
第14回	これからの博物館教育(1)	先進的は博物館教育の実例を理解する。	近隣の博物館へ足を運び、博物館教育の視点で見学しておくこと。	180分
第15回	これからの博物館教育(2)	先進的は博物館教育の実例を理解する。	近隣の博物館へ足を運び、博物館教育の視点で見学しておくこと。	180分

学習計画注記 ※履修者数や授業の進捗状況により、スケジュールが変更になる場合もあります。

学生へのフィードバック方法 実施した小テストは採点して次週の授業にて返却し、全体講評を行います。

評価方法

- ・小テストは2～3回分の授業に係る学習範囲から出題して、授業内で計4回実施します。なお、学外実習等の合理的な理由がない限りは、小テストの再試験をおこないません。
- ・定期試験は80点満点で、記述式の回答を求める出題とします。
- ・小テストと定期試験は、下表に示す力を養うことを目的に実施します。

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
小テスト	○		○	
定期試験	○		○	○

評価割合 小テスト(20%)、受講態度(20%)、定期試験(60%)

使用教科書名 (ISBN番号) なし

参考図書 栗田秀法[編著]『現代博物館学入門』2019年、ミネルヴァ書房

ディプロマポリシーとの関連 【知識・理解】グローバルな視点から、各分野の知識を深めて理解することで、専門的な職業の道へつなぐことができる。

	【関心・意欲・態度】社会を構成する大切なひとりとして、高い特性をもって人々のために働く能力	
学生へのメッセージ	事前に検索エンジンで博物館情報を入手するとともに、なるべく多くの博物館に足を運んで知識や感性を磨いてください。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、30年を超える学芸員としての実務経験を有しています。博物館教育の現状や課題を講義するとともに、教育プログラムの実践に必要な基礎力を実践的に指導します。
アクティブ・ラーニング	○	グループ作業のなかで教育プログラム（ワークシート、ワークショップ、ギャラリー・トークなど）の立案と実践を体験し、結果についてのディスカッションをおこないます。
情報リテラシー教育	○	博物館情報や所蔵品データベースを活用して、教育プログラムの立案に活かす作業をおこないます。
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	博物館教育論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	火曜日	代表時限	4限前半
校地	千代田三番町キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	2年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 佐藤 広美	指定なし

ナンバリング	Y23607C21
授業概要(教育目的)	博物館教育の意義を理念を講じる。生涯学習の場としての意義を論じる。博物館の利用を考え、利用者の実態を調べてみる。その体験を通じて、利用者は何を学ぶ、考えたのか、その特性を考えてみる。学校教育と異同を考え、学びの本質を考え、人間の成長を論じてみたい。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	博物館の教育活動の基礎を学ぶ
思考・判断の観点 (K)	博物館の実際に触れ、感性・表現力・伝達力を駆使する博物館の教育力について考える
関心・意欲・態度の観点 (V)	博物館の実際にふれ、感想を述べ合う。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

博物館教育論

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	第1回、オリエンテーション	博物館とは何か	テキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第2回	第2回、博物館教育とは何か	博物館教育とは何か、その歴史	テキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第3回	第3回、博物館教育とは何か、	博物館教育とは何か、その種類	テキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第4回	博物館教育とは何か	利用者の要望と体験	テキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第5回	博物館教育とは何か	学芸員の仕事	テキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第6回	博物館に行	東京国立博物館の本館見学	テキストを読み直し、KGノート	180分

	ってみる		を作成する	
第7回	博物館に行ってみる	東京国立博物館、東洋館	テキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第8回	博物館に行ってみる	昭和館に行ってみる	テキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第9回	教育とは何か	教育と人間の関係	テキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第10回	教育とは何か	学校の誕生と文化の伝達	テキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第11回	教育と展示	文化と国家の関係	テキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第12回	教育と展示	文化と教育	テキストを読み直し、KGノートを作成する	30分
第13回	教育と展示	文化の子ども	テキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第14回	教育と展示	教科書と文化	テキストを読み直し、KGノートを作成する	180分
第15回	教育と展示	漫画と教育	テキストを読み直し、KGノートを作成する	180分

学習計画注記	受講者が少数の場合には、ゼミ形式で行う場合も想定される
学生へのフィードバック方法	講義ノートの他に、KGノート（家庭学習ノート）を作成してもらおう。講義で聴いたノートをもとに、テキストに学んだ内容をあらためてKGノートに記入し、復習を行う。そのノートを時々点検したい。
評価方法	定期試験（レポート）とKG（家庭学習）ノートの総合的評価

評価基準				
評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
定期試験（レポート）	○	○	○	
KGノート	○			

評価割合	KGノートを点検し、定期試験（レポート）との総合評価。
使用教科書名 (ISBN番号)	木下史青『博物館へ行こう』（岩波ジュニア新書）
参考図書	毎回の講義で配布する資料、など。
ディプロマポリシーとの関連	知識・思考、豊かな知識とあるべき姿を適確に判断できる 関心・態度、高い徳性をもって働く能力を得る 表現、他者と共感しながら創造する力を得る
オフィスアワー	水曜日4限
学生へのメッセージ	文化の持つ人間形成力につて、考えて見たいものです。 いい文化に触れた時、人間は時間を忘れ、その環境に中に一体化している自分を発見する。文化の人間に与える変容力というものか。その変容力と教育と乃関係を考えて見たい。

教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	博物館情報・メディア論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
代表曜日	木曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 木村 涼	指定なし

ナンバリング	Y33608M21
授業概要(教育目的)	博物館において、情報がどのように整理され、社会にどのように提供され活用されるのか、大規模な博物館から市町村規模の博物館に至るまで代表的な事例を紹介していく。その上で、博物館における情報の取り扱いを理解し、その活用方法を考える。これからの学芸員は、コンピューターなどのデジタル機器を使いこなして編集作業も出来る事が求められる。実際の博物館の事例をみることによって、情報、メディア活用の実態を学ぶ。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	1. 博物館における情報の意義及び提供、活用などに関する基礎的な知識を説明できる。 2. 博物館における情報発信の現状と課題について説明できる。
思考・判断の観点 (K)	1. 博物館資料のデジタルアーカイブのシステムについて理解できる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	博物館情報・メディア論を学ぶ	博物館における情報・メディアの提供について理解する。	教科書1の「博物館情報・メディア論を学ぶ」(9~20頁)を読むこと	60分
第2回	博物館における情報・メディアの意義	展示映像や音声ガイドといった視聴覚メディアの特性や学芸員の果たす役割を理解する。	教科書2の「博物館における情報・メディアの意義」(21~41頁)を読むこと	60分
第3回	博物館の機能からみた情報の蓄積と活用	博物館は情報をどのように扱うか、また、現代社会における博物館の情報をより良く活用する取り組みを理解する。	教科書3の「博物館の機能からみた情報の蓄積と活用」(42~59頁)を読むこと	60分
第4回	情報教育の意義と重要性	博物館の展示や教育に利用されているメディアについて理解する。	教科書4の「メディアで学ぶ、メディアを学ぶ」(60~76頁)を読むこと	60分

第5回	データベースの構築と運用	博物館におけるデータベースの役割、機能について理解する。	博物館におけるデータベースの役割、機能について理解する。	60分
第6回	博物館標本のデジタル化の技法	デジタル技術が収蔵品の管理や展示にどのように利用されているのかを理解する。	教科書6の「博物館標本のデジタル化の技法」(92～103頁)を読んでおくこと	60分
第7回	デジタルミュージアム	デジタルミュージアムを構成する基本技術を理解する。	デジタルミュージアムを構成する基本技術を理解する。	60分
第8回	デジタル・アーカイブ	デジタル・アーカイブの意義とその構築の流れを理解する。	教科書8の「デジタル・アーカイブの現状と課題」(124～141頁)を読んでおくこと 授業の最初に、1～7回の授業内容に関わる小テストを実施するので、復習しておくこと	120分
第9回	情報通信技術の活用	博物館が行う情報発信について、特に博物館展示に視点を向け、近年の活用事例をあげて理解する。	教科書9の「博物館展示における情報通信技術の活用」(142～160頁)を読んでおくこと	60分
第10回	インターネットを活用した情報発信	博物館や美術館における情報発信への情報通信技術の活用について理解する。	博物館や美術館における情報発信への情報通信技術の活用について理解する。	60分
第11回	博物館と知的財産	著作権法の概要理解及び博物館資料の取り扱いがもたらす法的な問題点を理解する。	教科書11の「博物館と知的財産」(176～199頁)を読んでおくこと	60分
第12回	博物館と市民をつなぐ情報メディア	博物館の情報発信のモデルとして、展示を事例にあげて理解する。	教科書12の「博物館と市民をつなぐ情報メディア」(200～221頁)を読んでおくこと	60分
第13回	展覧会と情報メディア	展覧会ができるまでの過程を通して、デジタル技術利用の実際を理解する。	教科書13の「展覧会と情報メディア」(222～239頁)を読んでおくこと	60分
第14回	博物館における情報メディアの活用	情報技術やメディアを常設展示に入れ成果をあげている博物館の事例をあげて理解する。	教科書14の「常設展示のイノベーション」(240～256頁)を読んでおくこと	60分
第15回	博物館情報・メディア論の未来	これまで学んだことを統括するとともに、「博物館情報・メディア論」の今後を展望する。	教科書15の「博物館情報・メディア論の未来」(257～272頁)を読んでおくこと 授業の最初に、8～14回の授業内容に関わる小テストを実施するので、復習しておくこと	120分

学生へのフィードバック方法 実施した小テストの答え合わせは次週の授業にて行う。

評価方法

- ・平常点として授業の参加状況、討論への積極的な参加などをもとに評価する。
- ・小テストは2回分の授業に関わる学習範囲から出題し、授業内に計2回実施する。1回あたりの問題数は、大問7題で構成する。なお、学外実習等の合理的な理由がない限り、小テストの再試験は行わないので注意すること。
- ・小テストは、下表に示す力を養うことを目的に実施している。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点	○			
小テスト	○			

評価割合 小テスト(複数回)(70%)、平常点(30%)で評価する。

使用教科書名(ISBN番号) 西岡貞一・篠田謙一編『博物館情報・メディア論』(NHK出版、平成25年) 978-4-595-31412-4

参考図書 なし

ディプロマポリシーとの関連

- 【知識・理解】博物館における情報発信方法の現状と課題を理解できる。
- 【思考・判断】デジタルアーカイブの構築方法を理解できる。

学生へのメッセージ	日本各地には様々な博物館があります。博物館がどのような形で情報発信をしているのか、実際に博物館を見学し、実態を学んで下さい。また、インターネットなどを通して、自分にとって興味ある博物館の情報発信の現状を理解して下さい。
-----------	---

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング		
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	保育実習指導 I (3年次)		
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	4限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 丹羽 さがの	指定なし
教授	新開 よしみ	指定なし
准教授	柳瀬 洋美	指定なし
准教授	和田 美香	指定なし
非常勤講師	高橋 健司	指定なし
助教	原田 晋吾	指定なし

ナンバリング	Y26301M22
授業概要(教育目的)	保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を修得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させる。保育現場で乳幼児の生活と発達の現実にあふれ、これまで学んできた知識を再構築し、社会福祉への意欲を活性化し、援助者としての保育者の役割への関心を育てる。事前指導として、学内において講義や視聴覚教材を用いた演習を行い、また実習施設において見学・オリエンテーションを行う。実習中には巡回訪問指導を行い、実習後には、実習総括・評価・自己評価・事例研究を行い、新たな学習目標を明確化する。
履修条件	保育士資格取得希望者

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	実習の意義・目的・内容・方法を理解する 実習施設の概要と機能を理解する
思考・判断の観点 (K)	実習課題を明確化する
関心・意欲・態度の観点 (V)	実習に自分なりの課題を持って前向きに取り組む
技術・表現の観点 (A)	基本的な保育技術を身につける 指導実習用の指導案を作成する 記録(実習日誌)の書き方を習得する

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	保育実習の意義・目的・内容の	保育実習の意義・目的・内容についてグループワークを中心に理解を深める。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分

	理解（保育所）			
第2回	保育実習の意義・目的・内容の理解（施設）	保育実習の意義・目的・内容（施設）についてグループワークを中心に理解を深める。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第3回	保育実習の方法の理解（保育所）	保育実習の方法について演習形式で理解する。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第4回	保育実習の方法の理解（施設）	保育実習の方法について演習形式で理解する。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第5回	実習の心構えの理解（保育所）	実習の心構えについてグループワークを中心に理解する。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第6回	実習の心構えの理解（施設）	実習の心構えについてグループワークを中心に理解する。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第7回	個人情報の保護と守秘義務	個人情報の保護と守秘義務について事例を中心に学ぶ。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第8回	子どもの人権の尊重についての理解	個人情報の保護と守秘義務について事例を中心に学ぶ。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第9回	実習課題の明確化とロールプレイ（保育所）	実習課題をロールプレイにより明確化する。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第10回	実習課題の明確化とロールプレイ（施設）	実習課題をロールプレイにより明確化する。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第11回	実習記録の意義・方法の理解（保育所）	日誌の書き方について、実践しながら学ぶ。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第12回	実習記録の意義・方法の理解（施設）	日誌の書き方について、実践しながら学ぶ。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第13回	実習施設の理解（保育所）	実習施設について調べ学習などにより情報を集める。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第14回	実習施設の理解（保育所）	実習施設について調べ学習などにより情報を集める。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第15回	保育指導案作成の実際（保育所）	保育指導案作成の実際について自分なりに書きながら修正をしていく。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第16回	保育指導案作成の実際（施設）	保育指導案作成の実際について自分なりに書きながら修正をしていく。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第17回	実践指導（保育所）	巡回訪問指導によるスーパービジョン	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第18回	実践指導（施設）	巡回訪問指導によるスーパービジョン	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第19回	実習総括（保育所）	保育所実習の振り返りをグループワークの形式で行う。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第20回	実習総括（施設）	施設実習の振り返りをグループワークの形式で行う。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分

第21回	実習日誌の評価とふりかえり(保育所)	実習日誌について教員と双方向のやりとりをしながら振り返る。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第22回	実習日誌の評価とふりかえり(施設)	実習日誌について教員と双方向のやりとりをしながら振り返る。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第23回	指導実習の評価とふりかえり(保育所)	指導実習について教員とのやりとりやグループワークをしながら振り返る。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第24回	指導実習の評価とふりかえり(施設)	指導実習について教員とのやりとりやグループワークをしながら振り返る。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第25回	ロールプレイによるふりかえり(保育所)	ロールプレイにより保育所実習について新しい気付きを得る。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第26回	ロールプレイによるふりかえり(施設)	ロールプレイにより施設実習について新しい気付きを得る。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第27回	自己課題と学習目標の明確化(保育所)	自己課題と学習目標の明確化をワークシートにより行う。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第28回	自己課題と学習目標の明確化(施設)	自己課題と学習目標の明確化をワークシートにより行う。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第29回	実習Ⅱにむけて	実習Ⅱにむけて自己課題の整理を行う。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分
第30回	実習Ⅲにむけて	実習Ⅲにむけて自己課題の整理を行う。	実習先について理解を深める。 保育技術・援助の技術を磨く。	90分

学習計画注記 受講人数や実習時期により計画は変更になる可能性があります。

学生へのフィードバック方法 日誌や指導案は指導後に返却をする。

評価方法

- ・実習の評価(実習評価票及び実習態度)：実習評価票、実習園からの総評により、子ども・保育に関する知識の修得、実習に臨む姿勢、保育者としての思考・判断、考察の深さ、保育技術の修得について評価する。
- ・実習日誌及び事前・事後指導の評価：子ども・保育に関する知識の修得、実習に臨む姿勢、保育者としての思考・判断、考察の深さ、保育技術の修得について評価する。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
実習の評価	○	○	○	○
実習日誌および事前・事後指導の	○	○	○	○

評価割合 本授業においては出席率100%が前提である。
実習の評価(50%)、実習日誌及び事前・事後指導の評価(50%)

使用教科書名(ISBN番号)

1. 実習日誌の書き方/相馬和子・中田カヨ子/萌文書林/2004
2. 指導計画の考え方・立て方/久富陽子編/萌文書林/2009
3. 福祉施設実習ハンドブック/内山元夫ほか編/みらい/2007
4. 感性をひらく表現遊び/岡本拓子編著/北大路書房/2013

参考図書

- 1) 実習に役立つ表現遊び2/岡本拓子編著/北大路書房/2007
- 2) 保育実習まるごとガイド/寺田清美・渡邊暢子/小学館/2007

ディプロマポリシーとの関連 (知識・理解)

	<p>実習の意義・目的・内容・方法を理解する。実習施設の概要と機能を理解する。 (思考・判断) 実習課題を明確化する。 (関心・意欲・態度) 実習に自分なりの課題を持って前向きに取り組む。 (技術・表現) 基本的な保育技術を身につける。 指導実習用の指導案を作成する。 記録(実習日誌)の書き方を習得する。</p>															
オフィスアワー	水曜3, 4限															
学生へのメッセージ	保育実習 I B 及び I C に参加するために、本科目は100%の出席が求められる。やむを得ない理由で欠席する場合は、実習指導室へ理由を添えた「欠席届」を提出し、後日必ず指導教員へ欠席分の指導を仰ぎに行くこと。また、毎回の持ち物や各種提出物等の期限を必ず守ること。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>担当者の中に実務経験者が含まれるので、事例や動画などを使用しながら現場の実際に即した授業を行う。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>グループワークなどの活動を行う。</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	担当者の中に実務経験者が含まれるので、事例や動画などを使用しながら現場の実際に即した授業を行う。	アクティブ・ラーニング	○	グループワークなどの活動を行う。	情報リテラシー教育			ICT活用		
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業	○	担当者の中に実務経験者が含まれるので、事例や動画などを使用しながら現場の実際に即した授業を行う。														
アクティブ・ラーニング	○	グループワークなどの活動を行う。														
情報リテラシー教育																
ICT活用																

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	保育実習 I B (4年次)		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 丹羽 さがの	指定なし
教授	新開 よしみ	指定なし
准教授	和田 美香	指定なし
非常勤講師	高橋 健司	指定なし
助教	原田 晋吾	指定なし

ナンバリング	Y36302M23
授業概要(教育目的)	この実習は、保育所における保育に参加し、乳幼児の生活・遊び・発達等についての理解を深め、保育所の機能、保育士の業務等について学ぶことを目的とする。各科目で修得した知識と技術を保育所での実践や子どもとの関係を通して再構築する。実習段階としては、「参加観察実習」から「部分実習」までの範囲とする。
履修条件	規定による保育実習参加基準を満たしていること（学生便覧参照）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・乳幼児の生活・遊び・発達等について理解を深める ・保育所の機能、保育士の業務等について理解する
思考・判断の観点 (K)	・各科目で習得した知識・技術と保育実践を結び付けて考える
関心・意欲・態度の観点 (V)	・各科目で習得した知識と技術を保育所での実践や子どもとの関係を通して再構築する
技術・表現の観点 (A)	・保育技術を実践し、磨く

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)
第1回	実習施設を多面的に理解する	実習生として保育に入りながら、実習先施設について理解を深める
第2回	保育の一日の流れを理解し、参加する	保育所の一日の流れに注目し理解しながら、保育に参加する
第3回	子どもの観察やかかわりを通して乳幼児の発達を理解する	保育に入り子どもを観察したりかかわったりしながら、乳幼児の発達を理解する
第4回	保育計画・指導計画を理解する	保育計画・指導計画がどのように実践されるかを観察し理解する。

第5回	生活や遊びなどの一部を担当し、保育技術を磨く	部分実習を行い、保育技術を磨く。実施後の振り返りを通して指導計画についてより深く理解する
第6回	職員間の役割分担とチームワークについて理解する	保育に参加しながら、職員間の役割分担とチームワークについて観察、理解する。また自らチームの一員として保育を行うことで実践的に理解する。
第7回	参加観察の記録方法を体験的に習得する	実習日誌を書き、保育の記録方法を体験的に習得する。指導担当者からのフィードバックにより、保育記録についてより理解を深め、記録技術を磨く。
第8回	子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ	日々の保育に参加し、保育者の保育における意図、ねらいと具体的な保育内容（環境構成を含む）との関連を理解する。
第9回	保育士としての倫理を具体的に学ぶ	日々の保育に参加することを通して保育士としての倫理を具体的に学ぶ。
第10回	安全および疾病予防への配慮について理解する	保育に参加することを通して、子どもたちの安全と疾病予防への配慮について具体的に理解する。
第11回	保育者の子どもへのかかわり方、環境構成の工夫を詳細に観察する	保育に参加し、保育者の身近で、子どもへのかかわり方、環境構成の工夫を詳細に観察する。
第12回	実習生としてふるまう中で自己課題に気づく	保育への参加、保育の記録、振り返りを通し、自らの課題に気付く
第13回	指導計画を立て、部分実習に臨む	部分実習を行うクラスの子どもたちをよく観察し、かかわりながら、その発達を理解する。その上で指導計画をたて実践する。実践後の振り返りを通して指導計画と保育実践についてより理解を深める。
第14回	保育マップを作成する	実習期間中、子どもたちの遊び・活動が観察された場所に、内容、参加した子どもたちの名前等を記入し、保育マップを作成する。
第15回	反省会に出席し、実習全体を省察する	反省会に出席し、実習全体について省察する。次の実習に向けて自らの課題を自覚する。

学生へのフィードバック方法 実習巡回記録、実習先からの評価票を用いて事後指導を行う。

評価方法

- ・日誌の評価：実習に臨む姿勢、考察の深さ、保育記録の技術の修得について評価する
- ・実習施設による評価：実習に臨む姿勢、保育者としての思考・判断、意欲・態度、技術について評価する

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
日誌の評価		○	○	○
実習施設による評価		○	○	○

評価割合 日誌の評価（50%）と実習施設による評価（50%）を合わせて総合的に評価する。

使用教科書名 (ISBN番号)

- ・実習日誌の書き方/相馬和子・中田カヨ子編/萌文書林
- ・指導計画の考え方・立て方/久富陽子編/萌文書林

学生へのメッセージ

保育実習 I B への参加基準は以下の通りです。

- ①1、2年次開講の保育士必修科目の内、未修得科目が3科目以下であること。
- ②学業成績の総合評価の平均 GPA が2.2以上であること。
- ③「保育実習指導 I」を履修していること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	保育者としての実務経験のある教員が事前指導に当たる。
アクティブ・ラーニング	○	保育に参加し実践的に学ぶ
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	保育実習 I C		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	3年次		
必修・選択の別	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 和田 美香	指定なし

ナンバリング	Y36303M23
授業概要(教育目的)	この実習は、施設実習に参加し、一日の流れや生活の具体的な内容について理解を深め、施設の機能、保育士の業務等について学ぶことを目的とする。各科目で修得した知識と技術を施設での実践や利用者との関係を通して再構築する。実習段階としては、「参加観察実習」から「部分実習」までの範囲とする。
履修条件	規定による保育実習参加基準を満たしていること（学生便覧参照）

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	・施設の利用者について理解を深める ・施設の機能、保育士の業務等について理解する
思考・判断の観点 (K)	・各科目で習得した知識・技術と実践を結び付けて考える
関心・意欲・態度の観点 (V)	・各科目で習得した知識と技術を実践や利用者との関係を通して再構築する
技術・表現の観点 (A)	・支援技術を実践し、磨く

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブ・ラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)
第1回	実習施設を多面的に理解する	実習生として生活に入りながら、実習先施設について理解を深める
第2回	施設の一日の流れを理解し、参加する	施設の一日の流れに注目し理解しながら、参加する
第3回	観察やかかわりを通して利用者を理解する	観察したりかかわったりしながら、利用者を理解する
第4回	支援計画を理解する	支援計画がどのように実践されるかを観察し理解する。
第5回	生活や遊びなどの一部を担当し、技術を磨く	生活援助などの一部を担当し、実施後の振り返りを通してより深く理解する。
第6回	職員間の役割分担とチームワークについて理解する	生活に参加しながら、職員間の役割分担とチームワークについて観察、理解する。また自らチームの一員として動くことで実践的に理解する。
第7回	参加観察の記録方法を体験的に習得する	実習日誌を書き、記録方法を体験的に習得する。指導担当者からのフィードバックにより、記録についてより理解を深め、記録技術を磨く。

第8回	支援のねらいを具体化する方法について学ぶ	日々の生活行為に参加し、支援の意図、ねらいとの関連を理解する。
第9回	保育士としての倫理を具体的に学ぶ	実践を通して保育士としての倫理を具体的に学ぶ。
第10回	安全および疾病予防への配慮について理解する	安全と疾病予防への配慮について具体的に理解する。
第11回	利用者へのかかわり方、環境構成の工夫	利用者へのかかわり方、環境構成の工夫を詳細に観察する。
第12回	実習生としてふるまう中で自己課題に気づく	記録、振り返りを通し、自らの課題に気付く
第13回	指導計画を立て、部分実習に臨む	指導計画をたて実践する。実践後の振り返りを通して指導計画と保育実践についてより理解を深める。
第14回	個別のかかわり	気になる利用者について個別にかかわり、具体的支援について考える。
第15回	反省会に出席し、実習全体を省察する	反省会に出席し、実習全体について省察する。次の実習に向けて自らの課題を自覚する。

学生へのフィードバック方法 実習巡回記録、実習先からの評価票を用いて事後指導を行う。

評価方法

- ・日誌の評価：実習に臨む姿勢、考察の深さ、保育記録の技術の修得について評価する
- ・実習施設による評価：実習に臨む姿勢、保育者としての思考・判断、意欲・態度、技術について評価する

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
日誌の評価		○	○	○
実習施設による評価		○	○	○

評価割合 日誌の評価（50%）と実習施設による評価（50%）を合わせて総合的に評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) ・実習日誌の書き方/相馬和子・中田カヨ子編/萌文書林

ディプロマポリシーとの関連

【思考・判断】・子ども・保育者・教育者などと直接ふれあい学び合う、具体的・実践的な機会を通して、自ら様々な課題に柔軟に対応できる

・家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性が備わっている

【関心・意欲・態度】・子どもをめぐる多様化する課題や問題に関心を持って取り組み、子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる

・子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている

【技能・表現】・本学科の特色ある授業への積極的な参加を通して理論と実践の融合を図り、子どもの専門家として社会に貢献できる

・保育者・教育者として求められる豊かな表現力、コミュニケーション能力を身につけている

オフィスアワー 月曜2限から4限

学生へのメッセージ

保育実習ICへの参加基準は以下の通りです。

- ①1, 2年次開講の保育士必修科目の内、未修得科目が3科目以下であること。
- ②学業成績の総合評価の平均GPAが2.2以上であること。
- ③「保育実習指導I」を履修していること。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	保育者としての実務経験のある教員が事前指導に当たる。
アクティブ・ラーニング	○	保育に参加し実践的に学ぶ
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	保育実習Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無			
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新開 よしみ	指定なし
准教授	丹羽 さがの	指定なし
准教授	和田 美香	指定なし
非常勤講師	高橋 健司	指定なし

ナンバリング	Y46305M23
授業概要(教育目的)	保育の実践現場に置いて子ども達とふれあい、生活を共にするなかで、保育所における子どもの生活を理解する。また、保育者の関わり方や保育技術を体験的に学ぶ。保育実習Ⅱ(保育所)は「参加観察実習」(部分実習を含む)を経て「指導実習(責任実習)」(部分実習から全日実習)へと移行する段階である。保育の場に積極的に参加し、実習を行うクラスの主担任の展開する保育の流れを理解するとともに、子どもへの基本的かつ適切な関わり方を習得することを目指している。また、実習保育所の指導のもと、半日から一日の保育を保育者として実践させていただくことにより、保育実践力を高めていくことを目的とする。
履修条件	学生便覧の規定による保育実習参加基準を満たしていること。

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	保育者同士の連携や子育て支援の工夫を実際の場面の中でとらえることができる。
思考・判断の観点 (K)	子どもの個人差を考慮し、内面を理解しながら、その場に応じた対応方法を工夫できる。責任実習を振り返り、自己課題を明確にできる。
関心・意欲・態度の観点 (V)	実習に意欲を持って参加し、実習生として子どもや先生方に学ばせていただく謙虚な姿勢でコミュニケーションを図りながら、その場に必要働きをしようと試みることができる。
技術・表現の観点 (A)	習得してきた保育技術を活かしながら自分なりに保育を立案し、実践できる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)
第1回	実習課題に取り組む(1)	保育全般に参加し、保育技術を習得する。
第2回	実習課題に取り組む(2)	子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。
第3回	実習課題に取り組む(3)	発達の遅れや生活環境に伴う子どものニーズを理解し、その対応について学ぶ。
第4回	実習課題に取り組む(4)	子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に学ぶ。
第5回	実習課題に取り組む(5)	地域社会に対する理解を深め、子育て支援のための手法や連携方法について学ぶ。

第6回	実習課題に取り組む(6)	職員間の役割分担とチームワークについて理解する。
第7回	実習課題に取り組む(7)	保育士としての倫理を具体的に学ぶ。
第8回	実習課題に取り組む(8)	保育者の子どもとかかわる姿勢から、効果的な援助と指導の内容と方法を学ぶ。
第9回	実習課題に取り組む(9)	園環境と子どもの遊びの実態について理解する。
第10回	実習課題に取り組む(10)	子どもの実態を把握し、これに即した指導計画を立案する。
第11回	実習課題に取り組む(11)	子どもの遊びや活動を促す環境を構成する。
第12回	実習課題に取り組む(12)	立案した指導計画に基づいて実践し、子どもの実態に即した援助の方法を試みる。
第13回	実習課題に取り組む(13)	自己の保育を省察するための記録（日誌）を工夫して書く。
第14回	実習課題に取り組む(14)	保育マップを作成する。
第15回	実習課題に取り組む(15)	反省会に出席し、実習全体を省察する。

学習計画注記	※各回の内容は12日間の実習の中で意識して行う事項を示しており、実際にはそれぞれの実習園の実態や自己課題に即して各自スケジュールを調整しながら実習課題を遂行していくこととなります。なお、本科目の「予習・復習」に相当する部分は「保育実習指導Ⅱ」の授業で行います。
学生へのフィードバック方法	実習中に行われる巡回訪問指導において、質問や疑問点などについて口頭で担当教員よりフィードバックを行います。その他の質問等は、実習終了後に保育実習指導Ⅱの授業の中で解説します。
評価方法	実習園からの評価（5項目の小項目と総合評価の評価点各5点満点、合計30点満点）と、実習後に提出された日誌の評価70点を合わせて、総合的に評価します。したがって、実習を規定の時間数終えても日誌を提出しない場合は不合格となり、単位認定できません。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
実習園の評価	○	○	○	○
実習日誌の評価		○	○	○

評価割合	実習の評価（50%）と実習日誌及び事前・事後指導の評価（50%）を合わせて総合的に評価する。
使用教科書名 (ISBN番号)	なし
参考図書	保育実習指導Ⅱで用いたテキストを参考にすること。
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】子どもの保育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。 【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性が備わっている。 【関心・意欲・態度】子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。 【技能・表現】子どもの専門家として社会に貢献できる。
オフィスアワー	水曜 2限
学生へのメッセージ	「自ら学ぶ・学び合う・共に育つ」…本学児童学科の実習教育に共通する理念です。実習中は子どもや先生方に学ばせていただくという謙虚な姿勢を保ちつつ、単に受け身ではなく、疑問点について積極的に質問するなど「主体的な学び手」としての自分のあり方を心がけましょう。

教育等の取組み状況

	該当有無	概要
実務経験を活かした授業		
アクティブ・ラーニング	○	保育現場での実習は全てがアクティブラーニングです。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

シラバス参照

講義名	保育実習Ⅲ		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
代表曜日		代表時限	
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 柳瀬 洋美	指定なし
准教授	和田 美香	指定なし
助教	原田 晋吾	指定なし

ナンバリング	Y46307M23
授業概要(教育目的)	児童への福祉は現在、特別な支援を必要とされる児童に対する施策だけでなく、すべての家庭において児童が健全に育成されることや児童を生き育てやすい社会環境を整備することを目指した施策が中心となっています。保育実習Ⅲでは保育士を目指す人が、保育所以外の児童福祉施設での現場実習を通して、について理解を深める。
履修条件	※保育実習ⅠB及びⅠCを履修済みであること。 ※規定による保育実習参加基準を満たしていること（学生便覧参照）

学習目標(到達目標)

学習目標(到達目標)

知識・理解の観点 (K)	・施設の利用者について理解を深める。 ・施設の機能、保育士の専門性や業務等について理解する
思考・判断の観点 (K)	・各科目で習得した知識と技術を実践や利用者との関係を通して再構築する
関心・意欲・態度の観点 (V)	・初めての施設実習(保育実習ⅠC)で得た知識を基盤とし、成立した自己課題に取り組む
技術・表現の観点 (A)	・保育士としての専門性や支援技術を実践し磨く

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	保育実習Ⅲの概要について	保育実習Ⅲの目的と概要や保育士の専門性について確認する。	大学の実習手引き、教科書をよく読んでおく。	120分
第2回	保育実習Ⅲの手引きと日誌について	乳児保育が果たす役割の機能について理解する。	自分の実習施設について、法的根拠や機能と役割、利用者の状況について調べる。	120分
第3回	実習施設の概要と自己課題の明確化	自分の実習先の施設について調べたことをグループ内で発表する。 実習に向けて自己課題を明確にし、各自で事前学習計画を立てる。	「実習に臨んで」の下書きの作成	120分

第4回	実習課題発表①	事前学習計画に従って、グループ内で各自が調べたことを順番に発表し、質疑応答を通して、さらに理解を深める。	事前学習計画に従って、各自で調べ学習を進める。	120分
第5回	実習課題発表②	事前学習計画に従って、グループ内で各自が調べたことを順番に発表し、質疑応答を通して、さらに理解を深める。	事前学習計画に従って、各自で調べ学習を進める。	120分
第6回	実習課題発表③	事前学習計画に従って、グループ内で各自が調べたことを順番に発表し、質疑応答を通して、さらに理解を深める。	部分実習指導案の作成	120分
第7回	実習における課題場面のロールプレイ①	・各グループで課題場面を想定し、ロールプレイを活用し、対象者の行動の背景や要因について考えてみる。また、職員としてどのような対応が望ましいのかについても検討する。	・取り上げる課題場面について検討する。	120分
第8回	実習における課題場面のロールプレイ②	・各グループで課題場面を想定し、ロールプレイを活用し、対象者の行動の背景や要因について考えてみる。また、職員としてどのような対応が望ましいのかについても検討する。	ロールプレイで得た気づきをまとめ、実習に生かす。	120分
第9回	実習日誌の書き方	保育実習Ⅲの実習日誌の書き方の基本と書く際の留意点について学ぶ。	過去の実習日誌の検討や自分自身の過去の日誌を比較検討してみる。	120分
第10回	実習施設における部分実習の指導案をもとにした模擬実習	・作成した指導案をもとに、部分実習を行う。	実習に向けて必要な準備が整っているかの確認を行う。	120分
第11回	実習終了事後報告①	実習を終了した学生からの事後報告をもとに、実習を終えた学生とこれから実習に行く学生がグループディスカッションを行う。事後指導と事前指導を合わせて行うことで、実習体験が深められる。	・実習を終えた学生は実習の振り返りをレポートにまとめる。 ・これから実習に行く学生は、事後報告を受け、実習に備える。	120分
第12回	実習終了事後報告②	実習を終了した学生からの事後報告をもとに、実習を終えた学生とこれから実習に行く学生がグループディスカッションを行う。事後指導と事前指導を合わせて行うことで、実習体験が深められる。	・実習を終えた学生は実習の振り返りをレポートにまとめる。 ・これから実習に行く学生は、事後報告を受け、実習に備える。	120分
第13回	実習終了事後報告③	実習を終了した学生からの事後報告をもとに、実習を終えた学生とこれから実習に行く学生がグループディスカッションを行う。事後指導と事前指導を合わせて行うことで、実習体験が深められる。	・実習を終えた学生は実習の振り返りをレポートにまとめる。 ・これから実習に行く学生は、事後報告を受け、実習に備える。	120分
第14回	実習報告会に向けて①	実習報告会に向けて、自身の実習体験を振り返り、まとめる。	実習振り返りシートの作成	120分
第15回	実習報告会に向けて	実習報告会に向けて、自身の実習体験を振り返り、まとめる。	実習振り返りシートの作成	120分

学習計画注記 実習先の施設の状況により、実習内容や順番が変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法 実習巡回記録、実習先からの評価票を用いて事後指導を行う。

評価方法 日誌の評価：実習に臨む姿勢、考察の深さ、記録の技術の修得について評価する
実習施設による評価：実習に臨む姿勢、保育者としての思考・判断、意欲・態度、技術について評価する

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
日誌の評価		○	○	○
実習施設による評価		○	○	○

評価割合 日誌の評価 (50%) と実習施設による評価 (50%) を合わせて総合的に評価する。

使用教科書名 (ISBN番号) ・実習日誌の書き方/相馬和子・中田力ヨ子編/萌文書林

ディプロマポリシーとの関連	<p>【知識・理解】施設の利用者について理解を深める。また施設の機能、保育士の専門性や業務等について理解する</p> <p>【思考・判断】各科目で習得した知識と技術を実践や利用者との関係を通して再構築する</p> <p>【関心・意欲・態度】初めての施設実習（保育実習ⅠC）で得た知識を基盤とし、成立した自己課題に取り組む</p> <p>【技術・表現】保育士としての専門性や支援技術を実践し磨く</p>															
オフィスアワー	水曜日5時限 1619研究室															
学生へのメッセージ	保育実習Ⅲでは実習施設の種別に応じた高い専門性が求められます。十分な事前学習をして実習に臨んでください。															
教育等の取組み状況																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>該当有無</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実務経験を活かした授業</td> <td>○</td> <td>保育者としての実務経験のある教員が事前指導に当たる。</td> </tr> <tr> <td>アクティブ・ラーニング</td> <td>○</td> <td>保育実習に参加し実践的に学ぶ</td> </tr> <tr> <td>情報リテラシー教育</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		該当有無	概要	実務経験を活かした授業	○	保育者としての実務経験のある教員が事前指導に当たる。	アクティブ・ラーニング	○	保育実習に参加し実践的に学ぶ	情報リテラシー教育			ICT活用		
	該当有無	概要														
実務経験を活かした授業	○	保育者としての実務経験のある教員が事前指導に当たる。														
アクティブ・ラーニング	○	保育実習に参加し実践的に学ぶ														
情報リテラシー教育																
ICT活用																

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	保育実習指導Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 和田 美香	指定なし
教授	新開 よしみ	指定なし
准教授	丹羽 さがの	指定なし

ナンバリング	Y46304M12
授業概要(教育目的)	保育実習Ⅰにおいて課題となったテーマについて、課題解決の過程を各自がプログラムし、実行できるようにするとともに保育所実習Ⅱに向けた準備を行う。実習後はその経験を手掛かりとして、卒業後保育士として働く意欲が育つように自己課題を明確にし、子どもたちや他の保育士に学び、育ち続けることができるような基盤づくりをすることを目的とする。
履修条件	保育実習指導Ⅰおよび保育実習ⅠBを履修済みであること。
学習目標(到達目標)	
学習目標(到達目標)	
知識・理解の観点(K)	保育士の専門性(子育て支援を含む)と職業倫理について説明できる。
思考・判断の観点(K)	実習に臨んで、自己課題を具体的に見つけることができる。
関心・意欲・態度の観点(V)	実習関連の書類作成や与えられた課題への取り組み等、必要な準備を滞りなく行うことができる。
技術・表現の観点(A)	実習に活かせるようレポトリーを増やしたり練習するなどして保育技術の向上を図ることができる。

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	保育実習Ⅱの意義・目的・内容の理解	保育実習Ⅱの意義・目的・内容についてグループワークを中心に理解を深める。	保育実習Ⅱの手引き「保育実習Ⅱの意義と目的」「保育実習の心得」を読んでおくこと。誓約書、個人票、出勤簿を記入し、学外実習事務室へ提出すること。	90分
第2回	保育実習Ⅱの方法の理解	保育実習Ⅱの方法について演習形式で理解する。	保育実習Ⅱの手引き「保育実習Ⅱの概要」を読んでおくこと。実習園周辺マップを記入し学外実習指導室へ提出すること。	90分
第3回	実習課題の明確化	保育実習Ⅰの振り返りを行いつつ、保育実習Ⅱの自己課題を明確化する。	保育実習ⅠBの日誌を読んでおくこと。	90分

			保育実習Ⅱの手引き「保育実習の心得」を読んでおくこと。	
第4回	実習日誌Ⅱの書き方	実習日誌Ⅱの書き方、特にエピソード記録の書き方について、実践しながら学ぶ。	保育実習Ⅱの手引き「実習日誌作成上の留意点」を読んでおくこと。	60分
第5回	主活動案の作成と検討(1)	責任実習で行う主活動案を作成するための準備を行う。	主活動で何を行うかいくつかの案を考えておく。	180分
第6回	主活動案の作成と検討(2)	グループごとに作成した主活動案の検討を行う。	各自「保育指導計画案」を作成してくる。	180分
第7回	主活動案の作成と検討(3)	修正した指導案をもとに、模擬保育に必要な準備をする。	指導案を修正してくる。	120分
第8回	模擬保育(1)	グループごとに指導案に基づく模擬保育を行う。	模擬保育に必要な準備。模擬保育後の指導案の再修正。	180分
第9回	模擬保育(2)	グループごとに指導案に基づく模擬保育を行う。	模擬保育に必要な準備。模擬保育後の指導案の再修正。	180分
第10回	模擬保育(3)	グループごとに指導案に基づく模擬保育を行う。	模擬保育に必要な準備。模擬保育後の指導案の再修正。	180分
第11回	模擬保育(4)	グループごとに指導案に基づく模擬保育を行う。	模擬保育に必要な準備。模擬保育後の指導案の再修正。	180分
第12回	主活動検討と模擬保育のまとめ	主活動検討と模擬保育の振り返りとまとめを行う。実習に向けての最終確認を行う。	実習日誌の事前記入欄を全て記入しておくこと。	180分
第13回	実習事後指導(1)	グループワークで「責任実習」を中心に実習全体について振り返る。	実習日誌の記入漏れがないか最終確認しておく。	60分
第14回	実習事後指導(2)	保育実習Ⅱにおける自己課題の達成状況について評価し、将来に向けた自己課題を明確化する。今後のキャリア形成の見通しを立てる。	自己課題についてまとめておく。	120分
第15回	実習事後指導(3)	実習報告会に向けた発表の準備を行う。	グループごとに分担を決めて必要な発表資料（パワーポイント等）を作成する。	180分

学習計画注記 ※実習配属の時期により、スケジュールが変更になることもあります。

学生へのフィードバック方法 授業中の課題提出物は返却し、解説を行います。

評価方法 授業への参加状況、模擬保育等を「平常点」とし、最終的に提出された「指導案」とともに評価対象とする。

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
平常点		○	○	
指導案		○		○

評価割合 本授業においては出席率100%が前提である。平常点 (50%) + 指導案 (50%) をもって「合格」とする。

使用教科書名 (ISBN番号) 保育実習指導Ⅰで使用したテキストを引き続き使用します。

ディプロマポリシーとの関連
【知識・理解】子どもの保育を総合的に理解し、子どもに関する専門的な知識が修得できている。
【思考・判断】家族・地域・社会と協働しながら、「共に育つ」ことのできる創造力・コミュニケーション能力・感性が備わっている。
【関心・意欲・態度】子どもたちの健全で豊かな成長・発達のために使命感を持って行動できる。子どもの視点に立ち、子どもから学ぶという謙虚な姿勢・態度を身につけている。
【技能・表現】子どもの専門家として社会に貢献できる。

オフィスアワー 水曜日 2 限

学生へのメッセージ 保育実習Ⅱに参加するために、本科目は100%の出席が求められる。やむを得ない理由で欠席する場合は、学外実習事務室へ理由を添えた「欠席届」を提出し、後日必ず指導教員へ欠席分の指導を仰ぎに行くこと。また、毎回の持ち物や各種提出物等の期限を必ず守ること。

教育等の取組み状況

	該当 有無	概要
実務経験を活かした授業	○	保育所での実務経験を有する担当教員による保育現場に即した具体的な事例提供やアドバイスを行う。
アクティブ・ラーニング	○	グループワーク形式での演習を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	保育実習指導Ⅲ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
代表曜日	水曜日	代表時限	3限前半
校地	町田キャンパス		
授業科目の区分	資格		
実務経験の有無	有		
開設学科・年次	4年次		
必修・選択の別	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 児童学科 教員	指定なし
准教授	柳瀬 洋美	指定なし
准教授	和田 美香	指定なし

ナンバリング	Y46306M12
授業概要(教育目的)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の内、保育所以外の児童福祉施設実習（以下、施設実習）の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4. 施設における保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。
履修条件	保育士の選択必修科目です。

学習目標(到達目標)

学習目標（到達目標）

知識・理解の観点 (K)	1. 自分が実習する施設の果たす役割や機能、方針についてしっかりと事前学習し、明確な目的意識と自己課題をもって実習に臨む。
思考・判断の観点 (K)	1. 学生一人ひとりが保育実習ⅠB（保育所）や保育実習ⅠC（施設）において成立した各自の課題と真摯に向き合い、今回の保育実習Ⅲにおいて、十分な事前準備を行った上で、課題と取り組む。
関心・意欲・態度の観点 (V)	1. 現代の社会状況にも関心を持ち、児童福祉全体への理解をもって実習に臨む。
技術・表現の観点 (A)	

学習計画

回	授業テーマ	学習内容(アクティブラーニング・情報リテラシー教育・ICT活用を含む)	教室外学習(予習・復習)の内容	教室外学習の時間(分)
第1回	保育実習Ⅲの概要について	保育実習Ⅲの目的と概要や保育士の専門性について確認する。	大学の実習手引き、教科書をよく読んでおく。	120分
第2回	保育実習Ⅲの手引きと日誌について	乳児保育が果たす役割の機能について理解する。	自分の実習施設について、法的根拠や機能と役割、利用者の状況について調べる。	120分
第3回	実習施設の	自分の実習先の施設について調べたことをグループ内で	「実習に臨んで」の下書きの作	120分

	概要と自己課題の明確化	発表する。 実習に向けて自己課題を明確にし、各自で事前学習計画を立てる。	成	
第4回	実習課題発表①	事前学習計画に従って、グループ内で各自が調べたことを順番に発表し、質疑応答を通して、さらに理解を深める。	事前学習計画に従って、各自で調べ学習を進める。	120分
第5回	実習課題発表②	事前学習計画に従って、グループ内で各自が調べたことを順番に発表し、質疑応答を通して、さらに理解を深める。	事前学習計画に従って、各自で調べ学習を進める。	120分
第6回	実習課題発表③	事前学習計画に従って、グループ内で各自が調べたことを順番に発表し、質疑応答を通して、さらに理解を深める。	部分実習指導案の作成	120分
第7回	実習における課題場面のロールプレイ①	・各グループで課題場面を想定し、ロールプレイを活用し、対象者の行動の背景や要因について考えてみる。また、職員としてどのような対応が望ましいのかについても検討する。	・取り上げる課題場面について検討する。	120分
第8回	実習における課題場面のロールプレイ②	・各グループで課題場面を想定し、ロールプレイを活用し、対象者の行動の背景や要因について考えてみる。また、職員としてどのような対応が望ましいのかについても検討する。	ロールプレイで得た気づきをまとめ、実習に生かす。	120分
第9回	実習日誌の書き方	保育実習Ⅲの実習日誌の書き方の基本と書く際の留意点について学ぶ。	過去の実習日誌の検討や自分自身の過去の日誌を比較検討してみる。	120分
第10回	実習施設における部分実習の指導案をもとにした模擬実習	・作成した指導案をもとに、部分実習を行う。	実習に向けて必要な準備が整っているかの確認を行う。	120分
第11回	実習終了事後報告①	実習を終了した学生からの事後報告をもとに、実習を終えた学生とこれから実習に行く学生がグループディスカッションを行う。 事後指導と事前指導を合わせて行うことで、実習体験が深められる。	・実習を終えた学生は実習の振り返りをレポートにまとめる。 ・これから実習に行く学生は、事後報告を受け、実習に備える。	120分
第12回	実習終了事後報告②	実習を終了した学生からの事後報告をもとに、実習を終えた学生とこれから実習に行く学生がグループディスカッションを行う。 事後指導と事前指導を合わせて行うことで、実習体験が深められる。	・実習を終えた学生は実習の振り返りをレポートにまとめる。 ・これから実習に行く学生は、事後報告を受け、実習に備える。	120分
第13回	実習終了事後報告③	実習を終了した学生からの事後報告をもとに、実習を終えた学生とこれから実習に行く学生がグループディスカッションを行う。 事後指導と事前指導を合わせて行うことで、実習体験が深められる。	・実習を終えた学生は実習の振り返りをレポートにまとめる。 ・これから実習に行く学生は、事後報告を受け、実習に備える。	120分
第14回	実習報告会に向けて①	実習報告会に向けて、自身の実習体験を振り返り、まとめる。	実習振り返りシートの作成	120分
第15回	実習報告会に向けて	実習報告会に向けて、自身の実習体験を振り返り、まとめる。	実習振り返りシートの作成	120分

学習計画注記 ※ 履修学生の実習の状況等により、スケジュールが変更になる場合があります。

学生へのフィードバック方法
1. 3年生までの実習記録や保育所からの評価に基づき自己課題を明確にする。
2. グループ・ディスカッションにより、自己の課題解決の過程を探る。
3. 各施設で必要とされる専門的な知識や保育技術を身につける。
4. 保育現場における課題場面をロールプレイ等を通じて吟味する。

評価方法 平常点（自己課題への取り組みや授業に臨む姿勢）および指導案作成・課題の提出

評価基準

評価基準

評価方法	知識・理解 (K)	思考・判断 (K)	関心・意欲・態度 (V)	技術・表現 (A)
自己課題への取り組みや授業に臨			○	
指導案作成・課題の提出	○	○	○	○

評価割合	平常点60% 指導案作成・課題提出40%	
使用教科書名(ISBN番号)	施設実習ガイド(978-4-89347-203-8) 駒井美智子編著(萌文書林)	
ディプロマポリシーとの関連	【知識・理解】自分が実習する施設の果たす役割や機能、方針についてしっかりと事前学習し、明確な目的意識と自己課題をもって実習に臨む。 【思考・判断】学生一人ひとりが保育実習IB(保育所)や保育実習IC(施設)において成立した各自の課題と真摯に向き合い、今回の保育実習Ⅲにおいて、十分な事前準備を行った上で、課題と取り組む。 【関心・意欲・態度】現代の社会状況にも関心を持ち、児童福祉全体への理解をもって実習に臨む。	
オフィスアワー	水曜日5限 1619研究室	
学生へのメッセージ	保育士資格を取得することへの高い意識をもって授業に臨んでください。また、自分の実習先の施設について、十分な事前学習を自主的に進めてください。	
教育等の取組み状況		
	該当有無	概要
実務経験を活かした授業	○	担当教員は、保育・療育現場での臨床経験を有している。
アクティブ・ラーニング	○	実際の指導案の作成や、実習に臨んでグループ討議を用いて事前学習を行う。
情報リテラシー教育		
ICT活用		

[ウインドウを閉じる](#)

所在地

東京家政学院大学

【町田キャンパス】

〒194-0292 東京都町田市相原町 2600 番地

電話 042(782)9811

【千代田三番町キャンパス】

〒102-8341 東京都千代田区三番町 22 番地

電話 03(3262)2251

授 業 計 画 令 和 2 年 度

令和2年4月1日 発行

発行 東京家政学院大学

大学事務局

電話 03(3262)2257

<https://www.kasei-gakuin.ac.jp/>

